

漢 譯 對 照

梵 和 大 辭 典

文學博士 荻原雲來編纂

599-1568

監修 辻直四郎

上

新文豐出版公司 影印

簡介「漢譯對照梵和大辭典」之優點 及其編纂與影印之緣起

梵語 (Sanskrit) 的原語 “Samskr̥tam” 有「完成的語言」及「純正的語言」的意思；就是對俗語 (Prākṛit) 的一種雅語的意思。因為印度人信梵語 (Sanskrit) 是由梵天 (Brahman) 所造的語言，所以稱為「梵語 (文)」。

此梵語不但是屬於印度阿利安語，也是屬於印度歐洲語系 (英文、德文、拉丁文等) 的一種語言文。所以古代印度的重要文學、哲學、宗教學、醫學及政治學等的經論書都以梵文所寫成，因此可以說：印度的重要文化都由梵文擔任。不但如此，在世界文化史上，放一大光彩的佛教文化也是由梵文所擔任。因為大部份的大乘經論，所謂一萬七千部 (或六千卷) 的漢譯佛教經論都是從梵文原典所譯成的。於此，可以說，凡是要研究印度文化及大乘佛教的學者必須懂梵文。

雖然我國遺失其梵文原典，但日本慈雲尊者 (A. D. 1718 ~ 1804) 及法隆寺、高野山等所保存的般若心經、金剛經、阿彌陀經及涅槃經等的梵本是很有名。尤其 1891 年以後英國、法國及德國等的學術探險隊在中亞所發見的般若經及中觀與唯識等的諸梵本很多，以致國際上的諸學者很重視梵文原典的研究，而對其研究的工具書，早已出版各種梵英、梵德及梵法等的大小辭典。但這些書都沒有漢譯對照字彙。

日本，荻原雲來博士是有名的佛教梵文學者，尤其因他曾出版諸種的梵語佛典而揚名於世界佛教學界。爲了要編纂一部更具優點的「漢譯對照梵和大辭典」以利於世界上諸位學者，他到了晚年把全部的精神貢獻於此大辭典的企圖與準備，所以廣泛地涉獵現存的諸梵語佛典，其目的是爲彌補在來梵語辭典所缺的佛教語彙，及添其相應的漢譯語。除了此以外，又採用馬克士尼 (A. A. Macdonell) 的梵英辭典，及參酌其他的梵英、梵德及梵法等諸辭典，尤其加添普通所讀的梵語作品，或教科書的語彙。其目的是爲使此辭典也有具備一般的梵語辭典的性質以便於一般梵文學之用。

因此昭和三年 (1928 年) 十一月，他與渡邊海旭博士爲此大辭典的發起人，而集四十餘名的梵文學者各擔當自己專攻的部門而銳意進行其業。昭和五年 (1930 年) 得日本外務省文化事業部的助成金，以致經過十年的研究與編纂，而昭和十五年 (1940 年) 四月始得出版其第一分冊 (P. 1 ~ P. 94、因爲大約 100 頁爲一小分冊)。該時荻原雲來博士已去世二年。其後陸續出版，至昭和十八年 (1943 年) 七月出版第六分冊 (P. 503 ~ P. 598) 以後，受第二次大戰爭的影響而不得不停止其出版。

然而經過二十餘年後，爲了繼承荻原雲來博士的遺業，及應學界的要求，辻直四郎博士等的日本有名的諸梵文學者擔任監修，大類純先生擔任編纂主任，而重整荻原博士的舊稿及加添新的

研究，以致昭和三十一年（1964年）始由東京鈴木學術財團出版第七分冊（P. 599～P. 694）。其後每一年出版一分冊，至昭和四十九年（1974年）出版第十六分冊（P. 1479～P. 1568）才完成此梵和大辭典的總編纂。

如此經過數十年才能完成編纂的此「漢譯對照梵和大辭典」，不但具有一般的梵語辭典的性質以外，又為便利於梵漢經論對照研究，而具備佛教語彙及其相應的漢譯語。尤其從第七分冊（P. 599～P. 694）至第十六分冊（P. 1479～P. 1568），為增加其出典而採用下列索引文獻的成果，以便利使用此大辭典的學者容易找到其各種的重要原典。以上幾點，足以誇為此大辭典的要點，也因此，而被視為現行世界上最好的一部漢譯對照梵和大辭典。

(1)鈴木大拙編：「楞伽經索引」（An Index to the Lankavatara Sūtra, 1934）。

(2)三枝充惠，久我順共編：「中論、梵漢對照語彙」（宮本正尊編：「大乘佛教の成立史的研究」附錄第2、1954）。

(3)長尾雅人編：「大乘莊嚴經論索引」（Index to the Mahāyāna-sūtrālamkāra, 1958）

(4)干馮龍祥校訂：「梵文善勇猛般若波羅蜜多經」（Śuvikrāntavikrāmi-Paripṛcchā Prajñāpāramitā-sūtra, 1958）。

(5)宇井伯壽著：「梵漢對照菩薩地索引」1961。

(6)山口益編：「乘嚴經入法界品索引」，「中論釋索引」，「入菩提行論索引」1965…。

(7)長尾雅人編：「中邊分別論索引」1963。

由以上的簡介而了解，自梵本發見以後，現在國際上的佛教學者從事於梵文原典的研究，已有100年的歷史，以致早已出版種種的梵文原典與研究論文，及其種種的研究工具的梵語辭典。然而我國有名的諸三藏法師由印度帶回來的梵文原典遺失已久，以致很多人不但沒有看見其梵文原典，甚至不知如何學習梵文原典。此可謂一大遺憾事。本公司，除了鼓勵我國佛教學者的學術研究能得早與國際上的研究並駕齊驅，並謹向日本鈴木學術財團的集體創作精神致以萬分敬意和謝忱，於此特別影印世界上最有名的「漢譯對照梵和大辭」供為學者之用。因為此一部大辭典是很重要的研究工具之一。

新文豐出版公司 編輯部

1979年8月7日

序

佛教文化ノ世界文化史ノ上ニ輝ケルコトハ今更多言ヲ要セサルヘシ。梵語ノ研究ハ佛教文化闡明ノ上ニ極メテ必要ナルニ拘ラス、我國ニ於テハ從來適當ナル辭典ナキ爲メ之カ研究ニ困難ヲ感シ、加之、古來佛教經典ハ多ク梵語ヨリ漢譯セラレ、其ノ間隔靴搔痒ノ感アルモノ少ナカラストセラレタリ。

故文學博士荻原雲來氏之ヲ慨シ同學同志ノ士ヲ集メテ梵和大辭典編纂ヲ企テ、昭和三年コノ世界的事業ニ着手シ、其ノ間、業半ニシテ荻原博士病ノ爲メ逝去セラレ、顧問文學博士椎尾辨匡氏等ノ援助ニヨリ、編纂委員一同辛苦經營十有三年ノ久シキニ及ヒ、茲ニ其ノ第一分冊ヲ發刊スルニ至リタルハ誠ニ欣ヒニ堪エサルトコロナリ。今ヤ世界思想再建ノ轉換期ニ際シ、東洋思想ノ根源ヲ更ニ檢討スルコト必スシモ贅事トセス。本大辭典ノ世ニ貢獻スルモノアルコト多大ナルヘキヲ信シテ疑ハス。茲ニ其ノ發刊ヲ祝シ併セテ之ヲ世ニ紹介スル所以ナリ。

昭和十五年十月十三日

外務省文化事業部長 松本俊一

刊 行 趣 旨

西洋人の印度及び支那の研究は往々にして政策遂行の必要から端を發した場合が少くない。然し日本人のそれは全く古聖追慕の純情に淵源してゐる。凡そ他民族の思想を知るにはその言語に通ずるを捷徑とし、言語の研究は辭書に俟つ所多きは贅言を要せぬ。本邦梵語字彙の編纂は奈良朝以來の歴史を有し、平安末期には伊呂波順の梵語辭書さへ行はれた。それらは古人が語族を異にする困難な情況下にあつて、零餘模索に盡瘁した立派な記念塔である。近世西歐人の梵語研究もその努力の敬すべきものあるは勿論であるが、語族を同じくし、資料蒐集の便宜多く、富力の潤澤之を資け、斯くして絶大の業績を擧げて、梵語學の中心は一時歐洲に移つたかの觀を呈するに至つた。明治以來、日本の學徒はこの形勢に促されて大いに奮起し、語族を異にし、資料に恵れず、研究資金の乏しき中にあつて敢然精進を續け近時漸く二三の部門に於ては歐人研究の水準を凌駕し得たのである。

但し日本人として梵語を知るには、現在も尙、先づ歐洲語を會得し、歐文の梵語辭書に憑藉せねばならぬ不便がある。これが本邦斯學の進展を阻害する最大原因たるは明白な事實であり、梵和辭書の編纂はこの迂回路を棄て直路を啓く唯一の方法である。他方、佛教の一主要源泉は梵語佛典であり、特に支那日本佛教の搖籃たる一千七百餘部六千餘卷の漢譯佛典は殆ど梵筈を原本とし、本邦人は漢譯佛典の研鑽に傳統上絶対に有利な基礎を有してゐるが、その溯源研究には梵漢兩語彙の對照辭典が必要である。この日本の梵語學の振興を期し、漢譯佛典の溯源研究の要望に應へるものが今刊行せんとする漢譯對照梵和大辭典である。

昭和三年十一月、故ドクトル渡邊海旭 故文學博士荻原雲來兩氏等は我國多數の梵語學者の了解の下に編纂委員等と共に漢譯對照梵和大辭典編纂刊行會を興し、翌年四月、本辭典編纂の實務に着手した。爾來、都監荻原博士を初、四十餘名の編纂委員は各專攻の部門を擔當して銳意その業を涉め、又昭和五年以降、外務省文化事業部は本事業を援護せんが爲に助成金を交附された。かくて昭和十三年に及び、語彙の蒐集并に校閲略々完成した時、都監遽かに逝去して事業に一頓挫を來した。仍て本會は常務委員日夜語彙の整理配列是正校閲に努め改めて原稿を作製した結果茲に著手以來十三年間の業果を世に問ふと共に、一本を故都監の靈前に供へ得たのである。

時局の進展は印度を夢幻の境たるに止まらしめず、速に往時の如く歐人の研究に追從する域を脱し、明日の問題として印度に對し重大關心を示すべき時機に直面してゐる。更に東洋大多數民族の共有文化財たる佛教は急遽その本然の姿に戻り、興亞新秩序達成の基底を顯さんが爲にその眞意を究明せねばならぬ。本辭典出版事業の如きも亦實に此種現實問題に對してもその一大礎石となることを信じて疑はぬ。願くば具眼の士、幸に吾人の事業に贊同せられんことを。

昭和十五年十二月

漢譯 梵和大辭典編纂刊行會

梵字音譯表

अ a,	आ ā,	इ i,	ई ī,	उ u,	ऊ ū,	ऋ ṛ,
ऌ ḷ,	ॠ ṛī,	ए e,	ऐ ai,	ओ o,	औ au,	
क ka,	ख kha,	ग ga,	घ gha,	ङ ṅa,	च ca,	छ cha,
ज ja,	झ jha,	ञ ña,	ट ṭa,	ठ ṭha,	ड ḍa (ॢ は又た ढ ḍa),	
ढ ḍha (ॣ は又た ढ्ह ḍha),	ण ṇa,	त ta,	थ tha,	द da,	ध dha,	
न na,	प pa,	फ pha,	ब ba,	भ bha,	म ma,	य ya,
र ra,	ल la,	व va,	श śa,	ष ṣa,	स sa,	ह ha,
: ḥ (Visarga),		ṁ (Anusvāra).				

- I. 本辭典の語彙排列は上記梵字音譯表の順序に従ふ。但し *my, mr, ml, mv* (semivowel を伴ふ Anusvāra), *mś, mṣ, ms, mh* (sibilant を伴ふ Anusvāra) は、此の順序を以て母韻の後、*k* の前に列す。hard guttural 及び hard labial の前の Visarga 即ち *ḥk, ḥp* は此の順序を以て母韻の後、*k* の前に列す。sibilant を伴ふ Visarga 即ち *ḥś ḥṣ, ḥs* は各々 *ś, ṣ, s* の直後に列す。
- II. 語根は頭字のみを大文字にて示す。(名稱動詞を除く)。
例. *Aj, DHā, Śams.*
- III. 母韻の連接は *a+a, i+i, u+u* を各々 *â, î, û* にて示し、他は括弧内に之を示す。又た合成語の中に於ける *r, ṛ* は連聲法に従ひて *r* となる場合あるも、特に *r* を示さずしてハイフンを附することあり。
例. *anantāloka (°ta-āl°), anv-e (anu-ā-I); maha-rṣi.*
- IV. 單語及び合成語は、その構成を示す爲に下の如き規約に従ひ、字間にハイフンを挿入して之を分つ (III を適用す)。
- A 單語.
- (1) 一語中の接頭音 (prefix) は之を分つ。その語が二以上の接頭音を有し或は二以上の語を以て合成せられたる場合は初頭のみその接頭音を分つ。
例. *adhi-kāra, pra-vṛtti, dur-abhiprāya, ati-durbala, a-prameya; aty-atikrānta.*
- (2) 一語中の接尾音 (suffix) は之を分たず。
例. *sūnyatā, dāsatva, dārumaya, ekatama, dhanavat, dhātumattā, nāyaka, draṣṭavya.*
- B 二語以上より成る合成語の各語を *a, b, c, ** (接尾音) に分解して示す場合。
- (1) $a+b=a-b$ (A の (1) を適用す)。
例. *loka-nātha, dhana-nāśa; adhi-pati.*
- (2) $a+b+*=a-b^*$ (意味の如何に關せず $(a+b)^*$ と考へらるゝ場合にも適用す)。
例. *a-capulatā, bhūta-pūrvatā, rūpa-dhāritva, antānantavattva, a-cakṣuṣmat.*
- (3) $a+b+c=a-b-c$ (A の (1) を適用す)。
例. *utsa-saras-tadāga, ati-citra-gambhīra.*
- [注意]
- (i) $a+bc$ と考へらるゝ場合 $=a-b-c$ 。
例. *dhṛta-kanaka-māla.*
- (ii) $ab+c$ と考へらるゝ場合。
- (イ) $a+b$ が初出の場合 $=a-b-c$ 。
例. *agra-bandhu-bhūta.*
- (ロ) $a+b$ が既出の場合 $=ab-c$ 。
例. *ajñāta-bhukta, atyanta-gata.*
- (ハ) $a+b$ が既出なるも意味に異なる場合 $=a-b-c$ 。
例. *a-kṛta-jñā, a-dharma-śaraṇa.*
- (4) $a+b+c+*=a-b-c^*$ (A の (2), B の (2) に準ず)。
例. *a-kṛta-jñatā, a-dvaidhi-kāratva.*

西 藏 字 音 譯 表

ཀ ka,	ཁ kha,	ག ga,	ང na,	ཅ ca,	ཆ cha,	ཇ ja,	ཉ ña,
ཏ ta,	ཐ tha,	ད da,	ན na,	པ pa,	ཕ pha,	བ ba,	མ ma,
ཚ tsa,	ཛ tsha,	ཎ dsa,	ལ va (wa),	ཤ sa (sha),	ཟ za,	ཨ ha,	ཨ ya,
ར ra,	ལ la,	ཤ sa,	ས sa,	ཧ ha,	ཨ a.		

略 語 表

(五 十 音 順)

<p>爲格 dative.</p> <p>一過 第一過去 imperfect.</p> <p>一人 一人稱 first person.</p> <p>於 於格 locative.</p> <p>音寫 transcription.</p> <p>音律 metrical (due to exigencies of metre).</p> <p>華 華文梵語 Classical (post-vedic) Sanskrit.</p> <p>訛 (音)轉訛 corrupt.</p> <p>過受分 過去受動分詞 past passive participle.</p> <p>過能分 過去能動分詞 past active participle.</p> <p>幹 語幹 stem.</p> <p>關 關係 relative.</p> <p>感歎 感歎 exclamation.</p> <p>間投 間投詞 interjection.</p> <p>對譯 對應漢譯語 Chinese translation. (尙ほその語の佛教原典中に存するを示す).</p> <p>願 願望法 optative.</p> <p>希求 希求動詞 desiderative.</p> <p>客 客語, 客語的, 客語的に predicate, predicative, predicatively.</p> <p>強 強 strong.</p> <p>強意 強意動詞 intensive (frequentative).</p> <p>強調 強調的 emphatic.</p> <p>疑 疑問 interrogative.</p> <p>擬音 擬音語 onomatopœic.</p> <p>戲曲 戲曲語 dramatic term.</p> <p>具 具格 instrumental.</p> <p>形 形容詞 adjective.</p> <p>現 現在 present.</p> <p>現分 現在分詞 present participle.</p> <p>呼 呼格 vocative.</p> <p>業 業格 accusative.</p> <p>合成 合成語 compound.</p> <p>祭 祭式語 ritual term.</p> <p>再歸 再歸 reflexive.</p> <p>最上 最上級 superlative.</p>	<p>三過 第三過去 aorist.</p> <p>三人 三人稱 third person.</p> <p>使役 使役動詞 causal.</p> <p>指小 指小語 diminutive.</p> <p>修辭 修辭語 rhetorical term.</p> <p>自 爲自言 Ātmanepada.</p> <p>實名 實名詞 substantive.</p> <p>自動 自動詞 intransitive.</p> <p>弱 弱 weak.</p> <p>受 受動 passive.</p> <p>從 從格 ablative.</p> <p>重字 重字, 重字せられたる reduplication, reduplicated.</p> <p>女 女性 feminine.</p> <p>條 條件法 potential.</p> <p>敘詩 敘事詩 Epic.</p> <p>數 數詞 numeral.</p> <p>接 接續法 subjunctive.</p> <p>接詞 接續詞 conjunction.</p> <p>接頭 接頭音 prefix.</p> <p>接尾 接尾音 suffix.</p> <p>絕 絕對法 absolute.</p> <p>前 前置詞 preposition.</p> <p>相關 相關語 correlative.</p> <p>相當 相當語 equivalent.</p> <p>屬 屬格 genitive.</p> <p>俗 俗語, 俗語的 Prākṛit (Sanskrit equivalent of Prākṛit word), Prākṛitic.</p> <p>他 爲他言 Parasmaipada.</p> <p>對 對語 opposite.</p> <p>體 體格 nominative.</p> <p>他動 他動詞 transitive.</p> <p>單 單數 singular.</p> <p>代 代名詞, 代名詞的 pronoun, pronominal.</p> <p>男 男性 masculine.</p> <p>斷 斷言 asseverative.</p> <p>中 中性 neuter.</p>
---	--

抽	抽象	abstract.	文法	文法語	grammatical term.
註	註釋家	commentator.	吠	吠陀, 吠陀的	Veda, Vedic.
直	直接法	indicative.	法	法律語	legal term.
哲	哲學語	philosophical term.	母	母系語	metronymic.
轉	轉成語	derivative.	未	未來	future.
動	動詞	verb.	未受分	未來受動分詞	future passive participle.
二過	第二過去	perfect.	名	名詞	noun.
二過分	第二過去受動分詞	perfect passive participle.	命	命令法	imperative.
二人	二人稱	second person.	名稱	名稱	epithet.
人稱	人稱	person.	名動	名稱動詞	denominative.
能	能動	active.	兩	兩數	dual.
否	否定的	negative.	例	例へば	for example.
比較	比較級	comparative.	Gk.	希臘語	Greek.
非人	非人稱	impersonal.	Lat.	羅典語	Latin.
譬喻	譬喻的, 譬喻的に	figurative, figuratively.	Pāli.	巴利語	Pāli.
不確	不正確	incorrect.	Tib.	西藏語譯	Tibetan translation.
不規	不規則	irregular.	AV.		Atharva-veda.
副	副詞, 副詞的, 副詞的に	adverb, adverbial, adverbially.	U.		Upaniṣad.
複	複數	plural.	TBr.		Taittirīya-brāhmaṇa.
父系	父系語	patronymic.	TS.		Taittirīya-saṃhitā.
附帶	附帶語	enclitic.	P.		Purāṇa.
不定	不定法	infinitive.	Br.		Brāhmaṇa.
不變	不變化語	indeclinable.	YV.		Yajur-veda.
不變辭	不變化小辭	particle.	RV.		Ṛg-veda.
不變分	不變化分詞	gerund (indeclinable particle).	VS.		Vājasaneyi-saṃhitā.
佛敎	佛敎語	Buddhistic term.	SB.		Śatapatha-brāhmaṇa.
分	分詞	participle.	S.		Sūtra.
			SV.		Sāma-veda.

符 號 表

=	に同じ.
→	參照, を見よ.
一°	合成語の終.
°一	合成語の始.
±	俱に又はなしに.
[]	主として説明に用ふ. この中に單に語根を記したるは, 見出しの語がその語根より派生せる語なるを示す.
()	和譯の意味を明らかならしむる爲の補足語及び精密に該當せざる場合の漢譯語.
()	編纂者の追補語.
<	見出しの語が俗語或は轉訛語なるとき, その轉成を示す.
~	見出しの語を代表す.
[同上]	和譯語の上に同じきを示す. (但し漢譯語には適用せず; 若し上の語に和譯なき時は當該梵語が上の語と意味の同じきを示す).
[同上 抽]	上の語の抽象名詞.
[同上 例]	上の語の 例 と譯語同じきを示す.
[同下]	和譯語の下に同じきを示す他 [同上] に準ず.
(音寫)	一部分漢譯語にして一部分音寫なるを示す.

語彙・譯語の追補に採用せる梵本とその略號并に
該當又は參照漢譯經論表

略號	梵本 [校訂者及び刊本名]	漢譯 [譯者名]	大正藏 卷番號
<i>Abh-k.</i>	Abhidharma-kośa-kārikā [Louis de La Vallée Poussin: L'Abhidharmakośa de Vasubandhu. Paris, 1931].	阿毘達磨俱舍論本頌 [唐玄奘]	1560.
<i>Abh-vy.</i>	Sphuṭārthā Abhidharmakośa-vyākhyā [U. Wogihara: id., The Work of Yaśomitra. Tokyo, 1932-1936].	阿毘達磨俱舍論 [唐玄奘] 阿毘達磨俱舍釋論 [陳真諦]	1558. 1559.
<i>Av-ś.</i>	Avadāna-śataka [J. S. Speyer: A Century of Edifying Tales belonging to the Hīnayāna (Bibliotheca Buddhica III.) St.-Petersbourg, 1902-1909].	撰集百緣經 [吳支謙]	200.
<i>Aṣṭ-pr.</i>	Aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitā [Prajñ-vy. 所引の經本文を用ゆ].	大般若波羅蜜多經 (第四會) [唐玄奘] 小品般若波羅蜜經 [後秦鳩摩羅什] 佛母出生三法藏般若波羅蜜多經 [宋施護]	220(4). 227. 228.
<i>Kār-vy.</i>	Guṇa-kāraṇḍa-vyūha [Satyavrata Sāmaśrami: id. Calcutta, 1873].	大乘莊嚴寶王經 [宋天息災]	1050.
<i>Kāśy.</i>	Kāśyapa-parivarta [Staël-Holstein: id., A Mahāyāna Sūtra of the Ratnakūṭa Class. Shanghai, 1926].	古大寶積經(大寶積經第四十三・普明菩薩會) [失譯] 遺日摩尼寶經 [後漢支婁迦讖] 摩訶衍寶嚴經 [失譯] 大迦葉問大寶積正法經 [宋施護]	310(43). 350. 351. 352.
<i>Gaṇḍ-vy.</i>	Gaṇḍa-vyūha [D. T. Suzuki & H. Idzumi: The Gandavyuha Sutra. Kyoto, 1934-1936].	大方廣佛華嚴經 [唐般若] 大方廣佛華嚴經 (第三十四入法界品) [東晉佛跋跋陀羅] 大方廣佛華嚴經 (第三十九入法界品) [唐實叉難陀]	293. 278(34). 279(39).
<i>Guhya-s.</i>	Guhya-samāja-tantra [Benoytosh Bhattacharyya: id. (Gaekwad's Oriental Series, LIII.) Baroda, 1931].	一切如來金剛三業最上祕密大教王經 [宋施護等]	885.
<i>Cat-ś.</i>	Catuṣ-śatikā [M. Haraprasād Śāstri: Āryadeva's Catuṣśatikā (Memoirs of the Asiatic Society of Bengal, Vol. III. No. 8.) Calcutta, 1914].	廣百論本 [唐玄奘]	1570.
<i>Jāt-m.</i>	Jātaka-mālā [H. Kern: Stories of Buddha's Former Incarnations by Ārya-sūra (Harvard Oriental Series, I.) Boston, 1914].		
<i>Daś-bh.</i>	Daśa-bhūmiśvara [近藤隆晃: 梵文大方廣佛華嚴經. 東京, 1936].	大方廣佛華嚴經 (第二十二・十地品) [東晉佛跋跋陀羅] 大方廣佛華嚴經 (第二十六・十地品) [唐實叉難陀] 十住經 [後秦鳩摩羅什] 十地經 [唐尸羅達摩]	278(22). 279(26). 286. 287.
<i>Divy.</i>	Divyāvadāna [E. B. Cowell & R. A. Neil: A Collection of Early Buddhist Legends. Cambridge, 1886]. I. Koṭikarna.	根本說一切有部毘奈耶皮革事 [唐義淨] の一部	1447.

	II. Pūrṇa—VII. Nagarāvalambika, XXX—XXXI. Sudhana-kumāra.	根本說一切有部毘奈耶藥事 [唐義淨] の一部	1448.
	XII. Prātihārya-sūtra, XVII. Māndhāta, XIX. Jyotiṣka, XXXV. Cūdāpaṅka—XXXVII. Rudrāyāna.	根本說一切有部毘奈耶雜事 [唐義淨] の一部	1451.
	XIII. Svāgata, XXI. Sahasodgata.	根本說一切有部毘奈耶 [唐義淨] の一部	1442.
	XIV. Sūkarikā.	嗟穢法天子受三歸依獲免惡道經 [宋法天]	595.
	XVII. Māndhāta.	頂生王因緣經 [宋施護等]	165.
	XX. Kanakavarṇa.	金色王經 [東魏瞿曇般若流支]	162.
	XXII. Candraprabha.	月光菩薩經 [宋法賢]	166.
	XXIII. Saṃgharakṣita.	因緣僧護經 [失譯]	749.
	XXVI. Pāṃsupradāna—XXIX. Aśoka.	雜阿含經 [翻宋求那跋陀羅] の一部 99(6c4, 640, 641).	
	XXXII. Rūpāvati.	阿育王傳 [西晉安法欽]	2042.
	XXXIII. (Appendix A.) Śārdūlakarṇa.	阿育王經 [梁僧伽婆羅]	2043.
		銀色女經 [元魏佛陀扇多]	179.
		摩登伽經 [吳竺律炎·支謙]	1330.
		舍頭諫太子二十八宿經 [西晉竺法護]	1301.
	XXXIV. Dānādhikāra-mahāyāna-sūtra.	布施經 [宋法賢]	705.
Dharm-s.	Dharma-saṃgraha [K. Kasawara, F. Max Müller & H. Wenzel: id. (Anecdota Oxoniensia, Aryan Series, Vol. I. Part V.) Oxford, 1885].	法集名數經 [宋施護]	764.
Nyāy-pr.	Nyāya-praveśa [A. B. Dhruva: id. (Gaskell's Oriental Series, No. XXXVIII.) Baroda, 1930].	因明入正理論 [唐玄奘]	1630.
Prajñ-vy.	Abhisamayālamkāra-lokā Prajñāpāramitā-vyākhyā [U. Wogihara: id. The Work of Haribhadra. Tokyo, 1932-1935].		
Prajñ-h.	Prajñāpāramitā-hṛdaya-sūtra [F. Max Müller & B. Nanjio: The Ancient Palm-leaves containing the Prajñā-Pāramitā-Hṛdaya-Sūtra and the Uṣṇīṣa-Vijaya-Dhāraṇī (Anecdota Oxoniensia, Aryan Series, Vol. I. Part III.) Oxford, 1884]. (A. B. 二本あり).	般若波羅蜜多心經 [唐玄奘] (A 本に該當)	251.
		普遍智藏般若波羅蜜多心經 [唐法月]	252.
		般若波羅蜜多心經 [唐般若·利言等]	253.
		般若波羅蜜多心經 [唐智慧輪]	254.
		般若波羅蜜多心經 [唐法成]	255.
		聖佛母般若波羅蜜多經 [宋施護] (以上五本 B 本に該當)	257.
Prāt-m.	Prātimokṣa [Louis Finot: Le Prātimokṣa-sūtra Des Sarvāstivādins, Documents De L'Asie Centrale, Mission Pelliot. (Journal Asiatique, Paris, 1913)].	十誦比丘波羅提木叉戒本 [姚秦鳩摩羅什]	1436.
Buddh-c.	Buddha-carita [E. B. Cowell: The Buddha-carita of Aśvaghosa (Anecdota Oxoniensia) Oxford, 1893].	佛所行讚 [北涼曇無讖]	192.
Bodh-c.	Bodhi-caryāvatāra [Louis de La Vallée Poussin: Bodhicaryāvatāra-pañjikā. (Bibliotheca Indica), Calcutta, 1901-1914].	菩提行經 [宋天息災]	1662.
Bodh-bh.	Bodhisattva-bhūmi [U. Wogihara: id. A Statement of Whole Course of the Bodhisattva. Tokyo, 1930-1936].	瑜伽師地論 本地分菩薩地 [唐玄奘]	1579(I. 15).
		菩薩地持經 [北涼曇無讖]	1581.
		菩薩善戒經 [翻宋求那跋摩]	1582.

Ārya-mañjuśrī-mūlakalpa [T. Gaṇapati Śāstri: id. (Trivandrum Sanskrit Series, No. LXX-LXXXIV.) Trivandrum, 1920-1925].	大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經 [宋天息災]	1191.
Madhyamaka-vṛtti [Louis de La Vallée Poussin: Mūla-madhyamaka-kārikās de Nāgārjuna avec la Prasannapadā Commentaire de Candrakīrti (Bibliotheca Buddhica IV.) St.-Petersbourg, 1903-1913].	中論 [姚秦鳩摩羅什] の本頌 般若燈論釋 [唐波羅頗蜜多羅] の本頌 大乘中觀釋論 [宋惟淨等] の本頌	1561. 1566. 1567 及び元藏本。
Madhyānta-vibhāga [S. Yamaguchi: Madhyānta-vibhāgaṭikā, Sthiramati, Exposition Systématique du Yogācārāvijñaptivāda. Nagoya, 1934]	及び所引經典に該當する漢譯 中邊分別論 [陳眞諦]	1599.
Mahāvastu-avadāna [É. Senart: Le Mahāvastu (Collection d'ouvrages Orientaux, seconde série) Paris 1882-1897].	辯中邊論 [唐玄奘]	1600.
Mahāvvyutpatti [(1). 荻原雲來: 梵漢對照佛教辭典. 東京, 1927. (本辭典には著者の加筆本を用ふ.); (2). 榊亮三郎: 梵藏漢和四譯對校翻譯名義大集. 京都, 1916].		
Rāṣṭrapāla-pariprechā [L. Finot: id., Sūtra du Mahāyāna. (Bibliotheca Buddhica, II.) St.-Petersbourg, 1901].	護國菩薩經 (大寶積經第十八護國菩薩會) [隋闍那崛多]	310(18).
Laṅkāvatāra-sūtra [南條文雄: 梵文入楞伽經. 京都, 1923].	護國尊者所問大乘經 [宋施護] 楞伽阿跋多羅寶經 [劉宋求那跋陀羅] 入楞伽經 [元魏菩提留支] 大乘入楞伽經 [唐實叉難陀]	321. 670. 671. 672.
Lalita-vistara [S. Lefmann: id. 'Leben und Lehre des Śākya-buddha. Halle, 1902].	普曜經 [西晉竺法護] 方廣大莊嚴經 [唐地婆訶羅]	186. 187.
Vajracchedikā-prajñāpāramitā [F. Max Müller: Vajracchedikā (Anecdota Oxoniensia, Aryan Series, Vol. I., Part I.) Oxford, 1884].	佛本行集經 [隋闍那崛多] の一部 大般若波羅蜜多經 (第九會能斷金剛分) [唐玄奘] 金剛般若波羅蜜經 [姚秦鳩摩羅什] 金剛般若波羅蜜經 [元魏菩提留支] 金剛般若波羅蜜經 [陳眞諦] 金剛能斷般若波羅蜜經 [隋笈多] 能斷金剛般若波羅蜜多經 [唐義淨] 金剛針論 [宋法天]	190. 220(9). 235. 236. 237. 238. 239. 1642.
Vajra-sūci [A. Weber: Die Vajrasūci des Āsvaghosha. Berlin, 1860].		
Triṃśikā-vijñapti-bhāṣya [Sylvain Lévi: Vijñaptimātratāsiddhi, Deux Traités de Vasubandhu: Viṃśatikā et Triṃśikā (Bibliothèque de L'école des Hautes Études, 245.) Paris, 1925].	唯識三十論頌 [唐玄奘] 成唯識論 [唐玄奘] 大乘五蘊論 [唐玄奘] 大乘廣五蘊論 [唐地婆訶羅]	1586. 1585. 1612. 1613.
Viṃśatikā-vijñaptimātratā-siddhi, [Ibid].	唯識二十論 [唐玄奘]	1590.
Vinaya [Jean Filliozat & Horyū Kuno: Fragments du Vinaya des Sarvāstivādīm (Journal Asiatique, Paris, 1938)].	十誦律 [後秦弗若多羅・鳩摩羅什]	1435.
Vaiśeṣika-darśana [Sāstri Kāvya-tīrtha: id. (Kashi Sanskrit Series, No. 3.) Benares, 1923].	勝宗十句義論 [唐玄奘]	2138.
Śikṣāsamuccaya [Cecil Bendall: A Compendium of Buddhist Teaching, compiled by Śāntideva (Bibliotheca Buddhica I.) St.-Petersbourg, 1897-1902].	大乘集菩薩學論 [宋法護等] 及び所引經典に該當する漢譯.	1636.
Saddharma-puṇḍarīka [H. Kern & B. Nanjio: id. (Bibliotheca Buddhica X.) St.-Peters-	妙法蓮華經 [後秦鳩摩羅什] 正法華經 [西晉竺法護]	262. 263.

	bourg, 1908-1912].		
<i>Sapt-pr.</i>	Saptaśatikā-prajñāpāramitā [(1). G. Tucci: id. (Reale Accademia Nazionale Dei Lincei, Serie IV., Vol. XVIII., Fasc. III.) Rome, 1923; (2). 增田慈良: id. (大正大學報 VI-VII, Part. II. 東京, 1930)].	大般若波羅蜜多經 (第七會曼殊室利分) [唐玄奘] 文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經 [梁曼陀羅仙] 文殊師利所說般若波羅蜜經 [梁僧伽婆羅]	220(7). 232. 233.
<i>Sam-r.</i>	Śamādhi-rāja [Carat Chandra Dās & H. Vidyābhūshan: id. (Buddhist Text Society) Calcutta, 1896].	月燈三昧經 [高齊那連提耶舍]	639.
<i>Sāmkhy-k.</i>	Sāmkhya-kārikā [Vishnu Prasad Śarma: Mātharavṛtti Sahitā (Choukhamba Sanskrit Series, No. 296.) Benares, 1922].	金七十論 [陳真諦]	2137.
<i>Sukh-vy. I.</i>	Sukhāvati-vyūha (大本) [F. Max Müller & B. Nanjio: Sukhāvati Vyūha, Description of Sukhāvati, the Land of Bliss. (Anecdota Oxoniensia, Aryan Series, Vol. I., part II.) Oxford, 1883].	大寶積經 (第五無量壽如來會) [唐菩提流志] 無量壽經 [晉康僧鎧] 大乘無量壽莊嚴經 [宋法賢]	310(5). 360. 363.
<i>Sukh-vy. II.</i>	Sukhāvati-vyūha (小本) [Ibid].	阿彌陀經 [姚秦鳩摩羅什] 稱讚淨土佛攝受經 [唐玄奘]	366. 367.
<i>Suv-pr.</i>	Suvarṇa-prabhāsa-sūtra [南條文雄・泉芳環: 梵文金光明最勝王經, 京都, 1931].	金光明經 [北涼曇無讖] 合部金光明經 [隋寶貴合] 金光明最勝王經 [唐義淨]	663. 664. 665.
<i>Sūtr.</i>	Mahāyāna-sūtrālamkāra [Sylvain Lévi: Asaṅga, Exposé de La Doctrine du Grand Véhicule (Bibliothèque de L'école des Hautes, Études, 159) Paris, 1907].	大乘莊嚴經論 [唐波羅頗蜜多羅]	1604.
玄應・		一切經音義 [唐玄應撰]	略藏(爲 6).
梵千・		梵語千字文 [唐義淨撰]	2133.
梵雜・		梵語雜名 [唐禮言集]	2135.



漢譯對照梵和大辭典

簡目一覽

A	1	D	517
Ā	178	ḌH	518
I	223	Ṇ	518
ī	232	T	519
U	236	TH	563
ū	284	D	563
Ṛ	287	DH	627
E	291	N	652
AI	301	P	718
O	302	PH	902
AU	304	B	906
K	306	BH	941
G	409	M	982
GH	446	Y	1071
ṅ	451	R	1104
C	451	L	1139
CH	482	V	1162
J	486	ś	1302
JH	515	Ṣ	1364
ñ	516	S	1366
T	516	H	1545
TH	517		

A

a 1. [idam の格變化并に若干の不變化小辭を構成する
代名詞根: a-tra, a-tha].

a- 2. [母音の前に於ては an-, 例外: a-ṛṇin 等][否定的
接頭音]; 不, 非; 未 猶未; 無 Bodh-bh., 梵干. 等.

a 3. 阿, 婀, 哀 Lal-v., Gaṇḍ-vy., 玄應.

a-ṛṇin 形 負債なき.

aṃśa 男 部分, 分前(?); [神の名]; 品, 分 Abh-
vy., Sūtr., Mvyut.; [=aṃśa] 肩 Divy., Śikṣ. —
分の一 Mvyut. → pañcama~. ~ena
一部分は.

aṃśa-kalpanā 女 分前の分配, 按分.

aṃśa-gata 形 分 Mvyut.

aṃśatā 女 分, 方, 方分 Vijñ-v.

aṃśa-prakalpanā 女 分前(?)の分配, 按分.

aṃśa-pradāna 中 分前の分配.

aṃśa-bhāgin 形 分前を有する.

aṃśa-bhāj 形 [同上].

aṃśa-bhūta 形 (男)の部分をなせる.

aṃśavat 形 部分を有する.

aṃśa-hara 形 部分又分前(?)を受くる.

aṃśāvatarāna 中 (神々の)一部が降臨すること;
[Mahābhārata 第一卷の章の名].

-aṃśika 形 類, 分 Aṣṭ-pr., Śikṣ. → upapat-
ty~, marāna~, śukla~.

aṃśin 形 分前(?)を有する.

aṃśu 男 Soma 草, Soma 汁; 光線; 莖; 光
明, 光明; 亮; 淨; 勝妙 Av-ś., Laṅk., Gaṇḍ-vy., Abh-
vy., Sūtr., Mvyut.

aṃśuka 中 葉; 布, 衣服; 絹, 絹羅 Mvyut.

aṃśukānta 男 衣服の縁(?).

aṃśu-jāla 中 光の輝き, 光線の集り; 光明
Gaṇḍ-vy.

aṃśu-paṭṭa 中 布(の一種).

aṃśu-bhartṛ 男 太陽.

aṃśumat 形 輝ける. 男 太陽; [人名].

aṃśu-mālin 男 太陽.

aṃśa 男 肩; 肩, 髀 Laṅk., Vajr-pr., Abh-vy.:
~ena pariharati 頂戴 Saddh-p. 338.

aṃśa-kūṭa 男 肩先; 肩 Gaṇḍ-vy.

aṃśatra 中 鎧.

aṃśa-prṣṭha 中 肩の隆起線.

aṃśa-pracālaka 形 揺肩 Prāt-m.

aṃśa-phalaka 中 肩胛骨.

aṃśala 形 強き, 有力なる.

aṃśa-vartin 形 肩の上にある.

aṃśa-vivartin 形 肩の方に屈みたる.

aṃśa-vyāpin 形 肩に達したる.

aṃśa-sthala 中 肩.

aṃhati 女 [同下].

aṃhas 中 困苦, 困窮; 罪.

aṃhu 中 [同上].

aṃhura 形 困苦せる.

aṃhūraṇa 中 困苦.

aṃhri 男 足.

aḥ-kāra 男 阿字 [五十字門の一]: ~e as-
taṃgamana-śubdo niścaraṭi sma (→ a-kāra.) 唱
阿字時出一切法皆滅沒聲 Lal-v. 127.

aka 男 文法 [接尾音 -aka].

a-kaṭuka 形 勤勉なる.

a-kaṇaka 形 外殻に附著せる赤き部分なき(米) (Di-
vy.).

a-kaṇṭaka 形 刺なき; 敵なき; 無棘 Mvyut.

a-kaṇṭha 形 頸なき; 聲なき, 嗄聲の.

a-katthana 中 自慢せざること, 誇らざること.

a-katham 男 [「何故」なくして即ち] 彼此言はずに.

a-kathita 通受分 述べられざる; 論ぜられざる.

a-kathya 形 言ひ難き, 述べ難き, 言ひ出し難き;
不可與語 Bodh-bh.

a-kad-vada 形 悪口せざる, 善く言ふ.

a-kaṇiṣṭha 男 何れを最年少者ともなし難き, 同
様に若き; [=agha-ṇiṣṭha 天の名] 色究竟, 善
究竟; 無下, 非下; 有頂 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-
vy., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Dharm-s.; 阿
迦尼, 尼師吒, 阿迦尼吒(天), 阿迦膩吒(天), 阿迦尼沙
訖, 阿迦拏提, Sam-r., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Divy.,
Laṅk.

akaṇiṣṭha-bhavana 中 色究竟天; (阿迦)阿迦
尼沙境, 阿迦膩吒天 Laṅk., Divy., Sukh-vy. 1.

a-kanyā 女 非處女.

a-kaṇṭha-cchavi 形 褐色ならざる.

a-kampa 形 震動せざる.

a-kampana 男 [或る Rākṣasa 又は王の名].

a-kampita 通受分 震動せざる, 確乎たる.

a-kampiya 形 俗 [<akampya]; 不動, 無能動,
不動搖 Gaṇḍ-vy.

a-kampya 未受分 動搖せられざる; 不動; 不
搖, 不傾動 Divy., Buddh-c., Abh-vy.

akampya-citta 形 心無遮, 心不動 Mvyut.

a-kara 形 税又は義務を免除せる; 罷課 Av-ś.:
saptāhaṃ yūyam ~ā (各令)七日罷(諸王)課 [=汝
等七日罷課] Av-ś. I. 58.

a-karaṇa 1. 中 不遂行; 不可作 Sāṃkhy-k.

a-karaṇa 2. 形 人爲を施さざる, 自然なる.

akaraṇa-citta 中 無作心 Bodh-bh.

akaraṇa-saṃvara 形 無毀犯 Śikṣ.

a-karaṇiya 未受分 爲さるべからざる; 非事,
不應作 Vijñ-t., Śikṣ., Mvyut.

akaraṇiyāvasthā 女 無所作位, 無功用位
Madhy-vibh.

a-karuṇa 形 無慈悲なる; 無悲, 無慈悲 Divy.

a-karuṇatva 中 無慈悲.

a-karkaśa 形 強固ならざる, 柔軟なる; 無差,

不塵澁, 不粗俗 *Siks., Mvyut.*

a-karṇa 形 聾の; *Karṇa* なき; 無耳者 *Mvyut.*

a-karṇadhāra 形 腕手なき, 摺導者なき.

a-kartavya 未受分 爲さるべからざる. 非行.

a-kartṛ 男 非作者, 非動作者; 非能作, 非作者 *Abh-vy., Sāmkhy-k.*

a-kartṛka 形 無作者 *Abh-vy.*

a-karmaka 形 目的なき; 自動の(文法).

a-karma-kṛt 形 無爲の.

a-karmaṇya 形 無効の, 役に立たざる.

a-karmaṇyatā 女 無所堪任, 無所堪能 *Vijñ-t.*

a-karman 中 無爲. 形 何事も爲さざる, 怠惰なる; 邪悪なる.

a-karma-prāpti 女 業(功)の干渉なきこと.

a-karmavat 形 已に業を遠離したる.

akarma-śīla 形 不活潑の, 懶惰の.

a-karma-śrānta 形 儀式に倦まざる.

a-karma-hetuka 形 不由於業 *Lank.*

a-karmikā 女 怠惰(*Divy.*).

a-kala 形 部分なき, 分割せられざる.

a-kalaṅka 形 汚點なき.

a-kali 形 争はざる, 和合せる.

a-kalita 過受分 知られざる; 定義し得ざる.

akalitātman (°ta-āt) 形 心意の測り知られざる.

akali-prasara 形 争の起らざる.

a-kaluṣa 形 曇らざる, 明らかなる; 無染濁, 無垢染, 無垢濁; 無缺減 *Bodh-bh., Siks.*

a-kalkaka 形 過誤なき, 正しき.

a-kalka-kalila 形 野鄙ならざる.

a-kalkatā 女 正直.

a-kalpa 形 (業)に相應しからざる; (因)を爲す能はざる; 無分別, 非分分 *Lank., Bodh-bh., Sūtr.*

a-kalpana 形 離分別, 莫分別(邪行) *Lank.*

a-kalpanā 女 無分別 *Sūtr.*

akalpanā-jñāna 中 無分別智 *Sūtr.*

akalpanā-jñāna-bala 中 無分別智力 *Sūtr.*

a-kalpika 形 無分別, 非儀 *Bodh-bh., Siks.*

a-kalpita 過受分 作られざる, 人爲的ならざる, 自然の, 装はざる; 無分別, 離分別; 不想, 非妄計 *Sam-r., Lank., Sūtr.*

a-kalmaṣa 形 汚なき; 無穢 *Aṣṭ-pr.*

a-kalmāṣa 形 (女-i) 汚れなき. 男 [人名]. 中 [akalmaṣaの因]; 不穢, 無穢 *Mvyut.*

akalmāṣa-śīla 形 不濁戒, 無雜戒, 不雜戒, 不雜染戒 *Gaṇḍ-vy., Sam-r.*

a-kalya 1. 形 不健康なる, 病める.

a-kalya 2. 未受分 臆測し難き.

a-kalyāṇa 形 美しからざる; 不吉の, 不運の; 不善 梵雜. 中 不幸, 不運.

akalyāṇa-mitra 中 悪友(*Jāt-m.*).

akallola 男 啞 *Mvyut.*: na ~o bhavati 不得成啞 *Mvyut.*

a-kava 形 吝嗇ならざる, 寛容なる.

a-kavi 形 賢からざる, 愚なる.

a-kasmāt 中 副 (明白なる)理由なく; 突然, 偶然; 忽然 *Mvyut.*

akasmād-āgantu 男 偶然來る者.

a-kāku 形 (擊を)變へざる.

a-kāṇḍa 形 豫期せざる, 突然の; 豫期せずして, 突然.

akāṇḍa-pāta 男 不意の出來事.

a-kātara 形 恐れざる.

a-kāma 形 希望せざる, 欲せざる, 愛せざる.

a-kāmaka 形 無樂欲 *Bodh-bh.*

akāma-kāra 形 不隨欲, 不得自在 *Bodh-bh.*

a-kāmatas 副 不本意に, 嫌々ながら.

a-kāmatā 女 無欲, 無愛欲.

a-kāmayāna 現分 愛せざる.

a-kāma-hata 形 愛欲に溺れざる.

a-kāmin 形 愛せざる, 嫌厭せる.

a-kāya 形 身體のなき; 無身 *Madhy-v.*

a-kāyastha 形 *Kāyastha* の階級ならざる.

a-kāyikā 女 [競技の一種](*Divy.*).

a-kāra 男 āの音, aの字; 阿字 [五十字門の一]: yadā ~m parikīrtayanti sma tadā anityaḥ sarva saṃskāra-śabdo niścarati sma 唱阿字時一切諸行無常聲 *Lal-v. 127.*; [mātrkā (五十字門): a, ā, i, ī, u, ū, (ṛ, ṝ, ḷ, ḹ) e, ai, o, au, am, aḥ, ka, kha, ga, gha, ṇa, ca, cha, ja, jha, ṇa, ṭa, ṭha, ḍa, ḍha, ṇa, ta, tha, da, dha, na, pa, pha, ba, bha, ma, ya, ra, la, va, śa, ṣa, sa, ha, kṣa *Lal-v. 127.*]; 阿字 [四十二字門の一]: ~m aksaram parikīrtayato bodhisattvānubhāvenāsamnivīṣayam nāma prajñāpāramitā-mukham avakrāntam 唱阿字時能甚深入般若波羅蜜門名以菩薩勝威德力顯示諸法本無生義 *Gaṇḍ-vy. 448.*; [dvācatvāriṃśat-prajñāpāramitā-mukha(=mātrkā字母)四十二般若波羅蜜門(四十二字門): a, ra, pa, ca, na, la, da, va, ḍa, ṣa, ba, ta, ya, ṣṭa, ka, sa, ma, ga, tha, ja, sva, dha, śa, kha, kṣa, sta, jña, rtha, bha, cha, sma, hva, tsa, gha, ṭha, ṇa, pha, ska, ysa, śca, ṭa, ḍha *Gaṇḍ-vy. 450.*].

a-kāraka 形 無効の; 無作 *Aṣṭ-pr.*

a-kāraḥkatva 中 無効; 無作者 *Lank.*

a-kāraṇa 形 原因なき; 非因, 無緣 *Vijñ-v., Divy.* 中 原因なきこと. °—, ~tas, ~m, 因, 從, 於 原因なしに.

a-kāraṇa-prāpti 女 不成因 *Sāmkhy-k.*

akāraṇa-bandhu 形 利欲なき友.

a-kāruṇika 形 無慈悲なる.

a-kāruṇya 中 無悲, (心)無悲愍, 不起(大)悲心 *Madhy-vibh.*

a-kārpaṇya 形 自卑せざる.

a-kārya 未受分 爲さるべからざる; 不作, 不應作; 無果 *Rāstr., Gaṇḍ-vy., Madhy-v.* 中 非行, 罪行.

a-kāryaka 形 無果 *Madhy-v.*

akārya-karaṇa 中 非行を爲すこと.

akārya-kārin 形 非行を爲す.

a-kāryatama 最上 最も爲すべからざる.

a-kāryatas 副 非行によりて.

a-kāryatva 中 非果 *Abh-vy.*

a-kāla 男 法外の時, 時外れ; 夜 (*Divy.*); 非時, 不依時, 非爲時 *Prāt-m., Buddh-c., Bodh-bh., Sikṣ.* —°, ~tas, 法外の時に, 時外れに.

a-kālaka 中 時外れに食へる食物 (*Divy.*).

akāla-kusuma 中 時節外れの花.

akāla-kaumudī 女 不定期の祭 (*Divy.*); 非時俱物頭會 *Divy.*

akāla-kṣepam 副 卽座に, 猶豫なく.

akāla-caryā 女 時宜に適せざる行爲; 非時行詣 *Mvyut.*

akāla-civara 中 非時衣 *Prāt-m.*

a-kāla-niyama 男 時の制限なきこと.

akāla-bhāṇin 形 非時語 *Sikṣ.*

akāla-bhojana 中 非時食 *Mvyut.*

akāla-mantra 男 非時語 *Sikṣ.*

akāla-mṛtyu 男 夭死.

akāla-velā 女 不順の時節.

a-kāla-saha 形 永く堪へ難き.

a-kāla-hinam 副 時を遷さず, 直ちに.

a-kālikam 副 直ちに.

a-kiṃcana 形 何物も有せざる, 貧しき; 無煩惱 *Sam-r. 9.* 中 何等の價値なきこと.

a-kiṃcanatā 女 貧困.

a-kiṃcanatva 中 [同上].

a-kiṃcij-jña 形 何事も知らざる; 無一智 *Saddh-p.*

a-kiṃcit-kara 形 何事も遂行せざる.

a-kiṃcit-samartha 形 悉不能, 微細亦不能 *Mvyut.*

a-kilāntaka 形 俗 [*aklāntaka*] *Lal-v. 359.*

a-kilāsika 形 不懈怠 *Sūtr.*

a-kilāsikatva 中 不懈怠 *Sūtr.*

a-kilāsitva 中 無疲厭 *Sūtr.*

a-kilāsin 形 無疲厭, 不疲厭, 不疲極, 不懈怠, 未曾有疲倦 *Saddh-p., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sūtr.*

a-kilina 形 濕氣なき, 濡れざる.

a-kilbiṣa 形 (女 -i) 過誤なき.

akisara-lābhitā 女 俗 [*akṛcchra-lābhitā*]; 得無梗澁 *Bodh-bh. 388.*

akisara-lābhin 形 俗 [*akṛcchra-lābhin*, 往々にして一處に *akisara-kṛcchra* の二語を併用することあり *Bodh-bh. 388.*]; 不廢力而得, 非平常之得, 得不難 *Mvyut.*

a-kirtana 中 説述せざること.

a-kirtaniya 未受分 言ふ能はざる.

a-kirti 女 不名譽; 惡譽, 惡名 *Daś-bh., Bodh-bh.*

akirti-kara 形 不名譽の, 破廉耻の, 屈辱的なる; 惡名流布 *Lank.*

a-kirtita 過受分 述べられざる.

a-kuka 形 捉ふる能はざる.

a-kuñcita 過受分 曲らざる, 眞直なる.

a-kuṣila 形 眞直なる, 正直なる.

a-kuṣilatā 女 不邪, 不曲心 *Sam-r., Sikṣ.*

a-kuṣṭha 形 鋭き [譬喩的にも用ふ].

a-kuṣṭhita 過受分 活潑なる, 生氣ある.

a-kutaścid-bhaya 形 何物にも畏れざる.

a-kutas 副 何處よりも…せずして.

a-kutūhala 形 (於)に關心を有せざる (*Buddh-c.*).

akuto-bhaya 形 何物にも畏れざる.

akuto-mukha 形 後退する.

akuto-mṛtyu 形 何處よりも死の來らざる.

a-kutraca-bhaya 形 何物にも畏れざる.

a-kutsita 過受分 非難せらるべき點なき; 清淨 *Mañj-m.*

a-kuthita 過受分 不壞, 不毀, 未毀; 不腐, 未腐 *Mvyut.*

a-kudhryak 副 目的なく.

a-kudhryāñc, a-kudhrici. → *a-kudhryak.*

a-kupya 1. 未受分 怒られざる; 無動, 不動 *Sapt-pr.*

a-kupya 2. 中 貴金屬 [金, 銀].

a-kumāra 男 童子ならざる者 (*Indra* 神の稱).

a-kurvat 現分 …を爲さざる; 非作 *Abh-k.*

a-kula 形 卑しき生れの.

akula-ja 形 卑しき家柄より出でたる.

a-kulatā 女 微賤.

a-kulina 形 卑しき生れの.

a-kuśala 形 有害の; 不幸の, 不吉の; 未熟練の; 罪, 惡, 不善, 非善; 非聰慧, 不善巧者 *Aṣṭ-pr., Lank., Abh-vy., Madhy-vibh., Bodh-bh., Vijñ-t.* 中 害, 惡, 惡言; 不善 *Vijñ-t.:* *daśa ~āni* 十不善 [1. *trīṇi kāya-duṣcaritāni* 身惡行三, 2. *catvāri vāg-duṣcaritāni* 語惡行四, 3. *trīṇi mano-duṣcaritāni* 意惡行三] *Mvyut.*

akuśala-karman 中 罪業, 不善業 *Aṣṭ-pr.*

akuśala-dṛṣṭi 女 惡見, 邪見 *Lank.*

akuśala-dharma 男 不善法 *Bodh-bh.:* *dvāv ~ mahā-bhūmikau dharmau* 二大不善地法 [1. *āhrikyam* 無慚, 2. *anapatrāpyam* 無愧] *Mvyut.*

akuśala-mūla 中 不善根 *Bodh-bh.*

a-kuśida 形 利益又は利子を取らざる, 所得なき; 無怠 *Aṣṭ-pr.*

a-kusumita 過受分 開花せざる.

a-kuha 形 騙らざる, 正しき.

a-kuhana 形 嫉妬心なき.

a-kuhanatā 女 [同上 抽]; 無詔, 無詔曲 *Sikṣ.*

a-kūja 形 音なき.

a-kūṭa 形 正確なる(武器), 眞正の(貨幣).

a-kūṭa-rāsitva 中 無積, 無積聚, 不積聚 *Lank.*

a-kūpāra 形 無限の. 男 海.

akūpāravat 副 海の如くに.

a-kūhaka 形 無瞋恨, 無嗔暴 *Daś-bh.*

a-kṛcchra 男 中 困難なきこと, 災難より脱れたること; 無極艱辛, 無諸艱苦 *Bodh-bh.*

a-kṛcchratva-paramatā 女 無難最勝 無難無比 *Madhy-vibh.*

akṛcchra-laṅghya 形 困難なく横切り得べき.

akṛcchra-lābhitā 女 得無艱難 *Bodh-bh.*

akṛcchra-lābhin 形 不廢力而得, 得不難 *Mvyut.* → *akisara-lābhin.*

akṛcchra-sādhyā 形 易調伏 *Bodh-bh.*

a-kṛcchrin 形 ……に對し困難を有せざる。
a-kṛta 通受分 爲されざる。作られざる。準備せられざる。料理せられざる。不完全なる。未熟なる。召喚せられざる。〔漢譯〕 不作。無作。未作。未所作。未已作。無造無作 *Bodh-bh.*, *Ast-pr.*, *Sapt-pr.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*; 無損。不損 *Ast-pr.*: ~o 'nupachato 無損無苦。不傷損。無損傷離諸苦惱 *Ast-pr.* 645。
a-kṛtaka 形 自然なる。〔漢譯〕 無作。不作。非所作。非作者 *Cat-ś.*, *Madhy-v.*, *Lank.*, *Nyāy-pr.*
akṛta-kṛtya 形 自己の義務を果さざる。
akṛta-cūḍa 形 未だ剃髮の儀式を行はざる。
a-kṛta-jña 形 忘恩の。〔漢譯〕 無恩。不知恩惠。無反報心 *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Bodh-bh.*
a-kṛta-jñatā 女 [同上 通]; 〔漢譯〕 無恩。背恩。無孝行 *Divy.*, *Rāṣṭr.*
a-kṛtatva 中 〔漢譯〕 非所作。未能作所作 *Abh-vy.*
a-kṛta-nirikta 形 〔漢譯〕 不受殘食法 *Prāt-m.* 7. 34.
akṛta-nirikta-khādana 中 → *akṛtānirikta-khādana*.
akṛta-nirikta-pravāraṇa 中 → *akṛtānirikta-pravāraṇa*.
akṛta-puṇya 形 不運なる。〔漢譯〕 無福。無福德 *Gaṇḍ-vy.*
akṛta-pūrva 形 前に爲されざりし。
akṛta-prajña 形 愚かなる。
akṛta-prajñaka 形 [同上]。
akṛta-buddhi 形 悟性の完成せざる。〔漢譯〕 不學慧。不修勝慧 *Abh-vy.*
akṛta-buddhitva 中 [同上 通]; 無智。愚。
akṛta-mati 形 〔漢譯〕 少慧 *Sūtr.*
akṛta-yogya 形 〔漢譯〕 未精研究 *Bodh-bh.*
akṛta-lakṣaṇa 形 特徴を有せざる。
akṛta-vidya 形 無知の。
a-kṛta-vedin 形 〔漢譯〕 不了恩惠 *Bodh-bh.*
akṛta-vaira 形 侮辱を受けざる。
akṛta-śrama 形 困難に遇はざる。
akṛta-saṃkalpa 形 不決斷の。
akṛta-saṃjña 形 教示を受けざる。
akṛtāgas (°ta-āg°) 形 罪を犯さざる。
akṛtānirikta-khādana 中 〔漢譯〕 不食餘剩。不作餘食法更食 *Mvyut.*
akṛtānirikta-pravāraṇa 中 〔漢譯〕 不作餘食勸(他) *Mvyut.*
akṛtātman (°ta-āt°) 形 人格の完成せざる。修行の足らざる。粗野なる。不徳の。
akṛtābhyāgama 男 〔漢譯〕 無爲及遇 *Mvyut.*
akṛtārtha 形 満足せざる。目的を遂げざる。〔漢譯〕 義未辯。所作未辦。情願(若)不果 *Buddh-c.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
akṛtārthatā 女 〔漢譯〕 不獲(其)利 *Buddh-c.*
akṛtālambana (°ta-āl°) 形 〔漢譯〕 縁未作事 *Abh-vy.*
akṛtāstra 形 武器に慣れざる。
akṛtāhnikā (°ta-āh°) 形 日々の勤行を怠れる。
a-kṛtin 形 目的を達せざる。
a-kṛtya 未受分 爲すべからざる。〔漢譯〕 所不應作 *Bodh-bh.* 中 非行。罪。

akṛtyākarāṇa 中 〔漢譯〕 不作邪業。不作不如法事 *Madhy-vibh.*
a-kṛtrima 形 偽なき。非人爲的なる。自然なる。純朴なる。〔漢譯〕 無作。無虛。眞實 *Kāśy.*, *Madhy-v.*
a-kṛtvā 不愛分 [Kr] 爲さずして。
a-kṛtsna 形 不完全なる。
akṛtsna-vid 形 通曉せざる。知識の不完全なる。
a-kṛpa 形 無慈悲なる。
a-kṛpaṇa 形 寛容なる。苦情を言はざる。快活なる。
 ~m 副 〔漢譯〕 無所依求 *Saddh-p.*
a-kṛṣa-lakṣmī 形 美に富める。甚だ吉祥なる。
a-kṛṣāneka-kaṇṭhaka 形 多數の小さき刺なき。
a-kṛṣivala 形 農業に従事せざる。
a-kṛṣṭa 通受分 耕作せられざる。荒野となりつゝある。〔漢譯〕 非耕。不藉耕耘 *Mvyut.* 中 未墾地。
akṛṣṭa-rohin 形 野生の。
akṛṣṭopta (°ta-up°) 形 〔漢譯〕 不假耕植 *Divy.*
a-ketana 形 寄る邊なき。
a-keśa 形 (女 -i) 毛なき。
a-keśaka 形 [同上]; 〔漢譯〕 無髮 *Mvyut.*
a-keśava 形 *Keśava* (即ち *Kṛṣṇa*) なき。
a-kaitava 形 伴にあらざる。純粹の。
a-kopa 男 [*Daśaratha* 王の大臣の名]。
a-kopitā 女 氣質の平靜なること。
a-kopya 未受分 振られざる。動し難き。確かなる。確乎たる。安全なる。無視せらるまじき [*Pāli.* *akuppa*] (*Divy.*); 〔漢譯〕 不動。無動。不壞。不憤發。不興忿怒 *Kāśy.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*
a-kovida 形 (夏)に經驗なき。〔漢譯〕 愚 *Lank.*
a-kośa 形 鞘なき。鞘を離れたる(劍)。
a-kaśāla 中 無經驗。稚拙。困窮。
a-kaśālya 形 〔漢譯〕 非巧。非善巧 *Lank.*
a-kaśīdya 中 勤勉(*Jāt-m.*)。
akkā 女 媒介人。
akta 通受分 [Aj, Añj].
aktu 男 膏藥。光。光線。晴夜; 男 覆 夜に。
akna 通受分 [Ac].
a-kra 1. 形 不活潑の。怠惰なる。
akra 2. 男 旌旗。
akrata, akran, [因 Kr の 一過 二入 三入 覆]。
a-kratu 形 無力なる。感覺なき。
a-krandita 通受分 (tila の如く) 壓搾せられざる (*Divy.*)
a-kravyād 形 肉食せざる。
a-kravyāda 形 [同上]。
a-kriyamāṇa 現分 女 爲されつゝあらざる。
a-kriyā 女 無爲; (夏)に對し義務を等閑にすること; 〔漢譯〕 非作。非事。無因作 *Lank.*
a-kriyāka 形 無爲の。動かざる。
a-krūra 形 苛酷ならざる。柔順なる。優しき。
akrūra-parivāra 形 柔順なる侍者を有する。
a-krodha 男 忿怒より離れたること。〔因〕 忿怒せざる; 〔漢譯〕 遠離忿害 *Bodh-bh.*
a-krodhana 形 忿怒せざる; 〔漢譯〕 無瞋。不瞋。離諸忿恚。不起瞋恚。除去瞋心 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*
a-krośat 現分 叫ばざる。

a-klama 形 倦まざる。
a-klānta 通受分 無倦, 無倦勞, 無疲倦 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*
a-kliṣṭa 通受分 疲れざる, 生氣ある; 不染, 非染, 無染濁, 不染汚 無染汚 *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*: ~m ajñānam 不染無知, 不染濁無明 *Madhy-vibh.* 98.
akliṣṭa-karman 形 仕事に倦まざる。
akliṣṭa-kāra 男 倦まざる活動。
akliṣṭa-kārin 形 倦まざる。
a-kliṣṭatā 女 完全。
akliṣṭa-bhāva 男 活潑。
akliṣṭāvyākṛta 通受分 不染汚無記, 無記無染汚, 無覆無記 [無覆=無染汚] *Abh-vy.*
a-kliba 形 男らしき。
a-klibatā 女 [同上]。
a-kledya 未受分 濕されざる。
a-kleśa 男 苦痛なきこと, 安樂; 非煩惱 *Lank.*; 困難なしに。
akleśāṅga 中 不染分 *Sūtr.*
Akṣ, (I.) V. **akṣati**, **akṣnoti**. 達す。通受分 **aṣṭa-nis(nir)-** 去勢す。
akṣa 1. 男 (遊戲用の) 骰子; [植物の名, 學名 *Terminalia Bellerica* 或は *Elacocarpus Ganitus*, 又はその果實]; 惡又 立應。
akṣa 2. 男 心棒, 軸; 顛顛の骨; 根, 轂; 軸, 車軸 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
akṣa 3. 男 中 感覺器官。—° [=akṣi] 眼; 面眼, 窓孔 *Divy.*, *Mvyut.*: *kamal'āyata* ~h 面如蓮華 *Divy.* 390.
akṣa 4. 男 [人名]。
akṣa-kitava 男 賭博者。
akṣa-kūṭa 中 骰子を誤魔化すこと, 賭博上の欺詐。
akṣa-kriḍa 男 抛, 骰子戲 *Mvyut.*
akṣa-kriḍā 女 博戲 *Lal-v.*
akṣa-kṣapaṇa 男 [或る博徒の名]。
akṣa-kṣapaṇaka 男 [同上]。
akṣa-glaha 男 骰子を投ぐること, 賭博。
akṣa-carāṇa 男 [正理派の學者 *Gautama* の名]。
akṣa-jña 形 骰子遊びに巧みなる。
a-kṣaṇa 男 不遇, 不運, 災難, 不幸; (男, 中) 不便, 不快 (*Lal-v.*); 難, 難處, 無暇, 無暇處 *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy.* I., *Sam-r.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*: *aṣṭāv* ~āh 八無暇 [1. *naṣakāh* 地獄, 2. *tiryāṇcaḥ* 傍生, 3. *pretāḥ* 餓鬼, 4. *dirghāyuso devāḥ* 長壽天, 5. *pratyanta-janapadam* 邊地, 6. *indriya-vaikalyam* 根缺, 7. *mithyā-darśanam* 邪見, 8. *tathāgatānām anutpādaḥ* 如來不出世] *Mvyut.*
akṣaṇa-prāpta 形 墮無暇處 *Aṣṭ-pr.*
a-kṣaṇika 1. 形 注意深き, 熱心なる。
a-kṣaṇika 2. 形 非刹那, 不刹那 *Lank.*
akṣaṇvat 形 眼を具へたる。
akṣat, [As の 中]。
a-kṣata 通受分 傷けられざる, 害せられざる; 不傷, 不爲...之所損 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~o

'nupahataḥ 無所損害, 無所侵惱, 無所傷失 *Aṣṭ-pr.* 753. 中 圓, 男 穀を去らざる穀物 [特に大麥]。
a-kṣatā 女 無垢の處女。
akṣata-keśara 形 鬘の害はれざる。
a-kṣatra 形 *Kṣatra* 階級なき。→ *kṣatra*。
akṣa-devitr 男 賭博者。
akṣa-devin 男 [同上]。
akṣa-dyūta 中 骰子遊び。
akṣa-dhūrta 男 = *akṣa-devitr*; 賭博者 *Mvyut.*
akṣan 1. 中 眼; [akṣi の弱語幹]; 眼 *Abh-vy.*
akṣan 2. [中] *GHas* の 中。
akṣa-naipuna 中 骰子遊びの熟練。
akṣa-pāṭala 中 記録處。
akṣa-pāda 男 [正理派の學者 *Gautama* の名]; 足目 *Lank.*; 阿叉波 *Lank.*, *Madhy-v.*
akṣa-priya 形 骰子遊びを好める或は賭博に好運なる (骰子に愛されたる)。
akṣa-bhūmi 女 骰子遊びをなす場處, 賭博場。
a-kṣama 形 (因, 不定) 又は 一°なし能はざる, ... の力なき; 忍び難き; 不適當なる, 妥當ならざる (*Jāt-m.*); 瞋者, 瞋恚者 *Sikṣ.*
akṣam-akṣam 副 現現 *Nyāy-pr.*
a-kṣamaṇa-śilatā 女 稟性不能堪忍 *Bodh-bh.*
akṣa-mada 男 賭博熱。
a-kṣamā 女 惡意, 嫉妬。
akṣa-mātra 中 (目測の), 瞬間; 一瞬間に。如車軸量 *Mvyut.*: ~ābhir dhārābhiḥ 雨滴如車軸量 *Mvyut.*
akṣa-mālā 女 念珠; [*Arundhatī* の名]。
akṣa-mālikā 女 念珠。
akṣa-mālin 男 [*Siva* 神の稱]。
a-kṣamāvat 形 堪へられざる, 焦慮せる。
a-kṣamin 形 無慈悲なる。
a-kṣaya 形 不滅の; 不盡, 無盡 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*, *Madhy-vibh.*, *Sikṣ.* 中 [數の名] 阿差耶 *Mvyut.*
akṣaya-karaṇḍā 女 [Dhāraṇī の名] 無盡篋 *Mvyut.*
akṣaya-kośa 男 無盡(功德)藏 *Gaṇḍ-vy.*
akṣaya-ghoṣa-ruta 形 無盡語言, 無盡音聲, 無盡(妙)音 *Gaṇḍ-vy.*
a-kṣayatā 女 不滅, 不朽; 無盡 *Sūtr.*
a-kṣayātva 中 [同上]; 無盡, 無窮盡, 無盡無滅 *Sūtr.*, *Madhy-vibh.*
a-kṣayanikā-dāna 中 [*akṣayanika*-(kā)-dāna? *akṣaya-nidhāna*, *akṣaya-lābha*?]; 無盡財供, 無盡勝財 *Bodh-bh.* 233.
akṣaya-paramatā 女 無盡最勝, 無盡無比 *Madhy-vibh.*
akṣaya-mati 男 [菩薩の名] 無盡意, 無盡慧 *Saddh-p.*; 阿差末 *Rāstr.*, *Madhy-v.*
akṣayamati-nirdeśa 男 = *akṣayamati-sūtra*; [經名] 無盡意經, 阿差末經 *Sikṣ.*, *Mvyut.*; [無盡意菩薩經 (大方等大集經無盡意菩薩品)].
akṣayamati-nirdeśa-sūtra 中 = *akṣayamati-nirdeśa*; [經名] 阿差末菩薩經 *Madhy-v.*

akṣayamati-paripṛcchā 女 [經名] 無盡意菩薩所問經, 無盡意請問經 *Mvyut.*
akṣayamati-sūtra 中 [經名] 無盡意經 *Siks.*
 → *akṣayamati-nirdeśa.*
akṣaya-loka 男 天界.
akṣayākara (°ya-āk°) 男 無盡藏 *Sūtr.*
a-kṣayya 1. (未受分) 朽ち居らざる, 破壊し難き, 盡されざる.
a-kṣayya 2. 中 無盡なれかし(との願望を籠めて捧げらるゝ水).
akṣayyodaka (°ya-ud°) 中 [同上].
a-kṣara 形 不壊の; [漢語] 無窮盡, 無盡 *Siks.*, 支那. 中 語, 綴, 聖字 om; 聲, 字; 文書, 信書; 最高神; [漢語] 字, 名字, 文, 文字; 文句, 字句; 字門 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Daś-bh.*, *Laṅk.*, *Mañj-m.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Siks.*, *Mvyut.*; [音寫] 惡刹羅 支那.
akṣara-kuśala 形 [漢語] 善於文字 *Sam-r.*
akṣara-gocara 男 [漢語] 字境界, 文字境 *Laṅk.*
akṣara-cchandāsa 中 音節(の數及び長短による)音律.
akṣara-cyutaka 中 闕字を補足すること [一種の遊戲].
akṣara-jñā 形 [漢語] 知於文字 *Sam-r.*
akṣara-nirukti 女 [漢語] 文字語言 *Siks.*
akṣara-nyāsa 男 文字, アルファベット.
akṣara-patita 形 [漢語] 墮於文字, 墮於名字 *Laṅk.*
akṣara-pada 中 [漢語] 字句, 文字句 *Laṅk.*
akṣarapada-prabheda-jñāna 中 [漢語] 善知文字智 *Sam-r.*
akṣara-mālā 女 字鬘(運命により額に書かれたる).
akṣara-mālikā 女 [同上].
akṣara-varjita 形 無學なる; [漢語] 離文字, 離名字 *Laṅk.*
akṣara-vinyāsa 男 書くこと.
akṣara-śikṣā 女 アルファベット; Brahman の教理.
akṣara-saṃsakta 形 [漢語] 計著名字, 計著文字, 樂名字 *Laṅk.*
akṣara-samatā 女 [漢語] 字等, 字平等 *Laṅk.*
akṣara-samāmnāya 男 アルファベット.
akṣarāpagata 形 [漢語] 離文字 *Mvyut.*
akṣavati 女 骰子遊び.
akṣa-valaya 中 念珠.
akṣa-valayin 形 念珠を持てる.
akṣa-śūla 男 [漢語] 眼病 *Mañj-m.*
akṣa-sūtra 中 念珠; [漢語] 數珠 *Mañj-m.*
akṣa-hṛdaya 中 骰子遊びの秘訣.
akṣākṣa 形 [漢語] 眼太圓 *Mvyut.*
akṣātivāpa 男 賭博の監督者(?).
a-kṣānta (過受分) 寛容ならざる, 性急なる (*Buddh-c.*).
a-kṣānti 形 惡意, 嫉妬; [漢語] 不忍 *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.*
akṣānti-bahula 形 多不忍者 *Bodh-bh.*
a-kṣāra-lavaṇa 中 苦味も鹽氣もなき食物.
a-kṣāralavaṇāśin (°ṇa-āś°) 形 調味せられ且つ鹽氣ある食物を絶つ.
a-kṣāliṭa (過受分) 洗はれざる.
akṣāvali (°ṣa-āv°) 女 念珠.

akṣi 中 眼 (—° -a, 女 -i); [漢語] 目, 眼, 眼目 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Siks.*
akṣi-kūṭa 中 眼窩の縁(?).
akṣi-gata 形 眼前にある, 眼障りなる.
akṣi-gūṭha 中 [漢語] 目脂 *Siks.*
a-kṣita (過受分) 不壊の; 不滅の.
a-kṣiti 女 不滅性. 形 不滅の.
akṣi-dardru 形 [漢語] 眼瘡者 *Mvyut.*
akṣi-doṣa 形 [漢語] 眼病 *Aṣṭ-pr.*
akṣi-nimeṣa 男 瞬き, 一瞬; [漢語] 瞬頃 *Divy.*
akṣi-pat 副 極めて少しく.
akṣi-puruṣa 男 [漢語] 眼中人 *Mvyut.*
akṣi-vartman 中 [漢語] 眼險 *Bodh-bh.*
akṣi-vicarcika 形 [漢語] 眼有花泡者 *Mvyut.*
akṣi-śantra 形 [漢語] 眼有痣者 *Mvyut.*
akṣi-śālā 女 [漢語] 眼太大 *Mvyut.*
akṣi-saṃtarjana 中 [神話上の武器の名].
akṣi 女 眼. → *akṣi.*
a-kṣiṇa (過受分) 減ぜざる; 重量を失はざる; [漢語] 無盡, 無有窮盡 *Gaṇḍ-vy.* → *kṣiṇa.*
akṣiṇa-buddhi 形 判斷力を失はざる, 理性ある.
a-kṣiyamāna (現分) 不滅の, 無盡の.
a-kṣuṇṇa (過受分) 害せられざる; 陳腐ならざる, 新しき; 特殊なる; 斷絶せざる, 永續せる.
a-kṣuṇṇatā 女 未踏 [路に就て].
akṣuṇṇa-vedha 男 [= *akṣūna-vedha*]; [漢語] 不失長中, 不違中 [*Pāli.* *akkhaṇa-vedha* に當る. *Manc-rathapūraṇī* (*Siam. ed. II*, 317) には *akkhaṇa* を *avirādhita* 「不違」と解す. 又は *vijju* 「電」と見て「電閃の間に射る」と釋す. この義に據らば「迅速中」と譯すべし] *Mvyut.*: ~e kṛtāvī samvṛttaḥ 亦射皆中 *Divy.* 58.
a-kṣudra 形 微小ならざる, 相當なる; [漢語] 無雜 *Lal-v.*
a-kṣubhita (過受分) [漢語] 不散亂 *Gaṇḍ-vy.*
a-kṣūna-vedha 男 *Mvyut.* → *akṣuṇṇa-vedha.*
a-kṣūna-vyākaraṇa 中 [= *akṣuṇṇa-v°*]; [漢語] 殊勝開勅, 不損授記 *Mvyut.*
a-kṣetra 中 未墾地; [漢語] 非國土, 非刹, 非刹土 *Laṅk.* 形 開拓せられざる.
a-kṣetratara 中 全く開拓せられざる地方, 甚だ居住に適せざる地方.
a-kṣetrin 形 土地を所有せざる.
a-kṣema 中 苦惱.
a-kṣematā 女 [漢語] 危 *Gaṇḍ-vy.*
a-kṣeya 男 [漢語] [數の名] 無盡 *Mvyut.*
akṣoṭa 男 胡桃樹; [漢語] 胡桃 梵雜.
akṣoḍa 男 [同上].
a-kṣodhuka 形 空腹ならざる.
a-kṣobhita (過受分) [漢語] 不動 *Siks.*
a-kṣobhendriya (°bha-in°) 形 [漢語] 不動諸根 *Gaṇḍ-vy.*
a-kṣobhya (過受分) 振動せられざる; [漢語] 不可移動 *Aṣṭ-pr.* 男 [佛の名] 不動, 無動, 无怒, 无怒覺 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*, *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sūtr.*, *Siks.*; [音寫] 阿閼, 阿閼婆, 阿菴婆, 阿閼

律 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*, *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*: ~rājaḥ pūrvasmin 東方阿閼
 尊, 東方阿閼 *Suv-pr. 2*; [數の名] 千兆; (音寫) 阿閼
 婆, 阿閼婆 *I.al-v.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*
akṣobhya-citta (甲) (音寫) 不動心 *Sikṣ.*
akṣobhya-praṇidhānānujñāna (甲) (音寫) [經名] 阿
 閼如來本願授決經 *Sikṣ.*
akṣobhya-pravara (形) (音寫) 阿閼尊 *Guhy-s.*: ~ā
 mudrā 阿閼尊(大)印 *Guhy-s. 14.*
akṣobhya-rāja (男) (音寫) [佛の名] (音寫) 阿鞞(佛), 阿
 閼婆 *I.al-v.*
akṣobhya-vajra (男) (音寫) [佛の名] 阿閼金剛 *Guhy-s.*
akṣauhīni (女) 完全なる軍隊。
akṣauhīni-pati (男) 一軍の統帥, 大將。
akṣṇayā (副) 横切りて。
a-khañja (形) 跛行せざる, よく歩む。
a-khaṇḍa (形) 分たれざる, 全き; (音寫) 不破; 無缺漏,
 無有缺漏 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Mvy-*
ut.
akhaṇḍa-kala (形) 満ちたる(月)。
akhaṇḍa-kārin (形) (音寫) 無缺犯 *Bodh-bh.*
a-khaṇḍa-cchidra (形) (音寫) 無缺無穿 *Bodh-bh.*
a-khaṇḍana (甲) 破れざること, 完全に存すること;
 (音寫) 不破 *Rāṣṭr.*: śila ~ tā (女) 不破禁戒 *Rāṣṭr.*
13.
akhaṇḍa-maṇḍala (形) 全國土を領有せる。
akhaṇḍa-śila (男) (音寫) 不缺戒, 無缺戒, 無遺失戒
Gaṇḍ-vy., *Sam-r.*
a-khaṇḍita (過受分) 損はれざる; (女)より最早破り
 取られざる; 斷絶せざる。
akhaṇḍitājña (°ta-āj) (形) 命令の犯さるゝことなき。
akhaṇḍitājñatva (°ta-āj) (甲) [同上(音寫)].
a-khaṇḍopadhi (°da-up) (男) 言語にて定義し難き
 質 (*Sāṃkhy-k.*).
a-kharva (形) 短縮せられざる; 能力ある; 重要なる。
a-khala (形) 悪人の居らざる。 (男) 悪人ならざる者。
a-khādat (現分) 齟齬せざる; 食を攝らざる。
a-khinna (過受分) (於)に疲れざる; (音寫) 不退, 無倦,
 無疲倦, 無疲厭 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*: ~
 aviśrānta 無有懈倦, 未曾懈倦 *Saddh-p. 256.*
akhinna-citta (形) (音寫) 無厭倦心, 不疲厭想 *Bodh-*
bh.
akhinna-mānasatā (女) (音寫) 無愁, 不疲厭, 無厭倦
 心 *Bodh-bh.*
akhinnātman (°na-āt) (形) (音寫) 心無懈怠 *Sukh-*
vy. I.
a-khila (形) 罅隙なき, 全體の, 總ての; (音寫) 遍, 具
 足, 皆悉, 無遺 *Sikṣ.*, *Rāṣṭr.*, *Mvyut.* (甲) 一切の事。
 (男) 副 全然, 全く。
a-khilatas (副) (音寫) 悉 *Rāṣṭr.*
akhila-prāpta (形) (音寫) 究盡 *Rāṣṭr.*
akhila-loka-nātha (男) 全世界の保護者, [*Viṣṇu* 神の
 稱]。
a-kheda (男) 無疲勞, 活氣。 (形) (音寫) 不退, 不愁, 無
 倦, 不厭, 無厭倦 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
a-khedatā (女) (音寫) 無厭, 不厭, 無有厭倦 *Bodh-bh.*

akkhala (音寫) [歡喜・驚嘆に用ゆ]。
akkhali-Kṛ, 親しく挨拶す。
a-ga (男) 樹; 山。
aga-ja (形) 山中にて生れたる, 野蠻なる。
a-gaṇa (男) (音寫) 群をなさざるもの。
a-gaṇaniya (未受分) (音寫) 無能計者, 非算數所知
Saddh-p. (男) (音寫) [數の名] 不可數 *Gaṇḍ-vy.*
agaṇaniya-parivarta (男) (音寫) [數の名] 不可數轉
Gaṇḍ-vy.
a-gaṇayat (現分) 無視して。
ag-aṇayitvā (不變分) [同上]。
a-gaṇita-pratīyāta (過受分) 無視せられたるを以て
 歸れる。
a-gaṇeya (未受分) 數へられざる。 (甲) (音寫) [數の名]
 不可數 *Mvyut.*
agaṇeya-parivarta (男) (音寫) [數の名] 不可數轉
Mvyut.
a-gaṇya (未受分) 數へられざる。
a-gaṇyatā (女) [同上(音寫)].
a-gata (過受分) (音寫) 未去 *Madhy-v.*
a-gati (女) 方法なきこと, 不可能; (音寫) 無往; 無去;
 不去 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*; 所不行, 所不能行 *Laṅk.*
 ~tyā (男) 副 遁れ道なく, 避け難く; 緊急に, 必
 然に。 (形) 行かざる, 困れる, 不幸なる; (音寫) 所不
 得, 不能知 *Divy.*, *Laṅk.*
a-gatika (形) 手段の盡きたる; (音寫) 無去, 不去, 非
 去, 無所去, 無所至; 無行; 非過去; 無異趣 *Aṣṭ-pr.*,
Abh-vy., *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.* ~ ā gati (女) 最後の
 手段。
a-gatitā (女) 停頓。
agati-lakṣaṇa (甲) (音寫) 所不得相 *Laṅk. 228.*
a-gatika (形) 通行し難き(路)。
a-gada (男) 健康; (音寫) [香藥の名]; (音寫) 阿伽陀 *Divy.*
 (形) 健康なる, 健全なる。 (甲) 藥, [特に] 解毒劑;
 (音寫) 藥, 丸藥 *Sūtr.*; (音寫) 阿揭陀, 阿竭陀, 阿伽陀
 立應。
agadam-kāra (男) 醫者。
agada-bhaiṣajya (甲) (音寫) 無毒藥, 阿伽陀藥 *Sikṣ.*
a-gadita (過受分) 問はれざる。
agan, [因 Gam の (三過) (三入) (三入) (三入)].
a-gantr (男) (音寫) 不去者, 未去者 *Madhy-v.*
a-gandha (形) 香氣なき。
aganma, [因 Gam の (三過) (三入) (三入)].
a-gama (形) 動かざる。 (男) 樹。
a-gamaka (形) (音寫) 非知, 不知, 令非知, 令不智 *Mvyut.*
a-gamyā (未受分) 寄りつかれざる, 近づき難き, 理解
 し難き, 適せざる。
agamya-rūpa (形) 近づき難き, 考へ難き。
agamyāgamana (°yu-āg) (甲) 姦通。
agamyāgamaniya (°ya-āg) (形) 姦通に關する。
a-gariyas (形) (比較) 威嚴なき。
agaru (男) (甲) [=aguru] 蘆薈(?)樹 [學名 *Amyris*
Agallocha]; (音寫) 沈水, 沈香, 沈水香 *Saddh-p.*,
Laṅk., *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.*; (音寫) 惡揭魯 *Suv-pr.* →
kṛṣṇa ~。
agaru-vṛkṣa (男) (音寫) 沈水樹 *Gaṇḍ-vy.*

a-garva 形 自慢せざる, 謙遜なる。
a-garhita 過受分 非難せられざる, 輕蔑せられざる, 非難すべき所なき, 責むべき所なき。
a-gaveṣaṇa 形 不見 Rāstr.: dharmabhāṇa-kānām skhalita ~ tā 不見師過 Rāstr. 15.
agasti 男 = agastya; 山鼠 Mvyut.; [聖仙の名] 阿諶悉帝 Vajr-s.
agasti-haritaki 女 [藥草の名] 柯子; 阿伽蘇底柯子(音寫) Mvyut.
agastya 男 [因 聖仙の名]; 阿伽陀, 阿諶悉帝 Buddh-c., Vajr-s.
agastya-tirtha 男 [聖地の名].
agastya-śāsta 形 Agastya によりて支配せられたる; 南方の。
agasmahi, [因 Gam の 三過一入複自].
a-gaha 男 俗 [<a-graha]; 捨, 不取 Madhy-v.
agāgra 中 山頂, 峯。
agātma-jā (aga-āt°) 女 [Pārvatī の名].
a-gādha 形 測り難き, 甚だ深き, 深遠なる; 難度 Vijñ-v.
agādha-jala 中 甚だ深き水。
agādha-buddhi 形 深玄なる心の。
agādha-rudhira 中 血の迸出。
agāra (男) 中 家; = āgāra; 家, 宅, 舍, 舍宅; 房, 室; 窠穴, 窠穴 Bodh-bh., Saddh-p., Lal-v., Suv-pr. → āgantuka ~, kūṭa ~. [數の名] 阿伽羅 Mvyut.
agāra-dāhin 形 放火犯の。
agāra-madhyavāsa 形 住於家 Mvyut.
agārika 形 在家 Bodh-bh. → āgārika.
a-guṇa 男 背德, 非行, 缺點; 過誤, 惡德. 形 素質を闕きたる; 價值なき, 惡德の; 無德, 非功德 Sāmkhy-k., Sapt-pr.
a-guṇa-jñā 形 德を無視する。
a-guṇavat 形 德を闕く, 惡しき; 無德 Vijñ-t.
aguṇa-śila 形 惡しき性質の, 無價值の。
a-guṇin 形 德を闕く。
a-guṇibhūta 形 從屬的とならざる(因法).
a-gupta 過受分 守護せられざる, 隱されざる; 秘密を護らざる。
aguptendriya (°ta-in°) 形 不攝(五)情, (諸)根不定 Saddh-p.
a-guru 形 重からざる, 輕き; 邪魔とならざる, 介意せざる: yadi te ~ 貴方の邪魔とならずとせば, 貴方が介意せざれば (Av-s. I. 94.) 男 中 蘆薈(?) 樹; 沈水香 Divy., Guhy-s. → agaru.
a-gurutā 女 不重 Abh-k.
a-guru-prayukta 形 師より指圖せられざる。
aguru-sāra 男 蘆薈樹の樹脂(香料の一種).
a-grdhnu 形 大まかなる。
a-grhita 過受分 捕はれざる, 摺まれざる。
a-grhṇat 過受分 捕へざる, 吸ひ付かざる(蛭).
a-grhya 未受分 把握し難き, 了解し難き。
a-gocara 男 達し得ざるもの; 不行, 非所行; 非行處, 非境界; 非所知 Lañk., Sam-r., Sūtr. ~ ena 具(屬)の陰にて. 形(屬, 一°)の範圍の外な

る; 達せられざる, 受けられざる, 感覺に受取られざる (= drṣṭi ~); vācām ~ 言ひ盡し難き。
a-gocaratā 女 範圍外なること, 圏外に在ること。
agocari-Kṛ 國境盡皆沒壞 Divy.
agocari-Bhū 毀壞 Divy.: sūrpārakam nagaram mā 'gocari-bhaviṣyati 蘇波羅城莫令毀壞 Divy. 51.
a-gotra 中 非種, 非性, 無姓, 無種姓 Lañk., Bodh-bh., Sūtr.
a-gotraka 形 無種, 無性 Mvyut.
a-gotra-stha 形 不住種姓 Bodh-bh.
a-gopā 形 牧人なき。
a-gopāla 形 [同上]. 男 非牧人。
a-go-rudha 形 牛を容るゝ。
a-gohya 未受分 蔽はれざる [特に太陽に就きて].
a-gaurava 中 不敬, 不孝, 不恭敬, 無恭敬心, 不知恭敬, 不生敬重, 不生崇重, 不起尊重, 不生恭敬心 Suv-pr., Sikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh.
a-gauravatā 女 無敬, 不敬, 不恭敬, 不尊重, 不起尊重 Rāstr., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ.
agnāyi 女 Agni 神の妻。
agni 男 火; 火災; Agni 神; 火, 猛火, 燃 Madhy-v., Abh-vy., Bodh-bh., Sikṣ., Nyāy-pr.
agni-kaṇa 男 火花。
agni-karman 中 = agni-kriyā.
agni-kārikā 女 [同下]; 燃火 Mañj-m. 28.
agni-kārya 中 聖火を起すこと, 聖火を起す際に誦せらるゝ祈禱語。
agni-kunda 男 火爐, 聖火を焚く爲の地上の穴; 火壇, 火供籠 Mañj-m., Mvyut.
agni-ketu 形 火を象徴とする。
agni-kriyā 女 聖火の勤行。
agni-khadā 女 地獄の鍋又は煖爐; 火坑, 火院, 火聚, 猛火坑 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Madhy-vibh.
agni-khadhā 女 火坑 Rāstr. → agni-khadā.
agni-garbha 形 中に火を藏する. 火坑 Daś-bh.
agni-grha 中 聖火を安置する小屋。
agni-ghaṭa 男 [地獄の名] (Kār-vy.).
agni-caya 男 火壇の建設, 煉瓦を積みて火壇を作ること。
agni-cayana 中 [同上].
agni-cit 形 火壇を建つる, 火壇を維持する。
agni-jihva 形 火の舌を有する。
agni-jvalita-tejana 形 火の燃ゆる尖端を有する。
agni-jvāla 男 火焰 Mvyut.
agni-jvālā 女 火焰; 火焰 Lañk.
agnijvālopama (°la-up°) 形 如火焰 Mvyut.
agni-trāya 中 三聖火。
agni-tretā 女 [同上].
agnitva 中 火の如き状態。
agni-da 形 放火の。
agni-dagdha 形 火にて焼かれたる. 男 中 [火葬に附せられたる者, 亡靈の一種].
agni-datta 男 [或る婆羅門の名].

agni-dattā ㊦ [人名].
agni-dāyaka ㊦ 放火者.
agni-dāha ㊦ 火傷; (空に於ける)火の光; ㊦ 火焚, 火起焚燒 *Aṣṭ-pr.*
agni-dipta ㊦ 火の燃ゆる.
agni-dūta ㊦ *Agni* 神を使者とする, *Agni* 神によりて齋らされたる.
agni-daivata ㊦ = agni-nakṣatra; ㊦ 火神, 火天 *Divy.*
agnidh ㊦ = agnidh, 火を點ずる人, [祭官の一種].
 → āgnidhra.
agnidhārā ㊦ [聖地の名].
agni-nakṣatra ㊦ [月宿の名] *Kṛttikā*.
agni-pakva ㊦ 火にて料理せられたる.
agni-parikriyā ㊦ 聖火の管理.
agni-paricchada ㊦ 火供に用ふる器具.
agni-pariṣkriyā ㊦ 聖火の管理.
agni-parvata ㊦ 火山.
agni-piṇḍa ㊦ 圓頭の赤熱せる(火箸).
agni-purāṇa ㊦ [*Purāṇa* 書の名].
agni-purogama ㊦ *Agni* 神を先導とする.
agni-pradāna ㊦ 火焰に委ぬること.
agni-praveśa ㊦ 投火自殺; ㊦ 赴火 *Bodh-bh.*
agni-praveśana ㊦ [同上].
agni-bāhu ㊦ [聖仙の名].
agni-bhaya ㊦ 火の危険又は恐怖.
agni-bhu ㊦ 水.
agnimat ㊦ 聖火を持続する.
agni-madana ㊦ 情火.
agni-mitra ㊦ [王の名].
agnim-indha ㊦ 火を點ずる人, [祭官の一種, 後世の *Agnidh*]. → āgnidhra.
agni-mukha ㊦ 火口, [或る南京蟲の名].
agni-rāsi ㊦ 炎え上る積薪(火葬の).
agnivat ㊦ 火の如く, 火に於けるが如く; ㊦ 如火 *Rāṣṭr.*
agni-varṇa ㊦ 火の色の, 灼熱せる.
agnivarṇa-ratna ㊦ ㊦ 火色寶 *Mvyut.*
agni-vṛtta ㊦ ㊦ 然火, 轉火, 自吹火 *Mvyut.*
agni-velā ㊦ 聖火を點ずる時; 午後.
agni-veśa ㊦ [人名]; ㊦ [= agni-veśa] 如火 *Mvyut.*
agni-veśya ㊦ [人名].
agni-śaraṇa ㊦ 聖火の祭壇.
agni-śālā ㊦ 聖火を保存する場處.
agni-śikha ㊦ 尖端に點火したる(箭). ㊦ [人名].
 ㊦ 蕃紅花(?).
agni-śikhā ㊦ 火焰.
agnisikhā-carā ㊦ ㊦ [鳥の名] 火頂行 *Sikṣ.*
agni-śuddhi ㊦ 火による淨化.
agni-śusrūṣā ㊦ 聖火に奉仕すること.
agni-śeṣa ㊦ 残り火.
agni-śauca-vastra ㊦ (麗しき)清淨なる衣服 (*Kār-vy.*).
agni-ṣṭut ㊦ [*Soma* 祭の名].
agni-ṣṭoma ㊦ *Agni* 神の禮讚, [*Soma* 祭の儀式]; ㊦ 祭火爐 *Divy.*: ~syādhasāt 祭火爐地下

Divy. 12.
agni-ṣṭha ㊦ [*Aśvamedha* 祭に於て供儀の馬を繋ぐ二十一の杭の中最も火に近き杭の名]; 火鉢又は鍋; 火を運ぶ車.
agni-ṣṭhā ㊦ 火(に面する供儀の馬を繋ぐ)杭の角 (*Aśvamedha* 祭の).
agni-ṣvātta ㊦ 燒き盡されたる. ㊦ ㊦ [火葬に附せられたる者, 亡靈の一種]; [祖神の名].
agni-saṃskāra ㊦ (祭の準備として)聖火を淨むること.
agni-saṃcaya ㊦ 大火.
agni-sākṣika ㊦ *Agni* 神を證人とせる.
agnisāt-Kṛ, 燒く.
agni-skandha ㊦ ㊦ 大火, 火聚, 火炬 *Saddh-p., Lal-v., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy.*
agni-svātta ㊦ ㊦ → agni-ṣvātta.
agni-svāmin ㊦ [人名].
agni-hetu-bhūtatva ㊦ ㊦ 火因, 火所因 *Lank.*
 ~āt ㊦ 火所因故, 以火因故 *Lank. 232.*
agni-hotra 1. ㊦ 火供, [朝夕牛乳を供ふること]; ㊦ 事火法 *Lal-v.*
agni-hotra 2. ㊦ *Agni* 神への供儀.
agnihotra-havaṇi ㊦ 火供用の匙.
agni-hotrin ㊦ 火供を獻ずる, 聖火を持続する.
agnidh ㊦ = agnidh.
agnindra ㊦ ㊦ *Agni* 神と *Indra* 神.
agnindhana ㊦ 聖火を點ずること; ㊦ 薪火 *Madhy-v.*
agni-śoma ㊦ ㊦ *Agni* 神と *Soma*.
agnisoma-bhūta ㊦ *Agni* 神と *Soma* なる.
agni-śomiya ㊦ *Agni* 神と *Soma* とに關する.
agnau-karaṇa ㊦ 火中に投ぜらるゝ供物.
agny-agāra ㊦ 聖火を安置する場處.
agny-arthin ㊦ ㊦ 鑽火 *Sūtr.*
agny-āgāra ㊦ = agny-agāra.
agny-ādhanā ㊦ 聖火の設置.
agny-ādheya ㊦ [同上].
agny-āhita ㊦ 聖火を點ぜし人.
agny-utsādin ㊦ 聖火を消す.
agra ㊦ 前部; 始め; 點, 尖端, 頂點; 主なるもの; ㊦ 前; 始; 端, 末; 頂, 極, 高, 重, 上, 勝, 尊, 過, 最, 最上, 最勝, 最極, 上妙, 無等, 第一, 最第一 *Sapt-pr., Abh-by., Bodh-c., Bodh bh., Sūtr., Śikṣ., Madhy-v., Mvyut.:* bāla(=vāla)~ 毛端 *Daś-bh. 164.*
 ~m (㊦, 一°)の前に; ㊦ 前 *Buddh-c.:* ~m ākhyāyate 爲最爲勝 *Aṣṭ-pr. 325,* ~m ākhyāyati 主又は優秀と考へらる, 第一とせらる, 卓越す (*Mah-v.*).
 ~eṇa ㊦ (㊦)の前に. → adyāgreṇa.
 ㊦ (㊦, 一°)の前に, 面前にて; 初めに, 最初に, 第一に; (㊦)の後に.
agra-kara ㊦ 指; 最初の光線.
agra-karin ㊦ ㊦ 爲上首 *Aṣṭ-pr.*
agra-kulika-putra ㊦ ㊦ 上族姓子, 最勝姓兒; ㊦ 阿伽羅久履箇(兒) *Divy.*

agra-ga 形 先行する; (一°)の端を過ぐる。
 agra-gaṇya 形 (圖)の中の第一に數へらるべき。
 agra-gāmin 形 先行する, 先導する。
 agra-caitya 男 佛圖 第一塔 *Sikṣ.*
 agra-ja 形 初生の。男 兄; 佛圖 前生, 前起 *Abh-k., Abh-vy.*
 agra-janman 男 婆羅門 (*Brāhmaṇa*)。
 agra-ni 形 (輪)は男 -nis, (甲) -ni 先導の 最初の。
 agra-nya 形 [同上]。
 agratas 圖 前に於て, 前方に; 首に, 始めに, 第一に;
 佛圖 前, 對前, 現前 *Divy., Bodh-c., Vijn-t., Sikṣ.*
 ~ sthāpayitvā 爲首 *Saddh-p. 315.* ~ Kṛ 前
 に置く, 第一に考ふ。前 (圖)の前又は面前に於て。
 agratā 女 佛圖 勝, 最勝, 第一, 尊極 *Sapt-pr., Aṣṭ-
 pr., Sūtr., Madhy-vibh., Mvyut.* ~ m Kṛ 爲上
 首 *Aṣṭ-pr. 80.*
 agrato-ratha 形 車を先とせる。
 agratva 甲 佛圖 勝, 最勝, 最尊勝, 最上最勝; 第一;
 最爲上首, 最勝爲上首 *Aṣṭ-pr., Sūtr., Abh-vy., Bodh-
 bh.*
 agratvātman (°va-āt°) 形 佛圖 體無上 *Sūtr.*
 agra-dūta 男 前驅者, 最初の使者。
 agra-devi 女 首位の王妃 (*Buddh-c.*)
 agra-dhanika 男 佛圖 債 *Divy.:* ~ m CHid 還
 債 *Divy. 503.*
 agra-dharma 男 佛圖 最上法, (世)第一, (世)第一法
Guhy-s., Abh-vy.
 agra-nakha 男 甲 爪先。
 agra-nāsikā 女 鼻の先, 嘴の先。
 agra-payo-dhara 男 乳頭。
 agra-pā 形 最初に飲む(者)。
 agra-pāda 男 足の爪先。
 agra-puṃ-gava 男 佛圖 聖人 *Mañj-m.*
 agra-puruṣa 男 佛圖 勝丈夫 *Sam-r.*
 agra-pūjā 女 上位; 最高の尊敬。
 agra-pradāna 甲 佛圖 第一之施 *Saddh-p.*
 agra-pradāyin 形 最初に與ふる。
 agra-prāpta 形 佛圖 最爲第一 *Saddh-p.*
 agra-bandhu-bhūta 形 佛圖 極親者, 第一親者 *Sūtr.*
 agra-bindu 男 最初の一滴。
 agra-buddhi 形 佛圖 勝覺 *Sūtr.*
 agra-bodhi 女 佛圖 無上道, 妙菩提 *Saddh-p., Suv-
 pr.*
 gra-bhāga 男 上部, 尖端, 頂。
 gra-bhāryā 女 佛圖 上首明妃 *Guhy-s.*
 gra-bhuj 男 太陽; 婆羅門。
 gra-BHū, …の先頭に立つ。
 gra-bhū 形 先頭に立てる。
 grā-bhūta 形 佛圖 爲尊 *Saddh-p.*
 gra-bhūmi 女 最高階, 最高の目的。
 gra-bhojin 形 (圖)の中の最も勝れたるものを享
 受する。
 gra-bhojya 形 [同上]。
 gra-mahiṣi 女 第一(王)妃; 佛圖 妃, 上妃, 賢后,
 后妃, 皇后, 第一后, 王后妃, 上首明妃, 正夫人, 大夫
 人, 第一夫人, 最大夫人, 國大夫人 *Divy., Kāśy.,*

Guhy-s., Lal-v., Suv-pr.

agra-yātr 形 先行する。
 agra-yāna 甲 佛圖 最上乘, 無上乘, 大乘 *Vajr-pr.*
 agrayāna-samprasthita 形 (男) 佛圖 發趣最上乘
 (者), 行無上乘(人), 發大乘(者) *Vajr-pr.*
 agra-yānika 男 佛圖 最勝乘 *Saddh-p.*
 agra-yānin 形 佛圖 大乘 *Lal-v.*
 agra-yāyin 形 前に行く; (一°)の中の最上なる。
 agra-yodhin 形 先頭に立ちて戦ふ。
 agra-vira 男 主なる勇士, 戰士。
 agra-vira-bāhu 男 佛圖 [或る *Yakṣa* の名] 最勝勇
 手 *Mvyut.*
 agra-śaraṇa 甲 佛圖 勝歸依 *Sūtr.*
 agraśas 圖 初より。
 agra-śikha 形 炎の先の尖りたる。
 agra-śrāvaka 形 佛圖 居弟子上 *Saddh-p.*
 agra-samkhyā 女 第一位。
 agra-sattva 男 佛圖 勝大士, 人天中勝 *Suv-pr.,
 Rāṣṭr.*
 agra-samdhya 女 黎明, 曉。
 agra-sara 形 前に行く。
 agra-saratā 女 先行。
 agra-sādhaka 形 佛圖 勝成就 *Guhy-s.*
 agra-sārā 女 莫大なる數を數ふる簡便法; 佛圖 (音) [數の名] 阿伽羅娑羅 *Lal-v., Mvyut.*
 a-grasta (通受分) 舌根を後退せしめざる即ち口籠らざ
 る(發音)。
 a-graha 1. 男 非惑星; 不受領; 家なき人(即ち *Vāna-
 prastha*, 第三期の婆羅門); 表象に執著せざること
 (*Vajr-pr.*); 佛圖 捨, 未至, 未得, 不取, 非取, 非執,
 非聚執, 無捨 *Vajr-pr., Vijn-v., Rāṣṭr.*
 a-graha 2. 形 最良の部分破壊する。
 a-grahaṇa 甲 無執; 佛圖 未至; 未得; 不著; 不取,
 不可取, 不能取, 無所取, 不攝, 無攝, 非攝受, 非捕
 取 *Lañk., Vijn-v., Abh-vy.* 形 明かに説かれざる。
 agra-hasta 男 指; 象の鼻の先端。
 agra-hāyaṇa 男 [曆月の名] *Mārga-śirśa* 月。
 agra-hāra 男 婆羅門に土地を下附すること。
 agrākṣan 甲 眇(眇), 横目(眇)。
 agrāṇika 男 先鋒(軍隊の)。
 agrānika 甲 [同上]。
 agrāmātya 男 佛圖 大臣, 輔相, 輔國大臣 *Divy.,
 Sikṣ.*
 a-grāmiṇa 形 都會の, 優雅なる。
 a-grāmya 形 野趣を帯びざる, 優雅なる; 都會製の;
 馴れざる, 野生の; 佛圖 非聚落所出 *Buddh-c.*
 a-grāmyatva 甲 都會的優雅。
 a-grāmya-bhojin 形 村にて調理せし食物を攝らざ
 る。
 agrārtha 男 佛圖 最勝義 *Madhy-vibh.*
 agrāśana 形 (筥)の面前にて食する。
 agrāsana (°ra-ās°) 甲 高貴の座; 佛圖 最勝(清淨)床
 座 *Gand-vy.*
 a-grāhaka 形 (一°)を感覺せざる。
 a-grāhin 形 吸ひ取らざる(蛭)。
 a-grāhya (未受分) 把捉し得ざる; 認識せられざる, 解

せられざる; 承認すべからざる; 無得, 無取, 不可取, 無所取, 不可捉, 不可收, 不可持, 不可獲持
Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Madhy-v., Kāśy.

a-grāhyaka 形 [同上].

a-grāhyatā 女 無取, 不可取 Aṣṭ-pr.

agrima 形 先頭に立てる, 第一の; 次出の [文章又は説話の順序に就て].

agriya 形 最尖端にある, 最善の; 初生の. 甲 最善なるもの.

a-griva 形 頸なき; 無項 Mvyut.

agru 形 (女 -ū) 獨身の, 未婚の. 女 指.

agre-ga 形 前に(立ちて)行く.

agre-gā 形 [同上].

agre-gū 形 前に進む.

agre-didhiṣu 男 初婚に寡婦と結婚せる男. 女 (-u 又は -ū) 姉より先に結婚せる妹.

agre-pā 形 最初に飲む.

agre-pu 形 [同上].

agre-sara 形 (女 -i) 先に行ける.

agre-sari-Bhū, 先頭に立つ, 先驅となる.

agrya 形 先頭の, (屬, 一)の中の最善なる; (因)に秀でたる; 尊, 勝, 最勝, 第一, 最第一, 最上, 最上妙, 無上, 上首, 上極 Daś-bh., Divy., Vajr-pr., Sapt-pr., Rāstr., Bodh-bh., Sāmkhy-k., Mvyut.

agrya-tapas 男 [聖仙の名].

agryatva 甲 最上妙 Bodh-bh.

agrya-mahiṣi 女 第一王妃.

agrya-sattva 男 最勝有情 Bodh-bh.

agrya-satya 甲 勝諦, 無上諦, 無上實 Bodh-bh.

a-glāna 形 無癡, 無病 Bodh-bh., Mvyut.

agha 甲 災害; 罪; 非行, 邪惡; 不淨; 苦痛; 罪, 礙, 不善; 過失, 毒穢; 極; 幽冥處; 色 Bodh-bh., Abh-vy., Lal-v., Madhy-v. 形 暗き (Mah-v.); 阿伽 Abh-vy. → an~.

a-ghaṭita 過受分 不可能なる.

aghaṭita-ghaṭita 過受分 悪しく結合せられたる.

a-ghaṭṭita 過受分 不鼓 Lal-v.

agha-niṣṭha 男 天の名 [天の名] 色究竟天, 礙究竟天 Bodh-bh., Mvyut. → akaniṣṭha.

agha-marṣaṇa 形 罪を赦す. 甲 [祈禱の一種]. 男 [聖仙の名]; 女 [Aghamarṣaṇa の子孫].

agharikā 女 [競技の一種] (Divy.).

a-gharma 形 熱からざる, 涼しき.

agharma-dhāman 男 月(太陰).

agna-vighāta-karṭṛ 男 滅罪者.

agha-vināsin 形 罪を滅する.

agha-samsa 形 危害に執心せる, 悪意を有する.

agha-samsin 形 罪を告白する.

agha-samvṛta 形 暗き.

agha-hantr 男 [佛の異稱] 滅罪, 去拔惡業 Mvyut.

aghāyu 形 害を加ふる, 悪心ある.

a-ghāsaka 形 食物なき, 營養なき.

a-ghṛṇa 形 無情なる; 惡, 無悲 Daś-bh.

a-ghṛṇin 形 柔和ならざる, 餘り慈悲深からざる.

aghopaghāta (agha-up°) 形 罪過を消滅せしむる.

a-ghora 形 恐しからざる.

aghora-ghaṇṭa 男 [Devī の歸依者の名].

aghora-ghora-rūpa 形 恐しきと同時に恐しからざる形相の [Siva 神に就て].

a-ghnat 現分 殺さざる, 傷害せざる.

a-ghnya 男 牡牛.

a-ghnyā 女 牝牛.

a-ghrāṭṛ 形 (畜)を嗅がざる.

a-ghrāyita-pūrva 形 昔未聞香 Sikṣ.

a-ghreya 未受分 嗅ぐべからざる.

a-ñ, [第三過去の接尾音 -a: 例 a-gam-a-t; 第一次接尾音 -a: 例 bhid-ā].

aṅka 男 屈曲, 鉤; 脇腹, 膝, 脇; 近接; 抱擁, 抱き緊めること; 印, 標, 焼印, 烙印; 幕, 場(演劇の); 鉤; 處 Mañj-m., Abh-vy.: ~ena pariṅghya 捧持 Lal-v. 103.

aṅka-karaṇa 甲 烙印を捺すること.

aṅka-gata 形 膝に横たはれる (Buddh-c.).

aṅka-dhātri 女 (常)懷抱乳母, (常)懷抱母, 襟持母 Divy., Mvyut.

aṅkana 甲 烙印を捺すること [雙喩]にも用ふ.

aṅka-pāta 男 勘定, 計算.

aṅka-pāli 女 抱擁.

aṅka-bandha 男 標を附すること.

aṅka-bhāj 形 膝に落ち来る, 手に入る.

aṅka-bhṛt 形 膝に抱ける.

aṅka-mukha 甲 演劇の筋(又は發端).

aṅkaya 名動 他 標を附す, 烙印を捺す. 過受分 aṅkita 標を附せられたる, 烙印を捺されたる; 數へられたる; 番號を附せられたる, 計算せられたる.

aṅka-lakṣaṇa 甲 印, 烙印.

aṅka-sāyin 形 膝上の.

aṅkas 甲 屈曲.

aṅka-stha 形 = aṅka-sāyin.

aṅkāya 名動 (月の)斑點に似る.

aṅ-kāra 男 唵字 [五十字門の一]: ~e amoghōtpatti-sabdaḥ (→ a-kāra) 唱唵字時出一切物皆無我我所聲 Lal-v. 127.

aṅkālamkārin 形 = aṅka-sāyin.

aṅkāvatāra 男 (劇の次の)場面への移行, (次の)場面を見る(觀劇者の)準備.

aṅkāvatāraṇa 甲 [同上].

aṅkāśya (°ka-ās°) 甲 (劇の次の場面の)準備となる(結尾の)場面:

aṅkita 過受分 → aṅkaya.; 相, 具, 具相 Rāstr., Mvyut.

aṅki-kṛta 形 抱擁せられたる.

aṅkura 男 嫩枝, 芽; 草; 苗, 芽, 芽莖 Divy., Mañj-m., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.

aṅkuraṇa 甲 嫩枝を出すこと, 發芽.

aṅkuraya 名動 發芽す.

aṅkuravat 形 若芽を有する.

aṅkurāya 名動 發芽す.

aṅkurita 過受分 發芽せる [雙喩]にも用ふ, 嫩芽を有する; (因)と結合せる.

aṅkula 男 [=aṅkura]; 芽 Lal-v.

aṅkuśa 男 甲 鈎, 刺針, 刺戟物; 治療; 鈎, 鈎 (槌), 鈎 *Divy., Buddh-c., Rāstr., Guhy-s., Abh-vy., Sāmkhy-k., Śikṣ. : māra ~ āviddha* 魔鈎所制 *Śikṣ. 151.*

aṅkuśa-graha 男 (象を御する爲の) 鈎を執る者, 象の御者; 用鈎, 鈎法, 執鈎 *Mvyut.*

aṅkuśa-dhara 男 [同上].

aṅkuśin 形 鈎ある, 引きつくる; 鈎 *Mañj-m.*

aṅkuśī 女 [*Jaina* の二十四女神の一]; 鈎 *Mañj-m.*

aṅkūraya 名動他 = aṅkuraya.

aṅke-śaya 形 膝に横はる, 膝に坐する.

aṅkoṭha 男 [植物の名, 學名 *Alangium hexapetalum*].

aṅkola 男 [同上].

aṅkte, [Aṅj の 三入單目].

aṅkya 未受分 標を附せらるべき, 烙印を捺さるゝ.

aṅkhaya, X. 他 混ず.

pari- 目 抱擁す.

Aṅg, I. 他 行く.

pali (= pari)- 使役 **palyaṅgayati** 動かす. 廻轉す.

aṅga 1. 不變辭 1. [強調] 正に, 唯, 特に. 2. [勸説] [呼又は命と俱に用ひらる]. 3. [疑問] **kim** ~ 況や.

aṅga 2. 男 種 [或る民族又はその住地の名]; 安伽, 安佉, 央伽羅 *Mah-v., Lal-v.*

aṅga 3. 甲 [—° は形 (因-i)] 肢, 支分, 部分, 男根, 身體; 要素; 第二次的の部分; (*Veda* の) 支分 [即ち六種補助學]; 手段; (強) 語幹 (因因); 節, 種, 枝, 分, 支, 支分, 支具, 支節; 體, 身, 身分 *Vajr-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr., Mvyut. : sarva ~ pratyāṅga-paripūrṇa* 身分圓滿 *Śikṣ. 151.*, *pañca ~* 五支, 五分 *Bodh-bh., Abh-vy. →* *bodhy- ~. : ~ m ~ e CHid* 段段 *Lal-v. 223.*

aṅgaka 甲 身體の一部, 部分; 身體.

aṅga-kriyā 女 身體に油を塗ること.

aṅga-glāni 女 肉體的倦怠.

aṅga-ja 形 身中又は身上に生ぜし, 身より生ぜし, 肉體的の.

aṅga-jāta 男 子, 小兒, 子息; 小兒等; 生支 梵雜.

aṅgaṇa 甲 [= aṅgana]; 庭 *Divy., 梵雜, 梵千;* 惱, 穢, 貪著, 煩惱, 垢塵 *Daś-bh., Mvyut. → an ~, caitya ~.*

aṅgatva 甲 [aṅga 3. の 目].

aṅga-da 男 [人名]; [曆月の第十四 *Kalā* の名]. 甲 腕環 [上膊に附す]; 臂釧 *Mvyut.*

aṅga-dāha 男 身煩熱 *Mvyut.*

aṅga-din 形 腕環を著けたる.

aṅga-dinna 男 [王の名] (*Jāt-m.*).

aṅgadiya 形 *Aṅgada* に屬せる.

aṅga-dvipa 男 [創造説話の島の名].

aṅga-dhātri 女 抱持(母) *Lal-v.*

aṅgana 甲 庭, 庭園, 中庭; 歩く動作.

aṅganā 女; 牝.

aṅga-pratyāṅga 甲 支分, 支節, 肢體; 身 *Gand-vy., Bodh-bh., Śikṣ.*

aṅgapratyāṅga-cchedanā 女 斷截肢體, 割截支體, 斷一切支節 *Gand-vy.*

aṅga-prapīdana 甲 調身按摩 *Bodh-bh.*

aṅga-bandhana 甲 捕ふること, 毘にかくすること.

aṅga-bhaṅga 男 身體の破滅.

aṅga-bhū 男 子息.

aṅga-bheda 男 自らの背信, 自欺; 四肢疼 *Mvyut.* 形 偻麻質斯を起す.

aṅga-maṇi-vidyā 女 相面色, 觀相氣色 *Mvyut.*

aṅga-mukta 形 制於身, 身解脫 *Śikṣ.*

aṅga-mudrā 女 指にて結びたる印契, 印相.

aṅgam-ejayatva 甲 身體の震動.

aṅga-yaṣṭi 女 細りたる身體.

aṅga-rakṣaka 男 護衛人.

aṅga-rakṣā 女 護衛の女.

aṅga-rāga 男 粉, 塗料, 膏藥.

aṅga-ruha 形 身體に生ずる. 甲 身體上の毛; 皮; 羽毛.

aṅga-latikā 女 細りたる身體.

aṅga-lipi 女 (香寫) 安佉書, 央伽羅書 *Lal-v. 125.*

aṅga-lepā 女 [町の名].

aṅgavat 形 (四) 肢を有する.

aṅga-valana 甲 手足をぎごちなく動かすこと.

aṅga-vāk-pāṇimat 形 身體・言語共に兩手を具へたる.

aṅga-vikāra 男 肉體の缺陷.

aṅga-vidyā 女 手相術.

aṅga-vyathā 女 肉體の苦痛.

aṅga-samskāra 男 身邊の粧飾.

aṅgasamskāra-karman 甲 裝身, 粧飾.

aṅga-samākhyāyam 網 四肢を數へて.

aṅga-sparśa 男 (saha...) との肉體的接觸.

aṅga-hāra 男 身振り.

aṅga-hina 形 肢の缺けたる; 身不具足; 身分下劣, 根不具足者 *Saddh-p., Suv-pr., Śikṣ.*

aṅga-hinatva 甲 肢の缺如.

aṅgāṅgi 不變辭 肢分と身體との如く, 相互に.

aṅgāṅgi-bhāva 男 肢分と身體又は部分と全體との關係.

aṅgānukūla 形 身體に心地よき.

aṅgāra 男 (甲) 炭, 汚點; 火星; 炭, 火 *Śikṣ., Mañj-m., 梵雜, 梵千.*

aṅgāraka 男 炭; [*Asura* の名]; [九曜の一] 火星, 火曜, 火大曜, 熒惑 *Divy., Mañj-m. Mvyut.*

aṅgāraka-karmānta 男 木炭窯.

aṅgārakā 女 [或る *Rākṣasī* の名].

aṅgāra-kāraka 男 炭焼き人.

aṅgārakita 通受分 炭となれる.

aṅgāra-jivikā 女 炭を扱ふ生業.

aṅgāratā 女 炭たること, 炭の状態.

aṅgāra-ṅikara 男 炭の堆積.

aṅgāravatī 女 [人名].

aṅgāra-varṣa 甲 燃ゆる木炭より發する火の粉の雨

(Buddh-c.).

aṅgāra-vāra 男 火曜日.

aṅgāra-sthāpana-śakaṭikā 女 鍋撐 Mvyut.

aṅgārin 形 日没直後の.

aṅgāriya 形 炭火の爲の.

-aṅgika 形 支; 種 Ast-pr.: pañca ~ m tūry-
am 五樂, 五種樂, 五支諸樂 Ast-pr. 933.

aṅgin 形 肢を有する; 全部分を有する; 手段を有する. 男 生物.

aṅgira 男 [同下].

aṅgiras 男 神と人との間の使者 [Agni 神を首とす]; [聖仙の名]; [大熊星座中の星の名]; Atharva-
veda; [聖仙の家系の名]; 具力 Mvyut.; 央耆羅 Buddh-c.aṅgirasa 形 = aṅgirasa; [佛の異稱] (香) 賢
候囉婆族, 耆耆羅婆族 Mvyut.

aṅgi-karaṇa 中 讓歩, 同意.

aṅgi-kāra 男 [同上].

aṅgi-Kṛ 他 自身のものとなす, 服従せしむ, ……に服
す, 同意す; 約束す; (業)を承認す. 便役 (業, 従)
を承知せしめんと誘ふ.

aṅgi-bhāva 男 功助能 Abh-vy.

aṅguri 女 指; 足の爪先.

aṅguriyaka 中 指環.

aṅgula 男 中 拇指の幅[尺度としては 1/24 hasta];
指, 寸 Lank. → dvi ~, catur ~.

-aṅgulaka 形 ……の指幅に互る.

aṅguli 女 指; 足の爪先; 指, 肢, 節, 指量, 少
許 Divy., Lank., Abh-vy., Bodh-c., Mvyut., 梵千.

aṅgulikā 女 [蟻の一種].

aṅguli-tra 中 (弓術師の)弓靱.

aṅguli-trāṇa 中 [同上].

aṅguli-parvan 中 指節; 指節 Mvyut., 梵雜.

aṅguli-prañejana 中 指を洗ふ水.

aṅguli-pratodana 中 指痛搥, 以指擊歷 Prāt-
m., Mvyut.aṅguli-māla 男 [人名] 指鬘; 央掘魔羅,
耆掘摩羅 Av-s., 玄應. → aṅgulī-mālika.aṅguli-mālika 男 = aṅguli-mālika; [人名];
央掘摩, 央掘利魔羅 Lank.

aṅguli-mukha 中 指先.

aṅguli-mudrā 女 印章を刻したる指環; 指銀,
指環 Divy.

aṅguli-mudrikā 女 [同上]; 指銀 Divy.

aṅguli-sneha 男 潤一指面 Śikṣ.

aṅguli-sphoṭana 中 指を弾きて音を出すこと; 彈
指.

aṅguli 女 指; 足の爪先.

aṅguli-parvan 中 指の關節; 指節 Abh-k.

aṅguli-phāṇa-hastaka 形 手指圓者 Mvyut.

aṅguli-mālika 男 = aṅguli-mālika; [人名];
央掘摩, 央掘利魔羅 Lank. → aṅguli-māla.

aṅguli-mudrā 女 印章を刻したる指環.

aṅguliya 中 指環.

aṅguliya 中 [同上]; 指環 Lal-v., Mvyut.

aṅguliya-mudrakā 女 印章を刻したる指環.

aṅguliya-lipi 女 央耆書, 安耆書, 耆羅
梨書 Lal-v. 125.

aṅguli-vikṣepam 中 指をあちこち動かして.

aṅguli-veṣṭa 男 手袋.

aṅguly-agra 中 指の先; 指端 Lank., Śikṣ.

aṅgulyagra-nakha 男 爪先.

aṅgu-ṣṭha 男 拇指; 拇指の幅(尺度として); 足の拇
指; 指, 趾, 大指 Lal-v., Divy., Ast-pr., Mvyut.
→ pāda ~.

aṅguṣṭha-parvan 中 拇指の關節.

aṅguṣṭha-mātraka 形 拇指大の.

aṅguṣṭha-mūla 中 拇指の附根.

aṅguṣṭha-vibhedaka 男 指のなき手袋 (Kār-
vy.).

aṅguṣṭhya 形 拇指に関する.

aṅghri 男 足; 根.

aṅghri-pa 男 樹.

aṅghri-pāta 男 足を下すこと, 歩み.

aṅghry-avanejana 形 (女 -i) 足を洗ふ(者).

aṅghry-avanejanatva 中 足を洗ふこと.

Ac, Añc, I. acati(-te), añcati(-te). 屈す; 行く;
尊敬す; 尋 Saddh-p. 過受分 añcita 曲れ
る, 縮れたる; 優れたる, 異常なる. añcitam 注
意深く. 便役他 añcayati 生ず, 惹起す.

anu- 随ふ, 相互に随ふ.

ava- 沈む. 過受分 avāñcita 沈みたる.

ā- 曲ぐ. 不變分 ācya. 過受分 ākna.

ud- 引上ぐ, 空にす; 聲を發す. 過受分 udakta
言はれたる, 語られたる.

vy-ud- 便役 vyudañcayati 揚ぐ.

sam-ud- 揚ぐ. 過受分 samudakta.

ni- 下に曲ぐ, 沈む, 垂下す.

pari- 轉回す.

vi- 曲げ擴ぐ, 擴ぐ.

sam- 壓す.

ac 1. 文法 母音.

ac 2. [接尾] -a (作者を表す第一次接尾音).

a-cakita 過受分 よろめかざる, 確乎たる.

a-cakṣur-viṣaya 形 視野外の. 男 視力の及ばざる
もの.

a-cakṣuṣka 形 = acakṣus.

a-cakṣuṣmat 形 無慧目 Bodh-bh.

a-cakṣus 形 眼なき, 盲目の.

a-cañcala 形 性無躁動 Lal-v.

a-caṇḍa 形 激烈ならざる, 節度ある.

a-candana 形 梅檀の膏藥なき.

a-candra-sūrya 形 月も太陽も照さざる.

a-capala 形 狐疑せざる, 欺瞞なき; 動搖せざる; 放
縱ならざる, 不動の, 安定なる. → a-cāpala.; 無動,
不動, 無動搖, 不輕躁, 不躁動; 難可廻轉 Bodh-
bh., Mvyut.

a-capalatā 女 不輕躁 Sam-r.

a-cara 形 不動の.

a-carama 形 最後ならざる; 最善の; 前, 非
後, 無後 Abh-vy., Mvyut.

acarama-vayas 中 壯年.

a-carita 甲 絶食。
a-caritāvin 過能分 漢譯 不行 *Aṣṭ-pr.*
a-cala 形 不動の；漢譯 不動，非動，無動，不變動，無所傾動 *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*; [菩薩の階位の名] 不動 *Dharm-s.*: ~ā bhūmiḥ 不動地 *Bodh-bh.* 353. 男 山，岩；漢譯 [明王の名] 不動 *Sikṣ.*, *Guhy-s.*; 音譯 阿左羅 *Guhy-s.*
a-calatā 女 漢譯 不動，無動轉 *Bodh-bh.*
acala-datta 男 [或る著作者の名]。
a-calana 甲 不動；(音)に固執すること；漢譯 不動，無動，不亂 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*
a-calanā 女 地。
acala-pura 甲 [町の名]。
acala-mati 男 [或る Māra-putra の名] (*Lal-v.*)
acala-hṛdaya 形 漢譯 不動(尊明王)心(眞言) *Sikṣ.* 140.
a-calā 女 大地。
acalāgra 男 漢譯 [明王の名] 不動尊 *Guhy-s.*
acalādhīpa 男 (山の王)，[Meru 山；Himālaya 山]。
a-calita 過受分 漢譯 不動，不可動，無動，無動轉 *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*
a-calitatva 甲 漢譯 不動，不可動 *Sikṣ.*
acalendra (°la-in°) 男 [Himālaya 山，雪山]；漢譯 山王 *Sūtr.*
acaleśvara (°la-iś°) 男 [同上]。
a-calya 未受分 漢譯 無動，不可動 *Daś-bh.*
a-cāturmāsya 形 *Cāturmāsya* 祭なき。
a-cāpalā 甲 冷靜，沈著。→ *a-capala*。
a-cāpalya 甲 慎重，確固。
a-cāritra 形 漢譯 無有威儀 *Rāṣṭr.*
a-cāliya 形 俗 [<acālya]；漢譯 不動 *Sam-r.*: ~o śaila-samah 不動如山王 *Sam-r.* 61。
a-cālya 未受分 動かされざる。
a-cikitsaniya 未受分 治療すべからざる。
a-cikitsā 女 漢譯 非治，非醫方 *Laṅk.*
a-cit 形 愚かなる。
a-citta 過受分 認められざる，見えざる；漢譯 非心 *Aṣṭ-pr.* 甲 漢譯 無心 *Laṅk.*
a-cittaka 形 漢譯 無心 *Vijñ-t.*, *Abh-vy.*
a-cittakatva 甲 漢譯 無心 *Abh-vy.*
a-cittatā 女 漢譯 非心性 *Aṣṭ-pr.*
a-cittatva 甲 漢譯 無心性 *Aṣṭ-pr.*
a-citti 女 無智，愚。
a-cittika 形 (女 -ā) 漢譯 無心 *Abh-vy.*
a-citra 形 暗き；種々ならざる；漢譯 非多，無諸相 *Laṅk.* 甲 暗黒。
a-cintaka 形 漢譯 不思議 *Sikṣ.*
a-cintaniya 未受分 思惟せられざる，考へられざる。
a-cintā 女 無思想，無頓著，無思慮。
a-cintika 形 漢譯 不可思議 *Mvyut.*
a-cintita 過受分 豫期せざる，考へられざる，無視せる。
a-cintiya 未受分 俗 [<acintya]；漢譯 奇特，難思，不思議，難思議，不可思議 *Suv-pr.*, *Sam-r.*, *Lal-v.*, *Divy.*, *Sikṣ.*

a-cintya 未受分 考へられざる；漢譯 非心；難思，不思議，不可議，不可思議，不可思惟，不可思量，不應思議，難可思議，無所思惟 *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy. I.*, *Bodh-c.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.* 男 [Siva 神の稱]。甲 漢譯 [數の名] 不可思，不可思議 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
acintya-kṛtya 甲 漢譯 不可思議事 *Aṣṭ-pr.*
acintya-cyuti 女 漢譯 不思議死，不思議變易死，不可思議變易死 *Laṅk.* 63.
acintya-jñāna 甲 漢譯 不思議智，不可思議智慧 *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*; 非心 *Laṅk.*
a-cintyatā 女 漢譯 難思，不可思議性 *Sapt-pr.*
acintya-dharma 男 漢譯 不思議法 *Sapt-pr.*
acintya-dhātu 男 漢譯 不可思議界 *Mvyut.*
acintya-pariṇāma 形 (女 -i) 漢譯 不思議變，不思議變易 *Laṅk.*: ~ī cyutiḥ 不思議變易死 *Laṅk.* 307.
acintya-pariṇāmin 形 漢譯 不思議變，不思議(死) *Laṅk.* 140.
acintya-parivarta 男 漢譯 [數の名] 不可思轉 *Gaṇḍ-vy.*
acintya-prabha 形 漢譯 [Amitābha 佛の屬性] 難思光，不思議光 *Sukh-vy. I.*
acintya-prabhāvatā 女 漢譯 具不思議大威神力 *Bodh-bh.*
acintya-viśaya 男 漢譯 不思議境，不思議境界，不可思議境界，不思議事處 *Laṅk.* 64.
acintya-vyavasthāna 形 漢譯 實定不可思議，其所安立不可思議 *Mvyut.*
a-cira 形 短かき，少時の，瞬間の；漢譯 不久，未久 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.* ~m 副 少時前に，遠からず；少時をおきて，時々，繰返して；(男)，(女) 猶豫なく，直ちに [屢々現在の語と俱に用ひて未來を表す]；~eṇa 漢譯 非久 *Sikṣ.*
acira-dyuti 女 電光。
acira-prabhā 女 [同上]。
acira-pravrajita 形 漢譯 新出家，出家未久 *Gaṇḍ-vy.*
acira-prasuta 形 漢譯 初生，新産 *Suv-pr.*
acira-bhās 女 = *acira-dyuti*。
acira-yāna-samprasthita 形 漢譯 初住大乘，不久修行 *Aṣṭ-pr.*: ~o bodhisattvaḥ 初住大乘菩薩，菩薩不久修行 *Aṣṭ-pr.* 772.
acira-rociṣ 女 = *acira-dyuti*。
acira-sthitika 形 漢譯 不久住 *Sikṣ.*
acirāmsu 女 = *acira-dyuti*。
acirābhā (°ra-ābhā) 女 = *acira-dyuti*。
acirāstamita 形 漢譯 ~e sūrye 遇日沒時，便見日沒，日沒未久 *Gaṇḍ-vy.* 223。
acirodhā (°ra-ūdhā) 女 新婚の女。
acirodita (°ra-ud°) 形 漢譯 初出 *Lal-v.*
a-cetana 形 無感覺なる，無意識なる；生氣なき；思慮なき；漢譯 無知，非情；心亂；無心識 *Sāṅkhy-k.*, *Saddh-p.*, *Lal-v.*, *Abh-vy.*, *Divy.*
a-cetanatā 女 [同上 抽]。
a-cetanatva 甲 [同上]；漢譯 非情，無意 *Abh-vy.*

a-cetas 形 無感覺なる, 愚かなる, 無意識なる。
a-cetita 通受分 顧られざる; 不注意なる。
a-cela 形 漢譯 裸身, 裸形者, 無衣服 *Sikṣ., Mvyut.*
a-celaka 形 漢譯 無衣, 裸形 *Prāt-m., Mvyut.:* ~
parivrājika 裸形外道 *Prāt-m. V. 44.*
acela-dāna 中 漢譯 施露體, 施裸身者, 與施無衣, 與
無衣(外道男女食) *Mvyut.*
a-ceṣṭa 形 動かざる。 ~m 副 動くことなく。
a-ceṣṭatā 女 不動。
a-caitanya 中 智識の缺乏, 無意識。
a-codita 通受分 漢譯 不教求, 無教求 *Lañk.*
a-codya 未受分 漢譯 非難, 不成難 *Abh-vy.*
a-codyamāna 現分 受 [Cud] 促されざる。
a-caukṣa 形 漢譯 穢, 不淨 *Sikṣ.*
accha 1. 副 手近に; [°-又 華] と俱に用ふる 副 と
して] ……に, の方に。
accha 2. 形 明らかなる; 清き, 純粹なる; 漢譯 美,
妙; 喜; 不汚, 離垢, 清冷, 清淨 *Lal-v., Gaṇḍ-vy.,*
Bodh-bh., Sikṣ., Mvyut.
acchaṭā 女 漢譯 彈指 *Saddh-p. 392.*
acchaṭā-śabda 男 拍子と云ふ音, 指にて拍子と音を
發すること; 漢譯 指音, 彈指音, 彈指作聲 *Divy.,*
Mvyut.
acchaṭā-saṃghāta 男 [同上] (*Divy.*); 漢譯 [Pāli.
accharā-saṃghāta] 彈指 *Saddh-p., Mvyut.*
acchaṭāsaṃghāta-mātra 形 漢譯 彈指閑 *Mvyut.*
acchaṭāsaṃghāta-mātrakam 副 漢譯 經彈指頃,
一彈指頃, 如彈指頃 *Aṣṭ-pr.*
acchatā 女 漢譯 本清 *Sūtr.*
acchati 俗 [*archati, Ṛch*]; 漢譯 *nāsau kausidyam*
~ 無復諸懈怠 *Sikṣ. 298.*
acchatva 中 漢譯 清淨, 淨妙 *Abh-vy.*
a-cchadman 中 奸策なきこと。
a-cchanda 男 具 (華) の意志に反して; 從 不本
意に。
accha-bhalla 男 熊。
a-cchambhita 通受分 俗 [*<a-stambhita*]; 漢譯 無
畏, 勇猛無畏, 無畏勇猛, 遠離恐怖 *Gaṇḍ-vy.*
a-cchambhin 男 俗 [*<a-stambhin*]; 漢譯 不懼
Mvyut.
a-cchala 中 非欺瞞, 誠實。
acchā 副 (華) の近くに, ……に向ひて。
acchā-Car, …… に向ひて進む, 達す。
acchāccha 形 完全に明白なる又は透明なる。
acchānta, [Chad 2. の 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百]
a-cchāyā 女 漢譯 非影, 不影 *Lañk.*
a-cchidra 形 全き; 妨げられざる; 過失なき; 漢譯
不缺, 不穿, 無隙, 無間隙, 無穿漏, 無孔隙; 不缺漏,
無缺漏 *Gaṇḍ-vy., Sam-r., Rāṣṭr., Aṣṭ-pr., Sikṣ.,*
Mvyut. ~m 副 妨害せられずして, 終始一貫し
て。 具 副 [同上]。
acchidra-kārin 形 漢譯 不斷行, 所作無缺 *Bodh-*
bh.
acchidra-śila 形 漢譯 持戒清潔, 持戒無缺漏, 不缺
漏戒 *Saddh-p., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy.*
acchidri-karaṇa 中 漢譯 無缺減 *Bodh-bh.*

acchidropacāra (°ra-up°) 形 漢譯 威儀無失, 近行
無過 *Lal-v., Mvyut.*
a-cchinna 通受分 切斷せられざる, 分割せられざる;
傷けられざる, 全き; 漢譯 無斷, 不割截, 不可分斷
Aṣṭ-pr., Mvyut.
acchinna-daśaka 男 漢譯 衣裳不割截 *Lañk. 365.*
acchūrikā 女 [同下]。
acchūri 女 圓板。
a-cchedya 未受分 切斷せられざる, 分割し得ざる。
a-cyāvin 形 確乎たる, 不易の (*Buddh-c.*)
a-cyuta 通受分 確乎たる, 滅されざる; 漢譯 不退,
無退, 不退落; 不滅, 無沒 *Lañk., Sam-r., Lal-v.,*
Kāśy., Sikṣ. 男 [Viṣṇu 神の稱]; 漢譯 [龍王の名]
平等 *Mvyut.*
acyuta-gāmin 形 漢譯 不退, 不退轉, 無有退轉, 無
有退墮 *Gaṇḍ-vy.*
acyuta-śila 形 漢譯 戒無失, 不退落戒 *Sam-r., Mvyut.*
acyuta-samādhi 形 漢譯 定無失 *Mvyut.*
acyutābhijña 形 漢譯 不退神通 *Mvyut.*
Aj, I. 他 (直) **ajati(-te)** 逐ふ。
adhi- 逐ひ上ぐ。
apa- 逐ひやる。
ava- 逐ひ下ぐ。
ā- 逐ひ上ぐ。
ud- 逐ひ出す。
upa- 逐ひ寄す。 自 自ら逐ひ寄す。
aja 1. 男 飼畜; (家畜を)逐ふ人; 牡山羊; 漢譯 羊,
山羊, 野羊, 殺羊 *Lal-v., Lañk., Mvyut.;* 畜畜 [王
の名] 阿闍(王) *Buddh-c.* ~
a-ja 2. 形 不生の, 初より存在する; 漢譯 不生 *Lañk.*
男 不生なる者, 永遠なる者; (華) [Brahman 神,
Viṣṇu 神, Siva 神の稱]; 穀物の一種 [牽強附會の
説明による]。
aja 3. [語根 A]。
a-jagat 形 不動の。
a-jagati 形 急峻なる(坂)。
aja-gara 男 大蛇, 蟒蛇; 漢譯 蟒, 蟒蛇 *Divy., Sūtr.*
aja-gala-stana 男 山羊の頸の垂肉。
a-jaghanya 形 最後ならざる; 最悪ならざる, 最も
勝れたる。
a-jada 形 魯鈍ならざる, 精神健全なる; 漢譯 不愚
Bodh-bh.: ~m bhavaty adhandha-jātiyam 性不
愚鈍 *Bodh-bh. 15.*
a-jana 形 無人の。 中 寂漠の地。
a-janani 女 出生を阻止すること [呪詛に關して用
ふ]。
a-janāgriya 形 公衆の注視を受けざる。
a-janita 通受分 漢譯 無生 *Sapt-pr.*
a-janma 形 漢譯 無生, 無起, 無受生 *Lañk.*
a-janmatā 女 漢譯 不生, 無起 *Bodh-bh.*
a-janmatva 中 漢譯 無生, 不起 *Madhy-vibh.*
a-janman 中 不再生。
aja-pa 男 山羊飼。
aja-padaka-daṇḍaka 男 漢譯 錘子 *Mvyut.*
aja-pāla 男 山羊飼。
aja-māyu 形 山羊の如く鳴く。

a-jaya 男 敗戦。
 a-jayya (未受分) 征服せられざる。
 a-jara 形 老いざる, 常に若き; 無老 Bodh-bh.
 男 覆 [Agni 神の焰].
 a-jarat 現分 老いざる。
 aja-rathaka 男 羊車 Saddh-p.
 ajā-māra 形 不老不死の。
 ajarāmaratva 中 不老不死。
 ajarāmaravat 副 不老不死の如くに。
 aja-rāya 男 [人名].
 ajāri 女 [植物の名].
 a-jarya 形 老いざる。中 友誼。
 a-jalpat 現分 言はざる。
 aja-vithi 女 白道 [黄道の一部].
 aja-sālā 女 羊園 Mvyut.
 a-jasra 形 疲れざる, 生氣を失はざる; 不斷轉運 Mvyut. ~m, ° — 絶えず, 永久に。男 [同上]; [中と俱に用ゐらるゝ時は] 決して……なし。
 a-jahal-lakṣaṇā 女 (根本の意義を棄てざる) 略辭法 (lakṣaṇā) [例] sveto dhāvati 「白が走る」=sveta-varṇo 'svo dhāvati 「白毛の馬が走る」].
 ajā 女 牝山羊。
 ajāji, -i, -is 女 [種々の植物の名, 學名: Cuminum Cuminum; Ficus Oppositifolia; Nigella Indica 等]; [藥草の名] 小圓(?)香, 小回(?)香 Mvyut.
 ajāji-puṣpa 中 [花の名] 回香花 Mvyut.
 ajāji-puṣpavat 形 如香菱花 Abh-vy.
 a-jāta 形 不生の, 未だ生れざる; 未, 來, 未來, 來生, 不生, 無生, 非生, 未成, 未成就 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Laṅk., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.: atita ~ 去來 Abh-k. II. 39.
 a-jātaka 形 不生, 無生, 無起 Laṅk., Saddh-p.
 a-jātatva 中 不生, 無生 Laṅk., Aṣṭ-pr.
 ajāta-pakṣa 形 未だ羽毛の生ぜざる; 翅羽未成, 翅未成就 Aṣṭ-pr.
 ajāta-pūrva 形 本不生 Laṅk.
 ajāta-rajās 形 花粉なき; 未だ月經を見ざる。
 ajāta-roma 形 未だ毛の生ぜざる。
 ajāta-lomni 女 形 未だ發毛せざる, 成熟せざる。
 ajāta-vyañjana 形 髻なき。
 ajāta-śatru 形 (對手たる) 敵なき; 男 [Yudhiṣṭhira の名]; [王の名] 未生怨, 未生冤 Divy., Abh-vy., Śikṣ., Mvyut.; [音寫] 阿閼世 Saddh-p., Divy.
 ajātaśatru-kaukrīya-vinodana 中 [經名] 除未生冤悔經 Mvyut.; [文殊支利普超三昧經].
 ajāta-śatrutā 女 無敵。
 ajātaśatru-śokā-vinoda 男 [經名] Prajñ-vy.
 ajāta-śūnyatā 女 不生空 Laṅk.
 ajāta-sāra 形 無力の。
 ajātāri 男 [Yudhiṣṭhira の名].
 a-jāti 女 偽物, 悪しき品物; 不生, 無生 Laṅk., Aṣṭ-pr.
 a-jātika 形 不生, 無生 Laṅk.
 a-jānaka 形 不知, 無知, 無知者, 無智愚人 Aṣṭ-pr., Saddh-p.; 不生, 無生 Laṅk.
 a-jānat 現分 (妻) と相ひ識るなき; 未知, 不解,

未識, 不善通達 Śikṣ., Abh-vy., Aṣṭ-pr.: subhāsitasya artham ~ 不善通達甚深義趣 Aṣṭ-pr. 355.
 a-jānamāna 現分 無知 Sapt-pr.
 a-jāmi 形 同血族ならざる。中 破倫。
 ajāvi 男 覆 山羊と羊。
 ajāvika 中 覆 [同上].
 ajāśva 中 山羊と馬。
 a-jigīṣa 形 野心なき。
 a-jijñivas 形 知らざりし。
 a-jita (通受分) 征服せられざる; 未降; 未熟; 無勝, 無能勝, 能逮者 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sukh-vy. II., Abh-vy., Mvyut.; [音寫] [菩薩又は人の名] 阿逸, 阿逸多, 阿氏多, 阿嚕多 Sukh-vy. I, II., Aṣṭ-pr., Saddh-p., 立應。
 ajita-keśa-kambala 男 [人名] 阿市多鷄 舍甘跋羅, 阿耆多翅舍欽婆羅, 阿夷耑其耶今離 Divy., Mvyut., 立應。
 ajita-bhrītyatā 女 婢僕を統御し能はざること。
 ajita-sena 男 [人名] 無勝軍 Gaṇḍ-vy.
 ajitātman (°ta-āt°) 形 自己を克服せざる, 自己を制御せざる, 自制なき。
 ajitāpida (°ta-āp°) 男 [王の名].
 ajitendriya (°ta-in°) 形 感官を制せざる。
 ajina 中 皮; 革の財布; 皮, 鹿皮, 人皮(?), 烏鹿皮 Laṅk., Divy., Mvyut.: khara ~ 驢之皮 Divy. 624; [音寫] 阿示那 Laṅk.
 ajina-ratna 中 (魔法) 財布の寶。
 ajina-vāśas 形 毛皮を著たる。
 ajināvati 女 [妖精の名].
 ajinin 形 毛皮を著たる。
 ajira 形 動く, 速き。~m 副。中 庭; 戰場; 處 Buddh-c.
 ajiravati 女 [Gaṅgā 河の一支流の名]; 伊羅拔 Av-s.
 a-jihma 形 曲らざる, 眞直なる; 正直なる。
 ajihma-ga 形 眞直に進む。男 箭。
 ajihma-cārin 形 正しき行の。
 a-jihma-śaṭha 形 不正ならず陰險ならざる。
 a-jihva 形 舌なき。
 a-jihvaka 男 啞, 無舌 Śikṣ.
 ajigar, [因 Gr の 便役 三過 三入 中] 覺醒せり。
 ajigarta 男 [Sunahśepa の父の名].
 a-jita (通受分) 損せられざる, 生氣ある。
 a-jiti 女 無損傷, 安全。
 a-jirṇa (通受分) 老いざる。中 不消化; 氣病 Mañj-m.
 a-jirṇin 形 胃弱の。
 a-jirti 女 不消化。
 a-jiryat 現分 不老の。
 a-jiryatā 女 不滅性, 不壞性。
 a-jiva 形 生命なき。
 a-jivat 現分 生き居らざる; 自身にて生活し得ざる。
 a-jivana 中 死。
 a-jivika 男 邪命, 不活 Śikṣ., Bodh-bh.
 ajivikā 女 不活, 天壽 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
 ajivikā-bhaya 中 不活畏, 不活怖畏 Bodh-bh.

a-jivita ㊦ 不生存, 死.
a-jugupsa ㊦ 嫌悪を有せざる.
a-jugupsita ㊦ 通受分 非難すべき所なき.
a-jur ㊦ 老いざる, 不滅の.
a-jurya ㊦ (女) -ā 又は -i [同上].
a-juṣṭa ㊦ 通受分 不快なる; 陰鬱なる.
a-jeya ㊦ 未受分 征服せられざる; ㊦ 不敗, 不可勝 *Mvyut.*
ajaikapād (aja-ek°) ㊦ [十一 *Rudra* の一の名]; [*Viṣṇu* 神の稱].
a-joda ㊦ 類なき; ㊦ 無類 *Mvyut.*
ajjukā ㊦ 内侍, 娼婦(劇に於ける).
a-jña ㊦ 無知の; 無感覺の(動物又は無生物); 愚かなる, 無経験なる; ㊦ 疑, 愚疑; 無知, 無智, 無智慧 *Laṅk., Bodh-c., Śiks., Sāṃkhy-k.*
a-jñatā ㊦ 無知 愚鈍.
a-jñāta ㊦ 通受分 知られざる, 認められざる; ㊦ 密 *Saddh-p.:* ~caryā 密行 *Saddh-p. 220.* ~m ㊦ (屬)を知らずして.
ajñāta-kula-śila ㊦ 家柄及び性質不明の.
ajñāta-bhukta ㊦ 通受分 知らずして食はれたる.
ajñāta-lipsam ㊦ その欲望の知られざる, (即ち)或る一定のものを欲求せざる.
ajñāta-lipsām ㊦ [同上].
ajñāta-vāsa ㊦ 不明の居處. ㊦ 居處の知られざる. ~m ㊦ 住處を知らずして, 微行して.
a-jñāti ㊦ 無血縁. ㊦ ㊦ 非親里 *Prāt-m.:* ~tyā bhikṣuṇyāḥ santikāc eivaram pratigrhñiyāt 從非親里比丘尼邊取衣 *Prāt-m. IV. 5.*
a-jñātika ㊦ ㊦ 非親里 *Bodh-bh.*
a-jñātvā ㊦ 不變分 知らずして, 確めずして.
a-jñāna ㊦ 無知, 不注意; 無智; ㊦ 無知, 非知, 不知, 無智, 非智; 無明; 疑, 愚疑, 疑惑; 迷闇 *Gaṇḍ-vy., Buddh-c., Laṅk., Bodh-bh., Śiks., Madhy-v., Vijñ-t., Madhy-vibh.:* akliṣṭam ~m 不染無知, 不染濁無明 *Madhy-vibh. 98.;* ㊦ 不注意に. ㊦ 無知なる, 愚かなる, 無経験の; ㊦ 不知, 無有智, 無智慧 *Laṅk., Śiks.*
ajñāna-gahana ㊦ ㊦ 無明深林, 無智險難處 *Gaṇḍ-vy.*
a-jñānatas ㊦ 知らずして.
ajñāna-timira ㊦ ㊦ 無明覆 *Lal-v.*
ajñāna-tṛṣṇā-karma ㊦ ㊦ 無知愛業 *Laṅk.*
ajñāna-tṛṣṇā-sambaddha ㊦ ㊦ 無明愛所繫, 無明愛和合 *Laṅk.*
ajñāna-sammūḍha ㊦ ㊦ 無智癡 *Saddh-p.*
a-jñānārtha ㊦ 「智」の意味を有せざる.
ajñānāvaraṇa (°na-āv°) ㊦ ㊦ 無知障 *Bodh-bh.*
ajñānāvṛta (°na-āv°) ㊦ ㊦ 無智暗, 無知闇覆, 無明暗覆 *Suv-pr., Śiks.*
ajñānāvṛta-cetas ㊦ ㊦ 無明闇覆心 *Suv-pr.*
a-jñāpaka ㊦ ㊦ 非證, 非知, 不令得知 *Vijñ-v., Mvyut.*
a-jñās ㊦ 血族なき.
a-jñeya ㊦ 未受分 知られざる, 認められざる; ㊦ 非所知, 非境界; 非爾焰(音寫) *Laṅk.*

ajma ㊦ 道; 行程; 行列.
ajman ㊦ [同上].
a-yaṇi ㊦ 無損害, 安全.
a-yeṣṭha ㊦ 最年長者に非ざる; ㊦ 何れを最年長者ともなし難き; 最善ならざる.
ajyeṣṭha-vṛtti ㊦ 長兄として振舞はざる.
ajra ㊦ 牧場, 原, 平野.
Añc, → *Ac.*
-añc ㊦ ……の方へ行く.
añcana ㊦ 曲ぐること, (弓を)彎曲せしむること.
añcala ㊦ 邊, 縁; 隅.
añcita ㊦ 通受分 → *Ac.* ㊦ 遊 *Saddh-p.;* ㊦ *Laṅk.* 63. ~m ㊦ → *Ac.*
añc-u ㊦ 文法 [接尾音 -añc].
Añj, VII. anakti, añkte 油を塗る, 塗り付く. (㊦ ㊦)飾る; (㊦) (塗)を以て身を飾る, 尊敬す, 祝す; 表示す; ㊦ 分別, 能了 *Madhy-v.* ㊦ 塗る.
anu- 油を塗る, なする.
abhi- [同上].
ā- 油を塗る.
ni- 中に隠す [*antar* と共に].
vi- 美しくくす, 顯示す. ㊦ 通受分 **vyakta** 明かなる, 明白なる, 明瞭なる. **vyaktam** ㊦ 明かに, 明白に. ㊦ 示す.
abhi-vi- 顯示す; ㊦ 顯示せらる, 現はる; ㊦ 現, 顯, 顯示, 顯現, 了出, 了別 *Laṅk.*
sam- 油を塗る, 飾る. (㊦)と結合す.
añjana ㊦ 油を塗ること, 膏藥; 眼膏(眼瞼を黒くするに用ふる); アンチモニー; ㊦ 眼藥, 瞼目藥, 翳形藥 *Gaṇḍ-vy., Bodh-c., Mvyut.* → *bhaiṣajya-* ~nālikā. 著, 垢, 濁穢 *Lal-v., Laṅk.* → *nir-* ~.; ㊦ 安繕, 安繕那, 安禪那, 安膳那 ㊦. —°
㊦ ㊦ 了, 能了 *Madhy-v.* → *srotōjana.*
añjanaka ㊦ 眼膏.
añjana-keśa ㊦ (女) -i 眼膏の如き(黒き)毛を有する.
añjana-giri ㊦ [山の名].
añjana-cūrṇa ㊦ アンチモニーの粉末.
añjana-parvata ㊦ [山の名].
añjanavat ㊦ 眼膏の如く.
añjana-vṛkṣa ㊦ [樹の一種].
añjanavṛkṣa-dārumaya ㊦ *añjana* 樹材より成れる.
añjana-śalākā ㊦ ㊦ 擦筋 *Mvyut.*
añjanā ㊦ [*Hanumat* の母の名]; ㊦ 分別 [*Tib. ston-pa*] *Madhy-v. 532.*
añjali ㊦ 合掌; ㊦ 合掌 *Suv-pr., Laṅk., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Bodh-c., Bodh-bh., Mvyut.* ~m **Kṛ** 兩掌に一杯[分量として]; 合掌せる手を額に捧ぐ[恭禮として]; ㊦ 捧; 滿掬, 滿自掌中 *Aṣṭ-pr. 829.* ~m **kṛtvā** (不變分) 合掌, 合十指掌 *Rāstr.* ~m **pra-Grah** (不變分): ~m **pra-grhya** 合掌, 合掌向(佛) [*Tib. thal-mo-sbyar-te*] *Saddh-p. 486.;* *daśanakhām* ~m **pra-grhya** 叉手, 合十指爪掌 *Saddh-p. 458.* ~m **pra-Nam** (不變分): ~m **pra-**

amya 合掌一心, 恭敬合掌, 合掌恭敬, 合掌向(佛), 胡
 卷合掌 *Suv-pr.*, *Sapt-pr.*; [=合掌曲躬, *Tib. thal-*
no spyar-ba-btud-de, *Pāli. añjalim paṇāmeti*]
Saddh-p. 60.: yena bhagavāms tena ~ṃ pra-
 amya 向佛合掌 *Aṣṭ-pr.* 429.

jalika 男 [矢の一種].

jali-karman 中 合掌すること(敬禮の際に); 漢譯
 合掌 *Bodh-bh.*

jalikā 女 幼き鼠.

jali-kārikā 女 [土偶の一種].

jali-pāta 男 = añjali-karman.

jali-puta 男 虚心合掌 [中を空にして兩掌を合せ
 前額まで挙げられたる形(敬意を示す)].

jali-pragraha 男 虚心合掌を差出すこと.

jali-karaṇiya 形 漢譯 應合掌 *Saddh-p.*

jali-Kṛ, 合掌す.

ijas 中 膏藥. 業 副 速かに, 直ちに. 具 眞直
 に, 直ちに, 眞實に.

ijaḥ-sava 男 (Soma 汁の)速かなる搾取.

iji 形 油を塗れる. 男 女 中 膏藥; 顔料, 裝飾.

ijira 男 [無花果樹の一種].

ijo-gati 形 眞直に飛べる(矢).

い, I. 中 徘徊す, 放浪す, 歩き廻る; 漢譯 行, 行履
Av-ś., *Mañj-m.*

pari- 徘徊す, 歩き廻る; 漢譯 經行 *Mañj-m.*

1. 文法 [全母韻及び h, y, v, r を表す術語].

2. 文法 [増字 -a].

akāvaṭi 女 [=alakāvaṭi]; 漢譯 柳葉隅 [*Tib. lean-*
lo-can の譯, 梵語には此の義なく, 「具擧髮」の義あ
 るのみ] *Mvyut.*

akara 男 漢譯 飢病 *Mvyut.*

aṣa 男 [八寒地獄の一]; 漢譯 阿吒吒, 額折
 吒 *Divy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, 立應.

aṣa-naraka 男 Aṣa 地獄; 漢譯 阿訶訶訶那
 迦 立應.

ana 中 徘徊, 歩き廻ること.

ani 女 (又は -i) 弓筈.

avi 女 [=aṣavi] (さまよひ入る場處), 森; 漢譯 稠
 林 *Lal-v.*

avika 男 林棲者, 木樵.

avi 女 森; 漢譯 大林, 樹林; 野, 曠野; 險道; 空
 澤 *Divy.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Guhy-s.*, *Bodh-c.*, *Lal-*
v., *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

avi-kāntāra 男 中 漢譯 曠野, 大曠野; 險難曠
 野, 曠野險惡道, 險道艱難之處; 大空澤, 空曠之處,
 空澤中深險之處 *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*,
Bodh-bh.

avikāntāra-gata 形 漢譯 墮在曠野 *Bodh-bh.*

avi-prāya-prāntatā 女 その隅が主として森林よ
 り成れること.

avi-bala 中 山林居住者の武力.

avi-sambhavā 女 漢譯 [池の名] 曠野生 *Suv-pr.*

tāṣya 中 彷徨, 流浪.

tāvaka 男 漢譯 [或る Yakṣa の名] 曠野 *Suv-pr.*

ti-Kṛ, 接近す.

ta 男 屋上の室, 見張塔; [或る Yakṣa の名]; 漢譯 樓

房 *Mvyut.*; 漢譯 阿吒 *Guhy-s.*

aṣaka 男 [同上]; 漢譯 樓觀, 城樓 *Suv-pr.*

aṣa-hāsa 男 哄笑.

aṣa-hāsyā 中 [同上].

aṣāla 男 = aṣa; 漢譯 敵館, 廊簷 *Mvyut.*

aṣālakā 男 見張塔.

aṣālikā 女 宮殿; [國の名].

aṣyā 女 徘徊.

adakavati 女 [神秘なる都市の名] (*Lal-v.*).

a-damara 男 漢譯 非亂, 非荒亂 *Lank.*

aṇ 1. 文法 [母韻 a, ā, i, ī, u, ū に對する文法語].

aṇ 2. 文法 [第二次接尾音 -a]. → ṇ-it.

a-ṇi-karṭṛ 男 文法 非使役法 即ち單純動詞の主格.

aṇiman 男 微細, 纖細; 漢譯 微細 *Mvyut.*

aṇiṣṭha 形 [aṇu の最上].

aṇimāṇḍavya 男 [聖仙の名].

aṇiyas 形 [aṇu の比較].

aṇu 形 微小なる, 微細なる, 纖細なる; 漢譯 小, 少,
 微細 *Abh-vy.* 男 原子, 極微; 漢譯 沙; 微, 塵, 微
 塵, 極微; 少分 *Lank.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Sapt-*
pr., *Cat-ś.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Vaiś-s.*, *Lal-v.*:
mārā gaṅgā ~ bhiḥ sammitāḥ 魔衆如恆沙 *Lal-v.*
 360.; 漢譯 阿炎, 阿孺 *Lank.*, *Mvyut.* → parama-

aṇuka 形 精緻なる, 微細の, 原子の; 賢き; 漢譯
 少, 少分, 輕, 微塵 *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.* 中
 原子.

aṇutva 中 微小, 極微質; 漢譯 微體, 極微 *Vaiś-s.*,
Abh-vy.

aṇu-phala 男 漢譯 青穀 *Mvyut.*

aṇu-mātra 形 原子大の; 漢譯 少 *Bodh-bh.*

aṇu-mātrika 形 原子より成れる, 原子大の.

aṇu-mukha 形 口小さき.

aṇu-vādin 男 極微論者, 原子論者.

aṇḍa 中 卵; 睾丸; [Stūpa の一部分] (*Divy.*); 漢譯
 男 卵 *Sikṣ.*, *Mvyut.*

aṇḍaka 中 鳥の卵.

aṇḍa-kaṭāha 男 卵に見做されたる宇宙の殻.

aṇḍa-kośa 男 宇宙卵, 宇宙; 漢譯 殼, 卵殼, 殼藏,
 殼膜 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

aṇḍa-kośa 男 [同上]; 漢譯 殼, 卵殼, 卵殼 *Sikṣ.*

aṇḍa-gata 形 卵中にある.

aṇḍa-ja 形 卵生の; 漢譯 卵生 *Vajr-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Abh-vy., *Dharm-s.*, *Mvyut.* 男 鳥.

aṇḍa-bhedana 中 [卵=] 氷を破ること.

aṇḍa-lāṅgula-praticchanna 形 漢譯 陽物縮者
Mvyut.

aṇḍa-sambhava 男 漢譯 鳥 *Divy.*

a-ny-anta 形 文法 使役法の接尾音 i (=aya) に終
 らざる.

aṇv-anta 男 微妙なる解決を要する問題.

aṇvi 女 [aṇu より] 指.

At, I. atati(-te) 行く, さまよふ, 徘徊す.

a-t 文法 [短母韻 a].

a-taṣa 形 岸なき. 男 斷崖, 深淵; 漢譯 巖 *Bodh-bh.*

ataṣa-prapāta 男 漢譯 投巖 *Bodh-bh.*

a-tattva ㊦ 非現實, 非眞實, 非眞理.
a-tattva-jñā ㊦ 眞理を知らざる, 眞實を知らざる.
atattva-jñāna ㊦ 誤れる智.
a-tattvatas ㊦ 眞實にあらずして.
a-tattvārthavat ㊦ 眞實の義を辨へざる.
a-tat-para ㊦ それを目的とせざる.
a-tathatā ㊦ ㊦ 非如, 非眞如 *Aṣṭ-pr.*
a-tathocita (°thā-uc°) ㊦ 斯る(取扱ひ)に慣れざる;
 (屬)に慣れざる.
a-tathya ㊦ 非眞實の, 偽の, 虚偽の.
a-tad ㊦ それならざるもの.
a-tad-arhamāna ㊦ それに値せざる.
a-tad-bhāva ㊦ ㊦ 不如, 異性 *Madhy-vibh.*
a-tadvat ㊦ ㊦ 非先所成, 非先所得 *Abh-vy. 250.*
a-tad-vid ㊦ それを知らざる, それを理解せざる.
a-tad-virya-vidvas ㊦ 彼の勇氣を知らざる.
a-tanu ㊦ 小ならざる, 大なる. ㊦ (身體 *tanū* なき) *Kāma* 神; 性愛.
atanu-bala ㊦ 強き.
a-tantri ㊦ ㊦ 絃なき(琴).
a-tandra ㊦ 怠惰ならざる, 活潑なる, 倦まざる.
a-tandrita ㊦ ㊦ 倦まざる, 臆せざる, 活潑なる;
 ㊦ 不怠, 無倦, 離解怠; 不散亂, 常不息 *Sam-r.,*
Suv-pr., Mvyut.
a-tandrin ㊦ [同上].
a-tanmaya ㊦ (女 -i) ㊦ 非彼性 *Bodh-bh.*
a-tapa ㊦ ㊦ [天の名] 無熱, 無熱天 *Sam-r.,*
Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s.
a-tapas ㊦ 苦行せざる. ㊦ ㊦ = *atapa*; ㊦ 無
 熱天, 不熱天 *Gaṇḍ-vy.*
a-tapaska ㊦ [同上].
a-tapta-tapas ㊦ 苦行をなさざりし.
a-tamisra ㊦ 暗からざる.
atara ㊦ ㊦ [數の名] ㊦ 阿怛羅 *Mvyut.*
a-tara-panya ㊦ ㊦ *a-sūlkena* ~ *ena* 不輪脚及
 無差料[船荷に對する賃金を拂はずに] *Divy. 4.*
a-taritra ㊦ 舵なき.
a-taru-cchāya ㊦ 樹陰なき.
a-tarka ㊦ 小理窟を離れたる; 會得し難き; ㊦ 非
 覺, 非計度 *Lank.*
a-tarkaṇiya (未受分) ㊦ 狙はれ難き或は狙ふ要なき, (屬)
 に對して安全なる (*Jāt-m.*).
a-tarkāvacara ㊦ ㊦ 非能可慮者, 非思量者之所
 能測 *Divy., Mvyut.*
a-tarkika ㊦ ㊦ 難思, 不思議, 難思議; 非思量
Lank., Saddh-p.
a-tarkita (未受分) ㊦ 不慮の, 豫期せざりし, 狙はれざる;
 (屬)に對して安全なる.
a-tarkin ㊦ 思慮なき, 向ふ見ずの, 早まれる.
a-tarkiya (未受分) ㊦ [*atarkya*]; ㊦ 區分別, 非
 心所思 *Saddh-p. 308.*
a-tarkya (未受分) ㊦ 考へられざる; ㊦ 不能解, 不可
 思惟 *Rāṣṭr., Mvyut.*
a-tala ㊦ [地獄の名, 「無底」の義].
atas ㊦ [*idam* の ㊦] これより; 此處より; この後,
 次に [特に *ūrdhvam* & *param* と俱に用ふ], それ

より; それ故, この故; ㊦ 故, 是故; 由此, 由彼,
 次後; 而 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.:* *na* ~ 除此
 無有 *Bodh-bh. 36.*

atasikā ㊦ [同下].

atasi ㊦ [亞麻の一種]; ㊦ 胡麻 *Mvyut.*

a-taskara ㊦ 盜人の居らざる. ㊦ 盜人ならざる者.

a-tātparya-vid ㊦ 眞義を知らざる.

a-tāpa-kara ㊦ 苦熱を與へざる, 苦惱を及ぼさざる.

a-tārīta (未受分) ㊦ 未度者 *Divy.*

ati ㊦ [動詞的 後頭] 上に, 向ふに. ° — 頗る, 甚
 だ, あまりに, 超越して. 前 [業と俱に] ……の上
 に, 越して, 以上の; ㊦ 甚, 極, 最極 *Abh-vy.*

ati-kaṣṭhā ㊦ 甚だ烈しき(風).

ati-karuṇa ㊦ 極めて慘めなる, 甚だ憫むべき.

ati-kala ㊦ 甚だ調子よき.

ati-kalyam ㊦ 非常に早く, 長朝に.

ati-kalyāna ㊦ (女 -i) 醜き.

ati-kaṣṭha ㊦ 甚だ厳しき; (從)より悪しき.

ati-kātara ㊦ 甚だ心許なき.

ati-kāya ㊦ 巨軀を有せる, 巨大なる. ㊦ [或る *Rāk-*
śasa の名].

ati-kāruṇika ㊦ 極めて慈悲深き; ㊦ 大悲, 悲
 愍 *Madhy-v., Mañj-m.*

ati-kilāsin ㊦ ㊦ 太弱, 太頼 *Mvyut.*

ati-kutūhala ㊦ 非常なる好奇心.

ati-kupita (未受分) ㊦ 大に怒れる.

ati-Kṛ, → *Kṛ.*

ati-kṛcchra ㊦ 十二日間の苦行.

ati-kṛta (未受分) ㊦ 過度の; 法外なる.

atikṛtārtha ㊦ 稀有の仕事をして遂げたる; 極めて
 巧妙なる.

ati-kṛti ㊦ 過度.

ati-kṛśa ㊦ 餘りに瘦せたる; ㊦ 細 *Lal-v.*

ati-kṛṣṇa ㊦ 甚だ黒き.

ati-kopa ㊦ 激怒.

ati-kopana ㊦ 激怒せる.

atikopa-samanvita ㊦ 大に怒れる.

ati-Kram *atikramati.* → *Kram.*

ati-krama ㊦ 踰越; 通過, 經過(時の); 變化; 違犯,
 侵犯, 罪; 怠慢; 過失; ㊦ 進, 度, 過, 越, 越度,
 超, 超越, 超出; 逮; 違 *Sikṣ., Abh-vy.;* 次第, 漸次
Lank. 117. → *an* ~.

ati-kramaṇa ㊦ 踰越; 通過; (一°)の等閑; 罪; ㊦
 超, 過, 越, 違越 *Daś-bh., Abh-vy., Mvyut.*

ati-kramaṇatā ㊦ ㊦ 超過 *Sukh-vy. I.*

ati-kramaṇiya (未受分) ㊦ 避けらるゝ; 閑却せらるゝ.

atikrama-prakrama ㊦ 往來, 去來 *Vijñ-t.*

ati-kramin ㊦ (一°)を犯す.

ati-kramya (未受分) ㊦ 過, 遠離 *Lank.*

ati-krānta (未受分) [Kram] 超越せる, 侵犯せる, 滿
 滿せる; ㊦ 越, 超, 過, 超過, 超出, 離, 遠離, 已
 出離; 過去, 古昔, 過時 *Divy., Prajñ-h., Lank.,*
Daś-bh., Lal-v., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.

ati-krāntatara ㊦ ㊦ 過, 最極超過 *Bodh-bh.*

atīkrānta-mānuṣyaka ㊦ ㊦ 過於人, 過於世人
Suv-pr.:

atīkrāntātīkrānta (過受分) (悲歎の流を)全く越えたる (Divy.).
 atīkrānti 女 違犯; (人を)蔑にすること, 侮蔑.
 atīkrudh 女 激怒.
 atīkrūra 形 甚だ恐しき
 atīkleśa 男 至難.
 atīKṣar, → Kṣar.
 atīkṣāmatā 女 (漢語) 最微, 極減 *Abh-vy.*
 atīkṣunaka 形 [atīkṣudraka?]: (漢語) 過少, 極小 *Mvyut.*
 atīkhara 形 甚だ鋭き(音).
 atīkhādin 形 大食の.
 atīga 形 刺し通す, 過ぎ行く, 超越する; 克服する; (一)を侵す.
 atīgandha 形 強き香氣を有する; (漢語) 妙香 *Sikṣ.*
 男 硫黃; [植物の名, 學名 *Andropogon Schænanthes* 又は *Michelia Champaca*, 素馨の一種].
 atīGam, → Gam.
 atīgambhira 形 甚だ深き, 測るべからざる(譬喩).
 atīgariyas (比較) 餘りに高價なる. ~ā Kri 高く買ひ過ぐ.
 atīGarj, → Garj.
 atīgardha 男 非常なる貪欲, 極度の貪欲.
 atīgardhya 中 [同上].
 atīgahana 形 測るべからざる; (漢語) 甚深 *Sūtr.*
 atīGā, → Gā.
 atīgādham 副 甚だ, 極度に.
 atīguṇa 形 勝れたる.
 atīguṇatā 女 [同上 抽].
 atīgupta (過受分) よく隠されたる.
 atīguru 形 甚だ重き; (從)より重き.
 atīgaura 形 (漢語) 白 *Lal-v.*
 atīgraha 男 超把握者 [八種の *graha* (感官)の對象 又はその作用を指す].
 atīgrāha 男 [同上].
 atīgriva 形 (漢語) 長項 *Mvyut.*
 atīghana 形 甚だ濃き.
 atīghanatara (比較) 甚だ厚き, 甚だ濃き.
 atīghora 形 甚だ恐しき.
 atīghni 女 極致.
 a-tiṅ 形 (文法) *tiṅ* を有せざる.
 atīcatura 形 甚だ速かなる.
 atīCar, → Car.
 atīcāpalya 中 極度の敏活.
 atīcāra 男 超越, 違犯.
 atīcārin 形 違犯する.
 atīcitra-gambhira 形 (漢語) 甚深希有, 甚深微妙 *Gand-vy.*
 atīcitram 副 極めて雑多に.
 atīcitrāya (名動) 大いに駭かしむ.
 atīciram 副 餘りに永く; (漢語) 久, 久遠 *Saddh-p.*
 atīciraya (名動) 遷延す (Divy.).
 atīcirasya (名動) 甚だ長期に互りて.
 atīCeṣṭ, → Ceṣṭ.
 atīcchanda 男 獨斷, 頑固, 氣まぐれ. 形 獨斷の, 頑固の, 氣まぐれなる.

atīcchandā 女 [音律の一種(4×14 音節)].
 atīccheda 男 毒舌, 酷評.
 atīcchedya 形 極めて損はれ易き.
 atījagati 女 [音律の一種(4×13 音節)].
 atījaṭhara 形 甚だ硬き; 甚だ老いたる.
 atījana 中 異境, 無人の地, 荒蕪の地.
 atījala 形 甚だ水の多き.
 atīJalp atījalpati. → Jalp.
 atījava 男 非常なる速度.
 atījavana 形 高速なる.
 atījavanatā 女 大急ぎ, 早急.
 atījāta (過受分) 大徳を具へて生れたる.
 atījita-kāsitā 女 克ち誇り過ぎたる態度.
 atījita-kāsin 形 克ち誇り過ぎたる.
 atījirṇatā 女 非常なる高齡.
 atīJiv, → Jiv.
 atījivan-mṛtaka 形 生くるよりは寧ろ死せる.
 atīdina 中 速かに飛ぶこと.
 atīdinaka 中 [同上].
 atītata (過受分) → Tan I.
 atīTap, → Tap.
 atītapasvin 形 大苦行を積める.
 atītapta (過受分) 憔悴したる(聲).
 atītara- (比較) 副 極端に.
 atītarām 副 非常に, 甚だ, 全く, 絶対に; (從)より一層.
 atītaruṇa 形 (漢語) 少 *Lal-v.*
 atītānava 中 極度の瘦身.
 a-titāra 形 渡り難き.
 atītārin 形 渡す.
 a-titīkṣā 女 忍耐なきこと, 堪えざること, 焦慮.
 atītitīrṣu (希求) 形 渡らんと欲する.
 atītikṣnatā 女 極めて鋭きこと.
 atītivra 形 甚だ激烈なる(戦闘).
 atītud 形 激しく打つ, 激しく鞭つ.
 atīTṛp, → Tṛp.
 atītṛpti 女 飽滿, 過食.
 atītṛṣṇa 形 甚だ渴ける.
 atītṛṣṇā 女 劇しき渴, 甚しき貪欲.
 atīTṛ, → Tṛ.
 atītejas 形 非常に輝ける, 甚だ強力なる. 男 太陽.
 atītejasvin 形 [同上].
 atīTvar, → Tvar.
 atītvarita (過受分) 甚だ急げる.
 atīthi 男 (徘徊者); 客; (漢語) 客, 賓客 *Divy., Mvyut.*
 —° 形 ……に来れる, ……に到着せる.
 atīthi-kriyā 女 客遇.
 atīthitā 女 來ること, 到着すること, 客たること.
 atīthitva 中 [同上].
 atīthi-deva 形 客を神とせる, 客人を尊敬せる.
 atīthi-dharma 男 賓客の正當なる待遇.
 atīthi-dharmin 形 賓客の資格を有する, 接遇せらるべき.
 atīthin 形 徘徊する. 男 [王の名].
 atīthi-pūjana 中 客の禮遇.
 atīthi-pūjā 女 [同上].

atithi-vrata 形 常に客を款待せる。
atithi-vratin 形 [同上]。
atithi-satkāra 男 客に對する款待。
ati-darpa 男 甚しき傲慢; [蛇の名]。
ati-darpita 通受分 ……を大いに誇れる。
ati-darśin 形 遠方を見る。
ati-Dah, → Dah.
ati-dahanātmaka (°na-āt°) 形 燃え過ぐる性質の。
ati-dātr 形 甚だ吝ならざる。
ati-dāna 甲 大まか過ぐる事, 施し過ぐる事。
atidāna-rata 形 樂行大布施 *Rāṣṭr.*
ati-dāruṇam 副 甚だ恐しく。
ati-dāha 男 猛烈なる燃焼。
ati-digdha-viddha 形 被箭, (被毒箭) *Buddh-c.*
ati-Div, → Div.
ati-Diś, → Diś.
ati-dipta 形 烈しく炎え上れる。
ati-dipti 女 強き光輝; [植物の名]。
ati-dīrgha 形 甚だ長き, 長過ぎたる; 太高, 長者 *Mvyut.*, 修 [短の對] *Gaṇḍ-vy.*: na~ā nāti-hrasvā 修短合度, 修短得所 *Gaṇḍ-vy.* 404.
atidīrgha-kopanatā 女 忿怒の甚だ久しきこと。
ati-duḥkha 甲 大なる苦惱。
atiduḥkhānvita 形 餘りに悲しき。
ati-duḥkhita 通受分 [同上]。
ati-durgama 形 極めて行き難き。
ati-durjana 男 非常なる無賴漢。
ati-durjñāna 形 最難知, 最難可知 *Abh-vy.*
ati-durdharṣa 形 甚だ近づき難き, 甚だ征服し難き。
ati-durnyasta 通受分 甚だ信ぜられ難き (*Jāt-m.*)
ati-durbala 形 甚だ無力なる; 甚だ困却せる。
ati-durbalatā 女 甚しき無力。
ati-durmanas 形 甚だ落膽せる。
ati-durmanāyamāna 現分 甚だ悲める。
ati-durvaha 形 甚だ耐へ難き。
ati-durvahatva 甲 [同上]。
ati-durviṣaha 形 甚だ耐へ難き。
ati-durvṛtta 通受分 甚だ悪しく行動せられたる。
ati-duḥśrava 形 甚だ聞き苦しき。
ati-duḥkara 形 甚だ困難なる。
ati-dustara 形 甚だ横切り難き。
ati-dūra 形 甚だ長き, 餘りに遠き; 遠, 甚遠, 極遠 *Laṅk.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.* 甲 最遠 *Sāmkhy-k.*
ati-dūratva 甲 大なる距離。
atidūra-vartin 形 (圖)にとりて餘りに遠く隔たりたる。
ati-Dṛp, → Dṛp.
ati-dṛpta 通受分 甚だ傲慢なる。 → *Dṛp.*
ati-deva 男 勝れたる神; 神より勝れたる者; 最勝天中天 *Lal-v.*
ati-devin 形 賭博に熱中せる。
ati-deśa 男 (文法規則の)擴張; 類推的結論; 説名, 所説 *Abh-vy.*: ~o nyāyāḥ 理應如…., 應是道理 *Abh-vy.* 76.
ati-Dru, → Dru.

ati-druta 形 極めて速き, 極めて不明瞭なる(發音)。
ati-dvaya 形 (女 -i) 無比の。
ati-dhavaḥ 形 甚だ白き。
ati-dhīratā 女 極めて重厚・莊重なること。
ati-dhṛti 女 [音律の一種(4×19 音節)].
ati-dhṛṣṭa 通受分 不肯止, 無休止 [*Tib. byūi-gyal*] *Lal-v.*
ati-dhairya 甲 = *ati-dhīratā.*
ati-Nam *atinamayati*, *atināmayati*(使役). → *Nam.*
ati-namratā 女 極めて柔軟なること。
ati-nāṣṭra 形 危険を免かれたる。
ati-nicṛt 女 [音律の一種].
ati-nidra 形 甚だ深く眠れる。
ati-nidrālu 形 全く夢現(夢)なる。
ati-nibhṛtam 副 極秘裡に。
ati-nirghṛṇa 形 全く無慈悲なる。
ati-nirdaya 形 [同上]。
ati-nirbandha 男 火急. 副 甚だ急遽に。
ati-nirbandhataḥ 副 甚だ急遽に。
ati-nirmathana 甲 激しく(海を)攪拌すること。
ati-nirvartin 形 不似合の行爲をなせる。
ati-nirvasutva 甲 極端なる貧困。
ati-nirvṛta 通受分 甚だ悦べる。
ati-niḥśabda 形 全く聲なき, 甚だ靜かなる。
ati-niḥ-Śvas, → Śvas.
ati-niṣkaruṇa 形 極端に殘忍なる。
ati-niṣṭhura 形 餘りに粗暴なる, 餘りに荒々しき。
ati-niṣṇāta 通受分 頗る經驗ある。
ati-ni-Hnu, → Hnu.
ati-Ni, → Ni.
ati-nica 形 甚だ下劣の, 甚だ低き; 下, 細 *Sikṣ.*
atinicais 副 甚だ追從して。
ati-nilā 女 [佛敎] 天女の名]。
ati-Nu, → Nu 2.
ati-nṛsaṃsa 形 餘りに意地悪き, 餘りに殘酷なる。
ati-Ned, → Ned.
ati-nairantarya 甲 確實なる連續性。
ati-paṭiyas 比較 甚だ鋭き, 熾烈なる。
ati-Path, → Path.
ati-Pat, → Pat 1.
ati-patti 女 經過(時の); 不適當; 越先 *Tijñ-t.* 32. → *kṛtya*~。
ati-Pad, → Pad.
ati-padmin 形 著しく斑點ある(象)。
ati-parikliṣṭa 通受分 極度に惱める。
ati-parikṣata 通受分 重傷を負へる。
ati-paricaya 男 甚しき親密。
ati-paruṣa 形 甚だ粗暴なる。
ati-Paś, → Paś.
ati-paścāt 副 最後 *Lal-v.*
ati-Pā, → Pā 1.
ati-pāta 男 行き過ること, 經過, 等閑; 襲撃; 害, 殺 *Suv-pr.*, *Daś-bh.* → *prāna*~。
ati-pātaka 甲 大罪, 死罪。
ati-pātin 形 速力に於て優れたる; 逸する, 等閑にせ

る; 害する; 害, 殺害 *Gand-vy.* → *prāna-*

- ati-pātya (未受分) 看過せらるべき, 無視せらるべき.
 ati-pāda-nicṛt (女) [音律の一種].
 ati-pāra (形) 餘りに廣き.
 atipālaya (名動) → *pālaya*.
 ati-piṅgalākṣa (形) 日太黄 *Mvyut*.
 ati-pitāmaha (形) 祖父を凌駕せる.
 ati-pitṛ (形) 父を凌駕せる.
 ati-pinaddha (過受分) 餘りに固く緊めたる.
 ati-piśuna (形) 甚だ卑劣なる, 甚しく悪意を懐ける.
 ati-piḍana (甲) 厳しき壓迫.
 ati-puṅya (形) 全く純なる, 全く潔白なる.
 ati-puṅyavat (形) 甚だ幸運なる.
 ati-pūra (男) 激流, 激しき流出.
 ati-pūrva (形) 極めて以前の, 太古の.
 ati-Pr, → *Pr* 2.
 ati-peśala (形) 甚だ巧なる.
 ati-pauruṣa (形) 甚だ男らしき.
 ati-prakāśa (形) 名聲轟ける, 甚だ有名なる.
 ati-prakāśatva (甲) 顯著, 甚だ知れ渡りたること.
 ati-prage (副) 晨朝に, 甚だ早朝に.
 ati-pracaṇḍa (形) 極めて強烈なる.
 ati-pra-Jval, → *Jval*.
 ati-praṇaya (男) 極度の親密, 愛情.
 ati-pra-Nud, → *Nud*.
 ati-pratyāsaṅga (男) 甚しき接近, 密接なる關係.
 ati-pra-Pad, → *Pad*.
 ati-prabandha (男) 斷絶せざること. °—— (副) 絶えず
 ati-prabala (形) 甚だ有力なる.
 ati-pramāṇa (形) 異常なる大きさの.
 ati-pramāda (男) 甚だ怠慢なる, 甚だ不注意なる.
 ati-prayukta (過受分) 極めて通常の.
 ati-pralobhita (形) (於)に全く心を奪はれたる.
 ati-pravartin (形) 餘りに歡樂に耽れる.
 ati-pra-Vā, → *Vā* 1.
 ati-praviddha (過受分) 驅逐せられたる.
 ati-pra-Vṛt, → *Vṛt*.
 ati-pravṛtta (過受分) (具)に甚だ忙しき. → *Vṛt*.
 ati-pravṛddha (過受分) 甚だ老いたる; 餘りに傲慢なる.
 ati-praveśa (男) 無遠慮, 干涉, 邪魔すること.
 ati-pra-Śams, → *Śams*.
 ati-praśasta (過受分) 絶讚せられたる.
 ati-praśānta (過受分) 完全に鎮まれる.
 ati-praśna (男) 限度を越えたる質問.
 ati-pra-Śri, → *Śri*.
 ati-pra-Śru, → *Śru* 1.
 ati-prasakta (過受分) 極めて執著せる.
 ati-prasakti (女) (具)に對する過度の執著.
 ati-prasaṅga (男) [同上]; (文法的法則の)濫用, 極度の敷衍, 冗漫; 大過失, 太過失, 太過者, 太甚過失; 無窮 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut*.
 atiprasaṅga-doṣa (男) 無窮(失) *Madhy-v.*
 ati-pra-Sad, → *Sad*.

- ati-prasanna (過受分) 恩恵を與へ過ぎたる, 餘りに上機嫌なる.
 ati-prastāva (男) 甚だ適當なる機會.
 ati-prāra (男) 強き打撃, 強き射撃.
 ati-prākṛta (形) 甚だ平凡なる, 甚だ無學なる.
 ati-prāṇa-priya (形) 生命より貴き.
 ati-prāṇam (副) 生命以上に.
 ati-priya (形) 甚だ好ましき. (具) 甚だ好ましく.
 ati-praudha-yauvana (形) 血氣盛りの.
 ati-bandhura (形) 甚しく昏迷せしむる.
 ati-bala (形) 甚だ強力なる. (男) [王の名]; [Skandaの従者の一類の名]; [佛勢] 天の名].
 ati-balavat (形) [同上].
 ati-balā (女) [-種の呪法の名].
 atibalāt-kṛta (形) 甚だ疲れたる.
 ati-balin (形) 甚だ強力なる.
 ati-baliyas (匹敵) より強き.
 ati-bahu (形) 甚だ多き; 多 *Sikṣ*.
 ati-bāñijaka (男) 豈是商主 *Divy. 34*.
 ati-Bādh, → *Bādh*.
 ati-bāla (形) 甚だ若き.
 ati-bālaka (形) 幼稚の, 幼少の; 太少, 特少 *Mvyut*. (男) 幼兒, 嬰兒.
 ati-bibhatsa (形) 甚だ厭ふべき.
 ati-bodhisattva (形) 菩薩以上の.
 ati-Brū, → *Brū*.
 ati-bhadratā (女) 極めて優美なること.
 ati-bhaya (甲) 大なる危険; 大恐怖 *Divy*.
 ati-bhayānaka (形) 全く怖しき.
 ati-bhara (形) 重荷の, 極度の負擔なる.
 ati-BHā, → *BHā*.
 ati-bhānu (男) [*Kṛṣṇa*の子の名].
 ati-bhāra (男) 過度の負擔; 曖昧(なる文章).
 ati-bhāva (男) 壓倒, 克服, 勝利.
 ati-BHī, → *BHī*.
 ati-bhī (男) (甚だ恐しきもの), 電光.
 ati-bhiru (形) 懼 *Sūtr*.
 ati-bhirutā (女) 極度の怯懦.
 ati-bhiṣaṇa (形) 甚だ恐るべき.
 ati-bhukta (過受分) 食ひ過ぎたる.
 ati-BHū, → *BHū*.
 ati-bhū (形) 一切を超越せる.
 ati-bhūta (過受分) → *BHū*.
 ati-bhūmi (女) 頂上, 高度.
 ati-bhūri (形) (一)甚だ多き.
 ati-BHūṣ, → *BHūṣ*.
 ati-BHṛ, → *BHṛ*.
 ati-bhṛt (形) 重く荷負ひたる.
 ati-bhṛta (過受分) → *BHṛ*.
 ati-bhṛsa (形) 熾盛 *Saddh-p*.
 ati-bhairava (形) 甚だ恐しき.
 ati-bhojana (甲) 過量の食餌, 過食.
 ati-mañjula (形) 極めて愛らしき.
 ati-mati (形) 甚だ賢明なる.
 ati-matimat (形) 至極賢明なる.
 ati-mada (男) 激しき興奮.

ati-madhyam-dina 甲 正午。
ati-Man 'atimanyate. → Man.
ati-manoratha 形 總ての希望に勝る (Jāt-m.).
ati-mano-hara 形 甚だ快き, 甚だ魅力を有する。
ati-mandatva 甲 極劣, 劣品 *Abh-vy.*
ati-manyanā 女 輕慢, 輕賤 *Kāśy.*
ati-manyu 形 激怒せる。
ati-martya 形 超人的なる。
ati-marśam 綱 → Mṛś.
ati-malina 形 甚だ汚き; 甚だ下賤なる。
ati-mahat 形 甚だ大なる; 餘りに長き; 大, 極大, 過大, 最尊最勝 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Mvyut.*
atimahad-ālopa 男 大搏食 *Prāt-m. VII. 68.*
ati-mātra 形 過度の。°—, ~m 副 過度に, 非常に, 度を越えて, 甚だ。
ati-māna 男 自負, 誇り; 過慢 *Vijñ-t.;* 増上慢 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.*
ati-mānana 甲 過慢 *Mvyut.*
ati-mānitā 女 傲慢なること, 自負せること。
ati-mānin 形 傲慢なる, 尊大なる; 名譽を過重視する。
ati-mānuṣa 形 超人的の。
ati-māya 形 迷妄を離れたる。
ati-māruta 男 烈風。
ati-mārgaṇa 形 甚だ執念深き。
ati-mukta 男 [種々の植物の名, 學名 *Gaertnera racemosa, Diospyros glutinosa, Dalbergia ougeinensis* 等]; [花の名]; 阿提目多(伽) *Saddh-p.*
ati-muktaka 形 全く解脱せる。男 = *ati-mukta*; [植物の名, 學名 *Premna spinosa*]; 阿底目伽(樹) *Divy.* 甲 [atimuktaka 樹の花]; 善思花, 目多伽花(香); 龍砥, 苜蓿 *Divy., Mvyut.*
ati-mukti 女 完全なる解脱。
ati-mukhara 形 極めて饒舌なる。
ati-mugdha 通受分 甚だ昏迷せる, 大いに惑亂せる。→ Muh.
ati-Muc, → Muc.
ati-Muh, → Muh.
ati-mūḍha 通受分 甚だ愚かなる, 甚だ鈍なる。
ati-Mṛd, → Mṛd.
ati-mṛdu-gamanā 女 [佛教] 天女の名。
ati-mṛdu-hṛdayatā 女 心情の極めて優しきこと。
ati-Mṛś, → Mṛś.
ati-maitryātman (°ya-āt°) 形 極悲愍 *Divy.*
ati-mokṣa 男 完全なる解脱。
ati-yatna 男 奮勵。
ati-yantraṇā 女 過度の謹慎, 甚だ固苦しきこと。
ati-yaśa 形 甚だ立派なる。
ati-Yā, → Yā.
ati-yācita 通受分 煩しく懇願せられたる, 執拗に乞はれたる。
ati-yātrā 女 越えること; 渡錢 (*Divy.*)
ati-raṃhas 形 極度に迅速なる。
ati-raktatā 女 (因)の甚しき愛好, ……を非常に好むこと。

ati-rajasvala 形 全く熱情に満されたる。
ati-raṣita 甲 絶叫。
ati-rati 女 大なる歡喜。
ati-ratna 甲 貴重なる寶石, 最良の寶石。
ati-ratha 男 大戦士。
ati-rabhaṣa 形 甚だ粗暴なる, 甚だ猛烈なる。~m 副。
ati-Ram, → Ram.
ati-ramaṇiya 未受分 甚だ愛らしき。
ati-ramaṇiyatā 女 [同上 副]。
ati-ramya 未受分 = *atiramaṇiya.*
ati-raya 形 極めて速かに走る。
ati-rasa 形 甚だ美味なる。男 過度の主調情緒 (修辭); 激情。
ati-rasatas 副 餘り熱心に。
a-tiras-kṛta 形 越えられざる; 最大の。
atiraskṛta-sambhāṣa 形 互に非難せずして談話する。
ati-rahasya 形 甚深秘密 *Guhy-s.*
ati-rātra 形 夜を通じて行はるゝ。男 [夜間に三回 (paryāya) の歌詠讚誦を要する *Soma* 祭の一種]。
ati-rikta 通受分 → Ric. 捨; 過, 餘; 卑 *Lal-v., Śikṣ., Mvyut.:* ~āsana 卑座 *Lal-v. 408.*
ati-riktatama 最上 増上 *Daś-bh.*
ati-riktatara 比較 増上, 増長 *Madhy-vibh., Daś-bh.*
ati-riktatā 女 過剩。
atirikta-pātra 甲 餘分の鉢; 長鉢 *Prāt-m.*
ati-Ric, → Ric.
ati-Ruc, → Ruc.
ati-ruṣ 形 激怒せる。
ati-ruṣṭa 通受分 大いに怒れる。
ati-rūḍha 通受分 密接に結合せる。
ati-rūḍhatva 甲 [同上 副]。
ati-rūpa 形 甚だ美しき。甲 甚だ美しきこと, 盛觀。
ati-reka 男 過度, 高度; 過, 超, 超過, 踰, 逾; 最, 勝; 餘 *Lal-v., Daś-bh., Divy., Saddh-p., Mvyut.* ~ena 具 最爲殊勝 *Daś-bh.*
ati-rekataratama 最上 出過餘人 *Bodh-bh.*
ati-rocamāna 形 首に一層美しき總毛ある(馬)。
ati-roṣa 男 激怒。
ati-rohitatva 甲 包圍。
ati-raudra 形 惡 *Śikṣ.*
ati-lakṣa 男 [數の名] 兆; 度洛叉, 阿底洛叉 *Mvyut.*
ati-Laṅgh *atilaṅghayati* (使役). → Laṅgh.
ati-laṅghana 甲 違背; 過度の斷食。
ati-laṅghin 形 踰せる, 越える。
ati-lajjanā 女 深慚羞 *Sūtr.*
ati-lambha 形 無相, 無礙 *Gaṇḍ-vy.*
ati-lalita 通受分 至極愛らしき。
ati-lina 通受分 緩, 太沈 *Bodh-bh.*
ati-lubdha 通受分 甚だ貪欲なる。
ati-lubdhatā 女 並外れの貪欲。
ati-lobha 男 [同上]。
ati-lobhatā 女 [同上]。

ati-lobhaniya (未受分) 甚だ望まるゝ, 甚だ垂涎せしむる.
ati-lobhaniyatā (女) [同上 抽] (*Jāt-m.*).
ati-loma (形) 過度に毛深き.
ati-lola (形) 非常に浮動せる.
ati-lolupa (形) 劇しく渴望せる.
ati-lohita (形) 深紅の.
ati-lohini (女) 深紅.
ati-laulya (甲) 極度の貪欲.
ati-laulyavat (形) 餘りに欲深き, 甚だ執拗なる.
ati-vakṭṛ (形) 甚だ多辯なる, 甚だ饒舌の; (毀謗) 毀謗, 誹謗 *Abh-vy.*
ati-Vakṣ, → *Vakṣ.*
ati-Vac, → *Vac.*
ativattākṣa (°tā-ak°) (形) (目) 目太大者 *Mvyut.*
ativatrākṣa (形) (目) 目太大者 [*<ativattākṣa(?)*] *Mvyut.*
ati-vātsala (形) 甚だ優しき; (極愛) 極愛 *Sūtr.*
ati-Vad, → *Vad.*
ati-vartana (甲) 免除, 放免.
ati-vartin (形) 横切れる; 渡る; 犯す, 等閑にせる.
ati-varttavya (形) 無視せらるべき, 看過せらるべき.
ati-varṣa (男) (甲) 豪雨.
ati-varṣaṇa (甲) [同上].
ati-vallabha (形) 甚だ愛らしき.
ati-vallabhatā (女) [同上 抽].
ati-vallabhatva (甲) [同上].
ati-Vah, → *Vah.*
ati-vāta (男) 烈風.
ati-vātsalya (甲) 溺愛.
ati-vāda (男) 暴言, 侮蔑.
ati-vādin (形) 餘り多く語れる; 論破する, 議論に勝利を得る.
ati-vāhana (甲) (時を) 過すこと; 負擔を免かるゝこと; 極度の重壓.
ati-vāhya (甲) (夜を) 過すこと.
ati-vikrama (形) 甚だ勇邁なる.
ati-vi-Kṣip, → *Kṣip.*
ati-vigarhya (未受分) 大いに非難すべき.
ati-vigrahin (形) 甚だ好戰的なる.
ati-vitatha (形) 全く無益なる.
ati-vitatha-vāc (形) 甚だ伴僞に満てる.
ati-viddha (形) 貫通せられたる, 射貫かれたる.
ati-vidhura (形) 甚だ悲惨なる.
ati-viparyaya (男) 甚しき片意地, 甚しき顛倒.
ati-vipina (形) 森の極めてよく茂れる.
ati-viprakarṣa (男) 甚しき遠隔.
ati-viprakṛṣṭa (通受分) (極遠) 極遠, 最久遠 *Abh-vy.*
ati-vibhinna (通受分) 全く射貫かれたる.
ati-vimanas (形) 甚だ落膽せる.
ati-vi-Rāj, → *Rāj.*
ati-virāj (女) [音律の一種].
ati-virājin (形) 極めて光輝ある.
ati-vi-Ruc, → *Ruc.*
ati-virūpa (形) 非常に醜き.
ati-vi-Laugh *ativilaughayati*(使役). → *Laugh.*

ati-vilamba (男) 非常なる遲滯.
ati-vi-Li *ativiliyate.* → *Li.*
ati-vi-Lu *ativilodayati*(使役). → *Lud.*
ati-viśrat dha (形) 十分に信用を有する.
ati-vi-Śvas, → *Śvas.*
ati-viṣa (形) 猛毒を有する. (甲) (麥冬) 麥冬 *Mvyut.*
ati-viṣama (形) 甚だ危険なる; (從) より一層危険なる; 甚だ嶮しき.
ati-viṣṭhita (通受分) 不動の, 固定せる, 其の處を動かざる.
ati-visārin (形) 甚だ廣範圍の.
ati-vistara (男) 甚しき冗漫.
ati-vistaratas (副) 極めて詳細に.
ati-vistāra (男) 廣範圍.
ati-vistirṇa (通受分) 餘りに擴張せる.
ati-viṣṭṛta (通受分) (極廣) 極廣, 廣大 *Bodh-bh.*
ati-vismaya (形) 全く驚歎すべき; (希奇) 希奇 *Mvyut.*
ati-vismayaniya (未受分) 甚だ驚かしむる (*Lal-v.*).
ati-vismita (通受分) 甚だ驚歎せる.
ati-vihvala (形) 甚だ當惑せる, 大いに困惑せる.
ati-vira (男) 偉大なる勇士.
ati-virya (形) = *ativiryavat.*
ati-virya-parākrama (形) 非凡の勇氣と力量とを具へたる, 優れて剛勇なる.
ati-virya-prabha (男) [佛の名] (*Sukh-vy. I.*).
ati-viryavat (形) 甚だ有效なる(治療).
ati-vṛmḥita (使役) (通受分) → *Barh 2.*
ati-Vṛt *ativartate.* → *Vṛt.*
ati-vṛtta (通受分) 遠き昔の. → *Vṛt.*
ati-vṛtti (女) 侵犯.
ati-vṛddha (通受分) 甚だ偉大なる, (異) に著しく秀でたる; (老) 老, 太老, 年時衰暮 *Lal-v., Mvyut.*
ati-vṛddhi (女) 非常なる増大.
ati-Vṛdh, → *Vṛdh.*
ati-Vṛṣ, → *Vṛṣ.*
ati-vṛṣṭi (女) 降り過ぎたる雨.
ativṛṣṭi-da (形) 過剰の雨を與ふる.
ati-vega (男) 急遽.
ati-vegavat (形) 極めて速かなる(矢).
ati-vedanā (女) 激痛.
ati-vepathumat (形) 激しく震へる.
ati-vela (形) 過度の, 限界を越えたる, 激しき. ~m
 (副) 過度に, 餘りに.
ati-velā (女) (非時分) 非時分 *Sikṣ.*
ati-vaicakṣanya (甲) 甚だ大なる經驗.
ati-vaiṣamya (甲) 土地の著しき不均等.
ati-Vyadh, → *Vyadh.*
ati-vyaya (男) 浪費, 贅澤.
ati-vyasana (甲) 大なる不幸.
ati-vyasanin (形) 惡徳に支配せられたる.
ati-vyākuli-kṛta (形) (壞亂) 壞亂 *Lal-v.*
ati-vyutpanna (通受分) (因) に甚だ經驗ある.
ati-Vraj, → *Vraj.*
ati-vrata (形) 非常に敬虔なる.
ati-Śams, → *Śams.*
ati-śakra (形) *Indra* 神を凌駕する.

atīśakra-śobhin 形 Indra 神より美しき。
atīśakvari 女 [音律の一種(4×15 音節)].
atīśaṅk, → Śaṅk.
atīśaṅkita 過受分 (從)を餘りに恐怖したる。→ Śaṅk.
atīśaṅha 形 甚しく欺瞞的なる。
atīśaya 形 卓越せる; (從)より良き。男 卓越; 過多, 豊富; 深, 極; 優; 非等, 無等 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mañj-m.*, *Sāmkhy-k.* → ādheya ~。
 男, ° — 一層, 甚だ。
atīśayana 形 (女 -i) 勝れたる。
atīśayavat 形 過度の。
atīśayita 過受分 超越せる。→ Śi 2.
atīśayitatva 甲 非凡。
atīśayin 形 勝れたる。
atīśayopamā (°ya-up°) 女 誇張せる譬喩。
atīśaravyaya 名動 → śaravyaya.
atīśastra 形 武器に勝れたる。
atīśāta 形 大喜悦を與ふる。
atīśāyin 形 優れたる。
atīśīthila 形 餘りに緩き, 餘りに變り易き。
atīśīṣayīṣamāṇa 希求 現分 → Śi 2.
atīśīśira 形 甚だ涼しき。
atīśīṣ, → Śīṣ.
atīśī atīśete. → Śi 2.
atīśīghra 形 非常に迅速なる。
atīśīta 甲 極寒; 甚冷 *Mvyut.* ~ m 寒 冷を超えて, 冬の後に。
atīśuddha 過受分 全く純粹なる。
atīśūra 男 非常なる英雄。
atīśauca 甲 極度の清潔。
atīśyā atīśyāyate. → Śyā.
atīśrama 男 過勞。
atīśliṣṭa 過受分 強く密著せる, 堅く結合せる。
atīśakta 過受分 = atīśakta. → Sañj.
atīśad, → Sad.
atīśkand, → Skand.
atīśkand 女 踰越。
atīśṭigh, → Stigh.
a-tīṣṭhat 現分 立ち居らざる, 止まらざる; (因)より 退く。
atīśṭhā, → Sṭhā.
atīśamrambha 男 激怒。
atīśamlayana 甲 冥坐 *Divy. 204.*
atīśakti 女 (因)との密接なる關係, ……に對する 甚しき執著。
atīśaktimat 形 (因)に餘りに執著せる。
atīśakhi 男 親友。
atīśamkaṣa 甲 甚しき稠密; 大なる困却。
atīśamkruddha 過受分 大いに怒れる。
atīśamkṣepa 男 過短, 簡潔過ぐること。
atīśamcaya 男 過度の集積, 大なる蓄積。
atīśatvaram 副 急遽。
atīśadaya 形 甚だ慈悲深き。
atīśadṛśa 形 酷似せる。
atīśamtata 過受分 斷絶せざる。

atīśam-DHā, → DHā 1.
atīśamdheya 未受分 鎮壓せらるべき。
atīśamnikṛṣṭa 過受分 近 *Sikṣ*
atīśamnikṛṣṭatva 甲 極相隣近 *Abh-vy.*
atīśamnidhāna 甲 甚しき近接。
atīśamartha 形 至極有能なる。
atīśamipa 形 餘りに近き。
atīśamipatā 女 甚しき近接。
atīśamṛddha 過受分 富樂, 大富 *Divy.*
atīśambhoga 男 大饗應。
atīśambhrama 男 激しき動搖。
atīśarasa 形 甚だ美味なる; (從)より一層美味なる。
atīśarga 男 (希望の)聽許; 布施 *Divy.*
atīśarpaṇa 甲 激しき動搖。
atīśarva 形 完全以上の; 一切を超越せる。
atīśaviśaṅkatm 副 非常に心配して。
atīśahasā 副 餘りに躁急に。
atīśāmvatsara 形 (女 -i) 一歳を越ゆる。
atīśādhvasa 甲 (因)に對する異常の恐怖。
atīśāndra 形 甚だ稠密なる。
atīśāyam 副 夕暮餘りに晩く。
atīśāra 男 下痢; 痢病, 瀉痢; 熱病 *Mañj-m.*, *Mvyut.*: 違, 違越 *Bodh-bh.*: sa ~ o bhavati 得罪, 違, 所擯棄 *Vin. 9.*, *Sikṣ. 63.* → sa ~。
atīśārin 形 下痢又は赤痢にて苦しめる; 違 *Mvyut.*
atīśāhasa 甲 躁急なる行爲。
atīśāhasika 形 甚だ思慮なき。
atīśitāṅga-vihaṅga 男 白鳥。
atīśiddhi 女 偉大なる完成。
atīśukumāra 形 極めて優しき。
atīśukha 形 至極愉快なる。
atīśugama 形 甚だ通り易き。
atīśubhaga 形 極めて美麗なる。
atīśurabhi 形 芳香馥郁たる。
atīśulabha 形 甚だ得易き。
atīśuvṛtta 過受分 甚だ美しく圓き; 甚だよき振舞の, 美德の。
atīśūkṣma 形 極度に微細なる; 深細, 過細 *Buddh-c.*, *Abh-vy.*
atīśr atīśarati. → Śr.
atīśrj, → Śrj.
atīśrta 過受分 過, 太學 *Bodh-bh.*
atīśrpp, → Śrpp.
atīśrṣṭi 女 より高き或は勝れたる創造。
atīśevā 女 (習慣に對する)甚しき執著; 強索 *Mvyut.* → pravāritārtha ~。
atīśaukumārya 甲 甚だ高雅なること, 極めて繊細なること。
atīśaujanya 甲 過度の寛大。
atīśauparṇa 形 *Garuḍa* を凌駕せる。
atīśauhitya 甲 過度の飽滿。
atīśthūla 形 餘りに大なる, 餘りに不恰好なる, 餘りに愚鈍なる; 太, 太粗者 *Lal-v.*, *Mvyut.*
atīśnigdha 形 極めて滑らかなる, 甚だ美しき, 甚だ親切なる, 甚だ情愛の深き; 慈愛 *Ast-pr.*:

〜h śānukrośaḥ 慈愛尊親 *Aṣṭ-pr.* 752.

ati-śneha 男 過度の愛著.

ati-spardhin 形 劇しく優勝を争へる.

ati-sphuṭa 形 全く明瞭なる, 全く明白なる.

ati-Svar, → Svar.

ati-svalpa 形 極めて小なる, 實に些細なる.

ati-svastha 形 非常に壯健なる.

ati-harṣa 男 大なる歡喜.

ati-harṣula 形 大いに喜べる.

ati-hasita (過受分) 中 哄笑.

ati-Hā, → Hā I.

ati-hārin 形 甚だ魅力を有する.

ati-hāsa 形 高らかに笑へる (*Rudra-Siva* 神). 男 續けさまに或は聲高く笑ふこと.

ati-Hṛ, → Hṛ I.

ati-hṛṣṭa (過受分) 大いに喜べる.

ati-helana 中 大なる嘲弄, 大なる侮蔑.

ati-hrasva 形 極めて短き; 短, 太矮 *Lal-v., Mvyut.*

ati-hrepana 形 甚だ當惑せしむる.

ati (ati-I) atyeti. → I.

ati-kāśa 男 光輝; 罅隙.

a-tikṣṇa 形 鈍き; 嚴格ならざる, 緩和せる.

atita (過受分) 過ぎ去れる, 過去の; 過, 去, 過去, 謝; 滅, 出 *Lank., Sapt-pr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy.*: ~o 'dhvū 過去世 *Dharm-s.*, ~e 'dhvani 過去, 過去世 *Aṣṭ-pr.* 279., *Bodh-bh.* 36., ~e 'dhvany usamgama-pratihata-jñānam 知過去無礙 *Dharm-s.*; anantara ~ 無間滅 *Abh-k.* I. 17. → abhy ~, → I. ~m 去, 過去 *Bodh-bh.* 中 過去.

atitaka 形 過去 *Rāstr., Gaṇḍ-vy.*

atitāmśa-gata 形 過去之分 *Mvyut.*

atitājāta 形 去來 *Abh-k.*

atitānāgata (過受分) 去來, 過去未來 *Abh-vy.*

atitānāgata-pratyutpanna (過受分) 去來今, 去來現在, 過去未來現在, 三世 *Aṣṭ-pr., Lank., Saddh-p.*

atīndriya 形 超感覺的, 超越的; 過根境 *Sāmkhy-k.* 中 精神, 魂.

atīndriyatva 中 過根, 越根境 *Abh-vy.*

a-tiraṇa 男 不度 *Abh-k., Abh-vy.* → tiraṇa

a-tirṇa (過受分) 未度者 *Sikṣ.*

a-tirṭha 中 誤れる道, 誤れる方法; 時宜を得ざる時.

a-tirṭhya 男 非外道 *Lank.*

atīva 副 過度に, 固く; 深, 甚, 最上, 極大 *Divy., Saddh-p.* 前 (業)を越えて; (途)より遙かに…なる.

a-tivra 形 穩かなる.

a-tivratā 女 穩かなる性質, 圓滿なる性質.

atīśa 男 [或る刺麻教學僧の名].

a-tundila 形 腹の膨大ならざる.

a-tula 形 無比の; 無等 *Guhy-s. Gaṇḍ-vy.*

atula-vikrama 形 剛勇無比の.

a-tuliya 形 俗 [<atulya]; 無等, 無過上; 難可量, 不可稱量 *Suv-pr., Sam-r., Daś-bh., Sikṣ.*

a-tulya 形 無比の; 無比, 無等, 不等, 不等量, 無

與等, 無倫匹; 無稱, 不可稱; 無敵對 *Divy., Sukh-vy. I., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Vajr-pr., Sūtr., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*; [數の名] 無比, 不可稱 *Gaṇḍ-vy.*

atulya-kṛtya 中 不可稱事, 不可稱量事 *Aṣṭ-pr.*

atulya-jñāna 中 無敵對智, 不可稱智 *Aṣṭ-pr.*

atulya-parivarta 男 [數の名] 不可稱轉 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*

atulya-prabha 男 [Amitābha 佛の屬性] 無等光, 無稱光 *Sukh-vy. I.*

a-tuṣāra-kara 男 太陽.

a-tuṣṭa (過受分) 不満足の.

a-tuṣṭi 女 不満足, 不滿; 無厭 *Sūtr.*

atuṣṭi-kara 形 不滿を懷かしむる.

atuṣṭi-vīrya 中 無厭精進 *Sūtr.*

a-tūtuji 形 敏捷ならざる, 遅き.

a-tūla-pūrṇa 形 綿を以て滿されざる.

a-tṛṇa 中 草に非ざるもの.

a-tṛṇāda 形 未だ草を食はざる(幼き犢).

a-tṛṇuvāt (過受分) 飽き足らざる.

a-tṛpta (過受分) 不満足なる, 飽き足らざる; 不足, 無厭, 無厭足, 無有厭足, 不知厭足, 不知止足 *Sapt-pr., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Av-ś., Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*

a-tṛptatā 女 [同上 中]; 無厭, 無倦 *Kāśy., Sam-r.*

a-tṛpti 女 不満足; 不足, 無厭, 無厭足, 心無厭足 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Bodh-bh.*

a-tṛptitā 女 不足, 無足, 無厭足 *Kāśy.*

a-tṛpyat (過受分) 満足せられざる.

a-tṛṣṇa 形 無欲なる, 渴愛なき.

a-tṛṣṇā 女 非愛 *Lank.*

a-tṛṣyamāṇa (過受分) 貪欲ならざる (*Jāt-m.*).

a-taijasa 形 金屬ならざる.

a-taila-pūra 形 油の充されざる.

atodya 中 [正しくは atodya] [樂器の一種].

ato-nimittam 副, その理由にて, この故に.

ato'rtham 副 その目的の爲に, その爲に.

atka 男 上衣, 外套.

atta 男 俗 [<ātma-, ātman]; 我 *Daś-bh.* 76.

attamiya (形) 中 俗 [<ātmiya]; 我所 *Daś-bh.* 76.

attavya (未受分) 食はるべき; 味はるべき.

attāttamiya 中 我及我所 *Daś-bh.* 76.

attum-icchā 女 食欲, 食愛 *Abh-vy.*

attr 男 食ふ人, 貪食者.

atya 形 走る. 男 馬.

aty-aṅkuśa 形 鉤にて御し難き(象).

aty-accha 形 極めて透明なる, 極めて純粹なる.

aty-atikrānta (過受分) 性交を行へる.

aty-atimātram 副 極度に.

aty-ati-Ric, → Ric.

aty-atita-kāla-gata 形 死後 *Divy.*

aty-adbhuta 形 甚だ驚くべき; 甚希奇, 未曾有 *Bodh-bh.*

aty-anūrjita (°an-ūr°) (過受分) 全く生氣なき(貧民) (*Jāt-m.*).

aty-anta 形 終まで續く, 繼續する, 斷絶せざる, 無限の; 完全なる; 過度の; 恆, 本, 極, 最極, 永, 永時; 畢竟, 究竟, 終竟, 至竟 *Kāśy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sam-r., Bodh-c., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Sāmkhy-k., Madhy-vibh., Abh-vy., Abh-k.* 〇—, ~m 副 非常に, 繼續的に, 永久に, 徹頭徹尾; 大いに, 過度に; 永, 極, 常, 定; 一向; 究竟, 畢竟; 一切種 *Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy.* ~tas 副 畢竟, 常 *Laṅk.*

atyanta-gata 形 永久に去れる.

aty-antatas 副 → atyanta.

aty-antatā 女 都, 畢竟 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Śikṣ.*

~ayā 具 副 畢竟 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*

atyanta-niṣṭha 形 畢竟究竟 *Bodh-bh.:* ~c nirvāṇe pratiṣṭhāpayeyam 畢竟安處究竟涅槃 *Bodh-bh. 1c.*

atyanta-parinirvṛta 過受分 最上涅槃 *Madhy-v.*

atyanta-prakṛti-pariśuddhi 形 自性清淨, 本性清淨 *Laṅk.*

atyanta-vigama 男 畢竟斷 *Bodh-bh.*

atyanta-vivikta 形 畢竟離 *Aṣṭ-pr.*

atyanta-viśuddhatva 中 畢竟淨 *Aṣṭ-pr.*

atyanta-śānta-praśānta 形 究竟寂滅, 最極寂靜 *Gaṇḍ-vy.*

atyānta-śānta-sthita 過受分 究竟永寂滅 *Saddh-p.*

atyanta-śūnyatā 女 畢竟空 *Aṣṭ-pr., Madhy-vibh., Dharm-s.*

atyanta-samucchinna 形 悉斷無餘 *Suv-pr.*

atyanta-sukha-pratiṣṭhāpana 中 令究竟安樂, 令安穩住究竟快樂 *Gaṇḍ-vy.*

atyantānavalinatā 女 畢竟無法畏 *Aṣṭ-pr.*

atyantānutpanna 形 畢竟不生 *Vajr-pr.*

atyantābhāva 男 絶對に存在せざること; 永無, 畢竟無 *Mvyut.*

atyantoparama (°ta-up°) 形 永滅, 永寂滅 *Bodh-bh.*

atyantopāśama (°ta-up°) 形 永寂滅 *Bodh-bh.*

aty-apakṛṣṭa 過受分 太下 *Mvyut.*

aty-abhi-Nand atyabhinandate. → Nand.

aty-ambu-pāna 中 水の過飲.

aty-aya 男 過ぎ去ること, 經過; 終末; 冒險, 危殆, 危險; 過誤, 違犯; 過, 盡, 滿, 經歷; 死, 無, 前已滅度 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Divy., Rāṣṭr., Bodh-bh., Abh-by.;* 罪, 過, 過罪, 過咎, 乖隔 *Saddh-p., Suv-pr., Lal-v., Mvyut.* → nir~. ~ena 具 副

tathāgatasya ~ena 如來滅後 *Sapt-pr.,* 我 [=如來] 涅槃後 *Aṣṭ-pr. 487.* ~m ~to Dis(便役)

悔罪 *Śikṣ. 58.,* 宜應悔過 *Divy. 5.* ~āt 從 副 却後, 過已; 死後 *Divy., Saddh-p.*

atyaya-deśaka 男 (至心)發露(如法)悔除 *Bodh-bh. 140.*

atyaya-deśanā 女 罪の告白 (*Jāt-m.*).

atyayika-piṇḍa-pāta 男 特別の又は臨時の施物 (*Divy.*).

aty-ārtha 形 通常の價值を超えたる, 過度の, 甚し

き; 最, 極, 最極 *Śikṣ., Bodh-bh., Madhy-vibh.* 〇—, ~m 副 非常に, 甚だ; 深, 最, 過, 極, 最極, 甚; 善, 最善; 殷勤; 猛盛 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

atyārtha-raudra 形 極惡 *Bodh-bh.*

aty-alpa 形 甚だ小なる, 餘りに小なる; 薄, 少, 太少 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.*

atyalpa-puṇya 形 薄福, 薄福德 *Aṣṭ-pr.*

atyalpa-buddhi 形 甚しく理解力乏しき.

aty-avakṛṣṭa 過受分 低 *Prāt-m.*

aty-aśnat 現分 暴食する.

aty-aṣṭi 女 [音律の一種 (4×17 音節)].

aty-As, → As 1.

aty-asita 形 極めて黒き.

aty-astikā-kṛta 形 左右抄衣 *Vin. 195.;* 反抄衣 *Prāt-m. VII. 41.*

atyā 女 牝馬.

aty-ākula 形 甚だ混亂せる.

aty-ā-KHyā atyākhyāti. → KHyā.

a-tyāga 男 不放棄: ~c tanoh-存命中.

a-tyāgin 形 遺棄せざる, 放棄せざる.

aty-ācāra 男 上品に失したる所作, 虚禮.

a-tyājya 未受分 放任せられざる, 放棄せられざる.

aty-ādara 男 過度の考慮; 一途に, 只管に:

atyādara-para 形 甚だ用心深き.

aty-āditya 形 太陽に優る.

aty-ā-Dṛ, → Dṛ 1.

aty-ādṛta 過受分 → Dṛ 1.

aty-ā-DHā, → DHā.

aty-ānanda 男 大なる歡喜.

aty-āpanna 過受分 甚だ不幸なる.

aty-ā-Yat, → Yat.

aty-āyata 過受分 甚だ長き, 甚だ高き; 長大 *Mvyut.*

atyāyata-vadana 男 面長大 *Mvyut.*

aty-ā-Yā, → Yā.

aty-āyika-civara 中 [Pāli. acceka(aceāyika)-civara]; 急施衣 *Prāt-m. IV. 27.*

aty-āyus 形 甚だ高齢の.

aty-ārābha 過受分 急 *Bodh-bh.*

aty-ā-Ruh, → Ruh 2.

aty-ārūḍha 過受分 高處に達せる. → Ruh 2.

aty-ārūḍhi 女 餘りに高く登ること.

aty-āroha 男 餘りに高く上ること, 傲慢.

aty-ārṭi 女 劇痛.

aty-ārya 形 甚だ尊敬すべき.

aty-āścarya 形 極めて驚くべき; 甚希有 *Aṣṭ-pr.*

aty-āsaṅga 男 (因, 一°)に對する強き意向又は執念.

aty-āsanna 過受分 餘りに近き; 甚近 *Mvyut.*

aty-āsanni-bhūta 形 近 *Rāṣṭr.*

aty-āsevita 過受分 過量數習 *Abh-vy.*

aty-āhita 過受分 不運の, 不快の. → DHā. 中 不幸.

aty-ukti 女 多言; 誇張.

aty-ugra 形 甚だ威力ある, 甚だ恐しき.

aty-ucca 形 極度に高き; 高 *Śikṣ.*

atyucca-gāmin 男 [佛の名] 極高行佛, 増上行佛, 高飛行佛 *Lal-v.*
atyuccais 副 極めて大聲に.
aty-ucchrita (通受分) 高く上げ過ぎたる; 極高峻 *Lal-v.*
aty-utka 形 熱望する.
aty-utkaṣa 形 過度の, 法外の.
aty-utkṛṣṭa (通受分) 高, 太高 *Prāt-m., Mvyut.*
aty-utama 形 最も勝れたる; 最上 *Vajr-s.*
aty-utsada 男 極多集會, 最大集會 *Abh-vy. 156.*
aty-utsāha 男 非常なる氣力, 勇氣.
aty-utsāhatā 女 勸 *Divy.*
aty-udagra 形 最勝, 最猛盛 *Abh-vy.*
aty-udātta 形 甚だ顯著なる.
aty-udāra 形 最も勝れたる; 餘りに寛容なる; 上, 廣大, 最極廣大 *Sūtr., Bodh-bh.*
aty-udāratā 女 [同上] 副.
aty-udīrṇa (通受分) 強, 最劇 *Abh-vy. 276.*
aty-udgata (通受分) 出, 超出, 超過; 殊特 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*
aty-unnata (通受分) 非常に高き; 極高 *Mañj-m.*
aty-unnati 女 崇高, 卓越.
aty-un-Nam atyunnamati. → Nam.
aty-upacāra 男 極端なる慇懃.
aty-upasevanā 女 過度の恭謙又は慇懃 (*Jāt-m.*).
aty-ul-Las, → Las.
aty-uṣṇa 形 甚だ熱き; 甚熱 *Mvyut.*
aty-uṣṇatā 女 酷熱.
aty-ūrjasvala 形 非常に英雄的なる(行爲).
aty-ūrjitam 副 極度に, 大いに.
aty-ṛju 形 餘りに正直なる, 非常に誠實なる.
aty-autsukya 甲 劇しき渴望, 非常に待兼ぬること.
aty-audārika 形 甚だ粗き; 過露 *Abh-vy.*
atra 1. 副 [idam の 因] 此處, 彼處; この(かの)場合に, この(かの)詩句に於て, この(かの)章句に於て, この點に就て; この生涯に於て; その際, その時に; 於中, 此中; 此處; 今 *Sāṃkhy-k., Rāṣṭr., Abh-vy., Mvyut.:* ~ hi 若於此 *Aṣṭ-pr.*
atra 2. 男 食者, 貧食者.
a-tra 3. 形 保護せざる, 保護なき.
atratya 形 この場處の, 此處に住む.
atra-n 文法 [接尾音 -atra]. → n-it.
a-trapa 形 無恥の.
a-trapā 女 [=an-apatrāpya]; 無愧 *Vijñ-t., Abh-k.;* 無慚, 無慙愧 *Abh-vy.*
atra-bhavat 男 この紳士 [舞臺に立てる第三者に対する敬稱].
atra-bhavati 女 この淑女 [同上].
a-tri-sta (通受分) 恐れざる
atra-stha 形 此處に存する, 此處に止まる.
a-trasnu 形 戰慄せざる, 臆病ならざる, 大膽の.
a-trāṇa 形 (男) 保護なき; 無救, 無救護, 無護者, 無救接者, 無抹護者 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Abh-vy., Śikṣ.*
atrāntare 副 爾時 *Divy.*
a-trāsa 男 無怖, 不怖, 無怖畏 *Madhy-vibh.*

a-trāsita (通受分) 驚かされざる.
atri 形 食ふ. 男 [聖仙の名]; [大熊星座中の一星の名]; 阿低利 *Buddh-c.* 女 *Atri* 仙の子孫.
atrin 形 大食の.
atrivat 副 *Atri* の如くに, *Atri* 族の如くに.
a-tri-varṣa 形 未だ三歳とならざる.
a-tvara 形 急がざる, 慎重なる; 不急, 不慌忙 *Mvyut.*
a-tvarat (通受分) 急がざる.
a-tvarā 女 熟考.
atha 副 その時, その場合; さて, 此處に始まれる [書物又は章節の始めに用ひらる語. → iti]; さて, それ故, 然れば [文章の始めに於て]; 併し, 然しながら, 然も; 若し; その時に [yadā の 因]; 時, 爾時, 於是; 後; 或, 若; 復次 *Av-s., Lal-v., Abh-vy., Śikṣ.*
 [屢ば atas, api, ca, punar によりて強めらる]; ~ ca 雖是這等 *Mvyut.;* ~ ca punar 而して.
 [單に詩句中の填充語として用ひらる].
 ~ vā, 若くは, 然らざれば, 或は寧ろ [他の説明を提起する場合]; 然しながら, さへ; 及, 或, 或者, 或復, 這等寧是麼 *Divy., Abh-vy., Mvyut.*
 ~ vā... ~ vā, ...か...か孰れか.
 ~ kim, [他に何か] 即ち 確かに.
 ~ kimu, ...に就て何をか言はん.
atharvan 男 祭火僧; [最初の祭火僧の名]; 其の子孫; 祭火僧の呪文, *Atharva-veda;* 章句 *Divy. 636.*
atharva-veda 男 [四 *Veda* の第四の名] *Atharva-veda;* 讓災圍陀, 讓災明論 *Divy., Mvyut.*
atharva-śiras 甲 [*Upaniṣad* の名].
atharva-śirṣa 男 [*Upaniṣad* の名].
atharvāṅgiras 男 *Atharvan* 家 & *Āṅgiras* 家; 兩家の呪法, 特に *Atharva-veda* の呪法.
atharvāṅgirasa 形 (女 -i) *Atharvan* & *Āṅgiras* より傳來せる. 男 祭火僧の讃歌, *Atharva-veda* の讃歌.
atharvāṇa 甲 *Atharva-veda.*
atho 副 然して又た, 然して又た左様に, その時に; さて.
Ad, II. 他 **atti** 食ふ, 食ひ盡す, 享受す; 食, 吞食 *Abh-vy.* 便後 **ādayati(-te)** 食はしむ.
ad 形 (°-)を食ふ.
ada 形 [同上]; 食 *Mvyut.* → māṃsa ~, mānuṣya-māṃsa ~.
a-daṃṣṭrin 形 牙なき(象).
a-dakṣa 形 不活潑なる, 怠惰なる.
a-dakṣiṇa 1. 形 右ならざる, 左の; 不作法の; 無經驗の; 無愛想の.
a-dakṣiṇa 2. 形 婆羅門に贈物をなさざる.
a-dagdha (通受分) 焼かれざる.
a-daṇḍa 副 刑罰を免除せらるゝ. 甲 免罰, 無罰, 無難; 無杖 *Mvyut.* ~ ena 具 不行黜罰 *Bodh-bh.*
a-daṇḍya (未受分) 懲罰に當らざる, 無罪の.
adat (通受分) 食ひつゝある.

a-datka 形 齒なき。
a-datta 通受分 與へられざる [返却することあるべき取得物に就て云ふ]; 不與, 未與 *Bodh-bh., Mvyut.*
adatta-dāna 甲 施與せざること。
adatta-phala 甲 施與せざりし報。
adatta-phalatva 甲 未與果 *Bodh-bh.*
a-dattā 女 未婚の女。
adattādāna (°ta-ād°) 甲 與へられざるものを(勝手に)取ること, 盜; 不與取; 盜, 偷盜, 劫盜, 偷劫奪, 盜他財物 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Prāt-m., Śikṣ.*
adattādāna-virati 女 離不與取, 不偷盜, 棄偷盜 *Mvyut.*
adattādāna-viramāṇa 甲 不偷盜 *Aṣṭ-pr.*
adattādāyika (°ta-ād°) 男 與へられざるものを取る者; 盜人。形 偷取, 密取 *Divy.*
adattādāyin (°ta-ād°) 形 與へられざるものを取れる; 不與取, 盜, 偷盜, 盜他物 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr.*
a-dattvā 不娶分 與へずして。
a-dadat 現分 與へざる, 返さざる。
a-dadhi 甲 凝乳(酪)に非ざるもの。
adana 甲 食事。
a-dant 形 齒なき。
ad-anta 1. 形 āに終れる(女去)。
a-danta 2. 形 齒なき; 無齒 *Mvyut.* 男 蛭。
a-danta-jāta 形 未だ齒の生ぜざる。
a-dabdhā 通受分 傷はれざる, 安全なる; 信賴すべき, 純粹なる。
a-dabha 形 傷つけざる, 慈悲深き。
a-dabhra 形 少からざる, 多くの; 不少, 不小 *Mvyut.*
a-dambha 男 眞摯, 誠實。
a-dambhitva 甲 正直, 眞實。
a-dambhin 形 正しき, 高潔なる。
a-daya 形 無慈悲なる。〜m 圖 熱心に, 心より。
a-darpa 形 高慢ならざる。
a-darśa 形 *Darśa* (新月祭)なき。
a-darśana 甲 見ざること; 訪ねざること; 検討せざること; 起らざること; 消滅, 不顯; 不見, 非見, 不可見 *Laṅk., Abh-vy., Madhy-v.;* (從) (從)の視野の外。形 見えざる。
adarśana-patha 男 (鳳)の眼界又は視野の外なる處; (王)の面前への接近禁止(?), 寵遇を失ふこと(*Divy.*): ~e vyavasthāpitaḥ (不與の徴として)謁見を禁ぜられたる(*Divy. 570.*)
a-darśani-BHū, 見難くなる。
a-darśaniya 未受分 見られざる。
a-darśaniyatva 甲 見えざること。
a-darśitva 甲 不見 *Abh-vy.*
a-darśin 形 見ざる, 知らざる。
a-daśami-stha 形 未だ天壽に達せざる。
adas 代 甲 [男 女 asau] 彼方の, 其の; 某 *Aṣṭ-pr.* 圖 其處に。男 圖 這些 *Mvyut.*
a-dākṣiṇya 甲 無禮; 不重 *Buddh-c.*

a-dātṛ 形 寛大ならざる, 物惜みする; 支拂の義務なき; (娘を)嫁せしめざる。
ad-āditva 甲 adに始まれる動詞(=adの類即ち第二类動詞)に屬すること。
a-dāna 甲 與へざること, 差控へること; 無所惠施 *Bodh-bh.* 形 與へざる; 顛顛(?)より液を滲出せざる。
a-dānava 男 *Dānava* ならざるもの, 即ち神。
a-dānta 通受分 馴らされざる, 抑制せられざる, 奔放なる; 不調伏(者); 未調伏(者), 未受化(者), 不蒙所化 *Divy., Saddh-p., Śikṣ.*
adānta-citta 形 不善心 *Saddh-p.*
a-dābhya 未受分 犯すべからざる; 破壊すべからざる。
a-dāyāda 形 (女 -i, (圖) -ā) 相續權なき。
a-dāra 形 妻女なき。
a-dāruṇa 形 無慈悲ならざる, 溫和なる。
a-dāsa 男 自由民(奴隸ならざる)。
a-dāsatā 女 奴隸ならざること。
a-dāhya 未受分 燃えざる。
a-diti 1. 女 缺乏, 貧乏。
a-diti 2. 形 無限の。女 無限; [人名], [諸神の母の名]。
a-ditsat 希求 現分 與へんと欲せざる。
a-ditsu 希求 形 [同上]。
adi-prabhṛti 類 [adの類即ち第二类動詞]。
a-divya-dṛś 形 無明見者 *Bodh-bh.*
a-dina 形 憂鬱ならざる, 愉快なる; 無劣, 無法, 不下劣, 無怯劣; 無希取; 無懈怠, 離懈怠 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.;* 離惱害 *Śikṣ.*
adina-gātra 形 完備せる肢體を有する(*Dharm-s.*); 身無退屈, 身體不曲 *Mvyut.*
adina-gātratā 女 [同上 圖]; 身容敦肅無怖畏好 *Dharm-s.*
a-dinatva 甲 無法 *Sūtr.*
adina-puṇya 男 [王の名] 勝福 *Lal-v.*
adina-manas 形 [同下]; 心無法劣 *Bodh-bh.*
adina-sattva 形 意氣揚々たる, 愉快なる。
adinātman (°na-āt°) 形 [同上]; 落膽せざる。
a-diyamāna 現分 受 與へられざる。
a-diyamānā 女 嫁せられざる。
a-dirgha 形 長からざる。
adirgha-kāla 形 未久 *Bodh-bh.*
adirgha-kālīka 形 短時, 不久, 不久遠 *Bodh-bh.*
adirgha-darśin 形 達見なき(*Buddh-c.*)
adirgha-bodha 形 短慮の, 理性の乏しき。
adirgha-sūtra 形 遲滞せざる, 迅速の。
adirgha-sūtratā 女 迅速。
a-duḥkha 形 苦なき, 幸福を齎す; 無苦, 不苦 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* 甲 苦ならざること。
a-duḥkha-sukha-vedanā 女 苦樂の何れをも感受せざること。
a-duḥkhārha 形 苦惱に値せざる。
aduḥkhāsukha 形 不苦不樂 *Mvyut.*
a-duḥkhita 通受分 無苦, 不苦 *Bodh-bh.*

a-durga 形 城寨なき。

adurga-viṣaya 男 城寨なき國。

a-durmaṅgala 形 (女 -i) 不幸を齎さざる。

a-durvinita 過受分 粗野ならざる, 不作法ならざる, 高尚なる。

a-durvṛtta 過受分 悪しく行爲せざる。

a-duṣṭa 過受分 非難すべきところなき; 潔白なる; 漢語 無過 Nyāy-pr.; 俗 [<advīṣṭa] 無瞋 Madhy-v. 143.

a-duṣṭatva 中 德, 潔白。

aduṣṭa-drṣṭānta 男 漢語 無過喻 Nyāy-pr.

aduṣṭa-pakṣa 男 漢語 無過宗 Nyāy-pr.

a-duṣprāpa 形 得難からざる。

a-dūna 過受分 苦められざる, 傷けられざる

a-dūra 形 遠からざる, 近き。中 近接。〜tas, 従, 於 近くに。

adūra-kopa 形 短氣なる。

adūra-bhava 形 近き, 切迫せる。

adūra-vartin 形 [同上]。

adūra-stha 形 [同上]。

a-dūṣaka 形 何人をも害はざる, 罪過なき。

a-dūṣana 中 滅せざらしむること。

a-dūṣita 過受分 責むる所なき, 善良なる。

adūṣita-kaumārā 形 女 無垢の處女なる。

a-dūṣitā 女 犯されざる。

a-dṛḍha 過受分 密著せられざる; 確かならざる。

a-dṛḍhatara 比形 さして確かならざる。

adrḍha-bhaktika 形 信仰の堅固ならざる。

a-dṛpita 過受分 思慮深き, 注意深き。

a-dṛpta 過受分 [同上]。

a-dṛś 形 盲目なる。

a-dṛśya 未受分 見られざる; 漢語 不見, 不現, 非現, 不可見; 潛 Ast-pr., Lañk., Abh-vy.: ~air ātma-bhāvair 隱形, 隱蔽共形 Sv-pr. 65.

a-dṛśyat 中 見えざる。

a-dṛśyatā 女 見えざること。

a-dṛśyatva 中 [同上]。

a-dṛśyanti 女 [Śakti の妻の名]。

adrśya-puruṣa 男 漢語 內人 Lal-v. 141.

adrśyāñjana 中 隱身用の膏藥。

a-dṛṣṭa 過受分 見られざる; 知られざる; 豫期せざる; 認められざる; 漢語 不見, 非見, 不可見, 未曾有, 未見(境) Abh-vy., Sāṅkhy-k., Lañk. 中 見えざるもの。運命。

adrṣṭa-karman 形 (男)に無經驗なる。

adrṣṭa-kāma 男 未だ見ざる人に對する愛。

adrṣṭa-kārita 過受分 運命によりて齎らされたる。

a-drṣṭa-dharma-sukha 形 漢語 非現法樂 Lañk.

adrṣṭa-nara 形 仲介者なくして結ばれたる(協約)。

adrṣṭa-naṣṭa 過受分 漢語 不見滅, 不可見毀壞, 雖不可見然壞 Lañk. 205.

adrṣṭa-para-sāmarthya 形 敵の勢力を感ぜざる。

adrṣṭa-puruṣa 中 =adrṣṭa-nara.

adrṣṭa-pūrva 形 曾て見ざる, 前に知られざりし;

漢語 未曾見, 昔所不見, 昔所未曾見, 從昔已來不見; 甚奇特 Saddh-p. ~m 中 曾て見ずして; 漢語

未曾見 Lañk.

adrṣṭa-rūpa 形 未知の姿の, 見えざる形の。

a-drṣṭavat 副 突然; (不可見の業の結果)豫見せざるに。

adrṣṭa-viraha-vyatha 形 離別の苦衷を経験せざる。

a-drṣṭa-śrūta-pūrvam 副 曾て見聞せずして; 漢語 未曾見聞 Lañk.

a-drṣṭi-dāna 中 接見を許さざること。

a-drṣṭvā 不整分 見ずして。

a-deya 未受分 與へられざる。

a-deva 形 (女 -i) 神々に叛く。男 Asura; 漢語 非天 Lañk.

a-deva-juṣṭa 形 神々を不快ならしむる。

a-deva-mātrka 形 雨なき, 降雨を必要とせざる; 人工的に灌溉せられたる。

a-deva-mātrkā 女 漢語 晚田, 非天水田 Mvyut.

a-devara 形 男 義兄弟ならざる(者)。

a-deśa 男 不適當なる場處; 漢語 無方 Ast-pr.

a-deśa-kāla 男 不適當なる場處及び時。

a-deśa-kāla-jña 形 時處をわきまへざる。

a-deśa-jña 形 その場處を知らざる。

a-deśanā 女 漢語 非說, 非演說 Lañk.

a-deśa-stha 形 國に居らざる, 不在者; 漢語 不住偶 Mvyut.

adeśāpradeśa 形 漢語 無方無處 Ast-pr.

a-deśika 形 故郷なき; 案内者なき; 漢語 無導師 Śikṣ.

a-deśya 1. 形 その處になき, 缺損せる。

a-deśya 2. 形 詮示すべからざる。

a-deha 形 漢語 非身 Lañk.

a-dehatva 中 漢語 非身 Sātr.

a-deha-bandha 男 (新しき)肉體と結合せざること [輪廻を免かるゝこと]。

a-deha-bheda 男 身體の不變化。

a-dainya 形 意氣沮喪せざる。中 沮喪せざること, 上機嫌, 元氣, 勇氣。

a-daiva 形 運命に關係なき, 運命に制せられざる。

a-daiva-kṛta 形 宿命ならざる。

a-daiśika 形 案内者なき。

a-dogdhṛ 形 搾取せざる, 利益を收めざる; (聖)に介意せざる。

adomaya (adas-maya) 形 それより成れる, それを含める。

ado-mūla 形 其處に根を有する。

a-doṣa 形 罪なき。男 無過, 無罪。

a-doṣa-jña 形 罪(の何たるや)を知らざる。

a-doṣa-darśin 形 害意を示さざる (Buddh-c).

adga 男 杖; 莖。

addaśi, [三過(入)副] 中; 漢語 見 Saddh-p. 9. → Dṛś.

addhā 副 (此の方法に於て), 實に, 眞に; 漢語 便 Bodh-bh.

adbhis, [ap. 2. の 四副]。

adbhuta 形 [at(i)-bhūta (超越的)], 希有なる, 不可思議なる; 漢語 奇, 奇特, 甚奇, 希奇, 希有, 未曾有

Suv-pr., *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵千. ㊦ 前兆; ㊦ 奇特 *Buddh-c.* ㊦ 敖相 *Mvyut.*
 ～m ㊦ 希有, 未曾有, 奇哉 *Lal-v.*, *Mvyut.*
adbhutatama ㊦ 最も奇異なる.
adbhuta-darśana ㊦ 不可思議なる外見の.
adbhuta-dharma ㊦ (佛敎) (奇蹟又は稀有なる事の類集)[九分教の一]; ㊦ 希法, 未曾有, 最勝經 *Mvyut.*;
 ㊦ 阿浮陀達磨 *Mvyut.*
adbhuta-prāpta ㊦ 得未曾有 *Saddh-p.*
adbhuta-rūpa ㊦ 不思議なる形の.
adbhuta-sūti ㊦ 奇蹟的誕生.
adbhutākara (°ta-āk°) ㊦ 希有なる形相の.
adbhutākṛti (°ta-āk°) ㊦ [同上].
adbhutāya ㊦ 不思議に見ゆ.
adbhutārtha ㊦ 希有なるものを有する.
adbhutāvaha (°ta-āv°) ㊦ 驚異を感じしむる.
adbhutopama (°ta-up°) ㊦ 奇蹟に似たる.
adbhutopamā ㊦ 奇蹟を基礎とせる譬喩(修辭).
adbhyas, [ap 2. の ㊦ ㊦].
adman ㊦ 食物.
adma-sad ㊦ 饗宴に與かる人, 客.
adya 1. ㊦ 食べるべき.
adya 2. [㊦ は又た -ā] ㊦ 今日(㊦), 今; ㊦ 今日, 今日 *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, 梵雜. ～ **eva** 今日此の日, 實に今日. ～ **api** 今日(㊦)尙ほ, [㊦ と俱に] 未だに. ～ **pūrvam**, ～ **yāvat** 今迄. ～ **prabhṛti**, ～ **ārabhya** 今日(㊦)以後.
adya-tana ㊦ (㊦ -i) 今日(㊦)の, 現在の, 現代の.
adya-taniya ㊦ [同上].
adya-dina ㊦ 今日.
adya-divasa ㊦ [同上].
a-draṣṭṛ ㊦ ……を見ざる.
adyā ㊦ → **adya** 2.
adyāgreṇa ㊦ ㊦ 今後; ㊦ 從今, 從今日, 自今已後 *Saddh-p.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Sikṣ.*
adyaut, [Dyut の ㊦ ㊦].
a-dravya ㊦ 無價值なる事物; ㊦ 寶 梵千.
a-dri ㊦ (不分裂), 岩, 丘, 山脈; 石(擲射武器としての); 壓し石; 雲; ㊦ 山 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
a-drikā ㊦ [*Apsaras* の名].
adri-kūṭa ㊦ 山頂.
adri-kṛta-sthali ㊦ [或る *Apsaras* の名].
adri-grahaṇa ㊦ 反響.
adri-dugdha ㊦ 搾出せられたる, (即ち石にて)壓出せられたる.
adri-pati ㊦ [*Himālaya* 山の名].
adri-pati-kanyā ㊦ [*Pārvatī*].
adri-budhna ㊦ 岩上に建てられたる.
adri-bhedana ㊦ 岩の分裂.
adri-mūrdhan ㊦ 山頂.
adri-rāja ㊦ [*Himālaya* 山の名]; ㊦ 山王 *Divy.*
adriyat ㊦ [㊦ 呼 -vas] 石にて武装せる.
adri-sāramaya ㊦ 鐵の.
a-druta ㊦ ㊦ 不速.
a-druh ㊦ [㊦ a-dhruk] 傷けざる, 慈悲深き.
a-drogha ㊦ 伴りなき, 友誼ある.

adrogha-vāc ㊦ 伴りなき言葉の.
a-droha ㊦ 友誼ある. ㊦ 友誼, 伴りなきこと.
adroha-samayam Kṛ, 和解す.
a-dvaya ㊦ 二種ならざる, 単一の; ㊦ 不二, 無二, 不異 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 俱非 *Vijñ-t.*
advaya-jñāna ㊦ ㊦ 無二智 *Gaṇḍ-vy.*
a-dvayatva ㊦ ㊦ 單一, 統一; ㊦ 無二 *Aṣṭ-pr.*:
 ～ *buddha-vihāra-parama-pārami-prāpta* 得佛無二住勝彼岸 *Mvyut.*
advaya-bhaṇita ㊦ ㊦ 不作二語 *Gaṇḍ-vy.*
advaya-lakṣaṇa ㊦ ㊦ 無二相, 不二(法)相 *Lank.*
advaya-vādin ㊦ ㊦ 無二又は單一を説く者, [*Buddha*]; ㊦ [佛の異稱] 不二語, 無二語, 無二詞 *Mvyut.*
advaya-samudācāra ㊦ ㊦ 不二行, 行不二, 行不二行, 不二現行 *Mvyut.*
advayānanda (°ya-ān°) ㊦ [(單一を喜とせる), 哲學者の名].
a-dvār ㊦ [同下].
a-dvāra ㊦ ㊦ 戸口或は門ならざるもの; 門或は出口の無き場處又は方角.
a-dvi-ja ㊦ ㊦ 婆羅門なき.
a-dvitiya ㊦ ㊦ 第二なき, 単一の, 唯一の; ㊦ 無二, 獨, 無侶, 無有伴侶 *Lal-v.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
a-dvitiyatva ㊦ ㊦ 無第二 *Aṣṭ-pr.*
a-dvi-varṣa ㊦ ㊦ 未だ二歳ならざる.
a-dviṣat ㊦ ㊦ 何人をも憎まざる.
a-dvipa ㊦ (㊦ -ā) (㊦ 危急の場合に)救助者なき (*Kāryy.*).
a-dveṣa ㊦ ㊦ 惡意なきこと; ㊦ 無瞋 *Vijñ-t.*, *Mvyut.* ㊦ 惡意なき.
a-dveṣa-rāgin ㊦ ㊦ 愛憎なき.
a-dveṣṭṛ ㊦ (㊦) ㊦ 憎まざる, ……に親切なる.
a-dveṣṭṛtva ㊦ ㊦ 仁愛.
a-dvaita ㊦ ㊦ 二箇又は二元ならざること, 單一. ㊦ 二元ならざる, 第二なき, 単一の, 唯一の.
advaita-vādin ㊦ ㊦ [佛の稱] (*Divy.*).
a-dvaidha ㊦ ㊦ 二分せられざる, 重複せざる; 眞摯なる.
a-dvaidhi-kāra ㊦ ㊦ 無別, 無二分 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Mvyut.*
a-dvaidhi-kāratva ㊦ ㊦ 無二分, 無分別, 不可分別 *Aṣṭ-pr.*
adha [又は **adhā**, **athā** の古形] ㊦ ㊦ その時に, 其處にて [屢ば ㊦ に用ひらる]; それ故に.
 ～ …… ～, …… も …… も 何れも.
 ～ …… ～ **vā**, …… か 或は ……
adhaḥ-kāya ㊦ ㊦ 下半身; ㊦ 身下 *Bodh-bh.*
adhaḥ-krama-tala ㊦ ㊦ 足下 *Gaṇḍ-vy.*: ～
ābhyām ㊦ ㊦ 從兩足下, 從其足下 *Gaṇḍ-vy.* 85.
adhaḥ-kriyā ㊦ ㊦ 貶黜, 輕蔑.
adhaḥ-khanana ㊦ ㊦ 掘り下ぐること.
adhaḥ-pāta ㊦ ㊦ 落下 [㊦ にも用ふ].
adhaḥ-pātita (㊦ ㊦ ㊦) ㊦ ㊦ 投げ捨てられたる.
a-dhana ㊦ ㊦ 貧しき, 貧乏なる; ㊦ 貧窮, 貧苦 *Sukh-vy.* I.

a-dhandha 形 不頑鈍 *Bodh-bh.* 9.
adhandha-jātiya 形 性不鈍 *Bodh-bh.* 15.
a-dhandhāyamāna 現分 無所稽留 *Bodh-bh.* 284. → *dhandhāya*.
a-dhanya 形 貧乏なる, 不幸なる.
adhama 最上 (一) 中の最下なる, 最悪なる, 最も下劣なる; 下品 *Mañj-m.*
adhama-ceṣṭa 形 下劣なる行爲の.
adhama-dhī 形 思慮淺き.
adhama-yoni-ja 形 甚だ下賤なる母より生れたる.
adhama-rṇa (°ma-rṇ°) 男 債務者.
adhama-rṇika (°ma-rṇ°) 男 [同上].
adhamādhama 形 あらゆるものゝ中にて最下なる.
adha-mūrdha 形 覆, 覆住 *Lank.*
adhara 比較 より低き; 下 *Abh-k., Abh-vy.* 男 下唇. 副 [集合的に] 兩唇.
adhara-krama 男 逆次 *Abh-k.*
adharam-Kṛ, 服従せしむ.
adhara-dala 甲 唇.
adhara-dhātuka 形 下地 *Abh-vy.*
adhara-bhūmika 形 下地 *Abh-vy.*
adharaya 名動 凌駕す.
adhara-rucaka 甲 愛らしき唇.
adharāci 形 女 [同下].
adharāñc 形 (女 °rāci) 下方の; 南方の.
adharāt 副 下に.
adharāmbara 甲 下著(き).
adharāraṇi 女 (點火の際の)引火木の臺.
adharita 過受分 凌駕せられたる.
adharima 最上 最低の(*Divy.*). [*Pāli. uparima* 参照].
adhari-Kṛ, 征服す.
adhari-BHū, 屈服す.
adhareya 形 劣れる.
adharottara (°ra-ut°) 形 勝敗何れかの; 高と低との; 前と後との. 甲 質疑及び解答; 等級; 顛倒.
adharoṣṭha (°ra-oṣ°) 甲 [—° は 形 (女 -i)], 下唇; 下と上との唇, 兩唇.
adharauṣṭha (°ra-oṣ°) 甲 [同上].
a-dharma 男 不正, 義務の背犯, 不法; 罪, 非法, 違法, 惡法 *Divy., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Lank., Gaṇḍ-vy., Vaiś-s., Madhy-v., Sāṃkhy-k., Bodh-bh., Mvyut.* 形 破法 *Lal-v.* 257. ~ **tas** 従, ~ **eṇa** 具 不正に, 不法に.
adharma-kāma 形 欲非法 *Mvyut.*
a-dharma-jñā 形 法を知らざる, 正義を知らざる.
a-dharmatas 副 → *adharma*.
adharma-daṇḍana 甲 不當の刑罰.
adharma-pakṣa 男 惡黨, 與惡爲伴 *Suv-pr.*
adharma-bahula 形 非法多き, 無道の.
adharma-bhāj 形 非法を樂しめる; 義務を忘却せる.
adharma-bhiru 形 不正を畏れ避くる.
adharmamaya 形 法又は正義に基かざる, 非法に耽れる.
adharma-rāga 男 非法貪 *Bodh-bh.*
adharma-vādin 形 非法言 *Aṣṭ-pr.*

a-dharma-śaraṇa 形 法に基かざる.
adharma-saṃgara 形 非法によりて闘へる.
adharma-sthita 形 行於非法, 以非法行 *Suv-pr.*
a-dharmiṣṭha 形 正しく爲さざる, 不正の.
a-dharmeṇa 具 副 → *adharma*.
adharmottaratā (°ma-ut°) 女 不正の優勢なること.
a-dharmya 形 = *a-dharmiṣṭha*.
a-dharṣaṇa 形 近づき難き.
a-dharṣaṇiya 未受分 打ち克ち難き; 無映蔽, 無傾動 *Sikṣ.*
adhaś-cara 形 卑下せる, 謙遜なる, 卑屈なる.
adhaś-caraṇāvapāta 男 (人の)足許に平伏すること.
adhaḥ-śaya 形 地上に横はる.
adhaḥ-śayya 形 地上に臥せる.
adhaḥ-śayyā 女 地上の睡眠; 臥道 *Mvyut.*
adhaḥ-śayyāsanin (°yā-ās°) 形 地上に睡り且つ坐する.
adhaḥ-śākha 形 枝を下方に向けたる.
adhaḥ-śāyitā 女 地上の睡眠.
adhaḥ-śāyin 形 地上に睡る.
adhaḥ-śiras 形 頭を垂れたる.
adhaḥ-śirṣa 形 [同上].
adhas 副 下に; 地上に; 下方に, 下界に; 下 *Saddh-p., Sikṣ., Mañj-m., Bodh-bh., Abh-vy.*
adho 'dhaḥ, 下へ下へ.
 ~ **Kṛ**, 下にす, 越ゆ.
 ~ **Pat**, 沈む.
 前 [業と俱に] の下に [運動]; [従, 副と俱に, 又は —°] の下方に.
-adhas-tala 甲 下面, 下の場處.
adhastāt 副 下に; 地上に; 下方に; 下より; 屈從的に; 以前に; 下, 於下, 足前, 足下; 地下; 下地, 下界 *Mañj-m., Divy., Lal-v., Abh-vy., Sāṃkhy-k.:* ~ *pāda-talayōś cakre jāte sahasāre sanābhike sa-nemike sarvākāra-paripūrṇe* [三十二相の一] 於雙足下現千輻輪輟輞衆相無不圓滿足下千輻輪 *Bodh-bh.* 375. 前 [従, 副と俱に, 又は —°] ……の下に.
adhaḥ-stha 形 下に横はれる.
adhā, → *adha*.
a-dhātu 男 界(の自性)なきこと; 非界, 非世界 *Vajr-pr.*
a-dhātumat 形 原素より成らざる.
a-dhāraṇaka 形 堪へられざる.
a-dhāraṇatā 女 不持 *Bodh-bh.*
a-dhārā 女 持續せざる, 存續せざる; 非流注; 無持, 非續住 *Vajr-pr.*
a-dhārā-varṣa- 副 降雨なしに.
a-dhārmika 形 不正なる, 不法なる, 不徳なる; 非法 *Divy., Sikṣ.*
adhārmika-bhoga 男 非法之利, 非法財利 *Sikṣ.*
a-dhārya 未受分 堪へられざる; 制止せられざる; 忍

び難き。

a-dhāryamāṇa 現分 戴かれざる(王冠)。

adhi 副 上に, 上方に; 大いに; 内に; 其の他に。副 [案]と俱に]の上部に, ……の上に; ……まで; [案]と俱に] 過りて; [案]と俱に] 上に; ……より下に; ……より; [案]と俱に] 以上に [順位又は數に就て]; 下に (……の支配の); ……の上に, ……の内に, ……に關し; —°, ……以上に。

adhika 形 過剰の; 餘分の; 卓越せる; 主なる, 最高の; 過分を有する, 尙一層多き; —° 餘計の, 餘分の; (案, 一°)に於て勝れたる; (案, 案, 案, 一°)より一層強き, 一層大なる, 一層高き, 一層多き; 案 上, 多, 長, 廣, 増, 増上, 勝, 勝上, 最勝, 最極, 極善 Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., Śikṣ., Daś-bh., Sūtr., Bodh-c., Abh-k.; 等, 餘 Abh-vy. → abhy- ~.; —°, 乘, 過, 絶過 Divy., Abh-vy., Śikṣ.: brahma ~ 過梵天 Śikṣ. 320. ° —, ~ m 副 餘分に, 甚だ多く, (案)より多く; 案 増益 Bodh-bh. ~ Kr 案 作増益 Bodh-bh.: na ~ Kr 不作増益 Bodh-bh. 266.

adhika-krodha 形 極度に怒れる。

adhika-guṇa 形 勝れたる徳を具する。

adhika-guṇatā 女 [同上 副]。

adhika-guṇatva 中 [同上]。

adhi-kaṇṭham 副 頸に。

adhikatara 比較 一層大なる; 一層勝れたる; 案 過, 多, 最勝 Sūtr., Saddh-p., Divy. ~ m 副 一層。

adhikatā 女 優秀。

adhikatva 中 [同上]; 案 増 Abh-vy.

adhi-kaṁdharam 副 頸に至るまで。

adhi-karaṇa 中 基礎; 實體, 物質; 主題, 部門; 章節; 法廷; 發生の場處; (案)於格の範圍; 案 争, 諍, 訟, 諍訟, 鬭諍 Śikṣ., Bodh-bh., Sam-r., Mvyut.; 司 梵干; 所依 Mvyut.; 處 Bodh-bh.: teṣu teṣv ~ eṣu 於彼彼處 Bodh-bh. 315.; 事 Prāt-m.: nikṣipta ~ 斷事竟 Prāt-m. V. 4. **yato** ~ m [Pāli. yatvādhikaraṇam] その故に, その理に由りて (Mah-v. III. 52.).

adhikaraṇa-maṇḍapa 中 裁判所。

adhikaraṇa-lekhaka 男 裁判所書記。

adhikaraṇa-vastu 中 案 諍事 Mvyut.

adhikaraṇa-sāmātha 形 案 滅諍, 滅法 Prāt-m., Mvyut.: sapta ~ ā dharmāḥ 七滅諍法 Prāt-m.; sapta ~ āḥ 七滅諍 [1. sammukha-vinayaḥ 現前毗奈耶, 2. smṛti-vinayaḥ 憶念毗奈耶, 3. amūḍha-vinayaḥ 不礙毗奈耶, 4. yad-bhūyasikīyaḥ 多, 5. tat-svabhavaīsiyaḥ 求彼自性, 6. tṛṇa-stāraḥ 草掩, 7. pratijñā-kāraḥ 自言] Mvyut.

adhi-karaṇika 男 裁判官。

adhika-rūpavat 形 秀麗なる。

adhi-karṇam 副 耳に於て。

adhika-vayas 形 高齢の。

adhi-kaṣṭa 中 大なる不幸。

adhikāṅga 形 (女 -i) 餘分の肢を有する。

adhikādhī (°ka-ādhi) 形 心配に満ちたる。

adhikādhika 形 絶えず増大する。

adhi-kāra 男 支配, 統治, 統御, 權威; 官職, 地位, 威嚴; 統治權; 特權; (案)に對する要求; (案)に對する努力又は盡力; (一°)に關する章節; (案) 主則 [後續の節に至るまで, 次他の補則に通用す]; 案 特爲, 根由, 自作 Mvyut.; 増上; 増上力 Śikṣ., Madhy-vibh.; 處所, 依處 Boāh-bh., Madhy-vibh.; 王物 Divy. 432.; 供養, 恭敬供養 Gaṇḍ-vy., Laṅk., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I. → kṛta ~.: pūrva-jina-kṛta ~ 已曾供養無量諸佛, 已曾供養過去諸佛, 於先佛所已種善根, 已於先世供養諸佛 Aṣṭ-pr. 244.; —° 依, 因, 立 Abh-vy.: aṣṭa ~ āt 依八(根)故, 由立八(根)故 Abh-vy. 122.; 品 Sūtr. 8.; 種類 Abh-vy.: jñāna ~ eṇa 智慧種類 Abh-vy. 663.; 乘, 隨所立 Abh-vy.: pūrva ~ āt 乘前(校量), 由隨前所立 Abh-vy. 320.; 流, 流至 Abh-vy.: anā-srava ~ ḥ sarvatra 無漏言遍流後, 無流言應知流至一切處 Abh-vy. 542.

adhikāra-paramatā 女 案 依處最勝, 増上無比 Madhy-vibh.

adhikāra-puruṣa 男 官吏。

adhi-kāravat 男 [同上]。

adhikāra-stha 形 公務上の, 職務上の。

adhikārādhyā (°ra-ādhi) 形 權能を授けられたる。

-adhi-kārika 形 案 爲供養 Bodh-bh. → pūjā ~.

adhi-kāritā 女 權威。

adhi-kāritva 中 [同上]。

adhi-kārin 男 (一°)の監督, 統御者; 官吏; 有資格者。

adhi-Kup, → Kup.

adhi-Kṛ adhikurute. → Kṛ I.

adhi-kṛta (過受分) 上部に置かれたる。→ Kṛ I. 案 說, 欲辯, 欲顯 Abh-vy. (案) 監督者, 爲政者; (案, 一°)の首長。

adhi-kṛtya (不變分) (案)に關し, に就て; 案 正, 爲…故; [案]と俱に] 依故 Bodh-bh.

adhi-ketanam 副 旗上に。

adhikokti (°ka-uk) 女 冗言。

adhi-Kram, → Kram.

adhi-Kṣi, → Kṣi I.

adhi-Kṣip, → Kṣip.

adhi-kṣepa 男 誹謗, 嘲弄; 案 毀謗 Bodh-c.

adhigaṇaya (名動) → gaṇaya.

adhi-gata (過受分) → Gam. 案 得, 證, 證得, 通達; 知, 所知; 獲, 橫取 Laṅk., Lal-v., Divy., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.

adhigata-samjñin 形 案 謂證 Saddh-p.: ana-dhigate ~ 未證謂證 [未だ證せざるに證したりと勘ふる] Saddh-p. 39.

adhi-gantavya (未受分) 得らるべき; 徹底せらるべき; 研究せらるべき。

adhi-gantr 男 發見者, 到達又は習得したる人; 案 得, 證得 Laṅk.

adhi-Gam adhigahecati. → Gam.

adhi-gama 男 到達, 上達; 利, 利益; 確認, 知識;

研究; 至, 得, 得果, 證, 證得, 所證, 趣證; 成, 成就, 通, 解, 智慧; 行, 修行, 所修; 備; 求; 專向 *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Daś-bh.*, *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-vibh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*, *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*: ~svapratyātm'āryābhisamaya-gotra(甲)自身内證聖智性 *Lank.* 64.

adhigama-jñāna (甲) 眞證智, 眞實證智 *Bodh-bh.*

adhi-gamana (甲) = *adhigama*; 知, 修學 *Lank.*

adhi-gamaniya (未受分) = *adhigamya*; 隨後行 *Sam-r.*

adhigama-yukta (形) 具證 *Bodh-bh.*

adhigamopeta (°ma-up°) (形) 具證 *Bodh-bh.*

adhi-gamya (未受分) 到達せらるべき, 近寄らるべき; 知り得べき, 考へ得らるべき, 研究せらるべき.

adhi-Gā *adhigāpayati*(使役). → *Gā*.

adhi-guṇa (形) 優秀なる性質の.

adhi-gupta (過受分) → *Gup.*

adhi-gṛham (副) 家に於て.

adhi-goptr (男) 保護者.

adhi-citta (甲) 増上心, 増上意 *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ~m (副) 増上心 *Prajñ-vy.*

adhicittam-sīkṣā (女) 増上心學, 増上意學 *Bodh-bh.*

adhicitta-sīkṣā (女) = *adhicittam-sīkṣā*(*Dharm-s.*).

adhi-Jan, → *Jan.*

adhi-janana (甲) 出生.

adhi-jānu (副) 膝の上に.

adhi-ja (形) 弦を有する, 弦又は絃を張れる.

adhijya-kārmuka (形) 弓に弦を張れる.

adhi-jiyatā (女) 弦を有すること, 弦又は絃を張りたること.

adhijya-dhanvan (形) = *adhijya-kārmuka*.

adhi-jiyotiṣam (副) 日光又は月光に關して.

adhi-tata (過受分) → *Tan 1.*

adhi-Tan, → *Tan 1.*

adhi-talpam (副) 塔の上に.

adhityakā (女) 臺地.

adhi-daṇḍa-netṛ (男) 最高の裁判官即ち *Yama* 神.

adhi-didhiti (形) 明るく照されたる.

adhi-deva (男) 最高神. ~m (副) 神々に關して.

adhi-devatam (副) 神々に關して.

adhi-devatā (女) 最高神; 守護神.

adhi-daiva (甲) [同上]. ~m (副) 神々に關して.

adhi-daivata (甲) [同上]; 本尊 *Guhy-s.*

adhi-Dru *adhidrāvayati*(使役). → *Dru.*

adhi-DHā, → *DHā.*

adhi-nāgam (副) 象の上に, 龍の上に.

adhi-ni-DHā, → *DHā.*

adhi-ni-Vas, → *Vas 3.*

adhi-nisam (副) 夜に.

adhi-Ni, → *Ni.*

adhi-pa (男) 支配者, 君主; 長, 増上 *Buddh-c.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*: *gopa* ~ 牧牛長 *Buddh-c.* 106.

adhipa-ja (形) 増上, 《増上所生》 *Abh-vy.*

adhi-pati (男) = *adhipa*; 頭の急所; 主, 王, 君

Lal-v., *Mvyut.*; 家主 *Bodh-bh.*; 主母 *Mvyut.*; 増上, 増上力 *Lank.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~m *kṛtvā* 増上力故, 爲増上已 *Bodh-bh.* 320.

adhi-patitva (甲) 増上, 増上力 *Vijñ-v.*

adhipati-pratyaya (男) 増上縁 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

adhipati-phala (甲) 増上果 *Madhy-vibh.*; 主果 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

adhipati-bhūta (形) 爲増上縁, 成増上縁 *Abh-vy.*

adhi-pativati (形) 支配者を有する.

adhi-pateyā (女) 爲主 *Sikṣ.*

adhipaty-arthatva (甲) 増上義性 *Madhy-vibh.*

adhi-pā (男) = *adhipa*.

adhi-pācanā (女) 得成熟 *Sūtr.*

adhi-pāṇi (副) 手に, 手中に.

adhi-purandhri (副) 婦人に對して.

adhi-puruṣa (男) 最高精神.

adhi-pūruṣa (男) [同上].

adhi-pauruṣa (甲) 最も男らしきこと.

adhi-prajam (副) 子孫又は家族に對して.

adhi-prajña (形) 増上慧 *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* ~m (副) 慧に關して, 認識に關して; 増上慧 *Prajñ-vy.*

adhiprajñam-sīkṣā (女) 増上慧學 *Bodh-bh.*

adhiprajña-vihāra (男) 増上慧住 *Bodh-bh.*

adhi-prajñā (女) 増上慧 *Mvyut.*

adhiprajñā-sīkṣā (女) = *adhiprajñam-sīkṣā*(*Dharm-s.*).

adhi-phāṇita (過受分) 甘蔗の濃き汁のかけられたる.

adhi-Bādh, → *Bādh.*

adhi-bādhitr (男) 苦しむる人.

adhi-bubhūṣu (希求) (形) 上位を得んと希へる, 優れんと希へる.

adhi-Brū, → *Brū.*

adhi-BHāṣ *adhībhāṣate*; *adhyabhāṣata* (一過) (三人) (單) *Saddh-p.* → *BHāṣ.*

adhi-BHuj, → *BHuj 2.*

adhi-bhū (男) 統治者, 君主.

adhi-bhūta (甲) (行爲者の行動する)限界又は目的; 至上の靈.

adhi-bhūtam (副) 生類又は事物に關して.

adhi-makham (副) 供儀に際して.

adhi-Math, → *Math.*

adhi-Man *adhimanyati*. → *Man.*

adhi-manthana (形) 摩擦に適したる. (甲) 鑽燧用の堅き木片; 火を得る爲の摩擦.

adhi-mātra (形) 餘分の; 過量; 上, 最上, 勝; 極, 大極; 多; 利; 増上, 上品, 最上品, 大甚上; 慇懃 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Daś-bh.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.* ~m (副) 韻の長さ (*mātra*) に關して; 増上 *Sam-r.*

adhimātra-kāruṇika (男) (非常) (慈悲深き); [Mahā-brāhmaṇa (大梵天王) の名] 大悲, 最慈哀 *Saddh-p.*

adhimātra-kṣānti-samanvāgata (形) 具大忍辱, 成就最上忍 *Mvyut.*

adhi-mātratama 〔上〕 〔漢譯〕 上, 上極 *Abh-vy.*
adhi-mātratara 〔上〕 〔漢譯〕 上勝 *Abh-vy.*
adhi-mātrataratva 〔中〕 〔漢譯〕 上品, 最上品 *Abh-vy.*
adhi-mātratā 〔女〕 〔漢譯〕 過量; 増上; 上, 上品, 上品性 *Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.*
adhi-mātratva 〔中〕 餘分; 〔漢譯〕 上者, 上品, 成上品 *Bodh-bh.*
adhimātra-manāpatva 〔中〕 〔漢譯〕 極悅意 *Bodh-bh.*
adhimātra-lolupa 〔形〕 〔漢譯〕 貪著 *Bodh-bh.*
adhi-māna 〔男〕 〔漢譯〕 (我)慢, 過慢, 憍慢, 増上慢 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Mvyut.*
adhimāna-prāpta 〔形〕 〔漢譯〕 増上慢, 憍慢者 *Saddh-p.*
adhimāna-samjñā 〔女〕 〔漢譯〕 憍慢心 *Saddh-p.*
adhi-mānika 〔形〕 〔漢譯〕 自大, 増上慢, 憍慢態, 増上慢者, 懷増上慢 *Saddh-p.*
adhi-mānin 〔形〕 〔漢譯〕 慢, 自大, 憍慢, 自高心, 増上慢人 *Saddh-p.*
adhi-mukta 〔通受分〕 信用せる, 確信せる; 專念なる, 没入せる, 熱心なる, ……に傾きたる (*Av-s., Divy.*); 〔漢譯〕 信, 解, 信解, 勝解, 勝信解, 信者, 起信解者, 深生深解, 發起勝解; 好, 樂, 好樂, 愛樂, 信樂; 計; 觀, 善觀 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; 合爲, 拍成 *Divy. 393.*; [Samādhiの名] (*Kār-vy.*).
adhi-muktatva 〔中〕 〔漢譯〕 勝解 *Abh-vy.*
adhi-muktavat 〔形〕 〔漢譯〕 有信解 *Saddh-p.*
adhi-mukti 〔女〕 傾向, 嗜好; 信賴, 確信; 〔漢譯〕 信, 解, 信解, 信受, 明信, 信心, 深信, 篤信, 勝解, 心解, 解心, 明解, 欲解, 悟解, 決定解, 勝解智; 了達, 相了; 欲, 思, 意, 樂, 信樂, 志樂, 心樂, 欲樂, 欲性, 性欲, 知欲樂 *Daś-bh., Ast-pr., Saddh-p., Lal-v., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Sūtr., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Śikṣ., Mvyut.*; 假想 *Abh-vy.*; 解脫 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy.*
adhi-muktika 〔形〕 = *adhimukti* (*Lal-v.*); 〔漢譯〕 信, 信心; 信解, 勝解, 異解; 喜, 所喜, 欲, 樂, 所樂, 愛樂 *Bodh-bh., Śikṣ., Kāśy., Laṅk., Mvyut.*; hina ~ 少信 *Lal-v. 20.* 〔男〕 (佛敎) [Mahā-kālaの名].
adhi-muktikatā 〔女〕 〔漢譯〕 解, 勝解 *Bodh-bh.*
adhimukti-gocara 〔男〕 〔漢譯〕 勝解行境 *Bodh-bh.*
adhimukti-caryā 〔女〕 〔漢譯〕 解行, 勝解行 *Bodh-bh.*
adhimukticaryā-bhūmi 〔女〕 〔漢譯〕 解地, 解行地, 勝解行地, 願樂行地, 念行地 *Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
adhi-muktitā 〔女〕 〔漢譯〕 解, 勝解 *Bodh-bh.*
adhimukti-niveśin 〔形〕 〔漢譯〕 信安 *Sūtr.*
adhimukti-bala 〔中〕 〔漢譯〕 解力, 解脫力 *Gaṇḍ-vy., Dharm-s.*
adhimukti-balādhipateya 〔形〕 〔漢譯〕 自在決定解力 *Gaṇḍ-vy.*
adhimukti-manaskāra 〔男〕 〔漢譯〕 勝解作意, 欲樂思惟 *Abh-vy.*
adhimukti-mahattva 〔中〕 〔漢譯〕 勝解大性 *Bodh-bh.*
adhimukti-vaṁśa 〔男〕 〔漢譯〕 解脫性 *Gaṇḍ-vy.*
adhimukti-vaśitā 〔女〕 〔漢譯〕 主敬, 解脫自在, 解脫降伏, 勝解自在 *Dharm-s., Mvyut.*
adhimukti-virahita 〔形〕 〔漢譯〕 遠離解脫 *Saddh-p.*

adhimukti-vihina 〔形〕 〔漢譯〕 劣解 *Śikṣ.*
adhimukti-satya 〔中〕 〔漢譯〕 勝實, 勝解諦 *Bodh-bh.*
adhimukti-samudāgama 〔男〕 〔漢譯〕 信解修證, 願樂習起 *Madhy-vibh.*
adhimukti-sāra 〔形〕 〔漢譯〕 信解堅固 *Saddh-p.*
adhimukty-adhiṣṭhāna 〔中〕 〔漢譯〕 解處, (生)勝解處 *Bodh-bh.*
adhimukty-avasthā 〔女〕 〔漢譯〕 願樂位, 勝解(行)位 *Madhy-vibh.*
adhi-Muc *adhimucyate(-ti), adhimuñcati, adhi-mokṣyate(宋), adhimocayati(使役).* → *Muc.*
adhi-mucyanā 〔女〕 〔漢譯〕 信, 信解 *Sūtr.*
adhi-moktavya 〔未受分〕 〔漢譯〕 應信解 *Vajr-pr.*
adhi-moktu-kāma 〔形〕 〔漢譯〕 欲證 *Sapt-pr.*
adhi-mokṭṛ 〔形〕 〔漢譯〕 解 *Sapt-pr.*
adhi-Mokṣ 〔希求〕 → *Muc.*
adhi-mokṣa 〔男〕 = *adhimukti*; 〔漢譯〕 信, 解, 信解, 勝解; 信行; 信樂; 解脫 *Daś-bh., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Abh-k., Madhy-vibh., Vijñ-t., Guhy-s., Mvyut.*
adhi-moca 〔形〕 〔漢譯〕 [信解 *Ast-pr. 405.*] → *dur-~tā.*
adhi-yajña 〔男〕 最高の供儀. 〔形〕 供儀に關する.
adhi-Yam *adhiyacchati(-te).* → *Yam.*
adhi-Yuj, → *Yuj.*
adhi-rajani 〔副〕 夜に.
adhi-ratha 〔形〕 車上に立てる. 〔男〕 車上にて戦ふ人, 御者. 〔中〕 荷車一臺の積載量.
adhi-rāj 〔男〕 最高統治者, 皇帝.
adhi-rāja 〔男〕 [同上]; 〔漢譯〕 → *rāja* ~.
adhi-rājatā 〔女〕 (國)の最高統治.
adhi-rājya 〔中〕 主權, 最高統治; 帝國; 〔漢譯〕 自在力 *Divy.*
adhi-rādhita 〔通受分〕 〔漢譯〕 令生歡喜 *Gaṇḍ-vy.*
adhi-Rumṣ, → *Rumṣ.*
adhi-rumṣita 〔通受分〕 → *Rumṣ.*
adhi-rukma-mandira-gavākṣam 〔副〕 黄金宮殿の窓に於て.
adhi-Ruh *adhirohāti, adhiropayati(使役)* → *Ruh 2.*
adhi-ruh 〔形〕 (一)に登る, ……に乗る.
adhi-ruha 〔形〕 [同上].
adhi-rūḍha 〔通受分〕 → *Ruh 2.* 〔漢譯〕 乘, *Vin.*
adhi-rūḍhi 〔女〕 昇騰.
adhi-roḍhavya 〔未受分〕 登らるべき. 〔中〕 登るべきもの.
adhi-ropana 〔中〕 (一)に擧ぐる事.
adhi-roha 〔形〕 (華)に乗る. 〔男〕 上昇, 登攀.
adhi-rohana 〔中〕 (樹, 一)に登ること; 〔漢譯〕 上行 *Prāt-m.: nāva* ~ 船上行 *Prāt-m. V. 36.*
adhi-rohiṇi 〔女〕 梯子, 梯子段.
adhi-rohin 〔形〕 (一)に登る, ……に導く.
adhi-laṅkam 〔副〕 *Laṅkā* の上に.
adhi-laya 〔男〕 〔漢譯〕 著 *Madhy-v.*
adhi-lavaṅgam 〔副〕 丁香(樹)の上.
adhi-loka 〔男〕 最上の世界.

adhi-lokam 副 世界に關して。
adhi-vaktr 男 辯護人, 保護者。
adhi-vakṣas 副 胸に。
adhi-Vac, → Vac.
adhi-vacana 中 名稱, 名目, 稱呼; 綽號; 言, 名, 名號, 別名, 異名; 增語; 密說; 義; 喻, 譬 *Vajr-pr., Lañk., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Divy., Abh-k., Mvyut.*
adhi-Vap *adhivapate.* → Vap 2.
adhi-vapana 中 撒布すること。
adhi-varcas 中 便所。
adhi-varjana 中 火に向ひて進むこと。
adhi-Vas *adhivasatī(3), adhivāsayati(3)(使役), adhivaste(2).* → Vas 2, 3.
adhi-vasati 女 居住。
adhi-Vah, → Vah.
adhi-vāka 男 辯護, 保護。
adhi-vāda 男 侮辱, 惡罵。
adhi-vādana 中 問訊。
adhi-vāsa 1. 男 住民; 隣人; 居住, 住處; 容 *Sūtr.*
adhi-vāsa 2. 男 芳香。
adhi-vāsaka 形 耐 *Sūtr. 172.*
adhi-vāsata 女 芳香あること。
adhi-vāsana 中 香を熏ずること; 香華を以て身を淨むること; 忍耐; 安住 *Sikṣ.*; 耽著, 執著, 安受 *Abh-vy., Bodh-bh.*; 忍, 耐, 堪忍, 忍受, 任取, 能忍堪受; 常念 *Kāśy., Sūtr.*; 鎮; 許可, 許受 *Sūtr., Sam-r., Abh-vy.*; 須者, 宜者 *Mvyut.* → *duḥkha-*
adhivāsana-jātiya 形 無不從心 *Sukh-vy. I.*
adhi-vāsanatā 女 執著 *Bodh-bh.*; 容受, 所依止 *Gaṇḍ-vy.*
adhivāsana-śīlatā 女 堪忍性 *Bodh-bh.*; *duḥkha* ~ 堪忍衆苦, 能忍衆苦, 堪忍苦性 *Bodh-bh. 250.*
adhi-vāsanā 女 從順, 順應; 忍, 受, 安受 *Divy., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh.*
adhivāsaya (名動) *adhivāsayati.* → *vāsaya* 2.
adhi-vāsā 女 忍 *Sūtr.*
adhi-vāsita (通受分) → *vāsaya* 2. 忍, 熏, 熏習 *Daś-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k.*
adhi-vijñāna 中 最高の知識。
adhi-Vid *adhivindati.* → Vid 2.
adhi-vidyam 副 智に關して。
adhi-vi-DHā, → DHā.
adhi-vinna (通受分) [Vid 2].
adhi-vinnā 女 → Vid 2.
adhi-vivāham 副 結婚に關して。
adhi-Viś *adhiveśayati(使役).* → Viś.
adhi-viśakta 形 (男)の上に在る, 立てる。
adhi-vīra 男 (一)の中の大雄。
adhi-Vṛt, → Vṛt.
adhi-vettavyā (未受分) 女 [Vid 2] 第二の妻により代らるべき。 女 夫に他の婦女を娶られたる妻。
adhi-vedyā 女 [同上].

adhi-velam 副 海岸に於て。
adhi-veśma 副 家の中にて。
adhi-veṣṭita (通受分) 圍繞せられたる。
adhi-śayita (通受分) 横はれる, 横臥に用ひられたる; 臥 *Bodh-bh.*
adhi-śasta (通受分) 惡評ある, 知れ渡りたる。
adhi-śiro-dharam 副 頸に。
adhi-Śi, → Śi 2.
adhi-śila 中 増上戒, 清淨戒, 増上戒(學) *Sikṣ., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Vin., Mvyut.* ~ m 増上戒 *Prajñ-vy.*
adhiśīlam-śikṣā 女 増上戒學 *Bodh-bh.*
adhiśīla-śikṣā 女 = *adhiśīlam-śikṣā (Dharm-s.)*.
adhi-Śuṣ *adhiśuṣyati.* → Śuṣ.
adhi-śrayaṇa 中 火中に投ずる動作又は儀式。
adhi-śrayaṇi 女 爐。
adhi-Śri, → Śri.
adhi-śrita (通受分) → Śri.
adhi-śri 形 非常に幸福なる。
adhi-śrotram 副 耳の上に。
adhi-śavaṇa 形 壓搾に適したる。 中 Soma 汁の壓搾。
adhi-Ṣṭhā *adhitiṣṭhati.* → *Sṭhā*.
adhi-ṣṭhātavya (未受分) 所建立 *Sikṣ.*
adhi-ṣṭhātr 男 支配者, 監督者。
adhi-ṣṭhātri 女 [同上].
adhi-ṣṭhāna 中 立脚點, 立場, 場處, 席, 住處, 住宅; 主權, 權力; 王廷 (*Divy.*); 決心, 覺悟 (*Jāt-m.*); 座, 處, 依, 留, 境, 緣爲境, 處所, 依處, 所依處, 所依處所, 依止, 留住, 安住, 所趣; 留難 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Mvyut.*; *catvāry* ~ *āni* 四處 [1. *satya* ~ m 諦處, 2. *tyāga* ~ m 捨處, 3. *upaśama* ~ m 寂靜處, 4. *prajñā* ~ m 慧處] *Mvyut.*; 根基, 欄杆, 臺座 *Mvyut.*; 聚落 *Divy.*; 力, 神力, 神通, 願力, 心願, 威神力, 神通力, 威神之力, 神通之力, 所護力, 住持力, 力住持, 意願勢力; 威德; 教敎 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Daś-bh., Aṣṭ-pr., Lañk., Suv-pr., Bodh-c., Vijñ-v., Mañj-m.*; 加, 護, 所加, 加護, 加威, 威神所加, 加被, 守護, 護念, 所加護; 持, 所持, 依持, 任持, 加持, 住持, 護持, 攝持, (秘密)加持, 加持力; 建立, 所建立 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sikṣ., Sapt-pr., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Suv-pr., Lañk., Sam-r., Sūtr., Daś-bh., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; ~ m *adhiṣṭhitam* 威神共加護 *Suv-pr. 2.*, *buddha* ~ *ena* 以佛加持力故 *Aṣṭ-pr. 131.*; 攝受 *Mvyut.*; 像, 身 *Aṣṭ-pr. 690.* → *an* ~ .
adhi-ṣṭhānavat 形 確乎たる基礎を有する。
adhiṣṭhānādhiṣṭhita 形 威力加持, 神力所加 *Sikṣ., Daś-bh.*
adhi-ṣṭhāya (不變分) → *Sṭhā*.
adhi-ṣṭhāyaka 形 所依 *Bodh-bh.*
adhi-ṣṭhita (通受分) ……の上に立ちたる; 監督せられたる; 指揮せられたる, 支配せられたる; 建設せられたる; 占領せられたる; 鼓舞せられたる。 → *Sṭhā*. 承; 所護, 爲護, 守護, 遮護, 所護持; 所加, 加

持, 所加持, 加護, 加被, 所加護, 爲所加; 所持; 所著, 所魅著, 所執, 所執持; 所念, 護念, 所護念; 所使; 威力加持; 所建立; 所扇惑; 守掌防護, 遮捍守護; 攝受, 攝受神變 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vijñ-v.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Sam-r.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.* → *māra* ~; 處 *Lal-v.*; 起 *Sikṣ.*; 對 *Laṅk.*: *jinendrena* ~ 對佛 *Laṅk. 4.*, *buddhādhiṣṭhāna* ~ 於如來前 *Laṅk. 50.*

adhi-ṣṭhitatva ㊦ 護念, 所建立 *Saddh-p.*
adhi-ṣṭhitavat ㊦ 上に坐せる, 登れる, 乗れる.
adhi-ṣṭheya ㊦ 支配せらるべき.
adhi-sam-Vṛt, → *Vṛt.*
adhi-senā-pati ㊦ 總司令, 總帥.
adhi-stanam ㊦ 胸に近く.
adhi-sthāna ㊦ [= *adhiṣṭhāna*]; 教 *Lal-v.*: *bodhisattva* ~ *ena* 奉菩薩教 *Lal-v. 237.*
adhi-syada ㊦ 極めて速き.
adhi-hasti ㊦ 象の背に.
adhi-Hṛ, → *Hṛ.*
adhī(*adhi-I*) *adhyeti.* → *I.*
adhīk ㊦ [= *adhi+I*].
adhi-kāra ㊦ (於)の管理, 處置; 能力, 才能.
adhikṣ (*adhi-Īkṣ*), → *Īkṣ.*
adhīta ㊦ 研究せられたる; 讀誦せられたる; 教へられたる. → *I.*; 學, 識, 通利 *Av-s.*, *Divy.*: *pūrva-janma* ~ 自識宿命 *Divy. 620.*
adhīti ㊦ 研究; 勉強.
adhītin ㊦ (於)に就て多讀せる, 博覽の; (經典を) 研究する.
adhina (*adhi-ina*) ㊦ ……に横はる; (一)に従ふ; ……に頼る; 依, 依止, 依託; 屬, 依屬, 繫屬; 隨, 隨順; 由力; 從 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Rāṣṭr.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*: *a-para* ~ 不從他 *Sikṣ. 292*; *pratyaya* ~ 依託衆緣 *Bodh-bh. 190*; *eka-kāraṇa* ~ 繫屬一因 *Madhy-v. 567.* → *saṃgha* ~.
adhinatva (*adhi-in°*) ㊦ 從屬.
a-dhira ㊦ 確乎たらざる; 不定の, 怯懦なる.
a-dhiratā ㊦ 優柔不斷.
a-dhiram ㊦ 懸念して.
adhirākṣa ㊦ 美しき眼を有する.
adhi-vāsa ㊦ 外套.
adhīsa (*adhi-īsa*) ㊦ 長, 君主.
adhīsatā (*adhi-īś°*) ㊦ 主權.
adhīsitṛ (*adhi-īś°*) ㊦ 主權者, 君主.
adhīṣ 1. (*adhi-Iṣ*) *adhyeṣayati*(便役). → *Iṣ 1.*
adhīṣ 2. (*adhi-Iṣ*) *adhyeṣate.* → *Iṣ 2.*
adhīṣṭa ㊦ 親しく師に教を乞ふこと. ㊦ 教, 令; 請, 勸請 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Sukh-vy. I.* → *an* ~.
adhunā ㊦ 今; 今, 今時, 現, 現在 *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Rāṣṭr.*, *Sātr.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*, 梵雜; 如是(?) *Mvyut.*
adhunātana ㊦ (女 -i) 今の.
a-dhur ㊦ 最上ならざる地位.
a-dhūvat ㊦ 動かざる, 激動せざる (*Divy.*).
a-dhūmaka ㊦ 煙なき.

a-dhṛti ㊦ 不確實, 移り氣; 臆病.
a-dhṛṣṭa ㊦ 侵し得ざる; 謙遜なる, 差し入れる.
a-dhṛṣya ㊦ 近づき難き; 不能摧, 得難摧, 不能壞, 不所壞, 不能壞亂 *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*,
a-dhenu ㊦ 乳の出でざる牝牛. ㊦ 不妊の.
a-dhairya ㊦ 不安定, 怯懦.
adho'mśuka ㊦ 下著(?).
adho'kṣa ㊦ 車軸の下にある, 即ち車軸に到達せざる.
adho'kṣa-ja ㊦ 車軸の下にて生れたる. ㊦ [*Viṣṇu* 神の稱].
adho-gata ㊦ 下れる; 低頭せる.
adho-gati ㊦ (地獄へ)墮つること; 沈むこと. ㊦ 降り行く, 地獄に行く.
adhō-gamana ㊦ 下降.
adho-dig-bhāga ㊦ 下方分, 下方方處 *Vijñ-v.*
adho-diś ㊦ 下方の場處, 最下點; 下方 *Saddh-p.*
adho-dṛṣṭi ㊦ 俯見. ㊦ 見下ろす.
adho-nayana ㊦ 下に持ち來ること, 下げること.
adho-nilaya ㊦ 地獄.
adho-nivita ㊦ 聖紐を垂れ纏へる.
adho-nivi ㊦ 腰布の落ちたる.
adhōpahāsa ㊦ 同食.
adho-bāṇa ㊦ [山の名] (*Divy.*).
adho-bhāga ㊦ 下部; 身體の下部; 深部; 下方分, 極下處 *Bodh-bh.*
adho-bhūmi ㊦ 低地, 山麓; 下地, 底 *Bodh-bh.*, *Aṣṭ-pr.*
adho-bhūmika ㊦ 下地 *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*
adhobhūmi-samatikrānta ㊦ 已超下地 *Bodh-bh.*
adho-mukha ㊦ (女 -i) 下向の, 下方の; 下首, 低頭 *Madhy-v.*, *Mvyut.* ~ *m Kṛ* 翻側 *Divy.*
adhōmukha-mukha ㊦ = *adho-mukha.*
adhōmukhi-bhavat ㊦ 現分 ㊦ 向下, 低 *Vijñ-v.*
adhōmukhi-BHū, 面を俯す.
adho-mūrdhatā ㊦ 倒相, 倒住相, 仰住相 *Daś-bh.*
adho-vṛtti ㊦ 下轉, 下生 *Abh-vy.*
adho'vekṣin ㊦ 見下ろす.
a-dhauta ㊦ 洗はれざる; 非杜多(行)(音寫) *Sikṣ.*
adhy-aṃsā ㊦ 肩を下にして臥する.
adhy-akṣa ㊦ 認めらるべき. ~ *m* ㊦ 見, 現見, 現見 *Bodh-bh. 231.* ㊦ 目撃者; 監督者, 檢閱者; 眼目 *Mvyut.* ㊦ 知覺.
adhy-akṣaram ㊦ 音綴に關して.
adhy-agni ㊦ 火の前に(特に結婚式に於て).
adhy-Aj, → *Aj.*
adhy-adhikṣepa ㊦ 不當の譴責.
adhy-adhina ㊦ 全く從屬せる. ㊦ 奴隸.
adhy-adhvam ㊦ 途上に.
adhy-antena ㊦ (爲)に緊密に, 密接して.
adhy-ayana ㊦ (師の許に行くこと), 學問, 讀誦(特に *Veda* の), (從)より學ぶこと; 讀誦, 誦誦,

念誦, 正勤 *Divy.*, *Lal-v.*, *Siks. Sāṃkhy-k.*, *Mvyut.*
adhyayana-saṃpradāna ㊦ 學問の指導.
adhyayanādāna (°na-ād°) ㊦ (從)より教を受くること.
adhy-ārtha-śatikā-prajñāpāramitā ㊦ [經名]
 = prajñāpāramitā-naya-śatapañcāśatikā.
adhy-ardha ㊦ 一つ半; ㊦ 一半, 一個半 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
adhyardha-guṇa ㊦ (從)より一倍半強き.
adhyardha-śata ㊦ 百五十の.
adhy-arhaniya ㊦ 甚だ尊敬に價せる.
adhy-ava-Sā adhyavasyati. → Sā 2.
adhy-avasāna ㊦ 決心; 堅忍; ㊦ 著, 耽著, 貪著, 味著, 染著, 取著; 樂, 樂著, 愛樂, 貪樂, 貪心 *Lank.*, *Daś-bh.*, *Siks.*, *Rāṣṭr.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Vijñ-t.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*: ~m āpannaḥ 生耽著 *Mvyut.*; 熏 *Lank.*
adhyavasāna-gata ㊦ 執著, 耽著, 深起貪著 *Bodh-bh.*
adhy-avasāya 1. ㊦ = adhyavasāna; (世俗物に對する)執着 (*Divy.*); ㊦ 解, 決智 *Sāṃkhy-k.*; 著, 耽著, 貪著 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*: ~m āpannaḥ 深生耽著, 貪著依止 *Aṣṭ-pr.* 781.
adhy-avasāya 2. (不變分) ……に結びつけられて, ……に著して.
adhy-avasāyita ㊦ 堅く決心せる. → Sā 2.
adhy-avasāyin ㊦ (一°)に決せる, ……と決心せる.
adhy-avasita (過受分) → Sā 2.; ㊦ 貪, 所貪, 大貪, 著, 耽著, 住著, 樂著, 貪著, 求, 貪求, 遍執著, 具増上貪, 深生耽著; 耽嗜; 習 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-t.*, *Siks.*, *Mvyut.*
adhy-avaseya (未受分) 専ら思ひ耽らるべき.
adhy-As, → As 2.
adhy-Ah adhyāha(三過). → Ah.
adhy-ākāśam ㊦ 空中に.
adhy-ā-Kram, → Kram.
adhy-ākramaṇa ㊦ 踏み越ゆること (*Jāt-m.*).
adhy-ākraṇta (過受分) ㊦ 有大勢力 *Saddh-p.* 377.
adhy-ā-Gam, → Gam.
adhy-ā-Car adhyācarati. → Car.
adhy-ācaraṇa ㊦ 修行; 所犯 *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*
adhy-ācāra ㊦ 範圍, 區域; ㊦ 修行 *Bodh-bh.*; 犯, 犯事 [*Pāli.* ajjhācāra] *Abh-vy.* 457. → an ~.
adhy-ācāratā ㊦ 現行 *Bodh-bh.*
adhyāṇḍā ㊦ [植物の名, 學名 *Carpopogon Pruriens*, *Flacourtia Cataphracta*].
adhy-ātma ㊦ 自己の, 自己に特有なる; ㊦ 自, 内 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Mvyut.* ~m ㊦ 自己又は個性に就て; ㊦ 内 *Abh-vy.* ㊦ 至上の靈, 行動の作因としての靈; ㊦ 内, 内自, 內心 *Lank.*, *Lal-v.*
adhy-ātmaka ㊦ 自, 内 *Lank.*, *Bodh-bh.*
adhy-ātma-drṣṭi-nilaya ㊦ 內身邪見, 內我見 *Lank.*
adhy-ātma-bala ㊦ 自力 *Bodh-bh.*

adhy-ātma-bahirdhā-śūnyatā ㊦ 內外空 *Mvyut.*
adhy-ātma-bāhya ㊦ 内外 *Lank.*
adhy-ātmabāhya-śūnyatā ㊦ 内外空 *Madhy-vibh.*
adhy-ātma-rata ㊦ 內證 *Divy.*
adhy-ātma-rati ㊦ 最高精神に關する既想を好める者.
adhy-ātma-rūpa-saṃjñin ㊦ 內無色(想) *Dharm-s.*
adhy-ātma-vikṣepa ㊦ 內散亂, 內散動 *Madhy-vibh.*
adhy-ātma-vidyā ㊦ 宇宙精神の學; 我に關する智; ㊦ 內明 *Mvyut.*
adhy-ātma-śūnyatā ㊦ 內空 *Madhy-vibh.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*
adhy-ātma-saṃstha ㊦ 內住 *Sūtr.*
adhy-ātma-samāpanna ㊦ 內心實智, 內自覺悟 *Lank.*
adhy-ātmika ㊦ 最高我の; ㊦ 內 *Lank.*
a-dhyāna ㊦ 非禪 *Lank.*
adhy-āpaka ㊦ 教師, 學匠; ㊦ 誦誦 *Divy.* 620.
adhy-āpatti ㊦ 造, 行 *Gaṇḍ-vy.*; 犯, 犯極重(戒) *Abh-vy.*: pāpa-karma ~ 造惡業, 行惡業 *Gaṇḍ-vy.* 264.
adhy-ā-Pad adhyāpadyate, adhyāpadya(不變分). → Pad.
adhy-āpana ㊦ 教; ㊦ 出言, 令念誦 *Mvyut.*
adhy-āpaya ㊦ [adhi-I].
adhy-āpya (未受分) 教へらるべき.
adhy-āya ㊦ 讀書, 學習(特に聖典の), 學習に適せる時; 章; ㊦ 說品 *Mvyut.*
adhy-āyaka ㊦ ㊦ *Veda* を學習せる(者).
adhy-āyana ㊦ [正しくは adhyāpana]; ㊦ 令念誦 *Mvyut.*
adhy-ārāma ㊦ 僧房, 僧伽藍 [*Samghārāma* の音寫] *Prāt-m.*
adhy-ā-Ruh adhyārohati, adhyāropayati(硬役). → Ruh 2.
adhy-āropa ㊦ 誤れる斷定(語); 高むること; ㊦ 増益, 増足 *Abh-vy.*
adhy-āropaṇa ㊦ 弓に弦を張ること; 高むること.
adhy-āropaṇā ㊦ 誤りて屬性を寄託すること(語).
adhy-āropita (過受分) 誤りて寄託せられたる [*Ved-ānta* 語]; ㊦ 増益, 増加 *Abh-vy.*
adhy-ā-Lamb adhyālabate. → Lamb.
-adhy-ālamba ㊦ 觀 *Daś-bh.*
adhy-ālambana ㊦ 緣, 所緣, 爲所緣, 勝所緣; 得, 欲得, 逮得; 求, 能求; 觀, 現觀; 緣慮; 甚思, 餘思, 思念; 所緣増上, 増上所緣; 能樂觀察 *Gaṇḍ-vy.*, *Sapt-pr.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
adhy-ālambanātā ㊦ 攀緣, 勝所緣, 増上所緣; 趣求 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
adhy-ālambitavya (未受分) ㊦ 生, 應求 *Aṣṭ-pr.*: ~m maṃsyante 願生 *Aṣṭ-pr.* 493.
adhy-ā-Vas adhyāvasati. → Vas. 3.

adhy-āvasana ④ 鎮 *Abh-vy.* 579.
adhy-āvāsa ④ 住處, 寄宿處 *Prāt-m.*
adhy-āvāhanika ④ (生家より婦女の)持參せる財産.
adhy-āsaya ④ 意向, 欲望, 願望, 傾向 (*Divy.*); 高潔なる心; ④ 所樂, 樂欲, 欲樂, 意樂, 勝故意, 勝意樂, 心所欲樂, 増上意樂, 志樂, 殊勝志樂; 心, 志心, 至心, 誠心, 正心, 一心, 正直心, 正直深心, 深心, 深固心, 深(淨)心, 深心所念, 増上深心, 増上心, 心念; 誓, 願, 増上願(力); 志高, 高志, 餘志, 志性, 志意; 正信; 至誠; 深求 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Daś-bh., Sam-r., Kāśy., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
adhyāśaya-citta ④ 深固心 *Śikṣ.*
adhy-āśayatva ④ [adhy-āśayaの] (④) (*Jāt-m.*).
adhyāśaya-prayoga ④ 意樂加行 *Bodh-bh.*
adhyāśaya-bala ④ 増上深心力, 増上意樂力 *Mvyut.*
adhyāśaya-mahattva ④ 淨心大, 増上意樂大性 *Bodh-bh.*
adhyāśaya-śuddhi ④ 淨心, 淨勝意樂, 清淨増上意樂 *Bodh-bh.*
adhyāśayaśuddhi-bhūmi ④ 淨心地, 清淨意樂地 *Bodh-bh.*
adhyāśaya-samcodana-sūtra ④ [經名] 深心教誡經 *Śikṣ.*; [發覺淨心經, 發勝志樂會(大寶積經第二十五會)].
adhyāśaya-sampanna ④ 多欲 *Aṣṭ-pr.*
adhy-Ās, → *Ās* 4.
adhy-āsa ④ 置くこと; 誤れる断定; = *adhyāropa* (④); 附加.
adhy-āsana ④ 住處, 席, 座; ……の上に坐すること.
adhy-āsita 1. ④ 便役 (④) → *Ās* 2.
adhy-āsita 2. ④ → *Ās* 4. ④ ……の上に坐すること.
adhy-āsitavya ④ 引受けらるべき, 企てらるべき.
adhy-āsin ④ ……の上に坐したる, 坐する.
adhy-āsina ④ ……の上に坐したる.
adhy-āhāra ④ 補足, 補遺.
adhy-āhāriṇi-lipi ④ [書體の一種] (*Lal-v.*).
adhy-āhārya ④ 補はるべき.
adhy-ā-Hṛ, → *Hṛ* 1.
adhy-āhṛta ④ 論ぜられたる, 論證せられたる, 主張せられたる; 供給せられたる; ④ 引, 所引, 所引起 *Abh-vy.*
adhy-upekṣ (pa-Īks) *adhyupekṣate(-ti).* → *Īks.*
adhy-upekṣaṇā ④ 捨, 行捨, 棄捨 *Bodh-bh.*
adhy-upekṣā ④ 無視, 輕視, 無關心 (*Jāt-m.*); ④ 棄捨, 捨離 *Bodh-bh.*
adhy-uras ④ 胸の上に.
adhy-uṣita ④ → *Vas* 3. ④ 置; 住, 先住, 住處; 位, 位所 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Mvyut.:* pūrva-jina- ~ 昔主位所, 昔諸佛住處 *Mvyut.*; 行住坐臥 *Divy.:* pradeśā ~ ās 行住坐臥處 *Divy.* 389.
adhy-ūḍha ④ [Ūh 1.] (④)に置かれたる.
adhy-Rdh, → *Rdh.*

adhy-etavya ④ 學ばるべき, 讀まるべき.
adhy-edhita ④ 強化せられたる, 増大せる.
adhy-eṣ (*adhi-ā-Iṣ*) *adhyeṣate.* → *Iṣ.*
adhy-eṣaka ④ 勸請 *Lal-v.*
adhy-eṣaṇa ④ 願望, 請求; ④ 請, 勸請 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.:* ~ yācana 勸請 *Śikṣ.* 361.
adhy-eṣaṇā ④ 請, 勸請, 啓請 *Lank., Śikṣ., Bodh-bh.*
adhy-eṣita ④ 受請, 歸請, 受啓請 *Saddh-p., Lank.*
adhy-eṣṭa ④ [adhi-ā-Iṣ 2.]; ④ 勸 *Lal-v.*
adhy-eṣya ④ 請 *Śikṣ.* (不変分) ④ 勸 *Bodh-bh.*
adhy-eṣyamāṇa ④ 勸請, 勸請 *Bodh-bh.*
adhy-oṣita ④ 俗 [< *adhyavasita*]; ④ 堅著 *Saddh-p.* 48.
a-dhri ④ 抵抗し難き.
a-dhriḡu ④ 制御し難き, 抗し難く進む. ④ [人名].
a-dhruva ④ 堅固ならざる, 無常の; 不確實なる; ④ 無常, 無強, 無止息 *Lal-v., Śikṣ.*
adhva-kheda ④ 旅疲れ.
adhva-ga ④ 旅の; ④ 行者, 遠行 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy.* ④ 旅人; 駱駝.
adhva-gacchat ④ 旅人 (*Jāt-m.*).
adhva-gaṇa ④ [恐らくは *adhvaga-gaṇa*] 旅人の群 (*Divy.*).
adhva-gata ④ 人生の行路を果したる(人), 定壽を越えたる人, 老人 (*Mah-v.*); ④ 過時, 晩年 *Mvyut.*
adhvaga-veśa ④ 旅裝の.
adhva-traya ④ 三世 *Lank., Gaṇḍ-vy.*
adhva-darśin ④ 案内者.
adhvan ④ 路; 旅行, 徘徊; 距離; 時 (*Lal-v.*); ④ 路, 道路, 世路; 行旅; 世; 時 *Divy., Sapt-pr., Lal-v., Vajr-pr., Rāṣṭr., Prajñ-h., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.:* atito ~ 過去世, anāgato ~ 未來世 *Madhy-vibh.* 157., anāgate ~ ni 來世, 當來世 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr.;* trayo 'dhvānaḥ 三世 [1. atitaḥ 過去, 2. pratyutpannaḥ 現在, 3. anāgata-kālaḥ 未來時] *Mvyut.*
adhvanina ④ 旅人, 放浪者.
adhvanya ④ 旅人, 放浪者.
adhva-pa ④ 道路の番人.
adhva-parīśrānta ④ 行路疲乏 *Bodh-bh.*
adhvā-mārga ④ 行路, 行道 *Prāt-m.*
adhvara ④ 宗教の儀式, 供儀, Soma の供儀.
adhvara-ga ④ 祭式の爲の.
adhvaryu ④ 供儀の實務をなす祭官 [Adhvaryu 祭官]; *Yajurveda*に通ぜる祭官.
adhva-vinirmukta ④ 非世 *Abh-vy.*
adhva-śrama ④ 旅の疲勞.
a-dhvasta ④ 崩壊せざる, 破壊せられざる.
adhvādhipa ④ (道路即ち)世の治安を守る者.
adhvāna ④ = *adhvan.*
adhvāna-mārga ④ 行路, 行道 *Prāt-m.*
adhvānamārga-samaya ④ 道行時 *Prāt-m.*

-adhvika 形 世 *Abh-vy.*
adhvornodhi (°va-ūrṇa-ūdhi) 因 道中撥毛布 *Mvyut.*
An, II. 他 **aniti** 呼吸す。
apa- 吐く。
abhy-apa- 息を吹きかく。
pra- 呼吸す; 吹く。
anu-pra- ……の後より……に息を吹く。
abhi-pra- 吸ひ込む。
vi- 呼吸す。
sam- 呼吸す。
anu-sam- ……に向ひて又は……の後より呼吸す, 息を吹きかく。
 ・ [母韻の前の否定的 (後頭)]; 不, 未, 非, 無, 無有, 斷, 離 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Saddh-p., Daś-bh., Lan̄k., Bodh-bh., Mvyut.* 等。
ana 1. 男 呼吸。
ana 2. 代 (三入) この [例] *anena, anayā, anayos.*
an-amśa 形 配分なき, 部分なき。
an-akāma-māra 形 認可を得ざれば殺さる。
an-akṣaka 形 盲目の; 無目 *Mvyut.*
an-akṣa-jña 形 博戯を知らざる。
a-nakṣatra-gaṇa 形 星辰なき。
an-akṣara 形 無音の, 沈黙の; 非字, 非文字, 無名字, 離文字 *Lan̄k.* ~m 無言にて。
an-akṣaratva 中 無字, 離文字 *Lan̄k.*
an-akṣara-patita 形 不墮文字, 不著名字, 不墮於文字 *Lan̄k.*
an-akṣi 中 悪き眼。
an-akṣi-gata 形 (刺の)眼に入らざる。
an-agārika 形 男 非家 *Sam-r.:* *agārād* ~m *niskramanti* 出離於家入於非家 *Gaṇḍ-vy. 239.*
an-agārikā 女 苦行者の出家生活; 非家 *Sam-r., Bodh-bh.:* ~m *vā pravrajitasya* 趣非家, 非家 出家 *Bodh-bh. 80.*
a-nagna 形 裸ならざる, 露はならざる。
a-nagnatā 女 裸體ならざること。
an-agni 形 火なき; 聖火を持続せざる。
an-agnika 形 火なき, 火にて觸れられざる。
an-agni-dagdha 形 火にて焼かれざる, 火葬に附せられざる。 男 [亡霊の一種]。
anagni-lakṣaṇa 形 無火相 *Madhy-vibh.*
an-agma 形 罪なき, 非難なき; 傷けられざる; 少惱; 離垢, 無患難 *Lal-v., Saddh-p.*
an-aghā 女 [河の名]。
an-aṅkurita 過受分 發芽せざる。
an-aṅkuśa 形 鉤に隨はざる, 制御し難き。
an-aṅga 形 無體の, 實體なき。 男 愛神 *Kāma* [Siva 神の眼より出でたる火の爲に灰燼となれるが故にかく稱せらる]; 非支, 非支分 *Lan̄k.*
an-aṅgaka 男 精神。
anaṅga-kridā 女 嬉戲; [音律の一種]。
anaṅga-jit 形 [佛の異名] 調無形 *Mvyut.*
an-aṅgaṇa 形 無煩惱, 無垢聲, 無有貪者 *Daś-bh., Mvyut.* → *anaṅgana.* 男 [長者の名] 天分 *Divy.*

an-aṅgatva 中 無體。
an-aṅgada-niṣka-dhṛk 形 腕環も胸飾も著けざる。
anaṅga-dviṣ 男 [Siva 神の稱]。
an-aṅgana 形 無染, 無翳 *Lal-v.* → *anaṅgana.*
anaṅga-pura 中 [都城の名]。
anaṅga-mañjari 女 [人名]。
anaṅga-rati 女 [人名]。
anaṅga-lekhā 女 艶書; [人名]。
an-aṅgavati 女 [人名]。
anaṅga-vidyā 女 愛の巧み。
anaṅga-sena 男 [人名]。
anaṅgi-kṛta 形 同意せられざる; 無視せられたる, 輕視せられたる。
an-aṅguri 形 指の缺けたる。
an-aṅguli 形 [同上]; 無指者 *Mvyut.*
an-aṅgulyaka 形 指環なき。
anaṅgodaya (°ga-ud°) 男 [人名]。
an-aṅjana 形 眼膏なき。 中 空, 雰圍氣, 大氣。
an-aṅjita 過受分 眼膏を塗らざる。
anaḍud-da 形 牡牛を與ふる。
anaḍuha 男 牡牛。
anaḍuhi 女 一° 牝牛。
anaḍvah 男 [體 °dvān, 弱 弱 °duh] (車を曳くもの), 牡牛; [又罵詈の語として用ふ]。
an-aṅiyas 形 [an-aṅu の比較]。
an-aṅu 形 微細ならざる, 粗き; 非塵, 非微塵, 非阿菴(香菴) *Lan̄k.* 男 粗き穀物。
an-aṅdaka 形 無卵 *Mvyut.*
an-atikṛcchrena 具 大なる困難なくして。
an-atikrama 男 無犯, 無抵觸, 限度を越えざること; 次 梵千。
an-atikramaṇa 中 [同上]。
an-atikramaṇiya 未受分 避くべからざる; 等閑視すべからざる, 犯すべからざる; 不可違犯 *Mañj-m.*
an-atikrāmat 現分 抵觸せざる, 犯さざる。
an-atikruddha 過受分 (屬)を極度に憤らざる。
an-atitrasnu 形 甚しく臆病ならざる。
an-atithi 男 賓客ならざる者。
an-atidagdha 過受分 全く焼き盡されざる。
an-atidarśana 中 希有なる示現。
an-atidūre 於 餘り遠からざる處に。
an-atidbhuta 形 凌駕せられざる, 卓越せる。
an-atipakva 過受分 熟し切らざる。
an-atipātya 未受分 等閑に附すべからざる。
an-atipīdam 副 軽く壓して。
an-atiprakāśaka 形 光輝甚しからざる。
an-atiprakāśakatva 中 [同上]。
an-atipraśnya 形 限度を超えて質問すべからざる。
an-atipraudha 過受分 完全には發達せざる。
an-atibhaṅgura 形 甚しき縮毛ならざる。
an-atibhoga 男 適度の使用。
an-atirikta 過受分 過度ならざる。
an-atilambin 形 さほど遙かに懸垂せざる。
an-atilulita 過受分 靜かに動かされたる, 靜かに觸

れられたる。
an-atilolam 副 餘り迅速ならず。
an-ativalita 過受分 甚しく圓からざる(腹部)。
an-ativelam 副 程なく。
an-atīṣāṅkā 女 劇しからざる恐怖。
an-atīṣayaniya 未受分 超越し得ざる。凌駕せられ難き。
an-atita 過受分 未だ過ぎ去らざる。
an-atyārdra 形 餘り濡れざる。
an-atyāśa 男 適度の食事。
an-adat 現分 食を攝らざる, 食ひ盡さざる。
an-adbhuta 形 不思議ならざる。中 不思議ならざること。
an-adyatana 男 今日(子)に非ざること; 同一日に非ざること。形 今日(子)を含まざる。
an-adhika 形 より優れたるものなき; 増大せられざる, 加へざる; 無限の; 完全なる; 漢譯 不多; 無増, 不増 *Laṅk., Saddh-p., Sūtr.*
an-adhikatva 中 = *avisīṣṭatā*; 漢譯 無増 *Madhy-vibh.*
an-adhikāra 男 無權威, 無權力。
an-adhikāritva 中 能力なきこと, 資格なきこと
an-adhikṛta 過受分 議題に上らざる。
an-adhikṛtatva 中 [同上]。
an-adhigata 過受分 達せざる, 到らざる; 讀まれざる; 漢譯 未證, 未得者, 未得修行者 *Laṅk.*
an-adhigamaniya 未受分 (國)によりて到達すべからざる。
an-adhigamya 未受分 [同上]。
an-adhimukti 女 漢譯 無信解, 無有信心 *Rāṣṭr.*
an-adhimūrchita 過受分 執著せざる, 物事に無關心なる態度の (*Jāt-m.*)
an-adhimūrchitatva 中 [同上]。
an-adhimokṣa 男 漢譯 不信解 *Bodh-bh.*
an-adhiśraya 形 住まれざる, 人なき。
an-adhiṣṭhāna 中 不在; 無主宰, 無支配; 漢譯 非處, 非住持, 無所障礙 *Gaṇḍ-vy., Laṅk.*
an-adhiṣṭa 過受分 教を請はざる (*Divy.*); 漢譯 不請 *Daś-bh.:* ~ *kalyāna-mitra* 不請友, 不請之友 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh.*
an-adhyakṣa 形 知覺すべからざる。
an-adhyayana 中 學習の等閑。
an-adhyavasāya 男 不決斷, 躊躇; 誤れる判斷。
an-adhyavasita 過受分 決斷せざる (*Jāt-m.*); 漢譯 不習; 不貪, 不生貪著, 無所貪著 *Bodh-bh.*
an-adhyācāra 男 漢譯 不犯 *Bodh-bh. 181.* → *āpatty* ~。
an-adhyātma-vid 形 至上精神に無知なる。
an-adhyāya 男 學習の禁止; 學習の停止。
an-adhyāyin 形 學習せざる。
an-adhyupekṣā 女 漢譯 不捨離 *Bodh-bh.*
an-adhvan 男 漢譯 非世, 無世, (無爲)非世 *Laṅk., Abh-vy.*
an-adhvanya 形 (於)に通ぜざる。
an-anukampaniya 未受分 憐愍せられざる。
an-anukūla 形 快からざる, 不都合なる。

-an-anugama 形 漢譯 無 *Aṣṭ-pr.:* *anta-dvaya* ~ 無二邊 *Aṣṭ-pr. 450.* → *anugama.*
an-anugraha 男 漢譯 不能益 *Abh-k.*
an-anujñāta 過受分 許されざる, 贊成せられざる, 否定せられたる; 漢譯 未差, 未請, 未分付 *Mvyut.*
an-anutāpya-dāyin 形 漢譯 等施無悔, 施已無悔 *Bodh-bh. 274.*
an-anutiṣṭhat 現分 (事を)運ばざる, 爲さざる, 行はざる。
an-anudhyāyin 形 何物も失はざる; 狡猾ならざる。
an-anubhāvaka 形 了解すべからざる。
an-anubhāvakatā 女 [同上]。
an-anubhūta 過受分 了解せられざる, 經驗せられざる, 知られざる; 漢譯 不受 *Laṅk.*
an-anumeya 未受分 推理せられざる。
an-anuyāyitā 女 漢譯 不隨行性。
an-anuyoga-kṣama 形 論駁に對し對抗し得ざる (*Jāt-m.*)
an-anurūpa 形 不適當なる; 漢譯 不順 *Bodh-bh.*
an-anurūpatva 中 漢譯 不順 *Bodh-bh.*
an-anuvṛtti 女 (國)に對する不從順。
an-anuvrata 形 專心ならざる, 不從順なる。
an-anuṣṭhātr 形 施行せざる, 履行せざる。
an-anuṣṭhātrva 中 不履行。
an-anuṣṭhāna 中 等閑; 怠惰; 漢譯 不隨建立 *Bodh-bh.*
an-anusamdhāna 中 無調査, 無研究。
an-anusaraṇa 中 供奉の闕除; 不遵奉。
an-anusūyā 女 漢譯 無不安, 無忍 *Mvyut.*
an-anūkta 過受分 (師に就きて)學ばざる; ……に應ぜざる。
an-anūkti 形 (*Veda*を)學習せざる。
an-anūcya 未受分 學習せずして。
an-anūthāna 中 不隨從。
an-anṛta 形 眞實なる。
an-anta 形 終なき, 極限なき; 漢譯 無量, 無數, 普遍, 無窮, 無窮盡, 無有涯, 無邊, 無邊際 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Śikṣ., Saddh-p., Rāṣṭr., Sūtr., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* 男 [*Viṣṇu*神, *Seṣa*, 其の他の人名]; 漢譯 [龍王の名] 無邊 *Mvyut.*
ananta-aupamyā-nidarśana [音運, =^ontaup^o] 中 漢譯 顯示現無量譬喩 *Saddh-p.*
an-antaka 形 無限の, 涯なき; 漢譯 無量 *Saddh-p.*
ananta-kara 形 無限ならしむる。
ananta-kalpa-koṭi 女 漢譯 萬億劫 *Mvyut.:* ~ *niḥsaraṇa-kuśala* 能出萬億劫 *Mvyut.*
ananta-kirti 男 [人名]。
ananta-koṭi 女 漢譯 無邊際 *Laṅk.*
ananta-guṇa 形 無限の徳を有する, 無限に大なる; 漢譯 無量功德, 功德量無邊 *Suv-pr.*
ananta-guṇatā 女 無限に大なること。
anantaguṇa-saṃpanna 形 漢譯 具一切功德, 衆徳皆圓滿 *Gaṇḍ-vy.*
ananta-cāritra 男 漢譯 [菩薩の名] 無邊行, 無量行 *Saddh-p.*

ananta-cchadin 形 無数の軀(?)を有する。
ananta-jñāna 形 無量智, 智無量 *Mvyut.*
an-antatā 女 無終, 無限; 相續 *Gaṇḍ-vy.*
an-antatva 甲 [同上].
ananta-nirdeśa-pratiṣṭhāna 形 [Samādhi の名] 無量義處 *Saddh-p. 5.*
ananta-nemi 男 [Mālava 王の名, Sākyamuni と同時代の人]; [王の名] 無邊軀 *Mvyut.*
ananta-pada 甲 *Viṣṇu* 神の通路, 虚空。
ananta-pariṣad-abhibhāvana 形 降伏無量眷屬, 處無邊衆威德肅然 *Mvyut.*
an-anta-pāra 形 其の終局に達せざる; 無邊際, 無有際, 邊際(亦)不可得 *Sūtr., Suv-pr.*
ananta-prabha 形 [Samādhi の名] 無邊光 *Mvyut.*
ananta-buddha-kṣetrākramaṇa-kuśala (°ra-āk°) 形 善遊無量佛土 *Mvyut.*
ananta-mati 男 [王子の名] 無量意 *Saddh-p.*; [菩薩の名] 無邊意 *Rāṣṭr.*
an-anta-madhya 形 邊と中とのなき; 無邊, 無量, 無量無邊, 無邊中, 無中邊 無中央及邊際 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*: ~ buddhabhūmi-samatā'dhigata 獲佛平等無中邊之地, 證無中邊佛地平等, 佛平等亦無中央及邊際 *Mvyut.*
an-anta-madhya-vipula 形 廣博無量無邊, 廣博無有邊際 *Gaṇḍ-vy.*
ananta-mukha-nirhāra-dhāraṇi 女 [經名] 無量門陀羅尼經 *Sikṣ.*; [一向出生菩薩經, 出生無邊門陀羅尼經].
ananta-yaśa 甲 大名稱 *Lal-v.*
an-antara 形 中間なき, 直接續ける, 次の; 次の低き階級に屬する; 後, 次後, 無間 *Lank., Abh-vy.* ~ m 副 直ちに, やがて; その時, 後に; (後, 一°)の後直ちに; 則, 即; 後, 次, 次後; 無間; 此近, 不遠, 於此近處 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Lank., Abh-vy., Bodh-bh.* 甲 次第 *Madhy-v.*
anantara-ja 形 次に年長の, 次の種姓(階級)の婦女との間に生れたる。
anantara-janman 甲 無間生 *Mvyut.*
anantara-jā 女 妹。
anantara-jāta 形 = anantara-ja.
an-antara-jña 形 相違又は差別を知らざる。
an-antarāya 形 中斷せられざる。 ~ m 副 連続して, 破るゝことなく。
an-antariya 形 [anantariya]; 無間 *Gaṇḍ-vy.*
an-antariya 形 重罪又は極罪に關する(佛敎).
an-antariyaka 形 無間 *Mvyut.*
an-antarvāsas 形 下著(?)なき。
an-antavat 形 = anantaka; 無邊 *Ast-pr., Mvyut.*
ananta-varṇa 男 廣讀 *Saddh-p.*
ananta-varṇa-ratna 甲 色無量寶; 寶色無量 *Mvyut.*
ananta-varṇā 形 女 無邊色 *Mvyut.*
ananta-vijaya 甲 [Yudhiṣṭhira の螺貝の名].

ananta-viryā 女 [佛敎] 天女の名。
ananta-śakti 形 無限の力ある, 大自在力ある。 男 [人名; 王の名].
ananta-śiṣya-gaṇa-suvinita 形 具足良善弟子無邊海會, 徒弟具積無邊 *Mvyut.*
ananta-śubha-nayana-keśarin 男 無邊目獅子, 善無邊目獅子 *Mvyut.*
ananta-sira 男 [人名].
an-antā 女 [佛敎] 天女の名。
anantāparyanta 形 無邊, 普無邊, 無量無邊, 無邊無際, 畢竟無邊, 普徧無量無邊 *Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
anantāloka (°ta-āl°) 形 得無量明, 光明無際, 無量智光 *Gaṇḍ-vy.*
anantāvartā (°ta-āv) 女 無邊旋, 盤無際 *Mvyut.*
an-antika-stha 形 近くに止らざる。
an-antya 形 無限の, 永久の。 甲 無終, 無限。
a-nanda 形 喜びなき, 不愉快なる。 男 複 [世界の名].
an-andha 形 盲目に非ざる。
an-anna 甲 食餌とならざるもの; 禁ぜざられたる食物。
an-anna-pāna 形 非飲食 *Lank.*
an-anya 1. 形 (於)に専ら心を傾けたる。
an-anya 2. 形 (從)と異ならざる; 一, 即, 不離, 不異, 無有異 *Lank., Saddh-p., Bodh-bh.*
ananya-karman 形 無他事, 棄捨所作業 *Saddh-p.*
ananya-kārya 形 他に爲すべきことなき。
ananya-gati 形 他の保護を有せざる, 寄る邊なき。
ananya-gatika 形 [同上].
ananya-gatitā 女 寄る邊なきこと。
ananya-gāmin 形 他に行かざる; 無異行, (正性)無異行; 正趣 *Gaṇḍ-vy.*
ananya-guru 形 他に父を有せざる, 父なき。
ananya-citta 形 (於)に專念する; 一心 *Saddh-p.*
ananya-cinta 形 他事を考へざる。
ananya-cetana 形 = ananya-citta..
ananya-cetas 形 [同上].
ananya-ja 形 正しく生れたる。
ananya-janman 男 [Kāma 神の稱].
ananya-jāni 形 他に妻を有せざる。
ananya-tathatā 女 無異, 不變異性, 不他自性 *Ast-pr., Mvyut.*
an-anyatā 女 同一性, 同一。
an-anyatva 甲 [同上]; 無異, 不異, 無異性 *Lank., Abh-vy.*
an-anyathā 女 無異, 不異, 無變, 無變異 *Lal-v., Saddh-p., Madhy-vibh.*
ananyathāt 副 不異 *Prāt-m.*
an-anyathātva 甲 不異, 無異, 不虛 *Lank., Mvyut.*

ananyathā-vādin 形 誤謬なく語る; 漢語 語無異, 不異語者, 所出言未曾虛妄 *Saddh-p., Vajr-pr.*
ananyathā-vṛtti 形 他の何事にも従事せざる.
an-anya-drṣṭi 形 他の何物をも見ざる. 熱心に凝視する.
ananya-deva 形 他に神を有せざる.
ananya-devata 形 他に神を有せざる. それのみを神とせる.
ananya-nātha 形 他に保護者を有せざる.
ananya-nāri-kamaniya 形 他の婦女より樂欲せられざる.
ananya-nāri-sāmānya 形 他の婦女と交はらざる.
ananya-neya 形 漢語 不由他悟, 他不能導 *Lal-v., Mvyut.*
ananya-para 形 他の何物にも專注せざる.
ananya-paratā 女 それのみに専心せること
ananya-parāyana 形 他の何人にも專注せざる.
ananya-pūrva 形 未だ他人と婚せざる.
ananya-pūrvikā 女 未婚女.
ananya-pratikriya 形 他の對策を有せざる.
ananya-bhāj 形 他の何人にも捧げざる.
ananya-bhāṣin 形 漢語 無有異說 *Sam-r.*
ananya-manas 形 他の何人をも考へざる; 注意を外らさずして練習する; 漢語 一向專, 一切專, 無異意 *Daś-bh.*
ananya-manaska 形 [同上].
ananya-mānasa 形 [同上].
ananya-rādhas 形 それのみに努力する.
ananya-ruci 形 他の何物をも好まざる.
ananya-rūpa 形 (圖)と異ならざる.
ananya-viṣaya 形 他の何物にも關係せざる; 甚だ適當なる.
ananya-vyāpāra 形 他の何事にも従事せざる.
ananya-śaraṇa 形 他の保護又は寄邊を有せざる.
ananya-śāsana 形 他の何人の命令をも受けざる, 何人にも支配せられざる.
ananya-saṃkalpa 形 漢語 無有異心 *Saddh-p.*
ananya-saṃtati 形 他に子孫なき.
ananya-sama 形 他人と異なる. 匹敵する者なき.
ananya-sādhāraṇa 形 (女 -i) 他の何人とも共通ならざる.
ananya-sāmānya 形 匹敵するものなき.
ananyā-drṣṭa 形 他のものに類せざる, 異常の.
ananyādhina 形 他に依存せざる.
ananyāpatya (或は^oya-ūp^o) 形 他に子孫を有せざる, 他に後裔なき.
ananyāśrita (^oya-ās^o) 形 他人に依らざる, 他人に渡されざる.
an-anvaya 男 連結又は聯絡の缺如; [事物とその典型との對比即ち「婦人らしき婦人」の如し 漢語]; 漢語 無合 *Nyāy-pr. 5.*
an-anviṣyat (^onu-iṣ^o) 現分 (圖)を尋ねざる.
an-apakarman 中 無釋放, 不支拂.
an-apakārin 形 害をなさざる.
an-apakṛta 通受分 害せられざる. 中 無害.
an-apakṛṣṭa 通受分 漢語 閑; 非靜, 無靜聚 *Mvyut.*

an-apakrama 男 中 不出發; 去らざること.
an-apakramin 形 去らざる, 忠實なる.
an-apakrāma 男 一處に留ること.
an-apakriyā 女 無釋放, 不支拂.
an-apaga 形 (從)より離れざる, 離反せざる.
an-apatya 形 兒なき. 中 兒なきこと.
an-apatyatā 女 兒なきこと.
an-apatrapa 形 無恥の; 漢語 無愧 *Rāstr.*
an-apatrapā 女 [同上(名)]; 漢語 無愧, 無羞 *Abh-vy., Abh-k.*
an-apatrāpya 中 =a-trapā; 漢語 無愧 *Fijñ-t., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
an-apadeśya 未受分 區別せられざる, 男女兩性の.
an-apanaya 男 不撤去.
an-apayāt 現分 遠ざからざる.
an-apara 形 他なき, 後に隨ふ者なき.
an-aparāddha 通受分 罪を犯さざる, 過誤なき.
an-aparādha 形 無罪の, 潔白なる.
an-aparādhin 形 無害の; 漢語 無罪, 無有罪 *Saddh-p.*
an-aparodha 男 無制止, 無障礙.
an-apalāpa 形 否まざる.
an-apavādaka 形 漢語 讚美 *Daś-bh.*
an-apaśabdam 副 文法上正しく.
an-apasara 形 口實を有せざる.
an-apasphurat 現分 藻掻かざる.
an-apākarman 中 不支拂.
an-apākṛṣṭa 通受分 墮落し居らざる.
an-apācina 形 錯誤なき, 無謬の.
an-apāya 形 不變の, 都合よく捗れる.
an-apāya-drṣṭa 形 災禍に遭遇せざる. 安全なる (*Buddh-c.*).
an-apāyin 形 去らざる; 存續する.
an-apekṣa 形 顧慮せざる; 獨立の; 漢語 不顧, 不顧惜, (心)無顧戀, 不觀, 無所觀惜, 不望, 不希, 無希求, 不待, 不須待, 不愛樂, 無所著, 不惜, 不貪, 不貪著, 不貪惜, 無所貪著; 棄捨, 厭捨; 忘 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-bh., Rāstr., Sūtr., Sukh-vy. I., Aṣṭ-pr., Abh-vy.:* ~h kāya-jivite 不顧於身命, 不(自)惜身命, 不惜身壽命 *Gaṇḍ-vy. 388.* ~m 圖 (一)に關せず.
an-apekṣaṇatā 女 漢語 不著, 無戀著 *Gaṇḍ-vy.*
an-apekṣatva 中 獨立; 漢語 不觀, 不待, 不須待 *Abh-vy.*
an-apekṣamāna 現分 (圖)を顧慮せざる.
an-apekṣā 女 無視; 不注意; 獨立; 漢語 無顧戀, 無貪悋, 不貪吝, 不希望, 無所慕樂 *Daś-bh.*
an-apekṣita 通受分 無視せられたる.
an-apekṣita-hetu 形 その原因を顧慮せざる.
an-apekṣin 形 (圖)を顧慮せざる; 漢語 棄捨 *Rāstr.*
an-apeta 通受分 (從)より移らざる. …より外れざる.
anapeta-kālam 副 時を移さず, 即時に.
an-apodha 通受分 押し出されざる; 棄てられざる.
an-apoddhārya 未受分 何物をも取り去らるまじき.
an-apoddhṛta 通受分 漢語 未拔; 未拔除 *Abh-vy.*

an-apnas 形 財に乏しき, 貧困なる。
an-apsaras 女 **apsaras** に非ざること。
an-abhikhyāta-doṣa 形 罪の知られざる。
an-abhigamaniya 未受分 (男) に近づき得ざる。
an-abhighāta 男 障害なきこと。
an-abhicaraṇiya 未受分 魅惑すべからざる。
an-abhijalpita 過受分 (優しき言葉にて) 慰撫せられざる。
an-abhijāta 過受分 卑陋なる, 低き。
an-abhijñā 形 無知なる; (疑, 分, 一) を知らざる; 未受分 不了知, 不能了 *Lank.*
an-abhijñatva 中 不識, 無知。
an-abhijñā 女 未受分 非明, 非通, 非神通 *Lank.*
an-abhijñāta 過受分 其の人に就て何も知られざる。
an-abhijñātātā 女 [同上 中]。
an-abhijñeya 未受分 認識すべからざる。
an-abhitāpa 形 (於) に對して恨を有せざる。
an-abhidrugdha 過受分 敵意を懷かざる (*Jāt-m.*)。
an-abhidroha 男 侮辱せざること; 未受分 不相謀略, 無有違諍 *Bodh-bh.*: *paraspara* ~ 展轉不相謀略, 展轉無有違諍 *Bodh-bh.* 342.
an-abhidrohin 形 未受分 不差違, 不行欺誑 *Bodh-bh.*
an-abhidhāna 中 無陳述。
an-abhidhāyaka 形 言ひ詮さざる。
an-abhidhāyakatva 中 [同上 中]。
an-abhidhyā 女 (於) に對する欲望を闕くこと。
an-abhidhyeya 未受分 考へられざる。
an-abhinirvṛttatva 中 未受分 無生 *Aṣṭ-pr.*
an-abhinirvṛtti 女 未受分 不可轉, 無所生起 *Aṣṭ-pr.*
an-abhinirvṛttitā 女 未受分 不可生 *Aṣṭ-pr.*
an-abhiniveśa 形 未受分 不著, 不取, 無所著, 不取著, 不計著, 不執著, 不妄執著, 無所計著, 無所執著, 不生執著, *Lank.*, *Aṣṭ-pr.*
an-abhiniveśanatā 女 未受分 離著, 無執著 *Aṣṭ-pr.*
an-abhiniṣkrānta-gṛhāvāsa (°ha-āv°) 形 未受分 未出家(時) *Saddh-p.* 19.
an-abhiprasanna 過受分 未信者, 不信者 *Mvyut.*
an-abhiprita 過受分 満足せられざる。
an-abhipreta 過受分 意圖に反する, 好ましからざる; 未受分 不愛念 *Divy.*
an-abhipretatva 中 未受分 非愛, 厭惡 *Abh-vy.*
an-abhibhava-gandha 形 蔑視の氣配なき。
an-abhibhāṣin 形 話しかけざる。
an-abhibhūta 過受分 打勝たれざる, 凌駕せられざる; 惱まされざる, 妨げられざる; 未受分 無勝, 不勝, 不能伏, 不能屈, 不能鎮伏; 無能奪, 無能壞, 無所映奪, 無能映奪; 自在; 獨尊 *Lal-v.*, *Sam-r.*, *Daś-bh.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*: ~ *h* *prajñayā* 慧不能伏 *Mvyut.*
an-abhibhūtātā 女 未受分 無損壞 *Sikṣ.*
an-abhimata 過受分 不愉快なる, 歡ばれざる。
an-abhimānuka 形 (藥) に對して何等の劃策なき。
an-abhimukha 形 (女 -i) 顔を反けたる。
an-abhiyukta 過受分 (於) に配慮せざる。
an-abhirati 女 未受分 不樂, 厭離, 不樂著 *Kāśy.*,

Sam-r.

an-abhirati-samjñā 女 未受分 不喜想 *Mvyut.*
an-abhirāddha 過受分 未受分 呵厭, 不順 *Sikṣ.*
an-abhirūpa 形 相當せざる; 無教育の; 醜き。
an-abhilakṣita 過受分 見られざる, 氣づかれざる; 未受分 無標幟 *Mvyut.* (男) [(正しき)印又は標識なき], 詐欺師, 山師。
an-abhilāpya 未受分 説明すべからざる; 未受分 無可說, 不可說, 非可言, 不可戲論 *Vajr-pr.*
an-abhilāpya 未受分 未受分 無言, 離言, 無說, 無言說, 不可說, 不可言, 離言說, 不可宣說, 不可得說, 不說言語, 無有言說 *Vijñ-v.*, *Lank.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*; 不可數, 不可計 *Guhya-s.*: 中 未受分 [數の名] 不可說 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
an-abhilāpya-parivarta 男 未受分 [數の名] 不可說轉 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
an-abhilāpyānabhilāpya 中 未受分 [數の名] 不可說不可說, 不可說中不可說 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
an-abhilāpyānabhilāpya-parivarta 男 未受分 [數の名] 不可說不可說轉, 不可說中不可說轉 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
an-abhilāṣa 男 無趣味, 無嗜好; 食欲なきこと; 無希望; 未受分 不悅 *Sam-r.*
an-abhilāṣin 形 希望せざる, 欲せざる; 未受分 不欲, 不貪, 不希取, 不希求 *Sikṣ.*, *Daś-bh.*
an-abhilulita 過受分 觸れられざる。
an-abhivādya 未受分 挨拶せられざる。
an-abhivyakta 過受分 漠然たる。
an-abhiśaṅka 形 疑なき。
an-abhiśaṅkya 未受分 疑ふべからざる。
an-abhiśasti 形 非難すべき所なき。
an-abhiśaṅga 男 = *an-abhiśvaṅga*。
an-abhiśecaniya 未受分 濯頂に値せざる。
an-abhiśyanditatva 中 未受分 無潤沃, 非所潤 *Abh-vy.*
an-abhiśvaṅga 男 (於) に連結又は執著なきこと。
an-abhiśaṃskāra 男 未受分 無造, 不作, 無作, 無造作, 無所作, 無造無作; 無行, 無加行, 離加行, 非作功用; 無爲; 任運 *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-t.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.*, *Sukh-vy. I.*, *Mvyut.* ~ *ena* 中 未受分 任運故 *Vijñ-t.*
an-abhiśaṃskāra-parinirvāyin 形 未受分 無行般涅槃(音寫) *Mvyut.*
an-abhiśaṃskāra-vāhitā-sthāna 中 未受分 離諸加行任運轉處 *Bodh-bh.* 109.
an-abhiśaṃskṛta 過受分 未受分 無作, 無所成辦 *Sūtr.*, *Aṣṭ-pr.*
an-abhiśaṃhitam 中 故意に爲さずして。
an-abhiśaṃdhāna 中 清廉, 無頓著, 無關心。
an-abhiśaṃdhi 形 (一) に無關心なる。 (男) 無計畫, 無頓著, 無關心。
an-abhiśamaya 男 未受分 無現觀, 無所證 *Aṣṭ-pr.*
an-abhiśambuddha 過受分 猶ほ完全なる悟りに達せざる。
an-abhiśambodhanatā 女 未受分 無覺知 *Aṣṭ-pr.*
an-abhisara 形 伴侶なき。

an-abhisnigdha (通受分) 心を傾けざる, 愛著せざる.
an-abhisneha (形) (於)に對して欲望なき.
an-abhihita (通受分) 結び付けられざる; 言ひ詮されざる.
an-abhihuta (通受分) ……に供儀せられざる.
an-abhikṣṇa- (副) 稀に.
an-abhiśu (形) 手綱なき.
an-abhyānujñā (女) 無許可.
an-abhyānujñāta (通受分) (因)によりて許されざる.
an-abhyantara (形) (圖)に導入せられざる.
an-abhyarthaniya (未受分) 所望せらるまじき.
an-abhyasana-sīla (形) 學習に熱心ならざる.
an-abhyasūyaka (形) (釋) 不卒暴 *Saddh-p.*
an-abhyasūyat (現分) (釋) 和顏 *Saddh-p.*
an-abhyāgama (男) (釋) 不得, 不受 *Bodh-bh.*
an-abhyāvartin (形) 歸らざる.
an-abhyāvṛtti (女) 不歸. (因) 再び或は最早……せず.
an-abhyāsa (男) 實習又は練習の缺如; 不用; 等閑.
an-abhyutkruṣṭa (通受分) 喝采せられざる.
an-abhyutthāyin (形) 挨拶のために席を起たざる.
an-abhyupagama (形) (釋) 不取, 不決定, (不許) *Lank.*
an-abhyupagamatva (中) (釋) 無取, 不可得 *Lank.*
an-abhyupāya (男) 不適當なる方法.
an-abhra (形) 雲なき.
an-abhraka (男) (釋) (天の名) 無雲, 無雲(天) *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-v., Dharm-s., Mvyut.*
anabhra-vṛṣṭi (女) 晴天の降雨即ち思ひ設けざる利得.
a-nama (形) 屈すべからざる; 打ち克ち難き.
a-namas-kāra (形) 敬禮せざる, 敬意を表せざる.
a-namita-pūrva (形) 張られたることなき(弓).
anamitra (男) [*Yudhājit* の子の名].
an-amitra-lābha (男) 敵を得ざること.
an-amiva (形) 無病の, 健康なる; 潑刺たる; 有益なる. (中) 安寧, 健康.
an-amutra (形) (「彼處」を有せざる, 即ち)死後の世界に就て心を勞せざる.
a-namra (形) 曲らざる; 強情なる.
a-naya 1. (男) 不謹慎, 無禮, 悪行.
an-aya 2. (男) 惡運, 不幸.
an-aranya (中) 荒野ならざること.
an-arāla (形) 曲らざる, 眞直ぐの.
an-aritra (形) 權なき.
an-argala (形) 妨げられざる, 自由なる.
an-argha (男) 正當ならざる値段, 掛け値. (形) 値の付せられざる, 極めて貴重なる; (釋) 無價; 賤 *Divy., Bodh-c., Aṣṭ-pr., 梵雜., 梵千.*
an-argha-prāpta (形) (釋) 無價, 無能識其價 *Saddh-p.*
anargha-maṇi-ratna (中) (釋) 無價寶珠 *Saddh-p.*
anargha-mūlya (形) (釋) 無價 *Saddh-p.*
anargha-rāghava (中) [*Murāri* 作の戯曲の名, *Rāma* を扱ふ].
an-arghāya (形) (釋) 價直無量 *Sapt-pr. 23.*
an-argheya (形) (釋) 無價 *Saddh-p.*

an-arghya (形) 値の付せられざる, 極めて貴重なる; (釋) 無價 *Aṣṭ-pr., Lank.*
an-arghyatva (中) [同上 (中)].
an-arcita (通受分) 敬はれざる; 恭しく捧げられざる.
an-artha (男) 不利益; 損害, 不幸; 無意義; (釋) 不利益, 無利益, 失利, 無所用, 不饒益, 不饒益事; 損, 損害; 苦, 難; 惡事; 非義; *Suv-pr., Divy., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Buddh-c., Mañj-m., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.*; 無體, 無境 *Lank.* (形) 無益なる; 不幸なる; 無意義なる; (釋) 無所用; 不吉祥; 無義, 非義, 非義利, 無義利, 無有義理; 無塵, 無實境 *Rāṣṭr., Vijñ-v., Madhy-vibh.*
an-arthaka (形) 無用なる; 不幸なる; 無意義なる; (釋) 無用, 無利益 *Abh-vy.*
an-arthakatva (中) (釋) 無義 *Madhy-vibh.*
anartha-kara (形) 無用なる, 不利益なる.
anartha-kāma (形) (圖)の不幸を希ふ (*Buddh-c.*).
an-artha-jña (形) 意義を知らざる.
an-arthatva (中) 無意義, 無益.
an-arthanā (女) 惠を乞はざること, 乞食せざること.
anartha-paṇḍita (形) 惡戯に巧みなる.
anartha-buddhi (形) 禍害を目論める; (その思考力の無益なる即ち)愚昧なる.
anartha-buddhitā (女) 愚昧, 愚鈍.
anartha-bhiru (形) 不幸を恐るゝ (*Buddh-c.*).
an-arthavat (形) (釋) 無益 *Śikṣ.*
an-arthāntara (中) 他の意義に非ざること(即ち同意義); (釋) 名異義一 *Lank.*
an-arthika (形) (釋) 不惜, 不貪, 不愛, 不顧(珍財); 不念(世事); 不爲 *Kāśy., Aṣṭ-pr., Saddh-p.*: ~ā sma kāyena jīvitena ca 不愛身命, 不貪身亦不惜壽命 *Saddh-p. 273.*
an-arthitva (中) 願望なきこと.
an-arthin (形) (圖)に對して意義を有せざる. (男) 欲望を離れたる者 [anartha = 嫌惡の對象].
anarthopasamhita [°tha-up°] (形) (釋) 害, 有害, 具害; 無義所引 *Mvyut.*
an-arthya (形) 無用の, 役に立たざる.
an-ardhuka (形) 願望を満たさざる.
a-narman (中) 嘲り(の笑). (形) 嘲笑的なる, 皮肉なる.
anarma-hāsin (形) 嘲笑せる.
an-arva (形) 抵抗すべからざる, 無限の.
an-arvan (形) [同上].
an-arha (形) 無價值なる, 値せざる, 罪なき; (一°)に不適當なる.
an-arhat (形) 相應しからざる, 資格なき.
an-arhatā (女) 不適當.
anala (男) 火; *Agni* 神; (釋) 火, (甘露)火; 満足, 無厭足 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-c., Mañj-m.*
an-alamkṛta (通受分) 飾られざる.
an-ala-da (形) 火を消す.
an-alam (副) (不定)し得ずして, 不十分に.
an-alasa (形) 怠惰ならざる, 勤勉なる; (釋) 匪懈, 無情, 無懈怠 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-bh.*
anala-sakha (男) 風.

analāya (名動) (自) 火の如く振舞ふ。
analiya (名動) (自) 火の如く見ゆ, 火に類似す。
an-alpa (形) 少からざる, 多き; (釋) 無量 *Bodh-bh.*
an-alpaka (形) (釋) 衆 *Abh-vy.*
analpa-jalpa (形) 甚しく饒舌なる。
an-alpatva (甲) 力。
analpābhyasūya (形) (於)に對して大いに怒れる。
an-avakāṣita (通受分) 無視せられたる。
an-avakāra-sūnyatā (女) (釋) 無散空, 無失空, 不捨空 *Madhy-vibh., Mvyut.*
an-avakāśa (形) 好機又は機會を有せざる; 不要の, 不適當なる; (釋) 無容; 無理, 無是處, 無有是處 *Abh-vy., Ast-pr.*
an-avakāśika (形) [遁世者の一團の名]。
an-avakāśin (形) (一°)の餘地なき。
an-avakṛṣṭa (通受分) [=anapakṛṣṭa]; (釋) 鬧, 非靜 *Mvyut.*
an-avakṛpta (通受分) 不適當なる, 間違へる。
an-avakṛpti (女) 可能と信ぜられざる事, 非蓋然性。
an-avakeśin (形) 葉の基だ茂れる。
an-avagata (通受分) 得られざる; 了解せられざる。
anavagata-graha (形) 妨げられざる。
an-avagita (形) 倦怠せざる; 難點なき, 非難せられざる, 完全無缺の。
an-avagṛhita (通受分) (釋) 無所執著 *Daś-bh.*
an-avacchinna (通受分) 區別せられざる; 定義せられざる。
an-avacchinnatva (甲) [同上]。
an-avaccheda (男) 斷定せられざる事。
an-avatapta (男) (釋) [池の名] 無熱, 無暖(池), 無熱惱(池) *Divy., Suv-pr., Mvyut.*; (音寫) 阿耨達, 阿耨達(池), 阿那婆答多 *Suv-pr., Divy.*; [龍王の名] 無熱 *Mvyut.*; (音寫) 阿耨大, 阿耨達, 阿那婆達多 *Sam-r., Lal-v., Saddh-p., Suv-pr.*
anavatapta-kāyika (形) *Anavatapta* 池の靈(神)なる: ~ikā devatāḥ *Anavatapta* 池の諸神 (*Divy.* 157.)
anavatapta-nāga-rāja (男) (釋) 無熱龍王, 無暖池龍王 *Mvyut.*
anavatapta-nāga-rāja-paripṛcchā (女) (釋) [經名] 阿耨達龍王經, 無暖池龍王請問經 *Mvyut.*; [弘道廣顯三昧經]。
anavatapta-hrada (男) (釋) [池の名] 阿耨大池, 阿耨達池, 阿那婆達多池 *Divy.*
anavatapta-hradāpasamkramaṇa (甲) [經名, = *Anavatapta-nāga-rāja-paripṛcchā*] *Madhy-v.*
n-avatāra (男) (釋) 不通, 不知, 不覺知, 不覺識 *Lank.*
n-avadāyita (通受分) (釋) 未甚光鮮 *Sapt-pr.*
n-avadya (未受分) (稱讚に値せざるに非ざる); 無難の, 申分なき; (釋) 無罪, 無過, 無過罪, 無有罪過, 無諍, 無責, 無呵責, 無罪犯, 無有過咎, 無過失, 無諸過失, 無可譏嫌, 無有罪孽 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-c., Sikṣ., Bodh-bh., Lank., Kāśy., Sam-r., Mvyut.*
n-avadyatā (女) 申分なき事。
n-avadyatva (甲) [同上]。

anavadya-dānatā (女) (釋) 無罪施 *Bodh-bh.*
anavadya-rūpa (形) 外觀の申分なき。
anavadyāṅga (形) (女) -i) 缺點なき形體の。
an-avadhāna (甲) 不注意, 等閑。
an-avadhārita (通受分) (釋) 不知, 不了 *Lank.*
an-avadhārin (形) (釋) 不知, 不能知 *Lank.*
a-navana (形) (女) -i) 爽快になさざる, 助けざる。
an-avanata (通受分) (釋) 不屈, 未下, 不下, 不低, 不低下; 不僂曲 *Bodh-bh., Mvyut.*
anavanata-kāya (形) (釋) [三十二相の一] 身不僂曲 *Bodh-bh.*
anavanata-kāyatā (女) (釋) [同上] *Bodh-bh.*
an-avanāmita-vaijayanti (女) (釋) [佛國の名] 常立勝旛 *Saddh-p.*
an-avapṛgṇa (通受分) 分たれざる, 連續せる。
an-avabuddha (通受分) 知覺せられざる,
an-avabodha (男) (釋) 不知, 不能覺知 *Lank.*
an-avabodhaka (形) (釋) 不覺, 不了 *Lank.*
an-avabodhanā (女) (釋) 不知, 不覺知, 不覺識 *Lank.*
an-avabhāsa (男) 缺席, 無顯現。
an-avama (最上) 最下に非ざる, 高き; (一°)より惡しからざる。
an-avamardaniya (未受分) (釋) 不敗, 不能踐, 不可屈伏; 不能破壞, 所不能破 *Ast-pr., Mvyut.*: ~o balaiḥ 力不能踐 *Mvyut.*
an-avamardita (通受分) (釋) 不來侵擾, 不能侵凌 *Suv-pr.*
an-avamṛdya (未受分) 足下に持來されざる, 征服せられざる; (釋) 禦捍, 禦扞, 難伏; 莫能壞, 不可破, 不可破壞 *Gaṇḍ-vy., Ast-pr.*; —° 不能傾動 *Gaṇḍ-vy.*
an-avamṛdyatā (女) (釋) 不可屈, 不可破壞, 無(諸熱)惱 *Ast-pr., Sikṣ.*
an-avayavatva (甲) (釋) 無方分 *Vijñ-v.*
an-avara (比較) (從)より低からざる, ……より高き。
an-avarata (通受分) 中斷せられざる, 連續せる。~m (副) 常に。
an-avarāgra (形) 始終なき (*Divy.*)
anavarāgra-sūnyatā (女) (釋) 無際空, 無前後空 *Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut.*
anavarāgre (於) (副) (釋) 無始來, 從無始 *Sikṣ.*
an-avarodhya (未受分) 強制すべからざる。
an-avaropita (通受分) 未だ植ゑられざる (*Divy.*); (釋) 未種 *Kāśy.*
anavaropita-kuśala-mūla (形) (釋) 不種善根 *Gaṇḍ-vy.*
an-avalamba (形) 支持なき, 支へなき。
an-avalambana (甲) ……に依附せざる事; 獨立; 拒否。
an-avalambita (通受分) 支持せられざる, 頼らざる。
an-avalina (形) (釋) 無下, 無懈怠, 無有懈怠 *Sikṣ., Ast-pr.*
an-avalinatā (女) (釋) 不退, 無怯畏, 無滯礙 *Ast-pr.*
an-avalepa (形) 膏油を塗らざる; 高慢ならざる。 (男) 謙遜。
an-avalokayat (現分) (能)の方を見ざる。

an-avalokita-mūrdhatā 女 無見頂相 *Bodh.-bh.*
an-avalokita-mūrdhitā 女 [同上] *Gand.-vy.*
an-avalokya 未受分 不可見, 不可照了 *Daś.-bh.*
an-avaśeṣatas 副 残らず, 悉く; 皆 *Daś.-bh.*
an-avasara 男 時宜を得ざること又は場合.
an-avasāda 男 安寧, 福祉.
an-avasita 形 不安定なる, 不確實の.
an-avasitā 女 [音律の一種].
anavasitārtha 形 意味の確定せざる.
an-avaskara 形 秘密なき, 清淨なる.
an-avastha 形 確乎たる根底なき, 不安定なる, 落ちつかざる; 無窮 *Abh.-vy.*
an-avasthā 女 不安定の状態又は性質; 不安定, 不確實又は弛緩せる行動; 無限, 無限の進行; 無窮, 無窮盡 *Laṅk., Abh.-vy., Madhy.-v., Mvyut.*
an-avasthāna 形 浮薄なる, 不安定の. 甲 不定; 不安定, 行動の不確實又は弛緩せること; 不定 *Sāmkhy.-k.* 男 風.
anavasthā-prasaṅga 男 無窮之失, 無窮之過失 *Abh.-vy., Mvyut.*
an-avasthāyin 形 恆ならざる, 動搖する; 不住 *Laṅk., Abh.-vy.*
an-avasthita 通受分 確乎たらざる; 動搖する; 寄邊なき, 忠實ならざる; 止まる能はざる; 不住 *Sikṣ.*
anavasthita-citta 形 心の堅固ならざる.
anavasthita-cittatva 甲 心の弛緩せること.
an-avasthiti 女 不安定; 不確定; 不住, 無窮 *Sūtr., Madhy.-v.*
an-avahimsita 通受分 殺されざる.
an-avahita 通受分 副 迂濶に.
an-avahela 形 輕蔑せざる.
an-avāpta 通受分 得られざる.
an-avāpti 女 得ざること.
an-avāpya 未受分 得べからざる.
an-avekṣa 形 不注意の, 無頓著の; 不恪 *Daś.-bh. 64.* 〰 〰 無禮に, 無視して.
an-avekṣaka 形 (一)に對して注意せざる. 〰 〰 見廻さずして.
an-avekṣaṇa 甲 顧慮せざること, 不注意.
an-avekṣatā 女 不貪, 無著, 斷除愛著 *Gand.-vy.*
an-avekṣā 女 顧慮せざること; 不恪, 不愛樂 *Sikṣ.*
an-avekṣitā 女 [同下 〰]
an-avekṣin 形 顧慮せざる (*Jāt.-m.*).
an-aśana 形 食物を有せざる; 不食, 斷飲食 *Lal.-v.* 男 斷食; 自餓 *Abh.-vy.*
an-aśanatā 女 斷食.
anaśana-sthāna 甲 不食, 斷飲食 *Bodh.-bh.*
an-aśita 通受分 食はれざる.
an-aśnat 現分 食はざる.
an-aśnuvāna 現分 達せざる.
an-aśru 形 涙なき.
an-aśva 形 馬なき.
a-naśvara 形 不滅の.

a-naṣṭa-paśu 形 家畜を失はざる.
anas 甲 車(重荷用の).
an-asūya 形 不平を言はざる; 惡口せざる, 嫉まざる; 親切なる.
an-asūyaka 形 (女 -ikā) [同上].
an-asūyat 現分 [同上].
an-asūyā 女 不平を言はざること; 恨まざること.
an-asūyitr 形 = an-asūya.
an-asūyu 形 [同上].
an-asūri 形 愚ならざる, 賢き. 男 賢者.
an-astamgata 通受分 没せざる(太陽).
an-astamita 通受分 没せざる; 止まざる.
an-astamitake 於 副 日没前に.
an-asthan 形 骨なき.
an-asthika 形 [同上].
an-asthimat 形 [同上].
an-aham-vādin 形 自己のみを語らざる, 高慢ならざる.
an-aham-kāra 男 謙遜, 自負なきこと; 自己を最高精神とは別のものと見做すこと. 形 謙遜なる.
an-aham-kṛta 形 私なき, 謙遜なる, 自負なき.
an-aham-kṛti 形 謙遜なる, 自負せざる. 女 = an-ahamkāra.
an-aham-buddhi 形 高慢ならざる.
an-ahar-jāta 形 不祥の日に生れたる.
anā 具 副 實に, 曾て; [〰 と俱に] 決して...せず
 に.
an-ākampa 形 不動の.
an-ākampa-dhairya 形 確乎不動の.
an-ākarnita 通受分 忪聽せざる.
an-ākasmika 形 偶然ならざる.
an-ākāra 形 形なき; 無因 *Laṅk.*; 無行相, 非實形識 *Madhy.-vibh.*
an-ākāśa 形 暗き, 明瞭ならざる; 虚空なき, 空閒なき, 虚空より生ぜしに非ざる. 甲 自由又は無礙ならざる空閒; 充滿せられたる空閒.
an-ākula 形 混亂せざる; 困惑せざる; 無關心なる; 不亂 *Buddh.-c.*
an-ākṛtsna-gatā 女 [Nāga の少女の名] (*Kār.-vy.*).
an-ākṛṣṭa 通受分 注意を惹かれざる; 引寄せられざる.
an-ākoṭita 通受分 未固修營 [*Tib. mig-tshags ma byas*] *Ast.-pr. 587.*
an-āktākṣa 形 眼膏を塗られざる眼の.
an-ākranda 形 友人又は救助者なき; 嘆かざる; 慟哭せざる.
an-ākramya 未受分 (〰)に達し難き.
an-ākṣārita 通受分 非難せられざる.
an-ākṣepam 副 (〰)を非難することなく (*Buddh.-c.*).
an-ākhyāta 通受分 宣言せられざる; 指示せられざる.
an-ākhyāya 不憂分 告げずして.
an-ākhyeya 未受分 告げらるべからざる.
an-āga 形 [= anāgas] 無辜の, 無罪の.
an-āgacchat 現分 來らざる; 不遊行, 無有行

Bodh-bh.

an-āgata (過受分) 達せざる; 来らんとする, 未來の; 發見せられざる; 漢譯 來, 未來, 當來, 未至, 到; 未來世 *Sapt-pr.*, *Aṣṭ-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*: ~o 'dhvā 未來世 *Madhy-vibh.* 157. ~m 漢譯 來, 未來 *Bodh-bh.* ~e 因 漢譯: ~e 'dhvani 漢譯 未來, 來世, 於來世, 未來世中 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*; ~e 'dhve (音譯) 未來世 *Saddh-p.* 53.

anāgata-kāla 男 漢譯 未來時 *Mvyut.*

anāgatam-Kṛ, 將來に備ふ.

anāgata-pratyutpanna 形 漢譯 現在未來 *Lank.*

an-āgatavat 形 將來に關する.

anāgata-vidhātṛ 形 將來に備ふる, 用意深き. 男 [或る魚の名].

anāgata-vidhāna 甲 豫備, 未來に對する用意.

an-āgati 女 不到著, 不獲得, 受けざること; 漢譯 無來, 不來 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*

an-āgatika 形 漢譯 無來, 不來, 非來, 非未來, 無所從來 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

an-āgatika 形 漢譯 [=an-āgatika] 無來 *Daś-bh.*

an-āgama 形 来らざる, 現在ならざる; 傳承に基かざる; 漢譯 不來 *Madhy-v.* 男 再び歸來せざること; 不到著, 不獲得.

an-āgamana 甲 不歸.

an-āgamanatā 女 漢譯 未來 *Sikṣ.*

an-āgamyā (未受分) 近づき難き, 得難き; 漢譯 未來, 未至, 非至; 無所不能; 未至(定) *Abh-vy.*, *Mvyut.*

an-āgas 形 [=an-āga] 難點なき, 罪なき; 潔白なる; 漢譯 無過 *Buddh-c.*

an-āgāmitva 甲 [同下 甲]; 漢譯 不還, 不還性, 阿那含義(音譯) *Vajr-pr.*, *Abh-vy.*

an-āgāmin 形 来らざる, 到著せざる; 未來にあらざる; 漢譯 不還, 不來 *Lank.*, *Vajr-pr.*, *Abh-vy.*; 音譯 阿那含 *Lank.*, *Abh-vy.*

anāgāmi-pratipannaka 形 漢譯 不還向 *Mvyut.*

anāgāmi-phala 甲 漢譯 不還果, 阿那含果 *Aṣṭ-pr.*

anāgāmiphala-tathatā 女 漢譯 不還果真如, 阿那含果如 *Aṣṭ-pr.*

an-āgārikā 女 漢譯 [=an-āgārikā, *Pāli.* anagāriyā] 非家 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*: ~m pravrajitāḥ 出家 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*

an-āgāstva 甲 罪なきこと.

an-āgrayaṇa 形 *Āgrayaṇa* の儀式なき.

an-āgraha 男 漢譯 無著者 *Gaṇḍ-vy.*

an-āghāta 男 漢譯 無恙 *Vijñ-t.*

an-āghrāta (過受分) 嗅がれざる, 匂はざる.

anāghrāta-pūrva 形 嗅がれしことなき, 曾て匂はざりし.

an-ācakṣat (理分) 言はざる.

an-ācakṣita (過受分) 漢譯 未曾顯 *Saddh-p.*

an-ācaraṇa 甲 行はざること, 正しき或は慣習上の行動をなさざること, 不適當なる行爲, 誤れる行動.

an-ācarita (過受分) 實行せられざる, 忽にせられたる.

an-ācāra 形 行動の不適當なる, 躰惡しき; 習慣・作法又は法律を無視せる; 漢譯 無禮儀, 行不善, 不識

善儀則 *Sam-r.*, *Saddh-p.* 男 = anācaraṇa.

an-ācārin 形 適當に行動せざる.

an-ācāryakam 副 漢譯 無師 *Bodh-bh.*

an-ācirṇa (過受分) 未だ企てられざる.

an-ācchedya (未受分) 漢譯 無斷, 不斷, 不斷絶, 不能斷絶; 不壞, 不能壞, 不能斷壞, 非所能斷壞; 無滯; 久遠 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*

an-ācchedyatā 女 漢譯 不壞性, 不能壞, 無能壞 *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*

anācchedya-pratibhāna 形 漢譯 辯才無滯, 辯才久遠 *Mvyut.*

anācchedya-śila 形 漢譯 不壞戒, 戒(而)不毀禁 *Sikṣ.*

an-ājāneya (未受分) 漢譯 不隨意, 不可依怙, 不得隨意 *Daś-bh.*

an-ājñā 女 不許容; 男 許可なくして.

an-ājñāta (過受分) 知られざる, 氣づかれざる; 漢譯 未曾知, 所未曾知 *Abh-vy.*

anājñātam-ājñāsyāmīndriya 甲 漢譯 未知當知根, 未知欲知根 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

an-ātapa 形 陰多き.

an-ātura 形 健康なる; 隠せざる; 戀に懼れざる.

an-ātta-manas 形 [*<an-āpta-m°*] 漢譯 不樂 *Sapt-pr.* 1.

an-ātta-manaska 形 漢譯 不能自安, 意懷不悅 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*

an-ātta-mānasa 形 漢譯 生憂惱, 懷愁惱 *Suv-pr.* 127.

an-ātma- 形 眞實ならざる, 無我の; 漢譯 離我, 無我 *Lank.*, *Aṣṭ-pr.*

an-ātmaka 形 實體なき, 眞實ならざる; 漢譯 無我, 無體, 非有 *Lank.*

an-ātma-jña 形 自己を知らざる, 愚なる, 眞の智なき.

an-ātma-jñatā 女 愚.

an-ātmatā 女 漢譯 無我, 無主宰 *Sikṣ.*, *Aṣṭ-pr.*

an-ātmatva 甲 (自我又は)精神に非ざること; 漢譯 無我性 *Abh-vy.*

an-ātman 男 無我, 他; 精神又は靈と異なるもの; 漢譯 無我, 非我, 無有我 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*: ~y ātma-samjñin 無我我想 [無我に於て我ありと勘ふる] *Gaṇḍ-vy.* 298. 形 精神又は感覺を缺ける, 精神的ならざる, 物質的の; 本體なき; 實體なき.

an-ātmanina 形 自己に無用なる, 無關心なる.

an-ātmavat 形 自若たらざる, 自失せる.

an-ātma-veditā 女 [同下 甲].

an-ātma-vedin 形 自己を知らざる, *Ātman* を知らざる.

an-ātma-saṃpanna 形 靈なき, 愚なる; 抑制なき.

an-ātma-sātkṛta 形 私用に供せられざる.

an-ātmiya 形 自己のものならざる; 漢譯 無我, 非我所 *Kāśy.*

an-ātmya 形 個人的ならざる. 甲 自己のものに満足せざること; 自制なきこと; 愚昧.

an-ātyantika 形 漢譯 不畢竟, 不究竟 *Bodh-bh.*

an-ātreyi 女 月經後未だ浴をなさざる婦女.

a-nātha 形 保護なき, 寄る邊なき, 貧しき; 主人なき, 寡婦となれる, 父なき; 無依, 無主, 無親, 無怙, 無依護, 無救護, 無依怙, 無所依怙, 無有救護者; 孤獨, 孤獨貧乞 *Ast-pr.*, *Gand-vy.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Rāstr.*, *Bodh-bh.* 男 無依護者, 無依怙者, 無依止者 *Ast-pr.* 中 保護又は寄る邊なきこと.

anātha-gata 形 無導師 *Sikṣ.*

anātha-piṇḍa-da 男 (食物或は菓子を貧者に與ふる者); [Sudatta 長者の稱] 給孤, 給孤獨 *Divy.*, *Sukh-vy. II.*, *Vajr-pr.*, *Sapt-pr.*, *Av-ś.*, *Mvyut.*: ~syārāma (°ya-ār°) 給孤獨園 *Sapt-pr.*, *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Mvyut.*

anātha-piṇḍika 男 = anāthapiṇḍada; 團與, 給孤獨, 給孤獨(長者), 無依團施, 孤獨團施; 阿那那底, 阿那那提, 阿難賓, 支應.

anātha-bhūta 形 男 孤獨者, 無歸依者, 孤獨無所依 *Gand-vy.*

a-nāthavat 副 寄る邊なき者の如くに.

anātha-sālā 女 孤獨舎 *Sikṣ.*

anātha-sabhā 女 貧者の家.

anāthi-BHū, 保護者を喪ふ, 孤立す; 孤兒となる.

an-ādara 男 (於)に對する不敬, 無視, 無關心; 輕慢 *Bodh-bh.*; 從 卽座に. 形 無關心なる, 執著なき; 平靜なる.

anādara-kārin 形 無恭敬者 *Bodh-bh.*

an-ādarāṇa 中 顧慮せざること, 不敬の行爲.

anādara-vṛtta 形 [*Pāli.* anādariya]; 輕; 不恭敬, 不敬禮, 不敬形, 不恭敬行 *Prāt-m.*, *Mvyut.*

an-ādi 形 無始の. 無始より永久に存在せる; 無始, 無初, 非初 *Laṅk.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*

an-ādika 形 無始 *Laṅk.*

anādi-kāla- 形 無始, 無始來, 無始世來 *Laṅk.* 38.

anādikāla-pravṛtta 形 無始來 *Sikṣ.*

anādikālābhyasta 形 無始時來 *Sikṣ.*

anādi-kālika 形 無始, 無始世, 無始時來 *Bodh-bh.*, *Viñ-t.*, *Sūtr.*

a-nādita 通受分 騒音なき, 聲なき.

an-ādītā 女 [an-ādiの抽].

an-ādītva 中 [同上]; 無始 *Abh-vy.*

anādi-nidhāna 男 [*Viṣṇu.* 神の稱].

an-ādi-niṣṭha 形 無始無終の.

an-ādimat 形 無始の.

an-ādi-madhya-paryanta 形 始なく中間なく終なき.

an-ādiṣṭa 通受分 規定せられざる, 命ぜられざる.

an-ādinava 形 缺點なき.

an-ādinava-darsin 形 不見其過, 不見於過罪 *Sikṣ.*

an-ādinava-dṛṣṭa 形 不見其過, 不見於過罪 *Sur-pr.*

an-ādṛta 通受分 蔑視せられたる; 無視せられたる.

an-ādṛtya 不変分 顧慮せずして; 越, 破 *Abh-vy.*

an-ādeya 未受分 受納せられ難き, 受くるに不適當な

る; 許容すべからざる; 無受, 不信受 *Daś-bh.*

anādeyātisāya 男 不可轉 *Mvyut.*

an-ādeśa 男 指令なきこと.

an-ādeśa-kara 形 命令を遂行せざる.

an-ādeśana 中 表示せざること.

an-ādeśa-paribhāṣā 女 (神及び音律に就て)指示なき場合に關する規約.

an-ādya 未受分 食はれざる.

anādy-ananta 形 始終を缺ける.

an-ādy-anta 形 [同上].

an-ādhi 形 心配なき.

an-ādhrṣṭa 通受分 克服せられざる.

an-ādhrṣya 未受分 近づくべからざる; 征服すべからざる.

an-ānata 通受分 屈せざる.

an-ānamya 未受分 [同上].

a-nānātva 中 非異, 無異, 無別, 無差別 *Ast-pr.*, *Sapt-pr.*, *Madhy-vibh.*

a-nānārtha (°nā-ar°) 形 無異, 不異, 無種種, 非種種; 無異義, 無差別義 *Madhy-v.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*

an-āpatti 女 罪過なきこと; 不犯, 無犯, 無違犯, 無罪, 無墮 *Vin.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

an-āpattika 形 無過失 *Sikṣ.*

an-āpad 女 災厄又は不運なきこと. 苦難又は悲痛の時以外は.

an-āpi 形 朋友又は親族なき.

an-āprṣṭa 通受分 問はれざる.

an-āpta 通受分 達せざる. 未だ……に到らざる; 得られざる, 得んとする努力の成功せざる; 不適當なる, 巧みならざる; 無繫 *Abh-vy.* 男 他國人, 客, 見馴れざる人.

an-āpta-māna 形 [*Pāli.* anāttamāna]; 不喜 *Prāt-m.*

an-āpti 女 失敗.

an-āptr 形 得ざる.

an-āpnuvat 現分 達せざる, 得ざる.

an-āpya 未受分 達すべからざる, 得べからざる.

an-āplutāṅga 形 沐せざる.

an-ābādha 形 妨げられざる, 困難なき.

an-ābhāsa 形 無明, 無見, 不現; 無識; 無相, 無影像 *Laṅk.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*

an-ābhibhū 男 [音律, = an-abhibhū]; 無能及者 *Saddh-p.* 128.

an-ābhibhūta 通受分 [音律, = an-abhibhūta]; 無倫匹 *Saddh-p.* 69.

an-ābhilāpya 未受分 [= an-abhilāpya]; 離言說 *Sam-r.* 32.

an-ābhoga 形 男 無功用, 無功用行, 無開發, 無開發行, 無警覺 *Laṅk.*, *Bodh-bh.*, *Ast-pr.* *Sūtr.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.* → citta ~.

an-ābhogatas 從 副 自然, 不假功用, 無功用自然 *Daś-bh.*

anābhoga-buddha-kāryāpratiprasabdha 形 佛行無功用不息 *Mvyut.*

anābhoga-vāhana 形 無功用轉 *Bodh-bh.*

an-āmantraṇaka 形 不受求請 *Lal-v.*
an-āmaya 形 致命的ならざる; 健康なる, よき; 有益なる, (從)によりて助命せられたる. 甲 健康, 平安.
anāmaya-praśna 男 人の安否を尋ねること.
a-nāma-rūpa 形 名なく形なき.
an-āmarśamāna 現分 ……に堪えざる, ……を忍耐せざる.
a-nāmikā 女 (無名), 無名指; 無名指 *Mvyut.*
an-āmiṣa 形 我欲なき, 無關心なる; 肉なき; 無染, 不貪, 不愛 *Bodh-bh.*
anāmiṣa-citta 甲 無貪心, 無愛染心 *Bodh-bh.*
an-āmukta 過受分 未だ著用せられざりし.
an-āmṛṣat 形 ……に觸れざる.
an-āmṛṣṭa 過受分 觸れられざる.
an-āmnāta 過受分 未温習, 未曾讀誦 *Bodh-bh.*
an-āmnāya 男 傳承の闕如.
a-nāmya 未受分 屈撓せざる.
a-nāya 形 適宜ならざる.
a-nāyaka 形 案内者なき, 指導者なき; 無秩序の; 無師; 無救護 *Rāṣṭr., Bodh-bh.*
an-āyata 過受分 長からざる, 短き; 結び付けられざる; 密接なる, 續ける, 分離せられざる.
an-āyatana 甲 實際の休息處又は祭壇ならざる場處; 信倚すべからざるもの; 非處, 不可信處 *Divy., Madhy-vibh.* 形 休息處又は祭壇なき.
anāyatana-prāyoga 男 非處加行, 非處修行. *Madhy-vibh.*
an-āyati-kṣama 形 將來に不利益なるべき.
an-āyatta 過受分 獨立の.
anāyatta-vṛttitā 女 獨立.
an-āya-vyaya 形 不來不去 *Lank.*
an-āyasita 過受分 彎かれざる(弓).
an-āyasita-kārmuka 形 努めて弓を彎かざる.
an-āyāta 過受分 (從)より去らざる.
an-āyāsa 男 困難なきこと; 不屈不撓. 形 困難を來さざる, 困難を生ぜざる.
a-nāyika 形 無導師 *Saddh-p.*
an-āyudha 形 武器なき, 防備なき.
an-āyuṣya 形 短命ならしむる.
an-āyūha 形 無取, 不入, 無來, 無所來, 不可持來, 終無所來 [*Tib. len-pa myed-pa*] *Gand-vy., Lank.*
an-āyūha-niryūha 形 不入不出 *Gand-vy., Lank.*
a-nāraka 形 非地獄人, 非那落迦(音寫) *Vijñ-v.*
an-ārata 形 中止せざる, 連續せる; 不捨 *Mvyut.*
 ～m 甲 中止することなく, 間斷なく.
an-ārabdha 過受分 無起, 不動 *Lank.*
an-ārabhya 未受分 始めらるまじき; 不可能なる.
an-ārambaṇa 形 [=anālabhana] 支持なき; 無縁, 無所縁, 無境, 無境界, 非境界 *Ast-pr., Gand-vy., Sikṣ.*
an-ārambha 男 (圖)の開始なきこと; 苦難なきこと. 形 企劃せざる; 無難 *Prāt-m.*; 始造; 不更造 *Lank.*

an-ārambhaṇa 形 實體なき, 理解せられざる; 支持を與へざる.
an-ārambhin 形 企劃せざる.
an-āruddha 過受分 限定せられざる.
an-āruhya 不變分 登ることなく, 凌駕することなく, ……を招くことなく.
an-ārūḍha 過受分 (業)に赴かざる, ……に達せざる.
an-ārogya 形 不健全なる.
an-āropa 男 無増, 無増益 *Madhy-vibh.*
an-ārohaka 形 騎者なき (*Jāt-m.*).
an-ārjava 甲 不正直なる行爲.
an-ārya 形 卑陋なる, 賤劣なる, 非-*Ārya* 人の; 愚, 非聖人, 可惡賤 *Abh-vy., Lal-v., Divy.* 男 非人, 異生, 不可意人, 非賢善者, 非聖惡人 *Sikṣ., Lank., Abh-vy.*; ～*ānām satya* 非聖諦, 非聖實 *Bodh-bh. 293.*
anārya-karman 形 修行惡法, 所爲諸惡業 *Divy.*
anārya-karmin 形 非-*Ārya* 人の仕事をなす, *Ārya* 人に不釣合の仕事を行なす.
anārya-jana 男 非聖, 不善人 *Sikṣ.*
anārya-juṣṭa 形 高貴なる者の好まざる, 非-*Ārya* 人に實行・遵守・所有せらるゝ; 非聖所食味 *Lank.*
an-āryatā 女 賤劣, 無價值.
an-āryatva 甲 [同上]; 非聖, 凡夫 *Abh-vy.*
anārya-dharman 男 非禮法者 *Ast-pr.*
anārya-vṛtta 形 賤劣なる行爲を行なす.
an-ārṣa 形 *Rṣi* に屬せざる.
an-ārṣeya 形 [同上].
a-nāla 形 莖なき.
an-ālakṣya 未受分 見えざる.
an-ālapana 甲 (圖)と話さざること.
an-ālamba 形 依處なき, 支持なき. 男 無支持; 落膽.
an-ālabhana 形 支持なき, 落膽せる; 無縁, 無所縁, 無縁縁 *Madhy-v., Abh-vy.*
an-ālambya 甲 無著, 無依 *Mañj-m., Lank.*
an-ālaya 形 無依, 不依, 無所依, 無有所依, 無依處, 無歸處, 無有依處, 無住處, 無有住處; 無著, 心無所著 *Gand-vy., Lank., Rāṣṭr., Mvyut.*; 不可隱 *Ast-pr.*
an-ālayatā 女 無著, 離諸著 *Gand-vy.*
an-ālaya-vijñāna-hetuka 形 藏識非因, 藏識非彼因, 不從阿梨耶識生 *Lank.*
an-ālasya 甲 勉勵.
an-ālidha 過受分 舐められざる; 離, 未曾知, 不能測 *Lank.*
an-āloka 形 暗き.
an-ālocita 過受分 勘考せられざる.
an-ālocya 不變分 視ずして, 勘考せずして.
an-āvatapta 男 [音譯, =*anavatapta*]; 阿耨達 *Lal-v. 219.*
an-āvaraṇa 甲 覆ひ又は障りなき(こと); 無障, 不障, 不爲障, 離諸蓋障, 無碍, 無礙, 不遮, 無障礙, 無有障礙, 無有罪礙, 不作障礙, 皆悉無諍 *Gand-vy., Ast-pr., Kāśy., Rāṣṭr., Madhy-v., Bodh-bh.,*

Daś-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.

anāvaraṇa-gatimgata 形 漢譯 了諸無礙, 到無障處 Mvyut.

anāvaraṇa-jñāna 中 漢譯 無障礙智 Bodh-bh.

an-āvaraṇatā 女 漢譯 無所著, 無礙, 無所礙, 無有障礙 Gaṇḍ-vy.

an-āvartika-dharmin 形 漢譯 不廻轉爲法 Abh-vy.

an-āvartin 形 歸らざる.

a-nāv-ādi 形 nau の gana に屬せざる(文法).

an-āviddha 通受分 貫通せられざる, 傷けられざる.

an-āvila 形 漠然たらざる, 明瞭なる; 健康なる; 穢れなき, 清き, 純なる [Pāli. 同じ]; 漢譯 淨, 清淨, 澄淨; 無垢, 無濁, 無穢濁, 淨無垢, 無垢濁, 無諸垢濁 Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sam-r., Mvyut.; 無礙 Guhy-s. 4.

an-āvilatā 女 漢譯 無濁, 離垢, 不亂 Gaṇḍ-vy.

anāvila-saṃkalpa 形 漢譯 無濁思惟, 了諸妄想濁 Mvyut.

an-āviṣkṛta 通受分 明かに爲されざる.

an-āvṛt 形 歸らざる.

an-āvṛta 通受分 閉されざる, 開ける, 開け放しの; (柵等にて)圍はれざる; 壕にて圍はれざる; 護られざる; 衣服を著けざる; 漢譯 無覆; 無礙, 無障礙 Sūtr., Kāśy., Rāstr., Bodh-bh.

anāvṛta-cakṣus 形 漢譯 開目 Gaṇḍ-vy.

anāvṛtārgala 形 門にて閉されざる(門); 閉されざる, 制限を受けざる; 自由なる.

an-āvṛti 女 漢譯 無礙 Abh-vy., Abh-k.

an-āvṛtti 女 漢譯 無障 Madhy-vibh.

an-āvṛṣṭi 女 雨の闕乏, 旱魃; 漢譯 亢旱 Guhy-s.: ~samaye 亢旱時 Guhy-s. 84.

a-nāśa 1. 男 保存. 形 破壊せられざる, 生ける; 漢譯 不壞, 不滅, 非壞 Lan̄k.

an-āśa 2. 形 期待なき, 絶望の.

an-āśaka 中 斷食; 饑餓.

anāśakāyana 中 [同上]; 斷食の過程(悔悟の爲の).

an-āśana 中 漢譯 斷食 Divy.

an-āśāsyā 未受分 願はれざる.

an-āśita 通受分 餓えたる.

an-āśitva 中 不食.

an-āśin 1. 形 食はざる.

a-nāśin 2. 形 減せざる.

an-āśiṣṭha 漢上 最も遅き.

an-āśis 形 願はしからざる.

an-āśu 形 速かならざる, 遅き.

an-āścarya 形 不思議ならざる. 中 漢譯 不希奇, 非奇特 Bodh-bh.

an-āśrama 男 四(又は三) Āśrama の孰れにも非ざるもの.

an-āśraya 1. 男 (男)より獨立せること; 漢譯 無依 Aṣṭ-pr.

an-āśraya 2. 形 防禦なき; 支持を與へざる.

an-āśrayatā 女 無防禦, 無支持.

an-āśrava 漢上 (男)に従順ならざる.

an-āśrita 通受分 獨立の; (聖)を無視せる; 漢譯 不依, 無所依, 不著, 離著 Lan̄k.

an-āśvas 三過分 食はざりし, 斷食せる.

an-āśvasta 通受分 漢譯 未安息, 未安穩(者) Av-ś.

an-āśvāsika 形 慰安を與へざる, 勇氣を沮喪せしむる; 安穩ならざる (Divy., Av-ś.); 漢譯 無力 Śikṣ.

a-nāṣṭra 形 何等の危険なき, 安全なる.

a-nāsa 形 鼻なき; 漢譯 無鼻 Mvyut.

a-nāsika 形 [同上].

an-āsakti 女 漢譯 無著, 無染著 Vijñ-t.

an-āsaṅga 男 不安定.

an-āsanna 通受分 (男)に近からざる.

an-āsavākhyā (va-ākhyā) 形 蒸溜せる酒精と呼ばれざる.

an-āsādayat 現分 得ざる.

an-āsādayamāna 現分 自 發見せざる.

an-āsādita 通受分 達せざる, 得られざる.

an-āsādya 未受分 得べからざる.

an-āsita 通受分 それに服従せざる(1).

an-āstarita 通受分 =an-āstirṇa(Jāt-m.).

an-āstika 形 不信の, 無神の. 男 漢譯 執有 Madhy-v.

an-āstikya 中 不信, 無神.

an-āstirṇa 通受分 覆はれざる, 裸の; 漢譯 無替 [=無襯替] Mvyut.

an-āstha 形 無關心なる; 漢譯 不著 Buddh-c.

an-āsthā 女 (於)に對する無關心.

an-āsthita 通受分 占據せられざる(場處).

an-āspada 中 漢譯 不能近, 非行處 Lan̄k.

an-āsrava 男 形 漏即ち煩惱より離脱せる; 漢譯 淨, 無漏, 無流 Lan̄k., Aṣṭ-pr., Lan̄k., Sūtr., Abh-vy., Abh-k., Bodh-bh., Vijñ-t., Mvyut.; ~āni cittāni 無漏心 Aṣṭ-pr. 543.

anāsrava-jñāna 中 漢譯 無漏智 Mvyut.

an-āsravatva 中 漢譯 無流, 無漏根 Abh-vy.

anāsrava-prakāra 形 漏即ち煩惱より離脱せる類の (Buddh-c.).

an-āsrāva 形 苦を招かざる.

an-āsvādita 通受分 味はれざる; 漢譯 無愛, 無愛味, 不味著, 不貪著味, 捨離味著, 離(諸)愛味 Bodh-bh.

anāsvādita-pūrva 形 曾て味はれしことなき.

an-āsvādya 中 漢譯 不嘗者, 未嘗者 Lan̄k.

an-āhata 通受分 打たれざる; 洗はれざる, 新しき.

anāhata-dūṣya 中 漢譯 新淨衣 Divy.

an-āhāra 男 節制, 饑餓; 奪略せざること; 産出せざること; 漢譯 非食 Abh-vy. 形 食を攝らざる.

an-āhāratā 女 [同上(形)抽].

an-āhitāgni 形 聖火を維持せざる.

an-āhitāgnitā 女 [同上抽].

an-āhuta 通受分 供物を捧げざる, 祭を行はざる.

an-āhūta 通受分 呼ばれざる, 召喚せられざる.

an-āhvāna 中 呼ばざること, 召喚せざること(法律上).

a-nikāmatas 漢上 非自發的に, 不本意ながら.

a-nikṛti 女 名譽あること, 尊敬に値すること.

a-niketa 形 家なき; 漢譯 無處, 無住, 無依處; 無染, 不著, 無著, 無所著, 不執著, 無餘倚; 無相, 無相依 Lal-v., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Kāśy., Mvyut.

aniketa-cārin 形 無相行, 無所障礙 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
an-iketatā 女 住居なきこと。
aniketa-sthita 形 [Samādhi の名] 無相住 *Mvyut.*
a-nikṣipta 過受分 放置せられざる。
anikṣipta-dhura 形 不休息, 無有休息, 未曾休息; 不捨軛, 不捨(共)軛, 不捨(善)軛; 不棄精進, 勇猛無退, 勇猛精進, 不捨於勇猛精進 *Lank.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh vy. I.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.* 男 [菩薩の名] 不休息 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*
anikṣipta-dhuratā 女 不捨(善)軛, 不散亂心 *Aṣṭ-pr.*
a-nigāḍa 形 鎖を闕くのみなる, 足枷なき。
a-nigūḍham 副 隱蔽されずして, 公明に。
a-nigraha 男 無抑制。
a-nigha 形 傷つけられざる (*Lal-v.*)
a-nicaya 形 貯藏なき。 男 貯藏せざること。
a-nicita 過受分 (具)の種を蒔かれざる。
an-iccha 形 欲望なき; 不本意の。
an-icchat 現分 欲せざる; 不欲, 無愛欲 *Madhy-vibh.*
an-icchantika 形 非一闍提(音寫) *Lank.*
an-icchantikā 女 非一闍提(音寫); 不生信心, 不生樂欲 *Lank.*
an-icchā 女 嫌忌; 欲望なきこと; 無計畫; 無關心; 不樂 *Abh-vy.*, *Abh-k.*; 具 不本意に。
anicchā-vāsana 中 不樂住, 不欲住, 不自欲住, 非自樂居中 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
an-iñja 形 [Ing]; 不動 *Saddh-p. 5.*
an-iñjana 形 [Ing]; 不動, 無有飄動 *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-k.*
an-iñjanatā 女 [Ing]; 無動搖 *Aṣṭ-pr.*
an-iñjamāna 現分 [Ing]; 不動, 不動搖 *Saddh-p. 5.*
an-iñjita 過受分 [Ing]; 不動 *Saddh-p. 282.*
an-iñjya 形 [Ing]; [Samādhi の名] 不可動轉 *Mvyut.*
aniñjya-bhūta 形 [Ing]; 不動 *Saddh-p. 161.*
an-it 形 文法 it (所謂る Binde vokal)を有せざる。
an-ita 過受分 同行せざる, …を缺ける。
a-nitya 形 無常なる; 一時的の, 常恆ならざる; 不確實の; 無常, 非常; 不定 *Aṣṭ-pr.*, *Nyāy-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-c.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.*, *Sāṃkhy-k.*, *Mvyut.*: ~āḥ sarva-saṃskārāḥ 一切行無常 *Dharm-s.*, ~e nitya-saṃjñin 無常常想 *Gaṇḍ-vy. 228.*
a-nityatā 女 無常; 不確實, 不定; 無常, 非常, 無常性 *Suv-pr.*, *Abh-vy.*, *Vijñ-t.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*
a-nityatva 中 [同上]; 無常 *Nyāy-pr.*, *Lank.*
a-nityam 副 不連續的に, 時々。
anitya-satya 中 無常諦, 無常實 *Bodh-bh.*
anityātman (ya-āt) 形 精神の統一なき。
a-nidarśana 形 無見, 不見, 非現, 非顯, 無形,

不可見, 無可指示 *Kāśy.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

a-nidāgha-didhiti 男 月(太陰)。

a-nidāna 形 根底なき。

an-id-it 形 文法 it として i を有せざる。

a-nidra 形 眠らざる, 覺め勝ちなる。

a-nidratā 女 不眠, 覺醒。

a-nidrā 女 不眠。

a-nidhana 形 無終 *Lank.*

a-nindat 現分 非難せざる。

a-nindā 女 無難。

a-nindita 過受分 非難せられざる; 徳ある; 不毀, 無毀, 無過失, 無譏毀, 離譏毀; 所欽歎; 嚴好 *Gaṇḍ-vy.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*

anindita-yaśas 形 好名稱 *Lal-v.*

a-nindya 未受分 非難すべからざる, 咎なき。

an-indraka 形 *Indra* 神なき。

an-indhana 形 薪なくして(燃ゆる)。 ~m 副 薪なくして。

a-nipāta 男 不死, 存在。

a-nipāna 中 不飲, 渴。

a-nipuṇa 形 巧みならざる; 技巧なき。

a-nibaddha 過受分 結び付けられざる; (因)に對して留意せざる; 結合せざる; 束縛せられざる(道德的に)。

a-nibandhana 形 原因なき, 確乎たる理由なき。

a-nibhṛta 過受分 可動の, 休止なき; 不謹慎なる; 激しく動揺する(水), 激烈なる, 強烈なる, 強力なる(香)(*Jāt-m.*)。

a-nibhṛtatva 中 可動性。

a-nimajjana 中 越, 超 *Abh-vy.*

a-nimantrita 過受分 招かれざる。

a-nimitta 中 兇兆; 不確實, 無根據; 無原因; 無相 *Sūtr.*, *Dharm-s.* 形 豫言すべからざる, 不確實なる; 根底なき; 無相, 無性, 無自性 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Mvyut.* ~, ~m, ~tas 副 原因なくして。

animitta-nimitta 形 私欲なき。

animitta-vihāra 男 住寂 *Sūtr.*

animitta-vihārin 形 住於無相 *Mvyut.*

animitta-sukha 中 無相樂, 無相法樂 *Lank.*

animitti-kṛta 形 曾無標記 *Sikṣ.*

a-nimiṣ 女 無瞬; 男, 具 用心深く。

a-nimiṣa 形 目を閉ちざる, 瞬きせざる, 覺めたる; 不瞬, 無瞬, 不合目, 不瞬, 目不曾瞬, 瞻視, 諦視; 直視不瞬; 無暫捨, 目不暫捨; 無懈倦; 覺 *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*: ~air netraiḥ 目不暫捨 *Saddh-p. 147.*, ~m anunirikṣantaḥ 目不暫移, 目未曾捨 *Suv-pr. 190.*

a-nimiṣat 現分 瞬きせざる。

animiṣa-dṛś 男 魚。

animiṣa-nayana 形 目不暫捨, 目不暫瞬, 目視不瞬 *Gaṇḍ-vy.*

animiṣa-netra 形 心無暫捨, 心無懈倦 *Gaṇḍ-vy.*: ~gambhīra-caryā 於甚深行心無暫捨, 修(菩薩)道心無懈倦 *Gaṇḍ-vy. 286.*

a-nimiṣita (過受分) = animiṣa.
animiṣekṣaṇa (°sa-ik°) (形) 瞬きせざる, 目を閉ぢざる.
a-nimilita-locana (形) 目を閉ぢざる, 目を開ける.
a-nimeṣa (形) 瞬きせざる. (圓) 瞬きせざること.
a-nimeṣatā (女) 瞬きせざること.
a-nimnonnata (°na-un°) (形) (漢譯) 無高下; 無有高下 *Gaṇḍ-vy.*
a-niyata (過受分) 抑制せられざる, 制限せられざる, 確かならざる; 異常の; (漢譯) 不定, 不決定 *Lal-v., Sūtr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
aniyata-kārin (形) (漢譯) 不定行, 所作不定, 不決定修行 *Bodh-bh.*
aniyata-gotraka (形) (漢譯) 不定性, 不定種性 *Lank.*
aniyata-bhūmika (形) (漢譯) 不定地 *Mvyut.:* catvāro ~ āḥ dharmāḥ 四不定地法 [1. kaukṛtyam 惡作, 2. middham 睡眠, 3. vitarkaḥ 尋, 4. vicāraḥ 伺] *Mvyut.*
aniyata-rāśi (男) (漢譯) 不定聚 *Mvyut.*
aniyata-vṛtti (形) 一定の生計なき.
aniyata-vedaniya (形) (漢譯) 順不定受 *Mvyut.*
aniyata-velam (副) 不定時に.
aniyatātman (°ta-āt°) (形) 自我を制御せざる.
aniyati-patita (形) (漢譯) 不定, 未定, 未墮決定 *Bodh-bh.*
a-niyantraṇa (形) 拘束せられざる. ~m (副) 無制限に, 自由に.
a-niyantraṇā (女) 絶對性.
aniyantraṇānuyoga (形) 遠慮なく尋ねらるべき.
a-niyama (男) 無制限, 無自制; (漢譯) 不定, 不決定 *Vijñ-v., Bodh-bh.*
aniyamopamā (°ma-up°) (女) [譬喩の一種].
a-niyukta (過受分) 指令せられざる, 訓令せられざる; (於)に慣れざる.
a-niyujyamāna (現分) (受) 權能を附與せられざる.
a-niyoga (男) 不當なる命令; 無用.
a-nirākaraṇatā (女) (漢譯) 不捨, 不休息 *Bodh-bh.*
a-nirākṛta (過受分) 障礙なき, 妨害せられざる; (漢譯) 無不作, 無所棄捨 *Bodh-bh.*
a-nirikṣaka (形) (圓)を見ざる, …を訪はざる.
a-nirukta (過受分) 言ひ詮はされざる; 隱密の(詩中に神の名が明言せられざるもの).
a-niruddha (男) 閒牒; [Pradyumna 又は Kāma の子の名]; (漢譯) [佛弟子の名] 無滅, 不滅, 未滅, 如意 *Bodh-c., Aṣṭ-pr., Lank., Abh-vy., Mvyut., 玄應;* (音寫) 阿那律, 阿那律, 阿難律, 阿泥律陀, 阿窠樓駄, 阿窠婁駄, 阿泥盧豆, 阿尼律陀, 阿尼婁陀, 阿尼樓駄 *Lal-v., Saddh-p., Sukh-vy. I, II., Abh-vy., Mvyut., 玄應;* [人名] 阿尼盧頭, 阿窠樓頭, 阿窠樓駄 *Divy.* (田) 家畜を縛する綱. (形) 障礙なき, 支配せられざる; 自由意志ある; (漢譯) 不滅, 無滅, 未滅, 無所滅, 未滅(法) *Bodh-c., Aṣṭ-pr., Prajñ-h., Lank., Abh-vy., Madhy-v.*
a-nirūpita (過受分) 觀察せられざる, 決定せられざる.
a-nirodha (男) (漢譯) 不滅 *Madhy-v.*

a-nirodhikā (形) (女) (漢譯) 無滅 *Aṣṭ-pr.*
a-nirodhita (過受分) (漢譯) 無沒 *Sapt-pr.*
a-nirgama (男) (漢譯) 不出, 不去 *Lank., Madhy-v.*
a-nirjāta (過受分) (漢譯) 無滅, 不滅; 非所生 *Aṣṭ-pr.*
a-nirjita (過受分) 克服せられざる.
a-nirṇikta (過受分) 淨められざる.
a-nirṇita (過受分) 決定せられざる, 適合せられざる.
a-nirdaya (形) 軟かき, 優しき. °— (副) 靜かに.
a-nirdaśa (形) (生後又は死後)未だ十日を経ざる.
anirdaśāha (形) [同上].
a-nirdiṣṭa (過受分) 指示せられざる; 特記せられざる; 權限を附與せられざる; (漢譯) 未說, 難見 *Sikṣ.*
anirdiṣṭa-kāraṇam (副) 理由を示すことなく.
a-nirdiṣṭa-kārin (形) 命令を行はざる.
a-nirdeśa (男) 特記せざること, 無規定; (漢譯) 不應說 *Sikṣ.* ~ena (具) (副) 委細に互ることなく, 簡潔に.
a-nirdeśya (未受分) 特記すべからざる, 特定せられざる.
a-nirbandha-ruṣ (形) 執拗に怒れる.
a-nirbhinna (過受分) 中斷せられざる, 差別せられざる; 曖昧なる.
a-nirbheda (男) 裏切らざること.
a-nirmukta (過受分) 解脱せざる, (從)より離脱せざる.
a-nirmokṣa (男) 無解脱.
a-niryāṇa (形) (漢譯) 不出, 未出, 不求出離, 非離處 *Lank., Mvyut.*
a-niryūha (男) (形) (漢譯) 不捨, 無捨; 無去, 不可持去 *Lank., Daś-bh.*
a-nirlodita (過受分) 十分に調査せられざる.
a-nirvacaniya (未受分) (具)により又は(具)として定義すべからざる.
a-nirvarṇaniya (未受分) 眺められざる.
a-nirvarṇya (未受分) 筆紙に盡し難き (*Jāt-m.*).
a-nirvācya (未受分) 言ひ詮し難き
a-nirvāṇa (過受分) 不滅の, 終止せざる; 馴れざる, 野生の.
a-nirvāṇa-hetu (形) (漢譯) 非涅槃因, 不作涅槃因 *Lank.*
a-nirvāpita (過受分) (漢譯) 不滅.
a-nirvāhya (不參分) 執行することなく, 處理し難き.
a-nirviddha (過受分) 貫かれざる, 射貫かれざる.
a-nirvidhita (形) 遂行する意志なき.
a-nirvṛta (過受分) 不満足なる; 不幸なる.
a-nirvṛti (女) 不快, 悲しみ.
a-nirvṛtta (過受分) 完成せざる.
a-nirveda (男) 勇敢, 大膽, 自恃.
anirveda-kara (形) 倦まざる(努力).
a-nirvedita (過受分) 示されざる.
a-nirveśa (形) 自己の罪を贖はざる.
a-nirhānarca (°na-rc°) (形) *Yājñ.* の暗誦に何等闕如する所なき.
a-nirhuta (過受分) 祭の完了せられざる.
a-nirhrādin (形) 低調の, 鳴り響かざる.
anila (男) 風, *Vāyu* 神; 生氣 [身體の三要素の一]; [或る Rākṣasa の名]; (漢譯) 風 *Rāṣṭr., Mvyut.*

anila-jvala 男 風火 *Saddh-p.*
a-nilambha 形 無礙; 無相; 無得, 無所得, 無所有, 悉不可得 *Gaṇḍ-vy.*; 不住處 [= *anilamba* の 義(1)] *Mvyut.*
anilambha-cakṣus 中 無相眼, 無礙眼 *Gaṇḍ-vy.*
anilambha-niketa-nirata 形 [= *anilamba* の 義(1)]; 不樂一切住處精進 *Mvyut.*
anilambha-vihāra 形 無所住處, 無所得處 *Gaṇḍ-vy.*
anilambha-samādhi 男 無緣三昧, 無著三昧 *Saddh-p.*
a-nilaya 形 無休息の, 休止せざる.
a-nilayana 形 依處なき. 中 依處又は歸趣なきこと.
anila-sambhava 男 [火の別名, *Agni* 神].
anila-sārathi 男 [同上].
anilā 女 風 *Mañj-m.*
anilātma-ja (°la-āt°) 男 [*Bhīma* の別名].
anilāśana 男 蛇.
anilāhata (°la-āh°) 形 風に動かされたる (*Buddh-c.*).
anilāhati (°la-āh°) 女 一陣の風.
a-nivartaka 形 歸らざる, 遁れ去らざる.
a-nivartana 形 [同上]; 中止するに不適當なる, 正しき.
a-nivartaniya 未受分 歸らざるべき.
anivartaniya-citta-bhūṣana 男 不廻心嚴 *Mvyut.*
a-nivartitva 中 勇敢なる抵抗; 不退.
a-nivartin 形 遁れ去らざる; 止められざる; 勇敢なる; 不退, 不廻, 不還, 無退轉 *Lal-v.*
a-nivartiya 未受分 俗 [< *anivartya*]; 無退 *Daś-bh. 62.*
a-nivartya 未受分 不退, 不轉, 不可轉, 無退轉, 不退轉, 難廻 *Lal-v., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Abh-k.*
a-nivāraṇa 中 不妨害.
a-nivārita 過受分 妨げられざる; 不辭 *Mvyut.*
a-nivārya 未受分 遠ざけ得ざる, 抵抗すべからざる.
a-niviśamāna 現分 休息せざる.
a-niviṣṭa 過受分 結婚せざる, 一家をなさざる.
a-nivṛta 過受分 妨げられざる, 阻まれざる; 無覆, 不遮 *Abh-vy., Abh-k., Viñ-t., Mvyut.*
anivṛtāvākṛta 形 無覆無記, 不遮不授記 *Viñ-t., Abh-vy., Mvyut.*
a-nivṛtta 過受分 背を向けざる, 遁れざる; 勇敢なる; (逆)を厭はざる; 不捨離, 無有退轉 *Mvyut.*
anivṛtta-māmsa 形 肉食を禁せざる.
a-nivṛtti 男 勇敢なる抵抗; 無終止; 無謝 *Abh-vy.*
a-nivṛttitā 女 無止息性 *Bodh-bh.*
a-nivedaka 形 知らしめざる.
a-nivedya 不変分 報告せずして.
a-niśa 形 連続の. 〃 —, ~m 連続して; 無斷 *Rāstr.*
a-niśānta 過受分 消滅せられざる; 無盡, 無有盡滅 *Gaṇḍ-vy.*
a-niśita 過受分 休息せざる. ~m 連続して.

a-niścaya 形 決定せざる. 男 不確定.
a-niścara 形 揺れざる, 確乎たる, 決然たる (*Divy.*).
a-niścāraṇatā 女 離, 不出 *Bodh-bh.*; *aman-āpa-vacana* ~ 離不愛語, 不出一切非愛語 *Bodh-bh. 197.*
a-niścita 過受分 決断せざる; 不確實なる; 不明, 不決定, 不能明了, 不能分了; 猶未決定 *Daś-bh., Lañk., Bodh-bh.*
a-niścitatā 女 不決定, 不確實.
a-niścitya 不変分 決定せずして.
a-niścintya 未受分 計り知るべからざる.
a-niśceya 未受分 確むべからざる.
a-niśrayatva 中 無依止, 無所依止 *Aṣṭ-pr.*
a-niśrita 過受分 不依, 不住, 無依, 無所依, 無依住, 無依處, 無所依止; 不著, 無倚著, 無所著, 無依著, 不生依著; 不倚, 無所倚; 不徇 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.* → *āśraya-*
a-niśritatā 女 無所依止 *Aṣṭ-pr.*
a-niśritatva 中 無所依 *Aṣṭ-pr.*
anīśrita-vihārin 形 無依住, (心)無所著 *Gaṇḍ-vy.*
anīśrita-śila 男 無所依戒 *Sam-r.*
anīśrita-samjñā 女 無所依想 *Aṣṭ-pr.*
a-niḥśaraṇa 形 [*aniḥśaraṇa* の 義] 不離, 非出世, 非究竟 *Lañk.*
a-niḥśeṣita 過受分 完全に破壊せられざる.
an-iṣavya 形 矢に對して安全なる.
a-niṣiddha 過受分 妨げられざる; 禁ぜられざる.
an-iṣu-cārin 形 矢を以て狩せざる.
a-niṣka-dhṛk 形 下げ飾りを有せざる.
a-niṣkaśāya 形 情欲を離れざる.
a-niṣkrta 過受分 贖はれざる.
an-iṣṭa 1. 過受分 (屬)に不快を感じる, 楽しからざる; 不幸なる, 害ある; 禁ぜられたる, 不可とせられたる; 憎, 怨憎; 不愛, 非愛, 非所愛, 非可愛, 不可愛; 不欲; 罪 *Daś-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Viñ-v., Bodh-bh., Saddh-p., Mvyut.*: ~o *vipākaḥ* 罪報 *Saddh-p. 375.* 中 惡, 災害.
an-iṣṭa 2. 過受分 供儀せられざる, 犠牲に供せられざる.
aniṣṭa-gandha 形 惡臭の.
aniṣṭa-phala 中 惡結果.
aniṣṭaphala-vāhaka 形 應受惡報 *Suv-pr.*
aniṣṭa-samyoga 男 怨憎會 *Saddh-p.*
an-iṣṭi 女 不應許, 不成正術 *Abh-vy.*
an-iṣṭin 男 供儀を爲さざる者.
a-niṣṭhā 女 不確實, 確乎たらざること; 無窮, 無盡 *Abh-vy., Lañk.*
a-niṣṭhura 形 粗暴ならざる, 親切なる.
a-niṣṇa 形 傳授を受けざる, 教育なき.
a-niṣpanna 過受分 熟さざる, 完成せられざる; 無實; 未成, 不成就 *Lañk., Sūtr.*
a-niṣpannatva 中 [同上].
a-niṣyanda 形 汗を出さざる.
a-ni(h)ṣṭhitāśa (°ta-āś°) 形 希望を失はざる.

a-niṣṣṭa 形 権能を附與せられざる。
a-niṣṣṭhat 形 完結せざる, 途上に在る。
a-niṣṣaraṇa-darśin 形 不明出要 *Sikṣ.*
a-niṣṣarat 形 出て來らざる。
an-iha 形 (「此處」を有せざる即ち) 現世に心を惱まざる。
a-nihata 形 殺されざる。
anika 形 顔, 前; 中央; 縁(の), 尖端; 隊, 隊伍, 軍隊; 兵, 軍 *Prāt-m., Mvyut.*
anika-darśana 形 觀兵, 觀軍 *Prāt-m.*
anikāgra 形 軍隊の先頭。
anikini 形 軍隊。
an-ikṣaka 形 見ざる, 盲ひたる (*Divy.*); 無眼 *Divy.*
an-ikṣaṇa 形 見ざること, 眺めざること; 難見, 不可見 *Vijñ-v.*
an-ikṣā 形 難見 *Vijñ-v.*
a-nica 形 低級ならざる。
a-nicānuvartin 形 卑陋なる(行爲を)事とせざる。
an-ijāna 形 供儀をなさざりし。
a-niḍa 形 巢なき。
a-niti 形 惡計, 輕卒, 愚なる行爲。
a-niti-jña 形 非策の, 思慮なき, 愚なる。
a-niti-śāstra-jña 形 政治學に通曉せざる。
an-idṛg-ātman 形 唯一の。
an-idṛg-āśaya 形 斯る感情を有せざる。
an-ipsaniya 形 望むべからざる。
an-ipsita 形 願はれざる, 不快なる。
a-ni-raśana 形 帶を關かざる。
an-irita 形 動かされざる (*Buddh-e.*); 不飄動 *Gand-vy.*
an-irṣu 形 不嫉他榮 *Bodh-bh.*
an-irṣuka 形 不嫉, 無嫉, 無嫉妬, 無憎妬, 無嫉恚, 無嫉心, 無嫉妬心, 無懷嫉妬, 捨離嫉妬心 *Lal-v., Sam-r., Sukh-vy. I., Saddh-p., Gand-vy., Bodh-bh.*
an-irṣya 形 嫉まざる。
an-irṣyu 形 [同上]; 不嫉他榮, 無嫉妬心 *Bodh-bh.*
a-nila 形 白き (*Jāt-m.*)
a-nila-vājin 形 [Arjuna の名]。
an-iśa 形 熟達せざる, (國)を統御し得ざる。
an-iśatva 形 [同上]。
an-iśā 形 無力。
an-iśvara 形 主なき; 至上の存在に屬せざる; (國)を能くせざる; (不定)すべき能力なき。
an-iśvaratva 形 不能, 無權力。
an-iha 形 努力せざる; 勞せずして得られたる; 欲望なき。〜*yā* 形 心勞なく。
an-ihamāna 形 何物をも希はざる。
an-ihita 形 希はれざる。
anu 1. 形 後に, 然る時に; 復た。前 [國] と俱に] 沿ひて; の方へ; 越えて; の後に; 従つて; …の爲に [利益, 恩惠, 辯護, 贊同], …に關して; [國, 國] と俱に] 後(時間)に就て; [國] と俱に] …の爲に; 隨 *Sūtr., Abh-vy.*

anu 2. 形 [人名]。

anuka 形 次の, 附隨の; 從屬せる; 追求する, 貪欲の; 小 *Bodh-bh.*
anu-kaccham 形 何れの岸に於ても。
anu-kathana 形 報告; 論議, 會話。
an-kanakhalam 形 *Kanakhala* 山上に。
anu-Kam, → *Kam.*
anu-Kamp *anukampate.* → *Kamp.*
anu-kampaka 形 (一)に同情せる; 哀愍, 憐愍, 懷哀愍, 心懷哀愍, 有大慈悲; 悲愍者 *Divy., Bodh-bh., Suv-pr., Guhy-s.* 形 同情者。
anu-kampana 形 憐愍, 同情; 哀愍 *Bodh-bh.*
anu-kampanā 形 悲, 憐愍 *Sūtr.*
anu-kampaniya 形 同情に値する。
anu-kampā 形 (國, 於, 一)に對する憐愍, 同情; 悲, 愍, 悲愍, 憐愍, 深憐愍, 哀愍, 愍哀, 極哀愍, 傷愍, 愍傷, 愍念, 憂念, 慈愍, 不起嫌心 *Sam-r., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Divy., Sukh-vy. I., Laṅk., Lal-v., Bodh-bh., Sūtr., Sāmkhy-k., Madhy-v.*; 攝受 *Divy.*; 饒益 *Divy.*; ~ *m upādāya* 以憐愍 *Madhy-v. 59.*
anukampā-citta 形 哀愍心 *Bodh-bh.*
anukampārtham (pā-ar°) 形 垂哀 *Saddh-p.*
anukampāśaya (pā-āś°) 形 哀愍意樂 *Bodh-bh.*
anu-kampita 形 同情せられたる; 愍, 憐愍 *Lal-v.* 形 同情, 慈悲。
anu-kampin 形 (國, 一)に同情せる; 哀愍 *Lal-v.*
anukampokti (pā-uk°) 形 同情の言葉。
anu-kampya 形 同情せらるべき。
anu-kara 形 模倣する。形 助手。
anu-karaṇa 形 模倣。
anu-karṣa 形 引きつくること; 先行のものに補ふこと; 引起, 攝, 攝受 *Daś-bh.*
anu-karṣaṇa 形 [同上]。
anu-karṣin 形 引きつくる。
anu-kalpa 形 (第一規則の行はれ難きにより之に代る) 第二の規則。
anu-kalpita 形 相當せる, 値せる。
anu-kāṅkṣin 形 …を得んと努力する, 熱心なる。
anu-kāma 形 願望, 欲望。形 思ひ通りの。〜*m* 形 思ひ通りに, 意の儘に。
anu-kāra 形 模倣せる; 似たる。
anukāraka 形 [同上]。
anu-kārin 形 模倣せる, 似たる; 對應せる, 一致せる, 從へる。
anu-kārya 形 代表せらるべき。形 後續の仕事。
anu-kālam 形 正規の時間に。
anu-kirṇa 形 …に満てる。
anu-kirtana 形 宣言, 陳述, 布告。
anukirtaya 形 → *kirtaya.*
anu-kirtya 形 宣言せらるべき。
anu-kuṭṭaka 形 毀 *Saddh-p.*
anu-kūla 形 岸の方へ; …に面せる; 適當なる; 快き; 都合よき; 好意を持てる; 順, 隨, 隨順, 順從, 順起, 順應, 緣順, 隨從; 愛, 可愛; 所宜 *Gand-*

vy., Lañk., Rāstr., Sūtr., Madhy-vibh., Vijñ-t.,
Abh-vy., Bodh-bh., Śikṣ., Mvyut.; 一° 求, 修行
求 Śikṣ., Mañj-m. ~ena 相順從 *Suv-*
pr. 14. ~m 岸上に.

anukūla-kārin 親切を示せる.

anukūla-ja 岸に生じたる樹.

anu-kūlatā 恩惠; 從順, 性癖; 順, 隨順 *Abh-*
vy.

anu-kūlatva [同上].

anu-kūlana 諛媚.

anukūla-pariṇāma 好都合にて終了する.

anukūlaya (名動) (業)に諂ふ.

anu-kūlita (通受分) 優遇せられたる.

anukūlokta (°la-uk°) 阿諛の言.

anu-Kṛ anukaroti. → Kṛ.

anu-kṛti 模倣; 相 [Tib. ḥdra-ba] *Mvyut.*;
同 *Aṣṭ-pr.*

anu-kṛtya (未受分) 模倣せらるべき.

anu-Kṛp anukṛpate. → Kṛp.

anukṛpāya (名動) → kṛpāya.

anu-Kṛṣ, → Kṛṣ.

anu-kṛṣṭatva 次前の規則より補足せらる
ること.

anu-klṛti 特殊性.

an-ukta (通受分) 云はれざる, 論議せられざる; 呼ば
れざる.

anukta-kliva-vacana 無益の語を言はざる.

an-uktatva [anuktaの].

anu-Kram anukramati, anucaṅkramyate(受). →
Kram.

anu-krama 男 正しき順序; 目次; 次第 *Abh-*
vy., Mvyut. ~ena 男, ~āt 順序により
て.

anu-kramaṇa 列擧.

anu-kramaṇikā 女 目次; *Veda* の索引.

anu-kramaṇi 女 [同上].

anu-Kruś, → Kruś.

anu-krośa 男 (prati; 男, 女, 一°)に對する同情, 憐
愍; 悲 *Sūtr.*

anu-krośavat 同情ある.

anukrośātmatā (°śa-āt°) 女 同情に富めること.

anu-kṣaṇam 刻々, 連続して.

anu-kṣapam 毎夜.

anu-khyāti 女 視ること.

anu-ga 形 從ふ; 追ふ; (一°)に對應する; 伴,
伴類; 隨, 隨入, 隨行; 順; 相續; 無絶 *Daś-bh.,*
Sam-r., Abh-vy., Sūtr., Mvyut.; ghosa ~ 隨音聲
Sam-r. 6. → tathatā ~. 男 從ふ者; 女 從者.

anu-gaṇḍikā 女 丘陵.

anu-gata (通受分) → Gam. 隨, 順, 隨逐, 所
隨逐, 隨去, 隨入, 隨順, 相隨, 隨行, 隨向, 所隨; 隨
知, 了知, 通達; 入, 遊入; 紹, 導; 觀 *Aṣṭ-pr., Lal-v.,*
Daś-bh., Sūtr., Bodh-bh., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.,
梵雜; sroto ~ 隨流向 *Bodh-bh., Mvyut.*

anu-gatatva 隨逐, 隨順得, 隨順而行 *Bodh-*

bh.

anugatāśaya (°ta-āś°) 形 心隨順 *Gaṇḍ-vy.*

anu-gati 隨ふこと.

anu-gatika 隨ふ; 模倣せる; 一致せる.

anugantavya (未受分) 從はるべき, 伴はるべき; 隨
隨行, 應當行之, 隨順; 當知, 隨判, 當得, 隨曉, 隨
了知, 隨了知, 隨應了悟 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh.,*
Rāstr., Abh-vy., Mvyut.

anuganti 女 ~ moktavā; 坐處應可爲留
Divy. 507.

anu-Gam anugacchati. → Gam.

anu-gama 隨ふこと; (生或は死の)後を逐ふこと;
模倣, 近接; 隨, 順, 隨順, 隨應; 知, 證; 隨
知, 解知, 普知, 了知, 隨證, 解了, 意解, 隨解, 通達,
隨順知, 隨順悟解; 思惟; 入; 發; 觀察 *Aṣṭ-pr.,*
Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lañk., Bodh-bh., Śikṣ., Abh-vy.,
Nyāy-pr., Mvyut.

anu-gamana [同上]; 隨順, 隨入 *Lañk., Daś-*
bh.

anu-gamya (未受分) 隨順せらるべき.

anu-gara 男 (暗誦者に對する)招き.

anu-Garj, → Garj.

anu-garjita 反響.

anu-Gā, → Gā.

anu-gāmin 形 (業)に從ふ, ……に從順なる; 隨,
隨順, 隨逐 *Gaṇḍ-vy., Sam-r.* 男 從僕, 召使.

anu-giram 山上にて.

anu-gita (通受分) → Gai. 模倣の歌.

anu-giti 女 [音律の一種].

anu-guṇa 形 ……と類似の性質なる, 相應せる; (一°)
に適せる; 順, 隨順 *Abh-vy., Bodh-bh.* ~m
德性に從ひて.

anu-guṇatva 性質の似たること, 相應せること.

anugūṇaya (名動) → guṇaya.

anu-gūṇavat 相應はしき德を有する.

anugūṇi-BHū, 類似す, 順應す.

anu-gūṇya 隨順合 [= ānugūṇya (中)]
Mvyut.

anu-gupta (通受分) → Gup.

anu-grhita (通受分) 惠まれたる, 恩惠を施されたる.
→ Grah. 攝受 *Bodh-bh.*

anu-Gṛ anugṛṇāti. → Gṛ i.

anu-Gai anugāyati. → Gai.

anu-godam Godā 河に於て.

anu-goptr ……を護る, ……を扶くる.

anu-Grabh, → Grabh.

anu-Grah anugṛhṇāti. → Grah.

anugraha 男 恩惠, 恩寵, 好意, 援助; 激勵; 利,
利益, 饒益, 財利; 攝, 隨攝, 攝取, 攝利, 攝
受, 順攝, 攝持, 攝益; 哀愍, 憐愍, 拔濟, 哀愍拔濟,
救度; 護念; 增 *Divy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Buddh-c.,*
Daś-bh., Śuv-pr., Vajr-pr., Bodh-bh., Abh-vy.,
Madhy-vibh., Sūtr., Śikṣ., Mañj-m.; sarva-loka-
~ 濟拔一切有情, 普攝世間一切衆生 *Aṣṭ-pr. 503.*

anugraha-kara 隨攝 *Sūtr.*

anugraha-kārin 益, 爲益 *Bodh-bh.* →

loka〜.

anugraha-kṛt 形 満足を與ふる。

anu-grahāṇa 中 恵を施すこと、恩恵；訓練。

anugrahārtham 副 ……の爲に、……に好意を示して。

anu-grahita 過受分 (四)に従事せる、熱中せる。

anugrahi-Kṛ, 好意の表示を爲す。

anugrahi-kṛta 形 恩恵を與へられたる。

aun-grahitavya 未受分 恩恵を示さるべき。

anu-grahitr 形 饒益 Bodh-bh.

anugrahopaghāta (°ha-up°) 明 饒益損減 Bodh-bh.

anu-grāhaka 形 (女 -ikā) 都合よくする、促進する；好ましき、親切なる、慈悲深き；益、饒益、能益、利益；攝、隨攝、攝受、攝取 Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-v. 男 支持者。

anu-grāhya 未受分 恵みに値すべき；(男)によりて恵まる。

anu-ghaṭana 中 連續。

anu-GHuṣ, → GHuṣ.

anu-Car, → Car.

anu-cara 形 (女 -i, —° は -ā) 従ふ。男 従者；伴、助伴、隨行、尋叛(?)、防邏人 Abh-vy., Mvyut. 視 扈從者。

anu-caraṇa 中 遊行、往詣 Śikṣ.

anu-caratva 中 侍づくこと、扶くること。

anu-carita 過受分 行、隨行、遊行；隨順、伴類、隨…行者；遂；交横馳走 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Bodh-bh.: mimāmsū〜 隨觀察行者 Bodh-bh. 37.

anu-carī 女 女の従者。

-anu-cārika 形 親近 Mañj-m.

anu-cārin 形 従ふ、隨行する；生取著 Laṅk.

anu-cita 1. 過受分 (具)を以て悉く鑿めたる。→ Ci 1.

an-ucita 2. 過受分 慣れざる；異常の；不適當なる、相應はしからざる、正しからざる；非長、非熟 Mvyut.

anucitārtha 形 稀なる或は不適當なる意味を有する。

anu-Cint anucintayati. → Cint.

anu-cintana 中 反省。

anu-cintanā 女 [同上]。

an-ucca 形 卑しき(生れ)、低き。

an-uccalat 現分 (從)より去らざる。

an-uccalana 中 不離本處 Gaṇḍ-vy.

an-uccalita 過受分 不離、不求出離、未發、未發足、不勝進、不動搖、不能動發、不能得出、不能超越、不能自出、未曾動出；徐徐安穩、漸漸調柔 Daś-bh., Lal-v., Saddh-p.

an-uccāraṇiya 未受分 言ひ論はし得ざる。

an-uccita 過受分 摘まれざる。

an-uccharika 形 相遇、相合 Mvyut.

an-ucchitti 女 切り取らざること、根絶せざること、破壊せざること、無破壊性。

an-ucchinna 過受分 中斷せられざる、妨げられざる。

-ucchiṣṭa (過受分) 中 僅少の殘餘もなきこと。形

殘食を含まざる、清潔なる。

an-uccheda 形 =anucchitti；不斷、非斷 Laṅk., Madhy-v.

an-ucchvasat 現分 呼吸せざる。

an-ucchvāsa 明 呼吸せざること。

anu-ja 形 後に生れたる、より若き。男 弟。女 (-ā) 妹。

anu-Jan anujāyate. → Jan.

anu-janman 男 弟。

anu-javana 中 逐、走逐 Kāśy.

anu-jā 女 → anu-ja.

anu-jāta 過受分 → Jan. 隨生 順生 Aṣṭ-pr., Mvyut.

anu-jātaka 形 (業)に似たる、…の如き。

anu-jānu-madhyam 副 膝の間に。

anujā-sutā 女 妹の子(Buddh-c.).

anu-jighṛkṣā 女 満足欲。

anu-Jiv, → Jiv.

anu-jīvika 男 從者。

anu-jivin 形 男 從屬せる(者)、劣れる(者)。

anu-jivisāt-Kṛ, 從屬せしむ。

anu-jivya 未受分 ……に隨て生くべき、……の如く生活すべき。

anu-Juṣ, → Juṣ.

anu-Jñā anujānāti, anujñāpyate(使役 受)。→ Jñā.

anu-jñā 女 贊同；退出の許可；開、聽 Bodh-bh. → abhy〜.

anu-jñāta 過受分 贊同又は許可せられたる；命令・指示或は教授せられたる、受けられたる；委任せられたる；尊敬せられたる；去ることを許されたる、解任せられたる；開、開許、許、聽許、悅可、許可、所許、所許可、所應許可、所印；受教；說、所說 Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Daś-bh., Śikṣ., Mvyut., 梵雜。→ an〜.

anujñāta-karman 中 開業、聽業 Bodh-bh.

anu-jñāna 中 =anujñā；聽、開聽 Bodh-bh.

anu-jñeya 未受分 可聽、應聽、所應聽 Bodh-bh.

anu-taṭa, °—, ~m 副 岸上に。

anu-Tap, → Tap.

anu-tarṣa 男 渴；酒。

anu-tarṣula 形 渴を覺えしむる、欲望を起さしむる。

anu-tāpa 男 悔恨；苦痛、悲哀；悔 Rāstr.

anu-tāpana 形 悔恨せしむる；苦しむる。

anu-tāpya 未受分 悔 Bodh-bh.

anu-tiṣṭhāsu 希求 形 (業)を將に行はんとする。

an-utkirṇa 過受分 空洞にせられざる、掘られざる。

an-utkṣipta-cakṣus 形 不高視、不眇視 Mvyut., Prāt-m.

an-utkṣepa 男 未學、未學高 Mvyut.

anutkṣepāprakṣepa 男 未學及未放、未學高及未放 Mvyut.

an-utkhāta 過受分 中 凹凸なき地面。

anu-tta 1. 過受分 [Da 1].

a-nutta 2. 過受分 打ち克ち難き。

an-uttana 形 平らかならざる、(聲の)高からざる。

an-uttama 形 (それ以上高位のものなき), 最高の, 最優の; 最強の; 漢譯 無上, 無上中無上 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*

an-uttara 1. 形 答へざる, 答ふべからざる. 甲 (法廷に於ける) 不満足なる答辯.

an-uttara 2. 形 更に高位のものなき, 最も優秀なる; 漢譯 勝, 最勝, 殊勝; 踰, 無上, 最上 *Daś-bh.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*: ~ ā samyaksambodhiḥ 無上正等菩提 *Madhy-vibh. 81.*, ~ ām samyaksambodhim abhisambuddham 得阿耨多羅三藐三菩提 *Saddh-p. 19.* 男 漢譯 [佛の十號の一] 無上, 無上士, 無上丈夫 *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Mvyut.*; 音寫 阿耨多羅 *Vajr-pr.*, *Sukh-vy. I. II.*, *Bodh-bh.*

an-uttaraṅga 形 波うたざる.

anuttara-jñāna 甲 漢譯 無上智 *Sikṣ.*

an-uttaratā 女 漢譯 上首, 無上 *Aṣṭ-pr.*

an-uttaratva 甲 答へざること, 答ふべからざること.

anuttara-dharma-cakra 甲 漢譯 無上法輪, 甚深法輪 *Suv-pr.*

anuttara-pūjā 女 漢譯 最上供養 *Dharm-s.*: *sapta-vidhā* ~ ḥ 七種最上供養 [1. *vandanā* 禮拜, 2. *pūjanā* 供養, 3. *pāpa-deśanā* 懺悔, 4. *anumodanā* 隨喜, 5. *adhyeṣanā* 勸請, 6. *bodhicittotpādaḥ* 發願, 7. *pariṇāmanā* 廻向] *Dharm-s.*

anuttara-phala 甲 漢譯 無上果 *Madhy-vibh.*

anuttara-bodhi 女 漢譯 無上菩提 *Madhy-vibh.*

anuttara-yoga-vartin 甲 [Tantra の題名].

anuttara-samyak-sambodhi 女 漢譯 無上正眞道 *Madhy-v.*; 音寫 阿耨多羅三藐三菩提 *Madhy-v.*

anuttarāvasthā 女 漢譯 無上位 *Madhy-vibh.*

an-uttarika 形 漢譯 無過上 *Sikṣ.*

an-uttarya 甲 漢譯 無上 *Mvyut.*: *ṣaḍ* ~ āṇi 六無上 [1. *darśana* ~ m 見無上, 2. *śravaṇa* ~ m 聞無上, 3. *lābha* ~ m 利無上, 4. *śikṣā* ~ m 學無上, 5. *paricaryā* ~ m 供無上, 6. *anusmṛty-* ~ m 念無上] *Mvyut.*

an-uttāra 形 通る 能はざる.

an-uttrasta 過受分 漢譯 不驚, 不畏, 不怖 *Saddh-p.*, *Kāśy.*

an-uttrāsa 形 漢譯 無恐, 無恐怖, 不恐不懼, 不驚不畏 *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*

an-utthāna 甲 活動力の缺乏.

an-utthita 過受分 漢譯 不起 *Saddh-p.*

an-utpatti 女 生ぜざること; 不生産; 失敗; 漢譯 不生, 無生, 不得生 *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.* 形 生ぜざる.

an-utpattika 形 漢譯 不生, 無生 *Vajr-pr.*, *Aṣṭ-pr.*: ~ eṣu dharmeṣu kṣāntiḥ pratilabdḥā 得無生法忍, 證無生法忍 *Aṣṭ-pr. 575.*

anupattika-dharma-kṣānti 女 漢譯 無生法忍, 不起法忍 *Saddh-p.*, *Laṅk.*, *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. I.*, *Madhy-vibh.*

anupattika-dharmatā 女 漢譯 無生法性 *Aṣṭ-pr.*

an-utpanna 過受分 生れざる; 生ぜざる; 效果なき.

成就せられざりし; 漢譯 不生, 無生, 未生, 非生, 未起, 未已生, 無所生 *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*, *Prajñ-h.*, *Sikṣ.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, → ādi ~.

anupanna-kṣāntika 形 漢譯 無生忍 *Sapt-pr.*

an-utpannatva 甲 漢譯 不生, 無生 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*

anupanna-pūrva 形 漢譯 非先已生 *Sapt-pr.*

anupannāniruddhatā 女 漢譯 無生無滅, 不起不滅 *Bodh-bh.*

an-utpāta 形 漢譯 無險 *Mvyut.*

an-utpāda 男 生ぜざること, 出現せざること; 無效果; 漢譯 無生, 無有生, 不生, 不出世, 非生, 未出, 不起, 無起; 無爲; 不現行 *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Sapt-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Laṅk.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Sikṣ.*, *Guhy-s.*, *Mvyut.*; 不值出世, 不值世 *Bodh-bh.*: *buddhānām* ~ ḥ 不值佛出世, 不值佛世 *Bodh-bh. 102.*

anupāda-kṣānti 女 漢譯 無生忍 *Lal-v.*

anupāda-jñāna 甲 漢譯 無生智 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

anupāda-jñāna-kṣāntika 形 漢譯 無生忍 *Aṣṭ-pr.*

anupāda-dharmatā 女 漢譯 無生法性 *Vajr-pr.*

an-utpādana 甲 不生産, 生ぜざること.

an-utpādanatā 女 漢譯 無生性 *Bodh-bh.*

anupāda-vāda 男 漢譯 無生論, 說無生 *Laṅk.*

anupāda-vādin 男 漢譯 無生論, 說於無生 *Laṅk.*

an-utpādikā 形 女 漢譯 無生 *Aṣṭ-pr.*

an-utpādita 過受分 漢譯 無起 *Sapt-pr.*

anupādita-citta 形 漢譯 未發心 *Bodh-bh.*

an-utpīdana 甲 漢譯 不惱 *Sam-r.*

an-utpīdita 過受分 漢譯 無苦惱, 無諸苦惱, 無諸災厄 *Suv-pr.*

an-utsada 形 漢譯 滅 *Bodh-bh.*

an-utsarga 男 漢譯 不捨, 不棄 *Mvyut.*

an-utsarpaṇa 甲 進まざること, 進涉せざること (*Jāt-m.*).

an-utsāha 男 力の缺乏, 決斷の缺乏; 努力せざること; 無頓著. 形 決斷力の缺けたる.

an-utsāhin 形 意志弱き.

an-utsuka 形 (一) を欲せざる (*Jāt-m.*).

an-utsukatā 女 僭越ならざること, 謙遜.

an-utsūtra 形 變則ならざること.

an-utsūtra-pada-nyāsa 形 (政策の) 規則に些も反せざる, (文典の) 規則に反する語なき.

an-utsrjana 甲 漢譯 不捨離 *Bodh-bh.*

an-utsrjanatā 女 漢譯 不捨 *Sikṣ.*

an-utsrṣṭa 過受分 漢譯 不捨, 不棄捨, 堅固 *Daś-bh.*, *Sikṣ.*

an-utseka 男 傲慢ならざること, 謙遜.

an-utsekin 形 僭越ならざること, 謙遜なる.

an-udaka 男 水なき; 漢譯 無水 *Laṅk.*

anu-daṇḍi 女 脊骨.

anu-datta 過受分 承諾せられたる; 免除せられたる; 戻されたる; 漢譯 給 *Divy.*

an-uda-pāna 甲 水を飲まざること, 渴.

an-udaya 男 不出現.

anudaya-bhāj 形 昇らざる(月).

anu-darśa 男 説明, 訓誡.
 anu-darśana 甲 考察; 觀, 隨見 *Sikṣ., Laṅk.*
 anu-darśin 甲 看取する, 考ふる; 觀, 隨觀, 循
 觀, 隨順觀察 *Daś-bh., Sikṣ., Divy.*
 anu-Dā, → Dā 1.
 an-udātta 形 高められざる, 通俗の; 低くせる, 抑
 音の(即ちアクセントなき); 低調に發音せられたる.
 男 抑音(アクセント無き音); [或る Nāga の名(無義)].
 an-udāttatara 男 udātta アクセント又は svarita ア
 クセントの前に於ける最も低きアクセント.
 an-udāttatva 甲 低調の音.
 an-udāra 1. 形 卑陋なる.
 anu-dāra 2. 形 妻に支配せらるる.
 an-udāsina 過受分 (prati)に就て無關心ならざる.
 an-udāhāra 形 不可受 *Kāśy.*
 an-udita 1. 過受分 未だ昇らざる(太陽).
 an-udita 2. 過受分 論議せられざる; 言はれざる.
 anu-dina- 副 毎日.
 anu-dinam 副 [同上].
 anu-divasam 副 [同上].
 anu-Diś, → Diś.
 an-udirayat 現分 使役 寂無 *vācam apy ~ 寂無*
 言説, 燕默少言, 默然不語 *Bodh-bh. 273.*
 an-udirita 過受分 非所説 *Daś-bh.*
 an-udirṇatva 甲 傲らざること.
 anu-Dṛś, → Dṛś.
 anu-deśa 男 (先行の列挙に對應する)後續の列挙; 使
 命.
 anu-deham 副 …の後方に; 後方より.
 anu-daivatam 副 神々に隨ひて.
 an-udgraha 男 不受, 不妄執著 *Aṣṭ-pr.*
 an-udghaṭita 過受分 不拔, 未曾吐 *Daś-bh.*
 an-udghāta 男 無動搖, 無衝動.
 an-uddhata 過受分 高慢ならざる, 謙遜なる; 無
 掉, 不掉 *Bodh-bh.*
 an-uddhṛta 過受分 (豫め)取り出だされざる.
 an-udyama 男 努力せざること.
 an-udyoga 男 努力せざること, 不活動.
 an-udyogin 形 努力せざる, 怠惰なる.
 anu-draṣṭavya 未受分 見らるべき, 觀察せらるべき.
 anu-Dru, → Dru.
 anu-druta-lipi 女 (書寫)安奴鉢度多書(?) *Lal-*
v. 126.
 an-udvigna 過受分 激せざる, 驚かざる. ~m
 副 激せずして, 驚かずして.
 an-udvega 男 興奮なきこと, 靜穩; 不厭 *Sūtr.*
 an-udvega-kara 形 激せざる, 驚かざる.
 an-udvejaka 形 (興)を興奮せしめざる, …を怒
 らしめざる.
 an-udvejayat 現分 激せざる.
 anu-dharma 男 隨法, 如法, 次法, 隨順法, 同
 類法 *Lal-v., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
 anudharma-pāla 男 護法者 *Sam-r.*
 anudharma-praticārin 形 行隨順法 *Mvyut.*
 anudharma-pratipatti 女 隨法行, 隨法正行,
 隨法修行 *Bodh-bh., Madhy-vibh.:* dvividhā ~ h

[1. avikṣipta-pariṇatā, 2. aviparyāsa-pariṇatā]
Madhy-vibh. 213.
 anu-DHāv anudhāvati. → DHāv 1.
 anu-dhāvana 甲 後を追ふこと; 清むること.
 anudhūpaya 名動 → dhūpaya.
 anu-dhyā 女 配慮.
 anu-dhyāta 過受分 → DHyai.
 anu-dhyāna 甲 冥想.
 anu-dhyāyin 形 冥想する, 思慕に耽る.
 anu-dhyeya 未受分 反省せらるべき.
 anu-DHyai, → DHyai.
 anu-DHvams anudhvamsayati(使役). → DH=
 vams.
 anu-dhvamsana 甲 襲 *Mvyut.*
 anu-Nad, → Nad.
 anu-naya 形 親しき. 男 和合; 親愛; 禮儀; 阿諛;
 親, 愛, 貪, 愛心, 貪愛, 有愛, 貪欲, 隨貪, 愛
 念心; 慈愍 *Divy., Laṅk., Kāśy., Lal-v., Abh-vy.,*
Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.; 卑下 *Sikṣ.;* 順, 如理,
 隨順正理 *Sikṣ. → ātma-varṇa ~.*
 anunaya-samyojana 甲 愛結, 愛欲結, 隨順
 結 *Madhy-vibh., Abh-vy.*
 anunaya-saṃdhuṣṇatā 女 隨貪, 惑(?)未
 育 *Mvyut.*
 anu-nāda 男 反響; 音.
 anu-nādin 形 反響する.
 anu-nāyaka 形 和解する.
 anu-nāyana 形 [同上].
 anu-nāyikā 形 女 [同上]. 女 女副主人公.
 anu-nāsika 形 鼻音の. 男 鼻音化せられたる母韻.
 anunāsika-bhāva 男 鼻音性.
 anu-ni-Yuj, → Yuj.
 anu-nirjihāna 形 …に由來せる.
 anu-nir-Dah, → Dah.
 anu-nir-Vap, → Vap 2.
 anu-nir-Vā anumirvāti. → Vā 1.
 anu-nir-Vṛj, → Vṛj.
 anu-ni-Śam anuniśamya(不變分). → Śam 4.
 anu-niśam 副 毎夜.
 anu-niśitham 副 夜半に, 毎夜.
 anu-Ni anunayati. → Ni.
 anu-nita 過受分 → Ni. 愛, 順, 無邪僻(心),
 起愛重已 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sikṣ.*
 anu-niti 女 親しきこと, 和解, 好意; 懇望.
 anu-niyatā 女 貪著 *Saddh-p. 128.*
 anu-Nṛt, → Nṛt.
 anu-netavya 未受分 應愛樂 *Sikṣ.*
 anu-neya 未受分 懷柔せらるべき.
 an-unnata 過受分 擧げられざる, 揚げられざる; 無
 高, 不高, 不高擧, 不倨傲, 無高倨; 靡, 未滿; *Gaṇḍ-*
vy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 梵干.
 an-unnatī 女 無高, 無高慢 *Madhy-vibh.*
 an-unnamana 甲 離高擧, 不(自)擧, 不生憍慢
Bodh-bh.
 an-unnāmāvanāmanatā 女 怨親中生平等
Lal-v.

an-unmatta (過受分) 狂はざる, 正氣の; 野生ならざる; 酒に溺れざる.
an-unmadita (過受分) 狂氣ならざる, 正氣に復せる.
an-upakārin (形) 親切を施さざる或は施し得ざる; 漢譯 無恩 *Sāṃkhy-k.*
an-upakrama-dharman (形) 漢譯 不可殺害爲法, 不可害 *Abh-vy.*
an-upakramya (未受分) 醫すべからざる.
an-upakrāmya (未受分) [同上].
an-upakliṣṭa (過受分) 漢譯 無憂 *Lal-v.;* 無雜穢 *Gaṇḍ-vy.*
an-upaga (男) 漢譯 不著 *Bodh-bh.*
an-upagata (過受分) 漢譯 不可隨行 *Aṣṭ-pr.*
anupagata-jara (形) 老衰せざる, 未だ老朽せざる (*Buddh-c.*).
an-upaghāta (男) 漢譯 無損, 未被害, 不破壞, 所不能害 *Abh-vy.*
an-upaghnat (現分) 害せざる; 觸れざる.
an-upacaya (男) 漢譯 不能生長 *Abh-vy.*
an-upacarya (未受分) 侍かるゝ要なき; 術はざる; 利己的ならざる.
an-upacāra-yukta (形) 飾られざる.
an-upacita (過受分) 進まざる.
an-upaccheda (形) 漢譯 不斷, 未斷, 不斷不絶, 終無斷盡, 無有斷絶 *Daś-bh., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh.*
anu-Pat, → Pat 1.
anu-patita (過受分) 落ちたる, 降りたる; 從へる; 漢譯 隨, 隨逐 *Abh-vy.*
an-upatta (形) [=an-upātta]; 漢譯 不受 無受 *Laṅk.*
anu-pattikā (女) 書翰.
anu-patha (形) 後より進む, 隨從する. (男) 從者, 人の通りたる路; 道しるべ. ~m (男) 途上に, 道に沿ひて.
anu-Pad, → Pad.
anu-padam (男) (男)の直後に; 繰返して; 一步一步.
anu-padavi (女) (或人)の通りたる路.
anu-padin (形) 追求する, 搜索する.
an-upadiṣṭa (過受分) 教へられざる, 指示せられざる; 漢譯 未聞; 無師; 不隨他教 *Lal-v., Abh-vy., Mvyut.*
anupadiṣṭa-kṣānti (形) 漢譯 修忍不隨他教 *Mvyut.*
anupadiṣṭa-jñāna (中) 漢譯 無師智 *Abh-vy.*
anupadiṣṭa-dāna (形) 漢譯 行施不隨他教 *Mvyut.*
anupadiṣṭa-dhyāna (形) 漢譯 靜慮不隨他教 *Mvyut.*
anupadiṣṭa-prajña (形) 漢譯 慧不隨他教 *Mvyut.*
anupadiṣṭa-virya (形) 漢譯 精進不隨他教 *Mvyut.*
anupadiṣṭa-śīla (形) 漢譯 持戒不隨他教 *Mvyut.*
an-upadeśa (形) 漢譯 不説 *Laṅk.*
an-upadeṣṭavya (未受分) 報告又は通達せらるまじき.
an-upadrotr (男) (男) 漢譯 不爲損害, 不爲通損 *Abh-vy.*
an-upadhi (形) 偽瞞なき. (男) 附加せざること.
an-upadhi-śeṣa (形) (男) [Pāli. anupādisesa] その人に最早個體の要素なき; 漢譯 無餘, 無餘伎, 無受餘 *Fajr-pr., Aṣṭ-pr.*
an-upanāha (男) 憎惡に非ざること (*Lal-v.*).
an-upanyasta (過受分) 説明せられざる.
an-upapatti (女) 起らざること, 不可能; 漢譯 無生,

不生, 無起, 無所起 *Gaṇḍ-vy., Sam-r.* (形) 許容し難き, 不可能なる.

an-upapanna (過受分) 適當ならざる, 證明せられざる, 許容すべからざる.

anupapannārtha (形) 意味の適當せざる, 事實上存在せざる.

an-upabhuḥjyamāna (現分) (受) 享受せられざる(富).

an-upabhogya (未受分) 享受せらるまじき.

an-upama (形) 比較すべからざる; 漢譯 無比 *Sūtr.;* [佛の異名] 無比 *Mvyut.*

an-upamā (女) [人名]; 漢譯 無比 *Divy.*

an-upayat (現分) ……と同棲せざる.

an-upayāt (形) [同上].

an-upayukta (過受分) 奉仕すべからざる, 無用の; 不適當なる.

an-upayujyamāna (現分) (受) 無益の.

an-upayogitva (中) 奉仕すべからざること.

an-upayogin (形) 奉仕すべからざる.

an-uparata (形) 疲れざる; 妨げられざる, 止められざる; 漢譯 常, 不失 *Mvyut.*

anu-parā-Pat, → Pat 1.

anu-parā-Bhū, → Bhū.

anu-pari-Kram, → Kram.

anu-parikṣipta (過受分) 漢譯 周匝, 周市, 圍繞, 周遍, 周遍圍繞 *Rāṣṭr., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I, II.*

anu-parigrhīta (過受分) 漢譯 取, 攝受, 攝持, 扶持, 護衛 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Abh-vy.*

anu-pari-Grah anuparigrhñāti. → *Grah.*

anu-parigraha (男) 漢譯 攝受, 攝持, 將護, 持不散 *Śikṣ., Madhy-v.*

anu-parigrahitavya (未受分) 漢譯 應攝受 *Aṣṭ-pr.*

anu-parigrāhikā (女) 漢譯 能攝 *Aṣṭ-pr.*

anuparind (名動) anuparindāmi(二入). → parind.

anuparindaya (名動) anuparindiṣyāmaḥ (未二入) (頌). → parindaya.

anu-paripāṭikā (女) 漢譯 kramaṇa ~kayā (具) 次第, 前後相避次第 *Bodh-bh. 92.*

anuparipālaya (名動) anuparipālayati. → pālaya.

anu-pari-Mṛj anuparimārjayati(便役), anuparimārjya(便役) (不變分). → Mṛj.

anu-pari-Yā, → Yā.

anu-parivartaka (形) 漢譯 隨轉, 隨行 *Abh-vy.*

anu-parivartin (形) 漢譯 隨轉, 隨變, 隨行, 隨順, 隨順轉 *Abh-vy., Daś-bh., Mvyut.*

anu-parivārayitavya (未受分) 漢譯 護念, 護持 *Aṣṭ-pr.*

anu-parivārīta (便役) (過受分) 圍まれたる.

anu-pari-Vṛ anuparivārayati(便役), anuparivāryate(便役) (受). → Vṛ 1.

anu-pari-Vṛt anuparivartate. → Vṛt.

anu-parivṛta (過受分) 漢譯 圍繞 *Divy.*

anu-pariśoṣita (過受分) 漢譯 曝 *Śikṣ.*

anuparind (名動) anuparindāmi(二入). → parind.

anuparindanā (女) 漢譯 喝累 *Saddh-p.*

an-uparuddha (過受分) 漢譯 不壞, 不死 *Gaṇḍ-vy.*

an-uparodha (男) 害せざること. ~ena (具) 漢譯

不辭勞倦 *Bodh-bh.*
an-uparodhata 副 差支なく。
an-uparodhin 形 優害せざる, 抵觸せざる。
anu-paryavanaddha 通受分 入, 所縛 *Daś-bh.*
anu-pary-ā-Gā, → *Gā.*
anu-pary-ā-Vṛt, → *Vṛt.*
anu-pary-Ukṣ, → *Ukṣ I.*
an-upalakṣita 通受分 注意せられざる; 調べられざる; 認知せられざる; 區別せられざる。
an-upalabdha 通受分 得られざる, 認知せられざる, 確められざる; 不可得, 無所得, 不見 *Aṣṭ-pr., Laṅk.*
an-upalabdhi 女 知覚なきこと; 知覚せられざること; 不得, 都無, 不可得, 無所得 *Sukh-vy. I., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Guhy-s., Laṅk., Madhy-vibh.;* 不見 *Sāṃkhy-k.*
an-upalabdhitā 女 無有, 不可得 *Laṅk., Aṣṭ-pr.*
anupalabdhi-syabhāva 男 無所得性, 無所有性 *Madhy-vibh.*
anupalabdhi-hetu 男 不得因 *Mvyut.*
an-upalambha 男 =an-upalabdhi; 不得, 不取, 無得, 不可得, 無所得, 無生得; 不見 *Sukh-vy. I., Laṅk., Sapt-pr., Vijñ-t., Madhy-vibh., Sūtr., Mvyut.*
anupalambha-śila 男 無所得戒 *Sam-r.*
anupalambha-śūnyatā 女 不可得空 *Mvyut.*
an-upalīpta 通受分 無染, 不染汚, 無沾汚, 不爲染, 非所染汚, 不能染, 不能染汚; 不能著; 清淨 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Sukh-vy. I., Mvyut.:* ~o rūpaiḥ 不爲色染, 色不能著 *Mvyut.* 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*)
an-upalīptatā 女 不染, 離(一切)染 *Sukh-vy. I.*
an-upalepa 男 不染, 無染, 不能汚, 不能染; 不著 *Daś-bh., Aṣṭ-pr.*
anu-Paś *anupaśyati(-te).* → *Paś.*
an-upaśānta 通受分 靜かならざる; 安靜ならざる; 不寂靜, 未寂靜(者), 不止息(者) *Sikṣ.* 男 [或る *Māra-putra* の名] 不寂靜 *Lal-v.*
anu-paśya 男 觀, 循觀 *Abh-vy.*
anu-paśyanā 女 觀, 循觀 *Kāśy., Sikṣ., Bodh-bh.*
anu-paśyin 形 見, 觀, 循觀 *Kāśy., Laṅk., Abh-vy.*
an-upasaṃhāra 形 不可例, 不可引證 *Abh-vy.*
an-upasaṃhārin 形 包括的 [過誤の媒名辭].
an-upasaṃpanna 通受分 未近圓, 未受具戒 *Mvyut., Prāt-m.:* ~pudgala 未受具戒人 *Prāt-m. V. 6.*
anupasaṃpanna-saha-svapna 男 與未近圓人同宿, 與未作比丘共宿 *Mvyut.*
an-upasarga 形 前置詞と結合せざる; ~s cānupāyāsas ca 遠離憂患 *Suv-pr. 73.*
an-upaskāra 形 技巧的ならざる。
an-upaskṛta 通受分 用意せられざる, 調べられざる; 單純なる; (因)を具へざる; 公平なる; 過失なき,

責むべき所なき。

an-upastabdha 通受分 非所薰 (1) *Abh-vy.*
an-upastirṇa 通受分 覆はれざる。
an-upasthāna 中 意に隨はざること, 自由ならざること。
anu-paspaśāna 二通分 → *Spaś.*
an-upahata 通受分 健全なる; 論議の餘地なき; 害せられざる; 無損, 未損, 無所損害; 無傷, 不傷, 無所傷失; 不害; 無苦; 無礙; 不衰, 不失; 無染著; 離過失; 非破壞; 無所侵惱 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Mvyut.*
anupahata-karṇendriya (°ṇa-in°) 形 聴力の衰へざる; 耳根離過失 *Mvyut.*
anupahata-karṇendriyatā (°ṇa-in°) 女 所有せる聴官が病に罹らざること。
anupahata-mati 男 不害慧, 不失志 *Mvyut.*
anupahatātmaka (°ta-ūt°) 形 失望せざる, 愉快なる。
an-upahita 通受分 無條件の, 不適當なる。
anu-Pā, → *Pā I.*
an-upākṛta 通受分 神聖ならざる, 不淨なる。
an-upākruṣṭa 通受分 批議すべき處なき (*Jāt-m.*)
anu-pācanā 女 隨成熟 *Sūtr.*
anu-pāṭa 男 割ること又は伐り倒すこと [責苦の一種] (*Divy.*)
anu-pāta 男 隨行, 後續。
anu-pātaka 中 (死罪に相當する)罪。
anu-pātin 形 後續の。
an-upāṭta 形 不受, 無受, 無執, 無執受, 不可執受 *Aṣṭ-pr., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*
an-upātyaya 男 怠らざること, 忽にせざること。
an-upādāna 形 不取, 無取, 無取執; 離垢; 離著 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Madhy-v.;* 無有身 *Madhy-v.*
an-upādāya (不變分) (流轉界より)自由になりて; 盡, 不受 *Aṣṭ-pr., Kāśy.:* ~ āsravebhyaḥ 諸漏盡 *Aṣṭ-pr. 505.*
an-upādi-vimukti 女 完全なる解脱 (*Mah-v.*)
anu-pāde 副 後を追ひて, 後に。
an-upādhyāya 男 師匠ならざる者。
anu-pāna 中 (食事又は服藥の)後に飲むこと。
anupāna-paṭṭaka 中 有底碗 *Mvyut.*
an-upāya 男 正しき手段ならざること; 非方便 *Laṅk.* ~ena 目的なく。
an-upāyatva 中 非行 *Sūtr.*
an-upāyāsa 形 無悲惱, 無有憂悲, 無有憂惱; 災厄屏除 *Sikṣ., Suv-pr.* → *anupasarga.*
an-upārata 通受分 (從)を中止せざる。
anu-pālaka 形 保護する, 保存する。
anu-pālana 中 注意, 觀察; 保存, 保護; 守護 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ.*
anu-pālana 女 護持 *Bodh-bh.*
an-upālabhya (未受分) 非難せらるまじき; 遵守せらるべき。
an-upālambha-prekṣin 形 不尋彼過 *Mvyut.*
anupālaya (名動) *anupālayati.* → *pālaya.*
anu-pālita 通受分 擁護, 守護, 護衛 *Lal-v.*

anu-pālitā 女 [同下 抽].
-anu-pālin 形 保護する, 守護する; ……に適當なる敬意を表する.
anu-pālya 形 注意せらるべき, 保護せらるべき.
an-upāśraya 形 根據なき.
an-upāśrayatva 甲 [同上 抽].
an-upāśita-vṛddhatva 甲 老人を尊敬せざること.
anu-pita 過受分 水を飲みたる.
anu-pūrva 1. 形 [文法] anu と俱に合成語をなせる.
anu-pūrva 2. 形 先行のものに續ける; 規則正しき; 漢譯 漸, 漸入, 漸次, 次第, 隨次第, 隨其次第; 具稱, 相稱 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Saddh-p., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* °—, ~m 副 秩序正しく; 漢譯 次第, 以漸, 漸漸, 次第漸進 *Daś-bh., Laṅk.* ~eṇa 具 副 漸次に, 次第に (*Jāt-m.*); 漢譯 漸, 漸漸, 漸次, 次第, 依次 *Gaṇḍ-vy., Divy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Lal-v., Daś-bh., Laṅk., Bodh-bh.*
anu-pūrvaka 形 漢譯 漸次, 次第 *Laṅk.*
anupūrva-gātra 形 四肢の形正しき; 漢譯 身具備, 身具稱, 身分相稱 *Mvyut.*
anupūrva-gātratā 女 [同上 抽] (*Dharm-s.*).
anupūrva-grivā 形 女 漢譯 頸如螺旋 *Lal-v.*
anupūrvam-gaṇanā 女 漢譯 數次第, 數之次第 *Bodh-bh.*
anu-pūrvatas 從 副 漢譯 次第 *Mañj-m.*
anupūrva-damṣṭra 形 齒の配列正しき; 漢譯 牙漸細 *Mvyut.*
anupūrva-damṣṭratā 女 [同上 抽] (*Dharm-s.*).
anupūrva-nimna 形 漢譯 漸下, 漸次深廣, 漸漸深廣 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr.*
anupūrva-vihāra 男 漢譯 次第住 *Mvyut.*
anupūrvavihāra-samāpatti 女 漢譯 (九)次第定, 次第住等至 *Gaṇḍ-vy.*
anu-pūrvaśas 副 連續せる順序にて; (●)の順序に従ひて; 漢譯 次第, 漸次, 漸漸 *Abh-vy., Sūtr., Saddh-p.*
anupūrvāṅguli 形 漢譯 諸指漸細 *Mvyut.*
anupūrvāṅgulitā 女 正形の指を有すること (*Dharm-s.*).
anu-pūrvin 形 漢譯 次第 *Sūtr.*
anupūrvi-bandha 形 漢譯 漸禁斷 *Laṅk.*
anu-pūrvim 副 漢譯 漸次 *Sikṣ.*
anu-Pr anupūrayati(●). → Pr 1.
anu-prkta 形 混合せる.
anu-prṣṭa 過受分 → Prach.
an-upekṣaṇa 形 等閑視せざる; (●)に同意せざる.
an-upekṣaṇatva 甲 [同上 抽].
an-upeta 過受分 (未だ師の許に赴かざる; (一°)にて形成せられざる, ……を具へざる, ……を缺如せる; 漢譯 未至 *Abh-k.*
anupeta-pūrva 甲 [同上].
an-upeyā 女 妻となすべからざる(女).
anu-pra-Cyu, → Cyu.
anu-Prach, → Prach.
anu-pra-Jñā, → Jñā.

anu-prajñāpti 女 [=°jñāpti]; 漢譯 隨制 *Mvyut.*
anu-prati-DHā, → DHā.
anu-pratipatti 女 漢譯 隨行, 隨順專勤 *Mvyut.*
anu-pratipanna 過受分 漢譯 隨正行 *Daś-bh.*
anu-prati-Ṣṭhā anupratisthāpayeyam (●). → Sthā.
anu-pradatta 過受分 漢譯 供給 *Divy.*
anu-pra-Dā anupradāsyati(●). → Dā 1.
anu-pradāna 甲 贈物, 寄贈; 附加, 增加; 漢譯 與, 授與, 施, 給, 布施; 増上, 増長 *Lal-v., Daś-bh., Bodh-bh.*
anu-pradānatā 女 漢譯 隨與 *Bodh-bh.*
anu-pradāpita 漢譯 過受分 漢譯 給 *Divy.*
anu-pra-DHāv, → DHāv 1.
anu-prapattavya 未受分 従はるべき.
anu-pra-Pad, → Pad.
anu-prapanna 過受分 → Pad.
anu-pra-Pā, → Pā 1.
anu-prabaddha 過受分 漢譯 相續 *Sikṣ.*
anu-prabandha 男 漢譯 次第, 相續, 次第相續 *Sikṣ., Daś-bh., Madhy-v.*
anu-pra-Budh, → Budh.
anu-prabhūta 過受分 → BHū.
anu-pramāṇa 形 適當なる大さ或は長さを有する. 甲 漢譯 思量 *Laṅk.*
anu-pra-Mud anupramodate, anupramodayati (●). → Mud.
anu-pra-Yam anuprayacchati. → Yam.
anu-pra-Yā anuprayāti. → Yā.
anu-prayāta 過受分 → Yā. 漢譯 行, 隨, 隨順. 行 *Daś-bh.*
anu-pra-Yuj, → Yuj.
anu-pravacana 甲 師に就きての *Veda* の學習.
anu-pravacaniya 未受分 *Veda* の學習に必要な.
anu-pravaṇa 形 適應せる.
anu-pra-Vad, → Vad.
anu-pravartaka 形 漢譯 能隨造作 *Bodh-bh.*
anu-pravartana 甲 漢譯 成 隨轉 *Gaṇḍ-vy., Buddh-c.: hite ca ~m* 成人饒益事 *Buddh-c. 32.*
anu-pravartita 過受分 (說法を)繰返したる; 漢譯 隨轉 *Divy.*
anu-pra-Vah, → Vah.
anu-pra-Vid, → Vid 1.
anu-pravidvas 過受分 → Vid 1.
anu-pra-Viś anupraviśati. → Viś.
anu-praviṣṭa 過受分 → Viś. 漢譯 入, 入在, 隨入, 隨入(已); 知, 已悟入 *Daś-bh., Bodh-bh., Laṅk., Mvyut.:* sarva-jñeya ~ 已悟入一切所知 *Bodh-bh. 212.*
anu-pra-Vṛt anupravartate. → Vṛt.
anu-pravrṭta 過受分 (●)の後に隨へる, ……を續ける; 漢譯 生, 生起 *Abh-vy.*
anu-pravrṭti 女 [●] (*Kṛ* と俱に) ……に注意す.
anu-praveśa 形 入る, 徹する(感情等が). 男 (一°)に對する適合; 漢譯 入, 隨入, 隨悟入, 能隨悟入; 攝; 著; *Bodh-bh., Madhy-vibh., Laṅk., Mvyut.*

anu-praveṣṭavya (未受分) 侵入すべき; 更に廣く追及せらるべき或は引出さるべき (*Lal-v.*).
anu-pra-Vraj anupravrajati. → Vraj.
anu-pravrajita (通受分) (釋) 隨出家 *Saddh-p.*
anu-praśamsā (女) (釋) 讚 梵F.
anu-praśamana (甲) 安んずること, 慰撫.
anu-praśānti (形) 寂靜を伴へる.
anu-praśna (男) (釋) を尋問すること.
anu-praṣṭr (形) 總てを問ひ質す, 知識欲の盛なる.
anu-prasakta (通受分) → Sañj.
anu-prasakti (女) 關係.
anu-pra-Sañj, → Sañj.
anu-pra-Sad, → Sad.
anu-prasūta (通受分) 後に創造せられたる.
anu-pra-Skad anupraskandati. → Skad.
anu-praskandya-pāta (男) (釋) 後來強入 *Mvyut.*
anu-pra-Sthā anuprasthāpayati(使役). → Sthā.
anu-praharaṇa (甲) 火中に投ずること.
anu-pra-hāraṇ (副) 一撃して.
anu-pra-Hi, → Hi.
anu-prahita (通受分) 後より派遣せられたる. → Hi.
anu-pra-Hṛ, → Hṛ 1.
anu-prāṇ(°pra-Aṇ°) anuprāṇiti. → An.
anu-prāp(°pra-Āp°) anuprāpnoti. → Āp.
anu-prāpayitu-kāma (形) (釋) 欲至, 欲往詣 *Daś-bh.*
anu-prā-Pr(°ra-ā-Pr) anuprāpūrayati(使役). → Pr 1.
anu-prāpta (通受分) → Āp. (釋) 至, 到, 達, 行至, 來至, 到達; 得, 獲得, 證得, 隨得, 逮得, 善得; 成, 成就; 具足 *Lal-v., Divy., Laṅk., Av-s., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Saddh-p., Mvyut.*
anu-prāptavat (通能分) (釋) 獻 *Bodh-bh.*
anu-prāptavya (未受分) (釋) 所應到 *Bodh-bh.*
anuprāpta-svakārtha (形) (釋) 逮得已利, 善得已利, 得大善利, 隨得我義 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Madhy-v., Mvyut.*
anu-prāpti (女) (釋) 同隨至得 *Abh-vy.*
anuprārthaya (名動) anuprārthayamāna(現分). → arthaya.
anu-prāsa (男) 頭韻.
anu-priya (形) 愛せられたる, 好まれたる.
anu-pre(°pra-I) anupraitī. → I.
anu-prerita (通受分) (釋) 顯到 *Divy.*
anu-preṣ(°pra-Iṣ) anupreṣayati(使役). → Iṣ 1.
anu-preṣita (通受分) (釋) 爲資遣 *Divy.*
anu-plava (男) 同伴者, 從者.
anu-Plu, → Plu.
anu-baddha (通受分) → Bandh. (釋) 縛, 隨縛, 所繫 *Daś-bh., Bodh-bh.*; 隨, 隨從, 隨逐, 隨左右, 隨衛護, 守護; 侍, 侍衛, 侍從, 隨侍衛, 所侍衛, 隨侍護 *Divy., Daś-bh., Aṣṭ-pr., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*; nitya ~ 常隨 *Aṣṭ-pr., Divy.*; sadā ~ 常隨逐, 猶影隨形 *Gaṇḍ-vy. 171.*; 類 *Lal-v.*; megha-varṇa ~ 色類(白)雲 *Lal-v. 78.*
anu-baddhavya (未受分) (釋) 隨逐 *Aṣṭ-pr.*

anu-Bandh anubadhnāti. → Bandh.
anu-bandha (男) 結合; 繼續; 系列; 後裔; 結果; 動機; 默字 [語根等に付してその機能・特性を示す符號] (文去); 必須要素; (釋) 結, 隨縛; 隨流, 隨逐; 相續, 相應, 嗣起; 護; 懷 *Sikṣ., Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Divy., Madhy-vibh., Mvyut.* → vairā ~.
anu-bandhana (甲) 連續.
anu-bandhikā (女) 凶微, 死の微候; 關節の苦痛.
anu-bandhitva (甲) 關聯, 延長, 永續.
anu-bandhin (形) (一°)と關聯せる; 續く, 永續する.
anu-Barh anubarhayati, anubr̥mhayati(使役). → Barh 2.
anu-bala (甲) (軍の)後部.
anu-Bādḥ, → Bādḥ.
anu-buddha (通受分) (釋) 證, 悟, 覺悟, 證智, 所知, 解了 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sam-r.*
anu-Budh anubudhyayati(使役). → Budh.
anu-br̥mhaṇa (甲) (釋) 隨長養 *Bodh-bh.*
anu-br̥mhaṇatā (女) (釋) 隨長養 *Bodh-bh.*
anu-br̥mhaṇā (女) (釋) 增長 *Bodh-bh.*
anu-br̥mḥita (通受分) (釋) 增長, 隨令增長 *Bodh-bh.*
anu-bodha (男) 注意, 知覺; 回想; (消散したる香氣の)復活; (釋) 知, 了知, 覺知, 覺察, 隨覺, 覺了, 悟, 解, 悟解, 識, 通達, 善知法 *Daś-bh., Sam-r., Bodh-bh., Lal-v.* → dur ~.
anu-bodhana (甲) 想起, 回想; (釋) 覺, 覺了, 隨覺, 現覺, 隨順覺, 悟 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sapt-pr.*
anu-bodhya (未受分) 認めらるべき; …を知らしむべき.
anu-Brū anubravīti. → Brū.
an-ubha (形) (男) 二者中の孰れにも非ざる.
anu-bhaga (男) 從屬的部分.
an-ubhaya (形) (釋) 不俱, 非俱, 無二 *Laṅk.*
an-ubhayatva (甲) (釋) 不俱 *Laṅk.*
anu-bhava (男) 知覺, 感情; 精神; 慣習, 慣例; (釋) 受, 覺受, 曾受, 領, 領受, 領納; 證; 得 *Sikṣ., Abh-vy., Abh-k., Madhy-v., Bodh-c., Vijñ-t., Bodh-bh.,*
anu-bhavana (甲) (釋) 受, 領受, 覺, 受覺, 領納; 從知; 得苦樂 *Daś-bh., Sikṣ., Madhy-v.*
anu-bhavanā (女) (釋) 領納 *Sikṣ.*
anu-bhavanīya (未受分) (釋) 應受, 能受 *Abh-vy.*
anu-bhāva (男) 享受; 力, 品位; (釋) 力, 勢, 力勢, 神力, 威神, 神通力; 威, 威德, 威力, 威神力, 威德力 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sukh-vy. I., Sam-r., Sapt-pr., Prajñ-h., Divy., Lal-v., Bodh-c., Sikṣ., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut.*; buddha ~ ena 承佛力, 以佛威神故 *Aṣṭ-pr. 131.* → tejo ~ akārta
anu-bhāvana (甲) 合圖又は姿態によりて感情を示すこと.
anu-bhāvin (形) 知覺する, 認知する, 目撃する; 感情を示す. (男) 目撃者.
anu-Bhāṣ, → Bhāṣ.
anu-bhāṣita (甲) 言語, 談話.
anu-bhāṣitṛ (形) 話しかくる.
anu-BHid, → BHid.

anu-BHuj, → BHuj 2.
anu-BHū anubhavati. → BHū.
anu-bhū 形 (一°)を感ずる, 認識する.
anu-bhūta 通受分 經驗せられたる, 感ぜられたる, 享受せられたる; 受, 所受, 先受, 受用, 所曾受, 所曾觀, 曾現受; 覺知, 覺識; 所經, 昔曾, 所習行 *Lank., Abh-vy., Madhy-v., Vijñ-t., Vijñ-v.*
anu-bhūti 女 知覺, 會得; 領納, 覺味 *Mvyut.*
anu-bhoga 男 享樂, 受用.
anu-mata 通受分 是認せられたる; 許されたる. → *Man.* 隨 *Bodh-bh.:* asya dr̥ṣṭy ~ h 隨彼見者 *Bodh-bh. 46.* 申 許容; 於 (圖)の許可を得て.
anu-mati 女 是認, 贊同.
anu-Mad, → Mad 1.
anu-Man, → Man.
anu-mantr 男 同意者.
anu-mantraṇa 申 (圖, 一°)に對する詩の朗誦.
anumantraya 名動 → mantraya.
anu-mantrita 通受分 → mantraya.
anu-marāṇa 申 殉死(特に寡婦の).
anu-maru 男 種 沙漠に近き國; [國の名].
anu-Mā anumiyate(受). → Mā 1.
anu-mā 女 結論.
anu-mātram 副 [= anu-mātram]; 微塵 *Lal-v.*
anu-mādyā 未受分 歡呼せらるべき.
anu-māna 申 推理, 推論; 論證; 比, 比知, 比量, 比度; 隨量; 知; 籌量 *Sāmkhy-k., Nyāy-pr., Abh-vy., Abh-k., Bodh-bh., Mvyut., 梵千.*
anu-mānana 申 說得.
anumāna-viruddha 男 比量相違 *Nyāy-pr.*
anumānābhāsa (na-ābh) 男 似比量 *Nyāy-pr.*
anu-māniya 未受分 可, 可比知 *Abh-vy.*
anu-māpaka 形 比量又は推理 (anumāna) によりて證明せる.
anumārg 名動 anumārgati. → mārg.
anu-mārga 男 隨ふこと; 求むること. ~ eṇa 具 (圖)の後に, ……を追ひて.
anumārgāgata (ga-ūg) 形 中途にて遣へる (*Jāt-m.*).
anu-mārdava 申 憐愍.
anu-mālini-tiram 副 *Mālini* 河の岸の上に.
anu-māsa 男 翌月. °— 圖 毎月.
anu-mita 通受分 → Mā 1.
anu-miti 女 結論, 推論.
anu-misrita 形 (具)と混ぜる.
anu-Mil, → Mil.
anu-Mud anumodate, anumodayati(使役). → Mud.
anu-Mṛ, → Mṛ 1.
anu-mṛgya 形 人の求むる, 人の渴望せる.
anu-mṛt 形 殉死する.
anu-mṛta 通受分 → Mṛ 1.
anu-Mṛś, → Mṛś.
anu-meya 未受分 推理せらるべき; 所比 *Nyāy-pr.;* 隨量, 所量 *Mvyut.:* ~ e sattvam 所量有性, 在於隨量其事 *Mvyut.*

anu-moda 男 後に或は次で起る歡喜, 同情より起る喜悅の感情; 歡喜 *Saddh-p.*
anu-modana 申 歡喜, 喜ばしむること, 褒むること 同意, 承諾; 同情の歡喜; 隨喜 *Bodh-bh., Śikṣ.* → abhy ~.
anu-modanā 女 隨喜, 勸助 *Saddh-p., Aṣṭ-pr., Dharm-s., Madhy-vibh.*
anu-modaniya 未受分 隨喜 *Sam-r.*
anu-modita 使役 通受分 → Mud. 隨喜, 讚喜, 稱讚, 起隨喜心 *Gaṇḍ-vy., Sam-r., Divy., Śikṣ., Aṣṭ-pr., Sv-pr.*
anu-moditṛ 形 隨喜 *Bodh-bh.*
anu-modin 形 (圖)に就て喜ぶ.
anu-Mluc, → Mluc.
anu-Yam anuyacchati. → Yam.
anu-Yā anuyāti. → Yā.
anu-Yāc, → Yāc.
anu-yāja 男 後祭.
anu-yājavat 形 anuyājaを伴ふ.
anu-yāta 通受分 隨從せる; 隨伴せられたる; 模倣せられたる; 模倣せる. → Yā. 所行, 修行(之處) *Lank.*
anu-yātavya 未受分 從はるべき.
anu-yātr 男 伴侶; 隨 *Lal-v.*
anu-yātrka 形 [= anuyātrika]; 導從 *Abh-vy.*
anu-yātra 申 扈從; 護衛; 順從 *Sam-r.*
anu-yātrā 女 [同上].
anu-yātrika 男 [= anuyātrika]; 扈從. 形 隨後 *Mvyut.*
anu-yāna 申 從ふこと; 隨從すること.
anu-yāyitā 女 [同上]; 隨行性 *Bodh-bh.*
anu-yāyitva 申 [同上].
anu-yāyin 形 從ふ. 男 從者.
anu-yukta 通受分 → Yuj. 勤, 隨勤, 精勤, 精進, 修行, 精進修行, 勤加修習, 精勤無懈 *Sapt-pr., Lal-v., Saddh-p., Lank., Bodh-bh., Mvyut.;* 合; 質 *Mvyut.:* ātma-klamatha-yogam ~ ānām 修自苦行精勤無懈 *Bodh-bh. 262.*
anu-yuktatva 申 相應.
anu-yugam 副 (Kṛta等の四)時期に従ひて.
anu-Yuj, → Yuj.
anu-yujyamāna 現分 問, 檢問 *Prāt-m.*
anu-yuñjaka 形 ……を非難する.
anu-yoktavya 形 質問せらるべき.
anu-yoktr 男 問訊者, 教師 (特に報酬を與へられたる).
anu-yoga 男 質疑, 尋問; 責, 難, 難詰, 徵詰 *Abh-vy., Bodh-bh.;* 受, 修, 著, 受用, 正行 *Śikṣ., Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy.*
anu-yoiya 未受分 (一°)の隨意に, ……に隨ふ; 問はるべき; 檢べらるべき; 命ぜらるべき, 非難すべき; 隨, 隨順, 順修學 *Lank.*
anu-rakta 通受分 專念せる, 執著せる, 愛好の. → Raj. 好, 歡喜 *Lal-v., Divy.* → nir ~, tyāga ~.
anu-rakti 女 執著, 愛好.

anu-Rakṣ anurakṣati. → Rakṣ.
anu-rakṣa 男 護 Bodh-bh.
anu-rakṣaṇa 中 守護すること; 護, 爲護, 隨護, 護持, 防護 Daś-bh., Bodh-bh., Lal-v., Laṅk.
anu-rakṣaṇatā 女 爲護 Laṅk.
anu-rakṣaṇā 女 護, 隨護, 守護 Abh-vy., Bodh-bh.
anurakṣaṇā-dharman 形 護法 Abh-vy.
anu-rakṣā 女 護, 防護 Bodh-bh.
anu-rakṣita 通受分 護, 守護 Saddh-p.
anu-rakṣitavya 未受分 (途)なる様に守らるべき或は保たるべき (Jāt-m.).
anu-rakṣin 形 護 Daś-bh.: dharma~(常) 護正法 Daś-bh. 29.
anu-rakṣya 中 愛護, 守護 Abh-vy.
anu-Raṅj, → Raj.
anu-raṅjaka 形 (女) -ikā 喜ばしき, 満足なる.
anu-raṅjana 中 ……の愛を得ること.
anu-raṅjita 通受分 満足せる, 満悦せる.
anu-rata 通受分 → Ram.
anu-rathyā 女 歩道, 鋪道.
anu-Ram anuramati. → Ram.
anu-rava 男 音詞 Daś-bh.
anu-ravaṇa 中 讚嘆 Gaṇḍ-vy.
anu-ravaṇatā 女 隨聲發響 Gaṇḍ-vy.
anu-ravita 通受分 普聞, 隨入 Gaṇḍ-vy., Mvyut.
anu-Ras, → Ras.
anu-rasita 通受分 → Ras. 中 反響.
anu-rahasam 副 祕かに.
anu-rāga 男 著色; 赤色; 愛情; 執著; (一)に對する愛好; 満足; 貪, 貪愛, 可愛, 欲著, 姪欲 Lal-v., Divy.
anu-rāgaṇa 中 令喜 Mvyut.
anu-rāgaṇi 女 作喜母 Mvyut.
anu-rāgavat 形 赤き; 愛好の; (…saha)に惚れたる.
anu-rāgavati 女 [人名].
anurāgavati-śṛṅgāravatyau 女 兩 Anurāgavati と Śṛṅgāravati.
anu-rāgitā 女 愛著.
anu-rāgin 形 ……に愛著せる; 世俗の; 惚れたる; 愛らしき.
anu-rātram 副 夜に.
anu-rādhā 女 [二十八 Nakṣatra の中の第十七の名]; 護 [二十八宿の一] 悅可, 房 Divy., Mvyut.
anu-Ri anuriyate. → Ri.
anu-Ru, → Ru 1.
anu-ruta 通受分 → Ru 1.
anu-Rud, → Rud.
anu-ruddha 通受分 → Rudh 3. 男 護 [佛弟子の名] 無滅, 如意; 護 阿那律, 阿菟樓駄, 阿泥律陀 立護. → aniruddha.
anuruddha-śataka 中 [佛典の名].
anu-Rudh, → Rudh 3.
anu-Ruh, → Ruh.
anu-rūpa 形 相應はしき; ……に順應する; (屬)に

適當なる; 護 隨, 順, 隨順; 宜; 相稱, 共相稱; 相似; 如法; 同類, 色類, 隨(共)色類, 隨(共)色像 Lal-v., Aṣṭ-pr., Laṅk., Buddh-c., Abh-vy., Bodh-bh. ~ m, ~tas 副 (一)に比例して.
anu-rūpaka 形 相應はしき, 適應する, 對應する.
anu-rūpatva 中 順 Bodh-bh.
anu-rodha 男 應諾, 満足せしむること; 注意, 尊敬, 考慮; 順, 親, 愛 Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
anu-rodhana 中 應諾, 依怙, 希望を達せしむること, ……の好意を得る手段.
anurodhâpratirodha 男 離憎愛, 順無違 Mvyut.
anurodhitā 女 慇懃.
anu-rodhin 形 (一)を考ふる; 應諾する, 從順なる; 深切なる, 慇懃なる, 尊敬又は注意する.
anu-lakṣaṇa 中 隨相 Abh-vy.
anulakṣaya 名動 → lakṣaya.
anu-Lag, → Lag.
anu-lagna 通受分 附隨せる, 附著せる, 直後に從へる, 追求せる. → Lag.
anu-Labh, → Labh.
anu-Lal, → Lal.
anu-Lip, → Lip.
anu-lipta 通受分 → Lip. 護 染, 塗, 塗(拭) Lal-v., Śikṣ.
anu-lepa 男 油を塗ること; 染著 Gaṇḍ-vy.
anu-lepana 中 [同上]; 塗, 塗香 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Śikṣ.
anulepana-gandha 男 塗香 Bodh-bh.
anu-lepin 形 (一)を塗られたる.
anu-lokanatā 女 觀察 Gaṇḍ-vy.
anu-loma 形 毛並に従ふ; 順當の方向にある; 隨, 順, 隨順; 合理, 順於理 Saddh-p., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut. 一, 其 自然の方向に, 下方に; 其 親切に.
anuloma-kṛta 形 契 Madhy-vibh.
anuloma-ja 形 高階級の男子と低階級の女子との間に生れたる.
anu-loman 形 順 Aṣṭ-pr.
anu-lomana 形 整頓する. 中 正當の調整, 正しき方に向くこと; 正しき水路にて運ぶこと; 下痢; 隨, 順, 隨順 Sūtr., Lal-v.
anuloma-pratiloma 男 [神話上の海又は山の名] (Divy.).
anulomaya 名動 他 anulomayati. 有利の地位に置く; 隨順, 會通, 和會 Śikṣ., Bodh-bh.
anuloma-lipi 女 護 (音寫)阿奴盧書, 阿菟盧摩書 Lal-v. 196.
anu-lomā 女 咒文(即ち vidyā); 嫁ぐべき夫より低階級の女子.
anu-lomika 形 隨 Śikṣ.
anu-lomin 形 (一)を有利ならしむる, 助勢せしむる.
an-ulbaṇa 形 過不足なき, 適度の.
an-ullaṅghaniya 未受分 侵害せらるまじき.
an-ullaṅghita 通受分 違犯せられざる.

anu-vaṁśa 男 系譜。形 家柄等しき。〜m 副
家柄に於て。
anu-vaṁśya 形 家系に関する。
anu-Vac, → Vac.
anu-vacana 甲 反覆；學習；教程。
anu-Vad, → Vad.
anu-vanam 副 森に於て；何れの森に於ても。
anu-vanāntam 副 森に於て。
anu-Vand, → Vand.
anu-vandin 形 稱讚する。
anu-vapram 副 岸に於て。
anuvārṇaya 名動 → varṇaya.
anu-varṇita 通受分 漢譯 說, 所說, 宣說, 開演, 讚
說, 隨言, 所稱嘆 *Lank.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*
anu-vartaka 形 漢譯 起, 隨入, 隨轉, 隨順, 善能隨順
Lal-v., *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
anu-vartana 甲 繼續；應諾, 從順, 從ふこと；漢譯
隨, 順, 隨順, 隨行, 隨從, 隨轉, 隨入, 隨生 *Lal-v.*,
Buddh-c., *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
anu-vartanātā 女 漢譯 隨轉 *Bodh-bh.*
anu-vartanā 女 漢譯 隨轉, 隨順 *Bodh-bh.*
anu-vartaniya 未受分 從はるべき。
anu-vartita 通受分 願望の達せられたる；漢譯 能隨
(所說)行, (如說)修行 *Aṣṭ-pr.*
anu-vartitā 女 [同下]。
anu-vartitva 甲 應諾。
anu-vartin 形 從ふ, 讓る, 從順なる；漢譯 隨, 隨
轉, 順；生；長 *Lal-v.*, *Daś-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Bodh-bh.
anu-vartman 形 從ふ, 侍る。
anu-vartya 未受分 從はるべき。
anu-varṣam 副 各季節に。
anu-vaśa 男 從順。形 從順なる。
anu-vaśaṭ-kāra 男 供儀に於ける第二回目の vaśaṭ
等。
anu-Vas, → Vas 2, 3, 4.
anu-Vah, → Vah.
anu-Vā anuvāti. → Vā 1.
anu-vāka 男 反覆；教程, (*Veda* 聖典の)章節。
anu-vākya 未受分 誦せらるべき。
anu-vākyā 女 (*Hotr* 祭官若くは *Maitrāvāraṇa* 祭官
によりて)誦せらるべき *Veda* の詩句。
anu-vāc 女 [同上]。
anu-vāta 男 追風；漢譯 順風 *Mvyut.*
anu-vāda 男 反覆；再論；翻譯；漢譯 順說, 順正
論 *Mvyut.*
anu-vādin 形 反覆する；……と調和する, の如き。
anu-vāsaram 副 毎日。
anu-vāsin 形 (一)に住する。
anu-vāhin 形 漢譯 隨, 隨順；漂, 所漂轉；洄旋
Daś-bh., *Sikṣ.*
anu-vikṣipta 通受分 漢譯 隨散 *Abh-vy.*
anu-vi-Car anuvicāraṇa. → Car.
anu-vicāraṇa 甲 漢譯 遊, 遊行, 遊歷；觀；往詣
Daś-bh., *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*
anu-vicārita 通受分 漢譯 遊止, 肆暴 *Aṣṭ-pr.*

anu-vicāraṇā 女 漢譯 隨伺 *Bodh-bh.*
anu-vicārita 通受分 漢譯 觀, 隨伺 *Bodh-bh.*: cit-
tenānuvartitam anuvitarkitam 〜m 思願, 所願樂
Aṣṭ-pr. 776.
anu-vi-Cint anuvicintayati. → Cint.
anu-vicinta 形 漢譯 作(是)意 *Saddh-p.*
anu-vicintita 通受分 漢譯 所願, 本願 *Aṣṭ-pr.*
anu-vitarkanā 女 漢譯 隨尋 *Bodh-bh.*
anu-vitarkayitr 形 漢譯 思順行 *Daś-bh.*
anu-vitarkita 通受分 漢譯 覺, 隨尋, 思惟 *Bodh-bh.*,
Mvyut. → anuvicārita.
anu-vitta 通受分 → Vid 2.
anu-Vid 1. anuvetti. → Vid 1.
anu-Vid 2. anuvindati(-te). → Vid 2.
anu-vidita 通受分 發見せられたる, 認められたる,
見出せる, よく知れる (*Mah-v.*)
anu-vidiś 女 漢譯 四維 *Sukh-vy. I.*
anu-viddha 通受分 隨順せる, 從屬せる, 順應せる。
→ Vyadh.
anu-vi-DHā anuvidhiyate(受). → DHā.
anu-vidhātavya 未受分 規定に従つて爲さるべき。
anu-vidhāna 甲 命令に適合せる行動, 從順；漢譯
隨, 隨順, 隨作, 隨入, 隨轉 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
anu-vidhāyitva 甲 漢譯 隨逐 *Abh-vy.*
anu-vidhāyin 形 ……に適合する；應諾する, 從順
なる。
anu-vidheya 未受分 ……に適合せらるべき；(受)に
従つて規定せらるべき。
anu-vi-Naś, → Naś 1.
anu-vinda 男 [人名]。
anu-vi-Mṛś, → Mṛś.
anu-vi-Rāj, → Rāj.
anu-vi-Li, → Li 1.
anu-vi-Lok anuvilokayati(使役). → Lok.
anu-vilokana 甲 漢譯 隨順觀察 *Gaṇḍ-vy.*
anu-Viś, → Viś.
anu-viṣaṇṇa 通受分 固定せられたる, (目を)注がれ
たる。
anu-vi-Ṣṭhā anuvitiṣṭhate. → Ṣṭhā.
anu-vi-Sṛj, → Sṛj.
anu-viṣṭa 通受分 漢譯 隨流 *Abh-vy.*
anu-viṣṭa 通受分 大なる, 廣き。
anu-viṣmita 通受分 (驚)に倣ひて驚歎せる。
anu-vikṣ (°vi-Īkṣ), → Īkṣ.
anu-Vṛ, → Vṛ 1.
anu-Vṛt anuvartate. → Vṛt.
anu-vṛtta 通受分 橢圓の。 → Vṛt. 漢譯 順, 隨轉
Divy., *Abh-vy.* 甲 從順, 聽從。
anu-vṛttaka 形 漢譯 順 *Rāṣṭr.*
anu-vṛtti 女 繼續；(次の規則に語を)利かすこと
(文法)；反覆；應諾；適合；連繫；漢譯 隨, 隨順,
隨轉 *Buddh-c.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ;
相黨 *Mvyut.*
anu-Ven, → Ven.
anu-velam 副 連續して；時々。
anu-Vell, → Vell.

anu-vellita (過受分) → Vell.

anu-veśa (男) 入ること。

anu-Veṣṭ, → Veṣṭ.

anu-vyañjana (男) (漢譯) 好, 隨好, 種好, 妙好, 隨形好, (八十種)好, (八十)隨好; 小相; 隱處 *Divy., Lal-v., Lañk., Saddh-p., Suv-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Gand-vy., Mvyut.*: aśity ~ āni 八十隨好, 八十種好, 八十隨形好 *Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.* [1. ātāmrānakhaḥ 爪如赤銅色, 2. snigdha-nakhaḥ 指甲潤澤, 3. tuṅga-nakhaḥ 指甲高起, 4. vṛttāṅgulih 指長纖圓, 5. citāṅgulih 諸指豐滿, 6. anupūrvāṅgulih 諸指漸細, 7. nigūḍha-śiraḥ 筋脉不露, 8. nirgranthi-śiraḥ 筋脉盤結不現, 9. gūḍha-gulphaḥ 踝不現, 10. aṅgula-pādaḥ 足無不平, 11. simha-vikrānta-gāmi 行步如師子王, 12. nāga-vikrānta-gāmi 行步如龍象王, 13. hamsa-vikrānta-gāmi 行步如鷺王, 14. vṛṣabha-vikrānta-gāmi 行步如牛王, 15. pradakṣiṇāvarta-gāmi 廻顧右旋, 16. cārugāmi 行相美妙, 17. avakra-gāmi 行不歪邪, 18. vṛtta-gātraḥ 手足圓滿, 19. mṛṣṭa-gātraḥ 身支光悅, 20. anupūrvagātraḥ 身分相稱, 21. śuci-gātraḥ 身支鮮淨, 22. mṛdu-gātraḥ 身支柔軟, 23. viśuddha-gātraḥ 身清淨, 24. paripūrṇa-vyañjanaḥ 隱處圓滿, 25. pṛthucāru-maṇḍala-gātraḥ 身支廣妙圓滿, 26. samakramaḥ 行步安平, 27. sukumāra-gātraḥ 面容常少不老, 28. adina-gātraḥ 身無退屈, 29. utsada-gātraḥ 身豐滿, 30. susaṃhata-gātraḥ 身支堅實, 31. suvibhaktāṅga-pratyāṅgaḥ 支節妙善安布, 32. vitimira-viśuddhālokaḥ 兩目明淨, 33. vṛtta-kuksiḥ 腹圓, 34. mṛṣṭa-kuksiḥ 腹光澤, 35. abhugna-kuksiḥ 腹不偏曲, 36. kṣāmōdaraḥ 腹圓滿, 37. gambhira-nābhiḥ 臍深, 38. pradakṣiṇāvarta-nābhiḥ 臍右旋, 39. samanta-prāsādikāḥ 見者皆生喜, 40. śuci-samācāraḥ 行事潔淨, 41. vyapagata-tilakāla-gātraḥ 身無痣點, 42. tūla-sadṛśa-sukumāra-pāṇih 手軟如綿, 43. snigdha-pāṇi-lekhaḥ 手文潤澤, 44. gambhira-pāṇi-lekhaḥ 手文理深, 45. āyata-pāṇi-lekhaḥ 手文長, 46. nātyāyata-vadanaḥ 面不長大, 47. bimba-pratibimba-darśana-vadanaḥ 面如滿月, 48. mṛdu-jihvaḥ 舌柔軟, 49. tanu-jihvaḥ 舌薄廣, 50. rakta-jihvaḥ 舌色紅, 51. gaja-garjita-jimūtaghoṣaḥ 具象聲雷音, 52. madhura-cāru-maṅju-svaraḥ 音韻和雅美妙, 53. vṛtta-damṣṭraḥ 牙圓, 54. tikṣṇa-damṣṭraḥ 牙快利, 55. śukla-damṣṭraḥ 牙白, 56. sama-damṣṭraḥ 牙平正, 57. anupūrvadamṣṭraḥ 牙漸細, 58. tuṅga-nāsaḥ 鼻高脩直, 59. śuci-nāsaḥ 鼻淨, 60. viśuddha-netraḥ 目清淨, 61. viśāla-netraḥ 目廣, 62. cita-pakṣmaḥ 眼睫稠密, 63. sitāsita-kamaladala-sakala-nayanaḥ 眼青白分明(形)如青蓮華葉, 64. āyata-bhrūḥ 兩目脩廣, 65. ślakṣṇa-bhrūḥ 雙眉細軟, 66. sama-roma-bhrūḥ 眉毛平齊, 67. snigdha-bhrūḥ 眉毛潤, 68. pīṇāyata-karṇaḥ 耳厚廣脩長, 69. sama-karṇaḥ 耳齊平, 70. anupahata-karṇendriyaḥ 耳根離過失, 71. suparinata-lalāṭaḥ 額廣圓滿, 72. pṛthu-lalāṭaḥ 額寬平正, 73. suparipūrnottamāṅgaḥ 頭頂圓滿, 74.

bhramara-sadṛśa-keśaḥ 髮紺青如黑蜂, 75. cita-keśaḥ 頭髮稠密, 76. ślakṣṇa-keśaḥ 頭髮細軟, 77. asamlulita-keśaḥ 髮不亂, 78. aparūṣa-keśaḥ 頭髮潤澤, 79. surabhi-keśaḥ 頭髮香潔, 80. śrivatsusvastika-nandyāvarta-varḍhamāna-lalita-pāṇipādaḥ 手足以室利秣蹉塞囉悉底迦難提夜伐多伐馱摩那所莊嚴] *Mvyut.*

anu-Vyadh anuvidhyati. → Vyadh.

anu-vyavahāra (男) (漢譯) 務; 隨說, 作言 *Abh-vy., Bodh-bh.*

anuvyavahāra-hetu (男) (漢譯) 隨說因 *Bodh-bh.*

anu-vy-ava-Hṛ anuvyavaharati. → Hṛ 1.

anu-vyākhyāna (男) [*Brāhmaṇa* 書の註釋的部分の名稱].

anu-vyādha (男) 満たすこと。

-anu-vyāpin (形) 擴がれる, 充てる。

anu-vyāharāṇa (男) 反覆せられたる誦唱; [男] と俱に] 隨順して説くこと (*Aṣṭ-pr.*)

anu-vyāhāra (男) 咒咀。

anu-vy-ā-Hṛ, → Hṛ 1.

anu-Vraj anuvrajati. → Vraj.

anu-vrajana (男) 前のことに従ふこと; (漢譯) 送共千。

anu-vrajya (未受分) 伴はるべき。

anu-vrajyā (女) 歸る人に隨侍すること。

anu-vrata (形) (男, 男)に專注せる; (漢譯) 共行, 隨行 *Gand-vy.*

anu-Śams, → Śams.

anu-śamsa (男) 福利又は功德あらしむること, 利益を與ふること (*Divy.*); [*Pāli. ānisamsa*]; (漢譯) 讚, 稱讚, 讚歎, 可稱讚; 德, 功德, 勝功德, 最勝功德; 福利; 利, 勝利, 大利, 利益, 功德利, 功德勝利, 功德福利 *Daś-bh., Kāśy., Śikṣ., Bodh-c., Bodh-bh., Sūtr.*; 功用, 功能 *Śikṣ.*, 功力 *Sūtr.*; 名稱 *Aṣṭ-pr., Divy.*; 欣樂 *Bodh-bh.*; 好妙勝事 *Divy.*; 誠 *Daś-bh.*: bhadra ~ 賢善功德 *Śikṣ. 313.*

anu-śamsatā (女) (漢譯) 勝利 *Bodh-bh.*

anu-śamsatva (男) (漢譯) 勝利 *Bodh-bh.*

anuśamsa-darśana (男) (漢譯) 見勝功德 *Bodh-bh.*

anu-śamsā (女) (漢譯) 歎, 稱讚, 稱揚; 功德, 勝功德; 益, 勝利, 利益, 大勝利, 勝利益, 功德利, 殊勝利益, 功德勝利 *Aṣṭ-pr., Divy., Sūtr., Daś-bh., Sapt-pr., Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.*

anuśamsāṅga (°sā-āṅ) (形) (漢譯) 利益分, 功德分 *Sūtr., Madhy-vibh.*

anuśamsāvasthā (°sā-av) (女) (漢譯) 勝利位, 功德位 *Madhy-vibh.*

anu-śakti (女) 從屬的 Śakti.

anu-śaya (男) 後悔; 憎惡, 古き或は激しき敵意; 取消(賣約の); 結果との密接なる關係; 對象に對する執著; 性癖; (漢譯) 使, 諸使, 結使, 使隨; 眠, 隨眠, 陰眠, 隱幽, 隨眠惑; 煩惱 *Lañk., Śikṣ., Lal-v., Divy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 惡 *Aṣṭ-pr.*; 憤恨 *Aṣṭ-pr.*; 怨嫉 *Śikṣ.*; 不現 *Mvyut.*; 希望 *Lañk.*: daśa ~ āḥ 十隨眠 [1. rāgaḥ 貪, 2. pratighaḥ 瞋, 3. mānaḥ 慢, 4. avidyā 無明, 5. satkāya-dṛṣṭiḥ 有身見, 6. antagrāha-

dr̥ṣṭiḥ 邊執見, 7. mithyā-dr̥ṣṭiḥ 邪見, 8. dr̥ṣṭi-parā-marśaḥ 見取見, 9. śīla-vrata-parāmarśaḥ 戒禁取, 10. vicikitsā 疑] *Mvyut.* → nir~.

- anu-śayana 甲 隨增 *Abh-vy.*
- anuśaya-baddha 形 結恨在心 *Ast-pr.*
- anu-śayavat 形 罪を悔ゆる。
- anuśayākṣepa (°ya-āk°) 男 [修辭法の一] 悔恨の含意。
- anu-śayāna 形 後悔する。
- anu-śaṃita 通受分 隨眠, 所隨眠, 所隨增 *Bodh-bh., Abh-vy.*
- anu-śayitatva 甲 隨增, 所隨眠 *Abh-vy.*
- anu-śayitavya 未受分 後悔すべき。
- anu-śayin 形 = anuśayavat; 行爲の結果ある: 一心に愛著せる; 誠實なる; 悔恨する, 悔悟する; 深く憎惡する。
- anu-śāyitva 甲 隨眠, 所隨增 *Abh-vy.*
- anu-śās anuśāsati. → Śās.
- anu-śāsaka 形 支配する, 教ふる, 指導する, 罰する; 化, 化導, 教, 教誡, 能教誡 *Bodh-bh., Daś-bh.* 男 支配者, 教師, 指導者; 師, 教師, 教化者, 開化 *Saddh-p., Mvyut.*
- anu-śāsana 甲 教訓; 律法, 教理; 命令; 教, 正教, 教誡, 聖教理 *Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.* → buddha~.
- anu-śāsana 女 教誡, 隨指示 *Mvyut.*
- anu-śāsani 女 教, 所教, 教示, 教令, 教誨; 戒, 誡, 教誡 *Ast-pr., Lal-v., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
- anuśāsani-pradakṣiṇa-grāhin 形 於教奉順修行 *Gaṇḍ-vy.*
- anuśāsani-prātihārya 甲 戒神變, 教誡示導 *Mvyut.*
- anu-śāsaniya 未受分 教へらるべき; 罰せらるべき。
- anu-śāsita 通受分 指導せられたる, 規定せられたる; 教 *Vin.*
- anu-śāsitr 男 指導者, 教師。
- anu-śāsin 形 懲らす。
- anu-śāsini 女 教 *Bodh-c.*
- anu-śāsti 女 教訓; 教, 教誡; 眞實說 *Sikṣ., Bodh-bh.*
- anuśāsti-prātihārya 甲 教誡變現, 教誡示現 *Bodh-bh.*
- anu-Śikṣ anuśikṣati. → Śikṣ 1.
- anu-śikṣa 形 → sama~.
- anu-śikṣaṇa 甲 教習 *Bodh-bh.*
- anu-śikṣā 女 (德行を)模範とすること (*Jāt-m.*).
- anu-śikṣita 通受分 → Śikṣ 1. 隨受學 *Saddh-p.*
- anu-śikṣitavya 未受分 當學, 應隨學 *Saddh-p.*
- anu-śikṣin 形 得る, 實行する。
- anu-śiṣṭa 通受分 → Śās 1. 教; 趣入; 成就 *Ast-pr., Abh-vy.*
- anu-śiṣṭi 女 教, 教ふること, 命ずること。
- anu-Śi anuśiṣṭe. → Śi.
- anu-śilana 甲 學習, 遵奉。

- anuśilaya 名動 → śilaya.
- anu-Śuc, → Śuc.
- anu-śuśrūṣā 通受分 從順。
- anu-Śuṣ, → Śuṣ 1.
- anu-śocana 甲 悲嘆。
- anu-śocita 通受分 悔いたる, 悲める。
- anu-śocin 形 (一°)を嘆く。
- anu-śobhin 形 立派なる。
- anu-śrava 男 *Veda*の傳授(反覆聽聞して得らるゝ); 聽聞 *Bodh-bh.*
- anu-śrāvita 通受分 ~m jānāti 能作戒師 *Vin.*
- anu-Śri, → Śri.
- anu-śrita 通受分 → Śri.
- anu-Śru anuśr̥ṇoti, anuśrāvayati(使役). → Śru 1.
- anu-śakta 通受分 → Sañj. 所隨逐 *Bodh-bh.*
- anu-śaṅga 男 (於)に對する執著; 渴望; 結合, 相關; 直接の結果; 現行; 相應; 相連; 隨逐; 不相離 *Abh-vy., Mvyut.*; 大過 *Abh-vy.*
- anu-śaṅgin 形 執著せる; 共通の; ……に適合する; (圓)より必然的に繼起する; 隨轉 *Abh-vy.*
- anu-Śac, → Sac.
- anu-Śaṅj anuśajjate. → Sañj.
- anu-śaṅjana 甲 後續のものとの結合, 一致, 符合; 文法的關係。
- anu-śaṅjaniya 未受分 結合せらるべき; 前後の關係より補填せらるべき。
- anu-ṣṭuti 女 稱揚。
- anu-Ṣṭubh, → Ṣṭubh.
- anu-ṣṭubh 形 ……の後より歡呼する, 稱揚して從ふ。 讚歌; [音律の一種(4×8 音節)].
- an-uṣṭra 形 駱駝なき。 駱駝ならざるもの, 惡き駱駝。
- anu-Ṣṭhā anuṣṭhiyate(受) *Divy.* → Ṣṭhā.
- anu-ṣṭhātavya 未受分 爲さるべき, 實施せらるべき。
- anu-ṣṭhātr 男 行爲者, 實行者, 企畫者。
- anu-ṣṭhāna 甲 實行, 企畫, 行爲; 成, 成立; 隨建立, 隨順建立 *Bodh-bh., Mvyut.*; 隨念, (常)隨憶念 *Bodh-bh.*
- anu-ṣṭhāpana 甲 爲さしむること, 實行せしむること。
- anu-ṣṭhāyin 形 實行する, 作爲する。
- anu-ṣṭhita 通受分 爲されたる, 行はれたる。 → Ṣṭhā. 特專意 *Mvyut.*
- anu-ṣṭheya 未受分 實行せらるべき, 完成せらるべき; (常)隨記念 *Bodh-bh.*
- anu-ṣṭheyatama 最上 先づ第一に遂行せらるべき。
- anu-ṣṭhyā 副 直接に; 直ちに。
- an-uṣṇa 形 暑からざる. 涼しき, 寒き; 冷淡なる, 怠惰なる。
- an-uṣṇatā 女 [同上 副].
- an-uṣṇatva 甲 [同上].
- an-uṣṇa-śita 形 不寒不熱の。
- anu-Ṣyand, → Ṣyad.
- anu-ṣvadham 副 快く, 任意に。
- anu-saṃ-Yā, → Yā.

anu-samyāna ④ 順次に訪問すること。
 anu-samrakta ④ 過受分 → Raj.
 anu-sam-Rañj, → Rañj.
 anu-samvatsaram ④ 年々。
 anu-samvatsarāt ④ 一年後に。
 anusamvarṇaya ④ 名動 anusamvarṇayati. → var-
 naya.
 anu-samvarṇita ④ 過受分 ④ 所説 Lank.
 anu-sam-Viś, → Viś.
 anu-samvita ④ 過受分 (一°)に包被せられたる。
 anu-sam-Vraj, → Vraj.
 anu-sam-Sṛ anusamsāryate(使役受). → Sṛ.
 anu-samsr̥ṣṭa ④ 過受分 (具)と結合せる。
 anu-sam-Sthā anusamtiṣṭhati. → Sthā.
 anu-samsthita ④ 過受分 → Sthā.
 anu-sam-Smṛ, → Smṛ.
 anu-sakta ④ 過受分 [=anusakta]; ④ 所隨逐 Bodh-
 bh.
 anu-sam-Car, → Car.
 anu-samcara ④ 形 ④ 男 隨伴する(者), (器)に隨行する
 (者).
 anu-samjñapti ④ 女 説明; ④ 告 Divy.
 anu-samṭati ④ 女 繼續. ④ 不斷に繼續して.
 anu-samṭāna ④ 男 子孫, 子息.
 anu-sam-DHā, → DHā.
 anu-samdhātavya ④ 未受分 注意せらるべき, 探求せ
 らるべき, 配慮せらるべき.
 anu-samdhāna ④ 慎重なる注意, 應用; 吟味, 研究,
 調査, 搜索, 計畫, 企劃.
 anu-samdhī ④ 男 [Pali. 同] 連絡, 歸結; 應用; ④
 次第, 位次; 相續; 相合 Daś-bh., Lank., Bodh-bh.,
 Mvyut. —°, の側.
 anu-samdheya ④ 未受分 配慮せらるべき.
 anu-sam-An, → An.
 anu-sam-prāp (°pra-Āp), → Āp.
 anu-samprāpta ④ 過受分 → Āp.
 anu-sambaddha ④ 過受分 → Bandh.
 anu-sara ④ 形 (女 -i) 續く, 隨ふ, ……に適合する。
 anu-saraṇa ④ 隨伴, 隨ふこと, 追ふこと; 習慣;
 ④ 隨順; 隨行, 跟隨 Abh-vy., Mvyut. →
 praveśa~tā.
 anu-sarat ④ 現分 隨順する. 隨ふ; ④ 若行若止
 Gaṇḍ-vy.
 anu-sarga ④ 男 第二次的創造; 放つこと。
 anu-sartavya ④ 未受分 隨從せらるべき; ④ 應順修
 行, 隨順修行 Abh-vy.
 anu-sartr̥ ④ 順次に訪問する。
 anu-savanam ④ Savana 毎に; 常に, 絶間なく
 anu-Saśc, → Saśc.
 anu-sahāyi-bhūta ④ 隨從 Saddh-p.
 anu-sahita ④ 過受分 隨はれたる; ④ 隨順, 相隨
 Bodh-bh., Mvyut.
 anu-sānu ④ 丘の背(+)に於て, 臺地に沿ふて, 峯よ
 り峯に。
 anu-sāra ④ 隨ふこと, 追ふこと; 習慣; 適合; (法
 の)前例; ④ 隨, 隨順 Sūtr.

anu-sāraka ④ 形 (一°)を追ふ, 渴望する; 隨順する,
 吟味する。
 anu-sāraṇā ④ 女 隨從; 追求。
 anu-sāratas ④ (一°)に従ひて, ……に依據して。
 anu-sāritva ④ 隨, 隨入 Lank.; 親近 Siks.;
 覺, 了, 知 Lank.
 anu-sārin ④ 隨ふ, ……に隨伴する; 得んと努力す
 る; ……を目的とする; ……に適合する; ……に依
 據する; ④ 隨, 隨順, 隨逐; 入, 順入; 行, 隨行;
 依 Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut. → ma-
 dhyama-pratipad~, yuga-mātra~.
 anu-Siv, → Siv.
 anu-Sṛ anusarati. → Sṛ.
 anu-Sṛj anusr̥jati(-te). Sṛj.
 anu-sṛta ④ 過受分 → Sṛ. ④ 往 Lal-v.
 anu-sṛtya ④ 不変分 → Sṛ.
 anu-Sṛp, → Sṛp.
 anu-Sev anusevyate(受). → Sev.
 anu-sevā ④ 女 奉仕, 隨侍。
 anu-sevin ④ (一°)に耽る, ……を實行する。
 anu-starāṇi ④ 葬送の犠牲として殺されたる牝牛
 [遺骸の全身肢をその肉片を以て覆ふ]。
 anu-Spaś, → Spaś.
 anu-spaṣṭa ④ 過受分 → Spaś.
 anu-smaraṇa ④ 回想, 追憶; ④ 念, 憶念, 隨念,
 隨起憶念 Lank., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., 梵干.
 anu-smārīta ④ 使役 ④ 過受分 → Smṛ.
 anu-Smṛ anusmarati, anusmārayati(使役). →
 Smṛ.
 anu-smṛta ④ 過受分 → Smṛ.
 anu-smṛti ④ 女 追憶, 回想; 思想, 意向; ④ 念, 心
 念, 正念, 憶念, 隨念 Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sūtr.,
 Siks., Sam-r., Bodh-bh., Mvyut.: śaḍ~ayaḥ 六
 念, 六隨念 Dharm-s., Mvyut. [1. buddha~h 念
 佛, 2. dharma~h 念法, 3. saṅgha~h 念僧, 4.
 śīla~h 念戒, 5. tyāga~h 念捨, 6. devatā~h
 念天] Mvyut. → buddha~.
 anusmṛti-bhāvanā ④ ④ 念觀 Guhy-s.
 anusmṛti-vainayika ④ ④ 以憶念教化, 憶念而
 調伏者 Gaṇḍ-vy.
 anusmṛty-anuttarya ④ ④ 念無上 Mvyut.
 anu-syūta ④ 過受分 → Siv.
 anu-syūtatva ④ (絲の如くに) (一°)を通ること。
 anu-syūti ④ 隨連 Mvyut.
 anu-srota ④ ④ 順-Rāṣṭr.
 anu-srotas ④ 流れに隨ひて。
 anusroto-gāmin ④ ④ 水順, 順流, 順流行 Mvyut.
 anu-svāra ④ ④ 鼻音化母音, 隨韻。
 anu-Hā anujihite. → Hā 1.
 anu-Hṛ, → Hṛ 1.
 anu-Hṛṣ, → Hṛṣ.
 anu-hema-vapram ④ ④ 黄金色に輝く山の斜面に沿
 ひて。
 anu-hrāda ④ [Hiranyakaśipu の子の名]。
 anu-hlāda ④ [同上]。
 anu-Hvā, → Hvā.

anūka 男 甲 脊椎(殊に其の上部). 男 祭壇の背部; 前世の生存; 先祖へ溯る系譜: tri-puruṣa ~ m (副)三代溯りて. 甲 種族, 家系; 性格, 性質.
 anū-kāśa 男 反射(光の); 分明; 顧慮, 参照.
 anūkta 過受分 → Vac. 甲 讀誦, 學習.
 anūcāna 三過分 自 學習せる; 謙遜なる.
 anūcāna-mānin 形 博識を誇れる.
 anūci, [anv-añc (形)の 女].
 anūcina 形 [anv-Añc] 繼續的の; 知識を誇れる. ~ m 副 縦に.
 an-ūḍha 過受分 [Vah] 生れざる, 運ばれざる.
 an-ūdhā 女 未婚の婦人, 妾.
 anūtthā (anu-ud-Sthā) anutthāpyate (使役 受). → Sthā.
 an-utthita 過受分 → Sthā.
 anūt-Pat, → Pat 1.
 anūt-Pā anūtpipite. → Pā 3.
 anūt-Sr, → Sr.
 an-ūdaka 甲 水の闕乏, 旱魃.
 an-ūdara 形 腹部なき. 男 [人名].
 anūd-I anūdeti. → I.
 an-ūna 過受分 完全なる, 全き; (從)より少からざる, より劣らざる; 不減, 無減, 不減, 無有減 Lan̄k., Daś-bh., Saddh-p., Prajñ-h. ° 副 非常に, 極めて, 全く.
 anūna-vastuka 形 完全なる内容又は本質を有する.
 anūnāvikalatā 女 無缺減. Sukh-vy. I.
 anūpa 男 [anu+ap-a] 岸; 沼池; 貯水池; [海國の名]; 濕; 水田, 糞田 Mvyut. 形 水多き, 水邊の.
 anūpabṛm̄hayatā 女 長養 Bodh-bh.
 an-ūpalīpta 過受分 [管律, =an-upalīpta] 不染 Saddh-p. 313.
 anūpa-Sthā anūpasthiyate (受), anūpasthāpayati (使役). → Sthā.
 anū-rādhā 女 [=anurādhā]; [二十八宿の一] 房宿 Māñj-m.
 an-ūru 男 (腿なき), 曉(太陽の御者又は兄弟として人格化されたる).
 an-ūrjita 過受分 貧しき, 卑しき (Jāt-m.).
 an-ūrdhvatā 女 低下, 墮落.
 anūlā 女 [河の名].
 anūṣivas, [Vas の 三過分].
 an-ūha 形 熟慮せざる, 思慮なき, 輕率なる.
 an-ṛ 男 人ならざるもの.
 an-ṛkṣara 形 棘なき, 尖端なき.
 an-ṛg-yajus 形 R̄g-veda も Yajur-veda も知らざる.
 an-ṛgveda-vinita 形 R̄g-veda に精通せざる.
 an-ṛc 形 R̄g-veda に熟達せざる.
 an-ṛca 形 [同上].
 an-ṛju 形 眞直ならざる, 不正直なる.
 an-ṛna 形 負債なき; 不負 Buddh-c.
 an-ṛnatā 女 (屬)に對して負債なきこと.
 an-ṛnatā-kṛtya 甲 負債を償却する意向.
 an-ṛnatva 甲 (屬)に對して負債なきこと.
 an-ṛnākartos 屬 不定 負債より免るべく.
 an-ṛnin 形 負債なき.

an-ṛta 形 惡しき; 眞ならざる, 虚偽の; 不實, 無實心; 虚, 虚証; 妄 Madhy-v., Buddh-c., Daś-bh., Abh-vy. 甲 惡; 詐偽; 虚言; 非實; 虚妄, 妄語, 虚偽說 Abh-k., Divy., Buddh-c.
 an-ṛta-kāraka 形 虚偽をなせる
 an-ṛta-kārin 形 [同上].
 an-ṛta-pūrvam 副 不正に, 偽りて.
 an-ṛta-maya 形 不正の; 虚偽の, 偽謊の; 虚言の.
 an-ṛta-vacana 甲 妄言, 妄語, 虚証語 Aṣṭ-pr., Daś-bh.
 an-ṛta-vacana-viramāṇa 甲 不妄言, 不妄語 Aṣṭ-pr.
 an-ṛta-vāc 形 虚言の. 男 虚言者.
 an-ṛta-vāditā 女 不眞實なること.
 an-ṛta-vādin 形 =an-ṛta-vāc.
 an-ṛta-saṃhita 形 誓約を守らざる.
 an-ṛtātma (°ta-āt°) 形 本性の正しからざる.
 an-ṛtābhiśamsana 甲 誣告.
 an-ṛtika 形 虚言の; 信實ならざる (Buddh-c.). 男 虚言者.
 an-ṛtin 形, 男 [同上].
 an-ṛti-Kṛ, 虚偽をなす, (業)を虚言者なりとす, (業)の虚言をあばく.
 an-ṛtu 男 正しからざる季節; 性交に不適當なる時.
 an-ṛśamsa 形 惡意なき, 厚意ある, 温和なる.
 an-ṛṣi-bhojana 甲 聖人遠離之食, 諸仙聖人之所棄捨 Lan̄k. 249.
 an-eka 形 一以上の, 種々の; (類)多くの, 幾多の; 非一; 多, 衆, 衆多, 諸, 種々, 多體; 頻; 無量 Divy., Lan̄k., Cat-ś., Sāṃkhy-k., Madhy-v., Abh-vy., Vijñ-v., Mvyut.
 aneka-guṇa-vāhaka 形 能生無量功德 Lan̄k.
 aneka-guṇa-vivarjita 形 敗諸功德 Lan̄k.
 aneka-gupta 男 [王の名].
 an-ekatva 甲 多様性; 非一性, 非一, 不一 Aṣṭ-pr., Madhy-vibh.
 aneka-doṣa-vivarjita 形 遠離諸過 Lan̄k.
 aneka-doṣāvaha (°ṣa-āv°) 形 生無量諸過, 生諸罪惡 Lan̄k.
 an-ekadhā 副 多くの部分に; 多くの方法にて; 屢.
 aneka-pa 男 象.
 an-eka-pitr̄ka 男 父を異にする孫.
 aneka-buddhi 女 多種の概念 (類).
 aneka-mati-bhinna 形 種種心差別, 意差別 無量 Lan̄k.
 aneka-mārga 形 多くの路ある.
 aneka-mūlya 形 多くの價值ある; 無價 [匹敵するものなき價值ある] Saddh-p.
 aneka-yuddha-vijayin 形 多くの戰に勝利を得たる.
 aneka-rūpa 形 多くの, 多形の, 多種の; 移り氣なる.
 aneka-vara 形 反復して起れる.
 aneka-varṇa 形 多彩の. 男 野鼠.
 aneka-varṣa-śatika 形 數百年の.
 aneka-vārṣika 形 經歷多年 Śikṣ.
 aneka-vijayin 形 數・勝利を得たる.

aneka-vidha 形 種々の; 〔漢〕非一種種, 非一, 衆多, 多種, 種種, 無量, 無量種, 無量種種 *Lank., Madhy-v., Bodh-bh.*

aneka-vidhatva 中 [同上]。

aneka-vividhā 不 〔漢〕種種 *Saddh-p.*

aneka-śakti 男 [王の名]。

aneka-śata-sāhasra 形 (因) -i) 數百千の。

an-ekāśas 副 無數又は無量に; 度々; 種々の方法にて; 〔漢〕多 *Bodh-c.*

aneka-śikha 形 多くの火焰ある。

aneka-saṁśayocchedin (°ya-uc°) 形 多種の疑惑を斷除する。

aneka-saṁsthāna 形 種々の形體を有する, 種々に形を變ずる。

aneka-saṁkhya 形 極めて數多き。

aneka-sahasra-raśmi 形 數千の光線を有する(月)。

aneka-sādhāraṇa 形 多くの人々に共通なる。

an-ekānta 男 絶對ならざる場合, 不定の場合; 〔漢〕非定, 不決定 *Bodh-bh., Nyāy-pr.*

anekānta-hetuka 形 〔漢〕不決定因 *Nyāy-pr.*

anekāntika 形 要點に觸れざる, 問題外の。

anekārtha 形 一つ以上の意味ある; 〔漢〕不一, 非一 *Madhy-v.*

anekopavāsa (°ka-up°) 男 屢: 斷食すること。

an-ekat 現分 動かざる, 動搖せざる。

an-edaka 形 清淨なる, 清澄なる (*Av-ś., Mah-v.*); 〔漢〕清淨 *Bodh-bh.*: madhv ~ 清淨蜜 *Bodh-bh.* 75. 中 〔漢〕生蜜, 梨蜜 *Mvyut.*

a-nedya 形 非難なき。

an-enas 形 無咎なる; 過失なき, 罪なき. 男 [諸人の名]。

a-neya 形 導かれざる, 御し難き, 誨へ難き。

an-ela-mūka 形 愚かなる。

an-elā 形 〔漢〕無劣(?), 無害 *Mvyut.*

an-evam-vid 形 斯ることを知らざる。

an-eṣaṇa 形 貪欲を離れたる。

an-ehas 形 達し難き, 無比の, 匹敵するものなき; 恐れなき, 安全なる. 男 時. 中 安全, 保護。

an-aikāntika 形 不定の, 變り易き; 多くの目的を有する; 附隨の; 〔漢〕不定, 不決定 *Nyāy-pr., Bodh-bh., Mvyut.*

an-aikāntikatā 女 不安定, 不確實; 變り易きこと; 〔漢〕非一向 *Bodh-bh.*

an-aikāntikatva 中 [同上]。

an-aitihya 形 傳承に基かざる。

a-naipuṇa 中 熟達せざること, 無經驗。

a-naibhṛtya 中 確乎たらざること, 變り易きこと; 不謙讓。

a-nairyāṇika 形 〔漢〕不出, 不出離, 不永出, 不求出離; 在生死道 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

an-aiśvarya 中 無力, 弱きこと。

anaiśvarya-gata 形 〔漢〕不得自在 *Suv-pr.*

a-naisthika 形 〔漢〕非究竟 *Buddh-c.*

an-oka-śāyin 形 屋内に寝ねざる。

an-oka-ha 男 樹 [住處を去らざるもの]。

an-om-kṛta 形 om を伴はざる。

an-ojas 形 無力なる, 弱き (*Jāt-m.*).

an-ojaska 形 [同上]。

ano-nata 過受分 俗 [<an-avanata]; 〔漢〕常立 *Saddh-p.* 217.

anopa-lipta 過受分 俗 [<an-npalipta]; 〔漢〕無所著, 不著(泥水) *Saddh-p. 14., Lal-v.* 224.

ano-ratha 男 〔漢〕荷車と戰車。

ano-lina 過受分 俗 [<anava-lina]; 〔漢〕; 不怯, 無所畏 *Saddh-p.* 279.

ano-vāhya 未受分 車にて運ばるべき. 中 一車の載量. ~ m 副 一車の載量にて。

an-oṣṭhaka 形 〔漢〕無唇者 *Mvyut.*

an-aucitya 中 不適當, 異常。

an-aujaska 形 無力なる, 弱き (*Jāt-m.*).

an-audārika 形 儼ならざる; 〔漢〕細 *Daś-bh.*

an-auddhatya 中 高慢ならざること; (水の)低きに流るゝ性質。

an-aupamya 形 比類なき。

an-auśadha 中 療法なきこと, 藥石の效なきこと. 形 治癒し得ざる。

anta 男 (中) 端, 縁邊, 限界; 近接; 終局; 死; 末尾の文字, 最終の語(文法); (圓)の最高點, ……の極致; 結論; 解決, 決定; 條件; 内部; (一°)を以て終ること; 〔漢〕至, 末, 終, 盡, 際, 邊, 邊際, 後, 後際; 近; 面 *Aṣṭ-pr., Vair-pr., Lal-v., Sam-r., Lank., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*: duḥkhasya ~ ḥ karaṇīyaḥ 盡苦際, 盡苦邊際 *Aṣṭ-pr.* 518.; (一°)類 *Bodh-bh.*: caṇḍāla ~ 旃荼羅類 *Bodh-bh.* 226. → an ~, grāma ~. [數の名] 千載 *Mvyut.* ~ m Gam, ……を悟る. ~ m 副 至るまで, ……の中に. ~ e 因 終に; 近く; ……の前に; (一°)に於て; 〔漢〕後時 *Abh-vy.* 形 愛らしき, 美しき。

antaḥ-karaṇa 中 内部器官(器); 心臟; 〔漢〕内作具 *Sāṁkhya-k.* 33.

antaḥ-kalpa 男 〔漢〕中劫, 別劫 *Abh-k.*

antaḥ-kubja 形 〔漢〕駝背 *Mvyut.*

antaḥ-kopa 男 内心の忿懣。

antaḥ-kriyā 女 〔漢〕邊際 *Lal-v.*

antaḥ-KHyā, → KHyā.

antaḥ-Paś, → Paś.

antaḥ-pāla 男 後宮の番人。

antaḥ-pura 中 (内城), 王城; 後宮, 婦人の部屋; 〔漢〕王の后妃; 〔漢〕家, 宮, 王宮, 宮殿; 中宮, 後宮, 宮人, 妃后宮人, 内人, 妾, 中宮嫔女, 后眷屬, 宮殿眷屬, 嫔女眷屬 *Divy., Av-ś., Rāṣṭr., Lal-v., Suv-pr. Buddh-c., Saddh-p., Mvyut.*: rājño ~ e parā kramantaḥ 盜入宮闈, 侵犯宮人 *Gaṇḍ-vy.* 353.

antaḥpura-cara 男 後宮の從者。

antaḥpura-jana 男 後宮の婦女達。

antaḥpura-parivāra 形 〔漢〕嫔女 *Divy.*

antaḥpura-madhya-gata 形 〔漢〕處宮中, 在宮中, 處內宮, 處中宮 *Gaṇḍ-vy.*

antaḥpura-vṛddhā 女 後宮の老侍女。

antaḥpurāvacara 男 後宮の從者 (*Jāt-m.*).

antaḥ-purikā 女 後宮の婦女; 〔漢〕后宮, 内人, 嫔

女, 宮人, 宮内人, 宮中妃后 *Divy., Saddh-p., Av-ś.*
antaḥ-prakāśa 男 心中の幻影.
antaḥ-prakṛti 女 覆 (王者を除く) 國家構成員, 國家を構成する要素.
antaḥ-prajña 形 向内的の智を有する [向外的の智 *bahiḥ-prajña* に對す].
antaḥ-pratiśrutkā 女 響 *Cat-ś.*
antaḥ-pramoda 男 内心の悦び.
antaka 1. 男 境界.
antaka 2. 形 終末の, 破壊する, 死せしむる. 男 死; *Yama* 神.
antaka-pura 甲 *Yama* 神の城市.
antā-kara 形 終らしむる, 死すべき, 破滅せしむる, 殺す; 除, 盡, 作邊際 *Lal-v., Śikṣ., Mvyut.*
anta-karaṇa 形 [同上]. 甲 破壊.
antakānana (°ka-ān°) 甲 死神 *Antaka* の口.
anta-kāla 男 死, 死亡の時刻; 世界の終末; 末時 *Bodh-bh.*
anta-kṛt 形 終らしむる; 出, 能出 *Mvyut.:* *bhava* ~ 出三有, 能出有 *Mvyut.* 男 死; *Yama* 神.
anta-koṭi 女 邊際 *Bodh-bh.*
anta-ga 形 ……の終に達する; (一°)に全く熟達せる.
anta-gata 形 終末に達したる; 最後の.
anta-gamana 甲 (圓)の終に来ること, 終了; 生命の終末に達すること, 死.
anta-gāmin 形 終末に達する, 死に赴く; 盡 *Saddh-p.* → *duḥkha* ~.
anta-grāha 形 邊執 *Bodh-bh., Abh-vy.*
antagrāha-dṛṣṭi 女 邊見, 邊執見 *Gand-vy., Vijñ-t., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.,*
anta-cara 形 (一°)の境界に住する, 境界を徘徊する.
antatas 副 終末より; 極端に; (圓)の終局に於て, の近傍より; 周圍に; 最終に; 於; 最後; 乃至, 下至, 乃至最下 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy.*
anta-dvaya 甲 二邊 *Laṅk., Bodh-bh.*
antadvaya-vivarjita 形 離二邊, 離於二邊, 不墮二邊, 遠離二邊 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
anta-pāla 男 境界の看視者; 守哨, 哨者 *Mvyut.*
antama 上 次の; 最も近き; 親しき; 極めて親切なる; 最後の. 男 隣人.
anta-yuga 男 末世 *Bodh-bh.*
antar 副 内に, 内部に; 中 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.*
 前 (圓, 因, 一°)の中に, ……の内に; (業, 圓, 因)の中間に, ……の間に; (從, 圓)より.
antara 形 近き, 親しき; 内部の; 他の; 中; 別, 異, 餘, 不共, 殊異 *Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k.* 甲 内部; 中間, 距離; 入口; 時, 時間; 機會, 弱點; 差異, 種別, 特徴, 確實; 一° 他の, 異れる, 特殊の, 特異の; 中; 間, 中間, 間隙, 缺; 間缺; 別, 差別, 異, 殊異, 餘; 後; 分; 相去 *Sapt-pr., Abh-vy., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-k., Nyāy-pr., 梵雜.* → *an* ~, *abhy* ~, *artha* ~ *viśeṣa*, *alpa* ~, *nir* ~, *bahv* ~.
 ~ *m* 副 内部に, 内に; より遠く; (圓, 一°)の中に.
 ~ *eṇa* 因 (業, 一°)の中間に, ……の内に, ……

の間に, ……の後に; ……なしに, 除きて; (業, 圓)の爲に, ……に關して; 離 *Laṅk., Abh-k., Abh-vy.:* *tena* ~ *eṇa* 爾時 *Suv-pr.*
 從 (一°)より, ……の後に.
 ~ *e* 因 (圓, 覆)中に, 内に; の間に, 途中にて; (一°)の間に, ……の後; (圓, 一°)の中間に, ……の間に; 中間 *Aṣṭ-pr.*
 (e)*tasmin* ~ *e*, (t)*atra* ~ *e*. その間に.
tad ~ *e* 中間 *Laṅk.;* (→ *tad-antaram*).
mārga ~ *e* 兩處中間 *Gand-vy.*
 ~ *e* *Vṛt*, 不和ならしむ.
antara-kalpa 男 中劫, 中間劫; 內劫, 小劫 *Saddh-p., Abh-vy., Mvyut.:* 小三災 [1. *śāstra* ~ *ḥ* 刀兵中間劫, 2. *roga* ~ *ḥ* 疾疫中間劫, 3. *durbhikṣa* ~ *ḥ* 饑饉中間劫] *Mvyut.*
antara-gata 形 (圓, 一°)の内に存する; 遠き.
antar-aṅga 形 内部の; 親しき; 同族の. 甲 内部器官, 心臟.
antara-jña 形 辨別する.
antara-jñatā 女 辨別.
antar-Añj, → *Añj.*
antaratarā 比較 (圓)と極めて親しき.
antaratas 副 内に. 前 (圓)の内に; (一°)の内より.
antara-dṛś 形 中道を採れる.
antara-dvipa 男 中洲 *Abh-k.*
antara-patita 形 消滅せる, (=考慮の中に容らざる).
antara-pūruṣa 男 靈魂.
antara-prabhava 形 中間出生の(即ち異れる種姓の混淆より生れたる).
antara-prekṣin 形 弱點を狙ふ.
antara-prepsu 希求 形 機會を得んと欲する.
antaraya 名動 他 隠す.
antara-śarira 甲 內身 *Suv-pr.*
antāra-stha 形 (圓, 一°)の中にある, 内部の. 男 確實; 證據; 證人.
antara-sthita 形 (一°)の内に存在する.
antarā 副 中央に, 間に; その中に; より遠く; 途中に; 近くに; 殆ど; 中間に; 時々; 中, 中間, 於中間; 中道; 終 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.* → *antarāntarā.* ~ …… ~, 或る時には…… 又或る時には.
 ~ *ca* …… ~ *ca*, ……と……との間 (*Divy.*).
antarāṃsa 男 兩肩の間, 即ち胸; 髀間, 兩腋 *Mvyut.*
antarā-kathā-samudāhāra 男 議論 *Divy.*
antarā-gamana 甲 間を通り行くこと.
antar-āgāra 甲 家の内部.
antar-ātmaka 形 (女 -i) 内部の, 內的の.
antar-ātman 男 精神, 心; 自我; 內我 *Cat-ś.*
anta-rātri 女 死の夜 (*Jāt-m.*).
antarā-diś 女 中間の方角, (四)維.
antarādhiṣṭhāna (°rā-adh°) 甲 中間留難 *Bodh-bh.*
antarāntarā (°rā-an°) 副 時々, 彼方此方に. 前 (業, 因)の中間に; (業)の間に, ……なく. ……を除

きて。

antarāntarāt ㊦ ㊦ 其處此處に (Divy.).

antarānvešin ㊦ 機會を求むる。

antar-āpaṇa ㊦ 市場. 市場内の店の列; ㊦ 市肆, 市鄣, 市肆裏里 Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr. ㊦ ㊦ 村, 邑中市 Mvyut.

antarāpaṇa-madhya-gata ㊦ ㊦ 在市中, 於衢路, 在於市中 Gaṇḍ-vy.

antarā-parinirvāyin ㊦ [Pāli. antara-parinibhāyin] 中間にて般涅槃する (Mah-v., I. 33.); ㊦ 中滅; 中般, 中般涅槃(音寫) Mvyut.

antarā-pūrṇatā ㊦ ㊦ 無増無減. 未曾増減, 究竟恆滿無有増減 [Tib. gañ-shiñ ḥbri-bar-ḥgyur-bamed-pa] Gaṇḍ-vy.

antarā-bhava ㊦ ㊦ 中陰, 中有 Lanḅ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.

antarābhava-stha ㊦ ㊦ 住在中有 Bodh-bh.

antarā-bhavika ㊦ ㊦ 中有, 中陰法 Lanḅ.

antarā-maraṇa ㊦ ㊦ 中天, 中間死 Abh-vy.

antarā-mṛtyu ㊦ ㊦ 中天 Abh-vy.

antar-āya ㊦ 介在, 障礙; 中間の時; 間隔; ㊦ 障, 障礙; 難, 障難, 留難, 難事; 斷, 斷絶, 間斷; 發; 隱蔽; 冥沒 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Aṣṭ-pr, Kāśy., Rāṣṭr., Divy., Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.: kuśala-mūlasya ~m Kṛ 善根斷絶 Aṣṭ-pr. 132. → jivita ~o BHū, ~o BHū.

antarāya-kara ㊦ ㊦ 障, 障礙; 斷 Abh-vy., Lanḅ., Sūtr., Śikṣ.

antarāya-karaṇa ㊦ ㊦ 留難 Aṣṭ-pr.: an ~āya (寫) 無諸留難 Aṣṭ-pr. 527.

antarāya-karman ㊦ ㊦ 斷絶, 作留難 Aṣṭ-pr.

antar-āyaṇa ㊦ ㊦ 四衢道 Aṣṭ-pr.

antar-āyika ㊦ [Pāli. 同] 障害となる, 妨ぐる; ㊦ 障, 障道, 遮道 Vin., Prāt-m., Śikṣ., Mvyut.: ~ā dharmāḥ 障道法, 遮道法 Prāt-m. V. 55.

antar-āyikatā ㊦ ㊦ 作(諸)留難 Aṣṭ-pr.

antarāyika-dharma ㊦ ㊦ 阻法, 障法 Mvyut.: ~ananyathātva-niscita-vyākaraṇa-vaiśāradya [如來の四 vaiśāradya (無所畏)の一] 障法不虛決定授記無畏 Mvyut.

antarāyo BHū, ㊦ 有邪魔爲留難 Aṣṭ-pr.

antar-ārāma ㊦ ㊦ 内心に悦びある。

antar-āla ㊦ 介在する. ㊦ 中間, 間隔; 中間階級, 中間種姓; ㊦ 中, 中間 Vijñ-v., Abh-vy. ㊦ 途中に, その間に。

antarāla-bhū ㊦ (寫)の間の空間。

antarā-vedi ㊦ 區劃。

antar-ī antarayati. → I.

antarika ㊦ [Pāli. 同] 直次の, 中間の; ㊦ 近坐, 比坐 Mvyut.

antarikā ㊦ [Pāli. 同] 内部; 近隣, 區域; ㊦ 間, 中間; 斷; 缺 Abh-vy., Gaṇḍ-vy.

antar-ikṣa (又は antari-kṣa) ㊦ 空。

antarikṣa-kṣit ㊦ 虚空に住する。

antarikṣa-ga ㊦ 空中を行く. ㊦ 鳥。

antarikṣa-loka ㊦ 空界。

antarikṣa-sad ㊦ 虚空に在る。

antarikṣāvacara ㊦ 虚空に在ること。

antar-ita ㊦ ㊦ → I. 退きたる; 排除せられたる, 分離せられたる; 介入せる; 遠き; (一)の状態にある; (二, 一)によりて隠されたる, …によりて遮られたる; ㊦ 障, 被障; 隔, 間隔, 爲隔; 所障隔; 相去 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.

antar-indriya ㊦ 内部器官。

antari-Kṛ, 間に取る, 間に置く; ㊦ 内懷 Bodh-bh.

antar-ikṣa ㊦ = antarikṣa ㊦ 空中, 虚空 Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr.

antarikṣa-ga ㊦ ㊦ = antarikṣa-ga.

antarikṣa-deva-lipi ㊦ ㊦ (音寫) 安多力叉提婆書, 安多梨叉提婆(虚空天)書 Lal-v. 126.

antarikṣa-pradeśa ㊦ ㊦ 空方 Mvyut.

antari-bhūta ㊦ ㊦ 在內, 在中 Dās-bh.

antariya ㊦ 下著(寫); ㊦ 內衣 Saddh-p. ㊦ ㊦ 餘 Abh-vy.

antar-uṣya ㊦ 屯處, 休憩處。

antare-cara ㊦ 屋内に在る, 屋内を駆け廻る。

antaroddāna (°ra-ud°) ㊦ ㊦ 簡章, 翻略, 中間攝頌 Mvyut.

antar-gata ㊦ 中に行ける, 入れる; 内方の, 内部の; 隠れたる, 秘密の; 消滅したる; (一)に含まれたる, …の中にある; ㊦ 入, 普入, 住中, 中, 住於其間; 内; 含容; 攝, 攝在, 普能攝受 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Lanḅ.

antar-gatatā ㊦ ㊦ 普入, 攝取 Gaṇḍ-vy.

antar-gatatva ㊦ ㊦ 入, 偏住…之中 Lanḅ.

antargata-manas ㊦ 思ひ沈める, 冥想する; 他に心の牽かれざる。

antargata-mānasa ㊦ ㊦ 内懷 Bodh-bh.

antar-Gam, → Gam.

antar-gala-gata ㊦ 咽喉に刺りたる。

antar-giri ㊦ [地名]. ㊦ 山中にて。

antar-gṛha ㊦ 内部の部屋; ㊦ 家; 房室, 内室, 宮室, 屋宅 Saddh-p., Bodh-bh.; 白衣家 Prāt-m. ~m ㊦ ㊦ 家内 Prāt-m. ~e ㊦ ㊦ 在舍内 Mvyut.

antar-jana ㊦ ㊦ 一家の住者; ㊦ 家人, 眷屬 Lal-v., Mvyut.

antar-jala-cara ㊦ 水中に棲む。

antar-jala-nivāsin ㊦ [同上].

antar-jala-supta ㊦ 水中に眠れる。

antar-jalaugha (°la-ogha) ㊦ 内部の水量。

antar-jānu ㊦ ㊦ 兩膝の間に(手を)置ける. ㊦ 兩膝の間に。

antar-jyotis ㊦ 光を内方に向けたる, 知見ある. ㊦ 内部の光。

antar-dadhāna ㊦ 消滅する, 隠るゝ; ㊦ 隱 梵千。

antar-dasāha ㊦ ㊦ 十日の間隔。

antar-dāha ㊦ 内部の熱火 (寫); ㊦ 内熱, 内燒, 熱中, 熱惱, 内具熱惱, 内懷熱惱 Śikṣ., Madhy-v.

antar-duḥkha ㊦ 内心に苦める, 悲しき。

antar-duṣṭa ㊦ 腹黒き, 兇惡なる, 陋劣なる。

antar-dhana ㊦ 内部の財寶。

antar-DHā antardhāyate, antardhiyate(受). → DHā.
 antar-dhā ㊦ = antardhi.
 antar-dhāna ㊦ 被覆; 消失; ㊦ 滅, 沒, 滅沒, 隱沒, 滅盡, 壞, 滅壞; 不現; 斷絶 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Mañj-m., Bodh-bh., Mvyut.*; ㊦ 安世陀那 *Guhy-s.* ~m Gam, ~m I, ~m Vraj 消失す.
 antardhāna-gata ㊦ 消滅せる, 消失せる.
 antardhāna-gati ㊦ 消失.
 antardhānam-gata ㊦ = antardhāna-gata; ㊦ 不現 *Mvyut.*
 antardhāna-cara ㊦ 他より見られずして行く.
 antar-dhi ㊦ 被覆, 隱匿; 消失; ㊦ 沒 *Sūtr.* ~m Gam 消失す.
 antar-dhairya ㊦ 内面の堅固.
 antar-dhvānta ㊦ 内部の闇黒.
 antar-nagara ㊦ 城, 王宮.
 antar-niviṣṭa-pada ㊦ 内に足場を得たる, (彼れの) 心を捉へたる(呪咀).
 antar-niveśana ㊦ 内部の室.
 antar-nihita ㊦ 内に置かれたる.
 antar-bahis ㊦ ㊦ 内外 *Saddh-p.*
 antar-bāṣpa ㊦ 抑へたる涙. ㊦ 涙を抑ふる, 涙を滲えたる.
 antar-bhavana ㊦ °—, 家の中に, 家の中へ. ㊦ 家の内部.
 antar-bhāva ㊦ (因)の中に包含すること; 消滅; ㊦ 攝, 攝在, 攝在中; 懷, 内懷 *Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.* ~m Gam 消失す.
 antar-bhāvita ㊦ 含まれたる.
 antar-BHid, → BHid.
 antar-BHū, → BHū.
 antar-bhūta ㊦ (因)の中に含まれたる. → Bhū. ㊦ 入, 攝, 入攝, 攝在 *Abh-vy., Madhy-vibh.*
 antar-bhūtatva ㊦ [同上 ㊦].
 antar-bhūmi-gata ㊦ 地中に入れる, 地下に在る.
 antar-bheda ㊦ 内部の破裂.
 antar-bhauma ㊦ 地中の, 地下の.
 antar-madāvastha ㊦ 發情するも猶ほ情熱の内に存する, (即ち其の兆候未だ外に現れざる).
 antar-manas ㊦ 思ひに沈める, 打ち萎れたる, 銷沈せる; 冥想する.
 antar-mandira ㊦ 後宮.
 antar-manmatha ㊦ 秘められたる戀.
 antar-marman ㊦ 心臓.
 antar-mukha ㊦ 口に入る; 内に向へる. ㊦ 鉄の一種(外科手術に用ふる).
 antar-mukhatva ㊦ ㊦ 内門(轉) *Abh-vy.*
 antarmukha-pravṛtta ㊦ ㊦ 裏觀 *Mvyut.*
 antarmukha-pravṛttatva ㊦ ㊦ 内門轉, 内門起 *Abh-vy.*
 antar-modā ㊦ 内心の悦び.
 antarya ㊦ 内部の. ㊦ ㊦ 隔礙, 間隔 *Abh-vy.*
 antar-Yam, → Yam.
 antaryāpti-samarthana ㊦ [佛典の名. *Ratnāka-*

rasānti 作].
 antar-yāma ㊦ 呼吸と聲とを抑制して Soma 汁を捧げ且つ飲むこと.
 antar-yāmin ㊦ 心内の指導者, 感情を抑制し又は調整するもの; 精神, 魂.
 antar-lajjā ㊦ 顔に表はれざる愧恥の情.
 antar-lāpikā ㊦ それ自身解答を含める謎.
 antar-lina ㊦ ㊦ [Li]. ㊦ 生得の.
 antar-vaṁśika ㊦ 後宮の監督; ㊦ 内司, 内尊官 *Mvyut.*
 antarvat ㊦ (㊦ -i, -ni) 妊娠せる.
 antar-vartin ㊦ (㊦ -i) [同上]: ~i samvṛttā 妊婦となれり, 妊娠せり (*Divy. 234.*)
 antar-varṣā ㊦ ㊦ 至夏, 夏内 *Mvyut.*
 antar-Vas, → Vas 3.
 antar-vastra ㊦ 下著(袴).
 antar-vāṇi ㊦ 博學なる.
 antar-vāsa ㊦ 屯處; (一?)の中に住すること; ㊦ 下衣, 單衣, 中宿衣 *Mvyut.*
 antar-vāsaka ㊦ ㊦ 裏衣, 中宿衣, 五條; ㊦ 安陀會, 安多衛, 安陀羅會, 安多婆娑, 安陀羅跋薩, 安陀羅婆嚩 ㊦.
 antar-vāsas ㊦ 下著(袴).
 antar-vāsika ㊦ [*antar-vaṁśika*]; ㊦ 内司, 内尊官 *Mvyut.*
 antar-viśāla ㊦ ㊦ 内寛, 内闊 *Mvyut.*
 antar-viṣa ㊦ 内に毒ある.
 antar-vihvala ㊦ 内心の煩勞.
 antar-vṛtti ㊦ 内的状態.
 antar-vedi ㊦ ㊦ *Antarvedi* 國の住民. ㊦ 祭場内に.
 antar-vedi ㊦ [Gangā 河と Yamunā 河との間にある國の名].
 antar-hāsa ㊦ 抑へられたる笑. ~m ㊦ 笑を抑へて.
 antar-hita ㊦ 消滅せる. → DHā 1. ㊦ 隱, 沒, 隱沒, 已隱沒, 還沒, 沒盡; 滅盡, 滅已, 已磨滅; 退去, 還歸, 還沒; 隱身不現, 忽念不現 *Divy., Saddh-p., Lank., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
 antavat ㊦ 際限を有する, 有限の, 最終の, 無常の, 消滅すべき; ㊦ 有邊, 有盡 *Aṣṭ-pr., Madhy-v., Mvyut.*
 anta-velā ㊦ 死時, 臨終時.
 antaśas ㊦ ……さへも (*Av-ś., Divy.*); ㊦ 乃至, 下至 *Suv-pr., Daś-bh., Vajr-pr., Śikṣ.*
 antaś-Car, → Car.
 antaś-cara ㊦ 體內にて動く.
 antaś-cārin ㊦ ㊦ 修内行, 修行内法 *Lank.*
 antaś-caitanya ㊦ 内面に意識せる.
 antaś-CHid, → CHid.
 antaḥ-śarira ㊦ 人體の内部, 人の精神的部面.
 antaḥśarira-stha ㊦ 身内に存する.
 antaḥ-śalya ㊦ 心中の箭(譬喩).
 antaḥ-śava ㊦ 死骸を含める.
 antaḥ-śānti ㊦ 内的の安靜.
 antaḥ-śleṣa ㊦ 連結せる骨組; 内的支持, 或るもの

の支へらるゝ足場。

antah-śleṣaṇa ㊦ [同上].

anta-satkriyā ㊦ 最後の敬意(死者に對する), 葬式.

anta-sad ㊦ 弟子(師の近くに住する).

anta-samikaraṇa-samākhyāna ㊦ ㊦ 邊際一様和合指示 *Mvyut.*

antas-tāpa ㊦ 内部の熱. ㊦ 内に燃ゆる, 内に情熱を感じる.

antas-tuṣāra ㊦ 内部に露を含める.

antas-toya ㊦ 内部に水を含める, 水を藏する.

antah-samjña ㊦ 内に意識せる, 意識せるを示さる.

antah-sattva ㊦ 内部の性質, 内的存在. ㊦ 妊娠せる.

antah-sattvā ㊦ 妊娠中の婦人.

antah-sadas ㊦ 集合場の内部. ㊦ 集會場にて.

antah-salila ㊦ = antas-toya. ㊦ m ㊦ 水中に.

antahsalila-stha ㊦ 水中に立てる.

antah-sānu ㊦ 山の脊(脊)に.

antah-sāra ㊦ 内容, 價值; 内的財寶又は貯藏. ㊦ 力又は水を内部に有する; 内部の堅き, 心髓を有する.

antah-siman ㊦ ㊦ 界内 *Mvyut.*

antah-sukha ㊦ その幸福を内に有する, 内に悦びある.

antah-stha ㊦ (㊦, 一°)の内部にある.

antah-sparśa ㊦ 内部に觸覺を有する.

antah-smera ㊦ 心中にて嗤へる.

antānanta ㊦ ㊦ 邊無邊 *Lank.*

antānantavattva ㊦ ㊦ 邊無邊, 有邊無邊 *Madhy-v.*

antāvasāyin ㊦ [*Cāṇḍāla* 種族].

anti ㊦ 反對して; 前に; 近く. ㊦ (㊦, 一°)に近く.

antika ㊦ 近き; ㊦ 近. 所, 處 *Bodh-bh., Abh-vy.*

㊦ 近隣, 現前; ㊦ 一° 近. 邊, 所, 處 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.:* kula-putra ~ 善男子所 *Bodh-bh. 153.*

㊦ m ㊦ 近く, ……にまで.

㊦ āt ㊦ 近くより; 密接して; ……より; (㊦)に比して (*Divy.*); ㊦ 從. 從……所, 於, 於處. *Vajr-pr., Bodh-bh.*

㊦ ㊦ (㊦, 一°)に近く, ……に密接して, ……の前に; ㊦ 於 *Bodh-bh., Śikṣ.:* sattvānām ~ e 於衆生等 *Bodh-oh. 20., sva-bhāryāyā ~ e* 於己眷屬 *Śikṣ. 78.;* 前 *Saddh-p.:* tubhyam ~ e 今於世尊前 *Saddh-p. 212.;* 近 *Divy., Madhy-vibh.:* ~ e nirvāṇasya 近涅槃 *Divy. 38.;* 不久 *Lal-v.:* ~ e maraṇam tava 定取命盡當不久 *Lal-v. 261.*

antikatā ㊦ 近きこと.

antikatva ㊦ [同上]; ㊦ 近 *Abh-vy.*

anti-cara ㊦ (一°)の周圍を動く.

antitas ㊦ 近くより.

anti-deva ㊦ 諸神の前又は近くにある. ㊦ ㊦ [王の名]; ㊦ 安低牒(王) *Buddh-c.;* [人名] 安提 *Buddh-c.*

antima ㊦ 最後の, 最終の; ㊦ 最後 *Abh-vy.*

antima-deha ㊦ ㊦ 後身, 最後身 *Saddh-p., Gand-vy.*

antimadeha-dhārin ㊦ ㊦ 住最後身 *Gand-vy.*

antima-mātr-grāma-bhāva ㊦ ㊦ 爲女身之終 *Mvyut.*

ante'vasāyin ㊦ ㊦ 町又は村はづれに住む(者), 卑しき階級に屬する(者).

ante-vāsa ㊦ 近隣, 朋友.

ante-vāsika ㊦ ㊦ 弟子 *Lank.*

ante-vāsitva ㊦ 弟子たること, 弟子の資格.

ante-vāsin ㊦ 境界の近くに住める, 接近して住める. ㊦ 近くに住すること, 弟子(師の近方又は其家に住する); ㊦ 弟子, 近住弟子; 徒, 侍者 *Aṣṭ-pr., Vin., Mvyut.*

antodātta ('ta-ud°) ㊦ 最後の音節にアクセントを有する.

antodāttatva ('ta-ud°) ㊦ [同上 ㊦].

antya ㊦ 最後の [時・處又は順序の]; 最低の; 直後の [例] *aṣṭama* ~ 第九; ㊦ 邊, 後, 後邊 *Buddh-c., Abh-k., Abh-vy.* ㊦ 最低階級(種姓)の人.

antya-karman ㊦ 最後の行爲, 葬式, 火葬.

antya-kriyā ㊦ 葬式.

antya-ja ㊦ 最低階級(種姓)に生れたる. ㊦ *Sūdra;* [人名].

antya-janman ㊦ [同上].

antya-jāti ㊦ [同上].

antya-jātitā ㊦ [同上 ㊦].

antya-jātiya ㊦ = antya-ja.

antya-yoni ㊦ 最低の家柄なる.

antya-viśeṣa ㊦ ㊦ 邊異 *Vaiś-s.*

antya ㊦ 最低階級(種姓)の女.

antyardha ㊦ 後部.

antya'vasāyin ㊦ = ante'vasāyin.

antra ㊦ 腸; ㊦ 腸, 腸肚 *Bodh-c., Śikṣ., Divy. Mvyut.*

antra-guṇa ㊦ 直腸; ㊦ 肛 *Mvyut.*

antra-vivara ㊦ ㊦ 腸内 *Śikṣ.*

antra-śilā ㊦ [河の名].

antrāpida-prakarṣin ('ra-āp°) ㊦ 劇しき腹痛に苦める.

andu, andū ㊦ 鎖; (特に)足鎖, 踝飾.

andolana ㊦ 動搖.

andolaya ㊦ ㊦ 揺れる.

andolita ㊦ [andolaya].

andha ㊦ 盲目の, 朦朧たる; 眞闇の; (一°)によりて盲目となれる或は朦朧となれる; ㊦ 盲, 所盲, 盲闇, 闇盲, 盲冥, 無目, 盲無目, 盲兩目; 盲者, 盲人; 暗冥, 黑暗, 黑闇, 闇冥 *Daś bh., Lank., Aṣṭ-pr., Supr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Mañj-m., Lal-v., Av-ś., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.* → *trṣṇā* ~. ㊦ 濁水, 水.

andhaka ㊦ 盲目の. ㊦ [或は Asura の名]; ㊦ 盲者 *Bodh-bh.;* ㊦ [種族の名] 難陀 *Buddh-c.*

andhaka-ghātin ㊦ [*Śiva* 神の稱].

andhaka-ripū ㊦ [同上].

andhakāntaka ㊦ [同上].

andha-kāra 形 暗き。男 甲 暗黒；**陰闇** 冥，闇，暗，闇冥，黑暗，冥暗，黒闇，昏蔽，暗處，闇(室)，昏盲闇；無明；愚癡 *Vajr-pr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Kāśy., Suv-pr., Bodh-c., Sūtr., Sam-r., Madhy-v., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵雜., 梵千.*

andhakāra-tamisra 形 **陰闇** 闇，幽冥 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*

andhakāra-tamisrā 女 **陰闇** 陰闇，黒闇 *Bodh-bh.*

andha-kāratā 女 暗黒。

andha-kāramaya 形 暗き。

andha-kārita 形 暗くせられたる，暗黒に蔽はれたる。

andha-kāri-bhūta 形 **陰闇** 隱没 *Mañj-m.*

andha-kāla 男 [地獄の名] (*Kār-vy.*)

andha-kūpa 男 隠れたる井，陷穽。

andha-tamas 甲 [同下]。

andha-tamasa 甲 濃闇。

andhatā 女 盲目なること。

andha-tāmisra 男 暗黒；盲目；精神の盲暗；[地獄の名]；**陰闇** *Sāṃkhy-k.* 甲 死後を認めざる教義。

andhatva 甲 盲目なること。

andha-bhūta 形 **陰闇** 盲冥 *Lal-v.*

andha-manuja 男 **陰闇** 無目人 *Śikṣ.*

andhaya 名動他 盲目となす。

andhala 形 **陰闇** 瞽者 *Mvyut.*

andha-locana 形 **陰闇** 生盲，蔽其眼，障(慧)眼 *Gaṇḍ-vy.*

andha-vaṃcana 甲 [°vacana(!)]；**陰闇** 謬言 *Abh-vy. 699.*

andhavat 副 恰も盲目なるが如くに。

andha-vyūha 形 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*)

andhas 1. 甲 暗黒。

andhas 2. 甲 藥草；Soma 草又はその汁液；草深き土地；食物

andhi-karaṇa 甲 盲目となすこと。

andhi-kṛ, 盲目となす。

andhi-kṛta 形 盲いられたる；**陰闇** 盲冥 *Saddh-p.*

andhi-BHū, 盲目となる。

andhi-bhūta 形 盲いられたる；**陰闇** 眼盲 *Divy.*

andhu 男 井。

andhra 男 [民族の名]；[或る混淆種姓の名]。

anna (過受分) 食はれたる；**陰闇** 所食 *Bodh-bh.* 甲 食物(特に)米；米穀；**陰闇** 食，飲食；喫物，喫食 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

anna-kāma 形 食物を欲する。

anna-da 形 食を與ふる；**陰闇** 施飲食 *Bodh-bh.*

anna-dātr 男 食物の施與者。

anna-dāna 甲 食の施物。

anna-doṣa 男 食事に於ける違犯 禁忌の食物を摂ること。

anna-pakti 女 食物の調理。

anna-pati 男 食の主 (*Savitṛ* 神, *Agni* 神, 又は *Śiva* 神)。

anna-pāna 男 食物と飲料；**陰闇** 飲食，所飲食；飲膳，肴饌飲食 *Gaṇḍ-vy., Laṅk., Rāṣṭr., Śikṣ.,*

Bodh-bh.

anna-pānauṣadhi (°na-auṣ°) 甲 **陰闇** 飲食湯藥 *Suv-pr.*

anna-prada 形 食を與ふる。

anna-prāśana 甲 (嬰兒に初て)飯を與ふる(儀式)。

anna-bhaṭṭa 男 [或る著作者の名]。

annamaya 形 食物より成れる。

anna-mala 甲 米の分泌液(酒)；排泄物。

annaṃ-bhaṭṭa 男 =anna-bhaṭṭa.

anna-yoni, アラック酒。

anna-rasa 男 食物の精髄；肉と飲料，榮養物。甲 單，男 複 食物と飲料，料理の味。

anna-rasamaya 形 食物と飲料とより成る。

annavat 形 食物ある，食物に富める。

anna-vikāra 男 食物の變化，不消化に基く胃の不調。

anna-vikāratva 甲 [同上 甲]。

anna-vikṛti 女 食料の調製，食物の奉獻。

anna-samskāra 男 [同上]。

annāda 形 (女 -ā, -i) 食物を摂る。

annādin 形 [同上]。

annādya 甲 食物(一般に)，滋養；**陰闇** 穀食 *Divy.*

annādya-kāma 形 滋養を欲する。

annāyu (°na-āyu) 形 食を欲する，食物にて生活する。

annārtha 形 食を欲する，飢えたる。

annārthin 形 食物を求むる；**陰闇** 須食 *Gaṇḍ-vy.*

annā-vṛdh 形 食によりて元氣づきたる。

annāsava (°na-ās°) 男 **陰闇** 醴食成酒 *Abh-vy.*

anya 形 (甲 -d) 他の；(陰，一°)とは異なる；某；通常の；**陰闇** 他，別，更，異，有，離，餘，所餘 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* 等： ～；sminn ahani 或る日。 → an～。

～……～，一方には……又た他方には。

～c ca, 又た其の他，加之；**陰闇** 還有，別此 *Mvyut.*

～m ～m 副 相次で，相互に，交互に (*Mah-v. II. 436.*)

anya-kartṛka 形 (女 去) 他の作者を有する。

anya-kāma 形 他(の男)を愛する。

anya-kāra 形 他の用務に専心せる。

anya-kṛta 形 他によりてなされたる；**陰闇** 異作 *Bodh-bh.*

anya-kriya 形 =anya-kāra.

anya-kṣetra 甲 外國，他の地方。

anya-ga 形 =anya-gāmin.

anya-gata 形 他に關する。

anya-gati-saṃdhi 男 **陰闇** 餘趣相續，餘趣中相續 *Laṅk.*

anya-gāmin 形 他に行く；姦通する。

a-nyaṅga-śveta 形 純白の。

anya-citta 形 他を考ふる。

anya-cintā 女 他(人)に就ての考。

anya-cetas 形 他(人)のことを考ふる；心亂れたる。

anya-ja 形 他によりて生れたる，異なる家柄。

anya-janman 甲 未來世；再生；**陰闇** 餘生 *Laṅk.*

anya-jāta 形 他によりて生れたる。男 私生兒。

anya-jātiya 形 漢譯 異類, 別種 *Mvyut.*: ~: dṛṣṭāntopasamhāra-lakṣaṇa (甲) 異類譬喩所引相 *Mvyut.*

anyatama 形 漢譯 若干の中の一; (異, 一°)の中のものか一つ; 漢譯 一, 隨一, 彼彼, 衆 *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*

anyatama-vaikalyāt 形 漢譯 隨有所闕 *Bodh-bh.* 34.

anyatamānyatama 形 漢譯 隨一 *Bodh-bh.*

anyatara 形 漢譯 二者中の一; (異)の中のものか一つ; 或る [=eka]; 漢譯 一, 一分, 隨一, 隨一種; 半 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Nyāy-pr.*: dvayor bhūmayor ~ā bhumiḥ 於二地隨一, 二地中隨一處 *Aṣṭ-pr.* 584.

~...~, 一は...他は...

anyatara-karma-ja 形 漢譯 隨一業生 *Vaiś-s.*

anyataratra 副 兩者の何れかに.

anyatara-vaikalyāt 形 漢譯 隨闕一種 *Bodh-bh.* 35.

anyatarasyām 形 漢譯 兩様に, 隨意に(文法).

anyatarānyatara 形 漢譯 隨一一, 隨有一, 種種, 諸異, 別異 *Vajr-pr.*, *Aṣṭ-pr.*

anyatarānyataratas 形 漢譯 隨一 *Vajr-pr.*

anyatarāsiddha 形 漢譯 隨一不成 *Nyāy-pr.* 3.

anyatas 副 [anyaの(從)又は(於)] 他より, 他の動機より, 他處に於て; 他處へ; 漢譯 餘, 餘處 *Bodh-bh.*, *Mādhy-v.*

~...~, 一方に於て...又た他方に於て.

anyatastya 形 敵, 對抗者.

anyatastya-jāyin 形 敵を撃退する, 對抗者を克服する.

anyatā 形 差異.

anya-tirthika 形 他宗派に屬する, 異端の (*Jāt-m.*).

anya-tirthya 形 漢譯 外道 *Abh-vy.*

anyatra 副 [anyaの(於)] 他處に於て, 他處へ; 他方に於ては, 然らざれば; (從)より他處に於て, ...より別に, ...を除きて; (一°)より他の時に; 漢譯 餘, 異, 別異; 別處, 異處, 餘處, 於餘處, 餘方, 於外, 之外, 之別 *Aṣṭ-pr.*, *Cat-s.*, *Bodh-c.*, *Mādhy-v.*, *Nyāy-pr.*, *Abh-vy.*, *Vijñ-v.*, *Mvyut.*; 離, 除, 除別, 唯除 *Sukh-vy. I.*, *Prāt-m.*, *Aṣṭ-pr.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*: ~ rūpāt sa dharmāḥ 離色有法 *Aṣṭ-pr.* 653.; ~ āpadaḥ 除(有)難(緣) *Mvyut.*

~ punar ~ 漢譯 或...或 *Sūtr.*: yathā 'gnir jvalate ~ punar ~ sāmyati 譬如火聚性或然或滅盡 *Sūtr.* 37.

na ~ 漢譯 非不由 *Bodh-bh.*; 唯有 *Lal-v.*: na ~ abhyasta-prayogo bhavati paricita-prayogaḥ 非不亦由串習加行積習加行 *Bodh-bh.* 205., na ~ tat-kṣaṇa evāśya 隨生隨捨 *Bodh-bh.* 7., na ... ~ carama-bhavikād bodhisattvāt 唯有究竟一生補處菩薩 *Lal-v.* 250.

anyatra-manas 形 意其處に在らざる, 放心せる.

anyatva 形 差異; 漢譯 異, 異體, 異相, 異性; 別 *Sūtr.*, *Lank.*, *Mādhy-v.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mādhy-*

vibh.

anyathā 副 他の方法を以て; 異りて, 惡しく; 漢譯 異, 相違, 異相, 變異, 差異, 別, 餘, 不同; 非; 不實, 虛妄; 若不爾, 若不爾者; 由異相 *Saddh-p.*, *Buddh-c.*, *Bodh-c.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*: ~ hi 若不爾, 若異此者, 若不如此, 若謂不然 *Abh-vy.*

anyathā-Kṛ, 他の方法によりて行ふ; 惡しく行ふ; 他の方法を以て取扱ふ, 變化す; (法を)犯す; (希望を)破壊す; 無効にす.

anyathā-citta 形 漢譯 心變動, 心異轉 *Aṣṭ-pr.*

anyathātva 形 差異; 反對の状態; 漢譯 異, 各異, 異性, 變異; 別, 不同, 不和合; 轉變 *Aṣṭ-pr.*, *Samr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: aparesām bhaviṣyaty ~ m 恐諸(門)人生於異念 *Divy.* 49.

anyathāvatā 形 漢譯 異, 轉變 *Lank.* 209.

anyathā-darśana 形 誤れる調査(法律).

anyathā-prathā 形 變ずること, 變異すること.

anyathā-buddhi 形 偏見.

anyathā-bhāgiya 形 漢譯 別分 *Mvyut.*

anyathā-bhāva 形 變化; 差異; 漢譯 異, 變異, 異相, 異性, 異異相, 餘性, 餘性分; 壞 *Lank.*, *Mādhy-v.*, *Bodh-bh.*

anyathābhīdhāna (°thā-abh°) 形 虛偽の證據, 虛偽の陳述.

anyathā-bhūta-darśana 形 漢譯 異性現, 見異相 *Lank.*

anyathā-vāc 形 漢譯 異語 *Bodh-bh.*

anyathā-vāditva 形 [同下 抽].

anyathā-vādin 形 偽證を與ふる, 虚偽の訴訟を爲す; 言の一致せざる. 男 遁辭を使ふ人.

anyathā-vikārāpādanatā (°ra-āp°) 形 漢譯 令成餘物 *Bodh-dh.*

anyathā-vṛtti 形 變じたる, 氣持の變りたる, 心の亂されたる.

anyathā-vṛtti-cetas 形 その意趣の他に集中せる.

anyathā-sambhāvanā 形 愆れる想像; 不信用.

anyathā-sambhāvin 形 不信用なる.

anyathā-siddha 形 偽證せられたる.

anyathā-siddhi 形 偽證, 虚證.

anyathā-stotra 形 反語を用ひたる讚頌.

anyathā-bhāva 形 變化, 相違; 漢譯 變異 *Abh-vy.*

anyathābhāva-karaṇa 形 漢譯 轉變 *Bodh-bh.*

anyad 形 → anya. 漢譯 餘, 異 *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*

anya-dā 形 他の時に; 或る日, 或る時; 漢譯 餘時; 有時 *Abh-vy.*

anya-diya 形 他に屬する.

anya-nimitta 形 他の原因を有する.

anya-neya 形 漢譯 他所引 *Bodh-bh.*

anya-naikāyika 形 漢譯 他部 *Abh-vy.*

anya-para 形 他に關する, 他のための.

anya-puṣṭa 形 (因 -ā) (他鳥に養育せらるゝもの), (印度の)杜鵑.

anya-pūrvā 形 曾て他の男と婚約・結婚又は性的交際を行へる婦人.

anya-bija-ja 形 他の種子より生じたる。
 anya-bhṛta 男 = anyapusta.
 anya-bhṛtā (過受分) 女 [同上].
 anya-manas 形 他を考へ又は意味する。
 anyam-anya 形 相 Rāstr.: ~ vadhitā 相害 Rāstr. 38.
 anya-mātṛka 形 異母の。
 anya-mātṛ-ja 男 他の母の子, 異母の子。
 anya-mānasa 形 = anya-manas.
 anya-yukta 形 或る他のものを伴へる, 他と結合せる。
 anya-rājan 形 他の者を王となせる, 他に從屬せる。
 anya-rūpa 中 他の形。形 異りたる, 異りたる形の, 形の變じたる。
 anya-rūpin 形 [同上].
 anya-lokya 形 他の世界に行くべき。
 anya-varṇatā 女 他の色を有すること。
 anya-vādin 形 = anyathā-vādin.
 anya-viśaya 形 他の目的を有する; 他に關する。
 anya-vrata 形 他に奉仕する; 背徳不實の, 不信心なる。
 anya-śaṅkita 形 不信用なる。
 anya-śaṅketa 形 他の約束を有する; 他と交はる。
 anya-stri-ga 形 他の婦女と姦通する。
 anyākāra (°ya-āk°) 形 別相 Mvyut.
 anyāṅka-supta 形 他人の腕に眠りたる。
 anyā-dṛkṣa 形 = anyādṛśa.
 anyā-dṛś 形 (體 -k 又は -ñ) [同下].
 anyā-dṛśa 形 (女 -i) 異種の; 奇異の; 正常ならざる; 他に似たる, 通常の。
 anyānanya 形 異不異 Lank.
 anyānanyatva 中 異不異, 非一非異 Lank.
 anyānya 形 別別, 各各, 種種 Vijñ-v.
 anyāpoha 男 除別, 離餘 Mvyut.
 a-nyāya 男 不體裁なる振舞, 非法の行爲; 非法, 非理 Divy., Bodh-bh.
 anyāya-cārin 形 非理而行 Bodh-bh.
 anyāya-mati 形 不當なる考を有する。
 anyāya-vartin 形 不謹慎に振舞ふ。
 anyāya-vṛtta 形 [同上].
 anyāya-vṛtti 形 [同上].
 a-nyāyin 形 惡しき行爲をなす。
 a-nyāyya 形 非法の。
 anyārtha 男 他人の事件。形 他の目的又は意義を有する, 曖昧なる。
 a-nyūna (過受分) あまり少からざる, 十分なる; 不減, 無退減, 不下隨 Sūtr., Bodh-bh.
 a-nyūnādhika 形 過不足なき。
 anyūnārtha-vādin 形 適切に表現する。
 anye-dyus 副 翌日; 或る日。
 anyodarya (°ya-ud°) 形 他の胎より生れたる。男 異母兄弟。
 anyonya (anyo'nya) 男 女 [體 呼 以外の格にのみ用ひらる] 互に; °—— 相互の, 相互に, 更互に; 互, 迭, 迭互, 遞互, 更互, 迭相, 相互, 互相, 互爲; 相, 共相, 遞相; 各, 各各; 異; 展轉, 展轉更相,

展轉相望 Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk., Śikṣ., Vijñ-v., Abh-vy., Bodh-bh.
 ~m 副 互, 相互, 更互, 迭互, 各各互; 彼此; 相, 更相; 展轉 Suv-pr., Lal-v., Abh-vy., Vijñ-v., Madhy-vibh.: ~ anukūlena 彼此相順從, 和合相愛念 Suv-pr. 14.
 ~ena 因 更互 Abh-vy.
 anyonya-kalaha 形 共に諍へる。
 anyonya-kṛtya 中 相互の奉仕。
 anyonya-gata 形 相互の。
 anyonya-ghātin 形 相殘害 Rāstr.
 anyonya-janaka 形 展轉相生, 展轉而相生 Laṅk.
 anyonya-dharmin 形 一が他の性質を有する。
 anyonya-pratyaya 形 各各有縁 Śikṣ.
 anyonya-pratyayatā 女 展轉相縁, 互爲縁起, 遞共相縛因縁 Laṅk.
 anyonya-pravṛtta 形 展轉相生 Laṅk.
 anyonya-preman 中 互に愛すること, 相愛。
 anyonya-bijaka 形 互爲種子, 更互爲種子 Abh-vy.
 anyonya-bhakṣaṇa 形 相食, 展轉更相食, 更互相食噉 Divy., Laṅk.
 anyonya-bhajana 中 更相交渉, 更互相應 Abh-vy.
 anyonya-bhāva 男 狀態又は條件の相互的交替。
 anyonya-vaśa 男 展轉力 Vijñ-t.
 anyonya-viśeṣa-darśana 中 現見各各不異 Laṅk.
 anyonya-samavasaraṇa 中 相入, 相攝, 互相涉入 Gaṇḍ-vy.
 anyonya-hetuka 形 互相因, 各各有因, 迭互爲因, 遞共爲因, 相互爲因; 展轉因 Śikṣ., Laṅk., Abh-vy.
 anyonya-hetu-phalatā 女 互爲因果, 爲更互因果 Abh-vy.
 anyonyānāvaraṇa 形 不相障礙 Gaṇḍ-vy.
 anyonyāpekṣa-kāraṇa 中 共相待法, 展轉相因起 Laṅk.
 anyonyābhāva 男 相互的非存在。
 anyonyābhinna-lakṣaṇa 中 迭共無差別, 展轉無別相 Laṅk.
 anyonyābhinna-saṃbandha 形 展轉互相依, 一一別和合 Laṅk.
 anyonyābhibhava 男 更互伏 Sāṃkhy-k.
 anyonyopamā (°ya-up°) 女 相互の譬喩。
 anyopatāpin (°ya-up°) 形 他を苦むる。
 anvak 副 背後に; (業)の後に。
 anv-akṣam 副 直後に。
 anv-ajiravati 副 Ajiravatī 河に沿ひて。
 anv-Añc, → Ac.
 anvañc 形 (業)の後に從ふ。
 anv-Añj, → Añj.
 anv-aya 男 子孫; 種族, 家族; 連結; 牽引; 類, 種類; 合, 配合; 次第; 比; 相似; 隨行, 相續(流) Sūtr., Nyāy-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 爲因縁

Bodh-bh. 367. ~āt (從) 漸次 Bodh-bh.

anvaya-jñā (男) 系譜學者, 系圖家.

anvaya-jñāna (中) 比智, 類智, 知隨察 *Daś-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

anvayajñāna-kṣānti (女) 類智忍 *Mvyut.*

anv-ayavat (形) 接觸又は關係ある; 追従する, 同意する; 家柄よき. (副) 關係者(又は所有者)の面前にて; 結合して.

anvaya-vyatirekin (形) 或るものと合一し更に背反する.

anvayāgata (°ya-āg°) (形) 承繼せられたる, 相續せる.

anv-ayin (形) 同族に屬する, 同族と結合せる; ……より出でたる.

anv-ārtha (形) 適切なる; 明かなる; 意味又は眞義と一致する; (隨義, 順義, 與義相應, 與義相稱) *Abh-vy.*, *Mvyut.*

anvartha-darsin (形) 善見義利, 善說諸義 *Daś-bh.*

anvartha-samjñā (形) その名稱が意味又は本質と合致せる.

anvartha-samjñā (女) [同上(形)].

anvarthābhidha (形) 適切に名づけられたる.

anv-ardha-māsa (男) 半月 *Prāt-m.*

anv-ava-Kṛ, → Kṛ.

anv-ava-Mṛś, → Mṛś.

anv-ava-Sṛj, → Sṛj.

anv-ava-Sṛp, → Sṛp.

anv-ava-Hṛ, → Hṛ 1.

anv-avāya (男) 種族, 家系; 血統, 後裔.

anv-avekṣ (°va-Īkṣ), → Īkṣ.

anv-avekṣaṇa (中) 観ること, 觀察.

anv-avekṣā (女) 顧慮, 考察.

anv-avekṣin (形) 用心深き, 見廻はす.

anv-aṣṭakā (女) *Aṣṭakā* 祭の翌日.

anv-As, → As 1.

anv-Ah anvāha(三過). → Ah.

anv-aham (副) 毎日.

anv-ā-Kṛṣ anvākṛṣyate(受). → Kṛṣ.

anv-ākhyāna (中) 本文に適合する解釋, 正確なる陳述; (隨演說, 本文注釋) *Mvyut.*

anv-āgata (過受分) → Gam.

anv-ā-Gam, → Gam.

anv-ā-Cam, → Cam.

anv-ā-DHā, → DHā.

anv-ādhi (男) 第三者に託する爲に渡されたる物.

anv-ādheya (中) (結婚の)後に(夫より妻に)贈られたる財産.

anv-ādheyaka (中) [同上].

anv-Āp, → Āp.

anv-āpta (過受分) → Āp.

anv-ābhakta (過受分) → BHaj.

anv-ā-BHaj, → BHaj.

anv-ā-BHū, → BHū.

anv-ā-Yat, → Yat.

anv-āyatta (過受分) → Yat.

anv-ārabdha (過受分) → Rabh.

anv-ā-Rabh, → Rabh.

anv-ā-Ruh, → Ruh 2.

anv-ārūḍha (過受分) → Ruh 2.

anv-ārohaṇa (中) (夫の)次に(葬堆に)上ること.

anv-ā-Labh, → Labh.

anv-ālabhāna (中) 把手, 柄.

anv-ā-Loc, → Loc.

anv-āvartita (過受分) 披轉 *Bodh-bh.*

anv-ā-Vṛt anvāvartayati(使役) → Vṛt.

anv-Ās, → Ās.

anv-āsana (中) (他人の)後に坐すること; ……に侍すること, 奉仕; 後悔; 苦惱; 工場.

anv-āhārya (中) (祖靈の爲の新月)葬祭.

anvāhārya-pacana (中) 南方の祭火 [三祭火の一].

anv-ā-Hiṇḍ anvāhiṇḍati(-te), anvāhiṇḍayati(使役). → Hiṇḍ.

anv-āhiṇḍya (未受分) 圍繞 普遍已 *Mvyut.*

anv-āhita (過受分) → DHā.

anv-I anveti. → I.

anv-icchā (女) 探し求むること.

anv-ita (過受分) (一°)に伴はれたる, ……を所有する.

→ I. (成, 成就; 具, 具足; 蒙; 懷; 相應; 隨逐 *Lal-v.*, *Daś-bh.*, *Vijñ-t.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*

anv-Iṣ anvicchati (2). → Iṣ 1, 2.

anv-Īkṣ anvīkṣati. → Īkṣ.

anv-ikṣaka (形) 配慮せる; 憂慮せる.

anv-ikṣaṇa (中) 考察, 探求.

anv-ikṣā (女) 觀察; 考究.

anv-ikṣitr (形) 調査する, 探究する; (觀察) *Mvyut.*: manasā ~ā 以意觀察 *Mvyut.*

anv-Rdh anvṛdhati. → Rdh.

anv-e (anu-ā-I) anvaiti. → I.

anv-eṣa (男) 搜索, 探求, 考究.

anv-eṣaka (形) 搜索する.

anv-eṣaṇa (中) = anveṣa; (尋求) *Sikṣ.*

anv-eṣaṇā (女) = anveṣa; (隨尋) *Mvyut.*

anv-eṣaṇiya (未受分) 搜索せらるべき; 疑はしき, 疑問とせらるべき.

anv-eṣin (形) 求むる; 研究する; (伺, 欲求, 欲得; 希望) *Sikṣ.*, *Divy.*

anv-eṣṭavya (未受分) 求めらるべき, 見出さるべき; (應)勤求 *Gaṇḍ-vy.*

anv-eṣṭr (男) 搜索者.

anv-eṣya (未受分) 求めらるべき, 見出さるべき; 疑はしき.

anvodahana (中) (俗) [*<anvavadhāna, anu+(Pāli) odahana*]; (隨解) *Mvyut.*

Ap, 活動す, 働く.

ap 1. (中) 仕事.

ap 2. (女) 覆 [吠に於ては又た(覆)] 水; [adbhiḥ (具) 覆, adbhyah (爲) 從 覆] (覆) 水 *Divy.*, *Lal-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Vaiś-s.*

apa (副) °— 去りて, 彼方に. (前) (從)より離れて, ……を除きて; (缺減, 不正) *Mvyut.*

a-paṃsamānatā ㊦ 不輕毀 *Lal-v.*
apa-karaṇa ㊦ 除去.
apa-karuṇa ㊦ 無慈悲なる.
apa-kartana ㊦ 片々に切斷すること.
apa-kartṛ ㊦ 傷害者, 侮辱者. ㊦ 傷害する, 侮辱する.
apa-karman ㊦ 交付, (負債の)返済; 悪行, 不純の行爲.
apa-karṣa ㊦ 撤去; 減少; 退化; 低位置; 廢除; 先行(支)㊦; ㊦ 除; 離; 損; 奪; 減; 削; 下, 減, 下減; 毀訾 *Sam-r., Sūtr., Prāt-m., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; —° 能除去 *Bodh-bh.*
apa-karṣaka ㊦ 減少する, 引き去る.
apa-karṣaṇa ㊦ [同上]. ㊦ 曳き行くこと, 遠ざかること; 撤去; 貶黜; 無効ならしむること; 低下; ㊦ 除, 除去, 除遣, 能調除; 捨; 離; 減; 不求; 息遣 *Lal-v., Śikṣ., Madhy-v., Bodh-bh., Mvyut.*
apakarṣa-vāda ㊦ 毀訾語 *Prāt-m.*
apakarṣāpahāra ㊦ 削奪 *Bodh-bh.*
apa-karṣin ㊦ 引き去る; ㊦ 滅除 *Lal-v.*
apa-kalaṅka ㊦ 汚れなき.
apa-kalmaṣa ㊦ 罪なき.
apa-kāra ㊦ 加害, 侮辱; 損害; 拒絶; ㊦ 損; 作害, 冤害, 怨害, 惱害事; 怨; 過; 惡, 加惡; 不饒益, 不饒益事, 非慈饒益; 違逆事 *Śikṣ., Sapt-pr., Divy., Sūtr., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh.*; —° āya pratipadyate 不返報 *Bodh-bh. 8.*; —° m Kṛ 損 *Aṣṭ-pr. 410.*
apakāra-karaṇa ㊦ 不饒益 *Bodh-bh.*
apa-kāratā ㊦ 加害, 損害.
apakāra-vairin ㊦ 懷怨結 *Gaṇḍ-vy.*
apa-kārin ㊦ 害を與ふる; 攻撃的なる; 有害なる; 惡行をなす; ㊦ 不益; 損者; 無恩; 有怨, 有怨害, 怨者, 有怨者; 不饒益, 不饒益者 *Sūtr., Bodh-bh.*
apa-kīrtiya ㊦ 未受分, 不名譽なる.
apa-kūjita ㊦ 過受分 ㊦ 出音 *Lal-v.*
apa-Kṛ, → Kṛ.
apa-kṛt ㊦ 害を與ふる.
apa-kṛta ㊦ 過受分 惡意を以て或は凌辱的に爲されたる. ㊦ = apakāra; ㊦ 興怨害 *Bodh-bh.*
apa-kṛti ㊦ = apakāra.
apa-kṛtya ㊦ = apakāra.
apa-Kṛṣ apakarṣati. → Kṛṣ.
apa-kṛṣṭa ㊦ 過受分 取り去られたる, 失はれたる; 低き, 劣れる, 卑しき; ㊦ 下; 減; 取; 離, 遠離 *Lal-v., Laṅk., Śikṣ., Mvyut.*
apa-koṭana ㊦ ㊦ 斷, 撥 *Mvyut.*
apa-Kram apakramati, apakrāmati. → Kram.
apa-krama ㊦ 退去. ㊦ 正規の順序に非ざる [詩の缺點として].
apa-kramaṇa ㊦ [同上(男)]; ㊦ 退 *Saddh-p.*
apa-kramitavya ㊦ 未受分 去るべき, 退去すべき; ㊦ 退, 退散 *Mvyut.*
apa-kramin ㊦ 遁れ去る, 退却する.
apa-kraṣṭavya ㊦ 未受分 [Kṛṣ]; ㊦ 應奪 *Bodh-bh.*
apa-krānta ㊦ 過受分 去れる, 過ぎたる; ㊦ 去, 已

去, 已過 *Aṣṭ-pr., Mvyut.* ㊦ 過ぎ去れるもの.
apa-krānti ㊦ = apa-krama(男).
apa-krāma ㊦ 退去; 遁走, 退却.
apa-kriyā ㊦ 交付, (負債の)償却; 害; 誤れる處置, 惡行.
apa-kruṣṭa ㊦ 過受分 非難せられたる, 不名譽なる.
apa-krośa ㊦ 誹謗, 非難.
a-pakva ㊦ 過受分 未だ焼かれざる; 消化せざる; 熟せざる.
a-pakvatā ㊦ 未熟, 未完.
a-pakṣa ㊦ ㊦ 翼なき, 反對の, 味方なき. ㊦ ㊦ 怨讎 *Lal-v. 302.*
apakṣa-karaṇa ㊦ ㊦ 斷 *Lal-v.*
apakṣa-patita ㊦ 偏頗なき; ㊦ 無相黨 不黨朋黨 *Śikṣ., Bodh-bh.*
a-pakṣa-pātin ㊦ ㊦ 翼にて飛ばざる; *Viṣṇu* 神に味方せる.
apa-kṣaya ㊦ 減少, 衰微.
a-pakṣa-lopa ㊦ ㊦ 翼を失はざること.
a-pakṣa-sāda ㊦ [同上].
apa-kṣāla ㊦ [apacāra の ㊦ (?); ㊦ 過, 過失; 災, 災患; 過患, 惱患; 遠離 *Śikṣ. 145., Abh-k. Ⅲ. 101., Abh-vy. 334., Bodh-bh. 351., Mvyut.*
a-pakṣi-gaṇa-sampāta ㊦ ㊦ 鳥の群なき.
apa-ga ㊦ (從)より遠ざかる; ㊦ ㊦ 男 河 [Tib. chu-bo] *Prajñ-vy. 903.*
apa-gata ㊦ 過受分 → Gam. ㊦ 離, 遠離, 捨離; 拔; 斷; 息; 泯; 消; 過, 超; 除, 已除, 除去, 掃除, 斷除; 無, 無有, 絶無; 棄捐 *Aṣṭ-pr., Divy., Laṅk., Śikṣ., Daś-bh., Lal-v., Bodh-bh.* → tarka—.
apagata-kālaka ㊦ ㊦ 汚點なき; ㊦ 無瑕, 新淨 *Divy.*
apagata-tejaska ㊦ ㊦ 光なき.
apagata-pāpa ㊦ ㊦ 罪なき; ㊦ 無(諸)惡(道) *Saddh-p.*
apagata-prakāśa ㊦ ㊦ 光なき.
apagata-phalgu ㊦ ㊦ 無不要, 無(復)枝葉, 非實者成無 *Saddh-p., Mvyut.*; apagata-śākhā-pattra-palāśa-prapāṭikā-tvak-phalgu (㊦) ㊦ 枝葉花葩芽皮膚 離著枝葉藤華皮等衣 *Mvyut.*
apagata-lina-citta ㊦ ㊦ 離下劣心, 心無退縮 *Mvyut.*
apagata-sarva-lābha-satkāra-citta ㊦ ㊦ 遠離一切利養恭敬, 遠離心恭敬, 心離于恭敬 *Mvyut.*
apa-gati ㊦ 不運.
apa-Gam apagacchati. → Gam.
apa-gama ㊦ 退去, 消滅; 離別, 死; 經過; ㊦ 去, 離, 遠離, 悉離; 滅離, 永滅離, 除滅, 滅除, 能滅, 壞滅; 壞; 捨; 斷 *Sūtr., Laṅk., Daś-bh., Śikṣ., Madhy-vibh., Bodh-bh., Abh-vy.*
apa-gamana ㊦ [同上].
apa-garjita ㊦ ㊦ 雷なき.
apa-Gā, → Gā.
apa-guṇa ㊦ ㊦ 德なき.
apa-Gur, → Gur.
apa-Guh, → Guh.
apa-grasta ㊦ 過受分 ㊦ 纏綿 *Śikṣ.*

apa-Grah, → Grah.

apa-GHaṭ apaghāṭayati(過受分). → GHaṭ.

apa-ghana 1. 形 身體, 肢體(手足の如き).

apa-ghana 2. 形 雲なき.

apa-ghāta 形 防護, 驅逐.

apa-ghātaka 形 防ぐ, 驅逐する.

apa-ghṛṇa 形 無情の, 残酷なる.

a-paṅka 形 泥なき, 乾ける.

a-paṅkatā 女 [同上].

a-pacamāna 過受分 炊かざる; 一家をなさざる.

apa-caya 形 減小, 縮小; 損, 減, 損減; 不集; 微劣 *Buddh-c., Ast-pr., Sapt-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

apa-Car, → Car.

apa-carita 過受分 去れる, 死したる. 中 過失, 犯罪.

apa-Cāy, → Cāy.

-apa-cāyaka 形 尊崇する, 尊敬する (*Divy., Mah-v.*); 敬, 識可尊敬者 *Divy., Bodh-bh.*; *kula-jyestha* ~ 識宗族尊長, 識家長可尊敬者 *Bodh-bh. 259.*

apa-cāyanā 女 祝, 禱祝; 恭敬 *Mvyut., Saddh-p.*; ~ *arthāya*(過) 欲恭敬 *Saddh-p.*

apa-cāyita 過受分 尊敬せられたる; 恭敬 *Sikṣ.*

apa-cāyitva 中 敬意を表せざること.

apa-cāyin 形 輕んずる, 侮れる, 敬意を拂はざる; 加害する; 減少する.

apa-cāra 形 缺乏; 死; 犯罪; 失敗; 過 *Buddh-c.*

apa-cārin 形 ……より外れたる; 過まれる; 悪き; 不貞なる(妻).

apa-Ci, → Ci 1.

apa-cita 過受分 → Ci 1. 恭敬供養; 侍衛, 隨逐侍衛 *Gaṇḍ-vy.*

apa-citi 女 尊敬; 報償.

apa-cetas 形 (過)に反感を懐ける; 經驗なき.

apa-cchattra 形 傘を闕ける.

apa-cchāya 形 陰なき.

apa-cCHid, → CHid.

apa-cchid 女 切斷.

apa-ccheda 男 切り去ること, 分離, 分割.

apa-cchedana 中 [同上].

apa-jaya 男 勝利, 克服; 敗北.

apa-jāta 過受分 墮落せる. → Jan.

apa-jighāmsu 希求 形 (業)を防護せんと欲する.

apa-jihirṣā 女 強奪欲.

apa-jihirṣu 希求 形 強奪を企圖する.

apa-jya 形 弦を缺ける.

apa-jvara 形 熱なき.

a-paṅci-kṛta (過受分) 中 未だ複合せざる状態の五(元素); 未だ融合せざる大種.

a-paṅci-bhūta (過受分) 中 覆 [同上].

apaṭi 女 [=pati] 帳幕, 布壁.

apaṭi-kṣepa 男 帳幕を激しく排すること.

~eṇa pra-Viś 性急に(舞臺に)登場す.

a-paṭu 形 焦さざる(光線); 無用の; 賢からざる, 無能の, 臆病なる; 訥辯なる; 病める, 死せる.

a-paṭutva 中 無能, 臆病.

a-paṭu-pracāra 男 行不明 *Mvyut.*

a-paṇḍita 形 學なき, 文字を知らざる; 愚かなる.

a-paṇḍitatā 女 愚.

a-paṇya (未受分) 賣らるまじき. 中 賣るべからざる器物.

-a-patana 形 不墮 *Lank.*

apa-tāna 男 拘束するもの (*Divy.*).

a-pati 形 未婚の; 寡婦となれる. 中 夫又は主人ならざる者. 女 夫又は主人を有せざる者(未婚者及び寡婦).

a-patikā 女 [同上].

a-patita 過受分 落ちざる, 沈まざる; 種族外に擯斥せられざる; 失權せざる; 餘り遅刻せざる; 失はざる.

a-patitvatva 中 不墮 *Lank.*

a-patitā 女 夫なきこと.

apatitānyonya-tyāgin 形 種姓(階級)を失ふことなく互に見棄つる.

a-paṭi-vratā 女 不貞の妻. 形 不貞の.

apa-tuṣāra 形 霧を離れたる.

apa-tuṣāratā 女 [同上].

a-pattana 形 [=a-paṭṭana]; 市上無人, 市無人物 *Divy.*

a-patnika 形 妻なき.

apatya 中 子孫, 後裔, 兒; 子, 諸子 *Lank.*

apatya-kṛtikā 女 養女.

apatya-duḥkhaikamaya (°kha-ek°) 形 子等に對し全く悲嘆に暮る.

apatya-nātha 形 自己の子を伴へる又は護れる (*Buddh-c.*).

apatyavat 形 子孫を有する.

apatya-sneha-kṛpāmaya 形 子等に對する愛憐に充たされたる.

apa-trapaṇa 中 羞恥, 當惑.

apa-trapaṇā 女 [同上].

apa-trapā 女 =apa-trapaṇa; 愧, 羞 *Vijñ-t., Abh-vy., Abh-k.*

apa-trapitavya (未受分) 應愧 *Bodh-bh.*

apa-Tras, → Tras.

apa-trāpin 形 愧づる; 生愧 *Bodh-bh.*

apa-trāpya 中 =apatrapaṇa; 愧, 慚羞, 羞恥, 慚愧 *Sikṣ., Lal-v., Rāstr., Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.*

apatrāpya-dhana 中 愧財 *Mvyut.*

apa-tvac 形 皮を剥がれたる.

a-patha 中 道に非ざること; 路なきこと; 邪道; 悪しき進路; 不正の場處; 異教徒, 外道; 常道に反して. 形 路なき, 近づくべからざる.

apatha-prapaṇa 形 置き誤れる, 場處を誤れる, 場違ひの.

apatha-hara 形 不正の道又は誤れる道を選べる.

a-pathya 形 利益なき; 不適當なる; 健康に害ある. 中 非宜, 不如法物 *Bodh-bh.*

apathya-kāritva 中 (一°)に對して陰謀を企つること.

apathya-kārin 形 (一°)に對して陰謀を企つる.

apathya-bhuj 形 健康に有害なる食を摂る, 禁ぜられたるものを食ふ。

apathyausadha (°ya-aus°) 甲 毒藥, 惡毒 *Abh-vy.*

a-pad 形 (女) = (男) 又は -i) 足なき。

a-pada 1. 甲 住處なきこと; 不都合或は不適當なる場處又は時; 無跡, 無句 *Ast-pr.*

a-pada 2. 形 足なき。

apa-daśa 形 縁飾(?)なき, 房(?)なき; 十ならざる又は十を超へたる(數)。

a-pada-stha 形 自己の處に居らざる。

apa-dāna 甲 英雄的行爲, 名譽を伴ふ行爲; 忠告, 訓誡, 教訓; 古傳, 古譚, 物語 [*Pāli.* 同。 = *avadāna*].

a-padāntaram 副 直ちに, 猶豫なく。

a-padārtha 男 非句義 *Ast-pr.*

apa-Diś, → *Diś*.

apa-deśa 男 忠告; 指示; 口實, 外貌, 變裝; 名; 言; 說, 說爲; 指示, 開示 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 處 *Ast-pr.*: *nāma* ~ 名字 *Ast-pr.* 773., *māsa-rāśy* ~ *vat* 譬如... 說爲烏豆漿 *Abh-vy.* 517.

apa-deśin 形 (一°)として假裝せる。

apa-deśya (未受分) 指示せらるべき, 説明せらるべき。

apa-doṣa 形 過失なき。

apa-doṣatā 女 [同上 捆]。

a-padma 形 蓮華を闕ける。

apa-dravya 甲 惡しき器物。

apa-Dru, → *Dru*.

apa-dhā 女 隠れ場處。

apa-DHāv, → *DHāv* 1.

apa-DHū, → *DHū*.

apa-dhūma 形 煙なき。

apa-dhūmatva 甲 [同上 捆]。

apa-DHṛ *apadhārayati*(便役). → *DHṛ*.

apa-DHṛṣ *apadhṛṣnoti*. → *DHṛṣ*.

apa-dhmāta (通受分) 吹かれたる。

apa-dhyāna 甲 嫉妬, 惡意。

apa-dhvaṃsa 男 隱匿; 墮落。

apa-dhvaṃsa-ja 男 異なる種姓(階級)の父母の間に生れたる兒。

apa-dhvasta (通受分) 墮落せる。 → *DHvams*. 男 あらゆる正義の意味を感ぜざる惡者。

apa-dhvānta (通受分) 惡音を出せる, 調子を外せる。

apa-naya 1. 男 除去; 拒否, 排外; 除, 除去, 拔去; 離, 令離, 遠離, 永離; 息; 祛; 破; 開解 *Daś-bh., Divy., Sūtr., Bodh-bh.*

apa-naya 2. 男 輕率, 愚なる舉動; 惡策, 惡行。

apa-nayana 形 除去する, 奪ふ。 甲 拭ひ去ること, 撤去; 追放; 破壊; 治癒, 治療, 恢復; (負債の)辨濟; 除, 除遣, (斷)除, 能除; 離, 永離; 息; 遣; 無; 濟度 *Sikṣ., Daś-bh., Bodh-bh., Abh-vy.*: *duḥkha* ~ *hetoh* 爲息衆苦因緣 *Bodh-bh.* 247.

apa-nayin 形 輕率なる。

apa-nidra 形 花咲きたる。

apa-nidhi 形 富なき, 貧しき。

apa-niniṣu (希求) 形 (業)を除去せんと欲する。

apa-nirvāṇa 形 尙ほ未だ終らざる。

apa-ni-Hnu, → *Hnu*.

apa-Ni *apanayati*. → *Ni*.

apa-nita (通受分) → *Ni*. (食後鉢より手を)離したる (*Mah-v.* 142.); 遣, 遣除, 除遣, 已遣; 無; 除, 收; 奪去 *Sikṣ., Divy., Abh-vy., Bodh-bh.*: ~ *pātram* 收(衣)鉢 *Divy.* 53. 甲 愚なる舉動, 不謹慎なる又は惡しき態度; 咎, 瑕瑾 *Lal-v.* 142.

apa-Nu, → *Nu* 2.

apa-nutti 女 撤去; 賠償。

apa-Nud, → *Nud*.

apa-nuda 形 (一°)を遠ざくる, 除去する, 排する, 放逐する。

apa-nunutsu (希求) 形 (業)を除去又は贖はんと欲する。

apa-netṛ 形 男 取り去る(もの), 除く(もの); 斷除, 能滅 *Lal-v.*

apa-neya (未受分) 除かるべき, 遠ざけらるべき。

apa-noda 男 排斥, 撤去; 賠償。 形 一° 追放する。

apa-nodana 形 除去する, 追放する, 遠ざくる。 甲 撤去, 追放, 退去。

-apa-nodin 形 除去する, 取り去る。

a-pantha-dāyin 形 (他に)道を護らざる。

a-panna-da 形 未だ齒の落ちざる。

apapa 男 地獄の名; 味味凡 *Dharm-s.*

apa-payas 形 水なき。

apa-pātra 形 器物の使用を禁ぜられたる。

apa-pādatra 形 靴を穿たざる。

apa-piḍā 女 突然危險なる病に冒さるゝこと。

apa-pra-Gā, → *Gā*.

apa-Pruth, → *Pruth*.

apa-pre (°pra-I), → *I*.

apa-Bādh, → *Bādh*.

apa-Brū, → *Brū*.

apa-BHaj, → *BHaj*.

apa-BHañj, → *BHañj*.

apa-bhaya 形 恐なき。

apa-bhartṛ 男 除去者。

apa-BHāṣ *apabhāṣati*. → *BHāṣ*.

apa-BHū, → *BHū*.

apa-BHṛ, → *BHṛ*.

apa-bhramśa 男 墮落; 非文法形; 卑俗語; [中世印度の特殊方言の名]; 字言別 *Mvyut*.

apa-bhramśita (通受分) 喪失せる。

apa-bhraṣṭa (通受分) 低下せる, 轉訛せる, 地方の(用語). → *BHramś*.

apama (最) 最後の, 最も遠き。

apa-maṅgala 形 不吉を將來する, 災厄を齎す。

apa-matsara 形 私利私欲を離れたる (*Jāt-m.*).

apa-Man, → *Man*.

apa-marda 男 泥, 汚物, 塵芥。

apa-mardana 甲 侵; 破; 損, 損惱 *Ast-pr., Divy.*

apa-marśa 男 接觸。

apa-mala 形 汚なき, 清淨なる。

apa-māna 男 (甲) 無視, 無禮, 輕蔑; 無道

Divy.

- apa-mārga 1. 男 拭ひ去ること, 洒掃, 掃除.
 apa-mārga 2. 男 閑道.
 apa-mārjana 形 拭ひ去る, 除去する. 中 清むること.
 apa-mud 形 不愉快なる.
 apa-mṛga 形 鹿なき, 野獸なき.
 apa-Mṛj apamārṣṭi. → Mṛj.
 apa-mṛtyu 男 不時の死; 致死の危険又は病氣.
 apa-meghodaya (°gha-ud°) 形 雲の昇ることなき.
 apa-mlukta 過受分 → Mluc.
 apa-Mluc, → Mluc.
 apa-yaśas 中 不名譽, 侮辱.
 apa-Yā, → Yā.
 apa-yātavya 未受分 逃走を要する. 中 匪入 逃走を要す.
 apayātavya-naya 男 脱出又は逃走の策略 (Jāt-m.).
 apa-yāna 中 退去, 後退, 逃走; 險; 後退; 能 回 Bodh-bh., Mvyut.
 apa-Yu apayuyoti. → Yu 2.
 apa-yodha-rava 形 最早鬪聲をあげざる.
 a-payodhara-vāraṇa 形 雲に妨げられざる.
 a-payodhara-samsarga 形 胸の接觸することなき.
 apara 1. 形 後方の, 遙かなる; 後の, 次の; 西方の; (從)の西方の; 劣れる; 他の; 卑しき; (從)とは異なる; 反對の; 奇異の, 異常の; 後, 後後; 西; 劣; 鈍; 餘, 有餘, 異; 此; 自; 復 Aṣṭ-pr., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.: pūrva~anta 前後際 Abh-k. III. 20.
 ~m 副 次に, 將來, 後に; 加之, 其他; (從)の西方に; 次 Sapt-pr.: punar ~m 又, 復次 Bodh-bh. 11.
 ~eṇa 具 後に; (業)の西に; 過, 過...之外 Daś-bh. ~eṇa samayena 後に, 別の時に.
 ~e 因 副 其上に, 共に就て; 後 Sikṣ.
 男 象の後足.
 apara 2. 中 將來; 他世 Lank.
 apara-kaṭuka 形 無苦言, 不羸言 Bodh-bh.
 apara-kārya 中 後時の處理, 後に實行せらるべき仕事.
 apa-rakta 過受分 漂白せる, 變色せる, 蒼白の. → Raj. 不染 Gaṇḍ-vy.
 apara-godāni 男 譯 [洲 (dvīpa) の名] (音寫) 西瞿耶尼(洲) Dharm-s.
 apara-godāniya 男 譯 [洲 (dvīpa) の名] 牛貨州; (音寫) 西瞿耶尼, 西瞿陀尼 Lal-v., Divy., Mvyut.
 apara-cāmara 男 譯 [洲 (dvīpa) の名] 別拂, 別拂州 Mvyut.
 a-para-citta-vid 形 無他心智者 Bodh-bh.
 apara-cina 男 西の Cina.
 apara-ja 形 後に生れたる.
 apara-jana 男 (因, 因) 西方の住民.
 apara-jala-dhi 男 西方の大洋.
 apa-Rañj aparajyate. → Raj.
 aparatas 副 他の場處に於て, 西方に於て.
 aparatā 女 距離; 後(時及場處); 反對, 矛盾; 關係;

近きこと.

- aparatra 副 他の場處に於て, 何處か他へ; 他の場合に.
 aparatva 中 = aparatā; 遠からざること(因); 此體, 非敵 Vaiś-s., Mvyut.
 aparatvaka 中 遠からざること(因).
 aparathā 副 他の方法によりて, 別に.
 apara-diś 女 西.
 apara-dikṣin 形 (他人の)後に淨身祭を行ふ. → pūrva-dikṣin.
 apara-pakṣa 男 (太陰曆の)月の後半; 反對の側, 他の側; 擁護者.
 a-para-parigṛhita 形 無繫屬 Bodh-bh.
 apara-paryāya-vedaniya 形 後報, 順後受, 順後次受, 他世受用 Abh-vy. 393., Mvyut.
 apara-praṇeya 1. 形 他によりて導かれ易き, 制御し易き, 從順なる.
 a-para-praṇeya 2. 形 不由他, 不由於他, 不由他悟, 不由他教, 不隨他教, 不隨他語, 不隨他緣, 不隨他人, 他不能導引, 自悟不由他, 自然慧, 隨順自然智, 非他所引 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Lank., Mvyut.
 a-para-praṇeyatā 女 不隨他, 不隨他教, 不隨他語, 不信他法, 不隨他教地, 不起他信不隨他語, 不隨他語不信他法, 非他所引 Aṣṭ-pr.
 a-para-pratyaya 形 無待, 不由他, 不從他緣, 他緣匪奪 Gaṇḍ-vy., Sūtr., Mvyut.
 apara-rājāvavādaka-sūtra 中 [經名] 善諫經 Sikṣ.
 apara-rātra 男 夜の後半; 後夜, 下半夜 Sikṣ., Mvyut. ~m 副 後夜 Bodh-bh.
 apara-rātri 女 [同上].
 apara-vaktra 中 [音律の一種].
 apara-vedaniya 中 (karman が)次の生存に於て現るゝこと (Dharm-s.).
 a-paraśu-vṛkṇa 形 斧を以て伐り倒されざる.
 apara-śaila 男 覆 [佛教部派の名]; 西山(部) Mvyut.
 a-paraspara-sambhūta 形 他より生ぜしものに非ざる.
 a-parākrama 形 威力なき, 勇氣なき; 無力 Lal-v.
 apa-rāga 男 反感, 嫌惡, 敵視.
 a-parāñ-mukha 形 顔を背けざる. ~m 副 覆藏なく.
 a-parā-jaya 男 屈服せざること, 銷沈せざること.
 a-parā-jita 形 打ち克たれざる, 征服すべからざる; 無勝, 無能勝, 無能超勝; 無壞, 無能壞, 莫能壞, 不可沮壞, 不可破壞; 不可動, 無能動 Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Sikṣ. 毒蟲; [神話上の劍の名]; [Viṣṇu 神, Siva 神, 十一 Rudra の一の名]; [諸神の一組 (Jaina)]; [惡蛇の名]; [Kṛṣṇa の子の名].
 aparājita-tejas 形 無敵威, 無敗威, 無勝光 Mvyut.
 aparājita-dhvaja 男 無勝幢, 無壞幢 Gaṇḍ-vy.
 a-parā-jitā 女 [藥草の名]; [音律の一種].

a-parājiṣṇu 形 打ち克ち難き, 無敵の。
apa-rāddha 通受分 誤りたる, 罪ある, 責めらるべき。→ Rādh. 甲 罪; 罪, 過 *Aṣṭ-pr.*
apa-rāddhavya 未受分 發生惡 *Aṣṭ-pr.*
apa-rāddhi 女 過, 誤。
apa-rāddhī 形 違法又は犯罪に該當する, 罪を犯せる; 立腹せしむる。
apa-Rādh *aparādhyati, aparādhnoti.* → Rādh.
apa-rādha 男 犯則, 犯罪, 違法; 加害; 違, 咎, 過, 過惡, 失, 過失; 罪, 重罪, 毀犯 *Lal-v., Bodh-c., Divy., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
aparādha-vṛkṣa 男 罪の樹。
apa-rādhika 形 罪ある; *Rādhikā* なき; 過 *Bodh-bh.*
apa-rādhita 通受分 罪を犯せる; 罪惡, 應罰 *Gaṇḍ-vy.:* ~ān daṇḍam prañayati 罰其罪惡, 應罰者罰 *Gaṇḍ-vy. 155.*
apa-rādhitā 女 罪あること。
apa-rādhin 形 罪ある, 罪を犯す; 立腹せしむる; 有罪, 犯罪, 有諸愆犯 *Saddh-p., Bodh-bh.*
a-parādhina 形 不屬他 *Mvyut.*
aparādhina-saṃjñā 女 不自在想 *Gaṇḍ-vy.*
aparānta 形 極西に住する。男 西部の國土(國 其の住民); 終末, 死; 象の後足の低部; 末, 當來, 未來, 後際, 後邊, 後極, 未來際, 未來世 *Kāśy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sam-r., Laṅk., Śikṣ., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.:* 無量 無數 *Rāṣṭr*
aparāntaka 1. 甲 [歌の一種]。
aparāntaka 2. 男 南方布, 絁絹之衣; (音寫)阿般蘭得迦衣 *Mvyut.*
aparāntaka 3. 形 (女 -ikā) 西方の邊地に住する。
aparānta-kalpa 男 未來劫, 盡未來劫, 盡未來際劫 *Gaṇḍ-vy.*
aparānta-kālam 男 盡未來劫, 未來諸劫 *Gaṇḍ-vy.*
aparānta-koṭi 女 後際, 邊際, 最後邊際 *Śikṣ., Suv-pr.*
aparāntakoṭi-niṣṭha 形 窮未來際, 至後邊際 *Mvyut.*
aparānta-koṭi 女 盡未來際 *Gaṇḍ-vy.*
aparāntakoṭi-gata 形 盡未來際 *Gaṇḍ-vy.*
aparānta-jñāna 甲 末後に對する洞察又は先見; 後際智 *Sam-r.*
aparānta-sūnyā 女 後際空 *Madhy-vibh.*
aparāntika 形 (女 -i) 後際, 未來 *Bodh-bh., Śikṣ.*
aparāntikā 女 [音律の一種 (4×16)].
a-parābhāva 男 屈服せざること, 衰へざること, 勝利。
a-parāmrṣṭa 通受分 感動せられざる, 感情を動かさざる; 無著, 無所取, 無取著, 不執取, 非可著者; 不措昧 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
aparāmrṣṭa-śīla 男 無所取戒 *Sam-r.*
a-parāyaṇa 形 (女 -ā) 保護を有せざる (*Kār-vy.*)
aparārka 男 [或る註釋家の名].

a-parāvṛtta 通受分 不轉 *Laṅk., Bodh-bh.*
aparāvṛtta-bhāga-dheya 形 幸福の復歸せざる。男 不幸なる人。
aparāhṇa 男 午後; 晚, 暮, 哺後 *Suv-pr., Mvyut.*
a-parikalpita 通受分 無思想, 離憶想, 離妄想 *Laṅk., Kāśy.*
a-parikrama 形 徘徊せざる, 徘徊し得ざる。
a-parikliṣṭa 通受分 病弱ならざる, 苦まざる。
a-parikleśa 男 平安。
a-parikṣata 通受分 傷けられざる。
a-parikṣiṇa 通受分 竭されざる, 消耗せざる (*Jāt-m.*)
aparikṣiṇa-śakti 形 力の損はれざる。
aparikṣiṇa-śaktitva 甲 [同上 甲]。
a-parikhidyamāna 現分 疲れざる, 倦まざる; 無有厭倦 *Bodh-bh.*
a-parikhinna 通受分 倦怠なき, 疲勞なき; 無倦, 不懈倦, 無厭倦, 無疲厭, 不疲厭; 無愁惱 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
aparikhinna-mānasatā 女 不疲厭, 心無厭倦; 心無愁惱 *Bodh-bh.*
a-parikheda 形 疲勞なき, 倦怠なき; 不厭, 無疲倦, 無疲厭, 無厭足, 不懈退 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
a-parikhedatā 女 無厭, 無有厭倦, 不憚劬勞, 恆不勞疲; 無憂惱 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
a-parigaṇayat 現分 勘考せざる。
a-parigaṇya 未受分 數へられざる, 豫想し得ざる。
a-parigata 通受分 知られざる, 測り知るべからざる, 得られざる。
a-parigrhita 通受分 扶けられざる, 包攝せられざる, 捕へられざる, 従はれざる; 無攝受; 無人扶持, 不侍扶持 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
aparigrhita-citta 形 心無所著 *Saddh-p.*
a-parigraha 男 包含せざること; 受けざること; 剝奪, 缺乏, 貧窮。形 貧乏なる; 妻なき; 無所屬, 無所繫屬, 無所攝屬 *Aṣṭ-pr., Divy.*
a-paricaya 男 不親密, 不案内, 熟知せざること。
a-paricayin 形 相識なき, 馴染みなき; 人間嫌ひの, 厭世的の。
a-paricalita 通受分 動かされざる, 動かざる。
a-paricita 通受分 知られざる, 誰をも信ぜざる, 親しからざる; 未曾修習, 未善通利 *Bodh-bh.*
a-paricchada 形 從者なき; 荷物なき, 必需品を支給せざる。
a-paricchanna 通受分 覆ひを除ける, 衣物を脱げる。
a-paricchinna 通受分 限られざる; 區別せられざる; 間隙又は區分なき, 中絶せざる, 繼續せる, 連結せる; 不斷; 圓; 普遍; 不可知 *Sūtr., Kāśy., Vijñ-t.*
a-paricchada 男 決斷の缺乏; 優柔不斷; 判斷の缺乏; 差別又は分類の缺乏; 繼續。
a-paricchada-kartṛ 形 正しく決定せざる。
a-paricyuta 通受分 見棄てられざる; 脱落せざる; 墮落せざる, 離反せざる。
a-parihya 男 障礙 [*Tib. ma-ḥdris = aparicaya*] *Sūtr. 51.*

a-parijāta (通受分) 成熟せざる; 死産の。
a-parijñāta (通受分) 知悉せざる; (釋) 無知, 不知, 不了知 *Bodh-bh.*
a-parijñāna (甲) 徹底せる知識なきこと, 知らざること; (釋) 不識, 不知, 不覺知, 不了; 非偏智, 不見智 *Lank., Daś-bh.*
a-pariṇayana (甲) 結婚せざること; 獨身。
a-pariṇāma (男) 變易せざること。
a-pariṇāyaka (形) 導者なき; (釋) 無引導 無導師, 無導首 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
a-paritāpa (形) 心勞なき。
a-parituṣṭa (通受分) 喜ばれざる。
a-paritoṣa (形) 不満なる。 (男) 不満。
a-parityakta (通受分) 捨てられざる; (釋) 不捨, 無捨, 不棄, 不棄捨; 不離; 愛惜 *Aṣṭ-pr., Lank.*
a-parityajya (未受分) 捨つべからざる。
a-parityāga (男) 放棄せざること; (釋) 不捨 *Bodh-bh.*
a-parityāgin (形) 捨てざる; (釋) 不捨 *Mvyut.*
a-parityājya (未受分) 捨つべからざる; (釋) 不能捨 *Bodh-bh.*
a-paritrāṇa (形) 救済なき, 保護なき; (釋) 無歸; 不救拔 *Bodh-bh., Suv-pr.*
a-parinirvāṇa (通受分) 全く滅盡又は終結せざる; (釋) (音寫) 無涅槃, 不般涅槃 *Lank.*
aparinirvāṇa-dharmaka (形) (釋) (音寫) 無涅槃性, 無涅槃種性, 不般涅槃法相 *Lank.*
aparinirvāṇa-dharmatva (甲) (釋) (音寫) 不般涅槃法, 無般涅槃法, 不能證於涅槃 *Lank.*
a-parinirvṛta (通受分) (釋) (音寫) 未涅槃, 不般涅槃, 不入涅槃 *Lank.*
a-pariniṣṭhita (通受分) 十分確立せざる, 無經驗なる; (釋) 未究竟, 未得究竟 *Bodh-bh.*
a-pariniṣṭhitva (甲) (釋) 未至究竟 *Aṣṭ-pr.*
a-pariniṣpatti (女) 完成せざること; 不完全なること; (釋) 非圓實, 非圓滿, 非具足, 不成實 *Vajr-pr., Bodh-bh.*
a-pariniṣpanna (通受分) 完了せざる, 完成せざる, 完全ならざる; (釋) 無成辦, 非成就; 不可作 *Sikṣ.*
apariniṣpanna-lakṣaṇa (甲) (釋) 非圓成實相 *Mvyut.*
a-paripakva (通受分) 圓熟せざる, 全く熟せざる; (釋) 未熟, 未成熟 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Bodh-bh.*
aparipakva-kuśala-mūla (形) (釋) 善根未成熟者 *Aṣṭ-pr.*
a-paripakvatā (女) (釋) 未成熟性 *Madhy-vibh.*
aparipakvendriya (°va-in°) (形) (釋) 根未熟, (諸善) 根猶未成熟 *Lank., Bodh-bh.*
a-paripācita (通受分) (釋) 未熟, 未成熟 *Sikṣ.*; 不可信, 本不相習 *Kāśy.*
a-paripuṣṭa (通受分) 育成せられざる, 撫育せられざる; (釋) 未極增長 *Bodh-bh.*
a-paripūta (通受分) 淨められざる(穀物)。
a-paripūrṇa (通受分) 満たされざる, 満たざる。
aparipūrṇa-kārin (形) (釋) 不屬行(!), 不能學滿分 [*Tib. ma-chub-par spyod-pa*] *Mvyut.* → *paripūrṇa-kārin.*

a-paripūrṇatva (甲) (釋) 不満足, 不能満足 *Lank.*
aparipūrṇa-vimśad-varṣa (形) (釋) 不滿二十歳 *Prāt-m.*
aparipūrṇa-sambhāra (形) (釋) (菩提)資糧未得圓滿 *Bodh-bh.*
a-paribādha (形) 障礙せられざる, 制限せられざる。
a-paribhava (形) 侮辱せざる, 輕蔑せざる; (釋) 不輕 *Saddh-p., Bodh-bh.*
a-paribhāṣaṇa (甲) 多く語らざること。
a-paribhukta (通受分) 所有せられざる, 享受せられざる; (釋) 無所委付 *Saddh-p.*
a-paribhūta (通受分) 輕視せられざる, 侮辱せられざる; (釋) 不輕, 不被欺陵 *Divy., Saddh-p.*
aparibhūtājña (°ta-āj°) (形) 命令が輕視せられざる。
a-paribhogatā (女) (釋) 不受用 *Bodh-bh.*
a-paribhogam (男) 食ふべきものなく (*Divy.*)
a-paribhraśyamāna (現分) 逃れざる。
a-paribhraṣṭa (通受分) (釋) 無損失 *Bodh-bh.*
a-parimāna (形) 限量なき, 計り難き, 莫大の, 無量の; (釋) 無量, 無邊 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Gand-vy., Madhy-vibh.* (甲) 計り難きこと; (釋) [數の名] 無量, 無限 *Gand-vy., Mvyut.*
aparimāṇa-parivarta (男) (釋) [數の名] 無量轉, 無限轉 *Gand-vy., Mvyut.*
a-parimita (通受分) 量られざる, 限られざる; (釋) 無量 *Lank., Sukh-vy. II., Sikṣ., Daś-bh.* (甲) (釋) [數の名] 無増(!), 無限量 *Mvyut.*
aparimita-jñāna-sambhāra-paryeṣaṇa-kuśala (形) (釋) 善求無量智慧, 無量智資糧尋求善巧 *Mvyut.*
a-parimitadhā (男) 無數に, 無數の部分に。
aparimita-buddhādhyeṣaṇa-kuśala (形) (釋) 善祝無量諸佛, 善能勸請無量諸佛 *Mvyut.*
aparimitāyur(-jñāna)-dhāraṇi (°ta-āy°) (女) (釋) [經名: 大乘無量壽(宗要)經, 大乘聖無量壽決定光明王如來陀羅尼經]。
aparimitāyuh-sūtra (°ta-āy°) (甲) [同上]。
a-parimukta (通受分) 脱せざる, 解放せられざる, 自由ならざる; (釋) 不脱, 未免, 不得出離, 不能解脫 *Lank., Saddh-p.*
a-parimeya (未受分) 無數の, 無量の。
a-parimlāna-lalāṭatā (女) 皺なき額を有すること (*Dharm-s.*)
a-parirakṣat (現分) 保護せざる, 容赦せざる, 用心せざる。
a-parivarta (形) (釋) 不轉 *Saddh-p.*
a-parivartaniya (未受分) 交換せらるまじき。
a-parivādya (未受分) 非難せらるまじき。
a-parivṛta (通受分) 圍繞せられざる, 圍まれざる。
a-parivradhiman (男) (不定)する力なきこと。
a-pariśaṅkita (通受分) 疑はれざる, 豫期せられざる。
a-pariśiṣṭa (通受分) (釋) 既没 *Sukh-vy. I.*
a-pariśeṣa (形) 殘餘なき, 残りなき, 總てを包含する; (釋) 無餘, 一切 *Daś-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k.*
 ~m (男) 盡く, 全く; (釋) 無餘 *Bodh-bh.*
a-pariśrama (形) 疲勞せざる。
a-pariślatham (男) 力強く, 緊張して。

a-parisamsthita (過受分) 何處にも止住せざる。
a-paristhāna (中) 不適當。
a-parihata (過受分) 障礙せられざる, 無限の。
a-parihāna (形) (漢語) 不失, 不滅, 不衰退 *Kāśy.* (中)
 何物も剝奪せられざること。
a-parihāni (女) (漢語) 不退轉, 無復退轉 *Bodh.-bh.*
a-parihāniya (未受分) (漢語) 無有退 *Bodh.-bh.*
a-parihāra (男) 回避せざること。
a-parihārya (未受分) 避くべからざる。
a-parihyamāna (現分) (受) 省略せられざる, 缺乏せざる; (漢語) 無退轉, 無退失時 *Bodh.-bh.*
a-parihṛta (過受分) 避けられざる, 實行せられたる。
a-parihvṛta (過受分) 害を被らざる, 危険に陥らざる。
apari (女) 未來; (於) (漢語) 將來に於て。
a-parikṣaka (形) (漢語) 不別, 未別 *Sūtr.*
a-parikṣita (過受分) 勘考せられざる; 試みられざる; 立證せられざる; 早急の。 (男) 思慮なく行動する人。
aparikṣita-kāraka (中) [*Pañcatantra* 第五卷の題名]。
apa-Rudh, → *Rudh* 3.
apa-ruṣ (形) 怒を離れたる。
apa-ruṣa (形) 荒々しからざる, 粗暴ならざる; (漢語) 無惡 *Mvyut.*
aparūṣa-keśa (形) (漢語) 首髮整齊, 頭髮潤澤 *Mvyut.*
aparūṣa-keśatā (女) 柔軟なる頭髮を有すること (*Dharm.-s.*)
apare (副) → *apara* 1.
apareṇa (具前) → *apara* 1.
apare-dyus (副) 翌日に。 (於) ~e samprāpte 翌日となるや。
a-parokṣa (形) 見えざるに非ざる, 現前せる, 認めらるべき。 ~m (副) (屬) の見る所によれば。 ~āt (副) 明らかに。 (於) 若しその際何者か居合はすとせば(文法)。
a-parokṣatva (中) 現前。
aparokṣaya (名動他) (業) を視察す, 認知す。
apa-ropa (男) 根絶。
a-paropatāpin (ra-up) (形) (漢語) 不惱於他 *Bodh.-bh.*
a-parṇa (形) 葉なき。
a-parṇā (女) [女神 *Umā* の名]。
apa-rtu (apa-rtu) (男) 正しからざる季節。 (形) 季節外れの。 (副) 季節外れに。
a-paryanta (形) 無限の; …にて終らざる或は成立せざる; (漢語) 無量, 無邊, 無際, 無盡 *Saddh.-p., Aṣṭ-pr., Bodh.-c., Suv.-pr., Bodh.-bh.* (男) (漢語) [數の名] 無邊 *Gaṇḍ.-vy.*
a-paryantatā (女) (漢語) 無邊 *Aṣṭ-pr.*
paryanta-parivarta (男) (漢語) [數の名] 無邊轉 *Gaṇḍ.-vy.*
paryanti-kṛta (形) (漢語) 無有邊際 *Sikṣ.*
a-paryavasāna (中) (漢語) 無期, 無窮 *Abh.-vy.*
a-paryāna (形) 鞍を置かざる。
a-paryāta (過受分) 無盡の, 無究竟なる [*Pāli. pariya-dinna*] (*Prajñ.-vy.*); (漢語) 無有疲懈, 遠離懈倦 *Gaṇḍ.-vy.*
a-paryādatta (過受分) (漢語) 無盡, 無窮盡, 不可盡, 不

可窮盡, 不滅, 不滅度, 普圓滿無盡, 無厭退 [*Tib. yōns-su mi-zed-pa*] *Gaṇḍ.-vy.*

a-paryāpanna (過受分) (漢語) 不攝, 不繫, 無所繫屬; 不墮, 不墮(三界) *Aṣṭ-pr.*
a-paryāpta (過受分) 不十分なる, 不完全なる, 不可能なる; 制限せられざる。
a-paryāptavat (過能分) (不定) する能はざる。
a-paryāpti (女) 不十分。
a-paryāsita (過受分) [As] 顛覆せられざる, 破壊せられざる。
a-paryuṣita (過受分) 全く新鮮なる, 全く新しき。
a-paryeṣita (過受分) 探し求められざる (*Saddh.-p.*)
a-paryeṣṭa (過受分) [同上]; (漢語) 不求 *Saddh.-p.*
a-parvaka (形) 纒目なき。
a-parvata (形) 山なき。
a-parvatiya (形) 隆起なき, 平坦なる。
a-parvan (中) 纒目なき處; 中斷せざること [物語に於て]; *Parvan* に非らざる日, 平日; 蝕の起るべからざる時。 (形) 纒目なき。
apa-lakṣaṇa (中) 不吉なる徴候 (*Jāt.-m.*)。 (形) 不吉なる徴候を有する (*Jāt.-m.*)
apa-latā-bhavana (形) 園亭なき。
apa-Lap *apalāpayate* (漢語) → *Lap.*
apa-lapana (中) 阿諛; 知識を否定或は秘密にすること; 秘すること, 逃避; 誹謗。
apa-lapita (過受分) → *Lap.*
apa-lāpa (男) 否定, 會釋; 愛著; 腋窩; = *apalapana*; (中) (漢語) 渺茫(?) *Mvyut.*
apa-lāpin (形) (屬) を秘密にせる, 隠せる; 否定する。
apalāla (男) [或る *Rākṣasa* の名]; (漢語) [龍王の名] 無苗 *Divy.*; (音寫) 阿波羅, 阿波波, 阿波羅囉 *Sam.-r., Divy.*
apalāla-nāga (男) (漢語) (音寫) 阿波羅囉龍(王) *Divy.*
apa-lāṣin (形) 希望なき。
apa-lāṣuka (形) [同上]。
apa-Lup, → *Lup.*
apa-vaktr (男) 回避者, 防禦者。
apa-vatsa (形) 犢なき。
apa-Vad *apavadati* (-te). → *Vad.*
apa-vadita (過受分) (漢語) 毀謗 *Sikṣ.*
apa-Vadh, → *Vadh.*
apa-Vap, → *Vap* 2.
apa-varaka (中) 寢室; 内房; (漢語) 舍 *Divy.*
apa-varaṇa (中) 被覆; 衣服。
apa-varga (男) 完成, 終結; 窮極の幸福; (漢語) 解脫 *Divy., Buddh.-c., Sāṃkhya-k., Mvyut.*; 遠離 *Sikṣ.*; 涅槃 *Divy., Rāṣṭr.*; 有滅 *Lank.*
apavarga-mārga (男) 解脫又は解放への道 (*Buddh.-c.*)
apa-varjana (中) 決定, 完結; 與ふること(例へば娘を嫁として)。
apa-varjita (中) (過受分) → *Vrj.*
apa-vartana (中) 歸還, 逃走; 撤去, 移轉。
apa-Vas, → *Vas* 1.
apa-Vah *apohya* (不變分). → *Vah.*
apa-Vā *apavāti* (I). → *Vā* 1, 4.
apa-vāda (男) 論駁; 廢除, 例外; 非難; 不正の彈劾;

命令; 誘致する聲; 〔説〕 詞, 謗, 誹謗, 毀謗, 毀謗論, 語惡; 損, 減, 損減; 撥, 無 [samāropa「有」に對す], 撥無, 非撥 Lal-v., Sūtr., Lank., Śikṣ., Madhy-vibh., Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-v., Mvyut.

apa-vādaka 形 罵る, 咎むる, 誹謗する; 對抗する; 異議を申立つる; 除外する, 放棄する, 取消す; 〔説〕 謗, 誹謗, 毀謗, 毀訾 Gand-vy., Lal-v., Bodh-bh. → an ~.

apavādānta 男 → pudgala ~.

apa-vādika 形 〔説〕 謗, 誹謗; 損減; 撥 Abh-vy., Bodh-bh.

apa-vādita 〔過受分〕 咎められたる; 對抗せられたる, 反對せられたる; 〔説〕 謗 Bodh-bh.

apa-vādin 形 (一°)を非難する; 〔説〕 誹謗(者) Śikṣ.

apa-vādya 〔未受分〕 非難せらるべき; 除外せらるべき.

apa-vāraka 男 圍まれたる場處, 屏處.

apa-vārīta 〔使役〕 〔過受分〕 → Vr I. ~m 〔副〕 祕かに [舞臺に於て對手のみが聞き得る如く] (説曲).

apa-vārītakena 〔具〕 〔副〕 = apavāritam.

apa-vārya 〔不變分〕 [同上].

apa-vāha 男 撤去; 水路; 割引, 控除.

apa-vāhaka 形 割引, 控除.

apa-vāhana 〔中〕 撤去; 減少.

apa-vikṣata 〔過受分〕 傷けられざる.

apa-vighna 形 障礙なき.

apavitraya 〔名動他〕 汚す.

apa-viddha 〔過受分〕 → Vyadh. 〔説〕 失, 遺失; 所棄, 所捨, 棄捨, 棄擲, 撥擲 Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.

apa-vidyā 女 惡しき智慧; 無智.

apa-vidhya 〔不變分〕 斥けて, 拒絕して.

apa-Viś, → Viś.

apa-Vṛ, → Vṛ I.

apa-vṛkta 〔過受分〕 終了せる, 成就せる.

apa-Vṛj apavṛkte. → Vṛj.

apa-Vṛt, → Vṛt.

apa-vṛtta 〔過受分〕 悪しく振舞へる. → Vṛt. 〔中〕 黃道.

apavṛtta-bhāva 男 嫌惡 (Jāt-m.).

apa-vṛtti 女 流れ去ること, 逃走すること; 完了, 終局.

apa-vedha 男 過てる穿孔.

apa-vodhṛ 形 ……を除去する, 奪取する.

apa-Vyadh apavidhya(〔不變分〕). → Vyadh.

apa-Vyā apavyayati. → Vyā.

apa-vyākhyā 女 誤れる説明.

apa-vrata 形 従順ならざる, 不忠實なる; 慣れたる仕事を爲さざる; 邪惡なる.

apa-śaṅkam 〔副〕 恐るゝ所なく.

apa-śabda 男 誹毀; 訛りたる語形, 文法に違へる言語; 〔説〕 惡聲, 謗聲, 不正聲, 邪言 Bodh-bh., Mvyut.

apaśabda-vigata 形 〔説〕 離不正聲; 無邪言 Mvyut.

apa-śabdita 〔過受分〕 文法を誤りて語れる.

apa-śaśi-tilaka 形 月輪形の Tilaka (額に附する標相)なき.

apa-śastra 形 武器なき.

a-paśu 男 供儀に適せざる牛. 〔形〕 牛を奪はれたる; 貧しき.

apa-Śuc, → Śuc.

apa-śuc 男 (悲しみなきもの), 靈魂, 精神.

apa-śūla 形 鎗なき.

apa-śoka 形 悲まざる.

a-paścima 1. 〔形〕 最後に非ざる; 〔説〕 初 Divy.

a-paścima 2. 〔形〕 後に何ものをも有せざる, 總ての最後なる; 〔説〕 最末後 Divy. ~m 〔副〕 眞の最後に.

a-paścimaka 形 〔説〕 最後 Divy.

a-paśya 形 見ざる.

a-paśyaka 形 〔説〕 無見, 無見者, 非見者, 無能見者 Aṣṭ-pr.

a-paśyat 〔現分〕 見ざる, 認めざる; 熟慮せざる.

a-paśyanā 女 見ざること.

apa-śraya 男 長枕.

apa-Śri, → Śri.

apa-śrita 〔過受分〕 → Śri.

apa-śri 形 (〔中〕 -i) 美を失へる.

apa-śruti 形 聞き苦しき.

apa-śṭhu 形 反對の, 逆の; 邪惡の, 邪曲の. 〔副〕 誤りて, 邪惡に.

apa-śṭhura 形 反對の, 逆の.

apa-śṭhula 形 [同上].

apas 1. 〔中〕 仕事, 行動(特に供儀の); 動産.

apas 2. 〔形〕 活動的なる, 勤勉なる; 熟練なる.

apa-saṃ-Hṛ apasaṃharisyati(〔未〕). → Hṛ.

apa-sada 男 捨てられし者; (一°)の内にて最も惡しきもの; 〔説〕 雜婚によりて生れし子等(父方の種姓階級低き).

apa-sara 男 離去, 距離; 辯解, 遁辭.

apa-saraṇa 〔中〕 退去, 退却.

apa-sarjana 〔中〕 中止; 贈物, 寄附; 魂の最後の解脱.

apa-sarpa 男 間諜.

apa-sarpaṇa 〔中〕 遠ざかること, 退却.

apa-sarpya 〔未受分〕 放逐せらるべき, 驅除せらるべき.

apa-savya 形 左にあらざる, 右の; 右より左へ(向けて). ~m Kṛ [=pradakṣiṇam Kṛ] (〔業〕, 〔因〕) を右邊す; 聖紐を右肩より左腋へ係く.

apa-savyavat 形 聖紐を右肩より左腋へ係けたる.

apa-sāra 男 出口; 出路, 排出口.

apa-sāraṇa 〔中〕 除去, 解散, 追放.

apa-sārita 〔過受分〕 移されたる, 除去せられたる.

apa-sāritā 女 結果, 終末.

apa-sārin 形 減少する, 小さくなる.

apa-Sidh, → Sidh I.

apa-Sṛ, → Sṛ.

apa-Sṛp, → Sṛp.

apa-s-Kṛ, → Kṛ.

apa-stana 形 母の乳房を離れたる.

apa-snāta 〔過受分〕 葬儀の後に沐浴せる.

apa-snāna 〔中〕 已に使用せられたる沐浴水, 他人が沐浴したる水; 葬儀の際の沐浴.

apa-spaśa 形 間諜なき.

apa-Spr, → Spr.

apa-smaya 形 傲慢ならざる。

apa-smāra 男 (意識の喪失), 憑依; 癡癡; 昏暈; 癡癡, 顛眩, 顛疾, 顛狂病; 作忘者 *Lal-v., Daś-bh., Mvyut.*; 音寫 [鬼の一種] 阿波羅 *Lank.*

apa-smāraka 男 [鬼の一種]; 音寫 阿跋摩羅 *Saddh-p.*

apasmāra-kākhorda 男 變怪 *Gaṇḍ-vy.*

apa-smārin 形 憑かれたる, 魅せられたる; 癡癡の。

apa-smāri 女 [鬼の一種]; 音寫 阿波羅(女) *Lank.*

apa-Smṛ, → Smṛ.

apa-smṛti 形 記憶なき; 放心せる, 無意識の; 狂氣せる。

apasya 名動他 活動す。

apasya 形 忙しき, 活動的なる。

apasyu 形 忙しき。

apa-svara 男 非音樂的なる音調又は音響。 ~m 亂調子にて(歌ふ)。

apa-svāna 男 颯風。

apa-svāpana 中 惛睡, 眠寐, 睡著 *Lal-v., Mvyut.*

apa-ha 形 (一°)を除去する, 防ぐ, 破壊する; 除, 斷 *Sūtr., Śikṣ., Bodh-c.*

apa-hata 通受分 → Han.

apa-hati 女 抵抗, 抗拒; 驅逐; 破壊すること。

apa-Han, → Han.

apa-hanṭṛ 男 (女 -tri) 驅逐者, 防禦者。 形 撃退する, 破壊する。

apa-hara 形 (一°)を奪へる。

apa-haraṇa 中 充用, 充當, 流用; 拐去; 撤去; 總ての相反せるものを避くこと (*Jāt-m.*); 除, 能除; 盜; 奪, 欺奪 *Śikṣ., Abh-vy.*

apa-hartavya 未受分 取り去らるべき; 應削 *Bodh-bh.*

apa-harṭṛ 男 盜人; 拐去者, 撤去者; 拔, 能拔 *Abh-vy.*

apa-harṣa 形 喜悅なき。

apa-hasta 中 手より放つこと, 打つこと, 投げ遣ること。 男 (=gala-hasta); 手の甲にて打つこと。

apahastaya 名動他 手にて打つ, 振り拂ふ, 排斥す, 拒絶す。

apahastita 通受分 [名動 apahastaya より] 投げ遣られたる, 傍へ押し遣られたる, 逐ひ拂はれたる。

apa-Hā apahāya (2 不變分)。 → Hā 1, 2.

apa-hāna 中 除去, 隱匿。

apa-hāni 女 消滅, 隠るゝこと。

apa-hāya 不變分 → Hā 2.

apa-hāra 男 取り去ること, 強奪; 撤去; 隱匿; 否定; 奪, 捨, 抄劫, 竊盜; 銜 *Saddh-p., Bodh-bh., Abh-vy.*: pota ~ 銜子 *Abh-vy.* 708.

apa-hāraka 形 取り去る, 盜む; 隠す; → galla ~. 男 盜人。

apa-hāraṇa 中 連れ去ること; 取り去らしむること。

apahāra-varman 男 [人名]。

apa-hārta 使役 通受分 → Hṛ 1.

apa-hārin 形 取り去る, 盜む; Bodh-bh., Mvyut.

apa-hāsa 男 嘲笑。

apa-hāsyā 形 嘲笑に値する。

apa-Hṛ apaharati, apahṛyate (略に 受)。 → Hṛ 1.

apa-hṛta 通受分 取り去られたる, 運び去られたる; 盜まれたる; 盜, 自取; 捨; 棄, 棄捨; 失; 所溺; 所侵奪, 被擒去 *Śikṣ., Sam-r., Suv-pr., Bodh-bh., Mvyut.*: udakena vā ~ āḥ 水所溺 *Bodh-bh.* 147.

apahṛta-bhāra 形 捨重擔, 捨於重擔, 棄諸重擔, 捨諸重擔; 端拱無爲; 失背 *Aṣṭ-pr., Madhy-v., Mvyut.*

apa-hṛti 女 取り去ること, 撤去。

apa-hnava 男 拒否; 隱蔽, 著裝; 満足; 愛著。

apa-Hnu, → Hnu.

apa-hnuta 通受分 隱蔽せられたる, 否定せられたる。

apa-hnuti 女 拒否, 否定; 隱蔽法(修辭)。

apa-hnuvāna 使分 隱蔽する, 否定する。

apa-hnotṛ 男 拒否者, 隱蔽者。

apa-hrāsa 男 減少; 縮小; 減 *Abh-vy., Abh-k.* ~ena 具 除, 離 *Abh-vy.*

a-pāka 1. 形 未熟の, 成熟せざる, 生(つ)の, 實らざる(果物等の)。 男 未熟, 不消化。

apāka 2. 形 遠方より來れる, 遠方より見得べき。

a-pāka-ja 形 (成熟或は調理の結果生じたるに非ざる), 元の, 自然の。

apākaraṇa (apa-āk°) 中 驅逐, 除去; (債務の)辨濟; 反駁; 駁論; 離 *Vajr-s.*

apākariṣṇu (apa-āk°) 形 (業)を超過せる, ……を凌駕せる。

apākā 副 遠く。

apākāt 副 遠方より。

a-pākin 形 實らざる, 不消化の。

apā-Kṛ (apa-ā-Kṛ), → Kṛ.

apā-kṛta 通受分 取り去られたる, 動かされたる, 破壊せられたる, 拂はれたる。

apā-kṛti 女 取り去ること, 移すこと; 敬遠, 敵對, 反逆。

apā-Kṛṣ (apa-ā-Kṛṣ), → Kṛṣ.

apā-kṛṣṭa 通受分 → Kṛṣ.

apā-Kṛ (apa-ā-Kṛ), → Kṛ.

a-pāñkteya 形 列中に在らざる, 同一階級に在らざる, 貴人と事を共にすべき資格なき; 社會に容れられざる, 種姓(階級)より放逐せられたる。

a-pāñktya 形 [同上]。

apāñktyopahata (°ya-up°) 形 不淨なる人に汚されたる。

apāñga 1. 形 四肢なき, 肢體なき。

apāñga 2. 男 [—° 女 -ā 又は -i] 背(背), 横目(目); 額に附する宗派の標章; 肉體上の斑點。

apāñga-darśana 中 横目。

apāñga-dṛṣṭi 女 [同上]。

apāñga-netra 形 横目を使ふ。

a-pācaka 形 自ら炊かざる。

apācina 形 退きたる; 後方の, 西の。

apāj (apa-Aj), → Aj.

apāñc 形 (女 apāci) 後方にある, 西方の。

a-pāñcālya ㊦ *Pāñcāla* 國又は *Pañcāla* 王の破滅。
 a-pāṭha ㊦ (誦誦又は學習の休止), 休日; ㊦ 不説, 影日, 休假 *Divy., Abh-vy.*
 a-pāṭhya ㊦ 讀み難き, 不明の。
 a-pāṇi ㊦ 手なき。
 a-pāṇi-grahaṇa ㊦ 獨身生活。
 a-pāṇi-grahaṇā ㊦ 未婚の婦人。
 a-pāṇi-pāda ㊦ 手足なき。
 a-pāṇḍava ㊦ *Pāṇḍava* なき。
 a-pātaka ㊦ 無罪。
 a-pātanatva ㊦ 墮せしめざること; ㊦ 不墮 *Lāṅk.*
 apātta (apa-āt°) ㊦ 過受分 → *Dā* 1.
 a-pātra ㊦ (男) 價值なき或は普通の器具・什器, 價值なき受納者, 無價值なる人。㊦ 鉢なき。
 apātra-kṛtyā ㊦ 不都合なる行動を爲すこと; (施物を受くる) 價值なからしむる行爲。
 apātra-dānatā ㊦ ㊦ 非田器施 *Bodh-bh.*
 apātra-dāyin ㊦ 受くるに値せざる者に施す。
 apātra-bhṛt ㊦ 無價值なるものゝ支持者, 受くるに値せざる者を愛撫する者。
 apātra-varṣaṇa ㊦ 價值なき者に施すこと [雨を降らす=施す]。
 apātra-varṣin ㊦ 價值なき者に施す [雨を降らす=施す]。
 apātri-karaṇa ㊦ 人をして價值なからしむる。㊦ = apātra-kṛtyā。
 apātri-BHū, (圖)に對し無資格となる (*Jāt-m.*)
 apātri-bhūta ㊦ ㊦ 非(法)器 *Sikṣ.*
 a-pāda ㊦ 脚なき; 音律なき; ㊦ 無足 *Mvyut.*
 a-pādaka ㊦ 足なき; ㊦ 無足 *Abh-vy.*
 apādāna ㊦ 分離(の後残れるもの), 根元; 從格の概念(㊦)。
 apān (apa-An) apāniti, apānati. → *An.*
 apāna ㊦ 下息 [生氣の一]; 肛門; ㊦ 出息, 出氣 *Abh-vy., Mvyut.*
 a-pāniya ㊦ 飲料水なき; ㊦ 無水 *Saddh-p.*
 apā-Nud (apa-ā-Nud), → *Nud.*
 apānṛta ㊦ 過受分 虚偽なき, 眞なる。
 apānodgāra (°na-ud°) ㊦ 屁。
 apāntaratama ㊦ [聖仙の名]。
 a-pāpa ㊦ 邪惡ならざる; 善の, 罪なき。
 apāpa-cetas ㊦ 善心の, 罪なき。
 apāpa-darśin ㊦ [同上]。
 apāmārga ㊦ [植物の名, 學名 *Achyranthes Aspera*, 眞・呪・藥・供養に用ゐらる]; ㊦ 牛膝 共雜。
 apā-mārjana ㊦ 清潔にすること; 引留むること; 除去 (病その他の凶事の)。
 apām-pati ㊦ 水の主; 海; [*Varuṇa* 神]。
 apāya ㊦ 出發, 遠ざかること; 結末, 終末; 頽廢; 傷害, 損失, 危險; 縮少; 犯罪; ㊦ 險, 險穢; 罪, 罪惡; 惡道, 惡趣, 惡處, 三塗 *Kāśy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Rāṣṭr., Daś-bh., Divy., Lal-v., Sam-r., Sikṣ., Sūtr., Mañj-m., Madhy-v., Cat-ś., Abh-vy., Bodh-bh.*
 apāya-gati ㊦ ㊦ 惡道, 惡趣 *Gaṇḍ-vy.*
 apāya-gamana ㊦ ㊦ 墮惡道, 趣向惡道 *Sikṣ.*
 apāya-gāmin ㊦ ㊦ 墮惡道, 趣向惡道 *Sikṣ.*

apāya-durgati-vinipāta ㊦ ㊦ 險惡趣 *Bodh-bh.*
 apāya-patha ㊦ ㊦ 惡道, 惡趣 *Suv-pr., Sikṣ., Lal-v.:* ~āni trīni 三惡趣 *Suv-pr. 54.*
 apāya-bhūmi ㊦ ㊦ 惡趣, (三)惡趣, 地獄 *Suv-pr., Sam-r., Bodh-bh.*
 apāya-mati ㊦ ㊦ 暴惡 *Sikṣ.*
 apāya-samvartaniya ㊦ ㊦ 招惡趣, 能感惡道, 應感惡趣 *Vajr-pr., Abh-vy.*
 apāya-saṃdarśana-ja ㊦ 無益なる手段の表示より起れる。
 apāya-sthāna ㊦ ㊦ 惡處; 滅業(?) *Mvyut.*
 apāyin ㊦ 缺乏する, 不足する; 去る, 出發する; 消滅する; 死滅する。
 apāyopapatti (°ya-up°) ㊦ ㊦ 生惡趣 *Bodh-bh.*
 apāyopapanna (°ya-up°) ㊦ ㊦ 生惡趣, 生惡趣者 *Bodh-bh.*
 a-pāra 1. ㊦ 此方の岸; ㊦ 此岸 *Mvyut.*
 a-pāra 2. ㊦ 對岸なき, 岸なき; 限られざる, 無限の
 a-pāraṇiya ㊦ 越え難き, 到達し難き, 打ち克ち難き, 遂行し難き。
 a-pāra-pāra ㊦ (人生の)無限の海を越ゆる; 到達し難き遙かなる岸の (*Buddh-c.*)
 a-pāramitā ㊦ ㊦ 非彼岸到; (音)非(般若)波羅蜜多 *Vajr-pr.*
 a-pārayat ㊦ 現分 (於, 不定)する能はざる。
 a-pārājikiya ㊦ ㊦ [*apārājikya*] ㊦ 清淨無罪, 清淨無犯 *Prāt-m.*
 a-pārima ㊦ ㊦ 此 *Gaṇḍ-vy.:* ~e tīre 此岸 *Gaṇḍ-vy. 351.*
 a-pāruṣya ㊦ ㊦ 捨惡惡言 *Sam-r.*
 apārtha ㊦ 無用の; 無意義の; 何等の目的なき; ㊦ 無利, 無用 *Bodh-bh., Sāṃkhy-k.* → *artha.*
 apārthaka ㊦ (㊦ -ikā) 無價值の, 無用の; ㊦ 無用, 唐捐, 非義利, 無有正用 *Sāṃkhy-k., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*
 a-pārthiva ㊦ 地上に非ざる, 天上の。
 a-pāla ㊦ 護衛者又は保護者なき; 牧人なき。
 a-pālayat ㊦ 現分 保護せざる。
 apālā ㊦ [*Atri* の娘の名]。
 apā-Vṛ (apa-ā-Vṛ) apāvṛṇoti, apāvurīyati(1.) (㊦ *Mah-v. II. 158.*) → *Vṛ* 1.
 apā-Vṛt (apa-ā-Vṛt), → *Vṛt.*
 apā-vṛt ㊦ 妨げられざる, 束縛せられざる。
 apā-vṛta ㊦ 過受分 閉ぢられざる, 開かれたる。 → *Vṛ* 1. ㊦ 開, 開示, 開發 *Divy., Sam-r., Lal-v., Mvyut.*
 apā-vṛtta ㊦ 過受分 → *Vṛt.*
 apāśraya (apa-āś°) 1. ㊦ 支柱, 支持; 柵; (椅子の) 背部, その上に頭を載する臥床の上部; ㊦ 近, 依; 臥; 靠背 *Mvyut.* → *kaṇṭhaka* ~, *bhasma* ~ *satpuruṣa* ~。
 apāśraya (apa-āś°) 2. ㊦ 助なき, 缺けたる。
 apāśrayaṇa (apa-āś°) ㊦ (物に)凭ること; ㊦ [*Pāli. apassena*] 依 *Mvyut.*
 apāśrayavat ㊦ (具)に支持を受くる。

apāśrayin 形 (一°)に支持又は依處を有する。
apā-Śri (apa-ā-Śri) apāśrayati(-te). → Śri.
apā-śrita 過受分 → Śri.
a-pāṣaṇḍa 形 異教ならざる。
apās (apa-As) apāsyati(2), apāsyate(2)(受), apāsyā(2)(不變分). → As 1, 2.
apā-Sr (apa-ā-Sr), → Sr.
apāsta 過受分 投げられたる; 追はれたる; 運び去られたる; 捨られたる; 顧られざる; 侮られたる; 漢譯 棄背, 棄捨 *Abh-vy.*
apā-Sthā (apa-ā-Sthā), → Sthā.
api 前 [於と俱に或は °—] に於て, の内に, 近く (因).
 副 亦, 同様に; さへも; されど, 尙ほ; ……と推測せらるゝ, 恐らくは (*Jāt-m.*); 漢譯 亦, 又, 復; 等; 但, 然而, 雖, 雖有; 尙; 皆, 皆共; 或; 暫; 乃至…亦復 *Aṣṭ-pr., Nyāy-pr., Bodh-bh., Abh-vy.*:
 ~ ekatyah 雖然, 或曰 *Mvyut.*; śrotrāvabhāsam
 ~ āgamisyati 但聞, 暫聞 *Aṣṭ-pr. 459.*
 [否と俱に] ……さへも. **na ca** ~, ……さへも……せず.
 [疑を不定ならしむ] **ko** ~, 誰か.
 [數と俱に] 總て, 全部: catvāro ~ 四全部.
 [文章の始に在りては疑問辭となる].
 [條と俱に] 嗚呼……とは.
 ~……も……も; ……の如く……も亦た (*Jāt-m.*); 漢譯 一者……二者 *Bodh-bh.*
 ~ **eva**, 恐らくは (*Divy.*).
 ~ **ca**, ……も……も.
na kevalam ……も, 啻に……のみならず亦.
 ~ **ca, ca** ~, 加之, 同様に; 漢譯 尙, 復, 復次, 雖, 雖則 *Bodh-bh., Mvyut.*
ye ~……**te** ~, ……なる彼等も亦.
 ~ **vā, vā** ~, 或は……さへも.
na…na ~, ……にもあらず又……にもあらず.
 ~ **tu**, されど, されど尙ほ; 漢譯 又, 雖, 雖……而…… *Bodh-bh.*
 ~ **khalu** 漢譯 又, 復次 *Abh-vy.*
 ~ **tu khalu punah** 漢譯 然, 復次 *Aṣṭ-pr.*
 ~ **tāvat** 漢譯 尙 *Bodh-bh.*: na ~ tāvat ……尙難…… *Bodh-bh. 15.*
 ~ **nāma**, [文頭にて] 恐らくは.
 ~ **nu**, [排斥する意味] 全く然らず (*Prajñ-vy.*); 漢譯 但, 不 *Vajr-pr., Aṣṭ-pr.*
yadi ~, たとひ.
tathā ~, 然れども; 漢譯 雖然 *Mvyut.*
api-Gam, → Gam.
api-guṇa 形 勝れたる, 完全なる.
a-pit 形 乾ける.
a-pitr 男 父に非ざる者.
a-pitr-jña 形 漢譯 不識父, 不孝父, 不忍 [= 認] 父 *Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.*: amātrjñānām ~ ānām 不孝父母 *Gaṇḍ-vy. 353.*
a-pitr-devatya 形 祖靈を神と崇めざる.
a-pitrya 形 相續せざる, 父方ならざる, 父祖傳來ならざる.

apitva 中 參與, 分前; 同棲.
api-DHā apidadhāti. → DHā.
a-pidhāna 1. 形 覆ひなき, 裸の.
api-dhāna 2. 中 被覆; 蓋; 錠; 門.
api-naddha 過受分 → Nah.
api-Nah, → Nah.
api-Ni, → Ni.
api-nita 過受分 → Ni.
a-pipāsa 形 渴を覚えざる; 欲望なき.
a-pippalāda 形 無花果を食はざる; 感覺的快樂に耽らざる.
api-Bandh, → Bandh.
api-BHū, → BHū.
api-Mṛṣ apimṛsyate. → Mṛṣ.
api-Rip, → Rip.
api-ripta 過受分 → Rip.
api-Vat, → Vat.
api-vāṭayat, [Vatの現分便役].
api-Vṛ, → Vṛ 1.
api-Śas, → Śas.
api-śasas 從不定 [purāと俱に] 切り取ることなく.
a-piśāca 形 Piśāca より免れたる, Piśāca の居らざる.
api-hita 過受分 → DHā 1.
api (api-I) apyeti. → I.
api 形 → apya.
apicya 形 秘密の, 隠れたる.
a-piḍana 形 (女-i) 苦しめざる, 苦痛なき, 苦しからざる, 無害の (*Jāt-m.*).
a-piḍayat 現分 盡くることなき, 疲るゝことなき; 害ふことなき, 破ることなき (*vrātam, dharmam.*)
a-piḍā 女 害せざる, 傷けざる. ~ **ayā** 其 副 支障なく.
a-piḍita 過受分 壓迫せられざる, 挫られざる; 害せられざる.
apīta 1. 過受分 [I] (業)に入りたる; 合一したる.
a-pīta 2. 過受分 [Pā] 飲まれしことなき.
apiti 女 溶解; 消滅, 没入.
a-puṁś-caliya 形 娼婦の子ならざる.
a-puṁs 男 非男, 去勢者.
a-puṁstva 中 [同上 抽]; 漢譯 黃門事 *Abh-vy.*
a-puṇya 形 善徳なき, 不淨なる. 中 漢譯 罪, 非福 *Lank., Madhy-v., Bodh-bh.*
apuṇya-kṛt 形 不正なる.
apuṇya-parigraha 形 漢譯 攝非福 *Bodh-bh.*
apuṇya-bhāj 形 不幸なる.
a-puṇyavat 形 [同上].
apuṇya-śīla 形 [同上].
apuṇyopaga (°ya-up°) 形 漢譯 非福近行, 非福行, 近非福行 *Mvyut.*; 罪行 *Madhy-v.*
a-putra 男 子ならざること, 子なきこと. 形 子なき; 漢譯 絶無繼嗣 *Divy.*
a-putraka 形 子なき.
a-putrika 男 男子を生まざる爲養女たる資格なき娘の父.
a-putrin 形 = aputraka.

a-putriya 形 [同上].
 a-putrya 形 [同上].
 a-punaḥ-kāryatva 中 無復所作, 更無所作, 更不作 *Daś-bh.*
 a-punaḥ-pratigrahaṇa 中 不還攝受 *Bodh-bh.*
 a-punaḥ-pratyāgamana 中 不退還 *Bodh-bh.*
 a-punar 副 一回のみ, 今度限り; 無復, 不終 *Bodh-bh.*
 apunar-ārambha 男 不更造, 非復共造 *Lank.*
 apunar-āvṛtti 女 (生存又は輪廻よりの)最後の解脱.
 apunar-āvṛttitā 女 不復退還, 不復退轉 *Daś-bh.*
 a-punar-ukta 形 過多の或は餘分の繰返しなき; 飽かしめざる. 中 過多の繰返しを爲さざる事.
 a-punar-ukti 女 [同上 (中)].
 apunar-unmilana 形 再び眼を開くことなき.
 apunar-janman 形 再生せざる.
 apunar-nivartin 形 不歸の.
 apunar-nivṛtti 女 再歸せざる事.
 apunar-bhava 男 (病氣等の)再發せざる事; 再生せざる事; 解脱. → punar-bhava.
 apunar-bhāvin 形 再び起らざる, 再生せざる; 最後の.
 apunar-mṛta 中 再び死せざる事.
 apunar-vṛtti 女 不歸.
 a-punāgamana 中 [音律, = apunar-āgamana]; 不返, 不復現 *Sikṣ.*
 a-puruṣa 形 男らしからざる; (*Yama* 神の)殘酷なる従者又は従僕 (*Jāt-m.*); ~yā striyā mārga-gamaṇam 與無男子女人行道 *Mvyut.*
 a-puruṣāparādha 男 (委託物を保管する)人に過失なき事.
 a-purohita 形 *Purohita*を缺ける.
 a-puṣkala 形 適用し難き; 優秀ならざる, 卑しき.
 a-puṣpa 形 花なき.
 a-pūjita 過受分 尊敬せられざる.
 a-pūjya 未受分 尊敬せらるまじき.
 a-pūta 過受分 淨められざる; 不淨なる.
 a-pūtika 形 不壞 *Sikṣ.*
 apūpa 男 菓子; 蜜蜂の巢; 小麥; 菜, 煤食 *Bodh-bh., Mvyut.*
 apūpaka 男 菓子.
 apūpa-śālā 女 菓子製造所.
 apūpikā 女 菓子.
 a-pūra 形 満足せられざる, 醫せられざる (渴).
 a-pūraṇa 形 足ることを知らざる.
 a-pūrṇa 過受分 満たざる, 不完全なる, 不足せる; (具)によりて減ぜられたる. 中 不完全數; 分數.
 a-pūrṭi 女 (願望の)満たされざる事.
 a-pūrya 未受分 満たされざる, 満足せられざる.
 a-pūrva 形 先例なき, 新しき; 非常なる, 無比なる; 無前, 非前, 除前, 未曾, 先未有, 未曾有, 先未曾有, 昔所未曾見; 奇哉 *Saddh-p., Bodh-c., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千.* ~m ājñeyam 未曾知, 先未曾知 *Abh-vy. 102.*; ~m ācaramam 無前後 *Mvyut.* 具 未だ曾て...なき; 直に (*Divy.*).

a-pūrvaka 形 初 *Saddh-p.*
 a-pūrvatā 女 新しきこと, 新奇, 未だ曾てなきこと; 無比なる事.
 a-pūrvatva 中 [同上].
 apūrva-darśana 形 曾て見られざる.
 apūrva-dharma 男 未曾有法 *Saddh-p.*
 apūrvācarama 形 非前非後 *Mvyut.* ~m 副 一時, 非前非後 *Ast-pr.*
 apūrvāpara 形 俱時, 無前後 *Madhy-vibh.*
 a-pūrvin 形 未だ曾て爲さざる.
 a-pūrvya 形 最初の; 無比なる.
 a-pṛṇat 形 與へざる, 吝嗇なる.
 a-pṛthaktvin 形 分離すべからざる.
 a-pṛthag-āśraya 形 (因)以外に依處なき, それのみを依處とせる.
 a-pṛthag-darśana 形 (因)の間に相異或は差別を認めざる.
 a-pṛthag-bhūta 形 異らざる, 同一なる.
 a-pṛthātmaja (thā-āt) 形 *Yudhiṣṭhira* 或は *Arjuna* を缺ける.
 a-pṛṣṭa 過受分 問はれざる, 質されざる; 不請 *Bodh-bh.* ~e 因 問はれざりしときに.
 ape (apa-I) apaiti, apāyati. → I.
 apekṣ (apa-Īkṣ) apekṣate, apekṣya (不變分). → Īkṣ.
 -apekṣa 形 顧; 觀, 觀察; 待, 相待 *Lank., Abh-vy., Bodh-bh.* → an~.
 apekṣaṇa 形 眺むる, 留意する, 豫想する. 中 =apekṣā; 待, 觀 *Abh-vy.*; ~° 依, 相待 *Lank.*
 apekṣaṇiya 未受分 考へらるべき, 見做さるべき; 期待・希望或は要求せらるべき.
 apekṣatā 女 顧戀, 吝惜 *Bodh-bh., Gand-vy.*
 apekṣā 女 見廻すこと; 注意, 思考, 顧慮; 期待; 所要; 觀, 待, 觀待, 所待; 求; 顧念, 顧憫, 悲戀, 顧戀, 憐愍, 顧戀不捨; 敬 *Lank., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., 梵千.* → an~, nir~a. ~ayā 具 ...に就て, に比較して.
 apekṣā-citta 形 悲念, 顧念, 與悲戀心 *Bodh-bh.*
 apekṣā-buddhi 女 相對的なる觀念; 配列又は組織の能力; 聰明なる悟性.
 apekṣā-hetu 男 觀待因 *Bodh-bh.*
 apekṣita 過受分 故意の; 熟考せられたる; 参照せられたる; 期待或は欲求せられたる; 觀, 相待 *Lank.* 中 欲求, 目的, 仕事.
 apekṣitatā 女 期待.
 apekṣitatva 中 必要; 待望.
 apekṣin 形 注意する; 待てる; 顧, 觀待 *Sūtr., Bodh-bh.*
 apekṣya 1. 未受分 注意せらるべき; 對待 *Sikṣ.*
 apekṣya 2. 不變分 ...に就て, ...に關して.
 apej (apa-Īj) apejate. → Īj.
 apeta (apa-ita) 過受分 → I. 除, 捨, 離 *Divy., Abh-vy., Sūtr.*
 apeta-prāṇa 形 死せる.
 apeta-bhi 形 恐なき.
 apetaśa (°ta-āśa) 形 更に欲する所なき.

a-peya (未受分) 飲まれざる; 飲むことを禁ぜられたる。
a-pelava 形 柔和ならざる, 粗野なる。
a-paiśuna 甲 誹謗なきこと; 密告せざること。
a-pogaṇḍa 形 未成年ならざる, 十六歳以上の。
apodha (apa-ūḍha) (過受分) → Vah. 〔漢譯〕 違 *Abh-vy.*; 離 *Mvyut.*; —° 無 *Nyāy-pr.*
apot-Srj (apa-ut°) apotsrjati. → Srj.
apod-I (apa-ud-I), → I.
apoddhṛta (apa-ud°) (過受分) [Dhṛ] 〔漢譯〕 拔, 拔除 *Abh-vy.*
apornu (apa-Ūr°) apornoti, apornute, apornauti. → Ūrnu.
apoh (apa-Ūh) apohati. → Ūh 1.
apoha (apa-ūha) 男 放逐, 除去; 退去; 戦; 推論, 議論; 否定; 〔漢譯〕 離, 消除 *Mvyut.*
apohana 形 除く, 放逐する。 甲 除去, 追放; 否定。
apoha-siddhi 女 [佛典の名]。
apohya 形 驅逐せらるべき, 遠ざけらるべき。
a-paurādara(ra-ād°)- 形 市民を煩はすことなき。
a-pauruṣa 甲 人間的ならざる行爲, 超人性; 男らしからざること。 形 超人的なる; 男らしからざる。
a-pauruṣeya 形 人爲に非ざる, 人に由來せざる, 人間的ならざる; 超人的の; 〔漢譯〕 非人所作 *Mvyut.*
a-paurṇa-māsa 形 新月祭なき。
a-pauṣkalya 甲 未熟, 未發達。
ap-kṛtsna 甲 〔佛敎〕 水を介して構成する深き冥想; 〔漢譯〕 水遍(處定) *Gaṇḍ-vy.*
apkṛtsnāyatana (°na-āy°) 甲 〔漢譯〕 水遍處 *Mvyut.*
ap-cara 男 水棲動物。
aptur 形 [唯だ 男の 單 複] apturam, apturas のみ] 活潑なる, 忙しき; 勝利の。
aptor-yāma 甲 [Soma 祭の一種]。
aptor-yāman 甲 [同上]。
aptya 形 水氣ある, 水の。
aptva 甲 〔漢譯〕 水性 *Sikṣ.*
apnas 甲 財産, 富; 仕事, 供養の行爲; 子孫; 形。
ap-pati 男 水の主, [Varuṇa 神]。
apya 形 (女 -ā 又は api) 水中にある, 水より生ずる, 水に屬する。
apyaya (api-aya) 男 接合; (河の)流出; 入ること; 消失; 終末。
apy-As apyasti. → As 1.
apy-Ūh, → Ūh 2.
a-prakaṭa 形 明かならざる, 表明せられざる。 ~m 副 認めらるゝことなく, 氣付かるゝことなく。
a-prakaṭi-kṛta 形 明かにせられざる。
a-prakampa 形 揺れざる, 確乎たる; 答へられざる, 反駁せられざる。
a-prakampita (過受分) 〔漢譯〕 不動 *Saddh-p.*
a-prakampin 形 揺れざる; 確乎たる; 〔漢譯〕 不揺動 *Suv-pr.*
a-prakampya (未受分) 戰慄せしめられざる; 震動せしめられざる; 〔漢譯〕 不動, 無動, 不能動 *Bodh-c., Mvyut.*
aprakampya-citta 甲 〔漢譯〕 無動心, 不動心 *Aṣṭ-pr.*
a-prakāra 形 [Samādhi の名]; 〔漢譯〕 無種類 *Mvyut.*

a-prakāśa 形 明かならざる, 暗き; 見えざる, 隠れたる, 祕密の。 ~m 副 祕密に。 男 不明瞭, 暗黒。
a-prakāśat (現分) [Kās] 見えざる。
a-prakāśana 甲 表示せられざること, 顯現せざること。
a-prakāśita (過受分) 明かにせられざる, 現はれざる。
a-prakirṇa-vacana 形 〔漢譯〕 不雜語言, 語不喧雜 *Aṣṭ-pr.*
a-praketa 形 識別し難き; 形なき。
a-prakṣāla 形 沐浴せざる。
a-prakṣepa 形 〔漢譯〕 未放 *Mvyut.*
a-prakhyatā 女 有名ならざること, 名聲なきこと; 威嚴ある外貌を缺けること。
a-prakhyāti 女 知られざること, 感覺せられざること。
a-pragalbha 形 傲慢ならざる, 謙讓なる; 卑怯なる, 臆病なる。
a-pragādha 形 浅からざる, 深き (*Divy.*)
a-pragṛhya 形 pragṛhya と名けられたる母韻なき。
a-pracarita (過受分) 〔漢譯〕 不行, 無行 *Lank.*
apracarita-pūrva 形 〔漢譯〕 未曾行, 本來無有諸行 *Lank.*
apracarita-sūnyatā 女 〔漢譯〕 無行空, 不行空 *Lank.*
a-pracāra 男 出現せざること; 〔漢譯〕 離, 滅 *Lank.*
a-pracetas 形 賢からざる, 思慮なき。
a-pracodita 形 希望せられざる; 命ぜられざる; 要求せられざる; 告知せられざる。
a-pracchāya 形 蔭なき (*Jāt-m.*)
a-pracyuta (過受分) 震へざる; 動かざる; (従)より外れざる, ……に従ふ。
a-praja 形 子なき, 生まざる。
a-prajajñi 1. 形 無知なる。
a-prajajñi 2. 形 出産力なき。
a-prajana 形 生まざる。
a-prajanatva 甲 [同上 抽]。
a-prajas 形 子なき。
a-prajastā 女 子なきこと。
a-prajasya 甲 [同上]。
a-prajāna 形 〔漢譯〕 不知, 不能知 *Lank.*
a-prajānat (現分) 〔漢譯〕 未識, 不識, 不解, 不信 *Sam-r., Sikṣ.*
a-prajāyat (現分) 生まざる。
a-prajāna 形 認めざる, 知らざる; 〔漢譯〕 無智惠 *Sikṣ.*
a-prajñapti 形 〔漢譯〕 非施設, 非假名, 非假立 *Lank.*
a-prajñāta (過受分) 認められざる, 知られざる。
a-prajñānatas 副 〔漢譯〕 不知, 不能知 *Lank.*
a-praṇaya 男 情愛の缺乏, 冷淡。
a-praṇayin 形 好まれざる, 世話せられざる。
a-praṇāśa 男 消失せざること; 死滅せざること; 〔漢譯〕 不壞 *Bodh-bh.*
a-praṇidhāna 形 〔漢譯〕 不願, 非願, 無願 *Bodh-bh., Lank.*
a-praṇihita (過受分) 欲望を離脱せる (*Sukh-vy. I.*); 〔漢譯〕 無願 *Daś-bh., Aṣṭ-pr., Lal-v., Sikṣ., Lank., Dharm-s., Mvyut.*

apraṇihita-gatika 形 無願趣、以無願爲趣 *Aṣṭ-pr.*
a-praṇita 神聖ならざる、祭壇に運ばれざる、世俗的なる。 神聖なる水を用ひずして酥油を焼くこと。
a-praṇodya 未受分 拒絶せらるまじき。
a-pratapta 過受分 熱せられざる；冷却せる。
a-pratarkya 未受分 論ぜらるまじき；推理に依て理解せられざる；定義せられざる；想像せられざる；(運命の)知られざる。
a-pratāpa 男 光輝の缺乏；鈍なること；卑賤、威厳なきこと。
a-pratāpin 形 威力なき、威厳なき；鈍き、平凡なる。
a-prati 形 敵なき、對抗し難き；無與等 *Aṣṭ-pr.* 對抗し難く。
apraṭi-karman 形 比類なき行爲の。
a-pratikāṅkṣin 形 期待せざる、希望せざる (*Lal-v.*)
a-pratikāra 形 癒されざる、救はれ難き。
a-pratikārya 未受分 [同上]。
a-pratikurvat 現分 返報又は報償をなさざる。
a-pratikūla 形 (圓)に抵抗せざる；頑固ならざる；(因)の準備ある；従順なる；無逆；無厭、無厭足；可愛、衆所樂 *Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*； ~o *darśanaḥ* 観者無厭 *Mvyut.*
a-pratikūla-kṛt 形 反抗せざる。
a-pratikūlayat 形 [同上]。
a-pratikūla-vāda 形 反対せざる、異議を唱へざる。
a-pratikṛta 過受分 対策の講せられざる、それにして何事も爲されざる。
a-pratikriya 形 治癒し難き (*Jāt-m.*)
a-pratikrudhyat 現分 (業)に對し再び怒らざる。
a-pratikrūra 形 冷酷・薄情を以て報いることなき。
a-pratikrośat 現分 助を求めざる (*Jāt-m.*)
a-pratikṣipta 過受分 不誹謗 *Bodh-bh.*
a-prati-gaja 形 それに匹敵する象なき。
a-pratigata 過受分 面會に往く能はざる。
a-pratigupta-bhojin 形 無隱費 *Bodh-bh.*
a-pratigṛhya 形 その人より何物も受くべからざる。
a-pratigrahaṇa 中 受納又は受理せざること；拒絶；娶らざること。
a-pratigrāhita-bhukti 女 不受食 *Mvyut.*
a-pratigrāhya 未受分 受納せられざる。
a-pratigha 形 抗し難き；征服せられざる；無對、非對治；無礙；無有勝者 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Sikṣ., Mvyut.*
a-pratighatva 中 無對、無礙 *Abh-vy.*
a-pratighavat 形 無對、無障礙 *Abh-k.*
a-pratighāta 過受分 妨げられざる。 男 妨げられざること；無礙 *Abh-vy.*
-a-pratighātītā 女 無礙 *Aṣṭ-pr.*
a-pratijalpat 現分 答へざる。
a-pratijñā 女 (於)に對して不同意なること。
a-pratijñāna 形 不了 *Lank.*
a-pratidvandva 形 征服せられざる；對抗者なき、匹敵する者なき；論難の餘地なき。
a-pratinandat 現分 (業)を知らんと欲せざる。

a-pratinandita 過受分 (具)に排斥・拒絶せられたる。
a-pratinirvartin 形 不退、不退還 *Mvyut.*
a-pratipatti 女 了解せられざること、不確實、熟知せざること；躊躇；當惑；不了 *Madhy-v.*
a-pratipadyamāna 現分 自 (業)に同意せざる。
a-pratipanna 過受分 確められざる、成就せられざる。
a-pratipādana 中 抑制、抑留。
apraṭi-pudgala 形 無對補特伽羅(音譯) *Mvyut.*；無與等、無等倫、無等者 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Gaṇḍ-vy.*；佛世尊 *Divy.*
a-pratipūjita 過受分 尊ばれざる、供養せられざる。
a-pratipūrṇa 過受分 未滿、未具足、未能具足 *Aṣṭ-pr.*
a-pratiprasārabdha 過受分 無盡；無間斷、恆不斷絕；常無休息、未曾休息 *Gaṇḍ-vy.* → *a-pratiprasārabdha.*
a-pratiprasārabdhi 女 無斷絕；不休息、無有休息 *Gaṇḍ-vy.*
a-pratiprasārabdha 過受分 不捨；永續不息、無休息、無有休息、暫無休息、勤行不息；無有懈怠、無暫懈怠、未曾退失 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Mvyut.* → *apratiprasārabdha.*
apratiprasārabdha-mārga 形 履道不息 *Mvyut.*
a-pratiprasārabdha 形 無有休息 *Gaṇḍ-vy.*
a-pratibaddha 過受分 遠方に留め置かれざる；從者に屬する。
a-pratibandha 男 障礙なきこと；無隔、相通無隔 *Abh-vy.* 形 妨げられざる、異議なき；直接の(相續)；假定的ならざる。
a-pratibala 形 (その事に)堪へざる；(その人に)匹敵する者なき；無力、力少、力微劣、無氣力、無力能、無有勢力、怯弱；未具足 *Kāśy., Bodh-bh., Sikṣ.*
a-pratibuddha 過受分 覺めざる；覺らざる、愚かなる。
a-pratibodha- 副 覺めしむることなく。
a-pratibodhana 中 覺知せざること。
a-pratibha 形 謙遜なる、内氣の。
a-pratibhaṭa 形 抵抗せられざる。
a-pratibhā 女 不現、不在、不到；内氣、憶病；不適當；狼狽。
a-pratibhinna 過受分 不可分布、無能破壞 *Saddh-p.*
a-pratibheda 男 暴露せざること。
a-pratima 形 無比の；無等倫、無待對；妙 *Saddh-p., Aṣṭ-pr., Rāstr.*
apratima-lakṣaṇa 中 無待對相 *Aṣṭ-pr.*
a-pratimalla 形 無敵なる。
a-pratimāna 形 無比の。
a-pratimukta 過受分 許されざる、解放せられざる。
a-pratimūlya 形 價直無量 *Sapt-pr.*
a-pratimeya 未受分 無比の。
apratimaujas (°ma-oj) 形 無比の威勢ある。
a-pratīyatna-pūrva 形 人爲的に生ぜられざる、自然の。

a-pratīyogitva 甲 [同下 抽].
a-pratīyogin 形 (一°)に矛盾せざる; 相關的ならざる.
a-pratīyodhin 形 對抗し得る者なき, 無敵の.
a-pratīratha 形 比類なき. 男 [聖仙の名].
a-pratīrūpa 形 對比すべきものなき; 無比の; 相當せざる; 不愉快なる; (屬)に不適當なる; 不対; 不合儀物; 最尊, 豪尊 *Sapt-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*
a-pratīrūpatā 女 非法 *Bodh-bh.*
a-pratīrūpya 甲 無比, 無類.
a-pratīrodha 形 無違 *Mvyut.*
apratī-lakṣaṇa 形 無與等相 *Aṣṭ-pr.*
a-pratīlabdha 過受分 未所得, 未得, 不得, 不可得 *Sikṣ.*, *Lank.*, *Mvyut.*
apratīlabdha-pūrva 形 未曾有, 先未曾有, 先來所未得 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*
a-pratīlinā 女 覆はざる (*Lal-v.*).
a-pratīvartana 甲 再歸せざること; 再現せざること; 再び展開せざること.
a-pratīvāṇi 形 [apratīvāṇi(?). *Pāli.* appatīvāṇi. appatīvāṇiya 參照] 妨げられざる, 抵抗すべからざる (*Divy.*, *Mah-v.*); 不退後 *Mvyut.*
a-pratīvādin 形 反駁せざる, 言ひ逆らはざる.
a-pratīvidhāna 甲 手段を講ぜざること; 人爲を用ゐずして.
a-pratīvidhi 形 [同下].
a-pratīvidheya 未受分 抗爭せらるまじき.
a-pratīvindamāna 現分 (業)を知らざる.
a-pratīvirata 過受分 遠ざけざる, 制せざる; 不棄, 再不棄 *Mvyut.*
a-pratīvirya 形 その力に匹敵する者なき.
a-pratīśaraṇa 形 無依, 無依止 *Daś-bh.*
a-pratīśāsana 形 他の權威に従はざる.
a-pratīśraya 形 避難處なき, 寄る邊なき.
a-pratīśikta 過受分 灌がれざる, 濡らされざる.
a-pratīśiddha 過受分 禁制せられざる; 非遮 *Abh-vy.*
a-pratīśedha 男 長對なきこと, 無敵なる反對; 不撥 *Abh-vy.*
a-pratīśedhita 過受分 妨げられざる, 禁止せられざる, 否定せられざる.
a-pratīśṭha 形 根據なき, 滅ぶべき, 不安定なる; 價値なき; 不住, 無住; 無所著, 無所染 *Gaṇḍ-vy.*, *Sūtr.*, *Lank.*
apratīśṭhā-dhyāna-vartana 形 (女 -i) 住無住靜慮 *Mvyut.*
a-pratīśṭhita 過受分 = a-pratīśṭha; 不住, 無住, 無所住 *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Vajr-pr.*, *Mvyut.*: ~o nirvāṇe 不住涅槃 *Mvyut.*
a-pratīśṭhitatva 甲 [同上 抽]; 住無, 無住 *Abh-vy.*
apratīśṭhita-nirvāṇa 甲 無住處涅槃 *Mvyut.*
apratīśṭhita-mānasa 形 無住心, 心無所住 *Aṣṭ-pr.*
a-pratīsaṃyukta 過受分 不繫, 無繫屬; 非相應 *Abh-vy.*

a-pratīsaṃvedaka 形 不覺 *Lank.*
a-pratīsaṃvedana 形 不受, 無覺受 *Vijñ-v.*, *Bodh-bh.*
a-pratīsaṃvedin 形 不知, 不生 *Lank.*
a-pratīsaṃhārya 未受分 不攝受 *Bodh-bh.*
→ punar ~.
a-pratīsaṃhṛta 過受分 妨げられざる.
a-pratīsaṃkhyā-nibandhana 形 その原因の測り知られざる.
a-pratīsaṃkhyā 女 無觀察, 無意識, 無知覺; 思慮なきこと; 非擇 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
apratīsaṃkhyā-nirodha 男 非數滅, 非緣滅, 非擇滅 *Lank.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
a-pratīsaṃkhyāya 不娶分 不擇, 不由思擇 *Mvyut.*, *Bodh-bh.*: ~upekṣā 不知捨心欲無滅 *Dharm-s.*
a-pratīsaṃkhyeya-nibandhana 形 = apratīsaṃkhyā-nibandhana.
a-pratīsaṃdhi 女 再生せざること; 不相續; 無和合, 不相合; 不結生, 不投胎 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Mvyut.*
a-pratīsama 形 同等のものなき, 比肩すべきものなき (*Mah-v.*); 無等, 無等雙; 無比, 不可比; 無對 *Divy.*, *Daś-bh.*, *Sam-r.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~h kāyena 身不可比 *Mvyut.*
a-pratīsaraṇa 甲 = apratīśaraṇa; 無依, 無怙, 無依怙, 無依者, 無所歸蔭 *Bodh-bh.*
a-pratīsmṛta 過受分 不憶 *Divy.*
a-pratīhata 過受分 妨げられざる, 損せられざる, 敵し難き; 經過せざる; 無礙, 不礙, 無障礙, 離障礙, 無所障礙, 無有障礙; 無惱害, 無所危害; 滅瞋恚, 無恚礙, 無有瞋恚, 無瞋無恨; 不違逆; 無能過勝; 不退動; 不報, 不加報; 淨 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sukh-vy. II.*, *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*
apratīhata-citta 形 無礙心, 心無礙, 無障礙心; 無損心; 淨心 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Kāśy.*
apratīhata-cittatā 女 心不加報 *Sikṣ.*
apratīhata-netra 男 眼に障礙なき人; [天部の名] 無障礙(天子) *Lal-v.*
apratīhata-prabha 形 [Amitābha 佛の屬性] 無礙光, 無對光 *Sukh-vy. I.*
apratīhata-buddhitā 女 覺了無礙, 不生礙心 *Sikṣ.*
apratīhata-raśmi-rāja-prabha 形 [Amitābha 佛の屬性] (*Sukh-vy. I.*).
apratīhata-lakṣaṇa 甲 無障礙相, 離障礙相 *Aṣṭ-pr.*
a-pratīhārya 未受分 抵抗せられざる.
a-pratīkāra 形 抵抗せざる; 不治の.
a-pratīkārya 未受分 治癒せらるまじき, 治癒せざる.
a-pratīghāta 形 抵抗せられざる.
a-pratīta 過受分 抗し難き; 不可解の; 喜ばしからざる, 悲しき; 未了義 *Nyāy-pr.*
a-pratīti 女 明瞭なる觀念又は理解の缺乏; 疑惑, 信賴の缺如.
a-pratītya-samutpanna 形 不從緣生, 不從

因生 *Laṅk.*

- a-pratisatā** 女 無崇, 無自在 *Abh-vy.*
a-prattā (通受分) [Da] 女 未婚の娘, 少女.
aprattāprahutāda 形 他人に與へず或は神に供へずして食せる.
a-pratyakṣa 形 見えざる. ~m 副 不在時 *Divy.*: tāsām ~ 伺人不在時 *Divy.* 197.
a-pratyakṣita (通受分) 自己の眼にて見られざる.
a-pratyaniya (未受分) 不信受 *Saddh-p.*
a-pratyaya 男 不信用, 疑惑; 不信 *Bodh-bh.*; 非縁 *Laṅk., Madhy-v.* 形 (因)を信用せざる; 疑を生ぜしむる.
a-pratyākhyāyin 形 拒絶せざる.
a-pratyākhyeya (未受分) 拒絶せらるまじき; 否定せられざる; 不治の.
a-pratyutthāyin 形 恭しく席を立たざる.
a-pratyudāvartanatā 女 不退, 不退轉 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*
a-pratyudāvartaniya (未受分) 不退轉, 不生退屈, 不能迴遮者 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
a-pratyudāvartya (未受分) 不退, 無還, 不轉, 不退轉, 不可轉, 無退轉, 不廻轉, 無轉易, 無有退轉 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Mvyut.*
apratyudāvartya-dharma 形 不可轉法, 具不退法, 具法無還 *Mvyut.*
a-pratyuddhārya (未受分) 不可救濟 *Mvyut.*
apratyuddhārya-paribhoga 男 不令還而受用 *Mvyut.*
a-pratyupakārākāṅkṣa (°ra-āk°) 形 利益不望報, 不望報 *Mvyut.*
a-pratyupasthāna 甲 不現在前 *Bodh-bh.*
a-pratyūha 形 妨げられざる.
a-pradakṣiṇam 副 左方へ.
a-pradāna 甲 不與, 不施.
a-pradānavat 形 寛大又は鷹揚ならざる; 與へざる, 貪欲なる.
a-praduṣṭa (通受分) 腐敗せしめられざる.
a-pradeśa-stha 形 不信方所 *Mvyut.*
a-pradhāna 形 從位の, 下位の, 二次的の. 甲 女 隨伴者, 從屬關係にある者 [例 putreṇa saḥāgataḥ pitā 父は子と俱に來れり]の文中, putreṇa なる具格は saha と俱に用ゐられ, 隨伴者なることを示す].
a-pradhānatā 女 從屬的位置, 下位.
a-pradhānatva 甲 [同上].
a-pradhṛṣya (未受分) 攻撃せられざる, 害し得ざる.
a-pranaṣṭa (通受分) 不壞 *Bodh-bh.*
a-prapañca 形 無戲論, 無遊戲 *Aṣṭ-pr., Sūtr., Mvyut.*
a-prabuddha (通受分) 覺めざる; 開花せざる; 愚, 愚闇 *Buddh-c.*
a-prabodhitā 女 目を覺まさざること, 遅く目覺むること.
a-prabhava 男 (因)の本源又は原因に非ざること.
a-prabhāta (通受分) 未だ夜の明けざる.
a-prabhātā 女 [同上]; 未曉 *Divy.*

- a-prabhāva** 形 不可能なる, 無力なる.
a-prabhāvatva 甲 [同上].
a-prabhinna (通受分) 未だ發情せざる(象).
a-prabhu 形 (因)をなし得ざる. 男 (象)に通達せざること.
a-prabhutva 甲 [同上].
a-prabhūta (通受分) 不十分なる, 不適當なる.
a-pramatta (通受分) 不注意ならざる, 注意深き; 不放逸, 離於放逸; 無懈怠; 無亂雜; 止於愛欲 *Kāśy., Saddh-p., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh.*
a-pramattatva 甲 [同上].
a-pramada 男 愉快なきこと, 不機嫌. 形 快樂なき; 娯樂なき; =ūrdhva-retas.
a-pramaya 形 不死の, 不滅の.
a-pramā 女 謬れる觀念.
a-pramāṇa 甲 行爲の標準とならざる規則; 權威なきこと; 無價值; 廣, 廣大; 無量, 難量, 不可度量, 無有限量 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*: catvāry ~ āni 四無量 1. [maitrī 慈, 2. karuṇā 悲, 3. muditā 喜, 4. upekṣā 捨] *Mvyut.*; [數の名] 無動, 無量 *Mvyut.*
apramāṇa-kārin 形 廣行, 所作廣大 *Bodh-bh.*
apramāṇa-gata-buddha-māhātmya 形 得佛無量大德 *Mvyut.*
apramāṇa-guṇa 形 無量功德 *Gaṇḍ-vy.*
a-pramāṇatā 女 無量 *Bodh-bh.*
apramāṇa-dharmatā 女 無量法 *Aṣṭ-pr.*
apramāṇa-parivarta 男 [數の名] 無量轉 *Mvyut.*
a-pramāṇa-vid 形 事物の意義を知らざる.
apramāṇa-śubha 男 覆 (無量の徳ある); [天の名] 無量淨天 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
apramāṇābha (°na-ābha) 男 覆 (無限の光輝ある); [天の名] 無量光天 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*; 搗波摩那, 盧波摩那; 阿波摩那(天), 阿鉢羅摩那婆(鉢利多婆) 立應.
a-pramāṇi-Kṛ, (業)を權威として扱はず.
a-pramāda 形 懇切なる, 注意深き; 不放逸, 離放逸 *Divy., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy.* 男 不放逸 *Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.*
a-pramādatva 甲 [同上].
apramāda-patha 男 不放逸道 *Rāṣṭr.*
apramāda-vihārin 形 無放逸住, 不放逸住 *Bodh-bh.*
a-pramādin 形 注意深き.
a-pramādyā 甲 不放逸 *Divy.*
a-pramuṣita (通受分) 無忘失 *Bodh-bh.*
a-prameya (未受分) 無量の, 無限の, 不可分の, 證明せられざる; 無量, 無限, 無邊, 不可量, 無邊量, 不可度量, 不可限量, 莫能限量 *Divy., Lal-v., Bodh-c., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Sukh-vy. II., Bodh-bh., Sūtr., Abh-vy.* 甲 [數の名] 無邊 *Mvyut.*
aprimeya-kṛtya 甲 無量事, 不可量事 *Aṣṭ-pr.*

aprameya-jñāna ㊦ 不可量智 *Aṣṭ-pr.*
a-prameyatā ㊦ 無量, 無量(無邊) *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
aprameya-punya-skandha ㊦ 無量(大)功德藏 *Bodh-bh.*
aprameya-buddha ㊦ 無量佛 *Madhy-vibh.:*
 ~ utpāda 無量佛出現(於世) *Madhy-vibh. 230.*
a-pramoda ㊦ 不愉快.
a-pramoṣa ㊦ 無妄, 不失 *Sikṣ.* ㊦ 失はざること (*Jāt-m.*).
a-prayacchat ㊦ 與へざる; (娘を)嫁せしめざる.
a-prayata ㊦ 心構へなき.
a-prayatna ㊦ 努力の不足; °— 努力なくして. ㊦ (於)に無頓著なる; ㊦ 非勤勇, 無勉勵; 自然 *Laṅk., Nyāy-pr., Vijñ-t.* ~ ena ㊦ 無勉勵故 *Vijñ-t.*
aprayatnānantariyaka ㊦ 非勤勇無間(所發) *Nyāy-pr.*
a-prayāṇaka ㊦ 旅行の中絶, 滞在.
a-prayāt ㊦ 動かざる.
a-prayukta ㊦ 用ゐられざる, 稀なる; 不適當なる; 通常ならざる(修辭).
a-prayucchat ㊦ 不注意ならざる, 注意深き; 怠惰ならざる.
a-prayujyamāna ㊦ 附加せられざる; 利息附にて貸されざる.
a-prayoga ㊦ 使用せざること; ㊦ 無加行, 不修行 *Madhy-vibh.*
a-prarohaṇa-dharmaka ㊦ 具不生法 *Mvyut.*
a-pralaya ㊦ °—, 世界の滅ぶることなく.
a-pravaktr ㊦ 教へざる, 教ふるに適せざる.
a-pravaṇa ㊦ 卑下せざる, 謙遜ならざる.
a-pravartita ㊦ 未轉 *Abh-vy.*
a-pravartin ㊦ 不動なる.
a-pravārta ㊦ 不自恣請 *Prāt-m.*
a-pravāsa-gamana ㊦ 家に留まること.
a-pravāsin ㊦ 異國に行かざる.
a-praviṣṭa ㊦ 入れざる, 踏まれざる; ㊦ 不入 *Laṅk.*
a-praviṣṭa-nirgata ㊦ 不入不出, 不出不入 *Laṅk.*
a-pravṛtta ㊦ 處置を認れる; 妥當せざる, 適用せられざる; ㊦ 無, 不生 *Laṅk.*
a-pravṛttatva ㊦ 無, 不生 *Laṅk.*
a-pravṛtti ㊦ 無効; 最早その場處に存せざること; 不進行; 動作を止むること; 無氣力; ㊦ 滅, 止息; 不住, 不生, 不起 *Laṅk., Bodh-bh.*
a-pravṛttitā ㊦ 無流轉性 *Bodh-bh.*
a-pravṛttitva ㊦ 不生, 不起 *Laṅk.*
a-pravṛtti-lakṣaṇa-hetu-vādin ㊦ 說無生無相無因, 說(一切法)無因無緣無有生相, 說(一切法)無生無相無因(無緣) *Laṅk.*
apravṛtti-vikalpa ㊦ 不起分別, 不住分別心 *Laṅk.*
a-praveśa ㊦ 不入, 無入 *Laṅk., Bodh-c.*
a-pravyāhāra ㊦ 不可說, 無所說 *Kāśy., Mvyut.*

a-pravlaya ㊦ 崩潰せざること, 沈まざること.
a-praśamsya ㊦ 稱讚に値せざる, 不名譽なる.
a-praśama ㊦ 騒擾, 喧噪 (*Buddh-c., Jāt-m.*).
a-praśasta ㊦ 稱讚せられざる, 非難すべき; 不名譽なる; 呪はれたる, 悪しき, 不淨なる; 缺點多き, 損傷せる. ㊦ 汚物.
a-praśānta ㊦ 未だ寂靜を得ざる.
a-praśna ㊦ 質問なきこと. ㊦ 問非是, 非正問 *Laṅk.*
a-prasakti ㊦ 附加することなきこと; (於)に執著せざること.
a-prasanna ㊦ 靜かならざる, 明瞭ならざる; 濁れる; 宥められざる; 融和せられざる; 不快なる; (於)に對して怒れる; ㊦ 未淨信者 *Bodh-bh.*
a-prasahiṣṇu ㊦ 無能力なる.
a-prasahya ㊦ 堪へ難き, 堪へざる, 抵抗し難き; ㊦ 難摧伏 *Daś-bh.*
a-prasāda ㊦ 嫌忌, 不親切; ㊦ 瞋, 不喜, 嫌心, 不信心 *Sikṣ., Divy.*
aprasāda-kara-vacana ㊦ 不喜作語 *Sikṣ.*
aprasāda-samjñin ㊦ 怨家想, 怨賊想, 如遇冤家 *Kāśy.*
a-prasādika ㊦ 憎嫌, 憎恚心 *Abh-vy.*; 驚怖 *Vin.*
a-prasādita ㊦ 明かにせられざる.
a-prasiddha ㊦ 完成せられざる; 未知の, 未聞の; 非常の, 實際に存在せざる, 通用せざる; ㊦ 不極成 *Nyāy-pr.*
aprasiddha-viśeṣaṇa ㊦ 能別不極成 *Nyāy-pr.*
aprasiddha-viśeṣya ㊦ 所別不極成 *Nyāy-pr.*
aprasiddhobhaya (°dha-ubh°) ㊦ 俱不極成 *Nyāy-pr.*
a-prasūta ㊦ 許されざる; 生まざる, 不妊の; ㊦ 未曾孕育 *Lal-v.*
a-prastava ㊦ 不適當なる時機.
a-prastāvin ㊦ 時宜を得ざる.
a-prasphuṭa ㊦ 不明瞭なる, 不可解なる.
a-prahata ㊦ 働かざる; 耕さざる, 荒れたる; よく踏まれざる, よく用ひられざる; 未開の.
a-praharaṇatā ㊦ 不捶打 *Bodh-bh.*
a-prahiṇa ㊦ 未斷; 未滅; 無退; 無捨, 非捨, 非可捨 *Laṅk., Vijñ-v., Madhy-v., Abh-vy., Madhy-vibh.*
a-prākṛta ㊦ (女 -i) 本源ならざる, 二次的の, 普通ならざる, 異常なる.
a-prājña ㊦ 愚かなる, 無智なる.
a-prājñatā ㊦ [同上] ㊦.
a-prāna ㊦ 呼吸を缺ける, 生命なき, 活潑ならざる.
a-prāṇat ㊦ [同上].
a-prāṇin ㊦ [同上].
a-prādubhūta ㊦ [修辭], = aprādur-bhūta; ㊦ 滅 *Saddh-p.*
a-prādur-bhāva ㊦ 不生 *Abh-vy.*
a-prādur-bhūta ㊦ 生ぜざる.
a-prādhānya ㊦ 從屬, 副.
a-prāpta ㊦ 到達せざる; 未だ到著せざる; 得ら

れざる; 邂逅せざる; 決定せられざる; 結果せざる (文法上の規則より); 成長せざる; 〔漢〕 不至, 未至; 未得, 無獲, 未至得 *Saddh-p., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*: ~e prāpta-samjūi 未得謂爲得, 無獲謂有得 [未だ得ざるに既に得たりと勘ふる] *Saddh-p. 272.*

aprāpta-kāya 〔形〕 衰弱せる, 虚弱なる (*Divy.*).

aprāpta-kāla 〔形〕 時期未だ到らざる; 季節外れの, 時を誤れる; (論争に於て) 正しき順序に従はざる.

aprāpta-damaka 〔形〕 未だ成熟せざる(動物)を馴らす或は未だ調御せられざる.

aprāpta-pūrva 〔形〕 〔漢〕 未嘗獲 *Sikṣ.*

aprāpta-vayas 〔形〕 未だ成年に達せざる.

aprāpta-vikalpa 〔男〕 如何なる規則にも従ふことなく兩者の一を選択すること.

aprāpta-vyavahāra 〔形〕 未成年なる, 年少なる.

aprāpta-vyavahāratva 〔中〕 未成年.

aprāptāvasara 〔形〕 時宜を得ざる, 折悪しき, 不便なる.

a-prāpti 〔女〕 獲得せざること; 適合せざること; 〔漢〕 不得, 未得, 非得, 無得, 無所得 *Ast-pr., Saddh-p., Lañk., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜.*; 不證, 不能證 *Bodh-bh.*

a-prāptitva 〔中〕 〔漢〕 無所得 *Prajñ-h.*

a-prāpnuvat 〔形〕 ……を得ざる, ……を見出さざる, ……に遭遇せざる.

a-prāpya 〔未受分〕 得べからざる, 到達せられざる.

a-prāmānya 〔中〕 權威なきこと; 證據の不足.

a-prāyatya 〔中〕 不用意, 不備, 眞摯なる行爲に對し適當に準備せざること.

a-prārthaniyā 〔形〕 〔女〕 求婚すべからざる(婦人).

a-prārthita 〔通受分〕 問はれざる, 願はれざる, 要求せられざる.

a-prāśana 〔中〕 食はざること, 享樂せざること.

a-prāśitṛ 〔形〕 食はざる.

a-prāśādika 〔形〕 〔漢〕 惡, 醜 *Sikṣ., 梵千.*

a-prāstāvika 〔形〕 (〔女〕 -i) 時を得ざる, 時宜を得ざる.

a-priya 〔形〕 意に適はざる, 不快なる, 歡迎せられざる; 〔漢〕 不可喜, 憎, 惡, 怨, 怨憎; 厭(棄) *Saddh-p., Ast-pr., Sikṣ., Bodh-bh.*; 惡, 殺生 *Divy.*: ~m vācam 惡言 *Saddh-p. 227.* 〔中〕 不愉快なる事物, 不愉快なる報知. 〔男〕 敵; 〔漢〕 憎, 怨憎 *Ast-pr., Mvyut.*

apriyam-vada 〔形〕 粗野なる, 不親切に話す, 粗野に話す.

apriyam-vādin 〔形〕 [同上].

apriya-kara 〔形〕 不愉快なる, 嫌惡を生ぜしむる.

apriya-kṛt 〔形〕 不親切に行爲する.

a-priyatva 〔中〕 〔漢〕 不可愛樂 *Ast-pr.*

apriya-prāśamsaka 〔形〕 〔漢〕 讚非

apriya-bhāgin 〔形〕 不愉快極まる; 不幸なる.

apriya-vinā-bhāva 〔男〕 〔漢〕 非愛離 *Bodh-bh.*

apriya-viyoga 〔男〕 〔漢〕 離非愛 *Bodh-bh.*

apriyaviyoga-kāma 〔形〕 〔漢〕 求非愛離, (欲) 遠離 怨憎 *Bodh-bh.*

apriya-vettr 〔形〕 好ましからざることを經驗する.

apriya-samyoga 〔男〕 〔漢〕 怨憎會, 怨憎聚集 *Bodh-bh., Mvyut., Sāmkhy-k.*: ~e duḥkham 怨憎會 苦 *Mvyut.*

apriya-saṃvāsa 〔男〕 〔漢〕 冤憎會 *Sikṣ.*

apriya-samavadhāna 〔中〕 〔漢〕 怨憎相會 *Rāṣṭr.*

apriyākhyāyin (°ya-ūkh°) 〔男〕 〔漢〕 能說憂事 *Divy.*

a-prita-manas 〔形〕 好意を有せざる (*Jāt-m.*).

a-priti 〔女〕 敵意, 嫌惡; 〔漢〕 憂 *Sāmkhy-k.*

apriti-kara 〔形〕 喜悅を生ぜざる; 不親切なる.

a-prekṣaniya 〔未受分〕 見る價值なき, 優美ならざる; 醜き.

a-prekṣā-pūrva-kāritā 〔女〕 [同下 中].

a-prekṣā-pūrva-kārin 〔形〕 思慮なく行爲する, 無分別に行爲する.

a-prekṣya 〔未受分〕 見られざる.

a-proṣita 〔通受分〕 (°ra-uṣ°) 外出中に非ざる, 不在ならざる.

a-praudha (°ra-ūḍha) 〔通受分〕 (〔不定〕) するに十分強からざる, 内氣なる; 臆病なる.

ap-saṃvartani 〔女〕 〔漢〕 以水壞 *Mvyut.*

ap-samjñā 〔女〕 〔漢〕 水想 *Divy.*

ap-sara 1. 〔男〕 水棲動物.

ap-sara 2. 〔女〕 =apsaras; 〔漢〕 天女, 天姝女; 妻, 姝女 *Rāṣṭr., Lañk.*: ~tulya-rūpin 殊妙如天女 *Rāṣṭr. 23.*

ap-saras 〔女〕 天上の水精女; 〔漢〕 天女, 天姝女; 采女, 姝女, 玉女 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Lañk., Lal-v., Divy., Saddh-p., Mvyut.*

apsaras-tirtha 〔中〕 [神話中の湖水の名].

ap-sarā 〔女〕 =apsaras.

apsaro-ruta 〔中〕 〔漢〕 天妙音聲 *Gaṇḍ-vy.*

apsas 〔中〕 顔; 胸; 肉體の隠れたる部分; (妻の) 神祕的魅惑; 隠れたる罪過.

apsumat 〔形〕 水を有する, 水に富める; 水中に在る.

ap-skandha 〔男〕 〔漢〕 大水, 水聚, 大海 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh.*

a-phala 〔形〕 實らざる; 無益なる; 果實なき; 去勢せられたる; 〔漢〕 無果, 非果 *Bodh-bh., Lañk.*

aphala-darśin 〔形〕 〔漢〕 無果見 *Bodh-bh.*

a-phala-prepsu 〔形〕 報酬を欲せざる.

a-phalākāṅkṣin (°la-ūk°) 〔形〕 報酬を期待せざる.

a-phalgu 〔形〕 高價なる, 貴き; 生産的なる; 有益なる.

a-phāla-kṛṣṭa 〔形〕 耕地に生ぜざる.

a-phāṣa 〔形〕 〔漢〕 惱, 不樂 *Prāt-m.*

a-phūt-kārya 〔形〕 吹く必要なき.

a-phena 〔形〕 泡なき. 〔中〕 阿片.

a-phenila 〔形〕 泡なき.

a-baddha 〔通受分〕 縛せられざる, 結ばれざる, 抑制せられざる; 不合理なる, 無意味なる; 未だ示さざる; 〔漢〕 無縛, 不縛, 未縛, 無縛者; 不拴, 非聯屬 *Ast-pr., Sikṣ., Madhy-v., Mvyut.*

a-baddhvat 〔形〕 無意味の, 誤れる, 文法に適はざる.

a-banddhra 〔形〕 紐なき, 纏(ひ)なき; 散亂せる.

a-bandhu 〔形〕 親族を缺ける, 伴侶なき

a-bandhu-dāyāda 〔形〕 相續權なき.

a-bandhura 〔形〕 高くせられたる, 高き; 悲しき. ~:

m ㊦ 悲しく。
a-bandhya 1. (未受分) 縛せらるまじき; ㊦ 無惱, 無
 誤 *Sikṣ., Sūtr.*
a-bandhya 2. ㊦ [=avandhya]; ㊦ 不唐捐, 不空
 過, 利益不虛 *Lal-v., Sūtr.*
a-bandhra ㊦ =a-banddhra.
a-barha ㊦ 未だ尾の羽毛を生ぜざる。
a-bala ㊦ 弱き; ㊦ 無力 *Bodh-bh., Mvyut.* ㊦
 無力, 無意義。
aba'ī-karaṇa ㊦ ㊦ 銷滅, 破壊 *Lal-v.:* māra-
 bala ~ 銷滅魔力, 破壊(一切)魔力 *Lal-v. 273.*
abalaṃ-karṭṛ ㊦ ㊦ 破, 退散軍 *Lal-v.*
abalaṃ-Kṛ, ㊦ 降伏, 壞散 *Gaṇḍ-vy.*
a-balavat ㊦ 弱き。
a-balā ㊦ 女, 妻; [人名].
a-baliman ㊦ 無氣力, 衰弱。
a-baliyas ㊦ 比較 ㊦ より弱き。
a-baliyastva ㊦ ㊦ 劣 *Abh-vy.*
a-balya ㊦ 無力, 弱きこと; 病氣。
a-bahiṣ-kārya (未受分) 除外せらるまじき。
a-bahis ㊦ 内部に, 心中にて。
a-bahu-bhāṣitā ㊦ [同下 ㊦].
a-bahu-bhāṣin ㊦ 饒舌ならざる。
a-bahu-māna ㊦ (㊦)に對して敬意を拂はざる
 (*Jāt-m.*).
a-bahu-vyakti-niṣṭha ㊦ 多數の人々に適用せられ
 ざる。
a-bahu-śruta ㊦ 博學多聞ならざる。
a-bādha ㊦ 妨げられざる; 抑制せられざる, 苦めら
 れざる。㊦ 反抗なきこと。
a-bādhaka ㊦ 妨げられざる。
a-bādhyatā ㊦ ㊦ 不能侵害 *Bodh-bh.*
a-bāndhava ㊦ 親戚を闕ける。
a-bāndhava-kṛta ㊦ 親戚によりてなされざる。
a-bāla-sattva ㊦ 子供の性質を有せざる。
a-bāliśa ㊦ 子供らしからざること, 愚ならざること。
 ㊦ 子供らしからざる。
a-bāleṇḍu (°la-in°) ㊦ 満月。
a-bāhya ㊦ 外的ならざる, 内的なる; 外部に何物をも
 有せざる; 外部なき, 親密なる, 熟知せる, 熟達せ
 る。
ab-indhana ㊦ (水を燃料とせる), 海中に燃ゆる(火).
abindhana-vahni ㊦ 海中の火。
a-bibhrat (理分) 支持せざる, 扶養せざる。
a-bimba ㊦ ㊦ 非像, 非影像 *Laṅk.*
a-bija ㊦ 悪しき種子又は穀物。㊦ 種子なき; 無力
 なる; ㊦ 無子, 非種 *Laṅk.*
a-bijaka ㊦ 蒔かれざる; ㊦ 非種, 無種子 *Laṅk.*
a-bijā ㊦ 種なき乾葡萄。
a-bijī-śhūta ㊦ ㊦ 無能生用, 不爲種子 *Abh-vy.*
a-bibhatsa ㊦ 不快ならざる, 好ましき印象を與ふる。
a-buddha 1. (過受分) 愚なる。
a-buddha 2. ㊦ ㊦ 無佛 *Sūtr.*
a-buddha-dharma ㊦ ㊦ 非佛法, 非諸佛法 *Vajr-*
pr.
a-buddhi ㊦ 愚鈍, 愚なる行爲; 志向を闕くこと;

㊦ 偶然。㊦ 愚なる; ㊦ 非慧, 非智, 非覺 *Laṅk.*
a-buddhi-ja ㊦ 故意ならざる。
a-buddhitā ㊦ 愚なること。
a-buddhi-pūrva ㊦ 故意ならざる; 叡知を以て初と
 せざる。
a-buddhimat ㊦ 愚なる。
a-buddhi-stha ㊦ 想起せられざる, 現に心にあらざ
 る。
a-budh ㊦ [同下].
a-budha ㊦ 愚なる; ㊦ 愚, 蒙, 不覺, 無知, 不了
Laṅk., Gaṇḍ-vy., Abh-vy. ㊦ 愚者; ㊦ 愚人
Laṅk.
a-budhna ㊦ 底なき。
a-budhya (未受分) 覺まさるまじき。
a-budhyamāna (理分) ㊦ 覺めざる。
a-br̥ha ㊦ ㊦ [天の名] 無煩(天), 無大求 *Bodh-*
bh., Abh-vy.
a-bodha ㊦ 智識の缺乏; 無智, 愚; ㊦ 不覺, 不
 見, 不了 *Laṅk.* ㊦ 無智なる, 愚鈍なる, 當惑せる
abodha-pūrvam ㊦ 知らずして。
a-bodhya ㊦ 覺まされざる, 鼓舞せられざる。
ab-ja ㊦ 水生の。㊦ 蓮, 睡蓮; ㊦ 蓮華 *Mañj-m.*
 ㊦ 螺貝; 月; [*Dhanvantari* (天の醫師)の名].
abja-nābha ㊦ (その隣が蓮華なる者), [*Viṣṇu* 神の
 稱].
abja-bhū ㊦ (蓮花より生ぜるもの), [*Brahman* 神].
abja-sambhava ㊦ [同上].
abja-saras ㊦ 蓮池。
ab-jinī ㊦ 蓮; 蓮池; 多數の蓮
abjini-pati ㊦ 太陽。
ab-da ㊦ (水を與ふること, 雨季), 年; 雲。→ *varṣa.*
 ㊦ 歲, 年 *Abh-k.*
ab-daka ㊦ (一)歳の。
abda-paryaya ㊦ 年の交替期。
abda-bhū ㊦ 雲より生ずる。
abda-sahasrika ㊦ (㊦ -i) 一千年續きたる。
ab-durga ㊦ 水の爲に近づき難き。
ab-daivata ㊦ 水を神とせる。
ab-dhātu ㊦ ㊦ 水界, 水大, 水種 *Laṅk., Sikṣ.,*
Abh-k., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut.
ab-dhi ㊦ 海; 池, 湖。
abdhi-kanyā ㊦ [*Lakṣmī* 神].
abdhi-jivin ㊦ 漁夫。
abdhi-tanaya ㊦ ㊦ [*Aśvin(au)* 神の稱].
abdhi-tala ㊦ 海底。
ab-bindu ㊦ 水滴; 涙。
ab-bhakṣa ㊦ 水のみにて生きる; ㊦ 食水。㊦
 蛇。
ab-bhava ㊦ [*Brahman* 神の稱].
ab-bhū ㊦ [同上].
ab-rajasa ㊦ ㊦ 水塵 *Mvyut.*
a-brahma-carya ㊦ 不貞なる, 制欲の誓を守らざる。
 ㊦ ㊦ 非梵行, 不淨行; 淫 *Bodh-bh., Mvyut.*
abrahmacarya-virati ㊦ ㊦ 離非梵行; 不淫欲
Mvyut.
a-brahma-cārin ㊦ ㊦ 非淨梵, 非梵行 *Mvyut.:*

~ri brahma-cāri-pratijñah 非梵行稱梵行. 非淨
 梵而稱淨梵 *Mvyut.*
a-brahmaṇya 形 婆羅門に好意を有せざる. 甲 人
 殺し! [助けを求むる婆羅門の叫び].
a-brahman 男 非婆羅門. 形 敬虔なる心を闕ける,
 婆羅門を闕ける.
a-brāhmaṇa 男 非婆羅門. 形 婆羅門を闕ける.
a-brāhmaṇya 甲 婆羅門の義務に對する違犯, 不敬
 なる言辭を弄すること. 形 婆羅門に對して好意を
 有せざる; 形 不敬婆羅門, 不識婆羅門, 非婆羅門
 性, 不供養婆羅門, 不持婆羅門 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.,*
Mvyut.
a-bruvat 形 述べざる, 沈黙の.
ab-rūpa 形 水の形態を有する.
ab-liṅga 甲 視 (-ā 女 視) 水に關して詠へる讚頌
 [RV.X, 9. 1-3].
ab-liṅgā 女 視 [同上].
ab-vajra 男 形 菩薩の名] 金剛水 *Guhy-s.*
a-bhakta 形 分配せられざる; 離れたる, 食はざ
 る; 敬虔ならざる.
a-bhakti 女 無信仰.
a-bhakṣya 形 未受分 食ふまじき; 形 不得食 *Sikṣ.*
a-bhaga 形 不幸なる; 醜き.
a-bhagna-kāma 形 (形)に對する欲望が(具)によ
 りて亂されざる.
a-bhagna-māna 形 名譽の害はるゝことなき.
a-bhagna-yoga 形 その心統一或は瞑想の妨げられ
 ざる.
a-bhaṅga 形 形 合, 不壞 *Daś-bh.*
a-bhaṅgin 形 形 不損壞 *Laṅk.*
a-bhajyamāna 形 現分 受 分たれざる, 聯合せられた
 る; 征服せられざる.
a-bhaṅita 形 過受分 言はれざる, 表現せられざる.
a-bhadra 形 有害なる, 不幸なる. 甲 災禍.
a-bhaya 形 畏れなき; 安全なる, 確實なる. 甲 無
 畏, 安全; 形 無畏, 無怖, 非怖, 無所畏 *Aṣṭ-pr.,*
Saddh-p., Divy., Sikṣ., Gaṇḍ-vy., Mvyut.
abhaya-giri-vāsin 男 形 形 [佛教部派の名] 無
 畏山住部 *Mvyut.*
abhayaṃ-kara 形 安全ならしむる, 畏なからしむ
 る; 形 無畏, 離恐怖 *Gaṇḍ-vy.*
abhayaṃ-kṛt 形 [同上].
abhaya-ḍiṇḍima 男 陣太鼓.
abhayaḍiṇḍimaṃ-Dā, 太鼓を撃ちて人々の安全を
 宣言す.
a-bhayatama 甲 最大の安全.
abhaya-da 形 無畏又は安全を與ふる.
abhaya-dakṣiṇā 女 安全の保證.
abhaya-datta 男 [或る醫師の名].
a-bhaya-darṣitā 女 形 不見怖畏 *Abh-vy.*
abhaya-dāna 甲 安全を與ふること; 形 無畏施
Bodh-bh.
abhayaṃ-dada 男 形 [Avalokiteśvara の名] 以
 無畏施; 施無畏者 *Saddh-p.*
abhaya-prada 形 安全を與ふる.
abhaya-pradāna 甲 安全を與ふること.

abhaya-pradāyin 形 安全を與ふる.
abhaya-prāpta 形 形 到無畏 *Saddh-p., Madhy-ḅ.*
abhaya-yācanā 女 安全を乞ふこと.
a-bhaya-vaśa-vartitā 女 形 無敬畏無隨屬他, 無
 所忌難無所隨屬 *Abh-vy.*
a-bhaya-vaśa-vartin 形 形 [同上] *Abh-vy.*
abhaya-vāc 女 安全の保證.
a-bhayā 女 [植物の名, 學名 *Terminalia chebula*].
abharu 男 形 形 [數の名] 阿婆盧 *Mvyut.*
a-bhava 男 非存在, 壞滅; 解脫; 形 無, 無有, 非
 性 *Laṅk.*
a-bhavadiya 形 貴下(下)に屬せざる.
a-bhavani 女 非存在, 死.
a-bhavya 形 あるべからざる; 不適當なる; 不幸な
 る; 形 不能, 無義, 不堪任, 不堪受 *Aṣṭ-pr., Lal-*
v., Sikṣ.
abhavya-rūpa 形 形 無所堪能 *Bodh-bh.*
a-bhasmi-karaṇa 形 灰と化せざる, 燃燒せざる.
a-bhāga 形 分け前なき, 相續分なき.
abhāga-dheya 形 關係より除外せられたる.
a-bhāgin 形 (形)に關與せざる, …に對する資格又
 は權利なき, …より除外せられたる.
a-bhāgya 形 不幸なる, 慘めなる. 甲 不運.
a-bhājana 甲 (形)の器にあらざる, …の價值なき.
a-bhājanatva 甲 [同上 形] (*Jāt-m.*).
abhājana-bhūta-sattva 男 形 非衆生器 *Mvyut.*
abhājani-bhūta 形 形 非(法)器 *Sikṣ.*; 非器, 不
 能堪受; 下劣邪見 *Kāśy.*
abhājani-bhūtatva 甲 形 非器, 非其器 *Gaṇḍ-vy.*
a-bhāna 甲 現れざること.
a-bhānu-patana 形 日光の到達せざる.
a-bhāra 男 荷物又は負擔なきこと.
a-bhārya 形 妻なき.
a-bhāva 男 非存在; 缺如, 缺乏; 滅; 死; 形 無,
 無有, 無性, 無實性, 無有性, 無物, 無體, 無有
 體, 無有實體, 無法, 無所有, 無有生; 非有, 非性,
 非體, 非法, 非實; 空, 空寂; 不, 不實; 除 *Sapt-*
pr., Laṅk., Sūtr., Guhy-s., Sikṣ., Vijñ-v., Madhy-
v., Madhy-vibh., Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr.,
Sāṃkhy-k., Mvyut. 形 形 空, 無所有, 無自性
Sapt-pr., Mvyut.
abhāva-gatika 形 形 無自性 *Aṣṭ-pr.*
a-bhāvayat 形 便役 現分 …を考慮に入れざる, …
 に就て目算を立てざる.
abhāva-lakṣaṇa 甲 無相, 無有相 *Madhy-vibh.*
a-bhāvavat 形 (一)を缺ける, 不足せる.
abhāva-śūnyatā 女 形 無性空, 非有空, 無體空,
 無物空, 無法空 *Madhy-vibh., Sūtr., Dharm-s., Mv-*
yut.
abhāva-samudgata 男 形 形 [佛の名] 無所有起
Sam-r.
abhāva-svabhāva 形 形 無性爲性 *Aṣṭ-pr.*
abhāva-svabhāvatā 女 形 無性爲性, 無所有性
Daś-bh.
abhāvasvabhāva-śūnyatā 女 形 非有性空, 無
 性自性空 *Madhy-vibh., Dharm-s.*

a-bhāvita (過受分) 凜固せざる, 堅固ならざる; (漢譯) 不修 *Aṣṭ-pr.*
abhāvita-kāya (形) (漢譯) 不修身 *Aṣṭ-pr.*
abhāvita-citta (形) (漢譯) 不修心 *Aṣṭ-pr.*
abhāvita-śila (形) (漢譯) 不修戒 *Aṣṭ-pr.*
a-bhāvin (形) 在らざる, 存在せざる.
abhāvi-Kṛ, (漢譯) 非立, 取…爲無 *Laṅk.*
a-bhāṣamāṇa (現分) 語らざる.
a-bhāṣita-pūrva (形) (漢譯) 先所未説 *Saddh-p.*
a-bhāsaka (形) 太陽なき.
abhi (副) 此方へ, 近く. (前) [與と俱に]の方へ; まで, 對して; 越えて; 爲に, 就て; [與と俱に]なしに.
abhika (形) 熱心なる; 好色の. (男) 愛人.
abhi-Kam, → *Kam.*
abhi-Kāṅkṣ *abhikāṅkṣati(-te).* → *Kāṅkṣ.*
abhi-kāṅkṣā (女) (業, 一)に對する熱望又は欲望.
abhi-kāṅkṣita (過受分) → *Kāṅkṣ.*
abhi-kāṅkṣin (形) (業, 一)を欲する; (漢譯) 求; 願求(欲得) *Sikṣ., Rāṣṭr.*
abhi-kāma (男) 欲望; 情愛, 愛; (漢譯) 染, 愛樂 *Abh-k.* (形) (業, 一)に好意を持てる, …を憧る, 愛する; (漢譯) 所欲 *Sūtr.* ~ *m* (副) 希望をもちて: *yathā* ~ *m* (漢譯) 隨所欲 *Sūtr. 83.*
abhi-kāla (男) [村の名].
abhi-kirṇa (過受分) (漢譯) 覆; 散, 普散; 充滿, 悉充滿 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*; 鋪擲 *Mvyut.*: *kusuma* ~ 散花, 散華 *Aṣṭ-pr. 941.*, *duḥkha-śata* ~ 衆苦充滿 *Saddh-p. 89.*
abhi-kīrtana (中) (漢譯) 談, 論説 *Rāṣṭr.*
abhikutsaya (名動) → *kutsaya.*
abhi-Kṛ, → *Kṛ.*
abhi-kṛṣṇam (副) *Kṛṣṇa* 神に對し.
abhi-Knūy, → *Knūy.*
abhi-Krand, → *Krand.*
abhi-kranda (男) 呼號, 咆吼.
abhi-Kram *abhikrāmati.* → *Kram.*
abhi-krama (副) 近寄ること, 歩みて近づき來ること; 計割; 襲撃, 征服; 登攀; (漢譯) 往 [*Tib. hgro-ba*] *Bodh-bh.*
abhi-kramaṇa (中) …に近づくこと.
abhi-krānta (過受分) 近づかれたる; 攻撃せられたる; 始められたる; (漢譯) 來, 集 *Sapt-pr.* (中) = *abhi-krānti.*
abhikrāntābhikrānta (過受分) (漢譯) 皆來 *Sapt-pr.*
abhi-krānti (女) 征服, 自己の所有となすこと.
abhi-kruddha (過受分) → *Krudh.*
abhi-Krudh, → *Krudh.*
a-bhikṣa-dā (女) 乞はざるに與ふること.
abhi-Kṣip, → *Kṣip.*
a-bhikṣu (形) (漢譯) 非比丘, 不堪比丘 *Laṅk., Mvyut.*
abhi-KHyā, → *KHyā.*
abhi-khyā (女) 望見, 光景; 華麗, 美; 明瞭なること; 名, 名稱, 有名.
abhi-khyāta (過受分) → *KHyā.*
abhi-gata (過受分) 近づきたる; (漢譯) 至, 既到 *Divy., Saddh-p.*

abhi-gantavya (未受分) 訪はるべき.
abhi-Gam *abhigacchati.* → *Gam.*
abhi-gama (男) 接近; 訪問; 性交; (漢譯) 得 *Sūtr.*
abhi-gamana (中) [同上]; [神像に詣る道に牛糞を塗り淨むる行爲]; (漢譯) 至, 迎; 就, 承行 *Lal-v., Abh-vy., 梵千.*; —° 將證, 欲證 *Lal-v.*: *sarvajñajñāna* ~ 將證一切智 *Lal-v. 273.*
abhi-gamaniya (未受分) 訪ねらるべき, 訪問に價する (*Jāt-m.*); (漢譯) 可尊, 所尊, 堪尊重; 歸仰, 所歸趣; 讚仰; 所親近; 易可解, 易解了 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sikṣ., Bodh-bh.*
abhi-gamya (未受分) 訪ねらるべき; 近づき易き, 招待する.
abhi-Garj, → *Garj.*
abhi-garjita (過受分) (漢譯) 吼, 哮吼 *Aṣṭ-pr.* (中) 猛しき吼聲, 喧噪.
abhi-garjin (形) 咆えつく.
abhi-Gā *abhijigāti.* → *Gā.*
abhi-gāmin (形) (業)と性交する.
abhi-gīta (過受分) 歌にて説かれたる, 歌にて稱讚せられたる; (漢譯) 説, (重)誦 *Bodh-bh.*: *gāthā* ~ 重誦伽他(譯) *Mvyut.*
abhi-gupta (過受分) → *Gup.*
abhi-gupti (女) 保存, 保護.
abhi-gumphita (過受分) 織り込まれたる.
abhi-gūrti (女) 讚歌.
abhi-gṛddha (過受分) (漢譯) 負, 負著 *Abh-ry.*
abhi-gṛdhna (形) 熱心に…を渴望せる.
abhi-gṛhita-pāṇi (形) 合掌せる.
abhi-Gṛ *abhigrṇāti.* → *Gṛ I.*
abhi-Gai, → *Gai.*
abhi-Grah *abhigrṇāti.* → *Grah.*
abhi-graha (男) 掴むこと, 捉ふること; 襲撃; 挑戦, 反抗; 掠奪; 權威.
abhi-grahaṇa (中) 掠奪; (漢譯) 取 *Laṅk.*
abhi-ghāta (男) 打撃, 衝突; 有害なる結果; 病の變化; 反抗, 壓迫; (漢譯) 所逼, 擲打 *Sāṃkhy-k., Vaiś-s.*
abhi-ghātaka (形) 反對の行動をなす, 遠ざくる; (漢譯) 滅 *Sāṃkhy-k.*
abhi-ghātin (形) 打つ, 攻撃する, 害する. (男) 敵.
abhi-ghāra (男) (牛酪を)注ぎかくること, 撒布; 混合; [牛酪の一種].
abhi-ghṛta (過受分) → *Ghr.*
abhi-ghoṣam (副) 牧人の屯處へ.
abhi-GHrā *abhijighrati.* → *GHrā.*
abhi-Cakṣ *abhicaṣṭe.* → *Cakṣ.*
abhi-cakṣaṇa (形) 視る. (中) 呪咀.
abhi-cakṣaṇā (女) 眺望.
abhi-cakṣe (爲) (不) 視んが爲に.
abhi-Car, → *Car.*
abhi-caraṇa (中) 蠱惑, 魅惑; 除魔, 呪文.
abhi-cāra (男) [同上].
abhi-cāraka (形) 魅する, 清め祓ふ, 祈願する; (漢譯) 調伏 *Guhy s.* (男) (中) 祈願者, 魔術者.
abhi-Cud, → *Cud.*
abhi-caidyam (副) *Cedi* 王に對して.

- abhi-cCHad abhicchādayati(使役). → CHad.
- abhi-cchādita 〔使役〕 〔通受分〕 〔漢譯〕 全, 覆護 *Saddh-p.*, *Sikṣ.*
- abhi-channa 〔通受分〕 〔漢譯〕 普覆 *Sikṣ.*
- abhi-Jan abhijāyate. → Jan.
- abhi-jana 〔男〕 血統, 氏族; 貴族; 生國; 令名; 有名.
- abhi-janavat 〔形〕 貴族出身の.
- abhi-jaya 〔男〕 勝利, 克服.
- abhi-jāta 〔通受分〕 生れたる, 生來の; 家柄よき; 美しき; 賢き; 適當なる; (一°)に秀でたる又は優れたる (*Jāt-m.*). → Jan. 〔漢譯〕 高貴, 正種, 勝種, 本來清淨好種, 衆所宗仰; 善 *Lal-v.*, *Mvyut.*; 發生 *Sikṣ.*: ~m ca tat kulam bhavati 彼家本來清淨好種 *Lal-v. 23.* 〔中〕 出生; 貴族, 高貴.
- abhi-jātata 〔女〕 名門, 貴族.
- abhi-jātābhijāta 〔通受分〕 〔漢譯〕 色鮮, 妙色 *Aṣṭ-pr.*
- abhi-jāti 〔女〕 血統, 出生.
- abhi-jātya 〔中〕 = abhijāta.
- abhi-jātya-nibhṛta-sneha 〔形〕 生來育まれたる愛情.
- abhi-jit 〔形〕 戰勝の. 〔男〕 [*Soma* 祭の名]; [月宿の名]; 〔漢譯〕 [二十八宿の一] 牛, 無容 *Divy.*
- abhi-Juṣ, → Juṣ.
- abhi-jña 〔形〕 (屬, 一°)を知る, の知己なる, の經驗ある, を熟知せる; 〔漢譯〕 一° 知, 善知; 了, 了知, 解; 證, 證見 *Lank.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Abh-vy.*; [=abhijñā] 神通 *Saddh-p.*
- abhi-jñā-jñāta 〔形〕 〔漢譯〕 神通智 *Gaṇḍ-vy.*
- abhi-jñā-jñānābhibhuva 〔男〕 〔漢譯〕 [佛の名] 大通智勝 *Saddh-p.*
- abhi-jñatara 〔比較〕 〔漢譯〕 勝通慧 *Bodh-bh.*: kṣipra- ~ḥ syāt 速疾得勝通慧 *Bodh-bh. 397.*
- abhi-jñatā 〔女〕 [abhijñā の 中]; 〔漢譯〕 神通, 證通慧, 得諸神通 *Lal-v.*, *Bodh-bh.*
- abhi-jñatva 〔中〕 [同上]; 〔漢譯〕 通 *Sūtr.*
- abhi-jñā-pañca 〔中〕 [=abhijñā-pañca]; 〔漢譯〕 五神通 *Saddh-p. 12.*
- abhi-jñā-prāpta 〔形〕 [=abhijñā-prāpta]; 〔漢譯〕 自在通 *Saddh-p.*
- abhi-Jñā abhijñāti, abhijñāte. → Jñā.
- abhi-jñā 〔女〕 記憶, 思出; 〔漢譯〕 通, 神通, 明, 通明, 通慧; 智; 善知, 善達; 神力; 自在神力 *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: pañca ~ḥ 五通 [1. divya-cakṣuḥ 天眼, 2. divya-śrotram 天耳, 3. paracitta-jñānam 他心, 4. pūrvānusmṛtiḥ 宿命, 5. ṛddhiḥ 神境] *Dharm-s.*; ṣaḍ ~āḥ 六神通 [1. divyaṃ cakṣuḥ 天眼, 2. divyaṃ śrotram 天耳, 3. paracitta-jñānam 他心智 (cetaḥ-paryāya-jñānam 心差別智), 4. pūrva-nivāḥānusmṛti-jñānam 宿住隨念智, 5. ṛddhi-vidhi-jñānam 神作智, 6. āsrava-ksaya-jñānam 漏盡智] *Mvyut.*; 〔尋考〕 句 立應.
- abhi-jñā-caryā 〔女〕 〔漢譯〕 神力, 神通行 *Bodh-bh.*
- abhi-jñā-jñāna 〔中〕 〔漢譯〕 通智, 現前智慧 *Mvyut.*
- abhi-jñāta 〔通受分〕 知られたる, 著名なる; 〔漢譯〕 名稱高遠, 衆所知識 *Lal-v.*
- abhi-jñāna 〔中〕 認識, (認知の)表徴; 記憶; 〔漢譯〕 通,
- 神通, 神力 *Lank.*
- abhi-jñāna-śakuntala 〔中〕 [戲曲の名].
- abhi-jñānābhijñā 〔形〕 〔漢譯〕 神通已達 *Sukh-vy. I.*
- abhi-jñānābhijñāta 〔形〕 [abhijñātabhijñāta(?)]; 〔漢譯〕 衆所知識, 衆望所識 *Sukh-vy. II.*
- abhi-jñāpaka 〔形〕 知らしむる, 詮示する, 想起せしむる.
- abhi-jñā-prabhāva 〔男〕 〔漢譯〕 神通威力 *Bodh-bh.*
- abhi-jñā-phala 〔中〕 〔漢譯〕 通果 *Abh-vy.*
- abhi-jñā-vikurvaṇa 〔中〕 〔漢譯〕 遊戲神通 *Sam-r.*
- abhi-jñāvīkurvaṇa-vaśitā 〔女〕 〔漢譯〕 神通所作力, 神通變現自在 *Bodh-bh.*
- abhi-jñā-vikrīḍita 〔形〕 〔漢譯〕 遊戲神通 *Mvyut.*
- abhi-jñā-vihāra 〔男〕 〔漢譯〕 通住 *Sūtr.*
- abhi-ḍina 〔中〕 [飛び方的一種].
- abhi-Tan, → Tan I.
- abhi-Tap, → Tap.
- abhi-tapta 〔通受分〕 焦されたる, 焼かれたる; (業)に就きて惱まされたる.
- abhitarām 〔比較〕 〔副〕 …により近く.
- abhi-Tarj abhitarjayati(使役). → Tarj.
- abhitaś-cara 〔男〕 〔漢譯〕 從者.
- abhitas 〔副〕 此方へ, 近く, 周圍に; 全く. 〔副〕 [屬と俱に] 側らに; [業と俱に] 此方へ; …の兩側に; 前後に; 周圍に; 背後に.
- abhi-tāḍana 〔中〕 打擲, 打擊.
- abhi-tāpa 〔男〕 熱; 興奮; 苦痛.
- abhi-tāmra 〔形〕 暗赤色の.
- abhi-tigma-raśmi 〔副〕 太陽の方に.
- abhi-tūrṇa 〔形〕 〔漢譯〕 悶亂, 悶眩 *Saddh-p.*
- a-bhitti 〔女〕 割碎せざること; 配分の不足. 〔形〕 (障壁即ち)堅牢なる基礎なき.
- abhi-Tvar abhitvarate. → Tvar.
- abhi-tvaraṇa 〔中〕 〔漢譯〕 速進趣 *Bodh-bh.*
- abhi-tvaraṇatā 〔女〕 〔漢譯〕 速疾, 速進趣 *Bodh-bh.*
- a-bhid 〔形〕 差別せざる.
- abhi-dakṣiṇam 〔副〕 右方へ.
- abhidakṣiṇam-Kṛ, 〔漢譯〕 圍繞 *Lal-v.*
- abhi-darsana 〔中〕 眺むること; 現はるゝこと; 光景.
- abhi-darsaniya 〔未受分〕 〔漢譯〕 殊好 *Saddh-p.*
- abhi-Dās abhidāsati. → Dās.
- abhi-Didhi, → Didhi.
- abhi-Du, → Du.
- abhi-dūtām 〔副〕 使者に對して.
- abhi-dūti 〔副〕 女使者に對して.
- abhi-dūṣita 〔通受分〕 傷けられたる; 〔漢譯〕 所染, 所汚 *Bodh-bh.*
- abhi-Drś, → Drś.
- abhi-dr̥ṣṭa-pūrva 〔形〕 〔漢譯〕 昔所見 *Saddh-p.*
- abhi-devana 〔中〕 博戲の臺又は盤.
- abhi-Dyut abhidytayati(使役). → Dyut I.
- abhi-dyotana 〔中〕 〔漢譯〕 顯了, 顯示, 明了顯示; 證得 *Lank.*, *Madhy-vibh.*
- abhi-dyotita 〔通受分〕 〔漢譯〕 明達, 明了開示 *Bodh-bh.*
- abhi-Dru, → Dru.
- abhi-drugdha 〔通受分〕 → Druh. 〔漢譯〕 逆; 害; 戒

Mvyut.

abhi-druta (通受分) ……の方へ走れる, 攻撃せられたる; (漢) 迫逐; 所侵惱, 所侵害 *Daś-bh.*

abhi-Druh abhidruhyati. → Druh.

abhi-druh (形) 敵意ある, 害せんとする.

abhi-droha (男) 害, 侮辱, 傲慢; 苦惱; (漢) → an-

abhi-drohin (形) (漢) 差違 *Bodh-bh.* → an~, drugdha, drogdrh.

abhi-dharma (男) [佛教の教理に関する理論, 三蔵の一. → tri-piṭaka]; (漢) 對法, 勝法, 向法; 論 *Lank., Abh-vy., Mvyut.*, 支應; (音寫) 阿毗達磨, 阿鼻達磨; [abhidhamma(?)] 毗曇, 阿毗曇 *Lank., Vin., Abh-vy., Sūtr.*, 支應.

abhidharma-kośa (男) (漢) [書名] 對法藏; 對法俱舍(音寫) *Abh-k., Abh-vy.*

abhidharmakośa-kārikā (女) [佛典の名. Vasubandhu 作. 阿毘達磨俱舍論本頌].

abhidharmakośa-vyākhyā (女) = sphuṭārthābh° [佛典の名. Yaśomitra 作].

abhidharma-piṭaka (男) abhidharma の部, 對法藏, 論藏 *Prajñ-vy.*

abhidharma-sūtra (中) (漢) [經名] (大乘)阿毘達磨契經 *Vijñ-t.*

abhi-DHā abhidadhāti. → DHā.

abhi-dhā (形) 周圍の, 包圍せる. (女) 名稱, 名; 言葉.

abhi-dhātavya (未受分) 言はるべき, 發言せらるべき. (中) (漢) 言語 *Madhy-v.*

abhi-dhātṛ (男) 發言者.

abhi-dhāna (中) 陳述; 命名; 名; 語; 結合; (漢) 詮 *Vijñ-t.*; 言, 語, 說, 言說, 言語, 語言; 名, 名義 *Lal-v., Daś-bh., Lank., Sūtr., Abh-vy.* → saha~āt.

abhidhāna-kośa (男) 字典, 辭書.

abhi-dhāyin (形) 言ふ, 話す; 陳述する, 説明する; 教ふる; (漢) 說, 所說 *Divy.*

abhi-DHāv abhidhāvati. → DHāv 1.

abhi-dhāvaka (形) 急ぐ, 走る; 攻撃する.

abhi-dhūmra (通受分) → unumaya.

abhi-DHṛṣ, → DHṛṣ.

abhi-dheya (未受分) 指示せらるべき, 述べらるべき, 命名せらるべき; (漢) 所說, 所詮 *Lank., Mvyut.* (中) 意義, 意味.

abhi-dheyatva (中) 命名せられ得ること.

abhidheya-vastu (中) (漢) 所說事 *Lank.*

abhidheya-vikalpa (男) (漢) 所說分別, 所說妄想 *Lank.*

abhi-dhyā (女) 熱望, 欲求; (漢) 貪, 貪欲, 貪愛, 貪(嫉), (慳)貪 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

abhi-dhyāna (中) (曇)の考察; (因)に對する願望; 冥想; (漢) 貪, 貪欲 *Daś-bh.*

abhidhyā-lamba (°yā-āl°) (形) (漢) 懷貪嫉 *Gaṇḍ-vy.*

abhi-dhyālu (形) 貪欲を有する [*Pāli.* abhijjhālu]; (漢) 貪, 貪欲, 生貪著 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.*

abhidhyā-viraṃaṇa (中) (漢) 不貪(嫉), 不貪愛 *Aṣṭ-*

pr.

abhi-dhyeya (形) 熟慮せらるべき, 靜慮せらるべき.

abhi-DHyai abhidhyāyati. → DHyai.

abhi-DHvan, → DHvan 2.

abhi-Nakṣ abhinakṣati. → Nakṣ.

abhi-nata (通受分) 曲げられたる, 傾ける; (漢) 低向 *Lal-v.*

abhi-Nad abhinadati. → Nad.

abhi-nadatā (女) (漢) 奏 *Bodh-bh.*

abhi-nadita (通受分) (漢) 聲, 暢音 *Lal-v.*

abhi-naddhākṣa (形) 眼を覆はれたる.

abhi-Nand abhinandati. → Nand.

abhi-nand (男) 快樂, 欲望; (漢) 希望 *Sūtr.*

abhi-nanda (男) 歡喜, 希望.

abhi-nandatā (女) (漢) 希求 *Bodh-bh.*

abhi-nandana (中) 歡喜せしむること; 稱讚すること; 欲望; (漢) 樂求, 喜樂, 欣樂, 深欣樂, 深喜 *Śikṣ., Kāśy., Bodh-bh.*

abhi-nandanā (女) (漢) 欣樂, 所憐 *Daś-bh.*

abhi-nandaniya (未受分) 稱讚せらるべき; (漢) (女) -ā) 令生歡喜 *Mvyut.*

abhi-nandita (通受分) 喜ばされたる, 幸福なる, 挨拶せられたる, 褒められたる; (漢) 求; 忻樂, 貪樂, 深樂; 賞讚; 希戀; 禮觀; 恭敬禮拜 *Lal-v., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*

abhinandita-yāsaś (形) (漢) 現前稱讚, 所喜名稱 *Mvyut.*

abhi-nanditṛ (形) 歡喜せしむる(者).

abhi-nandin (形) (一)を喜ぶ, 楽しみとする: tṛṣṇā tatra-tatra ~nī 渴愛は到る處を歡ぶ (*Mah-v. III. 332.*); (漢) 求, 求索; 樂, 喜樂; 心懷乞求 *Divy., Av-ś., Bodh-bh.*; putra~ 求索有子 *Av-ś. I. 120.*

abhi-nandya 1. (未受分) 稱讚せらるべき, 認めらるべき.

abhi-nandya 2. (不變分) 喜びて, 喜ばしめられて.

abhi-nabhas (副) 天に向ひて, 空に向ひて.

abhi-nabhyam (副) 雲或は空に近く.

abhi-nāma abhinamati. → Nam.

abhi-namana (中) (漢) 現前敬 *Mvyut.*

abhi-namitā (女) [或る Gandharva の少女の名] (*Kār-vy.*).

abhi-namra (形) 大に曲れる.

abhi-naya (男) 演劇, 科(?), 無言劇.

abhinayācārya (°ya-āc°) (男) 演劇の教師.

abhi-nava (形) 極めて新しき, 新鮮なる; (漢) 新 *Lal-v., Bodh-bh.* (男) [人名].

abhinava-yauvana (形) 若き, 青年の.

abhinava-vayaska (形) [同上].

abhinavābhinava (形) (漢) 新新 *Bodh-bh.*

abhi-Naś, → Naś 2.

abhi-nahana (中) 細紐, 縛帶.

abhi-nāmadheya (中) 異名.

abhi-nāsikā-vivaraṃ (副) 鼻孔に.

abhi-niḥprapañca (形) (漢) 無戲論 *Daś-bh.*

abhi-nikūjita (通受分) (漢) 出妙音聲 *Divy.*

abhi-nigṛhita (通受分) (漢) 所執, 所制, 所持, 所動

Bodh-bh. → auddhatya ~, māna ~.
abhi-ni-DHā, → DHā.
abhi-nipatita (過受分) (漢譯) 奔來走向 *Lal-v.*
abhi-nipāta (男) 接近; (漢譯) 和合 *Abh-vy.*
abhi-ni-Piḍ, → Piḍ.
abhinimantraya (名動) abhinimantrayate(-ti). → mantraya.
abhi-nimrukta (過受分) → Mruc.
abhi-ni-Mruc abhinimrocati. → Mruc.
abhi-ni-Mruc, → Mruc.
abhi-ni-Mluc, → Mluc.
abhi-nimlupta (過受分) → Mlup.
abhi-nirūpaṇā (女) (漢譯) 計度, 顯示, 現前解 *Abh-vy., Mvyut.*
abhi-nir-Ji abhinirjayati, abhinirjitya (不變分). → Ji.
abhi-nirjita (過受分) 征服せられたる; (漢譯) 勝, 現勝, 現前勝 *Mvyut.*
abhi-nirjitya (不變分) [*<abhinircitya*]; (漢譯) 集 *Bodh-bh.*
abhi-nir-Nam abhinirṇāmayati(使役). → Nam.
abhi-nir-Diś, → Diś.
abhi-nir-BHarts, → BHarts.
abhi-nir-BHid abhinirbhidyā(不變分). → BHid.
abhi-nirbheda (男) [BHid 正しくは *Vyadh. Pāli.* abhinibbhidā 参照] 完全に押し破ること (*Mah-v.*).
abhi-nir-Mā, → Mā 1.
abhi-nirmita (過受分) → Mā 1. (漢譯) 化, 化作 *Lal-v., Saddh-p., Laṅk.*
abhi-nirmukta (過受分) → Muc.
abhi-nir-Muc, → Muc.
abhi-nir-Yā, → Yā.
abhi-niryāna (中) 敵軍への行進, 攻撃者の行進; =*abhi-niṣkramaṇa*; (漢譯) 出家 *Buddh-c.*
abhi-niryāta (過受分) (漢譯) 所生, 出生; 成就 *Gaṇḍ-vy.*
abhi-nir-Vap, → Vap 2.
abhi-nirvartaka (形) (漢譯) 現前作成就 *Mvyut.*
abhi-nirvartana (中) (漢譯) 生, 感 *Abh-vy.*
abhi-nir-Vā abhinirvāpya(使役 (不變分)). → Vā 1, 2.
abhi-nir-Vrj abhinirvarjyate(使役 (受)), abhinirvarjya(使役 (不變分)). → Vrj.
abhi-nir-Vṛt abhinirvartayati(使役). → Vṛt.
abhi-nirvṛtta (過受分) → Vṛt. (漢譯) 生, 起, 所生, 所生起, 生於彼; 所成就 *Daś-bh., Aṣṭ-pr., Laṅk., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 取涅槃, 取涅槃(樂), 得般涅槃 *Aṣṭ-pr.*
abhi-nirvṛtti (女) 成立, 成功; (漢譯) 轉; 生, 起, 生起, 生成, 諸有生起; 能感 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Laṅk., Bodh-bh., Madhy-v., Abh-vy.*
abhinirvṛtti-hetu (男) (漢譯) 生起因 *Bodh-bh.*
abhi-nir-Han, → Han.
abhi-nirharaṇa (中) (漢譯) 出生, 引發, 顯出 *Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh.*
abhi-nirharaṇatā (女) (漢譯) 出 *Gaṇḍ-vy.*
abhi-nirharamāna (現分) (漢譯) 神變 *Śikṣ.*

abhi-nirhartavya (未受分) (漢譯) 應發起, 應開發 *Gaṇḍ-vy.*
abhi-nirhāra (男) (漢譯) 出, 出生, 出世, 發生, 出離; 發, 所發; 起, 所起, 興; 成就, 成滿; 引, 所引, 引發; 作, 作用; 行; 示; 修; 能演 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr., Sam-r., Sūtr., Laṅk., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
abhi-nir-Hr abhinirharati. → Hr.
abhi-nirhrta (過受分) (漢譯) 出生; 發, 引發, 所引發, 已發; 起; 獲, 得, 得成, 成就; 引, 所引; 所持; 滿; 觀; 行, 修習, 修行; 送往 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Divy., Aṣṭ-pr., Laṅk., Abh-vy., Bodh-bh.*: ṛddhiś ca ~: ā 亦得神通 *Divy. 48.*
abhi-nirhrtatva (中) (漢譯) 所引 *Abh-vy.*
abhi-nirhrti (女) (漢譯) 成就 *Sūtr.*
abhi-ni-Viś abhiniviśate, abhiniveśate. → Viś.
abhi-niviṣṭa (過受分) → Viś. (漢譯) 著, 取著, 樂著, 耽著, 執著, 生執著已; 執, 所執; 貪, 戀; 憎嫉 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Aṣṭ-pr., Laṅk., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh.*
abhi-ni-Vṛt abhinivartate. → Vṛt.
abhi-nivṛtta (過受分) → Vṛt. (漢譯) 成 *Daś-bh.*: —° 起, 所成 *Laṅk.*; [abhinivṛtta と混同することあり] *Div. 227.*
abhi-nivṛtti (女) 結果; 進行; 成就; (漢譯) 生, 緣生 *Laṅk.*
abhi-niveśa (男) (於, —°)の性癖; (因)に對する執著, 固執; 專心なること, 頑固; 生命への愛著, 歸依; (目的を達せんとする)決心; 學習; (漢譯) 執, 著, 取, 執著, 所著, 貪著, 計著, 取著, 樂著, 愛著; 所執, 迷執, 妄執; 現貪, 貪住 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sam-r., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Śikṣ., Mvyut.*; 瞋惱 *Śikṣ.*
abhi-niveśana (中) 嗜好, 性嚮; (漢譯) 著, 倚著, 執著 *Lal-v.*
abhi-niveśita (使役 (過受分)) 入らしめられたる, 没入せる.
abhi-niveśitavya (未受分) (漢譯) 應固執 *Abh-vy.*
abhi-niveśitva (中) 性嚮.
abhi-niveśin (形) 動もすれば…せんとする; 專念する; 頑固に主張する; 決定せる.
abhi-ni-Śam, → Śam 4.
abhi-niśāmya (不變分) → Śam 4.
abhi-niścikramiṣā (女) 家より出で行かんとする欲望.
abhi-niśrita (過受分) (漢譯) 依, 依止, 依止住 *Gaṇḍ-vy.*
abhi-niṣ-Kram abhinīṣkrāmati. → Kram.
abhi-niṣkrama (男) (漢譯) 出 *Suv-pr.*
abhi-niṣkramaṇa (中) 離れ行くこと; 僧侶或は隱者となる爲に家を出づること(佛敎); (漢譯) 出家 *Lal-v., Daś-bh.*
abhi-niṣkrānta (過受分) ……に向ひて出で行ける; 僧侶或は隱者となる爲に家を去れる(佛敎); (漢譯) 出; 出家, 捨家 *Saddh-p., Śikṣ.*
abhinīṣkrānta-grhāvāsa (°ha-āv°) (形) 家を去る(僧侶或は隱者となる爲に)(佛敎); (漢譯) 出家 *Śikṣ.*
abhi-niṣpatti (女) 出現; (漢譯) 出現, 發, 所生; 成

成辦, 成熟, 成就; 究竟 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
abhi-niṣ-Pad abhinispadyate, abhinispādayati
 (使役). → Pad.
abhi-niṣpanna (通受分) → Pad. 起, 作, 成就
Lank.
abhi-niṣpādana (申) 成辦, 能成 *Abh-vy.*
abhi-niṣpādya (未受分) 所生, 得成 *Abh-vy.*
abhi-niṣyanda 男 滴下.
abhi-nisyanda 男 [同上].
abhi-niṣ-Sr, → Sr.
abhi-niṣṣṛta (通受分) → Sr. 出 *Buddh-c.*
abhi-ni-Han, → Han.
abhi-nihita (通受分) → DHā I.
abhi-Ni, → Ni.
abhi-niti (女) 身振り, 身振にて話すこと; 友情, 懇勸;
 勧誘, 説得.
abhi-nīla (形) 深暗色の; 紺青, 紺艶, 紺青色
Gaṇḍ-vy., *Lal-v.*, *Mvyut.*
abhinīla-keśin (形) 髮紺青, 髮紺色 *Gaṇḍ-vy.*
abhinīla-netra (形) [三十二相の一] 目紺色, 目
 紺青色, (其) 目紺青 *Lal-v.*, *Bodh-bh.*
abhinīlanetra-go-pakṣman (形) [三十二相の一]
 眼色紺青而眼睫如牛王 *Mvyut.*
abhinīla-netratā (女) 暗青色の眼を有すること;
 [= abhinīla-netra, 三十二相の一] 紺眼相, 目紺
 青色, 紺青目相 *Bodh-bh.*,
abhinīla-pradakṣiṇāvarta-keśa (°na-āv°) (形) [三十二相の一] 其髮紺青右旋, 其髮右旋如紺青色
Gaṇḍ-vy.
abhi-Nu, → Nu I.
abhi-Nud abhinodayati(使役). → Nud.
abhi-nunna (通受分) 所逼, 所逼切 *Abh-vy.*
Bodh-bh.
abhi-nṛmṇa (形) (女 -ā) 大に幸福を齎せる.
abhi-netavya (未受分) 演ぜらるべき.
abhi-neya (未受分) 演ぜらるべき, 表現せらるべき.
 (申) 所作, 身振.
abhinna (通受分) 破られざる; 壊せられざる; 害
 せられざる; 破られざる, 妨げられざる, 分たれ
 ざる; 確乎たる; 變ぜられざる; (從) に異らざる;
 不壞, 無壞; 無差別, 不異, 無異, 無別, 不各
 別; 不間斷, 不斷絶 *Aṣṭ-pr.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Abh-*
vy., *Abh-k.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*
abhinna-gati (形) 歩調を變ぜざる, 進路を變ぜざる.
abhinna-tva (申) 異ならざること, 一致; 無別,
 無差別, 非有異 *Lank.*, *Abh-vy.*
abhinna-parivārā (女) [或る Nāga の少女の名] (*R-*
vy.).
abhinna-puta 男 [面纱の一種].
abhinna-lakṣaṇa (形) 不壞相, 無異相, 無差別
 相 *Lank.*
abhinna-vela (形) 限界を破らざる.
abhinna-samjñā (女) 不分別名 *Lank.*
abhinna-sthiti (形) 限界を破らざる; 規則を破らざ
 る.
abhinna-tman (°na-āt°) (形) 惑はざる, 自らの道を誤

らざる.

abhi-nyāsa (男) [熱病の一種].
abhinyāsa-bhūtatva (申) 負重, 如荷重擔 *Abh-*
vy. 626.
abhi-paṇḍutā (女) 甚だ蒼白なること.
abhi-Pat abhipatati(I). → Pat I, 2.
abhi-patana (申) 飛びかゝること, ……の方に飛ぶこ
 と.
abhi-patāka (形) 旗幟の向けられたる.
abhi-pattī (女) 把捉; 到達, 占有 (*Jāt-m.*); 受 *Buddh-c.*
-abhi-pattimat (形) 所有せる (*Jāt-m.*).
abhi-Pad, → Pad.
abhi-padma (形) 皮膚に赤き斑點ある(象).
abhi-pariglāna (通受分) 消耗せる, 疲勞せる. →
Glai.
abhi-paripluta (通受分) → Plu.
abhi-pary-ā-Vṛt, → Vṛt.
abhi-pary-ā-Sic, → Sic.
abhi-paś abhipaśyati. → Paś.
abhi-Pā abhipāti. → Pā 2.
abhi-pāta (男) 急ぐこと.
abhi-pātin (形) 急ぎ赴く; (一°) の急に赴く.
abhi-pāraga (男) [人名] (*Jāt-m.*).
abhi-pāla (男) 保護者, 番人.
abhi-pālaka (男) [同上].
abhi-pālan () 保護.
abhipālay (動) → pālaya.
abhi-pitva (申) 接近, 訪問, 逗留; 夕方.
abhi-Pid, → Pid.
abhi-Pūj, → Pūj.
abhi-pūraṇa (申) 満たすこと.
abhi-pūrṇa (通受分) → Pṛ I.
abhi-pūrta (通受分) → Pṛ I.
abhi-Pṛ, → Pṛ I.
abhi-pṛṣṭhe (於) 背後に.
abhi-prakirṇa (通受分) 周遍 *Lal-v.*
abhi-pra-Kṛ abhiprakirati. → Kṛ.
abhi-pra-Kṣal abhiprakṣālayati(使役). → Kṣal.
abhi-praghātita (通受分) 殺, 殺害; 所燒害
Daś-bh.
abhi-pracakṣe (爲) 不定 見廻さんが爲に.
abhi-pra-Nam, → Nam.
abhi-praṇāśa (男) 壞失 *Sam-r.*
abhi-pratārin (男) [人名].
abhi-prati-Pad, → Pad.
abhi-praty-ava-Ruh, → Ruh.
abhi-pradakṣiṇam (圖) 右に向ひて, 右方へ. ~
 Kṛ, 右邊す.
abhi-pra-Drā, → Drā I.
abhi-pradharaṇa (申) 加害.
abhi-pra-Nṛt, → Nṛt.
abhi-pra-Pad, → Pad.
abhi-prapanna (通受分) → Pad.
abhi-prapūraṇa (申) 充たすこと; 吹 *Saddh-p.*:
mahā-dharma-śaukha ~ 吹大法螺 *Saddh-p.* 16.

abhi-pra-Mad → Mad 1.

abhi-pra-Mud abhipramodate. → Mud.

abhi-pramodana 形 漢譯 令歡喜, 生歡喜 *Aṣṭ-pr.*

abhi-pramodanā 女 漢譯 深生歡喜 *Bodh-bh.*

abhi-pra-Yā, → Yā.

abhi-pra-Lamb abhipralambate. → Lamb.

abhi-pralambita 過受分 漢譯 垂, 垂下, 垂布, 懸, 垂懸 *Lal-v., Saddh-p., Sukh-vy. I.*

abhi-pravarṣaṇa 中 漢譯 雨, 澍 *Daś-bh., Saddh-p., Gaṇḍ-vy.:* mahā-dharma-vṛṣṭy ~ 雨大法雨 *Saddh-p. 16.*

abhi-pravarṣita 過受分 漢譯 雨 *Saddh-p.*

abhi-pra-Vah, → Vah.

abhi-pra-Vṛt abhipravartate. → Vṛt.

abhi-pravṛtta 過受分 → Vṛt.

abhi-pra-Vṛṣ abhipravārṣati. → Vṛṣ.

abhi-pravṛṣṭa 過受分 漢譯 雨, 繽紛 *Saddh-p.*

abhi-praveśa 男 (或る場處へ)入ること, 浸透.

abhi-pra-Śvas, → Śvas.

abhi-pra-Sad abhiprasīdati, abhiprasādayati (便役). → Sad.

abhi-prasanna 過受分 [*Pāli.* abhippasanna] (於)に安心する, 信用する, 信仰する, 信ずる; ……に熱誠なる; (於, 圖)を信ずる (*Divy.*); 漢譯 信, 深信, 專信, 信敬, 信受, 信樂, 生信心, 生淨信, 已信者, 正信者, 生信敬心, 起信敬心, 心生敬信, 深生信敬; 誠; 敬重; 深著 *Divy., Suv-pr., Saddh-p., Vijñ-v., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵干;* 淨, 清淨, 澄清淨, 清白 *Divy., Lal-v., Bodh-bh.*

abhi-pra-Sah, → Sah.

abhi-prasāda 男 漢譯 信 *Mvyut.*

abhi-prasādayitavya 未受分 漢譯 信解, 令得入, *Divy.*

abhi-prasādita 便役 過受分 信仰を確立せる, 和合せる, 宥められたる (*Jāt-m.*).

abhi-prasārin 形 到著する, 群集する (*Jāt-m.*).

abhi-pra-Sṛ abhiprasāryate (便役 受) abhiprasāryati (便役). → Sṛ.

abhi-prasṛta 過受分 流れ出でたる, 溢れる (*Jāt-m.*).

abhi-pra-Sthā abhiprasthāpayati (便役). → Sthā.

abhi-prasthita 過受分 → Sthā 漢譯 求 *Saddh-p.*

abhi-pra-Sru, → Sru.

abhi-pra-Hṛ, → Hṛ 1.

abhi-prāṇ (°pra-Aṇ) abhiprāṇiti. → An.

abhi-prātar 圖 朝, 早朝.

abhi-prāya 男 目的, 志向, 願望; 意見; 意義; 概念; 觀察, 理解; 現象, 幻像; 想念, 概念; 漢譯 願, 所願, 深心所願, 意願, 誓願, 欲, 欲求, 所欲, 願欲, 樂, 意樂, 志樂, 欲樂, 心所樂; 所求, 希求, 怖求, 思惟怖求; 意, 故意, 別意, 密意, 義意, 意趣; 心, 念, 心念, 思, 想, 志性; 所趣 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Suv-pr., Daś-bh., Vijñ-v., Madhy-vibh., Bodh-bh., Abh-vy., Sūtr., Śikṣ., Mvyut.:* dhārmikā ~ āḥ 法願 *Aṣṭ-pr. 741.;* —° 爲 *Bodh-bh.:* dharma ~ 爲法 *Bodh-bh. 182.;*

catvāro ~ āḥ 四意趣 [1. samatā ~ ḥ 平等意趣, 2. kā'āntara ~ ḥ 別時意趣, 3. arthāntara ~ ḥ 別義意趣, 4. pudga'āntara ~ ḥ 衆生意樂意趣] *Mvyut.*

abhi-prāyika 形 漢譯 意 *Sūtr.*

abhi-prārthana 中 漢譯 求, 求覓, 志願 *Daś-bh.*

abhi-prās (°pra-Aś), → Aś 2.

abhi-pri 形 喜ばしむる.

abhi-prita 過受分 → Pri. 漢譯 所愛, 可愛 *Abh-vy., Bodh-bh.*

abhi-Pruṣ abhipruṣnute, abhipruṣāyati (便役). → Pruṣ.

abhi-pre (°pra-I) abhipraitī. → I.

abhi-prekṣ (°pra-Īkṣ), → Īkṣ.

abhi-preṭa 過受分 意味せられたる, 企圖せられたる. → I. 漢譯 意, 取, 意取, 想, 謂; 所願, 所期, 所要期; 欲, 欲樂, 所樂; 愛, 愛念, 可愛, 可愛樂, 心有愛樂 *Lal-v., Divy., Aṣṭ-pr., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.;* 所至, 所住 *Aṣṭ-pr.:* ~ āṃ diśam 所至處, 所住處 *Aṣṭ-pr. 588.*

abhipreta-vastu 中 漢譯 可愛事, 可愛樂事, 愛樂事, 所樂事, 所樂境 *Vijñ-t.*

abhi-pretya 不變分 [I] 意圖して, ……を意味して; 漢譯 密意趣, 由別意 *Vijñ-v.*

abhi-prepsu 希求 形 (圖)を希ふ.

abhi-preṣaṇa 中 (使者の)派遣.

abhi-plava 男 [六日閑行はるゝ Soma 祭の一形式].

abhi-Plu, → Plu.

abhi-pluta 過受分 壓倒せられたる; 溢れたる. → Plu.

abhi-Bandh, → Bandh.

abhi-bandhin 形 引證する.

abhi-Barh, → Barh 2.

abhi-Bādḥ abhibādḥate. → Bādḥ.

abhi-Budh abhibudhyati. → Budh.

abhi-BHaj, → BHaj.

abhi-BHañj, → BHañj.

abhi-bhartṛ 圖 夫に近く, 夫の面前にて.

abhi-BHarts, → BHarts.

abhi-bhava 形 力の優れたる, 克服する. 男 卓越, 優位; 克服; (男, 從, 一)によりて壓到せらるゝこと, ……に服従すること; 輕蔑, 無視, 屈辱; 漢譯 伏, 折伏, 伏滅, 伏逼, 勝伏; 隱蔽, 映, 映蔽 *Lal-v., Laṅk., Sūtr., Madhy-vibh., Bodh-bh., Sāṃkhy-k.*

abhi-bhavana 中 克服; 克服せらるゝこと; 漢譯 制, 摧滅, 攝伏; 奪, 能映奪 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*

abhi-bhavanīya 未受分 克服せらるべき; 漢譯 能伏 *Bodh-bh.*

abhi-BHā abhibhāti. → BHā.

abhi-bhājana 中 到達せしむること.

abhi-bhāvana 中 克服せしむること, 勝利を得せしむること; 漢譯 降伏; 超映; 威德肅然 *Lal-v., Mvyut.*

abhi-bhāvin 形 壓倒する, 克服する.

abhi-BHāṣ abhibhāṣati. → BHāṣ.

abhi-bhāṣaṇa 中 告辭, 談話, 話しかくこと; 漢譯

語, 問訊 *Kāśy.* → pūrva ~.

abhi-bhāṣita (過受分) → BHās. 言 *Saddh-p.*

abhi-bhāṣitr 形 [同下].

abhi-bhāṣin 形 話しかくる; 話す; 言, 語, 問訊 *Sūtr., Bodh-bh.* → pūrva ~.

abhi-bhāṣya (未受分) 話しかけらるべき.

abhi-BHid, → BHid.

abhi-bhu 形 [= abhi-bhū] (業) より力の優れたる, 卓越せる; 伏 *Mvyut.* 男 [曆月の名]; [龍王の名].

abhi-bhuva 形 勝 *Saddh-p.*

abhi-BHū abhibhavati. → BHū.

abhi-bhū 形 [= abhi-bhu]; 勝, 勝(處); 最勝, (威徳) 最勝; 制, 伏; 映蔽 *Daś-bh., Sam-r., Sūtr., Abh-vy.*

abhi-bhūta (過受分) 凌駕せられたる, 敗れたる, 征服せられたる, 貶せられる; 壓倒する, 苦しむる, 害する; 勝, 能屈, 鎮伏, 勝過; 所覆, 蔽, 所蔽, 映蔽; 所逼, 所拘逼者; 没在, 不現 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Sam-r., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; 耽著 *Lal-v.*; 雜 *Cat-ś.* ~o 'pi yady usnaḥ 餘煖雜故成 *Cat-ś. 509.* → an ~.

abhi-bhūti 女 卓越, 優位; 輕蔑, 屈辱. 形 克服する, 卓越する.

abhibhūty-ojas 形 卓越せる力を有する.

abhi-BHūṣ, → BHūṣ 2.

abhibhv-āyatana (°bhū-āy°) 中 勝處, 制入

Abh-vy., Mvyut.: aṣṭāv ~āni 八勝處 [1. adhyātma-rūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati parittāni suvarṇa-durvarṇāni tāni khalu rūpāny abhibhūya jānāty abhibhūya paśyati evamsamjñī ca bhavati idam prathamam ~m. 内有色想觀外色少. 若好若惡於彼諸色. 勝知勝見得如實想. 是初勝處, 2. adhyātma-rūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati mahad-gatāni suvarṇa-durvarṇāni tāni khalu rūpāny abhibhūya jānāty abhibhūya paśyati evamsamjñī ca bhavati idam dvitīyam ~m. 内有色想外色多. 若好若惡於彼諸色. 勝知勝見得如實想. 是第二勝處, 3. adhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati nilāni nila-varṇāni nila-nidarśanāni nila-nirbhāsāni tad yathā umaka-puṣpam sampannam vā vārānaseyam vastram nilam nila-varṇam nila-nidarśanam nila-nirbhāsam evam evādhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati nilāni nila-varṇāni nila-nidarśanāni nila-nirbhāsāni idam tṛtīyam ~m. 内無色想觀外諸色. 若青青顯青現青光. 猶如烏摩迦華. 或如婆羅痾斯深染青衣. 若青青顯青現青光. 如是内無色想觀外諸色. 若青青顯青現青光. 是第三勝處, 4. adhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati pītāni pīta-varṇāni pīta-nidarśanāni pīta-nirbhāsāni tad yathā karnikāra-puṣpam sampannam vā vārānaseyam vastram pītam pīta-varṇam pīta-nidarśanam pīta-nirbhāsam evam evādhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati pītāni

pīta-varṇāni pīta-nidarśanāni pīta-nirbhāsāni idam caturtham ~m. 内無色想觀外諸色. 若黃黃顯黃現黃光. 猶如羯尼迦華. 或如婆羅痾斯深染黃衣. 若黃黃顯黃現黃光. 如是内無色想觀外諸色. 若黃黃顯黃現黃光. 是第四勝處, 5. adhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati lohita-varṇāni lohita-nidarśanāni lohita-nirbhāsāni tad yathā bandhujivaka-puṣpam sampannam vā vārānaseyam vastram lohita-varṇam lohita-nidarśanam lohita-nirbhāsam evam evādhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati lohita-varṇāni lohita-nidarśanāni lohita-nirbhāsāni idam pañcamam ~m. 内無色想觀外諸色. 若赤赤顯赤現赤光. 猶如般豆時婆迦華. 或如婆羅痾斯深染赤衣. 若赤赤顯赤現赤光. 如是内無色想觀外諸色. 若赤赤顯赤現赤光. 是第五勝處, 6. adhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati avadātāni avadāta-varṇāni avadāta-nidarśanāni avadāta-nirbhāsāni tad yathā uśanas-tārakāya-varṇa avadāta avadāta-varṇa avadāta-nidarśana avadāta-nirbhāsaḥ evam evādhyātmam arūpa-samjñī bahirdhā rūpāni paśyati avadātāni avadāta-varṇāni avadāta-nidarśanāni avadāta-nirbhāsāni idam ṣaṣṭham ~m. 内無色想觀外諸色. 若白白顯白現白光. 猶如烏沙那斯星色. 若白白顯白現白光. 如是内無色想觀外諸色. 若白白顯白現白光. 是第六勝處, 7. sa sarvaśo rūpa-samjñānām samatikramāt pratigha-samjñānām aṣṭamgamān nānātva-samjñānām amanasikārūd anantam ākāśam ity ākāśānantyāyatanam upasampadya viharati idam saptamam ~m. 超一切色想滅有對想不思惟種種想. 入無邊空空無邊處具足住. 是第七勝處, 8. sa sarvaśa ākāśānantyāyatanam samatikramyānantam vijñānam iti vijñānānantyāyatanam upasampadya viharati idam aṣṭamam ~m. 超一切空無邊處. 入無邊識識無邊處具足住. 是第八勝處] *Mvyut.*

abhi-mata (過受分) 尊ばれたる, 愛されたる; 熱望せられたる, 是認せられたる. → Man. 中 願望, 欲望; 願樂 *Vijñ-t.*

abhi-matatva 中 所樂 *Abh-vy.*

abhi-mati 女 我執; 利己心; 高慢; (ahamkāra の行爲として) 總てのものを自己に關係づること.

abhi-Man abhimanyate. → Man.

abhi-mana 形 (業) の方に心を向けたる, ……に就きて考ふる (*Mah-v.*).

abhi-manas 形 (一°) を欲求せる; (業) 一方に心を向けたる; 努力せる.

abhimānāya (名動) 自 → manāya.

abhi-mantavya (未受分) (體) と考へらるべき; 願はるべき.

abhi-mantr 形 總てのものを自己に關係づること.

abhi-mantraṇa 中 呼びかゝること, 話しかゝること; 祈願; 特別の呪文によりて物を神聖にすること, 祓淨.

abhimantraya (名動) → mantraya.

abhimantrita (過受分) 一定の呪文を以て神聖にせら

れたる; 〔漢譯〕加持 *Sikṣ.*
abhi-manyanatā 〔女〕 〔漢譯〕輕慢 *Rāstr.*
abhimanyu 〔男〕 [人名]; [王の名].
abhimanyu-ja 〔男〕 *Abhimanyu* の子.
abhimanyu-pura 〔中〕 [都邑の名].
abhimanyu-svāmin 〔男〕 [殿堂の名].
abhi-marda 〔男〕 暴行, 戦; (敵によりて國土等を)蹂躪せらるゝこと; 酒.
abhi-mardana 〔中〕 壓迫; 破壊; 〔漢譯〕犯, 姪 *Divy.*
 〔形〕 暴行をなす, 壓迫する.
abhi-mardin 〔形〕 暴行を爲す, 壓迫する, 蹂躪する(者).
abhi-marśa 〔男〕 接觸; 摺むこと(例 髪を); 考慮 (*Jāt-m.*).
abhi-marśaka 〔形〕 觸るゝ, 接觸する.
abhi-marśana 〔中〕 接觸すること.
abhi-marśin 〔形〕 接觸する.
abhi-marśa 〔男〕 = *abhimarśa*.
abhi-māti 〔女〕 敵意, 謀叛; 敵. 〔形〕 待ち伏せする, 敵意ある.
abhi-mātin 〔男〕 敵. 〔形〕 待ち伏せする.
abhi-māna 〔男〕 敵意; 高慢; 自覺(昏); 自ら或ものを所有すとの謬見, 偏見; 謬れる假定; 情愛; 〔漢譯〕慢, 過慢, 憍慢, 増上慢, 憍慢貢高 *Aṣṭ-pr., Prāt-m., Sūtr., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*; 妄執, 我所執 *Abh-vy., Sāmkhy-k.*
abhimāna-patita 〔形〕 〔漢譯〕懷増上慢, 増上慢者 *Aṣṭ-pr.*
abhimāna-prāpta 〔形〕 〔漢譯〕増上慢, 増上慢者 *Saddh-p.*
abhi-mānavat 〔形〕 高慢なる, 誇れる, 自己に(一°)が備はれりと考ふる.
abhimāna-śālin 〔形〕 横柄なる, 傲然たる, 高慢なる.
abhi-mānika 〔形〕 〔漢譯〕憍慢, 増上慢, 憍慢心, 増上慢人, 貢高, 貢高憍慢 *Kāśy., Sapt-pr., Laṅk., Mvyut.*
abhi-mānitā 〔女〕 自負, 高慢なること.
abhi-mānitva 〔中〕 [同上]; (一°)と自負すること.
abhi-mānin 〔形〕 自惚たる; 高慢なる; 自己に(一°)が備はれりと考ふる, ……と見做す; 言ひ詮はず, 意味する; 〔漢譯〕謂; 分別; 我慢, 起増上慢 *Rāstr., Abh-vy., Bodh-bh.*
abhi-mārutam 〔男〕 風に逆ひて.
abhi-mārgaṇā 〔女〕 追跡, 搜索 (*Jāt-m.*).
abhi-Mih, → *Mih.*
abhi-Mil, → *Mil.*
abhi-mukha 〔形〕 (女 -i) (男, 女, 男, 一°)に向ひたる, 面せる; (男, 女)に好意ある; 切迫せる; 一° ……の間際にある, 將に……せんとする, ……に注意する; 一° (男)前面に; 〔漢譯〕向, 對, 對向, 定向, 趣向, 相向; 現, 現在, 現前其前, 現在前; 普現前, 現觀; 對, 現所對, 現普對, 觀面 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sapt-pr., Sikṣ., Sūtr., Abh-vy., Mvyut.*, 見雜; 方便 *Abh-vy.*; 了 *Mvyut.*; 一° 現前, 觀見, 專向; 能入, 轉趣; 求, 常念, 常念不捨離, 專念不捨, 心不捨 *Gaṇḍ-*

vy.; 將 *Abh-vy.*: *cyuty* ~ 將死 *Abh-vy. 113.*
 ~ **m** 〔男〕 前面に; ……の方へ, ……に對し; (男, 女, 一°)に向ひて; 〔漢譯〕現前 *Mvyut.*; 於……前, 住……前 *Saddh-p.*: *bhagavato* ~ 於佛前, 住世尊前 *Saddh-p. 386.*; 一° 遙望 *Divy.*: *jetavana*: ~ 遙望逝多林 *Divy. 13.*
 〔中〕 (男, 一°)の向側に.
abhi-mukhatā 〔女〕 現前, 近接; 〔漢譯〕向, 面見, 現前, 令現前 *Daś-bh.*; 一° 常見 *Gaṇḍ-vy.*
abhimukha-dig-āvṛtta 〔形〕 〔漢譯〕隨方廻轉 *Gaṇḍ-vy.*
abhimukhaya 〔名動〕 他 ……に對す, 敬禮す, 有利ならしむ.
abhimukha-sthitvā (不變分) 〔漢譯〕即現其前 *Gaṇḍ-vy.*
abhimukhā-BHū, 〔漢譯〕現在 *Sikṣ.*
abhimukhi-karaṇa 〔中〕 ……の方へ顔を向くこと; 話しかくこと; 〔漢譯〕趣向, 得現前 *Madhy-vibh.*
abhimukhi-Kṛ, ……の方へ顔を向く, 話しかく; 前方に顔を向けしむ, 前方に驅る; 〔漢譯〕入, 趣入; 求, 專意趣求 *Gaṇḍ-vy.*
abhimukhi-BHū, ……の方へ向く, 好意を示す.
abhimukhi-bhūta 〔形〕 直面せる, 面したる; 良好なる(運命); 〔漢譯〕現前, 在前 *Lal-v., Mvyut.*
abhimukhi-bhūmi 〔女〕 〔漢譯〕現前地 *Bodh-bh.*
abhi-mukhya 〔形〕 〔漢譯〕現在前 *Sūtr.* → *upakāra* ~.
abhi-Muc *abhimuñcati.* → *Muc.*
abhi-muni 〔男〕 *Muni* の面前に於て.
abhi-Mṛ *abhimarate.* → *Mṛi.*
abhi-Mṛkṣ, → *Mṛkṣ.*
abhi-Mṛj, → *Mṛj.*
abhi-Mṛd *abhimardati.* → *Mṛd.*
abhi-Mṛś. *abhimṛśati(-te).* → *Mṛś.*
abhi-mṛṣṭa-ja 〔形〕 私生の; 招かれたる.
abhi-Yaj, → *Yaj.*
abhi-Yā *abhiyāti.* → *Yā.*
abhi-yā 〔形〕 近づく, 攻撃する; 何處にも赴ける; 周到なる, 注意深き.
abhi-Yāc *abhiyāceti.* → *Yāc.*
abhi-yācana 〔中〕 懇願.
abhi-yācita (通受分) → *Yāc.*
abhi-yāta (通受分) → *Yā.*
abhi-yātr 〔男〕 攻撃者, 敵.
abhi-yāna 〔中〕 接近; 攻撃.
abhi-yāyin 〔形〕 接近する, 攻撃する; (男, 一°)に行く.
abhi-yukta (通受分) → *Yuj.* 〔漢譯〕勤, 勤苦, 精勤, 勤修; 修, 修習, (常)修, 熟修, 所修習, 精勤修習; 行, 勤行, 修行, 勤修行, 勤修加行; 精進, 勤精進, 行精進; 求, 所求; 營事; 正務; 專心 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Saddh-p., Sukh-vy. I., Rāstr., Sikṣ., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
abhiyukta-rūpa 〔形〕 〔漢譯〕勇猛 *Saddh-p.*
abhiyukti-dhyāna 〔中〕 〔漢譯〕樂修禪定 *Sikṣ.*
abhi-Yuj *abhiyunkte, abhiyujyate* (受). → *Yuj.*
abhi-Yudh, → *Yudh.*

abhi-yoktavaya (未受分) 實行せらるべき; 非難又は起訴せらるべき。

abhi-yoktr (男) 攻撃者; 原告, 彈劾者。

abhi-yoga (男) 使用; 努力, 精勵; 攻撃; 告訴; (男) 勤, 勤行, 精勤, 現精勤, 勤修, 重修, 修學, 修行, 加行, 勝加行, 勤加行, 勇猛加行; 相應; 相擊 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

abhiyoga-klamādhiṣṭhāna (中) (男) 勤劬處, 精勤處, 精勤(處); 方便處 *Bodh-bh.*

abhiyoga-pratyabhiyoga (男) (男) 共相擊論 *Bodh-bh.*

abhi-yogin (男) 熱中する; 起訴する, 攻撃に専念する。 (男) 告訴者。

abhi-yogya (未受分) 攻撃せらるべき, 攻撃し得べき。

abhi-rakta (過受分) → *Raj.*

abhi-Rakṣ *abhirakṣati(-te).* → *Rakṣ.*

abhi-rakṣaṇa (中) 保護, 監視。

abhi-rakṣā (女) [同上]。

abhi-rakṣita (過受分) 保護又は防禦せられたる; 支配又は命令せられたる。

abhi-rakṣitr (男) 保護者, 番人。

abhi-Rañj *abhirajyate.* → *Raj.*

abhi-rata (過受分) → *Ram.* (男) 樂, 常樂, 喜樂, 熹樂, 生喜樂, 深生喜樂; 樂修; 愛, 愛樂, 深心愛樂, 極生愛樂, 愛樂戀著, 樂著, 愛著, 好, 好著, 著者, 樂著者; 娛 *Divy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lañk., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.*

abhirata-rūpa (形) (男) 深心寶翫 *Bodh-bh.*

abhi-rati (女) 快樂; (因, 一°)の歡喜; (男) 樂, 愛樂, 忻樂, 妙樂, 樂著; 喜, 喜悅; 可愛 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sam-r., Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.*; 追求 *Śikṣ.*; [佛國の名] 歡喜, 甚樂 *Saddh-p.*; ~h *śuddhā-dhimuktānām* 淨信者愛樂, 信者無不喜悅 *Mvyut.* → *an* ~。

abhi-Ram *abhiramate.* → *Ram.*

abhi-raśmi-māli (圖) 太陽に向ひて。

abhi-Rā, → *Rā* 2.

abhi-rāddha (過受分) → *Rādh.* (男) 順 *Bodh-bh.* → *an* ~。

abhi-Rādh *abhirādhayati(便役).* → *Rādh.*

abhi-rādhana (中) (圖)を満足せしむること; (男) 現喜, 令現悅, 令生怡悅, 生歡喜心 *Lal-v., Mvyut.*

abhi-rādhanatā (女) (男) 承事 *Gaṇḍ-vy.*

abhi-rādhayitavya (未受分) (男) 善取 *Śikṣ.*: *eittam* ~m 善取人心相 *Śikṣ. 55.*

abhi-rāma (形) 樂しき, 悦ばしき, 愛らしき, 美しき; (男) 樂, 可愛 *Rāṣṭr., Sūtr., Mvyut.* ~m [同上] (圖)。 (男) (一°)の歡喜; (男) 喜, 樂, 愛樂 *Abh-vy.*

abhi-rāmatā (女) 美, 優美; 歡喜; (男) 樂 *Sūtr.*

abhi-Ru *abhirauti.* → *Ru.*

abhi-Ruc *abhirocate.* → *Ruc.*

abhi-ruci (女) (因, 一°)の歡喜, 適意。

abhi-rucita (過受分) → *Ruc.* (男) 喜, 所愛樂 *Saddh-p., Mvyut.* (男) [物語中の王の名]。

abhi-rucira (形) 華美なる; (男) 勝光明 *Śikṣ.*

abhi-ruta (過受分) → *Ru* 1. (中) 歌; 叫聲。 (男)

妙聲。

abhi-Rudh, → *Rudh* 3.**abhi-Ruh** *abhirohati.* → *Ruh.***abhi-rūḍha** (過受分) (男) 騎, 乘, 乘御, 乘駕 *Saddh-p., Vin., Śikṣ., Madhy-v., Mvyut.*; 一° 住 *Gaṇḍ-vy.* → *caṅkrama* ~。**abhi-rūpa** (形) (圖)に相當する; 適當なる; 美しき; 博學なる; (男) 美, 美貌, 色麗, 妙色, 具足妙色, 身形殊妙, 最上色相, 端正, 端政, 形貌端正, 儀貌端正, 容儀端正, 端正微妙, 容色端正, 身色端嚴, 形貌端嚴, 形色端嚴, 顏貌端嚴, 端嚴妙色相; 可愛, 端正可喜 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sukh-vy. I., Sam-r., Divy., Lal-v., Av-ś., Śikṣ., Mvyut.*: ~yā *prāsādikayā darsānīyayā* 美, 端正 *Aṣṭ-pr. 700.*(男) 月; [*Śiva* 神, *Viṣṇu* 神, *Kāmadeva* の名]。**abhi-rūpatā** (女) 良き育ち, 教養; (男) 形色端嚴 *Bodh-bh.***abhi-rūpavat** (形) 美しき。**abhi-rūhana** (中) 攀ること, 登ること (*Mah-v.*)。**abhi-rocana** (中) (男) 樂求, 欣樂 *Gaṇḍ-vy.***abhi-rocanatā** (女) (男) 樂 *Gaṇḍ-vy.***abhi-lakṣaṇa** (中) 標を附する行爲; (男) 觀察, 善知, 善分別 *Lañk.***abhilakṣaya** (名動) → *lakṣaya.***abhilakṣita** (過受分) → *lakṣaya.* (男) 標幟; 所咨嗟; 顯明知識 *Lal-v., Mvyut.***abhi-lakṣya** (未受分) ……に對し目標を置く, ……の方に向けられたる; (一°)によりて認めらるべき, ……によりて指示又は確定せらるべき, ……により區別せらるべき。 ~m (圖) 目標又は目的に向ひて。**abhi-lagna** (過受分) (男) 貪, 持, 所著, 所執著 *Rāṣṭr., Mvyut.***abhi-Laṅgh,** → *Laṅgh.***abhi-laṅghana** (中) (圖)を跳び踰すこと; 暴行, 違背。
abhi-laṅghin (形) (一°)を跳び踰す; (一°)に暴行する, 違背する。**abhi-Lap** *abhilapate, abhilapyate(受).* → *Lap.***abhi-lapana** (中) (男) 明記, 不忘 *Abh-vy.***abhi-lapanatā** (女) (男) 明記, 明說, 具說 *Vijñ-t., Mvyut.***abhi-lapita** (過受分) (男) 說, 所說 *Aṣṭ-pr.***abhi-labdha** (過受分) (男) 得 *Abh-vy.***abhi-Labh** *abhilabhate, abhilabhyate(受), (abhi-lapyate).* → *Labh.***abhi-lamba** (形) 懸垂せる。**abhi-Laṣ** *abhilasati.* → *Laṣ.***abhi-laṣaṇa** (中) 渴望, 要求。**abhi-laṣaṇiya** (未受分) 願はしき; 貪らるゝ; 引付くる如く感ぜらるゝ(人又は物); (男) 上妙, 所樂(見), 當愛羨 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.***abhi-laṣita** (過受分) → *Laṣ.* (男) 求覓, 希望, 所喜 *Divy., Śikṣ.* (中) 欲望, 願望, 意志。**abhilaṣita-darsānatā** (女) (男) 所喜見 *Śikṣ.***abhi-laṣya** (未受分) 願はしき。**abhi-lāpa** (圖) 談話, 言葉, 宣言; 報告; (男) 言, 所言, 言說, 言語, 能說 *Lañk., Daś-bh., Bodh-bh.*:

sarva~aviṣaya [一切の言説の境に非ざる], 不可説, 難思議 *Gaṇḍ-vy. 50.*
abhilāpa-vikalpa 男 言語分別, 言説分別, 言説妄想 *Laṅk.*
abhi-lāpita 便役 過受分 言, 説 *Abh-vy.*
abhi-lāpin 形 言, 語, 善言, 問訊 *Bodh-bh., Mvyut.* → pūrva~.
abhi-lāpya 未受分 言, 言語, 説, 所説, 所言説, 言能説, 能詮表; 戲論; 義 *Lal-v., Laṅk.* → an~, nir~.
abhilāpya-vastu 中 言事, 所言説事 *Bodh-bh.*
abhilāpya-sāmānya 中 總言, 總説 *Mvyut.*
abhi-lāṣa 男 (於, 一)に對する欲望, 願望, 貪欲; 愛情; 願, 樂, 欣, 欣樂; 欲, 愛, 愛欲; 求, 樂求, 希求, 怖求; 希望; 慕; 取著, 執著, 貪著 *Lal-v., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Vijñ-t., Śikṣ., Bodh-c., Mvyut.*; 歡喜 *Av-ś.* → an~, sa~.
abhi-lāṣaka 形 (業)を要求する, 願ふ.
abhi-lāṣaṇa 中 求, 希求; 樂, 貪樂, 慕樂 *Daś-bh.*
abhilāṣa-parama 形 專求, 一心勤求 *Gaṇḍ-vy.*
abhilāṣa-pūrayitrka 形 欲望を満足せしむる.
abhi-lāṣita 過受分 希求, 欣樂 *Daś-bh.*
abhi-lāṣin 形 (於, 一)を欲する; 貪, 欲; 求, 欣求, 專求, 志求, 勤求, 願求者; 樂, 心樂, 恆樂, 樂喜; 志慕, 志期; 愛著; 敬; 希, 希求 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Daś-bh., Kāśy., Rāṣṭr., Laṅk., Śikṣ., Mañj-m., Bodh-bh., Mvyut.* → an~.
abhi-lāṣuka 形 (業, 一)を欲する.
abhi-Likh, → Likh.
abhi-likhita 過受分 書, 畫 *Divy.*
abhi-Li abhiliyate. → Li I.
abhi-lina 過受分 → Li I.
abhi-Lul, → Lul.
abhi-lulita 過受分 → Lul.
abhi-lekhana 中 書くこと.
abhi-lekhita 中 文書, 書面.
abhi-Lok, → Lok.
abhi-locana 形 觀, 照顯 *Daś-bh.*
abhi-Vac, → Vac.
abhi-Vad abhivadati, abhivādayati(便役). → Vad.
abhi-vadana 中 挨拶, 呼びかくる或は話しかくること.
abhi-Vand abhivandate(-ti). → Vand.
abhi-vandana 中 恭しき挨拶, 敬禮; 禮 *Av-ś.*
abhi-Vap, → Vap 2.
abhi-varṇana 中 記述.
abhivarṇaya 名動 → varṇaya.
abhi-vartin 形 近づき來れる, 出迎ふる; ……の方に行く.
abhi-vardhana 中 強大, 増大; 増勝 *Mañj-m.*
abhi-varṣa 男 雨.
abhi-varṣaṇa 形 雨降れる. 中 雨, 降雨, 雨の如くに霑らすこと.
abhi-varṣin 形 雨降れる.

abhi-Vah abhivāhayati(便役). → Vah.
abhi-Vā, → Vā 1, 2.
abhi-Vāñch, → Vāñch.
abhi-vāñchā 女 (一)に對する欲望.
abhi-vāñchita 過受分 → Vāñch.
abhi-vāta 過受分 → Vā 2.
abhi-vāda 男 挨拶; 罵詈.
abhi-vādaka 形 敬禮する; (業)に挨拶せんとする; 丁寧なる.
abhi-vādana 中 恭しき挨拶, 敬禮; 敬禮, 恭敬, 敬問, 問訊, (先語)問訊, (先語)省問 *Divy., Bodh-bh., Mvyut.*
abhivādana-vandana 中 問訊(現前)禮拜, 恭敬禮拜 *Bodh-bh.:* satkārārheṣu ea kālena kālam ~pratyutthānāñjali-sāmicī-karmanā pratyupa-sthito bhavati 於所應敬時起奉迎合掌問訊現前禮拜修和敬業 *Bodh-bh. 6.*
abhi-vādanā 女 恭敬 *Bodh-bh.*
abhi-vādaniya 未受分 敬禮に値する; 敬禮に關する, 敬禮の際に用ひらるゝ(敬稱).
abhi-vādayitr 男 挨拶者, 敬禮者.
abhi-vādin 形 説明する, 敘述する, 明言する; 意味する.
abhi-vādya 未受分 敬禮に値する, 恭敬せらるべき; 恭敬, 堪受(人天上妙)供養 *Divy.*
abhi-Vās, → Vās.
abhi-vāhya 中 傳達, 運搬.
abhi-vikrama 形 勇敢なる.
abhi-vi-KHyā, → KHyā.
abhi-vi-Gāh, → Gāh.
abhi-vicitrita 過受分 莊嚴 *Saddh-p.*
abhi-Vij, → Vij.
abhi-vi-Jñā abhivijñāpayati(便役). → Jñā.
abhi-vijñeya 未受分 認知し得る, 見らるべき.
abhi-vi-Jval, → Jval.
abhi-Vid, → Vid 2.
abhi-viddha 過受分 [Vyadh] 傷つきたる.
abhi-vidhi 男 包含の範圍; 一切を包括するもの. 中 含めて.
abhi-vinita 過受分 → Ni.
abhi-vi-Mā, → Mā I.
abhi-vimāna 形 總てを自己に關するものと認むる.
abhi-vi-Mrj, → Mrj.
abhi-vi-Ruc abhivirocate. → Ruc.
abhi-vi-Li, → Li I.
abhi-viṣaṅkin 形 (從)を恐るゝ.
abhi-vi-Śru, → Śru I.
abhi-viśruta 過受分 → Śru I.
abhi-vi-Śvas abhiviśvāsayati(便役). → Śvas.
abhi-vi (°vi-I), → I.
abhi-vikṣ (°vi-Īkṣ) abhivikṣate. → Īkṣ.
abhi-Vij, → Vij.
abhi-vita 過受分 → Vi I.
abhi-Vṛ, → Vṛ I.
abhi-Vṛt, → Vṛt.
abhi-vṛta 過受分 → Vṛ I.

abhi-vṛddhi ㊦ 増加, 成長, 繁榮, 進歩; ㊦ 成, 增長 *Daś-bh., Abh-vy.*
 abhi-Vṛdh, → Vṛdh.
 abhi-Vṛṣ abhivarsati. → Vṛṣ.
 abhi-vṛṣṭa ㊦ 過受分 → Vṛṣ. ㊦ → megha ~.
 abhi-Veṣṭ, → Veṣṭ.
 abhi-vyakta ㊦ 過受分 [Añj] 表明せられたる, 明らかなる, 明瞭なる; ㊦ 顯 *Abh-vy.* ~m ㊦ 明かに.
 abhi-vyakti ㊦ 明示; 區別; 表現, 出現; ㊦ 現, 顯, 顯現, 所現, 顯了; 現前; 分明, 了別, 明了 *Daś-bh., Lañk., Abh-vy., Mvyut.*
 abhivyakti-kāraṇa ㊦ ㊦ 明了因, 照能作, 照了能作 *Madhy-vibh.*
 abhivyakty-āvaraṇa ㊦ ㊦ 明了障, 照了障 *Madhy-vibh.*
 abhi-vy-Añj abhivyajyate(㊦). → Añj.
 abhi-vyañjaka ㊦ 明示する, 顯現せしむる; 象徴的に詮示せる.
 abhi-vyañjana ㊦ 顯現.
 abhi-vy-Āp, → Āp.
 abhi-vyāpaka ㊦ (業)まで及ぼす(㊦); 包含する.
 abhi-vyāpana ㊦ ㊦ 増益, 遍滿 *Abh-vy.*
 abhi-vyāpta ㊦ 過受分 包含せられたる.
 abhi-vyāhāra ㊦ 發音すること, 言ひ詮すこと, 語ること, 語; ㊦ 教; 解釋; 稱讚 *Daś-bh., Bodh-bh.*
 abhi-vy-ā-Hṛ abhivyāharati. → Hṛ 1.
 abhi-vyāhṛta ㊦ 過受分 發音せられたる, 語られたる, 呼びかけられたる. ㊦ 語られたること; 語らるゝこと.
 abhi-vratin ㊦ 専心せる.
 abhi-Vlag, → Vlag.
 abhi-vlagya ㊦ 不梨分 → Vlag.
 abhi-Śams, → Śams.
 abhi-śamsana ㊦ 誹毀; 非難.
 abhi-śamsin ㊦ 非難する.
 abhi-Śaṅk abhiśaṅkate. → Śaṅk.
 abhi-śaṅkā ㊦ (屬)に對する疑; 不安; (一)の恐怖.
 abhi-śaṅkita ㊦ 過受分 → Śaṅk.
 abhi-śaṅkin ㊦ 疑ふ, 信用せざる; ㊦ 恐 *Abh-vy.*
 abhi-śaṅkya ㊦ 未受分 疑はしき, 信用し難き.
 abhi-śatru ㊦ 敵に對して.
 abhi-Śap abhiśapati. → Śap.
 abhi-śapta ㊦ 過受分 → Śap.
 abhiśabdāya ㊦ 名動 → śabdāya.
 abhi-śasta ㊦ 過受分 → Śams.
 abhi-śastaka ㊦ 非難せられたる, 罵らるゝ; 呪咀より起れる(病).
 abhi-śasti ㊦ 呪咀; 呪咀による災禍, 不幸; 呪咀者; 非難; 惡評.
 abhi-śāntva ㊦ 懇切に振舞ふこと.
 abhi-śāpa ㊦ 呪咀; 難詰; 中傷.
 abhi-Śās abhiśāsati. → Śās.
 abhi-śiras ㊦ (業)に頭を向けたる.
 abhi-Śuc, → Śuc.

abhi-Śubh, → Śubh 2.
 abhi-śobhita ㊦ 便役 ㊦ 過受分 → Śubh 2.
 abhi-śoṣa ㊦ 乾かすこと.
 abhi-śauri ㊦ *Kṛṣṇa* 神に對して.
 abhi-śrad-DHā, → śrad-DHā.
 abhi-śraddhāna ㊦ ㊦ 信受 *Madhy-vibh.*
 abhi-śrāva ㊦ 傾聽; (祈願を)聽くこと; 答を與ふること.
 abhi-Śriṣ, → Śriṣ.
 abhi-Śri, → Śri 2, 3.
 abhi-śri 1. ㊦ 互に連絡する, 互に倚る; 配列する. ㊦ 配列者, 整理者.
 abhi-śri 2. ㊦ 混合, 混合物.
 abhi-Śru, → Śru 1.
 abhi-śakta ㊦ 過受分 → Sañj. 憤怒せる; 咀はれたる; ㊦ 瞋, 所詛 *Prāt-m., Mvyut.*
 abhi-śaṅga ㊦ 敗北; 嗜好; 惡魔に憑かれ或は心の混亂せる状態; 呪咀; 非難 中傷.
 abhi-śaṅgin ㊦ 敗るゝ; 卑下する.
 abhi-Śac abhiśacate. → Śac.
 abhi-Śañj abhiśajati. → Sañj.
 abhi-śava ㊦ (Soma 汁の)壓搾; 蒸溜; (祭の前の)水垢離; Soma 汁を飲むこと; 酸酵, 酵母. ㊦ 酸粥.
 abhi-Śah, → Śah.
 abhi-śāta ㊦ 過受分 → Śan.
 abhi-śikta ㊦ 過受分 撒かれたる, 油を塗られたる, 任命せられたる, 即位せる; ㊦ 灌, 洗, 澡沐; 灌頂, 灌頂已, 灌共頂, 既灌頂已; 登, 受職, 受位, 受灌頂位 *Divy., Aṣṭ-pr., Lañk., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.* → mūrda ~.
 abhi-śiktaka ㊦ ㊦ 受職 *Sūtr.*
 abhi-śiktatā ㊦ ㊦ 受職 *Sūtr.*
 abhi-Śic abhiśiñcati(te), abhiśicyate(㊦). → Śic.
 abhi-śiñcana ㊦ = abhiṣecana.
 abhi-śiddha ㊦ 過受分 → Sidh 1.
 abhi-Śidh abhiśedhati. → Sidh 1.
 abhi-śiṣeṇayīṣu ㊦ 希求 ㊦ 其の軍隊を以て敵に近づかんとする.
 abhi-Śu, → Su 1.
 abhi-suta ㊦ 過受分 → Su 1.
 abhi-Śū abhiśuvati(1). → Sū 1, 2.
 abhi-śeka ㊦ 灌水; 即位; 灌頂用の水; 水垢離; ㊦ 澡浴; 灌頂, 灌(共)頂, 灌灑(共)頂; 受位, 受職 *Lal-v., Divy., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Lañk., Mañj-m., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.:* sarva-buddha-pāny- ~ abhiśikta 一切諸佛手灌共頂 *Lañk. 1.*
 abhi-śekatā ㊦ ㊦ 灌(共)頂, 受職 *Lañk.*
 abhiṣeka-bhūmi ㊦ ㊦ 灌頂地 *Gaṇḍ-vy.*
 abhiṣekabhūmi-pratilambha ㊦ 灌頂位(王位)を獲ること (*Sukh-vy. I.*).
 abhiṣeka-sthita ㊦ ㊦ 策立 梵千.
 abhiṣekāvasthā ㊦ ㊦ 灌頂位 *Madhy-vibh.*
 abhi-śektavya ㊦ 未受分 灌頂せらるべき.
 abhi-śekya ㊦ 未受分 灌頂と決定せる, 灌頂せらるべき.
 abhi-ṣecana ㊦ 灌頂; 即位.

abhi-ṣecani 女 灌頂, 具灌頂 *Mvyut.*
 abhi-ṣecaniya 未受分 灌頂せらるべき, 灌頂に屬する(器物等). 男 灌頂; 即位の式.
 abhi-ṣeṇana 甲 (一°)に對する征討又は進軍.
 abhiṣeṇaya 名動他 (業)を攻略す, に對して進軍す
 abhi-ṣotr 男 Soma 汁を搾る人(又は祭官).
 abhi-ṣṭava 男 稱讚, 賞與.
 abhi-ṣṭi 形 優れたる, 戦勝の. 女 優位; 助力, 保護. 男 助手, 保護者 [一般には *Indra* 神を稱す].
 abhiṣṭi-śavas 形 有力なる援助を與ふる.
 abhi-ṣṭu abhiṣṭauti, abhiṣṭāvate, abhiṣṭuvati. → *Stu* I.
 abhi-ṣṭuta 通受分 → *Stu* I. 歎, 歌詠讚歎, 敬心讚歎 *Saddh-p., Gand-vy.*
 abhi-ṣṭhā abhiṣṭhāti. → *Sthā.*
 abhi-ṣyand abhiṣyandate, abhiṣyandayati(便役). → *Syad.*
 abhi-ṣyanda 男 滴下; 過剰, 擴大; 眼縁の爛るゝ病, 眼炎; 分泌.
 abhi-ṣyandana 甲 修, 潤, 善補 *Gand-vy.:* *sarva-jagan-mahākaruṇā* ~ *tā* 以廣大悲潤衆生 *Gand-vy. 294.*
 abhi-ṣyandita 通受分 濕, 潤, 所潤, 潤沃, 流潤, 潤澤, 所沃潤, 有潤濕 *Gand-vy., Abh-vy., Mvyut.;* 滋長 *Sikṣ.*
 abhi-ṣvaṅga 男 (具, 於)に對する執著又は愛情; 溺愛, 樂, 受, 著, 貪著, 貪戀, 染著 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lan̐k., Sikṣ., Madhy-vibh.:* *kāma-* ~ 染著, 著諸欲 *Aṣṭ-pr. 681.*
 abhi-ṣvaj, → *Svaj.*
 abhi-ṣvañj abhiṣvajate. → *Svaj.*
 abhi-saṃ-Yam, → *Yam.*
 abhi-saṃ-Yā abhisam̐yāti. → *Yā.*
 abhi-saṃrakta 通受分 → *Raj.*
 abhi-saṃ-Rañj, → *Raj.*
 abhi-saṃ-ratdha 通受分 → *Rabh.*
 abhi-saṃ-Rabh abhisam̐rabhate. → *Rabh.*
 abhi-saṃrabha 男 激怒.
 abhi-saṃrambha 男 [同上].
 abhi-saṃ-Viś abhisam̐viśati(te). → *Viś.*
 abhi-saṃ-vikṣ (°vi-Īkṣ), → *Īkṣ.*
 abhi-saṃ-Vṛ, → *Vṛ* I.
 abhi-saṃvr̥ta 通受分 → *Vṛ* I.
 abhi-saṃśraya 男 結合, 關係; 避難.
 abhi-saṃ-Śri abhisam̐śrayati. → *Śri.*
 abhi-saṃśrita 通受分 → *Śri.*
 abhi-saṃskaraṇa 甲 造, 造作, 所生起 *Abh-vy.*
 abhi-saṃskaraṇatā 女 造, 起, 作 *Kāśy.*
 abhi-saṃskāra 男 製作, 用意; 形成, 發生, 組織; (總約)概念, 思想, 觀念; 心作用; 作, 造作, 作行, 作成, 作起, 所作, 現前所作, 起作, 諸起作法, 所動作; 行, 所行, 加行, 諸行; 功用, 功力; 業, 作業, 業事, 造集諸業; 造, 起造; 劬勞; 藻飾; 變化, 所現; 所思惟; 修...方便; 作別故意 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sam-r., Daś-bh., Gand-vy., Lan̐k., Sūtr., Vijñ-t., Madhy-v., Madhy-vibh., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

→ an ~.
 abhi-saṃskārika 形 有爲, 有爲作 *Lan̐k.*
 abhi-saṃskārikin 形 有行, 有作, 有爲行 *Lan̐k.*
 abhi-saṃ-s-Kṛ abhisam̐skaroti. → *Kṛ.*
 abhi-saṃskṛta 通受分 奉獻せられたる; → *Kṛ.* 造, 造作, 所作; 所修, 修治; 所爲; 生起; 有爲, 有所爲作 *Divy., Kāśy., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.;* 嚴飾, 善藻飾 *Lal-v.*
 abhi-saṃ-Sphuṭ abhisam̐sphuṭati. → *Sphuṭ.*
 abhi-saṃ-Svar, → *Svar* I.
 abhi-saṃ-Han abhisam̐hatya(不變分), abhisam̐ghapya(便役 不變分). → *Han.*
 abhi-saṃhita 通受分 → *DHā* I.
 abhi-saṃ-Hṛ abhisam̐hṛtya(不變分). → *Hṛ.*
 abhi-saṃkalpa 男 (一°)への要求又は願望.
 abhi-saṃ-Kṣip abhisam̐kṣipya(不變分). → *Kṣip.*
 abhi-saṃkṣepa 男 縮少, 短縮; 要略; 除; 少; 略, 總略, 昧略, 總舉; 細昧; 不馳散 *Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Madhy-vibh.*
 abhi-saṃkṣepaṇatā 女 略, 能爲略說 *Bodh-bh.*
 abhi-saṃkhyā 女 數.
 abhi-saṃkhyeya 未受分 數へらるべき.
 abhi-saṃ-Car, → *Car.*
 abhi-saṃ-Cint abhisameintya(不變分). → *Cint.*
 abhi-saṃ-Jan, → *Jan*
 abhi-San, → *San.*
 abhi-saṃtr̥ṣṇā 女 常渴仰 *Suv-pr.*
 abhi-saṃ-Dr̥ś abhisam̐dar̥śyati(*Lal-v.*). → *Dr̥ś.*
 abhi-saṃdeha 甲 生殖器.
 abhi-saṃdhaka 形 欺く.
 abhi-saṃ-DHā abhisam̐dadhāti. → *DHā.*
 abhi-saṃdhā 女 敘述, 談話.
 abhi-saṃdhāna 甲 結合, 聯合; 平和又は同盟を爲すこと; 敘述; 物に對する執著又は興味; 勝利; 契合; 企圖; 詐欺.
 abhi-saṃdhāya 不變分 ...を指して; ...に關して; (業)に關し一致して; 打克ちて; 接せしめて; 密, 約 *Abh-vy.*
 abhi-saṃdhi 男 企圖; 計畫; 條件; 慎重に話すこと, 熟考して話すこと; 意味; 契合; 詐欺; 平和又は同盟をなすこと; 結合; 意, 意樂, 作意, 心作意, 故意, 故思, 別意, 密, 密意 祕密, *Abh-vy., Mvyut.;* 示 *Madhy-vibh.;* 節 *Sūtr.;* 依, 約 *Abh-vy.:* *upacay'āhāra* ~ *vacanāt* 且依能資益者說名爲... 由約能增益食說故 *Abh-vy. 320.;* *kāma-dhātva* ~ *vacanāt* 依欲界說故, 由約欲界說 *Abh-vy. 552.;* *sambhāvanā* ~ 矯示 [*Tib. yid-ches-paḥi bsaṃ-pa*] *Madhy-vibh. 215.;* *catvāro* ~ *ayaḥ* 四祕密 [1. *avatāraṇa* ~ 令入祕密, 2. *lakṣaṇa* ~ 相祕密, 3. *pratipakṣa* ~ 對治祕密, 4. *parināmana* ~ 轉變祕密] *Mvyut.*
 abhi-saṃdhin 形 言ひ詮はせる, 詮示せる, 言明せる; 欺ける.
 abhisam̐dhi-pūrva 形 故意の, 企てたる.
 abhisam̐dhi-pūrvakam 男 一定の目的を以て.

abhisam̄dhi-vacana ④ 密説, 密意説, 約...
故有此言 *Abh-vy.* 199., 545.

abhi-Sap, → Sap.

abhi-samaya ④ (完全に傍らに來ること), 約定, 一致; 明晰なる認識; 洞察, 理解, 實感, 明解, 把握, 通達 (*Divy.*); ④ 觀, 現觀; 現解; 通達; 證, 所證, 現證 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*, *Daś-bh.*, *Laṅk.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 得 *Sūtr.*; 智慧 *Daś-bh.*

abhisamayāntika ④ 所起, 得證, 所得; 現觀邊 *Laṅk.*, *Mvyut.*: ~m kuśala-mūlam 現觀邊善根 *Mvyut.*

abhisamaya-prāpti ④ 證法, 得證 *Laṅk.*

abhisamayālamkāra ④ [佛典の名] (現觀莊嚴) (*Prajñ-vy.* 5).

abhisamayālamkāra-kārikā ④ [佛典の名, *Maitreyanātha* の作] (現觀莊嚴論頌) (*Prajñ-vy.* 21).

abhisamayālamkāra-lokā prajñā-pāramitā-vyākhyā (°ra-āl°) ④ [佛典の名, *Haribhadra* の作].

abhi-sam-As, → As.

abhi-samasya ④ 總 *Bodh-bh.*

abhi-sam-ā-Gam abhisamāgacchati. → Gam.

abhi-sam-ā-Vṛt, → Vṛt.

abhi-sam-I abhisameti, abhisamayati. → I.

abhi-samita ④ 完全に把握せる, 實現せる, 理解せる, 精通せる (*Mah-v.*); ④ 證, 現證, 現觀, 對觀 *Laṅk.*, *Abh-vy.*

abhisamīta-dharma ④ 證如實法, 現證實法 *Laṅk.*

abhi-samitavat ④ 現觀, 已得證入現觀 *Bodh-bh.*

abhi-samitāvin ④ 已現觀, 具現通, 具現見 *Mvyut.*

abhi-sam-īkṣ abhisamīkṣate, abhisamīkṣya (不變分). → īkṣ.

abhi-sameta ④ 得證, 現證 *Laṅk.*

abhi-sam-Pad abhisampadyate. → Pad.

abhi-sampanna ④ → Pad.

abhi-samparāya ④ 未來, 來世の運命; ④ 後, 後世, 後法, 未來, 當來 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

abhi-sampratyaya ④ 信解, 深信解; 心決了; 忍可, 現前忍許; 正信順, 深正符順, 極正符順 *Vijñ-t.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

abhi-sampravaraṇatā ④ 雨, 普霖雨, 降霖雨 *Gaṇḍ-vy.*

abhi-samprasthita ④ 發 *Saddh-p.*

abhi-samplava ④ 交流; 混亂, 動搖; ④ 濫, 總濫 *Buddh-c.*

abhi-sam-plu, → Plu.

abhi-sampluta ④ → Plu.

abhi-sam-Bandh abhisambadhnāti. → Bandh.

abhi-sambandha ④ 結合, 關係; 情交; ④ 關預, 相應 *Abh-vy.*

abhi-sambādha ④ 雜鬧せる, 全く壓迫せられたる.

abhi-sambuddha ④ → Budh. ④ 覺, 所覺, 現覺, 現等覺, 現正等覺, 現前等覺, 得最正覺, 現

等正覺, 現前究竟正覺, 成等正覺, 成最正覺; 證, 所證, 證得, 證大菩提; 成佛, 成至佛 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. II.*, *Saddh-p.*, *Laṅk.*, *Guhy-s.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~mātra 初成佛時 *Bodh-bh.* 397.; ④ 阿惟三佛, 阿毗三佛 *Bodh-bh.*, 支應.

abhi-sambuddhanatā ④ 證 *Bodh-bh.*

abhisambuddha-bodhi ④ 現前等覺(大)菩提 *Bodh-bh.*; ④ 阿惟三佛菩提 *Bodh-bh.*

abhi-samboddhavya ④ 所證 *Aṣṭ-pr.*

abhi-samboddu-kāma ④ 求證 *Aṣṭ-pr.*

abhi-sambodha ④ 覺, 等覺, 覺寤, 平等覺, 現等覺, 成正覺, 現等正覺, 現成正覺, 現正等覺; 證, 證得; 成佛 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*

abhi-sambodhana ④ bodhi の達成(佛敎); ④ 證, 現證 *Lal-v.*

abhi-sambodhanatā ④ 知, 覺知, 覺了, 証覺 *Aṣṭ-pr.*

abhi-sambodhi ④ 現等覺, 成正覺, 現成正覺, 現前正覺, 成等正覺, 現前成正覺; 證菩提, 現證菩提; 成佛 *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Guhy-s.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; ④ 阿惟三菩提 *Bodh-bh.*

abhisambodhi-vajra ④ [Samādhi の名] 現前正覺金剛 *Guhy-s.*

abhi-sambhava ④ 到達, 完成; ④ 生, 得; 信解 *Bodh-bh.* → dur~.

abhi-sam-BHū, → BHū.

abhi-sammata ④ → Man.

abhi-sam-Man, → Man.

abhi-sam-Murch abhisammurchati. → Murch.

abhi-sara ④ 仲間, 同僚.

abhi-saraṇa ④ 情事に就ての訪問, (戀人の)會合.

abhi-sarga ④ 世界創造.

abhi-sāntva ④ 慰撫の言辭.

abhisāntvaya ④ → sāntvaya.

abhi-sāyam ④ 夕方頃, 日没に.

abhi-sāra ④ 攻撃; 襲撃隊; 戀人の會合, 密會; 使者の報酬; 仲間; 祓淨の式; [民族の名]; ④ 供養之具 *Divy.* 187. → bhakta~.

abhi-sāraṇa ④ = abhisaraṇa.

abhi-sārikā ④ 戀人と逢引する少女.

abhi-sāriṇi ④ 戀人に逢ひに行くこと.

abhi-sārin ④ (一°)に行く.

abhi-sisārayiṣu ④ 戀人を訪ねんとする(女).

abhi-Sṛ abhisarati. → Sṛ.

abhi-Sṛj, → Sṛj.

abhi-sṛta ④ → Sṛ.

abhi-sṛṣṭa ④ → Sṛj. ④ 所行, 所惱 *Bodh-bh.*

abhi-sneha ④ 意向, 願望.

abhi-syanda ④ [*Pāli.* abhisanda] 盈溢, 氾濫; 收穫, 結末, 結果 (*Mah-v.*). → abhisyanda.

abhi-Sru, → Sru.

abhi-Svar, → Svar I.

abhi-svare ④ (呼應の間に), (圓)の背後に.

abhi-hata ④ 打たれたる; → Han. ④ 加害, 所打擲 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

abhi-hati ㊦ 打撃, 衝突; 倍加, 乘積.
abhi-Han abhiantī, abhīhanati (編に). → Han.
abhi-haraṇa ㊦ 運搬.
abhi-harṭṛ ㊦ 強奪者, 誘拐者.
abhi-Hā, → Hā.
abhi-hāra ㊦ 搬入; 掠奪; 敵の攻撃; 努力; 武装; 混入; 供物 (*Jāt-m.*); ㊦ 聚 *Sāmkhy-k.* → *samāna* ~.
abhi-himsana ㊦ 加害.
abhi-hita ㊦ 言はれたる, 話しかけられたる; → DHā I. ㊦ 説, 啓, 答 *Divy., Lank., Av-s., Śikṣ., Abh-vy.* ㊦ [人名]. ㊦ 名, 辭句, 言語, 表現.
abhi-hitatva ㊦ 名づけられたること; 言はれたること; ㊦ 顯, 所顯 *Abh-vy.*
abhi-Hu, → Hu I.
abhi-huta ㊦ → Hu I, 2.
abhi-Hṛ, → Hṛ I.
abhi-Hṛṣ, → Hṛṣ.
abhi-Heṣ, → Heṣ.
abhi(abhi-I) abhyeti. → I.
a-bhi ㊦ 畏なき.
a-bhika 1. ㊦ [同上].
abhika 2. ㊦ =abhika. …を欲する, 貪欲ある; 姪亂の. ㊦ 主人; 愛人; 詩人.
abhika 3. ㊦ [Añc] 會合; 衝突. ~e ㊦ 同時に; 丁度其處に; 都合よく; (㊦)の現前にて, 近くにて, …の方へ.
abhikṣ(abhi-Īkṣ) abhikṣate. → Īkṣ.
abhi-kṣṇa ㊦ 間斷なき, 恒常の; ㊦ 常, 屢, 數, 數數 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh.* °— 非常に, 甚だ.
abhikṣṇa-darśana ㊦ ㊦ 常見 *Saddh-p.*
abhi-kṣṇam ㊦ 各瞬間に, 繰返して, 常に; 直ちに; ㊦ 常, 恒, 數, 常數, 數數 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*
abhikṣṇa-yācaka ㊦ ㊦ 屢希望 *Bodh-bh.*
a-bhi-ga ㊦ 臆せざる, 恐れざる.
a-bhita ㊦ 畏なき; ㊦ 無畏, 無所畏, 不怖, 不驚 *Lal-v., Kāśy., Saddh-p., Abh-vy.*
abhita-cārin ㊦ 怖畏なく振舞へる.
a-bhitavat ㊦ 畏るゝ所なく.
a-bhiti 1. ㊦ 無畏.
abhiti 2. ㊦ 襲撃, 攻撃.
abhīpsita(abhi-ip°) ㊦ 希求 ㊦ 願はしき, '好ましき, 親愛なる; ㊦ 欲, 所欲, 所願, 所宗仰 *Lal-v., Aṣṭ-pr.*
abhīpsu(abhi-ip°) ㊦ 希求 ㊦ (業)を願ふ.
abhira ㊦ =ābhira; ㊦ [國又は民族の名] 阿毗羅國(人) *Divy.*
a-bhiru ㊦ 畏なき. 恐しからざる; 害なき; ㊦ 不 畏 *Mvyut.* ㊦ [王の名]; [*Bhairava* 又は *Siva* 神の稱].
a-bhirutā ㊦ [同上(㊦)㊦]; ㊦ 無有怯畏 *Bodh-bh.*
abhi-Ruh [=abhi-Ruh], abhirohati. → Ruh.
abhi-śāpa ㊦ [=abhiśāpa]; 呪咀, 告發, 難詰, 中

傷.

abhiśu ㊦ 馬勒, 手綱(㊦); 光線; 腕(㊦), 指(㊦).
abhiśumat ㊦ 輝く. ㊦ 太陽.
abhiṣ(abhi-Is) abhicchati. → Is 2.
abhiśāha ㊦ ㊦ [部族の名].
abhiśu ㊦ =abhiśu.
abhiṣṭa ㊦ 望まれたる; 寵愛せられたる; 親しき; 快き. → Is 2. ㊦ 希求 *Śikṣ.* ㊦ 愛人. ㊦ 願望.
abhiṣṭatama ㊦ 最も親愛なる. ㊦ 願望.
abhiṣṭatā ㊦ 仰望, 人望.
abhiṣṭa-da ㊦ 人の願望を満たす.
abhiṣṭa-devatā ㊦ 信賴する神(瀕死の時に念ずる).
abhiṣṭa-varṣin ㊦ 待望の雨を降らしむる.
a-bhiśma-droṇa ㊦ *Bhiśma* と *Droṇa* とを關く.
a-bhukta ㊦ 食はれざる; 未だ食はざる; 享樂せられざる, 用ひられざる, 消費せられざる.
a-bhukta-pūrva ㊦ 未だ享樂せられざる.
a-bhugna ㊦ [BHuj] 曲げられざる, 眞直なる; 病なき, 健康なる.
abhugna-kukṣi ㊦ ㊦ 腹不偏曲, 腹無凹凸 *Mvyut.*
abhugna-kukṣitā ㊦ 曲らざる腰を有すること (*Dharm-s.*).
abhujīṣyā ㊦ 獨立の婦人室.
abhujīṣyātva ㊦ [同上]; 獨立の生活をなす婦人たること.
a-bhuñjana ㊦ 食物を攝らざる.
a-bhū ㊦ [(生れざる者), *Viṣṇu* 神の稱].
a-bhūta ㊦ あらざりし; 起らざりし; 存在せざる; ㊦ 無; 不實, 非實, 無實, 非眞實, 非實有, 非實法, 不誠實, 不實有; 不眞, 不眞實; 虛, 妄, 虛妄; 希有 *Saddh-p., Suv-pr., Lank., Sūtr., Śikṣ., Madhy-v., Nyāy-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.*; 非大種, 非四大 *Lank.*
abhūta-kalpa ㊦ ㊦ 亂識, 虛妄分別 *Madhy-vibh.*
abhūta-guṇa ㊦ ㊦ 不實功德 *Bodh-bh.*
abhūta-citta ㊦ ㊦ 不實心, 心非實 *Kāśy.*
abhūta-tad-bhāva ㊦ 以前には存在せざりしものたること.
abhūta-doṣa ㊦ 責なき, 過なき.
abhūta-dharma ㊦ ㊦ 非法者 *Aṣṭ-pr.*
abhūtadharmā-parigrāhaka ㊦ ㊦ 近非法者, 攝受謗法以爲親友 *Aṣṭ-pr.*
abhūta-parikalpa ㊦ ㊦ 虛分別, 虛妄分別, 不眞分別, 不實妄想, 虛妄遍計 *Lank., Sūtr., Śikṣ.*
abhūta-parikalpatva ㊦ ㊦ 虛妄分別性 *Madhy-vibh.*
a-bhūta-pūrva ㊦ 未曾有の; ㊦ 本未曾有 *Saddh-p.*
a-bhū-tala-sparsa ㊦ 土地に觸れざる.
a-bhū-tala-sparsatā ㊦ [同上] ㊦.
abhūta-vacana ㊦ ㊦ ~ena viśamvādayati 誑惑 *Bodh-bh. 7.*
abhūta-vastukā ㊦ ㊦ 事不實 *Bodh-bh.*
abhūta-vikalpa ㊦ ㊦ 妄想, 虛分別, 虛妄分別 *Suv-pr., Sūtr.*
abhūtavikalpa-samutthita ㊦ ㊦ 妄想故起, 從

虚妄分別生 *Suv-pr.*

abhūta-śabda 男 虚名 *Sam-r.*

abhūta-samjñā 女 虚妄想, 不實想 *Aṣṭ-pr.*

abhūta-sambhūta 形 無生起, 本來非有, 本無有生 *Aṣṭ-pr., Suv-pr.*

abhūtārtha 男 未曾有なる事, 不可能事; 不實, 不實事 *Vijñ-t.*

a-bhūti 女 存在せざること, 無; 無力, 貧弱; 不幸; 災難.

abhūtopamā (°ta-up°) 女 不可能事を豫想する譬喩.

a-bhūtvā (不変分) 本無, 未有 *Abh-vy.*

abhūtvā-bhāva 男 未有有, 本無今有, 出於未現, 不出現中出現 *Abh-vy., Mvyut.*

abhūtvābhāva-jñāpanārtham 副 爲顯未有有, 爲了本無今有 *Abh-vy.*

abhūtvābhāva-lakṣaṇa 形 未有向有(法)相 *Abh-vy.*

a-bhūmi 女 正しからざる場處, 土地以外のもの; (圖)に對して不適當なる土地, ……の置場又は目的ならざる; 非地 *Lank.*

abhūmi-ja 形 不適當なる土地に生ぜる.

a-bhūmi-da 形 土地を與へざる.

a-bhūmi-ṣṭha 形 自國に居らざる.

a-bhūyaḥ-samnivṛtti 女 不歸.

a-bhūyiṣṭha 形 多からざる.

a-bhṛta (過受分) 賃銀を拂はれざる, 賃銀を受取らざる.

a-bhṛtyātman (°ya-āt°) 形 (圖)に従順ならざる, 奴僕として行動せざる.

a-bhetṭr 男 破らざる人, 遵守者.

a-bheda 男 不破碎, 非分離, 凝集; 不異, 無差別, 同一; 不壞; 不異, 無別, 無差別, 無離隔, 不別分析 *Sapt-pr., Lank., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.* 形 同一なる, 異ならざる; 不可分別 *Sapt-pr.*

a-bhedatā 女 不可壞 *Sūtr.*

a-bhedyā (未受分) 誘惑せられざる, 離叛せしめられざる, 分割又は破壊せられざる; 漏洩せられざる, 透徹せられざる; 不壞, 無壞, 不可壞, 所不能壞, 不可沮壞, 無能壞者, 無所破壞, 不可破壞, 不可虧壞; 難沮, 無障難; 不斷; 無別離; 無毀; 堅固 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lank., Guhy-s., Śikṣ., Bodh-bh.* 甲 金剛石.

a-bhedyatva 甲 [同上 抽]; 不可壞 *Śikṣ.*

abhedyā-parivāra 男 不退伴, 不分圍繞 *Mvyut.*

abhedyā-prasāda 男 不壞信, 敬信不退 *Mvyut.*

abhedyā-ratna-cūḍa 男 [Garuḍa 王の名] 信頂寶, 不破寶髻 *Mvyut.*

abhedyāśaya (°ya-ās°) 形 その志向の妨げられざる.

abhedyāśayatā (°ya-ās°) 女 [同上 抽]; 志願不可壞 *Śikṣ.*

a-bhaiṣajya 甲 (藥ならざるもの), 有害なる食物 (*Divy.*).

a-bhoga 男 享樂の不足, 不享受.

a-bhogya 形 享樂すべからざる, 性的満足なき.

a-bhojana 甲 斷食.

a-bhojya (未受分) 食ふべからざる; その食を攝るべか

らざる.

abhojyāna 形 その食を攝るべからざる.

a-bhauti 形 無大, 非實 *Lank.*

a-bhautika 形 大種より生ぜざる, 非物質的なる; 非所造, 非諸大, 非四大生, 非造非所造 *Lank.*

abhauti-bhautika 形 有體無體, 無大有大, 是實非實 *Lank.*

abhy-agra 形 速かなる; 永久の, 中斷せざる; 新しき; 近き; 前方にある; 切迫せる; 先端を(圖)の方に向けたる.

abhy-aṅga 男 油を塗ること; 膏油; 塗, 塗摩. 塗身 *Lal-v., Abh-vy.*

abhyāṅgodvartana (°ga-ud°) 甲 塗身按摩 *Bodh-bh.:* ~snātra 以好蘇油摩洗 *Bodh-bh. 378.*

abhy-Añj *abhyānakti, abhyānkte. → Añj.*

abhy-añjaka 形 油を塗る, 擦り込む.

abhy-añjana 甲 脂肪質の物を塗ること; 塗料; 裝身具.

abhy-añjya (未受分) 油を塗らるべき.

abhy-ati-Kram, → *Kram.*

abhy-ati-Kṣar, → *Kṣar.*

abhy-ati (°ati-I) *abhyatyeti, abhyatītya* (不変分). → *I.*

abhy-atīta (過受分) (時の)經過したる. → *I.* 過, 過去, 過往 *Śikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*

abhy-adhika 形 餘分の, 附加の; より良き, 優れたる; (因, 從, 一°) より大なる, より強き, 超過せる, 増大せられたる, ……だけ多き; (一°) より高價なる; 優秀なる, 異常なる; 勝 *Divy.* ~m 圖 極めて, 甚だ, 異常に; 倍增 *Buddh-c.*

abhy-adhyayana 甲 (或る場處)に於ける學習(一°).

abhy-anu-Jñā *abhyānujñāti. → Jñā.*

abhy-anujñā 女 同意; 許可, 是認; 委任; (出發の)許可, 釋放; 開, 許 *Mvyut.*

abhy-anujñāta (過受分) ……に同意せられたる, 許されたる, 可とせられたる; 認可を得たる, 認められたる; (因)によりて好意を示されたる; 出發を許されたる; 釋放せられたる; 許, 聽許, 所開許; 所說, 隨開, 開……令 *Divy., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Abh-vy., Bodh-bh.*

abhy-anujñāna 甲 = *abhyānujñā.*

abhy-anujñāpana 甲 (圖)に同意せしむること.

abhy-anu-Mud *abhyānumodate, abhyānumodayati* (使役). → *Mud.*

abhy-anumodana 甲 承諾(*Jāt-m.*); 隨喜 *Suv-pr.*

abhy-anu-Vac, → *Vac.*

abhy-anuvṛtti 女 極度の愛情.

abhy-anūkta (過受分) → *Vac.*

abhy-antara 形 内の, 内にある; (圖, 因, 一°)に含まれたる; 近き, 次の, 親しき, 親密なる, 愛する; (因)に著手・入門又は精通せる; 類似の; ……に屬する; (一°)に對し本質的なる或は具はれる; 祕密の; 内, 裏; 親近, 近邊, 岸地; 褰縮 *Aṣṭ-pr., Sad-dh-p., Mañj-m., 梵千.:* mahā-samudrasya ~e 大海岸地, 近大海邊 *Aṣṭ-pr. 473.;* ~oṣṭha 脣褰

縮 *Saddh-p. 350.* ㊦ 内, 内部, 中間, 間隙; 中間の時, (時の)間隔; ㊦ 内, 中 *Lank., Abh-vy., 梵雜.* ~m ㊦ 内へ; (一°)の中へ. ㊦ ……の間に, 中間時に, 折々; (一°)の間に, ……の内に.

abhyantara-kalā ㊦ 矯態の技巧.

abhyantara-kalpa ㊦ 小劫, 《中間劫》 *Saddh-p.*

abhy-antaratas ㊦ 内部に, 内方へ; ㊦ 中心 *Guhy-s.*

abhy-antaratva ㊦ 攝, 入内 *Abh-vy.*

abhyantara-paṭṭikā ㊦ 内層 *Mvyut.*

abhyantari-karaṇa ㊦ (因)に著手又は入門すること.

abhyantari-karaṇiya ㊦ (因)に著手又は入門すべき.

abhyantari-Kṛ, 間に置く; (因)に著手又は入門す; 友とす.

abhy-apān (°apa-An), → Au.

abhy-amitram ㊦ 敵に對して.

abhy-amitriṇa ㊦ 勇猛に敵を攻撃せる.

abhy-amitriṇatā ㊦ 敵を攻撃するによき機會.

abhy-arka-bimbam ㊦ 太陽(日輪)の方へ.

abhy-arc (abhi-Rc), → Rc.

abhy-arcana ㊦ 禮拜, 崇拜.

abhy-arcaniya (未受分) 崇拜すべき, 尊敬すべき.

abhy-arcya (未受分) [同上].

abhy-arṇa ㊦ 近き. ㊦ 近隣.

abhy-arṇatā ㊦ 近隣, 近親.

abhy-arthana ㊦ 懇願.

abhy-arthanā ㊦ [同上].

abhy-arthaniya (未受分) 乞はるべき.

abhy-arthita (通受分) 乞はれたる, 招かれたる. ㊦ 願, 要求, 請求.

abhy-arthin ㊦ (一°)を請求する; ㊦ 求 *Bodh-bh.*

abhy-arthya (未受分) 乞はるべき, 請求せらるべき.

abhy-ardha-yajvan ㊦ 特別の供養者を有する, 特別の供養を受くる.

abhy-Arh abhyarhati, abhyarhya(不変分). → Arh.

abhy-arhana ㊦ 尊敬, 崇拜.

abhy-arhaṇiya (未受分) 尊敬せらるべき.

abhy-arhaṇiyatā ㊦ [同上].

abhy-arhita (通受分) → Arh. ㊦ 尊者, 應現供養, 大恩尙師 *Mvyut.*

abhy-alamkāra ㊦ 裝飾, 嚴飾.

abhy-alam-Kṛ, → Kṛ.

abhy-alamkṛta (通受分) 裝飾せられたる.

abhy-alpa ㊦ 甚だ小さき.

abhy-avakāśa ㊦ 廣々せる場處, 戶外; ㊦ 露地, 迥地, 遶覽之處, 曠野, 曠野處 *Divy., Ast-pr., Lank., Prdt-m., Sikṣ.; 顯然 Daś-bh.*

abhyavakāśa-gata ㊦ 在曠野, 在曠野處 *Ast-pr*

abhy-avakāśika ㊦ 居露地, 坐空地, 坐於空地, 在露地坐; 顯露處 *Ast-pr., Sikṣ.*

abhy-avakirṇa (通受分) 投げられたる; 被はれたる; 注がれたる; ㊦ 散, 擲 *Mvyut.*

abhy-ava-Kṛ abhyavakirati. → Kṛ.

abhy-avagādha (通受分) 終りたる(生涯の).

abhy-avadānya ㊦ (業)より(屬)を奪ふ.

abhy-ava-Ni, → Ni.

abhy-ava-Pat, → Pat I.

abhy-avapāta ㊦ 墮落 (*Buddh-c.*).

abhy-ava-Man abhyavamanyate. → Man.

abhy-avarūdhavaṣ ㊦ 降り立てる.

abhy-avaharaṇa ㊦ 投げやること, 投げ下すこと, 運搬; 飲食すること; ㊦ 吞, 飲噉 *Abh-vy.*

abhy-avahāra ㊦ 食を攝ること; ㊦ 食, 咽 *Mvyut.*

abhy-avahārya (未受分) 食ふべき, 食ひ得る. ㊦ 食物; 食ふこと.

abhy-ava-Hṛ abhyavaharati, abhyavahriyate(受). → Hṛ I.

abhy-avahṛti ㊦ 食ふこと, 食事をなすこと.

abhy-ave(°ava-I) abhyavaiti. → I.

abhy-Aś abhyaśnoti. → Aś I.

abhy-As abhyaśti(1), abhyaśyati(2). → As I, 2.

abhy-asana ㊦ 留意, 實行; 實習.

abhy-asanta ㊦ [As 2.]; ㊦ 更學, 現習 *Lank.*

abhy-asaniya (未受分) 實行せらるべき; ㊦ 數習, 可數習 *Abh-vy.*

abhyasūya (名動)他 → asūya I.

abhy-asūyaka ㊦ 怒る, 不機嫌なる; (名譽等を)損する; ㊦ → an~.

abhy-asūyā ㊦ 不機嫌; 怒; 嫉妬.

abhy-asta (通受分) 讀まれたる, 學ばれたる; 繰返されたる, (語根の)重字せられたる(因法). → As 2. ㊦ 習, 修習, 已習, 串習, 數習, 所數習, 曾串修習; 勤修; 積集 *Divy., Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.* ㊦ 重字せられたる語幹(因法).

abhy-astam ㊦ [I又はGāと俱に] (業)に(日が)暮れて.

abhy-astamita (通受分) 日没時に眠る.

abhy-asyat (現分) [As 2] ㊦ 修 *Lank.*

abhy-Ah abhyāha. → Ah.

abhy-ākaraṣa ㊦ 引き寄すること; (力士が掌にて胸を打ち)挑戦の意を示すこと.

abhy-ākāram ㊦ 誘惑して, 自己に引きつけて.

abhy-ā-KHyā abhyākhyāti. → KHyā.

abhy-ākhyātu-kāma ㊦ 欲謗 *Ast-pr.*

abhy-ākhyāna ㊦ 虚偽の告發, 中傷; ㊦ 謗, 毀, 謗毀, 毀謗, 誹謗; 偏讚; 讒, 誣; 輕賤人 *Kāśy., Daś-bh., Lank., Sikṣ., Mvyut.*

abhy-ākhyāyika ㊦ 毀謗, 誹謗 *Gaṇḍ-vy.*

abhy-āgata (通受分) → Gam. ㊦ 訪問者, 招かざる客, 客; ㊦ 逢詣, 來, 來至 *Lal-v., Av-ś., Divy., Saddh-p.*

abhy-ā-Gam, → Gam.

abhy-āgama ㊦ 接近; 到著, 訪問; 結果に到著すること; ㊦ 得, 受 *Bodh-bh.*

abhy-āgamana ㊦ 接近; 到著, 訪問; ㊦ 來, 至 *Divy., Bodh-bh.*

abhy-ā-Gā, → Gā.

abhy-āgārika ㊦ 家長, 有徳の人. ㊦ 家事を世話する.

abhy-āghāta 男 突然の攻撃, 進撃; 妨害
abhy-ā-Cakṣ abhyācakṣita (願) (三入) (單). → Cakṣ.
abhy-ā-Tan abhyātanute. → Tan I.
abhy-ā-Tap, → Tap.
abhy-ātmāgra 形 其の先端を自己の方に向けたる.
abhy-ā-DHā, → DHā.
abhy-ānana 形 顔を向けたる.
abhy-ā-Nand abhyānandati. → Nand.
abhy-ānandya (不変分) 讚仰隨喜して (Divy).
abhy-ā-Ni, → Ni.
abhy-Āp abhyāpnoti. → Āp.
abhy-ā-Pat, → Pat I.
abhy-ā-Pad, → Pad.
abhy-ā-BHū, → BHū.
abhy-ā-Yam abhyāyacchati. → Yam.
abhy-ā-Yu abhyāyute, abhyāyuvate. → Yu I.
abhy-ā-Rabh abhyārabhate. → Rabh.
abhy-āroha 男 登ること; 増加, 長くなること (例日の); 祈禱.
abhy-ālabhana 中 (變分) 緣念, 正緣慮, 念隨順 *Daś-bh.*
abhy-āvartin 形 歸來せる, 近づける, 度々來れる.
 男 [王の名].
abhy-ā-Vah, → Vah.
abhy-ā-Vā, → Vā 3.
abhy-ā-Vṛt abhyāvartate. → Vṛt.
abhy-āvṛtti 女 反覆.
abhy-āsa 形 近き, 切迫せる. 男 到達, 達成; 擴充; 豫想; 或る期待したる結果; 近隣; (變分) 近 *Saddh-p.* (O.MS.): *nadī-sambheda* ~ e 在河渚上, 河水之側 *Gaṇḍ-vy.* 131. ~ m 男 (變分) (變分) の附近に於て.
abhyāsi-bhūta 形 近づかれたる; (變分) 得近 *Saddh-p.*
abhy-āsa 男 附加; 反覆; 重字 (変分); 實行; 應用; 常習, 習慣; (一) 熟知; 繰返されたる讀誦; 研究; (變分) 習, 串習, 習性, 數習, 修習, 數數修習, 修, 數修, 修行, 行, 習行, 學, 行學, 所學, 撰; 集; 事; 熟所悉 *Divy.*, *Daś-bh.*, *Aṣṭ-pr.*, *Cat-ś.*, *Bodh-c.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*; *Vijñ-v.*, *Sāṃkhy-k.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*, *Madhy-vibh.*: *pūrva-kuśala-mūla* ~ 先串習善根 *Bodh-bh.* 3.; *prema-gaurava* ~ 愛樂尊重等事 *Sikṣ.* 153.
abhy-ā-Sad, → Sad.
abhy-āsanna (通受分) (變分) 近, 在近, 漸近 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*
abhyāsanni-BHū, (變分) 近, 能近 *Aṣṭ-pr.*
abhyāsanni-bhūta 形 (變分) 近 *Saddh-p.*
abhyāsa-pūrvaka 形 (變分) 先習 *Lank.*
abhyāsa-phala 中 (變分) 數習果 *Madhy-vibh.*
abhyāsa-yoga 男 度々行ふ瞑想; (變分) 修習 *Sikṣ.*
abhy-āsādayitavya (未受分) 近づけらるべき.
abhy-āsin 形 (一) に専心する, ……に従事する; 復誦する.
abhyāsi-bhāvita 形 (變分) 慣習所成 *Lal-v.*
abhy-ā-Sru, → Sru I.

abhy-āhata (通受分) → Han. (變分) 礙, 所逼, 相對障 *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*; 拊, 相慮 *Abh-vy.*
abhy-ā-Han, → Han.
abhy-āhita (通受分) (燃料として) 載せられたる. 男 (點ぜられたる) 火.
abhy-ā-Hvā abhyāhvayate. → Hvā.
abhy-Ukṣ abhyukṣati. → Ukṣ I.
abhy-ukṣaṇa 中 洒水, 濡らすこと.
abhy-uc-Ci, → Ci I.
abhy-ucchrayavat 形 高き; (變分) より更に高き.
abhy-uc-chri (°ud-Śri), → Śri.
abhy-ucchrita (通受分) → Śri.
abhy-ujjayini 男 *Ujjayinī* (都) に向ひて.
abhy-ut-Kṣip abhyutkṣipati. → Kṣip.
abhy-utkṣipta (通受分) (變分) 採得 *Daś-bh.*
abhy-ut-thā (°ud-Sthā) abhyuttisthate. → Sthā.
abhy-utthāna 中 (挨拶の爲に) 席より起つこと; 起立; 興起, 出發; 謀叛; 昇進, 高き位置・權威又は尊嚴を得ること; 起原, 出生.
abhy-utthita (°ud-sthita) (通受分) → Sthā. (變分) 現起, 起立 *Saddh-p.*, *Aṣṭ-pr.*; 發心 *Aṣṭ-pr.*
abhy-ut-Pat, → Pat I.
abhy-utpatana 中 跳び上ること, 跳躍.
abhy-utsada 男 (變分) 増, 熾盛, 興盛 *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*
abhy-ut-Sah, → Sah.
abhy-utsāha 男 精勵, 努力; (變分) 勇, 勇悍, 勤勇, 勇進, 勇猛; 策勵; 堪能, 勇悍堪能; 現喜 *Vijñ-t.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
abhy-udaya 男 上昇; 始; 増大; 成功, 好運, 繁榮; 富; 祭, (特に) 祖先に對する供儀; 高慢; (變分) 現高; 生, 勝生; 勝報, 勝義益 *Divy.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
abhyudaya-mārga 男 (變分) 勝生道 *Bodh-bh.*
abhyudaya-vaha (°ya-āv°) 男 繁榮を齎すこと (*Buddh-c.*).
abhy-udayin 形 起る, 來る; 切迫せる.
abhy-ud-ava-Sā abhyudavasyati. → Sā 2.
abhy-ud-ā-Hṛ, → Hṛ I.
abhy-ud-I, → I.
abhy-udita 1. (通受分) → I.
abhy-udita 2. (通受分) 言ひ詮はされたる.
abhyudita-sāyitā 女 太陽が昇るも猶ほ眠れること.
abhy-ud-Īkṣ abhyudīkṣate. → Īkṣ.
abhy-ud-Īr abhyudīrayati. → Īr.
abhy-udiraṇa 中 (變分) 宣揚 *Bodh-bh.*
abhy-udgata (通受分) 昇れる (例月の); (變分) に會はんが爲に出で行ける; 擴がれる (例名譽の); (變分) 起; 出, 現出, 出離, 出過, 超出; 顯現, 顯現時立; 越; 超, 超過, 超勝; 無上, 最勝, 高勝, 現前勝; 高遠, 高峻; 擧(身); 騰; 開示 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*, 梵千; 廣大 *Gaṇḍ-vy.*: ~ ā bhavanti lokāt 出離世間 *Sikṣ.* 35; *sarva-sattva* ~ tā 出過一切衆生界 *Aṣṭ-pr.* 819. → *prativiśiṣṭa* ~. 中 (變分) [數の名] 高出 *Mvyut.*; (變分) 阿飄華哆 *Mvyut.*

abhyudgata-rāja 男 [劫の名] 超王 *Saddh-p.*
abhy-udgati 女 面會に行くこと。
abhy-ud-Gam abhyudgama(不変分) → Gam.
abhy-udgama 男 挨拶の爲に起立すること。
abhy-uddharaṇa 甲 救助; 度; 令出; 拔, 拔濟 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
abhy-uddhāra 男 救濟, 救助 (*Divy.*).
abhy-ud-DHr abhyuddharati. → DHr.
abhy-ud-dhr(^{ud-Hr}) abhyuddhareti(*Daś-bh.*). → Hr 1.
abhy-uddhṛta (通受分) 取り上げられたる; 引かれたる(水); (或る目的の爲に)集められたる; 濟拔 *Bodh-bh.*
abhy-udyata (通受分) → Yam. 欲; 勤, 勤劬發起 *Divy., Mvyut.*
abhy-ud-Yam, → Yam.
abhy-unnata (通受分) → Nam. 出上 *Mañj-m.*
abhy-upagata (通受分) 接近せる; ……に到達せる; ……に同意せられたる, 認容せられたる; 入; 受, 信受 *Divy., Lal-v., Abh-vy.*
abhy-upagantavya (未受分) 一致せらるべき; 承認せらるべき, 許さるべき; 應執, 應信受 *Abh-vy.* 非入 (爲)に向ひて出發すべし。
abhy-upa-Gam abhyupagamyate(受) → Gam.
abhy-upagama 男 接近, 到達; 承認, 許可; 約束; 許; 誓, 自誓, 誓受, 受, 受得; 信; 執, 取; 作; 發起 *Lank., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-v.*; 勇猛 *Sūtr.:* vairūpya ~ 自誓毀形 *Bodh-bh.* 194.
abhy-upagamana 甲 許すこと (*Prajñ-vy.*).
abhy-upapatti 女 救助に来ること; 保護, 防衛, 助力; 恩惠, 親切; 同意; (義務として兄弟の寡婦に)妊娠せしむること; 信仰; 歸依 *Divy.*
abhy-upa-Pad abhyupapadyate. → Pad.
abhy-upapanna (通受分) → Pad.
abhy-upapādana 甲 救助に来ること, 助力。
abhyupamantraya (名動) → mantraya.
abhyupalakṣaya (名動) → lakṣaya.
abhy-upa-Viś, → Viś.
abhy-upa-Śam, → Śam 2.
abhy-upaśānta (通受分) → Śam 2.
abhy-upa-Sthā abhyupatiṣṭhati. → Sthā.
abhy-upasthita (通受分) → Sthā.
abhy-upā-Gam (^{upa-ā-Gam}), → Gam.
abhy-upāya 男 同意, 約束; 方略, 手段; 方便, 勝方便, 別方便 *Buddh-c., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*
abhy-upāyatas 圖 凡ゆる手段を講じて。
abhy-upāyana 甲 贈物。
abhy-upā-Yā (^{upa-ā-Yā}), → Yā.
abhy-upā-vṛt(^{upa-ā-Vṛt}) abhyupāvartate. → Vṛt.
abhy-upe(^{upa-I}) abhyupaiti. → I.
abhy-upeta (^{upa-ita}) (通受分) → I. 欲; 生; 覺; 増益, 加増 *Daś-bh., Sūtr., Śikṣ.* → sparśa ~
abhy-ullasat (現分) 輝ける, 閃ける。

abhy-uhya (不変分) = abhy-ūhya; ~ ~ 數專諦思惟 *Bodh-bh. 156.*
abhy-ūḍha (通受分) [Ūh] 推斷せられたる, 推知せられたる。
abhy-Ūrṇu abhyūrṇoti, abhyūrṇute. → Ūrṇu.
abhy-Ūh abhyūhati(2). → Ūh 1, 2.
abhy-ūha 男 想像, 假定; 推論; 推度 *Vijñ-t.*
abhy-ūhanā 女 推度 *Bodh-bh.*
abhy-ūhita (通受分) 思 *Bodh-bh.*
abhy-ūhitavya (未受分) 推知せらるべき, 推斷せらるべき; 應思, 易思, 應思量; 可思量 *Abh-vy.*
abhy-ūhya 1. (未受分) [同上].
abhy-ūhya 2. (不変分) 推論によりて演繹して, 推知して, 推論して. → abhyuhya.
abhy-Rṣ, → Rṣ 1.
abhy-e(abhy-ā-I) abhyāyati, abhyaiti. → I.
abhy-o-Kṛ, → Kṛ.
abhra (男) 甲 曇天; (雨)雲; 空; 雲, 空雲, 浮雲 *Lal-v., Daś-bh., Pajr-pr., Cat-ś., Śikṣ., Mvyut.*; 陰 梵干。
abhraṃ-liha 形 (雲を舐むる), 雲に達する, 高き. 男 風。
a-bhraṃśin 形 不滅の, 恆久の。
abhraka 甲 滑石(?); 精石 *Mvyut.*
abhra-kūṭa 男 雲重合, 雲雨樓 *Divy., Lank.*
abhra-gaṅgā 女 天上の *Gaṅgā* 河。
abhra-ghana 形 密雲に閉されたる。
abhraṃ-kaṣa 形 雲に達する, 甚だ高き. 男 風。
abhra-cchāyā 女 (早く通過する)雲影。
abhra-paṭala 甲 雲輪 *Divy.*; 雲母 *Abh-vy.*
abhra-pisāca 男 [*Rāhu*の稱].
a-bhrama 男 失錯せざること, 誤らざること。
abhra-maṇḍala 甲 陰障(翳) *Sam-r.*
abhra-megha 男 雲 *Śikṣ.*
abhra-lola 甲 浮雲。
abhra-vilāyam 圖 雲の如くに消えて。
abhrāgama (^{ra-āg}) 男 雨季の到來。
a-bhrātṛ 形 兄弟なき。
a-bhrātṛka 形 [同上].
a-bhrātṛvya 形 對手を闕ける, 對敵なき。
a-bhrānta (通受分) 當惑せざる, 過誤せざる; 明瞭なる, 整へる; 無差, 不迷, 不迷亂, 遠離惑亂 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Mvyut.*
abhrānta-lakṣaṇa 甲 不認相 *Mvyut.*
a-bhrānti 女 當惑又は過誤なきこと; 無亂, 無迷, 非迷 *Lank., Madhy-vibh.*
abhrāyita (通受分) 形 雲に似たる, 雲に等しき。
abhrāvakāśika 形 自身を雨に暴(?)す。
abhrāvakāśin 形 [同上].
abhri 女 耨(?), 鋤。
abhrita (通受分) 曇れる。
a-bhrū-vilāsa 形 眉にて媚を呈せざる。
a-bhva 形 恐しき, 偉力ある. 甲 偉力; 恐怖; 怪物。
Am, amiti 決定す, 進む. 便役 *āmayati* 害せらる, 病む。
ama 1. 此; 彼。

ama 2. 男 壓迫, 暴力, 猛烈; 昏迷, 恐怖; 病.
a-maṅgala 形 不吉なる, 不幸なる; 有害なる; 不吉祥 *Divy.* 甲 不吉, 不幸.
a-maṅgalya 形 [同上(形)]. 兇, 不祥, 非吉 *Lal-v., Bodh-bh., 梵千.* 甲 [同上(甲)].
a-macchara 形 俗 [<a-matsara]; 無妬嫉 *Rdṣṭr. 37.*
a-majjana 甲 沈まざること.
a-maṇi 男 非珠, 非寶珠, 非摩尼 *Lank.*
a-maṇḍita (通受分) 飾られざる.
a-mata 1. (通受分) [Man] 感せられざる, 想像せられざる; 求められざる; 承認せられざる.
amata 2. 男 [Am] 病氣; 塵.
amati 1. 女 外見, 形; 光輝, 微光; 時.
amati 2. [Am] 形 貧しき, 缺乏せる. 女 貧困, 缺乏.
a-mati 3. [Man] 女 無知. 男 偶然に, 無意識に.
amatra 形 激しき, 強き, 確乎たる. 男 甲 大なる飲器.
amatraka 甲 壺; 飲器; 容器.
a-matsara 形 嫉妬なき, 無關心なる, 無私なる; 不慳, 心無貪恪, 心無慳鄙 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.* 甲 公平, 無私.
a-matsaritva 甲 [同下(甲)]; 不慳, 無慳, 不嫉, 無嫉妬, 不嫉妬 *Madhy-vibh.*
a-matsarin 形 無關心なる, 固執せざる, (因)に留意せざる; 無慳恪, 永離捨慳貪 *Sukh-vy. I., Sikṣ.*
a-madana 男 [Śiva 神の稱].
a-madya-pa 形 酒を飲まざる.
a-madya-madyat (現分) 酒なくして快活なる.
a-madhavya 形 (Soma の)甘味に相應しからざる.
a-madhyama 形 非中 *Lank.*
a-mana-āpa 形 惡, 醜, 不美 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.* → a-manāpa.
amanaāpa-rasa 甲 苦澁物, 酢澁鹹苦 *Saddh-p.*
a-manana 形 無念, 無思慮 *Aṣṭ-pr.*
a-mananatā 女 無念 *Aṣṭ-pr.*
a-manas 甲 無知, 無知覺. 形 無知なる, 精神的能力なき.
a-manasi-kāra 男 思惟せざること; 異意, 不作意, 無思惟; 不計; 不念, 不憶念, 無有想念, 離於種種想 *Sam-r., Bodh-bh., Mvyut.:* ~ḥ karaṇīyaḥ 不作異意 *Bodh-bh. 240.;* ~m kṛtvā 不作異意 *Bodh-bh. 240.*
a-manaska 形 愚かなる; 知覺なき, 元氣なき; 不機嫌なる; 性質の悪き; 騷擾, 無有心 *Sikṣ.*
a-manas-kāra 男 = a-manasikāra; 忘 *Sūtr.*
a-manasvin 形 = durmanas; 悲める, 悄然たる.
a-manāpa 形 [= a-mana-āpa]; 醜; 違意, 不可意, 不可喜 *Bodh-bh.*
amanāpa-vacana 甲 不愛言, 非愛言, 不愛語 *Bodh-bh.*
a-maṇi-bhāva 男 意(manas)より離脱せること.
a-manuṣya 男 無人; 人ならざるもの, 怪物; 非人; 鬼, 鬼神 *Aṣṭ-pr., Lank., Abh-vy., Bodh-bh.*
amanuṣya-gṛhita 形 爲鬼所執 *Aṣṭ-pr.*

a-manuṣya-niṣevita 形 人の住せざる.
a-manuṣyi 女 非人女 *Lank.*
a-mano-jña 形 不快なる; 可惜, 不可意, 非可愛 *Abh-vy.*
a-mano-rathatā 女 不愉快.
a-mano-rama 形 楽しからざる.
a-mantu 形 忠告者なき, 寄る邊なき.
a-mantr 形 (男) 思惟せざる(者).
a-mantra 甲 無呪文; [數の名] 阿滿多羅 *Mvyut.* 形 *Veda* の聖文を伴はざる, *Veda* の聖文を知らざる(例 *Sūdra* 并に婦人).
a-mantraka 形 聖典を知らざる; (*Veda* の)聖文 (Mantra) を知らざる.
a-mantra-jña 形 [同上].
a-mantra-tantra 形 聖文と呪咀とを闕ける.
a-mantravat 形 (*Veda* の)聖文を伴はざる.
a-mantra-varjam 男 (所定の)原典を有して, (必要なる)原典を多少もちて.
a-mantra-vid 形 聖典を知らざる; *Veda* を知らざる. 男 [王の名].
a-manda 形 怠惰ならざる, 活潑なる, 快活なる; 注意深き; 愚鈍ならざる; 明るき; 少からざる, 多量の; 重要なる; 不微昧 *Bodh-bh.* ~m 男 烈しく, 熱心に. 甲 多量. 男 樹木.
a-mandatā 女 賢明, 利智.
amanda-hṛdaya 形 心楽しき.
amandra 甲 [或は amantra] [數の名] 阿滿多羅 *Mvyut*
a-manyamāna (現分) 知らずして, 不意に.
a-manyamānatā 女 無所執, 無念法 *Aṣṭ-pr.*
a-mama 形 自覺を闕ける; 世間の執著又は欲望なき; (因)に不注意なる, ……に頓著せざる; 無主, 無有主, 無有主宰, 無主宰者; 無我, 非我所; 無所屬, 無有所屬, 無所繫屬, 無我繫著 *Divy., Aṣṭ-pr., Kāśy., Sikṣ., Mvyut.* 男 [數の名] 無我 *Mvyut.;* 女 啞摩摩 *Mvyut.*
a-mara 形 (女 -ā, -i) 不死の, 不滅の; 不死. 無死 *Bodh-bh.* 男 神; 天 *Bodh-bh.*
amara-kaṇṭaka 甲 [山の名].
amara-kośa 男 [梵語の辭書の名].
amara-garbha 男 神の子.
amara-guru 男 *Bṛhaspati* 神, 木星.
amaraṃ-jaya 形 神々を征服する.
amara-taṇi 女 神々の河, *Gaṅgā* 河.
amara-taru 男 [樹の一種].
a-maratā 女 神性; 不死.
a-maratva 甲 [同上].
amara-datta 男 [人名].
amara-druma 男 神々の樹, *Pārijāta* 樹.
amara-dviṣ 男 Asura.
amara-pakṣa-pātin 男 神々の友.
amara-pati-kumāra 男 [*Indra* 神の子即ち *Jayanta*].
amara-parvata 男 [山の名].
amara-pura 甲 神々の都城.
amara-pura-bhavana 甲 天宮 *Lal-v.*
amara-puri 女 = amara-pura.

amara-prakhya 形 不滅者(神)の如き。
amara-prabha 形 不滅者(神)の如く輝ける。
amara-prabhu 男 [Viṣṇu 神の稱]。
amara-prārthita 形 神々より求婚せられたる。
amara-bhartr 男 [Indra 神の稱]。
amara-bhavana 中 帝釋宮 *Abh-vy.*
amara-mṛgi-dṛś 女 Apsaras (天女)。
amaram-manyā 形 自己を神と認むる, 自己を神と勤ふる。
amara-rāja 男 [Indra 神の稱]。
amararāja-śatru 男 [Rāvaṇa の稱]。
amara-loka 形 天界に住する, 神々の世界に住する。
amara-lokatā 女 [同上]。
a-maravat 副 神の如くに, 宛も神の如くに。
amara-śakti 男 [人名]。
amara-saṃgha-nivāsa 男 諸天居 *Rāstr.*
amara-sadas 中 神々の集會。
amara-sarit 女 *Gaṅgā* 河。
amara-simha 男 [*Amara-kośa* の作者の名]。
amarāgāra 中 神殿。
amarāṅganā 女 Apsaras (天女)。
amarādri 男 [*Sumeru* 山の稱]。
amarādhipa 男 [Indra 神の稱]; [*Śiva* 神の稱]。
amarādhipati 男 [同上]; 天主 *Lal-v.*
amarāpagā 女 天上の *Gaṅgā* 河。
amarāri 男 神々の敵; [或る *Asura* の名]。
amarāvati 女 神々の都 (*Indra* 神の住處)。
amaru 男 [王の名]; [人名]。
amaru-śataka 中 [*Amaru* の作れる詩の名]。
amareśa (°ra-iśa) 男 神々の主 (*Indra* 神又は *Śiva* 神)。
amareśvara (°ra-iś°) 男 [同上]。
amarottama (°ra-ut°) 形 神々の主なる。
amaropama (°ra-up°) 形 神の如き。
a-marta 形 不死の。
a-martya 形 不死の; 不滅の; 神聖なる, 神の。
amartya-bhāva 男 不死。
a-martyu 形 = *amartya*。
a-mardiyatva 中 俗 [*amardiyatva*]; 無有摧, 無能摧伏, 無有能壞者 *Daś-bh.* 129。
a-mardhat 現分 疲れざる, 怠らざる; 疲れしめざる。
a-marman 中 身體に於ける急所ならざる處。形 不死身(?)の, 急所なき。
a-maryāda 形 限界を有せざる, 無制限なる。
a-marṣa 男 短氣; 不快; 忿怒; [王の名]; 不忍, 不堪忍; 忿怒, 瞋怒, 瞋苦, 嫉心 *Divy., Bodh-bh.*
a-marṣa-kṛta 形 不耐, 不堪忍耐 *Vijñ-t.*
a-marṣaṇa 中 = *amarṣa*; 不忍, 不堪忍 *Vijñ-t.*
男 [王の名]。形 急激なる; 容赦せざる; 激怒せしむる; 短氣なる。
a-marṣita 通受分 不快なる, 憤れる; 大瞋 *Divy.*
a-marṣin 形 [同上]。
a-mala 形 無垢なる, 純粹なる, 清淨なる; 淨, 不垢, 無垢, 離垢, 無垢染 *Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Śikṣ., Prajñ-h., Abh-k., Abh-vy.,* 無流 *Abh-vy.*; 無漏 (= *anāsrava*) *Abh-k., Abh-vy.* 男 水晶。

amala-garbha 男 菩薩の名] 無垢藏 *Mvyut.*
amala-pakṣa-vihaṅ-gama 男 白鳥。
amala-patatin 男 鷲鳥, 白鳥。
amalaya 名動 他 純粹にす, 清淨にす, 白くす。
a-mala-samyuta 形 汚れの著かざる, 罪惡の汚れに染らざる。
amalānvaya 男 純粹なる血統の。
amalāmala-nirmala-prabhā 形 無垢清淨光 *Saddh-p.* 452。
a-malina 形 無垢なる, 純粹なる, 清淨なる。
amalina-dhi 形 心の純眞なる。
amavat 形 急激なる, 突進する; 偉力ある, 有力なる, 堪能なる。副 猛烈に, 性急に。
a-mahad-gata 形 小, 非大 *Aṣṭ-pr.*: ~āni *cittāni* 小心 *Aṣṭ-pr.* 547。
a-mahātman (°hā-āt°) 形 品性の高潔ならざる。
a-mahā-dhana 形 大富豪ならざる。
a-mahā-yajña-yājīn 形 大祭を行はざる。
a-mahiyamāna 現分 意氣沮喪せる, 懊惱せる; 悲しき。
amā 1. 副 家庭に於て, 家に向ひて, 家中にて; (副) の家中にて; 共に。~ *Kṛ* 引取る。
amā 2. 女 新月の夜。
amā 3. 女 = *apramāna*; 非權威, 行爲の標準とならざる事柄。
a-māmsa-bhakṣa 形 肉を食はざる。
a-māmsāsīn (°sa-ās°) 形 [同上]。
amā-jur 女 家庭生活; 家にありて齡とれる女, 老孃。
amāt 1. (副) 副 家庭より, 近くより。
a-māt 2. 現分 (因) に餘地なき; 無量の, 無限の。
a-mātṛka 形 母なき。
a-mātṛ-jña 形 母に對して忘恩なる; 不識母, 不忍 [= 認] 母, 不孝母, 不供養母, 於母不知恩報 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*: ~ānām *apitṛ-jñānām* 不孝父母 *Gaṇḍ-vy.* 353。
a-mātṛ-pitṛ-jña 形 不孝父母 *Gaṇḍ-vy.*
amātya 男 家人; 親類; 大臣; 臣, 大臣, 輔臣, 王臣, 臣佐, 官, 宰官, 達官, 輔相, 僚庶 *Divy., Lal-v., Av-ś., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sukh-vy. I. Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh.,* 梵雜: *mitra* ~ 親友, 朋友 *Aṣṭ-pr.* 773。
amātya-pradhāna 男 第一大臣 *Divy.*
a-mātra 形 無量の, 量度なき; 音律的ならざる。男 阿摩怛羅 *Mvyut.*
a-mātra-jña 形 不知足者 *Rāstr.*
a-mātrā 女 非量 *Bodh-bh.* 副 極度に, 非常に。
a-mātsarya 中 嫉妬なきこと; 私心なきこと, 公平; 不慳, 無慳悋 *Saddh-p., Madhy-vibh.*
amātsarya-citta 形 心に私欲なき。
amātsarya-cittatā 女 [同上] (*Lal-v.*)
a-mānana 中 無禮, 尊敬せざること。
a-mānayat 現分 ...を尊敬せざる。
a-mānava 形 人ならざる, 超人的なる; *Manu* の後裔に非ざる。
a-mānika 形 無慢者 *Sūtr.*

a-mānita 通受分 崇敬せられざる。
a-mānitva 甲 謙遜, 温順。
a-mānin 形 傲慢ならざる, 謙讓なる。
a-mānuṣa 男 非人, 人ならざるもの; 天, 神鬼 Lal-v., Vijñ-v. 形 (女 -i) 超人的なる, 神の; 非人の; (女 -ā) 人なき, 人の住まざる; 非人 Abh-vy.: ~m gandham(異) 異香, 微妙香 Aṣṭ-pr. 259.
amānuṣa-loka 男 天界。
a-mānuṣi 女 牝獸。
a-mānuṣya 形 人間的ならざる。
a-māpya 未受分 測り難き; 不可量, 不可比 Vajr-pr., Daś-bh., Mvyut. 甲 不可量, 不可比 Mvyut.; [數の名] 不可量 Gaṇḍ-vy., Mvyut.
amāpya-parivarta 男 [數の名] 不可量轉 Gaṇḍ-vy., Mvyut.
a-māya 形 賢からざる, 堪能ならざる; 狡猾ならざる。
a-māyā 女 誠實, 狡猾ならざること; 非幻 Lan̄k. 男 正直に。
a-māyāvin 形 幻術を用ひざる, 欺瞞せざる; 無奸, 無誑, 不食言, 無所欺誑 Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.
a-māyin 形 欺瞞せざる, 幻術を行はざる; 無幻, 不幻 Bodh-bh.
a-māra 男 不殺。
a-mārga 男 惡道, 非道 [譬喩] にも用ふ; 誤れる通路又は進路。 男 不正なる方法にて。
a-mārjita 通受分 洗はれざる, 清潔にせられざる。
amāvasu 男 [Purūravas の子の名]。
amā-vāsi 女 新月の夜。
amā-vāsyā 形 新月の夜に生れたる。 甲 近隣。
amā-vāsyā 女 新月の夜。
am-i, [語根 Am]。
a-mita 通受分 無量の; 數へられざる; 無量, 無有量, 無極, 無盡 Saddh-p., Sukh-vy. I., Bodh-c., Śikṣ., Abh-k. ~m 無量に。
amita-gati 男 [Vidyādhara の名]。
amita-guṇa 形 無量の徳ある。
amita-tejas 形 無量の威徳ある。
amita-dhvaja 男 [Dharmadhvaja の子の名]; [佛の名] 無量幢 Sukh-vy. II.
amita-prabha 男 [佛の名] 無量光, 無極光明 Sukh-vy. I. 形 無量之光曜 Sukh-vy. I.
amita-prabhāsa 形 [Amitābha 佛の屬性] (Sukh-vy. I.)
amita-buddhimat 形 無量の智ある。
amita-mati 形 [同上] (Buddh-c.).
amita-skandha 男 [佛の名] 無量蘊 Sukh-vy. II.
amita-svara 男 [佛の名] 無量聲, 無量音 Sukh-vy. I.
amitātman (°ta-āt) 形 その心の量られざる, 偉大なる心の。
amitābha (°ta-ābha) 男 [佛の名 = Amitāyus] 無量光 Sukh-vy. I., Gaṇḍ-vy., Mvyut.; 無量壽 Lan̄k.; 阿彌陀 Sukh-vy. II., Sam-r., Gaṇḍ-

vy., Lan̄k.: paścimāyām ~ 西無量壽, 西方無量壽 Suv-pr. 2. 形 [第八 Manvantara に於ける神の一群]。

amitābha-puri 女 無量光(佛)刹, 無量光(佛)宮 Gaṇḍ-vy.

amitāyuh-prabhā-kari 形 女 無量壽智光 Guhy-s.

amitāyur-dhyāna-sūtra 甲 [佛教經典の名]。

amitāyus (°ta-āy°) 男 [佛の名] 無量壽, 無量壽(尊) Saddh-p., Suv-pr., Sukh-vy. I. II., Rāṣṭr., Guhy-s.; 阿彌陀 Saddh-p., Sukh-vy. II. 形 壽無量, 壽命長遠, 壽命無量 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.

amitāyus-tathāgata 男 無量壽佛; (音寫) 阿彌陀佛 Saddh-p.

amitodana 男 [王の名]。

amitaujas (°ta-oj°) 形 全能の, 無量の力ある, 無量の勢力ある。

a-mitra 男 敵; 非親, 怨家, 怨讎, 怨朋, 讐敵, 怨惡, 冤, 冤家; 惡友; 怨, 逆 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Abh-k., Bodh-bh. 形 友なき; 不相合, 不相友 Mvyut.

amitra-karman 甲 友情なき行爲 (Buddh-c.). 男 [人名]。

amitra-karṣaṇa 形 敵を苦むる。

amitra-ghātin 男 敵を殺害する者。 形 敵を殺す。

a-mitratā 女 敵意。

amitra-pakṣa 男 怨品 Bodh-bh.

a-mitravat 副 敵の如くに。

amitra-varman 男 [人名]。

amitra-han 形 敵を殺害する。

amitrānṛta 形 非親實 Abh-k.

amitrāya (名動) 自 敵の如く行動す。

a-mithyatva 甲 不虛, 無倒, 無虛妄 Prajñ-h.

a-mithyā 副 虚偽に非ずして, 眞實に。

amithyārtha-dhī (°yā-ar°) 形 事柄を正しく考ふる。

a-minat 現分 害せざる, 犯さざる; 變らざる。

amila 男 犢毛布 Mvyut.

a-misra 形 混合せざる, 他と關係なき, 排他的なる。

a-misratva 甲 [同上] 副; 非合 Bodh-c.

a-misrita 通受分 混ぜられざる, 雜へざる。

ami 代 [asau (adas) の 男 複]。

a-mita-varṇa 形 光輝の減少せざる, 變色せざる。

a-mimāmsaka 形 批判的ならざる, 吟味せざる (Jāt-m.).

a-mimāmsita 通受分 熟慮せられざる。

a-mimāmsya 未受分 取立てゝ言ふ必要なき, 詮議又は抗議の必要なき。

a-milita-dṛś 形 決して目を閉ぢざる。

amiva 甲 苦痛; 悲歎, 恐怖; 災禍; 病氣; 惡魔。

amiva-cātana 形 (女 -i) 苦痛又は病を除く。

amiva-han 形 苦痛を滅除する, 惡魔を殺す。

amivā 女 = amiva.

amu 代 音 [體單, 男女] asau, 甲 adas; 某 Aṣṭ-pr.: ~syām diśi 某方中 Aṣṭ-pr. 773.; ~smin janapade 某國中 Aṣṭ-pr. 773.; ~smin grāme vā nagare vā nigame 某城某邑某聚落中 Aṣṭ-

pr. 773.

amūka ㊦ かくかくの、某の; ㊦ 如是、如是如是; 某、某名、某甲; 其 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

a-mukūṭin ㊦ 王冠を以て飾られざる。

a-mukta ㊦ 解かれざる、放たれざる; 生死より解脱せざる; ㊦ 不解、無解、非解脱、無脱、未解脱者 *Av-s.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Mvyut.*

amukta-muktatva ㊦ ㊦ 縛解者性、縛解作者 *Madhy-vibh.* 138.

amukta-visrambha ㊦ [=°viśr°] 不動の確信ある (*Buddh-c.*); ㊦ 不動の確信を以て。

amukta-hasta ㊦ 濫費せざる、鷹揚ならざる。

a-mukha ㊦ 口なき。

a-mukhara ㊦ 饒舌ならざる、騒がしからざる、悪罵せざる; ㊦ 口無悪言 *Lal-v.*

a-muñcat ㊦ 放棄せざる、断念せざる。

amutas ㊦ それより [=㊦]; 其處より; 其處に; 此處より; 其處に於て; 他の世界より、天より; ㊦ 従彼 *Abh-vy.* → itas.

amutra ㊦ それに於て [=㊦]; 此處に; 其處に、其處に向ひて; 他の世に於て、來世に於て; ㊦ 彼、彼處、某處; 他世、彼世、後世 *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

amutra-sukha ㊦ ㊦ 後世安樂 *Bodh-bh.*

amutrārtham ㊦ 次の世の爲に。

amuthā ㊦ 斯の如く; [As と俱に] 失はるべし、斯くあるべし [「甚しく不運となる」の意味の婉曲なる表現]。

amudā ㊦ その後。

a-mudita ㊦ 喜ばざる; 悲める。

a-mudra ㊦ 匹敵するものなき。

amuyā ㊦ ㊦ 斯の如くにして、左様に; [As と俱に] 過ぎ去る、失はる。

amurhi ㊦ その時、この時に當りて、當時。

a-muṣita ㊦ ㊦ 不妄、不失、無有妄 *Lank.*

a-mūḍha ㊦ ㊦ 惑亂せられざる、精神明徹なる; ㊦ 無癡、不癡、離癡、離癡亂 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* ㊦ 五原素、五大。

a-mūḍhatva ㊦ ㊦ 惑亂せざること。

amūḍha-vinaya ㊦ ㊦ (㊦) 不癡毘尼、不癡毘那耶 *Prāt-m.*, *Mvyut.*

a-mūra ㊦ 鋭き、誤らざる、聰明なる。

a-mūrta ㊦ ㊦ 無形の、體を具へざる、細く分解せられたる; 異る部分より成れる; ㊦ 無相、無質礙 *Bodh-c.*, *Nyāy-pr.*

a-mūrtatva ㊦ ㊦ 無質礙性 *Nyāy-pr.*

amūrta-rajasa ㊦ [王侯の名]。

amūrta-rayasa ㊦ [同上]。

a-mūrta ㊦ [Viṣṇu 神の稱]; ㊦ (一定の形を有せざる) 群靈。㊦ 無形なること。㊦ 無形の。

a-mūla ㊦ ㊦ 無根の、根據なき; 無因の; 原文に基かざる; ㊦ 本無 *Sikṣ.*

a-mūlaka ㊦ ㊦ 無根 *Prāt-m.*, *Mvyut.*; ㊦ samghāvasēsa-dharma 無根僧伽婆尸沙法 *Prāt-m.* 481.

amūlakābhyākhyāna ㊦ ㊦ 無根謗 *Mvyut.*

a-mūlā ㊦ ㊦ 無根。

a-mṛkta ㊦ ㊦ 傷はれざる、其儘の。

a-mṛta ㊦ ㊦ 死せるに非ざる; 不死の、不滅の; 美しき。㊦ 神、不死者; ㊦ [或る *Nāga* の名] 甘露 *Mvyut.* ㊦ 不死; 不滅者の世界; 諸神の飲料、神酒、甘露; 療治(の一種); 藥; 供儀の殘物; 水; 乳; 光線; ㊦ 不死; 甘露、醍醐 *Divy.*, *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāstr.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*

amṛta-kara ㊦ ㊦ 月(太陰)。

amṛta-kiraṇa ㊦ [同上]。

amṛta-kuṇḍa ㊦ ㊦ 甘露を入れたる容器。

amṛta-kuṇḍali ㊦ ㊦ [明王の名] 便和甘露; (㊦) 甘露軍荼利 *Mvyut.*

amṛta-tejas ㊦ [或る *Vidyādhara* の名]。

a-mṛtatva ㊦ ㊦ 不死、甘露なること。

amṛta-didhiti ㊦ ㊦ 月(太陰)。

amṛta-drava ㊦ ㊦ 甘露を注ぐ [月光に就て言ふ]、甘露が溢るゝばかりなる。

amṛta-dvāra ㊦ ㊦ 甘露門 *Saddh-p.*

amṛta-dhātu-dvāra ㊦ ㊦ 甘露門 *Aṣṭ-pr.*

amṛta-dhāyin ㊦ ㊦ 甘露を毀る。

amṛtam-dada ㊦ ㊦ 施甘露 *Sikṣ.*

amṛta-pa ㊦ ㊦ 甘露を飲む。㊦ [Viṣṇu 神の稱]; [Dānava の名]

amṛta-pāyin ㊦ ㊦ 甘露を飲む = よき話を聞く。

amṛta-pura ㊦ ㊦ 甘露城、甘露(大)城、甘露(大)城(門) *Suv-pr.*

amṛta-purālaya (°ra-āl°) ㊦ ㊦ 甘露室 *Suv-pr.*

amṛta-prabha ㊦ [或る *Vidyādhara* の名]。

amṛta-prabhā ㊦ [人名]。

amṛta-prāsana ㊦ (甘露にて生活する者)、神。

amṛta-prāsin ㊦ [同上]。

amṛta-bhavana ㊦ [僧院の名]。

amṛta-bhāṣaṇa ㊦ ㊦ 甘露の如き話。

amṛta-bhuj ㊦ ㊦ 神; 供物の殘餘を食ふ者。

amṛta-bhaiṣaja ㊦ ㊦ 甘露藥 *Lal-v.*

amṛta-bhaiṣaja-prada ㊦ ㊦ 施甘露藥 *Lal-v.*

amṛta-bhojana ㊦ ㊦ 供物の残り食する; 甘露にて生活する。

a-mṛtamaya ㊦ (㊦ -i) ㊦ 不死の; 甘露の如き、甘露より成れる。

amṛta-megha ㊦ ㊦ 甘露の雲。

amṛta-raśmi ㊦ ㊦ 月(太陰)。

amṛta-rasa ㊦ ㊦ 諸神の飲料、甘露; ㊦ 甘露味、甘露漿 *Suv-pr.*, *Rāstr.* ㊦ 甘露の如く味ふ。

amṛta-latā ㊦ ㊦ 甘露を出す蔓草。

amṛta-latikā ㊦ [同上]。

amṛta-loka ㊦ ㊦ 神々の世界、不死者の世界。

amṛta-vapus ㊦ [(不死の身を有する者)、Viṣṇu 神又は *Siva* 神の稱]。

amṛta-varti ㊦ ㊦ 不死の眼膏。

amṛta-varṣa ㊦ ㊦ 甘露の雨 (*Jāt-m.*)。

amṛta-varṣin ㊦ ㊦ 甘露を降らす。

amṛta-śīsira ㊦ ㊦ 甘露の如く清涼なる。

amṛta-sambhava ㊦ ㊦ 甘露より生じたる。

amṛta-srut 形 甘露(月光)を注ぐ。
amṛta-hrada 男 甘露の湖。
a-mṛtā 女 女神; [薬草の一種]。
amṛtāmsu 男 月(太陰)。
amṛtākara (°ta-āk°) 男 甘露の庫; [人名]。
amṛtāñjana 甲 = amṛta-varti。
amṛtātman (°ta-āt°) 形 甘露より成る。
amṛtāya 名動 自 不死又は甘露の如く見ゆ; 甘露となる。
amṛtāyana 形 不死の, 甘露の如き。
amṛtāśa (°ta-āśa) 男 神; [Viṣṇu神の稱]。
amṛtāhuti (°ta-āh°) 女 [供物の一種]。
amṛtikā 女 [天女の名]。
amṛti-BHū, 不死となる。
amṛteśvara (°ta-iś°) 男 [Siva神の稱]; [薬の名]。
amṛtodana (°ta-od°) 男 [王の名, *Siṃhahanu*の子にして *Sākyamuni*の叔父]; 甘露飯(王) *Mvyut.*
amṛtopama (°ta-up°) 形 甘露の如き。
amṛtaughā (°ta-oghā) 女 [河の名]。
a-mṛtyu 男 死に非ざるもの, 不死。 形 不死の。
a-mṛdu 形 硬き, 堅固なる。
a-mṛṣa- 形 非虚 *Gaṇḍ-vy.*
a-mṛṣā 副 虚偽なく, 正しく, 眞實に, 實に; 非虚, 非妄, 非虚妄 *Gaṇḍ-vy.*
a-mṛṣṭa 過受分 拭はれざる, 濯がれざる; 不淨の。
a-mṛṣyamāṇa 現分 堪忍せざる。
a-megha 形 無雲 *Abh-vy.*
a-medhya 形 供犠に不適當なる; 不淨なる; 不淨 *Bodh-c.* 甲 不淨, 排泄物; 穢, 穢惡, 穢毒; 不淨; 糞, 糞穢 *Lal-v., Sam-r., Bodh-c., Śikṣ., Bodh-bh.*
a-medhyatā 女 不淨 *Divy.*
amedhya-lipta 形 糞を塗られたる。
amedhyākta 形 [同上]。
a-meya 未受分 無量なる; 無量, 無邊 *Lal-v., Madhy-vibh.* 甲 [數の名] 不可量 *Mvyut.*
ameya-parāvṛtti 女 無量轉 *Sūtr.*
ameya-parā- 名動 自 [數の名] 不可量轉 *Mvyut.*
ameya-vibhutā 女 無量化 *Sūtr.*
ameyātman (°ya-āt°) 形 その心の量られざる, 大度量ある。 男 [Viṣṇu神の稱]。
a-maitri 女 友誼又は親切なきこと。
a-maithuna 女 非姪欲 *Lank.*
a-mokṣa 形 解放せられざる, 解脱せざる; 非解脱 *Bodh-bh.*
amokṣa-kāraṇa 形 不至解脱, 離解脱因 *Lank.*
a-mokṣaṇiya 未受分 遁るべからざる, 避け難き。
a-mogha 形 空ならざる, 誤らざる; 確實なる; 不空, 不虛, 無空過, 不空過, 不唐捐, 無所唐捐, (功) 不唐捐; 益, 有義 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Mañj-m., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.:* ~kāya-vāg-manas-karmāntābhīyukta 精勤不虛身語意業 *Mvyut.* 男 誤らざること, 邪道に入らざること; [Siva神, Viṣṇu神又は Skandaの稱]。
amogha-krodha-harṣa 形 無益に喜怒せざる。
a-moghatā 女 不空, 不空過 *Bodh-bh.*

amogha-darsana 形 無益に現れざる, 即ち幸運を齎らす(俗); 不空見; 見者不空, 見者不虛, 若見…無空過者, 若有見…皆悉不虛; 見有義, 善愛見 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.* 男 [龍王の名]。
amogha-darsin 男 菩薩の名] 見益, 見義, 不虛見, 不虛現 *Sam-r., Mvyut.;* [佛の名] 不空見, 現無愚 *Lal-v., Śikṣ.*
amogha-dṛś 形 見て見えざることなき; 確實なる洞察又は觀察眼ある。
amogha-patana 形 無益に落ちざる, 的中する。
amogha-pāśa 男 的確なる縛繩; 不空羅索 *Divy.*
amoghapāśa-dhāraṇi 女 [同下]。
amoghapāśa-hṛdaya 甲 [佛典の名; 不空羅索呪心經, 不空羅索毘盧遮那佛大灌頂眞言等]。
amogha-bala 形 その力の無用ならざる, その力を有効に用ふる。
amogha-vacana 形 空言ならざる。
amogha-vajra 男 佛の名] 不空成就金剛如來 *Guhy-s.*
amogha-vāc 形 空言ならざる。
amogha-siddhi 男 佛の名] 不空成就 *Guhy-s., Mvyut.*
amoghātithi 男 來りて無用ならざる客。
a-mocya 未受分 放たるまじき。
a-momuha-jātiya 形 性不愚癡 *Bodh-bh.*
a-moha 形 癡鈍ならざる。 男 無癡 *Vijñ-t., Mvyut.*
a-mauktika 形 眞珠を含まざる。
a-mauna 甲 Muniならざること。
amba 呼 → ambū. 阿母 *Divy.*
ambaka 甲 (Siva神の)眼, 人間の眼。
ambara 甲 衣服, 著物; 穹窿, 虚空; 周圍, 範圍, 附近; 衣, 衣服 *Lal-v., Mañj-m.;* 空, 虚空 *Sūtr., Bodh-c.*
ambara-khaṇḍa 男 甲 布片; 雲片。
ambara-cara 形 空中を行く。 男 鳥; 妖精。
ambaracara-mārga 男 (鳥の)通路, 虚空。
ambara-cārin 男 惑星。
ambara-tala 男 甲 空裏 *Divy.*
ambara-patha 男 空中の通路。
ambara-prabhā 女 [王妃の名]。
ambara-vāhin 形 衣服を纏へる。
ambarādhikārin 男 禮服の管理人。
ambariṣa 男 甲 揚鍋(釜)。 男 [人名]; 奄婆梨(王) *Buddh-c.*
ambaraukas (°ra-ok°) 男 神。
amba-ṣṭha 男 婆羅門と第三階級 (Vaiśya)の女との間に生れし子; [種族の名]。
amba-ṣṭhā 女 [同上]。
amba-ṣṭhi 女 [同上]。
ambā 女 母。 [呼 ambe(因), amba(因, 國)]. [ambaは屢、「嗚呼」の如く聞投詞として用ゐらるゝことあり]; 母, 尊母, 娘, 阿孃 *Divy., Saddh-p., Mvyut.*
ambikā 女 母, 良き婦人(尊語として); [Pārvatī及 Lakṣmiの名]; [Dhṛtarāṣṭraの母の名]。

ambikā-pati 男 [Bṛdra 神又は Śiva 神の稱].
 ambikā-vana 甲 [森林の名].
 ambikā-sakha 男 [Śiva 神の稱].
 ambikā-suta 男 [Dhṛtarāṣṭra の稱].
 ambu 甲 水; 水, 浄水; 流; 清泉, 池, 浴池
Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy.; 雨 *Sūtr.*
 ambu-garbha 男 雲.
 ambu-candraka 男 水月 *Cat-ś.*
 ambu-cārin 形 水棲の. 男 水棲動物.
 ambu-ja 形 水棲の. 男 月 *Bodh-c.* 男 甲
 (日中に開く)蓮華.
 ambuja-bāndhava 男 太陽.
 ambujākṣa 形 (女 -i) 蓮華の如き眼の.
 ambujāsanā (°ja-ās) 女 *Lakṣmī* (蓮華上に坐せる
 吉祥天).
 ambu-da 男 雲; 雲 *Saddh-p., Mvyut.*
 ambuda-nāśa 男 雲の消散.
 ambu-dhara 男 雲.
 ambu-dhāra 男 [同上].
 ambu-dhi 男 海.
 ambu-nidhi 男 [同上].
 ambu-nivaha 男 雲; 大雨.
 ambu-pa 男 [*Varuṇa* 神の稱].
 ambu-pakṣin 男 水禽.
 ambu-pati 男 [*Varuṇa* 神の稱]; 海.
 ambu-paddhati 女 水流, 川.
 ambu-muc 男 雲.
 ambu-roya 男 水流.
 ambu-rāsi 男 海.
 ambu-ruh 男 (日中に開く)蓮華.
 ambu-ruha 甲 [同上].
 amburuhākṣa 形 蓮華の如き眼の (*Jāt-m.*)
 ambu-ruhini 女 蓮華.
 ambu-lilā-geha 甲 水上の遊亭.
 ambu-vāha 男 雲.
 ambu-vega 男 水流.
 ambu-śitā 女 [河の名].
 ambu-saṃplava 男 洪水.
 ambū-kṛta 形 唾を飛ばす, 言語不明なる. 甲 不明
 瞭なる母音の發音; 口に泡して叫ぶこと.
 ambūrm-gata (°bu-ūr°) 形 水波に映ずる(月)(*Bud-*
dh-c.)
 ambhas 甲 水; 天上の水; 水 *Saddh-p.,*
Mañj-m.
 ambhastas 副 水より.
 ambhaṣ-ṣtha 形 水中に存する.
 ambhini 女 [神人の名]; [或る女教師の名].
 ambho-garbha 形 水に満てる.
 ambho-ja 甲 (日中に開く)蓮華. 男 印度鶴.
 ambho-janman 男 [同上(甲)].
 ambho-jini 女 蓮, 蓮華の群.
 ambhojini-vana 甲 蓮にて覆はれたる池.
 ambho-da 男 雲.
 ambho-dhara 男 [同上].
 ambho-dhi 男 海.
 ambho-nidhi 男 [同上].

ambho-bindu 男 水滴.
 ambho-muc 男 雲.
 ambho-ruha 甲 (日中に開く)蓮華; 蓮華 *Gaṇḍ-*
vy. 男 印度鶴; [*Viśvāmitra* の子の名].
 ambho-ruhamaya 形 蓮華の充てる.
 ammaya 形 (女 -i) 水の, 水より成れる.
 amla 形 酸き. 男 酸味, 醋; 酸, 醋, 酢 *Suv-*
pr., Mvyut., 梵千, 梵雜.
 amla-vetasa 男 [植物の名, 學名 *Rumex vesicarius*].
 a-mlāna 通受分 萎れざる; 清き; 新しき.
 amlāna-gātrin 形 容貌不變 *Divy.*
 amlāna-darśana 形 炯眼なる.
 amlāna-manas 形 敏捷なる, 快活なる.
 amlāna-śarira 形 容貌不變 *Divy.*
 a-mlāni 形 萎れざる. 女 力, 新鮮.
 a-mlāyin 形 [同上(形)].
 amlikā 女 口中の酸味; 胃酸.
 amlī-BHū, 酸くなる.
 aya 男 歩行, 行くこと, 進路, 運行; 幸運; 骰子の目.
 ayaḥ-kāya 男 [(鐵の身體を有する者). 或る *Daiṭya*
 の名].
 ayaḥ-piṇḍa 男 甲 鐵塊, 鐵球.
 a-yakṣma 形 病なき, 健康なる.
 a-yajña 男 供養なきこと; 供養を行はざること. 形
 供養をなさざる.
 a-yajña-vāhin 形 神々に祭を行はざる.
 a-yajyu 形 敬虔ならざる, 供養せざる, 不信心なる.
 a-yajvan 形 [同上].
 a-yata 通受分 統御せられざる, 拘束せられざる.
 a-yati 男 非苦行者; [*Nahusa* の子の名].
 a-yatna 男 盡力せざること, 安易; 不注心
Sapt-pr. °—, ~tas, ~ena (四) 副 困難
 なくして. ~m 副 自然 *Sūtr.*
 ayatna-vāla-vyajani-BHū, 容易に蠅を拂ふ具又は
 拂子となる.
 a-yathā-kṛta 形 處置を認れる.
 a-yathā-tatham 副 あるべき様にあらずして, 悪く,
 空しく.
 a-yathā-pūrva 形 以前の如くならざる.
 a-yathā-balaṃ 副 力と相應せずして.
 a-yathābhīpreta (°thā-abh°) 形 意圖せられざる,
 好ましからざる.
 a-yathā-bhūta 形 眞理に相應せざる; 不如
 實, 離如實 *Lank., Bodh-bh.*
 a-yathā-yatham 副 =a-yathā-tatham.
 a-yathārtha (°thā-ar°) 形 不正なる, 偽なる; 不適
 當なる; 不如境, 境不如實 *Vijñ-v.*
 a-yathāvat 副 不正に, 誤りて.
 a-yathā-vṛtta 形 作法を認れる, 認りて振舞へる.
 a-yathā-ṣṭhita 形 順序を亂されたる.
 a-yathocita (°thā-uc°) 形 穩當ならざる, 不適當な
 る.
 a-yadi 因 yad なき場合に(因西).
 ayana 形 行く, 來る. 甲 歩行; 道; 進路; 一年
 間繼續する *Soma* 祭; 黃道(日至より日至に至る);
 半年; 日至(即ち夏至或は冬至); 休息處; 道路

Bodh-bh.

a-yantraṇa 形 拘束せられざる, 自由なる.

a-yantraṇā 女 著衣せざること.

a-yantrita 形 拘束なき, 自由なる, 節制なき; 任情(遊戯) Divy.

ayam 代 種 單 男 [甲 idam, 女 iyam] これは; [屢、「此處に」の意味に用ゐらる]; 是, 此, 其 Mvyut. anena 因 以此, 以彼 Mvyut.

a-yamita 通受分 無秩序なる; (爪が) 翦り整へられざる.

ayamita-nakha 形 爪の揃はざる, 爪を翦らざる.

ayava 1. 男 黒月.

a-yava 2. 形 大麥を生ぜざる. 男 [内臓蟲の一種].

ayava 3. 男 [數の名] 阿野婆 Mvyut.

ayavat 形 幸福なる, 幸運なる.

a-yaśaḥ-kathā 女 誹謗 Śikṣ.

a-yaśas 甲 不名譽; 侮辱; 不譽, 無譽; 不稱, 不稱讚; 謾, 毀, 謾毀, 毀譽; 惡聲, 惡稱; 過 Bodh-c., Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut. 形 名譽なき.

ayaśas-kara 形 (女 -i) 侮辱する, 侮蔑する, 面目を失墜せしむる.

a-yaśasya 形 不名譽を齎らす.

a-yaśasvin 形 不名譽の, 不評判なる; 惡名 Sūtr.

ayaśo-dhvaja 男 不名譽の標識 (Jāt-m.).

ayaśobhin 形 隆盛なる, 幸運に輝ける.

ayaḥ-śaṅku 男 鐵の箭, 鐵の釘; [或る Asura の名].

ayaḥ-śalmali-vana 甲 [地獄の一種] 鐵刺林, 剛鐵林, 鐵樹林, 鐵樹山林 Vijñ-v., Mvyut.

ayas 甲 金屬, 鐵; 鐵器, 小刀, 劍; 鐵 Abh-vy., 梵雜.

ayasa 男 [數の名] 阿野婆 Mvyut. 甲 =ayas.

ayas-kānta 男 磁石; 磁石, 吸鐵石 Lank., Abh-vy., Vijñ-t., Mvyut.

ayas-kāya 男 =ayaḥ-kāya.

ayas-kāra 男 鍛冶, 鐵工; 鍛師, 鐵師 Divy., Bodh-bh.

ayas-kila 男 [山の名] 鐵釘 Divy.

ayas-kilā 女 [河の名] (Divy.).

ayas-tapta 形 鐵串にて焼かれたる.

ayas-tuṇḍa 形 鐵の尖端を備ふる; 鐵柴, 鐵觜 Mvyut.

ayas-pāṇa 男 [地獄の名].

ayas-piṇḍa 男 鐵塊, 鐵球; 鐵圈, 鐵筒 Mvyut.

ayas-prapāṭikā 女 鐵屎 Mvyut.

ayasmaya 形 (女 -i) 鐵の, 鐵製の. 男 [人名].

ayā 因 副 斯の如く.

a-yācat 現分 乞はざる.

a-yācamāna 現分 [同上].

a-yācita 通受分 乞はれざる; 乞はざるに與へられたる; 無求, 不求, 不教求 Lank., Bodh-bh.

a-yācitr 形 乞ふことなき, 求婚することなき.

a-yācyamāna 受 現分 乞はれざる, 求婚せられざる.

a-yājya 未受分 供儀に供せられざる, 施主たる資格なき, 種姓(階級)より除かれたる.

a-yāta-yāma 形 陳腐ならざる, 新しき, 無效ならざる. 甲 種 [Yajur-Veda の原典の一種].

a-yāta-yāmatā 女 有效, 發洩たる力, 新鮮.

a-yātrā 女 (海の) 渡り難きこと, 航海の不可能なること.

a-yāna 甲 不動, 停止; 非乘 Lank.

a-yāna-traya 形 非三乘 Lank.

ayānvita 形 幸運なる.

a-yās 形 疲勞せざる, 消耗せざる. 甲 火.

a-yāsyā 形 疲勞せざる. 男 [Āngiras 仙の名].

ayi 因 副 [普通呼格と俱に用ゐらる]; 不變辭.

a-yuk-chada 男 (奇數なる葉の即ち七葉の) 樹木 [= sapta-parṇa, 學名 *Alstonia scholaris*].

a-yukta 通受分 繋がれざる; 結合せられざる; (因) に附著せられざる; 不注意なる; 不適當なる, 相應しからざる; 不合, 非和合; 非理, 不如理, 不稱理, 不如法; 不相應 Aṣṭ-pr., Bodh-c., Lank., Śikṣ., Sūtr., Caṭ-ś., Bodh-bh. 甲 不適當なる隱喩法.

ayukta-cāra 形 間諜を用ひざる.

a-yuktatā 女 不用, 不適當; 不習 Sūtr.

a-yuktatva 甲 [同上].

ayukta-mantra 男 不如理言 Śikṣ.

ayukta-yoga 形 非宜, 不應道理, 不應法者, 非(解脱)相應 Sam-r., Śikṣ.

ayukta-yogin 形 懈怠 Saddh-p.

ayukta-rūpa 形 不適當なる.

a-yukti 女 不適當, 不相應, 不合理; 非理, 不如於理, 非相應, 不與如實正法相應 Lank., Bodh-bh., Nyāy-pr.

ayukti-jñā 形 無智 Lank.

ayukti-patitatā 女 墮非理(相) Bodh-bh.

a-yuk-saṁkhya 形 奇數を有する.

a-yuga 形 奇數の. 甲 (一對ならざるもの), 一.

ayuga-cakṣus 男 [Śiva 神の稱].

a-yuga-pat-pravṛtti 女 作事不共 Sāṁkhy-k.

a-yuga-pad 副 同時又は一齊に非ずして.

ayuga-locana 男 [Śiva 神の稱].

ayuga-sapti 男 太陽.

ayugārcis 男 火(奇數の光の=七光の).

a-yugma 形 不平等なる, 奇數の.

ayugma-cchada 男 =ayuk-chada.

ayugma-netra 男 [Śiva 神の稱].

ayugma-locana 男 [Śiva 神の稱(奇數の即ち三眼の)].

ayugma-śara 男 [Kāma 神の稱(奇數の即ち五本の矢を持てる)].

a-yuṅga 形 =a-yugma.

a-yuj 形 [同上].

a-yuja 形 無比なる; 不平等なる, 奇數の.

a-yuta 1. 形 妨げられざる.

a-yuta 2. (通受分) 限られざる; 甲 一萬; 億, 垓 Mvyut.; 阿由他, 阿庾多 Lal-v., Sukh-vy. I., Mvyut.

a-yuddha 通受分 戦はれざる, 敵し難き. 甲 戦なきこと, 平和.

ayuddha-manas 形 戦闘心なき.

a-yuddhvi 網 戦ふことなく。
a-yuva-mārin 形 青年の死せざる。
a-yūha 形 不取(?) *Daś-bh.* 96.
a-yūhika 形 不(?)入 [*Tib. ma len-pa*] *Sapt-pr.* 21.
aye 間投 [驚駭を表す]; [屢: ayi と同様に用ゐらる]。
a-yeya 未受分 行くに及ばざる。
a-yoga 男 分離; 誤用; 惡質; 不適當; 不可能; 不合; 不具; 非理, 不如理, 非道理, 不相應; 不巧便 *Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
a-yoga-kṣema 男 不幸, 險惡; 險難 *Aṣṭ-pr.*
ayoga-peśala 形 惡事を常習とする (*Buddh-c.*)
ayo-gava 男 (女 -i) Śūdra の夫と Vaiśya の妻との間に生れたる男(又は女)。
ayoga-vihita 形 作非理, 所行不如理 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*
ayo-gūda 男 鐵球; 鐵丸, 鐵團 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
ayo-gū 男 (女) = ayogava.
a-yogya 未受分 不適當なる, 無用なる; 權限なき; (因)に匹敵せざる。
a-yogyatva 中 不適當。
ayogya-rūpa 形 不適當なる (*Jāt-m.*)
ayo-ghana 男 鐵槌。
ayo-jāla 中 鐵網。
a-yoddhṛ 形 戦ふことなき; 敵手なき = 無比の, 無敵の。
ayo-dronika 男 鐵盆 *Mvyut.*
ayo-dhātu 男 鐵の地金。
a-yodhya 未受分 打克ち難き。
ayodhya 女 [都市の名, 現今の *Oudh*]; 不可戰(國) 立應; (音寫) 阿踰闍 立應。
ayodhya-kāṇḍa 中 [*Rāmāyana* の第二卷の題名]。
a-yoni 男 (女) 女陰ならざるもの。形 起原又は初なき。
ayoni-ja 形 母胎より生れざる, 胎生ならざる; 從邪生 *Lank.*
ayoni-jatva 中 [同上 中]。
ayoni-janman 形 胎生ならざる。
ayoni-mārga 男 邪行非道 *Sikṣ.*
a-yoniśaḥ-prayoga 男 不如理加行, 修行不如理 *Madhy-vibh.*
a-yoniśas 副 不正に, 不適當に; 非理, 不如理; 邪, 不正, 不善, 虛妄 *Suv-pr., Lank., Sūtr., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*
āyoniśo-manas-kāra 男 非理作意, 不正思惟 *Bodh-bh., Abh-vy.*
āyoniśo-vitarka 男 不正思惟 *Gaṇḍ-vy.*
ayo-bāhu 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名]。
ayomaya 形 (女 -i) 鐵の, 鐵製の; 鐵 *Bodh-bh.*
ayo-mukha 形 鐵の口を有する, 先端に鐵を附したる。男 矢。
ayo-hata 形 鐵器具を以て切られたる(木にて作られたる *Soma* の容器)。
ayo-hṛdaya 形 鐵の如き心の。
a-yaugika 形 適用し難き。

ayyaka 男 祖父 [*Pāli.* 同] (*Mah-v. II. 426., III. 264.*)
ara 男 車輪の輻; 輻, 輻條 *Lal-v., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
araka 男 [同上]。
a-rakta 通受分 彩られざる, 染められざる; 無染 *Madhy-v.*
arakta-vastropabhoga (°ra-up°) 男 著不染衣, 受用不染衣 *Mvyut.*
a-rakṣa 形 無(救)護 *Suv-pr.:* ~ atrānā 無救護 *Suv-pr. 45.*
a-rakṣat 現分 保護せざる。
a-rakṣita 通受分 守られざる。
a-rakṣitr 男 保護又は守護せざる人。
a-rakṣya 未受分 保護に値せざる。中 不護, 非護 *Lank., Bodh-bh.*
a-rakṣyamāṇa 受 現分 保護せられざる。
ara-ghaṭṭa 男 水車; 井より水を揚ぐる車; 井。
araghaṭṭa-ghaṭi-cakra 中 井戸釣瓶の轆轤; 汲井輪 *Mvyut.*
araghaṭṭa-cakra-yantra 中 汲水輪, 轆轤車輪機關 *Lank.*
aram-Kṛ, → *Kṛ.*
aram-Gam, → *Gam.*
a-rajā 形 塵埃なき, 清淨なる(衣服)。
a-rajās 形 塵なき, 潔白なる; 冷靜なる。女 (未だ月經を見ざる)少女。中 微塵に非ざること; 非塵, 非微塵 *Vajr-pr.*
a-rajaska 形 塵なき, 淨き; 優しき, 荒々しからざる (*Buddh-c.*)
arajā 女 [*Uśanas* の娘の名]。
arajo-virajo-naya-yukta 男 [Samādhi の名] 無塵離塵具趣, 無塵離塵理趣相應 *Mvyut.*
a-rajyat 現分 (因)に何等の樂みなき。
a-rañjita 通受分 不満足なる。
araṇa 1. 形 (女 -i) [R] 遠方の, 未知の。
araṇa 2. 形 戦ふことなき; 無煩, 無煩惱; 無諍, 無諍者, 去除鬭諍 *Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut.* → *araṇā.*
araṇa-vihārin 形 住於無煩者 *Mvyut.* → *araṇā-vihārin.*
araṇa-samavasaraṇa 男 [Samādhi の名] 無諍等趣 *Mvyut.*
araṇa-saraṇa-sarva-samavasaraṇa 男 [Samādhi の名] 無諍有諍等趣 *Mvyut.*
araṇā 女 無諍, 無諍(定), 無諍(三昧) *Divy., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh.;* (音寫) 阿蘭那 *Vajr-pr.*
araṇā-vihārin 形 定又は林中に住する; 無諍住, 住無諍(定), 無諍行; (音寫) 無諍三昧人, 樂阿蘭那行者 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr.*
araṇi 1. 女 引火木(摩擦して火を出す爲の); 鑽木 *Lal-v., Mvyut.*
a-araṇi 2. 女 不安, 苦痛。
araṇi 女 = *araṇi* 1.
araṇya 中 遠方, 外國; 荒野; 林; 遠離; 山林, 林野, 山澤, 空野, 曠野; 空閑, 閑寂, 空寂; 空林中無人之處, 最閑處, 空閑處, 空閑地; 無聲, 無所

Divy., Buddh-c., Saddh-p., Sam-r., Rāṣṭr., Kāśy., Siks., Mvyut., 支應; 無有諍 *Siks.*; (音寫) 蘭若, 阿蘭拏, 阿蘭若, 阿練若, 阿練兒, 阿蘭若(處) *Divy., Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Siks., Bodh-bh., Mvyut.*,

支應

araṇyaka ㊦ 林.

araṇya-kāṇḍa ㊦ [*Rāmāyaṇa* の第三卷の題名].

araṇya-gaja ㊦ 野象.

araṇya-gata ㊦ 林中に行ける; (音寫) 在空閑處, 在閑居曠野之中 *Saddh-p.*

araṇya-cara ㊦ 森林中に生活する; 野生の.

araṇya-jīva ㊦ [同上].

araṇya-dharma ㊦ 未開の状態. 荒蕪.

araṇya-nṛ-pati ㊦ 森の王. 虎.

araṇya-parvan ㊦ [*Mahābhārata* 第三卷第一章の題名].

araṇya-pradeśa ㊦ (音寫) 空處, 山澤中 *Suv-pr.*

araṇya-bhava ㊦ 森に生ずる; 野生の.

araṇya-mārjāra ㊦ 野生の猫.

araṇya-rāj ㊦ [(音寫) -rāt] 森の王. 獅子. 虎.

araṇya-rājya ㊦ 森の主權.

araṇya-rudita ㊦ 林中にて叫ぶこと = 無益の悲しみ.

araṇyavat ㊦ 荒野の如く.

araṇya-vana-stha ㊦ (音寫) 阿蘭若處 *Lank.*

araṇya-vāsa ㊦ 林中の生活; (音寫) 閑居, 空閑處, 住空閑, 住深山, 處山林; (音寫) 住阿蘭若, 住阿蘭若處 *Saddh-p., Rāṣṭr., Siks.*

araṇya-vāsin ㊦ 林に住する. ㊦ 森林の住者; 隱者; 林中に棲む獸.

araṇya-śaṣṭikā ㊦ [祭式的一種].

araṇya-sad ㊦ 森林の住者.

araṇya-stha ㊦ (音寫) 住空閑處 *Saddh-p.*

araṇyāni ㊦ 荒野; 大森林; 森の女神.

araṇyāni ㊦ [同上].

araṇyāyatana (°ya-āy°) ㊦ (音寫) 空閑林處, 空閑之處; (音寫) 阿蘭若處 *Divy., Suv-pr.*

araṇyāyana ㊦ 森林に隱遁すること, 隱者となること.

araṇyaukas (°ya-ok°) ㊦ 森林の住者; 隱者.

arati 1. ㊦ [R] 從者, 助手, 執事, 祭官.

a-rati 2. ㊦ 不快; 意氣銷沈; 心配, 悲哀, 後悔; (音寫) 厭; 不樂; 不歡喜; 憂, 憂惱, 憂愁 *Lal-v., Sukh-vy. I., Sūtr., Mvyut.*

a-ratika ㊦ *Rati* (*Kāma* 神の妻) を闕く.

a-rati-jña ㊦ 喜びを知らざる; 憂鬱なる, 陰氣なる.

arati-nud ㊦ 敵を撃退する.

arati-samjñā ㊦ (音寫) 不樂想, 不愛樂想 *Gaṇḍ-vy.*

a-ratnāloka-saṃhārya (°na-āl°) ㊦ 寶石の光輝にて消されざる.

aratni 1. ㊦ (骨の關節), 肘, 肘より小指の先までの長さ.

a-ratni 2. ㊦ 満足せざる.

aratnika ㊦ 肘.

aratni-mātra ㊦ 肘の長さある. ㊦ 一肘のみの長さ.

a-rathin ㊦ 路なき. ㊦ 戦車にて戦はざる武士, 戦車を有せざる武士.

ara-nemi ㊦ [*Brahmadatta* 王の名]; (音寫) [仙人の名] 輻輳 *Mvyut.*

a-rantos ㊦ (不定) … に何等の樂みなきこと.

a-rapa ㊦ 害せられざる, 安全なる.

a-rapas ㊦ [同上].

a-rabdha (過受分) (音寫) 非彼所成, 應非彼成 *Lank.*

aram ㊦ (爲)の爲に適當に; 十分に: ~ *kāmāya* 願のまゝに. → *Kṛ, BHū.*

a-ramaṇiya (未受分) 樂しからざる.

ara-mati ㊦ 信心, 奉仕, 敬虔; 信者を保護する女神. ㊦ 疲勞せざる, 忍耐強き.

aramuḍi ㊦ [*Nepal* 王の名].

a-ramya (未受分) 不愉快なる, 愛想なき.

arara ㊦ 被覆, 蓋. ㊦ 扉.

arari ㊦ 扉.

arari ㊦ [同上].

aravāḍa ㊦ (音寫) [龍王の名] 阿羅吠; 即辣 [*Tib. rtsib-ra* の (音寫)]: ~o *nāga-rājā* 阿羅吠龍王, 即辣龍王 *Mvyut.*

ara-vinda ㊦ (日中に開く)蓮華; (音寫) 蓮花 *Buddh-c.*

ara-vindatā ㊦ 蓮華たること.

ara-vindatva ㊦ [同上].

aravinda-nābhi ㊦ [*Kṛṣṇa* 神の稱].

ara-vindini ㊦ (日中に開く)蓮華.

a-rasa ㊦ 無味なる, 活氣なき; 弱き.

a-rasa-jña ㊦ 味を知らざる, 興味なき.

a-rasayitṛ ㊦ 味はざる.

a-rasika ㊦ 審美的ならざる, 美に對して趣味を有せざる, 無感覺なる.

-araha ㊦ (俗) [<-arha]. → *pūjā* ~.

arahat ㊦ (俗) [<arhat]; (音寫) 阿羅漢 *Lal-v. 406.*

a-rahas ㊦ 祕密にせざること; (音寫) 顯, 露 *Siks., Bodh-bh.*

a-rahita (過受分) 見棄てられざる, 闕かざる; 所有せる.

araho-vihāra ㊦ (音寫) 露處 *Bodh-bh.*

a-rāga ㊦ 情欲又は愛著なき, 冷淡なる.

a-rāga-dveṣatas ㊦ 貪欲又は忿怒を離れて.

a-rāgin ㊦ 彩色なき; 情欲又は愛著なき.

a-rājaka ㊦ 王なき. ㊦ 無政府.

a-rājatā ㊦ 王なきこと.

a-rāja-daivika ㊦ 王又は運命に起因せざる.

a-rāja-lakṣman ㊦ 王章なき, 王紋なき.

a-rājānvayin ㊦ 王族ならざる.

arāḍa ㊦ 長き角ある. ㊦ [聖仙の名]; (音寫) 阿羅藍 *Buddh-c.*

arāṇa, [R の (音寫)].

a-rāti ㊦ 敵意, 憎惡; 不幸; 敵, 無信心者; 惡魔. ㊦ 敵.

arāntara-gatā ㊦ [~ *nābhi*] [神祕的なる場處の名] (*Divy.*).

a-rāma ㊦ *Rāma* を闕ける.

arāla ㊦ 屈曲せる, 毛の縮れたる. ㊦ [樹脂の一種]

a-rāvan 形 (與へざる), 寛大ならざる, 嫉む; 敵の。
a-rāsi-bhāva 男 非蘊, 無蘊物 *Mvyut.*
ari 1. 形 忠實なる, 敬虔なる。 男 忠良なる人, 誠實なる人。
ari 2. 形 寛大ならざる, 嫉む; 敵の。 男 敵; 怨, 怨賊, 憎嫉, 冤家 *Divy., Kāśy., Lank.*
ari 3. 男 = arin.
ari-karṣaṇa 男 敵を惱ます者。
a-rikta 通受分 空虚ならざる。
a-rikthiya 形 相續する能はざる。
ari-ghna 男 敵を亡す者。
ari-cakra 中 怨敵 *Gaṇḍ-vy.*
ari-jana 男 [集合的に] 敵, 敵衆。
ari-jit 男 [(敵に勝つ者), *Kṛṣṇa* の子の名]。
aritā 女 敵意。
aritra 形 御する。 男 中 權。
arin 中 (輻のある)車輪。
ari-nandana 形 敵を喜ばす。
ari-nipāta 男 敵の侵入。
ariṃ-dama 形 敵を制する, 戦勝の。 男 [Siva 神の稱]。
a-ripa 形 汚點なき, 潔白なる。
ari-mardana 形 敵を粉碎する。
a-riṣṭa 通受分 傷害を受けざる, 安全なる。 男 不幸; [樹の一種]; 中 不幸, 惡運; 死の前兆; 幸運, 幸福; 死兆, 示死 *Mvyut.*; 阿利吒 *Lank.*
a-riṣṭaka 男 無患子(樹)。
ariṣṭa-tāti 女 傷害を受けざること, 安全。
ariṣṭa-ratha 形 車の破損せられざる。
ariṣṭa-vira 形 戦士の傷害を受けざる。
ariṣṭa-śayyā 女 産褥。
a-riṣṭi 女 傷害を受けざること, 安全。
ari-saṃgha-pāpaka 男 衆怨 *Saddh-p.*
ari-sūdana 男 敵を亡す者。
ari-soma 男 [Soma 草の一種]。
ari-ha 1. 男 (敵を殺す者), [人名]。
-ariha 2. 形 俗 [<arha]; 應受, 堪受 *Sikṣ.* → pūjā ~。
arihat 形 俗 [<arhat]; 羅漢, 阿羅漢 *Sūtr.*
ari-han 形 敵を殺す。
a-riḍha, a-riḷha 通受分 舐められざる。
a-ruci 女 食欲の缺乏, 嘔氣; 嫌惡; (upari...に對する)嫌惡; 不欲, 不樂 *Sūtr., Bodh-bh.*
a-rucya 形 不愉快なる, 嫌惡すべき。
a-ruj 形 苦痛なき; 健康なる。
a-ruja 形 [同上]。
aruṇa 形 (女 -ā, (男) -i) 赤き; 淡褐色なる; 金色の; 粗末なる(食物) (*Jāt-m.*)。 男 赤; (太陽の御者として人格化せられたる)曙; 太陽; 將曉, 明相; 明星(?) *Divy., Sapt-pr., Mvyut.* → nila ~。
中 赤色; 黄金; 紅玉(玉)。
aruṇa-kara 男 太陽。
aruṇatā 女 赤。
aruṇapsu 形 赤き。
aruṇaya 名動 他 赤くす。

aruṇavat 形 明相, 具足明相 *Gaṇḍ-vy.*
aruṇavati-gandha 男 [香の名] 明相香 *Gaṇḍ-vy.*; 阿盧那跋底(香), 阿樓拏積低(香) *Gaṇḍ-vy.*
aruṇa-sārathi 男 (Arūṇa を御者とする者), 太陽。
aruṇānuja 男 *Garuḍa.*
aruṇāya 名動 自 赤くす。
aruṇārcis 男 旭日。
aruṇi 男 [Muni の名]。
aruṇita 通受分 赤くせられたる。
aruṇi 女 曙, 曉。
aruṇi-Kṛ, 赤くす。
aruṇoda 中 [湖の名]。
aruṇodaya (°na-ud°) 男 黎明。
aruṇodā 女 [河の名]。
aruṇodgata (°na-ud°) 形 發星, 明星出 *Mvyut.*
aruṇodgama-velā (°na-ud°) 女 日出時 *Guhy-s.*
aruṇ-tuda 形 傷つくる; 傷に觸るゝ; 苦しき。
arundhati 女 [植物の名]; [*Vasiṣṭha* の妻の名]; [(七仙の妻と考へられたる)大熊星座中の小星 (*Alkor*) の名]。
a-ruṣ 形 怒らざる, 上機嫌の。
aruṣa 形 (女 -i) 赤き。 男 太陽, 日。 男 女 覆 焰 (*Agni* 神の赤き馬)。
aruṣi 女 曙, 曉。
a-ruṣṭa 通受分 不怒 *Kāśy.*
a-ruṣyat 現分 怒らざる。
arus 形 傷きたる。 男 傷。
arū-Kṛ, 傷く, 害ふ。
a-rūḍha-mūlatva 中 確かなる根を有せざること。
a-rūpa 形 形なき; 醜き, 畸形の; 色なき, 眼に見えざる; 無色, 非色 *Lank., Bodh-bh.*
a-rūpaka 形 形なき, 實質なき; 譬喩なき, 字義通りなる。
a-rūpa-jñā 形 形又は色を辨別せざる。
a-rūpana 中 譬喩的言辭なきこと(因); 無變壞; 不可變壞 *Abh-vy. 35.*
a-rūpatva 中 畸形; 盲目; 特徴なきこと, 醜相。
a-rūpa-viśeṣa 形 特殊の形態なき (*Kār-vy.*)
arūpa-saṃjñin 形 無色想 *Mvyut.*
arūpāvacara 形 無色界 *Mvyut.*: catvāro ~ ā devāḥ 四無色界 [1. Ākāśānantyāyatanam 空無邊處, 2. Vijñānānantyāyatanam 識無邊處, 3. Akiñcanyāyatanam 無所有處, 4. Naivasamjñānāsamjñāyatanam 非想非非想處] *Mvyut.*
a-rūpinīva 中 非色, 無色 *Abh-vy.*
a-rūpitva 中 無色 *Abh-vy.*
a-rūpin 形 形なき, 實質なき; 無形, 無色, 非色, 無色相 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Kāśy., Lank., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*
are 中 我 [呼掛けに用ふ]; 唯唯 *Mvyut.*
a-retas 形 精液なき, 受精せざる。
a-repas 形 汚點なき, 清淨なる。
a-roga 男 健康, 無病。 形 健康なる; 無病, 身體安穩, 氣力康強; 離憂患, 無衆患, 無(復)衆患; 無有癩痕, 不見少分瘡痕 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

aroga-jātiya 形 無病 *Bodh-bh.*
 aroga-jātiyatā 女 爲性全無病 *Bodh-bh.*
 a-rogitā 女 健康.
 a-rogitva 中 [同上].
 a-rogin 形 健康なる.
 a-rocakin 形 食欲なき; 氣難かしき, 氣位高き; 敏感なる.
 a-rocamāna 現分 輝かざる; 意に適せざる; 不味なる, 嘔吐を催さしむる.
 a-roma 形 毛なき.
 a-roṣa 男 怒らざること, 穏和.
 a-roṣaṇa 形 怒らざる.
 a-rohiṇika 形 *Rohiṇī* の居らざる.
 arka 男 光線; 電光; 太陽, 太陽神; 日曜日; 火; 水晶; 特殊の祭式; 讃歌; 歌手; [樹の名, 學名 *Calotropis gigantea*]; 日, 日光 *Sūtr.*, *Buddh-c.*; 日月 *Divy.*; 白(花) *Mvyut.*; 阿迦, 遏迦, 阿羅歌(花) *Divy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 arka-tanaya 男 土星; [*Manu* の名].
 arka-tanayā 女 [河の名].
 arka-nandana 男 土星.
 arka-pattra 中 *Arka* 樹の葉.
 arka-puṣpa 中 *Arka* 樹の花; 白花 *Mvyut.*; 阿迦花, 遏迦花, 阿羅歌花 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 arka-prakāśa 形 太陽の如く輝ける.
 arka-prabhā-jāla 中 太陽の光線.
 arkaya 名動 他 太陽となる.
 arka-ripu 男 [(太陽の敵), *Rāhu* の稱].
 arka-vrata 中 太陽の法則.
 arkin 形 輝ける; 讃歌を歌ふ, 謳歌する.
 argaḍa 男 = *argala*; 臺基; 門鉤 *Divy.*, *Mvyut.* → *nir*~.
 argala 男 中 門; 障礙; [地獄の名]; 鑰, 關鑰, 關軸 *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Saddh-p.*
 argalatā 女 門たること.
 argalita 過受分 門を施されたる, 閉ざられたる.
 Argh, I. 他 *arghati* 價す.
 argha 男 價値, 代價; 款待, 表敬の贈物 [米・*Dūrva* 草・花又は單に水を供ふる]; [此語は屢々 *arghya* と混用せらる]; 價, 價直, 價值 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*; 功德水 *Mvyut.*: *mahā*~*mūlya* 大價, 無價 *Lank.* 77.; 閼伽 *Divy.*, *Mvyut.* → *an*~.
 arghatara 比較 勝 *Sikṣ.*
 argha-pātra 中 客に水を供する鉢.
 argha-balābala 中 價格の高低; 定價.
 argha-samsthāpana 中 價を定むること, 法定價格を定むること.
 arghāya 形 價直 *Sapt-pr.*
 arghodaka (°gha-ud°) 中 客に呈する水.
 arghya 未受分 貴重なる, 價值ある; 款待に値する. 中 客に呈する水; 閼伽水 *Mañj-m.* → *argha*.
 Arc, → *Re*.
 arcaka 形 尊敬する, 崇拜する. 男 尊敬者, 崇拜者.
 arcat, [*Re* の 一過 三入 四 四].
 arcana 中 尊敬, 崇拜; 供養 *Divy.*, *Rāṣṭr.*

arcanam-Kṛ, 奉事 *Av-ś.*
 arcana-maṇi 男 尊敬を表はす寶玉.
 arcanā 女 尊敬, 崇拜; 恭敬 *Saddh-p.*, *Mvyut.*: ~*arthāya* (四) 欲恭敬 *Saddh-p.* 161.
 arcaniya 未受分 = *arçya*.
 arcā 女 禮拜, 崇拜; 神像, (禮拜せらるべき)像.
 arci 男 光線, 焰; [十二 *Āditya* 中の一神の名]; 炎, 焰 *Daś-bh.*
 arci-ketu 男 [佛の名] 寶相 *Lal-v.*
 arci-jvalana 形 光焰, 燄光 *Gaṇḍ-vy.*
 arcita 過受分 → *Re*. 讚歎, 恭敬, 粧飾 *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*
 arcitr 男 崇拜者.
 arci-netrādhipati 男 [或る *Yakṣa* の名] 放光目主 *Mvyut.*
 arcimat 形 [同下]. 男 [王の名] 光明 *Lal-v.*
 arciṣmat 形 輝ける, 燃ゆる. 男 火, *Agni* 神; 焰; [人名] 發光, 焰意 *Rāṣṭr.*
 arciṣ-mati 女 焰慧 *Sūtr.*
 arciṣmati 1. 形 女 [arciṣmat より] 焰, 炎, 陽焰明 *Mañj-m.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 arciṣ-mati 2. 女 焰慧 *Bodh-bh.*: ~*bhūmi* 焰地, 炎地 *Bodh-bh.*; 焰慧地 *Bodh-bh.*
 arcis 中 [團は又た 女] 光線, 焰; 光, 光明, 炎, 焰, 燄, 火光, 火焰, 焰熾, 陽焰, 光焰, 光明焰; 燈 *Divy.*, *Av-ś.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Rāṣṭr.*, *Mañj-m.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜.
 arci-skandha 男 種種光, 大光雲 *Gaṇḍ-vy.*
 arçya 未受分 尊敬又は禮拜せらるべき.
 Arch, → *Re*.
 Arj, I. 他 *arjati* 得る, 獲得す. 使役 他 自 *arjayati(-te)* [同上].
 upa- 使役 [同上].
 arjaka 形 得る, 獲得する. 男 [樹の名, 學名 *Ocimum Gratissimum*]; 蘭(香) *Sikṣ.*; 阿梨樹 *Saddh-p.*, *Mañj-m.*
 arjana 中 獲得, 到達; 蒐集; 得, 獲; 求, 追求; 集, 招集; 引攝 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 arjaniya 未受分 得らるべき, 獲得せらるべき.
 arjita 過受分 得られたる, 獲得せられたる; 所獲, 所造 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*
 arjin 形 獲得する.
 arjuna 形 (女 -i) 白き, 輝ける; 麩の; 銀の. 男 [樹の名, 學名 *Terminalia arjuna*]; [皮膚病の一種]; [*Indra* 神の稱]; [*Pāṇḍava* 五兄弟の一人の名]; 有修 [*Tib. srid-sgrub*] *Mvyut.*; [人名] 炎光 *Lal-v.*; 頰順那, 頰維那 *Lal-v.*
 arjuna-deva 男 [人名].
 arjunāgra-ja 男 [*Bhīmasena* の名].
 arṇa 形 波立つ. 男 中 波, 流, 川; 洪水. 男 文字, 綴; [音律の一種]; [人名].
 arṇava 形 波立てる; 泡立てる; 怒れる, 不安なる. 男 (中) 波, 川; 洪水; 海, 泡立てる海; 海潮; 空界, 雲海; 巨浪; 海, 巨海, 大海 *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Daś-bh.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*
 arṇava-nemi 女 地.

arṇava-sarid-āsrita 男 海と川との近くに住む者。
 arṇas 甲 波, 川; 洪水; 海潮, 海; 空界。
 arṇa-sāti 女 河川の獲得又は征服。
 arti 1. [動詞語根 B].
 arti 2. 女 [=ārti] 苦痛; 痛 Divy. → śiro~.
 artiyate, ṛtiyate, ritiyate, → Rt. 羞恥, 慚愧 Mvyut.
 artu- 1. =ṛtu-.
 artu (a-ṛtu) 2. 形 非節, 非時 Lank.
 artha (甲 因), 男 仕事; 目的; 原因, 動機; 意味; 利益, 使用, 利用, 有用; 褒美; 利得; 財産, 富, 金錢; 物, 事, 事物; 場合, 事件, 訴訟; 義, 要義, 事義, 妙義, 義趣, 義品, 義理, 道理; 利, 利事, 財利, 義利, 利樂, 利樂事; 益, 饒益, 利益, 利益事; 財, 財物, 珍財 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Rāṣṭr., Suv-pr., Lank., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k., Mvyut., 梵干, 梵雜; 用, 意用 Sāṃkhy-k.; 法, 事, 物, 體 Divy., Lank., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Mvyut.; 境, 境相, 境界, 外境, 外境界; 塵, 外塵, 色塵, 塵境 Lank., Cat-ś., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Vijñ-v., Madhy-vibh.; 果 Madhy-v.; 致 梵干; 求, 求覓, 追求, 欲求; 欲(一°) Lal-v., Rāṣṭr., Bodh-bh.; 義類(因) Avh-vy., 阿哩他 Guhy-s.: me puṇyair ~o na vidyate 我不求世福, 於福德心無求覓 Lal-v. 261. → an~, alpā~, nir~, nir~ka, yathā~. ~m Kr 饒益, 利樂 Aṣṭ-pr. ~m car, ...の利益の爲に行動す。
 一° 形 ...を目的として, ...に役立つ; 爲, ...故 Saddh-p., Abh-vy.; 求 Sāṃkhy-k.
 ~m 圖 (一°)の爲に; 爲 Saddh-p., Bodh-bh., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k., Abh-vy.: satkāra~m 爲供養 Saddh-p. 160., svarga~m 爲(生)天 Bodh-bh. 22.
 ~ena 因 (一°)の爲に。
 ~āya 爲 (一°)の爲に; 爲獲, 爲求 Aṣṭ-pr.
 ~āt 因 即ち, 換言せば。
 ~e 因 (一°)の爲に; 欲, 爲益, 爲故, 欲爲饒益, 於追求時 Bodh-bh. 249.
 ayam ~h, 此の物。
 kam ~m, 如何なる物なりや。
 kim ~m 何, 云何 Abh-vy. 256.
 ko ~h, (因)は何の役にか立たん, (圖)は(因)を以て何かせん。
 arthaka 男 意味。
 arthakatva 甲 欣樂, 欲樂 Madhy-vibh.
 artha-kara 形 (女-i) 有益なる, 有用なる; 利益, 作利益; 隨義行, 修義理, 作義理者 Lal-v., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.
 artha-karaṇa 甲 作利樂事, 作利益事 Madhy-vibh.
 artha-karaṇatā 女 作義利, 長養實義 Gaṇḍ-vy.
 artha-karaṇiya 甲 所應作事 Bodh-bh.
 artha-karman 甲 特にその爲の行爲; 饒益, 利益 Bodh-bh.

artha-kāma 甲 男 兩 有益と欲望, 富と快樂。形 富を希ふ; 有用ならんことを希ふ; 欲求者, 欲得義者 Lank.
 arthakāmya 1. 名動 他 財貨を欲求す。
 artha-kāmya 2. 形 =artha-kāma(形)。
 artha-kāraka 男 [Dyutimatの子の名]。甲 利 Sūtr.
 artha-kāraṇāt 因 圖 (一°)の爲に。
 artha-kārya 甲 饒益, 利益 Gaṇḍ-vy.
 artha-kāśya 甲 缺乏, 貧窮
 artha-kāśin 形 外見上の利益のみを齎す。
 artha-kilbiṣin 形 金錢にて罪を犯す, 金錢に就て不正直なる。
 artha-kuśala 形 巧妙(文)義 Aṣṭ-pr.
 artha-kṛcchra 甲 困難なる事件。
 artha-kṛt 形 有用なる, 利益を齎らす。
 artha-kṛta 形 一定の目的に順應せる, 意味又は利益の爲に作されたる, ...に據る; 利己的なる。因 ...の爲に。
 artha-kṛtya 甲 事の成就。
 artha-kṛtyā 女 [同上]。
 artha-kovida 形 熟達せる, 經驗ある; 如實知, 了其義 Lank.
 artha-kausālyā 形 善於義, 善義者, 義方便, 義巧方便 Lank.
 artha-kriyā 女 一定の目的ある行爲; (他に對して) 有用なる行爲; 饒益, 利, 利行, 利益事, 能作利事, 利益安樂 Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-bh.: sattva~ 利衆生, 饒益有情 Bodh-bh. 201.
 artha-khyāna 甲 義光 Sūtr. 55.
 artha-gati 女 意味の了解; 義趣, 意趣 Daś-bh., Sapt-pr.: sūtra~ 經趣, 經意趣 Daś-bh. 84.
 artha-gocara 男 所行義, 實有境界 Lank.
 artha-grahaṇa 甲 金錢の掠奪, 意味の把握, 表示。
 artha-ghna 形 (女-i) 損害を與ふる; 富を失ふ, 浪費する。
 artha-caryā 女 他の爲に盡すこと; 利行, 利他, 利益他事 Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.
 artha-citta 形 富に専心する。
 artha-cintaka 形 有用なるものを知る, 益を知る。
 artha-jāta 甲 男 兩 財産の積集, 金錢; 物, 對象。
 artha-jñā 形 事柄又は意味を了解する; 知義, 義智, 知於義, 善解義 Lank., Sūtr., Bodh-bh.
 artha-tattva 甲 物の實狀; 事の真相; 眞意。
 artha-tantra 甲 功利の教。形 功利に依れる, 利益に基ける, 利益に従て行動する。
 arthatas 圖 目的の爲に; (一°)の爲に; 利得の爲に; 眞に, 實に, 意味に従へば; 由義, 義意 Bodh-bh., Abh-vy.
 arthatā 女 事, 利 Bodh-bh.
 artha-tṛṣ 形 財を渴望せる。
 artha-tṛṣṇā 女 黄金の渴望, 強欲。
 arthatva 甲 (一°)の爲に役立つこと。
 artha-da 形 有用なる; 寛大なる。
 artha-datta 男 [或る豪商の名]。

artha-darśana 甲 事を判断すること。
 artha-dāna 甲 金銭の贈物。
 artha-dāyāda 男 財産の相續者 (Buddh-c.).
 artha-dūṣaṇa 甲 浪費; 財産の不正なる奪取。
 artha-dṛś 女 眞實を視る眼。
 arthanā 女 祈禱; 請願, 要求。
 artha-nāśa 男 財産の喪失。
 artha-nibandhana 形 利益の爲の。
 artha-nirdeśa 男 意義の説明。
 artha-nirvṛtti 女 目的の遂行又は實現。
 artha-niścaya 男 事件の處理, 事件に對する確乎たる意見。
 arthaniya 未受分 求めらるべき, 要求せらるべき。
 artha-nyūna 形 貧しき。
 artha-pati 男 富者; 王。
 artha-pada 甲 [Pāṇini の文典に對する註釋 (Vārttika) の名]。
 artha-para 形 金銭に専心する, 吝嗇なる; 住於義, 能取於正義 Lank.
 artha-parigraha 男 財を有すること。 形 財に依れる。
 artha-pariccheda 男 所了境, 塵分別, 分別塵境 Madhy-vibh. 144.
 artha-pāripūri 女 [Pāli. 同じ] (眞實)義具足 Rāṣṭr. 60.
 artha-pāruṣya 甲 金銭に關して嚴格なること。
 artha-pāla 男 [人名]。
 artha-pratibhāsa 形 似義, 似塵, 變似義 Madhy-vibh.
 artha-pratisaṁvid 形 義無礙解, 義無礙慧, 義無礙智 Bodh-bh., Mvyut.
 artha-pratisaraṇa 形 依義, 依於義, 隨於義, 義是所依 Lank., Abh-vy., Bodh-bh.: ~ena bhavitavyaṁ na vyañjana-pratisaraṇena 依義不依文 Mvyut.
 arthaprasaraṇa-citta 形 生依義心, 心依於義 Bodh-bh.
 artha-pratisaramatā 女 意義に依ること (Dharm-s.).
 artha-pradipa 男 燈火の目的に役立つもの, 實際の燈火ならざるもの。
 artha-prayoga 男 高利貸。
 artha-pravicaya 形 觀察義 Lank.
 arthapracaya-dhyāna 甲 觀察義禪 Lank.
 artha-prāpti 女 富を得ること; 自明の理。
 artha-bandha 男 意味深長なる言葉。
 -artham 副 → artha.
 artha-matta 形 富を誇る。
 artha-mātra 甲 (女 -ā) 富, 金銭。 形 物それ自體のみなる, 唯物の; 唯義 Bodh-bh.
 artha-mātrā 女 [同上(甲)].
 arthaya 名動 自 (他) [arthate 義] 盡力す, 得んと努力す; 企つ; (業, 能)に(業)を請求す; 説明す。 abhi-(業)に(業, 爲, 因, -artham)を求む。
 pra- 欲求す; (業)に(業, 因)を求む; (業)を(能)より要求す; (不定)せんことを望む或は乞ふ; 求婚す;

…に頼る; 自 (業)に自ら反對す; 求, 願求, 希求, 求趣, 求樂, 貪求, 求得, 欲, 欲求, 慕, 希願, 希望, 生願樂 Lal-v., Av-ś., Daś-bh., Sapt-pr., Saddh-p., Lank., Śikṣ., Abh-vy., Madhy-v., Bodh-bh.; (prārthenta 俗現分) 志 Lal-v.; 願, 願樂, 乞求 Bodh-bh., Śikṣ.

anu-pra- 求 Gand-vy.

sam- 準備す; 結論す; 判断す, 思考す; (業)を伴ふ prati, (因)と結合す; 認む; 熟考す; 決断す; 勵ます, 鼓舞す; (prārthayat 現分) 詳論, 論量 Abh-vy.

artha-yukta 形 意味ある, 有意義の。

artha-yukti 女 利得, 利益。

artha-racana 甲 目的の遂行, 努力。

artha-rāśi 男 巨富。

artha-ruci 形 強欲なる。

artha-lābha 男 富の獲得。

artha-lubdha 形 財を渴望せる, 強欲なる。

artha-lopa 男 無目的, 財の喪失。

artha-lolupatā 女 金銭欲。

arthavat 形 富める; 目的に適へる; 意味ある; 理解し得る; 具義 Aṣṭ-pr. 圖 思慮深く, 目的によりて。

arthavattā 女 有意義, 重要。

arthavattva 甲 [同上]。

artha-vargiya 甲 [佛典の名, Pāli. Atthaka-vagga (Sutta-nipāta の)]; 義品, 義部 Abh-vy., Bodh-bh. 甲 衆義 Divy. 35.

artha-varjita 形 無意味なる。

artha-varman 男 [人名]。

artha-vaśa 男 義, 義利, 義勢, 義力 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Mvyut.: imam ~m sam-pāśya 以此義利故 Sukh-vy. I. 48. 因 それ故に。

artha-vāda 男 目的又は意味の説明; 賞讃。

artha-vādin 形 事實を傳ふる。

artha-vikalpa 男 利妄想, 義分別, 財分別 Lank.

artha-vid 形 意味を知る。

artha-vidyā 女 實際生活の知識; (音寫)阿他論 Lal-v.

artha-vināśana 形 有害なる, 不利ならしむる。

artha-viniścaya 男 [經名] 《義決定》, 衆義眞實, 決定妙義, 法乘義決定經 Śikṣ., Mvyut.

artha-viniścita 形 決定解 Gand-vy.

artha-vipatti 女 事柄の不成功, 目的の失敗。

artha-viparyaya 男 貧窮, 貧乏。

artha-viviktatva 甲 無義, 離種種境 Aṣṭ-pr.

artha-viśārada 形 目的に適へる, 有效なる, 時宜に應ぜる。

artha-vṛttikā 女 [遊女の一種]。

artha-vṛddhi 女 富の増大。

artha-vaikalya 甲 不正確なる事柄, 背理。

artha-vyavahāra 男 金銭上の訴訟。

artha-śāstra 甲 實際生活又は政治上の論書。

artha-śauca 甲 金銭上の潔白。

artha-śri 女 巨富。

artha-saṁśaya 男 財の喪失に對する危惧。

artha-samsiddhi ㊦ 事柄の成功。
 artha-samhita ㊦ ㊦ 益, 有益, 義利, 引義利
Aṣṭ-pr.
 artha-samgraha ㊦ 富の集積。
 artha-samcaya ㊦ ㊦ 財産, 富の集積。
 artha-sattva ㊦ ㊦ 有義 *Madhy-vibh.*
 artha-saṁdeha ㊦ 疑義。
 artha-samāharṭṛ ㊦ 集金人, 金銭受取人。
 artha-sampādana ㊦ 利益の獲得, 事件の整理。
 artha-sambaddha ㊦ ㊦ 體和合, 縁境 *Lank.*
 artha-saṁbandha ㊦ 富の所有。
 artha-sādhaka ㊦ 目的を助くる, 事を進むる, 有益なる, 有用なる。
 artha-sādhana ㊦ 目的の遂行, 目的達成の手段。
 artha-sāmānya ㊦ ㊦ 總義, 總事 *Mvyut.*
 artha-sāra ㊦ 巨富。
 artha-siddha ㊦ 自明の。
 artha-siddhi ㊦ 財産の獲得; 目的の成就; 意義の確定; ㊦ 事成, 事究竟, 事業成滿, 正事成就 *Madhy-vibh.*; [人名] 成利 *Rāṣṭr.*
 artha-hāni ㊦ 財産の喪失。
 artha-hārin ㊦ 金銭を盗む。
 arthākāra (°tha-āk°) ㊦ ㊦ (諸)事, (諸)境, 境相, 似義 *Lank.*
 arthāgama (°tha-āg°) ㊦ 財産の收入。
 arthātura (°tha-āt°) ㊦ 強欲なる, 金銭にて苦む。
 arthātman (°tha-āt°) ㊦ 眞性。
 arthādhikāra ㊦ 金銭の管理, 收入役。
 arthāntara ㊦ 他物; 異なる意味; ㊦ 異, 別義, 義異 *Sūtr., Nyāy-pr., Abh-vy.*
 arthāntara-nyāsa ㊦ 類例の引證, (一般又は特殊の) 確證 [修辭法の一つ]。
 arthāntara-viśeṣa ㊦ ㊦ 更有義, 更有餘義, 爲別有義 *Lank.*
 arthāntarābhīprāya ㊦ ㊦ 別義意, 別義意趣 *Mvyut.*
 arthāpatti (°tha-āp°) ㊦ 自明; 推理, 必然的結論 [修辭形式の一つ]; ㊦ 通義, 以義解 *Mvyut.*
 arthābhāva ㊦ 無目的; 對象なきこと; ㊦ 無境, 無塵 *Madhy-vibh.*
 arthābhāva-jñāna ㊦ ㊦ 無境智, 無塵智 *Madhy-vibh. 247.*
 arthābhāsa (°tha-ābh°) ㊦ ㊦ 影像, 似境, 似外境, 所現虛妄相, 無物而見物 *Lank. 285.*
 arthābhīnirvṛtti ㊦ 事件の成果。
 arthābhīprāya ㊦ 意圖せられし意味。
 arthāyoga ㊦ ㊦ 義不相應 *Abh-k.*
 arthārjana ㊦ 財産の獲得。
 arthārtha ㊦ 目的を達成するに有效なる。
 arthārtha-tattva-jñāna ㊦ 眞實を知悉せる, 眞の目的を知る。
 arthārtham ㊦ 金銭の爲に。
 arthārthika ㊦ ㊦ 求財賄(者) *Sikṣ.*
 arthārthitā ㊦ 富の欲望。
 arthārthin ㊦ 利己心ある, 我利的なる, 富を望む; ㊦ 爲義, 求義, 爲求義 *Bodh-bh.*

arthālocana-jñāna (°tha-āl°) ㊦ ㊦ 了視義, 了義智, 視義知, 現義知 *Mvyut.*
 arthāvamarda ㊦ 浪費。
 arthāsā (°tha-āsā) ㊦ 金銭欲。
 arthāharaṇa (°tha-āh°) ㊦ 金銭の集積; 意味の引證。
 arthika ㊦ (一°)を必要とする, ……を願へる; ㊦ 求, 所求, 希求, 有希求, 願求, 勤求, 求乞者, 來求者; 索, 求索; 貪, 貪求; 愛, 貪愛, 愛樂; 慕, 所慕索; 好; 欲; 爲; 悌樂 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Kāśy., Rāṣṭr., Sam-r., Bodh-bh., Sikṣ., Mvyut.*; 須, 欲買, 當買 *Lal-v., Aṣṭ-pr.*; 惜 *Saddh-p.*; 求(法)者 *Saddh-p.*; ratna → 求寶 *Aṣṭ-pr. 504.*; vāstra → 衣服求乞者 *Bodh-bh. 133.* → dharma →
 arthikatā ㊦ ㊦ 求; 愛樂, 勤求 *Aṣṭ-pr.*
 arthitavya (未受分) = arthaniya.
 arthitā ㊦ 切願; (㊦)に對する欲望; 要求。
 arthitva ㊦ [同上]; ㊦ 樂, 樂欲 *Bodh-bh.*
 arthin ㊦ 忙しき; 熱心なる; (㊦, 一°)を願ふ; 貧乏なる; 好色なる; ㊦ 求, 志求, 志願, 希求, 悌求, 欲得, 欲求; 有所悌冀, 有所悌望; 深樂; 乞, 乞乞 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Daś-bh., Lank., Bodh-bh.* → abhī →, bhojana →。 ㊦ 求婚者; 懇願者, 乞食; 遂行者; ㊦ 求者 *Sūtr.*
 arthi-bhāva ㊦ 乞食の身分。
 arthi-sāt-Kṛ, 懇願者の要求(㊦)を容る。
 arthiya ㊦ (一°)の目的に適合する。
 arthepsutā (°tha-ip°) ㊦ 富に對する欲望; 欲望。
 arthotsarga (°tha-ut°) ㊦ 出費。
 arthopasaṁhita (°tha-up°) ㊦ ㊦ 義饒益, 引攝義, 能引義理 *Bodh-bh.*
 arthoṣman (°tha-ūs°) ㊦ 富に對する情熱又は自慢。
 arthaugha (°tha-ogha) ㊦ 巨富。
 arthya ㊦ 適當なる, 賢明なる; 富める。 ㊦ ㊦ 境 *Abh-k.*
 Ard, → Rd.
 ardana ㊦ 休むことなく動く; (一°)を惱ます, ……を苦むる; 滅ぼす, 破壊する。 ㊦ [Siva 神の稱]。 ㊦ 苦痛, 興奮。
 ardita (過受分) ㊦ 乞はれたる, 要求せられたる; 苦められたる, 傷けられたる; 殺されたる, 破壊せられたる。 → Rd. ㊦ 惱, 所逼, 逼切, 來侵, 所驅迫 *Buddh-c., Rāṣṭr., Sikṣ.*; duḥkha → 苦 *Daś-bh. 34.* ㊦ [病氣の名(頸痙攣, 半身不隨)].
 Ardh, 榮ゆ。 → Rdh.
 ardha ㊦ 半分の [眞: ㊦ 圓として °—]; ㊦ 半 *Lank., Mañj-m., Bodh-c., Abh-vy., Mvyut.* ㊦ ㊦ 半; 中; ㊦ 半, 一分 *Abh-vy.* ㊦ 側, 部分, 場處, 地方。
 ardha-kathana ㊦ 不完全なる説話, 半分のみを話すこと。
 ardha-kapiśa ㊦ 帶褐色の。
 ardha-kāya ㊦ 半身を有する; ㊦ 半身 *Suv-pr.:* tatrādrākṣid → ām devatām niṣkramantim 時有樹神示現半身 *Suv-pr. 170.*
 ardha-kāyaka ㊦ ㊦ 半身 *Lal-v.*
 ardha-kāyika ㊦ ㊦ (出現)半身 *Lal-v.*

ardha-kunḍala-karṣin 形 璫(璫)の半分を持てる。
 ardha-kṛṣṭa 形 半ば引き出されたる。
 ardha-koṭi 女 五百萬; 四三 半億 *Saddh-p.*
 ardha-koṣa 男 財寶の半分。
 ardha-caturtha 形 三箇半の; 四三 三箇半
Mvyut.
 ardha-candana-lipta 形 半ば旃檀香を塗抹せる。
 ardha-candra 男 半月; 半月形の鏃(鏃)ある矢; 掌
 を凹ませたる手; 四三 半月, 半月寶 *Gaṇḍ-vy., Sukh-*
vy. I., Abh-k. ~ m Dā 頸を攫む。
 ardha-candraka 男 曲げたる手, 半月形の鏃。
 ardha-candra-bhāgin 形 頸を攫まれたる。
 ardha-candra-mukha 形 半月形の尖端を有する。
 ardha-candrārdha-bhāskara 男 月の中旬の正午。
 ardha-cola 中 四三 楸子 *Mvyut.*
 ardha-colaka 男 短き胴著。
 ardha-jvāḥta 形 半ば点火せられたる。
 ardha-tṛtiya 形 二箇半の; 四三 兩箇半 *Mvyut.:*
 ~ āni śatāni 二百五十 *Gaṇḍ-vy. 427.*
 ardha-trayodaśa 形 十二半の; 四三 sārddham
 ~ bhir bhikṣu-śataiḥ 與苾芻千二百五十人俱
Vajr-pr. 18.; ~ śatāni 千二百五十 *Mvyut.*
 ardha-dagdha 形 半ば燃えたる。
 ardha-daṇḍa 男 半額の罰金。
 ardha-divasa 男 正午。
 ardha-deva 男 半神, 神人。
 ardha-dvi-catur-aśraka 男 [姿勢の一種]。
 ardha-nārāca 男 [矢の一種]; 四三 鐵舌箭 *Mvyut.*
 ardha-nimilita 形 四三 半閉, 細視 *Lal-v., Abh-vy.:*
 ~ air nayanair bodhisattvaṃ nirikṣante sma
 癡婬細視 *Lal-v. 320.*
 ardha-niṣpanna 形 半ば完成したる。
 ardha-niṣṣṛta 形 半ば這ひ出でたる。
 ardha-pañcan 形 四箇半の。
 ardha-pañcama 形 [同上]。
 ardha-pañcāsat 女 二十五。
 ardha-pana 男 半 *Pana* (銅貨)。
 ardha-patha 男 半途。
 ardha-pada 中 (頰の)半行又は四分の一。
 ardha-paryaṅka 男 半跏座 [坐法の一種] (*Lal-v.*)
 ardha-pala 中 四三 半兩 *Mvyut.*
 ardha-pāda 男 足の先。
 ardha-pādika 形 半分の足のみを有する。
 ardha-pita 形 半分飲まれたる。
 ardha-pulāyita 中 [馬の歩調の一種]。
 ardha-bṛgala 中 半片
 ardha-bhakṣita 形 半ば食はれたる。
 ardha-bhagna 形 半ば破壊せられたる。
 ardha-bhāga 男 半分, 部分。
 ardha-bhāgika 形 半分を受取る。
 ardha-bhāj 形 [同上]; (圓)の半分を含む。男 同
 業者, 同僚。
 ardha-bhūmi 女 土地又は領土の半分。
 ardha-māgadhi 女 半 *Māgadhi* 語 [俗語の一種]。
 ardha-mārga 男 半途。
 ardha-māsa 男 半箇月。

ardha-māsakam 中 四三 半月内 *Prāt-m.*
 ardha-māsika 形 半月續く。
 ardha-milita 形 半ば閉ぢたる。
 ardha-mukuli-Kṛ, 半分(目を)閉づ。
 ardha-mukta 形 半ば遁れたる, 半ば離脱せる。
 ardha-muṇḍa 形 半剃髮の (*Buddh-c.*)
 ardha-muṇḍita 形 (頭を)半分剃れる。
 ardha-yāma 男 半 *Yāma* (即ち一時間半), 半 *Yāma*
 の夜番。
 ardha-ratha 男 他の勇士と同一戰車にて戦ふ勇士。
 ardha-rātra 男 眞夜中; 四三 中夜 *Guhy-s.*
 ardharātra-samaya 男 眞夜中の時, 丑滿時。
 ardharātrārdha-divasa 男 晝夜平分, 春分秋分。
 ardha-rātri-samayam 中 四三 夜半 *Lal-v.*
 ardha-rūḍha 形 半ば成長したる。
 ardha-rca (°dha-ṛca) 男 詩の半節, 詩の半行。
 ardharcaśas 中 詩の半節によりて。
 ardha-lakṣya 形 半分見ゆる。
 ardha-likhita 形 半分畫かれたる。
 ardha-vastra 中 半分の著物。
 ardha-vṛddhi 女 利息の半分。
 ardha-vaiśasa 中 半殺人。
 ardha-śata 中 五十; 百五十。
 ardha-śeṣa 形 半ば残れる。
 ardha-śyāma 形 薄墨色の, 半ば曇れる。
 ardha-śruta 形 半ば聞きたる。
 ardha-śloka 男 半 *Śloka*。
 ardha-saṃjāta-sasya 形 (農)作物の半ば成長した
 る。
 ardha-saptadaśa 形 十六半の。
 ardha-saptaśata 形 三百五十の; 七百五十の。
 中 三百五十。
 ardha-samaya 男 (一定の)時間の半ば。
 ardha-sama-vṛtta 中 半分同一の音律 [第一行=第
 三行, 第二行=第四行]。
 ardha-siddha 形 半ば成就せる。
 ardha-sirin 男 (勞力に對し收穫の)半分を受くる農
 夫。
 ardha-sthita-prāṇa 形 半死半生の。
 ardha-srag-anulepin 形 半ば花環にて飾り且つ香
 油を塗れる。
 ardha-hāra 男 六十四顆の眞珠の頸飾; 四三 瓔珞,
 寶斜掛, 眞珠瓔珞 *Saddh-p., Lan̄k., Mvyut.*
 ardhaḥṣi 中 洗眇。
 ardhaṅgi-Kṛ, 半身となす。
 ardhaḥcita (°dha-āc°) 形 半ば(寶石を)鑲めたる。
 ardhaḥdita 形 半ば學べる。
 ardhaḥrdha 形 四分の一の。
 ardhaḥrdha-bhāga 男 四分の一。
 ardhaḥrdha-hāni 女 毎度半分宛の差引。
 ardhaḥvaliḍha 形 半分舐められたる, 半分舐めたる。
 ardhaḥviṣṭa (°dha-āv°) 形 半ば口籠れる。
 ardhaḥsana (°dha-ās°) 中 (客に與ふる)座席の半分;
 四三 半座 *Saddh-p.*
 ardhaḥsi 男 短刀。
 ardhika 形 (女 -i) 半分に達する。

ardhin 形 半分の; (布施を)半分受取る.
 arhendu (°dha-in°) 男 半月(形).
 arhendu-mauli 男 [(半月形の髪飾ある者), Siva 神の稱].
 ardhoekta (°dha-uk°) 形 半分言はれたる, 半ば話されたる. 田 半分の話.
 ardhocchiṣṭa (°dha-uc°) 形 半分残されたる.
 ardhodita (°dha-ud°) 形 半ば起てる.
 ardhopabhukta (°dha-up°) 形 半分食はれたる.
 ardhoruka (°dha-ūr°) 形 股の半ばに達する. 田 短かき外套.
 arpaṇa 形 (女) 来たす, 致す; 上に置く, 與ふる; 傳送する, 託する. 田 投ぐること; 貫通すること; 附著; ……に(信用・尊敬等を)置くこと; 應用; 交付; 讓渡, 引渡; 還付; 成, 所成 [Tib. gtod-par byed-pa] *Prajñ-vy.*
 arpaṇā 女 交付すること, 献納すること; 獻, 付, 交付 *Mvyut.*
 arpaṇiya (未受分) 見棄てらるべき, 渡さるべき.
 arpaya, [Rの便役].
 arpita 便役 (通受分) [R] ……に置かれたる, 適用せられたる; ……に交付せられたる.
 arbuda 男 蛇; [魔性の蛇の名]; 蛇の形をなせる塊; 第二月の胎兒の形; [Abū山の稱]; 阿 [民族の名]. 田 胞, 泡, 皰, 水泡, 頗結 *Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*; [地獄の名] 皰, 水泡, 有泡(地獄) *Divy., Mvyut.*; 類施, 類部曇, 退部曇, 類部陀, 類浮陀 *Abh-vy., 立應.* → *arvuda.* 田 [Rg-veda X. 94. の讃歌]; 一千万; 數の名] 稱 *Mvyut.*
 arbuda-sikhara 男 [山の名].
 arbha 形 小さき, 弱き. 男 男兒.
 arbhaka 形 小さき, 弱き, 若き, 子供らしき. 男 男兒, 幼獸.
 arbhakatā 女 [同上 田].
 arbha-ga 形 年少の.
 arma 男 廢墟; 屑.
 arya 1. 形 親切なる, 忠實なる; 敬虔なる.
 arya 2. 男 主人, 君主; Vaiśya (第三種姓階級)以上の男, 第三種姓(階級)の男; 民, 尊者 *Mvyut.*
 arya-man 男 親友, 仲間; 媒酌人; [Ādityaに屬する一神にして且つ祖先 (Pitr) の首長と信ぜらるゝ神の名]; 太陽.
 aryamya 形 親しき.
 arya-varya 男 高き地位の第三種姓(階級).
 aryā 女 第三種姓(階級)以上の女, 第三種姓(階級)の女.
 arvat 形 競走する, 疾き; 低き, 卑しき. 男 競走者, 駿馬; 尙者; [獻供行爲の一部の名].
 arvati 女 牝馬.
 arvan 形 =arvat.
 arvāk 田 [arvāncの 體 田 田]. 田 此方に. 田 [(田, 田)と俱に] 此側に; ……より; 前に [未來に就て—明日は明後日の前なるが如し], 後に [過去に就て—昨日は一昨日の後なるが如し]; ……の下部に; (田)の近くに於て; 前; 這邊, 至此; 以裡, 這裏; 以下 *Bodh-bh., Abh-vy., Prāt-m., Mvyut.*

滅, 内 *Prāt-m.*: tato ~ 從是已來 *Gaṇḍ-vy. 312.*; ~ ……saṅṅāṃ varṣāṅāṃ 滅六年, 六年内 *Prāt-m. 496.*

arvāk-kālikatā 女 近世.
 arvāk-kālina 形 近代より始まる, 近頃の.
 arvāk-Kṛ, 得る, 求む.
 arvāk-tana 形 此側に在る, 彼方に達せざる.
 arvāk-srotas 形 下方に向へる.
 arvāg-gati 女 地獄への途.
 arvāg-bila 形 下方に口ある.
 arvācina 形 此方の; (田)の此方にある; より近き.
 arvānc 形 (女 -vāci) ……に向へる; 此方に向けられたる, 此方側の.
 arvāncam-Kṛ, 得る.
 arvāvasu 男 [聖仙の名]; [太陽の七光線中の一の名].
 arvuda 男 =arbuda; 腫疱 *Aṣṭ-pr.*: akṣiṣv ~ m 腫疱目 *Aṣṭ-pr. 275.*
 arśas 田 痔疾; 痔漏 *Sikṣ.*
 arśā 女 痔瘡 *Mvyut.*
 arśāṅgi-kuṣṭa 田 痔瘡, 疥風 *Mvyut.*
 Arṣ, → Rṣ.
 a-rṣi (a-rṣi) 形 非仙, 非仙人 *Lank.*
 Arh, I. 田 (直) arhati ……に權利を有す; 價す, 相當す; 責に任ず, 負ふ; ……すべきなり, 餘儀なくせらる, (田)をなし能ふ; (不定)する權利を有す, ……せざるを得ず, ……することを得; (田)の價値あり, ……に匹敵す; [(三)田]は丁寧なる命令に等し]何卒, 忝なくも……されんことを; 賜ふ; 堪; 可, 應; 合; 可立爲 *Lal-v., Sapt-pr., Abh-vy.*: nārhaty agāram adhyāvasitum 不合在家 *Lal-v. 106.* 便役
 arhayati (田)を以て尊敬す.
 abhi- 便役 (通受分) abhyarhita 極めて尊敬せられたる. (未受分) abhyarhya 恭敬 *Madhy-vibh.*
 arha 形 (田, 一)に相當する, 權利を有する, 當然……を受くべき, ……に於て正しとする; 適當なる, ……に適する; 可, 應可, 應, 所應, 應受, 堪受; 價 *Divy., Buddh-c., Bodh-bh.*: pātana ~ 可破 *Bodh-bh. 78.*; satkāra ~ eṣu 於所應敬 *Bodh-bh. 6.* → pūjā ~, yathā ~ m.
 arhaṇa 形 當然(一)を要求する, 權利を有する. 田 尊敬; 尊敬を表す贈物; 寶石.
 arhaṇā 女 名譽, 崇拜.
 arhaṇiya (未受分) 名譽に値する.
 arhat 現分 相當する, 値する. 男 價値ある人, (佛教と耆那教の) Arhat (阿羅漢); 應, 應供 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sukh-vy. I., Lank., Abh-vy.*; 羅漢, 阿羅漢, 阿羅訶 *Saddh-p., Vajr-pr., Sukh-vy. II., Lank., Abh-vy.*; [=arihan] 壞冕 *Mvyut.*
 arhatā 女 價値 (*Prajñ-vy.*).
 arhattva 田 Arhat の位; 無學位, 無學果, 應果性; (田)阿羅漢, 阿羅漢果, 逮得阿羅漢, 應供阿羅漢 *Divy., Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh., Abh-vy.*
 arhattva-parihāni 女 (田) (田)於阿羅漢退, 退阿羅漢果 *Abh-vy.*
 arhattva-pratipanna 形 入壞冕 *Mvyut.* → arhat-pratipannaka.

arhattva-prāpti 女 阿羅漢 (音寫) 得阿羅漢果 *Abh-vy.*
arhattva-phala 甲 阿羅漢 (音寫) 阿羅漢果 *Abh-vy.*
arhattvaphala-tathatā 女 阿羅漢 (音寫) 阿羅漢果如, 阿羅漢果真如 *Aṣṭ-pr.*
arhat-pratipannaka 形 阿羅漢 (音寫) 阿羅漢向 *Mvyut.*
arhatva 甲 (一°) に對し價值あること; 阿羅漢, 阿羅漢位 *Saddh-p., Vijñ-t.*
arhad-ghaṭi-cakra 甲 俗 [< araghaṭṭu-gh²]; 水輪, 幻景(?) *Mvyut.*
arhad-ghāta 男 殺阿羅漢 (音寫) 殺阿羅漢 *Mvyut.*
arhad-ghātaka 形 殺阿羅漢 (音寫) 殺阿羅漢 *Mvyut.*
arhad-dharma 男 聲聞法 [聲聞 = 阿羅漢] *Sapt-pr.*
arhad-bhūmi 女 阿羅漢道 (音寫) 阿羅漢道 *Saddh-p.*
arhad-vadha 男 害羅漢, 殺阿羅漢 (音寫) 害羅漢, 殺阿羅漢 *Lank., Mvyut.*
arhad-vasana 甲 *Digambara* の衣服; 大氣 (*Jāt-m.*).
arhan 男 [arhat の體單].
arhanta-saṃmata 形 [= arhat-s°s; 名 字羅漢 (音寫) 名 字羅漢 *Saddh-p.*
arhantikā 女 佛教の尼.
arhanti 女 無學尼; 阿羅漢尼 (音寫) 阿羅漢尼 *Abh-vy., Mvyut.*
alaka 男 甲 垂髮, 縮れ毛.
alaka-nandā 女 [河の名]; 八歳より十歳までの少女.
alakam 副 無益に.
alakā 女 [*Kubera* 神の都の名]; [*Niṣadha* 山の都市名].
alakādhipa 男 = alakeśvara.
alakāvati 女 [天上の城市の名]; 有財 *Suv-pr.*
alakeśvara (°ka-iś°) 男 [*Kubera* 神の稱].
alakta 男 (甲) 赤色樹脂.
alaktaka 男 (甲) [同上].
alaktakāṅka 形 赤色の.
a-lakṣaṇa 甲 凶兆; 特徴なきこと, 凡ゆる相を超越せること; 非相, 無相 *Vajr-pr., Madhy-vibh.* 形 相又は特徴を闕く; 無意味なる; 有害なる; 無相, 無性, 無諸性 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lank., Sūtr., Madhy-v.* ~ m 副.
a-lakṣaṇaka 形 相好を絶せる; 無相, 無相好 *Divy.*
a-lakṣaṇatā 女 無相 *Bodh-bh.*
alakṣaṇa-dharma-parāyaṇa 形 趣無相法, 已進無相之法 *Mvyut.*
alakṣaṇa-sūnyatā 女 無相空 *Dharm-s.*
alakṣaṇa-sampad 女 非相具足, 非身相, 非勝相 *Vajr-pr.*
a-lakṣanya 形 凶兆の.
a-lakṣatva 甲 無相, 無形相 *Aṣṭ-pr.*
a-lakṣita (過受分) 見えざる; 相なき; 注目せられざる. ~ m 副 相なく, 注目せられずして.
a-lakṣman 形 凶事を告ぐる, 不吉の.
a-lakṣmi 女 悪しき運命, 不幸; 悲しみ; 窮乏. 形

不幸なる, 不運ならしむる.
a-lakṣmika 形 不幸の.
alakṣmi-pāpa-duḥsvapna 男 夜臥悪夢, 夢見惡徵祥 *Suv-pr.*
a-lakṣya (未受分) 見えざる, 認められざる; 微々たる.
alakṣya-janmatā 女 卑賤の生れ.
alakṣya-vāc 形 眼に見えざるものに就きて語れる.
alakhāna 男 [王の名].
ala-garda 男 [蛇の一種].
ala-gardā 女 [蛭の一種].
a-laghu 形 軽からざる, 重き; 遅き; 重要なる; (詩の音節の) 長き.
alaghu-bhava 男 落ちざること.
alaghu-śarira 形 疲れたる.
alam-karaṇa 甲 準備; 裝飾; 裝飾物.
alam-karaṇin 形 飾られたる.
alam-karat (現分) 莊嚴 *Sikṣ.*
alam-kariṣṇu 形 派手好みなる, 著物を好む; (業) を飾る.
alam-kartṛ 男 飾る人.
alam-kāra 男 裝飾; 裝飾物, 裝身具; 修辭; [*Samādhi* の名] (*Kār-vy.*); 莊嚴, 嚴飾; 嚴具, 莊嚴具; 瓔珞 *Divy., Sukh-vy. I., Gaṇḍ-vy., Bodh-c., Mañj-m., Sūtr., Cat-ś., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
alam-kāraka 男 裝飾物.
alam-kāratā 女 莊嚴 *Gaṇḍ-vy.*
alamkāra-bhāṇḍa 甲 裝身具の篋.
alamkāra-bhūta 形 爲嚴具, 爲莊嚴具, 如瓔珞 *Gaṇḍ-vy.*
alam-kāravat 形 似莊嚴, 如瓔珞 *Mvyut.*
alam-kāravati 女 [*Kathāsaritsāgara* (書名) の第九章 (*Lambaka*) の題名].
alamkāra-śila 男 [人名].
alamkārarthika 形 嚴具求乞者 *Bodh-bh.*
alamkārarthin 形 求莊嚴具 *Bodh-bh.*
alamkārapavicāra (°ra-up°) 男 莊嚴具 *Bodh-bh.*
alam-Kṛ alamkaroti. → Kṛ.
alam-kṛta (過受分) [Kṛ] 飾られたる, 裝飾せられたる; 莊嚴, 嚴飾, 瑩飾 *Divy., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Mvyut.*: ~ ḥ ksāntyā 忍辱莊嚴 *Mvyut.*
alam-kṛti 女 裝飾物; 修辭.
alam-kriyā 女 裝飾; 裝飾物; 修辭上の飾.
a-laṅghaniya (未受分) 達せられざる, 越されざる; 近づかれざる, 犯されざる.
a-laṅghayat (現分) 犯さざる.
a-laṅghita (過受分) 踏まれざる; 觸れられざる, 達せられざる.
alaṅghita-pūrva 形 前に犯さよりし.
alaṅghitātman (°ta-āt°) 形 我を忘れざる.
a-laṅghya (未受分) 徒渉し得ざる; 踏まれざる, 觸れられざる; 犯されざる.
a-lajja 形 恥を知らざる, 無恥の.
a-lajjā 女 無恥; 不羞, 不恥, 不羞恥 *Vijñ-t.*
alajjā-kara 形 不名譽ならざる.

a-latikā 女 形 蔓草なき(土地).
alamtama 最上 甚だ有能なる.
alamtarām 比較 副 より高く; [不定] と共に] よりよく, より容易に.
alam-dhana 形 夥多の財産を所有する.
a-labdha 通受分 獲得せられざる; 無有, 未得, 無所得 *Lank., Abh-vy.*
alabdha-gādha 形 確實に安定せざる (*Jāt-m.*).
alabdha-nidra 形 眠る能はざる.
alabdha-nidrā-kṣaṇa 形 眠る時なき.
alabdha-pada 形 (於)に關し何等印象を與へざる.
a-labdhavat 通能分 (業)を得ざる.
alabdha-śarira 形 無相, 無有體 *Lank.*
alabdhātmaka (°dha-āt°) 形 未だ生起せざる; 無性, 無有身相 *Lank.*
alabdhāvaraṇa (°dha-āv°) 形 障礙なき.
a-labha 男 無貪 *Abh-vy.*
a-labhamāna 現分 得ざる; 遂行せざる; 不可得 *Siks.*
a-labhya 未受分 到達せられざる; 受けられ難き.
alam 副 十分に, 全く, 適當に, 豊富に; 非常に; …に適して; (爲)に等しく, …に匹敵して; (不定)し得る; (因)は十分, …を除きて; 關係を絶ちて; [不定] 又は [不盡分] と共に = [命] 止めよ, …すること勿れ; 力; 能, 足; 殿; 止 *Divy., Saddh-p., Siks., Mvyut.:* na ~ 不能 *Abh-vy. 361.;* samyak-sambuddhānām na ~ guṇa-pāram adhigantum 正覺功德岸無能到其際 *Divy. 79.;* ~ hi dharmenīha (=°neha) bhāṣitena 止止不須說 *Saddh-p. 37.;* ~ etāvad eva bhāṣitum bhavatu 止不須復說 *Saddh-p. 30.* → ~ Kr, ~ BHū.
alam-ārtha-vacas 甲 禁止語, 否定.
alam-ārya 形 眞純なる, 全く神聖なる, 實に崇むべき [常に ~ jñāna-darsana-]
a-lampaṭa 形 淫蕩ならざる, 貞潔なる.
a-lambam 副 止住することなく.
alambuṣa 男 [或る Rākṣasa の名]; [植物の名].
alambuṣā 女 [或る天女の名].
alam-manas 形 満足せる.
a-laya 形 休むことなき. 男 不滅, 存續.
a-layana 形 無舍, 無舍宅 *Aṣṭ-pr.*
alarka 男 狂犬; [八足ある傳説上の動物]; [植物の名].
alalā-bhavat 現分 活潑にサラサラと鳴る.
a-lavaṇa 形 鹽氣なき.
a-lavaṇika 形 無鹽 *Divy.*
a-lasa 形 鈍き, 遅き; 疲れたる; 熾(き)き, 力なき; 怠慢なる; 惰, 懈, 怠惰, 懈怠, 懶惰, 有懶惰者, 懶慢懶惰, 懶惰懈怠; 不精進 *Divy., Av-ś., Kāśy., Siks., Sūtr., Bodh-bh.;* 命不清淨 *Kāśy.*
alasa-gamana 形 歩調の鈍き.
alasa-jātiya 形 稟性懶惰 *Divy.*
alasya 名動 他 衰ふ, 弛む.
alasekṣaṇa (°sa-ikṣ°) 形 朦朧たる或は疲勞せる眼の.
a-lāghava 甲 (屬)に安んずること, …に安心なきこと.

a-lāta 甲 燃えさし, 松明(つ); 火柴, 火燭, 火薪 *Divy., Abh-vy.*
alāta-cakra 男 甲 廻轉する炬火(つ); 火輪, 旋火輪 *Lank., Cat-ś., Abh-vy., Mvyut.*
alābu 女 瓢箪; 瓠 *Lal-v.* 男 甲 瓢箪の果實; 瓢箪の容器.
alābumaya 形 瓢箪製の.
alābū 女 = alābu(女).
a-lābha 男 無所得; 不在; 缺乏, 損失; 失, 喪, 喪; 不利, 無利; 不得, 不取, 不獲 *Saddh-p., Sam-r., Siks., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
alābha-kāla 男 收得するに不適當なる時.
alābha-lābha 男 損失と利得 (*Buddh-c.*).
a-lābhin 形 未得 *Abh-vy.*
alāyudha 男 [或る Rākṣasa の名].
a-lālasa 形 欲望を有せざる.
a-lāsyā 形 踊らざる; 怠惰なる.
ali 男 蜂.
alika 男 [= alika] 額, 前額部; [龍王の名] 鷹 *Mvyut.* 甲 [= alika]; 詐, 妄, 虛妄, 無有實 *Lal-v., Madhy-v., Mvyut.*
alika-lekhā 女 額上の標印.
ali-kula 甲 蜂群.
a-liṅga 形 特質なき; (文法上の)性なき.
a-liṅgavat 形 無形, 無形者 *Lank.*
a-liṅgin 形 徽章を佩する資格なき.
aliñjala 男 大なる水甕.
alin 男 蜂.
alini 女 雌蜂; 蜂群.
alinda 男 (支關前の)露臺.
alindaka 男 [同上].
ali-paṭala 甲 = ali-kula.
a-lipta 通受分 染汚せられざる; 不著, 不能染, 無染著 *Gaṇḍ-vy., Siks.:* ~ ḥ kāmaiḥ 欲不能染 *Mvyut.*
alimat 形 蜂にて覆はれたる.
alimad-dalin 形 花舞に蜂の群れる.
ali-mālā 女 蜂群.
alika 形 不快なる; 不眞實の, 誤れる; 偽の, 装へる. 甲 不快なる物; 不眞實, 虛偽; 額(つ); 無有物, 虛誑無物, 虛妄非實, 誑都無有實 *Siks.* → alika.
alika-nimilana 甲 伴りたる閉目.
alika-paṇḍita 男 術學者.
alika-mantrin 男 不正なる大臣.
alika-mugdha 形 無邪氣を粧へる.
alika-vacana 形 虚偽を語れる.
alika-vāda-śila 形 嘘を言ふ.
alika-supta 甲 伴睡(つ).
alika-suptaka 甲 [同上].
a-lina 通受分 執著せざる; 無下, 無下劣, 不懈怠, 不退弱, 無退縮 *Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.*
alina-citta 形 無怯弱, 心無怯劣 *Bodh-bh.*
a-linatva 甲 無劣, 心無所畏, 無所怯劣 *Sūtr., Bodh-bh.*
a-lupta 通受分 切斷せられざる; 無に歸せざる, 紛

失せざる、過ぎ去らざる; 不斷 *Aṣṭ-pr.*
alupta-sattva-kośa 形 勇氣旺盛せる、勇んで費を
 所有する。
a-lubdha 通受分 貪欲ならざる。
a-lubdhatva 甲 満足。
a-lūkṣa 形 粗野ならざる、柔かき。
a-lūna 通受分 筆り取られざる、傷はれざる。
a-lekhya 未受分 (因)の内に數へられざる。
a-lepa 形 汚されざる、清淨なる。
a-lepaka 形 [同上]。
a-leśaija (°śa-eja) 形 確乎たる、少しも動かざる。
a-loka 男 世界の存在せざること、世界の破滅; 世
 世の人ならざるもの。形 非世間、出世間
Kāśy.; 音寫 [數の名] 阿羅伽, 阿魯迦 *Mvyut.*
a-loka-jña 形 不識世法 *Divy.*
aloka-vrata 甲 非世間的な生活法。
aloka-sāmānya 形 常人と俱ならざる。
alokāyata (°ka-āy°) 甲 非世論; (音寫) 非盧
 伽耶陀 *Lank.*
a-lokya 形 異常なる; 不適當なる、承認し難き; 天
 より除外する、地獄に導く。
a-lokyatā 女 他の世界を喪ふこと。
a-locana 形 兩眼なき、見えざる; 窓なき。
a-lopayat 使役現分 (因)を中止せしめざる、…を
 斷念せしめざる。
a-lobha 男 無混亂; 無欲; 適度; 無貪 *Vijñ-t.*,
Bodh-bh., *Abh-vy.* 形 適度の、満足せる。
a-lobhya 形 無貪 *Lank.*
a-lomaka 形 (女 -ā (因), -ikā, -iki) 無髮の。
a-loman 形 [同上]。
a-lola 形 移り氣せざる、動搖せざる、確乎たる; 貪
 欲ならざる。
alola-cakṣus 甲 澄靜端目 *Buddh-c.*
a-lolatva 甲 恆心, 節操。
a-lolupa 形 心の動搖せざる; 欲望なき; 不生
 貪著 *Lank.* 男 [Dhṛtarāṣṭraの子の名]。
a-lolupatva 甲 無欲。
a-lolupyamāna 自現分 貪欲ならざる。
a-loha 形 鐵製ならざる。
a-lohita 形 血なき。
a-lohini 女 無月花 *Mvyut.*
a-laukika 形 (女 -i) 異常なる、非常なる; 非世間
 的の、超自然の。
alaukikārthopatti (°tha-ut°) 女 非世間事,
 非世事生 *Mvyut.*
alga 男 兩鼠蹊, 腰。
alpa 形 小なき, 少なき, 短き, 些細なる, 弱き; 小
 小, 少, 甚少, 極少, 最少, 少分, 少許, 寡, 渺, 微劣;
 短促; 薄, 淺薄 *Aṣṭ-pr.*, *Gand-vy.*, *Saddh-p.*, *Vin.*,
Bodh-bh., *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜 → an~。
 ~m 副 僅かに。 因 副 容易に, 速かに, 甲
 僅少。
alpaka 形 (女 -ikā) [同上(形)]; 少, 少分, 少
 許, 渺, 渺少 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*
 男 小人。 甲 僅少。 ~m 副 僅かに。 ~āt 因
 聞もなく。

alpa-karaṇiya 形 所作少, 少所辨 *Mvyut.*
alpa-kāya 形 瘦せたる, 衰弱せる。
alpa-kārya 形 僅かの, 取るに足らざる。
alpa-kālatva 甲 時の短きこと。
alpa-kṛcchra 形 少功力, 少用功力 *Sapt-pr.*,
Bodh-bh. ~ena 因 副 大なる苦勞なくして;
 不費力而, 自不勞苦, 速疾 *Divy.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*;
 於少時間 *Lal-v.*
alpa-kṛtya 形 少事, 事少, 少所作, 作事少; 淺
 行 *Kāśy.*, *Mvyut.*
alpa-kṛtyatā 女 少務, 少業, 簡絶事務 *Sikṣ.*,
Bodh-bh.
alpakṛtya-yogin 形 微作相應, 成就少事務
Sikṣ.
alpa-kleśa 形 苦痛少き。
alpa-cetas 形 見識少き。
alpa-cchada 形 僅かに身に纏へる。
alpa-jña 形 知ること少き, 寡聞なる。
alpa-jñatva 甲 [同上 副]。
alpatama 最上 最少, 太小 *Mvyut.*
alpatara 比較 より小なき, 全く小なき; 太小
Mvyut.
alpatā 女 僅少, 些細; 短少。
alpa-tejas 形 活力少き, 弱き。
alpatva 甲 =alpatā; 少 *Bodh-c.*
alpa-dakṣiṇa 形 布施少き。
alpa-darśana 形 近視の, 狭量の。
alpa-duḥkhatā 女 苦を受くること少きこと。
alpa-dhana 形 富少き, 貧しき。
alpa-dhi 形 智慧少き, 愚かなる; 小智者
Saddh-p.
alpa-nicaya 形 その貯への僅かなる。
alpa-paricchada 形 貧乏の。
alpa-paricchada 形 [同上 副]; 有少本 *Divy.*
 87.
alpa-parivāra 形 從者少き。
alpa-pāyin 形 十分に吸はざる(蛙)。
alpa-puṇya 形 徳少き; 少福, 薄福, 薄徳, 薄
 福德, 渺於福德 *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
alpa-prabhāva 形 無意義の。
alpa-bala 甲 微力; 無力, 羸劣 *Lal-v.* 形 弱
 き; 小力の。
alpabala-prāṇa 形 弱く短き呼吸の; 忍耐力なき。
alpa-buddha 形 醒めし許りの。
alpa-buddhi 形 智慧少き; 心の弱き; 少智,
 無智, 淺智, 少慧, 少智慧, 少智少慧, (根鈍)渺於智慧,
 覺慧闇鈍 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Kāśṭr.*, *Madhy-v.*
alpa-buddhika 形 少智 *Aṣṭ-pr.*
alpa-bhāgya 形 不運の; 無功德 *Divy.*
alpa-bhāgyatva 甲 [同上 副]。
alpa-bhāṣatā 女 慎語, 少語言, 寡默少言, 少
 辭渺言 *Sam-r.*, *Sikṣ.*
alpa-bhāṣin 形 少しく語る, 無口の, 寡默の。
alpa-bhāṣya 形 不喜多語 *Aṣṭ-pr.*
alpa-bhās 形 光少き。
alpa-bhujāntara 形 胸郭狭き。

alpa-bhoga 形 貧乏, 乏財, 資財乏少 *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*
alpa-mahat 形 大小 *Lank.*
alpa-mātra 甲 少きこと, 少しのみなること; 少時.
alpa-mātraka 形 少分 *Bodh-bh.*
alpa-mūlya 形 價少き; 易得 *Divy.*
alpa-medhas 形 少知の.
alpaya 名動 他 減ず, 軽んず.
alpa-rajaska-jātiya 形 [*Pāli.* *appa-rajakkha-jāti-*
ka] 殆ど塵垢の性質なき (*Mah-v. III. 322.*).
alpa-vāc 形 少語, (好)少言 *Aṣṭ-pr.*
alpa-vādin 形 言葉少き, 無口の, 寡黙の.
alpa-vijñāna 形 智慧乏しき.
alpa-vid 形 知るところ少き.
alpa-vidya 形 淺學の.
alpa-viṣaya 形 小範圍の, 限られたる.
alpa-śakti 形 弱き, 力少なき.
alpa-śabda 形 小聲, 少語言, 不要作聲 *Prāt-m.*,
Mvyut.
alpa-śarīra 形 矮軀の.
alpaśas 副 僅かに, 小範圍に; 稀に.
alpa-śeṣa 形 僅かに不足せる; 殆ど完了せる.
alpa-śruta 形 少しく聞ける, 淺學の; 少聞,
 寡聞, 少聞者 *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
alpa-śrutatva 甲 [同上 抽]; 少聞, 聞(慧)少弱
Sūtr., *Madhy-vibh.*
alpa-sattva 形 勇氣少き, 臆病なる.
alpa-samnicaya 形 貯へ少き, 貧しき.
alpa-sāra 形 弱き; 價値なき; 無意味なる, 取るに
 足らざる.
alpa-sukhita 形 樂み少き.
alpa-styāna-middha 形 睡眠減少, 少於睡眠,
 寢寐輕少, 少於憒沈睡眠 *Aṣṭ-pr.*
alpa-sthāma 形 怯弱 *Sikṣ.*
alpa-sthāmatā 女 無威德 *Sikṣ.*
alpa-snāyu 形 支持力少き.
alpa-svara 形 低聲なる, 靜かなる.
alpāṅga 形 身體倭小なる.
alpāṅgatva 甲 [同上 抽].
alpātāṅka (°pa-āt°) 形 惱み少き; 病少き, 健康の.
alpātāṅkatā (°pa-āt°) 女 [同上 抽]; 少惱, 少
 辛苦 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*
alpāntara 形 少分 *Vijñ-t.*
alpāntara-gata 形 甚だ近くに存する.
alpābādha (°pa-āb°) 形 = *alpātāṅka*; 少病, 無
 病, 無疾病, 少於疾病, 離諸病惱, 無諸衰病 *Divy.*,
Aṣṭ-pr., *Bodh-bh.*
alpābādhatā (°pa-āb°) 女 [同上 抽]; 少病,
 少惱, 爲性少疾, (體)康強(力勢) *Divy.*, *Saddh-p.*,
Bodh-bh., *Mvyut.*
alpāyāsa (°pa-āy°) 形 不爲勞, 無諸難事 *Sikṣ.*
alpāyuṣka (°pa-āy°) 形 短命 *Daś-bh.*
alpāyuṣkatā (°pa-āy°) 女 短命 *Daś-bh.*
alpāyus (°pa-āy°) 形 短命の.
alpārtha 形 少義, 淺理 *Kāśy.*
alpārthatā 女 少事, 少求, 無稀求 *Sikṣ.*,

Bodh-bh.

alpāpa 形 少し宛の, 適度の, 全く僅なる.
alpāpa-bhās 形 光輝の極めて僅かなる.
alpāvaśiṣṭa 形 残り少なき.
alpāvaśiṣṭatva 甲 残り少き状態.
alpāvaśeṣa 形 残り少き.
alpāsvāda (°pa-ās°) 形 味少き, 樂み少き, 僅の樂み
 以外に與へざる (*Divy. 224.*); 小味, 少分著欲
Rāṣṭr., *Sikṣ.*
alpāhāra (°pa-āh°) 形 僅の食物を攝る; 儉約なる,
 節制する; 飲食減少 *Aṣṭ-pr.*
alpāhāratā (°pa-āh°) 女 [同上 抽]; 斷食法
Lal-v.
alpi-Kṛ, 小さくす; 作小 *Aṣṭ-pr.*
alpī-BHū, 減ぜらる, 小さくさる.
alpiya 形 少, 最少 *Abh-vy.*
alpiyas 比 較 小より小なる; 甚だ小なる; 少, 減
Abh-vy.
alpeccha (°pa-ic°) 形 僅の或は適度の願望をもてる;
 少欲, 寡欲, 少足 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Bodh-*
bh., *Mvyut.*
alpecchatā (°pa-ic°) 女 [同上 抽]; 少欲 *Sikṣ.*
alpecchā (°pa-ic°) 女 少欲 *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*
alpecchu (°pa-ic°) 形 多くを望まざる, 適度の願望
 をもてる; 少欲 *Sikṣ.*: ~h *camtuṣṭaḥ* 少欲
 知足 *Sikṣ. 50.*
alpetara (°pa-it°) 形 大なる, 著しき.
alpetaratva (°pa-it°) 甲 大, 多大.
alpeśākhyā (°pa-iśa-ākḥ°) 形 賤しき素性の; 尊貴
 ならざる; 賤, 少勢, 無貴重; 薄福, 少福, 福
 徳小 *Av-ś.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
alpotsuka (°pa-ut°) 形 安靜なる, 憂ひなき; 安
 隱, 安住; 無勞, 少待; 不有慮, 不爲慮, 無所憂,
 志性閑靜 *Saddh-p.*, *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*: ~o *bhavatu*
 願不有慮, 願勿爲慮 *Saddh-p. 486.*; ~ā *bhavantu*
 汝等今者莫大憂怖 *Av-ś. I. 331.*; ~s *tiṣṭhati* 默
 然而住 *Divy. 41.*
alpotsukatā (°pa-ut°) 女 不樂 *Aṣṭ-pr.*
alpotsuka-vihāratā 女 少希望住 *Bodh-bh.*
alpopakārin (°pa-up°) 形 少恩 *Abh-vy.*
alpaujaska (°pa-oj°) 形 小力 *Aṣṭ-pr.*: ~ā
devatā 惡鬼邪神, 小力鬼神 *Aṣṭ-pr. 260.*
allipeti 動 [= *ālāpayati.* (使役) *ā-Li* じり] (業, 因)に
 附著せしむ, ……の近くに齎す (*Mah-v. III. 144.*).
Av, I. 他 **avati** 急がしむ, 驅る; 世話をなす, 助
 く; 疲勞を醫す, 爽快ならしむ; 満足す; 守る; 支
 配す; 好む; 護 *Buddh-c.*, *Abh-vy.* (使役) 食
 ひ盡す.
upa- 同意す, 贊成す.
pra- [= 單純動詞].
ava 1. 動詞及び名詞の (後頭) 離れて; 下に; 下
 梵干. 前 [從と俱に] …より下に.
ava 2. 男 愛顧, 恩惠.
a-vamśa 1. 男 卑しき血統; 非族, 非族姓, 非
 種族 *Lank.*
a-vamśa 2. 甲 無梁即ち空界.

ava-kara 男 塵埃。
 avakara-kūṭa 男 塵埃の堆積。
 ava-karṇana 中 聞き流すこと、頓著せざること；
 聞くこと。
 avakarṇaya 名動 他 傾聴せず、斥く。
 ava-karta 男 碎片。
 ava-kartana 中 切り去ること。
 -ava-kartin 形 切り去る。
 ava-kalpanā 女 眞實として理解すること； 信
 解、實解、善解；信分別、信心分別 *Daś-bh.*, *Mvyut.*
 ava-kāra 男 [=apakāra]； 失、散；離 *Mvyut.*
 ava-kāsa 男 空間、餘地；機會；間隔；接近；
 處；位；容、聽、許、容受、苞容、能受、容受所；理
Divy., *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Vijñ-t.*,
Abh-vy.；時間、時節 *Mvyut.*；*krtas*... ~h 蒙許
 已、承所聽 *Lank.* 14. ~m *Kṛ*, ~m *Dā* 著席
 す、機會を與ふ、餘地を作る；(爲、圖)に入ることを
 許す； 空受、聽許 *Baḍḍ.*, *Bodh-bh.*； ~v na
 dātavyaḥ 不令暫起 *Aṣṭ-pr.* 794. → abhy~.
 avakāśa-da 形 機會を與ふる、庇護する；宿を貸す。
 男 盜品を受くる人。
 avakāśa-dāna 中 開導 *Bodh-bh.*
 ava-kāśavat 形 廣き、廣潤なる。
 ava-kirṇa 通受分 → *Kṛ*. 散、散布、布散；遍
 滿 *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Mañj-m.*；覆、覆
 蓋 *Sikṣ.* → abhy~.
 avakirṇa-kusuma 男 [佛の名] 散花、散華
Aṣṭ-pr.
 ava-kirṇin 形 貞節の誓を破れる。
 ava-kilaka 男 釘、小杭。
 ava-kuṇṭhana 中 [恐らくは *ava-guṇṭhana* の誤]
 圍繞すること、覆ふこと。
 ava-kubja 形 [*Pāli.* *avakujja*] 面を下に向けたる。
 頭を先に出したる、前屈みの、のしかゝれる(*Mah-v.*)
 ava-kubjaka 形 [同上] (*Mah-v.*)
 ava-Kṛ, → *Kṛ*.
 ava-Kṛt avakṛntati. → *Kṛt*.
 ava-Kṛṣ avakarṣati. → *Kṛs*.
 ava-kṛṣṭa 通受分 → *Kṛṣ*.
 ava-Kṛ avakirati. → *Kṛ*.
 ava-Kṛp avakalpate. → *Kṛp*.
 ava-keśa 形 垂髪を有する。
 ava-koṭaka 男 鶴 [學名 *Ardea nivea*].
 ava-koṭimaka 形 [*Pāli.* *okoṭimāka* = *lakunṭaka*]
 (*Av-ś.* I. 280). → *avahodimaka*, *ahodima*, *uho-*
dima.
 a-vaktavya 未受分 言はるべからざる、言ひ詮し難
 き；不可説の。
 a-vakṛ 形 語らざる。
 a-vakra 形 曲らざる、眞直なる；正直なる、高潔な
 る。
 avakra-ga 形 眞直に行く。
 avakra-gāmitā 女 眞直に歩むこと (*Dharm-s.*)
 avakra-gāmin 形 行不歪邪、行歩端正 *Mvyut.*
 avakra-cetas 形 心正しき。
 ava-Kram avakrāmati. → *Kram*.

ava-kramaṇa 中 母胎中に降下すること、受胎；
 入、入胎；降生 *Lal-v.*, *Lank.*, *Abh-vy.*
 ava-kraya 男 貨、土地賃貸；地代。
 ava-krānta 通受分 入、已入；趣、趣向；入胎、
 受胎 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*,
Mvyut.；超昇；證入 *Bodh-bh.*；*kuṣim* ~h 腹内
 受胎 *Divy.* 440.；*samanantara* ~sya *mātuḥ ku-*
kṣau 初入胎時、初受胎時 *Gaṇḍ-vy.* 52.
 ava-krāntaka 男 趣 *Mvyut.*
 ava-krānti 女 母胎中に降下すること、受胎；
 入、證入、趣入、洗趣；能過 *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.*, *Abh-k.*,
Abh-vy., *Mvyut.*
 ava-kṣaya 男 破壊、消滅。
 ava-kṣayaṇa 中 (炭火)を取除く道具。
 ava-Kṣar, → *Kṣar*.
 ava-Kṣip avakṣipati. → *Kṣip*.
 ava-kṣipta 通受分 撒き散されたる；婉曲に言はれた
 る、轉嫁せられたる、巧に取り入れられたる；非難又は
 惡口せられたる； 散 [*Pāli.* *avakkhitta*] *Divy.*；
 成 [*Pāli.* *okkhitta* = *utkṣipta*] *Mvyut.*
 ava-kṣuta 通受分 → *Kṣu*.
 ava-kṣepa 男 嘲笑、嘲弄。
 ava-kṣepaṇa 中 倒すこと；嘲弄； 捨 *Mvyut.*；
 捨業 *Vaiś-s.*
 ava-khaṇḍana 中 分割、切斷、破壊。
 ava-khāta 形 低く横はれる、深き、遠き [*Pāli.* *ok-*
khāyika 參照] (*Lal-v.*)
 ava-khāda 男 消費；消費者；貪食者；破壊者。 形
 貪食する、破壊する。
 ava-KHyā, → *KHyā*.
 avaga 中 [數の名] 阿婆鈴 *Mvyut.*
 ava-gata 通受分 → *Gam*.
 ava-gati 女 了解、理解、付度。
 ava-gantavya 未受分 理解せらるべき；(因)より結
 論せらるべき。
 ava-ganṭṛ 男 了解者。
 ava-Gam avagacchati. → *Gam*.
 ava-gama 男 了解、認知、確定； 知、知覺、解、
 得 *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 ava-gamana 中 [同上].
 ava-gāmin 形 認識する、理解する。
 ava-Gal, → *Gal*.
 ava-gādhā 通受分 → *Gāh*. 隨 *Lal-v.*
 ava-gādhā 通受分 [*Pāli.* 同。 = *avagādhā*] 没頭せ
 る、確かなる； ~*śrāddha* 深き信仰ある (*Divy.*
 268.)
 ava-Gāh avagāhate. → *Gāh*.
 ava-gāha 男 浸入；洗濯；沐浴； → *gambhira-*
 ~, *dur*~.
 ava-gāhana 中 [同上]； 度、入、得源底 *Gaṇḍ-*
vy.；*samsāra-sāgara* ~ 度生死海 *Gaṇḍ-vy.* 120.
 ava-gāhin 形 達する；企つる；(一)に従事する。
 ava-gīta 通受分 → *Gai*.
 ava-guṇa 形 特徴を闕ける；薄福なる。
 ava-Guṇṭh avaguṇṭhayati. → *Guṇṭh*.
 ava-guṇṭhana 中 被覆、被覆物、面帕(頭)。

ava-guṇṭhanavat 形 覆はれたる, 面帛をなせる。
 ava-guṇṭhikā-kṛta 形 覆(頭) Vin. 194.
 ava-guṇṭhita 通受分 [Pāli. oḡuṇṭhita] 覆はれたる, 隠されたる; 着用せる; 覆, 所覆, 覆蔽 Gaṇḍ-vy., Lal-v.
 avaguṇṭhita-sīras 形 覆頭 Prāt-m. 535.
 ava-guṇṭhya 不変分 → Guṇṭh.
 ava-Gur, → Gur.
 ava-Guh avagūhati(-te). → Guh.
 ava-gūraṇa 甲 叫喚, 亂暴。
 ava-gūrya 不変分 → Gur.
 ava-Grah. avagrāhṇāti. → Grah.
 ava-graha 男 邪魔; 障害; 早魃; 言語の分割; 句切, 省字符(文法); 制, 著, 制約 Sūtr., Abh-vy. → nir~.
 ava-grahaṇa 甲 制止, 妨碍; 輕侮; 執受, 貪著, 貪求 Daś-bh.
 ava-grāha 男 障礙; 早魃. ~m 總 單語を分割して。
 ava-grāhin 形 分つ。
 ava-GHaṭṭ, → GHaṭṭ.
 ava-ghaṭṭana 甲 接觸, 摩擦, 衝突。
 ava-gharṣaṇa 甲 擦り減らすこと。
 ava-ghāta 男 打撃; 臼にて搗き殻を去ること。
 ava-ghuṭya 不変分 → GHuṭ.
 ava-GHuṣ, → GHuṣ.
 ava-ghuṣita 通受分 → GHuṣ.
 ava-ghuṣṭa 通受分 → GHuṣ.
 ava-GHūrṇ, → GHūrṇ.
 ava-ghūrṇa 形 動搖せる。
 ava-GHṛṣ, → GHṛṣ.
 ava-ghoṭita 通受分 → GHuṭ.
 ava-ghoṣa 男 通告, 宣告。
 ava-ghoṣaṇa 甲 宣言; 普告, 宣告 Divy.; 鳴 Mvyut. → ghaṇṭā~.
 ava-ghoṣaṇā 女 告知, 布告 (Jāt-m.).
 ava-GHrā, → GHrā.
 ava-ghrāṇa 甲 嗅ぐこと, 嗅覺。
 ava-Cakṣ avacaṣṭe. → Cakṣ.
 a-vacana 形 無言の; 不説, 非言, 非語, 無言説, 非言説; 寂黙 Aṣṭ-pr., Lank.
 a-vacana-kara 形 忠告に従はざる, 忠告を無視する。
 a-vacaniya 未受分 言はれざる; 不適當なる。
 ava-caya 男 引き抜くこと, 集むること。
 ava-Car, → Car.
 ava-cara 形 ……に住する, ……と住する, 中にて動く (Jāt-m.); 繫 Bodh-bh.: traidhātuka~ 三界繫 Bodh-bh. 98. → rūpa~, saṃsāra~. 男 —° 領域, 範圍; 道, 行, 界, 塵 Daś-bh., Mañj-m., Abh-vy., Mvyut.
 ava-caraka 男 間諜 (Divy.); 家人, 使者; 報子 Divy., Mvyut.
 -ava-carin 形 中, 在…界, 界繫 Siks., Abh-vy.: saṃsāra~ 生死中 Siks. 316., kāma-rūp'ārūpya~ 在欲色無色界 Abh-vy. 150.

ava-cāya 男 = avacaya.
 ava-cāyin 形 引き抜く, 集むる。
 -ava-cāra 形 界 Daś-bh.: kāma~ 欲界 Daś-bh. 135.
 ava-cāraka 形 走り随ふ; 從他乞(?) Divy. 165. → avacaraka.
 ava-cāraṇa 甲 治療, 適用; 觀察, 分別 Gaṇḍ-vy.
 ava-cāraṇiya 未受分 適用し得べき, 施し得べき。
 ava-Ci, → Ci 1.
 ava-ciciṣā 女 引き抜きたき願望, 集めんとする願。
 ava-cira-vicāraka 形 よろよろ歩む, 元氣なく歩む; 羸弱孤單(?) Divy. 83.
 ava-cūda 男 垂髮。
 ava-cūla 男 [同上]。
 ava-cūlin 形 總(?)を有する。
 ava-cCHad avacohādayati(使役). → CHad 1.
 ava-cchada 男 被ひ, 庇護物。
 ava-cchanna 通受分 → CHad 1.
 ava-cCHā, → CHā.
 ava-cchāta 通受分 → CHā.
 ava-cchādana 甲 = avacchada.
 ava-cchādita 使役 通受分 → CHad 1. 所覆, 覆護 Saddh-p.
 ava-cCHid, → CHid.
 ava-cchinna 通受分 → CHid. 斷 Gaṇḍ-vy.
 ava-ccheda 男 斷片; 分離, 區分; 差別; 決定。
 ava-cchedaka 形 決定する, 區別する。
 ava-jaya 男 勝利。
 ava-jāta 通受分 [Pāli. 同] 流産せる (Divy.).
 ava-Ji, → Ji.
 ava-jigamiṣā 女 理解せんと欲すること, 知らんと欲すること。
 ava-jiti 女 勝利, 克服。
 ava-Jñā avajānāti. → Jñā.
 ava-jñā 女 (屬, 因)の輕蔑, ……への無禮, ……の擯斥; 輕, 毀, 輕毀, 輕慢 Sūtr., Siks., Bodh-bh. ~ayā 男 輕蔑を以て, 全く無賴著に。
 ava-jñāta 通受分 → Jñā.
 ava-jñāna 甲 輕蔑, 無禮, 擯斥。
 avajñā-pratiṣedha 男 棄 Siks.
 ava-jñeya 未受分 輕蔑せらるべき。
 a-vañcanatā 女 正直。
 avaṭa 男 穴; 空虛なる箇處, 身體の穴; 齒腔。
 avaṭa-nirodhana 男 [地獄の名]。
 avaṭa-virodhana 男 [同上]。
 avaṭu-ja 男 頸又は後頭の毛。
 avaṭodā 女 [河の名]。
 ava-dina 甲 鳥の飛翔, 舞ひ下ること。
 avat 現分 親しき; 支配せる. 男 支配者; [人名]。
 avata 男 井。
 ava-tamsa 男 甲 花環, 花冠; 環形の飾, 璫(?)。
 ava-tamsaka 男 甲 [同上]; 華, 華嚴; 髮; 莊嚴; 耳璫, 花耳嚴, 花嚴耳 Divy., Lal-v., Mvyut.; 至 Saddh-p.; 臺; 藏(?) Gaṇḍ-vy.
 ava-tamsaniya 未受分 花環に造らるべき。
 avatamsaya 名動 他 花環に造る。

ava-tamsini ㊦ 花環を著けたる婦人.
 avatamsi-Kṛ, 花環として用ゆ.
 ava-tati ㊦ (日)掩ひ.
 ava-Tan avatanoti. → Tan 1.
 ava-tamasa ㊦ 減少する暗黒.
 ava-tara ㊦ =ava-tāra.
 ava-taraṇa ㊦ 下り來ること, 降下; 成就.
 ava-taraṇatā ㊦ ㊦ 入, 度 Gand-vy.: buddha-
 guṇa-samudra ~ 入(一切)佛大功德海, 度(一切)佛
 功德大海 Gand-vy. 98.
 avataraṇa-maṅgala ㊦ 鄭重なる歡迎.
 ava-taritavya ㊦ 降下すべき.
 avatas ㊦ 地下の世界に於て.
 ava-tādana ㊦ 打つこと, 打撃; 壓倒せらるゝこと.
 ava-tāna ㊦ (蔓草の)覆ひ.
 ava-tāra ㊦ 降下(特に諸神の地上への); 權化; 顯示;
 缺點; ㊦ 下, 降, 降臨; 入, 令入, 趣入, 深入, 入
 住; 趣, 趣向, 往詣; 超; 了達, 究竟; 起 Lal-v.,
 Aṣṭ-pr., Sam-r., Gand-vy., Śikṣ., Lan̄k., Bodh-bh.,
 Madhy-vibh., Abh-vy., Mvyut., 梵干, 梵雜; 便, 短
 Saddh-p.; 過, 過失 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Kāśy.,
 Bodh-bh.: aśva ~ 下馬 梵雜. ~ m Labh 機
 會を捉ふ; ㊦ 得便, 得其便 Saddh-p. 421. →
 ~ arthika, ~ gaveṣin, ~ prekṣin.
 ava-tārgka ㊦ 現はるゝ; ㊦ 令入 Saddh-p.
 avatāra-gaveṣin ㊦ ㊦ 求其短, 欲求其短, 伺得
 其便, 伺求其便 Aṣṭ-pr., Saddh-p.
 ava-tāraṇa ㊦ 降下せしむること; 取り除くこと;
 ㊦ 入, 趣入, 悟入; 令入, 令趣入; 令歸向, 令得
 住, 欲逮 Kāśy., Saddh-p., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh.,
 Sūtr., Madhy-vibh., Mvyut.; 調練 Mvyut.
 avatāra-prekṣin ㊦ [Pāli. otārāpekkha] 缺點を探
 し出す; ㊦ 伺過惡, 伺其短, 伺求其短, 伺得其便,
 伺求其便; 圖彼 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Mvyut.
 ㊦ [魔子の名] 求便, 求過失, 求惡 Lal-v.
 avatāra-mantra ㊦ 或者を空中より降下せしむる
 呪文.
 ava-tārayitavya ㊦ ㊦ 未受分 ㊦ 趣入 Bodh-bh.
 avatāra-vigāhana ㊦ ㊦ 趣入 Gand-vy.
 avatāra-saṅgrhita ㊦ ㊦ 趣入, 所攝 Bodh-bh.
 avatārārthika ㊦ ㊦ 欲求其短, 伺求其便 Aṣṭ-pr.
 avatārāvasthā ㊦ ㊦ 入位 Madhy-vibh.
 ava-tārīta ㊦ ㊦ 未受分 → Tī.
 ava-tārin ㊦ 現るゝ, 這入る.
 ava-tārya ㊦ ㊦ 未受分 [Tī] ㊦ 瀉置 Suv-pr.: tad
 udakam... ~ 瀉置池中 Suv-pr. 173.
 ava-titirṣu ㊦ 降下せんことを希ふ.
 ava-tirṇa ㊦ 未受分 → Tī. ㊦ 入, 趣入, 深入, 已
 入, 已入(者), 已趣入, 已趣入(者), 已得入(者), 既(實)
 悟入, 從彼來; 知, 解, 證; 究竟 Divy., Aṣṭ-pr.,
 Gand-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.; 出 Lal-v.:
 pañca-kaśāya-kāle 'ham iha jambu-dvīpe ~ h
 我今出於五濁惡世 Lal-v. 248.
 ava-Tī avatarati. → Tī.
 avatta ㊦ 未受分 [Dā 2].
 -avattin ㊦ (例へば四に)分割する.

a-vaisala ㊦ 柔かならざる, 優しからざる; 殘酷なる.
 a-vatsā ㊦ 轡を失へる牝牛.
 ava-dagdha ㊦ 未受分 ㊦ 焼かれたる, 火にて損はれたる.
 ava-darsika ㊦ ㊦ 能示, 顯了 Aṣṭ-pr.
 ava-Dā, → Dā 2, 4.
 ava-dāta ㊦ 未受分 ㊦ 純粹なる, 清淨なる, 白き, 明かなる.
 → Dā 4. ㊦ 淨, 白, 太白, 白色 Aṣṭ-pr., Daś-bh.,
 Sukh-vy. II., Mañj-m., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.
 avadāta-kṛtsna ㊦ ㊦ 白遍(處定) Gand-vy.
 avadātakṛtsnāyatana (°na-āy°) ㊦ ㊦ 白遍處,
 白遍處(定) Mvyut.
 avadāta-keśa ㊦ ㊦ 髮白者 Mvyut.
 avadāta-cchavi-varṇa ㊦ ㊦ 肉色白, 肉色太白
 Mvyut.
 ava-dātātā ㊦ ㊦ 白きこと.
 avadāta-nidarśana ㊦ ㊦ 白影, 白現 Aṣṭ-pr.,
 Mvyut.
 avadāta-nirbhāsa ㊦ ㊦ 白光 Aṣṭ-pr., Mvyut.
 avadāta-varṇa ㊦ ㊦ 白顯 Aṣṭ-pr., Mvyut.
 avadāta-vasana ㊦ ㊦ 白衣を著用せる; 俗人の; ㊦
 白衣 Abh-vy.
 avadāta-vastra ㊦ ㊦ 素服 Gand-vy.
 ava-dāna 1. ㊦ 英雄的行爲, 偉業; ㊦ 緣, 因緣,
 譬喻, 譬語, 演說解悟經 Śikṣ., Mvyut.; ㊦ 阿波
 陀那 [=apadāna] Mvyut.
 ava-dāna 2. ㊦ 切斷, 翦取; 裂片.
 avadāna-kalpalatā ㊦ [佛典の名, Kṣemendra 作].
 avadāna-śataka ㊦ [佛典の名]; ㊦ 撰集百緣經
 Av-ś.
 ava-dāyana ㊦ ㊦ 磨瑩 Sapt-pr.
 ava-dāyita ㊦ 未受分 → an ~.
 ava-dāra ㊦ 破壞.
 ava-dāraṇa ㊦ 裂くこと, 破ること. ㊦ 裂く, 破る.
 a-vadāvada ㊦ 諍はれざる, 論議せられざる.
 ava-dirṇa ㊦ 未受分 ㊦ 引き裂かれたる; 溶かされたる;
 ㊦ 破壞; 根基 Mvyut.
 ava-Dī avadīryate. → Dī.
 ava-dola ㊦ 動搖, 振動.
 a-vadya ㊦ 未受分 ㊦ 非難すべき, 惡しき. ㊦ 過失; 罵
 詈; 非難; 不名譽, 恥辱; ㊦ 罪, 過惡, 過罪, 罪
 患, 罪惡, 罪釁, 所作罪, 過失; 障; 非讚; 譏嫌 Lal-v.,
 Daś-bh., Sūtr., Śikṣ., Vijñ-t., Bodh., Abh-k., Abh-
 vy. → an ~.
 ava-dyotin ㊦ (一°)を照らす, 明らかならしむる.
 ava-draṅga ㊦ 市場; 賣買; 前金, 證據金, 內金
 (Divy.); ㊦ 所留, 兩金, 所留定價 Divy.: ~ e
 dattam 所留定價 Divy. 33.; kim tena ~ e dattam
 圓滿所留是何等物 Divy. 33.; bhavantas tisro lakṣā
 ~ m grhṇita 汝今且取三億兩金 Divy. 32.
 a-vadha ㊦ 不殺害; 打たざること; ㊦ 無害 Abh-
 k. ㊦ 破壞し難き.
 ava-DHā, → DHā.
 ava-dhātavya ㊦ 未受分 ㊦ ㊦ 注意すべし.
 ava-dhāna ㊦ 注意, 熱心; 祈念; ㊦ 專注, 定心
 Abh-vy.
 ava-dhāra ㊦ 決定, 制限; ㊦ 了知, 分別 Abh-vy.

→ dur ~.

ava-dhāraka 形 理解する, 了解する; 決定する, 制限する; 知, 觀察 *Laṅk.*

ava-dhāraṇa 甲 確定; 制限; 選擇; 限定, (先行する語の)強意; 決, 決了, 決定, 定執; 持; 印可, 印持; 持真; 分開 *Laṅk., Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.*; 知 *Sūtr.*

avadhāraṇāmbana (°na-āl°) 甲 印持所縁, 決持境界 *Madhy-vibh.*

ava-dhāraṇiya 未受分 知らるべき, 決定せらるべき, 決定せしものと見做さるべき; (因)に制限せらるべき.

ava-dhārīta 使役 通受分 → DHr.

ava-dhārya 通受分 確めらるべき.

ava-DHāv avadhāvati. → DHāv I.

ava-dhi 男 注意, 限界; 附近; 目標; 猶豫; 定量, 定法 *Abh-vy.* —° 副 (因)に至るまで, ……まで.

ava-dhitva 甲 極點に在ること; 隔礙 *Abh-vy.*

avadhi-Kṛ, 限界又は日限を定む.

ava-dhiraṇa 甲 拒絶; 輕蔑.

ava-dhiraṇā 女 [同上].

avadhiraya 名動他 拒む, 輕蔑す, 無視す, 優る. sam- 無視す. 通受分 samavadhirita 顧られざる, 輕蔑せられたる, 注意せられざる.

ava-dhirin 形 輕蔑する; (一°)より優れたる.

ava-dhirya 不変分 注目せずして, 考慮せずして, 尊敬せずして.

ava-DHū, → DHū.

ava-dhūta 通受分 → DHū. 毀 *Sikṣ.*

avadhūta-praṇipāta 形 敬意を表すことを拒める.

avadhūta-veṣa 形 穢れたる衣を着用せる.

ava-dhūnaka 形 振 *Prāt-m. 534.* → hasta-

ava-dhūnana 甲 動搖せしむること, (地の)振動.

avadhūpaya 名動 → dhūpaya.

ava-DHr avadhāryate(使役 受). → DHr.

ava-dhṛta 通受分 → DHr.

a-vadhya 未受分 犯し難き, 殺されざる.

a-vadhyatā 女 犯し得ざること.

a-vadhyatva 甲 [同上].

avadhya-bhāva 男 [同上].

avadhya-vyavasāya-vāhya 形 何者をも殺すべからずとの決議に關係なき.

ava-dhyāna 甲 輕蔑; 譏笑, 輕賤, 輕慢 *Mvyut.*

avadhyāna-kṣepaṇa 甲 嫌責, 嫌罵 [*Pāli. ujjhāpanaka-khiyanaka*] *Prāt-m. 504.*

avadhyāna-prekṣin 形 憐心, 嫉心, 輕慢心; 呵相看 [*Pāli. ujjhāna-saññi*] *Vin., Prāt-m.*

ava-dhyāyin 形 (一°)を輕蔑する.

ava-dhyeya 未受分 輕蔑せらるべき.

ava-DHyai avadhyaṅyati. → DHyai.

a-vadhra 形 破壊し得ざる; 無害なる, 親切なる.

ava-dhvaṃsa 男 塵, 粉; 輕蔑.

avana 甲 恩惠; 保存; 保護; 阿波南 *Mvyut.*

ava-nata 通受分 → Nam. 曲, 僂曲; 下, 垂下, 低下; 重墜; 偏, 屈, 卑屈 *Lal-v., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.* 梵.; 按 *Buddh-c.*; 力羸頓 *Bodh-bh.* → an ~.

avanata-kāya 形 身體を曲げたる, 屈(?)みたる; 曲躬, 傾身 *Saddh-p.*: ~āḥ prañata-kūyāḥ samnata-kūyāḥ 曲躬, 傾身 *Sadh-p. 485.*

ava-nati 女 降下, (星辰の)没すること; 曲躬; 謙遜.

ava-naddha 通受分 縛られたる, 結びつけられたる, 組合はされたる, 覆はれたる; 覆; 交, 交絡 *Divy.; Saddh-p.*; 界 *Saddh-p.*: suvarṇa-sūtrāṣṭāpada ~ 閻浮檀金以界入道 [刊本は °vinaddha] *Saddh-p. 337.* → jāla ~.

ava-Nam avanamati. → Nam.

ava-namana-praṇamanatā 女 恭敬禮拜 *Sikṣ.*

ava-namitavya 未受分 低下 *Sikṣ.*

ava-nami-BHū, 屈(?)む.

ava-namra 形 屈みたる, 屈身せる.

avanavat 形 恵まれたる, 保護せられたる.

ava-Nah, → Nah.

ava-naha 男 褥に綿等を詰むること; 做綿袂衣, 被綿絮著衣, 掩覆 *Mvyut.*

avanāṭa-nāsika 形 鼻の低き.

ava-nāma 男 屈(?)むこと, 傾くこと; 低, 卑, 下, 謙下 *Daś-bh., Sikṣ., Madhy-v.*

ava-nāmita 使役 通受分 身を屈ましめられたる; 令低 *Lal-v.*

ava-nāmin 形 身を屈せる.

ava-ni 女 河流, 川; 河床; 進路; 地; 地面; 場處; 大地 *Divy.*

ava-Nij avanenikte, avanejayati(使役). → Nij.

avani-tala 甲 地面.

ava-ni-Ni, → Ni.

avani-pa 男 主權者, 國王.

avani-pati 男 [同上].

ava-nipātam 網 [Pat と俱に] 地上に落つ.

avani-pāla 男 主權者, 國王.

avani-pālaka 男 [同上].

avani-prṣṭha 甲 =avani-tala.

avani-ramaṇa 男 王侯.

avani-ruh 男 樹木.

avani-ruha 男 [同上].

ava-ni-Ṣṭhiv, → Ṣṭhiv.

ava-niḥsaraṇa 甲 (生死等(因)より)解脱すること (*Lal-v.*).

ava-Ni avanayati. → Ni.

ava-ni 女 地.

avani-dhara 男 山.

avani-dhra 男 [同上].

avani-nātha 男 王侯.

ava-negya 未受分 洗ふに適する.

ava-neja 男 洗ふこと.

ava-nejana 形 洗ふ; (足を)洗ふに奉仕する. 甲 淨むること, 洗ひ清むること; (手足を)洗ふ水.

ava-nejanatva 甲 [同上(甲)].

ava-nejani ㊦ [同上].

ava-neya ㊦(未受分) 遠ざけらるべき, 除去せらるべき.

avanti ㊦ ㊦ [國又は民族の名]; ㊦ 作護 *Mvyut.*;

㊦ 阿番底, 阿槃提 *Mvyut.*

avanti-deva ㊦ [王の名].

avanti-nagari ㊦ [*Ujjayini* 城].

avanti-pura ㊦ [同上].

avanti-puri ㊦ [同上].

avanti-mātr ㊦ ㊦ *Avanti* 族の神母.

avanti-mātrkā ㊦ ㊦ [同上].

avantivati ㊦ [人名].

avanti-varhana ㊦ [人名].

avanti-varman ㊦ [王の名]; [詩人の名].

avanti-sundari ㊦ [人名].

avanti-sena ㊦ [人名].

avanti-senā ㊦ [人名].

avanti-svāmin ㊦ [殿堂の名].

avanti ㊦ [*Avanti* 族の主都 *Ujjayini*].

avanti-nagara ㊦ = avanti-nagari.

avantiśvara ('ti-iś°) ㊦ [殿堂の名].

avantya ㊦ ㊦ [人名].

avanda ㊦ ㊦ [數の名] 啞婆陀, 阿畔多 *Mvyut.*

a-vandhya ㊦ 不毛ならざる, 效果多き; 成功すべき; ㊦ 不空, 無空過, 不唐捐, 不虛, 無虛, 無虛度, 不虛棄; (倍)有益 *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

avandhya-kopa ㊦ その怒りの無駄ならざる(即ち必ず何等かの結果を齎す).

a-vandhyatā ㊦ 成功.

avandhya-pāta ㊦ 過たざる(矢).

avandhya-prasāda ㊦ 恩惠の空しからざる.

avandhya-rūpa ㊦ その美の空しからざる.

avandhya-rūpatā ㊦ [同上 ㊦].

ava-Paṭ, → Paṭ.

ava-Pat, → Pat.

ava-Pad avapadyate. → Pad.

ava-panna ㊦(通受分) → Pad.

ava-Paś avapaśyati. → Paś.

ava-pāta ㊦ 落下, 落下すること, 跳び降りること, 降下; (一°)に赴くこと; 陥穽.

ava-pātana ㊦ 倒すこと, 投げ倒すこと, 覆すこと.

ava-pāśita ㊦(通受分) 罿に掛りたる.

ava-piṇḍita ㊦(通受分) → piṇḍaya.

ava-piḍana ㊦ 壓すこと, (眼瞼を)壓しつくること, 噴嚏劑.

ava-piḍanā ㊦ 傷害; 毀損.

ava-piḍita ㊦(通受分) 壓し下げられたる, 投げ倒されたる; 壓せられたる, 壓搾せる; ㊦ 履 *Buddh-c.*; 苦痛 *Saddh-p.*

a-vapus ㊦ 身體なき, 形なき.

ava-prṣṭhi-kṛta ㊦ 身を捨つる行をなせる; ㊦ 捨身命(?) *Divy.* 326.

ava-prṣṭhi-bhūta ㊦ [同上] (*Divy.*).

ava-pothikā ㊦ 城壁より敵に投げらるゝ石の類.

ava-pothita ㊦(通受分) 投げられたる; 打ち碎かれたる, 潰滅せしめられたる.

ava-Prach avapṛechya(不変分). → Prach.

ava-prajjana ㊦ 布片の端.

ava-prasaṅga ㊦ 困惑, 狼狽.

ava-Plu avaplavate. → Plu.

ava-pluta ㊦(通受分) 沈潜したる; 跳び降りたる; 落ちたる; 逃げたる. ㊦ 跳び降りること; 逃避.

ava-baddha ㊦(通受分) → Bandh. ㊦ 感, 著 *Lank.*, *Bodh-bh.*: ~cittāḥ sattvāḥ 感衆生心 *Bodh-bh.* 31.

ava-Bandh avabadhnite. → Bandh.

ava-bādha ㊦(通受分) → Bamh.

ava-Bādḥ avabādḥate. → Bādḥ.

ava-buddha ㊦(通受分) 通曉せる; ㊦ 曉, 了 *Suv-pr.*

ava-buddhatva ㊦ ㊦ 覺 *Bodh-c.*

ava-Budh avabudhyate. → Budh.

ava-boddhavya ㊦(未受分) 覺知せらるべき, 熟慮せらるべき.

ava-boddhu-kāma ㊦ ㊦ 欲了 *Aṣṭ-pr.*: artham ~h 欲了深義 *Aṣṭ-pr.* 516.

ava-bodha ㊦ 醒むること; 知覺, 認知, 知識; ㊦ 覺, 能覺, 覺了, 覺寤, 解, 悟, 悟解, 覺悟, 知, 覺知; 能開 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.* → an~, dur~.

ava-bodhaka ㊦ 知らしむる, 教ふる, 覺らしむる; ㊦ (一°)覺悟 *Lank.* ㊦ 意圖.

ava-bodhatā ㊦ ㊦ 覺了, 開覺 *Bodh-bh.*

ava-bodhana ㊦ 告ぐること, 教ふること; 教訓; ㊦ 覺, 知, 善知 *Daś-bh.*, *Mañj-m.*

ava-bodhanā ㊦ ㊦ 學, 覺, 明了通達 *Kāśy.*

ava-bodhaniya ㊦(未受分) (㊦)によりて認めらるべき; 戒めらるべき, 警告せらるべき.

ava-bodhi ㊦ ㊦ 覺, 解 *Sūtr.*, *Mvyut.*

ava-bodhita ㊦(使役) ㊦(通受分) 覺醒せしめられたる.

ava-bhaṅga ㊦ 破碎; ㊦ 破 *Bodh-bh.*

ava-BHañj, → BHañj.

ava-bhañjana ㊦ 破ること, 裂くこと.

ava-bharjana ㊦ 破壞. ㊦ (焼く), 破壞する.

ava-bharjita ㊦(通受分) (種子等の)破壊せられたる.

ava-BHarts avabhartsati. → BHarts.

ava-bhartsana ㊦ 叱責, 威嚇 (*Jāt-m.*).

ava-bhartsita ㊦(通受分) ㊦ 輕 *Divy.*

ava-BHā avabhāti. → BHā.

ava-bhāva ㊦ 現はすこと.

ava-bhāṣaṇa ㊦ 抗論; 話すこと.

ava-bhāṣita ㊦(通受分) → BHāṣ.

ava-BHās, avabhāsate. → BHās.

ava-bhāsa ㊦ 光輝; 出現, 顯示; ㊦ 照, 遍照, 普照, 顯照, 觀照; 耀, 照曜, 晃耀; 明, 照明, 明照, 明曬; 光, 淨光, 光焰, 光明; 現, 顯現, 現相, 影現, 顯發 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Mañj-m.*, *Guhy-s.*, *Sikṣ.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜; 色像, 前境, 衆像 *Lank.*; 詔諛 *Sikṣ.* 131.: śrotrendriyasya ~m ā-Gaṇ 得聞, 耳根聽聞 *Saddh-p.* 477.

ava-bhāsaka ㊦ 光輝を發する, 顯示する.

avabhāsa-kara ㊦ ㊦ 能照, 照明, 作光明 *Aṣṭ-pr.* ㊦ ㊦ [天子の名] 作光(天子) *Lal-v.*

avabhāsa-karin 形 甚能照了, 能作照明, 廣大照曜 *Aṣṭ-pr.*
 avabhāsa-kārin 形 遠照 *Lal-v.*
 avabhāsa-gata 形 能見 *Aṣṭ-pr.*
 ava-bhāsana 甲 顯示; 照明; 照, 照明 *Sikṣ.*; 似現, 似生 *Vijñ-v. 3.*
 avabhāsana-sikhin 男 [龍の名] (音寫) 光耀尸棄 *Mvyut.*
 avabhāsa-pratīlambha 形 照, 能令照明, 能令明了 *Gaṇḍ-vy.*
 avabhāsa-prabha 形 照, 光明, 光明普照 *Gaṇḍ-vy.* 男 [天子の名] 光耀 *Saddh-p.*
 ava-bhāsaitavya 使役(未受分) 應明照, 應照察 *Gaṇḍ-vy.*
 ava-bhāsita 通受分 光れる, 輝ける; 照されたる, 點火せられたる; 照, 照啓, 遍照, 照曜, 照耀, 明照; 現, 作現, 所顯發 *Saddh-p., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.:* avabhāsena ~āḥ 照已, 蒙光照耀, 遇斯光已 *Gaṇḍ-vy. 75.*
 ava-bhāsin 形 輝ける, 現はるゝ; 顯はす。
 ava-BHid, → BHid.
 ava-bhinna 通受分 貫かれたる, 傷けられたる。
 ava-bhugna 通受分 屈せる, 傾ける。
 ava-bhṛtha 男 祭式後の沐浴。
 aya-bheda 男 傷 *Abh-vy.*
 avama 最上 最も低き; 最も近き; 最後の; 最も若き。
 ava-magna 通受分 淪没, 沈著 *Abh-vy.*
 ava-mata 通受分 → Man.
 ava-matya 不変分 輕蔑して。
 ava-Man avamanyate(終語は -ti). → Man.
 ava-mananā 女 毀辱, 凌毀 *Gaṇḍ-vy.*
 ava-mantavya 未受分 輕蔑せらるべき。
 ava-mantr 男 (業)の侮蔑者。
 ava-manyaka 形 輕蔑する, 嘲笑する。
 ava-manyanā 女 輕侮, 輕慢, 陵蔑; 誹謗 *Sikṣ., Bodh-bh.*
 ava-marda 男 摩擦, 抑壓, 苦痛; [或る梟の名]。
 ava-mardana 形 壓し潰す, 惱ます。 甲 摩擦; 破壊; 摧碎 *Sikṣ.*
 ava-mardaniya 未受分 壞, 摧壞, 可壞; 伏, 屈伏, 勝伏, 敬伏, 降伏 *Aṣṭ-pr., Sam-r., Daś-bh., Abh-vy.* → an~。
 ava-mardin 形 壓し潰す。
 ava-marśa 男 接觸; 反省, 考慮。
 ava-māna 甲 不敬, 嘲弄; 恥辱; 輕, 輕笑 *Bodh-bh.*
 ava-mānana 甲 嘲弄; 侮辱; 輕賤 *Mvyut.*
 ava-mānanā 女 [同上]。
 ava-mānin 形 嘲弄する; 低く評價する, 輕んずる。
 ava-mānya 未受分 輕蔑せらるべき。
 ava-mārjana 甲 拭ひ去ること, 清むること。
 ava-Mih avamehati. → Mih.
 ava-mukta 通受分 超出 *Lal-v.*
 ava-Muc avamuñcati(-te). → Muc.
 avamūtraya 名動 → mūtraya.
 ava-mūrdha 形 [=avamūrdha]; 覆, 倒住

Sikṣ.
 ava-mūrdha 形 覆仰, 覆住, 倒住 *Lal-v., Daś-bh.* 男 [或る世界の名] 覆, 倒 *Mvyut.*
 ava-mūrdhaka 形 頭を下に垂れたる; 倒, 覆 *Mvyut.;* 覆面 *Divy. 9.*
 avamūrdha-lipi 女 (音寫) 阿跋牟書, 阿婆勿陀書 *Lal-v. 125.*
 avamūrdha-śaya 形 頭を垂下して横はれる。
 ava-Mrj avamārṣti. → Mrj.
 ava-Mrd avamṛdyate(受). → Mrd.
 -ava-mṛdya 形 伏, 破壊, 傾動 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr.* → an~。
 ava-Mrś, → Mrś.
 ava-mehana 甲 尿をかくること。
 ava-mocana 甲 驛亭, 滯在地。
 ava-Yaj avayajati. → Yaj.
 ava-yajana 甲 贖罪, 贖罪の手段。
 ava-yava 男 身體の一部, 四肢; 部分; 論式を形成する一部分; 支, 分, 一分, 類分 *Lank., Cat-ś., Nyāy-pr., Abh-vy., Mvyut.;* 方分 *Vijñ-v.*
 ava-yavatva 甲 分, 方分 *Vijñ-v., Abh-vy.*
 avayava-dharma 男 全體に對する部分の用法 (修辭)。
 avayava-rūpaka 甲 [譬喩の一種]。
 ava-yavaśas 副 各部分に。
 avayavāvayavi-lakṣaṇa-sambandha 男 分有分相相續, 分與分主相連續緣 *Mvyut.*
 ava-yavin 形 部分より成立せる; 有分 *Cat-ś., Mvyut.* 男 論式。 名 全體。
 avayavi-nirkarṇa 男 [佛典の名, *Aśoka-paṇḍita* 作]。
 avayavi-rūpa 甲 有分色 *Vijñ-v.*
 avayavi-rūpaka 甲 [譬喩の一種]。
 avayavi-BHū, 部分となる。
 ava-Yā, → Yā.
 ava-yāna 甲 降下; 鎮靜; 後退する歩術 (*Lal-v.*)
 avara 形 より低き, 下位の; 低き, 卑しき; 次の, 後の, より若き; より近き; 西の; —° 少くとも; 下, 下劣; 少; 終; 西 *Lal-v., Daś-bh., Sukh-vy. II., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy.* 男 (音寫) [數の名] 阿婆羅 *Mvyut.* 真 → avarena.
 avaraka 形 極小; 下賤; [=sv-alpa (*Prajñ-vy.*); *Pāli. oraka*]; 少, 少小 *Aṣṭ-pr.*
 ava-rakṣiṇi 女 手綱又は羂絡(註)。
 avara-godāniya 男 [須彌四洲の一] 西牛貨(洲) *Abh-vy., Mvyut.* → apara-g°。
 avara-cāmara 男 [Jambūdvīpa 附屬の洲の名] 別拂洲 *Mvyut.* → apara-c°。
 avara-ja 形 卑しき生れの, 下賤の; より若き。 男 *Sūdra*; 弟。
 avara-jā 女 妹。
 avara-puruṣa 男 後裔。
 avara-bhāgiya 形 [*Pāli. orambhāgiya*] 下界の; 下分, 順下分 *Abh-vy., Mvyut.*
 avara-mātraka 形 下劣 *Bodh-bh.*
 avaramātraka-prasāda 男 唯下劣信 *Mvyut.*

avara-vayas 形 より若き。
avara-varṇa 男 賤しき階級。
avaravarṇa-ja 男 (賤しき階級に生れたる者), Śūdra.
a-varāka 形 賤しからざる; 非賤 Bodh-bh. 123.
ava-Rādh avarādhnoti. → Rādh.
avarāvāra 形 最下の, 最も劣れる。
ava-rugṇa 通受分 [Ruj] 破られたる, 引裂かれたる。
ava-rugna 通受分 [同上]; 毀落(崩壊) Av-5.
ava-Rud avarudyate(受). → Rud.
ava-rudita 通受分 人に泣き悲まれたる。
ava-ruddha 通受分 → Rudh 3. 繫, 閉在, 所禁閉 Buddh-c. Daś-bh.
ava-ruddhatva 中 禁錮。
avaruddha-deha 形 監禁せられたる。
ava-ruddhi 女 獲得, 成就。
ava-ruddhikā 女 後宮の婦人。
ava-Rudh, → Rudh.
ava-ruddhikā 女 後宮の婦人達。
ava-Ruh avarohati, avaropayati(使役). → Ruh.
ava-rūḍha 通受分 → Ruh 2.
avareṇa 具 [業と俱に箭] 下に。
ava-rodha 1. 男 [Ruh] 沈下; 挿木, 細根。
ava-rodha 2. 男 [Rudh] 障礙, 壓迫, 除去; 騒擾; 幽閉; 閉塞, 包圍; 後宮; 後宮の婦人達。
ava-rodhaka 形 妨ぐる, 攻圍せんとする。
ava-rodhana 中 降下; 封鎖, 包圍; 構内, 殿堂; 後宮; 後宮の婦人達。
avarodha-śikhaṇḍin 男 家飼の孔雀。
avarodha-sundari 女 後宮の婦人。
ava-rodhin 形 (一°)を圍む, ……を覆ふ。
ava-ropana 中 植うること; 下, 種 Gaṇḍ-vy., Abh-vy.
ava-ropita 通受分 卸(?)されたる; (盜)を奪はれたる; 輕減せられたる; 喪失せる; 黙せしめられたる; 植ゑられたる; 種, 所種, 深種, 殖, 植, 所植; 置 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Suv-pr., Bodh-bh.; 積 Lal-v.; 寄…田 Bodh-bh.: buddha ~ m vā dharma ~ m vā saṃgha ~ m vā 寄佛法僧田 Bodh-bh. 125.
avaropita-kuśala-mūla 形 種善根, 種諸善根, 宿殖德本, 殖諸善根, 種諸善根 Saddh-p., Laṅk., Suv-pr., Mvyut.
avaropita-keśa-śmaśru 形 saptāha ~ 猶如七日先剃髮 Divy. 37.
ava-roha 男 降下; 低き調子に移ること; 枝より下す根。
ava-rohaṇa 形 (女-i) 降る。中 下降; 下降音階, 低調に移ること。
ava-rohin 形 降りる。
a-varcas 形 力なき, 弱き。
a-varṇa 男 譴責, 非難; 誹謗, 毀謗, 毀訾, 毀罵; 惡響; 輕蔑; 不美稱; 輕毀之言 Divy., Saddh-p., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-c., Bodh-bh., Mvyut.; 苦, 苦事 Aṣṭ-pr.: śrāved ~ m 罵, 誹謗 Saddh-p. 229.; ~ m niścārayanti 流布鄙惡名聞 Śikṣ. 62.

avarṇa-kāraka 形 惡口する; 毀訾 Mvyut.
avarṇa-bhāj 形 非難すべき。
a-varṇa-samyoga 男 何れの階級(種姓)にも關係なき者。
avarṇāyaśaḥ-kathā 女 (種種)誹謗 Śikṣ.
a-vartamāna 現分 進まざる, 瞬間に現はれざる, 現在ならざる, 存在せざる。
ava-rti 女 (降下), 必要, 闕乏, 飢餓。
a-wardhamāna 現分 増さざる, 増加せざる(富)。
a-varṣa 男 旱魃。
a-varṣaṇa 中 [同上]。
a-varṣika 形 無歳 Vin.: ~ sārḍha-vihārin 無歳共住弟子 Vin. 5.
a-varṣṭos 男 不定 降雨せざること。
ava-Lag avalagayati(使役). → Lag.
ava-lagna 通受分 → Lag. 男 中 腰。
ava-Laṅgh, → Laṅgh.
ava-Lamb avalambate. → Lamb.
ava-lamba 形 懸垂せる。男 懸垂; 附著; 支持, 支柱。
ava-lambana 形 (女-i) ……に懸る, ……に倚る。中 懸垂; (一°)に附著すること, ……に據ること; 依存; 支持; 滞在; 垂, 執, 執捉 Mvyut.; 境, 境界 Gaṇḍ-vy.
ava-lambita 通受分 → Lamb. 垂 Lal-v., Mvyut.
ava-lambitavya 未受分 ……に支持又は附著せらるべき。
ava-lambin 形 懸垂せる, 傾く; 倚りかゝる; 附著する; (一°)に據る; 著; 取; 由; 爲因, 爲緣; 留連 Laṅk.
ava-Likh, → Likh.
ava-Lip, → Lip.
ava-lipta 通受分 油を塗られたる; 高慢なる。 → Lip. 塗(身) Śikṣ.
ava-liptatā 女 高慢, 不遜。
ava-liptatva 中 [同上]。
ava-Lih avaleḍhi. → Lih.
ava-Li avaliyate. → Li I.
ava-liḍha 通受分 → Lih.
ava-lina 通受分 → Li I. 怯弱, 怯怖, 怯懼; 衰弱 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Śikṣ., Abh-vy.; 隱 Abh-vy. → an ~。
ava-linatā 女 退, 沈没, 滯礙, 怯畏 Aṣṭ-pr.
ava-lilā 女 冗談, 遊戲。 ~ ayā 極めて容易に。
ava-luñcana 中 (毛を)引き抜ること, (縫目を)解くこと。
ava-Luḍ, → Luḍ.
ava-luṅṭhana 中 強奪; 地上に轉び廻ること。
ava-Lup avalumpati(-te). → Lup.
ava-lupta 通受分 刈已 Mvyut.
ava-lumpana 中 跳びかゝること, 襲撃。
ava-Lū, → Lū.
ava-lūna 通受分 → Lū.
ava-lekhana 中 掃ふこと, 梳ること。
ava-lepa 男 軟膏, 香膏; 高慢。

ava-lepana 甲 [同上].
ava-lepavat 形 高慢なる.
ava-lepin 形 [同上].
avalepoddhava (°pa-ud°) 男 [=uddhava] 高慢 (Jāt-m.).
ava-leha 男 舐り取ること; 拔萃; 煉藥.
ava-lehaka 形 舐むる; 舐 Prāt-m., Mvyut.
ava-lehana 甲 舐り取ること.
ava-lehin 形 糖菓を好める, 食道樂の.
ava-Lok avalokate, avalokayati. → Lok.
ava-loka 男 觀察; 光景, 視界; 世間(1) Aṣṭ-pr. 555. ~eṣu (於) 副 (圖) の眼前に.
ava-lokaka 形 (業)を視んとする, 探らんとする.
ava-lokana 甲 視ること; 瞥見; 光景; 視察; 展望; 外見; 視, 視觀, 觀視, 觀照 Divy. Guhy-s.,
ava-lokanaka 形 美觀を保てる (Divy.).
avalokana-sūtra 甲 [經名] 觀察世間經 Sikṣ. [=avalokita-sūtra].
avalokanā-sūtra 甲 [=avalokita-sūtra]. 觀音經 Sikṣ.
ava-lokaniya 形 觀察すべき價值ある; 見るべき, 美しき; 觀察 Sikṣ.
ava-lokayitr 男 觀察者.
ava-lokita 通受分 → Lok. 見, 所見, 現見, 觀見, 瞻仰, 所觀察 Lal-v., Aṣṭ-pr.
avalokita-vilokita 形 迴旋顧視 Sikṣ.
avalokita-sūtra 甲 [佛典の名: Mah-v. II. 257 以下に二本あり].
ava-lokitā 女 [人名].
avalokiteśvara (°ta-iś°) 男 [菩薩の名] 觀音, 觀世音, 觀自在, 觀世音自在 Saddh-p., Sukh-vy. I., Prajñ-h., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Mvyut.; 盧樓亘 Sukh-vy. I.
avalokiteśvara-guṇa-kāraṇḍa-vyūha 男 [佛典の名] =guṇa-kāraṇḍa-vyūha.
avalokiteśvara-vimokṣa 甲 [經名] 觀音解脫經 Sikṣ.
ava-lokin 形 視る.
ava-lokya 未受分 視らるべき, 注目せらるべき; 可見, 可照了 Daś-bh. 不變分 → Lok.
ava-lopa 男 遮斷, 妨害.
ava-lopana 甲 切り棄つること, 破壊すること, 害すること.
a-valgu-kārin 形 (於)に對し好ましからざる行爲をなせる.
ava-Vad avavadati. → Vad.
ava-vadana 甲 惡口すること.
ava-vadaniya 形 教授せらるべき (Prajñ-vy.).
ava-vadita 通受分 教へられたる; 教 Aṣṭ-pr.
ava-vaditavat 通能分 教授 Bodh-bh.
ava-varaka 男 [apavarakaの形]; 空屋 Av-ś.
ava-vāda 男 命令; 教示; 傳; 說, 說法, 宣說; 能授; 教, 教授, 教化, 教誡, 教誨; 言訣, 語訣, 聖言; 教導論 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sikṣ., Sūtr., Vijñ-t., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.: ~sya sammosaḥ 忘聖言, 忘尊敬 Madhy-vibh. 173.

ava-vādaka 形 教授する, 教授せらるゝ; 忠告を與ふる, 忠告を受くる (Divy.); 諫, 所訣, 教化(弟子) Divy., Mvyut. 男 指導者, 忠言者 (Divy.); 教化, 化導, 教授, 教化人 Divy.; (本)教授師 Divy.48.

avavāda-kuśala 形 善能教化 Saddh-p.
avavādānuśāsani 女 教授, 教誡 Aṣṭ-pr., Sūtr.
ava-viddha 通受分 → Vyadh.
a-vaśa 形 (他人)の意志に従はざる, 獨立の, 自由なる; 欲せざる; 自由意志を有せざる; 不自在 Sūtr.
avaśa-ga 形 (圖)に従はざる; 不隨自在而行 Bodh-bh.
ava-śapta 通受分 呪はれたる.
ava-Śam, → Śam 2.
ava-śānta 通受分 → Śam 2.
avaśāya 甲 [=avaśyāya].
a-vaśitva 男 自在又は自主ならざること.
a-vaśin 形 欲せざる, 自由意志を有せざる; 獨立せざる.
ava-Śiṣ avaśisyate(受). → Śiṣ.
ava-śiṣṭa 通受分 残されたる. → Śiṣ 1. 餘, 所餘, 遺餘; 在, 餘在; 存; 留 Divy., Lal-v., Daś-bh., Prāt-m., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.; na ca ~m bhavati 無不殫 Bodh-bh. 76.
ava-śiṣṭaka 甲 殘餘, 殘物.
ava-Śi avaśiyate. → Śi 1.
ava-śirṇa 通受分 分散せしめられたる, 破られたる, 碎かれたる; 動搖せる; 銷沈せる.
ava-Śrdh, → Śrdh 2.
ava-Śr̥ avaśiryate(受). → Śr̥.
avaśendriya-citta (°śa-in°) 形 感官と意との制抑制せられざる.
ava-śeṣa 男 殘餘, 殘物; 餘, 殘, 爲餘, 餘在 Aṣṭ-pr., Abh-vy., Mvyut.; 過 Abh-vy. → nir~. ~m 副 (一°)を除きて; 過 Divy.: kalpa~ 過一劫 Divy. 201.
ava-śeṣita 使役 通受分 → Śiṣ 1.
a-vaśya 形 屈服せざる, 應諾せざる; 必, 定, 必定, 決定 Divy., Sūtr., Bodh-bh., 梵千. ~°, ~m 副 必然的に; 確かに; 不可避的に, 否應なしに (Divy.); 必, 定, 必定, 決定; 要, 須, 要須, 要當, 畢竟; 必是真實 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Lank., Mañj-m., Sikṣ., Vijñ-v., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c.
a-vaśyakatā 女 必然性, 義務.
avaśya-karaṇiya 形 定所應作 Bodh-bh.
avaśya-kartavya 形 必ず爲さるべき.
avaśya-kārya 形 [同上]. 甲 義務; 定作, 定所應作 Bodh-bh.
avaśya-bhāgiyaka 形 決定的の, 必然的の (Divy.).
avaśya-bhāva 男 必然性, 必要.
avaśya-bhāvin 形 必ずかくあるべき, 必ず起る; 得決定(覺) Divy.
avaśyam-bhāvin 形 [同上].
ava-śyā 女 結霜.

ava-syāya 男 結霜; 露 *Vajr-pr.*
 avasyāya-paṭa 男 [布の一種].
 avasyāya-paṭṭa 男 羅, 絹羅 *Mvyut.*
 avasyāya-bindu 男 露の滴; 長露, 露點 *Divy., Mvyut.*
 avasyendriya (°ya-in°) 形 自己の感官を支配する能はざる.
 avasrathāya 名動 → srathāya.
 ava-Śvit, → Śvit.
 ava-ṣaṅga 男 廊(?), 廊(?) *Mvyut.*
 ava-ṣṭabdha 通受分 → Stabh. 沈溺, 漂溺, 所沈溺, 被漂没 *Sikṣ.*; 壓, 壓殺 *Divy.*; 任 *Mvyut.*: daṇḍam ~h 任杖 *Mvyut.*
 ava-ṣṭabhya 未受分 止めらるべき. 不變分 → Stabh.
 ava-Ṣṭambh avasṭabhnoti, avasṭambhate. → Stabh.
 ava-ṣṭambha 男 所依, 依據; 自信, 果斷; 勇氣.
 avasṭambha-ja 形 逼迫所生 *Bodh-bh.*
 ava-ṣṭambhana 中 = avasṭambha.
 ava-ṣṭambhanatā 女 ……に倚ること; 扶 *Mvyut.*
 ava-ṣṭambhamaya 形 勇氣を示す; 斷乎として(矢を)射たる(?).
 avas 1. 中 援助, 恩惠. 覆 慰安, 喜悅; 欲望.
 avas 2. 副 下に. 前 (具, 從)より下に; (具)の下に.
 ava-sakta 通受分 支へられたる, 定著せる. → Sañj. 懸, 垂; 絡, 連綿; 不暫捨 *Divy., Lalv., Aṣṭ-pr., Saddh-p.*
 avasakta-paṭa-dāma-kalāpa 男 絹結廳帶 *Mvyut.*
 ava-sakthikā 女 腰卷. ~m Kṛ 腰に布片を巻く.
 ava-saṃkirṇa 通受分 充てる, 満ちたる.
 ava-Sañj avasajjate. → Sañj.
 ava-saṃdina 中 [鳥の飛び方の一種(鳥が群り下方へ向ひて飛ぶこと)].
 ava-Sad avasidati. → Sad.
 ava-sanna 通受分 終れる, 虧ける; 費されたる. → Sad.
 ava-sara 男 場合, 機會; 好適時; 適當, 用法; 順番; 分, 中節 *Saddh-p., Mvyut.*: asmākam… ~o bhavatu 我等…有分 *Saddh-p. 215.*
 ava-sarpaṇa 中 降下, 降下する場處; 町に行くこと.
 ava-sarpiṇi 女 降下する週期.
 ava-Sā avasyati. → Sā 2.
 ava-sāda 男 坐ること; 沈むこと; 除去; 疲勞, 倦怠; 敗北; 終; 非難; 叱責; 毀, 謗, 訶責 *Mvyut.*; 悔惱 *Sikṣ.*: ~m āpadyate 退縮, 絶望 *Mvyut.*
 ava-sādaka 形 失敗せしむる; 絶望せしむる; 訶責, 訶責, 擯罰 *Bodh-bh.*
 ava-sādana 中 落膽; 憂鬱; 訶, 訶責, 折伏; 沈没 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
 ava-sādanā 女 叱責; 輕蔑; 訶責, 訶擯, 訶罰

Divy., Bodh-bh.

avasādanā-vineya 形 叱責によりて化導せらるべき; 因訶責堪化度 *Divy.*
 avasādanā-sādhyā 形 訶擯調伏, 訶責調伏 *Bodh-bh.*
 ava-sādanikā 女 訶責 *Bodh-bh.*
 ava-sāna 1. 中 休息處; 中止; 終; 死; 詩又は文の題目; 合間(?); 竟, 邊極; (一°)最後, 爲後 *Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*: viśuddha-vīrya ~m 最後清淨精進 *Bodh-bh. 206.*
 a-vasāna 2. 形 衣服なき.
 avasāna-bhūmi 女 頂點.
 ava-sānika 形 (一°)の終をなせる.
 ava-sāya 男 停止, 止住; 終末; 破滅.
 ava-sāyaka 形 滅ぼす; 致命の.
 ava-sāyitva 中 住, 住性 *Mvyut.*
 ava-sāyin 形 住する, 坐する.
 ava-sāraṇa 中 退去.
 ava-sāraṇā 女 [*Pāli.* osāraṇā] 罰せられたる比丘の復權; 求宥 [*Tib.* bzod-par-gsol-ba] *Mvyut.*
 ava-Sic, → Sic.
 ava-sita 通受分 終れる. → Sā 2. 中 住處.
 avasita-kārya 形 爲すべきを爲し終りたる.
 avasitārtha 形 満足せる.
 ava-siti 女 終結, 終.
 ava-supta 通受分 眠れる.
 ava-Sṛ avasarati. → Sṛ.
 ava-Sṛj avasrjati. → Sṛj.
 ava-sṛjana 中 起 *Gaṇḍ-vy.*
 ava-Sṛp avasarpati. → Sṛp.
 ava-seka 男 撒水; 注水, 灌溉; (蛭による)出血.
 ava-secana 中 撒布, 灌溉の水; 洗淨用の水, 出血.
 ava-Skand, → Skand.
 ava-skanda 男 攻撃, 奇襲.
 ava-skandin 形 跳ね上る; 覆ふ; 攻撃する.
 ava-skanna 通受分 → Skand.
 ava-s-kara 男 便所; 不淨處 *Divy.*
 avaskara-mandira 中 便所.
 ava-skhalita 通受分 作(諸)惡, 作衆惡 *Divy.*
 ava-stabdha 通受分 多有 *Divy.*: tirthika: ~m tan nagaram 彼城中多有諸外道輩 *Divy. 45.*
 avastāt 副 下に; 此側に. 前 (屬)の下に.
 a-vastu 中 價值なき物; 皆無, 無實; 非物; 無事, 不實事 *Lank.*
 a-vastuka 形 非物; 無事, 無實事物; 無境; 無因 *Aṣṭ-pr., Lank., Sikṣ., Mvyut.*
 a-vastukatva 中 無事 *Abh-vy.*
 a-vastutva 中 [avastuの通].
 a-vastu-patita 形 不墮於事, 不墮事, 不住於事, 不住事 *Fajr-pr.*
 ava-Str avastrṇāti. → Str.
 a-vastra 形 著衣せざる.
 a-vastratā 女 裸體.
 a-vastra-da 形 衣服を與へざる.
 avastri-Kṛ, 衣服を奪ふ.
 ava-stha 男 男根, 陰莖. 一° 形 住…位,

在……位 *Abh-vy.*: anāgata ~ 住未來位, 在未來位 *Abh-vy.* 475.
ava-Sthā avatiṣṭhati. → *Sthā*.
ava-sthā 法廷へ出頭すること; 安定; 状態, 地位; 場合; 分, 位, 分位; 居, 住, 所住, 住其間 *Lank., Śikṣ., Sūtr., Bodh-c., Madhy-v., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*; 相 *Madhy-v.*; 時 *Mvyut.* → ārambha ~.
ava-sthātavya 残るべき, 存続すべき.
ava-sthāna 出現; 地位, 位置; 居住, 逗留; 安定, 持續; 位, 住, 處, 住處, 住持, 安住, 安立; 入 *Gaṇḍ-vy., Sam-r., Lank., Abh-vy., Bodh-bh.*: anyonya-bala ~ 相依力住, 相持力故住 *Abh-vy.* 198.
avasthāntara (thā-an°) 變化せる状態.
ava-sthāpana (商品の)陳列.
ava-sthāpita 使役 通受分 修治 *Divy.*
ava-sthāyin ……に留まる.
avasthā-vyavasthita 位所成, 就位建立 *Abh-vy.*
ava-sthita 通受分 置かれたる; 立てる; 配列せられたる; 決定せられたる; ……に従事せる. → *Sthā*. 在, 位; 停, 息, 宿; 住, 安住, 棲止 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Lank., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*: iryā-pathena ~ h 威儀具足 *Divy.* 37.
ava-sthitatā [同上]; 所住 *Madhy-v.*
ava-sthitatva [同上]; 墮 *Bodh-bh.*
ava-sthiti 止住, 逗留, 居住, 安定; 住 *Sūtr.*
ava-snāta 沐浴に用ひられし(水).
ava-spāṇḍana 調弄 [Pāli. upphaṇḍana] *Bodh-bh.* 238.
ava-Spand avaspandayati(使役). → *Spand.*
ava-Spr, → *Spr.*
ava-sphaṇḍana 罵, 呵毀 *Śikṣ.* 172.
ava-Sphūrj, → *Sphūrj.*
ava-sphoṭa 迸出すること, 出現すること.
ava-sphoṭana 指の關節をピチピチ音立つること; 拂抖(?) *Mvyut.*
ava-Smi avasmayate. → *Smi.*
ava-Syand avasyandate. → *Syand.*
avasyu 保護を求むる.
ava-Sraṃs avasraṃsate. → *Sraṃs.*
ava-Sru, → *Sru.*
ava-sruta 通受分 → *Sru.* 漏 *Mvyut.*: antaḥ-pūtir ~ h 内膿漏於外 *Mvyut.*
ava-Svan, → *Svan.*
ava-Han, → *Han.*
ava-hanana 禾穀を打つこと, 脱穀すること; 肺藏.
ava-harṣita 通受分 戰慄を催せる.
ava-Has avahasati. → *Has.*
ava-hasana 笑ふこと, 嘲笑; 調弄; 欺 *Bodh-bh.*
ava-Hā, → *Hā* 2.
ava-hāra 取り去ること; 部隊の退却, 停戦.
ava-hārya (業)の辨濟又は支拂をなさしめら

る; 課せらるべき.
ava-hāsa 戲談; 嘲弄.
ava-hāsyā 未受分 嘲笑する; 滑稽なる.
ava-hāsyatā [同上].
ava-hita 通受分 → *DHā* 1.
ava-hitatā 專注, 恆在 *Abh-vy.*
avahita-śrotra 傾聴, 至心聴, 耳温, 屬耳, 聆音屬耳 *Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
ava-Hṛ avaharate. → *Hṛ* 1.
ava-helanā 輕蔑, 無禮.
ava-helā 輕蔑. 極めて容易に.
ava-hoḍimaka 容貌弊惡 *Av-s. II. 152.* → *avakoṭimaka, ahodima, uhoḍima.*
avāk 下方に; 真逆様に.
a-vākin 語らざる, 無言の.
avāk-phala 結果の悪しき.
avāk-śākha その枝の下方に向きたる (*Aśvattha* 樹).
avāk-śiras 頭を下にせる, 倒立せる, 上端を下方に向けたる.
avāk-śirṣa 頭を下にせる, 倒立せる.
avāk-sarga 下方に向ふものを創造すること.
avāg-gati 下方(即ち地獄)への途.
avāg-gamanavat 下方へ進む.
avāgra 曲れる, 先端を他方に向けたる.
avāg-vadana 面を伏せたる.
avāñ-niraya 地獄.
a-vāñ-manasa-gocara 言語思慮を絶せる, 言亡慮絶の.
avāñ-mukha (女 -i) 俯向ける.
a-vāc 語らざる, 無言の.
a-vācāla 喋舌ならざる; 自慢せざる.
avāci (女) → *avāñc.*
avācina 下方に向けられたる; (從)より下にある.
a-vācyā 未受分 話されざる; 言はれざる; 直接に表はされざる.
a-vācyatā 罵詈, 讒謗.
avācyā-vacana-yuddha 無作法なる口論.
avā-CHid (ava-ā-CHid), → *CHid.*
avāj (ava-Aj) avājati. → *Aj.*
avāñc (ava-Añc), → *Ac.*
avāñc (ava-añc) (女 *avāci*) 下方の, 真逆様の; より低き; 南の. (中) (副) → *avāk.*
avāñcita 通受分 → *Ac.*
a-vāṭ, [*Vah* の (三) (過) (三) (入) (單)].
a-vāta 1. (女 -ā) [*Vai*] = *avāna.*
a-vāta 2. 通受分 (女 -ā) [*Van*] 苦しめられざる, 煩はされざる; 安全なる.
a-vāta 3. 無風の, 静かなる.
a-vāna 通受分 乾燥せられざる, 新鮮なる; 濕へる.
avānta 男 (數の名) 阿畔多 *Mvyut.*
avāntara 介在する; 異なる, 個々の. (中) (從)より別に, ……と異なりて. (中) (副) 間

avāntara-diś ㊦ 中間の方角, (四)維.
 avāntara-deśa ㊦ 中間の方角にある地方, (四)維の地方.
 avāntara-sāmānya ㊦ ㊦ 大蓋, 各別同 *Mvyut.*
 avāp (ava-Āp) avāpnoti. → Āp.
 avāpta (ava-āp°) ㊦ 到達せられたる; 獲得せられたる; ㊦ 得 *Rāṣṭr.*
 avāptavya (ava-āp°) ㊦ 得らるべき.
 avāptātman (°ta-āt°) ㊦ 肉體を得たる, 具身の.
 avāpti (ava-āp°) ㊦ 獲得, 到達; ㊦ 得, 獲, 證得 *Lal-v., Divy., Bodh-bh.*
 avāptu-kāma (ava-āp°) ㊦ 獲んと欲する (*Buddh-c.*).
 avāptotkanṭha (°ta-ut°) ㊦ 哀愁又は憧憬の心を起せる.
 avāpya (ava-āp°) ㊦ 得らるべき.
 a-vāyu ㊦ 風なき.
 a-vāraṣī ㊦ 敵し難き, 制し難き; (不治の), 不治, を扱ふ.
 a-vārita ㊦ 制限せられざる, 無限の, 妨げられざる. ~m ㊦ 妨げられずして, 快く.
 avārohaṇa (ava-ār°) ㊦ 昇 *Sikṣ.*
 a-vārya ㊦ = avāraṇiya.
 a-vāryatā ㊦ 不治.
 a-vāryamāṇa ㊦ 抑制せられざる, 妨げられざる.
 a-vārṣika ㊦ ㊦ 未入避夏, 不成一年 *Mvyut.*
 avāvaṭa ㊦ [夫と同一種姓(階級)に屬し且つ曾て他の男と同棲したる婦人によりて生れたる男兒].
 avi ㊦ 心服する; 親切なる. ㊦ 羊; 羊毛の Soma 汁濾過器; ㊦ 羊, 羴羊 *Divy., Abh-k.* ㊦ 牝羊.
 avika ㊦ 羊.
 a-vikatthana ㊦ 自慢せざる.
 a-vikatthin ㊦ [同上].
 a-vikampana ㊦ ㊦ 不傾動, 不能傾動 *Bodh-bh.*
 a-vikampanatā ㊦ ㊦ 無傾動性, 不傾動性, 不能傾動 *Bodh-bh.*
 a-vikampita ㊦ 震へざる, 動かざる.
 a-vikampya ㊦ ㊦ 無動亂, 不可動, 不可動轉, 不能傾動 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
 a-vikara ㊦ ㊦ 不變, 不減 *Lank.*
 a-vikala ㊦ 缺けざる; 毀損せられざる, 全き, 完全なる; 正しき; ㊦ 無缺, 不闕, 不缺減, 無(支)缺, 無闕減, 無不全; 具, 具足; 無不備具, 無破壞; 圓滿, 遍滿, 應時 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Mañj-m., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*
 a-vikalatā ㊦ ㊦ 無減 *Sikṣ.*
 avikala-patha ㊦ ㊦ 平坦正道 *Lank.*
 avikalendriyatā (°la-in°) ㊦ ㊦ 具諸根, 具足諸根 *Gaṇḍ-vy.*
 a-vikalpa ㊦ 區別せざる; 永く熟慮せざる, 躊躇せざる; ㊦ 不別, 無分別, 無差別, 不分別, 無有分別, 無所分別; 無異分別, 不妄想, 不生妄想; 無異; 無疑 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-vibh., Mvyut.*: ~ā nirvikalpā *Aṣṭ-pr.* 620. [㊦ = sva-para-vikalpa-viyoga 自と他との分別なき. avikalpa=自の無分別, nirvikalpa=他の無分別 (*Prajñ-vy.*)]. ~m ㊦ 躊躇せずして, 即

座に. ㊦ 區別せられざる; 詳説せられざる.

a-vikalpaka ㊦ (㊦ -ikā) 熟慮せざる; ㊦ 無分別 *Sūtr., Abh-vy.*
 avikalpa-jñāna ㊦ ㊦ 無分別智 *Madhy-vibh.*
 a-vikalpatā ㊦ ㊦ 無分別 *Aṣṭ-pr.*
 a-vikalpana ㊦ ㊦ 無別, 非分別 *Lank., Abh-vy.*
 a-vikalpanatā ㊦ ㊦ 無分別, 無異分別 *Madhy-vibh., Bodh-bh.*
 a-vikalpanā ㊦ ㊦ 無分別, 不分別, 無所分別; 不起妄想 *Saddh-p., Sūtr., Bodh-bh.*
 avikalpaya ㊦ ㊦ 無分別, 不分別 *Abh-vy.*
 a-vikalpayat ㊦ ㊦ 遠離分別, 離諸妄想 *Bodh-bh.*
 a-vikalpita ㊦ ㊦ 疑はれざる.
 avikalpita-śarira ㊦ ㊦ 身不可分別 *Mvyut.*
 avikā ㊦ 牝羊.
 a-vikāra ㊦ 無變化, 無變形, 醜くせざること. ㊦ 變化を蒙らざる; ㊦ 不壞, 無變異, 無變壞; 無作 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*: ~ā nirvikārā *Aṣṭ-pr.* 620. [㊦ = adhika-nyūna-vikā ābhāva 増と減との變異なき. avikāra=増の無變異, nirvikāra=減の無變異 (*Prajñ-vy.*)]. ㊦ 變化せざる.
 a-vikāritā ㊦ [同下 ㊦]; ㊦ 不轉 *Sūtr.*
 a-vikārin ㊦ 變化せざる, 少しも動かざる; 忠實なる.
 a-vikārya ㊦ ㊦ 變化せられざる.
 a-vikāla ㊦ [*Pāli.* okāra?]; ㊦ 穢, 不淨 *Bodh-bh.* 379.
 a-vikāsa-bhāva ㊦ 開花せざること.
 a-vikuṅṭha ㊦ 鋭き, 透徹する, 抗し難き
 a-vikṛta ㊦ ㊦ 變化せられざる; 調理せられざる, 自然の; 展開せざる; 醜からざる, 畸形ならざる; ㊦ 無作, 無變異 *Aṣṭ-pr.*
 a-vikṛti ㊦ ㊦ 不變異, (未だ變化せざる原質); ㊦ 無變異 *Sāmkhy-k.* 3.
 a-vikopita ㊦ ㊦ 不失; 不退; 不壞, 不可壞; 未敗; 無動亂; 不變異; 無損, 儼然無損 *Lal-v., Divy., Sikṣ., Bodh-bh.* → a-vigopita.
 a-vikopyatā ㊦ ㊦ 不能動, 不傾動 *Bodh-bh.*
 a-vikrama ㊦ 勇氣なき.
 a-vikriya ㊦ 變化せざる; 容貌を變ぜざる; 全く等しき.
 a-vikriyatva ㊦ ㊦ 不變化.
 a-vikriyā ㊦ [同上].
 avikriyātmaka (°yā-āt°) ㊦ 變化を受けざる.
 a-vikṛita ㊦ ㊦ 賣られざる.
 a-vikreya ㊦ ㊦ [同上].
 a-viklava ㊦ ㊦ 惑亂せられざる, 平然たる, 確乎たる; 捕はれざる.
 a-vikliṣṭa ㊦ ㊦ 明瞭なる, 理解し易き.
 a-vikṣata ㊦ ㊦ 傷害せられざる.
 avikṣit ㊦ [王の名].
 a-vikṣipta ㊦ ㊦ (心の)亂れざる; ㊦ 不亂, 非亂, 無散亂, 不散動 *Sukh-vy. II., Madhy-vibh., Abh-vy., Bodh-bh.*
 avikṣipta-cakṣus ㊦ ㊦ 目不妄視 *Lal-v.*
 avikṣipta-citta ㊦ ㊦ 除亂想, 正念不亂 *Suv-pr.*

形 一心不亂, 繫念不亂 *Sukh-vy. II.*
avikṣipta-pariṇatā 女 不散動, 無散動, 無亂
 轉變, 無散亂轉變, 無散動變異 *Madhy-vibh. 214.*
a-vikṣubdha 過受分 亂されざる。
a-vikṣepa 男 不散(心), 不散亂 *Sikṣ.*
a-vikhaṇḍana 中 毀損せざる事 (*Jāt-m.*).
a-vikhyāta-doṣa 形 公然と知れ互れる罪なき, 重き
 罪を犯せしことなき。
a-vigaṇayya 不變分 ……を顧慮することなく, ……
 を無視して。
a-vigaṇita 過受分 考察せざる, 考慮せざる (*Jāt-m.*).
a-vigata 過受分 難可捨離 *Bodh-bh.*: ~kro:
 dha-paryavasthāna 忍難難可捨離 *Bodh-bh. 149.*
a-vigama 男 未離 *Abh-vy.*
a-vigalita 過受分 涸渴することなき, 盡きざる。
a-vigāna 形 異議なき。
a-vigītatva 中 矛盾なきこと。
a-vigopita 形 未敗 *Mvyut.*
a-vigraha 形 誹議すべからざる; 身體なき; 非
 違 *Sam-r.* 男 單語の非獨立性, 合成語にのみ現は
 ること。
a-vighāta 形 障礙なき; 無礙, 不害, 不損害
Vijñ-v., Sāmkhy-k., Madhy-vibh. 男 無妨害, 遮
 斷せられざる事; 無損, 無礙 *Abh-vy.*
a-vighna 形 妨げられざる, 亂されざる; 無障,
 不爲障礙 *Abh-vy.* 中 無妨礙. ~ena 男 副 妨
 害なく, 障礙なく。
a-vighnatas 副 障礙なく。
a-vighnita 過受分 妨害せられざる, 擾されざる。
a-vicakṣaṇa 形 鋭敏ならざる, 愚かなる。
a-vicaraṇāt 副 躊躇することなく。
a-vicala 形 揺がざる, 確乎たる; 無動 *Bodh-bh.*
a-vicalita 過受分 確乎たる; 逸脱せざる。
avicalendriya (°la-in°) 形 感官を制せる。
a-vicāra 男 反省の缺如; 愚, 誤. 形 反省せざる;
 愚かなる; 無伺, 無觀 *Mvyut.* ~m 副 遲
 滯せず, 猶豫なく。
a-vicāra-jña 形 反省を知らざる, 辨別力なき。
a-vicāraṇa 中 反省の缺如。
a-vicāraṇā 女 不調査; 不行 *Saddh-p. 275.*
a-vicāraṇiya 未受分 = a-vicārya.
a-vicārayat 現分 反省せざる。
a-vicārīta 過受分 熟慮せられざる. ~m 副 躊
 躇せずして。
a-vicārya 未受分 反省の要なき。
a-vicālin 形 (從)より離れざる; 不變の。
a-vicālyā 未受分 その場處より動かすべからざる;
 不動 *Daś-bh.*
a-vicālyatva 中 不傾動 *Bodh-bh.*
avici 男 音律 [=avici]; 無聞(地獄) *Sukh-vy. I.*
a-vicitra 形 少, 一 *Abh-vy.*: vicitra~ph:
 alatvāt 或少果或多果故, 有多種果有一種果 *Abh-vy.*
 215.
a-vicintana 中 思慮せざる事; 考へざる事。
a-vicintayat 現分 (業)を顧慮することなき。
a-vicintitr 形 (業)を考へざる。

a-vicintiya 形 俗 [<aviciṅtya]; 難思, 不思議
Daś-bh. 63.
a-vicintya 未受分 理解し難き, 不可思議なる; 認め
 難き, 存在せざる。
a-viçeṣṭat 現分 動搖せざる, 不動の。
a-viçeṣṭanā 女 無越作用 *Bodh-bh.*
a-vicchinna 過受分 分離せられざる, 遮られざる, 中
 斷せられざる; 連続せる; 不絶, 不斷, 無間, 不
 間斷, 無間斷, 無間續 *Lañk., Sūtr., Bodh-c., Abh-
 k., Bodh-bh., Madhy-vibh.*
a-viccheda 男 中斷せられざる事, 遮られざるこ
 と; 連續; 連續して, 中斷せられずして。
a-vicyuta 過受分 失はれざる; 誤なき, 偏せざる。
 ~m 副 缺點なく。
a-vijahana 形 不捨離, 不相離, 未曾遠離, 無
 虧捨, 曾無虧捨 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
a-vijahanatā 女 攝受, 攝取 *Gaṇḍ-vy.*
a-vijānaka 形 (業)を知らざる, 熟知せざる。
a-vijānat 現分 知らざる, 無知なる; 不能悟解
Sikṣ.
a-vijānamāna 現分 不能解, 不能廣知 *Suv-pr.*
a-vijighatsa 形 食欲なき。
a-vijitya 不變分 克服又は征服せずして。
a-vijña 形 無分別の, 無知の。
a-vijñatā 女 愚, 愚鈍。
a-vijñapti 女 無作, 未作; 無教; 無表, 無表示;
 不可分別, 不可覺相 *Daś-bh., Abh-k., Abh-vy.,
 Madhy-v., Mvyut.*
a-vijñaptika 形 不可了知, 非所詮表 *Sapt-pr.,
 Sikṣ.*
a-vijñāta 過受分 知られざる, 認められざる; 不明瞭
 なる, 疑はしき。
avijñāta-pūrva 形 未知 *Bodh-bh.*
a-vijñātr 形 知らざる, 認識せざる, 無知なる。
a-vijñāna 中 知識の缺如; 無識 *Madhy-vibh.*;
 ~āt 從 不知不識の間に. 形 知識を有せざる。
a-vijñeya 未受分 認知し得ざる, 區別せられざる。
a-vidina 中 (鳥が)真直に飛ぶこと。
avita 形 保護又は援助せられたる; 識られたる(?)。
a-vitatha 形 虚偽ならざる, 眞實なる; 都合好き;
 眞實; 無異; 不虛妄, 無虚妄 *Lal-v., Daś-bh.,
 Bodh-bh., Madhy-vibh.*; 正法 *Divy.* ~m, 男
 正に, 確實に. 中 [音律の一種]。
avitatha-kriya 形 その行爲の無駄ならざる或は過
 たざる。
a-vitathatā 女 眞實; 不虛妄, 不虛妄性 *Aṣṭ-pr.*
avitatha-bhāṣin 形 如實說 *Sam-r.*
avitatha-vāc 形 眞實を語る。
a-vitathatā 女 = avitathatā; 不差自性 *Mvyut.*
a-vitathi-Kṛ, 實現せしむ, 遂行す。
avitathehita (°tha-ih°) 形 所望の適へる。
a-vitarka 形 無尋, 無覺 *Abh-vy., Mvyut.* 男
 [人名]。
a-vitarkita 過受分 豫想せざる。
a-vitāna 形 空虚ならざる; 天蓋又は屋根なき。
avitṛ 男 援助者, 保護者。

a-vitr̥pta (通受分) 飽き足らざる, 不満足なる; (釋) 無厭; 無厭足, 無飽滿, 無有厭足 *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*; 慙慙 *Gaṇḍ-vy.*

a-vitr̥ptaka (形) (屬)にては未だ飽き足らざる.

a-vitr̥ptatā (女) 不満足; (釋) 無厭, 無厭足 *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*

a-vitr̥ṣ (形) その渴又は欲望を醫す能はざる.

a-vitti (女) 發見せざること; 貧窮.

a-vid (形) 知らざる.

avida (釋) [驚愕を表す].

a-vidagdha (通受分) 焼かれざる; 消化せられざる; 經驗せられざる; 賢明ならざる; (釋) 惡燒, 愚癡 *Lank.*

avidagdha-buddhi (形) (釋) 愚癡 *Lank.*

a-vidāsin (形) 盡きざる, 涸渴せざる; 永久の.

a-vidita (通受分) 知られざる. (〜m) (副) 氣づかれずして.

avidita-bhaya (形) 恐怖を知らざる.

aviditātman (°ta-āt°) (形) 自己を知らざる, その本性の知られざる.

a-vidu (男) (釋) 無智愚人 *Saddh-p.*

a-viduṣṭara (形) [avidvasの(比較)].

a-vidus (男) (釋) 凡夫, 無智之人, 凡愚無智 *Lank.*

a-vidūra (形) 甚しく遠からざる, 近き; (釋) 不遠, 未遠. 去此不遠, 去(會)未遠 *Aṣṭ-pr.* (中) 近隣, 近接.

a-vidūṣaka (形) (他を)誹謗又は侮辱せざる.

a-viddha (通受分) 貫かれざる.

aviddha-dr̥ś (形) その視力の害はれざる, 一切を見る.

aviddha-nas (形) その鼻を輪にて貫かれざる(牛).

a-vidya (形) 教養なき; 智識の缺乏せる.

a-vidyatas (副) (釋) 從無明, 無明故 *Suv-pr.*

a-vidyamāna (現分) 存在せざる; (釋) 無所有 *Bodh-bh.*

a-vidyamānatā (女) 現存せざること; (釋) 無, 非實有, 不實有 *Sūtr.*, *Madhy-vibh.*

a-vidyamānatva (中) [同上]; (釋) 無所有 *Aṣṭ-pr.*

a-vidyamānavat (副) 恰も存在せざるが如くに.

a-vidyā (女) 無知; (釋) 癡, 愚癡; 無明, 不明; 黑闇 *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

avidyā-gahana (中) (釋) 黑暗稠林 *Gaṇḍ-vy.*

avidyāṇḍa-kośa (°yā-aṅ°) (男) (釋) 無明殼藏, 無明殼膜 *Gaṇḍ-vy.*

avidyāṇḍakośa-paṭala (形) (釋) 無明卵殼所覆, 以無明殼所遮 *Mvyut.*

avidyā-nirodha (男) (釋) 無明滅 *Suv-pr.*

avidyāndha-kāra (°yā-aṅ°) (形) (釋) 愚癡闇, 無明黑闇, 無明黑暗 *Gaṇḍ-vy.*

avidyāndhakāra-vidhvamsana-kāra (男) (釋) [佛の名] 破無明暗, 破無明黑暗 *Sukh-vy. I.*

avidyā-pratyaya (男) (釋) 無明緣 *Suv-pr.*

avidyā-samyojana (中) (釋) 無明結 *Madhy-vibh.*

avidyā-samsparśa (男) (釋) 無明觸 *Abh-vy.*

avidyā-hetuka (形) (釋) 因無明, 無明爲因 *Lank.*

avidyaugha (°yā-ogha) (男) (釋) 無明流, 無明暴河 *Abh-vy.*

a-vidvat (男) (釋) 無智者, 無智之人, 非智慧者; 無明

者, 凡夫; 非明智, 凡愚無智 *Lank.*, *Madhy-v.* (形) (釋) 愚癡 *Lal-v.*

a-vidvas (形) (通受分) 知らざる, 無知なる

a-vidvasu (形) (俗) (釋) 癡, 少智 *Saddh-p.*

a-vidviṣe (爲) (不定) 敵意を避けんが爲に.

a-vidveṣa (男) 敵意なきこと, 親睦.

a-vidhamanatā (女) (釋) 安立 *Lal-v.*

a-vidhavā (女) 非寡婦.

a-vidhāna (中) 無規定.

a-vidhānatas (副) 規則に順はずして, 不規則に.

a-vidhi-pūrvakam (副) 規定に反して, 不規則に.

a-vidhura (形) 較(さ)を缺かざる; 愉快なる; 單獨ならざる; (釋) 不散; 不壞; 無違背, 不違背; 不捨軌 *Bodh-bh.*

a-vidhṛta (通受分) 耐へざる, 耐へ難き, 抗し難き.

a-vidheya (未受分) 從順ならざる.

a-vidheyatā (女) [同上(副)].

a-viṇeyatva (中) 役に立たざること; (屬)の支配を受けざること.

a-vidhya (形) [Vyadh] 貫かれざる, 射貫かれざる.

a-vinaya (男) 不相應なる或は粗野なる態度; (釋) 未調伏, 非律; (釋) 非毘尼 *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

avinaya-nidānatā (女) 不徳行爲の原因たること.

a-vinayavat (形) 振舞の悪しき, 不作法の.

a-vinaśvara (形) 不滅の.

a-vinaṣṭa (通受分) (釋) 不失, 無失; 未滅; 不壞, 不可壞, 無所失壞 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*

avinaṣṭa-śila (形) (釋) 無失戒, 不可壞戒 *Gaṇḍ-vy.*

a-vinā-bhāva (男) 相離れざること, 和合せること, 同體なること; (釋) 不離, 無而不出, 無而不在 *Mvyut.*

avinābhāva-sambandha (男) (釋) 不離相續, 無則不主之由 *Mvyut.*

a-vinā-bhāvin (形) 離し難く結合せる, 固有の; (釋) 不相離 *Abh-vy.*

a-vināśa (男) 腐敗せざること; 毀損せざること; (釋) 不滅, 未滅; 不壞, 不破壞, 無能壞 *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.* (形) (釋) 無壞, 無所壞 *Guhy-s.*, *Bodh-bh.*

a-vināśatā (女) (釋) 無壞 *Bodh-bh.*

avināśa-dharmatā (女) (釋) 無壞法 *Aṣṭ-pr.*

a-vināśika (形) (釋) 不壞 *Sapt-pr.*

a-vināśitva (中) 不滅, 常住; (釋) 不壞, 不滅, 不滅壞 *Lank.*

a-vināśin (形) 不滅の; 衰微せざる; (釋) 不壞, 不壞滅, 不滅不失 *Lank.*

a-vināśya (形) 破滅せられざる.

a-vinipatita (通受分) 失敗せざる, 成功せる.

a-vinipāta (中) 邪道に入らざること.

avinipāta-dharman (形) (釋) 不墮惡趣, 不更惡趣; 無退墮法, 得不墮法 *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy. I.*

avinipāta-dharmin (形) (釋) 不墮惡趣 *Gaṇḍ-vy.*

a-vinirṇaya (男) (屬)に對する不決斷.

a-vinirbhāga (男) 離すべからざること; (釋) 不離, 不相離, 不相捨離 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Abh-vy.*

avinirbhāga-gata (形) (釋) 不離, 不相捨離 *Daś-bh.*

avinirbhāga-vartin 形 不離, 不相離 *Abh-vy.*
a-avinirbhāgin 形 不離, 不相離 *Abh-vy.*
a-avinirmukta 過受分 不捨 *Bodh-bh.*
a-avinivartaniya 未受分 不退, 無退, 不退位, 不退轉, 無所退轉, 不退轉位, 住不退轉, 得不退轉; 不廻 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Bodh-bh., Śikṣ., Mvyut.;* 阿惟越致, 阿毘跋致, 阿鞞跋致 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II.*
avinivartaniya-citta-bhūṣaṇa 形 不廻遮嚴, 不廻心嚴 *Mvyut.*
a-avinivartaniyatva 中 不退轉, 阿毘跋致地 *Aṣṭ-pr.*
avinivartaniya-dharmatā 女 不退法性, 不退轉法 *Aṣṭ-pr.*
avinivartaniya-dhātu 男 不退轉性, 阿惟越地(菩薩)性 *Aṣṭ-pr.*
a-avinivartin 形 歸らざる, 遁れざる; 不退轉 *Saddh-p.*
a-avinivartya 未受分 不能退轉 *Śikṣ.*
a-avinivṛtti 女 未離 *Sāṃkhy-k.*
a-avinīta 過受分 不作法なる; 未調伏 *Sapt-pr.*
a-avinoda 男 倦怠.
a-avinodana 中 不能厭捨 *Abh-vy.*
a-vindaka 形 [同下].
a-vindat 現分 見出さざる, 發見せざる; 無, 不得 *Abh-vy.*
avindhya 男 [人名].
a-vipakva 形 未だ熟せざる, 消化せざる; 全滅せざる.
avipakva-karaṇa 形 (精神)器官の發達せざる.
avipakva-kaṣāya 形 罪穢の未だ滅せざる.
avipakva-buddhi 形 智力の未だ成熟せざる.
a-vipakṣa 形 競争者なき, 無雙の.
a-vipatti 形 [同下]; 不毀 *Bodh-bh.*
a-vipadyat 現分 滅せざる, 死せざる.
a-vipanna 過受分 無損惱心 *Bodh-bh. 150.*
a-vipariṇata 過受分 無有變異 *Bodh-bh.*
a-vipariṇāma-dharman 形 變異する性質なき; 具不易法 *Mvyut.*
a-viparikṣatā 女 現知, 無不現知 *Bodh-bh.*
a-viparita 形 顛倒せざる, 正しき; 不倒, 無倒, 不顛倒, 無顛倒, 非顛倒, 未生顛倒; 未起倒者, 不倒者 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-v., Madhy-vibh.;* 眞實, 無錯謬 *Gaṇḍ-vy.* ~m 副 無倒 *Abh-vy.*
aviparita-bodhi-mārga-deśika 形 無倒示道者, 示無倒道者; 無差指道路, 爲說菩提無顛倒道 *Bodh-bh., Mvyut.*
a-viparokṣa 形 現 *Bodh-bh. 154.*
aviparyaya 1. 名動 過たず.
a-viparyaya 2. 男 不置換; 無誤謬; 無倒, 不顛倒, 非顛倒 *Sāṃkhy-k., Madhy-v.*
a-viparyasta 過受分 不顛倒, 無顛倒, 無有顛倒 *Laṅk., Madhy-v., Bodh-bh.*
a-viparyāsa 男 不轉換; 無倒, 不倒, 無顛倒, 不顛倒, 不生顛倒 *Laṅk., Bodh-bh., Madhy-vibh.*

~ena 副 顛倒することなく.

aviparyāsa-tattva 中 無顛倒眞實 *Madhy-vibh.*
aviparyāsa-tathatā 女 性不顛倒 *Mvyut.*
aviparyāsa-pariṇata 形 無顛倒轉變, 無顛倒變異 *Madhy-vibh.*
a-viparyāsita 過受分 變化を受けざる.
a-vipaścit 形 愚かなる, 經驗なき.
a-vipaścita 形 凡愚, 愚無智, 愚癡無智慧 *Laṅk.*
a-vipāka 形 消化不良に苦しめる; 未熟の; 無報 *Daś-bh.*
a-vipādana 形 無破壞 *Bodh-bh.*
avi-pāla 男 牧羊者.
a-vipula 形 些々たる, 小さき, 僅少なる; 狹, 非廣 *Aṣṭ-pr.:* ~āni cittāni 狹心 *Aṣṭ-pr. 546.*
a-vipraṇāśa 男 (跡形なく)消滅せざる事 [業果に關して言ふ]; 不失, 無滅失, 不壞失, 不可沮壞; 不失法 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Śikṣ., Madhy-v. Mvyut.;* 久住 *Sukh-vy. I.:* ~ḥ kuśala-mūlānām 諸善根不壞失 *Mvyut.*
a-vipraṇāśatā 女 無令損壞 *Śikṣ.*
a-vipratisāra 形 無悔 *Bodh-bh.*
a-vipratisārin 形 無悔, 不散, 不馳散, 未嘗散亂 *Daś-bh., Bodh-bh.*
a-viprapañca 形 永無諸爲, 無諸戲論, 永無諸遊戲 *Mvyut.*
a-viprayukta 過受分 分離せられざる.
a-vipralabdha 過受分 欺かざる.
a-vipravāsa 男 出席; 外國に留らざる事. 形 專求, 不捨 *Gaṇḍ-vy.*
a-vipravāśitatva 中 不離 *Daś-bh.*
a-viprahata 過受分 未踏の(森等).
a-vipluta 過受分 犯されざる; 誓を固守せる.
a-vibruvat 現分 (業)を發表せざる, 言はざる, 秘する; (業)に關する意見を述べざる.
a-vibhakta 過受分 分割せられざる; 物品を共有する.
a-vibhajya 不變分 分割せずして.
a-vibhāga 男 無分割, 無差別; 無別 *Sāṃkhy-k.*
a-vibhāga-vid 形 (屬)の間の區別又は相違を知らざる.
a-vibhāvaniyatā 女 認知せられざる事, 不可見なる事.
a-vibhāvita 過受分 明瞭に認められざる或は知られざる.
a-vibhāvya 未受分 認識又は理解せられざる, 決定せられざる.
a-vibhāvyamāna 受現分 了解せられざる.
a-vibhinna 過受分 (從)より分割せられざる; 無變化の.
avibhinna-kālam 副 同時に.
a-vibhū 形 遍在せざる.
a-vibhūṣaṇa-paricchada 形 裝飾と家具とを缺ける.
a-vibhramśa 形 人を躓かしめざる.
a-vibhrama 形 自若たる; 虚偽ならざる, 佯らざる. 男 心の亂れざる事; 細心, 冷淡.

a-vibhrānta (通受分) 動かされざる; 歪曲せられざる, 確かなる; (漢) 不迷惑, 無有迷惑 *Bodh-bh.*

a-vimanas (形) 放心せざる.

a-vimanaska (形) 元氣よき (*Jāt-m.*); (漢) 無變異意 *Bodh-bh.*

a-vimardanatā (女) (漢) 無能壞 *Sikṣ.*

a-vimarsītavya (未受分) 再考に價せざる.

a-vimīta (通受分) 不可測の, 無限の.

a-vimukta (通受分) 解かれざる, 弛められざる; (漢) 不解, 未解脱, 未得解脱 *Bodh-bh.* (男) [*Siva* 神の稱]; [*Vārāṇasī* 附近の聖浴地の名].

avimukta-citta (形) (漢) 心未解脱 *Abh-vy.*

avimukta-śaiva (男) (或る階級の) *Siva* 派の行者.

avimuktāpīḍa (°ta-āp°) (男) [王の名].

avimukteśa (°ta-īśa) (男) [*Siva* 神の稱].

avimukteśvara (°ta-īś°) (男) [同上].

a-vimukha (形) (漢) 不向背 *Bodh-bh.*; (-°) 愛樂 *Gaṇḍ-vy.* ~m (副) 面を反くることなく, 直面して.

a-vimṛśya (未受分) 疑ふべからざる.

avimṛśya-kāritā (女) 疑を除かれたること.

a-vimṛṣṭa (通受分) 曇れる, 憂鬱なる(顔).

a-vimocana (中) 不自由; 不助成.

a-viyukta (通受分) (具)より分離せられざる.

a-viyuta (通受分) = *avimṛṣṭa.*

a-viyoga (男) (具)より分離せざること.

avi-rajās (中) (漢) 羊塵, 羊毛塵 *Mvyut.*

a-virata (通受分) (途)を棄てざる; ……より釋放又は遮斷せられざる; 絶え間なき; (漢) 未捨 *Mvyut.* ~m (副) (漢) 不斷 *Sikṣ.*

avirata-yajña (形) 絶えず祭を行へる.

a-virati (女) 放肆, 不節制; (漢) 不善, 不遠離 *Madhy-v.*

a-viramāt (現分) (途)を棄てざる.

a-virala (形) 密接なる; 頻繁なる; 激烈なる; (漢) 密, 齊密; 無隙 *Rāṣṭr., Sikṣ., Mvyut.* ~m (副) 確實に; 熱中して, 非常に.

avirala-danta (形) (漢) [三十二相の一] 齒齊密, 齒無隙, 其齒無隙, 齒密不疎 *Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.*

avirala-dantatā (女) 間隙なき齒列を有すること; (漢) [三十二相の一] 齒齊密相, 其齒無隙, 齒密不疎相 *Bodh-bh.*

avirala-dhārā-sāra (男) 絶えず豪雨の降り注ぐこと.

a-viralita (形) 分離せざる, 密接に結合せる.

a-viraha (男) 不分離; 結合.

a-virahita (通受分) 分離せられざる; 結合せられたる; (漢) 不離, 不遠離, 未曾遠離; 不捨, 不捨離, 不暫捨離, 不能捨離 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy.*; 有; 隨逐 *Aṣṭ-pr.*

a-virahitatā (女) [同上 抽]; (漢) 恆 *Gaṇḍ-vy.*

avirahita-śrotra (形) (漢) 至心聽, 攝耳用心 *Suv-pr.:* ~h Śru 審諦聽受 *Sikṣ. 316.*

a-virāgin (形) 無關心ならざる, (總てに)興味を有する.

a-virāmam (副) 間斷なく.

a-viruddha (通受分) 妨げられざる; (具, 圖, -°)に反對せざる; ……と敵對せざる, ……と一致せる; 不

愉快ならざる; (漢) 不相違, 無違諍 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Nyāy-pr.*

aviruddha-prakāra (男) 矛盾なき或は申分なき方法.

aviruddha-hetuka (形) (漢) 不相違因 *Nyāy-pr.*

a-virūḍha (通受分) 不確實なる (*Jāt-m.*).

a-viroddhṛ (形) 戦はざる.

a-virodha (男) (-°)に抵觸せざることを, ……に不利ならざることを; 調和, 一致; (漢) 不乖反, 不相違 *Abh-vy., Bodh-bh.*

avirodha-hetu (男) (漢) 不相違因 *Bodh-bh.*

a-virodhita (通受分) 拒否せられざる.

a-virodhitva (中) (漢) 不違 *Abh-k.*

a-virodhin (形) (圖, -°)と抵觸せざる, ……を害せざる.

a-vilakṣita (通受分) 氣づかれざる, 認められざる; 認め難き.

a-vilamba (男) 躊躇せざることを. (形) 躊躇せざる, 敏速なる. ~m, ~ena (具, 副) 遲滯なく, 猶豫なく.

a-vilambana (中) 遲延なきこと, 躊躇せざることを, 迅速.

a-vilambita (通受分) 躊躇せざる; 緩かに語られざる; (漢) 速, 速疾, 不遲, 不作留滯 *Mañj-m., Bodh-bh.* ~m (副) 遲滯なく.

a-vilambin (形) 遲滯せざる.

a-vilambya (不変分) 躊躇せずして.

a-vilina (通受分) 滅せられざる; [BHū と俱に] 生存す, 生き残る.

a-vilupta (通受分) 喪失せざる, 傷けられざる.

a-vilupya (未受分) 破壊せられざる.

a-vilokana (形) (漢) 盲冥, 無明, 無(慧)目 *Daś-bh.*

a-vilokanatva (中) (漢) 不假觀 *Daś-bh.*

a-vilopa (中) 中斷なきこと, 障礙なきこと, 損傷なきこと.

a-viloma-sthāyin (形) (漢) 隨順 *Gaṇḍ-vy.*

a-vivara (形) 孔口なき, 間隙なき.

a-vivarta (形) (漢) [Samādhi の名] 無變異, 無廻轉 *Mvyut.*

a-vivartaka (形) (漢) 不退 *Sam-r.*

avivarta-vīrya (形) (漢) 精進不退, 精進無退轉, 精進勇猛不退 *Gaṇḍ-vy.*

a-vivartika (形) (漢) 不退, 不退住, 不退轉, 無懈退 *Saddh-p., Sikṣ.;* (音寫) 阿惟越致, 阿鞞跋致 *Saddh-p., 玄應.*

avivarti-cakra (中) (漢) 不退輪 *Saddh-p.*

a-vivartiya (未受分) (俗) [<avivartya]; (漢) 不退, 不退轉 *Saddh-p., Sam-r.*

a-vivartiyatva (中) (俗) [<avivartyatva]; (漢) 永不退 *Daś-bh. 75.*

a-vivartya (未受分) (漢) 不退, 不退轉, 無退轉, 不可迴轉; 不認 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Abh-vy., Bodh-bh.*

a-vivartyatā (女) (漢) 不退捨, 不捨離 *Gaṇḍ-vy.*

a-vivartyatva (中) (漢) 無退 *Daś-bh.*

a-vivāda (形) 論議すべからざる, 明白なる, 何に就きても總て合意せる. (男) 無論争; 一致.

avivāda-bhūmi (女) (漢) 非諍地 *Sam-r.*

a-vivādin 形 争はざる。
a-vivārya 未受分 四 不廻遮, 不可廻遮 *Mvyut.*
a-vivāha 形 結婚生活を営み居らざる。
a-vivāhin 形 結婚するに適當ならざる, 結婚すべからざる。
a-vivāhya 未受分 (女) 妻となすべからざる, 共に姻戚關係を結ぶべからざる。
a-vivikta 通受分 分離又は區別せられざる; 決定せられざる。
avivikta-darsana 形 四 不見寂靜, 不見寂滅 *Lank.*
a-vivṛta 通受分 剝がれざる, 暴露せられざる; 知られざる, 隠されたる; 弱點を示さざる。
a-viveka 男 識別力の不足; 判断の缺如; 無差別, 不分離。形 判断を闕ける。
a-vivekatā 女 [同上(形)揃]。
a-vivekitā 女 [同上]。
a-vivekin 形 分たれざる; 洞察力を闕ける; 判断力を有する人なき; 四 不相離 *Sāmkhy-k.*
a-vivenat 現分 背かざる, 好意ある。
a-viśaṅka 形 躊躇せざる, 疑を懐かざる; 恐れざる。
a-viśaṅkā 女 躊躇せざること, 臆病ならざること。
a-viśaṅkita 通受分 恐れざる; 躊躇せざる。
a-viśaṅkin 形 臆断又は假定せざる。
a-viśada 形 明白ならざる; 硬き, 頑固なる。
a-viśaṣṭr 男 熟練せざる屠殺者又は肉切人。
a-viśārada 形 (男)に通ぜざる, ……に長ぜざる; 臆病なる。
a-viśāla-bhāva 男 狭きこと。
a-viśiṣṭa 通受分 異ならざる, 等しき; 四 同; 不異, 無別, 無差別; 無有奇特 *Lank., Sūtr., Abh-vy., Madhy-vibh.:* ~ā pratiṣṭātiḥ 無差別正行 *Madhy-vibh. 251.*
a-viśiṣṭatā 女 [同上揃]; 四 無増, 不増 *Madhy-vibh.*
a-viśiṣṭatva 甲 [同上]。
a-viśuddha 通受分 不淨なる, 不純なる; 精査せられざる; 四 不淨, 非清淨; 濁; 昧, 不明 *Aṣṭ-pr., Sāmkhy-k., Bodh-bh.:* pradīpasya ~sya (男)昧燈 *Bodh-bh. 406.*
aviśuddha-dharman 形 四 不淨法者 *Aṣṭ-pr.*
aviśuddhāgamopadeśa-lakṣaṇa (°dha-āg°, °ma-up°) 甲 四 非(善)清淨言教相, 不淨教論相 *Mvyut.* → *suviśuddhāgamopadeśa-lakṣaṇa.*
a-viśuddhi 女 不淨, 不純; 四 不淨, 不清淨; 染, 雜染 *Madhy-vibh.*
a-viśeṣa 男 相違せざること; 無差別, 同様, 劃一; 四 無異, 不異; 不別, 不分別, 無差別, 無有差別 *Buddh-c., Lank., Sāmkhy-k., Bodh-bh.;* 無二 *Sūtr.;* (五)唯身 *Sāmkhy-k.* ~āt (女), ~eṇa (男) 特殊の區別又は差異なく, 同様に, 等しく。形 無差別なる, 一樣なる。
a-viśeṣa-jña 形 分別なき, 判断力なき; 四 不知差別 *Lank.*
a-viśeṣa-jñatā 女 [同上揃]。
a-viśeṣaṇa 甲 四 無差別 *Bodh-bh.*

a-viśeṣatas 副 相違なく。
a-viśeṣatā 女 四 無差別 *Aṣṭ-pr.*
aviśeṣa-lakṣaṇa 形 四 非差別之相 *Lank.*
aviśeṣa-vartitva 甲 四 無差別轉 *Abh-vy.*
a-viśeṣita 通受分 特に述べられざる。
a-viśodhya 未受分 四 不可修治 *Bodh-bh.:* ~m bijam 不可修治種子 *Bodh-bh. 401.*
a-viśrabdha 通受分 四 惶懼不安 *Aṣṭ-pr.*
a-viśrama 形 絶え間なき, 間断なき; 緩めざる。
a-viśramat 現分 憩はざる, 絶えず從事する。
a-viśrambha 男 不信用, 遠慮。
a-viśrambhatā 女 [同上揃]。
a-viśrāṇita 通受分 贈與せられざる。
a-viśrānta 通受分 休息せざる, 絶え間なき; 緩めざる; 四 未曾休廢, 未曾休懈 *Saddh-p.:* akhinno ~h 無有懈倦, 未曾懈倦 *Saddh-p. 256.*
a-viśrāma 形 休息せざる; 絶え間なき, 間断なき。~m 副 休息なく, 間断なく。
a-viśliṣṭa 通受分 一致せる, 同意せる。
a-viśva 甲 萬有ならざるもの, 宇宙ならざるもの。
a-viśvasat 現分 不信用の。
a-viśvasaniya 未受分 信用せられざる。
a-viśvasaniyatā 女 [同上揃]。
a-viśvasaniyatva 甲 [同上]。
a-viśvasta 通受分 信用せられざる, 疑はれたる。
a-viśvāsa 形 不信用の。男 不信用; 疑; 四 不樂 *Sam-r.* ~m 副 疑ひて。
aviśvāsa-janaka 形 疑惑を起さしむる。
a-viśvāsin 形 不信用なる。
a-viśvāsyā 形 四 非同意 *Bodh-bh.*
a-viṣa 甲 無毒。形 有毒ならざる。
a-viṣakta 通受分 (一°)に結びつけられざる, (一°)に附著せられざる; 抵抗し難き; 抑制せられざる。
a-viṣaṇṇa 通受分 四 無退屈, 不息不壞 *Bodh-bh.*
a-viṣama 形 不等ならざる; 平等なる; 粗暴ならざる, 好意ある; 四 平正, 非不平等 *Sikṣ., Bodh-bh.* ~m 副 好意を以て。
a-viṣamatva 甲 四 平正 *Sikṣ.*
aviṣama-pāda 形 四 足無不平 *Mvyut.*
aviṣama-pādatā 女 均等なる兩脚を有すること (*Dharm-s.*)
a-viṣaya 男 領域なきこと; 無對象, 無關係; 實施せられ難き或は禁ぜられたる事; (男)に對し適當なる對象ならざること; 四 非境界 *Lank.* ~e (女) (男)の缺けたる場合に。形 領域を有せざる, 對象なき。
a-viṣayatva 甲 [同上揃]; 四 非境, 非所緣境 *Abh-vy.*
aviṣaya-manas 形 感官の對象に心の向かざる; 非現世的なる。
aviṣayi-karaṇa 甲 (男)を(男)の對象となさざること。
a-viṣahya 未受分 堪へられざる, 支へられざる; 實行し難き; 抗し難き; 近づき難き。
a-viṣāṇa 形 角(?)なき。
aviṣāṇa-hetuka 形 四 非角因, 不因角生, 非因

角有 *Lāṅk.*
a-*viṣāda* 男 臆せざること, 大膽; 快活. 形 無縮, 無退屈 *Mvyut.*
a-*viṣādītā* 女 [同下] (*Jāt-m.*).
a-*viṣāditva* 甲 [同下 困].
a-*viṣādin* 形 臆せざること, 大膽なる, 自若たる, 平靜なる.
a-*viṣṭha* 形 (最上) 甚だ悦びて受くる.
a-*viṣṭhāna* 形 無礙, 不斷續 *Abh-vy., Mvyut.*
a-*viṣyā* 女 熱望, 熱心, 情熱.
a-*viṣyu* 形 熱心なる; 執念深き.
a-*visamyoga* 男 不相離, 不離繫 *Madhy-vibh.*
 形 常不乖離 *Bodh-bh.*
a-*visamvāda* 男 矛盾なきこと; 約束を破らざること.
a-*visamvādaka* 形 無虚妄 *Bodh-bh.*
a-*visamvādana* 甲 約束を守ること; 不虛, 無虚妄, 不虛偽, 不誑, 不行虚誑, 不生欺誑 *Bodh-bh.*; 不壞法 *āśy.*
a-*visamvādin* 形 矛盾せざること, 一致する.
a-*visargin* 形 間歇的ならざる.
a-*visāra* 男 不動 *Madhy-vibh.*
a-*vi-sūnā* 女 殺羊處 *Divy. 10.*
a-*vistirṇa* 過受分 擴がらざる, 狭き範圍の.
a-*vistṛta* 過受分 [同上].
a-*vi-sthala* 甲 [町の名].
a-*vispandita* 過受分 震へざること, 顫動せざること.
a-*vispaṣṭa* 過受分 明白ならざる; 漠然たる. 甲 不明瞭なる言語; 不明瞭なること. 〰m 圖 漠然として.
a-*vismaya* 男 尊大ならざること, 謙遜 (*Jāt-m.*).
a-*vismaraṇa* 甲 形 不忘, 不忘失 *Bodh-bh., Mvyut.*
a-*vismita* 過受分 驚かされざること, 度を失はざること; 傲慢ならざる.
a-*vismṛta* 過受分 忘却せられざること.
a-*vismṛti* 女 忘却せざること, 記憶; 念, 正念 *Gaṇḍ-vy.*
a-*visrāvya* 形 (水を) 流れ去らしめ得ざること; 出血なく (く治療すべき).
a-*vihata* 過受分 黜けられざること; 妨げられざること; 非難すべき所なき.
a-*vihata-gati* 形 障礙なき進路の.
a-*vihiṃsaka* 形 (何人をも) 害はざること; 離惡, 離諸怨害 *Gaṇḍ-vy.*
a-*vihiṃsat* 現分 [同上].
a-*vihiṃsā* 女 害を加へざること; 不害, 不起害心, 非逼惱 *Lal-v., Sam-r., Abh-k., Abh-vy.*
a-*vihiṃsā-citta* 甲 無害心, 不害心 *Aṣṭ-pr.*
a-*vihiṃsra* 形 害を與へざること.
a-*vihita* 過受分 規定せられざること, 禁せられたること; 作爲せられざること, 人爲的又は技巧的ならざる.
a-*vihita-siddha* 過受分 虚偽ならざる, 人爲的ならざる.
a-*vihina* 過受分 不失 *Abh-vy.*
a-*viheṭha* 形 不能惱觸 *Bodh-bh.*
a-*viheṭhana* 甲 無損惱, 不損惱, 不惱害, 無所惱害, 無所燒害; 不欲違損 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Vijñ-*

t., Abh-vy.

a-*viheṭhanatā* 女 不損惱 *Bodh-bh.*
a-*viheṭhanā-citta* 甲 無惱心 *Aṣṭ-pr.*
a-*viheṭhita* 過受分 害せられざること, 損傷なき.
a-*vihvala* 形 確乎たる, 躊躇せざること; 尊大なる, 勇氣ある; 愉快なる.
a-*vikṣita* 過受分 認められざること.
a-*vici* 形 波なき, 波動なき; 間斷なき. 男 [地獄の名]; 無間, 無間獄; 無間地獄; (音寫) 阿鼻獄, 阿鼻地獄, 阿毗地獄 *Bodh-c., Sūtr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*; (音寫) 阿鼻, 阿鼻旨, 阿鼻指, 阿毗至, 阿鼻至 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Rāṣṭr., Bodh-c., Abh-vy.*, 支應: *aṣṭāṅgikavīci-vṛtta* [音寫] *°kavīci = °kāvīci = °kāksana* 八分の無暇 (= 難) に生れたること 無暇八難 *Suv-pr. 35.*
a-*vicika* 形 無間, 無擇地獄 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lāṅk.*; (音寫) 阿鼻, 阿鼻(獄) *Daś-bh., Lāṅk.*
a-*vicimat* 形 波なき. 男 [= *Avīci* 地獄].
a-*vita* 過受分 (手を) 觸れられざること, 犯されざること; (供物として) 享けられざること; 未離, 不離 *Abh-vy.*
a-*vitaka* 甲 圍はれざる場處.
a-*avita-tṛṣṇa* 男 未離愛, 未離愛欲 *Abh-vy. 256.*
a-*vira* 形 (女 -ā) 男子なき; 男らしからざる, 弱き; 子供なき. 甲 勇者又は男子なき地方.
a-*vira-juṣṭa* 形 人に好まれざること.
a-*vira-puruṣa* 男 虚弱者.
a-*virā* 女 夫及び子なき女, 寡婦.
a-*virya* 形 弱き, 無力の.
a-*vṛka* 形 損傷せざること; 安全なる. 甲 安全.
a-*vṛkṣa* 形 樹木なき.
a-*vṛjina* 形 狡猾ならざる, 奸計なき, 率直なる.
a-*vṛta* 1. 過受分 阻害せられざること.
a-*vṛta* 2. 過受分 選ばれざること, 招待せられざること.
a-*vṛtta* 1. 過受分 起らざりし; (未だ) 死せざること.
a-*vṛtta* 2. 過受分 行爲の正しからざる, 不行跡の.
a-*vṛtti* 1. 女 糊口に窮せること, 貧窮.
a-*vṛtti* 2. 形 起らざること; 不轉 *Sūtr.*
a-*vṛttika* 形 生計の資を闕ける.
a-*vṛthārtha* (*°thā-ar°*) 形 相應せる意義又は名を有する.
a-*vṛthārthatā* (*°thā-ar°*) 女 [同上 困].
a-*vṛddha* 過受分 年老いざること.
a-*vṛddhika* 形 無利息の.
a-*vṛdha* 形 喜ばざること; (供儀を以て神を) 榮えしめざること.
a-*vṛṣaṇa* 形 睪丸を缺ける.
a-*vṛṣṭa* 過受分 降雨せざること, 雨を降らざること.
a-*vṛṣṭi* 女 旱魃.
a-*vṛha* 男 覆 [天の名] 無煩, 無煩天 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sam-r., Dharm-s., Mvyut.*
ave (ava-I) *aveti.* → I.
avekṣ (ava-Īkṣ) *avekṣate.* → Īkṣ.
avekṣaṇa (ava-ik°) 甲 視ること; (圖) に對する注意又は配慮; 觀待, 分別 *Daś-bh.*
avekṣaṇiya (ava-ik°) 未受分 注意せらるべき.
avekṣatā 女 [apa-Īkṣ 上; *Pāli. apekkhā, apekhā* 參

照] 先見すること (*Divy.* 253.).
avekṣā (ava-ik°) ㊦ 注意, 配慮; (㊦)に於ける顧慮
 又は顧念. → an~.
avekṣāvat (ava-ik°) ㊦ 具見 *Mvyut.*
avekṣita (ava-ik°) ㊦ 觀; 顧視; 眼瞬 *Lal-*
v., Divy.
avekṣitavya (ava-ik°) ㊦ 注視せらるべき.
avekṣin (ava-ik°) ㊦ 凝視する, 注視する; (㊦)に注
 意を向くる; 佛敎 [apa-īks ㊦; *Pāli.* apekkhin ㊦]
 考ふる, 注意する, 期待する, ……を求むる (*Jāt-m.*).
avekṣya (ava-ik°) ㊦ 注意せらるべき.
avetya ㊦ [ava-I ㊦ 又は a-vi-I ㊦; *Pāli.* avecca]
 證して (*Jāt-m.*).
avetya-prasāda ㊦ 證淨, 淨信, 不壞信; 見知,
 信知, 知而信敬 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
a-veda ㊦ *Veda* ならざるもの.
a-vedaka ㊦ 無受, 無所受, 無作受 *Aṣṭ-pr.,*
Abh-vy.
a-vedana ㊦ 無知.
a-vedayāna ㊦ 知らしむる能はざる, 知らざ
 る; 確めざる.
a-veda-vihita ㊦ *Veda* に於て規定せられざる.
a-vedi 1. ㊦ 知らざること, 無知.
a-vedi 2. ㊦ *Vedi* 又は祭壇なき.
a-vedin ㊦ 無知なる.
avedokta (°da-uk°) ㊦ *Veda* に説かれざる.
a-vedya 1. ㊦ 知らるまじき, 確め得ざる.
a-vedya 2. ㊦ 婚せらるまじき.
a-vedhya ㊦ 貫通せらるまじき.
a-velam ㊦ 折悪しく, 季節外れに.
a-veśa-sadrśa ㊦ 賣淫に相應せざる.
a-vaikalya ㊦ 不闕, 無闕, 無闕減; 具足, 無
 不具足; 無所乏少; 不壞不減 *Aṣṭ-pr., Madhy-v.,*
Bodh-bh., Madhy-vibh.
a-vaikalyatā ㊦ 無有乏少, 無所乏少 *Suv-pr.*
a-vaikṛta ㊦ 醜くせられざる, 畸形ならざる, 變形せ
 られざる.
a-vaicitrya ㊦ 非雜, 非種種 *Lank.*
a-vaidagdhya ㊦ 明敏ならざること, 愚鈍.
a-vaidya ㊦ 無學なる.
a-vaidha ㊦ 規則に符合せざる, 規定せられざる.
a-vaidhavya ㊦ 寡婦の境遇にあらざること.
a-vaibhāṣika ㊦ (音寫) 違毘婆沙執, 違越毘婆
 沙宗 *Abh-vy.* 360.
a-vaiyarthya ㊦ 不虛 *Sūtr.*
a-vaira ㊦ 敵意なきこと; 友愛 (*Jāt-m.*). ㊦ 無怨
Buddh-c., Aṣṭ-pr., Mvyut.
a-vairi-juṣṭa ㊦ 敵さへも同意せざる.
a-vairin ㊦ 敵意を有せざる.
a-vaivarta-cakra ㊦ [經名] 不退轉輪 *Mvyut.*;
 ㊦ 阿惟越致遮(經) *Mvyut.*
a-vaivartika ㊦ 後退又は退轉せざる; 不退, 不
 退墮, 不退轉, 不復退轉 *Rāṣṭr., Sapt-pr., Suv-pr.,*
Madhy-vibh.; ㊦ 阿惟顏, 阿惟越致, 阿鞞跋致,
 立應.
a-vaivartikatva ㊦ [同上 ㊦] (*Sukh-vy. I.*).

avaivartika-bhūmi ㊦ 不退地, 不退轉地, 不
 退位 *Sapt-pr., Bodh-bh., Madhy-vibh.*: ~au
vyākaraṇa-lābha-samudāgamaḥ 得不退地受記修證,
 得不退位授記(習起) *Madhy-vibh.* 269.
a-vaivartya ㊦ 不退, 不退轉 *Gaṇḍ-vy.,*
Saddh-p.
avaivartya-dharma-cakra ㊦ 不退轉法輪
Saddh-p.
avaivartyadharmacakra-pravartaka ㊦ 轉
 不退轉法輪 *Saddh-p.*
avaivartya-bhūmi ㊦ 不退轉地, 阿惟越致地
Saddh-p.
avokṣaṇa (ava-uk°) ㊦ 灑水, 撒水.
avocat, [Vac の ㊦ ㊦ ㊦].
avya ㊦ 羊の, 羊毛の, 羊毛製の. ㊦ (羊毛製の) Soma
 汁濾過器.
a-vyakta ㊦ 現はれざる, 認め難き; 不明瞭なる.
 ㊦ 宇宙の大靈. ㊦ 未顯現の原始物質又は原始精神;
 ㊦ 性, 自性; 不了事; 非變異, 非辯 *Bodh-bh.,*
Sāmkhy-k.; 不見, 不顯現 *Buddh-c.*
a-vyaktamayi ㊦ 非變異(即ち *pradhāna* 「勝因」)
 に関する(*vidyā* 「知識」).
avyakta-rūpa ㊦ 不明瞭なる, 不定の; 性の不確實
 なる.
a-vyagra ㊦ 無關心なる, 平然たる, 確乎たる; 静か
 なる; 安全なる; 混亂せざる; ㊦ 無所動 *Gaṇḍ-*
vy. ~m ㊦ 無關心に; 平然として, 確かに; 静
 かに.
a-vyaṅga ㊦ 完全に四肢を有する; ㊦ 具足 *Mañj-*
m. → *vyaṅga* ~tā.
a-vyaṅgatā ㊦ 不完全又は不具ならざること.
avyaṅgāṅga ㊦ 完全なる, 不具ならざる, 肢體の完
 備せる.
a-vyañjana ㊦ 鬚なき; 思春期の徴なき; ㊦ 無根,
 無形者 *Abh-vy.* → *vyañjana*.
a-vyatikrama ㊦ 違背せざること, (約束の)履行;
 ㊦ 無有違犯 *Bodh-bh.*
a-vyatikramaṇa ㊦ 不過, 無過 *Mvyut.*
a-vyatibhinna ㊦ 不碎 *Bodh-bh.*
a-vyatibheda ㊦ 不相離 *Abh-vy.*
a-vyatirikta ㊦ ……より分離せられざる.
a-vyatireka ㊦ 除外せられざること, 例外なきこと,
 ……の範圍を出でざること; 差異なきこと; ㊦ 不
 離 *Nyāy-pr.*
a-vyativṛtta ㊦ 曾未解脫, 未得解脫 *Sikṣ.*
a-vyatha ㊦ 逡巡せざる, 臆せざる; 苦痛なき; 實效
 ある.
a-vyathi ㊦ 逡巡せざる, 臆せざる; 確かなる, 安全
 なる.
a-vyathin ㊦ 惑亂せざる.
a-vyanti-kṛta ㊦ 未得清淨(?), 未離 *Mvyut.*
a-vyapadeśa ㊦ 名稱なきこと, 稱呼なきこと.
avyapadeśa-rūpin ㊦ 表現し難き形相の.
a-vyapadeśya ㊦ 言ひ詮はす能はざる, 名づく
 る能はざる, 定義し得ざる; 虚構し得ざる; ㊦ 無
 可指示 *Mvyut.*

a-vyabhicāra 男 失敗なきこと、違背せざること；確定せること、確實性、絶對的必然性；貞節；**決** 決定 *Nyāy-pr.* ～**ena** 男，～**āt** 女 **決** 絶對的必然を以て。形 永續せる。

a-vyabhicāravat 形 絶對的に決定せる、避け難き。

a-vyabhicārin 形 決して誤らざる、確かなる；永久の；忠實なる；**決** 決定、無雜亂、無散亂 *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*

a-vyabhicāra 男 貞操。形 忠實なる。

a-vyaya 男 消費せざること、吝嗇。形 不滅の、不變の；慳貪の；**不** 不滅、無滅 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.* ～**m** 女 **必** *Lal-v.* 甲 不變化語。

a-vyayatva 甲 不滅。

avyayātman (°ya-āt°) 形 不滅性の。

avyayi-bhāva 男 (不變の状態)、不變合成語；**不** 不可盡 *Mvyut.*

a-vyalya 形 苦惱なき；虚偽なき、眞なる。

a-vyavakirṇa (過受分) **不** 不雜、離雜、不雜亂、不爲…之所陵雜；無亂；清淨 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → *avyāvakirṇa.*

a-vyavacāra 形 **不** → *śikṣāpada-dravyatā*～。

a-vyavacchinna (過受分) 遮斷せられざる；中絶せられざる；**不** 無斷、不斷；不廢捨；不可壞 *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*

a-vyavadāna 形 **染** *Lank.*

a-vyavadhāna 甲 中斷なきこと、分離せざること、連續。形 中絶せざる、蔽はれざる、裸の。

a-vyavadhāyaka 形 介入せざる、無干涉の。

a-vyavadhāyakatva 甲 [同上]。

a-vyavadhiyamāna-vijaya 形 (男)の干涉なくして勝利を得たる。

a-vyavalokya (未受分) 不能見、不得見 *Abh-vy.*

a-vyavasana 形 邪行なき。

a-vyavasāyin 形 無氣力なる、勢なき；不決定なる。

a-vyavasita (過受分) [同上]。

a-vyavasina 形 = *a-vyavasana.*

a-vyavastha 形 恆久ならざる；不規則の。

a-vyavasthā 女 不安定；不規則。

a-vyavasthāna 甲 確定せざること；確乎たる地位を得ざること；**不** 不定 *Abh-vy.*

a-vyavasthita (過受分) 法規又は實際と矛盾せる；整然たらざる、不規則なる；**無** 無決定 *Buddh-c.*

avyavasthita-citta 形 心の浮薄なる。

a-vyavahāra 男 不作法なる態度；表現を用ひざること。形 表現せられざる、説明を超えたる；**不** 默然、不可説、不可言説 *Aṣṭ-pr.*, *Fajr-pr.*

a-vyasanin 形 惡徳を離れたる。

a-vyasta (過受分) 分散せられざる、分割せられざる；**不** 不亂 *Buddh-c.*

a-vyākaraṇa 甲 **不** 不記、非記 *Lank.*, *Sūtr.*

a-vyākula 形 **無** 無亂 *Bodh-bh.*

a-vyākṛta (過受分) 断たれざる、分たれざる；發現せられざる、説明せられざる；**無** 無記、未授記、未得記、無記論、無記法 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

avyākṛta-naya 男 **無** 無記法 *Sūtr.*

avyākṛta-mūla 甲 **無** 無記根 *Mvyut.*: *catur-dāsa* ～*āni* 十四無記根 [1. *sāśvato lokaḥ* 世常, 2. *aśāśvato lokaḥ* 世無常, 3. *sāśvataś cāśāśvataś ca* 亦常亦無常, 4. *naiva śāśvato nāśāśvataś ca* 非常非無常, 5. *antavāṃ lokaḥ* 世有邊, 6. *anantavāṃ lokaḥ* 世無邊, 7. *antavāṃś cānantavāṃś ca* 亦有邊亦無邊, 8. *naivāntavāṃ nānantavāṃ* 非有邊非無邊, 9. *bhavati tathāgataḥ param maraṇāt* 如來死後爲有, 10. *na bhavati tathāgataḥ param maraṇāt* 如來死後非有, 11. *bhavati ca na bhavati ca tathāgataḥ param maraṇāt* 如來死後亦有亦非有, 12. *naiva bhavati na na bhavati tathāgataḥ param maraṇāt* 如來死後非有非非有, 13. *sa jīvas tac chariraṃ* 命者即身, 14. *anyo jīvo 'nyac chariraṃ* 命者異身] *Mvyut.*

a-vyākṣepa 男 心の散漫ならざること；決然たること。果斷；沈著。

a-vyākhyeya (未受分) 言ひ詮はし難き、説き難き、難解の。

a-vyāghāta 形 **無** 無礙 *Sūtr.*

a-vyāja 男 伴りなきこと、愚直。形 自然の、眞實の、伴らざる。

a-vyādhi-ja 形 疾病に關せざる。

a-vyāpanna (過受分) 死せざる、生存せる；汚れざる、惡に染まらざる；無害の、傷害せざる (*Divy.*)

avyāpanna-citta 形 **無** 無瞋恨、離瞋恚、離瞋害心 *Daś-bh.*

a-vyāpāda 男 害意を離れたること；**無** 無瞋、不瞋 *Lal-v.*, *Mvyut.*

a-vyāpāra 男 自己の仕事に非ざること；形 **無** 無事 *Bodh-c.*

a-vyāpārīta (過受分) **不** 不求 *Bodh-c.*

a-vyāpin 形 廣大ならざる、包括的ならざる；**不** 不普、不遍 *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Sāmkhy-k.*

a-vyāpṛti 女 **無** 無用、無事 *Madhy-vibh.*

a-vyāpta (過受分) 滿されざる、混合せられざる。

a-vyābādha 形 **無** 無有損害 *Mvyut.* → *avyāvādha.*

a-vyābādhya (未受分) **無** 無損、無惱害 *Bodh-bh.*

avyābādhya-sukha 甲 **無** 無惱害樂 *Bodh-bh.*

a-vyāyāma 男 (肉體的)努力又は練習を闕くこと。

a-vyāla-ceṣṭita 形 狡猾ならざる、忠實なる(象)。

a-vyāvakirṇa (過受分) [音律], = *avyavakirṇa*]; **無** 無聞 *Sūtr.*

a-vyāvartaniya (未受分) 取り戻し難き。

a-vyāvādha 形 = *avyāvādha*; **不** 不諍怒、無有過失 *Saddh-p.*

a-vyāvṛtta (過受分) 分たれざる、區別せられざる；同時の；**不** 不遺、不可轉；不可滅 *Lank.*, *Nyāy-pr.*

a-vyāhata (過受分) 妨げられざる；矛盾なき、違背することなき；**無** 無礙 *Sūtr.*, *Bodh-bh.* ～**m** 女 **無** 無礙 *Bodh-bh.*

avyāhata-mata 甲 **無** 無礙慧 *Sūtr.*

a-vyāhṛta (過受分) 甲 不言；沈黙。

a-vyucchinna (過受分) 中絶せられざる、遮られざる；**不** 不斷絶、長生不斷、相續恆住不斷；無暫捨、恆

不倦 *Gaṇḍ-vy., Laṅk.* ～m 剛 常, 未曾休懈 *Saddh-p.*
a-vyucchettr 甲 中絶せざる, 妨げざる. 剛 害を與へざる人.
a-vyutthāna 甲 讓歩せざること, 固執すること.
a-vyutthānatā 女 不起, 不能發露懺悔 *Kāśy., Bodh-bh.*
avyutthānāśaya (°na-āś°) 形 不越期心, 無更起心 *Abh-vy.*
a-vyutpanna 通受分 結果を得ざる, 完成せざる, 經驗せざる; 語原を有せざる; 不了, 未解義, 未解了(者), 不解義(者) *Bodh-bh.*
avyutpanna^{amati} 形 無教育の.
a-vyupaśama 男 不靜 *Abh-vy.*
a-vyuṣṭa 通受分 [Vas] 未だ起らざる, 未だ輝かざる.
a-vraṇa 形 無疵なる, 完全なる.
a-vrata 形 神を敬はざる; 祭典を行はざる, 宗教的誓を守らざる; 不從順なる.
a-vratavat 形 祭典を行はざる.
a-vratika 形 [同上].
a-vratin 形 [同上].
Aś 1., V. aśnoti, aśnute 到達す; 達成す; 遭遇す; 捧ぐ; 楽しむ; 得 *Bodh-c.*
apa- 捨 *Lal-v.*
abhi-, ud-, upa-, sam-upa-, pra-, vi-, sam- 到達す; 支配す.
Aś 2., IX. 他 aśnāti 食ふ, (飲食を)攝る; 味ふ; 楽しむ. 通受分 **aśita** 食はれたる; 食したる. 使役 **āśayati** (業)をして(業)を食はしむ, 食物を與ふ. 使役 通受分 **āśita** 食を與へられたる, 満足せしめられたる. 希求 **aśiṣa-** 食はんと欲す.
upa-, pra- [=單純動詞].
abhi-pra- (業)に加へて或はの外のものを食す.
sam- [=單純動詞].
aś 3. [軟字の文法的總稱].
a-śakali-karaṇa 形 切斷する所なき.
a-śakuna 甲 凶兆, 不吉なる前兆.
a-śakta 通受分 (不定, 爲, 因)すること能はざる; 不能, 無能, 無堪能 *Saddh-p., Bodh-bh.*
a-śakti 女 無能力; 虛弱; 無能 *Sāṃkhy-k.*
a-śaknuvat 現分 (不定)すること能はざる.
a-śakya 未受分 不可能なる.
aśakyārtha 形 不可能なる; 無効なる.
a-śaṅka 形 恐怖なき; 安全なる, 確かなる, 據らるべき. ～m 剛 恐怖なく.
a-śaṅkaniya 未受分 恐れらるゝことなき.
a-śaṅkita 通受分 恐怖なき, 臆病ならざる. ～m 剛 躊躇なく; 恐怖なく; 期待せずして, 突然.
a-śaṅkya 未受分 疑念を起すべからざる; 期待すべからざる, 承認すべからざる.
a-śaṭha 形 伴らざる, 狡獪ならざる, 信すべき; 無詔, 不曲, 不詐詔, 無詔曲, 不懷詔曲, 心無詔曲 *Lal-v., Sukh-vy. I., Bodh-bh.*
aśaṭha-dhi 形 奸惡なる意圖を有せざる, 信すべき.
a-śatru 形 敵なき, 敵の抵抗なき.

aśan 男 石, 岩; 天穹.
aśana 1. 形 達する.
aśana 2. 甲 食事; 食物; 饌, 食 *Lal-v., Kāśtr., Bodh-c., Sūtr., Mvyut.* → an～. 一° 形 …を食する.
aśana-kriyā 女 食事をなすこと.
aśanā 女 飢.
aśanānaśana 甲 攝食と斷食.
aśanā-pipāsā 女 兩 飢と渴.
aśanāya 名動 他 食物を求む, 飢う.
aśanāyā 女 飢.
aśanāyā-pipāsā 女 兩 飢と渴.
aśanāyāvat 形 飢ゑたる.
aśani 女 [善は又男] 電光, 稲妻; 電, 雷電; 霹靂, 霹靂火; 雷電霹靂; 雹, 霜雹, 雹雨, 天雹雨 *Divy., Buddh-c., Śikṣ., Sāṃkhy-k., Abh-vy., Bodh-bh.*
aśani-grāvan 男 金剛石.
aśanin 形 電光を有する.
aśani-prapāta 男 雨雹, 雹雨 *Bodh-bh.*
aśani-prabha 男 [或る Rākṣasa の名].
aśani-hata 形 電光に撃たれたる.
aśani 女 = aśani; 鏃; 雹 *Bodh-bh.*
aśani-prapāta 男 [= aśani-p°]; 雨雹, 雹雨 *Bodh-bh.*
aśanais 剛 非常に, 烈しく.
a-śabala 形 無雜; 無濁, 不濁, 不濁亂 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
a-śabda 形 沈黙の, 無言の; *Veda* に於て教へられざる, 非 *Veda* 的の; 無聲 *Abh-vy.*
a-śam 不 不吉, 不幸.
a-śama 男 寂靜ならざること, 不安靜.
a-śayya 男 [一群の隱遁者の名].
a-śaraṇa 甲 無防備. 形 保護せられざる, 援助なき; 無歸(者), 無依歸(者), 無(復)恃怙, 無所歸依 *Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.*
aśaraṇi-Kṛ, 無防備となす.
a-śaraṇya 形 庇護をなさざる, 防備なき; 無有救護 *Suv-pr.*
a-śarira 形 身體なき, 實體を闕ける; 無形; 非身, 無身, 非是身, 遠離於身相; 無質, 無形質; 無體, 無實體, 無體性 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk.* 男 *Kāma* 神(→ an-aṅga).
a-śariratva 甲 [同上(形)剛]; 無身, 無實體, 無體性 *Laṅk.*
a-śariravat 形 無身, 非身, 無有身 *Laṅk.*
a-śaririn 形 身體を有せざる.
a-śarkara 形 砂礫なき, 小石なき.
a-śarman 甲 苦惱, 悲哀, 不幸. 形 悲しき.
a-śas 形 呪ふ, 憎む, 幸福を願はざる.
a-śastra 形 劍なき, 武器なき. ～ena 剛 不用刀杖, 無刀 *Bodh-bh., Mvyut.*
a-śastra-pāṇi 形 手に劍を把らざる.
a-śastra-pūta 形 劍を以て祓淨せられざる.
a-śastra-vadha 男 武器によらざる殺害.
a-śastra-vadhyatā 女 如何なる武器によりても殺す能はざること.

a-sākya-putriya 形 漢譯 非佛子, 非釋迦子, 非釋種子, 不堪佛子 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*

a-sāṭhya 形 漢譯 不行諂, 無虛誑 *Rāṣṭr., Bodh-bh.*

a-sāta 形 [=asāta, Tib. mi-bde-ba] 不悅 *Prajñ-vy. (Mah-v.).*

a-sānta 通受分 制御せられざる, (心の)寂靜ならざる, 馴らされざる, 野生の, 粗暴の; (祭祀によりて)淨められざる, 神聖ならざる; 聖教に従はざる.

aśānta-tanu 形 不満足なる身體の.

a-sāntatā 女 寂靜を闕けること, 感情に動かされ易きこと.

aśānti-kara 形 災厄を齎らす.

a-sālinatā 女 不作法, 粗野.

a-sāśvata 形 常住ならざる, 恆久ならざる; 漢譯 不常, 無常, 非常, 非恆, 不常恆, 不久 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Śikṣ., Madhy-v., Mvyut.*

a-sāśvatatā 女 漢譯 無常 *Laṅk.*

a-sāsat 現分 罰せざる.

a-sāstra-cakṣus 形 論書(Sāstra)の見地より見ざる.

a-sāśya 未受分 非難すべからざる; 罰すべからざる, 罪なき.

a-sikṣamāṇa 現分 漢譯 不修學 *Bodh-bh.*

a-sikṣita 通受分 無學なる; (學, 於, 不定)に就て教へられざる或は學習せざる. 漢譯 不習學(者) *Saddh-p.*

aśita 通受分 → *Aś 2.*; 漢譯 食 *Śikṣ.*

aśita-pita-khādītāsvādita (°ta-ās°) 通受分 漢譯 食飲嚼味 *Mvyut.*

aśitavya 未受分 食せらるべき.

a-sithila 形 衰へざる, 弛緩せざる, 引締れる, 固き, 嚴密なる; 漢譯 不疲倦, 無有疲倦, 無遲緩, 無慢惰 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh.*

-aśin 形 漢譯 食, 飲食 *Laṅk.* → māṃsa ~, mātra ~.

a-siras 形 頭首なき.

a-siro-griva 形 頭なく頸なき.

a-sīla 形 石なき.

a-silpa-jivin 形 手仕事によりて生活せざる.

a-silpin 男 手工業者又は藝術家ならざる者.

a-sīva 形 有害の, 危険なる, 不幸の, 凶兆の; 漢譯 可惡 *Lal-v.* 男 [病魔の名]. 中 邪惡, 禍; 不運; 漢譯 不吉事 *Mañj-m.*

aśiva-śamsin 形 不吉なる前兆の.

a-sīśira 形 冷たからざる, 熱き.

aśīśira-kara 男 太陽.

aśīśira-kiraṇa 男 [同上].

a-sīśiratā 女 暑熱.

aśīśira-raśmi 男 太陽.

a-sīśu 男 子供ならざるもの. 形 子なき, 兒童なき.

aśī-sūla 男 中 [=asi-sūla]; 漢譯 刀, 利刃 *Śikṣ.*

a-sīṣṭa 1. 通受分 [Śās] 教育なき, 教養なき, 粗野なる.

a-sīṣṭa 2. 通受分 [Śiṣ] 殘なき.

aśīṣṭāgata-mārga (°ta-āg°) 形 教育なき者又は野卑なる者の道を歩める.

aśīṣṭha 最上 最も多く食へる.

a-sīṣya 未受分 教ふべからざる, 教育に値ひせざる. 男 漢譯 非弟子, 惡弟子 *Laṅk.*

aśīṣya-parigraha 男 漢譯 惡弟子受, 無有弟子能受 *Laṅk.*

aśita 1. 形 第八十の.

a-śita 2. 形 寒からざる, 暑き, 暖かき.

aśita-kara 男 太陽.

aśita-marici 男 [同上].

aśita-ruc 男 [同上].

aśita-ruci 男 [同上].

aśiti 女 八十; 漢譯 八十 *Mvyut.*

aśitika 形 八十歳の, 八十の量を有する.

aśitikāpara 形 八十歳以上の.

aśitikāvara 形 少くとも八十歳なる.

aśititama 形 第八十の.

aśiti-pañcaka 形 八十五歳の.

aśiti-bhāga 男 第八十の部分.

aśiti-varṣa 男 漢譯 八十歳 *Saddh-p. 351.*

aśiti-sahasra 中 漢譯 八萬 *Saddh-p., Abh-k.*

aśiti-sāhasra 形 八萬より成る; 種 八萬.

aśity-anuvyañjana 中 漢譯 八十種好 *Saddh-p.* → *anuvyañjana.*

a-sīrya 形 破壊せられざる.

a-sīrṣaka 形 頭なき; 漢譯 頭小者, 頭太小者 *Mvyut.*

a-sīla 中 惡習, 不作法, 墮落. 形 不作法なる, 粗野なる; 漢譯 非戒 *Laṅk.*

a-śuci 形 不純なる; 漢譯 穢; 不淨, 不清淨 *Divy., Buddh-c., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh.* 女 漢譯 不淨 *Abh-vy., Śikṣ.* → ~ mukta.

a-śucitva 中 不純.

aśuci-bhakṣaṇa 中 不淨なる物を食ふこと.

aśuci-bhājana 中 漢譯 不淨器 *Śikṣ.*

aśuci-bhāva 男 不純.

aśuci-mukta 形 漢譯 漏失不淨 *Śikṣ. 75.*

aśuci-varṇa 形 色彩の不純なる.

aśuci-varṇatā 女 [同上].

aśuci-samjñin 形 漢譯 不淨想 *Śikṣ.*

a-śuddha 通受分 不淨なる; 知られざる, 疑はしき, 缺點ある; 漢譯 不淨, 不清淨, 未清淨 *Laṅk., Sūtr., Bodh-bh.*

aśuddha-kṣaya-jñāna 中 漢譯 不淨盡智 *Laṅk.*

aśuddha-citta 形 漢譯 心不淨 *Laṅk.*

aśuddha-prakṛti 形 不正の從臣を有せる.

aśuddha-śuddhāvasthā 女 漢譯 不淨淨位, 淨不淨位 *Madhy-vibh. 191.*

aśuddhāvasthā 女 漢譯 不淨位 *Madhy-vibh.*

aśuddhāśaya (°dha-ās°) 形 漢譯 不淨心, 未淨意樂 *Bodh-bh.*

a-śuddhi 女 不純; 漢譯 不淨 *Laṅk., Madhy-v.*

a-śubha 形 醜き, 厭ふべき; 凶兆の; 惡しき; 不快なる; 不正なる; 不純なる; 漢譯 凶; 惡, 不善; 染, 不淨; 非愛, 不愛 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Bodh-bh., Madhy-v., Abh-vy., 梵雜: ~e śubha-samjñinām* [不淨なるものを清淨なりと考ふる] 不淨淨想 *Gaṇḍ-vy. 228.* 中 悲哀, 不運, 不幸; 加害; 惡, 惡業, 罪.

a-śubhatā 女 漢譯 不淨 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*

aśubha-darśana 形 醜き.

aśubha-pratyavekṣā 女 漢譯 不淨觀 *Lal-v.*

aśubha-bhāvanā 女 不淨觀 *Mvyut.*: nava-
〜h 九不淨觀 [1. vinilaka-samjñā 想相壞, 青瘀
想, 2. vipūyaka-samjñā 想相膿爛, 膿爛想, 3. vi-
paḍumaka-samjñā 想相虫啖, 虫啖想, 4. vyādhmā-
taka-samjñā 想相青勃, 腫脹想, 5. vilohitaka-samjñā
異赤想, 6. vikhāditaka-samjñā 啄噉想, 7. vikṣip-
taka-samjñā 離散想, 8. vidagdhaka-samjñā 焚燒
想, 9. asthi-samjñā 骸骨想] *Mvyut.*

aśubha-mati 形 惡意ある。

aśubha-samjñā 女 不淨想 *Gaṇḍ-vy.*

a-śubhā 女 不淨 *Bodh-bh.*; 不淨(觀) *Abh-vy.*
311.

aśubhātmaka (°bha-āt°) 形 = aśubha-mati.

aśubhā-bhāvanā 女 修不淨, 修不淨觀 *Sikṣ.*,
Bodh-bh.: 〜kāma-rāga 修不淨興貪欲 *Bodh-bh.*
98.

a-śulka 形 在路無課, 不輸稅直 *Divy.*: 〜en'
ātara-paṇyena (所在)經過不輸稅直 *Divy.* 524.

a-śulkayitvā 不変分 → śulkaya.

a-śuśrūṣaṇatā 女 不數聞, 不愛樂聽受 *Aṣṭ-pr.*

a-śuśrūṣā 女 聞かんとする希望なき; 不從順, 不服
從; 奉仕又は尊敬の無視。

a-śuśrūṣu 形 聞かんとする希望なき, 學問に熱心な
らざる; (圖)に不從順なる。

a-śuṣka 形 乾燥せざる; 濕へる; 新鮮なる。

a-śūnya 形 空ならざる; 無駄ならざる; 非空,
不空 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*

aśūnyam-Kṛ, (事を)放置せず, 實行す, 實現す, 遂行
す。

a-śūnyatā 女 不空 *Lank.*

aśūnyārtha 男 明瞭にすること。形 明瞭なる, 理
解し易き。〜m 圖 説明の爲に。

a-śṛṅga 形 (女-i) 角(?)なき。

a-śṛṅvat 現分 聞かざる, 聞くを好まざる。

a-śṛthita 過受分 弛まざる。

a-śeṣa 男 殘餘なきこと。形 全部の, 總ての, 完全
なる; 悉, 盡, 滅盡; 無餘, 無有餘, 無餘殘, 盡
無餘, 悉無餘 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāstr.*,
Sikṣ., *Sūtr.*, *Bodh-bh.*

〜tas 圖 剩さず; 全く, 十分に; 悉, 一切,
無餘 *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*

〜m 圖 [同上]; 無餘 *Sikṣ.*

〜eṇa 具 [同上]。

aśeṣaya 名動 完全に終了す。過受分 **aśeṣita** 全
滅せる。

aśeṣita 過受分 → aśeṣaya.

aśeṣita-kriya 形 爲すべきことを遺さざる。

a-śaikṣa 形 (女-i) = Arhat, 最早學ぶべきものな
き(佛敎); 無學, 無學位 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Vin.*,
Abh-vy., *Madhy-vibh.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: 〜ā
dharmāḥ 無學諸法 *Madhy-vibh.* 194.

aśaikṣa-patha 男 無學道 *Abh-vy.*

aśaikṣa-bhūmi 女 無學地 *Gaṇḍ-vy.*

aśaikṣa-mārga 男 無學道 *Abh-vy.*

a-śaivala 形 Śaivala [水草の名: 學名 *Blyxa Octan-*
dra] なき。

a-śoka 形 悲哀を離れたる, 憂なき; 無憂 *Gaṇḍ*
vy. 男 [樹の名, 學名 *Jonesia Asoka Roxb.*]; [王の
名]; [苑の名]; 無憂樹 *Divy.*; [王の名] 無憂
Mvyut.; (音寫) 阿育, 阿恕伽, 阿輸柯, 阿輸迦 *Av-ś.*,
Divy., *Mvyut.*, 支應。 甲 *Asoka* 樹の花(橙色を帯ぶ
る緋色); 無憂花, 忘憂花, (音寫) 阿輸迦花 *Lal-*
v., *Mvyut.*; [苑の名] 無憂, 離憂 *Aṣṭ-pr.*

aśoka-kara 男 [*Vidyādhara* の名]。

aśoka-kari 女 [人名]。

aśoka-taru 男 *Asoka* 樹。

aśoka-tirtha 甲 [聖地の名]。

aśoka-datta 男 [人名]。

aśoka-naga 男 *Asoka* 樹。

aśoka-puṣpin 男 [佛の名] 無憂花; (音寫) 輸迦
華 *Lal-v.*

aśoka-bhāṇḍa 甲 憂を除く寶器 (*Lal-v.*)。

aśoka-bhāṇḍaka 甲 [同上]; 無憂器 *Lal-v.*

aśoka-mālā 女 [人名]。

aśoka-vanikā 女 *Asoka* 樹林; 無憂園; (音寫)
阿輸迦園, 阿舒迦園林 *Lal-v.*, *Lank.*

aśoka-varti 男 [菓子の名]。

aśoka-varḍhana 男 [人名]。

aśoka-vṛkṣa 男 *Asoka* 樹。

aśoka-vega 男 [人名]。

a-śocaniya 未受分 哀憐せられざる, 悲傷せられざる。

a-śocya 未受分 [同上]; 無憂慮 *Divy.*

a-śocyatā 女 悲しむべからざること。

a-śocyatva 甲 [同上]。

a-śodhayitvā 不変分 解決することなくして。

a-śobha 形 醜 梵干。

a-śobhana 形 醜き; 期待及び願望と一致せざる, 不
吉の, 善からざる, 悪しき; 惡; 不祥; 鄙陋
Divy.

a-śobhā 女 醜陋 *Abh-vy.*

a-śoṣya 未受分 乾かさされざる。

a-śauca 甲 不純, 汚染。

a-śaucatva 甲 [同上]。

a-śaucin 形 不純の。

a-śauṭirya 甲 自尊心なきこと, 男性的又は勇敢なら
ざること。

a-śaundirya 甲 [同上]。

aśna 男 石; [鬼神の名]。

aśnavat, [Aś. I. の接(三)入(單)]。

aśmaka 男 [人名]; 阿 [武士族の名]; (音寫) 阿
思葛 *Mvyut.*: 〜rājan 阿思葛王 *Mvyut.*

aśma-kuṭṭa 形 石を以て碎く。

aśma-kuṭṭaka 形 [同上]。

aśma-garbha 甲 エメラルド; 馬瑙, 碼瑙, 瑪
瑙, 虎魄, 赤色寶 *Divy.*, *Sukh-vy. I.*, *II.*, *Bodh-bh.*,
Mvyut.; 碑渠 *Gaṇḍ-vy.*; (音寫) 遏濕摩揭婆, 阿濕摩
揭拉婆, 阿輸摩竭婆 *Sukh-vy. II.*, 支應。

aśmagarbha-kesara 形 鬚蓋碼瑙, 鬚蓋堅如
石, 鬚蓋堅如碼瑙 *Mvyut.*

aśma-cita 形 石にて覆はれたる。

aśmatā 女 石の如きこと, 石の硬きこと, 石の如く堅
剛なること。

aśman 男 岩, 石, 寶石; 石製の道具; 雷電; 雲, 蒼空; 空; 空中に於て; 天地.
aśma-nagara 男 [都邑の名].
aśmanta 男 [植物の名, 學名 *Bauhinia tomentosa*].
aśmantaka 男 [同上].
aśmanmaya 形 (女-i) 石造の.
aśmamaya 形 (女-i) [同上].
aśma-mūrdhan 形 石の頭を有する.
aśma-varṣa 甲 石の雨.
aśma-varṣavat 形 石の雨を降らしむる.
aśma-vṛṣṭi 女 石の雨.
aśma-sāra 男 鐵.
aśma-sāramaya 形 鐵の; 金剛石の.
aśmāntaka 男 = aśmanta.
aśy-ārtha 形 「食ふ」(aśi = Aś 2.) を意味する.
-aśra 1. [= aśri]; 涙 → catur ~.
aśra 2. 甲 [= asra] 涙; 血.
a-śraṃsana 甲 [= asraṃsana]; 不懈, 無懈 *Śikṣ.* 190.
a-śraddadhāna 現分 [圖] と俱に] 信せざる.
a-śraddadhānatā 女 不信 *Rāṣṭr.*
a-śraddha 形 不信の; 不信, 無信; 不信者, 未信者, 不信受者 *Saddh-p., Rāṣṭr., Bodh-bh.*
a-śraddhā 女 信賴を闕くこと; 不信.
a-śraddhita 過受分 = aśraddadhāna.
a-śraddheya 未受分 信用せられざる; 信ずる價值なき; 不信, 無信, 難信, 不能信, 不能信受, 所不能信 *Kāśy., Laṅk.*
a-śraddhya 甲 不信 *Mvyut.*
a-śrama 男 疲勞せざること. 形 不撓不屈の, 疲れざる.
a-śramaṇa 1. 形 疲れざる, 倦まざる.
a-śramaṇa 2. 男 乞食僧又は沙門ならざるもの; 非沙門, 不堪沙門 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
a-śravaṇa 甲 無記載, 説かざること; 語・接尾音等の缺如.
a-śrāddha 形 ……に信賴せざる, 信ぜざる; 葬式を行はざる; 不信, 無淨信 *Divy., Sapt-pr., Bodh-bh.* 甲 葬儀に關係なき食物.
a-śrāddhin 形 *Śrāddha* 祭を行はざる.
a-śrāddheya 未受分 *Śrāddha* 祭に適せざる.
a-śrānta 過受分 疲れざる. ~m 圖 疲れずして, 勤勉に.
a-śrāmaṇya 形 不敬沙門, 不識沙門, 不供養沙門; 非沙門性, 不忍修善者 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Mvyut.*
a-śrāvaṇa 形 非所聞 *Nyāy-pr.*
aśri 女 尖端, 隅, 刃. —° 形 = aśriku.
-aśrika 形 尖端の, 隅の, 刃の.
-aśrikā 女 = aśri.
a-śri 女 不運; 不幸の女神.
a-śrika 形 美しさを失へる; 幸福なき; 不吉なる.
a-śrimat 形 美しからざる, 醜き.
aśru 甲 (男) 涙; 涙; 涕淚 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Laṅk., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*: ~ūṇi pravartayan 悲泣流淚 *Gaṇḍ-vy.* 171. [Kṛ 又は Muc と俱

に] 流涕す.
aśru-karaṇa 甲 流涕.
aśru-karman 甲 [同上].
a-śruta 過受分 聞かれざる; 學ばれざる; 未聞, 所未聞 *Śikṣ.*
a-śrutatā 女 知られざること.
a-śruta-pūrva 形 所未聞, 先未曾聞, 從昔已來不聞 *Divy., Saddh-p.*
a-śruta-pūrvatva 甲 (物の) 獨自性.
a-śrutavat 圖 聞かれざるが如くに. 形 無聞 *Śikṣ., Abh-vy.*
a-śrutā 女 [人名].
a-śruti 女 聞かざること; 忘却, *Veda* の原典ならざるもの: ~m **abhi-Ni**, 何事も聞かざりしが如くに振舞ふ. 形 聞きとり難き, 不明瞭の.
a-śrutitva 甲 (聞かざること), 不明瞭.
a-śruti-virodhin 形 經典に反對せざる.
aśruti-patha 男 ~m **Yā** 忘却するに至る, 忘却せらる.
aśru-nipāta 男 = aśru-plāvita.
aśru-netra 形 眼に涙を浮べたる.
aśru-paripluta 形 涙に浸されたる.
aśrupariplutākṣa 形 眼に涙を湛へたる (*Buddh-c.*).
aśru-pāta 男 = aśru-plāvita; 涙落, 流淚, 墮淚 (悲泣) *Buddh-c., Sam-r., Śikṣ.*
aśru-pūrṇa 形 涙に充たされたる.
aśru-pramārjana 甲 涙を拭ふこと (即ち泣くこと).
aśru-pramukta 形 涙交流, 涕淚交流 *Suv-pr.*
aśru-pravāha 男 = aśru-plāvita.
aśru-plāvita 甲 涙の湧き出ること, 涙の雨.
aśru-mukha 形 涙に面を濡らす; 涙ぐめる顔の; 涙下 *Saddh-p.*: ~o rudan 悲泣流淚 *Gaṇḍ-vy.* 59.
aśru-leśa 男 涙の雫.
aśru-locana 形 = aśru-mukha.
aśru-vadana 形 [同上].
aśru-vaha 形 涙を湛へたる (*Buddh-c.*).
aśrūpahata 形 涙にかき暮れたる.
a-śreyas 比較 更に悪しき, 更に下級の. 甲 不幸; 惡報 *Divy.* 179.
a-śreyaska 形 不運なる, 不吉の.
a-śrotr 形 聞かざる.
a-śrotra 形 耳なき.
a-śrottriya 形 *Veda* に通曉せざる, かゝる婆羅門によりて行はるゝ, 熟練せる婆羅門なき.
a-ślatha 形 無緩, 不緩 *Bodh-bh.*
a-ślāghā 女 謙遜.
a-ślāghya 未受分 稱讚に値せざる, 不名譽なる; 非所應 *Buddh-c.*
a-śliṣṭa 過受分 聯關なき; (一)に執著せざる.
a-ślika 形 有害なる.
a-ślila 形 醜き; 下品なる; 不作法なる. 甲 經語, 略言, 不詮 *Mvyut.*
a-śleṣa 男 密著せざること. 形 不貪, 不著, 不和合; 不全, 不足 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
a-śleṣā 女 = aśleṣā; [星宿の名, 二十八宿の一]

- 柳, 不觀 *Divy.*
a-śloka 男 毀謗, 惡名 *Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.*
aśloka-bhaya 中 惡名畏, 惡名怖畏 *Śikṣ., Bodh-bh.*
aśva 男 馬; 乘馬 *Lank., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵千.*
aśvaka 男 小馬; [民族の名]; [比丘の名] 馬, 馬師 [= *Aśvajit*] *Mvyut.*
aśva-karṇa 男 馬の耳; [植物の名, 學名 *Vatica robusta, = Sarja*]; 馬耳, 耳如馬者 *Mvyut.*; [山の名] 馬耳(山) *Abh-vy.*; 阿輸割那, 頰濕婆羯拏, 頰濕縛羯拏 *Abh-k., Mvyut., 支應.*
aśva-karṇaka 男 [同上].
aśvakarna-giri 男 [山の名]; 馬耳山 *Divy.*
aśva-kāya 男 騎兵; 馬衆, 馬軍, 馬兵, 馬衆部 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
aśva-kuṭi 女 厩.
aśva-kuśala 形 馬に熟練せる.
aśva-kovida 形 [同上].
aśva-khura 男 馬蹄.
aśva-khuravat 副 馬蹄の如くに.
aśva-gupta 男 [人名] 阿波笈多, 阿失波耨多 *Divy.*
aśva-gopa 男 馬丁.
aśva-griva 男 [Asura の名]; [*Dānava* の名].
aśva-ghāma 男 [地名].
aśva-ghāsa 男 馬の糧秣; [人名].
aśva-ghoṣa 男 [人名, *Buddha-carita* 等の作者]; 馬鳴 *Mvyut.*; 阿濕縛矩沙 *Mvyut.*
aśva-caryā 女 祭馬に隨行すること.
aśva-calana-śālā 女 調馬の屋舎.
aśva-cala-sthā 女 厩.
aśva-jit 男 [人名] 馬勝, 馬師 *Divy., Sukh-vy. I., Abh-vy., Mvyut.*; 阿輸實, 阿說示, 阿濕婆侍 *Abh-vy., Mvyut.* 形 戰勝の結果馬を得る.
aśva-jōḍa 形 類如馬, 顔如馬 *Mvyut.*
aśvatama 最上 最上の馬, 駿馬.
aśva-tara 男 騾馬.
aśva-tari 女 牝騾馬; 騾 *Mvyut.*
aśva-tirtha 中 [聖地の名].
aśva-ttha 男 (馬の立つ場處, *ttha = stha*), 聖無花果樹 [菩提樹, 學名, *Ficus religiosa*]; 吉祥樹, 吉安(林) *Buddh-c.*; 阿說他 *Lal-v.*
aśva-tthāman 男 [*Droṇa* の子の名].
aśva-da 形 馬を授くる, 馬を與ふる.
aśva-danta 形 齒如馬 *Mvyut.*
aśva-damaka 男 御者, 調馬師.
aśva-dā 形 = *aśva-da*.
aśva-nadi 女 [河の名].
aśva-nāya 男 = *aśva-pāla*.
aśva-nāsa 形 鼻如馬者 *Mvyut.*
aśva-pati 男 馬の所有者; [人名]; 司馬 *Mvyut.*
aśva-pāda 男 [或る *Siddha* の名]. → *siddha*.
aśva-pādāta-sārameyamaya 形 (女 -i) 馬・歩行者及び犬を以て編成せられたる.
aśva-pāla 男 牧馬者, 馬丁.
aśva-prṣṭha 中 馬背; 乘馬, 騎乘 *Lal-v., Mvyut.*; ~e ... *kṛtāvi samvṛttaḥ* 善能弄馬 *Divy. 58.* 形 馬背にて運ぶ.
aśva-pluta 中 馬の跳躍.
aśva-bandha 男 馬丁; 縛馬 *Abh-vy.*
aśva-bandhaka 男 [同上].
aśva-bandhana 中 馬を縛ること.
aśva-bandhiya 形 縛馬 *Abh-vy.*
aśva-budhna 形 馬にて運ばれたる.
aśva-budhya 形 (馬にて識別し得る), 馬を特徴とする, 馬より成る(富).
aśva-mandurā 女 厩.
aśva-mukha 形 馬頭を有する. 男 *Kimnara*.
aśva-mukhi 女 *Kimnara* の妻.
aśva-medha 男 馬の供犠を爲す祭; [人名]; 馬祠, 刑馬(亦)以脂祭 *Divy.*
aśvamedha-yajña 男 馬祠, 淨馬供施 *Mvyut.*
aśva-yuj 形 馬を軛する, 馬を軛したる. 女 [星座の名].
aśva-ratna 中 [七寶の一] 馬寶, 紺馬寶 *Divy., Gaṇḍ-vy., Dharm-s., Mvyut.*
aśva-rāja 男 諸馬の王, [*Uccaiṣravas* の稱]; [*Saṅkya-muni* の馬の名] (*Lal-v.*).
aśva-rājan 男 馬王 *Mvyut.*
aśva-rādhas 形 馬を裝備する.
aśvala 男 [人名].
aśvavat 形 馬に富める.
aśva-vāra 男 騎手.
aśva-vṛṣa 男 種馬.
aśva-śālā 女 厩; 馬圈 *Mvyut.*
aśva-śiras 中 馬の頭. 男 [(馬頭を有する), *Viṣṇu* 神の稱]; [或る *Dānava* の名].
aśva-sāda 男 騎者.
aśva-sādin 男 [同上].
aśva-sārathya 中 馬と車の訓練, 馬術及び車術, 馬車を驅ること.
aśva-sūta 男 御者.
aśva-sūtra 中 馬學の書.
aśva-sena 男 [龍の名].
a-śvastana 形 明日に備へざる.
a-śvastana-vid 形 明日又は未來を知らざる.
a-śvastana-vidhāna 中 明日の蓄へをなさざること.
a-śvastanika 形 = *a-śvastana*.
aśva-sthāna 中 厩.
aśva-hāraka 男 馬盜人.
aśva-hṛdaya 中 馬術, 馬に關する知識.
aśva-hṛdayā 女 [*Rambhā* 天女の名].
aśvā 女 牝馬.
aśvājāneya (°*va-āj*) 男 純血種の馬; 元氣よき馬; *Cakra-vartin* の馬 (*Divy.*); 良馬, 智馬種 *Divy., Mvyut.*
aśvādhika 形 騎兵に優れたる.
aśvādhyaḥkṣa 男 馬の監督者, 馬の飼主.
aśvānika 中 騎兵隊.
aśvānuyātrika 男 (祭に用ふる)馬を護り或はそれに

附添ひて行く者。

aśvānusaraṇa 甲 (祭に用ふる)馬に附添ひて行くこと。

aśvānusāra 甲 [同上].

aśvānṛta 甲 馬に関する虚偽。

aśvārūḍha (°va-ār°) 形 馬に乗れる; 〔漢譯〕騎馬, 騎馬人, 乘馬人 Prāt-m., Mvyut.

aśvāroha (°va-ār°) 男 乘馬者, 騎手。

aśvāvat 形 馬に富める。甲 馬を財産となすこと。

aśvin 形 馬に富める, 馬より成る, 馬に乗る。男 御者, 調馬師; 〔兩〕Aśvin 雙神 [曉の雙生神]; 〔漢譯〕(音寫) 阿濕昆, 阿濕波 Lal-v., Buddh-c.

aśvini 女 〔漢譯〕[星宿の名, 二十八宿の一] 馬師, 婁, 婁宿 Divy., Mañj-m.: ~ kumārau 〔兩〕婁童二神 Mvyut.

aśviya 甲 馬又は騎者の一隊。

aśvait, 〔漢〕Śvit の 〔三過〕〔三入〕〔三〕

aśvya 形 馬の, 馬に関する。甲 馬の群。

a-ṣaṣṭha-ja 形 〔漢譯〕非六生 Abh-vy.

a-ṣādha, a-ṣālha 〔過受分〕征服し難き。男 [人名].

aṣādhā 女 (〔單〕又は〔複]) [二つの星宿の名 (Pūrvā, Uttarā)].

aṣādhin 形 籐 [Palāśa 樹] の杖を持てる。

aṣṭa 1. 〔過受分〕 [Aks, Aś. I.]. → Aks, Aś. I.

aṣṭa 2. 形 —° = aṣṭan; °— 〔漢譯〕八 Lañk., 梵千。

aṣṭaka 形 八より成る, 八分の。男 [人名]. 甲 八種一組のもの。

aṣṭakā 女 満月後の第八日 (特に Hemanta と Śisira とに於ける); その日の(祖靈に對する)供養。

aṣṭa-gava 形 八頭の牛に牽かれたる。甲 八頭の牝牛群。

aṣṭa-guṇa 形 八より成る, 八倍の, 八重の, 八を特徴とする。

aṣṭa-catvāriṃśa 形 第四十八の。

aṣṭataya 甲 異れる八種の物品の蒐集, 八種一組。

aṣṭa-trimśa 形 第三十八の。

aṣṭa-trimśat 女 三十八。

aṣṭa-dravyaka 甲 〔漢譯〕八物, 八種物 Lañk.

aṣṭa-dvāra 形 〔漢譯〕八門 Gaṇḍ-vy.

aṣṭadhā 〔副〕八重に; 〔漢譯〕八分 Sāmkhy-k.

aṣṭan 數 [〔體〕-tau, -tā, -ta] 八; 〔漢譯〕八 Sāmkhy-k., Mvyut.

aṣṭa-pañcāśa 形 第五十八の。

aṣṭa-pada 形 八語より成る, (音律として)八 pada を有する。

aṣṭa-padikā 女 [植物の名, 學名 Vallaris dichotomus Wall.].

aṣṭa-pāda 形 (音律として)八 pada の; 八脚の。男 蜘蛛。

aṣṭa-pādikā 女 = aṣṭa-padikā.

aṣṭa-puṣpika 女 八種の花の花環。

aṣṭa-bhāga 男 八部分。

aṣṭama 形 (女 -i) 第八の; (男)の八分の一を構成せる; 〔漢譯〕第八 Lal-v., Lañk., Mvyut. 男 八分の一。

aṣṭamaka 形 第八の。

aṣṭamaka-bhūmi 女 〔漢譯〕八地, 八(人)地, 第八地

Mvyut.

aṣṭama-kālīka 形 (七回休み)八回目に唯だ一回食事をなす。

aṣṭa-maṅgalaka 甲 八つの吉祥なるもの又は腕環。

aṣṭama-bhava 男 〔漢譯〕第八有 Abh-vy.

aṣṭamika 甲 〔漢譯〕八筵 Mvyut.

aṣṭami 女 (十四日間の)第八日。

aṣṭa-mūrti 男 [Śiva 神の稱].

aṣṭa-ratni 形 八肘の長さある [ratni = aratni, — aratni は二十一 aṅgula に相當す].

aṣṭa-rasāśraya (°sa-ās°) 形 八情趣を含める(劇).

aṣṭa-rca (°ṭa-ṛca) 形 八詩句より成る。

aṣṭa-vamśavat 形 八の(形よき)管状骨を有する(即ち長く美しき四肢を有する)。

aṣṭa-varga 形 各々八個を含む。

aṣṭa-vartman 形 〔漢譯〕~ mā mārgaḥ 八衢 Gaṇḍ-vy. 403.

aṣṭa-varṣa 形 八歳の。

aṣṭa-vikalpa 形 八種の; 〔漢譯〕八分 Sāmkhy-k.

aṣṭa-vidha 形 八倍の, 八重の, 八種の; 〔漢譯〕八, 八種 Sāmkhy-k., Abh-vy.

aṣṭa-vimokṣa-dhyāyin 形 〔漢譯〕具八解脱, (入八解脱定) Saddh-p.

aṣṭa-śata 甲 百八; 八百。

aṣṭa-śataka 甲 百八。

aṣṭa-ṣaṣṭi 女 六十八。

aṣṭa-sahasra 甲 〔漢譯〕八千 梵雜。

aṣṭa-sāhasrikā prajñā-pāramitā 女 〔漢譯〕[經名] 智慧到彼岸八千頌, 般若八千頌 Mvyut.; [(八千頌般若波羅蜜多經), 大般若波羅蜜多經第四會, 道行般若經, 小品般若波羅蜜經等].

aṣṭa-sāhasrikā bhagavati 女 [經名] = aṣṭasāhasrikā prajñāpāramitā (Madhy-v. 353.).

aṣṭākṣaṇa 男 〔漢譯〕八難, 八難處 Gaṇḍ-vy., Sikṣ.

aṣṭākṣara 形 八音節を有する。

aṣṭāṅga 甲 °— 八支分。形 八の部分をも有する; 〔漢譯〕八, 八支 Divy., Sikṣ.: ~ samanvāgatam upavāsam 八支具足せる近住 (Divy. 398.).

aṣṭāṅga-jala 甲 〔漢譯〕八(德)水 Sikṣ.

aṣṭāṅga-pāta 男 八支分(兩手・兩足・兩膝・額・胸)を以てする平伏, 五體投地の最敬禮。

aṣṭāṅga-pośadha 男 〔漢譯〕八關清淨戒 Lal-v.

aṣṭāṅga-mārga-deśika 男 [(八正道の指導者), 佛の名] Divy. 形 〔漢譯〕修八(正)道 Divy.

aṣṭāṅga-samanvāgata 形 八支具足せる (Divy.).

aṣṭāṅgika 形 〔漢譯〕八支 Lañk.

aṣṭāṅgula-pramāṇa 甲 〔漢譯〕八指量 Guhy-s.

aṣṭāṅgopeta-pāniya (°ga-up°) 甲 〔漢譯〕八功德水 Aṣṭ-pr.

aṣṭāṅgopeta-vāri (°ga-up°) 甲 〔漢譯〕八功德水 Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. II.: ~ paripūrṇa 八功德水湛然盈滿, 八功德水具足盈滿, 八功德水充滿 Gaṇḍ-vy. 193.

aṣṭā-catvāriṃśa 形 第四十八の。

aṣṭā-catvāriṃśat 女 四十八。

aṣṭā-trimśa 形 第三十八の。

aṣṭā-trimśat 女 三十八。

aṣṭā-daśa 形 第十八の。
 aṣṭā-daśaka 形 十八 *Laṅk.*
 aṣṭā-daśadhā 副 十八重に, 十八分に; 十八 *Sāmkhy-k.*
 aṣṭā-daśan 数 十八; 十八 *Mvyut.*
 aṣṭā-daśama 形 第十八の。
 aṣṭādaśa-vakra 男 [山の名] (*Divy.*).
 aṣṭādaśa-vakrikā 女 [神秘的なる河の名] (*Divy.*).
 aṣṭādhyāyi 女 八章より成れる書籍, *Pāṇini* 文典.
 aṣṭā-navati 女 九十八。
 aṣṭā-pañcāśat 女 五十八。
 aṣṭā-pad 形 [體 -pād, (女) -padi] 八行より成る (詩); 八分の。
 aṣṭā-pada 男 甲 (八八)六十四の區劃を有する骰子用の板; 黄金; 八歩, 八道, 八交道, 八交路 [又は露] 道 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy.*: ~o mārgaḥ 路 (左右)八歩 *Gaṇḍ-vy. 47.*
 aṣṭāpada-nibaddha 形 有八交道 *Saddh-p., Mvyut.*
 aṣṭāpada-vyāpāra 男 骰子の競戯。
 aṣṭā-padā 女 八 pada より成る詩句(頌)。
 aṣṭā-pādya 形 八倍の, 八重の。
 aṣṭāyudhā (°tā-āy°) 形 八の武器を備へたる。
 aṣṭā-vakra 男 [人名]。
 aṣṭā-vimśa 形 第二十八の; 二十八より成る。
 aṣṭā-vimśati 女 二十八; 二十八 *Sāmkhy-k.*
 aṣṭā-vimokṣa 男 八解脱 *Saddh-p.*
 aṣṭāśiti (°tā-aś°) 女 八十八。
 aṣṭāśri (°tā-aś°) 形 八角の。
 aṣṭā-ṣaṣṭi 女 六十八。
 aṣṭāṣṭaka (°tā-aṣ°) 形 六十四の。 甲 六十四。
 aṣṭā-saptati 女 七十八。
 aṣṭāśiti-sahasra 甲 八萬八千。
 aṣṭāśri (°tā-aś°) 形 = aṣṭāśri。
 aṣṭi 1. 女 [六十四音節の音律の一種]。
 aṣṭi 2. 女 果實の核。
 aṣṭi 3. 女 [Aśi.] 到達。
 aṣṭuñcaka 甲 [又は ākañcuka] 帶 *Mvyut.*
 aṣṭottara (°tā-ut°) 形 八を加へたる。
 aṣṭottara-pada-śata 甲 百八見, 百八句, 一百八種句 *Laṅk.*
 aṣṭrā 女 (家畜を逐ふ爲の)突棒。
 aṣṭhīlā 女 毬; 小圓石; 鐵床。
 aṣṭhivat 男 膝蓋骨; 膝。
 As 1., II. 他 asti [三入單 自 se, 因に於ては複説未來法のみ] 在り, 存在す; 起る; 發す; 住す, (因)に存す; [爲, 圖]と俱に] ……の爲に在り, ……に屬す, ……に歸す; [屢 =] 持つ或は所有す; (因)に存在す, ……に特有なり; (爲)に用意す, ……に匹敵す, ……を可能とす; (圖)に十分なり; (圖)に起る; 有, 在, 住在 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 轉 *Mvyut.*; [na と俱に] 存在せず; 失はる, 爲されず; nāsti (與ふべき)何物も我になし; asti それはかくあり; [他の定動詞と俱に文頭にありて] 偶々かくあり, 然々なりき, 時としてかくなることあり; asmi [三入單]と俱に] 吾(偶々)かくあり; astu ±evam

それにて可なり, 甚だ宜し; astu, santu [次に (因)を伴はぶ] ……は言ふに及ばず。

ati- (業)を凌駕す。

anu- 用意す; (業)に達す

api- (因)の近くに在り, ……の内に在り。

abhi- (業)を凌駕す, ……を征服す; (爲, 圖)に對しては(因)より以上なり(或は多し); (圖)の分前(?)となる。

upa- (業)に在り。

ni- (爲)に關係す, ……に關與す; 住, 安住 *Sikṣ., Guhy-s.*; [因と俱に] sār dhām nyasati 共住 *Sikṣ. 18.*

vi-ni- 住, 安住 *Guhy-s.*

pra-vi-ni- 安住 *Guhy-s.*

pari- 追ひ越す; (時を)經過せしむ

pra- 前に在り, 優る, 卓越す。

sam- (業)に等し; (saha)と結合す; 在り, 存在す。

As 2., IV. 他 asyati (爲, 圖, 因)へ投ぐ, 射る; 放棄す, 遺棄す [通受分 asta- のみ]。

adhi- 誤解す。 [便役] 通受分 adhyāsita (抽の因)を意味する。

apa- 投ぐ, 取り去る; ……の上に据う; 殘す, 遺棄す; 放棄す; 殘し置く; 棄, 棄背, 除 *Abh-vy.*

[不變分] apāśya (業)を無視して, ……を除きて;

捨, 捨離, 除 *Divy., Buddh-c., Abh-vy.*

abhi- [又は I. 他 自 abhyasati(-te)] ……に對して投ぐ, 投げ遣る; (矢を)放つ; 専心す, 實行す, 處理す; 學ぶ; 反覆す; 修, 修習, 現習, 更學 *Laṅk., Sikṣ., Abh-vy.* [通受分] abhyasta 重ねられたる, 倍加せられたる。 [便役] abhyāsaya- (人をして)實習せしむ; 教ふ。

ud- 投げ上ぐ, 擧ぐ; (業)より立ち上る。

pari-ud- 除去す, 除外す。 [不變分] 除 *Abh-vy.* [便役] paryudāsaya- 除, 破 *Abh-vy.*

vy-ud- 周圍に撒布す; 罷免す; 放任す, 放棄す; 捨離 *Laṅk.*

ni- [又は I. 他 nyasati] 投ぐ, 下に置く, 据う, 片づく; (因)の上又は中に置く・移す又は棄つ; (因)に注ぐ; (因)を凝視す; (因)に交附す, 讓渡す, 委託す; 去る, (生命)を捨つ; 詳説す, 論ず; 奉擧; 想自成 *Lal-v., Guhy-s.*: buddha-maṇḍala-madhyastham kāye vairocanaṃ nyaset 想曼拏羅中自身成毘盧 *Guhy-s. 49.*; pathi- 街上に投ぐ, 放置す; manasi- 心にかく, (業)を思量す; śirasi- (命令を)頂く, 恭しく拜受す。

upa-ni- 横ぶ; 詳説す, 論ず; 立; 可爲, 可説 *Laṅk.*

sam-upa-ni- 詳説す, 想起せしむ。

pari-ni- 擴ぐ。

vi-ni- [又は I. 他 vinyasati] 擴ぐ; 置く; (因)の上又は中に横ぶ或は置く; (因)によりて表示す; (因)に心又は眼を向く; (因)に讓渡す, 委託す。

sam-ni- [又は I. 他 samnyasati] 結合す; 横ぶ, 放置す; (因)に据う; (爲, 圖)に委託す; 放棄す; 世事を捨つ, 苦行者となる。

nir- 引き出す; 投げ出す; (因)より放逐す; 消散

せしむ、追放す；除く；破壊す；論破す。〔漢〕除
Sūtr.
parā- 投げ棄つ；倒す；放棄す、(幼児を)遺棄す；
(場處を)去る；論破す。
pari- 此處彼處に投ぐ、動き廻る、(眼を)廻轉す；投
げ倒す、覆す；包圍す、竊(?)にかく；回轉せしむ；覆
ふ；繋ぐ；(自)纏ふ。〔過受分〕paryasta (於)の上
に落ちたる；(一°)に擲げられたる；(一°)に繋がれた
る；(一°)に顛倒せられたる。
vi-pari- 顛倒す、逆にす；覆す；〔漢〕顛倒、生顛
倒解 Lank., Madhy-vibh. 〔過受分〕viparyasta 顛
倒せられたる；逆の；誤解せる；周圍に立てる。
pra- 投ぐ、(於)の中に投ぐ；覆す。
prati- 投ぐ；放棄す、放置す。
vi- 消散せしむ、分割す、散亂す、分離す。〔過受分〕
vyasta 區分せられたる、分離せられたる、單一の；
倍加せられたる。
sam- 結合す、合同す。〔受〕合成せらる。〔過受分〕
samasta 合同せられたる；一體をなせる；合成せ
られたる；全體の、總ての。
abhi-sam- 〔漢〕合、總、總合、總攝 Abh-vy., Bodh-
bh.; 略(説)、總(説) Bodh-bh., Madhy-vibh.
a-samyacchat 〔現分〕制せざる、拘束せざる、支配せ
ざる。
a-samyata 〔過受分〕結合せられざる；拘束せられざ
る、妨げられざる；(手綱にて)制せられざる；(戸の)
閉ざされざる；注意せずして讀誦する；〔漢〕放逸、
毀法、散亂、威儀濁亂 Rāṣṭr., Sām-r.; 不密護 Sikṣ.
asamyata-cārin 〔形〕〔漢〕行散亂 Rāṣṭr.
a-samyatta 〔過受分〕争なき；用意又は準備なき、警戒
せざる。
a-samyama 男 抑制の缺如。
a-samyamitālakīn 〔形〕捲毛を結ばざる。
a-samyājya 〔未受分〕供儀を俱に捧ぐべからざる。
a-samyuta 〔過受分〕結びつけられざる、結合せざる、
混合せざる。
a-saṃrambha 男 心に激動なきこと、忿怒なきこと；
〔漢〕遠離閑靜 Bodh-bh.
a-saṃrūḍha 〔過受分〕未だ癒えざる (Jāt-m.).
a-saṃrodha 男 損はざること、傷けざること。〔受〕
ena 男 圓 (圓)に害を與ふることなく。
a-saṃroha 男 發芽せざること、合生せざること；(河
の)合流せざること。
a-saṃlakṣita 〔過受分〕見られざる。
a-saṃlakṣya 〔未受分〕認知せられざる、覺知せられざ
る。
a-saṃlina 〔過受分〕〔漢〕堅固；無有怯劣、無有退弱、
不生懈倦 Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.
a-saṃlulita 〔過受分〕亂れざる；〔漢〕不亂 Mvyut.
asaṃlulita-keśa 〔形〕〔漢〕髮不亂 Mvyut.
asaṃlulita-keśatā 女 亂れざる頭髮を有すること
(Dharm-s.).
a-saṃlekha 男 〔漢〕無厭足 Vijñ-t. 30.
a-saṃvara 〔形〕隱蔽せられざる。男 [Pāli. 同] 自制
力の缺除せること；〔漢〕不護、惡戒、不律儀 Abh-vy.
a-saṃvasat 〔現分〕(具)と交はらざる。

a-saṃvārya 〔未受分〕制し得ざる、防ぎ得ざる。
a-saṃvāsa 〔形〕定住せざる、流浪の；〔漢〕不與共住
Bodh-bh.
a-saṃvāsika 〔形〕〔漢〕不共住 Mvyut.
a-saṃvāsyā 〔未受分〕〔漢〕[Pāli. asaṃvāsa] 不應共住
Prāt-m. 477.
a-saṃvijñāta 〔過受分〕意識せざる、解せられざる、同
意せざる。
a-saṃvijñāna 〔形〕理解し難き、無知の。〔中〕無知。
a-saṃvida 〔形〕無意識の。
a-saṃvidāna 〔形〕知らざる；一致せざる。
a-saṃvidita 〔過受分〕〔漢〕不正知 Vijñ-t.
a-saṃviditaka 〔形〕〔漢〕不可知 Vijñ-t.
a-saṃvidyamāna 〔現分〕〔漢〕無、無所有、不可得 Aṣṭ-
pr., Bodh-bh.
a-saṃvihita 〔過受分〕適當なる配慮の爲されざる。
a-saṃvita 〔過受分〕完全に覆はれざる。
a-saṃvṛta 〔過受分〕覆はれざる、裸の；〔漢〕放逸 Lal-v.
〔中〕[地獄の名]。
a-saṃvega 男 〔漢〕無厭 Abh-vy.
a-saṃvyavahitam 圓 直ちに。
a-saṃśabdya 〔形〕記する價值なき。
a-saṃśaya 男 無疑；確實；〔中〕を副詞的に用ゐて
疑なく。〔形〕疑なき。〔受〕m 圓 疑なく、確かに；
〔漢〕無疑 Bodh-bh.
a-saṃśrava 男 〔於〕聞 asaṃśrave のみに用ふ。〔圓〕
の聲の達せざる處に。
a-saṃśravaṇa 〔中〕〔於〕聞 asaṃśravaṇe のみに用ふ。
〔同上〕。
a-saṃśleṣa 男 密著せざること、接觸せざること。
a-saṃsakta 〔過受分〕結合せざる、接觸せざる、關係な
き、執著なき；〔漢〕無相妨礙 Divy. 〔受〕m 圓 別
別に、結合せずに。
a-saṃsakti 女 〔漢〕不著 Lank.
a-saṃsarga 男 (圓)と接觸なきこと、……と交際な
きこと；〔漢〕遠離、厭離；寂靜、靜處 Madhy-v. 〔形〕
〔漢〕不著、無所染著；離諍雜、不處慣鬧、不樂慣鬧、
捨離慣鬧、不習近境界 Kāśy., Sapt-pr., Lank.
asaṃsargābhirata 〔形〕〔漢〕常樂靜處、不樂在衆
Saddh-p.
a-saṃsārin 〔形〕現世を超越せる、現世と無關係なる；
〔漢〕不流轉、非流轉；不生六道 Lank.
a-saṃsidana 〔形〕〔漢〕離懈怠、無懈怠 Gaṇḍ-vy.
a-saṃsidanātā 女 〔漢〕不沒、不沈沒 Aṣṭ-pr.
a-saṃsrṣṭa 〔過受分〕(具)に觸れられざる、……より
免れたる、……と混合せざる；未知の；不適當なる
箇處にて中絶する(讀誦に於て)；〔漢〕不著、不樂會、
不親近；厭離、遠離衆會；不雜、無有雜碎 Aṣṭ-pr.,
Daś-bh., Kāśy.; 獨、獨自 Abh-vy.; 過 Abh-vy.;
—° 不隨、離於 Lank.; 〔受〕ārūpyaiḥ 過無色
Mvyut.
a-saṃsrṣṭi 女 混合せざること。
a-saṃsrṣṭin 〔形〕分離後再び結合せられざる。
a-saṃskāra 男 裝飾なきこと、自然のままなること；
神聖にせられざること。〔形〕裝飾を闕ける。
a-saṃskṛta 〔過受分〕裝備せられざる；神聖にせられ

ざる; 裝飾せられざる; 教養せられざる, 粗雑なる; 宗教的儀禮を受けざる; 〔無爲〕 無爲, 非爲, 非有爲; 未度 *Sapt-pr.*, *Vajr-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

a-saṃskṛtatva 〔無爲〕 無爲 *Aṣṭ-pr.*

asaṃskṛta-prabhāvita 〔無爲之所顯〕 無爲之所顯, 無爲所顯現 *Vajr-pr.*

asaṃskṛta-śūnyatā 〔無爲空〕 無爲空 *Madhy-vibh.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*

asaṃskṛtālakin 〔頭髮を飾らざる〕 頭髮を飾らざる.

a-samstirṇa 〔過受分〕 〔空閑〕 空閑 *Lal-v.*: śthale ~ e 空閑地 *Lal-v.* 259.

a-samstuta 〔過受分〕 未知の, 見馴れざる; 同意せざる, 頑固なる; 〔不識〕 不識, 非情交者 *Bodh-bh.*

a-samsthāna 〔形〕 形の醜き, 不恰好なる.

a-samsthita 〔過受分〕 静止せざる, 休止せざる; 散在せる; 〔無所住〕 無所住, 無所安立 *Aṣṭ-pr.*

a-saṃsparśa 〔男〕 接觸せざること.

a-saṃsprṣṭa 〔過受分〕 到達せられざる.

a-saṃsprṣṭatā 〔女〕 [同上 拙]; 〔無雜〕 [=asaṃsprṣṭa] 無雜, 無有雜碎 *Daś-bh.* 53.

a-saṃsvādam 〔味はずして〕 味はずして.

a-saṃhata 〔過受分〕 分解せられたる; 結合せざる, 一致せざる; (血液の) 凝固せざる; 知人又は親類なき. 〔軍隊配置の様式〕.

a-saṃhati 〔女〕 無結合.

a-saṃhārya 〔未受分〕 迷はし得ざる; 抵抗すべからざる, 征服し難き; 誘惑せられざる, 買収せられざる; 滅せられざる; 〔不壞〕 不壞, 不可壞, 無能壞, 不能壞, 不能破壞, 不能動壞, 不爲所動壞, 不可沮壞; 不動, 無所動, 無動亂, 不能動亂, 不爲所動亂, 不能傾動, 不可動不可移, 不所能動轉; 無動無退轉, 不能退轉, 無能屈, 無能退屈; 不奪, 不可奪, 無奪, 不可引奪, 不能引奪, 無映奪, 不能映奪, 非所映奪, 不可映奪; 不能逮, 不能及; 難制, 不所制; 不失; 堅固 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 無引轉, 不可引轉 *Vijñ-t.*; 無漏 *Aṣṭ-pr.*

asaṃhārya-gocara 〔形〕 〔不壞〕 不失於境, 不失於行境, 不奪行境, 境界不可壞, 所行無礙 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

asaṃhārya-jñāna-gocara-viśaya 〔形〕 於諸境界心無動亂, 於諸境界心無所動 *Gaṇḍ-vy.*

a-saṃhāryatā 〔女〕 〔不可引奪〕 不可引奪; 不可破壞, 不可壞法, 無能壞法; 不遺忘, 未曾忘捨 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*

asaṃhārya-dharma 〔男〕 〔無漏〕 無漏法, 無漏(聖)法 *Aṣṭ-pr.*

a-saṃhṛta 〔過受分〕 途切れざる.

a-sakala 〔形〕 全體ならざる, 完全ならざる.

a-sakṛt 〔男〕 一度ならず, 屢々, 繰返して.

asakṛd-āvartin 〔形〕 歸來する.

asakau 〔女〕 = asau.

a-sakta 〔過受分〕 世俗を超越せる; (因)に執はれざる; 束縛なき, 獨立不羈の; 〔無著〕 無著, 不著, 無耽著; 無染; 不求, 不貪, 不愛樂; 不住; 無礙, 無滯, 不留滯, 無所滯礙 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Buddh-c.*, *Bodh-bh.*, *Sāṃkhy-k.*, *Vajr-s.*, *Mvyut.*; 厭, 捨 *Sūtr.*; 無所障

Lal-v.: ~ āni sthitāni 自然住, 積粉而住 *Aṣṭ-pr.* 744. ~ m 〔男〕 即時に, 直ちに; 障礙なく.

asakta-jñāna 〔男〕 〔無滯〕 無滯智, 無礙智 *Bodh-bh.*

a-saktatā 〔女〕 〔無礙〕 無礙, 無著無礙 *Aṣṭ-pr.*

a-sakti 1. 〔女〕 執著なきこと; 世俗を超越せること.

a-sakti 2. 〔女〕 [=asakti]; 〔無能〕 無能 *Sūtr.*

a-sagotra 〔形〕 (屬)と血族關係なき.

a-saṃkathya 〔未受分〕 〔不應〕 不應說, 不應爲說 *Lank.*

a-saṃkara 〔男〕 種姓(階級)の混雜せざること.

a-saṃkalpa 〔男〕 意欲なきこと, 欲望なきこと; 〔非眞分別〕 非眞分別 *Sūtr.*

a-saṃkalpaniya 〔未受分〕 意欲又は願望すべからざる.

a-saṃkalpita 〔過受分〕 意圖せられざる, 欲せられざる; 決心せざる; 〔不想〕 不想 *Lank.*

a-saṃkasuka 〔形〕 不決斷ならざる, 意志堅固なる.

a-saṃkliṣṭa 〔形〕 〔無穢〕 〔無穢汚〕 無穢汚 *Sam-r.* 59.

a-saṃkirṇa 〔過受分〕 不純ならざる, 純粹なる; 混ぜざる; (人口の) 稠密ならざる; 〔無雜〕 無雜, 無雜亂, 不雜亂, 無喧雜(處) *Sapt-pr.*, *Sikṣ.*

asaṃkirṇa-bhojin 〔形〕 〔不雜〕 不雜穢食, 不雜種食 *Bodh-bh.*

a-saṃkucita 〔過受分〕 〔無怯〕 無退怯, 無有退怯, 無怯弱; 不懈怠, 無懈怠, 無懈倦; 不退沒; 無邪曲; 無鄙悋 *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*

a-saṃkṛpta 〔過受分〕 欲求せられざる.

a-saṃketa 〔形〕 〔不可示〕 不可示 *Aṣṭ-pr.*

a-saṃketita 〔形〕 約束又は申合せを爲さざる.

a-saṃkoca 〔形〕 〔無怯弱〕 無怯弱, 不生怯弱 *Bodh-bh.*

a-saṃkrānti 〔女〕 〔無所至〕 無所至 *Aṣṭ-pr.*

a-saṃkliṣṭa 〔過受分〕 疲勞せしめられざる, 消耗せられざる; (佛敎)穢されざる; 〔無染〕 無染, 離染, 非染, 不染汚, 無雜染, 無染汚, 得無染, 心不染, 無有雜穢; 無垢淨, 清淨 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~ āni cittāni 離染心, 不染汚心 *Aṣṭ-pr.* 542.

asaṃkliṣṭa-citta 〔形〕 〔無雜染心〕 無雜染心 *Bodh-bh.*

asaṃkliṣṭa-cittatā 〔女〕 〔無雜染心〕 心無雜染 *Bodh-bh.*

asaṃkliṣṭa-cetas 〔形〕 〔不染汚心〕 不染汚心 *Bodh-bh.*

a-saṃkleśa 〔男〕 侵害せざること; 被害なきこと; 苦惱なきこと; 〔無染〕 無染, 無雜染, 不生染 *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*

asaṃkleśāṅga 〔男〕 〔無染支〕 無染支, 無染分 *Madhy-vibh.*

a-saṃkṣipta 〔過受分〕 壓縮せられざる.

asaṃkṣubhita-citta 〔形〕 〔無恚恨心〕 無恚恨心, 無恚礙心, 心無恚礙 *Aṣṭ-pr.*

a-saṃkhyā 〔形〕 無數の, 數へ難き; 〔無數〕 無數 *Abh-k.*; 〔數の名〕 阿僧祇, 阿僧企耶 *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

a-saṃkhyeya 〔未受分〕 [同上]; 〔數の名〕 無數, 无央數, 不可數, 不可計 *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy.* II., *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*, 立應; 〔數名〕 僧祇, 阿僧祇, 阿僧企耶 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, 立應.

asaṃkhyeya-kṛtya 〔男〕 〔無數事〕 無數事, 不可數事 *Aṣṭ-pr.*

asaṃkhyeya-guṇa 〔形〕 無數の徳を具へたる.

a-saṃkhyeyatara 比較 復過無數, 過於算數; (音寫)無量阿僧祇 *Vajr-pr Sikṣ.*

asaṃkhyeya-parivarta 男 阿僧祇轉 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*

asaṃkhyeyā-kṣaya 男 非擇滅 *Abh-vy. 683.*

a-saṅga 形 (於)に執著せざる, ……に於て抵抗を受けざる; 束縛なき; 不著, 無著, 無所著; 無染, 無染著; 無礙, 無所礙, 無障礙, 無所障礙, 無罣礙, 滅障礙; 無滯; 無貪 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Lal-v., Sad-dh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sukh-vy. I., Lan̄k., Sikṣ., Bodh-bh., Madhy-v., Mvyut.*; 不和合 *Aṣṭ-pr.* 男 執著なきこと, 性癖なきこと; [論師の名] 阿僧伽立應: ārya ~ 無著, 聖無礙 *Mvyut.* ~ena 具 障礙なく. ~āt 妨害なく; 快く. ~m 妨害なく (*Jāt-m.*).

asaṅga-gocara 形 所行無礙, 境界無礙 *Gaṇḍ-vy.*

asaṅga-cārin 形 障礙なく行動する; 修習無礙行 *Gaṇḍ-vy.*

asaṅga-citta 中 無礙心 *Gaṇḍ-vy.*

asaṅga-jñāna 中 無礙智, 無礙慧, 智慧無礙, 無著智 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Bodh-bh.*

a-saṅgaṇikārāma (°ka-ār°) 形 不樂在衆多有 所說 *Saddh-p.*

a-saṅgata 過受分 不適なる, 矛盾せる; 不相應 *Sikṣ.*

a-saṅgatā 女 無著, 無所著, 無著性, 無礙 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy.*

asaṅgatārtha 形 不相應 *Madhy-v.*

a-saṅgati 女 不相應, 結合せざること, 交はらざること; 形 人と交はらざる.

asaṅga-dhāraṇi-samādhi-pratīlabdha 形 得無所著總持定, 獲無貪總持定 *Mvyut.*

asaṅga-pratībhāna 中 無礙辯才 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr.* 男 [菩薩の名] 無礙辯 *Sapt-pr.*

asaṅga-pradyota 形 無礙燈 *Gaṇḍ-vy.*

asaṅga-prabha 男 [Amitābha 佛の屬性] 無著光, 無礙光 *Sukh-vy. I.*

asaṅga-prayukta-cetas 形 心無障礙 *Sikṣ.*

a-saṅgama 男 交際せざること.

asaṅga-mukha-praveśa 形 入無著門, 入無貪門 *Mvyut.*

asaṅga-lakṣaṇa 形 無礙相, 無著相 *Aṣṭ-pr.*

asaṅga-vihāra 男 中 無著行, 住無礙 *Sikṣ.*

asaṅga-vihāra-gocara 形 住無礙行, 行無礙行 *Gaṇḍ-vy.*

a-saṅgin 形 執著せざる, 凡ゆる欲望なき.

a-saṅgrhitatva 中 拘束せられざること.

a-saṅghaṭṭa 男 無衝突.

asaṅghaṭṭa-sukham 男 (戀仇と)衝突せずして幸福に.

a-sac-chāstra 中 邪說, 異端の學.

a-sajāti 形 同一種姓(階級)に屬せざる.

a-sajātya 形 血族關係なき.

a-sajjat 現分 執著せざる.

a-saj-jana 男 惡人, 惡心を持てる人, 嫉妬する人.

a-sajjamāna 現分 躊躇せざる; 無礙, 無有滯礙 *Bodh-bh., Mvyut.*

a-sajjita 過受分 執著なき.

asajjitātman (°ta-āt°) 形 心の執著を離れたる.

a-saṃcaya 男 蓄へなきこと; 非聚 *Vajr-pr.* 形 蓄へなき.

a-saṃcara 男 近づき得ざる通路; 無所動 *Lan̄k.*

a-saṃcarat 現分 動き廻らざる.

a-saṃcita 過受分 積み上げられざる, 未整備の(祭壇).

a-saṃcetayamāna 現分 觀察せざる.

a-saṃjanatā 女 不著 *Sukh-vy. I.*

a-saṃjāta 過受分 現れざる, 起き上らざる.

a-saṃjñā 形 自覺せざる, 無感覺なる; 無想 *Bodh-bh.*

a-saṃjñatva 中 無自覺.

a-saṃjñapta 過受分 未だ窒息せざる.

a-saṃjñā 女 分裂, 不和, 非協調; 意識なきこと; 非想 *Vajr-pr.*

a-saṃjñāna 中 (具)との不和.

asaṃjñā-samāpatti 女 無想定, 非想禪 *Mvyut.*

a-saṃjñika-sattva 男 [Pāli. asaṅṅisatta] 天の名] 無想有情 (*Divy.*). → asaṃjñi-sattva.

a-saṃjñin 形 意識を有せざる; 無想 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Mvyut.*

asaṃjñi-sattva 男 無想有情 *Mvyut.*

asaṃjñi-samāpatti 女 無想定 *Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*

a-saṃjvara 形 激情なき, 苦惱なき, 怒り又は悲みを感じざる.

a-sat 現分 非實在の; 虚偽の; 惡しき; 無, 不善, 無所有 *Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sāṃkhy-k., Abh-vy., Bodh-bh.* 中 非實在; 虚言; 惡; 無, 非有, 無有, 不實, 無眞實事; 邪, 惡 *Sūtr., Lan̄k., Abh-vy., Madhy-v.*; 愚夫 *Cat-ś.*

a-sati 女 不貞女.

asat-karman 中 惡業 *Sikṣ.*

asat-kalpanā 女 虚妄の假説; 虚言.

asat-kāra 男 冷遇, 侮辱; 犯罪.

asat-kārya 中 正しからざる行爲, 不正の職業; 果先無, 前無果 *Madhy-v., Mvyut.*

asatkārya-vāda 男 因中無果論 [*Vaiśeṣika* (勝論派), *Naiyāyika* (正理派)等の如く果は生ずる以前には因中に存在せずとの説]; 無因論 *Lan̄k.*

asatkārya-vādin 男 因中無果論者.

asat-kṛta 過受分 冷遇せられたる, 無愛想に與へられたる; 毀 *Sikṣ.* 中 非行, 侮辱.

a-satkṛtya 不愛分 (毀)を顧慮することなく; 不敬 *Bodh-bh.*

asat-kriya 中 惡しき待遇, 侮蔑的行爲.

asat-kriyā 女 [同上].

a-sattā 女 非實在; 無, 實無 *Lan̄k.*

a-sattva 中 非實在; 不存在; 無, 無有, 不有, 非有; 不眞實, 非眞實 *Aṣṭ-pr., Bodh-c., Abh-vy., Madhy-vibh.*; 無衆生, 非有情, 非衆生; 無人我, 無有我 *Vajr-pr., Lan̄k., Abh-vy., Madhy-vibh.*; asapakṣe ~m 無不順境, 非同品非有性 *Mvyut.*

形 元氣沮喪せる, 勇氣なき。
asattva-vacana 形 實體を述べざる。
asattva-vacana-tā 女 [同上 抽]。
asattva-vādin 男 虚言者; 無有論 *Bodh-bh.*
asattva-saṃkhyāta 形 非有情數, 非衆生數, 非情法 *Bodh-bh., Abh-vy.*
asattvākhyā (°va-ākh) 形 非衆生數, 非有情名, 無有情現 *Abh-vy., Mvyut.*
asat-patha 形 正しき道を履まざる。 男 正しからざる道。
asatpatha-juṣ 形 [同上 形]。
asat-parigraha 形 不正の贈物を受納せる。
asat-putra 形 子なき。
asat-puruṣa 男 不善人, 不善士, 惡丈夫 *Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh.*
asat-pratigraha 男 受くべからざる人より贈與を受くること。
asat-pratyaya-kartṛtva 中 作非有縁性 *Nyāy-pr.*
asat-pralāpa 男 空虚なる談話。
asat-pravṛtti 女 惡しき行狀。
asat-priya 形 喜びなき, 友なき。
a-satya 形 眞實ならざる; 無實, 非有, 非義利 *Lank., Śikṣ.;* 匪仁 [asamyak? Tib. tshogs-par mi-dbyun-ba] *Bodh-bh. 255.* 中 不正, 虚言。
asatya-jana-saṃmāna 中 敬惡, 恭敬弊惡 *Suv-pr.*
asatya-vacana 形 虚偽を語る, 虚言の。 中 戲言, 匪仁言論 [asamyag-v°] *Bodh-bh. 255.* → a-satya.
asatya-vāda 男 虚言。
asatya-śila 形 虚言に耽る。
asatya-saṃdha 形 契約の不實なる, 信實ならざる。
asatya-samudācāra 男 非賢善行, 非眞諦 *Bodh-bh.*
a-satvaram 副 徐ろに, 徹底的に。
asat-saṃkathā 女 不正言論 *Bodh-bh.*
asat-saṃkalpita 形 虚妄分別 *Aṣṭ-pr.*
asat-sat 形 有無, 有種無種, 從無生有 *Lank.*
asat-samparka 男 惡人との接觸。
asad-artha 男 無義; 無性; 無有物 *Sūtr., Madhy-vibh.*
asad-āgraha 形 惡しき性癖に傾ける, 愚なる出來心に從ふ, 奸策を行ふ。
asad-āgrahin 形 [同上]。
asad-āgrāhin 形 [同上]。
a-sadṛśa 形 等しからざる, 同様ならざる, 相似ざる; 相應しからざる; 無等雙, 無有等雙, 不似, 不相似, 非譬所譬, 非如譬喻, 非喻所及 *Sukh-vy. I., Lank., Bodh-bh.*
asad-gati 女 惡しき状態, 不運, 逆境。
asad-graha 男 無定見; 愚かなる出來心, 不良なる性癖; 邪執 *Bodh-bh.*
asad-grāha 男 [同上]; 非有取, 不正執 *Sūtr., Bodh-bh.*
asadgrāhānta 男 不正執邊 *Bodh-bh.*

asad-dṛṣṭi 女 惡見, 非有見, 非正見, 無有見 *Lank., Bodh-bh.*
asaddrṣṭi-samāropa 男 建立非正見, 非有見建立, 無有見建立 *Lank.*
asad-dharma 男 邪なる行爲, 惡習; 惡しき状態, 罪惡(特に性交); [通常數箇の罪の一群を言ふ]; [Pāli. asaddhamma] 邪法, 邪見法, 不正法, 非眞妙法 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh., Vijñ-v.*
asad-dhetu-samāropa 男 非有因建立, 建立非有因, 無有因建立 *Lank.*
asad-buddhi 形 愚かなる。
asad-bhāva 男 非實在, 不存在; 無, 無有, 非有 *Lank., Madhy-vibh.*
asad-bhāvatā 女 無所有; 不堅實, 無堅牢, 不堅牢 *Aṣṭ-pr.*
asadbhāva-samāropa 男 建立非有體, 無有性建立, 非有性建立 *Lank.*
asad-bhūta 形 無有; 非實, 不實, 實無, 無實, 無有實 *Lank., Śikṣ., Madhy-v.; Bodh-bh.;* 定無, 不定, 決定無, 不決定 *Madhy-v.;* 妄, 虚妄 *Lank.*
asad-bhūtatva 中 非實有, 無所有 *Aṣṭ-pr.*
asad-vāc 形 虚言を吐く。 女 不正言 *Bodh-bh.*
asad-vāda 男 異端, 虚偽の教, 誤れる説; 虚言。
asad-vādin 男 非有論者 [sat(有)は asat(非有)より生ずと主張する者]。
asad-vitarka 男 惡尋思 *Bodh-bh.*
asad-vṛtta 形 圓からざる, 巧みに廻轉せられざる; 不行儀なる。
asad-vṛtti 形 惡しき行の。
a-sadhricina 形 不正なる, 眞實ならざる。
asan 中 [asṛj の具 從 團 の團に代用す]。
asana 中 發射; 放擲。 男 [植物の名, 學名 *Terminalia tomentosa*]; 阿娑那(花), 阿西那 *Lal-v., Mvyut.*
asanā 女 放擲する武器。
a-sanāma 形 同名を有せざる。
a-sanidarṣana 形 明示し難き; 無指處 *Mvyut.*
a-santa 形 =asat; 無, 虚妄 *Saddh-p. 281.*
a-santaka 形 無所有 *Saddh-p. 281.*
a-saṃtata (通受分) 遮られたる, 中斷せられたる。
a-saṃtati 女 非相續 *Abh-vy.*
a-saṃtāpā 形 悲傷せざる, 苦痛を感ぜざる。
a-saṃtuṣṭa (通受分) 満足せられざる; 喜ばざる; 不生喜足, 無喜足者, 無有厭足, 不以爲足 *Bodh-bh.*
a-saṃtuṣṭatā 女 不喜足, 不歡喜 *Bodh-bh.*
a-saṃtuṣṭi 形 無喜足, 不知足 *Bodh-bh.*
a-saṃtoṣa 男 不満足, 不快。
a-saṃtyāga 男 (團)を斷念又は棄捨せざること。
a-saṃtyājya (未受分) 放棄すべからざる, 避くべからざる, 忽せにすべからざる。
a-saṃtrastānuttrasta-dharman 形 法爾無諸怖畏 *Aṣṭ-pr.*
a-saṃdadhāna (現分) 和議を結ばざる。
a-saṃdarṣana 中 (人を見ざる)こと, (人と)交はらざること。
a-saṃdigdha (通受分) 不明瞭ならざる, 明瞭なる; 疑

を容るゝ餘地なき; 〔釋〕無疑, 永除衆狐疑 *Daś-bh.*
 ～m 副 疑ひなく, 確かに.
a-saṃdita 〔通受分〕束縛せられざる; 制限せられざる.
a-saṃdṛśya 〔未受分〕(男)に見られざる.
a-saṃdeśa 男 委任又は命令なきこと.
a-saṃdeha 男 疑なきこと. ～m 副 疑なく, 確かに.
a-saṃdhi 男 合同又は結合を闕くこと; 〔釋〕非密, 不相續, 無相續 *Lank.*
a-saṃdhukṣṇatā 女 俗[<asāṃprkṣṇatā]; 〔釋〕未育 *Mvyut.*
a-saṃdheya 〔未受分〕……と和議を結ぶまじき; 償ひ得ざる.
a-saṃdheyatā 女 ……と和議を結ぶまじきこと.
a-saṃdhyā-bhāṣya-kuśala 形 〔釋〕不解(于我)秘密之説, 不善(於我)隱覆之説 *Lank.*
a-saṃnaddha 〔通受分〕(未だ)得られざる; 著用せざる(鎧).
a-saṃnidhāna 甲 不在, 缺乏.
a-saṃnidhi 女 [同上].
a-saṃniviṣṭa 〔通受分〕(於)と融合せざる, ……に包含せられざる.
 ,m̐n̐hita 〔通受分〕不在なる.
a-saṃnihatā 女 〔釋〕不會遇性 *Bodh-bh.*
asan-mati 女 誤れる考; 顧ざること; (於)に對して無感覺なること; 不名譽.
asan-mitra 男 〔釋〕非法朋 *Sūtr.*
a-sapatna 男 競争者なきこと. 甲 平和. 形 競争者又は敵なき; 亂されざる; 〔釋〕無對, 無怨 *Daś-bh.*
a-sapiṇḍa 形 祖先祭を共にする程近親ならざる.
a-sapūrva 形 祖先によりて所有せられる.
a-sabha 形 仲間なき.
a-sabhāga 男 〔釋〕非同分, 非等分, 無同類 *Abh-vy.*
a-sabhūta 形 [音律, <asvabhūta] 〔釋〕無自性, 空 *Madhy-v. 54.*
a-sabhya 形 (よき)集會に適當せざる, 野卑なる; 〔釋〕不應於會, 不出衆, 不令出從衆 *Mvyut.*
a-sama 形 等しからざる, 不平等の; 同輩なき; 平坦ならざる, (奇數にて)割り切れざる; 〔釋〕無等, 無與等, 不平等, 不與他共, 無比倫 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Śikṣ., Sūtr., Mvyut.*
a-samaka 形 〔釋〕無與等 *Rāṣṭr.*
asama-kusuma-śara 男 [*Kāma* 神の稱].
a-samakṣam 副 面せずして, 背後にて.
a-samagra 形 不完全の; 充たざる; 全部ならざる.
 °—, ～m 副 不完全に; 悉皆ならず.
asama-jñāna 甲 〔釋〕無等智 *Aṣṭ-pr.*
a-samañja 男 [人名].
a-samañjas 男 [同上].
a-samañjasa 形 正しからざる, 不適當なる; 〔釋〕散; 亂; 過; 苟且; 不應 *Mvyut.* 男 價值なき人. 甲 不適當. ～m 副 不適當に.
a-samatā 女 等しきものなきこと; 〔釋〕不平性 *Abh-vy.*
a-samatikrānta 〔通受分〕〔釋〕未能超越 *Bodh-bh.*
a-samad 女 一致.

a-samana 形 合同せざる, 分散せる; 平坦ならざる.
a-samanta 男 〔釋〕[數の名] 無等, 無等邊 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
asamanta-parivarta 男 〔釋〕[數の名] 無等轉, 無等邊轉 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
a-samanvaya 男 〔釋〕非得 *Abh-k.*
a-samanvāhāra 形 思想なきこと; 〔釋〕不觀察 *Divy.*
asama-prajña 形 〔釋〕無等慧, 無比慧, 慧無比 *Mvyut.*
asama-bāṇa 男 =asama-vāṇa.
a-samaya 男 時期に非ざること, 不適當なる時; 無契約; 〔釋〕不時, 非時 *Abh-vy.*
asamaya-vimukta 形 〔釋〕不時解脫, 非時解脫 *Abh-vy., Mvyut.*
a-samartha 形 (不定, 爲, 於, 一)する能はざる; 〔釋〕無能, 不能 *Abh-vy.*
a-samarthatva 甲 無能力.
asama-vāṇa 男 [(奇數即ち五本の箭を持てる) *Kāma* 神の稱].
a-samaveta 〔通受分〕離し難く結合せられざる; 〔釋〕全部は結合せられざる.
asama-sama 形 等しきものなき, 無比の (*Lal-v.*); 〔釋〕無等倫, 無等等, 無有等等 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Rāṣṭr., Prajñ-h., Mvyut.:* ～ā vidyā 無等等明 *Aṣṭ-pr. 203.*
asamasama-kṛtya 甲 〔釋〕無等等事 *Aṣṭ-pr.*
asamasama-jñāna 甲 〔釋〕無等等智 *Aṣṭ-pr.*
asama-samatā 女 〔釋〕無等等 *Aṣṭ-pr.*
asamasama-bhūta 形 〔釋〕無等等, 餘無等等者 *Suv-pr.*
asama-sāyaka 男 =asama-vāṇa.
a-samasta 〔通受分〕合成せられざる, 集められざる, 不完全なる.
a-samātta 〔通受分〕[Dā] 〔釋〕未受行, 未曾受 *Bodh-bh.*
a-samāna 形 等しからざる, 異なる, 比較すべからざる; 他人に分與せられざる; 〔釋〕不齊, 不平 *Abh-vy.* 甲 境遇又は状態の不相應.
a-samāna-grāma 形 他村に屬する, 同村の出身ならざる.
a-samāpta 〔通受分〕完成せられざる.
asamāpta-prabha 男 〔釋〕[*Amitābha* 佛の屬性] 無邊光 *Sukh-vy. I.*
a-samāyukta 〔通受分〕〔釋〕無屬, 不相應 *Abh-vy.*
a-samāyuta 〔通受分〕結合せられざる.
a-samāvṛttaka 形 (學業完成せざる爲)家に歸らざる.
a-samāvṛttika 形 [同上].
a-samāhita 〔通受分〕集められざる, 不注意なる; 〔釋〕散; 不定, 非定, 不住定; 非寂靜; 非等引 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sūtr., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.*
asamāhita-citta 甲 〔釋〕不定心 *Dharm-s., Mvyut.*
a-samāhitatva 甲 〔釋〕散地, 散動地 *Abh-vy.*
a-samidhya 〔通受分〕點火せずして.
a-samiśra 形 混合せざる, 結合せざる.

a-samikṣita (通受分) 認識せられざる, 確認せられざる, (眼界より)消失せる.

a-samikṣya (不変分) 反省せずして, 考慮せずして.

asamikṣya-kārin (形) 無反省に振舞ふ.

a-samirita (通受分) 烈しからざる(風).

a-samucchinna (通受分) 不斷 *Abh-vy.*

asamucchinna-kusala-mūla (形) 不斷善根 *Abh-vy.*

a-samutthāna (形) 不生, 無起, 無等起, 無處所 *Aṣṭ-pr.*

asamutthāna-yoga (形) 無起方便 *Aṣṭ-pr.*

a-samudaya (男) 不集 *Lank.*

a-samudāgata (通受分) 不習, 未習成, 無因(而)得 *Bodh-bh.*

a-samudācāra (男) 不敬虔なる行爲, 非道德なる行爲 (*Jāt-m.*); 無容有, 不行起 *Abh-vy.*

a-samudānita (通受分) 無證 *Sapt-pr.*

a-samudyama (男) 努力の缺如; 怠慢.

a-samunnaddha (通受分) 謙遜なる.

a-samṛddha (通受分) 成功せざる, 繁榮せざる, 完成せざる, 充たされざる, 失敗せる.

a-samṛddhi (女) 失敗.

a-sameta (通受分) 來らざる, 不足せる, 缺乏せる.

a-sampatti (女) 失敗.

a-sampanna (通受分) 完成せられざる, 不備なる, 不完全なる.

a-sampannatā (女) 不具足 *Bodh-bh.*

a-samparāyābhimukha (形) 死を顧ざる.

a-samparigraha (形) 返答なき (*Jāt-m.*).

a-sampāṭhya (未受分) 同門の弟子とせられざる, 共に學ぶべからざる.

a-sampāta (形) 現在せざる.

a-sampādayat (使役 現分) 實現せざる, 達成せざる.

a-sampūrṇa (通受分) 不足の, 不完全の; (具)に闕けたる.

a-samprakhyāna (中) 不明, 不念, 非所顯現 *Mvyut.*

a-samprajanya (中) 不正知 *Vijñ-t., Mvyut.*

a-samprajāna (形) 不正知, 不留神 *Mvyut.* [*Pāli.* sampajāna 参照].

a-samprajñāna (中) 知識の缺如; 不留神 *Mvyut.*

a-samprati (不変) 時機又は現在の狀況に依らずして.

a-sampratta (通受分) 引渡されざる, 交付せられざる.

a-sampramuṣita (通受分) 不失, 不忘失 *Mvyut.*

a-sampramūḍha (通受分) 無忘, 不忘失 *Sikṣ.:* smṛty ~ 得無忘念 *Sikṣ. 32.*

a-sampramoṣa (男) 忘れざる, 失はれざる; 不失, 不忘, 不忘失, 無忘失 *Bodh-bh., Mvyut.* (形) 不失, 不忘, 不忘失, 無忘失, 常不忘失 *Sam-r., Vijñ-t., Bodh-bh., Mvyut.*

a-sampramoṣatā (女) 無妄失 *Sikṣ.*

a-samprayukta (通受分) 不相應 *Abh-vy.*

a-samprayuñjat (現分) 自由ならしめざる, 抑制せる.

a-samprāpta (通受分) 到達せざる; 猶ほ闕くる所ある; 達成せられざる; 遂行せられざる; 未至,

所未至, 未生未至; 未起; 非得, 無得, 未入手 *Divy., Aṣṭ-pr., Kāśy., Lank., Sikṣ., Madhy-v.*

a-samprāpti (女) 非得, 無得, 非可取 *Lank.*

a-sambaddha (通受分) 結合せられざる, 關係せられざる; 連絡なき, 支離滅裂なる, 不合理なる; 無意味なることを話す或は喋る; 不相應 *Bodh-bh.*

a-sambandha (男) 無結合, 無相關; 無縁, 不縛, 不相屬 *Aṣṭ-pr., Bodh-c.* (形) 連絡せられざる.

a-sambādha (形) 制限せられざる, 妨げられざる; 廣き, 大なる; 人跡絶えたる.

a-sambodha (男) 無知, 知らざる, 理解せざること; 不覺, 無覺 *Lank.*

a-sambhava (男) 破滅; 中絶; 不在, 缺乏; 不可能, 許容し難きこと, 不合理; 無, 不有, 非有; 不生; 離 *Lank., Nyāy-pr., Sikṣ., Madhy-vibh., Abh-vy., Mvyut.;* 不容, 無容有 *Abh-vy.;* 不親 *Sam-r.;* 體是空 *Suv-pr.* (形) 再び生れざる; 肉體を有せざる; 起らざる, 不可能なる, 不合理なる; 不生, 無成 *Bodh-bh.*

a-sambhavatva (中) 不可得, 無所得 *Aṣṭ-pr.*

a-sambhavyam (男) 挽回し難く, 再生せざらんが爲に.

a-sambhāvanā (女) 信ぜられざること; 輕侮, 尊敬せざること.

a-sambhāvayat (現分) 不可能なりと勘ふる.

a-sambhāvita (通受分) 未完成の; 思惟し難き; (男)の價值なき.

asambhāvitopamā (°ta-up°) (女) 不可能事を假定する譬喩.

a-sambhāvya (未受分) 假定せられざる, 思惟し得ざる, 不可解なる, 不可能なる. ~m (男) 挽回し難く.

a-sambhāṣaṇa (中) 話さざること.

a-sambhāṣā (女) (具)と談話せざること.

a-sambhāṣya (未受分) 共に談話し難き, (場處として)協議に適せざる.

a-sambhinna (通受分) 破られざる; 結合せられざる, 分離せる; 不壞, 不可壞, 無能壞; 平等; 相應; 無差別, 同無差別, 等無差別, 無二無別, 不分, 無分別; 無礙, 無所罣; 無雜, 不雜 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.:* ~tathāgata-vimokṣa-jñāna-niṣṭhāgata 不相間雜如來解脫智究竟 *Mvyut.*

asambhinna-pralāpa (男) 相應語 *Bodh-bh.*

asambhinna-viṣaya (男) 無分別境, 境界平等 *Gaṇḍ-vy.*

a-sambhūta (通受分) 現存せざる, 架空の; 無, 非性, 無有實, 不真實, 無有實物; 無生, 不生 *Lank., Sikṣ.*

a-sambhūtātā (女) 無成, 不有合成 *Daś-bh.*

a-sambhūtātva (中) 無生, 無成, 無所起 *Daś-bh.*

a-sambhṛta (通受分) 作られざる, 自然の儘なる, 天然の; 不積聚 *Bodh-bh.*

a-sambhṛti (女) 無聚 *Sūtr.*

a-sambheda (男) 混合せざること, 分離せざること; 不雜, 不雜亂; 不分, 無別, 無分別, 無別異, 無

差別; 平等, 悉平等; 不壞, 不可壞, 不斷絶 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

asambheda-jñāna ㊦ ㊦ 平等智, 不壞智 *Gaṇḍ-vy.*

a-sambhedana ㊦ ㊦ 無雜, 無雜壞; 無壞, 不壞, 不可壞, 不所破壞; 無分別; 無錯謬 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*

a-sambhedanatā ㊦ ㊦ 無壞, 不變異性 *Aṣṭ-pr.*

a-sambhedya ㊦ ㊦ 接觸し得べからざる。

a-sambhoga ㊦ 不享樂, 戀の樂みなきこと, 性交せざること; ㊦ ㊦ 不同受用 *Bodh-bh.*

a-sambhojya ㊦ ㊦ 未受分 その人と會食すべからざる。

a-sambhrama ㊦ = *asambhrānta*. ㊦ 心の動搖なきこと。㊦ *m* ㊦ 冷靜に。

a-sambhrānta ㊦ ㊦ 過受分 激昂せざる, 當惑せざる, 冷靜なる。㊦ *m* ㊦ 冷靜に。

a-saṃmata ㊦ ㊦ 過受分 尊重せられざる, 輕蔑せられたる; 權能を與へられざる; (一°)の同意なき。㊦ 不同意。

asaṃmatādāyin (°*ta-ād*°) ㊦ (所有者の)同意なくして攝收せる。

asaṃmatāvavāda ㊦ ㊦ 不差教授 *Mvyut.*

a-saṃmāna ㊦ 不名譽。

a-saṃmūḍha ㊦ ㊦ 過受分 當惑せざる, 明瞭なる意識を有する; ㊦ ㊦ 不昧 *Mvyut.*

a-saṃmrṣṭa ㊦ ㊦ 過受分 清められざる, 磨かれざる。㊦ (祭火の)清めの足らざること。

a-saṃmoṣa ㊦ → *ālambana* ~

a-saṃmoṣatā ㊦ ㊦ ㊦ 無忘失 *Bodh-bh.*: *smṛty* ~ 念無忘失, (常)念不忘 *Bodh-bh.* 404.

asaṃmoṣa-dharmatā ㊦ ㊦ ㊦ 不忘法, 無忘失法 *Bodh-bh.*

asaṃmoṣa-dharman ㊦ ㊦ ㊦ [佛の稱] 得無忘念, 終不忘念 *Divy.*

a-saṃmoṣā ㊦ ㊦ ㊦ 不忘失 *Bodh-bh.*

a-saṃmoṣa ㊦ 意識の明瞭なる, 冷靜なる, 思慮深き; ㊦ ㊦ 離無明, 遠離愚迷, 無有疑惑, 無有迷惑 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*

a-samyak ㊦ 不正に; 誤りて; 伴りて

asamyak-kārin ㊦ 正しく行動せざる。

asamyak-kṛta-kārin ㊦ 事又は義務をよくなさざる。

asamyak-prayoga ㊦ 誤れる應用。

a-saraṇa ㊦ 進まざること, 行かざること。

a-sarpa-bhūta ㊦ 蛇に非ざる。

a-sarva ㊦ 全からざる。

asarva-jña ㊦ 全知ならざる。

a-sarvatra-ga ㊦ ㊦ 非遍行 *Abh-vy.*

asal-lakṣaṇa ㊦ ㊦ ㊦ 無相, 非有相, 無有相 *Lank.*, *Madhy-vibh.*

asallakṣaṇa-samāroḥa ㊦ ㊦ ㊦ 非有相建立, 建立非有相, 無有相建立 *Lank.*

a-savarṇa ㊦ (圖)と種姓(階級)を異にせる, ……より他の種姓に屬する, 同種ならざる。

a-savya ㊦ 左ならざる, 右の; 左へ向へる, 左の [= *apa-savya*]; ㊦ 右に。

a-saścat ㊦ ㊦ (㊦ *-ati*, *-anti*) 息(+)*m* ざる, 拒絕せ

ざる, 乾かざる。㊦ ㊦ (㊦ *a-saścatas*) 決して水の盡きざる河。

a-saścatā ㊦ ㊦ 盡きずに。

a-saścati ㊦ → *a-saścat*.

a-saścanti ㊦ [同上]。

a-sasat ㊦ ㊦ 假睡せざる。

a-saha ㊦ (業, 一°)に耐へられざる; (不定, 一°)し能はざる; 性急なる。

a-sahat ㊦ ㊦ (㊦ *-anti*) 耐へざる。

a-sahana ㊦ (一°)に耐へ得ざる; 嫉妬深き。

a-sahanatā ㊦ 弱きこと

a-sahamāna ㊦ ㊦ ㊦ 堪へざる; ㊦ ㊦ 不任, 不能忍受 *Lal-v.*, *Vijñ-v.*: *adarśanam* ~ ㊦ ㊦ 慙慙戀慕, 慙慙瞻仰, 瞻仰悲戀 *Gaṇḍ-vy.* 59.

a-sahasra ㊦ 一千以下。

a-sahāya ㊦ 仲間なき, 寄邊(?)なき; ㊦ ㊦ 獨, 無伴, 無伴侶, 無有伴, 無有伴侶 *Divy.*, *Śikṣ.*, *Abh-vy.*

a-sahāyatā ㊦ 友なきこと, 孤獨, 孤立。

a-sahāyavat ㊦ 友又は朋輩なき。

a-sahāyin ㊦ = *asahāya*.

a-sahiṣṭu ㊦ (業, ㊦, 一°)に耐へ得ざる, 短氣なる; 嫉妬深き; 喧嘩好きなる; ㊦ ㊦ 不堪, 不堪受, 不勘耐 *Divy.*, *Bodh-bh.*; 痛楚(?) *Śikṣ.* 231.

a-sahiṣṭutā ㊦ ㊦ 堪へ得ざること, 陸しからざること, 嫉妬。

a-sahiṣṭutva ㊦ [同上]。

a-sahya ㊦ ㊦ ㊦ 未受分 堪へ難き, 抵抗し難き; 實行し得られざる, 不可能なる, 助けなき(船) (*Divy.*).

a-sahyatā ㊦ 抵抗し難きこと。

a-sākṣāt-kṛta ㊦ ㊦ ㊦ 未證 *Bodh-bh.*

a-sākṣika ㊦ 目撃せられざる, 目撃者なき。

a-sākṣin ㊦ 証明の不十分なる; 目撃せざる。

a-sātā ㊦ ㊦ ㊦ 不悅, 非所愛 *Abh-vy.*

a-sāda ㊦ 疲れざる, 衰へざる; 馬に乗り居らざる。

a-sādṛśya ㊦ 不同。

a-sādhaka ㊦ 成就せざる; 不満足なる; ㊦ ㊦ 不能成, 非能成立 *Lank.*

a-sādhana ㊦ 無方策, 無資格。㊦ 方策なき, 資力に乏しき; 實行し難き, 不可能なる。

a-sādhanatva ㊦ [同上(㊦)㊦]。

a-sādhāraṇa ㊦ (㊦ *-i*) 普通ならざる, 特殊なる; 無類の; ㊦ ㊦ 不共, 非共, 不同, 不與…共, 不與…所共 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Nyāy-pr.*

asādhāraṇa-kāraṇatva ㊦ ㊦ ㊦ 不共因, 不共事 *Abh-vy.*

a-sādhāraṇatā ㊦ ㊦ ㊦ 不共, 無共 *Bodh-bh.*

a-sādhāraṇatva ㊦ ㊦ ㊦ 不共, 不遍 *Abh-vy.*, *Abh-k.*

asādhāraṇa-phala ㊦ ㊦ ㊦ 不共果 *Bodh-bh.*

asādhāraṇopamā (°*ṇa-up*°) ㊦ [譬喩の一種]。

a-sādhū ㊦ 善からざる, 悪しき; 誤れる; (㊦)に對して悪しき。㊦ 惡人。㊦ 惡言; 惡; ㊦ ㊦ 不善梵雜。

a-sādhutva ㊦ 惡, 不正有。

asādhū-darśin ㊦ 正しき見解を有せざる; 無分別の。

asādhū-vāda 男 不賛成。
asādhū-vṛtta 形 行儀悪しき。
a-sādhyā 未受分 処理し難き; 達成し難き, 實行し難き; 征服せられざる; 不治の; 確め難き; 不化; 不可治 *Madhy-v.*
a-sādhyatā 女 不治なること。
a-sādhyatva 甲 [同上]。
asādhyā-rūpa 形 不可療治 *Bodh-bh.*
a-sānāthya 甲 援助なきこと。
a-sāmnidhya 甲 不在。
a-sāman 1. 甲 歌詠 (Sāman) なきこと。 形 歌詠 (Sāman) に通達せざる。
a-sāman 2. 甲 缺乏, 不足。
a-sāman 3. 甲 具 **a-sāmnā** [=a-sādhunā] 副 不親切に, 悪意を以て。
a-sāmānya 形 不親切なる, 粗暴なる。
a-sāmayika 形 時宜を失せる。
a-sāmarthya 甲 不能, 無能力, 薄弱; 不能 *Sikṣ.* 形 能力なき, (樹木の) 枯死せんとせる。
asāma-vidvāms 形 =asāman 1. (形)。
a-sāmānya 形 普通ならざる, 特別なる; 不共 *Sūmkhy-k.*
a-sāmi 形 完全なる, 半分ならざる, 全體の。 副 完全に。
asāmi-śavas 形 完全なる力を有する。
a-sāmnā 具 副 → a-sāman 3..
a-sāmparāyika 形 戦闘に適せざる。
a-sāmprata 形 不適當の, 不相應の; 現在に關係なき, 時を得ざる。 ~m 副 不適當に, 不相應に。
a-sāmpradāyika 形 傳統的ならざる, 傳承に基かざる。
a-sāmpreya 形 [Pāli. asappāya] 不應作 *Prāt-m. 526.*
a-sāmya 甲 等しからざること, 相異; 不等 *Abh-k.*
a-sāyaka 形 矢なき。
a-sāra 男 甲 不適當, 無價值; 無實, 不堅 *Mvyut.* 形 適せざる, 價值なき, 力なき, 不利なる; 不實, 不堅, 無有堅牢 *Divy., Rāṣṭr., Mvyut.*
a-sāraka 形 非堅, 不堅固, 無有堅固, 無堅實, 無有堅實, 無有實, 無堅牢相; (虚妄) 不實 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Saddh-p., Laṅk., Sikṣ.*
a-sāratā 女 不適當; 無價值; 脆弱。
a-sāratva 甲 弱きこと, 缺陷。
asāra-rūpatā 女 無價值; 空虚。
a-sārvatrika 形 (女 -ki) 凡ゆる場合に妥當ならざる, 普通ならざる。
a-sārvatrikatva 甲 [同上]。
a-sāhasa 甲 輕卒又は大膽ならざること。
a-sāhasika 形 (女 -ki) 輕卒に行動せざる。
asi 男 劍; 刀, 劍, 刀劍 *Divy., Lal-v., Sikṣ.*
a-simhāsana (°ha-ās°) 形 玉座なき。
a-sikta 未受分 水を灌がれざる。
asikni 女 [asita 2. より] 夜。
asi-caryā 女 劍法。
a-sita 1. 未受分 束縛せられざる。

asita 2. 形 (女 -ā, asikni) 暗色の, 黒き; 黒 *Mvyut.* 男 [人名]; 阿私陀 [仙人の名] *Buddh-c., Lal-v., Divy.* 阿私陀, 阿私陀仙 *Buddh-c., Lal-v., Divy.*
asita 3. 未受分 [=asita] 食 *Sikṣ. 248.*
asita-gati 男 =kṛṣṇa-gati; 火 (*Buddh-c. 45.*)
asita-griva 男 孔雀。
asita-pakṣa 男 黒月(満月後の半箇月)。
asita-pitaka 形 (女 -ikā) 暗黄色の。
asita-ratna 甲 =asitāśman.
asita-vartman 男 火; *Agni* 神。
asitāśman 男 青玉(°)。
asitekṣaṇa (°ta-ik°) 形 眼黒き。
asitetara-bhās (°ta-it°) 男 月(太陰)。
asitotpala (°ta-ut°) 甲 青蓮花。
a-siddha 未受分 確立せられざる, 不完全なる; 不成, 無驗 *Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr., Mvyut.:* anyatara ~ 不成於一, 隨一不成 *Mvyut.;* parato ~ 不成於彼, 他不成 *Mvyut.;* svato ~ 不成於自, 自不成 *Mvyut.*
a-siddhatva 甲 不確定。
asiddha-hetuka 形 不成就因 *Nyāy-pr.*
asiddhārtha 形 目的を達せざる。
a-siddhi 女 不成就; 失敗; 不確定。
asi-dhara 男 [人名]。
asi-dhāra 男 利劍, 利劍 *Laṅk.;* [地獄の一種] 劍刃 *Mvyut.*
asidhāra-vrata 男 修行利智劍, 修行者利劍 *Laṅk.*
asi-dhārā 女 刀身; 劍刃, 利刀, 鋒銳刀 *Bodh-c., Sikṣ.*
asidhārā-vrata 甲 (自身と婦人との間に) 劍を挟みて臥すと)の起請 [=甚だ困難なる企畫]。
asidhāropama (°rū-up°) 形 如劍刃 *Mvyut.*
asi-dhenu 女 小刀。
asi-dhenukā 女 [同上]。
a-sinva 形 飽くなき。
asi-pattra 甲 刀身; [地獄の名] 劍林 *Bodh-c.* 男 [樹の名, 學名 *Scirpus kysoor Roxb.*]
asipattra-vana 甲 [地獄の名]; 劍葉林, 刀葉森林; 鐵刺林 *Abh-vy., Mvyut.*
asipattra-vṛkṣa 男 [地獄に在る樹の名]。
asi-putrikā 女 小刀。
asi-mārga 男 劍の種々なる使ひ方。
asi-latā 女 劍の刃。
asi-sūnā 女 屠殺場 [Pāli. 同じ] (*Divy.*)
asi 女 [河の名]。
a-siman 形 無限の。
a-simā 女 無畔, 無分齊 *Gaṇḍ-vy.*
asu 男 氣息, 生命, 活力; 靈界; 生氣 [華]。
a-sukara 形 爲し遂げ難き, 困難なる。
a-sukha 甲 心痛, 苦痛, 悲哀。 形 不快なる; 苦痛の; 不幸なる; (不定) し難き; 不樂, 非樂 *Abh-vy., Mvyut.*
asukha-jivika 形 樂なき生涯を送れる。
asukhāya 名動 自 不快を感ず (*Jāt-m.*)
asukhāvaha (°kha-āv°) 形 不幸又は苦難を齎す。

asukhāviṣṭa (°kha-āv°) 通受分 悲痛に苦める。
a-sukhita 通受分 無樂, 不樂 *Bodh-bh.*
a-sukhin 形 悲しめる, 不幸なる。
asukhodaya (°kha-ud°) 形 = asukhāvaha.
asukhodarka (°kha-ud°) 形 = asukhāvaha.
a-sugandha 男 臭氣. 形 香料をつけざる, 臭き。
a-sugama 形 通過し難き, 越え難き。
a-sutara 形 渡り難き。
a-sutṛp 1. 形 飽くなき。
asu-tṛp 2. 形 生命を奪ふ。
asu-tṛpa 形 [同上]。
asu-tyāga 形 生命を棄つる. 男 生命を棄つること。
a-suniścita 通受分 不善決定 *Bodh-bh.*
asu-niti 女 靈魂を(天界へ)導くこと。
a-sundara 形 醜き, 醜惡なる; 善らざる, 正しからざる。
a-supta 通受分 眠らざる; 覺 *Vijñ-v.*
a-supratāca 形 横切るに困難なる (*Jāt-m.*)
a-supratividdha 通受分 未通達 *Bodh-bh.*
a-subodha 形 知り難き。
asu-bhṛt 男 生物, 人間。
asum-bhara 形 生命のみを維持せる, (自己の)生命のみを懸念せる。
asura 形 生ある, 靈的の, 神の. 男 心靈, 天帝; 惡魔, 惡靈, Asura; 非天, 障蔽, 无善袖; 不飲酒, 無酒神 *Mvyut.*, 立應; (音寫) 修羅, 阿修羅, 阿素羅, 阿素洛, 阿蘇羅, 阿須羅, 阿修輪, 阿須倫 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapṭ-pr., Suv-pr., Saddh-p., Kāśy., Sukh-vy. II., Lank., Buddh-c., Bodh-bh., Mvyut.*, 立應, 梵雜。
asura-kāya 男 (音寫) 阿須倫身 *Saddh-p.*
a-surakṣa 形 守護し難き。
asura-guru 男 *Sukra* (金星)。
asura-ghni 形 女 → asura-han.
asuratva 中 靈的なること, 神格; Asura たること。
asura-druh 男 Aśura の敵, 神。
asura-brahma 男 諸 Asura の司祭者。
a-surabhi 形 惡臭の。
asura-raksasa 中 Asura と Rākṣasa との性質を具する惡魔; 阿 Asura と Rākṣasa。
asura-rūpa 男 (音寫) 阿修羅身, 阿須倫形 *Saddh-p.*
asura-vijayin 男 神。
asura-vivara 男 寶の洞窟。
asura-ivara-vyasanin 男 魔術師(?)。
asura-sabhā 女 非天聚地; (音寫) 阿修羅殿 *Mvyut.*
asura-han 形 (女 °ra-ghni) Asura を殺害する。
asurādhipa 男 Asura 王。
asurāri 男 Asura の敵 (*Viṣṇu* 神)。
asurārdana 男 神。
asuri 女 (音寫) 阿修羅女 *Lank.*; (音寫) 阿蘇哩 *Guhy-s.*
asurendra (°ra-in°) 男 [神話的人物の名]; Asura 王; (音寫) 阿修羅王 *Saddh-p.*
asurya 形 靈的の, 神の, 惡鬼の. 中 靈的なること, 神格; 靈界, 神界。

a-sulabha 形 得難き; 稀有の。
a-sulabhatva 中 [同上]。
a-sūvarṇa 形 非金 *Lank.*
a-suṣira 形 空虛ならざる; 無有缺漏 *Sikṣ.*
a-suṣṭha 形 = a-sustha.
a-suṣvi 形 Soma 汁を搾らざる; 敬虔ならざる, 吝嗇なる。
asu-sū 男 矢。
a-sustha 形 氣分悪しき, 不愉快なる。
asustha-śarira 形 病める。
asu-sthirādara (°ra-ād°) 形 常に自己の生命を憂ふる。
a-suhṛd 男 友なきこと, 敵. 形 友なき。
asuhṛd-gaṇa 男 面識なき者の集團。
a-sūci-saṃcāra 形 針さへ貫き難き。
a-sūta 形 御者なき。
a-sūti 女 生起せざること, 現はれざること。
asūya 1. 中 不平を言ふ, (業, 爲) を怒る, ……を不快に思ふ. 使役 阿 asūyayati 怒らしむ。
abhi- ……に對して憤慨す, 非難す。
asūya 2. 形 不平を言ふ, 怒れる。
asūyaka 形 不平を言ふ, 不満なる, 不快なる; 怒れる, 怨める。
asūyat 現分 損害 *Bodh-bh. 104.*
asūyā 女 不平を言ふこと, 不興, 忿怒, 怨恨。
a-sūrya 形 太陽なき. 中 [自殺者の墮ち行く地獄]。
a-sūrya-ga 形 太陽に向ひて動かざる。
aṣṭk-paṅka-peṣam 中 [Piṣ と俱に] 血塗れの軟塊となるまで搗き碎く。
aṣṭk-pāta 男 血痕; 血液の溢出。
aṣṭg-dhārā 女 血液の流れ。
aṣṭmāya 形 (女 -i) 血液より成る。
aṣṭj 中 血液, 凝血。
a-ṣṭni 形 制せられざる, 自由なる。
a-ṣṭhya 形 制すべからざる。
a-ṣṣṭa 通受分 創造せられざる, 分配せられざる; 放棄せざる, 繼續せる。
aṣṣṭāna 中 食物の分配せられざる。
a-secana 形 魅する, 愛らしき; 無盡 *Divy.*
a-secanaka 形 [同上]; 無厭, 無厭足, 不厭足; 可愛; 殊妙; 欲捨不能 *Divy., Lal-v., Sikṣ., Mvyut.*: ~o rūpena 視無厭足, 相好希奇(隨所觀處)欲捨不能 *Mvyut.*
asecanaka-darśana 形 愛らしく見ゆる; 瞻仰無盡 *Divy.*
asecanaka-rūpa 形 所樂見 *Gaṇḍ-vy.*
a-senya 形 打たざる, 傷つけざる。
a-sevaka 男 召使なきこと; 無關心なる召使。
a-sevana 中 交際せざること (*Jāt-m.*)
a-sevā 女 不耽溺, 輕視, 不注意, 奉仕せざること。
a-sevita 通受分 訪はれざる, 無視せられたる, 隨伴せられざる。
aseviteśvara-dvāra (°ta-iś°) 形 貴人の門に侍せざる。
a-sevya 形 訪問せられざる, 侍すべからざる, 奉仕せられざる; 避くべき (*Jāt-m.*)。

a-sevyatā ㊦ 侍すべからざること。
a-sodha ㊦ [Sah] 克服し難き, 耐へ難き。
a-soma ㊦ Soma 汁なき。㊦ Soma 汁ならざるもの; Soma の獻供を爲さざること。
a-soma-pa ㊦ Soma 汁を飲まざる, Soma 汁を飲むことを許されざる。
asau ㊦ [adas の ㊦ ㊦] それ; 彼, 彼の女; 斯く斯くの事物又は人物; それ自身(強調); [eva と共に] 同一の。
asau-nāman ㊦ これこれの名を有する。
a-saubhāgya ㊦ 不人望。
a-saumya ㊦ 不快なる; 不吉なる。
a-sauvarṇa ㊦ 黄金製にあらざる。
a-sauṣṭhava ㊦ (身體の)輕快ならざる, (體力の)衰へたる。
a-sauhr̥da ㊦ 敵對, 敵意。
a-skandayat ㊦ 忽せにせざる, 放置せざる。
a-skandita ㊦ 忽せにせられざる, 等閑に付せられざる。
a-skandin ㊦ 凝結せざる。
a-skandha ㊦ ㊦ 非陰, 非蘊, 非是聚 *Vajr-pr., Lank.*
a-skanna ㊦ 流さざる, 撒布せられざる; 受胎せしめられざる, 汚染せざる。
a-skambhana ㊦ 柱又は支柱なきこと。
a-skhalana ㊦ (從)を失はざること。
a-skhalita ㊦ 震動せられざる, 確乎たる, 蹉躓なき; 中絶せられざる, 障礙せられざる。㊦ 停止せざること。
askhalita-cakra ㊦ 故障なき戦車を有する。
askhalita-pada ㊦ 足の躓かざる; 安全なる。
askhalita-prayāṇa ㊦ 行進の停滞せざる。
asta 1. ㊦ → As 2.
asta 2. ㊦ 自家, 住處, 故郷。㊦ 没入; [日月が其の背後に没するといふ, 神話上の西方の山]。㊦ 自家へ; [去來の ㊦ と共に] 没す(星・日・月); 就眠す; 死す: ㊦ *Gam* ㊦ 入; 無; 滅, 滅; 壞 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Daś-bh., Mvyut.*; ㊦ *pra-yātam* ㊦ 滅 *Sūtr.*
astam-yat ㊦ 没する。
asta-karuṇa ㊦ 慈悲なき。
asta-kṣiti-bhṛt ㊦ *Asta* 山。
asta-gamana ㊦ (太陽)の没すること; ㊦ 日没, 暮 *Divy., Abh-k.*
asta-giri ㊦ *Asta* 山。
astam-gata ㊦ 没せる; ㊦ 没, 日没已; 滅; 滅離, 失; 壞 *Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Abh-vy., Madhy-v.*
astam-gama ㊦ ㊦ 没, 滅, 滅没, 散滅; 除, 斷, 斷除; 壞 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sūtr.*
astam-gamana ㊦ (太陽)の没すること; ㊦ 没, 日没, 日光已没, 滅, 滅没 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh.*
astamgamana-kāla-samaya ㊦ ㊦ 日没時 *Prāt-m.*
astam-gamita ㊦ 没せしめられたる, 破壊せられたる。
asta-tandri ㊦ 倦怠なき, 懶惰ならざる。

astatva ㊦ 滅没。
asta-nimagna ㊦ (太陽)の没したる。
a-stabdha ㊦ 固定せざる; 敏捷なる, 活動する; 謙遜なる。
a-stabdhatva ㊦ 謙遜。
astamana ㊦ [astam-ayana の ㊦] (太陽)の没すること。
astam-aya ㊦ 日没; 消失。
astam-ayana ㊦ (太陽)の没すること。
asta-mastaka ㊦ *Asta* 山の嶺。
astam-ita ㊦ 没し了れる; 就眠せる; 死せる; ㊦ 入, 滅; 日没, 日暮 *Daś-bh., Mvyut.*; ㊦ ㊦ [sūrye と共に] 日没後に; ㊦ ㊦ *tu vajīrke* 日入時 *Guhy-s. 95.*
astamitāvavāda ㊦ ㊦ 教授至日暮, 説法至日没 *Mvyut.*
asta-mūrdhan ㊦ *Asta* 山の嶺。
a-stambha ㊦ 柱なき; 謙遜なる。
a-stambhita ㊦ → *acchambhita.*
a-stambhitatā ㊦ ㊦ 無畏, 無懼 *Aṣṭ-pr.*
asta-lajja ㊦ 羞恥心を失へる。
a-stavya ㊦ ㊦ 褒むべからざる, 讚美すべからざる。
asta-śikhara ㊦ = *asta-mūrdhan.*
asta-saṃkhyam ㊦ 無數に。
asta-samaya ㊦ 日没の刹那; 死の瞬間。
astā ㊦ 擲射物; 矢。
astācala ㊦ *Asta* 山。
astādri ㊦ [同上]。
astābhilāṣin ㊦ 日没又は破滅に近づく。
asti ㊦ ㊦ 有 *Madhy-vibh., 梵雜.* → *As. I.*
astitā ㊦ ㊦ 實在; ㊦ 有, 有性, 實有 *Aṣṭ-pr., Lank., Cat-ś.*
astitva ㊦ [同上]; ㊦ 有, 有相, 有性, 有體 *Lank., Bodh-c., Sūtr., Madhy-v., Vijñ-v., Abh-vy.*
astitva-sādhaka ㊦ ㊦ 成於有 *Lank.*
asti-doṣa ㊦ ㊦ 有法過 *Lank.*
asti-nāsti ㊦ 疑はしき。㊦ ㊦ 有無 *Lank.*
asti-nāsti-vinirmukta ㊦ ㊦ 離有無, 遠離於有無 *Lank.*
astu ㊦ [As I. の ㊦ ㊦] かくあるべし。
a-stuta ㊦ 稱讚せられざる; 讚誦せられざる。
a-stuti ㊦ 何人をも褒めざる。
a-stutya ㊦ 稱讚に値せざる。
astu-vid ㊦ 或る事を爲すべしと知る。
astr̥ ㊦ 投擲者, 射手。㊦ 投げんとする。
a-str̥ta ㊦ 克服せられざる, 克服し難き, 破壊し難き。
a-stena ㊦ 盜人ならざるもの。
astena-mānin ㊦ 自己を盜人に非らざると勘へる。
a-steya ㊦ 盜まざること。
a-stoka ㊦ 僅かならざる, 輕少ならざる, 重要なる。
a-stotr̥ ㊦ 褒めざる, 稱揚せざる。
a-stobha ㊦ 休止なき。
astra ㊦ (男) 擲射兵器, 矢; 弓; ㊦ 陣 *Abh-k.*
astra-kṣatimat ㊦ 擲射兵器によりて傷けられたる。
astra-grāma ㊦ 擲射兵器の堆積。

astra-jita 形 以刀兵勝, 以戰令伏 *Mvyut.*

astra-jña 形 武器に長ぜる, 名射手なる.

astra-pāraga 形 武術に長ぜる.

astra-bandha 男 矢が間斷なく一條となりて飛び來ること.

astra-bhṛt 男 射手.

astra-mantra 男 矢を放つとき唱ふる呪文.

astra-vid 形 = astra-jña.

astra-vṛṣṭi 女 矢の雨.

astra-veda 男 弓に関する學問, 弓術, 武術.

astra-śastra 中 凡ゆる武器.

astrāgāra 中 武器庫.

astrin 男 射手.

a-stri 女 非女人; 非女性 [=男] 及び [中] (文法).

a-stri-sambhogin 形 女人と同衾せざる.

astropaniṣad (°ra-up°) 女 武器を巧みに操ること; 武器に関する學問, 武術.

astha 中 = asthi; 骸骨 *Suv-pr.* 209.

asthan 中 [asthi の最も弱き語幹として用ひらる] 骨; 核.

asthanvat 形 骨を有する. 脊椎動物.

a-sthāna 中 (處) に對して不適當なる場處; (音の如き) 永久的ならざるもの; 正しからざる場合; 無住, 非所, 非處 *Sam-r., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* °—, 場處を外れて; 誤れる時刻に於て; 誤りて. 無所住, 無處, 無有(是)處 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Lan̄k., Bodh-bh., Abh-vy.* ~m 無(是)處, 無有(是)處 *Aṣṭ-pr., Sikṣ.:* ~m etat 無此處 *Mvyut.;* ~m anavakāśaḥ 無是處, 無有是處 *Divy., Aṣṭ-pr.*

asthāna-yoga 男 無住相應 *Aṣṭ-pr.*

a-sthānin 形 適當なる場處又は順序に居らざる.

a-sthāyin 形 永久的ならざる, 一時的の.

asthāvaśeṣa 形 唯有骸骨, 唯有餘骸骨 *Suv-pr.* 209.

a-sthāsnu 形 忍耐し得ざる.

asthi 中 骨; 核; 骨. 白骨. 骸骨 *Av-ś.;* 舍利 [śarīra の音寫よりの轉語], 遺身舍利, 眞身舍利 *Suv-pr., Rāṣṭr., Bodh-c., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵雜, 梵千.;* 核 *Daś-bh.:* kola ~ 棗核 *Daś-bh.* 196.; 阿悉帝 *Guhy-s.*

asthika 中 骨; 骨 *Lal-v.*

asthi-kuṇḍa 中 骨の充ちたる穴 [地獄の一部].

asthi-cūrṇa 中 骨粉.

asthi-ja 男 雷電, 雷鳴; 髓. 形 骨の中に生じたる.

a-sthita (過受分) 存在せざる, 永續せざる; 無住, 不住, 未住, 不正安住 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

a-sthiti 女 無秩序; 非住, 不可住 *Sapt-pr., Lan̄k.*

asthiti-bhāva 男 不法住, 未住體 *Madhy-vibh.*

asthi-danta-maya 形 骨又は象牙製の.

asthi-pañjara 中 (骨の籠), 骸骨; 骨鎖 *Bodh-c.*

asthi-parvata 男 白骨山 *Av-ś.*

asthi-bandhana 中 髓.

asthi-bheda 男 骨折, 骨傷; [骨の一種]; 骨痛 *Mvyut.*

asthi-majjā 女 髓 *Aṣṭ-pr.*

asthimat 形 骨を有する; 脊椎ある.

asthimaya 形 (女-i) 骨より成れる, 骨にて充滿せる.

asthi-mālin 男 [(髑髏の頸飾を有するもの), *Siva* 神の稱].

asthi-yajña 男 骨の供儀.

a-sthira 形 堅固ならざる, 永久的ならざる, 一時的の; 震へる; 定まらざる, 疑はしき.

a-sthiratā 女 [同下]; 不住 *Divy.*

asthiratva 中 不安定, 無常; 移氣なること, 信賴し難きこと.

asthi-śakalā 女 [asthi-śṛṅkhalā の詠] 骨組 (*Av-ś.* I. 274.). → asthi-śaṅkalā.

asthi-śaṅkalā 女 [正しくは asthi-śṛṅkhalā, *Pāli.* aṭṭhi-saṅkhalikā]; 骨鎖, 骨緊(相) *Abh-vy.* 5.26.

asthi-śṛṅkhalā 女 (聖河中の) 骨の分解.

asthi-śeṣa 形 骨のみ残れる.

asthi-śeṣatā 女 [同上] 中].

asthi-saṅkalikā 女 [=asthi-śṛṅkhalā]; 骨鎖 *Sikṣ.* 211. → asthi-śaṅkalā.

asthi-saṅkali-bhūta 形 已成骨鎖 *Sikṣ.* 211. → asthi-śaṅkalā.

asthi-saṅkhalikā 女 = asthi-saṅkalikā.

asthi-saṅghāta 男 骨鎖, 全身舍利 [舍利は śarīra の音寫] *Divy.*

asthi-saṃcaya 男 (火葬の後) 骨を集むる式.

asthi-saṃjñā 女 骸骨想 *Mvyut.*

asthi-sandhi 男 關節.

asthi-sambhava 形 骨より成れる.

asthi-sthūṇa 形 骨格を有する, (肉體の如く) 骨を支柱とする.

asthi-sneha 形 髓.

asthi-kṛtya (不變分) 特守持, 專持如杖 *Mvyut.*

a-sthūri 男 一頭立に非ざる, 偏せざる.

a-sthūla 形 粗ならざる, 繊細なる, 緻密なる.

asthy-anta 形 骨髓に徹したる即ち和解し難き(敵意 *vaira*).

a-snāta (過受分) 沐浴せざる.

a-snātr 形 沐浴を好まざる, 水を嫌へる.

a-snāna 中 浴せざること(即ち終身學習期末の沐浴をなさざること即ち終身梵行に住すること).

a-snāyin 形 浴せざる.

a-snāvaka 形 筋なき.

a-snāvira 形 [同上].

a-snigdha (過受分) 柔らかならざる, 固き; 愛情なき; 澁 *Sikṣ.*

a-sneha 形 脂肪なき; 愛情なき, 不親切なる.

a-snehana 男 [(愛情なきもの), *Siva* 神の稱].

a-snehavat 形 愛情なき.

a-spanda 形 動揺せざる; 固定せる; 不變の.

a-spandana 形 動揺せざる, 動かざる.

aspaṇḍāsu 形 氣息を凝らせる.

a-sparśa 形 觸覺を有せざる; 觸覺によりて認知する能はざる. 男 接觸せざること, 染著せざること; 不安, 不安隱, 不安樂 *Bodh-bh., Vijñ-t.*

a-sparśana ㊦ 接觸なきこと、接觸の回避。
 a-sparśaniya ㊦(未受分) = a-sprśya.
 asparśa-vihāra ㊦(男) 不安住、不安隱住、不安樂住 *Vijñ-t., Bodh-bh.*
 a-spaṣṭa ㊦(過受分) 見分け難き、不明瞭なる。
 aspaṣṭa-kirti ㊦ 有名ならざる、知られざる。
 aspaṣṭopādhi (°ta-up°) ㊦ その制約の不明なる。
 aspaṣṭopādhitā (°ta-up°) ㊦ [同上 ㊦]。
 a-spr̥ta ㊦ 亂暴に持ち去り得ざる (Soma)。
 a-spr̥ṣat ㊦(現分) 接觸せざる。
 a-spr̥ṣita ㊦(過受分) = aspr̥ṣta; ㊦(未觸) 未觸、不觸 *Bodh-bh.*
 a-spr̥śya ㊦(未受分) 接觸せらるまじき; 明瞭ならざる。
 a-spr̥ṣṭa ㊦(過受分) 觸れられざる; 到達せられざる、缺乏せる。
 aspr̥ṣṭa-puruṣāntara ㊦ 他者に適用せられざる。
 aspr̥ṣṭa-maithunā ㊦(女) 處女。
 aspr̥ṣṭa-rajās-tamaska ㊦ 完全に純潔なる。
 aspr̥ṣṭa-hetuka ㊦(男) 非觸爲因 *Abh-vy.*
 a-spr̥ṣṭa ㊦ 欲望なき。
 a-spr̥ṣṭā ㊦(女) 無欲。
 a-spraṣṭr̥ ㊦ 觸れざる、觸感なき。
 a-sphuṭa ㊦ 不明瞭なる; 不正確なる; 概算の; ㊦(非所覆) 非所覆、非所遍 *Abh-vy.*
 asma 1. ㊦(一入) 複 又は ㊦(一入) 單の語幹。
 a-sma 2. ㊦ 不變化小辭 sma と結合せられざる(文法)。
 asmat-kūlina ㊦ 我等の家族に屬する。 ㊦(男) 我等の家族の一人。
 asmattas ㊦ [asmat の ㊦] 我等より。
 asmatrā ㊦ 我等の間に、我等と共に。
 asmat-sakhi ㊦ 我等を友とせる。
 asmat-saṃgrasana-vyātta-vyālatuṇḍāya ㊦(名動) ㊦(自) 我等を食はんとして開きたる虎の口を表はす。
 asmat-samipatas ㊦ 我等に近接して。
 asmad ㊦(一入) 複 の ㊦; ㊦(我) *Bodh-bh.*
 asmad-arthe ㊦(男) 我が爲に。
 asmadiya ㊦ 我等の。
 asma-dryak ㊦ 我等の方に。
 asma-dryac ㊦ 我等に向ひたる。
 asmadvat ㊦ 我等の如くに。
 asmad-vidha ㊦ 我等の如き。
 asmayu ㊦ 我等に愛著せる、我等に到らんと努力する。
 a-smaraṇa ㊦ 想起せざること、憶念せざること。
 a-smarat ㊦(現分) 憶念せざる。
 asmāka ㊦ 我等の。
 asmā-dṛśa ㊦ 我等の如き。
 asmāparāntaka ㊦(男) ㊦(地方の名) 阿濕婆蘭德伽 *Divy.*
 asmitā ㊦(女) 我見、我執。
 asmin ㊦ [idam の ㊦(男) ㊦(一入) 單]; ㊦(其中) 其中、於中 *Abh-vy.*
 asmi-māna ㊦(男) 自負心; ㊦(我慢) 我慢 *Sikṣ., Vijñ-t., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*
 a-smṛta-dhru ㊦ 敵を注意せざる或は考へざる。
 a-smṛti ㊦(女) 失念、記憶なきこと。
 asme ㊦ [asma 1. の ㊦(一入) 單]。

asme-hiti ㊦(女) 我等に對する使又は通知。
 asya-vāmiya ㊦(男) asya vāmasya なる語にて始まる讚歌 [即ち *Rg-veda* I. 164. を稱す]。
 asyām [= syām ㊦(一入) 單]; ㊦(佳) [Tib. gnas-pa] *Mvyut.*
 asra ㊦(男) 涙; 血液。 ㊦(形) 投ずる。
 a-sraṃsana ㊦(男) 不遺、無間續 *Sūtr., Mvyut.*
 asra-pa ㊦(男) Rākṣasa。
 asrāyamāṇaka ㊦(形) 涕泣せる。
 a-sridh ㊦(形) 確實なる、過たざる、誤らざる。
 a-sridhāna ㊦(形) [同上]。
 a-sreman ㊦(形) 疲れざる; 誤なき、完全なる。
 asrottaram (°ra-ut°) ㊦(男) 涙に浸りて。
 a-sva ㊦(形) 無産の。
 a-svaka ㊦(男) 敵。
 a-sva-ga ㊦(形) 家庭なき、自己の家郷に行かざる。
 a-sva-gatā ㊦(女) 無宿、家郷なきこと。
 a-sva-jāti ㊦(形) 異なる種姓(階級)の。
 a-sva-tantra ㊦(形) 自主ならざる、從屬する; ㊦(失本性) 失本性、無有自在 *Buddh-c., Divy.*
 a-sva-tantratā ㊦(女) 從屬。
 asvatantri-kṛta ㊦(形) ㊦(不自在) 不自在 *Sūtr.*
 a-svatā ㊦(女) 利己的ならざること (*Buddh-c.*)
 a-svatva ㊦(男) 貧乏、無産。
 a-svadita ㊦(過受分) 不味なる。
 a-sva-dṛś ㊦(形) 自我を見ざる。
 a-sva-dharma ㊦(男) 義務の怠慢。
 a-svana ㊦(形) 明瞭なる音を有せざる。
 a-svapat ㊦(形) 眠らざる。
 a-svapna ㊦(男) 不眠。
 a-svapnaj ㊦(形) 眠らざる、睡からざる; ㊦(非夢) 非夢 *Lank.*
 a-sva-pratyātmārya-jñāna (°ma-ār°) ㊦(男) ㊦(非自證聖智) 非自證聖智 *Lank.*
 a-sva-bhāva ㊦(男) 不自然なる或は異常なる特質又は氣質; ㊦(無性) 無性、無自性、非自性、離自性、無體、無實體相 *Aṣṭ-pr., Lank., Madhy-v.*
 a-sva-bhāvaka ㊦(形) ㊦(無有自性) 無有自性、無法體相 *Lank.*
 a-sva-bhāvatā ㊦(女) ㊦(無自性) 無自性 *Aṣṭ-pr.*
 a-sva-bhāvatva ㊦(男) ㊦(無自性) 無自性、無自體 *Lank.*
 a-sva-bhāvya ㊦(男) ㊦(無自性) 無自性、無體相 *Lank.*
 a-svayam-kṛta ㊦(形) 自ら爲さざる。
 a-svayammaya ㊦(形) ㊦(無自性) 無自性、無自體 *Madhy-v.*
 a-svara ㊦(形) (聲の)不明瞭なる; 母音なき; アクセントなき。 ~m ㊦(男) 低聲にて、不明瞭に。
 a-svarita ㊦(形) svarita (アクセント)を有せざる。
 a-svaritatva ㊦(男) [同上 ㊦]。
 a-sva-rūpa ㊦(形) 形なき; 本質的に異なる。
 a-svarga-yogya ㊦(形) 天界に不適當なる。
 a-svargya ㊦(形) 天界に導かざる。
 a-sva-veśa ㊦(形) 自己の家郷を有せざる。
 a-sva-stha ㊦(形) 氣分の悪しき、不健康なる。
 asvastha-cetana ㊦(形) 心の攪亂せられたる。
 a-sva-sthatā ㊦(女) 不健康。
 asvastha-śarira ㊦(形) 氣分の悪しき、病める。
 a-svātantrya ㊦(男) 從屬; ㊦(不自在) 不自在、不得自在、不得自由 *Bodh-bh.*

a-svādu 形 味なき, 美味ならざる。
 a-svādhina 形 自主ならざる, 従属せる。
 a-svādhyāya-para 形 Veda の學習に専心せざる。
 a-svābhāvyā 形 無自性, 無體相 *Lānk.*
 a-svāmika 形 所有者なき; 所有せられざる; 無主 [Pāli. assāmika] *Prāt-m.*; 無主宰, 無有主宰; 無所屬 *Lal-v., Śikṣ., Madhy-v., Mvyut.*
 asvāmika-samjñā 女 無主想 *Gand-vy.*
 a-svāmin 男 主人又は所有者ならざるもの。
 asvāmi-vikraya 男 所有權なき賣却。
 a-svārtha 形 利なき, 無益の, 目的なき, 利己的ならざる。
 a-svāsthya 中 不快, 病氣。
 asvāsthya-kārin 形 不安 *Buddh-c.*
 a-svāhā-kṛta 形 神々に svāhā の聲を捧げざる。
 a-svi-kṛta 形 服従せしめられたる, 強ひられたる; 拒否せられたる。
 a-sveda 形 汗なき。
 a-svedin 形 發汗せざる。
 Ah, [三過 二入 單] āttha; [三入] āha, āhatuḥ, āhuḥ のみ] 話す, (業)を(業, 業)に言ふ; 表示す, 呼ぶ, 宣言す; (業)を(業)なりと言明す; (業)を(業)に賦與す; 説, 言, 告 *Lānk., Abh-vy.*
 adhi- (業)に代りて話す, ……の爲に話す, ……に賛成す。
 anu- 繰返す, 復誦す。
 abhi- 答ふ; (業)に(業)を傳達す。
 pra- 言明す, 宣示す, 言ふ; (業)を(業)なりと呼ぶ; 答 *Divy.*
 prati- (業)に言ふ, ……に答ふ。
 vi- 論ず。
 aha 1. (不) 確かに, 勿論, 實に; 丁度, 即ち; 少くとも; [屢] 單に先行の語を強調す。
 aha 2. 中 [一] は概して 男] 日, 晝; 日 *Daś-bh.*
 ahaḥ-pati 男 = ahar-pati.
 ahaṃ-reṇita 男 自我を中心とする考なき, 自我又は個性なき。
 ahaṃ-vādin 形 主我的に話す; 潜越なる。
 ahaṃ-śreyas 中 自己を他より勝れたりとなすこと。
 ahaṃ-śreyasa 中 [同上]。
 ahaṃ-karaṇa 中 我又は自己なりとなすこと; 自我の矜負。
 ahaṃ-kartṛ 男 我なりとの意識を起せる者。
 ahaṃ-kāra 男 自意識; 自己本位; 自惚, 自尊; 我, 吾; 我執, 我見, 我持, 我慢, 我計執; 我人之相 *Aṣṭ-pr., Kāśy., Bodh-c., Buddh-c., Śikṣ., Madhy-v., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sāṃkhy-k., Mvyut.*
 ahaṃkāra-mamakāra-parityāga 男 斷我見 *Dharm-s.*
 ahaṃ-kārya 形 Ahaṃkāra の對象たる。 中 個人の目的又は仕事。
 ahaṃ-kṛta 形 我の強き, 傲慢なる。
 ahaṃ-kṛti 女 ahaṃ-kāra.
 ahaṃ-ghāta 男 自殺者 (*Kār-vy.*).

ahaṃ-juṣ 形 自己のみを思ふ。
 a-hata 通受分 告はれざる; 打たれざる; 洗はれざる; 汚されざる, 新しき(衣服)。
 ahata-vāsas 形 新しき衣服を著たる。
 ahan 中 日, 晝; 日 *Vajr-pr., Mañj-m.*: śubhe 'hani 吉祥日 *Mañj-m. 145.* ahany-ahani 毎日; 日日 *Buddh-c.* ubhe ahani 晝と夜. aha-bhis 副 毎日. → ahar, ahas.
 ahaṃtā 女 自意識, 我なりとなす感情。
 ahaṃ-dhi 女 我又は自己なりと勘ふること。
 ahaṃ-nāman 形 「我」と呼ばるゝ。
 ahanya 形 毎日の。
 a-hanyamāna 現分 打たれざる。
 aham 代 體 單 我は; 我, 吾 *Madhy-v., Mvyut., 梵千.*: so ~ 此處に居る我は; かゝる我は。
 aham-ahamikā 女 優越感又は優先權の主張。
 aham-uttara 中 [同上]。
 ahaṃ-pūrva 形 我を先にせんとする。
 ahaṃ-pūrvikā 女 = aham-ahamikā; 競争; 第一たらんとする希望。
 ahaṃ-prathamikā 女 [同上]。
 ahaṃ-buddhi 女 我なりと勘ふること; 自我の意識, 高慢。
 ahaṃ-bhāva 男 [同上]。
 ahaṃ-mati 女 [同上]。
 ahaṃ-mamatā 女 「そは我なり」「そは我がものなり」と勘ふること。
 ahaṃ-mānin 形 一切を我なりと思惟する; 我慢 *Bodh-bh.*
 ahar, [ahan の 體 單 として用ひらる]. 中 日, 晝; 日, 晝 *Mañj-m., Abh-k., Abh-vy.* → ahas.
 ahar-ahar 副 毎日, 日毎に; 常 *Bodh-bh.*
 ahar-āgama 男 夜明。
 ahar-ādi 男 [同上]。
 ahar-gaṇa 男 日の連續(特に祭日の)。
 ahar-jara 男 年. ~m 副 日の経るに隨ひて。
 ahar-jāta 形 日中に生れたる, 夜又は暗黒の靈に屬せざる。
 ahar-diva 形 毎日の. ~m 副 毎日。
 ahar-divi 副 日々, 毎日。
 ahar-niśa 中 晝と夜. ~m 副 晝夜。
 ahar-pati 男 晝の主, 太陽。
 ahar-vid 形 (正しき)日又は適當の季節を知れる。
 a-hala 形 耕されざる。
 ahalyā 女 [Gautama の妻の名]; [Saradvat の妻の名]。
 ahalyā-jāra 男 [Indra 神の稱]。
 ahallika 男 饒舌家。
 a-havis 形 供物を捧げざる。
 ahas-cara 形 日中遊歩する。
 ahaḥ-śeṣa 男 日の殘餘。
 ahas, [ahan の 中 體 として用ひらる]. → ahar.
 ahas-kara 男 太陽。
 a-hasta 形 手なき; 無手 *Mvyut.*
 a-hastābharāṇopeta (°ta-ābh°, °na-up°) 形 腕飾なき。

ahas-tri-yāma ㊦ 晝と夜。
ahaha ㊦ [喜悅又は悲痛を表す]。
ahahāre ㊦ [同上]。
a-hāna ㊦ 非退 *Bodh-bh.*
ahāna-bhāgiya ㊦ 非退分 *Bodh-bh.*
a-hāpayat ㊦ (業)を闕かざる。
ahāpayat-kālam ㊦ 時を失せず。
a-hārayat ㊦ (勝負事に)負けざる。
a-hārya ㊦ 奪はれざる, 盗まれざる, 取り難き; 變じ難き, 不動の; 敗壞せざる; ㊦ 無奪, 無人奪, 所不能奪, 無有人侵奪; 不退; 不败, 不能壞 *Divy., Daś-bh., Laṅk., Śikṣ., Sūtr.* ㊦ 山。
a-hāryatā ㊦ 堅, 不可奪 *Sūtr.*
a-hāryatva ㊦ 取り去られ難きこと; ㊦ 取り去られ得ざるが故に。
ahi ㊦ 蛇; 龍, *Vṛtra*; ㊦ 蛇, 毒蛇 *Mañj-m., Bodh-bh.*
a-himsaka ㊦ 害を爲さざる, 無害の; ㊦ 無損害 *Daś-bh.*
a-himsakatā ㊦ [同上]。
a-himsakatva ㊦ [同上]。
a-himsat ㊦ 無害の。
a-himsā ㊦ 不害; 不殺生; 柔和; 不背反; ㊦ 不害, 不加傷害, 遠離傷害, 不殺 *Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Vajr-s., Mvyut.*
ahimsā-nirata ㊦ 不殺生を好める。
ahimsāsāya (°sā-ās°) ㊦ 遠離傷害意樂 *Bodh-bh.*
a-himsya ㊦ 害すべからざる。
a-himsra ㊦ 傷害せざる, 不害の。 ㊦ 無害の行動。
ahi-kṣatra ㊦ [地名]。
ahi-gandha ㊦ 蛇との相似。
ahi-gopā ㊦ 蛇に護られたる。
ahi-ghna ㊦ *Vṛtra* の殺戮。
ahi-cchattra ㊦ [或る國及び其の首府の名]。
ahi-cchattra ㊦ [菌(き)の一種]。
a-hita ㊦ 不適當なる; 有害なる, 悪しき, 不良なる; 敵意ある; ㊦ 無益, 無利, 無利益 *Bodh-bh.* ㊦ 敵。 ㊦ 損害, 害悪, 邪惡; ㊦ 無利益處, 無利益事 *Laṅk., Bodh-bh.*
ahita-pakṣya ㊦ 無利益品 *Bodh-bh.*
ahitā ㊦ [脈管の一種]; [河の名]。
ahitāpakarṣa ㊦ 奪無利益事 *Bodh-bh.*
ahi-tuṇḍika ㊦ [=āhi-tuṇḍika] 蛇捕り人; 蛇使ひ; ㊦ 呪蛇, 弄蛇人 *Divy.*
ahitaiṣin (°ta-eṣ°) ㊦ 惡意ある (*Jāt-m.*)
ahi-dviṣ ㊦ [*Indra* 神の稱]。
ahi-nirvlayani ㊦ 蛇の蛻皮。
ahi-pati ㊦ 蛇の王, *Śeṣa*。
a-hima ㊦ 冷ならざる, 寒からざる; 暖き, 温かき。
ahima-didhiti ㊦ 太陽。
ahima-bhās ㊦ [同上]。
ahima-mayūkha ㊦ [同上]。
ahima-raśmi ㊦ [同上]。
ahima-ruci ㊦ [同上]。
ahima-rocis ㊦ [同上]。
ahimāṃsu ㊦ [同上]。

ahi-māya ㊦ 蛇の如くに見ゆる, 蛇の如く狡猾なる。
ahir-budhnya ㊦ [或る *Rudra* の名]; ㊦ [一群の *Rudra* の名]。
ahir-bradhna ㊦ [同上]。
ahi-vidviṣ ㊦ =ahi-dviṣ。
ahi-hatya ㊦ *Vṛtra* の殺戮。
ahina 1. ㊦ 數日續く。 ㊦ 數日間續く祭祀。
a-hina 2. ㊦ 劣らざる; (具)を失はざる, ……を實行する; 全き, 完全なる, 全體の; ㊦ 無缺, 不缺, 無有缺減; 不減; 無劣; 無少 *Sam-r., Śikṣ., Abh-vy.*
ahina-karman ㊦ 賤業に従事せざる; 一定の仕事をも忽にせざる; 儀式を怠らざる。
ahina-gu ㊦ [人名]。
a-hinatā ㊦ [ahina の] ㊦ ㊦ 無減, 不減 *Madhy-vibh.*
a-hinatva ㊦ [同上]; ㊦ 無減 *Madhy-vibh.*
ahināṅga ㊦ 支體無缺 *Aṣṭ-pr.*
ahinārtham ㊦ 失敗せざらんが爲に, 利益の爲に。
ahinēndriya ㊦ 具根, 諸根不減, 諸根無劣, 諸根具足無有缺減 *Śikṣ.*
ahi-raṇi ㊦ [雙頭の蛇の名]。
ahi-ramaṇi ㊦ [同上]。
ahu ㊦ [俗] [=aham]; ㊦ 我, 吾 *Saddh-p., Sukh-vy. I.*
a-huta ㊦ 供養せられざる, 供養せられざる。 ㊦ 低聲にて行ふ祈禱。
a-hṛṇāna ㊦ 怒らざる, 親切なる。
a-hṛṇiyamāna ㊦ [同上]。 ~m ㊦ 喜びて。
a-hṛta ㊦ (具)によりて持ち去られざる。
a-hṛdaya ㊦ 心臟なき; 錯亂せる; 愚かなる。
a-hṛdaya-jñā ㊦ 心中好ましからざる。
a-hetu ㊦ 原因ならざるもの; 正しき因ならざるもの, 誤れる論證; 原因なきこと; ㊦ 無因 *Laṅk.* ㊦ 原因なき, 偶然の。
a-hetuka ㊦ 理由なき; ㊦ 無因 *Laṅk., Abh-vy., Madhy-v.*
ahetuka-kāraṇa-vāda ㊦ 無因説 *Laṅk.*
a-hetukatā ㊦ 無因 *Madhy-v.*
a-hetukatva ㊦ 無因, 無因性, 不見有因 *Laṅk., Abh-vy.*
ahetu-kriyā ㊦ 無因作 *Gaṇḍ-vy.*
a-hetutas ㊦ 無因 *Madhy-v.*
a-hetutva ㊦ 無有因, 無因 *Laṅk.*
a-hetu-pratyaya ㊦ 非因縁 *Madhy-v.*
a-hetu-phala ㊦ 非因果 *Laṅk.*
ahetu-vāda ㊦ [*Cārvāka* 派の學説] (*Jāt-m.*); ㊦ 無因説, 此説無因 *Laṅk.*
ahetu-vādin ㊦ 無因果(論), 無説因, 無因論者 *Laṅk.*
ahetu-viṣama-hetu-vādin ㊦ 無因惡因(種種)諍論 *Bodh-bh.*
ahetu-vṛtti ㊦ 非因生 *Laṅk.*
ahetu-śarira ㊦ 無因身, (先有體)不從因起 *Laṅk.*
ahetu-sad-bhāva ㊦ 無因有物 *Laṅk.*

ahetu-samutpanna 形 因生, 無因而生, 無因得生, 無因緣生 *Madhy-v.*
a-heya 未受分 非所斷, 非所滅 *Abh-vy.*
a-helā 無諧謔, 真劍.
a-haituka 形 (因-i) 無因の, 理由なき.
aho 動 喜悅・悲痛・驚愕・立腹・賞讚・叱責等を表はす; 嗚呼; 大哉; 奇哉, 希有, 甚奇希有; 快哉 *Divy., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Guhy-s., Madhy-v., Mvyut.*; 阿呼, 阿呼, 哈哈 *Mvyut.*, 立應.
 ～ ～ 希有, 希有希有 *Suv-pr.*
 ～ **kaṣṭa** 嗚呼 梵干.
 ～ **kaṣṭam**, 悲い哉.
 ～ **bata** 奇哉, 奇哉苦哉 *Gaṇḍ-vy., Aṣṭ-pr.*; 願決定 *Bodh-bh.*
 ～ **vata** 苦哉, 快哉, 豈不快哉 *Divy.*
ahodima 形 醜陋, 體卑陋 *Laṅk. 33.* → *avakoṭimaka, avahodimaka, uhoḍima.*
aho-rātra 男 晝と夜; 晝夜 *Sūtr., Abh-k., Mvyut.*; 日 *Lal-v.* ～ **m** 日夜 *Vajr-s.*
ahorātra-kalpa 男 日可, 一晝夜可, 一晝夜淨 *Mvyut.*

ahorātrātmaka (°ra-āt°) 形 晝夜より成る.
aho-rātri 女 = *aho-rātra.*
aho-lābha-kara 形 極めて小なる利得によりて大いに喜べる.
ahna 男 [—°, = *ahan*] 日, 晝; 日 *Divy.* → *pūrva* ～, *madhya* ～. ～ **āya** 直ちに.
ahnya 甲 (太陽の) 一日の運行.
ahy-arṣu 男 龍を襲撃すること; 蛇の如く疾走する者 [恐らくは鳥の名].
a-hraya 形 内氣ならざる; 勇敢なる; 自己の力を知れる; 豊富なる.
a-hrayāṇa 形 勇敢なる, 鋭き.
a-hrasva 形 短かゝらざる, 長き.
ahrasvi-karaṇa 形 不令乏短 *Bodh-bh.*
a-hrāsa 形 不小 *Mvyut.*
a-hri 女 無恥; [= *āhrikya* 甲] 無慚 *Vijñ-t., Abh-k.* 形 恥を知らざる.
a-hrika 形 無恥なる (*Jāt-m.*). 男 無慚 *Rāṣṭr.*
a-hruta 過受分 曲らざる, 眞直なる; 動搖せざる, 蹉跌せざる.
a-hvalā 女 堅實なる歩調, 堅固.

A

ā 1. 副 近く [動詞の 接頭, 投與及び進行を示す動詞の意味を逆にす]; 外に, 亦た; 全く, 悉く, 正に (強調); [因及び形を伴ふ 接頭] 幾分か, 少し; 殆ど; …なき; 稍…なる; [副及び形を構成する 接頭] …に達する, …迄. 前 …に至る迄 [業の後, 因の前にて]; …を除きては [業の前に於て]; (因) より; …に於て, …の上に, …の中に, …の近くに [因の後に於て]; —° —° …より, …迄; 來(引); 至, 乃至, 以下 *Laṅk., Abh-vy., Madhy-v., Mvyut.*; ～ *paṇa-kālat* 至受報 *Madhy-v. 311.*; ～ *trayāt* 三以下 *Mvyut.*; ～ *saptamaṃ yugam upādāya* 父母七代以下 *Mvyut.*
ā 2. 動 特に突然の回想を表す.
ā 3. 阿 立應.
ākañcuka [又は *aṣṭuñcaka*] 甲 帶 *Mvyut.*
ā-kañṭham 副 頸まで.
ā-katthana 形 稍・誇れる.
ā-kapila 形 褐色を帯びたる.
ā-Kamp, → *Kamp.*
ā-kampa 男 震動.
ā-kampana 甲 [同上]. 男 [或る *Daiṭya* の名].
ā-kampita 過受分 = *ā-kampra.* → *Kamp.* 踴躍 *Lal-v.*; *kāruṇyād* ～ *hrdayaḥ* 悲感哽噎 *Av-s.I. 170.* 甲 震動, 戰慄.
ā-kampin 形 = *ā-kampra.*
ākampya 男 [*a-kampa* より] 不動, 不搖 *Mvyut.*
ā-kampra 形 震動する.
ā-kara 男 撒布者, 授與者; 豊富, 潤澤; 鑛山; 源;

篋, 室, 藏; 源, 出地, 出處; 聚, 積 *Sūtr., Mvyut.*; —° 具, 具足; 生, 所生, 能出, 出生; 性 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Rāṣṭr., Laṅk., Sūtr., Mvyut.* → *buddha-bodhy* ～, *ratna* ～.
ākara-ja 形 鑛山より産出したる, 鑛物性の. 甲 寶石.
ā-karaṇa 甲 [*ā-kāraṇa* の誤讀]; 安相, 安足, 初安足; 思想 [*Tib. rnam-pa-gtod-pa, rnam-par-gtod-pa*] *Abh-vy.*
ā-karin 形 鑛山より生ずる, 鑛物性の.
ākari-BHū, 成…處, 是…處 *Gaṇḍ-vy.*; *ākari-bhavanti sarva-guṇānām* 成功德處, 是功德處, 生諸勝德 *Gaṇḍ-vy. 465.*
ākaropama (°ra-up°) 形 如藏 *Sūtr.*
ā-karṇa 副 [° —°, ～ **m**] 耳まで.
ā-karṇa-deśāntam 副 耳に至るまで.
ā-karṇana 甲 聞くこと, 聽聞.
ā-karṇam 副 → *ā-karṇa.*
ā-karṇa-mukta 形 (弦を) 耳まで引きて放たれたる (矢), 速かなる或は狙ひ違はざる (矢).
ā-karṇa-mūlam 副 耳の根元まで.
ākaraṇaya 名動 聽く, 聞く.
upa- 聽く, 習得す.
sam- 聽く.
ākaraṇita 過受分 聞かれたる, 聞えたる.
a-karaṇin 形 聞く.
ā-karṣa 男 牽引; 自己の方に曳くこと; 牽, 抽, 句召 *Guhy-s., 梵干.*

ā-karṣaṇa 形 (女-ṇi) 引く。 甲 引くこと；牽引；
 引，開引，引接，引起，引出；收，攝，攝取；召，
 召請，請召 *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Mañj-m.*, *Guhy-s.*,
Madhy-bibh., *Abh-vy.*, *Mvyut.*；句召 *Guhy-s.*；隱
 身 *Mañj-m.* 6.；正直 *Mvyut.*；得 *Sikṣ.*： *matsya-*
 ～ 得魚 *Sikṣ.* 94.

ākarṣaṇa-kula 甲 召部 *Guhy-s.* 6.

ākarṣaṇa-hetu 男 起因，引出因 *Madhy-*
vibh.

ā-karṣaṇi 女 樹より果實又は花等を摘る爲に枝を引
 き寄する鈎の著きたる棒； 召請 *Mvyut.*

ā-karṣikā 女 [都城の名].

ā-karṣita 通受分 自己の方に引き寄せられたる。

ā-karṣin 形 引く。

ā-Kal, → Kal.

ā-kalana 甲 縛ること，繫縛； (朋黨) 諍競(?)
Bodh-bh. 251.

ā-kalita 通受分 振はれたる；捉へられたる；結ばれ
 たる。

ā-kaluṣa 形 稍，不純なる (*Jāt-m.*).

ā-kalpa 男 裝飾，華美なるもの； = *kalpana*；
 進 [*Tib. tshul*] *Bodh-bh.* 194.

ā-kalpaka 形 追想して惜む；憧がる。 男 憧憬；
 歡喜。

ā-kalpam 副 世の終に至るまで。

ākalpa-sāra 形 衣服を好む。

ā-kalpa-sthāyin 形 世の終まで續く。

ā-kalpāntam 副 = *ā-kalpam*.

ā-kalpāntara-kriyā 女 進止 *Bodh-bh.* 194.

ākalya 甲 疾病；戀病。

ākasmika 形 (女-i) 豫想せられざる，突然の，偶然
 の； 忽然；無由而生；不待因，不由因 *Abh-vy.*,
Mvyut.

ā-Kāṅkṣ ākāṅkṣati(-te). → *Kāṅkṣ.*

ā-kāṅkṣa 形 意味を完全ならしむる爲に語を必要と
 する(女).

ā-kāṅkṣaṇa 甲 要求すること，……せざるを得ざる
 こと； 樂求，樂欲 *Abh-vy.*

ā-kāṅkṣam 副 隨欲，隨自欲，隨自樂，隨其所樂
Daś-bh., *Bodh-bh.*

ā-kāṅkṣamāna 現分 若發念，發意之頃 *Divy.*

ā-kāṅkṣā 女 欲望，願望；(意義を)補足する必要(女).

ā-kāṅkṣin 形 願ふ，欲する，期待する；
 求 *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*, *Mañj-m.*

ā-kānin 形 怒らしむる，刺戟する。

ā-kāra 1. 男 構造，形狀，姿，外觀；表現，情緒の外
 に現はれたる相； 行，行識；相，行相，取相，妙
 相，有相，具形相，狀貌，相貌；形體；性，根性；事；種，
 種類；規矩；面目 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-*
pr., *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Madhy-*
vibh., *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*： ～āḥ liṅgāni
 nimittāni 相，相貌，行狀相 *Aṣṭ-pr.* 665.； ṣoḍaśa
 ～āḥ 十六行相 [1. *duḥkham* 苦， 2. *anityam* 無
 常， 3. *sūnyam* 空， 4. *an-ātmakam* 無我， 5. *samu-*
dayaḥ 集， 6. *prabhavaḥ* 生，極出生， 7. *hetuḥ* 因，
 8. *pratyayaḥ* 緣， 9. *nirodhaḥ* 滅， 10. *sāntaḥ* 靜，

11. *praṇītaḥ* 好善，妙， 12. *niḥsaraṇam* 實出現，離，
 13. *mārgaḥ* 道， 14. *nyāyaḥ* 如， 15. *pratipattiḥ* 行，
 16. *nairyānikaḥ* 出] *Mvyut.* —? 形 如
Madhy-v.： *gandharva-nagara* ～ 皆如] *Madhy-*
v. 334.

ā-kāra 2. 男 āの音，āの字； [五十字門の一] 長
 阿字 *Lal-v.*： ～e parikīrtiyamāne ātma-para-
 hita-śabda niścarati sma (→ *a-kāra*) 唱長阿字時
 出自利利他聲 *Lal-v.* 127.

ā-kāraṇa 1. 甲 召集；呼ぶこと。

ā-kāraṇa 2. 甲 [= *ākāra* 1.]； 行，行相 *Abh-vy.*；
 因緣，爲因 *Lank.*

ā-kāraṇiya 未受分 召集せらるべき，呼ばるべき。

ā-kāratas 副 行相 *Bodh-bh.*

ākāra-dūratā 女 行相遠 *Abh-vy.*

ā-kāravat 形 具象の；姿を整へたる；佳き形の，美
 しき。

ākārābhīrāra 男 [Samādhiの名] 引發行
 相 *Mvyut.*

ākārāvākāra 男 [= *ākārāpakāra*]； [Samādhi
 の名] 離行相 *Mvyut.*

ā-kārita 通受分 (一)の形を有する。

ā-kāla 男 丁度(圖)の時に於て。 ～m 翌日
 の同時刻まで。

ā-kālika 形 (女-ā, -i) (翌日の)同時刻迄續く； (-i)
 正しき又は通例の時刻に到達せざる；期待せられざ
 る； 應時，無時節，無期節，無間斷 *Sikṣ.*, *Mvyut.*

ā-kālikā-tīram 副 *Kālikā* 河の堤まで。

ā-kāśa 男 甲 虚空，蒼穹；(最も微妙なる要素として
 の) 空； 場面(舞臺の人と舞臺上に見え
 ざる人との間に交はさる言葉)； 虚，空，虚空，
 太虚空，空界 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*,
Gaṇḍ-vy., *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*, *Madhy-vibh.*,
Madhy-v., *Sikṣ.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Nyāy-*
pr., *Vaiś-s.*, *Mvyut.*； 空地，露地 *Saddh-p.*； 碧(?)
 梵雜。

ākāśa-kṛtsnāyatana (°na-āy°) 甲 空遍處
Mvyut.

ākāśa-ga 形 空中を行動する。 男 鳥。

ākāśa-gaṅgā 女 天界の *Gaṅgā* 河 [*Gaṅgā* 河の本
 源は天界に在りと傳説せらる]。

ākāśa-gata 形 空より來る(聲)。

ākāśa-gati 女 虚空を行くこと。

ākāśa-gatika 形 趣空，以虚空爲所趣 *Aṣṭ-pr.*

ākāśa-gamana 甲 = *ākāśa-gati*； 飛；騰空，昇
 虚空中 *Sikṣ.*, 梵雜。

ākāśa-garbha 男 [菩薩の名] 虚空藏 *Mvyut.*

ākāśagarbha-sūtra 甲 [經名] 虚空藏經 *Bodh-*
c., *Sikṣ.* [虚空藏菩薩經，虚空孕菩薩經等]。

ākāśa-gāmin 形 空中を去來する； 乘空來去，
 行虚空 *Divy.*, *Vajr-s.*

ākāśa-cārin 形 空中を行く。 男 鳥。

ākāśa-janani 女 小窓，窗口。

ākāśa-dṛṣṭānta 男 空譬，虚空喻 *Madhy-vibh.*

ākāśa-deśa 男 氣界，空界；廣場。

ākāśa-dhātu 男 空界，空種 *Sikṣ.*, *Madhy-v.*,

Abh-vy.
 ākāśadhātu-samatā 女 虚 等虚空界 Gand-vy.
 ākāśa-patha 男 空中の通路。
 ākāśa-pathika 男 蒼穹の旅人, 太陽(の稱)。
 ākāśa-pada-yoga 男 虚空句相應 Guhy-s.
 ākāśa-puṣpa 甲 虚空華, 虚空花 Lank.
 ākāśa-pratiṣṭhita 男 [佛の名] 虚空住 Saddh-p.
 ākāśa-baddha-lakṣa 男 虚空(遠方)を凝視すること。
 ākāśa-bhāvanā 女 修虚空 Aṣṭ-pr.
 ākāśa-bhāṣita 甲 舞臺に登場中の人々が舞臺上に見えざる人を相手となす會話。
 ākāśa-bhūta 形 猶如虚空 Saddh-p.
 ākāśa-muṣṭi-hananāya 名動 自 拳を以て空を打つ如き愚者となる。
 ākāśa-yāna 甲 空中の往來, 空中を行く車。
 ākāśa-vajra 男 [菩薩の名] 金剛虚空 Guhy-s.
 ā-kāśavat 形 廣き, 廣闊の。
 ākāśa-varṇa 男 碧 梵千。
 ākāśa-vartman 甲 空中の通路。
 ākāśa-śayana 甲 露天にての睡眠。
 ākāśa-śuddhatā 女 如太虚空極清淨, 猶如虚空自性清淨 Aṣṭ-pr.
 ākāśa-saṃcārin 男 鳥。
 ākāśa-saṃjñā-vyāvṛtti 女 空想轉 Sūtr.
 ākāśa-sama 形 同於虚空, 猶如虚空, 與虚空等 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p.
 ākāśa-samatā 女 如虚空, 猶如虚空, 等虚空, 與虚空等 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.
 ākāśasamatādvaya-vajra (°tā-ad°) 男 [Samādhi の名] 虚空平等無二金剛 Guhy-s.
 ākāśa-samatālaya (°tā-āi°) 形 住虚空平等 Guhy-s.
 ākāśa-samatva 甲 如虚空平等 Aṣṭ-pr.
 ākāśasama-dharmatā 女 虚空平等 Aṣṭ-pr.
 ākāśa-samāna 形 如虚空, 虚空(本來)平等 Aṣṭ-pr.
 ākāśa-savit 女 空河。
 ākāśa-spharaṇa 男 [Samādhi の名] 偏覆虚空 Mvyut.
 ākāśātman (°śa-āt°) 形 空氣の性質を有する, 空氣の。
 ākāśānantyāyatana (°śa-ān°, °ya-āy°) 甲 無限の住處, 無限の場處; 空無邊處, 空無邊入, 無邊虚空處 Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.
 ākāśāyatana (°śa-āy°) 甲 空處 Bodh-bh.
 ākāśasaṅga-vimukti-nirupalepa 形 無染著如虚空, 如虚空無著解脫無染 Mvyut.
 ākāśasattva-vādin 男 無空論師 Nyāy-pr.
 ākāśi-bhūta 形 (皆)空虛 Śikṣ.
 ākāśeśa (°śa-iśa) 形 空氣(のみ)を支配する(=全く無力の)。
 ākāśopamatā (°śa-up°) 女 虚空喩, 如真空譬 Madhy-vibh.
 ākāśa 男 [=ākāśa]; 虚空 Lal-v. 338.
 ākimcanya 甲 [a-kimcana ɾɔ] 貧窮, 缺乏;

無所有 Buddh-c., Abh-vy., Bodh-bh. 男 存在否定論者, 虚無論者 (Buddh-c.).
 ākimcanyāyatana (°ya-āy°) 甲 絶対に存在のなき處, 無存在; 無所有處 Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.
 ā-kiṭa-pataṅga-pipilakam 男 小蟲・翅蟲又は蟻に至るまで。
 ākim 前 (從)より。
 ā-kiraka 形 棄 Vin. → sikhā~.
 ā-kirṇa 通受分 撒布せられたる; 覆はれたる, 偏滿せる, 充滿せる; 群がれる; 雑沓する場處に於て。→ Kṛ. 充滿, 普遍充滿; 多, 甚多, 多集; 殷盛, 熾盛; 雜, 雜亂; 憤鬧, 多妨鬧; 人物亂 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Sukh-vy. I., Gand-vy., Būṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Mvyut., 梵雜: ~sar-kara-kathālla 其地多瓦石 Gand-vy. 166.
 ākirṇa-bahu-jana-manuṣya 形 人民衆多, 人物熾盛, 人民熾盛 Divy., Av-ś., Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.
 ā-kucita 通受分 → Kuc.
 ā-kuñcana 屈曲, 收縮; 屈, 屈業, 踞 Vaiś-s., Mvyut.
 ā-kuñcita 通受分 → Kuc.
 ā-Kuṭ ākoṭayati(使役). → Kuṭ.
 ā-kuṭila 形 多少屈曲せる, 稍・捲かれたる。
 ā-kumāra 男 少年時代以來(°一)。
 ā-kurvati 女 [或る岩山の名]。
 ā-kula 形 混亂せる, 困惑せる; (一°)にて充たされたる或は壓倒せられたる; 亂, 所亂, 雜亂, 動亂, 亂顛倒; 相濫, 閒擾, 紛擾; 害; 疵; 怨敵; 盛; 徐起 Divy., Gand-vy., Daś-bh., Sukh-vy. I., Śikṣ., Abh-vy. → nir~.
 ākula-grāma-caitya 形 その村の聖樹が(具)によりて繁茂せる。
 ā-kulatā 女 困却, 混亂; 豊富。
 ā-kulatva 甲 [同上]。
 ākulaya 名動 他 混亂せしむ; 充たす。
 ākulita 通受分 (具, 一°)によりて紊亂・攪亂又は困惑せられたる; (水の)濁らしめられたる。
 ākuli-Kṛ, 混亂せしむ, 曇らしむ; (具)を以て充たす。
 ākuli-kṛta 形 (具)によりて當惑又は攪亂せられたる, …を以て充されたる; 誑惑 Divy.
 ākuli-BHū, 當惑す, 當惑に陥る。
 ā-kuliyamāna 通受分 當惑せしめらるゝ, 惱まざる。
 ā-Kū ākuvate. → Kū.
 ā-kūṇita 通受分 縮められたる, 閉されたる。
 ā-kūta 甲 志向, 目的, 願望; 希求 Bodh-bh.
 ā-kūti 女 [同上]。
 ā-Kṛ ākṛnoti, ākārayati(使役). → Kṛ.
 ā-kṛta 通受分 配列せられたる, 建築せられたる; (或人に對して)なされたる; 所作 Bodh-bh.
 ā-kṛti 女 成分; 形, 外觀; 種類; [音律の一種(4×22)]; 形, 形相, 形容, 形貌, 形類; 相, 相貌, 容貌, 像; 模様; 實, 眞實體 Divy., Lank., Vijñ-v., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.; 事 Sūtr. 59.; 一° 様, 如, 形如, 狀如 Divy., Lank., Mvyut.: śakaṭa~

形如車 *Divy.* 639.; *stūpa* ～ 塔様 *Mvyut.* → *padma* ～.

ākṛti-gaṇa 男 [文法] 見本語表, 特殊の文法規則に屬する語彙 [完全なる列擧に非ずして見本語のみ].

ākṛti-grāha 形 [漢譯] 取幻 *Sūtr.*

ākṛtimat 形 = *ākāravat*.

ākṛti-yoga 男 [或る一群の星宿の名].

ā-Kṛṣ ākarsati. → *Kṛṣ*.

ā-kṛṣṭa [過受分] 引かれたる, 牽引せられたる, 引きつけられたる; [漢譯] 引, 所引, 引接 *Sūtr.*; 密, 相隣 *Abh-vy.*; 惑著 *Divy.*

ā-kṛṣṭavat [過能分] 引ける.

ā-kṛṣṭi 女 牽引; (弓を)引絞ること; 魔法の魅力, 誘引の呪文.

ā-kṛṣṭimat 形 [漢譯] 明精 *Mvyut.*

ākṛṣṭi-mantra 男 不在の者を誘引する呪文.

ā-Kṛ, → *Kṛ*.

āke (於) 副 近くに, 此方に.

ā-kekara 形 輕き斜視の.

ā-koṭana 中 [漢譯] 撥, 斷 *Mvyut.*

ākoṭayati 動 [ā-Kuṭ(t)] [使役]. → *Kuṭ(t)*.

ā-koṭita [過受分] [*<ākuṭṭita, Pāli.* 同]; [漢譯] 鳴, 打 *Divy.* 335.; 擣治 *Lank.* 363.: *sv* ～ 堅牢, 堅固圓滿 *Aṣṭ-pr.* 588. → *an* ～.

ā-koṭhayati 動 [漢譯] [= *ākoṭayati*] 打 *Prāt-m.* 491.

ā-kopa 男 忿怒の徴候, 輕き忿怒.

ā-kopavat 形 (於)に對して多少怒れる.

ā-kośam 副 (蓮の)種囊に至るまで.

ā-koṣṭham 副 下腹部に至るまで.

ākauśala 中 [a-kuśala より] 無經驗, 熟練を闕くこと, 不器用.

ākna (ā-akna) [過受分] → *Ac I.*

ā-Krand ākrandati(-te). → *Krand*.

ā-kranda 男 叫喚, 戦の叫び; 哀哭, 愁傷; 交戦中の王に對する自然の味方(近隣同志). ～ *m Kṛ* [漢譯] 稱(其)名號 *Saddh-p.* 439.

ā-krandana 中 悲嘆; 援助を乞ふこと.

ā-krandaniya [未受分] 救助に呼ばるべき.

ā-krandika 形 救を求むる叫びの方に走る.

ā-krandita [過受分] 懇願せられたる, 哀求せられたる. 中 叫喚; 悲嘆; [漢譯] 苦 *Divy.*

ākrandita-śabda 男 救助を呼ぶ聲 (*Jāt-m.*).

-ā-krandin 形 哀訴する.

ā-Kram ākrāmanti(-te). → *Kram*.

ā-krama 男 近づくこと; 到達; 獲得; 克服; 襲來; [漢譯] 侵, 競來侵掠 *Suv-pr.*; 趣向, 證護, 超證 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*

ā-kramaṇa 形 近づく, 登り來る. 中 踏み上ること, 登ること; 接近; 襲來; 克服; (於, …の方への)延長; [漢譯] 入, 能入, 趣入, 轉入, 遊, 周行; 遂進; 履踐; 得; 登, 超 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*; 證, 證獲 *Lal-v.*; 降伏, 降鎮 *Mañj-m.*, *Mvyut.*

ākramaṇa-vega 形 [漢譯] 速疾履踐 *Gaṇḍ-vy.* 370.

ā-krānta [過受分] 近づかれたる, 訪はれたる; 取圍まれたる, 擧がれる; (一)に蹂躪せられたる, …の

配下にある, …によりて統治せられたる, …を以て充滿せる. → *Kram*. [漢譯] 逼, 過 *Sūtr.*, *Sikṣ.*

ā-krānti 女 踏み上ること, 上昇すること; 起上ること.

ā-Kri, → *Kri*.

ā-kriḍa 男 [中] 運動場, 小林, 園.

ākriḍa-giri 男 遊歩の山.

ākriḍa-parvata 男 [同上].

ākriḍa-bhūmi 女 運動場.

ā-Kruś ākrośati. → *Kruś*.

ā-kruṣṭa [過受分] 叱られたる, 罵られたる, 謗られたる; [漢譯] 罵, 毀訾, 爲… 呵毀 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*

ā-krośa 男 惡口; 罵詈, 侮辱; [漢譯] 罵, 罵詈, 惡口, 毀辱, 呵罵, 輕毀, 毀恨罵辱 *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, 梵干.

ā-krośaka 形 惡口する, 罵る; [漢譯] 誹, 罵詈 *Divy.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*

ākrośa-tarjana 中 [漢譯] 惡口罵 *Saddh-p.*

ā-krośana 中 叱責, 侮辱; [漢譯] 訶罵, 誹謗 *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*

ākrośa-paribhāṣā 女 [音律 -a]; [漢譯] 惡罵, 輕毀罵詈 *Saddh-p.*

ā-krośita [使役] [過受分] 呪はれたる, 惡口せられたる.

ā-krośin 形 罵る.

ā-kroṣṭṛ 形 = *ākrośaka*.

ā-kinna [過受分] 濡れたる; 憐憫の情を起せる.

ākṣapaṭalika 男 記録を司る役人; [漢譯] 司記録, 司聚集 *Mvyut.*

ā-Kṣar ākṣarayati [使役]. → *Kṣar*.

ākṣāṇa, [*Akṣ* の [三過分]].

ā-kṣārīta [過受分] 誹謗せられたる, 罵られたる.

ākṣika 形 骰子又は博奕に關する, 骰子を弄ぶ, 博奕に勝つ; *Terminalia Bellerica* 樹の實にて造れる.

ā-kṣit 形 住する.

ā-Kṣip ākṣipati. → *Kṣip*.

ā-kṣipta [過受分] 投げられたる; 捉へられたる, 魅せられたる; 懸けられたる; (於)にて言ひ詮されたる, 指示せられたる; 拒まれたる; 侮辱せられたる; (爲)に挑まれたる; 生せしめられたる; 牽引せられたる, 引發せられたる (*Divy.*); [漢譯] 牽, 牽引, 所引, 被引, 引發 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

ā-kṣiptikā 女 舞臺に近づく役者の唱歌或は特別なる態度.

ā-kṣepa 男 (土を)掘り返すこと; 震動, 痙攣; (膏藥を)塗ること; 捨離; 放棄; (圖, 一)を狂喜せしむること; (一)に對する言及; 暗示; 挑戰; 罵詈, 侮辱; [漢譯] 引, 能引, 牽引, 引起; 取; 因 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → *phala* ～, *bhāṣyā* ～.

ā-kṣepaka 形 …を暗示する; …を指示する, 表はす; 罵る, 侮辱する; [漢譯] 感; 牽引, 引生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* 男 震動, 痙攣.

ā-kṣepaṇa 形 (因 -i) 恍惚たらしむる, 魅する. 中 投ぐること; 罵詈; 異議.

ākṣepa-rūpaka 中 [譬喩の一種].

ākṣepa-valana 中 (武器を)振り動かすこと.

ākṣepa-sūtra 甲 (眞珠を)通す糸。
 ākṣepa-etu 男 牽引因 *Madhy-vibh.*, *Bodh-bh.*
 ā-kṣepika 形 引 *Abh-vy.*
 ā-kṣepin 形 (一)に關する, ……を暗示する; (神通力もて)人を引き寄する。
 ākṣepopamā (°pa-up°) 女 = ākṣepa-rūpaka.
 ā-kṣepṭr 男 拒絕者。
 ā-kṣepya 未受分 挑戦せらるべき, 抗議を提出する。
 ā-kṣvedita 甲 ざわめき。
 ā-khaṇa 男 標的。
 ā-khaṇdayitr 男 破る者, 破壊者。
 ā-khaṇḍala 男 破壊者, 撲滅者; [*Indra* 神の稱].
 ākhaṇḍala-kakubh 女 東。
 ākhaṇḍala-cāpa 男 甲 *Indra* 神の弓, 虹。
 ākhaṇḍala-dhanus 甲 [同上].
 ākhaṇḍala-sūnu 男 [*Indra* 神の子 =] *Arjuna*.
 ā-khara 男 獸の穴又は巢窟。
 ākhare-ṣṭha 形 穴居する。
 ā-KHid ākhidati. → KHid.
 ā-khu 男 土龍(鬚); 鼠 [穴を掘る者: KHan].
 ākhuva-grāma 男 [村の名].
 ākhūtka 男 土龍塚。
 ā-kheṭa 男 狩。
 ā-kheṭaka 男 狩; 獵師。
 ākheṭakāṭavi 女 狩獵林。
 ākheṭa-bhūmi 女 獵場。
 -ākhya 形 名, 稱, 現 *Mañj-m.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 ā-KHyā ākhyāti. → KHyā.
 ā-khyā 女 名, 名稱; 容貌, 光景; 名, 語, 證, 假名 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ~ayā 名 は; ……と名づけらる。 → *priya* ~. 形 (一) と名づけられたる。 → -ākhya.
 ā-khyāta 通受分 言はれたる, 語られたる, 言明せられたる, 知られたる; 呼ばれたる; 説, 所説, 演説, 宣説, 已説; 告白, 啓白; 言, 宣; 顯, 顯示, 顯示分別, 開示, 宣説開示; 教; 所稱歎 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.*, *Nyāy-pr.* *Mvyut.*; 別知 *Sāṃkhy-k.* 5. 甲 定動詞(文法).
 ā-khyātavya 未受分 話さるべき, 述べらるべき。
 ā-khyātā 女 説 *Saddh-p.*
 ā-khyāti 女 物語, 報知; 名稱。
 ā-khyāṭr 男 話者, 口述者, 傳承者; 教師; 解釋 *Saddh-p.*
 ā-khyāna 甲 敘述; 物語; 古譚; 説, 所説, 談説; 語, 古語; 讀 *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → *priya* ~.
 ā-khyānaka 甲 小話。
 ā-khyānaki 女 [音律の一種].
 ākhyānaki-pāncama 形 *Purāṇa* を第五とする。
 ā-khyānatā 女 稱歎 *Bodh-bh.* 112.
 ākhyānaya 名動 他 傳ふ, 報告す。
 ākhyāna-vid 形 古傳を知れる。
 ā-khyāpaka 形 告知する, 宣言する。
 ā-khyāpana 甲 語らしむること。
 ā-khyāpita 通受分 知らしめられたる。

ā-khyāyaka 男 = ākhyātr.

ākhyāyaketihāsa (°ka-it°) 男 戲論 *Lank.*

ā-khyāyikā 女 短篇物語; 話, 談説, 談論, 經論 *Divy.*, *Lank.*; 戲謔 *Aṣṭ-pr.*; 邪論 *Lank.*

ā-khyāyin 形 (一)を敘述する, ……を報告する; 講, 説 *Divy.*, *Mvyut.* → *priya* ~, *mārga* ~.

ā-khyeya 未受分 語らるべき, 敘述せらるべき, 許容せらるべき。

āgaṇaya 名動 他 → *gaṇaya*.

ā-gaṇḍa- 副 頗まで。

ā-gata 通受分 → *Gam.* 入; 得; 來, 傳來, 曾來; 傳受; 至; 歸, 還, 還廻; 所集 *Divy.*, *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sāṃkhy-k.*, *Bodh-bh.*, 梵雜, 梵千; 中際 [*pūrvānta* 前際, *aparānta* 後際の對] *Sapt-pr.* → *an* ~, *abhy* ~. 男 客. 甲 事件。

āgata-phala- 形 獲果, 到手 *Mvyut.*

āgata-vismaya 形 驚異に充たされたる。

āgatāgata (°ta-āg°) 形 諸來會(衆), 集…所, (衆而)來集會 *Lank.*

āgatāgama (°ta-āg°) 形 (衆)の知識を得たる。

ā-gati 女 到著, 歸還; 起原; ……に達すること, 加はること; (世界の)生起; 來 *Lank.*, *Madhy-v.*, *Abh-vy.*

ā-gatitva 甲 到著すること, 歸還すること。

ā-gatika 形 來 *Daś-bh.*

a-gatya 未受分 到著して, 來りて。

ā-gadhita 通受分 → *Gadh.*

ā-gantavya 未受分 來るべき。

ā-gantu 形 到著する; 加へられたる, 加入する; 偶然的. 男 新參者, 未知の人, 客。

ā-gantuka 形 (女 -i) = ā-gantu(形); 迷へる(家畜); 錯入せる(承認せられざる讀方); 客, 爲客; 遇來; 虛妄; 無本 *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 從遠方來 *Divy.*: ~ā bhikṣavaḥ 客比丘 *Sikṣ.* 58.; ~eṣu dharmeṣu 客法 *Bodh-bh.* 395.; ~kī samjñā 客想 *Bodh-bh.* 395. 男 = āgantuk(男) 客, 客僧 *Divy.*, *Vin.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

ā-gantukatva 甲 客, 客相 *Madhy-vibh.*

āgantuka-mala 甲 客塵垢 *Bodh-bh.*

āgantuka-samjñā 女 客想 *Bodh-bh.*

āgantukāgāravat 形 如旅泊, 如逆旅館 *Sikṣ.*

āgantukleśa 男 客塵, 客塵煩惱 *Lank.*

ā-ganṭr 形 將に來らんとする。

ā-Gam āgacchati. → *Gam.*

ā-gama 形 近づく. 男 到著; 由來; 起原; 水路; 富裕, 所得, 財產; 獲得; 學問, 知識; 學; 教訓, 傳統; 教本, 規則; 重字(文法); [一群の聖典の名] (無動); 來 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 生起 *Madhy-vibh.*; 教, 理教, 聖教, 至教, 教法, 自教; 言, 聖言; 旨, 勅, 勅旨; 傳, 相承説; 器 *Buddh-c.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.*, *Abh-vy.*, *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*: ~ḥ puṇya-nidhānānām 諸福藏器 *Mvyut.* → *āpta* ~, *yukty* ~.; (音寫) 阿舍, 阿笈摩, 阿伽摩 *Lank.*, *Sūtr.*,

Vijñ-v., Bodh-bh., Mvyut., 支應。
āgamaka 形 〔釋〕 非令知, 不知 *Mvyut.* → *agamaka, āgāmaka.*
āgama-dṛṣṭi 女 〔釋〕 (音) 阿笈摩見 *Bodh-bh.*
ā-gamana 中 來ること, 到著, 歸來; 起原; 性交; 〔釋〕 至, 行, 往; 生; 來, 來集會 *Daś-bh., Sapt-pr., Lañk., Guhy-s., Bodh-bh., Madhy-v., Abh-vy.*; —° 證 *Sūtr.* → *abhy*。
āgamana-gamanatā 女 〔釋〕 去來 *Bodh-bh.*
āgama-yukti 女 〔釋〕 正教理 *Sikṣ.*
ā-gamavat 形 性交する。
āgama-viruddha 男 〔釋〕 (自) 教相違 *Nyāy-pr.*
āgama-śruti 女 傳説。
āgamāpāyin 形 往來する; 通りがよりの, 暫時の。
ā-gamika 男 〔釋〕 來, 來者 *Sapt-pr., Mvyut.*
ā-gamita 〔通受分〕 (一°) より學べる, ……に教へられたる; 確められたる, 學ばれたる; ……の教養ある, ……を知れる; 〔釋〕 傳, 傳説, 傳聞 *Abh-vy.*
ā-gamin 形 重字をとる(文法)。
āgamopadeśa (°ma-up°) 男 〔釋〕 言教 *Mvyut.*
āgamopeta (°ma-up°) 形 〔釋〕 具教 *Bodh-bh.*
ā-gamya 〔不變分〕 = *ā-gatya*; (國, 業) に関して, ……の故に, ……に就て, ……に憑りて, ……の庇護にて (*Mah-v., Av-ś., Divy.*)
āgarava 形 = *āgurava.*
ā-garjat 現分 號叫し始むる。
ā-galita 〔通受分〕 落ちたる, 沈みたる, 倒れたる; 流れ落つる; 滅する, 死する。 → *Gal.*
āgas 中 違犯, 犯罪, 過失, 罪; 加害; 〔釋〕 過, 失, 過失 *Buddh-c., Abh-vy.*
āgas-kārin 形 (國) に對し害をなせる。
āgas-kṛt 形 [同上]。
āgas-kṛta 形 [同上]。
āgastya 形 *Agasti* 仙の。 男 *Agasti* 仙の後裔。
ā-gahana-carita 形 〔釋〕 稠林行 *Sikṣ.*
ā-Gā *ājigāti.* → *Gā.*
ā-gāḍhatara 比較 〔釋〕 甚重 *Saddh-p.*
ā-gāḍhi-Kṛ, 〔釋〕 令緊, 作硬 *Mvyut.*
ā-gāṭṛ 男 歌詠によりて……を獲得する者。
ā-gāḍha 男 〔釋〕 底, 源底 *Aṣṭ-pr.*
ā-gāna 中 歌詠によりて獲得すること。
āgāmaka 形 〔釋〕 不知, 非令知 *Mvyut.*
ā-gāmin 形 來る, 近づく; 未來の; 偶然の; 〔釋〕 後, 後出, 後來, 將來 *Mvyut.* → *an*。
ā-gāmuka 形 (國) に來りがちなる。
āgāra 中 室, 住居, 家; 〔釋〕 家, 宅, 舍 *Bodh-bh., Mvyut.* 男 〔釋〕 (音) [數の名] 阿伽羅 *Mvyut.*
āgārika 形 [或は *agārika*] 家に屬する, 家を支配する, 番をなす, 監視する, 家に居る, 家の分前(?) を持つ (*Divy.*); 〔釋〕 家, 居家, 在家, 世俗 *Bodh-bh.* 男 〔釋〕 俗人 *Divy.*
ā-guṇṭhita 〔通受分〕 (國) に覆はれたる, 包まれたる。
ā-Gur *āgurate.* → *Gur.*
ā-gur 女 [祭式に於て讚誦祭官が供饗頌 (*yājyā*) の冒頭に用ふる *yeṣ yajāmahe* なる文句]。
āgurava 形 (女 -i) 蘆薈(?) 樹より生じたる。

ā-gṛhita 〔通受分〕 〔釋〕 慳吝, 慳惜, 吝執 *Bodh-bh.*; —° 取, 有慳吝 *Bodh-bh.*
ā-Gṛ, → *Gṛ I.*
ā-Gai, → *Gai.*
ā-gopāla 形 牛飼に至るまでの。
āgnā-vaiṣṇava 形 *Agni* 神 及 *Viṣṇu* 神に屬する。
āgnika 形 (女 -i) 聖火祭に關する。
āgni-māruta 中 *Agni* 及 *Marut* 諸神の禮拜式。
āgniveśya 男 [人名]。
āgniveśyāyana 形 *āgniveśya* に由來せる。
āgnīdhra 男 [(點火者), 祭官の一種]。 中 その火壇。
āgnīdhriya 男 *Agnīdhra* 祭官の火壇又はその小屋。
āgneya 形 (女 -i) 火又は *Agni* 神に關する。 中 (月宿) *Kṛttikā.*
āgneyi 女 東南; 〔釋〕 火隅 *Mvyut.*
ā-grathana 中 (帶を) 結ぶこと。
ā-granthana 中 結節。
āgrayaṇa 男 [*Agniṣṭoma* 祭に於ける *Soma* の獻供の一]。 中 (穀物の) 初收穫の供養。
āgrayaṇaka 中 [—° 形] [同上]。
āgrayaṇi 女 = *āgrayaṇa*(中)。
āgrayaṇiṣṭi (°nī-iṣ°) 女 初收穫の供養。
āgrayaṇeṣṭi (°na-iṣ°) 女 [同上]。
ā-Grah, → *Grah.*
ā-graha 男 執拗; 好意; 〔釋〕 受, 執, 執著, 執拗; 悋, 悋惜, 貪著 *Daś-bh., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
āgrahāyaṇi 女 *Mārga-śiṣa* 月の満月の日; [*Pākayajña* の一種]。
āgrahārika 形 *agrahāra* (王より婆羅門に下賜せられたる土地) に關する。 男 *agrahāra* を得たる婆羅門。
ā-ghaṭṭanā 女 打撃, 衝突。
ā-ghatana 中 [= *āghātana*]; 〔釋〕 刑 *Saddh-p. 449.*
ā-ghargharam 副 唸りて。
ā-gharṣa 男 摩擦。
ā-ghāṭa 男 [鑊鈸の一種], ガラガラ鳴る樂器。
ā-ghāṭi 女 [同上]。
ā-ghāta 男 打撃, 強打; 激發; 殺戮; 刑場; 屠殺場; 〔釋〕 害, 損害, 患害, 惱害, 違害; 破壊; 損惱; 感, 怒, 憤, 憤發; 令心憤發; 恚, 瞋恚, 瞋恚心, 憎恚; 嫌恨, 嫌嫉; 心逆 *Bodh-c., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; *cetasa* ~h 心戾, 心起損害 *Vijñ-t. 50.*
āghāta-citta 中 〔釋〕 損害心, 患害心, 害心, 嫌恨心 *Bodh-bh.*
ā-ghātana 中 刑場。
āghāta-bahula 形 〔釋〕 多生嫌恨 *Bodh-bh.*
ā-ghāṭayitavya 〔未受分〕 〔釋〕 損害; 生恚, 加忿 *Aṣṭ-pr., Sikṣ.*; *cittam na* ~m 不生恚心 *Aṣṭ-pr. 813.*
āghāta-vastu 中 〔釋〕 惱害事 *Abh-vy.*
āghāta-sthāna 中 刑場。
āghātākaraṇa 中 〔釋〕 不損惱 *Bodh-bh.*
ā-ghāra 男 酥油を祭火に灌ぐこと。
ā-GHuṣ, → *GHuṣ.*
ā-GHūrṇ *āghūrṇati.* → *GHūrṇ.*
ā-ghūrṇa 形 動搖せる, 旋回せる。

ā-ghūrṇita (過受分) → GHūrṇ.
 ā-GHṛ ājigharti. → GHṛ.
 ā-ghrṇi 形 白熱せる; 輝ける.
 ā-ghoṣa 男 祈禱; 宣言.
 ā-ghoṣaṇā 女 公布, 宣言.
 ā-GHrā ājighrati. → GHrā.
 ā-ghrāṇa 甲 嗅ぐこと.
 ā-ghrāṇatas 副 嗅ぐことによりて.
 ā-ghrāta (過受分) ……を嗅げる; 薫る.
 ā-ghreya (未受分) 嗅がるべき.
 ā-n (文法) = ā 1.
 āṅga 男 Aṅga 國王.
 āṅgārika 男 炭燒人.
 āṅgīrasa 形 (女-i) Aṅgīrasa の (男) 父系 Aṅgīrasa の後裔.
 āṅgīrasa-kalpa 男 [Atharva-veda 所屬の Kalpa-sūtra の名].
 āṅgi 女 Aṅga 國の王妃.
 āṅgīrasa 形 = āṅgīrasa.
 āṅgūṣa 男 甲 讚歌; 歌頌を聲高く誦すること.
 āṅgūṣya 形 聲高く讚誦する; 響く.
 āṅgeyi 女 = āṅgi.
 ā-c (文法) [dakṣiṇ-ā 等の如き副詞に於ける (接尾) ā].
 āca 男 [人名].
 ā-Cakṣ ācaṣṭe. → Cakṣ.
 ā-cakṣita (過受分) 漢譯 說 Saddh-p. → an ~.
 ā-cakṣus 形 學識ある.
 ā-caturam 副 四代目まで.
 ā-candra-tāraṅgam 副 月と星とを除きて.
 ā-Cam ācāmati. → Cam.
 ā-camana 甲 水を啜ること, 口を漱ぐこと; 口を漱ぐ水; 漢譯 麗 Mvyut.
 ā-camanaka 甲 痰壺; 含嗽用の器.
 ācamana-dhārin 男 含嗽用の器を運ぶ者.
 ā-camani 女 口を漱ぐ水.
 ā-camaniya 甲 [同上].
 ā-camya (未受分) 水を啜りて.
 ā-caya 男 堆積, 充填; 多量; 漢譯 積, 增益 Aṣṭ-pr., Mvyut. → apacaya.
 ā-Car ācarati. → Car.
 ā-carāṇa 甲 接近, 到着; 實行; 行爲; 車, 荷車.
 ā-carāṇiya (未受分) 爲さるべき, 行はるべき.
 ā-cari 男 [音律. = ācārya]; 漢譯 師 Sam-r. 52.
 ā-carita (過受分) 通り過ぎたる, 交通頻繁なる; 實行せられたる; (規則にて)定められたる(文法). 甲 到着; 慣習; 行爲; 漢譯 修, 常時 Divy. Śikṣ., ā-caritavya (未受分) 爲さるべき. 甲 慣習に従ひて行動すべきこと.
 ā-cariya 男 俗 [<ācārya] (Lal-v. 125.); 漢譯 正行, 軌範 立應; (音寫) 阿遮利夜, 阿遮利耶 立應.
 ā-carya (未受分) 爲さるべき, 近づかるべき. 男 漢譯 [= ā-cārya] 師長, 師尊 Śikṣ. 331.
 ā-cānta (過受分) → Cam.
 ā-cāma 男 水を啜ること; 粥汁(註)又はその浮滓(註); 漢譯 果, 果汁; 米泔 Divy., Mvyut.
 ā-cāmaruka 男 含嗽用の器.

ā-cāra 男 行爲; 善行; 慣習, 習俗, 作法, 規則; °— 慣例; 漢譯 行, 所行; 行處; 威儀, 軌則, 規則, 合儀, 儀軌, 所行儀軌; 法事 Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-c., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵雜: ~ ena nān ~ ena 合儀不以非儀 Bodh-bh. 123. → an ~, yoga ~.

ācāra-guṇḍī-kuhaka-śramaṇa 男 漢譯 詐威儀沙門, 威儀欺誑沙門, 密行虛誑沙門, 外如沙門内懷偷竊 Kāśy.

ācāra-gocara 男 漢譯 行住威儀 Śikṣ.; 行處親近處 Saddh-p., Abh-vy.

ācāra-cāritra-saṃpanna 形 爲すべき行爲を知れる, 行爲に禮節ある(漢註).

ācāra-bhraṣṭa 形 廢れたる.

ā-cāramaya 形 儀式ばれる, 作法に専らなる.

ācāra-lāja 男 複 慣例に従ひて炒れる穀類.

ācāra-lājā 女 複 [同上].

ā-cāravat 形 行儀よき, 徳高き.

ācāra-vipanna 形 漢譯 壞法, 壞行 Mvyut.

ācāra-vyapeta 形 慣習に違へる.

ācāra-śila 形 漢譯 具行者, 具理趣者 Mvyut.

ācāra-saṃpatti 女 漢譯 軌則具足 Bodh-bh.

ācāra-saṃpad 女 漢譯 禮儀具足 Sam-r.

ācāra-saṃpanna 形 漢譯 威儀具足 Sam-r.

ācāra-stha 形 漢譯 住行者, 住於法儀 Mvyut.

ācāra-hina 形 作法を無視せる.

ācārāpeta 形 慣習を蔑視する.

ā-cārya (未受分) 行ふるべき, ācāra を知れる或は教ふる. 男 師 [特に婆羅門を稱することあり]; [Droṇa (Kaurava の師) の名]; [種姓(階級)を失へる Vaiśya の息子]; 漢譯 師, 教師, 教授, 師長, 大師, 法師, 師傅, 所範, 師範, 軌範, 軌範師; 正行, 示道者 Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; (音寫) 闍梨, 阿闍梨, 阿闍梨, 阿祇利, 阿遮利耶, 阿遮利夜 Lal-v., Vin., Śikṣ., Sātr., Bodh-bh., Mvyut., 立應.

ā-cāryaka 甲 教師たること; 教職; 漢譯 師 Bodh-bh.

ā-cāryatā 女 教職.

ā-cāryatva 甲 [同上].

ācārya-deva 形 師を(神の如く)尊敬せる.

ācārya-pāda 男 複 Ācārya の尊稱.

ācārya-putra 男 Aśvatthāman.

ācārya-muṣṭi 男 漢譯 師拳, 師捲, Bodh-bh.; 慳悒 Lal-v.; 秘吝 師吝於法 Mvyut.; 隱藏 Kāśy. 3.

ācārya-vacasa 甲 聖師の言葉.

ā-cāryavat 形 師に就ける.

ā-cāryāṇi 女 師の妻.

ācāryādhina 形 自己の師に頼れる.

ācāryādhinatva 甲 [同上 副].

ā-cāryāṇi 女 = ācāryāṇi.

ā-Ci ācinoti, ācinate. → Ci 1.

ā-cikhyāsā 女 談話又は表現せんとする欲望.

ā-cikhyāsu 希正 形 表現せんと欲する.

ācikhyāsopamā (°sā-up°) 女 [譬喩の一種].

ā-Cit, → Cit.

ā-cit 女 (圖)に對する注意.

ā-cita (通受分) 集められたる, 堆積せられたる; (因, 一°)にて充たされたる, ……を積まれたる, ……を鑲められたる。→ Ci 1.; 積 *Mvyut.* ④車の積荷。
 ā-citra 形 種々に彩られたる。
 ā-cirṇa (通受分) 實行せられたる; 食はれたる, 侵蝕せられたる。
 ācirṇa-daṇḍatā 女 使仗 *Mvyut.*
 āceśvara (°ca-iś) 男 [Āca の建立せる殿堂の名]。
 ā-Ceṣṭ āceṣṭate. → Ceṣṭ.
 ā-ceṣṭita (通受分) 従事せる, 爲されたる。
 ā-coṭana ④ 整すこと(?)。
 ā-coṭita (通受分) (掻きて)掘り出されたる。
 ā-cCHad ācchādayati(使役). → CHad 1.
 ā-cchanna (通受分) 覆はれたる, 纏へる。→ CHad 1.
 ā-cCHā ācchyati. → CHā.
 ā-cchāda 男 衣服, 衣類。
 ā-cchādaka 形 覆ふ, 隠す, 護る。
 ā-cchādakatva ④ [同上 ④]。
 ā-cchādana ④ 覆ふこと, 隠すこと; 著ること; 衣服; 衣, 衣服 *Bodh-bh.*
 ācchādana-vastra ④ 下衣。
 ā-cchādita (使役) (通受分) 覆はれたる; 着用せしめられたる; 彌覆 *Rāṣṭr.*
 ā-cchādin 形 (一°)を覆ふ, 隠す。
 ā-cCHid ācchinatti. → CHid.
 ā-cchidya (不棄分) 切り取りて, 遮りて, 除きて。
 ā-cchinna (通受分) 切り取られたる; (暗等か)除かれたる; 奪 *Prāt-m.*: ~ cīvara 奪衣 *Prāt-m.* 492.
 ā-cchurita (通受分) 掻かれたる。→ CHur.
 ā-cchettr 男 切り取る者。
 ā-cchettri 女 棄捨 *Sapt-pr.*
 ā-ccheda 男 切ること, 切り取ること, 除去; 斷, 節節分解 *Lank.*
 ā-cchedana ④ [同上]; 除外; 斷 *Sikṣ.*
 ā-cchedya (未受分) 能斷滅 *Daś-bh.* → an~.
 ā-cchṛita (使役) (通受分) → CHuṭ.
 ācya (ā-acya) (不棄分) (膝を)屈して。→ Ac 1.
 -ā-chida 形 能除 *Sūtr.*: kāṅksā~ 處疑能除 *Sūtr.* 188.
 ā-chedya (未受分) 斷 *Sikṣ.* → āchedya.
 āj(ā-Aj) ājati. → Aj.
 āja 形 山羊の。④ [月宿 *Pūrva-bhādrapadā* の稱]。
 āja-gara 形 (女-i) 大蛇の, 大蛇の如く動く。
 ājagava ④ *Śiva* 神の弓。
 ā-Jan ājāyate. → Jan.
 ā-janana ④ 出生, 起原。
 ā-janma ④ 出生以來。
 ā-janya (未受分) 勝德 *Kāśy.* 21. → ~ ratha.
 ājanya-prāpta 形 有勝德 *Kāśy.* 21.
 ājanya-ratha 男 [Pāli. ājañña-ratha] 妙莊嚴車 *Bodh-bh.* 284.
 āja-pāda ④ [月宿 *Pūrva-bhādrapadā* の稱]。
 ājamidha 男 [王の名]。
 ā-jarasam ④ 老年に至るまで。

ā-jarjarita (通受分) 多少傷つけられたる, 幾分寸斷せられたる。
 ā-java 男 來 *Mvyut.*
 ājavam-java-samāpanna 形 有往來者 *Mvyut.*
 ājavam-javi-bhāva 男 輪轉生死, 生死往來相 *Madhy-v.*
 ā-jāta (通受分) 生れたる; 發生, 能引發 *Daś-bh., Bodh-bh.* ~ m BHū 現在前, 現前生 *Daś-bh.*
 ājātaśatrava 形 *Ajātaśatru* 王に關する。男 *Ajātaśatru* 王の後裔。
 ā-jāti 女 出生。
 ā-jāna ④ 出生, 血統; 生るゝ場處。
 ājāna-ja 形 生來の。
 ājāna-deva 男 生來の神 [自己の *karman* (業)によりて神位に達したる *Karma-deva* に對す]。
 ā-jānu ④ 膝に至るまで。
 ājānu-bāhu 形 手が膝に達する。
 ā-jānu-lambin 形 膝に達する。
 ā-jāneya 形 (女-i) 貴族の; 良種の(馬); 然るべき素性の; 調, 易調, 調伏, 調順可化, 善順之相, 善良, 明良 *Gaṇḍ-vy., Sam-r., Rāṣṭr., Kāśy., Lal-v., Mvyut.*; 調伏者 *Madhy-v.* 143.; 智, 聰慧, 正知(者), 令知見明了 *Kāśy.* 23., *Abh-vy.* 426.: ~ ānām sattvānām 調伏衆生, 調順可化衆生 *Gaṇḍ-vy.* 322. → an~, āsva~. 男 良種の馬; 良馬, 寶馬, 調慧馬, 如調慧馬 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
 ā-jāneyatā 女 善調 *Sikṣ.*
 ā-Ji, → Ji.
 āji 男 女 競走, 仕合, 戰。
 ā-jighṛkṣu 形 捉へんと欲する。
 āji-bhūmi 女 戰場。
 āji-mukha ④ 先鋒。
 ājira-bhū 女 戰場(?)。
 āji-śiras ④ 前線, 先鋒。
 āji-śobhin 形 競争に於て卓越せる。
 ā-jihirṣu 形 齎らさんと欲する, 捉へんと欲する。
 ā-jihmita (通受分) 多少外れたる。
 ājihmita-locanam ④ 多少眼を逸らして。
 ājigarti 男 父系 *Ajigarta* の後裔。
 ā-Jiv ājivati. → Jiv.
 ā-jiva 男 生計; 命, 正命, 活命, 淨命 *Lal-v., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; 邪命 *Bodh-bh.* 220. → mithyā~. ~ m ④ 終生。
 ā-jivaka 男 修行者の一種 阿字婆 *Lal-v.*
 ā-jivana ④ 生計。
 ā-jivanika 形 生計を求むる。
 ājiva-vipanna 形 壞命, 壞養 *Mvyut.*
 ājiva-sampatti 女 淨命具足 *Bodh-bh.*
 ājiva-sammṛṣṭa 形 惡命活, 活命與俗交 *Lank.*
 ā-jivika 男 [特殊の方法にて生活する修行者の一派] (*Divy.*); 外道, 邪命者, 裸形外道 *Divy., Abh-vy.*
 ā-jivikā 女 生計; 活命 *Bodh-bh.*
 ā-jivītantam ④ 終生。
 ā-jivin 男 商人 (*Divy.*)
 ā-jivya (未受分) 生計に適せる, 生活を維持せる。④

生計の資。

ā-jñapta (通受分) 命ぜられたる; 所教 Ast-pr.

ā-jñapti (女) 命令, 指揮; 告勅 Saddh-p. ~m

Dā 役使, 驅役使 Sikṣ.

ā-Jñā ājānāti. → Jñā.

ā-jñā (女) 命令, 指揮, 權威, 最高の權力; 教, 教化, 教命, 教令, 言教, 聖教; 勅, 誡勅, 勅旨, 教勅, 教教, 勅告; 諫; 告令 Divy., Lal-v., Buddh-c., Saddh-p., Rāṣṭr., Sikṣ., Bodh-bh., Mañj-m., Mvyut., 梵雜; 知, 遍知; 解, 悟解 Gand-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 知己根 Abh-vy. 164.; 有智者 Vajr-pr. 23.: ~ deyā 可制約 Divy. 32.

ājñā-kara (男) 下男; 依勅, 從命 Mvyut.

ājñā-karatva (中) 召使たること。

ājñā-kari (女) 下女。

ājñā-citta (形) 慧心, 可知之心; 依命令心; 求悟解心 Bodh-bh. Mvyut.,

ājñāta-kaundinya (男) [佛弟子の名] 了本際, 知本際, 已知本際, 解了本際 Sukh-vy. I., 支應; 阿若居倫, 阿若拘輪, 阿若俱隣, 阿若憍陳如, 阿憍若憍陳如 Divy., Lal-v., Saddh-p., Mvyut., 支應。

ājñātāva (°ta-āva) (男) 知, 護已知 Abh-vy. 102.

ā-jñātāvin (通能分) 具知, 知己, 已知護 Abh-vy. 102.

ājñātāvīndriya (中) 具知根, 知己根 Abh-vy., Mvyut.

ā-jñātu-kāma (形) 欲了知 Sapt-pr.

ā-jñātr (男) 指導者. (形) 修學 Sapt-pr.

ājñā-dāna (中) 下命。

ā-jñāna (中) 會得, 悟性; 解, 知, 了知; 測 Bodh-bh. → dur~.

ā-jñāpaka 1. (形) 命令する。

ājñāpaka 2. (形) 不令得知 Mvyut. → ajñāpaka.

ājñāpana (中) 下命, 命令。

ājñāpana-vijñapti (女) 遣他表, 令他教業 Abh-vy.

ājñāpaniya (未受分) 使他知教令 Mvyut.

ājñā-parigraha (男) 命令の受理。

ājñā-parivijñāpanin (形) 教告 Lal-v.

ājñā-pālana (中) 命令の遂行。

ā-jñāpita (通受分) 下命せられたる, 命令せられたる; 所統 Divy.

ā-jñāpya (未受分) (男)の命令を奉ずる; (女)に指示又は命令せらるべき, (男)の命令を期待する。

ājñā-bhaṅga (男) 命令違犯。

ājñābhaṅga-kara (形) 命令を等閑に附する。

ājñābhaṅga-karin (形) [同上]。

ājñābhiprāya (°nā-abh°) (男) (作奉)敬心 Bodh-bh.

ā-jñāya (不聽分) 注意して, 認めて; 聞きて。

ājñā-vidhāyin (形) 命令を果す, 服従する。

ājñā-viheṭhana (中) 不受諫, 違惱言教 Mvyut.

ājñā-vyākaraṇa (中) 表示, 說示 Mvyut.

ājñā-sampādin (形) 命令を遂行する, 從順なる。

ājñendriya (°nā-in°) (中) 知根, 已知根 Abh-vy.,

Mvyut.

ā-jñeya (未受分) 解, 知, 可知, 所了知 Abh-vy., Mvyut.; 如教令 Mvyut. → dur~.

ājya (中) 透明なる液狀の牛酪(祭の供物又は塗布に用ふ); [śastraの一種]。

ājya-gandhi (形) 澄める牛酪(ājya)の香ある(祭火)。

ājya-graha (男) 澄める牛酪の容器。

ājya-dhanvan (形) 澄める牛酪を弓として有する(神々)。

ājya-dhāni (女) 澄める牛酪の容器。

ājya-pa (形) 澄める牛酪を飲む. (男) [Vaiśyaの祖靈]。

ājya-lipta (形) 澄める牛酪を塗布せられたる。

ājya-lepa (男) 澄める牛酪にて造れる膏藥。

ājya-śeṣa (男) 澄める牛酪の殘餘。

ājya-havis (形) 澄める牛酪の供物を有する。

ājya-homa (男) 澄める牛酪の供物。

ājyāhuti (°ya-āh°) (女) [同上]。

āñc (ā-Añc), → Ac.

Āñch, I. (中) ānchati 引く, 曳く, 張る。

āñj (ā-Añj), → Añj.

āñjana (中) 膏藥, 眼膏。

āñjana-gandhi (形) 膏藥の香ある。

āñjanābhyañjana (中) ~e (男) 眼の塗膏と足の塗膏。

āñjaneya (男) [Añjanāの子, Hanumat]。

āñjasa (形) (女-i) 直接の。

āṭarūṣaka (男) [植物の名]。

āṭavaka-yakṣa (男) 住曠野施得(?) Mvyut.; 阿吒薄俱夜叉 Mvyut.

āṭavika (形) 森林に關する; 林棲者より成る. (男) 林棲者; 樵夫; 林主 Mvyut.

āṭānātiya-sūtra (中) [佛典の名, 毘沙門天王經の類本]。

āṭāsava (中) 宴 Mvyut.

āṭiki (女) [人名]. (形) (女) 未だ成熟せざる。

āṭi-Kṛ, 熟慮す。

āṭopa (男) 膨脹; 夥多; 自慢。

āḍambara (男) 太鼓; 騒音; 饒舌; (象の)吼號; 頂上, 高所; ……の冠。

āḍambaravat (形) 騒がしき。

āḍambarāghāta (°ra-āgh°) (男) 太鼓を打つ者。

āḍivin (男) [或る鴉の名]。

ā-Dval ādvālayati. → Dval.

āḍhaka (男) (一°) (女-i) [穀類等の樹量的一種, = 四 prastha]; 斗 梵千, 梵雜。

āḍhya (形) 富める; (男, 一°)に富む; 富, 大富, 財富, 富樂, 富貴, 富豐財, 富樂者; 衆; 強; 豪貴; 受用皆充足 Divy., Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.; 或 Daś-bh. 50.: bala~ 大力 Lal-v. 310.

āḍhya-kula (男) 富家, 富樂豐饒族 Sikṣ.

āḍhya-kulina (形) 富貴の家の後裔なる。

āḍhyam-karaṇa (形) 富ましむる。

āḍhyatā (女) 富。

āḍhya-smṛtimat (形) 強識 Saddh-p.

āṇaka 形 [=aṇaka] 微小なる, 些少なる, 繊細なる。
 āṇi 男 車軸の轄(?)。
 āṇi-pratyāṇi-nirhāra-yogena 男 男身連
 接男身(?) Mvyut.
 āṇḍa 男 卵。 卵。 卵。
 āṇḍa-kapāla 男 卵殼。
 āṇḍa-kośa 男 卵。 卵の内に包含せられたる。
 āṇḍa-ja 形 卵生の。 男 鳥。
 āṇḍira 形 強き, 勇敢なる。
 āt 1. 副 (陰) 其後; 其際; も亦, 及び。 [陰の後に]
 何卒(?)。
 ā-t 2. [母音 ā]。
 ā-Takṣ, → Takṣ.
 ā-taṅka 男 肉體の苦痛, 病氣; 不快; 不安; 懸念, 恐
 怖; 猜慮, 疑悔 Sikṣ. → alpa ~ tā.
 ā-tata 過受分 → Tan 1.
 ā-tatāyin 形 自己の弓に弦を張れる, 弦を張れる弓
 を有する。 男 武装せる攻撃者, 暗殺者; 危険人物,
 重罪犯人。
 ātati-karaṇa 中 (弓の弦を)張ること。
 ā-Tan ātanoti. → Tan 1.
 ā-tapa 形 苦痛を生ぜしむる。 男 (太陽の)熱, 日光;
 熱; 日, 光, 日光, 陽; 炎景; 日曝 Divy., Lal-v.,
 Gaṇḍ-vy., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千。
 ā-tapatra 中 傘; 蓋, 傘蓋 Buddh-c., Mañj-
 m. → eka ~。
 ā-tapatrāyita 形 日傘の形をなせる(例 樹枝)。
 ā-tapana 男 [Śiva 神の稱]。
 ā-tapavat 形 太陽に照されたる。
 ātapa-vāraṇa 中 傘。
 ātapātyaya 男 暑熱の終焉, 夕刻の涼味。
 ātapāpāya 男 暑熱期の満了, 雨期の初。
 ātapāya 名動 形 日光の如く暑くなる。
 ātapodaka (°pa-ud°) 中 太陽熱を受くる水より發す
 る空中の映像。 → mṛga-trṣā.
 ā-tapo-vanam 副 苦行林に至るまで。
 ā-tapta 過受分 熱にて精練せられたる(黄金等); 熬
 熬, 勇猛精進 Divy., Bodh-bh.
 ātapta-kārin 形 以力行 Mvyut.
 ā-Tam, → Tam.
 ā-tara 男 (河を)渡ること; 渡船賃。
 ā-tarpaṇa 中 祭日に壁・床・座等を白き漆喰にて塗る
 こと; 漆喰(の一種)。
 ātas, = atas.
 ātā 女 [其 類 ātābhis 及び ātais] 框, 縁(?)。
 ā-tāna 男 張られたる墨繩, 繩。 中 因(?) Mvyut.
 ā-tāpana-paritāpana 中 自苦身心 Lal-v.
 ā-tāpin 男 [或る Daitya の名]。 形 烈しき, 熱心な
 る, 奮闘的なる, 活潑なる (Av-ś., Divy., Lal-v.);
 猛, 勤勇, (一心)勤修, 熾然精進 Divy., Daś-bh.,
 Mvyut.
 ā-tāmra 形 赤色を帯びたる, 稍 銅色なる; 紅
 色, 赤銅色 Mañj-m., Mvyut.
 ā-tāmratā 女 赤きこと。
 ātāmra-nakha 形 爪如赤銅色, 指爪紅銅(相)
 Mvyut.

āti 女 [水禽の一種]。
 ā-titāmsu 系詞 形 (業)を擯げんと欲する。
 ātitheya 形 (女 -i) 客の, 客をもてなす。 中 款待。
 男 Atithi の後裔。
 ātitheyatva 中 [同上(中)類] (Jāt-m.).
 ātitheyi 女 款待。
 ātithya 形 = ātitheya(形)。 中 款待; (祭式に於け
 る) Soma の歓迎。
 ātithya-kāma 形 客の禮遇を望める。
 ātithyavat 形 款待に就きて言ふ; 「客」なる語を含
 む。
 ātithya-sat-kāra 男 懇切なる款待。
 ātithya-sat-kriyā 女 [同上]。
 ātithyā 女 [同上]。
 ātithyeṣṭi (°ya-iṣ°) 女 祭場に齋らされたる Soma を
 款待する供儀。
 ā-tiraścina 形 多少斜なる, 稍 横ぎりたる。
 ātiraikeya 中 [ati-reka より] 過剩。
 ātisayika 形 [ati-śaya より] 過剩なる; 異常なる
 (Jāt-m.).
 āti 女 = āti.
 ā-Tud, → Tud.
 ā-tura 形 病める, 不健康なる, 弱き; 患へる; —°
 ……に苦める, ……によりて苛責せられたる; [不定
 と俱に] ……を病的に欲望する; 悲哀なる, 惱める
 (Jāt-m.); 病, 重病, 病人, 病者, 有病者, 疾病
 者; 大患; 痛, 病痛; 苦; 羸困; 無力 Divy., Buddh-
 c., Lal-v., Rāṣṭr., Laṅk., Sūtr., Sikṣ., Bodh-c.,
 Mvyut.; 欲 Rāṣṭr.
 ā-Tul, → Tul.
 ā-trṇṇa 形 貫かれたる, 傷つけられたる。 中 傷, 疵
 口。
 ā-Tṛ ātirati. → Tṛ.
 ā-todya (未受分) 中 樂器。
 ātodya-sthāna 中 奏樂堂。
 ā-tta 過受分 取られたる; [時として —° 形] 攫ま
 れたる, 得られたる; 取り去られたる, ……無き; 認
 められたる, 感ぜられたる = 會得する, 感ずる。 →
 Dā 1.; 守 Sūtr. 108.
 ātta-gandha 形 高慢を除かれたる。
 ātta-garva 形 尊大を抑へられたる, 屈服せしめられ
 たる。
 ātta-daṇḍa 形 杖を擯める。
 ātta-dikṣa 形 Dikṣā を行へる。
 ātta-mana 形 [*āpta-manas*]; 欣慶, 歡喜, 皆
 大歡喜 Vajr-pr., Daś-bh.
 ātta-manas 形 [*āpta-manas*] 狂喜せしめられた
 る; 悦, 悅豫, 歡喜, 大歡喜, 心意快然, 靡不歡
 喜; 踊躍; 如意 Divy., Sukh-vy. I., II., Saddh-p.,
 Suv-pr., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.: tuṣṭā udagrū
 ~ aḥ pramuditāḥ prīti-saumanasya-jātāḥ 歡喜
 踊躍 Saddh-p. 209.
 ātta-manaska 形 [同上]; 歡喜, 大歡喜, 心生
 歡喜, 意懷悅, 心意調柔; 喜躍 Aṣṭ-pr., Saddh-p.,
 Sikṣ. ~ BHū 生歡喜 Aṣṭ-pr.
 ātta-manaskatara 比較 大歡喜 Gaṇḍ-vy.

~BHū ㊦ 心大歡喜 *Gaṇḍ-vy.*
āttamanāttamanas (°na-āt°) ㊦ ㊦ 生大歡喜
Divy.
ātta-rati ㊦ 喜悅を感じる, (因)に喜悅を感じる.
ātta-lakṣmi ㊦ 光輝・勢力又は富を失へる.
ātta-vibhava ㊦ 富を得たる.
ātta-virya ㊦ 力を奪はれたる.
ātta-śastra ㊦ 武器を擧める.
ātta-sāra ㊦ 力又は寶を奪はれたる; 空虚なる; ㊦
 [*<āpta-sāra*] 得堅固, 得堅固(身), 獲堅固(身) *Gaṇḍ-*
vy.
ātta-sva ㊦ 財産を奪はれたる.
ātta-svatā ㊦ [同上 ㊦].
āttha, [Ahの ㊦ ㊦ ㊦].
-ātma, =ātman; ㊦ 己 *Sikṣ.*
ātmaka ㊦ (㊦-ikā) (一°)の性質を有する, ……よ
 り成る, ……に存する; ㊦ 體, 爲體; 性, 爲性, 本
 性, 自性, 爲自性, 爲性相 *Sūtr., Abh-vy., Vijñ-t.,*
Sāmkhy-k., Mvyut.; 習著 *Buddh-c.*
ātmakatā ㊦ [同上 ㊦]; ㊦ 自性 *Bodh-bh.*
ātmakatva ㊦ [同上].
ātmaka-dharma ㊦ ㊦ 體法, 自法 *Bodh-bh.*
ātma-karman ㊦ 自己の行爲, 自業.
ātma-kāma ㊦ 自己本位の, 自負心を有する; 最高
 我を愛する; 解脱を欲する (*Jāt-m.*); ㊦ 自愛, 欲
 善我 *Mvyut.*
ātma-kārya ㊦ 自己の業務, 私事; ㊦ 自事, 己所
 作 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
ātmakārya-pariprāpta ㊦ ㊦ 住於自事, 恆住自
 事 *Gaṇḍ-vy.*
ātmakiya ㊦ 己の.
ātma-kṛta ㊦ 自ら招きたる, 自ら犯せる, 自ら爲せ
 る.
ātma-gata ㊦ 我に在る或は關係する. ~m ㊦
 獨白にて(㊦).
ātma-gati ㊦ 己の手段又は方法. ㊦ 單獨に.
ātma-guṇa ㊦ 自我の徳性.
ātma-grāha ㊦ ㊦ 我執, 執我, 我取, 持我, 著我,
 計有我 *Buddh-c., Vajr-pr., Laṅk., Sikṣ., Madhy-*
vibh., Mvyut.
ātma-grāhin ㊦ 己のものとなす, 利己的なる.
ātma-ghātaka ㊦ 自殺者.
ātma-ghātin ㊦ [同上].
ātma-ghoṣa ㊦ (己の名を言ふ), 鴉.
ātma-ja ㊦ 自生の. ㊦ 子息; 子孫; ㊦ 子 *Lal-v.*
ātma-jatā ㊦ 子息たること.
ātma-janman ㊦ 己の再生=子息の出生; 子息.
ātma-jaya ㊦ その人自身の勝利.
ātma-jā ㊦ 息女.
ātma-jit ㊦ 己に打ち克つ
ātma-jña ㊦ 己を知る; 最高我を知る; ㊦ 自
 知, 知我 *Mvyut.*
ātma-jñatā ㊦ ㊦ 自知, 知己, 解己法 *Lal-v., Sikṣ.*
ātma-jñāna ㊦ 自知; 最高我の智.
ātma-jyotis ㊦ 最高我の光明. ㊦ 自我の光明を認
 めたる.

ātma-tattva ㊦ 自身の本性; 最高我の本質.
ātma-tantra ㊦ 獨立の. ㊦ 自我の基本.
ātmatā ㊦ 本質, 本性.
ātma-tulya ㊦ ㊦ 與我等 *Lal-v.*
ātma-trṛpta ㊦ 自己満足する.
ātma-trṣṇā ㊦ ㊦ 我愛, 愛我 *Sikṣ.*
ātmatrṣṇopabhoga (°nā-up°) ㊦ ㊦ 我愛樂受用
Sikṣ.
ātma-tyāga ㊦ 自殺; 忘我, 自己犠牲.
ātma-tyāgin ㊦ 自殺者.
ātma-trāṇa ㊦ 遁るゝ手段; 護身.
ātmatrāṇa-parigraha ㊦ 護衛兵.
ātmatva ㊦ 本質, 本性; ㊦ 我性 *Abh-vy.*
ātma-darśa ㊦ 鏡.
ātma-darśana ㊦ (一°)に自身を見ること; ㊦ 我
 見 *Sūtr., Madhy-vibh.*
ātma-darśin ㊦ ㊦ 見我 *Bodh-bh.*
ātma-dāna ㊦ 自己犠牲.
ātma-dṛṣṭi ㊦ ㊦ 我見, 自見, 我執, 自貪, 自貪見
Vajr-pr., Laṅk., Sūtr., Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.
ātma-deva ㊦ [人名].
ātma-drohin ㊦ 自身を苦むる, 焦立つ.
ātma-dveṣa ㊦ 自己憎惡.
ātma-dhātu ㊦ ㊦ 我界 *Sapt-pr.*
ātma-dhāraṇi ㊦ [Dhāraṇiの一種] (*Dharm-s.*).
ātman ㊦ 氣息; 靈魂; 生命, 自身 [㊦=㊦];
 本質, 本性; 特色; 身體; 知性, 悟性; 我, 最高我;
 ㊦ 我, 我者; 己, 自; 性, 自性; 身, 自身, 體, 體
 性, 己體, 自體; 神, 神識 *Divy., Lal-v., Buddh-c.,*
Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Laṅk., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh.,
Nyāy-pr., Madhy-v., Abh-vy., Sāmkhy-k., Vaiś-s.,
Mvyut. → mahā~.
ātmanā-trṛtiya ㊦ 自己を第三者となす, 他の二者
 と俱なる.
ātmanā-daśama ㊦ 自己を第十者となす.
ātmanā-dvitiya ㊦ 他の一人と俱なる, 自己とゝも
 に二人なる.
ātmanā-pañcama ㊦ 自己を第五者となす.
ātmanā-saptama ㊦ 自己を第七者となす.
ātmanikā ㊦ [人名].
ātma-nitya ㊦ 常に心にかけたる, 甚だ親しめる.
ātma-nindā ㊦ 自責.
ātma-nivedana ㊦ (神に)歸依すること.
ātmanina ㊦ 自己に適へる, 己の爲の, 己の幸
 福の. ㊦ 生物; ㊦ 我所 *Madhy-v.*
ātmane-pada ㊦ 爲自言(㊦).
ātmane-padin ㊦ 爲自言を有する(㊦).
ātmanvat ㊦ 生命ある, 我を有する.
ātmanvin ㊦ [同上].
ātma-pa ㊦ 自身を護る.
ātma-pakṣa ㊦ 與黨.
ātma-para ㊦ ㊦ 自他, 自身及他 *Madhy-vibh.*
ātmapara-samatā ㊦ ㊦ 自他平等 *Madhy-vibh.*
ātmapara-hita ㊦ ㊦ 自利利他 *Lal-v.*
ātma-parigraha ㊦ ㊦ 執我 *Sikṣ.*
ātma-parityāga ㊦ 自己犠牲; ㊦ 捨身, 自捨身

命, 捐捨身命, 不惜身命 *Suv-pr.*
 ātma-paribhāṣaṇa ㊦ 自剋責 *Saddh-p.*
 ātma-parikṣā ㊦ 觀法 *Madhy-v.*
 ātma-pāta ㊦ 再生.
 ātma-pūjā ㊦ 自讚.
 ātma-pratikṛti ㊦ 自己の肖像.
 ātma-pratibhāsa ㊦ 似我, 變似我 *Madhy-vibh.*
 ātma-pratyayika ㊦ 自ら會得すべき.
 ātma-pratyarthi-nānavat ㊦ 自己と被告との名ある.
 ātma-pratyāyana ㊦ 自開悟 *Nyāy-pr.*
 ātma-prabha ㊦ 自ら發光する, 自ら輝く.
 ātma-prayojana ㊦ 利己的なる.
 ātma-praśamsaka ㊦ 自己を讚ふる, 大言壯語する.
 ātma-praśamsā ㊦ 自讚.
 ātma-praśamsin ㊦ = ātma-praśamsaka.
 ātma-bahu-māna ㊦ 我慢 *Sikṣ.*
 ātma-bodha ㊦ 最高我を知る. ㊦ 最高我の知識.
 ātma-bhaya ㊦ 生命の恐怖.
 ātma-bhava ㊦ 自己の實在, 自己の顯現; *Kāma* 神. ㊦ 自己に原因せる, 自業自得の.
 ātma-bhāva ㊦ 我の恒久的存在; 自己の存在, 個性; 身體; ㊦ 身, 自身, 己身, 身體, 內身, 本身, 身(量), 身(命), 身分, 所依身; 形, 身形; 自體, 自性; 我相; 依內 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Gand-vy., Suv-pr., Saddh-p., Lan̄k., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.:* mānuṣyakam ~ m 人身 *Aṣṭ-pr. 79.*
 ātmabhāva-nirmita ㊦ 所分之身 *Saddh-p.*
 ātmabhāva-parityāga ㊦ 捨身, 捐身 *Saddh-p.*
 ātmabhāva-rakṣā ㊦ 護身 *Sikṣ.*
 ātmabhāva-vigraha ㊦ 全身 *Saddh-p.*
 ātmabhāva-śobhā ㊦ 莊嚴身, 光飾自身 *Abh-vy.*
 ātmabhāva-sampatti ㊦ 自體具足 *Bodh-bh.*
 ātmabhāva-sampad ㊦ 自體具足 *Bodh-bh.*
 ātma-bhū ㊦ 自存; [*Brahman* 神・*Viṣṇu* 神及 *Śiva* 神の稱].
 ātma-bhūta ㊦ (他人の本體となれる), ……に身を打込める, ……に獻身せる, 忠實なる.
 ātma-bhūya ㊦ 特質, 本性.
 ātma-maṇḍala ㊦ 後光.
 ātmamaya ㊦ (㊦-*i*) 自身より生ずる.
 ātma-māmsa ㊦ 自身の肉.
 ātma-māna ㊦ (博學なり等との)自尊; ㊦ 我慢 *Vijñ-t., Mvyut.*
 ātma-moha ㊦ 我癡, 自蒙 *Vijñ-t., Mvyut.*
 ātmaṁ-bhari ㊦ 自己の生計のみを勤ふる, 利己主義の; ㊦ 我所心, 我満足, 長養於自身 *Sikṣ.*
 ātmaṁ-bharitva ㊦ 自己本位, 自己の事のみを主とすること.
 ātma-yājīn ㊦ 自己の爲に獻供する; 自己を犠牲にする.

ātma-yoga ㊦ 最高我との合一.
 ātma-yoni ㊦ [*Kāma* 神及 *Viṣṇu* 神の稱].
 ātma-rakṣaṇa ㊦ 自己防衛.
 ātma-rati ㊦ 最高我に喜悅する.
 ātma-lābha ㊦ 自己の利益; 最高我の(知識の)獲得; 生命を得ること; 出生; ㊦ 得體 *Abh-vy.*
 ātma-vacana ㊦ (その人)特有の言葉.
 ātma-vañcaka ㊦ 自己を伴れる.
 ātmavat ㊦ 自身の如く. ㊦ 生命ある; 自制せる; 親切なる, 敏感なる; 個人的の; [*śruta* と俱に ㊦] 人間の知識; ㊦ 智者, 行善人 *Buddh-c., Divy.*
 ātmavattā ㊦ 克己.
 ātma-vadha ㊦ 自殺.
 ātma-vadhyā ㊦ [同上].
 ātma-varga ㊦ 與黨.
 ātma-varṇānunaya ㊦ 自讚功能 [*para-varṇa-pratigha* の 對] *Sikṣ.*
 ātma-vaśa ㊦ 自立する, 自己の意志に頼れる.
 ātma-vaśya ㊦ 自由となし得る.
 ātma-vāda ㊦ 我論 *Lan̄k.*
 ātma-vikraya ㊦ 自己の自由を賣ること.
 ātma-vigama-samjñā ㊦ 我想不生, 於我失壞想 *Bodh-bh.*
 ātma-vittā ㊦ 自己を知ること.
 ātma-vid ㊦ 最高我を知る.
 ātma-vidyā ㊦ 最高我の知識.
 ātma-vidhitsu ㊦ 自己本位, 利己心.
 ātma-virahita ㊦ 無主, 無有我 *Sikṣ.*
 ātma-vivarjita ㊦ 遠離於(法)我 *Saddh-p.*
 ātma-vivṛddhi ㊦ 自己誇張.
 ātma-vṛttānta ㊦ 自敘.
 ātma-vṛtti ㊦ 自己の状態.
 ātma-vyābādha ㊦ 自害 *Aṣṭ-pr.*
 ātma-śamsā ㊦ 自讚.
 ātma-śakti ㊦ 自力, 自己の能力. ~yā ㊦ 自己の力によりて.
 ātma-śarira-parityāgin ㊦ 不惜軀命 *Saddh-p.*
 ātma-śuddhi ㊦ 自己を淨むること.
 ātma-śoṇita ㊦ 自身の血.
 ātma-ślāgha ㊦ 自慢する.
 ātma-ślāghin ㊦ [同上].
 ātma-samyama ㊦ 自制.
 ātma-samyoga ㊦ (或事に關する)私的利害.
 ātma-saṁvāda ㊦ 自分自身と論争すること.
 ātma-saṁvid ㊦ 自悟 *Nyāy-pr.*
 ātma-saṁstha ㊦ 自己本位の, 自身に向けられたる; ㊦ 處其中 *Buddh-c.*
 ātma-saṁcetanā ㊦ 自害 *Abh-vy. 170.*
 ātma-samjñā ㊦ 我想 *Rāṣṭr.*
 ātma-samjñā ㊦ 我想, 己身想, 神我想 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sam-r., Bodh-bh., Sikṣ.*
 ātma-samjñin ㊦ 我想 *Gand-vy.*
 ātma-sad ㊦ (我)自身の住する.
 ātma-saṁtāna ㊦ 子息.
 ātma-saṁdeha ㊦ 生命の危險; 自己の危險.

ātma-sama 形 自身の如き。
 ātma-samatā 女 [同上]。
 ātma-samarpaṇa 中 (神に)身を獻ぐる事。
 ātma-sambhava 男 子息; [Kāma 神の稱]。
 ātma-sambhavā 女 息女。
 ātma-sambhāva 男 最高我となる事。
 ātma-sambhāvanā 女 自惚。
 ātma-sambhāvita 形 自己に陶醉する。
 ātma-sambhrānti 女 自身迷惑 *Lank.*
 ātma-sammita 通受分 自己と等しき, 自己に適應せる; 最高我と等しき。
 ātma-sācin 男 自己の朋友。
 ātma-sāt-Kṛ, 自身を信ず, 自身を主となす; 最高我と合一せしむ。
 ātma-sādhaka 形 立我 *Lank.*
 ātma-sukha-nirvāṇa 中 (音寫) 自己涅槃樂, 爲於自身求涅槃樂 *Lank.*
 ātmā-satcchya 中 己樂 *Sikṣ.*
 ātma-skhalita-gaveṣin 形 省己非 *Sikṣ.:*
 ~nā para-skhalitāgaveṣinā 省己非無求他咎 *Sikṣ. 116.*
 ātma-stava 男 自讚; Ātman の稱讚。
 ātma-stuti 女 自讚。
 ātma-stha 形 精神の内に存する。
 ātma-sneha 男 我執, 我愛 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh., Mvyut.*
 ātma-snehamaya 形 利己心に立つ (*Jāt-m.*)
 ātma-hatyā 女 自殺。
 ātma-han 形 自殺する, 自我の安寧を顧慮せざる。
 男 自殺者。
 ātma-hita 中 自利; 自利, 利自, 自度, 自饒益, 益我 *Av-ś., Kāśy., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
 ātmahita-pratipatti-sampad 女 自利行滿 *Bodh-bh.*
 ātmātmanina (°ma-āt°) 男 我我所 *Madhy-v.*
 ātmātmiya (°ma-āt°) 形 自己所屬の。 男 我我所 *Lank.*
 ātmātmiya-virahita 形 離我我所 *Lank.*
 ātmādiṣṭa (°ma-ād°) 形 自ら指圖せる。
 ātmādhika 形 自身以上に尊き。
 ātmādhina 形 自立する。
 ātmānanda (°ma-ān°) 形 最高我に喜悅する。
 ātmānapekṣa 形 無私なる, 私心なき。 → ātmāpekṣā.
 ātmānugamana 中 親しく供奉すること。
 ātmānubodha 男 (隨)我覺 *Sūtr.*
 ātmāparādha 男 自分自身の罪。
 ātmāpahāra 男 僞伴。
 ātmāpahāraka 形 自己を伴る, 自己を否定する, 伴る。
 ātmāpahārin 形 [同上]。
 ātmāpekṣā 女 自觀, 觀自身 *Abh-vy.* → ātmānapekṣa.
 ātmābhiniṣṭa 形 執我(者), 著我(者) *Gaṇḍ-vy.*
 ātmābhiniveśa 男 我執, 執我, 執著於我 *Lank.,*

Sikṣ.

ātmābhimānitā 女 自尊。
 ātmābhilāṣa 男 心の欲望。
 ātmāmiṣa 男 味方の軍を犠牲にして得られたる同盟(和睦)。
 ātmārāma (°ma-ār°) 形 自己を楽しめる, 最高我を楽しめる。
 ātmārtha 男 自己の利益; 自利, 自義利 *Bodh-bh.* ~m 副 自分の爲に。 ~e 形 [同上]。
 ~eṣu 形 自己の利益を目指して。
 ātmika 形 體, 爲性 *Abh-k.;* 内 *Lank.*
 ātmikā 形 女 → ātmaka.
 ātmi-Kṛ, ……を獲得す, ……を占有す。
 ātmi-bhāva 男 最高我への歸入。
 ātmiya 形 自分自身の; 自; 我, 有我, 我所; 己物 *Divy., Daś-bh., Kāśy., Lank., Sikṣ., Abh-vy., Vijñ-t., Mvyut.;* 財 *Fin.*
 ātmiya-jātya 形 同胞の, 自身と等しき。
 ātmiya-dṛṣṭi 女 我所見 *Abh-vy.*
 ātmiya-deśa 男 故國。
 ātmecchā (°ma-ic°) 女 最高我を渴望すること。
 ātmeśvara (°ma-iś°) 男 自主, 自身の主。
 ātmotkarṣa (°ma-ut°) 男 自己昂揚; 自負; 自誇, 自讚, 自讚己德 *Sikṣ., Mvyut.*
 ātmotkarṣaṇa (°ma-ut°) 中 自讚 *Aṣṭ-pr.*
 ātmotkarṣin 形 自讚, 自高舉 *Aṣṭ-pr.*
 ātmodaya (°ma-ud°) 男 自利, 自己の榮達。
 ātmoddeśika (°ma-ud°) 形 自爲, 爲自己 *Prāt-m. 481.*
 ātmodbhava (°ma-ud°) 男 子息。
 ātmopakrama (°ma-up°) 男 害我, 自逼惱 *Bodh-bh., Mvyut.*
 ātmopaghāta (°ma-up°) 男 自害 *Bodh-bh.*
 ātmopajivin (°ma-up°) 形 自己の勤勞によりて生活する, 自己の生活のみに據る。
 ātmopalambha (°ma-up°) 男 執有我 *Sūtr.*
 ātmaupamya (°ma-aup°) 中 自己を比較の標準となすこと, 自己類推
 ātmya 形 (一°)を本性とせる。
 ātmya-dṛṣṭi 女 我見 *Kāśy.*
 ātyantika 形 (女-i) [aty-anta り] 終り迄續く; 不變の; 絶對の; 永; 定; 畢竟, 究竟; 最極 *Abh-vy., Bodh-bh., Sāṃkhy-k.;* (音寫) 阿顛底迦 支離。
 ātyayika 形 [aty-aya り] 遲滯を許さざる, 緊急の; 急, 過 *Divy., Mvyut.*
 ātyayika-piṇḍa-pāta 男 急食 *Divy.*
 ātreya 男 *Atri* の後裔; 於是 [atra より來ると見たるもの], 三無 [a-tri より來ると見たるもの] *Divy. 637.;* 恆知子, 吞食子 *Mvyut.;* (音寫) 阿低離 *Buddh-c.*
 ātreyi 女 *Atri* の後裔; 月經後に沐浴せる女。
 ātreyi-putra 男 [人名]。
 ā-tva 中 ā のあること (文法)。
 ātharvaṇa 形 (女-i) *Atharvan* 又は *Atharvan* 家に屬する。 男 *Atharvan* 又は *Atharvan* 家の後裔; *Atharva-veda* に精通する婆羅門; 呪法家; *Athar-*

va-veda.
 ātharvaṇika 男 Atharva-veda の學徒。
 āda 形 (一°) を取る, 受くる; 受 Mvyut.; 〃
 取 Madhy-vibh.
 ā-daghna 形 口に達する。
 ādat, → ādam.
 āda-parityaja 男 取捨 Madhy-vibh.
 ādam, ādas, ādat, [因 ā-Dā の 一過單].
 ā-dara 男 尊敬; 努力; 顧慮, 配慮, (因, 一°, -artham)
 の留意; 尊敬, 尊重, 尊崇; 深敬, 恭敬, 作敬,
 殷重; 信心, 信用; 樂, 樂投誠 Divy., Sūtr., Abh-
 vy., Bodh-bh., Śikṣ., Mvyut. → sa ~. ~m
 副 殷重 Bodh-bh. ~m Kṛ 努力す. ~
 eṇa 具, ~āt 從 思慮深く, 注意深く, 眞剣に。
 ādara-kārin 形 恭敬者 Bodh-bh.
 ādara-jāta 形 深敬, 深生信心 Divy., Bodh-bh.
 ā-daraṇiya 未受分 尊敬せらるべき, 顧慮せらるべ
 き。
 ā-daraṇiyatā 女 [同上抽].
 ā-daravat 形 (因) に注意深き, …の爲に努力する。
 ādarehaṇa (°ra-ih°) 申 重行 Abh-vy.
 ā-dartavya 未受分 = ādaraṇiya.
 ā-darśa 男 見ること; 鏡; 像; 寫本; 鏡, 圓鏡
 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Sūtr., Abh-vy., Mvyut.;
 現 Lanḅ.; 餘有經卷 Bodh-bh. 127.
 ā-darśaka 男 [同上].
 ādarśa-jñāna 申 鏡智, (大圓)鏡智 Sūtr., Mvy-
 ut.
 ādarśa-tattva 申 能顯眞實 Madhy-vibh.
 ā-darśana 申 明鏡 Suv-pr.
 ādarśa-pustaka 申 寫し, 寫本。
 ādarśa-bimba 男 圓鏡。
 ādarśa-maṇḍala 男 [蛇の一種]; 圓鏡; 鏡
 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Madhy-v.
 ādarśamaṇḍala-pratibhāsa 男 鏡像, 鏡像
 (照明) Aṣṭ-pr.
 ā-darśamaya 形 全く鏡なる。
 ādarśa-mukha 男 [龍王の名] 鏡面 Mvyut.
 ā-darśita 過受分 現れたる, 指摘せられたる; 顯
 顯示, 可知, 現前 Av-ś., Abh-vy.
 ādas, → ādam.
 ā-Dah, → Dah.
 ā-dahana 申 火葬場。
 ā-Dā ādatte(1), ādyati(3). → Dā 1, 3.
 ā-dātavya 未受分 捉へらるべき; 受取らるべき。
 ā-dātr 男 受納者; 取 Daś-bh.
 ādādika 形 語根 Ad の部類に屬する(因法).
 ā-dāna 申 執持, 取得; 除去; 受納; 捕捉, 充當; 撤
 回; [識 (Vijñāna) の一種] (佛敎); 取, 執, 執
 持, 執捉; 受, 攝受, 受畜; 得 Sapt-pr., Sūtr., Sām-
 khy-k., Madhy-vibh., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.
 ādāna-prahāṇa 申 取捨 Madhy-vibh.
 ādāna-vijñāna 申 執持識, 相續識; (音寫) 阿
 陀那識 Vijñ-t. 34., Mvyut.
 ā-dāya 不變分 取りて=…を以て. → Dā 1.
 ā-dāyin 形 贈與を受納せんとする; 〃° 專有する,

所有せんとする。
 ā-dāra 男 考察, 顧慮, 尊敬。
 ādi 男 [ā-Dā より, 始む] 始; 初, 最初, 始, 前, 先;
 元, 本, 本來 Rāstr., Suv-pr., Daś-bh., Cat-ś., Sūtr.,
 Bodh-bh., Madhy-v., Abh-vy., 梵千.: ~m kṛtvā
 從起 Lanḅ. 180. → an ~.; 〃° ……を以て始
 むる=其の他, 等 [屢々-ka]; 等, 種種 Abh-
 vy., Bodh-bh., Nyāy-pr. 因 初に, 最初に; 初
 ādau Kṛ 爲首 Divy. 293.; ādau kalyāṇam 初善
 Saddh-p., Mvyut.
 ādika 形 → ādi(一°). 等, 最初 Bodh-bh.:
 svabhāva-vīrya ~m …vīryam 最初自性精進…
 …精進 Bodh-bh. 206.
 ādi-kartṛ 男 創造者。
 ādi-karmika 男 形 初心者 (Divy.); 初學, 初
 學者, 初業, 初業者, 初發心, 初入門者, 初行者, 初行
 之者; 始業; 新學, 新發意 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-
 p., Rāstr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 最初
 犯人 Divy. 544.; 治地 Gaṇḍ-vy. 94.
 ādi-karmin 形 初行者 Śikṣ.
 ādi-kāla 男 太初の時代。
 ādi-kṛt 男 = ādi-kartṛ.
 ādi-keśava 男 [Viṣṇu 神の稱].
 ādi-guru 男 宰相。
 ādi-caryā 女 最初(正)行 Daś-bh.
 āditas 副 發端より, 初に, 最初; 先; 初, 最初,
 從初 Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy.,
 Madhy-vibh.; 〃° 當初以來。
 āditā 女 發端たること, 起原。
 āditeya 男 Aditi 子の息; 神。
 āditya 1. 形 Aditi に屬する, Aditi に由來せる. 男
 Aditi の子息; 太陽神, 太陽; 日 Gaṇḍ-vy., La-
 nk., Abh-vy., Sūtr., Mvyut. 因 [一群の神の名, 初
 め七神或は八神後に十二神]; [月宿の名].
 āditya 2. 形 Āditya (男) に屬する; 神聖なる; 太陽
 に関する。
 āditya-kalpa 形 如日, 爲日 Gaṇḍ-vy.
 āditya-ketu 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名].
 āditya-gati 女 太陽の運行。
 āditya-garbha 男 [菩薩の名] 日藏 Mvyut.
 āditya-candra 男 兩 日月。
 āditya-jiyotis 形 日光を有する。
 āditya-tirtha 男 [Sarasvatī 河畔の聖地の名].
 ādityatva 申 太陽たる性質。
 āditya-devata 形 太陽を(信仰の)神とせる。
 āditya-paritāpita 形 爲日所曝 Suv-pr.
 āditya-prabha 男 [王の名].
 āditya-maṇḍala 申 日輪; 日, 日輪 Gaṇḍ-vy.,
 Śikṣ.
 āditya-raśmi 女 日光 Sūtr.
 āditya-vaṃśa 男 日種王統。
 ādityavat 副 太陽の如く。
 āditya-varṇa 形 太陽色の. 男 [人名].
 āditya-varman 男 [諸王の名].
 āditya-sambhava 男 [佛の名] 日生 Sukh-vy.
 II.

āditya-suta 男 [人名] 日光太子 *Buddh-c.*
āditya-sena 男 [諸王の名].
āditya-hṛdaya 中 [或る Stotra の名].
ādityānuvartin 形 太陽に従ふ.
ādityodaya (°ya-ud°) 男 [日出 *Mañj-m.*
ā-ditsu 希求 形 (業)を得んと欲する; 貪欲なる.
ādi-deva 男 原初神 [*Brahman* 神・*Viṣṇu* 神・*Siva*
 神・*Kṛṣṇa* 神等の稱].
ādi-daitya 男 [悪魔 *Hiranyakaśipu* の稱].
ādin 形 食する, 貪食する, 食ひ盡す.
ādi-nātha 男 [*Ādibuddha* 及び或る *Jina* の稱]; [或る
 著作者の名].
ā-dināntam 副 一日の終りまで.
ādi-parinirvṛta 形 [音寫] 本來涅槃, 本來般涅槃
Lank.
ādi-parisuddhatva 中 本性淨, 本來清淨
Aṣṭ-pr.
ādi-parvata 男 第一位の山.
ādi-parvan 中 [*Mahābhārata* の第一卷の題名].
ādi-puruṣa 男 始祖; 原靈 [*Hiranyakaśipu*・*Viṣṇu* 神
 及び *Kṛṣṇa* 神の稱].
ādi-pūruṣa 男 原靈; [*Viṣṇu* 神の稱].
ādi-phala 中 初果, 最初果 *Madhy-vibh.*
ādi-buddha 男 [*Tib. mchog-gi dan-poḥi sañs-rgyas,*
 西藏佛教の最高原初の佛].
ādi-bhava 形 最初に生じたる.
ādi-bhūta 形 (圖)の中の第一なる.
ādi-bhūmi 女 初地 *Sūtr.*
ādima 形 第一の.
ādimat 形 有始の; [音寫] 有本, 有始 *Lank.*
ādi-madhyānta 男 [音寫] 初中後 *Lank.*
ādi-madhyānta-ja 形 高貴・中間及び卑賤なる生
 れの.
ādi-mūla 中 原始因.
ādi-rāja 男 太古の王 [特に *Manu, Pṛthu*].
ādi-vaṃśa 男 太初の種族.
ādivaṃśāvatāraṇa 中 系譜 [*Mahābhārata* の章の
 名].
ādi-varāha 男 [(原始の野猪), *Viṣṇu* 神の稱].
ādi-viśuddhi 女 [音寫] 本來清淨 *Daś-bh.*
ā-Diś ādiśati, ādideṣṭi. → *Diś.*
ā-diś 女 計畫, 目的, 志向.
ādi-śarīra 中 最初の身體; 細身 [= *liṅga-deha*].
ādi-śānta-samatā 女 [音寫] 本寂平等性 *Bodh-bh.*
ādi-śuddhatva 中 [音寫] 本清淨, 本來清淨 *Aṣṭ-pr.*
ā-diśe 爲 [不定] (圖)を志す爲に, 狙ふ爲に; 一定の目
 的の爲に.
ā-diṣṭa [過受分] 命ぜられたる, 指定せられたる; 告知
 せられたる; 擧げ言はれたる; 忠告せられたる; [音寫]
 所記, 記刺; 所使 *Abh-vy., Bodh-bh.* 男 [親和又は
 同盟の一種]. 中 指圖, 儀禮.
ā-diṣṭin 男 (師より)教訓を授けられたる弟子, 初學
 者.
ādi-sarga 男 原始創造; [音寫] 初起, 初化作 *Abh-vy.*
ā-Didhi, → *Didhi.*
ādinava 男 苦惱, 困苦, 過失; 缺陷; [音寫] 過, 過患,

過失, 過罪; 患, 患厭, 患難; 禍; 憂惱, 苦; 譏毀
Divy., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
ādinava-darsin 形 [音寫] 深見過患 *Bodh-bh.*
ādinava-satya 中 [音寫] 苦實, 患諦, 過患諦 *Bodh-bh.*
ā-Dip ādipayati(便役). → *Dip.*
ā-dipaka 男 放火者.
ā-dipana 中 點火すること, 放火すること; 飾ること;
 祭に壁・床・席等を白くすること.
ā-dipita [過受分] 燃されたる; [音寫] 明照, 熾然 *Suv-pr.*
ā-dipta [過受分] → *Dip.* [音寫] 燃, 然, 所燒, 爲火所
 燒; 熾, 熾然, 大火熾然, 猛火周遍; 炯然, 燄; 熱 *Lal-*
v., Saddh-p., Suv-pr., Śikṣ., Mvyut.: ~o bhavet
 samprajvalitaḥ 炯然熾焰 *Śikṣ. 166;* ~āḥ kāmāḥ
 諸欲熾然, 諸欲如焰 *Mvyut.*
ādipta-kāya 形 [音寫] 舉身如焰然 *Śikṣ.*
ādipta-gṛha 中 [音寫] 火宅 *Śikṣ.*
ādipta-veśman 中 [音寫] 火宅 *Divy.*
ādipta-śiraś-cailo-pama (°la-up°) 形 [音寫] 如頭繫
 綵綵爲火所燒 *Mvyut.*
ādipta-śiro-nirvāṇopama (°na-up°) 形 [音寫] 如滅
 頭然, 如救頭然 *Bodh-bh.*
ādipta-samprajvalitāgni-gātra 形 [音寫] 大火猛焰
 周遍身, 猛火炎熾苦焚身, 大火熾然燒炙其身, 猛火炎
 熾焚燒其身 *Suv-pr.*
ādiptāgāra 中 [音寫] 火宅 *Saddh-p.*
ā-dipya [不變分] 點火して.
ā-dirgha 形 稍 長き, 橢圓の.
ā-Du, → *Du.*
ā-Dṛ ādriyate. → *Dṛ.*
ā-dṛta [過受分] 思慮深き, 注意深き, 氣を配る; (因, 一°)
 に餘念なき; 尊ばれたる, 重ぜられたる, 敬せられた
 る. → *Dṛ.*
ā-dṛtavati [過能分] 女 [定動詞に代りて] 注意を拂へ
 る, 禮遇せる.
ā-dṛtya [未受分] 尊敬せらるべき; 顧慮せらるべき.
ā-Dṛś ādarsayati(便役). → *Dṛś.*
ā-dṛṣṭi 女 視ること, 注目.
ā-dṛṣṭi-goccharam 副 眼の及ぶ限り
ā-dṛṣṭi-prasaram 副 [同上].
ā-Dṛ ādṛṇāti, ādṛṇite. → *Dṛ.*
ā-deya [未受分] 取らるべき, 抜かるべき; 取り去らる
 べき; 使用せらるべき; 悦びて受容せらるべき或は應
 ぜらるべき (*Jāt-m.*); [音寫] 信, 令信, 信受, 信重; 正
 直; 守妙; 敦肅 *Aṣṭ-pr., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.;*
 施 *Sapt-pr.* → *an~.*
ā-deyataratā 女 一層歡迎せらるべきこと (*Jāt-m.*).
ādeya-vacana 形 [*Pāli. ādeyya-vacana*] 悦ばしき
 言辭の, 意に適へる言辭の; [音寫] 信言, 信重言, 信
 受其語, 所言眞實, 信順語言; 言敦肅, 共言敦肅, 言
 詞威肅; 言語人所信用 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Śikṣ., Bodh-*
bh.: ~o BHū 發誠信言, 凡所發言衆成信奉, 凡
 所說法人所信受 *Bodh-bh. 311., 359.*
ādeya-vacanatā 女 [音寫] 信言 *Bodh-bh.*
ādeya-vākya 中 [音寫] 信言, 正直, 守妙言 *Mvyut.*
ādeya-vākyatā 女 [音寫] 信言 *Bodh-bh.*
ā-devana 中 賭博場.

ā-deśa 男 陳述; 報道; 豫言; 教訓; 法規; 規定; 命令; 語の代用(文法).

ā-deśaka 男 案内者, 命令者.

ā-deśana 中 命令すること; 報告すること, 告知, 報知; 記説, 記別, 演説 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*

ā-deśanā 女 記説, 普説法, 隨説; 教誡; 記説, 記心 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

ādeśanā-prātihārya 中 隨説示現, 記説變現, 説法神變, 記心示導 *Bodh-bh., Mvyut.*

ā-deśin 形 (一°)を示教する, ……を指圖する.

ā-deśya 未受分 陳述せらるべき, 告げらるべき.

ādyā 1. 未受分 食はるべき, 食に適する. 中 食物.

ādyā 2. 形 第一の; (一°)を初として=……等; 初, 始, 最初, 根本 *Laṅk., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.: evam ~ (複) 餘種種 Aṣṭ-pr 91.*

ādyakālaka 形 (女 -ikā) 今日のみに向けられたる (例 注意).

ādyā-darśana 中 見始, 見根本 *Laṅk.*

ādy-anutpannatā 女 本來無生, 本來不起 *Bodh-bh.*

ādy-anta 中 單, 男 兩 發端と結末. 一° 形 ……に終始する.

ādy-antavat 形 始終を有する.

ādy-antika 形 初後 *Mvyut.*

ādyādyā (°ya-ād°) 形 毎回先行する.

ādy-udātta 形 第一音節にアクセントを有する.

ādy-udāttatva 中 第一音節にアクセントを有すること.

ā-dyūna 形 暴食する; 貪欲なる.

ādri-sāra 形 鐵の, 鐵製の.

ā-Dru ādravati. → Dru.

ā-dvādaśam 副 十二まで.

ā-dhamana 中 保證, 抵當; 質 *Bodh-bh.*

ādhamana-bandhaka 男 質債 *Bodh-bh.*

ādhamana-rṇya 中 負債.

ā-dharaṇa 中 能持 *Lal-v.*

ādharmaika 形 [a-dharma より] 不正を犯す(*Jāt-m.*).

ā-dharṣa 男 侮辱; 襲撃.

ā-dharṣita 過受分 有罪と宣告せられたる, 判決せられたる; 傷つけられたる, 苦しめられたる.

ā-dhava 男 攪拌する人.

ā-dhavana 中 攪拌すること.

ā-dhavanīya 男 Somaを揺り浄むる器.

ādhasṭi 形 (女) 下 *Abh-vy.*

ā-DHā ādadhāti, ādhatte. → DHā.

ā-dhātṛ 男 (聖火の)點火者; 贈與者, 施與者; 教師.

ā-dhāna 中 ……の上に置くこと; 聖火を點ざること; 受胎, 受胎に先立つ儀式; 生産; 誓約すること; 使用; 得; 持, 任持, 所持, 攝持 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 一° 等物, 等類 Aṣṭ-pr. → bala ~.*

ādhanā-labdha 形 受得 *Sūtr.*

ādhanā-hetu 形 (一°)の創造を起す.

ā-dhāya 不整分 置きて; 與へて, 交付して.

ā-dhāyaka 形 (一°)を授くる, 實行する, ……を起す.

ā-dhāyitā 女 [同下 拙].

ā-dhāyin 形 = ādhāyaka.

ā-dhāra 男 依持, 支柱, 基礎; 容器, 貯藏處; 溝(樹の根元を圍む); 堤, 堰; (動作の)場處又は範圍(文法); 持, 依持, 能持, 能總持 *Saddh-p., Laṅk., Abh-k., Abh-vy., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut. 一° 形 ……に關係する.*

ā-dhāraka 形 持 *Laṅk.*

ā-dhāraṇa 中 支持, 保持.

ādharāṇa-mudra 男 [Samādhiの一種] 總持 (1) *Mvyut. → sa ~.*

ā-dhāraṇi 女 持衆母 *Mvyut.*

ā-dhāratā 女 容器の状態, 支持の状態.

ādharā-bhūtatva 中 能持, 能任持 *Madhy-vibh.*

ādharā-rūpā 女 頸飾(の一種).

ādharā-hetutva 中 持因 *Abh-vy.*

ādharādheya-bhāva (°ra-ādhe°) 男 容器と其の内容との關係.

ādharādheya-lakṣaṇa-sambandha (°ra-ādhe°) 男 處與處者相連之縁, 能持所持相相續 *Mvyut.*

ā-DHāv ādhāvati. → DHāv 1.

ā-dhāva 男 攪拌せられ又は揺り浄められたるもの.

ā-dhāvana 中 奔走來, 馳走來 *Sikṣ.*

ā-dhi 1. 男 [DHā] 容器; 基礎; 抵當.

ā-dhi 2. 男 [DHya] [概して 複] 思想, 懸念, 配慮, 切望; 苦惱.

ādhi-karaṇika 男 [adhi-karaṇa より] 裁判官; 好諍 *Bodh-bh. 171.*

ādhi-karmika 形 [= ādikarmika]; 初學 *Sapt-pr.*

ādhi-kiya 中 過剩; 優越, 卓越; 勝; 増, 増上 *Abh-k., Abh-vy.*

ādhi-caitasika 形 [adhi-cetas より] 依心 *Abh-vy.*

ādhi-daivata 形 諸神に關する, 諸神より來れる.

ādhi-daivika 形 [adhi-deva より] [同上]; 依天 *Sāṃkhy-k.*

ādhi-pateya 形 [adhi-pati より] 自在; 増上, 増上縁力; 最勝; 妙功德, 勝妙功德, 威徳, 廣大威徳 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.; 降伏 Mvyut. 中 増上, 増上縁力 Madhy-v.*

ādhi-pateyatā 女 上; 尊勝; 妙功德, 大威徳力, 大自在力; 首; 王, 増上主 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Kāśy.*

ādhi-patya 中 [adhi-pati より] (至上の)主權, (於に)君臨すること; 主, 首, 王位, 勝主; 自在; 力, 大力勢, 最威神; 増上, 増益, 増上力, 増上位, 増上事 *Divy., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk., Sūtr., Vijā-v., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*

ādhi-patya-prāpta 形 得増上力 *Bodh-bh.*

ādhi-bhoga 男 抵當の用益權.

ādhi-bhautika 形 生類に關する, 外界より來れる; 原素に關する, 原素より成れる; 依外 *Sāṃkhy-k.*

ādhi-mokṣika 形 [adhi-mokṣa より] 勝解, 信(行)人 *Sūtr., Prajñ-vy.*

ādhi-rathi 男 [Karna 王の稱].

ādhirājya ㊦ [adhi-rāja より] 至上主權; 王位; ㊦ 王位, 自在王位 *Abh-vy.*
ādhivedanika ㊦ 第二の結婚に屬する; 第二夫人と結婚する場合に夫より第一夫人に與ふる贈物.
ādhiṣṭhānikī ㊦ (㊦) [adhi-ṣṭhāna より] ㊦ 持願, 成願 *Abh-vy.*
ā-dhi ㊦ 切望, 配慮, 懸念.
ādhi-Kṛ, 保證す, 抵當に入れる.
ā-dhita ㊦ (過受分) ……に就きて反省又は思考せる. ㊦ 思索の對象; 意志又は希望の對象.
ā-dhīti ㊦ 思索, 意欲.
ādhina ㊦ =adhina.
ādhinatā ㊦ (㊦) ~tayā ㊦ 以…故 *Daś-bh.*
ādhunika ㊦ 現在の; 新しき, 近來の.
ā-DHū ādhunoti, ādhunāti. → DHū.
ā-dhūta ㊦ (過受分) 振られたる, 揺り動かされたる.
ā-dhūpana ㊦ 煙又は霧の中に包むこと.
ādhūpaya ㊦ (名動) → dhūpaya.
ā-DHṛ ādharati. → DHṛ.
ā-dhṛta ㊦ (過受分) → DHṛ.
ā-DHṛṣ, → DHṛṣ.
ā-dheya ㊦ (未受分) 點火せらるべき; 置かるべき; 供託せらるべき; 賦與せらるべき; ……に含まるゝ, ……に在るべき; ㊦ 所持, 與處者 *Lank., Mvyut.*
 ㊦ 置くこと; (聖火を)點ずること.
ādheyātīśaya ㊦ ㊦ 可轉 *Mvyut.*
ādhomukhya ㊦ [adho-mukha より] 俯くこと.
ā-dhoraṇa ㊦ 象の馭者又は乗者.
ā-DHmā ādhamati. → DHmā.
ā-dhmāta ㊦ (過受分) 膨脹せる, 増大せる; 息を吹ける; 熱せられたる, 焼かれたる. → DHmā.
ā-dhmāna ㊦ 膨脹すること; 息を吹くこと; 腫れあがること, むくみ; 誇ること; ㊦ 脹 *Mvyut.*
ādhyavihimsaka ㊦ ㊦ 滿 [Tib. lhag-par ḥṭshe-ba-med (増上無害)] *Sūtr. 31.*
ādhyātmika ㊦ (㊦-ā, -i) [adhy-ātma より] 自我に關する, 主觀的の; 最高我に關係する; ㊦ 内, 内身, 内處, 依内 *Lank., Suv-pr., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Madhy-v., Madhy-vibh., Abh-vy., Bodh-bh.*
ādhyātmika-bāhya ㊦ ㊦ 内外 *Aṣṭ-pr., Lank.*
ādhyātmika-vidyā ㊦ (㊦) 内明 *Bodh-bh.*
ā-dhyāna ㊦ 靜慮, 反省; 憂愁, 悔恨.
ādhyāyika ㊦ [adhy-āya より] 學習に専心せる.
ādhyāśayika ㊦ [adhy-āśaya より] ㊦ 増上意樂 *Prajñ-vy.*; 依 *Sūtr.*
ā-DHyai ādhyāyati. → DHyai.
ādhra ㊦ 貧窮なる, 赤貧の; 弱き.
ādhvanika ㊦ 旅行する.
ādhvaryava ㊦ Adhvaryuに關する (*Yajur-veda*).
 ㊦ Adhvaryuの職掌.
ā-dhvasta ㊦ (過受分) 覆はれたる.
āna ㊦ (呼吸する者), 顔; ㊦ 入息, 吸氣 *Abh-vy., Mvyut.*
ānaṃśa, [Aś I. の ㊦ ㊦ ㊦].
ānaka ㊦ 太鼓(の一種).
ānaṭ, [Aś I. の ㊦ ㊦ ㊦ 及び ㊦ ㊦].

ānaḍuha ㊦ 牡牛に由來する.

ā-nata ㊦ (過受分) → Nam.

ānata-parvan ㊦ 凹める(=凸出せざる)節を有する, 滑らかなる(矢).

ā-nati ㊦ 俯すこと, 屈むこと; 敬禮, 會釋; 服從.

ā-naddha ㊦ (過受分) → Nah.

ānana ㊦ [An, 呼吸する者] 口; 顔; ㊦ 面 *Sam-r., Mañj-m.*

ānanāntam ㊦ 口まで.

ānantarya ㊦ [an-antara より] 直接の連續, 間斷なきこと; 容赦し難き罪 (*Dharm-s.*); ㊦ 無間, 次第, 次第相續 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Lank., Guhy-s., Abh-vy., Śikṣ., Mvyut.*; 逆罪 *Abh-vy. 426.*: pañca ~ āni karmāni 五無間業, 五無間(極重罪)業 *Aṣṭ-pr. 397.*; pañca ~ āni 五無間 [1. mātr-ghātaḥ 殺母, 2. arhad-vadhaḥ 殺阿羅漢, 3. pitṛ-ghātaḥ 殺父, 4. saṃgha-bhedaḥ 破僧, 5. taṭhāgatasyāntike duṣṭa-citta-rudhirotpādanam 於如來所惡心出血] *Mvyut.*

ānantarya-karman ㊦ ㊦ 無間業 *Śikṣ., Bodh-bh.*

ānantarya-kārin ㊦ ㊦ 造無間(罪), 作無間業, 造無間惡業, 造無間業者, 造作無間業者 *Sukh-vy. I., Aṣṭ-pr., Lank., Abh-vy.*

ānantarya-cikirṣu ㊦ ㊦ 造極無間者 *Śikṣ.*

ānantarya-citta ㊦ ㊦ 無間心, 逆罪心 *Aṣṭ-pr.*

ānantarya-tṛtiyā ㊦ (祭の)第三日.

ānantarya-mārga ㊦ ㊦ 無間道 *Abh-vy., Mvyut.*

ānantarya-samādhi ㊦ ㊦ [Samādhiの一種] 無間禪定; (㊦) 無間三摩提 *Sūtr., Mvyut.*

ānantarya-saha-gata ㊦ ㊦ 無間同類 *Mvyut.*: pañca ~ āni 五無間同類 [1. mātur arhantya dūṣaṇam 汗母阿羅漢尼, 2. niyata-bhūmi-sthitasya bodhisattvasya māraṇam 殺住定地菩薩, 3. śaikṣasya māraṇam 殺有學, 4. saṃghāyadvāra-haraṇam 奪僧合緣, 5. stūpa-bhedanam 破塚塔波] *Mvyut.*

ānantya ㊦ [an-anta より] 無限の, 永久の; ㊦ 無邊 *Abh-vy.* ㊦ 無限, 無終, 不死; 未來の幸福.

ānantyāyatana (°ya-āy°) ㊦ ㊦ 無邊處, 無邊入 *Abh-vy.*

ā-Nand ānandati. → Nand.

ā-nanda ㊦ (㊦) 喜悅, 歡喜; 幸福; 肉體的快樂; ㊦ 歡喜; 娛樂, 樂事, 戲樂 *Divy., Bodh-c., Śikṣ., Abh-vy.*; 戲 *Sāṃkhy-k.*; [佛弟子の名] 慶喜, 普喜, 歡喜 *Aṣṭ-pr., Sam-r., Abh-vy., Mvyut.*; (㊦) 阿難, 阿難陀 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., II., Mvyut.*

ā-nandaka ㊦ 喜ばしむる, 樂ましむる.

ānanda-ghana ㊦ 純なる喜悅の.

ānanda-caturdaśi-vrata ㊦ [或る祭の名].

ānanda-jala ㊦ 歡喜の涙.

ā-nandathu ㊦ 喜悅, 歡喜.

ā-nandana ㊦ 樂ましむる; 幸福にする; ㊦ 慶悅, 讚歎 *Bodh-bh.*

ā-nandanā ㊦ ㊦ 慶悅, 正喜, 善喜 *Bodh-bh.*

ānanda-paṭṭika ㊦ ㊦ 周圍邊 *Mvyut.*

ānanda-bāṣpa ㊦ 歡喜の涙.

ānanda-bhuj 形 歡喜を味ふ。
 ā-nandamaya 形 (女-i) 歡喜より成る, 幸福に満ちたる。
 ā-nandayitavya 形 歡喜して享受せらるべき。 中 歡喜の對象。
 ā-nandayitr 男 歡喜せしむる者。
 ānanda-varadhana 形 歡喜を増す。 男 [或る詩人の名]。
 ānanda-śabda 男 喜聲 Sūtr
 ānandāśru 中 喜悅の涙。
 ā-nandita 通受分 悦べる, 喜ばしめられたる, 幸福なる; 歡喜 Sapt-pr. 男 [神の名] 歡喜(神) Lal-v.
 ā-nandin 形 喜ばしき, 樂しき, 幸福たる; 歡喜 Sapt-pr.
 ā-nandi 女 歡喜, 快樂 (Divy. 37).
 ānandi-jāta 形 慶喜 Bodh-bh.
 ānandotsava (°da-ut°) 男 祝祭。
 ān-apatya 形 子なきことに由來せる。
 ānabhīmlāta 男 [Anabhīmlāta の 系]。
 ā-Nam ānamati. → Nam.
 ā-namra 形 曲れる, 屈める。
 ā-nayana 中 近寄すること, 齎すこと, 誘致すること; 獲得すること; 果すこと; 計算すること。
 ā-nayitavya 未受分 近寄せらるべき; 計算せらるべき; 應當集 Saddh-p.
 ā-narta 男 舞蹈室; [王の名]; [國の名, 北方 Kāthiavād]. 種 [民族の名]。
 ā-nartana 中 舞蹈。
 ā-nartita 通受分 靜かに揺り動かされたる。
 ānarthakya 中 [an-arthaka より] 無益なること, 不適當。
 ānaśa, ānaśus, ānaśe 等, [Aś I. の 三過]。
 ā-Nah ānahyati(-te). → Nah.
 ā-nāka, °—, ~m 圖 天界まで。
 ānāthya 中 [a-nātha より] 無防禦; 孤兒。
 ānāpāna 男 入出息 Abh-vy.; 安般, 阿那波那 Abh-vy., Bodh-bh.
 ānāpāna-smṛti 女 息念, 入出息念, 念吸氣出氣; (安般)安般念, 阿那波那念 Bodh-bh., Mvyut.
 ā-nābhi 圖 臍まで。
 ā-nāmita 使役 通受分 → Nam.
 ā-nāya 男 (引くもの), 網, 漁網。
 ānāyāya 名動 圖 網となる, 網を表はす。
 ā-nāyin 男 漁夫。
 ā-nāyya 未受分 近寄せらるべき。
 ānāśa, [Aś I. の 三過 三入 圖]。
 ā-nāha 男 便秘; 長さ; 長 Divy.
 ānāha-pariṇāha 男 形狀(其)量, 其形長大 Divy.
 āniṅkṣya 形 無動 Sūtr.
 ānijya 形 俗 [=āniñjya] 不動の (Av-ś. II. 199).
 āniñja 形 [=āniñjya]; 無動, 不動 Gaṇḍ-vy.
 āniñjya 形 無動, 無動 Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut. 中 不動なること, 動搖なきこと; 靜穩; 不動, 不傾動 Abh-vy.
 āniñjya-prāpta 形 決定, 無有動搖 Lal-v.

ānimitta 形 [a-nimitta より] 無相 Ast-pr., Laṅk., Abh-vy., Bodh-bh. 中 無相 Bodh-bh.
 ānimitta-gatika 形 無相趣, 以無相爲趣 Ast-pr.
 ā-nīsam 圖 夜まで。
 ā-Ni ānayati. → Ni.
 ā-nita 通受分 取られたる, 近寄せられたる; 引, 引令入 Abh-vy.
 ā-niti 女 近寄らしむること。
 ā-ñila 形 黑色を帯びたる。 男 黑色の馬。
 ā-Nu, → Nu I.
 ānukūlika 形 [anu-kūla より] 禮儀正しき; 順應せる; 助けんとする。
 ānukūlikatā 女 (圖)に對して禮儀正しきこと。
 ānukūlya 中 [anu-kūla より] 好意; 好都合; 友誼厚き言葉遺ひ; 順應; 順, 隨順 Madhy-vibh., Sūtr.
 ānukūlyatva 中 隨順 Sūtr.
 ānukūlya-phala 中 隨順果 Madhy-vibh.
 ānugūṇya 中 [anu-gūṇa より] 同質, 同種類; 隨順, 隨順功德 Abh-vy.
 ānucchavika 形 清亮 Bodh-bh., Mvyut.
 ānujāvara 形 共同の。
 ānuttarya 中 [an-uttara より] 無上 Bodh-bh.
 ānu-dhārma 形 (女-i) 正法 Bodh-bh.: ~myā kathayā saṃdarsya 演說正法 Bodh-bh. 61.
 ānudhārmika 形 (女-i) [anu-dharma より] 如法, 隨法 Bodh-bh., Madhy-vibh.
 ānunāsikya 中 [anu-nāsika より] 鼻音。
 ānupālya 形 持 Śikṣ. → yatna ~.
 ānu-pūrva 中 次第, 規則正しき連續。 其 圖 順次に; 依次 Divy.
 ānu-pūrvaka 形 次第(證), 次第(修) Abh-vy.
 ānu-pūrvī 女 [anu-pūrva より] = ānupūrva; 漸, 次第 Saddh-p., Abh-vy., Bodh-bh.
 ānupūrvya 中 [anu-pūrva より] = ānupūrva; 次第 Laṅk., Abh-vy.
 ānumānika 形 [anu-māna より] 推論(比量)に基ける; 比 Bodh-bh.
 ānuyātrika 形 [anu-yātra より] 從者の出身なる; 從者に屬する。 男 召使。
 ānurūpya 中 [anu-rūpa より] 適當, 類似; 相似, 極殊妙 Bodh-bh.
 ānulomika 形 (女-i) [anu-loma より] 毛並に順へる; 自然の或は規則的の序列の, 順當の; 一致せる, 好意ある, 情深き; 順, 柔順, 隨順, 隨他, 善隨; 合, 會通, 隨順會通 Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sukh-vy. I., Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut. → ānulomikī.
 ānulomika-dharma-kṣānti 女 順法忍 Lal-v.
 ānulomikī 形 (女) 隨, 隨順, 柔順, 勝順 Saddh-p., Sam-r., Madhy-v., Mvyut.: ~kṣāntiḥ 隨順忍 Mvyut. → ānulomika.
 ānulomya 中 [anu-loma より] 毛並の方向; 直接の或は自然の序列; 繁榮, 好況; 物の位置を正しくなすこと。 形 毛並に順へる, 自然の或は規則的の順序の。
 ānuveśya 男 一軒距てたる隣人, 同じ側の隣人。
 ānu-śamsa 男 利, 功德利; 稱揚 Saddh-p., Sam-r.
 ānu-śamsā 女 功德, 功德利 Saddh-p.

ānuśāsānīka 形 [anu-śāsana より] 教令に関する, 教令を扱へる。

ānu-śāsani 形 教(法), 師導 Sam-r.

ānu-śrava 形 聴聞に基ける; 傳承(又は Veda)に基ける。

ānuśravīka 形 [anu-śrava より] [同上]; 隨聞 Sāmkhy-k.

ānu-śak 副 順次に, 間斷なく, 連續して。

ānuśāṅgīka 形 (女-i) [anu-śāṅga より] 連絡する, 密著する, ……と關係ある, 從續する; 永續する; (屬)より必然的に續く; 偶發の; 隨逐, 隨後起, 相續 Bodh-bh., Mvyut.; 稍出(?) Mvyut. 甲(?) 傍論, 隨應論 Abh-vy. 106.

ānuṣṭubha 形 音律 Anuṣṭubh より成る或はこの如き。

ānusamdhīka 形 [anu-samdhī より] 脈絡又は聯絡(?) [Tib. mtshams-sbyar] (Prajñ-vy. 15).

ānusūya 形 Anusūyā (Atri の妻)に由來せる。

ānūpa 形 濕氣ある, 水に富む, 沼地の。 男 水棲動物。

ānṛṇya 形 [an-ṛṇa より] 負債の辨濟; (屬)に負債なきこと [Pāli. ānanya] (Jāt-m.).

ā-Nṛt ānṛtyati. → Nṛt.

ānṛtika 形 [an-ṛta より] 虚言の, 不實の。

ānṛśamsa 形 [a-nṛ-śamsa より] 親切, 仁慈。

ānṛśamsya 形 [a-nṛ-śamsa より] 親切なる。 甲 親切。

ānejya 形 不動 Abh-vy. 344. → an-iñjya.

āneñjya 形 不動 Madhy-v. 564. → an-iñjya.

āneñjyopaga (ya-up) 形 不動行, 不動近行 Madhy-v.

ā-netṛ 男 齋來者, 嚮導者。

ā-netri 女 [同上].

ā-neya (未受分) 持ち來さるべき。

āntam (ā-an) 副 終まで; 完全に; 頭より足に至るまで。

āntara 形 内の, 内部の; 土著の。 男 親友。 甲 心談。

āntara-jña 形 祕義又は真髓を知れる。

āntara-puruṣa 形 = antara-puruṣa.

āntarābhavīka 形 [antarā-bhava より] 中有, 中陰 Bodh-bh., Abh-vy.

āntarāyīka 形 [antar-āya より] 時々歸る, 時々反復せられたる; 障, 障礙, 能障礙 Bodh-bh.

āntarīka 形 比坐 Vin.

āntarīkṣa 形 (女-i) 空氣又は虚空より生ずる; 空氣の, 氣體の。

āntarīkṣa-vāsin 形 虚空居, 居虚空 Mvyut.

āntarvedīka 形 [antar-vedi より] 祭場の中に在る。

āntra 甲 腸内臓, 腸。

āntrānucārin 形 腸内に在る。

āndolaka 男 振動。

āndolana 甲 振動すること。

āndolaya 副 振る。 (過受分) āndolita 振られたる。

āndolikā 女 橋(?)。

āndolita (過受分) → āndolaya.

āndhya 甲 盲目; 暗黒。

ānvāhīka 形 (女-i) [anv-aha より] 日々の。

ānvīkṣīka 形 (女-i, -ā) 評論的の, 論理的の。

ānvīkṣīki 女 論理學, 形而上學。

Āp, V. 他(自) āpnoti, āpnute 到達す, 獲得す, 成し遂ぐ; 遭遇す, 蒙る, 關係す, 堪へ忍ぶ; 起る; 遭遇, 得成 Rāstr., Sāmkhy-k. 完成せらる, 成し遂げらる。 (過受分) āpta 到達せる, 遭遇せる, 獲得せられたる; 滿されたる, 普及せる; 豊富なる; 忠實なる, 親しき。 便役 他 āpayati 到達せしむ, 獲得せしむ, ……に來らしむ; 感ぜしむ。 希求 ipsati (-te) 得んと欲す, 望む。

anu- 到達す。 (過受分) anvāpta 到着せる。

abhi- 便役 abhyāpaya- 完成す; 成し遂ぐ。 希求 ……を望む。

ava- 到達す; 獲得す, 取得す; 遭遇す, 蒙る, 堪へ忍ぶ; 得, 得成, 便成, 成就 Rāstr., Lañk., Siks. pary-ava- 回復す; 暗記す, 熟達す (Divy.); 完全に理解す (Vajr-pr); 得; 受, 領受, 受持 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sam-r.; 誦, 讀誦; 善解, 通利; 修學, 精勤修學, 如教修行 Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Sam-r., Siks.; 究竟, 得究竟, 究竟通利 Vajr-pr., Bodh-bh.; 記念(?) Sam-r.

praty-ava- 回復す。

sam-ava- 獲得す, 遭遇す, 蒙る。

upa- 達成す。

pari- 到達す; 得る; 結末を附く。 (過受分) paryāpta 完成せられたる, 滿されたる; 豊富なる, 廣き; (屬)に十分なる; (爲, 因, 不定)と等しき; (屬)と匹敵する, 適切なる。 希求 ……を望む; 要求す; 護る; ……を待ち伏せす。

pra- 到達す, 會す, 邂逅す, 見出す; 獲得す, 娶る; 蒙る; (規則より)結果す, 得る, 實施す(又は受); 成; 得, 逮得, 得具 Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Vijñ-v., Abh-vy.; 取, 證, 取證 Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Bodh-bh.; 受名, 能受 Lañk., Abh-vy., Sāmkhy-k.; 生 Abh-vy.; 統 Divy.: dharmena rājyaṃ prāpsyate 統正法王位 Divy. 211. (過受分) prāpta 達せられたる; 邂逅せられたる, 獲得せられたる; 蒙らしめられたる; (屬, 一)に到達せる等; 來れる, 到着せる, 提出せる; (規則より)結果せる, 獲得せる (受法)。 便役 prāpaya- (業)へ(業)を持ち來る或は運ぶ; ……に報告す, 齎す; (業)をして(業)を獲得せしむ。

anu-pra- 到達す, 見出す; 模倣す; 到; 得, 能得; 證, 能證入, 能證得; 修 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Daś-bh., Rāstr., Bodh-bh., Abh-vy.: jīvitāntarāyam ~ 失壽命, 失命喪身 Aṣṭ-pr. 202. (過受分) anuprāpta 來れる; (屬)に到着せる。

sam-anu-pra- 達す。 (過受分) samanuprāpta 來れる, (屬)に到達せる, 獲得せる。

pari-pra- 便役 pariprāpayati ……に匹敵す; [na と共に] 遠く及ばず (Lal-v.); 作; 行, 到; 能, 能及 Lal-v., Siks., Mvyut.; 爲辦 Divy.

sam-pra- 到達す, 到着す; 會す; 獲得す, 娶る; 陥る, 蒙る, 堪へ忍ぶ。 (過受分) samprāpta 會せる, 獲得せられたる; 到達せられたる, (屬)に陥されたる; 來れる, 到着せる; (屬)より來れる。

anu-sam-pra- 到達す, 到着す; 會す. (過受分)
 anosamprāpta (因)に到着せる, (業)に陥れる; 來
 れる.
 prati- (希求) 求愛す, 求婚す.
 vi- 普及す, 滿つ; (ā)に到達す. (過受分) vyāpta
 普及せられたる, 滿されたる; (果)に浴せる; 占有せ
 られたる; (果)を所有せる; ……に含まれたる; 裕
 福なる. (便後) (過受分) vyāpita 普及せしめられた
 る, 充滿せしめられたる.
 abhi-vi- (不察分) abhivyāpya (業)を含みて.
 sam- 獲得す; 完成す; 殺す. (過受分) samāpta
 終結せられたる. (便後) samāpaya- 獲得せしむ;
 済ます, 完成す.
 pari-sam- (受) (因)に含まる; (因)に屬す; (總)
 總聚 *Sikṣ.* (過受分) parisamāpta 全く包含せられ
 たる; 完了せられたる, 集約せられたる.
 āpa 男 [Vasu 神の一]. (中) 一定量の水; (總) 水 *Abh-*
ky. → ~skandha.
 ā-pakva (過受分) 半熟の.
 āpa-gā 女 河.
 āpa-geya 男 [*Bhīṣma* の母系].
 āpajjura 中 [森の名] (*Av-s.*).
 āpaṇa 男 市場; 貨物; (總) 鋪, 市肆, 邸店; 商賈;
 闐闐 *Divy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.* → antar-
 ~.
 āpaṇa-devatā 女 市場に立てる神像.
 āpaṇa-vastu 中 (總) 市肆, 闐闐事 *Bodh-bh.*
 āpaṇa-vithika 男 中 市場に於ける露店の列.
 āpaṇiya 形 市場より來る.
 ā-Pat āpatati. → Pat 1.
 ā-patana 中 突然の出現, 起ること; (總) 墮 *Abh-vy.*
 āpat-kalpa 男 艱難なる時の處置法.
 āpat-kāla 男 難澁期, 困苦の時.
 ā-pattavya (未受分) (總) 生 *Bodh-bh.*
 ā-patti 女 出來事; 招くこと (例 不運を); 不運, 困窮;
 過咎; (總) 罪, 有罪, 罪咎, 罪過, 罪犯, 罪疊; 犯, 所
 犯, 違犯, 毀犯, 犯罪, 有犯, 所犯過失; 過咎; 落墮,
 墮落 *Aṣṭ-pr., Kāśy., Sam-r., Prāt-m., Vin., Sūtr.,*
Sikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.: ~m
 jānāti 知犯 *Vin.8., mahā-gurukām* ~m 大重罪
Sikṣ.63.; (總) 阿波諦 *Kāśy.* → an~, mūla-
 ~.
 ā-pattika 形 有罪の (*Divy.*); (總) 有犯 *Bodh-bh.*
 āpatti-mārga 男 (總) 犯戒道 *Bodh-bh.*
 āpatti-vyutthāna 中 (總) 出罪, 還淨 *Bodh-bh.,*
Mvyut.
 āpatti-vyutthāpana 中 (總) 罪中出 *Prāt-m.*
 āpatti-sthāna 中 (總) 犯處 *Bodh-bh.*
 āpatty-anadhyācāra 男 (總) 專精無犯 *Bodh-bh.:*
 ~vyutthāne 專精無犯犯已能出處 *Bodh-bh.289.*
 āpatty-āpadyanatā 女 (總) (總) 得阿波諦重罪
Kāśy.
 āpat-poṣadha 中 (總) (總) 不安時婁麗陀, 不安時
 作布薩 *Mvyut.*
 āpat-prāpta 形 不運に陥れる.
 āpatya 形 父祖の名に由來する.

āpat-sahāya 形 不運を救ふ.
 ā-Pad āpadyate. → Pad.
 ā-pad 女 [(困難に)陥ること], 不運, 災難, 逆境, 苦難;
 (總) 苦難, 不安時 *Bodh-c., Bodh-bh., Mvyut.*
 āpad-uddharana 中 不幸より救助すること.
 āpad-gata 形 不運に陥れる.
 āpad-dharma 男 苦難の時に適用する法規.
 ā-padyanatā 女 (總) 得罪 *Kāśy.*
 āpana 中 獲得, 到着.
 ā-paniphaṇat 現分 (總) → PHan.
 āpaneya (未受分) 到達せらるべき, 得らるべき.
 ā-panna (過受分) (業, 一)に陥れる或は入れる; 不運
 なる, 苦惱せる, 悲惨なる; 得られたる. → Pad.
 (總) 生; 墮; 具足; 犯已, 違犯 *Daś-bh., Abh-vy.,*
Bodh-bh.: āpattim ~h 已所違犯 *Bodh-bh.143.;*
kṛcchraṃ batāyaṃ loka ~h 如是世間極爲艱險
Bodh-bh.252. → kṛcchra~.
 āpanna-sattvā 形 女 妊娠せる; (總) 懷妊, 有子
Divy., Av-s., Saddh-p.
 āpayitr 形 得せしむる, (欲望を)満足せしむる.
 āparapakṣiya 形 [apara-pakṣa より] 月の後半の.
 ā-paramāṇu-pravicaya 男 (總) 乃至微塵分別, 乃
 至觀察微細微塵 *Laṅk.*
 āparāntika 形 [aparānta より] (總) 於未來, 盡未來
Gaṇḍ-vy.
 ā-paruṣa 形 稍: 粗暴なる (*Jāt-m.*).
 ā-parva-bhāga- 中 關節まで.
 āpava 男 [*Vasiṣṭha* の稱].
 āpavargika 形 [apa-varga より] 解脫に至る.
 āpavargya 形 [apa-varga より] [同上].
 ā-Paś āpaśyati. → Paś.
 āpas, [ap の (總) (總)]; (總) 水 *Abh-vy., Sikṣ.*
 āpa-skandha 男 (總) 雨 *Saddh-p.*
 āpastamba 男 [或る教師の名]. 形 (女-i) *Āpa-*
stamba に由來せる.
 ā-Pā āpibati. → Pā 1.
 āpāṅgya 中 [apāṅga 2. より] 目の端を塗ること.
 ā-pāṭala 形 赤色を帯びたる.
 ā-pāṇḍu 形 稍: 黄色の, 青白き.
 ā-pāṇḍutā 女 [同上] 中].
 ā-pāṇḍura 形 = āpāṇḍu.
 āpāṇḍuri-BHū, 青白くなる.
 ā-pāṭa 男 降下すること; 攻撃, 襲來; (一)に突入す
 ること; 不慮の出現, 起ること, 入來; (總) 初 *Abh-*
vy.; ~, ~tas 中 直ちに, 一見して.
 āpāta-mātra- 中 最初の瞬間に於てのみ.
 āpāta-mātre 中 [同上].
 āpātalikā 女 [音律 *Vaitāliya* の名].
 -ā-pātin 形 起る
 ā-pāda 男 報酬.
 ā-pādana 中 ……に持ち來ること, ……に移すこと;
 産出, 結果すること.
 -ā-pādanatā 女 (總) 令成 *Bodh-bh.*
 ā-pādāna 中 (總) 令行, 成立 *Abh-vy.*
 ā-pāna 中 飲むこと; 大酒宴; 饗宴.
 ā-pānaka 中 酒宴.

āpāna-goṣṭhi ㊦ [同上].
 āpāna-bhūmi ㊦ 飲酒の場處.
 āpāna-śālā ㊦ 酒場.
 āpāna-sthāna ㊦ 口.
 ā-pānta-manyu ㊦ 飲みて熱心と勇氣を與ふる (Soma 汁).
 ā-pāyaka ㊦ ㊦ 乳哺, 乳哺者 *Bodh-bh.*
 āpāyika ㊦ [apāya ㊦] ㊦ 惡趣, 惡道 *Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.*
 āpāyikatva ㊦ [apāya ㊦] ㊦ 感惡趣, 引惡道 *Abh-vy.*
 ā-pāyin ㊦ 飲むことを好む.
 ā-pārṣṇi ㊦ 踵(?)まで.
 āpi ㊦ 伴侶, 友, 知人; 同盟. ㊦ 達する, 入り込む.
 ā-piṅga ㊦ 赤褐色の.
 ā-piṅgala ㊦ ㊦ 微黃物 *Abh-vy.*; ㊦ 阿耨伽羅 *Abh-vy.*
 āpiṅgalākṣa ㊦ 稍 赤き兩眼を有する; ㊦ 黃眼, 微黃眼 *Buddh-c.*
 ā-piṅjara ㊦ 赤色を帯びたる, 帶黃赤色の.
 āpitva ㊦ 提携, 友交.
 ā-Piś āpimśati(-te). → Piś.
 ā-piśaṅga ㊦ 黄金色の, 稍、黄褐色の.
 āpi-śarvara ㊦ 夜の.
 ā-Piṣ āpinastī. → Piṣ.
 ā-Pi, → Pi 2.
 ā-Piḍ āpiḍayati(使役). → Piḍ.
 ā-piḍa ㊦ 壓; 苦痛を與ふること; (頭の頂に著ける) 髮.
 ā-piḍaka-jāta ㊦ ㊦ 莊嚴如髮 [樹が満開の花にて覆はれたる] *Mvyut.*; [=āpinaka-jāta] 圓無缺減 *Divy. 215.*
 ā-piḍita ㊦ ㊦ 壓せられたる, 堅く縛したる, 覆れたる; (一)の髮にて飾られたる. → Piḍ.
 ā-piḍin ㊦ (一)の冠を有する, ……にて頭を飾れる.
 ā-pita ㊦ ㊦ → Pi 2. ㊦ 黄色を帯びたる.
 āpitaya ㊦ ㊦ ……に黄色を帯びさしむ.
 ā-pina ㊦ ㊦ 乳房. → Pi 2.
 ā-pinaka-jāta ㊦ ㊦ 圓無缺減 *Divy. 221.*
 ā-pinavat ㊦ 語根 *Pyai* の任意の語形を含む.
 ā-Pū āpunite. → Pū.
 āpūpya ㊦ 粉; 捏粉製の食品; āpūpya の製造業.
 ā-Pūya, → Pūya.
 ā-pūra ㊦ 洪水; 餘分, 過剩.
 ā-pūraṇa ㊦ 満たす. ㊦ 満たすこと, 満腹すること; 弓を十分に引き絞ること; 水量.
 ā-pūrta ㊦ ㊦ 遍, 吹 *Av-ś., Divy., Suv-pr.*
 ā-pūrṇa ㊦ ㊦ 充滿せる. → Pr 1.
 āpūrṇa-maṇḍala ㊦ 完全なる圓形の.
 ā-pūrta ㊦ 敬虔なる行爲; 満たすこと.
 ā-pūrya ㊦ ㊦ 満たして.
 ā-pūryamāṇa ㊦ ㊦ 満ち来る, 増加する.
 āpūryamāṇa-pakṣa ㊦ 盈ち行く半月(新月より満月に至る).
 ā-Pr āpīpartī, āprnāti, āprnati. → Pr 1.

ā-prk ㊦ 混然たる方法にて, ……と接觸して.
 ā-Prc āprnakti. → Prc.
 ā-prcchya ㊦ ㊦ 問はるべき, 尊敬せらるべき, 稱讚せらるべき.
 ā-prta ㊦ ㊦ → Pr 3.
 āpekṣika ㊦ [apekṣā ㊦] 相對的の; ㊦ 對; 所待, 相待; 觀, 所觀 *Sikṣ., Abh-vy.*
 ā-peṣam ㊦ 壓せられて, 摩擦せられて.
 āpoda ㊦ [Dhaumya 仙の] ㊦.
 āpomaya ㊦ 水より成る.
 āpo-mātrā ㊦ 水の微細なる原素.
 āpo'sāna ㊦ [食事の前後に āpo'sāna と唱へて行ふ口漱ぎ].
 āpta ㊦ ㊦ → Āp. ㊦ 繫; 親近; 托心 *Abh-vy., Mvyut.*; a-dhātṷ 離界法 *Abh-vy. 151.*; ārūpya 無色繫 *Abh-k. I. 30.*; kāma-dhātṷ 欲界繫 *Abh-k. I. 31.*; dhyāna 定生 *Abh-vy. 121.* ㊦ 適者.
 āpta-kārin ㊦ 忠實なる, 友情ある; 適當に事を處理する. ㊦ 信賴し得る人又は僕.
 āpta-kṛt ㊦ 信賴すべき(人).
 āptatā ㊦ ㊦ 眞言 *Buddh-c.*
 āpta-dakṣiṇa ㊦ 豊富なる謝禮を伴へる.
 āpta-bhāva ㊦ 信ずるに足ること.
 āpta-māna ㊦ [Pāli. attamana] 喜べる; ㊦ 喜 *Prāt-m.*
 āpta-vacana ㊦ 信ずるに足る言; ㊦ 聖言 *Sāmkhy-k.*
 āpta-varga ㊦ 知人, 友[集合的に].
 āpta-vāc ㊦ その語の信ずるに足る.
 āptavya ㊦ ㊦ 獲得せらるべき, 到達せらるべき.
 āpta-śruti ㊦ 信憑すべき傳承; ㊦ 聖教 *Sāmkhy-k.*
 āptāgama (°ta-āg°) ㊦ [同上]. ㊦ 至教, 聖言 *Bodh-bh., Sāmkhy-k.*
 āpti ㊦ 達成, 獲得; 遭遇; 豊富, 幸運; ㊦ 得, 至, 住 *Daś-bh., Sūtr., Abh-vy.*
 āpti-kara ㊦ [俱と俱に] ……に満てる (*Lal-v.*).
 āptor-yāma ㊦ = aptor-yāma.
 āptya ㊦ 河川に住する. ㊦ [*Trita* 神の稱].
 āpya 1. ㊦ ㊦ 達せらるべき, 得らるべき; ㊦ 得 *Abh-k.*
 āpya 2. ㊦ 水に關する, 水に住む, 流動性の. ㊦ [星宿の名]; ㊦ 水珠 *Abh-vy.*
 āpya 3. ㊦ 提携, 友交, 朋友.
 ā-pyāya ㊦ 増加, 充滿すること.
 ā-pyāyana ㊦ 肥満ならしむる; 幸福を將來する. ㊦ 充滿せしむること, 肥満せしむること; 満足せしむること; 繁榮ならしむること; *Soma* をしぼること; ㊦ 放開, 増盛 *Mvyut.*
 ā-pyāyanavat ㊦ = āpyāyin.
 ā-pyāyanā ㊦ 飽満.
 ā-pyāyika ㊦ ㊦ 能飲 *Abh-vy.*
 ā-pyāyita ㊦ ㊦ → *Pyai.*
 ā-pyāyin ㊦ 繁榮を授くる, 増大せしむる.
 ā-pyāyya ㊦ ㊦ 満さるべき, 満足せしめらるべき.
 ā-Pyai āpyāyate. → *Pyai.*

ā-Prach āprechate. → Prach.
 ā-pratinivṛta (通受分) 全く停止せる。
 ā-prapadam (通) 足の爪先(趾)まで。
 ā-prapadina (形) 足の爪先に達する。
 ā-praṣṭavya (未受分) 敬禮せらるべき, 問はるべき。
 ā-Prā, → Prā.
 ā-Pri āprināti. → Pri.
 ā-pri (女) (親) (宥慰); [Rg-veda の中の Agni 神に捧げられたる一群の讃歌の名]。
 ā-prita (通受分) → Pri.
 āpri-sūkta (中) Āpri 讃歌。
 ā-plava (男) 垢離, 沐浴。
 ā-plavana (中) 沐浴すること, 浸すこと。
 ā-plāva (男) 沐浴。
 ā-plāvita (使役) (通受分) 氾濫せる, 溢れたる; (釋) 棄河中 Divy. 56.
 ā-plāvya (形) 沐浴に供せらるゝ。
 ā-Plu āplavate. → Plu.
 ā-pluta (通受分) → Plu.
 ā-pluṣṭa (通受分) → Plus.
 āpsarasa (形) Apsaras に由来せる。
 ā-PHaṇ, → PHaṇ.
 ā-phalaka (男) 柵, 柵欄。
 ā-phalodaya-karman (°la-ud°) (形) 結果の生ずるまで働く。
 ā-phalodayam (°la-ud°) (通) 結果の生ずるまで。
 ā-baddha (通受分) → Bandh. (釋) 著; 結, 繫, 所繫 Lal-v., Daś-bh., Mvyut.
 ābaddha-dṛṣṭi (形) ……を凝視せる。
 ābaddha-maṇḍala (形) 圓形をなせる, 圓をなして坐せる。
 ābaddha-māla (形) 圓を作る, 廻る。
 ābaddhāñjali (形) 合掌せる。
 ā-Bandh ābadhnāti. → Bandh.
 ā-bandha (男) 結ぶもの, 束縛; 裝飾。
 ā-bandhana (中) 結びつくること, 巻きつくること。
 ā-Barh ābrhati, ābrhyāt(通)。 → Barh I.
 ā-barhana (中) 抜き取ること; (釋) 出却 [Pāli. abbhāna, 比丘が治罰を受け了りて原の状態に還ること] Mvyut.
 ābalya (中) [a-bala より] 無力, 無氣力, 衰弱。
 ā-Bādh ābādhate. → Bādh.
 ā-bādha (男) 壓, 苦惱, 苦痛; 危險; (釋) 病, 病毒; 痛惱, 憂惱, 憂愁 Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh. → alpa ~。
 ābādha-vipramukṣa (形) (釋) 少病, 康強 Saddh-p.
 ā-bādhika (形) (釋) 苦, 所苦, 困厄 Bodh-bh.
 ā-bālam (通) 幼童に至るまで。
 ā-bālya, °—, ~m (通) 幼童期より。
 ābila (形) 濁れる, 汚れたる; 當惑せしめられたる, 困却せしめられたる; (釋) 垢濁, 穢濁 Gaṇḍ-vy. (不) 途方に暮れて。
 ābutta (男) 姉妹の夫(戲曲)。
 ā-Budh ābodhati, ābudhyate. → Budh.
 ā-br̥dha (形) 引き離されたる, 剥ぎ取られたる。
 ābr̥dha-śalya (形) (釋) 去刺痛 Mvyut.

ābdam (通) 一年間。
 ābdika (形) 一年の; —° ……年間續く。
 ābravanti (女) [都邑の名]。
 ā-brahma (通) Brahman に至るまで, Brahman を含めて。
 ā-brahma-sabham (通) Brahman 神の宮殿にまで。
 -ābha (形) 似たる。 → ābhā. (釋) 如, 光 Saddh-p., Laṅk.: śāsi-śāṅkha-pāṇḍara ~ 白如珂月 Saddh-p. 467. → paritta ~。
 ā-bhakṣaṇa-saṁbhakṣaṇa (中) (釋) 集會, 吉會, 共作邑會 Bodh-bh.
 ā-bhaṅgin (形) 稍: 曲れる。
 ā-BHaj ābhajati(-te). → BHaj.
 ā-BHan, → BHan.
 ā-bharaṇa (中) 裝飾, 裝身具; (釋) 嚴, 莊嚴, 莊飾, 雜飾; 嚴具, 莊嚴具, 莊嚴之具, 瓔珞, 瓔珞莊嚴, 瓔珞莊飾, 瓔珞環珮 Divy., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Laṅk., Bodh-c., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.; 衣, 寶冠 Divy.; 釧 Saddh-p.
 ābharaṇi-kṛta (形) (釋) 作莊嚴具 Daś-bh.
 ā-bharita (通受分) 飾られたる, 裝飾せられたる。
 ābhassara (男) (俗) [<ābhāsvara]; (釋) (釋) 阿婆最羅, 阿婆嚩羅 支應。
 ā-BHā ābhāti. → BHā.
 ā-bhā (女) 光澤, 光; 色, 美; (釋) 光, 光明, 威光 Lal-v., Sukh-vy. I., II., Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.; 影 Laṅk.: ~ ayā parisphuṭo 'bhūt 光徧滿, 光以徧滿 Mvyut.
 ābhār (ā-abh°), [ā-BHr の (三) 過 (三) 入 (單)].
 ā-bhāṣa (男) 談話, 言語; 諺, 格言。
 ā-bhāṣaṇa (中) 會談; 話しかくこと。
 ā-bhāṣita (通受分) 話しかけられたる, 話されたる。
 ā-bhāṣitavya (未受分) (釋) 應共語 Divy.
 -ā-bhāṣin (形) (釋) 語 Mañj-m. → priya ~。
 ā-bhāṣya (未受分) 話しかけらるべき, 話しかくる價值ある。
 ā-BHās ābhāsate. → BHās.
 ā-bhās (女) 光耀。
 ā-bhāsa (男) 光澤, 光; 色; 外觀; 類似; 影像, 幻影; (釋) 光, 明, 所照 Laṅk. Sūtr.; 所見, 現前, 現法相 Laṅk., Sam-r.; 如, 似, 似如有, 似有法; 無而現, 似顯現, 實無而見有, 似物而影起; 影像 Laṅk., Nyāy-pr., Vijñ-v.; 對法, 所行境界 Aṣṭ-pr. → an ~, artha ~, nir ~。
 ~m Gam (釋) 對, 所對 Aṣṭ-pr.: cakṣusā ~ m āgacchanti 見, 徹眼境 Sikṣ. 128.
 ~m ā-Gam (釋) 見, 現見 Gaṇḍ-vy., Daś-bh.
 ~m ā-Yā (釋) 現, 現觀, 顯現 Gaṇḍ-vy.
 ābhāsa-gata (形) (釋) 見, 現前, 顯現, 現在前 Daś-bh., Sikṣ., Abh-vy.: an ~ 不見 Sikṣ. 129.
 ā-bhāsatā (女) 單に顯現なること。
 ābhāsa-prāpta (形) (釋) 得明了 Daś-bh.
 ābhāsin (形) ……の如く輝く, ……の如き外見の。
 ābhāsi-Kṛ, 假現となす(認む)。
 ābhāsi-BHū, (釋) 見, 現前, 現在前 Gaṇḍ-vy.
 ābhā-svara 1. (男) (釋) [天の名] 光音, 光音(天) Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Bodh-bh.

ābhās-vara 2. 男 [天の名] 遍光, 光明(天), 光曜, 極光淨, 極光淨(天) *Lal-v., Gand-vy., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.*; 阿波會, 阿婆暎羅遮 立應
 ābhāsvara-vimāna 中 [光音宮, 光音天宮殿] *Lañk.*
 ābhikāmika 形 [abhi-kāma より] 望まれたる, 快き, 歡迎せられたる.
 ābhicārika 形 [abhi-cāra より] (女-i) 呪咀に關する. 呪法の; 降伏 *Mañj-m. 6.* 中 呪法, 呪文.
 ābhicāruka 形 降伏, 調伏 *Mañj-m., Mvyut.*
 ābhi-jana 形 父祖の名に由來する. 中 高貴の出身.
 ābhi-jāti 女 高貴の出身.
 ābhijātya 中 [abhi-jāta より] [同上]; 學識; 美.
 ābhijñānika 形 [abhi-jñāna より] 認識に關する.
 ā-BHid, → BHid.
 ābhidhānika 男 [abhi-dhāna より] 辭典編纂者.
 ābhidhārmika 男 [abhi-dharma より] 對法師; (阿毘達磨師, 阿毘達磨大論師) *Abh-vy.*
 ābhi-prāya 男 希望 *Lal-v.*
 ābhiprāyika 形 [abhi-prāya より] 隨意に起れる, 任意の; 意, 別意, 密意, 密意(説); 意趣, 別意趣, 密意趣; 了了義(説) *Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-v., Mvyut.*
 ābhiplavika 形 Abhiplava に屬する.
 ābhimantrya 中 眞言 *Sikṣ.*: ~upayojya 眞言加持 *Sikṣ. 139.*
 ābhimānika 形 abhimāna(我慢)に屬する [Sāmkhya 哲學に於て]; 僞慢, 憎(増)慢, 僞慢心, 増上慢, 増上慢人, 増上慢者, (深著)過慢 *Lal-v., Sapt-pr., Kāśy., Saddh-p., Sikṣ., Abh-vy.*
 ābhimukhya 中 [abhi-mukha より] (業, 圖, 一°)に向くこと; …を爲さんとすること; 面前に在ること, 現在すること. 形 現前, 現在前 *Bodh-bh., Sikṣ., Madhy-vibh.*
 ābhirāmika 形 [abhi-rāma より] 愛すべき.
 ābhirūpya 中 [abhi-rūpa より] 適當; 美; 端正 *Bodh-bh.*
 ābhi-~~śekha~~ 怒忿恚 *Prāt-m.*
 ābhi-śeka 形 即位に關する, 即位に奉仕する.
 ābhiśekanika 形(女-i) [abhi-śeka より] [同上].
 ābhi-śecaniya 未受分(女-i) [同上].
 ābhisamskārika 形 [abhi-samskāra より] 能作, 有作; 能生; 有行, 有爲行; 勤功力, 功力所造 *Lañk., Abh-vy.*
 ābhisamskārikatva 中 加行生, 功用所成 *Abh-vy.*
 ābhisamkṣepika 形 [abhi-samkṣepa より] 收成, 收中成 *Mvyut.*
 ābhihārika 形 [abhi-hāra] 齎らさるゝ, 供へらるゝ.
 ābhi-kṣṇa 形 繰返へされたる. 中 不斷の反覆.
 ābhikṣṇakam 圖 [abhi-kṣṇa より] 數數 *Bodh-bh.*
 ābhikṣṇya 中 [abhi-kṣṇa より] 不斷の反覆; 數 [Tib. yan-yan] *Sūtr.*
 ābhira 男 [Ambaṣṭha 女に生れたる婆羅門の子孫(即ち牛飼)]; 養牛(者); 牧畜人, 牧牛人 *Divy.,*

Mvyut.; 種 [民族の名]; 阿毘羅 *Divy.*
 ābhiri 女 牛飼の妻, Āblira の婦人; Ābhira 族の言語; 養牛女 *Divy.*
 ā-bhīru 男 恐怖, 怯劣 *Gand-vy.*
 ā-bhīla 形 怖畏すべき.
 ābhū 形 空虚なる; 空手の, 吝嗇なる.
 ā-bhugna 未受分 僅に曲れる. → BHuj 1.
 ā-BHuj ābhujati. → BHuj 1.
 ā-BHū ābhavati. → BHū.
 ā-bhū 形 現在の, 手近き, 助力する, 親切なる. 男 助手.
 ā-bhūti 女 到達; 能力, 力; 超人の力.
 ā-BHūṣ ābhūṣati. → BHūṣ 1.
 ā-BHṛ ābharati. → BHṛ.
 ā-bhṛta 未受分 → BHṛ.
 ā-bhedyā 1. 未受分 破 *Sūtr.*
 ābhedyā 2. 形 [a-bheda より] 不壞 *Daś-bh.*
 ā-bhoga 1. 男 [BHuj 1.] 屈曲, 彎曲; 圓形, 圓天井; 廣潤; 勢力; 多種; 蛇.
 ā-bhoga 2. 男 [BHuj 2.] 享受, 飽足, 満足; 想像, 觀念, 思想, 思惟; 用, 受用, 功用 *Daś-bh., Sūtr., Madhy-vibh.*; 作意, 發悟; 發動; 廻趣, 廻向; 警, 警覺; 勤修 *Divy., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh.*: ~h karāṇiyāḥ 應當勤修 *Divy. 55.*; manaskāras cetasa ~h 作意者發動心(爲體), 作意令心發悟(爲性), 作意謂能警心爲性, 令心廻趣(異境) …故名作意 *Vijñ-t. 20.* → an~. 形 享受する, 食する.
 ābhoga-mātra-pratibaddha 形 暫發悟 *Bodh-bh.*
 ā-bhogi 女 食物, 榮養物; 享受; 利得を求むる人.
 ā-bhogin 1. 形 曲れる.
 ā-bhogin 2. 形 食ふ, 享受する.
 ā-bhogya 未受分 享受せらるべき, 知覺せらるべき.
 ābhy-antara 形 内の, 内部の; 間 *Abh-k.*
 ābhyantaraka 形 [abhy-antara より] 内, 在正法内 *Abh-vy.*
 ābhyantara-karaṇa 中 内(具) *Sāmkhy-k.*
 ābhyavakāśika 形 [abhy-avakāśa より] 戸外に住する; 露地, 露坐, 露地住, 顯路 [露?] 處居住; 現前有節(?), 現前開分(?) *Dharm-s., Mvyut.*
 ābhyāśika 形 [abhy-āśa より] 近き, 隣接せる.
 ābhyudayika 形 [abhy-udaya より] 繁榮せしむる, 健康に適する; 初め又は發端に關聯せる. 中 [祖靈に對する供儀の一種].
 ām 圖 [追憶] あゝ; [承諾] 然り.
 āma 1. 圖 [肯定] 然り, 實に, 全く (*Av-s.*).
 āma 2. 形 生(の), 調理せられざる; 粗製の, 未熟の; 焼かれざる; 生 糞.
 āmaka 形 [同上].
 āma-kumbha 男 焼かざる土製の水瓶; 坏器, 坏瓶, 瓦坏瓶器 *Lal-v., Sikṣ.*
 āma-gandha 男 生肉の臭氣, 腥臭, 腐敗せる死體の臭氣 (*Mah-v.*); 臭 *Saddh-p.*
 āma-garbha 男 胎兒.
 ā-magna 未受分 → Majj.
 ā-majjanāntam 圖 潛没するまで.

āma-jvara 男 不消化より生ずる熱病, 赤痢.
 ā-mañju 形 妖艶なる, 愛らしき.
 ā-maṇḍali-Kṛ, 略, 圓形をなす.
 ā-matta 形 (特に愛欲に)熱狂せる.
 āma-tvac 形 軟き皮の.
 ā-madhyāhnam 副 正午まで.
 ā-mana 中 友情あること, 情愛.
 ā-mānas 形 友情ある, 親切なる.
 ā-mantraṇa 中 呼ぶこと, 話しかくこと; 招待;
 質問, 相談; 喚 梵雜.
 āmantraṇa-pada 男 呼びかけの方法.
 ā-mantraṇā 女 呼びかかると (Jāt-m.).
 ā-mantraṇiya (未受分) 呼びかけらるべき, 尋ねらるべき;
 忠告を乞はるべき, 相談せらるべき.
 āmantraya (名動) āmantrayate. → mantraya.
 ā-mantrayitavya (未受分) 告別せらるべき, 離別の
 言葉を贈らるべき.
 ā-mantrita (通受分) 中 挨拶; 呼掛語, 呼格. →
 mantraya.
 ā-mandra 形 多少鈍き又は低き(音).
 āma-pācin 形 消化を助くる或はせしむる.
 āma-pātra 中 焼かざる土器; 坏器, 坏瓶器
 Lal-v.
 āma-peṣa 男 生(々)にて搗き碎かれたる穀物.
 āma-bhājana 中 泥坏 Lal-v.
 āma-bhāṇḍa 男 瓦坏, 坏器 Lal-v.
 āmaya 男 [Am] 病氣, 疾患; 病, 疾疫 Buddh-c.
 → nir~.
 āmayāvitva 中 消化不良.
 āmayāvin 形 病める; 消化不良の.
 ā-maraṇam 副 死に至るまで.
 ā-maraṇānta 形 死まで續く, 一生涯.
 ā-maraṇāntika 形 [同上].
 ā-marda 男 壓すること; (毛を)引き抜くこと.
 ā-mardin 形 引き抜く; (一°)を強壓する.
 ā-marśa 男 接觸; 二物の觸るゝ音; 相似.
 ā-marśana 中 接觸, 除去.
 ā-marṣa 男 性急, 忿怒, 激怒; 瞋, 憤恚 Sikṣ.
 āmalaka 男 [樹の名, 學名 *Emblica myrobalan* 又は
Emblica Officinalis Gærtn]; 菴摩勒, 菴
 麻勒, 菴羅(果), 菴磨羅(果) Divy., Lan̄k., 梵雜, 玄應.
 中 Āmalaka 樹の實; 餘甘子 Mvyut.
 āmalaki 女 = āmalaka(男).
 āmalaki-phala 中 = āmalaka(中).
 āmali 女 阿摩勒, 菴摩羅 Lan̄k.
 āmātya 男 = amātya; 臣, 傍臣, 大臣, 宰臣
 Kāśy., Mvyut.
 āmād 形 料理せざる(肉又は腐肉)を食する.
 āmāvāsyā 形 [amā-vāsyāより] 新月又はその祭に關
 する; 新月の時に生れたる. 中 新月祭.
 āmāśaya (°ma-āś°) 男 (未消化の食物の存する場處
 即ち胃; 胃, 生臟 Sikṣ., Mvyut.
 ā-Mi, → Mi 2.
 ā-mikṣavat 形 āmikṣāを有する.
 ā-mikṣā 女 凝乳.
 āmitra 形 [a-mitraより] 敵より起れる, 敵意ある,

憎むべき.

ā-miśra 形 混合せる.

ā-miśla 形 [同上].

āmiṣa 中 肉; 餌物; 美味; 快樂の對象; 希望, 欲望,
 貪欲; 贈物, 謝禮金; 肉; 餌; 食, 飲食, 財食; 欲
 食, 好飲食 Lan̄k., Prāt-m., Sikṣ., Bodh-c., Mvyut.,
 貨; 資; 財, 財物, 利, 財利, 世間財利; 資生; 利養,
 供養, 供養利 Aṣṭ-pr., Kāśy., Rāṣṭr., Sam-r., Lan̄k.,
 Prāt-m., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 著, 貪,
 貪欲; 染, 有染; 愛, 貪愛, 愛染 Lan̄k., Bodh-bh.;
 希, 希求, 希求, 希望, 恧望, 求利, 求報, 望報 Sūtr.
 → nir~, sa~.

āmiṣa-kāya 男 飲食身, 雜食身 Lan̄k.

āmiṣa-kiṃ-citka 形 僅かの美食を求むる; 爲
 飲食, 爲飲食故 Mvyut.

āmiṣakiṃcitka-hetoḥ (從) 爲小物, 爲一點
 喫食 Mvyut.

āmiṣakiṃcitkāvavāda 男 爲飲食說法, 爲飲
 食故教授 Mvyut.

āmiṣa-guruka 形 具大惡欲, 貴於財物 Aṣṭ-pr.

āmiṣatā 女 欲望の對象たること, 餌食となること.

āmiṣatva 中 [同上]; 求 Sūtr.

āmiṣa-dāna 中 物質の施與; 財施 Bodh-bh.,
 Sikṣ., Dharm-s.

āmiṣa-bhojana 中 飲食 Sikṣ.

āmiṣa-lolupa 形 貪利養, 樂著財利 Rāṣṭr.

āmiṣa-saṃgraha 男 世物, 攝欲味, 珍寶飲食,
 攝受貪欲 Lan̄k., Gand-vy.

āmiṣāsin (°ṣa-āś°) 形 肉食の, 獸肉魚肉を食する.

āmiṣāhāra (°ṣa-āh°) 男 資生 Lan̄k.

āmis 男 生肉; 腐肉; 屍體.

ā-Mi āmināti. → Mi.

ā-Mil āmilayati(使役). → Mil.

āmila 中 (?) [Pāli. āmilāka] [羅紗地の一種].

ā-milana 中 目を閉づること.

ā-Miv āmivati. → Miv.

ā-mivat (現分) → Miv.

ā-mivita (通受分) → Miv.

ā-mukulita (通受分) 綻びたる(花).

ā-mukta (通受分) → Muc. 著, 懸 Divy.

āmukta-paṭṭa-dāma-kalāpa 形 懸諸幡蓋
 Divy.

āmukta-mālyābharāṇa (°ya-ābh°) 形 著寶
 瓔珞 Divy.

ā-muktā 女 寶石(Divy.).

ā-muktikā 女 [同上](Divy.).

ā-mukha 中 序曲, 序幕, 序言. 形 前面又は眼前に
 在る(Jāt-m.); 現前, 現在前 Sūtr., Bodh-bh.
 ~m 副 面前にて. ~e (因) 現前 Gand-
 vy.

āmukha-sthita 形 普見, 普現 Gand-vy.

āmukhi-karaṇa 中 發, 現前 Lal-v.

āmukhi-Kṛ, 明白にす, 領解す, 會得す; 起, 現
 前 Lal-v., Sikṣ., Bodh-bh.; 思惟 Divy. 360.; 證得
 Lal-v. 182.

āmukhi-pravr̥tta 形 (從心)顯現 Divy.

āmukhi-bhāva 男 [形] 現在前 *Bodh-bh.*
 āmukhi-BHū, 明白となる; [形] 在前, 現前, 現在前, 住現在前; 現觀 *Saddh-p., Sapt-pr., Daś-bh., Laṅk., Kāśy.*
 āmukhi-bhūta 形 [形] 現入, 得入, 現前 *Aṣṭ-pr., Divy.; 憶 Divy. 411.*
 ā-mukhe 形 [形] → āmukha.
 ā-Muc āmuñcati. → Muc.
 āmutrika 形 [amutra より] [形] 他世 *Bodh-bh.*
 ā-Mud, → Mud.
 ā-Muṣ, → Muṣ.
 āmuṣmika 形 (女-i) [amuṣmin より] 彼處の, 次の世に屬する, 未來に關する.
 āmuṣmikatva 甲 [同上] 抽.
 āmuṣyāyaṇa 男 [amuṣya より] 某の子又は子孫.
 āmūrtarayasa 形 [Amūrtarayas (王)の] 因系].
 ā-mūrdhāntam 副 頭上まで.
 ā-mūla 一, ~m 副 根本的に, 初より, 徹底して.
 ā-Mrj āmrjati. → Mrj.
 ā-Mrś āmrśati. → Mrś.
 ā-mrśa 甲 [= āmarśana?]; [形] 觸, 可觸, 觸味 *Laṅk.*
 ā-Mrṣ āmrṣyate. → Mrṣ.
 ā-mrṣṭa 過受分 → Mrṣ.
 ā-mekhalam 副 山の斜面まで.
 āmeṣṭaka (°ma-iṣ°) 形 焼かざる蕪より成る.
 ā-moktavya 未受分 解放せらるべき.
 ā-mokṣaṇa 甲 綴り込むこと, 結びつくること.
 ā-mocana 甲 結びつくること; 放出, 脱落; 解放, 自由, 救済(佛敎); [形] 解脱 *Sikṣ.*
 ā-moṭana 甲 摧くこと, 破ること.
 ā-moda 形 歡喜せしむる. 男 歡喜; 芳香; [形] 歡喜 *Abh-vy., Sūtr.*
 ā-modana 甲 悦ばしむること, 喜ばしむること. 形 (女-i) [形] 慰諭 [諭=廣韻: 本作諭。譬諭也。諫也] *Bodh-bh. 301.*
 ā-modita 使役 過受分 → Mud.
 ā-modi 形 [形] 芳香ある.
 ā-moṣa 1. 男 盜むこと.
 ā-moṣa 2. 男 俗 [< āmarśa]; [形] 觸 *Sūtr.*
 ā-Mnā āmanati. → Mnā.
 ā-mnāta 過受分 → Mnā. [形] 稱, 誦 *Mvyut.* → an~.
 ā-mnātatva 甲 記述, 引證.
 ā-mnātin 形 (因)を記述又は引證したる.
 ā-mnāna 甲 記述; 聖典の傳承.
 ā-mnāya 男 傳承, 聖典; 古傳説; [形] 要門 *Mvyut.*
 āmnāya-sārin 形 (女-ni) *Veda* の如く流暢なる; *Veda* 等を守る; 敬虔なる; *Veda* の本體を含む.
 āmbikeya 男 [Dhṛtarāṣṭra の稱]; [山の名].
 āmbu-da 形 雲より來れる.
 āmbhasa 形 水の, 水より成れる.
 āmbhīrya 甲 [形] (音) 阿毘梨(論) *Lal-v. 156.*
 āmra 男 欒果樹(之); [形] (音) 菴羅, 菴摩羅, 菴婆羅, 菴沒羅, 菴磨羅, 阿末羅, 阿摩勒 *Suv-pr., Laṅk., 支那.* 甲 欒果; [形] (音) 菴磨羅果, 阿摩勒果 支那.

āmra-kūṭa 男 [山の名].
 āmra-tirtha 男 [形] (音) [龍王の名] 啞卜咧子 *Mvyut.*
 āmra-pāli 女 [人名]; [形] (音) 菴羅(夫人), 菴羅衛 *Abh-vy. 265.*
 āmra-phala-prapānaka 甲 欒果(之)より製せる清涼飲料.
 āmra-mañjari 女 [形] (音) 菴羅葉 *Suv-pr.*
 āmra-mātra 形 欒果(之)の大きさの.
 āmra-vana 甲 欒果樹の森; [形] (音) 菴羅樹園 支那; [形] 菴羅衛 支那.
 āmrāta 男 [樹の名, 學名 *Spondias mangifera*].
 āmrātaka 男 [同上]. 甲 [山の名].
 āmrāvati 女 [都邑の名].
 ā-Mreḍ āmreḍayati(使役). → Mreḍ.
 ā-mreḍa 男 反復, 繰返し.
 ā-mreḍita (過受分) 甲 反復, 語の反復(因法). → Mreḍ.
 āmla 甲 酸きこと. 男 [形] 酸, 醋 *Mvyut.*
 āmla-vetasa 男 [植物の名, 學名 *Rumex vesicarius*]; [形] 酸果膏 *Mvyut.*
 ā-Mlā āmlāyati. → Mlā.
 ā-mlāna 形 萎れたる, 稍萎れたる. → Mlā.
 āya 1. 男 到來, 接近; 收入, 所得; [形] 來; 出; 聚; 生, 生長 *Divy., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
 āya 2. 男 [因法] [語根接尾音 -āya].
 āyacana 甲 [= ā-yācana] 祈願 (*Divy.*).
 ā-Yaj āyajati(-te). → Yaj.
 ā-yaji 形 供養によりて獲得する.
 ā-yajīṣṭha 形 [āyaji の] 最上].
 ā-Yat āyatati(-te). → Yat.
 āyat 現分 → I.
 ā-yata (過受分) 擴張せられたる, 長くせられたる, 長き; … に向けられたる, … を目指す. → Yam. [形] 長, 廣長; 大; 高隆, 脩廣, 脩高直 *Lal-v., Saddh-p., Buddh-c., Bodh-bh., Mvyut.*; 引, 好示 *Daś-bh.* → loka~.
 āyata-kleśatā 女 [形] 長時煩惱 *Bodh-bh.*
 ā-yatatva 甲 [形] 長時 *Madhy-vibh.*
 āyatatva-paramatā 女 [形] 長時最勝, 長時無比 *Madhy-vibh.*
 ā-yatana 甲 處, 住處, 領域; 座; 壇; 聖域, 神殿; 納屋; 努力, 精勵; 感覺の領域, 感官; [形] 處, 入, 入處 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Madh-vibh., Abh-vy., Vijñ-v., Bodh-bh., Mvyut.*: dvādaśa ~ āni 十二處 [1. cakṣur~m 眼處, 2. rūpa~m 色處, 3. śrotira~m 耳處, 4. śabda~m 聲處, 5. ghrāna~m 鼻處, 6. gandha~m 香處, 7. jihvā~m 舌處, 8. rasa~m 味處, 9. kāya~m 身處, 10. spraṣṭavya~m 所觸處, 11. mana~m 意處, 12. dharma~m 法處] *Mvyut.* → deva~.
 āyatana-kausalya 形 [形] 處善巧 *Bodh-bh.*
 ā-yatanatva 甲 坐處; 感覺の對象たること; [形] 處, 入 *Vijñ-v.*
 ā-yatanavat 形 依處を有する. 男 [Brahman 神の第四足の稱].

āyata-pakṣmala 形 長き羽毛の飾ある。
 āyata-pāṇi-lekha 形 〔八十隨好形の一〕 手文長 *Mvyut.*
 āyata-pāṇi-lekhatā 女 〔八十隨好形の一〕 掌に長き線を有すること (*Dharm-s.*)
 āyata-pāda-pārṣṇi 形 〔三十二相の一〕 足跟平圓, 足跟廣長, 足跟趺長, 臚足跟, 足跟滿滿, 足跟高隆(?) *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
 āyata-pāda-pārṣṇitā 女 〔三十二相の一〕 足跟趺長, 臚足跟相 *Bodh-bh.*
 āyata-pāda-pārṣṇitva 中 〔三十二相の一〕 足跟趺長, 臚足跟相, 足跟滿滿相 *Bodh-bh.*
 āyata-pārṣṇitā 女 〔三十二相の一〕 長き踵を有すること; 足跟(廣)長(與趺相)稱相 *Dharm-s.*
 āyata-bhru 形 眉毛修長 *Mvyut.*
 āyata-bhrūkatā 女 長き眉毛を有すること; 雙眉長(軟)相 *Dharm-s.*
 āyata-locana 形 目の長き。
 āyata-vikrama 形 潤歩する (*Buddh-c.*)
 āyatākṣa 形 (女-i) 目の長き。
 āyatāyati (°ta-āy°) 女 長き連続, 遠き將來。
 ā-yati 女 流布, 擴張; 長さ; 未來; 希望, 期待; 子孫; 後, 後世; 來世, 將來, 未來, 未來世; 當, 當來, 當來世 *Lal-v., Lan̄k., Vijñ-v., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
 āyati-kṣama 形 將來に適せる, 將來に役立つ。
 āyati-vineya 形 他世熟, 當所調伏, 未來調伏 *Bodh-bh.*
 āyati 女 現分 [I] 未來。
 āyatekṣaṇa (°ta-ik°) 形 目の長き。
 ā-yatta 通受分 (圖, 於, 一°) に内在せる, ……に依止せる, ……に依存せる; 自ら努力する, 努力する。→ *Yat.* 屬, 繫屬 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 ā-yattatā 女 (於, 一°) に依存すること。
 ā-yattatva 中 [同上]。
 āyatti-Kṛ, 依存せしむ; 從屬せしむ。
 āyathātathya 中 [a-yathā-tatha ɾɾ] 不正, 誤用。
 āyathāpūrvya 中 [a-yathā-pūrva ɾɾ] 前と異なること。
 āya-darsin 形 收入を見る(即ち得る)。
 āya-dvāra 中 領收處; 門, 來門; 生門, 生長之門 *Madhy-v., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*; 合縁, 和合縁 *Abh-vy. 430.*: samgha ~ hārikāḥ 奪僧合縁 *Abh-vy. 430.*
 ā-Yam āyacchati(-te). → *Yam.*
 ā-yamana 中 (弓を)引き絞ること。
 ā-yamya 未受分 引き絞らるべき(弓)。
 āya-vyaya 男 收入と支出; 生滅, 來去 *Lan̄k.*
 ā-Yas āyasyati. → *Yas.*
 āyasa 形 (女-i) 鐵の, 鐵製の; 眞鍮の。中 鐵; 鐵, 鐵丸 *Divy., Lan̄k.*
 āyasa-darvikā 女 鐵杓 *Mvyut.*
 āyasa-parvata 男 鐵山 *Vijñ-v.*
 āyasamaya 形 鐵の; 眞鍮の。
 ā-yasta 通受分 → *Yas.*
 āyahsthūna 男 *Ayahsthūna* の後裔。

ā-Yā āyati. → *Yā.*

ā-yāga 男 供儀の際の布施又は報酬。

ā-Yāc āyācati(-te). → *Yā.*

ā-yācana 中 (神々への)祈願 (*Divy.*); 願, 祈請 *Divy.* ~ m Kṛ 跪拜 *Av-s.*

ā-yācanā 女 求 *Bodh-bh.*

ā-yācita 通受分 強く乞はれたる, 強く望まれたる; 正來求; 來求請 *Bodh-bh.*

ā-yācitavya 未受分 勸請 *Sikṣ.*

ā-yāta 通受分 來れる, 到着せる, 得られたる; ……へ去れる, 著手せる (*Jāt-m.*); 來 *Av-s., Abh-vy.* 中 豊富, 過剰。

ā-yāti 女 接近, 到着; [*Nāhuṣa* の子の名]。

ā-yāna 中 接近, 到着。

ā-yāma 男 延長; 廣さ; 長さ; 遮止; 廣; 長, 長量; 縦; 縦廣, 直豎 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Abh-vy., Mvyut.*

ā-yānavat 形 (時間&距離の)長さ。

ā-yāmin 形 (一°)を遮止する; 長さ。

ā-yāsa 男 勤勞, 苦勞; 疲勞; 苦, 辛, 憂, 惱, 憂惱, 苦惱, 愁, 愁憂; 疲倦 *Saddh-p., Suv-pr., Sikṣ., Bodh-c., Mañj-m., 梵千.*; 用, 作事 *Madhy-vibh.* → *alpa* ~, *nir* ~。

ā-yāsaka 形 疲勞する。

āyāsa-dāyin 形 苦惱を起さしむる (*Buddh-c.*)

ā-yāsayitr 形 苦勞をかくる。

ā-yāsayitrka 形 (女°trikā) [同上]。

ā-yāsita 中 勤勞, 努力; 惱, 惱亂, 觸惱 *Divy.*

ā-yāsin 形 努力する, 苦勞する。

āyikatā 女 得 [*Tib. sgrub-par*] *Lal-v.*: samā-dhy ~ yai samvartate 得諸定故 *Lal-v. 34.*

ā-Yu āyuvate. → *Yu I.*

āyu 形 活動する, 生ける。男 生物, 人類; 子, 子孫, 家系; [*Agni* 神の稱]; [諸人の名]。中 生命, 壽命。→ *āyus.*

āyuh-kaṣāya 男 = *āyus-kaṣāya*; 命濁 *Dharm-s.*

āyuh-paryanta 形 命終, 盡(其)壽量邊際 *Sikṣ., Bodh-bh.* → *āyus-paryanta.* ~ e 於 於命終時 *Sikṣ.*

āyuh-pramāṇa 中 = *āyus-pramāṇa*; 壽量, 壽命 *Suv-pr., Gaṇḍ-vy.*

āyu-kṛt 形 長壽を成す或は與ふる。

ā-yukta 通受分 → *Yuj.* 相應 *Suv-pr.* 男 役人。

ā-yuktaka 男 役人。

āyu-kṣaya 男 殺 *Sikṣ.*

ā-Yuj āyunakti. → *Yuj.*

ā-yuta 通受分 → *Yu I.* 中 半ば溶解せる牛酪

ā-Yudh āyudhyati. → *Yudh.*

ā-yudha 中 (……に向ひて戦ふ), 武器; 道具; 戎, 刀, 刀仗, 兇器, 兵器; 器械, 手器械 *Mvyut., 梵千, 梵雜.* → *indra* ~。

āyudha-jivin 形 武器にて生活せる; 寶兵器, 寶器械 *Mvyut.* 男 戰士。

āyudha-pāṇi 形 持刀仗者, 手執兇器者, 捉(弓)

箭)種種器仗 *Prāt-m., Mvyut.*
āyudha-bhṛt 形 武器を帯びたる。男 戰士。
āyudha-śālā 女 武器庫, 甲冑庫。
āyudha-sahāya 形 武装せる。
āyudhāgāra 中 兵器庫。
ā-yudhika 形 武装せる。男 武人。
ā-yudhin 形, 男 [同上]。
āyudhi-kṛta 形 武器とせられたる。
ā-yudhiya 形, 男 = āyudhika
ā-Yup, → *Yup.*
āyur-dā 形 長壽を與ふる。女 [河の名]。
āyur-yudh 形 生命の爲に奮闘する。
āyur-varṇa-bala 中 命色力, 壽命色力 *Suv-pr.*
āyur-vaśitā 女 命降伏, 命自在 *Dharm-s., Mvyut.*
āyur-vipāka-dāyin 形 招壽異熟果 *Abh-vy.*
āyur-veda 男 醫學; 壽明論, 方命智論 *Mvyut.*
āyur-vedānaya 形 醫學に通曉せる。
āyu-śri 女 壽命長久 *Sikṣ.*
āyuh-śeṣa 男 餘命。形 餘命ある, 生存せる。
āyuh-śeṣatā 女 [同上]。
āyuṣa 中 = āyus.
āyuṣka 中 生命に對する愛著; 壽 —° 壽 *Abh-vy., Bodh-bh.* → *alpa*。
āyuṣkatva 中 壽量, 壽命 *Abh-vy.*
āyuṣ-kara 形 長壽を成す。
āyuṣ-kaśāya 男 中 = āyuh-kaśāya; 壽濁, 命濁 *Sukh-vy. II., Bodh-bh., Mvyut.*
āyuṣ-kāma 形 長壽を希ふ。
āyuṣ-kāraṇa 中 長壽の原因。
āyuṣ-kṛt 形 = āyu-kṛt.
āyuṣ-pati 形 (女 -*tni*) 長壽を支配する。
āyuṣ-paryanta 形 壽限 *Mvyut.* → *āyuh-paryanta.*
āyuṣ-paryavasāna 中 盡(共)形壽 *Saddh-p.*
āyuṣ-pā 形 生命を保持する。
āyuṣ-pratarana 形 生命を延ばす。
āyuṣ-pramāna 中 壽量, 壽命 *Saddh-p., Sukh-vy. I.*
āyuṣmat 形 長壽の [往々呼び掛けの敬語とし用ひらる]; 健康の; 生涯の; 具壽, 命者, 慧命, 淨命; 長老, 長者, 大德, 尊者 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Prajñh., Rāṣṭr., Prāt-m., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
āyuṣya 形 長壽を與ふる; 生命を保持する; 生命に關する。中 活力, 長命; 小兒に長壽を與へんとする儀式。
āyus 中 生命, 壽命, 長壽 [往々]; 天壽; 活力; 活力素; 世界; 命, 壽, 壽命, 壽量 *Saddh-p., Rāṣṭr., Lan̄k., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
āyus-tejas 男 佛の名] 壽光 *Lal-v.*
āyusmat 形 [= āyuṣmat]; 尊者 *Madhy-v.*
āyuh-saṃskāra 男 壽行, 命行 *Divy., Abh-vy., Mvyut.*
āyuh-saṃpad 女 壽量具足 *Bodh-bh.*
āyuh-saṃpanna 形 壽量具足 *Bodh-bh.*
ā-yūha 男 入, 來, 持來 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Lan̄k.;*

取 [*Tib. blañ-pa*] *Lan̄k. 80., Lal-v. 436.* → *an-*
 ~, *niryūha.*
ā-yūhat 現分 [ā-(Y)ūh I.]; 入, 來 *Gaṇḍ-vy.*
 → *Ūh I., niryūhat.*
āyūha-niryūha-vigata 形 無來去, 離持來去, 離去來, 離取捨 *Lan̄k. 80.*
āyūhyate 動 [ā-(Y)ūh I. の]; 所來, 可取, 所從 *Lan̄k. 115.* → *Ūh I., niryūhyate.*
ā-yūhyamāna 現分 [ā-(Y)ūh I.]; 來, 持來, 取 *Lan̄k. 115.* → *Ūh I.*
ā-yoga 男 聯獸, 車等を牽く一聯の獸(馬等); 裝飾; (蜂の)群。
āyogava 男 [混血種姓(階級)の名, (Śūdra と Vaiśyā との子孫)].
ā-yojana 中 結合; 將來すること。
ā-yojanam 副 一 yojana の距離にて。
ā-yojita 便役 (通受分) → *Yuj.*
āyola 男 [*Dhaumya* の]。
ā-yodhana 中 戰鬥, 戰爭; 戰場; 殺戮。
āyodhika 形 *Ayodhyā* に生れたる, *Ayodhyā* に在る或は滞在せる。男 *Ayodhyā* の人。
āyodhyaka 形 男 [同上]。
Ār, IV. 他 *āryati* 稱讚す。 (通受分) *ārīta* 稱讚せられたる。
ār (ā-R), → *R.*
āra 1. 男 中 鑽石。男 掘鑿; 穴, 腔。中 針; 尖端, 端; 錐 梵雜; 邊, 尖邊 *Mvyut.*
āra 2. 中 敵軍。
āra-kūṭa 男 中 青銅, 銅; 真鍮(の一種); 衣裏 *Divy. 30.*
ā-rakta (通受分) 薄赤色の, 淡紅色の。
āraktākṣa 形 眼の淡紅色なる。
ā-Rakṣ *ārakṣati.* → *Rakṣ.*
ā-rakṣa 男 保護, 防禦; 護, 所護, 守護, 衛護, 擁護, 能救護; 宿衛 *Lal-v., Daś-bh., Saddh-p., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.*
ā-rakṣaka 男 番人; 防護, 救護, 防守 *Bodh-bh.*
ā-rakṣaṇa 男 守護者; 衛, 守衛, 守護, 防護 *Divy., Sikṣ., Bodh-bh.*
ā-rakṣaṇatā 女 防護, 擁護 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
ā-rakṣaṇi 女 守護者。
ā-rakṣā 女 保護, 防禦; 護, 守護, 擁護, 救護, 防護, 護持, 衛護, 勤守護; 防援, 防守 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*
ārakṣā-saṃpanna 形 守護具足 *Bodh-bh.*
ā-rakṣika 男 番人。
ārakṣika-nāyaka 男 看守長。
ā-rakṣita (通受分) 保護せられたる, 防禦せられたる; 守護, 所守護 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh.*
ārakṣya 1. (未受分) 護らるべき。
ārakṣya 2. 中 [a-rakṣa より] 不護 *Bodh-bh., Mvyut.:* *trīny ~ āni* 三不護 [1. *pariśuddha-kāya-samudācāras tathāgato nāsti tathāgatasyāpariśuddha-kāya-samudācāratā* 如來身清淨現行。如來身無不清淨現行, 2. *pariśuddha-vāk-samudācāras tathāgato nāsti tathāgatasyāpariśuddha-vāk-sam-*

udācāratā 如來語清淨現行。如來語無不清淨現行, 3. pariśuddha-mañḥ-samudācāras tathāgato nāsti tathāgatasyāpariśuddha-mañḥ-samudācāratā 如來意清淨現行, 如來意無不清淨現行] *Mvyut.*; catvāryāni 四不護 [1-3. 三不護に同じ, 4. pariśuddha-jīvas tathāgato nāsti tathāgatasyāpariśuddha-jīvatā 如來活命清淨, 如來活命無不清淨] *Mvyut.*

ārag-vadha 男 [樹の名, 學名 *Cathartocarpus (Cassia) fistula*]; 牙皂 *Mvyut.*

ā-Rac āracayati(使役). → Rac.

ā-racita 使役(過受分) → Rac.

ā-Raṭ āraṭati. → Raṭ.

ā-raṭana 中 叫聲, 喧噪.

ā-raṭi 女 咆吼, 喧噪.

ā-raṭita (過受分)中 叫聲, 喧噪.

āraṭṭa 男 種 [Pañjab の民族及びその國の名].

āraṭṭa-ja 形 *Āraṭṭa* の國に生れたる.

āraṇa 中 深淵.

āraṇeya 男 [*Suka* の母系]. 形 燧木にて生ずる. 中 燧木を容るゝ小箱.

āraṇya 形 山林に住む, 山林にて生長する; 野生の.

āraṇyaka 形 [同上]; 寂靜; 空寂處住, 住寂靜處 *Dharm-s., Mvyut.*; (音寫)居阿練若, 住阿練若處, 受阿羅拏法, 受阿練若法 *Aṣṭ-pr.* 男 山林に休む者; 隱者; (音寫)阿蘭若 *Prāt-m.* 中 森林書 [森林にて研究せらるべき *Veda* の一部].

āraṇyaka-kāṇḍa 中 = *āraṇya-kāṇḍa*; [*Satapatha-brāhmaṇa* 第十四卷の題名].

āraṇyakarṣi (°ka-rṣi) 男 (音寫)阿練若仙人, 阿蘭若仙人 *Vijñ-v.*

āraṇyaka-vrata 中 林棲者の戒行.

āraṇya-kāṇḍa 中 [*Rāmāyana* の第三卷の題名].

āraṇya-kukkuta 男 野生の牡鶏.

āraṇya-paśu 男 野獸.

āraṇya-mudga 女 [豆の一種].

āraṇya-varāha 男 (音寫)野猪 *Mvyut.*

āraṇyāyatana (°ya-āy°) 中 (音寫)坐禪處 *Divy.*

āraṇyopala (°ya-up°) 男 乾牛糞.

ā-rata (過受分) → Ram.

ā-rabdha (過受分) 開始せられたる, 企てられたる. → Rabh. (音寫)初, 發趣; 勤, 勇猛 *Bodh-bh., Abh-vy.*; 集 *Sūtr.* → an~.

ārabdha-vīrya 形 (音寫)心勇銳; 精勤, 多精進, 發大精進, 勲行精進, 發起精進, 勇猛精進, 起勇猛勝精進心 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.*

ā-rabdhaveya (未受分) 始めらるべき, 企てらるべき.

ā-rabdhi 女 企業, 開始.

ārabdhu-kāma 形 (音寫)欲勤 *Śikṣ.*

ā-Rabh ārabhati(-te). → Rābh.

ā-rabhaṭi 女 大膽, 信賴, 豪勇; 不思議なる或は怖しきことの上演.

ā-rabhya 1. (不変分) (從, 一°)より始めて; 始めて. → Rabh. (音寫)以 *Saddh-p.*

ā-rabhya 2. (未受分) = *ārabdhavya*.

ā-Ram āramati. → Ram.

ā-ramaṇa 中 歡樂, 性の享樂; 休止, 休息處.

ā-ramaṇa 1. 中 支持, 依處; 柵, 勾欄; (音寫)因, 所因; 緣, 因緣, 所緣, 攀緣 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Śikṣ., Madhy-v.*; 境, 境界 *Gaṇḍ-vy.*; 事 *Saddh-p.*: ātma~ 己事 *Saddh-p. 318.*, para~ 他事 *Saddh-p. 318.* ~m Kr (音寫)以此事 *Saddh-p. 319.* ~e (於) (音寫)於境, 緣中, 於緣中 *Aṣṭ-pr. 750.*

ā-ramaṇa 2. 中 (音寫) [ālabhana の (從), *Pāli. ārammaṇa, Tib. dmigs-pa*] 念觀, 想念 *Saddh-p. 29., Mvyut.*

ā-ramaṇaka 中 柵, 勾欄, 欄干 (*Mvyut.*); (音寫)臺塔子 *Mvyut.*

āramaṇa-cchedana 男 (音寫) [Samādhi の名] 斷所緣, 斷想念 *Mvyut.* → *āramaṇa*.

āramaṇa-vasika 形 (音寫)於所緣境(不)自在 *Aṣṭ-pr.*

āramaṇi-Kṛ (音寫)緣, 攀緣 *Aṣṭ-pr.*

ā-rambha 男 著手; 企圖; 開始; (音寫)發, 起, 發起, 發勤, 發起事業 *Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; 事; 造, 行, 修, 所作; 功用; 勤勞; 策勵; 方便 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh., Bodh-c., Sāmkhy-k.* → an~, vīrya~.

ā-rambhaṇa 中 把持; 柄; 援助; 姑息の策.

ā-rambhaṇavat 形 把持し得る.

ā-rambhaṇiya (未受分) 開始せらるべき, 企てらるべき.

ā-rambhaṇiyā 女 [或る詩句の名].

ā-rambhatā 女 開始すること.

ārambha-paramatā 女 (音寫)發起最勝, 極作無比 *Madhy-vibh.*

ārambha-ruci 形 企業心ある.

ārambha-rucitā 女 企業心.

ārambhāvasthā 女 (音寫)作事修住 *Madhy-vibh.*

ā-rambhīn 形 企業する, 企圖多き; (音寫)起 *Śikṣ.*

ā-rava 男 叫聲, 喚聲; 音響.

ārava-dīṇḍima 男 [鼓の一種].

ā-Ras ārasati. → Ras 1.

ā-rasa 男 叫聲, 喧噪.

ā-rasita (過受分) → Ras 1.

ārā 女 革用の錐又は針; (音寫)錐, 鋸, 鑽 *Mvyut.*, 梵千.

ārāgaṇa 中 (音寫)值, 值遇; 事, 承事, 敬重; 供養, 承事供養, 恭敬供養 *Gaṇḍ-vy., Kāśy., Madhy-vibh., Mvyut.*; [*Tib. mñes-par byed-pa.* 同義語として *sevā* を用ふ.] (*Prājñ-vy. 109.*) → *ārāgaya*.

ārāgaṇatā 女 (音寫)值, 值遇 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*: sarva-buddha~ 值一切佛, 值遇一切佛 *Gaṇḍ-vy. 78.*

ārāgaya (名動) 他 *ārāgayati* 非常に悦ばしむ (*Vajr-pr.*); 到達す (*Lal-v.*); [*ākāram* と俱に] 賞味す (*Divy.*); (音寫)見; 值, 值遇; 來到; 承事, 能奉事; 令愛樂 *Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*; 護持, 逮獲 *Saddh-p.*; 令喜, 作喜 *Mvyut.*; 得, 令滿足 [= *ārādhayati, Pāli. ārādheti, Tib. mñes-par byed-pa. hgyur* 「慰む」「満足せしむ」] (*Prājñ-vy. 468.*)] *Abh-vy. 164.*: tam vāyam ārāgayema na virāgayema 願令我等當得值遇非不值遇 *Bodh-bh. 271.*; *ājñām ārāgayati*

普得知 *Mvyut.* → *virāgaya.*
ārāgayitu-kāma 形 欲親近 *Sikṣ.*
ārāgita 通受分 悦べる (*Divy.*); 見; 奉觀; 值, 得值, 值見, 值遇, 常遇; 供養, 承事, 親近, 承事供養, 親近供養 *Saddh-p., Vajr-pr., Suv-pr., Gaṇḍ-vy., Sikṣ.*; 令歡喜 *Saddh-p.*
ārāgitavat 通能分 值 *Saddh-p.*
ārāgra 申 錐の尖端. 形 錐の尖端の如く尖れる.
ārāgra-mātra 形 錐の尖端程の大きさなる.
ārāda 男 阿蘭 [人名] *Divy.*
ārādaḥ-kālāma 男 [Sākyamuniの師の一人の名] 阿羅羅 *Lal-v.*
ārāt (從) 副 遙かに, 遠方より; (從)より隔りたる; (從)に近く; 直ちに, 立所に; 長, 遠, 遠離 *Divy., Mvyut.*; 短 *Mvyut.*: ~ *nirvānasya* 遠離涅槃 *Divy. 37.*
ārāti 男 敵.
ārādā *ārādhayati*(使役), *ārādhyate*(受). → *Rādā.*
ārādha 男 満足, 敬意; 事 *Sūtr.* → *dur*~.
ārādhana 形 懷柔する, 好意を得る, 人心を得る; 令悦, 令現喜, 稱悦(彼)情 *Bodh-bh., Mvyut.* 申 繁榮, 成功; 完成; 有むること, 満足せしむること; 崇拜; 濟, 獲 *Sikṣ.*; 住持 *Sapt-pr.*; 答, 酬答 *Abh-vy.*; 親事, 奉事 *Bodh-c., Sikṣ.*: *tathāgata*~ 親事如來 *Sikṣ. 156.*
ārādhanīya 未受分 懷柔せらるべき, 宥めらるべき; 好意を得らるべき, 崇拜せらるべき; 尊重, 生恭敬 *Sikṣ.*
ārādhayitr 男 崇拜者, 歸依者, 懷柔者.
ārādhayiṣṭu 形 (業)を崇拜する, 懷柔する..
ārādhayya 申 懷柔すること.
ārādhi 賢 *Sikṣ.*: ārya~ 聖賢 *Sikṣ.*
ārādhiṭa 通受分 宥められたる, 意に適へる, 恩惠を切望せる; 尊敬せられたる, 完成せられたる; 解 *Sūtr.*; 稱 *Bodh-bh.*; 持; 所尊, 恭敬 *Sikṣ.*
ārādhitā 稱心 *Bodh-bh.*
ārādhyā 未受分 完成せらるべき, 宥めらるべき; (因)に好まるべき.
ārāma 男 歡喜, 快樂; 庭園; 果樹園; 喜, 玩好, 樂, 忻樂, 樂戲 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Abh-vy., Bodh-bh.*; 苑, 園, 林, 園林, 園苑, 妙園林, 共喜園 *Divy., Vajr-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Daś-bh., Sukh-vy. II., Vijñ-v., Abh-vy., Mvyut.*, 梵雜 一° 形 著, 貧; 愛, 可愛, 愛樂, 深生忻樂, 深生愛樂 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh.*: *dharma*~: *ś ca bhavati* 於正法中深生忻樂 *Bodh-bh. 274.*
ārāma-parigraha 男 僧院の所有地.
ārāmādhīpati 男 園丁.
ārāmika 男 [同上]; 淨人, 守園, 守園人, 園林主, 送花人, 看遊處者; 守池人; 守僧房人 *Av-s., Lan̄k., Prāt-m., Bodh-bh., Mvyut.*
ārālika 男 料理人.
ārāva 男 叫聲, 喚聲; 音響, 騒音.
ārāvin 形 (一°)の響ある.
ārāsa 男 叫聲.

ār-Rikh, → *Rikh.*
ār-Ric *ārinakti.* → *Ric.*
ār-ita 通受分 → *Ār.*
ār-itiya 名動 他 → *ritiya.*
ār-ripsu 命求 形 試みんと欲する.
ār-Riph *ārephati.* → *Riph.*
ār-rirādhayīṣu 命求 形 懷柔せんと欲する, 宥めんと欲する.
ār-Ris, → *Ris.*
ār-Ru *ārauti, āraviti.* → *Ru 1.*
ār-ruka 申 [或る果實の名]; 桃 梵雜.
ār-Ruc *ārocate, ārocayati*(使役). → *Ruc.*
ār-Ruj *ārujati.* → *Ruj.*
ār-ruj 形 (業, 一°)を破壊する, 裂く.
ār-ruja 形 [同上].
ār-ruṇa 形 (因-i) *Aruṇa*に由來せる.
ār-ruṇi 形 [同上].
ār-ruṇya 男 [*Aruṇi*の父系].
ār-Rudh *ārunaddhi, arunddhe, ārodhayati*(使役). → *Rudh 3.*
ār-ruruksu 命求 形 (業)に登らんと或は進まんと欲する.
ār-ruṣi 女 [*Manu*の娘の名].
ār-Ruh *ārohati, āropayati*(使役). → *Ruh.*
ār-ruha 形 (一°)に登る.
ār-rūḍha 通受分 → *Ruh 2.* 引き抜かれたる (*Divy.*); 上, 乘, 乘御, 所乘 *Daś-bh., Lan̄k., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 立 *Divy.*; 著 *Prāt-m.*; 漂 *Prāt-m.*: *pratijñam* ~ *ḥ* 立誓 *Divy. 26.* → *aśva*~, *pādukā*~. 男 [*Samādhi*の名] (*Kār-vy.*).
ār-rūḍha-civara 申 漂衣 *Prāt-m.*
ār-rūḍhi 女 登ること, 乗ること.
ār-rūpin 形 [*a-rūpa*より] 無色, 非色 *Lan̄k.*
ār-rūpya 形 [*a-rūpa*より] 無色 *Lan̄k., Bodh-bh., Abh-vy., Abh-k., Mvyut.*
ār-rūpya-cārin 形 無色行 *Lan̄k.*
ār-rūpya-dhātu 男 無色界 *Sapt-pr.; Lan̄k., Mvyut.*
ār-rūpya-pratisamyukta 形 無色所繫 *Mvyut.*
ār-rūpya-samāpatti 女 無色定 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*: *catasra* ~ *ayaḥ* 四無色定 [1. *sa sarvaśo rūpa-samjñānām samatikramāt pratigha-samjñānām aṣṭamgamān nānātva-samjñānām amanasikārād anantam ākāśam ity ākāśānantyāyatanam upasampadya viharati* 一切色想出過故. 有對想滅沒故. 種種想不作意故. 入無邊虛空虛空無邊具足住, 2. *sa sarvaśo ākāśānantyāyatanam samatikramyānanta-vijñānam iti vijñānānantyāyatanam upasampadya viharati* 超過一切虛空無邊處. 入無邊識識無邊處具足住, 3. *sa sarvaśo vijñānānantyāyatanam samatikramya nāsti kiñcid ity ākiñcanyāyatanam upasampadya viharati* 超過一切識無邊處. 入無少所有無所有處具足住, 4. *sa sarvaśo ākiñcanyāyatanam samatikramya naivasamjñā-nāsamjñāyatanam upasampadya viharati* 超過一切無所有處. 入非想

非非想處具足住] *Mvyut.*

ārūpyāpta (°ya-ūp°) 形 無色界繫, 無色界相應 *Abh-vy.*

āre (於) 副 遙に; (從)より隔りたる; (圖, 從)の外に.

ā-recita 便役 (通受分) → Ric.

ā-recin 形 空となす, 擧殺する.

āraik, [Ricの(三過)(三入)間].

ārōgya 甲 [a-rogaより] 無病, 健康; 無病, 除病, 無患, 無病惱, 捨離病, 長壽無病; 調適 *Divy., Lal-v., Bodh-c., Śikṣ., Abh-vy., Vijñ-t.*

ārōgyatā 女 [a-rogaより] 健康.

ārōgya-pañcaka 甲 熱病の藥.

ārōgyaya 名動 他 **ārōgyayati** 健康を祈る, 敬禮す, 挨拶す (*Divy.*).

ārōgya-sarira 形 捨離病身 *Śikṣ.*

ārōgya-śālā 女 病院.

ārōgya-samjanana 形 生無患(法) *Śikṣ.*

ārōgyāmbu 甲 健康の水.

ā-rocana 形 輝ける. 甲 説, 啓白, 禱祝 *Bodh-bh., Mvyut.*; 教爲, 願樂, 化發, 稱揚讚歎 *Kāśy.*; bodhi-citta ~ tā 教人爲菩薩道, 願一切衆生樂菩薩 [提]心, 稱揚讚歎菩提心, 化諸有情發菩提心 *Kāśy. 43.*

ā-rocaṇitavya 未受分 作白, 宣示 *Bodh-bh.*

ā-rocita 通受分 告, 報 *Lal-v., Divy.*

ā-rodhavya 未受分 登らるべき.

ā-rodhṛ 男 (一°)に登る者.

ā-rodha 男 包圍, 封鎖.

ā-ropa 男 置くこと, 負はしむること, 歸すること; (於)との置換又は同一視. → an~.

ā-ropaka 形 (一°)を植ゑる, 固著せしむる.

ā-ropana 甲 登らしむること; 建つること; 負はしむること; (弓に)弦を張ること; 同一視; 置 *Divy.*

ā-ropaniya 未受分 (於)に登らしむべき, 植ゑらるべき.

ā-ropayitr 形 [=grhitvā dhārayitā] 採りて身に著くる.

ā-ropita 便役 (通受分) → Ruh 2. 植 *Divy.*

ā-ropya 1. 未受分 (…の上に)置かるべき或は固定せらるべき; 植ゑらるべき.

ā-ropya 2. 不変分 乘らしめて.

ā-rbha 男 騎者, 車上の人; 上ること; 堆積, 山; 増加; 女の腰; 階段の踏板; 上昇, 秤の一方が上ること; 高慢; 長さ, [特殊の度量]; 御 *Śikṣ.*; 高, 長, 縦 *Lal-v., Abh-vy., Mvyut.*

ā-rohaka 男 騎者. 形 登る, 揚ぐる.

ā-rohana 形 (女-i) 登る. 甲 登ること; 發生; 乗物; 舞踏臺; 階段, 梯; [特殊の度量]; 昇 *Suv-pr.*

ā-rohana-vāha 形 車を曳く.

ā-rohanika 形 上昇又は登ることに関する.

ā-rohanikā 女 階段.

āroha-pariṇāha 男 形量, 縦横, 長短廣狹 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

ārohapariṇāha-sampanna 形 縦横具 *Mvyut.*

ā-rohin 形 登る; (一°)に導く, 到達せしむる; 馬に乗る.

ārka 形 太陽の.

ārkam (ā-ar°) 副 太陽まで, 太陽をも包含して.

ārkāyaṇa 男 [祭の一種].

ārkaṣa 男 [Rkṣaの(父系)].

ārgvaidika 形 Rg-vedaに屬する.

ārghā 女 [黄蜂の一種].

ārghya 形 Ārghā蜂に関する或はより來れる. 甲 Ārghā蜂の蜜.

ārca 形 Rc (讚頌)又は Rg-vedaの或はに關する.

ārcika 形 [同上] 甲 [Sāma-vedaの一部の稱].

ārcika-parvata 男 [山の名].

ārjanā 女 積集 *Bodh-bh.*

ārjava 形 [rju] 眞直なる, 正直なる, 眞摯なる, 誠實なる; 平; 調順; 質朴, 質直, 正直, 直心, 質直柔軟, 心意純直 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Rāstr., Daś-bh., Mvyut.* 甲 正直, 公正, 卒直, 眞摯, 誠實; 誠, 眞實 *Divy., Lal-v., Rāstr.*

ārjavaka 男 [第九の創造 (Sarga)の名]. 形 眞直なる; 直接の.

ārjavin 形 卒直なる, 正直なる.

ārjikiya 男 [同上].

ārjika 男 Soma用の器(の一種).

ārta (通受分) [ā-R] (困難に)陥れる; 惱まされたる, 悲嘆せしめられたる; 傷きたる, 苦める, 悩める; (一°)に悩まされたる, …を患ふ, …を心痛せる; 病, 苦, 辛苦; 所逼; 惱, 所惱 *Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.*

ārtatara 比 較 より多く苦める, 更に悲める.

ārtatā 女 苦惱又は苦痛の状態.

ārtanā 女 未耕地, 荒蕪の地.

ārta-nāda 男 苦惱の叫び.

ārta-rava 男 [同上].

ārtava 形 (女-i) 季節の; 月經の. 甲 月例の齋戒; 月例齋戒後の十日間; 月經; 男 (一年の中の)季節.

ārta-svara 男 =ārta-nāda. ~m Muc 哀號大哭, 呼天而哭 *Suv-pr.*

ārtāyani 男 [Salyaの稱].

ārṭi 女 困難, 不幸; 苦痛; 害, 傷害; 病氣.

ārṭimat 形 悩める. 男 [或る誦文 (mantra)の名].

ārṭi-han 形 苦痛を除く

ārṭi-hara 形 [同上].

ārṭta (通受分) [=ārta]; 困, 所逼切 *Lal-v. 337., Bodh-bh. 68.*

ārṭni 女 彈(弓).

ārtvijina 形 供儀祭官 (Rtvij)の役に適したる.

ārtvijya 甲 供儀祭官 (Rtvij)の役・仕事又は位.

ārtha 形 物或は對象に関する, 實體の, 重要なる; 物の所有より結果する或は基ける.

ārthika 形 重要なる; 賢き; 富める; 物質の, 實體の.

ā-rddha (ā-rd°) 甲 豊富.

ārdra 形 濡れる, 濡れたる; 新鮮なる, 新しき; 柔和なる, 優しき, 柔かき; 濕き; 濕, 潤濕, 温潤; 柔和, 柔軟 *Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., 梵雜.* 甲 新鮮なる晝.

ārdraka 形 濡れる, 濡れたる. 甲 新鮮なる糞; 漢譯 糞, 茶糞 *Mvyut.*, 梵雜.
ārdracitta 形 漢譯 (其)心温潤 *Bodh-bh.*
ārdratā 女 濕潤; 柔軟; 新鮮.
ārdratva 甲 [同上].
ārdradānu 形 濕氣を有する, 濕氣を興ふる.
ārdranayana 形 眼の潤へる; 泣ける.
ārdrapavitra 形 濡れたる濾過器を有する (*Soma* 汁).
ārdrapāmsu 男 漢譯 溼土 *Saddh-p.*
ārdrabhāva 男 濕潤; 心優しきこと.
ārdrāmūla 形 濡れる根を有する.
ārdraya 名動他 **ārdrayati** 濕ほす; 柔かにす.
ārdravastra 形 濡れたる衣服を纏へる.
ārdravastratā 女 [同上 拙].
ārdravāsas 形 濡れたる衣服を纏へる.
ārdrasamtāna 形 漢譯 性柔和, 身柔軟 *Bodh-bh.*
ārdra 女 (單, 複) [星宿の名]; 漢譯 [二十八宿の一] 參, 生青 *Divy.*
ārdranulepana 形 軟膏にて濡れる (*Buddh-c.*).
ārdrārdrā (°ra-ār°) 形 (一°)の溢るゝ.
ārdri-Kṛ, 濕ほす, 更新す; 柔かにす.
ārdraidhāgni (°ra-edh°) 男 生木にて燃やされたる火.
ārdrya 甲 濕潤.
ārdhadhātuka 形 [ardha-dhātu より] [弱語根に加へられたる 漢尾].
ārdhamāsika 形 [ardha-māsa より] 半箇月續く.
ārdharātri 形 [ardha-rātra より] 夜中に起る, 夜中の.
ārdhika 男 收穫の半分を得る小作人 [= *ardha-sirin*]. 形 半分を分くる, 同等の分享者なる; 半分に關する.
ārpayitr 男 苦しむる者, 加害者.
ārpita 形 結びつけられたる; 附加せられたる; ……に據れる.
ārya 形 (女 -ā, i) 信義厚き, 自己の種族に關する; 尊敬すべき, 高貴なる; 漢譯 貴; 聖, 聖者, 妙聖, 賢聖善 *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Vajr-pr.*, *Rāstr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* 男 *Ārya* 人 [*Veda* を奉ずる印度人], *Vaiśya* 以上の三種姓(階級)の人; 尊敬すべき人; 漢譯 聖, 聖人, 聖者, 賢聖, 眞聖; 聖(心), 聖人(心); 智者, 賢善者, 賢善人; 出苦者 *Saddh-p.*, *Vajr-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, 立應; 音寫 阿哩耶, 阿利耶, 阿梨耶 *Guhy-s.*, 立應. 呼 卿よ, 友よ; 漢譯 賢首, 大德, 尊者 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.* → an~.
āryaka 男 尊敬すべき人; [王の名].
āryakarman 形 貴き行動をなす; *Ārya* 人の如く行動する (*Buddh-c.*).
āryakānta 形 漢譯 聖所愛, 聖者所須, 聖者所喜 *Mvyut.*
āryakṛta 形 *Vaiśya* 以上の三種姓(階級)の人によりて作られたる.
āryagaṇa 男 [= *ārya-saṃgha*] 佛教徒の集團; 漢譯 聖衆, 聖會 *Rāstr.*, *Mvyut.*

āryagati 女 漢譯 聖趣, 聖智 *Lank.*
ārya-guṇa 男 高貴の素質.
āryagrhya 形 貴族に味方する.
āryagocara 男 漢譯 聖境界, 聖(智)境 *Lank.*, *Madhy-vibh.*
āryagotra 甲 漢譯 聖性, 聖人性, 聖種性 *Lank.*, *Sūtr.*
āryagotra-mārga 男 漢譯 聖種性道 *Lank.*
āryacetas 形 心の高潔なる.
āryajana 男 *Ārya* 人種; 尊敬すべき人々; 漢譯 聖人, 賢聖善人 *Lank.*, *Sikṣ.*
āryajuṣṭa 形 貴族に嘉せらるゝ.
āryajñāna 甲 漢譯 聖智, 妙聖智, 聖證智 *Lank.*, *Bodh-bh.*
āryajñānagati 女 漢譯 聖人智修行, 聖智所行境, 聖者趣 *Lank.*
āryajñānagocara 男 漢譯 聖境界, 聖智所行, 聖人智境界 *Lank.*
āryajñānagocaratva 甲 漢譯 聖智境, 聖智境界 *Madhy-vibh.*
āryajñānagocara-viśaya 男 漢譯 聖智境界, 聖智所行境界 *Lank.*
āryajñānapratyātma-gati 女 漢譯 聖智內證, 聖智內自證, 聖智自覺所得 *Lank.*
āryajñānapratyātma-gocara 男 漢譯 聖智自覺境界, 內身聖智修行境界, 自證聖智所行境界 *Lank.*
āryajñānapratyātmādhigama 男 漢譯 聖智自覺, 自證聖智, 自身內證聖智 *Lank.*
āryajñānapratyātmādhigamya 形 漢譯 聖智內證, 聖者內證之法, 已得聖智自覺 *Lank.*
āryajñānavastu 甲 漢譯 聖智事相 *Lank.*
āryajñānavabhāva-vastu 甲 漢譯 聖智法體, 聖智自性事 *Lank.*
āryatā 女 高貴なること, 尊敬すべき態度
āryatva 甲 [同上].
āryadarśana 甲 漢譯 聖見, 聖人見(正法) *Lank.*
āryadāsi 女 [人名].
āryaduhitṛ 女 高貴の御嬢様 [女の友に對する呼掛けの敬語].
āryadeva 男 漢譯 [Nāgārjuna の弟子の名] 聖天 *Madhy-v.*, *Mvyut.*
āryadeśa 男 *Ārya* 人種の住める地方.
āryadeśya 形 *Ārya* 人種の住地より來れる或はに生れたる.
āryadhana 甲 貴き寶 (*Divy.*).
āryadharmā 男 漢譯 聖法, 聖者法 *Sapt-pr.*, *Madhy-vibh.*
āryadharmāhetutva 甲 漢譯 聖法因 *Madhy-vibh.*
āryanivāsa 男 *Ārya* 人種の住居.
āryapatha 男 貴き道, 貴き人の道; 漢譯 聖道 *Rāstr.*, *Sikṣ.*
āryaputra 男 *Ārya* 人の子 [1. 呼び掛けられたる者の子息に對する敬稱, 2. 妻が夫に對しての稱呼, 3. 臣下が君主に對する時の敬稱]; 漢譯 聖子, 賢首, 君 *Divy.*
āryapudgala 男 漢譯 聖者, 聖人 *Sikṣ.*, *Abh-vy.*,

Mvyut.

- ārya-pratyātma-jñāna-gati ㊦ ㊦ 自證聖智所行, 自覺聖智所行, 聖智自證覺所行 *Lank.*
- ārya-pratyātma-jñāna-vastu ㊦ ㊦ 聖智自證法性, 聖人內身證智 *Lank.*
- ārya-prabhāva ㊦ ㊦ 聖威力 *Bodh-bh.*
- ārya-pravṛtta ㊦ 貴き行爲の.
- ārya-praśasta-śīla ㊦ ㊦ 聖所讚戒 *Sam-r.*
- ārya-prāya ㊦ 主として *Ārya* 人種の住める.
- ārya-phala ㊦ ㊦ 聖果 *Madhy-v.*
- ārya-buddhi ㊦ 心の高潔なる.
- ārya-brahma-viśeṣa-cintā-paripṛcchā ㊦ ㊦ [經の名] 勝思惟梵天所問經 *Mvyut.*
- ārya-brāhmaṇa ㊦ 貴き婆羅門.
- ārya-bhāṭa ㊦ [二人の天文學者の名].
- ārya-bhāṭiya ㊦ [*Āryabhāṭa* の著書の名].
- ārya-bhāva ㊦ 高貴なる品性又は行爲; ㊦ 聖性 *Lank.*
- āryabhāva-vastu ㊦ ㊦ 聖性事, 諸聖法, 聖人境界 *Lank.*
- ārya-bhūmi ㊦ ㊦ 聖地 *Sūtr.*
- ārya-mārga ㊦ [= *ārya-patha*]; ㊦ 聖道 *Sūtr., Abh-vy., Madhy-vibh.*
- āryamārga-citta ㊦ ㊦ 聖道心 *Sikṣ.*
- āryamārga-pudgala-nāyaka ㊦ [佛の稱] (*Divy.*).
- āryamārga-bhāvanā ㊦ ㊦ 修聖道 *Sikṣ.*
- āryamārga-virodhitva ㊦ ㊦ 與聖道相違, 與聖道極相違 *Abh-vy.*
- ārya-mīśra ㊦ 尊敬すべき, 優れたる, 尊者等 [敬稱として]. ㊦ 貴人, 紳士.
- āryamṇa ㊦ [或る月宿の名].
- ārya-yuvan ㊦ *Ārya* 人種の青年.
- ārya-rāja ㊦ [王の名].
- ārya-rūpa ㊦ 高貴の風格ある.
- ārya-liṅgin ㊦ 高貴の相ある.
- ārya-vaṃśa ㊦ ㊦ 聖種 *Bodh-bh., Mvyut.*
- ārya-varman ㊦ [王の名].
- ārya-vastu ㊦ ㊦ 聖事, 聖人境界, 聖人所見法 *Lank.*
- āryavastu-naya ㊦ ㊦ 聖法, 衆聖所行 *Lank.*
- āryavastu-bhāva ㊦ ㊦ 聖事性, 聖人境界 *Lank.*
- āryavastu-svabhāva ㊦ ㊦ 聖(智)事自性, 聖人(知)法體相 *Lank.*
- ārya-vāc ㊦ *Ārya* 語を話す.
- ārya-vidagdha-mīśra ㊦ 貴顯の, 博學なる等 [敬稱].
- ārya-vṛtta ㊦ 尊敬すべき態度. ㊦ 行爲の高潔なる.
- ārya-veśa ㊦ *Ārya* 人の如く或は上品に装へる.
- ārya-vrata ㊦ *Ārya* 人の如く振舞ふ, *Ārya* 人の法則を守る.
- ārya-śīla ㊦ 高貴なる品性の.
- ārya-śūra ㊦ [*Jātaka-mālā* の作者の名]; ㊦ 聖猛, 聖勇猛 *Mvyut.*
- ārya-śrāvaka ㊦ ㊦ 聖弟子 *Lank., Abh-vy.*
- ārya-saṃgha ㊦ ㊦ 佛教徒の集團; ㊦ 聖衆; (音寫) 聖僧, 賢聖僧 *Sikṣ., Mvyut.*
- ārya-satya ㊦ 尊き真理(佛教); ㊦ 聖諦 *Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.:* catvāry ~ āni 四

聖諦 [1. *duḥkhaṃ* 苦諦, 2. *samudayaḥ* 集諦, 3. *nirodhaḥ* 滅諦, 4. *mārgaḥ* 道諦] *Dharm-s.* → *satya.*

- āryasatya-parikṣā ㊦ ㊦ 觀(四)諦, 觀聖諦 *Madhy-v.*
- ārya-samaya ㊦ *Ārya* 人の法則.
- ārya-suta ㊦ = *ārya-putra*(夫).
- ārya-stri ㊦ 上位の種姓(階級)の女.
- ārya-sthaviriyaka ㊦ ㊦ 聖上座部の (*Jāt-m.*).
- ārya-sthāvira ㊦ ㊦ [佛教部派の名]; ㊦ 上座部, 聖上座部 *Mvyut.*
- āryā ㊦ *Āryā* 調 [音律の一種].
- āryāgama (*°yā-ūg°*) ㊦ 上位の種姓(階級)の婦人との同会.
- āryā-giti ㊦ [*Āryā* 調音律の一種].
- āryānaka ㊦ [國の名].
- āryādhiṣṭhita ㊦ ㊦ 上位の種姓(階級)の人に支配せられたる.
- āryārhat ㊦ ㊦ 聖者, 賢聖 *Ast-pr.*
- āryāvarta (*°ya-āv°*) ㊦ (*Himālaya* 山と *Vindhya* 山との間の) *Ārya* 人の國.; ㊦ [*Āryāvarta* 國の住者].
- āryāṣṭāṅga-mārga ㊦ ㊦ 八支聖道, 八聖道支 *Bodh-bh., Mvyut.*
- āryāṣṭāṅgika-mārga ㊦ ㊦ 八聖道 *Dharm-s.* [1. *samyag-dṛṣṭiḥ* 正見, 2. *samyak-saṃkalpaḥ* 正思惟, 3. *samyag-vāk* 正語, 4. *samyak-karmāntaḥ* 正業, 5. *samyag-ājīvaḥ* 正命, 6. *samyag-vyāyāmaḥ* 正精進, 7. *samyak-smṛtiḥ* 正念, 8. *samyak-samādhiḥ* 正定] *Dharm-s.*
- āryi-bhūta ㊦ ㊦ 成聖人 *Abh-vy.*
- āryopaga (*°ya-up°*) ㊦ ㊦ 聖所住 *Lank.*
- ārṣa ㊦ (㊦ -i) *Ṛṣi* に關する, *Ṛṣi* に由來せる, 古代の, 古風の; *Ṛṣi* の名に加へられたる(接尾音). ㊦ *Ṛṣi* の制定せる結婚の形式; ㊦ 經典 *Mvyut.* ㊦ *Ṛṣi* の讚歌; 高貴の家柄; *Ṛṣi* の原作(讚歌の); [*Veda* の稱]; ㊦ 安穩, 仙尊位 [*Tib. khu-mehog*] *Bodh-bh.* 385.
- ārṣabha ㊦ ㊦ 牡牛に屬する, 牡牛の; 牡牛の如く強き或は秀でたる; 勝れたる; ㊦ 安隱, 勝群 *Bodh-bh., Mvyut.:* udāram ~ m sthānam 大安隱處 *Bodh-bh.* 386.; ~ m sthānam pratijānīte 自稱當處於勝群地 *Mvyut.* ㊦ *Ṛṣabha* の後裔.
- ārṣi ㊦ *Ārṣa* の形式にて結婚せる妻
- ārṣeya ㊦ = *ārṣa*; 尊敬すべき, 貴き. ㊦ = *ārṣa*.
- ārṣeya-brāhmaṇa ㊦ [或る梵書の名].
- ārṣodhā (*°ṣa-ūdhā*) ㊦ *Ṛṣi* の儀禮に準じて(*Ārṣa* の形式にて)結婚せる婦人.
- ārṣiṣeṇa ㊦ *Ṛṣiṣeṇa* の後裔.
- ārṣya-śṛiṅga ㊦ *Ṛṣyaśṛiṅga* の後裔.
- ārḥata ㊦ (㊦ -i) *Jina* の教に關係ある, *Arhat* 又は *Jina* 教の聖者に關する. ㊦ *Jina* 教徒; 佛教徒; ㊦ 堪敬, 堪敬徒 *Mvyut.* ㊦ *Jina* 教.
- āla ㊦ [或る猿の名]. ㊦ 毒獸の出す毒物.
- ālakṣaya (名動) ㊦ *ālakṣayate.* → *lakṣaya.*
- ā-lakṣi ㊦ (㊦ -i) 見る.
- ā-lakṣita (過受分) → *lakṣaya.*

ā-lakṣya 1. (未受分) 見らるべき; 凝視せらるべき; 明らかなる。
ālakṣya 2. (形) [a-lakṣa より] 辛ふじて見得べき, 丁度見得べき。
ā-lakṣya 3. (不変分) 見て, 観察して。
ā-Lag ālagati, ālagayati(使役)。 → Lag.
ā-lāgna (過受分) → Lag.
ālamkārika (男) [alam-kā:ra より] 修辭家。
āla-jāla (甲) 甚しき欺瞞(?)。
ā-Lap ālapati. → Lap.
ālapam-Kṛ, (caha) と對談す。
ā-lapana (甲) 閑談, 談話, 會話; (漢語) 談 Bodh-bh.
ā-lapanā (女) (漢語) 言論 Bodh-bh.
ā-lapita (甲) (過受分) 談話, 會話。
ā-lapitavya (未受分) 話し掛けらるべき。
ā-laptaka (形) 會談し易き (Mvyut.); (漢語) 交談, 語言 Mvyut.
ā-lapya (不変分) 話し掛けて。
ā-Labh ālabhate, ālambhayati(使役)。 → Labh.
ā-labhana (甲) 捉ふること, 觸るゝこと; (犠牲獸を) 屠ること。
ā-labhya 1. (未受分) 殺さるべき, 犠牲に供せらるべき。
ā-labhya 2. (不変分) 捉へて, 觸れて; 殺して, 犠牲に供して。
ā-Lamb ālambate. → Lamb.
ā-lamba (形) 垂れ下る。 (男) 懸垂, 把持, 支持; [或る Muni の名]; (漢語) 緣, 能緣, 攀緣 Sūtr., Lank.; 念, 觀 Lank. 153. ~m (圓) 把持して, 支持して。
ā-lambana (甲) ……に倚りかゝること; (一°)を支持すること; 把持, 支持; 基礎; (漢語) 緣, 所緣, 緣對, 攀緣; 所著; 境, 境界, 所緣境, 爲所緣境, 所緣境界, 繫念境界; 所緣慮; 觀彼法 Lal-v., Sapt-pr., Daś-bh., Lank., Sūtr., Madhy-v., Vijñ-t., Abh-vy., Madhy-vibh., Bodh-bh., Mvyut.; 常樂趣求 Guhy-s.: sarva-tathāgata-kāya-vāk-cittā-samaya ~m 常樂趣求一切如來身語心三昧 Guhy-s. 40.; dvādaśa-vidham ~m 十二種所緣, 十二境界 [1. dharma-prajñāpti-vyava.thāna ~ 安立法施設所緣, 2. dharma-dhātu ~ 法界所緣, 3. sādhyā ~ 所立所緣, 4. sādhana ~ 能立所緣, 5. dhāraṇa ~ 任持所緣, 6. avadhāraṇa ~ 印持所緣, 7. pradhāraṇa ~ 內持所緣, 8. prativedha ~ 通達所緣, 9. pratānatā ~ 增長所緣, 10. pragama ~ 分證所緣, 11. prasātha ~ 等運所緣, 12. prakarṣa ~ 最勝所緣] Madhy-vibh. 253. → tathatā ~。
ā-lambana-dūratā (女) (漢語) 所緣遠 Abh-vy.
ā-lambana-pratyaya (男) (漢語) 所緣緣 Bodh-bh., Mvyut.
ā-lambanānuttarya (°na-ān°) (甲) (漢語) 所緣無上, 境界無上 Madhy-vibh.
ā-lambanāsammoṣa (男) (漢語) 不忘境, 不忘境界 Madhy-vibh.
ā-lambani-Kṛ 支持となす; (漢語) 觀, 緣, 緣慮, 攀緣 Lank., Bodh-bh.
ā-lambāyana (男) [Ālamba の (父系)].

ā-lambita (過受分) (使役) → Lamb.
ā-lambin (形) 垂れたる; 支持せられたる, 依存せる, (一°)に依れる, ……を支持する。
ā-lambya 1. (未受分) (漢語) 所緣, 所念 Lank. → an ~。
ā-lambya 2. (不変分) 支へて, 支へられて; 手に採りて。
ā-lambha (男) 把持, 接觸; 引き離すこと, 抜き取ること; (犠牲獸の) 屠殺。
ā-lambhana (甲) [同上]; (漢語) (胸)觸 Mvyut.
ā-lambhaniya (未受分) 捉へらるべき, 觸れらるべき。
ā-lambhin (形) (一°)に觸るゝ, ……を捉ふる。
ā-laya (男) (甲) 住居, 家宅; 座; [識 (vijñāna) の一種] (佛敎); (漢語) 宅, 舍, 室; 宮, 宮殿; 巢, 窟宅, 樛窟; 依, 處, 所, 處所; 藏, 攝藏, 執藏; 著, 所著 Lal-v., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lank., Śiks., Abh-vy., Bodh-c., Mvyut.; (音義) 梨耶, 阿賴耶, 阿梨耶 Lank., Vijñ-t., Mvyut. → an ~。
ālaya-nilaya (形) (漢語) 住……處 Gaṇḍ-vy.: asaṅga ~ 住無礙處 Gaṇḍ-vy. 4.
ālaya-vijñāna (甲) (漢語) 藏識, 眞識; (音義) 阿黎耶識, 阿梨耶識, 阿賴耶識; 阿梨耶本識, 阿賴耶藏識 Lank., Madhy-vibh., Mvyut.
ālarka (形) 狂犬に起因せる, 狂犬に關する。
āla-vāla (甲) (樹根の周圍の) 給水用の溝。
ālaya (甲) 怠惰, 懶惰, 安逸; (漢語) 惰, 懶, 懶惰, 懈怠, 懈怠 Buddh-c., Sam-r., Mañj-m., Śiks., Bodh-bh., Sūtr., Abh-k., Bodh-c., Mvyut., 梵雜。
ālasya-kausidya (甲) (漢語) 懶惰, 懈怠 Bodh-bh.
ālasya-nibandhana (形) 怠惰に基ける。
ālasya-vacana (甲) 懶惰の論。
ālasyaṅya (名動) (自) ālasyaṅyate 怠く, 懶惰にす [Tib. sñom] (Prajñ-vy.).
ālāta (甲) = alāta.
ālāta-cakra (甲) (漢語) 旋火輪 Śiks.
ālāna (甲) (象を) 縛する杭又は綱; 束縛, 綱, 絲。
ālānika (形) 杭又は綱の用をなす。
ā-lāpa (男) 話し掛くこと, 談話, 會話; (鳥の) 轉聲。
ā-lāpana (甲) 話し掛くこと, 祝福すること; (漢語) 言音, 言聲, 言辭 Madhy-v.
ā-lāpavat (形) 話し掛く。
ā-lāpin (形) (一°)と話す, 語る; (漢語) 問訊 Av-ś. → pūrva ~, priya ~。
ālābu (女) = alābu.
ālābū (女) [果實の名]; (漢語) 拂著(?), 葫蘆 Mvyut.
āli (女) 蠅; [星宿の名]; 女の同性の友; 條, 線, 列; 群; 溝, 濠, 渠, 水路; 堤, 畔; (漢語) 小溪 Mvyut.
ā-Likh ālikhati. → Likh.
ā-likhat (現分) 搔く。 (男) [或る惡靈の名]。
ā-likhita (過受分) → Likh.
ā-Liṅg, I. (他) (自) āliṅgati(-te); X. (他) āliṅgayati 抱擁す。
prati- 再び抱擁す, 抱擁し返す。
sam- 抱擁す。
ā-liṅga (男) 抱擁。
ā-liṅgana (甲) [同上]; (漢語) 抱, 抱持, 抱擁 Gaṇḍ.

vy., Abh-vy., Mvyut.; 〔音〕 阿梨宜 Gand-vy.
→ dvandva ~.

ā-liṅgani 〔女〕 [同上].

ā-liṅgita 〔過受分〕 抱擁せられたる; 占有せられたる;
〔漢〕 抱 Lank., Mvyut. 〔中〕 抱擁.

ā-liṅgitatva 〔中〕 〔漢〕 繞 Abh-vy.

ā-liṅgya 〔未受分〕 抱擁せらるべき. 〔男〕 [太鼓の一種].

āli-jana 〔男〕 貴婦人の女友達.

ālinda 〔男〕 (屋前の)露臺.

ālindaka 〔男〕 = alinda.

ā-Lip ālimpati. → Lip.

ā-lipta 〔過受分〕 塗られたる.

ā-lipyā 〔不変分〕 塗りて.

ā-Liś, → Liś.

ā-Lih ālihati. → Lih.

ā-Li āliyate, allipeti [= ālāpayati(〔便役〕)]. → Li.

āli 〔女〕 = ali.

ā-liḍha 〔過受分〕 → Lih. 〔漢〕 展右 Mvyut. 〔中〕
[弓を引く姿勢の一種].

āliḍha-viśeṣa-śobhin 〔形〕 āliḍha (〔中〕)にりて特に
目立てる.

ā-lina 〔過受分〕 → Lī. 〔漢〕 隨; 貪著, 深生耽染
Aṣṭ-pr.; 藏 Madhy-vibh.

ālu 〔女〕 水差(水), 水瓶. 〔男〕 梟(?); [黒檀の一種];
〔漢〕 辛菜 Mvyut. 〔中〕 筏, 小舟; 球根.

āluḥki 〔女〕 [植物の根の一種].

ā-luñcana 〔中〕 片々に裂くこと.

ā-Luḍ āloḍayati(〔便役〕). → Luḍ.

ā-Lup ālumpati, ālupyate(〔受〕). → Lup.

ā-Lubh ālubhyati. → Lubh.

ā-Lul, → Lul.

ā-lulita 〔過受分〕 → Lul.

ā-Lū ālunāti. → Lū.

ālū 〔女〕 = ālu(〔女〕).

ā-lūna 〔過受分〕 → Lū.

ā-lekhana 〔中〕 掻くこと, 掻き集むること; 書くこと.

ā-lekhya 〔中〕 書くこと, 畫くこと; 繪畫; 〔漢〕 畫
Aṣṭ-pr., Mvyut. 〔形〕 書かるべき, 畫かるべき;
[vilekhyaと俱に]心の惑亂せる; 〔漢〕 後悔 Mvyut.

ālekhya-puruṣa 〔男〕 人間の影像又は畫.

ālekhya-śeṣa 〔形〕 畫像としてのみ残れる = 死せる.

ālekhya-samarpita 〔形〕 畫かれたる.

ā-lepa 〔男〕 油を塗ること; 膏藥, 塗油.

ā-lepaka 〔男〕 漆喰を塗る人.

ā-lepana 〔中〕 = ā-lepa; 〔漢〕 塗 Divy.

ā-Lok ālokate, ālokayati(〔便役〕). → Lok.

ā-loka 〔男〕 見ること; 視ること, 注視; 光, 光輝; 瞥
見, (國)の光景; 稱讚, 讚詠; 〔漢〕 目, 眼 Gand-vy.,
Mvyut.; 光, 光明, 光照; 明, 燈明, 照明, 明照, 顯明,
明誠; 普照; 陽; 炬 Divy., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Daś-
bh., Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v.,
Mvyut., 梵雜; 〔音〕 [數の名] 阿羅伽, 阿魯迦 Mvyut.
→ jñāna ~.

ā-lokaka 〔男〕 傍觀者, 見物人, 觀客.

āloka-kara 〔形〕 (國)の上に光を擴ぐる; 光を發する;
〔漢〕 發明, 爲燈, 能作明, 作光明, 爲(清淨)光明, 能

爲照明, 作(大)明燈 Gand-vy., Sun-pr., Śikṣ., Mvyut.
〔男〕 〔漢〕 [Samādhiの名] 發明, 能作明 Mvyut.

āloka-karin 〔形〕 〔漢〕 照曜, 能發光明 Aṣṭ-pr.

ā-lokatā 〔女〕 〔漢〕 明了性相 Rāṣṭr.

ā-lokana 〔形〕 眺むる, 視る; 默想する. 〔中〕 一見; 注視.

ā-lokanatā 〔女〕 注視, 考察.

ā-lokaniya 〔未受分〕 凝視せらるべき, 見得べき; 考へ
らるべき; 〔漢〕 觀, 樂觀 Śikṣ., Mvyut.

ā-lokaniyatā 〔女〕 [同上 〔中〕].

āloka-patha 〔男〕 地平線, 視界.

āloka-mārga 〔男〕 [同上].

āloka-labdha 〔形〕 〔漢〕 明得, 得顯應 Mvyut.

āloka-vṛddhi 〔女〕 〔漢〕 明増 Mvyut.

āloka-samjñin 〔形〕 〔漢〕 起光明想, 作光明想, 起明了
想 Śikṣ.

āloka-suvega-dhvaja 〔男〕 〔漢〕 [或は Mahoragaの名]
現力勝幢 Mvyut.

āloka-sthāna 〔中〕 = āloka-patha.

āloka-rthin 〔形〕 〔漢〕 求光明 Bodh-bh.

āloka-vabhāsa 〔男〕 〔漢〕 光明, 明照 Bodh-bh.

ā-lokita 〔過受分〕 見られたる, 視られたる; 〔漢〕 觀,
普觀, 前觀 Madhy-vibh., Mvyut.

ā-lokin 〔形〕 (一)を視る, ……を考察する.

ā-Loc ālocate, ālocayati(-te)(〔便役〕). → Loc.

ā-locaka 〔形〕 見せしむる.

ā-locana 〔中〕 視ること; (五感の)知覺, 考慮; 反省;
〔漢〕 見, 視, 現, 了, 觀視, 觀照 Daś-bh., Bodh-bh.,
Abh-vy., Sāmkhy-k., Mvyut.

ā-locanā 〔女〕 [同上]

ā-locaniya 〔未受分〕 考慮せらるべき.

ā-locita 〔過受分〕 → Loc.

ā-locya 1. 〔未受分〕 考慮せらるべき.

ā-locya 2. 〔不変分〕 考へて, 反省して. → Loc.

ā-lopa 〔男〕 一片又は一口(の食物), (特に)比丘の集めたる
少量の食物 (Av-s., Divy.); 〔漢〕 食, 搏, 搏食, 食
搏, 一搏食 Divy., Prāt-m., Śikṣ., Mvyut. →
parimandala ~.

ā-lola 〔形〕 靜かに波動する, 微かに動揺する.

ā-lolikā 〔女〕 子守唄.

ā-lolita 〔過受分〕 少しく振られたる或は動揺せしめられ
たる.

ā-lohita 〔形〕 赤色を帯びたる.

ālohitī-Kṛ, 赤くす, 赤く染む.

āva 1. [一入 〔兩〕の代名詞語幹].

āva 2. 〔男〕 〔漢〕 護 Abh-vy. 102.

āvāt 〔女〕 近きこと.

āva-tirṇa 〔過受分〕 〔漢〕 入, 證入 Gand-vy.

ā-vatsaram 〔中〕 一年間.

ā-vatsarāntām 〔中〕 歳末まで, 一年間.

ā-Vad āvadati. → Vad.

āvadānika 〔形〕 [ava-dānaより] 千切りて捧げられた
る.

āvanta 〔男〕 Avantiの王.

āvantaka 〔形〕 Avantiに屬する或はより來れる. 〔男〕
〔漢〕 Avantiの住民; 〔漢〕 [佛教部派の名] 守護家, 不
可棄(部) Mvyut.

āvantika 形 Avantiに關する或はより來れる。 男
 〔佛敎部派の名〕。
 āvantikā 女 [人名]。
 āvanti 女 Avantiの言語。
 āvantya 形 Avanti國に在る或はより來れる。 男
 Avantiの王又は住民。
 ā-Vap āvapati, āvāpayati(使役)。 → Vap 2。
 ā-vapana 中 播種, 撒布すること, 置くこと, 挿入;
 器, 瓶; 容量。
 ā-vapani 女 [同上]。
 ā-vapantaka 形 (女-ikā) 撒布する。
 āvabhṛtya 男 Avabhṛtiの王; 〔或る王朝の名〕。
 āvabhṛtha 形 Avabhṛthaに關する或は屬する。
 āvaya 中 受胎。 → bāla〜。
 āvayāj 男 [體'yāt] (供儀によりて或る事を防禦す
 る者), [祭官の一種]。
 āvar, [Vrj.の三過(二人)及び(三人)單]。
 ā-varaka 形 掩ふ, 隠す, 蔽へる。 男 保護者。
 ā-varaṇa 形 掩ふ, 隠す。 中 包むこと; 被覆, 外
 被; 衣服; 遮斷, 防礙; 保護; 壁, 楯; 門, 錠; 障
 翳, 蓋; 遮, 障, 礙, 障礙, 罣障, 障障; 損惱
 Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Śikṣ., Sūtr.,
 Abh-vy., Madhy-vibh., Bodh-bh., Vijñ-t., Vijñ-v.,
 Mvyut.; 所防 Aṣṭ-pr.: rakṣa〜guptim Kṛ 守護
 令無損惱 Aṣṭ-pr. 430. → an〜。
 āvaraṇa-kriyā 女 障, 遮, 遮止 Bodh-bh.
 āvaraṇa-dvaya 男 二障, 二種障 Laṅk.,
 Madhy-vibh. [1. kleśāvaraṇa, 2. jñeyāvaraṇa] Ma-
 dhy-vibh. 107.
 āvaraṇa-nivarāṇa 中 障礙 Śikṣ.
 āvaraṇa-maṅgala 中 攘災の儀式。
 āvaraṇa-varjita 形 無障 Sūtr.
 āvaraṇa-śakti 女 (諸物の眞實の性質を覆ふ) 妄想の
 力。
 āvaraṇi-Kṛ, ……を被覆に用ふ。
 ā-varaṇiya 形 āvaraṇaに屬する; 精神的に盲目な
 る; 障, 陰障, 所覆 Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh.
 ā-varitṛ 形 妨ぐる, 遮る, 掩ふ。
 āvarivar, [ā-Vrtの三過(三人)單 隱意]。
 ā-varjaka 形 傾かしむる, 味方となす; 引きつくる,
 宥むる; 引, 生 Bodh-bh.
 ā-varjana 中 懷柔すること, 勝利; 引きつくること,
 引き入ること, 味方となすこと, 善く誘引するこ
 と; 屈服すること; 注意すること, 意解すること;
 引, 引攝; 歸向, 來入, 訓誨 Lal-v., Sūtr.,
 Bodh-bh.
 āvarjana-kara 形 (女-i) 味方となす, 信賴せしむ
 る, 善く誘引する(Divy.); 能發悟 Divy.
 ā-varjita 使役(過受分) → Vrj. 誠, 敬, 收, 收
 了, 引攝 Bodh-bh., Mvyut.
 āvarjita-mānasa 形 誠心, 收了心 Mvyut.
 ā-varta 男 回轉; 渦卷; 捲毛, 編髮; 旋, 盤
 徘徊, 繞, 旋轉, 旋還, 旋復, 漩復, 洄復, 洄復旋
 返, 湍激洄復 Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Mvyut.,
 梵干。 → pradakṣiṇa〜, sahasra〜。
 ā-vartaka 男 [神話中の雲の一種]; [毒蟲の一種];

隨順生死 Buddh-c. 72.
 āvarta-grāha-bhaya 男 水火畏(?) Bodh-bh.
 146.
 āvarta-dhāraṇi 女 (香) 旋陀羅尼 Gaṇḍ-vy.
 ā-vartana 形 回轉する。 中 回轉; 回歸; 年; 轉
 轉, 迴轉; 繞; 伏, 伏除 Daś-bh., Mvyut.
 āvartana-parivarta 男 周旋, 廻轉, 周旋來去
 Gaṇḍ-vy.
 ā-vartani 女 [魔術の一種]。
 ā-vartaniya 未受分 回轉せらるべき; 反復せらるべ
 き。
 āvarta-parivarta 男 游復 Gaṇḍ-vy.
 ā-vartamāna 現分 旋回する, 回轉する; 進む, 進行
 する。
 ā-vartika 形 廻轉 Abh-vy.
 ā-vartita 使役(過受分) 回轉せる。
 ā-vartin 形 旋轉する; 歸る; 編髮を有する, 處々に
 捲毛ある(馬等)。
 ā-varṣa 男 灌ぐこと; 降雨。
 ā-varṇa 男 引裂くこと, 切り去ること。 ∼m 副
 引裂きて。
 ā-varhita 使役(過受分) → Bārḥ 1.
 ā-Val, → Val.
 āvali 女 條, 線, 列; 連續, 王朝, 血統。
 ā-valita 過受分 → Val.
 āvali 女 [=āvali]; 列 Saddh-p.
 a-Valg āvalgate. → Valg.
 ā-valgita 過受分 跳躍せる。
 ā-valgin 形 跳躍する。
 āvaśyaka 形 (女-i) [a-vaśyaより] 必然の, 避くべ
 からざる。 中 避け難きこと; 樂天的なる性質。
 āvaśyakatā 女 必然性, 避け難きこと。
 ā-Vas āvasati. → Vas 3.
 āvas, [Vas I.の三過(三人)單]。
 ā-vasati 女 夜の宿, 宿處; 夜。
 ā-vasatha 男 夜の宿, 宿處; 住處; 居住, 住處
 Mvyut. → eka〜。
 ā-vasathika 形 (女-i) 一の家に居住する; 家族の,
 家庭の。
 āvasathi-kṛta 形 (男)の住める(Jāt-m.).
 ā-vasathya 形 在宅の; 男 家庭の聖火。
 āvasathyādhāna (ya-ādh°) 中 家庭の聖火を作る
 こと。
 āvasāyin 形 生計の資を求むる或は世話する。
 āvasthika 形 [ava-sthāより] 境遇と一致せる, 時宜
 を得たる; 分位, 約位 Abh-k., Abh-vy., Mvyut.
 ā-Vah āvahati(-te), āvāhayati(使役)。 → Vah.
 ā-vaha 形 (一°)を持ち來す, ……を爲し遂ぐる; 産出
 する; 引, 能引; 起, 生, 能生; 得, 得受, 成就
 Daś-bh., Suv-pr., Laṅk., Abh-vy. → sukha〜。
 ā-Vā āvāti. → Vā 1, 3, 4.
 ā-Vāñch, → Vāñch.
 ā-vāpa 男 散布, 播種; 挿入; 混合; 鏝; 腕環; 外交
 術; 敵意ある目的, 參戰の意志; 器; 聖火に對する
 主要なる供物。
 ā-vāpaka 中 手頸の裝飾(の一種)。

ā-vāra 男 防禦, 保護; 障 Sūtr. → skandha-
 āvāri 女 市場の假小屋.
 ā-vāridhi 副 海に至る迄.
 āvāri 女 [=āvāri] 舖, 市肆, 庫 Divy.: ~
 ryām vyāpāram kuru 可於市肆之中專且檢校 Divy.
 27.
 āvāri-gata 形 庫藏物 Divy.
 ā-vāsa 男 住處; 家; 居, 住, 住處, 止, 止住, 頓
 止, 家, 舍宅, 房舍 Saddh-p., Rāṣṭr., Vin., 4 m.,
 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜: asmād ~ ād
 alam 不應是中住 Prāt-m. 485.
 ā-vāsana 中 熏 Śikṣ.
 āvāsa-mātsarya 中 住貪妬 Dharm-s.
 āvāsaya 名動 → vāsaya.
 ā-vāsika 形 (於)に住處を有する (Jāt-m.).
 ā-vāsita 通受分 居止 Divy., 熏習(愛著) Lank.
 ā-vāsin 形 (一°)に住居せる.
 ā-vāsyā 未受分 住はるべき, 住むに適せる; 被覆せ
 らるべき [=ācchādaniya]; ……に満ちたる.
 ā-vāha 男 招待; 結婚すること; 能引, 所引
 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; 娶, 嫁, 迎婦, 取親, 娶與 Abh-
 vy., Mvyut.
 ā-vāhaka 形 (女-ikā) 引, 引發, 能引; 遣; 生,
 可得 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy.
 ā-vāhakatva 中 順益, 令生 Abh-vy. 537.
 āvāhaka-hetu 男 引發因 Bodh-bh.
 ā-vāhana 中 招待; 派遣; 呼ぶこと; 引發, 能
 引, 請召, 請至 Mañj-m., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.;
 乘, 能乘 Abh-vy.
 āvāha-vivāha 男 婚姻, 結婚姻, 共結婚姻
 Bodh-bh.
 ā-vāhita 通受分 招待せられたる.
 ā-vāhya 未受分 招待せらるべき.
 āvi 女 苦痛; 陣痛. —°, 形 (女-i).
 āviṣ-karaṇa 中 = āviṣkarana; 現, 顯現 Abh-
 vy., Mvyut.
 āvika 形 羊に由來せる, 羊毛の. 中 羊皮; 羊毛製
 の織物.
 āvika-sautrika 形 羊毛の絲より成れる.
 āvikṣita 男 [Marutta (Avikṣit の後裔) の名].
 ā-vigna 通受分 → Vij.
 ā-Vij, → Vij.
 ā-vitta 形 存在する, 在る.
 ā-Vid āvedayati (I. 便役). → Vid 1, 2.
 ā-vid 女 豫知, 先見, 知識.
 āvidūrya 中 [a-vidūra x] 接近.
 ā-viddha 通受分 → Vyadh. 貫れたる, 彎曲せる,
 曲れる, 虚偽の (Lal-v.); 貫, 射 Daś-bh., Mvy-
 ut.; 所制 Śikṣ.: mārāṅkuśa ~ 魔鉤所制 Śikṣ.
 51.
 āvidvas 三過分 知る, 通ぜる, ……に熟達せる.
 ā-vinna 形 存在する, 在る.
 āviprabhāvana 中 [= āviṣ-prabhāvana = āvirbhā-
 vana]; 顯示 Śikṣ.: buddha-bala ~ 顯示佛
 力 Śikṣ. 338.

āvir-bhāva 男 顯示; 發表; 顯, 現前出, 現前
 出者 Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.
 āvir-BHū, → āvis.
 āvir-bhūti 女 = āvir-bhāva.
 āvir-maṇḍala 形 圓形を示せる(弓).
 āvir-mukha 形 見ゆる或は明らかなる口を有する.
 āvir-mukhi 女 右眼; 眼.
 āvir-mūla 形 根を露出せる, 根絶せられたる.
 āvir-hita 形 顯はされたる, 出現せる.
 āvila 形 濁れる, 不明瞭なる; (一°)に染まりたる,
 ……の満ちたる; ……と混じたる; 雜, 染, 濁,
 濁染, 染濁, 所染濁, 亂濁, 濁穢, 愛濁, 垢穢 Lal-v.,
 Saddh-p., Daś-bh., Lank., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.
 → an~, an~tā.
 āvilaya 名動他 āvilayati 濁す; 汚す.
 ā-vivaraṇayīṣu 形 述べんと欲する.
 ā-vivedayīṣu 形 知らしめんと欲する, 報告せんと
 欲する.
 ā-Viś āviśati(-te), āveśayati(便役). → Viś.
 āviṣ-karaṇa 中 顯示, 表示; 說, 悔 Mvyut.
 āviṣ-karaṇatā 女 顯發 Bodh-bh.
 āviṣ-kāra 男 = āviṣ-karaṇa.
 āviṣ-Kṛ, 明白にす; 明示す, 覆を去る; 示す; 顯,
 顯現, 發露, 不敢覆藏 Prāt-m., Śikṣ., Abh-vy.,
 Bodh-bh. → āviṣ-pra-Kṛ.
 āviṣ-kṛta 形 明かなる; 現はされたる; 覆を除かれ
 たる; 知られたる; 發露顯現, 發露(悔除) Abh-
 vy. 386.
 ā-viṣṭa 通受分 入れる; (一°)に染まれる, ……に満ち
 たる, 魅せられたる. → Viś. 所著, 所魅著,
 冥縛, 所執持, 所執魅 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Bodh-
 bh.: amanuṣyena gṛhito bhaved ~ h 爲非人之
 所魅著 Aṣṭ-pr. 767.; karuṇā ~ 悲所執持 Bodh-
 bh. 247.; bhūta ~ 鬼神之所著者 Lal-v. 71.;
 vidyā-dhāribhir ~ aḥ 神呪冥縛 Divy. 528.
 ā-viṣṭatva 中 魅せられたること, 負荷せられたること.
 ā-viṣṭita 通受分 → Viṣṭ.
 ā-viṣṭya 形 明らかなる.
 āviṣ-pra-Kṛ, 現, 起, 深生, 說 Divy., Lank.,
 Śikṣ., Bodh-bh. → āviṣ-Kṛ.
 ā-vis 副 眼の前に, 露はに, 明瞭に; [As & BHū
 と俱に] 明白となる, 現はる; 顯, 現 Lal-v.,
 Mvyut.: āvirbhavati tirobhāvam epi pratyanu-
 bhavati 或現或隱, 顯或領受隱 Mvyut. [BHū(便役)
 又は Kṛ と俱に] 明白にす, 示す. → āviṣ-Kṛ.
 ā-Vi āveti(I). → Vi 1, 3.
 āvi 1. 女 = āvi.
 āvi 2. 形 女 = āvya.
 ā-vita 通受分 [Vyā] 覆はれたる, 著用せしめられた
 る(特に聖紐を); 被著 Mvyut.
 ā-vitin 男 肩に聖紐を掛けたる婆羅門. → prāci-
 na~.
 āvi-sūtra 中 羊毛の絲.
 āvutta 男 義兄弟, 姉妹の婿.
 ā-Vṛ āvṛnoti, āvārayati(I. 便役). → Vṛ 1, 2.

ā-Vrj āvrñkte, āvarjayati(使役), āvarjya(使役(不変分)). → Vrj.
ā-Vrt āvartate. → Vrt.
ā-vrt ㊦ 轉向; 道の屈折; 道, 方向; 歸來, 入ること; 祭式の次第; 儀式; 方法.
ā-vrta ㊦ 圍繞せられたる; 掩はれたる; 擡げられたる; 障碍ある(佛敎). → Vr 1. ㊦ 所蔽, 所覆, 覆蔽, 有覆, 深覆, 所覆蔽, 所纏覆 Gand-vy., Daś-bh., Bodh-bh., Sūtr., Śikṣ.; 礙, 障, 覆障, 被障, 障處 Gand-vy., Lanḅ., Cat-ś., Bodh-bh., Abh-vy. ㊦ [或ハ混血種姓(階級)].
ā-vṛti ㊦ 被覆, 遮蔽; 障碍(佛敎); ㊦ 障, 礙, 有覆 Gand-vy., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-v., Abh-k., Abh-vy.
ā-vṛtta ㊦ ㊦ 神に祈禱又は讚歌を捧ぐること.
ā-vṛttatva ㊦ 掩はれたること; (戸の)閉ざされたること.
ā-vṛtti ㊦ 入ること; 歸來; 反覆; 日至(夏至及び冬至); 再生; 行程, 方向; ㊦ 轉, 退轉, 退還, 廣大轉 Sūtr.; [=āvṛti] 障 Madhy-vibh. 5. → punar~.
ā-Vṛṣ āvarsati(-te). → Vṛṣ.
ā-vega ㊦ 興奮, 激昂.
āveṇika ㊦ 特別の, 他と關係なき, 獨立の (Divy., Lal-v.); ㊦ 不共, 獨行 Aṣṭ-pr., Abh-k., Abh-vy., Madhy-vibh., Bodh-bh., Mvyut.: aṣṭādaśa ~ ā buddha-dharmāḥ 十八不共佛法, 十八不共法, 佛十八不共諸功德 Aṣṭ-pr., Dharm-s., Mvyut. [1. nāsti tathāgatasya skhalitaṃ 身無失, 2. nāsti ravitaṃ 口無失, 3. nāsti musitasmtitā 意無失, 4. nāsty asamāhita-cittaṃ 無不定心, 5. nāsti nānātva-samjñā 無異想心, 6. nāsty apratisamkhyāyopekṣā 無不知捨心, 7. nāsti chanda-parihāniḥ 欲無減 8. nāsti vīrya-parihāniḥ 精進無減, 9. nāsti smṛti-parihāniḥ 念無減, 10. nāsti samādhi-parihāniḥ [漢譯闕] (定無減), 11. nāsti prajñā-parihāniḥ 智慧無減, 12. nāsti vimukti-parihāniḥ 解脫無減, 13. nāsti vimukti-jñāna-darśana-parihāniḥ 解脫知見無減, 14. sarva-kāya-karma-jñāna-pūrvamgama-jñāna-nuparivṛtṭiḥ 身業隨智慧行, 15. sarva-vāk-karma-jñāna-pūrvamgama-jñāna-nuparivṛtṭiḥ 業隨智慧行, 16. sarva-manas-karma-jñāna-pūrvamgama-jñāna-nuparivṛtṭiḥ 意業隨智慧行, 17. atite 'dhvany asaṅgama-pratihata-jñānaṃ 知過去無礙, [漢譯は此の間に「知未來無礙」あり], 18. pratyutpanne 'dhvany asaṅgama-pratihata-jñāna-darśanaṃ 知現在無礙] Dharm-s.; aṣṭādaśa ~ bodhisattva-dharmāḥ 菩薩十八不共法 [1. anupadīṣṭa-dānāḥ 行施不隨他教, 2. anupadīṣṭa-sīlāḥ 持戒不隨他教, 3. anupadīṣṭa-ksāntayāḥ 修忍不隨他教, 4. anupadīṣṭa-vīryāḥ 精進不隨他教, 5. anupadīṣṭa-dhyānāḥ 靜慮不隨他教, 6. anupadīṣṭa-prajñāḥ 慧不隨他教, 7. saṃgraha-vastu-sarva-sattva-saṃgrāhakāḥ 以攝事攝一切有情, 8. parināmana-vidhijñāḥ 知回向儀者, 9. upāya-kausalya-sarva-sattva-caritādhipatyā-parama-yāna-niryāṇa-saṃdarśakāḥ 方便善巧爲主令一切有情有所修行, 示現於最上乘而得出離, 10.

mahā-yānācyutāḥ 不退大乘, 11. saṃsāra-nirvāna-mukha-saṃdarśakāḥ 開示輪迴涅槃門者, 12. yama-ka-vyatyastāhāra-kuśalāḥ 於對偶及反轉文句善巧, 13. jñāna-pūrvamgamānabhisamkāra-niravadya-sarva-jaṇmābhimukha-pravṛttāḥ 智爲前導現起無行離過一切生, 14. daśa-kuśalopeta-kāya-vāg-manas-karmāntāḥ 身語意業具諸十善者, 15. sarva-duḥkha-skandha-sahānātmopādāna-sarva-sattva-dhātu-parityāgīṇāḥ 忍受一切苦蘊不捨自身執受一切有情界, 16. sarva-jagad-abhirucita-saṃdarśakāḥ 能爲示現一切世間之所愛樂, 17. kiyat-krechra-bālaśrāvaka-madhyā-śubha-vyūha-ratnakalpavṛkṣa-dṛḍha-sarvajñatā-cittāsampramūṣitāḥ 雖於衆多苦惱愚夫及聲聞中住, 如清淨莊嚴如意寶樹堅固, 不忘失一切智心, 18. sarva-dharma-paṭṭavābaddhābhiseka-prāpti-buddha-dharma-saṃgha-paryeṣṭi-saṃdarśana-nivṛttāḥ 一切法總所繫得灌頂, 不捨離稀求示現佛法僧] Mvyut.

āveṇika-dharma ㊦ ㊦ 不共法 Bodh-bh.

āveṇika-buddha-dharma ㊦ ㊦ 不共佛法 Bodh-bh.

āveṇiya ㊦ 獨特なる, 固有の (Divy.).

ā-vedaka ㊦ (一°)を知らしむる, 告ぐる, 述ぶる.

㊦ 告訴人, 上告人, 原告; 知らしむる人, 告ぐる人.

ā-vedana ㊦ 告知, 通知; 法律上の告示.

ā-vedaniya ㊦ 報知せらるべき, 示さるべき.

ā-vedita ㊦ ㊦ 知らしめられたる, 語られたる. → Vid 1.

ā-vedin ㊦ (一°)を告知する, 宣言する.

ā-vedya ㊦ = āvedaniya.

ā-vedha 1. ㊦ 動搖せしむること; 動搖, 振動.

āvedha 2. ㊦ ㊦ 力, 勢力, 勢分, 疾利, 引發力, 所引發 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 所望 Mvyut.; 引 [Tib. ḥphen-pa] Prajñ-vy. 52.

āvedha-vaśa ㊦ ㊦ 行願力 [= pūrva-praṇidhāna-caryā-balādhāna] Sūtr. 39.

ā-veśa ㊦ 入り來ること; 所有すること; 熱心, 目的, 熱心; (怒等の)發作, 憤怒; ㊦ 初發, 初發入 Abh-vy.; 一° 所媚 Bodh-bh.: na...kleśa~ prakṛtitām avagamya 不知爲煩惱所媚令改本性 Bodh-bh. 120.

ā-veśana ㊦ 入ること, 入口; (魔に)憑かるゝこと; 憤怒; 作業場.

ā-veśavat ㊦ (一°)に憑かれたる.

ā-veśika ㊦ 独自の, 特殊の, 固有の. ㊦ 客, 訪問者. ㊦ 接待. ㊦ (㊦ -ā) ㊦ 取 [= utpādikā (Prajñ-vy. 442), Tib. ḥjug-par-byed-pa] Aṣṭ-pr. 441.

ā-Veṣṭ āveṣṭate, āveṣṭayati(使役). → Veṣṭ.

ā-veṣṭa ㊦ 絞殺; 圍むこと, (衣類を以て)覆ふこと.

ā-veṣṭaka ㊦ 罫.

ā-veṣṭana ㊦ 被覆; 紐; 封.

ā-veṣṭita ㊦ ㊦ 圍まれたる, 封ぜられたる.

āvya ㊦ (㊦ āvi) 羊の種屬に關する; 羊毛の.

ā-vyakta ㊦ ㊦ 全く明瞭なる.

āvyaktika ㊦ [a-vyakta より] 考へ得られざる, 無形

の、重要ならざる。

ā-vyathā 〔安〕 軽き感動, 感動の徴候。 ~m Kr, 多少感動す。

ā-Vyadh āvidhyati. → Vyadh.

ā-Vyā āvyayati(-te). → Vyā.

ā-vyātta 〔形〕 少しく開ける。

ā-vyādha 〔男〕 貫くこと, 彫込むこと, 刻みつくること; 最初の突入。

ā-vyādhin 〔形〕 撃つ, 襲ふ, 傷つくる。

ā-Vraj āvrajati. → Vraj.

ā-Vraśc āvrāscati(-te). → Vraśc.

āśa 〔男〕 食物; 〔漢〕 食 Abh-vy.

ā-Śams āsamsati(-te). → Śams.

ā-śamsa 〔形〕 (一°)を期待する。

ā-śamsana 〔甲〕 欲望。

ā-śamsaniya 〔形〕 望ましき。

āśamsa-parikalpita 〔形〕 たゞ期待せらるゝ。

ā-śamsā 〔女〕 欲望; 期待, 希望; 豫感。

ā-śamsita 〔通受分〕 → Śams.

ā-śamsitr 〔男〕 [業]と俱に] 布告者。

ā-śamsin 〔形〕 (一°)を告知する, 約束する。

ā-Śak, → Śak 2.

āśaka 〔形〕 食ふ。

ā-Śaṅk āśaṅkate. → Śaṅk.

ā-śaṅkaniya 〔未受分〕 恐怖せらるべき, 懸念せらるべき, 期待せらるべき, 推測せらるべき。

ā-śaṅkā 〔女〕 懸念; (從)の不安; 恐怖; 疑念; 危険。

ā-śaṅkita 〔通受分〕 → Śaṅk. 〔甲〕 恐怖, 疑惑 (Jāt-m.).

ā-śaṅkin 〔形〕 恐怖する; 想像する; 思惟する; 心配又は畏怖せしむる; 疑はしき, 不確かなる。

ā-śaṅkya 〔不変分〕 → Śaṅk.

āśana 〔甲〕 [=asana]; 〔漢〕 飯食 Lal-v.

ā-śaya 〔男〕 休息處, 寢床; 座, 場處; 住處, 隱遁處; 心, 精神; 思想, 意向; 考へ方; 〔漢〕 心, 大心, 淨心, 自心, 期心, 直心, 正直心, 深心, 深心本願, 心性, 心情, 心行; 意, 心意, 立意, 故意; 樂, 心樂, 意樂, 志樂, 欲樂, 所樂, 樂欲, 心所樂欲; 欲, 所欲, 意欲; 志力, 志願, 希望, 希冀; 解; 思, 思惟; 志性之所歸趣 Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Kāśy., Rāṣṭr., Laṅk., Guhy-s., Bodh-c., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 發心 Sūtr.; 藏 Divy., Śikṣ., Abh-vy.; 哀慙(具) Lal-v. 243.; 一° 樂 Gaṇḍ-vy.; 〔香〕 阿世耶 Abh-vy.

āśaya-jña 〔形〕 〔漢〕 知所好 Saddh-p.

ā-śayatas 〔從〕 〔副〕 故意に, 熱心に (Divy., Av-s.); 〔漢〕 從意樂 Mvyut.

ā-śayatā 〔女〕 〔漢〕 樂, 意樂, 希冀 Bodh-bh.

āśaya-bala 〔甲〕 〔漢〕 深心力, 意樂力, 思心 Mvyut.

āśaya-viśuddhatā 〔女〕 〔漢〕 清淨意樂 Bodh-bh.

āśaya-viśuddhi 〔女〕 〔漢〕 清淨意樂, 清淨心 Bodh-bh., Dharm-s.

āśaya-sampatti 〔女〕 〔漢〕 意樂圓滿 Bodh-bh.

āśayāgni 〔男〕 消化の火。

ā-śariram 〔副〕 身體に至るまで, 身體をも含めて。

āśava 〔甲〕 迅速。

āśas 〔女〕 願望, 期待, 希望。

ā-Śā, → Śā 1.

āśā 1. 〔女〕 [屬, 因]と俱に, 又は [一°] 願望, 期待, 希望; 〔漢〕 願, 所願, 望, 所望, 希望, 意, 意望, 樂欲 Sapt-pr., Mañj-m., Guhy-s., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut. → nirāśa. ~ayā 〔男〕 ……を期待して或は希望して。

āśā 2. 〔女〕 空閑; 地方, 方位。

āśā-kṛta 〔形〕 (成功の)希望を有せる。

āśā-gaja 〔男〕 [天の一角を護持すると稱せらるゝ神話上の象の名]。

āśā-cakra-vāla 〔甲〕 全地平線又は水平線, 全視界。

āśā-janana 〔形〕 希望を與ふる。

āśāṭavi (āśā-aṭ°) 〔女〕 大なる林 (Divy.).

āśā-parākāśa (°ra-āk°) 〔男〕 [因] 遠き期待。

āśā-pāla 〔男〕 地方又は陣營の守護者又は主。

āśā-piśācikā 〔女〕 鬼の如く残酷にして空しき希望。

āśā-piśāciki 〔女〕 [同上]。

āśā-bandha 〔男〕 希望の綱, 期待, 信賴; 蜘蛛の巢。

āśā-mukha 〔甲〕 羅針盤の一方位。

āśāvāt 〔形〕 希望に満てる; (因, 因)を希望する; 〔漢〕 希望 Bodh-bh.

āśā-vaha 〔男〕 太陽。

āśā-vāśas 〔甲〕 外氣の衣. 〔形〕 裸體の; [Vasと俱に] 裸體にて歩き廻る。

āśā-vijaya 〔男〕 世界征服。

āśā-vibhinna 〔形〕 希望を斷たれたる, 失望せる。

āśāśa (āśā-āśa) 〔形〕 四方を満たす。

ā-Śās āśāste. → Śās.

ā-śāsana 〔甲〕 乞ふこと, 懇願。

ā-śāsaniya 〔未受分〕 希望せらるべき, 懇願せらるべき。

ā-śāsita 〔通受分〕 → Śās 1.

ā-śāsītavya 〔未受分〕 〔漢〕 當欣讚 Bodh-bh. 287.

ā-śāsti 〔女〕 祈禱; 〔漢〕 希望, 望得 [=āśā-asti. Tib. re-ba] Prajñ-vy. 25., Abh-vy. 437.

āśāsti-śīla (°śā-as°) 〔甲〕 〔漢〕 希望戒, 望得戒 Abh-vy. 437.

ā-śāsya 〔未受分〕 望まるべき. 〔甲〕 願望, 祝福。

ā-Śikṣ, → Śikṣ.

ā-śikṣita 〔通受分〕 → Śikṣ.

ā-Śiñj, → Śiñj.

ā-śiñjita 〔通受分〕 → Śiñj. 〔甲〕 (鈴の)鳴ること。

āśita 〔使役〕 〔通受分〕 → Śā 2. 〔甲〕 食物。

āśin 〔形〕 (一°)を食する, 享受する; 〔漢〕 食 Bodh-g. → para-piṇḍa ~.

ā-śir 〔女〕 Soma 汁に加へらるべき牛乳。

ā-śiraḥ-pādama 〔副〕 頭より足まで。

āśiṣṭha 〔形〕 [āśuの(上)] 最も速き, 甚だ速き。

ā-śis 〔女〕 願望, 祈願, 祝福; 〔漢〕 深祝願 Mvyut.

ā-Śi āśete. → Śi 2.

āśih-kriya 〔形〕 求欲の働きの表はす(女)。

āśiyas 〔形〕 [āśuの(上)]. 〔甲〕 [副]。

āśir-geya 〔甲〕 祝福の辭を伴へる歌謠。

ā-śirta 〔通受分〕 → Śir.

āśir-vacana 〔甲〕 祝福。

āśirvacanākṣepa (°na-āk°) 〔男〕 [修辭法の一種]。

āśir-vācaka 〔形〕 願望を述ぶる。

āśir-vāda 男 祝福; 誦吉祥 *Mvyut.*
 āśirvāda-mantra 男 [同上].
 āśirvādābbidhānavat 形 祝福の言詞を含める.
 āśir-viṣa 男 = āśi-viṣa.
 āśi-viṣa 男 毒蛇, 蛇; 毒蛇, 蛇毒, 大毒蛇, 盛
 毒蛇; 蛇, 蟒蛇 *Divy., Av-ś., Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-
 pr., Suv-pr., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*; 齒毒 *Mvyut.*
 āśiviṣa-nadi 女 [七の神祕なる河の名] (*Divy.*).
 āśiviṣa-parvata 男 [或る神祕なる山の名] (*Divy.*).
 āśi-viṣā 女 [或る神祕なる河の名] (*Divy.*).
 āśiviṣopama (°su-up) 形 蛇の如き = 毒ある(矢).
 āśu 形 速き; 速, 疾, 速疾, 捷疾, 進速; 不久
Divy., Lal-v., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.
 副 速かに, 直ちに; 疾 *Divy.* 男 馬.
 āśu-kārin 形 速かに爲す, 行動迅速なる. 男 [熱病
 の一種].
 āśu-kriyā 女 迅速なる處置.
 āśu-klānta 形 速かに萎める.
 āśu-ga 形 速に行く. 男 矢; 風; 太陽.
 āśu-gatitva 中 速かに行くこと或は動くこと.
 āśu-gatva 中 速かに行くこと; 疾行, 速疾行
Abh-vy.
 āśu-gandha 男 [菩薩の名] 速香 *Mvyut.*
 āśu-gamana 中 迅速なる行程.
 āśu-gāmitva 中 速疾而轉 *Abh-vy.*
 āśu-gāmin 形 速かに行く, 速かに動く. 男 太陽.
 ā-Śuc, → Śuc.
 āśutara 此 速, 急 *Abh-k., Abh-vy.*
 āśutara-vṛtti 女 速疾進 *Mvyut.* → āśu-
 vṛtti.
 āśu-toṣa 形 容易に満足する.
 āśutva 中 迅速.
 āśu-patvan 男 速かに飛ぶこと.
 āśu-prajña 形 捷慧, 速慧, 慧速 *Mvyut.*
 āśu-prajñatā 女 捷疾智 *Rāṣṭr.*
 āśu-bhāvin 形 速かに進む.
 āśumat 形 迅速なる. 副 速かに.
 āśu-mokṣa 男 速出 *Sūtr.*
 āśuyā (具) 副 速かに, 急速に.
 āśu-ratha 形 速き車を有する.
 āśu-vikrama 形 歩みの速き.
 āśu-vidyut-sadrśa 形 速如電, 電光見, 電光刹
 那頃現, 電光即見即滅 *Lank.*
 āśu-vimardita 形 速かに粉碎せられたる.
 āśu-vṛtti 形 速に進行する. 女 事速疾, 速疾
 轉 *Abh-vy.*
 āśu-vṛttitva 中 [同上(形)副].
 ā-śusukṣaṇi 形 閃光を發する. 男 火.
 āśu-śuṣka 形 速かに乾燥する.
 āśu-śuṣkatva 中 [同上副].
 āśu-śravas 男 [神話中の馬の名].
 ā-Śuś āśuśate. → Śuś 2.
 ā-śuśāṇa 現分 → Śuś 2.
 āśu-śeṇa 形 快速なる矢を有する.
 āśu-samdheya 形 容易に結合又は和解せらるべき.
 ā-śṛta 過受分 [*<ā-śṛita*]; 託 梵干.

āśauca 中 [*a-śuci* り] (祭式上の)不淨.
 āścariya 形 俗 [*<āścarya*]; 希有, 未曾有
Maṅgy-v. 155.
 āścarya 形 奇異なる, 不思議なる; 希奇, 甚
 奇, 甚希, 希有, 希罕, 奇特, 希有奇特, 甚爲可怪
*Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Suv-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-
 vy., Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr., Mvyut.* 中 希有の
 現象, 奇事; 驚愕; 可怪, 驚異, 希異, 希有, 未
 曾有事 *Divy., Aṣṭ-pr., Cat-ś., Suv-pr.* ~ m 副
 甚奇, 希有, 奇哉, 驚惋 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr.*
 āścarya-bhūta 形 驚くべき; 甚希有, 希有事
Saddh-p.
 āścaryamaya 形 不思議なる.
 āścaryādbhuta 形 甚希奇, 奇特未曾有, 不可
 思議 *Bodh-bh.*
 ā-ścutita 過受分 注がれたる, 滴らされたる.
 ā-ścyotana 中 水滴にて濡すこと, 注ぎかくること;
 排水すること, 撒水すること.
 āśmana 形 石の.
 āśmarika 形 (膀胱の中の)石に悩まされる.
 ā-Śyā āśyāyate. → Śyā.
 ā-śyāna 過受分 → Śyā.
 āśraddhya 中 [*a-śraddha* り] 不信, 非信
Bodh-bh., Vijñ-t., Madhy-vibh., Mvyut.
 āśraddhya-bahula 形 多不信 *Bodh-bh.*
 ā-śrapaṇa 中 軽く煮ること,
 ā-śrama 男 中 隱遁處, 苦行者の住處; 住處
Gaṇḍ-vy.; 寺舎, 仙人窟 *Buddh-c. 13, 53.* 男 隱棲
 期 [婆羅門生活の四期の一].
 āśrama-dveṣa-samkarin 形 隱棲處に敵意を有し
 て之を擾す.
 āśrama-pada 中 = āśrama; 仙所, 仙人居住,
 仙人住處; 住處, 居止, 居住 *Divy.*: ṛṣer ~ m 有
 仙人居住 *Divy. 442.*; ṛṣer agram ~ m 有一仙人
 居止 [ṛṣer ekam ~ m] *Divy. 439.*
 āśrama-maṇḍala 中 隱棲處の群.
 āśrama-vāsin 男 隱遁者.
 āśrama-sad 男 [同上].
 āśrama-sthāna 中 隱遁處.
 āśramālaya (°ma-āḷ) 男 隱遁者.
 ā-śramika 形 隱棲處の; 隱棲期 [婆羅門生活の四
 期の一]に屬する. 男 隱棲者.
 ā-śramin 形 婆羅門生活の四期の一に屬する. 形
 男 梵志, 學仙士 *Buddh-c. 55.*
 ā-śraya 男 …に倚りかゝること, …に附著する
 こと; …との連絡, …への專注; …に頼ること,
 …との關係; 保護, 支持; 避難處, 隠れ場處,
 保護處; 座, 住居; 容器; 基礎; (論理上の)主辭;
 依, 所依, 能依, 依止, 所依止, 依託; 依法, 依
 處, 所依因 *Aṣṭ-pr., Lank., Śikṣ., Sūtr., Bodh-c.,
 Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Bodh-bh., Madhy-vibh.,
 Sāṃkhy-k.*; 身, 依身, 身心; 身體; 身命 *Divy.,
 Av-ś., Rāṣṭr., Daś-bh., Guhy-s., Sūtr., Bodh-bh.*:
 ~sya parāvṛtṭih 轉依 *Vijñ-t. 43.* —° 形 依據
 する, 關係する.
 āśraya-gata 形 附在所依 *Bodh-bh.*

ā-śrayaṇa 形 (女-i) ……に避難する; (一°)に關する。 甲 ……に頼ること, ……への依據; 避難處。
 ā-śrayaṇiya 未受分 頼らるべき, 従はるべき, 依處たるべき; 適用せらるべき; 依止; 所依止; 所寓, 居住所用 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Mvyut.*
 ā-śrayaṇiyatva 甲 [同上]。
 ā-śrayatas 副 接近の結果として。
 ā-śrayatva 甲 依倚, 附著; 支持, 扶助, 基礎; 住, 依止, 所依性 *Bodh-c., Abh-vy.*
 āśraya-dūratā 女 依處遠 *Abh-vy.*
 āśraya-parā-vṛtta 形 轉依, 變住, 所依已轉 *Sūtr., Mvyut.*
 āśraya-parā-vṛtti 女 轉依 *Sūtr.*
 āśraya-pratiṣṭhāna 甲 依處 *Gaṇḍ-vy.*; sarvasattva ~ bhūtātā 普作一切衆生所依, 能作一切衆生依處, 悉能載持一切衆生 *Gaṇḍ-vy. 110.*
 āśraya-pravṛtti 女 轉依 *Bodh-bh.*
 āśraya-bhūta 形 (屬, 一°)の支持又は基礎たる; 保護者たる; 保護する, 支持する; 爲依, 爲依止 *Abh-vy.*
 ā-śrayavat 形 支持を有する。
 āśrayāṅga 甲 依分, 依止分, 所依支 *Madhy-vibh.*
 āśrayānīrita 形 無所依, 不依(一切境界, 不依著一切境界 *Gaṇḍ-vy.*
 āśrayāśa (°ya-āśa) 男 (家を食ひ盡くすもの), 火; 非行によりて保護を失へる人。
 āśrayāsiddha 形 主辭に關し論理上認容し難き; 所依不成 *Nyāy-pr., Mvyut.*
 ā-śrayitavya 未受分 適用せらるべき。
 ā-śrayin 形 (一°)に固著する, ……に坐せる, ……に住する, ……に關する; 依 *Sāmkhy-k.*
 āśrayi-BHū, 依, 爲依 *Abh-vy.*
 ā-śrava 1. 形 從順なる, 聽從する, 傾聽する; 聞 *Śikṣ.*
 ā-śrava 2. 男 [= āśrava] 漏, 煩惱 *Lal-v., Sūtr.,* → āśrava.
 āśrava-kṣaya 男 [= āśrava-kṣaya]; 盡漏 *Sūtr.*
 āśravakṣaya-jñāna-bala 甲 漏盡智力 *Dharm-s.*
 āśravakṣaya-jñāna-vaiśāradya 甲 知漏盡智斷 *Dharm-s.*
 āśrāddhya 甲 [a-śraddha ㄨㄛ] 不信 *Abh-k.*
 ā-śrāvaṇa 甲 聽かしむること; (om 等の語を以て)呼び掛くこと。
 ā-Śri āśrayati(-te). → Śri.
 ā-śrita 通受分 → Śri. 依, 所依, 能依, 依止, 依倚, 所依止 *Buddh-c., Lan̄k., Sūtr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Madhy-vibh., Sāmkhy-k.*; 著, 有著 *Lan̄k., Gaṇḍ-vy.*; 親近, 親附 *Saddh-p., Suv-pr.* 男 從者, 家來, 下僕。
 āśrita-karman 甲 能依業, 能依事 *Abh-vy.*
 ā-śritatva 甲 依存; 依 *Abh-vy.*
 āśrita-bhūta 通受分 作能依止 *Abh-vy.*
 ā-śritya 不憂分 → Śri.
 ā-Śriṣ, → Śriṣ.

ā-Śri āśrinīte. → Śri 2.
 ā-Śru āśrnoti, āśrute, āśrāvayati(便役). → Śru 1, 2.
 ā-śrut 形 聞く。
 ā-śruta 通受分 傾聽せられたる, 聞かれたる; 聞こゆる; 約束せられたる, 一致せる。
 ā-śruti 女 聽覺の範圍; 聞 *Gaṇḍ-vy.*
 āśrut-karṇa 形 聞くべき耳を有する, 熱心に聞く。
 ā-Śruṣ, → Śruṣ.
 ā-śretr 形 頼れる, 支持を求むる。
 ā-Śliś āśliṣyati(-te). → Śliṣ.
 ā-śliṣṭa 通受分 → Śliṣ.
 ā-śliṣṭavat 通能分 → Śliṣ.
 āśliṣṭa-sānu 形 峯を擁する。
 ā-śleṣa 男 密著; 抱擁。
 ā-śleṣaṇa 甲 [同上]。
 ā-śleṣā 女 (單及び複) [或る月宿の名]。
 ā-śleṣita 便役 通受分 抱かれたる。
 āśva 形 馬に關する, 馬に由來する; 馬に牽かれたる(車等)。
 āśvatarāśvi 男 [*Buḍila (Āśvatarāśva の後裔) の名*].
 āśvattha 形 (女-i) Āśvattha 樹に由來する, Āśvattha 樹にて造られたる。
 āśvamedhika 形 Āśva-medha に關する。
 āśva-yuj 男 [同下男]。
 āśva-yuja 男 Āśvina 月; 七月 月雜. 甲 Āśvina 月の満月の日に行ふ供物祭 (*Pāka-yajña*). 形 星宿 *Āśvayuja* の下に生れたる。
 āśva-ratha 形 馬車に屬する。
 āśvalāyana 男 [或る學者の名]; 馬行 *Lan̄k.*; 阿舒羅 *Lan̄k.*
 ā-Śvas āśvasiti, āśvasati(-te), āśvāsayati(便役). → Śvas.
 ā-śvasta 通受分 元氣づけられたる, 宥められたる (*Av-s.*). → Śvas.; 安穩, 安穩者, 得安穩 *Divy., Śikṣ.*; 休息, 令休息, 已蘇息 *Mvyut.*
 ā-śvasya 不憂分 心を擧めて, 信用を得て。
 ā-śvāsa 男 呼吸を恢復すること, 蘇生, 保養; 慰藉; (屬, 因)に對する信賴; 入息, 蘇息 *Lal-v., Sam-r., Madhy-v., Abh-vy.*; 安樂, 安慰, 安穩, 輕安; 無畏 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Śikṣ., Abh-vy.*; 寂靜(禪) *Lal-v.*; 止息 *Abh-vy. 627.*
 ā-śvāsaka 形 呼吸せしむる, 元氣づくる, 慰安の; 救度, 納息(?), 安慰者 *Lal-v. Mañj-m.*, 男 偈節, 三十二字偈 *Mvyut.*
 ā-śvāsana 甲 活氣を與ふること; 慰安; 復活; 安慰, 施安 *Bodh-bh.*
 ā-śvāsana 女 保養, 慰藉; 安穩, 安慰; 無畏 *Saddh-p., Bodh-bh.*
 ā-śvāsaniya 未受分 元氣づけらるべき, 慰藉せらるべき。
 āśvāsa-prāśvāsa 男 出入息, 入息出息, 内外出入息 *Madhy-v.*
 āśvāsa-prāpta 形 心得安穩, 其心安穩, 心意泰然 *Aṣṭ-pr.*
 ā-śvāsika 形 安穩, 安息 *Abh-vy.*

ā-śvāsita (過受分) 元氣づけられたる, 活氣づけられたる, 慰安せられたる; (釋) 安慰, 悉得安穩 Gand-vy. ā-śvāsīn 形 自由に呼吸する, 呼吸を恢復する, 快活となる, 復活する.

ā-śvāsta (過受分) (釋) 得安, 既安穩 Ast-pr. ā-śvāsyā (未受分) ... に就きて慰安せらるべき.

āśvika 形 馬上の, 乗馬の; 馬に關する; 馬の荷を運ぶ.

āśvina 形 (女 -i) 騎士の如き; Āśvin 雙神に屬する或は獻じたる. 男 [雨期の一曆月の名]; (釋) 仲秋 Mvyut.

āśvina-kratu 男 [Āśvin 雙神に捧げられたる供儀の名].

āśvina-śāstra 甲 [Prātar-anuvāka の一變形の名].

āśvineya 男 [Sahadeva の名]; [Nakula の名]; [Āśvin 雙神の稱].

āśvina 甲 乗馬一日の行程. 形 乗馬一日の行程の.

āśādhā 男 [曆月の名(六月—七月)]; (或る儀式に擔はる) Palāśi 樹製の棒; [祭日の名]; (釋) 四月 禁雜, 仲夏 Mvyut.; (釋) [人名] 阿沙 Buddh-c.; (釋) =asādhā; (釋) [二十八宿の中の二] 箕宿斗宿 [pūrva ~ & α uttara ~] Mañj-m. → āśādhā. 形 (女 -i) Āśādhā 月の; (釋) 春末 Divy.

āśādhaka 男 [人名].

āśādhā-pura 甲 [神話中の山の名].

āśādhā-bhūti 男 [或る奸人の名].

āśādhā 女 =asādhā.

āśādhādri-pura 甲 =āśādhā-pura.

āśādhī 男 Āśādhā の後裔.

āśādhīn 形 Āśādhā 棒を持てる.

āśādhī 女 Āśādhā 月の満月の日. → āśādhā.

āśādhīya 形 Āśādhā 星座の下に生れたる.

āṣṭama 男 第八の部分.

āṣṭamika 形 (Pāṇini の文典) 第八編に規定せられたる.

āṣṭrā 女 牛を驅る突棒.

āṣṭri 女 廣き森林.

Ās, II. 自 āste (釋) に於ては或は I. 自 āsate, II. 他 āsti] 坐す; (釋) の中に或は上に坐す; 坐し續く; 住す, 止まる; 居を構ふ; 屯營す; 休む, 留まる, 横はる; 固定す; 置去らる; (釋) に従事す; (釋) に専念す; [副 と共に] 振舞ふ, (或る状態に) 在り; [分, (不變分), 形, 名, 副 と共に] 引續きて... を爲す或は在り; (釋) に傾く; (釋) を有す; (釋) 在, 住 Abh-vy. āstām 命 止めよ, 足れり, 言を俟たず. (使役) āsayati (釋) 命住 Abh-vy.

adhi- (釋) に坐す或は横はる; ... に居住す; 占む. 住す; 踏む, 踏み入る; ... に休息す. (過受分) a-

dhyāsita ... に倚る; 或ものが(釋) に據る; (釋) と性交せる.

sam-adhi- (釋) を占む, ... に住む.

anu- (釋) の側に或は周圍に坐す; (釋) に續きて坐す.

ud- 無關係に存す.

upa- (釋) の側らに坐す, (從屬者又は懇願者) 取巻かる; 圍む; 坐す; 占む, ... に住す; (釋) に加入

す; (釋) に赴く, ... に達す; 實行す, 耽溺す; 經驗す, 蒙る; (或る行爲又は位置(分, (不變分))) を固執す; 期待す; 尊敬す; 祝福す, 實施す; (分) に努力す; (時を) 費す; (釋) 獲得 Divy.

pary-upa- 周圍に坐す, 圍む; (敵を) 包圍す; (釋) へ坐す; (釋) に加入す; 尊敬す, 崇む; 靜觀す; (釋) 事, 承事, 供養, 承事供養, 親近, 親近供養 Lal-v., Divy., Ast-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Guhy-s.; 禮觀, 致敬, 生恭敬 Divy., Śiks. (使役) paryupāsayati (釋) 事, 供養 Abh-vy.

sam-upa- 坐す; 實行す; 尊敬す; (釋) 供, 近, 親近 Daś-bh.

pari- (釋) の周圍に集る.

sam- 共に坐す; (釋) の周圍に集る; (分) に住す; 熟考す; (釋) を行ふ; (iva) の如く振舞ふ; (釋) に留意す, ... を認む; (釋) に匹敵す.

prati-sam- (釋) に抵抗す, ... に匹敵す.

ās 1. (釋) [歡喜 憤怒 苦痛又は不快を表はす].

ās 2., [As 1. の (一過) (三入) (四) (四)].

ās 3. (甲?) 口, 面. 男 公然.

āsa 1. 男 [As 2.] 灰, 塵.

āsa 2. 男 座; 近きこと.

āsa 3. 甲 弓.

āsamvarika 形 [a-samvara より] (釋) 不護, 不律儀者 Abh-vy.

ā-samsāra 形 輪廻の支配下に在る. ~m 副 世界開闢以來; 世の終末まで, 永久に.

ā-samhita (過受分) (釋) 引 Abh-vy.

ā-sakta (過受分) 執著せる; (心を) 專注せる. → Sañj.

āsakta-citta 形 (或る事に) 心を專注せる.

āsakta-cetas 形 [同上].

āsakta-prādur-bhāvin 男 (釋) 抱生(黃門), 觸抱 Mvyut.

āsakta-bhāva 形 (分) と戀し合へる.

āsakta-manas 形' = āsakta-citta.

ā-sakti 女 捉ふること, 迫害; (分, 一°) に對する執著又は耽溺; (釋) 著, 染著 Vijñ-t.

ā-saṅga 男 [同上]; (釋) 耽著, 沈溺 Abh-vy.

āsaṅga-kāṣṭha 甲 木釘, 杭 (Buddh-c.).

āsaṅgatā 女 [a-saṅga より] (釋) 無礙, 無障礙, 無罣礙 Daś-bh.

ā-saṅgin 形 -(一°) に執著せる.

ā-saja 形 執著せる; (車を) 牽引する.

ā-sajya (不變分) 執著して.

ā-Sañj āsajati, āsajyate(受), āsañjayati(使役). → Sañj.

ā-sañjana 甲 執著すること; 拘泥; 把手, 鉤.

ā-sañjita (過受分) 結ばれたる, 著用せる.

āsamjñā-nirodha 男 (釋) [a-samjñā° より] 無想滅(定), 非想滅盡(定) Lan̄k.

āsamjñika 形 [a-samjñā より] (釋) 無想, 生無想天 Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy. 男 (?) (釋) 無想, 無想有 Abh-vy. 188. 甲 (釋) 無想果, 無想報 Mvyut.

ā-samjñita (過受分) 先に契約を結べる; 協定せられたる, 合意の.

āsamjñin 形 [a-samjñā ㄤㄞ] 無想 *Abh-vy.*
āsamjñi-sattva 男 無想有情 *Abh-vy.*
ā-satti 女 連繫, 親縁; 狼狽, 當惑.
ā-Sad āsadati(ㄤ), āsīdati, āsādayati(便役), āsādyā (便役(不變分)). → Sad.
ā-sada 男 近づくこと, 遇ふこと; 得, 知, 親, 證悟 *Daś-bh.* → dur~.
ā-sadana 申 坐すること; 座席.
ā-sade 爲(不定)(業)に坐せんが爲に.
āsan 申 口, 頰.
āsana 申 坐すること; 端坐の姿勢; 休止すること, 屯營すること; 居住すること; 座, 席; 位置, (王の)位; 住處; 座, 踞座; 坐處, 床座, 坐具 *Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.* → ucca~.
āsana-parigrahaṃ Kr, 坐す.
āsana-prajñāpta 形 敷置(高)座, 敷座 *Suv-pr.*
āsana-prajñāpti 女 座席の準備 (*Divy.*).
āsana-bandha 男 坐すること.
āsanavat 形 座を有する, 坐せる.
āsana-vidhi 男 (客に)席を與ふること.
āsana-stha 形 坐する.
āsani-Kṛ, 座と爲す.
āsanopaviṣṭa (°na-up°) 形 坐座, 處座 *Gaṇḍ-vy.*
āsandikā 女 小椅子.
āsandi 女 椅子; 交椅 *Mvyut.*
āsandi-sad 形 椅子に坐せる.
ā-sanna (過受分) 近き. → Sad. 近, 能近, 近至, 近到, 得近, 親近, 去不遠 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Abh-vy., Bodh-bh.*; 安住 *Aṣṭ-pr.*; 現行 *Aṣṭ-pr.* → abhy~. 申 近きこと.
ā-sannaka 形 親近 *Sikṣ.*
āsanna-kāla 男 現在完了時(ㄤㄤ); 死期. 形 (死)の時期に到達したる.
āsanna-cara 形 (一)の附近にて動く.
ā-sannatara 化 越 より近き.
ā-sannataratā 女 より近きこと.
āsanna-prasavā 形 女 出産間際, 將に(卵を)産まんとする.
āsanna-yodhin 形 接戦に用ゐらるゝ(矢).
āsanna-vartin 形 近くにある或は住する.
āsanna-sthāyin 形 近, 親近 *Saddh-p.*
āsann-iṣu 形 口中に矢を有する.
āsanni-BHū, 近, 得近, 轉近, 隣近, 能親近 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Sikṣ.*
āsanni-bhūta 形 近, 倚, 已近, 已隣近 *Gaṇḍ-vy., Sapt-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
āsanvat 形 口を示す; 呈示する.
ā-sapinda-kriyā-karma 副 Sapinda の参加する葬儀の宴を準備する前に.
ā-saptama 形 第七まで.
āsamañja 男 *Asamañja* の後裔.
ā-samāpti 副 終まで, 初より終まで.
ā-samudra 副 海まで(一); ~āyām 海邊

Divy. 381.
ā-samudrāntam 副 海邊まで.
ā-sambādha 形 壓迫せられたる, 抑壓せられたる, 雑沓せる.
āsayā 女 副 = āsā 2.
ā-sarita (過受分) 入息 *Gaṇḍ-vy.*
ā-sava 男 蒸溜酒, 酒精飲料, 糖酒; 興奮せしむるもの.
ā-savitṛ 男 [同上].
āsas 副 [前 ā と共に] 口より口に, 手近に.
āsā 1. 女 [= āsā]; 欲願 *Lal-v. 65.*
āsā 2. 副 眼の前にて; 口頭にて; 親ら, 自ら; 直ちに.
āsāt 副 [āsa 2. の(從)] 手近かに.
ā-sāda 男 足掛臺, 踏臺; 坐敷團.
ā-sādana 申 置くこと; (一)を獲得すること, ……に到達すること; 作得 *Mvyut.*; 惱 *Prāt-m.* ~prekṣin 爲惱故作是念 *Prāt-m. 510.*
āsādanā 女 攻撃, 害意ある舉動 (*Jāt-m.*).
ā-sādayitavya (未受分) 近づかるべき, 到達せらるべき, 攻撃せらるべき.
ā-sādita (便役(過受分) [Sad]) 得 *Sikṣ.*; 惱 *Prāt-m.*
āsādita-vigraha 形 戦に慣れたる.
ā-sādyā (便役(不變分)) → Sad.
ā-sāyam 副 夕刻まで.
ā-sāra 男 敵を包圍すること, 侵入; 暴雨, 烈しき驟雨; 他國の介在によりて領土の分割せられたる國の王(戦時には自然に同盟者となる).
ā-sāraṇa 男 [或る Yakṣa の名].
āsāra-prasāmīta 形 驟雨に滅されたる.
āsāra-śarkarā 女 霽 降雹.
ā-sāva 男 Soma 汁を壓搾する祭官.
ā-sāvya (未受分) 壓搾せらるべき.
āsika 形 劍にて戦ふ.
āsikā 女 席順.
ā-sikta (過受分) 灌がれたる, 灌ぎ込まれたる; 撒布せられたる.
ā-Sic āsiñcati(-te), āsecayati(便役). → Sic.
ā-sic 女 灌ぐこと; Soma 汁又は牛酪の供物.
āsita (過受分) 坐せる, 著席せる, 住せる; 休息せる. 申 坐すること; 座席.
āsitaki 女 = āsitaki.
āsitavya (未受分) 坐すべき; (非入)坐せらるべし. 申 止住.
ā-siddha (過受分) → Sidh 1.
ā-Sidh āsedhayati(便役). → Sidh 1.
āsīdhāra 形 劍の刃と關係ある或はに似たる.
ā-Siv āsivyati. → Siv.
ā-sisādayiṣu (希求) 形 (業)を襲撃せんと欲する.
āsitaki 女 [植物の名]; 阿斯樹(音譯) *Lal-v.*
āsina (現分) [Ās] 坐せる.
āsina-pracalāyita 申 坐睡して頭を垂るゝこと.
ā-simāntam 副 境界まで.
ā-sivana 申 縫ひ合すこと, 縫ひ附くること.
āsi-ṛiṣa 男 [= āsiṛiṣa]; 毒蛇 *Sikṣ.*

ā-Su āsunoti. → Su 1.
 ā-suta (通受分) 壓搾せられたる (Soma). (中) [特殊なる Soma 壓搾法の名]; [混合飲料の名].
 ā-suti (女) = āsava; 釀造物, 混合飲料.
 āsura (形) (女-i) 精神の, 神の; 幽鬼又は Asura の, 幽鬼の口き; (漢譯) (音寫) 阿修羅, 阿須羅, 阿蘇羅 Lal-v., Siks 男 Asura 又は幽鬼; (娘を其父等より購求する) 婚姻の一形式; (國) 南半球の諸星.
 āsura-kāṇḍa (中) [書名].
 āsura-sva (中) Asura の所有物.
 āsurāyaṇa (男) Āsuri の後裔. (國) [或る學派の名].
 āsuri (男) [人名]; (漢譯) (音寫) 阿修利 Sāmkhy-k.
 āsuri-vāsin (男) [Prāśnīputra の稱].
 āsuri (女) 女性の Asura; (漢譯) (音寫) 阿須倫 Lal-v.
 āsuri-vṛṣṭi (女) (Āsuri の雨), 地獄の雨.
 ā-Sū āsuvati. → Sū 1, 2.
 āsūtraya (名動) → sūtraya.
 ā-Sṛ āsarati. → Sr.
 ā-sṛkva- (副) 口の端まで.
 ā-sṛṣṭi (副) 世界開闢以來.
 ā-seka (男) 灌ぐこと, 灌溉.
 āseka-paṇḍaka (男) (漢譯) (音寫) 灌漑半擇迦 Mvyut.
 āsekya (男) [a-seka より] 交接不能者.
 ā-secana (中) 灌ぎかくること, 浸出; 梳.
 ā-secanaka (形) 心を奪ふ, 人を魅する.
 ā-seddhṛ (男) 捕吏, 逮捕者.
 ā-sedha (男) 捕縛, 禁錮.
 ā-Sev āsevati(-te): → Sev.
 ā-sevana (中) 滞留; 頻繁に行ふこと; 専心; (漢譯) 習, 修習 Bodh-bh.
 ā-sevanā (女) (漢譯) 修習 Bodh-bh.
 ā-sevā (女) 精勵, 専心; (漢譯) 親近 Bodh-bh.
 ā-sevita (通受分) 頻繁に行へる, 勤勉に實行せる; (漢譯) 習, 修, 修習, 多修習 Divy., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 親近 Siks.: ~ā bhāvitā 修習 Divy. 201.
 ā-sevitavya (未受分) (漢譯) 親近 Bodh-bh.
 ā-sevin (形) 頻繁に行ふ, 訪問する; ……に滞留する; (一)に専心する.
 ā-sevya (未受分) 訪問せらるべき; 頻繁に行はるべき.
 ā-Skand āskandati. → Skand.
 ā-skanda (男) 登ること, 乗ること; 跳躍; 攻撃; 讚誦の一形式; [骰子の一種]. ~m (副) 跳躍して.
 ā-skandana (中) 攻撃; 戦闘.
 ā-skandin (形) (一)に跳び上る; 攻撃する; 與ふる, 許す.
 ā-Skabh āskabhāti. → Skabh.
 ā-Sku āskauti, āskunoti. → Sku.
 āskra (形) 合する, 結合せる; 攻撃する.
 ā-stara (男) 掛布; 藁; 臥床; 敷物.
 ā-staraṇa (中) [同上]; 擴がること; (漢譯) 張, 展 Mvyut: ~m pratyāstaranam 臥具 Divy. 19.
 ā-staraṇavat (形) 掛布又は敷物ある或は……を以て覆はれたる.
 ā-staraṇika (形) 布又は敷物に休息せる.
 ā-staraṇiya (中) = āstara.
 ā-stāra (男) 擴がること; 撒くこと, 散らすこと; 賭

博に定められたる席. → kaṭhina~.
 ā-stāra (男) 火床, 格子.
 ā-stāva (男) Stotra を唱ふる場處.
 āstika (形) 信ずる, 敬虔なる.
 āstikya (中) 神の信仰, 敬虔.
 āstika (男) [古聖の名].
 ā-stirṇa (通受分) → Str. (漢譯) 布, 敷, 鋪, 布上 Aṣṭ-pr.
 ā-stirya (不変分) 撒布して, 覆ひて, 擴げて.
 ā-Str āstrṇoti, āstrṇute, āstarati(-te). → Str.
 ā-strṭa (通受分) → Str.
 āste, [Ās の (現) (入) (單)].
 ā-strita (通受分) [<ā-strṭa]; (漢譯) 底布 Siks. 299.
 ā-Sthā ātiṣṭhati(-te), ā-thāya(不変分). → Sthā.
 ā-sthā (女) (因, 一)に對する欲望又は感興, ……に關する面倒又は心配, ……に對する配慮; (漢譯) 貪, 欲 Mvyut. ~ayā (男) 全力を傾注して, 努力して.
 ā-sthāna (中) 場處; 集會; 講堂; (漢譯) 處, 住 Daś-bh., Bodh-bh.
 āsthāna-maṇḍapa (男) (中) 引見室, 應接室; (漢譯) 昇, 昇座 Mvyut.
 ā-sthāni (女) 集會處, 引見室; 講堂.
 ā-sthāniya (形) 集會の. (男) 侍從.
 ā-sthāpana (中) 置くこと, 固定すること; 留まらしむること, 強壯ならしむる療法.
 ā-sthāpita (使役) (通受分) 置かれたる, 固定せられたる.
 ā-sthāpya (未受分) 實行せらるべき, 適用せらるべき.
 ā-sthita (通受分) 留まれる, 住せる. → Sthā. (漢譯) 住 Daś-bh.
 āsthiti-kriyā (女) (漢譯) 受(?), 貪(?), 失(?) [Tib. nams-su len-pa 又は sen-par byed-pa] Mvyut.
 ā-stheya (未受分) 適用せらるべき, 撰ばるべき, 採用せらるべき; (體)と認めらるべき; (非)入 想定せらるべし, 認めらるべし.
 ā-snāna (中) 洗滌水; 沐浴.
 āsneya (形) (女-i) [asan 即ち asṛj より] 血塗れの.
 ā-spada (中) 地位, 座, 住居, 用地; (國)の場處又は目的物; (漢譯) 依, 依止; 處, 住處, 靠處, 安足處 Abh-vy., Mvyut. → an~.
 ā-spadatā (女) [同上] (中).
 ā-spadatva (中) [同上].
 āspadi-BHū, (國)の目的物となる.
 ā-spandana (中) 震動, 動搖.
 ā-Sprś āsprśati. → Sprś.
 ā-sprśya (不変分) 軽く觸れて.
 ā-sprṣṭa (通受分) 軽く或は柔かく觸れられたる.
 ā-spharaṇaka (形) (漢譯) [Samādhi の名] 偏空 Mvyut.
 ā-Sphal āsphālayati(使役). → Sphal.
 āsphānaka (形) [Pāli. appānaka] 呼吸を休止したる; (漢譯) [Samādhi の名] 不可動, 不傾動 Lal-v. 259.; 周遍虛空 Lal-v. 250.; (音寫) 阿那婆(!), 阿婆頗那 Lal-v.: dhyāyaty ~m dhyānam 入阿那婆定 Lal-v. 260. [~samādhi 阿之言無. 婆頗那伽者識也. 三摩地平等持也. 伽者身也. 應云無識身平等持也 — 金剛頂經大瑜伽祕密心地法門義訣卷上 (大正藏經 No. 1798. 812c)]. (荻原雲來文集 p. 752 參照.)

ā-sphāla 男 打撃, 打つこと; バタバタせしむること, 動かしむること.
 ā-sphālana 中 打撃, 打つこと; 衝突; 高慢; 齋給(?), 獻(?) *Mvyut.*
 ā-sphālita 使役 過受分 → Sphal.
 ā-Sphuṭ āsphoṭayati(使役). → Sphuṭ.
 ā-sphura 男 博戯の場處.
 ā-sphoṭa 男 振ること, 動揺すること; 激 梵千.
 ā-sphoṭana 中 [同上].
 āsmāka 形 (女-i) 吾々の, 吾々のものなる.
 āsmākina 形 [同上].
 āsya 中 口, 顎; 顔; 發聲器官; 齋 口 *Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.* 梵千.
 ā-Syand āsyandate. → Syand.
 ā-syandana 中 近くを流るゝこと.
 āsya-paṅkti 女 髒穢の輪飾.
 āsya-maithunika 形 口にて性交を行ふ.
 āsya-modaka 中 [神話上の武器の名].
 ā-syūta 過受分 → Siv.
 ā-srava 男 永門; 流出するもの; 木よりの搾取液, 木又は花の分泌液より作れる酒(の一種); [*Pāli. āsava*] 心を擾す特殊の想念, 苦惱 (=kleśa 佛致); 齋 漏, 流 *Kāśy., Sapt-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 愛欲 *Kāśy.* → an~.
 āsrava-kṣaya 男 齋 漏盡, 盡漏 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
 āsravakṣaya-jñāna 中 齋 漏盡智 *Mvyut.*
 āsravakṣayajñāna-bala 中 齋 漏盡智力 *Bodh-bh.*
 āsravakṣaya-jñāna-sākṣāt-kriyā 女 齋 [六 abhijñā (神通)の一] 漏盡智作證通 *Bodh-bh.*
 ā-srasta 過受分 離れたる, 遠ざかれる.
 ā-srāva 男 流動, 流出; 口中の水; 苦痛, 苦惱, 病患; 化膿; 齋 感覺の對象.
 ā-srāvin 形 流るゝ, 液を出す; 體液を出す; 化膿せる.
 ā-Sru āsravati, āsrāvayati(使役). → Sru.
 ā-sru-payas 形 乳の溢れ流るゝ.
 āsra, [Ās の 命 三入 單].
 ā-Svad āsvadati, āsvādayati(使役). → Svad.
 āsvasthya 中 [a-sva-stha より] 不快, 病.
 ā-svāda 男 味覺, 享受; 風味; 齋 味, 滋味, 味著, 味受, 愛味; 樂 *Divy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*; 噉 梵千; 著味 *Sikṣ.* → alpa~.
 ā-svādaka 形 味ふ, 享受する.
 ā-svādana 中 = āsvāda; 齋 嘗, 味, 耽味, 味著, 貪味, 噉味, 生愛味 *Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., Madhy-vibh., Abh-vy.*; 著 *Sam-r.*
 ā-svādaniya 未受分 愛すべき, 好ましき (*Mvyut.*); 齋 和暢, 美好 *Mvyut.*: ~o ghosna 音聲和暢, 音聲美好 *Mvyut.*
 ā-svādaniyatva 中 齋 所愛味, 所噉味 *Abh-vy.*
 ā-svādavat 形 美味の, 旨き.
 āsvāda-samjñin 形 齋 舐而求味 *Lal-v. 208.*
 āsvāda-satya 中 齋 愛諦, 愛實, 愛味諦 *Bodh-bh.*
 ā-svādita 過受分 味はれたる, 享受せられたる, 食は

れたる; 齋 食, 噉, 所引滋味 *Divy., Sūtr., Sikṣ.*: rasās ca ~ āh 食種種味 *Divy. 421.* → an~.
 ā-svādya 未受分 味はるべき; 味よき; 齋 愛味, 噉...味 *Abh-vy.*
 āsvādya-toya 形 味よき水を有する.
 ā-svāpana 中 催眠劑 (*Divy.*).
 āha 1., [Ah の 三過 三入 單].
 āha 2. 問 我 [非難, 命令等の].
 āhamkārika 形 aham-kāra に関する.
 ā-hata 過受分 → Han. 齋 困 *Saddh-p.*; 訾辱, 毀辱 *Bodh-bh.*; 吹, 所飄 *Lank., Buddh-c.*: vāta~ 風所飄 *Buddh-c. 5.*
 āhata-lakṣaṇa 形 勝れたる, 有名なる.
 āhata-visargatā 女 Visarga の消滅又は α への變化 (文法).
 ā-hati 女 打つこと, 叩くこと, 打撃.
 ā-Han āhanti, āhate, āhanate *Lal-v. 341.*, āghā-tayati(使役). → Han.
 ā-hanana 中 打つこと; (獸の)屠殺; 太鼓の撥.
 ā-hananya 形 (太鼓等を)打ちつゝある.
 ā-hanas 形 膨脹する, 潤澤なる; 淫蕩なる; (Soma 等の)打たるゝ或は壓搾せらるゝ; (牛乳等の)浮泡の掬はるゝ; (不貞の女等の)打たるゝ.
 ā-hanasya 中 淫奔, 淫蕩; 猥褻; 淫猥なる言葉.
 ā-hara 形 (一°)を齋らす. 男 取ること; 成就; (犧牲を)獻ずること.
 ā-haraṇa 中 取ること, 取り來ること; 成就; 引き抜くこと, 動かすこと; (犧牲を)獻ずること; 齋 牽, 取, 持, 執 *Sāṃkhy-k., Mvyut.*
 āharaṇi-Kṛ, 贈物をなす, 贈與す.
 ā-harṭṛ 男 持ち來る者; 取り去る者, 動かす者; 運搬者; (齋)を惹起する者; 遂行者.
 ā-hava 1. 男 [ā-Hve] 挑戰, 鬪争, 戦争.
 ā-hava 2. 男 [ā-Hu] 獻供.
 ā-havana 中 獻げ物, 供物; 供儀.
 ā-havaniya 未受分 供物たるべき; 齋 應布施 *Mvyut.* 男 [agni を補ひて] (*Vedi* に於ける三個の聖火の中の)東寄りの聖火.
 āhava-bhūmi 女 戰場.
 ā-hasa 男 低笑.
 ā-hā 形 悩ます, 迫害する.
 ā-hāra 形 (女-i) 齋らす, 得せしむる. 男 齋らすこと, 持ち來ること; [一°は 女 -ā] 食物, 糧, 資糧; 齋 食, 饌, 飲食, 所食, 甘美, 美食, 珍羞 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Lank., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., 梵千., 梵雜.*; 資善 *Sūtr.*: catvāra ~ āh 四食 *Madhy-vibh., Mvyut.*: [1. kavadiṃkāra ~ h 搏食, 2. spaiśa ~ h 觸食, 3. manaḥ-samcetana ~ h 意思食, 4. vijñāna ~ h 識食] *Mvyut.*
 ā-hāraka 形 齋らす, 得せしむる; 齋 採, 能引 *Divy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Bodh-bh.* 男 齋 備飲食者 *Mvyut.*
 āhāra-kṛtya 中 齋 所食, 飲食 *Aṣṭ-pr.*
 āhāra-gaveṣin 形 齋 求食 *Aṣṭ-pr.*
 āhāra-gṛddhi 女 齋 貪著飲食, 於諸甘美食想 *Aṣṭ-*

pr.
 āhāraṃ-Kṛ, 食を攝る。
 āhāra-civara 〔中〕〔漢〕衣食 *Saddh-p.*
 ā-hāratā 〔女〕〔漢〕食 *Mvyut.*
 āhāra-tṛṣṇā 〔女〕〔漢〕飢渴 *Saddh-p.*
 ā-hāratva 〔中〕〔漢〕食 *Abh-vy.*
 āhāra-dāna 〔中〕食物を施すこと。
 āhāra-nirgama-sthāna 〔中〕肛門。
 āhāra-nirhāra 〔男〕〔漢〕去來 *Sam-r.*
 āhāra-niḥsaraṇa-mārga 〔男〕肛門。
 āhāra-parityāga 〔男〕食物の棄捨。
 āhāra-pāka 〔男〕消化。
 āhāra-bhūmi 〔女〕糧食場, 給食場。
 āhāraya 〔名動他〕āhārayati 食事す, 食ふ。
 āhāra-yojana 〔中〕食事する準備。
 āhāra-viraha 〔男〕食物の缺乏。
 āhāra-vṛtti 〔女〕生計。
 āhāra-śuddhi 〔女〕食物の清淨なること。
 āhāra-saṃjñā 〔女〕〔漢〕食想 *Saddh-p.*
 āhāra-sthitika 〔形〕〔漢〕由食住, 以食住 *Abh-k.*
 āhārārthin 〔形〕食物を求むる; 〔漢〕求食 *Aṣṭ-pr.*
 ā-hārika 〔形〕〔漢〕能助, 能護助 *Aṣṭ-pr.* 〔中〕〔漢〕引導 *Sam-r.*
 ā-hārikā 〔女〕〔漢〕能引 *Aṣṭ-pr.*
 ā-hāritrika 〔形〕〔漢〕能招 *Sam-r. 63.*
 ā-hārya 〔未受分〕驚らさるべき; 移さるべき; 外部の; 〔漢〕脱, 奪, 侵奪, 應引 *Madhy-v., Sāṃkhy-k., Mvyut.*
 āhārya-pādakārohin (°ka-ār°) 〔形〕〔漢〕上脱脚牀 *Mvyut.*
 āhārya-hāriṇi 〔女〕〔漢〕急流 *Mvyut.*
 āhi 〔接尾〕[dakṣiṇ-āhi 等に於ける āhi 〔女〕]。
 ā-Hims āhimsate. → Hims.
 -āhika 〔形〕〔漢〕日 *Saddh-p.*: eka ~ 一日熱病, (毎日熱病) *Saddh-p. 401.*
 āhicchattra 〔形〕*Ahicchattra* 國の。
 ā-Hiṇḍ āhiṇḍate. → Hiṇḍ.
 ā-hiṇḍaka 〔男〕[(*Niśāda* と *Vaidēhī* との)混血種姓(階級)の名]; 〔俗〕= 旅行者。
 ā-hiṇḍika 〔男〕[同上]。
 ā-hita 〔通受分〕→ DHā I. 〔漢〕引起, 所引, 已安立 *Abh-vy.*
 āhita-klama 〔形〕疲勞せる。
 āhitāgni 〔男〕聖火を設置せる者。
 āhi-tuṇḍika 〔男〕捕蛇者, 蛇使ひ; 〔漢〕降蛇者 *Mvyut.*
 āhi-mata 〔形〕蛇多き(國)に屬する。
 āhīrbudhna 〔男〕[月宿の名]。
 āhīrbudhnya 〔男〕[同上]。
 ā-Hu ājuhote, ājuhute. → Hu I, 2.
 āhuka 〔男〕[*Yādava* 王の名]; 〔漢〕[或る民族の名]。
 āhuki 〔女〕[*Punarvasu* の娘の名]。
 ā-huta 〔通受分〕→ Hu I, 2.
 ā-huti 〔女〕獻げ物, 供物; 獻供を伴ふ祭; 獻供; 〔漢〕供, 團食 *Mañj-m., Mvyut.*
 āhuti-kṛta 〔形〕供物として捧げられたる。
 āhuti-dravya 〔中〕〔漢〕燒灌之物 *Mvyut.*

āhuti-bhāga 〔形〕供物を分前(次)とする。
 āhuti-bhāj 〔形〕獻供に參與する。
 ā-hutimaya 〔形〕供物より成る。
 āhuti-Kṛ, 供物として獻ぐ。
 āhuti-BHū, 供物となる。
 āhuti-vṛdh 〔形〕犠牲を喜ぶ。
 ā-huva 〔形〕祈願せらるべき。
 ā-hū 〔女〕呼ぶこと, 祈願。
 ā-hūta 〔通受分〕→ Hve. 〔漢〕召, 喚, 呼召 *Divy., Bodh-bh.*
 āhūta-prapalāyin 〔男〕裁判の召喚を避くる者。
 ā-hūtavya 〔未受分〕召喚せらるべき。
 āhūtādhyāyin 〔形〕(師に)喚ばるゝを待ちて學習する。
 ā-hūti 〔女〕祈願。
 ā-hūya 〔不變分〕召請して。
 ā-hūrya 〔未受分〕[Hvṛ] 敬意を拂はるべき, 親しまるべき。
 ā-Hṛ āharati(-te). → Hṛ I.
 ā-hṛta 〔通受分〕→ Hṛ I. 〔漢〕引發, 劫盜 *Bodh-bh.*
 āhṛta-yajña-kratu 〔形〕準備せられたる供儀を遂行せんと欲する。
 ā-hṛti 〔女〕近くへ持ち來る或は引寄すること。
 ā-hṛṣṭa 〔通受分〕〔漢〕豎 *Divy.*
 āhṛṣṭa-roma-kūpa 〔形〕〔漢〕身毛皆豎, 舉身毛豎 *Divy.*
 āhetuka 〔形〕[a-hetu より] 〔漢〕無因 *Madhy-v.*
 āheya 〔形〕蛇(ahi)に關する。
 āho 〔不變辭〕或は, 又は; [質問又は疑問の(問投)]; 〔漢〕→ uta ~. ~ svid 或は恐らくは; 〔漢〕雖然, 果是 *Mvyut.*
 āho-puruṣikā 〔女〕自ら男らしさ又は武力を誇ること。
 āhna 〔中〕數日, 日の連續。
 āhnika 〔形〕晝に爲さるゝ, 晝に起る, 日々の。〔中〕毎日一定の時間に行はるゝ宗教の儀式; 日課; 節, 章。
 ā-hrāda 〔男〕轟音。
 āhrikyā 〔中〕[a-hri より] 〔漢〕無慚, 無慙 *Sikṣ., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
 ā-hruta 〔通受分〕屈める, 曲げられたる; 傷つけられたる。
 āhruta-bheṣaja 〔形〕〔女-i〕負傷者を治療する。
 ā-Hlād āhlādayati(使役). → Hlād.
 ā-hlāda 〔男〕娛樂, 歡喜; 〔漢〕大笑 *Guhy-s.*
 ā-hlādaka 〔形〕悦ばしむる, 歡喜せしむる。
 āhlāda-kara 〔形〕[同上]。
 āhlāda-kārin 〔形〕[同上]。
 ā-hlādana 〔中〕歡喜せしむること, 爽快ならしむること。
 ā-hlādaniya 〔未受分〕爽快ならしむべき, 喜ばさるべき。
 ā-hlādin 〔形〕爽快ならしむる, 歡喜せしむる。
 ā-hvaya 〔男〕賭事 [(動物を鬭争せしむる)及びそれより起る訴訟]; 名稱; 〔漢〕喚, 叫 梵F.
 ā-hvayana 〔中〕名稱, 名。
 ā-hvayitavya 〔未受分〕召喚せらるべき, 招待せらるべき。
 ā-Hvā, → Hve.

ā-hvā ㊦ 名稱, 名.

ā-hvāṭṛ ㊦ 祈願者.

ā-hvāna ㊦ 呼びかゝること, (神に)祈願すること; (精靈を)呼び出すこと; 召喚; 挑戦; ㊦ 呼召, 召請 *Mañj-m., Bodh-bh.*; 俗數 *Bodh-bh. 389.*

āhvānaya ㊦ ㊦ ㊦ āhvānayati 召喚す.

ā-hvāyaka ㊦ 使者; (法廷の)呼出し人.

ā-hvāyayitavya ㊦ ㊦ ㊦ 召喚せらるべき.

ā-Hvṛ, → Hvṛ.

ā-Hve āhvayati(-te), āhvāyayati(㊦).. → Hve.

I

I, II. ㊦ eti (一° ㊦); I. ㊦ ㊦ ayati(-te); IV. ㊦ iyati 行く, 来る (punar ~ 還る); (業)へ赴く, ……に到達す, ……に遭ふ; (業)に歸す; (業)に(業)を乞ふ; (従)より来る; 去る, 過ぐ; 企つ; [現分と俱に] 繼續す; ㊦ 行; 來; 離, 去; 得除滅 *Lal-v., Daś-bh., Abh-vy.*; 成 *Saddh-p.*: ta enti nirvṛtim 汝等……當成佛 *Saddh-p. 131.* ㊦ iyate.

㊦ ita. ㊦ iyate, ㊦ imahe; ㊦ iyāna 急がしむ; (業)に(業)を懇願す.

accha- (業)に近づく.

ati- 過ぐ; 横切る; 經過す; (時を)過ぎしむ; 入る; 追ひ越す; 優越す; 征服す; 避く; (従)より離る; ㊦ 謝 *Abh-vy.* ㊦ atita 過ぎ去れる; 消え去れる; 死せる; 通過せる; 避けたる, 無視せる.

abhy-ati- 經過す; 横切る; 經過せしむ; ㊦ 越過 *Abh-vy.* ㊦ abhyatita 死せる; (時の)過ぎ去れる.

vy-ati- 經過す; (従)より逸(び)る; 通過す; 横切る. ㊦ vyatita 經過せる, 行き去れる; 離れたる; 死せる; 捨てられたる.

sam-ati- 過ぐ, 經過す; 横切る; 征服す; ㊦ 過 *Lal-v.*

adhi- 認む, 了解す; 學ぶ, 習ふ [一般に ㊦]; 暗誦す; ㊦ 詠 *Lal-v.* ㊦ adhita 學べる; 博學なる; 得られたる, 讀まれたる, 學ばれたる. ㊦ adhyāpayati (業)に(業)を教ゆ; ㊦ 令誦, 令學 *Mvyut.*

prādhi- ㊦ prādhita *Veda* 學習の進める; 學習を始めたる, よく學べる.

sam-adhi- 徹底して學習す.

anu- 従ふ; 訪ぬ; 服従す; (業)に等し. ㊦ anvita (業)に従へる; (具, 一°)に同伴せられたる, ……に結合せる, ……を具へたる, ……を用意せる或は満たせる; (一°)を増加せる, ……を加へたる; 模倣せられたる; 論理上關聯せる; ㊦ 隨入 *Mvyut.*

sam-anu- ㊦ samanvita (具, 一°)を用意せる或は満たせる, ……を有せる, ……を完全に所有せる; ……と結合せる, ……と交はれる.

antar- 干涉す; (従); 往々 (業)より排除す; 除く. ㊦ antarita 排除せられたる; 分離せられたる; 介在する; 隔たりたる; (一°, ……の状態)に在る; (具, 一°)に隠されたる或は遮られたる.

apa- 去る, 離る; 消ゆ. ㊦ apeta 逃れたる, 退きたる, 消えたる; (従, 一°)より逸(び)たる, ……に

反對せる, ……の缺如せる, ……の無き.

vy-apa- 分離す; 去る, 止む. ㊦ vyapeta 分離せる; 消え去れる; (一°)と異れる; (一°)の無き.

api- 入る, (業)に溶解す; 死す.

abhi- 近づく; (路を)踏む; 入る; 到着す; 到達す; 遭ふ; (業)に加はる; ㊦ 還 *Buddh-c.*

sam-abhi- 近づく; 従ふ; 所有に歸す.

ava- (業)に降る; 考ふ; 意味す; 了解す, 理解す, 認む; (目的語の (業) と客語の (業) 或は iti を伴ふ (業)) を學ぶ, ……を……と知る; ㊦ 知, 擇, 證, 信 *Buddh-c., Lank., Abh-vy.*

abhy-ava- (業)の中に降る.

praty-ava- 犯す.

sam-ava- 俱に來る, 沈む; (業)と一致す; (iva)と見做す. ㊦ samaveta 結合せる, 密接に結合せる, 總體の; 固有の; 集まれる, 遭へる; (業)に近づける, ……に來れる.

ā- 近づく, 來る; 再び來る; 到達す, (或る状態)となる; (業)に加はる. ㊦ āyat 來りつゝある, 未來の; ㊦ 來, 來生, 來集, 來詣 *Gand-vy., Rāstr., Sukh-vy. I., Mvyut.* ehi ㊦ 來れ; ㊦ 善來 *Ast-pr., Rāstr., Gand-vy.*: ~ bhagavann ~ sugata 善來世尊, 善來世尊善來善逝 *Gand-vy. 356.*

anv-ā- 従ふ, 隨從す.

abhy-ā- 來る, 近づく; 赴く; [bhūyas と俱に] 再び引返す, 再び戻り來る.

sam-abhy-ā- 近づく; ㊦ 來 *Divy.*

ud-ā- 登る; 進み來る; 昇る [特に星に就きて].

sam-ud-ā- ㊦ 發, 發生, 周入 *Daś-bh.*

upa-ā- 近づく; 赴く; 著手す, 到達す.

pary-ā- 放浪す.

praty-ā- (業)へ還る; ㊦ 得 *Abh-vy.*

sam-ā- 俱に來る; 集る; 結合す; (具 士 samam) と遭遇す; (業)に著手す, ……に入る; (具)と結(婚)す. ㊦ sameta 集合せる; 結合せる; (具, 一°)と關聯せる, ……を用意せる, ……と結合せる.

pari-sam-ā- 轉じて(業)へ赴く.

ud- 登る; 昇る(日, 月); 起る, 増す; (従)より出づ; 現はる; (業)に對し(戦はんと)起つ; ㊦ 顯, 出, 現, 出現 *Divy., Lank., Śiks.* ㊦ uḍita 昇れる, 現はれたる, 増加せる, 高き, 高められたる; 誇れる.

anūd- (業)に會はんが爲に出で來る.

apod(apa-ud)- 避く; (従)より去る或は退く.

abhy-ud- 昇る, 現はる; (業)の上に昇る; (業)に

對し(戰はんと)起つ。〔過受分〕 **abhyudita** (猶ほ眠れる間に太陽が)昇れる, 上に昇れる; 戰に従事せる。**prod**(pra-ud)- 昇る; 現はる; 〔漢譯〕昇, 出 *Lal-v.*
praty-ud- 起ちて(業)に會ひに行く。
sam-ud- 昇る; 〔漢譯〕來 *Divy.*; 招, 生 *Abh-vy.*; *samudeti duḥkham* 能招苦, 苦生 *Abh-vy.* 23. 〔過受分〕
samudita 昇れる; 高き; 結合せる; (具, 一°)を具へたる, ……を所有せる; 集められたる, 結合せられたる。
upa- 近づく; 赴く [apaḥ と俱に=浴す]; 會ふ; (業)の徒弟となる; (從)より(業)に轉ず; 肉欲的に近づく; 得る, 到達す, ……に關與す; 受く, 入る, (状態を)爲す [例 *darśanam* ~ (業)に示す]; 企つ, 專注す; 懇願す; 現はる; 起る; 〔漢譯〕生; 住; 行, 及, 到; 著; 取, 娶, 攝; 成滿; 近行 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Daś-bh., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvy-ut.*; *śatataṁim ani kalām nōpaiti* 百分不及一 *Aṣṭ-pr.* 231. 〔過受分〕**upeta** 到達せる; 近づける; (一°)に退ける; (師の許にて學習に)著手せる; ……に到達せる, ……に赴ける; 歎願せる; (一°)を具せる, ……を所有せる; (或る状態に)入れる; 住せる; (保護を求めんが爲に)來れる。
abhy-upa- 近づく; 到達す, ……へ赴く; 肉欲的に近づく; (業)と結合す; (業)に加はる; (或る状態に)到達す; 撰ぶ; 同意す; 〔漢譯〕至; 取, 能受; 爲, 計爲 *Lal-v., Daś-bh., Laṅk.* 〔不變分〕**abhyupetya** 〔漢譯〕誓限, 信求 *Abh-vy.* 252. 〔過受分〕**abhyupeta** ……に來れる [grham ~ 家に在り]; 許されたる, 承諾せる, 約束せる; 近づける; (業)に到達せる; (具)を以て飾られたる。
sam-abhy-upa- 〔漢譯〕來 *Divy.*
samopa(sam-ā-upa)- 〔過受分〕**samopeta** ……を供給せられたる, ……を備へたる, ……を所有せる。
sam-upa- 俱に來る, 集る; (敵に)遭ふ; 赴く; 到達す; ……と性交す; 懇願す; 起る, 生ず。〔過受分〕
samupeta (具)を備へたる, ……を供給せられたる, ……に富める; 俱に來れる, 來れる, 到著せる。
ni- 入る, 入り込む。
nis(nir)- 出づ, 進み來る。
parā- 去る, 走り去る; (業)へ行く; 過ぎ去る, 去る, 死す; 得る。〔過受分〕**pareyivaś.** 〔過受分〕**pareta** 死せる; 出發せる。
pari- 歩き廻る, 圓形をなして動く, 圍む。〔過受分〕
parita (具, 一°)に圍まれたる, ……に満たされたる, ……に捉へられたる, 所有せられたる; 周圍に立てる或は歩き廻れる, 過ぎ去れる。
vi-pari- 振り向く, 歸る; 失敗す。〔過受分〕**viparita** 轉回せる, 反對の; 逆の状態に在る; 相違せる; 過れる, 不利なる。
sam-pari- 抱擁す。
palā[=parā]- 〔四〕[稀に(他)]**palāyate** 遁走す; 〔漢譯〕脱, 逃避, 出離, 駈趁, 馳走而去 *Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Sikṣ.*; 奔馳 [palāyati] *Lal-v.* 314.
niṣ-palā- 〔漢譯〕脱, 走, 馳走, 逃竄 *Divy., Sikṣ.* 〔不變分〕**niṣpalāyya** 逃避 *Divy.* 188.
pra-palā- 逃げ去る; 〔漢譯〕走出, 馳走, 退散 *Lal-v.,*

Saddh-p., Mañj-m. 〔現分〕**prapalāyamāna** (*Lal-v.*).

vi-palā- 四散す。

pra- 去る; 進む, 出發す, 離れ去る; 死す, 前進す, 進行す; ……へ行く。〔不變分〕**pretya** 死後, 來世に。〔過受分〕**preta** 死せる; 出發せる。

anu-pra- 從ふ。

apa-pra- (從)より去る。

abhi-pra- 近づく; 思惟す, 意味す。〔過受分〕**abhipreta** 意圖せられたる, 意味せられたる; 望まれたる; 愛せられたる。

sam-pra- 俱に流る。

prati- ……へ行く; 歸る; 面會に行く, ……に向ひて行く; 受け入る, 許す; (業)を(業)なりと確信す; (業)を信ず, ……を信賴す; 〔漢譯〕行; 因, 依, 緣, 爲緣, 至緣; 知, 計爲, 自謂爲; 信, 信受 *Sukh-vy. II., Rāṣṭr., Abh-vy., Bodh-bh.*; *dūre (cānuttarāyāḥ samyak-sambodher) ātmānam pratyeti* 自謂爲遠 *Bodh-bh.* 324.; *na himsā-dāneṇa dharmam pratyeti* 不計殺生布施爲法 *Bodh-bh.* 120. 〔受〕**pratiyate** 認めらる, 明瞭となる, 歸著す(結局…となる)。〔現分〕**pratiyamāna** (體)として知らるゝ; 含蓄する。〔過受分〕**pratita** 堅く決心せる; (一°)に信賴せる; 満足せる, 快活なる; 認められたる, 知られたる。〔不變分〕**pratitya** → *pratitya*. 〔使役〕**pratyāyayati** 證明す; 納得せしむ。

vi- 横切る; 擴張す; 散る, 分離す; 分る; 失ふ, 消ゆ, 滅す。〔過受分〕**vita** 消えたる; °—— ……より離れたる, ……なき。

abhi-vi- 諸方面より(因)へ赴く。

sam- 俱に來る, (……に於て)會合す, (業)に會す; (……と俱に)結合す, (具)と一致す; 貫通す; 衝突す; 著手す, 始む; 訪ぬ; 〔漢譯〕和, 合, 聚集 *Sikṣ., Mvy-ut.* 〔不變分〕**sametya**. 〔過受分〕**samita** 集合せる; 結合せる; (具, 一°)と結び附きたる。

abhi-sam- 俱に來る, 俱に……へ赴く; (業)へ落つ; (業)に想到す, ……の有に歸す; [abhisamayati, *Pāli. abhisameti*] 傍らに來る, 達す, 實感す, 把握す, 理解す (*Divy.*); 〔漢譯〕見, 悟 *Divy.* 〔現分〕**abhisamayati** 〔漢譯〕見, 正解 *Abh-vy.*

i 1. 代 [第三人稱の語幹].

i 2., 〔漢譯〕音寫 伊, 壹 *Lal-v.*, 支應.

i-kāra 〔四〕iの音, iの字; 〔漢譯〕伊字 [五十字門の一]; ~e *indriya-vaikalya-śabdaḥ* (→ a-kāra) 唱伊字時出諸根本廣大聲 *Lal-v.* 127.

ikṣu 〔四〕甘蔗; 甘蔗の莖; 睫毛; 〔漢譯〕甘蔗, 甘藷, 甘蔗, 荳菜; 蔗漿 *Lal-v., Av-ś., Daś-bh., Sikṣ., Mvyut.*, 梵干, 梵雜.

ikṣuka 〔四〕甘蔗.

ikṣu-kāṇḍa 〔四〕甘蔗の莖.

ikṣu-kuṭṭaka 〔四〕甘蔗を集むる或は刈る人.

ikṣu-kuṭṭita 〔形〕〔漢譯〕碾蔗漿, 壓蔗漿 *Sikṣ.*

ikṣu-kṣetra 〔四〕甘蔗畑.

ikṣu-ja 〔形〕甘蔗より來れる.

ikṣu-tvaca 〔四〕〔漢譯〕甘蔗皮 *Sikṣ.*

ikṣu-daṇḍa 〔四〕〔四〕甘蔗の莖.

ikṣumati 女 [河の名].
 ikṣu-rasa 男 甘蔗の液汁; 未精製の砂糖; 甘蔗汁, 甘蔗甜味 *Av-s., Sikṣ.*
 ikṣu-vaṇa 男 甘蔗の林.
 ikṣuvati 女 [河の名].
 ikṣu-vaṇa 男 [= ikṣu-vaṇa]; 甘蔗林 *Mvyut.*
 ikṣuvāku 男 [古代の王及其の子孫の名]; 甘蔗, 甘蔗(王) *Buddh-c., Lan̄k., Mvyut.*; [民族の名].
 ikṣuvāku-kula-ja 男 *Ikṣuvāku* 家に生れたる.
 ikṣuvāku-kula-nandana 男 [釋尊の稱] 甘蔗(王)種喜 *Mvyut.*
 ikṣvāku 男 [= ikṣuvāku]; 甘蔗 *Lan̄k.*
 ikṣvāku-candramas 男 [佛の稱] (*Buddh-c.*).
 Ing, I. ④ ⑤ **īngati(-te)** 行く, 動揺す, 動く. 便役
īngayati 運動せしむ, 揺る.
 ud- 動揺せしむ, 振はしむ.
 īnga 形 動揺する, 動く; 驚くべき.
 īngana 男 振動.
 īnganā 女 (圖)の標示.
 īngita (過受分) ④ 動悸, 聲の變化; 身振り, 標示, 暗示, 様子; 意圖; 作相, 現(異)相, 直爾示相 *Lan̄k.*
 īngita-kovida 形 [同下].
 īngita-jña 形 合圖を領解する, 他人の身振を知悉せる, 外觀身振により内心の情想を解釋表現するに巧なる; 舉略即悟 *Mvyut.*
 īnguda 男 [樹の一種, 學名 *Terminalia catappa*]. ④ [Ingudaの果實].
 icchaka 形 (一)を欲せる, ……を望める.
 icchātā 女 欲望, 切望; 欲 *Abh-vy.*
 icchatta ④ ⑤ [*Pāli. itthatta = itthatva*] 此の世に存在すること, 轉變の現状に居ること, 現状 (*Mah-v.*).
 icchantika 男 熱望を懐く (*Mvyut.*); 甚欲, 大欲 *Mvyut.*; 闍提, 一闍提, 一闍底迦 *Lan̄k., Mvyut., 支那.*
 icchā 女 願望, 欲望; 求, 愛; 願, 欲, 所欲, 樂, 欲樂 *Lal-v., Sūtr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Vaiś-s., Mvyut., 梵下. → alpecca, yatheccha.*
 〇——, 願望又は意向に従ひて; 自由に, 思ふ儘に.
 icchā-paripūṛaka ④ 滿願 *Sūtr.*
 icchāpita 形 愛せしむる (*Divy.*).
 icchā-bharaṇa 男 [人名].
 icchābbilāṣā (°chā-abh°) 女 求 *Abh-vy.*
 icchā-mātrāt (從) ④ 隨其所欲 *Bodh-bh.*
 icchā-vighātavat 形 所欲匱乏 *Bodh-bh.*
 icchā-śaktimat 形 欲求の能力ある.
 icchā-sadṛśa 形 願望に應ずる.
 icchā-sampad 女 願望の達成.
 icchu 形 (業, 不定, 一)を願望又は熱望する; 欲 *Sikṣ.*
 ijaya 男 ④ [*ijya*]; 導師 *Daś-bh.:* mahā- ~ 大導師 *Daś-bh. 153.*
 ija (未受分) 尊敬せらるべき. 男 師; 神.
 ijjā 女 犠牲; 神又は祖靈に供物を捧ぐること; 祠, 供養 *Buddh-c., Abh-vy.*

īñj, ④ **īñjati** 動 *Abh-vy.*
 īñjana ④ [= īñjanā] 動, 飄動 *Gaṇḍ-vy.*
 īñjanā 女 動揺; 動, 動揺, 驚動 *Lal-v., Daś-bh.;* 悔 *Rāstr.:* citta ~ 心悔 *Rāstr. 12.*
 īñjita (過受分) ④ 動, 動了, 動亂 *Daś-bh., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.;* 悔 *Saddh-p.:* vicikitsām ca varjitvā ~ ā manyitāni ca 若人悉無有一切諸疑悔 *Saddh-p. 336.*
 īñjitatva ④ 動, 動亂 *Abh-vy.*
 iṭa 男 菅, 蘭, 葦; 席.
 iṭi, ④ ⑤ 壹貳, 伊致, 乙致 *Bodh-bh.*
 iṭṭā 女 [數の名] 伊吒 *Lal-v., Mvyut.*
 id 女 興奮劑, 慰安; 供物, 供物を捧げての祈禱.
 ida 男 [王の名]; [Agni神の一形態].
 idas-pati 男 [神の名].
 idā, ilā, ilā 女 興奮劑; 供物, 垢離; 祈禱; 言行の女神; 地.
 idā-camasa 男 idā (供物)の容器.
 idāvat 形 興奮せしむる, 元氣づくる, 生氣を與ふる.
 it 文法 [語又は語根に附せらるゝ指示辭].
 ita (過受分) → I.
 itara 形 [④ -d; ⑤ には又た -m] 他の; (從, 一)と異なる, ……と相違せる; 反對の, 逆の; 普通の, 通常の; 彼, 他, 別, 餘 *Abh-vy. ~ …… ~ 一方 …… 他方.*
 itara-jana 男 通常の人.
 itaratas ④ 他處にて; (從)と異なりて.
 itaratra ④ [= itaraの ④] 他處にて; 然らずんば.
 itarathā ④ 別に; 然らずんば; 異, 若異此, 異此者; 不爾, 若不爾 *Abh-vy.*
 itaraya ④ 遠ざく, 傳送す.
 itaretara (°ra-it°) 名 [④の ④ 呼 以外の格のみ] 互に; °—— 彼此. ④ 相互に; ④ 互相, 更互, 更互相, 遞遷 *Lan̄k., Abh-vy., Mvyut. ~ ena ④ ④ 彼此何れにても, 如何にすとも: na ~ ena sam-tuṣṭih ④ 輕易不知足 Mvyut.*
 itaretara-sūnyatā 女 彼彼空 *Lan̄k.*
 itaretarāntar-bhāva 男 一收入一中 *Mvyut.*
 itaretarābhāva 男 更互無 *Mvyut.*
 itaretarāśraya (°ra-ās°) 形 互に庇護を受くる, 互に頼る, 互に關係する.
 itaretaropakṛtimat (°ra-up°) 形 相互に助くる.
 itas ④ [= idamの ④] これより; 此處より, この世より; この點より; 此處に, 地上に; この故に, それ故に; 依, 從, 從此 *Aṣṭ-pr., Abh-vy. ~ ūrdhvam, 以後, 以下 [書物の中にて]. ~ ca ~ ca, 此處彼處より, 此處彼處に. ~ …… ~, 此處に …… 彼處に. ~ tatas, 此處彼處に, 彼方此方へ; 以後 [往々 aparam, param 又は prabhṛti と俱に]; 彼此 Lan̄k.*
 itas cāmutaś ca 處處 *Divy.*
 itānta 形 (既に)越えたる.
 iti 1. ④ ……と, 以上斯くの如く [言語又は思想を引用せる場合, 通常その終末に又は往々その始或は終りに近く用ゐられ, 引用符の如き作用をなし, 間接説話

の代用をなす。又、列挙を結ぶ場合にも用ゐられ、ca を伴ふ場合と然らざる場合とあり; 然; 如是, 此是, 如此; 言; 前説; 相 *Ast-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*: rūpam ~ na tiṣṭhati 不住此是色, 不住色 相 *Ast-pr.* 464.; ~ āhur vaibhāsikāḥ 毘婆沙師 傳説如此 *Abh-vy.* 15.

~ …… ~, 人々は彼を) …… 又は …… と呼ぶ (*Jāt-m.*).

~ *tathā karoti*, 斯く言ひて斯く演ず(戯曲).

~ *kṛtvā*, 斯く言ひて, それ故に, …… と斯く思惟して.

~ *hi* 以 *Ast-pr.*

~ *artham* 是故 *Rāṣṭr.*

kim ~, [=kim] 何が故に [往々にして =iti kim]; 何謂 *Sadh-p.*

~ ~, ~ *iva*, ~ *uta*, ~ *evam*, ~ *sma*, ~ *ha*, ~ *ha sma*, =iti [往々, 冗語的に指示代名詞を伴ふ].

iti 2. (因) 行くこと; (因) 行 *Vijñ-v.*

iti-karaṇa (因) *iti* の語.

iti-karaṇiya (因) = *iti-kartavya*: (因) 所作 *Bodh-bh.*

itikaraṇiyādhiṣṭhāna (因) (因) 所作處, 諸所作處, 營事 *Bodh-bh.*

iti-kartavya (因) (そは斯くなさるべきなり), 義務, 適當なる處置.

iti-kartavyatā (因) [同上 (因)].

itikartavya-mūḍha (因) 全く處置に窮せる.

iti-kāra (因) = *iti-karaṇa*:

iti-kārya (因) 適當なる處置; 責務.

iti-kāryatā (因) [同上 (因)].

iti-kṛtya (因) = *iti-kārya*.

iti-kṛtyatā (因) [同上 (因)].

iti-krama (因) (因) ~ *ena* 斯る方法にて.

ititha (因) (因) 斯く斯くの, 斯の如き.

iti-nāman (因) 斯る名を有する.

iti-niscaya (因) 斯く決心せしめられたる (*Buddh-c.*).

iti-para (因) *iti* なる語に従はれたる.

itivat (因) 全くその通りに, 正しくこの方法にて.

iti-ṛtta (因) 偶發事, 出來事; 物語.

iti-ṛttaka (因) (因) [九分教又は十二分教の一] 本事, 如是法現經 *Saddh-p.*, *Mvyut.*; (因) 伊帝曰多伽 *Mvyut.*

iti-ha (因) 實に斯の如く, 傳統に従ひて.

iti-hāsa 1. ('*ha-āsa*) (因) (斯くありき), 傳説, 口碑, 物語; 彼事詩; (因) 如是所説 *Mvyut.*; (因) 伊致訶婆(論) *Lal-v.*

iti-hāsa 2. (因) [*Has*]; (因) 笑語, 話笑, 談笑, 戲笑 *Lank.* 10, 363, 364.

iti-hāsaka (因) (因) 古事, 古傳説 *Mvyut.*

itihāsa-purāṇa (因) 史話及び古傳.

ito-gata (因) 此方に向へる; 此に關せる.

ito-mukha (因) 此方に向へる. ~ *m* (因) 此方に.

ittham-vidha (因) 斯の如き類の, 斯る性質を有する.

ittham-kāram (因) この方法にて.

ittham-gata (因) 斯の如き状態にある. (因) 斯る事態なるが故に.

ittham-tva (因) (因) 此, 此類 *Abh-vy.*

ittham (因) 斯くて, 斯の如く; (因) 如是 *Abh-vy.*

ittham-bhūta (因) 斯くある, 斯る方法の, 斯の如き性質の.

itthā (因) 斯くて; [屢: (因) 調にのみ用ふ] 丁度, 全く, 實に, 正しく; *kim te* ~ 如何したりしや

itya (因) ……へ或は ……へ向ひて去るべき; (因) 不住 *Abh-vy.* 296.; (因) 一底也 *Abh-vy.*

ityaka (因) [人名]; 門衛, 家令.

ity-anta (因) 斯の如くに終る.

ity-artha (因) 上述の意味を有する.

ity-arthaka (因) [同上].

ity-artham (因) この目的の爲に.

ityā (因) 行くこと, 歩むこと; 轎, 乗物.

ity-ādi (因) 斯の如き等を初として=等々. (因) 此及びその他, 及びその他, ……等.

ity-ālikhita (因) 斯の如くに畫かれたる或は印されたる.

ity-ukta (因) 報告, 物語(佛敎).

ity-unmrśya (因) 斯る方法にて觸れらるべき.

ity-etan-nāmaka (因) 上述の名稱を有する.

ity-evam-ādi (因) = *ity-ādi*.

ityai, [因 I の (因) 不定].

itvan (因) (一?)へ行く.

itvara (因) 行く, 動く; 小なる, 劣れる, 貧弱なる, 頼るに足らざる; 卑しき (*Divy.*); (因) 少, 微小, 少海 *Lal-v.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*; 惡, 下賤, 下劣人 *Lal-v.*, *Mvyut.*; 暫現而滅 *Rāṣṭr.*

itvara-kāla (因) (因) 少時 *Bodh-bh.*

itvari (因) 不貞の妻, 淫奔なる女.

id (不變辭) 丁度, 全く, 實に, たゞ [屢: (因) 調にのみ用ひらる].

idaṃ-rūpa (因) この形ある.

idaṃ-vid (因) 之を知れる, 之を習熟せる.

idaṃ-tana (因) 現在の, 現存の.

idaṃtā (因) これなること, 同一.

idaṃ-tṛtiya (因) 之を爲すこと第三回目なる.

idaṃ-dvitiya (因) 之を爲すこと第二回目なる.

idaṃ (因) (因) [體業詞: (因) は 男 *ayam*, (因) *iyam*]

此; 以下 [時として直前の事柄を指す]; 凡て是れ = 全世界 [屢: *saṁvam*, *viśvam*, *sakalam* と俱に]; [代と俱に] 此處に; 丁度この; (因) 彼, 此, 是, 如是: 所有 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; → *yad(yad ~)*.

anayā (因) (因) (因) 由此, 以此 *Mvyut.* *asya* (因) (因) (因) 此, 於此 *Mvyut.* *asmin* (因) (因) (因) 至此, 於此 *Mvyut.* (因) 此處に; 此方に; 今,

さて, 之を以て; 丁度; 斯くして.

idaṃ-ādi (因) これに初まる.

idaṃ-prakāram (因) この方法にて.

idaṃ-pratyayatā (因) (因) 緣性 *Bydh-bh.*

idaṃ-prathama (因) 初めて之を爲す, 之を第一又は最上のもので有する, 之によりて第一なる.

idaṃmaya (因) (因) 此にて造られたる, これより成れる.

idā (因) 今, この時, 丁度その時に; [*ahnas*, *ahnām* と俱に] 今日, 現今.

idānimtana 形 現在の, 現存の; 近世の; 瞬間の, 現在の瞬間の.
idānim 副 =idā; 今, 今次, 今時, 於今日, 近來 *Divy.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
idā-vatsara 男 [五箇年を一週とする第三年の名].
iddha 通受分 → *Idh.*
iddha-didhiti 男 火.
iddha-śāsana 形 その支配の苛酷なる.
iddhâgni 形 その人の火が点火せられたる.
Idh, Indh, II. 自 **inddhe** 点火す. 受 **idhyate** 点火せらる, 燃さる. 現分 **idhyamāna** 燃時, 正燃時 *Madhy-v.* 通受分 **iddha** 点火せられたる, 燃されたる [聖論にも用ひらる]; 輝ける.
sam- 点火す.
idhma 男 薪(特に聖火に用ゐらるゝ).
idhma-citi 女 薪の堆積.
idhma-jihva 男 火; [人名].
idhma-parivāsana 甲 薪の碎片.
idhma-bhṛti 形 薪を齎す.
idhmavat 形 薪を用意せる.
idhma-vāha 男 [*Agastya* の子の名].
in 文 接尾音 *in.*
In, → *Inv.*
ina 形 堪能なる, 強き, 力ある, 決心せる, 勇敢なる; 富める. 男 主, 支配者, 王侯; 太陽.
inakṣ 希求 他 [Naś] **inakṣati** 得んと努力す, 到達せんと熱望す.
ud- [同上].
indirā 女 [*Lakṣmī* の稱]; 美.
indivara 男 甲 =*indivara.*
indivara 男 甲 青き蓮花; 青蓮花 *Lal-v.* 男 蜂.
indivara-dala 甲 青蓮花の花弁.
indivara-dṛś 女 蓮花の如き眼の婦人.
indivara-prabhā 女 [人名].
indivarākṣa 男 [人名].
indivāra 男 女 =*indivara.*
indu 男 滴, 汁, (特に) *Soma* 汁; (空中の雫), 月; 月, 朗月 *Saddh-p.*, *Rāstr.*, *Vajr-s.*
indu-kalaśa 男 [人名].
indu-kalā 女 新月.
indukalāvataṃsa (°lā-av°) 男 [*Śiva* 神の稱].
indu-kānta 男 月長石 [寶石の一種].
indu-kesarin 男 [王の名].
indu-dala 甲 新月.
indu-deśa 男 天竺國 梵雜.
indu-dhavalā 形 似白月 *Vajr-s.*
indu-pāda 男 月光 (*Buddh-c.*).
indu-pūrṇa 形 月滿 *Lal-v.*
indu-prabha 男 [人名].
indu-bimba 甲 月輪.
indu-maṇi 男 月長石 [寶石の一種].
indu-matī 女 [諸女の名].
indu-mukha 形 (女-i). 月の如き顔の.
indu-mauli 男 [*Śiva* 神の稱].
indu-yaśas 女 [王妃の名].

indu-rāj 男 月(太陰).
indu-rāja 男 [人名].
indu-lekhā 女 [王妃の名].
indu-vadana 形 月の如き顔の.
indu-vrata 甲 =*cāndrāyaṇa.*
indu-śekhara 男 [*Śiva* 神の稱].
indra 男 *Indra* 神 [*Veda* 主要神の随一, 帝釋天]; 一² 最高位, 主, ……の王; 王, 主, 帝, 天主, 帝王, 帝主 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*; 因, 因達囉, 因提梨, 因陀羅, 因坻 *Divy.*, *Suv-pr.*, *Mvyut.*, 支婁; 帝釋, 釋提桓因 [*śakro devānām* ~ の] *Lank.*; [或る婆羅門の名] 因陀羅 *Divy.*; [數の名] 印達羅 *Mvyut.* → *tridūśa* ~.
indra-karman 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
indra-kārmuka 甲 *Indra* 神の弓; 虹.
indra-kila 男 [山の名]; 門; 門前の杭, 入口の土臺石, 入口, 關門 (*Divy.*); 閘, 門閘, 臺座, 門印, 門限 *Divy.*, *Av-ś.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sam-r.*, *Mvyut.*, 梵雜: ~ *m ā-Kram* 踏彼門閘, 足踏門閘 *Gaṇḍ-vy.* 205.; *nagara* ~ 城門, *rāja-kule* ~ 王門, *antah-pura* ~ 宮門 *Divy.* 544.
indra-kukṣi 男 [特殊の *Soma* 祭の名].
indra-kūṭa 男 [山の名].
indra-kṛṣṭa 形 (*Indra* 神により耕されたる), 未墾の, 野生の.
indra-ketu 男 *Indra* 神の旗; [人名]; 帝釋相 [佛の名] *Lal-v.*; 帝相 [*Samādhi* の名] *Mvyut.*
indra-ketu-dhvaja-rāja 男 [佛の名] (*Sukh-vy.* II.).
indra-kośaka 男 屋根の突起; 露臺; 足場.
indra-giri 男 [山の名].
indra-gupta 形 *Indra* 神に守護せられたる.
indra-guru 男 *Indra* 神の師 (*Kaśyapa*).
indra-gopa 形 *Indra* を守護神とする. 男 騰脂蟲 (まじ); 飄蟲, 潮生紅蟲 *Mvyut.*
indra-gopaka 男 騰脂蟲. 形 紅光 *Lal-v.*: ~ *śiras* 首有紅光 *Lal-v.* 55.
indra-gopā 形 *Indra* を守護神とする.
indra-cāpa 男 甲 (*Indra* 神の弓), 虹; 虹, 露綵 *Mvyut.*
indra-cchanda 男 首飾(の一種).
indra-jānu 男 [或る猿の名].
indra-jāla 男 *Indra* 神の網; [*Arjuna* の用ひたりとの神話上の武器]; 魔術; 帝網; (因陀羅網); 幻化 *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*: ~ *vibhāga* 帝網差別 *Daś-bh.* 20.
indrajāla-puruṣa 男 人の幻像.
indrajāla-vidhi-jña 形 善解技術 *Divy.* 320.
indra-jālika 男 妖術師.
indra-jālin 男 [同上]; [菩薩の名] (*Lal-v.*).
indra-jit 男 *Indra* 神の征服者, [*Rāvaṇa* の子の名]; [或る *Dānava* の名].
indra-jūta 形 *Indra* 神に鼓舞せられたる或は供給せられたる.
indra-jyeṣṭha 形 *Indra* 神を首領とする, *Indra* 神に導かれたる.
indratama 形 最も *Indra* 神に似たる.

indra-taru 男 [樹の名, 學名 *Terminalia Arjuna*].
indratā 女 *Indra* 神の力又は威力.
indra-tāpana 男 [或る *Dānava* の名].
indra-tūriya 甲 [特殊の祭の名].
indra-tejas 甲 *Indra* 神の雷霆.
indratva 甲 = *indratā*; 主權.
indra-datta 男 [或る婆羅門の名].
indra-dāru 男 [樹の名, 學名 *Pinus devadāru*].
indra-devi 女 [*Megha-vāhana* 王の妃の名].
indradevi-bhavana 甲 [*Indradevi* の建立せる僧院 (*Vihāra*) の名].
indra-daivata 甲 因帝天 *Divy.*
indra-dyumna 男 [湖水の名; 王仙の名; 學匠の名].
indra-dviṣṭa 形 *Indra* 神に憎まれたる.
indra-dhanus 甲 *Indra* 神の弓, 虹; 虹 *Lañk.*, 梵.
indra-dharma 男 兩 *Indra* と *Dharma*.
indra-dhvaja 男 *Indra* 神の旗; [佛の名] 帝相, 帝幢 *Saddh-p.*, *Av-s.*; [龍の名] 帝幢 *Mvyut.*
indra-nakṣatra 甲 *Indra* 神の月宿; [*Phalgunī* 月宿の名].
indra-nila 男 青玉(犍?), 綠柱石(犍?); 帝青, 青寶, 映青, 鶴青, 帝青寶, 青寶珠, 帝釋青; (音寫) 大青因陀羅寶 *Gand-vy*, *Lañk.*, *Guhy-s.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*; (音寫) 因陀羅尼羅 *Mvyut.*
indranila-karkaṭika 形 蓋心青鴉鵲 *Mvyut.*
indra-ñilamaya 形 *Indra-ñila* 製の或はより成る.
indra-paṭa 甲 (大氣の衣服即ち) 裸禮 (*Kār-vy.*).
indra-patni 女 *Indra* 神の妻.
indra-parvata 男 [山の名].
indra-pātama 形 *Indra* 神の最上の飲料なる.
indra-pāna 形 *Indra* 神に飲まるべき.
indra-pālita 男 [(*Indra* 神に守護せられたる), 王の名].
indra-pita 形 *Indra* 神に飲まれたる.
indra-putrā 女 (*Indra* 神を子となす者), *Indra* 神の母.
indra-puro-gama 形 *Indra* 神を先導とする.
indra-puṣpa 男 [藥草の名, 學名 *Methonica superba*].
indra-puṣpā 女 [同上].
indra-puṣpikā 女 [同上].
indra-puṣpi 女 [同上].
indra-pramati 男 [人名].
indra-pramada 男 [人名].
indra-prasūta 形 *Indra* 神より起れる或はに強ひられたる.
indra-prastha 甲 [*Pāṇḍava* の首都の名].
indra-bāhu 男 兩 *Indra* 神の腕.
indra-bhavana 甲 帝釋處 *Divy. 433.*
indra-bhājana 甲 *Indra* 神の代理者.
indra-magha-śrī 女 [或る *Gandharva* の少女の名] (*Kār-vy.*).
indra-maṇi 男 青玉(犍?).
indra-mati 男 [*Samādhi* の一種] (*Kār-vy.*).
indra-mada 男 [蛭の病の一種].
indra-mandira 男 *Indra* 神の住居, 天.

indra-maha 男 *Indra* 神を崇拜する或る祭禮; (音寫) 因陀羅會日 *Divy. 76.*
indramaha-kāmuka 男 犬.
indra-mādana 形 *Indra* 神を喜ばしむる.
indra-mārga 男 [聖地の名].
indra-mārgā 女 [河の名].
indra-medin 形 *Indra* 神を友又は味方とせる.
indraya 名動 自 *Indra* 神を憧憬す, *Indra* 神の如く行動す.
indra-yajña 男 *Indra* 神への供儀.
indra-yaṣṭi 男 [龍の名] 帝杖 *Mvyut.*; 虹蜺 *Lal-v.*
indrayu 形 *Indra* 神を憧憬する.
indra-yoga 男 *Indra* 神との同盟又は結合力.
indra-rāja 男 [王の名]; [*Romavivara* の一種] (*Kār-vy.*); 帝王, 帝釋王; (音寫) 因陀羅王 *Saddh-p.*, *Lañk.*
indra-rājan 形 *Indra* 神を王として有する.
indra-loka 男 *Indra* 神の世界.
indra-vaṁśā 女 [音律の一種].
indra-vajra 甲 *Indra* 神の雷霆(金剛杵).
indra-vajrā 女 [音律の一種].
indravat 形 *Indra* 神に伴はれたる.
indra-vasti 男 *Indra* 神の躰(犍?).
indra-vah 形 *Indra* 神を運ぶ(馬).
indra-vātātama 形 *Indra* 神に最も好まれたる.
indra-vāruṇa 甲 [苦味ある葫蘆の一種].
indra-vāh 形 = *indra-vah*.
indra-vāha 男 [*Purañjaya* の名].
indra-vāhana 甲 *Indra* 神の戰車.
indra-vaidūrya 甲 [寶石の一種].
indra-vrata 甲 *Indra* 神の掟又は規律.
indra-śatru 形 敵又は勝利者が *Indra* 神なる, *Indra* 神に勝たれたる. 男 *Indra* 神の敵, [*Prahlāda* の名].
indra-śaila-guhā 女 帝釋窟, 帝釋窟洞 *Mvyut.*; (音寫) 因陀羅勢羅窟詞 *Mvyut.*
indra-śrī 女 [或る *Gandharva* の少女の名] (*Kār-vy.*).
indra-śreṣṭha 形 *Indra* 神を首領として有する, *Indra* 神に導かるゝ.
indra-sakhi 形 *Indra* 神を友又は味方とせる.
indra-saṁdhā 女 *Indra* 神との結合又は同盟.
indra-sava 男 [特殊の *Soma* の供儀].
indra-suta 男 [*Arjuna* の父系].
indra-sūnu 男 [同上].
indra-sena 男 [諸人の名]; [或る龍の名] 主部, 帝軍 *Mvyut.*
indra-senā 女 *Indra* 神の軍隊或は飛道具(武器); [人名].
indra-stut 男 [或る祭に於ける特殊なる *Indra* 神の讃歌].
indra-stuti 女 *Indra* 神の禮讚.
indra-stotra 甲 [同上].
indra-stoma 男 = *indra-stut*.
indra-sthāna 甲 *Indra* 神の旗の在る處.
indra-sprś 男 [*Rṣabha* の子の名].

indra-hava 男 Indra 神に對する祈禱。
indra-hasta 男 [舌藥の名] 白及, 仙人掌 *Suv-pr., Mvyut.*; [音寫] 因達囉喝悉哆 *Suv-pr.*
indra-hūti 女 Indra 神に對する祈禱。
indrāgni 男 兩 Indra 神と Agni 神。
indrāṇi 女 Indra 神の妻。
indrānuja 男 Indra 神の弟 (*Viṣṇu* 神又は *Kṛṣṇa* 神)。
indrā-pūṣan 男 兩 Indra 神と *Pūṣan* 神。
indrā-brhaspati 男 兩 Indara 神と *Brhaspati* 神。
indrāyudha (°ra-āy°) 中 Indra 神の武器, 虹; [漢譯] 虹, 虹蜺 *Lal-v., Mvyut.* 男 目の上に黒點ある馬。
indrāyudhamaya (°ra-āy°) 形 虹より成る。
indrāyudha-śikhin 男 [漢譯] [龍の名]; 虹鬚, 具頂 *Mvyut.*
indrāyudhā (°ra-āy°) 女 [蛭の一種]。
indrāvat 形 Indra 神に伴はれたる。
indrāvara-ja 男 Indra 神の弟 (*Viṣṇu* 神又は *Kṛṣṇa* 神)。
indrā-varuṇa 男 兩 Indra 神と *Varuṇa* 神。
indrā-ṣiṣṇu 男 兩 Indra 神と *Viṣṇu* 神。
indrā-soma 男 兩 Indra 神と *Soma*。
indriya 形 Indra 神に屬する, Indra 神に似たる, Indra 神に親しき。 男 Indra 神の朋輩。 中 Indra 神の力; 支配; 偉大なる行爲; 活力, 體力, 精力; (精液); 感官; 感覺, 感能; [漢譯] 根, 諸根; 身; 相 *Ast-pr., Suv-pr., Sukh-vy. II., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Sāmkhy-k., Madhy-vibh., Mvyut.*: *trīni* ~ *āni* 三根 [1. *mṛdv* ~ *h* 鈍根, 2. *madhya* ~ *h* 中根, 3. *tikṣṇa* ~ *h* 利根] *Mvyut.*; *pañca* ~ *āni* (1.) 五根 [1. *śraddhā* ~ *m* 信根, 2. *vīrya* ~ *m* 精進根, 3. *smṛti* ~ *m* 念根, 4. *samādhi* ~ *m* 定根, 5. *prajñā* ~ *m* 慧根] *Dharm-s., Mvyut.*; *pañca* ~ *āni* (2.) 五根 [1. *cakṣur* ~ *m* 眼根, 2. *śrotas* ~ *m* 耳根, 3. *ghrāṇa* ~ *m* 鼻根, 4. *jihvā* ~ *m* 舌根, 5. *kāya* ~ *m* 身根] *Mvyut.*; *dvāvimśati* ~ *āni* 二十二根 [1-5. 五根 (1.) に同じ, 6. *mana* ~ *m* 意根, 7. *puruṣa* ~ *m* 男根, 8. *strī* ~ *m* 女根, 9. *duḥkha* ~ *m* 苦根, 10. *sukha* ~ *m* 樂根, 11. *saumanasya* ~ *m* 喜根, 12. *daurmanasya* ~ *m* 憂根, 13. *upekṣā* ~ *m* 捨根, 14-18. 五根 (2.) に同じ, 19. *anājñātam-ājñāsyāmi* ~ *m* 未知當知根, 20. *ājñā* ~ *m* 已知根, 21. *ājñātāvi* ~ *m* 具知根, 22. *jivita* ~ *m* 命根] *Mvyut.*
indriya-kāma 形 力を得んと欲する。
indriya-grāma 男 感官の總體。
indriya-ghāta 男 感官の虛弱; [漢譯] 根壞 *Sāmkhy-k.*
indriyatva 中 感官の状態又は條件; [漢譯] 根 *Abh-vy.*
indriya-nigraha 男 感官の制御; [漢譯] 調伏諸根 *Vajr-s.*
indriya-parāpara-jñāna-bala 中 [漢譯] [如來十力の一] 根勝劣智力, 知諸根利鈍力, 諸根利鈍智力, 根上下智力, 知他衆生諸根上下力, 根智力 *Bodh-bh., Mvyut.*
indriya-parāparatā 女 [漢譯] 諸根勝劣, 諸根利鈍 *Bodh-bh.*
indriya-paripāka 男 [Pāli. *indriyānam paripāka*]

諸器官の爛熟(老衰) (*Av-ś. II. 110.*); [漢譯] 根成熟 *Bodh-bh.*
indriya-parimocana 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*)
indriya-bhāvanā 女 精神的修行 (*Jāt-m.*)
indriya-mocana 中 亂淫の停止。
indriyavat 形 有力なる, 感官を有する。
indriya-vadha 男 [漢譯] 根損壞 *Sāmkhy-k.*
indriya-vikalatā 女 感官の不備 (*Dharm-s.*); [漢譯] 諸根不具 *Śikṣ.*
indriya-vijñāna 中 [漢譯] 根識 *Lan̄k.*
indriya-vṛtti 女 感覺の能力。
indriya-śakti 女 感覺力。
indriya-samyama 男 感覺の制御。
indriya-saṁsṛita 形 [漢譯] 藉諸根, 處諸根 *Suv-pr.*
indriya-sambheda 男 [漢譯] 諸根差別, 種種根性 *Gaṇḍ-vy.*
indriyasambheda-jñāna 中 [漢譯] 知諸根差別智 *Gaṇḍ-vy.*
indriya-hina 形 [漢譯] 根缺(者) *Śikṣ.*
indriyāyatana (°ya-āy°) 中 感官の在所, 身體。
indriyārtha 男 感覺の對象, 感覺を刺激するもの。
indriyāvat 形 力ある。
indriyāśva 男 覆 (頑として進まざる)馬に比較せられたる感官 (*Buddh-c.*)
indriyāsaṅga 男 覆 感覺の對象に執著せざること。
indriyeṣṭi-gati 女 [漢譯] [= *indra-yaṣṭi-gati?* *Tib. dbaṅ-poḥi mehod-sdon-lta-buḥi stabs*] 如虹蜺行 *Lal-v. 272.*
indreṣita (°ra-iṣ°) 形 Indra 神によりて派遣せられたる或は勵まされたる。
indrota (°ra-ūta) 男 (*Indra* 神に助けられたる), [或る學匠の名];
indrotsava (°ra-ut°) 男 Indra 神(を崇拜する)祭禮。 *Indh.* → *Idh.*
indhā 形 點火する。 男 [或る聖仙の名]。
indhana 中 點火; 燃料(木・草等); [漢譯] 可燃; 柴, 柴木, 薪 *Lan̄k., Abh-vy., Madhy-v., Mvyut., 梵千.*
indhana-tā 女 [同上 抽] (*Jāt-m.*)
indhana-vat 形 燃料ある, 燃料を供給せられたる。
indhana-ya 名 動 自 *indhana-yate* 燃料となる。
indhani-Kṛ, 燃料となす。
indhī 文法 [語根 *Indh.*]
Inv, I. 他 invati, 或は **In, VIII. 他 inoti** 動かす, 送る; 促進す, 御す, 勵ます; 征服す。
ibha 男 中 召使, 家庭, 家族。 男 象。
ibha-dantā 女 [植物の名, 學名 *Tiaridium Indicum*].
ibha-pa 男 象使ひ又は象の番人。
ibha-pālaka 男 [同上].
ibhāvali (*ibha-āv°*) 女 象の列。
ibhya 形 召使に關する, 家庭の; 富める。 男 敵; 富者, 多くの從者を有する人。
ibhya-tilvīla 形 家族の必需品を豊富に所有する。
ima 代 此の。 ~ *eṣu* 於 此, 此中 *Vajr-jr-pr.*
imathā 副 斯の如く。
iyakṣ 希 來 他 [Yaj] *iyakṣati* 歎願す; 切望す; 近づ

く; 得んと願ふ。
iyakṣu (希) (形) [Yaj] 切望する。
iyac-ciram (副) 此まで; 今まで; それ程永く, それだけの間。
iyat (形) か程の, それ程大なる, それ程多くの; それ程少しの; (譯) 如是; 齊此; 若干, 爾所 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ.* (因) この限度に於いては; それ故に; (譯) 如是; 齊; 爾所; 爾時; 由此時量 *Bodh-bh., Abh-vy.*: *iyatā kālena* 爾所時 *Bodh-bh.* 290.
iyata (形) = *iyat* (*Divy*).
iyattaka (形) (女) (*ikā*) それ程少き或は小なる。
iyattā (女) 量, 數; 本質; 斯の如き範圍又は量なる状態。
iyattva (甲) [同上]。
iyam (代) (體) (單) この; (譯) 此 *Mvyut.*: *yā* ~ ……なる彼の女が; *sā* ~, ~ *sā* この女が。
iyarti, [R の (現) (三) (入) (單)]。
iyasā (女) 倦怠, 躊躇。
iyasita (過受分) 躊躇せる。 (甲) 躊躇。
iyāsu (形) 行かんと欲せる。
iyeṣa, [Iṣ 2. の (三) (過) (三) (入) (單)]。
irajya (強) (他) (自) [Raj] **irajyati(-te)** 命令す; 準備す, 配列す; 誘導す。
irajyu (形) [Raj] 祭を準備する。 (男) (供儀の) 準備者。
iradh (不規) (強) (自) [Rādh] **iradhate** 得んと努む; 禮拜す。
iram-mada (形) 飲酒に耽溺する。 (男) [*Agni* 神の稱]; 落雷に伴ふ火事又は電光。
irasya (名動) (他) **irasyati** 許さず, 吝む, 敵意を示す; (爲) を妬む。
irasyā (女) 惡意; 嫉妬。
irā (女) [= *idā*] (藥の) 一服; 保養; 慰安, 安樂。
irāvāt (形) 清爽ならしむる, 酒を與ふる, 活氣を附くる; 食物を有する。
irāvata (男) [或る *Nāga* の名]。
irāvati (女) [河の名]; [*Durgā* (*Budra* の妻) 及び或る *Nāga* 王の娘の名]。
iriṇa (甲) 水路; 小川, 井, 泉; 穀子盤; 荒蕪地(特に鹽を含む)。
iriṇya (形) 荒蕪地に關する或は屬する。
irin (男) 壓制者, 暴君。
ireśa (*irā-śa*) (男) 王; [*Viṣṇu* 神又は *Brahman* 神の稱]。
irgāda (甲) [= *irgala*] 門; (譯) 管鑰 *Lal-v.*
irya (形) 活動的なる; 油斷なき; 強力なる。
II, VI. 他 **ilati** 送る, 投ぐ, 來る; **X. 他** **ilayati** 靜止す。
ilava (男) 農夫, 田夫。
ilā (女) [= *idā*]; [*Manu* の娘の名]。
ilāv;ta (*ilā-āv*) (甲) [區分せられたる或る世界 (*Varṣa*) の名]。 (男) [*Āgnīdhra* の子の名]。
ilā-sutā (女) [*Sitā* の名]。
illaka (男) [人名]。
ilvala (男) [或る *Daitya* の名]。
iva (附帶) (副) ……の如く, 言はゞ, 恰も; 約, 殆ど; 多少; 實に [(強) 投] と俱に]; [往々單に (強) 調] に用ひ

らる] 唯, 全く, 實に; [或は語勢によりて用ひらる]; (譯) 如, 猶如, 喻如 *Abh-vy., Mvyut.* ~ **nāma** 外見上, 大概 (*Jāt-m.*)
Iṣ 1., VI. 他 **iṣati**; **I. 他** (自) **eṣati(-te)** [**anu** と俱に]; **IV. 他** **iṣyati**; **IX. 他** **iṣṇāti** 速かに動かす, 發射す; 發す, 開陳す; 驅逐す, 鼓舞す, 生氣を與ふ; (爲, 於) に邁進す或は努力す。 (過受分) **iṣita**。 (便役) (他) (自) **iṣayati(-te)** 急がしむ; 慰さむ。
adhi- 求む, 請ふ, 命ず; (自) 搜索す; (譯) 教, 令, 救, 白言 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh.* (便役) (他) **adhyeṣayati** (譯) 發問 *Mañj-m.*
anu- *anviṣati, anveṣati(-te), anvīṣyati(-te)* 追ふ, 探す, 求む, 搜索す。
pra- 促す, 勵ます, 遣はす, 派遣す; (讀誦又は祭典を行ふ爲に他の祭官(業))を促す; (譯) 送, 遣, 發遣 *Saddh-p., Bodh-bh., 梵雜.* (命) **preṣya** 供物(屬) [*prasthita* と俱には (業)] に對する供儀頌を命ぜよ。(便役) **preṣayati** 投げつく, 投ぐ, 遣はす, 派遣す; 去らしむ, 放逐す, 解任す, 解雇す; (譯) 送; 與, 送與, 施與, 奉施, 供養 *Divy.*: *bodhim preṣayati* 供養此菩提(樹) *Divy.* 397. (過受分) **preṣita** 動かされたる, 促されたる, 勵まされたる; 投げつけられたる; 送られたる, 派遣せられたる; 放逐せられたる。
anu-pra- (便役) **anupreṣayati** 追送す, ……へ派す; (譯) 發遣 *Bodh-bh.*
upa-pra- 促す, 勵ます; (祭官に讀誦を) 促す。
sam-pra- (便役) **sampreṣayati** 遣はす; 放逐す, 解任す, 解雇す; (屬) に使を派遣す; (譯) 遣, 趣 *Saddh-p., Daś-bh.*
Iṣ 2., VI. 他 [(因) 及び (強) 詩に於ては (自)] **icchat(-te)** 探ぬ, 搜索す; 或ること (業) が (業) ならんことを欲す, 願ふ, 希望す, 乞ふ, (從, 於) に期待す; (不定) せんと考ふ, ……せんとす; (業) を (業) なりと考ふ或は見做す; (業) を選ぶ, (業) を自由に選擇す; 認む, 承認す; (譯) 求, 希求, 訪求; 計; 欲, 願, 樂, 樂欲 *Divy., Sapt-pr., Lank., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*; [**na** と俱に] (不定) せんことを拒む。 (因) **iṣy-ute** 願せらる, 要承せらる, 指定せらる, 認めらる, 承認せらる, 見做さる, 考へらる; (譯) 許 *Abh-k., Abh-vy., Vijñ-v.*; 所欲, 信受 *Bodh-bh.* (過受分) **iṣṭa**。
adhi- (譯) 請, 勸, 勸請, 啓勸 *Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Lank., Guhy-s., Śikṣ., Bodh-bh.* (便役) **adhyeṣaya-** (譯) 請, 請問, 請說, 勸請 *Suv-pr., Śikṣ., Abh-vy.*
anu- 探ぬ, 搜索す, 見抜く; ……を得んと努力す; 乞ふ; 試む; (譯) 求; 推求 *Lank., Śikṣ.* (便役) (他) **anveṣayati** 搜す; 期待す。
pary-anu- 探し廻る。
sam-anu- 探ね盡す; (譯) 尋訪 *Divy.*
abhi- 探し求む, 搜索す; (不定) せんとす。 (過受分) **abhiṣṭa** 望まれたる, 欲せられたる。
ā- (譯) 求 *Lal-v.*
adhy-ā- (譯) 請 *Divy., Bodh-bh.* (過受分) **adhyeṣṭa**。
sam-anv-ā- (譯) (*samanveṣate*) 求, 尋求 *Bodh-*

bh.

pary-ā- (paryeṣate, paryeṣati) 求, 尋求, 追求, 志求, 勤求, 專求, 求訪, 訪求, 求索, 尋; 樂(聞), 願(聞) *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Bodh-bh.* (不曼分) **paryeṣya** 尋思 *Bodh-bh.*
paryeṣamāna 求, 求證 *Suv-pr.* (便役)
paryeṣaya- 求, 教 *Prāt-m.*
praty-ā- (pratyeṣemahi) 受, 受領 *Daś-bh.*
prati- 授ぬ; (願)より受く; 尊敬す, 遵奉す; (欲) *Bodh-bh.*; 受, 授, 領受, 納受, 肯受 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Daś-bh.*, *Sikṣ.*
sam-prati- 願, 欲 *Bodh-bh.*; 承, 受持, 聞持, 領受, 能受, 能得, 承捧, 隨, (聽)受 *Lal-v.*, *Sapt-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*; 正筵令坐 *Bodh-bh.* 146.: *anūsāsaniḥ sampratīchan* 隨其教命, 聽受其法 *Gaṇḍ-vy.* 386.
iṣ (因) 汁, 飲物, 慰安物; 神酒; 天に湛ふる爽快なる水; 力; 食物.
iṣa 1. (形) (一°)を求むる或は探す.
iṣa 2. (形) 汁ある, 豊饒なる, 肥えたる; 強き, 力ある; (男) [曆月 (*Āśvina*) の名].
iṣānaya (名動) (自) **iṣānayatē** 動かす, 刺戟す.
iṣānya (名動) (他) **iṣānyati** [同上].
iṣānyā (因) 教唆, 刺戟.
iṣam-bhara (男) *Iṣa* (曆月)を護る者.
iṣaya (名動) (他) (自) **iṣayati(-te)** 勢を増す, 活動す; 活氣を附く, 新鮮にす; 力づく. (不定) **iṣayadhyai**.
iṣayu (形) 活々とせる, 新鮮なる, 強き.
iṣah-stut- (形) 快樂又は繁榮を讚歎する.
iṣāna (中) (音譯) [村の名] 進求 [*Tib. yōns-su-tshol-ba*] *Gaṇḍ-vy.*; (音寫) 伊沙那 *Gaṇḍ-vy.*
iṣi (因) 保養 慰安.
iṣikā (因) 刷毛; 象の眼球; (音譯) [= *iṣikā*, *Pāli. isikā*] (音寫) 伊師迦 *Mvyut.*
iṣita (過受分) 動かされたる, 放逐せられたる. → *Iṣ* 1.
iṣitatvatā (副) 刺戟又は興奮によりて.
iṣidh (因) 奉納物, 供物, 祭贄.
iṣira (形) 活氣を與ふる; 活々とせる, 強き, 迅速なる.
iṣikā (因) 藺, 葦; (音譯) (音寫) [山の名] 伊師迦 立應.
iṣikāṭavi (°kā-āt°) (因) 葦の床.
iṣikā-tūla (中) 葦の圓錐花.
iṣu (男) (因) 矢; [*Soma* 祭の一種]; 五; (音譯) 箭 *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Lānk.*, *Abh-vy.*
iṣu-kāra (男) 矢師.
iṣu-kṛt (男) [同上].
iṣu-kṣepa (男) 矢の射程 (*Lal-v.*); (音譯) 射箭 *Mvyut.*
iṣu-kṣepamāna-mātre (因) (副) (音譯) 盡一箭道 *Saddh-p.* 405.
iṣu-dhanva (男) 矢と弓.
iṣu-dhanvin (男) 弓手, 弓術家.
iṣu-dhi (男) 箆.
iṣu-dhyā (因) 懇願.
iṣu-dhyu (形) 懇願する.
iṣu-patha (男) 矢の射程.
iṣu-pāta (男) [同上].
iṣu-bala (形) 矢によりて有力なる.

iṣu-bhṛt (形) 矢を携へたる. (男) 射手, 弓術家.
iṣumat (形) 矢を備へたる.
iṣu-mātra (中) 矢の長さ. (形) 矢の長さを有する. (副) 矢の達する距離に於て.
iṣu-vadha (男) 矢による死.
iṣu-varṣa (男) 矢の雨.
iṣu-hata (形) 矢にて殺されたる.
iṣūya (名動) (他) **iṣūyati** 得んと努む, 努力す.
iṣ-kṛta (形) 準備せられたる, 整へられたる.
iṣ-kṛti (因) 準備; 治療.
iṣṭa 1. (過受分) [*Iṣ* 2.] 求められたる, 望まれたる; 望ましき, 好ましき; 親愛なる; 都合よき, 是認せられたる, 見做されたる; (音譯) 欲, 樂, 愛, 所愛, 可愛, 所可愛, 愛樂; 意, 意解; 許 *Divy.*, *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Vijñ-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.* → *an*~, *yathā*~. (副) (音譯) 隨意 *Daś-bh.* (中) 希望, 願望.
iṣṭa 2. (過受分) [*Yaj*] 捧げられたる, 犠牲を供へたる. → *Yaj.* (男) (中) 供犠.
iṣṭaka-cita (形) 上に煉瓦を置かれたる, 煉瓦にて覆はれたる.
iṣṭakā (因) 煉瓦; 祭壇用の煉瓦; (音譯) 磚 *Mvyut.*
iṣṭakā-grha (中) 煉瓦の家.
iṣṭakā-citi (因) 煉瓦を重ね或は並ぶること.
iṣṭa-kāma-duh (因) [(音譯) -dhuk] 如意牛=凡ての願を叶はしむる牝牛.
iṣṭakā-mātrā (因) 煉瓦の大きさ.
iṣṭakṛt (形) 供犠を行ふ.
iṣṭa-gati-vaipākya (中) (音譯) 可愛趣異熟 *Bodh-bh.*
iṣṭa-gandha (形) 芳香を有する.
iṣṭa-guṇa (形) 徳を好める, 徳を求むるに吝かならざる.
iṣṭa-jana (男) 愛せられたる人; 戀人.
iṣṭajana-viyoga (男) (音譯) 離所愛, 於所愛有別離 *Suv-pr.*
iṣṭatama (最上) 最上と考へられたる.
iṣṭatva (中) 望ましきこと, 愛せらるること, 崇敬せらるること; (音譯) 許 *Abh-vy.*
iṣṭa-devatā (因) 特に好みて祀る神, 守護神.
iṣṭani (形) 突進する, 吼ゆる; 禮拜せらるること.
iṣṭa-phala (中) (音譯) 愛果, 可愛果 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
iṣṭa-mata (過受分) (音譯) 愛樂 *Sikṣ.*
iṣṭa-yajus (形) 供犠の讚頌を語れる.
iṣṭa-yāman (形) 欲望のまゝに行ふ.
iṣṭarga (男) (守護者として)前又は傍にて戦ふ者; *A dhvaryu* 祭官.
iṣṭa-lābha (男) 願望の成就.
iṣṭa-vinā-bhāvika (形) (音譯) 愛別離 *Saddh-p.*
iṣṭa-vipāka (中) (音譯) 可愛異熟, 果報可愛 *Abh-vy.*
iṣṭa-viyoga (男) (音譯) 愛別離 *Suv-pr.*
iṣṭa-vrata (形) 願望を満たす.
iṣṭa-sampādin (形) 願望を得せしむる.
iṣṭa-sādhana (形) [同上].
iṣṭā (因) (音譯) 甄瓦 *Saddh-p.*
iṣṭā-kṛta (中) [= *iṣṭi-kṛta*].
iṣṭā:ithitva (中) 懇切なる款待 (*Buddh-c.*).

iṣṭā-pūrta 申(團) 供儀 [iṣṭā は元來(團)] と布施。
iṣṭārtha 形 目的を達したる。 團 所望の物。
iṣṭi 1. 女 促進, 獎勵, 刺激; 要求, 命令; 助成; 助力者。
 2. 女 探ぬること, 搜索; 希望, 願望; 希, 所愛 *Abh-vy.*; 己情, 要術 *Abh-vy. 292.* → an~。
 3. 女 (牛酪, 果物等の簡單なる) 供儀。
 4. 女 俗 [<stri]; 女 人 *Lal-v. 74.*
iṣṭika 形 俗 [*Pāli. itthikā*]; 女 [*Tib. bud-med*] *Lal-v. 43.* 男 俗 内人 [*Tib. bud-med*] *Lal-v. 79.*
iṣṭi-jña 形 知術, 閑意趣 *Abh-vy.*
iṣṭitva 申 [iṣṭi 3. の 團].
iṣṭin 形 供儀をなせる。
iṣṭi-yājuka 形 供儀 (iṣṭi 3) を行ふ。
iṣṭi-śrāddha 申 (特殊の) 祖先祭。
iṣṭi-kṛtā 申 [或る *Soma* 祭の名].
iṣṭvā 平聲分 [*Yaj*] 供儀をなして, 禮拜して。
iṣṇu-c 文法 [接尾音 *iṣṇu*].
iṣmin 形 驅る, 急速なる, 荒れたる, 嵐の。
iṣv-agra 申 矢の尖端。
iṣv-asana 申 弓。
iṣv-āstra 申 (矢を射るもの), 弓; 射, 射術, 射法; 射御, 兵伎術學, 武藝 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.*; 弓 *Lal-v.*
iṣvastrācārya (°ra-āc°) 男 射師, 射夫, 工射之人, 箭刀師 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Mvyut.*
iṣv-āsa 男 射手, 弓術家; 弓。
istri 女 俗 [<stri]; 女, 女人, 婦人, 嬪御, 采女, 后妃嬪御 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.*
istri-gaṇa 男 俗 [<stri-gaṇa]; 妃嬪, 采女 *Gaṇḍ-vy. 255.*
istri-gāra 申 俗 [<stry-agāra 「婦人の部屋」]; 深宮, 宮中採女 *Lal-v. 137, 215.*
istri-bhāva 男 俗 [<stri-bhāva]; 女身, 女人身,

女人形 *Śikṣ. 168.*

istri 女 俗 [<stri]; 女, 女人 *Lal-v., Śikṣ.*
iha 團 此處に, 此方へ; 地上に, 此世に於て; この書物の中に; 以下; 今, さて, 此時, 瞬時に; [往々 = *idam* の 因]; 此, 於此, 此處, 此上; 世, 此世, 今世, 今生, 於此身, 於是身; 今; 此間; 復次; 謂 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
iha-kāra 男 *iha* の語。
iha-citta 形 意志と思想とが此の世に在る(向けられたる)。
iha-janma 形 此生, 今世 *Mvyut.*
ihatya 形 此處の; 此界 *Abh-vy.*
ihatyaka 形 [同上].
ihatra 團 地上に, 此世に於て; 此世, 今世 *Mvyut.*
iha-bhojana 形 その人の荷物又は贈物が此處へ來れる。
iha-loka 男 此の即ち現在の世界; 今世, 現在世 *Bodh-bh.*
iha-sukha 申 此世安樂 *Bodh-bh.*
iha-stha 形 此處に在る或は留まれる; 在於此間, 在於此中, 停住於此, 安住於此間 *Saddh-p., Madhy-vibh.*
ihamutra 不 變 此處及び彼處に, 現在及び來世に於て; 二世, 現未, 此世他世, 今後世, 今世後世 *Lank., Bodh-bh.*
ihamutra-phala-bhoga-virāga 男 現世及び他世に於ける果報の享受に無欲なること。
ihamutra-sukha 申 此世他世樂 *Bodh-bh.*
ihārtha 形 此世の爲の。 ~m 不 變 此世の爲に (*Buddh-c.*)
ihārthin 形 此世の富を希へる。
iheha (*iha-iha*) 不 變 此處及び彼處に, 爾今, 繰返して。

I

i-kāra 男 *i* の字, *i* の音; 伊字 [五十字門の一]; ~e *iti-bahulam jagad iti* (→ *a-kāra*) 唱伊字時 出一切世間衆多病聲 *Lal-v. 127.*
Īks, I. 自(他) **ikṣate(-ti)** 見る, 眺む; (團, 因) を 視る, ……を注視す; 看取す, 認知す; 沈思す, 見做す; 豫想す, 期待す; (團) に豫言す; 見, 觀, 俯視, 瞻仰 *Daś-bh., Śikṣ., Abh-vy.* 因 見らる (*Jāt-m.*)。 使役 **ikṣayati** (團) を注視せしむ。
adhi- 期待す; 恐る。
anu- 求む, 探ぬ; 見 *Sūtr.*
apa- 看過す; (團) を志す, ……を顧慮す; ……を期待す, ……を重視す, ……を待つ; 恐る; 顧る, 留意す; 要求す, 豫想す; 見, 觀, 待, 望, 愍, 愍念, 顧念 *Lal-v., Daś-bh., Lank., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c.*; [*na* と俱に] 見るに耐へず。 不 變分 **ape-**

kṣya 待, 觀, 望, 顧念 *Abh-vy., Bodh-bh.*

vy-apa- 顧る, 觀察す, 留意す。

abhi- 注視す, ……を視る。

sam-abhi- 眺む, 見る (*Jāt-m.*)。

ava- ……を視る; 觀察す; 注意す, 熟慮す, 考ふ; 經驗す; 期待す, ……を望む; 見, 觀, 知 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sūtr.*; 惜 *Lal-v. 262.*; 待 *Gaṇḍ-vy.*

anv-ava- 思索す; 考ふ, 熟慮す。

nir-abhy-ava- 探ね廻る, 隈なく探ぬ (*Kār-vy.*)。

nir-ava- 考ふ。

praty-ava- 調査す, 検査す; 尋ぬ; 視, 觀, 察, 觀察, 視察, 檢察, 伺察, 觀照, 觀知, 諦觀, 能觀, 審觀察 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sam-r., Lank., Sūtr., Śikṣ., Bodh-c., Bodh-bh.* 現分 **pratyavekṣamāna** 觀, 諦觀 *Aṣṭ-pr.*

sam-ava- ……を見る, 眺む; 注視す; 見守る; 熟慮す; 精察す; 世話す.
ud- ……を仰ぐ, 眺む; 見守る; 待つ; 期待す; 観, 願, 欣樂, 瞻察 *Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ.* [udikṣati = udikṣati. *Pāli. udikkhati (Śikṣ. 343.)*].
abhy-ud- ……の方を見る; 請 *Lal-v. 416.*; 端視 *Buddh-c.*
sam-ud- 仰ぐ, ……の方を見る, ……を見る; 觀察す, 見做す; 瞻待, 觀察, 祈見 *Lal-v.*
upa- ……を見る, 眺む; 看破す; 期待す, ……に乗ず, 利用す; 看過す, 無視す, 忽(に)にす, 等閑にす; 黙過す; 受く, 蒙る; (業)を固守せず; 捨, 棄捨, 捨棄, 捨離; 縦而不問 *Lal-v., Suv-pr., Bodh-bh., Abh-vy.*
adhy-upa- 看過す, 無關心に看る, 忽にす; 不看; 捨, 棄捨, 放捨, 深心棄捨, 棄捐, 唐捐 *Divy., Bodh-bh., Abh-vy.*
abhy-upa- 注意せずして忽にす (*Divy.*); 棄捨 *Bodh-bh.*
sam-upa- 無視す, 看過す, 等閑にす; 捨, 棄捨 *Suv-pr.*
nir- 見廻す; 眺む, ……を視る; 見守る; 認む, 認知す; 考ふ; 見, 觀, 觀察, 普觀, 瞻, 瞻仰, 視, 諦視, 顧盼, 臨顧, 尋, 思惟, 曉了, 承望 *Divy., Lal-v., Daś-bh., Gand-vy., Lanḅ., Mañj-m., Śikṣ.*
sam-nir- 眺む, 視る, 認む; 見 *Lal-v.*
pari- 見廻す; 検査す, 吟味す; 認む, 認知す; 審觀, 觀察, 思擇, 簡擇, 詳審 *Divy., Lanḅ., Cat-ś., Abh-vy., Bodh-bh.* 便役 **parikṣayati** 検査せしむ, 吟味せしむ.
upa-pari- 認知す, 領解す (*Lal-v.*); 考量す, 吟味す (*Divy.*); 觀, 察, 觀察, 作觀, 善觀察; 試驗; 思惟, 審諦思惟; 深生渴仰 *Divy., Lal-v., Ast-pr., Gand-vy., Lanḅ., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
vy-upa-pari- 見, 察省, 觀察, 觀察思量, 遍能觀察; 思, 思惟, 分別 *Daś-bh., Suv-pr., Śikṣ.*
pra-pari- 熟慮す (*Buddh-c.*).
pra- ……を見る, 眺む; 認む, 認知す; 忍從す, 忍受す; 黙す, 何事も言はず; 見, 視, 觀, 看, 仰觀, 瞻仰, 瞻顧, 解; 見解 *Lal-v., Buddh-c., Daś-bh., Mvyut.*; 求, 闕望 *Lal-v., Bodh-bh., 梵干.*
abhi-pra- ……を見る, 眺む; 見守る; 認む, 認知す.
ut-pra- (傾聽して)仰ぐ; ……の方を見る; 憧憬して回想す; 期待す; 譬喩的に用ふ或は名づく; (因)に移す; (業)を(業)なりと思ひ誤る; 誤信す, 想像す; (因)に歸す.
vi-pra- 彼方此方を見廻す; 熟考す.
sam-pra- ……を見る, 眺む; 見守る; 認む; 認知す; 考ふ.
prati- 眺む, 見る; 見守る; 認む, 認知す; 期待す, 待ち設く; 忍ぶ, 耐ゆ; 視, 待 *Mvyut.* 不變分
pratikṣya 全く徐々に, 次第に.
sam-prati- 待つ. 不變分 **sampratikṣya** 待ちて=永く.
vi- 注視す, 凝視す; ……を見る, 眺む; 認む, 認

知す; 考ふ; 確かむ; 識別す; 見, 視, 觀, 觀照 *Lal-v., Rāṣṭr., Bodh-c.* 現はる.
anu-vi- 見廻す; ……の方を見る; 見守る; 認む, 認知す; 吟味す, 検査す.
sam-anu-vi- 認む, 認知す.
abhi-vi- ……を見る, 眺む; 認む, 認知す; 觀, 瞻 *Saddh-p., Rāṣṭr.*
sam-abhi-vi- 認む, 認知す.
ud-vi- 見上ぐ; ……の方を見る, ……を見る; 認む, 認知す, 知覺す, 知る; 見 *Bodh-c.*
sam-ud-vi- ……を見る, 眺む; 認む, 認知す.
pra-vi- 觀, 見 *Divy.*
sam-vi- 知覺す, 知る.
abhi-sam-vi- 睨む, 凝視す.
sam- ……を見る, 眺む, 見る, 認む, 認知す; 確かむ; 考ふ.
abhi-sam- 見る, 注意す, 意を留む; 觀 *Ast-pr.*
pra-sam- ……を見る, 眺む, 見る, 認む, 認知す; 考ふ; 觀, 鑒 *Lal-v., Śikṣ.*
ikṣa 形 (女 -i) (-)を見る. 男 網の目.
ikṣaka 男 觀察者, 觀覽者.
ikṣaṇa 中 光景, 外觀; 視察; 注意; 監督; 眼; 視, 見 *Pijñ-v., Abh-k.*
ikṣaṇa-patha 男 視界, 地平線又は水平線.
ikṣaṇa-maithuna 中 視淫, 視爲淫 *Abh-k.*
ikṣaṇika 男 占師, 豫言者.
ikṣaṇika 男 [同上].
ikṣaṇiya 未受分 見らるべき, 將に来るべき, 出現すべき; 認めらるべき.
ikṣā 女 瞥見; 觀察, 考量.
ikṣ-i 女法 [語根 Īkṣ].
ikṣikā 女 觀察 *Sūtr.*
ikṣita 通受分 見られたる, 眺められたる; 顧慮せられたる; 是認せられたる (*Jāt-m.*). 中 瞥見; 視, 相視 *Abh-vy.*
ikṣitr 男 中 觀者, 目擊者.
Īṅkh, I. 他 **īṅkhati** 行く, 動く. 便役 **īṅkhayati** 振る, 揺る.
pra- 震ふ. 便役 他 **preṅkhayati** 揺する; 自 **preṅkhayate** 自ら振動す.
īṅkhana 中 動揺すること.
Īj, I. 自 **ijate** 動く, 驅る; 非難す.
apa- 逐ひやる, 追ひ拂ふ.
ijāna 三過分 [Yaj] 供儀をなせる.
Īḍ, II. 自 **iḍṭe** 稱讚す; (業)に(業, 業, 業)を懇願す. 通受分 **iḍita** 稱讚せられたる.
pra-, prati-, sam- 稱讚す.
iḍ 女 [體單 -t] 稱讚.
iḍita, iḍita 通受分 懇願せられたる, 請求せられたる.
iḍitr 男 稱讚する人.
iḍenya, iḍenya 未受分 懇願せらるべき; 稱讚せらるべき.
iḍya 未受分 稱讚せらるべき, 稱讚に値する; 懇願せらるべき.
iti I. 女 災難, 不幸; 天災; 傳染病; 災, 患, 災患, 災横, 枉苦 *Bodh-bh., Abh-vy.*; 病, 疾疫, 瘟疫

Lal-v., Av-ś., Bodh-bh., Mvyut.; 煌, 灼, 熱 *Divy.* 613.
 iti 2., [=iti].
 iti-bahula 形 多病 *Lal-v.*
 iti-saṃsamana 形 除災, 息苦 *Bodh-bh.*
 idṛktā 女 性質.
 idṛkṣa 形 (女 -ā) 斯の如き類の或は性質の, 斯の如き.
 idṛg-vidha 形 [同上].
 idṛś 形 (女=男) [同上]. 女 斯の如き状態; 斯の如き場合.
 idṛśa 形 (女 -i) [同上形]; 如是, 等無有異 *Aṣṭ-pr., Bodh-c., Vajr-s., Mvyut.*
 idṛśaka 形 [同上]; 若斯 *Saddh-p.*
 ipsa 希求 形 [Āp] 得んと欲す, 希ふ; 求 *Rāṣṭr.*
 ipsā 女 欲求, 願望.
 ipsita 希求 過受分 [Āp] 希はれたる, 望まれたる, 親愛なる; 求 欲, 所欲, 所樂, 樂欲, 樂爲, 所愛樂 *Lal-v., Bodh-bh., Nyāy-pr.* → yathā~. 甲 願望, 希望.
 ipsitatama 最上 最も希望せられたる, 直接に目的とせられたる; 最も近き目的格(女法).
 ipsu 希求 形 (業, 不定, 一)を願望せる.
 im 附帶 不變辭 [=代 i の業, 數性の區別なく用ひられ, 他の業を伴ふ場合と然らざる場合とあり]; [關と俱に] 凡そ…する者は; [關と俱に] そも誰か; [關と俱に] kim cana~, 少しも又は全然…せず; [往々無意味に用ゐらる].
 iya-cakṣas 形 [I] 透視する或は千里眼の.
 iyivas 三過 能 分 [I] 行ける, 到達せる.
 iyuṣi 女 [I の三過分] 過ぎ去れること.
 Ir, II. (他)自 irte 動かす, 促進す; 起つ, 動く; 出で来る; (聲を)揚ぐ; 去る, 退く. 便役(他)自 irayati (-te) 動かす, 促進す; 投ぐ; 激勵す, 興奮せしむ; 出す, 産出す; 述ぶ, 話す; 言ふ; 宣言す, 揚言す; 擧ぐ; 起つ; 自 自身を擧ぐ. 受 …と稱せらる.
 過受分 irita 派遣せられたる; 言はれたる, 揚言せられたる.
 ā- 獲得す; 述ぶ, 話す. 便役 erayati(-te) 獲得す, 得せしむ; (聲を)揚ぐ.
 ny-ā- (業)を(業)として指定す; (於)に(願を)述ぶ.
 ud- 引き出す; 起る; 起つ; 登る; 尊敬す. 受 udiryate (體)と稱せらる, …と認めらる; 增益 *Saddh-p.* 97.; 過受分 udirṇa 興奮せる, 増大せる; 昂れる, 高められたる, 傲然たる. 便役 udirayati 擧ぐ, 巻き上ぐ; 投ぐ, 投げかく; 出す; 増す; 刺戟す, 興奮せしむ; 産出す; 示す, 現はす; 鼓舞す, 活氣を與ふ; 言ふ, 發言す, 宣言す, 聲明す, 話す; 顯 *Daś-bh.*; 言, 告, 講, 唱, 說, 言說, 宣說, 演說 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.*: ghoṣam udirayanti 告 *Lal-v.* 266.
 abhy-ud- 便役 abhyudirayati 言ふ, 發言す, 話す.
 praty-ud- 言ひ返す, 答ふ; 說, 答 *Mvyut.*
 sam-ud- 便役 samudirayati 擧ぐ; 投ぐ; 刺戟す, 興奮せしむ, 鼓舞す; 言ふ, 發言す; 追放す;

標, 說, 宣 *Daś-bh.*
 pra- 動く; 起る; 推 梵干. 過受分 prerita.
 便役 prerayati 驅り立つ, 促す; 刺戟す, 興奮せしむ, 鼓舞す; (視線を)向く; 言ふ, 發言す; (時を)過す.
 sam-pra- 俱に起つ. 便役 samprerayati 押し進む, 突出す.
 sam- 結合す; 動搖 *Sikṣ.* 便役 samirayati 結合す; 動かす, 生ず, 産出す, 造る, 創造す; 言ふ, 發言す, 話す.
 ira 男 風.
 irana 男 風. 甲 壓迫, 壓力; 通知; 發言; 動性, 吹 *Abh-k., Abh-vy.*
 iriṇa 甲 塵を含める土地, 荒蕪地.
 irita 過受分 → Ir. 動, 吹, 所動, 吹動 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Lank.*
 irtsu 形 増加せしめんと望める.
 irma 男 腕; (動物の)前肢; 男 甲 傷.
 irmā, irma (具)副 此處に, 此方に, 此の場合に.
 irya 未受分 促さるべき.
 iryatā 女 促さるべき状態.
 iryavat 形 威儀具足 *Lal-v.* 240.
 iryā 女 行動, 姿勢 行狀, 行爲; 法式, 威儀, 容儀, 律儀 *Divy., Sikṣ., Abh-vy.*
 iryā-patha 男 行儀; 正しき行狀; 比丘 (bhikṣu) の遵守する規定(佛敎). 儀, 威儀, 儀容, 威儀路, 威儀道, 威儀道行, 威儀進止, 威儀進退, 動止威儀, 進止威儀; 律儀道, 容儀詳序, 威儀形相進退往來 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵干.*; 法式 *Sikṣ.*
 iryāpatha-sampannatā 女 成就具足威儀 *Bodh-bh.*
 iryāpathādhiṣṭhāna 甲 威儀處 *Bodh-bh.*
 iryā-pathika 形 威儀路 *Abh-k.*
 irṣā 女 =irṣyā.
 irṣita 過受分 羨まれたる. 甲 羨望.
 irṣitavya 未受分 羨望せらるべき.
 irṣu 形 =irṣyu.
 irṣuka 形 → an~.
 Irṣy, I. (他)自 irṣyati 羨む, 妬む; 猜疑す. 便役 irṣyāyati(-te) 嫉, 懷嫉妬 *Sikṣ.*
 irṣya 形 妬む, 羨む. °— 嫉妬 *Rāṣṭr.*
 irṣyaka 形 [同上]. 男 他の性交を見て嫉妬より力づけらるゝ半ば不能の男.
 irṣyā 女 羨望; 嫉妬; 嫉. 妬. 嫉妬, 妬忌, 嫉恚, 憎嫉 *Av-ś., Saddh-p., Guhy-s., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
 irṣyāṇa 甲 嫉 *Gaṇḍ-vy.*
 irṣyā-panḍaka 男 妬黃門, 嫉妬黃門 *Mvyut.*
 irṣyā-mātsarya 甲 慳嫉 *Gaṇḍ-vy.*
 irṣyāmātsarya-bahula 形 多慳嫉 *Bodh-bh.*
 irṣyālu 形 羨む, 嫉妬する.
 irṣyāluka 形 [同上]; 嫉妬, 多嫉妬 *Sam-r., Saddh-p.*
 irṣyāvat 形 [同上].
 irṣyā-samyojana 甲 妬結, 嫉妬結 *Madhy-vibh.*

irṣyita (通受分) 甲 羨望, 嫉妬.
 irṣyin 形 嫉妬する; 羨む.
 irṣyu 形 [同上].
 irṣyuka 形 [同上]; 嫉妬 *Sum-r.*
 iṣita (通受分) → *Id.*
 ivat 形 斯の如く大なる.
 Ís, II 自 iṣte (業, 圖) を有す, ……を所有す, ……を支配す, ……を統ぶ; (圖) に所屬す, ……に歸す; (圖) の資格あり; (不定, 圖, 於) することを得.
 ís 男 主, 支配者; [*Siva* 神の稱].
 ísa 形 (圖) を處理し得る, (圖) の資格ある; (不定) することの可能なる; 勢 *Bodh-bh.* 男 所有者, 主, 支配者, (圖, 一°) の主; [*Siva* 神の稱]; 王, 自在 *Mañj-m., Bodh-c.*
 ísana 甲 支配すること, 統治すること.
 ísa-samstha 形 主の如く見ゆる.
 ísā 女 才能, 力; 支配權.
 íśākhyā (ísa-ākhyā) 形 → *alpa* ~, *mahā* ~, *tā.*
 íśācala 男 *Himālaya* 山.
 íśā-dhara 男 [同下]; 持軸山 *Dharm-s.*
 íśā-dhāra 男 [= *íśādhāra*]; 伊舍陀, 伊沙達 *Sikṣ.*
 íśāna (現分) 所有する; 能力ある; 富める; (圖) を支配する. 男 支配者; [*Siva* 神の稱]; [人名]; 自在主, 自在天, 大自在天, 衆生主 *Aṣṭ-pr., Mvyut., 玄應;* 伊沙 玄應.
 íśāna-kṛt 形 能力又は資格ある人の如く行動する, 所有物又は能力を行使する.
 íśāna-candra 男 [人名].
 íśāna-devi 女 [人名].
 íśāna-bali 男 [供犠の一種].
 íśā-vaśa-vartin 男 (梵) 王大自在 *Sikṣ.*
 íśitavya (未受分) 支配を受くべき, 支配せらるゝ, 從屬せる.
 íśitavyatva 甲 支配せらるゝこと.
 íśitavyāya (名動) 他 *íśitavyāyati* 恰も支配を受くるが如くに振舞ふ.
 íśitā 女 支配者たること, 主權.
 íśitr 男 支配者, 主.
 íśitva 甲 = *íśitā*; 作主, 主性 *Mvyut.*
 íśin 形 (一°) を支配する, 司令する.
 íśini 女 = *íśitā*.
 íśopaniṣad (íśā-up°) 女 [或る *Upaniṣad* の題名].
 íśvara 形 (不定, 於) し得る, ……する能力ある; [tos にて終る 不定 と俱に用ひらるゝ場合には性及び數に關せず 圖 單 男 を用ふ]. 男 (圖, 於, 一°) の所有者; 支配者, 主, 王, 侯; 顯官, 富豪; 夫; 最高神; *Brahman* 神; *Siva* 神; 王, 自在, 主宰, 自在行; 富; 自在天 *Buddh-c., Gand-vy., Suv-pr., Lank., Mañj-m., Sikṣ., Sūtr., Abh-vy., Mvyut., 梵籍.* → *caturdvīpa* ~, *tridaśādhīpatya* ~.
 íśvara-kāraṇika 男 *Íśvara* 神の信奉者 (*Jāt-m.*).
 íśvara-kṛta 形 自在化, 自在天作, 自在天生,

從自在天生 *Madhy-v.*
 íśvara-kṛṣṇa 男 [*Sāṃkhya-kārikā* の著作者の名]; 自在黒 *Sāṃkhy-k.*
 íśvaratā 女 支配, 統治權.
 íśvaratva 甲 [同上].
 Íśvara-praṇidhāna 甲 神意に従ふこと.
 íśvara-rūpa 甲 自在天身 *Saddh-p.*
 íśvara-varman 男 [人名].
 íśvara-hetuka 形 自在爲因 *Abh-vy.*
 íśvari 女 王妃.
 Íṣ, I. 他 自 *iṣati(-te)* 行く, 去る, (從) より去る; (定) を離る, ……と別る; 落穂を拾ふ; 攻撃す.
 ā- 突進す.
 ud-, sam-ud- 起ち上る, 攀ち登る.
 iṣaṇa 1. 甲 [*Íṣ* 2.] 希求 *Lal-v.*
 iṣaṇa 2. 形 [*Íṣ* 1.] 急ぐ.
 iṣat (甲 現分) 圖 殆ど, 僅に, 少々, 多少; 容易に [履: °-]; 漸減 *Sikṣ.:* ~ *jīvitāvaśesa* 餘命 漸減 *Sikṣ. 207.*
 iṣat-kara 形 少しく爲す; 容易に爲さるゝ.
 iṣat-kārya 形 (於) をなし易き.
 iṣat-pāna 形 飲み易き; 少しく飲まるゝ. 甲 (飲料の) 少量.
 iṣat-samjña 形 僅かに意識を有する.
 iṣad-asamāpti 女 殆ど完成又は完全せること; 不足又は不完全の些少なること.
 iṣad-ādhyam-kara 形 富ましめ易き.
 iṣad-ādhyam-bhava 形 富むに容易なる.
 iṣad-upadāna 形 亡され易き.
 iṣad-bijā 女 [葡萄の一種].
 iṣā 女 (車の) 轆; 犁の柄; 兩 二又の轆; 軸, 轆; 犁 *Gand-vy., Mvyut.*
 iṣā-daṇḍa 男 犁の柄.
 iṣā-danta 男 轆の如き長き牙を有する象.
 iṣā-dhara 男 [山の名] 持軸 *Dharm-s.;* 伊沙馱羅, 伊沙陀羅, 伊沙陀羅 *Abh-k., Mvyut., 玄應.*
 iṣā-dharā 女 [同上] (*Divy.*).
 iṣā-dhāra 形 譬如車軸滴, 雨滴如車軸 *Abh-vy. 259.* 男 [山の名] 持軸 *Divy.*
 iṣikā 女 葦; 矢.
 iṣikā-bhūta 形 全く矢にて充ちたる.
 Íh, I. 自 (他) *ihate(-ti)* (業) を得んと努む, ……を覘ふ, (不定) せんと希ふ; 企つ; 努力す. (通受分)
 ihita 覘はれたる, 願望せられたる; (於) を志せる, ……を意味せる.
 sam- [= 單純動詞].
 ihana 甲 行 *Abh-vy.* → *ādāra* ~.
 ihā 女 盡力, 努力; 仕事, 勤勞, 勞働; 願望, 希望.
 ihātas 圖 勤勉に, 勢よく, 勞働又は努力を以て.
 ihā-mṛga 男 狼; [戲曲の一種].
 ihāvat 形 精勵なる; 勇敢なる.
 ihita (通受分) → *Íh.* 甲 盡力, 努力; 勤勞, 勞働; 目的; 願望, 希望.

U

u 1. 間投 [忿怒, 命令を表はす (Sandhi に関係なし)].
u 2., **ū** 附帶 (不變辭) 而して, 又た, 亦た; 然し, 然るに; 今や, 丁度: 直ちに. ～……～, ……も……も亦た; [此は特に代名詞・關係代名詞・疑問詞・若干の不變化小辭及び **-tavai** に終る不定法の後に用ひらる]; [國にては **atha-u**, **na-u** 及び **kim-u** としてのみ使用せらる].
u 3. 文法 [接尾音 -u].
U, **V**. 他 **unoti** 呼ぶ, 叫ぶ.
uka 文法 [接尾音 -uka].
u-kāra 男 文法 u の字, u の音; 烏字 [五十字門の一]: ～e upadrava-bahulam jagad iti (→ a-kāra) 唱烏(上)字時出世間諸惱亂事聲 Lal-v. 127.
ukkarikā 女 俗 雜物 Divy. 500.
ukta 過受分 語られたる, 言はれたる; 話しかけられたる. → Vac. 云, 謂, 言, 告, 名, 自言, 説, 已説, 宣説 Av-ś., Saddh-p., Lan̄k., Śiks, Abh-k., Abh-vy., Vajr-s.: evam ～e 如是語已, 作是語已 Vajr-pr. 2. 中 語, 言語.
uktatva 中 言明, 聲明, 陳述; 已説 Abh-vy.
ukta-pūrva 形 前に言はれたる, 上述の.
ukta-pratyukta 中 問と答, 會話; [交互に歌ふ歌の一種].
ukta-mātra 形 述べられたるのみの; 於 ……と言はるゝや否や.
ukta-rūpa 形 述べられたる如き形又は種類の.
uktavat 過能分 [Vac] 語りたる; 宣説 Śiks.
ukta-vākya 形 言へる.
uktānuśāsana 形 命令を受けたる.
ukti 女 宣言; 文章; 陳述; 演説, 談話; 言葉, 表現; 歌; 價值ある言葉又は演説; 説 Abh-k., Abh-vy. ～m Kr, 聲を擧ぐ.
ukti-pratyuktikā 男 冗語.
ukti-pratyuktikā 女 質問と答辯.
uktapaniṣatka (°ta-up°) 形 *Upaniṣad* を教へられたる.
uktvā 不變分 [Vac] 話して, 言ひて.
uktha 中 言; 文章; 詩; 稱讚, 讚歌; 祈願; (Ilotr 祭官の) 讚誦 [後に Śastra と稱せらる].
uktham-vāc 女 [Śastra の一部].
uktha-doha 男 [Śastra の最後の部分の名].
uktha-pattra 形 讚歌を翼として有する.
uktha-pātra 中 Uktha の唱誦せらるゝ間に與へらるゝ奠酒の容器.
uktha-bhṛt 形 讚頌を奉呈する.
uktha-mukha 中 Uktha の唱誦の開始.
ukthavat 形 Uktha に關聯せる.
uktha-varadhana 形 元氣回復の爲に讚歌を有する; 讚誦によりて元氣附けらるゝ或は喜ばさるゝ.
uktha-vāhas 形 讚頌を奉呈する; 讚頌を呈せられたる.

uktha-vid 形 讚歌に習熟せる.
uktha-vidha 形 讚頌の如き.
uktha-virya 中 [Śastra の一部].
uktha-samsin 形 稱讚する, Uktha を唱ふる.
ukthasās 形 讚頌を唱ふる, 稱讚する.
ukthasāsa 形 [同上].
uktha-śuṣma 形 讚歌を以て音高く反響する; 讚歌の聲と俱に動く, 高らかなる讚歌の聲に伴はれたる; 稱讚を力とせる.
uktha-sampad 女 [Śastra の結末の讚歌].
ukthā 女 [音律の一種].
ukthā-mada 中 稱讚と喜悅.
ukthāyu 形 稱讚に熱心なる.
ukthārka 中 唱誦と讚歌.
ukthā-vi 形 讚歌を好む.
ukthā-śastra 中 唱誦と稱讚.
ukthin 形 稱讚する, 讚歌を唱ふる, 稱讚又は(祭に於て) Uktha に伴はれたる.
ukthya 形 稱讚に値する, 稱讚に伴はれたる, 稱讚に熟練せる, Uktha に伴はれたる. 男 [Soma 祭の一種].
u-Kram ukramati (俗). → Kram.
Ukṣ 1., I., V. 他 自 **ukṣati(-te)** 撒布す; 自 **ukṣate** 滴たる. 過受分 **ukṣita** 濯がれたる, 濡れたる.
abhi- 濯ぐ, 滴たらしむ.
anu-pari- 周圍に撒き散らす.
pra- 濯ぐ; (供儀の爲に) 淨む; 供儀を行ふ.
saṃ-pra- 濯ぐ; 自 自身へ濯ぐ. 便役 **saṃprokṣayati** 殺祀, 殺祠祀 Divy. 623.
Ukṣ 2., I. 他 **ukṣati** 成長す, 強くなる. 過受分 **ukṣita** 強き, 成長せる.
ukṣa 形 大なる.
ukṣaṇa 中 撒布, 洒水によりて淨むること, 穢淨.
ukṣaṇa-ja 形 淨洒水より生ずる.
ukṣaṇya 名動 他 **ukṣaṇyati** 牡牛又は家畜を欲す.
ukṣaṇyu 形 牡牛又は家畜を欲する.
ukṣatara 男 小き又は若き牡牛.
ukṣan 男 牡牛.
ukṣa-sena 男 [王の名].
ukṣāṇa 男 =ukṣan.
ukṣita 過受分 → Ukṣ 1, 2.
ukha 男 [割りぬかれたる: ud-KHā] 料理用の壺, 鍋.
ukha-cchid 形 腰を挫折せる.
ukhā 女 =ukha.
ukhya 形 壺の中にある, 鍋にて煮られたる.
ug-it 形 it として uk (即ち u 又は i) を有する.
ugga 形 俗 [<ugra]; 或る長者の名 威徳 女; 郁伽 立應.
ugra 形 威力ある; 激烈なる; 高き, 尊き; 峻厳なる, 恐しき, 怖るべき, 嚴格なる; 嚴, 強, 勝, 最勝, 極, 最極, 最上, 最劇; 逆, 兇惡, 險惡, 具緊惡

Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut. 男 有力者, 偉人, 兇暴なる人; [*Siva* 神又は *Rudra* 神の稱]; [(*Kṣatriya* と *Sūdrā* との間に生れたる)混血種姓の名]; 優伽 (音寫) [長者又は書體の名] 優伽, 郁伽羅 *Lal-v., Śikṣ.*

ugra-karṇika 男 [(甚しく大なる耳飾りを有する者) 山男 (*Kirāta*) の名].

ugra-karman 形 行爲の猛烈なる, 荒き. 男 [人名].

ugra-gādha 男 測り難き或は恐しき深淵.

ugra-ghoṣa 形 大音聲を發する, 激しく響ける.

ugra-cārin 形 速かに運行する(月).

ugra-tapas 形 激しき苦行をなせる. 男 [或る *Muni* の名].

ugratā 女 激情, 兇暴性; 亂暴なること.

ugra-tejas 形 鋭き威力を有する, 精力の盛なる. 男 [或る *Nāga* の名]; 佛の名] 最勝光明 *Lal-v.*; [梵天子の名] 勝光 *Lal-v.*; [魔子の名] 嚴威, 強威 *Lal-v.* 甲 猛火 *Lal-v.*

ugratva 甲 = *ugratā*.

ugra-damṣṭri 女 [*Meru* の娘の名].

ugra-daṇḍa 形 苛酷に支配する, 無慈悲なる.

ugra-datta-paripṛcchā 女 [經名] 最上授所問經. 最上問經 *Śikṣ.* [郁伽羅越問菩薩行經, 郁伽長者所問經(大寶積經第十九會)等].

ugra-darśana 形 恐しき形相の, 見るも怖しき.

ugra-duhitṛ 女 強力なる人の娘.

ugra-deva 男 [人名].

ugra-dhanvan 男 [(強力なる弓を有する), *Indra* 神の稱].

ugra-dhāman 形 恐しき威力ある.

ugra-dhṛtāyudha (°*ta-āy*°) 形 怖るべき武器を執れる (*Buddh-c.*).

ugra-paripṛcchā 女 = *ugradatta-paripṛcchā* [經名] 最上問經. 聖雄長者請問經 *Śikṣ., Mvyut.*

ugraparipṛcchā-sūtra 甲 = *ugradatta-paripṛcchā* [經名] 最上授所問經 *Śikṣ.*

ugra-paśya 形 恐しき, 醜惡の, 外見の兇暴なる; 兇惡の.

ugra-putra 男 強力なる人の子息. 形 有力なる子息を有する.

ugra-pūti 形 恐しき恐臭ある.

ugra-pradarśana 形 = *ugra-darśana*.

ugra-prabhāva 形 至高にして有力なる.

ugra-bāhu 形 大なる或は強き腕を有する.

ugra-bhaṭa 男 [王の名].

ugra-ramhas 形 極めて速かなる.

ugra-ruṣ 形 激怒せる.

ugra-rūpa 形 = *ugra-darśana*.

ugra-lipi 女 (音寫) 優伽書, 郁伽羅書 *Lal-v. 125.*

ugra-vīrya 形 恐しき威力ある, 大なる勇氣ある.

ugra-vīryatā 女 勝勇 *Sūtr.*

ugra-vega 形 極めて速かなる; 洪濤 *Buddh-c. 9.*

ugra-śakti 男 [王の名].

ugra-śāsana 形 命令の嚴格なる.

ugraśāsana-sena 男 [諸王の名].

ugra-śravas 男 [*Lomaharṣaṇa* の子の名].

ugra-sevita 形 怖しき者の任める.

ugrātāpa (°*ra-āt*°) 形 酷暑の.

ugrāyudha (°*ra-āy*°) 男 [人名]. 形 有力なる武器を有する.

ugreśa (°*ra-iśa*) 男 有力なる王, [*Siva* 神の稱]; [*Ugra* の建立せる寺院の名].

Uc, IV. 他 **ucyati** 好む; ……に慣る; 喜 *Saddh-p.* (過受分) **ucita** (屬, 於, 一°) を好める, ……を常とせる; 慣れたる, 通曉せる, よく知れる; 適當なる, 適切なる, 相應しき; 便宜なる; (不定) を餘儀なくせられたる; 具 適當に, 相應しく.

sam- (具) を楽しむ. (過受分) **samucita** (屬, 一°) を常とせる; (屬, 一°) に適せる.

ucatha 甲 讚歌, 唱誦.

ucathya 形 稱讚に値する. 男 [或る *Āṅgīrasa* の名].

ucita (過受分) → *Uc.* 習, 曾習, 曾得, 曾悉, 前悉, 曾熟習, 已曾數數所習; 常(所給賜); 長, 熟; 相當 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

ucita-jña 形 適當なることを知れる.

ucita-jñatā 女 [同上 甲].

ucitatva 甲 適當なること, 相應せること.

ucita-darśitva 甲 適當又は妥當なることを知ること (*Buddh-c.*).

ucca (ud-ca) 形 (上方に), 聳ゆる; 高き [特に音に譬へて用ふ]; 聲高き; 長, 遠; 高, 高廣, 高貴, 高大; 高聲; 豪貴 *Buddh-c., Ast-pr., Saddh-p., Bodh-bh.*; 音寫 嗚遮 立應. 男 高さ.

uc-cakita (過受分) → *Cak.*

ucca-kula 甲 高種, 勝家, 上族, 上種族, 尊勝族 *Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*

ucca-kulina 形 尊榮富貴 *Av-s.*

uccakaiḥ-Kṛ, 高む, 高處に建つ.

uccakair-āsanatas 副 高き座より.

uccakais (具 頤) 副 聲高く; 高く; [時に 不變 (形) として用ひらる] 甚だ高き, 聲高き.

uc-cakṣus 形 眼が上方に向けられたる.

ucca-gir 形 (一°) を聲高く宣言する, 聲高き.

ucca-gopura 形 高き門ある.

uccagghat (現分 俗 戲調) 高聲呵責, 作大戲笑 *Śikṣ. 12, 49.* → *ava-Has, Jaks 2.*

uccagghana 甲 (俗 戲調) 輕(笑) *Saddh-p.* → *ava-Has, Jaks 2.* ~ *m karisyanty ullapiṣyanti* 輕笑 *Saddh-p. 482.*

uccagghanā 女 (俗 戲調) 戲調 *Śikṣ. 45.* → *ava-Has, Jaks 2.*

uccagghanollāpana (°*nā-ul*°) 甲 (俗 戲調) 輕易 *Śikṣ. 271.*

uccagghaya (名動) **uccagghayaṣyati** (宋) 輕凌, 輕易, 輕蔑 *Ast-pr. 771.* (現分) **uccagghayat** 輕凌, 輕蔑 *Ast-pr. 500.* → *ava-Has, Jaks 2.*

uccagghitavat (過能分 俗 戲調) 笑, 輕 *Saddh-p. 382.* *ullāpitavanta* ~ *vantaḥ* 輕, 笑 *Saddh-p. 382.* → *uccagghanā, ava-Has, Jaks 2.*

uccaghanā 女 (俗 戲調) 惡賤 *Śikṣ. 185.* → *uccag-*

ghanā, ava-Has, Jaks 2.
uc-Caṭ uccatati. → Caṭ.
uc-caṇḍa 形 甚だ猛烈なる; 有力なる; 恐しき.
uccataraka 形 高 Bodh-bh., Mvyut.: ~e āsane 在高座 Mvyut.
uccatā 女 優越.
ucca-tuṅga 男 山峯 Mañj-m.
uccatva 中 優越; 高 Rāṣṭr.
ucca-dhvaja 男 [(Tuṣita 諸天の師たる) Sākyamuni の稱]; [Tuṣita 天宮内の大殿の名] 高幢 Lal-v.
ucca-nica 中 星の高低の位置; アクセントの變化. 形 高き或は低き位置を占めたる; 高きと低きと, 複雑なる, 種々の.
uc-caya 男 蓄積, 蒐集, 堆積, 量; 多量; 添加; 集, 積 Lal-v.
uccayāpacaya 男 興亡; 繁榮と衰亡.
uc-Car uccarati(-te), uccārayati(便役). → Car.
uc-carāṇa 中 發聲, 發音; 上ること, 出づること.
uc-carita 通受分 上れる, 出でたる; 起れる; 發聲せる; 捨, 棄捨 Gaṇḍ-vy. 中 排泄物.
uc-Cal uccalati. → Cal.
uc-cala 男 [王の名].
uc-calita 通受分 上れる, 去らしめられたる, 出でたる; 動, 増勝, 昇進 Daś-bh., Mvyut.; 超, 超越 Gaṇḍ-vy.; 離, 捨離, 遠離; 永出, 動出 Gaṇḍ-vy., Daś-bh. → an~.
ucca-locana 中 明盲.
ucca-śabda 男 高き聲, 大聲; 高聲, 喧聲 Divy., Vin., Śikṣ.
ucca-śayana 中 高牀 Mvyut.
uccaśayana-mahā-śayana-virati 女 不坐高大牀, 離高牀大牀, 棄高牀 Mvyut.
uccaśas 副 上方に.
uc-caṣaka 中 飲み乾されたる或は放置せられたる酒杯.
ucca-saṃśraya 形 高き, 高く閃く.
ucca-svara 男 大音聲 Śikṣ.
uccā (女) 副 上方に; 上方より; 上方へ.
uc-cāṭana 中 除去すること, 排除; 分 Mvyut.
uc-cāṭaniya 未受分 驅逐せらるべき.
uc-cāṭita 通受分 驅逐せられたる.
uccāṭi-karāṇa 中 動搖せしむること.
uc-cāra 形 上る. 男 發音; 排泄, 糞便; 糞尿, 糞屎, 糞穢, 大便, 穢, 雜穢, 穢惡 Divy., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.
uc-cāraṇa 中 發音; 聞えしむること.
uccāraṇa-jña 形 發音又は言語に長ぜる. 男 言語學者.
uc-cāraṇatā 女 宣唱 Madhy-vibh.
uc-cāraṇiya 未受分 發音せらるべき.
uccāra-pūrṇa 形 雜穢充偏 Saddh-p.
uccāra-prasravaṇa 中 糞便.
uccāra-prasrāva 男 屎尿, 大小便, 糞穢 Divy., Lal-v., Av-ś., Prāt-m. ~m Kr 大小便 Mvyut.
uccāraprasrāva-niṣyanda 男 便利 Śikṣ.

uccāraprasrāva-sthāna 中 便所.
uc-cārayitavya 未受分 令…念 Mañj-m. 37.
uc-cārita 通受分 糞便を排泄せる; 發音せられたる. 中 排泄.
uc-cārya 未受分 話さるべき, 發音せらるべき.
uccāvaca 形 高きと低きと; 大と小との; 變化せる, 種々の; 不規則の.
uccāsaṇa (°ca-ās°) 中 高, 高處 Prāt-m., Vin.: ~e nisannaḥ 在高, 坐高處 Prāt-m., Vin.
uc-Ci uccinoti, uccinute. → Ci I.
uc-ciciṣā 女 集めんとする欲望.
uc-cita 通受分 集められたる.
uc-citra 形 優美に彩られたる.
uc-citrita 通受分 → citraya.
uc-Cumb, → Cumb.
uc-cumbya 未受分 抱き上げて接吻して.
uc-Culump, → Culump.
uc-ceya 未受分 集めらるべき, 摘み取らるべき.
uccaiḥ-kāram 副 大聲にて.
uccaiḥ-kula 中 高貴なる家又は族.
uccaiḥ-pada 中 高き地位.
uccaiḥ-paurṇa-māsi 女 (日没前に月の出づる) 満月の日.
uccaiḥ-pramodam 副 歡聲を擧げて.
uccair-abhijana 形 貴き家系の.
uccair-uccaiḥ-śravas 男 貴き Uccaiḥ-śravas.
uccair-uccaistarām 副 益, 高く.
uccair-gati 女 上昇.
uccair-ghoṣa 形 音高く響く, 叫ぶ, 嘶く, 吼ゆる.
uccair-dviṣ 形 強敵を有する.
uccair-dhāman 形 強く輝ける.
uccair-bhāṣaṇa 中 聲高き談話.
uccair-bhāṣin 形 高語 Śikṣ.
uccair-bhāṣya 中 =uccair-bhāṣaṇa.
uccair-bhuja 形 腕を上げたる.
uccair-vāda 男 高言, 傲語.
uccaiḥ-śiras 形 頭を擡げたる; 卓越せる, 高貴の.
uccaiḥ-śravas 男 [大洋を攪拌して生ぜし神話上の馬の名].
uccais (男) 副 高く; 上に; 上方に; 聲高く; 大聲に; 非常に, 盛に, 熱心に, 十分に; 高, 高聲 Saddh-p., Bodh-bh.; [BHū と俱に] 上る, 昇る.
uccaistamām 副 甚だしく高く, 高く上に; 大聲に.
uccaistara 比較 より高き; 甚だ高き或は長身なる; より大聲の, 甚だ大聲の.
uccaistaratva 中 甚だ高きこと.
uccaistarām 副 より高く; より大聲に.
uccaistva 中 [uccais の 中]; 高 Saddh-p. ~ena 高, 高顯 Lal-v., Aṣṭ-pr.
uccaiḥ-sthāna 中 高き位置. 形 位高き, 場處の高き.
uccaiḥ-svara 男 高聲, 擧聲 Saddh-p.
uccocca (°ca-uc°) 形 威德勝望 Lal-v.
uc-Cyu uccyāvayati(便役). → Cyu.
Ucch, → Vas I.
ucchagghana 中 笑 Mvyut. → uccag-

ghanā.
ucchaṅkha-pāda 形 足跣修高充滿 *Mvyut.*
ucchaṅga 中 俗 數の名 鬱僧伽, 有藏伽, 郁藏伽 *Lal-v., Mvyut.* → *utsaṅga.*
ucchaṅga-pāda 形 俗 [<utsaṅga-pāda]; 足下安平 *Lal-v. 429.*
ucchada 男 俗 [<utsada. *Pāli. ussada*]; 增 *Prājñ-vy. 335.*
ucchadaka 男 俗 [<utsadaka] (*Saddh-p. 341.*)
uc-channa 通受分 覆を取られたる, 著物を脱せる; 俗 [<ut-sanna] 失へる, 破壊せられたる.
uccharkara (ud-śa°) 形 塔根 [*Tib. gram-sa*] *Mvyut.*
uc-chal (ud-Śal) *ucchalati.* → Śal.
uc-chalat 現分 → Śal.
uc-chalita 通受分 → Śal. 出, 超越 *Sikṣ.*
uc-chava 男 俗 [<utsava]; 折慶 *Sikṣ. 365.*
uc-chasīta 通受分 → Śas.
uc-chas (ud-Śas), → Śas.
uc-chādaka 形 數學 *Bodh-bh.*
uc-chādana 中 香油等を身體に擦り込むこと.
ucchān, [因 Vas I. の 現 三 八 積 接].
uc-chās (ud-Śās) *ucchāsti.* → Śās.
uc-chāstra 男 典論相違 *Abh-vy.*
ucchāstra-vartin 形 法典を犯す, 法典に違ふ.
uc-chikha 形 冠毛を逆立てたる(孔雀); 焰の昇れる, 赫々と燃え上る.
uc-chikhaṇḍa 形 尾を張り擴げたる(孔雀).
uc-chitti 女 破壊, 絶滅; 腐敗; 乾燥.
uc-CHid *ucchinatti ucchedayati*(使役). → CHid.
uc-chinna 通受分 切り取られたる, 破壊せられたる. → CHid. 絶, 断, 已断 *Lal-v., Lan̄k.* 男 [sandhi.を補ひ] [豊饒なる領地を割讓して得たる和陸].
uc-chiras 形 頭を擡げたる.
uc-chiraska 形 [同上] (*Jāt-m.*).
uc-chilindhra 中 急速に生成せる輩. 形 輩にて覆はれたる.
uc-chiṣ (ud-Śiṣ) *ucchinasti.* → Śiṣ I.
uc-chiṣṭa 通受分 保留せられたる; (口或は手に)食物の残りある, (祭式上)不淨なる. → Śiṣ I. 殘, 殘餘, 餘剩 *Vin., Bodh-bh.* 中 殘部, 餘り物(特に供物又は食物の).
uc-chiṣṭatā 女 不淨; 殘物たること. ~m Ni 殆ど食ひ盡す.
ucchiṣṭa-bhāj 形 殘餘を受くる.
ucchiṣṭa-bhoktr 形 殘饌を食ふ; 貧しき.
ucchiṣṭa-bhojana 中 他人の殘食を食ふこと.
ucchiṣṭāśana 中 殘物を食ふこと.
uc-chirṣaka 形 頭を擡げたる. 中 枕.
uc-chuc (ud-Śuc) *ucchocayati*(使役). → Śuc.
uc-chuṣ (ud-Śuṣ) *ucchusyati, ucchosayati* (使役). → Śuṣ I.
uc-chuṣka 形 乾き盡せる; 乾 *Lal-v.*
uc-chuṣma 形 その爆聲が表示となる (*Agni* 神). 男 [明王の名] 暴(?), 除穢忿怒尊 *Mvyut.*

uc-chūna 通受分 → Śvā.
uc-chṛikhala 形 足械を除去せられたる; 拘束せられざる, 制限を除かれたる.
uc-chṛigita 通受分 直立せる角を有せる.
uc-chṛta 通受分 俗 [<ucchrita]; 出 *Saddh-p. 235.*
uc-chettr 男 破壊者, 撲滅者.
uc-cheda 男 切断又は截割すること; 破壊, 絶滅; 断, 断絶, 断滅 *Vajr-pr., Lan̄k., Abh-vy., Madhy-v., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*
uc-chedakatva 中 能断 *Bodh-bh.*
uccheda-darśana 中 断見 *Lan̄k.*
uccheda-dṛṣṭi 女 断見 *Lan̄k.*
uc-chedana 形 (女-i) 断つ, 滅ぼす (*Jāt-m.*). 中 = *uccheda*; 断 *Aṣṭ-pr.*
uc-chedaniya 未受分 切断せらるべき.
uccheda-vāda 男 死を以て一切の終結となす學說 (*Jāt-m.*); 断滅論, 断見論議, 断見戲論 *Lan̄k.*
uccheda-vādin 男 *Uccheda-vada* の學徒 (*Jāt-m.*); 断論, 断滅論, 說(空)断見 *Bodh-bh., Sikṣ.*
uccheda-śāśvata-vādin 男 断常見論 *Lan̄k.*
ucchedānta 男 断邊, 断滅邊 *Madhy-vibh.*
uc-cheditva 中 断, 不相續 *Abh-vy.*
uc-chedin 形 (一°)を破壊する; (疑を)決する.
uc-chedya 未受分 破壊せらるべき.
uc-cheṣa 形 殘されたる. 男 殘餘, 断片; 殘 *Abh-vy.*
uc-cheṣaṇa 中 [同上(男)].
uccheṣaṇi-Kṛ, 餘す, 遺留す.
uc-chocana 形 燃ゆる.
uc-chotha 男 膨脹, 脹大.
uc-chopha 男 [同上].
uc-choṣa 男 乾燥, 涸渴.
uc-choṣaṇa 形 乾かす, 乾燥せしむる. 中 乾かすこと, 乾くこと.
uc-choṣaṇatā 女 竭, 消竭, 令乾竭, 令枯竭 *Gaṇḍ-vy.*
uc-choṣita 通受分 乾竭 *Divy.*
uc-choṣuka 形 乾かす, 枯れる.
uc-chmaśru 形 鬚ある.
ucchrathāya (名動) → śrathāya.
uc-chraya 男 上昇, 高騰; 高さ; 成長; 増加 高, 尊 *Abh-k.*; 身 *Saddh-p.*
uc-chrayaṇa 中 揚ぐること, 舉ぐること, 起すこと.
ucchraya-māna 中 高慢, 憍慢 *Bodh-bh.*
ucchraya-viśeṣa 男 憍傲, 矜異 *Bodh-bh.*
uc-chrāpita 使役 通受分 軒, 捧持, 捧出, 建立 *Divy.*, 梵千.
uc-chrāya 男 上昇, 高騰; 高さ, 成長, 増加; 高 *Abh-vy.*
uc-chrāyita 使役 通受分 捧持, 示現 *Divy.*
uc-chrāyin 形 高き, 舉げられたる.
uc-chri (ud-Śri) *ucchrayati, ucchrāpayati*(使役). → Śri.
uc-chrita 通受分 舉げられたる, 高くせられたる; 高き. → Śri. 竖, 竖立, 起建, 建立; 高, 高

峻, 高聳 *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*; 懸 *Divy.*:
 na ~ m ātmānam vikhyāpayati 不現相而起自高
Bodh-bh. 150.
ucchrita-pāṇi 形 手を高く延したる。
uc-chriti 女 上昇; 高むること; 成長, 増加。
uc-chrepana 中 能正策舉 *Bodh-bh.* 379.
uc-chrepita 使役 過受分 俗 [<ucchrāpita]; 建立, 豎立 *Lal-v.* 351., *Suv-pr.* 54.
uc-chreya 形 高き; 増上 *Daś-bh.*
uc-chvañc (ud-Śvañc) ucchvañcate. → Śvañc.
ucchvañcasva, [ud-Śvañc の 命 二 入 單 自].
uc-chvas (ud-Śvas) ucchvasiti, ucchvāsayaṭi(使役).
 → Śvas.
uc-chvasana 中 呼吸, 太息(氣); 弛緩。
uc-chvasita 過受分 → Śvas. 中 息, 呼吸; 出息;
 太息; 分離, 解くこと。
uc-chvasta 過受分 → Śvas.
uc-chvā (ud-Śvā) ucchvayati. → Śvā.
uc-chvāsa 男 息, 呼吸, 出息; 太息(氣); 息を引取
 ること, 死; 泡; 増加, 脹れ上ること, 立ち上ること,
 一氣(に飲み乾すこと); 慰藉, 鼓舞; 節; 章; 息, 出息
Abh-vy., *Sikṣ.*
uc-chvāsita 使役 過受分 裂けたる; 解かれたる; 上
 げられたる. → Śvas.
uc-chvāsin 形 息を吐く; 再び呼吸する; 太息する,
 脹れ上る, 起き上る; 出づる。
ujjañkikā 女 灰足(?), 拉衣行 *Mvyut.*
uj-jañgala 男 堅き不毛の地; 砂多くして放棄せられ
 たる地 (*Mah-v.*); 高原 *Saddh-p.* 233.: ūsarā
 ~ ā 砂磔 *Aṣṭ-pr.* 822.
ujjayani 女 [都城の名, = *Ujjayini*]; 最勝
Mvyut.; 嚙誓尼 *Mvyut.*: ~ nagari 最勝城;
 (嚙誓) 嚙誓尼城 *Mvyut.*
ujjayini 女 [勝利の女神の名]; [*Avanti* 國の首都の
 名, 現今の *Oujein* 市]. → *ujjayani*.
uj-Jas *ujjāsayaṭi*(使役). → *Jas*.
uj-jāgara 形 激昂せる, 憤れる。
uj-Ji *ujjayati*, *ujjāpayati*(使役). → *Ji*.
uj-jiti 女 勝利。
uj-jihāna-jivita 形 生命の去らんとする, 將に死せ
 んとする。
uj-jihānā 女 [町の名].
uj-jihirṣā 女 [希求 Hr] 危険より援け出さんと欲す
 ること; 取らんと願ふこと。
uj-jihīṣu 形 引き出さんと欲する; 援けんと欲する。
uj-Jiv *ujjivati*. → *Jiv*.
uj-jivin 男 [或る鳥の名].
ujju 形 俗 [< *rju*]; 質直 *Lal-v.* 133, 295.
ujjuka 形 俗 [< *rjuka*]; 正 *Saddh-p.* 125.
uj-Jṛmbh *ujjṛmbhate*. → *Jṛmbh*.
uj-jṛmbha 形 欠伸する。
uj-jṛmbhaṇa 中 欠伸すること, 口を開くこと; 突
 發, 出現。
uj-jṛmbhaṇā 女 出現, 興起。
uj-jeṣa 形 勝利を獲たる。
ujjya 形 弦を弛めたる(弓)。

uj-Jval *ujjvalati*, *ujjvaliti*, *ujjvalayati*(使役). →
Jval.
uj-jvala 形 (一°)を以て或はの如く輝ける, 燦然たる;
 光明, 光明晃耀 *Suv-pr.*, *Bodh-c.*
uj-jvalatva 中 光輝; 美; 極猛盛 *Bodh-bh.*
uj-jvalana 中 燃焼, 光輝; 火; 黄金(?).
uj-jvalā 女 [*Hāhā* の娘の名].
uj-jvalita 過受分 点火せられたる, 輝く, 燃ゆる。
ujjvalita-tejasa 形 大威徳 *Lal-v.*
ujjvali-Kṛ, 光耀あらしむ; 飾る。
ujjvali-BHū, 輝く。
uj-jvālana 中 燃焼; 熾然 *Sikṣ.*
uj-jvālita 使役 過受分 照耀, 奮光 *Lal-v.*
Ujjh (ud-Hā), VI. 中 **ujjhati** 棄つ, 止む, 去る; 見限
 る, 放つ; 落す; 避く; 捨 *Saddh-p.* 過受分
ujjhita 見放されたる, 棄てられたる; (興, 一°)よ
 り免れたる, ……なき。
pra- 避く, 棄つ。
sam- 棄つ。
ujjha 形 (一°)を棄つる, 等閑に附する, 忘る。
uj-jhaṭita 過受分 → *JHaṭ*.
ujjhana 中 取除くこと; 避くこと, 止むること。
ujjhita 過受分 → *Ujjh*. 所棄 *Sikṣ.* →
vāk-patha ~.
ujjhita-karṇaka 形 耳環なき (*Buddh-c.*).
Uñch, I., VI. 中 **uñchati** 落穂を拾ふ, 掻き集む。
pra- 拭ひ去る, 消す; 淨む; 掃 *poñchitum*
 (不定) [< *proñchitum*. *Pāli*. *puñchati*] 拂拭 *Divy.*
 491.
uñcha 男 中 落穂を拾ふこと。
uñcha-dharman 形 落穂を拾ひて生活する。
uñchana 中 = *uñcha*.
uñcha-vartin 形 男 [同下].
uñcha-vṛtti 形 落穂にて生活する. 男 落穂拾ひ。
uñcha-ṣaṣṭha 中 集めし落穂の六分の一。
uṭa 男 (小屋を造るに用る)木の葉, 草。
uṭa-ja 男 中 木の葉造りの小屋。
uṭ-ṭaṅkana 中 捺印すること; 銘記すること。
uṭ-ṭaṅkikā(?) 女 以脚掌面立行, 足指行 *Mvyut.*
uṭ-ṭaṅkita 過受分 → *ṭaṅkaya*.
uḍigalla 又は **oḍigalla**, [*Pāli*. *oligalla*] → *gū-*
thoḍigalla.
uḍilla, [同上].
uḍu 女 中 星 - 中 月宿。
uḍu-gaṇādhīpa 男 (諸星の王), 月(太陰).
uḍu-nātha 男 月(太陰).
uḍu-pa 男 [同上]. 男 中 輕舟, 小舟。
uḍu-pati 男 月(太陰).
uḍumbara 男 = *udumbara*.
uḍu-rāj 男 月(太陰); *Soma*.
uḍu-rāja 男 [同上].
uḍ-dayana 中 飛揚, 飛翔。
uḍ-dāmara 形 優秀なる, 特殊の, 尊敬すべき, 高位
 の; 怖れしむる, 凶暴なる。
uḍ-Di *uddāyate*, *uddiyate*. → *Di*.
uḍ-dina 過受分 → *Di*. 中 = *ud-dayana*.

ud-diyana ㊦ = ud-dayana.

ud-diyamāna ㊦ 飛揚する, 飛翔する.

udra ㊦ [國の名 (Orissa)]; ㊦ [民族の名].

unādi ㊦ ㊦ [Unādi 接尾音, u 等の特殊なる一類の第一次接尾音].

uṇḍuka ㊦ 小囊, 網; 胃; ㊦ —° 輪 Lanḅ.: keśa- ~ 毛輪 Lanḅ. 82.

uṇḍeraka-sraja ㊦ [パンの一種].

uta 1. ㊦ 而して, 亦た, さへ; 或は.

~~,も亦た.....も.

~vā,か.....かの孰れか [往々 vā 又は āho vā と共に]; ㊦ 或は.....なりや.

kim~, 或は.....か.....或は.....か孰れなりや [往々 āho, vā, 又は svid と共に]; ㊦ 與.....孰 Divy.: kim varam rājā cakravarty ~ tathāgato rhan samyak-sambuddhaḥ 佛與輪王孰爲尊貴 Divy. 42.

kim ~, 況や, 寧ろ; 尙更 [否定句に於て].

apy ~, 又た, も亦た. praty ~, 之に反して, 寧ろ.

[後詩] に於ては uta は往々單に行の末尾に在りて詩節を満たす爲にのみ用ゐらる. → yad (yad-uta).

uta 2. ㊦ → Vā 4.

utaṅka ㊦ = uttaṅka.

utathya ㊦ [或る Āngirasa の名].

utāho (uta-āho) ㊦ [二重疑問に於て] 或は; ㊦ 或, 亦, 爲有 Ast-pr., Abh-vy., Mvyut.

uto ㊦ 而して亦た.

~~, = uta.....uta.

utka ㊦ (不定, 一°) を憧る,を望みて息まざる; 悔ゆる, 悲める; 放心せる. ㊦ ㊦ 憧憬, 熱望.

utkaca ㊦ 無毛の; 開花せる; ㊦ 如髮上豎 Mvyut.

utkaca-kumud-gaṇavat ㊦ 開ける蓮華の群に圍繞せられたる.

utkacaya ㊦ ㊦ utkacayati 上方に髮を捲く.

ut-kañcuka ㊦ 胴著を脱ぎたる, 鎧を著ざる.

ut-kaṭa ㊦ 過分の, 異常なる; 甚だ大なる, 甚だ強き, 激烈なる; (一°) に富める; 飲酒せる; 狂暴なる, 狂氣の. → mada ~.

ut-kaṭikā ㊦ [坐法の一種].

ut-kaṅikā ㊦ = ut-kalikā.

ut-kaṇṭaka ㊦ [同下].

ut-kaṇṭakita ㊦ (喜びに刺の如き短き) 毛髮を豎てたる.

ut-kaṇṭakin ㊦ [同上].

utkaṇṭh, I. ㊦ utkāṇṭhate 頸を延ばす; (爲) を鶴首して望む; 後悔す, 悲しむ. ㊦ utkāṇṭhyate ㊦ 生憂 Bodh-bh.: notkāṇṭhyate 不生憂, 無憂 Bodh-bh. 193. ㊦ utkāṇṭhayati 頸を延ばさしむ; 慕はしむ, 憧れしむ.

pra- ㊦ protkāṇṭhayati (業) に對する欲望を發さしむ.

ut-kaṇṭha ㊦ 頸を延ばせる; 憧憬する; 戀慕する. ~ m ㊦ 憧れて.

ut-kaṇṭhaka ㊦ 憧憬する.

utkaṇṭha-kārin ㊦ 憧憬せしむる.

ut-kaṇṭhā ㊦ 憧憬; 戀慕; 後悔; ㊦ 願 Bodh-bh.; 惆悵, 憂愁, 悲惱 Ast-pr.

ut-kaṇṭhita ㊦ 首を擡げたる;を憧憬せる; 後悔せる,を悲しむ; 戀せる; ㊦ 思, 憶想; 愁憂(不樂), 憂愁(苦惱), 憂愁(啼哭), 憂愁(啼泣), (悲泣自) 歎恨 Ast-pr., Sikṣ.: dīna-dīna-manā ~ mānasaḥ 愁憂不樂, 憂愁苦惱 Ast-pr. 946.

utkaṇṭhita-manas ㊦ ㊦ 苦惱, 憂惱 Sikṣ.

ut-kamdhara ㊦ 頸を立てたる或は擡げたる.

ut-Kamp utkampate, utkampayati(便役). → Kamp.

ut-kampa ㊦ 震へる. ㊦ 戰慄, 胸騒ぎ; 震動.

ut-kampana ㊦ 震へること, 震動; 戰慄.

ut-kampin ㊦ 震へる; 波打つ(胸); —° 震はしむる, 戰慄せしむる.

utkaya ㊦ ㊦ utkayati 渴望せしむ; 後悔せしむ.

ut-kara ㊦ 盛り上げた土, 築山; 堆積, 量; 雲(雙喩).

ut-kaṛikā ㊦ [甘美なる料理の一種].

ut-kaṛṇa ㊦ 耳を敲つる.

ut-kaṛṇa-tāla ㊦ (象の如く) 耳をバタバタする.

ut-kaṛṣa ㊦ 優れたる; 多量の; 誇張に富める. ㊦ 向上, 増加, 陸進, 卓越; 顯著; 秀拔; 過大; 誇大; 自負; ㊦ 増; 上, 上生; 勝進, 増進 Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 讚 Bodh-c. → ātma ~.

ut-kaṛṣaka ㊦ 引き上ぐる, 増加する.

ut-kaṛṣaṇa ㊦ 引き上ぐる; 取り去ること. (衣服を) 脱すること; 耕すこと; 優勢, 優秀; ㊦ 讚 Bodh-bh.

ut-kaṛṣaṇatā ㊦ ㊦ 矜高 Lal-v.

ut-kaṛṣatas ㊦ ㊦ 最勝 Bodh-bh.

ut-kaṛṣayitavya ㊦ ㊦ 應讚, 應當讚, 當讚歎 Sikṣ.

ut-kaṛṣin ㊦ 優れたる, より善き; ㊦ 高學, 貢高 Ast-pr., Kāśy.; 讚 Ast-pr.

utkala ㊦ ㊦ [民族の名]. ㊦ [Utkala 民族の國].

ut-kalāpa ㊦ 尾を擡げたる(孔雀).

ut-kalikā ㊦ 慕ふこと, 戀慕; 後悔; 蕾; 波.

ut-kalita ㊦ 精勤せる [Tib. brtson-pa] (Prajñ-vy. 75.). → Kal.

ut-kaśana ㊦ 引裂くこと, 掘り開くこと.

ut-kārika ㊦ ㊦ 說如是者(?) Mvyut.

ut-kāśa ㊦ 出づること, 出現.

ut-kāśana 1. ㊦ 命令.

ut-kāśana 2. ㊦ [= utkāśana]; ㊦ 警咳 Divy. 17.

ut-kāsana ㊦ 痰を喀くこと, 嗽(禁)すること; ㊦ 咳, 警嗽 Lanḅ.

utkāśana-śabda ㊦ ㊦ [utkāśana-s°] 吩咐, 垂音(?) Mvyut.

ut-kāsita ㊦ ㊦ 警嗽聲 Saddh-p.

ut-kira ㊦ (一°) を投げ上げる, 積み上ぐる; 舞ひ上らしむる.

ut-kiṛṇa ㊦ → Kṛ.

utkirtaya ㊦ → kirtaya.

utkilaya ㊦ (文書を) 開く; 投げ出す (Prajñ-vy.).

㊦ utkilya (Prajñ-vy. 352.); utkilyitvā ㊦ 移 Divy. 528.

ut-kilita (通受分) 解かれたる, 栓を抜きて開ける.
ut-kuṭaka (形) 蹲踞する, 跪く.
ut-kuṭa-sthāyin (形) (通受分) 蹲坐, 蹲踞 *Sikṣ.*
ut-kuṭuka (形) [=ut-kuṭaka, Pāli. ukkuṭika.] [特殊なる坐法の一つ: 足の踵を大地に確かにつけて腰を下し, それにつれて踵を少しく上げ, 腿を腓につけ, 臂を地上約六寸の位置になし, 兩肘を膝上に置き, 體の平衡をとる] (*Av.ś. I. 315.*); (通受分) 蹲坐, 蹲跪, 蹲踞, 踞跪 *Divy., Vin., Abh-vy.*
utkuṭuka-stha (形) (通受分) 蹲踞, 打坐 *Mvyut.*
utkuṭuka-sthita (形) (通受分) 蹲跪坐 *Bodh-bh.*
utkuṭukāsana (°ka-ās°) (中) (通受分) 墩座 *Mvyut.*
ut-kuṭukikā (女) (通受分) 蹲, 蹲坐蹲行 *Mvyut.*
ut-Kup, → Kup.
ut-kula (形) 家門を汚せる, 家族より逐ひ出されたる; 頽廢せる.
ut-Kūj utkūjati → Kūj.
ut-kūja (男) (郭公の) 鳴聲.
ut-kūjita (通受分) (中) [同上].
ut-Kūrd utkūrdati(-te). → Kūrd.
ut-kūrdana (中) 跳び上ること.
ut-kūla (形) 岸に溢るゝ; (通受分) 高, 堆阜 *Lal-v.*
utkūla-gāmin (形) [同上].
utkūla-nikūla (形) (山を) 登り下りする; (通受分) 高下, 高深, 險曲 *Abh-vy.*
ut-Kṛt utkṛntati, utkṛtyate(受). → Kṛt.
ut-kṛti (女) [音律の一種 (104 又は 80 音節)].
ut-Kṛṣ . utkarsati(-te), utkṛṣyate(受), utkarsayati (使役). → Kṛṣ.
ut-kṛṣṭa (通受分) 優れたる. → Kṛṣ. i. (通受分) 高; 増; 利; 上; 出勝, 殊勝; 尊榮 *Lal-v., Buddh-c., Saddh-p., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut.:* ~m a dhimātram apakāram 増上過, 増上不饒益事 *Bodh-bh. 195.*
ut-kṛṣṭatara (比較) (通受分) 上, 増上 *Bodh-bh.*
ut-kṛṣṭataraka (形) (通受分) 増上 *Bodh-bh.*
ut-kṛṣṭataratva (中) (通受分) 勝, 轉勝 *Abh-vy.*
ut-kṛṣṭatā (女) [同上]; (通受分) (志) 高遠 *Madhy-vibh.*
ut-kṛṣṭatva (中) 勝れたること.
utkṛṣṭa-vedana (中) 高き種姓(階級)の人に嫁ぐこと.
ut-kṛṣṭikā (女) (通受分) 捲 偏抄 *Mvyut.*
utkṛṣṭikā-kṛta (形) (通受分) 現胸 *Prāt-m.*
utkṛṣṭopādhi (°ṭa-up°) (形) 境遇又は交友の高貴なる.
utkṛṣṭopādhitā (°ṭa-up°) (女) [同上 抽](通).
ut-Kṛ utkirati. → Kṛ.
ut-koca (男) 賄賂; 巻き返すこと.
ut-kocaka (形) 賄賂を取る.
ut-kocita (使役) (通受分) → Kuc.
ut-koṭi (形) 尖端をなせる.
utkorakaya (名動) (他) **utkorakayati** 新芽に富む.
ut-Kram utkrāmati(-te), utkrāmayati(使役). → Kram.
ut-krama (男) 上昇; 外出; 出發; (通受分) 上 梵雜.: āsva- ~ 上馬 梵雜.
ut-kramaṇa (中) [同上]; 凌駕すること; 生より別るゝこと, 死すること, 死.

ut-kramaṇiya (未受分) 放棄せらるべき, 斷念せらるべき.
ut-kraṣṭr (形) (男) 引き出だす(者), 取り出だす(者).
ut-krānti (女) = utkrama.
ut-Kruś utkrośati. → Kruś.
ut-kruṣṭa (通受分) → Kruś.
ut-krośa (男) [海鷲の一種]; 夜番 (*Divy.*).
ut-kliṣṭa (通受分) 苦惱せる.
ut-kleśa (男) 興奮, 騷擾; (身體の) 氣分の不調.
ut-Kvath utkvathati. → Kvath.
ut-Kṣip utkṣipati(-te). → Kṣip.
ut-kṣipta (通受分) 投げ上げられたる, 擧げられたる; 投げ出されたる; 吐かれたる. → Kṣip. (通受分) 擧, 伸 *Divy., Mvyut.;* 遺, 捨置 *Mvyut.;* 負 *Divy. 30.:* ~e pāde unnamati 蹠則隨足而上 *Mvyut.* → abhy~.
utkṣipta-cakṣus (形) (通受分) 目視不降 *Gaṇḍ-vy.*
utkṣipta-hasta (形) (通受分) 擧手 *Mvyut.*
utkṣiptānuvṛtti (女) (通受分) 隨捨置人, 與遺者相黨 *Mvyut.*
ut-kṣipti (女) 擧ぐるること.
ut-kṣepa (男) 投げ上ぐるること, 擧ぐるること, 投げ出すこと, 送ること; 吐くこと; (翅を) 展ぐること; (通受分) 擧, 放 *Laṅk.*
ut-kṣepaka (男) 衣服の盜賊.
ut-kṣepaṇa (中) = utkṣepa; (通受分) 擧, 取 *Mvyut.;* 取業 *Vaiś-s.*
ut-kṣepaṇiya (未受分) [*Pāli, ukkhepaniya*] (比丘の) 停權に關する (*Divy.*): ~m karma [*Pāli, ukkhepaniya-kamma*] 停權の決議又は決定 (*Divy. 329.*); (通受分) 擧; 除却, 應除却 *Mvyut.*
utkṣepa-lipi (女) (通受分) 擧書; (音寫) 烏差婆書, 沃憩婆書 *Lal-v. 126.*
utkṣepāvarta-lipi (°pa-āv°) (女) (通受分) 擧轉(書); (音寫) 鳴差婆書, 優差婆跋多書 *Lal-v. 126.*
ut-kṣobha (男) 激動.
ut-khacita (通受分) → KHac.
ut-KHan utkhanati. → KHan.
ut-khanana (中) 引き抜くこと, 根絶すること; 掻き取ること.
utkhalin (男) [或る Devaputra の名] (佛敎).
ut-khali (女) (通受分) (音寫) [女神の名] 鄔佉梨 *Lal-v. 66.*
ut-khāṭayitr (形) (通受分) 能捨, 能捨離 *Gaṇḍ-vy.*
ut-khāta (通受分) 堀られたる, 根こぎにせられたる, 破壊せられたる. (中) 地を堀ること, 根絶, 絶滅; 平坦ならざる土地, 溝.
ut-khātin (形) 平坦ならざる(地), 穴ある.
ut-khāya (不變分) 堀りて, 引裂きて.
ut-KHid utkhidati. → KHid.
ut-tamsa (男) 頭上の花冠, 鳥冠(鳥冠); 裝飾.
uttamsaya (名動) (他) **uttamsayati** 花冠にて飾る.
ut-tamsita (通受分) 花冠を著けたる, 鳥冠(鳥冠)ある.
uttamsi-kṛta (形) [同上].
ut-taṅka (男) [聖仙の名].
ut-taṭa (形) 兩岸より溢れたる.
ut-tathya (男) = utathya.

ut-tanū-ruha 形 小毛の起てる (*Jāt-m.*).
ut-Tap uttapati(-te), uttāpayati(使役). → Tap.
ut-tapta (過受分) → Tap. 焔; 明, 明了, 光明; 明淨, 清淨; 熾然 *Ast-pr.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 猛利, 勤勇, 勇猛, 勇猛熾然 *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Bodh-bh.*; 修習, 勤修 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
ut-taptatā 女 (使役) 熾然, 大明無翳 *Bodh-bh.*
ut-taptavat 形 (使役) 勇猛, 勤勇 *Siks.*
uttapta-virya 形 (使役) 大精進, 勤行精進 *Rāstr.*
uttapta-vaidūrya-nirbhāsa 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*).
ut-tapti 女 (使役) 練根 *Abh-vy.*
ut-tabdha (過受分) → Stambh.
ut-tabdhavat (過能分) → Stambh.
ut-tabdhi 女 支持.
ut-tabhita (過受分) = uttabdha. → Stambh.
ut-Tam uttāmyati, uttāmayati(使役). → Tam.
uttama (使役) 最上の, 至高の; 最も優秀なる, 最善の, (一°)の中第一の; (從)より優れたる, …より高き或は善き; 最後の; (使役)上, 無上, 上者, 最上; 勝, 最勝; 至; 尊; 第一; 賢妙 *Divy.*, *Rāstr.*, *Lank.*, *Mvyut.*: ~m ā-KHyū 爲上 *Ast-pr. 325.* → an~.
 ~m, °— 副 最高度に; 最後に. 男 (最後の = 歐洲語文法の)第一人稱(文法).
uttama-gandhādhyā (°dha-ādhyā) 形 馥郁たる香氣ある.
uttama-gāya 形 大いに詠じ讃へられたる.
uttama-jana 男 複 優秀なる人々.
uttamatā 女 優秀, 卓越; 善, 善き性質.
uttama-tejas 形 極めて輝ける或は有力なる.
uttamatva 中 = uttamatā.
uttama-darśana 形 壯觀なる.
uttama-dyuti 形 (使役) [菩薩の稱] 勝妙, 最上威, 上成就; 勝明, 最上照明 *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
uttama-puruṣa 男 最高我; (最後の = 歐洲語文法の)第一人稱(文法); (使役)大丈夫 *Mvyut.*
uttama-pūruṣa 男 最高我.
uttama-bala 形 優れたる力を有する, 甚だ強き.
uttama-buddhin 男 (使役) 勝慧人 *Madhy-v.*
uttama-yāna 中 (使役) 最上乘 *Sūtr.*
uttama-rṇa (°ma-rṇa) 男 債權者.
uttama-rṇika (°ma-rṇika) 男 [同上].
uttama-vayasa 中 生涯の最後の期間.
uttama-varṇa 形 最も美しき色の, (貴族の).
uttama-śruta 形 絶大なる學識を有する.
uttama-śloka 形 高名なる, 最上の名聲を有する. 男 高名.
uttama-sāhasa 中 最高罰金.
uttamāṅga 中 身體の最高の或は最も重要な部分, 頭; (使役)首, 頂, 頭, 頭頂, 頸; 上分 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Siks.*, *Mvyut.*: uttary~āt 從其頂上 *Daś-bh. 181.*
uttamāṅga-śiras 中 (使役) 上首, 頭首 *Siks.*
uttamādhama 形 高きと低きと.
uttamārdha 男 最後の半分又は部分.
uttamaujas (°ma-ujas) 男 [人名]

uttamaudārya (°ma-audārya) 形 甚だ高貴なる, 極めて寛容なる.
ut-tambh(ud-Stambh) uttabhnāti, uttambhayati (使役). → Stambh.
ut-tambha 男 上ぐるこ, 立つること; 支柱, 支持物.
ut-tambhita (過受分) 支へられたる, 擧げられたる.
uttara (使役) より上の; より高き, より良き; (從)より後の; 左の; 北の; (從)の北方の; 後方の; 以後の; 後者の, 直次の, 未來の; より優れたる; より威力ある; 勝利の; (訴訟に)勝つ; (使役)上, 勝, 勝上 *Daś-bh.*, *Abh-k.*; 次, 後, 更 *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Abh-vy.*; 過, 出, 可出, 超出, 渡, 可度 *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*; 北, 北方 *Saddh-p.* → an~. 男 [山の名]; (使役) [龍王の名] 北, 具, 具枕(?) *Mvyut.*; (使役) [人名] 優多羅 *Av-s.* 中 表面, 覆ひ (一°, 形); 北; 合成語の後分; 答, 問答; (法律上の)辯護; 辯駁 [~m Dā 辯駁す]; 優越; 超過 [一° 形 (一°) だけ超過せる, 加ふる]; 主要部分 [一° 形 (一°) を主なる目的として有する, 主として; …より成る; 副 (一°)に壓倒せられて]; 結果 [一° 形 (一°)の續ける]; 後の時期 [一° 形 = より遅き]; [歌の一種].
 ~m 副 更に進みて; 前に; 其の後, そこに於て; (使役)過, 然後 *Prāt-m.*, *Bodh-bh.*: ~m pañca-ṣaḍ-vācīkayā 過五六語 *Prāt-m. V. 5.*
 ~eṇa (使役) 副 (業, 從, 屬, 一°)の北に或は左に; (使役)ata ~ 於後, 從此 *Lal-v.*
uttara-kāṇḍa 中 [Rāmāyaṇaの最後の巻の題名].
uttara-kāya 男 上半身.
uttara-kāla 男 次の時期, 次の代, 未來; 満月より満月まで數へられたる時; (使役)後世 *Daś-bh.* 形 未來の.
 ~m 副 後に; (使役)後, 後時 *Abh-vy.*
 ~tas 副 [同上].
uttara-kuru 男 複 [民族の名, & その國の名]; (使役) [Dvīpaの名] 高上, 高上作, 勝, 勝(洲), 北勝生(?); (使役)北俱盧, 北俱盧(洲), 北拘盧(洲) *Divy.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 支應; (使役)鬱單曰, 鬱單越, 鬱怛羅越, (北)鬱單越, 鬱多羅拘樓, 郁多羅鳩留, 鬱怛羅究溜 *Lal-v.*, 支應.
uttarakuru-dvīpa 男 (使役) 北俱盧洲 *Dharm-s.*
uttara-koṇa 男 (使役) (東)北隅 *Guhy-s.*
uttara-kośalā 女 [Ayodhyāの都の名(近代のOude)].
uttara-kosala 男 複 北部 *Kośala* 國.
uttara-krama 男 返報, 攻撃 (*Jāt-m.*).
uttara-kṣaṇā 男 (使役) 後念; (使役)後刹那 *Abh-vy.*
uttara-khaṇḍa 男 中 (諸種の著作の)最終章(の名稱).
uttara-ga 形 北行する, 北に流るゝ.
uttara-grantha 男 (使役) [佛典の名] 律大全分 *Mvyut.*
uttaraṅga 1. (名動) 自 uttarāṅgate 波の如く碎くる.
 2. 男 大濤. 形 大濤ある; 波浪に洗はれたる, 溢れたる.

uttara-cchada 男 上覆. 被覆.
uttara-cchanda 形 漢語 勝欲 *Sūtr.*
uttara-ja 形 (上記の結婚より)生れたる.
uttara-joyotiṣa 甲 [國の名].
ut-taraṇa 形 通過する. 甲 (一°通過, 通り越すこと; 横切ること; 克服; 漢語 度, 渡, 救度, 救済 *Daś-bh., Sūtr.*)
uttara-tantra 甲 (諸種の書物の)最後の一章; 漢語 無上本續 *Mvyut.*
uttaratama 最上 漢語 上極 *Bodh-bh.*
uttaratara 比較 更に遠く移れる, 更に距りたる, 更に高き; 漢語 上勝, 殊勝 *Bodh-bh.*
uttaratas 副 上に; 北方に; 北方へ; (圖)の左へ: ~ *h-pāścāt* 西北方へ.
uttaratra 副 後に, (一書中に於て)更に下に; 他の場合に; 北方に: 漢語 後, 從此後 *Abh-vy.*
uttara-danta 男 上顎の齒.
uttara-dāyaka 形 答ふる, 辯駁する; 生意氣なる, 不作法なる.
uttara-dik-stha 形 北方に位置する, 北の.
uttara-dig-iśa 男 [Kubera 神の稱].
uttara-diś 女 北方.
uttara-dvāra 男 漢語 北門 *Guhy-s.*
uttara-dhāraya 形 返事を與ふべき(人).
uttara-dhyāyin 形 漢語 修上定 *Abh-vy.*
uttara-pakṣa 男 北又は左の翼(側); 敵者の論駁に對する解答(辯); 漢語 後證, 後品 *Mvyut.*
uttara-pañcāla 形 北部 *Pañcāla* 國の.
uttara-paṭa 男 上衣.
uttara-patha 男 北方の路, 北に到る路; 北の國; 漢語 北方 *Aṣṭ-pr.*
uttara-pathika 形 北國に住する.
uttara-pada 甲 合成語の後分.
uttara-pāścimṣ 形 西北の; 漢語 西北 *Saddh-p.*
uttara-purastāt 副 (圖)の東北方に.
uttara-pūrva 形 東北の; 漢語 東北 *Saddh-p.*
uttara-phala 甲 漢語 有上果 *Madhy-vibh.*
uttara-phalguni 女 [月宿の名]; 漢語 [二十八宿の一] 翼, 北德 *Divy., Mvyut.*
uttara-bhaktika 形 食事の後に用ひらるゝ.
uttara-bhadra-padā 女 [月宿の名]; 漢語 [二十八宿の一] 壁, 北賢迹 *Divy., Mvyut.*
uttara-bhādra-padā 女 [同上].
uttaram 副 → *uttara.*
uttara-mati 男 漢語 [菩薩の名] 上意 *Rāṣṭr.*
uttara-manuṣya-dharma 男 漢語 上人法, 過人法 *Divy., Mvyut.*
uttaramanuṣyadharmā-pralāpa 男 漢語 妄說上人法 *Mvyut.*
uttaramanuṣyadharmā-yuktatokta-vartamāna (°tā-uk°) 形 漢語 妄言我得過人法 *Mvyut.*
uttaramānuṣyadharmārocana (°ma-ār°) 甲 漢語 言過人法, 說上人法 *Mvyut.*
uttara-mantrin 男 漢語 [Dvīpa の名] 上議, 道勝行 *Mvyut.*; 音寫 嚙怛羅漫怛里拏 *Mvyut.*
uttara-mandrā 女 高聲なるも遅き歌ひ方.

uttara-mukha 形 顔を北に向けたる.
uttara-mūla 形 上に根を有する.
ut-tarala 形 震へる, 動揺する.
uttara-lakṣaṇa 甲 眞實の回答の呈示. 形 左側に印されたる.
uttaralāya (名動)自 **uttaralāyate** 揺る, 動揺す. (過受分) **uttaralita** 動揺せしめられたる.
uttara-loman 形 毛を豎立せる.
uttara-vayasa 甲 一生涯の後期.
uttara-vādin 形 答ふる; 他より後に請求する(法律).
uttara-vāsas 甲 = *uttara-paṭa.*
uttara-vṛddhi 女 漢語 倍增, 増如次 *Abh-k., Abh-vy.*
uttara-vedi 男 [祭式に於て (*cātvāla* を掘りて得たる土を盛りて)東方に特設せられたる祭壇].
uttara-śaila 男 漢語 [佛教部派の名].
uttara-śrī 女 [或る Gandharva の少女の名] (*Kārvy.*)
uttara-samārambha-bhāvanā 女 漢語 上事修習 *Madhy-vibh.*
uttara-sādhaka 形 援助する. 男 助手, 友人; 漢語 修習勝侶 *Mvyut.*
uttarā 1. 女 [diś と俱に] 北.
uttarā 2. (具) 副 北方に; (從, 圖)の北に.
uttarāmsa 左 左肩.
uttarāt (從) 副 北又は左より.
uttarādhara 形 上と下とにある; 勝れたると劣れるとの. 甲 上下の唇, 兩唇.
uttarādhara-vivara 甲 口.
uttarā-patha 男 (北への路), 北國; 漢語 北方, 北印度, 北天竺 *Divy. 315, 353.*
uttarām 副 更に隔りて.
uttarāyaṇa 甲 (太陽の)北行; (太陽の)北進する半年; (太陽の)北進行程(の開始)=(*Pauṣa* 月に於ける)冬至.
uttarāraṇi 女 發火用の上部の磨擦木.
uttarārtha 形 後に起るものゝ爲の.
uttarārdha 甲 上半(身); 後半; 北部.
uttarāvāt 形 上部にある; 優れたる, 勝ちたる.
uttarāvasthā 女 漢語 (有)上位 *Madhy-vibh.*
uttarāśā (°ra-āśā) 女 北方.
uttarāśman 形 峨々たる懸崖ある.
uttarāśrita (°ra-āś°) 形 北方に行く或は在る.
uttarāśādhā (°ra-āś°) 女 [月宿の名]; 漢語 [二十八宿の一] 斗, 北魚 *Divy., Mvyut.*
uttarāsaṅga (°ra-ās°) 男 上衣, 外衣; 被覆; 漢語 上衣, 上著衣, 衣服, 覆左肩衣 *Vajr-pr., Laṅk., Mvyut.*, 立應; 音寫 鬱多羅僧, 郁多羅僧, 郁多羅僧伽, 優多羅僧, 漚多羅僧, 嚙怛羅僧, 嚙怛羅僧伽 *Vajr-pr., Mvyut.*, 立應: *ekāmsam* ~ *m kṛtvā* 偏袒右肩 *Bodh-bh. 153.* → *ekāmsa.*
uttarā-sad 形 北側又は左方に坐せる.
uttarāha 男 次の日.
uttarāhi 副 北方に, 北方より.
uttari 副 漢語 上, 上昇, 上進, 在於此上; 過, 已後; 勝; 更 *Lal-v., Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.*: ~ *na vyāyacchate* 不上求, 不求上進 *Bodh-bh. 205.*

ata ~ 此上 *Bodh-bh.*
 ato 'py ~ 過此 *Mvyut.*
 uttarika 形 最勝 *Siks.*
 uttarikā 女 [河の名].
 uttarin 形 増大する, 益: 激しくなる.
 uttari-manuṣya-dharma 男 [=uttara-m°]; 上人法, 過人之法 *Siks.*
 uttariya 甲 上衣, 外衣, 被覆; 覆布; 衣, 衣裳 *Lañk.*
 uttariyaka 甲 [同上].
 uttareṇa 具 副 → uttara.
 uttare-dyus 副 翌日.
 uttarottara (°ra-ut°) 形 益: 増加する, 益: 高き; 繼起する; 上増進, 上上, 漸次上上, 次第上上; 後後; 展轉, 轉更 *Daś-bh., Lañk., Bodh-bh.* ~ m 副 更に更に高く; 益: ; 續々; 後後上, 後後増 *Mvyut.* 甲 答に對する答, 答辯に對する答辯; 論議.
 uttarottara-krama 形 次第, 展轉(相), 上上次第 *Lañk.*
 uttarottara-nirhāra 男 後後引發, 上上引出 *Madhy-vibh.*
 uttarottara-pratibhā 女 立破勝言說, 展轉言無滯礙 *Abh-vy.*
 uttarottara-phala 甲 後後果, 上上果 *Madhy-vibh.*
 uttarottara-bhāva 形 常に他より優越せる.
 uttarottara-bhūmi 女 上上地 *Lañk.*
 uttarottara-vakṭṛ 形 (男)に對し答辯に窮せざる.
 uttarottarokta (°ra-ñk°) 形 各事件の後に述べたる, 各の場合に追述せられたる.
 uttaroṣṭha (°ra-oṣ°) 男 上唇; 柱の最上部.
 uttarauṣṭha (°ra-oṣ°) 男 [同上].
 ut-tarjana 甲 猛烈なる威嚇.
 ut-tāna 形 擴がれる; 擴張せる; 上向きの; 上轉せる; 淺き, 皮相の; 廣く開きたる; 直ちに間に合ふ; 明白なる, 明らかなる, 公開の; 顯著なる; 淺, 淺易, 淺近, 淺淺; 了, 明了, 顯了; 顯發, 開發 *Bodh-bh.*
 uttāna-parṇa 形 擴がれる葉を有する.
 uttāna-pāda 男 [*Dhruva*の父の名].
 uttāna-mukha-varṇa 形 舒顔平視 *Bodh-bh.*
 uttāna-sāyin 形 仰臥する; 偃寢 *Kāśy. 156.*
 uttāna-hasta 形 手を延したる, 祈禱の爲に手を延したる.
 uttāna-hṛdaya 形 胸襟を開ける.
 uttānārtha 形 淺薄なる, 平凡なる(詩).
 ut-tānita 使役 過受分 大きく開かれたる, 廣く開かれたる.
 uttāni-karman 甲 顯發 *Bodh-bh.*
 uttāni-Kṛ, 大きく(口を)開く, 開く; 明らかにす, 公にす, 顯示す, (罪を)告白す (*Av-s.*); 宣揚, 顯說, 顯發; 作明 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
 uttāni-BHū, 擴がる.
 ut-tāpa 男 高熱; 熱心, 熱情; 努力.
 ut-tāpanā 女 練根, 練根行 *Abh-vy.*

ut-tāpayitavya 未受分 應...明利 *Gaṇḍ-vy.*
 ut-tāpita 使役 過受分 熱せられたる; 苦しめられたる.
 ut-tāra 男 (一°)を横切ること; 濟度, 救助; *Mvyut.*
 ut-tāraṇa 形 横切る; 救助する, 濟度する. 甲 救助, 濟度; 上陸すること; 運搬; 出, 度, 令度, 救度 *Daś-bh., Saddh-p., Siks., Sūtr., Mvyut.* ~ arthāya (爲)爲度 *Saddh-p. 161.*
 ut-tārayiṭṭ 形 將に(業)を渡らんとせる; 能度, 能越度 *Gaṇḍ-vy.*
 ut-tārya 未受分 上陸せしめらるべき; 放逐せらるべき; 吐き出さるべき.
 ut-tāla 形 大なる, 強き, 高き; 激烈なる; 豊富なる; 恐しき, 物凄き; 優れたる. 甲 [數の名] (佛敎).
 ut-Tij uttejayati(使役). → Tij.
 ut-titirṣu 希求 形 (從)より來らんと欲する; (業)を渡らんと欲する.
 ut-tiram 副 岸上に.
 ut-tirṇa 過受分 → Tṛ. 出, 超, 渡, 渡至, 超越 *Lal-v., Sapt-pr., Lañk., Mvyut.*; 捨 *Lal-v. oghād* ~ h 渡於(四)流 *Mvyut.*
 uttirṇa-pāra-ga 形 到彼岸 *Sam-r.*
 ut-tuṅga 形 卓越せる; 高き; 増水せる; 北邊 *Mañj-m. 64.*
 ut-tuṅgita 過受分 高く擧げられたる.
 uttuṅgi-Kṛ, 高く擧ぐ.
 ut-Tul uttolayati. → Tul.
 ut-Tṛ uttarati, uttirati, uttārayati(使役). → Tṛ.
 ut-tejana 甲 勵ますこと, 刺戟すること, 磨くこと, 研ぐこと.
 ut-tejanā 女 刺戟すること, 研ぐこと.
 ut-toraṇa 形 アーチを建て、飾れる.
 uttorāṇa-patāka 形 アーチ及び旗を建て、飾れる.
 ut-Tras uttrasati, uttrāsayati(使役). → Tras.
 ut-trasta 過受分 → Tras. 怖, 畏, 怖畏, 生驚怖, 心生怖畏 *Sam-r., Bodh-bh.* → an~.
 uttrasta-samjñin 形 常(厭)怖, 常生怖畏, 常懷怖畏 *Aṣṭ-pr.*
 ut-trāsa 男 恐怖; 怖, 怖畏, 恐怖, 驚, 驚怖 *Sūtr., Lañk.* → an~.
 ut-trāsaka 形 恐怖せしむる, 不安なる.
 ut-trāsana 甲 恐怖, 驚恐 *Bodh-bh.*
 uttrāsanārha 形 應恐怖者 *Bodh-bh.*
 ut-tri-pada 甲 三脚臺, 三脚架.
 ut-truṭita 過受分 引き裂かれたる, 潰壞せる.
 ut-tha 形 起き上る; 跳上る; (一°)より生ずる, ...に始まる.
 uttha-kāraka 形 =utthāna-kāraka; 做估 [*Tib. lag-gi las byed-pa*] *Mvyut.*
 ut-thala 形 高 *Siks.*: ~ e deśe 於(彼)高原 *Siks. 249.*
 utthā (ut-Sthā) uttiṣṭhati(-te), utthāpayati(使役). → Sthā.
 ut-thātavya 未受分 匪人 起つべきなり; 立ちて爲すべきなり; 退 *Bodh-bh.*

ut-thātu-kāma 形 立たんと欲する。
ut-thātr 男 立ち上る者; 決定する者。
ut-thāna 男 創設者。 中 起き上ること; 出現; (天體の)昇ること; 死者の復活; 離れ去ること; 叛亂, 動亂; 盡力, 活動; 起原; 漢譯 起, 起策 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
utthāna-kāraka 形 =uttha-kāraka; 漢譯 做估 *Mvyut.*
ut-thānatā 女 漢譯 起居 *Mañj-m.*
utthāna-yukta 形 奮起せる, 努力せる, 精力ある。
ut-thānavat 形 活動的なる; 熱心なる, 勤勉なる; 漢譯 剋勤 *Bodh-bh.*
utthāna-vira 男 活動家, 努力家。
utthāna-sampanna 形 漢譯 起策具足 *Bodh-bh.*
utthāna-hina 形 努力せざる, 不活潑の, 怠惰なる。
ut-thāniya (未受分) 完成に屬する, 結末をなす。
ut-thāpaka 形 擧ぐる, 起き上らしむる, 起れる; 激勵する, 活氣づくる; 漢譯 起, 使起者 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
ut-thāpana 中 起すこと, 擧ぐること; 覺醒せしむること; 漢譯 立, 起, 起立, 作立; 直; 生, 直生 *Mvyut.*
ut-thāpita (使役) (過受分) 立ち上らしめられたる; 起き上らしめられたる, 去らしめられたる; 漢譯 所起, 得醒寤 *Divy.*, *Abh-vy.*
ut-thāya (不変分) 起ち上りて。 → *Sthā.*
ut-thāyitva 中 [同下 中]。
ut-thāyin 形 起き上る; 現る; 活潑なる, 努力する; 漢譯 (一)興 *Bodh-bh.*
ut-thita (過受分) → *Sthā.* 漢譯 起, 已起, 立, 平立 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.* → *abhy* ~。
ut-pakva (過受分) 膨脹せる, 十分に煮えたる, 熟せる。
ut-pakṣman 形 睫毛の上りたる。
ut-pakṣmala 形 [同上]。
ut-Paṭ *utpātayati*(使役)。 → *Paṭ.*
ut-paṭa 男 樹木の裂目より出づる樹液。
ut-Pat *utpatati*, *utpātayati*(使役)。 → *Pat i.*
ut-patana 形 (女-i) 飛び上る。 中 跳び上ること; 上昇; 漢譯 起; 上轉; 仰, 從下向上 *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*
ut-patāka 形 旗の飄へれる。
ut-patākā 女 飄へる旗。
ut-patākā-dhvaja 形 旗及び幢の飄へれる。
ut-patita (過受分) 飛び上れる, 昇れる。
ut-patitavya (未受分) (非入) 飛び上るべし。
ut-patiṣṇu 形 飛び上る; 跳び上らんとする。
ut-pattavya (未受分) (非入) 生ぜらるべし, 現はるべし: *anena* ~ *m* 彼は再び生るべし。
ut-patti 中 發生, 出生; 起原; 富源; 新生, 再生; 生産物, 生産力; 出づること(特に *Veda* 章句に於て或は *Veda* 章句の); 漢譯 生, 受生, 起, 生起, 因起, 發, 出現; 成 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.* → *an* ~。
utpatti-kāraṇa 中 漢譯 生因, 生能作, 生起能作 *Madhy-vibh.*
utpatti-ketana 中 =*utpatti-dhāman*.
utpatti-dharmin 形 漢譯 生法, 定生爲法 *Abh-vy.*

utpatti-dhāman 中 出生地。
utpatti-nimitta 中 漢譯 助生緣, 作生因 *Abh-vy.*
utpatti-niḥsvabhāvatā 中 漢譯 生無性 *Vijñ-t.*
ut-pattimat 形 生成せられたる, 生まれたる。
ut-pattimattva 中 漢譯 有生 *Abh-vy.*
utpatti-lābhika 形 漢譯 生得 *Abh-vy.*
utpatti-vākya 中 *Veda* より引證せられたる文章, 權威ある文章。
utpatti-vidhi 男 [同上]。
utpatti-virodha 男 漢譯 生起相違 *Bodh-bh.*
utpatti-vyañjaka 男 (再生族の家柄の標(註)).
utpatti-sthāna 中 漢譯 生處, 受生處 *Madhy-vibh.*
utpatti-āyatana-samdhī 男 漢譯 生處相續, 生處相續和合 *Sikṣ.*
ut-pattra 形 既に茂れる (*Jāt-m.*).
ut-patha 男 邪道; 悪しき路; 漢譯 邪道, 惡道, 非道, 險徑, 邪徑, 惡路, 僻路, 越路; 非處 *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: ~ *ena Gam* 漢譯 在道外 *Prāt-m.* 形 正道を外れたる, 迷へる。
utpatha-cārin 形 漢譯 行越路 *Bodh-bh.*
utpatha-prayāta 形 漢譯 失道 *Aṣṭ-pr.*
utpatha-bhūta 形 附屬的の, 緊要ならざる。
utpatha-mārga-gata 形 漢譯 迷方所 *Sikṣ.*
utpatha-vārika 形 惡路を避くる。
ut-Pad *utpadyate*, *utpādayati*(-te)(使役)。 → *Pad.*
ut-padya 形 漢譯 本生 *Lank.*
ut-padyamāna (現分) 漢譯 生時 *Bodh-bh.*
utpadyamānavasthā 女 漢譯 正生位 *Abh-vy.*
ut-panna (過受分) 生ぜる。 → *Pad.* 漢譯 生, 已生, 生已, 受生, 所生; 出, 出現, 出生; 起, 生起, 已起; 遭; 發(心)已 *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Dharm-s.* → *an* ~。
utpanna-pratyaya-vaikalya 中 漢譯 能生緣闕 *Bodh-bh.*
utpanna-buddhi 形 慎重なる, 賢き。
utpannotpanna (na-ut) (過受分) 漢譯 所生, 生起, 已起, 隨所生起 *Bodh-bh.*; 當來, 已生未生 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*
ut-pala 中 (青)蓮花 [後期には *Kamala* と稱せらる]; 漢譯 青蓮, 青蓮華, 黛花, 花; (音寫) 優鉢華, 優鉢羅花, 優鉢羅華, 烏世鉢羅花 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Mvyut.*: *pañca* ~ *āni* 五莖花, 五莖優鉢羅華 *Aṣṭ-pr.* 747.; (音寫) 優鉢, 優鉢羅, 優波羅, 優鉢利, 優蓋羅, 漚鉢羅, 殭鉢羅, 喙鉢羅, 烏鉢羅, 烏世鉢羅, 烏咄鉢羅, 郁多鉢羅 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Guhya-s.*, *Mvyut.*, 支應。 男 [人名]; [地獄の名] (*Divy.*); 漢譯 青蓮花(地獄) *Dharm-s.*; (音寫) [數の名] 優鉢羅 *Mvyut.*
ut-palaka 男 [同上]; 漢譯 (音寫) [龍王の名] 優鉢羅, 優蓋羅 *Saddh-p.*, *Mvyut.*
utpala-dṛś 形 蓮花の如き眼の。
utpala-netra 男 漢譯 [人名] 蓮目, 花眼 *Rāṣṭr.*
utpala-pattra-tila 形 蓮瓣の如く青き (*Buddh-c.*).
utpala-pura 中 [*Utpala* の建設せる都市の名]。
utpala-vana 中 蓮花の植床; 蓮花の群。
utpala-varṇā 女 漢譯 [或る *Bhikṣuṇī* (比丘尼) の名]

蓮華色, 蓮華色(尼), 蓮華(比丘尼); (音寫)優波羅色 *Divy.*, *Mvyut.*; (音寫) 嚙鉢羅伐拏 *Mvyut.*; 鬱波羅 槃尼柯 (*utpala-varṇikā*) *Divy.*

utpala-sāka ④ [植物の名].

utpala-śri-garbha ④ [菩薩の名].

utpalākṣa ④ [王の名].

utpalāpīda (°la-āp°) ④ [王の名].

ut-palāvati ④ [河の名]; ④ [地名] 蓮華 *Divy.*

ut-palāśa ④ 葉の突出せる.

ut-palin ④ 蓮花の豊富なる.

ut-palini ④ 蓮花の植床.

ut-pavana ④ 淨化; 淨化用具.

ut-pavitṛ ④ 淨むる人.

ut-Paś utpaśyati. → Paś.

ut-pā utpipīte. → Pā 3.

ut-pācanā ④ ④ 漸成熟 *Sūtr.*

ut-pācita (過受分) 完全に煮られたる或は熱せられたる.

ut-pāṭa ④ [外耳の病氣の一種].

ut-pāṭaka ④ [同上].

ut-pāṭana ④ 引き裂くこと; 根こぎにすること; 追放; 王位より黜ること; ④ 挑 *Gaṇḍ-vy.*

ut-pāṭikā ④ 樹木の外皮.

ut-pāṭita (過受分) 根こぎにせられたる, 絶滅せる, 引裂かれたる; 追放せられたる; 王位より下れる; ④ 張(目) *Lal-v.*; 脱除; 被挑 *Sukh-vy. I., Siks.*

ut-pāṭitākṣa ④ ④ 被挑目 *Siks.*

ut-pāṭitākṣin ④ ④ 盲瞶 *Saddh-p.*

ut-pāṭin ④ (一°)を引く, 引き裂く.

ut-pāṇḍu ④ ④ 黄 *Divy.*

ut-pāṇḍuka ④ 蒼白の. → utpāṇḍu.

utpāṇḍūtpāṇḍuka ④ 全く生氣を失へる; ④ 皮膚皺澀 [*Pāli. uppāṇḍuppanḍuka*] *Divy. 463.*

ut-pāta ④ 飛び上ること; 立ち上ること; 跳躍; 突然の出現; 豫感, 前兆; ④ 示相 *Mvyut.* → an.

ut-pātaka ④ [動物の名]; ④ 蛇蟲 [蟲?] *Mvyut.*

ut-pātana ④ ④ 墮落 *Suv-pr.:* danta ~ 齒牙墮落 *Suv-pr. 195.*

ut-pāda ④ 出だすこと, 産出, 出生; ④ 生, 起, 生起, 出生, 出, 興, 出興, 興出, 出世, 出現, 出現于世 *Divy., Buddh-c., Daś-bh., Saddh-p., Lanḅ., Sūtr., Madhy-v., Abh-vy., Madhy-vibh.:* aprameyabuddha ~ 無量佛出現於世 *Madhy-vibh. 230.* → an ~, buddha ~.

ut-pādaka ④ (女-ikā) 産出する, 生産する; ④ 能生 *Lanḅ.*, ④ 生産者, 生殖者; 父.

ut-pādana ④ (女-i) 産出する. ④ 産むこと, 生ずること; 爲し遂ぐること, 獲得すること; ④ 出, 生起, 生起, 所生起, 令起, 生至, 續起, 所能起 *Abh-vy.*

ut-pādanā ④ ④ 生 *Abh-vy.*

ut-pādaniya (未受分) ④ 應生起, 應令生 *Madhy-vibh.*

utpāda-bhaṅga ④ ④ 生滅 *Lanḅ.*

utpādabhaṅga-nirmukta ④ ④ 離諸生死(法) *Lanḅ.*

utpādabhaṅga-samyukta ④ ④ 生滅相相應

Lanḅ.

utpādabhaṅga-sambaddha ④ ④ 生滅和合, 生滅而相續 *Lanḅ.*

utpādabhaṅgānityatā ④ ④ 生滅無常 *Madhy-vibh.*

ut-pādayitavya (未受分) 生産せらるべき, 得らるべき; ④ 當發, 應發, 應當發, 當作, 應作, 應生, 應起, 應當發起 *Siks., Abh-vy.:* evam eittam ~ m 當發如是心, 應作如是念, 當作是念 *Siks. 137.*

ut-pādayitṛ ④ 生産者.

ut-pādayitri ④ [同上].

utpāda-rāsi ④ ④ 生聚, 集生 *Lanḅ.*

utpāda-lakṣaṇa ④ ④ 生相 *Lanḅ.*

utpāda-vāda ④ ④ 說(法)生 *Lanḅ.*

utpāda-vādin ④ ④ 生論 *Lanḅ.*

utpāda-vikalpa ④ ④ 生分別, 生妄想 *Lanḅ.*

utpāda-vyaya ④ ④ 生滅 *Madhy-vibh.*

utpāda-sthiti ④ ④ 生住 *Lanḅ.*

utpāda-sthiti-nirodha ④ ④ 生住滅 *Lanḅ.*

utpāda-sthiti-bhaṅga ④ ④ 生住滅 *Lanḅ., Cat-ś.*

utpāda-sthiti-vikāra ④ ④ 生住滅 *Lanḅ.*

utpādānityatā-vāda ④ ④ 生無常義 *Lanḅ.*

utpādānutpāda-vikalpa ④ ④ 生不生妄想, 生不生執著, 生非生執著 *Lanḅ.*

ut-pādika ④ ④ 生; 發(一°) *Sapt-pr., Bodh-bh.*

ut-pādita (過受分) 生産せられたる, 結果せる, 得られたる; ④ 生, 已生; 發, 發已, 已發; 起, 已起, 所起 *Sapt-pr., Lanḅ., Bodh-bh.*

utpādita-citta ④ ④ 發心已 *Bodh-bh.*

ut-pādin ④ 産出せられたる, 生まれたる; (一°)を生み出す, ……の起因となる; ④ 生 *Abh-vy.*

utpādotpāda (°da-ut°) ④ ④ 生生, 起起 *Madhy-v.*

ut-pādya (未受分) 生ぜらるべき, 齎らさるべき, 創造せらるべき, 得らるべき; 生ぜらるる, 創作せらるる; ④ 生, 所生, 已生 *Lanḅ.*

ut-pādyatva ④ ④ 起 *Abh-vy.*

ut-pāra-pāram ④ ④ 深海の底まで.

ut-piñja ④ ④ 暴動.

ut-piñjala ④ ④ 解放する, 擴大する; 混亂せる.

ut-piñjalaka ④ ④ 混亂せる(戰鬪).

ut-piṇḍa ④ ④ 副食物(佛敎); ④ 合, 拌 *Mvyut.*

ut-pitsu (希求) ④ ④ 起ち上らんと欲する.

ut-piṣṭa (過受分) → Piṣ.

ut-Piḍ utpidayati (使役). → Piḍ.

ut-piḍa ④ ④ 壓挫, 壓力, 壓迫; (涙の)瀧瀬 [*bāspa ~*]; ④ 擁, 逼迫 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

ut-piḍana ④ ④ 壓迫すること; ④ 惱, 惱害, 逼惱, 逼害, 逼迫 *Daś-bh., Bodh-bh.*

ut-piḍā ④ ④ 苦, 逼迫, 畏難 *Lal-v., Bodh-bh.*

ut-piḍita (過受分) → Piḍ. ④ ④ 所逼, 所逼切, 加功壓, 所逼惱, 受諸苦痛 *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Abh-vy.* → an ~.

ut-piḍitam ④ → Piḍ.

ut-pina (過受分) → Pi 2.

utpumsaya (名動) ④ ④ utpumsayati 逃る; 拭ひ去る.

utpuñjaya (名動) ④ ④ utpuñjayati. → puñjaya.

ut-putaka 男 [外耳の病氣の一種].
ut-pulaka 形 (悦びにて)毛の逆立てる. 男 毛の逆立つこと.
ut-Puṣ, → Puṣ.
ut-Pū utpunāti, utpunite. → Pū.
ut-pūta 通受分 淨められたる.
ut-prabandha 形 妨げられざる; 斷絶せざる, 連続せる.
ut-pravāla 形 嫩芽を出す. 若き小枝ある.
ut-prāsa 男 嘲笑, 愚弄, 嘲弄; 諷刺.
ut-prāsana 中 [同上].
utprāsaya 名動他 utprāsayati 嘲る (Divy.).
ut-Pru utpravate. → Pru.
ut-prekṣ (ut-pra-īkṣ) utprekṣate. → Īkṣ.
ut-prekṣaka 形 見る, 觀察する.
ut-prekṣaṇa 中 豫想, 豫告すること; 譬喩的表現.
ut-prekṣaṇīya 未受分 譬喩を以て表現せらるべき.
ut-prekṣā 女 顧みざること, 無關心; 譬喩, 譬喩的表現.
utprekṣākṣepa (°ṣā-āk°) 男 [修辭法の一種].
ut-prekṣita 通受分 (譬喩を以て)比較せられたる.
utprekṣitopamā (°ta-up°) 女 [譬喩の一種].
ut-plava 男 跳躍, はずむこと; 漢譯 生, 喜, 踊躍 *Sikṣ.*, *Mvyut.*
ut-plavana 中 跳躍すること; 溢るゝこと.
ut-plāva 男 漢譯 蹀躞 *Sikṣ.*
ut-plāvaka 中 漢譯 誑惑 *Bodh-bh.*
ut-plāvakatva 中 漢譯 擾動, 沒重 *Abh-vy.*
ut-plāvin 男 漢譯 糠秕, 無實穀 *Abh-vy.*
ut-Plu utplavate. → Plu.
ut-PHal utphalati, utphālayati(便役). → PHal
 1.
ut-phāla 男 跳躍, 跳ね反ること.
utphikā 女 漢譯 呆瘋 *Mvyut.*
ut-phulla 通受分 [PHal] 咲ける(花); 廣く開きたる, 擴張せられたる; 膨脹せる, 増大せる.
utphulla-cāru 形 漢譯 作熙怡 *Guhy-s.*
utphullacāru-nayana 形 漢譯 作熙怡眼 *Guhy-s.*
utphulla-nayana 中 漢譯 熙怡眼 *Guhy-s.*
ut-ripiṭi 男 桑.
utsa 男 井, 泉; 根源; 漢譯 泉, 泉源, 流水, 流水津 *Lal-v.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*; 波(?) 梵千.
ut-saktikā 女 漢譯 反抄, 雙抄 *Mvyut.*
ut-saṃkalita 通受分 → Kal.
ut-saṅga 男 膝; 腰部, 背面, 平面; 屋根; 傾斜, 勾配; 蒼穹; 漢譯 膝, 懷, 懷抱 *Mañj-m.*, *Mvyut.*; 阿 *Gaṇḍ-vy.*; 音寫 [數の名] 嚙踏伽, 鬱憎伽 *Lal-v.*, *Mvyut.* → parvata~, parvata-sikhara~.
utsaṅga-carāṇa 形 漢譯 [三十二相の一, *Pāli. us-saṅkha* 踝骨 (saṅkha) が足の上部にありて隠れて現ぜざること即ち踝骨不現]. されど十住毘婆沙論等の足趺高相は ud-saṅga (=高)と見たるが如し. *ucchaṅkha-pādatā* (*Prajñ-vy. 919.*) 立手摩膝, 平立手摩膝, 平住手摩膝 [*Tib. śabs-ḥbar-ḥbar-med-pa* 「足無高低」] *Bodh-bh. 375.*
utsaṅga-carāṇatā 女 漢譯 [三十二相の一] 立手摩

膝, 平立手摩膝相 *Bcdh-bh.*
utsaṅga-pāda 形 漢譯 [三十二相の一] 足趺隆起 *Lal-v.*
utsaṅga-pādatā 女 弓状の或は甲の高き足を有すること (*Dharm-s.*).
ut-saṅgita 通受分 結合せる, 混淆せる; 膝に置ける.
ut-saṅgin 形 深き, 根深き; 結合せる.
ut-Sañj, → Sañj.
ut-Sad utsīdati(-te), utsādayati(便役). → Sad.
ut-sada 男 突出, 卓越; 特色; 漢譯 [*Pāli. ussada*] 高; 増, 増益, 増長; 満, 充滿, 豐満, 皆満; 多; 合, 集會; 最重 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* → an~, abhy~, sapta~.
 ~ena 具 漢譯 多 *Bodh-bh.* 形 突出せる, 卓越せる.
utsada-gātra 形 漢譯 身豐満 *Mvyut.*
ut-sadana 中 漢譯 淨身 *Mvyut.*
utsadana-dharmaka 形 漢譯 餘殘(飲食) *Divy. 307.*
utsa-dhi 男 泉池.
ut-sanna 通受分 → Sad. 漢譯 無; 堆阜 *Gaṇḍ-vy.*
utsanna-śarkarā-kāṭhalla 形 漢譯 無沙礫 *Gaṇḍ-vy.*
ut-saraṇa 中 上昇, 漸昇; 漢譯 昇 *Mvyut.*
ut-sarga 男 射出, 發射; 排泄; 捨離; 除去; 解除, 釋放; 寄附; 放棄, 斷念; 中止; 返附; 通則; [*chandāsām* を補ひ] (*Veda* の學習を)中止(する式); 漢譯 發, 際, 拔; 離, 棄, 捨, 有捨, 捨離, 棄捨; 不惜, 施與 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Sāṃkhy-k.*; 促 *Abh-vy. 650.*; 總 *Abh-vy. 380.*; āyur~ 於壽量(若)促 *Abh-vy. 650.*
utsarga-vihita 形 漢譯 總開 *Abh-vy. 380.*
ut-sargin 形 捨て去る.
ut-sarjana 形 (女-i) 排斥する. 中 放置, 解除; 中止; (*Veda* の學習を)中止(する式); 漢譯 捨, 棄捨 *Abh-vy.*
ut-sarjam 副 解放して.
ut-sarjana 中 上昇; 外出; 進出; 日出.
ut-sarpiṇi 女 上昇周期.
ut-sarpin 形 跳び上る; 出現する, 顯はれる; 飛揚する.
ut-sava 男 企畫; 開始; 休日, 祭日; 開花; 喜悅, 幸福; 漢譯 宴, 慶賀, 義會, 吉會; 勝福, 喜, 歡喜 *Divy.*, *Sikṣ.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → mahā~.
utsava-saṃketa 男 複 [民族の名].
utsavāya 名動自 utsavāyate …の爲に饗宴となる(即ち喜悅を齎らす).
utsa-saras-tadāga 中 複 漢譯 川流江河諸水 *Saddh-p.*
ut-Sah utsahate, utsāhayati(便役). → Sah.
ut-saha 形 (一)を支持する; 可能なる, …に適する, …を取てする; 漢譯 精進 *Sūtr.*
ut-sahanā 女 激勵; 漢譯 勸讚 *Divy.*
ut-sahita 通受分 漢譯 勇悍 *Bodh-bh.*
ut-sāda 男 斷絶, 終結; 擾亂者.
ut-sādāna 中 中止; 破壊; 摩擦, 香油にて摩擦すること; 漢譯 塗身 *Mvyut.*

ut-sādaniya (未受分) 破壊せらるべき。
ut-sādita (通受分) 破壊せられたる、破滅せられたる；
 摩擦せられたる、油を塗られたる；揚げられたる；
 (殺) 殺、殺害 *Vijñ-v.*
ut-sāraka (男) 門衛。
ut-sāraṇa (中) 街路を清掃すること；(群集を)追ひ散らすこと。
ut-sāraṇā (女) [同上]。
ut-sāraṇiya (未受分) 驅逐せらるべき。
ut-sārīta (通受分) 動かされたる；追ひ拂はれたる。
ut-sārin (形) ……に及ぶ、……の方に向けられたる。
ut-sārya (未受分) =utsāraṇiya。
ut-sāha (男) 力、勢力；努力、果斷、不撓；(一°)の嗜好、……の歡喜；(殺) 力、勤；堪能；勇、勇悍、猛、勇猛、捍勞；精進力 *Sūtr., Bodh-c., Śikṣ., Bodh-bh.*；勸持、勸説(?) *Saddh-p.*；喜歡 *Mvyut.* → abhy-
 ~. ~m Dā (殺) 勸、勸導、勸勵 *Aṣṭ-pr.*
utsāha-gātratā (女) 身體の各部が活氣を有すること (*Dharm.s.*)
utsāha-jāta (形) (殺) 發勇猛心 *Bodh-bh.*
ut-sāhatā (女) (殺) 堪能 *Bodh-bh.*
ut-sāhana (中) 氣力を發せしむること、勵すこと；(殺) 勸發 *Saddh-p.*
utsāha-yoga (男) 精勵。
ut-sāhavat (形) 力強き、精力ある、屈せざる。
utsāha-śakti (女) 意志の力、精力、元氣。
utsāha-śaurya-dhana-sāhasavat (形) 勇氣と豪勇と富と氣力とを有する。
ut-sāhin (形) 意志堅固なる；氣力ある；(殺) 有勇、精進、勸能 *Divy., Bodh-bh.*
ut-sikta (通受分) → Sic.
ut-Sic utsiñcati(-te). → Sic.
ut-silindhra (形) 芭蕉の花の出盛れる。
ut-siṣṭa (通受分) (俗) [正しくは uchiṣṭa(ut-śi°)]；(殺) 殘、棄殘 *Śikṣ. 125.*；~āhāra 殘食 *Śikṣ. 125.*
ut-siṣṭkṣu (希求) (業) を放棄せんとする；放散せしめんと欲する (*Buddh-c.*)
ut-suka (形) 不安なる、激昂せる；熱心なる；憧憬する；(因, prati, 一°) を切望する；(因, 因) に関して心配せる；(殺) 勞、慮、神慮、憂懼、疑懼；希望、欣樂 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh.* → alpa~.
ut-sukatā (女) 不安；熱心、熱中；切望、憧憬；(殺) 樂；希欲 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
utsukaya (名動) (他) **utsukayati** 憧憬又は不安を起さしむ。
utsuka-vadana (形) 憧憬の面相を有する。
ut-sukya (中) =autsukya。
ut-sūdhī (女) (殺) 愛、喜、味 [*Pāli. ussoḥi* 「勤」] *Mvyut.* → ut-sodha。
ut-sūtra (形) 絲を通さざる(真珠)；規則に外れたる或は違反せる；規則に含まれざる；(殺) 越經、違經(說)、(佛)經所違、異經不相應 *Abh-vy.*
ut-sūrya-sāyin (形) 太陽の昇れるに(未だ)眠れる。
ut-Sr utsarati, utsārayati(使役). → Sr.
ut-Srj utsrjati(-te). → Srj.
ut-Srp utsarpati. → Srp.

ut-srpta (通受分) → Srp.
ut-srṣṭa (通受分) → Srj. (殺) 散、放；捨、所捨、捨了、棄捨、棄了、棄失、抛了；不惜 *Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*；臨 *Saddh-p.*：vadhya~ 臨當被害 *Saddh-p. 439.* → a~.
utsrṣṭa-kāya (形) (殺) 於身命無所顧惜、己身能捨無所憐惜 *Aṣṭ-pr.*
utsrṣṭa-kāya-jivita (形) (殺) 已捨身命 *Śikṣ.*
utsrṣṭa-loman (形) 毛を剪ることを止むる。
ut-srṣṭavat (通受分) (涙を)注げる；(殺) 注 *Divy.*
utsrṣṭāgni (形) 聖火を滅せしめたる、拜火を止めたる。
ut-srṣṭi (女) 放つこと；止むること。
ut-seka (男) 過剩、餘分；自慢、傲慢。
ut-sekin (形) 自慢せる、傲慢なる。
ut-sedha (男) 高揚；卓越；高度、厚さ；優越。
ut-sodha (形) (殺) [*Pāli. ussoḥi*] 發大誓願 *Saddh-p.* → ut-sūdhī。
ut-sodhavya (未受分) (殺) 受、堪受；當忍；終不捨；(其心)無疲倦 *Gand-vy., Śikṣ.*
ut-sthala (中) [島の名]。
ut-Snā utsnāti, utsnāyati. → Snā.
ut-smaya (形) 開ける(目・花)；笑。
ut-Smi utsmayati. → Smi.
ut-sraṣṭavya (未受分) 排泄せらるべき；棄てらるべき；(殺) 應施與 *Kāśy.*
ut-sraṣṭu-kāma (形) 放捨せんと欲する。
ut-srasta (通受分) 離脱せる、脱落せる、破壊せる。
ut-srāvin (形) 起る。
ut-srotas (形) (生命の)流れに沿へる；伸び上らんとする(植物)。
ut-svana (男) 鋭き音響。
utsvapnāya (名動) (自) **utsvapnāyate** 睡眠中に話す。
Ud, VII. (他) unatti 湧き出す；濡らす、濡めす。 (通受分)
unna 濡めされたる、濡らされたる。
vi- 湧き出づ；濡めす。
sam- 濡めす。 (通受分) **samunna** 濡らされたる。
ud (後頭) [動、名又は形と俱に] 上に；外に。
uda (中) 水 [°—, 又は形 —° に限る]；(殺) 水 *Sūtr.*
udak (中) 圃 北に。
udaka (中) 水；垢離；(祖靈に對して)聖水を供ふること；(殺) 水、淨水 *Lank., Śikṣ., Abh-vy.*；(音聲) 鬱特、鬱特迦、優埵迦 *Sam-r.*、立應。
 ~m Kṛ, 聖水を供ふ、儀式を行ふ；= ~m Dā。
 ~m Dā, (死者(爲)又は(圃)に)聖水を供ふ。
 ~m pra-Dā, [同上]。
 ~m upa-Srṣ, (法式に據り身體の各部に)聖水を以て觸る。
udaka-karman (中) 祖靈に水を供ふること。
udaka-kārya (中) [同上]；垢離。
udaka-kumbha (男) 水瓶。
udaka-kriyā (女) =udaka-karman。
udaka-kridana (中) 水中の戯れ。
udaka-kṣvedikā (女) (互に)水を濡ぎかくること。
udaka-gāha (形) 水中に潛る。
udaka-candra (男) (殺) 水月、水中月 *Lank., Śikṣ.*；

[佛の名] 水月(光) *Sukh-vy. I.*
udakacandra-nibha 形 漢譯 如水月, 譬水中月 *Sikṣ.*
udaka-tarpaṇa 中 死者に水を供ふること.
udaka-datta 形 漢譯 以濾給 *Mvyut.*
udaka-dattā 女 漢譯 水授婦 *Mvyut.*
udaka-dāna 中 = *udaka-tarpaṇa.*
udaka-dānika 形 水の供物に關する.
udaka-dāyin 形 (葬儀に際して死者に)水を供ふる.
udaka-dhārā 女 水の逆流又は流下; 漢譯 長流, 長水 *Mvyut.*
udaka-nīṣṛita 形 漢譯 住於水際 *Divy.*
udaka-pūrva 形 (受者の手に)水を(注ぐことを)以て始むる(儀式), 水垢離を先に爲す.
udaka-prabhāsa 男 漢譯 水清珠, 淨水珠 *Gaṇḍ-vy.*
udaka-prasāda-maṇi 男 漢譯 水清珠, 淨水珠 *Gaṇḍ-vy.*
udaka-bindu 男 水の一滴; 漢譯 一滴之水 *Sikṣ.*
udaka-budbuda 男 漢譯 水上泡 *Sikṣ.*
udaka-budbudaka 男 漢譯 水泡 *Lank.*
udaka-budbuda-phena 男 漢譯 水泡沫, 水上聚浮漚 *Sikṣ.*
udaka-bhāṇḍa 中 漢譯 水器 *Mvyut.*
udakabhāṇḍādhiṣṭhāna 中 漢譯 水器座 *Mvyut.*
udaka-bhrama 男 漢譯 陰溝 *Mvyut.*
udaka-maṇi 男 水瓶; 漢譯 大水器, 貯水器 *Divy.*
udakamaya 形 水のみより成る,
udaka-rākṣasa 男 漢譯 姪鬼; (音寫)水中羅刹 *Daś-bh.*
udakavat 形 水を給せられたる, 水を以て充たされたる.
udakavati 女 [或る少女の名].
udaka-śīla 形 (死者の靈に)規則正しく水を供ふる.
udaka-saras 中 漢譯 池水 *Sikṣ.*
udaka-sādhu 形 水中より救ひ出す.
udaka-sthālaka 中 漢譯 水器, (淨)水瓶 *Mvyut.*
udaka-sparśa 形 身體の諸部分に水を觸るゝ, 約束の確認の爲に水に觸るゝ.
udaka-sparśana 中 水に觸るゝこと; 垢離.
udaka-harṣaṇa 中 漢譯 水中喜 *Mvyut.*
udaka-hāra 男 水の運搬者.
udakāñjali 男 一掬の水.
udakānta 男 水邊, 岸.
udakāntodakāntāt (°ta-ud°) 從 圖 水に至るまで.
udakārṇava 男 大洋.
udakārtha 男 垢離. ~m 圖 垢離を行はんが爲に.
udakārthin 形 水を求むる, 渴せる; 漢譯 須水 *Saddh-p.*
uda-kumbha 男 水差; [人名].
udake-śaya 形 水中に在る, 水に棲む.
udakodara (°ka-ud°) 中 水腫, 水氣.
udakodarīn (°ka-ud°) 形 水腫の, 水氣ある.
udakopasparśana (°ka-up°) 中 水に觸るゝこと, 垢離.
udakopasparśīn (°ka-up°) 形 垢離を行ふ.
uda-koṣṭha 男 水瓶.

udakaugha (°ka-ogha) 男 漢譯 瀑水 *Vijñ-t.*
udakaudana (°ka-od°) 中 水にて煮たる米.
ud-akta (過受分) → *Ac I.*
udaktas 副 上より, 北方より.
udaktāt 副 [同上].
udak-patha 男 (北の路), 北國.
udak-pravaṇa 形 北方に傾ける.
udak-prasravaṇa 中 北方に流れ出づること. 形 北方に流れ出づる.
udakya 形 水中に存する.
udakya 女 月經中の女.
udakya-gamana 中 月經中の女との交合.
udag-agra 形 尖端を北方に向けたる(草).
udag-apavargam 副 北に終りて.
udag-ayana 中 (太陽の)北部軌道; 冬至より夏至に至る半年.
udag-āyata 形 北方に擴がれる.
udag-āvṛtti 女 (太陽の)北に進むこと.
uda-gāha 男 水に浸ること.
udag-gati 女 = *udag-ayana.*
udag-daśa 形 縫目を上又は北に向けたる.
udag-dvāra 形 北門を有する.
ud-agra 形 (その頂を)上げたる, 擧げられたる, 高き; 長き; 大なる; 高遠なる, 高位にある; (一°)によりて高くせられたる或は増大せられたる; 老いたる(年齢); (一°)によりて激昂せる或は逆上せしめられたる; ° — 非常に, 極端に; 漢譯 踴躍; 勇猛; 喜, 喜悅 *Lal-v., Suv-pr., Bodh-bh., Mvyut.:* tuṣṭā ~ ātta-manasaḥ pramuditāḥ prīti-saumanasya-jātāḥ 歡喜踴躍 *Saddh-p. 209.*
udagra-citta 形 漢譯 欣仰, 慶躍心, 心懷忻然, 心皆大歡喜 *Saddh-p., Daś-bh.*
udagra-pluta 形 高き跳躍を爲す.
udagra-plutatva 中 [同上 圖].
uda-ghoṣa 男 水の咆吼.
ud-aṅka 男 籠又は(油等の)容器.
udañ-mukha 形 北方又は上方に面せる.
ud-Aj *udajati(-te).* → *Aj.*
uda-ja 1. 中 蓮. 形 水中又は水によりて生じたる, 水の.
ud-aja 2. 男 (牛を)逐ひ出すこと.
uda-jalaka 男 [或る車匠の名].
ud-Añc *udaenti, udañenti.* → *Ac.*
udañc 形 (女 *udici*) 上方の, 北方の; 北方に向けられたる.
ud-añcana 男 (汲み上ぐるもの), 釣瓶.
ud-añcita (過受分) 擧げられたる, 高く揚げられたる, 投げ上げられたる; 言はれたる; 崇拜せられたる.
ud-añjali 形 合掌せる手を差上ぐる.
uda-dhāna 中 貯水池.
uda-dhi 形 水を含める. 男 水の器(雲・湖・河), 大洋; 漢譯 海, 大海, 巨海 *Lal-v., Lank.*
udadhi-jalamaya 形 海水より成る.
udadhi-taraṅga 男 漢譯 海浪, 大海浪 *Lank.*
udadhi-mekhalā 女 陸地.
udadhi-rāja 男 大洋の王, 大洋の神.

udadhiya 名動他 **udadhiyati** (変)を大洋なりと考ふ、大洋と見做す。
udan 甲 波; 水。
uda-nemi 形 大洋に圍まれたる。
ud-anta 男 仕事の終焉、收獲時; 通知、報告。形 境界又は終末に達する; 溢る。
ud-antya 形 境界外に住する。
udanya 形 波立つ、水に富む。
udanya-ja 形 水中に生じたる或は住する。
udanyā 女 水に對する欲求、渴。
udanyu 形 水を欲求する、水を好む; 水を注ぎ出す。
udanvat 形 波立つ; 水に富む。男 大洋。
udā-pātra 甲 水瓶。
uda-pāna 男甲 井、泉; 漢語 井、陂井、井泉、泉水、流泉; 池 *Divy*, *Ast-pr.*, *Siks*.
udapāna-kalpa 男 漢語 井水淨 *Mvyut*.
uda-piti 女 飲水場。
uda-pura 甲 貯水池。
uda-pū 形 自ら水を以て淨むる、水によりて淨められたる。
uda-prut 形 水を溢れしむる; 水中を泳ぐ。
uda-plava 男 洪水。
uda-plata 形 水中を泳ぐ。
uda-bindu 男 水滴、一滴の水。
uda-budbuda-phena 男 漢語 水上泡、水上聚浮漚 *Lal-v.*
uda-bhājana 甲 漢語 水器 *Sūtr*.
uda-bhāra 男 (水を運ぶ者)、雲。
udamaya 形 (女 -i) 水の、水より成る。
uda-megha 男 雨雲; 驟雨。
ud-ambhas 形 水に富む。
ud-aya 男 起上ること; (太陽又は月の)上昇、黎明、曉; (雲の)集積; [(その後より日月が昇ると想像せらるる)神話上の山の名]; 出現、生起、生産、端緒; 結果、成績; 成功; 繁榮; 利得; 収入、報酬; 利息; 漢語 産、増、發; 生、起 生起、能生; 出、日出、出難 *Divy.*, *Sūtr.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.* → abhy~.
udaya-giri 男 *Udaya* 山; [*Orissa* 地方に在る山の名].
udaya-gupta 男 [人名].
udaya-taṭa 男 *Udaya* 山の斜面。
udaya-tuṅga 男 [人名].
ud-ayana 甲 上昇; 出口; 結果、結末; 漢語 出、顯現 *Mvyut*. 男 [王の名]; 漢語 [龍の名] 顯現 *Mvyut.*; 漢語 [大臣の名] 優陀延 *Lal-v.*
udayana-vatsa-rājan 男 漢語 [王の名] 出愛王 *Mvyut*.
udayanavatsarāja-paripṛcchā 女 漢語 [經名] 日子王所問經 *Siks*. [優陀延王會(大寶積經第二十九會)、大乘日子王所問經等].
ud-ayaniya 形 終局の、(式等の)終了する。
udaya-parvata 男 = *udaya-giri*.
udaya-bhāskara 男 漢語 日舒光 *Lank.*
udaya-rāja 男 [人名].
ud-ayavat 形 (月等の)昇れる。
udaya-vyaya 男 漢語 生滅 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*

udayavyaya-dharmin 形 漢語 生滅相、生滅法 *Madhy-v.*
udaya-vyayin 形 上下する。
udaya-śaila 男 = *udaya-giri*.
udayācala 男 [同上].
udayāditya (°ya-ād°) 男 [人名].
udayānta 形 日出と共に終る。
udayāvṛtti (°ya-āv°) 女 (太陽の)昇る方向に向ふこと。
ud-ayika 形 漢語 出 *Mvyut*.
ud-ayin 形 出現する; 繁榮する; 勝利を得たる; 漢語 出現 *Mvyut*. 男 漢語 佛弟子の名] 優陀夷、鄒陀夷 *Mvyut.*, 玄應。
udayī-bhadra 男 漢語 佛弟子 [人名] 優陀那 [耶?] 跋陀羅 *Divy*.
udayorvī-bhṛt (°ya-ur°) 男 = *udaya-giri*.
udara 甲 (—°形 (女 -ā, -i)) 腹; 腸、胃; 胸; 胎; 腹部の膨脹; 凹處、內部 [膨脹: R]; 漢語 腹、肚、腸、腹肚; 胎; 胎; 胎; 胎 *Lal-v.*, *Gand-vy.*, 梵雜。
udaraka 形 腹の。
udara-tādam 男 腹を鼓して。
udara-dāra 男 [特殊の腹の病の一種].
udara-bharaṇa 甲 腹を満たすこと。
udaram-bhara 形 貪食なる; 自己の腹のみを養ふ、利己的の。
udaram-bhari 形 [同上].
udara-randhra 甲 (馬の)腹(の一部).
udaravat 形 便腹の、肥滿せる。
udara-vistāra 男 便腹、肥滿。
udara-vyādhi 男 腹の不調、腸の病。
udara-śāṅḍilya 男 [聖仙の名].
udara-stha 形 腹中に在る、胎内に在る; 漢語 胎中 *Av-s.* 男 腹中の火(之によりて食物が消化せらると考へらる).
udarika 形 = *udaravat*.
udarin 形 腹の膨脹せる。
udarila 形 肥滿せる。
udare-mukha 形 腹に口ある。
ud-arka 男 反響; 結果、報酬; 結末、終局; 未來; 塔、見張塔。
ud-arcis 形 輝ける、燃え上る。男 火。
uda-vajra 男 水雷電; 龍卷。
ud-ava-Sā *udavasyati.* → *Sā* 2.
ud-avasātṛ 男 祭の終了後に祭場を去る者。
ud-avasāna 甲 祭の終了後に祭場を去ること。形 終局をなせる。
ud-avasāniya 形 (祭の)終局をなす、結末の、最後の。
ud-avasāniyā 女 (祭の)終了又は結末。
ud-avasāya (不變分) 終りて、結末を告げて。
ud-avasita (過受分) 甲 住居、家。
uda-vāsa 男 水中に止住すること、水中に留まると; 水中の住處。
uda-vāsin 形 水中に住する。
uda-vāha 男 水の運搬。
uda-vāhana 形 水を齎す。甲 雲。
ud-Aś *udaśnoti*, *udaśnute.* → *Aś* 1.
uda-śarāva 男 水を滿せる盤又は瓶。

udaśraya (名動) 他 **udaśrayati** 落涙す, 泣かしむ。
ud-aśru (形) 泣く, 落涙する。
uda-śvit (甲) 水と脱脂乳との混合物, 酪漿。
ud-As udasyati. → As 2.
uda-saktu (男) 大麥の浸汁。
udastāt (副) 前 (臺)の上に。
uda-stoka (男) 一滴の水。
uda-sthāli (女) 水を容れたる釜。
uda-haraṇa (甲) 水を汲む容器。
uda-hāra (形) (女-i) 水を運ぶ或は運ばんとする。
ud-āgata (過受分) (形) 出 *Lal-v., Gaṇḍ-vy.*: ~e ca sūrya-maṇḍale divasaḥ prajñāyate 出則大明, 日出已時名畫 *Gaṇḍ-vy.* 350.
ud-ā-Gam udāgacchati. → Gam.
ud-āgama (男) (形) 昇, 出現, 出生 *Gaṇḍ-vy.*
ud-ācam (副) 上に揚げて。
ud-ācāra (男) 散歩路。
ud-ātta (過受分) [Dā] 上げられたる; 高き; 名高き, 著名なる; 高潔なる; 寛大なる; 傲慢なる; 高きアクセントを有する。 (男) 高きアクセント。
ud-āttatā (女) 傲奢, 尊大。
ud-āttatva (甲) 高きアクセントを有すること。
ud-āttamaya (形) 高き調子又はアクセントに似たる, Udāttaに類する。
udātta-śruti (女) Udāttaの如き發音又は響き。
udāttālamkāra (男) 「崇高なる」「超現世的」(と呼ばれる) 修辭形式]。
ud-ā-Dā udādadāti. → Dā 1.
ud-āna 1. (男) 上風(體內五風の一)。
udāna 2. (甲) (形) 自説, 無問自説 *Mvyut.*, 立應; 集施, 攝散, 攝施, 集總散立應; 讚嘆經; (音寫) 唵陀南頌, 鄔陀南頌 *Divy., Abh-vy., Mvyut.*; (音寫) 優陀那, 壽陀那, 優陀那; (udānam) 唵陀南, 鄔陀南 *Divy., Abh-vy., Mvyut.*, 立應. → udānaya.
udānaya (名動) 他 **udānam udānayati** [*Pāli.* udānam udāneti] 激しき感情に打たれて嚴肅なる言葉を發す; (形) 讚, 稱讚, 歎言, 自嘆言, 喜自歎曰; 説, 唱言, 口唱言, 高聲唱言, 作是言, 作如是言, 作如是語; 以偈頌曰; 歡喜稱揚讚歎 *Divy., Lal-v., Ast-pr., Suv-pr., Lan̄k., Guhy-s.*; 稱念, 至心稱念 *Rāṣṭr.*
udāna-varga (男) [佛典の名: 法集要頌經等]。
ud-āpluta (過受分) 沈める, 浸れる, 水に没せる, 汨濫せる。
ud-āyin (男) (形) [人名] 出現 *Mvyut.*; (音寫) 優陀夷 *Buddh-c.*
udāyi-sūtra (甲) (形) [經の名] (音寫) 鄔陀夷經 *Abh-vy.*
ud-ā-Yu udāyanti. → Yu 1.
ud-āyudha (形) 武器を振り翳せる。
udāra 1. (形) 鼓舞する; 高揚せる, 高き; 多量の; 名高き, 優れたる; 名門の; 威嚴ある; 聲高き; 快き; 頗る大なる; (形) 上, 最上; 妙, 上妙, 殊妙, 微妙; 勝, 妙勝, 最勝, 勝者, 大勝; 廣, 廣大; 大, 高大, 勝廣大; 有多; 深, 甚深; 良, 好; 珍; 尊貴, 豪貴; 微妙(甚可樂) *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Kāśy., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh.*; (音寫) *Gaṇḍ-vy.* ~m (副) 聲高に。

udāra 2. (男) (形) *Siva* 神の妻。
udāraka (男) [人の敬稱]。
udāra-carita (形) 行爲又は心の高潔なる, 貴き。
udāra-cetas (形) 氣高き。
udāratama (最上) (形) 上首, 此上, 上上勝, 勝極 *Lal-v., Bodh-bh.*
udāratara (比較) (形) 上勝 *Bodh-bh.*
udāratā (女) 寛大; 高貴; 雄辯; (形) 廣大, 上妙 *Bodh-bh.*
udāratva (甲) [同上]。
udāra-darśana (形) 高貴なる容貌の。
udāra-dhi (形) 理智優れたる, 賢き。
udāra-dhi (形) [同上]。
udāra-bhāva (男) 寛大, 雅量; 高貴なる性格。
udāra-mati (形) =udāra-dhi; (形) 廣大慧 *Mvyut.*
udāra-varṇa (形) (形) 壯色, 色貌微妙, 容貌端嚴 *Suv-pr.*
udāra-vikrama (男) 秀でたる武勇。 (形) 甚だ勇敢なる。
udāra-samjñābhigata (ñā-abh°) (形) (形) 心漸已 廣大 *Saddh-p.*
udāra-sattva (形) 人格高潔なる; 心の寛大なる; (形) 人中上, 人所尊 *Śikṣ.*
udāra-sūkṣma-praveśa (形) (形) 大入小, 籠入細, 大處置小 *Gaṇḍ-vy.*
udāra-hina (形) (形) 上下 *Saddh-p.*
udārādhimuktika (形) (形) 欲廣大, 思廣大, 廣大信解, 信解於廣大 *Mvyut.*
udārādhimukti-samjanana-citta (形) (形) 大解心 *Gaṇḍ-vy.*
udārika (形) (形) 勝 *Saddh-p.*
udārodāra (°ra-ud°) (形) (形) 廣大, 勝妙, 上妙 *Suv-pr., Śikṣ.*
ud-āvarta (男) [病氣の一類]; [腸の病氣の名]。
ud-āvartaka (形) 便秘せる。
ud-āvartana (甲) 便秘。
ud-āvartin (形) 腸の病に惱める。
udāvasu (男) [*Janaka* 王の子の名]。
udāśaya (uda-āś°) (男) (甲) 池, 泉水, 湖; 水槽。
ud-Ās udāte. → Ās.
ud-āsitr̥ (形) 無頓著なる, 無關心の。
ud-āsin (形) [同上]。
ud-āsina (現分) 無關心の; (形) 對して無頓著なる; 無氣力の, 不活潑なる; 訴訟に卷込まれざる; (形) 中直, 中庸 *Sāmkhy-k., Bodh-bh.* (男) 無頓著なる人; 他人, 無關係の人, 中立者; (形) 客寄; 中, 中人 *Bodh-bh., Śikṣ.* → mitrāmitra ~。
ud-āsinatā (女) 無頓著, 無關心。
ud-āsthita (過受分) (男) 破戒僧, 破戒比丘。
ud-āsya-puccha (形) 顔と尾とを上に向けたる。
ud-āharaṇa (甲) 語ること; 暗誦; 宣言; 一般規則を (特殊の場合に) 歸託すること, 實例, 譬喩; (形) 比喩, 譬喩 *Mvyut.*
udāharaṇa-yoga (男) ~ena (男) (形) 譬喩説様 *Mvyut.*
udāharaṇa-vastu (甲) (形) 談話の内容, 話柄。

ud-āharaṇiya (未受分) 例證として引用せらるべき;
(一般規則として特殊の場合を) 歸託せらるべき。
ud-āharin 形 話す, 言ふ, 呼ぶ。
udāhāra (uda-āh°) 1. 形 水を持来さんとする。 中
水を持来すこと。
ud-āhāra 2. 男 例證; 談話の開始; 音, 説, 誦,
宣説, 演説, 説(法) *Daś-bh., Śikṣ., Mvyut.* →
an~。
ud-āhārya (未受分) 例證として引用せらるべき。
ud-ā-Hṛ udāharati. → Hṛ 1.
ud-āhṛta (過受分) → Hṛ 1. 云, 説, 所説, 所
宣, 宣説, 所宣説 *Lal-v., Saddh-p., Bodh-c., Śikṣ.,*
Bodh-bh., Madhy-v.
ud-āhṛti 女 例證, 表現の誇張。
ud-I udeti. → I.
ud-Ing, → Ing.
ud-ita 1. (過受分) → I. 興, 生, 已生, 出, 出(日),
出現 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., 梵千.;* 修習 *Lal-v.*
59.
udita 2. (過受分) → Vad. 説, 言, 宣説 *Daś-bh.,*
Bodh-c., Sūtr., Abh-k., Abh-vy.
udita-homin 形 日出の後に供養をなす。
uditāditya (°ta-ād°) 形 日出 *Mañj-m.*
uditādhāna (°ta-ād°) 中 日出の後の点火。
uditānudita (過受分) (昇り或は昇らざる), 未だ完全
に昇らざる。
uditānuvādin 形 他人の言を繰返す。
ud-iti 女 日の出, 日の入; (供養の) 終了。
uditodita (°ta-ud°) (過受分) [udita(Vad)+udita(I)]
(言はれたることがその人に想起せらるゝ=) 識見あ
る; 展轉宣説 [Vad] *Bodh-bh.*
uditoditatva (°ta-ud°) 中 展轉宣説, 展轉相傳
Bodh-bh.
ud-Īkṣ udikṣate. → Īkṣ.
ud-ikṣā 女 見上ぐること, ……の方を見ること; 期
待。
ud-ikṣita (過受分) 見られたる。
udīci 女 [udañcの女] 北の地方。
udicina 形 北方の。
udicya 形 北方の。 男 北國人。
udicya-vṛtti 女 北國人の習慣。
ud-īpa 男 洪水。 形 溢れたる, 洪水の。
ud-Īr udīrte, udīrayati(便役). → Īr.
ud-īraṇa 中 投擲, 投げ出すこと; 發音, 言ふこと, 通
知; 激勵, 鼓舞; 言説 *Lal-v.*
ud-īrita (便役) (過受分) [Īr] 立ち上らしめられたる, 奮
起せしめられたる; 活氣づけられたる; 増進せしめ
られたる; 現はさしめられたる; 言はしめられたる;
述べられたる, 記せられたる; 説, 記説 *Aṣṭ-pr.*
udirita-dhī 形 心の活動的なる, 心の鋭敏なる。
udiritendriya (°ta-in°) 形 感覺の興奮せる。
ud-īrṇa 1. (過受分) → Īr. 浮, 緊 *Mvyut.*
udirṇa 2. (過受分) 俗 [*avatirṇa. Pāli. otiṇṇa*] 姪
姪亂 *Prāt-m. II. 2.*
udirṇa-viparināta-citta 形 俗 姪亂變心 *Prāt-m. II.*

2.

ud-Īṣ udiṣati. → Īṣ.
ud-iṣita (過受分) 昇れる, 高められたる。
udumbara 男 球状をなせる無花果の樹 [學名 *Ficus*
Glomerata]; その果實; [婆羅門の一族の名]; 中
[*Pañjab* の *Hoshiapur-Kangra* 地方の民族の名];
優曇鉢樹 *Vajr-s.*; 優曇, 優曇鉢,
憂曇鉢, 烏曇跋羅, 優曇波羅 *Lank., Sukh-vy. I.,*
Bodh-bh., Vajr-s., 立應.
udumbara-puṣpa 中 優曇花, 優曇華, 優
曇鉢華, 優曇鉢花, 鄔曇妙華 *Sukh-vy. I., Lank.,*
Bodh-bh.
udumbala 形 銅色の。
udūkhala 中 =ulūkhala; 白 *Divy., Śikṣ.,*
Abh-vy.
ud-ūḍha 形 [Vah] 昇れる, 高き; 得たる; 結婚せ
る; 肥滿せる。
udūḍha-śiraska 形 頭髮蓬亂 *Divy. 83.*
ud-Ūh udūhati(-te). → Ūh 1.
ud-R udiyarti, udarpayati(便役). → R.
ude(ud-ā-I) udeti. → I.
ud-etavya (未受分) (中 非入) 上るべき要あり。
udetos 俗 不定 [purā と俱に] 日出前に。
ud-eyivas (過受分) 出で來れる, 生産せられたる, 生ま
れたる。
ud-ojas 形 非常に力强き又は効果ある。
ud-gata (過受分) → Gam. 起, 上; 出, 出生,
所生起; 涌; 到; 現, 顯現, 高顯 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-*
vy., Sapt-pr., Rāṣṭr., Mañj-m., Mvyut. → abhy~。
udgata-praphulla 形 齒莖芬敷, 皆悉開敷
Gaṇḍ-vy.
udgata-roman 形 身毛聳 *Śikṣ.*
udgata-śṛṅga 形 角(?)の當に現れんとする(犢)。
ud-gatā 女 [音律の一種]。
ud-gati 女 出現, 發生。
ud-gadgadikā 女 嗚咽(?)。
ud-ganṭṛ 男 導き出す者。
ud-Gam udgacchati. → Gam.
ud-gama 男 (天體の) 上昇; 高騰; (山への) 登攀; 昇
進; 擧揚, 勃發; 出現; 發生, 產出; 發射; 出發, 出
で或は去り行くこと; 發育, (植物の) 成長。
ud-gamatva 中 [同上 中]。
ud-gamana 中 上昇; 登ること; 出現, 顯現。
ud-gamaniya (未受分) 淨められたる, 清き。 中 清淨
なる衣服。
ud-Gal udgalati. → Gal.
ud-gahaṇatā 女 受 *Gaṇḍ-vy.*
ud-Gā udjigāti. → Gā 1.
ud-gādha (過受分) → Gāh.
ud-gāṭṛ 男 *Sāma-veda* を詠唱する主祭官; 詠唱者。
ud-gāra 男 吐唾; 滲出; 嘔吐; 投出; 注出; 洪水;
唾液; 咆吼; 大音響; 呃, 噎氣 *Mvyut.*
ud-gārin 形 噎氣(?)をなす; 唾を吐く; 嘔吐する;
(一?)を放つ, 發散する, 注ぐ, 發聲する。
ud-Gāh udgāhate. → Gāh.

ud-giraṇa ㊦ 吐唾, 嘔吐.
ud-gita ㊦ 歌はれたる; 告げられたる; 祝福せられたる. ㊦ 歌ふこと; 歌.
ud-giti ㊦ [音律の一種].
ud-githa ㊦ (㊦) Udgāṭṭr による *Sāma-veda* の詠唱.
ud-girṇa ㊦ → Gṛ 2.
ud-guṇṭhikā ㊦ [Pāli. oḅuṇṭhita. avaguṇṭhita の 詠] 覆頭, 裹頭, 搖頭 *Prāt-m. VII. 32., Mvyut.*
udguṇṭhikā-kṛta ㊦ 覆頭 *Bodh-bh. 106.*
ud-gūraṇa ㊦ [音律, = udgūrṇa]; ㊦ 加 *Saddh-p.*; 挺, 擧 *Mvyut.*; daṇḍa ~ 加刀杖 *Saddh-p. 271.*
ud-gūrayitṛ ㊦ 脅嚇する.
ud-gūrṇa ㊦ → Gur. ㊦ (脅迫せんが爲に) 武器を振上ぐること; 脅嚇.
ud-gr̥hita ㊦ [Grah] 擧げられたる, 擧揚せられたる, 取り上げられたる; ㊦ 受, 取, 所取, 攝, 攝持, 持, 所持, 既諾受已 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sam-r., Bodh-bh., Mvyut.*
ud-gr̥hitavat ㊦ ㊦ 受, 取, 受持 *Saddh-p., Rāṣṭr.*
ud-gr̥hya ㊦ 擧揚して, 取り出して.
ud-Gṛ udgirati. → Gṛ 2.
ud-Gai udgāyati, udgāti. → Gai.
ud-goraṇa ㊦ = udgūrṇa(㊦).
ud-grathana ㊦ (帶等を)捲くこと.
ud-Granth udgrathnāti, udgranthati, udgrathayati(㊦). → Grath.
ud-grantha ㊦ [人名](佛敎).
ud-granthi ㊦ 解かれたる, (世俗の羈縛より)自由なる.
ud-Grabh, → Grabh.
ud-grabhāṇa ㊦ 取り上ぐること, 揚ぐること.
ud-Grah udgr̥hnāti, udgr̥hñite, udgrāhayati(㊦). → Grah.
ud-graha ㊦ ㊦ 取, 受; 貪著 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Sūtr., Madhy-vibh.* → an ~.
ud-grahaṇa ㊦ 取り出すこと; 擧揚すること; ㊦ 受, 受持, 領受, 能受, 攝受, 諾受, 持, 取, 執, 執取 *Saddh-p., Daś-bh., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
udgrahaṇa-dhāraṇa ㊦ ㊦ 具受持, 悉能受持 *Bodh-bh.*
ud-grahitavya ㊦ ㊦ 應取, 當受, 應受持, 當受持 *Saddh-p., Vajr-pr., Bodh-bh.*
ud-grābha ㊦ 取り上ぐること, 擧揚すること.
ud-grāsaka ㊦ [Gras] 貪食する.
ud-grāha ㊦ 受容すること, 取り上ぐること.
ud-griva ㊦ 首を擡げたる, 頸を延ばしたる. ~m ㊦ 首を擡げて.
ud-grivikā ㊦ 頸を延ばすこと.
ud-grivin ㊦ = udgriva.
ud-gha ㊦ 優秀; 模範, 模型.
ud-GHaṭ udghātayati(㊦). → GHaṭ.
ud-ghaṭaka ㊦ 聰明なる, 熟達せる; ㊦ 明了, 得通利 *Divy.* → udghaṭita-jña.
ud-ghaṭita ㊦ 開かれたる; 努力する, 熱心なる;

聰明なる, 熟達せる; ㊦ 略開 *Bodh-bh.* → an ~.
udghaṭita-jña ㊦ [Pāli. ugghaṭitaññū] 略開智, 大智人, 一字一字解 *Bodh-bh. 295.*
ud-ghaṭṭaka ㊦ 通達 *Divy.*
ud-ghaṭṭana ㊦ 毆打; 打撃; 破裂, 爆發.
ud-gharat ㊦ ㊦ [Pāli. uggharati. <utksarati (utksar)] 分泌す, 滲出す; ㊦ 流 *Divy. 472.*; 臭惡(?) *Sikṣ. 78.*
ud-gharṣa ㊦ (堅き物質を以て皮膚を)摩擦すること.
ud-gharṣaṇa ㊦ 摩擦; 擲打, 打撃. → kāya ~.
ud-ghāṭa ㊦ 開くこと, 表示; (齒を)露はすこと或は示すこと.
ud-ghāṭaka ㊦ 鍵.
ud-ghāṭana ㊦ 開放せる; 推し除けたる. ㊦ 開放すること; 顯示すること, 露出すること.
ud-ghāṭaniya ㊦ 開かるべき.
ud-ghāṭita ㊦ 開かれたる, 明らかにせられたる; 著手せられたる; 擧げられたる; 努力して爲されたる; 慰撫せられたる; ㊦ 開 *Divy.*
udghāṭita-jña ㊦ 思慮ある, 賢き.
ud-ghāṭin ㊦ 開く.
ud-ghāṭa ㊦ 打撃; 動搖, 衝動; 論議; 開始.
ud-ghāṭin ㊦ 粗き, 高低ある, 凹凸ある.
ud-GHuṣ udghoṣati, udghoṣayati(㊦). → GHuṣ.
ud-ghuṣṭa ㊦ ㊦ 響き渡れる; 叫聲に充ちたる. ㊦ 音響, 騒音.
ud-ghūrṇa ㊦ 動搖せる.
ud-GHṛṣ udgharṣati. → GHṛṣ.
ud-ghṛṣṭa ㊦ ㊦ 摩擦せられたる, 碾かれたる, 磨碎せられたる.
ud-ghoṇa ㊦ 鼻又は嘴を上げたる.
ud-ghoṣa ㊦ 喊聲; 大聲にて告示すること.
udghoṣa-dīṇḍima ㊦ 町の布告者によりて打たるゝ太鼓.
ud-ghoṣaka ㊦ 宣言者, 布告者; ㊦ 唱導, 維那 *Divy. 403.*
ud-ghoṣaṇa ㊦ 公表, 公式宣言, 布告.
ud-daṇḍa ㊦ 棒を擡げたる(門衛), 杖又は棒を擡げたる或は立てたる; 莖の直立せる; 高く上げたる; 卓越せる; 異常なる.
uddaṇḍa-karman ㊦ 異常の行爲をなす.
ud-daṇḍita ㊦ 擧揚せられたる.
ud-damya ㊦ 克服して.
ud-darpa ㊦ 傲慢なる.
ud-darśana ㊦ [或る Nāga の名](佛敎). ㊦ ㊦ 見 *Gaṇḍ-vy.* → mukha ~.
ud-darśita ㊦ 示されたる, 現れたる.
ud-dalana ㊦ 引き裂く.
ud-Dah uddahati. → Dah.
ud-dāna 1. ㊦ 結ぶこと, 縛ること; 梗概 (*Jāt-m.*); ㊦ 攝頌 *Mvyut.*; ㊦ 優陀那, 憂檀那, 嚙陀南, 嚙陀南 *Bodh-bh., Mvyut.* → dhurma ~.
ud-dāna 2. ㊦ ㊦ [*<udyāna*]; ㊦ 叢林 *Sikṣ. 6.*
ud-dāma ㊦ 緩めたる, 解かれたる, 拘束なき, 特別の; (一°)に富める, …に充ちたる; 躁急の, 猛烈

なる; 傲慢なる; 大なる。°—, ~m 副 拘束せられずして, 何等の制限なく。
uddāma-ga 形 摺揆, 羣浮 *Rāṣṭr.* 30.
uddāmaya 名動他 **uddāmayati** 繁茂せしむ, 豊饒にす; 解放す。
ud-dāyāda 男 絶基本(?) *Mvyut.*
ud-dālaka 男 [或る學匠の名].
ud-dālana 中 裂き取る或は移す方法。
ud-dāha 男 熱, 火; 熾然, 燒(盡) *Gaṇḍ-vy., Sikṣ.*
 → kalpa ~.
ud-Diś *uddiśati(-te).* → *Diś.*
ud-diśya (不變分) (…を指示する=)…の方へ, …へ, …に關し, …に就きて. → *Diś.* 故爲, 爲…故 *Divy., Lanḅ.*: ārya-m.hā-kāśya-pam ~ 爲聖者迦攝波故 *Divy.* 85.
ud-diṣṭa (過受分) → *Diś.* 說, 所說, 誦, 名; 所受 *Sapt-pr., Abh-vy., Sāmkhy-k., Mvyut.*
ud-Didhi, → *Didhi.*
ud-Dip *uddipyate, uddipayati*(使役). → *Dip.*
ud-dipaka 形 燃やす; 刺戟する. 男 [鳥の一種].
ud-dipakatā 女 激烈性.
ud-dipana 中 燃焼; 刺戟. 形 燃やす, 刺戟する, 激しく影響する(毒).
ud-dipanatā 女 有毒性.
ud-dirṇa (過受分) 裂かれたる.
uddūṣaya 名動他 **uddūṣayati.** → *dūṣaya.*
ud-Drṣ, → *Drś.*
ud-drṣṭa (過受分) 發見せられたる, 見得る. 中 (月の) 出現.
ud-drṣṭam 副 → *Drś.*
ud-deśa 男 參照; 陳述, 解説; 概説, 簡單なる説明; 地方, 部分, 場處; 標, 略標, 標説, 略, 略説, 解説, 宣説, 講説, 言談 *Saddh-p., Sikṣ., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*; 學(法), 受持, 授 *Sūtr., Bodh-bh.*; 處所, 方處 *Mvyut.* → mukha ~. ~ena 男, ~āt 女 …に關して.
ud-deśaka 形 或る事物を指示する或は報告する. 男 例示, 問題; 説明者, 案内者; 管, 管者 *Mvyut.*
ud-deśatas 副 要略して, 明らかに, 正確に.
uddeśa-dāna 中 令共受持, 授彼令誦 *Bodh-bh.* 264.
uddeśa-svādhyāya-rata 形 自娛樂誦誦講説 *Saddh-p.*
ud-deśika, [=uddiśya (不變分)](*Prāt-m.*). → *ātma-*
ud-Dyut *uddyotate(-ti), uddyotayati*(使役). → *Dyut* 1.
ud-dyota 形 輝ける. 男 光輝, 光彩; 輝かしむること; 顯示.
ud-dyotaka 形 燃やす; 刺戟する.
uddyota-kara 男 [或る著者の名].
ud-dyotana 中 照すこと, 明るくすること, 照明; 明了, 明正, 能顯, 現作 *Gaṇḍ-vy., Lanḅ.*
ud-dyotani 女 照 *Mañj-m.*
ud-dyotita (過受分) 輝かしめられたる, 輝しき.
ud-Dru *uddravati.* → *Dru.*

ud-druta (過受分) 走り去れる.
ud-dhata (過受分) 毆打せられたる; 旋回しつゝ上げられたる; 興奮せる; 劇烈なる; 強力なる; 大聲の; 高き; 誇れる, 傲慢なる. → *Han.* 起, 掉, 掉擧, 高擧; 暴, 瀑; 散亂; 輕躁; 生野 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Sam-r., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.* 男 [或る驢馬の名].
ud-dhatatā 女 卒暴, 高擧 *Sikṣ.*
ud-dhatatva 中 誇; 傲慢.
uddhata-manas 形 心高ぶりたる, 傲慢なる.
ud-dhati 女 打擊; 衝動, 動搖; 昂奮, 尊大.
ud-dhan(ud-Han) *uddhanti, ujjighnate.* → *Han.*
ud-dhanana 中 投げ上ぐること, 盛り上ぐること; [或は **uddhānana**] 作笑 [*Has(?)*], 令野(?) *Mvyut.*
ud-dhara 男 除 *Abh-k.*
ud-dharaṇa 中 擧揚; 引き抜くこと, 除去; 救助; 前に置くこと, 進呈; 除, 捨 *Divy., Daś-bh.* → *abhy-*
ud-dharaṇiya (未受分) 擧揚せらるべき, 取り上げらるべき; 引き抜かるべき.
ud-dhartavya (未受分) 抽出せらるべき; 分離せらるべき.
ud-dhartṛ 男 破壊者; 救助者; 分配者; 共同相續人. 形 擧揚する.
ud-dharma 男 異端.
ud-dharṣa 1. 形 [*Hṛs*] 愉快なる, 喜ばしき; 幸福なる; 悅豫 *Vijñ-t.*
ud-dharṣa 2. 男 [*DHṛs*] 事を企つる場合の元氣.
ud-dharṣaṇa 1. 形 [*Hṛs*] 喜ばしむる. 中 (悦びにて)毛の豎つこと.
ud-dharṣaṇa 2. 中 [*DHṛs*] 鼓舞すること.
uddhava 男 [*Kṛṣṇa*の友なる *Yādava*の名]; 傲慢, 高慢, 興奮 (*Jāt-m.*); 掉, 掉擧, 貢高, 僞慢 *Divy., Abh-k., Vijñ-t.* → *ud-dhata.*
ud-dhas(ud-Has) *uddhasati.* → *Has.*
ud-DHā *uddadhāti.* → *DHā* 1.
ud-dhā(ud-Hā) *ujjīhite.* → *Hā* 1.
ud-dhāra 男 高擧すること, 擧揚すること; 引き抜くこと; 除去; 支拂; 償還; 除外; 脱漏. 省略; 選擇, 選擇せる部分; 救助; 義務.
ud-dhāraka-vidhi 男 支拂.
ud-dhāraṇa 中 擧揚すること; 引抜くこと; 支拂.
ud-dhārya (未受分) 除去せらるべき, 處さるべき.
ud-dhāvana 中 顯 *Nyāy-pr.*
ud-dhuta (過受分) → *DHū.*
ud-dhura 形 喜ばしき; 放縱なる, 傲慢なる; (一°, 男)に専心せる; 離, 棄捐 *Sikṣ.*; 壞(?), 反作(?), 精勤 *Mvyut.*
ud-DHū *uddhūnoti, uddhunoti, uddhunute.* → *DHū.*
ud-dhūta (過受分) → *DHū.*
ud-dhūnana 中 震動せしむること; 動搖, 激しく感動せしむること.
uddhūlaya 名動他 **uddhūlayati** 撒布す.
ud-dhūṣita (過受分) 身震ひせる, (歡喜に)毛の豎てる.

ud-DHṛ uddharati(-te). → DHṛ.

ud-dhṛ(ud-Hṛ) uddharati(-te), uddhārayati(使役).

→ Hṛ I.

ud-dhṛta(過受分) → DHṛ, Hṛ I. 漢譯 拔, 拔除; 選; 出; 差脱 Divy., Lal-v., Saddh-p., Mvyut. → abhy~.

uddhṛta-kāṭhina(形) 漢譯 [Pāli. kāṭhinoddhāra, kāṭhinobbhāra] 開具會(?); (音) 已選羯耻那 Mvyut.

ud-dhṛti(女) 引き抜くこと; 引き裂くこと; 抽出, 概要; 救助.

ud-dhṛtya(不変分) → Hṛ I.

ud-dhṛṣ(ud-Hṛṣ) uddharsate, uddhṛṣyati, uddharsayati(使役). → Hṛṣ.

ud-dhṛṣita(過受分) → Hṛṣ.

uddhya(男) 河; [河の名].

ud-dhvamsa(男) 破壊; (咽喉の)疾患, 嗚聲; 襲撃せられたること; 流行病.

ud-dhvamsana(中) (咽喉の)疾患; 流行病.

ud-dhve(ud-Hve) uddhvayati. → Hve.

ud-baddha(過受分) → Bandh.

ud-Bandh, → Bandh.

ud-bandha 1. (男) 縊死.

ud-bandha 2. (形) 解かれたる, 緩められたる; (毛の) 結ばれたる.

ud-bandhana(中) 縊死; (罪人の)絞殺; 漢譯 殺害 Bodh-bh.

ud-bandhuka(形) 縊死する.

ud-Barh, → Barh I.

ud-bāṣpa(形) 落涙する.

ud-bāṣpatva(中) [同上].

ud-bāhu(形) 腕を挙げたる.

ud-bāhuka(形) [同上].

udbilya-karaṇatā(女) 漢譯 悦樂 Lal-v. 440.

ud-buddha(過受分) → Budh.

ud-budbuda(形) 泡立てる.

ud-Budh udbudhyate. → Budh.

udbudhnya(名動) 他 udbudhnyati 深淵より出づ.

ud-br̥mhaṇa(形) 増加する, 力を増す.

ud-bodha(男) 覚醒; 現出; 回想; 發端の知識.

ud-bodhaka(形) 興奮せしむる, 回想せしむる; 發見する, 顯示する.

ud-bodhana(中) 覚醒; 回想; 漢譯 覺悟 Bodh-bh.

ud-bhagna(過受分) 破裂せる, 裂かれたる.

ud-bhaṅga(男) 破ること; (習慣の)破壊.

ud-bhaṭa(形) 卓越せる, 異常なる.

ud-bhava(男) 起原, 出生, 出現; 成長; 誕生地; 漢譯 生, 有, 現, 起 Lal-v., Laṅk., Abh-k., Abh-vy.; 掉舉, 掉起 Madhy-vibh. —° (形) ……より生じたる或は造られたる; 漢譯 所生, 從…生, 依…起 Laṅk., Vijñ-t.: pratyaya~ 緣所生 Vijñ-t. 39. → mano~.

udbhava-kṣetra(中) 根源地.

ud-bhāvita(過受分) [=udbhāvita?]; 漢譯 ……中出 Mvyut.: abhidharma~ 阿毗達磨中出 Mvyut.

ud-BHā udbhāti. → BHā.

ud-bhāva(男) 産出; 出生.

-ud-bhāvaka(形) 漢譯 說 Laṅk.

ud-bhāvana(中) 高むること; 努力, 實行; 無視, 怠惰; 稱揚 (Jāl-m.); 漢譯 顯, 顯示, 顯發, 彰顯; 增益 Divy., Lal-v., Bodh-bh., Nyāy-pr. (形) 喚起する, 鼓舞する (Jāt-m.).

ud-bhāvanā(女) 出生, 生起, 産出; 漢譯 顯示, 顯了, 顯揚, 稱說 Divy., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh.: guṇa~ 顯揚其德 Divy. 492.

ud-bhāvayitr(男) (男)を高め或は揚ぐる人.

ud-bhāvika(形) 漢譯 現, 開示 Bodh-bh.

ud-bhāvita(使役) (過受分) 存在せしめられたる, 創造せられたる, 生産せられたる.

ud-BHās udbhāsati(-te), udbhāsayati(-te)(使役). → BHās.

ud-bhāsa(男) 光輝.

ud-bhāsin(形) 輝ける; (一°)によりて明瞭となれる或は指示せられたる; 現出する.

ud-bhāsura(形) 赫々たる.

ud-bhij-ja(形) 芽より生ぜる.

ud-BHid udbhinatti. → BHid.

ud-bhid(形) 貫通する; 突然現るゝ, 湧出する; 發芽する. (女) 嫩芽, 植物.

ud-bhida(男) 泉; 漢譯 泉, 水 Mvyut. (形) 發芽する.

ud-bhinna(過受分) → BHid. 漢譯 斷, 間斷 Śikṣ.

ud-BHū udbhavati, udbhāvayati(使役). → BHū.

ud-bhū(形) 十分なる; 存續する.

ud-bhūta(過受分) → BHū. 漢譯 增, 増盛, 最勝, 極遍滿 Abh-vy., Bodh-bh.

udbhūta-sparsavat(形) 觸知せらるゝ.

ud-bhūti(女) 起原, 出現; 高揚; 増加, 繁榮; 漢譯 起, 成 Madhy-v.

ud-bhūri(形) 數多き.

ud-BHṛ udbharati(-te). → BHṛ.

ud-bheda(男) 勃發, 出現, 發芽; 泉; 叛逆; 漢譯 泉梵千.

ud-bhedana(中) 破り出づること, 突然現れること, 出現すること.

ud-BHram udbhramati, udbhrāmyati, udbhrāmayati(使役). → BHram.

ud-bhramaṇa(中) 飛翔; 上昇.

ud-bhrānta(過受分) → BHram. 漢譯 狂醉, 亂不住 Divy. (中) 昇騰; 刀を振り廻すこと; 興奮.

ud-bhrāntaka(形) 彷徨へる. (中) 飛翔; 上昇.

ud-yata(過受分) 準備せられたる, 用意せられたる. → Yam. 漢譯 入, 起, 精進 Lal-v., Mvyut.; [(男)と俱に] 欲 Bodh-bh.: vadhāya~ m 欲殺 Bodh-bh. 106. → abhy~. (中) 供物.

udyata-daṇḍa(形) 王杖を立てたる, 處罰を行はんとする.

ud-yati(女) 揚ぐること, 高くすること; 捧呈.

ud-yantr(形) 揚ぐる.

ud-Yam udyacchati(-te). → Yam.

ud-yama(男) 揚ぐること; 著手, 開始; [(男), prati, (不定)と俱に及ぶ —°] 努力, 盡力, 精勵; 漢譯 勇,

勤, 擧, 專心 *Sūtr.*, *Mvyut.*
ud-yamana ④ 高むること; 努力.
udyama-bhṛt ④ 努力する, 働く.
ud-yamita ④ 刺戟せられたる, 煽動せられたる.
ud-yamin ④ 努力する, 働く, 活潑なる.
ud-yamiyas ④ 更に或は甚しく揚ぐる.
ud-yamya ④ 努力して著手せらるべき.
ud-Yā udyāti. → Yā.
ud-yāta ④ 没, 溺 *Sikṣ.*
ud-yāna ④ 外出; 遊園, 小森, 庭, 苑; [國の名]; 園, 苑, 園苑, 苑圃, 園觀, 林, 園林; 遊戲處 *Divy.*, *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. I.*, *Sam-r.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雜.; ④ 烏長 梵雜.
ud-yānaka ④ 遊園, 小森.
udyāna-pāla ④ 園丁; 園監, 守花園者 *Lal-v.*, *Mvyut.*
udyāna-pālaka ④ [同上].
udyāna-pālikā ④ [同上].
udyāna-pāli ④ [同上].
udyāna-bhūmi ④ 園觀, 園苑 *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*
udyāna-mālā ④ 一列の庭園.
ud-yāpanikā ④ 旅行よりの歸宅.
ud-Yu udyauti. → Yu 1.
ud-yāpita ④ 結末をつけられたる, 終了せる, 成就せる.
ud-yukta ④ → Yuj. ④ 作, 勤, 勤, 懇勤, 勤行, 遵修, 精進 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, 梵千.; ④ 樂 *Divy.* → *darśana* ~. ~ ā *senā* [Pāli. uyyutta sena] 軍發行, 軍陣發行, 軍馬欲發, 整備軍 *Prāt-m. V. 45.*; ~ o *BHū* 熾然修習 *Bodh-bh. 206.*
ud-yuga ④ [病氣の一種].
ud-Yuj udyunakti, udyuṅkte, udyojayati(使役). → Yuj.
ud-yuta ④ → Yu 1.
ud-yūthika ④ ~ ā *senā* [Pāli. uyyodhika sena] 軍陣, 軍陣合戰 *Prāt-m. V. 47.*
udyūthikāgamana (°ka-āg°) ④ [Pāli. uyyodhikam dassanāya āgacchissanti Vinaya-piṭakam Vol. IV. 107.] 軍發行往觀, 往觀軍陣, 看軍發行, 往看軍陣發行 *Mvyut.*
ud-yoga ④ 著手; 努力, 盡力, 熱意; (一°)の練習; 堅忍; ④ 修, 精勤, 極勤 *Lal-v.*, *Sūtr.*, *Mvyut.*; 方便, 勤方便 *Aṣṭ-pr.* ~ m ā *Pad* ④ 勤求; 精進, 勇猛精進, 勤行精進; 勤方便, 動作方便 *Aṣṭ-pr. 523.* 等.
udyoga-samartha ④ 努力し得る.
ud-yogin ④ 努力する, 活潑なる, 奮勵する, 勤勉なる.
ud-yojita ④ 刺戟せられたる, 奮起せしめられたる, (雲の如く)湧き上れる; ④ 令備, 令作 *Mvyut.*
udra ④ 水棲動物(の一種); ④ 懶, 水懶 *Mvyut.*, 梵雜.
udraka ④ [人名] 鬱頭藍, 鬱陀(仙), 鬱頭藍

弗 [= *Udraka-rāmaputra*] *Divy. Buddh-c.*: ~ o *rāmaputraḥ* 猛熾子, 水懶熾子 *Mvyut.*
udraka-rāma-putra(?) ④ 極喜支應; ④ 噯達洛迦渴羅摩, 噯達洛迦曷羅摩 支應.
ud-raśmi ④ 輝ける.
udrāyaṇa ④ [佛弟子の名] 鬱頭羅衍拏 *Mvyut.*
ud-rikta ④ → Ric. ④ 多, 重, 猛利, 増上, 増盛 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.* → *prabhūta* ~.
udrikta-citta ④ 傲慢なる. ④ (徳等に)富める心.
udrikta-cetas ④ 氣品高き.
ud-Ric udricyate(受), udreccayati(使役). → Ric.
udrin ④ 水の充滿せる, 水に富める.
ud-ruja ④ 破壊する; 地を掘る, 根こぎにする.
ud-reka ④ 豊富, 過剰, 過多; 卓越; ④ 増長, 増盛 *Abh-vy.* ④ 増, 多 *Abh-vy.*
ud-rekin ④ 過剰なる; (一°)を過剰ならしむる; 激しき.
ud-recaka ④ 甚しく増加する.
ud-rodhana ④ 上昇, 成長.
udvat ④ 高地, 丘陵; 高さ, 高揚. ④ ud の語を含む
ud-vatsara ④ 一週期の最後の年.
ud-Vap udvapati, udvāpayati(使役). → Vap 2.
ud-Vam udvamati. → Vam.
ud-varga ④ 破壊者, 根こぎにする者.
ud-vartaka ④ 起らしむる, 増加する.
ud-vartana ④ (一°)を破裂せしむる. ④ 跳躍; 上昇; 溢ること; (香油にて)摩擦すること; 碾くこと; 膏藥; ④ 摩, 按摩 *Bodh-bh.*
ud-vartita ④ 使役 ④ → Vṛt.
ud-vartman ④ 惡路.
ud-Vas udvasati, udvāsayati(-te)(使役). → Va 3, 5.
ud-vasa ④ 人の住まざる, 空(?)の; 消滅せる. ④ 荒地, 沙漠.
ud-Vah udvahati(-te), udvāhayati(使役). → Vah.
ud-vaha ④ 運び上ぐる; 運び去る; 繼續せる. ④ (一°)の子息, 後裔; (新婦を)家に連れ行くこと, 結婚.
ud-vahana ④ 揚ぐること, 運び出すこと; 堪ふること, 引くこと, 驅ること; (馬)に乗ること; (一°)を所有すること; (新婦を)家に連れ行くこと, 結婚; ④ 受, 代受, 忍受, 能堪忍; 負, 荷負, 能荷, 載 *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*: *śiraśā* ~ ān na khedam āpattavyam 頂戴不生厭倦 *Bodh-bh. 119.* → *duḥkha* ~, *yoga* ~.
ud-vahni ④ 火(の閃光)を發する.
udvahni-jvāla ④ 炎の上る.
ud-Vā udvāti(1). → Vā 1, 2, 4.
ud-vāna ④ 出で行くこと, 消滅.
ud-vāsa ④ 追放; 解放.
ud-vāsana ④ (火より)取り去ること.
ud-vāsyā ④ 遠ざくる, 除去する, 放棄する; 犠牲獸の屠殺に關する.
ud-vāha ④ (新婦を)家に連れ行くこと, 結婚.
udvāha-karman ④ [同上].
udvāha-maṅgala ④ 婚禮.

udvāha-rkṣa (°ha-rk°) ㊦ 婚儀に相應しき星座。
 ud-vāhika ㊦ 結婚に関する。
 ud-vāhin ㊦ 支持する；結婚する，結婚に関する。
 ud-vikāsin ㊦ 開きたる(花)。
 ud-vigna ㊦ 通受分 → Vij. ㊦ 厭，厭離，厭患，憂
 惑，不安，生悲心，心懷憂惱 Divy., Lal-v., Laṅk.,
 Daś-bh., Bodh-bh.
 udvigna-citta ㊦ 恐怖に心を亂されたる，落膽せる，
 悲しめる，心配せる。
 udvigna-cetas ㊦ [同上]。
 udvigna-manas ㊦ [同上]。
 udvigna-mānasa ㊦ [同上]；㊦ 意倦，深厭，常
 厭，逼惱心，深心厭離 Gaṇḍ-vy., Sam-r., Bodh-bh.,
 Mvyut.
 udvigna-hṛdaya ㊦ [同上]。
 ud-Vij udvijate(-ti), udvejayati(便役)。 → Vij.
 ud-vijitavya ㊦ 未受分 (㊦ 非入) (㊦) に懼れらるべし。
 ud-viddha ㊦ 通受分 [Vyadh] 揚げられたる，高められ
 たる，高き；㊦ 高，高顯；寛博；廣大 Divy., Lal-
 v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Rāṣṭr.: vipulam ~ m 廣
 博嚴麗 Gaṇḍ-vy. 148.
 udviddha-piṇḍa ㊦ ㊦ 其腹廣大 Divy. 7.
 ud-Vip udvepate, udvepayati(便役)。 → Vip.
 udvilya ㊦ → advilya.
 ud-vikṣ (°vi-īkṣ) udvikṣate. → Īkṣ.
 ud-vikṣaṇa ㊦ 見上ぐる事，見る事，凝視；視力，
 視界。
 ud-vikṣaṇiya ㊦ 未受分 ㊦ 瞻奉，衆所樂觀 Śikṣ.
 ud-vikṣita ㊦ 通受分 視られたる，知覺せられたる；㊦
 見。正視 Divy.
 ud-Vṛ, → Vṛ 1.
 ud-vṛdha ㊦ 通受分 引き出されたる，絶滅せられたる。
 ud-Vṛt udvartati(-te)。 → Vṛt.
 ud-vṛtta ㊦ 通受分 → Vṛt.
 ud-vṛtti ㊦ ㊦ (無上)轉 Sūtr.
 ud-vṛtya ㊦ 未受分 旋回する。
 ud-vṛddha ㊦ 通受分 → Vṛdh.
 ud-Vṛdh, → Vṛdh.
 ud-vega ㊦ 男 戰慄，(心の)動搖，苦惱；(感情の)波瀾；
 不安，恐怖 後悔，悲哀；擾亂；異議；㊦ 憂，厭，
 有厭，厭離，厭患，厭背，厭意 Laṅk., Sūtr., Bodh-
 bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千；怖，怖畏，厭怖 Madhy-
 vibh., Abh-vy.
 udvega-kara ㊦ (㊦ -i) 不安ならしむる，悲しまし
 むる，悩ます，擾亂せしむる，恐慌を來さしむる。
 udvega-kāraka ㊦ [同上]。
 udvega-kārin ㊦ [同上]。
 udvega-kṛt ㊦ 嫌忌せしむる。
 udvega-mānasa ㊦ ㊦ 厭離，生厭心 Laṅk.
 udvega-vāhin ㊦ 不安ならしむる，悩ます，焦慮せ
 しむる。
 udvega-hetu ㊦ 男 ㊦ 厭怖因 Madhy-vibh.
 ud-vegin ㊦ 興奮せしむる；心配せしむる。
 ud-vejaka ㊦ = udvega-kara.
 ud-vejana ㊦ 心配せしむる，驚愕せしむる。 ㊦ 身
 震ひ，恐慌，苦悶；戰慄せしむること；㊦ 厭，厭

離，厭畏，厭怖 Laṅk., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-
 vibh.

udvejana-kara ㊦ 恐怖せしむる，戰慄せしむる；興
 奮又は苦悶せしむる；㊦ 怖，恐怖，驚怖，憎惡驚怖
 Laṅk.

ud-vejaniya ㊦ 未受分 (㊦) に恐れらるべき，…に對
 して戰慄する；㊦ 當遠離 Śikṣ.

ud-vejayitr ㊦ 恐怖せしむる。 ㊦ 恐怖せしむる者。

ud-vejin ㊦ 心配又は興奮せしむる，戰慄又は恐怖せし
 むる；嫌惡を生ぜしむる，不快を感ぜしむる。

ud-vedi ㊦ 祭壇を安置せる。

ud-vedha ㊦ 男 [Vyadh. Pāli. ubbedha]；㊦ 厚，深
 Sukh-vy. I., Śikṣ., Abh-k., Abh-vy.

ud-vepa ㊦ 男 震へること，動搖。

ud-vepin ㊦ 身震ひする，恐るゝ。

ud-vela ㊦ 岸より溢るゝ；甚しき；(一°)より自由な
 る，緩められたる。

udvelaya ㊦ 名動他 udvelayati 溢れしむ。

udvelita ㊦ 通受分 溢れしめられたる。

ud-Vell udvellati. → Vell.

ud-vellita ㊦ 通受分 → Vell.

ud-Veṣṭ udveṣṭate, udveṣṭayati(便役)。 → Veṣṭ.

ud-veṣṭa ㊦ 男 圍むこと，封ずること，結合すること；
 封鎖。

ud-veṣṭana 1. ㊦ 紐にて締むること，結合すること，
 壓迫；背部の苦痛。

ud-veṣṭana 2. ㊦ 紐を緩めたる，束縛なき。

ud-veṣṭaniya ㊦ 未受分 解かるべき。

Und, → Ud.

undana ㊦ 濡らすこと，濕めらすこと。

unna ㊦ 通受分 → Ud.

un-naḍa ㊦ [Pāli. unnaḍa]；㊦ 高擧 Śikṣ. 120.

un-nata ㊦ 通受分 → Nam. ㊦ 高，起，高起，高擧；
 凸；聳直；橋，橋慢，高慢，高貢，倨傲；氣粗 Divy.,
 Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Śikṣ., Sūtr.,
 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut. → an ~, māna ~.

㊦ ㊦ [佛の名] 高勝 Lal-v.

unnata-kāla ㊦ 男 日影にて時刻を決定する方法。

unnata-carāṇa ㊦ 前足を擧げたる，後足にて立て
 る；豊富なる。

un-natatva ㊦ 高貴，高位，威嚴。

un-nata-sattva-sālin ㊦ 崇高なる本性を有する。

un-natā ㊦ 女 ㊦ 高 Gaṇḍ-vy.

un-nati ㊦ 女 上昇；擧揚；高さ；増大，繁榮；偉大；
 (㊦)の上に出づること；高貴の地位；㊦ 騰，高
 擧，高擧；慢，高慢，貢高 Śikṣ., Abh-k., Abh-vy.,
 Bodh-bh., Vijñ-t., Madhy-vibh., Mvyut.

un-natimat ㊦ 擧揚せられたる，高き；優秀なる；
 高貴なる。

unnateccha (°ta-ic°) ㊦ 大度量ある。

un-Nad unnadati. → Nad.

un-naddha ㊦ 通受分 → Nah.

un-Nam unnamati, unnamayati(便役)。 → Nam.

un-namana ㊦ 直立すること；擧ぐる事；増大，繁
 榮；㊦ 擧，高擧，橋慢 Śikṣ., Bodh-bh.

un-namayya ㊦ 不變分 擧揚して。

un-namita 使役 過受分 擧げられたる, 上らしめられたる, 高められたる, 増大せる.
un-namitavya 未受分 高擧 *Sikṣ.*
un-namra 形 昇る, 上れる, 立てる, 高き.
un-namratā 女 上昇.
un-naya 男 推理, 推論; 論決.
un-nayana 中 擧ぐる事; 抽出, 分割; 推理, 推論; 論決. 形 目を上げたる.
unnayana-paṅkti 形 上に視線の向けられたる.
un-nasa 形 隆き鼻を有する.
un-Nah unnahyati. → Nah.
un-nahana 形 羈絆を脱する.
un-nāda 男 叫喚, 喧噪.
unnābha 男 [王の名].
un-nāma 男 立ち上ること, 上昇; 昂, 高, 高擧 *Daś-bh., Sikṣ., Madhy-v.*
unnāma-nāman 中 高名 *Sikṣ.*
unnāmāvanāma 男 高下, 低昂 *Sikṣ.*
un-nāmitā 1. 使役 過受分 = un-namita.
un-nāmita 2. 使役 過受分 俗 [*avanāmita. Pāli. onamita*]; 低 *Saddh-p. 52.*: ~m *śiṛṣam* [= *avanāmitam śiṛṣam*] 低頭 *Saddh-p. 52.*
un-nāya 男 擧揚すること.
un-nāla 形 莖の直立したる.
un-nāha 男 過多, 豊饒; 卓越; 無恥, 高慢; 涌 梵雜.
un-nidra 形 不眠の, 覺醒せる; 蕾を有する, 開きたる(花), 咲ける; 輝ける(月); (頭髮の)逆立てる.
un-nidraka 中 不眠, 覺醒.
un-nidratā 女 [同上].
un-Ni unnayati(-te). → Ni.
un-nita 過受分 擧げられたる, 立てられたる, 上に置かれたる; 抽出せられたる, 分離せられたる. 中 抽出, 充たすこと.
un-nitin 形 抽出せる, 充たせる.
un-niya 未受分 擧げらるべき.
un-niyam 不憂分 上方に注ぎて或は撒きて.
un-netavya 未受分 推論せらるべき.
un-netṛ 形 抽出する. 男 Soma 汁を容器に注入する祭官.
un-netra 中 Unnetṛ 祭官の職.
un-neya 未受分 = un-netavya.
un-makara 男 Makara の形をなせる瑞(瑞).
un-magna 過受分 → Mujj.
un-Majj unmajjati, unmajjayati(使役). → Mujj.
un-majja 中 出 *Sikṣ.*
un-majjaka 男 [或る特殊の隠者].
un-majjana 中 浮び上ること, 出現すること; 起, 生, 出, 出現 *Daś-bh., Abh-vy., Mvyut.*
unmajjana-nimajjana 中 出沒 *Daś-bh.*: ~: m *Kṛ* 出沒 *Daś-bh. 57.*
unmajja-nimajjana 中 出沒 *Sikṣ.*
un-matu 過受分 俗 [= un-matta] 覆; 失心者 *Sikṣ. 341.*
un-matta 過受分 狂氣せる, 狂亂せる; 酔へる. → Mad. 癡狂, 狂亂, 發狂, 顛狂, 癡迷, 迷昏濁; 癩

癩; 愚者 *Lal-v., Suv-pr., Laṅk., Bodh-c., Bodh-bh.*
 男 朝鮮朝顔(朝顔); [或る *Rākṣasa* の名].
un-mattaka 形 (女 -ikā) 正氣を失へる, 狂氣せる; 酔へる; 狂亂; 昏迷者, 愚癡人 *Divy., Cat-ś., Mvyut.*
unmatta-citta 形 亂心せる, 躁狂の; 愚癡 *Buddh-c.*
un-mattatara 比較 より狂へる或は恐しき.
un-mattatā 女 狂氣; 陶醉.
unmatta-darśana 形 狂氣せる様子の.
unmatta-pralapita 中 狂人の饒舌.
unmatta-rūpa 形 狂人の如き. 狂氣せる.
un-mattavat 副 狂人の如く.
unmatta-veśa 形 狂人の如き服裝をなせる (*Siva* 神).
unmattāvanti 男 [王の名].
unmatti-bhūta 形 發狂せる, 狂亂せる.
un-Math unmathnāti, unmathayati(使役). → Math.
un-mathana 形 悩ます. 中 振ひ落すこと; 振動; 攪拌; 琢磨; 射ち倒すこと.
unmathāya 名動他 unmathāyati 振る, 鼓舞す.
un-mathita 過受分 振動せしめられたる, 攪拌せられたる; 混合せられたる.
un-Mad unmādyati, unmādayati(使役). → Mad I.
un-mada 形 酩酊せる; 狂暴なる, 狂氣せる; 狂氣せしむる, 酔はしむる; 放逸なる, 粗野なる. 男 狂氣, 酩酊; 作顛者 *Mvyut.*
un-madana 形 戀に狂へる.
un-madita 過受分 興奮せしめられたる, 恍惚の状態になされたる.
un-madiṣṇu 形 狂氣せる; 酔へる; 交尾期に在る.
un-manana 男 [特殊の量の單位, = *drona*].
un-manana 女 俗 [*ava-manana*]; 罵辱譏毀 *Sikṣ. 185.*
unmanaya 名動他 unmanayati 興奮す, 當惑せしむ.
un-manas 形 興奮せる, 動搖せる, 混亂せる; 熱望する; (不定)せんと熱望する.
un-manaska 形 [同上].
un-manaskatā 女 [同上].
unmanāya 名動自 unmanāyate 興奮す, 懊惱す, 當惑す.
unmani-As, 失神す, 憂慮す, 當惑す, 興奮す.
unmani-Kṛ, 失神せしむ, 興奮せしむ, 當惑せしむ.
unmani-BHū, = unmani-As.
un-mantha 男 [外耳の病氣の一種].
un-manthaka 男 [同上].
un-mayūkha 形 光を發する, 輝ける.
un-marda 男 身體を擦ること.
un-mardana 中 [同上]; 塗油; (塗布用の)香料.
un-mardita 過受分 擦られたる, 拭ひ去られたる.
un-mā 女 高さ.
un-mātha 男 振ること, 震動せしむること; 殺戮; 畏; 苦惱.

un-māda 男 狂氣, 狂暴; 陶醉; 激情; 𑖦𑖧 顛, 狂病, 迷悶, 迷惑 *Lal-v., Fajr-pr., Sam-r., Mvyut.*
 形 發狂せる, 狂氣の。
un-mādaka 形 發狂せしむる, 酩酊せしむる。
un-mādana 形 [同上]. 男 [*Kāma* 神の五矢中の一の本の名].
un-mādayitr 形 發狂せしむる, 酔はしむる。
un-mādat 形 狂暴なる, 狂へる; 酔へる。
un-māditā 女 狂氣。
un-mādin 形 狂氣せる, 陶醉せる. 男 [或る商人の名].
un-mādinī 女 [王女の名].
un-māduka 形 飲酒を好む。
un-māna 中 度量; 長さ又は高さ; 重さ; 値段, 價值. 男 = un-manana.
un-mārga 形 道を誤れる, 迷へる, 邪道に陥れる, 汜濫せる. 𑖦𑖧 誤れる道; 邪道; 𑖦𑖧 邪道, 越道 *Abh-vy.*
unmārga-gata 形 邪道に陥れる, 誤れる。
unmārga-gamana 中 外れ行くこと; 出口を見出すこと。
unmārga-gāmin 形 = unmārga-gata.
unmārga-yāta 形 [同上].
unmārga-vartin 形 [同上].
unmārga-vṛtti 形 [同上].
un-mārgin 形 迷へる; 出口を見出せる。
un-mārjana 中 拭ひ去ること, 取り除くこと。
un-mārjita 過受分 → Mrj.
un-Mi, → Mi 1.
un-miñja 男 疑問(?) (*Sukh-vy. I.*).
un-miñjita 過受分 俗 [= udvrkta (ud-Vṛñj, ud-Vṛj)]; 𑖦𑖧 出. 開 *Ast-pr., Mvyut.*
unmiñjita-nimiñjita 過受分 俗 𑖦𑖧 出沒, 浮没高下 *Daś-bh.* → un-miñjita.
un-mita 過受分 → Mā 1.
un-miśra 形 (一°)と混合せる, 雑色の。
un-Miṣ ~~unmiṣati~~ → Miṣ.
un-miṣita 過受分 → Miṣ. 中 目を開くこと; 𑖦𑖧 開目 *Abh-vy.*
unmiṣita-mātreṇa 𑖦𑖧 暫開目 *Abh-vy.*
un-Mi unmiyate. → Mi.
un-Mil unmilati, unmilayati(使役). → Mil.
un-mila 男 見ゆること, 出現。
un-milana 中 (目を)開くこと; [一般に]現はるゝこと; 描寫; 蝕後に月の現はるゝこと。
un-milita 過受分 → Mil. 𑖦𑖧 開, 顯, 開顯; 所觀察 *Guhy-s., Abh-vy.*: jñāna ~ cakṣus 智眼所觀察 *Guhy-s. 61.*
un-mukta 過受分 → Muc.
un-mukti 女 解放。
un-mukha 形 (女 -i) 顔を仰向けたる; 上向の; 見上ぐる; 慕へる; 期待する; (一°)を準備する, 將に…せんとする; 好める, …に傾ける (*Jāt-m.*). ~ m 圖 上向きに。
unmukha-jāta 形 𑖦𑖧 迷(?), 昏過去(?) *Mvyut.*
un-mukhatā 女 希望, 期待; 顔を仰向くこと。

unmukha-darśana 中 上方を凝視すること; 熱心に期待して視ること。
un-mukhara 形 大音響の, 騒しき。
un-mugdha 過受分 → Muh.
un-Muc unmuñcati(-te), unmocayati(使役). → Muc.
un-muca 男 [聖仙の名].
un-mucu 男 [同上].
un-Muṭ, → Muṭ.
un-mudita 過受分 [Mud] 雀躍せる。
un-mudra 形 繫縛せられざる, 抑制せられざる; (喜びにて)狂へる。
unmudraya 名動 → mudraya.
un-mudrita 過受分 → mudraya.
un-muṣita 過受分 盗まれたる。
un-Mürch unmürchati. → Mürch.
un-mürdhan 形 頭を擡げたる。
un-mūla 形 根こぎにせられたる, 根絶せられたる。
unmūla 名動 他 unmūlati 根こぎとなる. 使役 unmūlayati 根こぎにす; 撲滅す; 破壊す, 滅す; 退位せしむ.
sam- 使役 samunmūlayati 根こぎにす; 破壊す, 滅す。
un-mūlana 形 根こぎにする, 破壊する. 中 根絶; 撲滅; 破壊; 𑖦𑖧 斷, 能拔, 滅離 *Abh-vy.*
unmūlaya, → unmūla(名動).
unmūlita 過受分 根こぎにせられたる, 破壊せられたる; 𑖦𑖧 拔 *Lank.*
un-Mrj unmrjate, unmārṣti, unmrṣte, unmārjayati (使役). → Mrj.
un-mrṣta 過受分 → Mrj.
un-meṣa 男 目を開くこと; 瞬; (電光の)閃めき; (蕾の)開くこと; 出現; 𑖦𑖧 開 *Bodh-bh., Mvyut.*
unmeṣa-dhyāyikā 女 𑖦𑖧 審觀 *Lal-v. 62.*
un-meṣaṇa 中 出現。
unmeṣa-nimeṣa 男 𑖦𑖧 開閉 *Abh-vy.*
un-meṣin 形 激せる, 怒れる; 目を開ける。
un-mocana 中 解くこと; 放棄。
unmocana-pramocana 中 兩 解くことと緩むること, 完全に解くこと。
un-moṭana 中 折り取ること, 破壊。
upa [動の 標頭] 上に, 此處に [特に運動の 動 と俱に]; [名の 標頭] 邊り, 近く [接近を示す]. 圖 猶ほ又た, 更に又た. 前 (業, 因) に, …の方へ, …に近く; (因)以下に, …より少く; 上に, 中に; (因)の上に, …より以上に; (因)と俱に, …に依れば。
upa-kakṣa 形 肩に達する, 腋の下にある. 中 腋下の毛。
upa-karṇtha 形 頭の傍なる; 傍なる, 近き. 中 近隣, 隣接. ~ m 圖 頭の傍に, …の傍に。
upa-kaniṣṭhikā 女 子指の隣 = 無名指。
upa-kanyā-puram 圖 閨房近く, 婦人の室近く。
upa-kara 形 𑖦𑖧 饒益, 利益, 勝益 *Bodh-bh.*; 孝梵.
upa-karaṇa 中 奉仕又は援助をなすこと; 補助; 用具; 器具; 家具; 貢獻, 寄附; 資産; 助力; 補助論

文; 所須; 供給, 資給; 資生, 資財, 資産; 所用之事; 具, 衆具, 資具, 資生具, 資生之具, 珍玩資具, 玩好之具, 樂具; 物, 什物, 所須物, 所須之物, 所用物, 所用之物, 玩好之物; 器皿 *Divy., Lal-v., Ast-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Suv-pr., Mañj-m., Laṅk., Śikṣ., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*

upa-karṇavat 形 手段又は道具を具へたる; 能力の十分なる。

upakaraṇa-vaikalya 形 貧窮 *Gaṇḍ-vy.*

upakaraṇa-sneha 形 資生愛, 衆具愛 *Bodh-bh.*

upakaraṇārtha 形 (意味の) 適當せる; 須要の。

upakaraṇi-Kṛ, 道具となす, 全く從屬せしむ。

upakaraṇi-bhava 形 道具として役立つこと。

upakaraṇi-BHū, 道具となる, 全く服従す。

upakaraṇiya 未受分 奉仕又は援助せらるべき。

upakaraṇiyatā 女 [同上]。

upa-karatva 中 資, 有益 *Abh-vy.*

upakara-samjñā 女 益想 *Sūtr.*

upa-karṇam 副 耳の傍に。

upakarṇaya 名動 他 **upakarṇayati** 聴く。

upa-kartavya 未受分 非人 (男) に對し奉仕せざるべからず。

upa-kartṛ 男 助力者, 恩惠者。 形 有益なる。

upa-kartri 女 [同上(男)]。

upa-karṣaṇa 中 近くへ引きつくること; 牽 *Daś-bh.*

upa-karṣika 形 拔 *Lal-v.*

upa-kalpa 男 附屬物, 用具。

upa-kalpita 通受分 (受不定) するために充當せらるる; (一) を具せる; 準備せられたる, 整へられたる。

upa-kāntam 副 友又は愛人の近くに。

upa-kāra 男 奉仕, 援助, 厚意, 親切; 利益; 世話; 準備, 裝飾; 恩, 恩惠, 恩分, 恩德; 利益, 勝益, 饒益; 報(彼)恩 *Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵雜.* ~h kṛto bhavati 施作恩惠, 施諸恩分 *Bodh-bh. 270.* ~m **Kṛ** 益 *Ast-pr.* ~e **Vṛt**, ... に奉仕す。

upa-kāraka 形 (女 -ikā) 奉仕をなす; 援助する, 有益なる; 資する, 適する, 須要の; 補助の, 附隨の。

upakāra-kriyā 女 饒益之事 *Bodh-bh.*

upakārāpakāra 男 利益と損害; 親切と侵害。

upakārābhimukhya 形 欲爲饒益 *Bodh-bh.*

upakāri-kṣetra 中 恩田 *Abh-vy.*

upa-kāritva 中 [同下] 饒益 *Sūtr.*

upa-kārin 形 = upakāraka; 恩, 有恩, 有恩者, 恩德, 有大恩德, 作恩; 利, 饒益; 承事; 成辨 *Śikṣ., Bodh-bh., Sāmkhy-k.* → an ~. 男 恩人, 恩惠を與ふる者 (*Jāt-m.*)

upakāri-buddhimat 形 益想 *Sūtr.*

upakāri-bhūta 形 作友 *Ast-pr.*

upakāri-bhūta 形 饒益, 饒益發起; 開化 *Kāśy., Daś-bh.*

upa-kārya 未受分 援助せらるべき, 助けらるべき, 厚意を示す; 利益を受くべき。

upa-kāryā 女 王室用の天幕; 宮殿。

upa-kāla 男 [龍王の名] 皂色, 青花, 蓮色, 青

蓮華 *Mvyut.*

upa-kiraṇa 中 撒布すること; (土を以て) 覆ふこと, 葬ること。

upa-kirṇa 通受分 ... を以て覆はれたる, 撒布せられたる, 灌がれたる。

upa-kurvāṇa (現分) [Kr] 男 [師の下にて *Veda* の學習を終了したる弟子にして家長となるもの]。

upa-kurvāṇaka 男 [同上]。

upa-kuśa 男 齒斷の膿腫; [*Kuśa* 王の子の名]; [轉輪王の名] 近香草, 近吉祥草 *Mvyut.*; 優波孤沙 *Mvyut.*

upa-kūjita 通受分 (鳥の) 啼聲に充ちたる; 出和雅音 *Lal-v.*

upa-kūla 形 岸の上に在る或は成長する。 ~m 副 岸に近く。

upa-kūlatas 副 岸に近く。

upa-Kṛ upakaroti, upakurute. → Kṛ.

upa-kṛta 通受分 援助せられたる; 益せられたる; 恩重, 垂恩德 *Divy.*

upa-kṛti 女 奉仕すること, 恩惠又は好意を示すこと。

upa-kṛtimat 形 (一) の爲になる, ... を益する; 援助する。

upa-Kṛp upakalpate, upakalpayati (使役). → Kṛp.

upa-kṛpta 通受分 → Kṛp.

upa-koṇa 男 羅鍼盤の中開方位。

upa-kośā 女 [*Vararuci* の妻の名]。

upakosala 男 [人名]。

upa-Kram upakramati, upakramate. → Kram.

upa-krama 男 接近; 適用, 處理; 開始; 計畫, 設計; 作業の第一案; 手段, 方法, 有益なる手段; 治療, 藥; (病人の) 看護, 投藥; 陰謀; 襲撃; [Pāli. upakkama] 害, 災横, 所逼切 *Bodh-bh.* → ātma ~, para ~.

upa-kramaka 形 逼迫 *Lal-v.*

upakrama-karaṇa 中 苦, 逼困 *Lal-v.*

upa-kramaṇa 形 (女 -i) 近づく, 承服する, 同意する。 中 (病人の) 看護

upa-kramaṇiya 未受分 開始せらるべき; 手當を施さるべき(病氣)。

upa-kramika 形 → para ~.

upa-kramitavya 未受分 計畫又は開始せらるべき。

upa-kramya 未受分 = upakramaṇiya.

upa-kṛanta 通受分 近づかれたる; 開始せられたる; 手當を施されたる; 前述せられたる; 扶 *Mvyut.*: balād ~h 以力扶 *Mvyut.* 中 始め。

upa-kṛāmya 未受分 = upa-kramaṇiya; (病人として) 取扱はるべき。

upa-kriyā 女 奉仕; 恩惠; 供給; 通知。

upa-Kri, → Kri.

upa-kriḍā 女 遊戯場。

upa-Kruś upakrośati, upakrośayati (使役). → Kruś.

upa-kruṣṭa 通受分 叱責せられたる。 男 低階級(種姓)の人; 大工。

upa-krośa 男 非難, 叱責。

upa-krośana 中 譴責すること, 罵詈すること。

upakrośana-kara 形 叱責せしむる、辱かしむる。
upa-kroṣṭṛ 形 非難する、叱責する。 男 驢馬。
upa-kinna 通受分 濡れたる、濡れる。
upa-kliṣṭa 通受分 染、所染、垢染、染汚、爲染汚；
 所覆；所惱亂 *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.* → an~。
upakliṣṭa-cetas 形 染心 *Bodh-bh.*
upa-kleśa 男 隨惑、隨煩惱、小煩惱、少分煩惱、
 小惑；煩惱；染、染汚；勞擾、塵垢 *Lank.*, *Abh-k.*,
Abh-vy., *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-t.*, *Madhy-vibh.*,
Mvyut.: kleśa~ 本隨惑、大惑小惑、煩惱隨煩惱
Madhy-vibh. 184.: 二十隨煩惱 [1. krodhaḥ 忿, 2.
 upanāhaḥ 恨, 3. mrakṣaḥ 覆, 4. pradāsaḥ 惱, 5.
 irsyā 嫉, 6. mātsaryam 慳, 7. māyā 詭, 8. sāthyam
 誑, 9. madaḥ 憍, 10. vihimsā 害, 11. āhrikyam 無
 慚, 12. anapatrāpyam 無愧, 13. āsraddhyam 不信,
 14. kausīdyam 懈怠, 15. pramādaḥ 放逸, 16. mu-
 ṣitasmyṭitā 失念, 17. vikṣepaḥ 散亂, 18. asaṃpra-
 janyam 不正知, 19. auddhatyam 掉舉, 20. styānam
 惛沈] *Mvyut.*
upa-kleśana 中 染汚、爲惱亂事 *Abh-vy.*
upakleśa-bhūmika 形 小煩惱地 *Mvyut.*: daśa
 ~ aḥ dharmāḥ 十小煩惱地法 [二十隨煩惱 (upak-
 leśa の項) の 1—10. に同じ] *Mvyut.*
upa-kṣata 通受分 → *Ksan.*
upa-kṣapayitr 形 (男) 破壞する(者)。
upa-kṣaya 男 減少、浪費；衰退、消滅； [*Siva* 神の
 稱]。
upa-Kṣar upakṣarati. → *Kṣar.*
upa-Kṣi upakṣeti(1.), upakṣiyate(3. 受). → *Kṣi*
 1, 3.
upa-kṣit 形 近くに住む；執著する。
upa-Kṣip upakṣipati. → *Kṣip.*
upa-kṣipta 通受分 開始せられたる、計畫せられた
 る。
upa-kṣiṇa 通受分 竭されたる、消失せる。
upa-kṣudra 形 幾分小なる。
upa-kṣepa 男 陳述、立論、暗示；言及；威嚇、脅迫；
 投げつくること；開始。
upa-kṣepaṇa 中 [同上]。
upa-khātam 副 溝の傍に。
upa-ga 形 (一°)に近寄る；…に位置する、…に
 屬する、…に従ふ；…を提供する、…に備ふ
 る；…を有する；適せる； 隨、隨
 順；著、愛；生、所生、由…而生 *Daś-bh.*, *Lank.*,
Abh-vy., *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: kārana~ 由因而生
Mvyut. → *punya*~。
upa-gaṅgam 副 *Gaṅgā* 河の畔に。
upa-gaṇa 男 外道の名] 優波祇歎 [難!] *Divy.*
upa-gata 通受分 → *Gam.* 往、詣；受；備；
 解、得成辦；已許；生；入；將欲… *Divy.*, *Lal-v.*,
Daś-bh., *Rāstr.*, *Lank.*, *Siks.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*:
 bodhisattva-saddharmāntardhānim āmukhām
 ~ām 菩薩藏法將欲滅沒 *Bodh-bh.* 14. → an-
 ~, abhy~. 中 領收證。
upa-gati 女 接近、到來； 到、欲住 [往!] *Mvyut.*

upa-gantavya 未受分 従はるべき、適應せらるべき。
upa-gandhin 形 (一°)の香ある。
upa-Gam upagacchati, upagamayati(使役). →
Gam.
upa-gama 男 接近、到著；獲得、所持；(一°)への参
 加又は開始；尊敬、敬禮；知覺、認識； 來、至、
 趣、往趣；得；隨；信受、深懷愛重 *Lank.*, *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*: [數の名] 至
Mvyut.; 郁波伽摩 *Mvyut.*
upa-gamana 中 (一°)へ赴くこと；到達；理解する
 こと；取得；歸依すること；交際； 趣、趣向、
 歸仰 *Bodh-bh.*; —° 轉成 *Bodh-bh.*
upa-gamya 未受分 接近せらるべき；得らるべき。
upa-Gā upagāti. → *Gā.*
upa-gā 女 *Udgātṛ* 祭官の歌に唱和すること。
upa-gātṛ 男 *Udgātṛ* 祭官に唱和する者。
upa-gāna 中 和唱する歌。
upa-gāmin 形 接近する、出現する、到著する。
upa-gāyana 中 歌ふこと。
upa-giri 男 山岳に境を接せる國。
upa-gita 通受分 → *Gai.*
upa-giti 女 [音律の一種]。
upa-guṅṭhita 通受分 挂 *Mañj-m.* 63.
upa-gupta 通受分 隠されたる。 男 [王の名]；
 [人名] 近密 *Divy.*; 優波笈多、優波毘多、優波
 掘多、毘波毘多 *Divy.*, *Abh-vy.*
upagupta-vitta 形 資産を隠匿せる。
upa-Guh upagūhati(-te). → *Guh.*
upa-gūḍha 通受分 [*Guh*] 隠されたる、覆はれたる；
 抱擁せられたる； 彌；塗；裹；隨從圍繞 *Divy.*,
Lal-v., *Mvyut.* 中 抱擁。
upa-gūḍhavat 通能分 抱擁せる。
upa-gūhana 中 隠すこと；抱擁すること；(戲曲)不
 思議なる事件の發生。
upa-gūhita 使役 通受分 懷抱 *Lank.*
upa-grhita 通受分 下より支へられたる、支へられ
 たる；降伏せる、支配せられたる； 攝、所攝、所
 擒 *Daś-bh.*, *Abh-vy.*
upa-geya 未受分 歌はるべき、祝福せらるべき。 中
 歌謠。
upa-Gai upagāyati, upagīyate(受). → *Gai.*
upa-gohya 未受分 隠さるべき。 男 [不純と考へら
 れたる火の一種]。
upa-Grah upagrāhāti. → *Grah.*
upa-graha 1. 男 捕虜にすること；一掴み；添加；
 變化、限定；原因；總てを犠牲にせる條約又は講和；
 動詞の言(國語)；恩惠、好意；捕捉、逮捕 (*Jāt-m.*)
upa-graha 2. 男 小星、衛星、流星； 小曜 *Mañj-*
m.
upa-grahaṇa 中 恩惠を施すこと；下より支へるこ
 と、支持；理解；捕捉、逮捕 (*Jāt-m.*)
upa-grāmam 副 村落近く、村にて。
upa-grāha 男 贈物、獻上物。
upa-grāhya 未受分 恩惠を施さるべき。 中 =upa-
 grāha.
upa-ghāta 男 打擊；損傷、損害；侵害；虛弱、病氣；

- 病的の愛情; 害, 損害, 逼害; 損, 損減; 斷; 破壊; 惱, 逼惱, 損惱, 憂惱, 憂患 *Daś-bh., Lank., Sūtr., Śikṣ., Vijñ-v., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.* → an ~.
- upa-ghātaka** 形 損傷せる, 損害せる; 侵害せる; 有害なる; 損惱, 極損惱 *Bodh-bh.* 男 侵害, 損害; 損惱 *Bodh-bh.*
- upa-ghātin** 形 侵害する, 損傷する; 害, 行惡事, 作惱亂 *Mañj-m.*
- upa-ghuṣṭa** 通受分 響ける.
- upa-ghoṣaṇa** 申 宣言すること; 報知.
- upa-ghna** 男 [Han] 支柱; 恃みとするもの, 庇護.
- upaghna-taru** 男 蔓を支へる樹木.
- upa-GHrā** upajighrati, upaghrāpayati(便役). → GHrā.
- upa-ghrāta** 通受分 嗅がれたる.
- upa-ghrāyam** 圖 嗅ぎて.
- upa-cakra** 男 [家鴨の一種].
- upa-catura** 形 殆ど四の, 四に近き.
- upa-caya** 男 集積; 量; 増加; 過剩, 成長, 繁榮; 幸福; 追加; 補助; 集, 積集, 聚, 聚集, 積聚; 増, 増益, 轉増, 増長, 能増長; 滋益, 資益; 養, 長養; 成熟; 廣; 行; 得; 抱; 積修, 修習 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* ~ m Kṛ, (圖)の幸福を増進す, ……を助く.
- upacayāpacaya** 男 兩 繁榮と衰微; 興隆と顛落.
- upacayāvaha** (°ya-āv°) 形 利益を齎らす, 榮えしむる.
- upa-Car** upacarati, upacaryate(受). → Car.
- upa-cara** 形 接近する, 補助の. 男 接近; 隨侍; 治療.
- upa-caraṇa** 申 接近すること.
- upa-caraṇiya** 未受分 接近せらるべき; 隨侍せらるべき; 充當せらるべき.
- upa-carita** 通受分 接近又は隨侍せられたる; 充當せられたる; 所追隨 *Mvyut.*
- upa-caritavya** 未受分 隨侍せらるべき; 治療せらるべき; 待遇せらるべき; 尊敬せらるべき.
- upa-carya** 未受分 看護せらるべき; 待遇せらるべき.
- upa-caryā** 女 隨侍; 待遇; 侍臣の職.
- upa-cāyaka** 男 敬 *Mvyut.*
- upa-cāyin** 1. 形 (一°)に利益を與ふる, 増大せしむる.
- upa-cāyin** 2. 形 尊敬する, 崇拜する.
- upa-cāyya** 男 特殊の祭火; 祭火を置く場處, 祭壇.
- upa-cāra** 男 品行, 行狀, 實行; 熟達; (圖)どの手續; 侍仕, 奉仕, 侍從職; 禮儀, 慇懃; 尊敬; 敬禮; 裝飾; 儀式; 贈物, 祝賀の花環; (病人の)療治; 慣用語; 譬喩語, 假設; (町への)路 (*Jāt-m*); 行, 近行; 給侍, 承事; 儀軌; 恣態; 威儀, 延迎法式; 器具; 假謂, 施設, 假立, 制立, 立名, 假說, 假言說, 假立言說 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lank., Vijñ-t., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.:* kāraṇe kārya ~ ḥ 因上安果名 *Mvyut.;* kārye kāraṇa ~ ḥ 果上安因名 *Mvyut.*
- upa-cāraka** 男 禮儀, 慇懃. —° 形 (女 -ikā) 飾る; 護, 圍護 *Lal-v.:* bodhi-maṇḍa ~ 護菩提場神 *Lal-v. 280.*
- upacāra-karaṇa** 申 敬禮をなすこと; 慇懃なる態度.
- upacāra-karman** 申 [同上].
- upacāra-kriyā** 女 [同上].
- upacāra-cchala** 申 假設上の詭辯, 謬れる推理.
- upacāra-pada** 申 丁寧なる言葉, 挨拶の辭; 空虛なる詔諛.
- upacāra-paribhraṣṭa** 形 鄭重を闕ける, 無禮なる.
- upa-cāravat** 形 裝飾せる; 鄭重なる.
- upa-cārīka** 形 (一°)に貢獻する, ……に屬する; 所行 *Lank.* → bāla ~.
- upa-cārin** 形 (圖)に奉仕する, ……に給仕する, ……に敬意を表する.
- upa-cāru** 男 [轉輪王の名] 最妙, 近端殿 *Mvyut.;* [濕生の例として擧げらるゝ人の名] 鄒波遮盧, 優波遮婁 *Abh-vy.*
- upa-cārumat** 男 [轉輪王の名] (佛敎).
- upa-cārya** 未受分 鄭重にせらるべき, 隨侍せらるべき.
- upa-Ci** upacinoti, upaciyate(受). → Ci 1.
- upa-cikirṣu** 形 奉仕せんと希へる.
- upa-cita** 通受分 → Ci 1. 集, 積, 積果, 積集, 所積集, 積習; 修集, 所修, 修習; 抱, 合會; 所益, 所資益; 長養, 増長, 已増, 既増長已; 宿有; 満足; 成熟, 成就 *Divy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Kāśy., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*
- upa-citātara** 比較 大積, 最積 *Mvyut.*
- upacita-bali** 形 供物に満てる.
- upacita-rasa** 形 欲望の増せる.
- upacita-vapus** 形 體軀の肥大せる.
- upacita-hetuka** 形 已造善業, 種種善根今已成熟 *Divy.*
- upa-citi** 女 蓄積, 集積, 貯藏; 増加, 増大; 所得; (火葬の)積薪.
- upaciti-BHū**, 増加す, 成長す.
- upacitopacita** (°ta-up°) 通受分 積集 *Bodh-bh.*
- upa-cūḍana** 申 火にて炙ること, 焦がすこと.
- upa-cūlana** 申 [同上].
- upa-cCHad** upacchandayanti(便役). → CHad 2.
- upa-cCHand** → CHad 2.
- upa-cchanda** 男 必需品.
- upa-cchandana** 申 說得, 慰撫.
- upa-cchandita** 通受分 說得せられたる, 慰撫せられたる.
- upa-cchanna** 通受分 → CHad 1.
- upa-ccheda** 男 斷, 斷絶, 斷盡; 拔 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh.*
- upa-cchedana** 申 斷絶, 永斷 *Lal-v.*
- upa-ja** 形 (圖)に附屬する, ……に加はる; (一°)より發せる.
- upa-Jan** upajāyate, upajanayati(便役). → Jan.
- upa-jana** 男 附加, 附屬物; 附加的の音又は綴, 接尾音.

upa-janana ④ 發生, 生産。
upa-janam ④ 人の傍に, 他人の面前にて。
upa-Jap upajapati. → Jap.
upa-japya (未受分) (謀反に)加擔せしめらるべき, 煽動せらるゝ。
upa-jalpita (通受分) ④ 會話。
upa-jalpin ④ 忠告を與ふる, 話しかくる。
upa-jāta (通受分) → Jan.
upajāta-kopa ④ 怒を發せる, 怒る, 興奮せる。
upajāta-krodha ④ [同上]。
upajāta-kheda ④ 弱き, 衰へたる。
upajāta-viśvāsa ④ 信用する, 信頼する。
upa-jāti ④ [音律の一種]。
upa-jāpa ④ 私語すること; 煽動すること, (謀反に)加擔すること。
upa-jāpaka ④ (圖)を使喚する, ……を煽動する。
upa-jāpita (通受分) 謀叛に煽動せられたる, 不平なる。
upa-jigamiṣu (希求) ④ (圖)に行かんと欲する。
upa-jijñāsu ④ 知らんと欲する。
upa-jijñāsyā ④ 考案せらるべき, 有らん限りの考を絞らしめらるゝ, 謎の如き。
upa-jihirṣā ④ 奪はんとする欲望又は意圖。
upa-jihvā ④ 懸壺垂; 舌の下部に生じたる潰瘍。
upa-jihvikā ④ 會厭軟骨; (舌)の潰瘍 [味覺を失ふ病]; [蟻の一種]。
upa-Jiv upajivati, upajivayati(便役). → Jiv.
upa-jivaka ④ (圖, 一°)にて生活する; 依存する, 從屬する。
upa-jivana ④ 生計; 依存; 尊崇; 利益。
upa-jivaniya (未受分) 衣食を供給する。
upa-jivita ④ ……にて生計を立つること; ④ 活; 持 Lal-v., Mvyut.
upa-jivitr ④ (圖)にて生活する。
upa-jivin ④ (業, 圖, 一°)にて生計を保つ; 全く依存せる, 從屬せる; 謙讓して(一°)を尊敬する。
upa-jivya 1. (未受分) 衣食を供給する; ……を食して生ける; 依存せらるべき; ④ 所用, 受用; 爲所依, 爲依住; 利益, 饒益, 救攝饒益, 攝養, 普益; 養育 Lal-v., Kāśy., Lañk., Śikṣ.: sarva-sattva ~ 普益群生, 救攝饒益一切衆生 Lañk. 126. ④ 生計. ~ m Kr ④ 得活(身命), 拯濟, 救濟 Śikṣ. 150.
upa-jivya 2. (不變分) → Jiv.
upa-jivyatā ④ ④ 饒益 Lañk.
upa-juṣṭa (通受分) ④ 鄭重に迎へられたる; ……に訪問せられたる。
upa-joṣana ④ 享受, 使用; (榮養を)攝ること。
upa-joṣam ④ 隨意に, 靜かに, 默然として。
upajjhāya ④ [Pāli. 同]. <upādhyāya>; ④ 近誦, 親教, 知罪 立應; ④ 和尙, 和上, 和闍; [upādhyāya] 郁波第耶夜, 鄒波陀耶 立應。
upa-jña ④ (一°)によりて指示又は考案せられたる; (一°)以前に知られざりし。
upa-Jñā upajñāte. → Jñā.
upa-jñā ④ 自得せる知識, 自己の考案。
upa-jmān ④ [Gam] 道, 路。
upa-Jri upajrayati. → Jri.

upa-Dhauk upadhaukayati(便役). → Dhauk.
upa-dhaukita (通受分) ④ 獻せられたる; 準備せられたる; 作られたる。
upa-takṣa ④ [或る Nāga の名]。
upa-takṣaka ④ [同上]。
upa-taṣam ④ 坂にて, 岸にて。
upa-Tap upatapati, upatapyate(受), upatāpayati(便役). → Tap.
upa-tapat ④ 内部の熱, 病氣。
upa-tapana ④ 惱ます, 壓迫する。
upa-tapta (通受分) ④ 熱せられたる, 熱き; 惱まされたる; ④ 起惱 Śikṣ.
upa-talpam ④ 塔の上に。
upa-tāpa ④ 熱; 熱すること; 苦痛, 苦惱; 病氣; ④ 惱, 侵惱 Bodh-bh. ~ena ④, —° ……を煩して。
upa-tāpaka ④ 苦痛を生ぜしむる, 苦惱を賣らす。
upa-tāpana ④ [同上]; ④ 侵惱 Bodh-bh.
upa-tāpitva ④ [同下 圖]。
upa-tāpin ④ 熱する; 熱又は苦痛に惱める; 不快なる(病の); 病める, 病氣の; (一°)に苦惱を賣らす; 苦しき; ④ 惱, 令惱 Śikṣ., Bodh-bh.: a-para ~ 不惱於他 Bodh-bh. 20.
upa-tāraka ④ 溢るゝ。
upa-tiṣṭhāsu (希求) ④ (圖)に行かんと欲する, ……に著手せんと欲する。
upatiṣya ④ [Tiṣya の子の名]; ④ ④ [佛弟子の名] 鄒波底沙 Mvyut.
upa-tiram ④ 岸の上に。
upa-tirtha ④ 水浴地に到る小徑。
upa-Tuṣ, → Tuṣ.
upa-Tṛ upatiryati. → Tṛ.
upa-toraṇam ④ toraṇa の傍に。
upatyakā ④ 山麓の地, 低地; ④ 山根 Mvyut.
upa-tsarya (不變分) ④ 秘かに近寄りて, 匍ひ寄りて。
upa-damśa ④ 香料; 副食物; [性病の一種]. ~ m ④ 餘分の一片を取りて。
upa-dagdha (通受分) ④ 燃されたる, 點火せられたる。
upa-darśana ④ 目前に示すこと又は現すこと, 明瞭に示すこと; ④ 示, 顯 Saddh-p., Daś-bh., Abh-vy.
upa-darśita (通受分) ④ 現はされたる; 知覺せられたる; 説明せられたる; ④ 顯, 顯示, 現示, 說 Lal-v., Sapt-pr., Sūtr., Abh-vy.
upa-daśa ④ 殆ど十なる。
upa-Das upadasyati, upadāsayati(便役). → Das.
upa-Dah upadahati. → Dah.
upa-dā ④ 供物, 贈呈品, 賄賂; 贈呈すること [特に王又は地位ある人に]。
upa-dātr ④ 施與者。
upa-digdha (通受分) → Dih.
upa-digdhatā ④ (一°)にて覆はれたる, ……にて塗り汚されたる。
upa-didikṣā ④ 教へ或は告げんとする欲望又は意圖。
upa-Diś upadiśati(-te). → Diś.
upa-diś ④ 中間の方角 [圖 東北]。

upa-diṣṭa (通受分) 記されたる; 指示せられたる; 忠告せられたる, 通告せられたる, 教示せられたる, 命ぜられたる; 開始せられたる; 顯; 說, 所說, 略說, 所教; 處方 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* → an~.

upadi-kṛta 形 贈呈せられたる.

upa-dipayitvā (不変分) (施) 點火して.

upa-duh 男 (體 -dhuk) 搾乳桶.

upa-dūṣita (通受分) 中傷せられたる.

upa-Dṛś upapaśyati, upadarsāyati (使役). → Dṛś.

upa-dṛś 女 容貌, 様子.

upa-deva 男 下位の神 (*Yakṣa*, *Gandharva* 等).

upa-deśa 男 指示, 参照; 指導, 教示; 教訓, 規則, 教課; 忠告; 文法書に教へらるゝ單語・語幹・語根・接尾音等の形; 口實; [十二部經の一(佛敎)]; (分別) 指示, 顯示, 誨示, 導示; 說, 正說, 說言, 說法, 宣說, 爲說, 演說, 逐分別所說; 教, 正教, 教授, 教誡; 所演; 宣布; 論議, 論義, 論義經 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 支應; (音聲) 優波提舍, 鄔波第練 *Saddh-p.*, *Mvyut.*, 支應.

upa-deśatā 女 (屬) に對して教訓的なること; 口實たること; 教義たること.

upa-deśana 中 [同下]; 宣說 *Bodh-bh.*

upa-deśanā 女 忠告すること; 指示, 教示; 教課, 規則.

upadeśa-mātra 中 (體) 略說, 說少分 *Lank.*

upa-deśika 形 教授する.

upa-deśita (通受分) (體) 示 *Sapt-pr.*

upa-deśin 形 (女 -ini) 指導する, 忠告する; 文法上 *Upadeśa* の形を有する. 男 教師, 忠告者.

upadeśopasaṃhāra (śa-up°) 男 (體) 說授 *Bodh-bh.*

upa-deṣṭavya (未受分) 忠告せらるべき, 教へらるべき.

upa-deṣṭu-kāma 形 (體) 欲示, 欲引示 *Aṣṭ-pr.*

upa-deṣṭṛ 男 教導者, 教師, 忠告者.

upa-deṣṭṛtva 中 教師たること.

upa-doha 男 搾乳桶; (動物の) 乳房.

upa-dohana 中 [同上].

upaddhyāya 男 (俗) [*<upādhyāya*]; (體) (音聲) 和尚 *Vin. 4.*

upa-drava 男 不運, 事故; 艱難, 困苦; 天災, 禍, 不幸; 病弱; (病氣の) 徵候; 災, 災患, 災橫, 災難; 難, 艱難, 苦難, 苦患; 惱, 所惱, 惱亂, 苦惱, 憂惱, 逼惱苦, 逼惱事, 苦惱事, 逼惱苦事, 惱亂事; 擾亂; 障, 礙; 怖, 畏; 逼迫; 險惡; 危厄; 貧窮困難; 疾疫災橫; 瘡痕, 癩痕, 瘡癩 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Suv-pr.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*: ~śata-sahasra-praṇāśayitṛ 能去一切憂惱, 百千苦惱悉悉消滅 *Suv-pr. 58.* → nir~, para-cakra~.

upadravopasarga (va-up°) 男 (體) 災橫 *Bodh-bh.*

upa-draṣṭṛ 男 觀覽者, 目擊者; 證據.

upa-Dru upadravati. → Dru.

upa-druta (通受分) → Dru. (體) 被害, 惱害; 逼,

逼切, 逼迫, 逼惱, 爲逼害, 爲所逼, 所逼迫; 厄者, 被困厄; 所侵欺 *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*; 斷 *Kāśy.*; 忽遽, 急疾 *Lal-v.*

upa-droṭṛ 男 (體) 傷害, 爲損害; 爲逼損, 侵害者 *Abh-vy.*, *Mvyut.* → an~.

upa-dvipa 男 小洲 [*Jambudvīpa* の小區分即ち八小洲].

upa-dhana 男 劍(†).

upa-dharma 男 從屬的義務; 邪教, 迷信.

upa-DHā upadadhāti, upadhatte. → DHā.

upa-dhā 女 詐欺; 陰謀; 口實; 道德的試練; 終より二番目の又は先行する字(文函).

upa-dhāna 形 置く, 載する. 中 載すること; 座蒲團, 枕; 供給, 調達 (*Jāt-m.*); 寶石篋 (*Jāt-m.*); (體) 具, 用物, 什物; 靠背; 枕; 蓋 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*: sukha~ 樂具 *Saddh-p. 348.*

upa-dhānaka 中 枕, 座蒲團.

upa-dhāni 女 [同上].

upa-dhāniya 中 [同上].

upadhānoparāga (na-up°) 男 所依の物の色になること; (體) 近放以轉(†), 近放嚴口(†) *Mvyut.*

upa-dhāyin 形 (一°) を枕とする.

upa-dhāraṇa 中 考察, 考慮, 反省.

upa-dhārin 形 (他人の形を) 裝へる.

upa-dhārya (未受分) 解せらるべき; (體) 應(自)思惟 *Abh-vy. 251.*

upa-DHāv upadhāvati(-te). → DHāv I.

upadhā-śuci 形 徳を試練せられたる, 試されたる.

upa-dhi 男 追加すること, 追加, 附加; 詐欺; 車の轂と輜との中間の部分; 基礎, 根本; 執著; (體) 依; 物; 事; 蘊, 聚; 貪愛, 煩惱 *Divy.*, *Lal-v.*, *Sūtr.*, *Mvyut.*

upa-dhika 男 詐欺師, 狡猾漢.

upadhi-bandhana 形 (體) 貪愛繫 *Divy.*: ~ā bālāḥ 貪愛繫愚人 *Divy. 534.*

upadhi-vāra 男 (體) 知洒掃事 *Divy. 54.*

upadhi-vārika 男 (體) 守寺者, 掌堂師, 授事之人 *Divy.*, *Mvyut.*

upadhi-śeṣa 男 → an~, nir~.

upadhūpaya (名動) 他 → dhūpaya.

upa-DHṛ upadhārayati(使役). → DHṛ.

upa-dhenu 男 牝牛の傍に.

upa-DHmā upadhamati. → DHmā.

upa-dhyāta (通受分) …の冥想の對象なる; 想ひ出されたる, 考へられたる.

upa-nakha 中 [指の爪の病の一種].

upa-nagara-bhava 形 都城の近くに在る.

upa-nata (通受分) → Nam.

upa-nati 女 愛著; …の分となること.

upa-nadi 男 河の畔に.

upa-naddha (通受分) → Nah.

upa-naddhavya (未受分) 包まるべき, 覆はるべき.

upa-nanda 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の子又は其他の人名]; (體) [比丘の名] 近喜 *Mvyut.*; (音聲) [龍王の名] 和難, 跋難陀 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Mvyut.*

upa-nandaka 男 [同上]; [*Skanda* に從屬する或る生

物]; [*Yudhiṣṭhira* の或る太鼓の名].
upa-Nam upanamati, upanāmayati(便役). → Nam.
upa-namra 形 来る, 現前する.
upa-naya 男 運搬; 獲得; 供給; 適用; 緒論; 合, 近相合 *Mvyut.*; —° 入, 令入, 得, 至, 得至 *Bodh-bh.*
upa-nayana 甲 [同上]; (弟子に對する)入門式; (或る學問に)導き入るゝこと; 供物; 將導 *Madhy-vibh.*
upa-nayanatā 女 到, 至, 得至 *Gand-vy.*
upanayana-hetu 男 將導因 *Madhy-vibh.*
upa-nara 男 [龍王の名] 近人 *Mvyut.*
upa-Nah upanahyati, upanāhayati(便役). → Nah.
upa-nahana 甲 =upanāha; 包むもの或は巻くもの(布等); 恨 *Vijñ-t.*
upa-Nāth upanāthati. → Nāth.
upa-nādita 便役 通受分 反響せしめられたる.
upa-nābhi 副 隣に.
upa-nāmita 通受分 與, 奉施; 示; 舒 *Divy., Saddh-p., Lan̄k.*
upa-nāmitavya 未受分 供給, 應分與 *Sikṣ.*
upa-nāyaka 男 第二の主役(戯曲).
upa-nāyana 甲 入門式.
upa-nāyika 形 供物に適せる或は屬する; 開發 示導 *Gand-vy.*; —° 依 *Abh-vy. 685.* ~m 副 例示として(一°)を引きて(*Jāt-m.*).
upa-nāyikā 女 → varṣa~.
upa-nāyin 形 膏す
upa-nāha 男 束又は包; 膏藥, 罨法; 遺恨, 憎惡; 恨, 恨惱; 怨; 妬, 嫉妬 *Lal-v., Daś-bh., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-t., Mvyut.*
upa-nāhana 甲 膏藥を塗ること, 罨法; 被覆.
upa-nāhin 形 有恨者 *Bodh-bh.*
upa-nikūjita 通受分 音聲相和 *Aṣṭ-pr.*
upa-ni-Kṣip upanikṣipati. → Kṣip.
upa-nikṣipta 通受分 著, 移, 移徙 *Saddh-p.*
upa-nikṣepa 男 寄託品.
upa-ni-Grah upanigrhñāti, upanigrhñate. → Grah.
upa-ni-DHā upanidadhāti, upanidhatte. → DHā.
upa-nidhātṛ 形 下に置く.
upa-nidhāna 甲 下に置くこと; 側に置くこと.
upa-nidhi 男 (封印せる)寄託品.
upa-nidhyātavya 未受分 考察せらるべき; 應 觀察; 應審慮, 應當思惟; 實解 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
upa-nidhyāna 甲 觀察; 思惟, 審慮, 審思惟, 能 審思惟 *Bodh-bh., Abh-vy.*
upa-nidhyāyat 現分 (一心)觀察 *Gand-vy.*
upa-ni-DHyai upanidhyāyati. → DHyai.
upa-ni-Pat upanipatati, upanipātayati(便役). → Pat I.
upa-nipāta 男 入ること; 登位; 就職; 起ること, 突 然の出現; 急襲; 生; 會遇, 遭遇 *Bodh-bh.*
upa-nipātana 甲 突然の發生.

upa-nipātita 便役 通受分 了達 *Daś-bh.*
upa-nipātin 形 (一°)に闖入する, 突進する, 急襲する.
upa-nipidita 通受分 悩まされたる, 煩はされたる.
upa-ni-Plu upaniplavate. → Plu.
upa-nibaddha 通受分 → Bandh. 隨, 屬, 相 應 *Lan̄k., Sikṣ., Abh-vy.*; 莊嚴 *Lan̄k.*
upa-nibanddhṛ 男 作者, 編纂者.
upa-nibanddhṛtva 甲 [同上].
upa-ni-Bandh upanibadhnāti. → Bandh.
upa-nibandha 男 義務, 誓約; 繫屬, 相應, 相 縛 *Sikṣ., Madhy-v.*
upa-nibandhana 形 顯示する, 解明する. 甲 記 述; 合說 *Mvyut.*
upa-nimantraṇa 甲 招待; 請待, 請客, 作客 者 *Mvyut.*
upanimantraya 名動他 → mantraya.
upanimantrita 通受分 招待せられたる, 勸請せられ たる; 請, 勸請, 受請已, 祈 *Divy., Buddh-c., Lal-v., Sam-r.*; 若有來求 *Bodh-bh.*
upa-niruddha 通受分 制 *Lal-v.*
upa-nirgama 男 大通り; 外出, 離別.
upa-nirbaddha 通受分 云 *Divy. 274.*
upa-ni-Viś upaniviśati, upaniveśayati(便役). → Viś.
upa-niviṣṭa 通受分 圍む, 占むる, 住する; 占められ たる, 住まれたる.
upa-ni-Vṛt upanivartate, upanivartayati(便役). → Vṛt.
upa-niveśa 男 郊外, 市外.
upa-niveśita 通受分 建設せられたる.
upa-niveśin 形 附屬する.
upaniśā 女 [=upaniśad. 但し *Prajñ-vy. 231.* には atikṣatā の義なりとす].
upa-niśraya 男 依止, 暫且住, 暫且住坐 *Gand-vy., Mvyut.*
upa-ni-Śri upaniśrayati(-te). → Śri.
upa-niṣaṇṇa 通受分 會衆 *Bodh-bh.*
upa-niśad 女 (近く坐すること), 祕密又は神祕の教 義; [*Veda* の奥義を説ける文獻の名]; 因たること [=hetu-bhāva] (*Prajñ-vy. 231.*); 梯, 階級, 次第, 漸次; (一°)依 *Bodh-bh.*; [數の名] 因 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Mvyut.*; [音寫] [upaniśadam] 鄒波尼殺曇, 優波尼沙陁(分), 烏波尼殺曇 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Daś-bh., Bodh-bh.*, 支應: ~am api kalām api 因分, 烏波尼殺曇分 *Vajr-pr. 35.*
upaniśad-bhāva 男 因, 因緣 *Madhy-vibh.*
 ~ena 因 因漸次, 爲因緣故 *Madhy-vibh.*
upaniśā 女 (音寫) 鄒波尼殺曇分 *Sukh-vy. I.* → upaniśad.
upa-niśādin 形 (女 -ini) 近くに住する或は坐する.
upa-niṣkramaṇa 甲 外出すること; 廣場; 主要なる 道路, 道路.
upa-niṣkrānta 通受分 外出せる.
upa-ni-Han upanianti. → Han.
upa-nihita 通受分 ……の傍に或は前に置かれたる; 貯藏せられたる; 信賴せられたる.

upa-Ni upanayati(-te), upanāyayati(使役). → Ni.

upa-nita (通受分) 引き寄せられたる; 師の許へ伴はれたる, 入門せる, 傳授せられたる; 引, 能引, 將來, 將進; 至; 喚; 得; 感; 指示 *Divy.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: apramāna-phalatāyām ~ m bhavati 感無量果, 得無量果 *Bodh-bh.* 269.

upanita-vayas (形) 至衰, 至衰老 *Abh-vy.*

upa-niti (女) 入門; =upa-nayana.

upa-niya (不變分) 示現 *Bodh-bh.*: ~ ~ upadarśayati 示現...既示現已 *Bodh-bh.* 151.

upa-nivi (副) 腰布に.

upa-nunna (通受分) → Nud.

upa-nr̥tta (通受分) その面前又は近邊にて人の踊れる.

upa-nr̥tya (甲) 舞踏場.

upa-netavya (未受分) 薦らざるべき, 適用せらるべき; 招く.

upa-netṛ (形) 導き來る. (男) 導き來る者; 弟子を採用する者, 教師.

upa-netri (女) 導き來る者; 女教師.

upa-neya (形) 應用又は模範として採用すべき (*Jāt-m.*).

upa-ny-As upanyasyati. → As 2.

upa-nyasana (甲) (話題の)呈示, 説諭.

upa-nyasta (通受分) [As 2.]説明せられたる, 暗示せられたる; 言はれたる; 付, 學 *Divy.*: lipyām ~ ḥ 學文字 *Divy.* 3.

upa-ny-ā-Plu upanyāplavate. → Plu.

upa-nyāsa (形) (必需品を)得る. (男) 添附; 取得; 附記, 告示, 暗示; 陳述, 宣言; 證明: 論議; 參照; [同盟又は平和の一種]; 寄託物; 引; 定; 次第建立; 難; 執 *Laṅk.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ~ m (一°) を表明しつつ, ...の口實の下に.

upanyāsa-vid (形) 正しきことを知れる.

upa-pakṣa (男) 腋窩.

upa-pakṣya (形) 肩の上にある.

upa-Pat upapatati. → Pat 1.

upa-pati (男) 情夫, 姦夫.

upa-patti (女) 事件の發生, 突發事; 出現; 成功; 結果, 實證, 確立, 證據; 妥當, 適當; 可能性; 起原, 誕生; 生, 受生, 能生, 往生, 託生; 墮; 證, 合理; 正語 *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sam-r.*, *Laṅk.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: (teṣām) antike ~ aye (cittam upapādayanti) 往生 *Aṣṭ-pr.* 687. → an ~.

upapatti-kāla (男) 受生時 *Abh-vy.*

upapatti-jñāna (甲) 生智 *Sam-r.*

upa-pattitas (副) 在所生處 *Bodh-bh.*

upapatti-parityakta (形) 根據なき.

upapatti-pratīlambhika (形) 生得 *Abh-vy.*

upapatti-pratisam̐dhi (男) 受生相續 *Bodh-bh.*

upapatti-prātilambhika (形) 生得, 以生得 *Mvyut.*

upapatti-bhava (男) 生有 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

upa-pattimat (形) 立證せられたる.

upapatti-yukta (形) [同上].

upapatti-lābhika (形) 生得 *Abh-vy.*

upapatti-vaśa (形) 自在所欲生 *Saddh-p.*

upapatti-vaśitā (女) 生自在 *Mvyut.*

upapatti-vaśitva (甲) 生自在, 得生自在 *Abh-vy.*

upapatti-sabhāgatā (女) 同受生, 受生共 *Gaṇḍ-vy.*

upapatti-sama (男) [相反駁する立論が共に立證せられ得ると考へらるゝ矛盾の一種].

upapatti-sādhana (甲) 證成 *Bodh-bh.*

upapattisādhana-yukti (女) 證成道理 *Bodh-bh.*

upapatty-aṃśika (形) 臨生 *Mvyut.*

upapatty-āyatana (甲) 生處 *Abh-vy.*

upa-Pad upapadyate(-ti), upapādayati(使役). → Pad.

upa-pada (甲) (女) [或る他の語に伴はるゝ從屬的の語].

upa-padya-parinirvāyin (形) 生滅; (會) 生般, 生般涅槃, 現得涅槃果 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

upa-padyamāna-kāla (男) ~ ena (男) 依時, 次第 *Laṅk.*

upa-padya-vedaniya (形) 生報, 順生受, 順次生受, 今生受用 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

upa-padya-vedya (形) 順生受 *Abh-k.*

upa-panna (通受分) → Pad. (男) 生, 已生, 所生, 來生, 受生, 託生; 至; 出; 成就; 墮 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy.* II., *Laṅk.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: amutra ~ ḥ 往生彼處 *Mvyut.*; iha ~ ḥ 來生此間 *Mvyut.*

upa-payo-dhi (副) 海に.

upa-parikṣa(upa-pari-īkṣ) upaparikṣate. → Īkṣ.

upa-parikṣa (形) 精査する (*Divy.*).

upa-parikṣaka (形) [*Pāli.* upaparikkhin 參照] 研究する, 省察する, 試験する (*Divy.*); 觀察 *Divy.*

upa-parikṣaṇa (甲) 正確なる觀察, 穿鑿, 探究; 近解 *Mvyut.*

upa-parikṣaṇā (女) 觀察 *Bodh-bh.*

upa-parikṣā (女) =upa-parikṣaṇa; 觀, 觀察 *Bodh-bh.*

upa-parikṣitavya (未受分) 察, 理察, 觀察, 應觀察, 應當觀察; 試, 試験; 作念, 應作念, 當作念 *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*

upa-parikṣya (未受分) 所觀 *Vijñ-t.*: ~ m vastu 所觀事, 所觀境 *Vijñ-t.* 26.

upa-parcana (甲) 性交. (形) 密接に接觸せる.

upa-pāta (男) 偶發, 突發, 不慮の事實, 椿事.

upa-pātaka (甲) 微罪.

upa-pātakin (形) 微罪ある或はを犯せる.

upa-pātin (形) (一°)に陥れる.

upa-pāda (男) 生起・結果又は成就すること; 生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

upa-pādaka (形) 結果する, 見えしむる, 惹起する; 可能ならしむる.

upa-pādana (形) [同上]. (甲) 取得; 結果すること; 出現, 出現せしむること; 證明.

upa-pādita (使役) (通受分) 果されたる, 遂行せられたる; 與へられたる; 證明せられたる; 治療せられたる; 已説 *Madhy-v.*

upa-pāduka 形 自己より生起する; [Pāli. upapātika] 兩親なくして生れたる, 化生の (Divy., Av-ś.); 化生, 變化生 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Vajr-pr., Abh-k., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.* 男 超人的存在(神・魔等).

upa-pādukatva 中 化生, 自然生 *Abh-vy.*

upapāduka-sattva 男 化生有情, 化生生 *Vijñ-v.*

upa-pāpa 中 微罪.

upa-pārsva 男 肩胛骨; 肩; 横腹, 側面.

upa-Piḍ upapīdayati (便役). → Piḍ.

upa-piḍana 中 悩ますこと, 責苦(苦); 壓迫.

upa-piḍam 副 壓しつゝ.

upa-purāṇa 中 續 *Purāṇa* [十八種あり].

upa-puri 女 郊外.

upa-pūrva 形 upa の先行せる = upa と合成せる.

upa-pūrva-rātram 副 夜の初分に.

upa-pūrvāhnam 副 午前に.

upa-Pṛc upapṛnakti, upapṛnkte. → Pṛc.

upapeta 形 [香蓮, = upeta]; 具足 *Gaṇḍ-vy.:* patra-puṣpa ~ 枝葉花果皆榮茂 *Lal-v. 80.*

upa-pauraka 男 副 郊外の苑林に近く.

upa-paurika 形 郊外に住する.

upa-pra-Gā upaprajigāti. → Gā.

upa-prādarśana 中 指示すること, 示すこと.

upa-pradāna 中 贈與, 贈物; 施, 近施 *Bodh-bh.:* ~ anuvṛtti 近施隨轉 *Bodh-bh. 264.*

upa-pra-Drś upapradarśayati (便役). → Drś.

upa-prabhinna (通受分) 破碎せる.

upa-pralobhana 中 誘惑, 教唆.

upa-pra-Sad upaprasidati. → Sad.

upa-prāpta (通受分) 近づける, 接近せる.

upa-prekṣaṇa 中 看過, 興味なくして見ること, 無視.

upa-preṣ (upa-pra-Iṣ) upapreṣyati. → Iṣ 1.

upa-praiṣa 男 *Maitrāvaruṇa* 祭官の命令.

upa-plava 男 災難, 不運, (天災, 疫病等の)襲來; 凶兆; (日月の)蝕; 障害; 戰場; 表面的又は内實なきもの(†) [*110. ne-bar dsi d-pa*] (*Prajñ-vy. 158.*).

upa-plavin 形 災難に襲はれたる; 日(又は月)蝕の爲に暗くなる.

upa-plavya 中 [*Matsya* の主都の名].

upa-Plu upaplavati(-te). upaplāvayati (便役). → Plu.

upa-pluta (通受分) → Plu. 中 ……に襲ひかゝること.

upaplutekṣaṇa (°ta-ik°) 形 眼に(涙の)溢れたる, 泣ける.

upa-baddha (通受分) 結ばれたる, 縛られたる.

upa-Bandh upabadhnāti. → Bandh.

upa-bandha 男 結合; 紐, 綱; (語の)應用, 用法; [坐する姿勢の一種].

upa-Barh, → Barh 2.

upa-barha 男 枕.

upa-barhaṇa 男 枕, 座敷團; [*Gandharva* なる *Nārada* の稱]; [山の名]. 形 座敷團を有する, 枕を備へたる.

upa-bahu 形 かなり多数の.

upa-bāhu 男 下膊(肱より手首まで).

upa-bṛmhaṇa 中 鞏固ならしむること, 力を添ふること; 養, 作増長 *Abh-vy., Mvyut.*

upa-bṛmhiṭa (通受分) 鞏固なる, 強力なる; (一°)を具へたる, 助力せられたる.

upa-bṛmhin 形 鞏固ならしむる, 促進せしむる.

upabda 男 騒音, 音響.

upabdi 男 [同上].

upabdimat 形 騒がしき.

upa-Brū upabrūte. → Brū.

upa-bhaṅga 男 (詩の一節中の)行.

upa-bhāṣā 女 重要ならざる方言.

upa-bhukta (通受分) 享受せられたる, 食ひ盡されたる; 利用せられたる.

upabhukta-dhana 形 富を享樂せる. 男 [或る商人の名].

upa-BHuj upabhuṅkte, upabhuñjate, upabhodayati (便役). → BHuj 2.

upa-BHūṣ upabhūṣati. → BHūṣ 1.

upa-BHṛ, → BHṛ.

upa-bhṛt 女 (祭式に用ゐらるゝ)木匙.

upa-bhṛta (通受分) → BHṛ.

upabhṛtopaśama (°ta-up°) 形 静穩なる.

upa-bhoktavya (未受分) 享受せらるべき.

upa-bhoktr 形 ……を享受又は享有する.

upa-bhoga 男 享樂, 受用, 使用; 食すること; 肉交; 用, 所用, 皆用; 受, 受用, 了受, 樂受; 所得 *Lal-v., Buddh-c., Kāśy, Śikṣ., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.;* 飲, 食 *Mvyut.:* svapna ~ 夢所得 *Buddh-c. 89.* → nir ~.

upabhoga-kṣama 形 享樂に適する.

upa-bhogatā 女 受用 *Bodh-bh.*

upa-bhogatva 中 用 *Sūtr.*

upabhoga-paribhoga 男 所用物, 受用資具 *Śikṣ.*

upa-bhogavat 形 享受し得る.

upabhoga-hetu 男 受用因 *Madhy-vibh.*

upabhogāyadvāra (°ga-āy°) 中 受用門, 用入門 *Madhy-vibh.*

upa-bhogin 形 (一°)を享樂する, ……を利用する; 受者 *Bodh-bh.* → bhikṣa ~.

upa-bhogya (未受分) 享樂せらるべき, 利用せらるべき; 用, 受用, 所受用 *Gaṇḍ-vy., Sūtr.* 中 享樂の對象.

upa-bhogyatā 女 受用, 攝養 *Lank.*

upa-bhogyatva 中 享樂せらるべきこと.

upa-bhojin 形 享樂する, 食する.

upa-bhojya 形 (一°)の用に適せる.

upama 1. (最上) 最上の, 最高の; 最も高貴の, 最も卓越せる; 最も近き, 次の; 第一の; 最終の.

upa-ma 2. 形 (一°)に似たる, ……の如き; 如, 猶, 同, 喻, 猶如 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Rāṣṭr., Lank., Śikṣ., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.:* vajra ~ 如金剛 *Aṣṭ-pr. 941.* → pratibhāsa ~, māyā ~.

upa-Majj upamajjati(-te). → Majj.
upa-majjana ④ 垢離, 沐浴.
upa-mathita ④ 攪拌せられたる, 混合せられたる.
upamantraya ④ 名動 他 自 → mantraya.
upamantrita ④ 通受分 → mantraya.
upamantrin ④ 激勵する, 説得する.
upa-manthani ④ 攪拌用の棒.
upa-manyu ④ 努力する, 熱心なる. 男 [聖仙の名].
upa-marda ④ 摩擦; 強壓; 加害; 破壊; 鎮壓.
upa-mardaka ④ 破壊する; 取消す; 壓迫する.
upa-mardana ④ 加害; 侮辱; 強壓.
-upa-mardin ④ = upamardaka.
upa-marṣita ④ 便役 通受分 → Mṛṣ.
upa-Mā upamāti, upamimite. → Mā I.
upa-mā 1. ④ 比較; 類似, 等しきこと; 似像; 譬喩; 譬喩, 喩, 譬喩, 比喩, 喩則, 近譬喩; 對比 *Ast-pr.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* → tad ~ g ma. ④ 等しき, 似たる, 類似の.
upa-mā 2. ④ 最も近接せる隣に. ~ m ④ 甚だしく, 極端に.
upa-māti ④ 比較, 類似.
upa-mātr ④ 比較する(者).
upamā-dravya ④ 兩者比較の場合の主體.
upa-māna ④ 比較; 類似; 類推; (或るものが)それと比較せらるゝ對象 [upameya の對]; 譬喩, 欽比, 喩語 *Suv-pr.*, *Mvyut.* —° ④ ……の如き, ……に比すべき.
upa-mānatā ④ 類同性; 比較の對象たること.
upa-mānatva ④ [同上].
upamāna-pada ④ 類似を表す語 [例] *iva* 等.
upa-mānavat ④ 等しき, 類似せる.
upamā-mātra ④ ④ 少分譬喩, 譬喩但是少分, 唯以少分爲其譬喩 *Laṅk.* 230, 231.
upamārtha (°mā-ar°) ④ 似像の意義. ~ eṇa ④ 譬喩的に.
upa-mālini-tiram ④ *Mālini* 河の岸邊に.
upamā-vyatireka ④ 男 [譬喩の一種].
upa-māsyā ④ 毎月起る, 月々の.
upa-mita ④ 通受分 → Mā I.
upa-miti ④ 類似; 類推, 推理.
upa-mitra ④ 親しからざる友.
upa-mimāmsā ④ [Man の 希求] 考慮, 考究.
upa-Muc upamuñcate. → Muc.
upa-mūlam ④ 根に.
upa-Mṛ upamārayati(便役). → Mṛ I.
upa-Mṛd upamṛdnāti, upamardayati(便役). → Mṛd.
upa-Mṛṣ upamarsayati(-te)(便役). → Mṛṣ.
upa-mekhalam ④ 坂又は山腹に.
upa-meya ④ 未受分 (其, —°)に比せらるべき; 譬喩 如 *Abh-vy.* ④ (或るものと)比較せらるゝ對象 [upamāna の對].
upameyopamā (°ya-up°) ④ 相互類似の譬喩.
upa-mya(?) ④ 音寫 [數の名] 郁波摩 *Mvyut.*
upa-mlupta ④ 通能分 → Mlup.

upa-Yaj upayajati(-te). → Yaj.
upa-yantr ④ 男 夫(?) ④ 結婚せる.
upa-yantrita ④ 通受分 ……を爲すことを懇願又は強要せられたる.
upa-Yam upayacchati(-te). → Yam.
upa-yama ④ 適用; 娶ること; 支持.
upa-yamana ④ 支持する. ④ = upayama.
upa-Yā upayāti. → Yā.
upa-yācana ④ 祈願, 祈禱.
upa-yācita ④ 通受分 → Yāc. ④ 祈願, 懇請; 奉獻物.
upa-yācitaka ④ [同上(甲)].
upa-yāta ④ 通受分 → Yā. ④ 至 *Abh-vy.*
upa-yāna ④ 接近, 到着; ④ 來 *Buddh-c.*
upa-yāpana ④ ……に接近せしむること; (因)に導くこと, ……と會見せしむること.
upa-yāyin ④ 接近する.
upayāsa ④ [音譯, = upāyāsa]; ④ 愁 *Saddh-p.* 284.
upa-Yu, → Yu I.
upa-yukta ④ 通受分 → Yuj. ④ 用, 受用 *Abh-vy.*
upa-Yuj upayunkte, upayujyate(受), upayojayati(便役). → Yuj.
upa-yoktavya ④ 未受分 適用せらるべき, 享受せらるべき.
upa-yoktr ④ 適用する; 享受する.
upa-yoga ④ 應用, 適用; 使用, 利用; 享樂; 取得; 契約; ④ 用, 受用 *Madhy-vibh.* ~ m Gam 適用せらる.
upa-yogitā ④ 有用なること, 適當なること.
upa-yogitva ④ [同上].
upa-yogin ④ 應用し得べき, 調法なる, 適當なる; —° ……を應用する, 使用する; ……に役立つ.
upa-yojana ④ 馬具を附くること.
upa-yojya ④ 未受分 適用せらるべき, 使用し得らるべき; ④ 加持 *Sikṣ.* → ābhimantrya ~.
upara ④ 比較 より低き; より後の; より近き. ④ (その上にて Soma 草を搗く)臺石; 供養柱の下部.
upa-rakta ④ 通受分 → Raj.
upa-Rac uparacayati(便役). → Rac.
upa-racita ④ 便役 通受分 → Rae. ④ 作 *Mañj-m.*
upa-rañjaka ④ 染むる, 執著する, 影響する.
upa-rañjya ④ 未受分 染めらるべき, 執著せらるべき, 影響せらるべき.
upa-rata ④ 通受分 → Ram. ④ 滅, 寂滅; 不現; 壞息; 離藏 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sāmkhy-k.*, *Mvyut.* → an ~.
uparata-kāritra ④ ④ 作用已滅, 功能已謝 *Abh-vy.*
upa-rati ④ 停止; 靜寂; 死.
upa-Ram uparamati(-te), uparāmayati(便役). → Ram.
upa-rama ④ 停止, 休息; 放棄; 死亡; ④ 滅, 寂滅, 滅壞; 息斷; 離, 捨離; 破, 破壞 *Laṅk.*, *Sāmkhy-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* ~ m ④ 停止して.
upa-ramaṇa ④ (現世の欲望又は行動 ④)を斷つこ

と; 斷絶, 靜止すること. 〔男〕 情人.
upa-ramatva 〔中〕 離ること, 放棄; 死; (現世の欲望又は行動を) 断てること; 靜寂; 〔漢譯〕 滅 *Ast-pr.*
upa-Rambh *uparambhati.* → *Rambh.*
upa-rāga 〔男〕 著色, 染著; 染色 [〔漢譯〕 憤怒]; 日又は月の蝕, 暗黒; 影響; 非難, 罵詈.
upa-rāgavat 〔形〕 (*Rāhu* の爲に) 日又は月の蝕する.
upari 〔副〕 上に, その上に, 上方に; 上へ 上方へ; 更に, 其後; [〜〜] 益々; 常に上方へ; 幾回も, 繰返して.
 前 (業, 業, 從, 於: —° 又は °— 副) ……の上に, ……を越えて, ……の彼方に; 以上に [數又は値に就きて]; ……の後に [時間に就きて: 副] 又は —° 副; (副)に關し, ……の爲に; [〜〜] 遙かに (副)以上に; 〔漢譯〕 上 *Mvyut.*, 梵千, 梵雜: ~ *ant-ariḥse* 於虚空中 *Suv-pr.* 75.
upari-ga 〔形〕 ……の上方に動く或は飛ぶ.
upari-gata 〔形〕 ……に登れる; 〔漢譯〕 增益, 薰修 *Suv-pr.*: *parama-karūṇa* ~ *hṛdaya* 以大悲念增益其心, 以上大悲薰修其心 *Suv-pr.* 192.
upari-cara 〔男〕 [*Cedi* 王 *Vasu* の名]; 鳥.
upari-ja 〔形〕 上に或は外に延びる, 突起せる.
upari-jānu 〔副〕 膝以上に.
uparitana 〔形〕 (女 -i) 上方の, 上位の.
upari-tala 〔中〕 表面, 上面.
uparitas 〔副〕 上に.
upari-nābhi 〔副〕 臍以上に.
upari-puruṣa 〔男〕 上方に位せる人.
upari-prāsāda-tala 〔中〕 〔漢譯〕 高樓上 *Divy.*
upari-prut 〔形〕 [*Pru=Plu*] 上方より來れる.
upari-baddha 〔形〕 〔漢譯〕 相續, 相續次第 *Lank.*
upari-budhna 〔形〕 地面より上に擧げられたる.
upari-bhakta 〔形〕 (食事の)後に食はれたる.
upari-bhāga 〔男〕 上部; 上側.
upari-bhāva 〔男〕 更に高く或は上方にあること.
upari-bhūmi 〔副〕 地上に.
upari-bhūmika 〔形〕 〔漢譯〕 上地 *Abh-vy.*
uparima 〔形〕 〔漢譯〕 上 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
upari-mastika 〔中〕 〔漢譯〕 腦 *Divy.*
uparimāt 〔副〕 〔漢譯〕 上 *Divy.*
upari-yāna 〔中〕 昇騰, 昇天.
upari-śaya 〔形〕 上に横たはる.
upari-śayana 〔中〕 高き休息處, 高床.
upari-śayyā 〔中〕 [同上].
upari-śāyin 〔形〕 高床に休息する.
upariṣṭatas 〔副〕 [*Pali. upariṭṭha* 参照]; 〔漢譯〕 上 *Saddh-p.* 355.
upariṣṭāt 〔副〕 上に, 以上に; 其後に, 後れて, [書籍に於て] これより以下に.
 前 (業, 業)の上に; (業)の後に: (業)に關して, ……に就きて; 〔漢譯〕 上, 上方 *Divy.*, *Ast-pr.*, *Mañj-m.*, *Lank.*, *Abh-vy.*
upariṣṭāt-svāhā-kāra 〔形〕 *svāhā* なる感歎を伴へる.
upariṣṭāt-svāhā-kṛti 〔形〕 [同上].
upariṣṭāl-lakṣaṇa 〔形〕 上側に標を附せられたる.
upariṣṭāl-lakṣman 〔形〕 [同上].

upariṣṭima 〔最上〕 〔漢譯〕 上, 上方 *Saddh-p.*
upari-ṣṭha 〔形〕 (業, 一°)以上に或は……の上に立つ或は存する.
upari-stha 〔形〕 [同上].
upa-rudita (過受分) 〔中〕 悲嘆.
upa-ruddha (過受分) 〔中〕 封鎖せられたる; 〔漢譯〕 斷 *Lal-v.* → *an* ~. 〔中〕 私室, 居間. 〔男〕 捕虜.
upa-Rudh *uparuṇaddhi, uparunddhe, uparundhati* (-te), *uparodhati, uparodhayati* (使役). → *Rudh* 3.
upa-Ruh *uparohati, uparohayati* (使役). → *Ruh* 2.
upa-rūḍha (過受分) → *Ruh* 2.
upa-rūpaka 〔中〕 下級の劇 [十八種あり].
upa-rodha 〔男〕 包圍; 妨害, 障害, 遮止; 擾亂, 損害, 損傷; 不和, 紛争; 〔漢譯〕 害, 燒害; 逼迫; 斷; 勞倦 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Bodh-bh.*
uparodha-kārin 〔形〕 煩はす, 擾亂せしむる.
upa-rodhana 〔中〕 包圍; 障害. → *yācñā* ~.
uparodha-vāsa 〔男〕 閉居, 牢居; 〔漢譯〕 繞住, 執而住, 遮止而住 *Mvyut.*
uparodha-śīla 〔形〕 〔漢譯〕 看情, 不犯顔 *Mvyut.*
uparodha-samjñā 〔女〕 〔漢譯〕 逼迫想 *Gaṇḍ-vy.*
upa-rodhin 〔形〕 (一°)によりて遮止せられたる或は中斷せられたる; (一°)に害を與ふる, ……を擾亂せしむる.
upala 〔男〕 石; 寶石; 〔漢譯〕 石, 大石 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
upalaka 〔男〕 石.
upa-lakṣaka 〔形〕 注意して觀察する; 默示する; 看取する, 推察する.
upa-lakṣaṇa 〔中〕 觀察すること; 搜索; 記號; 指示; 默示又は暗示; 〔漢譯〕 知, 善知, 能善了知; 觀, 觀察, 常善觀察, 近察; 善解, 近解; 近指 *Sam-r.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
upa-lakṣaṇatā 〔女〕 [同上 副].
upa-lakṣaṇatva 〔中〕 [同上].
upa-lakṣaṇā 〔女〕 默示又は暗示; 〔漢譯〕 觀, 觀察 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
upalakṣaya (名動他) 〔中〕 → *lakṣaya*.
upa-lakṣayitavya (未受分) 觀察又は顯慮せらるべき.
upalakṣita (過受分) → *lakṣaya*.
upa-lakṣya (未受分) 認識せらるべき, 推論し得べき.
upa-Laḍ *upalādayati (upalālayati)* (使役). → *Laḍ*.
upala-prakṣin 〔形〕 (女 -ni) 石臼にて挽く.
upa-labdha (過受分) 受けたる, 得られたる; 知られたる, 理解せられたる; 〔漢譯〕 得, 可得 *Lank.*, *Abh-vy.*
upa-labdhavya (未受分) 知覺せらるべき.
upa-labdhi 〔中〕 取得, 理解, 知覺; 〔漢譯〕 得, 可得, 所得, 能得, 有所得; 可見; 取境; 了; 想 *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, *Sāmkhy-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*: *viśayasya* ~ *h* 了境 *Vijñ-t.* 24.
upa-labdhitā 〔女〕 [同上 副].
upa-labdhin 〔形〕 〔漢譯〕 有所得想 *Ast-pr.*
upa-labdhimat 〔形〕 認むる, 理解する, 明瞭なる.
upa-labdhr 〔形〕 認知する(者).
upa-Labh *upalabhate, upalambhayati* (使役). →

Labh.

- upa-labhya** (未受分) 取得せらるべき; 理解せらるべき, 知覺せらるべき; (漢譯) 所得 *Madhy-vibh.*
- upalabhyārtha** (男) (漢譯) 所得境 *Madhy-vibh.*
- upa-lambha** (男) 達せしむること; 經驗せしむること; 取得; 觀察; 知覺, 感覺; (漢譯) 得, 有得, 所得, 可得, 有所得; 有; 見; 所想, 分別; 貪 *Aṣṭ-pr., Kāśy., Rāṣṭr., Laṅk., Sūtr., Vijñ-t., Abh-vy., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut.* → an~, ātma~.
- upa-lambhaka** (形) 認知する, 知覺する; 知覺せしむる, 想起せしむる.
- upalambha-dṛṣṭi** (女) (漢譯) 有所得見 *Lal-v., Aṣṭ-pr.*
- upalambha-dṛṣṭika** (形) (漢譯) 執見, 有見 *Rāṣṭr.*
- upa-lambhana** (中) 知覺すること; 知性, 知識.
- upalambha-manasi-kāra** (男) (漢譯) 有所得見 諸有見 *Aṣṭ-pr.*
- upalambha-saṃjñin** (形) (漢譯) 有得想, 有所得心 *Aṣṭ-pr.*
- upa-lambhika** (形) (漢譯) 得(法)者 *Saddh-p.*
- upa-laya** (男) 隱家(?) (*Jāt-m.*).
- upa-Lal** *upalālayati*(使役). → *Lal.*
- upala-viṣama** (形) 岩のために平坦ならざる.
- upa-Las**, → *Las.*
- upa-lasat** (現分) → *Las.*
- upa-lasamāna** (現分) → *Las.*
- upala-hasta** (男) [或る *Caṇḍāla* の名].
- upalā** (女) 上の(下の石より小なる)碾(穀)石.
- upa-lāḍana** (中) [= *upalālana*]; (漢譯) 娛樂 *Bodh-bh.*
- upa-lāpana** (中) (漢譯) 誑, 誑惑 *Sikṣ.*
- upa-lālana** (中) 愛撫すること.
- upa-lālita** (過受分) 愛撫せられたる.
- upa-liṅga** (中) 凶兆, 不吉.
- upa-Lip** *upalimpati, upalepayati*(使役). → *Lip.*
- upa-lipta** (過受分) 塗られたる, 油を塗られたる; (漢譯) 染, 所染, 染汚, 染著, 所能染 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Mvyut.* → an~.
- upalīpta-sammīṣṭa** (過受分) (漢譯) 泥飾 *Divy.*
- upa-lipsā** (希求) (女) (一°)を得んと欲すること, ……に對する欲望.
- upa-lipsu** (希求) (形) (業)を知らんと欲する.
- upa-Lih**, → *Lih.*
- upa-Lubh** *upalobhayati*(使役). → *Lubh.*
- upa-lepa** (男) [同下]; (漢譯) 有染 *Aṣṭ-pr.* → an~.
- upa-lepana** (中) 油を塗ること; 塗布すること(特に牛糞を); (漢譯) 塗, 塗治, 塗香, 塗拭 *Sikṣ., Mvyut.*
- upa-vakṭṛ** (男) 激勵又は鼓舞する者, 促す者.
- upa-vañcita** (過受分) 欺かれたる, 失望せる.
- upavatsati** (動) [= *upavatsayati*]; (漢譯) 慰諭 *Bodh-bh. 362.*
- upavatsaya** (名動) (他) *upavatsayati, upavatsati* (漢譯) 慰諭 *Bodh-bh. 362.*
- upa-vatsyad-bhakta** (中) 斷食の前に攝取せらるる食物.
- upa-Vad** *upavadati(-te)*. → *Vad.*
- upa-vana** (中) 小さき林, 苑林; (漢譯) 花園, 喜林 *Mvyut.* ~m 園 林の近く或は中にて.

- upavana-vṛti** (女) 苑園の垣牆.
- upa-Vap** *upavapati*. → *Vap 2.*
- upa-vapana** (中) 振り撒くこと.
- upa-varṇana** (中) 記載, 詳述; 讚辭.
- upavarṇaya** (名動) (他) → *varṇaya.*
- upa-varṇita** (過受分) 精密に記述せられたる, 描寫せられたる.
- upa-varta** (男) (漢譯) (音寫) [數の名] 烏波跋多, 烏波維丹 *Mvyut.*
- upa-vartana** (中) 前へ運ぶこと; 領域; (漢譯) 生處 *Divy. 208.*
- upa-varṣa** (男) [*Varṣa* の弟の名]; [或る 婆羅門の名].
- upa-Vas** *upavasati*. → *Vas 3.*
- upa-vasatha** (男) 斷食日, (特に) *Soma* 祭前夜の斷食.
- upa-vasathiya** (形) *Upavasatha* の日に屬する, *Soma* 祭の準備に屬する.
- upa-vastṛ** (男) 斷食者.
- upa-Vah** *upavahati*. → *Vah.*
- upa-Vā** *upavāti*. → *Vā 2.*
- upa-vāta** (過受分) → *Vā 2.*
- upa-vāda** (男) 非難.
- upa-vādin** (形) 非難する, 誹謗する.
- upa-vāsa** (男) 斷食; (漢譯) 齋, 戒, 齋戒, 齋法, 受齋; 近住; 守饑 *Av-s., Divy., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*: āryāṣṭāṅgam ~m vyapadiṣati 説八支聖齋戒(法), 説賢聖八齋, (説)八戒齋法 *Bodh-bh. 262.*; na ~m upavasanti 不受齋法, 不修齋法, 不樂受齋 *Bodh-bh. 252.*; (音寫) 優波婆娑, 鄒波婆娑 玄應.
- upa-vāsaka** (中) 斷食. (形) 斷食に關聯せる.
- upa-vāsana** (中) 衣服, 上衣; 被覆.
- upavāsa-vratin** (形) 斷食の誓約を遵守する.
- upavāsa-śīla** (形) (漢譯) 近住 玄應; (音寫) 鄒波婆娑尸羅 玄應.
- upa-vāsita** (過受分) (漢譯) 薰 *Lal-v.*
- upa-vāsin** (形) 斷食する.
- upa-vāhin** (形) ……に向ひて流るる.
- upa-vāhya** (未受分) 引き寄せらるべき, ……を載せらるべき(乗物); 乗用又は御するに適する.
- upa-vi-Car** *upavicarati*. → *Car.*
- upa-vicāra** (男) 周邊; [*Pali.* 同] ……に心を適用すること, 辨別 (*Divy.*); (漢譯) 近行, 分別行; 境界; 所伺察; 一° 邊, 側; 具 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy.*: alamkāra~ 莊嚴具 *Bodh-bh. 37.*; ma-na~ 意境界, 意所伺察 *Sikṣ. 244.* → *grāma~.*
- upa-Vidh** *upavidhati*. → *Vidh 1.*
- upa-Viś** *upaviśati, upaveśayati*(使役). → *Viś.*
- upa-viṣṭa** (過受分) 坐したる; 來れる, 到着せる, 入込みたる; 從事せる. → *Viś.* (漢譯) 在, 在於中; 處; 坐; 生; 登; 詣, 到 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Sur-pr., Rāṣṭr., Mañj-m.*: tatra ~h 在於其中 *Saddh-p. 344.* → *āsana~.*
- upa-Vi** *upaveti*. → *Vi 1.*
- upa-Vij** *upavijati, upavijayati*(使役). → *Vij.*
- upa-vijita** (過受分) 吹き上げられたる, 煽がられたる.
- upaviṇaya** (名動) (他) *upaviṇayati* (業)の爲に *viṇā*

を弾ず。

upa-vita [通受分] **Vye** [甲] 聖紐を身に著くこと；
聖紐；**𑕓𑕔** → *yajña*。

upa-vitaka [甲] 聖紐。

upa-vitin [形] 左肩より右脇に聖紐を懸くる。[男] 左
肩に聖紐を懸けたる人。

upa-vṛmhana [甲] 強むること、促進すること、鼓舞
すること。

upa-vṛmhita [使役] [通受分] → *Barh 2.*

upa-vṛmhin [形] 鼓舞する、支持する。

upa-Vṛt *upavartate, upavartayate* [使役]。 →
Vṛt.

upa-vṛtta [通受分] 近づきたる；(疲勞等より)回復せる。

upa-veda [男] *Veda* に附隨せる (= 四 *Veda* に從屬す
る一群の) 文獻(の總稱)。

upa-vedana [甲] 確かむること、學ぶこと。

upa-vedaniya [未受分] 學ぶべき、見出さるべき。

upa-vedi [副] 祭壇の上に。

upa-veśa [男] 著席すること；從事すること。

upa-veśana [甲] 著席すること；座席；(一^o)に從事又
は專念すること；便通。

upa-veśin [形] (一^o)を遂行又は實行する、……に從事又
は專念する；便通を催す。

upa-veśya [使役] [不棄分] 坐せしめて。

upa-veśa [男] 祭火を掻く(生木の)棒。

upa-Veṣṭ *upaveṣṭayati(-te)* [使役]。 → *Veṣṭ.*

upa-veṣṭita [通受分] 包まれたる、圍まれたる。

upa-Vyā *upavyayate*。 → *Vyā.*

upa-vyākhyāna [甲] 解説、説明。

upa-vyuṣam [副] 曉に。

upa-vrajam [副] 牛小屋の傍に。

upa-Śam *upaśamyati(-te), upaśamayati* [使役]。 →
Śam 2.

upa-śama [男] 停止；減退；終熄；靜寂；**𑕓𑕔** 息、止
息、永息、畢竟息；滅、息滅、究竟滅、除滅；寂、寂
滅、寂然消滅、寂靜、空寂；消；謝；近止；悞怕、寂
然悞怕 *Divy., Lal-v., Lank., Śikṣ., Madhy-v.,*
Bodh-bh., Abh-vy.: *duḥkha* ~ *mātrake* 苦息滅時
Bodh-bh. 26.; *vitarka-vicāra* ~ 尋伺止息 *Bodh-*
bh. 26.

upa-śamana [形] (女 -i) 鎮むる。[甲] 鎮靜；**𑕓𑕔** 銷
滅、寂靜 *Lal-v., Bodh-bh.*

upaśamana-sukha [甲] **𑕓𑕔** 寂靜樂 *Bodh-bh.*

upa-śamaniya [形] 鎮めらるべき、靜かにせらるべき。

upa-śamayitr [形] **𑕓𑕔** 能除 *Aṣṭ-pr.*

upa-śamavat [形] 心の平靜なる、落つける。

upaśama-śama-sukha [甲] **𑕓𑕔** 近妙樂 *Śikṣ.*

upaśamādhiṣṭhāna [甲] **𑕓𑕔** 寂靜處、消除攝持
Mvyut.

upaśamāyana [形] 心の平靜となれる

upa-śaya [形] 傍に横臥する。[男] [犠牲獸を縛する柱
の側に横たふる柱]；待伏(羸)，見張；適當、有益；良
藥；惠まれたる境遇；偏愛。

upa-śayana [甲] **𑕓𑕔** 高樓、樓屋 *Suv-pr. 179.*； ~ *e*
śayitaḥ 在高樓上安穩而睡、在樓屋上露臥眠睡 *Suv-*
pr. 179.

upaśaya-stha [形] (獲物を)見張る(獵師)。

upa-śalya [甲] 尖端に裝鐵せる鎗；町又は村落に近き
廣場；郊外；山麓の地域。

upa-śalyaka [甲] 町の近郊にある小さき廣場。

upa-śākhā [女] 小枝。

upa-śānta [通受分] → *Śam 2.* **𑕓𑕔** 除、惑除、痊除、
得除滅；近寂、寂然、極寂靜、寂滅相；愈、除愈 *Av-ś.,*
Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Sūtr., Madhy-v.:
sarva-vyādhy ~ 一切病苦悉得除滅、一切衆病皆悉
除愈 *Gaṇḍ-vy. 103.* → *an*。

upaśānta-gati [女] **𑕓𑕔** 淨行 *Madhy-v.*

upaśānta-vaira [形] その敵が終熄せる或は平靜とな
れる。

upaśāntātman (°ta-āt°) [形] 心の平靜なる。

upa-śānti [女] 靜寂；(欲望の)満足；停止、終熄；**𑕓𑕔**
能滅 *Abh-k.*

upa-śāmaka [形] 鎮むる (*Lal-v.*)。

upa-śāyaka [形] ……と交互に眠る。

upa-śāyin [形] 横はる；眠る；寢に就く。

upa-Śikṣ → *Śikṣ I, 2.*

upa-śikṣā [女] (一^o)を修得すること；學習欲。

upa-śikṣita [通受分] 學習せられたる；訓練せられた
る。

upa-Śiṅgh *upaśiṅghati*。 → *Śiṅgh.*

upa-Śi *upaśete*。 → *Śi 2.*

upa-Śubh *upaśobhate, upaśobhayati* [使役]。 →
Śubh 2.

upa-Śuṣ *upaśuṣyati, upaśoṣayati* [使役]。 → *Śuṣ I.*

upa-śaila [男] **𑕓𑕔** [卵生の例として擧げらるゝ
人の名] 鄒波世羅 *Abh-vy.*

upa-śobhana [甲] 裝飾すること；**𑕓𑕔** 莊嚴 *Lank.*
[形] (一^o)を裝飾する。

upa-śobhā [女] 裝飾。

upa-śobhikā [女] [同上]。

upa-śobhita [使役] [通受分] → *Śubh 2.* **𑕓𑕔** 莊嚴、
嚴飾、嚴好、嚴淨 *Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Lank.,*
Mvyut.

upa-śobhin [形] 容貌麗しき、輝かしき。

upa-śoṣa [男] 乾かすこと。

upa-śoṣaṇa [甲] 乾燥せしむること。

upa-śraya [男] (一^o)に頼ること。

upa-śrava-gata [形] **𑕓𑕔** 盜聽、默聽 *Mvyut.*

upa-Śri *upaśrayati(-te)*。 → *Śri.*

upa-śrita [通受分] → *Śri.*

upa-Śru *upaśṛnoti*。 → *Śru I.*

upa-śruta [通受分] 傾聽せる、聽ける。

upa-śruti [女] 傾聽；尊；[將來を豫言する神託の一種]。
[男] [惡靈の名]。

upa-śrutika [男] **𑕓𑕔** 聽 *Prāt-m.:* ~ *s Sthā* 立聽
Prāt-m. V. 76.

upa-Śliṣ *upaśliṣyati, upaśleṣayati* [使役]。 → *Śliṣ.*

upa-śliṣṭa [通受分] → *Śliṣ.*

upa-śleṣa [男] 密接なる接觸、抱擁。

upa-śleṣaṇa [甲] (一^o)と合一すること、……に依頼す
ること、縫ひ合すこと。

upaślokaya [名動] → *ślokaya.*

upaślokayitavya (未受分) Śloka に頌せらるべき。
 upaślokayitum (不) Śloka に頌すべく。
 upa-śvasa (男) 微風、一陣の風。
 upa-ṣṭambha, → upa-stambha.
 upa-ṣṭambhaka (形) [=upa-stambhaka]; (持) 持 Sāmkhy-k.
 upa-samyata (過受分) 密接に結合又は固定せられたる。
 upa-samvita (過受分) 覆はれたる、包まれたる。
 upa-samvyāna (甲) 下著(著)。
 upa-sam-Vraj upasamvrajati. → Vraj.
 upa-sam-Śri upasamśrayati(-te). → Śri.
 upa-samśliṣṭa (過受分) 結合せる、密著せる。
 upa-samśliṣṭatva (甲) ……に結合せること、相互依存。
 upa-samsrṣṭa (過受分) ……に結合せる、(呪咀によりて)害はれたる、苦しめられたる; 生ぜる、結果せる。
 upa-samhata (形) 集められたる (Divy.).
 upa-samharana (甲) 引き寄せること、集むること; (與) 與、付囑、能施與 Gand-vy., Bodh-bh.
 upa-samharanātā (女) (施) 施與 Bodh-bh.
 upa-samhartavya (未受分) 得らるべき、運ばるべき (Lal-v.); (授) 授與、給與 Śikṣ., Bodh-bh.
 upa-samhartu-kāmatā (女) (欲) 欲授與、欲饒益 Bodh-bh.
 upa-samhāra (男) 引き戻すこと、(武器を)收むること; 接近; 要約、梗概; 終結、結論; (施) 施、給施、能施; 與、施與; 授; 惠; 饒益; 誨示; 受、攝受; 放; 勤; 發起; 近修、近習; 引、所引; 重加、重増、相合 Gand-vy., Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.: upakarana ~ 惠資具 Bodh-bh. 146.; upakarana ~ m Kṛ 施與資財、給施所須、能施一切所須之物 Bodh-bh. 208.; duḥkha ~ 重加(其苦、重増其苦) Bodh-bh. 191.; bhūta-nayānusāsana ~ 受如理正教、得聞正教 Gand-vy. 116.; vyapadeśa ~ 說授 Bodh-bh. 287. → an ~.
 upa-samhārin (形) 理解する、獨特の。
 upa-samhita (過受分) → DHā I. (引) 引、所引、能引、引攝、能引攝; 應、相應; 契; 利、饒益; 擇、揀 Divy., Lal-v., Lañk., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.: artha ~ 應道理 Lal-v. 416.
 upa-sam-Hṛ upasamharati(-te). → Hṛ I.
 upa-samhṛta (過受分) 接觸せしめられたる; 抑制せられたる; 遮止せられたる; 破壊せられたる; (生) 生、發起、所起、饒益 Bodh-bh. ~ o BHū (賜) 賜與 Bodh-bh. 281.
 upa-samhṛtatva (甲) 熟慮を止むること。
 upa-samhṛti (女) 理解; 終結; (劇の)結末。
 upa-sakta (過受分) 愛著せる、(現世の欲望に)據れる。
 upa-sakhi (男) 友の傍に。
 upa-sagoṭrā (女) (同) 同姓 Abh-vy.
 upa-samkṛpta (過受分) 上に置かれたる或は在る。
 upa-sam-Kram upasamkrāmati, upasamkramate, upasamkramayati(使). → Kram.
 upa-samkrama (男) (醫家の)處置 (Divy.).
 upa-samkramaṇa (甲) 彼方へ歩み行くこと (Lal-v.); (至) 至; 詣、往詣、往赴、能普詣; 來臻、來歸趣;

親近 Lal-v., Gand-vy., Daś-bh., Bodh-bh. → sabhāga ~.
 upa-samkramya (不) 至 Sapt-pr.
 upa-samkrānta (過受分) ……に推移せる、(業)に送らるゝ; (到) 到、往到、到已、往詣、往趣、往已 Av-ś., Sapt-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.
 upa-samkrānti (女) 横斷; 他の側に達すること; (往) 往趣 Bodh-bh.
 upa-samkṣepa (男) 概略、要約。
 upa-samkhyā (形) 概數を決し得べき。
 upa-samkhyātavya (未受分) (應) 應立 Abh-vy.
 upa-samkhyāna (甲) 加算、添加; (添) 添補、増補、添減語 Mvyut.
 upa-samkhyeya (未受分) (因)に加算せらるべき、附加せらるべき; (増) 増(減) Abh-vy. 288.
 upa-samgata (過受分) 集れる; 合一せる。
 upa-samgantavya (未受分) (當) 當受 Divy.
 upa-sam-Gam upasamgacchate. → Gam.
 upa-samgamana (甲) 集合すること; 性交。
 upa-samgrhita (過受分) 抱擁せられたる; 捕へられたる。
 upa-sam-Grah upasamjighṛksati(希). → Grah.
 upa-samgraha (男) 抱きつくこと [例] 敬意の表現として足に], 抱擁; 娶ること; 集むること; 枕、座敷團。
 upa-samgrahaṇa (甲) 抱きつくこと、足に抱きつく 恭しき敬禮。
 upa-samgrāhya (未受分) (足に抱きつかるべき), 尊敬せらるべき。
 upa-Sac upasacate. → Sac.
 upa-sam-Car upasamcarati. → Car.
 upa-samcāra (男) 出入口、入口。
 upa-sattr (男) 近くに坐する者; 住人; 崇拜者。
 upa-Sad upasidati, upasādayati(使役). → Sad.
 upa-sad (女) [(Soma を搾る) Sutyā 祭日の前數日(諸種の準備的儀典を行ふ日)]; 攻圍; 給仕; 禮拜. (形) (尊敬して)近づく、崇拜する、奉仕する。
 upa-sada (形) [同上(形)]. (男) Upasad 祭日。
 upa-sadana (甲) 恭しき敬禮; 著手; (教師に)近づくこと; (祭式の)執行; 近隣。
 upa-sadya (未受分) 恭しく接近せらるべき或は奉仕せらるべき。
 upasad-vratin (男) Upasad 祭日に關して規定せられたる義務を遂行する。
 upa-sam-DHā upasamdadhāti, upasamdhatte. → DHā.
 upa-samdhāya (不) 附加して; ……を考慮して或は志して; ……の爲めに。
 upa-samdhya (男) 黎明又は黄昏の頃に。
 upa-sanna (過受分) 弟子として入門せる、授けられたる。 → Sad.
 upa-samnyāsa (男) 捨離、放棄。
 upa-sapatni (男) 夫を俱にする妻の面前にて。
 upa-sama (男) [=upasama]; (寂) 寂滅 Lal-v. 423.
 upa-samanvāhṛta (過受分) (盡) 盡心供養 Divy. 286.
 upa-sam-ā-DHā upasamādadhāti. → DHā.
 upa-samāhita (過受分) 置かれたる、點火せられたる

upa-samindhana ㊦ 点火すること。
upa-sampatti ㊦ 接近; 到達; 入ること; 来ること。
upa-sampat-prekṣin ㊦ 受具足戒 *Vin.*
upa-saṃ-Pad upasampadyate, upassmpādayati (使役) → Pad.
upa-sampad ㊦ [*Pāli.* upasampadā] 比丘 (Bhikṣu) たる資格を得ること, 具足戒を受くる儀式, 公認の比丘としての特権を認むること (*Divy.*); 受戒, 受具, 受具足, 具足, 圓具, 近圓 *Divy., Vin., Bodh-bh.*
upa-sampadā ㊦ [同上] (*Kār-vy.*).
upa-saṃpanna ㊦ 比丘 (Bhikṣu) としての公認を得たる (*Divy.*); 受戒, 得戒, 受大戒, 受具足, 受具足戒, 已近圓 *Abh-vy., Mvyut.* → an~.
upa-sampādana ㊦ 追つかしむること, 等しからしむること; 授近圓 *Mvyut.* → upasampad, upasaṃpanna.
upa-sampādita ㊦ 受戒, 受具戒, 受圓具, 授圓具, 所授圓具 *Divy., Abh-vy.* → upasampad, upasaṃpanna.
upa-saṃprāpta ㊦ 試験又は體驗せる; 接近せられたる。
upa-saṃbaddha ㊦ 縛られたる。
upa-saṃbhāṣā ㊦ 會話, 親しき勸告。
upa-saṃbhṛta ㊦ 集められたる; 準備せられたる, 整へられたる。
upa-saṃbhrānta ㊦ → BHram.
upa-sara ㊦ 接近。
upa-saṛaṇa ㊦ (一°)に接近すること; 突進すること; 病的充血; 避難處; 贖罪の方法。
upa-sarga ㊦ 添加; 心配; 不快, 不幸; (病の)發作, 精神錯亂; (日月の)蝕; 動詞につく接頭音(㊦); 難, 災難, 災横, 災癘疾疫; 恐怖; 自近變 *Divy., Suv-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.* → an~.
upa-sargin ㊦ 添加する。
upa-sarjana ㊦ 注入すること; 添加; 朦朧, (日月の)蝕; 附屬物, 下位の人; 代表; (他の語意を限定すべき)從屬語 [合成語に於て或は轉成語として] (㊦);
upasarjani-Kṛ, 附屬物と見做す。
upa-sarjita ㊦ 派遣せられたる。
upa-sarpa ㊦ 接近。
upa-sarpaṇa ㊦ 接近; (一°)に出かけること; 生 *Abh-vy.*
upa-sarpitaka ㊦ 接近, ……への進出。
upa-sarpin ㊦ 接近する, 町に出かける。
upa-sādana ㊦ 安置; 尊敬, 敬禮。
upa-Sādh upasādhayati (使役) → Sādh.
upa-sāntvana ㊦ 慰むること, 親切なる勸告; 親切なる言葉。
upasāntvaya ㊦ upasāntvayati 慰む, 勸告す。
upasāntvita ㊦ 慰められたる。
upa-simhāsanam (°ha-ās°) ㊦ 師子座 (simhāsana) の傍に。
upa-sikta ㊦ 灌がれたる。

upa-Sic upasiñcati. → Sic.
upa-sindhu ㊦ *Indus* 河の近くに。
upa-sima ㊦ 境界又は縁邊に近く。
upasukhaya ㊦ 喜悅せしむ。
upa-sunda ㊦ [*Daitya* (*Sunda* の弟)の名]; [或る *Asura* の名]; 鉢孫陶 *Budh-c.*
upa-suparṇam ㊦ *Suparṇa* の傍に。
upa-sūcaka ㊦ 指示する。
upa-sūcita ㊦ 明白にせられたる, 指示せられたる。
upa-Sṛ upasarati. → Sṛ.
upa-Sṛj upasṛjati(-te). → Sṛj.
upa-sṛta ㊦ 近づかれたる; 近づきたる; ……を具へたる; 求められたる。
upa-sṛtavat ㊦ 近づきたる。
upa-Sṛp upasarpati(-te). → Sṛp.
upa-sṛṣṭa ㊦ → Sṛj. 所逼惱 *Abh-vy.*
upa-seka ㊦ 灌ぐこと, 注入。
upa-sekṭṛ ㊦ 灌ぐ者。
upa-secana ㊦ 灌ぐ, 撒く。㊦ 撒布; (料理に)注ぐ汁。
upa-secani ㊦ 乳酪用の匙, 注入用の柄杓又は盃。
upa-sena ㊦ [佛弟子の名] 近護 *Mvyut.*; 優波斯那, 鄔波犀那 *Vin., Mvyut.*; ~ valkatī-putra 優波斯那婆檀提子 *Vin. 5.*
upasena-sūtra ㊦ [佛教經典の名]。
upa-Sev upasevate. → Sev.
upa-sevaka ㊦ (一°)に臣事する; (他人の妻に)媚る。
upa-sevana ㊦ 媚; (一°)との交接; (一°)に對する附加; (一°)に對する耽溺; 尊敬; 挨拶; 敬語; 享樂; 受用; 經驗; 近倚 *Mvyut.*
upa-sevā ㊦ ……との交接; 獻身; (一°)に耽溺すること; 敬禮; 受用, 享樂。
upa-sevin ㊦ 奉仕する; 尊崇する, 禮拜する; (一°)を實行する, ……に没頭する。
upa-s-kara ㊦ (㊦) 道具, 什器; 家庭用具; 筭; 必需品; 什物, 資具 *Bodh-bh.* → bhāṇḍa~.
upa-s-karaṇa ㊦ [同上]。
upa-s-kāra ㊦ 補足又は補足物; → bhāṇḍa~.
upa-s-Kṛ, → Kṛ.
upa-s-kṛta ㊦ → Kṛ. [Pāli. upakkhaṭa] 具. 作 *Sam-r., Prāt-m.*
upa-stabdha ㊦ 支へられたる, 止められたる; 所持, 任持, 所任持, 所扶持, 所輔持, 所持資助; 蒙; 具足; 深植 *Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.* → an~.
upa-Stambh upastabhnāti. → Stabh.
upa-stambha ㊦ 支持, 基礎, 補強; 方策; 刺戟; 生活の資(衣食等); 助, 扶助; 持, 住持; 成; 長養, 増長, 増益; 住, 近住 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Kāśy., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
upa-stambhaka ㊦ 支持する; 激勵する。
upa-stambhana ㊦ 支持, 支柱; 資助, 助成;

相倚, 相依; 攝持; 安立相, 有所建立; 能治, 康強 *Daś-bh., Śikṣ., Madhy-v.:* citta-sarīra-bala ~ 身體充滿氣力康強 *Śikṣ. 37.*

upa-stambhayitavya 應扶助, 增長 *Gaṇḍ-vy.*

upa-stara 下に敷くもの。

upa-staraṇa 擴ぐること; 被覆, 敷團, 敷布 枕。

upa-sti 從者, 召使。

upastire 擴げんが爲に, 覆はんが爲に。

upa-stirṇa 擴げられたる, 撒かれたる, 分布せられたる, ……に覆はれたる; 注がれたる。

upa-Stu upastauti, upastūyate(受). → *Stu I.*

upa-stuti 祈願; 祝賀, 稱讚。

upa-Str upastrṇāti, upastrṇīte. → *Str.*

upa-stha 膝, 御者席, 安全なる場處。男 生殖器(特に女性の); 胯, 袴前, 袴後; 小便處, 男女陰, 人根, 陰藏, 密相 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜.*

upastha-kṛta 足を下に曲げて坐せる。

upastha-daghna 膝に達する。

upastha-nigraha 性欲の抑制。

upastha-pāda = upastha-kṛta.

upa-Sthā upatiṣṭhati(-te), upasthāpayati(使役). → *Sthā.*

upa-sthāka [= upasthāyaka; *Pāli.* upatthāka] *Mvyut.*

upa-sthātāvya 現はるべき(者), 侍すべき(者)。非人 現はれざるべからず, 侍せざるべからず; 應看 *Vin.*

upa-sthātr 近くに居る, 侍者, 給仕; 乳母(女); 出頭する(法律)。

upa-sthāna 出席; 接近; 參列; 奉仕; 敬禮; 集會; 供, 供給, 供養; 事, 承事, 供事; 給侍, 給使, 奉給, 侍從; 看, 看待, 瞻侍, 瞻侍供養; 親近; 具; 住; 處 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Rāstr., Vin., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.:* gauravena ~ sya kartā bhavati 勤修敬事 *Bodh-bh. 139.;* tathāgata-pūjā ~ 供養(諸)如來 *Gaṇḍ-vy. 67. → glāna ~, pūjā ~. ~ m Kṛ 供養 Av-s.*

upasthāna-karaṇatā 承事供養 *Śikṣ.*

upasthāna-guru 須給侍, 須供事者 *Śikṣ.*

upasthāna-gṛha 集會場, 謁見室。

upasthāna-paricaryā 供事, 給使, 給侍, 供給, 承事行, 承事供給 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh.*

upasthāna-sālā [Pāli. upatthāna-sālā] 堂, 講堂, 衆會堂, 勤行堂 (*Divy.*); 經堂, 勤行堂; 常食堂 *Divy., Mvyut.*

upasthānābhyutthita 承事 *Daś-bh.*

upa-sthāpayitavya 齎らさるべき; 得らるべき; 應受; 應畜, 蓄, 看, 看養畜 *Divy., Vin., Bodh-bh.*

upa-sthāyaka 召使, 從者(使役); 侍者, 侍從; 給仕, 給侍, 給事, 承事; 給事(弟子); 看病人, 安養病人 *Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Suv-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.;* 事力 [*Tib.* shal-ta-

byed-pa] *Bodh-bh. 136.* 形 (女 -yikā) 供養 *Lal-v.:* susamartha ~ yikāḥ (女) 堪供養 *Lal-v. 91.*

upasthāyaka-vaiguṇya 乏事力, 事力闕少 *Bodh-bh.*

upa-sthāyika 召使, 從者; 看病人; 給事 *Divy.*

upa-sthāyikā 侍女 *Divy., Aṣṭ-pr.*

upa-sthāyin = upa-sthātr.

upa-sthāyuka 近くに行く, 接近する。

upa-sthāvan 近くに立てる。

upa-sthi 生殖器(特に女性の)。

upa-sthita 過受分 → *Sthā.* 事, 承事; 至, 臨; 現在前; 住; 受 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.:* karmanām phalam ~ m 受此業報 *Divy. 413.*

upasthita-smṛti 安住正念, 常一共心 *Aṣṭ-pr.*

upasthita-smṛtitā 專念 *Bodh-bh.*

upa-sthūṇa [地名] 鄒波率吐奴 *Mvyut.*

upa-stheya 給仕せらるべき; 尊敬せらるべき。

upa-snāna 浴, 澡浴 *Abh-vy.*

upa-Snih upasnihyate, upasnehayati(使役). → *Snih.*

upa-snihiti 濡るゝこと, 濕ること。

upa-snuta 流れしめられたる, 流るゝ。

upa-sneha 濕潤ならしむること, 濡るゝこと, 濕氣を引くこと。

upa-sparśaka [同下] (*Divy.*)。

upa-sparśana 接觸すること; 水浴, 垢離; 口を漱ぐこと; 禮 *Divy.:* tirtha ~ 禮天廟 *Divy. 484.*

upa-sparśin 接觸する; (一)中に沐浴する。

upa-Sprś upasprśati, upasparśayati(使役). → *Sprś.*

upā-sprś 接觸する。愛撫。

upa-sprśya 水に觸れて, 水にて口を漱ぎて; 洗淨, 淨六根 *Mvyut.*

upa-sprṣṭa 過受分 → *Sprś.*

upa-Smṛ upasmarati. → *Smṛ.*

upa-smṛti [小法律書の名]。

upa-sravaṇa 溢出すること。

upa-svasṛ 姉妹 *Abh-vy.*

upa-sveda 濕氣; 汗。

upa-hata 過受分 → *Han.* 損, 有損, 所損, 損壞, 所損害; 害, 所害, 危害, 所侵害; 所壞, 破壞, 沮壞; 傷, 傷損, 傷害; 失; 退; 衰, 衰息; 憎背, 嫌鄙; 不具; 散亂 *Divy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Suv-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.:* kṛtas ca ~ s ca 損傷, 傷損, 有損有苦 *Aṣṭ-pr. 645. → an ~.*

upahata-citta 心生嫌鄙 *Bodh-bh.*

upahatātman (°ta-āt°) 眩惑せられたる, 欺かれたる。

upa-hati 壓迫; 傷害, 加害; 塵埃; 損害, 惱壞, 動亂 *Śikṣ., Bodh-bh.*

upahatendriya (°ta-in°) 身不具, 諸根不具

Suv-pr.

upa-hatnu 形 攻撃する, 打つ, 傷つくる, (敵を) 亡ぼす.**upa-Han** upahanti, upajighnate, upahanyate(受). → Han.**upa-hantavya** (未受分) 殺さるべき.**upa-hanṭṛ** 形 傷つくる, 破壊する; 有害なる, 不健全なる.**upa-haraṇa** 申 奉納, 寄贈.**upa-haraṇīya** (未受分) 與へらるべき, 贈呈せらるべき.**upa-hartavya** (未受分) 捧呈せらるべき, 犠牲に供せらるべき.**upa-hartṛ** 男 (食事を) 供する者, 捧呈者.**upa-hava** 男 呼ぶこと, 招待.**upa-havya** 男 補足の犠牲.**upa-Has** upahasati, upahāsayati(使役). → Has.**upa-hasita** (通受分) → Has.**upa-hastikā** 女 薬醬(??)を容るゝ箱.**upa-Hā** upajihite. → Hā I.**upa-hāra** 男 供物; 犠牲; 贈呈品, 進物; 賠償によりて得たる平和. ~m vi-DHā (業)に供物を捧ぐ.**upa-hāraka** 男 [同上].**upa-hāratā** 女 祭式の供物たること.**upa-hāratva** 申 [同上].**upahāra-pāsu** 男 犠牲の動物.**upahāra-pāṇi** 形 手に供物を持ち來れる.**upa-hāramaya** 形 (女 -i) 供物より成る (Jāt-m.).**upahāra-varman** 男 [人名].**upa-hārikā** 女 =upahāra.**upahāri-Kṛ**, (業)を捧ぐ, ……を供ふ.**upahāri-cikirṣu** (希求) 形 (業)を供物として捧げんと欲する.**upa-hārya** (未受分) 供物として捧げらるべき. 申 供物.**upa-hāsa** 男 哄笑, 嘲笑, 愚弄; 娛樂, 冗談, 滑稽.**upa-hāsaka** 申 諧謔, 道化, 嘲笑.**upa-hāsaniyatā** 女 =upahāsyatā.**upa-hāsin** 形 嘲笑する.**upa-hāsya** (未受分) 嘲笑せらるべき, 愚弄せらるべき.**upa-hāsyatā** 女 嘲笑. ~m Gam 笑種(??)となる, 嘲弄せらる.**upa-Hims** upahimsati(-te). → Hims.**upa-hita** (通受分) (一°)に制約せられたる. → DHā I.**upa-hitatva** 申 (一°)に制約せらるゝこと.**upa-Hu** upajuhoti. → Hu I.**upa-hūta** (通受分) 呼ばれたる, 招かれたる.**upa-hūti** 女 挑戦.**upa-Hṛ** upaharati(-te), upahārayati(使役). → Hṛ I.**upa-homa** 男 追加の犠牲.**upa-hvara** 男 傾斜地; 凹凸ある地, 荒れたる地; 邊鄙の地; 近隣. ~e 因 私かに; 近くに.**upa-Hvā** upahvayate. → Hve.**upa-hvāna** 申 招待すること; 招待.**upa-Hvṛ** upahvarate. → Hvṛ.**upāmsu** 副 [Soma 奉獻の際に] 沈黙して; 秘密に; 私かに; 低聲にて; 囁聲にて. 男 默禱; 黙禱, 黙口 Mvyut.**upāmsu-kriḍita** 形 秘かに弄ぶ, 内密の娛樂に關與する. 男 (王の内密の娛樂の相手).**upāmsutā** 女 低聲又は囁聲にて言ふこと.**upāmsutva** 申 [同上].**upāmsu-daṇḍa** 男 私かに加へらるゝ刑罰.**upāmsu-yāja** 男 默禱又は低聲の祈禱を以て捧げられたる供儀.**upāmsu-vadha** 男 暗殺.**upāmsu-vrata** 申 私かに行はるゝ誓約, 密約.**upā-karaṇa** 申 近くへ持ち來ること; 著手, 開始; 準備; (Vedaの學習を)始むること.**upākaraṇaya** (名動) → ākaraṇaya.**upā-karman** 申 =upākaraṇa.**upā-Kṛ**(upa-ā-Kṛ) upākaroti, upākurute. → Kṛ.**upā-kṛta** (通受分) 近くへ持ち來されたる; 準備せられたる, 著手せられたる.**upākta** (通受分) 油を塗られたる.**upākṣa** 男 [車軸を支ふる部分の名].**upā-khyā** 女 異名, 稱號.**upā-khyāna** 申 小話, 挿話.**upā-khyānaka** 申 [同上].**upā-gata** (通受分) → Gam. 得, 來 Rāstr., Sūtr.**upā-Gam**(upa-ā-Gam) upāgacchati. → Gam.**upā-gama** 男 到着.**upā-Gā**(upa-ā-Gā) upāgāti. → Gā.**upā-gṛhya** (不乗分) (業)と俱に.**upāgnika** 形 その傍にて祭火の祀られたる.**upāgnikā** 女 祭火の前にて結婚せる女; 正(式に婚姻せる)妻.**upā-GHrā**(upa-ā-GHrā) upājighrati(-te). → GHrā.**upāṅga** 1. 申 肢節; 從屬物; 部門; 餘録; [Vedāṅgaの追加的要素 (Purāṇa, Nyāya, Mīmāṃsā, Dharma-sāstra 等)]; [歌詠の一様式の名]; 別(相) Sikṣ.**upāṅga** 2. 男 (油を)塗ること.**upāṅga-gita** 申 合唱用の歌曲.**upā-carāṇa** 申 (屬)に侍すること.**upā-cāra** 男 進行.**upā-cikirṣu** 形 ……を爲さんと願へる, ……に著手せんとする.**upā-cirṇa** (通受分) 欺かれたる.**upācyutam** 副 Acyuta(即ち Kṛṣṇa)の傍に.**upāj**(upa-Aj) upājati. → Aj.**upāñjana** 申 油を塗ること; (淨むる爲に地上に牛糞等を)塗ること.**upātivṛtta** (通受分) [Pāli. upātivatta] (業)を超越したる或は脱したる, ……を離れたる (Mah-v. III. 281).**upātta** (upa-āt°) (通受分) → Dā I. 取, 所取, 心取; 受, 有受, 所受, 執受, 先所受, 有執受; 執持, 執依, 所執; 所攝, 攝受, 護攝; 所拘; 負 Lal-v., Daś-bh., Lank., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.,

Mvyut.; 舉貸 [Tib. bu-lon] Abh-vy.: ~sya parata ṛnasya 舉貸他物, 若負人債 Bodh-bh. 256. → an~.

upāṭṭa-varṇa 形 歌に詠まれたる, 稱讚せられたる.

upāṭṭa-vidya 形 知識を得たる, 學識ある.

upāṭṭa-sāra 形 その精髓を得たる.

upāṭṭika (upa-āt°) 形 執受 Abh-k.: an~ 無執受 Abh-k. IV. 5.

upā-datta 通受分 有受, 有取 Madhy-v.

upā-Dā(upa-ā-Dā) upādatte. → Dā 1.

upā-dāṭṭ 男 能取, 能取者 Lan̄k., Abh-vy.

upā-dāna 中 取得, 捕獲; 專用; 理解, 會得; 許容, 包容; 雇用, 使用; 陳述, 説明; 引用; 原因, 動機, 質料因; 取, 所取, 可取, 近取, 取著, 攝取; 受, 諸受, 執受, 攝受; 追求 Saddh-p., Lan̄k., Bodh-c., Śikṣ., Vijñ-t. (=upādi), Madhy-v., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sāṃkhy-k., Dharm-s., Mvyut.; 因 Sāṃkhy-k.; 身 Madhy-v. → an~, nir~.

upādāna-kāraṇa 中 近因; 現取因, 近取因 Mvyut.

upā-dānatā 女 資料因たること.

upā-dānatva 中 [同上].

upādāna-nirodha 男 取滅 Suv-pr.

upādāna-pratyaya 男 取緣 Suv-pr.

upādāna-skandha 男 取蘊, 取陰 Śikṣ., Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Bodh-bh., Mvyut.: pañca ~āḥ 五取蘊 [1. rūpa-skandhaḥ 色蘊, 2. vedanā-skandhaḥ 受蘊, 3. saṃjñā-skandhaḥ 想蘊, 4. saṃskāra-skandhaḥ 行蘊, 5. vijñāna-skandhaḥ 識蘊] Mvyut.

upādāna-hetu 男 取因 Mvyut.

upā-dāniya 未受分 取 Abh-vy.

upā-dāya 不變分 → Dā 1. [Pāli. 同] …の故に, …の爲に, 比して, 傍らに, 關して (Divy.); 由, 由…故, 故, 以…故, 依, 依止; 從, 至, 從…乃至, 始從…乃至; 得; 所造, 作 Divy., Aṣṭ-pr., Lan̄k., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.: prathamam cittotpādam ~ bodhāya 由初發心求菩提故 Bodh-bh. 19.; mahā-bhūtāny ~ 依止大種, 四大所造 Abh-vy. 29.; yāvat-keśa-paryantam ~ 遍至髮際 Divy. 71. → an~.

upādāya-rūpa 中 所造色, 作色 Bodh-bh., Mvyut.

upā-di 男 [=upādāna] 執受 Vijñ-t. → nir~.

upā-dipta 通受分 燃えたる, 輝ける.

upā-deya 未受分 [Dā 1.] 受けらるべき, 選擇せらるべき; 優秀なる; (一°)に含まれたる.

upā-DHā(upa-ā-DHā) upādadhāti, upādhatte. → DHā.

upā-dhi 男 代用又は代理; (一°)の項下に包括せらるべき全體; 稱號, 綽名; 條件, 限定, 限定辭; 假定; 要請; 痕跡, 標幟.

upādhyāya 男 教師, 師匠; 師, 師主, 大師, 師長; 親教, 親教師; 近誦 Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy.,

Bodh-c., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 卷雜; [Pāli. upajjhāya] 和尚, 和上, 和闍; 鄔波陀耶, 鄔波駄耶, 鄔波陀耶, 郁波第耶夜, 郁波弟耶夜 Divy., Gaṇḍ-vy., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.: ācārya ~ 和尚阿闍梨 Śikṣ. 37. → upajjhāya.

upādhyāyā 女 女教師.

upādhyāyāni 女 教師の妻.

upādhyāyi 女 [同上]; 女教師.

upādhyāyi-Kṛ, 教師として撰ぶ, 教師に指定す.

upādhyāyū 男 Adhvaryu 祭官に準ずべき祭官.

upā-natka 男, —° 形 =upānaha.

upā-nad-gūḍha 形 靴にて覆はれたる, 靴を穿てる.

upā-nad-yuga 中 一對の靴.

upā-nayana 中 (新妻を)伴ひ來ること.

upā-nah 女 (種-nat) 履, 靴; 鞋, 靴, 革履 Prāt-m., Mvyut.

upā-naha 男 [特に —°] [同上]; 屣, 屣, 革屣, 革履, 鞋履 Divy., Vin., Bodh-bh.

upā-nahin 形 靴を穿てる.

upā-Ni(upa-ā-Ni) upānayati(-te). → Ni.

upānta 中 終末に近きこと; 境界, 緣(?), 目頭又は背(詩); 郊外; 隣接. ~m 圖(圓), ~āt 圖(從), ~e 圖(於), °—圖(圓, —°)の傍に或は近くに, …の近傍に, …の方へ.

upānta-bhāga 男 邊(?), 杵(?), 境界.

upāntika 中 附近. ~m 圖(圓)まで. ~āt 圖(從) …の近くに, 近くより. ~e 圖(於) …の近くへ或は中へ.

upāntima 形 終より一つ前の.

upāntya 形 =upāntika.

upāp(upa-Āp) upāpnoti. → Āp.

upāpti(upa-āp°) 女 到達, 獲得.

upābhigada 形 多く語る能はざる.

upā-bhṛti 女 近くに持ち來すこと.

upāmantraya 名動 → mantraya.

upāmantrita 通受分 話しかけられたる; 招聘又は勸請せられたる.

upāmantrya 不變分 話しかけて, 呼びて; 去りて, 別を告げて.

upāya 男 接近, 到著; 手段; 方策, 工夫, 策略, 技巧; 方便, 方計, 巧便, 權, 權方便; 如法; 因緣, 因緣方便 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Kāśy., Lan̄k., Śikṣ., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Bodh-bh., Mvyut.: 六種方便 [1. ānulomikāḥ 隨順會通, 2. vibandha-sthāyin 共立要契, 3. visabhig'āsayāḥ 異分意樂, 4. avastambha-jāḥ 逼迫所生, 5. kṛta-pratikṛtikāḥ 施恩報恩, 6. viśuddhaḥ 究竟清淨] Bodh-bh. 264. → abhy~. [音寫] 烏卑夜 Guhy-s. ~ena 圖(圓), ~tas 圖(圓) 如才なく, 器用に, 方便を以て.

upāya-kuśala 形 方便善巧, 善巧方便, 善知方便, 善巧方便(心) Aṣṭ-pr., Suv-pr.

upāya-kausalā 形 巧方便, 善方便, 方便善巧 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.

upāya-kausalatva 中 巧便 Bodh-bh.

upāya-kausalāya 中 善權, 巧方便, 方便善巧, 善巧方便, 大方便力 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lan̄k., Śikṣ.,

Bodh-bh.; [經名] 善方便經 *Mvyut.*
pāyakaśālyā-gatim-gata 形 善達方便, 得究竟大方便解 *Lank.*
pāyakaśālyā-jñāna-nidarśana 中 方便知見 *Saddh-p.*
pāyakaśālyā-pāramitā 女 (音寫) 方便波羅蜜, 方便善巧波羅蜜多 *Saddh-p., Madhy-vibh.*; (音寫) 漚瑟拘舍羅波羅蜜 *Madhy-vibh.*
pāyakaśālyā-sūtra 中 方便善巧經 *Sikṣ.* [大乘方便經(大寶積經第三十八會), 大方廣善巧方便經, 慧上菩薩問大善權經].
pāya-catustāya 中 (敵に對する) 四の方策.
pāya-cintā 女 方策の案出.
pāya-jña 形 手段を知れる, 方策に富める.
pāya-jñāna 中 知方便 *Sūtr.*
pāyajñāna-kuśala 形 善巧方便(智) *Mvyut.*
pāyatas 副 → *upāya.*
pāyatā 女 方便 *Madhy-vibh.*
pāya-turiya 中 (敵に對する 四方策中の) 第四の方策即ち暴力.
pāyatva 中 方策を持つこと; 行 *Sūtr.*
pāya-dhātu-nikṣepa 男 方便留身骨 *Sav-pr.*
pāyana 中 接近; 弟子入すること; 從事すること; 贈物, 供物.
pāya-naya-yukti 女 方便隨機 *Sikṣ.*
pāyani-Kṛ, ……を贈呈す, 恭しく捧ぐ; 尊敬す.
pāya-pāramitā 女 方便到彼岸; (音寫) 方便波羅蜜, 方便波羅蜜多 *Mvyut.*
pāya-bodha 男 方便覺 *Sūtr.*
pāya-yukta 形 方便相應 *Bodh-bh.*
pāya-samvidhāna 中 畫方便 *Divy.*
pāya-samgrhita 形 方便所攝 *Bodh-bh.*
pāya-saṃdarśana-ja 形 有效なる手段の發現より生ずる.
pā-Yā (upa-ā-Yā) *upāyāti.* → *Yā.*
pā-yāta 通受分 接近せる. 中 到着.
pāyāsa (upa-āy°) 男 惱み, 困難, 當惑; 不安, 騷亂, 落つかざること (*Divy.*); 惱, 苦惱, 憂惱, 擾惱, 熱惱; 患; 勞倦; 迷亂 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lank., Daś-bh., Madhy-v., Bodh-bh., Mvyut.*; 啼泣 *Kāśy.*; 罪垢 *Sikṣ. 77.* → *an~.*
pāyin 形 接近する.
pāyu 形 [同上].
pā-Yuj (upa-ā-Yuj) *upāyunakti.* → *Yuj.*
pāyopeya (ya-up°) 中 手段と目的.
pār (upa-R) *upārpayati* (使役). → *R.*
pāra 男 罪, 犯罪.
pāraṇa 中 [同上].
pā-rata 通受分 → *Ram.*
pā-Ram (upa-ā-Ram) *upāramati* (-te). → *Ram.*
pā-rama 男 止(+)むること.
pā-rambha 男 [Pāli. 同, = *upālambha*]; 過, 過失; 能屈, 摧伏; 惱亂; 所難, 難詰 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh.*
pārambha-kara 男 [= *upālambha-kara*]; 能難 *Aṣṭ-pr.*

upā-Rādḥ (upa-ā-Rādḥ), → *Rādḥ.*
upā-rāma 男 休息.
upā-Ruh (upa-ā-Ruh) *upārohati.* → *Ruh.*
upā-rūḍha 通受分 → *Ruh 2.*
upā-rodha 男 殺害 *Bodh-bh.*
upārj (upa-Arj) *upārjati.* → *Arj.*
upārjana 中 取得; 修 *Sikṣ.*: *punya~* 修功德 *Sikṣ. 164.*
upārjanā 女 [同上]
upārjita 通受分 [Arj] 取得せられたる; 得, 所有; 積, 所集; 所成 *Lal-v., Av-ś., Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.*
upārjya 未受分 取得せらるべき.
upārdha 形 [Pāli. *upaddha*] 半分の; 半 *Divy.* 中 前半; 半分 (*Lal-v.*); 半, 一分 *Divy., Av-ś.*
upālakṣaya 名動 → *lakṣaya.*
upālam-Kṛ, → *Kṛ.*
upālam-kṛta 形 飾られたる.
upā-Lap (upa-ā-Lap), → *Lap.*
upā-labdha 通受分 非難せられたる, 惡口せられたる; 難問 *Madhy-v.*
upā-labdhavya 未受分 非難せらるべき.
upā-Labh (upa-ā-Labh) *upālabhate.* → *Labh.*
upā-labhya 未受分 = *upālabdhavya.*
upā-lambha 男 叱責, 非難, 譴責; 禁止; 難, 難問, 難詰; 輕慢; 過, 過失 *Saddh-p., Madhy-v., Bodh-bh., Mvyut.*; 尋 *Mvyut.*
upā-lambhana 中 [同上].
upā-lambha-viśaya 形 非難せらるべき對象を知る.
upā-lambhābhiprāya 男 尋彼事, 難詰心 *Mvyut.*
upāli 1. 副 主婦の面前にて, 女友の前にて.
upāli 2. 男 [佛弟子の名] 近執 *Mvyut.*; (音寫) 鄔波離, 優波離, 優婆離 *Sikṣ., Abh-vy., Vijñ-v., Mvyut.*
upāli-paripṛcchā 女 (音寫) [經名] (音寫) 優波離所問經 *Sikṣ.*; [優波離會(大寶積經第二十四會), 決定毘尼經].
upāli-sūtra 中 (佛敎) [經名] 優婆離經(中阿含第百三十三經)].
upāv (upa-Av) *upāvati.* → *Av.*
upāvanata 通受分 屈める.
upāva-Ruh *upāvarohati, upāvarohayati* (使役). → *Ruh.*
upāvarohaṇa 中 摩擦による點火.
upāvartana (upa-ā-v°) 中 歸還.
upāvasāyin 形 (圖) に服従する, 從順なる.
upā-vasu 形 富を得る.
upāva-Sṛj *upāvasṛjati.* → *Sṛj.*
upāvasṛṣṭa 通受分 → *Sṛj.*
upā-Vah (upa-ā-Vah) *upāvahati.* → *Vah.*
upāvaharaṇa 中 取り下すこと.
upāva-Hṛ *upāvaharati.* → *Hṛ 1.*
upā-Vṛt (upa-ā-Vṛt) *upāvartate* (-ti), *upāvartayati* (使役). → *Vṛt.*
upā-vṛt 女 歸還.
upā-vṛta 通受分 覆はれたる.

upā-vṛtta (通受分) → Vṛt.
upā-vṛtti (女) 歸還.
upās (upa-Ās) upāśnoti, upāśnute(1.); upāśnāti(2.).
 → Ās 1, 2.
upā-śamsaniya (未受分) 期待せらるべき, 望まらるべき.
upā-ścarat (現分) → Ścar.
upā-śraya (男) 支持又は庇護すること或はするもの; 庇護; 枕, 容器; (釋) 榻, 牀敷 Rāṣṭr.
upā-Śri (upa-ā-Śri) upāśrayati. → Śri.
upā-śrita (通受分) → Śri. (釋) 依 Sūtr.
upā-śritya (不變分) → Śri.
upā-Śliṣ (upa-ā-Śliṣ), → Śliṣ.
upā-śliṣṭa (通受分) ……を握り締めたる.
upās 1. (upa-As), upāsti. → As 1.
upās 2. (upa-Ās) upāste. → Ās.
upāsaka (upa-ās°) (形) (女) -ikā) 奉仕する. (男) 召使; 従者; 崇拜者; 信者(特に佛陀の); (釋) 近事, 近宿, 善宿, 近事男, 近善男, 近宿男, 善宿男; 在家, 居士; 清信士 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Prāt-m., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 立應; (音寫) 優婆塞, 優婆索, 鄒波索迦, 優波娑迦, 優婆娑柯 Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sam-r., Abh-vy., Mvyut., 立應.
upāsaka-rūpa (中) (釋) 清信士形; (音寫) 優婆塞身 Saddh-p.
upā-saṅga (男) 箠(き), 箭筒.
upāsana 1. (upa-ās°) (中) 隨侍; 尊敬; 歸依, 崇拜; 實行; 家庭の祭火; 座席; (釋) 承事, 近事 Sūtr., Mvyut.
upāsana 2. (中) (矢を)射ること, 弓術の練習.
upāsana (upa-ās°) (女) 尊敬.
upā-sādita (通受分) 出逢へる, 近づける.
upāsikā (upa-ās°) (女) 在家女性の佛教信者; (釋) 近事女, 近善女, 清信女, 在家 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 立應; (音寫) 優婆夷, 鄒波斯迦, 優波賜迦, 優婆私呵 Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Suv-pr., 立應.
upāsikā-rūpa (中) (釋) 清信女形; (音寫) 優婆夷身 Saddh-p.
upā-sita (通受分) → Sā 2.
upāsitavya (upa-ās°) (未受分) 尊敬せらるべき; 従事せらるべき, 成し遂げらるべき.
upāsitāvin (upa-ās°) (通能分) 尊敬する(者).
upāsitr (upa-ās°) (形) 尊敬する, 歸依する.
upāstamana-velā (女) 日没の時刻.
upāsti (upa-ās°) (女) 崇拜, 祭祀.
upāstra (中) 附隨的武器.
upā-sthita (通受分) ……に獻身せる: (車に)乗れる.
upāsya (upa-ās°) (未受分) 尊敬せらるべき.
upā-Hiṅḍ (upa-ā-Hiṅḍ) upāhiṅḍamāna(現分). → Hiṅḍ.
upā-hita (通受分) → DHā 1. (中) 大火, 火災.
upā-Hṛ (upa-ā-Hṛ) upāharati(-te). → Hṛ 1.
upā-hṛta (通受分) 齧らされたる, 與へられたる; 準備せられたる.

upita (通受分) [Vap 2.] 蒔かれたる.
upe (upa-ā-I) upeti. → I.
upekṣ (upa-Īkṣ) upekṣate(-ti). → Īkṣ.
-upekṣa (upa-ik°) (形) (釋) 待觀, 相待, 因待 Lanḅ.
upekṣaka (形) 注意せざる, 無頓著なる, 無關心なる; (釋) 捨, 棄, 放捨, 捨住 Daś-bh., Suv-pr., Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh., Sāmkhy-k., Mvyut.
upekṣaṇa (中) 看過, 無頓著; 懈怠; 放縱; 寛大; (釋) 捨, 棄捨, 除捨, 放捨 Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.
upekṣaniya (未受分) 無視せらるべき, 看過せらるべき, 無頓著なる.
upekṣā (女) 看過, 無頓著; 怠慢; (釋) 捨, 行捨, 除捨, 棄捨; 不遮 Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Sūtr., Śikṣ., Abh-k., Vijñ-t., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.; 待, 相待, 觀待 Lanḅ.: duṣkṛtānām ~yām (adharmo vardhate) 若見惡不遮 Suv-pr. 126. → ātma~.
upekṣā-nimitta (中) (釋) 捨相 Bodh-bh.
upekṣā-vihārin (形) (釋) 住捨, 安住捨, 常行捨 Aṣṭ-pr., Mvyut.
upekṣā-vedaniya (形) (釋) 順捨受, 捨受好 Abh-vy.
upekṣāśaya (śā-ās°) (男) (釋) 捨意樂 Bodh-bh.
upekṣā-sambodhy-aṅga (中) (釋) 捨菩提分, 捨覺支 Dharm-s., Mvyut.
upekṣita (通受分) 見られたる; 無視せられたる, 看過せられたる; (釋) 棄而去 Divy.
upekṣitavya (未受分) 見らるべき, 注意せらるべき; 無視せらるべき, 見落さるべき.
upekṣendriya (śā-in°) (中) (釋) 捨根 Mvyut.
upekṣya (未受分) = upekṣitavya.
upeta (upa-ita) (通受分) → I. (釋) 具, 具足, 具修; 有; 成, 成就; 殖; 圓備, 圓滿 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Guhy-s., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut. → an~, abhy~, aṣṭāṅga~ pāniya.
upeta-kāya (形) (釋) 具身 Vajr-pr.
upeta-pūrva (形) 以前に教師に就きしことある.
upetr (upa-itṛ) (男) 計畫者, 方策を用ふる者; 敵意を抱ける者.
upendra (upa-in°) (男) [(Indra 神の次後に生れたる), Viṣṇu 神又は Kṛṣṇa 神の稱]; (釋) [龍王の名] 近主 Mvyut.
upendra-datta (男) [Suka 其他の人名].
upendra-vajrā (女) [音律の一種].
upendra-śakti (男) [或る商人の名].
upendhya (upa-in°) (未受分) 點火又は燃焼せらるべき.
upepsā (upa-ip°) (女) 取得せんとする欲望.
upeya (未受分) [I] 計畫せらるべき, 従事せらるべき; 目的とせらるべき; (肉的に)接近せらるべき.
upeyivat (形) [I] (釋) 來 Saddh-p.
upeyivas (三過分) [I] ……に赴きたる.
upodha (upa-ūdhā) 1. (通受分) 結婚せる. → Vah.
upodha (upa-ūdhā) 2. (通受分) → Ūh 1.
upodhā (女) 妾.
upottama (upa-ut°) (形) 終より一つ前の.
upotthā (upa-ud-Sthā) upottisthati. → Sthā.

upotthita (upa-ut°) (通受分) ……に向けて起れる, 接近せる, 近くに來れる.
upodaka (upa-ud°) 形 水に接近せる.
upodaki 女 [草の名, 學名 *Basella Cardifolia*].
upodayam (upa-ud°) 副 日出の頃に.
upod-ā-Srp (upa-ud-ā-Srp) upodāsarpati. → Srp.
upod-ā-Hṛ (upa-ud-ā-Hṛ) upodāharati. → Hṛ I.
upod-Grah (upa-ud-Grah) upodgrhñāti. → Grāh.
upodghāta (upa-ud°) 男 緒論; 開始; 適切なる實例.
upod-dhan (upa-ud-Han), upodghātayati(便役). → Han.
upodbala (upa-ud°) 中 (漢譯) 増力 *Mvyut.*
upodbalaka (upa-ud°) 形 支持する; 斷言する. 是認する.
upodbalatva (upa-ud°) 中 [同上(中)].
upodbalaya (名動) 他 支持す; 斷言す. 是認す.
upopayāta (upa-up°) (通受分) ……に到達せる, 接近せる.
upoṣ (upa-U.) upoṣati. → Uṣ.
upoṣaṇa (upa-uṣ°) 中 斷食.
upoṣaṇiya-prabha 形 [Amitābha 佛の屬性] (*Sukh-vy. I.*).
upoṣadha 男 (俗) [<upavasatha]; (漢譯) 齋戒, 勝修, 修淨行, 守飢行 *Mvyut.*; (音寫) [王の名] 布沙陀 *Divy.*
upoṣadhika 形 (俗) [*Pāli.* upoṣathika] 斷食する (*Mah-v.*).
upoṣadhoṣita (°dha-uṣ°) 形 斷食を守る (*Divy.*).
upoṣita (upa-uṣ°) (通受分) → Vas 3. 中 斷食; (漢譯) 修法行 *Lal-v.*
uposatha 男 (俗) [<upavasatha]; (漢譯) 増長, 淨住, 我對説^{之應}; (音寫) [poṣadha, poṣatha?] 布薩, 布沙他, 逋沙他, 布麗他^{之應}.
upoh (upa-Ūh) upohati, upohyate(受). → Ūh I.
upoha (upa-ūha) 男 蓄積の行爲, 積み上ぐること.
upta (通受分) → Vap 1, 2. (漢譯) 種 *Mvyut.*
upti 女 播種.
upyamāna (受) (現分) 蒔かる^レ.
u-pratyaya 男 接尾音 u.
Ubj, VI. 他 ubjati 抑ふ, 制す.
Ubh, VI. 他 umbhati, IX. 他 ubhnāti; VII. 他 unapti 編む, 縛る; 壓縮す, 害す; 幽閉す.
ubha 形 (兩) 兩方; (漢譯) 兩, 二, 俱 *Lal-v., Abh-vy., Bodh-bh.*
ubhaya 形 (女-i) [單及複] 兩方の; (漢譯) 二, 二種; 共, 俱, 兩俱, 兩種 *Lank., Bodh-bh., Sūtr., Madhy-v., Abh-vy., Nyāy-pr., Sāmkhy-k.*
ubhaya-karma-ja 形 (漢譯) 俱業生 *Vaiś-s.*
ubhaya-kāma 形 兩者を希望する.
ubhaya-kṛta 形 (漢譯) 二俱作, 自他俱作, 自他合生, 從自他合生 *Madhy-v.*
ubhaya-kaivalya 中 (漢譯) 二獨存 *Sāmkhy-k.*
ubhaya-guṇa 形 二様の性質を有する.
ubhayam-kara 形 兩者をなす或は結果する.
ubhaya-cakra-vartin 形 兩世界を支配する.

ubhaya-cārin 形 兩方(夜と晝)に行く或は動く.
ubhaya-cihna 形 二個の標識を有する, 二様の特性を有する.
ubhayataḥ-kālam 副 兩時に(即ち食時の前後に).
ubhayataḥ-kṣnut 形 二の端を有する.
ubhayataḥ-pad 形 [男(體) -pāt] 兩足を有する或は用ふる.
ubhayataḥ-parigṛhita 形 兩側より包圍せられたる.
ubhayataḥ-prajña 形 (内外)兩面に智慧を向けたる.
ubhayataś-cakra 形 兩側に車輪を有する, 兩輪を有する.
ubhayatas 副 (業, 圖) 兩側より, 兩方に, 兩方へ; 兩様の場合に.
ubhayatas-tikṣṇa 形 兩端又は兩縁の鋭き(槍等).
ubhayataḥ-sasya 形 二毛作の, (年内に)二期に收穫ある.
ubhayato-lyotis 形 兩側に燈火を有する.
ubhayato-dat 形 上下の顎に齒を有する.
ubhayato-dant 形 [同上(圖(圖))].
ubhayato-danta 形 = ubhayato-dat.
ubhayato-dvāra 形 兩側に門ある.
ubhayato-dhāra 形 兩側に刃を有する.
ubhayato-nābhi 形 兩側に轂(車)を有する.
ubhayato-bhāga 男 (漢譯) 俱, 俱分 *Abh-vy., Mvyut.*
ubhayato-bhāga-vimukta 形 (漢譯) 俱分解脫, 俱解脫人 *Abh-vy., Mvyut.*
ubhayato-mukha 形 兩側に口を有する(瓶).
ubhayato-vāha 形 兩側より流る^レ.
ubhayatra 副 兩方の場處に, 二様の場合に; (漢譯) 俱 *Nyāy-pr., Abh-vy.*
ubhayatva 中 (漢譯) 俱 *Lank.*
ubhayathā 副 兩様の手段にて; 二様の場合に; (漢譯) 二 *Abh-vy.*
ubhaya-doṣa-prasaṅga 男 (漢譯) 俱有過, 二俱有過, 二(邊)應有過失 *Lank.*
ubhaya-dharmāsiddha 男 (漢譯) 兩俱不成 *Nyāy-pr.*
ubhaya-pakṣa 男 (漢譯) 俱品 *Nyāy-pr.*
ubhayapakṣaika-deśa-vṛtti (°ṣa-ek°) 女 (漢譯) 俱品一分轉 *Nyāy-pr.*
ubhaya-pad 形 兩足を有する.
ubhaya-pārsvatas 副 兩側に (*Buddh-c.*).
ubhaya-prāpti 形 雙方の格に妥當なる(文法); 二様の場合に有效なる.
ubhaya-vamśya 形 兩氏族に屬する.
ubhayavat 形 兩者を含める, 兩者を具備せる.
ubhaya-vidha 形 兩種の.
ubhaya-vidhatva 中 (漢譯) 具二, 有二種 *Abh-vy.*
ubhaya-vivarjita 形 (漢譯) 俱非 *Bodh-bh.*
ubhaya-vetana 形 雙方より賃金を受くる, 二主に事ふる.
ubhaya-vyañjana 形 (漢譯) 二形, 二根 *Abh-vy.* 中 兩性の特徴を有する者, 雌雄同體. 男 (漢譯) 二形人, 二根人 *Abh-vy.*

ubhaya-vyañjanaka 形 二根者, 二相者 *Mvyut.*
ubhaya-vyābādha 男 俱害, 自他惡 *Ast-pr.*
ubhaya-saṃcara 形 具二種行 *Lank.*
ubhaya-sāmnidhya 中 具二 *Bodh-bh.*
ubhaya-snātaka 形 (徒弟年期と戒行との)二を完了して垢離を行へる.
ubhayā 副 二様の手段にて.
ubhayātmaka (°ya-āt°) 形 兩方(の組)に屬する, 兩種の性質を有する.
ubhayā-da 形 上下の類に齒を有する.
ubhayānta-kathā 女 俱異説, 説二異俱 *Lank.*
ubhayāya 名動 兩者を表はす.
ubhayāyin (°ya-āv°) 形 兩方(の世界)に豫定せられたる或は適せる.
ubhayāvin 形 兩側に在る, 兩方に參與する.
ubhayāvṛtti (°ya-āv°) 女 同一の音形と意味とを有する語を繰返し用ふること(修辭).
ubhayāvyāvṛtta 男 俱不遺 *Nyāy-pr.*
ubhayāsiddha 男 兩俱不成, 不成於二 *Nyāy-pr., Mvyut.*
ubhaye-dyus 副 兩日に, 續ける兩日に.
ubhāvat 形 二 *Lank.*
umaka-puṣpa 中 胡蘇(花), 烏摩迦(華) *Mvyut.*
umā 女 [*Siva* 神の妻の名(即ち *Pārvatī, Durgā*)]; 安樂, 破戒母 *Mañj-m., Mvyut.*; 烏摩(天后) *Mvyut.*
umā-kānta 男 [*Siva* 神の稱].
umā-nātha 男 *Umā* の夫, *Siva* 神.
umā-pati 男 [同上].
umāraka 男 [鬼の一種] 烏摩勒伽 *Saddh-p.*
umeśa (umā-īśa) 男 = *umā-nātha*.
umeśvara (umā-īś°) 男 [未來佛としての *Umā* 女神] (*Kār-vy.*).
umbhita 通受分 ……に倚れる.
uyamāna-varadhana 中 使増織 *Mvyut.*
ura 中 [= *uras*]; 胸 *Lal-v.*
uraḥ-kapāṭa 男 中 戸の如き胸, 廣き或は強き胸.
uraḥ-kṣata 形 肺を病める.
uraḥ-pratipeṣam 網 胸に胸を壓しつけて.
ura-ga 男 (胸にて行くもの), 蛇; 腹行; 龍, 蛇, (毒)蛇 *Lal-v., Abh-vy., Śikṣ., Mvyut.*
uraga-nayaka 男 蛇類の長又は王.
uraga-rāja 男 蛇類の王; 長き或は勝れたる蛇; 龍王 *Lal-v.*
uraga-sāra-candana 中 [檀香の一種] (*Lal-v.*); (香)蛇心檀, 龍勝栴檀, 龍勝堅固栴檀(香); 牛頭栴檀(天香); 海此岸栴檀; 烏洛迦栴檀(香), 烏洛迦娑囉(香) *Lal-v., Gand-vy., Saddh-p., Mvyut.*
uragāsāracandana-cūrṇa 中 檀香の粉末(*Lal-v.*).
uraga-sāra-candanamaya 形 檀香材より成る (*Lal-v.*).
uragā 女 = *Nāga-pura*.
uragādhipati 男 腹行主 *Mvyut.*
uragāri 中 (蛇の敵), *Garuḍa*.
uragāśana 男 (蛇を食ふもの), *Garuḍa*.

uragāśya (°ga-ās°) 中 (蛇の面), 鋤(の一種).
uragendra (°ga-in°) 男 = *uruga-rāja*; [或は *Nāga* の名].
uram-ga 男 = *uruga*.
uram-gama 男 [同上].
urana 男 牡羊; 小羊.
uranaḥ 男 [同上].
uranaḥ-vatsa 男 若き山羊.
urabhra 男 = *urana*; 羊, 山羊 *Mvyut.*
urari-karaṇa 中 許可.
urari-Kṛ, 擴張す; 受取る; 引受く, 示す; 認む, 許す; (業)を以て開始す.
urari-kṛta 形 擴張せられたる; 許されたる, 是認せられたる.
urās-chada 男 胸に著くる胃; 墜子 *Mvyut.*
uraḥ-sūlin 形 胸に激痛ある.
uras 中 胸; 胸, 胃; 腹 *Divy., Lank., Bodh-c., Mvyut.*; ~ *aḥ-putraḥ* 眞子 *Bodh-bh. 326.* ~ *ā* **DHā** 中 胸に著用す. ~ *ā praty-ud-Gam*, 險を冒して突進す (*Jāt-m.*).
urasi-ja 男 乳房.
uraska 形 (一°)の胸を附けたる, ……の胸の.
uraḥ-sūtrikā 女 胸に懸くる眞珠の頸飾.
uraḥ-stha 形 胸より發する.
urā 女 牝羊.
uri-Kṛ, 受取る, 關係す; ……の随意に委ぬ, 許す; 約束す; ……を以て開始す.
uru 形 廣き, 幅廣き; 廣漠たる, 廣大なる; 偉大なる [譬喩にも用ふ]. 中 距離, 空間; 副 遠方に, 遙かに. 男 [= *ūru*]; 脾, 髀, 腿腔 *Ast-pr., 梵雜.*
uru-kirti 形 名聲偏ねき.
uru-kṛt 形 擴張せしむる, 増大する.
uru-krama 形 潤歩する.
uru-kṣaya 形 廣大なる住處を占むる.
uru-kṣiti 女 廣大なる住處.
uru-gavyūti 形 廣大なる領地を有する.
uru-gāya 形 = *uru-krama*; 遠く擴がれる. 中 廣き空間. 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
uru-gāyavat 形 廣き空間を有する.
uru-cakra 形 廣き車輪を有する.
uru-cakṣas 形 遠視の.
urudhā 副 多様に, 屢.
uru-dhāra 形 (廣き流を出す), 乳を豊富に出す.
uru-dhṛti 形 甚だ堅固なる.
urubilbā-kāśyapa 男 (佛弟子の名) 優樓頻螺迦葉, 優樓頻螺迦葉波 *Mvyut.*
uru-bilvā 女 [村落の名].
urumuṇḍa 男 [山の名]; 大醍醐(山) *Divy.*; 優樓漫陀, 優留曼茶(山), 優留慢茶(山), 烏盧門茶(山) *Divy.*
uru-yuga 形 廣き軛を著けたる.
uru-rātri 女 夜の後分, 深夜.
uru-loka 形 遠方にまで見ゆる; 廣き.
uru-vikrama 形 大勇の, 勇敢なる.
uru-vilvā 女 = *uru-bilvā*; [地名] 優樓頻螺(池) *Lal-v.*

uruvilvā-kāśyapa 男 [=urubilvā-kāśyapa]; [佛弟子の名] (香寫) 木瓜林迦葉 立應; (香寫) 憂爲迦葉, 優爲迦葉, 優樓頻羸迦葉, 優樓頻螺迦葉, 憂留頻螺迦葉, 優樓頻蚕迦葉, 烏盧頻螺迦葉波 *Av-s., Saddh-p., Sukh-vy. I.*, 立應.
uru-vyac 形 廣大なる, 廣範圍の.
uru-vyacas 形 廣大なる, 多量に收容し得る.
uru-śamsa 形 高聲にて稱讚する, 遠方まで支配する 或は多くの人々に稱讚せらるゝ.
uru-śravas 男 [人名].
uruṣya 名動他 **uruṣyati** 逃亡す, 免る; (業) より遁る; (從) より救助す或は保護す, 防ぐ.
urūka 男 =ulūka.
urūci 女 [=uru-vyae]; 大地.
urū-ṇasa 形 扁平なる鼻の.
uro-gama 男 蛇.
uro-ja 男 乳房.
uro-vidāram 總 胸の裂かれし時.
uro-vibandha 男 胸の壓迫; 喘息.
urjihānā 女 [町の名].
urvarā 女 畑; 土地.
urvarā-jit 形 畑地を得る.
urvarita 形 残されたる, 遁れたる, 救はれたる.
urvaśi 女 熱心, 激情, 熱望; [或る Apsaras の名]; (香寫) 烏哩嚙尸(天女) *Vajr-s.*
urviyā 副 遠く, 遠く廣く.
urvi 女 土地; (兩) 天と地; (兩) [śaṣ と共に] この世界の六空間 [四方及び上下, 時として天と地・晝と夜・水と植物とを稱す]; (香寫) 地 *Lal-v.*
urvi-tala 中 地表, 土地.
urvi-dhara 男 山.
urvi-pati 男 (土地の主即ち) 王.
urvi-bhuj 男 (土地を享受する者即ち) 王, 主權.
urvi-bhṛt 男 山.
urvi-ruha 形 地より生ぜる. 男 樹木, 植物.
urviśa (°vi-īśa) 男 王.
urviśvata (°vi-īśa) 中 [同上].
ulapa 男 [軟かき草の名, 學名 *Eleusine Indica*].
ulūka 男 梟; [Indra 神の稱]; (兩) [民族の名]; [國の名]; (香寫) 梟, 鴞, 鴞梟, 鴞梟, 鴞梟, 鴞梟, 鴞梟 *Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Lan̄k., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*, 梵雜.
ulūka-kāka 男 (香寫) 烏與鴞梟鳥, 烏與鴞 *Suv-pr.*
ulūka-jit 男 (梟を征服するもの), 烏.
ulūka-pakṣa 形 (女 -i) 梟の翼の如き形の.
ulūka-puccha 形 (女 -i) 梟の尾の如き形の.
ulūka-yātu 男 梟の形を成せる惡鬼.
ulūka-śakuna 男 (香寫) 鳥雀(?), 鴞梟鳥(?) [Tib. *bya-ni ḥug-pa*] *Suv-pr. 14.*
ulūkhala 中 臼.
ulūkhalaka 中 小さな臼, 臼.
ulūkhalamusala 中 (兩) 臼と杵.
ulūkhalāṅghri 男 臼の底.
ulūkhalika 形 (一°)を臼として用ふる, 臼にて搗かれたる.
ulūpa 男 [蔓草又は灌木の一種].

ulūpi 女 [Arjuna の妻].
ulūli 形 聲高に叫ぶ, 騒しき.
ulūlu 形 [同上].
ulkā 女 流星; 松明(?), 炬火; (香寫) 星, 流星; 炬, 燈, 炬, 炬光; 照 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Gand-vy., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*, 梵千; [=ulūka] 鴞 *Śikṣ. 182.*
ulkā-jihva 男 [或る Rākṣasa の名].
ulkā-pāta 男 (香寫) 流星, 星墜, 流星墜, 流星崩落, 星光墜落, 彗星數出; 雷電霹靂 *Divy., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Mvyut.*
ulkā-mukha 形 火の口を有する. 男 [妖怪の一種, 焰口餓鬼(?)]; [或る猿の名]; [或る Rākṣasa の名]. 中 (香寫) 星箭面 *Mvyut.*
ulkuṣi 女 天空に於ける光輝現象; 流星; 松明(?).
ulba (男) 中 羊膜又は卵膜; 子宮.
ulbaṇa 中 [同上]. 形 甚だしき; 異常なる; (一°, 四)に富める, ……に充てる.
ulbaṇatā 女 [同上(形) 中].
ulmuka 中 松明(?).
ul-Laṅgh *ullāṅghayati*(使役). → *Laṅgh.*
ul-laṅghana 中 飛び越ゆること; 違背, 違犯.
ul-laṅghaniya (未受分) 犯さるべき; 越過せらるべき.
ul-laṅghikā 女 (香寫) 跳 *Mvyut.*
ul-laṅghita (使役) (過受分) → *Laṅgh.*
ul-laṅghya (未受分) = *ul-laṅghaniya.*
ul-Lap *ullāpayati*(使役). → *Lap.*
ul-lapana 中 [Pāli. 同]; (香寫) 小看, 訶 *Mvyut.*
ul-lambana 中 (兩) [*avalambana*]; (香寫) 倒懸 立應; (香寫) 孟蘭盆, 烏藍婆拏 立應.
ul-lambita (過受分) → *Lamb.*
ul-lambin 形 (一°)に垂れたる.
ul-Lal *ullalati, ullalayati*(使役). → *Lal.*
ul-lalana 形 群がれる(蜜蜂).
ul-lalita (過受分) 揺られたる; 揚げられたる.
ul-Las *ullasati*(-te), *ullāsayati*(使役). → *Las.*
ul-lasat (香寫) → *Las.*
ul-lasamāna (現分) → *Las.*
ul-lasita (過受分) → *Las.*
ul-lāgha 形 快方に赴ける. 男 恢復, 平癒.
ul-lāghatā 女 平癒, 健康.
ullāghaya 名動他 **ullāghayati** 健康ならしむ, 蘇生せしむ.
ullādayitum 不定 (香寫) 責 *Divy. 285.*
ul-lāpa 男 罵詈; 甘言.
ul-lāpaka 中 甘言, 詭譎の言.
ul-lāpana 形 暫時の (*Lal-v.*). 中 可愛がること; 瞞著, 詭譎; (香寫) 欺, 誑惑, 誘; 樂著 *Lal-v., Śikṣ.* → *bāla* ~.
ul-lāpitavat (過能分) (香寫) 毀皆 *Saddh-p.*: ~ *anta uccaghitavantah* 輕 *Saddh-p. 382.*
ul-lāpin 形 (女 -i) 叫ぶ, 絶叫する; 甘言を以て叫ぶ; (香寫) 一° 誑惑, 迷惑 *Lan̄k.*
ul-lāsa 男 出現; 増加, 成長; 歡喜, 幸福.
ul-lāsana 中 閃光; 輝くこと.
ul-lāsanā 女 出現せしむること.

ul-lāsita 〔使役〕〔過受分〕 → Las.
 ul-lāsin 〔形〕遊ぶ, 踊る.
 ul-Likh ullikhati, ullekhyati〔使役〕. → Likh.
 ul-likhita 〔過受分〕搔かれたる, 掻き取られたる; 彩られたる (Buddh-c).
 ul-likhyamāna 〔受〕〔現分〕その上に線を引かるゝ.
 ullīngaya 〔名動〕〔他〕 → liṅgaya.
 ul-liṅgita 〔過受分〕記號又は特徴によりて推論せられたる.
 ul-Lih, → Lih.
 ul-liḍha 〔過受分〕 → Lih.
 ulluka 〔男〕〔漢〕〔龍王の名〕明見 Mvyut.
 ul-luñcana 〔申〕抜くこと, (毛髪等を)引き抜くこと.
 ul-luñcita 〔過受分〕 → Luñc.
 ul-Luṭh ulluṭhati. → Luṭh I.
 ul-luṅṭhā 〔女〕反語.
 ul-Lup ullumpati. → Lup.
 ul-lupta 〔過受分〕取り去られたる, 抜き上げられたる.
 ul-lūna 〔過受分〕切り去られたる.
 ul-lekha 〔男〕記載, 陳述.
 ul-lekhana 〔形〕描ける, 記述する; 明らかにする. 〔申〕搔き取ること; 記載; 聲明.
 ul-lekhin 〔形〕搔き取る = ……にまで及ぼす, 觸るゝ; 明らかにする.
 ul-lekhyā 〔未受分〕(一)に搔かるべき或は書き付けらるべき; 明らかにせらるべき.
 ul-Lok ullokayati. → Lok.
 ul-lokanaka 〔男〕〔漢〕牖 Saddh-p.
 ul-lokita 〔過受分〕〔漢〕上視 Mvyut.
 ullokita-vadana 〔形〕〔漢〕樂見, 常樂瞻仰 Gaṇḍ-vy.
 ul-lola 〔形〕激しく動揺せしめられたる, 波立てる, 懸垂する.
 ulva, → ulba.
 ulvaṇa, → ulbaṇa.
 uvāca 〔三過〕〔Vac〕言へり.
 uvāsa 〔三過〕〔Vas〕住せり.
 uvyadha 〔男〕〔漢〕頭暈 Mvyut.
 uśat 〔現分〕 → Vaś.
 uśa-dah 〔男〕熱望; [Agni 神の稱].
 uśanas 〔男〕(體 -nā) [聖仙の名]; [國に於ては Sukra 及金星と同一視せらる].
 uśanas-tārakā 〔女〕〔漢〕太白金星 Mvyut.; (音寫)烏沙那斯星 Mvyut.
 uśanā 〔具〕〔圖〕熱心に, 嬉しげに; 速かに.
 u-śabda 〔男〕u の語.
 uśamāna 〔現分〕 → Vaś.
 uśāna 〔現分〕 → Vaś.
 uśika 〔男〕[王の名].
 uśij 〔形〕熱心なる, 眞剣に努力する; 用意ある, 望める; 望ましき, 愛らしき. 〔男〕火.
 uśi 〔女〕願望; 〔漢〕忻慶 [Tib. spro-ba] Daś-bh. 16.
 uśi-nara 〔男〕〔圖〕[Madhya-deśa の一民族の名]; [國の名]; 〔圖〕Uśinara 民族の王.
 uśira 〔男〕〔申〕〔學名 Andropogon muricatus の〕芳香ある根; 〔漢〕茅根香 Suv-pr.; (音寫) 嚙尸羅, 烏施羅, 鄒勢羅 Suv-pr., Mvyut., 立意.

uśira-giri 〔男〕[山の名]; 〔漢〕(音寫)嚙尸羅山, 鄒勢羅山 Mvyut.
 Uṣ, I. 〔他〕oṣati; IX. 〔他〕uṣṇāti 燃やす; 罰す; 破壊す, 亡ぼす.
 upa- 焦がす, 焼き盡くす.
 prati- 〔同上〕.
 uṣ 〔女〕〔圖〕及〔圖〕のみ] 曉, 早朝.
 uṣa 〔形〕熱心なる, 熱望する.
 uṣati 〔現分〕〔女〕激論.
 uṣar-budh 〔形〕朝早く目覺むる.
 uṣar-budha 〔形〕〔同上〕. 〔男〕火.
 uṣas 〔女〕曉; [曙光の女神]; 朝; [稀に] 夕焼; 〔兩〕夜と朝.
 uṣasta 〔男〕[人名].
 uṣasti 〔男〕[人名].
 uṣasya 〔形〕Uṣas 神に獻じたる.
 uṣā 〔女〕曉, 夜明け; 夜.
 uṣāsā-naktā 〔女〕〔兩〕曉と夜.
 uṣāsā-sūrya 〔申〕曉と太陽.
 uṣita 1. 〔過受分〕 → Vas 3. 〔漢〕居, 所住, 居止, 已立 Lal-v., Laṅk., Vin., Abh-k.
 uṣita 2 〔過受分〕 [Uṣ] 焼かれたる.
 uṣitavya 〔未受分〕〔申〕〔非人〕夜を過ごすべし.
 uṣo-jala 〔申〕〔圖〕露.
 uṣo-devatā 〔女〕曉の女神.
 uṣo-rāga 〔男〕曉; 曉の光.
 uṣṭa 〔過受分〕焼かれたる. → vy ~.
 uṣṭr 〔男〕耕耘する牛.
 uṣṭra 〔男〕水牛; 駱駝; 〔漢〕牛; 駝, 駱駝 Lal-v. Saddh-p., Laṅk., Śikṣ., Mvyut., 梵千, 梵雜.
 uṣṭra-krośin 〔形〕駱駝の如き騒音を發する.
 uṣṭra-griva 〔男〕痔核.
 uṣṭra-dhūmaka 〔男〕〔漢〕李星(?) [Tib. srin-bu-rna-mo-dud-ka = 駝烟蟲] Kāśy. 136.
 uṣṭri 〔男〕 = uṣṭr.
 uṣṭrikā 〔女〕牝駱駝.
 uṣṭri 〔女〕 = uṣṭra.
 uṣṇa 〔形〕暑き; 暖かき; 激しき, 熱情ある; 深き(嘆息); 〔漢〕熱, 煖, 暖, 溫, 暖熱, 盛炎熱 Divy., Bud dh-c., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Suv-pr., Laṅk., Bodh c., Abh-vy., Bodh-bh., 梵雜: māmsa ~ āni rudhi rāni 熱血肉, (新)熱血肉 Suv-pr. 189. ~ m 〔圖〕深く(嘆息す). 〔申〕熱; 暑期; 〔漢〕熱 Sāṃkhy-k. 糖 梵千.
 uṣṇa-kara 〔男〕太陽.
 uṣṇa-kāla 〔男〕暑期.
 uṣṇa-kiraṇa 〔男〕太陽.
 uṣṇa-ga 〔男〕(〔圖〕及〔圖]) 太陽.
 uṣṇa-gata 〔形〕〔漢〕煖 Divy. 〔申〕激情 (Divy.).
 uṣṇa-gu 〔男〕 = uṣṇa-kara.
 uṣṇam-karaṇa 〔形〕熱する, 熱せしむる.
 uṣṇatā 〔女〕熱, 暑熱; 〔漢〕熱, 煖, 煖性 Abh-k Abh-vy.
 uṣṇatva 〔申〕〔同上〕; 〔漢〕熱, 煖性 Mvyut.
 uṣṇa-didhiti 〔男〕太陽.
 uṣṇa-drava-cara-kāṭhina 〔申〕〔漢〕堅濕煖動, 堅

熱動 *Lank.*

uṣṇa-naraka 男 漢語 熱地獄 *Dharm-s., Mvyut.:* aṣṭāv ~ āḥ 八熱地獄 [1. samjīvaḥ 等活, 2. kāla-sūtraḥ 黑繩, 3. samghātaḥ 衆合, 4. rauravaḥ 叫喚, 號叫, 5. mahā-rauravaḥ 大叫喚, 大叫, 6. tapanāḥ 燒然, 炎熱, 7. pratāpanāḥ 極燒然, 極熱, 8. avīciḥ 阿鼻, 無間] *Dharm-s., Mvyut.*

uṣṇa-bhās 男 太陽.

uṣṇa-bhṛt 男 [同上].

uṣṇa-mahas 男 [同上].

uṣṇaya 名動 他 **uṣṇayati** = uṣṇāya.

uṣṇa-raśmi 男 太陽.

uṣṇa-ruci 男 [同上].

uṣṇa-vāraṇa 中 日傘.

uṣṇa-vidagdhaka 男 [眼病の一種].

uṣṇa-viryā 形 煖むる力を有する.

uṣṇa-samaya 男 暑期.

uṣṇa-sparśavat 形 熱く感ずる.

uṣṇāmsu 男 (暑き光の), 太陽.

uṣṇānta 男 暑期の末.

uṣṇāya 名動 熱す.

uṣṇālu 形 暑さに惱める.

uṣṇi 形 燃ゆる. 男 漢語 [=uṣṇiṣa] 頂高, (佛)頂 *Rāṣṭr.*

uṣṇiman 男 熱, 暑熱.

uṣṇih 女 (體-k) [音律の一種].

uṣṇi-Kṛ, 熱くす, 温む.

uṣṇi-kṛta 形 熱せられたる, 煮られたる.

uṣṇiṣa 男 中 頭に巻く布, ターバン; 漢語 頂, 髻, 頂髻, 螺髻, 頭冠, 頂高, (佛)頂, 尊勝, 最勝頂相 *Lal-v., Av-ś., Rāṣṭr., Mañj-m., Guhy-s., Mvyut.;* 音寫 烏瑟膩沙, 烏瑟坭沙, 囉瑟尼沙, 鬱瑟尼沙, 鬱尼沙 *Sikṣ., Guhy-s., 玄應.*

uṣṇiṣa-kuṇḍala 男 [Samādhiの名] (*Kār-vy.*).

uṣṇiṣa-paṭṭa 男 = uṣṇiṣa.

uṣṇiṣa-vijaya-dhāraṇi 女 [佛典の名, 佛頂尊勝陀羅尼經等].

uṣṇiṣa-vijayā 女 [Tantraの神] (佛敎).

uṣṇiṣa-śiras 形 漢語 [三十二相の一] 頂有肉髻 *Gaṇḍ-vy.;* 挽髻者, 佛頂髻者 *Mvyut.*

uṣṇiṣa-śiraskatā 女 漢語 [三十二相の一] 肉髻, 頂

肉髻, 頂上肉髻; (音寫)頂上現烏瑟膩沙, 其頂上現烏瑟膩沙, 頂有烏瑟膩沙(如天傘蓋)相 *Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*

uṣṇiṣa-śirṣa 形 漢語 [三十二相の一] 頂有肉髻 *Lal-v.*

uṣṇiṣārpaṇi 女 [或る佛敎の女神の名].

uṣṇiṣin 形 uṣṇiṣaを具する. 男 [Siva神の稱].

uṣṇodaka (°na-ud°) 中 (熱)湯.

uṣṇoṣṇa (°na-us°) 形 甚だ熱き.

uṣṇa-gata 形 漢語 煖, 燂, 暖, 暖位 *Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*

uṣmatā 女 [同下].

uṣman 男 熱, 暖氣, 熱心; 熱き濕氣, 蒸氣; 漢語 煖, 暖, 熱 *Lank., Abh-k., Abh-vy. → jaya~.*

uṣma-pa, → ūṣma-pa.

uṣmavat 形 熱せられたる, 燃ゆる; 煙を出す.

uṣma-sveda 男 蒸氣浴.

uṣma-hāni 女 漢語 退煖, 煖氣散了 *Mvyut.*

uṣmābhilāṣa 男 漢語 煖欲, 熱愛 *Abh-vy.*

uṣmāya 名動 自 **uṣmāyate** 燃ゆる; = ūṣmāya.

uṣmodaka (°ma-ud°) 中 漢語 暖水, 温水, 温泉 *Mvyut.*

uṣya 1. 不規 (不變分) [=uṣitvā, Vas 3.] 住して.

uṣya 2. 形 漢語 勇猛 *Gaṇḍ-vy.*

usar 女 = uṣas.

usira-giri 男 [=Uśira-giri]; 漢語 音寫 囉尸羅(山) *Divy.*

usra 形 朝の, 輝ける. 男 光線; 太陽; 日; 牝牛.

usrā 女 曉, 朝の光, 旭光; 牝牛; 牛乳.

usri 女 朝の光線; 光輝, 光.

usrika 男 小牝牛.

usriya 形 淡赤色の; 牝牛より生ずる. 男 牝牛.

usriyā 女 光輝, 光; 牝牛; 牛乳&び(其他の)牝牛より産出するもの.

Uh, → Ūh 1.

uhū 形 [Vah] 持つ, 運ぶ.

uhodima 形 俗 [又た okoṭima, okodima. *Pāli.* okoṭimaka]; 漢語 卑陋, 矧陋, *Lank. 27. → avakoṭimaka, avahodimaka, ahodima.*

uhya, → Vah.

uhyamāna 受 現分 [Vah] 漢語 住在...中 *Lal-v.*

uhyamānaka 形 (波に)押し運ばるゝ.

Ū

ū, = u 2.

ūm, = u [Padapāṭhaに於ては u を示すに ~ iti となす].

ū-kāra 男 ūの音又は字; 漢語 烏字 [五十字門の一]; ~e ūna-sattvaṃ jagad iti (→ a-kāra) 唱烏字 時出諸世間一切衆生智慧狹劣聲 *Lal-v. 127.*

ūcus, [Vacの三過三入三].

ūḍha 過受分 → Ūh 2., Vah. 中 掠奪品; (新妻を)伴ひ歸ること.

ūḍha-pūrvā 形 (女) 以前に結婚せる(婦人).

ūḍha-vayas 中 高齢. 形 成年せる.

ūḍhā 女 妻, 嫁娶.

ūḍhi 女 運搬, 持參; 漢語 持, 擔, 乘 *Mvyut.*

ūta 過受分 [Av, Vā 4.]. → Vā 4.

ūti 1. 女 助成, 助力, 好意, 加護; 援助者; 慰安, 強壯劑; 富; 娛樂, 遊戲, 諧謔 [因 爲 ūti]

ūti 2. 女 機織, 裁縫; 織物.

ūdhan 中 乳房; 胸; 雲; 夜.

ūdhar 甲 [同上].
ūdhas 甲 [同上].
ūdhasya 甲 牛乳. 形 搾乳する, 乳を興ふる.
ūdhasvati 形 女 充ちたる乳房の(婦人).
ūna 過受分 不足せる; 不完全なる; 不適當なる; 劣れる; 過小の; (從, 一°)より少き, ……より劣れる; (異, 一°)だけ少なき, 不足の; 缺, 闕少; 減, 損減; 未至, 不滿, 未滿; 狹劣 Lal-v., Av-ś., Saddh-p., Daś-bh., Prajñ-h., Vin., Śikṣ., Abh-k., Abh-vy., Mvyut., 梵雜.: na ~ 不減, 無減, 無損減 Prajñ-h. 49.; sa ~ 減 Abh-k. III. 89. → an~.
ūnaka 形 十分ならざる, 不足の, より少き, 劣れる.
ūnatā 女 [同上 補].
ūna-trimśa 形 (女-i) 第二十九の.
ūnatva 甲 =ūnatā; 減, 減失, 未圓滿 Sapt-pr., Śikṣ., Mvyut.
ūna-daśa-varṣa 形 不滿十歳 Vin.
ūna-dvi-vārṣika 形 二歳未滿なる.
ūna-pañca-bandha 形 減五綴 Prāt-m.
ūna-pūrṇatā 女 増減 Saddh-p.
ūna-māna 男 下慢, 卑慢, 卑劣慢 Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.
ūnaya 名動 他 ūnayati 不足のままにす, 充足せしめず.
ūna-vāda 男 毀訾, 毀讚 Mvyut.
ūna-vimśa 形 (女-i) 第十九の.
ūna-vimśa-varṣopasampādana (°sa-up°) 甲 與未滿二十歳受近圓, 未至二十歳令作比丘 Mvyut.
ūna-ṣoḍaśa-varṣa 形 十六歳未滿なる.
ūni-Kṛ, 引く或は減ず; 損減, 作損減 Bodh-bh.: na ~ 不作損減, 度, 安處 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; sarva-dhātum na ~ 度衆生界, 安處諸有情界 Aṣṭ-pr. 818.
ūni-BHū, [同上]; 減, 損減 Gaṇḍ-vy.
ūma 男 善友, 仲間, 助力者.
ūri 副 =uri. → uri-Kṛ.
ūru 男 [一°は形(女-ū)] 腿, 腰; 股, 腿, 髀, 脛, 肱, 大腿, 足跟 Rāṣṭr., Laṅk., Mañj-m., Bodh-c., Śikṣ., Bodh-bh., Vajr-s., Mvyut., 梵千.
ūru-graha 男 腰部麻痺.
ūru-cchinna 形 腰を折りたる.
ūru-ja 形 腿より生れたる. 男 Vaiśya [Puruṣaの腿より生ると云はる].
ūru-janman 男 [Aurva 仙の名].
ūru-daghna 形 (女-i) 腿に達する.
ūru-dvayasa 形 (女-i) [同上].
ūru-phalaka 甲 腰當(髻); 腿の骨, 腰骨.
ūru-bhaṅga 男 大腿の挫傷.
ūru-bhinna 形 (女-i) 腿に裂傷ある.
ūru-mātra 形 (女-i) 腿に達する.
ūru-sambhava 形 腿より生ぜる.
ūru-skambha 男 [又た ūru-śk°] 大腿部麻痺.
ūru-stambha 男 [同上].
ūrū 女 [=ūru]; 脛 Lal-v.
ūrūdbhava 形 =ūru-sambhava.
ūrūpapidam 網 腿を壓迫して.

ūrj 女 液汁; 榮養, 強壯劑; 力, 活氣横溢.
ūrja 形 力ある, 強き. 男 力; [曆月の名 = Kārttika].
ūrja-medha 形 秀でたる知識ある, 甚だ賢明なる.
ūrjaya 名動 他 ūrjayati 養ふ, 強壯にす; 自 ūrjayate 強し, 幸福なり. 過受分 ūrjita 強健なる, 力強き.
ūrjas 甲 力, 勢力.
ūrjas-kara 形 有力ならしむる.
ūrjasvat 形 滋養ある, 液汁多き; 勇氣ある; 有力なる.
ūrjasvala 形 有力なる, 強き.
ūrjasvin 形 [同上].
ūrjā 女 活氣横溢, 元氣; [Vasiṣṭhaの妻の名]; 欽 [釧?], 勲 Mvyut.
ūrjita 過受分 → ūrjaya. 男 Arjunaの子の名. ~m 副 激しく.
ūrjita-citta 形 強力なる精神の.
ūrjitāśraya (°ta-ās°) 男 英雄.
ūrṇa 甲 一° 羊毛; 毫, 白毫, 毛氈 Rāṣṭr., Abh-vy., 梵雜.
ūrṇa-kośa 男 眉間 Laṅk.
ūrṇa-tejas 男 [佛の名] 眉間光明 Lal-v.
ūrṇa-nābha 男 蜘蛛.
ūrṇa-nābhi 男 [同上].
ūrṇa-paṭa 男 [同上].
ūrṇa-bhrū 女 眉間(白)毫 Buddh-c. 8.
ūrṇa-mrada 形 羊毛の如く柔き.
ūrṇa-mradas 形 [同上].
ūrṇa-vābhi 男 =ūrṇa-nābha.
ūrṇā 女 羊毛; 毛絲, 絲; 蜘蛛の絲; (眉間の)旋毛; 毛羊; 毫, (白)毫, 眉間(白)毫; 毫相 Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.: [三十二相の一] ~ cāsya bhruvor madhye jātā śvetā śaṃkha-saṃnibhā pradakṣiṇ'āvartā 眉間毫相其色光白螺文右旋. 眉間白毫 Bodh-bh. 376.; ~ śvetā 眉間白毫, 眉間白毫相, 眉間毫相 Bodh-bh. 381.; bhruvor madhye ~m 眉間毫相, 眉間(白)毫相 Bodh-bh. 380.
ūrṇā-keśa 形 眉間(白)毫, 眉(白)毫相 Mvyut.
ūrṇā-kośa 男 (白)毫相 Saddh-p.
ūrṇā-kṣauma 甲 細氈 Śikṣ.
ūrṇā-parikarman 甲 治羊毛, 浣染犛羊毛, 棄捨細絨 Mvyut.
ūrṇāmaya 形 (女-i) 羊毛製の.
ūrṇāyu 形 羊毛の. 女 緬羊.
ūrṇālamkṛta-mukhatā (°ṇā-al°) 女 眉間に軟毛を有すること (Dharm-s.); [三十二相の一] 眉間(白)毫(右旋)柔軟相 Dharm-s.
ūrṇāvat 形 羊毛の. 男 蜘蛛.
ūrṇāvala 形 羊毛ある, 羊毛の.
ūrṇā-sūtra 甲 毛絲.
ūrṇā-stukā 女 羊毛の總(?).
Ūrṇu, II. ūrṇoti 又は ūrṇauti, ūrṇute 圍む; 包む; 自 身を包む.
apa- 被覆を取り除く.
abhi- 包み隠す, 蔽ふ.

pra- 包む。
 sam-pra- 完全に包む。
 vi- 被覆を取り除く。
 ūrṇuta (通受分) 包まれたる, 覆はれたる, 纏へる。
 ūrdha (形) (俗) [< ūrdhva] (Lal-v. 227.).
 ūrdham-keśa (男) (俗) [< ūrdhvam-k°]; (散髪) 散髪 Lal-v. 258.
 ūrdham (副) (俗) [< ūrdhvam]; (上) 上 Lal-v. 413.
 ūrdha-hasta (形) (俗) [< ūrdhva-h°]; (舉手) 舉手 Lal-v. 258.
 ūrdhva (形) 上方の; 眞直なる; 起立せる, 上昇せられたる; 高さ; (上) 上; (副) 上方に, 後に. ~m (副) 上方に, 後に; 上に, 彼方に; (後) より後に; (死) の死後に; (上) 上, 向上; 仰; 後, 已後, 於後; 過; 如前 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Daś-bh.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ata ~m 今後, 以後; そよて, その時; (自斯已後) 自斯已後 *Bodh-bh.*
 ita ~m, (書物に於て)これより先。
 na ~m (不過) 不過, 不増減 *Abh-vy.* 105.
 ~m sam-Hṛ, (涙を)抑ふ。
 ūrdhvaka (形) 揚げられたる, 高められたる. (太鼓) [太鼓の一種].
 ūrdhva-kapāla (形) 蓋又は覆を有する(器物).
 ūrdhvakam (副) 高聲にて。
 ūrdhva-kara (形) 手を挙げたる, 上方に光を放射する。
 ūrdhva-karṇa (形) 耳を欻つる。
 ūrdhva-kāya (男) 上半身. ~āt (身上) 身上 *Saddh-p.* 460.
 ūrdhva-kṛta (形) 上方に揚げられたる。
 ūrdhva-ga (形) 昇る, 上方に行く; 高處に在る; (行上) 行上 *Abh-k.*
 ūrdhva-gata (形) (舉) 舉, 上昇 *Suv-pr.*
 ūrdhva-gati (女) 上方に行くこと; 跳ね返ること. (形) 上に行く; 天に昇る。
 ūrdhva-gamana (中) 昇騰, 向上, 上昇; (上升) 上升, 上昇 *Abh-vy.*
 ūrdhva-gamanavat (形) 上に向ひて動く。
 ūrdhva-gāmin (形) = ūrdhva-ga; (昇) 昇, 上 *Suv-pr.* 51.
 ūrdhva-guda (男) [口中の病の一種].
 ūrdhvam-kāya (男) (身上) 身上 *Bodh-bh.*
 ūrdhvam-ga (形) (上) 上 *Mvyut.*
 ūrdhvamga-roma (形) (毛上) 毛上, 身毛上 *Mvyut.*
 ūrdhvamga-romatā (女) (三十二相の一) 身毛上, 身毛上分, 毛上相, 身毛上相 *Bodh-bh.*
 ūrdhvamga-roman (形) (三十二相の一) 身毛上 *Bodh-bh.*
 ūrdhva-cit (形) 積み上ぐる。
 ūrdhva-ja (形) より高く或は上にある。
 ūrdhva-jānu (形) 膝を上げたる。
 ūrdhva-jūu (形) (同上).
 ūrdhva-jvalana (中) 燃え上ること。
 ūrdhvam-jānu (形) 膝の上にある。
 ūrdhva-jhampa (男) 跳躍。

ūrdhva-taraṇa (中) (河の)溢ること。
 ūrdhva-dṛś (形) 上方を見る。
 ūrdhva-dṛṣṭi (形) 上方を凝視する。
 ūrdhva-deha (男) 葬式; 天上に到る身, 死者。
 ūrdhva-nabhas (形) 雲上にある。
 ūrdhva-patha (男) (天界の路), 天空。
 ūrdhva-pavitra (形) 上部の純粹なる。
 ūrdhva-pāṭha (形) 更に先を讀まるべき或は話さるべき。
 ūrdhva-pātra (中) 丈高き容器; 容器の蓋。
 ūrdhva-pāda (形) 足を上げたる. (男) 足の爪先。
 ūrdhva-puṇḍra (男) (婆羅門教徒の額に白檀灰等にて附したる) 垂直線, 宗派の標。
 ūrdhva-puṇḍraka (男) [同上].
 ūrdhva-pṛśn (形) 上部に斑點ある。
 ūrdhva-pramāṇa (中) 高さ, 高度。
 ūrdhva-bāhu (形) 腕を上げたる; (舉手) 舉手, 舉兩手 *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*
 ūrdhva-budhna (形) 倒さにせられたる(器物).
 ūrdhva-bṛhati (女) [音律の一種].
 ūrdhva-bharam (副) 上方に運びて, 上げて。
 ūrdhva-bhāga (男) 上部。
 ūrdhva-bhāgiya (形) (順上分) 順上分, 依合前分, 依合上分 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 ūrdhva-bhāj (形) 上に向ふ。
 ūrdhva-bhāsin (形) 上に向ひて燃ゆる或は光熱を放つ。
 ūrdhva-manthin (形) = ūrdhva-retas.
 ūrdhva-māruta (中) (体内の)上昇風の壓迫。
 ūrdhva-mukhi (形) 顔又は口を上に向けたる; 上に向けられたる; (向上) 向上 *Mvyut.*
 ūrdhvamukhi-BHū (形) 昂, 豎, 向上 *Vijñ-v.*
 ūrdhva-muṇḍa (形) 頭頂を剃る。
 ūrdhva-rāji (女) 下より上に向へる條(み).
 ūrdhva-rekhā (女) [同上].
 ūrdhva-retas (形) 精液を上方に留むる, 貞操なる, 性交を慎む。
 ūrdhva-roman (形) 髪 of 豎ちたる。
 ūrdhva-liṅgin (男) [*Siva* 神の稱].
 ūrdhva-loka (男) 上界, 天。
 ūrdhva-vāla (形) 尾を上に向けたる。
 ūrdhva-vāsin (形) [或る隠棲者の名].
 ūrdhva-vāsya (中) [婦人の衣類の一種].
 ūrdhva-vṛta (形) 肩に懸けたる(聖紐).
 ūrdhva-veṇi-dhara (形) 髪を頭頂に結べる。
 ūrdhva-sad (形) 高處又は上方に坐せる。
 ūrdhva-sasya (形) 穂を擡げたる。
 ūrdhva-srotas (男) (生命の流又は榮養が上に向ふ) 特殊動物の稱; (一階梯) [*Śrāvuka-pudgala* の一階梯] 上流, 遷種, 往天上 *Mvyut.*
 ūrdhvāgra-romatā (女) 直立せる身毛を有すること [三十二相の一] (*Dharm-s.*).
 ūrdhvāṅguli (形) 上方を指させる。
 ūrdhvāyana (中) 上昇, 飛騰。
 ūrdhvāroha (°va-ār°) (男) 昇騰。
 ūrdhvocchvāsin (°va-uc°) (形) 最後の呼吸を爲す, 死する。

ūrmi 男 女 波, 大濤; (矢の)雨; (荒き)海; 疾驅; 人生に襲ひ來る(飢・渴・寒・暑・貧・迷の六種の)苦惱; 速度; 波浪, 水浪, 湧波; 流 Gand-vy., Daś-bh., Mvyut.

ūrmikā 女 指環.

ūrmin 形 波立てる, 波ある.

ūrmimat 形 大濤のうねる, 波立てる; 縮れたる(頭髮).

ūrmi-mālā 女 [音律の名].

ūrmi-mālin 形 波ある, 環状の波ある. 男 海.

ūrmi-vega 男 波浪 Gand-vy.: mahā~vyu-paśamanatā 息大波浪 Gand-vy. 225.

ūrmya 形 波立てる, 波ある.

ūrmyā 女 夜.

ūrva 1. 男 貯藏處; 貯水池; 家畜小屋; 牢獄; [聖仙の名].

ūrva 2. 形 廣き, 大なる; 過度の. 男 海洋.

ūvadhya 中 [ūbadhya ともあり語原不明] 消化器中の未消化物.

ūṣa 男 鹽分を含める土地.

ūṣaka 中 鹽, 胡椒.

ūṣaṇa 中 胡椒.

ūṣa-puta 男 鹽箱.

ūṣara 形 鹽分を含める; 鹽地, 鹹鹵 Aṣṭ-pr., Abh-vy., Mvyut.: ~ū ujjāṅgalāḥ 砂礫 Aṣṭ-pr. 822. 中 不毛の地; 鹽地, 鹹鹵之地 Mañj-m., Mvyut.

ūṣarāya 名 動 自 ūṣarāyate 不毛の地となる.

ūṣarāyita 過受分 鹽分を含む不毛の地の如くなれる.

ūṣi 女 鹽分ある或は不毛の地.

ūṣus, [Vas 3. の 三過 三入 種].

ūṣmaṇya 形 蒸氣を發する.

ūṣman 男 熱; 灼熱; 蒸氣; 暑期; 含氣音 [全部の吹氣音, h 及び隨韻 (anusvāra) の文法的稱呼]; 煖, 暖 Abh-vy.

ūṣma-pa 形 (食物の)湯氣(のみ)を吸ふ. 男 [一群の祖靈の名].

ūṣma-pura 中 [或る佛教寺院の名].

ūṣmā 女 蒸氣.

ūṣmāya 名 動 自 ūṣmāyate 熱又は蒸氣を發す.

Ūh 1. [屬: Uh], I. ūhati(-te) 償ふ; 變ず, 改む; [前と合成する時] 推す, 移す. 受 ūhyate 所

漂 Saddh-p.

apa- 除去す; 放免す; (業)に追従す; 斷念す, 避く; 否定す. (不變分) apohya 除, 撥無 Abh-vy.

vy-apa- 除去す, 破壊す.

abhi- (其)を以て覆ふ.

ā- (ā-(Y)Ūh) āyūhyate(受) (Lank. 115.). → āyūhyate, niryūhyate.

ud- 押し上ぐ, 押し出す, 運び出す; 高く上ぐ.

upa- 近寄す, 増す, 齎らす. 受 (時間か)切迫す.

過受分 upodha 近寄せられたる; 近接せる; 始まれる; 示されたる; 聴きとり得る.

sam-upa- 過受分 samupodha 開始せられたる; 贈られたる; 捧ぐ.

nir- 抽出す; 除去す; 過受分 nirūdha 抽出せられたる, 孤立せる; 灌腸して淨むる.

prati- 遮る.

vi- 擴ぐ; 分割す; 配列す, (軍隊を)配置す; 置換す; (母韻の結合を)解く. 過受分 vyūdha 廣き, 擴張せられたる; 分けられたる, 引き離されたる.

nir-vi- 逐ひ出す; (軍隊を)配置す; 成就す, 完成す.

sam-, pari-sam- 集む.

Ūh 2., I. 自 ohate 吟; I. 他 自 ūhati(te) 注視す, 觀察す; 推察す, 想像す; 推論す; 會得す.

過受分 ūdha 斷定せられたる; 推論せられたる.

便役 ūhayati 考慮す, 注意す; 想像せしむ, 推論せしむ.

api- 會得す; 推論す.

abhi- (業)を待ち伏せす; 推論す, 推量す.

ūha 1. 男 附加; 變更.

ūha 2. 男 熟慮; 推論; 思量; 思量 Sāmkhy-k. → abhy~.

ūhana 1. 中 = ūha 1.

ūhana 2. 中 = ūha 2.; 思 Bodh-bh.

ūhanā 女 = ūha 2.; 察 Mvyut.

ūhaniya 1. 未受分 變更せらるべき.

ūhaniya 2. 未受分 推論せらるべき.

ūhavat 形 聰明なる, 鋭敏なる.

ūhāpoha-samartha 形 能解, 能察解, 能加減 Mvyut.

ūhya 1. 未受分 = ūhaniya 1.

ūhya 2. 未受分 = ūhaniya 2.

R

R, VI. 他 ṛcchati; (因は又た III.) iyarti; V. 他 ṛnoti; II. 他 arti. 動かす; 動搖せしむ; (聲を)揚ぐ; 奉納す, 贈與す; 起きる; 走る, 流る; 衝突す; 出遇ふ; 受く, 蒙る [因と俱に]; 達す, 得る, 取る, 獲得す. 便役 arpayati 投ず, 投ぐ; (凝視・思考を)向く; ...の中に或はの上に置く或は据う; 締る; 差込む; 贈與す, 與ふ; 讓る, 交附す; 返却す; 置, 安處; 成, 所成, 爲成, 於...有所成, 得成; 志

求; 契悟; 令修(諸行); 奉上 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Lank.: katamam dharmam arpayati 於何法有所成 Aṣṭ-pr. 385.

ā- 供給す, (業)に(罰を)課す; (不運に)陥る.

ud- 動搖せしむ; 揚ぐ; 喚び出す. 便役 udarpayati 持ち擧ぐ, 繁榮せしむ.

upa- (業)へ赴く; (業)を救助に急ぐ; 侮辱す; 侵す, 過つ. 便役 upārpayati 種 Śikṣ.

pra- 使役 **prārpayati** 起さしむ, 動かす.
prati- 固著す, 交附す; 返却す; (新たに)興ふ.
vi- 開く.
sam- 集む; (三, 四)に俱に急ぎ趣く; (四)に會ふ.
 使役 他 自 **samarpāyati(-te)** 固著せしむ; 差込む; 指示す; 交附せしむ, 讓る; 返却す; 派遣す;
 傳 *Divy.*: samdesān samarpaya 汝可先傳彼語 *Divy.* 15. 使役 通受分 **samarpita** ……にて充されたる (*Lal-v.*).
r-kāra 男 r の音又は字.
ṛkta 通受分 [=rikta]; 誑 *Madhy-v.* 593.
ṛkta-muṣṭi 男 [=rikta-muṣṭi]; 空拳 *Lal-v.* 212.
ṛktas 副 讚歌 (Rc) に關して或はより.
ṛkvat 形 讚頌する, 歡呼する. 男 讚誦者(一群の神).
ṛkvan 形 [同上].
ṛkṣa 1. 形 禿げたる, 裸の.
ṛkṣa 2. 形 惡しき, 恐ろしき, 有害なる. 男 熊; 猿(の一種); [人名]; [山の名]; 熊, 熊; 豺; 狸 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜; 國 北斗七星. 男 甲 星, 月宿.
ṛkṣa-giri 男 *ṛkṣa* 山.
ṛkṣa-pati 男 猿又は熊の主.
ṛkṣa-bila 甲 [地獄の名].
ṛkṣa-rāja 男 熊又は猿の王; 星の王, 月.
ṛkṣavat 男 [山の名].
ṛkṣa-hariśvara 男 [*Sugrīva* の稱].
ṛkṣi 女 牝熊.
ṛkṣeṣṭi (°su-is°) 女 月宿への供饗.
ṛk-samhitā 女 *Rg-veda* 本集.
ṛk-sāma 甲 兩 讚歌 (Rc) と歌詠 (*Sāman*).
ṛgiti 女 (?) 隨則(?), 初起(?), 就(?)
Mvyut.
ṛg-uttama 形 讚歌 (Rc) にて終る.
ṛg-gāthā 女 讚歌の讚頌.
ṛgma 形 讚歌を以て始まる.
ṛgmat 形 讚頌を以て讚歎する. 讚頌を有する.
ṛgmin 形 稱讚する, 歡呼する.
ṛgmiya 形 稱讚すべき, 褒むべき, 讚歌 (Rc) を以て祝福せらるゝ; 讚歌より成る.
ṛg-yajusa 甲 讚歌 (Rc) と祭詞 (*Yajus*); *Rg-veda* と *Yajur-veda*.
ṛg-vid 形 *Rg-veda* を知れる.
ṛg-vidhāna 甲 讚歌 (Rc) の使用; [書名].
ṛg-veda 男 詩又は讚歌の *Veda* 即ち *Rg-veda* [之に附隨せる儀軌及び釋義に關する著述をも含むことゝ, 含まざることゝあり]; 明實文, 讚誦明論; (音聲) 讚誦圍陀, 力經 *Divy.*, *Mvyut.*
ṛghāya 名動 他 自 **ṛghāyati(-te)** 振動す, 激怒す, 騒ぐ.
ṛghāvat 形 激怒せる, 荒れ模様の.
ṛghāvan 形 [同上].
ṛimaya 形 讚歌 (Rc) より成る.
Rc, I. 他 **arcati** (光を)放つ, 輝く; 歌ふ; 稱讚す; (爲)を讚へて(讚歌)を歌ふ; 尊敬す, 禮拜す; 飾る; 恭敬, 供養 *Buddh-c.*, *Divy.* 通受分 **arcita**

尊敬せられたる, 非常に尊敬せられたる; 恭しく奉獻せられたる. 輝かしむ; 尊敬す, 崇拜す; 敬禮す; 禮, 恭敬, 恭敬(曲躬禮拜), 供養 *Divy.*, *Ast-pr.*
abhi- 歌ふ, 稱讚す; 謹んで敬意を表す, 恭しく敬禮す; 禮 禮敬, 供養 *Divy.*
sam-abhi- 尊敬す, 敬禮す; 挨拶す.
pra- 歌ひ始む; 稱讚す.
prati- ……の方へ輝く; 挨拶に酬ゆ; 隨敬 *Buddh-c.*
rc 女 光; 神聖なる讚歌又は詩 [特に歌詠 (*Sāman*) 及び祭詞 (*Yajus*) と區別せらる]; (或る儀式又は釋義の根據となれる)詩句; Rc の集録, *Rg-veda* [一般に].
rca 男 [—°は rc] 讚歌, 詩.
rcayitavya 未受分 唱 *Vin.*
rcika 男 [*Jamadagni* の父なる聖仙の名]; [國の名].
rci-sama 男 [*Indra* 神の稱].
rcēyu 男 [聖仙の名]; [*Indrāśva* の子の名]; [王侯の名].
Rch, VI. 他 **rcchati** [現 國のみ] 會ふ; 始む; 蒙る, 陥る; 到る; 攻撃す, 侮辱す; **arcchanti** (*Sikṣ.* 80.). (難に)遭ふ, (刑を)受く.
Rj, I. 他 **arjati** 得る, 獲得す, 受く; 使役 他 自 **arjayati(-te)** [=單純動詞].
upa- 使役 [同上].
rjīpya 形 眞直に上昇する, 邁進する.
rjīka 形 微光を放つ, 輝ける(—°). 男 [*Indra* 神の稱].
rjīti 女 灼熱して光を放つこと, 閃光.
rjīyas 形 [rju の比較].
rjīṣa 形 突進する. 甲 [地獄の名].
rjīṣin 形 [同上(形)].
rju 形 (女 **rjvi**) 眞直なる; 正しき, 正當なる, 正直なる; 正, 直, 正直, 質直, 正眞, 淳質; 忠; 端, 端正 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵千. 男 [*Vasudeva* の子の名].
rjuka 形 直, 質直, 正直; 順; 志誠; 直行至誠 *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
rjukatva 甲 正直 *Sikṣ.*
rjuka-dṛṣṭi 形 見直 *Bodh-bh.*
rju-kāya 形 眞直なる肉體を有する; 端身, 身安不動 *Gaṇḍ-vy.* ~m 副 端身 *Lal-v.*
rju-ga 形 眞直に進む.
rju-gātratā 女 [三十二相の一] 眞直なる四肢を有すること (*Dharm-s.*).
rju-citta 形 心直 *Mvyut.*
rjutā 女 眞直なること; 公平, 率直, 正直.
rjutva 甲 [同上].
rju-dārumaya 形 (女 -i) 眞直なる木にて作れる.
rju-dṛś 形 正しく見る.
rju-dṛṣṭika 形 正見 *Ast-pr.*
rjudhā 副 眞直に; 正しく, 正確に.
rju-niti 女 正しき案内.
rju-pratipanna 形 正入 *Mvyut.*
rju-buddhi 形 篤實なる, 眞摯なる, 正直なる.

rju-mati 形 [同上].
rju-mitākṣarā 名 [Yājñavalkya の法典の註釋書の名].
rju-lekha 形 直線の.
rju-lekhā 名 直線.
rjū-karaṇa 名 眞直にすること.
rjū-Kṛ, 眞直にす.
rjūya 名動 他 **rjūyati** 眞直に歩む; 正し或は正直なり.
rjūyā 名 直線にて.
rjūyu 形 眞直なる; 正直なる.
rjra 形 淡紅色の, 栗色の.
rjv-añc 形 眞直に進む.
rjv-ātman 形 心質直 *Buddh-c.*
rjvi 形 女 → **rju**.
rñjate 動 [Rañj の 現 三 入 四].
rñjasāna, [Rañj の 三 過 分].
rṇiti 名 (?) 隨則(?), 初起(?), 就(?) *Mvyut.*
rṇa (過受分) 形 背ける, 違背せる; 罪ある. 名 義務, 債務; 負, 所負, 負財物, 所負財; 債; 貸物 *Divy., Buddh-c., Madhy-v., Abh-vy., Bodh-bh.: upāttasya(parata) ~sya* 舉貸物 *Bodh-bh. 256.*
 ~m **Kṛ**, (從)より借る.
 ~m **Dā**, 借金を返済す; (於)に貸す.
 ~m **DHṛ** (使役), (業)を(屬)に借る.
 ~m **Ni**, 借金を返済す.
 ~m **saṃ-Ni**, [同上].
 ~m **pra-Yam**, [同上].
 ~m **pra-Āp**, 借金を負ふ.
 ~m **mṛgaya**, (金錢の)貸與を乞ふ.
 ~m **Yāc**, [同上].
rṇa-karṭṛ 形 借金を契約する, 借金する.
rṇa-ccheda 名 借金の償却.
rṇatā 名 負債.
rṇa-dāsa 名 (自己の)負債を奴隸となりて返済する者.
rṇa-dhara 名 有債 *Divy.*
rṇa-nirmokṣa 名 負債の辨濟; (屬)の負債償却の義務よりの免除.
rṇa-pradāṭṛ 名 金貸業者.
rṇa-yā 形 義務の履行を要求する.
rṇavat 形 (屬)に負債ある.
rṇa-samuddhāra 名 負債の償却.
rṇa-hara 名 = **rṇa-dhara** (*Divy.*).
rṇa-hāraka 名 [同上] (*Divy.*).
rṇādāna (rṇa-ād°) 1. 名 貸金の回收.
rṇādāna 2. 名 負債の不拂.
rṇāpanayana 名 義務又は負債の償却.
rṇika 名 債務者.
rṇin 形 負債ある. 名 債務者.
rṇoddhāra (rṇa-ud°) 名 負債の償却.
rta (過受分) 適當なる, 正しき; 眞直なる, 正直なる; 眞實なる; 聖訓, 敬虔なる営み, 供儀, 儀式; 天則, 聖法; 眞理, 正義. ~m 副 正しく, 適當に. [I と俱に] 正道

を行く [雙聲]にも用ふ; [Vad と俱に] 約束す.
rtena 名 副 適當に; 正當に; 眞に; 實に.
rta-cit 形 = **rta-jñā**.
rta-jā 形 眞實なる性質の; よく作られたる, 優秀なる.
rta-jāta (過受分) 正しく生じたる; 好時機の; 神聖なる.
rta-jñā 形 聖法を知る, 敬虔なる.
rta-dyumna 形 眞理に熱中する.
rta-dhāman 形 眞理を愛する. 名 [Viṣṇu 神の稱]; [Indra 神の稱].
rta-dhi 名 正しき思慮. 形 正しき思慮を有する.
rta-dhiti 形 敬虔に崇拜せらるゝ, 眞摯に讃歎又は崇敬せらるゝ.
rta-dhvaja 名 [或る Rudra 神の稱].
rta-ni 形 正しく導く.
rta-pā 形 聖法を護持する.
rta-prajāta (過受分) = **rta-jāta**.
rta-bhuj 形 敬虔なる行爲の果報を受くる.
rtaṃ-bhara 名 Brahman; [Viṣṇu 神の稱]. 形 最高原理を體現せる.
rtaṃ-bharā 名 [±prajñā] 眞理を保有する智慧; 精神の統一.
rtaṃ (名動) 自 **rtaṃ** 正しく行ふ.
rtaṃ 名 副 正しく.
rta-yuj 形 正しく馬具を附けたる; 正しく結ばれたる; よく同盟せる.
rtaṃ 形 眞理を有する或は語る, 正しき.
rta-vāka 名 眞實の或は正しき言論.
rta-vādin 形 眞實を語る.
rta-vrata 形 誓に忠實なる.
rta-satya 名 正義と眞理.
rta-sāta 形 眞理又は正義に充ちたる.
rta-sāp 形 敬虔を常とする, 信心深き.
rta-stubh 形 正しく讃美する.
rtaṃ (名動) 正道に従ふ; 從順なり, 信心深し. 現分 **rtaṃ**.
rtaṃ 形 規則正しき; 正當なる; 敬虔なる.
rtaṃ 形 (女 -vari) 秩序を守る, 規則正しき; 敬虔なる; 適正なる; 神聖なる, 清淨なる.
rtaṃ 形 聖法を助長する, 神聖なる.
rtaṃ (名動) 自 **rtaṃ** 争ふ; 他 **rtaṃ** 恐怖を有す, 畏怖す(佛敎).
rtaṃ (現分) [名動 **rtaṃ**]; 深生慚愧 [*Tib. ḥdsem-bshin-du*] *Bodh-bh. 166.*
rtaṃ 名 一定時, (犠牲に)適當なる時; 期; 季節; 月經 (特に月經に直續して妊娠)に適する期間; (斯る)期間に於ける性交; 固定せる順列; 秩序; 法則; 時, 節, 時節, 時候; 月期, 月水 *Divy., Lal-v., Ast-pr., Lank., Mañj-m., Abh-vy.*, 梵雜. 名 (四及五) 正しき時に, 然るべき季節に. 名 特有の季節に於て.
rtaṃ-kāla 名 適當なる或は特有の季節; 月經期: (月經に直續して妊娠)に適する期間.
rtaṃ-gāmin 形 適時(即ち月經期の後)に妻に接する.
rtaṃ-grahaṇa 名 月經期の後に妻と交はること.

ṛtu-juṣ 形 女 妊娠に好適なる期間に在る。
 ṛtuthā 副 規則正しく；正當に；精密に，明かに。
 ṛtu-dhātu 男 時界 Madhy-v.
 ṛtu-pati 男 季節の主，春。
 ṛtu-parivarta 男 時轉變 Mvyut.
 ṛtu-parṇa 男 [Ayodhyā 國の王の名]。
 ṛtu-paśu 男 特殊の季節に犠牲に供せらるゝ獸。
 ṛtumat 形 正規の時を守る；適時に來る；季節を楽しむ；有時，月期至 Divy., Abh-vy.
 ṛtumati 女 婚期の女；妊娠に適する時期にある女。
 ṛtu-mukha 甲 季節の初又は最初の日。
 ṛtu-yāja 男 [(季節に捧ぐる)特殊の儀式]。
 ṛtu-rāja 男 春。
 ṛtu-liṅga 甲 季節の特色。
 ṛtu-vara 男 好時節 Lal-v.
 ṛtuśas 副 正當に，好適時に。
 ṛtu-ṣṭhā 形 季節内の。
 ṛtu-saṃhāra 男 [(季節集), Kālidāsa 作の詩の題名]。
 ṛtu-saṃdhi 男 季節の變り目。
 ṛtu-samaya 男 妊娠に好適なる時。
 ṛtu-snātā 形 女 月經後に沐浴せる，性交の準備成れる。
 ṛte (過受分) 於 前 ……は別として，……なくして，……を除外して；(業，從)の存せざる時に；離，除 Saddh-p., Abh-k., Vijñ-t.
 ṛte-karman 副 働かずして；降雨の間。
 ṛte-jā 形 聖なる規則に生くる，法規に忠實なる；供犠に際して生ずる。
 ṛtena 具 副 → ṛta.
 ṛte-mūla 形 根なき。
 ṛte-rakṣas 形 惡鬼を除きてなされたる。
 ṛtokti (ṛta-uk^o) 女 眞の宣言。
 ṛtv-anta 男 季節の終り。形 季節を終ふる。
 ṛtv-ij 形 正規に犠牲を捧ぐる。男 (種-k) 祭官；[各種の Veda 祭官の名：例 Hotṛ, Udgāṭṛ, Adhvaryu, Brahman]。
 ṛtviya 形 適時の；正規の時を守る；規定に依る，正式の；儀軌を知る。
 Rḍ, I. 他 ardati (因は又た ṛdati) 散る；動揺せしむ，悩ます。便後 ardayati 亂す；悩ます；打つ，傷つく；殺す，破壊す。過受分 ardita 害せられたる，悩まされたる，傷けられたる；殺害又は破壊せられたる。
 ṛddha 過受分 → Rḍh. 富，豐樂，熾盛 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.
 ṛddhi 女 繁榮，安寧，好運；富；完全，超自然力；德，福德，威德；如意；通，神通，妙神通力，大神通力，神，神力，神變，神境，神足，威神，威力；通慧 Divy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sam-., Rāṣṭr., Lank., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Ma-dhy-vibh., Dharm-s., Mvyut., 梵干。具 ṛddhyā 現通，神力 Bodh-bh.
 ṛddhika 形 神 Daś-bh.
 ṛddhi-kāma 形 繁榮又は富を望む。
 ṛddhita 過受分 (一)によりて繁榮せしめられたる。
 ṛddhi-pāda 男 神足，如意足 Av-ś., Lal-v.,

Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.: cutvāra ~ āḥ 四神足，四如意足 Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut.: [1. chanda-samādhi-prahāna-samskāra-samanvāgato ~ ḥ 欲三摩地斷行成就神足，2. citta-samādhi-prahāna-samskāra-samanvāgato ~ ḥ 心三摩地斷行成就神足，3. vīrya-samādhi-prahāna-samskāra-samanvāgato ~ ḥ 勤三摩地斷行成就神足，4. mimāṃsā-samādhi-prahāna-samskāra-samanvāgato ~ ḥ 觀三摩地斷行成就神足] Mvyut.
 ṛddhi-prabhāva 男 神力 Divy.
 ṛddhi-prabhūta 形 諸神通 Saddh-p.
 ṛddhi-prātihārya 甲 神力，神變，變化通，神變通，神變示導，神通變現，神足變現，神足示現，神通神變，神足變示現 Divy., Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.
 ṛddhi-bala 甲 神力，神通力 Saddh-p., Bodh-bh.
 ṛddhimat 形 繁榮する，富める；(一)に富む；豪富；有神通，具神通，已具神通，得神足，有大神力，得大神通，成就神通，如意成通慧 Saddh-p., Suv-pr., Bodh-bh., Abh-vy.
 ṛddhimattā 女 繁榮。
 ṛddhila-mātā 女 或る Upāsikā の名 神仙母 Divy.
 ṛddhivat 男 具神通者，有神通人 Vijñ-v.
 ṛddhi-vaśitā 女 神通自在，自在神通，神通降伏，如意力自在，主神通 Rāṣṭr., Dharm-s., Mvyut.
 ṛddhi-vikriḍita-samādhi 男 (音寫) 神通遊戲三昧，神足戲樂三昧 Saddh-p.
 ṛddhi-vidhi-jñāna 甲 神作智 Mvyut.
 ṛddhi-viśaya-jñāna-sākṣāt-kriyā 女 神境智作證通 Bodh-bh.
 ṛddhy-abhisamskāra 男 神力，神足行，神通變化 Saddh-p., Bodh-bh.
 Rḍh, IV. 他 ṛdhyati; V. 他 ṛdhnōti; [因は又た] VII. ṛṇaddhi. 繁榮す，成功す；助成す；完成す；成就，成滿，稱遂；爲神變事 Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh. 受 ṛdhyate 繁榮す；生ぜらる。過受分 ṛddha 成功せる，繁榮せる；富める；豊かなる(聲). adhi- 擴がる。
 anu- 果す。
 sam- 繁榮す；遂，成就，得稱遂，得如願，圓 Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy. 受 samṛdhyate 果さる；成功す；(具)に參與す。過受分 samṛddha 果されたる；完全なる；富める，豊かなる；澤山なる，十分なる，多き；(具，從，一)を給與せられたる或は備へたる。便後 samardhayati 果す；(具)を給與す。
 ṛdhak 副 別れて，離れて；個々に，單獨に，特別に。
 ṛbisa 甲 地の龜裂，間隙。
 ṛbhu 形 [Rabh] 聰明なる；熟練なる，器用なる，老練なる。男 細工人；[三人の神聖なる細工人の名]。
 ṛbhu-kṣan 男 [Rbhu の一人の名]；[Indra 神及び Marut 神の名]。
 ṛbhu-kṣā 男 [同上]。

rbhumat 形 熟練なる、聰明なる; *Rbhu* に伴はれたる。
rbhvan 形 巧妙なる、熟練なる; 聰明なる。
ṛśat 動 我 [破裂する音響の (變音)].
ṛśya 男 羚羊の(一種の) 牡。
ṛśyaka 形 *Ṛśya* の色を有する。
ṛśya-jihva 中 [癩病の一種].
ṛśya-da 中 [Dā 3] 羚羊を捕ふる爲の坑。
ṛśya-śṛṅga 男 [人名]; [*Vibhāṅḍaka* の子なる聖仙の名].
Ṛṣ 1., I. 他 **arṣati** 流る、速かに流る; 滑(る)る、速かに動く。
abhi- (業) の方に流る。
Ṛṣ 2., VI. 他 **ṛṣati** 行く 動く; 衝き通す、押す、殺す、強く推す; 刺す。
ni- 挿入す; 隠す; 充たす。 (通受分) **nyṛṣṭa** (具) によりて充されたる、…の多き。
ṛṣabha 男 牡牛; (一) の牡; (屬 一) の中にて最上の・最も高尚なる或は優れたる; [聖仙の名]; [王の名]; [山の名]; [音階の第二音]; (漢譯) 牛王、大牛王; 超群、勝群; 僊、神仙; 神仙曲、第二音 *Gand-vy., Bṛdh-bh., Mvyut.*; (音譯) 勒娑婆、梨沙婆 *Lan̄k., Mvyut.*
ṛṣabhaka 男 牡牛; [藥草の名]; [王の名]; [山の名].
ṛṣabha-dāyin 形 牡牛を與ふる。
ṛṣabha-vikrama 形 牡牛の如く強き (*Buddh-c.*).
ṛṣi 男 (聖讚歌の) 詩人又は作者、詩人、詩人の祭官; (往昔の) 聖人又は賢人、聖仙; [崇高なる特殊の人々(其の數は屢々七人に限らる)]; (國) [聰明と敬虔とにて有名なる人々に] 隠者; (漢譯) 僊、仙、仙人、大仙、神仙、聖 *Buddh-c., Saddh-p., Vajr-pr., Daś-bh., Lan̄k., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-c., Mvyut.* 梵雜. (覆) (大熊星座の七) 星。
ṛṣika 男 下位の *Ṛṣi*; [王の名]; (覆) [民族の名].
ṛṣikā 女 下位の *Ṛṣi* の婦人; [河の名].
ṛṣi-kumāra 男 隠遁せる少年。
ṛṣi-kulyā 女 [*Sarasvatī*, その他の河の名].
ṛṣi-kṛt 形 見せしむる; 輝かしむる (*Agni* 神); (心

を) 啓發する。
ṛṣi-gupta 男 (漢譯) [佛の名] 仙護 *Lal-v.*
ṛṣi-tapas-taptā 女 (漢譯) 諸仙苦樂; (音譯) 尼師答多 (書), 梨沙耶娑多波侈比多 (書) *Lal-v. 126.*
ṛṣitva 中 *Ṛṣi* たること。
ṛṣi-datta 男 (漢譯) [人名] 仙授 *Divy.*
ṛṣi-deva 男 (漢譯) [佛の名] 仙天 *Lal-v.*
ṛṣi-patana 中 (漢譯) [地名] 仙墮, 仙人墮處 *Lal-v., Mvyut.*
ṛṣi-putra 男 *Ṛṣi* の子息。
ṛṣi-praśiṣṭa 形 *Ṛṣi* に教へられたる。
ṛṣi-manas 形 炯眼なる; 心の啓發せられたる。
ṛṣi-yajña 男 諸 *Ṛṣi* への供儀即ち *Veda* の研究。
ṛṣi-loka 男 諸 *Ṛṣi* の世界。
ṛṣivat 副 *Ṛṣi* の如く。
ṛṣi-vadana 中 (漢譯) [地名, *Ṛṣi-patana* と同處を指す。蓋しその音の轉訛なり] 仙言, 仙論, 神仙言, 仙面, 僊面處, 古仙林, 仙人墮處 *Divy., Mvyut.*
ṛṣi-vāṭa 男 *Ṛṣi* の集會。
ṛṣi-veśa 形 (漢譯) 仙人形 *Av-ś.*
ṛṣi-ṣṭuta 形 諸 *Ṛṣi* に稱讚せられたる。
ṛṣi-saṅgha 男 (漢譯) 諸仙 *Saddh-p.*
ṛṣi-sāhvaya (°sa-āh°) 中 [(仙人を名稱とせる), *Ṛṣi-patana* の稱] (*Lal-v.*).
ṛṣi-stoma 男 [特殊の供儀の名].
ṛṣi-svara 形 *Ṛṣi* に稱讚せらるゝ。
ṛṣi-svādhyāya 男 *Veda* の復誦。
ṛṣu, [屬 覆] のみ 熱, 焰。
ṛṣṭi 女 槍, 劍。
ṛṣṭika 形 —°, [同上]. 男 覆 [民族名].
ṛṣya, → *ṛśya*.
ṛṣya-mūka 男 [山の名].
ṛṣya-śṛṅga 男 = *ṛśya-śṛṅga*; (漢譯) [人名] 鹿角(大仙), 善覺[仙角](大仙) *Vajr-s.*; (音譯) 勝渠 *Buddh-c.*
ṛṣva 形 高き, 聳え立てる; 莊嚴なる, 貴き。
ṛhat 形 小さき, 弱き, 無力の。

E

e, [e-ka, e-tad, e-na, e-va, e-vam に於ける代名詞根].
e (ā-I) eti. → I.
eka 形 一の; 單獨の, 唯一の; 一箇の; 同一の, 共通の; (屬, 從, 一) の一; 獨特の; 優れたる; 或る, 某, [屢々 = 不定冠詞]; (漢譯) 一, 獨, 同一 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Lan̄k., Mvyut.* → an~.
na ~, 何れも…せざる。 (覆) 若干の, 若干の人。
 ~…~, 前者は… 後者は。
 ~…~**anya**, [同上].
 ~…~**apara**, [同上].
 ~…~**dvitiya**, [同上].

~e…~e, 或ものは…他のものは。
 ~e…~**anye**, [同上].
 ~e…~**apare**, [同上].
 男 [或る教師の名]. 中 單位 [一° = 一].
ekaka 形 (女 ā, -ikā) 一箇の, 孤獨の, 孤立せる; 其の種類唯一なる; (漢譯) 獨 *Saddh-p.*
eka-kaṅṭha 形 異口同音に言ふ; (漢譯) 同聲 *Lal-v.*; ~**ena** 具 (漢譯) 異口同音 *Guhy-s.*
eka-kapāla 形 一鉢に容れられたる, 鉢一杯の。
eka-karṇa 形 (漢譯) 一耳者 *Mvyut.*
eka-karman 形 (具) と同一の仕事をも有する。
ekakānta-rājan 男 (漢譯) 獨妙 *Mvyut.*
eka-kārya (未受分) 中 同一の仕事. 形 同一目的を

有する, 同一の仕事を實行する; 〔漢譯〕共事, 爲一事
Abh-vy.

eka-kāryatva 〔中〕〔同上(形)〕〔中〕.

eka-kāla 〔形〕同時の; 〔漢譯〕同時 *Sikṣ.* ~m 〔副〕
日に唯一度, 唯一度.

eka-kālatā 〔女〕同時性.

eka-kālatva 〔中〕〔同上〕.

eka-kālikam 〔副〕日に唯一度.

eka-kālin 〔形〕〔同上〕.

eka-kula-gotra 〔形〕〔漢譯〕同一姓 *Saddh-p.*

eka-kuṣṭha 〔中〕〔癩病の一種〕.

eka-krama-vyatihāra 〔男〕〔漢譯〕行於一步 *Sikṣ.*

eka-kriya 〔形〕同一の仕事を有する.

eka-kṣaṇa 〔中〕〔漢譯〕一念; (音寫)刹那, 一刹那 *Suv-pr., Sikṣ.*; —° (音寫)於刹那頃 *Saddh-p.* ~m 〔副〕
〔漢譯〕一念, 於一念頃; (音寫)一刹那頃 *Saddh-p., Sikṣ.*

eka-kṣaṇa-lava-muhūrtena 〔副〕〔漢譯〕一念頃;
(音寫)一刹那頃 *Bodh-bh.*

eka-kṣaṇikam 〔副〕〔漢譯〕於一念頃; (音寫)一刹那頃
Bodh-bh.

eka-kṣira 〔中〕同一の牝牛の乳.

eka-kṣiroda (°ra-uda) 〔形〕〔漢譯〕水乳合 *Prāt-m.*

eka-khura 〔形〕單蹄を具する. 〔男〕單蹄動物.

eka-garbha 〔形〕一子のみを生める; 〔漢譯〕一密藏, 同
一藏 *Gaṇḍ-vy.*

eka-grāma 〔男〕同じ村.

eka-grāmiṇa 〔形〕同村に住する.

eka-ghana 〔形〕〔漢譯〕同, 同一, 純一; 全身; 一合成
Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sikṣ.

eka-cakra 〔形〕一輪の; 一の軍隊のみを有する; 一王
侯のみに支配せらるゝ.

ekacakra-vartitā 〔女〕〔同下 中〕.

ekacakra-vartin 〔形〕一輪にて廻轉する. 〔男〕唯一
の王.

eka-cakṣus 〔形〕獨眼の [又*針に關して言ふ].

eka-catuṣ-pada 〔形〕〔漢譯〕一四句 *Bodh-bh.*

eka-catvāriṃsa 〔形〕(女-i) 第四十一の.

eka-catvāriṃsat 〔女〕四十一.

eka-cara 〔形〕唯獨り住する; 孤獨の; 同時に動く;
〔漢譯〕獨, 獨行 *Kāśy.*; 翹足 *Sikṣ.* 〔男〕〔*Siva* 神の
稱].

eka-caraṇa 〔形〕一脚の.

eka-cari 〔女〕 [=eka-cari]; 〔漢譯〕同一行 *Gaṇḍ-vy.*

eka-cārika 〔形〕〔漢譯〕獨行, 獨所行 *Lank.*

eka-cāriṇi 〔女〕(一人の夫にのみ忠實なる)貞節なる
妻又は主婦.

eka-cārin 〔形〕獨り行く或は暮す, 孤獨の.

eka-citta 〔中〕同一思想, 一致; 同一對象に向けられ
たる心; 〔漢譯〕一念 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Sūtr.* 〔形〕
一致せる; 唯一對象を想ふ, 熱心なる, 心を奪はれた
る; (一)のみを考ふる.

eka-citta-kṣaṇa 〔中〕〔漢譯〕一念心 *Suv-pr.*

ekacittakṣaṇa-samāyukta 〔形〕〔漢譯〕與一念相應;
(音寫)心刹那相應 *Aṣṭ-pr.*

eka-cittatā 〔女〕一致; 唯一對象に專心すること.

ekacitti-BHū, 一致す.

ekacittotpāda (°ta-ut°) 〔形〕〔漢譯〕一發心, (初)一發心
Aṣṭ-pr. ~ena 〔具〕〔漢譯〕一發心頃 *Aṣṭ-pr.*

eka-cintana 〔中〕共通の思想.

eka-cetas 〔形〕一致せる.

eka-cchattra 〔形〕一王の傘蓋のみを持つ, 一人の王に
よりにて治めらるゝ; 〔漢譯〕sarvo jambudvīpa ~o
'bhūt (彼王威德)普被閻浮提内 *Gaṇḍ-vy. 325.*

eka-cchāya 〔形〕影のみある, 眞の暗黒なる.

eka-ja 〔形〕單獨に生れたる. 孤獨なる, 單一の.

eka-jāti 〔女〕〔或る女神〕; 〔漢譯〕獨髻母, 頂髻母 *Mvyut.*

eka-jāta 〔形〕同一の父又は兩親より生まれたる; 同一
身分の生れたる.

eka-jāti 〔形〕一度生まるゝのみなる; 同種の(獸). 〔男〕
Sūdra.

ekajāti-pratibaddha 〔形〕〔漢譯〕一生得, 一生世, 一生
所繫, 一生相續, 一生補處, 繫屬一生; 最後身 *Lal-v.,*
Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Rāṣṭr., Sukh-vy. II.,
Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.: ~ā bodhisattvāḥ
一生所繫菩薩, 一生補處菩薩, 最後身菩薩 *Gaṇḍ-vy.*
139.

eka-jātiya 〔形〕同一種の; 同一家族の; 〔漢譯〕一種, 一
類 *Mvyut.*

ekajātiya-vijñāna 〔中〕〔漢譯〕一類識, 識一種 *Mvyut.*

eka-joda 〔形〕〔漢譯〕一類, 一類 *Mvyut.*

eka-jvālī-bhūta 〔形〕〔漢譯〕成一火聚, 如大火聚 *Sikṣ.:*
~o dhyāyati 燒成一塊, 熾然燒成一塊 *Mvyut.*

eka-jvālobdhava-prajvālita (°la-ud°) 〔形〕〔漢譯〕一
火焚燒, 一所出光焰 *Lank.*

ekata 〔男〕〔三 *Āptya* 神中の長兄にして *Dvita* と *Trita*
との兄の名]; [或る婆羅門の名].

eka-tatpara 〔形〕……に專心する.

ekatama 〔最上〕多の中の一; 〔漢譯〕隨一, 一一 *Prāt-*
m., Sikṣ.: ~ cīvara 一一衣 *Prāt-m. IV. 2.*

ekataya 〔形〕單一の.

ekatara 〔比較〕二の中の一 [屢 = ekatama]; 〔漢譯〕隨
一 *Abh-vy.*

ekatas 〔副〕[eka の 從] 一方より, 一方に.
~……~ 一方には……他方には, 此處に……
彼處に.
~……anyatas, [同上].

ekatā 〔女〕單一, 合同, 同一; 〔漢譯〕一, 一向, 一體
Cat-ś., Sūtr. ~m api-Yā, (因)と合せらる.

eka-tāna 〔形〕唯一對象に專心する [屢 = 一°]; 〔漢譯〕
唯 相續一向 *Abh-vy.*

eka-tānatā 〔女〕〔同上 中〕.

eka-tāla 〔形〕唯一本の Tāla 樹を有する. 〔男〕調和,
歌謠・舞踏及び音樂の一致.

eka-tirthin 〔形〕同一草庵に住する.

eka-tejana 〔形〕一本の軸を有する(矢).

ekato-dat 〔形〕下顎にのみ齒を有する.

ekatya 〔形〕〔漢譯〕[Pāli. ekacca] 一分, 一類, 隨一 *Sikṣ.,*
Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.: tad ~ 一分, 隨一
Abh-vy. 171.

ekatya-śāsvatika 〔形〕〔漢譯〕一分常論 *Bodh-bh. 67.*

ekatra 〔副〕[eka の 於] 一に, 同一に; 一處に, 同一處

に、共に；[漢語] 同處，一處，於一處，於一物 *Madhy-v., Abh-vy.*：〜 citte 於一心 *Abh-vy. 138.*

eka-triṃśa 形 第三十一の。

eka-triṃśat 女 三十一。

eka-trika 男 [Ekāha 祭の一種]。

ekatva 中 單一；合同；同一；單數(文語)；[漢語] 一，一性，一法，一處，體一，唯一 *Lank., Sūtr., Abh-vy., Madhy-v., Madhy-vibh.* ∼ m Gam, (具) と合せらる。

ekatva-grāha 男 [漢語] 持一，一性執 *Mvyut.*

ekatvānyatva 中 [漢語] 一異，一異性 *Lank., Sūtr.*

ekatvānyatva-kathā 女 [漢語] 說一體二體，妄說一異性 *Lank.*

eka-dakṣiṇiya 形 [漢語] 唯一福田 *Divy.*

eka-daṇḍin 男 (一杖を擔へる)。*[修道者の一階級の名]；[漢語] [外道の名] 一杖，一木，一棍 *Mvyut.* [或る *Pedānta* 派の名]。*

eka-danta 形 [漢語] 一齒 *Mvyut.* 男 (一齒あるもの)。*[Gaṇeśa の稱]。*

eka-daśa 形 [漢語] 十分之一 *Sikṣ.*

ekadā 副 同時に，一時に；時々；昔，或時，或日；[漢語] 一時，同時；或時，有時，於一時 *Abh-vy., Madhy-v.*

eka-duḥkha 形 同様の苦を有する。

eka-dṛśya 形 それのみが見るべき価値ある。

eka-dṛṣṭi 女 一の対象に向けられたる凝視，轉ぜられざる凝視。男 鳥。

eka-devatya 形 一神に捧げられたる，唯一神に向けられたる。

eka-deśa 男 或る場處，一部分；同一箇處；[漢語] 一分，一方，少 *Lank., Nyāy-pr., Abh-vy., Mvyut.* 形 同一處にある。

ekadeśa-kārin 形 [漢語] 持一處，行一事，能學一分 *Abh-vy., Mvyut.*

ekadeśa-dravya 中 唯一の對象；同一の對象。

ekadeśa-vṛtti 女 [漢語] 一分轉 *Nyāy-pr.*

eka-deśin 形 部分より成る，部分に分たれたる(全體)。

eka-dravyavattva 中 [漢語] 一實 *Nyāy-pr.*

eka-dvāra 形 一の入口のみを有する。

eka-dhana 中 財産の一部。男 (或る儀式に水を汲む)水差。形 唯一の即ち最高の寶として有する；(一°)によりて全く充たされたる；〜ā (女 覆) [āpas と俱に] *eka-dhana* (男)によりて汲まるゝ水。

ekadhana-vid 形 財産の主要部分を得る。

eka-dhanin 形 *eka-dhana* (男)を運ぶ。

eka-dharma 形 齊一の，同種の。

eka-dharmin 形 [同上]。

ekadhā 副 單獨に，單純に；直ちに，共に；連続して。

ekadhā-bhūya 中 單一となること。

eka-dhāra 男 單一の或は遮られざる流。

eka-dhāraka 男 [山の名] (*Divy.*)。

eka-dhura 形 同じ荷を擔ふ，同じ荷に適する。

ekadhurāvaha (°ra-āv°) 形 [同上]。

eka-dhurīna 形 [同上]。

ekadhyam 副 [=aikadhyam]；[漢語] 一 *Bodh-bh., Mvyut.*：〜 abhisamkṣipyā 收爲一，略爲一，總攝爲一 *Bodh-bh. 98., Mvyut.*

ekadhye 副 [同上] (*Divy.*)。

eka-nakṣatra 中 一箇の星より成る星宿，(pūrva 又は *uttara* を伴はず) その名が唯一度現るゝ星宿。

eka-nakha 形 [漢語] 一指甲者 *Mvyut.*

eka-narādhipa 男 皇帝。

eka-navata 形 第九十一の。

eka-navati 女 九十一。

eka-nāda 男 [漢語] 同聲 *Divy.*

eka-nāmadheya 形 [漢語] 同一字 *Saddh-p.*

eka-nāsa 形 [漢語] 鼻一孔者 *Mvyut.*

eka-niryāna 形 [漢語] 同出離 *Gaṇḍ-vy.*

eka-niścaya 男 同一の或は共通の決定。形 同一の決定を爲せる，同一目標に進める。

eka-niṣṭha 形 同一の結果に歸する。

eka-niṣyandatā 女 [漢語] 一等流 *Abh-vy. 192.*

eka-niḍa 形 共同の住居を有する，同一の故郷を有する；一箇の席を有する(車)。

eka-naikāyika 形 [°ni-kāya より] [漢語] 自部，一部 *Abh-vy. 224.*

eka-pakṣa 男 一方，一部の人，一の場合，二者中より選ぶべきもの，論據の一方；[漢語] 半月 *Mvyut.*

ekapakṣi-bhāva 男 二者中の一たること。

eka-pāñcāśa 形 第五十一の。

eka-pāñcāśat 女 五十一。

eka-pati 男 共通の夫。

eka-patikā 形 同一の夫を有する。

eka-patnitā 女 一妻を共有すること。

eka-patni 女 唯一人の妻，忠實なる妻。形 覆 同一の夫を有する。

eka-pād 形 [圓 幹 °pād (女 °padi)] 隻脚の，跛行する；不完全なる。

eka-pada 中 同一場處；同一部分；單一語，單純語；同一語；[漢語] 一句 *Abh-vy.* ∼ m 副 約言して。

∼ m, ∼ e 副 直ちに，俄かに，忽ち。形 隻脚の；唯一歩の長さの。

eka-pada-vyañjanāparāṇmukha 形 [漢語] 一文一句皆悉通達，不失一句一味 *Gaṇḍ-vy.*

eka-padā 女 一 Pāda (行)より成る詩節。

eka-padi 女 歩道。形 → *eka-pad.*

eka-para 形 [古代の賭博に於ける最悪の場合]=*kali.*

eka-parvan 形 一の句切り又は部分より成れる。

eka-palāśika 形 [漢語] 一重 *Divy.*：∼ e upānahe 一重革履 *Divy. 21.*

eka-palāśiya 形 一葉の樹上にある或はに屬する。

eka-pāśuka 形 犠牲を共有する。

eka-pākopajivin (°ka-up°) 形 同じく調理せられし食物にて生活する，同じ釜の飯を食ふ(家族)。

eka-pāṇa 男 單一の賭又は賭金。

eka-pātin 形 共通の或は同一の様子をなせる，孤立せる，分離せる；同一の部に屬する；[漢語] 總括せらるる。

eka-pātra 形 同一の器中にある。

eka-pād, → *eka-pad.*

eka-pāda 男 一足; 四分の一; 同一の Pāda (行)又は四分の一頌; 一足, 一脚 *Sur-pr.*: ~ena tiṣṭhati 一脚而立 在處常翹於一足 *Sur-pr. 101.* 形 一行の; 一足の, 一脚のみを用ふる; 一足 *Mvyut.*

eka-pādaka 男 複 [神話上の民族の名].

eka-pādikā 女 一脚.

eka-pārthiva 男 唯一の王.

eka-pārśvavadārita 中 一方の車輪を破壊せられたる車

eka-piṅga 男 (全く褐色なるもの), [*Kubera* 神の稱].

eka-piṅgala 男 [同上].

ekapiṅgalācala 男 *Kubera* 神の山(即ち *Himavat*).

eka-pitṛkatva 中 一父 *Vajr-s.*

eka-pita 形 全く黄なる.

eka-puta 形 單 梵千.

eka-puṇḍarika 中 (唯一の蓮花(即ち)最善なるもの; [*Prasenajit* 王の象の名] (*Av. s.*).

eka-putraka 男 [鳥の一種]; 一子 *Bodh-bh.*

ekaputraka-saṃjñā 女 一子想 *Gaṇḍ-vy., Lank.:* sarva-sattva ~ 於諸衆生一子想 *Lank. 246.;* ~ udapadyata 生一子想, 發一子想 *Gaṇḍ-vy. 332.*

eka-putratā 女 一子のみを有すること.

eka-putratva 中 [同上].

eka-puruṣa 形 一人のみより成れる. 男 唯一人; 最高唯一の本體.

ekapuruṣotpannatva (°sa-ut°) 中 一父之所生 *Vajr-s.*

eka-puṣkara 男 [太鼓の一種].

eka-puṣkala 男 [同上].

eka-prakāra 形 同種類の, 同一方法の.

ekaprakārāśana-bhojin 形 一種食, 一類而食 *Bodh-bh.*

eka-prakhya 形 一樣なる; 同一の, 相似の.

eka-prāṇama 中 一拜禮敬 *Bodh-bh.*

eka-pradāna 形 同時に或は同じ犠牲を供物として受くる(神).

eka-pradeśa 男 一分 *Abh-vy.*

eka-prādeśa 形 (女 -ā) 長さ一蹠手の.

eka-phala 形 (一°)と同様の果を結ぶ.

eka-bija 中 一種 *Lank.*

eka-buddhatā 女 一佛 *Lank.*

eka-buddhi 形 考の一致せる; 質朴なる. 男 [或る魚の名]. 女 素朴なる概念(形).

eka-bhakta 形 一夫に仕ふる或は忠實なる. 中 (一日)一食すること; 一日一食 *Lal-v.*

eka-bhaktika 形 (一日)唯一食する.

eka-bhakṣa 男 唯一食.

eka-bhāga 男 一部分.

eka-bhāva 男 合一; 一なること; 單純, 率直, 眞實; 一法 *Lank.* 形 同一性質を有する; 正直なる, 眞實なる; (圖)に對して高潔に行動する.

eka-bhāvin 形 一となれる, 合體する.

eka-bhūta 形 分たれざる, 一致せる; 專念する, 注意深き.

eka-bhūmika 形 一階(建)の.

eka-bhūmiśvara (°mi-īś°) 男 地上の唯一の支配者.

eka-bhūya 中 合一, 合致.

eka-bhojana 中 一日に一回の食事; 共に食ふこと.

eka-bhojin 形 一日に唯一食する.

eka-mati 女 一致; 一意專心. 形 一致せる.

eka-manas 形 唯だ一(の對象)に專念する, 注意深き [屢: —°]; 一致せる.

ekam-ante 副 [*Pāli. ekam antam*] 一方に, 離れて, 傍らに (*Mah-v.*).

ekamaya 形 (女 -i) (一°)のみより成る, ……にて全く充されたる.

eka-mānasa 中 同意 *Sikṣ.* ~m *Kṛ* 同意 *Sikṣ.*

eka-māsa 形 同一の月に行はる.

eka-mukha 形 一の口を有する; 同一方向に向へる; 一人によりて主宰せられたる, 一人の主のみを有する; 同一部類に屬する.

eka-muhūrtena 中 一念頃, 一須臾頃 *Daś-bh.*

eka-mūrṭi 女 一個の人, 唯一人.

eka-mūrdhan 形 (女 -dhni) 頭又は顔を同一方向に向けたる.

eka-mūla 形 單一の根を有する.

ekam-eka 形 [*Pāli. 同じ*] 一つ宛の, 各々の (*Mah-v.*).

eka-yajña 男 一人によりて捧げられたる犠牲.

eka-yaṣṭi 女 一本の絲にて繋げる眞珠の首飾.

eka-yaṣṭikā 女 [同上].

eka-yāna 中 一乘 *Saddh-p., Lank., Sūtr., Mvyut.*

eka-yoga 男 結婚; 一箇條に纏れる規則.

eka-yoni 形 母を同じくする, 同腹の; 同一血統の, 同一種姓の.

eka-rakṣa 形 於救護中最爲第一 *Divy. 264.*

eka-rajāgra 中 一塵, 一塵端, 一微塵 *Gaṇḍ-vy.*

eka-ratha 男 優れたる戰士.

eka-ravena 中 異口同音 *Divy.*

eka-rasa 男 唯一の嗜好, 娛樂の唯一の對象; 一味, 同一味, 無差別 *Saddh-p., Sapt-pr., Lank., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.:* sarva-dharma-samatā ~ gāmin 趣向一切法平等性一味(實性) *Bodh-bh. 260.* 形 唯だ一の味を有する; 一人又は一物にのみ興味を感ずる; (一°)にのみ專念する; 不變の.

eka-rāj 形 獨り輝く, 獨り見ゆる. 男 王, 君主.

eka-rāja 男 [同上(男)].

eka-rātra 男 中 一夜續く祭式. 中 一(晝)夜の期間; 一夜, 一宿 *Prāt-m., Buddh-c.*

eka-rātrika 形 一夜(又は一日)續く, 一夜(又は一日)滞在する.

eka-rikthin 形 或る遺産に平等の權利を有する. 男 共同相續人.

eka-rūpa 形 一色の, 一の形の, 一の相の, 一種の; 一樣なる. 中 [音律の一種]; 一の形, 一種.

eka-rūpatā 女 一律; 不變.

ekarṣi (eka-ṛṣi) 男 最高の聖仙; [聖仙の名].

ekala 形 一の、唯一の；單獨の、孤獨の。 男 獨唱者。
 eka-lakṣaṇa 形 一相、一性、同一相 *Gaṇḍ-vy.*,
Laṅk.: sarva-dharmā ~ āh 一切法唯一相 *Gaṇḍ-*
vy. 294. 中 一相 *Madhy-vibh.*
 eka-lakṣyatā 女 唯一の目的たること。
 eka-lavyā 女 [町の名].
 eka-vacana 中 單數(文法).
 ekavat 形 單一の。 副 單獨に、一の如く、一として。
 ekavad-bhāva 男 單一として現るゝこと。
 eka-varṇa 形 同一の色を有する；一樣の。 男 單一
 の音又は文字。
 eka-vasana 形 唯だ一の衣を著けたる。
 eka-vastra 形 [同上].
 eka-vastratā 女 唯だ一衣を所有すること。
 ekavastrārdha-saṃvita 形 一の衣を半分纏へる。
 eka-vākya 中 簡單なる表現又は言語；簡單なる文章；
 滿場一致の議題又は言葉。
 eka-vācaika-svara-nirghoṣa (°ca-ek°) 形 異
 口同音、異口同聲 *Suv-pr.*: eka-pādena ~ eṇa 異
 口同音、異口同聲 *Suv-pr.* 79.
 eka-vāram 副 唯一度；再び；直ちに；早晚。
 eka-vārṣika 形 一年 *Sikṣ.*
 eka-vāla-patha 男 一毛孔 *Gaṇḍ-vy.*
 eka-vāsa 形 同一の場處に住する。
 eka-vāsana-hetuka 形 皆因一習氣、一種子因
Laṅk.
 eka-vāsas 形 唯だ一の衣を纏へる。
 eka-vimśa 形 (女 -i) 第二十一の；二十一より成る。
 eka-vimśaka 形 (女 -ikā) 第二十一の。 中 二十一。
 eka-vimśat 女 複 二十一。
 eka-vimśati 女 單複 [同上].
 eka-vimśatitama 形 第二十一の。
 ekavimśati-stotra 中 [佛典の名、聖救度佛母二十一
 種禮讚經].
 eka-vidha 形 單純なる；同一の；一種の。
 eka-vipākatā 女 一異熟 *Abh-vy.*
 eka-viṣaya 男 一境界 *Sapt-pr.*
 eka-vicika 形 [Śrāvaka-puṅgava の一階梯] 一
 間、一間人 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 eka-vira 男 無類の勇士。
 eka-virya 形 等しき力の。
 eka-vṛkṣa 男 獨立樹；同一の樹。
 eka-vṛt 形 單純なる。
 eka-vṛtta 中 同一の音律。
 eka-vṛṣa 男 無類の牡牛、唯一の支配者。
 eka-veṇi 女 一條の辮髮(喪の表象)。 形 一條の辮髮
 より成る。
 eka-veṇi 女 形 [同上].
 ekaveṇi-dharā 形 女 一條の辮髮を戴ける。
 ekaveṇi-dharātva 中 [同上].
 eka-veda 男 唯一の *Veda*。 形 一の *Veda* のみを
 知る。
 eka-velam 副 暫時 *Suv-pr.*
 eka-veśman 中 一軒の建物、唯一の家；孤立の家。
 eka-vyāvahārika 男 複 [佛教部派の名：一説部].
 eka-vyūha 形 唯一相のみにて顯示する (*Viṣṇu* 神)；

[*Samādhi* の名] 一莊嚴、一相莊嚴；一行 *Sapt-*
pr., *Mvyut.*
 ekavyūha-vibhāga 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
 ekavyūha-samādhi 男 (音) 一行三昧、一相
 莊嚴三摩地 *Sapt-pr.*
 eka-vrata 形 一のみに專注する；誠實なる、從順な
 る。
 eka-śata 中 百一； 形 第一百一の。
 eka-śatatama 形 [同上(形)].
 eka-śapha 形 一蹄の、蹄の分たれざる。 男 單蹄動
 物。 中 單蹄動物の屬。
 eka-śaririn 形 孤兒の；唯一の。
 ekaśas 副 單獨に； 一 *Abh-vy.*
 eka-śāyin 形 (女なく)一人にて眠る；貞節なる。
 eka-śāla 中 一部屋の家；[都邑の名].
 eka-śila 形 唯一の岩より成れる。
 eka-śirṣā 女 [或る *Nāga* の少女の名] (*Īār-vy.*).
 eka-śila 形 同等の性向を持てる。
 eka-śulka 中 (新婦の兩親に與ふる)同一の代償。
 eka-śūra 形 獨尊、唯我獨尊 *Lal-v.* 273, 275.
 eka-śṛiga 形 一本の角(?)を有する。 男 山；*Viṣṇu*
 神； 複 [或る祖靈の名].
 eka-śeṣa 男 唯一の殘餘；(二つ又はそれ以上の語の
 中)一(のみ)を残す省略法 [例へば 兩 又は 複]. 形
 (一)唯一つ残れる、…のみを除ける。
 eka-śruta-dhara 形 一回聞きたる事を記憶する。
 eka-śruta-dharatva 中 [同上].
 eka-śruti 女 單調。 形 單調なる。
 eka-śruṣṭi 形 一命令に従ふ。
 eka-ṣaṣṭa 形 第六十一の。
 eka-ṣaṣṭi 女 六十一。
 eka-ṣaṣṭitama 形 第六十一の。
 eka-saṃvatsara 男 一年間。
 eka-saṃśraya 男 調和、平和なる共同生活。 形 結
 合せる。
 eka-saṃtāna 男 一相續 *Laṅk.*
 eka-saptata 形 第七十一の。
 eka-saptati 女 七十一。
 eka-saptatitama 形 第七十一の。
 eka-sabha 中 唯一の避難處、總集會處。
 eka-samādhi-samāpanna 形 一心不亂 *Ast-*
pr.
 eka-sarga 形 一の對象に専心する。
 eka-sahasra 中 一千一。 形 第一千一の。
 eka-sāra 形 (一)の唯一本質を有する。
 eka-sārtha-prayāta 形 (saha) と同一の對象を追求
 する。
 eka-sāla 中 [町の名].
 eka-sṛka 男 [(獨住性ある)野干の一種].
 eka-stambha 形 一柱にて支持せられたる。
 eka-stha 形 共に立つ、結合せる；孤立する；自主の；
 同 梵千。
 eka-sthāna 中 同一處。
 ekasthāna-nivāsin 形 共宿、頓一處 *Saddh-p.*
 eka-svara 男 一音 *Madhy-v.*
 ekasvara-nirghoṣa 男。 ~ eṇa 異口同

音 *Suv-pr.***eka-hamsa** 男 最高の靈。**eka-hasta** 形 一手の長さある; 一握 *Mvyut.***eka-hāyana** 形 (女-i) 一歳の。**eka-hāyani** 女 一歳の牝牛。**eka-hetu-sambhūta** 形 一因生, 従一因生 *Abh-vy.***eka-hela** 女 ~*ayā* 圓 一撃の下に, 直に, 一回にて**ekā** 女 [女神 *Durgā* の名].**ekāmsā** 1. 男 唯一の部分, 部分; 一分, 一向; 無二, 無異; 決定 *Kāśy., Lan̄k., Sūtr., Abh-vy.*; 直答 *Lan̄k.***ekāmsā** 2. 男 [= *ekāmsā*]; 一肩 *Mvyut.*: ~*m* *uttarāsaṅgam kṛtvā* 偏袒一肩, 偏袒右肩 *Mvyut.***ekāmsātā** 女 [*ekāmsā* 1. の 屈].**ekāmsā-vyākaraṇa** 甲 一向記, 一日定答, 總發授記 *Mvyut.***ekāmsika** 形 一向 *Rāṣṭr.***ekāmsa** 男 ~*m* *uttarāsaṅgam kṛtvā* 偏袒右肩 *Lan̄k. 22., Bodh-bh. 153.*; ~*āny* *uttarāsaṅgāni kṛtvā* 偏袒左肩, 偏袒右肩 *Aṣṭ-pr. 865.***ekākāra** (eka-āk°) 形 [Samādhi の名] 一行相 *Mvyut.***ekāki-kesarin** 男 [*Bhilla* 族の名].**ekākin** 形 單獨の, 孤獨の, 全く唯一の; 獨, 獨一, 獨在, 獨坐, 獨處, 獨靜處, 獨立, 獨行, 獨一身, 獨無伴侶; 單, 單已; 一一 *Divy., Saddh-p., Rāṣṭr., Lan̄k., Prāt-m., Sikṣ., Bodh-c., Bodh-bh.***ekākṣa** 1. 形 唯だ一軸を有する。**ekākṣa** 2. 形 獨眼の; 一目 *Mvyut.***ekākṣara** 甲 唯一の不滅なる者; 一音; 單音節語; 神聖なる音 *Om.* 形 一音節の。**ekākṣi-piṅgalin** 男 [*Kubera* 神の稱].**ekāgni** 形 唯一の火を持続する。男 同一の火。**ekāgra** 形 一の先端ある, 一の對象に向けられたる, 注意深き, 集中せる; (一°)に心を奪はれたる; 全く(一°)にて充されたる (*Jāt-m.*); 一境, 一殊, 一心 *Lan̄k., Bodh-bh.* ~*m* 圓。**ekāgra-citta** 形 一の對象に専心せる。甲 一心, 專一趣心 *Prāt-m., Bodh-bh.***ekāgratas** 圓 = *ekāgram.***ekāgratā** 女 一意専心なること; 一境性, 唯一境性 *Sikṣ., Vijñ-t., Abh-vy.*: *cittasya* ~ 心一境性, 令心一境, 令心專一, 令心專注 *Vijñ-t. 26.* → *citta* ~。**ekāgratva** 甲 [同上].**ekāgra-dṛṣṭi** 形 一處に眼を固定する。**ekāgra-dhī** 形 一の對象に専心する, 甚だ注意深き。**ekāgra-mati** 形 [同上]. 男 [Māra-putra の名] 一縁慧 *Lal-v.***ekāgra-manas** 形 [同上].**ekāgri-Kṛ** 一心中亂 *Sikṣ.***ekāṅga** 甲 一箇の支分又は部分。男 護衛兵。**ekāṅga-rūpaka** 甲 不完全なる譬喩(修辭)。**ekāc** 形 一母音を有する**ekācchaṭā-sambhāta-mātram** 圓 一彈指頃 *Sikṣ. 214.***ekāñjali** 男 一摺み。**ekāṇḍa** 形 一卵 *Mvyut.* 男 (單一の卵丸を有する), [馬の一種].**ekātapatra** (eka-āt°) 形 一傘蓋即ち一人の王の下に在る; 一繖, 一切蓋主 *Divy.***ekātmaka** (eka-āt°) 形 各自 *Saddh-p.***ekātman** (eka-āt°) 男 唯一自我。形 自己一身に依存せる, 友に頼らざる, 同一の本性を有する; 孤獨の。**ekātmya** (eka-āt°) 形 孤獨の; 均一の。**ekā-daśa** 形 (女-i) 第十一の; —° = *ekādaśan.***ekā-daśaka** 形 第十一の; 十一 *Sāmkhy-k.***ekādaśa-kapāla** 形 十一の瓦器の上にて製れる(祭餅)。**ekādaśa-kṛtvas** 圓 十一回。**ekā-daśan** 形 十一の。**ekā-daśama** 形 第十一の。**ekādaśa-mārikā** 女 [(十一人を殺せる)女の名].**ekādaśa-rātra** 甲 十一(晝)夜の期間。**ekādaśa-rcā** (°*śarṇā*) 形 十一詩句を有する。**ekā-daśin** 形 十一より成る。**ekā-daśini** 女 十一(の讚歌, 犠牲獸等)。**ekā-daśī** 女 十四日間の第十一日。**ekādaśendriya-vadha** (°*śa-in*°) 男 十一根損壞 *Sāmkhy-k. 49.***ekādḥika** 形 一を増せる。**ekādhipa** 男 唯一主權者。**ekādhyāyin** 形 獨學の。**ekādḥva-patitvatva** 甲 墮一世, 墮同一世 *Abh-vy.***ekādḥvika** 形 一世 *Abh-vy.***ekānaṃsā** 女 [(指幅にも足らざる)新月の名]; [女神 *Durgā* 及び *Kuhū* の名].**ekānārtha** 形 悲しみを同じくする, 同一の不利を感じる。**ekānudiṣṭa** 甲 (最近)死亡せる家族の一員の供養。**ekānta** 男 寂靜處, 人里離れたる處; 他の存在を許さざること; 絶對的必要; 唯一の對象に專注すること; 單一神教; 一面, 一處, 一邊, 一向 *Aṣṭ-pr., Lan̄k., Rāṣṭr., 梵雜*: ~*e* *sthitāḥ* (却)住一面, (退)住一面 *Aṣṭ-pr. 198.*; ~*e* *nyasīdat* 却坐一面, 退坐一面 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.* → ~*trṣṇā-carita,* ~*rāga-carita,* ~*samkṛṣṭa,* ~*hetuka.*~*m,* ~*tas* 圓, —° 圓 專一に; 絶對に; 完全に, 全部。~*ena* 圓 [同上]; 常に; 一向 *Lan̄k., Madhy-vibh.*: ~*ena* *aśūnyam* 一向不空 *Madhy-vibh. 16.* ~*e* 圓 離れて, 秘かに;[屢: ° — = 圓] 完全なる, 唯一の; 至, 重, 唯, 專, 純, 純一, 一向, 定, 決定 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sikṣ., Nyāy-pr., Bodh-bh., Sāmkhy-k.*形 (於, 一°)に没頭せる, ……に専らなる; 定, 專, 純, 純一, 一向 *Divy., Abh-vy., Sāmkhy-k., Mvyut.***ekānta-karūna** 形 甚だ慈悲深き。**ekāntatas** 圓 → *ekānta.*

ekāntatā ㊦ [ekānta (形) の ㊦].
 ekānta-trṣṇā-carita ㊦ ㊦ 愛念情至, 愛念情重,
 唯行愛育 *Gaṇḍ-vy*, *Sikṣ*.
 ekānta-duḥkha ㊦ 全く不幸なる (*Buddh-c*).
 ekānta-bhāva ㊦ 唯だ一對象に専心すること, 唯一
 なるものへの歸依.
 ekānta-bhiru ㊦ 極めて臆病なる.
 ekānta-bhūta ㊦ 全く孤獨なる.
 ekāntara ㊦ 一つ置いて次の, 一段低き; 一の中聞
 (種姓・階級)によりて分離せられたる.
 ekānta-rāga-carita ㊦ ㊦ 多欲人 *Gaṇḍ-vy*.
 ekānta-vidhvamsin ㊦ 滅亡の外なき.
 ekānta-vihārin ㊦ 孤獨の遊行者.
 ekānta-śīla ㊦ 寂靜處に退く; 孤獨を好む.
 ekānta-saṃkliṣṭa ㊦ ㊦ 一向雜穢 *Gaṇḍ-vy*.
 ekānta-sthāyin ㊦ ㊦ 閑居 *Saddh-p*.
 ekānta-hita ㊦ 完全に利ある.
 ekānta-hetuka ㊦ ㊦ 決定因 *Nyāy-pr*.
 ekāntika ㊦ 一の目的・對象・人物又は理論に忠誠なる;
 ㊦ 決定向, 一向決定 *Daś-bh*.
 ekānti-Kṛ, 確定す, 決定す (*Divy*); ㊦ 詳虛實
Divy.
 ekānti-bhāva ㊦ ㊦ 一向不異 *Abh-vy*.
 ekānna ㊦ 同一の食物; 一回の食事; 唯一人に與へ
 られたる食物. ㊦ 同じ物を食ふ.
 ekānna-bhojin ㊦ 一日に一回の食事をなす.
 ekānnādin ㊦ 唯一人の(與ふる)食物のみを啜ふ, 唯
 一人の扶養を受くる.
 ekānvaya ㊦ (㊦)と同族の.
 ekāpacaya ㊦ 一を減ずること.
 ekāpatya ㊦ 獨子(㊦).
 ekāpāya ㊦ 一を減ずること.
 ekāpekṣa ㊦ ㊦ 平等觀一切, 心常平等 *Suv-pr*.
 ekāyana ㊦ 唯一人のみ通り得る狭き路; 會合處, 結
 合の中心; 一致, 合一, 絶對一; 單一神教; 一元論;
 世間的の智慧. ㊦ 唯一人の通り得る.
 ekāyana-patha ㊦ ㊦ 一乘道 *Sūtr*.
 ekāyani-bhāva ㊦ 合意.
 ekāyani-BHū, (㊦)の結合の中心となる; 唯一の目
 的となる.
 ekāyāna (eka-āy°) ㊦ ㊦ 一行, 獨行 *Mvyut*.
 e-kāra ㊦ eの音又は字; ㊦ 𑖀字 [五十字門の一]:
 ~e eṣanā-samutthāna-dosa-śabdaḥ (→ a-kāra)
 唱𑖀字時出所希求諸過患事聲 *Lal-v*. 127.
 ekārakṣa (eka-ār°) ㊦ ㊦ 獨護 *Mvyut*.
 ekārāma (eka-ār°) ㊦ 一のみを悦ぶ; ㊦ 樂單已,
 愛樂獨(行) *Sikṣ*.
 ekārāmatā (eka-ār°) ㊦ [同上 ㊦]; ㊦ 樂獨處, 獨
 處閑靜 *Sikṣ*, *Bodh-bh*.
 ekārtha ㊦ 同一對象; 同一目的. ㊦ 同じ目的又は
 意義を有する; ㊦ 體一, 一義 *Abh-vy*.
 ekārthatā ㊦ [同上 ㊦].
 ekārthatva ㊦ [同上].
 ekārtha-samupeta ㊦ 同一目的にて感動せしめら
 れたる.
 ekāvācāraka ㊦ ㊦ 從一解(?) *Mvyut*.

ekāvama ㊦ 一つ少き, 一つ減ずる.
 ekāvali (eka-āv°) ㊦ ㊦ 一列; 一本の絲にて繋げる眞珠
 の首飾.
 ekāvali (eka-āv°) ㊦ [同上].
 ekāvasathāvāsa (eka-āv°, °tha-āv°) ㊦ ㊦ 施一食
 處住, 一住處住 *Mvyut*.
 ekāśin ㊦ 獨りにて食ふ.
 ekāśita ㊦ 第八十一の.
 ekāśiti ㊦ 八十一.
 ekāsanika (eka-ās°) ㊦ ㊦ 一坐食, 常一坐食 *Ast-
 pr*. 773., *Dharm-s*. ㊦ 唯一座席のみを有する; 一
 處一食を持(㊦)つ (*Mvyut*); ㊦ 日一齋, 日一食
Mvyut.
 ekāha ㊦ 一日; [一日續く *Soma* 祭の名].
 ekāhāra (eka-āh°) ㊦ ㊦ 一日一食. ㊦ 一日は一食を
 攝る.
 ekāhika (eka-āh°) ㊦ ㊦ 一日疫, 每一日瘧, 一日
 熱病, 毎日熱病 *Saddh-p*, *Mvyut*.
 eki-Kṛ, 結合す, 合同す; 集む; ㊦ 合和 *Mañj-m*.
 (不変分) eki-kṛtya ㊦ 合和, 合和同, 爲一聚 *Mañj-
 m*, *Madhy-vibh*.
 eki-bhavitvā (不変分) ㊦ [=eki-bhūtvā]; ㊦ 共
Saddh-p. 31.
 eki-bhāva ㊦ 一となること, 一致; ㊦ 一, 一體,
 一性, 同一體性 *Gaṇḍ-vy*, *Sūtr*, *Madhy-v*.
 ekibhāva-viṣaya ㊦ ㊦ 同一體性境界 *Gaṇḍ-vy*.
 eki-BHū, 一となる, 合同す; ㊦ 同集 *Lal-v*.
 eki-bhūtvā (不変分) ㊦ 收爲一義 *Mvyut*.
 ekiya ㊦ 一に屬する, 一に起因する, 唯一の權威のみ
 を有する; 種類の單一なる (*Jāt-m*).
 ekaika (eka-eka) ㊦ 毎回一つの, 一々の, 各々, 單一
 の [屢: 覆]; ㊦ 各各, 一一 *Saddh-p*, *Sapt-pr*,
Madhy-v, *Abh-vy*, *Bodh-bh*. ~m [同上 ㊦];
 ㊦ 各各 *Lal-v*.
 ekaika-pradakṣiṇordhvam-ga-roma (°na-ūr°) ㊦
 ㊦ [三十二相の一] 身毛上靡一一右旋 *Gaṇḍ-vy*.
 ekaika-romatā ㊦ ㊦ [三十二相の一] 一一毛(右
 旋)相, (身諸毛孔)一一毛生, 身毛相 *Bodh-bh*.
 ekaika-roman ㊦ ㊦ [三十二相の一]: ekaikam
 asya roma kāye jātam nilaṃ kuṇḍalaka-jātam
 pradakṣiṇāvartam 身諸毛孔一一毛生如紺青色螺文
 右旋 *Bodh-bh*. 375.
 ekaikaroma-pradakṣiṇāvarta (°na-āv°) ㊦ ㊦
 [三十二相の一] 一一毛右旋 *Mvyut*.
 ekaika-vṛtti ㊦ 箇々の對象に屬する.
 ekaikaśas (eka-ek°) ㊦ 一つ宛, 單獨に, 各自に; ㊦
 一一 *Bodh-bh*.
 ekaikaśya (eka-ek°) ㊦ 單一の状態, 單獨.
 ekaiśvarya (eka-aiś°) ㊦ 唯一の主權, 君主政體.
 ekocaya (eka-uc°) ㊦ 一つ増加すること.
 ekoti (eka-ūti) ㊦ 同一の欲望の對象又は目的を有す
 る, 單一の目的に向ふ.
 ekoti-bhāva ㊦ 單一の對象に集中すること, 平穩,
 歡喜に満てる靜穩; 回心後の心的状態; 輪廻をなす
 個人的存在の絲の如き繼續(㊦); ㊦ 一, 一性
Gaṇḍ-vy.

ekoti-Kṛ 一趣 Bodh-bh.
 ekoti-bhāva 男 同一, 同一體性, 成一體, 成一趣 Gaṇḍ-vy., Mvyut.
 ekottara (eka-ut°) 形 一つ大なる或は多き, 一を増す.
 ekottarikāgama (eka-ut°, °kā-āg°) 男 [經名] (音寫) 增一阿笈摩 Mvyut.
 ekodaka (eka-ud°) 形 同一(祖先に)水の供養をなす; 同祖の.
 ekoddiṣṭa (eka-ud°) (過受分) 申 = ekānudiṣṭa.
 ekona (eka-ūna) 形 一を闕く, 一つ少き.
 ekaugha (eka-ogha) 男 (矢の)一射.
 eñ 音 (重母音) e 及 u o.
 ecchantika 形 [= icchantika]; 大欲 Mvyut.
 Ej, I. 他 ejati 攪き廻す, 動かす; 揺る, 震ふ. 使役 自他 ejayati(-te) 動揺せしむ, 震はしむ. sam- 動く, 起る.
 ejatka 形 頭を動かす, (老年の爲に)震へる. 男 [蟲の一種].
 ejathu 男 震動, 運動.
 eñjya 形 動 Daś-bh.
 eḍa 男 羊(の一種); 雙, 瘡, 啞羊 Aṣṭ-pr., Sikṣ.; [龍王の名] 羊 Mvyut.
 eḍaka 男 [同上]; 羊 Lal-v., Saddh-p., Lañk.
 eḍaka-mūka 男 啞羊 Sikṣ.
 eḍaka-rajasa 申 羊毛上の細塵; 羊毛, 羊上塵 Divy.
 eḍaka-loman 申 [Pāli. elaka-loma] 羶羊毛 Prāt-m.
 eḍa-mūka 形 雙瘡の; 瘡羊, 啞羊, 啞如羊 Lal-v., Sikṣ., Mvyut.
 eḍamūka-jātiya 形 猶如牛羊, 猶如啞羊 Aṣṭ-pr.
 eḍamūka-sama 形 如雙瘡, 如瘡如雙 Aṣṭ-pr.
 eḍa-meḍau 男 兩 [二の龍王の名] 羊與羶 Mvyut.
 eḍa-varṇa 男 [龍王の名] 羊色 Mvyut.
 eḍākṣi-puṣpā 申 菊花 Mvyut.
 eḍikākṣi 音 [Utpalaの一種].
 eḍūka 男 納骨堂, (佛教徒の)遺物を納むる殿堂.
 eṇa 男 羚羊(の一種); 鹿 Rāṣṭr.
 eṇa-jāṅgha 男 [(羚羊の如き足の)或る飛脚の名].
 eṇa-tilaka 男 月(太陰).
 eṇa-netrā 音 羚羊の如き目の女, 目の優しき女.
 eṇa-vilocanā 音 [同上].
 eṇākṣi 音 [同上].
 eṇāṅka 男 月(太陰).
 eṇāṅka-maṇi 男 月長石.
 eṇi 音 羚羊.
 eṇi-dṛś 音 羚羊の如き(優しき)目の女.
 eṇi-nayanā 音 [同上].
 eṇeya 形 [= aiṇeya]. 男 鹿 Sikṣ.; 躄泥耶, 伊尼延 Bodh-bh.
 eṇeya-jāṅgha 形 [= aiṇeya°]; [三十二相の一] 雙蹄如鹿王; 鹿王纖躄躄; (音寫)躄泥耶躄, 躄躄躄如伊尼延鹿王, 躄躄躄如伊尼延鹿王; Rāṣṭr., Bodh-bh.
 eṇeya-jāṅghatā 音 [= aiṇeya°]; [三十二相の

一] 躄躄躄相; (音寫)躄泥耶躄 Bodh-bh.

eta 1. 代 辭 → etad.
 eta 2. 形 (女 eni) 雑色の, 輝く. 男 牡鹿(の一種).
 eta 3. (過受分) [ā-I]. → I.
 eta-gva 形 雑色の.
 etat-kāla 男 此の時, 現在 [tat-kāla の對].
 etat-para 形 これに熱中する.
 etat-samjñaka 形 この名稱を有する.
 etat-sama 形 これと等しき.
 etad 代 [eta 1. の 申 體 單] 此れ [話者に近き]; 此れ [概ね先行するもの・直前に起れるもの又は今述べられたることを指す]; [展 =] 此處に, 今; 此, 之, 斯, 是 Bodh-bh., Abh-vy., 梵千; 茲 梵雜. 副 是の如く, 左様に, 其の故に, 從て; ~ BHū 作是念 Rāṣṭr. eṣaḥ (男 體 單) 如此 梵雜: na eṣaḥ 不如此 梵雜. etasmin 於 この場合に於て, この時.
 etad-anta 形 これ又はこれ等を以て終る.
 etad-artham 副 この爲に, 其の故に.
 etad-avastha 形 この状態に在る; 斯る種類の; それに関する.
 etadiya [(所有) 代] 彼の, 彼女の, 彼等の.
 etad-upaniṣad 形 この Upaniṣad に通曉せる.
 etad-dā 形 これを與ふる.
 etad-devatya 形 之を神として有する.
 etad-yoni 形 之を源とする.
 etad-vaśa 形 彼に依れる.
 etan-nāmaka 形 この名を有する.
 etanmaya 形 (女 -i) これより成る, 斯る種類の.
 etarhi 副 今, 當節; その際 [類 團 yarhi]; 今, 而今, 今時, 如今, 今故, 今世, 於今時, 於今世; 現, 今現 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sapt-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.: ~ nirdiṣṭāḥ 如上所說 Saddh-p. 420.
 etave, [因 I「歩む」の不定].
 etaśa 形 雑色の, 輝ける. 男 斑馬; 太陽の馬.
 etā 音 牡鹿.
 etā-urkṣa 形 斯る; 同種の.
 etā-dṛś 形 [同上]. 音 [同上 音].
 etā-dṛśa 形 (女 -i) [同上(形)]; 如是 Saddh-p., Rāṣṭr.
 etā-dṛśaka 形 斯 Saddh-p.
 etāvat 形 それ程大なる; それ程の量の或は數の; それ程の, 同類の; 唯; 如是, 齊此; 爾所, 如此多 Lal-v., Saddh-p., Abh-vy., Bodh-bh.; 無減無増, 不増不減 Abh-vy. 98.; 於 斯る距離に於て. 副 それ程; この程度まで; 是の如く.
 etāvattva 申 それ程大なる或は多き量・數・大さなること.
 etāvan-mātra 形 斯様な量の, 同程度の, ……と同大の, ……と同量の; それ程多き, それ程少き.
 ettaka 形 俗 [iyattaka]; 如是, 爾許 Madhy-v. 235., Sikṣ. 174.
 ed 團 投 [業 と俱に] 見よ!
 eḍṛśa 形 [= idṛśa. Pāli. edisa] Saddh-p. 70.
 Edh, I. 自 (他) edhate(-ti) 繁榮す, 繁茂す; 増す, 發育す; 滋茂 Sikṣ. (過受分) edhita 成熟せ

る、強められたる; 増大せられたる、擴大せられたる、擴張せられたる; (因)によりて充たされたる。
edhayati 使役 繁榮せしむ; 光榮あらしむ。
sam- [= 單純動詞]。
edha 形 (一°)を燃やす。 男 [單 種] 燃料。
edhatu 男 女 繁榮, 幸福。
edhamat 形 薪を加へられたる。
edhas 1. 中 [Idh] 燃料。
edhas 2. 中 [Edh] 繁榮, 幸福。
edhi, [As 1. の 命 三入 單]。
edhita 過受分 → Edh.
edhodaka (edha-ud°) 中 燃料と水。
ena 1. (附帶) 代 [三入 幹] 彼, 彼女, それ。
ena 2. [又は enā] 附帶 [a 1. の 因] その際, その爲に。
enap 文 因 [副詞としての dakṣiṇena 等に於ける格語尾 ena]。
enas 中 [In] 罪, 犯罪; 災, 不運。
enasya 形 罪より生じたる; 邪惡なる, 有罪の。
enasvat 形 有罪の, 邪惡なる。
enasvin 形 [同上]。
enā (因) 副 此處に; 其處に [種 團 yatra]; 其の際に; 是の如く [→ ena 2.]。
eni 形 女 → eta 2. 女 [eta 2.] 牝鹿。
ebhis, [idam の 因 種]。
ebhyas, [idam の 因 種]。
ema 中 道路 進路。
eman 中 [同上]。
er(ā-īr) erayati(-te) (使役) → Ir.
eraka 中 毛織絨緞; 紫褥, 褥子 *Mvyut.* 男 [或る Nāga の名]。
erakā 女 [緩和及び稀釋性ある藥草の名]。
eraṇḍa 男 蓖麻; (女 -ā) [魔術の一種] (*Divy.*); 伊蘭 *Divy., Mvyut.*
era-pattra 男 香葉; (女) 鬘羅葉, 伊羅葉 玄應。
erita 過受分 [= irita]; 吹 *Lal-v.* 194.
erire, [ā-īr の 三過 三入 種]。
ervāru 男 女 胡瓜(の一種) [學名 *Cucumis utilis-simus*]。
ervāruka 男 [同上]。
ela 男 中 數の名 鬘羅 *Mvyut.*
elada 男 中 數の名 鬘羅陀, 阿羅丹 *Mvyut.*
ela-patra 男 龍王の名 伊羅鉢, 荇蘭(葉) *Sam-r.*
elā 女 小荳蔻(?) [音律の一種]。
elā-pattra 男 龍王の名 霍香葉 *Mvyut.*
elā-patra 男 龍王の名 鬘羅(葉), 伊羅鉢 *Suv-pr.*; [伏藏の名] 伊羅鉢羅 *Divy.* → era-pattra.
elu 男 中 數の名 鬘羅 *Mvyut.*
eva 1. [又は evā (因)] 副 左様に, 全く是の如く (因); 正に, 丁度, 正しく; 實に, 全く; ……より過不足なく, ……に外ならず; 唯だ; 殆ど……なく; 其のもの [因 特に tad と俱に]; 亦た [ca と俱に]; [先行の語を強め・屢・單なる強勢によりて示し得; 特に屢・或る (不變辭) の後にては意義を有せず]; 即; 而; 唯, 但; 眞, 定, 決定, 純; 本; 己; 皆; 尋便 *Ast-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

eva 2. 形 [I] 迅速なる, 動く, 行く。 男 道路, 進路 [一般に (因 種)]; 舉動, 習慣; (因 種) 常道を以て。
evam-yuktam 副 斯の如く, 斯様に。
evam-rūpa 形 是の如き形の, 斯る種類の; 如彼, 如是, 如是等, 如是等類, 如是類, 如是相, 如是色, 如是色類, 如是像類 *Lal-v., Saddh-p., Vajr-pr., Prāt-m., Bodh-bh., Mvyut.*
evam-rūpatā 女 [同上 種]。
evam-lakṣaṇa 形 是の如き相を有する。
evam-varṇa 形 斯る種姓(階級)出身の (*Lal-v.*)。
evam-vācaka 形 說如此 *Abh-vy.*
evam-vāda 男 斯くの如き斷言。
evam-vādin 形 是の如く語る; 如是說 *Lan-k.*
evam-vid 形 是の如く知る, 斯る知識を有する; よく教へられたる, 正しきを知る。
evam-vidvas 形 [同上]。
evam-vidha 形 斯くの如き, 是の如き類の; 如此 *Abh-vy.*
evam-viśeṣaṇa 形 斯の如き特質を有する, 斯の如く定義せられたる。
evam-viśaya 形 これに向けられたる或は關する, 斯る對象を有する。
evam-virya 形 斯る勇氣又は力を有する。
evam-vṛtta 形 是の如く振舞ふ; 斯る種類の; 此の状態に於ける。
evam-vṛtti 形 [同上]。
evam-vrata 形 斯る義務を遂行する。
evam-śīla 形 斯る性質の。
evam-śrutikā 女 如是聞(と云ふこと); 是の如く(我れ)聞けり(と云ふ經の初にある文句) (*Prajñ-vy.* 6.)
evam-samsthitika 形 是の如き性質又は種類の。
evam-samjñaka 形 斯る名稱を有する, 斯く名づけられたる。
evam-samjñin 形 得如實想 *Mvyut.*
evam-sukha-duḥkha-prativedin 形 斯る苦樂を経験せる (*Lal-v.*)
evam-sukha-duḥkha-pratisamvedin 形 如是領受苦樂, 如是受樂受苦 *Bodh-bh., Mvyut.*
evam-svabhāva 形 本性如是, 有如是性 *Sikṣ.*
evam-karman 形 是の如くに行動せる。
evam-kalpam 副 是の如くにして。
evam-kārya 形 斯る目的を有する, 之を目標とする。
evam-kratu 形 斯く考へたる。
evam-gata 形 是の如き状態に在る, 是の如き事情の下に在る; (因) 是の如き事情の下に。
evam-guṇa 形 是の如き性質又は長所を有する。
evamguṇopeta ("na-up") 形 是の如き性質又は長所を賦與せられたる。
evam-gotra 形 斯る種族の; 如是種性, 如是種姓 *Bodh-bh.*
evam-cira-sthitika 形 かくも永く存續せる (*Lal-v.*); 如是久住 *Bodh-bh.*
evam-jāti 形 = *evam-gotra* (*Lal-v.*)
evam-jātiya 形 是の如き種類又は性質の; 是の如き; 如是 *Sikṣ.*
evam-jātiyaka 形 [同上]; 此類, 如此類, 如此

等類 *Abh-vy.*

- evam-jātya** 形 如是生, 如是生類 *Bodh-bh.*
- evam-tarkin** 形 是の如く推量する.
- evam-darsin** 形 是の如く見る或は判断する.
- evam-dirghāyus** (°gha-āy°) 形 如是長壽 *Bodh-bh.*
- evam-nāman** 形 是の如く呼ばれたる; 某甲, 某名, 如是名, 有如是名 *Vin., Bodh-bh.*
- evam-nyāṅga** 形 是の如き特質を有する, 斯る種類の.
- evam** (案) 副 この様に, 是の如く, 左様に [因に於ては *eva* を用ふ]; 是, 如是, 如此; 這等; 唯然, 亦爾; 當知 *Saddh-p., Vajr-pr., Sukh-vy. I, II., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵千, 梵雜.*
 ~ **etat** 如是 *Vajr-pr. 31.*
 ~ **eva** 如是, 如是如是, 亦爾 *Aṣṭ-pr. 152., Mvyut.*
 ~ **tarhi** 若爾 *Abh-vy. 75.*
 ~ **bhavati** 作是念 *Bodh-bh. 14.*
tasya ~ **bhavati** 彼如是想 *Mvyut.*
 ~ **mayā śrutādibhyaḥ** 如是我聞, 我聞如是 *Laṅk. 364.*
 ~ **yāvat** 乃至...亦爾, 如是廣說乃至 *Abh-vy. 76.*
 ~ **hi** 如此, 如此時 *Mvyut.*
- evam-abhyanūka** 形 それに關して斯く語られたる.
- evam-arthiya** 形 それに關する.
- evam-avastha** 形 是の如き状態に在る.
- evam-ākṛti** 形 是の如き形を有する, 斯く形成せられたる.
- evam-ācāra** 形 是の如く身を處する, 斯く行動する.
- evam-ātmaka** 形 (因-ikā) 是の如き性質の.
- evam-ādi** 形 是の如きを初とする, 斯くの如き等の, 斯くの如き 既述の如き種類又は性質の, 既述の如く定まれる
- evam-ādya** 形 [同上]; 如是等 *Laṅk.*
- evam-āyus-paryanta** 形 如是壽限, 如是所有壽量邊際 *Bodh-bh.*
- evam-āyus-pramāṇa** 形 斯る壽命の (*Lal-v.*).
- evam-āyusya-paryanta** 形 [同上] (*Mvyut.*); 如是壽限 *Mvyut.*
- evam-āhāra** 形 如是食, 如是飲食 *Bodh-bh.*
- evam-pariṇāma** 形 是の如き結末を有する.
- evam-pūrva** 形 以前には是の如くなりし, 之に先行せられたる.
- evam-prakāra** 形 是の如き種類の.
- evam-pramukha** 形 斯くの如き者を先導とせる; 彼等, 如是爲上首 *Mvyut.*

- evam-prāya** 形 是の如き種類の, 斯様なる.
- evam-bhāgiya** 形 如是等類 *Bodh-bh., Mvyut.:*
idam ~ m puṇya-pakṣyaṃ viryam 如是等類所有精進名爲福分 *Bodh-bh. 33.*
- evam-bhāvin** 形 如是 *Laṅk.*
- evam-bhūta** 形 是の如き性質の, 斯るもの.
- eva-rūpa** 形 [= *evam-rūpa*]; 如是, 如此, 如斯, 等倫 *Saddh-p., Sukh-vy. I.*
- evā,** ~ *eva.*
- Eṣ,** I. 他 **eṣati** 匍匐す, 這る.
adhi- (過受分) **adhyeṣita** = *adhīṣṭa* (佛敎).
upa- 近づく.
- eṣ** I. (ā-Iṣ) **eṣati.** → *Iṣ.*
- eṣ** 2. (ā-Iṣ) **eṣati(-te).** → *Iṣ.*
- eṣa** I. [代 *etad* の (男) 單]; 此 *Abh-vy.*
- eṣa** 2. 形 追求する. 男 探求; 願; 選擇.
- eṣa** 3. 形 滑り行く, 急ぐ.
- eṣaka** 形 (因-ikā) 勤求, 求(義) *Bodh-bh., Sūtr.*
- eṣaṇa** 形 追求する; 欲する; 求, 尋覓 *Bodh-bh., Mvyut.* 甲 探求, 熱望, 追求; 希求, 專求 *Gaṇḍ-vy.*
- eṣaṇa-sabhāgatā** 因 同希求, 專求共法 *Gaṇḍ-vy.*
- eṣaṇā** 因 探求; 願望, 希望; 尋, 尋思; 求, 乞求, 所希求 *Lal-v., Laṅk., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
- eṣaṇā-samiti** 因 乞食する時の正しき態度.
- eṣaṇin** 形 探求する, 努力する.
- eṣaṇiya** (未受分) 望ましき.
- eṣaṇiyatva** 甲 希, 所尋修 *Abh-vy.*
- eṣita** (過受分) 求 *Daś-bh.*
- eṣitavya** (未受分) 求めらるべき, 試みらるべき.
- eṣitr** 形 探求する(者), 希望する(者).
- eṣin** 形 [一般に —°] 探求する, 願望する, 從事する; 欲, 樂, 求, 尋求, 欲求, 樂求 *Lal-v., Saddh-p., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*
- eṣṭa** (ā-iṣṭa) (過受分) → *Yaj.*
- eṣṭavya** (未受分) 求めらるべき, 望ましき; 是認せらるべき; 可樂, 可受 *Abh-vy.*
- ehi,** [ā-I の (命) 二人 單] 來れ; 善來, 可來, 命善來 *Divy., Śikṣ., Abh-vy.;* (音寫) 𑖅𑖦𑖫𑖪, 𑖅𑖦𑖫𑖪 *Guhy-s.* → *I.*
- ehi-bhikṣukā** 因 「來れ, 比丘よ」との呼聲 (*Divy.*); (音寫) 善來苾芻 *Abh-vy. 374.*
- ehi-bhikṣutva** 甲 (佛敎) 善來比丘(と言ふこと) [佛が *Bhikṣu* に對して此の言を發すれば即時に受戒せしめたる] (*Prajñ-vy. 8.*).
- ehi-svāgata-vādin** 形 言善來, 讚言善來 *Bodh-bh.*

AI

ai (間投) [歡呼・呼かけ又は回想を表す].

aikaguṇya ㊦ [eka-guṇa より] 簡易なる單位の値; 簡單なる量.

aikadhya ㊦ [ekadhā より] 同時なること; ㊦ 一聚 *Abh-vy.*

aikadhyam ㊦ 同時に, 共に; ㊦ 一, 略, 一聚 *Abh-vy.*: ~ abhisamksīpya 略説, 總, 總攝爲一, 總合爲一 *Bodh-bh.*

aikadhyātā (女) ㊦ 同, 同一 *Gaṇḍ-vy.*: sarva-bodhisattva-kuśala-mūla ~ 恆同一切菩薩善根, 與諸菩薩同一善根 *Gaṇḍ-vy.* 69.

aikapatya ㊦ [eka-pati より] (國)の唯一主權, 絶對の主權.

aikapadika ㊦ [eka-pada より] 單一の語に屬する, 單一の語より成る.

aikabhautika ㊦ [eka-bhūta より] 一要素より成る.

aikamatya ㊦ [eka-mata より] 一致, 同意.

aikamukhya ㊦ [eka-mukha より] 同意, 合致; 偏頗

aikarājya ㊦ [eka-rāja より] 唯一主權.

aikarātriya ㊦ [eka-rātra より] 一夜留まる.

aikarūpya ㊦ [eka-rūpa より] 一律; 同一.

aikavarṇika ㊦ [eka-varṇa より] 唯だ一種姓(階級)に關する.

aikaśapha ㊦ 單蹄動物に由來する或は關する.

aikaśabda ㊦ [eka-śabda より] 語の同一又は一致せること.

aikaśrutya ㊦ [eka-śruti より] 音の一律なること, 單調.

aikasvarya ㊦ [eka-svara より] 唯だ一アクセントを有すること, 單調.

aikāgārika 男 [ekāgāra より] 盜賊.

aikāgāriki (女) [同上].

aikāgrya ㊦ [ekāgra より] 一つの對象に注意を集中すること, 専心.

aikāṅga 男 護衛兵.

aikātmya ㊦ [ekātman(°ka-āt°) より] 最高我との合致, 同體, 單一なること, 同一體.

aikādhikarānya ㊦ [ekādhikarāna より] 關係の單一なること.

aikāntika ㊦ (女-i) [ekānta より] 他の一切を除外する; 必然の, 絶對の; 完全なる; 全く確定せる. 絶對に確實なる (*Jāt-m.*); ㊦ 一向, 定一, 決定 *Sūtr.*, *Sāṃkhy-k.*, *Mvyut.* → an ~.

aikāntikatā (女) [ekānta より] [同上 ㊦]; ㊦ 一向 *Bodh-bh.*

aikāntya ㊦ [ekānta より] 排他的なること, 絶對性; ㊦ 定 *Sūtr.*

ai-kāra 男 ai の音又は字; ㊦ 愛字 [五十字門の一]: ~ airyāpatha-śreyān iti (→ a-kāra) 唱愛字時出勝威儀聲 *Lal-v.* 127.

aikārthya ㊦ [ekārtha より] 目的の單一なること; 同一の意義.

aikāśramya ㊦ [eka+āśrama より] (宗教生活に於ける)唯一住期のみの存在.

aikāhika ㊦ (女-i) [ekāha より] 一日續く, 一日祭の.

aikya ㊦ [eka より] 一なること, 一致, 同一; 合計; ㊦ 一, 一體, 一性, 和合 *Madhy-v.*, *Sūtr.*, *Abh-vy.*: eva ~ 即 *Cat-ś.* 504.; rūpam eva ghaṭo naikyam 非即色有瓶 *Cat-ś.* 504.

aikya-samjñā (女) ㊦ 一想 *Madhy-v.*

aikṣava ㊦ (女-i) [ikṣu より] 甘蔗より造れる. ㊦ 甘蔗, 砂糖.

aikṣvāka 男 ㊦ *Ikṣvāku* の後裔.

aikṣvāki (女) ㊦ [同上].

aiṅguda ㊦ *ṅguda* 草にて製せる.

aīda ㊦ (女-i) [idā より] 慰安する. ㊦ [*Idā* の子 (*Purūravas*)]; ㊦ [王の名] 湮羅 *Buddh-c.*

aīdavidā 男 = *ailavidā*.

aiṇa ㊦ [eṇa より] 黒き羚羊に由來する.

aiṇeya ㊦ [eṇī より] [同上]. ㊦ = *eṇa*; ㊦ 鹿王 *Mvyut.*; ㊦ 哩尼, 哩尼延, 因尼延, 伊泥延, 伊尼延, 暨泥耶, 暨尼延 *Mvyut.*, 支那.

aiṇeya-jaiṅgha ㊦ [三十二相の一] 踰如鹿王, 膾髀鹿踰, 小腿如獸相; (㊦) 暨泥耶踰 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

aiṇeya-jaiṅghatā (女) 羚羊の如き脚を有すること (*Dharm-s.*); ㊦ [三十二相の一] 雙踰(織圓)如鹿王踰相 *Dharm-s.*

aitadātmya ㊦ [etād+ātman より] ㊦ この本質を有すること.

aitareya 男 [*Itara* 又は *Itarā* の後裔, *Mahidāsa* (古師)の ㊦ 又は ㊦]. ㊦ *Aitareya* によりて編纂せられたる.

aitareyaka ㊦ [*Aitareya* の *Brāhmaṇa*].

aitareya-brāhmaṇa ㊦ [同上].

aitareyin 男 ㊦ *Aitareya* 學派.

-aitareyopaniṣad (°ya-up°) (女) [*Upaṇiṣad* の題名].

aitihāsika ㊦ (女-i) [iti-hāsa より] 古傳の, 傳承の, 歴史の. ㊦ 古傳説を話す者又は知れる者, 歴史家.

aitihya ㊦ [iti-ha より] 口傳, 傳承; ㊦ 稱揚如是所有者 *Mvyut.*

aitva ㊦ ai 音の生ずること.

aidamparya ㊦ [idam-para より] 主要なる點; 主なる目的.

aidha ㊦ [edhas I. より] 炎, 光輝; 熱意, 力.

aidava ㊦ (女-i) [indu より] 月(太陰)の.

aindra ㊦ (女-i) *Indra* 神に屬する或は由來する, *Indra* 神の如き. ㊦ [月宿の名].

aindra-jāla ㊦ 幻術.

aindrajālika ㊦ (女-i) [indra-jāla より] 幻術に關

する、幻術を行ふ。 男 妖術師、手品師。
aindra-dyumna 形 *Indra-dyumna* に關する。
aindra-dyumni 男 *Indra-dyumna* の後裔。
aindra-ñila 形 (女 -i) 青玉(砮)にて製せる。
aindra-māruta 形 *Indra* 神と *Marut* 神とに關する。
aindra-vāyava 形 *Indra* 神と *Vāyu* 神とに關する。
aindra-śira 男 象(の一種)。
aindrasūnava 形 (女 -i) [*indra-sūnu* より] *Indra* 神の子に關する。
aindrāgna 形 (女 -i) *Indra* 神と *Agni* 神とを祭る或はに關する或はに由來する。
aindrā-vaiṣṇava 形 *Indra* 神と *Viṣṇu* 神とに關する或はを祭る。
aindri 男 鳥; [*Arjuna* の名]。
aindriya 形 [*indriya* より] 感覺に關する、感覺的に認知せらるゝ; 根 *Sāṃkhy-k.* 中 感覺的享樂。
aindri 女 *Indra* 神の方位、東; 帝釋隅 *Mvyut.*
aindhana 形 燃料より生ずる(火)。
aibha 形 (女 -i) [*ibha* より] 象に屬する。
airammadiya 中 [*iram-mada* より] [梵天界の湖の名]。
airayam, [Ir の 二過 使役]。
airāvaṇa 男 [*irāvan* より] [*Indra* 神の象の名]; 帝釋象 *Divy.*; 帝釋 薩羅筏拏、伊羅槃那、伊羅婆拏、伊那槃那、埤那婆那、埤那婆那 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy.,* 支應; [*aira-pattra*] 伊羅鉢多羅、埤羅鉢多羅、伊鉢多羅、伊羅末、伊羅鉢那 *Lal-v., Gaṇḍ-vy.,* 支應: ~ *s ca mahānāga-rājā* 伊羅婆拏大象王, 伊那槃那龍王, 伊羅鉢那大象王 *Gaṇḍ-vy. 168.*
airāvaṇa-hastin 男 大象子; 帝釋 薩羅筏拏象 *Mvyut.*
airāvata 男 = *airāvana*; [龍神の名]; 伊羅跋, 伊羅跋陀; 伊那槃那 [*airāvana*] *Gaṇḍ-vy.* 中 虹(の一種)。
airāvataka 男 [山の名] (*Divy.*)
airāvāt 女 [*Indra* 神の牝象の名]; [河の名]。
airyā-cāri, airyā-cāri 女 威儀 *Gaṇḍ-vy.*: ~ *ryā sampannā* 具足威儀 *Gaṇḍ-vy. 333.*
airyā-patha 男 威儀 *Lal-v.*
airyāpathika 形 [*iryā-patha* より] 威儀, 威儀路 *Abh-vy.*
aila 男 [= *aila*] [*Purūravas* の名]; *Aila* 種族。

ailaka 形 *elaka* 羊に由來する。
aila-dhāna 男 [地名]。
ailaba 男 喧噪, 騒音, 叫喚。
ailavida, ailavila 男 [*Kubera* 神の稱]; [*Dilīpa* 王の名]。
aiśa 形 *Siva* 神 (*Īśa*) に關する。
aiśāna 形 (女 -i) [*iśāna* より] [同上]; 東北の。
aiśāni 女 *Siva* 神の方位, 東北; 具主隅 *Mvyut.*
aiśi 男 [*Skanda* の 父系]。
aiśya 中 主權, 力。
aiśvara 形 (女 -i) 王に相應しき, 威ある; *Siva* 神に關する。 中 至上の主權。
aiśvarakāraṇika 男 [*iśvara+karana* より] *Nyāya* 派に通曉せる。
aiśvarika, [*Nepal* 佛教學系の一の名]。
aiśvarya 中 [*iśvara* より] 大王の地位; 王たること; 至上の主權; 支配; (圓, 因, 一) の支配又は主權; 王領; 最勝; 大富, 富貴, 富樂; 自在, 富貴自在, 自在處 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sāṃkhy-k.*
aiśvarya-gata 形 得自在 *Śikṣ.*
aiśvarya-mada-matta 形 自恃尊高 *Suv-pr.*
aiśvaryavat 形 至上權を有する。
aiśvarya-saṃjñā 女 自在想 *Śikṣ.*
aiśvarya-saṃpad 形 自在具足 *Bodh-bh.*
aiśvarya-saṃpanna 形 自在具足 *Bodh-bh.*
aiśika 形 [*iśikā* より] 蘆又は蘆にて編める。
aiṣṭaka 形 [*iṣṭakā* より] 煉瓦造りの。
aiṣṭikapaurtika 形 [*iṣṭā-pūrta* より] 供儀及び他の敬虔なる行爲に關する。
aiṣyat 形 [= *eṣyat*] 未來に關する, 未來の; 當 *Abh-k., Abh-vy.*
aihajanmika 形 [*iha-janman* より] 現在生 *Abh-vy.*
aihalaukika 形 [*iha-loka* より] 此の世の, 此の世界に起る。
aihika 形 [*iha* より] 此の世界に屬する或は起る, 現世の, 儂(な)き; 此, 此世, 現, 現世 *Abh-vy., Bodh-bh.*
aihikalaukika 形 [*iha-loka* より] 此の世の。
aihipaśyika 形 [*iha-Paś* より. *Pāli. ehipassika*] 來觀, 近觀, 此在所觀 *Mvyut.*

O

o [= *ā-u*] 中 呼かけ又は回想に用ふ。
oka-ja 形 家にて生れたる, 家庭にて生れたる(牛)。
okas 中 [Uc] 満足, 愉快; 適意の場處, 住處, 家, 家庭; 避難處。
o-kāra 1. 男 o の音又は字; 鳥字 [五十字門の一]; ~ *e oghottara-śabdah* (→ *a-kāra*) 唱鳥字時出死瀑流到彼岸聲 *Lal-v. 127.*

okāra 2. 男 愚劣, 虛榮 (*Mah-v. III. 357.*)
ogiyas 形 [*ugra* の 比較]。 → *ojiyas.*
ogha 男 [*Vah*] 流, 奔流; 多數, 多量, 集團, 堆積; 水流, 水大流, 水流處, 漂流, 流, 瀑, 暴流, 瀑流, 暴河, 瀑水, 暴水, 暴流水; 河, 水, 濱; 海, 海水; 泉; 淵 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Rāṣṭr.,*

Lank., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-c., Mvyut.; 多 Lal-v.

- ogha-gata** 形 瀑之所漂 Sam-r.
oghavat 形 激流を有する(河).
oghottara (ogha-ut°) 形 出(死)瀑流, 渡於大(煩惱)海 Lal-v.
om-kāra 男 (聖)語 om; 感謝.
oja 形 奇數の. 甲 [=ojas. Pāli. oja] (Divy.); 威德 Saddh-p. 175.
ojaḥ-prakṣipta 形 益其精氣 Ast-pr.
oja-vinduka 形 [=ojo-binduka]; 甘露味 Lal-v. 73.
ojas 甲 [Vaj] 力, 能力, 權, 威, 勢; 威; 精, 精氣; 氣力; 神, 神色; 勢味; 光澤, 光色, 精光; 妙德 Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Kāśy., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut. → mahaujas. 男 有力に; 斷乎として
ojaska 形 福德 Mañj-m. → alpa~, mahā~.
ojasya 形 活潑なる, 力強き.
ojasvat 形 =ojasvin.
ojasvitara 比較 沃壤倍勝 Suv-pr. 112.
ojasvitā 女 力ある表現.
ojasvin 形 有力なる, 威ある; 勢ある, 勇敢なる.
ojā-pratyāhāriṇi 女 [=ojaḥ-pr°]; [Tantra 神の名] 奪神母 Mvyut.
ojāya 名動自 ojayate 努力す, 力む.
ojiṣṭha 長上 (男)の中の最も力強き; 非常に力ある.
ojiyas 比較 (後)より一層強き; 極めて強き.
ojo-dā 形 力を與ふる, 強むる.
ojo-pati 男 [或る菩提樹神の名] (Lal-v.).
ojo'pahṛta 形 無有精光 Lal-v.
ojo-maṇḍa 形 精純なる.
ojo-hāra 形 食力, 吸精氣, 奪精氣, 吸人精氣鬼 Divy., 玄應; 嗚周何羅, 嗚闍何羅, 奧闍訶洛 Lank., 玄應.
ojo-hāri 女 (女)嗚周何羅女, 嗚闍何羅女 Lank.
oḍa 男 [人名].
oḍigalla 男 俗 [Pāli. oligalla]; 不淨 [Tib. sme-ba] Saddh-p. 144. → gūtha~.
oḍumpika 形 俗 [Pāli. oḍumpika, =olumpika] 小舟の (Mah-v. III. 443.).
oḍra 男 國 [民族の名及その國(現今の Orissa)の名].
oḍha (ā-ūḍha) 通受分 [Vah] 齎らされたる, 近くへ運ばれたる.
ota 1. (ā-uta) 通受分 → Vā 4.
ota 2. 通受分 [ā-U] 呼ばれたる, 呼び求められたる, 召喚せられたる.
otaritvā 不変分 俗 [avatārya] (Saddh-p. 114.).
otārenti 動 俗 使役 [avatārayanti]; 度 Saddh-p. 176.
otu 男 [Vā 4.] 織物の緯.
o-Tṛ 俗 [ava-Tṛ] otarati, otiryati, otārayati(使役). → Tṛ.
otsūryam (ā-ut°) 副 日出まで.
odana 男 甲 飯; 粥; 飯, 大米飯 Divy., Vin.,

Prāt-m., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.

- odana-bhojikā** 女 飯を食ふこと.
odanavat 形 飯を用意せる.
odanika 形 (女-i) 飯を受くる.
o-Nam 俗 [ava-Nam] onamati. → Nam.
o-Nah 俗 [ava-Nah] onahyati, onahya(不変分). → Nah.
onāmita 通受分 俗 [ava-nāmita]; 低(頭) Śikṣ. 94.
o-Pat 俗 [ava-Pat] opatati. → Pat.
opanāyika 形 [upa-naya より, =aupanāyika] 調伏 [Tib. ñe-bar-sgrub-pa] Gaṇḍ-vy. 348.
opalambhika 形 俗 [aupalambhika]; 著法 Saddh-p. 384.
opaśa 男 [upa-Śi] 座敷團, 枕.
opaśin 形 座敷團又は枕の上に横はる或はを用意せる.
opasamika 形 俗 (Mah-v. II. 41.). → aupasamika.
opunāpayitavya 使役 未受分 俗 [ava-Pū] 篩ひ分けらるべき (Mah-v. III. 178.).
opya 不変分 → Vap 2.
obhāṣita 通受分 俗 [avabhāṣita]; 光明 Lal-v. 29.
o-BHās 俗 [ava-BHās] obhāṣate. → BHās.
obhāsa 男 俗 [avabhāsa]; 光, 光明 Gaṇḍ-vy. 257.
om 開投 (聖字) om [祈念又は祈禱文の開始の際・Veda 讀誦の前後に於て或は敬虔なる挨拶として用ゐらる. 多くの神祕的解釋あり]; 極讚 Mvyut.; 蓬, 庵 Divy., Lank.: ~ ity āha 言如是 Mvyut.
oman 男 好意, 保護, 助力, 友情; 友, 助力者, 保護者.
omanvat 形 愉快なる; 親切なる, 恵に充てる.
o-Ruh 俗 [ava-Ruh] oruhati, oropayati(使役). → Ruh.
oropita 通受分 俗 [avaropita]; 種 梵籍.
o-Lamb 俗 [ava-Lamb] olambyate. → Lamb.
olumpika 形 俗 [Pāli. olumpika, =oḍumpika] 小舟の (Mah-v. III. 113.).
olōkitesvara(?) 男 俗 [aval°]; 盧樓耳 玄應.
o-Vad 俗 [ava-Vad] ovadati. → Vad.
ovidhya-nakhā 女 箭窓, 房之平頂邊 Mvyut.
ośaṭuka 甲 塗物 [Tib. ḥdag-rdsas] Mvyut.
ośaḍuka 甲 塗物 Mvyut.
ośirikā 女 俗 [ausirikā] (Mvyut.).
oṣa 男 燃焼. 形 燃ゆる, 輝く.
oṣadhi 女 [avasa-dhi 「滋養を含む」(?), 植物, 本草; 藥草; 一年草; 藥草, 藥木, 藥樹; 草藥, 藥, 妙藥, 靈藥, 醫藥, 醫方 Buddh-c., Lal-v., Ast-pr., Saddh-p., Daś-bh., Lank., Abh-vy., Mvyut.
oṣadhi-ja 形 草の間に生まるゝ或は住する(蛇), 植物より生ずる(火).
oṣadhi-pati 男 月(太陰).
oṣadhi-prastha 男 [Himālaya 山中にありと云はるる神話上の都市の名].
oṣadhi 女 =oṣadhi; 藥草; 藥, 良藥 Lal-v.,

Aṣṭ-pr., Saddh-p.

oṣam (業) (團) 熱心に; 速かに, 直ちに.

oṣita (ā-usita) (使役) (過受分) → Vas 3.

oṣṭha (男) [ava-stha 「垂るゝこと」] 上唇, 唇; 唇, 唇, 唇(吻) *Saddh-p., Rāstr., Lank., Mañj-m., Śikṣ., Mvyut.*; 嘴 *Mvyut.* —° 形.

oṣṭha-kopa (男) [唇の病の名].

oṣṭha-puta (男) 兩唇の閑隙.

oṣṭha-mudrā (女) 唇の位置, 唇の形.

oṣṭha-rucaka (甲) 唇の魅力.

oṣṭhi (女) = oṣṭha; 唇 *Lal-v.*

oṣṭhya (形) 唇の, 唇音の.

osa (形) (俗) [*Pāli. ussa*]; 最勝 *Lal-v. 214.*

o-Str (俗) [<ava-Str] ostariyati (*Saddh-p.*). → Str.

oha (男) 手段. 形 近寄せる, 接近せしむる.

ohana (甲) 作亂 *Mvyut.*

AU

au-kāra (男) au の音又は字; (音寫) 懊字 [五十字門の一]: ~e aupapāduka-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱懊字時出皆化生聲 *Lal-v. 127.*

aukṣa (形) (女) (i) [uksan より] 牡牛に由来する.

aukṣaka (甲) 多数の牡牛.

aukṣṇa (形) 牡牛に由来する.

augrya (甲) 畏怖, 物凄さ, 激烈なること.

augha (男) 奔流; 洪水; 河, 水, 洪水, 暴流; 大海水 *Lank.*

auciti (女) 適當, 穩當.

aucitya (甲) [同上]; 經驗; (一°) の習熟.

aucchaiśravasa (男) [uccaiḥ-śravas より] [*Indra* 神の馬の名].

aucya (甲) [ucca より] (星の) 高さ, 遠さ.

aujasya (形) 勢力を増す. (甲) 勢力.

aujvalya (甲) [uj-jvala より] 光輝, 華麗.

auḍava (形) (女) (i) [uḍu より] 星の.

auḍumbara, = audumbara.

auḍra, → oḍra.

auṇādika (形) *Uṇādi-sūtra* に属する.

autathya (男) *Utathya* の子.

autkaṭya (甲) [ut-kāṭa より] 大量.

autkañṭhya (甲) [ut-kañṭha より] 憧憬, 希望.

autkaṇṭha (形) [ut-kaṇṭha より] 優秀なること.

autkya (甲) = autkañṭhya.

auttānika (形) *Uttānika* に属する.

auttami (男) [第三 *Manu* の (父) 系].

auttamika (形) [uttama より] 最高處(天空)にある神々に關する.

auttara (形) [uttara より] 北方に住する.

auttarākaurava (形) [uttara-kuru より] (音寫) 北俱盧人, 北鳩婁人 *Abh-vy.*

auttarabhaktika (形) = uttara-bhaktika; 食後に用ひらる.

auttarādharya (甲) [uttarādhara より] 上及び下なること; 亂雑; 上下, 高下 *Abh-vy.*

auttareya (男) (母系) [*Uttarā* の後裔].

auttānapāda (男) [*Uttāna-pāda* の後裔]; [*Dhruva* 星の名].

autthānika (形) [ut-thāna より] 嬰兒の起きることに關する.

autpattika (形) (女) (i) [ut-patti より] 原始の, 本具

の, 自然の; 永久の.

autpātika (形) (女) (i) [ut-pāta より] 異常なる, 不可思議なる, 災禍の. (甲) 不思議なる事; 現請者(?) [臨時の招待] *Mvyut.*

autsargika (形) [ut-sarga より] 一般的規則に屬する, 一般的の, 特殊ならざる.

autsukya (甲) [ut-suka より] 憧憬, 願望; 短氣, 焦慮; 精勵, 熱心; 欲, 欲樂; 愛慕; 勤求, 精勤思慕 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*; 務, 念務, 邊務; 勤, 翹勤, 所習樂; 勇猛 *Daś-bh., Sūtr.*; 喜, 歡喜; 看宜 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*; 不安定 *Sāmkhy-k.*

autsukyavat (形) [ut-suka より] (男) を待ち焦るゝ, 短氣の.

audaka (形) (女) (i) 水の; 水に關する, 水中にて發育する.

audaka-ja (形) 水中植物より來れる.

audaka-jantu (男) 水蟲 *Vijñ-v.*

audaṅcana (形) 桶の中に容れられたる.

audara (形) [udara より] 胃の中にある.

audarika (形) [udara より] 大食する; 胃に適する (*Lal-v.*). (男) 大食家.

audariyaka (甲) [udara より] 膀胱 *Mvyut.*

audarciṣa (形) *Agni* 神に向けられたる.

audarya (形) [udara より] (母の) 胎内に在る; 胃の中にある.

audāttya (甲) [ud-ātta より] 鋭きアクセント, 高き音.

audāra (形) 巨大なる, 明かに認めらるゝ (*Divy.*).

audārika (男) [udāra より] 魂を包む巨身. (形) 重, 嚴重; 廣, 廣大; 大概; 大身 *Lal-v., Daś-bh., Śikṣ., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*; 美 *Lal-v.*: ~m āhāram āhṛtya 受美食 *Lal-v. 264.*; ~e avabhāsa-nimitte 分明 *Divy. 201.* → an~.

audārika-tattva (甲) 眞實 *Madhy-vibh.*

audārikatā (女) 眞, 眞性; 粗修 *Vijñ-t., Abh-vy., Mvyut.*

audārikatva (甲) 眞; 寬廣 *Abh-vy.*

audārika-sūkṣma-tattva (甲) 眞細眞實 *Madhy-vibh.*

audārya (甲) [udāra より] 威嚴, 高潔; 仁慈, 寬大; 大, 廣大; 快妙 *Lank., Sūtr., Abh-vy., Madhy-vibh.*

audāryatā ㊦ 仁慈, 寛大.
 audārya-paramatā ㊦ 廣大最勝, 廣大無比
Madhy-vibh.
 audāsinya ㊦ [ud-āsina より] 無頓著, 冷淡, 無關心.
 audumbara ㊦ (㊦-ī) Udumbara 樹に屬する; Udu-
 mbara 材にて製せられたる; ㊦ 靈瑞(華) *Saddh-*
p.; ㊦ 優曇, 優曇(花), 鄔曇, 優曇鉢 *Divy., Lal-*
v., Saddh-p.
 audumbara-puṣpa ㊦ ㊦ 靈瑞華; (㊦) 優曇華
 優曇花, 鄔曇花 *Divy., Saddh-p., Sukh-vy. I.*
 auddālaka ㊦ [蜜の一種].
 auddālaki ㊦ [諸人の名, 特に *Śveta-ketu* の名].
 auddhatya ㊦ [ud-dhata より] 傲慢; 横柄; 輕侮;
 ㊦ 掉, 掉擧, 掉起, 高擧, 輕躁 *Sikṣ., Vijñ-t., Abh-*
vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.
 auddhatyābhiniḡḥita ㊦ ㊦ 爲掉所動 *Bodh-bh.*
 auddhavya ㊦ *Uddhava* に由來する.
 auddhārika ㊦ [ud-dhāra より] 控除せらるべき.
 audbilya ㊦ [=audvilya]; 大いなる歡喜; 得意, 意
 氣揚々, 意氣軒昂 (*Divy.*); ㊦ 歡喜, 歡悅, 輕悅;
 踊躍, 勇躍; 安樂得未曾有 *Divy., Lal-v., Saddh-*
p., Sukh-vy. I., Sikṣ.
 audbilya-kara ㊦ ㊦ 生勇銳 [悅?] *Mvyut.*
 audbilya-karin ㊦ ㊦ 深喜, 令喜歡, 令深歡 *Mvyut.*
 audbilya-prāpta ㊦ ㊦ 心懷勇躍 *Saddh-p.*
 audbhida ㊦ [ud bhid より] 出づる, 生ずる; 目的に
 向ひて進む.
 audvāhika ㊦ [ud-vāha より] 結婚に關する, 結婚に
 際して贈らるゝ.
 audvilya ㊦ [=audbilya. *Pāli. ubhilla*] ㊦ 悅
Sukh-vy. I.
 audhasa ㊦ 乳房に含まれたる.
 aunnatya ㊦ [un-nata より] 高揚, 擧揚.
 aunmukhya ㊦ [un-mukha より] 熱望すること, 期
 待.
 aupakārika ㊦ (㊦-ī) [upa-kāra より] 奉仕する.
 aupakāryā ㊦ 王者の天幕.
 aupakurvāṇaka ㊦ [=upa-kurvāṇa] (*Feda* の學習
 を終りて) 師に贈物する弟子.
 aupakramika ㊦ [upa-krama より]; ㊦ 損害, 逼
 迫, 逼切, 逼惱 *Bodh-bh.*
 aupakramika-duḡkha-satya ㊦ ㊦ 逼切苦諦
Bodh bh.
 aupacayika ㊦ [upa-caya より]; ㊦ 養, 長養, 所
 長養, 増上, 増長, 増長果 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.,*
Mvyut.
 aupacārika ㊦ [upa-cāra より] 儀禮に基ける; 敬稱
 の, 尊敬の; 字義通りならざる, 譬喩的の; ㊦ 假,
 方便語; 方便説; 竟安置(?) *Abh-vy., Mvyut.*
 aupacchandāsika ㊦ [音律の一種].
 aupajānuka ㊦ [upa-jānu より] 膝の上にある或は近
 くにがある.
 aupadeśika ㊦ [upa-deśa より] 特殊規則に依れる.
 aupadharmya ㊦ [upa-dharma より] 認れる教義,
 邪教.
 aupadhika ㊦ [upa-dhi より] 詐欺の; 金錢を強奪

する; ㊦ 有依, 有攝 *Abh-vy., Mvyut.*: ~m
 puṇya-kriyā-vastu 有依福業事, 財中福 *Mvyut.* ㊦
 詐欺師, 強請者; ㊦ *bhagavān* ~e *sthitāḥ* 世尊
 不去 *Divy. 542.*

aupanāyanika ㊦ [upa-nāyana より] 入門に關する,
 入門と定められたる.
 aupanāyika ㊦ [upa-naya より] 供物に關する, 供物
 を捧ぐる; ㊦ [*Pāli. opanayika* ㊦] 引導, 付近,
 特授 *Mvyut.*
 aupaniś'hika ㊦ [upa-nidhi より] 依託物の.
 aupaniśada ㊦ (㊦-ī) *Upaniśad* に含まれたる,
Upaniśad に於て教へらるゝ.
 aupanivika ㊦ [upa-nivi より] 前垂の上に在る.
 aupapattika ㊦ [upa-patti より] ……に用意せられ
 たる, ……に役立て得る, ……に順應する, 目的に適
 せる.
 aupapattibhavika ㊦ [upapatti-bhava より]; ㊦
 生有, 生陰 *Abh-vy. 397.*
 aupapattyamśika ㊦ [upapatty-amśa より]; ㊦
 生邊, 生分 *Sikṣ., Madhy-v.*
 aupapatya ㊦ [upa-pati より] 姦姪.
 aupapādika ㊦ [upa-pāda より] [=aupapāduka];
 ㊦ 化生 *Saddh-p. 408.*
 aupapāduka ㊦ [upa-pāda より] [*Pāli. opapātika*]
 明らかなる因(兩親)なくして現れ或は再生せる, 自然
 發生の, 化生の (*Divy., Av-ś.*); ㊦ 化生 *Lal-v.,*
Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I.: ~ḥ *padma-*
garbhe 從蓮華生, 於蓮華中忽然化生, 於蓮華中歎然
 化生 *Gaṇḍ-vy. 268.* ㊦ ㊦ 幻變道 *Divy. 649.*
 aupabhogika ㊦ [upa-bhoga より]; ㊦ 受用 *Ma-*
dhy-vibh.
 aupamanyava ㊦ *Upamanyu* の子孫; [或る學派の
 名].
 aupamānika ㊦ [upa-māna より] 類推によりて引出
 されたる.
 aupamika ㊦ [upa-mā より] 比較をなせる, 比較に
 役立つ.
 aupamita ㊦ 等しき.
 aupamya ㊦ [upa-mā より] 類似, 比較; 類推; ㊦
 譬, 譬喩 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Daś-bh.,*
Sūtr.
 aupamya-kṛta ㊦ ㊦ 所現譬喩 *Saddh-p.*
 aupamyodāharāṇa (°ya-ud°) ㊦ ㊦ 譬喩 *Aṣṭ-pr.*
 aupayika ㊦ (㊦-ī) [upāya より] 相應せる, 適當な
 る; 目的に導く; ㊦ 有用, 方便, 具方便 *Bodh-bh.,*
Mvyut. ㊦ 手段, 方策.
 aupayikatā ㊦ 適當せること, 相應せること
 aupala ㊦ [upala より] 石造の.
 aupalambhika ㊦ [upa-lambha より] ㊦ 有所得
Aṣṭ-pr.
 aupavasta ㊦ (祭式の前夜に於ける)準備の斷食.
 aupavastaka ㊦ [同上].
 aupavāsyā ㊦ [upa-vāsa より] 斷食.
 aupavāhya ㊦ [upa-vāha より] 乗用に或は馭するに
 適する. ㊦ 王侯の乗る象; [或る象の稱號] (*Jāt-m.*).
 aupavitika ㊦ [upa-vita より] 聖紐を掛くこと.

aupāsamika 形 [upa-sāma より. Pāli. opasamika] 寂靜に導く, 和平ならしむる (Av-s.); 寂滅 Bodh-bh.

aupāsāla 形 家又は會堂に近き.

aupāsleṣika 形 [upa-sleṣa より] 密接に連結せられたる.

aupasthya 甲 [upa-stha より] 性的快樂.

aupahārika 甲 [upa-hāra より] 供物, 供饗.

aupākaraṇa (aupā-āk°) 甲 Veda 學習開始前の儀式

aupāttika 形 [upātta より] 執受, 心取 Abh-vy.

aupāyika 形 =aupayika.

aupāsana (aupā-ās°) 男 家庭の聖火.

aupendra (aupā-in°) 形 Viṣṇu 神に屬する.

auma 1. 形 亞麻の.

auma 2. 形 Umā 神に關する.

aumāpata 形 [umā-pati より] Umā 神の夫即ち Siva 神に關する.

auraga 形 [ura-ga より] 蛇に關する.

aurabhra 形 牡羊又は羊に由來する.

aurabhrika 男 [ura-bhra より] 羊飼; 羊の屠殺者 (Kār-vy.); 屠羊, 屠兒, 屠者, 屠家, 屠養羊, 屠獵師 Divy., Bodh-bh., Vijñ-v., Mvyut.

auraśa 男 Uraśā の住民.

aurasa 形 (女-i) [uras より] 胸より出づる; 天賦の, 自然の; 自體より生ずる; ~h putraḥ 胷子, 眞子 Bodh-bh. 326. [刊本 ur°] 男 嫡出子; 眞子, 身子, 愛子, 弟子 Divy., Saddh-p., Rāstr., Mvyut.

aurasya 形 自體より生まれたる.

aurjitya 甲 [ūrjita より] 力, 勇氣.

aurṇa 形 [ūrṇā より] 羊毛の, 羊毛製の.

aurṇaka 形 [同上].

aurṇaka-vāsa 男 毛衣, 綿衣(?) Mvyut.

aurdhva-deha 形 來世に關する. 甲 來世, 葬儀.

aurdhvadehika 形 [ūrdhva-deha より] 來世に關する. 甲 死者の供養の爲に捧ぐるもの又は行ふこと.

aurdhva-bhaktika 形 [ūrdhva-bhakta より] 食事の後に用ひらるゝ.

aurmileya 男 Urmilā の子孫.

aurva 1. 男 [種々の Ṛṣi の 父系]; 優留(王) Buddh-c.

aurva 2. 男 (Aurva 仙の) 海中の火.

aurva 3. 形 (女-i) [urvī より] 地の.

aurvara 形 地に關する, 地より出づる(塵).

aurvaśeya 形 Urvaśī より出づる.

aurvâgni 男 海中の火.

aurvânala 男 [同上].

aurvāya 名動自 aurvāyate 海中の火の如くに行動す.

aulūkyā 男 [Ulūka の 父系]; [Vaiśeṣika の 學徒]; 裨世 [vaiśeṣika の 香寫] 師 Madhy-v. 275.

aulūkhala 形 [ulūkhala より] 臼に由來する, 臼にて搗かれたる. 男 兩臼と杵.

auveṇaka 甲 [或る歌の名].

auśanasa 形 (女-i) Uśanas に屬する. 男 父系 Uśanas の後裔. 甲 Uśanas の編纂せる法典.

auśanasi 女 =auśanasa (男).

auśinara 形 (女-i) Uśinara の民に屬する.

auśinari 女 [Purūravas の 妻の名].

auśira 形 Uśira 製の. 甲 Uśira 製の塗油.

auśirikā 女 新芽; 鉢; 青苗 Mvyut.

auśadha 形 [ośadhi より] 草にて製せられたる. 甲 本草 [集合的に]; 藥草; 藥, 藥種, 醫藥; 藥, 良藥 Av-s., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Bodh-c., Abh-vy.

auśadha-vikrayin 形 醫藥を商ふ.

auśadhi 女 =ośadhi; 草, 藥草; 藥, 香藥, 藥物 Sv-pr., Sapt-pr., Lank., Śikṣ., Abh-vy.

auśadhi-Kṛ, 醫藥となす.

auśadhy-ākārākīrṇa (°ra-āk°) 形 多諸藥草, 具衆藥草, 有諸藥草 Gand-vy.

auśasa 形 (女-i) [uśas より] 朝の, 曉の.

auśasi 女 曉.

auṣtra 形 [uṣtra より] 水牛又は駱駝より産せる. 甲 水牛の皮.

auṣtraka 形 駱駝に由來する. 甲 一群の駱駝.

auṣtrika 男 搾油者.

auṣtha 形 唇形の.

auṣṇika 男 國 [民族の名].

auṣṇya 甲 [uṣṇa より] 熱; 燄相, 熱觸 Abh-vy.

K

ka 1. 不定代 [甲 啞 kad, 甲 kim] 誰か, 何か, 何れか; [iva, u, nāma と共に] 實に誰か; [屢々輕んずる意味に用ひらる] 何れも・誰も或は何ものも…なきと同然; kaiṣa kathā そは問題外なり; ko 'padeśaḥ 何指示, 如何指示 Mvyut.; ko he-tuḥ kaḥ pratyayaḥ 何因何縁 Mvyut. kim [其又は(不定分)と共に] …の事を何かせん; (屬)に何の用かあらん; kim bahunā 何ぞ喋々するを要せん; [nu と共に] 一體誰か, 一體誰なりや; [svid と共に] 一體誰か或は何か.

不定代 1. [香 と共に] 何も, 誰も; 2. [先行の ya 及び後續の ca と共に] 誰なりとも; 何れなりとも; 何なりとも, 悉く; [先行の ya 及び後續の vā と共に] 何なりとも; 3. [cana と共に] 決して何も…無し [屢々否定辭によりて強めらる]; 4. [cana, cid 又は api と共に] 若干の, 多少の, 何等か, 或る [形又は名]; 覆 若干の. kaś-cid…kaś-cid 一は…他は…; 覆 或ものは…他は… → kim. ka 2. 男 (誰か), [Prajāpati 神又は Brahman 神の名]. 甲 安樂; 水; 頭.

kaṃsa 1. 男 盃. 男 甲 眞鍮, 鐘銅; 白銅, 鎔, 响(?)銅; 鐵鉢 *Divy., Mvyut.*; 鑄; 鍵銘, 樅茨, 建鐵 立悉.

kaṃsa 2. 男 [*Kṛṣṇa* に殺されたる王の名].

kaṃsa-kāra 男 眞鍮工; 灌銅匠 *Mvyut.*

kaṃsa-kṛṣ 男 [*Kṛṣṇa* の稱].

kaṃsa-keśi-niṣūdana 男 [同上].

kaṃsa-dhvaṃsana 男 [同上].

kaṃsa-niṣūdana 男 [同上].

kaṃsa-badha 男 [(*Kaṃsa* 王の殺害), 戯曲の題名]; 殺建姿 *Mvyut.*

kaṃsavatī 女 [*Kaṃsa* の一姉妹の名].

kaṃsa-vidrāvaṇa-kari 女 [或る *Durgā* の名].

kaṃsa-śatru 男 [*Kṛṣṇa* の稱].

kaṃsa-sthāla 甲 金屬の容器.

kaṃsā 女 [*Kaṃsa* の一姉妹の名].

kaṃsāri 男 [*Kṛṣṇa* の稱].

ka-kāra 男 *ka* の音又は字; 迦字 [四十二字門の一]; ~m parikīrtayato 'saṃbhinnā-megham nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱迦(上)字時能甚深入般若波羅蜜門名普雲不斷 *Gaṇḍ-vy. 449.*; (音) 迦字 [五十字門の一]; ~c karma-vipākāvatāra-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱迦(上)字時出入業果聲 *Lal-v. 127.*

kakuṭha 男 [鳥の一種].

kakut-sunda 男 壞輪廻 *Mvyut.*

kakut-stha 男 [*Ikṣvāku* 王の孫の名]; [*Raghu* の父の名].

kakud 女 頂, 峯; 尖端; 隆肉 王權の表徴; (圓)の首領; [*Dakṣa* の娘にして *Dharma* の妻の名].

kakuda 甲(男) [同上]; 犁; 駝峯 *Mvyut.*; ~ḥ kātyāyanaḥ (男) [六師外道の一] (音) 犁迦多衍尼子 *Mvyut.*; (音) 迦鳩陀迦多衍那, 脚拘陀迦多演那 *Divy., Mvyut.*

kakuda-rūpin 形 隆肉の如き形の.

kakudavat 形 樓背の.

kaku(d)-druma 男 [或る豹の名].

kakudmat 形 隆肉を有する. 男 隆肉を有する野牛; 山.

kakudmi-kanyā 女 [*Revatī* の名].

kakudmin 形 隆肉を有する. 男 隆肉を有する水牛; [王の名].

kakundara 甲 腰部の凹處.

kakub-jaya 男 世界征服.

kakubh 女 峯, 頂; 蒼空の方位; [音律の一種]; [*Dakṣa* の娘にして *Dharma* の妻の名].

kakubha 形 高き, 卓越せる. 男 音階(の一種); [樹の名, 學名 *Terminalia Arjuna*]; [山の名]. 甲 *Kakubha* 樹の花.

kakubha-surabhi 形 *Kakubha* 樹の花にて香ばしき.

kakum-mukha 甲 蒼空の方位; 羅鍼盤の方位.

kakuha 形 = *kakubha*.

kakeruka 男 [胃中の蟲の名].

kakkaṭa 男 [(*Anumati* 神に犠牲として供へらるゝ) 動物の一種].

kakkula 男 [或る佛教比丘 (*Bhikṣu*) の名] (*Lal-v.*).

kakkola 男 [樹の名]. 甲 [芳香物の一種].

kakkolaka 甲 [同上].

kakkaṭa 形 [又は *khakkaṭa*] 硬き; 硬 *Sikṣ.*

kakkaṭatva 甲 硬澁, 堅者, 堅強相 *Sikṣ.*

kakkaṭi 女 白墨; 劫只 *Mvyut.*

kakṣa 男 隠れ場處, 獸穴; 藪; (乾ける)草; 男 女 (-ā) 腋窩; 馬の肚帶, 帶; 秤 [概して 女]; リボン; 軍隊の翼; 林; 藤; 腋, 腋下, 脇下 *Divy., Lal-v. Sikṣ., Mvyut.*

kakṣa-dhara 男 肩の關節.

kakṣa-paṭa 男 腰布.

kakṣa-loman 甲 腋毛.

kakṣa-sena 男 [王仙の名].

kakṣā 女 → *kakṣa*; 圍壁, 垣; (惑星の)軌道; 匹敵; 競争; 中央, 中心; 均衡, 平均; 腋, 腋之下 *Divy., Sikṣ., Bodh-bh.*

kakṣāgni 男 乾ける木又は草の中にある火.

kakṣāntara 甲 奥の室, 私室.

kakṣā-paṭa 男 = *kakṣa-paṭa*.

kakṣā-puta 男 [同上].

kakṣālaya (°*ṣa-āl°*) 男 甲 = *kakṣāntara*.

kakṣi-karaṇa 甲 是認すること, 許諾.

kakṣi-kartavya 形 採用せらるべき, 許さるべき(考).

kakṣi-kāra 男 採用, 許容, 支持(考の).

kakṣi-Kṛ, 受く, 是認す, 許諾す.

kakṣivat 男 [聖仙の名]; 王の名 [王の名] 伽又 (王) *Buddh-c.*

kakṣya 形 藪又は草上に住する; 腹帯のきつき, 榮養よき. 甲 秤の目盛; [車の一部の名]; 腋, 脇; 腰 *Prāt-m., Mvyut.* → *kakṣyā*, *baddha* ~.

kakṣyā 女 帶, 馬の肚帶; 圍壁, 垣; (惑星の)軌道; [時として 甲 -a] 秤, 衡; 鎧 *Saddh-p.*; ~m bandhitvā 著鎧 *Saddh-p. 273.* → *gṛha* ~.

kaṅka 男 蒼鷺; [人名]; 鷗, 雕 *Sikṣ.* 類 [民族の名].

kaṅka-cit 形 蒼鷺の如く密集する.

kaṅkaṭa 男 甲冑; [或る *Dānava* の名]; 類 [民族の名].

kaṅkaṇa 甲 指環, 環狀の裝飾物, 腕環; 結婚前に新郎又は新婦の手首に巻く紐; 鈴 *Rāṣṭr.*

kaṅkaṇa-dhara 男 新郎.

kaṅkaṇa-dharā 女 新婦.

kaṅkaṇa-pura 甲 [町の名].

kaṅkaṇa-mocana 甲 (結婚の紐を外す)結婚式.

kaṅkaṇa-varṣa 形 腕環を降らす; 魔術師の. 男 [人名].

kaṅkaṇa-varṣitā 女 [同下 甲].

kaṅkaṇa-varṣin 形 腕環を降らす.

kaṅkaṇābharana (°*ṇa-ābh°*) 形 腕環を著くる.

kaṅkaṇin 形 [同上].

kaṅkata 男 櫛.

kaṅkatikā 女 [同上].

kaṅka-tuṇḍa 男 [或る *Rākṣasa* の名].

kaṅka-pattra 甲 (矢に附せる)蒼鷺の羽. 類 蒼鷺の羽を有する. 男 蒼鷺の羽を附せる矢.

kañka-patrin 形 [同上(形)].
kañka-mukha 形 蒼鷺の嘴の如き形をなせる(外科用具).
kañkara 甲 [數の名] 千萬億 支應; (音寫) 甄迦羅, 緊迦囉, 恆迦羅, 嚩迦羅, 剛伽羅, 矜羯羅, 更乾羅 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Mvyut.*, 支應.
kañka-vadana 甲 (蒼鷺の如き顔をなすもの), 火箸; 釘拔.
kañka-vājita 形 =kañka-patrin.
kañkā 女 [Ugrasena の娘にして Kañka の姉妹の名].
kañkāla 男 甲 骨骼, 骸骨.
kañkāla-musala 甲 [神祕的武器の名].
kañkāla-śeṣa 形 骸骨のみとなれる.
kañkālinī 女 *Durgā* 神(の一形態).
kañku 男 [Ugrasena の子の名]; [稗の一種].
kañkelli 甲 *Aśoka* 樹.
kañkelli 女 [同上].
kañkola 男 甲 [植物の一種, 學名 *Jonesia Asoka*].
kañkoli-phala 甲 肉豆蔻の實.
kañgu 女 [稗の一種]. 男 [稗] 稗 *Mvyut.*
kaca 男 毛髮; [*Bṛhaspati* の子の名]; [綿, 生絹] *Mvyut.*
kaca-graha 男 髪を捉ふること.
kaca-grahaṇa 甲 [同上].
kacaṅgala 甲 [地名].
kacaṅgalā 女 [町の名] (*Jāt-m.*).
ka-ca-ṭa-ta-pa-ga-ja-da-da-ba 甲 [無意味なる言葉の例].
kaca-bhāra 男 豊かなる毛髮.
kacā-kaci 副 互に毛髮を攫みて.
kacācita 形 髪を亂したる.
kaccati 女 [遮袍] *Mvyut.*
kac-cid, → *kad*.
kaccha 1. 男 岸, 堤; 沼澤多き地, 濕地; 邊, 縁, 境.
kaccha 2. 男 俗 [<kakṣa] [脇] 脇 *梵雜*.
kaccha-pa 男 龜; [或る *Nāga* の名]; [國の名(現今の *Cutch*)]; [龜, 鼈] *Rāṣṭr.*, *Lank.*, 梵千., 梵雜.
kacchapa-loma 甲 [龜毛] *Suv-pr.*
kaccha-puṭa 甲 仕切ある箱; [兜袋] *Mvyut.*
kacchā 女 邊, 縁, 境.
kacchāṭikā 女 (衣服の)縁; [帶, 圍腰子] *Mvyut.*
kacchānta 男 湖又は河の岸.
kacchā-hāra 男 俗 [<kakṣyā-hāra] [束帶, 繫腰] *Mvyut.*
kacchu 男 疥癬又は類似の皮膚病; [疥] *Mvyut.*
kacchū 女 [同上].
kaja 甲 蓮.
kajjala 甲 油煙, 煤煙; 油煙にて製したる眼膏.
kajjalita 過受分 油煙にて覆はれたる; 黒き, 汚れたる.
kañcikā 女 小なき瘤; =kañcukā; [衣] *Av-s.*
kañcuka 男 甲 上體に著する衣服, 胴衣; 鎧; 蛇の蛻(殻). —° 形 (女 -ā) [衣] *Divy.*
kañcukā 女 [衣] *Av-s.*
kañcukita 過受分 鎧を著けたる.

kañcukin 形 (一°)に包まれたる. 男 侍從; [宦者] *Mvyut.*
kañcuki 女 =kañcuka.
kañcukopānahin (ka-up°) 甲 胴衣と靴とを著くること.
kañculikā 女 胴衣.
kaṃ-ja 甲 蓮.
kaṃja-nābha 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
kaṃjikā 女 [植物の一種, 學名 *Siphonantus Indica*]; [酒] (音寫) 黄酒 *Mvyut.*
kaṭa 男 莖; 象の鬚鬚; 博奕に於ける最上の結果 [=kṛta]; 屍體; [席, 幕, 簾幔帷障, 簾幔帷帳; 臂釧] *Divy.*, *Lank.*
kaṭaka 男 莖. 男 甲 索, 紐, 繩; 腕環; 手甲; 象の牙齒を飾る環; 傾斜, 谷; 王の野營, 軍隊, 隊商; 蒐集; 住居; [環] 環; 釧, 銀釧, 環玕, 具嚴釧; 金瓔珞 *Av-s.*, *Sam-r.*, *Lank.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵雜.
kaṭaka-keyūra 甲 [環釧] *Sukh-vy. I.*
kaṭa-kaṭa 男 [*Śiva* 神の稱].
kaṭa-kaṭā 擬音 [破碎の音の形容].
kaṭakaṭāya 名動 他 **kaṭakaṭāyati** 齒を軋しましむ或は切齒す, カタカタと音す或は音を發せしむ; [齒] *dantaiḥ* ~t (現分) [齒] *Lal-v. 206.*; *dantān* ~t (現分) 齧齒 *Lal-v. 206.*
kaṭa-karaṇa 甲 莖を編むこと.
kaṭa-kuṭi 男 藁小屋, 莖を結びて造れる小屋.
kaṭa-kṛt 男 (藁)莖を編む人.
kaṭa-kriyā 女 =kaṭa-karaṇa.
kaṭaṅ-kaṭa 男 [*Śiva* 神の稱].
kaṭacchu 女 (?) 匙; [爐] *Mañj-m.*; 鉢盂 *Mvyut.* → *dhūpa* ~.
kaṭacchuka 男 [爐] *Divy.* → *dhūpa* ~.
kaṭa-pūtana 男 [惡鬼の一種]; [極臭鬼, 短臭鬼, 奇臭鬼, 體臭者] *Mvyut.*, 支應; (音寫) 迦吒福多羅, 迦吒福單那, 迦吒富單那, 羯吒布世那, 竭吒富旦那 *Lank.*, 梵雜, 支應.
kaṭa-pūtani 女 [迦吒福多羅女, 加吒福單那女] *Lank.*
kaṭa-prabheda 男 (交尾期に於ける)象の鬚鬚の破裂.
kaṭa-bhaṅga 男 新鮮なる秣; 手にて穀物を收穫すること; 王者の滅亡.
kaṭa-bhū 女 象の鬚鬚.
kaṭasi 女 [=kaṭasi]; [貧愛] *Abh-vy.*; (音寫) 羯吒私 [國] ~r iti śmaśānam 卽ち =śmaśāna] *Abh-vy. 281.*
kaṭasi 女 墓地, 送葬場; [尸林] [=śmaśāna] *Mvyut.*; 貧愛; 血鏝 *Mvyut.*; 胎之微形 *Saddh-p.*, *Abh-vy.*; (音寫) 羯吒私, 羯吒斯 *Mvyut.*, 支應.
kaṭasi-varḍhitā 女 [增貧愛]; (音寫) 增羯吒私 *Mvyut.*
kaṭa-hāra 男 秣の束.
kaṭākṣa 男 横目; [眇, 斜視; 眼角] *Lank.*, *Mvyut.*
kaṭākṣita 形 横目にて見られたる.
kaṭākṣipya (°ṭa-āk°) 不變分 眇視して.
kaṭākṣekṣita (°ṣa-ik°) 形 [眇視] *Lank.*

kaṭākṣepa (°ta-āk°) 男 横目。
kaṭāgni 男 乾草中の火。
kaṭānta 男 頤頤の端。
kaṭāha 男 鍋, 皿, 皿形のもの [例象の頤頤]; [或る Dvipa の名]。
kaṭāhaka 甲 男 皿又は鉢; 器, 鐵器, 鍍, 鍋, 缸 *Divy., Mvyut.* → śroni ~。
kaṭi 女 腰; 腰 *Lank., Bodh-c., 梵千.; 小便(?) Mvyut.*
kaṭi-karpaṭa 甲 腰に纏ふ布片。
kaṭikā 女 [同上]。
kaṭitra 甲 帶。
kaṭi-pārsva 甲 胯 梵千
kaṭi-vāsa 男 腰に纏ふ布片。
kaṭi-sūtra 甲 帶; 腰繩, 腰縵 *Lank.*
kaṭi 女 =kaṭi.
kaṭi-nivasana 甲 腰衣。
kaṭi-paṭa 男 [同上]。
kaṭiraka 甲(?) 腰。
kaṭu 形 鋭き; 烈しき; 強き香ある; 不愉快なる, 苛立てる; 辛辣 *Mañj-m.* 副 鋭く, 烈しく。 甲 苛さ, 峻烈; 苦痛; 不當なる行爲, 爲すべからざる行爲; 咎むること, 謗ること, 誹謗。
kaṭuka 形 [同上(形)]; 暴き, 厳しき; 辛, 辣, 辛辣, 辣辛, 辛楚: 痛, 苦, 澁, 難; 具惱; 急性 *Divy., Suv-pr., Mañj-m., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜.*
kaṭukatā 女 鋭きこと, 峻烈。
kaṭuka-taila 甲 芥子油 *Mvyut.*
kaṭuka-traya 甲 三の刺戟性の物の集り(長胡椒・黒胡椒及び生薑)。
kaṭukatva 甲 =kaṭukatā.
kaṭuka-bhāṣin 形 辛辣なる言葉の。
kaṭukita 通受分 辛辣なる語を開ける, 辛辣に扱はれたる。
kaṭukodaya (°ka-ud°) 形 悪結果となる。
kaṭu-ja 形 酸きものにて作られたる。
kaṭutā 女 鋭きこと; 峻烈; 嚴酷。
kaṭu-tiktaka 男 [植物の名, 學名 *Cannabis Sativa*].
kaṭu-trika 甲 =kaṭuka-traya.
kaṭutva 甲 =kaṭukatva.
kaṭu-bhaiṣajya 甲 辛藥 *Bodh-bh.*
kaṭodaka (°ta-ud°) 甲 死者に水を捧ぐる供養。
kaṭkāra 男 鷓鴣 *Mvyut.*
Kaṭṭ, X. 他 **kaṭṭayati** (穀物を)堆積す
kaṭṭana 甲 積むこと。
kaṭṭāraka 男 短劍。
kaṭṭārikā 女 [同上]。
kaṭ-phala 男 芳香ある果(と皮とを有する樹)。
kaṭv-aṅga 男 [樹の一種, 學名 *Calosanthos indica*]. 甲 [Kaṭvaṅga 樹の實]。
kaṭha 男 [*Yajur-veda* 學派の開祖なる聖仙の名]; [*Kaṭha* 仙の弟子及びその教に隨ふ者]。
kaṭha-kalāpa 甲 學派又は男 *Kaṭha* 派と *Kalāpa* 派。
kaṭha-kauthuma 甲 學派又は男 *Kaṭha* 派と *Ku-*
thumin 派。

kaṭhaṇṇa 甲 [=kaṭhalla]; 瓦礫 *Mañj-m.*
kaṭhalya 甲 [同下]; 礫, 礫石, 瓦礫 *Lal-v., Saddh-p.:* sarkara ~ [=śar°] 沙礫 *Lal-v. 301.*
kaṭhalla 甲 礫, 砂利; 石, 礫, 土; 瓦, 瓦礫 *Divy., Lal-v., Lank., Mvyut.*
kaṭha-valli 女 [或る *Upaniṣad* の題名]。
kaṭha-śruti 女 [同上]。
kaṭhāhaka 男 [=kaṭāhaka] 鍋 (*Divy.*)
kaṭhina 形 堅き, 固き; 確乎たる, 厳しき, 殘酷なる; 無情なる; 堅, 堅硬, 堅實, 堅牢 *Lal-v., Lank., Śikṣ., Abh-vy.* 甲 料理用の瓶; 運搬用の棒・紐又は革紐; 圓匙, 金杓; (佛敎) [毎年衣を作る爲めに俗人の寄附する布, 安居中又は安居後の出家に著實用を許されたる臨時の衣服]; 鍋 *Mvyut.*; 堅衣, 功德衣 *Mvyut.*; 煮狗人衣; (畜) 羯恥那(衣), 羯恥那(衣), 迦絺那(衣) *Prāt-m., Mvyut., 支應:* ud-dhṛte ~ e 出迦絺那衣時 *Prāt-m. IV. 1. 2, 3.*
kaṭhinatā 女 堅固なること, 堅きこと; 殘酷, 嚴格。
kaṭhina-bhāva 男 堅持, 堅實, 堅體, 堅硬 *Madhy-v.*
kaṭhinaya 名動 他 **kaṭhinayati** 堅くす。
kaṭhina-vastu 甲 (畜) 羯恥那衣事 *Mvyut.*
kaṭhināvadāna 甲 [佛典の名]。
kaṭhināstarāṇa (°na-ās°) 甲 張功德衣, 張堅實衣; (畜) 張羯恥那衣 *Mvyut.*
kaṭhināstāra (°na-ās°) 男 袈裟坐具; (畜) 張羯恥那 *Mvyut.*
kaṭhināstāraka (°na-ās°) 男 張堅實衣人, 張功德衣人; (畜) 張羯恥那衣人 *Mvyut.*
kaṭhini 女 白聖。
kaṭhini-Kṛ, 堅くす。
kaṭhilla, =kaṭhalla (*Lal-v.*)
kaṭhura 形 =kaṭhora; 苛酷なる。
kaṭhopaniṣad (°tha-up°) 女 [或る *Upaniṣad* の題名]。
kaṭhora 形 堅き, 確乎たる, 固き; 鋭き, (風の)身を切る, 肌を劈く; (叫聲の)胸を貫く; 冷靜なる, 無情なる; 豊富なる。 ~ m 副。
kaṭhora-garbhā 形 女 産期の近づける(婦人)。
kaṭhora-citta 形 冷靜なる, 無情なる。
kaṭhora-cittatā 女 [同上 抽]。
kaṭhoratā 女 堅固; 峻嚴; 無情。
kaṭhora-tārādhipa 男 滿月。
kaṭhoraya 名動 他 **kaṭhorayati** 豊富にす, 繁榮せしむ。
kaṭhorita 通受分 榮えしめられたる, 強められたる。
kaḍa 形 啞の, 無言の。
kaḍam-kara 男 毬, 輕き藥; 球; [武器の一種]。
kaḍam-gara 男 [同上]。
kaḍam-gariya 形 藥にて飼はるべき。 男 藥にて養はるゝ動物。
kaḍatra 甲 [=kalatra]; 屬, 眷屬, 親屬, 親眷 *Bodh-bh.:* gṛha ~ 家屬 *Bodh-bh. 331.*
kaḍatra-bhāva 男 眷屬 *Bodh-bh.*
kaḍāra 形 茶褐色の。
kaḍitula 男 劍, 彎曲せる刀。
kaḍintala 男 灣劍 *Mvyut.* → kaḍitula.

kaḍebara 男 甲 [=kalevara. Pāli. kaḷebara]; 漢譯 身 *Av-s.*
kaḍevara 甲 [=kalevara]; 漢譯 身, 體, 軀 *Divy., Mvyut.*
kaḍhalya 甲 [=kaḍhalya]; 漢譯 瓦礫 *Lal-v.:* śa-rkara ~ 塵土瓦礫 *Lal-v. 39.*
kaṇa 男 粒; 滴; 片; 火花; 小片; 微粒, 原子.
kaṇa-pa 男 鎗(の一種); 漢譯 劍 *Divy.*
kaṇa-pāyin 男 [同上].
kaṇa-bhakṣa 男 *Kaṇāda (Madhy-v.);* 漢譯 音譯 羯拏僕 [成唯識論述記].
kaṇa-bhuj 男 *Kaṇāda;* 漢譯 噉糠 *Laṅk.;* 音譯 揭那 *Laṅk.*
kaṇaya 男 俗 [<kaṇapa]; 漢譯 一頭杵 *Mvyut.*
kaṇa-vāhin 形 水滴を浮動せしむる, 濕氣ある.
kaṇaśas 副 小部分に.
kaṇā 女 漢譯 屑, 米齊 *Mvyut.*
kaṇāṭira 男 鵝鴒.
kaṇāda 男 [*Vaiśeṣika* 派或は原子論學派の開祖の名]; 漢譯 食屑, 食米齋 *Mvyut.;* 音譯 迦那 *Laṅk.*
kaṇāda-maharṣi (°hā-ṛṣi) 男 漢譯 大仙食屑, 食米齋大仙 *Mvyut.*
kaṇāna 形 穀類にて生存する.
kaṇānnatā 女 [同上 拙].
kaṇika 男 小粒, 種子; 小滴; 乾燥し加熱せる小麦の粉; 漢譯 麵, 白麵, 麩 *Mvyut.,* 梵雜
kaṇikā 女 小滴, 小片; 穀粒, 穀物.
kaṇīśa 男 (穀類の)穂.
kaṇikā 女 穀粒, 種子.
kaṇūkaya 名動 他 **kaṇūkayati** 苦を受く.
kaṇṭaka 男 棘; 魚の骨; 社會の惡疾, 敵; 障礙; [或る *Agra-hāra* (婆羅門に下附せられたる土地)の名]; 漢譯 [kaṇṭhaka と混同せらるゝことあり] 棘, 刺, 荊, 荊棘, 棘刺, 利刺; 刺鍼; 怨家 *Divy., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Śikṣ., Vijñ-v., Mvyut.,* 梵雜. → *go* ~ *ūdhāna, pṛṣṭhi* ~.
kaṇṭaka-druma 男 棘ある植物.
kaṇṭaka-bhuj 男 駱駝.
kaṇṭakādhyā (°ka-ādhyā) 形 棘に充ちたる, 棘ある.
kaṇṭakita 過受分 棘ある; 剛毛ある.
kaṇṭaki-druma 男 [棘ある植物の名].
kaṇṭakin 形 棘ある.
kaṇṭaki-vṛkṣa 男 棘ある木(の類).
kaṇṭakodddharāṇa (ka-ud°) 甲 棘を取り去ること或は抜き取ること; 公敵の撲滅; 惱を除くこと.
kaṇṭa-kautsa 男 [或る *Agra-hāra* の名].
kaṇṭha 男 頸, 喉; 接近 [—° 形 (女 -ā, -ī)]; 漢譯 頸; 項; 喉, 咽喉 *Saddh-p., Laṅk., Mañj-m., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.;* 襟 *Divy.:* ~e śleṣam dattvā (迎接)相抱(撫拍) *Divy. 64.* → *eka* ~ *ena,* ~: *śleṣa.*
kaṇṭhaka 男 頸飾; 漢譯 [kaṇṭaka と混同せらるゝことあり] 棘刺 *Divy.;* 音譯 [馬の名] 乾陟, 健陟, 擬陟, 建吒迦, 建他歌 *Lal-v., Guhy-s.,* 立應.
kaṇṭhakāpāśraya 形 漢譯 臥棘刺上 *Divy.*
kaṇṭha-ga 形 頸に達する.

kaṇṭha-gata 形 頸に著けられたる; 逃れ去らんとする, 喉にある [= (氣息の)將に絶えんとする], 死の瞬間にある.
kaṇṭha-graha 男 抱擁.
kaṇṭha-grahaṇa 甲 [同上].
kaṇṭha-trāṇa 甲 頸當て.
kaṇṭha-nādi 女 漢譯 咽喉 *Śikṣ.*
kaṇṭha-nādyā 女 漢譯 咽喉 *Śikṣ.*
kaṇṭha-nāla 甲 蓮の莖の如き頸.
kaṇṭha-nālikā 女 氣管; 漢譯 咽 *Mvyut.*
kaṇṭha-nāli 女 喉, 頸.
kaṇṭha-piṭha 甲 喉.
kaṇṭha-piḍā 女 喉の激痛.
kaṇṭha-prāvṛta 甲 頸の被覆.
kaṇṭha-bhūṣaṇa 甲 頸飾.
kaṇṭha-bhūṣā 甲 [同上].
kaṇṭha-maṇi 男 頸飾の寶石; 漢譯 結喉 *Mvyut.*
kaṇṭha-mālā 女 頸に附せる花飾.
kaṇṭha-mūliya 形 喉の深奥にある.
kaṇṭha-vartin 形 咽喉にある [= (氣息)の將に絶えんとする].
kaṇṭha-śoṣa 男 喉の乾けること.
kaṇṭha-sūtra 甲 抱擁(の一種); 頸飾.
kaṇṭha-sthalī 女 頸.
kaṇṭhābharāṇa (°ṭha-ābh°) 甲 頸の裝飾, 頸飾; 漢譯 項嚴 *Mvyut.*
kaṇṭhāraka 男 旅行囊.
kaṇṭhālaka 男 [同上].
kaṇṭhāśleśa (°ṭha-āś°) 男 抱擁; 漢譯 執手取辭(?) *Divy. 63.* → *kaṇṭha* (*kaṇṭhe śleṣam dattvā*).
kaṇṭhikā 女 頸飾.
kaṇṭhi-rava 男 獅子; 發情期の象.
kaṇṭhokta (°ṭha-uk°) 形 單獨に或は逐次に話されたる或は數へられたる; 漢譯 親説 *Mvyut.*
kaṇṭhokti (°ṭha-uk°) 女 逐次に話すこと或は數ふること; 漢譯 説, 經 *Abh-k., Abh-vy.*
kaṇṭhya 形 喉の上又は内にある; 喉に良き; 喉音の. 男 喉音, 喉音の字.
kaṇḍana 甲 (臼にて)殼を去ること, 皮を剥ぐこと.
kaṇḍani 女 臼.
kaṇḍi-Kṛ, 搗き碎く.
kaṇḍu 女 [一般に **kaṇḍū** 女] 痒く感ずること, 搔くこと; 疥癬; (一°)に對する切望; 漢譯 瘡, 疥瘡 *Prāt-m., Mvyut.*
kaṇḍu-praticchādana 甲 [*Pāli. kaṇḍu-paṭicchādin*]; 漢譯 覆瘡衣, 覆疥瘡衣, 覆身衣 *Prāt-m., Mvyut.*
kaṇḍura 形 痒き.
kaṇḍula 形 [同上]; 漢譯 疥 *Saddh-p.*
kaṇḍū 女 = *kaṇḍu*; 漢譯 痒, 癢 *Saddh-p., Bodh-c.*
kaṇḍūka 形 漢譯 痒, 癢 *Mvyut.,* 梵雜.
kaṇḍū-juṣ 形 痒き, 搔かんと欲する.
kaṇḍūti 女 痒きこと, 撲ぐること; (婦人の)淫奔.
kaṇḍū-praticchadana 甲 漢譯 覆瘡衣, 蓋瘡巾, 遮瘡疥衣 *Mvyut.;* 音譯 建豆鉢喇底車憚娜 *Mvyut.*
kaṇḍū-makā 女 毒蟲.

kaṇḍūya 名動 他 kaṇḍūyati 搔く; 自 kaṇḍūyate 痒く感ず。

kaṇḍūyana 甲 痒く感ずること, 搔くこと。

kaṇḍūyanaka 形 擦ぐる。

kaṇḍūyitr 男 搔く人。

kaṇḍūla 形 痒き。

kaṇḍūsika 男 [又た gaṇḍūsika]; 補丁者 Mvyut.

kaṇḍola 男 蘆の籃。

kaṇva 男 [聖仙の名]; 種 [Kaṇva の子孫]。

kaṇvavat 副 Kaṇva 仙の如く。

kataka 男 [樹の一種, 學名 *Strychnos Potatorum*, その堅果は水を浄化するに使用せらる]。

katam-kata, [=kaṭaṅ-kata]。

katama 疑代 (多くの中の) 誰か, 何か, 何れか; 何, 云何, 何者, 何等 Saddh-p., Abh-vy., Bodh-bh., 梵千。

yatamaḥ... ~ś ca, 誰彼を問はず。

~ś cana, ~o 'pi [各 と俱に], 誰も或は何も...せず。

katamad 疑代 甲. tatra ~ 云何 Bodh-bh.

katara 疑代 (二者の中の) 誰か, 何れか; 何, 云何 Sikṣ., Abh-vy.

katarad 疑代 甲 何 Sapt-pr.

kati 疑代 何程か; 若干の, 二三の; [一般に cid 又は api と俱に]; 幾, 多少 Lal-v., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵千., 梵雜。

katika 形 幾何の, 幾何にて買ひし。

katidhā 副 何回, 何度, 幾何の處にて, 幾何の部分に。

katipaya 形 (女 -i) 若干の, 二三の, 僅少の [男 -e 又は -ās]; 具, 途 [通受分 と俱に] 辛じて, 多少の面倒又は困難を以て, 漸く。

katipaya-kusuma 形 僅少の花を有する。

katipaya-rātram 副 (數夜), 數日。

katipayāha, ~sya 數日後; ~ena 數日 (前又は後)。

kati-vidha 形 幾種類の; 幾種 Guhy-s.

kati-saṅkhyā 形 幾何の數の。

kati-hāyana 形 幾歳の。

kati-muṣa 男 [或る Agra-hāra の名]。

kattā-śabda 男 骰子の轉がる音。

Katth, I. 自 (他) katthate(-ti) 誇る; 賞揚す; 咎む, 毀辱す。

vi- (具) を誇る; (具) を非難す, 辱しむ; 毀辱 Divy. 使役 vikatthayati 辱しむ; 誇る。

katthana 形 誇る. 甲 自慢。

katpayam 副 兎に角, 何となく。

Kath, X. 他 (自) kathayati(-te). → kathaya.

-katha 形 談, 言詞, 論說 Rāṣṭr., Bodh-bh. → madhura ~.

katham-rūpa 形 如何なる姿の, 如何なる貌の。

katham-vīrya 形 如何なる力の。

kathaka 形 話す. 男 話者。

katham-kathā 女 疑惑, 疑ふこと (Divy., Saddh-p.); 疑惑, 猶豫 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.

kathamkathā-śalya 甲 疑惑箭, 疑惑刺, 猶豫箭 Gaṇḍ-vy.

katham-kathika 形 質問を好む(人), 穿鑿を好む(人)。

katham-kathin 形 懷猶豫 Saddh-p.

katham-kāram 副 如何にして。

katham-jātiyaka 形 如何なる種類の。

kathana 甲 物語, 通信, 記述, 報告; 談, 說 Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh.

kathaniya 未受分 語らるべき, 記述又は陳述に値する。

katham 副 如何にして, 何處より, 何故に; 何, 云何, 如何, 何故, 以何 Saddh-p., Rāṣṭr., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.

~ Ni 如何說 Mvyut.

[各 或は 命 と俱に(時として 直)] 如何で...ならんや。

[mā 及び 三過 と俱に] 何故に...ならざるや。

[時として 問投] 何!

[時として 輕き疑問を表す = nonne 或は num].

[nu と俱に] 一體如何にして, ...ならんや, 如何に...ならんや。

[各 と俱に] 如何に...ならずや。

[iva と俱に] 如何にして, 一體何故に。

[nāma と俱に] 如何でか...ならんや; 何以故 Vin.

[svid と俱に] [同上]。

[cana と俱に] 決して...ならず [一般に先行する 各 によりて強めらる]。

[cid 及び api と俱に (Kālidāsa 及び その以後) 不定の意味にて] 何程にか, 偶然にも; 辛じて, 漸く, 殆ど [屢, katham を繰返すことあり]; (cid) 難侘 Mvyut.

yathā ~ cid, 兎に角; 如何なる方法にても。

形 聊かの, 幾分の; [各 と俱に] 決して...なし;

決定非 Rāṣṭr.

katham-pramāṇa 形 如何なる量の。

katham-bhūta 形 如何なる種類の。

kathaya 名動 他 (自) kathayati(-te) (具 士saha)

と話す; 物語る, 告ぐ, 報告す; 關説す; 陳述す, 宣告す, 告知す; 洩らす, 暴露す; 命令す; 假定す, 設定す;

談, 謂, 説, 宣説, 讚説; 報 Saddh-p., Sapt-pr., Bodh-bh., Bodh-c. 受 呼ばる; 通用す;

説 Sūtr.

vi- 徒らに話す。

sam- 物語る, 報告す; 説明す。

kathayitavya 未受分 語らるべき。

kathā 1. 副 如何にして, 何處より, 何故に。

yathā ~ ca, 如何に...なりとも, 如何程...ならんとも。

kathā 2. 女 (因, 一) に就ての會話, 談話, 物語, 議論; (男 或は 一) の譚, 物語; 陳述, 宣言; (人格化せる) 物語;

言, 語言, 言辭; 説, 演説, 宣説, 論説; 論, 談論; 敷演; 教 Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Lank., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.

kā ~, (因, 因, prati) は論外なり, ...は言ふ迄もなし; 如何 Cat-ś.: kalyāṇādhigatis tasya

nāsti mokṣe tu kā ~ 無由生善趣如何證涅槃 *Cat.* 496.
kaiṣā (kā-eṣā) ~, 何故問題となるや = 言ふ迄もなし.
 ~ **kṛtā** 説, 宣説 *Aṣṭ-pr.*
 ~ **m Kṛ** 宣説 *Bodh-bh.*
kathā-krama 男 連続せる會話; 談話, 物語, 譚; 論評 (*Jāt-m.*).
kathā-(c)chala 中 寓話の構想.
kathānaka 中 短き物語, 小話, 譚.
kathāntara (°thā-an°) 中 會話, 談話.
kathā-paryavasāna 中 説法已 *Gaṇḍ-vy.*
kathā-piṭha 中 [*Kathāsarit-sāgara* 第一卷の題名].
kathā-pradeśa 男 物語の場處.
kathā-prabandha 男 古傳説, 昔噺.
kathā-prasaṅga 男 會話の機會. ~ **ena** 男, ~ **āt** 話の途中に, 遇然に.
kathā-prastāva 男 [同上].
kathā-prastāvatas 副 話の途中に.
kathāmaya 形 物語より成れる.
kathā-mātra 形 尚ほ物語の中にのみ在る, 死せる.
 中 單なる物語.
kathāmātrāvaśiṣṭa 形 [同上(形)].
kathāmātrāvaśeṣita 形 [同上].
kathā-mukha 中 物語の序; [*Kathāsarit-sāgara* 第二卷の題名].
kathā-yoga 男 會話, 談話.
kathārambha-kāla (°thā-ār°) 男 史話の始まる時.
kathālāpa (°thā-āl) 男 會話; 物語.
kathāvali (°thā-āv°) 女 物語集.
kathāvaśeṣa (°thā-av°) 男 物語中にのみ生存すること即ち死. 形 死せる.
kathāvaśeṣatā (°thā-av°) 女 [同上(形)].
kāthāvaśeṣi-BHū, 死す.
kathā-vastu 中 言依, 言基本 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
kathā-śeṣa 唯だ物語の中にのみ生存する即ち死せる.
kathā-śeṣatā 女 [同上(形)].
kathā-saṃdhi 男 (他人に妨げられたる)話の接目.
kathā-sarit-sāgara 男 物語の流れの海 [*Somadeva* 作の物語集の題名].
kathika 形 話す; 説, 宣 *Sūtr.* → *dharma* ~.
kathikāvasthā 女 辯説位, 能説師位 *Madhy-vibh.*
kathita 1. (過受分) 中 會話, 談話, 物語; 語, 言説, 言論, 演説 *Sikṣ., Bodh-bh.*
kathita 2. (過受分) 俗 [*<kvathita*]; 汎湧燒然 *Sikṣ. 75.*
kathi-Kṛ, 單なる物語となす.
kathi-kṛta 形 單なる物語となれる, 死せる.
kathodaya (°thā-ud°) 男 物語の初; 陳述.
kathodghāta (°thā-ud°) 男 物語の初.
kathya (未受分) 語らるべき; 記述せらるべき.
kathyāyitta 男 使卒 [*Tib. pho-ñā raii-rtā*] *Mvyut.*

kad, [因 *ka* の 中 物 業 單] 何か = ……にてありたきも; [因 と 俱に] ……に非ざるを望むも [特に *cid* と 俱に (*kac-cid*)]; [*cana* 及び 因 と 俱に] 決して…
 ……あらず; °— 悪しき, 不幸なる, 下賤なる, 重要ならざる.
kad-agni 男 小き火.
kadana 中 殺戮, 破壊; 苛責.
kadana-priya 形 殺戮を好む.
kad-anna 中 悪しき食物又は食物なきこと.
kad-annatā 女 悪しき食物なること.
kad-apatya 中 悪しき子孫又は子等.
kadamba 男 [橙色の花ある樹の名, 學名 *Nauclea Cadamba*]; 波曇(?), 迦曇, 歌曇婆, 柯曇婆, 劫丹婆, 迦曇(花樹) *Divy., Mvyut.* 中 *Kadamba* 樹の花; 多數, 十分; 群集, 部隊; 迦曇花, 柯曇婆花, 迦曇聞花 *Divy., Mvyut.*; 軀, 積集 *Lank.*
kadambaka 男 中 [同上]; 集, 聚, 聚集, 集聚 *Lank.*
kadamba-gola 男 *Kadamba* の花.
kadamba-druma 男 *Kadamba* 樹.
kadamba-puṣpa 中 (香 葉) 伽丹波(伽)花 *Mvyut.*
kadamba-yaṣṭi 女 *Kadamba* 樹の莖.
kadambānila 男 *Kadamba* の香を含む風; 雨期.
kad-ārtha 形 如何なる目的の爲の. 男 無用の物.
kad-arthana 中 苛責, 困窮.
kad-arthana 女 [同上]; 難求事, 最難求欲 *Abh-vy.*
kadarthaniya (未受分) 苛責せらるべき, 痛苦を與へらるゝ.
kadarthaya (名 動 他) **kadarthayati** 無用の物なりと考ふ, 輕蔑す; 悩ます, 悲しましむ, 凌駕す.
kadarthi-Kṛ, 無視す, 輕蔑す.
kadarthi-kṛti 女 輕蔑; 苦痛, 苛責.
kadarthyamāna (現分) 輕視せらるゝ, 哀れげなる.
kad-arya 形 貪欲なる, 吝嗇なる; 悋 *Mvyut.*
kad-aryatā 女 [同上(形)].
kadarya-bhāva 男 貪欲.
kadala 男 [芭蕉の一種, 學名 *Musa Sapientum* (その軟かく腐敗し易き幹は脆弱の表徴)].
kadalikā 女 [同上]; 旗(特に象の上の).
kadali 女 = *Kadala*; [鹿の一種]; 芭蕉, 芭蕉樹 *Lal-v., Saddh-p., Lank., Bodh-c., Sikṣ., Mvyut.*; 佉多喇(葉) *Divy.*
kadali-kanda 男 *Kadala* の根.
kadali-garbha 男 *Kadali* の髓.
kadali-garbhā 女 [人名].
kadali-grha 中 *Kadali* にて造れる亭.
kadali-vana 中 *Kadali* の林.
kadali-vanāya (名 動) *Kadali* の林に似る.
kadali-sukham 副 *Kadali* の如く安樂に.
kadali-skandha 男 [幻影の一形態]; 芭蕉 *Mvyut.*
kadaliskandha-niṣāra 形 不實似芭蕉 *Saddh-p.*
kad-aśva 男 惡馬.
kadā 何時(か); 何時か, 或る日; 如何に; 幾

時 *Mvyut.*
 ～ **cana**, 何時か, 曾て.
 ～ **cid**, 何時か; 嘗て一度; 時々; 多分; 〔變〕 有時, 或, 或時, 暫, 或暫 *Abh-vy., Bodh-bh.*: ～ **cit** *karhi-cit* 或時時間, 於時時間 *Bodh-bh. 403.*
 ～ **api**, 何時も, 常に.
 ～ **tu** 〔變〕 幾時 *Mvyut.*
na ～, 決して……なし.
na ～ **cana (cid, api)**, 決して……なし.
 ～ **nu khalu**, 何時頃.
kad-āhāra 〔變〕 悪しき食物. 〔形〕 悪しき食物を攝る.
kad-indriya 〔變〕 悪しき感覺器官. 〔形〕 悪しき感覺器官を有する.
kadindriya-gaṇa 〔變〕 〔同上〕.
kad-uṣtra 〔變〕 悪しき駱駝.
kad-uṣṇa 〔變〕 微温の; 不熱心なる.
kad-ratha 〔變〕 悪しき車.
kadru 〔變〕 赤褐色の. 〔女〕 褐色の Soma 器.
kadrū 〔變〕 地; [*Kaśyapa* の妻にして諸 *Nāga* の母の名].
kadvat 〔變〕 **ka** なる語を含む.
kad-vada 〔變〕 不明瞭又は不正確に語る, 言ひ方悪しき.
Kan, I. 〔變〕 **kanati**. 満足せしめらる; (業)にて喜ばさる; 同意す, 満足して受く; 輝く; 自 (具, 圖, 因)にて満足す, ……を好む或は楽しむ; (爲, 圖)を求む或は希望す.
kanaka 〔變〕 黄金; 〔變〕 金, 眞金, 金塊, 沙金, 赤金; 金色 *Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Madhy-vibh., Mvyut.*; 閩浮檀金 *Lan̄k.* 〔男〕 朝鮮朝顔 [學名 *Mesua Ferrea*]; [人名]; [煎薬の一種].
kanaka-kadali 〔變〕 *Kadali* (の一種).
kanaka-kalaśa 〔變〕 [人名].
kanaka-gaura 〔變〕 蕃紅花.
kanaka-daṇḍa 〔變〕 王の傘.
kanaka-daṇḍikā 〔變〕 金の鞘.
kanaka-datta 〔變〕 [人名].
kanaka-parvata 〔變〕 *Meru* 山.
kanaka-pura 〔變〕 [諸都城の名].
kanaka-puri 〔變〕 [同上].
kanaka-prabhā 〔變〕 [王女の名].
kanaka-maṅjari 〔變〕 [人名].
kanakamaya 〔變〕 (女-i) 黄金の, 黄金製の; 黄金色の.
kanaka-muni 〔變〕 [佛の名] 金寂, 金仙, 金仙人 *Mañj-m., Mvyut.*, 支應; 〔變〕 拘那含牟尼, 羯諾迦牟尼, 俱那含牟尼 *Lal-v., Lan̄k., Mvyut.*, 支應.
kanaka-rasa 〔變〕 液状の金; 金の流れ.
kanaka-rekhā 〔變〕 [人名].
kanaka-latā 〔變〕 [(黄金色の蔓草), 植物の一種].
kanaka-latikā 〔變〕 [同上].
kanaka-lekhā 〔變〕 [王女の名].
kanakavati 〔變〕 [町の名]; [人名].
kanaka-varṇa 〔變〕 金色, 眞金色 *Rāṣṭr., Sikṣ.* 〔男〕 〔變〕 [王の名] 金色 *Divy.*
kanaka-varman 〔變〕 [或る商人の名].
kanaka-varṣa 〔變〕 [王の名].

kanaka-valaya 〔變〕 黄金の腕環.
kanaka-vāhini 〔變〕 [河の名].
kanaka-śakti 〔變〕 [*Kārttikeya* の名].
kanaka-śikhariṇ 〔變〕 金の峰を有するもの [特に *Meru* 山の名].
kanaka-sūtra 〔變〕 金の鎖.
kanaka-sena 〔變〕 [王の名].
kanaka-hariṇa 〔變〕 金色の羚羊 [その姿を以て *Mārica* が *Rāma* を其の隠遁處より連れ來りたる].
kanakahariṇa-cchadma-vidhi 〔變〕 金色の羚羊に化する變装の法.
kanakā 〔變〕 金色 *Lan̄k.*
kanakākara (°ka-āk°) 〔變〕 金礦, 金を含む土.
kanakākṣa 〔變〕 [*Skanda* の從者の名].
kanakāṅgada 〔變〕 黄金の腕飾.
kanakādri 〔變〕 [*Meru* 山の名].
kanakāpīḍa (°ka-āp°) 〔變〕 [*Skanda* の從者の名].
kanakābja 〔變〕 黄金の蓮.
kanakābha (°ka-ābha) 〔變〕 金に似たる; 〔變〕 色如眞金 *Mañj-m.*
kanakāmalābha (°la-ābha) 〔變〕 金光淨無垢, 猶如眞金 *Suv-pr.*
kanakāya(s) 〔變〕 = *karakāyu*.
kanakāvati 〔變〕 [*Skanda* の從者の母の名]; 〔變〕 [城の名] 饒金城 *Divy.*
kanakāvali (°ka-āv°) 〔變〕 金の鎖.
kanakāsana (°ka-ās°) 〔變〕 王座.
kanakojjvalāṅga (°ka-uj°) 〔變〕 光明晃耀紫金身 *Suv-pr.*
kanakojjvali (°ka-uj°) 〔變〕 黄金に輝く.
kana-khala 〔變〕 [聖地の名]; 〔變〕 [或る山々の名].
kana-deva 〔變〕 [佛教の或る長老の名].
kanapa 〔變〕 = *kaṇapa*; [人名].
kanaya 〔變〕 〔變〕 **kanayati** 減少せしむ, 消す.
kanā 〔變〕 少女, 娘.
kanikrad 〔變〕 〔變〕 → *Krand*.
kanikradat, [*Krand* の 〔變〕 現分 〔變〕 男 〔變〕 單]. → *Krand*.
kanikradyamāna 〔變〕 〔變〕 現分 → *Krand*.
kaniṣka 〔變〕 [印度塞種族の王の名]; 〔變〕 〔變〕 迦賦色迦, 葛尼葛 *Mvyut.*
kaniṣkan, [*Skand* の 〔變〕 〔變〕 單].
kaniṣṭha 〔變〕 〔變〕 最小なる; 最も低き; 最も少き; 最も若き; 更に若き. 〔變〕 降下する方の釣瓶.
kaniṣṭhaka 〔變〕 (女-ikā) 最小なる.
kaniṣṭha-tāta 〔變〕 父の弟.
kaniṣṭha-bhrātr 〔變〕 〔變〕 弟, 季弟 *Mvyut.*, 支應.
kaniṣṭhā 〔變〕 最も若き妻; 小指.
kaniṣṭhikā 〔變〕 小指; 服従; 〔變〕 小指, 拳 *Mvyut.*
kani 〔變〕 小女 [因は 〔變〕 〔變〕 のみ].
kanina 〔變〕 若き, 年少なる.
kaninaka 〔變〕 男兒, 青年; 瞳孔.
kaninakā 〔變〕 少女, 處女; 瞳孔.
kaninikā 〔變〕 瞳孔; 小指; 〔變〕 小指 *Mvyut.*
kaniyas 〔變〕 〔變〕 より小なる, より少き; 甚だ小なる; より若き; 〔變〕 小, 季 *Mvyut.* 〔變〕 弟又は次子等.

kaniyasa 形 より若き; より少き, より小さき.
kaniyasa-bhrāṭṛ 男 〔漢〕 弟 *Saddh-p.*
kaniyo-bhagini 女 〔漢〕 妹 梵千.
kaniyo-bhrāṭṛ 男 〔漢〕 弟 梵千.
kanta 形 幸福なる.
kantārika 男 〔漢〕 掛衣繩 *Mvyut.*
kantu 形 幸福なる. 男 愛; 愛の神; 心.
kantva 中 幸福, 安寧.
kanthaka 男 [人名]; 〔漢〕 〔音〕 [=kanṭhaka] 建多歌, 健陟 *Mvyut.*
kanthā 女 補綴せる衣, 襪襪布; 〔漢〕 衲衣 *Saddh-p.*
kanthā-dhārin 男 (襪襪を纏へる者), *Yogin*, 宗教的の乞食者.
kanda 男 球根; 〔漢〕 根 *Mvyut.*
kanda-ja 形 球根より生ずる.
kandara 中 洞穴; 峽谷; 象を驅るに用ふる突棒; 〔漢〕 澤, 谷, 險谷 *Saddh-p., Rāṣṭr.* → *giri*~, *parvata*~.
kandaraka 中 〔漢〕 林, 山林 *Sikṣ.*
kandarpa 男 *Kāma* 神; 愛.
kandala 中 *Kadala* の花.
kandalaya 名動 他 **kandalayati** 豊富に持ち來す或は生ず.
kandalita 〔過受分〕 豊富に生じたる.
kandalin 形 *Kandalī* の花にて覆はれたる; (一)に充ちたる.
kandalī 女 =*kadala*.
kandalī-cchinna 形 〔漢〕 負債者 *Mvyut.*
kandu 男 揚げ鍋; 〔漢〕 囊 *Mvyut.*
kanduka 男 揚げ鍋; (遊戲用の)球; 枕.
kanduka-gṛha 中 料理場.
kanduka-lilā 女 球戲.
kandukāvati 女 [王女の名].
kandukotsava (°*ka-ut*°) 男 球戲を伴ふ祝祭.
kandu-gṛha 中 料理場.
kandoṭṭa, (**kandoṭṭa**) 男 [植物の名, 學名 *Nymphaea Esculenta*]; 青き蓮花.
kan-dhara 男 頸.
kanya 形 最小なる.
kanyaka 形 [同上].
kanyakā 女 =*kanyā*; 〔漢〕 女 *Lal-v.*
kanya-kubja 中 [町の名, 現今の *Kanauj*].
kanyasa 形 最も小さき; 若き; 〔漢〕 下 *Mañj-m.*
kanyā 女 少女, 處女; 娘; 處女宮 [天文の十二宮の一]; 〔漢〕 女, 處女, 童女, 婢 *Divy., Saddh-p., Mañj-m., Mvyut.*
kanyā-kūpa 男 [聖地の名].
kanyā-garbha 男 未婚女の子.
kanyāgāra (°*yā-āg*°) 中 婦人の部屋.
kanyā-gṛha 中 [同上].
kanyā-tirtha 中 [聖地の名].
kanyātva 中 處女たること.
kanyā-dāṭṛ 男 娘を嫁として與ふる人(父).
kanyā-dāna 中 娘を嫁として與ふること.
kanyā-dūṣaka 男 處女を犯す者.
kanyā-dūṣayitṛ 男 [同上].

kanyā-dūṣin 男 [同上]. 形 處女を汚す.
kanyā-dhana 中 持參金又は娘の財産.
kanyā-pura 中 婦人の部屋.
kanyā-pradāna 中 =*kanyā-dāna*.
kanyā-bhāva 男 處女たること, 少女たること.
kanyā-bhaikṣa 中 娘を乞ふこと.
kanyāmaya 形 (財産等として)處女又は娘より成れる.
kanyārthin (°*yā-ar*°) 形 娘を欲する.
kanyāvat 形 娘を有する. 男 娘の父.
kanyā-viṣṭa 男 娘を漁る浮氣男.
kanyā-vedin 男 女婿.
kanyā-vrata 中 月經.
kanyāvratā-sthā 女 月經中の婦人.
kanyāśrama (°*yā-aś*°) 男 [或る隱遁處の名].
kanyā-samudbhava 形 未婚女より生まれたる.
kanyā-haraṇa 中 處女を掠奪すること.
kaṇa 男 複 [一群の神々の名].
kaṇaṭa 男 中 詐, 詐欺; °— 虚構の; 〔漢〕 假, 詐 *Divy., Bodh-bh.*
kaṇaṭa-kāṇaṭikā 女 詐欺.
kaṇaṭa-tāpasa 男 偽の苦行者.
kaṇaṭa-nāṭaka 男 [人名].
kaṇaṭa-paṭu 形 奸策に長けたる, 欺瞞家の.
kaṇaṭa-prabandha 男 狡猾なる方策, 詭計, 陰謀; 詐欺.
kaṇaṭa-śatamaya 形 百種の詐より成る.
kaṇaṭeśvara (°*ṭa-iś*°) 男 [*Siva* 神の祠の名].
kaṇarda 男 寶貝 [貨幣又は骰子として用ゐられたる貝殻]; (貝殻形の)結髪; 〔漢〕 貝錢 梵雜.
kaṇardaka 男 [同上]; 〔漢〕 貝 *Mvyut.*; 〔音〕 海巴 *Mvyut.*
kaṇardikā 女 [同上]; 〔漢〕 貝子 *Mvyut.*; 〔音〕 海巴 *Mvyut.*
kaṇardin 形 (貝殻形に)髪を捲ける; 縮毛の, 捲毛ある. 男 [*Siva* 神の稱]; [十一 *Rudra* の一の名]; [或る *Yakṣa* の名].
kaṇala 中 半分; 部分.
kaṇaṭa 男 中 扉, 門扉; 門; 〔漢〕 門; 扉, 戸, 門戸; 關鍵, 關鑰, 管鑰 *Lal-v., Buddh-c., Bodh-c., Abh-vy.* → *suyantrita*.
kaṇaṭaka 男 [同上].
kaṇaṭa-toraṇavat 形 扉ある弓形に飾られたる門を有する(町).
kaṇaṭa-puta 中 〔漢〕 門框木.
kaṇaṭa-vakṣas 形 扉の如き胸を有する, 廣き胸を有する; 胸を張れる.
kaṇaṭikā 女 =*kaṇaṭa*.
kaṇaṭita 形 閉鎖せられたる.
kaṇaṭikā(?) 女 〔漢〕 管鑰 *Mvyut.* [→ *kaṣāyikā*].
kaṇāla 中 皿, 瓶, (托鉢用の)鉢; 器; 蓋; 陶器の破片; 卵の殻; 頭蓋骨; 〔漢〕 瓦, 磚瓦; 骨; 頭, 髑髏, 髑髏器 *Buddh-c., Mañj-m., Sikṣ., Nyāy-pr., Bodh-bh., 梵雜*; 破 *Lank.*; 〔音〕 葛波羅, 葛婆羅 *Guhy-s.*
kaṇāla 男 皿, 鉢, (托鉢用の)鉢. 形 鉢の如き形の.

kapāla-kaṅṭha-mālā ㊦ (紐に通したる)頭蓋骨の首飾。
kapāla-khaḍgin ㊦ 髑髏を劍として持てる。
kapāla-caṣaka ㊦ 髑髏の器。
kapāla-pāṇitva ㊦ (Siva 神の如く)髑髏を手に持つこと。
kapāla-mālin ㊦ 髑髏の首飾を著けたる (Siva 神)。
kapāla-mocana ㊦ [聖地の名]。
kapālavat ㊦ 髑髏を有する。
kapāla-śiras ㊦ [Siva 神の稱]。㊦ 喉頭。
kapāla-sandhi ㊦ 同等の條件に基く約定。
kapāla-samputa ㊦ 頭蓋骨の窩, 髑髏。
kapālasamputa-mita ㊦ 頭蓋骨の形に作られたる。
kapāla-sphoṭa ㊦ [(頭蓋骨を破碎する者), 或る Rākṣasa の名]。
kapāla-hasta ㊦ 手に髑髏を持てる。(Buddh-c.)
kapālāvali (°la-āv°) ㊦ 頭蓋骨の連繫。
kapālikā ㊦ 陶磁器の破片; 齒石。
kapālin ㊦ 鉢或は頭蓋骨を持てる; ㊦ [轉輪王の名] 具髑 *Mvyut.* ㊦ [Siva 神の稱]; [十一 Rudra の一の名]; 門徒(の一種)。
kapāli ㊦ 托鉢用の鉢。
kapi ㊦ 猿; ㊦ 猴, 猿猴, 獼猴, 獼猴 *Rāṣṭr., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*
kapi-ketana ㊦ [Arjuna の名]。
kapi-ketu ㊦ [同上]。
kapiñjala ㊦ [鷓鴣(註)の一種]; [人名]; [或る *Vidyādhara* の名]; [或る雀の名]; ㊦ 雉 *Rāṣṭr., Mvyut.*
kapiñjala-nyāya ㊦ ㊦ (*Pūrva-mīmāṃsā* 學派に於ける) *Kapiñjala* の(論の)様式に隨て [之によれば複數形なる *kapiñjalān* (VS. XXIV, 20) は單に三を意味するのみなり]。
kapiñjalāda ㊦ [人名]; ㊦ [Vasiṣṭha の子の名] 迦賓闍羅 *Buddh-c.*
kapi-ttha ㊦ (猿の住せる), [樹の名, 學名 *Feronia Elephantum*]; ㊦ ㊦ 劫彼陀 *Mvyut.* ㊦ *Kapittha* 樹の果實; ㊦ (㊦) 劫畢他果 *Divy.;* ㊦ 劫畢他 *Divy.*
kapi-tthaka ㊦ ㊦ [同上]; ㊦ ㊦ 迦掉多羅 ㊦。
kapi-dhvaja ㊦ [Arjuna の名]。
kapi-pati ㊦ [*Hanumat* の名]。
kapi-bhakṣa ㊦ [或る糖分を含む物質の名]。
kapila ㊦ (猿猴色の), 褐色の, 帶赤色の; 赤毛の; ㊦ 赤色, 黃白, 黃赤色 *Mañj-m., Mvyut.,* ㊦。㊦ 猿(の一種); 赤褐色; [古聖仙の名]; [人名]; (㊦) [民族の名]; ㊦ [人名] [地名] 迦毘羅, 迦比羅, 劫比羅 *Buddh-c., Lal-v., Laṅk.,* ㊦。
kapila-keśa ㊦ ㊦ 髮黃 *Mvyut.*
kapila-jaṭa ㊦ [或る Muni の名]。
kapila-dhūsara ㊦ 褐色を帯びたる灰色の。
kapila-bhadra ㊦ [人名]。
kapila-maharṣi (°hā-ṛ i) ㊦ ㊦ 黃白大仙 *Mvyut.*
kapilarṣi (°la-ṛṣi) ㊦ *Kapila* 仙。
kapila-loha ㊦ [真鍮の一種]。
kapila-vastu ㊦ [佛陀の生國の名]; ㊦ 蒼色, 黃色所, 蒼色住處 *Divy., Mvyut.,* ㊦; ㊦ 劫比羅

(城), 迦毗羅(城), 迦維羅衛, 迦毘羅旃兜, 迦比羅旃兜, 迦毗羅跋兜, 迦比羅婆修斗, 迦毘羅旃兜, 劫比羅旃兜 *Divy., Saddh-p., Mvyut.,* ㊦, ㊦。

kapilavastu-nagara ㊦ *Kapilavastu* の都城; ㊦ 黃赤色處城 *Mvyut.*

kapila-śarman ㊦ [或る婆羅門の名]。

kapilā ㊦ 褐色又は赤味を帯びたる牝牛; 水蛭(の一種); [或る *Kimnara* の少女の名] (*Kār-vy.*)

kapilā-tirtha ㊦ [聖地の名]。

kapilāya ㊦ ㊦ **kapilāyate** 赤褐色となる。

kapilāśva ㊦ [*Indra* 神の稱]; [人名]。

kapilā-hrada ㊦ [聖地の名]。

kapilāhvaya (°la-āh°) ㊦ [土 *pura*] *Kapila-vastu* の町 (*Buddh-c.*)

kapili-Kṛ, 褐色又は赤色に染む。

kapiśa ㊦ (猿猴色の), 褐色の, 帶赤色の。

kapiśa-bhrū ㊦ [人名]。

kapiśaya ㊦ ㊦ **kapiśayati** 赤色又は褐色となす。

kapiśavadāna ㊦ [佛教の或る *Avadāna* の題名]。

kapiśita ㊦ 褐色の, 赤色又は褐色にせられたる。

kapi-ṣṭhala ㊦ [聖仙の名]; ㊦ *Kapiṣṭhala* の子孫。

kapiṣṭhala-kaṭha-samhitā ㊦ [黒 *Yajur-veda* の *Samhitā* の一]。

kapi-ṣṭhala ㊦ 猿の住處。

kapitana ㊦ [種々の植物の名]。

kapindra ㊦ 猿の王; [*Viṣṇu* 神の稱]; [*Hanumat* の名]; [*Sugrīva* の名]。

kapivat ㊦ [聖仙の名]。

kapiśvara (°pi-iś°) ㊦ [*Sugrīva* の名]。

kapucchala ㊦ 後頭部の髪(の)總(?); (供儀に用ふる杓の)尖端の皿狀部。

ka-pūya ㊦ 惡臭を發する。

kaprṭh ㊦ 男根。

kaprṭha ㊦ [同上]; [*Indra* 神の稱]。

kapota ㊦ 鳩, 特に首に斑點ある鳩; ㊦ 鳩, 白鳩, 鷓鴣 *Rāṣṭr., Laṅk., Sikṣ., Mvyut.,* ㊦; ㊦ 迦通 ㊦。

kapotaka ㊦ 小鳩; [印契の一種]; ㊦ 合掌, 下心 合掌 *Abh-vy. 375.* ㊦ 鳩色の, 灰色の。

kapota-karbura ㊦ 鳩の如き斑點ある。

kapota-carāṇā ㊦ [香料の一種]。

kapota-pāka ㊦ 鳩の糞; ㊦ [山住民族の名]。

kapota-pāli ㊦ 鳩舎。

kapota-peṭaka ㊦ 鳩の巢糞。

kapota-mālā ㊦ ㊦ 臺基, 基階(?) [有部毘奈那雜事第十四] *Mvyut.*

kapota-mālini ㊦ ㊦ [濕生人の名] 鳩 *Abh-vy.;* ㊦ 迦富多摩梨尼(夫人) *Abh-vy. 265.*

kapota-roman ㊦ [王の名]。

kapota-vaṅkā ㊦ [或る藥用植物の名]。

kapota-varṇa ㊦ 鳩色の, 灰色の。

kapota-hastaka ㊦ 嘆願の手付き(身振)。

kapotābha (°ta-ābha) ㊦ 鳩色の, 灰色の。

kapotikā ㊦ 牝鳩。

kapotikā-nyāya ㊦ (敵にさへ善くしたる)鳩の理。

kapoti ㊦ 牝鳩; ㊦ 鳩 *Sūtr.*

kapola 男 頰; 頰; 頰, 腮, 頰頰 *Divy., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*: kare ~m dattvā 以手支頰, 以手掌 [撐] 頰 *Divy. 26, 48.*

kapola-kāṣa 男 頰を擦りつくるもの.

kapola-pattra 甲 頰に印されたる標.

kapola-pāli 女 頰の端.

kapola-phalaka 甲 頰骨.

kapola-bhitti 女 [同上].

kapola-mūla 甲 [同上].

kapphiṇa 男 [音寫] [王の名] 劫比拏, 劫賓那, 罽賓寧(王) *Av-ś., Abh-vy., 支應.*; [佛弟子の名] 劫賓那, 劫賓寗 *Saddh-p.*

kapyāri 男 僕, 奴婢 *Mvyut.*

kapy-āsa 甲 猿の尻(?); [蓮の名](?).

kapha 男 痰 [肉體の三種の液體の一]; 膈; 唾, 痰癢, 涎唾 *Lai-v., Suv-pr., Śikṣ.*

kapha-gaṇḍa 男 [咽喉の病の一種].

kapha-ghna 形 痰を驅除する, 痰に對して効果ある.

kapha-ja 形 痰より生ずる或は起れる.

kaphala 形 痰ある.

kaphalikā 女 鍋 *Mvyut.*

kapha-sambhava 形 痰より起れる.

kapha-hara 形 痰を驅除する, 痰に對して効果ある.

kapha-hṛt 形 [同上].

kaphātmaka (°pha-āt°) 形 痰ある.

kaphādhikāra 男 痰癢動 *Suv-pr.*: ~ās ca bhavanti grīṣme 春中痰癢動 *Suv-pr. 164.*

kaphiṇa 男 [佛弟子の名] = Kapphiṇa; [音寫] 劫賓那 *Lal-v.*

ka-bandha 男 甲 → kavandha. 無頭 *Buddh-c. 110.*

ka-bandhin 男 [*Kātyāyana* の名]; [(大なる水器又は雲を有する), *Marut* 神の稱].

kabara 形 斑らの, 雑色の. 男 辮髮.

kabari 女 [同上男].

kam 1. (不變辭) (業) よく, 十分に, 正しく [先行する] の意味を強む.

kam 2. (不變辭) 實に [na, sa, mī の後に].

Kam, [現の幹なし] 望む, 願ふ, 欲す; 愛す; 私通 *Buddh-c.* [通受分] **kānta**. [使役自] (他) **kām-ayate** [終語] は又た -ti [= 單純動詞]; 愛せしむ. [使役] [通受分] **kāmita** 願はれたる.

anu- [使役] **anukāmaya-** 願ふ, 望む.

abhi- [使役] **abhikāmaya-** 愛す.

kamaṭha 男 龜.

kamaṇḍalu 男 水器; 水瓶, 修行者の水瓶; [動物の一種]; 水器, 淨瓶, 澡罐 *Divy., Av-ś., Mañj-m.*

kamaṇḍalu-pāṇi 形 水瓶を手にする.

kamaṇḍalūdaka 甲 修行者の水瓶の水.

kamana 形 (女 -i) 美しき, 望ましき, 心を奪はれたる; 愛らしき.

kamaniya [未受分] 願はるべき, 望まるべき; 愛らしき, 美しき, 心を惹く; 可愛 *Gaṇḍ-vy.*

kamala 男 甲 蓮, 蓮華 [*Nelumbium*, 早期には *utpala* と稱せらる]; 蓮, 青蓮, 青蓮華 *Rāṣṭr., Mañj-m., Mvyut.* 甲 水; [音寫] [數の名] 迦摩

羅, 伽麻藍, 迦摩羅 *Mvyut.* 形 淡紅色の, 薔薇色の.

kamalaka 甲 小蓮; [町の名].

kamala-khaṇḍa 甲 蓮の群.

kamala-garbha 男 [*Brahman* 神の稱].

kamala-ja 男 [同上].

kamala-devi 女 [王妃の名].

kamala-nayana 形 蓮華の如き眼の.

kamala-nābha 男 [(蓮を躋とせる), *Viṣṇu* 神の稱].

kamala-netra 甲 蓮華の如き眼. 形 蓮華の如き眼の.

kamala-patṛākṣa 形 蓮の花弁の如き眼の.

kamala-bāndhava 男 (蓮の友), 太陽(の稱).

kamala-bhava 男 [(蓮華より出でたる), *Brahman* 神の稱].

kamala-bhavana 男 [同上].

kamala-bhū 男 [同上].

kamala-mati 男 [人名].

kamalamaya 形 蓮華より成れる.

kamala-mukha 形 (女 -i) 蓮華の如き顔の.

kamala-yoni 男 [(蓮華より生れたる), *Brahman* 神の稱].

kamala-locana 形 蓮華の如き眼の.

kamala-locanā 女 [人名].

kamalavati 女 [王女の名].

kamala-vadana 形 蓮華の如き顔の.

kamala-vana 甲 蓮の花床.

kamala-vanamaya 形 蓮の花床より成れる, 蓮のみなる.

kamala-varḍhara 男 [王の名].

kamala-varman 男 [同上].

kamala-śila 男 [或る學者の名] (佛教).

kamala-sambhava 男 [(蓮華より出でたる), *Brahman* 神の稱].

kamalā 女 [*Lakṣmī* 女神の稱]; (富) 及 (富) 富, 財寶.

kamalākara (°la-āk°) 男 蓮の花床, 蓮池; [諸人の名]; 蓮華喩讚, 讚嘆 [*Dodhaka* 音律の異名(?)] *Suv-pr. 38.*

kamalā-keśava 男 [或る殿堂の名].

kamalākṣa 形 (女 -i) 蓮華の如き眼の.

kamalāgra-jā 女 [(*Lakṣmī* 女神より以前に生れたる), *Alakṣmī* (不幸の女神)の稱].

kamalāyatākṣa (°la-āy°) 形 大蓮花の眼を有する; 蓮花(葉)眼 *Divy.*

kamalālayā (°la-āl°) 女 [(蓮華の中に住する), *Lakṣmī* 女神の稱].

kamalāvati 女 [王妃の名].

kamalāsana (°la-ās°) 甲 蓮華の座; [坐法の一種]. 男 [(蓮華を座とする), *Brahman* 神の稱].

kamalā-haṭṭa 男 [或る市場の名].

kamalini 女 蓮; 蓮床, 蓮池.

kamalinikā 女 [指小] 小蓮床, 小蓮池.

kamalini-kānta 男 [(蓮の愛人), 太陽の稱].

kamalini-dala 甲 蓮の葉(囷).

kamalikā 女 小なる蓮華.

kamalekṣaṇa (°la-ik°) 形 蓮華の如き眼の.

kamalodaya (°la-ud°) 男 [人名].

kamalodbhava (°la-ud°) 男 [(蓮華より出でたる), *Brahman* 神の稱].

kam-i 文法 語根 Kam.

kamitr 形 貪欲なる, 望める. 男 牡; 夫.

Kamp, I. 自(他) **kampate(-ti)** 震へる; 振, 震, 震動, 動, 變動, 揺動, 纒動, 戦慄 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sūtr., Abh-vy., 梵千., 梵雜.* 受(現分) **kampyamāna** 動 *Lal-v.*

過受分(使役) **kampita** 震へたる, 動揺せる; 震はしめられたる, 動揺せしめられたる. 使役 **kamp-ayati(-te)** 震はしむ, 揺れしむ; 動, 能動, 振動, 震動, 動揺 *Saddh-p., Daś-bh., Bodh-bh.*

anu- (業, 於) に同情す; 哀愍, 憐愍 *Divy., Abh-vy.* 現分 **anukampamāna** 哀愍, 憐愍 *Abh-vy.* 使役 **anukampayati** = anu-Kamp.

praty-anu- 眷念憐愍 *Bodh-bh.*

sam-anu- (業, 於) に同情す.

ā- 震ふ. 使役 **ākampayati(-te)** 震はしむ. 過受分 **ākampita** 動揺せしめられたる, 震へたる, 震はしめられたる.

sam-ā- 震ふ (*Jāt-m.*).

ud- 震ふ. 使役 **utkampayati** (眼を)背く.

pra- 震ふ; 弛む; 震音を發す; 動, 振動, 震動, 揺動, 正動, 偏震, 極揺動 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Mañj-m., Śikṣ.* 現分 **prakampat** 震動 *Saddh-p.* 受(現分) **prakampyamāna** 震動 *Lal-v.* 使役 **prakampayati** 震はしむ; 動揺せしむ, 震盪す.

sam-pra- 震ふ; 極動, 遍揺動, 等偏震 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr.* 使役 **samprakampayati** 震はしむ.

vi- 震ふ, 戦く; 動 *Bodh-bh.* 使役 **vikampayati** 震はしむ; 揺動せしむ.

sam- 震ふ; 動, 震動 *Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.* 使役 **samkampayati** 震はしむ.

kampa 男 震動, 戦慄; 地震; 震音 (*svarita* アクセント); [病名] 瘧疾 *Mvyut.*

kampana 形 震ふ; 揺るゝ; 動揺する, 不安定なる. 男 [武器の一種]; [國の名]; [熱病の一種]. 中 振動, 波動; 地震; 震はすこと; 動, 振動 *Sukh-vy. I., Bodh-bh.* → a~.

kampaniya 未受分 揺らるべき, 可動の, 振動性の; 動, 所動 *Abh-vy.*

kampavat 形 震ふ.

kampita 過受分 震へたる等. → Kamp. 動, 退動 *Rāṣṭr., Mvyut.*: 十八種動 [1. *kampitaḥ* 動, 2. *prakampitaḥ* 極動, 3. *samprakampitaḥ* 等極動, 4. *calitaḥ* 震, 5. *pracalitaḥ* 極震, 6. *sampracalitaḥ* 等極震, 7. *vedhitaḥ* 涌, 8. *pravedhitaḥ* 極涌, 9. *sampravedhitaḥ* 等極涌, 10. *kṣubhitaḥ* 撃, 11. *prakṣubhitaḥ* 極撃, 12. *samprakṣubhitaḥ* 等極撃, 13. *raṇitaḥ* 爆, 14. *praraṇitaḥ* 極爆, 15. *sampraraṇitaḥ* 等極爆, 16. *garjitaḥ* 吼, 17. *pragarjitaḥ* 極吼, 18. *sampragarjitaḥ* 等極吼] *Mvyut.* 中 震動.

kampin 形 震ふ; —° 動揺する.

kampila 男 [人名, = *lavaṇa*]; 佛弟子の名] 緊鼻哩拏 [*kampilena?*] *Sukh-vy. I.*

kampottara (°pa-ut°) 形 烈しく震ふ.

kampya 未受分 [西(後頭) a- と俱に用ゐらる] 震動せらるべき, 移動せらるべき; 動, 可動, 傾動 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy.* → a~.

kambala 男 (中) 毛織物, 覆布又は上衣; (男) 露拂(牛の咽喉の); 褐, 褐子, 毛氈, 茸氈(?), 毯氈 *Lal-v., Śikṣ., Mvyut.*; 皮革 *Lal-v.*; 欽婆, 欽婆羅 *Laṅk.*; [龍王の名] 甘巴刺, 甘婆羅 *Mvyut.*

kambalaka 男 毛織物又は毛織の上衣.

kambalāśvatarau 男 龍(二龍王の名) 甘巴刺(與)啞湖答刺 *Mvyut.*

kambaliya 形 毛布に適せる.

kambaleśvara-grāma (°la-iś°) 男 [村の名].

kambu 男 貝殼; 貝殼の腕環.

kambuka 中 [町の名].

kambu-kaṅṭha 形 (女 -i) 貝殼の如き頸を有する (即ち三つの褶を有する).

kambu-griva 男 [同上 名]; [或る龜の名].

kambūka 男 米の殼.

kamboja 男 [民族の名].

kambhā-kṛta 形 俗 [< *skambhā-kṛta*, *Pāli. kham-bhā-kato*]; 叉腰 *Vin. 195.*

kamra 形 愛嬌ある, 美しき.

kayādhu 女 [*Hiranyakaśipu* の妻の名].

kayā-śubhiya 中 [*Rg-veda I. 165.* を稱す].

kara 1. 形 (女 -i, 稀に -ā) 行ふ, 爲す; 惹起する, 生ずる [一般に —°]; 發, 作, 能作, 所作, 生, 增長 *Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* → artha~ , *prabhā*~ . 男 爲すこと, 作ること; 手; (象の)鼻; 手 *Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Laṅk., Bodh-c., Bodh-bh.*; 鼻 *Prajñ-vy.*: *hasti*~ 象鼻 *Prajñ-vy. 577.*

kara 2. 男 光線; 義務; 税; (妙)光明 *Laṅk.*; 賦 *Divy.*

karaka 1. 男 水瓶; [樹の名]; 瓶, 大瓶 *Divy., Mvyut., 梵千., 梵雜.*

karaka 2. 形 成 (一°) *Abh-vy.*

kara-kaṭa 男 [= *karata*] 象の額額.

kara-kamala 中 蓮の如き手, 手.

kara-karṇa 男 [人名] (佛勢).

kara-karṇin 形 初當聽, 隨年聽事 *Mvyut.*

karakā 女 霰, 雹.

karakābhighāta (°kā-abh°) 男 雹に打たるゝこと, 雹害.

karakāyu 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名. → *kana-kāyu*].

karakiṇi 女 小淨瓶 *Mvyut.*

kara-kisalaya 中 若芽の如く美しき指又は手.

kara-kṛtātman (°ta-āt) 形 貧困の.

kara-grhīti 女 手を執る行爲; 貢物の受納.

kara-graha 男 手を執ること; 結婚式.

kara-grahaṇa 中 [同上].

kara-ghāṭa 男 [有毒なる樹の一種].

karaṅka 男 頭蓋骨; 髑髏, 枯骨 *Lal-v.*

kara-caraṇa-jāla 形 [三十二相の一] 手足縷網
Suv-pr.
kara-ja 男 爪の爪.
kara-japya 男 [人名].
karañja 男 [樹の名, 學名 *Pongamia (glabra)* 等].
karañjaka 男 [同上].
karaṣa 男 象の鬚鬚; 鳥.
karaṣaka 男 鳥(俗); [或る野干の名].
karaṣin 男 象.
karaṇa 形 (因 -i) (一) を作る, 生ずる, 爲す; 賢き, 熟練なる; 漢譯 作, 成, 令, 所化, 能成辦 *Lañk., Abh-vy., Bodh-bh.* → *vaṣi* ~. 男 助力者, 仲間; [或る混血種姓階級]; 調子; 語(因因). 甲 作爲, 行爲; 成就; 産出; 動作; 實行; 儀式; 職業; 感覺器官; 身體; 手段; (法律上の) 文書又は證據; 具格の概念(因因); 漢譯 作, 立; 事, 事業 *Lañk., Sāṃkhy-k., Bodh-bh., Abh-vy., 梵雜;* 根 *Sāṃkhy-k.;* 具, 作具, 内具, 作用具, 作法 *Sāṃkhy-k., Madhy-v.;* 時間 *Mvyut.* → *āmukhī* ~.
karaṇatā 女 具格たること(因因).
karaṇatva 甲 [同上].
karaṇa-prayoga 男 呪文.
karaṇa-rūpa 形 手段を形式として有する(因).
karaṇavat 形 音節ある.
karaṇa-vinyaya 男 發音の方法.
karaṇa-vaikalya 甲 漢譯 具不具 *Sāṃkhy-k.*
karaṇārha 形 漢譯 應作 *Abh-vy.*
karaṇi 男 筆生, 代書. 女 爲すこと, 作ること (→ *a* ~); 形態, 容貌.
karaṇiya 漢受分 爲さるべき, 作らるべき; 漢譯 作, 所作, 須作, 應, 應作, 所應作; 所爲; 應勤行; 勤修, 應修造; 所辨 *Divy., Śikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.* 甲 仕事, 職業; 漢譯 務, 事, 事業, 所作, 所作事 *Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜.* → *artha* ~.
karaṇiyatā 女 漢譯 應作 *Sūtr.*
karaṇḍa 甲 籠, (柳枝細工の) 小箱; 木片; 漢譯 篋, 函, 藏 *Divy., Mvyut.*
karaṇḍaka 甲 [同上]; 漢譯 器, 篋, 寶函; 小塔 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Mvyut.*
karaṇḍaka-nivāpa 男 [*Rājagrha* の附近の地名].
karaṇḍavat 副 籠の如く.
karaṇḍa-vyūha 男 [佛典の名].
karaṇḍikā 女 = *karaṇḍa*.
kara-tala 甲 手掌; 漢譯 掌, 手掌 *Lal-v., Śikṣ., Mvyut.*
karatala-gata 甲 手に握られたる; 所有せる; 漢譯 在掌中, 置掌中 *Śikṣ.*
karatala-stha 甲 掌中に保つ; 漢譯 在于手 *Suv-pr.*
kara-talā 女 小刀.
karatalāmalaka (°*la-ām*°) 甲 掌中の *Āmalaka* 果 [眼前に存在す 返めて明白なる事實の譬喩として用ふ].
karatalāmalakavat (°*la-ām*°) 形 漢譯 (音寫) 猶如 掌中阿摩勒果, 如觀掌中菴摩勒果 *Lañk.*
karatali-Kṛ, 掌中に取る.

kara-tāla 男 手を打ちて拍子を取ること.
kara-tālikā 女 拍手.
kara-toyā 女 [河の名].
kara-toyini 女 [同上].
kara-da 形 税を拂ふ, 貢物を捧ぐる; 附隨の.
karadī-Kṛ, 貢物をなす.
karadī-kṛta 形 貢物をなされたる.
kara-dhṛta 形 手に持たれたる.
kara-dhṛta-śara 形 手に矢を持てる.
kara-niveśita 形 貢物として納められたる.
karandaka-nivāpa 男 [= *karandaka*°]; 漢譯 (音寫) [池の名] 羯蘭鐸迦(池) *Divy.*
karaṃ-dhama 男 [二人の王子の名].
kara-nyāsa 男 手に或る神祕的の印を附すること.
kara-panya 甲 貢物として捧げらるゝ貨物.
kara-pattra 甲 鋸; 漢譯 鋸 梵雜.
kara-pattrikā 女 [同上].
kara-patrikā 女 [= *kara-pattrikā*]; 漢譯 鋸 *Divy.* 31.
kara-pallava 男 指.
kara-pāda-danta 男 手足及び齒.
kara-pāla 男 收税長官.
kara-puta 男 虚心合掌 (→ *añjali-puta*); 物を受くる爲に皿状にせる両手; 蓋ある箱; 漢譯 合掌 *Divy.*
karaputāñjali 男 = *añjali-puta*. 虚心合掌.
kara-puti 女 [同上].
kara-pratyāya 男 漢譯 税, 賦税, 貢物, 租庸 *Divy.*
kara-prada 形 貢税を拂ふ.
kara-prāpta 形 手に握られたる; 得られたる, 所有せられたる.
karaphu 男 漢譯 (音寫) [數の名] 迦羅頗, 迦囉普 *Lal-v., Mvyut.*
kara-baka 男 [鳥の一種].
kara-badara 甲 手中の棗の實(即ち全く明白なる事實).
kara-bāla, = *kara-vāḷa*.
karabha 男 象の鼻; 駱駝; 若き象又は駱駝; 手(手頸と指の根元との間); [*Dantavakra* 王の名]; 漢譯 駝, 駝駒 *Mvyut., 梵千;* (音寫) [數の名] 羯臘婆 *Mvyut.*
karabhaka 男 [或る使者の名]; [村の名].
karabha-grāma 男 [村の名].
karabha-griva 男 [*Vindhya* 山中の城塞の名].
kara-bhañjaka 男 國 [民族の名].
kara-bhājana 男 [或る婆羅門の名].
karabhiya 形 象に關する.
kara-bhūṣaṇa 甲 腕環.
karabhorū (°*bha-ūrū*°) 形 女 象の鼻の如き股を有する(女).
karama 男 = *kalama*, 筆 (*Kār-vy*).
kara-madhya 男 [重量の一單位 (= *karṣa*)].
kara-marda 男 [刺ある灌木の名, 學名 *Carissa (Carandas)*].
kara-mardaka 男 [同上]. 甲 *Karamarda* 樹の果實.
kara-mokṣa 男 (結婚式終了後父が花嫁たる娘の) 手を離すこと.

karamba 形 混合せる。
karambita 形 (因)と混合せる, ……と結合せる。
karambha 男 (湯又は牛乳等にて煮たる)粥。
karambhaka 甲 [同上]。男 [人名]。
karambha-pātra 甲 粥皿。
karambha-bhāga 形 自己の分として粥を受くる。
karambha-vālukā 女 罽 罽 熱砂の粥(或る地獄の苦痛)。
karambha-vālukā-tāpa 男 罽 (或る地獄に於ける)熱砂の粥にて與へらるゝ苦痛。
karambhād 形 粥を食ふ。
karambhi 男 [Sakuniの子にして Devarātaの父の名]。
kara-rudh 形 手(の一撃)を避くる; 光を遮る。
kara-ruha 男 指の爪。
kararuha-pada 甲 爪にて引掻くこと; 搔傷。
kara-vāla 男 劍; 灣劍, 九双劍 *Mvyut*。
karaviṅka 男 [=kalaviṅka, 鳥の名]; 迦陵頻伽 *Kāśy*。
kara-vira 甲 男 芳香ある夾竹桃 [學名 *Nerium Odorum*]; [Somaの一種]; [或る Nāgaの名]; [町の名]; [山の名]; 迦囉尾囉 *Guhy-s*。
kara-śuddhi 女 芳香ある花を以て手を淨むること。
karas 甲 行爲, 行動。
kara-saṃpuṭa 男 合掌 *Divy*。
kara-sāda 男 手の利かざること; 光の微弱となること。
kara-stha 形 掌中にある, 手に置かれたる。
kara-sthālin 男 [Siva神の稱]。
karasthi-Kṛ, 掌中に置く。
karasna 男 前膊, 前腕; 指の爪。
kara-sphoṭa 男 手を伸ばすこと; 光の擴がること。
kara-svana 男 拍手。
kara-hāṭa 男 [地方の名]。
kara-hāṭaka 男 [王子の名]。
karāgra 甲 指又は光線の尖端; 象鼻の尖端。
karāghāta (°ra-āgh°) 男 手にて打つこと。
karāṅguli 女 手指; 手指 *Rāṣṭr*。
karāyikā 女 鶴(の一種)。
karārpaṇa 甲 結婚。
karāla 形 顯著なる; 廣く開ける(目・口・傷口等); 口を開きて齒を出せる; 怖るべき; 利剛, 可畏 *Lal-v.*, *Sikṣ*。男 [地名]; [動物の名, 麝香鹿]。
karāla-kesara 男 [或る獅子の名]。
karālatā 女 張目或は開口の状態; 恐ろしきこと。
karāla-daṃṣṭra 形 恐るべき齒を有する。
karāla-mukha 形 怖ろしき顔を有する。
karālambda (°ra-āl°) 男 手による支持; 救助。
karāla-vaktra 形 怖ろしき口を有する。
karāla-vadana 形 開きたる或は怖ろしき口を有する。
karālā 女 [或る *Durgā*の名]; [人名]。
karālāya 名 動 自 **karālāyate** 怖ろしくなる。
karālita 過受分 怖ろしくなされたる, ……を恐るゝ, ……を警戒する; 増大せられたる。
karāhati (°ra-āh°) 女 手にて打つこと。
karika 男 象。

kari-karma 甲 象の操縦。
kari-kalabha 男 若き象。
kari-kalabhaka 男 [同上]。
karikā 女 搔傷。
kari-kumbha 男 象の前額の突起。
karikumbha-piṭha 甲 象の前頭骨。
kari-kṛtti 女 象の皮。
kariṇi 女 牝象; 母象, 乳牛 *Mvyut*。
karin 1. 男 象; 象, 大象; 龍象 *Buddh-c.*, *Abh-vy*。
karin 2. 形 爲す, 作る; 發 *Lal-v.* → *prabhā*。

kari-maṇḍita 甲 [樹の名]。
kariṣṇu 形 (一°)を爲す, 行ふ, 成就する。
kariṣyat 困 困 未來の。
kariṣyā(ḥ), [Kṛの 困 困 困 困, *R V. I. 165, 9*].
kari-Kṛ, 貢物として齎らす。
karira 男 甲 筍; 竹枝 *Mvyut*。男 [刺ある植物の一種, 學名 *Capparis Aphylla*]。甲 *Karira*の果實。
karira-kāra 男 陶器師。
kariṣa 甲 廢物, (乾)牛糞。
kariṣaka 男 困 [民族の名]。
kariṣam-kaṣa 男 清掃夫, 牛糞を運び去る人。
kariṣiṇi 女 [河の名]。
kariṣin 形 牛糞に富める。
karuṇa 形 悲しき, 哀れなる; 憐れむ, 慈悲深き; 悲, 可悲, 甚可悲; 悲念, 慈悲 *Divy.*, *Bodh-bh.*; [=karuṇā] 愍哀, 悲心 *Lal-v. 260*。 ~ *m* [同上]。 男 [植物の一種]。
karuṇa-karuṇam 困 悲哀 *Divy*。
karuṇatā 女 悲 *Bodh-bh*。
karuṇa-dhvanī 男 哀哭, 悲歎。
karuṇa-vacas 甲 慈悲語 *Suv-pr*。
karuṇa-veditā 女 惻隱の情, 同情, 憐み。
karuṇa-veditva 甲 [同上]。
karuṇa-vedin 形 憐み深き, 同情ある。
karuṇā 女 哀憐, 同情; 悲, 大悲, 悲心, 大悲心, 悲愍, 慈悲, 大慈大悲, 慈愍, (深心)悲愍, 哀, 哀愍 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Laṅk.*, *Mañj-m.*, *Sikṣ.*, *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvy-ut.*, 梵千.; 矜 梵千.: *mahā* ~ *abhiyukta* 大悲相應 *Sam-r. 3.*; *dvātrimśat tathāgatasya mahā* ~ *ḥ* 如來三十二大悲 [1. *nirātmanāḥ sarva-dharmāḥ sat-tvāś ca nairātmyam nādhimucyante. atas tathāgatasya sattveṣu mahā-karuṇotpadyate* 一切諸法皆無有我有情不信 [諸法]無我。是故如來爲彼有情而起大悲, 2. *niḥsattvāḥ sarva-dharmāḥ* 一切諸法無有情, 3. *nirjivāḥ sarva-dharmāḥ* 一切諸法無命者, 4. *nispudgalāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無補特伽羅, 5. *abhāvāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無所有, 6. *aniketāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無住, 7. *anālayāḥ sarva-dharmāḥ* 一切諸法無歸處, 8. *amamāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法非我所, 9. *asvāmikāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無所屬, 10. *avastukāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無實事物, 11. *ajātāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法無生, 12. *acyutā anutpannāḥ sarva-dharmāḥ* 一切法

無退生, 13. asamklišṭāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無染, 14. vigata-rāgāḥ sarva-dharmāḥ 一切法離貪, 15. vigata-dveṣāḥ sarva-dharmāḥ 一切法離瞋, 16. vigata-mohāḥ sarva-dharmāḥ 一切法離癡, 17. anāgatikāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無所從來, 18. agatikāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無所去, 19. anabhisaṃskārāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無作, 20. aprapañcāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無戲論, 21. sūnyāḥ sarva-dharmāḥ 一切法空, 22. animitāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無相, 23. apraṇihitāḥ sarva-dharmāḥ 一切法無願, 24. anyonya-vivāda-saṃgrhīto batāyaṃ loka-saṃniveśo vyāpāda-khila-dveṣa-pratipanna iti saṃpaśyan 安住世間互相諍論所攝行瞋恨憎惡觀見如是, 25. viparyāsa-saṃprayukto batāyaṃ loka-saṃniveśo viśama-mārga-prayāta utpatha-mārga-sthāyī 安住世間具足顛倒墜險惡路墮於非處, 26. lubdhā lobhābhibhūto batāyaṃ loka-saṃniveśo 'triptāḥ paravittāpahāri 安住世間戀著貪愛所蔽侵奪他財不知厭足, 27. dhana-dhānya-grha-putra-bhāryā-trṣṇā-dūsā bateme sattvā asāre sāra-saṃjñināḥ 此諸有情耽染財穀舍宅妻子而作奴僕於不堅之物而作堅想, 28. viśamājivā bateme sattvā anyonya-parivañcanopasthitāḥ 此諸有情邪命自活互行欺誑, 29. atṛptā bateme sattvā lābha-satkāra-slokopacaritās tṛptā sma iti pratijānate 此諸有情無厭足利養恭敬名稱所追隨而言我等已滿足, 30. nityābhiratā bateme sattvā ekānta-klišṭā duḥkha-bhājanā grhāvāse 此諸有情在於居家一向煩勞衆苦器中於一切時愛樂戀著, 31. kāraṇopagāḥ punaḥ sarva-dharmāḥ viṭhapana-pratyupasthāna-lakṣaṇāḥ 一切諸法由因而生長養近對相, 32. idaṃ punar agram asaṅga-jñānam utṣṛjya viśiṣṭa-parinirvāṇārtham sattvā hīna-yānam prārthayante yad idaṃ śrāvaka-pratyekabuddhāyānam tebhya udāra-matiṃ rocayisyāmīti yad idaṃ buddha-jñānādhyāmbanātāyāi iti tathāgatasya sattveṣu mahā-karuṇotpadyate 諸有情棄捨此最上無礙智殊勝涅槃。希求小乘所謂聲聞獨覺乘。爲彼令愛樂廣大慧所謂趣求佛智。如來於此諸有情而起大悲] *Mvyut.*

karuṇātmaka (°ṇa-āt°) 形 悲愍體, 具悲本性, 以悲爲性 *Saddh-p., Mvyut.*

karuṇātmān (°ṇa-āt°) 形 哀れなる, 同情を催さしむる。

karuṇādhiṣṭhita (°ṇa-adh°) 形 起悲愍心 *Sikṣ.*

karuṇā-puṇḍarika 中 [經名(悲華經, 大乘悲分陀利經)].

karuṇāmaya 形 慈悲深き。

karuṇāya 名動 他自 **karuṇāyati(-te)** 愍む, 同情す; 起悲心, 發起悲愍 *Bodh-bh.*

karuṇārambha (°ṇa-ār°) 形 悲痛事にたづさはる。

karuṇā-vihārin 形 安住悲, 常行悲 *Aṣṭ-pr.*

karuṇāśaya (°ṇa-āś°) 男 悲心, 悲意樂 *Bodh-bh.*

karuṇormi (°ṇa-ūr°) 男 激情の波。

karuṇyatā 女 悲愍心 *Sam-r.*

karuṣa 形 [=kaluṣa]; 濁, 濁亂 *Gaṇḍ-vy.*

karūkara 中 頸骨と脊椎との關節。

karūṣa 男 種 [或る民族及び其の國の名]; 國 [人名].

karūṣaka 男 [Manu Vaivasvata の子の名]. 中 [果實の一種].

karūṣa-ja 男 [Dantavakra の名].

kareṇu 男 象. 中 牝象; [植物の一種]; 母象, 乳牛 *Mvyut.*

kareṇuka 中 Kareṇu 樹の有毒なる果實。

kareṇukā 女 牝象。

kare-taia 男 [=kara-talu]; 手 *Lal-v.*

karoṭa 中 頭蓋骨. 男 鉢, 盤; 頭蓋; (覆)鉢 *Lal-v. 305.*

karoṭaka 男 [或る Nāga の名].

karoṭa-pāṇi 男 種 [天の名] 堅手, 持盆, 象跡(?) *Mañj-m., Mvyut.*; 天 [天の名] 堅手 *Abh-k., Mañj-m.*; 堅首(?) *Divy.*; 俱盧多波尼 *Abh-k.*

karoṭi 女 盤, 鉢; 頭蓋骨。

-karoṭika, 頭蓋骨, 頭。

karoti, [Kr の調(三入)調] (彼は)爲す。

karoti-karman 形 作ることを動作として有する即ち作ることを意味する(動詞)。

karka 形 (女-i) 白き. 男 白馬。

karkaṭa 男 蟹; (秤桿の)曲れる端; 蟹 *Mañj-m., 梵雜.*

karkaṭaka 男 蟹; (黃道十二宮の)巨蟹宮; [植物の一種]; 蟹 *Mañj-m.*; 梯陞(?) *Divy. 274.*

karkaṭaki 女 [同上].

karkaṭa-śṛṅga 中 蟹の角。

karkaṭākhyā (°ṭa-ākḥ°) 女 沒食子。

karkaṭāsthi 中 蟹の甲殼。

karkaṭikā 女 [植物の一種]; 花心, 胡瓜王 *Mvyut.*; 伽力伽只伽 *Mvyut.* → *indranila* ~.

karkaṭi 女 = karkaṭa; 酒杯, 小水瓶; [胡瓜の一種].

karkaṭeśa (°ṭa-īśa) 男 [或る殿堂の名].

karkandhu 男 女 棗の樹 [學名 *Zizyphus Jujuba*]; 羯建途 *Abh-vy.* 中 棗の實。

karkandhū 女 [同上]; [十日目の胎兒に與へらるゝ名稱].

karkara 形 堅き, 確乎たる. 男 革紐(?). 男 中 石, 石灰石。

karkarava 男 白色花 *Mvyut.*

karkari 女 琵琶(の一種)。

karkarika 男 [同上].

karkari 女 [同上]; 水甕。

karkarikā 女 小水瓶。

karkaru 男 [=karkāru?]; 白色花 *Mvyut.*

karkareṭu 男 鶴(の一種)。

karkaśa 形 荒き, 堅き, 過激の [譬喩にも用ふ]; 麤, 麤獷, 麤澁, 麤戾, 粗俗; 澁; 惡, 暴惡 *Divy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sikṣ., Mvyut.*

karkaśatva 中 堅牢: 粗暴, 苛酷; 粗, 澁 *Mvyut.*

karkasa 形 [=karkaśa]; 粗暴 *Lal-v. 28.*

karkā 女 白牝馬。

karkāru 男 [實ある植物の名, 學名 *Benincasa Cerifera*].

karkāruka 男 [同上].
karki 男 (黄道十二宮の)巨蟹宮
karkin 男 [同上].
karketa 男 玫瑰 *Aṣṭ-pr.*; 羯鷄都(寶) *Aṣṭ-pr.*
karketana 男 猫睛石(石英の一種). ④ 玫瑰, 水精, 猫睛 *Saddh-p., Mvyut.*
karketanaka 男 羯鷄世諾迦 女應.
karkoṭa 男 ④ [民族の名]. ④ [植物の一種].
karkoṭaka 男 [或る Nāga の名]; [植物の一種, 學名 *Momordica Lixta*]; ④ [民族の名]; ④ [龍王の名] 力行 *Mvyut.* ④ *Karkoṭaka* の果實.
karcari 女 [藥品の一種].
karcūra ④ 雄黃, 石黃.
karṇa 男 [-^o 形 (女 -ā 又は -i)] 耳; (器物の)柄; 舵; [諸人の名, 特に *Kuntī* の子の名]; 耳 *Lal-v., Mvyut.*, 梵千. 等.
 ~m **Gam** ④ 聞 *Divy.*
 ~m **ā-Gam**, 耳に入る, 知らる.
 ~m **Dā**, 耳を藉す, 聞く.
 ~e **ni-Pat** ④ 聞, 得耳聞, 入其耳中 *Sikṣ.*
 形 耳又は柄を有する; 長耳の.
karṇaka 男 (容器の)側面の突出, 卷鬚; 環, 圓帶; [熱病の一種]; [樹木の病氣の一種]; ④ 擡げられたる兩脚; ④ 角 *Rāstr.*
karṇa-kaṇḍū 女 (苦痛ある)耳の疥癬.
karṇa-kaṣāya 男 耳垢.
karṇa-kubja ④ [想像上の町の名].
karṇa-kuvalaya ④ (飾りとして)耳に著けたる蓮華.
karṇa-krośa 男 耳鳴り.
karṇa-kṣveḍa 男 [同上].
karṇa-gūtha 男 ④ 耳垢.
karṇa-gṛhita 形 耳を捉へられたる.
karṇa-gocara 男 聽覺の範圍.
karṇa-gocaratā 女 [同上 ④].
karṇa-grāhavat 形 舵手を有する.
karṇa-cāmara ④ (象の)耳を飾る塵拂.
karṇa-cūḍaka 男 ④ 耳璫 *Gaṇḍ-vy.*
karṇa-japa 男 密告者, 密かに人を誹謗する者.
karṇa-jāpa 男 耳に聳くこと; 告口, 密告, 密かに人を誹謗すること.
karṇa-jāha ④ 耳の根.
karṇa-jvara 男 耳痛.
karṇatas ④ 耳より, 耳の外に.
karṇatā 女 耳たること.
karṇa-tāla 男 (象が)耳をバタバタと打つこと.
karṇa-dārin 形 耳を裂く.
karṇa-dhāra 男 舵手, 水先案内; 水夫; ④ 舵師, 船師, 船主, 執蓬, 執風帆, 執風動 *Divy., Sikṣ., Mvyut.*
karṇa-dhāratā 女 舵手たること.
karṇa-dhārā 女 [或る *Apsaras* の名] (*Kār-vy.*).
karṇa-nāsā 女 ④ 兩耳と鼻.
karṇanāsā-ccheda 形 ④ 截耳鼻 *Gaṇḍ-vy.*
karṇa-nilotpala (^ola-ut^o) ④ 耳に著けたる青蓮華.
karṇa-pa 男 [人名].
karṇa-pattraka 男 耳朵, 外耳.

karṇa-pattra-bhaṅga 男 耳の裝飾.
karṇa-patha 男 聽き得らるゝ距離, 聽域. ~m **ā-Yā**, ~m **upa-I**, 耳に達す.
karṇapathātithi 男 耳に達したる事柄; 聞き知れる事柄.
karṇa-paramparā ④ 耳より耳に至ること, 噂.
karṇa-pāka 男 外耳の炎症.
karṇa-pāli ④ 耳朵, 外耳.
karṇa-pāśa 男 美しき耳.
karṇa-puta ④ (耳の)聽道; ④ 耳竅 *Suv-pr.:* ~e **sam-pra-Viś** 聞, 得聞 *Suv-pr. 5.*
karṇa-pūra 男 ④ 耳飾(珠に花の).
karṇa-pūraka 男 [或る 饒舌なる召使の名].
karṇapūri-Kṛ, 耳飾とす.
karṇa-pratināha 男 [耳の病の一種].
karṇa-prāvaraṇa 形 (女 -ā) 耳を以て身を蔽ふ; ④ 耳不孔者 *Mvyut.* 男 ④ [架空の民族の名].
karṇa-bhaṅga 男 耳の垂れること.
karṇa-bhūṣaṇa ④ 耳飾.
karṇa-mala ④ 耳垢; ④ 耳塞 *Mvyut.*
karṇa-mūla ④ 耳の根(頭部に附著する部分).
karṇa-yoni 形 耳邊より發する(即ち矢).
karṇa-randhra 男 ④ (耳の)聽道.
karṇa-roga 男 耳の病.
karṇa-vaṃśa 男 平に突出せる竹製の屋根.
karṇavat 形 耳を有する, 耳の長さ.
karṇa-viṭka ④ 耳垢
karṇa-vivara ④ (耳の)聽道.
karṇa-viṣ 女 耳垢.
karṇa-viṣa ④ 耳の毒; 惡言.
karṇa-viṣayi-kṛta 形 聞く對象となされたる, 知らしめられたる.
karṇa-veṣṭa 男 耳環.
karṇa-veṣṭana ④ [同上].
karṇa-vyadha 男 (耳環を著くる爲に)耳を貫くこと.
karṇa-śaṣkulikā 女 (耳の)聽道.
karṇa-śiriṣa ④ 耳に著けたる *Śiriṣa* 花.
karṇa-śūia ④ 耳痛; ④ 患耳病 *Mañj-m.*
karṇa-śūlin 形 耳痛ある.
karṇa-śobhana ④ 耳飾.
karṇa-śrava 形 聽き得べき, 聞ゆる.
karṇa-śravas 男 [人名].
karṇa-śrāvin 形 聞ゆる.
karṇa-samsrāva 男 耳だれ.
karṇa-sukha 形 ④ 悅耳, 悅耳快然 *Sikṣ., Mvyut.*
karṇa-subhaga 形 耳に快き.
karṇa-srotas ④ 耳の聽道, 耳腔; 耳垢.
karṇa-hallikā 女 [耳の病の一種].
karṇā-karṇi ④ 耳より耳に.
karṇāñjali 男 尖れる耳.
karṇāta 男 ④ [民族の名].
karṇāṭaka 男 ④ [民族の名及びその國の名].
karṇāṭi 女 *Karṇāta* の王妃.
karṇāntika-cara 形 耳の周圍を飛び廻る; 耳の近くに行く.
karṇābharāṇa (^oṇa-ābh^o) ④ 耳飾; ④ 耳璫 梵千.

karnāmṛta ㊦ 耳への甘露。
karnālamkaraṇa ㊦ 耳飾。
karnālamkāra ㊦ [同上]。
karnālamkṛti ㊦ [同上]。
karnāvatamsa ㊦ ㊦ (?) [同上]。
karnāvatamsi-Kṛ, 耳飾となす。
karnika ㊦ [矢の一種]; ㊦ 耳聾 *Mvyut.* ㊦ [熱病の一種]; ㊦ [民族の名]. ㊦ ㊦ 蓮華の苞; ㊦ 臺 *Gaṇḍ-vy.*: mahārha-jambūnada ~ 閻浮金爲臺, 閻浮檀金臺, 閻浮檀金以爲臺 *Gaṇḍ-vy.* 337. → *civara* ~.
karnikā ㊦ 耳飾; 蓮華の苞; 中心點, 中央; ㊦ 璫, 耳璫, 珥璫 *Divy., Lal-v., Sukh-vy. I.*; 花心, 臺 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*: ratna ~ 寶珠璫, 耳璫 寶珠 *Divy.* 26.
karni-kāra ㊦ [樹の一種, 學名 *Pterospermum acerifolium*]; ㊦ ㊦ 牙皂, 迦尼(華), 羯尼迦, 建尼迦(花), 迦哩尼(華), 迦尼迦囉(樹) *Divy., Lal-v., Buddh-c., Guhy-s., Mvyut.* ㊦ *Karnikāra* 樹の花又は果實]; 蓮華の苞。
karnikāra-puṣpa ㊦ ㊦ (㊦) 牙皂花 *Mvyut.*
karnin ㊦ 耳を有する, 耳に關する: 耳狀の突起ある; 鏃ある(飛道具); 羽ある(矢). ㊦ 舵手。
karni-ratha ㊦ 昇床(の一種)。
karni-sutā ㊦ [偷盜提要の著者の名]。
karnē-japa ㊦ 耳への囁き; 告知者。
karnotpala (°na-ut°) ㊦ 耳に著けたる蓮華. ㊦ [王の名]。
karnotpalatā (°na-ut°) ㊦ [同上(㊦)].
karnopakarnikā (°na-up°) ㊦ 耳より耳に傳はること, 噂話。
karnorṇa (°na-ūr°) ㊦ 耳に毛を有する獸。
karnya ㊦ 耳にある; 耳に快き。
karta 1. ㊦ 分離, 區別。
karta 2. ㊦ [= garta] 穴, 凹處。
kartana ㊦ 切斷; 消すこと; 消滅。
karta-patya ㊦ 穴に落つること。
kartari ㊦ 切斷具, 剪刀, 鋏, 小刀。
kartarikā ㊦ [同上]。
kartari ㊦ [同上]。
kartari-phala ㊦ 小刀の刃。
kartave, [㊦ *Kṛ* の ㊦ ㊦ ㊦]。
kartavya (未受分) 爲さるべき, 成就せらるべき等。→ *Kṛ.* ㊦ 用, 所爲 *Cat-s., Bodh-bh.* ㊦ 作業, 事務, 業務; 爲さるべきこと, 義務; ㊦ 所作, 作事 *Abh-vy.*
kartavyatā ㊦ [同上(未受分) ㊦]; 義務; 必須; 成就の可能性又は適性。
kartavyatva ㊦ [同上]。
kartu-kāma ㊦ 爲さんと欲する或は志す; ㊦ 欲令, 欲作恩 *Saddh-p., Bodh-bh.*
kartukāma-citta ㊦ ㊦ 欲作恩心, 欲爲所作想 *Bodh-bh.*
kartu-kāmatā ㊦ ㊦ 欲饒益, 欲作饒益 *Bodh-bh.*
kartu-manas ㊦ 爲さんと志す。
kartṛ ㊦ 行爲者, 作者, 働く者; 實行者, 設立者; 創

造者; [*Viṣṇu* 神の稱]; 祭官; (㊦, 一°) の著者; 能因; (論理上の)主格 [㊦ にては ㊦, ㊦ にては ㊦, 動詞狀名詞と關聯しては ㊦ となる]; [*Kṛ* の ㊦ として用ゐらる]; ㊦ 作者, 能作, 作業者 *Lank., Śikṣ., Sūtr., Madhy-v., Sāṃkhy-k., Abh-vy.*
kartṛka ㊦ [一° = kartṛ] 動作者; 能因; ㊦ 作者 *Madhy-v.*
kartṛtā ㊦ 或る動作の作者たること(㊦ ㊦)。
kartṛtva ㊦ 作者たること; 能動力; ㊦ 作者, 作者性 *Lank., Madhy-vibh.*
kartṛtva-grāha ㊦ ㊦ 持爲, 作持, 作者性執 *Mvyut.*
kartṛ-bhūta ㊦ 作者となれる(㊦ ㊦)。
kartṛ-rūpa ㊦ 能作者の形を有する。
kartos [㊦ *Kṛ* の ㊦ ㊦ ㊦] 爲すこと。
karttavya (未受分) 切り去らるべき, 破壊せらるべき, 滅せらるべき。
kartṛ 1. ㊦ 破壊者, 切斷者, 消す者。
kartṛ 2. ㊦ 紡ぐ人。
kartṛkā ㊦ 獵師の小刀。
kartya (未受分) 切斷せらるべき。
kartva ㊦ 爲さるべき, 行はるべき, 成就せらるべき。㊦ 仕事, 事業。
kardana ㊦ [王の名]。
kardama ㊦ 泥, 塵, 不淨; 厝; 罪; 蔭; [米の一種]; [或る *Nāga* の名]; [*Prajāpati* 神の名]; ㊦ 泥, 淤泥 委土, 泥土汁; 黒 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lank., Prāt-m., 梵雜.*
kardamaka ㊦ [米の一種]; [毒ある球根の一種]; [蛇の一種]; [丹毒の一種]。
kardama-rāja ㊦ [人名]。
kardama-visarpa ㊦ [丹毒の一種]。
kardamākhyā (°ma-ākh°) ㊦ [毒ある球根の一種]。
kardamita ㊦ 汚れたる, 汚き, 泥塗れの。
karpaṭa ㊦ 布片, 襤褸. ㊦ [山の名]。
karpaṭaka ㊦ 村落(*Divy.*); ㊦ 聚落 *Divy.*
karpaṭin ㊦ 襤褸を纏へる修行者。
karpaṇa ㊦ (?) 槍(の一種)。
karpara ㊦ 碗, 鉢; 壺; ㊦ 磚, 坯 *Mvyut* ㊦ 陶器の破片。
karparāṃśa ㊦ [同上(㊦)].
karpāsa ㊦ ㊦ 綿の木; 綿; ㊦ 白疊 梵雜.; ㊦ 切貝 *Divy.*
karpāsaka ㊦ ㊦ 布衣, 白疊 *Mvyut.*
karpāsaki ㊦ 綿の木。
karpāsa-picu ㊦ ㊦ 毳, 細毳 *Divy.*
karpāsa-vāṭa ㊦ ㊦ 毳衣 *Divy.*
karpāsika ㊦ ㊦ 毳 *Śikṣ.*; ㊦ 古貝, 切貝, 切波育, 迦波羅, 羯播死迦 ㊦。
karpūra ㊦ ㊦ 樟腦; ㊦ 樟腦, 龍腦, 龍腦香; 氷片 *Bodh-c., Guhy-s., Mañj-m., Mvyut.* ㊦ [*Dvīpa* の名]; [諸人の名]. ㊦ 樟腦にて作れる。
karpūra-keli ㊦ [或る紅鶴の名]。
karpūra-gaura ㊦ [(樟腦の如く帶白色なる), 湖の名]。
karpūra-tilaka ㊦ [或る象の名]。

karpūra-nālikā ㊦ [樟腦にて調理せられたる食物の一種].
karpūra-paṭa ㊦ [或る染物師の名].
karpūra-mañjari ㊦ [王女の名]; [或る紅鶴の名]; [劇の名].
karpūramaya ㊦ 樟腦より成れる, 樟腦の如き.
karpūra-varṣa ㊦ [王の名].
karpūra-vilāsa ㊦ [人名].
karpūra-saras ㊦ [湖の名].
karpūrā ㊦ [黄色の繪具又は顔料の一種].
karbara ㊦ = karvara.
karbu ㊦ 斑點ある, 雑色の.
karbura ㊦ [同上].
karburaka ㊦ [同上].
karburā ㊦ 毒蛭(の一種).
karbūra ㊦ = karbu.
karmaka ㊦ —° = karman; ㊦ 業 *Madhy-v.*
karma-kara ㊦ (㊦-*i*) 他の爲に働く. ㊦ 労働者, 召使; 職人, 工匠; ㊦ 僮僕, 僕使, 駟使, 作使者, 作業使人; 作務人, 作務者; 管事者 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜.*
karmakara-paurṣeya ㊦ ㊦ 僕使, 給使, 作使 *Bodh-bh.*
karma-kartṛ ㊦ 動作の目的たると同時に作者たるもの [㊦ 動作] に於て].
karma-kāṇḍa ㊦ ㊦ (*Veda* 原典等の中の) 祭式又は實踐に關する部分.
karma-kāra ㊦ [= *karma-kara*]. ㊦ 鍛冶工; ㊦ 作行師, 作業者; (㊦) 羯磨者 *Mvyut.*
karma-kāraka ㊦ 或る行爲又は仕事を爲す(者). ㊦ ㊦ 作行師, 作作者; 作者業, 作者作業 *Madhy-v., Mvyut.*
karma-kāritā ㊦ ㊦ 所修作 *Śikṣ.*
karma-kārin ㊦ (一°) の仕事を爲す.
karma-kṛt ㊦ 精勵なる, 巧みなる. ㊦ 労働者, 召使.
karma-kṛta ㊦ ㊦ 業 *Śikṣ.*: ~ena vāyuntot: kṣipyate 業風所飄 *Śikṣ. 70.*
karma-kṛtya ㊦ 活潑, 精勵.
karma-kośa ㊦ 存命中の行爲, 行爲の蓄積.
karma-kriyā ㊦ ㊦ 作業, 造業, 所作事業 *Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh.*
karmakriyā-rahita ㊦ ㊦ 無業無行 *Lank.*
karma-kṣama ㊦ (一°) の行爲に適する.
karma-kṣaya ㊦ 仕事又は全活動の停止.
karma-kṣetra ㊦ 仕事場, 行爲の場處.
karma-gati ㊦ 運命の行路, 人の運命.
karma-caṇḍāla ㊦ 行爲による *Caṇḍāla* [生來の *Caṇḍāla* の對]; 賤むべき人.
karma-cit ㊦ 働きて集められたる或は成就せる.
karma-ceṣṭā ㊦ 労働, 行爲; 奮勵, 活潑.
karma-ja ㊦ 行爲より生ずる, 行爲に原因する; ㊦ 業生, 作業生, 因業而發生 *Lank., Vaiś-s.*
karma-janyatā ㊦ 行爲より生じたるもの.
karma-jāti-lakṣaṇa ㊦ ㊦ 業生相, 業與生相 *Lank.*

karma-jit ㊦ [王の名].
karma-jita ㊦ 行爲又は労働によりて得られたる.
karma-jñāna ㊦ ㊦ 事智 *Mañj-m.*
karmaṭha ㊦ (㊦, 一°) に適する, 熟練なる, 賢き, 忠實なる; 熱心に(祭式を)行ふ..
karmaṇi ㊦ 活動せる.
karmaṇya ㊦ 老巧なる, 勤勉なる; 或る行爲に適したる, 神聖なる儀式を行ふに適したる; 仕事又は事の成就に關する; ㊦ 能, 堪能, 堪用, 堪受, 有堪能, 有所堪能, 堪任有用; 調, 調柔, 調順, 調善, 調柔有堪能; 勤修習; 隨事得成 *Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*; 所作 *Bodh-bh.* → *citta* ~ *tā.*
karmaṇya-citta ㊦ ㊦ 心調柔, 心有堪能 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*
karmaṇyatā ㊦ 熟練, 勤勉, 活動; ㊦ 堪能, 堪能性; 堪任性; 調柔, 軟心; 謹; 隨事得成 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Śikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* → *citta* ~ .
karmaṇya-vaśya-citta ㊦ ㊦ 所作自在想, 調柔自在有堪能心 *Bodh-bh.*
karmatā ㊦ 活動, 結果; 目的たること; *karman* の觀念; 業格たること(㊦).
karma-trṣṇājñāna (°*nā-aj*) ㊦ ㊦ 業愛無知, 愛業無明 *Lank.*
karmatva ㊦ [同上]; ㊦ 業性 *Vaiś-s.*
karma-daṇḍa ㊦ 行爲の完全なる制御.
karma-dāna ㊦ ㊦ 授事, 任事 *Mvyut.*
karma-dāyāda ㊦ ㊦ 受作業分 *Mvyut.*
karma-dāyādat ㊦ (他の行爲の) 遺産として或る行爲を達成する.
karma-duṣṭa ㊦ 悪行爲をなす, 不道德なる.
karma-dṛś ㊦ ㊦ 深達業(果) *Lal-v. 26.*
karma-deva ㊦ 宗教的行爲によりての神.
karma-doṣa ㊦ 罪深き行爲, 罪惡; ㊦ (大) 罪 *Lank.*
karmadoṣāvaraṇāvṛta (°*ṣa-āv*, °*na-āv*) ㊦ ㊦ 成大罪障 *Lank.*
karma-dhāraya ㊦ 持業釋 [第一語(一般に ㊦) が第二語を敘述形容する合成語]; ㊦ 持業, 持事 *Mvyut.*
karman ㊦ 行爲, 作業; 作用, 職業; 儀式; 結果; 行爲の直接目的(㊦); 運命(前生になせる行爲の結果); ㊦ 業, 作, 行, 作業, 業用, 行業, 所作, 所作業; ㊦ 業, 業因; 作法; 事, 辦事; 相; 轉變事 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Suv-pr., Sukh-vy. I., Lank., Guhy-s., Bodh-c., Nyāy-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v., Vaiś-s., Mvyut., 梵千., 支應.; (㊦) 羯磨, 劍暮 *Divy., Vin., Bodh-bh., 支應.* → *jñapti-caturtha.*
karma-nāman ㊦ 動作に由來する名; 分詞(㊦).
karma-nāsā ㊦ [河の名].
karma-niṣṭha ㊦ (聖なる) 事に勤勉なる; 作業に従事せる.
karma-nyāsa ㊦ 作業の中止.
karma-patha ㊦ 行爲の進路又は方向, 行爲の性質; ㊦ 業道, 業迹 *Gaṇḍ-vy., Lank., Śikṣ., Madhy-v., Bodh-bh.*: *daśa-kuśala* ~ 十善道 *Lal-v. 71.*; *śuklaḥ* ~ 白業道 *Madhy-v. 314.**

karma-pariśuddhi ㊦ 業清淨 *Sam-r.*

karma-pāka ㊦ 業 (karman) の成熟, 前生になしたる行爲の應報.

karma-pātaka ㊦ 惡事, 罪深き行爲.

karma-pratisaraṇa ㊦ 業堅固(?) *Mvyut.*

karma-pratyaya ㊦ 業緣 *Mañj-m.*

karma-prabhava ㊦ 從業生 *Lank.*

karma-pravacaniya ㊦ [(行爲を決定すること), 名詞に近き關係にある前置詞及び或種の副詞を稱す].

karma-ploti ㊦ 業緣 *Divy.*; 餘報, 惡業果報 [*Tib. las-kyi-rgyu*] *Lank. 340.*

karma-phala ㊦ 行爲の結果; 業果, 業報 *Sikṣ., Madhy-vibh.*

karmaphala-hetu ㊦ 行爲の結果が因なる, 行爲の結果より生ずる.

karma-bandha ㊦ 行爲の束縛.

karma-bāhulya ㊦ 困難なる仕事.

karma-buddhi ㊦ 人爲的の努力を信ずる. ㊦ 行爲の心的器官, *manas.*

karma-bhūmi ㊦ 作業の地; 行爲の範圍; 宗教的行爲の場處.

karma-bheda-vastu ㊦ 不順事分; (㊦) 破羯磨事 *Mvyut.*

karmamaya ㊦ 行爲より成る或は生ずる, 行爲の性質を有する.

karma-mārga ㊦ 仕事に至る路, [壁を穿つことを指す盜賊の隠語]; 活動.

karma-mimāṃsā ㊦ = *pūrva-mimāṃsā.*

karma-yoga ㊦ 動作, 活動; 聖業の實踐; 祭祀との連繫; 前の行爲との連繫; 勤勉, 努力; 農業&商業. ~tas ㊦ 運命によりて.

karma-yoni ㊦ 行爲の源泉; 業生處 *Mvyut.*

karma-raṅga ㊦ [植物の一種, 學名 *Averrhoa Carambola*].

karma-lakṣaṇa ㊦ 業相 *Lank.*

karma-vaṃśa ㊦ 業種, 業性 *Gaṇḍ-vy.*

karma-vacana ㊦ 典範 (佛敎).

karma-vajra ㊦ その力の雷が勞役に存する (即ち *Sūdra*).

karma-varjita ㊦ 不由於業有, 業性遠離 *Lank.*

karma-vaśa ㊦ 前(世)の行爲 (karman) の力のもとにある. ㊦ 行爲の必然的結果, 運命; 業力 *Sikṣ.*

karma-vaśitā ㊦ 行爲以上の力を有すること; 業自在, 業降伏 *Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut.*

karmavaśitāśrayatva (°tā-āś°) ㊦ 業自在依, 業自在所依 *Madhy-vibh.*

karma-vastu ㊦ (㊦) 羯磨事 *Mvyut.*

karma-vācana ㊦ 羯磨 *Abh-vy. 403.*

karma-vācanā ㊦ 誦念; (㊦) 羯磨說, 白羯磨, *Mvyut.*; *prathamā* ~ 第一羯磨說, 初白, 一誦念 *Mvyut.*; *dvitīyā* ~ 第二羯磨說, 二白, 二誦念 *Mvyut.*; *trītiyā* ~ 第三羯磨說, 三白, 三誦念 *Mvyut.*

karma-vāyu ㊦ 業風 *Lank.*

karma-vāsanā ㊦ 業習氣, 業熏習 *Vijñ-t., Madhy-vibh.*

karma-vidhi ㊦ 行爲又は儀禮の法則.

karma-viparyaya ㊦ 邪なる行爲, 過誤.

karma-vipāka ㊦ = *karma-pāka*; 業果, 業報, 業異熟, 諸業果報 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Sikṣ., Mvyut.*

karma-vipāka-jñāna-bala ㊦ [如來十力の一] 自業智力, 知業報力, 業異熟智力 *Dharm-s., Mvyut.*

karma-vibhaṅga ㊦ 業分別 *Mvyut.*

karmavibhaṅgopadeśa (°ga-up°) ㊦ [佛典の名].

karma-virodhin ㊦ 仕事を妨害する.

karma-śalya ㊦ 行爲の妨害.

karma-śālā ㊦ 仕事部屋, 居間.

karma-śreṣṭha ㊦ [人名, *Palaha* と *Gati* との子].

karma-saṃkleśa ㊦ 業雜染, 業染汚, 業難 *Madhy-vibh.*

karma-saṅga ㊦ 行爲への執著.

karma-satya ㊦ 業諦, 業實 *Bodh-bh.*

karma-samaya ㊦ 作時 *Prāt-m.*

karma-samādāna ㊦ (諸)作務 *Sikṣ.*

karma-samāpta ㊦ 神聖なる儀式を爲し遂げたる.

karma-samutthāna ㊦ 役使 *Sikṣ.*

karma-samudra ㊦ 業海 *Suv-pr.*

karma-sambandha ㊦ 和合業, 所起業 *Lank.*

karma-sākṣin ㊦ 凡ゆる所業の現場證人 (即ち太陽).

karma-sārathi ㊦ 同僚, 助手.

karma-siddhi ㊦ 行爲の成就; 成功.

karma-sena ㊦ [王の名].

karma-seniya ㊦ *Karmasena* 王に關する.

karma-sthāna ㊦ 役所; 業處, 事業 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

karma-svaka ㊦ 自業, 自作業 *Bodh-bh., Mvyut.*

karmasvaka-jñāna-bala ㊦ [如來十力の一] 業智力, 自業智力, 知諸業力, 業異熟智力 *Bodh-bh.*

karma-svakatā ㊦ 自業, 業報之事 *Divy., Bodh-bh.*

karmasvakatā-jñāna-bala-gotra ㊦ 自業智力種姓 *Bodh-bh.*

karmājiva (°ma-āj°) ㊦ 仕事にて得らるゝ生活資糧 商業, 職業.

karmātman (°ma-āt°) ㊦ 行爲を本性とする, 活潑なる, 勤勉なる.

karmādhyakṣa ㊦ 行爲又は行動の監視者.

karmānta ㊦ 仕事の完成; 聖なる行爲の結末; 勞務, 業務, 公用, 運用, 支配; 事, 業, 事業, (世)事業, (世間)事業 *Bodh-bh., Mvyut.*

karmāntara ㊦ 祭式と祭式との中間時, 祭式執行中の休止; 他の行爲, 他の所作.

karmāntika ㊦ 労働者, 工匠; 農夫, 耕田者 *Mvyut.*

karmāntika-loka ㊦ 労働者達.

karmāpanaya ㊦ 除去業(障) *Divy. 491.*

karmābhyāsa ㊦ 儀式の實行.

karmāra ㊦ 工匠, 細工人; 鍛冶工; 匠, 工人, 工匠, 工師, 金師, 鐵家 *Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.*

karmāra-gargari ㊦ ㊦ 輔囊 *Lal-v.*
karmāra-bhaṇḍikā ㊦ ㊦ 鐵家器, 鐵家火 *Mvyut.*
karmārha ㊦ 仕事に適せる; 供養をなし得る.
karmāvadāna ㊦ 偉業 (*Jāt-m.*).
karmāvaraṇa (°ma-āv°) ㊦ ㊦ 業障, 罪業, 惡業障現 *Lank., Śikṣ.*
karmāvaraṇa-pratiprasabdha ㊦ ㊦ 業障已滅, 除業障 *Śikṣ., Mvyut.*
karmāvaraṇa-pratiprasabdhi ㊦ ㊦ [經名] 障業除經, 除障業經 *Mvyut.*
karmāvaraṇa-viśuddhi-sūtra ㊦ ㊦ [經の名] 淨諸業障經 *Śikṣ.* [淨業障經].
karmāvṛta (°ma-āv°) ㊦ ㊦ 業之所覆 *Gaṇḍ-vy.*
karmāścarya (°ma-ās°) ㊦ 驚嘆すべき所業.
-karmika ㊦ ㊦ 所作, 成就 *Mañj-m.: sarva* ~ 一切皆得成就 *Mañj-m. 26.* → ādi ~.
karmin ㊦ 行ふ, 働く, 成就する, 忙しき; 宗教的行爲をなす. ㊦ 活動家; 労働者; ㊦ 作者 *Sūtr.*
karmendriya (°ma-in°) ㊦ 活動器官(舌); ㊦ 作根 *Sāmkhy-k.*
karvaṭa ㊦ 村邑, 市場; 地方の主都; 山腹; ㊦ 山 *Divy. 291.* ㊦ [民族の名].
karvaṭaka ㊦ 山腹; 場處, 村落 (*Divy.*); ㊦ 村, 聚落; 山中人 *Divy., Mvyut.*
karvaṭa-pradeśa ㊦ ㊦ 山崖, 山面 *Mvyut.*
karvara 1. ㊦ [Kṛ 1.] 行爲, 行動.
karvara 2. ㊦ [Kṛ] 斑點ある, 雑色の, 種々の色にて染めたる.
karśana ㊦ 瘦せしむる; (一°)を惱ます, ……を傷つくる. ㊦ 瘦せしむること.
karśaniya (未受分) 瘦せしむる; 冷遇せらるべき (*Jāt-m.*).
karśita (使役) (過受分) 瘦せたる. → Kṛś. ㊦ 羸瘦 *Lal-v.*
karṣa ㊦ 曳くこと; 耕すこと, 農業; [重量の單位 (=十六 māsa)]; ㊦ 攝 *Sūtr.*; 兩, 一兩; 分, 一分; 少; 銖; 駱 *Lal-v., Saddh-p., Lank., Abh-vy., Mvyut.*
karśaka ㊦ 曳き廻す; (一°)を惱ます; 耕す; ㊦ 耕農 *Śikṣ.* ㊦ 農夫; ㊦ 農夫, 耕夫, 苗稼 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
karṣaṇa ㊦ [同上 ㊦]. ㊦ 持ち來ること; 逐ひ出すこと; 引くこと; 惱ますこと; 耕すこと, 耕作, 耕地; (弓を)引くこと; ㊦ 攝 *Sūtr.*; 兩 [=karṣa] *Lank.*; ㊦ 迦梨沙那 *Lank.*
karṣaṇa-karman ㊦ ㊦ 耕植田里 *Divy.*
karśāpaṇa, [=karśāpaṇa].
karṣin ㊦ 引き摺る; 惹きつくる, 招く; 鋤く. ㊦ 農夫, 耕作者.
karṣu ㊦ [音韻, =karṣū].
karṣū ㊦ 畦; 溝, 河; 切目; ㊦ 坑, 坑井 *Lal-v., Śikṣ.* ㊦ 耕作; 生計; 乾燥せる牛糞又は糞の火; ㊦ 炭聚 *Śikṣ.*
karhi ㊦ 何時(°); [svid 又は cid と俱に] 何時にても; na ~ cid 決して…なし.
Kal, X. ㊦ (自) **kalayati(-te)** ㊦ 調は一般に kâ-

laya- 強ゆ, 促す, 驅る; 持つ, 帶ぶ; 爲す, 成就す; 言ふ; 附す, 結ぶ; 觀る, 凝視す; 反省す; 信用す, 考ふ; (業)を(業)と見做す; ㊦ 觀察, 爲檢閱 *Livy.* (過受分) **kalita** (一°)を給せられたる; 取られたる; 造られたる; 製せられたる; 知られたる; 集められたる, 雜の; 強られたる, 促されたる.
ā- 震はす, 揺り動かす; 確かと搦む; 結ぶ; 認む; 検査す; 反省す; 信用す; (業)を(業)と見做す.
praty-ā- 列擧す, 數ふ.
ud- (過受分) **utkalita** 開かれたる, 開花せる.
pari- 貪食す; ……と見做す.
sam- 考を懐く, ……と思ふ; ㊦ 總聚 *Sūtr.*
ut-sam- (過受分) **utsamkalita** 促されたる, 任されたる.
kala ㊦ 啞の, 嘎れたる, 無言の; 明かならざる, 不明瞭なる; 音聲の不明瞭なる; (涙にて)息詰れる(一°); 低き, 弱き(音調); 柔き音を發する, 調子良き. ~ m ㊦.
kala-kaṇṭha ㊦ 印度杜鵑.
kala-kaṇṭhikā ㊦ 雌印度杜鵑.
kalā-kaṇṭhin ㊦ =kala-kaṇṭha.
kala-kala ㊦ 騒々しき聲又は叫聲; ㊦ 喧 *Mvyut.*
kalakala-rava ㊦ [同上].
kalakalavat ㊦ キーキーと鳴る.
kalakala-svara ㊦ ㊦ 美言, 妙言 *Mvyut.*
kalakalārava (°la-ār°) ㊦ =kalakala.
kalaṅka ㊦ 斑點, 汚點, 瑕瑾, 腐蝕; 中傷, 非難.
kalaṅka-kalā ㊦ 月蝕中の陰となれる月の部分.
kalaṅkaya (名動) ㊦ **kalaṅkayati** 汚す, 穢す; 辱しむ, 中傷す.
kalaṅka-lekhā ㊦ 鏘の條文(°).
kalaṅkāṅka ㊦ 月面の斑點.
kalaṅkāya (名動) ㊦ **kalaṅkāyati.** =kalaṅkaya.
kalaṅkita (過受分) 汚されたる; 辱められたる, 中傷せられたる.
kalaṅkin ㊦ [同上].
kalañja ㊦ [植物の一種, 學名 *Calamus Rotang*]; [重量の單位].
kalatra ㊦ 妻, 女房; (動物の)牝; 女の生殖部, 尻, 腰; ㊦ 妻, 婦; 眷屬 *Divy., Daś-bh., Boḍh-bh., Mvyut.*; ~ m ānitam 娶妻 *Divy. 1.*
kalatratā ㊦ 妻たること.
kalatratvat ㊦ 妻を有する; 妻を娶れる.
kalatrin ㊦ [同上].
kala-dhauta ㊦ (響き且つ輝く), 金; 銀.
kaladhauta-lipi ㊦ 金の裝飾, 金色畫.
kalana ㊦ (一°)を生ずる, 催さしむる, 惹起する. ㊦ 振動, 動搖.
kalanā ㊦ 強ふること, 勵ますこと; 身振り, 舉動; 指揮, 管理; 接觸.
kalandaka ㊦ [鳥の一種(°)]; [沙門の用ふる容器の一種]; ㊦ (音韻) 迦蘭陀 *Av-s.*
kalandaka-nivāpa (男) ㊦ [精舎の名] (音韻) 迦蘭陀迦園 *Mvyut.*; ㊦ 葛藍答葛納巴 *Mvyut.*; venuvane ~ e 迦蘭陀竹林 *Av-s. I. 241.*
kala-pralāpa ㊦ 快く語る (*Buddh-c.*).

kalabha 男 若き象又は駱駝; 小象; 犢, 牛犢
Abh-vy., Mvyut.

kalabhaka 男 [同上].

kala-bhāṣin 形 静かに話す, 快く話す.

kalama 男 米(の一種); 筆; [=kalamā] 筆
梵千., 梵雜.

kalama-kedāra 男 米田.

kalama-gopa-vadhū 女 米田の番人女.

kalama-gopi 女 [同上].

kalamā 女 筆 Divy. 532.

kala-mūka 形 雙啞の.

kalamaudana (°ma-od°) 中 炊ける飯.

kala-rava 男 低音調.

kalala 中 受胎の直後又は聞もなき胎児; [胎内五位の一] 膜, 凝滑, 和合 Mvyut., 支應; 羯羅藍, 羯羅藍, 迦羅, 迦羅羅, 歌羅羅, 羯刺藍, 柯羅羅 Kāśy., Śikṣ., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Mvyut., 支應: 胎内五位 [1. kalalam 膜, 2. arbudam 胞, 3. peś 軟骨, 4. ghanāḥ 堅肉, 5. praśākhā 支節] Mvyut.

kalalatva 中 柯羅羅 Abh-vy.

kalaviṅka 男 雀; 印度杜鵑; [聖地の名]; 鸞, 哀鸞, 好聲鳥, 好音聲鳥 Lal-v., Saddh-p., 支應; 羯陵, 羯隨, 羯毗, 迦毗, 加毗, 羯毘, 加蘭伽, 加羅毗迦, 迦陵毘伽, 伽陵頻伽, 羯羅頻迦, 歌羅頻伽, 迦羅頻迦, 羯羅頻迦, 迦陵頻伽(鳥) Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.

kalaviṅka-manojñā-bhāṇin 形 能悅衆意譬若羯羅頻迦之音 Bodh-bh.

kalaviṅka-susvara 形 迦陵頻伽聲 Saddh-p.

kalaviṅka-svara 形 Kalaviṅka の如き聲の (Budh-c.). 男 [Samādhi の名] (Kār-vy.).

kalaviṅka-svara-ruta 中 如迦陵頻伽聲, 如迦陵頻伽音聲 Mvyut.

kalāśa 男 甕, 瓶; 皿, 鉢, 杯 [又*-i*]; 桶, 攪拌器; 圓錐形の屋根; [人名]; 瓶 Divy., Mañj-m., Guhy-s., 梵千.; 迦羅舍 Vajr-s.

kalāśa-para 中 [Gaṅgā 河三角洲の或る都城の名].

kalāśa-yoni 男 [Agastya 及 Drona の稱].

kalāśi 女 攪拌器.

kalāśi 女 杯; [聖地の名]; 貧 梵雜.

kalāśodaka (°śa-ud°) 中 甕中の水.

kalāśodadhi 男 攪拌器の如き荒波.

kalāśodari (°śa-ud°) 女 [河の名] (Kār-vy.).

kalasa, =kalāśa.

kalasi, =kalāśi.

kalaha 男 論争, 喧嘩; 闘, 争, 諍, 訟, 闘諍, 闘争, 闘訟, 闘亂 Lal-v., Av-ś., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Sam-r., Prāt-m., Bodh-c., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.

kala-haṃsa 男 (-i 女) 家鴨・鶩鳥又は白鳥(の一種).

kala-haṃsaka 男 [同上] (指小).

kala-haṃsatā 女 [Kala-haṃsa の].

kala-haṃsi 女 =kala-haṃsa.

kalaha-kaṇṭhaka 男 [人名].

kalaha-kāra 形 (-i) 争論を好む, 喧嘩好きの;

好闘, 好闘諍, 作鬧囂 Bodh-bh., Mvyut.

kalaha-kārikā 女 [鳥の一種].

kalaha-kāri 女 [Vikramacaṇḍa の妻の名].

kalaha-jita 形 以諍勝, 震威乃服 Mvyut.

kalaha-priya 形 =kalaha-kāra.; [Nārada の名].

kalaha-bhaṇḍana 中 闘訟 Bodh-bh.

kalahaya (名動) 他 kalahayati 争 Mvyut.

kalahavat 形 (saha) と争ふ.

kalaha-vivāda 男 闘諍 Śikṣ.

kalahāntaritā 女 戀人と喧嘩分れしたる女.

kalahāya (名動) 自 kalahāyati 論争す, 喧嘩す; 闘 Aṣṭ-pr.

kalahāstra-jita 形 諍陣勝 Abh-k.

kalahin 形 争を好む.

kalā 女 小部分特に十六分の一; 月面の十六分の一; (資本の)利子; (時間の)小區分[普通は一分六秒]; 技巧; 技術, 技藝 [六十四種あり]; 分, 一分, 計; 力勝 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Daś-bh., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut., 支應; 歌羅, 迦羅, 歌羅(分) Divy., Śikṣ., 支應; 藝, 伎藝, 伎能, 技能, 伎術; 奇法; 咒術 Buddh-c., Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Mvyut.: śatatamim api ~ m 百分一, 百分歌羅分 Aṣṭ-pr. 804., Śikṣ. 312.; sahasratamim api ~ m 千分一 Aṣṭ-pr. 804.

kalā-keli 形 娛樂として技藝を習ふ. 男 戀愛遊戲.

kalā-kṣaya 男 月の虧くること.

kalācika 男 柄杓, 匙; 匙 梵千., 梵雜.

kalācikā 女 下膊; 杓兒 Mvyut.

kalāci 女 [同上]; 匙; 肘腕 Śikṣ., 梵千.

kalā-jña 形 技藝又は藝術を解する或はに堪能なる. 男 藝術家.

kalā-dhara 形 技藝又は藝術を有する. 男 月(太陰).

kalā-nātha 男 月(太陰).

kalā-nidhi 男 [同上].

kalāntara (°lā-an°) 中 (資本の)利子.

kalāpa (°lā-āpa) 男 (多くの部分の集合する處), 紐, 帶; 束; 箭筒; 孔雀の尾; 裝飾; 總數, 總額; 合, 聚, 種種; 具; 束; 箭, 箭竿 Divy., Daś-bh., Laṅk., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut., 梵千.; [數の名] 羯羅波 Mvyut.

kalāpaka (°lā-āp°) 男 糸, 紐, 帶; [裝飾の一種]; 細襪 Prāt-m.

kalāpa-varman 男 [人名].

kalāpin 男 孔雀.

kalāpi 女 草の束; 束 Abh-vy.

kalā-pūrṇa 形 (圓)の十六分を満たすに足る.

kalā-bhara 男 技工家, 職人, 工匠.

kalā-bhṛt 男 [同上].

kalāma 中 [=kalama]; 筆 Mvyut.

kalāya 男 [豌豆の一種].

kalālāpa (°lā-āl°) 男 (聲の)優しき調子, 快き聲.

kalāva 男 [=kalāya]; 豌豆, 黍荳 Divy., Mvyut.

kalāvat 男 月(太陰).

kalā-vid 形 =kalā-jña.

kalā-vidyā 女 巧明 Laṅk.

kalā-śeṣa 形 その十六分の一以外は見えざる(月).

kali 男 博戯に於ける最悪の數又は場合 [擬人的にも用ゐらる]; 現世, 世界の第四期即ち最悪なる時代; 軋轢, 争鬪 [擬人的にも用ゐらる]; 一組中の最悪なるもの; 穢, 穢垢, 穢惡; 過; 囚; 鬪, 鬪争; 惡世, 末世, 末世時 *Divy., Av-ś., Suv-pr., Lank., Sikṣ., Mvyut.*, 支應; [王の名] 無道王, 鬪争王; (音寫) 迦利王 支應; (音寫) 歌利, 迦利, 羯利 *Lal-v.*, 支應.

kali-kaluṣa 男 濁穢 *Lal-v.*

kalikā 女 月面の第十六分; 芽, 蕾; 藏, 臺 [*Tib. snin-po*] *Gaṇḍ-vy.* 64.

kalikā-jāta 形 將開 *Mvyut.*

kalikātā 女 [地名, *Calcutta*].

kali-kāla 男 *Kali* の時代.

kaliṅga 男 (國) [民族の名]; (單) [*Kaliṅga* 民族の國]; [*Kaliṅga* の住民]; [*Kaliṅga* の王の名]; (音寫) (音寫) [國の名] 羯陵伽, 迦陵迦, 葛令葛 *Divy., Vijñ-v.*; [王の名] 羯利, 歌利, 羯陵伽, 羯陵伽(王) *Divy., Vajr-pr., Vijñ-v., Mvyut.*; [林の名] 羯陵伽(林), 迦陵伽(林) *Gaṇḍ-vy., Vijñ-v.*

kaliṅgaka 男 *Kaliṅga* 民族の國

kaliṅga-deśa 男 [同上].

kaliṅga-rāja 男 惡王; (音寫) 羯利王, 歌利王, 迦陵伽王, 羯陵伽王 *Vajr-pr.*

kaliṅga-vana 中 (音寫) 羯陵伽林, 迦陵伽林 *Gaṇḍ-vy.*; (音寫) 迦陵提, 迦陵伽婆提 *Gaṇḍ-vy.*

kaliñjara 男 [王の名]; [地名].

kalita (通受分) → *Kal.*

kalita-kusuma 形 花を以て造られたる, 花を備へたる.

kalita-carāṇa 形 足の折れたる.

kali-dru 男 [(争鬪の木), 樹の名, 學名 *Terminalia Bellerica*].

kali-druma 男 [同上].

kalin 男 惡世, 末世時 *Lank.*

kalinda 男 [*Yamunā* 河の發する山の名]; 國 [民族の名].

kalinda-kanyā 女 *Yamunā* 河.

kalinda-jā 女 [同上].

kalinda-tanayā 女 [同上].

kalinda-nandini 女 [同上].

kalinda-śaila-jātā 女 [同上].

kalinda-sutā 女 [同上].

kalindātma-jā (°da-āt°) 女 [同上].

kali-pāśa 男 囚繫 *Sikṣ.*

kali-yuga 中 第四期 は *Kali* 時代; 末世, 末世世, 末世時, 極惡時, 争鬪時 *Lank., Mvyut.*

kali-rāja 男 [王の名] 鬪争王; (音寫) 歌利王 *Divy., Rāṣṭr.*

kalila 形 (具, 一°) に充たされたる, …に充ちたる; …を混じたる; 無量 *Lal-v.* 男 中 大なる堆積; 混亂.

kaluṣa 形 汚き; 不淨の; 濁れる; 薄暗き; 嗔聲の, 息詰れる; 一° 不可能なる; 等しからざる; 濁, 垢濁, 染濁, 有染濁; 垢重, 不清淨; 缺減 *Lal-v., Sikṣ., Bodh-bh.* 中 汚穢, 不淨; 濁, 濁亂, 垢濁, 垢染, 染濁, 泥濁, 垢穢 *Lank., Sikṣ., 梵千.*

kaluṣa-kāraka 形 起於諸濁, 作諸濁亂 *Lank.*

kaluṣa-cetas 形 心の不純なる, 心の惡しき.

kaluṣa-bhāva 男 濁 *Aṣṭ-pr.*

kaluṣa-mati 形 = *kaluṣa-cetas*.

kaluṣaya (名動) 他 *kaluṣayati* 汚す, 濁す.

kaluṣa-yoni-ja 形 不正の母より生れたる, 出所の不純なる.

kaluṣātman (°ṣa-āt°) 形 = *kaluṣa-cetas*.

kaluṣāya (名動) 自 *kaluṣāyate* 濁る, 朦朧となる.

kaluṣāśaya (°ṣa-āś°) 男 不淨希望, 汚濁惡意樂 *Bodh-bh.*

kaluṣi-Kṛ, 濁す, 汚す, 潰す.

kaluṣi-BHū, 濁る, 汚くなる或は潰さる.

kalevara (男) 中 身體; 骨, 殘骸 *Divy.*

kalottāla (°la-ut°) 形 強くして調子よき(聲).

kalka 男 糊; 穢, 不淨, 不純; 卑賤; 罪惡, 偽善.

kalkana 中 卑賤; 邪惡.

kalki 男 [來世の救濟者たる *Viṣṇu* 神の第十化身の名].

kalkin 男 [同上].

kalki-Kṛ, 捏(て)ねる, (捏ねて)糊を塗る.

kalki-BHū, 糊となる.

Kalp, → *Klp.*

kalpa 形 實行し得る, 可能なる; (圓, 因, 不定, 一°) の可能なる, …に適する; 殆ど(一°)に等しき, (一°) の如き; [形の後に一°] 殆ど; 如, 猶如, 似; 等, 同; 喻; 作 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; *pitṛ* ~ *h* *prajānām* 作一切衆生父(母) *Bodh-bh.* 19.; *māyā-marīcy-udaka-candra* ~ 如幻焰水中月, 猶如焰幻水中月 *Suv-pr.* 221.; *sāstr* ~ 同大師 *Divy.* 550. 男 教誡, 聖訓, 法則, 規則, 習慣, 風習; (*Veda* 六支分の一なる)儀式に關する規則の主文, (特に *Veda* に規定せられたること)の實行義務; 宇宙論的時間 (= *Brahman* 神の一日 = 千 *yuga*); 二者中の一; 探求, 調査; 決心; 病の手當, 治療の方法; 藥品を調製する技術; [星宿の一]; [*Dhruva* と *Bhrami* の息子の名]; [*Siva* 神の稱]; 儀軌, 細軌, 細法事; 方便 *Buddh-c., Mañj-m., Mvyut.*; 想, 念, 想念, 妄想; 覺, 覺想; 執, 執著; 分別, 能分別, 分別妄心, 妄想分別; 釋, 解 *Lal-v., Daś-bh., Lank., Sūtr., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-v.*; 分別時節 支應; 裁 梵千; [王の名, *Kappha* 王の父] 鬪賓王 *Av-ś.*; (音寫) 劫, 劫波, 劫簸; 可 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. II., Lank., Sikṣ., Sūtr., Mvyut., 梵千.*; *asamkhyeyaiḥ* ~ *aiḥ* 無數劫, 阿僧祇劫 *Aṣṭ-pr.* 182.; *rogāntara-* ~ 疾疫中劫, 劫中有疾疫 *Sikṣ.* 325.; *śastrāntara-* ~ 刀兵劫, 劫中有刀兵 *Sikṣ.* 325.; *catvāraḥ* ~ *āḥ* 四劫數 [1. *antara* ~ *āḥ* 大劫, 2. *mahā* ~ *āḥ* 母拳劫, 3. *sūnya* ~ *āḥ* 散地劫, 4. *sāra* ~ *āḥ* 賢劫] *Dharm-c.*, 四劫 [1. *saṃvarta* ~ *h* 壞劫, 2. *vivarta* ~ 成劫, 3. *antara* ~ 中間劫, 4. *mahā* ~ 大劫] *Mvyut.*; 水有五可 [1. *saṃgha-* ~ *h* 僧可, 2. *pudgala* ~ 人可, 3. *parisrāva* ~ 水瀆可, 4. *ahorātra* ~ 日可, 5. *udapāna* ~ 井

可] *Mvyut.*
prathamah ㄱ, 主則, 原則.
kalpaka 形 基本の, 標準の; 規則又は標準に準據する. 男 法則, 規則; 儀式, 祭.
kalpa-kaṣāya 男 ㄱ (音寫) 劫濁 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*
kalpa-koṭi 女 ㄱ (音寫) 百千劫, 億劫 *Suv-pr.*
kalpa-kṣaya 男 *Kalpa* の終, (世界の破滅). ㄱ e ㄱ (音寫) 劫欲盡時 *Gaṇḍ-vy.*
kalpa-citta ㄱ ㄱ 軟心 *Sūtr.*
kalpa-taru 男 (寓話上の)如意樹; ㄱ ㄱ 如意樹 *Mvyut.*; (音寫)劫樹 *Bodh-c.*
kalpatā 女 適當性, 能力, 資格.
kalpatva ㄱ ㄱ 分別 *Lank.*
kalpa-dāha 男 ㄱ (音寫) 劫燒 *Lal-v.*, *Saddh-p.*
kalpa-dūṣya ㄱ *Kalpa-taru* 製の衣服; ㄱ ㄱ 如意樹生衣 *Mvyut.*; (音寫)劫波衣 *Divy.*
kalpadūṣya-vṛkṣa 男 ㄱ (音寫) 劫波衣樹 *Divy.*
kalpa-druma 男 = *kalpa-taru*; ㄱ (音寫) 劫波樹 *Gaṇḍ-vy.*
kalpadrumi-BHū, *Kalpa-druma* となる.
kalpa-dvīpa 男 [*Samādhi* の名] (*Kār-vy.*).
kalpa-dhenu 女 (寓話上の)如意牛.
kalpana ㄱ 案出すること, 詩の構想; 切斷, 切抜き; 裝飾として著くこと; ㄱ ㄱ 想, 能分別 *Lank.*
kalpanatā 女 ㄱ ㄱ 分別 *Sūtr.*
kalpanā 女 形成; 製作, 組織すること, 整理, 實行, 準備; 案出, 虚構; 假説; (象に)著衣せしむること; 決定, 決断, 仕事, 行爲; 構成; 型; ㄱ ㄱ 想, 祭, 計; 現; 執, 分別, 妄分別; 所釋 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*
kalpanā-jñāna ㄱ ㄱ 分別智 *Nyāy-pr.*
kalpanāpoḍha (°nā-ap°) 形 ㄱ ㄱ 離察, 無分別 *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*
kalpanāpoḍha-lakṣaṇa ㄱ ㄱ 離察相 *Mvyut.*
kalpanā-maṇḍitikā 女 [佛典の名(大莊嚴論經)].
kalpa-nāman ㄱ (音寫) 劫名 *Sūtr.*
kalpanā-mātra ㄱ ㄱ 妄想量, 唯是虚妄, 此皆是妄想 *Lank.*
kalpanā-rahita 形 ㄱ ㄱ 離分別 *Nyāy-pr.*
kalpa-pādapa 男 = *kalpa-taru*.
kalpa-pāla 男 命令の保護者, 王; [又た ㄱ -i] 酒類の醸造者又は販賣者.
kalpa-puṣpa-druma 男 ㄱ ㄱ 衆寶衣樹; (音寫)劫波衣樹 *Gaṇḍ-vy.*
kalpa-mahī-ruh(ṭ) 男 = *kalpa-taru*.
kalpa-mahī-ruha 男 [同上].
kalpa-mātra 男 [*Siva* 神の稱].
kalpayitavya ㄱ (未受分) ㄱ ㄱ 分別 *Lank.*
kalpa-rahasya ㄱ ㄱ 秘密儀軌 *Mañj-m.*
kalpa-latā 女 如意満足の(凡ての希望を充たす)蔓草.
kalpalatāvanāya ㄱ (自) **kalpalatāvanāyate** *Kalpalatā* の樹林に類す或は似る.
kalpa-latikā 女 = *kalpa-latā*.

kalpa-vaṭa ㄱ [聖地の名].
kalpa-varṣa 男 [王子の名].
kalpa-valli 女 = *kalpa-latā*.
kalpa-vāsin 形 一 *Kalpa* の間住する.
kalpa-viṭapin 男 = *kalpa-taru*.
kalpa-vid 形 聖教に通じたる.
kalpa-vṛkṣa 男 = *kalpa-taru*; ㄱ ㄱ 如意樹 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
kalpa-śata 男 ㄱ (音寫) 百劫 *Bodh-bh.*
kalpaśatāya ㄱ (自) **kalpaśatāyate** 百 *Kalpa* に互りて現はる.
kalpa-śākhin 男 = *kalpa-taru*.
kalpa-saṃkṣobha 形 ㄱ (音寫) 濁劫, 劫亂 *Saddh-p.*
kalpa-saṃkṣobha-kaṣāya 男 ㄱ (音寫) 劫濁亂 *Saddh-p.*
kalpa-sahasra-koṭi 女 ㄱ (音寫) 諸劫數無量百千萬億載 *Saddh-p.*
kalpa-sundari 女 [人名].
kalpa-sūtra ㄱ 儀式に関する經典.
kalpa-sthāna ㄱ 藥品を調製する技術; 毒及び解毒劑に関する科學.
kalpa-sthita 形 ㄱ (音寫) 經劫住, 經劫數, 住於一劫 *Lank.*
kalpa-sthiti 女 ㄱ (音寫) 劫壽 *Lal-v.*
kalpā 女 ㄱ ㄱ 分別, 妄計 *Lank.*
kalpākṣepa (°pa-āk°) 男 = *kalpa-kṣaya*.
kalpāgni 男 *Kalpa* (の終に世界を燒く) 大火災; ㄱ (音寫) 劫燒, 劫盡大火 *Saddh-p.*
kalpātyaya 男 一 *Kalpa* の終 (*Buddh-c.*).
kalpānta 男 *Kalpa* の終, (世界の破滅); ㄱ ㄱ 劫盡, 後時 *Lank.* °— ㄱ ㄱ 世界の終に至るまで.
kalpānta-vāsin 形 *Kalpa* の末に生存せる.
kalpānta-sthāyin 形 世界の終末まで存續する.
kalpāpāya 男 = *kalpa-kṣaya*.
kalpāya ㄱ (自) **kalpāyate** 一 *Kalpa* (宇宙論的時間)となる或はと思はる. ㄱ (受分) **kalpāyita**.
kalpāvaśeṣam ㄱ ㄱ (音寫) 一劫餘 *Aṣṭ-pr.*
kalpāsaṃkhyeya 男 ㄱ (音寫) 無數大劫 *Bodh-bh.*; (音寫) 阿僧祇劫 [*asaṃkhyeya-kalpa*] *Bodh-bh.*
kalpika 形 適應せしめられたる; ㄱ ㄱ 應 [*Pāli*. *kappiya*]; 聽, 淨, 所宜, 儀, 合儀, 如法, 隨順, 可者, 中用 *Sam-r.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
kalpi-kāra 男 ㄱ ㄱ 香火地夫, 奴婢 *Mvyut.*
kalpi-kāraka 男 ㄱ ㄱ 淨人 *Divy. 343.*
kalpita ㄱ (受分) 作られたる; 編み出されたる, 形成せられたる, 準備せられたる; 整頓せられたる, 特定の順位を有する; 假定せられたる, 想像せられたる; ㄱ ㄱ 計所執; 妄想, 妄計, 虚妄; 分別, 裁所執 *Lank.*, *Vijñ-v.*, *Madhy-vibh.*, 梵性.
kalpitatva ㄱ 單なる假定的存在, 單なる想像力に基く存在; ㄱ ㄱ 分別, 妄想性, 著相 *Lank.*
kalpitārgha ㄱ 其の者に(一)の供物に獻せられたる.
kalpetara (°pa-it°) 形 異なる治療をなす或は要求する.

kalpoddāha (°pa-ud°) 男 劫火, 劫火起, 劫燒盡, 劫盡燒時 *Lank.*, *Guhy-s.*, *Siks.*; 大地火燒 *Lank.*

kolpoddāhāgni 男 劫火 *Gand-vy.*, *Siks.*

kalpya (未受分) (具)にて形成せらるべき; 行はるべき; 定めらるべき; 整へらるべき; 想像せらるべき; 所想, 所分別 *Lank.*

kalpyamāna (現分) 分別, 分別時 *Lank.*

kalmali 男 光輝, 光.

kalmalikin 形 燃ゆる.

kalmaṣa (中) 汚物; 汚點; 屑, 廢物, 沈澱物; 道德的汚點; 犯罪, 罪過; 暗黒; 穢濁, 煩惱毒 *Divy.*, *Bodh-bh.* → a~.

kalmāṣa 形 (女-i) 黒き斑點を有する; 雑色の, 混色の; 穢, 斑; 間斷; 罪業 *Lank.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.* → a~. 男 [或る Nāga の名]; [Agni 神の一形態]; 混色. (中) 斑點.

kalmāṣa-griva 形 雑色の頸を有する.

kalmāṣatā (女) [kalmāṣa (形) の 抽].

kalmāṣa-pada (中) [王の名] 斑足 *Lank.*

kalmāṣa-pāda 男 [Sandāsa の一王の名].

kalmāṣa-puccha 形 斑點ある尾を有する.

kalmāṣāṅghri 男 = kalmāṣa-pāda.

kalmāṣita (過受分) (具)にて種々に彩られたる, …にて斑點を附せられたる.

kalmāṣi (女) 斑の牝牛; [河の名, = Yamunā 河].

kalya 形 健康なる, 病なき; 氣力旺盛なる, 強き; 完全なる; (於, 不定)に對して)準備せる; 賢き; 調適 *Abh-vy.* (中) 健康; 黎明; 興奮性飲料; 晨朝, 晨朝時 *Divy.*, *Sapt-pr.* ~m (副) 黎明に, 朝; 明日; 前; 早, 晨朝, 晨旦 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* ~e (於, °) 黎明に, 朝, 翌日, 明日.

kalya-citta 形 智者, 實心, 心調善 *Buddh-c.*, *Bodh-bh.*

kalyatā (女) 健康, 恢復; 身安, 澄定, 極調善性 *Divy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → citta~.

kalyatva (中) [同上].

kalya-varta (中) 朝食; 瑣事.

kalyāṇa 形 (女-i) 美しき, 愛らしき; 善き, 徳ある, 優れたる, 高貴の; 祝福せられたる, 吉祥の, 幸運の, 繁榮せる; 正しき; 善, 賢善, 親善, 眞善, 善勝; 正眞, 眞實; 淨, 淨調柔; 妙, 妙善, 微妙 *Av-ś.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Daś-bh.*, *Sukh-vy. I.*, *Lank.*, *Siks.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雜. 男 [王の名]; 善, 正眞 *Mvyut.* (中) 善; 徳, 功績; 安寧, 幸福, 繁榮; 祭; 徳; 善, 善事; 善知識 *Saddh-p.*, *Gand-vy.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*: ādau ~m madhye ~m paryavasāne ~m 初善中善後善 *Saddh-p.* 17.

kalyāṇaka 形 (醫藥の)卓效ある; 幸運なる; 吉兆の, 繁榮せる; 賢善, 精進 *Divy.*, *Bodh-bh.*

kalyāṇa-kaṭaka 男 [地名].

kalyāṇa-kara 形 (女-i) 繁榮・利益又は幸運を齎す.

kalyāṇa-kāmatā (女) 爲好 *Prāt-m.*: ~m upādāya 爲好故 *Prāt-m.* 493.

kalyāṇa-kāra 形 = kalyāṇa-kara.

kalyāṇa-kāraka 形 [同上].

kalyāṇa-kīrti 形 評判よき.

kalyāṇa-kṛt 形 善行をなす, 徳ある, 情深き.

kalyāṇa-giri 男 [或る象の名].

kalyāṇa-guḍa 男 [特殊の薬品の名].

kalyāṇa-ghṛta (中) [乳酪の一種].

kalyāṇa-citta (中) 眞善心, 眞實心, 清淨善心, 離垢淨心, 善知識心, 心明潔 *Aṣṭ-pr.*, *Gand-vy.*, *Bodh-bh.*

kalyāṇatā (女) 善, 純善, 善奇特 *Gand-vy.*, *Bodh-bh.*

kalyāṇa-devi (女) [或る王妃の名]; [人名].

kalyāṇa-dharma 形 善法 *Rāṣṭr.*, *Prāt-m.*

kalyāṇa-dharman 形 徳性又は徳行ある; 善心, 善法 *Aṣṭ-pr.*

kalyāṇa-paramparā (女) 好運の連続.

kalyāṇa-pātra (中) 選り抜きの(優れたる)壺.

kalyāṇa-puccha 形 (女-i) 美しき尾を有する.

kalyāṇa-pura (中) [町の名].

kalyāṇa-prakṛti 形 性質の高貴なる.

kalyāṇa-prakṛtitva (中) [同上 抽].

kalyāṇa-pratibhāna 形 善巧言詞 *Bodh-bh.*

kalyāṇamaya 形 (女-i) 幸多き, 繁榮せる.

kalyāṇa-mitra 男 善き友, 眞の友; 善友, 眞淨善友, 朋友; 知識, 善知識, 眞善知識; 善等侶 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Gand-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*, *ādhy-vibh.*, 梵雜.

kalyāṇamitra-parigṛhīta 形 親善知識, 善友所攝受 *Mvyut.*

kalyāṇamitrārāgaṇa (°ra-ār°) (中) 敬重善知識 *Mvyut.*

kalyāṇa-lakṣaṇa 形 瑞兆を具せる.

kalyāṇa-lavaṇa (中) [鹽の一種].

kalyāṇa-vartman 男 [王の名].

kalyāṇa-varadhana 男 [人名] (佛敎).

kalyāṇa-varman 男 [人名].

kalyāṇa-vākya (中) 善詞, 辯才巧便 *Bodh-bh.*

kalyāṇa-suvarṇa (中) 淨金 *Sūtr.*

kalyāṇa-svāmi-keśava 男 [Viṣṇu 神の像の名].

kalyāṇādhyāśaya 男 善勝意樂 *Bodh-bh.*

kalyāṇābhijana 形 (女-i) 名門の.

kalyāṇābhiniveśin 形 仁慈なる, 徳又は善行に専念せる [敬稱に用ふ]. 男 保護者.

kalyāṇāśaya (°ṇa-ās°) 男 善意樂 *Bodh-bh.* 形 慈仁 *Av-ś.*

kalyāṇin 形 有徳の; 繁榮せる, 幸福なる.

kalyāṇi (女) 豆(の一種) [學名 *Glycine Debilis*]; 牝牛.

kalyāṇodarka (°ṇa-ud°) (中) めでたき結末.

kalyotthāyin (°ya-ut°) 形 黎明に起きたる.

kalla 形 雙の; 雙 *Aṣṭ-pr.*; 啞 *Mvyut.* → kala.

kallaṭa 男 [王の名].

kalla-vāla 男 (俗) [<kalya-pāla]; 賣酒 *Mvyut.*

kalla-vira-tantra (中) [佛典の名].

kallola 男 波, 巨浪.
kalhaṇa 男 [Rājatarāṅgiṇī の著者の名].
kalhāra 中 = kahlāra.
kava, ° — [=ka-, kad-, kā-, ku-] 悪しき.
kavaka 中 葷.
kavaca 男 中 甲冑, 鎧, 被覆, 短上衣; 樹皮; 鎧, 盔鎧, 盔甲, 甲, 衣甲 *Mañj-m., Mvyut.* 男 [Dhṛtarāṣṭra の息子の名].
kavaca-dhara 形 甲冑を著くる年齢の即ち青年の. 男 軍事訓練を受くるに適せる年齢に達したる Kṣatriya の青年.
kavacaya 名動 鎧を著く.
kavaca-hara 形 = kavaca-dhara (形).
kavacikā 女 遮袍; 投索 *Mvyut.*
kavacita 通受分 鎧を著けたる; 被鎧, 爲鎧, 穿戎衣, 被以甲冑; 以莊嚴 *Lal-v., Mvyut.*
kavacin 形 [同上].
kavaḍa 含嗽水及他の口中薬, ~kavaḍa (*Divy.*); 搏食, 食搏, 飲食, 食分 *Divy., Aṣṭ-pr., Mvyut.*
kavaḍa-cchedaka 形 分搏, 齧半 [=段食齧半], 斷食分, 偏剝 *Prāt-m., Mvyut.:* ~ piṇḍa-pāta 分搏飯食, 偏剝食 *Prāt-m. 592.*
kavaḍim-kārāhāra (°ra-āh°) 男 搏食 *Mvyut.*
kavaḍi-kāra 形 段 *Abh-k.*
kavaḍikāra-bhakṣa 形 段食 *Abh-vy.*
kavaḍikārāhāra (°ra-āh°) 男 段食 *Bodh-bh., Abh-vy.*
kavaḍi-Kṛ, 段別 *Abh-vy.* (不變分) **kavaḍi-kṛtya.**
kavandha 男 中 樽; 雲; 腹; (身體の) 軀幹; [惡鬼 Danu の稱, その頭と腿は Indra 神によりてその胸體に押し込まれる].
kava-patha 男 惡路.
kavaya 名動 他 **kavayati** 詩作す.
kavara 形 混合せる, 雜りたる, 種々に彩れたる. 男 髮, 髮紐.
kavara-bhāra 男 美髮.
kavari 女 = kavara (男).
kavarika 形 —°, = kavara (形).
kavari-bhara 男 美髮.
kavari-bhāra 男 [同上].
kavari-bhṛt 形 髮紐を著けたる.
kavala 男 口一杯の量, 一口の食物; 口嗽ぎ, 含嗽劑; 食搏 *Divy.*
kavala-graha 男 飲料水を一口攝ること; 含嗽水; [重量の單位, =karṣa].
kavala-grāha 男 呑み或は口を嗽くに十分なる水; 含嗽劑.
kavalatā 女 一口なること; 含嗽劑.
kavalana 形 呑む. 中 呑むこと, 呑み込むこと; 食ふこと; 口中に入るゝこと.
kavalaya 名動 他 **kavalayati** 呑む; 貪食す. (通受分) **kavalita** 一口に呑まれたる; 食はれたる.
kavalaya-puṣpa 中 青蓮花 *Mvyut.;* (音寫) 句 婆羅花 *Mvyut.*
kavalikā 女 傷を覆ふ布片, 繻縞.

kavalita 通受分 → kavalaya.
kavali-Kṛ, 嗽ふ.
kavaṣa 形 (女 -i) 擴がれる. 男 [人名]; [聖仙の名].
kavaṣin 男 [聖仙の名].
kavāgni 男 小火.
kavāṭa 男 中 扉, 戸板.
kavāṭaka 形 —° [同上].
kavāri 形 我儘なる; 吝嗇なる.
kavā-sakha 形 (我儘なる人の友なる), 我儘なる.
kavi 形 洞察する, 賢き, 賢明なる, 伶俐なる; 熟練なる. 男 思索家, 賢人, 聖者, 豫言者; 詩人; 金星 (遊星の); [諸神の稱]; 才學, 文飾; 詩人, 作文者, 文頌者 *Divy., Aṣṭ-pr., Mvyut.:* ~ kṛtam kāvyam 文頌者(虚誑)撰集, 文飾莊校之辭 *Aṣṭ-pr. 674.*
kavikā 女 轡(馬具の).
kavi-kratu 形 賢人の洞察を有する, 賢き.
kavitama 最上 最も賢き.
kavitarā 匹敵 より賢き.
kavitā 女 作詩の法又は天分; 文句 *Rāṣṭr.*
kavitva 中 [同上].
kavitvana 中 智.
kavi-putra 男 [或る戯曲作者の名].
kavi-prasasta 形 聖者に尊敬又は稱讚せられたる.
kavi-ratha 男 [王子の名].
kavi-rāja 男 詩人の王; [或る詩人の名]; 文中王 *Sikṣ.*
ka-viruditaka 中 數度の悲歎.
kavi-vṛṣan 男 優れたる詩人.
kavi-śasta 形 聖者によりて語られたる或は稱讚せられたる.
kaviṇḍu 男 [Vālmiki の稱].
kaviyat (現分) 形 賢者の如く行動する.
kaviyamāna (現分) 形 智ある如く装ふ.
kavoṣṇa (va-uṣ) 形 生温き. 中 微温.
kavoṣṇatā (°va-uṣ°) 女 [同上(中)].
kavya 形 = kavi. 男 祖 [或る祖靈]. 中 Kavya 祖靈に對する供物 [一般に havya と俱に用ふ]; 祀祖 *Mvyut.*
kavyatā 女 聖者たること; 智.
kavya-vāhana 形 祖靈に供物を運ぶ (*Agni* 神).
kavya-havya-bhuj 男 [*Agni* 神の稱].
kaśa 男 齧齒類動物(の一種); 鞭.
kaśa-daṇḍa-tādita 形 加(諸)杖捶 *Saddh-p.*
kaśambaka 男 [=kasambaka]; 空腹樹, 腐朽棟梁, 穢蝸螺 *Abh-vy., Sikṣ.*
kaśambaka-jāta 形 [=kasambaka-jāta]; 猶如朽木, 如穢蝸螺 *Sikṣ., Mvyut.* [*Mvyut.* 註記 p. 58 参照].
kaśas 中 動くこと, 動作; 水.
kaśā 女 鞭; 轡; 鞭 *Sikṣ.*
kaśāghāta (°śa-āgh°) 男 鞭の一打.
kaśā-nipāta 男 [同上].
kaśā-pāta 男 [同上] (*Buddh-c.*).
kaśāvat 形 鞭を備へたる.
kaśikā 女 鞭.
kaśipu 男 中 席, 褥, 枕.

kaśipûpabarhaṇa 甲 枕の覆ひ; 覆ひ, 布.
 kaśikā 乙 [=nakuli] 鼯鼠.
 kaśeru-yajña 男 [供物の一種].
 kaśmala 形 (乙 -ā 又は -i) 汚れたる, 不純の. 甲 汚穢; 不純, 罪; 優柔不斷; 落膽, 失望; 罪 Bodh-c.
 kaśmira 男 種 [民族の名]; 國 [國の名 (Cashmere)]; 罽賓 (Mahāparinirvāṇa-sūtra).
 kaśyapa 形 黒き齒を有する: 男 龜; [神聖なる生物の名]; [諸聖仙の名]; 大仙の名 龜 Mvyut.; 伽葉波 Mvyut.
 Kaś, I. 他 自 kaśati(-te) 摩擦す, 搔く; 試む; 傷つく, 殺す. 便役 他 kāśayati 傷つく.
 kaśa 形 (一°)を搔く. 男 摩擦; 試金石.
 kaśata 男 [Pāli. kaśata] 濁, 査 Mvyut.; 槽糠 Saddh-p. 44. → parṣat ~.
 kaśana 甲 摩擦すること, 掻き取ること; 振ること.
 kaśa-paṭṭikā 乙 試金石.
 kaśa-pāṣāṇa 男 [同上].
 kaśava 甲 罽賓 [數の名] 迦濕摩 Mvyut.
 kaśā 乙 =kaśā.
 kaśāku 男 火; 太陽.
 kaśāya 形 收斂性の(味); 芳香ある; 赤き, 黄赤色の; 澁 Mvyut. 男 赤色; 熱情. 男 甲 收斂性の香又は味, 收斂性の液; 煮汁; 黄赤色; 一服の藥量; 塗油; 汚穢; 汚染; 悪化, 道德的廢類; 愚鈍; 澁; 淡味; 濁, 穢, 穢濁, 濁悪 Lal-v., Daś-bh., Saddh-p., Lan̄k., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵雜: pañca ~ āḥ 五濁 [1. āyus ~ ḥ 命濁, 2. dr̥ṣṭi ~ ḥ 見濁, 3. kleśa ~ ḥ 煩惱濁, 4. sattva ~ ḥ 衆生濁, 5. kalpa ~ ḥ 劫濁] Dharm-s., Mvyut. 甲 黄衣; 染色衣; 袈裟衣 Sikṣ.
 kaśāya-kāla 男 濁惡世 Bodh-bh.
 kaśāyatā 乙 (口を)すぼむること. → parṣat ~.
 kaśāya-danta 男 [鼠の一種].
 kaśāyaya 名動 他 kaśāyayati 汚す, 悩ます. 過受分
 kaśāyita 赤く彩られたる, 赤き, 汚されたる, 汚染せられたる; (一°)を以て貫かれたる, ……に充ちたる.
 kaśāya-vaktratā 乙 口をすぼむること.
 kaśāya-vasana 甲 佛教の比丘の纏ふ赤黄色の衣.
 kaśāya-vastra 甲 [同上].
 kaśāyikā(?) 乙 嚙嚙 Mvyut. → kapāpikā.
 kaśāyita 過受分 → kaśāyaya.
 kaśāyi-Kṛ, 赤くす.
 kaśāyi-kṛta 形 赤くなりたる.
 kaśāyikṛta-locana 形 眼の赤くなれる.
 kaśāyi-BHū, 赤くなる.
 kaśāyi-bhūta 形 赤くなれる; 汚されたる, 不浄なる.
 kaśi 形 傷つくる, 害ある.
 kaśta 過受分 悪しき; 重き, 厳しき; 苦痛ある, 悲惨なる; 強制せられたる, 不自然の; 有害なる, 危険なる; 難 Abh-vy. 甲 悪, 不幸, 非運; 苦痛, 困難; 憂愁, 悲惨; 不安; 濁 [=Pāli. kaśata] Mvyut.; 憂惱 Lal-v.: sarvaṃ ~ m śādayati 除

諸濁 Mvyut.; hā ~ m iti kṛtvā 心生憂惱 Lal-v. 407.
 ~āt ~taram, 悪中の最悪.
 ~m, ~ena 乙, ~āt 従, ° — 副 辛じて, 唯だ纒かに.
 ~m 聞投 嗚呼悲しき哉 [屢々 dhik 又は hā dhik と俱に]; 哉 梵干.
 kaśta-tapas 形 厳しき苦行をなす. 甲 苦行, 苦道 Divy., Abh-vy. 男 苦行者.
 kaśtatara 比較 最も危険なる又は有害なる.
 kaśta-labhya 未受分 得難き.
 kaśta-śrita 形 苦痛・不運又は困難に遭遇せる; 悔悟する.
 kaśtāgata (°ta-āg°) 形 困難して到達せる.
 kaśtādhika 形 一層悪しき, 甚だ悪しき.
 kaśtāya 名動 自 kaśtāyate 悪意を持つ.
 kaśtārtha 形 無理の或は不自然なる意味を附與する.
 kaśmilitākṣa 形 目瞶 Mvyut.
 Kas, I. 他 kasati 光を放つ, 輝く; 行く, 動く, 近づく.
 nis- 便役 niśkāsayati 驅り出す; 驅, 令出, 遣出 Divy.
 vi- 裂く, 開く, 咲く; (喜を以て)輝く; 擴く, 伸ぶ; 開 Divy. 便役 vikāsayati 開かしむ, 花咲かしむ.
 pra-vi- 開く. 過受分 pravikasita 開かれたる, 開花せる. 便役 開かしむ, 咲かしむ.
 kas 代 [kim の 男 體 單]; 誰, 何人 Bodh-bh.
 kaśambaka 男 [=kaśambaka]; 羯商摩 Aṣṭ-pr. 398.
 kaśambaka-jāta 形 [=kaśambaka-jāta]; 如穢 蝸螺 [Tib. lo-hdab-rul-blta-bu] Aṣṭ-pr. 398. [Udāna の注釋 V. 5. 参照].
 kaśāras 男(?) 鳥(の一種).
 kasun, 接尾音 as (乙法).
 kaśambhī 乙 轅の支柱.
 kaśturikāṇḍa (°kā-an°) 甲 麝 Mvyut. → kaśturikāṇḍa.
 kaśturikā 乙 麝香鹿; 麝香; 麝, 麝香, 麝有香 Sikṣ., 梵干., 梵雜.
 kaśturikā-kuraṅga 男 麝香鹿.
 kaśturikāṇḍa (°kā-an°) 甲 麝 Mvyut.
 kaśturikā-mṛga 男 =kaśturikā-kuraṅga.
 kaśturikā-mṛgi 乙 牝麝香鹿.
 kaśtūri 乙 麝香.
 kaśtūri-mṛga 男 =kaśturikā-kuraṅga.
 kaśmāt 副 [kim の 従] 何處より, 何を以て, 何故に.
 kaśoḍa 男 [人名].
 kaśola 男 [同上].
 kaślāra 甲 (食用)白睡蓮.
 kā, ° — [=ka-, kad-, kava-, ku-] 悪しき [例] kā-patha, kā-puruṣa].
 kāṃsi 男 酒杯, 盃.
 kāṃsa 1. 甲 [=kāṃsya (甲)]; 銅 Lan̄k.
 kāṃsa 2. 甲 [Pāli. kāṃsa]; 斗 Saddh-p. 402., Bodh-bh. 28. → ~kūta.

kāmsa-kūṭa ㊦ 𑖑𑖔 偽斗, 斗欺誑 *Saddh-p. 402*.
[刊本 māna-kūṭa, Cb. (katsa =) kāmsa-kūṭa], *Bodh-*
bh. 28.: tula-kūṭānām ~ ānām 斗秤欺誑人 *Sad-*
dh-p. 402.; ~ tulā-kūṭa 偽斗秤 *Bodh-bh. 28.*

kāmsika 形 [=kāmsya (形)]. *Pāli. kāmsa* 𑖑𑖔 鑰
匙 *Saddh-p. 50.*

kāmsikā ㊦ 金屬の容器(又は樂器の一種) (*Divy.*).

kāmsya 形 眞鍮の. ㊦ 眞鍮; 眞鍮の盃.

kāmsyaka 形 眞鍮より成る.

kāmsya-kāra 男 眞鍮の細工人, 鑄鐘師.

kāmsya-koṣi ㊦ [樂器の名].

kāmsya-ja 形 眞鍮製の.

kāmsya-tāla 男 鑄鉢.

kāmsya-doha 形 眞鍮製の牛乳桶を有する.

kāmsya-dohana 形 [同上].

kāmsya-tila 形 銅の如く黒き. 男 [或る猿の名].

kāmsya-pātra ㊦ 眞鍮の器物.

kāmsya-pātri ㊦ [同上].

kāmsyopadoha (°ya-up°) 形 =kāmsya-doha.

kāmsyopadohana (°ya-up°) 形 [同上].

kāka 男 烏; 𑖑𑖔 烏, 鴉, 烏鴉, 黒鳥 *Gaṇḍ-vy.*,
Suv-pr., *Sikṣ.*, *Mvyut.*, 梵雜.

kāka-kulāya-gandhika 形 烏の巢の臭氣ある.

kāka-cañcuka ㊦ 𑖑𑖔 鴉嘴刀 *Mvyut.*

kāka-jaṃghā ㊦ [植物の名, 學名 *Leea Hirta*];
𑖑𑖔 鴉足 *Abh-vy.*

kākaṇaka ㊦ [癩病の一種].

kākaṇi ㊦ 𑖑𑖔 貝子, 錢, 一錢 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*;
𑖑𑖔 [價二十貝謂] 迦迦尼 *Mvyut.*: eka-ratna ~
一寶錢 *Gaṇḍ-vy. 205.*

kākatā ㊦ 烏たること.

kāka-tāliya 形 烏と棗の [物語に於て果實の落下の
如く偶然なる 即ち烏が棗椰子の樹に止りたる瞬間に
棗の實の落下せる如く偶然なる (*post hoc, non pro-*
pter hoc)]; 偶然なる, 不意の, 豫期せざる.

kāka-tāliyam 𑖑𑖔 突然に, 期せずして.

kāka-tāliyat 𑖑𑖔 [同上].

kāka-tuṇḍa 男 [黒き沈香 (*Agallochum*)].

kāka-tuṇḍaka 男 [水禽の一種].

kākatva ㊦ =kākatā.

kāka-nāsā ㊦ [植物の名].

kāka-pakṣa 男 烏の翼; 小兒又は青年の額上の捲毛.

kāka-pakṣaka 形 —° [同上].

kāka-pakṣin 形 𑖑𑖔 鴉鷲之屬 *Suv-pr.*

kāka-pada ㊦ 烏の足の形の印; 烏の足の形をなせ
る基脚.

kāka-paṇḍi ㊦ [植物の名, 學名 *Phascolus trilobus*].

kāka-puṣpa 男 [植物の名].

kāka-bijaka 𑖑𑖔 [植物の名, 學名 *Diospyros tomen-*
tosa].

kāka-madgu 男 水鷄, 田鷄.

kāka-māci ㊦ [植物の名, 學名 *Solanum indicum*];
𑖑𑖔 苦菜 梵雜.

kākaṃ-bira 男 [樹の名].

kāka-yava 男 𑖑𑖔 穂に穀粒なき大麥.

kāka-raṇa ㊦ 驢馬の高嘶き.

kāka-rava 形 烏の如く啼く; だらしなき, 卑怯なる.

kāka-ruka 形 心弱き, 卑怯なる, 臆病なる.

kāka-ruta ㊦ 鴉の啼聲 [その時々事情によりて吉
兆又は凶兆と見做さる].

kāka-rūka 形 =kāka-ruka.

kākalaka ㊦ 喉頭, 甲狀軟骨; [米の一種].

kākali ㊦ 低く快き調子.

kākali ㊦ [同上]; (人が眠りしや否やを試す)低調の
樂器.

kāka-varṇa 男 [王侯の名].

kāka-varṇin 男 𑖑𑖔 [人名] 烏耳 *Divy.*

kāka-vāśika 形 カーカと啼く [烏の啼聲の 𑖑𑖔].

kāka-vairin 男 梟.

kāka-śaṅkin 形 烏の如く臆病なる.

kāka-śikhaṇḍaka 男 (剃髮式の前に顛頂に残さる
る烏の翼の形をなせる)髪束.

kākā-kṛt 形 カーカ-叫ぶ.

kākākṣi ㊦ 烏の眼 [たゞ一の眼球を有し, 場合によ
りて必要の方向に向くと云はる].

kākākṣi-gola-nyāya 男 [同下].

kākākṣi-nyāya 男: ~ena 男 ~āt ㊦ 烏の
眼の如くに(即ち先行の或は後續の事柄の孰れに關し
ても反對の方向に).

kākāṇḍa 男 [豆の一種]; [蜘蛛の一種].

kākāṇḍaka 男 [植物の名, 學名 *Diospyros tomen-*
tosa].

kākāṇḍakā ㊦ [蜘蛛の一種].

kākāṇḍa-varṇa 男 𑖑𑖔 綠色 [*Tib. kha-dog-ljañ-*
gu] *Abh-vy. 25.*

kākābhilīnaka 形 𑖑𑖔 如亂巢穴 *Divy. 83.*

kākāra 形 交尾期の液を分泌せる.

kākāla 男 大鳥.

kākāsyaka (°ka-ās°) 形 𑖑𑖔 花 [*Tib. me-tog-kha-*
phye-ba] *Mvyut.*

kākiṇikā ㊦ [同下].

kākiṇi ㊦ 子安貝の類, 小貨幣 [二十 *Kaparda* 又は四
分の一 *Pana* に等し]; 𑖑𑖔 [貨幣の單位] 銖 *Lal-v.*

kākiṇika 形 一 *Kākiṇi* に値する.

kākiṇi ㊦ =kākiṇi.

kāki ㊦ 雌鳥.

kāku ㊦ 悲痛の叫, 哀哭; 聲の變化, 強調.

kākutstha 男 *Kakutstha* の子孫 [*Aja, Daśaratha,*
Rāma, Lakṣmaṇa の稱].

kākud ㊦ 口蓋.

kākudika ㊦ [神話上の武器の一種].

kākocchvāsa (°ka-ue°) 形 (恐怖の爲に)烏の如く速
かに呼吸する.

kākottāra-samartha (°ka-ut°) 形 𑖑𑖔 能驅鳥, 能
驚迂鳥鴉 *Mvyut.*

kākodara (°ka-ud°) 男 蛇.

kākola 𑖑𑖔 [烏の一種]. ㊦ 毒(の一種); 地獄(の名).

kākoli ㊦ [藥草の名].

kākolūkikā (°ka-ul°) ㊦ 烏と梟との自然的敵意.

kākolūkiya (°ka-ul°) ㊦ [同上]; 烏と梟との物語
[*Pañcatantra* の第三冊の題名].

kākṣa (kā-ak°) 形 眉を顰むる, 輕蔑する如く見ゆる,

不快に見ゆる。

kākṣaseni 男 [(Kakṣasena の後裔), Abhipratārin の稱].

kākṣiva 男 [Mahābhārata の英雄の名].

kākṣivat 男 = kākṣivat.

kākṣivati 女 Kākṣivat の娘.

kākhorda 男 [悪鬼の名] 祿蠱, 蠱道, 邪蠱道 [Tib. byad stems] *Suv-pr.* 3; 壓鎮 [Tib. byad] *Mvyut.*: apasmāra ~ 變怪 *Gand-vy.* 450.

kākhorda-graha-dāruṇa 男 蠱道邪魅 *Suv-pr.*

kākhorda-dāruṇa-graha 男 被邪蠱侵, 衆邪蠱道變怪相續 *Suv-pr.*

kāgni (kā-ag°) 男 小火.

Kāñkṣ, I. 他 自 **kāñkṣati(-te)** 願ふ, 渴望す, 希求す; (業)を期待す, ……を待つ; 得んと努力す; 望, 志, 念, 求; 樂, 愛樂; 思, 渴思 *Divy., Daś-bh., Sam-r., Sūtr., Śikṣ.*; 疑, 疑惑 *Aṣṭ-pr.* 通受分 **kāñkṣita** 希望せられたる, 期待せられたる, 渴望せられたる; (因, 業)に就きて考へられたる; 疑はしき (*Divy.*).

abhi- 渴望す; 願 *Śikṣ.* 通受分 **abhi-kāñkṣita** 希はれたる, 欲求せられたる.

ā- 願ふ, 欲す; 探求す; (業)を待つ; (圖)を捜す; (業)に向ふ; 補足語として要求す (文法); 望; 思; 乞; 欲, 樂欲, 意欲; 發意; 求, 求欲, 希求, 樂求 *Divy., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Daś-bh., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*, 梵+; 疑心, 欲問, 生疑慮 *Sukh-vy. II., Lanḱ.* 現分 **ākāñkṣamāṇa** 欲 *Mvyut.*

prati- 望む, 熱望す; 希, 悌, 求, 望, 希望, 希求, 悌望, 思念希望; 求欲, 希冀; 當得; 生取著 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.* 現分 **pratikāñkṣamāṇa** 希 *Bodh-bh.*

vi- 企圖す, 目標を立つ; 滞る, 躊躇す; 欲, 求欲, 欲求 *Madhy-v.*

kāñkṣa 1. [音義] = kāñkṣā (女) [音義] 疑 *Gand-vy., Rāṣṭr.*

-kāñkṣa 2. 形 [音義] 願, 樂 *Rāṣṭr.* → nis ~.

kāñkṣaṇiya 未受分 欲求せらるべき.

kāñkṣaṇiyā 女 (一°)に對する欲求.

kāñkṣā 女 一° 欲望, 欲求, 願望; 求, 悌求; 愛 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Lanḱ., Bodh-c.*; 疑, 疑惑, 疑悔, 狐疑, 疑(網); 迷倒, 顛倒; 不決; 惑 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Mvyut.*

kāñkṣāyitatva 甲 [音義] 望, 所求相 *Aṣṭ-pr.*; 疑惑 *Aṣṭ-pr.*

kāñkṣāyitavya 未受分 [音義] 疑惑 *Sapt-pr.*

kāñkṣita 通受分 → Kāñkṣ. 甲 希望.

kāñkṣitā 女 欲求.

kāñkṣin 形 (業, 一°)を欲求する, ……を渴望する, ……を待望する; 求 *Sūtr., Guhy-s.*

kāca 男 硝子, 玻璃; 瑠璃, 琉璃 [=vaiḍūrya の音義] *Abh-vy.* 81; [音義] 迦拓 支應.

kācaka 男 硝子, 石; 鎗石 *Mvyut.*

kāca-paṭala 甲 [音義] 眼障 *Mvyut.*

kāca-maṇi 男 水晶; [音義] 水精 支應; [音義] 迦遮末尼 支應.

kāca-maṇika 男 [音義] 水精 *Kāśy.*

kācara 形 硝子製の; 硝子の如き(猫の眼).

kācalindika 甲 [音義] 細綿衣 *Mvyut.*; [音義] 迦遮隣地衣, 劫雜臨持衣 *Mvyut.*

kācākṣa 形 (硝子の如き眼の); [水禽の名]; [音義] 目如玉, 水精眼 *Mvyut.*

kācilindika 甲 [音義] [音義] 迦隣那, 迦陵陀(衣), 迦隣陀(衣), 迦隣迦(衣) *Lal-v., Sukh-vy. I.*

kācilindika-sukha-saṃsparśa 形 [音義] [音義] 身體柔軟如迦隣陀衣 *Lal-v.*

kāja 甲 木槌.

kā-jala 甲 少量の水, 膏藥. 形 水なき.

kāñcana 甲 黄金; 金錢; [音義] 金, 紫金, 紫磨金 *Lal-v., Av-ś., Saddh-p., Rāṣṭr., Abh-vy.* 形 (女-i) 黄金の, 黄金製の.

kāñcana-kānti 形 黄金の如く輝ける.

kāñcana-koṭi 女 [音義] 金鬘, 鑄金鬘 [Tib. sa-luḥi gser-ltar = kāñcana-śara(i)] *Suv-pr.* 39.

kāñcana-garbha 形 [音義] 有金 *Mvyut.*: ~ ā mṛttikā 土中有金 *Mvyut.*

kāñcana-giri 男 黄金山; [Meru 山の稱].

kāñcana-cakra 甲 [音義] 金輪(際) *Śikṣ.*

kāñcana-tapta 形 [音義] 鎔金, 融金 *Suv-pr.*

kāñcana-damṣṭra 男 [王侯の名].

kāñcana-pura 甲 [町の名].

kāñcana-puri 女 [同上].

kāñcana-prabha 形 黄金の如く輝く, 黄金にて輝く.

kāñcana-prabhā 女 [或る Vidyādhara の王女の名].

kāñcanamaya 形 (女-i) 黄金製の.

kāñcana-mālā 女 [諸人の名]; [或る Apsaras の名] (*Kār-vy.*); [音義] [Kvñāla 王子の妃の名] 眞金鬘, 金鬘花 *Divy.*; [音義] 干遮那摩羅 *Divy.*

kāñcana-mālin 形 黄金の鬘を有する.

kāñcana-varṇa 甲 [音義] 金色, 紫磨金色 *Saddh-p.*

kāñcana-varman 男 [王の名].

kāñcana-vālukāstirṇa ("kā-ās°) 形 [音義] 金沙灘 *Mvyut.*

kāñcana-vega 男 [或る Vidyādhara の名].

kāñcana-śṛṅga 甲 [神話上の都市の名].

kāñcana-śṛṅgin 形 金の峯ある.

kāñcana-saṃdhi 男 [相對立する兩者に對して各々同等の友好關係を結ぶこと].

kāñcana-saṃnibha 形 黄金の如き.

kāñcanasam̐nibha-tvaktā 女 [音義] [三十二相の一] 身皮金色, 身金色相, 金色身 *Bodh-bh.*

kāñcanasam̐nibha-tvac 形 [音義] [三十二相の一] 身金色, 身皮金色, 身眞金色 *Bodh-bh.*

kāñcanasam̐nibha-tvacatā 女 [音義] [三十二相の一] 金色相, 身皮金色, 身金色相 *Bodh-bh.*

kāñcanāṅgadin 形 黄金の腕環を著けたる.

kāñcanācala 男 [Meru 山の稱]; [音義] 金山 *Rāṣṭr.*

kāñcanādri 男 [同上].

kāñcanābhā (°na-ābhā) ㊦ [町の名].
kāñcanābhīdhāna-saṃdhi ㊦ = kāñcana-saṃdhi.
kāñcaniya ㊦ 黄金の.
kāñci ㊦ [民族の名].
kāñci ㊦ (小さき)帯 [一般に鈴等を以て飾らるゝ婦人の帯]; [町の名]; ㊦ 金帯 *Mvyut.*
kāñci-kalāpa ㊦ (小さき)帯.
kāñci-guṇa ㊦ 腰帯.
kāñciguṇa-sthāna ㊦ 臀部.
kāñci-pura ㊦ [町の名].
kāñcukin ㊦ = kāñcukin; 武装せる.
kāñcukiya ㊦ [= kāñcukiya]; ㊦ 内人, 侍者 *Lal-v.*
kāñcukiya-puruṣa ㊦ ㊦ 侍従 *Lal-v.*
kāñcyā ㊦ [民族の名].
kāñjika ㊦ 酸き粥; ㊦ 漿, 醋漿 *Divy.*
kāñjika-cchiṭi ㊦ (†) ㊦ 醋漿 *Divy. 496.*
kāñjika-vaṭaka ㊦ 皿(の一種).
kāṭa ㊦ 架さ, 窓, 奥; 穴, 井.
kāṭaka ㊦ ㊦ 架, 坐兒 *Mvyut.* → pātra ~.
kāṭaya-vema ㊦ [或る註釋者の名].
kāṭava ㊦ 鋭利.
kāṭaksa ㊦ ㊦ (†) 液體を容るゝ壺.
kāṭha ㊦ *Kaṭha* より出でたる.
kāṭhaka ㊦ (㊦-*i*) 黒 *Yajur-veda* の一派なる *Kaṭha* 派に關する. ㊦ [黒 *Yajur-Veda* の *Samhitā* の一].
kāṭhakopaniṣad (°ka-up°) ㊦ = kāṭhokopaniṣad.
kāṭhinya ㊦ 堅きこと, 硬きこと; 牢乎たること, 嚴格; (文章の意味の)晦澁, 不明瞭; ㊦ 堅, 堅實 *Abh-vy.*
kāḍisāma ㊦ ㊦ [< kāḍa-śyāma, *Pāli.* kāḍa-sāma] ㊦ [衣の色の名] 木蘭 *Prāt-m. V. 60.*
kāṇa ㊦ 隻眼の; 盲目の; 貫かれたる; 一の把手を有する; ㊦ 翳; 盲; 瞎, 瞎子, 眼瞎, 眇目; 失一目 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Lank., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*
kāṇaka ㊦ ㊦ 眇目, 無一目 *Saddh-p.*
kāṇatva ㊦ 隻眼なること.
kāṇa-deva ㊦ [*Nāgārjuna* の弟子の名].
kāṇa-bhuja ㊦ *Kāṇḍa* (*Kāṇabhujī*) の學徒.
kāṇa-bhūti ㊦ [或る *Yakṣa* の名]; [或る *Piśāca* の名].
kāṇāda ㊦ *Kāṇāda* に由來せる. ㊦ ㊦ [外道の名] 食米齋徒, 食屑 *Mvyut.*
kāṇūka ㊦ 烏.
kāṇeli-mātr ㊦ 私生兒.
kāṇelimātr-suta ㊦ [同上].
kāṇṭaka ㊦ (㊦-*i*) 荆棘より成る.
kāṇḍa ㊦ ㊦ 片; 植物の一節(結節より結節まで); 細片; 葉片, 枝, 莖, 幹; 箭; (骨の)管; 部分, 章段(書物の); 行作又は供犠祭の特殊の部分; ㊦ 節, 莖, 箭, 箭莖 *Aṣṭ-pr., Sūtr., Abh-vy., Guhy-s., Mvyut., 梵千, 梵雜;* 燧, 木 *Madhy-v. 50.:* ~ena mahim vilikhati 箭創地 *Mvyut.*
kāṇḍaka ㊦ ㊦ 際, 節, 段 *Abh-k.* → tri ~.
kāṇḍa-kāra ㊦ [或る工匠の名].
kāṇḍa-paṭa ㊦ 帳, 幕, 外天幕.
kāṇḍa-paṭaka ㊦ [同上].
kāṇḍa-prṣṭha ㊦ (箭を負へる), 箭又は一般の武器の

製造を生業とせる [又々輕蔑の語として用ひらる].
㊦ 武器の製造を生業とせる婆羅門; 娼妓の夫.
kāṇḍa-bhagna ㊦ 骨折, 脱臼.
kāṇḍarika ㊦ ㊦ 上不齊, (房室過度) *Mvyut.*
kāṇḍa-vastra ㊦ 幕, 帳.
kāṇḍa-vaṇā ㊦ [樂器の名].
kāṇḍa-sprṣṭa ㊦ = kāṇḍa-prṣṭha (㊦).
kāṇḍānusamaya ㊦ [第二の對象の爲に祭式を行ふ前にそれと全く同じき祭式を豫め或る對象に對して執行すること].
kāṇḍāra ㊦ [或る混合種姓(階級)の名].
kāṇḍin ㊦ 蘆の形をなせる, 草の如き.
kāṇḍi ㊦ 小葉片.
kāṇḍira ㊦ 箭を以て武装せる.
kāṇḍekṣu (°ḍa-ik°) ㊦ [植物の名, 學名 *Saccharum spontaneum*].
kāṇva ㊦ ㊦ *Kāṇva* の子孫; ㊦ *Kāṇva* 學派.
kāṇvāyana ㊦ ㊦ *Kāṇva* の末裔たる. ㊦ ㊦ [或る王朝の名].
kāṇvya ㊦ *Kāṇva* の子孫.
kāt (不變辭) [輕蔑の意を含む ㊦ 頭 (*Kṛ* を伴ふ ㊦ 成) のみ用ふ]. → kāt-*Kṛ*.
kā-tantra ㊦ [或る文典の名]. ㊦ ㊦ [*Kātantra* を祖述する學派].
kātara ㊦ 卑怯なる; 臆病なる, 小心の, 失望せる; 混亂せる, 當惑せる; 畏縮せる; (㊦, ㊦, 一°) を恐るゝ.
kātaratā ㊦ 恐怖.
kātaratva ㊦ [同上]; ㊦ 怖 *Bodh-c.*
kātara-dhi ㊦ 意氣沮喪せる, 元氣なき.
kātarya ㊦ 臆病, 憂惧; 小心, 卑怯.
kāt-Kṛ, 嘲弄す, 嘲笑す.
kātyāyana ㊦ ㊦ [祭式 (*Kātyāyana-śrauta-sūtra*) 文典 (*Pāṇini* 文典に對する *Vārttika*) 音韻學 (*Yajur-veda Prātiśākhya*) に關する著作者の名及び聖者の名]; ㊦ ㊦ 迦旃延, 迦多延, 迦多衍那 *Lank., 立應.* ㊦ (㊦-*i*) *Kātyāyana* より出でたる.
kātyāyanāvavāda ㊦ ㊦ [經の名] (㊦) 教授迦旃延, 化迦旃延經 *Madhy-v.*
kātyāyanikā ㊦ 中年の寡婦.
kātyāyani ㊦ [*Yājñavalkya* の妻の名]; ㊦ ㊦ [天の名] 迦旃延 *Lal-v.*
kātyāyani-putra ㊦ [或る論師の名]; ㊦ [説一切有部の論師の名] (㊦) 迦旃延子, 迦多衍尼子 *Abh-vy.*
kātyāyaniya ㊦ ㊦ *Kātyāyana* 學派. ㊦ [種々の著作の題名].
kāḍamba ㊦ (暗灰色の翼を有する) 鵝(の一種). ㊦ [*Kāḍamba* 樹 (*Nauclea Cadamba*) の花].
kāḍambara ㊦ 酸き乳酪; [*Kāḍamba* 樹の花より醸造せる酒精多き飲料].
kāḍambari ㊦ [興奮性飲料の一種]; [或る物語の題名及びその女主人公の名]; ㊦ ㊦ 迦譚末梨漿 *Divy.*
kāḍambari-locanānanda (°na-ān°) ㊦ 月(太陰の稱).
kāḍambari-sagdhikā ㊦ 共同の酒宴.
kāḍambini ㊦ 雲の濃密なる層.

kādali ㊦ Kadali 獣の毛皮.
kādācitka 形 (㊦-い) [kadā-cit ㊦] 時々出現するのみの、偶発的の; ㊦ 不恒 *Abh-vy.*
kādācitkatva ㊦ [同上 ㊦]. ㊦ *āt* ㊦ 或有遺出、爲幾回出 *Mvyut.*
kādrava 形 暗黄色の、赤褐色の.
kādraveya 男 *Kadrū* の子孫; [種々の *Nāga* 族の母系].
k-āna-c, [三過分の ㊦尾 -āna].
kānana ㊦ 森 [時として *vana* と俱に用ゐらる]; ㊦ 林、山林、園林 *Buddh-c., Lal-v., Abh-vy.*
kānanānta ㊦ 森林地方; 森; 森の縁又は附近.
kāniṣṭhineya 男 最も若き妻の子息.
kāniṣṭhya ㊦ 最も若き者の位置.
kānina 形 未婚の婦人より生れたる; 若き妻より生れたる.
kānta 1. ㊦ 願はれたる; 愛せられたる; 魅力ある。→ *Kam.* ㊦ 愛、可愛、所愛、所愛味、愛樂; 所須; 所喜; 無厭; 相親 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* 男 愛人、夫。→ *ārya* ㊦.
kānta 2. 形 (㊦) *ka* にて終れる。
kāntaka 男 [人名].
kāntatva ㊦ 愛らしきこと.
kāntā ㊦ 戀人、妻.
kāntānuvṛtta 男 愛人又は戀人に盲従すること.
kāntānuvṛtti ㊦ 愛人を喜ばしむる爲の行爲.
kāntāya 名動自 *kāntāyate* 愛人として振舞ふ。
kāntāra 男 ㊦ 大なる森林; 荒野、荒地; ㊦ 穉林; 曠野; 難、險難、險難處; 嶮道、險路、惡道; 磧 *Lal-v., Av-ś., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*; 惡時; 穀貴 *Suv-pr.*; 遠; 寺、野寺 *Mvyut.* → *pāniya* ㊦, *bubhuksā* ㊦. ㊦ 災難、災害 (*Kār-vy.*).
kāntāraka 男 ㊦ [民族の名].
kāntāra-patha 男 森中の道.
kāntāra-pathika 形 森中の道を行く。
kāntāra-bhava 男 林棲者.
kāntāra-maṇḍūka 男 林中の蛙、(蛙の水中に在るが如く常に林中に住む者).
kāntāra-mārga 男 ㊦ 曠野嶮道 *Bodh-bh.*
kāntāra-vāsini ㊦ [*Durgā* の稱].
kāntārāṇḍa-ja 男 林中の蛙.
kāntā-sakha 形 愛人と共なる。
kānti ㊦ [—°は形 (㊦-い)] 魅力、愛らしさ、優雅、美麗; 輝き、光輝(月の); ㊦ 愛、可愛 *Divy., Bodh-bh.*
kāntika 男 ㊦ [民族の名].
kānti-kosala 男 ㊦ [同上].
kānti-prada 形 光輝を與ふる。
kāntimat 形 愛らしき、魅力ある、美しき。
kāntimati ㊦ [人名]; [音律の一種].
kāntimattā ㊦ 妖艶、優美、美麗。
kānti-sudhāmaya 形 (㊦-い) 美しさの甘露を具へたる。
kānty-amṛta ㊦ 美の甘露(即ち美人の魅力).
kām-dig-bhūta 形 走り去る、遁走する。

kām-diś 形 [同上].
kām-diśika 形 總ての方向に遁れ去る、逸し易き、敗走する。
kānya-kubja ㊦ [= *kanya-kubja*. 都城の名, *Ka-nauj*].
kāpaṭa 形 (㊦-い) 詐欺の、不正直なる。
kā-patha 男 悪しき路; 邪道.
kāpā ㊦ 車.
kāpāla 形 (㊦-い) 頭蓋骨に関する或はにて製したる。男 ㊦ *Kapālin* の學派。
kāpālika 男 *Śiva* 教徒 [人間の頭蓋骨を身に著けそれを食器となす]; [或る混血種姓(階級の名)].
kāpālin 男 [*Śiva* 神の稱]; [人名]; [或る混血種姓(階級)の名]; ㊦ 具頭器、鬘髮徒 *Mvyut.* 形 *Kāpālika* 派によりて實行せられたる。
kāpila 形 (㊦-い) *Kapila* に関する或は特有なる。男 *Kapila* の弟子。
kāpileya 男 (㊦系, 母系) *Kapila* の後裔。
kāpi-vana 男 [二日間續く祭の名].
kāpiśāyana ㊦ 酒精飲料(の一種).
kāpiśi ㊦ [*Ghorband* 河及 *Panjshir* 河の合流點にありし都城の名].
kāpiṣṭhala 男 [*Kapiṣṭhala* の息子又は後裔]; (㊦) [民族の名].
kāpi ㊦ (㊦系) *Kāpya* の後裔; [河の名].
kā-puruṣa 男 陋劣なる人、卑怯者; ㊦ 惡人、不善者 *Sam-r., Śikṣ.* 形 男らしからざる、臆病なる、哀れなる。
kāpuruṣa-vivarjana ㊦ ㊦ 遠離惡人 *Sam-r.*
kāpeya 形 猿に関する。㊦ 猿(の一種).
kāpota 形 (㊦-い) 鳩に特有なる或は屬する; 鳩色の、灰白色の。
kāpotikā ㊦ [植物の一種].
kāpya 男 (㊦系) *Kāpya* の後裔。
kābandhya ㊦ [= *kāvandhya*] 幹の状態、幹のみとなれる状態。
kā-bhartṛ 男 悪しき夫又は主。
kāma 男 (㊦, ㊦, ㊦) に對する願望、欲望; 愛、愛著; 意圖; 快樂; 願はれたるもの; 利益; (性)愛; 愛の神; ㊦ 欲、所欲、貪欲、淫欲、欲塵; 樂、樂欲、欲樂; 愛、愛樂、貪樂; 快樂 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Lan̄k., Prāt-m., Bodh-bh., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*; ㊦ ㊦ 欲樂、諸欲、(五)欲、(五)欲樂 *Bodh-bh.* ㊦ *āt* ㊦ 欣然と; 自發的に; 故らに。—° 形 [屢々 -tu なる ㊦ の後に] ……を欲する、……に意を有する; ㊦ 欲、求、欲求; 希; 愛; 慕; 樂、樂欲 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh.* → *cintayitu* ㊦, *darśana* ㊦, *dharma* ㊦, *punya* ㊦, *putra* ㊦, *pratinivartitu* ㊦, *mitra* ㊦. . . ㊦ *m* ㊦ → *kāmam*.
kāmaka 形 ㊦ 欲樂、樂欲 *Bodh-bh.*
kāma-kākurava 男 鳩。
kāma-kāti 形 希望の満足を要求する。
kāma-kāma 形 總ての種類の欲望を有する。
kāma-kāmin 形 [同上].

kāma-kāra 形 (願)の願望を満たす。男 自發的行動; 意志の自由。〜ena 因, 〜āt 従, 〜tas 副 故らに; 自發的に。
kāma-kāratas 副 → kāma-kāra.
kāma-kārin 形 自在, 如意作 *Abh-vy.*
kāma-kṛta 形 故らに爲されたる。
kāma-kṛpti 因 自己の好みに従ふ處理。
kāma-ga 形 自己の意に任せて(何處にて)行く, 自己の欲望に従ふ, 自己の感情に溺る。男 不意に或は豫期せざるに來る者, 特別の目的なき旅行者。
kāma-gati 形 意の儘に(何處にて)行く
kāma-gama 形 [同上].
kāma-guṇa 男 愛, 愛情; 五感に快適なる對象, 感覺的享樂 (*Lal-v.*); 妙欲, 欲, 貪欲, 欲塵, 欲樂, 欲才德 *Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Abh-vy., Mvyut.*; pañcabhiḥ 〜aiḥ 五欲, 五妙欲, 五欲樂 *Suv-pr. 180., Mvyut.*; na punar bodhisattvo mahāsattvaḥ 〜air liptaḥ 諸菩薩摩訶薩不彼欲德所染, 菩薩摩訶薩不爲妙欲所染 *Mvyut.*; pañcabhiḥ 〜aiḥ samarpitaḥ samanvaṅgi-bhūtaḥ 五妙欲豐足全備, 欲才德具豐足全備 *Mvyut.*
kāma-go 因 總ての欲望を叶ふる牝牛, 如意牛。
kāmaṃ-gama 形 所遊自在, 所欲至向 *Sikṣ.*
kāma-candra 男 [王侯の名].
kāma-cara 形 (因 -i) 意の儘に動く, 自由に動く, 抑制せられざる。
kāma-carāṇa 甲 自由なる或は抑制せられざる動作。
kāma-caratva 甲 [kāma-cara の 因].
kāma-caryā 因 欲行 *Bodh-bh.*
kāma-cāra 形 = kāma-cara. 男 行動の自由; 自發の或は故意の動作; 我儘, 放恣; 隨樂轉, 如意作 *Abh-vy.*
kāma-cāra-vāda-bhakṣa 形 意の儘に動作し, 語り且つ食ふ。
kāma-cāritva 甲 行動の自由; 淫蕩。
kāma-cārin 形 意の儘に動く, 抑制せられずして行動する; 欲望に耽る。
kāma-chaḥ 男 欲, 貪欲, 欲欲, 好欲 *Bodh-bh., Mvyut.*
kāma-ja 形 快樂の愛より生じたる; 感覺的情熱より生じたる。
kāmaḥa 形 龜に屬する。
kāmaṇḍalava 形 水瓶の中に含まれたる。
kāma-tantra 甲 [(愛の書), 或る著作の題名].
kāma-taru 男 樹(として勤へられたる) *Kāma* 神。
kāmatas 副 欲望・情欲又は愛樂によりて; 自發的に; 故らに; 自在 *Sūtr.*
kāmatā 因 欲, 愛敬 *Bodh-bh.*; —° 稀 *Sikṣ.*
kāma-da 形 欲望を叶ふる, 希望せられたるものを與ふる。男 慈悲深き主人 (*Jāt-m.*).
kāma-datva 甲 [同上 (形) 因].
kāma-damini 因 [(愛を制御する), 淫蕩なる婦女の反語的名稱].
kāma-dāna 甲 自己の満足よりする贈物; [淫蕩婦のなす儀式の一種].
kāma-dugha 形 搾乳する = 總ての欲望を許容する;

欲稀醇乳汁 *Sikṣ.*

kāma-dughā 因 (=kāma-go); 總ての欲望を叶ふる牝牛, 如意牛,
kāma-duh 因 [因 -dhuk] [同上]. 形 =kāma-dugha.
kāma-duha 形 [同上 (形)].
kāma-deva 男 愛の神.; 欲天 *Abh-k., Mvyut.*
kāma-dharaṇa 甲 希望の満足。
kāma-dhātu 男 欲界 *Sapt-pr., Lank., Bodh-bh., Mvyut.*
kāmadhātu-paryāpanna 形 屬欲界 *Mvyut.*
kāmadhātu-āpta 形 欲界繫 *Abh-vy. 60.*
kāma-dhenu 因 =kāma-go; 所欲構(?) *Mvyut.*
kāmanā 因 願望, 欲望。
kāma-niyantṛ 男 多貪, 欲是羈絆 [根本說一切有部百一羯磨第一] *Mvyut.*
kāmaniyaka 甲 愛らしきこと, 美。
kāmandaka 男 [或る聖者の名].
kāmandaki 男 [*Kāmandaka* の 因] [政策に關する或る著作者の名].
kāmandaki-śāstra 甲 *Kāmandaki* の論書。
kāmandaki 因 [或る佛教尼僧の名]; [都城の名].
kāmandakiya 形 *Kāmandaki* によりて作られたる。
kāma-paṅka 男 欲泥, 愛欲淤泥 *Gaṇḍ-vy.*; na (idrśāḥ) 〜e saṃsīdanti 不沒欲泥 *Gaṇḍ-vy. 202.*
kāma-patni 因 *Kāma* 神の妻。
kāma-pāpaka 形 欲惡 *Bodh-bh.*
kāma-pāla 男 [人名]; [*Viṣṇu* 神の稱].
kāma-pūra 形 願望を叶ふる。
kāma-pūraka 形 [同上].
kāma-pra 形 [同上]. 甲 欲望の満足。
kāma-pratisamyukta 形 具欲, 欲所繫 *Mvyut.*
kāma-prada 形 願望を叶ふる。
kāma-pradhānatva 甲 欲勝 *Abh-vy.*
kāma-praśna 形 (人の)喜ぶ如くする質問, 抑制せずに尋ねること。
kāma-pri 男 願望の叶へられたる人。
kāma-bala 甲 願望の力; 性の力。
kāma-bindu 形 願望(を叶ふる爲に火中に投ずる牛酪)の點滴。
kāma-bhakṣa 男 意の儘に食ふこと。
kāma-bhāj 形 享樂に與る。
kāma-bhoga 男 感覺的の享樂; 欲望の満足; 欲境 *Sukh-vy. I.*
kāma-bhogitva 甲 受欲, 受塵欲 *Abh-vy.*
kāmam 因 意の儘に, 氣儘に; 自己の心の満足するまで; 欲望に隨ひて, 心より, 悦びて; 實に; 如何にするも; 然も; たどひ…と假定するも [一般に 因 と俱に]; 雖 *Bodh-bh.*
 〜…tu, それは實なり…されど, 假令…なりと雖も然も。
 〜…kim tu, [同上].
 〜…ca, [同上].
 〜…kim ca, [同上].
 〜…punar, [同上].
 〜…athāpi, [同上].

〜…tathāpi (°thā-api°), [同上].

〜…na tu, 確かに…なり・されど…ならず, …よりは寧ろ…なり.

〜…na ca, [同上].

yady api…〜 tathāpi, …なりと雖もされど尙ほ.

kāma-mañjari 因 [人名].

kāmamaya 形 望みより成る.

kāma-mithyā-cāra 男 欲 姪, 邪姪, 邪染, 姪欲, 欲邪行, 行邪欲, 邪姪之法, 邪姪之行, 愛欲邪姪之行 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Sikṣ.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*: 〜ād vicchandayamānān 永斷邪姪, 令其永斷邪姪之行, 離…邪姪之法 *Gaṇḍ-vy. 89.*; 〜ād viratiḥ 不姪, 離欲邪行 *Mvyut.*

kāmamithyācāra-viramaṇa 因 不邪姪, 不邪染 *Aṣṭ-pr.*

kāma-mithyā-cārin 形 邪姪, 姪佚, 欲邪行, 行邪染 *Gaṇḍ-vy.*, *Aṣṭ-pr.*

kāma-mūḍha 形 愛に狂へる, 愛欲によつて分別を忘れたる.

kāma-mūta 形 愛欲に驅られたる.

kāma-mohita 形 愛欲に狂へる.

kāmaya (名動) → kāmayāna.

kāmayā (具 因) 副 腹藏なく [brūhi 又は prabrūhi と共に].

kāmayāna (名動) 現分 熱望して, 渴望して; 趣 求諸欲人, 求得欲塵人 *Abh-vy. 34.*

kāma-rati 因 世欲 *Gaṇḍ-vy.*

kāma-rasa 男 精液の瀉出.

kāma-rasika 形 愛に耽る; 姪逸の.

kāma-rāga 男 貪欲, 欲貪 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

kāma-rūpa 因 希望に畫ける形. 意の儘に如何なる形をも取る. 男 [西部 *Assam* 地方に於ける民族の名].

kāma-rūpin 形 [同上(形)].

kāmala 形 紅蓮の; 淫奔なる, 戀をなす.

kāmalā 因 黃疸(の一種); 黃目, 黃病, 惡垢; 迦摩羅病 (因) *Mvyut.*, 支離; 迦摩羅, 迦末羅 支離.

kāmalāyana 男 [*Kamala* の後裔, *Upakosala* の因系].

kāma-lolupa 形 貪著(五)欲, 著於愛欲 *Saddh-p.*

kāmavat 形 戀著せしめられたる, 戀著せる.

kāma-vara 男 自己の好む儘に選びし賜物.

kāma-varṣa 形 望みの如く雨降る.

kāma-vaśya 形 愛の神に支配せられたる; 戀ひ焦る.

kāma-vāda 男 意の儘に語る事.

kāma-vāsin 形 欲する處に住する, 意の儘に自己の住處を變ずる.

kāma-vitarka 男 欲尋, 欲尋思, 欲覺, 貪欲想 *Lal-v.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*

kāma-vivarjita 形 愛欲より解放せられたる.

kāma-vihārin 形 意の儘に當てどなく歩む.

kāma-vita-rāga 形 離欲(界)欲 *Bodh-bh.*

kāma-vṛtta 形 自己の欲望に耽る, 快樂を好む.

kāma-vṛtti 形 我儘なる, 獨立の.

kāma-śara 男 *Kāma* 神の箭.

kāma-śalya 形 愛を箭として有する.

kāma-śāsana 男 [*Śiva* 神の稱].

kāma-śāstra 因 愛に関する論書, [種々の著作の題名].

kāma-śaila 男 [山の名].

kāma-śreṣṭha 形 欲中勝 *Suv-pr.*; 劍摩 舍帝 *Suv-pr.*

kāma-saṃkalpa 形 凡ゆる種類の望みを有する.

kāma-sani 形 願望を叶ふる.

kāma-saṃdoha 形 總ての願望を叶ふる.

kāma-samuttha 形 欲望より生じたる.

kāma-sukhallikā 因 耽欲樂, 修習欲塵樂行 *Abh-vy. 337.*

kāmāsukhallikānuyoga (°kā-an°) 男 [*Pāli.* 同] 欲樂に耽ること (*Abh-vy. 337.*)

kāma-sū 形 欲望を叶ふる.

kāma-sūtra 因 愛(を論ずる)經書.

kāma-hetu 男 欲因緣 *Saddh-p.*: 〜oḥ (因) 以諸欲因緣 *Saddh-p. 48.*

kāma-haituka 形 欲望によりて起されたる, 自己の爲の.

kāmā 1. 因 [*Prthuśravas* の娘, *Mahābhārata* 中の女主人公の名].

-kāmā 2. 因 欲, 爲 *Abh-vy. 433.*

kāmātura (°ma-āt°) 形 戀病の, 愛又は欲望に執著せる. 男 [人名].

kāmātmaka (°ma-āt°) 形 習著(五)欲 *Buddh-c.*

kāmātmatā (°ma-āt°) 因 淫蕩, 熱情.

kāmātman (°ma-āt°) 形 淫蕩なる; 愛を以て満たされたる, 欲望に耽る.

kāmānuṣeṣaṇa 形 著欲(者) *Sikṣ.*

kāmāndha 形 愛又は欲望によりて盲目となれる.

kāmāndha-saṃjña 形 愛又は欲望にて知性の盲られたる (*Buddh-c.*).

kāmānnin 形 欲望の儘に食物を有する.

kāmāpavādaka-sūtra 因 [經名] 訶欲經 *Sikṣ.*

kāmāpta (°ma-āp°) 形 欲所得 *Mvyut.*

kāmābhivarṣaṇa 因 欲望を充さしむること.

kāmāri 男 [(*Kāma* 神の敵), *Śiva* 神の稱].

kāmārta (°ma-ār°) 形 戀病の.

kāmārtha 男 愛の對象.

kāmālaya (°ma-āl°) 男 姪欲(?); 欲是居家 [根本説一切有部百一羯磨第一] *Mvyut.*

kāmāvacara 形 欲界 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*; 欲行, 欲塵 *Mvyut.*: saḥ 〜ā devāḥ 六欲天 [1. Cāturmahārājakāyikāḥ 四天王天, 四天王衆, 2. Trāyastriṃśāḥ 忉利天, 三十三, 3. Yāmāḥ 夜摩天, 4. Tusitāḥ 覩史多天, 5. Nirmāṇaratayaḥ 樂變化天, 6. Para-nirmita-vaśa-vartinaḥ 他化自在天] *Dharm-s.*, *Mvyut.*

kāmāvacāra 形 欲界 *Sapt-pr.*

kāmāśana 形 思ふが儘に食ふこと.

kāmāśoka 男 [王の名].

kāmāśrama (°ma-ās°) 男 *Kāma* 神の隱遁處.

kāmāśrama-pada (°ma-ās°) ㊦ [同上].
kāmāsvādāna (°ma-ās°) ㊦ 欲邪行 *Sikṣ.*
kāmika ㊦ 願はれたる, 希望せられたる; 欲望を充たす.
kāmi-jana ㊦ 愛人.
kāmita ㊦ 便役 (通受分) → Kam. ㊦ 欲望, 期待.
kāmitā ㊦ 愛人たること.
kāmin ㊦ (㊦, 一°) に熱心なる, ……を願へる; (㊦ 又は sārđham) を愛する, ……と戀に陥れる; ㊦ 習欲 *Sūtr.* ㊦ 愛人.
kāmini ㊦ 戀に陥れる婦人; 少女, 婦人.
kāmuka ㊦ (一°) を願へる; (㊦) を愛する. ㊦ 愛人.
kāmukatva ㊦ 多情; 欲望.
kāmukāya (名動) ㊦ **kāmukāyate** 愛人の役目を演ず. (通受分) ㊦ **kāmukāyita** 愛人の行爲.
kāmeṣu (°ma-ip°) ㊦ 感官の對象を欲望する.
kāmeśvara (°ma-is°) ㊦ [*Kubera* 神の稱].
kāmotināpya (°ma-ut°) ㊦ 自己の意志にて派遣せらるゝ.
kāmodaka (°ma-ud°) ㊦ 死せる友に對する自發的の水の獻供.
kāmonmatta (°ma-un°) ㊦ 戀に狂へる.
kāmopabhoga (°ma-up°) ㊦ 享樂 (*Buddh-c.*).
kāmopasaṃhita (°ma-up°) ㊦ ㊦ 與欲相應 *Divy.*
kāmpilya ㊦ [*Pañcāla* の一都城の名]. ㊦ [*Pañcāla* の人の名].
kāmpilyaka ㊦ [植物の一種].
kāmpillaka ㊦ [同上]; [藥品の一種].
kāmpila ㊦ [植物の一種]. ㊦ [町の名].
kāmbalika ㊦ 乳清と酢とを混ぜる酸乳; 粥; 大麥の浸汁.
kāmbuva ㊦ [地方の名].
kāmboja ㊦ *Kamboja* より來れる. ㊦ [民族の名 = *Kamboja*].
kāmya ㊦ 願はしき, 親しき, 愛すべき, 快き, 美しき; 願望と關係せる, 興味を有する, 好みの, 欲望に合致せる; 任意の.
kāmyaka ㊦ [㊦ 林の名]; [㊦ 湖水の名].
kāmyatā ㊦ 愛らしきこと, 美.
kāmyā ㊦ (㊦, 一°) に對する欲望, 願望, 努力.
kāya 1. ㊦ *Ka* 神 (*Prajāpati*) に關する. ㊦ [*Prajāpati* なる結婚の一形式 (= *prajāpatya*)]; (*Prajāpati* に捧げられたる) 小指の根.
kāya 2. ㊦ 身體, 有形體; 集團, 多數, 多量, 集合; (樹の) 幹; 資本金; ㊦ 身, 體, 身體, 軀; 梁, 衆 *Divy.*, *Lal-v.*, *Fajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*: *trayaḥ* ~ *āḥ* 三身 [1. *dharma* ~ *ḥ* 法身, 2. *saṃbhoga* ~ *ḥ* 受用身, 3. *nirmāna* ~ *ḥ* 化身] *Mvyut.*; ㊦ 迦野 *Guhy-s.*
-kāyaka ㊦ = *kāya 2.*
kāya-karman ㊦ ㊦ 身業 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
kāya-kali-saṃpramathana ㊦ ㊦ [Samādhi の名] 滅身穢惡, 離身穢惡 *Mvyut.*
kāya-krimi ㊦ ㊦ 身中所集諸蟲 *Sikṣ.* → *krimi.*

kāya-klama ㊦ 肉體的疲勞 (*Buddh-c.*).
kāya-klamatha ㊦ ㊦ 身倦, 身疲倦, 身力疲困, 身體疲極, 身重疲極, 悟重疲懈, 身轉重 *Aṣṭ-pr.*
kāya-kleśa ㊦ 身體の苦惱, 肉體的苦惱.
kāya-gata ㊦ 肉體の中に在る.
kāya-guruka ㊦ ㊦ 身重, 身沈重 *Aṣṭ-pr.*
kāya-cikitsā ㊦ (身體の) 病の治療.
kāya-citta-pariśuddhi ㊦ ㊦ 身心清淨 *Aṣṭ-pr.*
kāya-jivita ㊦ ㊦ 身命, 身壽命 *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*: *anapekṣaḥ* ~ *e* 不自惜身命, 不顧於身命, 不惜身壽命 *Gaṇḍ-vy.* 388.
kāyajivita-bhogānadhyaśrita ㊦ ㊦ 於身命財不生貪著 *Lank.*
kāyajivitānapekṣa ㊦ ㊦ 不顧身命, 不惜身命, 於身命(財)無愛著 *Gaṇḍ-vy.*
kāyajivitotsarga (°ta-ut°) ㊦ ㊦ 不惜身命 *Sikṣ.*
kāya-traya ㊦ ㊦ 三種身 *Lank.*
kāya-daṇḍa ㊦ 身體を完全に統御すること.
kāya-duṣcarita ㊦ ㊦ 身惡行, 身罪業 *Mvyut.*
kāya-dauṣṭhulya ㊦ ㊦ 身嚴重 *Bodh-bh.*
kāya-dhātu ㊦ ㊦ 身界 *Mvyut.*
kāya-nidhana ㊦ ㊦ 死 *Abh-vy.*
kāya-nirmāṇa ㊦ ㊦ 化身, 變化身 *Gaṇḍ-vy.*
kāya-paricaryā ㊦ ㊦ 供養己身 *Prāt-m.*
kāya-paricaryā-carāṇa ㊦ ㊦ 親能承事, 親能供養 *Sikṣ.*
kāya-paripīḍana ㊦ ㊦ 逼身, 惱身, 逼迫身 *Madhy-v.*
kāya-pariṣkāra ㊦ ㊦ 資身具, 資生衆具, (身) 所須之物, 資身什物, 嚴身之具 *Bodh-bh.*
kāya-pracālaka ㊦ ㊦ 搖身 *Prāt-m.*, *Mvyut.*
kāya-prabhāsa ㊦ ㊦ 身光 *Suv-pr.*
kāya-prasrabdhi ㊦ ㊦ 身安 *Bodh-bh.*
kāya-prahlādāna-karin ㊦ ㊦ 身猗, 適身 *Mvyut.*
kāya-bandhana ㊦ ㊦ 帶; ㊦ 帶, 繫腰 *Mvyut.*
kāya-maṇḍana ㊦ ㊦ 嚴身, 身嚴好 *Sikṣ.*
kāyamaṇḍana-yogānuyukta ㊦ ㊦ 以嚴身而求觸樂, 身嚴好而生於和合之想 *Sikṣ.*
kāyamāna ㊦ ㊦ 草樹葉等にて作れる天幕又は小屋; ㊦ 竹簾, 茅屋 *Mvyut.*
kāyamānika-niketana ㊦ [同上].
kāya-mukha-vāc ㊦ ㊦ 身面言說, 現其前身語 *Lank.*
kāya-megha ㊦ ㊦ 身雲 *Gaṇḍ-vy.*
kāya-laghutā ㊦ ㊦ 身輕安, 身輕利 *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*
kāya-vajra ㊦ ㊦ [菩薩の名] 金剛身 *Guhy-s.*
kāyavat ㊦ ㊦ 化現せる, 具體化せる.
kāya-vāk-karman ㊦ ㊦ 身語(二)業 *Bodh-bh.*
kāyavākkarmānavadya ㊦ ㊦ 無罪…身語二業 *Bodh-bh.*
kāya-vāñ-manas-karman ㊦ ㊦ 身語意業 *Bodh-bh.*
kāyavānmano-duṣcarita ㊦ ㊦ 三業惡行 *Bodh-bh.*

kāya-vān-mānasa 形 身口意、身語意 *Suv-pr.*
kāya-vijñapti 女 身表 *Abh-vy.*
kāya-vijñāna 中 身識 *Abh-vy., Mvyut.*
kāyavijñāna-dhātu 男 身識界 *Mvyut.*
kāya-vibhakti 女 化身、差別身 *Gaṇḍ-vy.*
kāya-viveka 男 身遠離、身遠(樂事) *Sikṣ.*
kāya-viśodhani 女 身清淨 *Sikṣ.*
kāya-śiro-griva 中 身體・頭及頸。
kāya-śuddhi 女 =kāya-cikitsā.
kāya-saṃvara 男 身戒、護身 *Lal-v., Sam-r., Sikṣ.*
kāya-samsarga 男 觸體、觸身、身相觸、下身相觸、身交會、身共合 *Prāt-m., Mvyut.:* mātr-grāmena sārddham ~ ḥ 與女人身共合、與女人身相觸 *Prāt-m. 479.*
kāya-saṃskāra 男 身行 *Gaṇḍ-vy.*
kāya-samatā 女 身等、身平等 *Lank.*
kāya-sākṣin 形 身證、現身 *Mvyut.*
kāya-sucarita 中 身妙行 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
kāya-stha 男 書記; [或る混合種姓(階級)]; 書字者 *Mvyut.*
kāya-smṛty-upasthāna 中 身念住、身念處 *Dharm-s., Mvyut.*
kāyāgni 男 消化の分泌液。
kāyānudarśin 形 身觀、循身觀 *Bodh-bh.*
kāyānupaśyanā 女 身觀、循身觀 *Bodh-bh.*
kāyānupaśyin 形 觀身、循身觀 *Abh-vy.*
kāyāntari-bhūta 形 在身內、在體中 *Daś-bh.*
kāyika 形 (女-i) 身體の、身體にて形成せられたる; 身、種、屬身; 衆 *Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Madhy-v., Mvyut.:* —° 斯く斯くの集團に屬する; 衆、民、眷屬、徒黨、徒衆 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh., Abh-vy.* → brahma~, māra~.
kāyika-caitasika-prasrabdhi 女 身心輕安、身心止息、身心寂靜 *Bodh-bh.*
kāyikā 形 女 [vr̥ddhi と俱に] 利子(の一種)。
kāyūśa 中 [=kāyūśa, kāśisa の寫誤か]; 黑髻 *Mvyut.*
kāyendriya (°ya-in°) 中 身根 *Suv-pr., Mvyut.*
kāyodha-ja (°ya-ūdh°) 形 Prajāpati の形式にて結婚せし婦人より生れたる。
kāyodgharṣaṇa (°ya-ud°) 中 密衣 *Mvyut.*
kāra 形 (女-i) 作る、爲す、生ずる、形成する、遂行する。男 作者(一°); 作製者、著作者; 爲すこと、動作; 禮拜、敬禮; 讚歌; 軍歌; 作、用、作用、功力、主 *Bodh-bh., Abh-vy., Prāt-m.:* —° 行動、動作; 音、字; 不變化語; 作聲 *Lal-v.;* 字 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Lank.* → puruṣa~, mālā~ 等。中 益、利益事 *Abh-vy. 395.*
kāraka 形 (女-ikā) (男、一°) を爲す、作る、生ずる、起す、遂行する; (業) を爲さんとする; 或る事物に影響する; 爲、能爲、作、能行、作者、所作 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Kāśy., Lank., Sikṣ., Mvyut., 梵千.* 男 作者、作製者; 業作者; 作、作者、所作、能作者、使作者、能造作者 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lank., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut.* 中 名詞の動詞に對す

る關係、格の概念。
kāraka-guṇti 女 主語の隠されたる文章。
kāraka-hetu 男 動力因; 所作因 *Mvyut.*
kāraṇa 形 —° 爲す、起す、生ずる; 爲 *Rāṣṭr.* 中 (—°, 女-i) (男、因、一°) の原因、機會、動機; 第一原因、原素; 根柢; 論證、證明; 方法、器具; 感官; 因、作因、因用、生因; 作、能作; 緣、因緣; 所以 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Saddh-p., Lank., Sūtr., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-v., Madhy vibh., Sāṃkhy-k., Mvyut.;* 理 *Cat-ś.;* 害 *Abh-vy. 590.;* 苦具 *Bodh-bh. 68.* (→ kāryamāna): daśa ~ āni 十因、十能作 [1. utpatti ~ 生起能作, 2. sthiti ~ 安住能作, 3. dhṛti ~ 任持能作, 4. abhivyakti (prakāśana) ~ 照了能作, 5. vikāra ~ 變壞能作, 6. viśeṣa ~ 分離能作, 7. parinaṣti ~ 轉變能作, 8. sampratyaaya ~ 信解能作, 9. sampratyaāyana ~ 顯了能作, 10. vaśitva ~ 至得能作] *Madhy-vibh. 84.*
 ° — 副 或る理由より。
 ~ena 因 或る理由より。kena ~ena, 如何なる理由にて、何故に; 何因、何緣、何故、何以故 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II.* kenāpi ~ena, 何等かの理由によりて。tena ~ena 是故、由是緣故 *Sukh-vy. II.*
 ~āt 副 或る理由より; (男、一°) の爲に; 爲 *Saddh-p.:* eta ekasmāt ~āt 是故 *Mvyut.*
kasmāt ~āt, 如何なる理由にて、何故に。
 ~e 因 或る理由より。kasmin ~e, 如何なる理由にて、何故に。
kim ~m, 何故に; 何故、何緣 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.*
kim nu ~m 何故、有何因 *Vijñ-v.*
yat ~m, yena ~ena, 何となれば……故に。
kāraṇa-kāritam 副 ……の結果として。
kāraṇa-kopa 形 理由ありて怒れる。
kāraṇa-krudh 形 [同上]。
kāraṇa-guṇa 男 原因の性質、因の徳; 本徳 *Sāṃkhy-k.*
kāraṇatas 副 或る理由より。
kāraṇatā 女 因果關係、因果律。
kāraṇatva 中 [同上]; 因; 因緣、生果、作於因、能作事、能有所作 *Lank., Bodh-bh., Abh-vy.*
kāraṇa-dig-mūḍha 形 迷因果、孰能作迷方 *Lank.*
kāraṇa-pratyaya-hetuka 形 (女-i) 因、依諸因緣 *Lank.:* ~im utpattim 因生、依諸因緣生 *Lank. 197.*
kāraṇa-bhūta 形 原因となる; 因、因緣 *Abh-vy.*
kāraṇavat 形 原因ある。
kāraṇa-śarīra 中 原因たる身體。
kāraṇa-sāmagri-yoga 男 有因緣 *Aṣṭ-pr.* ~ena (因) 有因緣故 *Aṣṭ-pr. 752.*
kāraṇa-hetu 男 因緣、作因、能作因、隨造因 *Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* ~oḥ (因) 由是因緣、作因故 *Bodh-bh.*

kāraṇā ㊦ 動作; 苦痛, 苦惱; 原因, 理由; ㊦ 事, 因縁 *Sikṣ.*; 害, 苦惱, 殺害事 *Divy., Abh-vy.*
kāraṇā-kāraṇa ㊦ ㊦ 作害 *Mvyut.*
kāraṇātman (°na-āt°) ㊦ 本質的に(圓)の原因なる.
kāraṇādhina ㊦ ㊦ 依於因, 由因縁 *Lank.*
kāraṇāntara ㊦ 特殊なる原因.
kāraṇāvīśeṣa (°nā-av°) ㊦ ㊦ 所有苦惱 *Divy.*
kāraṇika ㊦ 教師; 判事.
kāraṇin ㊦ ㊦ 作因 *Lank.*
kāraṇḍa ㊦ =kāraṇḍava.
kāraṇḍaka ㊦ ㊦ 好聲鳥 立應; ㊦ 迦蘭陀, 柯蘭陀, 迦蘭駝迦, 羯蘭鐸迦 立應.
kāraṇḍava ㊦ 家鴨(の一種); ㊦ 莠, 獨搖鳥 *Buddh-c., Mvyut.*; ㊦ 迦蘭陀(鳥) *Mvyut.*
kāraṇḍavaka ㊦ ㊦ 甘蔗栽, 稻禾稗莠 *Abh-vy.*
kāraṇḍa-vyūha ㊦ [佛典の名] =avalokiteśvara-guṇa~.
kāraṇya-kāraṇa ㊦ ㊦ 作害 *Mvyut.* → kāraṇā-kāraṇa.
kāraṇḍhama ㊦ [Avikṣit の ㊦ 系]. ㊦ [聖地の名].
kāraṇḍhamin ㊦ 鍊金術師.
kārapacava ㊦ [Yamunā 河に近き地方の名].
kārabha ㊦ 駱駝より來れる或は産出せる.
kāra-yantrika ㊦ 工匠(の一種).
kārayitavya ㊦ ㊦ (未受分) 爲さしめらるべき; 處理せらるべき; 成就せらるべき, 得らるべき.
kārayitavya-dakṣa ㊦ 爲さるべき事を處理するに巧なる.
kārayitṛ ㊦ 動作を起さしむる者; 宗教的儀式の處理者; 理髮師.
kārayiṣṭu ㊦ 動作せしむる.
kāravālika ㊦ [kara-vāli ㊦] ㊦ 執劍, 執刀者 *Mvyut.*
kāra-sūtra ㊦ [<kāla-sūtra] (*Kār-vy.*)
kāra-skara ㊦ [有毒植物の一種]; [民族の名].
kārā 1. ㊦ 禮拜, 敬禮; 讚歌; ㊦ 事, 供養 *Divy., Sikṣ.*; ~ ṃ krtvā 持用供養 *Bodh-bh. 233.* → : kāra (㊦).
kārā 2. ㊦ 牢獄, 獄舎.
kārākāra (°ra-āk°) ㊦ ㊦ [Samādhi の名] 作行 *Mvyut.*
kārāgāra (°rā-ag°) ㊦ =kāra 2.
kārā-gṛha ㊦ [同上].
kārā-dvipa ㊦ [島の名] (*Jāt-m.*)
kārāpaka ㊦ ㊦ 使作者 *Mvyut.*
kārāpatha ㊦ [地名].
kārāvāra ㊦ [或る混合種姓(階級), Niśāda と Vaidehī の子女].
kārā-vāsa ㊦ =kāra 2.
kārā-veśman ㊦ [同上].
kārā-stha ㊦ 監禁せられたる.
-kārika ㊦ ㊦ 行 *Suv-pr.* → duṣkara~.
kārikā ㊦ 活動; 苛責; [難解なる文典の規則又は哲學上の教説の簡單なる説明]; [記憶に便する詩句]; [諸原典の類別標題の名]; 殉教(?); ㊦ 品類, 本類 *Mvyut.*

kārita ㊦ (通受分) 作らしめられたる, 爲さしめられたる; (一°)によりて惹き起されたる, …によりて生じたる, …に關する; ㊦ 起, 造立, 建立, 作, 所作, 教他作 *Saddh-p., Daś-bh., Sikṣ.*
kāritā ㊦ [vṛddhi と俱に] 逼迫の爲に(借主の拂ひたる法外の)利子; ㊦ 所作 *Bodh-bh.* → yathokta~.
kāritra ㊦ ㊦ 作, 用, 作用, 功能 *Abh-vy., Mvyut.*: aprāpta~ 作用未有, 未作功能 *Abh-vy. 178.*
kārin 1. ㊦ (圓, 一°)を作る, 爲す, 生ずる; 動作する; ㊦ 行; 取; 造, 作, 修作 *Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.* → yathā-vādin.
kārin 2. ㊦ 追ひ散らす, 破壊する.
kārin 3. ㊦ 喜悅する, 讚歎する.
kāriṣi ㊦ ㊦ 作 *Sapt-pr. 21.*
kāriṣa ㊦ 牛糞より産出せる.
kāriṣi ㊦ [人名].
kāru 1. ㊦ ㊦ 労働する人, 働く人; 手工業者, 工匠 [又た ㊦ -ū]. ㊦ 恐ろしき, 驚くべき [語原の説明中に用ゐらる].
kāru 2. ㊦ 詩人, 唱歌者.
kāruka ㊦ 手工業者, 工匠.
kāruṇika ㊦ 同情ある; ㊦ 悲, 大悲, 慈悲, 悲心, 具大悲, 所悲人, 大慈悲, 慈心, 具足大悲心, 大慈悲人, 悲愍, 憐愍, 慈愍, 大哀愍者, 具足悲愍 *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Suv-pr., Sam-r., Rāṣṭr., Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Madhy-v.* ㊦ [佛の名] (*Sukh-vy. 1.*)
kāruṇikatā ㊦ 同情, 憐愍.
kāruṇya ㊦ 同情; 親切; ㊦ 悲, 悲心, 悲感, 慈悲, 悲念, 悲愍, 大悲, 慈愍, 愍念, 悲愍心; 矜 *Divy., Lal-v., Av-ś., Saddh-p., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sikṣ., 梵雜.*
kāruṇya-citta ㊦ ㊦ 悲心, 慈悲念, 有悲愍心 *Suv-pr., Sikṣ., Bodh-bh.*
kāruṇya-cittatā ㊦ ㊦ 愍, 慈愍, 起悲心 *Daś-bh., Bodh-bh.*
kāruṇyatā ㊦ ㊦ 悲愍 *Divy.*
kāruṇya-dhenu ㊦ 憐れみ深き牝牛(佛の稱) (*Divy.*)
kāruṇya-bala ㊦ ㊦ (大)悲力 *Suv-pr.*
kāruṇyamaya ㊦ (㊦ -i) 憐れみ深き (*Jāt-m.*)
kāruṇya-veditva ㊦ 同情, 憐憫.
kāruṇya-vedin ㊦ 同情ある.
kāruṇya-saritodaka (°ta-ud°) ㊦ ㊦ 大悲水 *Sikṣ.*
kāru-hasta ㊦ 工匠の手.
kārū ㊦ → kāru 1.
kārūṣa ㊦ [或る混合階級(追放せられたる Vaiśya の子孫)]; [或る Kārūṣa の王の名]; ㊦ =karūṣa [Kārūṣa の國又は國民].
kārūṣaka ㊦ Kārūṣa の民を治むる.
kārotara ㊦ Surā 液を淨むるに用ゐらるゝ濾過器又は布.
kārkaśya ㊦ 堅固, 堅牢; 苛酷; 荒き勞働.
kārkoṭaka ㊦ [町の名].
kārṇaśravasa ㊦ [或る Sāman の名].
kārta-yaśa ㊦ [同上].

kārta-yuga 形 *Kṛta* の時代に關する。
 kārtavīrya 男 [*Arjuna* の (系), *Haihaya* の王]。
 kārta-svara 甲 黄金。
 kārta-svaramaya 形 黄金製の而して悲しげに響く。
 kārtāntika 男 [*kṛtānta* より] 占星師。
 kārtārthya 甲 [*kṛtārtha* より] 目的の達成。
 kārtikeya, → kārttikeya。
 kārttika 男 [曆月の名, 十月・十一月]; 閏 八月, 季秋 *Mvyut.*, 梵雜。
 kārttikā 女 [同上]; 閏 八月 *Sam-r.*
 kārttikātyayika (°ka-āt) 形 閏 過季秋, 季秋將去 *Mvyut.*
 kārttikī 女 *Kārttika* 月に於ける満月の日 [*rātri* と俱に用ゐらるゝことあり]; 閏 夏後 *Divy.*
 kārttikeya 男 [戰の神 *Skanda* の (母系)]; 閏 昂宿男 *Mvyut.*
 kārtsnya 甲 [*kṛtsna* より] 全體, 總計。 ~ena 男 完全に, 全く。
 kārdama 形 泥又は土にて出來たる, 泥に汚れたる; *Prajāpati Kardama* に屬する。
 kārdamika 形 泥の。
 kārdaraṅga, = kārmaraṅga。
 kārpaṭika 男 貧しく装へる巡禮者; 欺瞞者, 無頼漢。
 kārpaṭin 男 [同上]。
 kārpaṇya 甲 心貧しきこと, 慘めなること; 貧乏, 貧困状態; 吝嗇; 下品; 貪欲; 同情, 哀憐; 閏 狹劣 *Bodh-bh.*
 kārpāṇa 甲 斬り合ひ。
 kārpāsa 甲 綿; 綿布; 閏 綿 *Sikṣ.*: ~picu (兜羅)綿 [兜羅は *tūla* の (音寫)] *Sikṣ.* 248. 形 綿製の。
 kārpāsaka 形 綿製の。
 kārpāsa-tāntava 甲 綿布。
 kārpāsa-sautrika 甲 [同上]。
 kārpāsāsthi 甲 綿の木の種子。
 kārpāsika 形 (女-i) 綿製の。
 kārp sikā 女 綿の木。
 kārpāsi 女 [同上]。
 kārpūra 形 樟腦製の。
 kārma 1. 男 工匠。 形 働く, 勤勞する。
 kārma 2. 形 [*kṛmi* より] 蟲に關する。
 kārmaṇa 形 行爲に關する, 行爲より生ずる; 人を魅する。 甲 魔法, 魔術。
 kārmaṇatva 甲 魅惑; 魔術。
 kārmaṇika 形 魔術によりて生じたる。
 kārma-raṅga 形 深紅の。 男 = *karma-raṅga*。
 kārmāra 男 鍛冶職。
 kārmika 男 刺繍ある織物, 色模様の織物。
 kārmuka 1. 形 効果ある。
 kārmuka 2. 形 (女-i) *Kṛmuka* の木にて製したる。 甲 弓; 虹。
 kārmuka-bhṛt 形 弓を持てる。
 kārmukāya 名動 甲 *kārmukāyate* 弓を象どる。
 kārmukin 形 弓を持てる。
 kārmukopaniṣad (°ka-up) 女 射撃術の秘法。
 kārya (未受分) 爲さるべき, 作らるべき, 遂行せらる

べき, 用ゐらるべき等。 → *Kṛ.* 閏 應所作, 應作, 所應作 *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.* 甲 企圖, 目的, 對象, 關係する事柄; 義務; 事務; 奉仕; 事柄, 事件; 訴訟; 結果, 産物; 動機, 目的; 閏 須, 用, 所用; 所爲; 作, 所作, 事, 業, 事業, 辨事, 所作事, 所作事業; 家業 *Divy.*, *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Suv-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-c.*, *Sāṃkhy-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, 梵雜; 果, 所成果 *Lank.*, *Madhy-v.*, *Cat-ś.*, *Abh-vy.*, *Sāṃkhy-k.*, *Mvyut.*; 治世 *Suv-pr.*; 因 *Lank.*; 末德 *Sāṃkhy-k.*: *pitṛ* ~ 父業 *Saddh-p.* 416. ~m 男 (因事物)が(因人)に役立つ, 或る人(因)が(因)に配意す或はを世話す; *kim* ~m 何の爲に, 何故に。 ~ena 男 ……の爲に。

kārya-kara 形 有效なる。

kārya-karaṇa 甲 義務の遂行。

kāryakaraṇāpekṣā 女 (自己の)計劃實行に當りての考慮判断。

kārya-kartṛ 男 (因)の原因を作る者, ……の爲に行動する者。

kārya-kāraṇa 甲 原因たる特定の事物, 特殊の理由; 閏 原因と結果。

kārya-kāraṇatas 閏 特殊の動機又は原因より。

kārya-kāraṇatva 甲 原因にして而も結果たること。

kāryakāraṇa-lakṣaṇa-sambandha 男 閏 事與作者相連之縁, 所作能作相相屬 *Mvyut.*

kārya-kāla 男 行動に適する時, 指定せられたる時, 好機。

kārya-gaurava 甲 行爲の重要性。

kārya-cintaka 男 事務の處理者。

kāryatama 最上 最も爲さるべき。

kāryatas 閏 従て, 結果として, 必然に, 事實上; 閏 縁 *Sāṃkhy-k.*

kāryatā 女 成果又は結果たること。

kāryatva 甲 [同上]; 閏 果 *Sūtr.*

kārya-darśana 甲 訴訟の(法律的)検討; 仕事の検査; 査閱。

kārya-darśin 形 伶俐なる, 鋭敏なる。

kārya-dhvaṃsa 男 目的の放棄。

kārya-nirṇaya 男 事實を確むること, 訴訟の判決。

kārya-nirvṛtti 女 行爲の結果。

kārya-padavi 女 行動の道, 行爲の方法。

kārya-pariccheda 男 訴訟の正當なる裁判。

kārya-preṣya 男 仕事に派遣せられたる人, 使者。

kāryamāṇa 女 現分 閏 所逼切 *Bodh-bh.*: *kāraṇaiḥ* ~ *ānām* 種種苦具所逼切 *Bodh-bh.* 68.

kārya-rūpa 形 結果の形態を有する(閏)。

kāryavat 形 爲すべき或は動むべき仕事を有する; 忙しき; 或る目的を追求する, 理由又は動機を有する。

kāryavattā 女 多忙, 從事。

kārya-vaśa 男 或る事柄の影響。 ~āt 女 利害關係の動機より, 或る理由のもとに。

kārya-vinimaya 男 或る事を爲すための相互の契約。

kārya-vinirṇaya 男 訴訟の判決。

kārya-vipatti 女 失敗, 事業の失敗。

kārya-virya 男 [Kṛtavīrya の子]; [Arjuna の 父系].
kārya-vṛttānta 男 事の真相, 事實, 事件.
kārya-vyasana 中 或る事柄の失敗.
kārya-śeṣa 男 残務.
kārya-sama 男 (同一効果が異なる条件より結果することを無視する)特殊の詭辯的異議, 所作(又は果)相似.
kārya-samārambha 男 事 Divy.
kārya-siddhi 女 事の成就, 目的の達成.
kārya-hantṛ 男 他人の利益を妨害する者.
kārya-hāni 男 義務又は祭式の不履行.
kārya-hetu 男 企圖(を實行する)動機; 果因, 果性語 Mvyut. 中 (自己の)利益を顧慮して.
kāryākārya 中 爲さるべき事と爲さるべからざる事, 正義と邪惡.
kāryākṣama 形 業務に適せざる, 仕事の出来ざる, 下手の.
kāryātipāta 男 業務の怠慢.
kāryātipātin 形 業務を怠る.
kāryādhikārin 男 政務大臣.
kāryāntara 中 他の仕事, 閑暇, 仕事の合間.
kāryāntara-saciva 男 (王侯の)閑散時又は娛樂の伴侶.
kāryāpekṣin 形 特殊の目的を有する.
kāryārtha 男 企劃, 企劃又は仕事の目的; 目的. 中 特定の目的の爲に, 事務又は事業の目的の爲に.
kāryārtha-siddhi 女 計劃の成就.
kāryārthin 形 或る事柄に關係せる; 要求をなす, 仕事を求むる; 正義(の裁判)を要求する.
kāryika 形 [同上]. 男 訴訟者.
kāryin 形 =kāryārthin. 男 役人.
kāryekṣaṇa (°ya-ik°) 中 公務の監督.
kāryoparodha (°ya-up°) 男 事務の中斷.
kāryopekṣā (°ya-up°) 女 事務の怠慢.
kārvaṭika 男 國 Divy.
kārśana 形 寶石より成る.
kārśānava 形 火の, 熱き, 輝く.
kārśya 中 憔悴; 小さきこと; 減少; 消羸 Buddh-c.
kārśa 男 農業者, 農夫; 農夫 Divy.
kārśaka 男 [同上]; 田夫, 田人 Abh-vy.
kārśāpaṇa (°śa-āp°) 男 中 [一 Kārśa の量の貨幣, (金貨は十六 Māsa, 銀貨は十六 Pana, 銅貨は八十 Raktikā 又は一 Pana に相當す)]; 錢, 金錢, 一錢, 錢財, 財貨; 財寶, 財物; 珍奇; 酬價 Divy., Av-ś., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.; 秤量 Sapt-pr.; 惡錢(?) Divy.: 中 e'pi 毫釐 Bodh-bh. 256.; 迦利沙鉢拏, 羯利沙槃, 迦理沙般拏, 迦哩沙波拏, 迦利沙波拏, 羯利沙鉢那, 迦栗沙鉢拏 Kāśy., Mvyut., 立應.
kārśāpaṇa-cchedika 中 [Pāli. kahāpanaka. 囚人の肉を Kārśāpaṇa 貨の如き細片に切り刻む刑罰の一種]; 造金錢 Śikṣ.
kārśāpana 男 [=kārśāpaṇa]; (千六百貝價爲)迦利沙鉢拏 Mvyut.
kārśika 1. 形 一 Kārśa の重さを有する; 兩

Lank.

kārśika 2. 男 =kārśaka; 耕田者 Mvyut.
kārśivaṇa 男 耕作者, 農夫.
kārśa 形 (女-i) 黒き羚羊に由來せる; Kṛṣṇa 神に屬する或はによりて作られたる. 中 黒き羚羊の皮.
kārśājina 形 黒き羚羊の皮より作れる.
kārśāyasa 形 (女-i) 鐵製の. 中 鐵.
kārśni 男 Kṛṣṇa の後裔.
kārśnya 中 黒きこと, 黒色; 暗黒.
kārśman 中 競走路の決勝線.
kāla 1. 形 (女-i) 暗青色の, 黒き; 黒梵雜. 男 隴; 毒蛇; [Siva 神の稱]; [Rudra 神の稱]; [諸人の名]; [北方の山の名]; [龍王の名] 黒色 Mvyut.; 哥羅 [人名] 哥羅 Divy.
kāla 2. 男 適當なる季節, (爲, 圖, 因, 不定, 一°)にとりて定められたる或は正しき時; 時; 機會; 季節; 食時(一日二回); 半日; 時間; 齡, 時代; 音律; 詩形論; 時(人格化せられたる), 運命; 死; 死の神; 一° 正しき時に; 早晚, 次第に; 時, 時節, 時分, 時限; 世 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Lank., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Sūmṅkhy-k., Vais-s., Mvyut. → tat ~.
paraḥ ~ h, [不定 と俱に] 最適の時.
 ~ m Kṛ, (因)のために時を定む, 死す; 死, 致死, 捨命, 失命, 臨終, 命終, 取命終, 趣命終 Sukh-vy. II., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.
 ~ m āsādyā, 事情に従ひて.
 ~ m ā-I (又は Kṛ), 死す (Lal-v.).
 ~ m ava-īkṣ 待時, 知時 Gaṇḍ-vy.
 ~ m Man 知時 Divy., Mvyut.: yasyedānīm bhagavān ~ m manyate 願聖知時, 願佛知時 Divy. 20, 85.; yasyedānim ~ m manyase 正是知時, 知其正時則 Mvyut.
 ~ ena 適當の時期に; 時を経るに隨ひて; 應時, 應節, 應時宜, 以時, 隨時 Suv-pr., Bodh-bh.
 ~ ena gacchatā, 時の過ぐるに隨ひて, 時を経るに隨ひて.
dirghena ~ ena, 長き時の後に; 久 Bodh-bh.
mahatā ~ ena, [同上].
bahunā ~ ena, [同上].
kena-cit ~ ena, 若干時の後に.
tena ~ ena, その時に; 爾時 Mvyut.
 ~ ena ~ m, 時々 (Divy.); 常, 時時, 隨時, 於時時間 Bodh-bh.
 ~ āt 終には, 時を経るに隨ひて.
 ~ tas 同上; 時に關しては.
 ~ sya 圖, dirghasya ~ sya, mahataḥ ~ sya, 長き時の後に.
kasya-cit ~ sya, 若干時の後に.
 ~ e 因 正しき或は一定の時に, 好都合に; 早晚=次第に; 順時, 隨時 Suv-pr.
 ~ e pṛcchati 至時間, 時而問 Mvyut.
 ~ e prāpte, 時來らば, 時來りて.
 ~ e gacchati, (現分) 時を経るに隨つて.
 ~ e yāte, 若干時の經過せし後.

kasmirś-cit ㄴe, 或る一日。
 ㄴe ㄴe, 常に正しき時に。
śaṣṭhe ㄴe, 第三日目の終に於て。
śaṣṭhe ㄴe 'hnaḥ, 一日の第六時即ち正午に。
pañcaśate ㄴe, 二百五十日の後に。
ubhau ㄴu, 朝夕に。
ayam ㄴḥ ㄴḥ 今正是時, 宜知是時 *Sukh-vy. I., II.*
sama ㄴm ㄴḥ 同時 *Abh-vy.*
kaṁ-cit ㄴm ㄴḥ 或時 *Aṣṭ-pr.*
kālaka ㄴ 暗青色の, 黒色の; ㄴ 驚駭 *Saddh-p.*
 ㄴ 眼の黒き部分; ㄴ [龍王の名] 黒(龍), 黒色
Mvyut., 支應; ㄴ 加梨加, 迦梨加, 加羅迦(龍) 支應
 ㄴ (樹の) 蟲の穴。
kāla-kañjā ㄴ ㄴ [Asura の一部族の名]。
kāla-kaṭaṅkaṭa ㄴ [Siva 神の稱]。
kāla-kaṅṭhaka ㄴ 雀。
kāla-karṇi ㄴ 不幸, 災難; [*Lakṣmī* 神の名]; [或る
Yoginī の名]; ㄴ [女神の名] 黒耳, 災横 *Abh-vy.*
 172.
kāla-kartṛ ㄴ ㄴ 時是作者, 時生世間, 諸萬物皆是
 時 *Lank.*
kāla-karman ㄴ 死。
kāla-kavi ㄴ [*Agni* 神の稱]。
kāla-kāṅkṣin ㄴ 正しき時期を待つ或は待ち焦るゝ。
kāla-kāra ㄴ 時を作る, 時を生ずる。
kāla-kārita ㄴ 一時の。
kāla-kāleṣu ㄴ 一切の時に, 常に。
kāla-kūṭa 1. ㄴ (球根又は根に含まるゝ) 毒; 毒(の一
 種, 特に海洋攪拌の際に生じたる); 毒 [一般に]。
kāla-kūṭa 2. ㄴ ㄴ [(北方)山間地方の國及びその人民
 の名]。
kāla-kūṭaka ㄴ (或る球根中に含まるゝ) 毒。
kālakūṭa-pati ㄴ [或る *Vidyādhara* の名]。
kāla-kṛta ㄴ 時によりて造られたる; 一時の。
kāla-kṛyā ㄴ [ㄴ, = *kāla-kriyā*] ㄴ 命終, 捨壽
Gaṇḍ-vy. 547.: ㄴm *karamāṇaḥ* 命終時, 臨欲命
 終時, 臨終捨壽時 *Gaṇḍ-vy. 547.*
kālakendra (ka-in) ㄴ [*Dānava* 朝の一王の名]。
kāla-koṭi ㄴ [地方の名]。
kāla-krama ㄴ 時の經過。 ㄴeṇa ㄴ, ㄴāt
 ㄴ 時の經過に隨ひて。
kāla-kriyā ㄴ 期限, 時間の算定; 死; ㄴ 命終, 壽
 終, 死時 *Saddh-p., Śikṣ.*: *atyantareṇa* ㄴ 中天
Gaṇḍ-vy. 269.
kāla-kṣama ㄴ 永續する。
kāla-kṣepa ㄴ 時の浪費, 遅延。 ㄴāya ㄴ 時を
 得んが爲に。 ㄴm *Kṛ*, [ㄴと俱に] 時を浪費す。
kāla-khañja ㄴ = *kāla-kañja*。
kāla-gaṇḍikā ㄴ [河の名]。
kāla-gata ㄴ 死せる; ㄴ 死, 喪, 喪亡, 命終, 已
 逝, 喪没, 遷謝, 死滅, 崩已, 至命終, 已前死, 捨身已
 後, 命終之後 *Divy., Lal-v., Av-ś., Aṣṭ-pr., Saddh-p.,*
Śikṣ., Madhy-v., Bodh-bh.: *abhyatita* ㄴ 過往遷
 謝 *Bodh-bh. 397.*
kāla-gupta ㄴ [或る *Vaiśya* の名]。
kāla-ghaṭa ㄴ [*Brahman* 神の稱]。

kāla-cakra ㄴ 時の輪; ㄴ 時, 時輪 *Gaṇḍ-vy.*:
sarva ㄴ *vaśa-vartin* 於一切時而得自在。 於一切時
 輪而得自在 *Gaṇḍ-vy. 114.* ㄴ [太陽の稱]。
kāla-jihva ㄴ 黒き舌を有する。 ㄴ [或る *Yakṣa* の
 名]。
kāla-jña ㄴ (正しき)時を知る; ㄴ 知時, 知時節
Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.
kāla-jñatā ㄴ ㄴ 知時 *Śikṣ.*
kāla-jñāna ㄴ 時又は年代の知識。
kāla-jyeṣṭha ㄴ 最年長の。
kālañjara ㄴ [*Bundalkhand* 地方の靈山の名]。
kālatama ㄴ 眞黒なる。
kālatas ㄴ 時を経るうちに, やがて, 遂に。 → *kā-*
la.
kālatā 1. ㄴ 季節に適へること。
kālatā 2. ㄴ 黒きこと。
kāla-tinduka ㄴ 黒檀(の一種)。
kāla-daṇḍa ㄴ 死の杖; 死。
kāla-dantaka ㄴ [或る *Nāga* の名]。
kāla-dūta ㄴ 死の使者, 死の前兆。
kāla-deśa-vibhāga ㄴ 時と處との差異。
kāla-daurātmya ㄴ 時の暴虐。
kāla-dharma ㄴ 時の法則(=不可避の死); 死, 死す
 ること: ㄴeṇa *saṁyuktaḥ* ㄴ 命終 *Divy. 28.*;
 崩背 *Av-ś. II. 103.*
kāla-dharman ㄴ [同上]: ㄴnā *saṁyuktaḥ* ㄴ
 已逝 *Divy. 210.*
kāla-dhauta ㄴ 黄金の。
kāla-nara ㄴ [*Saṅgha* の息子の名]。
kāla-nātha ㄴ [(時の主), *Siva* 神の稱]。
kāla-nābha ㄴ [或る *Asura* の名]; [人名]。
kāla-niyama ㄴ 時の限定; 終了時の決定。
kāla-niyoga ㄴ 時の命令, 運命。
kāla-netra ㄴ 黒き目の。
kāla-nemi ㄴ [*Kṛṣṇa* に屠られたる *Asura* の名]; [或
 る *婆羅門* の名]。
kāla-pakva ㄴ 時によりて熟せしめられたる; 死す
 べく定められたる。
kāla-paraśu-dhāra ㄴ 死刑執行人。
kāla-pariṇāmita ㄴ ㄴ 時變, 時化生, 從時方生,
 時變易作 *Madhy-v.*
kāla-parikṣā ㄴ ㄴ 觀時 *Madhy-v.*
kāla-paryaya ㄴ 時の經過。
kāla-paryāya ㄴ [同上]。
kāla-parvata ㄴ [山の名]; ㄴ 黒山 *Lal-v., Sukh-*
vy. I.
kāla-pātrika ㄴ [乞食者の一種](佛敎); ㄴ 黒鉢
 者, 黒鉢盂者 *Mvyut.*
kāla-pāśa ㄴ 死神の索(?)。
kālapāśa-parita ㄴ 死すべき運命の。
kāla-pāśika ㄴ 絞刑吏。
kāla-puccha ㄴ [沼澤に棲む動物の一種]; [雀の一
 種]。
kāla-puruṣa ㄴ 人格化せる時; 死神の嬖臣。
kāla-pūga ㄴ 長時間。
kāla-pratyupasthita ㄴ ㄴ 現時 *Abh-vy.*

kāla-prabodhin 形 正しき時刻に覺めたる。
kāla-prabhu 男 季節の王, 月(太陰)。
kāla-prāpta 形 時によりて齎されたる。
kāla-priya-nātha 男 [Ujjayinī の或る Liṅga の名 (= Mahā-kāla)].
kāla-bandhana 形 時に依存せる。
kāla-bhogin 男 黒蛇。
kāla-masi 女 [河の名]。
kāla-mahattva 中 時大性 Bodh-bh.
kāla-mahi 女 = kāla-masi.
kāla-mukha 形 黒き顔の。 男 猿(の一種); 禪 [Deccan 地方の民族(恐らくは傳説的)の名]。
kāla-megha 男 黒雲; [或る象の名]。
kālambya 男 [隊商の或る宿舍の名]。
kāla-yavana 男 [或る Dvīpa の名]。
kāla-yāpa 男 遷延, 躊躇, 逡巡。
kāla-yāpasa 中 [同上]。
kāla-yāpanā 女 [同上]。
kāla-yukta 形 (現)時に適せる, 時宜を得たる (Budh-c.).
kāla-yuta 形 時宜を得たる, 季節に相當せる。
kāla-yoga 男 時の結合; 運命; 運命の結果; 時刻, 瞬時。 → ~ena.
kāla-yogatas 副 事情に随ひて。
kāla-yogin 男 [(運命を支配する), Śiva 神の稱]。
kāla-yogena 副 若干の時を経て。
kāla-rātri 女 世界破滅の恐慌の夜 [屢々之を人格化して Durgā の稱とす]; 人の死する夜; [呪術に通じたる或る婆羅門女の名]; 黒夜分 Sikṣ.
kāla-rātri 女 [同上]。
kāla-rudra 男 世界を破壊する火と見做されたる Rudra 神。
kālarudrānalatva 中 火が萬物の破壊者たる Rudra 神として現れたる状態。
kāla-rūpin 男 [Śiva 神の稱]。
kāla-loha 中 鐵, 鋼鐵。
kālavat 形 時に關聯せる; 未來に關する。
kālavati 女 [人名]。
kāla-varāṭaka 男 [人名]。
kāla-varṣin 形 適當なる季節に雨を降らしむる。
kāla-vaśāt 從 副 依時 Lal-v.
kāla-vādītā 女 時語, 非時不語 Bodh-bh.
kāla-vāla 形 黒き尾を有する; [黒土の一種]。
kāla-vāhana 男 水牛。
kāla-vid 形 時を知れる。
kāla-vidyā 女 年代又は曆の知識。
kāla-vidvas 形 (季節を知れる), 曆の製作者。
kāla-vidhṛti 女 時の經過。
kāla-viprakarṣa 男 時の間隙, 時の途切れ目。
kāla-vibhakti 女 時の區分。
kāla-vibhāga 男 [同上]。
kāla-vilokita 中 時を觀察すること。
kāla-ṛṣa 中 蛇 (Coluber Nāga) の毒(?).
kāla-ṛddhi 女 不法なる利息(の一種); 定期の利子。
kāla-vyatita 形 正しき時を失したる。
kāla-śāka 男 [野菜の名, 學名 *Ocimum sanctum*].

kālaśeya 中 酪乳。
kāla-saṃrodha 男 長期に互る留置。
kāla-saṃkarṣin 形 時を短縮する。
kāla-saṃkhyā 女 時の計算又は測定。
kāla-saṃgraha 男 時期, 期限。
kāla-samanvita 形 死に憑かれたる, 死せる。
kāla-samaya 男 時 Sapt-pr.
kāla-samāyukta 形 = kāla-samanvita.
kāla-sarpa 男 黒蛇。
kāla-sāra 形 黒き中心點又は腫を有する。 男 黒猿; [白檀の一種]。
kālā-sūkta 中 [讚歌の一種]。
kāla-sūtra 中 死神の索綯(?). 男 中 [地獄の名]; 黒繩, 黒繩地獄 Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.
kāla-sūtraka 男 中 [地獄の名]。
kāla-sūrya 男 世界の終末に於ける太陽。
kāla-haraṇa 中 時の喪失。
kāla-hāni 女 延期。
kāla-hāra 男 = kāla-haraṇa; 時を得ること。
kālāmśa 男 = kāla-bhāga.
kālākāṅkṣin (°la-āk°) 形 (落つきて)將來を待てる。
kālākāla 男 時非時 Gaṇḍ-vy., Mvyut. ~e 於時非時 Sikṣ.
kālākāla-saṃpad-vastu 中 合時非時事, 合時於時分, 合時於非時分 Mvyut.
kālāgamana-pravaṇa (°la-āg°) 形 未曾失時 [Tib. dus-la-sdod-par-bśol-ba] Gaṇḍ-vy. 17.
kālāguru 男 黒色の蘆薈(?)樹(の一種); 沈水香, 黒沈水 Gaṇḍ-vy.
kālāgni 男 世界を破壊すべき火; Kāla 神と Agni 神。
kālāṅga 形 暗青色の胴を有する; 暗青色の刃を有する(劍)。
kālāñjana 中 黒き塗油。
kālāṇḍa-ja 男 (黒き鳥), 印度郭公。
kālātikramaṇa 中 (男)に對し適當なる時期を見逃すこと; 時の喪失; 時の經過による滅失又は破壊。
kālātikrānta 中 [同上]; 過時 Mvyut.
kālātipāta 男 遷延。
kālātita 形 過去の, 經過せる, 既に時宜を失したる。
kālātmaka (°la-āt°) 形 時又は運命に依存せる。
kālātyaya 男 時の過ぎ去ること。
kālātyayāpadiṣṭa 形 時の經過せる, 空となれる, 時效の, 過時[似因 (hetv-ābhāsa) の一]。
kālādhyakṣa 男 (時の支配者), 太陽。
kālānatikramaṇatā 女 隨時, 應時, 不失時 Gaṇḍ-vy.
kālānala 男 (總てを破壊する)時の火; 世界の破滅の火。
kālānukālam 副 隨時, 時時 Sikṣ.
kālānurodha 男 = kālāvabodha.
kālānusāri 男 安息香。
kālānusāri-gandha 男 堅固香, 堅黒梅檀香, 隨時堅細梅檀香 [梅檀は candana の] Gaṇḍ-vy.
kālānusāri-candana 中 (香) 黒梅檀, 隨時檀 Saddh-p., Mvyut.

kālānusārīni 女 [同下(甲)].
kālānusārīn 形 時に準ずる; 隨時芬馥 *Caṇḍ-vy.* 甲 (女)-ni 安息香.
kālānusārya 甲 (芳香ある)安息香(の一種); 樹脂.
kālāntaka 男 死の神としての「時」.
kālāntaka-yama 男 破壊の神 *Yama* として現れたる「時」.
kālānta-yama 男 [同上].
kālāntara 甲 時の間隔; 適時; 好機會; 時間, 時隔, 暫時, 別時, 經多時 *Saādḥ-p., Lan̄k., Sūtr., Abh-vy.* ~m 副 暫, 暫時 *Abh-vy.* ~eṇa 男, ~āt 從 若干時の經過せる後に, 暫時, 時々; その中に.
kālāntara-kṛta 形 漸次, 次第 *Bodh-bh.*
kālāntara-kṣama 形 遷延を或は合間(と)を忍び得る或は耐え得る.
kālāntara-deśanā 女 別時説, 時時説, 待時故説 *Lan̄k.*
kālāntara-sthāvara 形 暫時住, 經多時住 *Abh-vy.*
kālāntarābhiprāya 男 別時意, 別時意趣, 念他時 *Mvyut.*
kālāntaroparodha (°ra-up°) 男 命終 *Mañj-m.*
kālāpa 男 *Kalāpin* 派の學徒; [*Ārāḍa* の名]; *Kalāpin* の學派.
kālāpaka 甲 *Kalāpin* の學派; [或る文典の題名].
kālāpadeśa 男 黒説, 闇説 *Bodh-bh.*
kālāpa-maitrāyaniya 男 [人名] 迦藍延 *Divy.*
kālāpahāra 男 時間の浪費, 遷延.
kālābhyāsa-prayukta 形 應時修習 *Bodh-bh.*
kālābhra-megha 男 重雲, 密雲重霧 *Gaṇḍ-vy.*
kālāma-sūtra(?) 甲 (音寫) 迦羅摩經 [*Tib. sg-yu-rtsal-ses-kyi-bu*] *Bodh-bh.* 389. [寫本は *kāma-sūtra*].
kālāyasa 甲 鐵. 形 鐵製の.
kālāyasa-dṛḍha 形 鐵の如く堅き又は確かなる.
kālāyasamaya 形 (女)-i = *kālāyasa* (形).
kālāvabodha 男 時及び情勢の認識.
kālāvara 形 時に遅るゝ.
kālāvyavāya 男 休止又は句切りなき.
kālāsoka 男 [王の名].
kālīka 形 時に關する; 季節に相應はしき, 適時の; (一°)まで續く; 毎月の; 時, 世, 時分可 *Bodh-bh., Mvyut.* 男 [龍王の名] 具時 *Mvyut.*; 迦梨, 迦梨, 迦利(龍王), 迦羅 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
kālīkā 女 黒; 肝臟; 暗黒なる密雲; [河の名]; 女神 *Kālī*; 黒 *Saddh-p.* → ~vāta.
kālīkā-purāṇa 甲 [或る *Purāṇa* の題名].
kālīkā-mukha 男 [或る *Rākṣasa* の名].
kālīkā-vāta 男 黒風, 惡風 *Divy., av-ś., Saddh-p., Gaṇḍ-vy.*
kālīṅga 形 *Kalīṅga* 國より來る. 男 *Kalīṅga* 國の人又は王.
kālīṅgaka 形, 男 [同上].

kālīṅgi 女 *Kalīṅga* 朝の王女.
kālīṅjara 男 [山の名].
kālīṅjala 男 [同上]; 迦陵惹哩 *Vajr-s.*
kālī-dāsa 男 (女神 *Kālī* の奴僕), [諸詩人の名]; [最も有名なる抒情敘事并に戲曲詩人(恐らくは西曆第五世紀の初)の名].
kālīnda 甲 西瓜.
kālīndaka 甲 [同上].
kālīndī 女 [*Yamunā* の(父系)].
kālīman 男 黒きこと.
kālīya 男 [或る *Nāga* の名]; コブラ蛇.
kālī 女 黒色女神, *Durgā* (の一形相); 迦惟 *Divy.*
kālī-Kṛ, 黒くす.
-kālīna 形 時に關する.
kālīyaka 男 [或る *Nāga* の名]. 甲 (芳香ある)黒き木材(旃檀又は蘆薈).
kālī-vilāsin 男 *Kālī* の夫 (*Siva* 神).
kāluṣya 甲 濁りたること; 汚れたること; 不正なること; 和合の擾亂又は阻止; 穢, 濁亂, 垢之所染汚 *Lan̄k., Sūtr., Śikṣ.*
kāle-caryā 女 季節向きの仕事.
kāleya 1. 甲 [香木の一種].
kāleya 2. 男 [Asura の一部類].
kāleya 3. 形 *Kālī* 又は *Kālī* 期に屬する.
kāleyaka 甲 = *kāleya* 1.
kālōdaka (°la-ud°) 甲 [聖地の名]; [海洋の名].
kālōdayin 男 [佛弟子の名] 黒曜 *Saddh-p.*; 迦留陀夷 *Saddh-p., Sukh-vy. II.*
kālōpadeśa (°la-up°) 男 時説 *Śikṣ.* 63.: ~mahā-pradeśa 時説及廣大説 *Śikṣ.* 63. → *kālāpadeśa*.
kālopta (°la-up°) 形 適時に蒔かれたる.
kālōraga (°la-ur°) 男 黒蛇.
kālīya 甲 黎明, 日出; 夙 *Bodh-bh.* ~m 副 黎明に; 朝, 旦, 平旦, 天明, 至明清旦 *Divy., Mvyut.* ~e 形 [同上].
kāvandha 形 (女)-i 幹の如き, (首なき)胴の形をなせる.
kāvāṣeya 男 [*Tura* の(父系)].
kāvāda 形 音悪しき.
kāveri 女 [河の名].
kāvya 1. 形 聖者又は詩人の性質を有する或はより來る; *Uśanas* に由來せる或はによりて物語られたる. 甲 智慧; 豫言者の才能又は天分. 男 [*Uśanas* の(父系)]; [*Kavi* の後裔]; 詩.
kāvya 2. 男 [祖靈の一種]. 甲 詩; 作詩; 詩的作品; 詩, 讚頌, 讚詠, 賦頌, 微妙讚頌; 文, 文詞, 文辭, 文章, 文頌; 世俗文筆, 世間經書 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*, 梵干.
kāvya-kartr 男 詩人.
kāvya-goṣṭhi 女 詩に關する論議.
kāvya-caura 形 他の詩を剽竊する. 男 他の詩の剽竊者.
kāvya-jīva-jūna 男 金星と木星と水星; [又は] 詩の趣旨を解する.

kāvyatā ㊦ 詩の必要條件又は性質。
kāvyatva ㊦ [同上].
kāvya-devī ㊦ [王妃の名].
kāvya-prakāśa ㊦ 詩の光 [或る詩論の題名, *Mamamata* 及び *Alaṭa* (西暦第十一又は第十二世紀)の作].
kāvya-mimāṃsaka ㊦ 修辭學者.
kāvya-mimāṃsā ㊦ 詩の理論.
kāvya-rasa ㊦ 詩の風韻.
kāvya-śāstra ㊦ 詩と學習(一); 詩作法の書 詩論; [或る著作の題名].
kāvya-darśa (°ya-ād°) ㊦ 詩鑑 [詩法に関する書の題名, *Danḍin* (西暦第六世紀)の作].
kāvya-lamkāra ㊦ 詩の飾 [*Vāmana* (西暦第九世紀)の作に係る著書の題名].
kāvya-lamkāra-vṛtti ㊦ [*Vāmana* 作の *Sūtra* に対する彼の註釋].
kāvya-lamkāra-sūtra ㊦ ㊦ [*Vāmana* 作の *Sūtra* の題名].
Kāś, I. ㊦ (㊦) **kāśate(-ti)** 見ゆ, 現はる; 輝く, 快き姿を有す; ㊦ (現分 *kāśat*) (醜)露 *Lal-v.* 206. ㊦ (過受分) **kāśita** 照す, 輝ける. ㊦ (㊦) **cākaśiti**, ㊦ **cākaśyate** 皎々と輝く.
nis- ㊦ (便役) **niṣkāśayati** 示す, 驅逐す.
pra- 現はる, 明らかになる; 輝く; ㊦ 照, 遍照, 照顯示; 發露; 開示, 顯示; 說, 演說, 開演, 顯說, 宣暢, 廣令宣布 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Suv-pr., Sukh-vy. I., Saddh-p., Sam-r., Laṅk., Bodh-c., Śikṣ., Vijñ-t.* ㊦ **prakāśayati** 見えしむ, 示す, 顯はす; 宣言す; 輝かしむ; ㊦ 顯, 現; 開示, 開發; 照明; 說, 說法, 演說, 演暢, 宣暢, 歎說; (廣)解釋 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sūtr., Abh-vy.*
saṃ-pra- 見ゆ, 現る; 輝く, 照す; ㊦ 說, 演說, 說法, 分別說, 開示, 宣說開示 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Sam-r., Rāṣṭr.* ㊦ (便役) **saṃprakāśayati** 輝かす, 覆を除く, 發表す; ㊦ 照, 顯; 開示, 顯示, 宣說開示, 開顯; 宣說, 廣說, 解說, 演說; 使…明識 *Divy., Saddh-p., Guhy-s., Madhy-v., Bodh-bh., Mvyut.:* *vistareṇa saṃprakāśayet* 廣說 *Aṣṭ-pr.* 220.
vi- ㊦ (便役) **vikāśayati** 現れしむ, 輝かしむ; 明らかにす, 公表す. ㊦ 輝く.
kāśa ㊦ (㊦) (一種の)輝く白き草 [學名 *Saccharum spontaneum*]. ㊦ *Kāśa* 草の花. ㊦ 顯現.
kāśi ㊦ 拳; 一握; [國王の名]; (㊦) [民族の名]; ㊦ 光支應; ㊦ 迦尸, 加尸 *Divy., Aṣṭ-pr., 支應.* ㊦ (又 *-i*) [地名, *Benares*].
kāśika ㊦ *Kāśi* 又は *Benares* より來れる; ㊦ (㊦) 迦尸, 僑尸迦, 僑奢耶, 葛失葛 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.:* *~āni vastrāṇi 僑奢耶衣 Lal-v.* 238.
kāśi-kanyā ㊦ *Kāśi* 族の娘, *Kāśi* 王の王女.
kāśika-vastra ㊦ *Kāśi* 産の細綿; ㊦ 好衣; (㊦) 迦尸衣, 迦尸縞縵, 僑奢耶衣, 僑尸迦衣 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr.*
kāśika-sūkṣma ㊦ [同上]; ㊦ (㊦) 迦尸細軟布, 葛失葛(地方山)布 *Mvyut.*

kāśikā ㊦ = *kāśi* (㊦); [士 *vṛtti*] [*Pāṇini* 文典の註釋書の題名 (恐らくは西暦第七世紀) *Vāmana* 及び *Jayāditya* の作].
kāśita (過受分) → *Kāś.*
kāśin ㊦ (一°)の外觀を有する.
kāśi-nagara ㊦ *Kāśi* 市 (*Benares*).
kāśi-pa ㊦ *Kāśi* 國王.
kāśi-pati ㊦ [同上].
kāśi-puri ㊦ *Benares* 市.
kāśi-manuja ㊦ *Kāśi* より來れる人.
kāśi-rāja ㊦ *Kāśi* 王; ㊦ (㊦) 迦尸王 *Lal-v.*
kāśi-rājan ㊦ [同上].
kāśi-varadhana ㊦ [nagara と俱に] = *kāśi-nagara*.
kāśi ㊦ = *kāśi* (㊦).
kāśi-pati ㊦ = *kāśi-rāja*.
kāśi-rāja ㊦ [同上].
kāśiśvara (°śi-iś°) ㊦ [同上].
kāśisa ㊦ ㊦ 礬石 *Daś-bh.* → *kāśisa*.
kāśmari ㊦ [樹の名, 學名 *Gmelina arborea*].
kāśmariya ㊦ [同上].
kāśmalya ㊦ 落膽, 失望.
kāśmira ㊦ (㊦-*i*) *Kāśmira* に由來する或はに屬する. ㊦ *Kāśmira* 國; *Kāśmira* の王; ㊦ (㊦) 罽賓, 罽賓(國), 迦濕彌羅(國) *Divy., Abh-vy., Vijñ-v.:* ㊦ *Kāśmira* の人民, *Kāśmira* 國; ㊦ (㊦) 罽賓國師, 迦濕彌羅師, 迦濕彌羅國(毗婆沙)師 *Abh-vy.* 196. ㊦ 蕃紅花(??).
kāśmiraka ㊦ [同上(㊦)].
kāśmira-ja ㊦ 蕃紅花.
kāśmira-pura ㊦ *Kāśmira* の都市; ㊦ (㊦) 罽賓, 罽賓國 *Divy.*
kāśmira-mata ㊦ ㊦ (㊦) 罽賓國師判 *Abh-vy.* 170.
kāśmirika ㊦ = *kāśmiraka*.
kāśmirika-nivāsa ㊦ *Kāśmira* 人の住處.
kāśmirikā ㊦ *Kāśmira* 國の女王.
kāśya ㊦ *Kāśi* 王; [*Kāśyapa* の父の名]; [*Suhotra* の子の名]; [*Senajit* の子の名].
kāśyapa ㊦ (㊦-*i*) *Kāśyapa* に屬する或は關する. ㊦ (㊦) *Kāśyapa* の後裔; [或る文法家の名]; ㊦ [佛或は佛弟子の名] 飲光, 護光; 龜氏; 護容子 *Sapt-pr., Mvyut.;* ㊦ 迦葉, 迦葉波, 迦攝波 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Laṅk., Abh-vy., Mvyut.* ㊦ [諸讚歌の名].
kāśyapaka ㊦ [同上(㊦)].
kāśyapa-dvipa ㊦ [或る *Dvipa* の名].
kāśyapa-nandana ㊦ ㊦ [諸神の稱].
kāśyapa-parivarta ㊦ [經名, 古大寶積經(大寶積經第四十三會), 大迦葉問大寶積正法經等].
kāśyapi ㊦ [*Tārksya* の名].
kāśyapi ㊦ *Kāśyapa* の(㊦); 大地.
kāśyapiya ㊦ ㊦ [佛教部派の名]; ㊦ 飲光部, 護光家; (㊦) 迦葉比部, 迦尸比部 *Abh-vy., Mvyut.*
kāśyapeya ㊦ [十二 *Āditya* の稱]; [*Garuḍa* の稱].
kāśyā ㊦ *Kāśi* 王妃.
-kāṣa ㊦ 摩擦. → *kapola* ~.

kāṣāya 形 赤褐色の; 袈裟 *Lal-v., Divy.*
 ① 赤褐色の衣服; 染衣, 間色衣, 赤血色衣;
 不正色; 緇衣; 法服, 聖服, 離塵服, 消穢衣, 蓮花服;
 無垢穢 (袈裟) 袈裟衣; *Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr.,*
Sikṣ., 支應; 袈裟 *Divy., Laṅk., 梵千., 支應.*
kāṣāya-khaṇḍa 男 ① (袈裟) 少分袈裟 *Sikṣ.*
kāṣāya-grahaṇa ① [或る Caitya の名] (*Lal-v.*)
kāṣāya-dhāraṇa ① 赤褐色の衣服を纏ふこと。
kāṣāya-vasana 形 赤褐色の衣服を纏へる。
kāṣāya-vastra ① 法服; (袈裟) 袈裟衣, 袈裟服
Saddh-p., Sikṣ.
kāṣāya-vāsa 形 = kāṣāya-vasana.
kāṣāya-vāsika 男 [毒蟲の一種].
kāṣāyavāso-vasana 形 (袈裟) 身被於袈裟, 身
 著於袈裟 *Laṅk.*
kāṣāyīn 男 佛教の僧。
kāṣāyī 女 蜜蜂又は熊蜂(の一種).
kāṣṭha ① 木(片), 杖, 丸太, 材木; [尺度の一種]; [容
 量の一種]; 木, 杖, 薪, 柴, 木柴, 枯木 *Divy.,*
Buddh-c., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Mañj-
m., Laṅk., Abh-vy., 梵千.; 所然之物 *Abh-vy.* →
 danta ~.
kāṣṭha-kuṭṭa 男 啄木鳥(の一種).
kāṣṭha-kūṭa 男 [同上].
kāṣṭha-khaṇḍa ① 杖, 圓材, 木片.
kāṣṭha-citā 女 火葬の薪堆.
kāṣṭha-takṣ 男 大工.
kāṣṭha-dvayāgni-dṛṣṭānta 男 ① 兩木生火
 兩木截火喻 *Madhy-vibh.*
kāṣṭha-paṭṭa 男 木板.
kāṣṭha-pradāna ① 木を積むこと, 火葬の薪堆を作
 ること。
kāṣṭha-bhāra 男 材木の一荷; [材木の重量の單位].
kāṣṭha-bhārika 男 木を運ぶ者.
kāṣṭha-bhid 形 材木を裂く。
kāṣṭha-bhūta 形 木片の如くなれる(苦行者), 硬直
 せる; 如朽木, 如朽敗木 *Suv-pr.*
kāṣṭha-bhṛt 形 目的へ導く。
kāṣṭha-bheda 男 材木の裂くること。
kāṣṭhamaya 形 (女 -i) 木製の, 木片より成る。
kāṣṭha-rajju 女 薪束又は材木を縛りつくる綱。
kāṣṭha-loṣṭamaya 形 木又は泥土にて製したる。
kāṣṭha-vāṭa 男 木材製の壁。
kāṣṭha-stambha 男 材木の梁。
kāṣṭha-hāra 男 擔薪人 *Lal-v.*
kāṣṭha-hāraka 男 樵夫, 採樵者, 賣樵人, 賣樵
 者 *Divy., Sikṣ., Mvyut.*
kāṣṭhā 女 競走場, 蹄跡(乘馬等の), 天上の路(風と雲
 との); 終點; 方角; 目標; 境界; 頂點, 峯; 高さ,
 極限; [時間の單位], 指; 月面の十六分の一; 形態;
 太陽; 水; [*Dakṣa* の娘にして *Kaśyapa* の妻の名].
 ① [時の單位] 迦嗵 *Divy.*
kāṣṭhādhirohaṇa ① 火葬の薪堆に登ること。
kāṣṭhā-muni 男 柱上の苦行者。
kāṣṭhāluka (°tha-āl°) ① [*Āluka* (黒檀)の一種].
kāṣṭhika 男 木を運ぶ者。

kāṣṭhika-vitta 男 使卒 [*Tib. ran-rta*] *Mvyut.*
kāṣṭhikā 女 小木片。
kāṣṭhi-BHū, 木片の如くなる, 硬直す。
Kās 1., I. ① **kāsate** 咳く。
Kās 2., [= Kās].
 nis(niṣ)- 免濟 *Saddh-p. 79.*
 pra- (不定 prakāsitum) 説 *Lal-v. 397.*
kās 女 咳。
kāsa 1. 男 行くこと, 動くこと。
kāsa 2. 男 咳; 喘, 喘[驚?], 咳嗽 *Mañj-m.,*
Mvyut., 梵雜.
kā-saktika 形 頭布を纏へる。
kāsa-ghna 形 咳を軽減する。
kāsavat 形 咳をなす。
kāsa-śvāsa 男 喘息 *Mañj-m.*
kāsā 女 = kāsa 2.
kāsāra 男 池, 湖。
kāsikā 女 (輕き)咳。
kāsīn 形 咳をなす。
kāsisa ① 綠鬘; 光 支應; (迦私) 迦私(藥),
 加私(藥), 迦肆姿, 迦私姿(藥) *Bodh-bh., 支應.* →
 kāsīsa.
kāsisa-prakṣipta 形 (迦私) 置迦肆姿 *Bodh-bh.*
kāstūrika 形 麝香より成る或はにて製せる。
kāhala 形 不作法の言辭を弄する; 極度の; 乾燥せ
 る。男 太鼓。
kāhalā 女 吹奏樂器(の一種).
kāhali 男 [*Siva* 神の稱].
kāhlāra 形 白睡蓮より出でたる。
ki 1. [kim, kiyat, kidṛś 等に於ける ① 代 ② 代].
ki 2. ① 法 [papi 等に於ける ① 尾 i].
kim-yu 形 何を願ふ。
kim-rūpa 形 如何なる形態又は外觀の。
kimvat 形 何を有する; 何に似たる。
kim-vadanta 男 [惡鬼の名].
kim-vadanti 女 噂; 俚諺, 箴言, 物語。
kim-varāṭaka 男 「varāṭaka 何物ぞ」と言ふ者即ち浪
 費者。
kim-varṇa 形 如何なる色の。
kim-vid 形 何を知る。
kim-vidya 形 如何なる知識を有する。
kim-vidha 形 如何なる種類の。
kim-vibhāga 形 如何なる區分を有する。
kim-viṣayaka 形 何に關する。
kim-vistāra 形 如何なる範圍の。
kim-virya 形 如何なる力の。
kim-vṛtta 形 出來事に驚く, 不注意の; 惡行の。
kim-vyāpāra 形 何に従事する。
kim-śāru 男 ① 穀物の芒; 芒刺, 麥王兒 *Mvyut.*
kim-śila 形 小石又は砂礫ある(陸).
kim-śila 形 如何なる習性の或は様子の。
kimśuka 男 [樹の名, 學名 *Butea frondosa*]. ① *Ki-*
mśuka 樹の(香なき赤色の)花; 肉色花 *Mvyut.;*
 ① 甄叔迦, 緊叔迦 *Saddh-p., 支應.*
kim-sakhī 男 惡友。
kim-samācāra 形 如何なる行爲をなす。

kim-sādhana 形 如何なる証明を有する。
kim-suhṛd 男 悪友。
kim-hetu 形 何を原因とする。
kimhetu-sambhava 形 何因生, 何因起 *Lank.*
kikirā-Kṛ; 片々に裂く。
kikkiṭā 不 特殊の [特殊の 感歎]。
kiknasa 男 挽き砕きたる穀粒。
kiṅkaṇi 女 =kiṅkiṇi; 鈴 鈴 鈴 鈴。
kim-kara 男 召使, 奴隸; [車の特殊部分の名]; [*Rākṣasa* の一種]; [*Śiva* 神の或る従者の名]; 緊迦羅, 緊迦羅 *Guhya-s.*; 種 [民族の名]。
kim-karaṇiya 中 應何所作 *Sikṣ.*: sarva-sattvānām ~ eṣu kṣapayitavyaḥ 於諸衆生應何所作 *Sikṣ.* 21.
kim-karaṇiyatā 女 =kim-kartavyatā; 所作, 給侍 *Mvyut.*; 爲 ~yai 欲何所作 *Sikṣ.*
kim-kara- 苦役, 奴隸の身分。
kim-kara-pāṇi 形 誰に對しても仕ふる用意ある。
kim-karā 女 婢; 侍者 *Mañj-m.*
kim-karin 形 何所作 *Abh-vy.*
kim-kari 女 婢又は女奴隸, 召使の妻。
kimkari-kṛta 形 奴隸とせられたる。
kim-kartavyatā 女 (次に)何を爲すべきかに當惑すること。
kim-karman 形 如何なる業に従事する。
kim-kāraṇa 形 如何なる原因又は理由を有する。
 ~m 何故, 何因, 何縁, 云何作 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*
kim-kāryatā 女 =kim-kartavyatā.
kiṅkiṇi 女 小鈴; 鈴, (寶)鐸 *Saddh-p.*, *Sikṣ.*
kiṅkiṇikā 女 [同上]。
kiṅkiṇi 女 [同上]; 鈴, 鈴鐸 *Lal-v.*, *Mañj-m.*
kiṅkiṇikin 形 小鈴を以て飾られたる。
kiṅkiṇi-jāla 中 鈴網, 鈴鐸網, 金鈴羅網, 寶鈴羅網 *Aṣṭ-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Rāṣṭr.*, *Mvyut.* 形 小鈴網圍繞 *Mvyut.*
kiṅkiṇijāla-mālin 形 周圍に小鈴を懸けたる。
kim-kuśalābhīyukta 形 少善行 *Sikṣ.*
kim-kṛte 何故に, 如何なる目的にて。
kim-kṣaṇa 男 「時何物ぞ」と言ふ者即ち怠惰者。
kim-gotra 形 如何なる種族に屬する。
kim-canaka 男 [龍王の名] 微小 *Mvyut.*
kim-cana-pralāpin 形 說無益語言, 輕爾而發語言 *Aṣṭ-pr.*
kim-canya 中 財產。
kim-cic-cheṣa 形 少量を残す。
kim-cij-jña 形 僅かを知れる, 極めて淺薄なる知識の; 一智, 少分知 *Saddh-p.*
kim-citka, [不定の 代] [先行する *ya* と俱に] 凡そ如何なる人も, 各人。
kim-cit-kara 形 意義ある。
kim-cid, → kim. 中 (若干), [一分量(手に八杯の量)の稱]。
kimcin-mātra 中 少量; 少 *Sikṣ.*
kim-chandas 形 何れの *Veda* に習熟せる; 何れの音律なる。

kiñjalka 中 雄蕊(特に蓮花の); 藥, 花蕊 *Lal-v.*, *Mvyut.*
kiñjalkin 形 雄蕊を有する。
kiṭi 男 野猪; 吉胝, 鞫致 *Bodh-bh.*
kiṭibha 男 南京蟲; 虱; 小痘疹 *Mvyut.* 中 [發疹の一種]。
kiṭibhaka 男 蟒蛇 *Divy.*
kiṭṭa 中 分泌, 分泌液; 塵; (鐵の)錆; 滓, 滓穢 *Abh-vy.*; 包牙(?) *Mvyut.*
kiṇa 男 皮膚の硬結; 癩痕。
kiṇva 中 麹菌; 酵母又は酸酵素(酒精醸造用の); 麴 *Mvyut.*
k-it 形 *k* をその *it* として有する (文法)。
kitava 男 賭博者; 詐欺者, 惡漢; 競勝 *Mvyut.*; 種 [民族の名]。
kitavi 女 [同上]。
kidvat 副 *kit* の如く (文法)。
kin 第一接尾音 *i*。
kināri-lipi 女 [書體の一種] (*Lal-v.*)。
kimtva 形 厚かましく質問する。
kim-datta 男 [或る神聖なる井戸の名]。
kim-dama 男 [或る *Muni* の名]。
kindu-bilva, [種族の名又は *Jayadeva* の生誕地の名]。
kindu-villa, [同上]。
kim-deva 男 下位の神, 半神。
kim-devatya 形 如何なる神に屬する或はを信ずる。
kim-dṛavya 形 如何なる材料の。
kim-nara 男 [物語上の生物の名, 半人半獸にして *Kubera* 神に仕ふ]; [諸人の名]; 人非人, 是人非人 *Mvyut.*, 立應; 緊那羅, 緊那囉, 緊捺洛, 緊捺落, 眞陀羅, 眞陀囉, 甄陀羅 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Sam-r.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 立應。
kimnara-kaṅṭha 形 *Kimnara* の如くに歌ふ。
kimnara-pati 男 [(*Kimnara* の王), *Kubera* 神の稱]。
kimnara-rāja 男 緊那羅王 *Sikṣ.*
kimnara-rūpa 中 緊那羅身, 眞陀羅形(像色貌) *Saddh-p.*
kimnarendra (°*ra-in*°) 男 緊那羅王, 緊那囉王 *Rāṣṭr.*
kim-nari 女 緊那羅女 *Lank.*
kim-nāmaka 形 如何なる名を有する。
kim-nāmadheya 形 [同上]。
kim-nāman 形 [同上]。
kim-nāmikā 形 女 [同上]。
kim-nimitta 形 如何なる原因を有する, 何によりて惹起せられたる。~m 何故に。
kim, [*ka* の 中] 何か, 何故か [屢々單なる 不 として用ゐられ翻譯の要なし (= *Lat. num, an*)]. → *ka*. 何, 有何, 云何; 何者, 誰 *Sukh-vy. II.*, *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*: tat ~ manyase 於意云何, 於汝意云何 *Sukh-vy. II.*, *Vajr-pr.*
 [屢々他の 不 と俱に用ゐらる] ~ *aṅga* いかでか……のみなるべき, 如何に況や; 何況 *Lal-v.*
atha ~, いかでか他なるべき = 正に然り, 確かに。

〜 **api**, [Kālidāsa 時代まではこの用法なし] 甚だ、極めて; 峻烈に; 否それのみかは; [㊦と俱に] 決して……せず。

〜……**āho svit** 爲是…… Nyāy-pr.

〜 **iti**, 如何なる理由にて, 何故に; [時としては] = **iti** 。

〜 **iva**, 何故に。

〜 **u**, まして況や, いよいよ益々。

〜 **uta**, 況や; [否定文に於て] 況や……に非ず。

〜 **ca**, 而も亦た, 亦たその他, 加之; 如此 Mvyut.: 〜〜 cātaḥ 復從是 Mvyut.

〜 **cana**, 幾分か, 少し; **ke-cana** 有那等 Mvyut.; [㊦と俱に] 決して或は更に……せず。

〜 **cid**, 幾分か, 少し [時としては **iva** に従はる]; 少, 有少, 少分, 有少分, 隨一; 少物; 或; 誰;

都 Sapt-pr., Cat-ś., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.: vidyate. 〜〜 cid 少者 Cat-ś. 485.; na

〜〜 cit paśyāmi 我都無所見 Sapt-pr. 196.; yaḥ kaś-cid 誰人 Mvyut.; kaś-cid (何)人, kim-cid (何)法

Madhy-v. 194.; kā-cid 雖是那個 Mvyut.; ke-cid 或曰 Mvyut.; ye ke-cid 任他誰, 誰 Mvyut.; kasya-cid 孰者之 Mvyut. → yad (yat kim-cid); [㊦と俱に] 決して……なし; nāsti 〜〜 cid 無有少法, 無有別物, 都無片物 Aṣṭ-pr., Abh-vy.: na kaṃ-cit (〜〜 cit) sama-samam 無有一與齊等 Bodh-bh. 328.

〜 **tarhi**, 然らば如何, 然らば更に, 然し; 雖則 Mvyut.; [㊦の後に] ……に非ずして實に…

〜 **tu**, されど, 併し; ……にも拘らず; 雖然, 何況 Śikṣ., Mvyut.

〜〜 **tu tathāpi** (tathā-api), [同上].

param 〜〜 **tu**, [同上].

〜〜 **nu**, [調調] 況や [從少向多并に從多向少].

〜〜 **nu khalu**, [調調] 一體, ……なるや否や。

〜〜 **nu vai** 豈……耶, 若爾云何 Abh-vy.

〜〜 **punar**, 況や; されど; 尙ほ; 併しながら; 況, 況復, 何況, 豈有 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Abh-vy.: kaḥ punar vādaḥ 況, 況乎 Lal-v., Śikṣ.; kaḥ punar vādaḥ siddhāni 何況驗者 Bodh-bh. 20.

〜〜 **vā**, 若くは; 恐らくは; 況 Saddh-p.

〜〜 **vā punar** 何況 Saddh-p.

〜〜 **svid**, 何故なるや, そも……何ぞや, 恐らくは……ならん。

[二重の疑問の場合は第二の kim は一般に **uta**, **u va**, **nu**, **nu vā**, **vā**, **atha vā** と俱に用ゐらるゝ

か又は **atha vā**, **aho svid**, **uta**, **uta vā**, **vā**, **vāpi** が kim なしに第二の場處に用ゐらる.]

[㊦, (不變分) と俱に] (調)にとりて(調, (不變分))は何の要かあらむ。

kasya 誰的 Mvyut.: tat kasya hetoḥ 問何故, 所以者何 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Bodh-ōn. 等。

〜〜 **R** (使役), na kaṃ-cid arpayati 豈不成, 豈不能成 Aṣṭ-pr. 385.

kim-adyaka 何今日を尊重せざる。

kim-adhikaraṇa 何に向けられたる, 何に關する。

kim-antara 互に如何なる距離の。

kim-abhidhāna 何と名けられたる。

kim-ārtha 如何なる目的を有する。 〜〜 **m** 如何なる目的の爲に, 何の爲に, 如何なる理由にて;

何因, 有何因緣 Divy., Abh-vy.

kimārtha-hetu 何義故 Bodh-bh.

kim-avastha 如何なる状態の(健康)。

kim-ākāra 如何なる形の。

kim-ākhyā 如何に名けられたる

kim-ācāra 如何なる行狀の。

kim-ādhāra 何に關する。

kim-āyata 如何に長き。

kim-āyus 如何なる年齢に達せる。

kim-ārambha 如何なる企圖の。

kim-āśraya 何に依れる, 何に支へられたる。

kim-āhāra 如何なる食を攝る。

kim-icchaka 人の望むもの, 望まらるゝもの。

kimidin 惡鬼の一種。

kimiya 誰に或は何處に屬する。

kim-parākrama 如何なる偉力に恵まれたる; 何の力の。

kim-parivāra 如何なる從者又は護衛を有する。

kimpala, [樂器の一種] (Lal-v.).

kim-pāka 胡蘆科の植物の名, 甚だ不熟の味ある胡瓜の一種, 學名 *Trichosanthes palmata*; 甄波迦 支應。

kimpila 林溜 [鴛鴦?] Mvyut.; [Yakṣa の名] 金毘羅 Sam-r.

kimpilākṣa 眼如林溜 [眼如鴛鴦? Tib. ḥug-mig-po] Mvyut.

kim-punā [河の名].

kim-puruṣa 妖精(の一種), 侏儒 [猿に似て Kim-nara と混同せらるゝ矮人の一種, Kubera 神の從者]; [Kimpuruṣa の住む大地の一郭].

kimpuruṣi-Kṛ, Kimpuruṣa に變化す。

kimpuruṣeśa (śa-īśa) Kimpuruṣa の王(即ち Dru-ma).

kim-pūruṣa = kim-puruṣa.

kim-prakāraṇa 如何なる方法にて。

kim-pratyaya (調-ā) 何れの理由の, 如何なる條件の, 何故なる (Lal-v.).

kim-prabhāva 如何に力強き, 如何なる力を有する。

kim-prabhu 惡主。

kim-pramāṇa 如何なる周囲を有する。

kim-prayojana 如何なる目的に適ふ。

kim-phala 如何なる果を生ずる。

kim-bala 如何に強き, 如何なる力を有する。

kimbila-sūtra [佛教經典の名].

kim-bhūta 何なる, 如何なる屬性の [注釋書中に名詞を規定する際に用ふ]; 猶何等 Nyāy-pr.

〜〜 **m** 如何に, 如何なる方法にて, 如何なる程度に。

kim-bhṛtya 惡しき召使。

kim-mantrin 男 悪しき大臣。
kimmaya 形 何より成る。
kim-mātra 形 如何なる範圍の。
kiyac-cira-carita 中 幾時 幾時 *Mvyut.*
kiyac-cira-caritāvin 形 行已經幾時 *Aṣṭ-pr.*
kiyac-ciram 副 如何に久しく或は長き間; 其已久如, 爲久如耶 *Gaṇḍ-vy.*
kiyac-cireṇa (具) 副 如何程の間に, 如何程早く。
kiyat 形 如何程の, 如何程大なる; 如何程遠き, 如何程長き; 如何に種々の, 如何なる種類の; 如何なる價值の; 幾所, 幾許, 幾, 幾何, 云, 云何, 齊何; 多不, 寧多不, 久如 *Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Daś-bh., Laṅk., Śikṣ., Mvyut.* 副 如何に遠く; 如何に多く; 何の爲に=無益に。[不定の代] 形 小なき, 少しの, 若干の, 重要ならざる。中 僅か, 幾分か; [次に來る ca 并に先行する yāvat と共に] 如何に大なりとも; 如何なる種類にもせよ; [api と共に] 如何程大なりとも; **kiyaty ā** (因) 於 [前の ā と共に] 何時頃より。
kiyat-prabhūta 形 幾許 *Divy.*
kiyad-dūra 中 若干の距離。〜m, 〜e 於, 遠からず, 近くに。
kiyad-bahu 形 幾多 *Śikṣ.*
kiyan-mātra 形 重要ならざる。中 瑣事。
kiyāmbu 中 [或る水生植物]。
Kir, kirati 等 → Kṛ 1。
kir 形 (一?)を散布する, ……を注ぎ出す。
kirāṇa 男 塵; 微塵; 光線; 日又は月光; 絲; 放, 作素[柔?]; 光, 光明, 普照 *Suv-pr., Laṅk., Sūtr., Mvyut.*
kirāṭa 男 商人。
kirāta 男 種 [Sūdra 或は Mleccha と同視せらるゝ山間の狩獵蠻族の名]; 夷狄塞 *Lal-v.*; 羅多 *Lal-v.*; 羅多 *Lal-v.*; 羅多 *Lal-v.* の人又は王。
kirāta-kula 形 *Kirāta* 族に屬する。
kirāta-lipi 女 (音) 羅多書, 夷狄塞書 *Lal-v.*
kirātārjuniya 中 *Kirāta* に變裝せる *Siva* 神と *Arjuna* との鬪争 [*Bhāravi* (西曆第六世紀)の作に係る詩篇の題名]。
kirāti 女 *Kirāta* 族の女。
kirīṭa 男 王冠, 冠; 冠, 寶冠, 金冠 *Laṅk.* 男 商人。
kirīṭa-bhṛt 男 [*Arjuna* の稱]。
kirīṭa-mālin 形 冠を以て裝飾せる。
kirīṭa-vatsa 男 [人名] (*Jāt-m.*)。
kirīṭin 形 王冠を戴ける; 頂髻, 首髻 *Mvyut.* 男 [*Indra* 神の稱]; [*Arjuna* の稱]; [諸人の名]。
kirbira 形 雑色の。
kirmira 形 [同上]。
kirmira 形 [同上]。男 [或る *Rākṣasa* の名]。
kirmirita (通受分) [同上(形)]。
Kil, → kelāya.
kila 1. [因は時として -ā] 副 誠に, 實に, 確に, 真に; 即ち, ……と言はれたる如く, ……と述べられたる如く; 周知の如く, 人の言ふ如く [特に豫め反對論を抑ふる爲に用ゆ]; 現, 實; 傳, 傳説, 彼言;

根由 *Saddh-p., Sapt-pr., Abh-vy., Mvyut.*
kila 2. 形 遊戲する。
kila-kiñcita 中 戀愛上の興奮(喜怒泣笑等)。
kila-kila 男 [*Siva* 神の稱]; [*Yavana* 族の名]。
kila-kilā 女 歡喜の叫。
kilakilā-prakṣveḍita 形 歡喜踊躍, 踊躍歡喜 *Aṣṭ-pr.*
kilakilāya (名動) 自 **kilakilāyati (-te)** 喜びの叫びを揚ぐ, 歡呼す; 叫ぶ。
kilāñja 男 蓆。
kilāṭa 男 濃き牛乳; 汁, 凝乳 *Mvyut.*
kilānta (通受分) 俗 [<klānta]; 疲, 疲極 *Lal-v., Saddh-p.*
kilāsa 1. 形 癩病の。中 癩病の白斑點; 癩病(の一種); 胎毒 *Mvyut.*
kilāsa 2. 形 俗 [<glāṣnu]; 疲厭, 懈怠, 素食(?) [*Tib. sñoms-las*] *Mvyut.* → **kilāsita, kilāsin** 2。
kilāsatva 中 癩病たること。
kilāsa-nāśana 形 癩病を除去する。
kilāsa-bheṣaja 中 癩病の治療。
kilāsita 女 俗 [*Pāli. kilāsu. <glāṣnu + tā*]; 疲厭, 懈怠, 懶惰 *Saddh-p. 128, 129, 284.* → a〜。
kilāsin 1. 形 癩病の。
kilāsin 2. 形 = **kilāsa** 2.; 厭怠, 懈怠, 懶倦, 疲懈 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.* → a〜。
kilikila 男 種 [民族の名]。
kilikilaya (名動) 自 **kilikilayati** 歡呼す。
kilikilā 1. 女 [都市の名]。
kilikilā 2. 女 歡呼 (*Divy.*); = **kilakilā**; 善哉 *Lal v.*
kilikilāya (名動) 自 **kilikilāyate** 歡呼す。
kilikilāyitavya (未受分) 喧嘩(?), 所應歡呼 *Mvyut.*
kilikilita 中 歡呼の叫び。
kiliñja 男 蓆; 箒籬 *Divy.*
kiliṣṭa (通受分) 俗 [<kliṣṭa] 雜染 *Śikṣ. 337.*
kili-kṛta-samjñā 女 [= *kiñi-kṛta-samjñā* 又は *gā-dhī-kṛta-samjñā?*] 起憍恣, 懷厭怠, 忤忤疾獲之想 [*Tib. slebs-par ḥdsin-paḥi ḥdu-śes-can*] *Saddh-p. 319.*
kileśa 男 俗 [音重, <kleśa] 惑, 煩惱, 冥塵 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
kileśa-jaha 形 俗 [音重, <kleśa-j?] 棄衆冥塵 *Lal-v. 46.*
kilbiṣa 中 違犯, 犯罪, 罪惡; 不正, 危害; 重罪, 罪過; 毒具; 煩惱 *Mañj-m., Mvyut.*
kilbiṣa-sprt 形 罪を除く或は避くる。
kilbiṣin 形 有罪の, 罪惡の。男 罪人。
kilviṣa 中 [= **kilbiṣa**]; 懷惡 *Lal-v. 158.*
kiśora 男 仔馬; (動物の)仔; 若者; 駒, 兒馬, 馬駒 *Lal-v., Mvyut.*
kiśoraka 男 [同上]; 駒 *Divy.*
kiśori 女 牝仔馬; 少女。
kiṣkindha 男 [南方の町の名 (*Mysore*)]; [南印度 *Odra* に在る山の名]。
kiṣkindhaka 男 種 [民族の名]。

kiṣkindhā 〔*Kiṣkindha* 山中の洞窟の名, 猿王 *Vālin* 及び *Sugrīva* の住處〕。
kiṣku 〔*kiṣku* 前腕; 柄(斧の); [長さの一単位]。〕
kis 〔*kis* 不変辭 何れの。〕
kisara 〔*kisara* 〔*Pāli*. *kiecha* 又は *kasira*. <*kṛcchra*〕; 梗莖 *Bodh-bh.* 388. → *a*〜*lābbhin*.〕
kisalaya 1. 〔*kisalaya* 芽, 嫩芽, 苗。〕
kisalaya 2. 〔*kisalaya* 名動 起す。〕
kisalaya 〔*kisalaya* 發芽せしむ; 起す。〕
kisalaya-karā 〔*kisalaya-karā* 嫩芽の如き優しき手の(婦人)。〕
kikaṭa 〔*kikaṭa* 〔*Rṣabha* の子の名]; [*Samkaṭa* の子の名]; 〔或る非 *Ārya* 民族の名]。〕
kikasa 〔*kikasa* 脊骨。 骨。〕
kicaka 〔*kicaka* 竹(の一種) [學名 *Arundo Karaka*]; [*Bhīmasena* に滅ぼされたる *Virāta* の大將の名]; [鳥の一種]; 〔或る *Kekaya* 族の名]。〕
kiṭa 〔*kiṭa* 昆蟲; 蛆蟲; (一°)の蟲 = 賢子, 嫌はしき奴; 蟲, 蛭, 蛇 *Saddh-p.*, *Daś-bh.*〕
kiṭaka 〔*kiṭaka* 〔同上]。〕
kiṭa-kumbha 〔*kiṭa-kumbha* 菌瓶 *Sikṣ.*〕
kiṭa-ja 〔*kiṭa-ja* 絹。〕
kiṭa-maṇi 〔*kiṭa-maṇi* 螢。〕
kiṭa-yoni 〔*kiṭa-yoni* 雌蜂。〕
kiṭādri 〔*kiṭādri* 〔山の名] 黒山, 蟻山 *Abh-k.*, *Abh-vy.*〕
kiṭāri 〔*kiṭāri* 〔植物の一種]; 硫黃。〕
kiṭāvapanna 〔*kiṭāvapanna* 〔同上]。〕
kiṭikā 〔*kiṭikā* 〔同上]。〕
kiṭi-ja 〔*kiṭi-ja* 絹絲。〕
kiṭi-maṇi 〔*kiṭi-maṇi* 螢。〕
kiṭotkara 〔*kiṭotkara* 〔同上]。〕
kidṛkṣa 〔*kidṛkṣa* 如何なる種類の。〕
kidṛg-ākāra 〔*kidṛg-ākāra* 如何なる外觀を有する。〕
kidṛg-rūpa 〔*kidṛg-rūpa* 〔同上]。〕
kidṛg-varṇa 〔*kidṛg-varṇa* 如何なる色の。〕
kidṛg-vyāpāravat 〔*kidṛg-vyāpāravat* 如何なる職業を有する。〕
kidṛś 〔*kidṛś* 如何なる種類の; [次に來る *ca* 及び先行する *yāvāt* と共に] 如何なる種類にもせよ; 何相 *Abh-vy.*〕
kidṛśa 〔*kidṛśa* 〔同上]。〕
kināśa 〔*kināśa* 〔同上]。〕
kira 〔*kira* 鸚鵡; 〔*Kāsmira* の民族の名]。〕
kiri 〔*kiri* 歌人, 詩人; 讚歎者。〕
kirin 〔*kirin* 讚むる。 歌人。〕
kirṇa 〔*kirṇa* 〔同上]。〕
kirṇi 〔*kirṇi* 〔同上]。〕
Kirt, X. → *kirtaya*.
kirtana 〔*kirtana* 陳述, 記載, 報告; 枚擧; 物語; 記念碑, 記念物 (*Jāt-m.*); 名 *Abh-k.*〕
kirtaniya 〔*kirtaniya* 陳述せらるべき, 讚めらるべき。〕
kirtanya 〔*kirtanya* 陳べられ或は話さるゝ價值ある。〕
kirtaya 〔*kirtaya* 〔同上]。〕
kirtayati 〔*kirtayati* 陳述す, 記載す, 言ふ; 名づく; 提示す, 宣言す; 暗誦す, 物語る; 稱讚す; (業)を(業)と呼ぶ, 斷言す;〕

〔*kirtaya* 呼ばる. . . . と見做さる; 斥, 説 *Lank.* 368. 〔*kirtita* 言はれたる, 述べられたる; 祝福せられたる; 知られたる, 有名なる。〕
anu- 記す, 述ぶ。
ud- 讚美す。
pari- 廣く布告す; 宣言す, 提示す, 公布す; 稱讚す; 明言す, 物語る. 呼ぶ; 唱; 標; 説, 宣説; 稱, 稱念, 稱讚, 稱述名; 歎, 讚歎, 稱揚讚歎 *Lal-v.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. II.*, *Daś-bh.* *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.* 〔*kirtaya* 呼ばる, 見做さる。〕
sam-pari- 稱讚 *Lal-v.*
pra- 宣言す, 提示す, 示す; 陳述す, 承認す; (業)を(業)と呼ぶ. 〔*kirtaya* 呼ばる, 見做さる。〕
sam-pra- 陳述す, 記載す; (業)を(業)と斷言す; 説 *Lank.* 〔*kirtaya* 呼ばる, 見做さる。〕
sam- 陳述す, 記載す; 暗誦す; 宣言す; 稱讚す; 説 *Rāṣṭr.*
kirti 〔*kirti* 陳述, 記載; 名聲, 名譽; 名, 好名, 名稱, 名聞; 譽, 稱譽; 稱, 稱讚, 稱揚, 讚歎 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*; [或る牛の名] 名稱 *Lal-v.*〕
kirti-kara 〔*kirti-kara* 〔同上]。〕
kirtita 〔*kirtita* 〔同上]。〕
kirti-nāśin 〔*kirti-nāśin* 名聲を傷くる。〕
kirtimat 〔*kirtimat* 高名なる, 有名なる, 稱讚せらるゝ。〕
kirtimaya 〔*kirtimaya* 〔同上]。〕
kirti-yaśas 〔*kirti-yaśas* 名稱 *Sikṣ.*〕
kirti-yuta 〔*kirti-yuta* 〔同上]。〕
kirti-ratha 〔*kirti-ratha* 〔同上]。〕
kirti-rāta 〔*kirti-rāta* 〔同上]。〕
kirti-śabda-śloka 〔*kirti-śabda-śloka* 稱讚; 名稱, 聲名, 名譽 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*, *Sikṣ.*〕
kirtīśabdaśloka-śramaṇa 〔*kirtīśabdaśloka-śramaṇa* 求索嘩名自貢高; (音)名譽沙門, 貪求名聞沙門, 求名聞稱讚沙門 *Kāśy.* 172.〕
kirti-śeṣa 〔*kirti-śeṣa* 名聲のみ殘存すること, 死。〕
kirti-śloka-śabda 〔*kirti-śloka-śabda* 歌頌稱讚 *Sikṣ.*〕
kirti-sāra 〔*kirti-sāra* 〔人名]。〕
kirti-sena 〔*kirti-sena* 〔*Vāsuki* の姪の名]。〕
kirti-soma 〔*kirti-soma* 〔人名]。〕
kila 〔*kila* 棧; 木釘, 門, 留針; 楔; [棧形の腫瘍の一種]; 釘; 楔, 楯; 楸 *Divy.*, *Lank.*, *Guhy-s.*, *Abh-vy.*; 痣 *Mvyut.* → *indra*〜, *māmsa*〜。〕
kilaka 〔*kilaka* 〔同上]。〕
kilana 〔*kilana* 〔同上]。〕
kilāla 〔*kilāla* 〔同上]。〕
kilāla-ja 〔*kilāla-ja* 〔同上]。〕
kilāla-pa 〔*kilāla-pa* 〔同上]。〕
kilāla-pā 〔*kilāla-pā* 〔同上]。〕
kilikā 〔*kilikā* 〔同上]。〕
kilīta 〔*kilīta* 〔同上]。〕

たる。

kiśa 男 猿。

kiśmila 男 [病氣の一種]。

kista 男 讚歎者; 詩人。

Ku, → Kū.

ku 1. 女 大地, 土地, 地面。

ku 2. 女 喉音(の部類)。

ku 3. [kutas, kutra, kva 等に於ける 代 詞]° — 悪しき, 無意義の; 悪しく, 甚だ; 悪 邪, 不善, 非正, 惡, 鄙惡 *Sūtr.*, *Bodh-bh.*: ~ prayukta 爲不善, 爲非正 *Bodh-bh.* 256.

ku-kathā 女 悪しき或は哀れなる物語。

ku-kanyakā 女 悪しき少女。

ku-karman 中 邪惡なる行爲。形 悪行を爲す。

ku-kalatra 中 惡妻。

ku-kavi 男 劣等詩人。

ku-kāvya 男 劣詩。

ku-kuṭumbinī 女 (家政の) 悪しき主婦。

kukura 男 [王の名]; 種 [民族の名]。

kukūla 男 中 穀殼; 悪 [地獄の名] 燄熾, 熱灰 *Abh-k.*, *Mvyut.* → kukkula.

ku-kṛta 形 悪しく爲されたる; 悪しく行動せる; 鄙惡所作 *Bodh-bh.*

kukṛta-bhāva 男 悪所作體, 所作惡心生 *Abh-vy.*

ku-kṛtya 中 不名譽なる行爲, 悪行; 邪惡なること。

kukkuṭa 男 雄鷄; 鷄, 家鷄 *Mvyut.*, 立應, 梵干; 究究羅, 鳩鳩吒 立應。

kukkuṭaka 男 [Niśāda と Śūdra 女との子]。

kukkuṭa-pakṣaka 中 鷄翼形の刀; 如翅刀 *Mvyut.*

kukkuṭāṇḍa 中 鷄卵; [米の一種]。

kukkuṭāṇḍaka 男 [米の一種]。

kukkuṭārāma (°ta-ār°) 男 [佛教寺院の名] (*Divy.*) → kurkuṭārāma.

kukkuṭi 女 雌鷄。

kukkubha 男 野鷄。

kukkura 女 人, [或る賤しき混血種姓(階級)] (*Kār-vy.*); 犬, 狗 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜; 種 [民族の名]。

kukkura-go-vratika 形 受狗牛等禁戒 *Sikṣ.*

kukkuri 女 牝犬。

kukkula 男 [*Pāli.* kukkuḷa] [地獄の名] (*Mah-v.*) → kukūla.

kukṣi 男 [Kus] 腹; 胎; 空洞, 洞窟, 谷; 灣; 腹, 肚, 胎, 胎, 二脇; 胯骨 *Divy.*, *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Sādḍh-p.*, *Suv-pr.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵干: mātuḥ ~ au 母胎 *Suv-pr.* 125.

kukṣi-gata 形 腹中に在る; 處胎, 住胎, 在母胎, 入母胎, 降(神)入胎, 降(神)母胎 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*

kukṣi-gati-Kṛ, 貪食す。

kukṣi-ja 男 子息。

kukṣimat 形 有腹 *Abh-vy.*

kukṣimati 女 分娩に近きこと, 分娩せんとするこ

と: 產生 *Divy.*

kukṣim-bhari 形 單に腹を満たす。

kukṣi 女 = kukṣi.

ku-kṣetra 中 惡田 *Mvyut.*

kukṣeyu, = kakṣeyu.

ku-gaṇa-pratāpana 形 惡會甚受煩, 集惡甚煩 *Mvyut.*

ku-gaṇin 形 邪惡の教團に屬する (*Lal-v.*); 邪道, 外道 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*

ku-gati 女 邪路 (佛敎)。

ku-gr̥ha 男 種 = ku-kuṭumbinī.

ku-gehini 女 [同上]。

ku-go 男 弱き牡牛。

ku-grāma 男 荒廢せる村落, 寒村。

kuṅkuma 中 番紅花(?) (の一種) [學名 *Crocus sativus*]; 紅花, 鬱金, 鬱金香 *Suv-pr.*, *Mvyut.*; 恭俱摩 *Guh-y-s.*

kuṅkuma-paṅka 男 番紅花の塗油。

kuṅkumākṛti (°ma-āk°) 男 [米の一種]。

Kuc, VI. 他 kucati; Kuñc, VI. 自 kuñcate. 縮む, 曲がる。過受分 kucita, kuñcita 縮められたる; 曲げられたる; 捲き縮れたる; 小なる。便役 kuñcayati 縮ましむ, 捲き縮ましむ。

ā- 過受分 ākuñcita 曲れる; 縮まれる; 縮少せられたる; 捲き縮れたる。

sam-ā- 便役 過受分 縮まれる; 歪める; 抑壓せられたる。

ud- 便役 過受分 utkocita 花咲ける。

vi- 過受分 vikuñcita 縮まれる; 捲き縮れたる。

sam- 縮む, 閉づ; (從)より畏縮す (*Jāt-m.*); 惑 *Sikṣ.* 過受分 samkucita 縮まれる, 閉されたる; 疎(め)める; 意氣沮喪せしめられたる, 狼狽せる。

便役 samkocayati 縮少す; 輕減す, 減少す。

kuca 男 兩 乳房。

ku-candana 中 赤き梅檀。

ku-cara 形 徘徊する; 邪惡なる, 悖徳の。男 惡人。

ku-carita 中 惡行爲。

ku-caritra 中 [同上]。

ku-caryā 女 [同上]。

kucita 過受分 → Kuc.

kucina 男 地名 龜茲 梵雜。

ku-cela 中 貧弱なる衣服, 襤褸; 惡衣 *Mvyut.* 形 みすぼらしき衣服の, 襤褸を纏へる

ku-celatā 女 [同上(形)種]。

ku-caila 形 = ku-cela(形)。

ku-ja 男 大地の子 [火星の稱]; [或る *Daiitya* の名]。

kuja-dina 中 火曜日。

ku-jana 男 惡人, 悪しき民族; 惡友, 惡友人, 惡朋友, 鄙者 *Rāṣṭr.*, *Madhy-vibh.*

ku-janani 女 悪しき母。

ku-janman 1. 男 賤しき生れの人, 奴隸。

ku-janman 2. 男 大地の子, 火星; 樹木。

ku-jivikā 女 不幸の生活。

Kuñc, → Kuc.

kuñcana 中 彎曲; 短縮, 縮減。

kuñci 男 [容量の單位, 一握の八倍]。

kuñcikā ㊦ 鍵; ㊦ 鑰, 鑰匙 *Divy., Mvyut.*
kuñcita ㊦ 過受分 → *Kue.* ㊦ 螺旋, 宛轉, 螺焰
Lal-v., Suv-pr.: nila-su ~ eśa-nikāśa [*Tib. mth-*
on-mthiñ-lean-lo-byā-ni-tsa-śa-hdra] 紺青にして克
く卷縮し eśa [*刊本 kāśa*] (懸巢鳥の一種にして紺青
色のもの)の如し (*Suv-pr. 39.*)
kuñci ㊦ 葛樓子(?)
Kuñj, I. ㊦ **kuñjati** サラサラと音す, 咆哮す.
kuñja 1. ㊦ 矮林, 藪; ㊦ 園亭; ㊦ 林 櫛 *Mvyut.*
梵千.
kuñja 2. ㊦ ㊦ [*<kubja*]; ㊦ 曲 *Divy. 639.* →
nadi ~ .
kuñja-kuṭira ㊦ 園亭 叢林.
kuñjara ㊦ 象; (一°)中の象 = (一°)の首長, 最も卓越
せるもの; [或る Nāga の名]; [王の名]; [中印度の山
の名]; ㊦ 象, 大象 *Lal-v., Mañj-m., Mvyut.*; 牛
Mvyut.
kuñjara-graha ㊦ 象狩.
kuñjaratva ㊦ 象たること.
kuñjarāroha (°ra-ār°) ㊦ 象使ひ.
kuñjari ㊦ 牝象.
kuñjala ㊦ [=kuñjara]; ㊦ 象 *Divy.*
kuñjavat ㊦ [*Dandaka* 林の一部の名].
Kuṭ, VI. ㊦ **kuṭati** 曲がる, 彎曲す; 欺く. IV. ㊦
kuṭyati, X. ㊦ **koṭayate** 分つ; 片々に破る, 碎
く. ㊦ 過受分 **kuṭita** 曲げられたる.
ā- 打つ, 敲く, 打ち鳴らす. ㊦ ㊦ **ākoṭyamāna**
㊦ 擊出 [*Tib. rab-tu-rduñ*] *Lal-v. 299.* ㊦ 便後 **āko-**
ṭayati 打つ, 敲く (*Divy.*); ㊦ 扣打 *Av-ś.*; 令斷
Mvyut.: imām yaṣṭim ākoṭayati 扣打此杖 *Av-ś.*
I. 18.
kuṭaka ㊦ [樹の一種]; (㊦) [民族の名]; ㊦ 池井,
泉池陂井 *Sikṣ. 249.*
kuṭakācala (°ka-āc°) ㊦ [山の名].
kuṭakuñcaka ㊦ ㊦ 堅固兢戰 [*Tib. hjuñs*] *Bodh-*
bh. 124. → *kuṭukuñcaka.*
kuṭa-ja ㊦ [樹の一種, 學名 *Wrightia antidysente-*
rica].
kuṭapa ㊦ [穀物の量の單位].
kuṭara ㊦ =kuṭhara.
kuṭaru ㊦ 雄鷄.
kuṭa-hārikā ㊦ 婢.
kuṭi ㊦ 彎曲, 屈曲(一°); 小屋, 小舎, 小房; ㊦ 房,
庵, 草庵 *Divy., Av-ś., Saddh-p., Prāt-m.* →
bhṛkati, bhrukuti, bhrūkti.
kuṭika ㊦ 曲れる, 彎曲せる.
kuṭikā ㊦ =kuṭi; [河の名]; ㊦ 房, 房屋, 小房, 僧
房, 草庵 *Divy., Av-ś., Saddh-p., Mvyut.*
kuṭi-koṣṭikā ㊦ [河の名].
kuṭita ㊦ 過受分 → *Kuṭ.*
kuṭi-maṅga ㊦ ㊦ 經堂筵 *Mvyut.*
kuṭila ㊦ 屈曲せる; 彎曲せる; うねりたる; 捲き縮
れたる; 屈曲して進む; 不正直なる, 詐欺の; 破廉
恥の, 不徳の; ㊦ 曲, 邪曲, 詔曲; 乖戾, 隳戾; 姦
詐 *Lal-v., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
kuṭilaka ㊦ 曲れる, うねりたる; 捲き縮れたる.

kuṭila-keśa ㊦ (㊦-*i*) 縮れたる髪を有する.
kuṭila-gati ㊦ 屈曲して行く, 人知れず行く; 逆の運
行にある場合の(恆星). ㊦ [音律の一種].
kuṭila-gā ㊦ 河.
kuṭila-gāman ㊦ うねりたる; 氣紛れの.
kuṭila-gāmin ㊦ [同上].
kuṭilageśa (°gā-īśa) ㊦ (河の王), 太洋.
kuṭila-citta ㊦ 惡意ある, 詭計の; ㊦ 心歪, 心不
正, 奇異 *Mvyut.*
kuṭilatā ㊦ 捲き縮れたること; 不正直, 詐欺; ㊦
曲 *Gaṇḍ-vy.*
kuṭilatva ㊦ [同上]; (一°)より路を外るゝこと.
kuṭila-pakṣman ㊦ 曲線をなせる睫毛又は眉毛を有
する.
kuṭila-mati ㊦ 心の曲れる, 詐欺の.
kuṭila-manas ㊦ [同上].
kuṭilāśaya (°la-āś°) ㊦ 惡意の, 惡辣なる.
kuṭillkā ㊦ 拔足の動作(舞臺に於ける); 彎曲して進
むこと; 鍛冶屋の道具; [河の名].
kuṭili-Kṛ, (眉を)翳む.
kuṭi ㊦ =kuṭi.; 家, 堂, 店; ㊦ 屋, 房, 亭, 臺
Divy., Mvyut. → *maśaka* ~ .
kuṭi-kṛta ㊦ [縮木綿織の一種(?)].
kuṭi-caka ㊦ [乞食修道者の一種].
kuṭi-cara ㊦ [同上].
kuṭi-nivātam ㊦ 小屋にて風を避くる爲に.
kuṭi-praveśa ㊦ 小屋に居留すること.
kuṭi-mukha ㊦ [*Kubera* 神の従者の名].
kuṭira ㊦ ㊦ 小屋. ㊦ 性交.
kuṭiraka ㊦ 一° ㊦ 家 *Lank.* ㊦ 小屋; =kuṭi-
eaka.
kuṭiri-Kṛ, 自己の小屋又は住處として選ぶ.
kuṭukuñcaka ㊦ [*Pāli. kuṭukañcaka*]. → *kuṭa-*
kuñcaka; ㊦ 惜財, 惜自他物, 促護堅捉, 惜財不
與人 *Divy., Sikṣ., Mvyut.*; 奸惡 *Mvyut.:* matsarina
āsan ~ āgrhita-pariṣkārah 慳惜己物不肯惠施(見
他施時便爲遮止) *Divy. 302.*; matsari ~ āgrhita-
pariṣkārah 極慳惜, 極慳負 *Av-ś. II. 155.*
kuṭumba ㊦ 家事; 家族; 家族の財産; ㊦ 眷屬,
妻; 家 *Divy., Suv-pr., Bodh-c., Mvyut.*; 星 *Mvyut.*
kuṭumbaka ㊦ [同上].
kuṭumba-parigraha ㊦ 家事; 家族.
kuṭumbika ㊦ 家政を處理する. ㊦ 家僕; ㊦ 家
中使者 *Mvyut.*
kuṭumbin ㊦ 家長, 族長; 家族, 家族の一員; 家僕;
農夫; ㊦ 親屬 *Sikṣ.* ㊦ 家長とその妻.
kuṭumbini ㊦ 家の主婦; 家婢.
Kuṭṭ, X. ㊦ **kuṭṭayati** 粉碎す, 搗き碎く; ㊦ 碎,
搗, 搗, 搗, 搗, 搗; 碾, 壓; 切 *Sikṣ., Mvyut.*
㊦ 過受分 **kuṭṭita.**
vi- 搗く; 寸斷す, 切々に劈く.
kuṭṭa ㊦ (一°)を以て粉碎する或は打碎く, 寸斷する,
破る.
kuṭṭaka ㊦ [同上].
kuṭṭana ㊦ 粉碎すること, 切斷; 打碎くこと.
kuṭṭani ㊦ 煤淫婦; [槍の一種].

kuṭṭā 女 [數の名] 古盧鼻(?), 古盧兜(?)
Lal-v., Mvyut.

kuṭṭāka 形 (一°)を寸断する, 切断する, 破る.

kuṭṭāparānta 男 [民族の名].

kuṭṭāra 形 (一°)を裂く, 切々に劈く. 男 口論者.

kuṭṭāvitā 女 [數の名] 古吒鼻那, 古盧兜那 Lal-v., Mvyut.

kuṭṭita 通受分 撃たれたる; 搗き碎かれたる, 平になれる; 碾, 壓 錠搗 Sikṣ.

kuṭṭini 女 娼淫婦.

kuṭṭini-kapaṭa 男 [或る悪漢の名].

kuṭṭima 男 平坦なる床, 疊石又は一松模様形の鋪装.

kuṭṭiraka 中 小屋.

kuṭmala, = kuḍmala.

kuṭmali-bhūta 形 [=kuḍmali-bhūta] 含蕊 Lal-v.

kuṭhara 男 [或る Nāga の名].

kuṭhāra 男 斧; [或る Nāga の名]; 斧, 利斧 斧鉞 Divy., Lal-v., Sikṣ., 梵雜.

kuṭhāraka 男 斧.

kuṭhārika 男 樵夫.

kuṭhārikā 女 小きき斧又は同様の器具; 鉞斧 Mvyut.

kuṭhāri 女 斧; 斧 梵干.

kuṭhera 男 [植物の名].

[Kuḍ, Kuṇḍ, 圍繞す].

kuḍava 男 中 [容量并に重量の單位 = 1/4prastha]; 斛 梵雜.

kuḍmala 形 芽を出せる, 蕾を出せる, 芽又は蕾に充てる. 男 中 蕾. 中 [地獄の一種].

kuḍmalaka-jāta 形 半開 Mvyut.

kuḍmalatā 女 蕾の状態, (目を)閉づること.

kuḍmalāgra-danta 形 芽の如き齒を有する.

kuḍmalāya 名動自 **kuḍmalāyate** 蕾の如く閉づ.

kuḍmalita 通受分 蕾の如く包まれたる; 蕾の如く閉ぢたる; 半開の, 蕾の脹らむ; 芽又は蕾に充てる.

kuḍya 中 壁; 牆, 壁, 石壁, 牆壁 Divy., Ast-pr., Saddh-p., Lan̄k., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵干.: tiraḥ ~ gata 來兩壁間(?) Sikṣ. 76.

kuḍya-pucchā 女 家守宮(?).

kuḍya-matsya 男 [同上].

kuḍya-mūla 中 牆邊 Ast-pr.

kuḍya-lepa 男 左官.

kuḍyā 女 = kuḍya.

kuṇa 男 [布につく蟲の一種].

kuṇaka 男 動物の仔.

kuṇapa 中 死骸; (動物の)死體, 死肉; 屍, 死屍, 死尸, 屍骸, 屍糞 Divy., Av-s., Saddh-p., Abh-k., Mvyut. 中 [地獄の一種] (通致); 槍; [民族の名]. 形 腐敗する, 腐肉の如き臭氣ある.

kuṇapa-gandha 男 屍體の臭氣.

kuṇapa-gandhi 形 死體の如き臭氣の.

kuṇapa-bhuj 男 [Rākṣasa の稱].

kuṇapāsana 形 屍體を食ふ.

kuṇāru 形 腕の痿えたる.

kuṇāla 男 [鳥の一種]; 俱拏, 鳩那羅, 孤那刺, 軍拏羅 Rāstr., Sikṣ., Mvyut.; [Asoka 王の子の名] 拘那羅 Av-s.

kuṇi 形 = kuṇāru; 腕の曲れる, 手又は指なき腕の; 瘤手, 攀覽, 手殘疾, 支節不具者 Ast-pr., Mvyut. 男 [王の名]; [Pāṇini 文典の註釋者の名]; [人名].

kuṇitva 中 麻痺: 不具.

kuṇinda 男 音, 響.

Kuṇṭh, I. 中 **kuṇṭhati** 跛となる, 不具となる; 鈍くせらる. 通受分 **kuṇṭhita** 鈍くせられたる, 鈍き; 弛められたる, 疲れたる; 無効の; 緩漫なる. vi- 通受分 **vikuṇṭhita** 鈍くせられたる.

kuṇṭha 形 鈍き; 弛みたる; 緩漫なる.

kuṇṭhaka 形 愚かなる; 不具の; 攀 Saddh-p. 男 複 [民族の名].

kuṇṭhatā 女 (手足の)感覺の喪失.

kuṇṭhatva 中 遲鈍, 愚鈍.

kuṇṭha-dhi 形 愚なる.

kuṇṭha-manas 形 [同上].

kuṇṭhāśma-mālāmaya 形 稜角なき石の列より成れる.

kuṇṭhita 通受分 → Kuṇṭh.

kuṇṭhitāśri 形 端又は角の鈍くなれる.

kuṇṭhi-Kṛ, 鈍くす.

kuṇṭhi-Bīhū, 無効となる.

Kuṇḍ, → Kuḍ.

kuṇḍa 中 甕, 瓶, 壺(宗教的用途の), 水瓶; 天窗; (地中の)圓形の孔; 井; 圓き火坑; 器, 瓶, 甕, 盆, 澡罐; 甕, 罐 Sikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵雜. → dhūpa ~. 男 淫蕩なる婦女の私生兒 [Siva 神の稱]; [Dhṛtarāṣṭra の子の名]; [Nāga の稱]. 形 手の彎曲せる; [Pāli. kuṇḍa 参照] 手殘者, 手禿者 Mvyut.

kuṇḍaka 男 中 瓶, 壺, 甕. 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名].

kuṇḍa-golaka 男 兩 私生兒と寡婦の子.

kuṇḍa-ja 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名].

kuṇḍa-jāṭhara 男 [古聖仙の名].

kuṇḍa-dhāra 男 [或る Nāga の名]; [Dhṛtarāṣṭra の子の名].

kuṇḍa-pāyin 形 水瓶より飲む.

kuṇḍa-bhedin 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名].

kuṇḍala 中 環状に耳環; 螺線(吉祥の記號): 腕環; (綱の)一卷き; [膀胱の病の一種]; 耳環, 耳端, 環玢, 寶環 Sukh-vy. I., Suv-pr., Bodh-bh., Mvyut.; 瑞草 [Tib. gyun-druñ] Lal-v. 276.; [明王の名] 軍拏利 Guhy-s.

kuṇḍalaka 中 [皿の一種]; (繩の)一卷き (Jāt-m.); 鍋, 洗滌器 Mvyut.

kuṇḍalaka-jāta 形 螺文 Bodh-bh.

kuṇḍalāmṛta 中 [明王の名] (通致)甘露軍拏利 Guhy-s.

kuṇḍalin 形 耳環を著けたる, 環状をなせる, 巻かれたる. 男 蛇.

kuṇḍali 女 軍拏利 Mvyut.

kuṇḍali-Kṛ 環になす, 卷く.
kuṇḍali-kṛta 形 環状をなせる, 卷かれたる, 圓形に動く.
kuṇḍali-bhūta 形 [同上]; Kuṇḍala と名づくる膀胱の病ある.
kuṇḍa-sāyin 男 =kuṇḍa-dhāra.
kuṇḍa-hasta 形 手持香鑪, 手擎香鑪 *Suv-pr.*
kuṇḍā-vṛṣa 形 姦通せる.
kuṇḍāśin (°da-ās°) 形 kuṇḍa (淫婦の私生兒)によりて與へられたる食物を食ふ.
kuṇḍikā 女 壺; 瓶, 水瓶, 小淨瓶 大淨瓶 *Av-s., Mvyut., 支應.; 水瀝 Mvyut.; 君持 軍持, 軍遲, 鐸持, 軍壘, 摺稚迦 Mvyut., 支應.*
kuṇḍina 中 [Dhṛtarāṣṭra の子の名]; [Vidarbha の首都の名].
kuṇḍi 女 甕, 瓶, 壺(宗教的用途の); 君持 *Divy.*
kuṇḍi-viṣa 男 種 [民族の名].
kuṇḍrñāci 女 家守宮(蛙).
kuṇḍoda (°da-uda°) 男 [山の名].
kuṇḍodara (°da-ud°) 形 壺の如き腹を有する. 男 [或る Nāga の名]; [Dhṛtarāṣṭra の兄弟又は子の名].
kuṇḍodhni (°da-ūdh°) 形 女 (牛等の)壺の形をなせる乳房を有する.
kuṇḍopadhāniyaka (°da-up°) 男 [Pūrṇa の稱]; 盆枕 *Divy.*
ku-tanaya 男 悪しき子.
ku-tantri 女 尾.
kutapa 男 中 羊毛製の毛布; Kuśa 草; 糶, 羊毛, 毳褐 *Bodh-bh.; 臥草 Mvyut.: kṛṣṇasya ~ sya nirbhāsaḥ 黒糶光, 黒羊毛光 Bodh-bh. 390.*
ku-tapasvin 男 悪しき苦行者.
ku-tarka 男 詭辯, 邪論; 悪しき論理學者; 悪覺, 悪見 *Lank.*
kutarka-patha 男 詭辯的論法.
kutas 副 [ka の 後] 孰れより, 誰より, 何處より; [時として] 何處へ, 何故に; [屢々戯曲に於て前の陳述を斷定する一聯の詩の前に在りて] 何となれば; 如何に, 況や; ……に就て贅言を要せんや; 於何, 依何, 由何, 從何, 那裡, 何故, 何緣; 從何所; 爲誰的; 況, 何況 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.:* ~ ca te (sārisutā) vimuktāḥ 是人於何而得解脫 *Saddh-p. 92.*
 ~ 'pi, [後期の梵語] 何處より, 何の理由より.
 ~ cid, [同上], 從他, 所從 *Vajr-pr., Abh-vy.*
 na ~ cid, 何處よりも…なし; na ~ cid āgataḥ 無所從來 *Vajr-pr. 44.*
 na ~ cana, [同上]; 如何なる方向に於ても…なし; [常に kasmāt (kasyās, kebhyas 等) と同意語に用ゐられ「何處よりかゝるもの來らんや, あり得べからず」の義を有す].
 ~ punar 況, 何況, 況復 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Sikṣ.*
 ~ eva 況, 何況 *Abh-vy.*
 ~ nu vata 何緣, 何因何緣 *Aṣṭ-pr.*

kutastarām 副 如何に, 何の方法にて.
kutastya 形 何處より來る; [api と俱に] 起原の不明なる; 何(地) *Abh-vy. 359.*
ku-tāpasa 男 悪しき苦行者.
ku-tāpasi 女 [同上].
ku-tārkika 男 詭辯者. 形 悪覺, 悪思覺者, 無智慧者, 邪見 *Lank.*
ku-tirtha 男 邪道の師.
ku-tirthaka 男 外道, 諸外道 *Lank., Rāṣṭr.*
ku-tirthya 中 諸外道. 外道邪論, 悪見 *Lank.*
kutuka 中 («何處」に關する), 好奇心; 興味; (一°)に對する熱望.
kutukita 形 珍らしき, 不思議なる, 疑問の.
kutukin 形 [同上].
kutupa 男 中 小形の革製油壺; 盛油器 *Mvyut.*
kutū 女 [同上].
kutū-hala 中 («何處」と云ふ叫び), =kutuka; (prati, 因, 一°)に對する快樂又は歡喜; 奇異の・興味ある或は面白き事物, 娛樂; 希, 希覩; 戲, 調戲; 疑慮 *Divy., Mvyut.;* 吉兆 *Mvyut.* ~ ena 熱心に, 熱誠こめて.
kutūhala-kṛt 形 好奇心をそよる, 奇異の.
kutū-halavat 形 (新奇なることに對し)穿鑿好きの; 興味を惹かれたる; 熱望せる.
kutūhala-śālā 女 娛樂室; 唱誦堂 *Divy.;* 頂房 *Mvyut.*
kutūhalin 形 好奇的の; 興味を惹かれたる.
kutottara 副 況有過 *Rāṣṭr.*
kuto-nimitta 形 何の原因の.
kuto-mukha, → akuto-mukha.
kuto-mūla 形 如何なる根源の.
kutra 副 [ka の 後] 何に於て, 何處に, 何處へ, 何の爲に; 云何; 何所, 何處, 何住. 於何處, 何等住處 *Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.;* 誰 *Mvyut.*
 ~ api, [後期の梵語] 何處にか.
 ~ cid, = 或る…に於て; 何處にか; [因と俱に] 何處にも…あらず(又た方向に就て).
 ~ cid… ~ cid, 或る場合には…又た他の場合には, 時としては…時としては.
kutratya 形 何處に住む或はより來る.
kutṛā 副 =kutra.
Kuts, → kutsaya.
kutsa 男 [諸人の名].
kutsana 中 惡口, 罵詈; 輕蔑; 誹謗の言; 罵, 毀辱, 訶毀, 毀惡; 誹謗; 訶責; 輕惱 *Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Kāśy., Bodh-bh., Mvyut.;* 惡, 憎惡 *Kāśy., Mvyut.*
kutsanā 女 輕侮の表示; 罵辱譏毀 *Sikṣ.*
kutsaniya (未受分) 責むべき; 可厭, 可厭惡, 可厭患; 作毀 *Lank., Sikṣ., Mvyut.*
kutsaya (名動) 他 **kutsayati, kutsati, kutsyati** [由來に就て尋ぬ: kut(a)s], 罵る, 非難す; 蔑視す; 罵詈, 譏謗, 誹毀, 罵詈毀辱, 蔑嘗; 惡, 惡賤 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ.* (通受分) **kutsita** 輕蔑せられたる; 輕蔑すべき; 非難に値する.
abhi- 非難す, 譴責す.

vi- =kutsaya (Jāt-m.).
kutsā ㊗ 罵詈, 非難. ~ayā ㊗ 侮蔑的に.
kutsita ㊗ 過受分 → kutsaya. ㊗ 醜惡, 穢惡 *Siks.*, *Mañj-m.*; 下種 *Siks.* 20.
kutsya ㊗ 未受分 非難に値する.
Kuth, 悪臭を發す; 腐敗す. ㊗ 過受分 **kuthita** 悪臭ある. ㊗ 使役 **kothayati** 腐敗せしむ.
kutha ㊗ 染色毛布, (象に著する)彩色せる鞍下毛布.
kuthā ㊗ [同上].
kuthita ㊗ 過受分 → *Kuth*, *akuthita*.
ku-daṇḍa ㊗ 不當なる刑罰; ㊗ 不當之責或罰 *Mvyut*.
ku-darśana ㊗ 不正なる教義; ㊗ 邪見, 惡見 *Lañk.*
ku-dāra ㊗ 惡妻を有する.
kudāra-dāra ㊗ 妻として惡しき妻.
ku-dr̥ṣṭa ㊗ 過受分 不十分に見られたる, 惡しく見られたる.
ku-dr̥ṣṭi ㊗ 弱視; 缺陷ある考察; 誤れる思想體系; 異端の教義; ㊗ 惡見, 邪見, 見惡 *Rāṣṭr.*, *Lañk.*, *Sūtr.*, *Siks.*, *Mvyut*. ㊗ 異端の; 惡しき目の.
kudr̥ṣṭi-jāla ㊗ 邪見網, 諸惡見網 *Lañk.*
kudr̥ṣṭi-dr̥ṣṭi ㊗ 邪見 *Saddh-p.*
ku-dr̥ṣṭin ㊗ 異端の教義を受け容るゝ.
kudr̥ṣṭi-patita ㊗ 墮惡見 *Bodh-bh.*
kudr̥ṣṭi-mārga ㊗ 邪徑, 邪見等法 *Lañk.*
kudr̥ṣṭi-vāda ㊗ 說邪法 *Lañk.*
ku-deśa ㊗ 惡しき國土.
ku-deha ㊗ 憫むべき身體.
ku-daiśika ㊗ 惡しき案内者.
kuddāla ㊗ 鋏, 鋤.
ku-dravya ㊗ 不正なる富.
ku-dvāra ㊗ 裏口.
ku-dharman ㊗ 惡, 不正.
ku-dhānya ㊗ 劣等の穀物.
ku-dhī ㊗ 愚なる. ㊗ 愚人.
ku-dhṛti ㊗ 精神の確乎たらざる, 心安定せざる (*Buddh-c.*).
ku-nakha ㊗ 爪を有する. ㊗ [爪の病の一種].
ku-nakhin ㊗ [同上(形)].
ku-nadikā ㊗ 重要ならざる小川.
ku-nadi ㊗ [同上]; ㊗ 小河, 水小 *Siks.*, *Mvyut*.
ku-nannama ㊗ 不屈の.
ku-narendra (°ra-in°) ㊗ 惡王.
ku-nareśvara (°ra-iś°) ㊗ [同上].
ku-nātha ㊗ 惡しき保護者. ㊗ 指導者惡しき.
ku-nāyaka ㊗ [同上(形)].
ku-nāri ㊗ 惡婦.
kunāla ㊗ [鳥の一種]; ㊗ 好眼鳥 立應; ㊗ 鳩那羅, 鳩夷羅, 俱那羅(鳥), 俱孛羅(鳥) *Divy.*, *Rāṣṭr.*, 立應; [人名, *Aśoka* 王の子の名] 鳩那羅, 拘那羅, 駒那羅 *Divy.*, 立應.
ku-nāsa ㊗ 駱駝.
ku-nita ㊗ 惡しき指導.
ku-nṛpa ㊗ 惡王.
ku-nṛpati ㊗ [同上].
kunta ㊗ 槍, 長槍; 小獸 小蟲, 昆蟲; ㊗ 槍 *Mvyut.*;

蜚, 蚊, 蟻卵, 蟻子, 花心蟲, 折脚蟻 *Divy.*, *Mvyut.*, 立應; ㊗ 拮多 立應.
kunta-palaka ㊗ 鎗尖 *Mvyut*.
kunta-palakā ㊗ 鎗尖 *Mvyut*.
kunta-prāvaraṇa ㊗ [民族の名].
kuntara ㊗ 頭髮.
kuntala ㊗ [同上]; [*Kuntala* 民族の王の名]; ㊗ 髮 *Lal-v.* ㊗ [*Hyderabad* の東南部に住せる民族の名].
kunta-vanamaya ㊗ 槍の林より成る.
kuntāpa ㊗ [腹部に在りと言はるゝ二十の器官の名]; [*Atharva-veda* の章節の名].
kunti ㊗ *Kunti* 民族の王; ㊗ [民族の名].
kunti-jit ㊗ [王の名].
kunti-bhoja ㊗ [*Kuntī* を養女となせる *Kunti* 國の王の名].
kunti ㊗ [*Kunti* 王の養女, *Pāṇḍu* の妻 *Prthā* の稱]; ㊗ ㊗ [*Rākṣasi* の名] 皁帝 *Saddh-p.*
kunti-mātr ㊗ [*Arjuna* の稱].
kunti-suta ㊗ *Kuntī* の子 [*Pāṇḍu* の子等の稱].
kunda ㊗ 素馨(の一種) [學名 *Jasminum multiflorum* 又は *pubescens*]; [*Viṣṇu* 神の稱]; [山の名]. ㊗ *Kunda* の花; ㊗ 君答, 軍那(花), 拮難(花) *Rāṣṭr.*, *Siks.*, *Vajr-s.*, *Mvyut*.
kundara ㊗ [*Viṣṇu* 神の稱].
kunda-latā ㊗ 素馨蔓草.
kundururu ㊗ [香木の名, 學名 *Boswellia thurifer*]; *Kundururu* の樹脂; ㊗ [香の名] 薰陸(香) *Mvyut*.
kunduruka ㊗ [香木の名]; ㊗ [花の名] 薰陸 *Saddh-p.*
kunsana ㊗ ㊗ [*kutsana*]; ㊗ 毀, 憎惡 *Kāśy.*: *pareṣāṃ jñānā* ~ *tā* 不毀他智, (心)不憎惡他人智慧 *Kāśy* 47.
Kup, IV. ㊗ ㊗ **kupyati(-te)** 激す; 怒る; (㊗, ㊗) に就て或はを怒る; (㊗) と闘ふ; ㊗ 瞋, 瞋恨, 起恚, 恚惱, 憤勃 *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Siks.*, *Bodh-bh.* ㊗ 過受分 **kupita** 怒れる; (㊗) 又は *upari* に就て或はを怒れる. ㊗ ㊗ ㊗ **kopayati(-te)** 激せしむ, 刺戟す, 怒らしむ.
adhi- 激しく怒る.
ud- ㊗ ㊗ **utkopayati** 刺戟す, 生ず; 起す
pra- 激す, 怒る; ㊗ 亂, 放逸 *Kāśy.*; 瞋恚, 生瞋恨, 生瞋恨心, 生忿怒心 *Suv-pr.*, *Kāśy.*, *Siks.* ㊗ 過受分 **prakupita** (㊗) 又は *prati* を怒れる. ㊗ ㊗ **prakopayati** 怒らしむ, 憤激せしむ.
prati- ㊗ ㊗ **pratikopaya-** 怒らしむ; ㊗ 逆, 毀謗 *Aṣṭ-pr.*
vi- ㊗ ㊗ **vikopayati** 擾す; ㊗ 怒, 壞, 違逆 *Divy.*, *Siks.*
sam- 興奮す, 怒る. ㊗ ㊗ **saṃkopayati** 怒らしむ; 興奮せしむ.
kupa ㊗ 秤の竿; 雲雀.
ku-paṭa ㊗ ㊗ 粗惡なる衣服. ㊗ [或る *Dānava* の名].
ku-paṭu ㊗ 愚なる.

ku-paṭhita (通受分) (課業を)拙く習ひたる。
 ku-pati (男) 悪しき夫; 悪王。
 ku-patha (形) 悪路を行く。(男) 悪路, 邪道; [或る Asura 又は Dānava の名]; (四) 悪道, 邪道, 邪嶮道 Divy., Lal-v., Rāṣṭr.
 kupatha-sthita (形) (四) 迷失路 Lal-v.
 ku-pannatā (女) (四) 邪行 Madhy-vibh.
 ku-papa (男) 太陽。
 ku-papi (男) [同上]。
 ku-papi (男) [同上]。
 ku-parijñāta (通受分) 誤つて會得せる, よく理解せざる。
 ku-parikṣaka (形) 悪しく評價する, 正しく評價せざる。(男) 鑑定又は裁断悪しき者。
 ku-parikṣita (通受分) 裁定不正の。
 ku-pātra (中) 不適當なる容器; 値せざる者, 無資格者; (四) 小鉢盂 Mvyut.
 ku-pātraka (中) 悪しき容器。
 kupita (通受分) → Kup. (四) 亂; 恚, 瞋, 憤, 瞋恚, 憤責, 瞋責, 瞋呵, 極怒, 大怒, 發威怒, 生恚怒心 Divy., Av-ś., Gaṇḍ-vy., Prāt-m., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.; 興 Lal-v.
 ku-pitr (男) 悪しき父。
 kupina (中) (四) 網 Śikṣ.
 kupini (女) 小魚を漁する網。
 ku-putra (男) 悪しき子。
 ku-puruṣa (男) 輕蔑すべき人; 劣等なる人, 卑怯者。
 kupya 1. (中) 非貴金屬 [金銀以外の金屬]; (四) 寶藏 Saddh-p. 362. (男) [人名]。
 kupya 2. (未受分) 興奮すべき; (四) 動 Sapt-pr.
 kupyaka (形) —° 非貴金屬。
 ku-prajñā (女) (四) 惡慧 Abh-k.
 ku-prabhu (男) 惡主。
 ku-prayukta (通受分) 處置適當ならざる; 不正をなす; (四) 無方, 不成; 不善, 非正 Bodh-bh. (男) 媒介者。
 kuprayukta-karmānta (形) (四) 爲不善事業, 爲非正事業 Bodh-bh.
 ku-prāvaraṇa (形) 悪しき上衣を有する; (四) 惡衣 Mvyut.
 ku-plava (男) 安全ならざる船。
 ku-bandha (男) 不名譽の烙印, 汚名。
 ku-buddhi (女) 邪念, 愚見。(形) 邪念を有する; 愚なる。
 kubera (男) [下界并に暗黒の諸精靈の王の名(四)]; 富の神; [北方の世界守護者]; (四) 增長天 Mañj-m. → kuvera.
 kubera-giri (男) Himālaya 山。
 kubera-datta (男) [神話上の生物の名]。
 kubera-nalini (女) [聖地の名]。
 kubera-vallabha (男) [或る Vaiśya の名]。
 kubela (男) [=kubera] (Lal-v. 130).
 kubja (形) 駝背の; 屈曲せる; (四) 曲, 半月曲; 半月形 Laṅk., Mañj-m.; 駝背, 跽背, 偃僂, 背僂, 背偃 Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Mvyut. → kuvja.
 kubjaka (形) [同上]。(男) [植物の一種]。

kubjatā (女) 偃僂なること; (四) 背偃 Śikṣ.
 kubjamaraka (中) [聖地の名]。
 kubjamaraka (°ja-ām°) (中) [同上]。
 kubjimat (形) 屈曲せる。
 kubji-karaṇa (中) 屈曲。
 kubjottarā (°ja-ut°) (女) [或る尼の名] (Divy., Jāt-m.); (四) 曲背 Divy.
 ku-brahman (男) 悪しき婆羅門。
 ku-brāhmaṇa (男) [同上]。
 [Kubh, Kumbh, 曲がる]。
 ku-bhartṛ (男) 悪しき夫。
 kubhā (女) [河の名, Kabul]。
 ku-bhārya (形) 惡妻を有する。
 ku-bhāryā (女) 惡妻。
 ku-bhikṣu (男) 悪しき乞食僧。
 ku-bhukta (中) 粗食, 惡食。
 ku-bhṛtya (男) 悪しき下僕。
 ku-bhoga (男) 悪しき娛樂。
 ku-bhojana (中) =ku-bhukta.
 ku-bhojya (中) [同上]。
 ku-bhrātṛ (男) 悪しき兄弟。
 ku-mata (中) 謬れる教義。
 ku-mati (女) 謬見; 愚鈍; (四) 邪見, 惡慧 Rāṣṭr., Sūtr. (形) 愚なる。
 ku-manas (形) 不快なる, 怒れる。
 ku-maṇiṣa (形) 愚鈍なる。
 ku-mantra (男) 悪しき忠告; 悪しき咒文。
 ku-mantrin (男) 悪しき助言者。
 kumāra (男) (初生)兒; 少年; 青年, 童子; 王子; [Skanda の稱]; (四) [民族の名]; (四) 子; 孩兒; 童, 童子, 孺童 Divy., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Śikṣ., Sāṃkhy-k., Mvyut., 梵子, 梵稚; (四) [天の名] 鳩摩羅 Lal-v.
 kumāraka (男) 小兒, 少年, 青年, 童; [或る Nāga の名]; (四) 童, 童子, 幼童, 孩子 Divy., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh. —° (形) 若き。
 kumāra-kriḍā-sāstra (中) (四) 童子戲劇論 Śikṣ.
 kumāra-gupta (男) [諸王の名]。
 kumāratā (女) (四) 孩孺 Śikṣ.
 kumāratva (中) 少年たること, 青年たること; 子たること; (四) 童子 Śikṣ.
 kumāra-datta (男) [人名]。
 kumāra-darśana (男) [Gandharva の王の名] (Kār-vy.).
 kumāra-deṣṇa (形) 一時的の贈物を與ふる(四); 遊びに於て。
 kumāra-dhārā (女) [河の名]。
 kumāra-brahma-cārin (形) 幼少時より行正しき。
 kumāra-bhāva (男) (四) 太子 Saddh-p.
 kumāra-bhukti (女) 王子の領地。
 kumāra-bhūta (形) (四) 童子, 童真, 孺童, 法王子 Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sukh-vy. II., Sam-r., Sapt-pr., Mvyut., 支應; (四) 究磨羅浮多 支應。
 kumāra-bhṛtyā (女) 小兒の養育; 妊産婦及て育兒の世話。
 kumāra-rāja (男) [Harṣa-varḍhana 王の名] (四)。

kumāra-lāta 男 [人名] 童受; 童首 支應; [音寫] 鳩摩邏多, 矩摩邏多 支應. [H. Lüders: Brückstücke des Kalpanāmaṇḍitikā des Kumāralāta, 1926, Berlin 參照].

kumāra-vana 田 Kumāra (即ち Skanda) の林.

kumāra-vāri-dhārā 女 = kumāra-dhārā.

kumāra-vikrama 形 軍神の如く豪勇なる.

kumāra-vrata 田 (永久の) 童貞の誓; [漢語] 童子戒 Sikṣ.

kumāra-śarman 男 [人名] 童寂 支應; [音寫] 鳩摩羅設摩 支應.

kumāra-sambhava 男 軍神の生誕 [Kālidāsa 作の詩篇の題名].

kumāra-sū 男 [Skanda 神の父即ち Agni 神の稱].

kumāra-sena 男 [或る大臣の名].

kumāra-sevaka 男 王子の召使.

kumārāgāra 男 育兒室.

kumārāgra 男 [漢語] 大童子 *Suv-pr.*

kumārikā 女 少女(十歳より十二歳までの); 處女; 婢; [Bhārata-varṣa (大陸の一部)の一部分の名]; [河の名].

kumāri-datta 男 [人名].

kumārin 形 小兒を有する.

kumārila 男 [或る Mīmāṃsā 學徒の名].

kumārila-bhaṭṭa 男 [同上].

kumārila-svāmin 男 [同上].

kumārī 女 少女(十歳より十二歳までの), 處女; 娘; [諸人の名]; [漢語] 童女, 處女, 孺童 *Lal-v., Saddh-p., Mvyut., 梵雜.*

kumārī-pāla 男 處女又は花嫁の護衛者.

kumārī-putra 男 未婚婦人の子.

kumārī-pura 田 少女の住する後宮の一部.

kumārī-bhāga 男 娘の分前(?)

ku-mārga 男 惡路, 邪道; [漢語] 邪徑, 異道, 惡道, 險惡道 *Divy., Buddh-c., Sam-r., Sikṣ.*

kumārga-gāmin 男 [漢語] 異道行 *Divy.*

ku-mālana 男 [人名].

ku-mitra 田 惡友; [漢語] 惡友, 惡親友, 惡朋, 惡親朋; 惡知識, 非知識 *Gaṇḍ-vy., Kāśy., Sikṣ., Sūtr., Mvyut.*

ku-mitratva 田 [漢語] 惡友 *Sūtr.*

kumitra-mitra 田 友としての惡友.

kumud 田 [同下(田)].

kumuda 田 白睡蓮 [白色にして月の昇る時咲く睡蓮, 學名 *Nymphaea esculenta*]; [漢語] 白蓮華, 白蓮花; 黃蓮, 黃蓮花; 地喜花 *Saddh-p., Suv-pr., Mvyut., 支應;* [音寫] 拘物, 拘物(華), 拘質, 拘物頭, 拘物頭(華), 俱牟頭, 拘牟頭, 拘勿頭, 俱物頭(華), 拘物陀, 拘某陀, 拘文羅, 句文羅, 俱母那(花), 鳩牟頭(華), 固目答 *Lal-v., Buddh-c., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Abh-vy., Mvyut., 支應.* 男 樟腦; [或る Nāga の名]; [Viṣṇu 神の從者の名]; [Skanda 神の從者の名]; [或る猿の名]; [Pathya の弟子の名]; [山の名].

kumuda-nātha 男 月(太陰).

kumuda-puṣpā 女 [Gandharva の少女の名] (*Kār-*

vy.).

kumudamaya 形 全く白蓮より成れる.

kumuda-sakhi 女 (白蓮の友), 月光 (*Jāt-m.*).

kumudā 女 [*Durgā* の一形態].

kumudākara (°da-āk°) 男 白蓮の一群.

kumudākaratā (°da-āk°) 女 [同上(田)].

kumudākṣa 男 [或る Nāga の名]; [Viṣṇu 神の從者の名].

kumudikā 女 [人名].

kumudini 女 夜咲く蓮; 夜咲く蓮の一群.

kumudini-nāyaka 男 蓮花の愛人 [月(太陰)の稱].

kumudini-vadhū-vara 男 [同上].

kumudvat 形 蓮花に富む. 男 月(太陰).

kumudvatī 女 = kumudini; [有毒果を實ぶ植物の一種]; [*Śruti* の一種]; [*Kumuda Nāga* の姉妹の名]; [*Vimarsaṇa* 又は *Pradyumna* の妻の名]; [河の名].

ku-mudvin 形 友情なき, 不親切なる.

ku-muhūrta 男 悪しき時間, 凶時.

ku-medhas 形 智慧なき.

Kumbh, → Kubh.

kumbha 男 壺, 甕, 瓶 [—° 形 甕の形を有する]; 骨壺; [穀粒の容量の 單位(=二十 Droṇa)]; (兩) 象の前額隆起; [植物の名]; [人名]; [漢語] 瓶, 甕, 瓮, 瓮, 罌, 罌器, (寶)瓶 *Divy., Saddh-p., Mañj-m., Bodh-c., Sikṣ., 梵千., 梵雜.* → āma~.

kumbhaka 男 [同上, 壺(—° 形)]; [*Skanda* の從者の名]; 柱基; [漢語] 石柱 *Mvyut.* 男 田 [右手を以て鼻孔を閉塞し呼吸を止むることを特色とする宗教的苦行の一種].

kumbha-kara 男 [= kumbha-kāra]; [漢語] 陶家, 陶師 *Lal-v., Sikṣ.*

kumbha-karṇa 男 [一度に六箇月閉眠ると云はるる或る Rākṣasa の名 (*Rāvaṇa* の兄弟)]; [*Śiva* 神の稱]; [漢語] 聾耳 *Lank.*

kumbhakarṇāya (名動) 田 **kumbhakarṇāyate** *Kumbhakarṇa* に類似す(長く眠ることに於て).

kumbha-kāra 男 陶師; 陶師の種姓 [或る混合種姓(階級)]; [漢語] 陶家, 陶師, 陶匠, 窰師 *Divy., Kāśy., Lank., Abh-vy., Mvyut.*

kumbha-kārikā 女 陶師の妻; 陶師の種姓(階級)の婦人.

kumbha-kāri 女 [同上]; [人名] (*Lal-v.*); [漢語] [音寫] [龍の名] 瞿波羅 *Divy.*

kumbha-kāla 男 [= kumbha-kāra]; [漢語] [龍の名] 陶師 *Divy.*

kumbha-janman 男 [聖仙 *Agastya* の稱].

kumbha-dāsi 女 卑しき娼婦.

kumbha-dhānya 形 たゞ瓶一杯の穀物を有する.

kumbha-bhū 男 [聖仙 *Agastya* の稱].

kumbha-muṣka 形 瓶の如き形の陰囊を有する(惡鬼).

kumbha-yoni 男 = kumbha-bhū.

kumbha-retas 田 瓶の中にある男精. 男 [*Agni* 神の一形態].

kumbha-sambhava 男 [聖仙 *Agastya* の稱].

kumbha-sarpis ㊦ 瓶中の乳酪。
kumbha-stani ㊦ 瓶の如き乳房の女。
kumbha-hanu ㊦ [或る Rākṣasa の名]。
kumbhāṇḍa ㊦ [(瓶の如き形の陰囊を有する)悪鬼の一種]; [Asura Bāṇa の大臣の名]; ㊦ 嬰, 嬰形, 嬰行, 瓶, 瓶卵, 瓶腹; 陰囊; 冬瓜; 大身 *Mvyut.*, 梵雜., 玄應.; ㊦ 鳩垣, 仇桓, 鳩桓, 鳩垣, 鳩槃荼, 究槃荼, 鳩槃荼(鬼), 恭畔荼, 弓槃荼, 拘槃荼 *Divy., Av-s., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Laṅk., Mvyut.*, 梵雜., 玄應.
kumbhāṇḍī ㊦ ㊦ (㊦)鳩槃荼女 *Laṅk.*
kumbhikā ㊦ 小き壺又は嬰; [植物の名]; *catus-* ~ *ayā sarpati* ㊦ 手足全残 *Mvyut.*
kumbhin ㊦ 象(前額の隆起を有する). ㊦ 瓶を有する。
kumbhini ㊦ 大地。
kumbhila ㊦ 盗人。
kumbhi ㊦ 壺, 嬰, 鍋; [地獄の一種] (*Kār-vy.*); ㊦ 鑊 *Buddh-c., Sikṣ.*
kumbhi-dhānya ㊦ (六日閒又は一年閒の消費に十分な)穀類を瓶中に蓄へたる者。
kumbhi-dhānyaka ㊦ [同上]. ㊦ 嬰中に穀類を有する。
kumbhi-nasa ㊦ 蛇(の一種)。
kumbhi-nasi ㊦ [或る悪鬼の名]。
kumbhi-nasi ㊦ [或る Rākṣasi の名]。
kumbhi-pāka ㊦ 料理器の内容物; [熱病の一種]; (㊦ 及び ㊦) [地獄の一種]。
kumbhira ㊦ 鱈魚; ㊦ 蛟, 蛟龍; 大身魚; (㊦) 水獸毘必羅 *Mvyut.*; ㊦ 金毘羅, 毘必羅 *Suv-pr., Mvyut.*
kumbhila ㊦ [同上]。
kumbhodara (°bha-ud°) ㊦ [(嬰の如き腹を有する), *Siva* 神の僕使の名]。
kumbhodbhava (°bha-ud°) ㊦ [聖仙 *Agastya* の稱]。
kumbhodbhūta (°bha-ud°) ㊦ [同上]。
ku-yajña ㊦ 悪しき供儀者。
ku-yava ㊦ 收穫を悪くする(悪鬼)。
ku-yogin ㊦ 悪しき行者; 詐欺師。
kuraṅga ㊦ 羚羊; [山の名]; 月面の斑點。
kuraṅgaka ㊦ 羚羊。
kuraṅga-nayanā ㊦ ㊦ 羚羊の如き即ち優しき眼を有する(婦人); 美しき婦人。
kuraṅga-nābhi ㊦ 麝香。
kuraṅga-netrā ㊦ ㊦ = *kuraṅga-nayanā*。
kuraṅga-mada ㊦ 麝香。
kuraṅga-lāñchana ㊦ 月(太陰)。
kuraṅga-locanā ㊦ ㊦ = *kuraṅga-nayanā*。
kuraṅga-vadhū ㊦ 牝羚羊。
kuraṅgākṣi ㊦ ㊦ = *kuraṅga-nayanā*; [人名]。
kuraṅgāya (名動) ㊦ **kuraṅgāyate** 羚羊の姿となる; 羚羊の如く振舞ふ。
kuraṅgi ㊦ 牝羚羊, [羚羊の一種]; [*Prasenajit* の娘の名]。
kuraṅgi-dṛś ㊦ 羚羊の如き即ち優しき眼を有する者。
kuraṅṭa ㊦ 黄色の鶏頭(植物); [植物の名]; ㊦ 紅

色花玄應.; ㊦ 俱蘭吒, 拘蘭荼(花)玄應。
kurabaka ㊦ 深紅色の鶏頭又は紫色の *Berberia*; [米の一種]. ㊦ *Kurabaka* の花。
kurara ㊦ 鷓(㊦); 山の名; ㊦ 鷓, 鷓 *Sikṣ.*
kurarāva ㊦ 鷓に富める。
kurarī ㊦ 牝鷓。
kurava ㊦ [植物の一種]; [*Plakṣadvīpa* の *Kṣatriya* の一類]。
kuravaka ㊦ = *kurabaka*; ㊦ 深紅寛 *Mvyut.*; ㊦ 具羅波切, 句嚙鷓劍(花) *Mvyut.*
ku-rahasya ㊦ 恥づべき秘密。
ku-rājan ㊦ 悪王。
ku-rājya ㊦ 悪政。
kurira ㊦ [婦人の頭布の一種]。
kuru 1. [Kṛ 1. の 命 三入 ㊦]。
kuru 2. ㊦ [*Kuru* 族の祖先の名]; [*Āgnīdhra* の子の名]; ㊦ [*Sumeru* 山の北方に在る洲の名] 悪音; 上勝, 勝生, 勝邊 *Mvyut.*, 玄應.; ㊦ 俱盧, 拘樓, 鳩婁, 酷嚙 *Guhy-s., Abh-vy.*, 玄應.; ㊦ [北印度を中心として住せし民族及びその國の名]; ㊦ (㊦) [*Sumeru* 山の北方に在る洲の住者] 矩拉婆 *Mvyut.*: *uttarāḥ kuravaḥ* 神祕國, 北方地方の民族; ㊦ (㊦) 僻多羅拘樓 玄應。
kurukuci ㊦ [*kaṭu-kuci* 又は *gūḍa-kuci* の ㊦?]; ㊦ 奸惡 *Mvyut.* → *kuṭukuñcaka*。
kuru-kṣetra ㊦ *Kuru* 族の住せる原野 [*Delhi* に近き大平原の名, *Pāṇḍu* 族と *Kuru* 族との大會戰場]; ㊦ (㊦) 俱嚙乞囉 *Vajr-s.* ㊦ (㊦) [*Kuru-kṣetra* の住民]; [國の名]。
kuru-kṣetraka ㊦ (㊦) *Kuru-kṣetra* の住民。
kuru-jāṅgala ㊦ [國の名]. ㊦ (㊦) [*Kuru-jāṅgala* の住民]。
kurunṭa ㊦ [鶏頭又は *Berberia* の一種]; ㊦ [花の名] (㊦) 拘陀羅花 *Lal-v.*
kurunṭha, [同上] (*Lal-v.*)
kurutā ㊦ [人名]; [數の名] (*Lal-v.*)
kuru-tirtha ㊦ [聖地の名]。
kuru-nandana ㊦ [*Arjuna* 并に *Yudhiṣṭhira* の稱]。
kuru-pāñcāla ㊦ (㊦) *Kuru* 族及び *Pāñcāla* 族。
kuru-pāṇḍava ㊦ (㊦) (㊦) *Kuru* の後裔(即ち *Dhṛtarāṣṭra*) 及び *Pāṇḍu* の後裔。
kurubaka, kuruvaka, [恐らくは *kurabaka, kuravaka* の轉訛形]。
kuru-rāja ㊦ [*Yudhiṣṭhira* 王の稱]。
kuru-vaṃśa ㊦ [王の名]。
kuruvaka, → *kurubaka*。
kuru-varṇaka ㊦ (㊦) [民族の名]。
kuru-vaśa ㊦ [王の名]。
kuruvinda ㊦ 大麥(の一種); [又 ㊦] 紅玉(㊦); 黑鹽; ㊦ 錫, 出淨錫器; 朱砂; 紅寶石; 黑鹽 *Mvyut.*
kuru-vṛddha ㊦ [*Bhīṣma* の稱]。
kuru-śreṣṭha ㊦ [*Arjuna* の稱]。
kuru-sattama ㊦ [同上]。
ku-rūpa ㊦ 不具なる, 形悪しき, 醜き。
ku-rūpatā ㊦ 畸形, 醜きこと。
ku-rūpatva ㊦ [同上]。

kurūru 男 害蟲(の一種).
kurkuṭa 男 鶏; 鷄 *Lank.*, 梵雜.
kurkuṭārāma (°ta-ār°) 男 = kukkuṭārāma; [佛
 教伽藍の名] 鷄寺; (音寫) 鷄頭摩寺, 鷄頭末寺 *Divy.*
kurkura 男 犬; 狗, 猗 *Divy.*, *Lal-v.*
kurpāsa 男 襦袢, 胴著, 短上衣.
kurvat, [Kr 1. の現分] 爲す, 動作する; 現在の, 活
 動する; 作, 生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
kurvāṇa, [Kr 1. の現分] 自].
kula 甲 獸群, 群; 群集, 集團, 一群又は一團; 種姓,
 種族, 家族; 團體, 組合; 高貴の家系; 住處, 家, 住
 宅; 裁判官; 族, 宗族, 家族, 種, 種族, 種姓,
 姓種族, 族姓; 性; 親; 眷屬; 善家, 家, 戶 *Divy.*,
Buddh-c., *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*,
Lank., *Sikṣ.*, *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*, *Madhy-vi-*
bh., *Abh-vy.*, *Vajr-s.*, *Mvyut.*, 梵雜; 種類 *Mvyut.*;
 部 *Guhy-s.*; 白衣家 *Prāt-m.*; 善斷事人 *Divy.*: pañ-
 ca ~ 五部 *Guhy-s. 153.*; tri ~ 三部 *Guhy-s.*
153. → ucca ~, deva ~, nica ~, rāja ~.
 [屬, °—] 形 主長の, 顯要の. ~m padāti-
 nām 歩兵團.
kulaka 形 —° 群れる, 集合せる. 甲 小家族; [單
 純文章を含む三又はそれ以上の śloka の結合]. 男
 類 [Kusadvīpa 中の Sūdra の名].
kula-kaṇṭaka 男 家族の悪しき一員.
kula-kanyakā 女 良家の少女.
kula-kara 男 祖先.
kula-kartṛ 男 [同上].
kula-kalaṅka 男 一族に對する辱.
kulakalaṅka-kārin 形 一族を辱かしむる.
kula-kalaṅkita 形 [同上].
kula-kalaṅkin 形 [同上].
kula-kumārī 女 良家の子女.
kula-kulina 形 豪姓 *Lal-v.*
kula-krama-sṭhiti 女 家族に於ける相傳の慣例.
kulakramāgata (°ma-āg°) 形 家族に世襲の.
ku-lakṣaṇa 形 身に不吉の兆候ある.
kula-kṣaya 女 一家又は一族の滅亡.
kula-giri 男 主要なる山又は山脈.
kula-guru 男 家長; 家庭の祭官.
kula-gṛha 甲 高貴の家.
kula-gotra 甲 兩 家族と家系.
kula-gopa 男 家宅の保護者.
ku-lagna 甲 不吉なる時期.
kula-ghna 形 (女 -ā, -i) 種族を滅せしむる.
kulam-kula 形 家より家に行く; [= sakṛdā-
 gāmiphala-pratipannaka] 家家 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
kulaṅga 男 羚羊 = kuraṅga.
kula-caryā 女 遊城, 行家, 行詣(餘)家 *Mvyut.*
kula-ja 形 高貴の種族の; (一°)の家族に生れたる.
kula-jana 男 良家出身の人.
kula-jāta 形 高貴の家に生れたる.
kula-jyestha 男 種族の長, 家長; 家長 *Bodh-*
bh.
kulaṭā 女 不貞の女.
kulaṅṭaka 男 紐.

kula-tantu 男 家系を繋ぐ絲 [= 家系最後の末裔].
kulattha 男 [豌豆の一種, 學名 *Dolichos uniflorus*];
 豆, 大豆, 卑豆, 秦苳 *Divy.*, *Mvyut.*, 梵雜. 男
 [北方蠻族の名].
kula-dubhitṛ 女 良家の娘, 教養ある處女; 善
 女人, 族姓女 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*, *Lank.*, *Sikṣ.*,
Bodh-bh.
kula-dūṣaka 形 [同下]; 汚家, 汚他家, 汚種姓,
 惡行汚他家 *Prāt-m.*, *Mvyut.*
kula-dūṣaṇa 形 一族を辱しむる.
kula-deva 男 一族の神.
kula-devatā 女 [同上]; 善女天 *Suv-pr.*
kula-daiva 甲 [同上].
kula-daivata 甲 [同上].
kula-dhana 甲 家費. 形 名聲又は家柄を賣とする.
kula-dhara 男 [王の名].
kula-dharma 男 家族の慣例; 一家法 *Lal-v.*
kula-dhurya 形 家族の重擔を負ふに堪ゆる. 男
 家族の長.
kula-nandana 形 男 家族又は一族を喜ばしむる(小
 兒).
kula-nandanā 女 [同上].
kula-nāga 男 Nāga の長.
kula-nāri 女 良家の婦女, 高貴にして有徳の婦女.
kula-nimna-gā 女 主要の或は高貴の流; 主なる河.
kulam-dhara 形 家族の支持者.
kula-patāna 甲 家族の没落, 零落.
kula-pati 男 家族の長.
kula-parvata 男 主要の山又は山脈.
kula-pā 男 女 家族又は部族の長.
kula-pāmsana 形 一族を辱しむる.
kula-pāmsani 女 一族を辱しむる女.
kula-pāmsin 形 一族を辱しむる.
kula-pāmsula 形 [同上].
kula-pālikā 女 [人名].
kula-pālin 形 家柄を守る.
kula-putra 男 良家の男子; 高貴にして有徳の青年;
 善男子, 族姓子, 族姓 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*,
Lank., *Sikṣ.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.* 等: ~m
 janam 族姓男女 *Bodh-bh. 119.*
kula-putraka 男 [同上].
kulaputra-jana 男 良家の男子.
kula-puruṣa 男 良家の人; 高貴にして有徳の人.
kula-pūrvaka 男 祖先.
kula-pratiṣṭhā 女 種族の支持.
kula-pratiṣamvedaka 形 告各家, 一分付
Mvyut.
kula-pradīpa 男 一家の光又は榮譽.
kula-prasādana 甲 善和諍訟 *Bodh-bh.*
kula-prasūta 形 高貴の種族に生れたる.
kula-bhava 形 高貴の種族に由來する, 高貴の.
kula-bhavana 甲 主なる住處.
kula-bhāryā 女 高貴にして有徳なる妻.
kula-bhāvana 形 一族を起す.
kula-bhūta 形 團體の長なる.
kula-bhū-bhṛt 男 主要なる山又は山脈; 模範的の王.

kula-bhramśa 男 𑖀𑖩𑖪 壞族, 下姓 *Bodh-bh.*
kula-mātrkā 女 [槍の一種].
kula-mārga 男 父祖の道.
kula-mitra 中 一家の友, 一家の味方.
kulam-puna 中 [聖地の名].
kulam-punā 女 [河の名].
kulam-bhara 形 一族又は家門を持続する.
kula-yoṣit 女 高貴にして有徳の婦女.
kula-rāja-dhāni 女 主都, 宮廷の所在地.
kularddhika (°la-rd°) 男 従兄弟の子息.
kula-vamśa 男 𑖀𑖩𑖪 種, 種性, 種族 *Lal-v, Lan̄k.*
kulavat 形 貴族の, 高貴の; 𑖀𑖩𑖪 居士 支應; (𑖀𑖩𑖪) 迦羅越 支應.
kula-vadhū 女 高貴にして有徳の娘; 有徳の妻.
kula-wardhana 形 一家を繁榮又は發展せしむる; 𑖀𑖩𑖪 増長姓 *Divy.* 男 嫡子.
kula-vidyā 女 家傳の知識.
kula-vṛtti 女 𑖀𑖩𑖪 家業, 立家 *Gand-vy.*
kula-vṛddha 男 一家の最年長者, 家長.
kula-vrata 中 家族の行事(宗教的又は道德的の).
kulavrata-dhara 形 家訓を維持する.
kula-śikṣā-bhaṅga-pravṛtti 女 𑖀𑖩𑖪 犯家制入, 犯禁入聚落, 犯學入家 *Mvyut.*
kula-śikharin 男 =kula-parvata.
kula-śilavat 形 高貴なる性格又は氣質を賦與せられたる.
kula-śila-vayo-vṛtta-vittavat 形 良き家庭・性格・年齢・行爲・財産を具する.
kula-śulka 中 娘の結婚に際して義父に與へらるゝ贈物; 結納金; 𑖀𑖩𑖪 鞦(?) *Mvyut.*
kula-śaila 男 =kula-parvata.
kula-samkhyā 女 善良なる家庭に數へらるゝこと.
kula-saṃgata 男 家族の知己.
kula-sattra 中 家族の供儀.
kula-samtati 女 子孫.
kula-saṃnidhi 男 多人數の面前. ~au 中 𑖀𑖩𑖪 多人數の面前に於て.
kula-samūdbhava 形 貴族より出でたる或はに生れたる.
kula-sampad 女 𑖀𑖩𑖪 族姓具足 *Bodh-bh.*
kula-saṃpanna 形 𑖀𑖩𑖪 族姓具足 *Bodh-bh.*
kula-sundari 女 [神の名].
kula-cevaka 男 優秀なる召使.
kula-stamba 男 草束の如き家族.
kula-stri 女 高貴にして有徳の婦女.
kula-sthiti 女 家族の習慣.
kula-hina 形 劣等種族の.
kulānkura 男 家族の相續者又は苗裔.
kulāṅganā 女 高貴にして有徳の婦女.
kulāṅgāra 男 一家の放火者即ち自己の家族の破壊者又は不和の張本人; 𑖀𑖩𑖪 家生火 *Bodh-bh.*
kulācala 男 =kula-parvata.
kulācārya (°la-āc°) 男 家庭教師, 家の司祭者.
kulādya 男 [或る民族及びその國の名].
kulādri 男 =kula-parvata.
kulānugunavat 形 (その)族に相應はしき功績を有

する.

kulānta-karaṇa 形 種族を亡ぼす.
kulānvaya 男 貴族の後裔.
kulānvita 形 貴族の.
kulāpida (°la-āp°) 男 一家の榮冠即ち榮譽.
kulābhimānin 形 家柄を誇る.
kulāmbā 女 家庭の神.
kulāya 男 中 編物, 織物; 格子縞織物; 巢; 獸の巢窟; 住居; 肉體(靈魂の宿).
kulāyayat (現分) 形 巢又は休息所を作る.
kulāyin 形 巢の如き, 巢を形造る.
kulāla 男 陶工; 𑖀𑖩𑖪 陶家, 瓦師 *Saddh-p., Siks.*
kulāla-cakra 中 陶工の轆轤.
kulāli 女 陶工の妻.
kulika 形 名門の. 男 親戚; 團體の長; 獵師; [火曜日又は金曜日]; [或る *Nāga* の名]; [王の名]; 𑖀𑖩𑖪 [龍の名] 具種 *Mvyut.*
kulika-putra 男 𑖀𑖩𑖪 族姓子, 勝姓兒; (𑖀𑖩𑖪) 久履 笥兒 *Divy.*
ku-liṅga 男 廿日鼠(の一種); [伯勞(?)鳥の一種]; [雀の一種].
ku-liṅgā 女 [没食子の一種]; [都市の名]; [河の名].
kulija 中 [容積の單位]; [特殊の容器].
kulinda 男 𑖀𑖩𑖪 [Himālaya 地方を中心とせる民族の名]; 𑖀𑖩𑖪 [Kulinda 族の王].
kulindopatyaka (°da-up°) 男 [民族の名].
kulisa 男 斧. 中 (Indra 神の)雷電; 金剛石; 𑖀𑖩𑖪 金剛 *Mañj-m.*
kulisa-kara 男 [Indra 神の稱].
kulīsatā 女 雷電の状態.
kulīsa-dhara 男 [Indra 神の稱].
kulīsa-pāṇi 男 [同上].
kulīsa-bhṛt 男 [同上].
kulīśāya (𑖀𑖩𑖪) 𑖀𑖩𑖪 **kulīśāyate** 雷電又は金剛石(の硬度)と等しくなる.
kulina 形 貴き(種族及び性質の); (一°)の種族又は家族に屬する; 𑖀𑖩𑖪 貴梵干; 生家, 生在家 *Ahh-vy.* 中 [爪の病の一種].
kulinatva 中 高貴の生れ.
kuliya 形 (一°)の家族に屬する.
kulira 男 蟹; 巨蟹宮(天體十二宮の).
kuliraka 男 小蟹.
kuluṅga 男 (=kulaṅga) 猿.
ku-luṅca 男 毛髪を筆る者.
kuluṅthaka 男 棍棒.
kulūta 男 𑖀𑖩𑖪 [民族の名].
kuleya 形 (一°)の家又は種族に屬する.
kulodaya (°la-ud°) 男 𑖀𑖩𑖪 生家, 家産 *Sūtr., Bodh-bh.*
kulodayatā (°la-ud°) 女 𑖀𑖩𑖪 族姓 *Bodh-bh.*
kulodgata (°la-ud°) 形 高貴の種族より出でたる.
kulodbhava 形 [同上] (*Jāt-m.*).
kulodvaha (°la-ud°) 形 (𑖀𑖩𑖪, 一°)の種族を繼げる, …より出でたる.
kulopaka (°la-up°) 男 𑖀𑖩𑖪 [<kulopaga] 家の友, 知己, 親しき友 (*Mah-v*); 𑖀𑖩𑖪 知識 *Divy. 307.*

kuropakarāṇa-śālā (°la-up°) ㊦ 公會堂 (Divy).
kuropapatti (°la-up°) ㊦ ㊦ 生豪貴家, 生尊貴家
Sukh-vy. I.
kulmāṣa ㊦ 酸き粥; 半ば實れる麥, 下等の穀物; ㊦ 米;
 豆; 糜, 米膏, 淡膏; 温麵 *Divy., Bodh-bh., Sikṣ.,*
Mvyut.
kulmāṣa-piṇḍaka ㊦ ㊦ 豆團, 米堆, 米袋 *Mvyut.*
kulmāṣa-piṇḍi ㊦ [一塊の粗末なる飯] (*Jāt-m.*).
kulya 1. ㊦ 家族又は團體に關する或は屬する.
kulya 2 ㊦ (茶毗に附せし骨の) 容器.
kulya 3. ㊦ [=kulyā]; ㊦ 大溪 *Mvyut.*
kulyā ㊦ 小川, 溝渠; [河の名].
kulyāya ㊦ ㊦ **kulyāyate** 小川となる.
kullūka ㊦ [*Manu* 法典の註釋者の名(恐らくは西曆
 第十六世紀)].
ku-vakra ㊦ 少しく曲れる.
ku-vaṇij ㊦ 奸商.
ku-vadhū ㊦ 邪惡なる婦人; 惡妻.
kuvaya ㊦ [鳥の一種].
ku-vartman ㊦ 難路, 異端.
ku-varṣa ㊦ 驟雨.
ku-vala ㊦ (㊦ -i) [樹の一種, 學名 *Zizyphus Jujuba*]. ㊦ *Kuvala* 樹の果實; 青睡蓮.
ku-valaya 1. ㊦ 地球; 球.
kuvalaya 2. ㊦ 青睡蓮(夜咲く).
kuvalaya-dṛś ㊦ 蓮華の如き眼を有する女.
kuvalaya-nayanā ㊦ [同上].
kuvalayamaya ㊦ (㊦ -i) 青睡蓮より成る.
kuvalaya-mālā ㊦ [或る牝馬の名].
kuvalayavati ㊦ [王女の名].
kuvalayākṣi ㊦ 蓮華の如き眼を有する女.
kuvalayāditya (°ya-ād°) ㊦ [王の名].
kuvalayānanda (°ya-ān°) ㊦ [修辭學に關する書の
 題名].
kuvalayāpiḍa (ya-āp°) ㊦ [象に變化せしめられた
 る或る *Daitya* の名]; [王の名]; [或る象の名].
kuvalayāvali (°ya-āv°) ㊦ [王女の名].
kuvalayāśva ㊦ [*Pratardana* 王の稱]; [*Dhundhumāra*
māra 王の稱].
kuvalayāśviya ㊦ *Kuvalayāśva* の物語.
kuvalayita ㊦ ㊦ 青睡蓮にて飾られたる.
kuvalayeśa (°ya-iśa°) ㊦ 地上の主, 王.
kuvalayeśatā (°ya-iś°) ㊦ 主權.
kuvalāśva ㊦ [*Dhundhumāra* 王の稱].
ku-vali ㊦ =ku-vala (㊦).
kuvale-śaya ㊦ [*Viṣṇu* 神の稱].
ku-vastra ㊦ 粗惡なる衣服. ㊦ 粗服を著たる.
ku-vastratā ㊦ [同上 ㊦].
ku-vākya ㊦ 惡語.
ku-vāc ㊦ [同上].
ku-vādika ㊦ (嘘言者), 藪醫者.
ku-vāsanā ㊦ 邪念.
ku-vidambanā ㊦ 劣等なる詐欺.
kuvitsa ㊦ 或る人, 或る知られざる人.
kuvid ㊦ 若しや, 恐らくは.
kuyinda ㊦ 織匠; ㊦ 織師 *Divy.*

kuvindaka ㊦ [同上].
ku-vivāha ㊦ 不釣合の即ち低種姓との結婚.
kuvirā ㊦ [河の名].
ku-vṛtti ㊦ 貧しき生計.
ku-vṛṣala ㊦ 惡しき *Sūdra*.
ku-vedhas ㊦ 悲運.
kuvera ㊦ [=kubera]; ㊦ [天の名] 惡體, 毗沙門
 天 *Divy., Mvyut.*; ㊦ 俱鞞羅 *Mvyut.*
ku-vaidya ㊦ 藪醫者; ㊦ 邪醫 *Bodh-bh.*
kuvja ㊦ [=kubja]; ㊦ 俯梵干.
ku-vyāpāra ㊦ 卑しき職業.
 [Kuś, 取巻く, 圍む, 包む, 抱く].
kuśa ㊦ 草, 特に祭式用の草 (*Vedi* に敷きつめてその
 上に供物等を置くに用ふ) [學名 *Poa cynosuroides*];
 [人名]; [或る *Dvīpa* の名]; ㊦ 草, 茅, 吉祥草 *Divy.,*
Lal-v., Mañj-m., Mvyut.; ㊦ 孤沙, 固沙 *Mvyut.*;
 [人名] 俱舍 *Vajr-s.*
kuśa-kāśamaya ㊦ *Kuśa* 草及 *Kuśa* 草にて作れ
 る.
kuśa-cira ㊦ *Kuśa* 草にて製せる衣服; ㊦ 草衣
Lal-v.
kuśa-cirā ㊦ [河の名].
kuśa-dvīpa ㊦ [或る *Dvīpa* の名].
kuśa-dhārā ㊦ [河の名].
kuśa-dhvaja ㊦ [王の名].
kuśa-nagara ㊦ [都城の名]; ㊦ 茅草城, 角城
Mvyut.; ㊦ 拘奢那揭羅 *Mvyut.*
kuśa-nābha ㊦ [人名, *Kuśa* の子].
kuśa-pavitra ㊦ 淨化又は聖化する爲の *Kuśa* 草;
 ㊦ (㊦) 固沙淨草 *Mvyut.*
kuśapavitra-dhāraka ㊦ ㊦ 持茅草淨具; (㊦)
 守固沙淨草 *Mvyut.*
kuśa-puṣpaka ㊦ [毒の一種].
kuśa-plava ㊦ [或る草庵の名].
kuśa-plavana ㊦ [聖地の名].
kuśa-bindu ㊦ [民族の名].
kuśa-mālin ㊦ [大洋の名] (*Jāt-m.*).
kuśa-muṣṭi ㊦ 一握みの *Kuśa* 草.
kuśa-rajju ㊦ *Kuśa* 草にて作れる絲.
ku-śarira ㊦ 惡しき身體. ㊦ 形惡しき.
kuśarira-bhṛt ㊦ (靈魂に比し) 卑しむべき肉體を有
 する.
kuśala ㊦ 善き, 正しき, 適當なる, 適應せる; 有利
 の; 有益なる; 健康なる; 健全なる; (㊦, ㊦, ㊦, ㊦,
 ㊦) に熟練せる, 老練なる, 經驗ある; ㊦ 嘉, 善,
 妙善, 純善; 能, 善能; 益; 平安, 樂; 善巧, 巧妙;
 識, 賢, 善知, 善解; 通, 能通達; 方便 *Divy., Lal-v.,*
Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Sam-r., Rāṣṭr., Lanḅ.,
Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵干., 梵雜: akṣara-
 dharmā-naya ~ 善解雜文字法 *Sam-r. 50.*; gam-
 bhīra-dharma ~ 善能通達諸法性 *Rāṣṭr. 15.*; sam-
 buddha-citta ~ 方便正覺意 *Divy. 396.* ~ m
 ㊦ 善く, 適當に; 幸に, 樂しく, 温和に; ㊦ 如善
Bodh-bh. ㊦ [*Śiva* 神の稱]; (㊦) [*Kuśadvīpa* の
 婆羅門の名]; (㊦) [民族の名]. ㊦ 好條件, 正當の
 順序; 幸福, 繁榮; 健康; 老練, 熟練; ㊦ 善, 善利;

福, 福裕, 福樂 *Divy., Saddh-p., Bodh-c., Vijñ-t., Mvyut.*: ekādaśa ~ āḥ (形 男) 善十一 [1. śrad-dhā 信, 2. hrī 慚, 3. apatrapā (apatrāpya) 愧, 4. alobha 無貪, 5. adveṣa 無瞋, 6. amoha 無癡, 7. vīrya 勤, 8. praśrabdhi 安, 9. apramāda 不放逸, 10. upekṣā 捨, 11. ahimsā 不害] *Vijñ-t.* 26.; daśa ~ āni 十善 [1. prāṇātipātād viratiḥ 離斷生命, 2. adattādānād viratiḥ 離不與取, 3. kāma-mithyā-cārād viratiḥ 離欲邪行, 4. mṛṣā-vādāt prativiratiḥ 離虛誑語, 5. pārūṣyāt prativiratiḥ 離惡語, 6. paisunyaṭ prativiratiḥ 離離間語, 7. sambhinna-pralāpāt prativiratiḥ 離雜穢語, 8. abhidhyāyāḥ prativiratiḥ 離貪, 9. vyāpādāt prativiratiḥ 離瞋, 10. mithyā-dṛṣṭeḥ prativiratiḥ 離邪見] *Mvyut.*
 ~ m te, 御機嫌如何, 君の幸運を祈る。
 ~ m praśnaya (名動), 健康を問ふ。
 ~ m BHū, ~ m Vac, ~ m Vad, 幸福を祈る。
 ~ m Man, 賛成す。
 ~ m, 因, ° — 剛 正當に, 規則正しく。

kuśala-kāraṇa 甲 幸福に相當する原因。

kuśala-caryā 女 善行 *Aṣṭ-pr.*

kuśalatā 女 熟練, (於)の經驗。

kuśala-dharma 男 善法 *Sam-r., Bodh-bh.*

kuśaladharmasamgrāhaka 形 攝善法(戒) *Bodh-bh.*: ~ m śīlam 攝善法戒 *Bodh-bh.* 138.

kuśala-pakṣa 男 善品, 善分 *Śikṣ., Bodh-bh.*

kuśalapakṣāntarāya 男 發行道, 法留難, 斷(彼)善分 *Śikṣ.*

kuśala-parigraha 男 攝受善(法), 所攝善(法) *Bodh-bh.*

kuśala-praśna 男 健康又は安否を問ふこと。

kuśala-mahā-bhūmika 形 大善地 *Mvyut.*: daśa ~ ā dharmāḥ 十大善地法 [1. śrad-dhā 信, 2. vīryam 精進, 3. upekṣā 捨, 4. hrīḥ 慚, 5. apatrāpyam 愧, 6. alobhaḥ kuśala-mūlam 無貪善根, 7. adveṣaḥ kuśala-mūlam 無瞋善根, 8. ahimsā 不害, 9. praśrabdhiḥ 輕安, 10. apramādaḥ 不放逸] *Mvyut.*

kuśala-mātsarya 甲 爲善貧妬 *Dharm-s.*

kuśala-mūla 甲 善根, 善法, 善本, 德本, 衆德之本 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sukh-vy. I., Lan-k., Śikṣ., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*: ṣaṭ-pāramitā-pratisamyuktāni ~ āni 六波羅蜜多相應善根 *Aṣṭ-pr.* 343.; trīni ~ āni 三善根, 三根本 *Mvyut., Dharm-s.* [1. alobhaḥ ~ m 無貪善根, 2. adveṣaḥ ~ m 無瞋善根, 3. amohaḥ ~ m 無癡善根] *Mvyut.*; [1. bodhi-oittōt-pādaḥ 發菩提心, 2. āsaya-viśuddhiḥ 清淨心, 3. ahamkāra-mamakāra-parityāgaḥ (自性空)斷我見] *Dharm-s.*

kuśalamūla-ropana 甲 下善根種子 *Madhy-vibh.*

kuśalamūlābhyudgatatā 女 善根高出, 善根最高大 *Gaṇḍ-vy.*

kuśalavat 形 健全なる, 健康なる。

kuśala-vāc 形 雄辯なる。

kuśala-sāsrava (°sa-ās°) 形 善有漏 *Bodh-bh.*: ~ ā dharmāḥ 善有漏法 *Bodh-bh.* 36.

kuśalākuśala 形 善不善, 善惡 *Lan-k.*

kuśalākuśala-hetuka 形 善不善因 *Lan-k.*

kuśalāvasānatā 女 幸福なる結果。

kuśalin 形 健全なる, 安寧にして健康なる; 有望なる, 善き(報道)。

kuśali-Kṛ, 整理す, 整頓す。

kuśaletara (°la-it°) 甲 病氣, 不幸。

kuśalopacaya (°la-up°) 男 增長善(法) *Bodh-bh.*

kuśavat 形 Kuśa 草に覆はれたる或は満ちたる。

kuśa-vāri 甲 Kuśa 草の煎汁。

kuśa-stamba 男 Kuśa 草の束。

kuśa-sthala 甲 [*Kānyakubja* 市の稱]。

kuśa-sthali 女 [*Dvārakā* 町の稱]。

kuśa-hasta 形 Kuśa 草を手を持てる。

kuśāgra 甲 Kuśa 草の葉の尖端; 茅端 *Abh-vy.* 男 [王の名]。

kuśāgra-buddhi 形 Kuśa 草の葉の尖端の如く鋭き智を有する。

kuśāmba 男 [*Vasu Uparicara* の子の名]; [*Kuśa* の子の名]。

kuśāmbu 男 [同上]。

kuśāvati 女 [都市の名]。

kuśāvarta (°śa-āv°) 男 [聖地の名]。

ku-śāstra 甲 邪論 *Abh-vy.*

kuśika 男 [或る聖者の名]; (種) [民族の名]; (音) 駒尸 *Buddh-c.*

kuśika-nandana 男 [*Viśvāmitra* の稱]。

kuśika-suta 男 [同上]。

kuśin 形 Kuśa 草を具備せる。

kuśi-nagara 甲 [*Malla* 族の都城の名]; 上茅城; (音) 拘尸城, 究施城; (音) 拘夷那竭 支應。

kuśi-nagari 女 [同上]; (音) (音) 俱尸那城, 拘尸那城 *Divy.*

ku-śiṣya 男 惡弟子。

kuśiṣya-śiṣya 男 弟子として惡しき弟子。

kuśida 1 男 [或る師の名]。

kuśida 2 形 [=kuśida]; 懈怠, 懶惰, 懶惰(者) *Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ.*

ku-śila 甲 惡質。

kuśilava 男 彈唱詩人, 俳優; (音) [*Rāma* の二子の名]。

kuśūla 男 穀物藏。 → kusūla.

kuśūla-dhānyaka 男 藏に穀物を(三年分)有する者。

kuśe-śaya 形 Kuśa 草の上に臥する。 甲 (晝)咲く) 蓮花。

kuśeśayākṣa 形 蓮花の如き眼を有する。

ku-śruta (通受分) 不十分に聞かれたる; (一°)を知らざる。 甲 凶報; 惡評。

ku-śvabhra 甲 小さき穴; 小溝 *Mvyut.*

Kuṣ, VI. 他 kuṣati; IX. 他 kuṣnāti 咬み裂く, 裂く。 nis- 引き裂く。 (通受分) **niṣkuṣita** 引き裂かれたる。

kuṣika 男 [王の名]。

kuṣitaka 男 [鳥の一種]; [人名]。

kuṣumbha 男 昆蟲の毒囊。

kuṣumbhaka 男 [同上]; 毒蟲。
kuṣṭha 男 田 [植物の名, 學名 *Costus speciosus* 又は *Costus arabicus*]; 青木, 廣木香 *Mvyut.* 田
 癩病; 癩. 惡癩, 癩病, 瘡癬, 白(又は惡)癩, 大麻
 風 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Lañk., Mvyut.*
kuṣṭhā 女 尖端, 鬚; 癩病。
kuṣṭhāṅga 形 四肢の癩病に罹れる。
kuṣṭhābhadruta 形 癩病 *Divy.*
kuṣṭhikā 女 内臓の包容物。
kuṣṭhita 形 癩病に罹れる; 癩 *Rāstr.*
kuṣṭhin 形 [同上]。
kuṣmāṇḍa 男 [植物の名, 學名 *Beninkasa cerifera*];
 顔 [惡鬼の一種]. 田 [祭文の一種 (*Vājasaneyi*
Samhitā の一部)]. → *kūsmāṇḍi.*
ku-saṃskṛta 形 世間 *Sam-r.*
ku-sakhi 女 悪しき女友。
ku-saṃgata 田 悪しき結合。
ku-saciva 男 悪しき大臣。
ku-saṃbandha 男 悪しき親族。
ku-sarit 女 浅き川。
ku-sahāya 男 悪しき伴侶; 惡朋, 惡知識, 非
 善等侶 *Kāsy., Mvyut.*
ku-sārathi 男 悪しき御者。
kuṣida 形 不活潑なる, 怠惰なる; 怠, 懈怠, 怠
 墮, 懶惰, 慢緩, 臆惰; 姦偽 *Av-s., Aṣṭ-pr., Saddh-p.,*
Gaṇḍ-vy., Sam-r., Śikṣ., Bodh-bh. → *kuṣīda.*
 田 高利にて金を貸すこと。
kuṣida-dṛṣṭi 女 懈怠邪見 *Sukh-vy. I.*
kuṣida-paṇḍita 男 高利, 高利貸業。
kuṣida-rūpa 形 懈怠 *Saddh-p.*
kuṣida-vṛddhi 女 高利貸の利子。
kuṣidāyī 女 高利貸業者の妻。
kuṣidin 男 高利貸業者。
kuṣuma 田 花; 華, 花 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.,*
Suv-pi., Lañk., Rāstr. 等; 拘蘇摩, 酤蘇摩(華)
Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
kuṣuma-kārmuka 男 (花の弓を持てる) *Kāma* 神。
kuṣuma-ketu 女 [*Kāma* 神の稱]。
kuṣumaketu-maṇḍalin 形 [Kimnara の名].
 其華輪, 其花頂中圍 *Mvyut.*
kuṣuma-komala 形 花の如く柔らかなる。
kuṣuma-cāpa 男 = *kuṣuma-kārmuka.*
kuṣuma-tala-garbha-vyūhalaṃkāra 形 華
 藏(世界). 華藏莊嚴(世界) *Gaṇḍ-vy.*
kuṣuma-dayi 女 蜜を出す。
kuṣuma-druma 男 花の咲く樹。
kuṣuma-dhanus 男 = *kuṣuma-kārmuka.*
kuṣuma-dhanvan 男 [同上]。
kuṣuma-pura 田 花の都市 [*Pāṭaliputra* の稱]。
kuṣuma-prabha 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*)
kuṣuma-pravṛtti 女 開花。
kuṣuma-prasūti 女 [同上]。
kuṣuma-bāṇa 男 花の矢 (*Kāma* 神の)。
kuṣumamaya 形 (女-i) 花より成れる。
kuṣuma-mārgaṇa 男 [*Kāma* 神の稱]。
kuṣuma-maiā 女 花環。

kuṣuma-māsa 男 花咲く月, 春 (*Jāt-m.*)
kuṣumaya 名 田 他 *kuṣumayati* 花を以て飾る。
 過受分 *kuṣumita* 花咲ける。
kuṣuma-lakṣman 男 [*Pradyumna* の稱]。
kuṣuma-latā 女 花咲く蔓草。
kuṣuma-lāvi 女 花を摘む女。
kuṣuma-vṛṣṭy-abhiprakirṇa 男 [佛の名] (*Sukh-*
vy. I.)
kuṣuma-śayana 田 花の臥床。
kuṣuma-śara 形 花の矢を持てる. 男 [*Kāma* 神の
 稱]。
kuṣuma-śaratva 田 [同上(形)田]。
kuṣumaśarāsana (°ra-ās) 男 [*Kāma* 神の稱]。
kuṣuma-saṃbhava 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*); [第
 十月の稱]。
kuṣuma-sāyaka 男 [*Kāma* 神の稱]。
kuṣuma-sāra 男 [或る商人の名]。
kuṣuma-surabhi 形 花にて香ばしき。
kuṣuma-stabaka 男 花束。
kuṣumākara (°ma-āk°) 男 春。
kuṣumāñjali 男 兩掌一杯の花。
kuṣumāpīḍa (°ma-āp°) 男 花環。
kuṣumābhijña 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*)
kuṣumāyudha (°ma-āy°) 男 [*Kāma* 神の稱]; [人名]。
kuṣumāvaca 男 花を集むること。
kuṣumāsava (°ma-ās°) 男 蜂蜜。
kuṣumāstarāṇa (°ma-ās°) 田 花の臥床。
kuṣumāstra 男 [*Kāma* 神の稱]。
kuṣumita 過受分 → *kuṣumaya.* 妙華, 敷花,
 開敷花, 花開敷, (衆)花普茂盛; 滿; 花所嚴, 爲莊嚴
Divy., Lal-v., Lañk., Mvyut.: ~o lakṣaṇaiḥ 諸
 相花所嚴 *Mvyut.* 田 開花, 開花時。
kuṣumeṣu (°ma-iṣu) 男 (花の矢を持てる) *Kāma* 神。
kuṣumbha 男 紅花(花) [學名 *Carthamus tinctorius*];
 (行者の)水瓶; 紅, 赭色 *Mvyut., 梵雜.*
kuṣumbhaka 田 紅花。
kuṣumbha-kṣetra 田 紅花の野。
kuṣumbha-rāga 男 紅花の色。
kuṣumbhavat 形 水瓶を携へたる。
kuṣumbha-varṇa 田 紅 梵千。
kuṣulaka 田 復乳(?) [*Tib. śiñ-ña-(d)puñ-chad.*
 有部百一羯磨第二の歐蘇洛迦衣なるか如し。然らば
kuṣulaka に作るべし。復乳は覆乳か(?)。但し復に衣
 の義あり。乳は乳房の義に用ひらる] *Mvyut.*
kuṣūla 男 穀物倉; 箭 *Abh-vy.*
kuṣūlaka 田 箭衣 *Mvyut.;* 歐蘇洛迦(衣)
Mvyut.
kuṣūla-dhānya 形 (三年間の消費に十分なる)穀物
 を有する。
kuṣūla-dhānyaka 形 倉に(多くの)穀物を藏する
 男 藏に(三ヶ年間分の)穀物を蓄へたる者。
ku-sṛti 女 裏路; 隱路; 詐欺, 瞞著; 奸惡 *Mvyut.*
ku-sauhrda 男 惡友。
ku-stri 女 惡妻。
ku-strika 形 惡妻を有する。
ku-sthāna 田 悪しき場處。

ku-svāmin 男 悪しき主人。

kuha 1. 副 何處に [屢: ~svid]. → kuha-cid.

kuha 2. 男 = kuhaka; 詭詐, 欺瞞, 詐現, 詔曲 Lal-v., Rāṣṭr.

kuhaka 男 惡僕, 詐欺師, 手品師; 偽善者; [蛙の一種]; [或る Nāga の王の名]; 矯, 邪, 詐, 虛詐, 詔曲, 誑, 誑惑 *Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.* → nis~.

甲 瞞著, 詐欺。

kuhaka-kārikā 女 娼家の主人。

kuhaka-cakita 形 詭計を恐るゝ, 疑深き, 注意深き。

kuhaka-jivaka 男 詐欺師; 手品師。

kuhaka-jña 男 詐欺師。

kuhakā 女 幻術; 瞞著。

kuhakārāva (°ka-ār°) 男 嘶(呼)。

kuha-cid 副 何處かへ; 何處にても。

kuhacid-vid 形 何處にも存在する。

kuhana 男 [人名]. 甲 偽善; 詭詐 矯詐, 詔曲 *Bodh-bh.*

kuhanā 女 詐欺; 惡, 詐, 詭詐, 矯詐 誑, 誑誘, 虛誑, 詔曲, 詔諛 *Kāśy., Sam-r., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*

kuhara 男 [或る Nāga の名]. 甲 洞穴, 穴; 交接。

kuhara-bhāj 形 穴居する。

kuhali 女 菟薺(呼)。

kuhali 女 [同上]。

kuhā 女 [植物の一種]; [=kuhanā] 詔 *Sikṣ. 196.*

kuhu 1. 擬音 [郭公の鳴聲]。

kuhu 2. 男 [重さの單位]. 女 = kuhū 2.

kuhukuhāya 名動 自 **kuhukuhāyate** 驚愕の聲を發す。

kuhu-rava 男 郭公の鳴聲。

kuhū 1. 擬音 [郭公の鳴聲]。

kuhū 2. 女 新月 (*Āngiras* の娘として人格化せられたる); [河の名]。

kuhū-kaṇṭha 男 印度郭公。

kuhūs 擬音 = kuhu 1.

ku-bvāna 甲 不愉快なる音。

Kū, I. 自 **kavate**; II. 他 **kauti**; VI. 自 **kuvate**; IX. 他 自 **kūnāti(-te)** 叫ぶ, 響く, 鳴く。

ā- 企つ

kū 副 何處に, 何處より。

kū-cid 副 何處にか。

kūcid-arthin 形 何處にても行かんと努力する。

kūci 女 刷毛, 筆。

Kūj, I. 他 **kūjati** 單調なる音を發す; 叫ぶ, 唸る, 呟く, ポーポー鳴く; プンブン云ふ, 微音を發す, 轉る; 鳴, 發響 *Divy.* 過受分 **kūjita** 叫びたる, 呟ける; 單調なる音響に充てる。

ud- 叫ぶ, (單調なる)クーの音を發す; 笑す, 嘆く。

vi- 叫ぶ, 轉る。

sam- [同上]。

kūja 男 叫聲, 鳴聲, 低聲に呟くこと。

kūjana 甲 [同上]; 鳴 *Divy., Abh-vy.*

kūjita 過受分 → kūj. 甲 = kūja.

kūjitavye 副 答ふべき時に。

kūṭa 甲 前額; 角(?); [器具又は容器の一種]. 男 甲

峯, 頂; 堆積, 群集; 鐵髓; 瞞著, 詐欺, 虛偽; 謎; 畏; 匿されたる武器 [仕込杖等の如し]; 峯, 頂, 山, 巖嶺; 臺, 樓, 舍, 樓閣 *Saddh-p., Mañj-m., Abh-k., Bodh-bh.*, 梵雜; 積, 聚, 集, 積集; 邊椽 *Divy., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Mvyut.*, 梵千, 梵雜; 彌, 圍 *Divy., Sikṣ.*; 矯, 偽, 矯詐, 欺誑 *Saddh-p., Sikṣ., Bodh-bh.*: *sumeru*~ (男)須彌山 *Saddh-p. 281.* → āra~. 形 角なき(家畜); 瞞著の; 疑似の; 隠されたる, 不快を抱かしむる。

kūṭaka 形 價造の(貨幣). 甲 隆起, 突出。

kūṭa-kapaṭa 男 甲 矯詐 *Bodh-bh.*

kūṭa-karman 甲 詐欺。

kūṭa-kāraka 男 偽造者, 偽證者。

kūṭa-kṛt 男 (男)の偽造者; 贈賄者。

kūṭa-khaḍga 男 隠されたる刀, 仕込杖。

kūṭa-cchadman 男 惡漢, 詐欺師; 詐欺。

kūṭa-ja 男 [樹の名, 學名 *Wrightia antidysenterica*].

kūṭa-tāpasa 男 偽苦行者。

kūṭa-tulā 女 不正の天秤。

kūṭa-danta 形 突出せる齒を有する。

kūṭa-danti 女 [Rākṣasi の名] 曲齒; (音) 拘吒齒 *Saddh-p., Suv-pr.*; 鳩羅檀提 *Suv-pr.*

kūṭa-dharma 形 人々が虚偽を恰も本務の如く勤ふる(國)。

kūṭanā 女 邪偽 *Saddh-p.*

kūṭa-pākala 男 肝臟の熱病; (象)の熱病。

kūṭa-pāsa 男 係蹄, 畏。

kūṭa-pūri 女 [鶴の一種]。

kūṭa-bandha 男 = kūṭa-pāsa.

kūṭa-māna 甲 不正なる計量又は重量。

kūṭa-mudgara 男 斧に似せて作られたる兇器。

kūṭa-mohana 男 [Skanda の稱]。

kūṭa-yuddha 男 叛逆的鬭争。

kūṭa-racanā 女 詐欺; 畏, 係蹄。

kūṭa-lekha 男 價造の文書。

kūṭa-lekhya 甲 [同上]。

kūṭasās 副 堆く, 群がりて。

kūṭa-sālmali 男 女 (*Yama* 界にて罪人を拷問する爲に用ゐらるゝと傳説せらるゝ刺を有する)綿の灌木; [地獄の一種]。

kūṭa-sāsana 甲 偽の布告。

kūṭasāsana-kartṛ 男 布告の偽造者。

kūṭa-sākṣin 男 偽證者。

kūṭa-sākyā 甲 偽證。

kūṭa-sṭha 形 最高處を占むる, 首位にある; (一°)の中心に或は群の中にある; 不動の, 不變の; 住於頂 *Mvyut.*; 住樓閣 *Sikṣ.*; 常, 常住, 永住定, 常住不壞 *Aṣṭ-pr., Sikṣ., Madhy-v., Mvyut.*

kūṭa-svarṇa 甲 價の黄金。

kūṭākṣa 男 不正の骰子。

kūṭākṣopadhi-devin (°ṣa-up°) 形 不正の骰子を用ふる, 詐欺の賭事をなす。

kūṭāgāra 男 甲 上方の室, 屋上の部屋; 涼亭; 閣, 樓閣, 重閣, 棚閣; 臺, 臺觀, 臺榭; 樓房, 樓觀, 臺樓觀, 臺榭樓觀; 舍, 屋宅, 屋宇; 重閣講堂, 重閣精舍; (宮殿)樓閣 *Lal-v., Av-ś., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.,*

Sukh-vy. I., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.

kūṭāgāra-śālā ㊦ [同上]; ㊦ 重閣堂. 重閣講堂

Divy., Av-ś.

kūṭājvara (°ta-āj°) ㊦ [鵝(ガ)の鳴聲によりて起る熱病の名].

kūṭi-Kṛ, 積む.

Kūd, X. ㊦ **kūḍayati** 焦がす, 焼きつく.

Kūṇ, I. **kūṇati** 縮む, 縮少す. ㊦ **kūṇita** 縮みたる, 閉ぢられたる.

kūṇita ㊦ → **Kūṇ**.

kūtanā ㊦ [特殊の水の名].

kūḍi ㊦ 足械.

kūpa ㊦ 坑, 穴; 井; ㊦ 孔, 坑; 井, 陂, 陂井 *Suv-pr., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut.*, 梵千, 梵維. → **roma** ~.

kūpaka ㊦ 小井; 細孔.

kūpa-karṇa ㊦ [人名].

kūpa-kāra ㊦ 井戸堀人.

kūpa-kūrma ㊦ 井中の龜 [=世間に慣れざる人].

kūpa-khanana ㊦ 井を掘ること.

kūpa-khā ㊦(㊦) 井戸堀人.

kūpa-khānaka ㊦ [同上].

kūpa-cakra ㊦ 井戸車; 釣瓶の輪.

kūpa-tāraka ㊦ ㊦ 井底星 *Lal-v.*

kūpa-daṇḍa ㊦ (帆)柱.

kūpa-dardura ㊦ 井中の蛙 [=世間に慣れざる人].

kūpa-yantra ㊦ = **kūpa-cakra**.

kūparaka ㊦ ㊦ 肘 *Mvyut.*

kūpa-śaya ㊦ 井中に隠れたる.

kūpāya ㊦(㊦) **kūpāyate** 井となる.

kūpikā ㊦ 涸渴せる河床にある水溜.

kūpya ㊦ 穴又は井中に在る.

kūbara ㊦(㊦) (車の)轆(ま); [—° ㊦(㊦)-ā]. → **kūvara**.

kūbara-sthāna ㊦ 車上の座席.

kūbari ㊦ = **kūbara**.

kū-yava ㊦ [穀物の一種].

kūra ㊦ 飯.

kūrca ㊦(㊦) 一束の草; 束; 鬚(人及び獸の).

kūrcaka ㊦ 束; 刷毛; 鬚.

kūrcatā ㊦ 鬚あること.

kūrca-mukha ㊦ [聖仙の名].

kūrcala ㊦ 鬚ある.

kūrcin ㊦ 長き鬚ある.

Kūrd, I. ㊦(㊦) **kūrdati(-te)** 跳ぶ, 跳躍す.

ud- 跳び上る.

pra- 跳ぶ.

kūrda ㊦ 飛躍, 跳躍.

kūrdana ㊦ [同上].

kūrpa ㊦(?) 砂.

kūrpara ㊦ 肘; [時として] 膝.

kūrparaka ㊦ [同上]; ㊦ 肘 *Mvyut.*

kūrparita ㊦ 肘にて打たれたる.

kūrpāsa ㊦ [植物の一種]; 短衣.

kūrpāsaka ㊦ 胴著; 婦人の胴衣.

kūrma ㊦ 龜; [閉目を司る生氣の一]; [或る蛇の名];

㊦ 龜 *Saddh-p., Laṅk., Sūtr., Mvyut.*, 梵維:

mahārṇava-yuga-ccidra ~ **grivā-praveśavat** 如一眼之龜值浮木孔 *Saddh-p. 463.*

kūrma-pati ㊦ 龜の王(大地を支ふる).

kūrma-prṣṭha ㊦ 龜の甲; [或る Yakṣa の名].

kūrmaprṣṭhonnata (°tha-un°) ㊦ 龜甲の如く隆起せる.

kūrma-ramaṇi ㊦ 雌龜.

kūrma-roma ㊦ ㊦ 龜毛 *Laṅk.*

kūrma-vibhāga ㊦ 地球又は半球の區分.

kurmākṛti-khara (°ma-āk°) ㊦ ㊦ 如龜背而巖 *Mvyut.*

kūrmāṅga ㊦ 地球.

kūrmi ㊦ 龜.

Kūl, X. ㊦ **kūlayati** 焦がす. → **Kūd**.

kūla ㊦ 傾斜, 小山; 岸, 堤防; ㊦ 岸 *Lal-v., Śikṣ.* → **pāṃsu** ~.

kūlaka ㊦ [神祕の山の名] (*Divy.*)

kūlam-kaṣa ㊦ 堤防を運び去る或は決潰する.

kūla-cara ㊦ 河の堤を度々往來する.

kūla-jāta ㊦ 堤上に生ずる.

kūlam-udruja ㊦ (河川等が)堤防を洞にする或は潰す, 堤を破壊する.

kūlavati ㊦ 河.

kūlini ㊦ 河.

kule-cara ㊦ = **kūla-cara**.

kūvara ㊦(㊦) [= **kūbara**]; ㊦ 車軾 *Buddh-c.*

kūṣmāṇḍa ㊦ [惡魔の一種]; [同下].

kūṣmāṇḍi ㊦ [祭文の一種, *Vājasaneyi-saṃhitā* の頌 X X. 14-16 の稱].

kūhaka, → **akūhaka**.

Kṛ I., [upa, pari, sam の後には skr] VIII. **karo**-㊦, **kuru**-㊦; [㊦ は又 ㊦] I. **kara-**, II. **kar-**, V. **kṛṇo-** 作る, 爲す; 形成す, 構成す; 實行す, 履行す; 生ず; 施行す; 成就す. (友情を)結ぶ, 顯はす, 示す, 實施す; 準備す, 調理す; 組織す; 耕作す; (㊦, ㊦)より(…を)造る; (㊦, ㊦)に或はの爲に(…を)爲す; (㊦)を(㊦)と爲す; (㊦)に暴行を加ふ; (㊦)に關する四例の(日常の)行爲を爲す[此の用法は補語として極めて廣範圍に使用せられ, Kṛ は直前の語と俱に單一語句を形成す: ㊦ **udakam** ~ (恆例の)水の獻供をなす, 祖靈に水の獻供をなす; **pūjām** ~ 敬ふ, 供養す; **rājyam** ~ (國を)治む, 支配す; **kālam** ~ 死す. 又 ㊦ 他動詞の ㊦(㊦) 即ち -ām に助動詞として Kṛ の ㊦(㊦) を附して複説 ㊦(㊦) を作る場合亦た之に類す: ㊦ **gamayām cakāra** ㊦, かしめたり; **āsām cakare** 坐せり]; 發言す, 發音す, 唱ふ; 記述す; 規定す, 決定す; (時を)過す; (一瞬間)待つ; (㊦, ㊦)に對して周旋す; (形又は聲を)呈す, 採る, 出す(㊦); (㊦, ㊦)の上又は中に置く, ……に向く; (心又は考)を向く, ……を傾く, ……を回らす, ……を働かす; ……に(心を: **manas**, **buddhim**, **matim**, **bhāvam**)置く; (㊦, ㊦, ㊦)又は **iti** を伴ふ(㊦)と決心す, ……と考慮す; (㊦)に任命す; 委任す; 行ふ, 成り行く; 犠牲を捧ぐ; (㊦, **kim**)を以て……を爲す, ……を使用す或は利用す, ……に乗ず; [**kim** と俱に] 役立つ, 效あり; (㊦)を援助す, 助く; (㊦),

-tas) より免れしむ; 起, 作, 起作, 修作, 施作, 爲, 能修, 發, 能成辨, 奉行 *Divy, Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II., Bodh-bh, Abh-vy, Śikṣ.*: kṛtyam karoti 能成辨(種種)事業, 所作事(悉)成辨 *Aṣṭ-pr. 843.*

[īに終る 圖 (例) atithi) 又は ūに終る 圖 (例) mṛdū) と俱に] ……せしむ, ……に爲す.

[sātに終る 圖 (例) ātma-sāt) と俱に] ……と爲す.

manasā ~, 考ふ.

tathā ~, その通りに爲す, 承諾す.

yathoktam (°thā-uk°) ~, [同上].

vaśe ~, 服従せしむ.

hr̥di ~, 留意す, 記憶す.

hr̥dayena ~, 愛す.

evam kṛtvā (不變分) この理由より.

(過受分) kṛta.

(便役) kārayati(-te) (業)に(業)を爲さしむ; (因)に依りて作らしむ; 準備せしむ; (業)に(業)を作らしむ; (因)に置かしむ; 遂行せしむ; 耕作せしむ; 安置せしむ; 葬らしむ; 作ることを命ず, 準備を命ず, 遂行を命ず; [屢々使役の意味なく單純動詞に同じ:

(例) padam kārayati 語を唱ふ]; (起) 作, 起, 造立, 建立, 修造, 勸導行 *Saddh-p., Bodh-bh.* (希求) cikirṣati(-te) 爲さんと欲す, 行はんと欲す, 確立せんと欲す; 志す; 得んと努む.

ati- 違背す.

adhi- ……の首位に置く; (因)に任命す; 論議の主題を提出す或は作る; 定義す, 斷言す (*Buddh-c.*); (對) 對; 爲; 修, 淨修, 修持, 嚴持; 高擧 *Sapt-pr., Lan̄k., Śikṣ.* (不變分) adhikṛtya ……の上位にありて, ……の主題を作りて; ……に關して, ……に就て; (依) 依 約; 方; 爲増上, 爲上首 *Lan̄k., Abh-vy.* (過受分) adhikṛta (因, 一°)に委任せられたる, ……に任命せられたる; (因)に關係せる.

anu- (業)を模倣す; (業, 圖)に匹敵す, ……に拮抗す; (因)に於て(業)に匹敵す; (隨) 隨作 *Mvyut.*

apa- 取去る, 除く; (業, 圖, 因)を書す. (便役) apakārayati [同上].

praty-apa- (圖)に復讐す.

abhi- 爲す, 作る. (希求) abhikirṣa- 爲さんと或は企てんと欲す.

aram- 整備す; (圖)に仕ふ, ……を満足せしむ.

alam- 整備す, 作品を(出す); 飾る [自 自身を飾る]; (圖)を妨ぐ又は虐ぐ; (莊) 莊嚴, 嚴飾 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Śikṣ.*

abhy-alam- 飾る.

upālam- [同上].

vy-alam- (脱) 脱, 剝脱, 奪嚴身之寶 *Lal-v. 142.*

sam-alam- 飾る; 虐ぐ; (莊) 莊嚴 *Śikṣ.*

ava- 下に向く.

ā- 此方へ持ち來る, 引寄す; 提出す; 呼ぶ; (圖)に充當す; (圖)に供ふ; (奉) 奉獻 *Buddh-c.* (便役) ākārayati 呼ぶ; (業)に(業)を要請す或は求む;

(唱) 唱導 *Divy.* (希求) ācikirṣati 遂行せんと欲す.

apā(apa-ā)- 除く, 逐ひ拂ふ, 消散せしむ; 抵抗す, 擊退す; 斷念す, 止む; 支拂ふ.

upā(upa-ā)- 引き寄す, 齎す; 任す, 委ぬ, 引渡す; 與ふ, 得せしむ; 祭式の準備をなす; 奉獻す, 供ふ. ny-ā- 抑制す.

nir-ā- 別置す; 取去る, 移す; 逐ひ拂ふ; 拒絶す, 擊退す; 否定す; (止) 止, 空, 不赴 *Bodh-bh.*

vy-ā- 分つ, 區別す; 説明す, 解説す, 解答す; (業)に關して(業)に決定的の豫言をなす(佛敎); (示) 示, 說, 解説, 宣說, 宣揚; 答, 作答, 答言, 能正答; 記, 記說, 記別, 記別, 授記, 授其記, 與授記, 授與記別, 授決 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sam-r., Rāṣṭr., Lan̄k., Bodh-bh., Abh-vy.*

sam-ā- 結合す, 一纏めにす.

upa- 與ふ, 捧ぐ, 贈る; (圖, 因)に援助す, ……に厚意を示す; 恩惠を與ふ; 敬禮す; 大切にす(自).

upa-s- 備ふ, 準備す, 整備す, 裝備す, 飾る; (業)を大切にす. (過受分) upaskṛta (因)を裝備せる, ……を備へたる; 飾られたる; (業)を大切にせる.

praty-upa- 報ず; 酬ゆ, 返禮として盡力す.

ni- (高處より)下ぐ, 貶す, 卑しむ, 壓倒す. (過受分) nikṛta 輕蔑せられたる, 卑められたる; 下賤なる, 卑しき, 惡しき.

vi-ni- 屈辱を感ぜしむ; 害す; 欺く.

nis- 除く; 準備す, 整備す, 具備す; 癒す; 贖ふ.

pari-s- 準備す, 整備す, 裝備す; 飾る; (因)を附與す.

puras- 前に置く, 先行せしむ; 示す, 顯はす; (因)に任命す, 選ぶ, 選り取る; 尊敬す. (不變分) puraskṛtya (業)に關して, ……に就て, ……の爲に; 敬ひて. (過受分) puraskṛta (一°)を伴へる, ……を有する, ……を備へたる; puraskṛtam 圖 (一°)を伴ひて.

pra- 爲す, 形成す, 作る; 行ふ; 示す, 生ぜしむ; (業)を(業)となす; 娶る, 犯す, 汚す(少女を); (因)に任命す; 出す; 論議の主題となす; [buddhim pra-Kṛ, manas pra-Kṛ] (爲, 因)に心を注ぐ, ……せんと決心す, 決意す; (起) 作, 加 *Lan̄k., Sūtr.* (過受分) prakṛta 爲されたる, 始められたる; 完成せる; ……より成る; 言はれたる, 議論中の, 問題の. (便役) prakārayati 整備せしむ.

vi-pra- 害す; 惱ます; 妨ぐ.

saṃ-pra- 共に爲し遂ぐ, 共に實行す, 實施す, 始む; (業)を(業)と爲す; (起) 起 *Lal-v.*

prati- (業)を(業)に對抗せしむ; (業)を以て(爲, 圖, 因)に報ゆ(善惡共に); 抵抗す; 償ふ, 贖罪す; 繕ふ; 支拂ふ; (報) 報, 懺, 悔除 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.* (過受分) pratikṛta (報) 報恩 *Aṣṭ-pr.* → kṛta. (希求) praticikirṣati (業)に對して(業, 因)に就て復讐せんと欲す.

vi- 異ならしむ, 變ず, 改む; 比較す; 區別す; 形を損ふ, 破壊す, 不具にす; 發展す; 出現す; (圖, 因)に敵對す; (因)に不信となる; (神) 神變, 顯神變, 能引神變, 自在示現; 遊戲 *Daś-bh., Bodh-bh.* (自) vikriyate) 變る, 變へらる, 改まる, 改めらる; 疎遠又は不信となる. (過受分) vikṛta 變はれる, 改められる, 變形せる; 性質を附與せられたる, 具備せる; 損傷せられたる, 不具にせられたる, 不恰好になれ

る; 不自然の, 未完成の; 不信なる, 反抗的なる。
vikārayati 感情を一變せしむ(好惡共に)。
pra-vi- [=vi-pra-] **pravikṛta** 罪を犯したる。
saṃ-(s)- 合同す; 結合す; 蓄積す; 準備す, 整備す; (聖紐を) 帶ばしむ; (聖火を以て結婚する少女又は死者を) 淨む; 飾る, 磨く; 文法に照して成文す。**samskṛta** 淨められたる; 帯びたる; 飾られたる, 磨かれたる, 精緻なる, 精練せられたる(語即ち梵語); 因縁又は業によりて生ぜる(有爲法)(*Lal-v.*)。
abhi-saṃ-s- 整頓す, 形成す; (因)を(果)と爲す; 獻ず; **saṃ-** 作, 造, 造作, 能作; 發; 積集 *Lal-v., Av-ś., Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ.*: *cetasā cittam abhisamskaroti* 發心思惟 作是念. 作是思惟 *Bodh-bh. 166.* **abhisamkṛta** 用意せる, 準備せる。
prati-saṃ-s- 修繕す。
Kṛ 2., 分 cakrat; **cakṛ-** 紀念す, 記憶す; (果)を稱讚す, 褒む。
kṛkara 雄鷓鴣(鷓)(の一種); [飢餓を起さしむる生氣(*prāṇa*)]。
kṛkala 雄 [同上]。
kṛkalāsa 雄 蜥蜴; カメレオン; **saṃ-** 雲虎兒 *Mvyut.*
kṛka-vālcu 雄 雄鷄; 孔雀。
kṛkaśā 雌 [鳥の一種]。
kṛkāṭa 雄 頸の關節。
kṛkāṭaka 雄 [柱の一部の名]; **saṃ-** 斗拱 *Mvyut.*
kṛkāṭikā 雌 =*kṛkāṭa*; **saṃ-** 腦后 *Mvyut.*
kṛkālīkā 雌 [鳥の一種]。
kṛkin 雄 [神話上の王の名]; **saṃ-** 訖栗枳, 訖里伽, 柯枳(王), 枳栗訖(王), 訖栗枳(王), 及利及(王) *Divy., Abh-vy., Mvyut., 支那;* 迦翅 *Av-ś.*
kṛccha 雄 雄 [<*kṛcchra*>]; **saṃ-** 苦 *Lal-v. 174.*
kṛcchra 形 苦しき, 悲き, 悲慘なる; 苛酷の, 危険なる; 憐れなる, 不幸なる; 苦痛を起す; **saṃ-** 瘦, 難, 苦惱, 險惡, 艱辛, 最極艱辛 *Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.*
~m 副 哀れに, 困難して。 雄 雄 困難, 苦痛, 心勞, 不幸; 危險; 勞働, 苦行; 小苦行(の一種); **saṃ-** 苦厄, 苦惱, 難, 厄難, 艱難, 急難, 苦厄難, 艱嶮, 勤苦憂惱 *Divy., Saddh-p., Rāṣṭr., Bodh-bh., Bodh-c.*; 功用, 功力 *Sapt-pr., Bodh-bh.*: **~m āpannaḥ** 爲艱嶮 *Bodh-bh. 252.* → *alpa* ~。
~tas, ~eṇa 具, **~āt** 副, **~śas** 副 辛じて, 大いに努力して; **saṃ-** [具 ~*eṇa*] 辛苦, 用功力, 以功力, 以方便 *Divy., Bodh-bh.*
kṛcchra-karman 雄 苦痛, 心勞, 困難。
kṛcchra-kāla 雄 苦難又は危険の時。
kṛcchra-gata 形 苦しめる; 危殆に陥れる; 苦行をなす。
kṛcchratas 副 → *kṛcchra*。
kṛcchratā 雌 危険性, 苦痛なる或は困難なる状態。
kṛcchra-patita 雌 苦難に陥れる。
kṛcchra-prāṇa 雌 生命の危険に陥れる; 辛ふじて生命をつなく。
kṛcchra-prāpta 形 **saṃ-** 艱難 *Saddh-p.*
kṛcchra-bhāj 形 困難に陥れる。

kṛcchra-bhojin 形 苦行に身を委ねたる。
kṛcchra-rūpa 形 苦境にある。
kṛcchra-lābhin 形 **saṃ-** 得難 *Mvyut.*
kṛcchraśas 副 → *kṛcchra*。
kṛcchra-saṃvatsara 雄 一年間續く苦行(の一種)。
kṛcchra-saṃbādha 雄 **saṃ-** 艱辛, 艱難 *Bodh-bh.*
kṛcchra-sādhya 形 完成の困難なる; **saṃ-** 難調伏 *Bodh-bh.*
kṛcchra-sthūlatā 雌 **saṃ-** 肥瘦 *Bodh-bh.*
kṛcchrātikṛcchra 雄 普通の苦行と特殊苦行; 副 [苦行の一種]。
kṛcchrān-mukta 形 苦難より解放せられたる。
kṛcchrāpanna (°*ra-āp*) 形 **saṃ-** 遭急難 *Bodh-bh.*
kṛcchrābda 雄 一年間續く苦行(の一種)。
kṛcchrārjita 形 **saṃ-** 艱辛所獲 *Bodh-bh.*
kṛcchri-BHū, 惱まさる。
kṛcchre-śrit 形 危険に曝さるゝ。
kṛcchronmila (°*ra-un*) 雄 [眼瞼の病の一種]。
kṛ-ñ 文法 語根 *Kṛ.*
kṛṇotana, [因 *Kṛ 1.* の命(三人 覆)]。
Kṛt 1., VI. 他 kṛntati [被動]には亦た 自 *kṛntate* 及 *Kṛ 1.* 他 *kartati* 切る, 切り取る, 切り除く, 切り裂く, 切り倒す; 抜き取る; 割る。 **saṃ-** *kṛtta* 切られたる; 切り取られたる; 裂き取られたる, 切り離されたる。 **saṃ-** *kartayati* [=單純動詞]; **saṃ-** 破, 截, 割 *Divy., Sikṣ.*
ava- 切り取る, 引き離す; 破壊す; **saṃ-** 割 *Divy.* **saṃ-** 重傷を負はしむ; 切斷せしむ。
ud- 切り除く, 切り取る, 切り裂く; 寸斷す; 破壊す; **saṃ-** 破 *Av-ś.* 因 *utkṛtyate* 死す。
ni- 斬り殺す; 切り倒す, 切り去る, 裂き取る; **saṃ-** 斫, 斷, 斷取, 斷割, 分解 *Lal-v., Sikṣ., Abh-vy. Mvyut.*; 自 (爪を)切る。
vi-ni- 切斷す, 切り落す, 引き裂く; **saṃ-** 割 *Rāṣṭr.*
pari- 周圍を切る; (因)より切り去る, ……より放逐す; 自 周圍が裂く。
vi- 分つ, 裂く。 **saṃ-** *vikartayati* [=單純動詞]。
Kṛt 2., VII. 他 kṛṇatti 紡ぐ; 卷く。
-kṛt 形 作る, 生ず, 起す, 行ふ; **saṃ-** 造, 修, 作, 所作; 返 *Abh-k., Abh-vy., Mvyut.* → *punya* ~, *svakarma* ~。 雄 作者, 製作者, 形成者; [語根に加へて第一次名詞を作る(覆)]; 第一次名詞。
krta (過受) 作られたる, 爲されたる, 行はれたる, 成就せられたる; 準備せられたる, 用意ある; 得られたる, 巧に爲されたる, 宜しき, 教養ある; (一°)に關する; **saṃ-** 造; 作, 已作, 所作, 造作; 成, 成熟, 所成; 已辦; 起; 已發; 造立 *Divy., Sukh-vy. II., Lank., Sikṣ., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
~m 爲されよ = 直ちに爲さるべし; [具 と俱に] 去れ, 足れり。 → *kṛte, kṛtena*。 雄 行爲, 仕事, 動作; 利益, 恩惠 [~*m Vid* 受けたる恩惠を忘れず]; 賭け物(遊戲に於ける); 獲物; 博戲に於ける最上の數又は場合; 第一期又は黄金時代; **saṃ-** 業, 所作業 *Divy., Saddh-p.*; 恩, 報, 施恩 [=所施の恩], 先施恩惠 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*: **~sya pratikṛtam bhavet** 能報恩, 能報彼之恩 *Aṣṭ-pr. 943.*

kṛtaka 形 人爲の、人工の；爲されたる、準備せられたる；假定の、偽りの、誤りの；養子の；**造** 作、作者、所作、作法 *Laṅk.*, *Nyāy-pr.*, *Madhy-v.*；假安立、人力分別 *Laṅk.*；詔、姦詐 *Siks.* ～**m** 副 偽りて。

kṛtakatva 中 人爲的に作らるゝこと；後天的に生ぜる性質；人爲；**詔** 詔、姦詐 *Siks.*；作、所作、所作性 *Laṅk.*, *Nyāy-pr.*

kṛta-kara 男 [*Siva* 神の稱]。

kṛta-karaṇiya 形 = *kṛta-kartavya*；**造** 所作已辨、已辨所辨、所爲已成、更無所作 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*

kṛta-karaṇiyatā 女 [同上 副]；**造** 所作已辨、所作成辨 *Lal-v.*

kṛta-kara-puta 形 **合掌** *Suv-pr.*, *Rāṣṭr.*

kṛta-kara-samputa 形 **合掌** *Divy.*

kṛta-kartavya 形 仕事を完成せる；爲さるべき事又は義務を遂行せる。

kṛta-karman 中 完成せる行爲。形 義務を遂行せる。

kṛta-kalpa 形 慣例の儀式を心得たる。

kṛta-kāma 形 (因 -ā) 願望を完成せる、満足せる。

kṛta-kārin 形 事を作す；既に爲されたる事を再び爲す。

kṛta-kārya 中 達成せる目的。形 目的を達成せる；満足せる；他人の援助を要せざる。

kṛta-kāryatva 中 [同上 副]。

kṛta-kāla 男 規定の時間。形 既に或る時間を待てる。

kṛta-kṛtya 形 義務を終へたる；目的を達成せる；(因)に關して満足せる；**造** 所作已辨、已作所作、已起作用、已起功能、所作(皆)已辨、所作事 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Madhy-v.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

kṛta-kṛtyatā 女 [同上 副]；**造** 究竟其所作 *Buddh-c.*

kṛta-kautuka 形 好奇心に驅られたる。

kṛta-kriya 形 祭式を遂行せる；敬虔なる。

kṛta-kṣaṇa 形 規定の時間を有する即ち(因) *prati* と俱なる(業、不定、一°)を待ち焦るゝ；(一°)に備ふる、…に専心する (*Jāt-m.*)。

kṛta-kṣobha 形 振られたる。

kṛta-ghna 形 功績を無視する、背恩の；無禮なる；**造** 背恩(人) *Buddh-c.*

kṛta-ghnatā 女 忘恩；**造** 無恩事 *Divy.*

kṛta-ghnatva 中 [同上]。

kṛta-caṅkramaṇa 形 **遊處**、經行處已成 *Mvyut.*

kṛta-cihna 形 印づけられたる。

kṛta-civara 形 **作衣竟** *Fin.*

kṛta-cūḍa 形 剃髮せる；(剃髮の)式を施行せられたる(少年)。

kṛta-cetas 男 [或る婆羅門の名]。

kṛta-cchidra 形 穴ある。

kṛta-janman 形 植ゑられたる；生れたる。

kṛta-jña 形 恩義を認むる、恩に感ずる、感謝する；正しきを知る、行正しき；**造** 知恩、知恩義、知報恩、識恩、智恩(者)、善識其恩 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Siks.*,

Bodh-bh., *Mvyut.*；知所作 *Lal-v.* 男 **造** [王の名] 知恩(王) *Lal-v.*

kṛta-jñatā 女 感謝；**造** 恩、知恩、知作、知恩惠 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sūtr.*, *Siks.*, *Bodh-bh.*

kṛtam-jaya 男 [王の名]。

kṛta-tirtha 形 階段の設けられたる、近づき易き。

kṛtatva 中 結果あること、實行せられたること；**造** 所作 *Laṅk.*

kṛta-ṭvara 形 急げる。

kṛta-dāra 形 結婚せる。

kṛta-dāsa 男 奴隸(年期)奉公人。

kṛta-dīrgha-roṣa 男 長期に互れる憤怒。

kṛta-dyuti 女 [*Citraketu* 王の妃の名]。

kṛta-dviṣṭa (過受分) 怒りを示せる。

kṛta-dhāra 形 鋭くせられたる。

kṛta-dhi 形 思慮ある；賢き、教養ある；(不定)せんと決心せる。

kṛta-dhṛti 副 喜びて。

kṛta-dhvaṃsa 形 地に投げられたる。

kṛta-dhvaj 形 旗を具へたる。

kṛta-dhvaja 男 [王の名]。

kṛta-nakha 形 爪を淨めたる。

kṛta-nāmaka 形 名けられたる。

kṛta-nāmadheya 形 [同上]。

kṛta-nāśaka 形 背恩の。

kṛta-nāśana 形 [同上]。

kṛta-nighāta 形 打たれたる。

kṛta-nirṇejana 形 其の罪を懺悔せる或は贖ひたる。

kṛta-nirdeśa 形 **前説**、分別顯了 *Abh-vy.*

kṛta-nirbheda 形 **開**、斷 *Gaṇḍ-vy.*

kṛta-niścaya 形 確信せる；(爲、因、不定、一°)せんと固く決心せる；斷乎たる。

kṛta-niścayin 形 斷乎たる、決心せる。

kṛta-paṇa 形 賭をなしたる。

kṛta-pada 形 足場を見出したる。

kṛta-parikarma 形 **得成熟**、已修習、皆作淨 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*；刮磨 *Mvyut.*

kṛta-paricarya 形 **作行**、先修習 *Saddh-p.*

kṛta-parisrama 形 = *kṛta-śrama*。

kṛta-puṇya 形 前生に於て善行をなせる；幸福なる；**造** 修福業 *Siks.*

kṛta-puṇyatā 女 **作福** *Mvyut.*

kṛta-pūrva 形 以前に爲されたる；**造** 先所作、本所作 *Suv-pr.*

kṛtapūrva-nāśana 中 以前の恩惠を忘るゝこと、忘恩。

kṛta-pūrvin 形 前に(業)を爲せる。

kṛta-prajña 形 賢き。

kṛta-praṇidhāna 形 **發願** *Saddh-p.*

kṛta-pratikṛta 中 攻撃と抵抗；攻撃の報復。

kṛta-pratikṛtika 形 **報恩**、施恩報恩 *Bodh-bh.*

kṛta-pratijña 形 約束又は協定を履行する；**造** 建立(堅固)誓 *Buddh-c.*

kṛta-prayatna 形 努力する、活動的なる；持續する。

kṛta-prayojana 形 目的を達せる。

kṛta-prasāda 形 恩惠を與へたる。

kṛta-praharaṇa 形 武器の使用に熟練せる, 武藝を修練せる。
kṛta-prāg-bhāra 形 抱厦, 懸崖已成 *Mvyut.*
kṛta-priya 形 好まれたる, 喜ばれたる。
kṛta-bandhu 男 [王の名]。
kṛta-buddhi 形 精神の成熟せる, 思慮ある, 識別の力ある; (爲) (不定) せんと決心せる; 學慧, 修勝慧 *Abh-vy.*
kṛta-brahman 形 歸依せる; 歸依せられたる。
kṛta-bhakta-kṛtya 形 食事したる (*Divy., Jāt-m.*); 飯食訖 *Vajr-pr.*
kṛta-bhakta-piṇḍa 形 飲食せる; 飲食 *Lānk.*
kṛta-bhāva 形 (於) に心の向けられたる。
kṛta-bhūmi 女 (目的の爲に) 準備せられたる場處。
kṛta-maṅgala 形 神聖にせられたる, 祝福せられたる。
kṛta-mati 形 決心せる。
kṛta-mano-ratha 形 願望の叶ひたる。
kṛta-manda-pada-nyāsa 形 緩歩しつゝ然も寡言なる。
kṛta-mandāra 男 [人名]。
kṛta-mārga 形 路の通じたる, 近づき易くなれる, 通過し得る。
kṛta-māla 男 斑點ある羚羊(鬚); [樹の名, 學名 *Cassia fistula*].
kṛta-mukha 形 完全なる, 熟練せる。
kṛta-mūla 形 固く根を下ろせる, 確乎たる足場を得たる。
kṛta-mūlya 形 定價の。
kṛta-mauna 形 沈黙を守れる。
kṛta-maunatva 中 [同上]。
kṛta-yajus 形 祭詞を以て淨められたる。
kṛta-yatna 形 努力せる。
kṛta-yantraṇa 形 自制する。
kṛta-yuga 中 第一期或は Kṛta 時代; 正時, 純善時, 圓滿時 *Lānk., Mvyut.*
kṛta-ratha 男 [Maru 王の小王子の名]。
kṛta-ruc 形 豪華なる, 輝ける。
kṛta-ruci 形 生耽著, 生愛著 *Abh-vy.*
kṛta-lakṣaṇa 形 標されたる; 烙印を附せられたる。
kṛta-lavaṇa 中 人工鹽。
kṛta-vacana 形 言葉を守れる。
kṛtavat (通受分) 爲せる; 作, 曾所作 *Saddh-p.*
kṛta-vadhya-cihna 形 死の兆ある。
kṛta-varman 男 [諸人の名]。
kṛta-vasati 形 住所を定めたる, 居住する。
kṛta-vāpa 形 (贖罪のために) 毛髪を剃れる。
kṛta-vāpana 形 [同上]。
kṛta-vigraha 形 造立像 *Sikṣ.*
kṛta-vitati 形 擴がれる, 伸びたる。
kṛta-vidya 形 學問ある; 善解, 照明 *Lānk.*
kṛta-vipraṇāsa 男 所作費廢, 所作壞滅 *Mvyut.*
kṛta-virya 形 力強き。男 [王侯の名]。
kṛta-vetana 形 賃銀を受くる, 雇はれたる。
kṛta-vedita (通受分) 念恩, 報恩, 知報恩 *Bodh-bh.*

kṛta-veditā 女 知恩, 解所作 *Lal-v., Sikṣ.*
kṛta-vedin 形 = kṛta-jña; 恩に感ずる; 知報, 重報, 知惠, 報恩, 知恩, 知報恩, 能報恩(者), 爲報恩(者); 解所作 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
kṛta-veṣa 形 著衣せる, 裝飾せる。
kṛta-vaira 形 惡意を示せる。
kṛta-vyadhana 形 突くことに熟練せる。
kṛta-vyalika 形 惱める, 困れる。
kṛta-vyavasāya 形 勇猛堪任, 興夫勇猛 *Suv-pr.*
kṛta-vyāvṛtti 形 窮乏せる; 追放せられたる。
kṛta-vrata 男 [*Lomaharṣaṇa* の弟子の名]。
kṛtaśas 副 [圖] 爲, 爲(度), 分, 爲利樂 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Suv-pr.:* sattvānām ~ 爲度有情 *Aṣṭ-pr. 116.;* sarva-sattvānām ca te ~ 爲利樂諸有情故 *Sapt-pr. 197.;* yeśām ~ 爲誰們 *Mvyut.*
kṛta-śilpa 形 技術を修得せる。
kṛta-śeṣita (通受分) 准此, 自可得 *Abh-vy.:* śeṣam ~ m 餘准此, 餘皆自可得 *Abh-vy. 250.*
kṛta-śauca 形 身を淨めたる; 肉體の汚れより解脱せる。
kṛta-śrama 形 困難を経験せる, 大なる努力をなせる; (於, 一°) を熱心に行ひたる, ……に精勵せる。
kṛta-śrāma 形 [同上]。
kṛta-samskāra 形 刻苦して完成せる, 準備せられたる; 飾られたる; 神聖にせられたる; 凡ての淨化の祭式を行へる。
kṛta-sajja 形 營辦 *Lal-v.*
kṛta-samjña 形 ……に符號の與へられたる; 符號を理解する; 合圖を協定せる。→ a ~。
kṛta-saṁdhāna 形 近くに運ばれたる; 弓弦に番へられたる。
kṛta-saṁpuṭa 形 = kṛtāñjali-puta.
kṛta-savya 形 聖紐を左肩に掛けたる。
kṛta-sthalā 女 [或る *Apsaras* の名]。
kṛta-spr̥ha 形 (爲) を熱望せる (*Buddh-c.*)
kṛta-smaya 形 賞讚せらるゝ (*Jāt-m.*)
kṛta-smita (通受分) 微笑せる。
kṛta-svasty-ayana 形 諸神の保護に祝福せられたる或は委ねられたる。
kṛta-hasta 形 巧なる, 器用なる。
kṛtākṛta (通受分) 爲されたる(もの)と爲されざる(もの) (中, 圖或は 兩); 半ば爲されたる; 準備せられたると準備せられざる; 氣儘の; 無頓著なる; (中) 長短; 好惡長短, 美惡長短; 作未作 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*
kṛtāgas (°ta-āg°) 形 有罪の。
kṛtāgaska (°ta-āg°) 形 [同上]。
kṛtāgni 男 [*Kanaka* 又は *Dhanaka* の子の名]。
kṛtāṅka 形 烙印せられたる。
kṛtāñjala 形 (爲に歎願するため) 合掌せる。
kṛtāñjali 形 [同上]; 合掌 *Saddh-p., Suv-pr.*
kṛtāñjali-puta 形 [同上]; 合掌, 叉手, 合其掌, 合掌恭敬 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Rāṣṭr.*
kṛtāñjali-pūṭa 形 [=°puta]; 合掌, 合十指 *Lal-v. 147.*
kṛtāñjali 形 [男體] 合掌 *Saddh-p. 12.*

kṛtāñjali-BHū, 合掌, 合掌(虔心) *Suv-pr.*
 kṛtātithya (°ta-āt°) 形 款待せる; 款待せられたる.
 kṛtātman (°ta-āt°) 形 精神の修養せられたる或は浄められたる.
 kṛtādara (°ta-ād°) 形 適當の敬意を拂はれたる.
 kṛtādhikāra 形 供養, 曾奉, 曾供養, 已曾供養, 承事供養 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sam-r.* → *adhikāra.*
 kṛtādhipatya 形 主權を持てる, 權力を具へたる.
 kṛtānati (°ta-ān°) 形 敬禮する; 尊敬せらるゝ.
 kṛtānana (°ta-ān°) 形 大なる經驗を有する.
 kṛtānukara 形 他によりて爲されたることを模倣する, 他の手本に従ふ, 獨立的ならざる.
 kṛtānukṛta-kārin 形 事を前又は後になす.
 kṛtānupālana 形 知恩報恩隨所守護 *Sikṣ.*
 kṛtānuyātra 形 ……を伴へる (*Buddh-c.*).
 kṛtānuvyādha 形 (具)を以て満たされたる.
 kṛtānta 形 終局をなせる, 決定的の. 男 事情, 事件, 場合; 運命; 死神, *Yama* 神; 體系, 教義.
 kṛtānta-nagari 女 *Yama* 神の都城.
 kṛtāntara 形 (圖)へ自ら路を開ける.
 kṛtānta-samtrāsa 男 [或は *Rākṣasa* の名].
 kṛtānna 中 準備又は調理せる食物.
 kṛtāparādha 形 (圖)に對して反抗せる或は罪を犯したる.
 kṛtābhiyoga 形 盡力する, 努力する.
 kṛtābhiṣeka 形 灌頂をなしたる; 浄められたる.
 kṛtābhisaraṇa-veṣa 形 戀人に會ふ乙女の衣を著たる.
 kṛtābhyañjā 形 許可を得たる (*Buddh-c.*).
 kṛtābhyāsa 形 (一°)によりて反復學習する.
 kṛtārtha 形 目的を達成せる, 満足せる; 義已辯, 所願已獲 *Buddh-c., Bodh-bh.*
 kṛtārthatā 女 [同上 圖].
 kṛtārthatva 中 [同上].
 kṛtārthaya 名動 他 *kṛtārthayati* 満足せしむ; 履行す.
 kṛtārthīn 形 供養 *Lank.*
 kṛtārthi-karaṇa 形 成功せしむる, 満足の.
 kṛtārthi-Kṛ, 成功せしむ, 満足せしむ.
 kṛtārthi-BHū, 成功す, 満足す.
 kṛtālaya (°ta-āl°) 形 住居を定めたる, (因, 一°)に住する; 氣樂に感ずる.
 kṛtāvakāśa 形 蒙許已, 聞聽已 *Lank.*
 kṛtāvagunṭhanā 形 女 [BHū と俱に] 面紗(紗)を纏へる.
 kṛtāvadhī 形 確定せる限度を有する, 固定せられたる, 規定せられたる, 一致せる; 制限せられたる; 已立定法, 爲能詮定量 *Abh-vy.*; 閉斷 *Mvyut.*
 kṛtāvasakthika 形 腰衣を纏へる.
 kṛtāvasatha 形 他家に招かれたる.
 kṛtāvastha 形 (法廷に)出頭することを強ひられたる.
 kṛtāvin 通能分 (因)に熟練せる, ……に經驗ある; 巧, 熟, 串習; 已辨, 所作已辨; 善知, 妙解, 善能, 能善了; 作護 *Divy., Sapt-pr., Bodh-bh., Mvyut.:*

pañcasu sthāneṣu ~i samvṛttah 熟於五明, 熟於五處 *Mvyut.*; *vināyām* ~i 妙解彈箏 *Divy. 553.*; ~i nṛtye 善能爲舞 *Divy. 553.*; śabde ~i 善知聲相 *Divy. 496.*

kṛtāviprañāsa 形 已作不失 *Bodh-bh.*
 kṛtāvi-bhūmi 女 已辨地, 作護地 *Mvyut.*
 kṛtāvṛtti (°ta-āv°) 形 あちこちに動く, 振動する (*Buddh-c.*).
 kṛtāśa (°ta-āśa) 形 ……を希望する
 kṛtāśamsa (°ta-āś°) 形 希望する, 期待する.
 kṛtāśraya (°ta-āś°) 形 ……に頼る (*Jāt-m.*).
 kṛtāśana (°ta-āś°) 形 就座 *Buddh-c.*
 kṛtāśana-parigraha 形 著席せる.
 kṛtāstra 形 武藝又は弓術を修得せる.
 kṛtāhāraka (°ta-āh°) 形 食事を終れる.
 kṛti 1. 女 遂行, 實行; 動作, 活動; 製造, 生産, 著作; [諸音律の名]; 確認, 實證(國圖); 假托, 虛偽 [= *kuṭila?*] (*Jāt-m.*); 起 *Daś-bh.*; 塔 [*<kuṭi(?)*] *Divy. 381.*; (王)像, (王)座 *Lank. 70.*
 kṛti 2. 男 女 短劍(の一種).
 kṛtitva 中 目的を達成せること, 満足.
 kṛtin 形 活動的なる; 賢明なる; (因, 一°)に巧みなる, ……に經驗ある; 目的を達成せる, 満足せる; ~o *jināḥ* 正時, 出純善時(?) [*Tib. byañ-dus*] *Lank. 365.*
 kṛti-rāta 男 [王の名].
 kṛti-roman 男 [*Kṛtirāta* 王の子の名].
 kṛte (通受分 於) 圖前 ……によりて, ……の故に, ……の爲に; (圖, 一°)の代りに; 目的を以て, 目的の爲に.
 kṛtena 具 圖 [同上].
 kṛteyuka 男 [*Raudrāśra* の子の名]
 kṛtaivam-veṣa(?) (°ta-ev°) 形 這等莊嚴, 如是莊嚴 *Mvyut.*
 kṛtom-kāra (°ta-om°) 形 *om* を發音せる.
 kṛtodaka (°ta-ud°) 形 (規定せられたる)水垢離を行へる, (死者に)水を捧げたる.
 kṛtodvāha (°ta-ud°) 形 既婚の.
 kṛtonmāda (°ta-un°) 形 狂氣を粧ふ.
 kṛtopakāra (°ta-up°) 形 奉仕をなせる; 恩惠を施せる; 援助せられたる.
 kṛtopacita (°ta-up°) 通受分 所造久積 *Sikṣ.*
 kṛtopanayana (°ta-up°) 形 (男) 聖紐を授けられたる(者).
 kṛtopavāsa (°ta-up°) 形 斷食せる.
 kṛtopasadana (°ta-up°) 形 奉仕を爲せる.
 kṛtaujas (°ta-oj°) 男 = *kṛtāgni.*
 kṛtta 通受分 → *Kṛt 1.*
 kṛttāvaśeṣa 形 僅少の殘餘を除きて折り取られたる.
 kṛtti 女 皮革, 革製の衣服.
 kṛttikā 女 [因 圖, 被靜 圖] 昴宿 [月宿の一 *Skanda* の六乳母として人格化せられたる]; [二十八宿の一] 昴, 名稱 *Divy., Mvyut.*
 kṛttikā-piñjara 形 白斑ある赤色の.
 kṛtti-ratha 男 [王侯の名].
 kṛtti-vāsas 形 皮革を著たる; [*Śiva* 神及其その配偶

神 *Durgā* の稱].

kṛtṇu 形 活動的なる, 巧みなる, 賢き.

kṛtya 1. (未受分) 爲さるべき; 適當せる, 正しき; 買収せられ易き; 如法, 應作 *Abh-vy.* ~m 或人(男)が(男)を必要として或は欲して. (男) [未受分] の *kṛt* 接尾音: *tavya, anīya, 又は ya*. (中) 活動; 作用, 仕事, 義務; 奉仕; 目的; 用; 作, 所作, 所施作, 造作; 所爲, 行, 業行; 事, 所事, 作事, 所作事, 所應作事, 事務, 事業, 所作事業; 所作相 *Ast-pr., Vajr-pr., Gand-vy., Lank., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*: *buddha* ~m *kṛtvā* 建立佛事 *Ast-pr. 144.* → *alpa* ~ *tā*.

kṛtya 2. (男) [悪鬼の一種] 吉遮, 吉蔗, 訖栗著 *Saddh-p., 支應.* → *kṛtyakā, kṛtyā*.

kṛtya-kara 形 自己の仕事を爲す; 作所作, 作所作者 *Bodh-bh.*

kṛtya-karaṇīya (中) 事業 *Bodh-bh.*

kṛtyakā (女) 邪惡なる妖精, 魔女.

kṛtya-kriya 形 能成事者 *Madhy-v.*: *śadbhir āyatana-dvāraih* ~ *āḥ pravartante* 從六入門中能成事者 *Madhy-v. 565.*

kṛtya-kriyā (女) 作用, 作事, 所作事, 有作用物 *Vijñ-v.*

kṛtyatama (中) 最も適當なること.

kṛtyatva (中) 用 *Abh-vy.*

kṛtyavat 形 活動的なる; 從事せる; 目的又は要求を有する; (男)を熱望する; (因)を爲す力を有する.

kṛtya-vid 形 義務を知れる.

kṛtya-śeṣa 形 未だ作業を終へざる, 爲すべき仕事の残れる.

kṛtya-sahāya (男) 助營事業, 所作同事 *Bodh-bh.*

kṛtyā (女) 動作, 行爲, 履行, 作用 [~ *rujaḥ* 虐待]; 魔法, 魔術; 邪惡なる妖精; 作害 *Mvyut.*

kṛtyā-kṛt 形 魔術を行ふ.

kṛtyākṛtya (中) 爲さるべきことと爲さるべからざること, 正邪, 善惡.

kṛtyātipatti (女) 敗事 *Mvyut.*

kṛtyā-dūṣaṇa 形 魔術に逆ふ, 魔術の効果を破壊する.

kṛtyā-dūṣi 形 [同上].

kṛtyānuṣṭhāna (中) 作事, 成所作 *Sūtr., Madhy-vibh., Mvyut.*

kṛtyānuṣṭhāna-jñāna (中) 成所作智 *Mvyut.*

kṛtyānuṣṭhānatā-jñāna (中) 作事智 *Sūtr.*

kṛtyānuṣṭhānavasthā (女) 作事位, 成所作位 *Madhy-vibh.*

kṛtyā-rūpa 形 幽靈の如く見ゆる.

kṛtyā-hata 形 魅せられたる, 魔術によりて破られたる.

kṛtyopāya (°*ya-up*°) (男) 所作方便 *Bodh-bh.*

kṛtrima 形 人爲の, 捏造の; 質の; 虚構の, 偽りの; 偶然の, 不自然の, 不慮の; 養子の; 假; 虚, 虚偽, 欺詐, 詔; 粧様; 作, 所造作, 假所造作 *Suv-pr., Kāśy., Śikṣ., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.*

kṛtrimaka (男) 乳香. 形 假作, 造作, 假所造作, 假作戲樂具 *Bodh-bh.*

kṛtrimatā (女) 狡猾.

kṛtrima-dhūpaka (男) 合成香料.

kṛtrima-putraka (男) 人形.

kṛtrima-putrikā (女) [同上].

kṛtrima-bhāva (男) 虚偽の愛情.

kṛtrima-māṇikyamaya 形 贗造の紅玉(°*ṣ*°)より成る.

kṛtrima-mitra (中) (利益關係ある)得られたる友.

kṛtrima-mitratā (女) 自然に反する友情.

kṛtrima-ratna (中) (贗造の寶石), 硝子.

kṛtrimārti (°*ma-ār*°) 形 苦痛を粧ふ.

kṛtvān 形 (°*-vari*) (°)を作る, ……を生産する; 活動的なる, 忙しき.

kṛtvāri 形 (女) → *kṛtvān.* (女) 魔術の力.

kṛtvas 副 [*kṛtu* の (業) 複] ……倍, ……回, [°]のみ, 倍加數を作る]; 度, 時, 反, 返 *Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.*: *śata* ~ 百度 *Bodh-bh. 62.*; *śata-sahasra* ~ 百千反 *Bodh-bh. 116.*; *ṣaṭ* ~ 六時 *Sūtr. 187.*

kṛtvāya, [因 *Kṛ* の (不變分)].

kṛtvi, [同上].

kṛtvya 形 有力なる, 事をなす能力ある; 勞多き, 多くの事を遂行せる.

kṛtsna 形 全部の, 全體の, 完全なる; (複) [稀に] 總ての; 全, 悉, 普, 皆, 一切, 遍, 恆遍, 徧; 具; 頓 *Lank., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy.*: *sa* ~ *pūrvamārga-tyāgād* 由具捨前道, 頓捨先來諸鈍聖道 *Abh-vy. 575.*

kṛtsnaka 形 皆の, 各々の.

kṛtsna-kāraka 形 誰人にも爲し得る.

kṛtsna-gata (男) [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).

kṛtsnatara 形 數に於て一層完全なる.

kṛtsnatā (女) 全體, 完全.

kṛtsnatva (中) [同上].

kṛtsna-vid 形 萬事を知る.

kṛtsna-vita 形 完全に覆はれたる.

kṛtsna-vṛta 形 [同上].

kṛtsnaśas 副 全く, 完全に, 全部共に.

kṛtsnākarā (°*nā-āk*°) (女) [或る *Apsaras* の名] (*Kār-vy.*).

kṛtsnāyata (°*na-āy*°) 形 十分なる長さに延びたる.

kṛtsnāyatana (°*na-āy*°) (中) 遍處, 徧處, 遍入, 一切處 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*: *daśa* ~ *āni* 十徧處 [1. *nīla* ~ *m* 青遍處, 2. *pīta* ~ *m* 黄遍處, 3. *lohita* ~ *m* 赤遍處, 4. *avadāta* ~ *m* 白遍處, 5. *pṛthivī* ~ *m* 地遍處, 6. *ap* ~ *m* 水遍處, 7. *tejas* ~ *m* 火遍處, 8. *vāyu* ~ *m* 風遍處, 9. *ākāśa* ~ *m* 空遍處, 10. *vijñāna* ~ *m* 識遍處] *Mvyut.*

kṛd-anta 形 (°*nta*) *kṛt* 接尾音に終れる. (男) [文法] 第一次名詞(動詞語根より直接に作られたる).

kṛdhu 形 短縮せられたる, 切断せられたる; 小さき, 不足の.

kṛdhu-karṇa 形 小さき耳を有する; 耳悪しき.

kṛntatra (中) 裂け目.

kṛntana (中) 寸断すること, 切り離すこと.

Kṛp, VI. (自) **kṛpate** (因). (因)の爲に悲しむ; 懇願

す; 〔悲〕 慈, 哀愍 *Saddh-p.*
 anu- 〔愛〕を熱望す。
kṛp 〔女〕〔愛〕のみ] 形態, 外觀; 美麗。
kṛpa 1. 〔男〕〔人名〕。
kṛpa 2. [=kṛpā]; 〔悲〕 悲 *Saddh-p.*; 一〇 悲 *Siks.*
kṛpa-karuṇā-manas 〔男〕〔王の名〕大悲 *Lal-v.*
kṛpaṇa 1. 〔形〕 哀しき; 哀れなる, 憐れむべき; 欲深
 き; 〔貧〕 貧, 有貧, 貧乞, 貧置, 貧悴, 貧窮, 貧窮困
 乏; 缺乏; 貧者 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Suv-pr.,*
Siks., Bodh-bh., Mvyut.; 貧, 慳 *Divy., Sūtr.* →
 a~. ~m 〔圖〕 哀しく, 憐れに. 〔男〕 吝嗇家.
 〔中〕 不幸, 悲慘; 〔死〕 死 *Divy.*
kṛpaṇa 2. 〔名動〕 自 *kṛpaṇate* 希望す, 期待す.
kṛpaṇa-kāśin 〔形〕 哀願又は欲求する如く見ゆる。
kṛpaṇa-jana 〔男〕 貧窮孤陋 *Divy.*
kṛpaṇatva 〔中〕 不幸, 困窮。
kṛpaṇa-varṇa 〔形〕 哀れに見ゆる。
kṛpaṇiya 〔形〕 〔悲〕 哀愍 *Siks.*
kṛpaṇya 〔名動〕 他 *kṛpaṇyati* 希望す, 祈る。
kṛpa-ṇīla 〔形〕 光に住する。
kṛpa-maitra 〔形〕 〔悲〕 慈悲 *Siks.*
kṛpaya 〔名動〕 他 *kṛpayati* 〔愛〕を弔す, ……を哭す。
kṛpa-locanā 〔女〕 〔悲〕 悲観 *Saddh-p.*
kṛpa-sāgara 〔男〕 〔悲〕 慈悲海 *Rāstr.*
kṛpā 〔女〕 憐愍, 同情 [愛] 又は [因] と共に]; 〔悲〕 悲, 大
 悲, 慈, 慈悲, 大慈大悲; 愍, 憐愍, 愍哀, 悲愍, 悲愍
 心, 憐憫, 哀憐 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy.,*
Sam-r., Laṅk., Mañj-m., Sūtr.; Siks., Bodh-c.,
Mvyut. 〔一〕 **Kṛ**, 〔因〕に同情す。
kṛpākara (°pā-āk°) 〔男〕 甚だ慈悲に富める者。
kṛpā-karuṇa 〔形〕 〔悲〕 懷大悲心, 生大悲心, 生慈悲
Suv-pr.
kṛpā-karuṇā 〔女〕 〔悲〕 大悲, 大慈悲心 *Laṅk.*
kṛpā-kāruṇya-cetas 〔中〕 〔悲〕 悲愍心, 大悲心 *Siks.*
kṛpāna 〔男〕 劍。
kṛpāna-pāṇi 〔形〕 手に劍を持てる。
kṛpāna-pāta 〔男〕 劍の一撃。
kṛpāna-latikā 〔女〕 劍の刃。
kṛpānikā 〔女〕 小刀, 短劍。
kṛpāni 〔女〕 鋏; 短劍, 小刀。
kṛpātmaka (°pā-āt°) 〔形〕 慈悲を本性とする; 〔悲〕
 (大)慈, (大)悲 *Laṅk.*
kṛpātman (°pā-āt°) 〔形〕 心の優しき (*Buddh-c.*)
kṛpā-buddhin 〔形〕 〔悲〕 意懷愍 *Saddh-p.*
kṛpābhijāta (°pā-bh-j°) 〔形〕 〔悲〕 生(大)悲心 *Suv-pr.*
kṛpāya 〔名動〕 自 *kṛpāyate* 弔す, 哭す; 憐れむ。
 anu- 〔愛〕に同情す。
kṛpāyita 〔中〕 哀哭。
kṛpālu 〔形〕 〔愛〕に同情せる; 慈悲深き; 〔悲〕 有悲,
 大悲, 慈悲; 憐愍; 悲者 *Sūtr., Bodh-bh., Bodh-c.,*
Mvyut.
kṛpālu-karuṇopeta (°pā-ūp°) 〔形〕 〔悲〕 大慈悲心, 哀
 愍(大悲成就) *Laṅk.*
kṛpālutā 〔女〕 [kṛpāluの] 〔圖〕; 〔悲〕 慈悲 *Rāstr.*
kṛpāvat 〔形〕 =kṛpālu.
kṛpāvīṣṭa (°pā-āv°) 〔形〕 同情に満てる。

kṛpāsaya (°pā-ās°) 〔男〕 〔悲〕 慈心, 大慈悲心, 大慈悲
 意 *Gaṇḍ-vy., Rāstr.*
kṛpāsaya-buddhi 〔女〕 〔悲〕 慈悲意, 大慈悲心, 大慈
 悲意 *Rāstr.*
kṛpā-sāgara 〔男〕 =kṛpākara.
kṛpā-sindhū 〔男〕 [同上]。
kṛpā-sneha 〔男〕 〔悲〕 悲愛 *Sūtr.*
kṛpaika-rasa (°pā-ek°) 〔形〕 〔悲〕 慈悲一等 *Laṅk.*
kṛmi 〔男〕 (働く者), 蟲; 昆蟲, 蛆; 蠶; 〔虫〕 虫, 蟲, 微
 蟲 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Laṅk., Bodh-c., Siks., Mvyut.*;
 蠶羅 *Divy.*; [龍王の名] 蟲行 *Mvyut.*
kṛmika 〔男〕 小蟲。
kṛmi-kula 〔男〕 〔虫〕 戶蟲 *Aṣṭ-pr.*
kṛmi-kośa-ja 〔形〕 絹の。
kṛmi-kośottha (°śa-ut°) 〔形〕 [同上]。
kṛmi-granthi 〔男〕 [眼病の一種]。
kṛmi-ghātin 〔男〕 [植物の名, 學名 *Embelia Ribes*]。
kṛmi-ghna 〔形〕 驅蟲の, 蟲下しの。
kṛmi-ja 〔形〕 蟲より生産せられたる. 〔中〕 蘆葍(?)樹。
kṛmi-tantu-jāla 〔中〕 蜘蛛の巢。
kṛmitā 〔女〕 蟲たること。
kṛmi-dantaka 〔男〕 蟲齒の苦痛。
kṛmi-bhojana 〔形〕 蟲を食ふ. 〔男〕 [地獄の一種]。
kṛmimat 〔形〕 蟲に著かれたる或は覆はれたる。
kṛmi-ripu 〔男〕 =kṛmi-ghātin.
kṛmila 〔形〕 昆蟲の附着せる, 蛆に汚されたる。
kṛmilika 〔男〕 〔虫〕 積毛紅布 *Mvyut.*
kṛmi-varṇā 〔女〕 〔虫〕 紅羅 *Mvyut.*
kṛmīsa 〔男〕 [地獄の一種]; 〔虫〕 [Yakṣaの名]
 禁蜜舍, 己利履 *Divy.*
kṛmi-saṃgha 〔男〕 〔虫〕 諸蟲衆 *Siks.*
kṛmi-hara 〔男〕 =kṛmi-ghātin.
kṛmuka 〔男〕 [樹の一種]。
Kṛś, IV. 〔他〕 *kṛśyati* 薄くなる. 〔過受分〕 *kṛśita* 瘦
 せたる. 〔便受〕 *karsayati* 薄くす; 減ず. 〔便役〕
 〔過受分〕 *karsita* 瘦せたる。
kṛśa 〔形〕 薄き, 細き; 虚弱なる, 病身の; 満たざる(月);
 薄弱なる, 無力なる, 小なる, 重大ならざる; 貧しき;
 〔細〕 細, 纖, 瘦; 輕微; 困篤 *Buddh-c., Rāstr.,*
Mañj-m., Mvyut., 梵雜. 〔男〕 [人名]; [鳥の一種]; [魚
 の一種]。
kṛśaka 〔形〕 薄弱なる, 衰弱せる。
kṛśa-gava 〔形〕 瘦せたる牛を有する。
kṛśa-gu 〔形〕 [同上]。
kṛśatā 〔女〕 薄きこと。
kṛśatva 〔中〕 [同上]。
kṛśa-dhana 〔形〕 資力乏しき, 貧しき。
kṛśana 1. 〔男〕 脈搏。
kṛśana 2. 〔中〕 寶石; 黄金; 形, 型。
kṛśanāvat 〔中〕 寶石にて飾られたる。
kṛśa-nāsa 〔男〕 [同下] 〔圖〕。
kṛśa-nāsa 〔男〕 [(鼻の細き者), *Siva* 神の稱]。
kṛśa-paśu 〔形〕 瘦せたる犠牲を以て行へる。
kṛśa-buddhi 〔形〕 知識の貧弱なる; 心の弱き。
kṛśa-bhṛtya 〔形〕 召使少なき。
kṛśara, =kṛsāra.

kṛśālakā 形 太瘦 *Mvyut.*
kṛśa-vṛtti 形 窮乏せる。
kṛśāṅga 形 (女 -i) 瘦せたる, 薄弱なる。男 [Śiva 神の稱]。
kṛśātithi 形 客を飢ゑしむる。
kṛśānu 形 善く射る。男 射手; [天界の射手, Soma の守護者の稱]; [Agni 神の稱]; 火; [Viṣṇu 神の稱]。
kṛśānu-śakala 男 火花。
kṛśārtha 形 =kṛśa-dhana.
kṛśāluka 形 瘦たる, 弱き; 羸瘦 *Divy.*
kṛśāśa (śa-āśa) 形 希望を有せざる。
kṛśāśva 形 瘦せたる(飢ゑたる)馬を有する。
kṛśita 通受分 → kṛś.
kṛśi-Kṛ, 瘦せしむ; 貧しくす。
kṛśi-BHū, 細る; 乾く。
kṛśodara (śa-ud) 形(女 -i) 腹の瘦せたる, 瘦身の。
Kṛṣ 1., I. 他(自) **kṛṣati(-te)** 引く, 引き摺る, 引き廻す, 運び去る; (業)より(業)を取り去る; 引く(劍又は弓を); 導く; 得る; 壓倒す, 支配す; 耕す。通受分 **kṛṣṭa** 引かれたる等。便役 **kṛṣayati** 引く, 曳く; 悩ます, 苦しましむ; 抑壓す; 吸 *Abh-vy.*
anu- ……の後方へ引く; 惹きつく; 前文より(語を)補ふ。
apa- 引き去る, 除く, 放棄す; 後より補ふ; 動; 遣, 除遣, 得除遣; 簡棄, 拔棄; 牽取, 牽移 *Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy.* 便役 **apakṛṣayati** 引き去る, 運び去る, 除く; 制す, 制限す; 除, 除滅, 消除 *Daś-bh.*
vy-apa- 除く; 償ふ。
ava- 引き去る; 惹きつく; 吹去, 吹放 *Saddh-p.* 通受分 **avakṛṣṭa** 引き降されたる; (一)の下に在る; 劣れる, 低き; 放逐せられたる。
ā- 自身の方に引く; 引き摺る; 引く(劍又は弓を); 引き寄す; (從)より引き去る; 取り戻す; (從)より取る或は借る; 引, 引取, 能引, 引導; 牽來; 召, 句召 *Lank., Guhy-s., Mañj-m., Sūtr., Abh-vy.*; 攀 梵千。便役 **āṅṣayati** 自身の方に引く; 裏引 *Mvyut.*
anv-ā- 通受分 **anvākṛṣyate** 所引, 顯…同 *Abh-vy.*
apā(apa-ā)- 取戻す, 除く。通受分 **apākṛṣṭa** 下げられたる, 貶されたる。
prā(pra-ā)- 便役 **prākṛṣayati** 外引 *Mvyut.*
praty-ā- 撤去す; 退失 *Sikṣ.*
vy-ā- 自身の方に引く; 取り除く。
sam-ā- 自身の方に引く; (從)より引き出す。便役 **samākṛṣayati** 運び行く, 引き去る
ud- (從)より引き出す, 取り出す; 引き上ぐ, 上ぐ, 引き抜く, 取り去る。通受分 **utkṛṣyate** 上る, 支配す。通受分 **utkṛṣṭa** 惹きつけられたる, 引き抜かれたる; 高められたる; 優れたる, 顯著なる, 秀でたる。便役 **utkṛṣayati** 揚ぐ, 高む, 増加す; 高; 倨, 矜, 矜高; 讚, 稱譽 *Lal-v., Gand-vy., Sikṣ., Bodh-bh.*; ātmānam utkṛṣayati 倨傲; 我慢, 傲慢; 自倨, 自高, 自高(其身), 自矜(己德); 自讚 *Gand-vy., Sikṣ.*; ātmānam anutkṛṣayat (現分) 不欲自讚, 捨

離傲慢 *Gand-vy. 357.*

ni- 引き下ぐ。通受分 **nikṛṣyate** 流に運ばる。
 通受分 **nikṛṣṭa** 低き, 輕んぜられたる, 賤しき; 放逐せられたる。

sam-ni- 通受分 **samnikṛṣyate** (具)と密接に接觸す。
 通受分 **samnikṛṣṭa** 近く或は共に引き寄せられたる; 近き, 切迫せる; 類似せる地位の。不變分 **samnikṛṣya** 近づきて。
nis- (從)より引き出す; 押し出す; 除 *Abh-vy.* 便役 **niṣkarṣayati** 破壊す, 打ち破る; 索出, 挽出 *Prāt-m.*

pari- 引き摺る; 支配す, 治む, (業)の主となる; 悩ます; 思案す, 熟考す; 管御, 善能匡御; 修葺, 能善修葺 *Bodh-bh.*; 遍攝受(?), 令變異(?) *Abh-vy.*; śirasā parikarṣeḥ 恭敬頂戴 *Aṣṭ-pr. 943.* 便役 **parikarṣayati** 引き摺る, 悩ます。

pra- 引き出す, 引き去る, 引き伸ばす; (軍を)導く。
 通受分 **prakṛṣṭa** 延引せしめられたる, 長き(距離及時間); 顯著なる, 優れたる; 烈しき, 強き。

vi-pra- 引き離す, 導き去る, 移す; 戻す。通受分 **viprakṛṣṭa** 引き離されたる, 遠き。

sam-pra- 引き摺る。

prati- 通受分 **pratikṛṣṭa** 押し戻されたる。

vi- 引き離す; 引く(弓を), 引き摺る; 抜き取る; 撤去す。

sam- 縮む; 引き摺る; (從)より出づ。

Kṛṣ 2., VI. 他(自) **kṛṣati(-te)** 耕す; 耕して得る; ……を旅行す; 耕, 耕耨 *Divy., Mvyut.*; 播 *Mvyut.* 通受分 **kṛṣṭa** 耕されたる。

kṛṣaka 男 農夫。

kṛṣāṇa 形 耕す。男 農夫。

kṛṣāyu 形 耕す(牛)。

kṛṣi 女 農業, 耕作; 田畠 [又た -i]; 耕作に適する土地; 收穫; 農, 農作, 營農, 務農, 田作, 田種; 稍斂 *Bodh-bh., Sikṣ., 梵千.*

kṛṣi-kara 男 農夫。

kṛṣi-karman 中 農業; 農業, 田作, 播植 *Rāṣṭr., Sikṣ.*

kṛṣi-karmānta 中 農業, 耕作; 農事, 農業耕墾 *Divy., Mvyut.*; 農夫, 耕犁者 *Lal-v. 128.*

kṛṣikā 女 農業。

kṛṣi-kṛt 男 =kṛṣi-kara.

kṛṣi-grāma 男 農村 (*Lal-v.*).

kṛṣi-jivin 男 =kṛṣi-kara.

kṛṣi-tantra 中 田畠の産物。

kṛṣi-prayukta 形 務農, 治生種殖, 耕田種殖 *Bodh-bh.*

kṛṣi-phala 中 農耕の成果, 收穫。

kṛṣi 女 → kṛṣi.

kṛṣi-bala 男 [或る賢者の名]; [=kṛṣi-vala].

kṛṣi-vala 男 耕作者, 農夫; 耕田者 *Mvyut.*

kṛṣṭa 通受分 → Kṛṣ 1., 2. [Kṛṣ 2.] 耕 *Mvyut.* 男 中 耕されたる土地。

kṛṣṭa-ja 形 耕作地に成長せる, 耕されたる。

kṛṣṭa-pacya 形 耕作せられたる, 耕作地に實る。

kṛṣṭa-phala 中 收穫の代償。

kṛṣṭa-sami-Kṛ, 耕し且つ平坦にす。
kṛṣṭi 𠄎 𠄎 農民; 人民, 民族. 𠄎 賢人.
kṛṣṭi-han 𠄎 人民を降伏せしむる。
kṛṣṭopta (°ta-up°) 𠄎 耕地に蒔かれたる。
kṛṣṇa 𠄎 黒き, 黒色の; 暗黒の; [pakṣa と俱に = ~pakṣa]; (𠄎) *Kṛṣṇa* と *Arjuna*; 𠄎 黒, 黔, 黒暗, 黧黒, 萎黒, 黒闇, 濁黒 *Divy.*, *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雑. 𠄎 黒き羚羊; [神の名, *Viṣṇu* 神の權化]; 𠄎 [龍王の名] 黒者 *Divy.*; (𠄎) [王の名] 訖瑟吒(王) *Lal-v.* 𠄎 黒きこと, 暗黒。
kṛṣṇa-keśa 𠄎 頭髮の黒き; 𠄎 髮黒, 首髮美黒 *Saddh-p.*
kṛṣṇa-gati 𠄎 (闇黒を路とせる), 火。
kṛṣṇa-giri 𠄎 [山の名]。
kṛṣṇa-gautama 𠄎 𠄎 [龍王の名] (𠄎) 黒瞿曇 *Sam-r.*
kṛṣṇa-griva 𠄎 首の黒き。
kṛṣṇa-caturdaśi 𠄎 月の前半 (*kṛṣṇa-pakṣa* 暗き半分)の第十四日 = 新月。
kṛṣṇa-cchavi 𠄎 黒羚羊の皮。
kṛṣṇa-janmāṣṭami 𠄎 *Kṛṣṇa* 神の誕生日に當る *Śrāvāṇa* 月後半の第八日。
kṛṣṇatā 𠄎 黒きこと, 暗黒。
kṛṣṇa-tāmra 𠄎 暗赤色の。
kṛṣṇa-tārā 𠄎 瞳孔。
kṛṣṇatva 𠄎 = *kṛṣṇatā*。
kṛṣṇa-danta 𠄎 黒き齒を有する。
kṛṣṇa-dvādaśi 𠄎 *Aṣāḍha* 月の暗き半分 (*kṛṣṇa-pakṣa*) の第十二日。
kṛṣṇa-dvaipāyana 𠄎 [*Vyāsa* の稱]。
kṛṣṇa-nayana 𠄎 黒き眼を有する。
kṛṣṇa-netra 𠄎 [同上]; [*Siva* 神の稱]。
kṛṣṇa-pakṣa 𠄎 黒分の十四日(満月より新月まで); 𠄎 黒分, 黒品, 黒半; 黒月, 下半月; 闇冥品 *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, 梵雑。
kṛṣṇa-pakṣya 𠄎 𠄎 黒品 *Bodh-bh.*
kṛṣṇa-pākṣika 𠄎 𠄎 助黒, 黒冥部 *Lal-v.*
kṛṣṇa-piṅgala 𠄎 暗褐色の。
kṛṣṇa-piṅgalā 𠄎 [*Durgā* 神の稱]。
kṛṣṇa-bandhu 𠄎 暗黒の友人, 無知蒙昧なる人; 𠄎 黒親; 魔, 黒魔; 黒根苗 *Lal-v.*, *Mvyut.*
kṛṣṇa-balakṣa 𠄎 黒と白との。
kṛṣṇa-bhūma 𠄎 黒き土。
kṛṣṇa-bhogin 𠄎 黒蛇(の一種)。
kṛṣṇa-mārga 𠄎 黒羚羊より來れる。
kṛṣṇa-mārgaṇa 𠄎 黒羚羊の皮。
kṛṣṇa-mukha 𠄎 (𠄎-i) 黒き口を有する. 𠄎 [人名] 黒面 *Mvyut.*
kṛṣṇa-mṛga 𠄎 黒き羚羊。
kṛṣṇa-mṛttikā 𠄎 黒土。
kṛṣṇa-yajur-veda 𠄎 黒 *Yajur-veda*。
kṛṣṇa-rāmayita 𠄎 *Kṛṣṇa* & *Rāma* を表はす。
kṛṣṇala (𠄎) 𠄎 黒漿果(の一種) [學名 *Abrus precatorius* の果, 鍾(𠄎) & 貨幣として用ゐらる]。
kṛṣṇa-lavaṇa 𠄎 黒き鹽; 𠄎 烏鹽 梵雑。

kṛṣṇa-varṇa 𠄎 黒色の。
kṛṣṇa-vartman 𠄎 火(黒く跡をつけたる)。
kṛṣṇa-vastra 𠄎 黒衣を纏へる。
kṛṣṇa-vāla 𠄎 黒き尾を有する。
kṛṣṇa-vāsa 𠄎 黒衣を纏へる (*Siva* 神)。
kṛṣṇa-vāsas 𠄎 [同上]。
kṛṣṇa-viṣāṇa 𠄎 黒羚羊の角。
kṛṣṇa-viṣāṇā 𠄎 [同上]。
kṛṣṇa-veṇā 𠄎 [南印度 *Kistna* 河の名]。
kṛṣṇa-veṇi 𠄎 [同上]。
kṛṣṇa-veṇvā 𠄎 [同上]。
kṛṣṇa-vrihi 𠄎 黒き種類の米。
kṛṣṇaśa 𠄎 黒き。
kṛṣṇa-śakuni 𠄎 烏。
kṛṣṇa-śakti 𠄎 [人名]。
kṛṣṇa-śāra, = *kṛṣṇa-sāra*。
kṛṣṇa-śira 𠄎 𠄎 [蟲の名?] 頭黒 *Kāśy.*
kṛṣṇa-śukla 𠄎 𠄎 黒白 *Mvyut.*
ḍṛṣṇa-sarpa 𠄎 黒蛇(の一種)。
kṛṣṇa-sāra 𠄎 主として黒き; 黒白の斑點ある. 𠄎 斑點ある羚羊; 𠄎 黒鹿 *Mañj-m.*
kṛṣṇa-sāraṅga 𠄎 [同上(形)]. 𠄎 [同上(男)].
kṛṣṇa-sārathi 𠄎 [*Arjuna* の稱]。
kṛṣṇā 𠄎 水蛭(の一種); [種々の植物の名]; [*Draupadī* 又は *Durgā* の稱]; 𠄎 升麻 梵雑。
kṛṣṇākṣa 𠄎 黒き糞子。
kṛṣṇāguru 𠄎 黒蘆薈(弱)樹; 𠄎 沈香, 黒沈水 *Ast-pr.*, *Mvyut.*
kṛṣṇājāji 𠄎 黒 *Ajāji* [植物の名, 學名 *Alphitonia Indica*]。
kṛṣṇājina 𠄎 黒羚羊の皮。
kṛṣṇāñjana-giri 𠄎 [山の名]。
kṛṣṇāñji 𠄎 黒き標を有する。
kṛṣṇātreyā 𠄎 [聖仙の名]。
kṛṣṇādhvan 𠄎 黒き痕跡を有する (*Agni* 神)。
kṛṣṇāya (𠄎動) 𠄎 *kṛṣṇāyati* *Kṛṣṇa* 神の如く振舞ふ; 𠄎 *kṛṣṇāyate* 黒くす。
kṛṣṇāyas 𠄎 鐵。
kṛṣṇāyasa 𠄎 [同上]。
kṛṣṇāriṣṭa 𠄎 (𠄎) (𠄎) 黒暗哩瑟吒星 *Mañj-m.*
kṛṣṇāṣṭami-rata 𠄎 [*Siva* 神の稱]. → *kṛṣṇa-janmāṣṭami*。
kṛṣṇāṣṭami 𠄎 [同上]; 黒月の第八日。
kṛṣṇāhi 𠄎 黒蛇。
kṛṣṇika 𠄎 𠄎 黒 *Divy.*
kṛṣṇikā 𠄎 黒きこと。
kṛṣṇiman 𠄎 [同上]。
kṛṣṇi 𠄎 夜(黒きもの)。
kṛṣṇi-Kṛ, 黒くす。
kṛṣṇi-BHū, 黒くなる。
kṛṣya (未受分) 耕さるべき。
kṛsara 𠄎 𠄎 米と胡麻との皿盛りの料理; 𠄎 糲米 *Divy.*; 雜飯. 雜合飯, 和合麵 *Mvyut.*
kṛsarā 𠄎 [同上]。
Kṛ, V. 𠄎 *kirati* 注ぐ, 散らす; 撒布す. (通受分)
kirṇa 散らされたる, 撒布せられたる; 亂されたる;

……にて蔽はれたる, ……にて満たされたる; 塞ぎたる(耳).

apa-(s)- ① **apaskirate** 掻く(足にて).

ava- 注ぐ, 散らす; (精液を)出す; 振り放つ, 離す; 撒布す, 蔽ふ, 満たす; ④ 雨, 散, 散雨, 散捨 *Sukh-vy. I., Madhy-vibh.*; 覆蓋, 覆植, 能殖, 開發 *Madhy-v., Siks.* ⑤ **avakiryate** 諸方に擴がる, 散ず, 過ぎ去る; ④ 吹去 *Divy.* ⑥ **avakirṇa** 撒布せられたる, 蔽はれたる; 捕へられたる; (精液を)出したる; (一°)に満ちたる, 全く……の勢力下にある.

anv-ava- 撒き散らす.

abhy-ava- 注ぎかく, 擴ぐ, 散らす; 忠實に守る; 覆ふ; ④ 散, 遍散, 奉散, 供散 *Lal-v., Ast-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Rāstr., Sukh-vy. II.*; 供養 *Bodh-bh.*

vy-ava- 注ぎかく; 散らす; ④ 雜, 閒雜, 相雜, 雜修, 陵雜 *Abh-vy., Madhy-vibh.* ⑤ **vyavakiryate** ④ 雜, 所雜 *Abh-vy.* ⑥ **vyavakirṇa** 離れたる; (具)を以て満たされたる. ⑦ **vyavakiryamāṇa** ④ 閒雜, 相雜 *Abh-vy.*

ā- 撒く, 豊富に與ふ. ⑥ **ākirṇa** 撒かれたる; 蔽はれたる, 満たされたる, 雜沓せる; (具)によりて圍まれたる.

apā(apa-ā)- 棄つ; 拒絶す.

abhy-ā- ④ 散, 普散 *Daś-bh.*

vy-ā- ⑥ **vyākirṇa** 撒き散らされたる, 亂されたる; 惱まされたる; 曇れる.

sam-ā- 注ぐ, 撒く; 蔽ひ包む, 十分満たす. ⑤ **vyākiryate** ④ 雨 *Divy.* ⑥ **s.mākirṇa** ……にて蔽はれたる或は満たされたる.

sam-u(=sam-ava)- ④ [俗] **samukari** 普散 *Daś-bh. 175.*

ud- 投げ上ぐ, 巻き上ぐ, 積み上ぐ; 掘り上ぐ, 掘り盡す. ⑥ **utkirṇa** 積まれたる, 撒かれたる; 掘られたる; 刻まれたる, 彫られたる; (一°)を以て壓倒せられたる.

sam-ud- ⑥ **samutkirṇa** 貫通せられたる.

o(=ava)- ④ 散 *Sukh-vy. I. 49.*

abhy-o(=abhy-ava)- ④ [俗] ⑥ **abhyokirat** 供散 *Saddh-p. 331.*

vi-ni- 打ち碎く 蔽ふ; 棄つ.

sam-ni- ⑥ **samnikirṇa** 擴げられたる.

pari- 周圍に撒布す; 周圍に群る; 引き渡す. ⑥ **parikirṇa** 擴がれる, 周圍に撒布せられたる; 圍まれたる; 群がれる.

pra- 散らす, 撒く; 放出す. ⑤ **prakiryate** 消ゆ, 消滅す. ⑥ **prakirṇa** 散らされたる, 撒かれたる; 浪費せられたる; 亂されたる; 混亂せる; 雜多の.

abhi-pra- ④ 散, 奉散, 現極散, 現前洒散 *Ast-pr., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Rāstr., Mvyut.*

vi-pra- ⑥ **viprakirṇa** 撒かれたる, 散らされたる; 亂されたる; 擴げられたる.

prati(-s)-, pratiskirati ……に向ひて撒く; 掻き裂く. ⑥ **pratiskirṇa** ……に向ひて撒かれたる;

害せられたる.

vi- 散らす, 撒布す; 傳播す; 裂く, 割る; 吐く(溜息等を); 亂す; ④ 破, 崩倒, 毀落, 尋段段壞 *Lal-v., Saddh-p.*; 吹散 *Lal-v.* ⑤ **vikiryate** ④ 吹, 所吹 *Siks.* ⑥ **vikirṇa** 撒かれたる, 散らされたる, 髪を亂されたる; (一°)を以て満たされたる.

⑦ **vikirṇa** 撒かれたる, 散らされたる, 髪を亂されたる; (一°)を以て満たされたる. ⑧ **vikirṇa** 破, 壞 *Gaṇḍ-vy.*: kleśa-parvatān vikirayamāṇān 破煩惱山, 壞煩惱山 *Gaṇḍ-vy. 87.*

pra-vi- 撒く, 散らす, 擴ぐ. ⑥ **pravikirṇa** 撒かれたる, 散らされたる.

sam- 注ぎ出す, 豊富に與ふ; 壓倒す; 混ず. ⑤ **samkiryate** 混ぜらる, 混亂せらる. ⑥ **s.m.kirṇa** 注がれたる; (一°)の群がれる, (一°)にて満たされたる; (一°)を混ぜられたる, ……を結合せられたる; 亂されたる, 不純の; 多様の, 多種の; 雜婚より生れたる; 發情期の(象).

vi-sam- ④ 雜, 和雜 *Lank.*

Kṛp, I. ① **kalpate** 適す, 能ふ, 役立つ; 榮ゆ, 成功す; (四)と一致す, ……に従はしむ; (具)として現はる; (於)の資格を有す; (爲)に役立つ, ……に資す; (爲)を生ぜしむ; (爲)に參與す; (爲, 爲)の運命に陥る, 偶然……が來る; (爲, 爲)となる; (業)を産出す, 創造す; (業)を(業)と宣言す或は見做す; ④ 成; 合; 説; 執, 計; 分別, 妄分別 *Lal-v., Ast-pr., Lank., Abh-vy.* ⑥ **klpta** 配置せられたる, 用意せられたる, 準備せられたる; 爲されたる, 作られたる, 産出せられたる; 整へられたる; 翦られたる(髮爪等); 正しき, 完全なる; 定められたる, 規定せられたる; 確乎たる(所信); 存在する. ⑦ **klpayati(-te)** 整頓す, 配置す, 調整す; 分配す; 用意す; (具)を裝備す; (爲)に(業)を與ふ; (具)より形作る; 作る, 造る, 生産す, 惹起す, 爲す; 想像す; 決定す, 示す, 定む; 作製す, 計劃す; (業)を(業)と見做す; 切る, 切り開く; ④ 成; 現, 現作; 執, 謂, 想, 辦, 分別, 計度 *Divy., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Kāśy., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*: iryā-pathān kalpayāmi 現作種種威儀 *Gaṇḍ-vy. 70.*; catur-vidham iryā-patham kalpayati 現四威儀 *Divy. 161.*; jivikām kalpayāmi 我自養育 *Divy. 10.*; śayyām kalpayati 臥 *Vajr-pr. 17.*

ava- 相應す, 答ふ; 正し, 宜し, 適す, 巧みに爲す; (爲)に資す; ④ 信, 思惟 *Lal-v., Bodh-bh.* ⑤ **avakalpayati** 整頓す, 準備す; 適當に用ゆ; 思惟す; ④ 解, 領悟, 思惟觀察 *Saddh-p., Vajr-pr., Rāstr.* ⑥ **avakalpayate** 準備せんと欲す.

upa- 適す; (爲)に役立つ, ……に資す; ……となる. ⑥ **upaklpta** 準備せられたる, 用意の整へる, 適せる; 作られたる; 産出せられたる. ⑦ **upakalpayati** 準備す; 得る, 持ち來る; (爲)に向かはしむ; (爲, 於)に對して計劃す; 整ふ; 想像す, 推定す.

pari- ⑤ **parikalpyate** ④ 取, 想, 分別, 取著 *Lank., Sūtr.* ⑥ **parikalpayati** 決定す, 決心す; ……として計劃す; 選ぶ; 成し遂ぐ, 取扱ふ; 形成す; 作る; 區分す [dhāに終る(圖)と俱に]; 想

像す, 案出す; (因) に許す或は招待す. 〔使役〕〔現分〕

parikalpayat 〔使役〕 分別 *Abh-vy.*

sam-pari- 〔使役〕 〔過受分〕 **samparikalpita** ……と判明せる.

pra- 榮ゆ, 成功す; (不定) に適す. 〔過受分〕 **prak-**
lpta 爲されたる, 作られたる, 準備せられたる; 正しき; 決定せられたる, 規定せられたる. 〔使役〕 **pr-**

kalpayati 前に置く, 首位に置く, 尊敬す; (因) の上に下す; (因) に指定す或は選ぶ; 準備す; 豫備す; 決定す, 規定す, 確立す, 決心す; 想像す; 工夫す, 排列す; 作る; (業) を (業, 因) に選ぶ或はとなす; 流す(涙を); 〔使役〕 成; 現; 説; 想, 分別, 思惟, 觀想 *Lank., Guhy-s.:* vāsam prakalpayet 住 *Lank. 308.*

sam-pra- 〔受〕 **samprakalpyate** 〔使役〕 分別, 所分別 *Lank.* 〔過受分〕 **sampraklpta** 準備せられたる, 整へられたる. 〔使役〕 **samprakalpayati** 命ず; 決定す.

prati- (因) にて(業) に奉仕の準備をなす, ……に應待す; 整頓す; 〔使役〕 異妄想, 異異分別 *Lank.*

vi- 變化す; (因) と間違へらる; 任意なり, 決定せず; 疑はし; 躊躇す; 〔使役〕 謂, 分別, 妄分別, 離分別, 異分別, 生疑惑心, 墮疑惑見 *Ast-pr., Madhy-v., Vijñ-t.* 〔使役〕 **vikalpayati** 準備す, 整ふ; 作る, 形成す; 疑ふ; 随意に發音す; 想像す, 臆測す, 推定す; 〔使役〕 分別, 了分別 *Gaṇḍ-vy., Nyāy-pr.;* 爲作淨故捨與 *Bodh-bh.:* āeāryāya vā upādhyāyāya vā

sva-civaram vikalpayet 於己衣物爲作淨故捨與親教軌範師 *Bodh-bh. 128.*

prati-vi- 〔使役〕 分別, 妄想, 取著 *Lank.*

sam- 整然たり; 成立す; 〔使役〕 分別 *Bodh-bh.*

〔過受分〕 **samklpta** 準備せられたる, 用意せられたる; 願はれたる; ……を意味せる. 〔使役〕 **samkalpayati(-te)** (因) と結合す, 整ふ; 適當に合す; 生ず, 創造す; 決定す, 決心す; 意味す; 企圖す, 求む, 志す; 想像す; (業 *iva* と俱に) ……と見做す.

k|p-i 〔文法〕〔語根 *K|p.*〕

klpta 〔過受分〕 → *K|p.*

klpta-keśa-nakha-śmaśru 〔形〕 髮・爪・髭を翦り調へたる.

klpti 〔名〕 發生; 準備; 成功, 成就.

kekaya 〔名〕 〔種〕 [民族の名]; 〔國〕 *Kekaya* 族の王.

kekayi 〔名〕 *Kekaya* 族の女王.

kekara 〔形〕 斜視の; 〔使役〕 目邪 *Mvyut.*

kekarakā 〔形〕 [同上].

kekara-netra 〔形〕 [同上].

kekara-locana 〔形〕 [同上].

kekarākṣa 〔形〕 [同上].

kekā 〔名〕 孔雀の鳴聲.

kekāya 〔名〕 〔自〕 **kekāyate** 鳴く(孔雀の如く).

kekā-rava 〔名〕 = *kekā.*

kekin 〔名〕 孔雀.

keta 〔名〕 意思, 意向; 欲望; 家, 住居; 標; 形.

ketaka 〔名〕 [樹の一種, 學名 *Pandanus odoratissimus*].

ketaki 〔名〕 [同上].

ketaki 〔名〕 [同上].

ketana 〔名〕 召喚, 招待; 家, 住居; 避難處; 場處; 身

體; 表徴, 記號, 旗; 仕事.

ketaya 〔名〕 〔他〕 **ketayati** 喚ぶ, 招待す.

ketayitr 〔形〕 召喚する.

ketita 〔過受分〕 呼ばれたる.

ketu 〔名〕 光, 光明, 光輝, 燈火; 形, 姿; 標, 承認の表徴, 旗; 指導者, 主長; 知識, 判斷; 流星, 彗星; (因) 光線; 〔使役〕 相; 旗, 幢; 頂; 髻; 炬; 彗星; (因) 計都星 [九曜の一] *Divy., Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Mvyut.,* 梵雜; (因) 計都 *Mvyut.*

ketu-dharman 〔名〕 [人名].

ketu-bhūta 〔形〕 旗となれる.

ketumat 〔形〕 輝ける, 明るき; 明瞭なる(音). 〔名〕 [或る *Dānava* の名]; 〔使役〕 [山の名] 幢相 *Daś-bh.*

ketu-māla 〔名〕 [*Āgnīdhra* の子の名]; [民族の名]; [或る野猪の名]. 〔名〕 [*Jambū-dvīpa* の九區分の一].

ketu-yaṣṭi 〔名〕 旗竿.

kettaka 〔名〕 〔代〕 〔俗〕 [*Pāli. kittaka*] 幾何の, 如何なる大きさの (*Mah-v. I. 50.*).

kedāra 〔名〕 灌溉せられたる田野, 牧場; 地面, 平地; [或る山多き國の名]; [聖地の名]; 〔使役〕 田, 區田, 畦, 稻畦 *Divy., Mañj-m., Abh-vy.*

kedāraka 〔名〕 [米の一種].

kedāra-khaṇḍa 〔名〕 田野(を圍む畦)の閒隙.

kedāra-nātha 〔名〕 [*Kedāra* 國に於て崇拜せられたる *Siva* 神の形像の名].

kedāra-bhaṭṭa 〔名〕 [或る著作者の名].

kedāra-setu 〔名〕 田畠の畦.

kena, [ka の (因)] 誰に依りて, 何によりて, 何を以て, 何處より; 〔使役〕 何故, 云何, 因何, 以那箇, 爲那箇 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.* ~ **cid** 〔使役〕 以孰 *Mvyut.*

keneṣitopaniṣad (°na-iṣita-up°) 〔名〕 [或る *Upaniṣad* の題名, *keneṣitam* の語を以て始まるを以てこの名あり].

kenopaniṣad (°na-up°) 〔名〕 [同上].

kendra 〔名〕 圓の中心.

kepi 〔形〕 震へる, 顛へる.

keyūra 〔名〕 〔中〕 腕環(男女共に上膊に著く); [*Samādhi* の名] (*Kār-vy.*); 〔使役〕 臂嚴, 釧; 寶髻; 寶璽印, 璽印寶; 纓絡, 璽珞, 寶璽珞, 臂著璽珞 *Lal-v., Av-ś., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.;* (因) 吉由羅, 枳由羅 (寶) 玄應.

keyūra-dharā 〔名〕 [或る *Apsaras* の名] (*Kār-vy.*).

keyūra-bala 〔名〕 [或る *Deva-putra* の名] (*Lal-v.*).

keyūra-valaya 〔名〕 〔中〕 〔使役〕 印釧 *Gaṇḍ-vy.*

keyūrin 〔形〕 上膊に腕環を著けたる.

kerala 〔名〕 〔種〕 [*Malabar* に住する民族の名]; 〔國〕 [*Kerala* 民族の王].

kerali 〔名〕 *Kerala* 族の婦人.

kela 〔名〕 〔使役〕 〔音〕 [數の名] 計羅 *Mvyut.*

kelaya 〔名〕 〔不定〕 **kelayitum** 〔使役〕 養育令漸長大, (至心) 了善增長 *Lal-v. 100.*

kelāya 〔名〕 〔自〕 **kelāyate** [*Kriḍ* の (因) *Ki*] 遊ぶ, 戯る; 〔他〕 **kelāyati** 己を悦ばしむ, 誇る, 愛好す (*Divy. 631.*).

kelāya 2. 名動 [Kil] 他 淨む (Prajñ-vy. 530).
kelāyita 過受分 護持 *Daś-bh.* 71.
kelāyitavya 未受分 勇, 給, 改, 段 [Tib. bstsal-ba 又は beom-pa] *Mvyut.*
keli 男 女 娛樂, 遊戯, 諧謔, 愛の戯.
keli-gṛha 甲 娛樂の家, 私室.
kelita 甲 遊戯, 諧謔.
keli-niketana 甲 = keli-gṛha.
keli-palvala 甲 遊戯池.
keli-maṇḍapa 甲 = keli-gṛha.
keli-mandira 甲 [同上].
keli-vana 甲 遊園.
keli-śayana 甲 臥床, 安樂寢椅子.
keli-sadana 甲 = keli-gṛha.
keli-sthali 女 遊園地.
keli 女 = keli.
keli-kalita 甲 娛樂, 遊戯.
keli-śāla-bhañjikā 女 小像.
kelu 男 數の名 [數の名] 計羅 *Mvyut.*
kevaṭa 男 凹處, 穴.
kevarta 男 漁夫.
kevala 形 (女 -i, 譯は -ā) (獨, 獨) に専らなる; 唯, のみの, 單なる, それのみの, 他を除ける, 純粹の, 雜らざる; 孤立せる, 絶對の; 全き, 完全なる; すべての, あらゆる; 但, 唯; 獨, 單, 隻; 專, 純; 空; 一向. 唯一, 純一; 不共; 無雜, 不雜, 不類, 純一無雜 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāstr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v., Bodh-c., Sāmkhy-k., Mvyut., 梵千, 梵雜* ~m のみ; 全く; 唯... のみ; 唯, 單, 獨; 一向; 要然; 一切時 *Divy., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.* na ~m... api..., のみならず又た.
kevala-karmin 形 唯だ仕事をなす.
kevalatas 副 のみ, 唯.
kevalatva 甲 孤立.
kevala-mānuṣa 男 單なる人, 人以外の何者にも非ざる者.
kevala-vyatirekin 形 全稱否定の(形).
kevalaśas 副 全く, 完全に.
kevalāgha 形 獨り罪ある.
kevalātman (°la-āt°) 形 絶對單一をその本性とせる.
kevalādīn (°la-ād°) 形 一人にて食ふ.
kevalānvayin 形 全稱肯定の(形).
kevalin 男 冥想する苦行者.
keśa 1. 男 [—° 形 (女 -ā, -i)] 髪; 鬚; 尾; 毛, 髪, 髪毛, 頭髪, 鬚髪; 玄髪, 紺髪; 毫; 頭髻, 螺髻 *Buddh-c., Saddh-p., Rāstr., Lan̄k., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵千*.
keśa (ka-iśa) 2. 甲 月宿 *Rohiṇī* (Ka 即ち *Prajāpati* に支配せらるる).
keśaka 形 髪に注意する.
keśa-karman 甲 調髪.
keśa-karṣaṇa 甲 髪を引くこと又は巻ること.
keśa-kalāpa 男 髪の方.
keśa-kalpanā 女 鬚の整頓手入.

keśa-kārin 形 調髪する.
keśa-kiṭa 男 虱.
keśakiṭāvapatita 形 虱の落ちたる.
keśa-graha 男 髪を攪むこと.
keśa-grahaṇa 甲 [同上].
keśa-cūḍa 形 髻を結べる.
keśaṭa 男 [人名].
keśa-dhara 男 種 [民族の名].
keśa-dhāraṇa 甲 髪を(切らずして)生へたるまゝに置くこと.
keśa-dhāvālya 甲 白髪.
keśa-pakṣa 男 髪の側面, 顛顛; 多き或は飾られたる髪.
keśa-pāśa 男 多き或は飾られたる髪; 髪の方又は束.
keśa-pratigraha 男 理髪師.
keśa-pratigrahaṇa 甲 剃髪(衣), 接髪 *Mvyut.*; 鷄舎鉢喇底揭喇呵 *Mvyut.*
keśa-pradharṣaṇa 甲 = keśa-karṣaṇa.
keśa-prasāra 男 洗髪, 髪を清淨になすこと.
keśa-bandha 男 髪の方.
keśa-makuṭa 甲 冠 *Gaṇḍ-vy.*
keśara 甲 [=kesara]; 莖; 鬚, 鬚藥, 花鬚; 芙蓉 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*; 鷄薩羅 *Gaṇḍ-vy.*
keśa-racanā 女 髪を裝飾すること, 調髪, 結髪.
keśa-rañjana 甲 染髪.
keśarin 男 = kesarin; 師子 *Lal-v.*; [王の名] 鷄薩梨 *Lal-v.*
keśa-luñcana 甲 髪を塗り取ること.
keśava 形 長き或は多き或は美しき髪を有する; 多髪 *Rāstr.* 男 [Viṣṇu 神及び Kṛṣṇa 神の稱]; *Mārgaśīrṣa* 月.
keśavat 形 長髪を有する, 鬚ある.
keśavatva 甲 [keśava (形) の抽].
keśa-vapana 甲 剃髪.
keśa-vapaniya 男 [祭の名].
keśa-varadhana 形 髪を生長せしむる.
keśa-vyaparopana 甲 髪を塗り取ること.
keśa-śūla 甲 [頭髪の疾患の一種].
keśa-śmaśru 甲 頭髪及び鬚; 鬚 *Lal-v.* → avaropita ~.
keśa-saṃskāra-dhūpa 男 髪を薫る爲の香煙.
keśa-hasta 男 多き或は飾られたる髪; 髪の方又は束; [水中に靡ける髪を手に髻へしもの].
keśā 女 → keśa 1.
keśā-keśi 副 髪に髪を接して=さし向ひて.
keśāgra 甲 髪の方.
keśānta 男 髪の方; 額の髪を生へ際; 髪の方又は束; 剃髪(の儀式).
keśāntika 形 髪の方頭に達する.
keśābhicchāḍita 形 亂髪 *Gaṇḍ-vy.*
keśi-dhvaja 男 [王侯の名].
keśin 形 長き或は美しき髪の方; 鬚ある; —° 頭髪 *Suv-pr.* → prakīrṇa ~. 男 [或る Asura の名及び諸人の名].
keśi-niṣūdana 男 [Kṛṣṇa 神の稱].

Bodh-bh., 立應.

kokilā 女 [同上].

kokilākṣa 男 [植物の一種, 學名 *Asteracantha longifolia*].

koki 女 = koka.

koṅka 男 種 [民族の名].

koṅkaṇa 男 種 [同上].

koṅkāṇa 形(女-i) *Koṅkaṇa* より來れる(馬).

kom-kāra 男 kom の音.

koca 男 縮めること, 皺のよれること, 混血種姓(階級)の男.

kocava 男 美しき或は柔かき山羊製の被覆 (*Divy.*, *Buddh-c.*); 襦子 *Mvyut.*

kocavaka 中 [同上]; 大毛刷絨 *Mvyut.*

koccaka 名 楊 *Divy.* 550, 553.

koṭa 男 要塞, 城砦. → *koṭṭa*.

koṭaka 男 大工(或は混血階級の); 鐵秀(?) *Mvyut.*

koṭanaka 中 槌 *Mvyut.*

koṭambaka 中 細絨, 戈丹(布), 上毛絨 *Saddh-p.*, *Mvyut.* [= *kautumba Divy.* 559. *Pāli.* *koṭumbaka*, *koṭumbara*]; 高詰薄迦 *Mvyut.*

koṭara 中 樹木の穴; 空洞.

koṭaravat 形 洞穴を有する.

koṭarā 女 [植物の名, 學名 *Ipomoea Turpethum*]; [或は *Skanda* の眷屬の母の名]; [*Bāna* の母の名]; 空腔 *Mvyut.*

koṭa-rāja 男 [= *koṭṭa-rāja*]; 栗散王 *Lal-v.*

koṭavi 女 裸婦.

koṭādri 男 [山の名, (要塞の丘)].

koṭi 女 彎曲せる先端(弓・禽獸の爪等の); 尖端; 極端, 高さ, 最高度, 優秀; (數)千萬; 際, 實際; 邊, 邊際; 上, 頂 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lāṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 句 *Abh-vy.*; 挺 *Suv-pr.*; [數の名] 千萬, 億, 萬億, 百千, 十萬, 京 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Lāṅk.*, *Mvyut.*, 立應, 梵雜; 俱胝, 拘胝, 俱致, 俱胝, 拘致 *Sapt-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Mvyut.*, 立應. → *bhūta* ~.

koṭika 男 蛙(の一種). 形 極, 際 *Mvyut.* 中 句 *Abh-vy.* 18, 59. → *cātuṣ* ~.

koṭikā 女 極點; —° = 放逐者, ……の層, ……の最劣者.

koṭi-tirtha 中 [諸聖地の名].

koṭi-dvaya 中 二者中の一を選ぶこと.

koṭi-dhvaja 男 百萬長者.

koṭi-niyuta 中 [數の名] 俱胝那由他 *Rāṣṭr.*

koṭiniyuta-śata-sahasra 中 [數の名] 百千俱胝那由多(俱胝) *Aṣṭ-pr.*

koṭiniyuta-śata-sahasratama 形(女-i) 俱胝那由多百千分, 千萬億分 *Vajr-pr.*

koṭimat 形 尖れる, 尖端ある.

koṭi-varṣa 中 [都市の名].

koṭi-vedhin 形 極端に的中せる(=最も困難なる仕事を完成せる).

koṭi-śata-sahasra 中 [數の名] 十萬億; (俱胝) 百千俱胝 *Sukh-vy.* II.

koṭīśas 男 千萬の數だけ; 無數に; (俱胝) 俱胝

數 *Aṣṭ-pr.*

koṭi-homa 男 [供儀の一種].

koṭi 女 = *koṭi*; 際, 實際 *Gaṇḍ-vy.*, *Lāṅk.*; [數の名] 億, 一億, 兆, 京 *Saddh-p.*, *Lāṅk.*, *Mvyut.*, 梵千; —° 側 *Gaṇḍ-vy.*; 俱胝, 舉利 *Lāṅk.* → *caṅkrama* ~.

koṭi-gata 形 究竟 *Gaṇḍ-vy.*

koṭira 男 纏れたる長髪; 王冠.

koṭīśvara (°*ti-ś*) 男 (千萬の主), 大富豪.

koṭṭa 男 [ko-(a)ṭṭa] 要塞; 城, 大城, 砦 *Mvyut.*, 梵千.

koṭṭa-pāla 男 要塞の司令官; 守砦 *Mvyut.*

koṭṭa-mallaka 男 貧窮 *Av-ś.* II. 116. → *kroḍa-mallaka*.

koṭṭa-mallika 男 乞食(?).

koṭṭa-rāja 男 城主; 城主, 小王, 國王, 小國王 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

koṭṭa-rājan 男 [同上]; 小王, 國王, 諸侯; 霸者 *Kāśy.*, *Mvyut.*

koṭṭarāja-rūpa 中 (諸)小王身, (諸)散小王形 *Saddh-p.*

koṭṭavi 女 裸婦.

koṭya 男 種 [民族の名].

koṭya-anta 男 際 *Gaṇḍ-vy.*

koḍa-sakkin 男 俗 [<*kroḍa-sarpin*] 腹行 *Saddh-p.* 95.

koḍya 男 種 = *koṭya* (*Lal-v.*).

koḍhaka 男 漏木, 頂, 尖 *Mvyut.*

koṇa 男 隅, 角; 中間の方位(東北等); (數の)四; 琵琶又は他の樂器の撥; 棒, 棍棒; 隅, 角 *Aṣṭ-pr.*, *Mañ-j-m.*, *Mvyut.*, 梵千; 槽, 棍 *Aṣṭ-pr.* 969.

koṇa-diś 女 中間の方位.

kotha 男 腐敗.

ko-daṇḍa 中 [笞又は棒の一種]; 弓.

ko-drava 男 (貧民の食ふ)劣等なる穀物 [學名 *Paspalum scrobiculatum*]; 菜, 蕨子, 稗子 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 俱陀婆(穀) *Abh-vy.*

koṇāka-muni 男 [佛の名] 拘那含 *Lāṅk.*

kopa 男 病的興奮(非に體內に存する液の); 激怒(戰鬥等の); (國, 國, *prati*, *upari*, —°)に對する激昂又は憤怒; 瞋, 忿, 怒, 瞋怒, 悲怒, 怨結 *Lal-v.*, *Sikṣ.*, *Vijñ-v.*, *Bodh-c.* ~ *m* *Kṛ*, 怒る.

kopaka 形 短氣の.

kopa-kṣamā-vismaya-harṣavat 形 憤怒し同情し驚愕し且つ歡喜せる.

kopa-janman 中 憤怒より生ぜる.

kopana 男 怒り易き, 激怒せる, 怒れる. 中 憤怒; 興奮; 刺戟.

kopaniya 男 怒らしめ易き.

kopa-paravattā 中 行悲怒(者) *Sikṣ.*

kopayīṣṇu 形 (國)を怒らしめんと企つる.

kopa-saṃdhukṣāna 形 怒らしむる.

kopāya 名 動 自 *kopāyate* 激怒す.

kopita 使 役 過受分 [Kup] 激怒せしめられたる.

kopin 形 憤怒せる, 激怒せる; 怒らしむる.

kopya 形(未受分) 怒らしめらるべき; 憤發, 悲

恨; 壞; 動, 傾動; 散亂, 退失 *Lal-v., Abh-vy.*
kopyatā ㊦ 憤發, 興忿怒 *Bodh-bh.*
ko-mala ㊦ (容易に衰ふる), 纖弱なる; 柔かなる (憂); 優しき, 快き, 愛らしき; ㊦ 柔梗 *Sikṣ.*
komalāṅga ㊦(㊦-*i*) 纖弱なる身體の.
ko-yaṣṭi ㊦ [(竹馬の如き), 鳥の一種].
ko-yaṣṭika ㊦ [同上].
kora ㊦ 柔軟なる關節(身體の).
koṣa ㊦ ㊦(?) 芽.
koraki ㊦ [同上].
kora-dūṣaka ㊦ = *kodrava.*
korttana(?) ㊦ [國の名] [㊦(?)] 于闐 [大唐西域記の瞿薩旦那 (*Gostana*)] 梵雜.
kola ㊦ 野猪, 牡豚; 筏, 小舟; ㊦ 棧, 筏, 船筏 *Divy., Vajr-pr., Sūtr., Abh-vy.* ㊦ 棗; ㊦ 棗 *Daś-bh*; 麥 *Lal-v.*
kolaka ㊦ 香料(の一種).
kolatā ㊦ 豚たること.
kolākṣa ㊦ 樹木の特殊の穴又は洞.
kolāsthi ㊦ 棗核 *Daś-bh.*
kolāhala ㊦ 喧噪, 叫喚, 叫聲; 騒音; ㊦ 叫, 喧, 喧鬧 *Divy., Mvyut.*
kolāhala-sthavika ㊦ 布袋, 財帛 *Mvyut.*
-kolāhalin ㊦ 喧しき, 騒々しき.
kolika-gardabha ㊦ 野牛 *Divy.*
kolita ㊦ [Maudgalyāyana の名] 懷生; 目捷連 [Maudgalyāyana の ㊦] *Divy., Mvyut.*; [㊦] 拘利多, 角利多 *Mvyut.*
kolūka ㊦ [國の名].
kollaka ㊦ [山の名].
ko-vida ㊦ (善く知る), 經驗ある, (圓, 於, 一) を知れる, ……に巧みなる; ㊦ 知, 善知, 能知, 深知; 了, 善了, 曉了, 了知; 明, 明達, 明解; 通達, 深達; 善, 巧; 具足, 成就; 已修學 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Daś-bh., Rāṣṭr., Sam-r., Laṅk., Sūtr., Mvyut.*: *paramārtha* ~ 知勝義 *Lal-v. 4.*
ko-vidatva ㊦ 巧妙, 熟練.
ko-vidāra ㊦ (善く裂くる), 黒檀(の一種) [學名 *Bauhinia variegata*]; [天上の樹の一種]; ㊦ [帝釋天の園の中に在る樹の名] 俱毗陀羅, 拘憍陀羅, 拘憍羅(樹) *Divy., Lal-v., Saddh-p.*
koṣa ㊦ 大樽, 桶, 手桶, 籠(特に雲の形に就て); 箱, 函; 鞘; 容器, 被覆; 殼; 車の内部; 住處; 倉庫, 貯藏室; 寶庫, 財寶; 語彙; 字典, 詩の寶庫, 詩集; 芽, 萼(特に蓮花の); 繭; 和解の盃, (神判に用ゐらるゝ) 神聖なる一杯; 誓; [或る *Gāthā* 集の題名]; ㊦ 庫, 藏, 庫藏, 倉; 窖; 鞘; 殼 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*, 梵雜; 珍寶 *Divy.*; [㊦] 俱舍 *Abh-vy.*, 支應.
koṣa-kāra ㊦ 樽・桶・箱等を作る人; 辭典編纂者; 蠶; ㊦ 作繭 *Laṅk.* ㊦ [砂糖黍の一種].
koṣa-kāraka ㊦ 蠶.
koṣakāra-kiṣā ㊦ [同上]; ㊦ 蠶 *Mvyut.*
koṣakāra-kiṣaka ㊦ 蠶作繭 *Laṅk.*
koṣa-koṣṭhāgāra ㊦ 欄廐 *Divy.* → *koṣa-koṣṭhāgāra.*

koṣa-gata-vasti-guhya ㊦ [三十二相の一] 勢峯藏密, 陰藏隱密, 藏如象王陰, 陰藏如馬王, 藏相如象馬王 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
koṣa-gata-vasti-guhyatā ㊦ 腹中に隠れたる隱部を有すること (*Dharm-s.*); ㊦ [三十二相の一] 馬藏相, 勢峯藏密, 陰相隱密(如象王)相 *Bodh-bh., Dharm-s.*
koṣa-gr̥ha ㊦ 寶庫.
koṣa-jāta ㊦ 財寶, 富.
koṣa-daṇḍa ㊦ 寶庫と軍隊.
koṣa-dāsa ㊦ [人名].
koṣa-pāla ㊦ 寶庫の番人.
koṣa-pithin ㊦ 寶庫を竭す或は竭せる.
koṣa-peṭaka ㊦ 小箱.
koṣa-phala ㊦ 陰囊; 香料(の一種).
koṣa-balin ㊦ 有諸財物 *Saddh-p.*
koṣa-rakṣin ㊦ = *koṣa-pāla.*
kośala, → *kosala.* ㊦ [國の名] 憍薩羅, 騎薩羅 *Divy., Av-s.*
kośavat ㊦ 富める.
koṣa-vāri ㊦ 神判の水.
koṣa-vāhana ㊦ 財寶と乗物.
koṣa-veśman ㊦ 寶庫.
koṣas-kṛt ㊦ 蠶.
koṣa-stha ㊦ 富盛 *Divy.* ㊦ 貝類.
koṣa-hīna ㊦ 寶なき, 富まざる.
kośāgāra ㊦ 寶庫, 藏.
kośāgārādhikārin ㊦ 出納係, 大藏大臣.
kośādhyakṣa ㊦ [同上].
kośāpaharṭṛ ㊦ 寶を盗む者.
kośopagata (°*śa-up*°) ㊦ 藏 *Lal-v.*
kośopagata-vasti-guhya (°*śa-up*°) ㊦ [三十二相の一] 陰藏隱密 *Lal-v.*
koṣa ㊦ → *kośa.* ㊦ [= *kośa*] 庫, 藏, 庫藏, 倉庫; 腑藏; 財物 *Divy., Aṣṭ-pr., Sam-r., Sikṣ.*
koṣa-koṣṭhāgāra ㊦ 庫藏, 倉庫 *Divy., Sikṣ.* → *kośa-koṣṭhāgāra.*
koṣṭha ㊦ 內藏, 胃, 腹部. ㊦ 貯藏室, 倉庫, 周壁; 圍まれたる場處; ㊦ 庫, 倉 *Lal-v., Sūtr.*, 梵雜.
koṣṭhaka ㊦ [同上(㊦)]; ㊦ 屋, 倉舍 *Divy., Saddh-p.*; [國の名] 庫藏 *Divy.*; [㊦] 拘瑟他歌(國), 偷羅獸吒(國) *Divy.*
koṣṭha-roga ㊦ 腹部の病.
koṣṭhāgāra ㊦ 倉庫, 穀倉; ㊦ 庫, 藏, 庫藏, 倉庫 *Divy., Av-s., Sūtr., Mvyut.*
koṣṭhāgarika ㊦ 貯藏室の管理人; 蜂; ㊦ 廚宰 *Divy.*
koṣṭhāgni ㊦ 胃中の火即ち消化力.
koṣṭhika, ㊦ 倉 梵子.
koṣṭhikā ㊦ 容器(の一種); 鍋.
koṣṭhi-kṛ, 圍む, 包圍す, 圍繞す.
koṣṇa (*kū-us*°) ㊦ 微温の.
kosala ㊦ [國の名, 中印度の *Uttara-kosala* (*Ouh*) と南印度の *Dakṣiṇa-kosala* 又は *Mahā kosala* (*Khattigarh*) との別あり]; ~ *ānām nakṣatram* [星宿の名(十二宮の一)]; ㊦ *Kosala* 國の住民.

kosala-jā 女 [(Kosala 國に生れたる) Rāma の母の稱].

kosala-vidaha 男 種 Kosala の住民と Videha の住民.

kosalā 女 Kosala の首都(即ち Ayodhyā); 憍薩羅(城) Mvyut.

kosalendra (°la-in°) 男 [Kosala 國の王 Daśaratha].

kohala 男 [聖仙の名].

kaukila 男 [或る儀式の名].

kaukili 女 [同上].

kaukuṭṭaka 男 種 [民族の名].

kaukura 男 種 [民族の名].

kaukurundi 男 [或る學匠の名].

kaukr̥tya 甲 醜行, 惡事; 後悔; 悔, 所悔, 追悔, 後悔, 悔心, 悔過, 改過, 悔行, 怨悔, 悔愧, 懺悔, 憂悔, 疑悔 除疑悔過; 小疑, 疑惱; 著意, 留心意; 惡, 惡作 Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Kāśy., Laṅk., Prāt-m., Vin., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Mvyut.

kaukr̥tyopasaṃhāra (°ya-up°) 男 漢譯 令生悔疑 Mvyut.

kaukkuṭa 形 鶏の, 鶏又は家禽に關する.

kaukkuṭika 男 [賤しき種姓(階級)の一種]; 鶏商; 畜鶏, 畜雞, 養雞; 射鶏, 屠鶏, 屠養鶏; 賣飛禽者 Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.

kaukṣa 形 腹部の.

kaukṣeya 男 (鞘に屬するもの), 劍.

kaukṣeyaka 男 劍, 小刀.

kaun̄kaṇa 男 =kaun̄kaṇa; [民族の名].

kaun̄kuma 形(三-i) 番紅花(彩)より成れる; 番紅花にて著色せる.

kaun̄jara 形(女-i) 象に屬する.

kauṭa 形 詐欺の, 虚偽の, 不正直なる.

kaṭa-sākṣin 男 偽證する人.

kaṭasākṣya 甲 [kūṭa-sākṣa より] 偽證.

kaṭasthya 甲 [kūṭa-stha より] 不變, 不易.

kaṭilya 甲 屈曲, 彎曲; (髮の)縮れたること, 波うてること; 欺誑; 虚偽, 不正直; 曲, 險曲, 詔曲; 側僻 Laṅk., Vijñ-t. → citta ~. 男 [Cāṇakya の稱].

kaṭilya-śāstra 甲 Kaṭilya の學, 外交策.

kaṭumba 男 家庭に必要な. 甲 親族性, 家族との關係; [(Kaṭumba 國より出でたる)織物の一種] (Divy.). → kaṭambaka.

kaṭumbika 男 親族に屬する, 家族を構成する. 男 家族の父又は主.

kaṭṭanya 甲 媒婚.

kaṇakutsya 男 [或る婆羅門の名].

kaṇapa 男 屍體より出づる. 男 [(屍體を食とする), Rākṣasa の稱].

kaṇeya 男 [Rajana の(父系)].

kaṇṭhya 甲 鈍きこと.

kaṇḍinya 男 [Kaṇḍina の(父系)]; 佛弟子の名] 了本際, 解本際, 已知本際, 解了本際, 大器 立應; 拘隣, 居隣, 俱隣, 拘輪, 居倫, 俱輪, 僑陳如, 僑陳那, (阿若)居隣 [=ājñāta ~] Saddh-p., Suv-pr.,

Abh-vy., 立應.

kautuka 甲 [(因) と俱に又は (一°)] 好奇心, 興味, 熱望; 熱心, 性急; 奇妙なる・異常なる或は興味ある光景又はもの 面白き話; 祭; 婚禮(に先立ちて行ふ聖紐に關する)儀式; 婚姻の聖紐; 幸福, 繁榮, 祝福; 希有, 希望 Madhy-v.; 吉祥 Bodh-bh.

~āt 甲 好奇心に驅られて.

kautuka-kriyā 女 結婚式.

kautuka-gṛha 甲 結婚式の家又は室.

kautuka-jāta 甲 希奇 Bodh-bh.

kautuka-toraṇa 甲 祭式に建てらるゝ凱旋門.

kautuka-pura 甲 [町の名].

kautuka-bhṛt 形 婚禮の聖紐を帯びたる.

kautuka-maṅgala 甲 嚴肅なる式; 祭日; 占相, 占卜, 占相吉凶, 占卜吉凶 Daś-bh.

kautukamaya 形 興味ある, 魅する.

kautuka-rasa 男 好奇心.

kautukavat 形 興味ある.

kautuka-sthāna 甲 好奇心の動機又は目的.

kautukāgāra (°ka-āg°) 男 甲 婚禮の室; 祭式の室.

kautukita 通受分 (因)に或は(男)によりて興味を有する; 熱心なる.

kautukitā 女 好奇心; 希望; 熱心.

kautukin 形 興味を有する, 好奇に満てる; (一°)に熱心なる.

kautūhala 甲 [(因, prati 或は(不定) と俱に] 好奇心, 興味, 熱心; 好奇心を起さしむるもの, 奇異の現象; 祭日; 欲見, 樂見; 奇特; 呪願; 猶豫, 心之所疑, 疑心 Divy., Buddh-c., Saddh-p., Laṅk.

kautūhala-jāta 形 好奇心を起せる; 羨, 慕羨 Lal-v.

kautūhala-prāpta 形 欲知 Saddh-p.

kautsa 形 Kautsa に關する. 男 [Kautsa の(父系)]. 甲 Kautsa の作れる詩.

kautsi 女 [同上(男)].

kautsya 男 [人名] 好又, 僑又 Divy.

kauthuma 男 [Kuthumin の(父系)].

kaunakhya 甲 [ku-nakha より] 爪の病氣.

kaunti 女 [香料の一種]; [河の名].

kaunteya 男 Kuntī の子, [Yudhiṣṭhira, Bhīmasena, Arjuna の(母系)].

kāunda 形(女-i) 素馨に屬する, 素馨にて作られたる.

kaupa 形(女-i) 井戸又は水漕より起れる.

kaupina 甲 陰部; 腰布; 醜行, 忌むべき行爲; 罪; 褌, 圍腰子 Mvyut., 梵雜.

kaupinavat 形 腰布のみを纏へる.

kaubera 形(女-i) Kubera 神に關する.

kaūberi 女 [kāsthā 又は diś と俱に] Kubera 神の領域即ち北方.

kaubjya 甲 僂背.

kaumāra 形(女-i) 青年又は處女に關する; 少壯の; Kumāra (軍神)に關する. 甲 幼年, 少女, 青年; 青年の無邪氣, 純潔.

kaumārika 甲 幼年, 少年.

kaumāra-cārin 形 童貞を守れる.

kaumāra-pati 男 處女を妻とせる人。
kaumāra-brahma-cārin 形 = kaumāra-cārin.
kaumāra-bhāryā 女 處女にて結婚せる妻。
kaumāra-rājya 甲 世襲の王たること; 皇太子の地位。
kaumāra-vrata 甲 童貞の戒。
kaumāravrata-cārin 形 童貞の戒を守れる。
kaumāra-hara 形 處女を犯す。
kaumārika 形 少女又は娘を好む。
kaumāri 女 [人格化せられたる軍神の女性的勢力]。
kaumuda 男 [Kumuda の 係]; Kārttika 月(十月及び十一月)。
kaumudikā 女 [或る處女の名]。
kaumudī 女 月光; 水蓮; [Kārttika 月の満月の日并に同日行はるゝ Kārttikeya 神の祭式]; 俱物頭(會) Divy. 一〇 [通例註釋書の題名として用ひらる]。
kaumudī-maha 男 満月祭。
kaumudimahotsava (°ha-ut°) 男 [同上]。
kaumudī-rajani 女 満月の夜。
kaumudvateya 男 [Kumudvatī の 係]。
kaumodakī 女 [Viṣṇu 神又は Kṛṣṇa 神の棍棒の名]。
kaumbha 形 壺に入れられたる。
kaumbhya 形 [同上]。
kaurava 形(女-i) Kuru 族に屬する。 男 [Kuru の 係]; 惡音對; 有勝邊(?) Mvyut.; 瞿拉坡, 矩拉婆, 鳩羅婆, 僑拉婆 Lank., Mvyut., 支應。
kaurava-rājan 男 [具廣王 Mvyut.]。
kauraveya 男 Kuru の後裔。
kauravya 男 種(係) Kuru の後裔 = Pāṇḍava (種); [民族の名]; 拘毘羅(?) Av-s. II. 118.
kaurukullaka 男 種(係) [佛教部派の名] 高拘梨柯(部) Mvyut. [異部宗輪論の鷄胤部 (Kaukkūṭika) に當る. Pāli. gokulika]。
kauru-kṣetra 男 種 Kuru-kṣetra の住民。
kaurma 形 龜に特有の。
kaula 形(女-i) 家族に關する或は屬する; 世襲の, 相續の。 男 左道 (Vāma) 派の祭式に依る Śakti の崇拜者; 小舟, 筏; 棧 Mvyut. → kola.
kaulapatya 甲 [kula-pati より] 家長の地位。
kaula-putra 甲 良家の子たること。
kaula-mārga 男 Kaula 派の教義。
kaulāla 男 陶師。 甲 陶器。
kaulika 男 織匠; 左道 (Vāma) 派の祭式に依る Śakti の崇拜者。
kaulika-kāra 形 織匠の如く振舞へる。
kaulitara 形 惡魔 Śambara (の稱)。
kaulika 男 [鳥の一種]。
kaulina 形 貴族に特有なる。 甲 風聞; 讒謗; 不名譽なる行爲。
kaulinya 甲 貴族; 高貴。
kaulūta 男 種 [民族の名]; 種 Kaulūta 民族の王。
kauleya 男 犬。
kauleyaka 男 犬, (特に)獵犬。
kauleya-kuṭumbini 女 牝犬; 淫婦。
kaulya 形 貴族出身の。 甲 貴族の子孫。

kauvera, → kaubera.

kauveri 女 惡身隅 Mvyut. → kauberī.

kausa 1. 形 [kośa (繭)より] 絹の。

kausa 2. 形(女-i) Kuśa 草にて作れる。

kaūsala 甲 幸福, 幸運, 繁榮; (因, 一°)に於ける熟練, 賢明, 經驗; 善, 善巧, 善權, 善修; 巧, 巧便, 方便, 善方便; 妙解, 明了, 善知 Lank., Bodh-bh., Sūtr., Madhy-vibh.; 拘薩, 僑薩羅 Lal-v. vastv-a ~ 於事不善巧, 遠不明了 Madhy-vibh. 89. → upāya ~.

kaūsala-kriyā 女 巧便行, 善巧作用 Bodh-bh.

kaūsalikā 女 施物, 進物。

kaūsalya 甲 = kaūsala; 善, 善巧, 善能, 巧, 巧便, 妙巧, 巧妙, 巧方便 Lal-v., Gand-vy., Rāṣṭr., Lank., Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.; 拘舍羅 Madhy-vibh. → artha ~, upāya ~.

kaūsalya-tattva 甲 善巧眞實, 勝智眞實 Madhy-vibh.

kaūsāmbikā 女 俗 [人名]。

kaūsāmbī 女 [都市の名]; 僑賞彌 Mvyut.

kaūsāmbiya 形 Kausāmbī に屬する或はより來れる。

kaūsāmbya 男 Kausāmbī の王。

kaūsāmbhas 甲 Kuśa 草の煮汁。

kaūsika 1. 形 Kuśika に關する。 男 係 [特に Viśvūmitra の]; [Indra 神の稱]; [或る學匠の名]; [人名]; 帝釋, 天主 Divy., Mvyut.; 僑尸迦, 僑尸迦, 俱夷, 拘翼 Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-s., Mvyut.,

kaūsika 2. 形 鞘に收めたる; 絹の。 甲 絹, 絹の布帛又は衣服; 哥尸迦衣 Sikṣ.

kaūsika-prajñā-pāramitā 女 [經名, 帝釋般若波羅蜜多心經(?)].

kaūsiki 男 [Durgā の稱]; [或る佛教比丘尼の名]; [河の名]。

kaūsīdya 甲 [=kaūsīdya]; 懈怠 Rāṣṭr., Sūtr.

kaūsīlava 甲 詩人又は俳優の職業。

kaūsīlavya 甲 [同上]。

kaūseyā 形 絹の。 甲 絹, 絹の衣服; 虫衣, 段絹, 雜野蠶綿; 僑世耶衣 Bodh-bh., Mvyut., 支應; 僑奢耶, 僑世耶, 高世耶, 拘攝, 拘執 Bodh-bh., Mvyut., 支應。

kaūseyaka 甲 絹布; (番禺)絹, 絹衣, 野蠶衣 Mvyut.

kaūśa-krimi 男 [<°krmi]; 蠶, 蠶蟲 Lank.

kaūśya 形 = kausa 2.

kaūśārava 男 [Kuśāru の 係]。

kaūśāravi 男 [同上]。

kaūśitaka 男 [Kuśitaka の 係]。 甲 [或る Brāhmaṇa (梵書)の題名]。

kaūśitaki 男 [同上]。

kaūśitakin 男 種 [學派の名]。

kaūśitaki-brāhmaṇa 甲 Kausitakin 學派の梵書 [又 Sāṅkhāyana-brāhmaṇa と云はる]。

kaūśitaky-upaniṣad 女 [或る Upaniṣad の名]。

kaūṣṭha 形 體內又は腹中にある; 倉庫にある。

kaushila 男 [人名] (大) 膝 立應; [音] 俱社羅, (摩訶) 俱稀羅 立應.
kaushya 形 腹内にある.
kaushmāṇḍa 形 Kūshmāṇḍa 鬼に呼びかけたる(呪文).
kaushmāṇḍika 形 [同上].
kausala 形 Kosala 國又は民族に屬する; [音] [音] 僑薩羅(國) Vin. 男 [民族の名].
kausalya 形 Kosala 民族に屬する. 男 Kosala 民族の王.
kausalyā 女 Kosala 國の女王 (Rāma の母); [諸人の名].
kausalyā-mātr 男 Rāma.
kausida 形(因) -i 貸附より來れる, 借金に關する.
kausidya 中 怠惰, 弛緩; [音] 怠, 懈怠, 懶惰, 懈倦, 懈怠懶惰, 退屈 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut. → ālasya ~.
kausidya-sahagata 形 [音] 懈怠俱行 Aṣṭ-pr.: ~ m cittam 懈怠俱行之心, 懈怠心 Aṣṭ-pr. 824.
kausidyāpagata 形 [音] 離懈怠, 無懈 Aṣṭ-pr.
kausuma 形 花より來れる或はに屬する, 花にて作られたる.
kausumāyudha (°ma-āy°) 形 Kāma 神に關する.
kausumbha 形(因) -i 紅藍より來れる, 紅藍にて染めたる, 紅藍の如き. 中 紅藍にて染められたる物.
kausumbhaka 形 紅藍にて染められたる.
kausurubinda 男 [Daśa-rātra 祭の名].
kaustubha 男 中 (大洋を攪亂して生じたる) 寶石 [Viṣṇu 神の裝飾]. 中 [油の一種].
kaustubha-dhāman 男 [Viṣṇu 神の稱].
kaustubha-bhṛt 男 [同上].
k-ta 文法 [過去受動分詞の接尾音 ta].
Knath, I. 他 knathati 傷つく.
knatha 文法 [語根 Knath].
Knūy, [使役] 他 knopayati のみ 浸す, 濡らす. abhi- 濕はしむ, 濡らす.
kyāku 中 葦.
krakāca [音] 鋸; [音] 鋸, 鐵鋸 立應. [音] [樂器の一種]; [植物の一種].
krakacika 男 鋸にて挽く人, 木挽.
krakara 男 [鷓鴣(註)の一種, 學名 *Perdix sylvatica*]; [音] 鷓鴣 Mvyut.
krakarāṣa 男 雲雀.
krakucchanda 男 [音] [佛の名] 應斷, 除邪言, 所應斷已斷, 作用莊嚴 Mvyut., 立應; [音] 拘留孫, 俱留孫, 拘婁孫, 拘婁孫, 拘婁孫, 拘婁孫, 迦羅孫, 迦羅孫, 迦羅孫, 迦羅孫, 迦羅鳩村大, 迦羅迦孫大, 羯洛迦孫駞 Divy., Lal-v., Av-ś., Lan-k., Mvyut.
Krakṣ, [現分] krakṣamāṇa (因) のみ: 怒れる, 吼ゆる].
kratu 男 力, 能力, 效力; 熟慮, 相談; 智慧, 知識, 理解; 靈感; 計畫, 目的, 欲望, 意志, 決心; 犠牲 [時として人格化せられたる], 供儀, 供儀祭; [Prātaranuvāka 讚誦を形成する三部分の名]; [Brahman 神の子の名 (Prajāpati の一及七聖仙の一)]; [大熊座の中の星の名]; [音] 詞祀, 供施 Buddh-c., Mvyut.

kratu-deva 男 [人名].
kratu-dhvaja 男 [或る Rudra の名].
kratu-pati 男 祭主, 供儀を舉行する者.
kratu-paśu 男 犠牲の獸.
kratu-pā 形 (自己の)感情又は意志を守る.
kratu-prā 形 希望又は力を與ふる; 鼓舞又は啓發せられたる.
kratu-prāvan 形 希望又は力を與ふる.
kratumat 形 決然たる; 知識ある, 賢明なる; 力ある, 強き.
kratumaya 形 意向より成る.
kratu-rāj 男 主要なる供儀 (*Aśvamedha* と *Rājasūya*).
kratu-vikrayin 形 犠牲(の報酬)を賣れる.
kratu-vid 形 有力なる, 知識ある; 鼓舞する; 知識又は力を與ふる.
kratu-sprś 形 靈感を起さしむる.
kratū-dakṣau 男 [音] [音] 知識と能力.
kratūya 名動 他 kratūyati 熱望す.
Krath, [使役] 他 krāthayati のみ 傷つく, 破壊す; 放縱となる, 粗暴となる.
kratha 1. 文法 [語根 Krath].
kratha 2. 男 [音] [民族の名 (Yādava の一族)]; [音] [Vidarbha の子にして Kaiśika の兄弟の名及諸人の名]; [或る Asura の名].
kratha-kaiśika 男 [音] [民族の名 (Vidarbha の子 *Kratha* 及 *Kaiśika* の後裔)].
krathana 男 [或る Asura の名].
krathanaka 男 [或る 駱駝の名].
Krand, I. 他 自 krandati(-te) 嘶, 唸る, 吠る, 軋る; 歎く, 悲しむ, 泣く; 響く, 鳴る; (因) に哀願す; [音] 叫呼, 號, 號哭, 大哭, 啼哭, 啼泣, 悲哭; 懊惱; 高聲唱言, 大聲號哭 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ.: āṛta-svaram krandati 哀吟, 號泣, 大哭 Mvyut. 現分 **krandamāna** [音] 號哭 Bodh-bh. 過受分 **krandita.** [使役] 他 **krandayati** 嘶かしむ等; [或は = 單純動詞]. [音] **kanikrantti(-te)** (現分) **kanikrad, kanikradat, kanikradyamāna** [= 單純動詞].
acchā- [使役] **acchākrandaya-** 叫ぶ.
abhi- ……に怒號す, ……に喚く.
ā- 他 大聲にて呼びかく, 叫ぶ, 呼びかく; 哀れに叫ぶ; (因) に救助を呼ぶ; [音] 悲しみて泣く, 歎く, 泣く; [音] 發聲 Saddh-p. [使役] **ākrandaya-** ……に對して呼號す, 吠ゆ; その音によりて(勇氣を)鼓舞す.
sam-ā- 哀れに叫ぶ; 共に叫ぶ; [音] 稱 Saddh-p.
kranda 男 嘶き; 叫び.
krandad-iṣṭi 形 大なる騒音又は怒號を立て、動く (Vāyu 神).
kranda-dhvani 男 苦痛の叫び.
krandana 中 絶叫; 悲歎; 慟哭.
krandana-dhvani 男 慟哭, 歎き.
krandas 中 関の聲; [音] 争ふ兩軍.
krandita 過受分 [Krand] 泣ける; 呼ばれたる, 叫ばれたる; [音] 悲 Lal-v.
krandya 中 嘶き.

Krap, → Krp.

Kram, I. ㊦ ㊧ **krāmati(-te)**, **kramate(-ti)**. ㊦

歩す, 歩む; (業, 因)に行く, 近づく; (因)に避難す; 過ぎ行く, 横切る; 登る; 攀ち登る; 所有す, 占領す, 充たす; ㊧ (因)に努力す, 成功す, 奏功す; ㊦ 行, 遊行; 入, 趣入; 轉; 著; 加害 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*: sarva-bhoga-paribhogesu cittam krāmati 於廣大資財心好受用 *Bodh-bh. 5.* ㊦ **krānta** 行ける, 渡れる; 横がれる; 襲ふ, 攻むる; 壓倒せられたる.

㊦ **krāmayati** 歩ましむ. ㊦ **caṅkramate**, **caṅkramyate**, **caṅkramiti** 歩み廻る; ㊦ 行, 經行, (徐歩)經行, (靜思)經行; 常轉, 常轉不住, 輪轉不絕 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, 梵千.: caṅkramet tiṣṭhen niśidec chayyām vā kalpayet 若行若住若坐若臥 *Gaṇḍ-vy. 22.*

ati- 通り過ぐ, 越ゆ, 股ぐ, 横切る; 逸す, 等閑に附す; (因)より去る; (因)を奪はる; 過ぐ, 經過す; 優る, 凌駕す; 犯す, 背く; ㊦ 出, 超出, 超, 超過, 過, 出過, 越, 越度, 勝 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. II.*, *Laṅk.*, *Guhy-s.*, *Prāt-m.*, *Bodh-bh.*; 犯, 惱亂 *Saddh-p.*: pramānam atikramati 過量 *Prāt-m. II. 6.* ㊦ **atīkrāmayati** 通過せしむ, 經過せしむ; 無視す.

abhy-ati- 打ち克つ; 犯す, 背く.

vy-ati- 逸す; 過ぎ去る(時に就て), 經過す; 等閑に附す, 犯す; 誤りて(業)に降伏す; ㊦ 超, 超越, 遠越; 乖 *Divy.*, *Laṅk.*, *Bodh-bh.*

sam-ati- [向上]; ㊦ 越, 超, 過, 超過; 捨, 離, 悉遠離 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

adhi- (業)に登る.

anu- 従ふ, 順次に通過す, 枚擧す; 特記す; 目次に記す; ㊦ 隨入 *Daś-bh.* ㊦ **anucaṅkramati** ㊦ 經行, 往返遊行 *Saddh-p.*: jaṅghā-vihāram anucaṅkramyamāṇaḥ (現分) 次第巡行 *Lal-v. 248.*

apa- 去る, 出發す; (因)より退く; ㊦ 退, 退散; 出, 出離, 遠避; 捨, 捨去, 棄捨去, 捨離遠去, 逃逝 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.* ㊦ **apakrānta**.

㊦ **apakramayati** 逃走せしむ. ㊦ (未受分)

apakrāmitavya ㊦ 過, 運度 *Aṣṭ-pr.* ㊦ (希求)

apacikramiṣati 逃去せんと欲す.

abhi- [業]又は prati と俱に] 歩み近づく, 近づく, 赴く, 登る; 抑制す; (行作名詞の因)に著手す, ……を開始す, ……を準備す; 襲ふ, 壓倒す; 昇る [數に就きて]; [ati-の因] 歩き廻る; ㊦ 來, 入 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*: abhīkrāmati vā pratīkrāmati 進止 *Aṣṭ-pr. 681.*

ava- (業)の上に降る; 蹂躪せらる, 壓倒せらる; 去る, 退く; 逃る; 入胎す(佛敎); ㊦ 入, 行; 降 *Divy.*, *Lal-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* ㊦ **avakramayati** 下らしむ.

ā- 近よる, 近づく, 入る; (業, 因)を踏む; (業)に重壓を加ふ; 捉ふ, 攻撃す; 所有す; 占む, 覆ふ; 上る, 登る(因); (不定)し始む; ㊦ 入, 近, 履, 安, 案, 來, 往, 能往; 昇進; 侵掠, 生貪奪 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*: ākramati mahim 案地, 安處 *Bodh-bh.*

375. ㊦ **ākrānta**. ㊦ **ākramayati** 近寄らしむ; 入らしむ; ㊦ 作降伏 *Mvyut.*

adhy-ā- 攻撃す; 選擇す, 占有す.

nir-ā- (因)より出づ.

praty-ā- 後退す.

sam-ā- (業)を踏む; 襲ふ, 所有す; 占有す; ㊦ 行, 遊行 *Daś-bh.*

u(=ava)- ㊦ 著 *Saddh-p.*: yakṣa-grāho ukrami teṣa kāye 鬼魅所著 *Saddh-p. 95.*

ud- 上る, 登る; 出づ; (因)より去る; 死す, 逝く; 避く, 無視す; 犯す, 背く. ㊦ **utkrāmayati** 上らしむ, 登らしむ. ㊦ (希求) **uccikramiṣati**, **uccikramiṣyati** 上らんと欲す, 出でんと欲す.

praty-ud- 去る.

vy-ud- 去る, 他方へ行く; 通り越す; 見落す, 無視す. ㊦ **vyutkrāmayati** ㊦ 越, 令離 *Abh-vy.*

upa- 近よる, 來る; (業, 因)に近づく; 襲ふ; 取扱ふ; 治療す; 行ふ; (業, 因, 不定)し始む.

sam-upa- ㊦ (不定)し始む.

nis- (因)より出で行く, ……より去る; 出發す; 出家す; ㊦ 去, 還; 過, 經過; 出, 出離, 出家, 出遊 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Abh-vy.*, 梵千.: gṛhāvāsān niṣkrāmati 捨家 *Sikṣ. 14.* ㊦ **niṣkrānta** 出で行ける, 出發せる, 出で來れる. ㊦ **niṣkrāmayati** (因)より去らしむ, ……より出でしむ; 追放す.

abhi-nis- (因)より出づ; 修道者となる爲に家を去る; ㊦ 出, 出家, 捨家 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*

vi-nis- (因)より踏み出す, ……より出で來る. ㊦ **viṣkrānta** 出で行ける, 出で來れる.

parā- 行進す, 進む; 濶歩す; 勇敢になる, 努力す, 最善を盡す; ㊦ 發, 昇進; 勇起; 行, 勤修行 *Sukh-vy. I.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.* ㊦ **parākṛānta** 進める, 強き, 勇敢なる, 活潑なる; (因)に熱心なる.

pari- 歩き廻る(特に舞臺にて); 往來す, 訪問す; 圍む; 追ひ越す. ㊦ **paricaṅkramati** 遊歩す.

anu-pari- 順次に検査す.

saṃ-pari- (業)を歩き廻る; 訪問す.

pra- 踏み出だす, 出發す, 行く, 進む, 行進す; ㊦ 始む, 著手す; ㊦ 至, 往, 行, 逝, 退 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*: nirviṇṇo vipratīṣārī prākṛāmat 生厭倦心悵然而退 *Lal-v. 260.*

vi-pra- ㊦ 去 *Bodh-bh.*

prati- 還る; 下る(數に就きて); 懺悔す; ㊦ 出, 往, 行, 去; 還 *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Mvyut.* ㊦ **pratīkrānta** = apakrānta.

vi- 歩む, 行く, 進む, 跨ぎ行く; 別る; (因)より出發す; 横切る; (業)に登る; 勇敢に攻撃す; 勇敢に働く; (業)と戦ふ; ㊦ 行, 往還, 經行 *Lal-v.*, *Mvyut.* ㊦ **vikrānta** 歩める等; 勇敢なる, 剛勇なる, 強き, 力ある. ㊦ **vikramayati** 歩ましむ, 跨がしむ.

sam- 集合す, 結合す; 近づく, 現はる; ……に行く; 入る; (因)より(因, 業)に至る; 越ゆ; 犯す, 背

く; 逍遙す; 來; 趣入, 趣入, 轉入; 至, 多至, 移轉至; 遊, 遍遊 *Ast-pr.*, *Sapt-pr.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.* (通受分) *saṃkrānta* (因)より(一)に移されたる; 集合せる等. (因) *saṃkrāmayati* ((因)を(因)に導く; (因)に移す; 行かしむ; 一致す.

upa-sam- 近づく; 他方へ歩む, 行く; 往, 詣, 往詣, 行詣, 至, 到; 向; 奔趣; 遊行; 親, 親近, 附近; 隨命; 來, 來至, 至來, 來詣, 來下 *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Sapt-pr.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Rāstr.*, *Lank.*, *Śikṣ.*, *Bodh-bh.* (因) *upasaṃkramaḥ* ti 他方へ行かしむ.

vi-sam- 去 *Sapt-pr.*

krama 男 歩行; 歩調; 行くこと, 進路, 路; 攻撃の姿勢; 整然たる順序, 順序, 列, 繼續, 段階; 相續; 方法, 方針, 手段; 慣例, 儀式; (一, 因)に對する原因又は理由, (Veda 吟誦の一)方法; 進, 歩, 行歩 *Mvyut.*, 梵千; 度; 漸; 次, 次第, 漸次, 隨次, 相至 *Lank.*, *Cat-ś.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 足, 脚踏 *Lal-v.*, *Daś-bh.*

(因), (因), (因) *tas* 順序正しく, 順次に; (因) (因) *ena* 漸, 次, 漸次, 漸漸, 次第 *Buddh-c.*, *Vijñ-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*; 義故 *Madhy-v.*; (因) *āt* 次第 *Abh-k.*: *etenaiva* *ena* 以如是義故 *Madhy-v.* 384.

(因), (因), (因) 順序を追ふて, 整然と, 規則正しく. (因) (一)の途中に.

~ *m* *Yāc*, (實行の猶豫を乞ふ, *Divy.*).

krama-kāraṇa 因 次第因 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

krama-kāla 男 = *krama-pāṭha*.

krama-kāla-yoga 男 年代順の出來事 [= *kāla-yoga*].

krama-kṛt 因 傳統又は習慣に従ふ.

krama-krameṇa 因 漸 *Saddh-p.*

krama-gata 因 (因)の途上に現る.

krama-cyuti 男 漸死, 次第死 *Abh-k.*

kramaṇa 因 歩調, 踏むこと; 歩行; (一)の蹶躍; 趣, 轉, 行度, 行歩 *Lal-v.*, *Abh-vy.*

krama-tala 因 足, 足下, 足跡 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

kramatas 因 → *krama*.

krama-darśana 因 隨次現 *Sūtr.*

kramad-iśvara 男 [或る文典家の名].

krama-nikṣipana 因 [*nikṣepaṇa?*] 踐, 踏 *Lal-v.* 272.

krama-pāṭha 男 [(Veda) 暗誦法の一].

krama-pravakṭṛ 男 *Krama-pāṭha*を教ふる師.

krama-prāpta 因 相續せる.

krama-bhāvin 因 連續せる.

krama-mṛtyu 男 次第死, 漸命終 *Abh-vy.*

krama-yoga 男 正しき順序; 繼續. (因) *ena* 因 正規の方法にて.

krama-yaugapadya 因 漸次と突然; 漸及頓, 齊與次第 *Mvyut.*

krama-rājya 因 [地名].

kramavat 因 *Krama* (-*pāṭha*)の方法にて.

krama-varta, [國の名].

krama-vṛtti 因 漸, 漸次, 次第 *Lank.*

krama-vṛddhi 因 漸次的増加.

kramaśas 因 整然と, 順次に; 次第に; 漸, 漸次, 次第, 前後 *Lank.*, *Cat-ś.*, *Sāṃkhy-k.*

kramākrānta (°*ma-āk*) 因 (獅子等に)一跳びに捕へられたる.

kramāgata (°*ma-āg*) 因 順次に來れる, 連續せる; 世襲の, 祖先より正しく相續せる; 承襲 *Buddh-c.*

kramādhyayana 因 *Krama* (-*pāṭha*)の方法による讀誦.

kramānusamḍhi 男 次第行, 次第相續 *Daś-bh.*, *Lank.*

kramāyāta (°*ma-āy*) 因 = *kramāgata*.

krami 男 [= *kṛmi*] 蟲.

kramika 因 相續せる, 世襲の; 繼續せる.

kramitr 因 歩む.

kramuka 男 檳榔子樹.

kramelaka 男 駱駝.

kramotkṣepa-nikṣepa (°*ma-ut*) 男 舉足下足 *Gaṇḍ-vy.*

kraya 男 購買; 價格; 買 *Mvyut.*, 梵雜.

kraya-kṛita 因 買はれたる.

krayaṇa 因 購買.

krayaṇiya (未受分) 買はるべき.

kraya-lekhya 因 販賣.

kraya-vikraya 男 (因) 及び (因) 賣買; 貿易, 取引; 買賣, 賣買, 販賣, 販賣貿易 *Sam-r.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Mvyut.*

kraya-vikrayin 因 賣買する, 交易する.

krayāṇaka 因 賣買せられ得る. 因 商品.

krayika 男 買手, 購入者. 因 買ふ.

krayin 男 [同上(男)].

krayya (未受分) 買はるべき, 賣出されたる.

krayyatā 因 [同上(因)].

kravaṇa 因 臆病なる.

kraviṣṇu 因 生肉を渴望せる.

kravis 因 生肉, 腐肉.

kravya 因 [同上].

kravya-bhakṣin 因 肉食する.

kravya-bhuj 因 [同上].

kravya-mukha 男 [或る狼の名].

kravya-vāhana 因 屍體を運び去る. → *kavya-vāhana*.

kravyād 因 肉食する, 屍體を食ひ盡す. 男 肉食獸.

kravyāda 因 [同上(因)]; 食肉 *Lank.* 男 [同上(男)]; 師子 *Ast-pr.*; 惡鬼神 *Mañj-m.*

krāśaya (名動) 他 *krāśayati* 瘦せ衰へしむ.

krāśita (通受分) 瘦せ衰へたる, 憔悴せる.

krāśiman 男 瘦せたること, 纖細, 淺薄; (河の)淺きこと.

krāṣṭavya (未受分) [*Kṛṣ*] 曳かるべき, 抽出せらるべき.

krākacika 男 = *krākacika*.

krāṇā 因 [*Kṛ*の現分] 快く; 眞直に; 速かに.

krānta (通受分) → *Kram.* 因 歩調, 歩行.

krānti 因 歩調, 歩行; (天體の)黃道; 遊歩

Gand-vy.

- krāyaka** 男 購買者; 買者 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*
krimi 男 [=kṛmi]; 蟲, 惡蟲 *Lāṅk., Abh-vy.*
kriya, [音] =kriyā] → ~varjita.
kriyamāṇaka 甲 文學的作品.
kriya-varjita 形 離於作, 不待修 *Lāṅk. 280.*
kriyā 因 製作, 構成; 實行; 仕事, 業務, 處理; 行動, 行爲; 勞務; 心勞; 努力; 動詞の概念, 動詞(因); (文學的)作品; 祭式, 供儀, 儀式; 治療; (法律上の)證言; 作, 能作, 所作, 動作; 造, 造作; 行; 果; 業, 業用, 事業; 事, 作事, 所作事; 用, 力用, 作用 *Lal-v., Lāṅk., Bodh-bh., Sūtr., Abh-vy., Madhy-v., Madhy-vibh., Bodh-c., Sāṃkhy-k.*; 治, 方, 方藥 *Lāṅk.* → artha~.
kriyā-kāra 男 一致; 誓約, 規則; 制, 制限; 定例, 守法, 本要; 方便 *Divy., Av-ś., Lal-v., Mvyut.*; 議 *Divy.*: ~h kṛtaḥ 爲議 *Divy. 32.*
kriyākula (°yā-āk°) 形 多忙の, 業務に忙殺せられたる.
kriyātmaka (°yā-āt°) 形 活動を本性とする.
kriyātmakatva (°yā-āt°) 甲 [同上].
kriyā-dveṣin 形 證言を回避する.
kriyāntara (°yā-an°) 甲 動作の中断; 他の動作.
kriyā-patha 男 治療の方法.
kriyā-pada 甲 動詞; 作言詞 *Mvyut.*
kriyāpavarga (°yā-ap°) 男 事の成就, 祭式の結了.
kriyā-prabandha 男 動作の繼續.
kriyābhivyakti (°yā-abh°) 因 所作分明, 所作明了, 作法了別 *Lāṅk.*
kriyā-bheda 男 方異, 種種治, 方藥種種殊 *Lāṅk.*
kriyābhyupagama (°yā-abb°) 男 明確なる約束, 特殊契約.
kriyā-yoga 男 動作又は動詞との結合; 手段の採用; 實踐的なる Yoga.
kriyā-yōgya 形 仕事に適したる.
kriyārtha (yā-ar°) 形 動作を目的とせる.
kriyā-lopa 男 (重要なる)儀式の缺如又は中断.
kriyāvat 形 動作する, 活動的なる, 忙しき; 仕事を理解する, 仕事に適する; 正しく祭式をなす; 有動作 *Madhy-v.*
kriyā-vādin 形 法律上の審議に證據を提出する. 原告; 改造者 *Mvyut.*
kriyā-vidhi 男 動作の特殊なる規定; 動詞の使用.
kriyā-viśeṣaṇa 甲 副詞.
kriyā-śakti 因 活動能力.
kriyā-śaktimat 形 活動能力を有する.
kriyā-satya 甲 用諦, 作諦, 行實 *Bodh-bh.*
kriyā-hina 形 不修(徳業) *Vajr-s.*
kriyā-hetu-bhāva-lakṣaṇa 甲 作因性相, 因體所作之事 *Lāṅk.*
krivi 男 水を容るゝ皮囊; 井; 種 [民族の名, 種にては = Pañcāla].
Kri, II. 他 自 **krināti, kṛṇite, kṛṇ-** (後, 因) より(因の價にて)買ふ; 買, 須 *Aṣṭ-pr.*: kṛṇāti vikṛṇite kraya-vikrayena 販買治生 *Av-ś. I. 261.*

- krīta** 買はれたる, 購はれたる; (因)に心を奪はれたる; 眞實の親より買はれたる(養子).
ā- [=單純動詞].
upa- [同上].
nis- (後)より買収す, …より買ひ戻す; 贖 *Divy.*
pari- 買ふ, 得る, (因)と交換す; (因又は因の價)にて貸借す. **parikṛita** 買はれたる, 借りられたる.
vi- (因)と交換す, …にて賣る; 販, 賣, 貨 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.* **vikṛita** 賣られたる. **vicikṛiṣate** 賣らんと欲す; (因)にて交換せんと欲す; 断念せんとす.
Kriḍ, I. **kriḍati (kṛiḍati)** (因), **kriḍate** (因)と俱に, 或は *śaha, samam, sārḍham* と, 遊ぶ, 楽しむ, 戯る, 玩ぶ; 賭博をなす; 踊り廻る(骰子); 戲, 遊, 遊戯, 戲樂, 歌戲, 嬉戲, 爲嬉戲; 歡樂, 歡娛; 適悅 *Divy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.* **kriḍita** 遊びたる. **kriḍa-yati** 遊ばしむ, 遊ぶことを許す.
pari- 遊ぶ, 戯る(因).
pra- 遊び始む, 楽しむ. **prakriḍita** 遊ぶ, 戯るゝ.
vi- 遊ぶ, 戯る; 遊戯 *Saddh-p.* **vikriḍamāna**. **vikriḍita** 遊びたる, 戯れたる.
sam- (因)と俱に, 或は *śaha*)と遊ぶ; 戲 *Śikṣ., Bodh-bh.* → *saṃcagghati*.
kriḍa 形 遊ぶ, 戯るゝ. 男 遊戯, 冗談, 娛樂, 情事; 戲, 娛樂 *Divy., Mvyut.*
kriḍat 因分 [同上].
kriḍana 甲 遊ぶこと, 遊戯; 歡娛, 嬉樂, 遊觀, 遊戯觀看 *Saddh-p., Suv-pr., Mañj-m.*
kriḍanaka 男 玩具; 玩好之具, 所可玩好, 珍玩之物, 娛樂之具, 珍玩(奇異)之物; 樂 *Saddh-p.*
kriḍana-sakta-buddhi 因 歡娛樂著 *Saddh-p.*
kriḍanika-dhātri 因 戲遊母, 歡戲母 *Mvyut.*
kriḍanikā 因 保母; 與戲樂, (常共)遊戯(作樂)乳母 *Divy. 3, 53.*
kriḍaniya 甲 玩具.
kriḍaniyaka 男 [同上].
kriḍaniyaka-saṃnibha 因 玩具又は人形に似たる.
kriḍa-pradeśa 男 遊園地.
kriḍa-rati 因 嬉戲 *Saddh-p.* → *kriḍā-rati*.
kriḍā 因 遊戯, 競扶, 冗談, 愛玩; 戲, 遊戯, 嬉戲, 戲娛樂 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Abh-vy.*
kriḍā-kapitva 甲 戯れに猿の眞似をなすこと.
kriḍā-kānana 甲 遊林.
kriḍā-kāsāra 男 遊池.
kriḍā-ketana 甲 園亭.
kriḍā-kopa 甲 作れる怒.
kriḍā-kautuka 甲 放恣なる好奇心.
kriḍā-kausāla 甲 冗談を言ふ術.
kriḍā-gṛha 甲 甲 =*kriḍā-ketana*.
kriḍā-dhātri 因 戲(母) *Lal-v.*
kriḍā-nāri 因 淫賣婦.
kriḍāpanaka 因 所觸燒 *Saddh-p.*

kriḍā-paricchada 男 玩具.
kriḍā-parvata 男 築山.
kriḍā-parvataka 男 [同上].
kriḍā-pradeśa 男 遊戯場.
kriḍā-mayūra 男 手飼の孔雀.
kriḍā-markaṭa-pota 男 手飼の兒孩.
kriḍā-mahidhra 男 =kriḍā-parvata.
kriḍā-mṛga 男 手飼の動物.
kriḍāyoga (°dā-āy°) 男 遊はすこと, 玩具を興ふること.
kriḍā-rati 女 遊戯, 戲樂, 戲笑 *Saddh-p., Śikṣ.*
kriḍārati-vaśāt 女 因諸戲樂 *Suv-pr.*
kriḍārati-vastu 中 戲樂具, 戲樂器具 *Bodh-bh.*
kriḍā-ratha 男 娛樂用の車, 遊山用の車.
kriḍā-rasa 男 遊戯の楽しみ.
kriḍā-rasamaya 形 遊戯の楽しみ [rasa は水の意味を兼ね] より成れる.
kriḍā-vana 中 遊林, 公園; 遊戯園林 *Gaṇḍ-vy.*
kriḍā-vāpī 女 =kriḍā-kāsāra.
kriḍā-veśman 中 =kriḍā-keṭana.
kriḍā-śakunta 男 手飼の鳥.
kriḍā-śaila 男 =kriḍā-parvata.
kriḍā-saras 中 =kriḍā-kāsāra.
kriḍā-sthāna 中 遊園地, 遊戯場.
kriḍi 形 遊びの, 戯れの; 翫好 *Lal-v.*
kriḍita 通受分 → Kriḍ; 遊戯 *Lal-v.* 中 遊戯; 戲, 娛樂, 歌舞 *Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh.*
kriḍitr 男 遊ぶ人, 楽しむ人.
kriḍin 形 遊びの, 戯れの.
kriḍu 形 [同上].
kriḍumat 形 [同上].
kriḍoddeśa (°dā-ud°) 男 遊園地, 遊戯場.
krita 通受分 → Kri. 買, 買取, 所贖得 *Divy.* 梵千. 中 購買.
kritaka 形 眞實の親より買ひ求められたる(養子); 本價 *Divy.* → yathā ~ m.
kritānuśaya 男 購買の後悔.
kritā-pati 男 買ひて得たる妻の夫.
[Kru, 粗し, 粗野なり, 生硬なり].
kruñc 男 [體 kruñ] [鳥の一種] 帝釋鷓(鷓鴣).
kruñca 男 [同上].
kruddha 通受分 → Krudh. 瞋, 恚怒, 憤怒, 瞋忿, 憤恚, 忿恚, 起忿恨 *Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh.*
kruddhi 女 瞋 *Sūtr.*
Krudh, IV. 他(自) krudhyati(-te) (瞋, 瞋) を及び (瞋) に對して怒る; 憤怒, 瞋恨, 懷忿恨 *Bodh-bh.* 通受分 **kruddha** (瞋, 瞋, 於, upari, prati) に對して怒れる或は憤激せる. 便役 **krudhayati** 怒らしむ.
abhi- (瞋) に就て怒る. 通受分 **abhikruddha** 憤れる.
prati- (瞋) に對して憤怒を返報す; 以瞋對 *Śikṣ.*
sam- 怒る. 通受分 **samkruddha** 怒れる.
krudh 女 忿怒. 其副 ~ ā 怒りて.
krudha 文法 [語根 Krudh].

krudhmin 形 怒り易き.
krudhyat 現分 怒れる.
krudhyana 中 暴惡 *Śikṣ.*
krumu 女 [Indus 河の支流の名].
krumuka 男 (火口(°))より焰を移す爲の)木片.
Kruś, I. 他(自) krośati(-te) 叫ぶ, 呼ぶ; 歎く, 泣く; (瞋)を祈る; 叫, 責, 迷悶 *Buddh-c., Abh-vy.* 通受分 **kruśta** 罵られたる, 叱責せられたる (瞋) に對して叫べる, 叱責せる.
anu- 呼びかく, 叫ぶ. 便役 **anukrośaya-** 憐れむ, 同情す.
ā- 聲高に叫ぶ; 罵る, 叱責す, 呪ふ; 怒と罵言とを以て攻撃す, 挑戦す, 競ふ; 瞋; 能罵, 惡罵, 罵詈, 罵辱; 呵, 出惡言, 惡言譏, 誹謗, 陵辱誹謗 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh.* 女 所罵 *Bodh-bh.* 通受分 **ākruśta.**
praty-ā- [瞋と俱に] 疾呼し報す或は罵り報す; 報罵 *Kāśy., Bodh-bh.*
ud- [人稱の華と俱に] 聲高に叫ぶ; 呼びかく; 叫ぶ; 唱言, 讚歎 *Divy.*; 淚下 [現分 **utkrośat**] *Lal-v. 190.* 通受分 **utkruśta** 叫ぶ, 高聲に話す. 便役 **utkrośayati** 貢高, 高; 讚歎 *Aṣṭ-pr.:* ātmānam utkrośayati 貢高自大, 自高其身, 自讚歎 *Aṣṭ-pr. 811.*
upa- 憤激を示す, 叱る, 咎む. 通受分 **upakruśta** 叱られたる. 便役 **upakrośayati** 泣かしむ, 歎かしむ.
pra- 叫ぶ. 通受分 **prakruśta** 公に捧げられたる(食物).
prati- 謗, 毀, 毀謗, 謗毀 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr.*
vi- 叫ぶ, 聲高に叫ぶ; 大叫, 大喚; 罵, 出惡聲; 哭, 悲啼 *Divy., Lal-v., Śikṣ.* 通受分 **vikruśta** (一°)に反抗する.
sam- 騒ぎたつ.
kruśta 通受分 → Kruś.
Krūd, X. 他 krūdayati 濃厚にす.
krūra 形 傷つきたる; 痛き; 殘忍なる; 怖るべき, 怖しき; 寧惡なる; 粗き, 強き, 硬き; 邪; 酷; 逆; 兇惡; 好作惡事; 實 *Mañj-m., Mvyut.* 中 炎症, 出血, 傷; 粗暴, 慘忍.
krūra-karma-kṛt 形 殘忍なる行爲をなす. 男 猛獸.
krūra-karman 中 怖しき行爲; 難事業; 邪行 *Mañj-m.* 形 殘忍なる行爲をなす, 殘酷なる, 粗暴なる.
krūra-kṛt 形 [同上(形)].
krūra-ceṣṭita 形 殘忍に行動する.
krūratā 女 殘酷.
krūratva 中 [同上].
krūra-dṛś 形 怖しき眼を有する.
krūra-dṛṣṭi 女 怖しき眼指(°).
krūra-niścaya 形 殘忍なる決心をなせる.
krūra-buddhi 形 心の殘忍なる.
krūra-mānasa 形 [同上].
krūra-locana 男 [或る梟の名].
krūra-samācāra 形 殘忍なる或は粗野なる行動をな

す。
krūra-svabhāva 男 暴悪性 *Vajr-s.*
krūra-svara 形 怖しき聲を發する。
krūrākṣa 男 [或る梟の名]。
krūrācāra (°ra-āc°) 形 残忍なる行爲の。
krūrācāra-vihāravat 形 残忍なる行爲をなし且つ残忍なるを悦ぶ。
krūrāśaya (°ra-ās°) 形 怖るべき怪物を含む(河); 残忍なる心の。
krūri-Kṛ, 傷をつく。
kreñ-kāra 男 kreñ の音。
kretavya (未受分) 買はるべき。
kreṭṛ 男 購買者; 買者 *Sikṣ.*
kreya (未受分) 買はるべき。
Kroñc, 他 **kroñcati** (象の如く) 吼ゆ (*Divy.*).
kroñca 男 [= *krauñca*]; 雁, 鴻鶴 *Lal-v., Rāṣṭr.*
kroḍa 男 胸, 腰; 穴, 内部; 豚。
kroḍa-malla 男 乞食者(佛敎); 乞食人 *Divy.*
kroḍa-mallaka 男 [同上]; 乞食, 乞兒 *Divy.*
kroḍa-vāla 男 豚の剛毛。
krodāśya (°da-ās°) 形 豚の如き鼻を有する。
krodha 男 忿怒; 怒, 忿, 瞋, 恚, 瞋恚, 瞋怒, 瞋忿, 忿怒, 忿恨, 忿恚, 忿害, 恚怒, 瞋恨, 嫌恨, 瞋心 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Guhy-s., Sūtr., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-t., Bodh-c., Mvyut., 梵雜.*
krodha-cakṣus 甲 怒れる目。
krodha-citta 甲 嗔心 *Bodh-c.*
krodha-ja 形 憤怒より發せる。
krodhana 形 (怒)に對して激し易き, ……を怒れる。
 甲 憤怒; 瞋, 瞋恚, 瞋恨, 有忿者 *Saddh-p., Daś-bh., Rāṣṭr., Bodh-bh.*
krodhaniya 形 怒を發せしむる。
krodha-paryavasthāna 甲 忿纏 *Bodh-bh.*
krodhamaya 形 怒りを本性とする, 怒り易き。
krodha-mukha 形(女-i) 怒れる顔の。
krodha-mūrchita 形 憤怒によりて愚かとなれる, 怒り易き。
krodha-rāja 男 忿怒明王 *Guhy-s.*
krodha-rājan 男 忿怒明王 *Mañj-m.*
krodha-varjita 形 激怒より離脱せる, 穩かなる;
 無嗔 *Mañj-m.*
krodha-vaśa 男 忿怒の力; [惡靈の名]。
krodha-śatru 男 [或る Asura の名]。
krodha-hāsa 男 怒に満てる笑。
krodhāgni 男 忿怒の焰。 ~ *m Kṛ*, 烈火の如く怒る。
krodhābhibhūta 形 忿蔽者 *Bodh-bh.*
krodhālu 形 激し易き, 怒り易き。
krodhāviṣṭa (°dha-āv°) 形 瞋恚, 多起瞋恚, 多瞋恚者, 起瞋恚者 *Gand-vy.*
krodhāśaya (°dha-ās°) 男 忿恨意樂 *Bodh-bh.*
krodhin 形 怒れる, 激し易き。
krośa 男 叫喚, 叫び聲; 聽き得べき範圍(距離の單位); [距離の單位] 聲, 里, 十里, 一牛吼, 五百弓 *Divy., Aṣṭ-pr., Lank., Mvyut., 支應; 俱盧*

舍, 俱盧舍, 句盧舍, 拘樓除, 拘屢舍, 拘樓舍 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lank., Mvyut., 支應.*
krośana 形 叫ぶ。 甲 叫び。
krośamāna 現分 叫ぶ。
kroṣṭu 男 豺。
kroṣṭuka 男 [同上]; [人名]; 狐, 野干, 狐狼 *Saddh-p., Mañj-m., Mvyut.*
kroṣṭṛ 形 叫ぶ, 喚く; 歎く。 男 豺。
krauñca 男 [鳥の一種] 帝釋鳴(鳥); [*Kārttikeya* の劈開せる山の名]; [或る *Dvipa* の名]; 鶴, 鷄, 鳳凰, 穀祿鳥 *Sukh-vy. II., Mvyut., 梵干, 梵雜.* 甲 [毒の一種] [神話上の擲射武器の一種]; [種々の *Sāman* の稱]; [誦詠の一形式]; [坐法の一種]。
krauñca-niṣūdāna 男 [*Kārttikeya* の稱]。
krauñca-pādi 女 [地名]。
krauñca-mithuna 甲 *Krauñca* 鳥の一番(?)。
krauñca-randhra 甲 [*Kārttikeya* の劈開せる *Krauñca* 山の通路]。
krauñca-ripu 男 [*Kārttikeya* の稱]。
krauñcavat 男 *Krauñca* 山。
krauñca-vana 甲 [都市の名]。
krauñca-śatru 男 [*Kārttikeya* の稱]。
krauñcāranya 甲 [林の名]。
krauñcārūṇa 男 [陣形の一種]。
krauñci 女 雌の帝釋鳴(鳥); [*Tāmrā* の娘の名]。
krauñci-nirjāta 形 生從鶴, 鶴鳥生 *Abh-vy.*
krauḍa 形(女-i) 牡豚の, 豚に由來せる。
kraurya 甲 殘酷, 無情。
Klath, I. 他 **klathati** 廻る; 塊となる, 凝固す。
klathana 甲 凝固せしむること。
Kland, I. 自 **klandate** 鳴り響く, 反響す。
klānda 形 叫ぶ, 騒々しき。
Klam, IV. 他 **klāmyati**; I. 他 **klāmati** 疲る, 疲弊す, 衰ふ; 倦 *Bodh-bh.* (過受分) **klānta** 疲れたる, 疲弊せしめられたる; 枯れ凋める, 衰微せる; 細き, 薄き; 落膽せる。
pari- 甚しく疲勞も感ず。 (過受分) **pariklānta** 甚しく疲弊せる, 疲れ果てたる。
vi- 自 落膽す。
klama 男 疲勞, 疲憊, 倦怠; 疲, 倦, 倦, 疲倦, 勞倦; 枯槁; 乏; 困乏[病名]; 困憊 *Buddh-c., Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.*
klamatha 男 [同上]; 疲勞, 疲憊, 疲極, 疲困, 倦, 疲倦, 懶倦, 懶倦; 休憊; 苦; 乏; 懶; 劬; 苦行 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
klamatha-yoga 男 苦行 *Bodh-bl.*
klamāpaha 形 疲勞を消散する。
Klav, (過受分) **klavita** のみ] 口籠れる。
klānta (過受分) → *Klam.* 疲, 倦, 疲勞, 疲倦, 疲厭, 勞倦, 倦勞; 退屈 *Lal-v., Gand-vy., Suv-pr., Vin., Sikṣ., Bodh-bh.:* śrāntaḥ ~ 疲極, 倦怠 *Saddh-p. 187.*
klānta-manas 形 活氣なき, 元氣なき。
klānta-samjña 形 疲倦之想 *Rāṣṭr.*
klānti 女 疲勞, 倦怠, 疲憊。

Klid, IV. ㊦ **klidyati** 濡る; 腐敗す; ㊦ 漂 *Sikṣ.*

㊦ **klinna** 濡れたる, 濕潤なる; 腐敗せる; 柔かき, (心を)動かせる. ㊦ **klindat** 濡れたる, 滴る; 慈悲深き. ㊦ **kledayati** 濡らす, 濕はす; 不潔にす, 汚す. ㊦ **kledita** 汚されたる. **ā-** ㊦ **āklinna** (濡れたる)即ち慈悲に感動せる. ㊦ **ākledita** 同情せしめられたる(*Jāt-m.*). **sam-ā-** ㊦ **samāklinna** 濕潤せる, 濡れたる. ㊦ **samākledita** 同情せしめられたる(*Jāt-m.*).

pari- [=単純動詞].

pra- [同上]. ㊦ **praklinna** 濕れる, 濡れたる; 腐敗せる; 同情に動かされたる.

sam- ㊦ **samklinna** 全く濕へる; 柔かなる.

klindat ㊦ → **Klid.**

klinna ㊦ → **Klid.** ㊦ 曝露, 壞爛 *Lal-v., Sikṣ.*: ~āni vātātapa-varṣaiḥ 風雨曝露 *Sikṣ.* 209.

klinnaka ㊦ 少しく濕へる.

Kliś, IX. ㊦ **kliśnāti**; **IV.** ㊦ **kliśyati**. 悩ます, 苦しめしむ, 困らす, 煩はす; **IV.** ㊦ **kliśyate(-ti)** 困る, 悩む, 苦しむ; ㊦ (業)を苦しめしむ; 汚す; ㊦ 染, 雜染 *Lank.* ㊦ **kliṣṭa** 悩まされたる, 困らしめられたる, 苦しめられたる; 害はれたる, 消耗せしめられたる; 痛き; 悲惨なる; 無理なる, 不明瞭なる. ㊦ **kliśayati** [=単純動詞]. ㊦ **kliśita.**

pari- **IV.** ㊦ ㊦ 苦痛を蒙る; 悩まさる. ㊦ **parikliṣṭa** 悩まされたる, 心勞せしめられたる, 苦しめられたる; 弱き; **parikliṣṭam** ㊦ 厭ひ乍ら. ㊦ 悩ましむ.

sam-pra- **IX.** ㊦ ㊦ 捏る, 絞る.

sam- **IX.** ㊦ ㊦ 絞る [**samkliśya** 及び **samkliṣṭa** のみ]; 苦しめしむ, 悩す; ㊦ 染, 垢染, 染汚, 雜染, 垢膩 *Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Lank., Bodh-bh., Madhy-vibh.* ㊦ **samkliśyate** 汚さる. ㊦ **samkliṣṭa** 悩まされたる, 曇れる(鏡); 困難に縛せられたる; 傷つけられたる; 絞られたる.

kliṣṭa ㊦ → **Kliś.** ㊦ 染, 染汚, 雜染, 染濁, 習染, 有染汚; 垢穢, 垢濁, 濁穢; 不淨; 雜染(心), 煩勞, 煩惱, 具煩惱; 疲厭; 險難 *Gaṇḍ-vy., Lank., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.* ㊦ ㊦ 垢心, 染心 *Madhy-v. 454.*

kliṣṭa-karman ㊦ 苦難を以て事を爲す.

kliṣṭatva ㊦ (通路の)障礙.

kliṣṭa-dharma ㊦ ㊦ 染法, 染汚法; 惡法 *Bodh-bh.*

kliṣṭa-manas ㊦ ㊦ 染汚意; 煩惱意, 具煩惱意 *Mvyut.*

kliṣṭa-vṛtti ㊦ 憐むべき生涯を送れる.

kliṣṭa-sammoha ㊦ ㊦ 染無知, 染汚無明 *Abh-vy.*

kliṣṭa-hetu ㊦ ㊦ 染因 *Sūtr.*

klitaka ㊦ ㊦ 捏粉又は糊用として貯へられたる(穀物). ㊦ 捏粉, 糊.

kliba ㊦ 去勢せられたる, 無力の; 男らしからざる, 怠惰なる, 臆病なる, 小膽なる; 水氣なき(雲). ㊦

去勢者; 虛弱者, 臆病者. ㊦ 中性.

klibatā ㊦ 無力, 不能; 虛弱.

kleda ㊦ 濕潤, 濕氣, 濕度; 腐敗; 腫物よりの排出; ㊦ 臭壞; 爛, 爛壞, 臭爛, 慘爛 *Divy.*

kledan ㊦ 月(太陰).

kledana ㊦ 濕潤せしむる. ㊦ 濕潤.

kledana-bhāva ㊦ 濕潤せること.

kledanātmaka (°na-āt°) ㊦ ㊦ 爲爛壞, 爛諸物 *Lank.*

kledavat ㊦ 濕潤せる, 流るゝ.

kledita ㊦ ㊦ → **Klid.**

kledin ㊦ 濕潤せしむる; 濡れたる.

kleśa ㊦ 苦痛, 苦惱, 心痛, 病苦, 愁傷, 悲歎, 辛苦; ㊦ 煩惱, 根本煩惱; 惑, 本惑; 結; 結使, 結縛; 惱; 染; 塵勞 *Divy., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lank., Sūtr., Vijñ-t., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.*, 梵千.: catvāraḥ ~āḥ 四煩惱 [1. ātma-dṛṣṭi 我見, 2. ātma-moha 我癡, 3. ātma-māna 我慢, 4. ātma-sneha 我愛] *Vijñ-t. 28.*; ṣaṭ ~āḥ 六煩惱 [1. rāga 貪, 2. pratigha 瞋, 3. mūḍhi (moha) 癡, 4. māna 慢, 5. dṛṣ 惡見, 6. vicikitsā 疑] *Vijñ-t. 28.*; [1. rāga 貪, 2. pratigha 瞋, 3. avidyā 無見, 4. māna 慢, 5. vicikitsā 猶豫, 6. dṛṣṭi 見] *Mvyut.* → niḥ ~, niṣ ~.

kleśa-kara ㊦ ㊦ 染惱, 染汚 *Abh-vy.*

kleśa-kaṣāya ㊦ ㊦ 煩惱濁, 諸煩惱濁 *Saddh-p., Sukh-vy. II., Dharm-s., Mvyut.*

kleśa-kāntāra ㊦ ㊦ 煩惱惡道 *Saddh-p.*

kleśa-kārin ㊦ 苦しむる, 苦痛を起さしむる.

kleśa-kṣama ㊦ 苦痛に耐へ得る.

kleśa-channa ㊦ ㊦ 煩惱覆 *Sikṣ.*

kleśa-jāla ㊦ ㊦ 煩惱網 *Suv-pr., Lank.*

kleśa-jñeya ㊦ ㊦ 煩惱所知, 煩惱(障)智(障); (昏蒙) 煩惱及爾焰 *Lank., Bodh-bh.*

kleśajñeyāvaraṇa (°ya-āv°) ㊦ ㊦ 煩惱所知障 *Bodh-bh.*

kleśajñeyāvaraṇa-dvaya ㊦ ㊦ 二煩惱, 二種障 *Lank.*

kleśa-doṣa ㊦ ㊦ 煩惱, 煩惱過, 煩惱病 *Lank.*

kleśana ㊦ 嫌厭.

kleśa-pakṣa ㊦ ㊦ 煩惱品 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

kleśa-paṅka ㊦ ㊦ 煩惱泥 *Aṣṭ-pr.*

kleśa-parājita ㊦ ㊦ 煩惱著 *Sūtr.*

kleśa-pracuratā ㊦ ㊦ 煩惱熾盛 *Bodh-bh.*

kleśa-prahāṇa ㊦ ㊦ 煩惱斷, 斷(諸)煩惱 *Aṣṭ-pr.*

kleśa-bahula ㊦ ㊦ 煩惱多, 煩惱重 *Mvyut.*

kleśa-mala ㊦ ㊦ 煩惱垢 *Gaṇḍ-vy.*: vigata ~ eitta 離煩惱垢, 心淨離垢, 遠離(一切)諸煩惱垢 *Gaṇḍ-vy. 103.*

kleśa-mahā-bhūmika ㊦ ㊦ 惑大地, 惡大地, 大煩惱地, 大煩惱地(法) *Abh-vy., Mvyut.*: ṣaṭ ~ āḥ dharmāḥ 六大煩惱地法 [1. avidyā 無明, 2. pramādaḥ 放逸, 3. kausīdyam 懈怠, 4. āsraddhyam 不信, 5. styānam 憍沈, 6. auddhatyam 掉擧] *Mvyut.*

kleśa-māra ㊦ ㊦ 煩惱魔 *Saddh-p., Abh-vy., Dharm-s.*

kleśala 男 苦痛。
 kleśa-lakṣaṇa 甲 煩惱相 *Madhy-vibh.*
 kleśa-vaśa 男 煩惱力 *Sikṣ.*
 kleśavaśānanuyāyitā 女 不令(一切)煩惱自在, 不隨煩惱自在行性 *Bodh-bh.*
 kleśa-vāsanānusāyita (°nā-an°) 形 煩惱と習氣とに隨増せられたる (*Gaṇḍ-vy.*); 煩惱隨眠習氣 *Gaṇḍ-vy.*
 kleśa-vikirāṇa 甲 諸惑障 *Gaṇḍ-vy.*
 kleśa-vyākula-cetas 甲 煩惱亂心, 煩惱覆心 *Suv-pr., Sikṣ.*
 kleśa-śatru 男 煩惱賊 *Sikṣ.*
 kleśa-saṃkleśa 男 煩惱難, 煩惱染汚, 煩惱雜染 *Madhy-vibh.*
 kleśa-satya 甲 煩惱諦, 煩惱實 *Bodh-bh.*
 kleśa-saṃtāpa 男 諸結惱熱, 諸結熱惱, 煩惱火所燒 *Suv-pr., Sikṣ.*
 kleśa-samudra 男 煩惱海 *Suv-pr.*
 kleśa-svabhāvatva 甲 煩惱性, 煩惱自性, 煩惱體 *Madhy-v.*
 kleśāgni 男 煩惱焰 *Saddh-p.*
 kleśāgni-dāha 男 煩惱熾火, 煩惱熾然 *Suv-pr.*
 kleśānusāyita 形 樂煩惱, 煩惱隨眠, 煩惱所使 *Bodh-bh.*
 kleśāpaha 形 苦痛を鎮むる, 慰むる。
 kleśābhyāsa 男 習惑 *Sūtr.*
 kleśāvaraṇa (°śa-āv°) 甲 煩惱障 *Lāṅk., Bodh-bh., Vijñ-t., Madhy-vibh.*
 kleśāveśa (°śa-ā°) 男 爲煩惱所媚 *Bodh-bh.*
 kleśita 便役 通受分 苦しめられたる, 落膽せる。
 kleśin 形 苦痛を與ふる, 痛き, 悲しき; 傷つくる。
 kleśendhana (°śa-in°) 甲 煩惱薪 *Lāṅk.*
 kleśopakleśa (°śa-up°) 男 本隨惑, 本隨煩惱, 大惑及小惑, 煩惱隨煩惱, 根本煩惱少分煩惱 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*
 kleṣṭṛ 男 苦むる者。
 klaibya 甲 去勢, 男らしからざること; 臆病, 卑怯; 虛弱。
 klaivya 甲 [同上]。
 klomaka 男 [同下]; 肺 *Sikṣ., Mvyut.*
 kloman 男 (因), 甲 右肺。 男 肺。
 kloma-hṛdaya 甲 右肺と心臟。
 kva 副 [=ka の 因] 何處に, 何處へ [屢々 (不變辭) aha, id, iva, nu, khalu, svid 等にて強めらる]; ~ svid, [因調の 亦た] 何處かに; [BHū & As と俱に] …は如何になりしや=萬事終れり。
 ~ tad-gatam, そは如何に; [動詞を缺く時] そは問題外なり。
 ~……~, [不調和を示して] …と…とは雲泥の差あり, …と…との間には共通性なし。
 [api 又は cid と俱に =kasmin+api 又は cid] 何處かに, 或る場處に; 或る時, 曾て; 時々, 何時にても; [~ cid] 或; 誰; 有時, 有一時; 隨處, 一切處 *Saddh-p., Sapt-pr., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut.*
 ~ cana 何處, 是誰 *Mvyut.*
 ~ cit ~ cid, 此處彼處, 時々。

~cid……~cid, 此處にては……其處にては……; 時には……又た時には……
 ~api, ~cid, ~ca, ~cana [na と俱に] 何處にも……せず, 如何なる場合にも然らず, 決して……せず; [na ~cid] 都無 *Vajr-pr.:* na ~cid gataḥ 都無所去 *Vajr-pr. 44.;* [yatra が先行する時] 何處たるを問はず, 何時にても, 如何なる場合にも。
 kva-janman 形 何處にて生れたる。
 Kvaṇ, I. 他 kvaṇati 叫ぶ, 鳴く, 唸る(蜂等が); 音を發す; 奏す, 鳴らす(樂器を)。 通受分 kvaṇita 唸る(蜂等が)。 便役 kvaṇayati 音を發せしむ, 奏せしむ(樂器を); (因)を以て音を發す。
 kvaṇita 通受分 → Kvaṇ. 甲 音。
 kvaṇita-veṇu 形 笛を吹ける。
 Kvath, I. 自 kvathate 沸く, 沸かす, 煮ゆ, 煮る; 攪 *Divy.* 通受分 kvathita 沸かされたる, 煮られたる, 熱せられたる。 便役 kvāthayati 沸かす, 煮る; 煮, 煎, 熬 *Divy., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.* 便役 (不變分) kvāthaitvā 熬 *Mvyut.* 便役 現分 kvāthyamāna 被煮 *Abh-vy. ud.* 煮え上る(譬喩)。
 kvatha 男 煮汁, 精(°*)。
 kvathana 甲 沸騰, 煮沸。
 kvathita 通受分 → Kvath. 沸, 蒸, 熬煎 *Mvyut., 梵雜.*
 kva-nivāsa 形 何處に住する。
 kvayi 男 [鳥の一種]。
 k-vas-u 文法 [接尾 vas]。
 kva-stha 形 何處に存する或は見出さるゝ。
 kvācitka 形 (因-i) [kva-cid より] たゞ其處彼處に起る, 時々。
 kvāṇa 男 音, 響。
 kvātha 男 沸騰; 煎じ出すこと; 煎汁。
 kvāthayitavya 未受分 煮らるべき。
 kvip 文法 [單純語根に附加して形式的に使用せらるゝ假定的接尾音 v]。
 kṣa-kāra 男 (因) 乞叉字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ karma-niśānta-sāgara-kośa-vicayaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱乞叉 [二合] 字時能甚深入般若波羅蜜門名息諸業海出生智慧藏 *Gaṇḍ-vy. 449.;* (因) 差字 [五十字門の一]: ~e parikīrtiyamāne kṣana-paryantābhilāpya-sarva-dharma-śabdo niścarati sma 唱差字時出諸文字不能詮表一切法聲 *La'v. 148.*
 Kṣaṇ, → Kṣaṇ.
 kṣaṇa 男 [甲 一回のみ] 瞬間; 機會; 暇; 愉快なる瞬間; 祭; 時; 節; 暇, 有暇; 須臾, 須臾間; 念, 念念; (因) 刹那頃 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lāṅk., Kāśy., Sikṣ., Bodh-bh., Bodh-c.;* (因) 刹那 *Kāśy., Lāṅk., Mvyut., 梵雜, 支離.*
 ~m 副 束の間に, 忽ち, 一瞬に; tatas tat~m 於爾時即便, 於爾時如一念頃 *Suv-pr. 109.*
 ~ena 因, ~āt 因 忽ち, 直ちに; [~ena] 須臾 *Saddh-p.;* [一] 念念 *Bodh-bh.*
 ~e 因 刻々に。

～āt…～āt, 或る瞬間には…また他の瞬間には…
 ～m Kr, 一瞬間待つ; (男)に機会を與ふ。
 ～m Dā, (男)に機会を與ふ。
 ～m Labh, 機会を見出す。
kṣaṇa-koṭi-praviṣṭa 形 (音寫) 刹那能入俱胝劫, 一切劫悉爲一念際 *Gand-vy.*
kṣaṇa-kleśa 男 一瞬の苦痛。
kṣaṇa-janma-paramparā 女 (音寫) 念展轉生滅, 受生念遷謝 *Laṅk.*
kṣaṇa-dā 女 夜。
kṣaṇadā-kara 男 月(太陰)。
kṣaṇadā-kṛt 男 [同上]。
kṣaṇadā-cara 男 夜の歩行者, *Rākṣasa.*
kṣaṇa-drṣṭa-naṣṭa 形 忽ち現はれ忽ち消ゆる。
kṣaṇadeśa (°dā-īśa) 男 (夜の王), 月(太陰)。
kṣaṇana 用 損傷, 怪我。
kṣaṇa-paramparā-bheda-bhinna 形 (音寫) 刹那展轉壞, 刹那無常展轉差別 *Laṅk.*
kṣaṇa-prāpta 形 (音寫) 刹那暫遇 *Rāṣṭr.*
kṣaṇa-bhaṅga 男 不斷に進行する事物の壞廢, 不斷の交替(佛敎); (音寫) 念不住; (音寫) 刹那壞, 刹那滅 *Laṅk.*
kṣaṇabhaṅga-drṣṭa-naṣṭa-darśana 用 (音寫) 即見即滅, 見以即滅; (音寫) 刹那頃現現已即滅 *Laṅk.*
kṣaṇabhaṅga-vāda 男 *kṣaṇa-bhaṅga* の教義。
kṣaṇabhaṅga-vādin 形 *kṣaṇa-bhaṅga* を説く(者)。
kṣaṇa-bhaṅgin 形 直ちに崩壞する, 滅すべき。
kṣaṇa-bhaṅgura 形 (女-ā) [同上]; (音寫) 念念 *Bodh-bh.*
kṣaṇa-bhūta 形 瞬間の, 短命の。
kṣaṇa-bheda 男 (音寫) 念差別; (音寫) 刹那相 *Laṅk.*
kṣaṇa-mātra 用 唯一瞬間。～m 用 一瞬間のみ。～ena 用 忽ち。
kṣaṇa-ruci 男 輝き。
kṣaṇa-lava-muhūrta 用 (音寫) 一念頃 *Suv-pr:* *tasminn eva* ～e 於一念頃 *Suv-pr. 75.*
kṣaṇa-vighnita 形 一瞬間遮られたる。
kṣaṇa-vidhvamsin 形 忽ちに崩潰する。男 佛敎徒 [*kṣaṇa-vidhvamsa = kṣaṇa-bhaṅga* の論者]。
kṣaṇaśas 用 瞬時に; (音寫) (音寫) 隨刹那, 刹那差別 *Abh-vy.*
kṣaṇa-sampad 女 (音寫) 具足有暇; (音寫) 刹那具足 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*
kṣaṇa-stha 形 (音寫) (初)刹那, 住(初)刹那人 *Abh-vy.*
kṣaṇa-hina 形 喜悅なき。
kṣaṇāntara 用 一瞬間, 短時間。～e 用 暫時の後に, 直ちに, 其處に於て。
kṣaṇika 形(女-i) 瞬時の; 有閑の; 好機會を利用する; (音寫) 聊; (音寫) 刹那頃, 刹那住, 約刹那, 有利那 *Laṅk., Sūtr., Abh-k., Bodh-c., 梵千;* (音寫) 刹那滅 *Abh-vy.;* (音寫) 刹那, 刹尼迦 *Laṅk., Sūtr., Abh-k.*
kṣaṇikatā 女 [同上]。
kṣaṇikatva 用 [同上]。
kṣaṇika-drṣṭi 女 (音寫) 刹那見 *Laṅk.*

kṣaṇikadrṣṭi-vikalpa 男 (音寫) 刹那見妄想, 邪見(一切法)刹那不住, 分別起刹那見 *Laṅk.*
kṣaṇika-vāda 男 = *kṣaṇa-bhaṅga-vāda*; (音寫) 刹那論者 *Vijñ-v.*
kṣaṇikākṣaṇikatā 女 (音寫) 刹那非刹那 *Laṅk.*
kṣaṇikārtha 男 (音寫) 刹那義 *Laṅk.*
kṣaṇikāvāsika (°ka-āv°) 形 (音寫) 刹那而住 *Śikṣ.*
kṣaṇin 形 有閑の。
kṣata (過受分) → *Kṣan.* (音寫) 惱; 壞; 損, 所損, 傷損; 窮盡; 不淨 *Divy., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Śikṣ., Bodh-bh.* 用 傷, 負傷; 腫物; (音寫) 傷 梵雜。男 (音寫) [病の名] 肺瘡, 肺疔(?) *Mvyut.*
kṣata-kāsa 男 負傷に起因する咳。
kṣata-ja 形 傷害より生ずる。用 血。
kṣataja-pāta 男 出血。
kṣataja-ṣṭhivin 形 吐血する。
kṣata-puṇya-leśa 形 美德の積集を失へる。
kṣata-rohaṇa 用 傷の癒合又は全治。
kṣata-vṛtti 形 生計を失へる。
kṣata-vraṇa 男 傷より生ぜる腫物。
kṣatā 女 犯されたる少女。
kṣati 女 損失; 害, 損傷, 毀損, 破壞; 不利益; 過誤, 罪; (音寫) 害, 傷; 衰損; 動亂; 過罪, 行惡; 異心, 優劣心 *Divy., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.*
kṣatin 形 傷つける, 損傷せる。
kṣatimat 形 傷つける。
kṣatottha (°ta-ut°) 形 傷より生ずる。
kṣatodara (°ta-ud°) 男 不消化物による腸の損傷。
kṣatodbhava (°ta-ud°) 形 傷より生ずる。用 血。
kṣattṛ 男 分割者, 分配者(食物の); 侍從, 從者, 門衛, 御者; [種々の混合種姓(階級)の名]; [*Vidura* の名]。
kṣatra 用 (音寫及音寫) 政府, 統治權, 國力; 富; 當局; 武士(第二)種姓(階級); 第二種姓(階級)の人; (音寫) 國, 國土 *Lal-v.*
kṣatra-jāta 形 武士種姓(階級)に生れたる。
kṣatra-deva 男 [人名]。
kṣatra-dharma 男 武士種姓(階級)の義務; 勇氣, 軍隊の行爲。
kṣatra-dharman 形 武士種姓(階級)の義務を果す。
kṣatra-dhṛti 女 [*Rāja-sūya* 祭式の一部の名]。
kṣatra-pati 男 支配權の所有者。
kṣatra-bandhu 男 武士種姓(階級)の所屬者。
kṣatra-bhṛt 男 [同上]; 支配權を保持する。
kṣatra-yoni 形 = *kṣatra-jāta.*
kṣatra-rūpa 用 *Kṣatra* の性質。
kṣatravat 形 王の威嚴を賦與せられたる。
kṣatra-vidyā 女 武士種姓(階級)の學。
kṣatra-vṛddha 男 [王の名]。
kṣatra-vṛddhi 女 兵力の増大。
kṣatra-vṛdh 男 = *kṣatra-vṛddha.*
kṣatra-veda 男 武士種姓(階級)の *Veda.*
kṣatra-śri 女 主權者の名譽を有する。
kṣatra-sava 男 [或る供儀の名]。
kṣatrānvaya 形 武士種姓(階級)に屬する。

kṣatrāyataniya (°ra-āy°) 形 主權の力に基く。

kṣatriya 形 支配する, 主權を有する。男 支配者, 武士種姓(階級)の所屬者; 男; 帝, 王種, 君子, 土田主; (釋迦) 刹利之種 *Divy.*, *Mvyut.*, 梵千, 立應; (釋迦) 刹利, 刹帝利, 刹帝利 *Divy.*, *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Vajr-s.*, *Mvyut.*, 立應。甲 主權, 統治權。

kṣatriya-kumāra 男 武士種姓(階級)の人の子供。

kṣatriya-jāti 女 武士種姓(階級)。

kṣatriya-dimba 男 = kṣatriya-kumāra.

kṣatriyatā 女 武士種姓(階級)の位置。

kṣatriya-dharma 男 武士種姓(階級)の義務; 戰; 支配。

kṣatriya-parṣad 女 (釋迦) 刹帝利衆 *Bodh-bh.*

kṣatriya-potaka 男 = kṣatriya-kumāra.

kṣatriya-baṭu 男 [同上]。

kṣatriya-brahma-cārin 男 梵行を修する武士種姓(階級)の若者。

kṣatriya-bruva 形 自ら武士種姓(階級)なりと僭稱する。

kṣatriya-mardana 男 武士種姓(階級)を滅ぼす。

kṣatriya-mahā-sāla-kula 甲 (釋迦) 王種如沙羅大樹, (刹帝利大家種族) *Mvyut.*

kṣatriya-yajña 男 武士種姓(階級)の者の供儀。

kṣatriya-yoni 女 武士種姓(階級)の生活様式。

kṣatriya-haṇa 男 武士種姓(階級)を破壊する者。

kṣatriyāṇi 女 武士種姓(階級)の人の妻。

kṣatriyānta-kara 男 [*Paraśurāma* の稱]。

Kṣad, I. 自 **kṣadate** 切る, 切裂く, 分つ; 殺す; 肉を切る; 屠る; (食物を)分配す; 食事をなす。

kṣadman 甲 肉切庖丁。

Kṣan, VIII. 他 **kṣaṇoti** 傷つく, 害す; 破る; 自 **kṣaṇute** 怪我す, 負傷す; 敗 *Mvyut.*

(過受分) **kṣata** 傷つけられたる, 破られたる, 害せられたる; 破壊せられたる; 犯されたる。

upa- (過受分) **upakṣata** 傷つけられたる。

pari- (過受分) **parikṣata** [同上]; 殺されたる。

vi- (過受分) **vikṣata** [同上]。

kṣan, [GHas の 三過 三入 三]。

kṣantavya (未受分) [Kṣam] 赦さるべき。〜m 甲 非入 (從)に關して(屬)を赦すべきなり。

kṣantr 形 許可する, 忍耐する。

Kṣap, I. 他 自 **kṣapati(-te)** 禁欲又は苦行をなす。

kṣap 女 夜; [一晝夜に相應する時の單位]; 暗黒; 水。

kṣapaṇa 1. 男 (佛教又は耆那教の)乞食僧; [Samādhi の名] (*Kār-vy.*); 外道師 *Mvyut.* 甲 斷食, 苦行。

kṣapaṇa 2. 形 破壊する; 滅 *Mañj-m.* 甲 破壊, 減少, 鎮壓, 消費(時間の), 待つ事; 令盡 *Mvyut.*

kṣapaṇaka 男 乞食僧(特に裸形の耆那教徒)。

kṣapaṇika 男 漕手, 船頭。形 破壊する。

kṣapayati, [Kṣi 3. の 便後 三入 三]。

kṣapā 女 夜。

kṣapā-kara 男 月(太陰)。

kṣapā-kṛt 男 [同上]。

kṣapā-cara 男 夜の歩行者, Rākṣasa; 夜間活動する獸又は鳥。

kṣapā-jala 男 夜露。

kṣapātyaya (°pā-at°) 男 夜の終, 黎明。

kṣapā-nātha 男 月(太陰)。

kṣapāpaha (°pā-ap°) 男 太陽。

kṣapā-ramaṇa 男 月(太陰)。

kṣapāramaṇa-śekhara 男 [*Siva* 神の稱]。

kṣapārdha (°pā-ar°) 甲 夜半, 眞夜中。

kṣa-pāvat 男 (大地の守護者), 支配者, 主權者。

kṣapāvasāna (°pā-av°) 甲 夜の終。〜e 因 翌日に, 翌朝に。

kṣapā-vyapāya 男 = kṣapātyaya。

kṣapā-śaya 形 夜間に(一°)の上に眠る。

kṣapāha (°pā-aha°) 男 甲 (?) 晝夜。

kṣapita 便後 (過受分) → Kṣi 3. 所侵, 所侵惱 *Aṣṭ-pr.*

kṣapitavya (未受分) 消費せらるべき(時)。

kṣapeśa (°pā-iśa) 男 月(太陰)。

Kṣam, I. 自 (他) **kṣamate(-ti)**; (IV. 自 **kṣamyate**)

忍耐す; 怒を抑ふ; (屬)に服従す; 堪ふ, 忍ぶ; (屬, 屬)に對して(屬)を赦す; (屬)に(屬)を與ふ; (屬)を許容す; (屬)に寛大を示す; (不定)をなし得, 可能なり; 一致す, 適當なり (*Jāt-m.*); (屬)によしと見ゆ (*Divy.*); 忍, 能忍, 忍受, 堪忍, 修忍, 忍聽, 安忍, 能堪忍, 能忍受, 堪能忍受, 修行忍, 能修行忍, 勤修行忍 *Saddh-p.*, *Vin.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 信; 解, 知; 入 *Kāśy.*; 及, 能及; 爲勝 *Aṣṭ-pr.*; *Vajr-pr.*, *Daś-bh.*; 捨過 *Lal-v.*; *Saddh-p.*: na kṣamate 不及 *Daś-bh.* 181.; mama kṣamasva āśayenā 哀愍捨我過 *Lal-v.* 243.; mūlyena kṣamati 價直 *Saddh-p.* 406.; tri-sāhasrām mahā-sāhasrām loka-dhātum mūlyam kṣamate 價直三千大千世界 *Saddh-p.* 264. (過受分) **kṣānta** 忍耐する, 承認せられたる; **kṣamita** 赦されたる。便後 **kṣamaya-ti**, **kṣāmayate** (屬)に(屬)を赦免又は寛容せんことを乞ふ; 求謝, 懺謝, 起忍辱心 *Divy.*, *Sikṣ.* anu- 默認す, 承認す (*Jāt-m.*)。

kṣam 女 [屬 三 kṣām, 最弱 三 kṣm] 大地。

kṣama 形 辛抱強き; (一°)を忍耐する; (因, 因, 一°)の能力ある, ……をなし得る, ……に匹敵する; 耐ふる; (屬, 屬, 因, 不定, 一°); 受動の意味を有する動詞より派生せる名詞の後の 一°又は(不定)に適合する, ……に有益なる; ……に有利なる; 堪, 忍, 堪忍, 安忍, 忍辱; 良 *Lal-v.*, *Buddh-c.*, *Bodh-c.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*

kṣamaṇa 甲 堪忍 *Bodh-bh.*

kṣamaṇatā 女 忍, 忍知 *Lank.*

kṣamaṇa-śilatā 女 稟性能堪忍 *Bodh-bh.*

kṣamaṇiya (未受分) 忍耐せらるべき, 承認せらるべき; 忍, 可忍, 堪忍 *Saddh-p.*, *Vin.*

kṣamatā 女 (因, 一°)に對する能力又は才能。

kṣamatva 甲 [同上]; 能, 堪能 *Abh-vy.*

kṣamavat 形 何が適當し或は正しきやを知れる。

kṣamā 女 忍耐, 寛容; (因, prati)に對する寛大; 柔順; 大地; 忍, 忍辱, 安忍, 能忍 *Buddh-c.*,

Lal-v., Sūtr., Bodh.-bh., Madhy-vibh., Vajr-s.; 懺立應; 地, 國土 *Lal-v.*, 梵雜, [池の名] 安隱, 安樂 *Aṣṭ-pr.*; (音寫) 又磨 立應.

kṣamā-cara 形 地中又は地下にある.

kṣamā-tala 甲 地表.

kṣamānvita (°mā-an°) 形 忍耐する, 寛大なる.

kṣamāpaṇa 甲 赦免を乞ふこと; (漢譯) 懺謝 *Siks.*

kṣamā-pati 男 王.

kṣamāpaya (名動) 他 自 **kṣamāpayati(-te)** (業) の 赦しを乞ふ.

kṣamāpita (過受分) (漢譯) 悔 *Divy.*: sā tenātyayam aty. yato ~ā 彼はそれを甚しく悔いたり (*Divy.* 5.).

kṣamā-bhṛt 男 山; 王.

kṣamā-maṇḍala 甲 全世界, 全大地

kṣamā-lingātma-piḍāvat (°ga-āt°) 形 (法譯) 寛容の證明と自己の損失とが示されたる.

kṣamāvat 形 忍耐する, 寛大なる, 辛抱する; 同情する; 馴れたる(象).

kṣamā-śipha 形 能く堪ふる細根を有する(菩提樹) (*Buddh-c.*).

kṣamā-śila 形 =kṣamāvat.

kṣamita (過受分) → **Kṣam**; (漢譯) 令和順 *Divy.*

kṣamitavya (未受分) 冷靜に恕せらるべき, 承認せらるべき; (漢譯) 所忍 *Sūtr*

kṣamitr 形 =kṣamāvat; (漢譯) 安忍 *Bodh.-bh.*

kṣamitva 甲 (漢譯) 堪忍 *Bodh.-bh.*

kṣamin 形 (因)に對し忍耐する, ……に對し寛大なる, ……に對し辛抱する; (漢譯) 忍, 行忍, 忍辱, 能行忍 *Rāṣṭr., Siks., Bodh.-bh.*

kṣami-BHū, (爲)を爲し得るに至る.

kṣamuda 男 (音寫) (音寫) [數の名] 懺暮陀 *Mvyut.*

kṣamottamā (°ma-ut°) 女 (漢譯) [池の名] 具安, 妙樂, 多安隱 *Aṣṭ-pr.*

kṣampaṇa 甲 (漢譯) 流星石 *Mvyut.*

kṣamya 形 地上の, 地中の.

kṣaya 1. 形 住する, 居住する. 男 住居, 家, 席; 種族, 人民

kṣaya 2. 男 減少; 價值低減; 衰微, 喪失, 破壊; 終末; 肺疾; (因) [「行く」の意味の動詞と俱に即ち ~m Gam, ~m Yā, ~m I, ~m upa-I] 減ず, 終る, 失ふ, 滅す, 死す; (漢譯) 盡, 竭盡, 滅盡; 滅, 滅除, 磨滅, 滅滅; 斷; 竭; 失; 離, 銷散 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lan̄k., Siks., Bodh.-bh., Sūtr., Abh.-vy., Madhy-v., Sāmkhy-k., Bodh-c., Mvyut.* → a~, āya~.

kṣaya-kara 形 (一°)を破壊する, 滅ぼす; (漢譯) 盡 *Lan̄k.*

kṣaya-kartṛ 形 [同上].

kṣaya-kṛt 形 [同上].

kṣayam-kara 形 (因-i) [因]と俱に或は一° 衰微を招く, 破壊する, 滅ぼす. 男 (漢譯) 盡, 淨除 *Suv-pr.*

kṣayam-gata 形 (漢譯) 欲滅 *Siks.*: dharma dharitva ~kāle 法欲滅時 *Siks.* 337.

kṣaya-ja 形 肺病より來れる(咳).

kṣaya-jñāna 甲 (漢譯) 盡智, 知盡 *Lan̄k., Abh.-vy.,*

Mvyut.

-kṣayaṇa 1. 形 破壊する.

kṣayaṇa 2. 形 住すべき. 男 灣, 港. 甲 住處.

kṣaya-divasa 男 (世界)破滅の日.

kṣaya-dharmaka 男 (漢譯) 盡法, 物盡 *Bodh.-bh.*: ~sya kṣayaḥ 盡法盡 *Bodh.-bh.* 193.

kṣaya-pakṣa 男 月の虧け行く十四日.

kṣaya-pravṛtta 形 =kṣaya-ja.

kṣayayitavya (未受分) 破壊せらるべき.

kṣaya-yukta 形 滅ぼされたる, 墜落せる.

kṣaya-yukti 女 壞滅, 破滅.

kṣaya-roga 男 肺病.

kṣaya-rogitva 甲 肺病, 消耗.

kṣaya-rogin 形 肺病の, 消耗する.

kṣaya-vyādhi 男 (漢譯) 膏病, 消渴病 *Mvyut.*

kṣayānutpāda-jñāna 甲 (漢譯) 盡無生智 *Abh.-vy.*

kṣayānta 形 (漢譯) 消散, 滅盡 *Divy., Saddh-p.*

kṣayānta-kāla 男 (漢譯) 滅盡時 *Saddh-p.*

kṣayāpagata 男 (漢譯) [Samādhiの名] 離盡 *Mvyut.*

kṣayārtham 副 (漢譯) 能竭 *Gaṇḍ-vy.*

kṣayika 形 肺病の.

kṣayita (使役) (過受分) → **Kṣi** 3.

kṣayitā 女 絶滅; 變易性.

kṣayitva 甲 [同上].

kṣayin 形 減少する; 移り變る; 消耗する; 死する; 肺病の.

kṣayīṣṇu 形 移り變る; 破滅の; 死する.

Kṣar, I. 他 (自) **kṣarati(-te)** 流る; 經過す, 滅ぶ; 注ぐ, 放出す, 生ず; 流れ出す; 豊富に出す. (使役) **kṣārayati** 流れしむ, 放出せしむ. **ati-** 貫流す, 氾濫す. **abhy-ati-** 横切りて流る; (業)へ流れ出す. **ava-** 撒布す. (使役) (業)に流れ下らしむ. **ā-** (使役) **ākṣārayati** 誹る, 中傷す, 責む. **upa-** (業)へ流る; 注ぐ.

kṣara 形 過ぎ去る, 消滅する, 變り易き; (漢譯) 窮盡 *Siks.*

kṣaraka 形 (因-ka) (一°)に注ぐ.

kṣaraṇa 甲 流出; 噴出; 注ぐこと.

kṣarātmaka (°ra-āt°) 形 滅すべき, 死すべき.

Kṣal, X. 他 **kṣālayati** 洗ふ; 清潔にす, 清淨にす, 除去す. (過受分) **kṣālita** 洗はれたる, 淨められたる.

pra- 洗ふ, 洗ひ去る; 清潔にす; (漢譯) 洗, 浣 *Lal-v., Vajr-pr., Siks.* (過受分) **prakṣālita** 洗はれたる, 淨められたる; 償はれたる. (使役) **prakṣālāpayate** 洗はしむ.

abhi-pra- 清潔にす.

vi- 洗ひ去る. (過受分) **vikṣālita** 洗ひ去られたる, 沐浴せる.

kṣālita (過受分) [=kṣālita 刊本は valita]; (漢譯) 離垢 [*Tib. sbyaṅs-pa*] *Gaṇḍ-vy.* 404.

kṣava 男 噴嚏すること, 噴嚏.

kṣavathu 男 [同上].

Kṣā, → **Kṣai**.

kṣā 女 大地; 住居.

kṣāti ㊦ [Kṣai] 焦がすこと, 熱.

kṣātra ㊦(㊦-い) 武士種姓(階級)に特有なる或は屬する. ㊦ 王者の威嚴.

kṣānta ㊦(過受分) → Kṣam. ㊦ 忍 *Saddh-p.* ㊦ 忍耐, 寛容.

kṣānti ㊦ [同上(㊦)]; ㊦ 忍, 忍辱, 安忍, 堪忍, 能堪忍, 和忍, 忍加行 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Vajr-pr.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Rāstr.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lāṅk.*, *Sikṣ.*, *Sū.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, 梵雜.; 嫌謗(?) *Divy.*; ㊦ 提 *Divy.*: [㊦ と俱に] ~m grhnāti 起嫌謗 *Divy. 492.*; *anutpattikeṣu dharmeṣu* ~h 無生法忍 *Aṣṭ-pr. 644.*

kṣāntika ㊦ ㊦ 忍 *Sapt-pr.*, *Bodh-bh.*

kṣānti-pāramitā ㊦ ㊦ 忍到彼岸; (㊦) 忍波羅蜜, 忍波羅蜜多, 安忍波羅蜜多, 忍辱波羅蜜多 *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; ㊦ 提波羅蜜 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lāṅk.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

kṣānti-pratilabdha ㊦ ㊦ 得(大)忍辱, (大)忍成就 *Rāstr.*

kṣānti-priyā ㊦ [或る Gandharva の少女の名] (*Kār-vy.*).

kṣānti-bala ㊦ ㊦ 忍力, 忍辱力, 具忍辱力 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*

kṣāntimat ㊦ 忍耐する, 寛容なる.

kṣānti-mukha ㊦ ㊦ 忍門, 堪忍門, 安忍門 *Gaṇḍ-vy.*

kṣānti-rata ㊦ ㊦ 行忍辱 *Rāstr.*

kṣānti-varṇa-vādin ㊦ 忍耐の美點を説く (*Jāt-m.*).

kṣānti-vādin ㊦ [同上] (*Jāt-m.*). ㊦ ㊦ [聖仙の名] 忍語, 自號忍辱 *Vajr-pr.*

kṣānti-viyūha ㊦ ㊦ [*kṣānti-vyūha*]; ㊦ 忍嚴 *Sikṣ. 337.*

kṣānti-śīla ㊦ [人名].

kṣānti-samatā-pratilabdha ㊦ ㊦ 已得忍平等性, 以忍辱得平等 *Mvyut.*

kṣānti-sāra-ḍḍha-varṇa-varmita ㊦ ㊦ 身被忍辱甲, 忍鎧莊嚴身, 身被最勝(堅牢)忍辱甲 *Gaṇḍ-vy.*

kṣānti-sauratya ㊦ ㊦ 柔和忍辱, 柔和忍順 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*

kṣānti-bala ㊦ [=kṣānti-bala]; ㊦ 忍辱力, 忍辱大力 *Saddh-p.*

kṣānti-anutpatti ㊦ ㊦ 無生忍 *Lāṅk.*

kṣāma ㊦ [Kṣai] 表面を焼かれたる, 焦がされたる, 焼けて炭となる; 炒られたる; 干上れる; 瘦せ衰へたる, 細き, 薄き, 弱き, 僅の, 些々たる.

kṣāma-kukṣitā ㊦ 細き腰を有すること (*Dharm-s.*).

kṣāma-kṣāma ㊦ 全く瘦せ衰へたる; ㊦ 漸漸微, 漸漸減 *Abh-vy.*

kṣāman ㊦ 大地, 土地.

kṣāmavat ㊦ 焼きて炭となれる, 黒焦げの.

kṣāmāṅga ㊦(㊦-い) 身體の瘦せたる.

kṣāmi-Kṛ, 短縮す.

kṣāmodara (°ma-ud°), → *cāpodara*.

kṣāra ㊦ 腐蝕性の, 刺戟性の, 鹽分ある; 鋭き, 身を切る(風); ㊦ 鹽水(海), 鹹, 煨 *Sikṣ.*, *Dharm-s.*, 梵千. ㊦ (稀に ㊦) 可燃性又は腐蝕性の物質; 硝石, 苛性加里等; ㊦ 烈灰汁 *Abh-vy.* → *ṭaṅgaṇa* ~.

kṣāraka ㊦ 捕鳥網; アルカリ.

kṣāraka-jāta ㊦ 發芽中の; ㊦ 將開 *Mvyut.*

kṣāra-kardama ㊦ [或る地獄の名].

kṣāra-kṛtya ㊦ 腐蝕性のアルカリを以て處理せらるゝ.

kṣāra-kṣata ㊦ 硝石にて侵蝕せられたる.

kṣāra-kṣiṇa ㊦ [同上].

kṣāra-kṣiṇatā ㊦ [同上 ㊦].

kṣāra-tantra ㊦ 腐蝕法.

kṣāra-nadi ㊦ [或る地獄の河の名]; ㊦ 鹹河 *Sikṣ.*

kṣāranadi-taraṅgiṇi ㊦ ㊦ 鹹河 *Sikṣ.*

kṣāra-pāta ㊦ 苦き醫藥の服用.

kṣāra-pāniya ㊦ ㊦ 灰水 ㊦; ㊦ 差羅波尼, 又 羅波膩, 識羅半尼 ㊦.

kṣāra-mṛttikā ㊦ 鹽分ある土.

kṣārayitr ㊦ 流れしむる.

kṣāra-lavaṇa ㊦(㊦) 腐蝕劑と鹽分.

kṣāra-samudra ㊦ 鹹海.

kṣārākṣa ㊦ 硝子製の義眼を有する.

kṣārāmbu ㊦ 苛性汁又は液.

kṣārīta ㊦ 誹謗せられたる, 罪を負はされたる(特に姦通の), 罪(㊦, ㊦)を告發せられたる.

kṣāroda (°ra-uda) ㊦ 鹹海.

kṣārodaka (°ra-ud°) ㊦ 苛性汁又は液.

kṣāla ㊦ 洗滌.

kṣālana ㊦ [同上]. ㊦ 洗ふ, 拭ひ去る [亦た ㊦]; 水にて淨むる.

kṣālita ㊦(過受分) → *Kṣal.*

Kṣi 1., (㊦) ㊦ II. **kṣeti**; IV. **kṣiyati** 留る, 滯在す; 住む; 残る, 平靜にす; 行く, 動く. ㊦ **kṣayayati**, **kṣepayati** 安住せしむ, 平和にす. ㊦(不定) **kṣepitum** ㊦(上)生 *Lal-v.*

ādhi- ……に或は近くに留る, ……の上に憩ふ; (㊦, ㊦)に瀾漫す.

upa- (㊦)の近くに留る或は住す, ……を離れず, 固守す [亦た ㊦]. ㊦ **upakṣit** 近くに住する; 執著する.

pari- (㊦)の周圍に住す.

sam- (㊦)と共に住す.

Kṣi 2., I. ㊦ **kṣayati** (㊦)を所有す, ……を支配す, ……を統治す, 主となる(㊦).

Kṣi 3., IX. ㊦ **kṣiṇāti** (㊦); V. **kṣiṇoti**; I. **kṣayati** (㊦). 破壊す, 滅ぼす; (㊦)を終らしむ; 傷つく, 殺す; 壓迫す; ㊦ 終; 斷; 失; 破壊; 盡, 滅盡, 滅盡 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Lāṅk.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.* ㊦

kṣiyate 滅ず, 虧く; 過す(夜を); 止む; 盡くす; 消失す, 滅す, 死す; ㊦ 消; 失, 迷失; 窮盡, 滅盡, 盡滅 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*; ㊦ **kṣiyamāṇa** ㊦ 消 *Lal-v.* ㊦(過受分) **kṣita** 盡きたる, 衰へたる; 弱められたる, 哀れなる; **kṣiṇa** 滅ぜる, 虧けたる(月); 失はれたる, 盡きたる, 終れる; 微かなる; 弱き, 薄き, 瘦せたる; 貧弱なる; 哀れなる;

破られたる, 傷つけられたる。〔便役〕 **kṣayayati**, **kṣapayati(-te)** 破壊す, 滅ぼす; (業)を終らしむ; 移す, 消散せしむ; 瘦せ衰へしむ, 弱む; 過す(時を); 〔義〕 盡, 能盡; 可盡, 窮盡, 盡極; 令消歇; 滅, 消滅; 捨離 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sikṣ* 〔便役〕 (通受分) **kṣayita**, **kṣapita** 破壊せられたる, 滅ぼされたる, 減少せる, 鎮壓せられたる。

pari- 破壊す。〔因〕 **parikṣiyate** 困窮す, 零落す。 (通受分) **parikṣiṇa** 消失せる; 盡きたる; 消耗せる, 貧窮せる; 滅せる; (因)に弱き; (一)の缺乏せる。

pra- 破壊す; 損す, 盡くす; 〔義〕 盡, 滅盡 *Aṣṭ-pr.* 〔因〕 **prakṣiyate** 滅す, 破壊せらる。 (通受分) **prakṣiṇa** 破壊せられたる, 盡きたる, 消失せる。

sam- 全く破壊す, 絶滅す。〔因〕 **samkṣiyate** 終る, 破壊せらる, 消失す。〔便役〕 **samkṣapayati** 消失せしむ, 破壊す。

kṣit 1. (現分) (一)の居住者なる。
kṣit 2. (現分) (一)の支配者なる。
kṣit 3. (現分) 〔義〕 滅 *Abh-vy.*
kṣita (通受分) → Kṣi 3.
kṣiti 1. 〔因〕 住處, 居處, 家; 大地, 土地; 〔義〕 地 *Lank.*, *Mañj-m.*; 〔因〕 種族, 人種, 人民, 人類; 地所。
kṣiti 2. 〔因〕 破壊, 滅亡。
kṣiti-kampa 〔因〕 地震。
kṣiti-kṣamāvat 〔因〕 大地の如く耐へる。
kṣiti-kṣit 〔因〕 王, 王侯。
kṣiti-kṣoda 〔因〕 地の塵, 土塵。
kṣiti-garbha 〔因〕 〔菩薩の名〕 地藏 *Mvyut.*
kṣitigarbha-sūtra 〔因〕 〔經名〕 地藏經, 地藏十輪經 *Sikṣ.* [大方廣十輪經, 大乘大集地藏十輪經]。
kṣiti-calana 〔因〕 = kṣiti-kampa。
kṣiti-ja 〔因〕 地より生じたる。〔因〕 樹; [火星の稱]。〔因〕 地平線。
kṣiti-tanaya 〔因〕 [火星の稱]。
kṣiti-tala 〔因〕 大地の表面; 〔義〕 地 *Lal-v.*
kṣititala-paras 〔因〕 地上に常宿する *Apsaras.*
kṣiti-deva 〔因〕 [婆羅門の稱]。
kṣiti-devatā 〔因〕 [同上]。
kṣiti-dhara 〔因〕 山。
kṣiti-dhārin 〔因〕 大地を支ふる。
kṣiti-dhenu 〔因〕 牝牛と見做されたる大地。
kṣiti-pa 〔因〕 王。
kṣiti-pati 〔因〕 [同上]; 〔義〕 世王 *Lal-v.*
kṣiti-pāla 〔因〕 [同上]。
kṣiti-puru-hūta 〔因〕 [同上]。
kṣiti-bhartr 〔因〕 [同上]。
kṣiti-bhuj 〔因〕 [同上]。
kṣiti-bhrt 〔因〕 山; 王。
kṣiti-bhrttā 〔因〕 王たること, 主權。
kṣiti-rasa 〔因〕 大地の液汁又は精髓。
kṣiti-ruh 〔因〕 樹。
kṣiti-ruha 〔因〕 [同上]。
kṣiti-lava-bhuj 〔因〕 小王侯。
kṣiti-vṛttimat 〔因〕 大地の如く耐へる。

kṣitiśa 〔因〕 [音聲, =kṣitiśa]; 〔義〕 王 *Rāṣṭr. 45.*
kṣiti-śaci-pati 〔因〕 王。
kṣiti-śata-kratu 〔因〕 [同上]。
kṣiti-suta 〔因〕 火星。
kṣiti-sprś 〔因〕 地上の棲息者。
kṣitindra 〔因〕 王。
kṣitiśa (°ti-īśa) 〔因〕 [同上]。
kṣitiśvara (°ti-īś°) 〔因〕 [同上]; 〔義〕 地主 *Sikṣ.*
ity-adhipa 〔因〕 [同上]。
kṣity-uraga 〔因〕 〔義〕 地蛇 *Suv-pr.*: ~ś ca s lil-oragaś ca 地水二蛇 *Suv-pr. 51.*
kṣitvan 〔因〕 風。
Kṣip, VI. 〔因〕 〔自〕 **kṣipati(-te)** 投ぐ, 擲つ, 送る, 派遣す; (因, 因, 因, upari)に對して放出す; 迅速に動く(手足); (言葉)を發す; (思想又は癡視)を向ける; (武器にて)打つ; (因)に撒布す, ……へ注ぐ, ……に挿す; 下す; 放擲す; 棄つ; (因)に責を負はしむ; ……を罵る, 辱しむ, 嘲る, 責む; 破壊す, 滅ぼす, 失ふ; (時を)過す, (時を)待つ; 〔義〕 散, 擲散; 懸擲, 擲置; 射; 發 *Divy.*, *Av-ś.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*; 往, 至 *Aṣṭ-pr.*; 訶責, 謗, 毀謗, 誹謗, 譏侮, 譏笑, 生譏謗 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Vin.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*; 破 *Saddh-p.*: anyad deśāntaram kṣepiyate 欲往他方 *Aṣṭ-pr. 515.*; dharmam kṣipi (=kṣipeyuh) 破法 *Saddh-p. 55.* 〔因〕 **kṣipyate** 〔義〕 狂, 被所漂 *Divy.*, *Abh-vy.* (通受分) **kṣipta** 投げられたる, 送られたる, 派遣せられたる, 放逐せられたる。〔便役〕 **kṣepayati** (antar)に投ぜしむ; (因)に下らしむ; (夜を)過す; 裂く, 傷つく; 〔義〕 壞, 消盡 *Vajr-pr.*, *Sikṣ.*
adhi- 擲射す, 罵る, 侮辱す, 嘲る, 怒らす, 愚弄す。
abhi- (輿にて)強打す; 超ゆ, 勝る。
ava- 投げ落す, 飛ばしむ; (因)に投ぐ; 罵る; 承認す, 許容す。〔便役〕 落下せしむ。
ā- (因)に投げかく; (因)に投げつく; 岸へ打ち上ぐ(波); (因)を以て(因)に觸る; 曳き去る, 運び去る; (因)より奪ひ去る或は引き去る; 撤回す; 強奪す; 惹きつく(塵), 吸収す; (因)より放逐す; (因)に入れる; 言及す, 指示す; (因)に抗議をなす; 挑戦す; 叱責す; 侮辱す; 生ず, 果たす; 〔義〕 引, 引取, 引接; 植, 種植 *Abh-vy.* 〔因〕 **ākṣipyate** 〔義〕 植, 引 *Abh-vy.* (通受分) **ākṣipta**。〔便役〕 **ākṣepayati** 投げ落さしむ; 〔義〕 起 *Sapt-pr.*
pary-ā- (因)にて絡む, ……にて巻く。
vy-ā- (手等を)伸ばす, ……を伸ばす; (矢を)射出す; 運び去る, 魅惑す。〔義〕 **vyākṣipta** 伸ばされたる等; 満ちたる。
sam-ā- 集む; 積み上ぐ; 投げやる, 送る; 激動す; 發言す; 追放す; 除去す, 引く; 破壊す; 侮辱す, 嘲る; 示す, 暗示す。 (通受分) **samākṣipta** 集められたる, 積まれたる; 投げやられたる。
ud- 投げ上ぐ, 擧ぐ, 立つ; 置く; 投げ去る, 放棄す, 放逐す; 嘔吐す; 〔義〕 擧, 擎, 按, 置高勝處; 取, 擧取 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, 梵; 擯斥 *Divy.* 〔因〕 **utkṣipyate** 〔義〕 堅固 *Aṣṭ-pr.*: utkṣipyate 'rasidati 或時堅固或時退失 *Aṣṭ-pr. 584.* (通受分) **utkṣipta**

投げ上げられたる, 擧げられたる等。〔使役〕(不変分)
utkṣepya 〔使役〕刺 *Suv-pr.* 192.
abhy-ud- 〔使役〕擧, 收, 除去 *Lal-v., Śikṣ.*
sam-ud- 投げ上ぐ, 擧ぐ; (従)より解放す。
upa- 投げつく, 擲つ; 暗示す, 諷刺す; 話す, 述べ, 解釋す; (仕事を)始む。
ni- 投げ倒す; (因, upari) に投げ上ぐ, (因)へ下す, ……に置く; (因, -tas に終る 圃) を凝視す; 棄つ, 斷念す; (業)を(因)に讓渡す, ……に引き渡す, ……に委ぬ; 授く; (因)に指定す或は命ず; 數字を記す, 計算す; 〔使役〕下; 放; 安; 置, 擲置; 藏護 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Mvyut.*: parindāmy anuparindāmi nikṣipāmy upanikṣipāmi 付囑 *Saddh-p.* 484. 〔過受分〕**nikṣipta** 投げ上げ或は下ろされたる等; 寄托せられたる, 低當にせられたる; 拒絶せられたる, 棄てられたる, 放逐せられたる; (一)に傾ける。〔使役〕記せしむ。
upa-ni- 投げ下す, 下す。→ ni-Kṣip.
sam-upa-ni- 〔使役〕下, 著 *Saddh-p.*
vi-ni- 投げ倒す, 下す, 挿入す; (因)に心 (manas) を決す; (因)に任命す; 寄托す, 委ぬ; 〔使役〕擲 *Bodh-c.* 〔過受分〕**vinikṣipta** (一)に置かれたる。
pari- (遠方へ)投ぐ; (因)に投ぐ・置く或は固定す; 捲く; 圍む; 抱く。〔過受分〕**parikṣipta** 投げられたる, 撒かれたる; 圍まれたる; 擴がれる。
pra- (因)に擲つ, ……に投ぐ, ……へ置く; 前に置く; 下ろす; 加ふ; 挿入す, 記入す; 〔使役〕投, 擲, 擲置; 置; 著; 取, 收取; 墮; 捨; 盛 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh.* 〔過受分〕**prakṣipta** 投げられたる, 投げ出されたる; 挿入せられたる, 記入せられたる。〔使役〕**prakṣepayati** (因)に投入せしむ。
prati- (因)へ投ぐ; 害ふ, 傷つく, 抵抗す; 却下す, 拒絶す; 咎む; 賤しむ, 嘲る; 辯駁す; 〔使役〕遣, 捨, 捨離, 遠離 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*; 逆, 背, 違, 違逆, 違拒, 拒逆; 毀, 毀謗, 謗, 誹謗, 生誹謗, 誹謗毀些, 違背毀謗, 誹謗拒逆 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sam-r., Kāśy., Śikṣ., Bodh-bh.*: pratikṣepsyanti pratibādhisyante 毀, 拒逆 *Saddh-p.* 183. 〔因〕〔使役〕入, 著 *Daś-bh.* 〔過受分〕**pratikṣipta** 投げ入れられたる等。
vi- 投げ散らす, 此處彼處に投ぐ, 散亂せしむ; 取扱ふ; 惑亂せしむ; 移す, 破壊す; 伸ばす, 擴ぐ; (弓弦を)引く; 〔使役〕舒; 散, 作散, 作亂; 輕易; 沮壞共心 *Aṣṭ-pr., Kāśy., Mvyut.* 〔過受分〕**vikṣipta** 惱亂せる。
ati-vi- (弓を)餘りに強く引き絞る。
pra-vi- 〔過受分〕**pravikṣipta** 心の動搖せる。
sam- 集む, 積み上ぐ; 壓縮す, 切詰む, 減ず; 破壊す; 〔使役〕集, 作集; 略; 斂 *Aṣṭ-pr., Sūtr., Mvyut.* 〔因〕**samkṣipyate** 集めらる, 壓縮せらる, 減ぜらる。〔過受分〕**samkṣipta** 縮められたる, 凝結せる; 狭き; 短き, 簡明なる。
abhi-sam- 壓縮す; 〔使役〕收; 集, 合集; 卷; 略, 略爲; 總攝 *Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*: aikadhyam abhisamkṣipya 總, 略爲一聚 *Bodh-bh.* 185.
kṣip 〔因〕〔圃〕のみ] 指。

kṣipā 〔因〕〔圃〕のみ] [同上].
kṣipta 〔過受分〕→ Kṣip. 〔使役〕射; 擲, 開擲; 放, 放(箭); 所散; 亂; 亂, 狂亂; 住; 飄墮 *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Lank., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.* 〔圃〕(射られたる)傷。
kṣipta-citta 〔圃〕惱亂せる; 〔使役〕狂, 心亂, 心狂亂, 心迷惑, 心慌亂 *Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
kṣipta-cittatā 〔因〕放心。
kṣipta-bheṣaja 〔圃〕(因-i) 擲射武器による負傷を治療する。
kṣipta-yoni 〔圃〕卑しき生れの。
kṣipra 〔圃〕彈力ある(弓); 敏捷なる, 急速なる, 速き; 〔使役〕速, 急, 疾 *Saddh-p., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., 梵千.* ~m 〔圃〕速かに, 直接, 直ちに; 〔使役〕速, 疾, 速疾; 不久; 應時 *Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Sam-r., Prāt-m., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.* 〔圃〕 = ~m
kṣipra-kāma 〔圃〕速かに得んと欲する。
kṣipra-kāritā 〔因〕[同下 圃].
kṣipra-kārin 〔圃〕敏捷に行動する, 熟練なる。
kṣipra-gati 〔圃〕速かに行く。
kṣipratara 〔圃〕速, 甚速, 甚快 *Abh-vy., Mvyut.*
kṣipra-nīcaya 〔圃〕速かに決心する。
kṣipra-śyena 〔圃〕[鳥の一種].
kṣipra-hasta 〔圃〕[Agni 神の稱].
kṣiprābhijña 〔圃〕速證通慧, 疾得神通 *Bodh-bh.*
kṣiprārtha 〔圃〕敏捷なる動作を要する事柄。
kṣipreṣu (°ra-iṣu) 〔圃〕速かなる矢を有する。
kṣillikā 〔因〕[人名].
kṣiṇa 〔過受分〕→ Kṣi 3. 〔使役〕盡, 已盡, 窮盡, 盡滅, 滅, 已滅; 斷; 過; 萎熟; 漸敗 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Kāśy., Gaṇḍ-vy., Lank., Guhy-s., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*
kṣiṇa-karman 〔圃〕活動(せんとする意欲)の盡きたる。
kṣiṇa-kośa 〔圃〕寶又は富の盡きたる。
kṣiṇa-tamas 〔圃〕[或: Vihāra の名].
kṣiṇatā 〔因〕損害, 損傷。
kṣiṇatva 〔圃〕消失; (月の)虧けること。
kṣiṇa-vṛtti 〔圃〕糧食の盡きたる。
kṣiṇa-vega 〔圃〕力盡, 速疾勢盡 *Abh-vy.*
kṣiṇa-saṣin 〔圃〕初月, 月初, 殘月 *Suv-pr.*
kṣiṇa-sāra 〔圃〕樹液の無くなれる, 枯れたる(木).
kṣiṇādhi (°na-ādhi) 〔圃〕〔圃〕より免れたる。
kṣiṇāyus (°na-āy°) 〔圃〕瀕死の。
kṣiṇāsrava (°na-ās°) 〔圃〕情欲を離脱せる, 煩惱の盡きたる; 〔使役〕漏盡, 漏盡(者), 漏已盡, 諸漏盡, 諸漏已盡, 諸漏永盡 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Madhy-v., Mvyut.*
kṣiṇopāya (°na-up°) 〔圃〕頼る處なき。
kṣiba 〔圃〕酩酊せる; 興奮せる。
kṣibatā 〔因〕酩酊。
kṣibatva 〔圃〕[同上].
kṣiyamāṇa 〔圃〕減する, 消耗する。→ Kṣi 3.
kṣira 〔圃〕乳; 濃くしたる乳, 乳狀の液汁(植物の); 〔使役〕乳, 白乳, 珂乳; 乳糜 *Lal-v., Saddh-p., Lank.,*

Mañj-m., Śikṣ., Abh-vy., Sāmkhy-k., Dharm-s.,
Mvyut., 梵雜.
kṣīra-kaṅṭha 男 (咽喉に乳ある), 幼者.
kṣīra-kākoli, 黄精 梵雜.
kṣīra-kākoli 女 [球莖の一種].
kṣīra-kuṇḍa 甲 乳の瓶.
kṣīra-kṣaya 男 乳の不足(牝牛等の乳房の).
kṣīra-ghṛta 甲 牛乳を混じたる酪.
kṣīra-taru 男 乳状の液を有する樹木. → kṣīra-
vrkṣa.
kṣīra-toya-dhi 男 乳海.
kṣīra-dātri 女 乳を出す牝牛.
kṣīra-dhātri 女 乳母; 乳母, 乳哺, 乳哺母, 乳
食(母) Divy., Lal-v., Mvyut.
kṣīra-dhi 男 乳海.
kṣīra-dhenu 女 乳牛.
kṣīra-nidhi 男 乳海.
kṣīra-nira 甲 —° 乳と水.
kṣīra-pa 形 乳(のみ)を飲む. 男 乳兒, 幼兒.
kṣīra-pāka 形 乳にて調理せる.
kṣīra-bhṛta 形 乳を以て支拂はるゝ.
kṣīramaya 形 乳より成る.
kṣīra-mahārṇava (hā-ar°) 男 乳海.
kṣīra-yājīn 形 乳の供物を捧ぐる.
kṣīravat 形 乳の満ちたる.
kṣīra-vāri-dhi 男 乳海.
kṣīra-vikrayin 形 乳賣 Vajr-s.
kṣīra-vrkṣa 男 乳汁の出づる樹木 [Nyagrodha,
Udumbara, Aśvattha, Madhūka 諸樹の共通名];
乳樹, 乳木樹, 乳果樹 Śikṣ.
kṣīra-śrī 形 乳を混じたる.
kṣīra-śāṣṭika 甲 乳にて料理せる Saṣṭika (米の一
種)の飯.
kṣīra-samudra 男 乳海.
kṣīra-sarpis 甲 = kṣīra-ghṛta.
kṣīra-sāgara 男 乳海.
kṣīra-sindhu 男 [同上].
kṣīra-sāgḍha 形 乳着にて潤ひたる.
kṣīra-svāmin 男 [或る文典家の名].
kṣīra-hotṛ 形 = kṣīra-yājīn.
kṣīra-homin 形 [同上].
kṣīrāna 甲 乳にて煮たる飯.
kṣīrāb-dhi 男 乳海.
kṣīrāmbu-dhi 男 [同上].
kṣīrāya 名動 自他 kṣīrāyate(-ti) 乳となる.
kṣīrārṇava 男 乳海.
kṣīrikā 女 乳の料理, 乳粥; [棗棕櫚の一種].
kṣīrikā-vana 甲 乳林 Lal-v.
kṣīriṇi 女 乳の料理.
kṣīrin 形 乳を出す, 乳に富める; 乳汁を含める(植
物).
kṣīri-BHū, 乳となる.
kṣīroda (ra-uda) 男 乳海; 乳水 Prāt-m.
kṣīrodaka (ra-ud°) 男 [樹の名].
kṣīroda-dhi 男 乳海.
kṣīrodanvat (ra-ud°) 男 [同上].

kṣīropasecana (ra-up°) 甲 乳を注ぎかくること.
kṣīrormi (ra-ūr°) 男 女 乳海の波
kṣīraudana (ra-od°) 男 乳にて煮たる米.
kṣīva 形 = kṣība; 醉 梵千.
Kṣu, II. 他 **kṣauti** 噴嚏す. 過受分 **kṣuta** 噴嚏せ
る.
ava- 過受分 **avakṣuta** ……に噴嚏せる.
kṣu 甲 [gh(a)su] 食物, 榮養物.
kṣuj-janikā 女 (噴嚏を起さしむる), 芥(?).
kṣuṇṇa 過受分 → Kṣud. 缺漏 Śikṣ.
kṣut 女 噴嚏; 涕噴 Mvyut.
kṣuta 過受分 → Kṣu. 甲 噴嚏; 嚏 Divy.
kṣut-kṣāma 形 飢に糞れたる; 飢(渴)之所逼
切 Av-ś.
kṣutkṣāma-kaṅṭha 形 飢に糞れし咽喉を有する.
kṣutkṣāma-parigata-śarira 形 (貧窮)飢餓
Av-ś.
kṣut-tṛṣṇā 女 飢渴 Bāṣṭr.
kṣuttṛṣṇopapīḍita (ṇā-up°) 形 飢渴に惱まされた
る.
kṣut-para 形 極めて飢ゑたる.
kṣut-pipāsā 女 飢渴 Aṣṭ-pr., Śikṣ.
kṣutpipāsābhīhūta (sā-abh°) 形 飢渴所逼
Śikṣ.
kṣutpipāsārdita (sā-ar°) 形 以飢渴惱, 渴愛
所逼 Suv-pr.
kṣut-pipāsita 形 飢渴に惱まされたる.
kṣut-pratikāra 男 飢餓を鎮むること, 食事.
kṣut-sambādha 形 飢餓に惱まされたる.
Kṣud, I. 他 **kṣodati** 強打す, 搗き碎く, 振る; 自
kṣodate 動く, 動揺す, 震ふ; VII. 他 **kṣunatti**, 自
kṣuntte 踏みつく. 過受分 **kṣuṇṇa** 踏まれたる,
壓潰せられたる, 搗き碎かれたる, 破碎せられたる;
刺されたる; 鍛錬せられたる(身體). 便後 **kṣoday-**
ati 振る, 踏みて動揺せしむ; 碎く, 挽く, 粉碎す;
滅ず.
pra- 衝く, 促進す; 碎く, 粉碎す. 過受分 **prak-**
ṣuṇṇa 碎かれたる, 貫かれたる, 引裂かれたる.
vi- 搗き碎く; 促進す. 過受分 **vikṣuṇṇa** 踏ま
れたる, 粉碎せられたる; 促進せられたる.
kṣudra 形 小なき, 極めて小なる; 低き, 卑しき, 下
品の; 邪惡なる(戯語にて); 雜穢 Bodh-bh.
kṣudraka 形 (女 -ikā) 小なき, 極めて小なる; 短か
き; 小, 雜事 Saddh-p. → vinaya~.
kṣudra-karman 形 卑しき或は下品なる態度にて行
動する.
kṣudrakānuksudraka 形 雜碎 Prāt-m.:
~āni śikṣā-padāni 雜碎戒 Prāt-m. V. 50. →
kṣudrānuksudra.
kṣudra-ghaṅṭikā 女 小鈴(裝飾の).
kṣudra-jantu 男 小獸; 取るに足らざる人.
kṣudraṃ-cara 形 小なき草を食ふ(鹿).
kṣudratara 比較 微細 Śikṣ.
kṣudra-dhānya 甲 劣等の穀物.
kṣudra-nadi 女 小川.
kṣudra-pada 甲 [長さの單位 = 十 aṅgula].

kṣudra-pāśu 男 小なる家畜。
kṣudra-pāsumat 形 小なる家畜を有する。
kṣudra-pṛṣāti 女 全身に小斑點ある牝牛。
kṣudra-buddhi 男 [或る(心卑しき)豺の名]。
kṣudra-bhṛt 男 [人名]。
kṣudra-mṛga 男 𑖀𑖩𑖪 (禽) 獸, 蠕動 *Bodh-bh.*
kṣudramṛga-bhaya 中 𑖀𑖩𑖪 (禽) 獸畏 *Bodh-bh.*
kṣudra-yajña 男 𑖀𑖩𑖪 雜穢祠祀 *Bodh-bh.*
kṣudra-rasa 男 𑖀𑖩𑖪 卑しき快樂。
kṣudra-vastuka 中 𑖀𑖩𑖪 [書名] 雜事, 隱類 *Abh-vy.*
 493.
kṣudra-śatru 男 小敵。
kṣudra-śīla 形 性質の卑しき。
kṣudra-śvāsa 男 短き呼吸。
kṣudra-samācara 形 行ひの卑しき。
kṣudra-sūkta 中 短詩, 男 短詩の作者。
kṣudrākṣa 形 網目小さき。
kṣudrācarita (°ra-āc°) 形 卑しき人の常に出入する。
kṣudrāṅkṣudra 形 細かき, 細部に渉る (*Divy.*):
 ~āni śikṣā-padāni (弟子の) 遵守すべき細則 (*Di-*
vy. 465). → *kṣudrakāṅkṣudraka.*
kṣudrātman (°ra-āt°) 形 本性卑しき, 賤しむべき。
kṣudrāntṛa 中 心臓の小窩。
kṣudrikā 形 女 𑖀𑖩𑖪 小 *Saddh-p.*
kṣudrika 形 𑖀𑖩𑖪 小 *Saddh-p.*
kṣud-roga 男 飢によりて生ぜる病; 飢餓の苦痛。
Kṣudh, IV. 他 kṣudhyati 飢う, 飢餓を感ず。
 (通受分) **kṣudhita** 飢ゑたる。
kṣudh 女 飢餓; 𑖀𑖩𑖪 飢 *Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh.*
kṣudha, [= *kṣudhā*]; 𑖀𑖩𑖪 飢, 餓 *Rāṣṭr., Suv-pr.*
kṣudha-tarṣa-pīḍita 形 𑖀𑖩𑖪 飢餓所逼 *Suv-pr.*
kṣudha-tarṣārta (°ṣa-ār°) 形 𑖀𑖩𑖪 困苦飢渴 *Rāṣṭr.*
kṣudhā 女 飢餓; 𑖀𑖩𑖪 飢, 饑餓 *Lal-v., Saddh-p.,*
Gaṇḍ-vy., Śikṣ., 梵雜.
kṣudhā-kara 形 飢ゑしむる。
kṣudhāgni (°dhā-ag°) 男 𑖀𑖩𑖪 飢火 *Suv-pr.*
kṣudhā-māra 男 餓死。
kṣudhārta (°dhā-ār°) 形 飢餓に責められたる。
kṣudhārdita (°dhā-ar°) 形 [同上]。
kṣudhālu 形 飢ゑたる。
kṣudhā-śānti 女 飢を醫すこと, 飽腹; 満足。
kṣudhita (通受分) → *Kṣudh.*
kṣun-nirodha 男 飢餓又は飢死の抑制。
kṣunmat 形 飢ゑたる。
kṣupa 男 灌木, 藪。
kṣupaka 男 [同上]。
kṣupakā 女 [同上]。
kṣupā 女 [同上]。
kṣubdha (通受分) → *Kṣubh.* 𑖀𑖩𑖪 震; 亂; 變動, 搖
 動 *Divy., Sam-r., Sūtr., Mvyut.* 男 攪拌用の棒。
kṣubdhatā 女 動搖。
Kṣubh, I. 自 kṣobhate (咲); *IV. 他 自 kṣubhy-*
ati(-te) 揺る, 震ふ, 動搖す; 擾さる; 𑖀𑖩𑖪 爆; 亂,
 擾; 據; 震, 震撃, 振撃; 動轉, 涌覆; 惱觸; 驚疑;
 驚懼; 動恚 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
 (通受分) **kṣubdha** (稀に) 及 *kṣubhita* 振られたる;

動搖せる; 放逐せられたる(王); 心の動搖せる; 驚か
 されたる, 警告せられたる。 (便後) 他 (自) **kṣobhay-**
ati(-te) 振る, 動搖せしむ; 混亂せしむ; 𑖀𑖩𑖪 (波)
 動, 惱亂 *Divy., Buddh-c.*
pra- 動搖す, 擾さる, 混亂せらる; 𑖀𑖩𑖪 遍震, 偏
 爆, 極涌覆 *Lal-v., Aṣṭ-pr.* (便後) **prakṣobhayati**
 動搖せしむ。
sam-pa- [同上]; 震動又は激昂す; 𑖀𑖩𑖪 等遍震,
 等偏爆, 遍涌覆 *Lal-v., Aṣṭ-pr.*
vi- 振動又は動搖す; 混亂に陥る。 (便後) **vikṣobh-**
ayati 動搖せしむ, 混亂せしむ。
sam- 動搖す; 𑖀𑖩𑖪 惱亂, 擾亂, 不安 *Buddh-c.,*
Lank. (通受分) **samkṣubdha, samkṣubhita** 激
 しく振られたる, 動搖せる。 (便後) **samkṣobhayati**
 激しく振る, 動搖せしむ。
kṣubhā 女 [武器の一種(?)].
kṣubhita (通受分) → *Kṣubh.* 𑖀𑖩𑖪 震; 擊; 動亂;
 撓濁, 瞋恨, 惱恨 *Lal-v., Sam-r., Bodh-bh., Mvyut.*
kṣumat 形 榮養ある; 強き, 活潑なる。
kṣura 男 銳利なる小刀, 剃刀; 𑖀𑖩𑖪 刀, 鋒刃 *Divy.,*
Abh-k., Abh-vy.
kṣuraka 形 𑖀𑖩𑖪 如刀裂 *Śikṣ.* 男 [植物の一種, 學
 名 *Trilobus lanuginosus* 等].
kṣura-karman 中 剃ること。
kṣura-kṛtya 中 [同上]。
kṣura-kṛpta 形 剃れる。
kṣura-kriyā 女 剃ること。
kṣura-dhāna 中 剃刀の容器。
kṣura-dhāra 形 剃刀の刃の如く鋭き。 男 剃刀の
 刃の如く鋭き矢; 𑖀𑖩𑖪 刀 *Lal-v.*; [地獄の名] 刀刃,
 鋒刃 *Mvyut.*
kṣura-dhārā 女 剃刀の刃; 𑖀𑖩𑖪 刀, 劍, 利刃, 刀刃
Lal-v., Bodh-c., Śikṣ.
kṣura-pavi 形 極めて鋭利なる。
kṣura-pa 形 剃刀の如く鋭き。 男 剃刀の如く鋭き
 矢・小刀又は大鎌; 𑖀𑖩𑖪 刀, 鉞斧 *Divy., Mvyut.*
kṣura-bhāṇḍa 中 剃刀の容器。
kṣurikā 女 小刀, 短劍。
kṣulla 形 小さき, 僅かなる, 極めて小さき。
kṣullaka 形 [同上]。
kṣetra 中 領地; 土地; 田畠 [~m *Kṛ*, 田畠を耕
 す]; 場處, 地方; 活動の所在又は範圍; 本源; 聖地;
 廣さ; 子宮; 妻; 精神の宿る場處, 肉體; 根本精神
 又は物質; 𑖀𑖩𑖪 土, 地; 國, 國土; 田, 畝, 畝, 土田,
 田園, (良)田; 世界; 種麥處; (福)田; (佛)土; (管)田
 刹土 *Divy., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sapt-pr.,*
Vajr-pr., Kāśy., Suv-pr., Lank., Bodh-c., Sūtr.,
Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千, 支應; (管) 田
 刹, 擦, 刹多羅, 差多羅 *Vajr-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy.,*
Suv-pr., Rāṣṭr., Lank., Śikṣ., 支應. mahat punya-
 mayam ~m 大福田, 廣大福德聚 *Gaṇḍ-vy.* 31.
kṣetra-karma-kṛt 男 農夫。
kṣetra-karman 中 農業。
kṣetra-karṣaka 男 農夫。
kṣetra-kārya 中 𑖀𑖩𑖪 田事 *Śikṣ.*
kṣetra-koṭi 女 𑖀𑖩𑖪 萬億國土; (管) 諸德利 *Lank.*

kṣetra-gata 形 莊田 *Divy.*
kṣetra-grha 甲 土地と家.
kṣetra-ja 形 野に生長せる. 男 (他の男によりて生まれたる)妻の子 [印度法典中の二種子息の一].
kṣetra-jāta 形 (他の男によりて)妻の生める.
kṣetra-jña 形 地方の知識を有する; (圖)に通曉せる. 男 精神; 知田 *Buddh-c.*
kṣetratara 甲 耕作又は居住に最も適當せる場處.
kṣetratā 女 住處たること, 住處.
kṣetra-dig-gamana 形 遠達 *Gaṇḍ-vy.*
kṣetra-devatā 女 [或は蛇の名].
kṣetra-pa 男 田畠の番人; 守田 *Abh-k.*
kṣetra-pati 男 田畠又は土地の所有者; 農夫.
kṣetra-pada 甲 神聖なる場處, 聖域.
kṣetra-parisuddhi-vaṣitā 女 淨土自在 *Madhy-vibh.*
kṣetra-parisuddhi-samudāgama 男 淨土修證, 淨土習起 *Madhy-vibh.*
kṣetra-pāla 男 田畠又は土地の番人; 田畠の保護神.
kṣetra-prasara 男 國界, 國土, 世界 *Daś-bh.*
kṣetra-bhāga 男 一片の土地.
kṣetra-rakṣa 男 田畠の番人.
kṣetra-vara 甲 淨土 *Saddh-p.*; (音寫) 妙刹土 *Rāṣṭr.*
kṣetra-vasu-dhā 女 耕作地.
kṣetra-vastu 甲 田事 *Bodh-bh.*
kṣetra-vid 形 場處を知れる; 熟達せる; 肉體を知れる. 男 精神, 靈.
kṣetra-vyūha 男 [*<kṣetra-vyūha*]; (音寫) 嚴刹, 嚴刹土, 莊嚴刹 *Gaṇḍ-vy. 545.*
kṣetra-viśuddhi 女 (音寫) 刹土淨, 莊嚴刹 *Gaṇḍ-vy.*
kṣetra-viśodhaka 形 淨土 *Sūtr.*
kṣetra-śuddhi 女 淨土 *Sūtr.*; (音寫) 清淨刹土 *Rāṣṭr.*
kṣetra-saṃkrama 男 國土轉; (音寫) 超諸刹 *Lāṅk.*
kṣetra-sambhava 形 =*kṣetra-ja.*
kṣetra-sāti 女 田畠又は土地の獲得.
kṣetra-sādhas 男 田畠を分割する者, 地界標を固定する者.
kṣetra-svabhāvatva 甲 田性, 田自性, 田體 *Madhy-v.*
kṣetrā-sā 形 土地を獲得する.
kṣetrik 男 田畠の所有者; 農夫; 夫.
kṣetrin 男 [同上]; 精神.
kṣetriya 形 地方の; 體質上の=不治の. 甲 不治の病; 環境.
kṣetri-Kṛ, (圖)を所有す, ……の主となる.
kṣetriya (音動) 他 *kṣetriyati* 土地を欲す; 他人の妻を欲す.
kṣetropekṣa (°*ra-up*°) 男 [*Svaphalka*の子の名].
kṣepa 男 投擲, 動き廻ること; 動作, 動搖, 振動; 伸すこと(足を); 遲延; 追加; 誹責; 罵詈; 移動; 投, 散, 射; 滅; 狂, 狂亂, 癡狂, 矯亂; 詭言 *Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., 梵雜.: citta*

心狂亂 *Bodh-bh. 180.*; *tat* ~ *āt* 滅彼故 *Madhy-vibh. 21.* ~ *m Kṛ* 矯亂答, 作詭言 *Abh-vy. 136.*

kṣepaka 形 投げる, 投擲する; 破壊する; 挿入する. 男 水先案内, 舵手.
kṣepaṇa 甲 投げること, 飛ばしむること; 投石器; 掉 *梵千.*
kṣepaṇika 男 漕手, 船頭. 形 破壊する.
kṣepaṇi 女 投石器.
kṣepaṇiya (未受分) 投げらるべき. 甲 =*kṣepaṇi.*
kṣepa-dharman 甲 (音寫) [~*ā-Pad*] 呵, 悔 *Prāt-m.*
kṣepan 男 投擲; 具 *kṣepṇā* 速かに.
kṣepiṣṭha 形 [*kṣipra*の最上] 最も速かなる.
kṣepiyas 形 [*kṣipra*の比較] 一層速かなる. 甲 圖 能ふ限り速かに.
kṣepu 甲 (音寫) [數の名] 咄布; 乞曇耶 [*kṣaya*の寫誤(?)] *Mvyut.*
kṣeptavya (未受分) 投げらるべき, 投げ入れらるべき; 罵らるべき.
kṣeptr 男 投石器にて石を投げる人. 形 投げる.
kṣepnu 男 (弓の弦を)放つこと.
kṣepya (未受分) (因)に投げらるべき; ……の中に入れらるべき; 著けらるべき(裝飾); 破壊せらるべき; 加へらるべき.
kṣema 形 心地よき, 愉快なる, 適合する; 静かなる; 安全なる; 安隱, 安穩, 安樂, 平安, 寧 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., 梵千., 梵雜.* 男 基礎; 住處; 場處; 休息, 安全, 安住; 繁榮; 安, 樂, 安隱, 安穩, 安樂, 利安 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Mvyut.* 男 甲 安全, 安穩, 平和; 安全なる状態, 幸福. ~ *m te*, 汝に幸あれ. 具 (圖, 圖) 平和に, 幸福に, 無事に.
kṣema-kara 形 平和・安全又は幸福を與ふる.
kṣema-karin 形 能施利安 *Aṣṭ-pr.*
kṣema-karman 形 =*kṣema-kara.*
kṣema-kāma 形 休息を望む.
kṣema-kāra 形 =*kṣema-kara.*
kṣema-kāraka 形 [同上].
kṣema-kṛt 形 [同上].
kṣema-gati 女 安隱處, 安樂行處 *Gaṇḍ-vy.*
kṣema-gāmin 男 善逝 *Sam-r.*
kṣemaṃ-kara 形 =*kṣema-kara*; 安樂, 安隱, 作樂 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.* 男 [*Trigarta*の王の名]; (音寫) [佛の名] 差摩 *dv-ś.*
kṣemaṇiyatara 比較 更に愉快なる, 更に健康なる (*Divy.*).
kṣematara 甲 更に快き状態, 大なる幸福.
kṣema-taru 男 [樹の名].
kṣematā 女 安 *Gaṇḍ-vy.*
kṣema-da 形 無畏 *Mañj-m.*
kṣema-darśin 男 [*Kosala*の王の名].
kṣema-darśiya 形 *Kṣema-darśin*に關する.
kṣema-dhanvan 男 [王の名].
kṣema-dharman 形 =*kṣema-kara.*

kṣema-dhūr̥ti 男 [或る戦士の名].
kṣema-prāpta 形 [漢語] 到安隱 *Sam-r., Madhy-v.*
kṣema-mūr̥ti 男 [王の名].
kṣemaya 名動 他 [或分] **kṣemayat** のみ] 休息せる;
 休息を興ふる, 庇護する, 爽かにする.
kṣema-yuktam 副 繁榮する方法にて, 好都合に.
kṣema-yoga 男 兩 休息と勞働.
kṣemavat 形 安全なる, 安穩なる, 繁榮する.
kṣema-vṛkṣa 男 = **kṣema-taru**.
kṣema-vṛddhi 男 [*Sālva* の將軍の名].
kṣema-sūra 男 (安全なる場處に於ける英雄), 臆病
 なる大言壯語家.
kṣema-svasti 中 [漢語] 安隱 *Saddh-p.*
kṣemādhi 男 [*Mithilā* の王の名].
kṣemāvati 女 [都市の名] (*Divy.*); [漢語] 安隱, 常具
 衆樂 *Gaṇḍ-vy.*
kṣemin 形 安全なる, 平和又は安全を楽しむ.
kṣemiśvara (°mi-īś°) 男 [或る詩人の名].
kṣemendra (°ma-in°) 男 [諸著述者の名].
kṣemya 形 休息せる, 閑ある; 安全なる; 健康によ
 き; 吉兆の; 繁榮する; 平和又は安穩ならしむる.
Kṣai, I. 他 **kṣāyati** 焼く, 點火す, 燃ゆ. [便役]
kṣāpayati 焦がす, 焼く.
apa- 消す.
api- [便役] **apikṣāpayati** 焦がす, 焼き盡す.
ava- [過受分] **avakṣāṇa** 焼き盡されたる.
pari- [過受分] **parikṣāṇa** 炭となれる.
pra- 燃ゆ, 焼き盡さる.
saṃ-pra- [便役] **saṃprakṣāpayati** 消えしむ, 消
 す.
saṃ- [便役] 焼かしむ, 火にて消耗せしむ.
kṣaiṅya 中 [*kṣiṅa* の抽] 破滅.
kṣaita 男 [*kṣiti* より] 種族の長, 王.
kṣaitavat 形 王の.
kṣaitra 中 土地財産, 土地の所有.
kṣaitrajitya 中 [*kṣetra-jit* より] 土地の獲得; 戦勝.
kṣaitrapata 形 (女-i) [*kṣetra-pati* より] 土地の領
 主に關する.
kṣaitrapatya 形 [*kṣetra-pati* より] [同上]. 中 領
 地, 所有地.
kṣaipra 形 迅速なる發音より生じたる [*i, i* 或は *ū, u*
 が *y* 或は *v* となる *saṃdhi* に就きて云ふ; 又スる音
 節に起る *svarita* アクセントに就きて云ふ].
kṣaipra-varṇa 形 半韻を含む.
kṣaipri-bhāvya 形 [同上].
kṣaiprya 中 迅速.
kṣoṇi 女 大勢(勢), 扈從者; 大地, 土地.
kṣoṇi-pati 男 王侯, 王.
kṣoṇi-pāla 男 [同上].
kṣoṇi 女 [體 -s] = **kṣoṇi**.
kṣoṇindra 男 王侯, 王.
kṣoṇi-pati 男 [同上].
kṣoṇi-ramaṇa 男 [同上].
kṣoṇi-ruh 男 (地に成長するもの), 樹木.
kṣoda 男 打撃, 激突; 壓潰; 穀粉, 粉末, 塵; 滴; 塊
 小片.

kṣodas 中 波浪, 奔々, 流水.
kṣodiṣṭha 形 [*kṣuā* の (優上)] 最小の, 最も薄き, 細
 き.
kṣodiyas 形 [*kṣudra* の (比較)] より小さき, より劣れ
 る; 甚だ微小なる.
kṣodhuka 形 飢ゑたる.
kṣobha 男 浮動, 震動; 動搖, 激動; 激情; [漢語] 動
 壞, 動擾, 擾動; 諍, 忿諍; 犯; 擾惱 *Sikṣ., Abh-vy.*
kṣobhaka 形 震動せしむる, 動搖せしむる.
kṣobhaṇa 形 震へる, 擾亂する; 激情を起さしむる,
 騒がす. 男 [*Siva* 神又は *Viṣṇu* 神の稱].
kṣobhayitr̥ 男 原動力を起せし人又は創始者.
kṣobhya [未受分] 動搖せしめらるべき, 擾亂せらるべ
 き; [漢語] 動, 動轉; 瞋 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Bodh-c.*
kṣora 男 剃ること, 剃鬚.
kṣaṇi 女 大地, 土地.
kṣaṇi-dhara 男 山.
kṣaṇi-nātha 男 王.
kṣaṇi-pāsā 女 (馬の)足桎(?).
kṣaṇi-bhuj 男 王.
kṣaṇi-bhṛt 男 山.
kṣaudra 中 蜂蜜; [漢語] 蜂蜜 *Mvyut.* 男 [或る混血
 種姓(階級)の名].
kṣaudraka 中 [同上(中)].
kṣauma 形 (女-i) 亞麻の, 亞麻布の. 中 亞麻布,
 亞麻布の衣; [漢語] 麻衣, 草衣, 羅布衣, 羅草衣 立書;
 [音寫] 芻摩, 菴摩, 蘇摩, 譏磨 立書.
kṣaumaka 中 [漢語] 麻衣, 亞麻衣, 胡麻衣, 胡麻布;
 [音寫] 薩麻衣 *Mvyut.*; [音寫] 芻摩迦 *Mvyut.*
kṣaura 形 剃刀にて爲されたる. 中 剃ること.
 ~m *Kṛ*, 剃る; [便役] 剃らしむ.
kṣaura-karaṇa 中 剃ること.
kṣaura-karmān 中 [同上].
kṣaurapavya 形 [*kṣura-pavi* より] 端の鋭き, 甚だ
 鋭き
kṣaura-mārga 男 [漢語] 刀刃路 *Abh-vy.*
Kṣṇu, II. 他 **kṣṇauti** 研ぐ, 鋭くす. [過受分] **kṣṇuta**
 研がれたる, 鋭くせられたる.
kṣṇotra 中 砥石.
kṣmā 女 大地, 土地; 男 **kṣmayā** 地上に.
kṣmā-ja 男 火星. 中 地平線.
kṣmā-tala 中 地表.
kṣmā-dhara 男 山.
kṣmā-dhṛti 男 王.
kṣmānta (°mā-an°) 男 全大地.
kṣmā-pa 男 王.
kṣmā-pati 男 [同上].
kṣmā-pāla 男 [同上].
kṣmā-bhartṛ 男 [同上].
kṣmā-bhuj 男 [同上].
kṣmā-bhṛt 男 山; 王.
kṣmā-ruh 男 木.
kṣmā-vṛṣa 男 (大地の牡牛), 偉力ある王.
kṣmā-śayana 中 埋葬.
kṣraum [漢語] [神祕の].
kṣvīṅkā 女 [動物の一種].

Kṣvid, I. 他 **kṣvedati** 不明瞭なる音を發す, 軋る; 呟く; シッシッと音す, 齒を軋らす. (通受分) **kṣvedita**.
 (硬役) **kṣvedayati** [= 單純動詞].
Kṣvid, I. 他 **kṣvedati** = Kṣvid.
kṣveda 男 毒, 毒物.
kṣvedana 中 ヒューヒュー又はヒッヒッといふ音.
kṣvedā 女 獅子の咆哮; 鬨の聲.

kṣvedita (通受分) 唸る, 呟く, 生ずる; 嚼まれたる (Sad-dh-p.).
Kṣvel, I. 他 **kṣvelati** (被誘) 跳ぶ, 遊ぶ.
kṣvelana 中 遊戲, 娛樂.
kṣveli 女 [同上].
kṣvelikā 女 [同上].
kṣvelita 中 [同上].

KH

kha 中 空虚なる處, 穴; 孔(特に人體の), 感覺器官; 傷; 車軸の穴; 空氣; 天空, 虚空; 空; 竅; 虚空 *Buddh-c., Saddh-p., Daś-bh., Lan̄k., Guhy-s., Mañj-m.*; 埤 *Lahy-s.*
kha-kāra 男 **kha** の字又は音; (音寫) 佉字 [四十二字門の一] *Gaṇḍ-vy.*: ~ m parikīrtayato 'bhisamskāra-hetu-bhūmi-jūāna-garbhaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱佉 [上] 字時能甚深入般若波羅蜜門名因地現前智慧藏 *Gaṇḍ-vy. 449.*; [五十字門の一] ~ e kha-sama-sarva-dharmaśabdaḥ (→ a-kāra) 唱佉字時出一切諸法如虚空聲 *Lal-v. 127.*

khakkhaṭa 形 硬き; 荒々しき(音) (*Divy.*); 堅固 *Abh-vy.*, 梵干.

khakkhaṭatva 中 (被譯) 硬, 堅性 *Mvyut.*: 四性 [1. ~ m 堅性, 2. dravatvam 濕性, 3. usnatvam 煖性, 4. laghu-samudīraṇatvam 輕等動性] *Mvyut.*

khakkhara 中 (被譯) 錫杖 *Mvyut.*

khakkhala 形 (被譯) 結子, 訥者 *Mvyut.*

khakharaka 中 = khakkhara; (被譯) 錫杖 *Mañj-m.*

kha-ga 形 空中を動く; 飛ぶ; (被譯) 行空, 空中 *Gaṇḍ-vy.* 男 鳥; 飛ぶ蟲(蜂等); 太陽, 遊星; 空氣, 風.

khaga-carāṇa 中 (被譯) 鳥飛 梵雜.

khagaṇa 男 [王の名].

kha-gata 形 空中に在る, 空に擴がれる; 飛べる.

khaga-pati 男 [(鳥の王), *Garuda* の稱].

khaga-patha 男 (被譯) 空, 空中, 虚空, 鳥路 *Daś-bh., Suv-pr.*: ~ enopakrāntāni 即於空中飛騰而去, 於上空中飛騰遊行 *Suv-pr. 179.*

kha-gama 男 鳥; [或る婆羅門の名]. 形 空を行く, 飛ぶ.

kha-galya 中 [車輪の或る一部分].

khaga-vāyu-bhūta 形 (被譯) 如風行空, 猶如空中風 *Gaṇḍ-vy.*

khagādhipa 男 [*Garuda* の稱].

khagendra (°ga-in°) 男 [同上].

khāṅkha 男 [人名].

KHac, I. 他 **khacati** 輝き出づ. (通受分) **khacita** 火花を發する; (與, 一°)にて輝ける或は鑢ばめられたる.

ud- (通受分) **utkhacita** (與, 一°)を鑢ばめられたる.

る.

pari- (通受分) **parikhacita** (一°)を鑢ばめられたる (*Kār-vy.*).

kha-cara 形 空中に動く, 飛べる; (被譯) 空居 *Mañj-m.* 男 鳥; 遊星; 妖精 (*Vidyādhara*).

kha-cārin 形 [同上(形)].

khacita (通受分) → KHac.; (被譯) 戲, 粧飾, 寶嵌 *Lan̄k., Mvyut.* → ratna~.

kha-citra 中 空中の繪 = 空想.

khaja 男 動亂, 攪拌; 戰亂; 攪拌用の棒.

khaja-kṛt 形 戰亂を起す.

khajam-kara 形 [同上].

kha-jala 中 霧.

khajā 女 攪拌用の棒.

KHāñj, I. 他 **khañjati** 跛行す.

khañj 形 跛行する.

khañja 形 [同上]. 男 (被譯) 跛, 跛躄, 跛躄, 短短; 瘤子 *Aṣṭ-pr., Lan̄k., Sikṣ., Mvyut.*

khañja-kubja 男 (被譯) 跛曲 *Sikṣ.*

khañja-gardabha 男 (被譯) 跛驢 *Lan̄k.*

khañja-carāṇa 形 跛行する, 跛足の.

khañjatā 女 跛行すること, 跛足.

khañjatva 中 [同上].

khañjana 男 鵝鶻.

khañjanaka 男 [同上].

khañjanākṣi 女 (鵝鶻の如く) 眼の靜止せざる少女.

khañja-riṭa 男 = khañjana.

khañja-riṭaka 男 [同上].

khañjāhva (°ja-āh°) 男 [同上]; (被譯) 黃雀 *Mvyut.*

khāṭa 男 [打撃の一方法]; (被譯) 打撲.

khāṭaka 男 半ば閉せる或は窪ませたる手; (被譯) 棍, 未捏拳 *Mvyut.*

khāṭakā 女 平手にて打つこと; (被譯) 手打, 手拍 *Divy.*

khāṭakā-mukha 男 [手の特殊の位置].

khāṭakhaṭāya (名動) 自 **khāṭakhaṭāyate** 爆聲を發す, シューと音す.

khāṭikā 女 白聖; (被譯) 凍石 *Mvyut.*; (音寫) 竭致迦 *Guhy-s.*

khāṭinī 女 [同上].

khāṭu 女 拳 (*Divy.*).

khaṭuṅka 形 頑固なる; (被譯) 剛強, 憍愎, 頑愚,

暴悪者 *Sikṣ.*, *Bodh-bh.* → *khaḍuṅka*, *khaluṅka*.
khaṭuṅkatā 女 [同上 通]; 剛強, 愷悞, 頑愚, *Sikṣ.*: *sattva* ~ *m* *sattva-durdāntatām* 愷悞難調, 愷悞難調不可降伏, 剛強衆生難調難伏, 頑愚難調伏 *Sikṣ.* 283. → *khaḍuṅkatā*.
khaṭṭika 男 屠肉者, 肉商, 狩獵者; 屠家 *Mvyut.*
khaṭvaya 名動 他 *khaṭvayati* 寢臺又は寢椅子となす.
khaṭvā 女 寢臺, 寢椅子; 病床; 床, 牀 *Mvyut.*, 梵干.
khaṭvāṅga (°vā-aṅ°) 男 甲 寢臺の足(の如き形をなしたる棍棒) [特に *Siva* 神の武器の名]; 床足, 交床 *Divy.*, *Mvyut.* 男 [王の名].
khaṭvāṅgaka (°vā-aṅ°) 形 男 [(*khaṭvāṅga* を持てる), *Siva* 神の稱].
khaṭvāṅga-dhara 形 男 [同上].
khaṭvāṅga-dhāra 形 男 [同上].
khaṭvāṅga-bhṛt 形 男 [同上].
khaṭvāṅga-hasta 形 男 [同上] (*Buddh-c.*).
khaṭvāṅgin (°vā-aṅ°) 形 男 [同上].
khaṭvā-tala 甲 寢臺の下の空閑; 寢臺の下にて. [KHad, X. 他 *khāḍayati* (→ *khaṇḍaya*); KHaṇḍ, I. 自 *khaṇḍate* 破る, 割る].
khāḍa 男 (酪漿等より製せる)酸き飲料(の一種).
khāḍaka 甲 針, 螺釘.
kha-ḍina 甲 [特殊の飛び方の一種].
khaḍuṅka 形 [= *khaṭuṅka*]; 惡, 剛強, 難調, 敗壞之相 *Kāśy.*
khaḍuṅkatā 女 愷悞心不調 *Gaṇḍ-vy.* → *khaṭuṅkatā*.
khāḍga 男 劍, 懷劍; 犀; [或る商人の子の名]; [*Pratyeka-buddha* の稱] (佛敎); 刀, 劍, 劍, 刃, 太刀, 利劍; 犀, 犀牛; 犀角, 麟角, 犀一角 *Lal-v.*, *Rāstr.*, *Mañj-m.*, *Laṅk.*, *Guhy-s.*, *Sikṣ.*, *Bodh-c.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵干, 梵雜, 玄應; 獨覺 [= *prayeka-buddha*] *Sikṣ.*; 渴伽, 佉伽, 竭伽 玄應: ~ *sama* 猶犀牛, 如獨覺 *Sikṣ.* 194.
khāḍga-grāhin 男 帶劍者.
khāḍga-jvalanā 女 [或る *Kimnara* の少女の名] (*Kār-vy.*).
khāḍga-dhara 形 劍を帯びたる. 男 [人名].
khāḍga-dhāra-vrata 甲 = *asidhārā-vrata*.
khāḍga-dhārā 女 刀身.
khāḍga-dhenu 女 小刀.
khāḍga-paṭṭisa 男 [= *khāḍga-paṭṭisa*]; 劍利 *Mañj-m.* 12.
khāḍga-pattra-vana 甲 [(劍を葉となせる林), 地獄の名].
khāḍga-pāṇi 形 手に劍を持てる; 軟劍, 捉刀, 手執劍者 *Prāt-m.*, *Mvyut.*
khāḍga-pāta 男 刀傷.
khāḍga-prahāra 男 [同上].
khāḍga-maṇi 男 [王室の勳章の一] (*Divy.*).
khāḍgamaya 形 劍より成る.
khāḍga-ratna 甲 優れたる劍 (*Dharm-s.*).
khāḍga-latā 女 刀身.

khāḍgavat 形 劍にて武装せる.
khāḍga-vāri 甲 劍より滴る血.
khāḍga-vidyā 女 劍術.
khāḍga-viṣāṇa 甲 犀の角 (*Divy.*); 犀角, 犀牛角, 麟角 *Divy.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 玄應; 佉伽, 渴伽, 竭伽, 竭伽沙拳, 竭伽沙拳, 竭伽沙拳 玄應.
khāḍgaviṣāṇa-kalpa 形 麟喙, 犀角喙, 麟角喙, 如犀角, 喙如麟角 *Divy.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*
khāḍga-sakha 形 劍にて武装せる.
khāḍga-saḍṛṣa 形 如利劍, 如犀一角 *Sikṣ.*
khāḍga-sena 男 [人名].
khāḍga-hasta 形 手に劍を持てる.
khāḍgāmiṣa (°ga-ām°) 甲 犀の肉.
khāḍgāhva (°ga-āh°) 男 犀.
khāḍgika 男 劍客; 劍客 *Mvyut.*
khāḍgi-dhenukā 女 牝犀.
khāḍgin 形 劍にて武装せる. 男 犀; [*Siva* 神の稱].
khaṇakhaṇāya 名動 自 擬音 *khaṇakhaṇāyate* (カンカン, チンチン等)音を發す. (過受分) *khaṇakhaṇāyita* 鳴る, 音する等.
khaṇatkhaṇi-kṛta 形 (カンカン等と)鳴らされる.
[*Khaṇḍ*, → *KHad*, *khaṇḍaya*].
khaṇḍa 形 不完全なる, 不十分なる, 不足せる, 缺けたる; 破れたる, 隙間ある; 満たざる(月); 衰; 破; 缺, 缺減, 缺漏, 缺壞, 缺犯; 遺失 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* 男 甲 片, 部分; 章, 節(書物の); 數, 量, 多數, 集り, 群; 粉砂糖; 片; 段; 糖, 糖清 *Divy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 梵干; 齋陀 *Laṅk.*
khaṇḍaka 男 部分, 片, 節; 糖, [舞蹈の一種(?)]; 木片 (*Divy.*); 詐現 *Gaṇḍ-vy.*: *bodhisattva* ~ 詐現菩薩...相 *Gaṇḍ-vy.* 116.
khaṇḍa-kāpālika 男 準 *Kāpālika* (派)行者.
khaṇḍa-kāra 男 *Khaṇḍa* 糖製造者.
khaṇḍa-kāvya 甲 (英雄的或は神聖なる主題を有せざる)小詩.
khaṇḍa-khaṇḍa 形 段段 *Saddh-p.*
khaṇḍa-khāḍya 男 優美なること, 美しきもの.
khaṇḍa-danta 形 齒落, 齒牙缺 *Lal-v.*, *Saddh-p.*
khaṇḍa-deva-kula 甲 荒廢せる殿堂.
khaṇḍa-dravya 男 [人名] (佛敎).
khaṇḍa-dhārā 女 演奏又は舞蹈(の一種).
khaṇḍana 形 裂く, 分くる, 破壊する, 粉碎する, 散らす. 甲 切斷; 粉碎; 損傷, 傷つること(特に齒にて); 縮小, 破壊; 挫折せしむること; 反駁; 詐欺; 毀, 犯 *Lal-v.*, *Sūtr.* → a ~.
khaṇḍaniya (未受分) 碎かるべき, 寸斷せらるべき.
khaṇḍa-paraśu 男 [*Siva* 神又は *Viṣṇu* 神の稱]; [*Paraśurāma* の稱].
khaṇḍa-parśu 男 [*Siva* 神の稱]; [*Paraśurāma* の稱].
khaṇḍa-phana 男 [蛇の一種].
khaṇḍa-phulla 形 [Pali. 同] 房屋坍塌 *Mvyut.*

khara-gr̥ha 甲 驢馬小屋; 幕舎(つ); 帳房 *Mvyut.*
khara-geha 甲 [同上].
khara-joda 形 類如驢, 顔如驢者 *Mvyut.*
khara-jru 形 動作の敏速なる.
kharatara 比較 より鋭き, 甚だ鋭き.
khara-turagiya 形 驢と馬との交尾 (*samparka*) の.
khara-daṇḍa 甲 蓮花.
khara-danta 形 齒如驢 *Mvyut.*
khara-darbhāṅkuravat 形(女-i) 刺棘 *Budh-c. 50.*
khara-nakhara 男 [或る獅子の名].
khara-nāla 甲 = *khara-daṇḍa*.
khara-nāsa 形 鼻如驢 *Mvyut.*
khara-prāṇa 甲 [特殊の容器].
khara-majra 形 極めて清潔にする.
khara-mayūkha 男 (熱き光線の), 太陽.
khara-yāna 甲 驢馬の曳く車.
khara-śālā 女 驢馬小屋; 驢圖 *Mvyut.*
khara-śirṣa 形 頭如驢者, 如驢頭者 *Mvyut.*
khara-skandha 男 [植物の名, 學名 *Buchanania latifolia*]; [Asura 王の名] 大肩 *Suv-pr.*; 佉羅騫駝, 佉羅騫陀 *Saddh-p., Suv-pr.*
khara-sparśa 形(女-ā) 荒々しく觸るゝ, 衝く, 激しき, 鋭き; 熱き(風).
kharaṁśu 男 太陽.
kharaṅjina 甲 驢之皮 *Divy.*
kharaṅya 名動 驢の如く振舞ふ.
kharaṅyita (過受分) 甲 愚かなる行.
khari 女 牝驢, 牡驢馬.
khari-BHū, 悪化す(病氣が).
khari-vātsalya 甲 (驢馬の母性愛), 盲目的母性愛.
khari-viśāṇa 甲 驢の角=空想.
khara-kharāvasakta-kaṅṭha 形 喘噎 [= *khara*°] *Mvyut.*
kharoṣṭ(h)i 女 驢唇文字 [書體の一種, = *kharoṣṭri*] (*Lal-v.*); 佉樓, 佉路瑟吒, 佉留(書), 佉盧(書) *Lal-v. 125.*, 支應.
kharoṣṭra (ru-u°) 甲 驢馬と駱駝; 駱駝驢驛 *Divy.*
kharoṣṭri 女 [古代印度等に用ゐられたる書體(文字)の一種].
kharkhoda, 魔術(の一種).
kharkhoda-vedin 形 魔術に熟達せる.
khargala 男 [人名].
khargalā 女 梟又は(同類の)夜鳥.
KHarj, I. 他 **kharijati** (S.) 軋る.
kharijūra 男 [樹の一種, 學名 *Phoenix sylvestris*]; 佉受羅(樹), 竭樹羅(枝) *Suv-pr.* → *pinda-*
 甲 *Kharijūra* 樹の果實.
kharijūraka 男 蟬.
kharijūri 女 [= *kharijūra* (男)].
kharpa 甲 [= *kharpāra* (男)] 頭蓋, 頭 [嘲弄的に]; 頭 *Divy.*
kharpāra 甲 [眼藥を製する鑛物の一種]. 男 頭蓋.
kharpāri 女 [同上].

khārba, = *khārva*.

khārbūja 甲 西瓜.

khārma 甲 粗末, 粗硬; 絹織物.

khārva 形 切斷せられたる, 不具にせられたる, 缺陷ある. 甲 [或る巨數, 1 に 10 又は 37 の零を附したる數, 百萬を四乗したる數]; [數の名] 溝(?) *Mvyut.*

khārvaka 形(女-ikā) 不具の, 不完全なる.

khārvata 男 山村.

khāra 形 矮少となれる.

khārvi-Kṛ, 不具にす, 壓縮す.

khārvi-kṛta 形 低くせられたる, 壓縮せられたる. [KHal, I. 他 **khālati** 滑かなり; 踏く, 揺らく].

khāla 1. 男 打穀場, 穀物倉; 亞麻仁粕; 穀 *Divy.*

khāla 2. 男 惡人, 惡漢; 鬭争, 戰.

khāla 3. 形 [= *khara*]; 硬, 未調伏 *Mvyut.*

khāla-kula 甲 卑賤の家族.

khālakhalāya 名動 自 **khālakhalāyate** (漣の如く) ジャブジャブと音す.

khāla-ja 形 穀倉にて生じたる.

khālatā 1. 女 [*khāla* 1, 2. の 甲].

khā-latā 2. 女 空中に於ける蔓草=空想. → *khāpuspa*.

khālati 形 禿げたる. 男 禿.

khāla-dhāna 甲 打穀場.

khāla-bhujāṅga 男 蛇の如き惡漢.

khālartha 形 接尾音 *khal* の意味を有する(女-ā).

khālā 女 惡婦.

khālābhidhāna 甲 穀場, 止穀場 *Divy.*

khālāya 名動 自 **khālāyate** 惡漢に扮す.

khālin 形 [(穀倉を占有せる), *Siva* 神の稱]. 男 覆 *Dānava* の一階級の名].

khālina 男 甲 銜(つ).

khāli-stoka(?) 男 甲 杵臼 *Sikṣ. 58.*

khāli 女 = *khāla* 2.

khāli-kāra 男 虐待, 罵詈.

khāli-Kṛ, 虐待す, 傷つく.

khāli-kṛti 女 虐待.

khāli-kṛtya (不変分) (業)を顧慮せずして, ……に關せず (*Jāt-m.*).

khālina 甲 銜(つ).

khālu (不変分) (明らか), 實に, 確かに; 併しながら; 然も; さて; [屢=單に 調に用ふ].

～ *vai*, 確かに.

nu ～, [疑と俱に] 如何に, 怪し.

na ～, 全く然らず.

～ *api*, さて [話頭を轉じて].

[不変分]と俱に] 既に……足れり, ……せず.

sa ～ 謂皆是 *Bodh-bh.*

khālu-paścād-bhaktika 形 無食後齋, 中後不飲漿, 先止後食 *Dharm-s., Mvyut.*

khālu-bhakta 男 不受食 *Lāl.*

khāle-kapota-nyāya 男 鳩の群の打穀場に急降する理.

khāle-kapotikā 女 [同上].

khāle-vāli 女 穀物倉の柱.

KHall, I. ① **khallate** よろめく, 緩む. (過受分)
khallita 軟弱なる, ぐらぐらする.
khalla ① 袋.
khallaka ① 皮囊; 漉水囊 [Tib. chu-tshags] (Prajñ-
 vy. 321.); 水車: 薬品を挽く石又は器; (漢) 三角水
 漚 *Mvyut.*
khallātaka ① 男 [Bindusāra 王の首相の名] (Divy.);
 (漢) 頭禿落, 頂上無髮 *Divy.*
khallātaka ① 男 [同上] (Divy.).
khallita (過受分) → KHall.
khalli ① 女 手足の痛風性疼痛; (漢) 齒疎, 齒落
Saddh-p.
khalva ① 男 豆(の一種); 水車又は薬品を挽く器又は石.
khalvāṣa ① 禿頭の.
khaśa, =khasa.
khaśaririn ① 虚空の或は神の體を有する.
khasa ① 男 種姓(階級)を失へる Ksatriya の子; (漢)
 [民族の名及びその國の名].
kha-sama ① (漢) 如虚空 *Lal-v.*
kha-stha ① 天上に居住する, 天上に在る.
khā ① ① 女 (穴), 泉, 井戸.
khā-2., [khāyate, khātvā, khāta 等に用ひらるゝ語根
 KHan の形].
khākhasa ① 鬻粟.
khāgi ① 女 [或る地方の名].
khāgikā ① 女 [同上].
khāñjya ① 男 跛行, 跛足.
khāḍga ① 形 犀より來れる(甲冑等).
khāṇu ① 男 俗 [sthāṇu の形]; (漢) 搏食之餘(1), 半
 塊(?) *Mvyut.*
khāṇu-kaṇṭaka ① 男 俗 [<sthāṇu-k°]; (漢) 榛棘
Sikṣ. 102.
khāṇḍa ① 男 [=kāṇḍa]; (漢) 木 *Aṣṭ-pr.*
khāṇḍava ① 男 ① 糖菓(の一種); [Kurukṣetra の林
 の名].
khāṇḍava-prastha ① 男 [Khāṇḍava 林中の町の名].
khāṇḍava-rāga ① 男 糖菓.
khāṇḍika ① 男 [黒 Yajur-veda 派の名].
khāṇḍikya ① 男 [Janaka 又は Mitadhvaja 王子の稱].
khāta (過受分) → KHan. ① 男 ① 溝, 坑; 井戸, 池.
 ① 穴.
khātaka ① 男 濠, 穴.
khāta-mūla ① 形 根元を掘られたる.
khāta-rūpa-kāra ① 男 陶工; (漢) 雕鑿, 鍍匠 *Mvyut.*
khātr ① 男 掘る者.
khātra ① 男 鋤, 池.
khātra-khanana ① 男 壁に孔を穿つこと.
KHād, I. ① (自) **khādati(-te)** 嚼む, 食ふ, 嚙る;
 貪り食ふ; 傷つく, 破壊す; (漢) 噉, 食噉 *Saddh-p.*,
 梵雜. (過受分) **khādita** 食はれたる, 貪り食はれた
 る. (漢) 他 **khādayati** [=單純動詞]; (具) により
 て食はれしむ; 食ふ, 噉ふ.
 ā- 食ふ.
 vi- (漢) 噉, 相噉 *Saddh-p.* (受) 現分
vikhādyamāna (漢) 所噉食 *Saddh-p.*
 sam- 貪り食ふ.

khāda ① 形 (一°)を貪り食ふ. ① 男 食物; 食ふこと.
khādaka ① 男 食者, 消費者; 債務者.
khādag-dat ① 形 咬む齒を有する.
khādana ① 男 咀嚼, 食ふこと, 食事; 食物.
khādanā ① 女 [人名].
khādaniya (未受分) 食はるべき, 食用に適する (*Divy.*,
Lal-v.). ① 男 噉ふべき食物 (*Divy.*); (漢) 可噉 立應;
 (音) 法禪尼, 法陀尼, 法陀尼(食) *Divy., Sam-r., Vin.*,
 立應.
khādaniya-bhojaniya ① (漢) (飲)食 *Prāt-m.*
khādi ① 男 胸飾, 腕環.
khādikā ① 女 (一°)を食ふこと.
khādita (過受分) → KHād. (漢) 噉; 喫; 嚼, 咀
 嚼, 嚼噉 *Sikṣ., Madhy-v.*, 梵雜.
khādītavat (過能分) 食へる.
khādītavya (未受分) 食はるべき, 消費せらるべき.
khādītṛ ① 男 食者, 消費者.
khādin ① ① 形 (一°)を嚼む, 咬む, 喰ふ.
khādin ② ① 形 腕環を以て飾れる.
khādira ① 形(女-i) Khadira 樹にて造られたる.
khādya (未受分) 食はるべき. ① 男 食物, 食糧; (漢)
 饈 *Saddh-p.*: ~m ca bhojyam ca 饈饈 *Saddh-*
p. 13.
khādyaaka ① 男 [食物の一種]; (漢) 餅, 餅食 *Divy.*
khādyaaka-cāraka ① 男 (漢) 遞餅人, 遞麵者 *Mvyut.*
khādya-bhojya ① (漢) 饈饈 *Saddh-p.*
khādhūyā ① 女 [地方の名].
khāna ① ① 男 (蒙古王) Khan.
khāna ② ① 男 食物; 食ふこと.
khānaka ① 形 (一°)を掘る. ① 男 屋下に坑道を掘る者,
 強盜.
khāna-pāna ① 男 肉と酒.
khānam ① 男 掘る爲に.
khāni ① 女 穴, 鑛坑.
khānya ① 形 掘り出さるゝ.
khāra ① 男 [(穀類の)容積の單位].
khāra-nādi ① 男 (漢) [或る Maha-rṣi の名] 名稱子, 驢喚
 子(?) *Mvyut.*
khāri ① 女 =khāra; (漢) 石, 斛, 一斛, 十斛, 斛之量
Aṣṭ-pr., Lank., 立應; (音) 法利, 法梨, 法梨 *Lank.*,
 立應: ~sahasra 千斛, (摩揭陀)千斛之量 *Aṣṭ-pr.*
 985.
khār-kāra ① 男 驢馬の叫喚.
khārgali ① 男 [Khargala の(父)系].
khārvā ① 女 (世界の)第二期 = [tretā].
khālatya ① 男 禿.
khālitya ① 男 [同上]; (漢) 禿, 頂脫髮, 無強無力髮
Sikṣ., Mvyut.
khāśya-lipi ① 女 (漢) (音) 可索書, 法沙書, 珂沙書,
 疏勒書 *Lal-v.*
khikkhimin ① 形 不明瞭に話す.
KHid, VI. ① **khidati, khindati** 壓す; IV. ① (自) ①
khidyate(-ti); VII. ① **khintte** 壓しつけらる, 苦
 しめらる, 疲倦を感じ; (漢) 疲, 疲倦; 懈, 懈廢;
 艱難, 患厭勤苦; 厭惡; 退, 退失 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*,
Sam-r., Sūtr., Sikṣ. (過受分) **khinna** 壓しつけられ

たる、俯かしめられたる; 苦しめられたる、疲れたる、元氣なき、不安なる。〔使役〕**khedayati(-te)** 壓しつく、疲れしむ、苦ましむ、不安にす、悩ます; 〔使役〕令生疲厭、令生憂憤 *Lal-v., Bodh-bh.* 〔使役〕**khedita.**
ā- 捉ふ、取り去る。
ud- 引き出す、抜き出す。
pari- 壓迫を感ず、不安を感ず; 苦しめらる; 〔使役〕壓、懈、厭倦、疲厭、疲倦、生疲厭 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh.* 〔通受分〕**parikhinna** 疲れたる; 苦しめられたる。〔使役〕**parikhedayati** 苦しましむ; 破壊す。
khidra 〔中〕突錐、錐。
khinna 〔通受分〕→ KHid. 〔使役〕厭、倦、厭倦、帶厭倦、厭倦、疲倦、疲弊、勞倦、疲厭; 退、懈退; 沮壞; 頓乏 *Lal-v., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh.*
khinna-mānasa 〔形〕心を悩まされたる (*Buddh-c.*)
khila 〔男〕不毛の地; 〔使役〕栽藥 *Aṣṭ-pr.*; 恨、忿恨、恨戾 *Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*; 覆 *Sam-r.*; 穢 *Sikṣ.*; 患厭 *Daś-bh.*; 堅(?) *Abh-vy.* → *cetaḥ*。〔中〕補足; 正規の集成に追加せられたる頌文; 頑固、偏窟 (*Lal-v.*)。〔形〕缺點ある、不十分なる。
khila-kṣetra 〔中〕不毛の野、未耕の地。
khila-doṣa 〔男〕**khila-dveṣa**; 〔使役〕恨憎 *Lal-v. 167.*
khili-Kṛ, 荒廢せしむ; 無力ならしむ。
khili-kṛta 〔形〕荒廢せる、通過し難き; 無力なる; 〔使役〕亂戲 [*Tib. tho-btsams*] *Gaṇḍ-vy. 54.*
khili-BHū, (圓)を空虚にす; 無効にす。
khili-bhūta 〔形〕不毛の地となれる、捨てられたる、往來なき。
khilya 〔男〕荒廢の地; 地中の岩片; 片、塊、破片。
khira, [或る地方の名]。
khila 〔男〕=kila; 〔使役〕杵 *Mvyut.*
khu 〔不變辭〕**khālu**, [音律] *Lal-v., Saddh-p.*
khudḍaka 〔形〕**khudḍaka** [或る] 小 *Saddh-p. 460.*
khudḍāka 〔形〕(女) **khudḍāka** [同上]。
KHud, VI. 〔中〕**khudati** (因) (男根を)挿入す。
khudrāka 〔形〕**khudrāka**, [或る] 下 *Saddh-p. 197.*
khuna-mukha 〔男〕[村の名]。
khuna-muṣa 〔男〕[同上]。
khura 〔男〕蹄、馬蹄; 爪; [或る] 脚の一部分; 〔使役〕蹄 *Mvyut.*
khuraka 〔男〕舞踏(の一種)。
khura-khura 〔男〕(喉の)鳴ること (*Lal-v.*)
khura-khurā 〔女〕[同上]。
khura-nyāsa 〔男〕蹄の跡。
khurali 〔女〕武藝、教練; 弓術の練習; 練兵場。
khurāgra 〔中〕蹄の端 (*Buddh-c.*)
khurin 〔男〕有蹄動物。
khurukhurāya 〔名動〕**khurukhurāyate** (喉を)鳴らす。

khusta 〔形〕擦り減りたる(衣又は頭髮) (*Divy.*)
khustaka 〔形〕(女) **khustaka** (衣を)ぬぎたる (*Divy.*)
khūra, =khura.
khe-cara 〔形〕(女) **khe-cara** 空中を行く、飛ぶ; 〔使役〕空行 *Lank.* 〔男〕鳥; 天使; 妖精。
khe-caratā 〔女〕飛行の魔力。
khe-caratva 〔中〕[同上]。
khe-cari 〔女〕天女; 妖精; [或る] **siddhi** 又は **gati** と共に飛行の魔力。
kheṭa 〔男〕〔中〕村、農夫の住する村、小なる町; 楯。〔男〕痰、粘液; 〔使役〕唾、唾涎、涕唾、涕唾 *Lal-v., Prātm., Sikṣ., Bodh-bh.* 〔形〕低き、卑しき。
khetaka 〔男〕〔中〕[同上(男)中]; 〔使役〕圓牌 *Mvyut.*
kheṭa-kaṭāhaka 〔中〕〔使役〕唾器 *Mvyut.*
kheṭa-piṇḍa 〔男〕粘液の塊 或る 全く無益なるもの; 〔使役〕涕唾、涕唾、歎唾、唾灰 *Sam-r., Sikṣ., Mvyut.*
kheda 〔男〕壓迫、困難、苦勞; 微弱; 意氣沮喪、疲勞、倦怠、悲歎、苦惱; (圓)の煩悶; 〔使役〕倦、疲倦、疲倦、疲勞、疲厭、疲極、厭、厭倦、患、患厭、懈倦; 懈怠、怠墮; 苦、勞苦、苦惱; 愁、愁惱 *Divy., Lal-v., Av-ś., Saddh-p., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sikṣ., Bodh-bh.*; 退、退減、退屈、退轉、厭退 *Sūtr.*
khedana 〔中〕倦怠、疲勞; 〔使役〕枯竭 *Lal-v.*
kheda-parājita 〔形〕〔使役〕厭著 *Sūtr.*
kheda-buddhi 〔形〕〔使役〕疲倦悔厭心 *Rāṣṭr.*
khedayitavya 〔使役〕〔未受分〕苦しめらるべき、意氣沮喪すべき。
khedavat 〔形〕苦悶せる; 〔使役〕退屈 *Sūtr.*
kheda-samjñā 〔女〕〔使役〕懈怠想 *Saddh-p.*
kheda-sahiṣṇutā 〔女〕〔使役〕無有疲厭、無有疲倦、無有厭倦 *Daś-bh.*
khedā 〔女〕[地方の名]。
khedita 〔使役〕〔通受分〕困惑せしめられたる; 悲しまされたる; 〔使役〕倦、疲厭; 亂、惱亂; 觸惱、燒惱 *Divy., Bodh-c., Sikṣ., Bodh-bh.*
kheditavya (未受分)〔中〕〔非入〕意氣沮喪すべし、苦しめらるべし。
khedin 〔形〕疲れたる、倦める; 疲勞せしむる。
khe-paribhrama 〔形〕(女) **khe-paribhrama** 空中を飛び廻る。
kheya (未受分) 掘らるべき; 掘らるゝ。
KHel, I. 〔中〕**khelati** あちこちと動かす、振る、揺り動かす; 現はる。〔通受分〕**khelita** 動揺せる。〔使役〕**khelayati** 動かす、動揺せしむ、振らしむ、廻す。
khela 〔形〕動く、揺るゝ、揺れ動く、振れる。〔男〕[人名]; 〔使役〕纏、曲者、鷄胸 *Mvyut.*
khela-gati 〔形〕氣どりて歩む。
khela-gamana 〔形〕[同上]。
khelana 〔中〕あちこちと飛ぶこと或は動くこと; 不休の活動(眼の); 遊戯、競技。
khelanaka 〔中〕遊戯、競技。
khelanā 〔女〕あちこち動くこと。
khelāya (名動)〔中〕**khelāyati** 遊戯す、戯る。
kheli 〔女〕=khelauaka。
khelita 〔通受分〕→ KHel.
kheluda 〔男〕〔使役〕〔音律〕[數の名] 契魯陀、客盧獨 *Mvyut.*

khaimakhā ㊦ (漢音) [或る牝蛙の名].
khailika ㊦ 補遺の, 追補の.
khōṭa ㊦ 跛行の, 跛足の.
khōṭaka ㊦ [=khōḍaka]; ㊦ 頂, 尖 [Tib. leog] Mvyut.
khōṭana ㊦ 跛行; [又は utkoṭana の寫誤なるべし]. ㊦ 發學 Mvyut.; 惱憎 Mvyut.
khōḍaka ㊦ [刊本 ṣoḍaka, =khōḍaka-śirṣaka] (Divy.); ㊦ 塔 Divy. 220.
khōḍaka-śirṣa ㊦ ㊦ 樓閣, 城上, 雉堞樓閣 Aṣṭ-pr.
khōḍaka-śirṣaka ㊦ 塔壁の笠石; 家屋のアーチ状の屋根.
khōḍaka ㊦ ㊦ 裹 Divy.: śarkarā ~ 裹石蜜 Divy. 29.
khona-mukha ㊦ =khuna-mukha.
khora ㊦ =khoṭa.
khōṛaka ㊦ [足の病の一種].
khola ㊦ (防水)帽(の一種); ㊦ 帽, 冠 Mvyut.
khola-śiras ㊦ 帽子を冠れる; ㊦ 帶帽者, 戴帽者 Mvyut.
khyān, [KHyā の ㊦ 現 ㊦ 現].
KHyā, II. ㊦ **khyāti** ㊦ 見, 顯現, 相顯現; 名; 光 Sūtr., Bodh-bh. ㊦ **khyāyate** 言はる; 知らる; ㊦ 見, 現, 發, 顯現 Lan̄k. ㊦ **khyāta** 名づけられたる, ……と呼ばれたる, 知られたる; ……として知られたる; 有名なる. ㊦ **khyāpayati** 知らしむ, 宣言す, 報告す, 陳述す; 明示す, 暴露す; (㊦)に就て話す; 褒む, 賞讃す. ㊦ **khyāpita** 布告せられたる, 稱讃せられたる.
antar- 抑制す, 隠蔽す.
abhi- 視る, 知覚す; 情け深き或は親切なる視線を向く. ㊦ **abhikhyāta** 知られたる, 明示せられたる; 評判の. ㊦ **abhikhyāpayati** 宣言す.
ava- 見下す; 視る, 觀察す. ㊦ **avakhyāpayati** 見さしむ.
ā- 視る, 枚擧す, 列擧す; 語る, 告知す, 布告す, 報告す; 示す; (㊦)を(㊦)と呼ぶ・名づく或は稱す; ㊦ 說, 宣說; 現, 見 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lan̄k., Abh-vy. → agram ā-KHyā, varam ā-KHyā. ㊦ **ākhyāyate** 名づけらる, 列擧せらる, 呼ばる. ㊦ **ākhyāta**. ㊦ **ākhyāpayati** 知らしむ, 宣言す; ㊦ **ākhyāpayate** 話さしむ.
aty-ā- ㊦ 誹謗 Lal-v.
abhy-ā- 不正に(誤りて)非難す; ㊦ 毀謗 Aṣṭ-pr. ㊦ **abhyākhyāta** 不正なる方法にて責を負はしめられたる, 誹謗せられたる.
praty-ā- 拒む, 否認す, 否定す; 謝絶す; 禁ず; 反駁す; 凌駕す; ㊦ 厭; 違; 離 Aṣṭ-pr., Madhy-v. ㊦ **pratyākhyāta** 拒まれたる, 否認せられたる, 否定せられたる; 禁ぜられたる.
vy-ā- 説明す, 詳述す; 論ず; 布告す, 話す; 名づ

く, 呼ぶ; ㊦ 說, 廣說, 廣辯, 廣釋, 廣分別 Abh-vy. ㊦ **vyākhyāyate** ㊦ 見, 現 Lan̄k. ㊦ **vyākhyāta** 説明せられたる, 詳述せられたる, 語られたる.
sam-ā- 附言す, 列擧す, 計算す; 物語る, 報告す; (iti)なりと宣告す. ㊦ **samākhyāta** 名づけられたる; 數へられたる; 話されたる; (iti と)宣告せられたる.
pari- 見廻す, 見る; 觀察す, 認む; (㊦)を無視す. ㊦ **parikhyāyate** 認めらる. ㊦ **parikhyāta** (㊦)と見做されたる, 名づけられたる; 名高き.
pra- 見る; 布告す; 話す; 稱讃す. ㊦ **prakhyāyate** 見らる, 知らる, 認知せらる, 稱讃せらる. ㊦ **prakhyāta** 知られたる, 認められたる; 名聲ある. ㊦ **prakhyāpayati** 一般に知らしむ, 公告す. ㊦ **prakhyāpita** (㊦)として知られたる.
prati- 知覚す, 見る.
vi- 見る, 見廻す, 見上ぐ; 知覚す; 輝く, 明るくす, 見えしむ; 示す, 照す. ㊦ **vikhyāta** 一般に知られたる, 有名なる; ……として知られたる, 名づけられたる, 呼ばれたる. ㊦ **vikhyāpayati** 宣言す; 示す, 知らしむ; ㊦ 現 Bodh-bh.
abhi-vi- 視る.
sam- ㊦ (㊦)と俱に現はる, ……と關聯す, ……に屬す; 合計す, 計算す; (㊦)によりて評價す. ㊦ **samkhyāpayati** (㊦)に見られしむ.
pari-sam- 合算す, 計算す; 或る數に制限す; 回復す, 好轉せしむ.
prati-sam- 數ふ, 計算す; 熟慮す; ㊦ 作念, 作(是)念, 思擇, 思惟, 能思擇, 觀察, 思惟計校 Aṣṭ-pr., Bodh-bh. ㊦ **pratisamkhyāya** ㊦ 思擇, 審思惟已 Bodh-bh.
khyāta ㊦ → KHyā. ㊦ 名稱 Buddh-c.
khyāta-kīrti ㊦ 名聲高き.
khyāti ㊦ 知覚; 假定, 斷言; 知識; 名譽, 名聲; 名稱; 題名; ㊦ 名; 現見, 顯現, 能現, 能現 Lan̄k., Nyāy-pr., Bodh-bh.
khyāti-kāma ㊦ 榮譽を望める.
khyātimat ㊦ 有名なる.
khyāti-vijñāna ㊦ ㊦ 現識, 了別識 Lan̄k.
khyāti-viruddha ㊦ 一般的假定に反する.
khyāti-viruddhatā ㊦ [同上 ㊦].
khyāna ㊦ 知覚, 知識. → artha ~.
-khyāpaka (㊦) ㊦ 知らしむる, 布告する, 指示する.
khyāpana ㊦ 宣言, 明示; 自白; 有名ならしむること.
khyāpita ㊦ ㊦ → KHyā.
-khyāpin ㊦ 明示する, 示す, 知らしむる.
khyāpya ㊦ 語らるべき.

G

-ga 1. 形 (…の中)に或はの上)行く或は動く; …と組む; …へ赴く; …に達する; …に存する, 住する; …に關する; 到, 趣 Lal-v., Gaṇḍ-vy. → pāra ~.

-ga 2. 形 [Gai] 歌ふ.

ga-kāra 男 ga の字又は音; 誑字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ samanta-tala-vi-
thapanam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakr-
āntam 唱誑 [音反上聲] 字時能甚深入般若波羅蜜門
名普輪積集 Gaṇḍ-vy. 449.; (音寫)伽字 [五十字門
の一]: ~e gambhira-dharma-pratitya-samutpā-
dāvatāra-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱伽[上聲]字時出甚
深法入緣起聲 Lal-v. 127. → a-kāra.

gagaṇa 男 [=gagana] 天空; 空, 虛空 Divy.,
Lal-v.

gagaṇa-gaṅja 男 =gagana-gaṅja; [菩薩の
名] 虛空藏 Lal-v.

gagaṇa-tala 中 [=gagana-tala]; 虛空 Av-ś.

gagaṇa-prekṣiṇī-lipi 女 [=gagana-pr°]; 觀
虛空(書) Lal-v.; (音寫)伽伽那必利綺那(書), 伽伽那
卑麗叉尼 Lal-v.

gagana 男 [=gagana] 天空; 空, 虛空 Gaṇḍ-
vy., Rāṣṭr., Laṅk., Abh-vy., Śikṣ., Bodh-c., Mvyut.

gagana-kāṇḍa 形 如虛空, 猶如虛空, 與虛空等
Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.

gagana-ga 男 遊星.

gagana-gaṅja 男 [Samādhi の名]; [菩薩の名] (Kār-
vy.); 虛空藏, 虛空庫, 天藏 Mvyut.; [經名,
=gagana-gaṅja-sūtra] 虛空藏經 Mvyut.

gaganagaṅja-samādhi 男 (音寫)虛空藏三摩
地 Madhy-vibh.

gaganagaṅjasamādhi-sūtra 中 [經名] (音寫)
虛空藏三昧 Madhy-v. [大集大虛空藏菩薩所問經, 大
方等大集經虛空藏菩薩品].

gaganagaṅja-sūtra 中 [經名] 虛空藏經 Śikṣ.

gagana-gata 男 散空 Sāṃkhy-k.

gagana-gati 男 空中に住する者.

gagana-cara 男 (空中を往く者), 鳥.

gagana-carin 形 騰空, 遊虛空, 騰空自在
Gaṇḍ-vy.

gagana-cārin 中 空より來れる(聲).

gagana-tala 中 蒼穹; 虛空 Divy.

gagana-tulya-mānasa 形 意如虛空者 Rāṣṭr.

gagana-nagara 中 蜃氣樓.

gagana-nadi 女 天上の Gaṅgā 河.

gagana-pratiṣṭha 形 空中に在る

gagana-bhramaṇa 男 =gagana-ga.

gagana-mūrdhan 男 [或る Dānava の名].

gagana-romantha 男 不合理, 沒常識.

gagana-lih 形 天空に達する.

gagana-vihārin 形 空中に動く或は遊ぶ(月).

gagana-sad 男 天空の居住者.

gaganā-sama 形 如空, 如虛空, 等虛空, 平等
如空 Gaṇḍ-vy.

gagana-samaya-sambhava-vajra 男 [Samā-
dhi の名] (音寫)虛空出生三昧金剛 Guhy-s.

gagana-sindhu 女 天上の Gaṅgā 河.

gagana-sparsana 男 [Marut 神の中の一の名].

gagana-sprś 形 空に觸るゝ=空に住する; 天空に
達する.

gaganāgni 男 虛空火 Laṅk.

gaganādhivāsin 男 遊星.

gaganānta 男 虛空 Lal-v.

gaganāpagā 女 天上の Gaṅgā 河.

gaganāravinda 中 空中の蓮花=空想.

gagane-cara 形 空中を行く. 男 鳥; 遊星; 月宿

gaganopama (°na-up°) 形 如虛空 Laṅk.

gaṅgakā 女 Gaṅgā 河.

gaṅga-datta 男 [或る蛙の王の名].

gaṅga-devā 女 (音寫) 梵伽天; (音寫) 恆伽提婆,
昂譏嚩嚩 Aṣṭ-pr.

gaṅga-vālikā 女 [音律, =gaṅgā-v°] (音寫) 恆
沙 Saddh-p. 10.

gaṅgā 女 [Gam の 韻意 より, 「速かに行くもの」,
Ganges 河 [人格化して Himavat 山の娘とす]; 天堂來 [Ganges の異稱 Khāpagā の譯] 立應; (音寫)
恆(河), 梵伽, 強伽 恆伽(河), 恆迦(河), 強伽(河)
Vajr-pr., Sapt-pr., Św-pr., Guhy-s., Laṅk., Bodh-
bh., 立應; [龍王の名] 梵伽 Mvyut.

gaṅgā-ja 男 [Kārttikeya の 母系].

gaṅgā-tirtha 中 [聖地の名].

gaṅgā-dvāra 中 [町の名].

gaṅgā-dhara 男 [諸人の名].

gaṅgā-dhāra 男 海洋.

gaṅgā-nadī 女 (音寫) 恆河 Suv-pr., Laṅk.

gaṅgānadi-vālikā 女 (音寫) 梵河沙 Śikṣ.

gaṅgānadi-vālukā 女 (音寫) 恆沙 Sukh-vy. I.

gaṅgānadivālukā-sama 形 (音寫) 恆河沙等
Suv-pr.: ~ā loka-dhātavaḥ 恆河沙等(諸佛)國土,
恆河沙等(諸佛)世界 Suv-pr. 7.

gaṅgānadivālukopama (°kā-up°) 形 (音寫) 如
梵伽沙 Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II.

gaṅgā-prapāta 男 Gaṅgā 河の子孫.

gaṅgā-mahā-dvāra 中 =gaṅgā-dvāra.

gaṅgā-rajās 中 (音寫) 恆沙, 恆河沙, 恆水中流
沙 Suv-pr., Sukh-vy. I.

gaṅgā-lahari 女 [或る像の名].

gaṅgā-saras 中 [聖地の名].

gaṅgā-suta 男 =gaṅgā-ja.

gaṅgika 男 (音寫) [或る佛教比丘の名] 恆伽達(?)
Av-ś. II. 181.

gaṅgodaka (°gā-ud°) 中 Gaṅgā 河の水; (音寫)

恆河水 *Lank.*

gaṅgodbheda (°gā-ud°) 男 *Gaṅgā* 河の水源.

gaccha, [Gam の 現 幹].

gacchat 現分 正行 *Abh-vy.*

gaja 男 象; 象 *Lal-v., Rāṣṭr., Lāṅk., Śikṣ.,*
梵千., 梵雜.

gaja-kanyā 女 牝象.

gaja-kara 男 象鼻 *Rāṣṭr.*

gaja-karṇa 男 [或る *Yakṣa* の名].

gaja-karṇi 女 [球根植物の一種].

gaja-garjita-jimūta-ghoṣa 形 具象聲雷音
Mvyut.

gaja-cchāyā 女 [(象の影), 星座の名].

gajatā 女 象の状態; 象群.

gajatva 中 [同上].

gaja-danta 男 象牙.

gaja-dantamaya 形(女-i) 象牙製の.

gaja-nāsā 女 象の鼻.

gaja-nimilikā 女 象の瞬=何物をも見ざる如く装ふ
こと, 黙認.

gaja-nimilita 中 [同上].

gaja-pati 男 象王; 威嚴ある象; 象王 *Rāṣṭr.*

gajapati-gāman 形 廻顧如象王 *Rāṣṭr.*

gaja-puṃ-gava 男 象王, 大象.

gaja-pura 中 [都市の名, =*Hastināpura*].

gaja-puṣpamaya 形(女-i) *Gajapuspī* 花より成れ
る.

gaja-puṣpi 女 [植物の一種].

gaja-prṣṭha 中 象背 *Suv-pr.*

gaja-pota 男 象, 象子 *Lal-v., Abh-vy.*; 積(?)
Mvyut.

gaja-prayantr 男 象使ひ.

gaja-mada 男 象の頤頤の粘液.

gaja-muktā 女 象の額(に發見せらるゝことありと
稱せらるゝ)の眞珠.

gaja-mukha 男 [(象の顔をせる), *Gaṇeśa* の稱].

gaja-mauktika 中 [同上].

gaja-yūtha 男 象の群.

gaja-yodhin 形 象に乗りて闘ふ.

gaja-rāja 男 (象の王), 高貴なる象; 象王
Saddh-p.

gajarāja-muktā 女 = *gaja-muktā*.

gajavat 形 象を有する, 象を支給する.

gaja-vadana 女 = *gaja-mukha*.

gaja-vadhū 女 牝象.

gaja-śikṣā 女 象に関する技術又は知識.

gaja-śirṣa 男 [Nāga の名] 象頭 *Mvyut.*

gaja-sāhvaya 中 (象と呼ぼるゝ) = *gaja-pura*.

gaja-sthāna 中 象舎.

gajādhyaṅga 男 象の番人.

gajānana (°ja-ān°) 男 = *gaja-mukha*.

gajānika 男 [人名].

gajāpasada 男 下等なる象.

gajāroha (°ja-ār°) 男 象使ひ.

gajālāna (°ja-āl°) 中 象を縛る綱.

gajāsthi-ja 形 [(象の骨にて作れる), 王者の戦に使

用を禁ぜられたる矢の一種の稱].

gajāhvaya (°ja-āh°) 中 (象と呼ぼるゝ) = *gaja-pura*.

gajāhvā (°ja-āh°) 女 [植物の名, 學名 *Scindapsus officinalis*].

gajin 形 象に乗れる.

gaji 女 牝象.

gaji-BHū, 象となる.

gaji-bhūta 形 象となれる.

gajendra (°ja-in°) 男 象王; 象王 *Lal-v.*

gañja 男 中 寶庫; 藏, 庫 *Lal-v., Mañj-m.,*
Mvyut., 梵千.

gañjana 形 (一°)に勝る.

gañja-pati 男 司庫, 管庫 *Mvyut.*

gañja-vara 男 出納係.

gañjā 女 酒場; 大麻.

gaḍayanta 男 雲.

gaḍā 女 [Rāginī の一種]; 鞍 [Tib. *dbyug-to*]
Lal-v. 305.

gaḍi 男 若き牡牛.

gaḍita (過受分) [= *galita*]; 墮毀 *Saddh-p.*

gaḍu 男 身體の贅物, 瘤, 隆起.

gaḍula 形(女-i) 僂背の.

gaḍera 男 雲; 急流.

Gaṇ, X. 他 自 → *gaṇaya*.

gaṇa 男 群衆, 大衆; 多數; 階級; 小軍隊, 從者; 軍
勢(中に現るゝ低位)の神群 [特に専ら *Gaṇeśa* の支配
下にある *Siva* 神の從者]; *Siva* 神の從者の一員; 社
會, 聯合, 集團; (音律の)脚 [即ち四短音より成る一
單位]; (文法規則の適用せらるゝ語根又は語の)一團;
衆, 聚, 大衆, 徒衆, 慣衆, 部衆; 海會 *Divy.,*
Sam-r., Lāṅk., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Bodh-c.,
Mvyut., 梵雜.; 僧 [*saṃgha* の (音) *Sūtr.*; 數, 無數
Lal-v., Buddh-c.; 誑撃 *Guhy.s.:* *nāri* ~ 無
數婢女 *Lal-v. 55.*; *bodhisattva* ~ 菩薩衆 *Mvyut.*
→ *ārya* ~.

gaṇaka 男 計算者, 數學者; 占星家; 算師, 算
數者 *Lal-v., Saddh-p., Mvyut.*

gaṇaka-mahā-mātra 男 司曆, 大算者 *Mvyut.*

gaṇa-karman 中 全般に共通する儀式.

gaṇa-karṣa 男 攝衆 *Sūtr.*

gaṇa-kāma 形 從者の一團を欲する.

gaṇa-cakra 中 魔法の輪(の一種).

gaṇa-cchandasa 中 韻脚(*gaṇa*)にて測らるゝ音律.

gaṇatva 中 多數なること; *Siva* 神の侍者の役目.

gaṇa-dāsa 男 [或る舞踏の師匠の名].

gaṇa-dikṣin 形 社會の爲に司祭する(祭官).

gaṇa-dravya 中 團體の財産.

gaṇa-dvipa 男 群島.

gaṇana 中 計算, 勘定; 算, 計, 算計 *Bodh-bh.,*
Abh-vy.

gaṇana-nyasana 中 算 *Bodh-bh.*

gaṇanā 女 = *gaṇana*; (一°)の計算; 思考; (圖)の顧
慮; 算, 數, 算數, 計, 算計; 數目; 數分, 數
量; 諸數; 算數校計 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-*
p., Lāṅk., Abh-vy., Bodh-bh., 梵千.; 衆 *Daś-bh.:*
~ *kṛtā* 入(法)數 *Aṣṭ-pr. 114.*; ~ *m kṛtvā* 算 *Av-*

s. I. 175.; ~ api 算則, 數則 *Mvyut.*: (世間)數名目 [1. ekam 一, 2. daśa 十, 3. śatam 百, 4. sahasram 千, 5. ayutam 萬, 6. lakṣam 億(十萬), 7. niyutam 兆(百萬), 8. koṭi 京(千萬), 9. arbudam 秭, 10. ny-arbudam 垓, 11. padmam 壤, 12. kharvam 溝, 13. nikharvam 澗, 14. mahā-padmam 正, 15. śaṅku 載, 16. samudram 十載, 17. madhyam 百載, 18. antaḥ 千載, 19. parārdhaḥ 萬載, 20. eka 一, 21. dvi 二, 22. triṇi 三, 23. catvāri 四, 24. pañca 五, 25. ṣaṭ 六, 26. sapta 七, 27. aṣṭau 八, 28. nava 九, 29. daśa 十, 30. ekādaśa 十一, 31. dvādaśa 十二, 32. trayodaśa 十三, 33. caturdaśa 十四, 34. pañcadaśa 十五, 35. ṣoḍaśa 十六, 36. saptadaśa 十七, 37. aṣṭādaśa 十八, 38. ekonaviṃśati 十九, 39. viṃśati 二十, 40. ekaviṃśati 二十一, 41. dvāviṃśati 二十二, 42. trayaviṃśati 二十三, 43. caturviṃśati 二十四, 44. pañcaviṃśati 二十五, 45. ṣaḍviṃśati 二十六, 46. saptaviṃśati 二十七, 47. aṣṭaviṃśati 二十八, 48. ekonaviṃśati 二十九, 49. triṃśat 三十, 50. ekatriṃśat 三十一, 51. dvātriṃśat 三十二, 52. trayastriṃśat 三十三, 53. caturtriṃśat 三十四, 54. pañcatriṃśat 三十五, 55. ṣaṭtriṃśat 三十六, 56. saptatriṃśat 三十七, 57. aṣṭatriṃśat 三十八, 58. ekonacatvāriṃśat 三十九, 59. catvāriṃśat 四十, 60. ekacatvāriṃśat 四十一, 61. dvācatvāriṃśat 四十二, 62. trayācatvāriṃśat 四十三, 63. caturcatvāriṃśat 四十四, 64. pañcatvāriṃśat 四十五, 65. ṣaṭcatvāriṃśat 四十六, 66. saptacatvāriṃśat 四十七, 67. aṣṭacatvāriṃśat 四十八, 68. ekonapañcāśat 四十九, 69. pañcāśat 五十, 70. ekapañcāśat 五十一, 71. dvāpañcāśat 五十二, 72. tripañcāśat 五十三, 73. catuḥpañcāśat 五十四, 74. pañcapañcāśat 五十五, 75. ṣaṭpañcāśat 五十六, 76. saptapañcāśat 五十七, 77. aṣṭapañcāśat 五十八, 78. ekonasaṣṭiḥ 五十九, 79. saṣṭiḥ 六十, 80. ekasaṣṭiḥ 六十一, 81. dvāsaṣṭiḥ 六十二, 82. trisaṣṭiḥ 六十三, 83. catuḥsaṣṭiḥ 六十四, 84. pañcasaṣṭiḥ 六十五, 85. ṣaṭsaṣṭiḥ 六十六, 86. saptasaṣṭiḥ 六十七, 87. aṣṭasaṣṭiḥ 六十八, 88. ekonasaṣṭiḥ 六十九, 89. saṣṭiḥ 七十, 90. ekasaṣṭiḥ 七十一, 91. dvāsaṣṭiḥ 七十二, 92. trisaṣṭiḥ 七十三, 93. catuḥsaṣṭiḥ 七十四, 94. pañcasaṣṭiḥ 七十五, 95. ṣaṭsaṣṭiḥ 七十六, 96. saptasaṣṭiḥ 七十七, 97. aṣṭasaṣṭiḥ 七十八, 98. ekonāśiṭiḥ 七十九, 99. aśiṭiḥ 八十, 100. ekāśiṭiḥ 八十一, 101. dvyaśiṭiḥ 八十二, 102. trayāśiṭiḥ 八十三, 103. caturaśiṭiḥ 八十四, 104. pañcāśiṭiḥ 八十五, 105. ṣaḍaśiṭiḥ 八十六, 106. saptāśiṭiḥ 八十七, 107. aṣṭāśiṭiḥ 八十八, 108. ekonāśiṭiḥ 八十九, 109. navatiḥ 九十, 110. ekanavatiḥ 九十一, 111. dvīnavatiḥ 九十二, 112. trinavatiḥ 九十三, 113. caturnavatiḥ 九十四, 114. pañcanavatiḥ 九十五, 115. ṣannavatiḥ 九十六, 116. saptanavatiḥ 九十七, 117. aṣṭānavatiḥ 九十八, 118. ekonāśatam 九十九, 119. śatam 一百, 120. ardham 半, 121. adhyardham 一箇半, 122. ardhatṛtīyam 兩箇半, 123. ardhacaturtha

三箇半, 124. tṛtīya-bhāga 三分之一, 125. tṛtīyāmsa 三分之一, 126. caturtha-bhāga 四分之一, 127. caturthāmsa 四分之一, 128. pañcama-bhāga 五分之一, 129. pañcamāmsa 五分之一, 130. prathamam 初, 131. dvitīyam 第二, 132. tṛtīyam 第三, 133. caturtham 第四, 134. pañcamam 第五, 135. ṣaṣṭham 第六, 136. saptamam 第七, 137. aṣṭamam 第八, 138. navamam 第九, 139. daśamam 第十] *Mvyut.*; (阿毘達磨所出)數目 [六十數]: 1. ekam 一, 2. daśa 十, 3. śatam 百, 4. sahasram 千, 5. prabhedāḥ 萬, 6. lakṣam 洛叉, 7. atilakṣaḥ 度洛叉, 8. koṭiḥ 俱胝, 9. madhyaḥ 末陀, 10. ayutaḥ 阿庾多, 11. mahāyutaḥ 大阿庾多, 12. nayutaḥ 那庾多, 13. mahānayutaḥ 大那庾多, 14. prasutaḥ 鉢羅庾多, 15. mahāprasutaḥ 大鉢羅庾多, 16. kaṃkaraḥ 矜羯羅, 17. mahākaṃkaraḥ 大矜羯羅, 18. bimbaraḥ 頻婆羅, 19. mahābimbaraḥ 大頻婆羅, 20. akṣobhyaḥ 阿芻婆, 21. mahākṣobhyaḥ 大阿芻婆, 22. vivāhaḥ 毗婆訶, 23. mahāvivāhaḥ 大毗婆訶, 24. utsaṅgaḥ 嚧瞞伽, 25. mahotsaṅgaḥ 大嚧瞞伽, 26. vāhanaḥ 婆喝那, 27. mahāvāhanaḥ 大婆喝那, 28. tiṭibhaḥ 地致婆, 29. mahātiṭibhaḥ 大地致婆, 30. hetuḥ 醯都, 31. mahāhetuḥ 大醯都, 32. karabhaḥ 羯臘婆, 33. mahākarabhaḥ 大羯臘婆, 34. indraḥ 印達羅, 35. mahendraḥ 大印達羅, 36. samāptaḥ 三磨鉢耽, 37. mahāsamāptaḥ 大三磨鉢耽, 38. gatiḥ 揭底, 39. mahāgatiḥ 大揭底, 40. nimbarajaḥ 拈筏羅閣, 41. mahānimbarajaḥ 大拈筏羅閣, 42. mudrā 姥達羅, 43. mahāmudrā 大姥達羅, 44. balam 跋藍, 45. mahābalam 大跋藍, 46. samjñā 珊若, 47. mahāsamjñā 大珊若, 48. vibhūtaḥ 毗步多, 49. mahāvibhūtaḥ 大毗步多, 50. balākṣam 跋羅攪, 51. mahābalākṣam 大跋羅攪, 52. asamkhyam 阿僧企耶, 53. apramānam 無量, 54. aprameyam 無可量, 55. aparimitam 無限量, 56. aparimānam 無邊量, 57. atulyam 無比, 58. amāpyam 不可量, 59. acintyam 不可思議, 60. anabhilāpyam 不可說] *Mvyut.*

gaṇanā-gati 女 𑖀𑖔𑖧𑖔𑖧𑖔𑖧 [數の名] 伽那那伽致, 伽那那伽諦 *Lal-v.*, *Mvyut.*

gaṇa-nātha 男 *Ganeśa*.

gaṇanā-pati 男 [同上]; 𑖀𑖔𑖧 司算, 算者 *Mvyut.*

gaṇanā-pattrikā 女 計算書.

gaṇa-nāyaka 男 *Ganeśa*.

gaṇanā-yoga 男 𑖀𑖔𑖧 計算, 算數 *Aṣṭ-pr.*

gaṇanāvarta-lipi (°nā-āv°) 女 𑖀𑖔𑖧 轉數書 *Lal-v.*; (𑖀𑖔𑖧) 鳩尼那書, 伽那那跋多書 *Lal-v.*

gaṇanā-samatikrama 形 𑖀𑖔𑖧 過數量, 過諸數 *Aṣṭ-pr.*

gaṇanā-samatikrānta 形 𑖀𑖔𑖧 度過數目 *Mvyut.*

gaṇanā-samatikrāntatva 甲 𑖀𑖔𑖧 過數量, 出過數分 *Aṣṭ-pr.*

gaṇaniya (未受分) 數へらるべき; 𑖀𑖔𑖧 應知, 應數 *Abh-vy.*

gaṇa-pa 男 *Ganeśa*; 集團の首領.

gaṇa-pati 男 [同上]; 𑖀𑖔𑖧 (𑖀𑖔𑖧) 譏擊鉢底 *Guhya-s.*

gaṇa-pāṭha 男 *gaṇa* の表(文法).

gaṇa-puṃ-gava 男 集團の首領。
gaṇa-pūjya 男 [同上]。
gaṇa-pūrva 男 [同上]。
gaṇa-pradātr 男 團體に對する恩人。
gaṇa-pramukha 形 = gaṇa-puṃgava (佛敎); 漢譯 衆首, 聚尊者 *Mvyut.*
gaṇa-mukhya 男 [同上]。
gaṇa-bandhutā 男 漢譯 畜衆 *Vin.*
gaṇa-bhartṛ 男 [*Siva* 神の稱]。
gaṇa-bhojana 中 共同の食事(佛敎); 漢譯 衆食, 別衆食 *prāt-m., Mvyut.*
gaṇaya 名動 他(自) **gaṇayati(-te)** 數ふ, 枚擧す, 計算す; 合計す; 加算す; (於)中に算入す; 考慮す; (業)を(業)と思ふ; (於)に歸す; 見做す, 思ふ; 案出す; [na と俱に] 無視す, 考慮せず; [bahu と俱に] 非常なる考慮を拂ふ; 漢譯 算, 計算, 數, 計數; 量知多少, 檢量知多少; 觀察 *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Abh-vy., 梵千.* 受 現分 **gaṇyamāna** 漢譯 數 *Abh-vy.* 通受分 **gaṇita** 數へられたる, 計算せられたる。
adhi- 數ふ, 列擧す; 高く評價す; 稱揚す。
ava- 無視す, ……に注意を拂はず。 通受分 **ava-gaṇita** 無視せられたる。
ā- 加算す, 餘分に數ふ。
pari- 數ふ, 計算す; 完全に數へ上ぐ, 計算によりて確かむ; 考慮す。 通受分 **parigaṇita** 數へられたる, 計算せられたる; 數の制限せられたる。
vi- 數ふ; 考慮す, 熟考す; (業)を(業)と思ふ; 見做す; 無視す。 受 ……の數に上る。
sam- 漢譯 數 *Divy.*
gaṇa-yajña 男 = gaṇa-karman.
gaṇa-yāga 男 諸神の崇拜。
gaṇa-rātra 中 一連の夜。
gaṇavat 形 組又は系列より成る。
gaṇa-vṛtta 中 = gaṇa-ecchandas.
gaṇasās 副 群をなして, 隊をなして, 列をなして, 群に於て。
gaṇa-śri 形 聯合せる, 集團せる。
gaṇa-samsrṣṭa 形 漢譯 衆所裸, 閑衆所集處 *Lank.*
gaṇa-saṃgraha 男 漢譯 攝衆 *Bodh-bh.*
gaṇa-saṃnipāta 男 漢譯 衆同集 *Bodh-bh.*
gaṇācārya (ṇa-āc) 男 民衆の教師(佛敎)。
gaṇādhipa 男 神群の首長; *Gaṇeśa.*
gaṇādhipati 男 [*Siva* 神の稱]; *Gaṇeśa.*
gaṇādhipatya (ṇa-ād) 中 神群の主長。
gaṇādhiśa 男 *Gaṇeśa.*
gaṇādhyakṣa 男 [同上]。
gaṇānna 中 團體(より與へらるゝ)食物。
gaṇābhyantara 男 團體の一員。
gaṇārya (ṇa-ār) 男 漢譯 僧 [*saṃgha* の 音寫] *Sikṣ.*
gaṇikā 女 娼婦; 漢譯 姪女 *Divy., Sikṣ.*; 母(?)人 *Gaṇ-vy. 404.*; 童女 *Divy. 165.*
gaṇikānna (ṇa-an) 中 娼婦より與へられたる食物。
gaṇita 通受分 → *gaṇaya.* 中 計算; 數學; 漢譯 算, 數, 算計, 算數, 算法 *Lal-v., Lank., Mvyut., 梵千, 梵雜.*

gaṇitra 中 [占星具の一種] 漢譯 曆數 *Divy.*
gaṇin 形 (一)の群を有する; 從者を有する; (與)に伴はれたる。
gaṇima 形 數へられたる, 計算せられたる。
gaṇeya 未受分 數へらるべき, 計算せらるべき。
gaṇeśa (ṇa-īśa) 男 [*Siva* 神の從者の首長], *Gaṇeśa* 神 [智慧の神, 障礙の除去者, *Siva* 神と *Pārvatī* との子]; [*Siva* 神の稱]。
gaṇḍa 1. 男 [一°は形(女 -ā, -i)] 頰, 顔の側面, 傍; 泡; 甲狀腺腫, 頸の腫物; 漢譯 頰, 頰 *Mvyut., 梵千.*; [病名] 癩, 瘡, 癩疽, 鼠瘡 *Sikṣ., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut.*; 犀牛 *Mvyut.* 男 中 切れ切れの或は支離滅裂なる問答の應酬(戲曲)。
gaṇḍa 2. 男 俗 [<kāṇḍa]; 漢譯 莖, 樹 *Av-ś., Sikṣ., Lank., Bodh-bh., Mvyut.*; 節, 章 *Divy.*
gaṇḍaka 男 犀; [人名]; 漢譯 [=kaṇḍaka] 趣 *Divy.: pañca ~ 五趣 Divy. 281.* 形 漢譯 俗 [<kāṇḍaka] 分分 *Divy.: ~ ārāmikaḥ 分分林 Divy. 155.*
gaṇḍa-kaṇḍu 男 [或る *Yakṣa* の名]。
gaṇḍa-karaṭa 男 象の顛顛。
gaṇḍakā 女 [<kāṇḍaka] 小片, 小量 (*Divy.*)。
gaṇḍa-kāṣa 男 頰の摩擦。
gaṇḍaki 女 [北印度の河の名]。
gaṇḍa-gaṇḍam 副 俗 [<kāṇḍa-kāṇḍam]; 漢譯 分分 *Divy. 155.*
gaṇḍa-pāli 女 頰の部分。
gaṇḍa-piṇḍa 男 頰と額。
gaṇḍa-bhitti 女 頰骨。
gaṇḍa-bhaiṣajya 中 俗 [<kāṇḍa-bh°]; 漢譯 木種藥 *Mvyut.*
gaṇḍa-mālā 女 瘰癧。
gaṇḍa-mālin 形 頸腺が瘰癧にて肥大せる。
gaṇḍa-lekhā 女 頰の部分。
gaṇḍa-vyūha 男 漢譯 [經の名] 華嚴經 *Sikṣ.*; 寶嚴樹經(?), 大乘密嚴經(?) *Mvyut.* → *gaṇḍavyūha-sūtra.*
gaṇḍavyūha-sūtra 中 漢譯 [經の名] 華嚴經 *Sikṣ.* [大方廣佛華嚴經(般若譯), 大方廣佛華嚴經入法界品]
gaṇḍa-silā 女 岩石の大塊。
gaṇḍa-śaila 男 [同上]; 頰骨; [*Apsaras* の樂園の名]。
gaṇḍa-śyāma-mada-cyuti 形 頰より褐色の液が滴る。
gaṇḍa-sthala 中 [一°は形(女 -ā, -i)] 頰。
gaṇḍa-sthali 女 [同上]。
gaṇḍā 女 [七賢人の女性從者の名]; 漢譯 [=gaṇḍa] 頰 *Bodh-bh.*
gaṇḍi 女 俗 [報知用の銅鑼の一種, <ghaṇṭi]; 漢譯 音寫 捷椎 *Divy. 335.*
gaṇḍikā 女 俗 [<kāṇḍikā, kāṇḍikā(?)]; 漢譯 段 *Divy. 31.*
gaṇḍi 女 俗 [<ghaṇṭi, =gaṇḍi]; 漢譯 音寫 掘地 *Mvyut.*
gaṇḍi-koṭanaka 中 *gaṇḍi* の撥(音); 漢譯 捷椎 (音寫) *Mvyut.*
gaṇḍ: 男 音 梵。
gaṇḍū 女 [同上]。

gaṇḍū-pada 男 [蟲の一種]; 地蟲.
 gaṇḍūsika 男 [又は kaṇḍūsika] 補丁者 *Mvyut.*
 gaṇḍūṣa 男 甲 口一杯(水等の); 一駁; 象の鼻端;
 [人名].
 gaṇḍopadhāna (°da-up°) 甲 枕.
 gaṇḍopadhāniya (°da-up°) 甲 [同上].
 gaṇḍopala (°da-up°) 男 = gaṇḍa-silā.
 gaṇya (未受分) 計算せらるべき, 數へらるべき; 考へ
 らるべき. 形 多數の列より成れる.
 gata (過受分) [Gam] 行ける [evam gate 事態は斯の
 如くなれば]; (圖, 因, 一°)に行ける或は來れる, ……
 に陥れる, ……に於ける, ……の中にある, ……に含
 まれたる或は據る; (prati 又は 一°)に向けられたる,
 ……に關する; (圖, 不定)に出立せる, ……へ去り行
 ける; 死せる; 通過せる, (時の)經過せる; 消え
 たる, 失はれたる; [極めて眞: °—=] 剝奪せられた
 る, 缺如せる, ……を免かれたる, ……なくして, ……
 なき; (圖, 一°)より造られたる; (因)に擴がれる;
 知られたる; 踏まれたる, 眞: 往來せられたる; (一°)
 に到達せる, ……を得たる; 行, 已行; 往; 詣,
 咸詣; 至, 到, 已到; 入; 涉; 趣; 住; 在, 住在, 附
 在, 處在, 悉在; 處, 處於; 居, 遊居; 止, 住止; 於
 中; 了; 徹; 通達; 證 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p.,*
Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-
vy., Mvyut.; (一°)類 *Abh-vy.;* 由; 順, 隨順 *Lank.;*
 去, 已去, 過去, 已過; (一°)經過 *Aṣṭ-pr., Suv-pr., Ma-*
dhy-v., Mvyut., 梵千, 梵雜; (°—)失 *Buddh-c.:* anta-
 ḥpura-madhya ~ 入中宮, 於王後宮 *Saddh-p. 434.;*
 paṣan-madhya ~ 在會中 *Mvyut.;* brahma-vi-
 hāra ~ 住於梵行 *Rāṣṭr. 3.;* rūpa ~ 依色 *Aṣṭ-pr.*
554.; sāgara-madhya ~ 處於大海, 出於大海 *Rā-*
ṣṭr. 3. → astam ~, ābhāsa ~, āvāri ~, ni-
sthā ~, pāra ~, pāram ~, pārami ~, pā-
ramim ~, majja ~, raho ~. 甲 行く動作;
 步態; 消失; 擴散; 擴がり; 範圍; 態度.
 -gataka 形 ……に關する(1).
 gata-klama 形 龍へる, 休養せる, 元氣づける.
 gata-ghṛṇa 形 憐れまざる; 心無慈悲, 惡心
 堅固 *Lank.*
 gata-cetana 形 感覺又は意識を失へる; 智能なき.
 gata-jīva 形 生氣なき, 死せる.
 gata-jīvita 形 [同上].
 gata-jvara 形 熱又は病の癒へたる; 苦痛又は悲しみ
 の去れる.
 gata-toya-da 形 雲なき, 晴れたる.
 gata-trapa 形 恐怖なき, 臆せざる, 勇敢なる.
 gata-pāra 形 その目的を達したる, 最高の限界に達
 したる.
 gata-pūrva 形 前人の既に踏める.
 gata-pratyāgata (過受分) 行きて歸れる, 去りて再
 び來れる.
 gatapratyāgata-prāṇa 形 命將欲盡(勿然)酥
 息 *Divy.*
 gata-prāṇa 形 = gata-jīva.
 gata-prāya 形 殆ど經過せる或は死滅せる.
 gata-buddha 男 過去佛 *Suv-pr.*

gata-mati 形 愚鈍なる, 感覺なき.
 gata-manas 形 = gata-jīva.
 gata-manaska 形 (因)を考ふる.
 gata-mātra 形 去りしばかりの.
 gata-yauvana 形 青春の去りし; 已過壯時
Mvyut.
 gata-roga 形 病の治癒せる, 快方に向へる.
 gata-lakṣmika 形 不祥の, 不幸の, 損失を受くる.
 gatavat (過受分) 行く, 經過する; 行 *Lank.*
 gata-vayas 形 青春の去りし.
 gata-vyatha 形 苦痛を去れる, 患を除かれたる, 心
 配なき.
 gata-śri 形 幸運又は幸福を得たる, 繁榮の極にある.
 gata-śrika 形 = gata-lakṣmika; 幸運又は高位を失
 へる; 美を失へる, 醜くなれる.
 gata-saṃkalpa 形 欲望なき.
 gata-sāra 形 價値なき.
 gata-sauhrda 形 友情を失へる.
 gata-sprha 形 (圖, 因)に何等の欲望又は快樂を覺え
 ざる; 無關心なる; 無慈悲なる.
 gata-svārtha 形 意味を失へる; 不用の; 無關係の.
 gatāgata (ta-āg°) (過受分) 甲 (圖, 因) 往來, 此處彼
 處へ行くこと; (鳥の)あちらこちらに飛ぶこと; 去來
Madhy-v.: ~ āni Kṛ, 商議す, 交渉す.
 gatāgata-parikṣā 因 觀去來 *Madhy-v.*
 gatāgati (°ta-āg°) 因 去來=死と再生.
 gatādhi (°ta-ādhi) 形 憂慮を去れる, 心配なき, 幸
 福なる.
 gatādhvan 形 路を歩める; 旅を終りたる; (因)に
 精通せる.
 gatānugatika 形 先例に従ふ, 習慣又は他の行動に
 従ふ; 模倣する.
 gatānta 形 終末の來れる.
 gatāyus (°ta-āy°) 形 活力の消失せる, 老朽せる, 老
 齡の; 瀕死の; 死せる.
 gatārtha 形 無意義の, 無稽の; 理解せられたる.
 gatāsu 形 息を引きとれる, 生命なき, 死せる; 死人
Buddh-c.
 gati 因 行くこと, 步態, 前進, 動作, 行動, 飛行; 退
 去, 出發; 行進, 進行; 成功; (圖, 因, 一°)の獲得;
 (因)に對する服從; 路, 進路, 小徑; 出口; 根源, 根
 底; 手段, 方法, 可能性; 策略; 避難處; 狀態, 狀
 況, 條件, 位置; 性質; 幸福; 輪廻, 人間の運命; 風
 習; 了解せられたること, 意味せられたること; 動
 詞と結合せられたる前置詞又は副詞; 行, 行止;
 至; 到; 往; 趣, 所趣, 所歸趣; 步, 徐步; 動, 行動;
 去, 去來, 去法, 往來; 行處; 境, 境界; 道; 得 *Divy.,*
Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Suv-pr., Lank., Cat-
ś., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v., Śikṣ.,
Mvyut., 梵千; 解, 解悟; 所證, 證處, 悟處 *Lank.,*
Sūtr., Mvyut.; [數の名] 趣 *Mvyut.;* 伽帝, 揭
 底 *Mvyut. → pratyātma ~.*
 gatika 形 → animitta ~.
 gatiṃ-gata 形 理解せる, 了解せる; 到, 入;
 得; 知; 通達, 通曉, 已得通達; 了, 了達; 已窮盡;
 究竟; 究竟修已, 究竟得自在 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sadūh-*

p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Sukh-vy. I., Rāstr., Laṅk.,
Śikṣ., Mvyut.: jñāna〜 智慧通達 Śikṣ. 337.;
paramo〜h 至究竟, 善解, 善能成就 Ast-pr. 751.;
sarva-dharma〜 通達一切法 Śikṣ. 310.

gati-cakra ④ 漢譯 五趣輪 Gaṇḍ-vy.
gati-pañcaka ④ 漢譯 五趣, 五道 Laṅk.
gati-pratyāgatikatā ④ 往還すること.
gati-pravara ④ 漢譯 [劫(kalpa)の名] 勝行, 最勝
行 Gaṇḍ-vy.
gati-bala ④ 漢譯 趣力 Gaṇḍ-vy.
gati-bodhana ④ 漢譯 達解, 進覺 Śikṣ.
gati-bhaṅga ④ 妨げられたる或は確かならざる歩調,
停止.
gati-bheda ④ 同上.
gatimat ④ 動く; (體等の)出口ある, 獲の; 前置詞
等を備ふる; 漢譯 去者 Sam-r.
gati-rūpa ④ 漢譯 所去 Sūtr.
gati-viṣaya ④ 漢譯 行處, 所行處 Abh-vy.
gati-śānta ④ 漢譯 趣寂靜, 去寂靜 Laṅk.
gati-samkṣā ④ 漢譯 諸趣, (五)道生死 Laṅk.
gati-samdhī ④ 漢譯 趣相續, 《餘》處受生 Laṅk.
gatika ④ → a-gatika. 漢譯 往, 去 Daś-bh.
gatodaka (ta-ud°) ④ 水なき, 乾ける.
gatodvega (°ta-ud°) ④ 悲しみを去れる, 快き.
gaty-artha ④ 漢譯 運動の意義を有する.
gaty-āgata ④ 漢譯 往來, 去來 Laṅk.
gaty-āgati ④ 去來, 顯沒; 漢譯 去來 Laṅk.
gatvara ④ (女-i) (一)に行く; (四)の爲に準備せ
る, ……を始むる; ……に赴く; 暫時の.
Gad, I. ④ **gadati** 暗誦す, 發聲す, 話す, 言ふ; 宣
言す; (四)を(三)に話しかく; 名づく; 數ふ; 漢譯
發言 Lal-v. ④ 過受分 **gadita** 言はれたる, 數へられ
たる, 命名せられたる, 説明せられたる.
ni- [=單純動詞]; 漢譯 說, 演說 Rāstr., Laṅk. ④
nigadyate 名づけられる, 呼ばれる; 見做さる. ④ 過受分
nigadita 暗誦せられたる, 言はれたる, 話され
たる. ④ 漢譯 **nigādayati** 暗誦せしむ.
gada 1. ④ 漢譯 文章, 言語, 綴字.
gada 2. ④ 漢譯 病; [Vasudevaの子にして Kṛṣṇaの弟の
名]; 漢譯 瘡疱 Śikṣ.
gadana ④ 漢譯 暗誦, 談話.
gadā 1. ④ 漢譯 棍棒; 漢譯 棒 Mañj-m.
gadā 2. ④ 漢譯 文章, 言語, 綴字.
gadāgra-ja ④ [(Gadaの兄), Kṛṣṇa神の稱].
gadā-dhara 1. ④ 漢譯 棍棒を持てる. ④ [Kṛṣṇa神の
稱].
gadādhara 2. ④ 漢譯 唇を痛めたる.
gadā-parvan ④ [Mahābhārataの章の名].
gadā-bhṛt ④ 漢譯 棍棒を持てる. ④ [Kṛṣṇa神の稱].
gadāya ④ 漢譯 **gadāyate** 怠惰となる.
gadāvasāna (°dā-av°) ④ [地方の名].
gadi ④ 漢譯 說話, 言語.
gadita ④ 過受分 → Gad. 漢譯 說 Śikṣ. ④ 漢譯
言語.
gadin 1. ④ 漢譯 棍棒を持てる; [Kṛṣṇa神の稱].
gadin 2. ④ 漢譯 病氣の.

gadgada ④ 漢譯 口ごもる; 吃る. ④ 吃音.
gadgadaka ④ [同上(形)].
gadgada-gala ④ 漢譯 吃る, 口ごもる.
gadgadatā ④ 吃音.
gadgadatva ④ [同上].
gadgada-nada ④ 漢譯 騒音, (咽び泣きの)不明瞭なる聲.
gadgada-bhāṣaṇa ④ 吃音.
gadgada-bhāṣin ④ 漢譯 吃る, 口ごもる.
gadgada-ruddha ④ 漢譯 咽び泣きに抑へられたる(語)
(Buddh-c).
gadgada-vākya ④ 漢譯 吃る, 口ごもる.
gadgada-vāc ④ [同上].
gadgada-śabda-svara ④ [同上].
gadgada-svara ④ 漢譯 口ごもれる調子; 漢譯 [菩薩の
名] 妙音, 妙吼 Saddh-p. 423. ④ 吃音の.
gadgadikā ④ 吃音.
gadgadita ④ 過受分 吃れる.
gadya (未受分) 言はるべき. ④ 漢譯 會話の言葉; 散文;
漢譯 單, 單句; 長行, 長句, 長行句; 廣說; 長頌
Laṅk., Mvyut.
gadya-padyamaya ④ (女-i) 散文と頌文とより成
る.
gadyāṇa ④ [重量の名].
gadyāṇaka ④ [同上].
Gadh, IV. ④ **gadhyati** 混ぜらる. ④ 未受分 **gadhyā**
確かと攪まるべき, 捕へらるべき. ④ 過受分 **gadhyā**
ā- ④ 過受分 **āgadhyā** 密著せる.
pari- ④ 過受分 **parigadhyā** 攪まれたる.
gadhyā ④ 過受分 → Gadh.
gantave, [Gamの(四)不定].
gantavai, [同上].
gantavya (未受分) (中) (非入) 行かざるべき [主語の(四)と
俱に]; 横切らるべき; 成就せらるべき, 得らるべき;
求めらるべき, 近づかるべき, 訪ねらるべき; 理解
し得べき; 近づける, 切迫せる; 漢譯 應往, 當往;
所去處 Saddh-p., Madhy-v.
gantu ④ 漢譯 路, 進路; 旅行者.
gantu-kāma ④ 漢譯 行かんことを願へる.
gantr ④ (三, 四, 五)に行く者, 來る者或は達する者;
[時としてGamの(未)として用ゐらる]; 漢譯 進趣
Bodh-bh.; 去者 Madhy-v.
gantrikā ④ 小車.
gantri ④ [Gamの第三(四)圓として用ゐらる]; 車;
漢譯 車 Buddh-c.
gandha ④ (中) (附著するもの), 香, 芳香, 香氣; 薰
香 [一般に(四)]; (一)の氣味又は痕跡, ……との相似;
矜誇, 傲慢; 漢譯 香; 氣, 氣味 Saddh-p., Vajr-pr.,
Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Vaiś-s., Mvyut.,
梵雜.: 四香 [1. su〜h 好香, 2. dur〜h 惡香, 3.
sama〜h 等香, 4. viśama〜h 不等香] Mvyut.;
pañca〜ah 五香 [1. kṛṣṇāgaruḥ 沈香, 2. can-
danam 梅檀, 3. agaruḥ 沈香, 4. kuṅkumam 鬱
金香, 5. karpūram 龍腦香] Mvyut.
〜ena ④ 漢譯 聞(藥)氣 Ast-pr. 194.
gandhaka ④ (女-ikā) (一)の香氣又は氣味ある.

gandhaka-peṣikā 女 香料を搗く或は準備する婢。
gandha-kālikā 女 [或る Apsaras の名]。
gandha-kāli 女 [Vyāsa の母の名]。
gandha-kāṣṭha 中 香木, 蘆薈(?)樹; [白檀の一種];
 香木 Divy.
gandha-kuṭi 女 [Guzerat に産する香油の一種]; [部
 屋の一種] (佛敎); 香殿, 塔寺, 佛堂, 清淨房, 清
 淨香臺 Av-ś., Mvyut., 梵雜.
gandha-kūṭi 女 [正しくは gandha-kuṭi]; 本
 房 Divy. 46.
gandha-kokilā 女 [香料の一種]。
gandha-gaja 男 = gandha-dvipa.
gandha-gulikā 女 丸香 Gaṇḍ-vy.
gandha-grāhin 形 芳香ある。
gandha-ghaṭikā 女 香罐, 香爐 Lal-v., Saddh-
 p., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Śikṣ.
gandha-cūrṇa 男 中 雜成搗香 Daś-bh.
gandha-ja 形 芳香ある物質より成る。
gandha-jala 中 香水。
gandha-taila 中 香油; 香油 Saddh-p.
gandhataila-pradipa 男 香油燈 Saddh-p.
gandha-dvipa 男 發情期の象。
gandhadvipendra (°pa-in°) 男 [同上]。
gandha-dvirāḍa 男 [同上]。
gandha-dhātu 男 香界 Mvyut.
gandha-dhārin 男 [(芳香を有する), Siva 神の稱]。
gandha-dhūpa-paṭala 中 燒香 Gaṇḍ-vy.
gandha-dhūpa-latā 女 香煙氣, 妙香氣 Suv-
 pr.
gandhadhūpalatā-chattrā 中 香蓋 Suv-pr.
gandhana 男 米(の一種)。中 臭氣; 諷刺。
gandha-nāmni 女 [些細なる病の一種]。
gandha-pa 男 中 [(香氣を呑む者), 或る祖靈の名]。
gandha-pāna 中 芳香ある飲物。
gandha-pālin 男 [Siva 神の稱]。
gandha-pāṣāṇa 中 硫黃。
gandha-pāṣāṇavat 形 硫黃ある。
gandha-puṣpa 中 香氣ある花。
gandha-prabhāsa 男 佛の名] 香光 Sukh-
 vy. II.
gandha-pramodita 形 香氣(常)芬馥, 香氣馥
 翻 Suv-pr.
gandhamaya 形(女-i) = gandha-ja.
gandha-māmsi 女 [縝草(?)の一種]; 甘松
 Mvyut.
gandha-māda 男 [人名]。
gandha-mādana 男 芳香(ある森林を有する山脈の
 名); [或る猿の名]; [山の名] 香醉, 香山, 香醉山
 Divy., Suv-pr., Abh-k., Mvyut.
gandhamādana-śaila 男 山の名] 香山, 香醉
 山 Divy.
gandha-mārjāra 男 麝香猫。
gandha-mālati 女 [香料の一種]。
gandha-mālin 男 [或る Nāga の名]。
gandha-mālya 中(男) 又は 香料と花環; 香
 髮 Bodh-bh.

gandhamālya-loka 男 香料と花環との世界。
**gandhamālya-vilepana-varṇaka-dhāraṇa-vi-
 rati** 女 離持香髮塗彩, 不著花鬘瓔珞及香油塗
 身 Mvyut.
gandha-mṛga 男 = gandha-mārjāra; 麝香鹿。
gandha-yukti 女 香料の混合又は準備; 合香
 Mvyut.
gandhayukti-jñā 形 香料の準備に熟練せる。
gandha-rasa 男 香料と風味。
gandharva 男 [Soma 及び太陽と密接なる関係にある
 守護神の名, 時として (因)]; (Indra 神の天に住
 する)天上の音楽師(國); [肉體の死後他の新肉體に
 宿るまでの靈魂]; 樂神, 樂人; 音楽; 食香, 尋
 香, 嗅香, 嗅香; 香神, 香音神; 香行 Mañj-m.,
 Lank., Abh-k., Mvyut., 支應; 中有 Divy.; 闍
 婆, 乾闥婆, 乾闥婆, 健達縛, 乾闥婆, 健達縛, 乾
 闥婆, 乾闥婆, 乾闥婆 Divy., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sa-
 ddh-p., Lank.; Abh-vy., Mvyut., 梵雜, 支應。
gandharva-kanyā 女 Gandharva の娘。
gandharva-khaṇḍa 男 [Bhāratavarṣa の一部の
 名]。
gandharva-grhita 形 Gandharva に魅せられたる。
gandharva-graha 男 Gandharva に魅せられたる
 こと。
gandharva-taila 中 藥味油, 蓖麻子油。
gandharvatva 中 Gandharva たること。
gandharva-dattā 女 [或る Gandharva の王女の名]。
gandharva-nagara 中 Gandharva の都城; 唇氣樓;
 尋香城, 尋香城邑 Vijñ-v., Mvyut.; (香)乾
 闥婆城, 健達縛城 Lank., Śikṣ., Vijñ-v., Mvyut.
gandharva-patni 女 Gandharva の妻, Apsaras.
gandharva-pada 中 Gandharva の住處。
gandharva-pāniya 中 泉水 梵雜。
gandharva-pura 中 = gandharva-nagara; (香)乾
 闥婆城, 健達縛城, 乾闥婆城 Lank.
gandharva-pratyupasthitā 形 女 妊娠せる
 (Divy.).
gandharva-rāja 男 Gandharva の王。
gandharva-lipi 女 (香)健達縛和書, 乾達婆書
 Lal-v.
gandharva-loka 男 Gandharva の世界。
gandharva-vidyā 女 Gandharva の技藝即ち音楽。
gandharva-vivāha 男 (Gandharva の結婚様式) [儀
 式乃至親戚の同意を要せざる戀愛結婚]。
gandharva-veda 男 = gandharva-vidyā.
gandharva-saṃgiti-ghoṣā 形 女 (香)如健
 達縛妙歌音 Mvyut.
gandharva-hasta 男 [(Gandharva の手), 藥味油
 を採る樹の名]。
gandharvāpsaras 女 (兩) Gandharva と Ap-
 saras.
gandharvi 女 Gandharva (と同族の)女; (香)乾
 闥婆女 Lank.
gandharvendra (°va-in°) 男 (香)乾闥婆王,
 峨駝哩囉王 Rāṣṭr.
gandha-lubdha 形 香氣を欲する(蜂)。

gandha-vajra 男 漢語 [菩薩の名] 金剛香 *Guh-y-s.*
gandha-vaṭikā 女 小圓形の香料 (*Lal-v.*).
gandha-vaṇij 男 香料商.
gandhavat 形 芳香ある; 香の性質を有する.
gandhavati 女 [河の名]; 漢語 [Tantra 中の神の名] 具香母 *Mvyut.*; [王城の名] 具妙香, 衆香, 香潔, 香風, 香淨(國); 香林(?) *Ast-pr.*, 支應; 音寫 捷陀越, 軋陀越, 軋陀婆那 支應.
gandha-vaḥa 形 芳香を漂はす. 男 風.
gandha-vāha 男 風.
gandha-vṛkṣa 男 漢語 香樹 *Mvyut.*
gandha-śāli 男 芳香ある米.
gandha-sāra 男 白檀樹.
gandha-sugandha 男 漢語 妙香, 衆香, 香積 *Lank.*
gandha-sevaka 形 香料を使用する.
gandha-srag-dānavat 形 芳香ある花環を飾れる.
gandha-hastin 男 = *gandha-dvipa*; 漢語 [象・佛又は菩薩の名] 香象 *Ast-pr.*, *Sukh-vy. II.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 音寫 捷陀訶盡, 乾陀訶盡 支應.
gandhahasti-bala 中 漢語 香象力 *Mvyut.*
gandhādhyā (°dha-ādhyā) 形 芳香に富める, 芳香ある.
gandhānulepa 男 漢語 塗香 *Sikṣ.*
gandhāmbhas 中 香水.
gandhāyatana (°dha-āyā) 中 漢語 香處, 香入 *Mvyut.*
gandhāra 男 第三音符; (國) [印度西北地方の民族の名]; 漢語 持地調 *Mvyut.*; [龍王の名] 持香 *Mvyut.*
gandhāri 男 種 [同上(國)].
gandhi 形 (一°)の香氣ある; (一°)の少量を有する, 單に(一°)の名のみを有する.
gandhika 形 [同上].
gandhikāpaṇa (°ka-āpā) 中 香料店.
gandhin 形 一° = *gandhi*; 香氣ある; 漢語 香 *Lal-v.*
gandhinika 形 漢語 熏 *Lal-v. 322.*
gandhottama (°dha-utā) 男 漢語 [佛の名] 香上 *Sukh-vy. II.*
gandhoda (°dh:-uda) 中 香水.
gandhodaka (°dha-udā) 中 [同上]; 漢語 香水, 香汁 *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*
gandhodaka-samsikta 形 漢語 香水灑地, 香汁灑地 *Suv-pr.*
gandhoddāma (°dha-udā) 形 香氣高き.
gandhopajivin (°dha-upā) 男 香料商.
[Gabh, Gambh, 裂ける, 裂け開く].
gabha 男 女陰.
gabhas-tala 中 地獄(の一種).
gabhasti 男 腕, 手; 光線. 形 輝く.
gabhasti-pūta 中 手を以て淨めたる.
gabhastimat 形 輝く. 男 太陽; [地獄の一種].
gabhasti-mālin 男 太陽.
gabhira 形 底の知られざる, 測り難き; 深き, 深き香の; 濃密なる, 透らざる; 廣大なる; 無盡藏の; 神祕の, 不可思議なる; 聰明なる, 莊嚴なる, 莊重なる;

途切れざる(時の); 漢語 深, 甚深 *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, *Bodh-bh.* 一^o 副.

Gam, I. gamati 及 **II. ganti** (國); **I. gacchati** 行く, 動く, 歩む; 去る, 來る; 止む, 死す; 過ぐ, 經過す; 横切る; (國, 國, 國)に赴く, ……に近づく, ……に達す, ……を得; (國)に陥る或は戻る; (國)と性交す; 知覺す, 認む(國)理解せらる或は意味せらる; 獲得す, 經驗す, 堪ふ, 蒙る; 漢語 往, 詣, 往詣, 行歩, 遊行; 遊; 勝進; 隨; 去, 離; 知, 辯了; 預在 *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Vijñ-v.*, *Mvyut.*, 梵干, 梵雜.

[極めて屢、抽の(國)と俱に用ゐられて(國)或は(國)の意味となり, 又は(名)形と俱に用ゐられて「(名, 形)となる」の意味となる] **vismayam** 一 驚かさる; **nāśam** 一 滅亡す; **sūdratvam** 一 *Sūdra* となる; **krodham** 一 怒る; **pratipam** 一 (國)に抵抗す; **doṣeṇa** 又は **doṣato** 一 (國)を非難す; **manasā** 一 (國)に考を向く; **na praśamaṃ** 一 漢語 不滅 *Saddh-p.*

(國) **gamyate** 漢語 趣入; 辯了, 令了知 *Sikṣ.*, *Abh-vy.* (過受分) → *gata*. 漢語 **gamayati(-te)** (國, 國, 國)へ行かしむ, ……へ持ち來らしむ, ……へ送らしむ, ……へ導かしむ; 蒙らしむ; (時を)過す; 説明す; (國)の意味を生ず, 表示す; (其)によりて(國)をして歩行せしむ. 漢語 **jigamiṣati** 又は **jigāmsate** 行かんと欲す, 行かんとす. 漢語 **ganiganti** 訪ふ, 足繁く通ふ.

acchā- ……へ赴く.

ati- 經過す; 通過す.

adhi- ……に行く, 近づく, 達す; (國)と性交す; 引き受く; 始む; 入手す, 獲得す; 娶る, 結婚す; 出會ふ, 遭遇す; 見出す, 發見す; 完成す; 學習す, 研究す, 讀む; 漢語 到; 得, 獲; 證, 能證, 證得; 成; 遍入; 隨 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.* (過受分) **adhigata** 得られたる, 過ぎたる; 學べる; (其)に圍まれたる. 漢語 他 **adhijigamiṣati** 回復せしめんと欲す; 漢語 他 **adhijigāmsate** 研究せんと欲す.

sam-adhi- 共に行く, 近づく; 獲得す, 入手す; 超ゆ; 學ぶ, 研究す; 漢語 到; 住 *Lank.* (過受分) **samadhigata** 近づける.

anu- 從ふ, 伴ふ, 追ふ; 近づく, 訪ふ, 達す; 背後より掩護す; 所有す; ……に準ず, ……により導かる; 模倣す; (國)に含まる; 實行す; 漢語 隨, 隨順, 隨行, 隨逐, 隨入; 從, 侍從; 入; 得; 尋; 送 *Divy.*, *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Vajr-pr.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*

(過受分) **anugata** 左右せられ易き, 溫順なる; 一°, ……に一致せる, ……に従へる; 模倣せる; ……に支配せられたる; 横切れる. 漢語 **anugamayati** 伴ふ.

sam-anu- 從ふ; 侵徹す, 普及す. (過受分) **samanugata** 從はれたる, (其)と結合せられたる.

antar- (國)より除外す. (過受分) → *antargata*.

apa- (國)より去る, ……より消ゆ; 漢語 滅 *Suv-pr.* (過受分) **apagata** 去れる; 消滅せる; (國, 一°)

より逸(?)れたる。

vy-apa- 去る。〔通受分〕 **vyapagata** 去れる; (従)より外れたる。

api- 中に行く, ……に入る; 加はる; (業)に熱中す; 婦人に近づく。

abhi- 前進す, 近づく; (業)に行く, ……を訪ぬ; 家に歸る; 従ふ; (業)と性交す; 遭遇す, 出會ふ, 獲得す; (業)に身を委ぬ; 同居す; 理解す; 〔通受分〕 知, 測量 *Lank.* 〔通受分〕 **abhigata** 近づける等。

sam-abhi- ……へ行く, 近づく; 性交す; 〔通受分〕 至 *Saddh-p.*

aram- (爲)に現る, ……に身を示す; ……を助けんが爲に近づく。

ava- (業, 因)に降る; (業)に来る, ……に入る, ……を訪ふ, 近づく; 獲得す; 思ひつく, 推測す, 推斷す; (従)より學ぶ; 知覺す, 理解す; 確信す, 意見を有す, ……の意味なりと信ず, 知る 〔現分〕 **avagacchat** 知りつゝ; 〔通受分〕 **avagata** 能及受兩様の意味を有す; (業)を(業)なりと思ふ或は見做す; 〔通受分〕 覺, 解, 知, 正知 *Lank., Sūtr., Bodh-bh.* 〔使役〕 **avagamayati** 得せしむ; 經驗せしむ, 知らしむ。

ā- (業)に近づく, ……に来る; 現れ来る; (saha)と出會ふ; 歸る [一般に **punar** と俱に]; 偶然遭遇す, 出會ふ; 獲得す, 達す, 到着す, 取る; 受く, 經驗す, 蒙る [相と俱に]; 〔通受分〕 來, 來詣, 還來; 至, 來至; 遇; 取, 得; 依, 依止, 爲所依止, 住著; 修習; 因 [業と俱に] *Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Lank., Vijñ-v., Bodh-bh., Mvyut., 梵千, 梵雜:* mukhād āgacchet 吐, 從口門出 *Aṣṭ-pr.* 399. 〔不變分〕 **āgamyā, āgatya** 到着して, 來りて; ……の爲に; 〔通受分〕 依, 爲所依止, 由…故 *Bodh-bh.:* punar apy āgatya 復廻 *Mvyut.;* anāgamyā 不離, 不遇 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.* 〔通受分〕 **āgata** (業, 因, 一°)に達せる, ……に來れる; 世に來れる, 生れたる; 歸れる [一般に **punar** と俱に]; (一°, 従)より來れる; (業)に就きて起れる, 偶々起れる或は續發せる [時として一°]; (業)に陥れる。〔使役〕 **āgamayati** 近づかしむ; (業)の到着を告ぐ; 〔自〕 **āgamayate** (業)の報知を得, 確かむ; (従)より(業)を學ぶ; (業)を待つ, 忍ぶ; 〔通受分〕 住, 住著; 待, 待時 *Lal-v., Mvyut.* 〔使役〕 〔不變分〕 **āgamayitvā** 訪求 *Bodh-bh.* 〔希求〕 **ājigamiṣati** 將來に來らんとす。〔通受分〕 **āganiganti** 繰返して(業)に近づく。

adhy-ā- 出會ふ, 遭遇す。

anv-ā- 従ふ, 後より來る。〔通受分〕 **anvāgata** [能及受]の意義を有す。

sam-anv-ā- 〔通受分〕 成 *Aṣṭ-pr.* 〔通受分〕 **samanvāgata** (因, 一°)を伴へる, ……を備へたる (*Lal-v., Kār-vy.*)。

abhy-ā- 近づく, ……に來る, 訪ふ; 〔通受分〕 來詣 *Av-ś.* 〔通受分〕 **abhyāgata** 達せる, 來れる; *kramād abhyāgata* 繼承せる。

sam-abhy-ā- 達す, 出會す; 歸り來る [punar と俱に]。〔通受分〕 **samabhyāgata** 近くに來れる, 近づける。

ud-ā- 〔通受分〕 出, 出現 *Siks., Mvyut.:* candra udāgacchat (現分)月出 *Mvyut.*

sam-ud-ā- 共に起る; 悟る; 〔通受分〕 集, 聚集, 積累; 生, 起; 證, 修證, 圓滿證; 修, 修行, 修集; 得, 獲得; 成就, 成滿, 滿足 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.* 〔通受分〕 **samudāgata** 悟れる; (一°)に秀でたる。

upā(upa-ā)- (業, 因)に近づく, ……に來る; 陥る, 蒙る, 經驗す, 受く [相と俱に]; 戻る, 歸る; 現はる; 割り當てらる; [dāyāt と俱に] 繼承す。〔通受分〕 **upāgata** 來れる, 近づける, 達せる。

abhy-upā(upa-ā)- (業)に來る。〔通受分〕 **abhyupāgata** 近づける, 來れる。

sam-upā(upa-ā)- (業)に來る, 近づく, 會ふ; 起る。〔通受分〕 **samupāgata** 近づける, 到達せる。

praty-ā- (従)より(業)に歸る; 正氣に歸る, 回復す; 〔通受分〕 還, 廻還; 來 *Av-ś., Saddh-p., Bodh-bh.* 〔通受分〕 **pratyāgata** 再び歸れる, 到着せる。

sam-ā- (因, 士saha 又は sārđham) と俱に來る, ……と出會ふ, ……と合同す; (業, 因)に近づく, 來る; (従)より歸る; (業)に出會す, ……に遭遇す; 〔通受分〕 集; 平等至 *Buddh-c., Abh-vy.* 〔通受分〕 **samāgata** 共に來れる; (因)と合同せられたる, ……と共同して集合せる。〔使役〕 **samāgamayati** (業)を(因, 因)と合同す; 共に來らしむ。

abhi-sam-ā- 共に近づく; (業)に來る; 〔通受分〕 證入現觀 *Bodh-bh.*

ud- 上る, 登る; 起る, 現はる, 突然現はる; 擴がる; 去る; 滅す。〔通受分〕 **udgata** (従, 一°)より進める, 上れる, 起れる, 發せる, 現れたる; 廣く擴がれる; 去れる, 出發せる。〔使役〕 **udgamayati** 出で來らしむ; (乳を)吸ふ。

abhy-ud- 昇る(月); (業)に會ひに行く; (業)に同意す; 〔通受分〕 昇, 升, 上昇; 騰, 升騰, 飛騰; 涌, 出, 涌出 *Divy., Lal-v., Av-ś., Vajr-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Lank., Mvyut.:* dharanī-talād abhyudgamyā 從地涌出 *Gaṇḍ-vy.* 374. 〔通受分〕 **abhyudgata** (業)と會ひに出で行ける; 擴がれる(名聲); 昇れる(太陽) (*Vajr-pr.*)。

prod(pra-ud)- 昇る, 突出す。〔通受分〕 **prodgata** 突出せる, 秀でたる。

praty-ud- 會はんが爲に前進す [〔通受分〕 **pratyudgata** 能及受の意味を有す]; 再び進み來る或は現はる; (業, 因)に向ひて出發す (*Kār-vy.*); 〔通受分〕 迎, 承迎, 迎接, 奉迎, 迎候 *Divy., Lal-v., Siks., Mvyut.*

sam-ud- 出で來る, 現はる; 〔通受分〕 來 *Sapt-pr.* 〔通受分〕 **samudgata** 起れる, 出で來れる, 現はれたる, 始まれる。

upa- 近づく, (業)に行く, ……を訪ふ; (業)に達す; ……に起る; 偶然出會ふ, 遭遇す; (業)と性交す; [相と俱に] 陥る, 獲得す, 蒙る, 受く; 始む; 襲ふ; 〔通受分〕 往, 詣, 往詣; 至, 到, 來, 來詣; 普入, 等入 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Lank.;* [相と俱に] **nopagacchati** 近不覺, 不近行, 不許諾, 近行不許 *Mvyut.* 〔通受分〕 **upagata** ……の

保護に身を委ねたる; (一°)に伴はれたる; ……を具せる; 近づける; 獲得せる, 到達せる; 起れる; 経験せる; 見られたる; 許されたる; 認められたる, 認可せられたる. **便役** **upagamayati** 近づかしむ.

希求 **upajigamīṣati** 近づかんと欲す, 行かんと欲す.

abhy-upa- (業)に近づく, ……に行く, ……に到達す; 得る; (業)を許容す, ……を承諾す, ……に同意す; **漢譯** 忍; 許; 許有; 令有; 受行, 誓受, 現誓受; 誓行; 追求 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Śikṣ.* **通受分** **abhyupagata** 近づける, 到達せる, 同意せる, 許可せる. **便役** **abhyupāgamayati** (業)を説服して同意せしむ.

sam-upa- 近づく, 共に(業)に行く; 経験す, ……の状態となる. **通受分** **samupagata** 近づける, 経験せる.

ni- (業, 因)に赴く, に現はる, に身を置く; ……に到着す, 獲得す; 入る; 経験す; ……と性交す; **漢譯** 致; 至, 趣; 近; 得 *Aṣṭ-pr.:* maraṇam nigacchet 致死, 趣命終 *Aṣṭ-pr. 355.* **便役** **nigamayati** 中に入らしむ; 結論す, 摘要す.

nis- (従)より出で行く, ……より去る, 出發す; 現れ来る, 現はる; 去る, 消ゆ; 陷る, 経験す; 眠る; **漢譯** 出 *Bodh-bh.* **通受分** **nirgata** (従, °一)より解放せられたる, 出で行ける; 現れたる; 消えたる. **便役** **nirgamayati** 出發せしむ.

vi-nis- 出で行く, 現れ来る, 去る; (従)より免かる或は遁る; 自己を忘る; **漢譯** 出 *Divy.* **通受分** **vinirgata** 出で行ける; 現れ来る, 出で来る; (従)より免れたる.

parā- 去る, 出發す; 死す. **通受分** **parāgata** 行ける; 到着せる; (一°)を以て充されたる或は覆はれたる.

pari- 徘徊す, 歩き廻る; 彷徨ひ歩む, 横切る; 圍む; 取り巻く; 周圍に擴がる; (業)に達す; 去る, 死す; 獲得す, 受く. **通受分** **parigata** (一°)に圍まれたる; 四方に擴がれる或は散れる; (因, 一°)に苦しめる; 死せる; (因, 一°)に所有せられたる, ……にて充されたる; 知られたる; (従)より學ばれたる; 経験せる. **便役** **parigamayati** (時を)過ごす; 廻らしむ.

pra- 出發す, 去る; 進む, (業)に行く; 達す, 得る. **通受分** **pragata** 行ける, 出發せる.

prati- (業)の方に進む; (因)に歸る; **漢譯** 除滅 *Aṣṭ-pr.* **通受分** **pratigata** 行ける; 歸れる.

vi- 逐ひ散らす; 去る, 出發す; 消ゆ, 死す, 過ぎ去る; 分裂す; **漢譯** 散; 無; 沒; 離, 遠離; 除遣; 失壞; 滅, 歸磨滅 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.*; 足越 *Divy.* **通受分** **vigata** 散れる, 去れる; 死去せる; 一— 消滅せる, 行ける = ……なき. **便役** **vigamayati** (時を)過ごす.

sam- 自 (他) 共に来る, 集まる; 會ふ(友又は敵に); (因 土saha 又は sārđham) と合同す; ……と性交す; (因)に集まる; 一致す, 適應す; (業)に行く; 去る, 死す. **通受分** **samgata** 集まれる, 遭遇せる; (因, 一°)と同盟せる; 合同せる; 適應せる; (一°)に相應

又は適應せる; 縮小せる. **便役** **samgamayati** 一緒に持ち来る; (業)を(因)と合同す; (因)を(業)に與ふ; (業)を(業)に導く; (因)に渡す, ……に移す; 與ふ, 贈る; 行かしむ, 去らしむ, 殺す.

upa-sam- 共に(業)に来る; (業)に近づく, ……に加はる; ……の状態となる. **通受分** **upasamgata** 共に來れる, 集まれる.

gama 形 (一°)に行く, ……に動く, ……に乗る; **漢譯** 行, 導, 向, 教 *Lank., Bodh-bh., Mvyut.* → pūrvam~, vihāyasam~. 男 行くこと, 進軍; 道路, 道程; (一°)との性交; (従)より去ること.

gamaka 形 理解せしむる, 首肯せしむる; 説明する, (因)を立證する; **漢譯** 易解 *Bodh-bh.*

gamakatā 女 理解せしむること, 論服.

gamakatva 中 [同上].

gamatha 男 旅行者.

gamadhyai 爲 (不定 因) [Gam] 行くべく, 行くことを.

gamana 中 歩態; 行くこと; (圓, 業 土prati, 圓, 一°)に赴くこと; (一°)との性交; (一°)に着手すること, ……の経験; 出發, 進軍; 到達; 進路; 去ること, 退陣; 歩むこと; 運動; **漢譯** 行, 行度, 通行, 發行, 遊行, 行歩; 往, 能往; 進, 進趣; 向, 趣向; 達, 到, 至; 得; 上昇; 去, 去法; 歸; 行業 *Lal-v., Sapt-pr., Lank., Guhy-s., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v., Vaiś-s., Sāṃkhy-k., Mvyut.* → astam~ , ākāśa~, āgamana~ tā, niṣṭhā~, samudra~, sugati~.

gamanatā 女 **漢譯** 得預 *Bodh-bh.*

gamanavat 形 過ぎ去りたる.

gamana-samaya 男 出發の時刻.

gamanāgamana (°na-ūg°) 中 行くことと來ること; 死と再生; **漢譯** 往來, 來往; 去來, 若往若來 *Saddhp., Lank., Śikṣ., Bodh-bh.*

gamanārambha (°na-ār°) 男 **漢譯** 發 *Madhy-v.*

gamanikā 女 註釋, 義釋.

gamaniya (未受分) (因)により接近又は到達せらるべき; ……によりて攻撃せらるべき.

gamantra 中 **漢譯** (音寫) [數の名] 伽滿多羅, 伽麼怛羅 *Mvyut.*

gamayitavya 便役 (未受分) 過ごさるべき(時).

gamayitr 形 到達せしむる; (一°)に導く.

gamāgama (°ma-āg°) 男 往來, 彼方此方に行くこと; (因 及 因) 交渉.

gamātra 男 **漢譯** (音寫) [數の名] 伽麼怛羅 *Mvyut*

gamika 形 旅行中の, 旅する; **漢譯** 將行, 去者, 欲達遠處 *Divy., Mvyut.*

gamita (通受分) 送られたる, 派遣せられたる, 導かれたる, 齎らされたる; 死せしめられたる.

gamin 形 (業, 一°)に將に行かんとする.

gamiṣṭha (依上) (業)に悦びて行く或は來る.

gamiṣṇu 形 行く; (業)を横切らんと欲する, ……に行かんとする.

gamiṣyat 因 分 **漢譯** 當行 *Abhy-v.*

[Gambh, → Gabh].

gambhan 中 (水)の深き處, 深み.

gambhira 形 =gabhira; 深, 深, 甚深, 深遠, 深妙, 極甚深, 深寬廣, 深奧; 幽; 濬 *Aṣṭ-pr., Prajñ-h., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Suv-pr., Rāṣṭr., Śikṣ., Mvyut., 梵千., 梵雜.: ~o ~avabhāsaḥ* 深深杳 *Mvyut.*

gambhira-kukṣitā 女 深き腹部を有すること (*Dharm-s.*)

gambhira-ghoṣa 男 深奥音響 *Saddh-p.*

gambhira-ghoṣa-svara-nāḍita 形 深音身吼, 震吼深妙音聲 *Mvyut.*

gambhira-carita 形 深行 *Suv-pr.*

gambhiratama 最上 深極, 上上深 *Bodh-bh.*

gambhiratara 比較 深勝, 上深 *Bodh-bh.*

gambhiratā 女 性甚深 *Gaṇḍ-vy.*

gambhira-dharma 男 深法, 甚深法 *Saddh-p., Suv-pr.: ~ā sukhumā* (俗) 甚深微妙法 *Saddh-p. 32.; ~kṣānti-pārami-gata* 到忍深法彼岸, 於深法忍到彼岸 *Mvyut.*

gambhira-dhira 形 深遠にして且つ莊重なる (*Buddh-c.*)

gambhira-nābhi 形 深, 深(圓好) *Mvyut.*

gambhira-nābhitā 女 深き深を有すること; 深 深(圓妙清淨殊異好) *Dharm-s.*

gambhira-nirghoṣa 男 (梵)音深妙 *Saddh-p.; [Nāga の名] 深聲, 音深 Mvyut.*

gambhira-payas 形 水深き.

gambhira-pāṇi-lekha 形 深き手紋を有する; 手文甚深, 手文理深 *Mvyut.*

gambhira-pāṇi-lekhatā 女 [同上 捕] (*Dharm-s.*)

gambhira-prajña 形 深慧, 慧深, 智慧甚深 *Suv-pr., Mvyut.*

gambhira-vedin 形 取し難き, 頑固なる(象).

gambhira-śamsa 形 深奥處にて支配する.

gambhira-śrava 男 聞深 *Sūtr.*

gambhirā 女 [河の名].

gambhirārtha 形 意味深き; 甚深義理 *Bodh-bh.*

gambhirārtha-sambhi-nirmocanātā 女 能解甚深義理密意 *Bodh-bh.*

gambhirāvagāhatā 女 深難得底, 甚深難測, 甚深難得源底 *Gaṇḍ-vy.*

gambhirāśaya (°ra-ās°) 形 深き思想を有する.

gambhirāśayatām (°ra-ās°) **Kṛ**, 深き思想を懐く.

gambhiryatā 女 深, 甚深 *Daś-bh.*

gamyā (未受分) ……に行かるべき; (圖, 因, 一°)により近づかれ得べき; 實行せられ得べき; 過さるべき; 達せらるべき; 數へらるべき; 性交の爲に近づき得べき或は好都合なる(女), 放蕩なる(男); (圖)によりて癒し得べき; 考へ得る, 了解せらるべき, 理解せらるべき; 推測せらるべき; ……と思はるべき; 適當なる; 向; 應至; 合屬 *Divy., Lank., Abh-k.: tat tasya ~m bhavati* 合屬彼 *Divy. 42.*

gamyamāna 女 現分 行きつゝある, 知る; 去時 *Madhy-v.*

gaya 男 家; 家族, 眷族; 家庭; 家財, 財産, 富; [聖仙の名]; [山の名]; (國) [民族の名]; (音) [山の名] 伽耶 *Buddh-c.*

gaya-śiras 中 [Gayā 附近の山の名].

gaya-sādhana 形 家庭に繁榮を齎らす.

gaya-sphāna 形 [同上].

gayā 女 [聖地の名]; (音) 伽耶 *Saddh-p.*

gayā-kāśyapa 男 [佛弟子の名] 象(頭山)飲光; (音) 象迦葉 *Saddh-p., Mvyut.;* (音) 伽耶迦葉, 伽耶迦葉波 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Mvyut.*

gayā-kūpa 男 [Gayā 附近の泉井の名].

gayā-nagara 中 [都城の名] (音) 伽耶城 *Saddh-p.*

gayā-śiras 中 =gaya-śiras (*Lal-v.*); 西方の地平線.

gayā-śirṣa 中 =gaya-śiras (*Lal-v.*). 男 伽耶頂, 伽耶(山)頂 *Mvyut.*

gara 形 (一°)を嘸む. 男 飲料, 液體 流動體; 毒 [時として中]; [病の一種]; 毒 *Mañj-m.*

gara-gir 形 毒藥を飲める.

gara-girṇa 形 [同上].

gara-ghna 形 解毒の.

gara-da 男 毒害者.

gara-dāna 中 毒を與ふること, 毒殺.

garala 中 毒藥.

garalāya (名動) 自 **garalāyate** 毒となる.

garalli 男 嘔れ聲.

gariman 男 重きこと, 重量; 重要, 威嚴; 力.

gariṣṭha 形 [guru の最上] 最も神嚴なる, 極めて膨脹せる; 勝, 最勝, 過 *Vijñ-v., Abh-vy.*

gariyas 形 [guru の比較] 極めて重き, 極めて困難なる; (俗)より良き或は大なる, ……より重要なる或は貴き或は名譽ある; (俗)より寧ろ……の; より悪しき; 極めて重要なる或は神嚴なる.

gariyasa 形 (具)より更に親愛なる.

gariyastara 形 より大なる, 最大なる.

gariyastva 中 重量, 重きこと; 重要性.

garu 形 [=guru]; 重 梵雜.

garuḍa 男 [傳説上の鳥の名, *Vinatā* の子にして, *Aruna* の兄と稱せられ, 且つ鳥類の王にして, *Viṣṇu* 神又は *Kṛṣṇa* 神の乗物と傳へらる]; 陣列(の一種); 金翅鳥 *Lal-v., Mvyut., 梵雜., 支應;* (音) 迦樓, 迦樓羅, 迦婁羅, 加樓羅, 揭路荼 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sam-r., Lank., Bodh-bh., Mvyut., 梵雜., 支應.*

garuḍa-dhvaja 形 *Garuḍa* 鳥を標幟又は表徴とせる (*Viṣṇu* 神).

garuḍa-maṇi 男 綠玉石(譯).

garuḍa-māṇikyamaya 形 綠玉石の.

garuḍa-rūpa 中 (音) 迦樓羅身, 迦留羅形(像色貌) *Saddh-p.*

garuḍa-vega 男 [或る馬の名].

garuḍāya (名動) 自 **garuḍāyate** *Garuḍa* 鳥となる.

garuḍī 女 (音) 迦樓羅女 *Lank.*

garuḍendra (°ḍa-in°) 男 金翅鳥王; (音) 迦樓羅王; 跋嚩拏王 *Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr.*

garuḍeśāna (°ḍa-iś°) 男 鳥類の王 *Garuḍa.*

garut 男 中 (鳥の)翼.

garutmat 形 翼を有する. 男 *Garuḍa* 鳥; 鳥; 金翅鳥 *Divy.*

garga 男 [諸人の名].

garga-tri-rātra 男 [三日間續く或る祭の名].
garga-try-aha 男 [同上].
gargara 男 渦卷; 攪乳器; [樂器の一種].
gargarā 女 攪乳器.
gargarikā 女 壺, 瓶.
gargari 女 攪乳器. → karmāra ~.
garga-srotas 甲 [聖地の名].
gargā 女 [人名].
gargi 女 [人名].
Garj, I. 他 **garjati** 吼ゆ; 轟く; 怒り唸る, 叱咤す; 轉る [音(業)と俱に]; 誇る, 威張る; 唳; 出聲; 擊 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh.*: 現分 **garjamāna** 霹靂 *Lal-v.* 過受分 **garjita** 響ける, 吼えたる; 誇れる. 使役 **garjayati** 唳 *Divy. ati-* 挑戰的口調又は大聲にて語る, 威嚇す. *anu-* ……に向ひて吼ゆ. *abhi-* (業)に對して吼ゆ. *pari-* 吼ゆ, 鋭く叫ぶ; 叱咤す. *pra-* 騒ぎ始む, 轟き始む; 偏吼, 遍吼, 極出聲 *Lal-v., Aṣṭ-pr.* *saṃ-pra-* 等偏吼, 等遍吼, 遍出聲 *Lal-v., Aṣṭ-pr.* *prati-* (業)に吠聲を以て答ふ; 抵抗す; (具, 圖)と張合ふ.
garja 男 吼聲, 叫聲, 喧噪.
garjana 甲 [同上]; 雷, 雷音 *Daś-bh.*
garji 男 雷鳴(雲の).
garjita 過受分 → *Garj.* 甲 = *garja*; 雷鳴; 誇張; 雷, 震雷, 雷震; 聲, 音, 吼; 擊 *Saddh-p., Mañj-m., Mvyut.*
garjita-megha-ghoṣa 男 震雷音, 大雷震聲 *Suv-pr.*
garjita-rava 男 怒號, 咆哮.
garta 1. 男 高き椅子, 王座; 戰車の座席; 車.
garta 2. 男 甲 穴, 洞; 壕; 墓; 運河; 坑, 坎, 穴; 津 *Mvyut.*
garta-patva 甲 穴に落つること.
garta-sad 形 戰車の座席に坐せる.
gartā 女 穴, 洞; [河の名].
gartāśraya (°ta-ās°) 男 穴に棲む動物.
garte-ṣṭhā 形 穴中に在る.
Gard, I. 他 **gardati** 大聲にて叫ぶ, 欣喜す.
garda 形 飢ゑたる.
gardana 甲 叫ぶこと, 喚くこと.
gardabha 男 驢馬; 驢 *Saddh-p., Suv-pr., Mañj-m., Sikṣ., Mvyut.*; 猪 *Sikṣ.*; [Yakṣa の名] 驢 *Sam-r.*
gardabha-nādin 形 驢馬の如くに鳴く.
gardabha-ratha 男 驢馬の曳く車.
gardabhi 女 牝驢馬.
gardabhejyā (°bha-ij°) 女 驢馬の犠牲.
gardūra 男 甲(?) 譯 [刊本 *gaṇḍura: tṛṣṇā-gaṇḍura-baddha*] 紐, 繩 *Madhy-v. 218.* [Pāli. *gaddūla: tanhā-gaddūla* 「愛の紐」, *Tib. lu-gu-brgyud* 「續を繋ぐ繩」].
gardha 男 貪婪; (一°)に對する熱心, 希望; 貪,

著, 貪著, 耽著, 愛著, 耽嗜 *Bodh-bh., Abh-vy.*
gardhin 形 貪婪なる; (一°)に熱心なる, ……を切望する, ……に專注せる.
garbha 男 子宮; 内部; 胎兒; 嬰兒; 小兒; 子孫, 親を同じくする雛の群; 受胎; 芽; 胎, 藏, 胎藏, 胞胎; 心 *Av-ś., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Sūtr., Abh-vy., Mvyut., 梵千.* 一° 形 内に(一°)を包含する; 懷胎, 在胎 *Abh-vy.*
garbhaka 男 (髪に編み込まれたる花の)冠.
garbha-karaṇa 甲 懷妊せしむるもの.
garbha-kāma 形 孕胎を渴望する.
garbha-kāra' 甲 [(多産を齎らす) *Sāstra* の名].
garbha-kārin 形 懷妊せしむる.
garbha-kāla 男 妊娠の時.
garbha-kleśa 男 陣痛.
garbha-kṣaya 男 流産.
garbha-gata 形 胎に宿れる; 處胎, 未出胎 *Bodh-bh.* 名 胎兒 (*Buddh-c.*).
garbha-gurvi 女 懷妊.
garbha-gṛha 甲 内部の室, 寢室; (神像を安置せる) 内殿.
garbha-geha 甲 [同上].
garbha-granthi 男 胎兒.
garbha-graha 男 受胎.
garbha-grahaṇa 甲 [同上].
garbha-grāhikā 女 產婆.
garbha-ceṭa 男 生來の召使.
garbha-cchada 男 花瓣.
garbha-cyuti 女 出産.
garbhatā 女 懷妊.
garbhatva 甲 [同上].
garbha-da 形 生産力ある.
garbha-dāsa 男 生來の奴隸.
garbha-dāsi 女 [同上] (俗).
garbha-divasa 男 覆 = *garbha-kāla.*
garbha-dohada 男 妊婦の病的欲望.
garbha-dauḥṛda 男 [同上].
garbha-dvādaśa 男 覆 受胎後第十二(年).
garbha-dha 形 懷妊せる.
garbha-dharā 形 女 [同上]; 懷孕者 *Buddh-c.*
garbha-dhāraṇa 甲 懷妊.
garbha-dhi 男 巢.
garbha-dhṛta 形 母胎に入れる, 母胎内に存する.
garbha-nirharāṇa 甲 墮胎.
garbha-pātana 甲 流産; 打胎 *Mvyut.*
garbha-puroḍāśa 男 犠牲獸が懷妊中なりし時に捧ぐる贖罪用の祭餅.
garbha-bharṭṛ-druh 形 胎兒及び夫を傷つくる.
garbha-bharman 甲 胎兒の養育.
garbha-bhavana 甲 (神像を安置せる) 内殿.
garbha-bhāra 男 懷妊, 身重(持). ~ 甲 *Dhṛ,* 懷妊す.
garbha-maṇḍapa 男 内部の室, 寢室.
garbha-mās 男 妊娠の月.
garbha-māsa 男 [同上].

garbha-mokṣa 男 分娩.
garbha-yoṣā 女 妊婦.
garbha-rakṣā 女 胎兒の保護.
garbha-randhi 女 (鉢の中)にある米を煮ること.
garbha-rūpa 男 青年; (種) 子供等; 童子 *Mvyut.*
garbha-rūpaka 男 [同上].
garbha-lakṣaṇa 中 懷妊の徴候.
garbhavati 形 女 懷妊せる.
garbha-vartman 中 産道.
garbha-vasati 女 子宮, 胎.
garbha-vāsa 男 [同上].
garbha-vicyuti 女 懷妊の初期に於ける流産.
garbha-veśman 中 内部の室; 産室.
garbha-vyūha 男 [陣列の一種].
garbha-śayyā 女 = garbha-vasati.
garbha-śātana 中 流産の誘發; 墮胎 *Av-ś.*
garbha-saṁvāsa 男 住胎藏 *Gaṇḍ-vy.*
garbha-saṁsthāna 中 藏處, 藏體 *Lank.*
garbha-saṁsraṇa 中 流産.
garbha-saṁkarita 男 混血(の一種).
garbha-saṁkramaṇa 中 入胎.
garbha-samaya 男 = garbha-kāla.
garbha-saṁplava 男 流産.
garbha-saṁbhava 男 受胎, 懷妊.
garbha-saṁbhūti 女 [同上].
garbha-stha 形 胎内にある; (胎)の中にある.
garbha-sthāna 中 子宮, 胎.
garbha-srāva 男 流産.
garbha-srāvin 形 流産する.
garbhāgāra 中 子宮, 胎; 寢室; 産室; 内殿.
garbhāṅka 男 幕間の劇.
garbhāda 形 胎兒を食ふ.
garbhādi (°bha-ādi) 形 受胎にて生まれる.
garbhādhāna (°bha-ādḥ) 中 受胎せしむること; 受胎(に先立ちて行はるゝ或る)儀式.
garbhādhāna 男 胎藏 *Sūtr.*
garbhāvākṛānti 女 受胎; 入胎 *Abh-k., Mvyut.*
garbhāvākṛānti-sūtra 中 入胎經 *Abh-vy.*
garbhāvatarāṇa 中 受胎.
garbhāvāsa (°bha-āv) 男 住胎, 胞胎, 處胎住 *Divy., Sukh-vy. I.*
garbhāśaya 男 = garbha-vasati.
garbhāṣṭama 男 受胎後第八(年).
garbhāsrāva (°bha-ās) 男 = garbha-saṁsraṇa.
garbhīṇi 女 妊婦; 懷孕, 胎藏, 懷胎藏 *Lank., 梵雜.*
garbhita 形 [同下].
garbhin 中 (女, 男)を孕める; ……を以て満されたる (胎).
garbhini 女 [= garbhīṇi]; 懷胎, 有胎 *Abh-vy.*
garbhi-karaṇa 中 産出.
garbheśvara (°bha-iś) 男 世襲の主權者.
garbheśvaratā (°bha-iś) 女 [同上 中].
garbheśvaratva (°bha-iś) 中 [同上].
garbheśvari (°bha-iś) 女 生來の王妃.

garbhaikādaśa (°bha-ek) 男 受胎後第十一(年).
garbhopaghāta (°bha-up) 男 流産.
garbholika 形 〔= garmotika?〕 綺詞 *Aṣṭ-pr. 935.* [慧琳音義(大正藏五四 534 a)綺詞: 又作祀同。普亞反, 襍也。通俗文廣雅云, 祀復曰祀也(?)].
garmut 女 野生の豆(の一種).
garva 男 誇り; 傲慢; 傲慢相 *Mvyut.* ~ m *Kṛ,* ~ m *Yā* 高慢となる.
garva-gir 女 不遜の言, 高言.
garva-gaurasa 中 甚しき誇張.
garvāya 名 動 自 *garvāyate* 高慢に振舞ふ.
garvita 通受分 高慢なる, 自負せる; (男, 一°)を誇れる; 憍, 傲, 憍傲; 自高, 自矜異; 恃, 生慢 *Divy., Buddh-c., Bodh-bh., Mvyut.*
Garh, I. 自 (他) *garhate(-ti);* X. 自 (他) *garhayate(-ti)* (業)に就きて(爲)に對し苦情を云ふ; 告訴す, 咎む, 非難す, 譴責す; (業)を後悔す. 通受分 *garhita* (男, 女, 於, 一°)によりて譴責せられたる; 蔑視せられたる; 非難すべき, 責むべき, 禁ぜられたる; 卑しむべき; (從)より悪しき. *garhitam* 副 悪しく.
ava- 通受分 *avagarhita* 卑しめられたる.
ni- I. 自 (爲)を中傷す.
pari- 強く咎む, 非難す, 罵詈す.
vi- 咎む, 非難す, 罵詈す; 嫌責, 訶, 呵罵毀皆 *Buddh-c., Rāṣṭr., Vin.* 通受分 *vigarhita* (男, 女, 一°)により咎められたる; 輕蔑すべき, 責むべき; ……によりて(從)を禁ぜられたる; (一°)の爲に非難すべき.
garhaṇa 形 譴責を含める(質問). 中 (男)の側よりの非難, 譴責; 箴 梵千.
garhaṇā 女 [同上(中)]; 責 *Bodh-bh.* ~ m *Yā,* (於)の間に非難を蒙る.
garhaṇiya 未受分 非難せらるべき, 咎めらるべき.
garhā 女 非難, 譴責; 所惡 *Buddh-c.*
garhita 通受分 → *Garh.* 呵毀, 所呵, 所訶狀, 所厭患 *Rāṣṭr., Pijā t., Abh-vy.*
garhitam 副 → *Garh.*
garhitavya 未受分 = *garhaṇiya.*
garhin 形 (一°)を非難する, 罵詈する.
garhya 未受分 非難せらるべき; 可呵 *Prāt-m.*
Gal, I. 他 *galati* 滴る, 滴下す; 落つ, 滑り落つ, 落伍す, 逃れ去る; 消滅す, 過ぎ去る. 通受分 *galita* 滴れる, 滴下せる; 落下せる; 消失せる, 去れる, 失はれたる(一°); 除外せられたる, (特に *Rg-veda* の *Pada-pāṭha* に)省かれたる [反覆部分に就て言ふ]. 便役 *gālayati* 滴下せしむ, 瀝す; 液化す, 分解す, 溶かす.
ava- 落伍す, 滑り落つ. 通受分 *avagalita* 落下せる.
ā- 通受分 *āgalita* 落下せる, 沈下せる, 流下せる.
ud- 湧き出づ, 滲み出づ; 出づ.
nis- 通受分 *nirgalita* 放出せる, 流出せる; 滴れる; 溶解せる.
pari- 通受分 *parigalita* 落下せる, 倒れたる; (一°)に沈みたる.

pra- 滴り落つ。〔過受分〕 **pragalita** 滴下せる。
 〔便役〕 **pragālayati** 落下せしむ。
vi- 流れ去る, 乾く; 溶く; 落つ, 滑り落つ, 落伍す, 遁れ去る; (〔過〕)より抜け出づ; 終る, 消ゆ。〔過受分〕
vigalita 排水せられたる, 乾かされたる, 溶けたる; 消失せる; (〔過〕)より落下せる, ……より滑り落ちたる; 緩められたる。
pra-vi- 流れ出づ; 消ゆ。〔過受分〕 **pravigalita** 滲出せる。
gala 男 喉, 頸; 〔漢〕咽, 咽喉 *Lal-v.*, 梵千。
galaka 男 [同上]。
gala-gaṇḍa 男 甲状腺腫; 〔漢〕瘰癧者 *Mvyut.*
gala-graha 男 咽喉の緊縮[病氣の一種]。
galat-kuṣṭha 中 不治の癩病。
gala-dvāra 男 (動物の)口。
gala-moṭana 中 首を絞むること。
gala-vārtta 形 唯だ咽喉(=口腹)の爲にのみ生くる。
gala-śuṇḍikā 女 懸壺垂; (〔兩〕)軟口蓋。
gala-hasta 男 咽喉に手を當つること(即ち咽喉を攪むこと)。
galahastaya 〔名動〕他 **galahastayati** 咽喉を攪む。
galahastita 〔過受分〕 咽喉を攪まれたる。
galita 1. 〔過受分〕 → Gal.
galita 2. 〔過受分〕 Gal = Gf 2. より] 嚥下せる。
galitaka 男 舞踊又は身振り(の一種)。
galita-nakha-danta 形 瓜と齒とを失へる。
galita-nayana 形 目を失へる, 盲目の。
galita-pradipa 男 [(省略(せられたる章句)の燈), 書名]。
galita-pradipikā 女 [同上]。
galita-yauvana 形 頰齡の。
galita-vayas 形 青春の過ぎたる, 高齡の, 老いたる。
galū 男 賈石(の一種)。
galūna 男 [人名]。
galla 男 頰。
gallaka 男 = galv-arka.
galla-pūraṇa 形 頰張れる。
gallopadhāniya (°la-up°) 中 (頰に當てる)小さき枕。
gallopahāraka (°la-up°) 形 〔漢〕填頰(?), 移於左右腮 *Mvyut.*
galv-arka 男 水晶; 水晶の小鉢。
gava 男 [—°又は—°のみ] 牝牛; 〔漢〕特 梵雜。
gavaya 男 牝牛(の一種, *Bos gavaeus*); [或る猿の名]。
gavala 男 水牛。 中 水牛の角。
gavākṣa 男 (牛の眼), 圓窗(?), 風穴; [人名]; [或る猿の名]; 〔漢〕窓, 窓, 窓, 窓子, 牖, 戶牖, 窓牖, 牖牖, 明窓孔 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, 梵千: ~ullokanakehi 窓牖 *Saddh-p.* 35. 男 中 [湖水の名]。
gavākṣaka 男 圓窗, 風穴。
gavākṣita 形 窗又は風穴を裝備せる; (〔四〕)を以て格子を附せられたる。
gavānṛta 中 牝牛に関する偽證。
gavām-aya 男 [同下]。
gavām-ayana 中 [全一年間續く *Sattra* の名]。
gavāmṛta 中 牛乳。

gavām-pati 男 牝牛(牝牛の王); 光の王 [太陽又は *Agni* 神の稱]; [或る *Nāga* の名] (*Kār-vy.*); 〔漢〕[佛弟子の名] 牛王, 牛主 *Sukh-vy. I.*, *Mvyut.*; 〔音〕憍梵波提, 憍梵鉢底 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I. II.*, *Mvyut.*
gavām-medha 男 牝牛の供儀
gavāyuta 中 [聖地の名]。
gavāyus (°va-āy°) 中 (〔單〕又は〔兩〕) [或る祭の名 (*Go* と *Āyus*)]。
gavārtham 中 牝牛の爲に。
gavārthe 中 [同上]。
gavārha 形 一頭の牝牛に價する。
gavāśana 男 鞣皮工, 靴匠。
gav-āśir 形 乳を混ぜる (*Soma*)。
gavāśva 中 牛と馬。
gavāsthi 形 [王者の戦に於て用ふべからざる矢の形容語]。
gavāhnikā 中 牛の毎日の飼糧。
gavi-jāta 男 [或る *Muni* の名]。
gavi-putra 男 [*Vaiśravaṇa* の〔母系〕]。
gav-iṣ 形 牝牛を欲する; 希望する, 熱心なる。
gav-iṣa 形 [同上]。
gav-iṣṭi 形 [同上]。 女 熱, 熱情, 熱烈; 好戦, 戦争の興奮; 戰鬥。
gavi-ṣṭha 男 太陽; [或る *Dānava* の名]。
gavi-ṣṭhira 男 [聖仙の名]。
gavi 1. 女 [—°のみ] 牝牛; 〔漢〕牝牛 梵雜。
gavi 2. 女 言語。
gavidā 女 灌奠用の乳を採る牝牛。
gavidhumat 中 [都市の名]。
gav-iśa 男 牝牛の所有者。
gav-eḍaka 男 〔漢〕牛羊 *Lal-v.*
Gaveṣ (*gav-eṣ*), I. 中 **gaveṣate**; X. 他 中 **gaveṣayati(-te)** (牛を望む), (〔望〕)を捜す, ……を探る; 〔漢〕求, 推求, 窺求 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.* 現分 **gaveṣamāṇa** 〔漢〕求, 推求 *Saddh-p.*, *Daś-bh.*
nari- 〔漢〕求, 正求, 推求, 訪求 *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Sikṣ.*: *parimārgayati parigaveṣayati* 訪求 *Daś-bh.* 25. 現分 **parigaveṣamāṇa** 徧く捜す 〔漢〕處處求覓 *Lal-v.*: *parimārgamāṇaḥ* ~h 訪求 *Daś-bh.* 25. 〔過受分〕 **gaveṣita** 求められたる, 願はれたる。
gaveṣa 形 〔漢〕覓 梵千。
gaveṣaka 形 〔漢〕求 *Sukh-vy. I.*, *Sam-r.*
gaveṣaṇa 形 熱望する; 戦を渴望する; 〔漢〕求, 樂求, 求覓 *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Bodh-bh.* 中 探索; 〔漢〕求 *Saddh-p.*
gaveṣaṇā 女 [同上 中]; 〔漢〕求 *Sam-r.*
gaveṣamāṇa 現分 → *Gaves.*
gaveṣita 〔過受分〕 → *Gaves.*
gaveṣitavya 〔漢〕〔未受分〕當求 *Aṣṭ-pr.*
gaveṣin 形 (—°)を捜す; 〔漢〕察, 見; 尋, 求, 伺求, 欲求, 伺得; 檢校 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Kāśy.*, *Rāṣṭr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雜 → *avatāra* ~。
gavya 1. 〔名動〕(家畜を欲す)。 現分 **gavyat** 家畜を欲する; 熱望する; 戦を好む。

gavya 2. 形 家畜より成る, 家畜に関する; 牝牛より生ぜる(牛乳, 酪等); 黄牛 *Mañj-m.* 牝牛の群; 牧場; 牛乳.

gavya-kṣira 牝 黄牛乳 *Mañj-m.*

gavyat 現分 → *gavya* 1.

gavya-dṛḍha 男 (染料なる)牛の膽石; 膠 *Mvyut.*

gavyaya 形 (女 -i) 牝牛に屬する或はより來れる.

gavyā 女 牝牛に對する欲望又は喜び; 牛乳に對する欲望.

gavyu 形 家畜を欲する, 牝牛を欲する或は喜ぶ, 牛乳を欲する; 熱情ある; 戦を好む.

gavy-ūti 女 牧場; 領域, 居住地; [長さの單位, =二 *Krcśa*].

gaḥsukā 女 [意味不明].

gaha 1. 男 俗 [音律, <graha]; 取, 著, 緊著 *Madhy-v. 54.*

gaha 2. 中 俗 [=guhā]; 窟, 窟窟 *Bodh-bh. 231, 232.*

gahana 形 深き; 濃き, 稠密なる; 不透質の, 貫き難き [堅固にも用ふ]; 理解し難き. 中 深み, 深淵; 叢林; 潛入する場處, 測り知られざる暗黒; 密集; 深, 林, 深林, 稠林; 遮; 難, 險難處; 隱密 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut.*

gahanatā-dṛṣṭi 女 邊見, 僻執深險惡見 *Sikṣ.*

gahanatva 中 稠密なること; 貫き難きこと.

gahani-Kṛ, 近づき難くす.

gahani-kṛta 形 近づき難くなされたる.

gahanopavicāra (°na-up°) 男 近稠林行 *Bodh-bh.*

gahman 男 稠密.

gahvara 形 (女 -ā, -i) = *gahana* (形). 中 = *gahana* (中); 稠林, 嶮森 *Laṅk., Mvyut.*

gahvarita 形 (思に)沈める.

gahvari-bhūta 形 荒撫地となれる, 空虛となれる.

gahvare-ṣṭha 形 谷底又は深底に存する.

Gā 1., III. 他 *jigāti* (業, 因)の方へ又はへ行く或は來る或は近づき, 従ふ, 追ふ; (業)に參與す; (業)に陥る, ……に關係す; (従)より(因)に去る; 終局となる; (業, 因)を歩む.

ati- 過ぎ去る, 經過す.

vy-ati- 過ぎ去る.

adhi- 得る, 陥る, 關係す; (業)に思ひつく, ……と決心す; (業, 因)を思ふ或は考ふ; 憶念す, 注意す; [一般に自]學ぶ; (従)より習ふ.

anu- (業)を追ふ或は探ね行く; (路に)沿ひて行く, 従ふ.

apa- 去る; (従)より離る或は遠ざかる, 退く.

abhi- (業)に向ひて進む, 近寄る; 到達す; 關係す.

ā- (業)に近寄る, ……へ來る; 現はる; 起る; 達成す.

abhy-ā- (業)に近づき, ……の方へ行く或は來る; 起る; (不定)せんと決心す或はし始む.

upā(upa-ā)- (業)に近寄る, ……の方に来る.

pary-ā- 旋轉す; (業)に耽る, ……に従事す; (時を)經過す.

anu-pary-ā- (業)に再び歸る.

ud- (天體が)昇る; 上り來る.

upa- 近寄る; 到達す; (業)に陥る; 行く, 歩む.

nis- (従)より來る; (従)より去る; (家より)外出す.

pari- 巡り行く; (業)に入る; 近寄る, 達す; 避く; 無視す; 失敗す, 了解せず.

pra- (業)の方に行く, ……の方に進む, 動く; (従)より去る.

apa-pra- 去り行く, 去る; 屈伏す.

uṣa-pra- 近寄る.

Gā 2., → *Gai.*

gāṅga 形 (女 -i) *Gaṅgā* 河に屬する或はに在る. 男 [Bhīṣmaの母系].

gāṅgeya 男 [同上(男)].

gāṅgya 男 [同上].

gāṅgyāyani 男 [*Gāṅgya*の父系].

gāja 中 象群.

gāḍha 通受分 [*Gāḥ*] ……に浴せる; 深き; 確乎たる, 牢固たる, 密接せる; 強き, 烈しき; 深; 甚; 極, 極重; 堅, 堅固, 剛強 *Rāṣṭr., Sikṣ., Sūtr., Vijñ-t., Bodh-bh.* —, ~m 副 深く, 確乎として等.

gāḍha-karṇa 男 聰き耳.

gāḍhatara 比較 深重(難除差), 深重(難療治) *Suv-pr.* ~m 副 確乎として, 固く, 密接に; 更に激しく.

gāḍhatā 女 深み; 激烈, 強烈; 確乎たること.

gāḍhatva 中 [同上].

gāḍha-nidra 形 熟睡せる.

gāḍha-vacas 男 蛙.

gāḍha-varcas 形 閉塞せる.

gāḍhāṅgada 形 完全に適合せる腕環を有する.

gāḍhānurāgin 形 全く戀著せる.

gāḍhāliṅgana (°dha-āl°) 中 (身體の密接する)強き抱擁.

gāḍhāsleśa (°dha-ās°) 中 [同上].

gāḍhi-Kṛ, 堅牢, 堅固, 牢固 *Aṣṭ-pr.*

gāḍhodvega (°dha-ud°) 形 深く心に憂ふる.

gāṇapatya 形 [*gāṇa-pati*より] *Gaṇeśa* に関する. 男 *Gaṇeśa*の崇拜者. 中 軍隊の指導; 隊長.

gāṇeśa (°na-iśa) 形 男 [同上(形男)].

gāṇḍiva 男 中 *Arjuna*の弓.

gāṇḍiva-dhanvan 男 [*Arjuna*の稱].

gāṇḍiva-dhara 男 [同上].

gāṇḍiva 男 = *gāṇḍiva*.

gāṇḍiva-dhanvan 男 [*Arjuna*の稱].

gātavya 未受分 歌はるべき.

gātu 1. 男 (女) [*Gā* 1.] 行くこと, 運動; 進路, 路, 小徑; 進行, 増加; 空間; 場處, 住處; 安寧.

gātu 2. 男 [*Gai*] 歌; 歌手.

gātumat 形 廣き ゆつたりとせる.

gātuya (名動) 他 *gātuyati* 自由なる進行をなさんと欲す.

gātu-vid 形 進行を妨げざる如く道を發見する或は開く; 幸福を増進する.

gāṭṛ 男 [*Gai*] 歌手.

gātra 中 [—°は形(女 -ā, -i)] 四肢; 身體; 翼;

gātraka 身, 身體, 身支, 身肢, 身分, 手足 *Divy.*, *Av-ś.*, *Rāṣṭr.*, *Mañj-m.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
gātraka 甲 身體。
gātra-kampa 男 身體の震へ。
gātra-ceṣṭa 甲 肢體の姿勢 (*Buddh-c.*).
gātra-bhaṅga 男 四肢又は身體を屈伸すること。
gātra-bhañjana 甲 [同上].
gātra-yaṣṭi 女 纖細なる身體 [—^o は 形 (女 -i)].
gātra-ruha 甲 身體の毛。
gātravat 形 美しき身體を有する。
gātra-vairūpyatā 女 四肢の不具。
gātra-śayya 形 [或る苦行者達の稱].
gātra-śoṣaṇa 形 身體を衰弱せしむる(悲哀).
gātra-saṃkocani 女 蝟(♀*).
gātrānulepani 女 塗油, 軟膏, 顔料。
gātrāvara, ° — (象の)前半身及び後半身。
gātrāvaraṇa (°ra-āv°) 甲 鎧。
gātrā-śayya 形 = gātra-śayya.
gātrikā-granthi 男 [結節の一種].
gātha 男 歌; 詩句. → gāthā.
gāthaka 男 歌手。
gāthā 女 讚歌, 詩句; (祭典に關する書に於ける) *Veda* 以外の(特種の)頌文; (佛教經典の)詩句的部分; [音律の一種 = Āryā]; 句, 頌, 諷頌; 攝; 記句 經 *Vajr-pr.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*, *Lank.*, *Śikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 支應; *catus-pādikām* ~ m 四句偈. *Śikṣ.* 144.; 伽他, 迦陀, 伽陀; 偈, (詩) 偈 *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Lank.*, *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, 支應.: *catus-pāda* ~ 四句頌 *Sapt-pr.* 26.; ~ bh r *gītābhir lāpanaḥ* 說歌頌句, 說偈句 音, 以偈音韻發辭 *Mvyut.*
gāthā-gita 甲 伽陀妙聲 *Lank.*
gāthā-ni 男 合唱の指導者。
gāthikā 女 (敘事の)歌, 讚歌。
gāthin 形 歌に巧みなる. 男 歌手; [*Viśvāmitra* の父の名]; (國) [*Gāthin* の後裔; (= *gāthina*)].
gādha 形 徒涉し得る, 甚だしく深からざる, 淺き. 甲 淺瀬, 徒涉場; 淺處 *Saddh-p.*
gādhi 男 = *gāthin*, [*Viśvāmitra* の父].
gādhi-ja 男 [*Viśvāmitra* の稱].
gādhi-nandana 男 [*Viśvāmitra* の(父系)].
gādhi-putra 男 [同上].
gādhi-pura 甲 [*Kanyākubja* 城の稱].
gādhi-sūnu 男 [*Viśvāmitra* の(父系)].
gādheya 男 *Viśvāmitra*.
gāna 甲 歌ふこと; 歌。
gāndini 女 [*Kāśi* 國の王女にして *Svaphalka* の妻, *A-krūra* の母の名].
gāndini-suta 男 (*Gāndini* の子), *A-krūra*.
gāndi 女 = *gāndini*.
gāndharva 形(女 -i) *Gandharva* に關する. 男 歌手; (國) [民族の名]. 甲 音樂, 歌; 妓樂 *Dab-bh.*
gāndharva-kalā 女 國 *Gāndharva* の技藝; 音樂, 歌。
gāndharva-citta 形 *Gandharva* に魅せられたる.

gāndharva-vidyā 女 音樂。
gāndharva-vidhi 男 *Gandharva* の結婚様式. → *gandharva-vivāha*.
gāndharva-vivāha 男 [同上].
gāndharva-veda 男 音樂の *Veda*.
gāndharva-śālā 女 合奏堂, 音樂堂。
gāndharva-śāstra 甲 = *gāndharva-kalā*.
gāndharvika 形 乾闥婆 *Av-ś.* 男 歌手。
gāndharvi 女 演說。
gāndhāra 男 *Gāndhāri* 族の王子; (音階の)第三音; 國の名] 捷陀羅, 捷達羅 *Divy.*, *Av-ś.*
gāndhāri 男 國 [民族の名].
gāndhāri 女 *Gāndhāri* 族の王女; 健駄梨 立應。
gāndhika 男 香料商; 賣香, 賣香商, 賣香商 主, 識藥人 *Divy.*, *Mvyut.* 甲 香料。
gāndhika-vithi 女 香座, 香臺座 *Gaṇḍ-vy.*
gāndhika-śreṣṭhin 男 鬻香長者 *Gaṇḍ-vy.*
gāndhikāpaṇa (°ka-āp°) 男 香鋪 *Divy.*
gāmika 形 (—^o) に行く, ……に導く(道).
-gāmitā 女 → *viśeṣa* ~.
gāmin 形 (圖, *prati*, 圖) に行く; [一般に —^o] (……に於て. ……に向ひて, ……の如く) 行く・動く 或は歩む; ……と性交する; ……に達する或は擴がる; ……に歸する; ……に相應する, ……に適合する; 得る, 達成する; ……に向けられたる; ……に關係する; 行, 歩, 行歩, 步行; 向, 趣向; 趣, 往趣, 能趣, 能往趣; 渡, 到, 通達; 令入; 去; 隨, 順; 墮; 知, 證 *Divy.*, *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → *āsugāmitva*, *duḥkha-nirodha* ~, *pāra* ~.
gāmbhīrya 甲 深さ(水又は音の); 深達; 威嚴, 靜穩; 深, 甚深, 深快; 自重, 自珍奇 *Divy.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Vijñ-v.*, *Bodh-bh.*
gāya 1. 形 大股に歩む。
gāya 2. 男 歌。
gāya 3. 形 *Gaya* に關する。
gāyaka 男 歌手。
gāyaki 女 女歌手。
gāyatra 男 甲 歌, 讚歌. 形 *Gāyatri* に關する或は にて作られたる。
gāyatra-vepas 形 歌に刺戟せらるる。
gāyatri 女 [音律の一種 (3×8 音節)]; *Gāyatri* 頌 [*Rg-veda* III. 62, 10.]; [或る *Durgā* の名]; 野 怛哩(經呪) *Vajr-s.*
gāyana 男 歌手, 頌德歌手. 甲 歌。
gāritra 甲 米, 穀物。
gāruḍa 形 *Garuḍa* の形を有する. *Garuḍa* に關する 或はより來れる. 甲 綠玉石(翡翠).
gārutmata 形 [*garutmat* より] *Garuḍa* に歸せらるべき或は奉獻せられたる; [*aśman* と俱に] 綠玉石 (解毒劑の).
gārgya 男 [*Gārgya* の(父系)]; [人名].
gārgyāyana, [*Gārgya* の(父系)]; [或る教師の名].
gārtsamada 形 *Gārtsamada* に關する. 男 [*Gārtsamada* の(父系)].

gārdabha 形 驢馬に關する或は由來する; 驢馬に曳かれたる (yāna 乗物).

gārddhya 甲 貪欲, 欲望.

gārdha 甲 漢譯 愛 *Mvyut.*

gārdhra 形 鷹の.

gārbha 形 胎より生れたる; 胎兒に關する, 妊娠中に遂行せられたる.

gārbhika 形 胎に關する, 子宮の.

gārmuta 形 Garmut 豆にて造れる. 男 Garmut 豆.

gārhapata 甲 [gr̥ha-pati より] 家長の威嚴又は地位.

gārhapatya 形 [gr̥ha-pati より] [agni と俱に, 或は agni を補足せる 男] 家長の(西方の)聖火. 男 甲 =gārhapatya-sthāna. 甲 =gārhapata; 家庭.

gārhapatya-sthāna 甲 Gārhapatya 火を安置せる場處.

gārhapatyāgāra (°ya-āg°) 男 [同上].

gārhapatyāyatana (°ya-āy°) 甲 [同上].

gārha-medha 男 家庭の供儀.

gārhashtya 形 [gr̥ha-stha より] 家長に必要な或は課せられたる. 甲 家長又は主婦の地位; 家庭; 家事; 漢譯 居家 *Mvyut.*

gārhya 形 家庭の, 家の.

gāla 形 咽喉にて作られたる. 男 漢譯 [=gala] 頸 *Suv-pr.*

gālana 1. 甲 瀦すこと, 淨むること.

gālana 2. 形 誹謗する, 傷つくる.

gālava 男 [古聖仙の名]; 複 [Gālava 聖仙の子孫].

gāli 女 複 呪咀, 罵詈, 中傷.

gāli-dāna 甲 罵詈すること.

gāli-pradāna 甲 [同上].

gālimat 形 呪咀を用ふる, 中傷する.

gāli 女 複 =gāli.

gāva 男 [=go]; 漢譯 牛, 特牛 梵干, 梵雜.

gāvalgaṇi 男 [Samjaya の父系].

gāvi 女 [=go] 牝牛; 漢譯 牝牛 梵雜.

gās, [go の業 複].

Gāh, I. 自 (他) **gāhate(-ti)** 跳び込む, 潛る, 沐浴す, 入る; (業)に陥る或は跳び込まざる或は吸込まれる; 浸徹す, 透入す; 漢譯 達, 通達, 知; 了知 *Kāśy., Laṅk., Bodh-bh.* 過受分 **gāḍha.**

ava-, va- (業)に潛る, ……に跳び込む, ……に滲み込む, ……に赴く; (因)に沐浴す; 測る, 理解す; 漢譯 入, 趣入; 游, 游泳; 没; 取; 知, 測, 入解, 了達, 盡源底 *Aṣṭ-pr., Gand-vy., Saddh-p., Bodh-c., Śikṣ., Sāṃkhy-k.* 過受分 **avagāḍha** 沐浴に用ゐられたる; (業, 因, 因, 一°)に浸されたる或は投げ込まれたる, ……に滲み込みたる; 深き處に横はれる, 沈める; 深く印象づけられたる; 隠されたる; 消失せる.

abhy-ava- 入る (*Divy.*).

ud- 出で来る. 過受分 **udgāḍha** 過度の, 烈しき; (一°)にて溢れたる.

pra- 潛る; 透入す, 普及す. 過受分 **pragāḍha** 過度の, 進みたる; (時の)遅き; 漬けられたる, 混ぜられたる, 浸されたる.

prati- (業)に入り込む, ……に赴く.

va- =ava-.

vi- (業, 因)に沐浴す, ……に跳び込む, ……に滲み込む, ……に赴く, 入る; 貫く, 到達す, 得る; 動搖せしむ, 擾す; 没頭す, 思量す; 近づく, 入る(夜に); 漢譯 入; 通達, 了達 *Divy., Gand-vy.:* jalam vigāhya (不憂分)渡了河 *Mvyut.;* **kakṣām vi-Gāh** (業)に匹敵す. 因 **vigāhyate** 跳び込まれる, 滲み込まれる, 入らる; 從事せらる. 過受分 **vigāḍha** 始められたる, 入らしめられたる; 深く穿入せる.

abhi-vi- 滲み込む.

gāha 男 深み, 内部, 奥深き幽處.

gāhana 甲 侵入; 沐浴.

gāhaniya (未受分) 甲 非入 跳び込むべきなり.

gāhita 甲 深み, 内部.

Gir 1., **girate** 等. → **Gī** 1.

Gir 2., **Gil.** → **Gī** 2.

gir 1. 女 [Gī 1.] 呼ぶ聲; 語, 聲; 言語; 言辭; 稱讚; 讚歌. ~ā 男 (業, 一°)の忠告に従ひて, ……の名に於て.

-gir 2. 形 嚙下する.

gir 3. 男 =giri.

-gira 1. 形 [=gir 1. の 形]; 漢譯 聲, 讚嘆 *Rāṣṭr., Śikṣ.*

gira 2. 形 =gir 2.

-gira 3. 副 =giri [例: anu~m]

girā 女 具 → gir 1.

giri 男 (重きもの), 山; 岳, 岩; 漢譯 山, 岳, 山岳; 巖 *Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Mañj-m., Vajr-s., Mvyut.,* 梵雜 等.

girika 男 [*Siva* 神の稱]; 漢譯 [龍王の名及び人名] 山 *Divy., Mvyut.;* 音寫 [人名] 耆黎, 耆利柯 *Divy.*

giri-kacchapa 男 龜(の一種).

giri-kandara 男 山の洞穴; 漢譯 山澤, 山澤(空林), 山澤(空處) *Saddh-p., Suv-pr.*

girikā 女 [*Vasu* の妻の名].

giri-kuñja 男 漢譯 藥林 *Mvyut.*

giri-kuhara 甲 山の洞窟.

giri-kūṭa 甲 峯, 山頂.

giri-kṣit 形 山に住める.

giri-gahana 甲 漢譯 深山 *Rāṣṭr.*

giri-gahvara 男 漢譯 山中嶮森 *Mvyut.*

giri-guḍaka 男 遊戲用の球.

giri-guhā 女 =giri-kandara; 漢譯 山洞, 山澗, 龜窟 *Divy., Mvyut.*

giri-ghoṣa 男 漢譯 山谷響, 谷中響 *Lal-v., Śikṣ.*

giri-cakra-vartin 男 山の王, *Himālaya* 山.

giri-cara 形 山を徘徊する. 男 野象.

giri-cārin 形 山に住む(象).

giri-ja 形 山地生れの.

giri-jā 女 [(山の娘), *Pārvatī* の稱].

giri-jā-dhava 男 [*Siva* 神の稱].

giri-jā-pati 男 [同上].

giri-jā-priya 男 [同上].

giri-ṇadi 女 溪流.

giritra 形 山を支配する; [*Siva* 神の稱].

giri-durga 形 山の爲に接近し難き. 甲 山の堡壘.

giri-duhitṛ 〔女〕 = giri-jā.
giri-daivata 〔中〕 〔漢譯〕 山神 *Lal-v.*
giri-dvāra 〔中〕 山峽の關門.
giri-dhātā 〔男〕 〔漢譯〕 山の鑽石.
giri-nadikā 〔女〕 小溪流.
giri-nadī 〔女〕 = giri-nadī.
giri-nandini 〔女〕 = giri-nadī.
giri-pati 〔男〕 山の王, 聳え立つ山, 巨巖.
giri-prṣṭha 〔中〕 山の背.
giri-prapāta 〔男〕 斷崖.
giri-prastha 〔男〕 山間の平地, 高原.
giri-bhid 〔形〕 山を裂く(河).
giri-malaya 〔男〕 〔漢譯〕 [山の名] (〔音寫〕 摩羅耶山 *Lank.*
giri-mātra 〔形〕 山程の大きさの.
giri-māla 〔男〕 [樹の名].
giri-mūrdhan 〔男〕 〔漢譯〕 嶽 梵千.
giri-rāj 〔男〕 山の王, 聳え立つ山; *Himālaya* 山.
giri-rāja-ghoṣa 〔男〕 〔漢譯〕 [佛の名] 山聲王, 山響音王
Sukh-vy. I.
gīrājaghoṣeśvara (°ṣa-iś°) 〔男〕 [佛の名] (*Sukh-*
vy. I.)
giri-rūpa 〔形〕 山の形をなせる.
giri-vāsin 〔形〕 山に住める.
giri-vraja 〔男〕 [*Magadha* 國の主都の名].
giri-śa 〔形〕 山に住める 〔男〕 山の住者; [*Siva* 神の稱].
giri-śikhara 〔男〕 〔中〕 峯.
giri-śad. 〔形〕 山上に坐せる (*Rudra* 神).
giri-ṣṭhā 〔形〕 = giri-vāsin.
giri-sāramaya 〔形〕 (〔女〕 -i) 鐵製の.
giri-sutā 〔女〕 [(山の娘), *Pārvatī* の稱]; 〔漢譯〕 山天女
Mvyut.
girisutā-kānta 〔男〕 [(*Pārvatī* の愛する者), *Siva* 神の
稱].
giri-sravā 〔女〕 = giri-nadī.
girindra 〔男〕 山の王即ち高き山.
giriśa (°ri-śa) 〔男〕 [同上]; *Himālaya* 山; [*Siva* 神の
稱].
gir-vaṇas 〔形〕 稱讚を悦ぶ (*Indra* 神, *Agni* 神).
girvan 〔形〕 [同上].
Gil, gilati 等. → *Gī 2.*
gilat 〔現分〕 [*Gī 2.*] 嚙下する.
gilāna 〔男〕 〔俗〕 [<glāna] 〔漢譯〕 疾病者 *Lal-v. 189.*
gilānakatva 〔中〕 〔俗〕 [<glānakatva]; 〔漢譯〕 病痛, 疾
病 *Saddh-p. 293.*
gilāna-bhaiṣajya 〔中〕 〔俗〕 [<glāna-bhaiṣajya] 〔漢譯〕
醫藥, 湯藥 *Saddh-p. 13, 284.*
gilāni 〔女〕 〔俗〕 [<glāni] 〔漢譯〕 疾病者 *Siks. 338.*
gilla-petta 〔男〕 〔漢譯〕 腹垂 *Mvyut.*
gita 〔過受分〕 歌はれたる; 有名なる. → *Gai.*; 〔漢譯〕
説 *Guhy-s.:* athāsyām ~ mātrāyām 説此時 *Guhy-*
s. 88. 〔中〕 歌; 歌ふこと; 〔漢譯〕 歌, 歌詠, 吟詠, 音樂
Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Lank., Siks., Bodh-bh.,
Abh-vy., 梵千.
gitaka 〔中〕 歌; 讚頌; [音律の一種]; 音調.
gita-kṣama 〔形〕 歌はれ得る.
gita-govinda 〔中〕 歌謡中の *Kṛṣṇa*; [*Kṛṣṇa* と牧女

との戀愛を唱へる *Jayadeva* 作の抒情詩の題名].

gita-nṛtya 〔中〕 歌詠と舞踊.

gita-bandhana 〔中〕 吟詠を目的とする敘事詩.

gita-mārga 〔男〕 [律動運動の稱(十歩に一歩するもの)].

gita-vādana 〔中〕 唱歌及び器樂.

gita-vādita 〔中〕 〔漢譯〕 歌樂 *Siks.*

gita-svara 〔男〕 〔漢譯〕 歌音, 歌歎 *Saddh-p., Lank.*

gitā (〔過受分〕) 〔女〕 聖歌, 感激せしむる教義を含む歌詠
又は讚頌, (特に) *Bhagavad-gītā*; 〔漢譯〕 歌, 歌音, 音
韻 *Mvyut.*

gitācārya (°ta-āc°) 〔男〕 唱歌の教師.

gitāyana 〔形〕 歌を伴ふ.

gītārtha 〔男〕 教程を終了せる苦行者.

giti 〔女〕 歌; [音律の一種]; 〔漢譯〕 吟 梵千.

gitin 〔形〕 歌ふ如くに暗誦する.

gity-āryā 〔女〕 [音律の一種].

githā 〔女〕 歌.

girṇa (〔過受分〕) → *Gī 2.*

girvāṇa 〔男〕 [恐らくは=(〔中〕) *girvanas*] 神.

girvāṇa-vartman 〔中〕 天空.

Gu, [〔漢譯〕のみ] *joguve* 及び [〔現分〕] *joguvāna* 鳴ら
しむ, 宣言す; 喜びて叫ぶ.

-gu 1. 〔形〕 來る, 行く.

gu 2. [—°は〔中〕] = *go.* 牡牛, 牝牛; 大地; 光線.

guggula 〔男〕 樹脂を出す樹(〔中〕); 〔漢譯〕 黑香, 安息香,
蔓菁 *Mvyut.*

guggulu 〔男〕 (〔中〕) 〔中〕 香氣ある樹脂, 樹脂, 樹脂を出
す樹; 〔漢譯〕 安息香, 蔓菁 *Mañj-m.,* 梵雜., 玄應.; (〔音寫〕
求求羅 玄應.

guggulu-dhūpa 〔男〕 〔漢譯〕 膠香薰香; (〔音寫〕) 求求羅香,
局崛羅香 *Bodh-bh.*

guṅgu 〔男〕 [人名]; 〔漢譯〕 *Guṅgu* の子孫.

guṅgū 〔女〕 (人格化せられたる) 新月.

guccha 〔男〕 灌木; 東, 房, 花の房.

gucchaka 〔男〕 [同上].

Guṅj, I 〔中〕 〔漢譯〕 ブーン又はブブンと云ふ.

guṅja 〔男〕 ブーン又はブブン云ふこと.

guṅjā 〔女〕 [小灌木の一種, 學名 *Abrus precatorius*];
(重量の單位として用ゐらるゝ) *Guṅjā* 樹の果實.

guṅjita (〔過受分〕) 〔中〕 = *guṅja.*

guṭikā 〔女〕 小球; 丸藥; 眞珠; 〔漢譯〕 (〔音寫〕) 眞梨迦
Guhy-s.

guṭikāñjana (°kā-añ) 〔中〕 小球形の點眼藥.

guṭikā-pāta 〔男〕 球の落つること即ち籤引.

guṭikāstra (°kā-as°) 〔中〕 (粘土の) 小球(を發射する) 弓

guda 〔男〕 球; 糖蜜; 丸藥; (〔中〕) [民族の名]; 〔漢譯〕 丸;
糖, 黑糖, 沙糖, 砂糖, 甘蔗汁 *Divy., Lal-v., Saddh-*
p., Lank., Mvyut., 梵千., 梵雜. → *ayo* ~.

gudaka 〔男〕 球; 片, 一口.

guda-kṣiramaya 〔形〕 糖蜜と乳とより成れる.

guda-jihvikā-nyāya 〔男〕 砂糖と舌との理 [= 最初に
して而も直ちに消失する印象, 瞬間のみ推稱せらる
ゝ意見].

guda-dhānā 〔女〕 〔中〕 砂糖をつけたる穀物の粒.

guda-piṣṭa 〔中〕 穀粉と砂糖にて製せる食料.

guḍamaya 形 (女-i) 砂糖より成る。
guḍala 甲 [糖蜜より製せるラム酒の一種]。
guḍa-śarkarā 女 砂糖。
guḍa-śṛṅgikā 女 球を投ぐる装置。
guḍā-keśa 男 [Arjuna の稱]。
guḍā-keśatā 女 縮れたる毛髪を有すること (Dharm-s.)。
guḍā-guñjika-bhūta 形 如亂絲, 如堅毬, 如亂塊難分, (如亂絲塊) *Mvyut.* [Pāli. gulā-guñjika-jāta, gulī-guñhika-jāta]。
guḍālaka 男 甲 髪の束。
guḍikā 女 丸薬; 丸 *Gaṇḍ-vy.*
guḍuha 男 團 [民族の名]。
guḍodaka (°ḍa-ud°) 甲 砂糖水。
guḍaudana (°ḍa-od°) 甲 砂糖を添へたる米飯。
guṇa 男 紐を構成する條(子), 紐, 絲, 綱; 燈心, 弓弦; 琵琶の絃; 種類; (政治)機構 [六又は四あり]; 從屬的要素 附屬物; 二次的の食品, 調味料; (動詞の) 遠隔目的; 固有性, 性質; 根本的原素(地・水・火・風・空)の屬性 [香・味・色・觸・聲]; (特に *Sāṃkhya* 圖 に於て) 根本的(三)原素又は性質 [sattva, rajas, tamas 即ち喜・憂・闇 又は善・邪惡・無智]; (*Nyāya* 圖 に於ける) 根本的(二十四)原素又は性質 [1. rūpa 色, 2. rasa 味, 3. gandha 香, 4. sparśa 觸, 5. saṃkhyā 數, 6. parimāna 量, 7. prthaktva 別體, 8. saṃyoga 合, 9. vibhāga 離, 10. paratva 彼體, 11. aparatva 此體, 12. gurutva 重體, 13. dravatva 液體, 14. sneha 潤, 15. śabda 聲, 16. buddhi 覺, 17. sukha 樂, 18. duḥkha 苦, 19. icchā 欲, 20. dveṣa 瞋, 21. prayatna 勤勇, 22. dharma 法, 23. adharma 非法, 24. saṃskāra 行]; 善性, 德, 功績, 卓越; (一°) の多額又は多量 [=過分の]; 發音上の特質(文字の); 母音の第一強階程, 重韻 [a, ar, al, e, o]; (何)回 [圖 と俱に]; 倍數; 德, 功德, 福德, 道德, 威德; 利, 勝利, 利益, 功德, 利益, 功德勝利; 實; 美; 仁篤; 用 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Saddh-p., Daś-bh., Sam-r., Rāstr. Kāy., Laṅk. Śikṣ. Cat-ś., Pijā-v., Bodh-bh., Madhy-vibh., Abh-vy., Nyāy-pr., Vaiś-s., Sāṃkhy-k., Mvyut., 梵干, 梵雜*; (三)德 *Sāṃkhy-k. 12.*; 倍 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*; (香寫) 求那 *Buddh-c., Laṅk., Abh-vy.*: trayo ~ aḥ 三德 [1. sattvam 勇, 2. rajaḥ 塵, 3. tamaḥ 暗] *Mvyut.* [殆ど常に] —° 形 [圖 の後にて]…重の[本來は「非常に多くの條(子)を有する」の義]; (具, 從)の(何)倍だけ或はより(何)倍多き; 倍 *Mvyut.*: caturvimsati ~ 二十四倍 *Mvyut.*
-guṇaka 形 (一°) の性質ある。 男 乘數。
guṇa-kartṛtva 甲 三德能作 *Sāṃkhy-k. 20.* → guṇa.
guṇa-karman 甲 本質的ならざる二次的動作; (動詞の)遠隔目的 (女法)。
guṇa-kaluṣa 形 (根本的三)原素の合體。
guṇa-kāraṇḍa-vyūha 男 [經名, 大乘莊嚴寶王經]。
guṇa-kṛtya 甲 弓弦の機能。
guṇa-ketu 男 佛の名] 德英, 功德幢 *Lal-v., Śikṣ.*

guṇa-keśi 女 [Indra 神の馭者なる *Mātali* の娘の名, 即ち Indra 神の炊事者]。
guṇa-kṣetra 甲 福田, 德田, 功德田, 大功德田 *Bodh-bh., Abh-vy.*
guṇa-gaṇa 男 多數の長處; 功德聚 *Sūtr.*
guṇa-gandhavat 形 德の香氣を有する (*Buddh-c.*)。
guṇa-guru 形 其の德を以て尊敬せらるゝ。
guṇa-gr̥dhnu 形 德を欲する。
guṇa-gr̥hya 形 德を認むる, 德を稱ふる。
guṇa-grahaṇa 甲 功績又は德の認知, 稱揚。
guṇa-grāma 男 多くの德又は功績。
guṇa-grāhin 形 功績を認むる。
guṇa-ghātin 形 功績を傷つくる, 誹謗する, 嫉妬する。
guṇa-candra 男 [諸人の名]。
guṇa-ccheda 男 綱の切斷; 德の消失。
guṇa-jña 形 功績を認知する。
guṇa-jñatā 女 [同上 團]。
guṇa-tatpara 形 勤德 *Sūtr.*
guṇa-tantra 形 德に従ひて判斷する。
guṇatas 團 根本的(三)原素に従ひて; 善良なる性質に關して。
guṇatā 女 從屬; 卓越。
guṇa-tyāgin 形 德行を捨つる。
guṇatva 甲 綱の強度; 附帶; 卓越; 德あること; 德性 *Vaiś-s.*
guṇa-deva 男 [*Guṇādhyā* の弟子の名]。
guṇa-doṣa 男 兩, 甲 單 美德と惡德; 德無德, 功德過失 *Laṅk., Bodh-bh.*; 過, 過失, 過惡 *Laṅk.*
guṇadoṣa-yukta 形 具德具失, 有德無德, 有福德無福德 *Bodh-bh.*
guṇa-dhṛta 形 德によりて支へられたる; 綱により支へられたる。
guṇana 甲 讚辭, 賞揚。
guṇanikā 女 反復。
guṇa-nidhāna 甲 功德藏 *Rāstr.*
guṇa-nidhi 男 德條の寶庫, 極めて德高き人; 功德藏 *Guhy-s., Sūtr.*
guṇaniya (未受分) 増加せらるべき。
guṇa-parikirtita 形 功德勝利 *Sapt-pr.*
guṇa-pariṇāma-viśeṣa 男 三德轉異 *Sāṃkhy-k. 27.* → guṇa.
guṇa-pūga 甲 大いなる功績, 卓越。
guṇa-prakarṣa 男 [同上]。
guṇa-prativiśiṣṭataraka 形 德尊勝者, 勝功德者 *Bodh-bh.*
guṇa-prabha 男 [古師の名] 德光 *Mvyut.*; (香寫) 瞿那鉢刺婆 *Mvyut.*
guṇa-priya 形 功績又は卓越を好める; 敬愛有德, 於諸功德心常愛樂 *Bodh-bh.*
guṇa-baddha (過受分) 綱にて縛られたる, 德の力に捕へられたる。
guṇa-bhadra 男 [或る著作者の名]。
guṇa-bhāj 形 功績を有する。
guṇa-bhūta 男 從屬する, 依存する, 二次的の。
guṇa-bheda 男 功德差別; (香寫) 求那說差別

Lank.

guṇa-bhoktr 形 根本的三原素を享受する。
guṇa-maṇḍa 男 功德味 *Rāstr.*
guṇa-mata 甲 特性の崇拜者の教義。
guṇa-mati 男 〔菩薩の名〕功德慧 *Lal-v.*; 〔古師の名〕德慧 *Mvyut.*; 〔音寫〕瞿那末底 *Mvyut.*
guṇamaya 形 絲より成れる, 纖維質の; 徳ある; 根本三原素より成る。
guṇaya 名動 他 **guṇayati** 増加す, 倍加す, 回数を重ね。〔過受分〕**guṇita** (具, 一) だけ増加せられたる; (一) にて増大せられたる, ……を以て充せられたる; 屢行はれたる。
anu- ……に有利ならしむ。
guṇa-yukta 〔過受分〕 綱に結びつけられたる, 徳操を賦與せられたる; 有美事 *Lal-v.*
guṇa-ratnamaya 形 寶石の如き徳を有する。
guṇa-rāga 男 (他者の) 徳に對する歡喜。
guṇa-rāja-prabhāsa 男 〔佛の名〕功德光明王 *Lal-v.*
guṇarddha (°na-rd°) 形 特質よりして強力なる。
guṇa-lubdha 形 = *guṇa-grdhnu.*
guṇa-vacana 男 甲 形容詞。
guṇavat 形 絲を備へたる; 本質的性質を有する; 善性を有する, 徳行ある, 優れたる; 完全なる; 有徳, 具徳, 有徳者, 有功德; 修福, 修福德, 修於徳行; 勝, 善 *Saddh-p., Vajr-pr., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-t., Śikṣ., Vajr-s., Sāmkhy-k.*
guṇavati 女 〔王女の名]; 〔人名]。
guṇavattama 最上 最も勝れたる。
guṇavattā 女 徳操の具有; 優秀。
guṇavat-payaska 形 優れたる乳を生ずる (*Buddh-c.*)
guṇavad-vapus 形 優れたる形の (*Buddh-c.*)
guṇa-vartin 形 道徳に適ふ。
guṇa-varmaṇ 男 〔人名]。
guṇa-vācaka 形 性質を表現する(形容詞)。
guṇa-vādin 形 (他の) 徳を宣揚する。
guṇa-vipraurūta 形 徳を失へる。
guṇa-viśeṣa 男 特性; 殊勝功德, 隨徳 *Madhy-vibh., Sāmkhy-k.*
guṇa-vistara 形 美德に満てる。
guṇa-vṛtti 女 第二次的の或は重要ならざる條件又は關係。
guṇa-vedin 形 性質を知る; (一) の美德を知る。
guṇa-vaiṣamya 甲 〔°vi-samaより〕 徳不平 *Sāmkhy-k.*
guṇa-śata-bharita 形 百福莊嚴 *Suv-pr.*
guṇa-śata-śālin 形 幾百の徳を具有する。
guṇa-śabda 男 形容詞; 振弦之聲 *Divy.*
guṇa-śilatas 副 性質及び特徴に従ひて。
guṇa-śulkā 形 徳によりて得る。
guṇa-ślāghā 女 稱讚。
guṇa-samyukta 形 善性を賦與せられたる。
guṇa-samskāra 男 徳の極致; °——性質と準備。
guṇa-samskr̥ta 形 作功德 *Sapt-pr.*
guṇa-saṃkirtana 甲 徳を稱ぶること。

guṇa-saṃkhyāna 甲 根本的三原素の教義, 性質の顯現。→ *guṇa.*
guṇa-saṅga 男 個人に特有の美德。
guṇa-saṃgraha 男 功績又は特質の集積。
guṇa-samudra 甲 徳の海, 諸徳を賦與せられたるもの。
guṇa-sampad 女 大功績, 完成。
guṇa-saṃpanna 形 徳性を賦與せられたる。
guṇa-sāgara 男 = *guṇa-samudra*; 功德海〔又た佛の屬性〕 *Lal-v., Suv-pr., Mvyut.*
guṇa-stuti 女 = *guṇa-ślāghā.*
guṇa-hāni 女 徳の缺乏。
guṇa-hīna 形 徳の缺けたる。
guṇākara (°na-āk°) 男 徳の富源即ち總ての徳の具備者; 徳室 *Daś-bh.* 形 諸徳を具備せる (*Lal-v.*)
guṇāguṇa 男 徳行と過夫, 長所短所。
guṇāguṇa-jña 形 (女 -ā) 自己の長所短所を知る。
guṇāgra-dhara 男 最勝功德者 *Lal-v.*
guṇāgra-dhārin 男 〔佛の名〕持徳, 勝功德 *Lal-v.*
guṇāgrya 甲 根本的三原素 (*guṇa*) 中の最善なるもの即ち *sattva*; 主要なる性質。
guṇāṅga 甲 美德より來る行爲。
guṇādhyā (°ṇa-ādhy°) 男 〔*Bṛhatkathā* の作者の名]。形 美德に満てる; 富徳 *Śikṣ.*
guṇātipāta 男 認められたる美點の減少(戲曲)。
guṇātisaya 男 認められたる美點の蓄積(戲曲)。
guṇātita 形 根本的三原素 (*guṇa*) を越えたる。
guṇādhāna (°ṇa-ādhy°) 甲 屬性の添加; 目的に對して更に適合せしむること。
guṇādhīpa 男 〔王の名]。
guṇānuśamsā 女 功德勝利 *Śikṣ.*
guṇāntara 甲 他の徳性。〜 *m Vraj*, 秀でたる長處を得る, 優秀となる。
guṇāntarādhāna (°ra-ādhy°) 甲 何物かを貢獻すること = (屬) の世話をなすこと。
guṇānvaya 形 美德を賦與せられたる。
guṇānvita 形 〔同上]; 吉兆の(星座); 具功德, 功德成就 *Saddh-p., Suv-pr.*
guṇābhāsa (°ṇa-ābh°) 男 特質を有するかの如く見ゆること。
guṇābhilāṣin 形 徳を望む; 勤求功德, 專求功德 *Gaṇḍ-vy.*
guṇāya 名動 自 **guṇāyate** 功績となる, 功績として顯はる。
guṇāyana 形 = *guṇa-vartin.*
guṇārṇava 男 功德海 *Bodh-c., Sūtr.*
guṇālaya (°ṇa-āl°) 男 徳の往處 = 多くの徳を積める者。
guṇālābha 男 無効。
guṇāvaha (°ṇa-āv°) 形 適當なる性質を有する。
guṇāśraya (°ṇa-ās°) 男 = *guṇālaya.*
guṇita 〔過受分〕 → *guṇaya.* 轉, 倍數 *Divy., - Bodh-bh.*
guṇitā 女 有徳。

guṇin 形 絲又は綱を備へたる; 有徳の; 部分より成る; 根本的三原素を有する; 吉兆の(日); (一)の徳を有する; 徳所起; (音)所求那 *Lank.* 男 対象, 物; 名詞.

guṇi-liṅga 形 名詞の文法的性を有する.

guṇi-BHū, (男)に從屬す.

guṇi-bhūta 形 (男)に隷屬する; 從屬的となれる, 無意義となれる.

guṇeśa (°na-iśa) 男 根本的三原素中の主なるもの即ち *sattva.* → *guṇa.*

guṇojjala (°na-uj°) 男 徳を以て輝く者.

guṇotkarṣa (°na-ut°) 男 徳性の卓越; 優れたる功績.

guṇotkirtana (°na-ut°) 中 = *guṇa-kīrtana.*

guṇotkrṣṭa (°na-ut°) 形 美德を以て優れたる, 更に善良なる.

guṇottara (°na-ut°) 形 [同上].

guṇodaya (°na-ud°) 男 徳性の發展又は顯現.

guṇopapanna (°na-up°) 形 = *guṇa-sampanna.*

guṇopeta (°na-up°) 形 [同上]; 具徳 *Sūtr.*

guṇaughā (°na-ogha) 男 = *guṇa-pūga.*

Guṇṭh, V. 他 **guṇṭhayati** 覆ふ, 包む. (過受分)

guṇṭhita (具, 一)を以て覆はれたる, 包まれたる.

ava- [= 單純動詞]. (不變分) **avaguṇṭhyā** (頭を) 裹みて.

guṇṭhana 中 (具, 一)を以て覆ふこと.

guṇṭhanā 女 [同上].

guṇṭhita (過受分) → *Guṇṭh.*

guṇya (未受分) 増加せらるべき; 徳を賦與せられたる;

徳, 功德 *Sāṃkhy-k., Mvyut.*

guṇyatva 中 [同上].

gutsa 男 三十二紐の眞珠の首飾.

gutsārdha 男 二十四紐の眞珠の首飾.

guda 男 (中) 腸管; 肛門.

guda-kila 男 痔.

guda-ja 男 (中) 痔.

guda-nirgama 男 脱肛.

guda-niṣṭhā 中 [同上].

guda-pāka 男 肛門の炎症.

guda-bhramśa 男 脱肛.

gudā 女 (類) 内臓, 腸.

gundra 男 [諸種の植物の名].

gundrā 女 [同上].

Gup, [男] (陰)なし. (陰)より護る, ……より保護す;

保存す; 祕密を守る, 隠す; 厭惡 *Av-ś.* (過受分)

gupita (陰), **gupta**. (不定) **gopitum**. (希求) (他)

jugupsate(-ti) (陰)に對して警戒す; 避く, 輕蔑す,

嫌惡す; 非難す. (希求) (過受分) **jugupsita** 嫌惡せら

れたる; (陰)を嫌惡せる.

adhi- (過受分) **adhigupta** (一)によりて保護せれ

たる.

anu- (過受分) **anugupta** 護られたる; 隠された

る.

abhi- (過受分) **abhigupta** 護られたる.

vi- (希求) **vijugupsate** 厭, 厭惡, 厭患, 厭雜,

深厭; 誹謗, 凌蔑 *Divy., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Śikṣ.*

sam- (過受分) **samgupta** 護られたる; 隠された

る.

-gup 形 護る, 保存する.

gupita (過受分) [*Gup*].

gupta (過受分) 護られたる, 保護せられたる, 保存せ

られたる; 隠されたる, 祕密の; 守, 護, 守護,

善護; 密, 密護; 藏, 善攝 *Lal-v., Kāśy., Mañj-*

m., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.; [**daṇḍa** と共に] 強

請す. ~ **m** (類) 祕密に, 私かに. (中) 祕密の場處;

(於) ~ **e** (類) 隠して, 隠れ場處に於て. 男 [諸王の

名]; [A. D. 319年に始る紀元の名]; [屢、*Vaiśya*の

人の名に —°として用ゐらる]; 人名 [祕密

Divy.; 笈多, 毘多, 毘提, 毘多 *Divy., Lank.*

gupta-gṛha 中 寢室.

guptatā 中 (類) 密 *Śikṣ.*

gupta-dvāra 形 (類) 密護門 *Bodh-bh.*

gupta-dvāratā 女 (類) 防守門, 守護門 *Bodh-bh.:*

indriyānām ~ **ayā** (類) 守護根門, 能善防守諸根

門故 *Bodh-bh. 258.*

gupta-dhana 中 貯蓄せられたる金錢. 形 金錢を

貯蓄する.

gupta-pada 中 (類) 密語, 祕密句 *Śikṣ.*

gupta-pālaka 男 獄屋番.

gupta-śila 形 詭計の, 老獪なる, 狡猾なる.

gupta-sthāna 中 (類) 藏隱僻處 *Divy.*

guptāryaka (°ta-ār°) 男 [王の名].

gupti 女 保存; 隱蔽; 保護; 防禦; 要塞; 獄屋; (類)

護, 藏 *Śikṣ., Mvyut.*

gupti-pālaka 男 獄屋番.

guptendriyatā (°ta-in°) 女 (類) 調伏諸根, 藏護諸

根, 善攝諸根 *Gaṇḍ-vy.*

gumagumāyita (過受分) 中 ブンブン言ふこと.

Gumph, VI. 他 **gumphati** 撚る. 撚り合す; 結ぶ;

弦を張る. (過受分) **gumphita** 結ばれたる, 撚られ

たる. (使役) **gumphayati** [= 單純動詞].

gumpha 男 弦を張ること; 結合, 綴り込むこと.

Gur, VI. 自 (他) **gurate(-ti)** [單純動詞は (過受分)

のみ]. (過受分) **gūrta** 歡迎せられたる, 快き.

apa- 咎む; 嚇す.

ava- (爲, 於)を嚇す, ……を攻撃す. (不變分) **ava-**

gūrya.

ā- (業)を是認す, ……に同意す; *āgur*句を唱ふ.

ud- (過受分) **udgūrṇa** 威嚇的に擧げられたる; 揚

げられたる.

gur, = *gus* [*Gā*の (三過) (三入) 類].

guru 形 (女) **gurvi** 重き; (陰)より重き; 胃に重き,

消化し難き; 大なる, 廣大なる; 激烈なる, 峻嚴なる,

嚴酷なる; 困難なる, 退屈せしむる, 重くるし

き(日); 重大なる, 重要なる, 大切なる; 尊敬すべき;

(音律上)長き(音節); 尊, 重, 尊重, 所尊重,

沈重; 敬, 敬重, 珍敬; 欽 *Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃ-*

khy-k., 梵千., 梵雜. 男 尊敬すべき人, 大に尊敬せら

れたる人; 父, 母, 年長の親族, (特)師; (類)兩親;

(類)兩親その他尊敬すべき人, 師 [尊敬の意を表して

類を用ふ]; (類) (類, 一)の長; 尊, 尊者, 所尊,

尊長, 尊重; 師, 長, 師長, 本師, 法師; 徳, 師長宿有

徳之人 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Sam-r., Lank., Mañj-m.,*

Sikṣ., Vijñ-t., Bodh-bh., Bodh-c.

guruka 形 稍重き; (一)を尊重する; 〔多きは一〕重, 深重, 尊重, 愛重, 恭敬愛重; 好, 貴; 愛, 樂, 愛樂; 師尊; 貧 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sam-r., Saddh-p., Rāṣṭr., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.:* cāritra [刊本は tad を代用す]〜 尊重正行 *Bodh-bh. 256.;* dharma〜 重於法, 尊重法 *Sam-r., Sikṣ.* → āmiṣa〜, pratisamlayana〜, loka〜.

guru-karaṇiya 形 當尊重, 爲尊重 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

guru-kartavya 形 應尊重 *Aṣṭ-pr.*

guru-karman 甲 師の仕事.

gurukarmārambha (°ma-ār°) 男 修極重事 *Sikṣ.*

guru-kāya 形 身重 *Sikṣ.*

guru-kāra 男 崇拜, 尊敬; 尊重, 奉事尙師, 當師, 當尊 *Saddh-p., Mvyut.*

gurukārārthāya 男 欲尊重 *Saddh-p.*

guru-kārya 甲 重要なる事務; =guru-karman.

guru-kula 甲 師の家.

gurukula-vāsa 男 師の家に滞在すること, 弟子の生活; (婆羅門生活中の)修行期.

guru-Kṛ, 尊重 *Saddh-p., Daś-bh., Laṅk., Bodh-bh.*

guru-kṛta 形 重んぜられたる, 稱讚せられたる; 尊重, 恭敬 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Suv-pr., Sikṣ.*

guru-kratu 男 大なる供儀.

guru-krama 男 師匠の繼承.

guru-gṛha 甲 =guru-kula.

guru-caryā 女 師に仕ふること, 弟子の仕事.

guru-jana 男 尊敬すべき人, 父, 母, 兩親; 師長, 尊重 *Gaṇḍ-vy.*

guru-jara 比 更に重き, 甚だ重き; 重き; 更に大なる, 更に悪しき, 甚だ厳しき或は悪しき; 更に或は甚だ重要なる或は尊敬すべき; 甚重 *Sikṣ.* ∼ m BHū 内重, 尙重 *Mvyut.*

gurutarāpatti (°ra-ap°) 女 重非 *Sikṣ.*

guru-talpa 男 師の夫婦用の寢臺; 師の寢臺(即ち妻)を犯すこと又は犯す者.

gurutalpa-ga 形 師の夫婦用の寢臺(即ち妻)を穢す.

gurutalpa-gāmin 形 [同上].

gurutalpa-vrata 甲 師の妻を犯せる罪の贖ひ又は悔悟.

gurutalpānupatti 女 師の寢處を犯すこと.

gurutalpābhigamana 甲 [同上].

guru-talpin 形 =gurutalpa-ga.

gurutā 女 重量, 重きこと; 重要性; 威嚴; 師たるの地位; 重, 重性 *Abh-vy.*

gurutva 甲 [同上]; (音律上)音節の長きこと; 重, 尊重, 敬 *Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.:* 重觸 *Abh-vy.;* 重體 *Vaiś-s.*

gurutvaka 甲 重きこと.

guru-dakṣiṇiya 男 師尊 *Sikṣ.*

guru-darśana 甲 師を見ること.

guru-dāra 男 師の妻; 師婦, 師妻, 尊婦 *Divy.*

guru-dravya 甲 重物 *Abh-vy.*

guru-dhur 女 難事業.

guru-patni 女 師の妻.

guru-pādaka 男 [山の名] 尊足山 *Divy.*

guru-pūjā 女 師に對する尊敬; 供養尊長 *Bodh-bh.*

guru-prasādaniya 形 師に對して鄭重なる.

guru-prasūta 形 長上の親族より許されたる或は命ぜられたる.

guru-bha 男 *Bṛhaspati* 星座.

guru-bhārika 形 (胃に)重き(食物).

guru-bhāryā 女 師の妻.

guru-bhūta 形 尊重 *Bodh-bh.*

guru-bhṛt 形 重きものを支ふる(地).

gurumati 女 妊婦.

guru-madhya 形 中央部の重き.

guru-muṣṭi 男 手に一杯.

guru-laghutā 女 輕重; 高價值と無價值.

guru-lāghava 甲 重要性の大と小; 相對的價值; 違師教 *Bodh-c.*

guru-loka 男 勢力ある人々.

guruvat 副 師の如く, 師に對するが如く. 尊重 *Sikṣ.*

guru-vartaka 形 長上又は兩親に對して恭しき.

guru-vartitā 女 長上に對する尊敬.

guru-vartin 形 =guru-vartaka.

guru-vāra 男 木曜日 [*Bṛhaspati* の日].

guru-vāsa 男 師と共に住むこと, 内弟子たること.

guru-vṛtta 形 =guru-vartaka.

guru-vṛtti 女 師に對する態度.

guruvṛtti-para 形 師に對して恭しくせんとする, 師を思ふ.

guru-vyatha 形 甚だ苦しめる.

guru-śuśrūṣaṇa 甲 承事法師 *Rāṣṭr.*

guru-śuśrūṣā 女 師に従順なること; 孝順師傅 *Mvyut.*

guru-śuśrūṣu 形 師に従順なる.

guru-śraddhā 女 敦 梵干.

guru-sakhi 女 長上の親族の女性の友人.

guru-saṃnidhi 男 師の面前.

guru-samavāya 男 師の多きこと.

guru-sevā 女 =guru-caryā; 師への追從.

guru-stri-gamaniya 形 師の妻との姦通に關する.

guru-sthāniya 男 尊重, 似尊, 師等 *Vajr-pr., Bodh-bh.*

gurū-karaṇa 甲 重くすること, 尊くすること.

gurū-Kṛ, (器)を師となす.

gurūpakārin 形 重要なる仕事を爲す(人), 有力なる援助を與ふる.

gurjara 男 [地名, *Gujerat*].

gurjari 女 [同上].

gurv-anta 形 端の重き.

gurv-ārtha 1. 男 重大事; 師に關する事柄; 師に對する謝禮. ∼ m 兩親又は師の爲に.

gurv-ārtha 2. 形 師の爲に乞ふ.

gurvinikā 女 懷妊者 *Saddh-p.*

gurviṇi 女 妊婦; [音律の一種]; 孕, 孕婦, 懷孕, 懷妊 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.*
gurvin 形 重 *Sikṣ.*
gurvi 女 重 *Mvyut.*
gurvi-sakhi 女 年長の婦人血縁者の女性の友人.
gula 男 [=gūḍa] 糖蜜.
gulikā 女 小球; 球; 眞珠; 丸薬; 丸 *Gand-vy.*: *tila-mātrā* ~ 丸如麻子, 丸如麻子大 *Gand-vy.* 184.
gulgulu 甲 樹脂を生ずる樹; 膠香, 安息香 *Suv-pr.*; 箕具擲 *Suv-pr.*
gulpha 男 踝(足); 踝, 脚踝 *Bodh-bh., Mvyut.*, 梵千.: *na* ~ *e* ~ *m ādhāya* 不重踝, 坐不可兩背式骨上下合 *Mvyut.*
gulpha-daghna 形 踝に達する.
gulpha-dvayasa 形 [同上].
gulphaya 名動 他 **gulphayati** 蓄積す.
gulphita (通受分) 甲 蓄積. → (=) *guspita*.
gulma 男 (甲) 灌木, 叢; 兵士の一隊, 混成軍隊(の一種) [九頭の象・九臺の戦車・二十七頭の馬及び四十五人の歩兵より成る]; (腹部の病的)膨脹; 叢, 叢林; 樹林, 草木, 諸草木, 樹木; 櫛; 柏樹; 華卉 *Saddh-p., Sapt-pr., Laṅk., Mvyut.*; [病名] 痞 *Mvyut.* → *trṇa* ~.
gulmaka 男 叢; [或る婆羅門の名].
gulma-keśa 形 蓬髪の; 髮太麗 *Mvyut.*
gulma-sthāna 甲 伏兵ある場處, 駐屯處.
-gulmika 形 群 *Sikṣ.*: *māra* ~ 群魔 *Sikṣ.* 361.
gulmin 形 *Gulma* 病の; 叢となれる.
gulmi-bhūta 形 無價值となれる.
guvāka 男 檳榔子樹.
guspita 甲 亂れたる集積; 蓄積.
gus, [因 *Gā* の 三過 三入 類].
Guh, I. 他 自 **gūhati(-te)** 隠す, 覆ふ; 秘密にす. (通受分) **gūḍha(gūḷha)** 覆はれたる; 變装せる; 見えざる; 秘密の; [*puruṣa* と共に] (男) 密偵; [*daṇḍa* と共に] (男) 強請者. **gūḍham** 副 私的に, 私に, 秘密に.
apa- 隠す. (通受分) **apagūḍha** 隠されたる.
ava- 覆ふ, 隠す, 中に入る; 抱く.
upa- 他 覆ふ, 隠す; 他 自 捲きつける; 抱く. (通受分) **upagūḍha** 隠されたる, 覆はれたる; 抱かれたる.
ni- 覆ふ, 隠す. (通受分) **nigūḍha** 隠されたる, 秘密の. ~ 及び **nigūḍham** 副 私に, 秘密に. 使役 **nigūḥayati** 隠す, 秘す.
vi- (通受分) **vigūḍha** 隠されたる; 變装せる.
sam- 使役 **samgūḥayati** 善藏, 能密 *Mvyut.*
guh 女 隠れ場處.
guha 男 [*Siva* 神及び *Skanda* 軍神の稱]; [*Nisāda* の王の名]; (種) [民族の名]; 洞 [= *guhā*] *Mvyut.*
guha-gupta 男 [菩薩の名] (*Kār-vy.*); 洞藏, 秘密藏 *Mvyut.*
guha-candra 男 [或る商人の名].
guhati 男 語根 *Guh.*

guhā 形 不足を隠す.
guha-varman 男 [或る王子の名].
guha-sena 男 [或る王侯及び商人の名].
guhā 1. 女 隠れ場處, 洞窟; (聖喻) 内心; 洞, 窖, 澗, 窟, 石窟, 巖穴, 龍窟, 龍室, 自然石室 *Divy., Laṅk., Sikṣ., Mvyut.*, 梵雜.
guhā 2. 男 [*guh* 女] 副 隠して, 秘密裏に; [特に *DHā* 又は *Kṛ* と共に] 隠す, 秘す; 取り去る.
guhā-kāram 副 自らを隠して.
guhā-gahanavat 形 洞窟及び叢林を有する.
guhā-cara 形 秘かに動く, 心中に動く.
guhā-nilaya 形 在石窟 *Divy.*
guhā-mukha 形 (穴の如き口を有する), 廣く口を開ける.
guhā-vāsin 男 [或る *Muni* の名].
guhā-śaya 形 隠れ場處又は洞窟に住める; 秘密に或は心中にある.
guhā-hita 形 秘密の, 心中にある.
guheśvara (°*hā-īś*) 男 [(洞窟の王), *Siva* 神の従者の名].
guhya (未受分) 秘せらるべき, 隠さるべき, 秘密にせらるべき; 隠されたる, 秘密の, 神秘的の; 深, 陰, 奥, 秘, 秘密, 密, 隱密 *Saddh-p., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Mvyut.*, 梵千., 梵雜. ~ *m* 副 秘密に, 秘かに; 黙して. 甲 秘密; 神秘; 陰部; 秘密, 深奥 *Saddh-p., Dāś-bh., Mañj-m., Guhy-s., Bodh-c.*
guhya 男 [半神半人の一種]; [*Kubera* 神の財寶の番人(一般に *Yakṣa* と區別せらる)]; 密跡天, 密健人 *Lal-v.*; 羅刹 [= *rākṣasa*] (?) *Av-ś. I. 191.*; 瞿醜夜迦 *Suv-pr.*
guhya-kādhipati 男 *Kubera* 神; 密主 *Mvyut.*
guhya-kośa 形 陰藏 *Rāṣṭr.*
guhya-puruṣa 男 内人 *Lal-v.*
guhya-mantra 男 密語 *Sam-r.*
guhya-ruj 女 陰部の病.
guhya-rōga 男 [同上].
guhya-vidyā 女 呪文に関する知識.
guhya-samāja-tantra 甲 [佛典の名, 一切如來金剛三業最上秘密大教王經].
guhya-sthāna 甲 秘密處, 秘密藏 *Lal-v., Gand-vy.*
guhyeśvari 女 *Ādibuddha* の女性的精力.
gūḍha (通受分) → *Guh.* 深, 甚深; 不現 *Abh-vy., Mvyut.* 甲 神秘, 秘密. ~ *e* 因 秘密に.
gūḍha-gulpha 形 踝(足)の隠れたる; 踝不現 *Mvyut.*
gūḍha-gulphatā 女 [同上 類]; 兩踝不現好 *Dharm-s.*
gūḍha-caturtha-pāda-prahelikā-pradāna 甲 第四詩句 (*pāda*) の隠されたる謎詩を提示すること.
gūḍha-cāra 男 密偵.
gūḍha-cārin 形 秘密に或は變装して徘徊する.
gūḍha-ja 形 (夫によらずして) 秘密に産める.
gūḍhatā 女 秘密. ~ *ayā* 因 秘密に.
gūḍhatva 甲 秘密, 曖昧.

gūḍha-pāda 形 (一)を以て足を覆はれたる。男 蛇。
 gūḍha-puruṣa 男 密偵。
 gūḍham 副 → Guh:
 gūḍha-māya 形 奸計を祕する。
 gūḍha-maithuna 中 祕密の性交。
 gūḍha-varcas 形 光榮を祕する。
 gūḍha-vasati 女 隱棲。
 gūḍha-sira 形 脈管の隠れたる (Buddh-c.).
 gūḍha-siratā 女 [同上 抽] (Dharm-s.).
 gūḍhāgāra 中 牢舎。
 gūḍhārtha 男 隠されたる或は神祕の意義。形 隠されたる或は神祕の意義を有する。
 gūḍhāsaya (°dha-ās°) 形 意圖を祕する。
 gūḍhotpanna (°dha-ut°) 形 =gūḍha-ja.
 gūṭha 中 大便, 糞; 糞尿, 糞, 大便 *Sikṣ., Mvyut.,* 梵千., 梵雜.: aksi ~ 目脂 *Sikṣ. 210.*
 gūṭha-mṛttikā 女 糞丸 *Sikṣ.*
 gūṭhodigalla (°tha-od°) 男 中 (?) 俗 穢濁, 便利不淨, 便利之穢 *Saddh-p. 144, 148.* [Tib. h̄jim-iad-dan-sme-ba].
 gūṭhodilla (°tha-od°) 男 中 (?) 俗 [=gūṭhodigalla]; 穢惡 *Saddh-p. 425.*
 gūraṇa 中 非難, 譴責。
 gūrṇa 過受分 [Gur].
 gūrta 過受分 → Gur.
 gūrta 女 稱讚, 承認, 阿諛。
 gūrda 男 跳躍, 躍進。
 gūrdhaya 名動 他 gūrdhayati 稱讚す。
 gūḷha 過受分 → Guh.
 Gūh, =Guh.
 gūhana 中 隱匿。
 gūhitavya 未受分 祕せらるべき, 祕密にせらるべき。
 Gṛ, → Jāgr.
 gr̄ṇja 男 [植物の一種].
 gr̄ṇjana 男 玉葱又は大蒜(の一種); 葱, 菲, 菲 [菲?] 蒜 *Lank., Sikṣ.,* 梵雜.
 gr̄ṇjanaka 男 [同上]; 薤 *Mvyut.*
 gr̄ṇat, [Gr 1. の 現分]. 男 歌手。
 gr̄tsa 形 [熱心なる: Grdh] 敏捷なる; 巧妙なる, 伶俐なる, 賢き。男 詐欺師。
 gr̄tsa-pati 男 詐欺師の首領。
 gr̄tsa-mada 男 [聖仙の名, *Rg-veda* 第二卷の作者]; (親) *Gr̄tsamada* 聖仙の子孫。
 gr̄ddha 過受分 → Grdh. 著, 染著, 耽著, 貪著, 貪, 貪愛, 愛樂, 怪吝, 耽嗜; 饜; 胃 *Lal-v., Ast-pr., Gand-vy., Saddh-p., Rāṣṭr., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*
 gr̄ddha-citta 中 怪吝心 *Gand-vy.*
 gr̄ddhatā 女 愛樂 *Sikṣ.*
 gr̄ddhi 女 耽著, 樂著, 貪著, 貪想, 愛樂, 怪吝; 請求 *Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
 gr̄ddhitva 中 (一)を熱望すること。
 gr̄ddhin 形 [gr̄dhyin(?)] (一)を熱望する, ……に忙しき。
 Grdh, IV. 他 gr̄dhyati 得んと努む; (業, 因)を貪求す, 熱烈に欲す。過受分 gr̄ddha 貪欲なる; (因)

を切に求むる。

gr̄dhnu 形 急速なる, 火急なる; (因, 一)を切望せる。
 gr̄dhnutā 女 貪欲; (一)の切望。
 gr̄dhya 形 貪り求むる。
 gr̄dhyā 女 貪欲; (一)に對する切望。
 gr̄dhyin 形 貪欲なる; (一)を切望する。
 gr̄dhra 形 [同上]; 貪著, 愛悋 *Rāṣṭr., Sam-r.* 男 秃鷲; 鷲, 鷲鳥, 鷲鳥, 鷲鷲 *Divy., Av-ś., Lal-v., Saddh-p., Sikṣ., Bodh-c., Mvyut.*
 gr̄dhra-kūṭa 男 [山の名, 鷲峯]; 鷲峯, 鷲頭, 鷲臺, 靈鷲, 鷲峯山, 靈鷲山 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Suv-pr., Mvyut.*; 耆闍崛, 耆闍崛(山), 伊沙崛(山) [=gijjha-kūṭa(?)] *Saddh-p., Sukh-vy. I., Suv-pr., Rāṣṭr.,* 立應; 揭梨馱羅鳩脰(山), 娑栗陀羅矩吒(山) 立應。
 gr̄dhra-dṛṣṭi 形 秃鷲の如き眼の。
 gr̄dhra-pati 男 [(秃鷲の王), *Jatāyu* の稱].
 gr̄dhra-rāj 男 [同上].
 gr̄dhra-rāja 男 [同上].
 gr̄dhra-vāja 形 秃鷲の羽を有する(矢).
 gr̄dhra-vājita 形 [同上].
 gr̄dhra-śiṛṣan 形 (女 -ṣṇi) 秃鷲の頭を有する。
 gr̄dhra-si 女 腰部の僂麻質斯。
 Gṛbh, → Grabh.
 gr̄bh 女 把握。
 gr̄bha 男 柄, 把手; [=gr̄ha] 住處。
 gr̄bhaya 名動 他 gr̄bhayati 攫む, 捉ふ。
 gr̄bhāya 名動 他 gr̄bhāyati 攫む。
 anu- (業)に好意を示す。
 ud- (雨が)止む。
 sam- 執る, 攫む。
 gr̄bhi 形 (圖)を含む。
 gr̄bhita 過受分 =gr̄bhita; 執へられたる, 攫まれたる。
 gr̄bhita 過受分 → Grabh.
 gr̄ṣṭi 女 牝の犢, 一度仔を産みたる牝牛; (一)の若き牝(の動物)。男 [人名].
 -gr̄h 形 捉ふる, 夢中ならしむる, 動かす。
 gr̄ha 男 (取り且つ渡す者), 下僕, 家長[稀に]。男 (因), 中 (含有せるもの), 家, 住居; [屢: 親] 建築物; —° ……神の殿堂 [神の名と俱に]; ……葺きの園亭 [植物の名と俱に]; 家, 舎, 宅, 舍宅, 宅舎, 室宅, 屋室, 屋宅, (白衣)舎; 宮, 宮殿, 宮舎; 室, 房; 城; 宇; 家庭, 家屬 *Divy., Av-ś., Ast-pr., Saddh-p., Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-v., Mvyut.,* 梵千., 梵雜. 等。 → bhūmi ~。男 親 家庭, 家族; 妻。中 十二宮; 宮(天文學上の); 將棋盤の一劃。° — 形 家庭の; 飼養せられたる。
 gr̄haka 中 小形の家; 筒 *Mvyut.:* sūci ~ 針筒 *Mvyut.*
 gr̄ha-kakṣyā 女 內閣 *Buddh-c.*
 gr̄ha-kadatra 中 家屬 *Bodh-bh.*
 gr̄ha-kapota 男 飼鳩。
 gr̄ha-karṭṛ 男 建築師, 大工。
 gr̄ha-karma-kara 男 家僕。

gṛha-karma-dāsa 男 [同上].
gṛha-karman 中 家事, 家に關する儀式.
gṛha-kāraka 男 大工.
gṛha-kārin 中 蜂(の一種).
gṛha-kārya 中 = gṛha-karman.
gṛha-kukkuṭa 男 飼鷄.
gṛha-kuliṅga 男 [鳥の一種].
gṛha-kṛtya 中 = gṛha-karman; 租稅(の一種).
gṛha-kṣetrin 形 土地家屋を有する.
gṛha-gata 形 在家物 *Divy.*
gṛha-gamana 中 歸其家 *Gaṇḍ-vy.*
gṛha-gupta 男 [人名].
gṛha-godhā 女 小なる家蜥蜴.
gṛha-cintaka 男 建築師.
gṛha-cetas 形 家のみを考ふる.
gṛha-cchidra 中 家中の孔又は弱點.
gṛha-ja 形 家にて生まれたる(奴隸).
gṛha-jana 男 家人, 家族.
gṛha-jāta 形 = gṛha-ja.
gṛha-tantra 中 正訓家屬 *Bodh-bh.*
gṛha-dāru 中 梁(?).
gṛha-dāsikā 女 女奴隸.
gṛha-dāsi 女 [同上].
gṛha-dāha 男 大火災.
gṛha-dipti 女 家の光(=有徳の婦人).
gṛha-devatā 女 家庭の神; 家庭の神々.
gṛha-devi 女 家の守護神(たる *Rākṣasi* の名).
gṛha-dvāra 中 家の戸口.
gṛha-nadikā 女 家の排水溝.
gṛha-nirvāha 男 家政, 家計.
gṛha-pa 男 家の守護者.
gṛha-pati 男 家の主人, 家長, 婆羅門生活の第二住期に在る人; [*Agni* 神の稱]; *Sattra* 祭の司祭者; 村の司宰者; 居士, 長者, 在家, 白衣 *Divy., Av-ś., Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Kāśy., Sam-r., Sukh-vy. I., Prāt-m., Śikṣ., Vijñ-v., Bodh-bh.* 共雜 等: *līha-sudatto* ~b 貧蘇達多長者 *Divy. 160.*
gṛhapati-patni 女 居士婦 *Prāt-m.*
gṛhapati-putra 男 長者子 *Bodh-bh.*
gṛhapati-bhāryā-rūpa 中 居士婦女身 *Saddh-p.*
gṛhapati-mahā-śāla-kula 中 長者大家種族, 大力家長; (音寫) 長者種如沙羅大樹 *Mvyut.*
gṛhapati-ratna 中 [轉輪王七寶の一] 長者寶, 家主寶, 主藏臣寶, 主藏神寶 *Divy., Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Mvyut.*
gṛhapati-rūpa 中 居士身 *Saddh-p.*
gṛha-patni 女 主婦, 家長の妻.
gṛha-pāta 男 家の没落.
gṛha-pāla 男 家の守護者; 番犬.
gṛhapālaya 名動 自 **gṛhapālayate** 番犬に等し.
gṛha-poṣaṇa 中 家族の扶養.
gṛha-bali 男 家にて行はるゝ供養 [食物の殘餘を以てす].
gṛhabali-bhuj 男 家庭の供養を餌とする鳥(雀, 鳥).

gṛha-bhadra 中 應接室.
gṛha-bhartr 男 家の主人.
gṛha-bhavanodyāna-prāsāda (°na-ud°) 男 宮殿園林 *Lank.*
gṛha-bhojin 男 家族.
gṛha-mārjanī 女 家婢.
gṛha-megha 男 多數の家.
gṛha-medha 男 家庭供儀; 世帯主, 家長, 家長の義務 形 家庭供儀を遂行する或はに参加する; 家長の義務に關する.
gṛha-medhin 形 家庭供儀を遂行する或はに参加する. 男 (既婚婆羅門なる)家長 [その宗教生活の第二期に當る].
gṛha-medhini 女 (婆羅門の)主婦; 妻 *Vajr-s.*
gṛha-medhiya 形 家庭供儀に關する. 中 家庭供儀.
gṛha-medhya 形 [同上(形)].
gṛha-yantra 中 家の旗竿.
gṛha-rakṣā 女 家の保護.
gṛhavat 形 家を所有する. 男 家長.
gṛha-vara 男 閣 *Lal-v.*
gṛha-varman 男 [王の名].
gṛha-vastu 中 宅事 *Bodh-bh.*
gṛha-vāsa 男 家庭生活; 家長期; 在家, 居家 *Divy., Rāṣṭr.*
gṛha-vāsin 形 = gṛha-samstha (形).
gṛha-vyākulikā 女 俗家(?) *Mvyut.*
gṛha-vyāpāra 男 家事, 家計.
gṛha-vrata 形 家に忠實なる.
gṛha-śakuntikā 女 飼養小鳥.
gṛha-śāyin 男 鳩.
gṛha-śikhaṇḍin 男 飼養孔雀.
gṛha-śuka 男 飼養鸚鵡; 家庭詩人.
gṛha-samveśaka 男 家屋建築者.
gṛha-samstha 形 (自己の)家に住める. 男 家長.
gṛha-sāra 男 (家庭の)資産.
gṛha-sārasa 男 飼ひ馴らせる(印度)鶴.
gṛha-stha 形 (一°)の家に住める. 男 家長, 家長の地位(即ち婆羅門生活の第二住期); 在家, 居家, 在家人, 居家人; 俗, 俗人, 白衣 *Saddh-p., Sam-r., Lank., Śikṣ., Mvyut.* 共雜 ~m **Kṛ** 還俗 *Śikṣ. 60.*
gṛhastha-janatā 女 俗人 *Rāṣṭr.*
gṛha-sthatā 女 (婆羅門の)家長期.
gṛhastha-dharma 男 家長の義務.
gṛhastha-veśa 男 [=°veśa]; 俗威儀 *Buddh-c. 63.*
gṛha-sthā 女 (婆羅門の)主婦.
gṛhasthāśrama (°tha-ās°) 男 (婆羅門生活の第二住期即ち)家長期.
gṛha-sthiti 女 家長期.
gṛha-sthūṇa 中 家の柱.
gṛhasthopaniṣad (°tha-up°) 女 家長の宗教的知識.
gṛhāgata (°ha-āg°) 形 家に入れる.
gṛhāṅgaṇa 中 家庭 *Mvyut.*
gṛhācāra (°ha-āc°) 男 家庭の慣習; (來客に對する)

家長の義務; 家事.
gṛhājira 甲 中庭.
gṛhāpaṇa (°ha-āp°) 男 市場.
gṛhārambha (°ha-ār°) 男 家を建築すること.
gṛhārtha 男 家庭の義務, 家事.
gṛhāvagrahaṇi 女 玄關; 闕.
gṛhāvagrahiṇi 女 [同上].
gṛhāvāsa (°ha-āv°) 男 居家, 住家, 在家者; 俗地; 俗縁 *Sam-r., Śikṣ., Mvyut.*
gṛhāśrama (°ha-ās°) 男 (婆羅門生活の第二住期即ち) 家長期.
gṛhāśramavat (°ha-ās°) 男 家長たる婆羅門.
gṛhāśramin (°ha-ās°) 男 [同上].
gṛhi 男 家長; 白衣 *Saddh-p.*
gṛhi-karmānta 男 白衣事業 *Śikṣ.*
gṛhiṇi 女 主婦, 妻.
gṛhin 形 家を所有する, 家に住する; 在家 *Śikṣ., Abh-vy.* 男 家長; 在家, 在家者, 在家者, 居家; 俗, 俗人, 俗流, 白衣 *Rāstr., Sam-r., Prāt-m., Śikṣ., Bodh-bh., Sūtr., Mvyut., 梵千.;* 主人 *Mvyut.:* ~ no hāsya-prekṣiṇaḥ 爲白衣笑 *Prāt-m. 53.*
gṛhi-pakṣa 男 在家分 *Bodh-bh.*
gṛhi-pravrajita 形 在家出家 *Bodh-bh.*
gṛhi-līṅga 甲 俗服, 俗務 *Madhy-v.*
gṛhi-vyañjana 甲 俗相, 世俗(諸)相好 *Bodh-bh.*
gṛhita (過受分) → *Grah.* 捉, 持, 受持, 所執, 執捉 *Divy., Gand-vy., Saddh-p.;* 所著, 所執魅, 所魅著 *Aṣṭ-pr.;* 信愛 *Bodh-bh.:* amanuṣyena ~ o bhaved āviṣṭaḥ 爲非人之所魅著 *Aṣṭ-pr. 767.* → ~ vākya.
gṛhita-garbhā 女 妊婦.
gṛhita-cāpa 形 弓を持てる, 弓を執れる.
gṛhita-cetas 形 心を奪はれたる.
gṛhita-dikka 形 逃れたる, 四散せる.
gṛhita-dhanus 形 = *gṛhita-cāpa.*
gṛhita-dhanvan 形 [同上].
gṛhita-nāmadheya 形 名を有する, 名づけられたる.
gṛhita-nāman 形 [同上].
gṛhita-pāścāt-tāpa 形 後悔する.
gṛhita-pāṇi 形 手を攫まれたる.
gṛhita-pātheya 形 旅行用の食料を整へたる.
gṛhita-prṣṭha 形 背後より捉へられたる.
gṛhita-mātra 形 今しも捉へられたる.
gṛhita-mauna 形 沈黙を誓へる.
gṛhitamauna-vāc 形 [同上].
gṛhitamauna-vrata 形 [同上].
gṛhita-vasati-varika 形 *vasati-vari* 水を取り上げたる.
gṛhita-vākya 形 所説無不信受 *Bodh-bh.*
gṛhita-vetana 形 賃金を受取れる, 支拂はれたる.
gṛhitavya (未受分) (因)より取り去らるべき, …より引き取らるべき, …より受け取らるべき; 把握・知覚又は理解せらるべき; 應當收 *Divy.*
gṛhita-sūla 形 槍にて武装せる (*Buddh-c.*).
gṛhita-sāra 形 力を奪はれたる.

gṛhitākṣara 形 (圖)の(正確なる)語を記憶せる(因).
gṛhitārtha 形 意義を理解せる.
gṛhitāvaguṇṭhana 形 覆はれたる.
gṛhiti 因 握ること, (手を)取ること; (租税の)徴收; 知覚; …を藉りて理解すること.
gṛhitin 形 (因)を把握せる.
gṛhitvā (不変分) → *Grah.*
gṛhi-BHū, 家又は住居となる.
gṛhu 男 (施物を受くる者), 乞食者.
gṛhe-jñānin 形 (家に於てのみ賢き), 経験に乏しき, 愚かなる.
gṛhe-ruha 形 家の中にて成長する(樹).
gṛhe-vāsin 形 家の中に住む.
gṛheśvara (°ha-iś°) 男 家長.
gṛheśvari (°ha-iś°) 女 主婦.
gṛhodyāna (°ha-ud°) 甲 家に附屬せる庭園.
gṛhopakarāṇa (°ha-up°) 甲 世帯道具, 家具.
gṛhya 1. (未受分) 擧まるべき; 知覚せらるべき; (一)に味方せる或は密接なる関係を有する.
gṛhya 2. 形 家に屬する, 家庭の. 男 家庭の火 [家庭祭火]; 家人, 家族. 甲 家庭の祭式; 家憲, 家事.
gṛhya 3. (不変分) → *Grah.*
gṛhya-karman 甲 家庭の祭式.
gṛhyavat 形 與黨又は味方を有する.
gṛhya-sūtra 甲 家庭祭式に関する *Sūtra.*
gṛhyā 女 家庭の祭式及びその規定.
Gṛ 1., IX. 他 自 **gṛṇāti, gṛṇite, gṛṇe** [又 因の意味をも有す]; VI. **girati(-te)** [sam と俱に]. 呼びかく, 呼ぶ; 稱讚す; 發聲す; 誦唱す; 宣言す; 敘述す.
anu- 稱讚に参加す; 答ふ; (因)に同意す; 繰返す, 再説す.
abhi- 承認す; 稱讚す; 懇ふ.
ā- 稱讚す.
praty-ā- 答ふ, 返答す.
pra- 稱讚す; 宣言す; (因)に告示す.
sam-pra- 命名す.
prati- 呼びかく, 禮拜す; (因)に唱和す; (因)に同意す.
sam- 同意す; (因)に約束す; (眞理として)認容す, 主張す
Gṛ 2., VI. 自 **girate**, 他 **gilati**; IX. 他 **gṛṇāti** [ni-, sam- と俱に] 呑む, 噉ふ; 吐く. (過受分) **girṇa.**
ud- 吐く; 放出す; 注ぐ; 發聲す; (因)を不意に言ふ. (過受分) **udgirṇa** 起れる, 生ぜる. (便役) **udgi-rayati** 發聲す, 響かしむ.
ni- 呑み下す, 噉ふ; 吸收す; 専有す.
sam- 噉ふ.
geṇḍuka 男 手毬; 枕.
geya (未受分) 歌はるべき; (因)を歌ふ. 甲 歌; 歌ふこと; (蜂等の)唸ること; [九分教又は十二部經の一] 應頌, 美音經 *Bodh-bh., Mvyut.;* (音寫) 祇夜 *Saddh-p., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*
geya-rājan 男 [轉輪王の名] 曲音王 *Mvyut.*

gela 男 𑖀𑖄𑖅𑖆 (𑖇𑖈) [數の名] 偈羅 *Mvyut.*
gelu 男 𑖀𑖄𑖅𑖆 (𑖇𑖈) [數の名] 歌盧, 偈羅 *Mvyut.*
geṣṇa 男 繼目, 關節; 歌手; [=udgītha] *Sāma-veda* の唱誦.
geha 甲 家, 住居; 家庭生活 (*Jāt-m.*); (兩) 家と身體; 𑖀𑖄𑖅 家, 宮, 宮殿 *Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Mvyut.*; 在家 *Śikṣ.*
geha-dāha 男 火災.
geha-pati 男 家の主人, 家長, 夫.
gehin 男 家長.
gehini 女 主婦, 妻.
gehiya 名動 他 **gehiyati** (業) を家と思ふ.
gehya 形 家中にある, 家庭の.
Gai, I. 他 (自) **gāyati(-te)**; II. 他 **gāti** 歌ふ, 唱ふ, (業) を讃へ歌ふ; (業) を詩に賦す; (爲) に向ひて歌ふ; (業) の前にて歌ふ; 𑖀𑖄𑖅 歌, 歌吹 *Divy., 梵千.* 𑖀𑖄𑖅 **giyate** 歌はる, 讃へ歌はる; 呼ばる. (過受分) **gita** 歌はれたる, 唱へられたる. (使役) **gāpāyati** 歌はしむ, 稱讃せしむ. (強意) **jegiyate** 聲高らかに歌ふ; 歌はる, 讃へ歌はる; 頑固に主張せらる.
anu- (業) に和して歌ふ; 讃へ歌ふ; 𑖀𑖄𑖅 讚, 説偈, 説頌 *Lāṅk.* (過受分) **anugita.**
abhi- (業) に向ひて歌ふ, ……に呼びかく; (業) を(歌を以て)魅惑す; 歌を以て満たす; 讃へ歌ふ. (過受分) **abhigita** 呼びかけられたる, 讃へ歌はれたる.
ava- (過受分) **avagita** 輕蔑的に歌はれたる; 屢・繰返されたる, 陳腐なる; 忌み嫌はれたる, 嫌はしき; 非難せられたる, 咎むべき, 悪しき.
ā- (業) に向ひて歌ふ; 呼びかく, 讃へ歌ふ; 歌ひて或は歌によりて獲得す; 低唱す.
ud- 歌ひ始む; 歌ふ, 聲高く歌ふ; 歌を以て満たす; 鳴らす, 唱ふ(特に祈禱の場合); 歌にて知らす或は祝福す; (業) を讃へ歌ふ; (業) に向ひて歌ふ. (過受分) **udgita** 歌はれたる; 告知せられたる, 祝福せられたる.
prod(pra-ud)- 歌ひ始む. (過受分) **prodgita** 歌ひ始められたる.
upa- (業, 爲, 因) に向ひて歌ふ; 唱和す; (業) の前にて歌ふ; 讃へ歌ふ, 歌ふ. 𑖀𑖄𑖅 **upagiyate** 歌はる, 讃へ歌はる; ……の前にて歌はる. (過受分) **upagita** 歌はれたる; [又た 𑖀𑖄𑖅 の意味をも有す] 歌ひ始めたる; 告知せられたる, 祝福せられたる.
ni- 歌に伴奏す; 歌ふ, 唱ふ, 宣言す. (過受分) **nigita** 歌はれたる, 宣言せられたる.
pra- 歌ひ或は讃へ始む; 讃へ歌ふ; 響く, 反響す. (過受分) **pragita** 唱誦せられたる; 歌の響ける; 歌へる, 歌ひ始めたる.
vi- 𑖀𑖄𑖅 **vigiyate** 誹謗せられたる. (過受分) **vigita** 調和せざる, 矛盾せる.
sam- 共に歌ふ, 合唱す; 𑖀𑖄𑖅 共諦義, 共誼計 [*Tib. yan-dag-par bgro-ba*] *Kāśy. 206.* 𑖀𑖄𑖅 **samgiyate** 合唱せらる, 合唱を以て稱讃せらる. (過受分) **samgita.**
airika 甲 赤堊(粉).

gairika-dhātu 男 [同上].
gairikā 女 [稀に] = *gairika*; 𑖀𑖄𑖅 紅土子 *Mvyut.*
gairikāṅka 形 赤堊の裝飾を有する.
gairikāṅga 形 [同上].
gailānya 甲 𑖀𑖄𑖅 [*gilāna (= glāna)* より]; 𑖀𑖄𑖅 病 *Kāśy. 170.*
go 男 牡牛; 牛乳 [一般に 𑖀𑖄𑖅]; 牡牛の皮, 皮革, 革紐; 水; 感官; [又た 女 (?)] 太陽光線の一 [= *susūmṇa*]; [人名]; 天空; (𑖀𑖄𑖅) 家畜, 牛の群; 天體, 星辰; 光線; 𑖀𑖄𑖅 牛, 牛王, 水牛 *Saddh-p., Lāṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Vajr-s., Mvyut.*; ~ *h padam* 牛跡 *Vajr-s. 224.* 女 牝牛; 天空; 大地; 語; 辯才の女神 (*Sarasvatī*); 𑖀𑖄𑖅 地 *Divy.*
go-agra 形 牛を主とせる, 主として牛より成れる.
go-ajana 形 牛を驅る(棒).
go-argha 形 牝牛に價する.
go-aṅgas 形 牛の豊富なる; 星又は光線に富める.
go-aśva 甲 𑖀𑖄𑖅, 男 𑖀𑖄𑖅 牛と馬. → *gavāśva.*
go-ṛjika 形 牛乳を用意せる或は混じたる.
go-kaṅṭaka 形 [*kharā bhūmi ~ ādhānāḥ*] (路が) 牛に踏み躪られて通行し難くなれる (*Divy. 19.*)
gokaṅṭakādhāna (°ka-ādh°) 形 𑖀𑖄𑖅 牛若行時脚跡 *Divy.*
go-karṇa 形 牛の如き耳を有する; 𑖀𑖄𑖅 耳如牛者, 耳如犢者 *Mvyut.* 男 牝牛の耳; 羚羊(の一種); 蛇; [拇指の端と無名指の端との距離]; [*Siva* 神を祀れる聖地の名]; *Gokarṇa* に祀られたる *Siva* 神; [王の名].
gokarṇa-śithila 形 (牛の耳の如く動き易き), 執れに與せんかと逡巡せる(證人).
go-karṇā 女 雌蛇.
gokarṇeśvara (°ṇa-iś°) 男 [*Gokarṇa* に建てられたる *Siva* 神の像の名].
go-karman 甲 牛の世話を爲すこと.
go-kāma 形 牛を希望せる.
go-kāmyā 男 牛を希望すること.
go-kula 甲 牛の群; 牛小屋; [或る殿堂の名]; [*Nanda* 及び *Kṛṣṇa* が青年時代を過せし村の名].
go-kulika 男 𑖀𑖄𑖅 [佛教部派の名].
go-kṣira 甲 牛乳.
go-kṣura 男 [植物の名, 學名 *Asteracantha longifolia* 又は *Tribulus lanuginosus*]; [或る *Dānava* の名]; 𑖀𑖄𑖅 莢藜 雜.
go-kṣurakā 男 = *go-kṣura* (植物の名); 𑖀𑖄𑖅 菱角 *Mvyut.*
go-kṣodaka 男 [鳥の一種].
go-gaṇa 男 𑖀𑖄𑖅 多くの光線.
go-gati 女 牝牛の通路.
go-garbhini 女 孕める牝牛.
go-graha 男 牛を捕獲すること, 獲物.
go-ghāta 男 屠牛者.
go-ghātaka 男 [同上]; 𑖀𑖄𑖅 屠師, 殺牛人, 解牛之師 *Śikṣ., Mvyut.*
go-ghna 形 牛を屠る. 男 屠牛者.
go-candana 甲 栴檀樹(の一種).
go-candanā 女 蛭(の一種).

go-cara 男 牧牛場, 行動の範圍, 領域; 住居; 達する範圍, 眼界, 視野, 能力の範圍; 感覺の對象; 地平線; (圖)にとりて親しき事柄; 鳥が餌を與へらるゝ場處 (*Jāt-m.*); 漢譯 境, 境界, 行境, 所行境, 所行之境; 行, 所行, 行處, 所行處, 所應行, 近處, 親近處; 緣; 塵 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sam-r., Rāṣṭr., Lan̄k., Sikṣ., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Madhy-v., Vijñ-v., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.:* kleśāvaraṇa-viśuddhi-jñāna ~ 煩惱障淨智所行 *Bodh-bh. 37.*; buddha ~ 佛境界, 諸佛境界 *Rāṣṭr. 4, 9.* → ācāra ~. 形 (圖, 一°)に在る或は住める, ……に關係せる, ……の及ぶ範圍内の, ……の達し得る, ……の支配下にある; 知覺し得る; (因)の意味に用ゐられたる.

gocara-gata 形 (圖)の到達し得る範圍内に來れる, ……の所有に歸せる, ……の支配下にある, ……と接觸せる.

gocara-grāma 男 漢譯 聚落 *Lal-v.*

gocara-pariśuddha 中 漢譯 [經の名] 境界清淨(經), 行境界清淨 *Mvyut.*

gocara-pariśuddhi-sūtra 中 漢譯 [經の名] 清淨經 *Sikṣ.*

gocara-viṣapa 形 漢譯 住界, 行於境界 *Gaṇḍ-vy.*

gocarāntara-gata 形 (圖)の支配下にある.

gocarika 形 漢譯 近 *Divy.*; 老 [大多毛者, 雜也], 下 [*Pāli. gocariya*] *Prāt-m.:* bhikṣu ~ 近苾芻 (諸知法式) *Divy. 307.*

gocari-Kṛ, ……の範圍内に齎す; ……を支配又は所有す. → *agocari-Kṛ.*

gocari-BHū, 到達し得, 見得るに至る. → *agocari-BHū.*

go-carman 中 牛の皮; [面積の單位の一種].

go-caryā 因 牛の(如く口にて食物を探す)動作. ~ m *Kṛ,* 牛の如くに(嫩葉等を)食ふ.

go-cārin 形 牛に倣ひ口にて食物を探す.

go-citi 因 [供養用の煉瓦を積み上げる特殊の方法].

go-ja 形 大地より或は地中に生ぜる.

go-jara 因 老いたる牡牛.

go-jā 形 牛乳より産せる.

go-jāta 形 星空に生れたる(諸神).

go-jihvikā 因 喉頭の懸壺垂; [植物の一種].

goji 因 [鋭き葉を有する植物の一種].

go-jiva 形 牛(の商賣)にて生活する.

goṇa 男 牡牛; 囊; 漢譯 牛 *Saddh-p., Mvyut.*

goṇa-joda 形 漢譯 類如牛, 顔如牛 *Mvyut.*

goṇa-danta 漢譯 齒如牛 *Mvyut.*

goṇa-nāsa 形 漢譯 鼻如牛 *Mvyut.*

goṇa-mukha 形 漢譯 牛頭 *Saddh-p.*

goṇa-vara 男 漢譯 大牛 *Saddh-p.*

goṇasika 中 漢譯 金線繩 *Mvyut.*

goṇāśman 男 (寶)石(の一種).

goṇikā 因 [毛布の一種]; 漢譯 細氈, 白氈 *Aṣṭ-pr.*

goṇi 因 牝牛; 囊; 漢譯 袋, 要緊 *Mvyut.*

goṇḍa 男 [或は(賤)民族の名].

gotama 男 [聖仙の名(因)その後裔]; 最大の牡牛; [*Nyāya* 學派の祖師の名]; 漢譯 [= *gautama*] 種, 種

種, 泥種 立應.; (音寫) 瞿曇, 具譚, 喬答摩 立應.

gotami 因 [人名]; 漢譯 [= *gautami*] 明女 立應.; (音寫) 瞿夷, 憍曇彌, 喬答彌 立應.

gotaraṇi 男 漢譯 (音寫) [花の名] 瓜多羅尼 *Mvyut.*

go-tarpaṇa 中 牝牛を樂しましむる設備.

gotra 中 牛小屋; 家即ち種族又は家族; 姓, 氏; 名, 氏の名, 個人名; 姓を有する人; (因)孫及びその後裔 [但し孫より前の世代が既に亡き場合]; 父系語を作る接尾音(因); 漢譯 種, 種族; 姓, 種姓, 族姓; 性, 種性, 自性; 類, 種類, 品類 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Lan̄k., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.:* tathāgata ~ 如來性 *Gaṇḍ-vy. 319.*; pañca ~ āḥ 五種姓 [1. śrāvaka-yānābhisamaya ~ ḥ 聲聞乘現觀種姓, 2. pratyekabuddha-yānābhisamaya ~ ḥ 獨覺乘現觀種姓, 3. tathāgata-yānābhisamaya ~ ḥ 如來乘現觀種姓, 4. aniyata ~ ḥ 不定種姓, 5. agotrakaḥ 無種, 無姓; *Mvyut.;* pañcābhisamaya ~ āṇi 五種種性 [1. śrāvaka-yānābhisamaya ~ m 聲聞乘種性, 2. pratyekabuddha-yānābhisamaya ~ m 緣覺乘種性, 3. tathāgata-yānābhisamaya ~ m 如來乘種性, 4. aniyataikatara ~ m 不定種性, 5. a ~ m 無種性] *Lan̄k. 63.* 男 山.

gotraka 中 種族; 姓; 漢譯 種性 *Lan̄k.*

gotra-karṭṛ 男 家族の始祖.

gotra-kārin 形 一家を創始する.

gotra-grahaṇa 中 漢譯 侍姓, 稱讚族氏 *Aṣṭ-pr.*

gotra-ja 形 同一種族又は氏族中に生まれたる, 親戚なる; 名門の, 良き血統の. 男 血縁.

gotra-nāman 中 姓.

gotra-paṭa 男 系譜, 系圖.

gotra-pravara 男 一族の長; 始祖.

gotrapravara-dipa 男 [書名].

gotrapravara-nirṇaya 男 [書名].

gotrapravara-mañjari 因 [書名].

gotra-bhāj 形 家族に屬する.

gotra-bhid 形 牛小屋を開く; 家族を破壊する, 名を破壊する. 男 [*Indra* 神の稱(「牛群を解放する者」牛群とは即ち雨雲にして *Indra* 神は *Vṛtta* の城砦より之を解放して雨を齎す)].

gotra-bhūmi 因 漢譯 種地, 性地, 種性地, 種性地 *Bodh-bh., Mvyut.*

gotra-bheda 男 漢譯 性別 *Sūtr.*

gotramaya 形 一族を爲す.

gotra-rakṣatā 因 漢譯 族護 *Mvyut.*

gotra-riktha 中 兩 姓と遺産.

gotrarikthāṃśa-bhāgin 形 姓を名乗りて遺産の分前(?)を受くる.

gotravat 形 名門に生まれたる, 良き種族の出身なる.

gotra-vardhana 男 [王の名].

gotra-vrata 中 一家の掟, 家憲.

gotra-samudāgama 男 漢譯 性習起, 種性修證 *Madhy-vibh.*

gotra-sampad 因 漢譯 種姓具足, 種性具足 *Bodh-bh.*

gotra-sampanna 形 漢譯 族類圓滿, 種姓真正 *Lal-v.*

gotra-skhalana ㊦ 名を誤ること。
 gotra-skhalita ㊦ [同上].
 gotra-stha ㊦ 住種姓, 住種性, 自性中住 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*
 gotra-sthiti ㊦ = gotra-vrata; 山の如き安定.
 gotrākhyā (°ra-ākḥ) ㊦ 父系語.
 gotrāgotra ㊦ 性非性, 種性非種 *Lank.*
 gotrānta 1. ㊦ 一族又は山を破壊すること.
 gotrānta 2. ㊦ 父系語の接尾音を有する(㊦). ㊦ 父系語.
 gotrāntara-gata ㊦ (㊦)の支配下にある.
 gotrin ㊦ = gotra-ja.
 gotva ㊦ 牛たること, 牛の本質.
 go-da ㊦ 牛又は家畜を與ふる.
 go-dattra ㊦ 家畜を與ふる (*Indra* 神).
 go-danta ㊦ 牛の齒.
 godanta-maṇi ㊦ 寶石(の一種).
 go-dama ㊦ 天と地とを征服する.
 go-dā ㊦ = go-da. ㊦ [河の名 = *Godāvari*].
 go-dāna 1. ㊦ 牛の施與.
 godāna 2. ㊦ 頰髯; [同下].
 godāna-maṅgala ㊦ 頰髯(を蓄へ始むる)儀式(の一種).
 godāna-vidhi ㊦ [同上].
 go-dāniya ㊦ [或る *Dvīpa* の名] (*Lal-v.*); ㊦ 牛取與立應; [*Godāniya* 洲の住人] 牛貨人 *Abh-vy.*; ㊦ 瞿陀尼, 俱耶尼, 瞿耶尼, 瞿伽尼, 瞿陀尼(人) *Abh-vy.*, 立應.
 godā-vari ㊦ (牛を授與する者), [*Deccan* 地方にある河の名, 現今の *Godawary* 河].
 go-duh ㊦ [㊦ -*dhuk*] 牛乳を搾る者, 牧牛者.
 go-doha ㊦ 牛乳を搾ること; ㊦ 犛(?)牛, 搗牛乳 *Bodh-bh.*
 go-dohaka ㊦ 牛乳を搾る. ㊦ 牛乳を搾る者.
 go-dohana ㊦ = go-doha; 牛乳を搾るべき時.
 godoha-mātram ㊦ 搗牛乳頃 *Bodh-bh.*
 go-dha ㊦ [民族の名].
 go-dhana ㊦ 牛を所有すること, 財産としての牛; 牛の群; 牛の置場. ㊦ [人名].
 godhana-giri ㊦ [山の名].
 go-dharma ㊦ (畜類の法則), 人目を憚らず性交すること, 放縱なる肉欲.
 go-dhā ㊦ 弓の弦; 琵琶の弦; (弓術用の)鞞(㊦); 大蜥蜴(の一種, 鱉).
 go-dhāyas ㊦ 牝牛を飼養する.
 go-dhāra ㊦ 蜥蜴(の一種).
 go-dhikā ㊦ [同上].
 go-dhūma ㊦ (大地の發散物). 小麥 [一般に ㊦]; ㊦ 麥, 小麥, 麥子; 小豆; 穀 *Divy.*, *Lank.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Siks.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵雜.
 go-dhūmaka ㊦ [蛇の一種].
 go-nanda ㊦ [*Skanda* の從者の名]; [或る *Muni* の名].
 go-narda ㊦ 牡牛の如く吼ゆる (*Siva* 神). ㊦ [*Siva* 神の稱]; [王の名]; [人名]; ㊦ [民族の名].
 go-nasā ㊦ 牛の鼻.
 go-nāman ㊦ 牛に附する名前.

go-nāya ㊦ 牧牛者.
 go-nāsā ㊦ = go-nasā.
 go-pa ㊦ 牧牛者(混血種姓), 牧人, 搾乳者; 守衛, 番人, 看守; [*Kṛṣṇa* 神の稱]; [或る *Gandharva* の名]; [植物の或る類の名].
 gopaka ㊦ 牧牛者; ㊦ 收, 藏人 *Mvyut.*
 gopa-kanyakā ㊦ 女牧牛者.
 gopa-kanyā ㊦ [同上].
 go-pakṣmatā ㊦ ㊦ [三十二相の一] 睫如牛王, 眼如牛王, 牛王眼相, 眼上下瞬相, 睫如牛王相 *Bodh-bh.*
 go-pakṣman ㊦ ㊦ [三十二相の一] 睫如牛王, 眼如牛王, 眼睫如牛王, 眼上下瞬如牛王 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 gopakṣma-netra ㊦ ㊦ [三十二相の一] 睫如牛王 *Lal-v.*
 gopakṣma-netratā ㊦ 牛の如き眼瞼を有すること; ㊦ [三十二相の一] 眼睫齊整如牛王眼睫相 *Dharm-s.*
 go-patā ㊦ 牧牛者の地位.
 go-pati ㊦ 牛群の主. 指導者, 支配者; 牡牛; 太陽, 月(太陰); [*Kṛṣṇa* 神・*Viṣṇu* 神・*Varuṇa* 神又は *Siva* 神の稱]; [或る *Gandharva* の名]; [或る妖魔の名]; [*Sibi* の子の名].
 gopati-dhvaja ㊦ [*Siva* 神の稱].
 go-patha ㊦ 牛の(通ふ)路, 牧牛場; [同下].
 gopatha-brāhmaṇa ㊦ [*Atharva-veda* に屬する一の *Brāhmaṇa* 書の題名].
 gopana ㊦ [㊦] 保護, 防護, 保存; 隱匿; 祕密にすること; ㊦ 守護, 藏 *Siks.*, *Mvyut.*
 gopanā ㊦ [㊦] 保護.
 gopaniya ㊦ [㊦] 保護せらるべき, 守らるべき, 防禦せらるべき, 阻止せらるべき; (㊦)より祕密にせらるべき.
 gopaya ㊦ ㊦ ㊦ *gopayati(-te)* 保護す, 守護す, 保存す; 隱匿す, 祕密にす; ㊦ 莫示 *Siks.* ㊦ 過受分
 gopita ㊦ 保護せられたる, 保存せられたる; 匿されたる, 祕められたる.
 pra- 保護す; 隱匿す.
 sam- 覆ふ, 隱匿す.
 gopayatya ㊦ 保護せらるべき.
 gopayitavya ㊦ ㊦ 隱匿せらるべき.
 go-pariṇas ㊦ 牛又は牛乳を豊富に備へたる.
 gopalaka ㊦ ㊦ [經の名] 牧牛立應; ㊦ 瞿波洛迦立應.
 gopa-vadhū ㊦ 牧牛者の妻, 牧牛女.
 gopa-vadhūti ㊦ [同上].
 go-pavana ㊦ [*Atai* 族の聖仙の名].
 gopa-veṣa ㊦ 牧牛者の服裝をなせる.
 go-pā ㊦ 牧畜者; 見張人, 保護者. ㊦ 女番人; ㊦ [*Siddhārtha* 太子の妃等の名] 明女 *Mvyut.*; ㊦ 俱夷, 瞿波 *Lal-v.*, *Gand-vy.*, *Mvyut.*; 耶輸陀羅 [*Yaśodharā*] *Lal-v.*: ~yāḥ śākya-kanyāyāḥ 釋女瞿波, 釋氏女, 釋迦女 *Gand-vy.* 389.
 gopāgrahāra ㊦ ㊦ [諸 *Agrahāra* (婆羅門に下附せられたる土地)の名].
 gopācala ㊦ [山の名].

gopāditya (°pa-ād°) 男 [Kāsmira の王侯の名].
gopādri 男 [山の名].
gopādhipa 男 牧牛者の首長; 牧牛長 *Buddh-c.*
gopādhyakṣa 男 [同上].
gopānasi 女 木又は竹の屋根の骨組材, 二重の屋根;
 梁 (*Av-s.*); 梁棟, 重簷 *Saddh-p., Mvyut.*
gopānasi-vakra 形 梁の如くに曲れる (*Av-s.*); 連骸,
 皮骨相連 (?) *Lal-v. 188.*
gopāya 1. (名動) 他 自 **gopāyati(-te)** 保護す, 見張
 る, 保つ; 隠す; 瞻視, 看視瞻護 *Lal-v.*
gopāya 2. 形 (一°) を保護する.
gopāyaka 形 保護者.
gopāyana 形 保護する. 甲 保護, 防護.
gopāyita (過受分) 保たれたる, 保護せられたる; 覆護
Aṣṭ-pr.
gopāyitavya (未受分) = *gopaniya.*
gopāyitr 男 保護者.
go-pāla 男 牧牛者; (大地の保護者) 國王; [*Kṛṣṇa* 神
 の稱]; [王侯の名]; 牧人, 放牛人 *Lal-v., Mvyut.*
go-pālaka 男 牧牛者; [*Kṛṣṇa* 神の稱]; [王侯の名];
 牧牛人, 守牛人, 放牛者; 放牧人, 放牧童豎
Lal-v., Aṣṭ-pr., Śikṣ.
gopāla-kakṣa 男 [國の名]; 國 [Gopālakakṣa 國の
 住民].
gopāla-keśava 男 *Kṛṣṇa* 神(の形像の名).
gopāla-dāraka 男 牧童.
gopāla-pura 甲 [町の名].
gopāla-maṭha 男 [或る學林の名].
gopāla-varman 男 [Kāsmira の王の名].
go-pālikā 女 牧牛者の妻.
go-pāli 女 [龍の名] 牛 *Divy.*
go-piṭaka 甲 [圓き籠の一種]; 牛篋 *Divy.*
gopita (過受分) → *gopaya.*
gopitr 男 保護者, 擁護者 (*Jāt-m.*).
go-pitta 甲 牛の膽汁 [之より黄色顔料を採ると云は
 る].
go-pī 女 牧牛者の妻, 女牧牛者, 搾乳婦, 看守(女).
go-pītha 1. 男 牛乳を飲むこと.
go-pītha 2. 男 保護.
go-puccha 男 牛の尾; 猿(の一種).
go-pucchaka 形 牛の尾の如き尾を有する.
go-putra 男 犢.
go-pura 甲 都城の門; 門.
go-puro-gava 形 牝牛を首長とせる.
gopendra (°pa-in°) 男 牧牛者の首長; [*Kṛṣṇa* 神の
 稱].
gopeśa (°pa-iśa) 男 [同上].
go-poṣa 男 牛群の増加.
goptavya (未受分) 守護又は保護せらるべき.
goptr 男 保護者; 隱蔽者; [佛陀の稱] 護持,
 能護者, 擁護 *Mvyut.*
goptri 女 [同上].
gopya (未受分) 守護せらるべき, 保護せらるべき; 貯
 へらるべき; 隠さるべき.
go-pracāra 男 牛の牧場.
go-pratāra 男 [(牛津), *Sarayū* に於ける聖地の名].

go-pradāna 甲 牛の贈與.
go-pradānika 形 牛の贈與に関する.
go-praveśa-samaya 男 牛の歸る時刻, 夕暮.
go-prasava 男 犢.
go-bandhu 形 牛を親戚とせる (*Marut* 神).
go-balivarda-nyāya 男 牛と牝牛 (= 牝に牝牛) の理
 [即ち容認せらるべき重複].
go-bija-kāñcana 甲 國 家畜・穀物及び黄金より成る
 富.
go-brāhmaṇa 甲 國 牛及び婆羅門, 牛又は婆羅門.
go-bhāj 形 牛の便利の爲に用ゐられたる.
gobhila 男 [或る *Sūtra* の作者の名].
go-bhuj 男 王侯, 國王.
go-bhṛt 男 [同上].
gomat 形 牛を有する, 牛に富む, 牛より成れる; 乳
 多き. 甲 家畜の財産.
go-mātallikā 女 美事なる牝牛.
gomati 女 牛多き場處; [諸河の名, 特に *Indus* 河の
 支流の名].
go-manta 男 [山の名]; 國 [民族の名].
gomaya 形 牛より成れる; 牛糞に満ちたる. (男)
 甲 牛糞 [廣く]; 牛糞, 牛屎; 獸糞; 香泥
Divy., Lal-v., Suv-pr., Mañj-m.r Lanḥ., Bodh-bh.;
 瞿摩 *Suv-pr.*
gomaya-kārṣi 女 乾ける牛糞の一片; 牛糞
Divy.
gomaya-cūrṇa 甲 牛糞屑 *Śikṣ.*
gomaya-pāyasiya-nyāyavat 副 牛糞と乳食との
 理 [即ち起原を同じくするも相違の甚しきこと] に従
 ひて.
gomayāya (名動) 自 **gomayāyate** 牛糞の如き味あ
 り, 牛糞に類す.
go-mahiṣa-dā 女 [*Skanda* 神に従屬せる母神の一].
go-mātr 形 牛を母とせる (*Marut* 神).
go-māyu 形 牝牛の如く咆哮する. 男 蛙(の一種);
 豺; [或る豺の名].
go-mīthuna 甲 (國又は國) 牝牛と牝牛.
gomin 男 家畜の所有者.
go-mukha 男 [樂器の一種]; [諸人の名].
go-mūtra 甲 牛の尿.
go-mūtraka 形 牛の尿の流れに似たる即ちジグザグ
 の.
go-mūtrikā 女 ジグザグ形; [ジグザグに詠ぜらる
 べき技巧的詩の一種].
gomūtrikā-pracāra 男 ジグザグの運動.
go-mṛga 男 水牛(の一種).
go-mṛga-kāka-caryā 女 (歩める) 牝牛・(立てる) 鹿・
 及び(止まれる) 鵝の右様.
go-medā 男 [*Himālaya* 山及び *Indus* 河より齎らせ
 る寶石の名].
go-medha 男 牛の供儀; 牛祭.
go-yajña 男 [同上].
go-yāna 甲 牝牛又は牝牛にて曳かるゝ車; 車.
go-yukta 形 牝牛又は牝牛を軛せる或はに曳かれたる.
go-yuga 甲 一對の牝牛, 一對の動物.
go-yuta 形 家畜のよく通る. 甲 = *gavyūti.*

go-rakṣaka 形 家畜を世話する, 家畜を飼育する. 男 牧人.
go-rakṣā 女 家畜の世話又は飼育; 牧人生活.
go-rakṣya 中 [同上].
go-rajās 中 牛毛上の塵粒 (*Lal-v.*); 漢語 牛塵, 牛毛, 牛毛塵, 牛上塵 *Divy., Mvyut.*
go-ratha 男 [(牛車), 山の名]; 漢語 牛車 *Abh-vy.*
go-rathaka 男 牛に曳かれたる車; 漢語 牛車 *Saddh-p.*
go-rambha 男 [人名].
go-rasa 男 牛乳; 漢語 牛乳, 酪 *Divy.*
go-ruta 中 = *go-yuta.*
go-rūpa 形 牛の形を有する.
go-rocana 中 漢語 牛有黄 *Sikṣ.*
go-rocanā 女 牝牛の膽石; 漢語 牛黄 *Suv-pr., Mañj-m., Mvyut.*; 音寫 瞿盧折娜 *Suv-pr.*
go-roman 中 牝牛の毛.
gola 男 球; 半球; 寡婦の私生兒; 漢語 大瓶 *Mvyut.*
golaka 男 [同上].
gola-kriḍā 女 球戲.
go-lattikā 女 [動物の一種].
go-labha 男 [或る *Gandharva* の名].
go-lāṅgula 男 猿(の一種).
golāṅgula-parivartana 男 漢語 [山の名] (牛)尾盤山 *Lal-v.*
go-lāṅgūla 男 猿(の一種).
go-loka 男 牝牛の世界. [後世の説明に據れば *Kṛṣṇa* 神の天].
go-lomaka 中 漢語 牛毛 *Mvyut.*: *na ~ m keśāś chedayet* 髪不剪, 髪未削, 未削髪, 不應作牛毛剪髮 *Mvyut.*
go-loman 中 牝牛の毛.
go-vatsa 男 犢.
go-vatsaka 男 [鳥の一種].
govatsa-dvādaśi-vrata 中 [祭式の一種].
go-vadha 男 屠牛.
go-vapus 形 牛の如き形の.
go-vardhana 男 [*Indra* 神に脅かされし牝牛を庇護せんがため *Kṛṣṇa* 神が七日間支へ上げたりと傳ふる *Mathurā* 附近の山の名]; [或る著者の名]; [*Kṛṣṇa* 神の稱].
go-vāṭa 男 牛の檻.
go-vāla 男 牝牛の毛. 形 (女 -i) 牛の毛を有する.
go-vāsa 男 牛の欄, 牛小屋.
go-vikarta 男 屠牛者.
go-vikartṭr 男 [同上].
go-vid 形 家畜を得る.
go-vinda 男 [*Kṛṣṇa* 神又は *Viṣṇu* 神の稱]; [第四曆月の稱]; [諸人の名]; [山の名].
govinda-kūṭa 男 [山の名].
govinda-datta 男 [或る婆羅門の名].
govinda-rāja 男 [*Manu* 法典の註釋者の名].
govinda-svāmin 男 [或る婆羅門の名].
go-vindu 形 牛乳を探す.
go-viṣāṇa 中 牛の角; 漢語 牛角, 牛二角 *Lank.*
go-viṣāṇika 男 [樂器の一種, 喇叭].

go-visarga 男 (牛を放つ時), 晨朝.
go-vṛṣa 男 牝牛.
go-vṛṣaṇa 男 牛の陰囊.
go-vṛṣabha 男 牝牛.
go-veṣa 形 牝牛の姿をなせる.
go-vyaccha 男 牝牛を苦しむる.
go-vraja 男 牛の欄; [*Skanda* 神の従者の名].
go-śakṛt 中 牛糞.
go-śatin 形 百頭の牝牛を所有する.
go-śapha 男 牛の蹄.
go-śarya 男 [人名].
go-śālā 女 牛舎; 漢語 牛圈 *Mvyut.*
go-śirṣa 男 [或る *Nāga* の名] (*Kār-vy.*). 中 白檀(の一種); 漢語 牛頭 *Gand-vy.*
go-śirṣaka 中 [同上(中)].
gośirṣa-candana 中 [同上] (*Kār-vy.*); 漢語 (音寫) 牛頭梅檀 *Divy., Av-ś.*
go-śṛṅga 中 牛の角; 漢語 牛角, 牛有角 *Lank.* 男 [山の名].
gośṛṅga-parvata-svayambhū - caitya-bhaṭṭār-akoddeśa (°ka-ud°) 男 [佛典の名].
gośṛṅga-vartin 男 漢語 [外道師の名] 牛角行者 *Mvyut.*
go-śrita 形 牛乳を混じたる (*Soma*).
go-śruti 男 [人名].
go'sva 中 牛と馬.
go-śakhi 男 牛の所有者.
go-ṣaṇi 形 牛を得る.
go-ṣad 形 牛の間に坐する.
go-ṣā 形 = *go-ṣaṇi.*
go-ṣādi 女 [鳥の一種].
goṣu-yudh 形 牛又は賭の爲に戦ふ.
go-ṣṭha 男 牛舎, 牛の欄, 畜舎; 集會處; 漢語 養牛之處 *Lal-v.* 中 *Śrāddha* (の一種).
go-ṣṭhika 男 [gauṣṭhika の 形] → *gauṣṭhika.*; 漢語 長者 *Av-ś.* 形 集團又は社會に關係ある.
goṣṭhika-karman 中 仲間に入る爲の商議.
goṣṭhika-śrāddha 中 *Śrāddha* (の一種).
go-ṣṭhi 女 集會, 朋輩, 仲間; 對話; 漢語 喜相合聚 *Mvyut.*
-go-ṣṭhika 形 [同上].
goṣṭhi-bandna 男 社交上の集合.
goṣṭhi-yāna 中 社交用の車.
goṣṭhe-śaya 形 牛舎にて眠れる.
go-ṣṭhya 形 牛舎中にある.
goṣ-pada 中 牛の足跡; 小さき水溜; (音寫) = 瑣事; 漢語 牛跡 *Divy., Lal-v., Ast-pr., Sikṣ.*
go-sakhi 形 牛乳を混ぜる (*Soma*).
go-saṁkhya 男 (牛を數ふる者), 牧牛者.
go-saṁkhyāṭṛ 男 [同上].
go-sattra 中 [特殊の供儀の一種].
go-sava 男 [*Ekāha* 祭の名].
go-sahasra 形 千頭の牝牛を有する.
go-sahasrin 形 [同上].
go-sāraka 男 漢語 梁 *Mvyut.*
go-stana 男 牝牛の乳房; 四條の緒を有する異珠の

頸飾.

go-svāmin 男 牛の所有者; 宗教上の乞食者.**goḥa** 男 隠れ場處, 獸の巢穴.**go-hatyā** 女 屠牛者.**go-han** 形 牛を殺す.**go-hanṭṛ** 男 屠牛者.**go-hara** 男 牛を盗むこと; [Dānava の稱].**go-harāna** 甲 牛を盗むこと; [Mahābhārata の章の名].**go-hiraṇya** 甲 家畜と黄金.**gauḍa** 形 砂糖にて製せられたる; Gauḍa 國に關する. 男 甲 [(砂糖の國), 中央 Bengal の國の名]. 男

Gauḍa 國の王; 複 Gauḍa 國の住民. 甲 菓子.

gauḍaka 男 複 [同上(男 複)].**gauḍa-deśa** 男 Gauḍa 國.**gauḍika** 形 砂糖にて製せられたる. 甲 =gauḍi.**gauḍī** 女 (砂糖より蒸溜せる)ラム酒; [riti と俱に] (詩の)Gauḍa 體.**gauḍiya** 形 Gauḍa 民族に關する.**gauṇa** 形 (女 -i) 德(guṇa)に關する; 從屬的の, 二次的の; 譬喩的の; 副, 附屬; 隨德; 安置; 平常 Bodh-bh., Mvyut.**gauṇatva** 甲 從屬的なること, 第二次的なること.**gauṇika** 形 (女 -i) 根本的性質(guṇa)に關する.**gauṇya** 男 美德. 甲 =gauṇatva; 美德たること.**gautama** 形 (女 -i) Gotama に關する. 男 [Gotama の(父系)]; [諸人の名]; 釋尊等の稱 種, 牛糞種, 泥土種, 埴土種; 純淑 Mvyut., 立應.; 瞿曇, 嬌坦麼, 喬答摩, 瞿答摩(種) Buddh-c., Vijñ-v., Abh-vy., Vajr-s., Mvyut., 立應.**gautamaka** 男 龍王の名] 嬌曇摩 Divy.**gautama-vana** 甲 [地方の名].**gautamāraṇya** 甲 [森林の名].**gautami-nandana** 男 [Āsvatthāman の(母系)].**gautami** 女 [諸婦人の名]; [河の名]; 明女 立應.; 瞿曇彌, 嬌曇彌, 喬答彌, 瞿夷 Buddh-c., Saddh-p., 立應.**gautami-suta** 男 =gautami-nandana.**gautika** 男 人名] 喬底迦, 瞿提柯 Abh-vy.**gautrika** 形 性果 Abh-vy.**gaudānika** 形 [go-dāna 2. より] Godāna 儀式に關する.**gaudāniyaka** 形 洲の名] 西瞿耶尼 Abh-vy.**gaudhūma** 形 (女 -i) 糞にて作れる.**gaupa** 男 [Gopa の(父系)].**gaupatya** 甲 [go-pati より] 牛を所有すること.**gaupavana** 男 [Gopavana の(父系)].**gaura** 形 (女 -i) 白色・黄色又は赤色を帯びたる; 輝ける, 美しき; 白, 鮮白 Rāṣṭr., Mañj-m. 男 水牛(の一種); 白芥子 [その一粒は重量の單位]; 月(太陰); 月 Mañj-m.**gaurakṣya** 甲 [go-rakṣā より]; 放牧 Bodh-bh.**gaura-khara** 男 野生の驢馬; 野騾, 乘騾馬 Mvyut.**gaura-griva** 男 民族の名].**gaura-tirtha** 甲 [聖地の名].**gauratva** 甲 白きこと.**gaura-prṣṭha** 男 [王侯の名].**gaura-mukha** 男 [人名].**gaura-mṛga** 男 水牛(の一種).**gaura-lalāma** 形 額(?)に白斑を有する.**gaurava** 形 [guru より] 師に關する. 甲 重さ, 重量; 音律上の長音節; 重要性, 價值; 威嚴; (因)に對する尊敬, 畏敬, 名譽; 困難; 重, 崇重, 愛重, 尊重, 敬重, 尊重心; 敬, 恭敬, 尊敬, 禮敬, 敬事, 歸敬, 畏敬, 具敬, 敬信, 深心敬養; 遵; 謹; 慎; 孝; 珍貴; 歸仰 Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sam-r., Suv-pr, Mañj-m., Bodh-c., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-t., Madhy-vibh., Mvyut., 梵干.**gaurava-jāta** 形 畏敬せる (Lal-v.). 生尊重 Rāṣṭr.**gauravatā** 女 敬, 恭敬, 尊重, 敬重心 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy.**gaurava-samjāta** 形 =gaurava-jāta; 心生尊重 Gaṇḍ-vy.**gaura-śāli** 男 [米の一種].**gaura-śiras** 男 [或る Muni の名].**gaura-sarṣapa** 男 白芥子; [重量單位として用ゐらるゝ白芥子の一粒].**gaurāśva** 男 [王の名].**gaurika** 男 白芥子.**gauri-vita** 形 Gauri-viti 聖仙の.**gauri-viti** 男 [聖仙の名].**gaurī** 女 Gaura (水牛)の牝; 月經前(八歳)の少女; [Śiva 神の妻の名]; [人名].**gauri-guru** 男 (Gaurī 又は Pārvatī の父), Himālaya 山.**gauri-caturthi** 女 [Māgha 月の明るき半月の第四日].**gauri-nātha** 男 [Śiva 神の稱].**gauri-pati** 男 [同上].**gauri-pūjā** 女 Gaurī の崇拜; [Māgha 月に於ける或る祭の名].**gauri-bharṭṛ** 男 [Śiva 神の稱].**gauri-muṇḍa** 男 [Vidyādhara の王の名].**gauri-vita** 形 =gauri-vita.**gauri-viti** 男 =gauri-viti.**gauri-vrata** 甲 [(Gaurī の誓願), 或る祭式の名].**gaurīśa** (rī-īśa) 男 [Śiva 神の稱].**gaulgulava** 形 樹膠にて作れる.**gaulmika** 男 兵卒; 巡欄(?) Mvyut.**gauṣūkta** 男 [或る Sāman の名].**gauṣṭhika** 形 集合に關する.**gauṣṭhina** 甲 牛舎の跡.**gauhyaka** 形 Guhyaka に關する.**gnā** 女 女神.**gnāvat** 形 女神に伴はれたる.**gnās-pati** 男 女神の夫.**gnās-patni** 女 神の妻.**gmat**, [因 Gam の(因) (分)].**gman**, [因 Gam の(因) (分)].

gmā ㊦ 大地 [㊦, ㊦ gmas のみ].

Grath, Granth, Ⅸ. ㊦ **grathnāti** 結ぶ, 結合す; 構成す; 整理す; ㊦ 作, 集 *Buddh-c., Saddh-p.:* sūtrāṇi granthitvā (不変分) 作(此)經典 *Saddh-p. 272.* ㊦ **grathita** 結ばれたる, 縛られたる, 結合せられたる; 花環に編まれたる, 織られたる; 縋ぎ合はされたる; (一)にて飾られたる; 纏れたる (劇の筋); 節を有する. ㊦ **granthayati(-te)** 繋ぐ.

ud- 縛す; 弛む, 解く.

vi- 結び合はす.

sam- [同上].

grathana ㊦ 縛ること, 結合; 錯雜.

grathanā ㊦ 結ぶこと, 結合すること.

grathaniya (未受分) 縋ぎ合はさるべき, 結合せらるべき.

grathita (過受分) → **Grath.** ㊦ 堅き硬又は節ある瘤腫.

grathna ㊦ 房(?), 束.

grathin ㊦ (節多き), 理解し難き, 偽の.

Granth, → **Grath.**

grantha ㊦ 節(?); 作文; (三十二音節の)詩; 論文, 書物; 字句, 措辭; 章; ㊦ 結, 栓結, 成結, 繫, 結縛; 染, 成結染; 論; 教; 文, 文詞, 文辭, 本文, 言詞; 名; 本, 本書; 經典; 章句; 品類; 大全分 *Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut., 梵千;* ㊦ 伽蘭他 *Abh-vy.*

grantha-kāra ㊦ 書物の著者.

grantha-kuṭi ㊦ 圖書館.

grantha-kūṭi ㊦ [同上].

grantha-kṛt ㊦ = **grantha-kāra.**

grathana ㊦ 結合又は結縛すること.

grantha-vistara ㊦ 浩瀚なる書物.

granthi ㊦ 節(?); (金等を入るゝための衣服の)結び目; 關節; 困難, 疑惑; ㊦ 結, 縛, 纏縛; 栓; 綱; 結繩; 蟠結 *Lal-v., Lank., Abh-vy., Mvyut.;* ㊦ 屹嶮 *Mvyut.:* baddhvā... ~m 繫著 *Saddh-p. 212.*

granthika ㊦ 物語する人, 吟誦者; 占星家.

granthi-cchedaka ㊦ 掏摸(?).

granthita (過受分) = **grathita;** ㊦ 挽結 *Mvyut.*

granthin ㊦ 本を読む, 讀書家の.

granthi-parṇa ㊦ [香料の一種].

granthi-parṇaka ㊦ (?) [芳香ある植物の一種].

granthi-bheda ㊦ 掏摸(?).

granthimat ㊦ 結ばれたる, 編まれたる, 織り込まれたる.

granthi-mocaka ㊦ ㊦ 雜; 亂; 散; 解栓, 解結, 解縛; 打開; (㊦) 解屹嶮 *Mvyut.*

granthila ㊦ 節(?)多き, 節ある.

granthi-samana ㊦ (結び目を以て衣服を仕上ぐる こと即ち)財布代りの結び目.

grapsa, = **grathna.**

Grabh, Ⅸ. ㊦ **gr̥bhñāti,** ㊦ **gr̥bhñite** [**Grah** の ㊦]. → **Grah.** (過受分) **gr̥bhita** 果實多き(樹). **anu-** 親切に受け容る.

ud- 引き出す.

pari- 締る.

prati- 受く; 攫む.

grabha ㊦ 占有すること, ……の所有.

grabhitṛ ㊦ 占有者, 取る人.

Gras, I. ㊦ ㊦ **grasati(-te)** 口にて捉ふ, 口中に入る, 嚥下す, 貪り食ふ; 消失せしむ; 蝕す(太陽, 月); (訴を)揉み消す; ㊦ 吞, 吞噉; 擗 *Lal-v., Sikṣ.*

(過受分) **grasita, grasta** 嚥下せられたる; (一)によりて占有・所有・攻撃又は惱惑せられたる. ㊦ **grāsayati** 嚥下せしむ, 噉はしむ.

grasati ㊦ [或る Nāga の少女の名] (*Kār-vy.*).

grasana ㊦ 嚥下すること; (部分)蝕(の一種); 口, 顎.

grasita (過受分) → **Gras.;** ㊦ 苦 *Lal-v.*

grasiṣṇu ㊦ 嚥下又は吸収するに慣れたる.

grasta (過受分) → **Gras.;** ㊦ 吞, 吞食, 所食, 持, 所執, 所執持 *Suv-pr., Sikṣ., Bodh-bh.* → **tejo** ~.

grastatva ㊦ 論駁せらるゝこと.

grasta-mukta ㊦ 捉へられたり放たれたりする.

grasti ㊦ 嚥下すること.

grastr ㊦ 嚥下する者, 蝕する者.

grasya (未受分) 噉はるべき, 食ひ得る.

Grah, Ⅸ. ㊦ **gr̥hñāti,** ㊦ **gr̥hñite** 攫む, 取る, (蛭が)附著す, 把る, 捕ふ, 止む; [~ **pāṇim** 結婚に於て手を] 執る; ……を入手す; 捕獲す; (心を)魅惑す; (病氣が)襲ふ; 蝕す; 盗む, 剝奪す; 保つ, 保留す; 要求す, 私用に供す; 獲得す, 受納す; (㊦)より受け取る; 受理す, 採用す; [價格の(㊦)と俱に] 購ふ; (水を)汲む; 引き抜く, 集む; (衣服を)著る; 取りて(㊦, ㊦)に置く; 責任を負ふ, 體驗す; 歡迎す, (離婚せる妻を)再び娶る; 發言す, 發音す, 述ぶ, 名づく; 知覺す, 追跡して見出す, 了解す, 聞く, 見る, 觀察す, 認む; 學ぶ, 記憶す; 従ふ, 追隨す; 嘉みす, 好む; 氣にかく, 専心す; 意見を有す, 考ふ; [㊦の 意味にて] 取らしむ; ㊦ 捉, 攬, 攝; 受, 攝受; 持, 受持, 實持, 抱持; 取, 收取, 撮取, 搏取, 照取, 正照取; 執, 執著; 得, 獲得; 扼; 擧; 稱; 將; 了, 知了, 了別; 謂爲, 審觀; 擗 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lank., Prāt-m., Bodh-c., Cat-ś., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千., 梵雜.*

anyathā ~, 誤る.

udakaṃ ~, ㊦ 酌水 *Mvyut.*

kāryaṃ ~, 訴訟を受理す.

garbhaṃ ~, (㊦)によりて妊娠す.

paramārthena ~, 眞面目に取る.

㊦ **gr̥hyate** (㊦)を意味す. (過受分) **gr̥hita** [讀: °—, 字義は「取られし…を有する」即ち]……を携へたる, ……を保てる, ……を持てる. (不変分)

gr̥hitvā, gr̥hya ……を以て; ㊦ 捉, 攬 *Prāt-m., Abh-vy.* ㊦ ㊦ **gr̥hayati** 攫ましむ, 取らしむ, (結婚に於て手を)執らしむ; (㊦)を(㊦)と結婚せしむ; 捉へしむ; 掠奪せしむ, 取り去らしむ; 受けしむ, ……に渡す; (席に)就かんことを乞ふ; (㊦)をして(㊦)を選ばしむ; (㊦)を(㊦)に教ふ或は熟知せしむ; ㊦ 攝, 攝受, 攝取; 令受, 令了知; 擗 *Bodh-bh., Abh-vy.* ㊦ ㊦ **jighṛkṣati(-te)** 攫まん

と欲す; 會得又は知覺せんと欲す; 〔漢〕求 *Budh-c.*
anu- 追隨して掠奪す; 支持す; 嘉みす; (因)を以て
 鄭重に待遇す或は款待す; 慈しむ; (席に)著く; 〔漢〕
 受, 攝受; 利益, 爲益, 饒益, 攝益; 護 *Ast-pr.,*
Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh. 〔過受分〕
anugr̥hita (因)によりて幸福にせられたる。
apa- 取り去る, 引き離す。
abhi- 攫む; (地より)取り上ぐ; 受く。〔便〕**abhi-**
igr̥hayati 捕ふ。
ava- 放つ, 弛む; (因)より引留む, 止む, 抑留す,
 閉ざす; (語を)分つ(因); 區別す。〔不變分〕**ava-**
gr̥hya 分ちて; 強ひて, 強制して。
ā- (馬を)強く引く, (手綱を)引き締む; 學ぶ。
ud- 起す, 上ぐ; (因)上がる; 取り去る; (劍を)抜
 く; 取り残す, 保存す; (言葉を)中止す; 許す, 是認
 す; 會得す; 〔漢〕取, 持, 受持, 守持, 攝, 攝受, 受,
 領受; 勤求 *Ast-pr., Sapt-pr., Vajr-pr., Daś-bh.,*
Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 聽, 聽
 聞 *Ast-pr.*; 審觀 *Divy.* 〔過受分〕**udgr̥hita** 揚げら
 れたる, 取り上げられたる, 高められたる。〔便〕
udgr̥hayati 支拂はしむ; 説明す, 議論す。
upod (upa-ud)- 起す; 開く; 口に運ぶ; 認む, 知
 る。〔不變分〕**upodgr̥hya** 共に支へて, 上方に支へ
 て。
upa- 下より支ふ, 支持す; 獲得す, 確保す; 降伏
 せしむ, 主となる; 受く; 味方にす; 嘉みす; 更新
 す; 〔漢〕倚, 深著 *Lal-v., Śikṣ.* 〔過受分〕**upagr̥hita**
 下より支へられたる, 支持せられたる; 支配せられ
 たる。
ni- 引きつく, 引き下ぐ; (手綱を)引き締む; (目を)
 閉づ; 抑留す, 抑止す; 確保す; 捕ふ, 捕縛す; 幽
 閉す; 阻止す, 鎮壓す, 抑制す; 禁制す, 禁止す; 罰
 す; 〔漢〕治; 攝; 伏, 降伏, 析伏, 調伏, 正調伏, 能
 調伏, 摧伏; 摧, 摧滅; 調, 調習; 呵責; 誠勗; 制,
 禁制 *Divy., Buddh-c., Lal-v., Kāśy., Bodh-bh.*;
nigr̥hya nigr̥hya braviti (不變分) 切切誠勗 *Bodh-*
bh. 404. 〔過受分〕**nigr̥hita** 抑へつけられたる, 抑
 制せられたる, 捕へられたる, 阻止せられたる。〔便〕
nigr̥hayati 捕はれしむ, 捕縛せしむ。〔便〕〔希〕
nijighṛkṣayati 打勝ち或は凌駕せんと欲せしむ。
upa-ni- (因)に壓しつく; 持ち來る。
pari- 抱く, 圍む, 包む; 柵をめぐらす; (上衣を)
 著る; 擲む, 捕ふ; 保つ; 得る, 確保す; 受く; 留
 む; (教義を)公言す; 經驗す; 親切に受け容る; (女
 と)結婚す; 助力す; 一致す, 従ふ; 優る, 優越す, 打
 勝つ, 支配す, 征服す; 〔漢〕起; 依; 扶; 捧, 承捧;
 獲, 得; 持, 捉, 執, 取, 攝, 能攝持, 攝取, 受, 攝受,
 堅受, 諸受, 信受; 宣護; 圓滿, 成就 *Divy., Lal-v.,*
Ast-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Gaṇḍ-vy., Daś-bh.,
Kāśy., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.; *dakṣiṇena pāṇinā*
paryagr̥hṇat 執右手 *Gaṇḍ-vy. 113.* 〔不變分〕**pari-**
gr̥hya 〔漢〕依 *Abh-vy.* 〔過受分〕**parigr̥hita** (因,
 一)と結合せられたる, ……を供給せられたる; 圍ま
 れたる, 包まれたる; 捕へられたる, 攫まれたる; 受
 け容れられたる, 採用せられたる, 許されたる, 従
 はれたる。

anu-pari- 萬遍なく攫む, 圍む (*Divy.*); 恩寵を與
 ふ, 力を添ふ (*Vajr-pr.*); 〔漢〕捧, 攝受, 順攝, 利益,
 護念 *Divy., Vajr-pr.*

pra- 前方へ伸張す; 保つ; 攫む, 取る; 受く; 與
 ふ, 進呈す; 止まる; (手綱を)引き締む; (sandhi の
 語を)分置す; 好む; 促進す; 〔漢〕攝, 持; 策, 能策
Lal-v., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.; *cittam pragr̥-*
nāti 策心 *Mvyut.* 〔不變分〕**pragr̥hya** ……を携へ
 て或は伴ひて, ……と俱に; **pragr̥hitva** (=°tvā, 〔因〕)
 〔漢〕持 *Lal-v. 297.* 〔過受分〕**pragr̥hita** 伸張せら
 れたる; 取られたる, 受け容れられたる; (一)と結
 合せられたる。

saṃ-pra- 伸ばす; 共に攫む; 保持す; 受く; 〔漢〕
añjali saṃpragr̥hya [音律, 不變分] 又十指 *Lal-v.*
115.

prati- 攫む, 上ぐ; 攝取す, 食ふ, 飲む; 占有す;
 取り戻す; 受く, 嘉納す; (敵意を以て)受く; 反對
 す, 攻撃す; 歡迎す; 結婚す; 悦びて聞く, 吉兆な
 りと解す; 默諾す, 嘉みす; 〔漢〕執, 受, 取, 受取,
 納受, 能受, 能納受, 攝, 攝受, 抱取, 持, 受持 *Divy.,*
Lal-v., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Lank., Prāt-
m., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 借, 借索
Suv-pr. 〔過受分〕**pratigr̥hita** 取られたる, 受け容
 れられたる; 結婚せる。〔便〕**pratigr̥hayati** (因)
 を(因)に捧ぐ或は獻上す; 答ふ。〔希〕**pratijighṛk-**
ṣati 受けんと欲す。

vi- 離す; 分つ, 配分す; (合成語を)分解す; [因]士
saha 又は **sārdham**] と戦ふ; (因)に對して戦ふ,
 争ふ; 張合ふ, (sārdham) の相手となる; (因)を攫
 む; 歡迎す; 觀察す; 〔漢〕諍, 鬪諍; 互出惡言 *Ast-*
pr., Mvyut. 〔過受分〕**vigr̥hita** 離されたる; 變へ
 られたる。〔便〕**vigr̥hayati** ……に對して戦は
 しむ; 〔漢〕受持 *Śikṣ.* 〔希〕**vijighṛkṣati** ……に
 對して戦はんと欲す。

sam- 集む, 攫む, 握る, 取り上ぐ; 含む; 支持す,
 激勵す, 保護す; 抑制す, 支配す; (病が)襲ふ; (弓
 の)弦を外す; (口を)閉ざす; 強制す, 親切に遇す; 會
 得す, 理解す, (心を)專注す; 結婚す; 〔漢〕攝, 攝受,
 正攝受 *Bodh-bh.*; 撚 *Mañj-m.* 〔過受分〕**saṃgr̥hita**
 攫まれたる, 捕へられたる, 受け容れられたる; 集
 められたる; 抑制せられたる, 支配せられたる; 歡
 迎せられたる。〔希〕**saṃjighṛkṣati** 結婚せんと
 欲す; 集めんと欲す。〔便〕**saṃgr̥hayati** 攫ま
 しむ, 受けしむ; 會得せしむ; (因)を(因, 因)に通
 知す。

upa-sam- 攫む(特に兩脚を); 捕ふ, 捕縛す; 得, 勝
 つ。〔希〕**upasaṃjighṛkṣati** (因)の脚を抱かんと
 欲す。

saha- ……を携帶す, ……を帶ぶ。

graha 〔形〕—— 攫む, 把る; 得る; 知覺する, 認
 むる; 〔漢〕執, 執著, 染著, 取著; 所魅 *Gaṇḍ-vy.,*
Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.; *bhūta* ~ 鬼所魅
Bodh-bh. 209. → *tomara* ~. 〔因〕捕捉者, (特に太陽
 と月とを捕へて蝕を起さしむると言はる) *Rāhu*;
 遊星 [魔力によりて人間を捕ふと言はる, 一般に火
 星・水星・木星・金星及土星の五星, 之に *Rāhu* 及

Ketu を加へたる七星或は更に太陽と月とを加へたる九星を數ふ]; 病魔; 小魔; 鰐; 獲物; (*Soma* を汲む爲の)器; (*Soma* の)一飲の量; 器官 [呼吸(鼻)・聲・舌・眼・耳・意・手・皮膚の八種を數ふ]; 捕捉, 把握; (液體の)一服; 強盜, 竊盜; (因, 一)に對する主張, 努力; 受領; 歡迎; 選擇; 記述; 認知, 理解; 得; 取, 執; 受, 攝受; 至; 悋 *Rāstr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Vijñ-v.*; 曜, 宿, 星, 惡星; 魅, 鬼魅 *Suv-pr.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; *sapta* ~ *āḥ* 七曜 [1. *ādityaḥ* 日, 2. *somaḥ* 月, 3. *aṅgārakaḥ* 火星, 4. *budhaḥ* 水星, 5. *bṛhaspatiḥ* 木星, 6. *śukraḥ* 金星, 7. *śanaiścaraḥ* 土星] *Mvyut.*; *nava* ~ *āḥ* 九曜 [1.—7. 七曜に同じ, 8. *rāhuḥ* 羅喉, 9. *ketuḥ* 計都] *Mvyut.*

grahaka 形 能取 *Lank.*

graha-grasta 形 惡魔に憑かれたる。

graha-grāmaṇi 男 太陽。

graha-citta 形 懷貪戀 *Rāstr.*

graha-cintaka 男 占星家。

graha-tyotiṣa 男 惡星 *Gaṇḍ-vy.*

grahaṇa 形 (一)を支持する, ……を攫む; 攝, 能取 *Bodh-bh.* → *nāma* ~. ④ 把握, 支持, 捕獲; (日月の)蝕; 獲得, 受領; 結婚すること; 購入; 選擇; 反響; 捕捉, 吸收; (衣服を)著ること, (形體を)取ること; 經驗すること; 發言, 記述, 表現すること, 使用, 記述せられたる言葉; 學習; 知覺, 理解; 解釋; 收; 採; 攝, 攝受; 執, 執持, 執著; 取, 捕取, 取(境), 取(塵); 受, 得, 受得; 名, 稱, 說; 知; 至; 舉 *Sapt-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Vijñ-v.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sāṃkhy-k.*; *nāmadheya* ~ 稱名 *Saddh-p.* 440.

grahaṇaka ④ 包含又は總括すること。

grahaṇaka-vākya ④ 總說又は略說すること; 略說 [*Tib. mdor-bstan-pa*] *Prajñ-vy.* 176.

grahaṇa-gata 形 蝕ある(天體)。

grahaṇa-catura 形 捕捉に巧みなる。

grahaṇa-dvaya ④ 太陽及び月の蝕; 太陽又は月の蝕。

grahaṇa-sambhava 形 (國)を取り去ることより生ぜる。

grahaṇanta 形 學習の爲し遂げられたる。

grahaṇantika 形 [同上]。

grahaṇi ④ [胃と腸との間にありと想像せらるゝ内臟の名]; 腹, 臍 *Mvyut.*

grahaṇi-gada 男 *Grahaṇi* の病苦, 下痢又は [恐らくは] 異常なる便通。

grahaṇi-doṣa 男 [腹の病氣の一種]。

grahaṇi-pradoṣa 男 [同上]。

grahaṇiya (未受分) 受け容れらるべき, 思量せらるべき。

graha-tāraka ④ 星 *Saddh-p.*

graha-nakṣatra ④ (諸宿曜 *Mañj-m.*)

graha-nāyaka 男 太陽。

graha-nigraha 男 好意と惡意。

graha-pati 男 月(太陰)。

graha-pidana ④ (*Rāhu* に由りて齧られたる災

厄), 蝕。

graha-piḍā ④ [同上]。

grahamaya 形 (因-i) 遊星より成れる。

graha-mardana ④ 遊星の衝突又は對立。

graha-mātrkā ④ [佛教女神の名]。

grahamātrkā-dhāraṇi ④ [佛典の名, 聖曜母陀羅尼經, 諸星母陀羅尼經]。

graha-yajña 男 遊星への供儀。

graha-yuti ④ 遊星の近接。

graha-yuddha ④ = *graha-mardana*。

graha-yoga 男 = *graha-yuti*。

graha-roga 男 疫病, 災異疫病, 災變, 妖星疾疫 *Suv-pr.*: ~ *ās ca viṣaye prādurbhūtā bhaviṣyanti* 疫病流行, 多諸災變 *Suv-pr.* 64.

graha-varṣa 男 遊星の年, [災福を支配する遊星の現るゝ年・月又は日]。

graha-vicārin 男 占星家。

graha-vimardā 男 = *graha-mardana*。

graha-samāgama 男 = *graha-yuti*。

grahāgre-sara 男 (遊星の首長), 月(太陰)。

grahāluñcana ('*ha-āl*') ④ 獲物に襲ひかゝること。

grahi 男 支持物。

grahika 形 勢利徒(?) *Mvyut.*

grahila 形 (一)に感じ易き; 敏感なる; 狂氣の。

grahitavya (未受分) 取らるべき, 受けらるべき; 汲み取らるべき(液體)。④ とるべき或は受くべき責任。

grahitr 男 捕捉者; 受領者; 購買者; 知覺者; 聽者; 能取, 著, 著者, 起執者 *Lank.*, *Sikṣ.*, *Madhy-v.*; *rasa-nimittā* ~ 不著衆味 *Sikṣ.* 31.

grahoktha ('*ha-uk*') ④ (*Soma* を)汲む間に歌はるゝ讚歌。

grahopāya ('*ha-up*') 男 捕ふる手段。

grābha 男 捕捉者, 病氣を起す惡魔; 攫まれたるもの, 手一杯。

grāma 男 居住地, 村落; 社會, 一族; 大勢; (一)の群集又は集團; 一家族中の老婦人; 音階; (國)住民, 民族; 里, 村, 村落, 村營, 聚落, 邑, 村邑; 城, 小城, 城邑; 縣郡; 聚 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Avś.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Rāstr.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雜; 音, 音節 *Lank.*

grāmaka 男 小村, 村; 聚落 *Lal-v.* ④ 村の歡樂即ち性的享樂。

grāma-kāma 形 村を得んと欲する; 村の生活を好む。

grāma-kukkuṭa 男 (村の即ち)馴れたる鶏。

grāma-gata 形 村へ行ける; 樂居村邑, 在聚落中, 爲聚落者 *Gaṇḍ-vy.*

grāma-ghāta 男 村を掠奪すること。

grāma-ghātaka 男 村の掠奪者; 壞城者, 壞聚落者, 攻伐聚落 *Sikṣ.*, *Mvyut.*

grāma-ghātin 形 村を掠奪する。

grāma-catvara ④ 四衢道 *Saddh-p.*

grāma-caryā ④ 村の行動即ち性的享樂。

grāma-cārin 形 周行村邑中 *Suv-pr.*

grāma-caitya 男 村の聖樹。

grāma-jāta 形 村又は耕作地に生長せる。
grāma-jit 形 勝てる(軍隊)。
grāmaṭikā 女 衰れなる村。
grāma-ṇi 男 [音種, 同下]。
grāma-ṇi 男 村長, 大衆の指導者; 公共團體の主長; 軍隊の長; 理髮師(村の主要なる人物); Yakṣa; [或る Gandharva 王・疫神等の名]; 漢譯 上首; 神主 Divy.
grāma-ṇitva 中 村長たること。
grāma-ṇithya 中 村長又は團體の長たる位置。
grāmaṇiya 中 [同上]; [民族の名]。
grāmatā 女 多數の村。
grāma-daśeśa (°śa-iśa) 男 十箇村の長。
grāma-druma 男 = grāma-caitya。
grāma-dharā 女 [(村を支ふる), 或る岩の名]。
grāma-dharma 男 村の慣習。
grāma-nivāsin 形 村に居住する, 馴れたる(鳥)。
grāma-pati 男 村長; 漢譯 邑官, 守城邑 Mvyut.
grāma-pāla 男 村の護衛者。
grāma-pālaka 男 [同上]。
grāma-piṣṭa 形 家にて挽かれたる。
grāma-puruṣa 男 村長。
grāma-pradeśa 男 漢譯 村邑一分 Bodh-bh.
grāma-preṣya 男 村又は團體の使者又は従僕。
grāma-bāla-jana 男 村の青年。
grāma-yājaka 形 (當否に關せず貪欲の故に) 町村の(如何なる人の)爲にも供犠をなす。
grāma-yājin 形 [同上]。
grāma-luṅṭhana 中 = grāma-ghāta。
grāma-vāsin 形 村に生活せる, 馴れたる(動物)。 男 村民。
grāma-vāstavya 男 村民。
grāma-vṛddha 男 村の老人。
grāma-śakaṭika 中 村の車。
grāma-śata 中 (單, 複) 百の村又は地方。
grāmaśatādhyakṣa 男 百箇村の長。
grāmaśateśa (°ta-iśa) 男 [同上]。
grāma-sad 形 村に居住する。
grāma-siṃha 男 犬。
grāma-simā 女 村の田畠。
grāma-sukha 中 = grāmya-sukha。
grāma-sūkara 男 家に飼へる豚。
grāmāgni 男 村の即ち普通の火。
grāmādhipa 男 村の首長。
grāmādhyayana 中 村に於ける學習。
grāmānta 男 村境; ~e 女 村の附近にて。
grāmānta-vihārin 男 漢譯 居城邑者, 近聚落住者 Ast-pr.
grāmāntika 中 村の附近; 漢譯 村聚 Śikṣ.
grāmāntiya 形 村の隣接地に在る。
grāmāraṇya 中 村に屬する林; 漢譯 村と林。
grāmika 男 村長; 漢譯 邑中主, 城邑宰, 村營聚落主 Śikṣ.
grāmin 形 村を支配する。 男 村人; 農夫。
grāmi-putra 男 農夫の子供。
grāmiṇa 中 田舎者, 無學文盲者。 男 村人; 農夫。
grāmiyaka 男 部落又は團體の一員。

grāme-geya 形 村にて歌はるべき。
grāme-cara 男 村人; 家長。
grāmeya 男 村人。
grāmeyaka 男 [同上]。
grāmopavicāra (°ma-up°) 男 漢譯 城廓, 郊外, 村舎, 村落邊 Abh-vy., Mvyut.
grāmya 形 村に關する, 村より來れる, 村にて作られたる或は用ゐられたる; 村に住める; 馴れたる; 耕作せられたる; 栽培せられたる; 田舎者の, 粗野なる; 漢譯 世; 在家; 鄙惡 Lal-v., Daś-bh., Mañj-m. 男 家人; 家畜。 中 淫蕩。
grāmya-karman 中 性的享樂。
grāmya-kāma 男 複 [同上]。
grāmya-kukkuṭa 男 飼はれたる鶏。
grāmya-gaja 男 馴れたる(村育ちの)象。
grāmyatā 女 粗野なる措辭。
grāmyatva 中 [同上]。
grāmya-dharma 男 村人の義務; 淫蕩, 性交。
grāmya-dharman 形 漢譯 世法 Mañj-m.
grāmya-dharmin 形 性交に耽る。
grāmya-paśu 男 家畜。
grāmya-mṛga 男 (家畜), 犬。
grāmya-vādin 男 村の役人。
grāmya-sukha 中 (村人の娛樂), 睡眠, 性的享樂。
grāmya-sūkara 男 家に飼へる豚。
grāmyehoparama (°ya-ihā-up°) 男 性欲を斷つこと。
grāva-grābha 男 (Soma の壓石を扱ふ), 祭官[後の Grāvastut]。
grāvan 男 岩, 石(特に Soma を搾る爲の)。
grāva-stut 男 [祭官の一種]。
grāva-stotra 中 (晝間の Soma 壓搾に於て) Grāvastut の行ふ Som: 壓石に對する讚誦。
grāva-stotriyā 女 [同上]。
grāva-stotriya 形 Grāva-stotra に關する。
grāsa 男 嚙下; (日月の)蝕; 口一杯, 一口(分); 食物, 滋養; 漢譯 吞, 段, 搏 Abh-vy.: eka ~ paribhoga 噉一段食, 食一搏 Abh-vy. 386. —° 形 嚙下する。
grāsātā 女 漢譯 吞 Abh-vy.: ~m gatānām 所吞 Abh-vy. 329.
grāsa-pramāṇa 中 一口程の大きさ。
grāsācchādana (°sa-āc°) 中 圍 食と衣。
grāsāmbu 中 圍 飲食物。
grāsi-Kṛ, 嚙下す。
grāsi-kṛta 形 嚙下せる。
grāha 形 (女 -i) —° 捉ふる, 把る, 取る, 受くる; 漢譯 計 Buddh-c. 男 [同上 図]; 言及すること; 記述すること; 出來心; 肉食獸, 鱈, 鮫, 蛇; —° ……の觀念 (Vajr-pr.); 漢譯 執, 著, 執著, 著法; 取, 能取; 持; 捕捉者; 慳吝 Lal-v., Vajr-pr., Gand-vy., Laṅk., Sūtr., Madhy-v., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut., 梵千.; 所攝 Laṅk.; 海獸; 蛟龍, 鬼魅 Divy., Daś-bh., Abh-vy., Mvyut.
grāhaka 形 (女 -ikā) 捉ふる, 取る, 受くる; 感知する, 知覺する; 含む; 漢譯 能取, 能執, 能持, 攝, 能攝, 攝取, 攝受, 正受 Divy., Laṅk., Sūtr., Bodh-

bh., Abh-vy., Vijñ-v., Madhy-vibh. 男 代官; 警
 官; 購入者.
grāhaka-kṛkara 男 媒鳥(?)の鷓鴣.
grāhakatva 甲 理解力.
grāhaka-bija 甲 能取種子 *Madhy-vibh.*
grāhaka-varjita 形 無取 *Guhya-s.*
grāhaka-vihamga 男 媒鳥(?).
grāhaṇa 甲 能授, 捉 *Bodh-bh.*
grāha-dvaya 甲 二取 [1. grāhya-grāha 所取,
 2. grāhaka-grāha 能取] *Vijñ-t. 42.*
grāhadvaya-vāsanā 女 二取習氣 *Vijñ-t.*
grāhayitavya (便役) (未受分) (業)を企てしめらるべき.
grāhita (便役) (過受分) 取られたる, 攫まれたる; (席等
 を)受けしめられたる; (業)を企て或は(業)に従事せ
 しめられたる; 教へられたる; 受持 *Bodh-bh.*
grāhitā 女 取 *Bodh-bh.*
-grāhin 形 捉ふる, 把る; 捕獲する, 含む; 受くる,
 得る, 保てる; [價格の(業)と俱に]…にて買ふ; 搜
 索する; 知覚する; 熟考する; 取, 著, 取著,
 執, 執取, 所持, 攝受, 墮 *Gaṇḍ-vy., Laṅk., Bodh-
 bh., Śikṣ.* → *pradaksina*~, *māna*~.
grāhya (未受分) 捉へらるべき, 攫まるべき; 感知せ
 らるべき; 得らるべき; 受けらるべき; 主張せらる
 べき, 知覚せらるべき; 理解せらるべき; 習はるべ
 き; 了解せらるべき; 認めらるべき, 看做さるべき;
 得, 取, 所取, 可取, 所執, 所持, 所攝, 所證
*Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Kāśy., Laṅk., Sūtr., Abh-k.,
 Abh-vy., Vijñ-v., Madhy-vibh., Mvyut.*
grāhya-gir 形 その言の受け容れらるゝ.
grāhya-grāhaka 甲 所取能取, 能執所執, 能
 取所取 *Madhy-vibh.*
grāhya-grāhakatva 甲 所取能取性 *Madhy-
 vibh.*
grāhyagrāhaka-bhāva 男 能執所執, 所取能
 取(二)性 *Madhy-vibh.*
grāhyagrāhaka-vikalpa 男 所取能取分別, 能
 執所執分別 *Madhy-vibh.*
grāhyatva 甲 知覚せられ得ること.
grāhya-bija 甲 所取種子 *Madhy-vibh.*
grāhya-bhūta 形 似受 *Sūtr.*
grāhya-bheda 男 外別 *Sāmkhy-k.*
grāhya-rūpa 形 注目の價值ある, 興味を懷くに値
 する.
grāhya-vacana 形 言必信用 *Bodh-bh.*
grāhyavat 形 = *grāhya-gir.*
griva 男 [Gf 2.] 頸; 頸, 首, 項, 頭項 *Saddh-p.,
 Daś-bh., Kāśtr., Mañj-m., Mvyut.*
griva-cchinna 形 首を切られたる.
griva-daghna 形 (上方)首に達する.
griva-sūtra 甲 首鎖(?).
grivā 女 = *griva*; 頸, 項, 咽 *Divy., Lal-v.,
 Mañj-m., Bodh-bh., Bodh-c., 梵子.*
grivāsthi 甲 頸骨, 頂骨 *Śikṣ.*
grīṣma 男 夏, 暑季; 熱, 夏の暑さ; 春, 春時,
 暮春, 三四月, 春末夏初, 夏; 熱, 熱時, 熱際 *Aṣṭ-pr.,*

Laṅk., Vin., Abh-vy., Mvyut., 梵雜.
grīṣmaka 男 春, 熱際 *Suv-pr.*
grīṣma-samaya 男 夏期.
grīṣmābhīṣṭa 形 爲熱所逼 *Aṣṭ-pr.*
gredha 男 俗 [<gardha]; 貪 *Mvyut.*
gredhāśrita (°dha-ās°) 形 依貪 *Mvyut.*
graiva 甲 (象の)頸鎖.
graiveya 男 甲 [同上].
graiveyaka 甲 [同上]; 頸飾.
graivya 形 頸に關する.
graiṣma 形 夏期に關する; 暑氣の爲に起れる(病).
graiṣmika 形 [同上]; 夏, 炎暑 *Divy., Lal-v.*
 甲 夏期に成長するもの.
graiṣmikāvāsa (°ka-āv°) 男 春閑地 *Mvyut.*
Glai, I. 他 **glapati** (業)に苦しむ.
glapana 甲 弛緩; 萎靡すること. 形 疲勞せる.
glapaya, [Glaiの便役].
glapita (過受分) 疲勞せる; 浪費せられたる; 熱せら
 れたる.
glapsa, = *grapsa.*
Glai, I. 自 **glahate** (業)を賭けて(業)と共に骰子
 遊をなす; 骰子遊にて勝つ.
glaha 男 骰子遊び; (骰子を)投ぐること; 賭(?); 骰
 子; 骰子箱; 競争, 賭事; 賞與.
glahana 甲 骰子を投ぐること, 骰子遊をなすこと.
glaha-prabheda-varṇa 甲 (骰子遊に於ける)結果
 の區別の記述.
glāna (過受分) → Glai. 得病, 有疾, 嬰疾病
Divy., Aṣṭ-pr. 甲 倦怠; 衰弱; 減退; 落膽, 病氣;
 疾, 病, 疾病, 疾病者, 有病, 有病之人 *Divy.,
 Suv-pr., Prāt-m., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
glāna-kāya 形 身有疾, 身有疾病, 身過諸病
Śikṣ.
glānatā 女 = *glāna* (甲).
glāna-paripṛcchaka 男 問病 *Śikṣ.*
glāna-pratyaya 男 病人の必須物 (*Divy.*); 病
 緣 *Bodh-bh.*
glānapratyaya-bhaiṣajya 甲 病人に必須の醫藥;
 醫藥, 病緣藥, 病緣醫藥, 病緣湯藥, 治病物
Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
glāna-manas 形 嫌惡を感ずる, 反感を持てる.
glāna-samaya 男 病時 *Prāt-m.*
glāni 女 = *glāna* (甲).
glāni-bhūta 形 寢疾 *Divy.*
glānopasthāna (°na-up°) 瞻侍, 瞻病, 瞻療, 瞻侍
 病, 能瞻病, 能瞻療, 疾病救療, 瞻病(授藥) *Bodh-bh.*
glānopasthāyaka (°na-up°) 男 看病人 *Divy.*
glānya 甲 體力の減退; 病, 患, 疾病 *Divy.,
 Kāśy., Śikṣ.*
glāpita (便役) (過受分) → Glai.
glāva 男 [人名].
glāvin 形 不快を感ずる, 無氣力なる.
glāṣnu 形 弛緩せる; 萎靡せる; 病にて疲勞又は衰弱
 せる, 病める.
Glai, I. 他 **glāyati** [義詩は又た自 **glāyate**; II. 他
glāti] (業)又は(業)と俱に] 嫌ふ, 厭ふ; 弛緩す, 疲

弊す, 疲勞す, 衰弱す, 困惑す; 嘆く。 (過受分) **glāna** 嫌惡せる, 反感を持てる; 疲れたる, 消耗せる; 無感覺の。 (使役) (他) (自) **glāpayati(-te)** 疲弊せしむ; 苦ましむ, 悩ましむ; 傷つかしむ; 瘦せしむ; 衰へしむ; (漢語) 衰, 衰變 *Daś-bh.* (使役) (過受分) **glāpita**

萎靡せる。

pari- (過受分) **pariglāna** 疲れたる。

abhi-pari- (過受分) **abhipariglāna** [同上]。

glau, 塊; 甲状腺腫の瘤。

GH

gha 1., ghā (因) (附帶) (不變辭) [殆ど RV. に限らる] 正に, 實に, 確に, 特に: [一般に語勢を強むる爲に用ゐらる; 他の (不變辭), (代), (前) の後, 及び im, id の前に用ふ]。

-gha 2. (形) 打つ, 殺す。

gha-kāra (男) **gha** の字又は音; (漢語) (音寫) 伽字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ sarva-dharma-megha-saṃdhāraṇa-dṛḍha-sūgara-garbhāṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱伽字時能甚深入般若波羅蜜門名普持一切法雲堅固海藏 *Gaṇḍ-vy. 450.*; (音寫) 伽字 [五十字門の一]: ~e ghanapaṭalāvidyā - mohāndhakāra - vidhamana - śabdaḥ (→ a-kāra) 唱伽字時出除滅一切無明黑暗厚重瞽膜聲 *Lal-v. 127.*

GHaṭ, I. (自) **ghaṭate** 熱中す, 活潑なり; (因), (爲), (因) 又は prati, -artham, -arthe) の爲に働く或は努む; (因) に達す; 起る; 可能なり, 成功す; 相應はし, 適當す; 蓄積す; (因) と合同す; (漢語) 勤, 勲, 勤修, 勤苦, 勤精進, 精勤修學; 修作, 修行, 奉行, 難行苦行; 營求 *Av-ś., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Madhy-v.*; 然 *Lank., Abh-vy.* (使役) (他) (自) **ghaṭayati(te)** (因) と接合又は合同す; 抱き緊む; (因) の上に置く; 取り來る; 作る, 形成す, 産す; 成し遂ぐ, 實行す; (因) の爲に(因) を爲す; (漢語) 勤 *Guhy-s.* (過受分) **ghaṭita** (一) にて作られたる, ……より産せる, ……より結果せる。

apa- (使役) **apaghāṭayati** 閉ざす; (漢語) 閉 *Lal-v.*

ud- (過受分) **udghaṭita** 開かれたる。 (使役) **ud-**

ghāṭayati 開く, 解く; 覆を除く; 露はす, 裏切る; 始む; (漢語) 開, 解, 啓, 作開發 *Divy., Lal-v., 梵千.*

sam-ud- (使役) **samudghāṭayati** 開く; (頭) の覆を除く即ち公衆の前に出づることを得; (漢語) 出現 *Saddh-p.*

pari- (使役) **parighāṭayati** (樂器を) 打つ或は鳴らす。

vi- 離散す, 飛び散る, 四散す, 分離す; 遮斷・破壊又は無効にせらる。 (過受分) **vighaṭita** 破られたる, 分離せられたる, 分けられたる。 (使役) **vighaṭayati** 引き裂く, 裂く; 離す; 無効にす, 破滅せしむ; (漢語) 開 *Divy.*

pra-vi- (過受分) **pravighaṭita** 切られたる, 切り離されたる。 (使役) **pravighāṭayati** 散らしむ, 分離せしむ。

sam- 集合す, 會合す。 (使役) **samghāṭayati** 集む, 集合せしむ, 結合せしむ; 打つ, (音を) 響かしむ。

ghaṭa (形) 熱心なる, (因) に熱中せる, ……に於て活潑なる, (男) 瓶, 水差, 壺; [容量の單位 = drona]; 頭; (漢語) 跗, 屨, 瓶, 瓶盆, 瓶罐, 瓶, 瓦器 *Divy., Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Bodh-c., Nyāy-pr., Mvyut., 梵千.*

ghaṭaka (形) 實行する, 促進する; 獲得する。 (男) 壺, 瓶, 水差。

ghaṭa-kapālā-bhāva (男) (漢語) 破瓶, 瓶破 *Lank.*

ghaṭa-karpara (男) [或る詩人の名]。 (甲) [*Ghaṭakarpara* の作れる詩の題名]; 陶器・土器等の破片。

ghaṭa-kāra (男) 陶工。

ghaṭa-kṛt (男) [同上]。

ghaṭa-jānu (形) 瓶の如く脹れたる膝を有する (*Budh-c.*)。

ghaṭa-jānuka (男) [聖仙の名]。

ghaṭa-dhārin (形) (漢語) 持瓶, 奉持(華)瓶 *Suv-pr.*

ghaṭana (甲) (因, 一) との合同; 發見; 作ること, 持ち來ること。

ghaṭanā (女) 所作, 所爲, 實行; (因, 一) に對する奮闘; 努力; (矢, 一) の發射; 完成, 成功; (一) との合同; 文學作品; 生ずること, 起ること, 産出, 創造。

ghaṭa-prakṣayaṇa (男) [人名]。

ghaṭa-bhedanaka (甲) 壺の製作に使用せらるる器具(漢語); (漢語) 陶家器, 泥水家火 *Mvyut.*

ghaṭayitavya (未受分) 接合せらるべき, 閉ざさるべき。

ghaṭā (女) 多數, 大勢, 群; 戰の爲に集まれる象群。

ghaṭ-ādi (類) **ghaṭ** を以て始まる **gana** (女)。

ghaṭika, [音理, =ghaṭikā]; (漢語) 爐 *Saddh-p.*: dhūpanasya (ratnāmāyī) ~(-sahasra-kotyaḥ) 香爐 *Saddh-p. 331.*

ghaṭikā (女) 壺, 瓶, 水差; (漢語) 瓶, 水漏, 更漏; 爐; 爪癩物 *Lal-v., Mvyut.*; 香爐 *Saddh-p.* → **gandha-**

ghaṭikā-yantra (甲) = ghaṭi-yantra。

ghaṭita (過受分) → **GHaṭ.** (漢語) 成, 策勵 *Sūtr., Bodh-bh.*

ghaṭi (女) 瓶, 壺; [時間の單位, 二十四分]; (漢語) 瓦器 *Bodh-bh.*

ghaṭi-kara (男) = ghaṭa-kāra; (漢語) 陶師 *Divy.*

ghaṭi-kari (女) 陶工の妻。

ghaṭi-yantra (甲) 水車, 揚水機; (漢語) 轆轤; 汲井輪, 汲水輪; 水罐 *Divy., Lank.*

ghaṭi-yantraka (甲) 小なる揚水機。

ghaṭokaca (°ṭa-ut°) (男) [或る Rākṣasa の名]。

ghaṭodara (°ta-ud°) 男 [Ganeśa の稱]; [或る Rākṣasa の名].

ghaṭodhni (°ta-ūdh°) 形 瓶状の乳房を有する (牝牛).

Ghaṭṭ, I. 自 **ghaṭṭate** [vi 或は sam と俱にのみ] 及
 使役 **ghaṭṭayati** 越ゆ, 觸る; 振る, 動かす;
 興言論 *Sapt-pr.*: mā mahā-nāgam
 ghaṭṭaya 勿於(如來)大龍象王興言論 *Sapt-pr.* 220.
 通受分 **ghaṭṭita**.

ava- 通受分 **avaghaṭṭita** 摩擦せられたる, 押し
 つけられたる. 使役 **avaghaṭṭayati** 押し開く, 觸
 る; 擦る; 動かす.

pari- 使役 **parighaṭṭayati** 到る處に(耳を)擦り
 つく.

vi- 破る; 以肘觸 *Divy.* 使役 **vighaṭṭayati**
 散らさしむ, 撒布す, 引き離す; 振る; ……に擦り
 つく; (戸を)開く.

sam- 碎く. 通受分 **samghaṭṭita** 集められたる,
 (手を)把られたる. 使役 **samghaṭṭayati** (業)を
 (具)と摩擦せしむ; 動かす; 觸る, 集む; 互相
 衝擊 *Gaṇḍ-vy.*

ghaṭṭa 男 激動, 衝突; 上陸場, 沐浴場.

ghaṭṭa-jivin 男 渡し守.

ghaṭṭana 中 打撃, 接觸; 攪拌; 打, 挫; 觸動;
 撥搖 *Sikṣ., Mvyut.*

ghaṭṭita 通受分 摩擦せられたる, 觸れられたる, 振
 られたる; 押しつけられたる; 閉ざされたる; 打,
 鼓, 擊, 擊奏; 開; 散; 斷; 已閉 *Divy., Lal-v.,*
Sam-r., Mvyut.

ghaṇṭa 男 [*Siva* 神の稱]; [=ghaṇṭā] 鈴; 鐘
 鼓 *Abh-vy.*

ghaṇṭā 女 鈴, 鐘; 鐸, 鐘, 鐘, 鈴, 金鈴, 寶鈴,
 鈴鐸 *Divy., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Bodh-*
bh., Abh-vy.; 鼓, 鼓 *Divy.*; 鑿論 *Mvyut.*; 健
 椎, 健遲, 健稚, 健植, 健吒, 健吒, 臂吒 *Mvyut.,*
 立應.

ghaṇṭā-karṇa 中 [或る Rākṣasa の名].

ghaṇṭā-tāḍa 形 鐘を撞く.

ghaṇṭā-patha 男 本通(註); [*Kirātārjunīya* に對
 する註釋書の名].

ghaṇṭā-pathatva 中 全世界に知らるゝこと.

ghaṇṭā-rava 男 鐘又は鈴の音.

ghaṇṭā-rāva 男 [同上].

ghaṇṭāvaghoṣaṇa (°tā-av°) 中 勅, 遍告, 搖鈴
 宣告, 出榜喚諭; (音)鳴健吒 *Divy., Av-ś., Mvyut.*:
 ~m kārītam 宣令普告, 擊鼓唱令 *Divy., Av-ś.*

ghaṇṭāvat 形 鐘又は鈴を具へたる.

ghaṇṭika 男 鐘.

ghaṇṭikā 女 小なる鐘又は鈴.

ghaṇṭikā-bandha 男 中 馬の首の上部.

ghaṇṭin 形 鐘又は鈴を具へたる.

ghatana 中 [音] =ghātana; 殺戮 (*Saddh-p.* 449.)

ghana 形 打つ; 殺す; 確乎たる, 堅き; 密なる, 固
 き, 厚き; 間斷なき; 暗き, 陰鬱なる; 低き(音調);
 全體の; (一°)に充てる; 深, 厚, 深厚, 厚重, 靈
 重; 大; 覆蔽 *Lal-v., Saddh-p., Bodh-c., Madhy-v.,*

Bodh-bh., Mvyut., 梵千. ~m 圓 狭く, 確乎とし
 て; 密接に. 男 殺害; 殺戮者; 棍棒, 鐵棒, 槌; 塊,
 緻密なる塊 [又+妊娠第二月の胎兒を言ふ]; —°唯
 ……のみ, 純粹なる(認識); 雲; (音)鳥合の衆; 厚,
 凝厚, 淳, 深密; 廣, 廣量; 堅, 堅厚; 愛; 堅肉, 肉
 圓 *Gaṇḍ-vy., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*; 雲, 風雲,
 浮雲 *Lal-v., Saddh-p., Daś-bh., Lan̄k.*; [gha-
 nam] 健南, 健男 *Mvyut.*, 立應.

ghana-kāla 男 雨期.

ghana-kṣama 形 槌にて打たるべき.

ghanatara 比較 深厚 *Bodh-bh.*

ghanatā 女 濃厚性, 固體性; 雲の状態.

ghana-tāmasa 形 眞暗の.

ghana-timira 中 白内障(?).

ghana-toya 中 [或る鹹濃き海の名].

ghanatva 中 濃厚性, 強韌性, 固形状態; 淳厚
Bodh-bh.

ghana-dundubhi-svana 形 太鼓又は雷の音の如く
 重々しき (*Buddh-c.*).

ghana-padavi 女 (雲の路), 天空.

ghana-bhitti 形 厚き壁を備へたる.

ghana-mud 形 甚だ喜べる.

ghana-rasa 男 股; 淳, 淳淨, 淳厚, 純厚; 密味,
 淳一味, 淳淨一味 *Bodh-bh., Abh-vy.*

ghana-ruc 形 雲の如く輝く, 雲の如き.

ghana-vartman 中 =ghana-padavi.

ghana-vāri 中 雨水.

ghana-vithi 女 =ghana-padavi.

ghana-vyapāya 男 雲の消失, 秋.

ghana-vyūha 男 [經の名] 密嚴, 大乘密嚴經,
 大乘莊嚴寶王經(?) *Mvyut.*

ghana-samaya 男 雨期.

ghana-sāra 形 確乎たる, 強き. 男 樟腦.

ghanāgama (°na-āg°) 男 雲の到來, 雨期.

ghanā-ghana 形 打つことを好む, 好戰的の;
 密なる, 濃き(雲). 男 密雲, 雨雲.

ghanātyaya 男 =ghana-vyapāya.

ghanānta 男 [同上].

ghanābhoga (°na-ābh°) 男 雲の球又は周圍 (*Buddh-*
c.).

ghanāya 名動 自 **ghanāyate** 群る, 群集す.

ghanāsaha 形 槌にて打つべからざる.

ghanāsthika 形 硬骨を有する.

ghani-Kṛ, 濃厚にす; 強くす.

ghani-BHū, 濃厚又は稠密となる.

ghanoda (na-uda) 中 =ghana-toya.

ghanodaya (°na-ud°) 男 雨期の始まり.

ghanorū (°na-urū) 形 肥えたる腿を有する.

ghara 中 家, 家宅 *Mvyut.,* 梵千.

gharaṭṭa 男 手挽臼; 水磨 *Mvyut.*

gharaṭṭaka 男 [同上].

ghariṇi 女 [*Pāli.* gharāṇi] 在家の婦人; 郎波
 斯迦 [*upāsikā* の音] *Divy.* 46.

ghariṇi-stūpa 男 [塔の名] 宅神塔 *Divy.*

gharghara 形 ガラガラ鳴る. 男 哄笑.

gharghara-dhvani 男 鼻を鳴すこと, 鼻息をなす

こと。
ghargharikā ㊟ (裝飾用の) 小さな鐘又は鈴; [樂器の一種]。
gharma ㊟ (太陽及び火の) 熱; 暑期; (*Aśvin* 供養用の牛乳) 煮沸器; 温き牛乳又は神酒 (特に *Aśvin* 雙神に獻ぐる)。
gharma-kāla ㊟ 暑期。
gharma-ga ㊟ [同上]。
gharma-ccheda ㊟ (暑熱の終焉), 雨期。
gharma-jala ㊟ 汗。
gharma-tanu ㊟ [或る二の *Sāman* の名]。
gharma-tanū ㊟ [同上]。
gharma-toya ㊟ 汗。
gharma-didhiti ㊟ 太陽。
gharma-dugha ㊟ 温き乳を出す。
gharma-duh ㊟ [㊟ **-dhuk**] [同上]。
gharma-dyuti ㊟ 太陽。
gharma-payas ㊟ 汗。
gharma-pāvan ㊟ 熱き乳を飲む。
gharma-bhānu ㊟ 太陽。
gharma-māsa ㊟ 暑期の曆月。
gharma-raśmi ㊟ 太陽。
gharmavat ㊟ 熱を所有する (*Indra* 神)。
gharma-vāri ㊟ 汗。
gharma-sad ㊟ 烈火の傍又は炎熱の中に住する。
gharma-stubh ㊟ 熱の中にて叫ぶ (*Marut* 神)。
gharma-svaras ㊟ 釜中の物の如く響く (河)。
gharmāmsu ㊟ (熱き光線を有する), 太陽。
gharmānta ㊟ 暑熱の終焉, 雨期。
gharmāmbu ㊟ 汗。
gharmāmbhas ㊟ [同上]。
gharmita ㊟ 熱せられたる, 熱に惱める。
gharmin ㊟ 温き神酒を供ふる。
gharmetarāmsu (°ma-it°) ㊟ (温かならざる光線を有する), 月(太陰)。
gharmeṣṭakā (°ma-iṣ°) ㊟ (祭壇用の) 煉瓦(の一種)。
gharmecchiṣṭa (°ma-uc°) ㊟ [或る供養祭の名]。
gharmodaka (°ma-ud°) ㊟ 汗。
gharmya ㊟ 温き神酒(を作る)器。
gharṣa ㊟ 摩擦, 衝突。
gharṣaṇa ㊟ 摩擦, 挽くこと; 擦り込むこと。
GHaś, II. ㊟ **ghasti** 食ふ, 貪り食ふ。㊟ **jighatsati** 貪り食はんと欲す, 奪はんと欲す。
ghasa ㊟ 貪食者; [或る病魔の名]; [或る *Rākṣasa* の名]; ㊟ [= *ghāsa*] 艸 梵干。
ghasana ㊟ 貪り食ふこと。
ghasi ㊟ 食物。
ghasmara ㊟ 大食する; (一°)を切望する; ㊟ 饑, 大腹, 嘔 [㊟] 嘴 *Mvyut*。
ghasvara ㊟ 大食する。
ghā, → gha I.
ghāṭalikā ㊟ [封泥(封)の一種]。
ghāṭā ㊟ 項(項), 項の鞅帶; 壺, 瓶; ㊟ 鼻頰 *Abh-vy*。
ghāṅṭika ㊟ 鈴を鳴らす者。
ghāta ㊟ (一°)を殺害する; ㊟ 能減, 能破 *Abh-vy*。

㊟ (一°)を以ての強打, ……に對する強打; 殺害; 掠奪, 傷害, 破壊; ㊟ 殺; 壞, 破壊 *Ast-pr., Bodh-c., Sāmkhy-k., Mvyut*。

ghātaka ㊟ (㊟ **-i**) 殺害する; 破壊する; ㊟ 殺, 壞, 害, 作害; 攻伐 *Mvyut*。㊟ 殺害者; ㊟ 殺者, 殺人 *Mvyut*。

ghātana ㊟ 殺害, 殺人; ㊟ 殺, 能害 *Abh-vy*。

ghātani ㊟ 棍棒(の一種)。

ghātaya ㊟ (㊟) (㊟) **ghātayati(-te)** 膺懲す; 殺す; 破壊す; 殺さしむ; ㊟ 殺害 *Lank.*

pra- ㊟ 斷其命根 *Divy*。

vi- 挫折せしむ; 苦しましむ; 妨ぐ; 遮る。

ghāta-sthāna ㊟ 死刑場。

-ghātika ㊟ ㊟ 侵損 *Sikṣ.*

ghātitva ㊟ 死刑。

ghātin ㊟ 殺害する, 殺人する; 破壊する; 危険なる; ㊟ 殺, 破, 滅, 除, 消, 毀, 壞, 殘害, 皆辱傷害 *Lal-v., Saddh-p, Gaṇḍ-vy., Daś-bh.* ㊟ 殺害者。

ghātuka ㊟ 殺害する, 殺人する。

ghātya (㊟) 殺さるべき, 破壊せらるべき。

ghātya-ghātaka-sambandha ㊟ ㊟ 所害能害相屬, 召害作害相連之縁 *Mvyut*。

ghārtika ㊟ 捏粉製食品(の一種)。

ghāsa ㊟ 食物; 糧秣; 牧草; ㊟ 草 *Bodh-c., 梵雜*。

ghāsa-kūṭa ㊟ 乾草の堆積。

ghāsi ㊟ 食物。

[**GHu**, 叫喚す, 鋭く叫ぶ]。

GHuṣ,

ava- (㊟) **avaghoṣita** 布團を附せる。

vy-ā- (㊟) **vyāghuṣya** 歸りて。㊟ **vyāghuṣita** 歸りたる。

ghuṇa ㊟ 蝕木蟲; ㊟ 蠹蟲, 食芥蟲 *Kāśy.*

ghuṇa-kiṭaka ㊟ [同上]。

ghuṇa-kṣata ㊟ 蟲喰ひたる。

ghuṇa-jarjara ㊟ [同上]。

ghuṇākṣara ㊟ 文字(の如く見ゆる材木の)蟲害の痕跡。

ghuṇākṣara-nyāyena ㊟ 全く偶然に, 幸運にも。

ghuṇākṣaravat ㊟ [同上]。

ghut-kāra ㊟ (梟の)叫聲。

ghut-kāravat ㊟ (一°)の鋭き叫聲に充てる。

ghumaghumāya (㊟) (㊟) **ghumaghumāyate** 唸る。

ghuraghurāya (㊟) (㊟) **ghuraghurāyate** 咽喉を鳴らす, 鼻を鳴らす。

ghuraghurā-rāva ㊟ (猿の)叫聲。

GHuṣ, I. ㊟ (㊟) **ghoṣati(-te)** 鳴り響く; 響き渡る; 宣言す; ㊟ 說, 宣說, 宣令, 號令 *Divy., Guhy-s.* ㊟ **ghuṣṭa** 鳴り響ける, 聲高き; 宣言せられたる。㊟ **ghoṣayati** 宣言す。

anu- 聲高に名を呼ぶ。

ava- 宣言す。㊟ **avaghuṣṭa** 公然と供へられたる; 召喚せられたる; 聲高に呼ばれたる; 叫聲又は騒音に充たされたる。

ā- 傾聴す; 宣言す。㊟ **āghoṣayati** 高聲に宣言す。㊟ ㊟ **āghoṣita** 高聲に宣言せられたる。

る。

ud- 音を立つ, 叫ぶ, 聲高に宣言す。〔使役〕 **udghoṣayati** 高聲に響かしむ; 宣言す; 〔漢譯〕 演説 *Divy. prod*(pra-ud)- 噪音にて充たす; 〔漢譯〕 説 *Rāstr.* 〔使役〕 **prodghoṣayati** 宣言す。

vi- 宣言す。

sam- 〔過受分〕 **samghuṣṭa** 鳴り響ける; 供へられたる。

ghuṣṭa 〔過受分〕 → GHuṣ.

ghuṣṭa-svara 〔形〕 高聲なる。

ghuṣṭāna 〔甲〕 招待して供せられたる食。

ghuṣṭa 〔甲〕 番紅花(紅).

ghūka 〔男〕 梟。

ghūt-kāra 〔男〕 鋭き叫聲; 喘ぐこと。

GHūrṇ, I. 〔他〕 〔自〕 **ghūrṇati(-te)** 動揺す; 揺れる, 轉がる, 震ふ。〔過受分〕 **ghūrṇita**。〔使役〕 **ghūrṇayati** 轉がす; 振動せしむ。

ava- 轉がる。

ā- 波動す; 轉がる。〔過受分〕 **āghūrṇita** 振れる, 轉がる。

vi- 轉がる。〔過受分〕 **vighūrṇita** 轉がれる, 動揺せる。〔使役〕 **vighūrṇayati** 動き回らしむ。

ghūrṇa 〔形〕 動揺する; 揺れる。

ghūrṇana 〔甲〕 動揺, 波動。

ghūrṇanā 〔女〕 [同上]。

ghūrṇikā 〔女〕 [人名]。

ghūrṇita 〔過受分〕 [GHūrṇ]。

ghūrṇyamāna 〔使役〕 〔受〕 〔現分〕 動く, 廻る。

GHṛ, III. 〔他〕 **jigharti** 灌ぐ。

abhi- 〔過受分〕 **abhighṛta** 灌がれたる, 滴下せられたる。〔使役〕 **abhighārayati** 滴らしむ, 灌ぐ。〔使役〕 〔過受分〕 **abhighārita** ……を灌がれたる。

praty-abhi- 〔使役〕 **pratyabhighārayati** 繰返して灌ぐ。

ā- 灌ぎかく; 擲つ; 〔漢譯〕 流 [〔自〕 **āgharate**] *Sikṣ.* 〔使役〕 **āghārayati** 灌ぐ。

pra- 流る, 滲み出づ; 〔漢譯〕 流, 出, 流出, 通徹而出 *Divy., Sikṣ.:* *svedaḥ pragharati* 汗流 *Divy. 57.*

vi- 〔過受分〕 **vighṛta** 灌ぎかけられたる, 滴れる。

ghṛṇa 〔男〕 熱; 熱情; 日光; 〔漢譯〕 [=ghṛṇā] 悲, 慈愍, 不忍之心 *Daś-bh., Lank.*

ghṛṇā 〔女〕 温情, 同情; 憐憫; 輕侮; 嫌厭; 〔漢譯〕 悲 *Vajr-s.*

ghṛṇā-cakṣus 〔形〕 情け深き眼の。

ghṛṇālu 〔形〕 同情ある。

ghṛṇāvat 〔形〕 嫌悪する。

ghṛṇi 〔男〕 熱; 日光; 光線; 晝。

ghṛṇitva 〔甲〕 同情; 輕侮。

ghṛṇin 〔形〕 粗野なる, 性急の; 温情の, 同情ある; 焦立てる, 不機嫌の; 〔漢譯〕 悲愍(一切) *Mañj-m.*

ghṛṇiman 〔男〕 熱。

ghṛṇivat 〔形〕 輝ける。

ghṛta 〔過受分〕 〔甲〕 (冷き) 澄める牛酪, 酥油; 脂肪(=肥沃); 水; 〔漢譯〕 酥, 酪, 酥油, 酪; 酥(海) *Saddh-p., Lank., Mañj-m., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ.,*

Dharm-s., Mvyut., 梵千., 梵雜.

ghṛta-kirti 〔女〕 酥油の記載。

ghṛta-kumbha 〔男〕 酥油の壺。

ghṛta-ghaṭa 〔男〕 [同上]; 〔漢譯〕 酥瓶, 酥甕 *Vijñ-v.*

ghṛta-cyutā 〔女〕 [河の名]。

ghṛta-duh 〔形〕 酥油を與ふる。

ghṛta-dhārā 〔女〕 酥油の流; [河の名]。

ghṛta-dhenu 〔女〕 乳牛の形をなせる牛酪。

ghṛta-pa 〔形〕 酥油のみを飲む, [聖仙の一種の稱]。

ghṛta-pakva 〔形〕 酥油を以て煮られたる。

ghṛta-padi 〔女〕 その足より酥油を滴らす者(*Idā*の稱)。

ghṛta-pāśu 〔男〕 犠牲獸の形をなせる牛酪。

ghṛta-pāvan 〔形〕 酥油を飲む。

ghṛta-pū 〔形〕 酥油を清澄ならしむる。

ghṛta-pūra 〔男〕 捏粉製の食品(の一種)。

ghṛta-pṛkta 〔形〕 酥油に満てる。

ghṛta-pṛṣṭha 〔形〕 酥油の(滴る)背を有する, その背の酥油にて輝ける (*Agni* 神とその馬)。〔男〕 火。

ghṛta-pratika 〔形〕 酥油にて輝ける顔を有する (*Agni* 神)。

ghṛta-pradipa 〔男〕 〔漢譯〕 酥燈 *Saddh-p.*

ghṛta-prayas 〔形〕 酥油を嗜好する。

ghṛta-prasatta 〔形〕 酥油にて慰められたる (*Agni* 神)。

ghṛta-prāśana 〔甲〕 酥油を飲むこと。

ghṛta-pri 〔形〕 酥油を賞味する (*Agni* 神)。

ghṛta-pruṣ 〔形〕 酥油を撒布する, 恩恵を注ぐ。

ghṛta-pluta 〔形〕 酥油を灌げる。

ghṛta-bhājana 〔形〕 酥油を容るゝに適せる。

ghṛta-maṇḍa 〔男〕 溶解せる酥油の浮滓(滓); 獸脂の最も脂肪多き部分。

ghṛtamāṇḍoda (°da-uda) 〔男〕 (溶解せる酥油の浮滓に似たる水ある), [*Mandara* 山中の湖の名]。

ghṛta-madhumaya 〔形〕 酥油と蜂蜜とより成る。

ghṛtamaya 〔形〕 (〔女〕 -i) 酥油にて製せる。

ghṛtam-inva 〔形〕 酥油を溶解する。

ghṛta-yājyā 〔女〕 酥油の供儀に際し誦せらるゝ頌。

ghṛta-yoni 〔形〕 酥油の中に住する或は生活する; 豊饒ならしむる雨又は幸福を産出する。

ghṛtavat 〔形〕 酥油に富む, 酥油を混ぜる或は塗られたる。

ghṛta-vatsa 〔男〕 犢の形をなせる牛酪。

ghṛta-varti 〔女〕 酥油を燃す燈心。

ghṛta-vṛddha 〔形〕 酥油にて喜ばされたる或は養はれたる (*Agni* 神)。

ghṛta-vrata 〔形〕 酥油のみにて生くる。

ghṛta-ścut 〔形〕 酥油を滴らす。

ghṛta-ścyut 〔形〕 [同上]。

ghṛta-śri 〔形〕 酥油を混ぜる, 酥油にて輝ける。

ghṛta-sad 〔形〕 酥油の中に住む。

ghṛta-stuti 〔女〕 [或る讃歌の名]。

ghṛta-stoka 〔男〕 酥油の滴。

ghṛta-stomiya 〔形〕 酥油の稱讃に関する。

ghṛta-stomya 〔形〕 [同上]。

ghṛta-snā 〔形〕 酥油を滴らす或は灌ぐ。

ghṛta-snu 〔形〕 酥油に浸されたる; = **ghṛta-pṛṣṭha**。

ghṛta-haviṣka 〔形〕 酥油の供物を伴ふ。

ghṛta-hasta 形 手に酥油を持てる。
ghṛta-homa 男 酥油を祭火中に灌ぐこと。
ghṛtākta 形 酥油を塗布せられたる。
ghṛtācala 男 山の形をなせる酥油。
ghṛtāci 形 女 酥油に富む。 女 酥油を汲む献供用の柄杓。
ghṛtānuṣikta 形 酥油を灌がれたる。
ghṛtānna 男 酥油を食とする者 (Mitra-Varuṇa 神, Agni 神)。
ghṛtābdhi 男 酥油の海。
ghṛtārcis 男 (酥油を燃せる)火。
ghṛtāsuti (°ta-ā°) 形 酥油の献供を受くる (Mitra-Varuṇa 神, Viṣṇu 神, Indra-Viṣṇu 神)。
ghṛtāhavana (°ta-āh°) 形 [同上 (Agni 神)].
ghṛtāhuta (°ta-āh°) 形 酥油を獻ぜらるゝ (Agni 神)。
ghṛtāhuti (°ta-āh°) 女 酥油の献供。
ghṛtin 形 酥油を含める。
ghṛteṣṭakā (°ta-iṣ°) 女 供養用の煉瓦(の一種)。
ghṛtoda (°ta-uda) 男 [海の名]。
ghṛtaudana (°ta-od°) 中 酥油を灌げる飯。
ghṛtya 形 酥油より成る。
GHṛṣ, I. 他 **gharṣati** 摩擦す, 磨く; 挽く; 自 **gharṣate** 磨滅す; 洗, 磨瑩 *Sikṣ.* 受 **ghṛṣyate** 挽かる, 磨滅せらる。 過受分 **ghṛṣṭa** 搗き碎かれたる; 搔かれたる, 痛き。 使役 **gharṣayati** 摩擦す, 挽く。
ava- 擦り耗る, 磨滅す。
ud- [同上]; (鐘を)打つ。 過受分 **udghṛṣṭa** 摩擦せられたる; 挽かれたる; 打たれたる。
sam- 磨滅す; (saha)と競ふ。
ghṛṣu 形 繁茂せる, 野生の。
ghṛṣṭa 過受分 → GHṛṣ; 接 *Lal-v.*
ghṛṣṭa-prṣṭha 形 衰へたる。
ghṛṣvi 形 = ghṛṣu。
ghed (gha-id), → gha I.
ghem (gha-im), → gha I.
ghoṅga 男 [獸の一種]。
ghoṭa 男 馬。
ghoṭaka 男 [同上]。
ghoṭaka-mṛga 男 野馬, 生馬 *Mvyut.*
ghoṇā 女 鼻; (獸の)鼻口部; 嘴。
ghora 形 [GHu] 畏怖すべき, 崇高なる; 恐怖すべき, (苦痛等の)激しき; 害; 畏; 惡, 醜惡 *Saddh-p., Mañj-m., Sikṣ., Sāmkhy-k.* 中 崇高; 戰慄, 恐怖; 魔法; 呪文; [神祕的の武器の一種]。
ghoraka 男 覆 [民族の名]。
ghora-kāla 男 惡世 *Sikṣ.*
ghora-cakṣas 形 恐ろしき外見の, 恐ろしき形相の。
ghoratara 比 極めて怖しき; 驚怖 *Mañj-m.*
ghoratā 女 畏怖; 物凄きこと。
ghoratva 中 [同上]。
ghora-darśana 形 = ghora-cakṣas。
ghora-rūpa 形 恐ろしき姿の。
ghora-vāluka 中 (?) [或る地獄の名]。
ghora-viṣa 形 大毒 *Sikṣ.*
ghorākāra (°ra-āk°) 形 = ghora-rūpa。

ghorākṛti (°ra-āk°) 形 [同上]。
ghorātighora 形 極度に畏怖すべき, [地獄の稱]。
ghorāśaya (°ra-āś°) 形 (因)に對して殘忍なる。
ghola 男 乳脂を混ぜる凝乳; 酪漿 *Mvyut.*
gholaya 名 動 他 **gholayati** 攪拌す, 捏る。
ghoṣa 男 喧噪, 騒音; 雷音; 叫聲, 鬨; (波の)怒號; (動物の)鳴聲, 吠聲; 音, 響; 噂; 宣言; 牧人の屯處; 牧人; 音, 聲, 響, 音聲, 音響, 妙音, 妙聲; 吼; 語 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Lanḥ., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ., Mvyut.*; 樂 *Sūtr.*; 多牛處, 曠野放牧邊住 *Divy. 427.:* parato ~ anvayaḥ 別語中出, 音類從他 *Mvyut.*
ghoṣaka 男 呼出役, 鳴鐘者; 妙音 *Abh-vy.*
ghoṣa-kṛt 男 輕音を發する者。
ghoṣaṇa 形 響く。 中 宣言。 男 告, 宣令 *Saddh-p.*
ghoṣaṇā 女 宣言。
ghoṣaṇiya 未受分 高らかに宣言せらるべき。
ghoṣa-mati 男 [王子の名] 響意 *Saddh-p.*
ghoṣa-yātrā 女 牧夫の屯處に行く行列。
ghoṣavat 形 響く, 怒號する; 有聲の(因)。
ghoṣavati 女 琵琶(の一種); 妙音 *Sikṣ.*
ghoṣa-vṛddha 男 牧人の屯處の年長者。
ghoṣācāra (°ṣa-āc°) 形 聽法(?) *Sūtr.*
ghoṣānuga 形 隨聲 *Sukh-vy. I.*
ghoṣāpayitavat 使役 過能分 [GHuṣ] 宣令 *Saddh-p.*
ghoṣi 形 響く, 騒しき。
ghoṣiṇi 女 覆 惡鬼(の一種)。
ghoṣita 男 [人名] (*Divy.*)。
ghoṣin 形 = ghoṣi。
ghoṣila 男 [長者の名] 妙音, 美音 *Divy.*, 立應; 瞿師羅 立應。
ghoṣodāhāra (°ṣa-ud°) 男 言音 *Daś-bh.*
ghoṣṭṛ 男 宣言者。
ghaura 男 父系 *Ghora* の後裔。
ghno 中 (一°)で打つ; 殺害する; 破壊する。 除去する; 倍加せられたる; 斷, 背 *Bodh-c., Abh-vy.*
ghnat, [Han の 現分]。
-ghni, [-han の 女]。
ghraṃs 男 太陽熱, 日光。
ghraṃsa 男 [同上]。
GHrā, I. 他 **jighrati** [義詩] は又た 自 **jighrate** 及び II. 他 **ghrāti** 嗅ぐ; 嗅ぎつく; 知覺す; (因)に接吻す; 殺す; 嗅, 嗅; 聞, 聞知 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ., Abh-vy.:* gandham ghrāsyati 聞香 *Aṣṭ-pr. 259.;* gandham ghrātvā (不変分) 聞氣 *Abh-vy. 279.;* vividhāms ca gandhān bahu ghrāyate 'sau 種種悉聞知 *Saddh-p. 362.* 過受分 **ghrāta** 嗅がれたる; 嗅ぎたる; (一°)にのみ關心を有する; 感受せる。 使役 **ghrāpayati** (業)をして(因)を嗅がしむ。
abhi- 嗅ぎつく, 嗅ぐ; 接吻す。
ava- 嗅ぐ; (因)に接吻す。 過受分 **avaghrāta** 接吻せられたる。 使役 **avaghrāpayati** ……を嗅

がしむ。
 ā- 嗅ぐ; 接吻す。〔通受分〕 āghrāta 嗅がれたる。
 〔使役〕 āghrāpayati 嗅がしむ。
 upā(upa-ā)- [同上]。
 sam-ā- 嗅ぐ; 嗅ぎつく。
 ud- 〔使役〕 嗅 Prāt-m.
 upa- 嗅ぐ; 嗅ぎつく; 接吻す。〔使役〕 upaghrā-
 payati 嗅がしむ。
 ghrāṇa 〔男〕 〔中〕 嗅ぐこと; 臭氣; 芳香。〔中〕 鼻; (獸
 の)鼻口部; 〔使役〕 鼻; 嗅 Aṣṭ-pr., Laṅk., Madhy-v.,
 Bodh-bh., Abh-vy. 〔男〕 [人名]。
 ghrāṇa-cakṣus 〔形〕 (眼の代りに鼻を用ゐる), 盲目の。
 ghrāṇa-ja 〔形〕 鼻にて生ぜる。
 ghrāṇa-tarpaṇa 〔中〕 香氣。

ghrāṇa-dhātu 〔男〕 〔使役〕 鼻界 Mvyut.
 ghrāṇa-putakā 〔女〕 鼻翼。
 ghrāṇa-vijñāna 〔中〕 〔使役〕 鼻識 Mvyut.
 ghrāṇavijñāna-dhātu 〔男〕 〔使役〕 鼻識界 Mvyut.
 ghrāṇa-viśodhani 〔女〕 〔使役〕 淨鼻 Śikṣ.
 ghrāṇā 〔女〕 鼻; (獸の)鼻口部。
 ghrāṇāyatana (°na-āy°) 〔中〕 〔使役〕 鼻處, 鼻入 Mvyut.
 ghrāṇendriya (°na-in°) 〔中〕 嗅覺器官; 〔使役〕 鼻根
 Saddh-p, Suv-pr., Mvyut.
 ghrāta 〔通受分〕 → Ghrā; 〔使役〕 嗅, 嗅 Divy.
 ghrātavya 〔未受分〕 嗅がるべき。〔中〕 芳香。
 ghrāti 〔女〕 嗅ぐこと; 嗅覺。
 ghrātṛ 〔男〕 嗅ぐ者。
 ghreya 〔未受分〕 嗅がるべき。〔中〕 臭氣, 香氣。

N

ña-kāra 〔男〕 ña の字又は音; 〔使役〕 (音寫) 哦字 [五十字
 門の一]: ~e 'ṅga-viśuddhi-śabdaḥ (→ a-kāra).

唱哦字時出銷滅衆生十二支聲 Lal-v. 127.

C

ca 〔附帶〕 〔換詞〕 [Gk. τε, Lat. que] 及び; また; ……す
 ら, 正に; 然しながら, 尙ほ; 若し [=ced]; 〔使役〕
 又, 亦; 而; 與, 及與, 及, 及以; 或, 或時; 一……
 二……; 雖(暫); 如是則 Bodh-bh., Madhy-v., Mvyut.
 等.: upapannas ~ āsu parimucyate apāyebhyaḥ
 雖暫生彼速能解脫 Bodh-bh. 10.; bahutvam ~
 ātmanām bhavet 如是則神多 Madhy-v. 197.
 ~……~, ……も……も; ……と同様に; ……
 するや否や; ……なりと雖も然も; 〔使役〕 若……若
 ……一者……二者…… Bodh-bh.; [〔中〕 と俱に] ……
 ……も無く……も亦た無し。
 ~……na ~ (又は tu), ……なりと雖も然も……
 ならず。
 na ~……~, ……ならずと雖も然も。
 ~……~……~ 〔使役〕 若……若……若 Bodh-
 bh.
 [vā と俱に] 孰れか, 或は。
 ~api 〔使役〕 復, 皆共 Bodh-bh. → api.
 ~……~ punar…… 〔使役〕 一者……二者……
 Bodh-bh.
 ~ eva ~api, 且つ亦。
 atha ~ 〔使役〕 亦 Abh-vy.
 anyac ~, 更に, 同様に [類似の記述を附加して]。
 api ~, [同上]。
 kim ~, [同上]。
 tathā ~, [同上]。
 [ca は疑問詞に不定の意味を與ふ。(各條下参照のこと)]。
 co (=ca-u) 〔使役〕 及 Madhy-v.

Cak, 震ふ [〔通受分〕 のみ]。〔通受分〕 cakita 震へたる;
 嚇されたる, 驚かしめられたる; 脅迫せられたる。
 cakitam 〔中〕 驚きて, 恐慌を來して。
 ud- 〔通受分〕 uccakita 驚きて見上げたる。
 pra- 〔通受分〕 pracakita 震ひたる; 嚇されたる,
 驚かしめられたる。
 cakaṭi-taṇḍula 〔男〕 〔使役〕 赤米 Divy.
 cakaṭy-odana 〔中〕 悪しき飯 〔使役〕 糲食, 赤飯 Divy.
 ca-kāra 〔男〕 [接續詞 ca]; ca の字又は音; 〔使役〕 (音寫)
 者字 [四十二字門の一]: ~m parikirtayataḥ sa-
 manta-cakra-vibhakti-cchedanam nāma prajñā-
 pāramitā-mukham avakrāntam 唱者字時能甚深入
 般若波羅蜜門名普輪能斷差別色 Gaṇḍ-vy. 448.; [五
 十字門の一]: ~e caṭur-ārya-satya-śabdaḥ (→
 a-kāra) 唱者字時出觀四諦聲 Lal-v. 127.
 cakāśat 〔現分〕 [Kās] 輝く。
 Cakās, II. 〔他〕 cakāsti 輝く。〔使役〕 cakāsayati 輝
 かしむ。
 cakita 〔通受分〕 → Cak. ~m 〔中〕 → Cak. 〔中〕
 戰慄, 驚愕。
 cakita-gati 〔形〕 小膽に或は急ぎて歩む (Buddh-c).
 cakora 〔男〕 鷓鴣(の一種) [學名, Perdix rufa. この
 鳥は月光を食すと想像せらるが故に, 月の如く美し
 き顔を凝視する眼を cakora と稱す。この鳥の眼は
 毒を混じたる食物を見て赤色に變ずと想像せらる];
 〔使役〕 (音寫) 雜固刺(鳥) Mvyut.
 cakoraka 〔男〕 一° [同上]。〔中〕 〔使役〕 [比丘用物の一
 種] 燈臺連蓋 Mvyut.
 cakora-dṛś 〔形〕 眼の美しき(少女)。

cakora-netra 形 [同上].
cakora-vrata 甲 Cakora 鳥の態度, (月の如き顔の美に酔へる)恍惚たる凝視.
cakorākṣa 形 (女 -i) = cakora-dṛś.
cakorāya 名動 自 **cakorāyate** Cakora 鳥の如く振舞ふ.
cakkalaka 甲 意味の上より連結する四の śloka.
cakra 甲 [因は時として男] [走る者. Car の 漢語] 車輪; 陶工の轆轤; 圓盤(特に Viṣṇu 神の); 搾油器; 圈; (鳥の)空中に圓を描くこと; (神祕の)圓き圖表; 多數, 大勢, 群; 軍隊, 隊; 領域(要隘); 支配(の輪); 漢語 輪 *Saddh-p., Lan̄k., Abh-vy., Sāmkhy-k., Mvyut.*, 梵千, 梵雜. 等; 軸 *Mvyut.*; 膈(?) 梵千.: catvāri deva-manusyānām ~ āni 人天四輪 [1. pratirūpa-deśa-vāṣaḥ 生中國, 2. satpuruṣāpāśrayam 近善士, 3. ātmanaḥ samyak-praṇidhānam 自正願, 4. pūrve ca kṛtapuṇyatā 宿作福] *Mvyut.* 男 赤き鷲鳥; [諸人の名]; [山の名].
cakra-goptr 男 兩 車輪番(戦車の側を走る人).
cakra-cara 男 複 [神仙の分類].
cakra-caraṇatā 女 漢語 [三十二相の一] 千輻輪相, 足下千輻輪相 *Bodh-bh.*
cakra-tuṇḍa 男 [魚の一種].
cakra-deva 男 [或る戦士の名].
cakra-dvāra 男 [山の名].
cakra-dhara 男 車輪の保持者; 君主, 支配者; 圓盤を振ふ者, [*Viṣṇu* 神の稱]; 蛇; [地名].
cakra-nābhi 女 車輪の轂.
cakra-nāman 男 = cakra-vāka.
cakra-nāyaka 男 隊の指揮者.
cakra-patha 男 車(の通る)路.
cakra-pāṇi 男 [(手に圓盤を持てる者), *Viṣṇu* 神の稱].
cakra-pāṇin 男 [同上].
cakra-pura 甲 [町の名].
cakra-pravartana 甲 漢語 轉(法)輪 *Saddh-p.*
cakra-pravṛtti 女 漢語 轉(法)輪 *Gaṇḍ-vy.*
cakra-bandha 男 車輪, 車輪を支ふるもの; 圖表に配列せられたる詩句.
cakra-bhaṅga 男 車輪の破壊.
cakra-bhānu 男 [或る婆羅門の名].
cakra-bhṛt 男 [(圓盤を持てる者), *Viṣṇu* 神の稱].
cakra-bheda 男 漢語 破輪, 破(法)輪 *Abh-vy.*
cakrabheda-vastu 甲 漢語 破論事, 不順法分 *Mvyut.*
cakra-bhrama 男 陶工の轆轤の回轉. 男 車論の如く回轉する.
cakra-bhramaṇa 男 [山の名].
cakra-bhrami 女 車輪の回轉, 水車石; 漢語 旋(火)輪 *Lal-v.*
cakra-bhrānti 女 車輪の回轉.
cakra-maṭha 男 [或る僧學院の名].
cakra-mardikā 女 [王女の名].
cakram-āsaja 形 (車)輪を停むる.
cakra-melaka, [地名].
cakra-mauli 男 [或る Rākṣasa の名].
cakra-rakṣa 男 兩 = cakra-goptr.

cakra-ratna 甲 漢語 [七寶の一] 輪寶, (金)輪寶, (大)輪寶 *Divy., Gaṇḍ-vy., Dharm-s., Mvyut.*
cakravat 形 車輪を有する. 男 油を搾る人, 搾油器; [西方の山の名].
cakravat-gati 形 車輪の如く回轉する.
cakra-vara 甲 漢語 無上輪 *Saddh-p.*
cakra-varti-guṇa 男 漢語 轉輪功德, 輪王功德 *Lan̄k.*
cakra-vartitā 女 王, 主權者, 支配; 世界の主權者たること.
cakra-vartitva 甲 世界の主權者たること; 漢語 轉輪王, 轉輪聖王, 轉輪聖帝, 轉輪王身 *Sukh-vy. I., Bodh-bh., Śikṣ.*
cakra-vartin 形 車輪を回轉する. 男 主權の車輪を操る人, 世界の主權者; (一°)の支配者; (圖, 一°)の主; 漢語 輪; 轉輪; 輪王, 轉輪王, 轉輪聖王, 轉輪聖帝王 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Suv-pr., Lan̄k., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy., Madhy-vibh., Dharm-s.:* rājā ~ i 轉輪聖王 *Aṣṭ-pr. 508.*; 音寫 遮迦羅越, 斫迦羅伐辣底 *Kāśy., 玄應.*
cakravarti-nṛpa 男 漢語 轉輪王 *Lan̄k.*
cakravarti-putra 男 漢語 轉輪王子, 轉輪王太子, 轉輪聖王太子 *Lan̄k.*
cakravarti-rājya 甲 漢語 轉輪王位, 轉輪聖王 *Lal-v., Śikṣ.*
cakravarti-rūpa 甲 漢語 轉輪聖王身 *Saddh-p.*
cakravartiśvara (°ti-ś°) 男 漢語 轉輪王 *Lal-v.*
cakra-varman 男 [王の名].
cakra-vāka 男 赤き鷲鳥 [夫婦愛の典型として考へらる. この鳥の雄雌は夜を別れて過しその間悲しく鳴き叫ぶと云はる. 詩人はその別離の悲痛を屢々引用す]; 漢語 鷲鷲 *Lal-v., Rāṣṭr., Mvyut., 梵雜.*; 鸚鵡 *Vajr-s.*
cakra-vākamaya 形 Cakravāka 鳥より成る.
cakra-vākin 形 Cakravāka 鳥に充てる.
cakra-vāki 女 cakra-vāka の雌鳥.
cakra-vāḍa 男 = cakra-vāla (男); 漢語 [山の名] 輪圍, 輪圍山, 輪山, 鐵圍, 鐵圍山, 鐵輪圍, 金剛山, 金剛輪 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sam-r., Lan̄k., Abh-k., Śikṣ., Dharm-s., Mvyut.*; 音寫 斫迦羅, 斫迦婆羅 *Sam-r., Mvyut.:* dvau ~ au 二鐵輪圍 [1. ~ 小鐵輪圍, 2. mahā ~ 大鐵輪圍] *Dharm-s.*
cakra-vāta 男 旋風.
cakra-vāla 甲 環, 圈. 男 甲 群, 多數; 集り. 男 (圓盤と考へらるゝ世界を) 圍繞する (傳說的) 山脈 → cakra-vāḍa.
cakra-vimala 甲 漢語 [植物の名] 無垢輪 *Mvyut.*
cakra-vṛtta 形 陶工の轆轤の上にて廻轉せられたる.
cakra-vṛddhi 女 復利; 運貨.
cakra-vyūha 男 輪形陣; [或る Kimnara 王の名] (*Kūr-vy.*).
cakra-śata-pattra 甲 漢語 [植物の名] 百瓣輪 *Mvyut.*
cakra-samvara-bali-vidhi 男 [佛典の名].
cakra-sāhvaya 男 = cakra-vāka.
cakra-senā 女 [王女の名].
cakra-hasta 男 = cakra-pāṇi.

cakrākṣara ㊦ 漢譯 輪字 *Gaṇḍ-vy.*
cakrāṅka ㊦ 漢譯 [三十二相の一] 旋輪, 輻輪相 *Buddh-c., Śikṣ.*
cakrāṅka-pādatā ㊦ 漢譯 [三十二相の一] 足下輪相, 足下千輻輪相 *Bodh-bh.*
cakrāṅkita-pāṇi-pāda-talatā ㊦ 手の掌及び足の裏に車輪の標を有すること; 漢譯 [三十二相の一] 足下千輻輪文相 *Dharm-s.*
cakrāṅkita-pāda ㊦ 足に車輪の標を有する (*Buddh-c.*).
cakrāṅkita-hasta-pāda ㊦ 漢譯 [三十二相の一] 手足掌中(金剛)輪相, 手足掌中有(金剛)輪 *Gaṇḍ-vy.*
cakrāṅkita-hasta-pāda-tala ㊦ 漢譯 [三十二相の一] 手掌足下具輪輻相 *Mvyut.*
cakrāṅkitā ㊦ [植物の名].
cakrāṅga ㊦ 鷲鳥; = *cakra-vāka.*
cakrāṅganā ㊦ *Cakravāka* の雌鳥.
cakrāṅga, [Kṛ の 三過分 自].
cakrāṅti (°ra-āṅti) ㊦ 漢譯 [民族の名].
cakrāyudha (°ra-āy°) ㊦ [*Viṣṇu* 神又は *Kṛṣṇa* 神の稱].
cakrāvali (°ra-āv°) ㊦ 隊, 多數.
cakrāśman ㊦ 投石器.
cakrāhva (°ra-āh°) ㊦ = *cakra-vāka.*
cakrāhvaya (°ra-āh°) ㊦ [同上].
cakri ㊦ 作る, (器)を産する.
cakrikā ㊦ 隊; 多數; 陰謀; 術策; 漢譯 巧, 奸相合, 雙插關 *Mvyut.*
cakrin ㊦ 車輪を有する; 車を驅る. ㊦ [(圓盤を持つ者), *Kṛṣṇa* 神の稱]; 世界の支配者, 王; 榨油者; 蛇; 漢譯 一°輪 *Abh-k.*
cakriya ㊦ 車輪又は車に屬する; 車を驅る; 旅行する.
cakri ㊦ 車輪.
cakri-Kṛ, 圓形を作る; (弓を)引き絞る.
cakri-kṛta ㊦ 漢譯 周匝如輪 *Abh-vy.*
cakri-BHū, (弓が)引き絞らる.
cakrivat ㊦ 車輪を有する. ㊦ 馭者; 車; 驢馬.
cakrus, cakre 等, [Kṛ 1. の 三過分].
cakreśa (°ra-iśa) ㊦ 支配者, 世界の支配者.
cakreśatā (°ra-iś°) ㊦ 支配.
cakreśvara (°ra-iś°) ㊦ [*Viṣṇu* 神又は *Bhairava* 神の稱]; 支配者.
cakreśvaratva (°ra-iś°) ㊦ 支配者たること.
Cakṣ, II. [ca-k(ā)ś] ㊦ **caṣṭe** [漢譯 は又た ㊦ **caṣṭi**] 現はる; 見る, 注目す, 凝視す; 告ぐ, 告知す, 語る, 言ふ; (器)を(器)なりと認む.
abhi- 凝視す, 現る; 檢閲す; 親切に顧慮す; 呼びかく, 呼ぶ.
ava- 見下す, (器)を輕蔑す; 視る.
ā- 眺む; 檢閲す; 宣言す, 提出す; 語る; (器)に關して命ず或は言ふ; 話しかく; 述ぶ; 知らしむ, 指示す, 意味す; 名づく, ……と稱す; 漢譯 說, 言, 說言, 謂言, 宣說, 演說; 報 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Daś-bh., Rāstr., Laṅk., Abh-vy., Mvyut.*
abhy-ā- 眺む; 話す; 漢譯 謗 *Vajr-pr.*

praty-ā- 謝絶す; 撃退す; 反駁す; (器)に答ふ; 漢譯 捨 *Abh-vy.*
vy-ā- 誦誦す; 説明す, 明かにす; 漢譯 說 *Abh-vy.*
sam-ā- 詳説す, 報ず; 宣言す.
pari- 看過す, 無視す; 拒む; 禁ず; 名づく; 有罪を宣す; 述ぶ, 語る; 話しかく, 答ふ.
pra- 語る; 宣言す; 見做す, 想像す; 名づく, ……と稱す. 漢譯 **pracakṣayati** 輝かしむ.
prati- 見る, 知覺す; 期待す; 見さしむ, 現れしむ, 示す.
vi- 現はる, 輝く; 知覺す, 視る, 注視す; 示す, 告知す, 語る. 漢譯 **vicakṣayati** 明瞭に見さしむ, 明瞭にす; 宣言す, 語る.
sam- 視る, 注視す; 考ふ, 反省す; 詳しく報ず; 呼ぶ, 名づく; 算ふ.
cakṣaṇa ㊦ 出現, 光景.
cakṣaṇi ㊦ 照明者.
cakṣan ㊦ 眼.
cakṣas ㊦ 光輝, 光明; 見ること, 見らるゝこと [漢譯 **cakṣase** = 不定]; 眼, 視覺, 瞥見.
cakṣu ㊦ 眼.
cakṣuḥ-pariśuddhi ㊦ 漢譯 清淨眼, 明淨藥 *Gaṇḍ-vy.*
cakṣu-piḍana ㊦ 眼に苦痛を生ぜしむる.
cakṣu-bhūta ㊦ 漢譯 作眼目 *Saddh-p.*
cakṣur-apeta ㊦ 眼を失へる, 盲目の.
cakṣur-ādīndriya ㊦ 漢譯 六根, 六情 *Madhy-v.*
cakṣur-āyatana ㊦ 漢譯 眼處, 眼入 *Mvyut.*
cakṣur-indriya ㊦ 視覺器官; 漢譯 眼根 *Suv-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
cakṣur-utpātana ㊦ 漢譯 挑雙目, 挑其目 *Gaṇḍ-vy.*
cakṣu-roga ㊦ 漢譯 盲 *Lal-v.*
cakṣur-dhātu ㊦ 漢譯 眼界 *Mvyut.*
cakṣur-bhūta ㊦ 漢譯 眼目, 眞實眼 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
cakṣur-bhṛt ㊦ 視力を増進する.
cakṣur-mantra ㊦ 眼を以て魅惑する.
cakṣur-mala ㊦ 眇(眇); 漢譯 眼眇 *Mvyut.*
cakṣur-muṣ ㊦ 盲目にする.
cakṣur-loka ㊦ 眼を以て見る.
cakṣur-vikala ㊦ 漢譯 盲 *Lal-v.*
cakṣur-vijñāna ㊦ 漢譯 眼識 - *Laṅk., Bodh-bh., Mvyut.*
cakṣurvijñāna-dhātu ㊦ 漢譯 眼識界 *Madhy-vibh., Mvyut.*
cakṣur-viṣaya ㊦ 視域, 視界.
cakṣur-han ㊦ 一瞥を以て殺す.
cakṣu-viśodhana ㊦ 漢譯 淨眼 *Śikṣ.*
cakṣuḥ-śravas ㊦ (眼を耳に代用する)蛇.
cakṣuḥ-śruti ㊦ [同上].
cakṣuṣṭva ㊦ 眼目たること.
cakṣuṣ-pati ㊦ (一切の)眼の王.
cakṣuṣ-patha ㊦ 視力の及ぶ範圍, 視界; 漢譯 眼境界 *Divy.*
cakṣuṣ-pā ㊦ 視力を保護する.
cakṣuṣ-pṛiti ㊦ 眼の悦樂.
cakṣuṣmat ㊦ 兩眼又は視力を有する, 見る; 眼を代

表する; 〔漢〕淨眼, 明眼人 *Bodh-bh.*
cakṣuṣmati 〔女〕〔漢〕具眼母 *Mvyut.*
cakṣuṣmattā 〔女〕視力.
cakṣuṣmattva 〔中〕[同上].
cakṣuṣya 〔形〕眼に相應はしき或は眼を悦ばしむる; 愛らしき, 美しき; (因)の眼前に在る; (因)にとりて親愛なる; 〔漢〕益眼根 *Divy.*
cakṣus 〔形〕見る. 〔中〕眼; 視界; 視力; 瞥見; 光, 光明; 〔漢〕視; 眼, 目, 眼目 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k., Mvyut.*, 梵千: dharmeṣu ~ r viśuddham 法眼淨 *Sam-r. 6*; pañca ~ 五眼 *Aṣṭ-pr. 379*; 五眼 [1. māṃsa ~ 肉眼, 2. divyam ~ 天眼, 3. prajñā ~ 慧眼, 4. dharma ~ 法眼, 5. buddha ~ 佛眼] *Vajr-pr. 38.*
cakṣu-sameta 〔形〕〔漢〕有目者 *Sikṣ.*
cakṣuḥ-saṃsparśa 〔男〕〔漢〕眼觸 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
cakṣuḥsaṃsparśa-ja 〔形〕〔漢〕眼觸所生 *Bodh-bh.*: ~ āyām vedanāyām 眼觸所生(諸)受 *Aṣṭ-pr. 140.*
cakṣu-hata 〔形〕〔漢〕盲冥, (群)盲 *Sikṣ.*
cakṣū-rāga 〔男〕眼の悦樂.
cakṣū-rūpa 〔中〕〔漢〕眼色 *Lank.*
cakṣū-roga 〔男〕眼病; 〔漢〕眼病 *Aṣṭ-pr.*
caṅkuṇa 〔男〕[人名].
caṅkrama 〔男〕[Kram] 歩行, 逍遙, 散歩 (*Divy., Lal-v.*); 歩行の場處 (*Divy., Kār-vy.*); 〔漢〕行, 經行; 經行所, 經行處, 經行地, 經行之處 *Divy., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Bodh-bh.*
caṅkrama-koṭi 〔女〕〔漢〕經行地側, 經行林側 *Gaṇḍ-vy.*
caṅkramaṇa 〔形〕歩み回る. 〔中〕歩行; 歩行の場處 (*Kār-vy.*); 〔漢〕遊處, 經行處 *Mvyut.*
caṅkrama-sthāna 〔中〕〔漢〕經行處 *Saddh-p.*
caṅkramā 〔女〕=caṅkrama.
caṅkramābhīrūḍha 〔形〕〔漢〕精進經行 *Saddh-p.*
caṅkramita 〔過受分〕逍遙する; 〔漢〕經行 *Saddh-p.* 〔中〕散歩.
caṅkramya-yukta 〔形〕〔漢〕經行 *Saddh-p.*
caṅga 〔形〕(一°)に通曉する, ……に對し非常に氣むづかしき. 〔男〕[人名].
caṅgatā 〔女〕[同上(形) 抽].
caṅgerika 〔中〕籠.
Caṅc, I. 〔他〕**caṅcati** 跳ぶ, 躍る, 舞踏す; 震ふ, 揺れる, 動揺す.
caṅca 〔男〕籠; 〔漢〕小篋, 篋子, 合子 *Abh-vy., Mvyut.*; 〔音〕旃遮 *Abh-vy.*
caṅcat-puta 〔男〕[音樂の拍子の一種].
caṅcarin 〔男〕蜜蜂.
caṅcarika 〔男〕[同上].
caṅcala 〔形〕彼方此方に動く, 動揺する, 不安定なる, 震へる; 浮薄なる; 〔漢〕動亂, 躁動, 躁擾, 輕舉, 輕轉, 馳騁, 不定 *Lal-v., Suv-pr., Sikṣ., Mvyut.*
caṅcalatā 〔女〕[同上 抽]; 〔漢〕搖, 轉 *Sikṣ.*
caṅcalatva 〔中〕[同上].
caṅcalā 〔女〕電光.
caṅcalita 〔過受分〕震はしめられたる.

caṅcā 〔女〕籠細工.
caṅcā-puruṣa 〔男〕藁人形, 案山子.
caṅcā-māṇavikā 〔女〕〔漢〕旃遮婆羅門女 *Lank.*; 〔音〕旃遮摩納, 旃遮摩那毗 *Lank.*
caṅcu 〔形〕(一°)の故に知られたる或は有名なる, ……に通曉せる. 〔男〕[人名]. 〔女〕[又た-ū] 嘴, 嘴状のもの.
caṅcukā 〔女〕〔漢〕嘴 *Mvyut.*
caṅcutā 〔女〕巧妙; (一°)にて有名なること.
caṅcutva 〔中〕[同上].
caṅcu-puta 〔中〕嘴の凹處; 鳥の嘴の閉ぢられたる状態.
caṅcu-putaka 〔中〕[同上].
caṅcu-puti 〔女〕[同上].
caṅcura 〔形〕才智ある, 活動的の, ……に通曉せる.
caṅcū 〔女〕=caṅcu (女).
caṅcū-puta 〔中〕=caṅcu-puta.
Caṭ, I. 〔他〕**caṭati** 生ず, 起る; (因)に入る或は赴く; (因)に懸る. 〔過受分〕**caṭita** (一°)より垂れたる; 壞廢せる(建物) (*Kār-vy.*).
ud- 去る. 〔漢〕**uccāṭayati** 逐ひ出す, 排斥す.
caṭaka 〔男〕雀; [或る詩人の名]; 〔漢〕雀 *Abh-vy., Mvyut.*, 梵雜.
caṭakā 〔女〕雌雀.
caṭacaṭ 〔動〕〔他〕**caṭacaṭati** パチパチと音す.
caṭacaṭāya 〔動〕〔自〕**caṭacaṭāyate** [同上].
caṭacaṭā-śabda 〔男〕[パチパチ, カチカチ等の〔漢〕音].
caṭat-kṛti 〔女〕パチパチと音すること.
caṭita 〔過受分〕→ Caṭ.
caṭitaka 〔中〕裂け目, 罅(き); 〔漢〕彩色脱落 *Divy. 22.*
caṭita-sphuṭitaka 〔男〕〔漢〕破壞 *Divy. 22.*
caṭu 〔男〕(?) 阿諛; (鳥の)轉聲.
caṭuka, 液體の容器.
caṭula 〔形〕震ふ, 戰慄する; 不安定の; 無常なる; 鄭重なる, 禮儀正しき. 〔中〕〔漢〕慙慙なること; 阿諛の言.
caṭulaya 〔名動〕〔他〕**caṭulayati** 彼方此方へ動く.
caṭulāya 〔名動〕〔自〕**caṭulāyate** 恭しく歩む.
caṭūpamā 〔女〕御世辭的の譬喩.
caṇa 〔形〕(一°)の故に知らるゝ或は有名なる. 〔男〕豌豆(の一種).
caṇaka 〔男〕[同上(男)]; 〔漢〕大荳 *Mvyut.*; 〔音〕左拏迦 *Guhy-s.*
caṇatva 〔中〕[caṇa (形)の 抽].
caṇḍa 〔形〕(女 -ā, -i) 燃ゆる; 激しき; 性急の; 激し易き, 憤激せる, 激怒せる, 悍猛なる; 殘酷なる; 〔漢〕盛, 炎盛; 暴, 惡, 暴惡, 懷暴惡, 深怒, 暴戾可畏 *Divy., Lal-v., Sikṣ., Mvyut.*; 〔音〕贊拏 *Guhy-s.* ~ m 〔中〕激しく, 激怒して.
caṇḍa-kara 〔男〕(熱き光線を有する), 太陽.
caṇḍakarāya 〔名動〕〔自〕**caṇḍakarāyate** 太陽の如く現はる.
caṇḍa-karman 〔男〕[或る(殘忍なる) Rākṣasa の名].
caṇḍa-kiraṇa 〔男〕=caṇḍa-kara.
caṇḍa-ketu 〔男〕[人名].
caṇḍa-kausika 〔男〕[Kakṣivat の子の名]. 〔中〕[或る

戯曲の題名].

caṇḍa-girika 男 [漢語] [人名] 可畏山; (音寫) 惡耆黎 *Divy.*; (音寫) 旃陀耆利柯 *Divy.*

caṇḍa-grāhavat 形 孿猛なる鱗多き(河).

caṇḍa-ghoṣa 男 [人名].

caṇḍatā 女 激し易きこと; 激怒.

caṇḍatva 中 [同上].

caṇḍa-didhiti 男 = caṇḍa-kara.

caṇḍa-dhāman 男 [同上].

caṇḍa-nṛpa 男 [漢語] 暴主 *Sikṣ.*

caṇḍa-pota 男 [或る象の名].

caṇḍa-potaka 男 [同上].

caṇḍa-prabha 男 [人名].

caṇḍa-bala 男 [或る猿の名].

caṇḍa-bhārgava 男 [或る婆羅門の名].

caṇḍa-bhujāṅga 男 [人名].

caṇḍa-marici 男 = caṇḍa-kara.

caṇḍa-mahā-sena 男 [*Ujjayinī* の王の名].

caṇḍa-mṛga 男 [漢語] 猛獸 *Mvyut.*

caṇḍa-rava 男 [(烈しく吼ゆる), 或る豹の名].

caṇḍa-raśmi 男 = caṇḍa-kara.

caṇḍa-rocis 男 [同上].

caṇḍa-vacas 中 [漢語] 毒言, 暴惡言, 高暴露言 *Vijñ-t., Mvyut.*

caṇḍavaco-damśitā 女 [漢語] [=°damśitā] 毒言罵 *Mvyut.*

caṇḍavaco-dāśitā 女 [漢語] 發暴惡言陵犯 *Vijñ-t.*

caṇḍa-varman 男 [王の名].

caṇḍa-vikrama 男 [同上]. 形 猛烈なる豪勇ある.

caṇḍa-vega 形 激烈に流るゝ或は行はるゝ.

caṇḍa-śila 形 怒り易き.

caṇḍa-simha 男 [王侯の名].

caṇḍā 女 [(荒き女神), *Durgā* の稱]; [漢語] (音寫) 旃荼, 旃陀 *Suv-pr.*

caṇḍāmsu 男 = caṇḍa-kara.

caṇḍāyita 中 激怒.

caṇḍāta 男 社會の最下層の人 [*Sūtra* の男と *Brāhmaṇa* (婆羅門) の女との間に生れたる混血種姓(階級)にして一般に蔑視し嫌惡せらる]; [漢語] 屠種, 屠家, 惡煞, 主煞人; 魁膾; 暴厲, 執惡; 下賤種, 棄捐種; 嚴熾, 執暴惡人 *Divy., Suv-pr., Mvyut., 玄應.*; 摩登伽種 [= *mātāṅga*] *Divy.*; (音寫) 旃陀羅, 旃荼羅, 旃陀羅, 旃荼羅, 旃陀羅, 眞陀羅 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Guhy-s., Laṅk., Bodh-bh., Sikṣ., 玄應.* —° 形 (—°) に對して無用なる.

caṇḍāla-kumāra 男 [漢語] (音寫) 旃陀羅童子 *Sikṣ.*

caṇḍāla-kula 中 [漢語] (音寫) 旃荼羅家, 旃陀羅族 *Aṣṭ-pr.*

caṇḍāla-dāsa 男 [漢語] (音寫) 旃陀羅奴 *Sikṣ.*

caṇḍāla-pukkasa-kula 中 [漢語] ~e *ḍombeṣu* (音寫) 旃陀羅或獵師屠膾 *Sikṣ. 133.*

caṇḍāla-yoni 男 *Caṇḍāla* に生るゝこと.

caṇḍāla-samvṛttimat 形 *Caṇḍāla* の如き生業を營む.

caṇḍālā 女 *Caṇḍāla* 種の婦人.

caṇḍālikā 女 [漢語] (音寫) 旃荼利, 旃陀利 *Suv-pr.*

caṇḍāli 女 = caṇḍalā, [漢語] (音寫) 旃陀羅家女 *Vajr-s.*; (音寫) [龍王の名] 旃陀利, 旃陀羅, 旃陀羅, 眞陀羅 *Divy., Vajr-s.*

caṇḍāli-garbha-sambhūta 形 [漢語] (音寫) 旃陀羅家女之所生 *Vajr-s.*

caṇḍāsoka 男 [*Aśoka* 王の稱]; [漢語] (音寫) 惡阿想伽 *Divy.*; (音寫) 旃陀阿輸柯(王) *Divy.*

caṇḍika-ghaṇṭa 男 [*Śiva* 神の稱].

caṇḍikā 女 [*Durgā* の稱]; *Durgā* の殿堂; [漢語] 大鬼神女; (音寫) 旃荼女 *Suv-pr.*

caṇḍikā-gṛha 中 *Durgā* の殿堂.

caṇḍiman 男 熱; 激し易きこと, 孿猛, 殘忍.

caṇḍi 女 = caṇḍā.

caṇḍi-Kṛ, 憤激せしむ.

caṇḍi-kṛta 形 [漢語] 忿 *Prāt-m.*

caṇḍi-gṛha 中 = caṇḍikā-gṛha.

caṇḍi-pati 男 [*Śiva* 神の稱].

caṇḍi-bhūta 形 [漢語] 瞋恚, 忿恚 *Divy.*

caṇḍīśa (°dī-īśa) 男 [*Śiva* 神の稱].

caṇḍīśvara (°dī-īś°) 男 [同上].

caṇḍi-stotra 中 [*Durgā* 禮讚詩の題名].

caṇḍeśvara (°dā-īś°) 男 [*Śiva* 神の稱].

Cat, [現分 *catat* 及び 過受分 *catta* のみ] 隠る; 行く. 使役 他 自 *cātayati(-te)* 遂ひ拂ふ, 脅して去らしむ.

pra- 使役 自 *pracātayate* 遂ひ拂ふ.

vi- 使役 自 *vicātayate* [同上].

catat 現分 → *Cat.*

catasṛ, [*catur* の 女].

catuḥ-, → *catus-*.

catuḥ-koṭi 女 [漢語] 四句 *Abh-k.*

catuḥ-koṭika 形 [漢語] 四句 *Abh-vy.* → *catus-koṭika.*

catuḥ-pārśva 中 [漢語] 四面 *Mvyut.*

catuḥ-pratisamvid 女 [漢語] 四無礙 *Laṅk.* → *pratisamvid.*

catu-dīśa 形 [(音寫) = *catur-dīśa*] [漢語] 四方域 *Lal-v. 297.*

catur 數 男 中 複 四; [漢語] 四 *Saddh-p., Sāṃkhy-k., Mvyut.* 等.

catura 形 速かなる; 器用なる, 伶俐なる, 才智ある, 策に長けたる; 魅力ある; [漢語] 聰, 謹慎(?) *Mvyut.* 中 賢明.

catur-aṃsavat 形 四部分より成る.

caturaka 形 (女 -ikā) 器用なる, 伶俐なる. 男 [或る豹の名].

catur-akṣa 形 (女 -i) 四の眼を有する.

catur-akṣara 形 四音節を有する. 中 四音節の連結.

catur-aṅga 形 四部より成る, 四肢を有する. 中 四兵種より成る軍隊; 將棋; ~ *m balam* (中) (歩兵・騎兵・象群及び戰車より成る) 完全なる軍隊. → *bala-kāya.*

caturāṅga-bala-kāya 男 [漢語] 四軍, 四兵, 四支軍, 四種兵, 四支軍衆, 四支兵衆 *Divy., Aṣṭ-pr., Caṇḍ-vy., Suv-pr., Mvyut.*: [i. ha. ti-kāyah] 象衆, 象兵,

2. aśva-kāyaḥ 馬衆, 馬兵, 3. ratha-kāyaḥ 車衆, 車兵, 4. patti-kāyaḥ 歩衆, 歩兵] *Divy.* 63, *Mvyut.* → ba.a-kāya.

caturaṅga-balādhipatya (ṛa-ādḥ) ㊦ 完全なる軍隊の號令.

catur-aṅgā ㊦ 四兵種より成る軍隊.

catur-aṅgin ㊦ 四部より成る; 漢譯 (udyojayadhva) ~ iṇi (śīghra) senām 四兵衆 *Lal-v.* 303.

catur-aṅgula ㊦ (拇指を除ける)手の四指; 四指の幅; 漢譯 四指, 四指量, 四寸 *Sukh-vy. I., Lank.*

㊦ [植物の名, 學名 *Cathartocarpus Fistula*].

caturaṅgula-paryavanaddha ㊦ *Caturaṅgula* (植物)の覆ひ繁れる (*Divy.*).

caturatā ㊦ 賢明, 熟練; 狡猾, 老獪.

caturatva ㊦ [同上].

catur-anika ㊦ 四面を有する (*Varuṇa* 神).

catur-anta ㊦ 四(面皆海)によりて圍まれたる(陸地).

caturanta-vijetr ㊦ 漢譯 勝四際衆 *Mvyut.*

catur-antā ㊦ 大地.

catur-apāśrayaṇa ㊦ 漢譯 具四依 *Mvyut.*

catur-avatta ㊦ 祭餅等の二小片とその上下の酥油より成る供物.

catur-avattin ㊦ *catur-avatta* を捧ぐる(人).

catur-aśiti ㊦ 八十四.

caturaśiti-sahasra ㊦ 漢譯 八萬四千 梵雜.

caturaśiti-sāhasra ㊦ 八萬四千を算する.

catur-aśra ㊦ 四角形の; 正しき, 調和せる; 漢譯 四方 *Mañj-m., Mvyut.* → *catur-asra.*

catur-aśraka ㊦ (㊦ -ā) 四角形の, 四角形を形成せる. ㊦ [舞踏に於ける]姿勢の一種]. ㊦ 漢譯 四方 *Mvyut.*

catur-aśratā ㊦ 調和, 正確.

caturaśra-śobhin ㊦ 調和して美しき.

catur-aśri ㊦ 四角形の.

catur-asra ㊦ [= *catur-aśra*]; 漢譯 四角 *Lal-v.* 63.

catur-aha ㊦ 四日の期間.

catur-ātman ㊦ 四の姿又は顔面を有する.

catur-ānana ㊦ 四の顔面を有する. ㊦ [*Brahman* 神の稱].

catur-ārya-vaṃśa ㊦ 漢譯 四聖種 *Rāṣṭr., Śikṣ.*

catur-ārya-satya ㊦ 漢譯 四諦, 四諦法, 四聖諦 *Saddh-p., Bodh-bh.*

caturāryasatya-saṃprayukta ㊦ 漢譯 應四諦法 *Saddh-p.*

catur-āśramin ㊦ 婆羅門の四の住期を經過する.

caturikā ㊦ [人名].

catur-uttara ㊦ 四を増す.

catur-oghottirṇa (°gha-ut°) ㊦ 四の流を渡り來れる; 漢譯 渡四瀑流 *Divy.*

catur-gati ㊦ 四様の歩み方をなす (*Viṣṇu* 神).

catur-gandha ㊦ 四方に香を有する.

catur-gava ㊦ 四頭の牡牛に曳かるゝ車.

catur-guṇa ㊦ 四重の.

catur-grhita ㊦ (液を)四回掬ひ上ぐるこゝ.

caturtha ㊦ (㊦ -i) 第四の; 漢譯 四, 第四 *Sūtr., Abh-vy., Tajr-s., Mvyut.* ~ m ㊦ 四回目に.

㊦ 第四の部分. ㊦ 子音の第四の字 (gh, jh, dh, dh, bh).

caturthaka ㊦ 第四の; 四日毎に再發する(熱病); 漢譯 第四 *Lal-v.* ㊦ 漢譯 四日熱病, (毎四日熱病) *Saddh-p.* 401.

caturtha-kāla ㊦ 四回目の食事時間. ~ m, ~ e ㊦ ㊦ 第二日目の夕に.

caturtha-kālika ㊦ 四回目の食事(のみ)を攝る.

caturtha-dhyāna-bhūmika ㊦ 漢譯 四靜慮地 *Abh-vy.*

caturtha-prahara ㊦ 漢譯 四更, 夜半 *Mvyut.*

caturtha-bhakta-kṣapaṇa ㊦ 四回の食事時間に一回宛食事を攝る苦行.

caturtha-bhāga ㊦ 漢譯 四分之一 *Mvyut.*

caturtha-bhāj ㊦ (貢として)四分の一を受くる.

caturthāṃśa ㊦ 第四の部分; 漢譯 四分之一 *Mvyut.* ㊦ 四分の一を受くる.

caturthāṃśin ㊦ [同上(㊦)].

caturthi ㊦ 半箇月に於ける第四日; (婚禮の)第四日; 漢譯 第四 *Lank.*

caturthi-karman ㊦ (婚禮)第四日の儀式.

catur-damṣṭra ㊦ 四箇の大齒を有する. ㊦ [*Skanda* 神の眷屬の名]; [或る *Dānava* の名].

catur-danta ㊦ [或る象の名].

catur-daśa ㊦ (㊦ -i) 第十四の; 十四より成る.

catur-daśaka ㊦ 第十四の.

catur-daśadhā ㊦ 十四重に, 十四の方法にて.

catur-daśan ㊦ 十四.

catur-daśama ㊦ 第十四の.

caturdaśarca (°śa-ṛea) ㊦ 十四の詩句を有する.

catur-daśi ㊦ (半箇月の)第十四日.

catur-dārikā ㊦ [*Kathāsaritsāgara* に於ける第五 *lambaka* の題名].

catur-dikka ㊦ 漢譯 四方面 *Śikṣ.* ~ m ㊦ 四方に.

catur-diśam ㊦ 四方に; 漢譯 四面 *Saddh-p.*

catur-dvāra-mukha ㊦ (㊦ -i) 四門を口とする.

catur-dvipa-cakra-vartin ㊦ 四 *Dvīpa* (洲)の主權者 (*Saddh-p.*).

catur-dvipeśvara (°pa-iś°) ㊦ [同上]; 漢譯 統御四天下 *Śikṣ.*

catur-dharmaka-sūtra ㊦ 漢譯 四法經, 大乘四法經 *Śikṣ.*

caturdhā ㊦ 四部分に; 四重に.

caturdhā-karaṇa ㊦ 四部分に分割すること.

catur-dhyāna ㊦ 漢譯 (㊦)四禪 *Lank.* → *dhyāna.*

catur-bāhu ㊦ 四の腕を有する.

catur-bila ㊦ 四箇の孔を有する.

catur-bhadra ㊦ 四回恵まれたる即ち甚しく幸運なる. ㊦ 人の望む四の目的 [*kīrti, āyus, paśas, bala*; 又は *dharma, jñāna, vairāgya, aiśvarya*; 又は *dāna, jñāna, śaurya, bhoga (vitta)*].

catur-bhadratara ㊦ (㊦)よりも四倍幸福なる.

catur-bhadrikā ㊦ [解熱劑の一種].

catur-bhāga ㊦ 第四の部分, 四分の一; 漢譯 四分

之一 *Saddh-p.* 形 (國) の第四の部分構成する。
catur-bhuja 形 四の腕を有する。男 [Viṣṇu 神又は *Kṛṣṇa* 神の稱]。
catur-bhūmika 形 四階の家。
catur-bhr̥ṣṭi 形 四角の; 四の尖端ある。
catur-mahā-patha 男 甲 四の大路の交叉點 (*Divy.*); 四衢道 *Asṭ-pr.*
catur-mahā-rāja-kāyika 男 國 四天王 *Suv-pr.* → *catur?*
catur-māsi 女 四箇月の期間。
catur-mukha 形 四の尖端ある(箭)。男 [(四の顔を有する), *Brahman* 神・*Viṣṇu* 神及び *Śiva* 神の稱]。
caturmukha-samirita 形 四の口にて發言せられたる。
catur-muhūrtam 圖 四 *Muhūrta* の間に。
catur-mūrti 形 四の形相又は顔容を有する。男 [*Brahman* 神・*Viṣṇu* 神又は *Skanda* 神の稱]。
catur-mūrtitva 甲 [同上(形) 抽]。
catur-medha 形 四の供養をなせる。
catur-yukta 形 四頭(の獸)に曳かれたる。
catur-yuga 甲 四時期 (*Yuga*) [= *Māhā-yuga*]。形 四時期 (*Yuga*) を含める。
catur-yuj 形 = *catur-yukta*; 一の軛(轡)に四頭を繋げる。
catur-lekha 形 (額に)四の線を有する。
catur-vaktra 形 四の顔面を有する。男 [*Durgā* の侍者の稱]。
catur-vaya 形 四重の。
catur-varga 男 四の聚合 [特に人生の四徳: 正義 (*dharma*)・性愛 (*kāma*)・財物 (*artha*) 及び最後の解脱 (*mokṣa*)] → *catur-bhadra*。
caturvarga-cintāmaṇi 男 [書名]。
catur-varṇamaya 形 四の種姓(階級)より成る。
catur-varṣa-śatāyus (‘*ta-āy*’) 形 四百歳の齡に達する。
catur-vāsanā 女 四種習, 四種熏習氣 *Lank.*
catur-vimśa 形 (女 -i) 第二十四の; 二十四より成る。男 三箇の歌詠頌を基礎として廿四頌に敷衍せる讚頌 (*stoma*)。甲 *Catur-vimśa* 讚頌を用ふる日。
catur-vimśaka 形 二十四より成る。
catur-vimśac-chata 甲 百二十四。
catur-vimśat 女 二十四。
catur-vimśati 女 [四及び稀に 國] [同上]。
catur-vimśatika 形 二十四より成る。
caturv mśati-kṛtvā 圖 二十四回。
catur-vimśatitama 形 第二十四の。
caturvimśaty-aha 男 國 二十四日。
catur-vimśika 甲 = *catur-vimśa* (男)。
catur-vidya 形 四の *Veda* に通曉せる。
catur-vidha 形 四重の, 四種の; 四, 四種 *Mvyut.* ~ *m* 圖 四重に。
caturvidha-pada-praśna-vyākaraṇa 甲 四句問, 四種説, 四種記論 *Lank.*
catur-vibhakta 圖 四部に分たれたる。
catur-vira 男 [四日間繼續する *Soma* 祭の一種]。
catur-vr̥ṣa 圖 四頭の牡牛を有する。

catur-veda 男 國 四 *Veda*。形 四の *Veda* を含める或は知れる。
catur-vedin 形 四の *Veda* に通曉せる。
catur-vaiśāradya 甲 四無畏, 四無所畏 *Asṭ-pr., Śikṣ.* → *vaiśāradya*。
caturvaiśāradya-viśārada 形 四無所畏に通達せる(佛陀) (*Divy.*)
catur-vyaṅga 形 四肢に缺陷ある, 四肢の極めて短き。
catur-vyāpin 形 四(人)に關する。
catur-vyūha 形 四の形相を有する, [*Viṣṇu* 神の稱]; 四の章を有する。
catur-saṅgraha-vastu 甲 四攝行 *Divy.* → *catuḥ-s°*。
catur-hanu 形 四の頸を有する。
catur-haya 男 四馬 *Saddh-p.*
catur-hotṛ 男 [新月及び満月の供儀等に誦せらるゝ祈禱文の名]。
catu-vimśa 形 [音律, = *catur-vimśa*]; 二十四 *Saddh-p. 154.*
catuś-cakra 男 [空中の一現象の名]; [或る供儀の名]。
catuś-catvārimśa 形 (女 -i) 第四十四の, 四十四を含む。
catuś-catvārimśat 女 四十四。
catuś-catvārimśin 形 四十四部分を含む。
catuś-carāṇa 形 四部分より成る; 四足の, 四足獸の。
catuś-citya 形 四層の上に横はれる。
catuḥ-śata 甲 一百四; 四百。
catuḥ-śataka 甲 [佛典の名. *Āryadeva* 作, 廣百論本]。
catuḥśataka-vyākhyā 女 [佛典の名. *Candrakīrti* 作]。
catuḥśataka-stotra 甲 [佛典の名. *Mātṛceta* 作]。
catuḥ-śapha 形 四蹄の。
catuḥ-śāla 形 四面に室を有する。男 (中央に方形の中庭を有する)建物。
catuḥ-śālaka 甲 四室の(中央にある)庭。
catuḥ-śālikā 女 [同上]。
catuḥ-śṛṅga 形 四の角(?)を有する。男 [山の名]。
catuḥ-śrotra 形 四の耳を有する。
catuṣka 形 四より成る; 四を増す [~ *śata* 甲 百四, 百分の四]; 四 *Abh-vy.* 男 [人名]。甲 四箇より成るもの, 四箇一組(のもの); 四箇(の圓柱)の支持せる廣間(の一種); 方形の應接間。
catuṣ-karṇa 形 四の耳(のみ)にて聞かれたる。
catuṣ-karṇatā 女 ~ *ayā* 男 祕密に。
catuṣ-kala 形 (拇指に四 *Veda* に通曉せることを表示する)四の標章を有する, 四の部分有する。
catuṣka-saṅkhyā 女 四數, 四種數相 *Lank.*
catuṣkikā 女 四箇より成れるもの, 四箇(の柱)の支持せる廣間。
catuṣkin 形 四箇一組を有する
catuṣ-kiṣku 形 四 *Kiṣku* の長さを有する。
catuṣ-koṭika 形 四句, 四邊, 四法, 四義 *Lank., Abh-vy., Mvyut.* → *catuḥ-koṭika*。
catuṣ-koṇa 形 四角の; 四角 男 甲 四角

形; 漢譯 四隅 *Guhy-s.*
catuṣ-khaṇḍa 形 四部分より成る。
catuṣṭaya 形 (女 -i) 四種の, 四より成る; 漢譯 四, 四種 *Lañk., Abh-k.:* dhātu ~ 四界 *Abh-k. I. 36.* 男 甲 四箇より成るもの; 四箇一組のもの; 漢譯 四 *Abh-vy.*
catuṣṭaya-bhāga 男 漢譯 四分之一 *Divy.*
catu-ṣṭhūna 形 [=catuṣ-ṣṭhūna]; 漢譯 四柱所成 *Lal-v. 63.*
catuṣ-pañca 形 覆 四又は五の。
catuṣ-pañcāśat 女 五十四。
catuṣ-patha 男 甲 四辻; 漢譯 四衢; 四衢道 *Guhy-s.*
catuṣ-pad 形 (女 -i) 四足の, 四部分又は四脚より成る。 女 四歩を進むること。 男 甲 四足獸。
catuṣ-pada 形 四足の; 四行(句)を有する。 男 四足獸。
catuṣpādi-gāthā 女 漢譯 四句頌, (音寫) 四句偈 *Saddh-p.*
catuṣ-pād, [catuṣ-pad の男 音寫]。
catuṣpāda 形 (女 -i) 四足の; 四部分より成る。 男 四足獸。
catuṣ-pādaka 形 (女 -ikā) 四句より成る 漢譯 四句, 四言, 一四句 *Saddh-p., Vajr-pr., Suv-pr., Sikṣ., Mvyut.:* ~ gāthā 四句頌; 四句偈, 一四句偈, 四句伽陀 *Vajr-pr., Suv-pr., Sikṣ.*
catuṣ-puta 形 四の折自ある。
catuṣ-ṣaṣṭi 女 六十四; 漢譯 六十四 *Gaṇḍ-vy.*
catuṣṣaṣṭi-kalāgama (lā-āg°) 男 六十四の技藝に關する教本。
catuṣṣaṣṭi-kalā-vidhi 男 漢譯 六十四能, 六十四術 *Gaṇḍ-vy.*
catuṣṣaṣṭi-kalā-śāstra 甲 =catuṣṣaṣṭi-kalāgama.
catuṣ-ṣaṣṭitama 形 第六十四の。
catuṣṣaṣṭy-aṅga 形 六十四の部分を有する。
catuṣ-ṣṭoma 男 (各々四句宛漸次増加する)四部分より成る讚頌(stoma)。 形 四部讚頌(Catuṣ-ṣṭoma)に關する。
catus 音寫, 音寫 四, 四種 *Boan-bn.*
catu-skandha [又は catus-kandha] 男 漢譯 四門 [*Pāli.* catukkaṇṇa 四角, 四隅, kandha は恐らくは karna の誤讀なるべし。 *Yaśomitra* は墻 (prākāra) の義に解す] *Abh-vy. 326.*
catus-trimśa 形 (女 -i) 第三十四の; 三十四を含める。
catus-trimśat 女 三十四。
catus-tri-dvy-eka-bhāga 形 各々四・三・二及び一の部分を受くる。
catuṣ-saṃkara 形 四の事件の混在せる(訴訟)。
catuṣ-saṃgraha-vastu 甲 漢譯 四攝事 *Gaṇḍ-vy.*
catuṣ-satya 甲 漢譯 四諦, 四聖諦 *Aṣṭ-pr., Madhy-vibh.*
catuṣ-saṃdhi 形 四の部分より成る。
catuṣ-saptati 女 七十四。
catuṣ-sama 形 四の對をなす身體の部分(腕・膝・脚・頰)が左右均齊なる。
catuṣ-samudra 形 (女 -i) 四海に圍まれたる。

catuṣ-samyak-prahāṇa 甲 漢譯 四正勤 *Sikṣ.*
 → prahāṇa.
catuṣ-sahasra 甲 四千。
catuṣ-sādhana 形 目的を達するに四の方法を案出する。
catuṣ-sāhasraka 形 (女 -ikā) 四千より成る。
catuṣ-skandha 男 漢譯 四蘊, 四陰 *Lañk.*
catuṣ-smṛty-upasthāna 甲 漢譯 四念處 *Sikṣ.*
 → smṛty-upasthāna.
catuṣ-srakti 形 四角の。
catu-rātra 男 甲 四日; [四日間續く祭の名]。 ~ m 音寫 四日の間。
catta (過受分) 隠されたる; 消失せる。 → Cat.
catvara 男 甲 四角形; 中庭; 十字路; 市街の區劃; 漢譯 衢, 四衢, 四衢道, 十字路 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Mvyut.*
catvār 男 甲 覆 [catur の音寫] 四。
catvāra 男 漢譯 [=catvara] 四衢道 *Gaṇḍ-vy.*
catvāriṃśa 形 (女 -i) 第四十の。
catvāriṃśat 女 四十。
catvāriṃśati 女 [同上]。
catvāriṃśat-sama-danta 形 漢譯 [三十二相の一] 四十齒, (口)四十齒, 具四十齒皆悉齊平 *Bodh-bh.*
catvāriṃśat-sama-dantatā 女 漢譯 [三十二相の一] 四十齒相, (口)四十齒相, 具四十齒皆悉齊平 *Bodh-bh.*
catvāriṃśad-danta 形 漢譯 [三十二相の一] 四十齒具足 *Mvyut.*
catvāriṃśad-dantatā 女 漢譯 [三十二相の一] 四十齒相, 具四十齒(皆悉齊平) *Bodh-bh.*
catvāriṃśad-rātra 男 四十日の期間。
catvāriṃśan-māna 甲 四十 Māna の重さあるもの。
Can, [三邊] canīṣṭam, canīṣṭat のみ (因)を悦ぶ; 喜ばしむ。
cana (不邊) [SV. は ca na] [強調せられたる語の直後に續き 因] ……すらなし; [因 の意味なく(稀に)] も亦た; [因 の次に] ……さへ; 音寫 (=cid) [不定の意味にて唯だ 因 の次にのみ] ……さへ, 苟くも, 一體。
canas 甲 喜悅: [唯だ DHā と俱にのみ] (因, 因)を悦ぶ; 許す。
canasaya (名動) 他 canasayati canasita と云ひて呼びかく。
canasita (過受分) → canasya.
canasya (名動) 他 canasyati (業)を悦ぶ。 (過受分) canasita 歡迎! (甲); 温雅なる… [婆羅門(他の説に従へば) Kṣatriya 又は Vaiśya の名に冠す]。
canīscadat (漢音) 現分 → Ścand.
canīṣṭha (音寫) 甚だ歡迎せらるゝ, 甚だ慈悲深き。
cano-dhā 形 満足せる, 情ある。
Cand, → Ścand.
canda 男 [=candra] 月(太陰); 漢譯 月 *Sukh-vy. I.*
candana 男 甲 白檀の樹・材・粉末又は膏油; 漢譯 (音寫) 白檀, 白栴檀, 檀香, 旃檀香, 栴檀妙香 *Lal-v., Mañj-m., Guhy-s., Bodh-c., Mvyut.;* (音寫) 檀, 栴檀, 旃檀, 真檀, 旃檀那, 栴檀那, 栴檀那 *Av-ś., Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Sapt-pr., Sam-r., Rāṣṭr., Lañk.,*

- Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 支應 男 檀香 [佛の名] 栴檀 *Lal-v.*
- candanaka** 男 [人名].
- candana-kardama** 男 檀香泥, 檀香泥 *Gaṇḍ-vy.*
- candana-kārita** 形 檀香 (香) 以檀香作, 以(牛頭)檀香起 *Saddh-p.*
- candana-gandha** 男 檀香 (香) 白檀香, 檀香, 旃檀香, (牛頭)檀香之香 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Rāṣṭr.*
- candana-gaura** 形 月の如く白き (*Buddh-c.*).
- candana-cūrṇa** 中 檀香末 *Sapt-pr.*
- candana-dāsa** 男 [人名].
- candana-paṅka** 男 白檀膏油.
- candana-pāta** 男 白檀膏油の貼用.
- candana-putrikā** 女 [神祕なる人形の名].
- candana-putri** 女 [同上].
- candana-pura** 中 [町の名].
- candana-bhānu** 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*).
- candanamaya** 形 白檀の材にて製られたる; 白檀膏油より成る; 檀香 檀香 *Saddh-p.*
- candana-māla** 男 檀香 [宮殿の名] (香) 檀香 *Divy.*
- candana-rasa** 男 白檀樹の滲出液.
- candana-vāri** 中 [同上]; 檀香湯; (香) 檀香水 *Divy.*
- candana-sāra** 男 [同上].
- candanāgrya** 男 [人名] (*Lal-v.*).
- candanādri** 男 白檀の山, *Malaya* 山脈.
- candanāmbhas** 中 = *candana-rasa.*
- candanāya** (名動) 自 **candanāyate** 白檀樹となる.
- candanodaka** (°na-ud°) 中 *candana-rasa.*
- candanin** 形 白檀膏油を塗れる (*Siva* 神).
- candala-devi** 女 [*Candra-lekhā* 王女の名].
- caṇḍalā** 女 [人名].
- candānana** (°da-ān°) 男 [= *candrānana* (°ra-ān°)]; 檀香 [佛の名] 月面 *Sukh-vy. I.*
- candābhibhū** 男 [= *candrābhibhū*]; 檀香 [佛の名] 月王 *Sukh-vy. I.*
- candira** 男 [= *candra*] 月(太陰).
- candra** 形 光る. 輝く; 愛すべき. 男 月(太陰), 月神; [人名]; [山の名]; 月形の紋様(例へば孔雀の尾羽の) [例] *mora ~ samais ~ air uttariyam vicitrayet* [*Tib. mdoṅs (Lank. 365.)*]; 檀香 月, 明月, 月天; 宿王; (空中)月, 光 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Suv-pr.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, 梵千., 梵雜; —° ……の中の主. → *jñāna ~ udāgamatā.*
- 中 黄金.
- candraka** 男 [—° 形 (女 -ikā)] 月; 月狀の輪, 月の如き斑點; 孔雀の尾にある(月に似たる)斑點; [人名]; 檀香 輪; 嚴如弦月, 嚴如月點 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
- candra-kalā** 女 (新月の前後に見らるゝ) 月の面の十六分の一.
- candra-kānta** 形 月の如く愛らしき. 男 月長石 [月光の凝結せしものにして月光に照さるゝ時のみ輝き, 且つ冷き濕氣を滲出すと云はるゝ傳説上の珠玉]; 檀香 水晶, 月愛珠 *Mvyut.*
- candrakānta-maṇimaya** 形 月長石にて作られたる.
- candra-kāntamaya** 形 [同上].
- candrakita** 檀香分 月形の斑點ある.
- candrakin** 男 孔雀.
- candra-kirti** 男 檀香 [中觀派の論師の名. *Prasanna-padā nāma Mādhyamika-vṛtti* 等の著作者] 月稱 *Madhy-v.*, *Mvyut.*
- candra-kula** 中 [町の名].
- candra-kulyā** 女 [河の名].
- candra-ketu** 男 [*Lakṣmaṇa* の子等諸人の名].
- candra-kṣaya** 男 新月.
- candra-garbha** 男 [佛教經典の名, 大方等大集月藏經(大方等大集經月藏分)].
- candra-gupta** 男 [諸王の名, 特に紀元前三百年頃在世の *Maurya* 王朝の王 (*Gk.* 史料の *Sandrokottos*) の名].
- candra-guptaka** 男 [同上].
- candra-gupti** 男 [王の名].
- candra-gomin** 男 [或る文典家の名]; 檀香 妙月(?), 月居士 *Mvyut.*
- candra-graha** 男 月蝕; 檀香 月蝕 *梵雜.*
- candra-grahaṇa** 中 [同上].
- candra-candana** 男 中 (月より出づる白檀液), 最高級の白檀膏油.
- candra-citra** 男 檀香 [民族の名].
- candra-cūḍa** 形 月を冠の紋章とせる. 男 [*Siva* 神の稱].
- candra-cūḍāmaṇi** 男 [書名].
- candra-ja** 男 水星.
- candrataram** 比較 副 ……より或は非常に美しく.
- candra-tāraka** 中 月と星.
- candratva** 中 月の如きこと.
- candra-dakṣiṇa** 形 輝ける或は金色の供物を捧ぐる.
- candra-dipikā** 女 [占星學上の書物の名].
- candra-deva** 男 [或る婆羅門・戰士又は詩人の名].
- candra-dyuti** 女 月光. 男 (月光), 白檀材.
- candra-dhvaja-ketu** 男 檀香 [Samādhi の名] 月幢相 *Mvyut.*
- candra-nirṇij** 形 輝ける衣を有する.
- candra-parvata** 男 [山の名].
- candra-pāda** 男 月光.
- candra-putra** 男 = *candra-ja.*
- candra-pura** 中 [町の名].
- candra-pradipa** 男 檀香 [王の名] 月燈 *Lal-v.*
- candrapradipa-sūtra** 中 檀香 [經の名] 月燈經, 月燈三昧經 *Sikṣ.*
- candra-prabha** 男 [人名]; 檀香 月光 [佛の名] *Sukh-vy. I.*, *Rāṣṭr.*; [王の名] *Lal-v.*, *Divy.*; [人名] *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*; [菩薩の名] *Mvyut.*
- candra-prabhā** 女 [人名]; 檀香 [王妃の名] 月光 *Divy.*
- candra-pramāṇa** 形 月(太陰)の.
- candra-prāsāda** 男 屋上の室.
- candra-bimba** 中 月の面; 檀香 月像 *Sūtr.*
- candrabimba-prabhā** 女 [或る *Gandharva* の少女

の名] (*Kār-vy.*).
candra-bimbamaya 形 月の面より成る.
candra-bhāgā 女 [河の名].
candra-bhāsa-maṇi-ratna 中 漢譯 (音寫) 月光摩尼寶 *Sukh-vy. I.*
candra-bhūta 形 漢譯 爲月(愛珠) *Gaṇḍ-vy.*
candrama 男 漢譯 月天子 *Saddh-p.*
candra-maṇḍala 中 = candra-bimba; 漢譯 月, 月圓, 月輪, 滿月, 淨滿月, 滿月輪, 明淨月 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Madhy-v.; (音譯) 月曼拏羅 Guhy-s.*
candra-mata 中 月の(崇拜者の)教義.
candramaya 形 (女 -i) 全く月なる.
candra-mas 男 月; [*Dānava* 又は八體の *Vasu* の一として表はされたる] 月神; 漢譯 月, 月天子 *Buddh-c., Lal-v.*
candramasā 女 [河の名].
candra-māsa 男 (陰曆の)月.
candra-mukuta 男 = candra-cūda.
candra-mukha 男 [人名]. 形 月の如き面を有する, 月の如く美しき.
candramukha-varman 男 [王侯の名].
candra-mukhi 女 月の如き面を有する美人.
candra-mauli 男 [(冠に月の紋章を有する), *Siva* 神の稱].
candra-maulin 男 [同上].
candra-ratna 中 寶石.
candra-ratha 形 輝ける車を有する.
candra-rāja 男 [人名].
candra-rūpavat 男 漢譯 [王の名] 月形 *Lal-v.*
candra-rekhā 女 新月.
candra-lalāṭa 形 額に月を有する (*Siva* 神).
candra-lalāma 男 = candra-cūda.
candra-lā 女 [人名].
candra-lekhā 女 [= candra-rekhā] 新月; [王女の名]; [人名].
candra-loka 男 漢譯 月の世界.
candra-vaṃśa 男 月(神に由來せる)王統.
candravai 形 月に照されたる; 黄金に富める.
candravati 女 [人名].
candra-vatsa 男 漢譯 [民族の名].
candra-vadanā 女 = candra-mukhi.
candra-vapus 形 月の如く愛らしき.
candra-vara-locana 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
candra-varṇa 形 月の色を有する, 微光を發する, 輝ける色の, 明色の.
candra-varman 男 [王の名].
candra-vaśā 女 [河の名].
candra-vasā 女 [同上].
candra-vimala 男 漢譯 淨(滿)月, 月清淨 *Suv-pr.; [Samādhi の名] 月淨, 淨月 Mvyut.*
candra-śālā 女 屋上の室又は望臺.
candra-śālikā 女 [同上].
candra-śilā 女 月長石. → candra-kānta.
candra-śubhra 形 月に照されたる.
candra-śekhara 男 = candra-cūda; [人名].
candra-śri 女 [人名].

candra-saṃjña 男 樟腦.
candra-saras 中 [物語に出づる湖水の名].
candra-sāra 男 [人名].
candra-sālokya 中 月世界への到達.
candra-simha 男 [王の名].
candra-sūrya-jihmi-karaṇa 男 漢譯 [佛の名] 映蔽日月(光), 蔽日月(光), 過日月(光) *Sukh-vy. I.*
candra-sūrya-jihmi-kara-prabha 男 漢譯 [佛の名] 掩蔽日月光 *Lal-v.*
candra-sūrya-pradipa 男 漢譯 [佛の名] 日月燈, 日月光, 日月燈明 *Saddh-p., Sukh-vy. II.*
candra-sūrya-vimala-prabhāsa-śri 男 漢譯 [佛の名] 日月淨明德 *Saddh-p.*
candra-sūryākṣa 形 月と太陽とを目とせる (*Viṣṇu* 神).
candra-sena 男 [王侯の名].
candra-svāmin 男 [人名].
candra-han 男 [或る *Dānava* の名及び *Asura* の稱].
candra-hanṭṛ 男 [同上].
candra-hāsa 男 (月の笑ひ=閃光), 劍; *Rāvana* の劍.
candrāṃśu 男 月光; 漢譯 月光明 *Lank.*
candrākara (°ra-āk°) 男 [人名].
candrāgra 形 頂の輝ける, 表面の光れる(液).
candrātapa (°ra-āt°) 男 月光.
candrātma-ja (°ra-āt°) 男 = candra-ja.
candrāditya (°ra-ād°) 男 [人名]; [王侯の名].
candrānana (°ra-ān°) 形 = candra-mukha. 男 [Skanda 神の稱].
candrā-piḍa (°ra-āp°) 男 [*Siva* 神の稱]; [人名].
candrārka 男 月と太陽; 漢譯 日月 *Abh-k.*
candrārdha 男 半月.
candrārdha-cūḍāmaṇi 男 [*Siva* 神の稱].
candrāvali (°ra-āv°) 女 [Yogini の名].
candrāvaloka 男 [王侯の名].
candrikā 女 月光; [人名].
candrin 形 黄金の, 黄金を所有せる. 男 = candra-ja.
candrottarā-dārikā-paripṛcchā (°ra-ut°) 女 漢譯 [經の名] 月上童女所問經 *Sikṣ.*; [月上女經].
candrottarya (°ra-ut°) 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
candrodaya (°ra-ud°) 男 月の上昇.
candrodgata (°ra-ud°) 形 漢譯 (月出), 滿月, 過滿月 *Gaṇḍ-vy.*
candropama (°ra-up°) 形 漢譯 如月(光), 猶如(滿)月, 猶如(淨)月, 爲(淨)月 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*
candropama-sūtra 中 [佛教經典の名. 月喻經].
candroparāga (°ra-up°) 男 月蝕.
candropala (°ra-up°) 男 月長石. → candra-kānta. [Cap, Camp, 震ふ, 揺れる].
capala 形 彼方此方へ動く, 震るゝ, 確乎たらざる; 變り易き, 移り易き, 輕浮の, 移氣の; 無考の, 邪氣ある; 速かなる, 迅速なる; 瞬間的の; 漢譯 擾, 騷, 遽, 動, 動揺, 躁, 躁動, 輕躁動轉, 躁動不安; 輕躁, 不久停, 可廻轉 *Rāṣṭr., Sam-r., Lank., Bodh-bh., Sikṣ., Mvyut.*; a ~ 不遠 *Sikṣ. 124.* ~ m 圖

速かに; 疾, 速度 Lal-v.
capala-gaṇa 男 惡黨の一隊.
capala-gāmin 形 無時而暫停 Lal-v.
capalatā 女 輕佻, 浮薄; 動 *Sikṣ.*
capalaya 名動 他 **capalayati** 輕卒ならしむ, 放縱ならしむ.
capalā 女 電光; [二種の音律の名].
capalā-jana 男 輕薄なる婦人; 運命の女神.
capalāya 名動 自 **capalāyate** 動き回る, 跳び回る.
capeta 男 平手打ち; 打, 打撲, 手掌打 *Laṅk., Sikṣ., Mvyut.*
capetā 女 [同上]; 手搏 Lal-v.
capeti 女 [同上].
capya 中 [供養用の容器の一種].
Cam, I. 他 **camati** 飲む, 飲む.
 ā-, ācāmati (水を) 飲む; (具) にて口を嗽ぐ; 吸ひ上ぐ, 吸収す, 消失せしむ. 過受分 ācānta [能及び 因 の意味を有す]. 使役 ācāmayati (淨むる爲に水を) 飲らしむ.
 anv-ā-, anvācāmati 再び口を嗽ぐ.
 pary-ā- 過受分 paryācānta [anna と共に] (客か) 尙早に口を嗽ぎたる後に残れる(食物).
camaka 男 [人名].
camat 副 驚駭を表はす.
camat-karaṇa 中 驚愕, 喫驚.
camat-kāra 男 [同上].
camat-kārīta 使役 過受分 形 驚かされたる.
camat-Kṛ, 喫驚を表す, 喫驚せしむ.
camat-kṛta 形 驚かされたる; 尊大又は高慢となれる.
camat-kṛti 女 驚愕.
camana 中 飲むこと.
camara 男 犛牛(?) [學名 *Bos grunniens*]; 犛牛, 西牛, 毛牛 Lal-v., Mvyut. 男 中 犛牛の尾 [蠅拂ひとして用ゐらる, 王位の憲章の一]; 數の名 者麼羅 Mvyut.
camara-vāla 男 [王侯の名].
camari 女 = camara; 犛牛 *Saddh-p.*
camasa 男 (木製の) 椀又は盃; 耳睡, 耳孔 Mvyut.
camū 女 Soma 汁の容器又は壓搾用の板 [屢 中]; 譬喩的には天地を指す; 軍隊 [七百二十九頭の象・七百二十九臺の戰車・二千八百八十七人の騎兵及び三千六百四十五人の歩兵より編成せらる]; 兵, 軍, 黨, 兵衆, 軍衆 Lal-v.
camū-cara 男 戰士.
camū-nātha 男 軍隊の指揮者, 將軍.
camū-nāyaka 男 [同上].
camū-pa 男 [同上].
camū-pati 男 [同上].
camū-pāla 男 [同上].
camūru 男 [鹿の一種].
camūru-dṛś 女 羚羊の如き眼の婦人.
camūru-netrā 女 [同上].
camū-ṣad 形 camū 器の上に横はれる (Soma).
 [Camp, → Cap].
campa 男 [Campā 城の建設者の名]; [植物の名];

藤蘿 Mvyut.; 詹波(花) Lal-v.
campaka 男 [黄色の芳香ある花を著くる樹の一種, 學名 *Michelia champaka*]; [人名]; 黄花樹 支應; (香) 瞻葡華香, 瞻葡香花 *Divy., Saddh-p.*; (香) 瞻葡, 瞻葡, 瞻波, 占波, 占婆, 占匐, 瞻波伽, 占博迦, 旃簸迦, 瞻葡伽, 占葡伽, 瞻葡伽, 瞻博迦 *Sam-r., Saddh-p., Kāśy., Laṅk.* 中 Campaka 樹の(黄色の) 花; 金色花 Mvyut., 支應; (香) 瞻葡花, 詹波花, 占婆花, 詹波迦花; 瞻葡花色 Lal-v., Laṅk., 支應.
campaka-gandha 男 Campaka の香料.
campaka-taila 中 (香) 瞻葡油 *Saddh-p.*
campakataila-pradipa 男 (香) 瞻葡油燈 *Saddh-p.*
campaka-prabhu 男 [Kalhana の父の名].
campaka-mālā 女 [人名].
campakavati 女 [Magadha 國の林の名]; [町の名].
campaka-varṇā 女 (香) 瞻葡 [世界の名] 瞻波 Lal-v.
campaka-vṛkṣa 男 (香) 瞻葡樹 *Divy.*
campakā 女 [町の名].
campakāraṇya 中 [聖地の名].
campā 女 [Aṅga 族の町の名]; 瞻波, 讚巴, 占波(城), 瞻波(城), 詹波(城), 瞻婆(羅國) *Divy., Laṅk., Mvyut.*
campā-puri 女 Campā の町.
campāvati 女 [同上].
campū 女 (韻文と散文との) 混合より成る文學的作品.
caya 男 堆積; 層; 盛土(器); 壘; 塊; 多數, 群集, 集積; 集, 聚, 増, 滿 *Sūtr., Abh-vy., Mvyut.*
 ~m Gam 和合 *Abh-vy.*
cayana 中 積み上ぐること; 燃料の堆積; 堆積.
cayaniya 未受分 (徳を) 積まるべき, 集めらるべき.
Car, I. 他 (自) **carati(-te)** 動く, 行く, 歩む, さまよふ, 徘徊す, 擴がる, 延びる [生物及び無生物に就て]; (嫩葉等を) 食ふ; (具, 因) に向ひて行動又は行爲す, (具) と關係す [同金の婉曲なる表現]; [形, 圖] 又は (不) 受分 と共に] 爲し續く, 住む; 遊歴す, 横切る; 沿ひて行く, 行き互る, 從ひて行く; 企つ, 入る; 遂行す, 實行す; (論議を) 續行す; (vṛttam 行爲を) 競ふ; (vratam 等に) 服す, 從事す; 受く, 從ふ; (罪を) 犯す; 作る, 生産す; 消費す; 食ふ, (生草等を) 食ふ; 探知す [過受分 carita のみ]; 行, 遊行; 住; 修, 修行, 勤修, 奉行 Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Vajr-pr., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Laṅk., Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.; 放 Lal-v.; 執, 著 Aṣṭ-pr.: caranti ākāsi (香) 飛 *Saddh-p. 331.*; ākāse 'ntariḥ kṣe carati 飛騰虚空翱翔 *Aṣṭ-pr. 754.*; bodhāya caranti 行菩薩道, 修菩薩行 *Aṣṭ-pr. 215.*; raśmiś cacāra 放(大)光明 Lal-v. 3.; aham-kāre mama-kāre caranti 著我我所, 心執我我所 *Aṣṭ-pr. 789.* 現分 **carat** 行, 行時 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.* 過受分 **carita**, **cirṇa** 實行又は遵奉せられたる. 使役 **cārayati** 行かしむ, 走らしむ, さまよはしむ, (生草等を) 食はしむ; 急派す; 動かしむ; 遂行せしむ; 性交せしむ, (妻に) 賣淫せしむ; 行, 佈散, 與, 行與, 普與 *Divy.,*

Mvyut. 希求 **cicariṣati, cicarṣati** 行かんと欲す、行はんと欲す。 他 **carcariti**, 受 **cañcūryate** 速に動く、屢・動く、漂泊す。(因)を遊歴す、(因)に漂泊す (*Kār-vy.*)。 受 現分 **cañcūryamāṇa** [能 の意味に用ゐらる] 漢譯 遊行經 *Divy. 5.*

ati- 違犯す; (業)に不忠實なり。

anu- (業)の中を動き回る; 横切る; 随ふ; 熱中す; 行動す。 便役 **anucārayati** (具)をして横切らしむ。

antar- (業, 業, 因)の間又は中を動く、……の中にあり。

apa- 缺く; 去る, 背く。 過受分 **apacarita** 去れる; 死せる。

abhi- (業)に違反す、……を犯す、……に對して不忠實なり; (業)を魅す。

praty-abhi- (業)に對して魔術を用ふ。

vy-abhi- (業, 業)に對して不深切に行爲す; 罪を犯す。 逆ふ, 傷つく; 墮く; 失敗す; (業)を超えて行く; 漢譯 相離, 違背於理; 無如實智 *Lank., Abh-vy.* 便役 **vyabhicārayati** (業)の誤謬を立證す。

ava- (從)より下り来る。 便役 **avacārayati** 適用す。 便役 過受分 **avacārta** 適用せられたる。

vy-ava- 便役 **vyavacārayati** 漢譯 觀, 察, 觀察 *Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh.*

ā- (業)に近づく; 往來す; (業)に頼る; 用ふ, 使ふ; 振舞ふ, 行ふ; 取扱ふ; (saha と) 交際す; 始む, 遂行す, 實行す, 随ふ, 爲す; (不定)し始む; 是認す, 規定す (因); 漢譯 行, 修, 修習, 服習 *Divy., Sukh-vy. I., Bodh-bh.*

adhy-ā- 用ふ, (座を)占む; 漢譯 行, 現行 *Siks., Bodh-bh.*

sam-ud-ā- 他 **samudācarati** ……を取扱ふ; 爲す, 遂行す; 話しかく; 自 **samudācarate** 動く, 遊歴す; 漢譯 造, 修, 行, 修行, 起行; 起, 現起, 發起, 現行, 現前, 現在前; 現入 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Bodh-bh., Abh-vy.*; 稱喚 *Lal-v.* 便役 過受分 **samudācarita** 話しかけられたる。

sam-ā- (因)に向ひて遂行す・執行す或は實行す; (因)に向ひて進む或は活動す; (具)と交際す; (争闘)に携はる; (生計を)獲る; [dūrāt と俱に] 遠方へ取り去る; 漢譯 行, 修行 *Lank., Bodh-bh.* 過受分 **samācirṇa** 爲されたる, 實行せられたる。

ud- 昇る(太陽); 出づ, 吐き出す, 放出す; 排泄す; 發音す, 發言す, 發聲す; 漢譯 離 *Gaṇḍ-vy.* 便役 **uccārayati** 發音す, 發言す, 發聲す, 宣言す; 排泄す; 漢譯 說, 爲說令通利 *Saddh-p., Siks.* 便役 過受分 **uccārta** 排泄せられたる。

prod (pra-ud)- 發音す, 發言す, 發聲す。 便役 **proccārayati** 發音せしむ。 便役 過受分 **proccārta** 音を發する。

praty-ud- 便役 **pratyuccārayati** ……を動揺せしむ, 刺激す; 口眞似せしむ, 反覆せしむ; 漢譯 還令通利 *Saddh-p.*

upa- 近づく; 仕ふ, 侍す; 尊敬す, 崇拜す; 世話す, 手助けす, 手入れす; 企つ, 爲す; 治療す, 看病す; 譬喩的に表現す; 漢譯 說, 說爲, 說名, 假說爲…;

假立, 安立 *Abh-vy., Bodh-bh.* 受 **upacaryate** (因)に隱喩的に使用又は歸結せらる。 過受分 **upacirṇa** 侍せられたる, 援助せられたる。

nis- 出づ, 現はる, 進む; 漢譯 出, 放, 發 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Daś-bh., Rāstr., Lank.* 便役

niścārayati 出でしむ, 放出せしむ; 漢譯 放, 發, 出, 演出; 流布 *Lal-v., Av-ś., Daś-bh., Saddh-p., Mvyut.:* raśmim niścārya (不變分) 放光 *Mvyut. vi-nis-* 總ての方向に進む。

parā- 去る。

pari- (業)を彷徨す; (業)に仕ふ, 侍す, 尊敬す; 漢譯 承事, 供養, 瞻侍供給 *Lal-v., Bodh-bh.* 過受分

paricirṇa 侍せる, 世話をなせる。 便役 他 **paricārayati** 圍む; (具)を著せしむ; 自 **paricārayate** 仕へしむ; (性的に)戯れしむ; 漢譯 遊佚, 作樂, 任意喜樂, 共臥 *Divy., Bodh-bh., Mvyut.*

samyak-pari- 漢譯 奉養 *Gaṇḍ-vy.*

pra- 出づ, 起る, 現はる; 彷徨す; (業)に到達す; 始む, 遂行す; (職務に)従事す; (患者を)治療す; 進む, 行ふ; 漢譯 行, 修行, 布, 流布, 廣行流布, 廣宣流布; 興盛 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Suv-pr.:* ciram ca pracaret 故久流布, 常得流通 *Suv-pr. 91.* 過受分 **pracarita** 踏襲せられたる, 行はれたる; 公布せられたる; **pracirṇa** 出でたる, 現はれたる。

便役 **pracārayati** 逍遙せしむ, 放牧せしむ。

vi- 諸方に動く, 擴がる, 普及す; 活潑に動く, 出發す, 攻撃す, 襲撃す; 徘徊す; (業)を彷徨す或は横切る; 進む, 行ふ, 生く; 迷ひ行く, 放縱なり; 實行す, 遂行す; 牧草を食ふ; (具)と交際又は性交す; 漢譯 行, 修行; 動, 動搖; 詣; 遍, 遍遊, 遊到; 開 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.* 便役 **vicārayati** 彼方此方に行かしむ, 彷徨せしむ; 唆かす; 思量す, 考察す; 躊躇す, 疑ふ; 檢す; 確認す, 決定す; 漢譯 伺; 知; 觀, 察, 觀察, 心觀; 思, 思惟, 思慮, 思擇, 思察, 思量; 簡擇; 研尋, 尋訪 *Divy., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Rāstr., Lank., Sūtr., Abh-vy., Bodh-bh.;* 怪 *Lal-v.;* 修行, 修習 *Daś-bh.* 便役 不變分 **vicārya**

漢譯 伺, 已觀 *Abh-vy.* 便役 過受分 **vicārta** 思量せられたる, 論議せられたる; 疑はしき; 確實なる。

anu-vi- 通り過ぐ; ……迄歩む; 漢譯 巡, 隨順而行 *Daś-bh., Bodh-bh.* 便役 **anuvicārayati** 漢譯 了, 觀察, 觀想 *Gaṇḍ-vy., Rāstr.*

upa-vi- 漢譯 遊行, 分別 *Abh-vy.*

pra-vi- 進む; 彷徨す; 漢譯 遊 *Saddh-p.* 便役 **pravicārayati** 正當に考量又は試験す。 便役 過受分 **pravicārta** 正確に檢査せられたる。

sam- 合す, 會す, 接合す; 近づく, 現はる; 彷徨す, 歩む; 至る(道が); (ā)に達す; 入る, 横切る, 惱ます; 動く, 生存す, 存在す; 爲す, 實行す; (業)へ移り行く; 漢譯 行; 轉, 流轉 *Abh-vy.;* 修練 *Abh-vy.;* 住 *Divy.;* 跑(?) *Mvyut.* 便役 **samcārayati** 合せしむ, 會合せしむ, 接觸せしむ; 動かしむ; 行かしむ; 牽き回る; 移す, 引き渡す; 通過せしむ; 漢譯 易, 動, 移 *Abh-vy., Mvyut.* 便役 過受分 **samcārta** 行かしめられたる, 行はしめられたる; 強ひられたる, 驅られたる, 案内せられたる。

anu-sam- 従ふ, 沿ひて行く,
 abhi-sam- (國)へ俱に来る.
 upa-sam- 入る.
 cara 形 動く, 動かし得る; 畜 動物 [植物の 園];
 —° 行く, さまよふ, 歩む; 行動する, 生存する; 實
 行する; 行, 居 Abh-vy., Mañj-m. → pṛthivī
 ~. 男 間諜; 密使; 探偵, 姦細 Mvyut.;
 [音律] = carana 男 申 足 Lal-v. 165.
 caraka 男 流浪者; 逍遙する婆羅門の弟子; 間諜;
 [古醫の名]; 種 [黒 Yajur-veda の學派の名].
 caraka-samhitā 女 [或る醫學書の題名].
 carakādhvaryu 男 Caraka 派の祭官.
 carāṇa 男 申 足; Veda の學派; 柱, 支持; 部分, 細
 別; 足, 脚 Lal-v., Sv-pr., Saddh-p., Rāstr.,
 Lan̄k.; 師 Divy.; 行, 遊歩 Divy., Daś-bh. →
 utsaṅga ~. 申 彷徨すること; 進路; 處置; (式
 典の)舉行; (善)行爲; 實行, 遂行; 行, 道 Lal-v.,
 Saddh-p., Daś-bh., Mvyut.; [數の名] 雜羅南
 Mvyut.
 caraṇaka 申 小さな足.
 caraṇa-gran̄thi 男 踝(の).
 caraṇa-tala 申 足 Divy.
 caraṇa-nyāsa 男 歩, 歩行; 足跡.
 caraṇa-patana 申 足下に平伏すること.
 caraṇa-pāta 男 [同上]; 蹴ること, 蹂躪.
 caraṇa-pr̄stha 男 足の甲.
 caraṇa-prasāra 男 脚を伸ばすこと.
 caraṇa-bhaṅga 男 脚の挫傷.
 caraṇa-mūla 申 足の附根, 跗骨. ~e ni-Pat,
 足下に跪く.
 caraṇavat 形 善行の.
 caraṇa-vyūha 男 [(Veda 學派を敍せる)書名].
 caraṇa-śūśrūṣā 女 = caraṇa-patana.
 caraṇānati (°na-ān°) 女 [同上].
 caraṇāyudha (°na-āy°) 形 足を武器とせる. 男
 雄鷄.
 caraṇopadhāna (°na-up°) 申 足臺.
 caraṇyu 形 動かし得る.
 caratha 形 動く; 生ける. 申 生命, 活力; 行くこ
 と; 道.
 cara-deva 男 [人名].
 carama 形 最終の, 最後の; 最も外の; 最も低き;
 西の; 後, 最後, 終 Divy., Gaṇḍ-vy., Madhy-v.,
 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.: ~e bhava (因) 最
 後身, 最後生, 最後受生, 最後有中 Gaṇḍ-vy., Bodh-
 bh. 申 [數の名] 雜羅滿 Mvyut. ~m
 圃 最後に, (園)の終に.
 carama-giri 男 (大地を支ふる)西方の山, (太陽の没
 する)西方の山.
 caramatas 圃 最も外端にて.
 carama-bhava 男 現世の最後の生存; 最後身,
 最後有 Lal-v., Bodh-bh.
 carama-bhavika 圃 最後の現世的状態に在る; 後
 に来る, 未來の (Lal-v., Kār-vy.); 後生, 最後
 生; 後身, 最後身, 住最後身; 最後有, 住最後有, 居
 最後有 Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Abh-

vy., Mvyut.; 補處, 一生補處; 現身得 Lal-v.,
 Bodh-bh., Mvyut.: ~o bodhisattvaḥ 補處菩薩
 Lal-v. 23.

carama-bhāvika 形 最後身 Lal-v.
 carama-vayas 形 老齡の.
 carama-śairṣika 形 先端を西方に向けたる.
 caramācala 男 = carama-giri.
 caramāṇa 現分 奉行 Śikṣ.
 carā 女 可動性, 生活力.
 carā-cara 1. 形 動く, 走る.
 carācara 2. 形 動くと動かざるとの. 申 動物と植
 物, 全世界.
 cari 女 [音律] = caryā; 行, 所行 Saddh-p.,
 Rāstr., Lan̄k., Śikṣ.
 carita 過受分 → Car. 行, 修, 所修, 修習, 廣
 修, 行道 Lal-v., Saddh-p., Sapt-pr., Rāstr., Gaṇḍ-
 vy.: kuśala-mūla ~ 修習善根, 廣修善根 Gaṇḍ-
 vy. 322. 申 行くこと, 歩むこと; 道; 進行, 舉止,
 實行, 行爲, 動作; 事業; 行, 行度, 行相 Divy.,
 Lal-v., Mañj-m., Abh-vy., Mvyut. → rāga ~.
 carita-pūrva 形 先に行はれたる.
 carita-pratipakṣa 形 行對治 Abh-k.
 caritamaya 形 (女-i) (一°)の行爲を含める..
 caritavat 過能分 行, 修 Saddh-p., Lan̄k.
 caritave 爲 不定 行くために, 動くために.
 caritavya 未受分 實行又は遂行せらるべき; 當
 修 Bodh-bh.
 carita-vrata 形 誓を成就せる.
 caritārtha 形 目的を達せる; 成功せる; 満足せる.
 caritārthatā 女 目的の達成, 成功; 満足.
 caritārthatva 申 [同上]; 事顯 Sām̄khy-k.
 caritārthaya 名動 他 caritārthayati (業)をして
 その目的を達せしむ, 満足せしむ.
 caritāvin 過能分 俗 [= caritavat]; 修, 修行,
 修行者, 勤行, 久修大行, 久行者, 造立衆行 Ast-pr.,
 Saddh-p., Lan̄k.: cirna ~ 盡行 Saddh-p. 29.
 caritra 申 足, 脚; 行くこと; 古の習慣, 慣習; 行
 爲, 動作; 事業.
 caritra-bandhaka 男 申 好意的の抵當.
 caritravat 形 既に(供儀を)遂行せる.
 -carin 形 行 Śikṣ. → bāla ~.
 cariṣṇu 形 動く; 不安定なる, 徘徊する; 動物界に
 屬する; 行, 起 Abh-vy. → saha ~ tā.
 -carī 形 行 Sukh-vy. I. → purima ~.
 caru 男 大釜, 壺, 鍋; (穀物を牛乳・牛酪又は水にて煮
 たる)供物.
 car̄kṛti 女 稱讚, 光榮.
 car̄kṛtya 形 稱讚すべき, 名聲ある.
 car̄kṛṣe, [Kr 2. の 現 隱 三入 單 自]にして 圃 井に
 圃 の意味を有す].
 Carc, 便役 他 car̄cayati (Veda の暗誦に於て語
 を)繰返す [特に iti を挿入して]. 過受分 car̄cita
 繰返されたる; —° ……を以て覆はれたる; ……
 の印を有する; ……に決定せる.
 vi- 過受分 vicarcita (因)に(塗油を)用ゐたる.
 carcaka 男 (Veda を誦する際に)語を反覆すること.

carcana ㊦ [同上].
carcarikā ㊦ (舞臺に於ける)身振(の一種).
carcari ㊦ 歌(の一種).
carcā ㊦ (*Veda* の暗誦に於ける)語の反覆[特に *iti* を以てする]; (膏油の)塗抹; (一°, ㊦)に對する心配・心勞・配慮又は容喙; (一°)に就て語ること; 論議.
carcā-pada ㊦ ㊦ (*Veda* の暗誦に於て *iti* を挿入して)反覆さるゝ語.
carcita ㊦ (過受分) → *Carc.* ㊦ (膏油の)塗抹.
carpaṭa ㊦ 平坦なる; 平坦にせる.
carpaṭaka ㊦ ㊦ 衣架 *Mvyut.*
-carma, = *carman.*
carma-karta ㊦ 皮革の一片.
carma-kāra ㊦ 皮革職人, 靴工(混血種姓); ㊦ 靴匠, 熟皮匠, 皮物(?) *Mvyut.*
carma-kārin ㊦ [同上].
carma-kārya ㊦ 皮革細工.
carma-kāṣṭhamaya ㊦ 革と木とを以て作れる.
carma-kāṣṭhikā ㊦ 鞭.
carma-kṛt ㊦ 靴工.
carma-khaṇḍa ㊦ = *carma-karta.*
carma-caṭaka ㊦ 蝙蝠; ㊦ 春鶯, 蝙蝠 *Mvyut.*
carma-caṭikā ㊦ [同上]; ㊦ 蝙蝠 梵雜.
carma-cola ㊦ ㊦ 皮襖 *Mvyut.*
carma-ja ㊦ 革より作れる, 革の.
carmaṇya ㊦ 革製品.
carman ㊦ 獸皮, 皮膚; 楯; ㊦ 皮, 皮革 *Lal-v., Sūtr., Bodh-c., Śikṣ., Mvyut.,* 梵千, 梵雜.
carma-paṭṭa ㊦ 革紐.
carma-puta ㊦ 革囊, 鞞(㊦), 皮製の象; ㊦ 外皮 *Bodh-c.*
carma-putrikā ㊦ 革人形.
carma-phalaka ㊦ 楯.
carma-bandha ㊦ 革紐, 革帶.
carma-bhastrikā ㊦ 革の小囊.
carmamaya ㊦ (㊦-*i*) 革の, 革製の.
carma-ratna ㊦ (革の寶即ち魔法の財宝
carmaratna-bhastrikā ㊦ [同上].
carma-vastu ㊦ ㊦ 皮革事, 皮衣分 *Mvyut.*
carmaṁbara ㊦ 革を纏へる (*Buddh-c.*).
carmaṁvakartin ㊦ 革を斷截する人, 靴工.
carmaṁvakartṛ ㊦ [同上].
carmaṁvanaddha ㊦ 皮にて覆はれたる.
carmaṁvṛta (°*ma-āv*°) ㊦ [同上].
carmin ㊦ 獸皮にて覆はれたる; 楯にて武裝せる. ㊦ 楯を携へたる人.
carya ㊦ (未受分) 實行せらるべき. ㊦ ㊦ 行, 所行 *Saddh-p., Bodh-bh.*
caryā ㊦ 徘徊すること; 處置, 行爲; (儀式の)執行; (一°, ㊦)の遂行又は實行, ……に従事すること; ㊦ 行, 所行, 所行道, 所行之道, 遊行; 業; 事 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Kāśy., Rāṣṭr., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut.:* *bodhisattva* ~ 菩薩行, 菩薩所行, 菩薩所行之道, 菩薩業 *Saddh-p., Rāṣṭr.;* *catasrasā* ~ 四(菩薩)行 [1. *pāramitā* ~ 波羅蜜多行, 2. *bodhi-pakṣya* ~ 菩提分法行, 3. *abhijñā* ~

神通行, 4. *sattva-paripāka* ~ 成熟有情行] *Bodh-bh.* 371.

caryā-carāṇa ㊦ 訓練の實踐 (*Sukh-vy. I.*).
caryā-duṣkaratā ㊦ ㊦ 難行(苦行) *Śikṣ.*
caryā-praṇidhāna ㊦ ㊦ 行願 *Gaṇḍ-vy.*
caryā-pratipatti-bhūmi ㊦ ㊦ 行迹地, 行正行地, 持地(?) *Bodh-bh.*
caryā-pratipanna ㊦ ㊦ 已習行 *Śikṣ.*
caryā-bala ㊦ ㊦ 行力 *Mvyut.*
caryā-bhūmi ㊦ ㊦ 修行地 *Laṅk.*
caryā-samudāgama ㊦ ㊦ 修本行, 修諸行 *Gaṇḍ-vy.*
Carv, ㊦ (使役) *carvayati* 嚙る, 嚼(?)む; 味ふ; ㊦ 齧 梵千. ㊦ (過受分) *carvita* 嚼まれたる.
carva ㊦ ㊦ 嚼 梵千.
carvaṇa ㊦ 嚼むこと, 味ふこと; 固き食物; ㊦ 嚼 *Abh-vy.,* 梵雜.
carvaṇā ㊦ [同上].
carvita ㊦ (過受分) → *Carv.*
carvya ㊦ (未受分) 嚼まるべき.
carṣaṇi ㊦ 動く, 流るゝ; 活動せる, 忙しき. ㊦ ㊦ 人々, 民衆, 民族 [一° — は通常 -*i*].
carṣaṇi ㊦ 不貞なる妻. → *carṣaṇi* (㊦).
carṣaṇi-dhṛt ㊦ 人々を保護する.
carṣaṇi-dhṛti ㊦ 人々の保護.
carṣaṇi-sah ㊦ 人々を支配する.
Cal, I. ㊦ (自) *calati(-te)* 動く, 揺れ動く, 揺れる, 震ふ, 戦く; 前進す, 進行す; 去る, 出發す; (報道が)弘まる; 彷徨す; 動揺・擾亂・混亂又は損減せしめらる; ゆらめく, (㊦)より逸る; ㊦ 動, 動揺, 震動, 遷動, 傾動, 移動, 動轉, 移轉; 縦震; 起; 踊; 崩; 驚疑 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ.:* *calati ca nayanam* 目瞤, 目瞤動 *Suv-pr.* 196. ㊦ (過受分) *calita* 震動せる, 不安定なる; 動ける; 去れる, 出發せる, 歩める; 通常の道より逸れたる, 擾されたる, (心, 感情等の)混亂せる; 逸れしめられたる, (㊦)より轉じたる. ㊦ ㊦ *calayati* 動かす, 起す, 振る, 震はしむ; 惱亂せしむ, 動揺せしむ; (㊦)より轉ぜしむ; *cālayati* 驅逐す; 振る; (事柄を)無効にす; 肘にて軽く衝く; 惱亂せしむ, 動揺せしむ; ㊦ 振動, 能壞 *Divy., Aṣṭ-pr.*
ud- 行く, 出發す; 解く; (席 ㊦)より起つ; ㊦ 超出, 超過; [㊦ と俱に] 能離 *Gaṇḍ-vy.* ㊦ (過受分)
uccalita 出で行ける, 出發せる. ㊦ ㊦ *uccālayati* ㊦ 令出, 厭離, 令解脫, 勝進 *Gaṇḍ-vy., Daś-bh.*
prod (*pra-ud-*) 出かく, 出發す, 旅立つ.
sam-ud- 共に立ち上る; 共に出發す.
pra- 動揺せしめらる, 擾さる, 苦しめらる; 震ふ, 戦慄す; 起す, 進む; (風が)起る; (席より)躍り上る; (㊦)より出かく, 去る, 出發す, 離る; ㊦ 動, 振動, 震動, 偏動, 極移轉 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Mañj-m., Abh-vy.;* 降生 *Lal-v.* ㊦ (過受分) *pracalita* 動かされたる, 震はされたる; 出發せる, 進める; 混亂せしめられたる, 擾されたる, 苦しめられたる ㊦ (使役) *pracalayati* 動かしむ; *pracālayati* 震は

しむ, 咬す.

sam-pra- 漢譯 極震, 等偏動, 等遍動, 遍移轉 *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*

vi- ゆらめく; 動く; 起す, 進む; 落伍す, 落下す; 動揺・擾亂又は減損せらる; (從)より逸れる; 漢譯 傾; 離散; (心)動揺 *Divy.*, *Bodh-bh.* 漢役 **vicālayati** 動揺せしむ; 擾す, 苦しましむ; 破壊す; (法を)犯す; 疑ふ; 廢止す.

pra-vi- (從)より逸れる.

sam- 震ふ, 戰慄す; 出發す; 漢譯 遍動, 正震 *Divy.* 漢役 **samcālayati** 動かしむ; 驅逐す.

cala 形 動く, 震ふ; 不安定の, 揺れる; 波うつ; ヒラヒラする; ざわめく, 擾されたる, 混亂せる; 變り易き; 漢譯 動, 動揺, 揺動, 變動, 動擾, 擾動, 躁動; 轉; 無定; 遷流 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Sikṣ.*, *Sāṃkhy-k.*

cala-citta 形 心の變り易き. 甲 變り易き氣質, 移氣; 漢譯 躁動心, 動擾其心, 擾動其心 *Suv-pr.*, *Sikṣ.*

cala-cittatā 女 變り易きこと; 輕佻.

calacitta-vaśena 具 漢譯 爲躁動心, 因動擾其心 *Suv-pr.*, *Sikṣ.*

calatā 女 振動, 不安定.

calatthā 女 漢譯 圈, 槽 *Mvyut.*

calatva 甲 =calatā; 漢譯 動, 動揺 *Sūtr.*, *Abh-vy.*

calat-saṭa 形 揺ぐ鬣ある (*Buddh-c.*).

calana 形 動く, 不安定なる; 歩む; 放縱なる, 甲 顛動, 不安定, 運動, 逍遙; 活動, 官能; 動揺; (從)より逸れること; 擾さるゝこと; 漢譯 動, 亂 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

calanaka 男 甲 (踊子の)短き下衣.

calanatā 女 漢譯 輕躁 *Sam-r.*

calanika 男 漢譯 短褲襠 *Mvyut.*

cala-niketa 形 住所不定の.

calani 女 身分卑しき婦人用の下衣; 漢譯 褌 梵雜.

cala-prakṛti 形 輕佻なる, 移氣の.

cala-svabhāva 形 [同上].

calā 女 運命の女神.

calā-cala 形 彼方此方に動く, 不安定なる; 常恆ならざる; 漢譯 漂動, 動揺, 輕躁, 輕動進退非恆, 輕動不能決定 *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*

calātmaka (°la-āt°) 形 漢譯 無常 *Divy.*

calātman (°la-āt°) 形 (心の)變り易き.

calita (從受分) → Cal. 漢譯 震, 動; 起; 踊 *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Mvyut.*; 歎息 *Buddh-c.* 甲 彼方此方に動くこと.

calita-mānasa 形 心の安定せざる.

calitavya (未受分) 甲 非入 進むべきなり, 動くべきなり; 去るべきなり.

calita-sthāna 形 居處の一定せざる.

caluka 男 (?) 口一杯の水.

calormi (°la-ūr°) 形 漣のたつ; 波立てる.

cavika 甲 胡椒(の一種).

cavikā 女 [同上].

cavi 女 [同上].

cavya 甲 [同上].

cavyā 女 [同上].

caṣaka 男 (?) 飲器, 酒杯.

caṣāla 男 甲 供儀の柱の頭冠. 甲 豚の鼻先.

caṣāla-yūpa 男 上部に木冠を附したる供儀柱.

cākrāyaṇa 男 [*Uṣasta*の(父系)].

cākrika 男 荷馬車を牽く人; 陶工; 油を搾る人; 鐘を鳴らす人; 徒黨, 共犯者; 漢譯 執輪者 *Mvyut.*

cākṣuṣa 形 (女-i) 眼に特有なる, 眼より起る, 眼によりて認めらるべき. 男 [第六 *Manu*の(父系)].

cākṣuṣatva 甲 眼によりて認知せらるゝこと; 漢譯 眼所見性 *Nyāy-pr.*

cācari 男 [或る力士の名].

cācali 形 甚だ動く, 速かに動く.

cāñcalya 甲 變り易きこと, 不定.

cāncava 甲 名聲.

cāṭa 男 詐欺師, 惡漢.

cāṭalikā 女 [地名].

cāṭu 男 甲 甘言を以て説伏すること, 甘言; 阿諛; 美辭. 形 快き(?).

cāṭuka 男 [同上(名)].

cāṭu-kāra 男 阿諛者.

cāṭu-vacana 甲 甘言.

cāṭu-śata 甲 百の甘言.

cāṭukti 女 甘言.

cāṭv-artham 副 親切(を行はんが)ために.

cāṇakya 形 山藜豆にて作られたる. 男 [*Canaka*の(父系)]; [*Candragupta*王の大臣の名].

cānūra 男 [*Kṛṣṇa*に殺されたる力士の名]; 漢譯 執持 *Mvyut.*; (音寫) 遮努羅, 遮怒羅 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

cānūra-bala 甲 漢譯 執持力, 最勝力; (音寫) 遮努羅力 *Mvyut.*

cāṇḍāla 男 =caṇḍāla; 漢譯 (音寫) 旃陀羅 *Lank.* 形 (女-i) *Caṇḍāla*獨特の.

cāṇḍāli 女 *Caṇḍāla*の女.

cātaka 男 郭公鳥(の一種) [兩の雫のみにて生くと想像せらる]; 漢譯 沙燕 *Mvyut.*

cātaki 女 [同上].

cātana 形 [Catの(從總)より]. (一°)を驅逐する. 甲 [*Atharva-veda*の或る詩句の名].

cātura 形 詔(マ)ふ; 導く, 支配する.

cāturāśramika 形 [catur-āśraminより] 婆羅門生活の四期中の一にある.

cāturāśramya 甲 置 [catur+āśramaより] 婆羅門生活の四期.

cāturi 女 伶俐, 器用; 魅力.

cāturtha 形 第四(章)に論ぜられたる.

cāturthaka 形 四日目毎に起る(熱). 男 漢譯 四日者, 每四日瘧 *Mvyut.*

cāturthāhnika 形 [caturthāhnaより] 第四日に屬する.

cāturthika 形 [caturthaより] [同上].

cāturdaśika 形 [catur-daśīより] 半箇月の第十四日に聖典を學ぶ; 漢譯 十四筵 *Mvyut.*

cātur-diśa-saṃgha 男 漢譯 (音寫) 四方僧 *Sikṣ.*

cāturdiśasāṃghika 男 甲 (?) [catur+diśa+sāṃghaより] 漢譯 (音寫) 四方僧物 *Sikṣ.*

cāturdiśya 甲 [catur-diśaより] 漢譯 四方玄應; (音寫)

招提, 柘闍提奢 立應.
cātur-dvipa 男 漢譯 四大洲, 四天下 *Bodh-bh.*
cāturdvipaka 形 [catur-dvipa より] 漢譯 四大洲, 王四大洲, 王四天下 *Bodh-bh., Abh-vy.*
cāturdvipika 形 [catur-dvipa より] 漢譯 四大洲 *Bodh-bh.*
cāturdhākāraṇika 形 [caturdhā-karaṇa より] 四部分に分れたる.
cāturbhautika 形 [catur+bhūta より] 四の要素より成る.
cātur-mahā-dvipa 男 漢譯 四大洲 *Ast-pr.*
cāturmahābhautika 形 [catur+mahā+bhūta より] 漢譯 四大種, 四大造色, 四大及造色, 依四大生, 四大及所造色 *Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh.*
cātur-mahā-rāja-kāyika 男 複 [=catur-m^o]; 漢譯 四天王, 四王諸天, 四天王天, 四天王衆, 四大王衆 *Divy., Saddh-p., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.:* [1. *Vaiśravaṇaḥ* 多聞子, 2. *Dhṛtarāṣṭraḥ* 持國, 3. *Virūdhakāḥ* 增長, 4. *Virūpākṣaḥ* 廣目] *Mvyut.*
cāturmahārājika 男 [catur-mahā-rāja より] [*Viṣṇu* 神の稱]; (複) [=cāturmahārājakāyika]; 漢譯 四大王天, 四大王衆天 *Abh-vy.*
cātur-māsi 女 *Cāturmāsya* 供儀の満月の日.
cāturmāsya 中 [catur-māsa より] 四箇月の期間; 四箇月毎(三季節の初)に行はるゝ供儀.
cātura 中 熟練, 巧妙; 魅力.
cātur-varṇa 男 漢譯 四姓 *Laṅk.*
cāturvarṇya 中 [catur-varṇa より] 四姓; 漢譯 四色, 四姓 *Gaṇḍ-vy., Vajr-s.*
cāturvimśika 形 [catur-vimśa より] 第二十四日に屬する.
cāturvidya 形 四 *Veda* に通曉せる. 中 四 *Veda*.
cāturvidhya 中 [catur-vidha より] 四倍; 漢譯 四種 *Mādhy-v.*
cāturvaidya 形 [catur-vidyā より] 四 *Veda* に通曉せる.
cāturhotṛka 形 *Catur-hotṛ* に關する.
cātur-hotṛ 中 四人の(主なる)祭官によりて遂行せらるゝ. 中 四人の(主なる)祭官によりて遂行せられたる供儀; 四人の主祭官の義務; 四人の主祭官[集合的に].
cāturhotriya 形 [cātur-hotra より] 四人の主祭官に奉仕せられたる.
cātuṣcaraṇika 形 [cātuṣ-caraṇa より] 四 *Veda* の各部門に通曉せる.
cātuṣkoṭika 中 [cātuṣ-koṭi より] 四部分の; 漢譯 四句, 四種見 *Laṅk.*
cātuṣkoṭika-bāhya 中 漢譯 出於四句, 超過四句, 離四種相 *Laṅk.*
cātuṣkoṭikā 女 [cātuṣ-koṭi より] 漢譯 四句 *Laṅk.*
cātuṣ-patha 形 路の四つ角にある
cātuṣprāśya 形 [cātuṣ+prāśa より] 四人が食ふに十分なる.
cātuṣsāgarika 形 [cātuṣ-sāgara より] 四海に關する.
cāttra 中 軸特に *uttarārāṇi* の軸棒[結びつけたる綱

が迅速に前後に動く方法により聖火を生ずる爲に鑽孔機 (*pramantha*) を附したるもの].

cātvāla 男 中 (*Uttara-vedi* 即ち上方の祭壇に土を供給する) 穴.
cātvālavat 形 (供儀に於て) *cātvāla* が堀らるゝ.
c-āna-s, [分詞的後接字 -āna].
cānā 男 女 (?) 複 漢譯 炒米; 香, *Mvyut.* → *lājā.*
cāndana 形 (女 -i) 白檀材にて作られたる.
cāndra 形 (女 -i) 月(太陰)の.
cāndraka 形 (女 -i) [同上].
cāndrama 形 (女 -i) [同上].
cāndramasa 形 (女 -i) [同上].
cāndravratika 形 [candra+vrata より] 月の性質を有する.
cāndrāyaṇa 男 月の行程(の觀測者). 中 [月の行程に一致する苦行即ち十五日より毎日食物を一口宛減じ新月に至り絶食し, 其の後毎日一口宛増して満月に至る(之に新月より始むる場合と満月より始むる場合とあり)].
cāndrāyaṇa-vrata 中 [同上(中)].
cāpa 男 中 弓(武器); 虹; 漢譯 弓 *Buddh-c., Rāṣṭr.* → *indu* ~.
cāpa-guṇa 男 弓の弦.
cāpa-dhara 形 弓にて武装せる.
cāpa-yaṣṭi 女 弓.
cāpala 中 速力; (一°)に就て不安定・移氣・輕佻・輕率又は無分別なること.
cāpala-cala 形 漢譯 輕躁, 散動 *Śikṣ.*
cāpalacala-citta 中 漢譯 心輕躁, 狂心散動 *Śikṣ.*
cāpa-latā 女 弓の弦.
cāpa-lekhā 女 [人名].
cāpalya 中 = *cāpala*; 漢譯 散動, 輕躁 *Suv-pr.*
cāpa-veda 男 弓術.
cāpācārya (°pa-āc°) 男 弓術の師.
cāpādhiropaṇa 中 弓に弦を張ること又は彎くこと.
cāpāropaṇa (°pa-ār°) 中 [同上].
cāpāla-caitya 中 漢譯 [Caitya の名] 取弓 *Divy.*
cāpin 形 弓を持てる.
cāpodara (°pa-ud°) 形 漢譯 腹圓相, 腹圓滿 *Mvyut.* [*Mvyut.* 註會].
cāpodari (°pa-ud°) 女 漢譯 腰細如弓把 *Mvyut.*
cāmara 形 *Camara* に關する. 中 犛牛の尾[蠅拂ひ又は馬及び象の頭の飾として用ひらる]; [王權の標章の一]; 漢譯 拂 *Mañj-m.* → *camara.* 男 漢譯 [洲の名] 拂(洲), 犛牛 *Mvyut.;* (音譯) 遮末羅 *Abh-k., Mvyut.*
cāmara-grāhiṇi 女 蠅拂ひを持つ女.
cāmara-dhāri 女 [同上].
cāmara-dhāriṇi 女 [同上].
cāmara-vyajana 中 犛牛の尾にて作れる蠅拂ひ.
cāmarika 男 漢譯 持拂者 *Mvyut.*
cāmarikā 女 蠅拂ひを持つ女.
cāmi-kara 中 黄金; 漢譯 眞金, 黄金 *Rāṣṭr.*
cāmikara-prakhyā 形 黄金の如き.
cāmi-karamaya 形 (女 -i) 黄金の.
cāmikarācala 男 [*Meru* 山の稱].

cāmikarādri 男 [同上]; 金山 Divy.
 cāmi-kariya 形 黄金の.
 cāmuṇḍa 男 [或る著作者の名].
 cāmuṇḍā 女 [Durgā の一形相].
 cāmpeya 男 Campā 國の王侯; 龍王の名] 怎巴, 薜葡 Mvyut.
 Cāy, I. 他 自 cāyati(-te) (業)に怖(+)づ; 自 恭敬す; 知覺す, 認む, 注意す.
 apa- 怖る; 尊敬す, 崇拜す; 恭敬 Aṣṭ-pr.
 ni- 崇拜す, 尊敬す; 知覺す.
 cāyaniya (未受分) 知覺せらるべき.
 cāyitr 形 知覺する.
 cāyu 形 敬意を表する.
 cāra 男 間諜; 運動, 進行; 活動, 舉動; (一°)としての職業; 行, 作; 轉; 震 Daś-bh., Abh-vy.; [=cāraka (男)] 獄 Divy. → bhūmi ~.
 cāraka 形 (一°)を行ふ或は進む; 遷 Mvyut. 男 間諜; 監獄; 獄, 牢獄, 囹圄; 伺盜者 Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Śikṣ.: ~e pra-Kṣīr 牢獄繫閉 Śikṣ. 68.
 cāraka-pāla 男 獄卒 Śikṣ.
 cāraka-bandhana-stha 形 在牢獄, 繫囹圄 Gaṇḍ-vy.
 cāra-gata 形 在行位 Abh-vy.
 cāra-cakṣus 中 眼として働く間諜. 形 間諜を我が眼とせる.
 cāra-carāṇa 中 間諜の配布.
 cāraṇa 形 學派と聯絡せる; 同學派に屬する. 男 旅役者; 天上の樂人; 間諜; 牛を驅ること; 俳優 Aṣṭ-pr.
 cāraṇatva 中 旅役者たること.
 cāraṇaikamaya (°na-ek°) 形 (女-i) 旅役者のみより成る.
 cāra-dṛś 形 =cāra-cakṣus (形).
 cāra-pāla 男 獄官 Divy. 565.
 cāra-puruṣa 男 間諜.
 cāra-bhata 男 兵士.
 cārādhikāra 男 間諜の職又は義務.
 cārādhikārin 男 間諜.
 cārika 形 行, 所行, 遊 Saddh-p., Sapt-pr., Mvyut.
 cārikā 女 召使の少女(一°); (佛陀の)旅又は遊行僧の生活 (Divy., Lal-v.); 行, 正行, 所修行, 遊行 Divy., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Bodh-bh.: ~m caran 遊行 Av-s. I. 119.; ~m prakrāmat 遊歴 Lal-v. 246.
 cārīta (過受分) 活動を開始せしめたる; (具)によりてなさしめられたる; 遍行 Divy.: samghe ~m 遍行衆僧 Divy. 432.
 cārītārthya 中 [carītārtha より] (自己の)目的の達成; 適合.
 cārītra 中 動作の過程, 舉止, 行爲; 善行, 德; 儀容; 行, 正行, 戒行, 行處, 威儀 Daś-bh., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
 cārītra-rakṣaka 形 守護正行 Bodh-bh.
 cārītravat 男 信義者 Sam-r.

cārītravati 女 [Samādhi の名] 具行 Mvyut.
 cārītra-saṃpanna 形 具行, 具法事, 正行具足, 威儀具足 Bodh-bh., Mvyut.
 cārītrācāra (°ra-āc°) 男 威儀 Saddh-p.
 cārītrācāra-samanvita 形 威儀具足 Saddh-
 cārītrin 形 行爲の善き.
 cārītrya 中 善行.
 cārīn 形 動き得る; 一° ……の中に動く・行く・徘徊する・住する或は生活する; 行動する, 遂行する; 行, 行者, 周行; 遊, 遊化; 修, 修行 Divy. Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵雜. → par śac ~. 男 歩兵; 間諜.
 cāru 形 快き 愛想よき, 適意の; 親愛なる; 美しき, 愛らしき; 妙, 美妙, 姝妙, 微妙; 端嚴, 嚴肅 Divy., Lal-v., Rāṣṭr., Mvyut.; 敬愛 Guhy-s.; 遮盧, 遮婁 Abh-vy. [又た 中 は 圓 の意義].
 cāru-gāmitā 女 歩調の優雅なること (Dharm-s.).
 cāru-gāmin 男 行相美妙, 行歩嚴肅 Mvyut.
 cāru-gīti 女 [音律の一種].
 cārūtā 女 人望; 美麗.
 cārūtva 中 人望.
 cāru-datta 男 [或る婆羅門の名].
 cāru-danta 男 [或る商人の子の名].
 cāru-darśana 形 可愛 Mvyut.
 cāru-darśanā 女 美しき婦人.
 cāru-deṣṇa 男 [Kṛṣṇa の子の名].
 cāru-netra 形 美しき眼を有する.
 cāru-payodhara 形 (女-ā) 美しき乳房を有する (Buddh-c.).
 cārumat 形 愛らしき.
 cāru-mati 男 [或る鸚鵡の名].
 cārumanta 男 [=cārumat] [Cakra-vartin の名] 具妙, 有端嚴 Mvyut.
 cāru-yaśas 男 [Kṛṣṇa の子の名].
 cāru-rava 形 美しき聲を有する.
 cāru-rūpa 形 美しき形の.
 cāru-locana 形 美しき眼を有する.
 cāru-vaktra 形 美しき顔の. 男 [Skanda の眷屬の名].
 cāru-veṇi 女 美しき辮髪; [河の名].
 cāru-veśa 形 美装せる.
 cāru-śabda-bhaṅgavat 形 愛らしく口ごもり(且つ)魅力ある表現(語)に富める.
 cāru-śravas 男 [Kṛṣṇa の子の名].
 cāru-sarvāṅga 形 四肢皆美しき.
 cārusarvāṅga-darśana 形 [同上].
 cāru-svara 形 妙音 Rāṣṭr.
 cāru-hāsin 形 愛らしく笑ふ.
 cāru-hāsini 女 [音律の一種].
 cārekaṣaṇa (°ra-ik°) 形 =cāra-cakṣus (形).
 cārcikya 中 身體に油を塗ること.
 cārmika 形 革の.
 cārya 男 種族外に逐はれたる Vaiśya の子. 中 偵察.
 cārvāka 男 [唯物論的異端哲學者の名]; 唯物論者. 形 Cārvāka によりて作られたる.

cāla 男 動搖, 震動, (齒の)震ふこと又は弛むこと;
 動, 振動, 變動, 震, 震動 *Divy., Gand-vy., Sapt-pr., Bodh-bh.* → *prthivī*~.

cāla 男 頑固なる人.

cālana 中 動くこと, 振り動かすこと, 運動, 震ふこと; 弛むること.

cālani 女 篩; 濾過器.

cālita 使役 過受分 漢語 動 *Saddh-p.*

cālya 未受分 動かさるべき, 震動せしめらるべき; 轉ぜらるべき.

cāṣa 男 緑色の椋鳥 [學名 *Coracias indica*]; 漢語 青雀 *Budbh-c.*; (音寫) 雜沙鳥 *Mvyut.*

Ci 1., V. 他 **cinoti**, 自 **cinute** 排列す, 積む; 建設す [特に供儀の祭壇を(祭官によりてなさるゝ場合は他, 供儀者自身によりてなさるゝ場合は自)]; 集む, 聚む; 得る, 達す; (因)を以て撒布す或は覆ふ; 漢語 集, 採集, 集起, 増長 *Lank., Abh-vy.* 受 **ciyate** 増大す, 繁榮す. 過受分 **cita** (因)を以て覆はれたる. 撒かれたる或は嵌め込まれたる. 希求 **ciciṣati** 集めんと欲す, 得んと欲す; **cikiṣate** 積み上げんと欲す.

anu- 過受分 **anucita** (枝因)にて悉く圍繞せられたる.

apa- 集む. 受 **apaciyate** (因)より減ず, 一層小となる, 失ふ. 過受分 **apacita** 瘦せしめられたる, 薄き.

ava- (業)より(業)を集む.
ā- 積み上ぐ, 蓄積す; (因)にて覆ふ, ……を積載す; 漢語 集, 積集 *Sūtr., Bodh-bh.* 過受分 **ācita** 集められたる; 積み上げられたる; 覆はれたる, 撒布せられたる; (因, 一°)を置かれたる或は積まれたる.

sam-ā- 合集す, 積み上ぐ; 覆ふ, 積載す; (路の凹處を)埋む. 過受分 **samācita** 積み上げられたる, 覆はれたる, 蔓延せられたる.

ud- 集む. 過受分 **uccita** 集められたる.

abhy-ud- (因)に包含す; 一處に集む; 他と關聯して論ず.

sam-ud- 排列す; 加ふ; 集む.

upa- 積み上ぐ, 集む, 蓄積す; 増す; 強む; 漢語 集, 合, 積累, 集起 *Daś-bh.* 受 **upaciyate** 生長す, 増強せらる. 増大す; 富む, 益す, 成功す. 過受分

upacita 増加せる, 擴大せられたる, 増大せられたる; 豊富なる; 強壯なる; 繁榮せる; 覆はれたる; (因, 一°)を積載又は供給せられたる.

sam-upa- 積み上ぐ, 集む. 受 **samupaciyate** 増加す; 生長す. 過受分 **samupacita** 豊富なる.

ni- 過受分 **nicita** 積み上げられたる; 建てられたる; (因, 一°)にて覆はれたる. を嵌め込まれたる或はにて充されたる.

pari- 積み上ぐ; 集む; 増大す; 得る; (因)を以て圍む. 受 **pariciyate** 生長す, 増す. 過受分

paricita 積み上げられたる, 集められたる; 得られたる, 達せられたる; (因)を以て充たされたる; ……を含める.

pra- 集む, 増大す. 受 **praciyate** 集めらる, 増加す. 過受分 **pracita** 集められたる, 積まれたる;

(因, 一°)を以て覆はれたる或は充たされたる.

vi- 選り出す, 選ぶ, 選り抜く; 區分す; (髪を)分つ; (分捕品を)分配す; 取り去る; 集む.

sam- 積み重ね; 排列す; 集む, 蓄積す, 得る; 漢語 増長, 積集 *Ast-pr.* 過受分 **samcita** 集められたる, 積み上げられたる; (一°)にて充されたる, ……を供給せられたる; 妨げられたる; 屢=行はれたる.

Ci 2., III. 他 **ciketi** (因); **V.** 他 **cinoti**, 自 **cinute** 知覺す, 認む, 凝視す; 期待す, 専心す; (業)に於て(業)を捜す.

ni- 認知す, 注意す. 過受分 **nicita** 見られたる, 現はるゝ. 希求 **nicikiṣate** 見る, 見守る, 護る.

nis- 確かむ; 確信す; 限定す; 決心す, 決定す; 確實と考ふ. 受 **niściyate** 漢語 究竟 *Sikṣ.* 過受分 **niścita** (因, 一°)と決心又は決意せる; 確實なる, 確信せる, 確定せる.; **niścitam** 副 確かに, 決定的に.

vi-riś- 思量す; 決定的に確信す; 最後の決意をなす; 漢語 [又た **vinīścayati**] 決了 *Saddh-p.* 過受分 **vinīścita** 決定せられたる, 決心せられたる; 全く確實なる, 十分確定せる; **vinīścitam** 副 確實に, 斷じて.

pari- 檢す, 搜ね究む; 見出す, 知る, 學ぶ, 練習す, 確實にす, 認む; ……と近づきになる或は慣れる. 受 **pariciyate** 知らる. 過受分 **paricita** 知られたる, 親しき, 慣れたる; 屢=起る. 使役 自 **pari-cāyayate** 捜す.

vi- 識別す; 辨別す, 檢す, 試験す, 搜ね究む; 期待す, 捜す; 得んと努む; 確實又は明瞭にす; 漢語 知; 觀察; 視擇, 選擇; 甚分別; 廣採集, 廣積集, 觀集境 *Daś-bh., Lank., Mvyut.* 過受分 **vicita** 捜されたる.

pra-vi- 搜ね究む, 檢す; 漢語 [又た **pravicyaya-**] 知; 揀擇, 簡擇, 能簡擇, 撰擇, 思擇, 正思擇, 極善思擇; 觀察; 稱量; 分了 *Sukh-vy. I., Saddh-p., Daś-bh., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ., Viñ-t.* 過受分

pravicyaya 試みられたる, 試験せられたる.

sam- 熟慮す; 漢語 修 *Daś-bh.*

Ci 3., I. 自 **cayate** 嫌惡す, 憎む; 復讐す; 罰す, (業)に復讐す.

cikartiṣā 女 [Kṛt I. の (希求)より] 切らんとする欲望.

cikartiṣu 形 [Kṛt I. の (希求)より] 切らんと欲する.

cikāriṣu 形 [Kṛt I. の (使役) (希求)より] 作らしめんと欲する.

cikit 形 知る, 經驗せる; 輝く.

cikitāna 男 [人名].

cikitāyana 男 [同上].

cikitu 形 輝ける.

cikitvas 三過分 [Cit] 注目せる, 觀察せる, 注意深き; 知る, 理解せる, 賢き.

cikitvit 副 考慮を以て.

cikitsa 希求 因 → Cit.

cikitsaka 男 醫師; 漢語 醫, 醫療, 治病 *Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr.*

cikitsana 中 治療.

cikitsani 女 漢語 離病 *Mañj-m.*

cikitsaniya ㊦ 癒し得る (Jāt-m.).
cikitsā ㊦ 治療, 醫學; ㊦ 醫, 治, 醫方, 治病醫方, 治諸病方, 救療 *Daś-bh., Sam-r., Kāśy., Lank., Śikṣ., Bodh-bh.*; rāga ~ 治其欲著 *Sam-r. 13.*
cikitsā-vidyā ㊦ 醫方明 *Mvyut.*
cikitsā-sāstra ㊦ 醫學便覽; ㊦ 醫方論 *Lank.*
cikitsita ㊦ 治療せられたる, 救はれたる; ㊦ 救拔 *Śikṣ.*; —° 察醫方 *Mvyut.* ㊦ =cikitsā; ㊦ 醫方, 醫方論 *Buddh-c., Mvyut.*
cikitsu ㊦ 賢き, 巧者なる.
cikitsya ㊦ 癒し得べき, 治療を要する.
cikirṣ ㊦ [Kr. I. の ㊦ より] 爲さんと欲する.
cikirṣa, [Kr. I. の ㊦ ㊦].
cikirṣā ㊦ (㊦, —°)を爲さんとする或は作らんとする欲望. ……の渴望.
cikirṣita ㊦ 計畫; 目的, 意圖.
cikirṣu ㊦ 爲さんと或は作らんと欲する, 形成・完成又は實行せんと欲する; (㊦, —°)を願へる. → ān-antarya ~.
cikirṣuka ㊦ =cikirṣ.
cikura ㊦ 頭髮; 毛; [或る Nāga の名].
cikura-nikara ㊦ 髮束.
cikura-bhāra ㊦ [同上].
cikkaṇa ㊦ 滑かなる, 滑り易き.
cikkā ㊦ ㊦ [chikkā の誤] 涕噴 *Mvyut.*
cikkira ㊦ [鼠の一種].
cikriḍṣā ㊦ [Kriḍ の ㊦ より] 遊ばんとする欲望.
cikṣipas, [Kṣip の ㊦ ㊦ ㊦ Injunctive].
cikhādiṣu ㊦ [KHād の ㊦ より] 食はんと欲する.
cicariṣu ㊦ [Car の ㊦ より] 行かんと努むる.
cicaliṣu ㊦ [Cal の ㊦ より] 將に出發せんとする.
cicikuci, =cicikūci.
cicca ㊦ ㊦ [又た **ciccha**] 心轉 [*Tib. sems-(b)sgyur-ba*] *Mvyut.*
ciccika ㊦ [鳥の一種].
cicchaka ㊦ ㊦ [龍王の名] 暗而結 *Mvyut.*
cic-chakti (cit-śakti) ㊦ 思考力.
cicchitsu ㊦ [CHid の ㊦ より] 切らんと欲する.
ci-ñ, [語根 Ci I.].
ciñcā ㊦ 羅望子(譯) [樹并にその果實].
ciñcini ㊦ [町の名].
Cit, I. ceta-, (㊦) (㊦) (㊦) を知覺・注意又は注目す; (㊦)を志す, 企つ; (㊦, ㊦)を熱望す; 決心す, 了解す, 知る; 現る. ㊦ **ciketa** 了解せり, 知れり. ㊦ ㊦ **cetayati(-te)**, **citayati** ㊦ (㊦)を想起せしむ; 教ふ; 注意す, 認む; 注目す; ㊦ 熟慮す, 冥想す; 理解す; (㊦)を記憶す, ……を自覺す; 現はる, 目立つ, 輝く. ㊦ **cikitsati** [例外として -te] ……せんと欲す; (㊦)に備ふ; 治療す, 癒す. ㊦ ㊦ **cikitsayati** 癒す. ㊦ **ceki(t)te** 現はる, 輝く; ㊦ **cekitat**, **cekitāna**.
ā- 注意す, 注目す; 了解す, 知る.
pra- [praciketti, pracikitte] 知る, 知らしむ; 見ゆ, 現はる. ㊦ ㊦ **pracetayati** 知らしむ, 現はす; ㊦ 現はる.
vi- [vicetati(-te)] 知覺す; 識別す; 了解す, 會得

す; ㊦ 見ゆ, 現はる. ㊦ **vicikitsati** 反省す, 識別せんと欲す; 疑ふ, ……に就て確かならず; 躊躇す; ㊦ 惑疑, 疑滯, 疑惑猶豫 *Ast-pr.* ㊦ **vicitayati** 知覺す, 識別す.
pra-vi- ㊦ 觀察 *Bodh-bh.*
sam- 檢分す; 知覺す; 一致す, 同意す.
cit 1. ㊦ 智, 性, 精神.
cit 2. ㊦ (—°)を積める; 積まれたる, 堆積をなせる.
cita ㊦ ㊦ → Ci. I. ㊦ 饒, 豐滿; 稠密, 充實; 所增長 *Sam-r., Abh-vy., Mvyut.*; prabhū ~ 多饒 *Sam-r. 53.* ㊦ 建物; ㊦ 聚色, 微聚 *Abh-vy. 84.*
cita-keśa ㊦ ㊦ 頭髮稠密; 髮美 [citra°(?)] *Mvyut.*
cita-pakṣma ㊦ ㊦ 眼睫稠密; 眼毛美好 [citra°(?)] *Mvyut.*
cita-vistara ㊦ [裝飾の一種] (佛勢); ㊦ 頭髮網子 *Mvyut.*
cita-stha ㊦ ㊦ 積集 *Abh-vy.*
citā (㊦) ㊦ 薪の堆積, 火葬用の薪の堆積; ㊦ 薪, 積 *Divy., Saddh-p.*; ~ m kṛtvā 爲積 *Saddh-p. 411.*
citāgni (又は °tā-ag°) ㊦ 燃えつゝある火葬の堆薪.
citāṅga ㊦ ㊦ 俯僂, 偃僂 *Av-ś. II. 135.*
citāṅguli ㊦ ㊦ 諸指豐滿 *Mvyut.*
citā-caitya-cihna ㊦ 墓.
citādhirohaṇa (°tā-adh°) ㊦ 火葬用の薪の堆積に上ること.
citā-dhūma ㊦ 火葬用の薪の煙.
citānala (°tā-an°) ㊦ =citāgni.
citāntarāmsa ㊦ ㊦ [三十二相の一] 肩膊圓, 膊間充實, 兩腋滿相, 兩腋圓滿, 缺(?)骨滿, 缺(?)骨平滿 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
citāntarāmsatā ㊦ 充實せる肩間を有すること (*Dharm-s.*); ㊦ [三十二相の一] 膊間充實, 缺(?)骨滿相, 缺(?)骨平滿相, 兩膊腕下皆悉充實相 *Bodh-bh. Dharm-s.*
citi 1. ㊦ [Ci I.] 堆積; 薪の堆積; 塊; 群集.
citi 2. ㊦ [Cit] 理解; 智性, 精神.
citikā ㊦ 薪の堆積; 火葬用の薪の堆積. —° [屢: 數字の後に用ふ] ㊦ ……の……層の.
citi-kṛpti ㊦ 祭壇の準備.
citimat ㊦ 思考能力ある.
citaidha (°ta-edha) ㊦ 火葬用の薪の堆積に關する.
cit-kāra ㊦ =cit-kāra.
cit-kāravat ㊦ 叫びを伴ふ.
citta ㊦ ㊦; ㊦ 注意; 思考, 思想; 目的, 意志; 精神, 心, 知性, 理性; ㊦ 識, 心, 意, 心意, 思, 思議, 籌量 *Lal-v., Ast-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Sv-pr., Rāṣṭr., Lank., Dharm-s., Mvyut.*; 梵千・華: 識(陰), 心(陰) [vijñāna (五蘊の一)に代用す] *Madhy-v. 126.*; ㊦ 質多, 嚮多 *Vajr-pr., Guhy-s.*; ~ m prakramisyati 能思議 *Ast-pr. 520.*; ~ m krāṃti 愛樂, 生信解 *Ast-pr. 829.*; ~ m nāvaliyate na samliyate 心不退不沒 *Mvyut.*; dvayoś ~ yoh samavadhānam nāsti 無二心俱時起 *Ast-pr. 537.*; prakṛtyaiva prabhāsvaratvāc ~ sya 心性本淨

故、心本清淨故 *Madhy-vibh.* 61. 形(一°)を考ふる。

citta-karmaṇyatā 女 漢譯 心調柔、心得堪能、心隨事得成 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*

citta-kalāpa 男 漢譯 心聚、種種心 *Laṅk.*

citta-kalpa 男 漢譯 心分別 *Laṅk.*

citta-kalyatā 女 漢譯 心住滿足 *Sikṣ.*

citta-kauṭilya 中 漢譯 詔曲、心詔曲 *Gaṇḍ-vy.*

citta-kṣana 中 漢譯 念念；(音寫)心刹那 *Laṅk.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*；～e 於念念中、於一一心刹那中 *Bodh-bh.* 347.；*ṣoḍaśa* ～āḥ 十六心刹那 [1. *duḥkhe dharmajñāna-kṣāntiḥ* 苦法智忍, 2. *duḥkhe dharmajñānam* 苦法智, 3. *duḥkhe 'nvaya-jñāna-kṣāntiḥ* 苦類智忍, 4. *duḥkhe 'nvaya-jñānam* 苦類智, 5. *samudaye dharmajñāna-kṣāntiḥ* 集法智忍, 6. *samudaye dharmajñānam* 集法智, 7. *samudaye 'nvaya-jñāna-kṣāntiḥ* 集類智忍, 8. *samudaye 'nvaya-jñānam* 集類智, 9. *nirodhe dharmajñāna-kṣāntiḥ* 滅法智忍, 10. *nirodhe dharmajñānam* 滅法智, 11. *nirodhe 'nvaya-jñāna-kṣāntiḥ* 滅類智忍, 12. *nirodhe 'nvaya-jñānam* 滅類智, 13. *mārge dharmajñāna-kṣāntiḥ* 道法智忍, 14. *mārge dharmajñānam* 道法智, 15. *mārge 'nvaya-jñāna-kṣāntiḥ* 道類智忍, 16. *mārge 'nvaya-jñānam* 道類智] *Mvyut.*

citta-kṣepa 男 漢譯 心狂、癡狂 *Abh-vy.*

citta-kheda 男 苦惱、悲歎、傷心。

citta-gatānusr̥ti 女 漢譯 心念住 *Lal-v.*

citta-gamya 形 漢譯 心所測 *Daś-bh.*

citta-garbhā 女 明らかなる妊娠。

citta-gahana 中 漢譯 心稠林 *Gaṇḍ-vy.*

citta-gocara 男 漢譯 心行、心所行、心境界 *Laṅk.*, *Madhy-v.*

citta-carita 中 漢譯 心行、心所念、心之所行 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

citta-cārin 形 (國)を承諾する、……の考に従ひて行動する、……を満足せしむる。

citta-cetasika 男 思想；漢譯 心心法 *Divy.*

citta-caitasika 男 漢譯 心心所、心心數 *Abh-vy.*

citta-caitta 男 漢譯 心心所、心心法、心心數、心及心數法 *Laṅk.*

cittacaitta-kalāpa 男 漢譯 心心法品、心心所法、心心數法 *Laṅk.*

citta-caura 男 (心を盗む者)、戀人。

citta-ja 男 (心に生ずる)、愛；*Kāma* 神。

citta-janman 男 [同上]。

citta-jñā 形 (國)の意圖又は心を知る；人間性を知れる。

citta-jñāna 中 漢譯 心智 *Sātr.*

cittatā 女 漢譯 心 *Bodh-bh.*

citta-tāpa 男 悲哀；漢譯 心熱惱 *Gaṇḍ-vy.*

citta-darśana 中 漢譯 見心 *Laṅk.*

citta-dāha 男 心を燃やすこと(苦惱)。

citta-dṛśya 中 漢譯 見(自)心、(自)心現、(自)心所見 *Laṅk.*

cittadṛśya-mātra 中 漢譯 (自)心所現、(自)心現量 *Laṅk.*

citta-dauṣṭhulya 中 漢譯 心纏重 *Bodh-bh.*

citta-dharmatā 女 漢譯 心法、心性 *Laṅk.*

citta-dhātu 男 漢譯 心界、識界 *Abh-vy.*

citta-dhāra 形 漢譯 心所念 *Rāṣṭr.*

citta-dhārā 女 漢譯 心流注、心相續住；(音寫)心陀羅 *Vajr-pr.*, *Laṅk.*

cittadhārā-buddhi-saṃkusumitābbyudgata 男 [佛の名] (*Sukh-vy. I.*)。

citta-nagara 中 漢譯 心城 *Gaṇḍ-vy.*

citta-nātha 男 心の主、戀人。

citta-nāśa 男 自覺又は意識の喪失。

citta-nirvṛti 女 心の平靜。

citta-parikarman 中 漢譯 治心 *Sikṣ.*

citta-parigraha 男 漢譯 心所取、取內心 *Laṅk.*

citta-paritoṣa 男 漢譯 稱意 *Divy.*

citta-piḍā 女 漢譯 懊惱 梵雜。

citta-pracāra 男 漢譯 心行 *Bodh-bh.*

citta-prajñā-jñāna-lakṣaṇa 中 漢譯 心智慧相、智慧心相 *Laṅk.*

citta-pramāthin 形 心を擾す；(愛、一)の感情又は愛情を擾す。

citta-praśaṭhatā 女 漢譯 心正直性 *Vijñ-t. 27.*

citta-prasāda 男 心情の晴朗なること；漢譯 淨心、心生淨信、心生殷重、淨心殷重 *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*

citta-prasādana 中 心の慰安。

citta-bija 中 漢譯 心種子 *Laṅk.*

citta-bhū 男 = *citta-ja*。

cittabhūmi-samatikrānta 形 漢譯 非心所及、非心力所及 *Saddh-p.*

citta-bheda 男 意氣銷沈。

citta-bhrama 男 心の混亂。

citta-bhrānti 女 [同上]。

citta-mano-manovijñāna 中 漢譯 心意意識 *Laṅk.*

citta-mala 中 漢譯 心垢濁 *Gaṇḍ-vy.*；～m *apaharati* 潛心垢濁、滌煩惱垢、心離迷垢 *Gaṇḍ-vy.* 73.

citta-mātra 中 漢譯 唯心、准心、但心、心量、唯是心、隨心量、隨心應量、自心(所現)分齊 *Laṅk.*, *Sātr.*, *Vijñ-v.*

cittamātra-gati-nirābhāsa-vādin 形 漢譯 說唯心無有境界、說心量趣無所有 *Laṅk.*

citta-mātratā 女 漢譯 自心現量、唯自心見、唯心所見 *Laṅk.*

citta-moha 男 心の混亂。

citta-mohana 中 漢譯 心迷惑 *Laṅk.*

citta-mohin 形 漢譯 迷惑心、迷亂心 *Laṅk.*

citta-yoni 男 (その原因を心に有する)、愛。

citta-rakṣin 形 = *citta-cārin*。

citta-rañjana 中 心を悦ばしむること。

citta-rāja 男 漢譯 心王 *Laṅk.*

citta-laghutā 女 漢譯 心輕安 *Sikṣ.*

citta-vajra 男 漢譯 [菩薩の名] 金剛心 *Guhy-s.*

cittavat 形 理性ある、感知し得る、賢き。

citta-vara 男 漢譯 大心 *Sātr.*

citta-vaśa 男 漢譯 心自在 *Laṅk.*

citta-vaśitā 女 漢譯 心得自在、心降伏 *Bodh-bh.*

Dharm-s.

citta-vikalpa 男 漢譯 心妄想, 分別心 *Lank.*
cittavikalpa-bhāvābhāva-vigama 男 漢譯 離心性無性妄想, 離有無分別心 *Lank.*
citta-vikāra 男 精神錯亂.
citta-vikārin 形 性格又は感情を變ふる.
citta-vikṣepa 男 喪心; 漢譯 心亂到, 心迷亂, 心惑狂亂, 心則狂亂 *Vajr-pr.*
citta-vicāraṇa 中 漢譯 分別, 心行 *Suv-pr.*
citta-vijñāna 中 漢譯 識心, 心(意)識 *Lank.*
citta-viparyāsa 男 漢譯 心顛倒 *Aṣṭ-pr.*
citta-viprayukta 形 漢譯 心不相應 *Abh-vy., Mvyut.:* catur-daśa ~āḥ saṃkāra dharmāḥ 十四心不相應行法 [1. prāptiḥ 得, 2. a-prāptiḥ 非得, 3. asaṃjñi-samāpattiḥ 無想定, 4. nirodha-samāpattiḥ 滅盡定, 5. āsaṃjñikam 無想果, 6. jīvitendriyam 命根, 7. nikāya-sabhāgaḥ 衆同分, 8. jātiḥ 生, 9. jarā 老, 10. sthitiḥ 住, 11. anityatā 無常, 12. nāma-kāyaḥ 名身, 13. pada-kāyaḥ 句身, 14. vyañjana-kāyaḥ 文身] *Mvyut.;* catur-viṃśatis ~āḥ saṃskāra dharmāḥ 二十四心不相應行法 [1. prāptiḥ 得, 2. jīvitendriyam 命根, 3. nikāya-sabhāgaḥ 衆同分, 4. bhedaḥ 破, 5. asaṃjñi-samāpattiḥ 無想定, 6. nirodha-samāpattiḥ 滅盡定, 7. āsaṃjñikam 無想果, 8. nāma-kāyaḥ 名身, 9. pada-kāyaḥ 句身, 10. vyañjana-kāyaḥ 文身, 11. jātiḥ 生, 12. jarā 老, 13. sthitiḥ 住, 14. anityatā 無常, 15. pravṛttiḥ 流轉, 16. pratiniyamāḥ 定異, 17. yogaḥ 相應, 18. jāvaḥ 勢速, 19. anukramaḥ 次第, 20. deśaḥ 方, 21. kālaḥ 時, 22. saṃkhyā 數, 23. sāmagrī 和合, 24. anyathātvam 異性] *Mvyut.*
citta-viplava 男 精神錯亂, 狂氣.
citta-vibhakta-sabhāgatā 女 漢譯 同心慮, 了心共法 *Gaṇḍ-vy.*
citta-vibhramśa 男 =citta-viplava.
citta-vibhrama 男 [同上]; 漢譯 心迷亂, 心惑亂, 心迷沒, 心妄有 *Lank., Bodh-bh.*
citta-viśuddhi-prakarāṇa 中 [佛典の名].
citta-viśodhani 女 漢譯 淨意 *Sikṣ.*
citta-viśleṣa 男 心の疎隔; (興)と絶交すること.
citta-viṣaya 男 漢譯 心境界 *Lank.*
citta-vṛtti 女 意向, 感情, 感覺; 一聯の思想; 氣分, 心的過程, 精神状態.
citta-vaikalya 中 困惑, 當惑.
citta-śānti 男 心の静寂.
citta-saṃvega 男 漢譯 厭心, 心生厭離 *Bodh-bh.*
citta-saṃskāra 男 漢譯 心行 *Mvyut.*
citta-saṃjñin 男 漢譯 心想, 作心想 *Aṣṭ-pr.*
citta-saṃtāti 女 漢譯 心相續 *Vijñ-v., Bodh-bh.*
citta-saṃtāna 男 漢譯 心器 *Lank.*
citta-samatā 女 漢譯 心平等性 *Vijñ-t., Abh-vy.*
citta-saṃpiḍana 中 漢譯 惱心, 意不悅 *Madhy-v.*
citta-saṃbhava 形 漢譯 從心生 *Lank.*
citta-sārathi 男 漢譯 [佛の稱] 佛, 世尊 *Lank. 27.*
citta-sthiti 女 漢譯 心正安住, 一心安住 *Bodh-bh.;* [Samādhiの名] 住心, 住於心 *Mvyut.*

citta-sthira 形 漢譯 (其)心安靜 *Bodh-bh.*
citta-smṛty-upasthāna 中 漢譯 心念住, 心念處 *Dharm-s., Mvyut.*
cittasyaikāgratā (°ya-ek°) 女 漢譯 心一境性, 令心一境, 令心專一, 令心專注, 善一共心 *Vijñ-t., Bodh-bh.*
citta-srotas 中 漢譯 心流, 心流注 *Gaṇḍ-vy.*
citta-svabhāva 男 漢譯 心自性 *Lank.*
citta-svabhāvatā 女 漢譯 心自性 *Aṣṭ-pr.*
citta-hārin 形 心を奪ふ, 魅する.
cittākaraṇa (°ta-āk°) 中 心を獲得すること.
cittākaraṇin (°ta-āk°) 形 =citta-hārin.
cittātma (°ta-āt°) 形 思想を本性とする.
cittādeśanā (°ta-ād°) 女 漢譯 記心 *Bodh-bh.*
cittādhipatya (°ta-ādḥ°) 中 心の統制 (*Buddh-c.*).
cittānābhogatā 女 漢譯 心無功用住性, 心無發悟性, 心無功用性 *Vijñ-t.*
cittānuparivartin 形 漢譯 心隨轉, 隨心轉, 隨心變, 心隨順 *Abh-vy., Mvyut.*
cittānuvartana 中 漢譯 隨心轉 *Bodh-bh.*
cittānuvartin 形 (圓, 一°)を満足せしむる.
cittānuvṛtti 女 満足; 漢譯 隨心 *Sūtr.*
cittārtha 男 漢譯 心義 *Lank.*
cittārpita 形 心に留められたる.
cittāvibhrama 男 漢譯 心無動亂 *Sikṣ.*
cittāśaya (°ta-ās°) 男 漢譯 心, 深心 *Lank., Sikṣ.*
cittāśaya-vicāra 男 漢譯 心行之法 *Lank.*
cittāsukha 中 心の不安.
citti 女 思想; 了解; 洞察; 意圖; 漢譯 心 *Lank.*
cittin 形 賢明なる, 理解ある.
citti-Kṛ, (案)を思索の對象とす.
citti-kṛta (通受分) 思索の對象となされたる.
cittaikāgra (°ta-ek°) 形 漢譯 一心 *Gaṇḍ-vy.*
cittaikāgratā (°ta-ek°) 女 漢譯 一心, 心一境性 *Bodh-bh.:* ~m āśādayati 諦心思惟, 一心禪思 *Lal-v. 128.*
cittaikāgrya (°ta-aik°) 中 漢譯 心一境性, 繫心一境 *Bodh-bh.*
cittaikāntikatā (°ta-aik°) 女 漢譯 一向心, (其)心專注 *Bodh-bh.*
cittaikāyana (°ta-ek°) 形 専ら精神又は思想に基く.
cittotpāda (°ta-ut°) 男 漢譯 發心, 念 *Av-s., Aṣṭ-pr., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh.* 興 ~ena 漢譯 隨念 *Av-s.*
cittotpāda-mahattva 中 漢譯 發心大性 *Bodh-bh.*
cittotpāda-samudāgama 男 漢譯 發心修證, 發心習起 *Madhy-vibh.*
cittotplava (°ta-ut°) 男 漢譯 踊躍心 *Gaṇḍ-vy.*
cittodadhi (°ta-ud°) 男 漢譯 心海, (大)海心(波) *Lank.*
cittoparamatva (°ta-up°) 中 漢譯 思議滅, 滅諸籌量 *Aṣṭ-pr.*
cittaudbilya-kāra (°ta-aud°) 形 (女-i) 漢譯 心生勇銳[悦(?)] *Mvyut.*
citra, =citra.
citya 形 積まれたる, 積み上げられたる, 整へられたる, 建てられたる. 男 [agniと俱に] (薪の)積貯又

は堆積の上に置かれたる火.

cityā ㊦ (祭壇の構築又は建設).

citra ㊦ 明白なる, 見ゆる, 顯著なる, 明かなる, 輝ける; 判然たる, 聴きとり得る(聲); 雑色の, 斑点ある, 斑らの; 種々の, 多様の, 種々の拷問にかくる(刑罰); 不思議なる, 驚くべき; あちこちに跳ぶ (*Jāt-m.*); ㊦ 種種, 種種不同, 雑類; 雑飾, 雑色, 妙色; 有殊, 希奇 *Divy., Lank., Sūtr., Madhy-v., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*; 癩病 *Saddh-p.*: ~o bhas viṣyati 致癩病, 得白癩病 *Saddh-p. 482.* → a~. ㊦ 鮮かに彩られたるもの, 燦爛たる裝飾; 寶石; 繪畫; 驚くべき現象, 驚異; ㊦ 畫; 錦; 布彩; 印文; 嚴飾 *Lal-v., Lank., Sūtr., Mañj-m., Śikṣ., Abh-vy., Sāṃkhy-k., 梵千., 梵雜*.

citraka ㊦ (小規模の狩獵に用ふる)豹又は虎(現代語の cheeta); [諸人の名]. ㊦ 記號; 繪畫. —° ㊦ (—°)によりて特質を示せる.

citra-katha ㊦ 雑談に満ちたる (*Buddh-c.*); ㊦ 種種言詞 *Bodh-bh.*

citra-kara ㊦ 畫工(混合種姓); ㊦ 畫師 *Madhy-vibh.*

citrakara-dṛṣṭānta ㊦ ㊦ 畫師喩, 畫師譬 *Madhy-vibh.*

citra-karman ㊦ 畫くこと; 繪畫; 裝飾(俗); ㊦ 圖 梵千.

citrakarma-likhita ㊦ ㊦ 畫 *Śikṣ.*

citra-kāya ㊦ 虎又は豹.

citra-kāra ㊦ = *citra-kara*; 驚愕 (*Lal-v.*); ㊦ 畫匠 *Mvyut.*

citra-kūṭa ㊦ 散策の山; [(輝く峯), *Bundelkhund* にある山の名. 現今の *Citrakot*]; [町の名].

citra-kṛt ㊦ 畫工. ㊦ 驚愕せしむる.

citra-kṛtya ㊦ 畫くこと.

citra-ketu ㊦ [諸人の名].

citra-keśatā ㊦ 美髪を有すること (*Dharm-s.*).

citra-kriyā ㊦ = *citra-kṛtya*.

citra-ga ㊦ (畫に愛する), 畫かれたる.

citra-gata ㊦ [同上].

citra-gātra ㊦ ㊦ 癩瘡 *Rāstr.*

citra-gu ㊦ [*Kṛṣṇa* の子の名].

citra-gupta ㊦ [*Yama* 神の領土に於ける人間の行爲の記録者の名].

citra-grha ㊦ 畫にて飾られたる室.

citra-grāvan ㊦ 石多き.

citra-griva ㊦ 斑点ある首, [或る鳩の王の名].

citra-ghaṭa ㊦ ㊦ 畫瓶 *Lal-v.*

citra-cāpa ㊦ [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名].

citra-ja ㊦ 諸種の材料を備へたる, 本質の一樣ならざる.

citra-tanu ㊦ 虎; 鷓鴣.

citra-tūlikā ㊦ 畫筆.

citra-darsana ㊦ ㊦ 現見種種法 *Lank.* ㊦ [(斑点ある眼を有する), 鳥に變れる或る婆羅門の名].

citra-dṛṣika ㊦ 輝き見ゆる.

citradhā ㊦ 諸種の方法によりて, 異.

citra-dhvaja ㊦ ㊦ [佛の稱] 妙相具 *Saddh-p.*

citra-nyasta ㊦ 描出せる, 畫ける.

citra-pakṣa ㊦ (斑点ある翼), 鳩(の一種); [頭痛を起す悪鬼の名].

citra-pakṣmatā ㊦ 美しき睫毛を有すること (*Dharm-s.*).

citra-paṭa ㊦ 繪畫; ㊦ 采畫, 畫像; 錦; 片金 *Divy., Mvyut.*

citra-paṭṭa ㊦ [同上].

citrapaṭṭa-gata ㊦ 畫かれたる.

citra-pataṅga ㊦ ㊦ 花蝴蝶 *Mvyut.*

citra-pattraka ㊦ 孔雀.

citra-pada ㊦ 諸種の(或は優雅なる)語及び表現に充てる.

citra-pāṭala ㊦ ㊦ [花の名] 灰花色(?), 灰緑色 *Mvyut.*

citra-putrikā ㊦ 女の肖像.

citra-pṛṣṭha ㊦ 斑点ある背を有する.

citra-pratikṛti ㊦ 繪畫.

citra-phalaka ㊦ 畫を描くべき板, 繪畫.

citra-barha ㊦ 孔雀.

citra-barhin ㊦ 雑色の尾羽を有する(孔雀).

citra-barhis ㊦ [同上]; 雑色の敷草を有する.

citra-bāṇa ㊦ [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名].

citra-bāhu ㊦ [同上]; [或る *Gandharva* の名]; [人名].

citra-bhānu ㊦ 明かに輝く, 種々の光輝ある. ㊦ 火; *Agni* 神.

citra-bhāṣya ㊦ 雄辯.

citra-bhitti ㊦ 畫かれたる壁, 壁畫.

citra-bhūta ㊦ 畫かれたる, 飾られたる.

citra-mahas ㊦ 立派なる贈物を有する.

citra-mṛga ㊦ 斑点ある羚羊.

citraya ㊦ ㊦ *citrayati* 彩る, 飾る, 麗しくす;

㊦ 彩, 畫, 采畫 *Divy., Lal-v., Rāstr.* ㊦ 過受分

citrīta 彩られたる, 潤色せられたる, 畫かれたる, 飾られたる.

ud- ㊦ 過受分 **uccitrīṭa** (其)にて十分に飾られたる或は支給せられたる.

sam-pra- 十分に畫く [*Tib. śin-tu bkri-bar-byā*] (*Lank.*).

citra-yoga ㊦ ㊦ 諸雜相合 *Mvyut.*

citra-yodhin ㊦ 諸種の戦法を以て戦ふ.

citra-ratha ㊦ 輝かしき車を有する (*Agni* 神). ㊦ [諸人の名].

citra-rāti ㊦ = *citra-mahas*.

citra-rādhas ㊦ [同上].

citra-rūpa ㊦ ㊦ 種種色, 衆色相, 諸種種色, 種種衆色 *Lank.*

citra-likhana ㊦ 畫くこと.

citra-likhita ㊦ 畫かれたる.

citra-lekhanikā ㊦ 繪筆.

citra-lekhā ㊦ 畫; 肖像; [或る *Apsaras* の名]; [或る *Kumbhāṇḍa* の少女の名].

citravat ㊦ 畫を以て飾られたる, 畫かれたる.

citra-vadhā ㊦ 刑罰, 拷問によりて殺すこと.

citra-vana ㊦ [諸種の木ある林], (*Gaudakī* にある林の名).

citra-varti ㊦ 繪筆.
citra-vartikā ㊦ [同上].
citra-varman ㊦ [Dhṛtarāṣṭra の子の名].
citra-vahā ㊦ [河の名].
citra-śālā ㊦ 繪畫室.
citra-śālikā ㊦ [同上] ㊦.
citra-śikhandin ㊦ ㊦ [(輝ける頭髮を有する), 七賢人の名 (Marīci, Atri, Anṅiras, Pulastya, Pulaha, Kratu 及び Vasistha)]; 大熊星.
citra-śocis ㊦ 光り輝ける.
citra-śravastama ㊦ ㊦ 最大の稱讚に價する.
citra-sena ㊦ 輝く鎗を有する. ㊦ [Nāga-Gandharva 地下の世界に於ける人間の行爲の記録者又は諸人の名]; ㊦ [龍の名] 雜部, 各色, 彩軍 *Suv-pr.*, *Mvyut.*; ㊦ 質多斯那 *Suv-pr.*
citra-stha ㊦ = *citra-ga*.
citra-sthala ㊦ [花園の名].
citra-hasta ㊦ ㊦ (戦闘中になす)特殊の手振.
citrā ㊦ ㊦ ㊦ [月宿の名]; ㊦ [二十八宿の一] 角, 角宿, 彩畫 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*
citrākṣa ㊦ [Dhṛtarāṣṭra の子の名]; [諸人の名]; ㊦ [龍王の名] 雜色眼, 妙眼, 寶華眼 *Mvyut.*
citrākṣi ㊦ ㊦ [Yakṣā の名] 化眼 *Mañj-m.*
citrāṅga ㊦ 斑點ある身體; [Dhṛtarāṣṭra の子の名]; [或る羚羊及び犬の名]; ㊦ 彩肢, 身極綵, 具下身者, 具傷瘡者 *Mvyut.*
citrāṅgada ㊦ 輝ける腕環を以て飾れる. ㊦ [或る妖精・Gandharva 並に Yama 神の領土に於ける人間の行爲の記録者の名].
citrāṅgi ㊦ [或る娼婦の名].
citrāṅgulitā ㊦ 美しき指を有すること (*Dharm-s.*).
citrācārya (°ra-āc°) ㊦ ㊦ 畫師, 巧畫師, 工畫師 *Lank.*
citrāṅḍa-ja ㊦ 雜色の鳥.
citrānte-vāsika ㊦ ㊦ 畫弟子, 畫師弟子 *Lank.*
citrāṅna ㊦ 調味料にて色づけられたる米.
citrā-magha ㊦ = *citra-mahas.*
citrāyudha (°ra-āy°) ㊦ [Dhṛtarāṣṭra の子の名]; [諸人の名]; [Kāma 神の名] (*Buddh-c.*).
citrāyus (°ra-āy°) ㊦ 驚くべき生活力を有する.
citrārambha (°ra-ār°) ㊦ 畫かれたる.
citrārpita ㊦ [同上]; ㊦ 畫, 畫作 *Divy.*
citrārpitārambha (°ta-ār°) ㊦ [同上].
citrā-vasu ㊦ 輝ける星に富める.
citrāśva ㊦ [Satyavat の稱].
citrāstaranavat (°ra-ās°) ㊦ 多彩又は多様の敷物にて覆はれたる.
citri-kāra ㊦ ㊦ (= *citri-kāra*); ㊦ 供養 *Lal-v.* 50.
citrita ㊦ ㊦ → *citraya*. ㊦ 描, 彩畫; 嚴, 所嚴, 莊嚴 *Lal-v.*, *Gand-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Mvyut.*: ~o 'nuvyañ janaiḥ 諸好所嚴, 嚴諸種好, 具足隨形好 *Mvyut.*
citritā ㊦ ㊦ 種種, 種種法 *Lank.*
citrin ㊦ 雜色(黒色と灰色)の毛を有する.
citriya ㊦ 顯著なる; 遠方より見ゆる. ㊦ [人名].

citri-kāra ㊦ 飾ること, 畫くこと; 驚愕, 驚歎 (*Lal-v.*); ㊦ 執相, 執綵; 作愛, 甚愛; 希有想 *Daś-bh.*, *Mvyut.*

citri-Kṛ, 畫に變ず.

citriya ㊦ ㊦ **citriyate** 驚く; 驚かしむ.

citriyā ㊦ 驚愕.

citroti (°ra-ūti) ㊦ = *citra-mahas.*

citropacitra (°ra-up°) ㊦ ㊦ 莊嚴 *Divy.*

citraudana (°ra-od°) ㊦ ㊦ = *citrāṅna*.

citrya ㊦ 火花を發する, 輝ける.

cid ㊦ ㊦ ㊦ [本來は ㊦ ㊦, Lat. -quid. ㊦ に於ては先行の語を強む(但し翻譯に於ては屢々強勢によりて表現せらる)] ……さへ, 丁度, 非常に, 少くとも; [㊦ を一般化して] 各々, 總て; [特に ㊦, ㊦ と俱に] 一體, 曾て, 總て; [㊦ と俱に] ……さへ……ならず; [㊦ に於ては ㊦ 及び *jātu* を伴ひ之等に不定の意を與ふるのみ]. → *kim*.

cid-acinmaya ㊦ 精神と物質とより成る.

cid-ātmaka ㊦ 純粹なる思想より成る.

cid-ātman ㊦ 思考する心, 純粹知性.

cid-ānandamaya ㊦ 知性と喜悅とより成る.

cid-ullāsa ㊦ ふと思ひ浮ぶる.

cid-ghana ㊦ = *cid-ātman*.

cid-rūpa ㊦ = *cid-ātmaka*.

Cint, X. ㊦ (㊦) **cintayati(-te)** 考ふ, 熟慮す; (㊦); ㊦ ㊦ に於ては ㊦, ㊦, ㊦ 又は *prati*) を考ふ; 留意す, 注目す, ……に注意を拂ふ [na と俱に: 無視す]; 工夫す; 取扱ふ, 議論す; 試みに考ふ; (㊦) を (㊦) と考ふ; ㊦ 思, 思惟, 思議, 審諦思惟, 思量 *Divy.*, *Lal-v.*, *Sapt-pr.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.*, *Sāṃkhy-k.* ㊦ ㊦ ㊦ **cintayāna** 熟慮する, 考慮する. ㊦ ㊦ **cintita** 考へられたる, 想像せられたる; 留意せられたる, 檢せられたる.

anu- 想起す, 思ひ出す; (㊦) を思ふ, ……を熟慮す, 思量す; ㊦ 念; 悟; 緣; 思惟, 思念, 心思惟 *Saddh-p.*, *Daś-bh.*

pari- 考慮す, 正當に考ふ; 熟慮す; (㊦) を考ふ, 工夫す.

pra- ……を考ふ, ……を熟慮す, 熟考す; 工夫す. ㊦ ㊦ **pracintya** 考へて.

prati- 更に考ふ; 思ひ出す.

vi- 識別す; 熟慮す; (㊦) を考ふ; 考慮す, 留意す, 檢す, 注意す; 工夫す; ㊦ 思, 思惟, 思念, 簡擇, 審諦思惟 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*: *vicintya vicintya* (㊦ ㊦) 數簡擇 *Bodh-bh* 135. ㊦ ㊦ **vicintita** 考へられたる, 考慮せられたる.

anu-vi- 記憶を喚び起す; ……を熟考す (*Īr-vy.*); ㊦ 思, 思惟, 作思惟, 諦思惟, 思惟籌量; 懸念, 作念 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*

pra-vi- (㊦) を考ふ, ……を熟考す; ㊦ 思惟 *Bodh-c.*

sam- 熟慮す, 思量す; (㊦) を正當に考ふ或は考慮す; ㊦ 思惟, 故思, 故作意思 *Lal-c.*, *Bodh-bh.*

abhi-sam- 想起す.

cintaka ㊦ (一) を思考・介意・管理又は熟知する; ㊦ 思惟, 能思 *Divy.*, *Lank.*, *Sikṣ.*: *dharmā* ~ 思

惟法者 *Sikṣ. 394.*

cintana ④ (圓, 一°)の思考, ……の熟慮, ……の介意; 苦勞, 心勞, 憂慮; 思考; ④ 思, 思惟 *Madhy-vibh.*

cintanā ④ ④ 思, 思惟, 思念 *Bodh-bh., Mvyut.*

cintaniya (未受分) 考へらるべき, 考慮せらるべき, 工夫せらるべき.

cintayāna ④ ④ ④ → *Cint.*

cintayitavya (未受分) 考へらるべき, 思ひ出さるべき.

cintayitu-kāma ④ 考へんと欲する; ④ 樂欲思惟 *Bodh-bh.*

cintā ④ 思考, 熟慮, 考察; 不安, 憂慮; (因, 一°)に關する心配; (圓, 因, upari)に就ての心配; [人名]; ④ 思, 思惟, 諦思惟, 思量, 思擇, 正思, 念心意

Lal-v., Av-ś., Saddh-p., Daś-bh., Lan̄k., Sikṣ., Madhy-v., Bodh-bh., Vijñ-v., Abh-vy., 梵

cintāna ④ ④ 思惟 *Bodh-bh. 80.*

cintā-para ④ (悲しき)回想に沈める; 思慮深き; ④ 思惟, 憂懷, 懷憂, 憂悒, 怨思, 愁思, 帶憂容, 悲痛

憂惱, 悲泣感傷 *Divy., Lal-v.:* ~o vyavasthitah 思念 *Divy. 57.*

cintā-parita ④ 物思ひに我を忘れたる, 思に耽れる ④ 惕然疑 *Buddh-c.*

cintā-maṇi ④ (その所有者の總ての願を成就せしむる)如意寶珠; 空想的の寶石; [特に 一° 諸種の著述の名]; ④ 如意, 如意珠, 如意寶, 如意寶珠;

(香)如意摩尼 *Suv-pr., Lan̄k., Gulhy-s., Sūtr., Sikṣ., Bodh-c.*

cintāmaṇi-ratna ④ ④ (香)如意摩尼寶, 心(王)摩尼寶 *Sukh-vy. I.*

cintāmaṇi-rāja-ratna ④ ④ (香)如意末尼寶 *Suv-pr.*

cintāmaṇi-vara-locana ④ [Samādhiの名] (*Kār-vy.*).

cintā-manas-kāra ④ ④ 思惟 *Lal-v.*

cintāmaya ④ 思惟のみによりて生じたる即ち想像せられたる; (一°)の思惟より生ぜる; ④ 思, 思惟, 思所成, *Sam-r., Bodh-bh., Abh-vy.:* ~m jñānam

思慧, 思所成慧 *Madhy-vibh. 253.* → *prajñā.*

cintā-moha ④ 思想の昏惑.

cintā-yajña ④ 精神的の供儀.

cintā-yoga ④ ④ 思惟行 *Saddh-p.*

cintā-rāja ④ ④ 心王, 思惟心王 *Gaṇḍ-vy.*

cintā-rāja-maṇi-ratna ④ ④ (香) (大)如意摩尼寶王, 如意淨摩尼寶 *Gaṇḍ-vy.*

cintā-vaśa ④ = *cintā-parita* (*Buddh-c.*).

cintā-vidheya ④ 思考に左右せられたる (*Buddh-c.*).

cintā-viśa-ghna ④ 心配の毒を消す.

cintita (過受分) → *Cint.* ④ 欲, 心所求, 所思, 思惟 *Lal-v., Saddh-p., Sūtr., Mvyut.* ④ 思考, 熟慮; 目的; 心配.

cintitopanata (°ta-up°) (過受分) 思念に應じて直ちに現る.

cintitopasthita (°ta-up°) (過受分) [同上].

cintin ④ (一°)を考ふる; ④ 思, 思惟 *Mvyut.*

cintiya (未受分) ④ [*cintya*] → a~.

cintya (未受分) 考へらるべき; (尙ほ)考察すべき, 疑はしき, 訝かしき; ④ 所思惟, 可思議 *Sapt-pr., Abh-vy.* → a~. ④ (圓)に就て考慮するの必要; ④ 心 *Sapt-pr., Lan̄k.*

cintya-dyota ④ ④ 神(の一類).

cinnmaya ④ = *cid-ātmaka.*

cin-mātra ④ [同上].

cipiṭa ④ 鈍き, 平にせられたる, 平なる; 短き; ④ 匾匾 *Saddh-p.*

cipiṭa-griva ④ 頸の短き.

cipiṭa-ghrāṇa ④ 鼻の扁平なる, 鼻低き.

cipiṭa-nāsa ④ [同上]; ④ 平鼻, 匾鼻 *Saddh-p., Mvyut.*

cipiṭa-nāsika ④ [同上]. ④ ④ [民族の名].

cipiṭa-ṣāṇa ④ 角(?)の鈍き.

cipiṭi-Kṛ, 平にす.

cipiṭi-kṛta ④ 平にせられたる.

cippa ④ [指爪の病の一種].

cippitika, ④ *naḍa* ~ *m cipyamānasya* 碾蔗漿, 壓蔗漿, 蹉躑破(如)蔗葦 *Sikṣ. 182.*

cipya ④ [蟲の一種]. ④ = *cippa.*

cipyamāna (現分) [*Pāli. cippiyamāna*]. → *cip-pitika.*

cibuka ④ 顛, 頤; ④ 項, 腮, 頤 *Mvyut.*

cira ④ 長き(時); 永く存在する; 舊き(友); 古昔に(屬する), 昔の; ④ 久, 久遠, 經久 *Saddh-p., Sapt-pr., Bodh-c., Abh-vy., Bodh-bh., 梵*

~ *m* ④ 長く, 久しき間; 徐々に, 昔に; 餘りに長く或は後れて; ④ 久, 極長 *Saddh-p., Sikṣ.* ~ *m Kṛ*, (時間を)長びかしむ, 遲滯す.

° —, ④, ④, ④, ④, ④ ④ 久しき後, 久しき間, 永らく; 遲滯して; 唯今. ④ (— *ena* ④) 久乃, 經久時, 要經長時, 畢竟 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-v.:* *na* ~ *ena* 不久 *Aṣṭ-pr. 467.*; (— *āt* ④) 久 *Aṣṭ-pr.:* *na* ~ *āt* 非久, 不久 *Aṣṭ-pr. 474.* ~ *syādya* (圓) 久し振りにて; ④ 久乃 *Saddh-p.* ④ 遲延.

cira-kāra ④ 遅き, 遅鈍なる; 緩慢なる.

cira-kāri ④ [同上].

cira-kārika [同上].

cira-kāritā ④ 遲延, 緩慢.

cira-kāritva ④ [同上].

cira-kārin ④ = *cira-kāra.*

cira-kāla ④ 古昔に屬する. ④ 長時; ④ 長時, 永遠, 久遠 *Lan̄k., Mvyut.* ~ *m*, ° —, ~ *āya* ④ ④ 久しき間, 久しく; ④ (— *m*) 久時, 時久, 久遠, 無始世來 *Lan̄k., Sikṣ., Mvyut.* ~ *āt* ④ 長き時の後; 長き間隔の故に.

cira-kālika ④ 永く存在する, 古き, 永續する, 積年の; ④ 久 *Bodh-bh.*

cirakālopārjita (°la-up°) ④ 久しき以前に獲得せられたる.

cira-kṛta ④ 永らく實行せられたる.

cira-gata ④ 永らく行ける或は不在の.

cira-carita ④ ④ 久修, 常修 *Saddh-p., Sikṣ.*

ciracarita-kuśala-mūla ④ ④ 久殖徳本 *Saddh-p.*

ciracarita-brahma-carya 形 漢譯 久修梵行, 常修梵行 *Saddh-p.*
cira-caritāvin (通能分) 形 俗 漢譯 積行久 *Ast-pr.* 393.
cira-jāta 形 (俗) より年長なる.
cira-jivikā 女 長命, 長壽.
cira-jivita 中 漢譯 壽量長遠 *Sikṣ.*
cira-jivitā 女 = cira-jivikā.
cira-jivin 形 長命なる. 男 [或る鴉の名].
cirajivy-alpa-jivin 形 漢譯 壽命之延促 *Bodh-c.*
ciraṃ-jivin 形 = cira-jivin; 漢譯 增益壽命 *Suv-pr.*
ciraṅṅi 女 [同下].
ciraṅṅhi 女 尚ほ父の家に在る(結婚適齡なる或は既婚の)女.
ciratarā 比較 副 甚だ長き間.
cira-tikta 男 [植物の名, 學名 *Agathotos chirayta*]; 漢譯 [藥草の名] 鵝食 *Mvyut.*
cira-trṣārta (°sā-ār°) 形 漢譯 從永遠枯渴 *Mvyut.*
cira-dātr 男 [王侯の名].
cira-nirvāhya 形 實行に長時間を要する.
cira-nirvṛtta 形 久しき以前に起れる.
cirantana 形 古き, 昔の.
cirantanatā 女 久しく存續すること.
cira-paricita 形 長き間慣れたる或は親める.
cira-parirakṣita 形 漢譯 久護 *Saddh-p.*
cira-pura 中 [町の名].
cira-praṇaṣṭa 形 永く消滅せる.
cira-pravāsin 形 永く不在なる.
cira-pravṛtta 形 永く或は永久に存在する: ~ eṣa panthāḥ 之は永久不變の道(事)なり.
cira-bilva 男 [植物の名, 學名 *Pongamia glabra*].
cira-bhāvin 形 遠く隔りたる(將來の).
cira-mitra 中 舊友.
cira-mocana 中 [或る聖河の岸に在る聖地の名].
ciraya (名動) 他 (稀に) 自 **cirayati(-te)** 長びかしむ, 遲延す, 躊躇す, 長く滞在す.
cira-yāta 形 = cira-gata.
cira-yāna-samprasthita 形 漢譯 久已安住(大)乘法中, 發(大)乘心 *Ast-pr.*
cira-rātra 男 (?) 長時. ~ m 副 永き間. ~ āya 副 永き間, 長時間の後, 終に.
cirarātrepsita (°ra-īp°) 形 永き間希望せられたる.
cirarātroṣita (°ra-uṣ°) 形 長時に涉りて宿泊せる.
cira-loka 男 永遠の世界.
ciraloka-loka 形 永遠に存在する世界の.
cira-viraha-ja 形 永き離別より生ずる.
cira-vṛtta 形 = cira-nirvṛtta.
cira-velā 女 (晝間の) 晩き時. ~ ayā 具 甚だ晩き時間.
cira-saṃcita 形 永く蓄積せる, 久しき以前に得られたる.
cira-sambhṛta 中 [同上].
cira-sthāyin 形 永く存在せる, 永く保存せる, 古き(食物); 漢譯 久保, 住甚久 *Lal-v., Saddh-p.*
cira-sthita 形 長期間存在せる.
cira-sthitaka 形 漢譯 久住 *Ast-pr.*

cira-sthitika 形 漢譯 久住, 永住, 久住(不滅), 長久住, 久固安居 *Divy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
cira-sthitikatā 女 漢譯 久住, 久住(不滅) *Bodh-bh.*
cirābhilaṣita 形 = cirarātrepsita.
cirāya (名動) 他 自 **cirāyati(-te)** 長びかしむ, 躊躇す. 現分 他 **cirāyat**, 自 **cirāyamāna** 遲延する, 躊躇する. 通受分 **cirāyita** 遲延又は躊躇せる.
cirāyat 現分 → cirāya.
cirāyamāna 現分 → cirāya.
cirāyāt (°ra-āy°) 形 遅く来る.
cirāyita (通受分) → cirāya.
cirāyita-kāya 形 漢譯 壞身(?) *Mvyut.*
cirāyuṣa (°ra-āy°) 形 長壽を與ふる.
cirāyuṣya (°ra-āy°) 形 長壽に運命づけられたる.
cirāyuṣyatā (°ra-āy°) 女 [同上 副].
cirāyus (°ra-āy°) 形 長壽なる.
cirāśutara (°ra-ās°) 比較 漢譯 遲速, 久速 *Abh-vy.*
ciri 男 鸚鵡.
ciri-kāka 男 鴉(の一種).
cirotsuka (°ra-ut°) 形 久しく熱望せる.
ciroṣita (°ra-uṣ°) 形 家を永く不在にせる; = cira-sthāyin.
cirbhaṭikā 女 胡瓜(の一種) [學名 *Cucumis utilis-simus*].
cirbhaṭiki 女 [同上].
cirbhaṭi 女 [同上].
cirbhiṭa 中 [同上].
cirbhiṭā 女 [同上].
cilicima 男 [魚の一種].
ciliminikā 女 漢譯 毛褐褥 *Mvyut.*
cilla 男 ベンガル鳶; 漢譯 蟬, 鷓鴣 *Mvyut.*, 鷓鴣.
cillā 女 猛禽(の一種).
cilli 男 [同上]. 女 [又は -i] [野菜の一種].
cillikā 女 [野菜の一種]; 眉.
cillikā-latā 女 匍匐する *Cillikā*; 眉(漢譯).
cilli 女 = cilli (女).
cihna 中 [KHan] 目標, 符號, 特徴, 指示, 屬性; 漢譯 相, 兆, 標, 形, 形貌, 旌, 標相, 標幟; 記念, 記號 *Divy., Mañj-m., Sikṣ., Abh-vy.*, 梵千. —° 形 (一)によりて表示せられたる或は特性づけられたる.
cihnaka 中 點, 小點.
cihna-dhara 男 漢譯 執勢者(?), 執旌者, 持標相者 *Mvyut.*
cihnana 中 特徴.
cihnaya (名動) 他 **cihnayati** 標を附す, 捺印す, 區別す. 通受分 **cihnita** 印づけられたる; 象徴せられたる; 區別せられたる.
pari- [= 單純動詞]. 通受分 **paricihnita** 記號を附せられたる.
cihnita (通受分) → cihnaya. 漢譯 顯, 具畫相 *Divy., Mvyut.* → punḍraka ~.
cihni-Kṛ, 標を附す.
cihni-kṛta 形 標を附せられたる.
cihni-BHū, 標となる, 標として役立つ.
cicikūci 女 [鳥の囀聲の(漢譯)].
cit-kāra 男 騒音; 喧騒.

cit-kāravat 形 騒音を伴へる, 叫聲を發する。
cit-kārin 形 [同上].
cit-kṛta 中 = cit-kāra.
cit-kṛti 女 ガラガラ・ガタガタと鳴ること。
cidvat 形 叫聲を伴ふ。
cina 男 支那人 [最廣義には *Himālaya* 山以北の住民を指す]; 鉛; 漢, 漢國, 秦, 唐 *Lal-v.*, 梵千, 立應; (音寫) 支那, 脂那; [~sthāna] 震旦, 眞丹 *Lal-v.*, 立應. → ~sthāna.
cinaka 男 [植物の名, 學名 *Panicum miliaceum*]; 支那人。
cina-deśa 男 漢國 梵雜。
cina-piṣṭa 中 朱, 丹鉛。
cina-piṣṭamaya 形 朱又は丹鉛より成る。
cina-lipi 女 秦書; (音寫) 支那書, 脂那國書 *Lal-v.* 126.
cina-sicaya 男 支那の布又は絹布。
cina-sthāna 中 漢國 立應; (音寫) 震旦, 眞丹, 振旦, 支那, 脂那 立應。
cināmsuka 中 絹布。
cira 中 樹皮又は布の細長き一片; 布, 襪襪; 衣 *Lal-v.* 男 蟋蟀(譯)。
cira-khaṇḍa 男 襪襪。
cira-civara 男 襪襪 [特に佛教僧の纏へる衣].
cira-nivasana 男 種 [民族の名].
cira-prāvaraṇa 男 種 [民族の名].
cira-bhṛt 形 襪襪又は樹皮を纏へる。
cira-mocana 中 [聖地の名].
cira-vasana 形 = cira-bhṛt.
cira-vāsas 形 [同上]. 男 [*Siva* 神の稱]; [或る *Yakṣa* の名]; [王侯の名].
cirāmbara 形 = cira-bhṛt (*Buddh-c.*); 被服 於草衣 *Buddh-c.*
cirikā 女 宣言書。
cirin 形 = cira-vasana.
ciri 女 蟋蟀(譯); 春鶯 *Mvyut.*
ciri-vāka 女 [同上].
cirṇa 過受分 → Car. 行, 已行, 所行; 修, 修習 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*
cirṇa-carita 形 常修(梵)行, 衆行具足 *Saddh-p.*
cirṇa-caritāvin 形 俗 盡行 *Saddh-p.* 29. → caritāvin.
cirṇa-brahma-carya 形 淨(淨)修梵行 *Saddh-p.*
cirṇa-mānāpya 中 已行意喜; (音寫) 已行摩那埵, 已行摩那賊 *Mvyut.*
cirṇa-vrata 形 誓を果せる; 修實行, 修苦行 *Lank.*
civara 男 鐵の鍮 中 乞食僧の衣(特に佛教徒の); 衣, 上衣, 衣服, 上絡衣; 袈裟 [*kāśāya* の音寫] *Divy.*, *Av-s.*, *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Bodh-c.*, *Sūtr.*, *Madhy-vibh.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 梵千, 梵雜, 立應; (音寫) 支伐羅, 震越 *Divy.*, *Vajr-pr.*, 立應; *antarottara* ~ 上下衣 *Prāt-m.* IV. 7.; *abhiniṣpanna* ~ 得衣 *Prāt-m.* IV. 6.; *ekāmsena* ~ *āni prāvṛtya* 偏袒右肩 *Suv-pr.* 57.; *ekāmsa* ~ *m prāvṛtya* 偏袒左肩 *Sapt-pr.* 240.

civaraka 中 衣, 衣服 *Divy.*, *Bodh-bh.*
civara-karaṇa 中 作衣, 線衣 *Mvyut.*
civara-karaṇḍaka 中 衣篋, 法衣繩子(?) *Mvyut.*
civara-karṇika 男 中 僧衣の垂下せる部分; 衣, 衣角 *Divy.*
civara-karman 中 (旅の前に) 乞食僧の衣を整ふること。
civara-kāra-samaya 男 作衣時 *Prāt-m.*
civara-grddha 形 貧衣, 貧著衣服 *Saddh-p.*
civara-gopaka 男 衣服の管理者(佛勃); 收衣者, 藏衣人, 收藏衣者 *Mvyut.*
civara-dāna 中 施衣 *Mvyut.*
civaradāna-samaya 男 施衣時, 布施衣時 *Prāt-m.*
civara-paribhoga 男 所著衣, 所受用衣服 *Aṣṭ-pr.*
civara-piṇḍa-pāta 男 衣食 *Rāṣṭr.*
civara-bṛsikā 女 衣袋; 袈裟衣 [*civara = kāśāya*] *Mvyut.*
civara-bhaṇḍika 男 盛衣器; 盛袈裟器 [*civara = kāśāya*] *Mvyut.*
civara-bhājaka 男 衣服の分配者(佛勃); 分衣人, 散衣者, 擺衣者 *Mvyut.*
civara-vaṃśa 男 衣架 *Mvyut.*
civara-vastu 中 衣事, 衣分 *Mvyut.*
civara-śreṇi 女 衣條, 袈裟條 [*civara = kāśāya*] *Mvyut.*
civara-saṃtuṣṭa 形 足知衣, 知衣足 *Mvyut.*
civarika 形 衣 *Mvyut.*
cukopayiṣu 形 (使役) (希求) [Kup] 怒らしめんと欲する。
cukka 俗 [<eukra]; 醋 梵雜。
cukra 男 中 (?) 果實の酢(特に羅望子(譯)より製せる); 酸模(譯); 鹽 *Mvyut.*
cukṣobhayiṣu 形 (使役) (希求) [Kṣubh] 動搖せしめんと欲する。
cuccu 男 女 [野菜の一種].
cuccu-kāraka 形 彈舌, 口作聲; 露酸相 *Mvyut.*
cuccū 女 = cuccu.
cuñcu 形 名高き; (一°)に慣れたる或はを熟知せる 男 [或る混血民族の名].
Cuṭ, (使役) *coṭayati* 裂く, 切り取る。
 ā- 搔く。
cuṇṭi 女 井戸, 小泉。
cunḍi 女 [同上].
cunṇa (過受分) 男 俗 [<cūrṇa] [佛弟子の名] 碎末 立雜; (音寫) 諄那 立應。
cuta (過受分) 俗 [<cyuta].
cuti 女 俗 [音聲, <cyuti] 死 *Gand-vy.* 250.
Cud, I. 他 自 *codati(-te)* 勵ます, 強ふ, 促す, 急がしむ; 自 急ぐ. (使役) 他 (稀に) 自 *codayati(-te)* 促す, 急がしむ, 強ふ; (因)に(眼を)向く; (因)に助力す; 刺戟す, 興奮せしむ; 速かに持ち來る或は與ふ; 請求す; 要求す, 命ず; 決す, 定む; 反對す, 非議す; 求, 希; 待, 勸, 勸導, 勸言, 勸請, 勸助 教招; 彰; 開發, 覺悟, 開發覺悟, 教導令開悟; 熏發

Lal-v., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh.; 違; 徴, 提; 譏; 争, 戒争; 作難, 諫誨, 面譏, 訶責, 治罰 Rāstr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut. 〔使役〕
 〔過受分〕 **codyamāna** 〔漢譯〕所熏發 Bodh-bh. 〔過受分〕
codita 急がしめられたる, 驅られたる, 強ひられたる, 勵まされたる; 招かれたる, 向けられたる, 命ぜられたる; 問はれたる; 参加せしめられたる, 指定せられたる
abhi- 〔使役〕 **abhicodayati** 勵ます, 興奮せしむ, 強ふ; 命ず, 決定す; 告知す; (業)を質問す.
pari- 〔使役〕 **paricodayati** 動かす, 勵ます; 獎勵す; 招く. 〔使役〕〔過受分〕 **paricodita** 動かされたる, 振り廻されたる; 強ひられたる, 勵まされたる.
pra- 動かす, 驅る, 強ふ. 〔使役〕 **pracodayati** 動かす, 驅る, 勵ます, 強ふ; 命ず, 要求す, 請求す; 決定す; 告知す, 宣言す; 〔漢譯〕句召 Guhy-s. 〔使役〕〔過受分〕 **pracodita** 驅られたる, 強ひられたる; 請はれたる, 命ぜられたる; 決定せられたる; 告知せられたる; 發射せられたる(矢).
sam- 〔使役〕 **saṃcodayati** 強ふ, 勵ます, 驅る, 興奮せしむ; 發射す; 招く; 振り廻す; 速かに得る, 得ることを助く; 挑發又は挑戦す; 〔漢譯〕爲説, 告; 彰; 熏修; 開悟, 開發, 勸發, 勸進, 勸請; 覺悟, 啓悟, 警覺 Divy., Lal-v., Daś-bh., Sikṣ., Bodh-bh. 〔使役〕〔過受分〕 **saṃcodita** 強ひられたる, 命ぜられたる.
cunanda 男 [或る佛教比丘の名] (Lal-v.).
cunda 男 〔漢譯〕[佛弟子の名] 妙義 Mvyut., 立應; 〔音寫〕准陀, 准他, 純陀, 純陀, 準提, 周陀, 淳窳 Divy., Saddh-p., Mvyut., 立應; [菩薩の名] 尊那 Guhy-s.
cundā-dhāraṇi 女 〔漢譯〕[經名]; 〔音寫〕尊那陀羅尼(經) Sikṣ. [七俱胝佛母准提大明陀羅尼經, 七俱胝佛母所說准提陀羅尼經, 七佛俱胝佛母心大准提陀羅尼經].
Cup, I. 〔他〕 **copati** 動く, 活動す.
cubuka 〔中〕 頸, 頤; 祭壇の頂上.
cubuka-daghna 〔形〕 頸に達する.
Cumb, I. 〔他〕 **cumbati** 接吻す; 直接に接觸す. 〔過受分〕 **cumbita** 接吻せられたる; 密接せられたる, 柔かく接觸せられたる. 〔使役〕 **cumbayati** 接吻せしむ.
ud- 抱き上げて接吻す.
pari- 接吻す; (業)と密接す.
cumbaka-maṇi 男 磁石.
cumbana 〔中〕 接吻すること; 接吻.
cumbā 女 接吻.
cumbita 〔過受分〕 → Cumb.
cumbin 〔形〕 (一°)と接觸せる, ……に密著せる, ……に關する, ……に忙しき.
Cur, X. 〔他〕 **corayati(-te)** 盗む, 我物にす; (業)より盗む; 消失せしむ. 〔過受分〕 **corita** 盗まれたる.
cur-ādi 男 〔音寫〕 cur を以て始まる(第十類動詞の總稱).
curu 男 [腸に生ずる特殊の蟲の一種].
curcura-dhvani 男 齒ぎしりする音.
curcura-śabda 男 [同上].
culaka 男 〔中〕 水を掬ふために凹めたる掌.
culuka 男 〔中〕 凹めたる掌; 手一杯, 口一杯; 〔漢譯〕掌 Mañj-m.

culukaya 〔名動〕 〔他〕 **culukayati** 掌を凹めて呑む.
culuki-Kṛ, [同上]; 消失せしむ.
Culump, I. 〔他〕 **culumpati.**
ud- 吸ひ上ぐ.
culla 〔形〕 爛れ目の. 〔音寫〕 爛れ目.
culla-patka 男 [佛弟子の名] (Sukh-vy. I.).
cullākṣa 〔形〕 爛れ目の; 〔漢譯〕目小者, 目太小者 Mvyut.
culli 〔中〕 窟.
culli 〔中〕 窟, 爐; (北と東と西とに向きたる)三區割より成る廣間.
cūcu 〔形〕 = cūcū.
cūcuka 〔形〕 吃る. 〔中〕 乳首.
cūcukāgra 〔中〕 乳首.
cūcu-pa 男 〔音寫〕 [民族の名].
cūda 1. 男 (煉瓦の)隆起; (幼少の時に行はるゝ)剃髮式; 〔漢譯〕髻 Mvyut. 〔形〕 愚鈍なる; 〔漢譯〕愚 Divy.: parama ~ 至愚 Divy. 488.
cūda 2. 〔形〕 〔音寫〕 [kṣudra. Pāli. culla 又は cūla] 〔漢譯〕小支應.
-cūḍaka 男 剃髮.
cūḍakā 女 [或る Apsaras の名] (Kār-vy.).
cūḍa-panthaka 男 〔漢譯〕〔音寫〕 [佛弟子の名] 朱荼半託迦, 周利槃陀迦 Mvyut.
cūḍaya 〔名動〕 〔他〕 **cūḍayati** (業)の頭上に寶冠の如く冠らしむ.
cūḍā 女 頭頂の髮; (剃髮式の後)頭頂(に残されたる)髮の房(?); 剃髮式; 鷄冠, 冠毛; 頂上; 〔漢譯〕髻, 珠髻, 髻髮; 頂 Lal-v., Mañj-m., Mvyut., 梵雜; 〔音寫〕周羅 立應.
cūḍā-karaṇa 〔中〕 剃髮式. 〔形〕 〔漢譯〕編(共)髻髮 Vajr-s.
cūḍā-karṇa 男 [或る乞食者の名].
cūḍā-karman 〔中〕 = cūḍā-karaṇa (〔中〕).
cūḍā-danta 男 壁より突出せる木釘.
cūḍā-pāśa 男 頭頂の髻.
cūḍā-pratigrahaṇa 〔中〕 [或る Caitya の名] (Lal-v.).
cūḍā-maṇi 男 頂飾の寶石; (一°)の中の寶石又は眞珠 即ち最勝のもの; [人名]; [種々の著作の名]; 〔漢譯〕髻寶, 髻明珠, 髻中明珠, 髻中之寶 Divy., Saddh-p.
cūḍā-maṇitā 女 頂飾の寶石たること.
cūḍāmaṇi-dhara 男 〔漢譯〕[龍の名] 持髻珠, 載頂寶; (音寫)摩尼珠髻 Mvyut.
cūḍā-maha 男 [祭の一種] (Lal-v.); 〔漢譯〕頂髻筵 Mvyut.
cūḍā-ratna 〔中〕 頂飾の寶石.
cūḍāla 〔形〕 頭頂に一束の髮を有する.
cūḍāvāt 〔形〕 少年期に在る.
cūḍā-vana 〔中〕 [(林を冠せる), 山の名].
cūḍika 〔形〕 〔音寫〕 [kṣudrika. Pāli. cullika 又は cūlika] 〔漢譯〕小 Ast-pr., Abh-k., Bodh-bh.: sāhasrika ~ loka-dhātu 小千世界 Bodh-bh. 65.
cūḍikā 女 象牙又は角製の腕環; [婦人の衣服の一種].
cūḍikāvabaddha (°kā-av°) 〔形〕 〔漢譯〕現高, 頂珠, 繫於髻 Mvyut.
cūḍopanayana (°ḍā-up°) 〔中〕 〔音寫〕 剃髮と入門.
cūta 男 欖果(空)樹; [Kāmā 神の箭の一].
cūta-mañjari 女 [或る妖精(Vidyādhari)の名].

cūta-latikā 〔女〕〔遊戲の一種〕;〔人名〕。
 cūta-śara 〔男〕(Kāma 神の) 櫛果(?) 樹の箭。
 Cūr, X. 他 cūrayati 盗む。 → Cur.
 cūru 〔男〕 蟲の一種。
 cūrṇa 〔通受分〕〔Carv〕 粉にしたる, 細き, 細かき。 〔男〕
 〔中〕 粉末, 穀粉; 芳ばしき或は薬用の粉末; 〔漢譯〕 粉, 末, 碎末; 散; 香末, 抹香, 末香, 細末香 Divy., Aṣṭ-pr., Suv-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Mañj-m., Sikṣ., Mvyut.; 香袋, 細麵 Mvyut. → gandha。 〔男〕 石灰, 白堊;〔人名〕。
 cūrṇaka 〔男〕〔穀物の一種〕; 石灰の如き蒼白, 死者の蒼白。 〔中〕 芳ばしき粉末;〔簡單なる散文の一種〕; 〔漢譯〕 鋸木之末 Divy.
 cūrṇa-kāra 〔男〕 石灰焼の人夫(混血種姓)。
 cūrṇa-kuntala 〔中〕 髪の束, 髻。
 cūrṇa-gandha 〔男〕 末香 Bodh-bh.
 cūrṇatā 〔女〕 粉末状態。
 cūrṇana 〔中〕 粉碎すること, 搗き碎くこと。
 cūrṇa-pada 〔中〕 速度の一定せざる前後運動,(球戯の際の)特殊の動作;〔簡單なる散文の一種〕。
 cūrṇaya 〔名動〕 他 cūrṇayati 粉にす, 碎く, 潰す; 〔漢譯〕 磨, 碎以爲末, 碎爲微塵 Divy., Sikṣ. 〔通受分〕
 cūrṇita 粉末にせられたる, 碎かれたる, 潰されたる。
 vi- = cūrṇayati.
 sam- 〔同上〕。〔不変分〕 samcūrṇya 〔漢譯〕 磨 Saddh-p. 〔通受分〕 samcūrṇita 完全に粉末にせられたる, 片々に碎かれたる。
 cūrṇa-yoga 〔男〕 混合せる香料粉末。
 cūrṇa-rāsi 〔男〕 微塵 Suv-pr.
 cūrṇika 〔男〕(?) 子註, 長行 Lanḁ.
 cūrṇikā 〔女〕〔菓子の一〕;〔簡單なる散文の一〕。
 cūrṇi-karaṇa 〔中〕 粉碎すること。
 cūrṇi-Kṛ, 粉にす, 碎く, 潰す; 〔漢譯〕 磨, 破碎 Saddh-p.
 cūrṇi-kṛta 〔形〕 粉にせられたる, 潰されたる; 〔漢譯〕 爲微塵 Sikṣ.
 cūrṇi-cikirṣu 〔形〕 粉碎せんと欲する。
 cūrṇi-BHū, 塵埃となる, 潰さる; 溶けて消失す。
 cūla 〔男〕〔人名〕; —° 剃髮式。 → cūdā.
 cūlaka, 髪の房(?) [—° は 〔形〕]。
 cūla-maṇi 〔男〕 〔俗〕 〔漢譯〕 [又た culla-, cūda-. <kṣudra-] 小寶 支應; 〔俗〕 周羅摩尼 支應。
 cūlika 〔男〕 〔種〕〔民族の名〕。 〔男〕 〔中〕 乳房。
 cūlikā 〔女〕 雄鶏の鶏冠; 頂點, 頂上。
 cūlikā-baddha 〔形〕 平滿, 遍滿高出 Abh-vy.
 cūlin 〔形〕 頂飾を有する。 〔男〕〔聖仙の名〕。
 Cūṣ, 〔中〕 cūṣyate 沸騰す; 化膿す。 〔漢譯〕 他 cūṣayati 吸ひ上ぐ。
 nis- 〔使役〕 niścūṣayati 吸ひ出す。
 cūṣaṇa 〔中〕 吸ふこと, (蛭の)噛み附くこと。
 cūṣya 〔未受分〕 吸はるべき。
 Cṛt, VI. 他 cṛtati 共に縛る; 傷つく, 殺す; I. 〔中〕 cartati 却く。
 pra- 緩む, 解く, 解放す。 〔通受分〕 pracṛtta 亂れたる。
 vi- 〔同上〕。 〔通受分〕 vicṛtta 緩められたる, 解か

れたる, 開かれたる, 擴がれる。
 cekat 〔漢譯〕 〔中〕 → Cit.
 cekitāna 〔漢譯〕 〔中〕 現はるゝ; 賢き。 〔男〕〔人名〕;〔王侯の名〕。 → Cit.
 cec-cet 〔中〕 坐れ [犬に對して言ふ]。
 ceṭa 〔男〕 召使, 奴隸; 〔漢譯〕 奴, 僮僕 Sūtr., Sikṣ.
 ceṭaka 〔男〕〔同上〕。
 ceṭi 〔女〕 [=ceṭi] → ~bhūta.
 ceṭikā 〔女〕 =ceṭaka
 ceṭi-bhūta 〔形〕〔(使役), =ceṭi-bhūta]; 〔漢譯〕 如婢 Lal-v. 139.
 ceṭi 〔女〕 =ceṭa; 〔漢譯〕 女, 侍女, 媒女, 婢僕, 賤婢, 小女人; 使人, 侍從, 青衣 Lal-v., Suv-pr., Sikṣ.
 ceṭaḥ-khila 〔形〕 〔漢譯〕 心裁, 心堅(?) Abh-vy.
 ceṭaḥ-parivitarka 〔男〕 〔漢譯〕 念, 心所念, 心之所念, 心志所念, 心所默念 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sam-r.
 ceṭaḥ-paryāya-jñāna 〔中〕 〔漢譯〕 心差別智, 識數心 Mvyut.
 cetana 〔形〕 (〔女〕-i) 明白なる, 顯著なる; 感覺ある, 活氣ある, 感知せる; 〔漢譯〕 智 Sāṃkhy-k. 〔男〕 知的存在, 人間。 〔中〕 精神, 意識; 知覺(の對象), 現象; 〔漢譯〕 心, 思, 覺, 思覺, 覺觸, 故意 Abh-vy., Nyāy-pr. → a。)
 -cetana 〔形〕 〔漢譯〕 [Pāli. cetāpana] 價 Prāt-m.: cīvara。 衣價 Prāt-m. IV. 8.
 cetanaṭā 〔女〕 知覺, 自覺。
 cetanaṭva 〔中〕〔同上〕。
 cetana-bhāva 〔男〕〔同上〕。
 cetanā 〔女〕 自覺, 智能, 精神; 〔漢譯〕 志, 思, 所思, 思惟, 覺, 思覺, 作意, 故意; 覺處; 誓願 Lal-v., Av-ś., Aṣṭ-pr., Kāśy., Saddh-p., Sikṣ., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.: ~ṃ puṣṇāti 發誓願 Av-ś. I. 154.
 cetanā-kāya 〔男〕 〔漢譯〕 思身, 故意聚 Abh-vy.
 cetanācetana 〔形〕 〔漢譯〕 感覺のあると無きとの, 有情と非情との。
 cetanā-dhātu 〔男〕 精神生活の本質的要素即ち感覺; 〔漢譯〕 思界 Cat-ś.
 cetanāvāt 〔形〕 意識・感覺又は理性を有する; 〔漢譯〕 如知者 Sāṃkhy-k.
 cetani-Kṛ, 知覺又は意識せしむ。
 cetani-BHū, 意識す。
 cetayamāna 〔現分〕 感覺又は思惟する。
 cetayāna 〔不現分〕 感覺せらるゝ, 考へ得らるゝ。
 cetayitavya 〔未受分〕 知覺せらるべき。
 cetayitr 〔形〕 知覺又は意識を有する。 〔男〕 自覺を有するもの。
 cetayitvā 〔使役〕 (〔不現分〕 [Cit]) 〔漢譯〕 思已, 從思生, 思所起, 思所生, 故意所造 Madhy-v., Abh-vy.
 cetas 〔中〕 様子; 光輝; 自覺; 智能; 感官; 心, 精神, 意志; 〔漢譯〕 心, 意, 念, 心想 Saddh-p., Suv-pr., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Bodh-c.
 cetasaka 〔男〕 〔種〕〔民族の名〕。
 cetasika 〔形〕 〔漢譯〕 心數 Kāśy.
 cetasi-Kṛ, 〔漢譯〕 思量 Abh-vy.
 cetika 〔男〕 〔俗〕 [<caitya]; 〔漢譯〕 塔, 塔廟 Sikṣ. 302.

333.

cetita 形 〔意〕 思惟 *Pin.***cetiya** 男 俗 [<caitya] 〔意〕 塔, (佛)塔 *Lal-v.* 383., *Sam-r. 11.***cetiṣṭha** 1. 形 [citra の 〔意〕] 最も輝ける, 最も顯著なる.**cetiṣṭha** 2. 形 [cetr の 〔意〕] 最も注意深き.**ceto-bhū** 男 愛; *Kāma* 神.**cetomat** 形 意識ある, 生ける.**ceto-mukha** 形 聰明なる口を有する.**ceto-vaśitva** 中 〔意〕 心自在 *Abh-vy.***ceto-vaśin** 形 〔意〕 心自在 *Aṣṭ-pr.***cetovaśi-parama-pārami-prāpta** 形 〔意〕 至心自在第一究竟, 心得自在一切功德皆悉具定 *Aṣṭ-pr.***cetovaśi-prāpta** 形 〔意〕 心得自在, 得心自在, 他心自在 *Bodh-bh.***ceto-vikāra** 男 精神錯亂.**ceto-vikārin** 形 心の混亂せる.**ceto-hara** 形 心を奪ふ.**cetr** 形 注意深き, 監守する.**cetya** 1. 男 中 俗 [<caitya] 〔意〕 塔廟 *Sikṣ. 263.***cetya** 2. (未受分) 感覺せられ得る.**ced** (ca-id) (不変辞) [文章又は詩句の初に用ひらるゝこととなし] 而して(因); 時に(因); ……も亦た, さへも [api と俱に 〔意〕]; 若し……ならば [此語を用ひたる條件文の次の文は通常 *tad, tatas, tadā, tarhi* 又は *atha* を有す]; 〔意〕 若 *Abh-vy.***atha** ～, ……併し乍ら若し.**na** ～, **no** ～, 若し……ならざれば, [省略を表す] 若し然らざれば, さなくば; 〔意〕 若無 *Abh-vy.* **yadi** ～, =ced.～ **na**, 若し……ならば……ならざるべし [即ち條件文の次の文が之によりて否定となる].**iti** ～ **na**, 若し之が(反対せらるゝ)ならば…… (そは然らざるべし).**cedi** 男 種 [*Bundelkhund* の人民の名].**cedika** 男 種 *Cedi* 民族.**cedi-pa** 男 *Cedi* 民族の王.**cedi-pati** 男 [同上].**cedi-bhū-bhuj** 男 [同上. (特に *Sisupāla* の)].**cedi-rāja** 男 =cedi-pa.**cedi-vaśaya** 男 *Cedi* 民族の國.**cedi-hūṇa** 男 種 *Cedi* 族と *Hun* 族.**ceya** (未受分) 堆積又は蓄積せらるべき.**cere,** [Car の 自 〔意〕 〔意〕].**cela** 男 =ceṭa. 中 著物, 衣服; 〔意〕 衣, 服, 衣服, 布衣 *Mañj-m., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.***celaka** 男 一〇 役に立たざるもの; [人名].**cela-gaṅgā** 女 [河の名].**cela-nirṇejaka** 男 洗濯人.**cela-prakṣāḷaka** 男 [同上].**cela-rucikā** 女 喪章.**celāpahāra** 男 衣服の竊盜.**celāśaka** (°la-āś°) 男 衣魚(?).**celikā** 女 婦人の胸著.**celuṣ,** [Cal の 自 〔意〕 〔意〕].**Ceṣṭ, I.** 他 自 **ceṣṭati(-te)** 手足を動かす, 蹴る, 動かす, 悶躁(?)く; 努力す, 忙殺せしめらる; 活動す, 爲す, 行ふ; 屢=訪ふ; 〔意〕 起, 覺, 動覺 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.* (通受分) **ceṣṭita** 爲されたる; 屢=訪はれたる. (使役) **ceṣṭayati(-te)** 運動せしむ, 活動せしむ; 驅る.**āti-** 過分に努力す.**ā-** 爲す, 實行す. (使役) **āceṣṭayati** 動かす, 活動せしむ.**pari-** 轉げ廻る; 徘徊す; 〔意〕 宛轉 *Saddh-p.***vi-** 悶躁く; (因)に向ひて努力又は活動す; 生ず, 産出す; 〔意〕 犯, 宛轉 *Sikṣ., Bodh-bh.*; 不作饒益, 遮他令捨 [*Tib. khyad-du-bsad*] *Bodh-bh. 164.* (使役) **viceṣṭayati(-te)** 運動せしむ, 活動せしむ.**pra-vi-** 自 徘徊す. (通受分) **viceṣṭita** 結果せる, 産出せられたる.**sam-** 自 動揺す, 擾さる; 進む, 努力す, 活動す.**ceṣṭa** 中 運動, 身振り; 活動; 行爲, 生活態度; 〔意〕 行, 作業 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy.***ceṣṭana** 中 運動; 實行.**ceṣṭayitr** 形 運動せしむる.**ceṣṭā** 女 =ceṣṭa; 實行; 行爲, 動作, 行動, 進行; 〔意〕 動; 業, 作業, 所作, 外所作, 所起作業 *Madhy-v., Vijñ-t., Bodh-bh.*; *kāya-vān-manasā* 身語意業 *Bodh-bh. 402.* → *niśceṣṭa.***ceṣṭita** (通受分) → **Ceṣṭ.** 中 =ceṣṭā; 〔意〕 動, 行, 作, 所爲, 所造作; 事 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 規 *Mvyut.***ceṣṭitavya** (未受分) (中) (非入) (事が)作さるべし.**ceṣṭtr** 男 〔意〕 作 *Lank.***caikitāna** 男 [*Cikitāna* の 〔意〕].**caikitāneya** 男 [同上].**caikitāyana** 男 [*Cikitāyana* の 〔意〕].**caitanaka** 中 〔意〕 價, 直 [= *cetanaka. Pāli. cetā-pana*] *Mvyut.***caitanya** 中 自覺, 智性, 精神, 靈魂; 〔意〕 思, 心, 有知 *Bodh-c., Cat-ś., Mvyut.*; 我思 *Cat-ś. 488.* 男 [西曆千四百八十四年に生れたる或る豫言者の名].**caitanya-candrodaya** (°ra-ud°) 男 [(*Caitanya* の月の出), 戯曲の名].**caitanya-yukta** 形 自覺を與へられたる.**caitasa** 男 〔意〕 心所, 心法, 屬心 *Abh-k., Abh-vy., Vijñ-t., Madhy-vibh.***caitasika** 形 〔意〕 心, 心所, 心數, 心法, 心數法, 心所有 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Lank., Abh-vy., Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.*; ～o *dharmāḥ* 心數法 *Aṣṭ-pr. 570;* ～ā *dharmāḥ* 心所有法, 心中處處有諸法, 心中所處諸法 *Mvyut.***caitika(?)** 男 種 [或る佛教部派の名]; 〔意〕 〔意〕 只底躬立應.**caitta** 形 思想 (*citta*) の領域に屬する, 思考せらるる; 心の. 男 〔意〕 心法, 心所, 心所法, 心數, 心數法 *Lank., Abh-k., Vijñ-t., Abh-vy., Madhy-vibh.***caitya** 1. 男 個人の精神.**caitya** 2. 形 火葬用の薪の堆積に関する. 男 中 墓; 殿堂; 神聖なる記念の無花果樹; 〔意〕 塔, 塔廟, 廟,

靈廟; 可供養處; 方墳, (佛神)寺; 聚相 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Gand-vy., Vajr-pr., Śiks., Mvyut.*, 梵雜; (音寫) 制多, 制底, 支提, 脂帝, 支帝 *Divy., Gand-vy., Bodh-bh., Mvyut.*, 支應.

caitya-karman 甲 墓 (caitya) を作ること; caitya を作る際に行ふ儀式.

caitya-taru 男 聖地に植ゑられたる無花果樹.

caitya-druma 男 [同上].

caitya-pāla 男 caitya の守護者.

caitya-bhūta 形 漢譯 如靈廟, 如(佛)靈廟, 即同寶塔; (音寫) 真制多 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr.*

caitya-yajña 男 caitya に對して行はるゝ供儀.

caitya-vṛkṣa 男 = caitya-taru; 漢譯 (音寫) 樹支提, 孤樹制多 *Abh-vy.*

caitya-śaila 男 複 [或る佛教部派の名].

caitya-sthāna 甲 caitya ある聖地.

caityāṅga 男 漢譯 塔周匝 *Mvyut.*

caitra 男 [春の第二月の名(三月一四月)]; 漢譯 正月 梵雜; 仲春 *Mvyut.*; (音寫) 制怛羅, 制怛羅(月) *Abh-vy., Mvyut.*, 支應.

caitra-dandika 男 漢譯 執棍者 *Mvyut.*

caitrabhānava 形 *Agni* 神 (citra-bhānu) に屬する.

caitra-ratha 甲 [(土 vana) Citraratha の營める *Kubera* の森の名]; 漢譯 [帝釋天の苑の名] 衆車, 寶車 *Divy., Abh-k.* 形 [Gandharva Citraratha に關する, 或はその(父系)]; *Dvy-aha* 祭の.

caitraratha-parvan 甲 [*Mahābhārata* の章の名].

caitraratha-vana 甲 漢譯 [帝釋天の苑の名] 衆車苑, 雜色車苑 *Mvyut.*

caitra-rathi 男 [citra-ratha の(父系)].

caitrarathya 甲 [citra-ratha より] = caitra-ratha.

caitrarathya-vana 甲 [同上]; 漢譯 衆車苑, 雜色車苑 *Mvyut.*

caitra-vāhani 女 [Citrāṅgadā の(父系)].

caitri 女 *Caitra* 月の満月の日.

caidya 男 (父系) *Cedi* の子孫; *Cedi* の王侯(特に *Śiṣu-pāla*).

caila 男 衣服の總名(音寫) 衣, 服, 衣服, 衣裳, 芻衣; 綺, 幃, 繒綵 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śiks., Mvyut.* → ~ vitāna.

cailaka 男 佛教の比丘; 漢譯 出家 *Saddh-p.*

cailaka-bhūta 形 漢譯 出家, 出家(作沙彌), 出家(爲沙彌) *Saddh-p.*

caila-dhāva 男 洗濯人.

caila-vitāna 甲 漢譯 綺幃, 幃帳 *Aṣṭ-pr.*

cailāśaka (°la-āś°) 男 蠶魚を食ふ惡魔.

caileya 形 布にて作られたる.

co (ca-u), → ca.

coka 甲 根(の一種).

cokṣa 形 純粹なる, 清らかなる; 漢譯 淨, 清淨 *Saddh-p.*

coca 甲 肉桂の樹皮(の一種).

coḍa 男 (煉瓦に於ける)隆起; 胴衣 [= cola]; 漢譯 [Pāli. cola] 衣 *Saddh-p., Śiks.*

coḍaka 1. 男 = colaka; 漢譯 衣裳 *Divy.* → rathyā ~.

coḍaka 2. 男 俗 [< coraka, cauraka]; 漢譯 偷 *Śiks.* 20.

coḍa-karṇa 男 [人名].

coda 男 突棒, 鞭. 形 鼓舞する, 感動せしむる, 刺戟する; 促進する.

codaka 形 強ふる, 鼓舞する, 激勵する; 漢譯 舉, 舉罪者, 發露者, 正教誨, 能諫舉, 舉令覺悟 *Śiks., Bodh-bh., Vijñ-t.* 男 命令, 指揮; 招待.

codana 形 強ふる, 鼓舞する; 漢譯 諫 *Kāśy.* 甲 激勵, 招待; 命令, 指示; 法則, 規定; 漢譯 勸諫, 開覺, 提請 *Lal-v., Śiks., Mvyut.*

codanā 女 [同上(甲)]; 漢譯 諫誨 *Bodh-bh.*

codayan-mati 形 信仰を増進せしむる.

codayitavya 漢譯 (未受分) 非議又は批判せらるべき; 漢譯 諫舉 *Bodh-bh.*

codayitr 男 激勵者, 鼓舞者, 助成者.

codayitri 女 [同上].

codita 漢譯 (未受分) → Cud. 漢譯 覺, 警, 誨, 覺悟 *Śiks.*

coditr 男 = codayitr.

codiṣṭha 漢譯 (未受分) 最も鼓舞する.

codya 漢譯 (未受分) 強ひらるべき; 非議せらるべき; 疑はるべき; 漢譯 微; 難, 應難, 可爲難; 批平 *Sūtr., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*; na ~ 主張せられざる即ち當然の(事). 甲 質議, 審議; 警愕, 疑.

codya-parihāra 男 漢譯 釋難 *Madhy-vibh.*

cora 男 盜人; 剽竊者; 漢譯 賊, 怨賊, 劫賊 *Gand-vy., Śiks.*

coraka 男 盜人.

cora-kathā 女 漢譯 談盜事, 論說於賊盜 *Rāṣṭr.*

cora-kāntāra 男 甲 漢譯 怨賊難 *Śiks.*; 多賊國土, 盜賊險難處 *Aṣṭ-pr.*

corayitavya 漢譯 (未受分) 盜まるべき.

cora-samjñā 女 漢譯 賊想 *Śiks.*

corita 漢譯 (未受分) → Cur.

coritaka 甲 盜まれたるもの, 盜品.

cola 男 短上衣, 胴衣; (複) [民族の名(現今の *Tanjore* の住民)]; (單) *Cola* の王侯; 漢譯 襖, 袍 *Mvyut.* → coḍa, coḍaka.

colaka 男 = cola; 複 *Cola* 人.

cola-maṇḍala 甲 *Cola* の國 [現今の *Coromandel*].

coṣa 形 (一°)を吸ふ. 男 (皮膚の)燥くこと, 燃ゆること; 發熱, 乾燥(病氣の).

coṣaṇa 甲 吸ふこと.

coṣya 漢譯 (未受分) 吸はるべき. 甲 吸ひ飲む食物.

caukṣa 形 [= cokṣa] 清らかなる; 漢譯 潔, 鮮, 淨, 新淨, 清淨, 淨好, 好; 勝 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Mañj-m., Śiks.*, 梵雜: ~ m āsanam prajñāpayitavyam 敷淨好座, 置(一)勝座 *Suv-pr.* 109.

caukṣa-civara 甲 漢譯 淨衣服 *Sur-pr.*: ~ prāyṛtya 著淨衣服 *Sur-pr.* 5.

caukṣa-samudācāra 形 漢譯 淨行 *Mvyut.*; 恆樂清淨, 常樂清淨 *Aṣṭ-pr.*: ~ o bhaviṣyati śuci-samudācāro bhaviṣyati 修鮮淨行 *Aṣṭ-pr.* 260.

caukṣya 形 = caukṣa.

cauda 甲 剃髮式.

cauṅṭya 形 泉 (cuṅṭi) より來れる.

cauta-pallava ㊦ (㊦-i) 欒果(子)樹の小枝に特有なる或はに關する。
caura ㊦ 盜賊, 強盜: (一°)を盜む者; 篡奪者; ㊦ 賊, 盜, 盜賊, 強盜, 怨賊, 冤賊 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Bodh-c., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.*; 梵雜: 一° 劫 *Buddh-c.*: ~o dhvaja-buddhakaḥ 強盜名稱, 稱賊者 *Mvyut.*
caura-kathā ㊦ ㊦ 說盜賊事, 論說賊事, 樂說寇賊事 *Aṣṭ-pr.*
caura-karman ㊦ 竊盜.
caura-kāntāra-madhya-gata ㊦ ㊦ 經過險難多 諸賊盜, 險道多諸賊難 *Aṣṭ-pr.*
cauratara ㊦ 大盜賊.
caura-daṇḍa-bhāj ㊦ 盜人の刑罰を負ふ.
caura-śaṅkin ㊦ 盜賊又は強盜を恐るゝ.
caurāṭavi ㊦ 盜賊に占據せられたる林.
caurikā ㊦ (一°)の盜人; 竊盜; 隱密, 詐欺. ~ayā ㊦ (㊦)の陰にて.
cauri ㊦ =caura.
cauri-BHū, 盜賊となる, 盜まる.
cauri-bhūta ㊦ 盜賊に襲はれたる.
cauroddhartr (°ra-ud°) ㊦ 盜賊の撲滅者即ち探偵.
caurya ㊦ 竊盜; 隱密, 詐取, 詐欺; ㊦ 抄劫, 竊盜, 偷盜 *Saddh-p., Rāṣṭr.*
cauryaka ㊦ [同上].
caurya-bhaya ㊦ 竊盜の罪による恐怖.
caurya-rata ㊦ 不義の享樂, 姦通.
caurya-vidyā ㊦ [*Yogācārya* の作と言はるゝ竊盜術の書の名].
caurya-vrtti ㊦ 竊盜によりて生活する.
caula ㊦ 剃髮式.
caula-karman ㊦ [同上].
cyavana ㊦ 動く; 動かす, 振る. ㊦ [或る病魔の名]; [聖仙の名]; [諸人の名]. ㊦ 運動; (一°)の喪失; 天上より再び人間に生るゝこと; 死; ㊦ 墜, 下生 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
cyavana-kāla-samaya ㊦ ㊦ 將下生時 *Lal-v.*
cyavana-dharma ㊦ 再生の輪廻に墮する運命にある.
cyavana-dharman ㊦ [同上]; ㊦ 死相現者 *Divy.*
cyavana-dharmin ㊦ [同上] (*Divy.*). ㊦ ㊦ [天子の名] (㊦) 曉機義法 *Divy.*
cyavana-nahuṣa-saṃvāda ㊦ (*Cyavana* と *Nahuṣa* との對話 [*Mahābhārata* の章の名].
cyavanākāra (°na-āk°) ㊦ ㊦ 將没之相 *Lal-v.*
cyavanopākhyāna (°na-up°) ㊦ *Cyavana* 仙說話 [*Mahābhārata* 等の章の名].
cyavam, [*Cyu* の Injunctive [-入] ㊦].
cyavāna ㊦ 活動的の, 活潑なる. ㊦ [聖仙の名]; ㊦ 兩腕.
cyāvana 1. ㊦ ㊦ (一°)を倒す. ㊦ 驅逐.
cyāvana 2. ㊦ [*Cyavana* の ㊦].
cyāvita ㊦ ㊦ (㊦)より排斥せられたる; 墜されたる.
Cyu, I. ㊦ **cyavate** ㊦ ㊦ 揺れ動く, 動く; (㊦)より去る或は逸れる; (㊦)を奪取せらる, 喪

失す; 消失す, 滅ぶ, 死す; 不足す; (㊦)より飛つ; 破滅せしめらる; (低き家系に)沈淪す; (徳性上)墮落す; 活動を開始せしむ, 動かす; ㊦ 死, 歿, 命終, 命盡, 壽盡, 示現命終; 没, 退, 墮, 下, 下生 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Sikṣ.* (不妻分) **cyavitvāna** ㊦ [=cyutvā]; ㊦ 死已 *Saddh-p.95.*; **cyavitvā** ㊦ 命終 *Suv-pr.*: ito manuṣya-lokūc cyavitvā 人中命終, 命終之後 *Suv-pr.116.* (過受分) **cyuta** 動かされたる, 揺られたる; (㊦, 一°)より落ちたる, ……より發射せられたる, ……より去れる, ……に乗てられたる, ……なき, ……の缺けたる. ㊦ **cyāvayati** (又は稀に) **cyavayati** 動かしむ, 震はしむ; 落下せしむ; (㊦)より放逐又は除去す; 失はしむ; (㊦)を(㊦)より奪ふ; ㊦ 震ふ; ㊦ 廢, 廢黜; 破; 擯出 *Divy., Prāt-m., Bodh-bh.*
ud- ㊦ **uccyāvayati** 取り出す, 抜き出す, 緩む, 自由ならしむ.
pari- (㊦)より落つ, ……より飛ぶ, ……より急ぐ; (㊦)より逸れる; (㊦)を失ふ. (過受分) **paricyuta** (㊦)より落ちたる; 再生の輪廻に墮せる; 失はれたる, 亡びたる.
pra- 動く, 進む; (㊦)より去る; (㊦)を奪取せらる, ……を失ふ; (㊦)より落つ; (㊦)より逸れる; 再生の輪廻に墮す; ㊦ 命終, 捨命 *Abh-vy.* (過受分) **pracyuta** (㊦, 一°)より落されたる, ……より放逐せられたる, ……より逸れたる, ……を奪取せられたる, ……を缺ける. ㊦ **pracyāvayati** 震ふ; 落下せしむ; 放逐す; (㊦)を思ひ止まらしむ.
anu-pra- (㊦)に向ひて出發す, ……に隨ふ.
vi- 去る; (㊦)より逸れる; 失はる, 不足す.
Cyut, I. ㊦ **cyotati** 滴る; 落下す; 流出せしむ.
-cyut ㊦ 動く; 揺るゝ; 破壊する.
cyuta (過受分) → *Cyu.* ㊦ 死, 歿, 命終, 壽終, 命盡, 捨命已; 失, 退, 没, 墮, 謝, 滅, 退没, 終没 *Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Abh-vy., Madhy-v., Sikṣ., Mvyut.*; ㊦ 犯, 破 *Kāśy.* → a~silā
cyuta-dattākṣara ㊦ 一字落ちたるか或は加へられたる.
cyuta-pratijñā ㊦ ㊦ 妄, 自違本誓 *Kāśy.*
cyuta-saṃskāra ㊦ 文法に違背する.
cyutācāra (°ta-āe°) ㊦ 義務より逸れたる.
cyuti ㊦ (一°)より出發すること; (一°)より出づること; 落下; (義務の)違反; (㊦)より逸れること; (一°)の消失; 損失; 死; 落下; 墮落(㊦); ㊦ 捨; 没; 退墮; 死, 死墮, 命終 *Gaṇḍ-vy., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
cyuti-deśa ㊦ ㊦ 死處, 死墮處 *Abh-vy.*
cyuti-dvaya ㊦ ㊦ 二種死 *Laṅk.*
cyuti-saṃkrama ㊦ ㊦ 死而生 *Mvyut.*
cyutodbhava (°ta-ud°) ㊦ ㊦ 死生 *Abh-k.*
cyutopapatti (°ta-up°) ㊦ ㊦ 生死 *Saddh-p.*
cyutopapanna (°ta-up°) (過受分) ㊦ ㊦ 終没若生, (初生及退没 *Saddh-p.*
cyutopapāda ㊦ ㊦ 死生, 生死 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*
cyuty-ākāra ㊦ 人間として再生せんが爲に天上よ

り下ること; [漢語] 將沒相 *Lal-v.*

cyuty-upapatti [漢語] 死生, 生死, 生滅 *Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*

cyutyupapatti-jñāna-bala [漢語] [如來十力の一] 死生智力, 生死智力; 天眼力, 天眼智力, 知天眼力, 得天眼能觀一切力 *Bodh-bh., Mvyut.*

CH

coa-kāra [漢語] *cha* の字又音; [漢語] (音寫) 車字 [五十字門の一]: ~e chanda-rāga-prahāna-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱車 (上聲) 字時出永斷貪欲聲 *Lal-v. 127.*; [四十二字門の一]: ~m parikīrtayata upacaya-garbha-prayogaṃ cāritra-chattra-maṇḍala-bhedam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱車 (東者反上聲) 字時能甚深入般若波羅蜜門名增長修行方便藏善覆輪 *Gaṇḍ-vy. 450.*

chagala [漢語] 山羊; [漢語] 山羊, 羖羊 *Mvyut., 梵雜.*

chagala-pāda [漢語] 羊足 *Suv-pr.*

chagali [漢語] 牝山羊.

chaṭā [漢語] 塊, 集合體, 群集; 光輝.

chaṇḍikā-vārika [漢語] 把小門者 *Mvyut.*

chattra [漢語] (蔽ふもの), 日傘 [王位の標章の一]; [漢語] 傘, 蓋, 傘蓋, 繒蓋, 寶蓋 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Suv-pr., Rāṣṭr., Bodh-bh., 梵雜.*

chattra-gr̥ha [漢語] 王傘を保存する室.

chattra-grāhīni [漢語] 日傘を支持する女.

chattra-daṇḍa [漢語] 傘柄 *Divy.*

chattra-dhara [漢語] 日傘を支持する人; [漢語] 持傘者 *Mvyut.*

chattra-dhara [漢語] [同上].

chattra-dhāraṇa [漢語] 日傘の使用.

chattra-dhāratva [漢語] 日傘を支持する職.

chattra-dhārin [漢語] 日傘を支持する人.

chattra-pati [漢語] 王傘の監守者.

chattra-pāni [漢語] 捉蓋 *Prāt-m.* [漢語] 持蓋者, 手執傘蓋人 *Mvyut.*

chattra-bhaṅga [漢語] (王傘の破壊), 主權の喪失.

chattra-mukhā [漢語] [或る Nāga の少女の名] (*Kārvy.*).

chattravat [漢語] 日傘を有する.

chattra-vṛkṣa [漢語] [樹木の名, 學名 *Pterospermum suberifolium*].

chattrāka [漢語] 葷(き?)

chattrikā [漢語] 小傘.

chattrin [漢語] 日傘を有する(王侯).

chattri-nyāya [漢語] 王を chattrin と呼ぶ理(即ち許容せられたる同義語の使用).

chattri-Kṛ, 日傘となす又は日傘として用ふ.

chattropānaha (°ra-up°) [漢語] 日傘と靴 [王者の標].

chattvara [漢語] 家.

chatra [漢語] [= chattra]; [漢語] 蓋, 傘, 傘蓋, 繒蓋, 寶

cyuty-upapāda [漢語] 死生 *Bodh-bh.*

cyutyupapāda-darśana-jñāna [漢語] 見死生智 *Bodh-bh.*

cyota [漢語] 流れ, 流出.

cyautna [漢語] 激勵する, 刺戟する. [漢語] 振ること; 企業, 努力.

蓋, 幟蓋 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Sukh-vy. I., Laṅk., Śikṣ.*

chatra-nāḍikā [漢語] [= chattra-n°]; [漢語] 傘笛 *Divy.*

chatrākāra-śira (°ra-āk°) [漢語] [= chattrāk°] [漢語] 頭如傘蓋 *Mañj-m.*

chatrikā [漢語] = chattrāka; [漢語] 菌子 *Mañj-m.*

CHad I. [單純動詞は (過受分) のみ] (過受分) **channa**

覆はれたる, 隠されたる; 暗くせられたる, (日月の) 蝕となれる; 見られざる, 變装せる; 内密の; **channam**, ° — [漢語] 密かに, 暗黙の裡に. [漢語] **chādayati** [漢語] は又た [漢語] 覆ふ; (覆ひの如く) 擴く; 隠す; 護る; [漢語] 掩, 遮, 蓋, 覆, 覆藏, 遍覆 *Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Śikṣ., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.; 闇, 暗蔽, 障 Madhy-v.*

abhi- [漢語] **abhicchādayati** 覆ふ; [漢語] 覆 *Lal-v., Saddh-p.:* cīvarair bhagavantam abhicchādayām āsuḥ (脫身所著) 上衣以供養佛 *Saddh-p. 69.*

ava- (過受分) **avacchanna** 包み隠されたる; (其) にて覆はれたる. [漢語] **avacchādayati** 包み隠す; 隠す, 秘密にす; [漢語] 普覆 *Bodh-bh.* [漢語] (過受分) **avacchādita.**

ā- (過受分) **ācchanna** 衣服を著けたる. [漢語] **ācchādayati** 覆ふ; 隠す, 暗くす; 衣服を著けしむ; [漢語] (衣服) を著す; [漢語] 裝ふ; [漢語] 覆護 *Śikṣ. jīvitena ācchādayet* 命を保つ (*Divy. 136.*) [漢語] (過受分) **ācchādita** 覆はれたる; 衣服を著けたる: jīvitena ~ 命を保てる. (*Av-s. I. 300.*)

upa- (過受分) **upacchanna** 覆はれたる, 隠されたる, 秘められたる:

pari- (過受分) **paricchanna** 覆はれたる; (一°) に變装せる. [漢語] **paricchādayati** 覆ふ, 隠す, 包む.

pra- (過受分) **pracchanna** 覆はれたる; 隠されたる; 變装せる; 見られざる; 秘密の; **pracchannam**, ° — [漢語] 私に, 秘かに. [漢語] **pracchādayati(-te)** 覆ふ; 隠す; 秘密にす; (其) にて身を包む; [漢語] 覆藏, 隱藏 *Kāśy., Vijñ-t.* [漢語] (過受分)

pracchādita 覆はれたる, 隠されたる, 著衣せる.

prati- (過受分) **praticchanna** 覆はれたる; 著衣せる, 隠されたる, 秘められたる; 認められざる; (一°) を有する. [漢語] **praticchādayati** 覆ふ, 包む, 隠す; [漢語] 隱, 覆, 蓋, 藏, 覆藏, 覆蓋, 隱藏, 障, 遮, 遮埋 *Divy., Kāśy., Prāt-m., Śikṣ., Mvyut.*

sam- (過受分) **samchanna** = praticchanna. [漢語] (過受分)

saṃchādayati 包む, 覆ふ, 隠す; 覆, 遮覆 *Lal-v., Sukh-vy. II., Sūtr.*

CHad 2., X. 他 自 chadayati(-te); CHand, X. 他 自 chandayati(-te) (賦, 教誨) 顯はる, ……と思はる; よしと思はる; 意に適ふ; 他 **chandayati** (具)を(因, 稀に 因)に提供す; 自 (樂, 於)を悦ぶ.

upa- 他 (具)を(因)に提供す; (樂)を誘惑せんとす.

vi- 便役 **vicchandayati** 令棄捨, 令永斷 *Bodh-bh.*

chada 形 (一°)を覆ふ. 男 被覆, 覆ふこと; 翼; 葉; 衣 *Saddh-p.: vimalottāra* ~ 寶衣 *Saddh-p. 119.* 甲 羽毛.

chadana 甲 [同上(男)]; 覆 *Mvyut.*; 節 *Mvyut.*; 避 *Lal-v.: āvau vā trayo vā* ~ *paryāyā dātavyāḥ* 再三重覆, 牆應二三重, 砌過二三節 *Mvyut.*; *na ca vāta-vṛṣṭi* ~ *m* 亦不避風雨 *Lal-v. 259.* → *daṇḍa* ~.

chadi 形 (一°)を覆ふ.

chadin 形 [同上].

chadir-darśa 男 屋根の外観.

chadiṣmat 形 被覆を有する(車).

chadis 甲 被覆, 荷車の被覆; 屋根.

chadma-gati 因 秘かに近づくこと.

chadma-ghātin 形 欺きて殺す.

chadma-dyūta 甲 詐欺的賭博.

chadman 甲 屋根; 偽装, 變装; 辯解. 口實; 詐欺, 偽善; 一° ……の假面; 二° 外見上のみの, 詐欺の, 偽善の.

chadma-rūpin 形 (一°)の形に變装せる.

chadma-veṣin 形 擬装せる.

chadma-sthita 形 (一°)を伴る.

chadmin 形 (一°)の如く變装せる.

chana-cchan-iti 副 シュツと(音を發して或は言ひて).

CHand, → **CHad. 2.**

chanda 1. 形 意に適へる, 誘惑する, 誘引する. 男 外見, 形; 好み, 喜び; 意向, 意志; 欲, 志欲, 樂, 所樂, 欲樂, 樂欲, 樂欲心, 願, 願樂, 意樂, 愛樂; 希望; 貪, 求; 愛渴 *Aṣṭ-pr., Sam-r., Sukh-vy. I., Saddh-p., Rāstr., Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Abh-k., Abh-vy., Sikṣ., Vijñ-t., Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut., Prāt-m.*; 香尊 [比丘(Bhikṣu)の名] 闍陀, 車匿 *Buddh-c., Mvyut.*, 支應: *dhārmike saṃgha-karaṇīye* ~ *m datvā* 與羯磨欲已 *Prāt-m. V. 54.*; *nāsti* ~ *sya hāniḥ* 欲無滅, 志欲無退 *Mvyut.* ~ *ena* (具), ~ *tas* 副 獨立して, 自身の意向に隨ひて, 自身の意志にて. ~ *ena* (具), ~ *āt* (從), ~ *tas* 副 (一°, 因)の意志に隨ひて; 隨意, 隨欲 *Bodh-bh., Abh-vy.*

chanda 2. 男 = *chandas*; 音韻 *Mvyut.*

chandaka 形 愉快ならしむる, 愛嬌ある. 男 [*Sākyamuni* の御者の名]; 樂欲 支應; 車匿, 闍陀 *Divy., Lal-v.*, 支應.

chandaka-nivartana 甲 [或る *caitya* の名] (*Lal-v.*).

chandaka-bhikṣaṇa 甲 (僧團の爲にする)目的を以

て施物を乞ふこと (*Av-ś.*).

chanda-kara 形 欲生 *Sūtr.*

chanda-gati 因 *Veda* の解釋.

chanda-cārin 形 (因)の願望に應ずる.

chandatas 副 → *chanda.*

chanda-dāyaka 男 與欲者, 進信 *Mvyut.*

chandana 形 魅する.

chanda-pariśuddhi 因 欲淨, 誠信己淨 *Mvyut.*

chanda-pratyuddhāra 男 令還欲, 轉意 *Mvyut.*

chanda-mṛtyu 形 (活)殺の權を有する.

chanda-rāga 男 貪欲 *Lal-v.*

chanda-vaśāt (從) 副 隨欲故 *Abh-vy.*

chanda-vāsini 形 女 被欲, 住欲, 招婿, 自樂, 婦, (自)欲住婦 *Mvyut.*

chandaḥ-śāstra 甲 詩形論の解説書(特に *Piṅgala* の).

chandas 甲 意向, 欲望, 意志; 魔術的の或は神聖なる讚歌; (*Rc., Sāman, Yajus* 以外の)讚歌; *Veda* の原典; *Veda*; 音律, 詩形論.

chanda-samādhi-prahāṇa 甲 集定斷 *Dharm-s.*

chandas-kṛta 形 音律によりて構成せられたる.

chandasya 形 讚歌の形をとれる, 音律の, 讚歌に適せる或は關する.

chandavat 形 希望する.

chandaḥ-sāra 男 [同下].

chandaḥ-sūtra 甲 (*Piṅgala* 著作の)詩形を論じたる *Sūtra.*

chandaḥ-stut 形 讚歌にて賞讃する.

chandaḥ-stubh 形 [同上].

chandānugāmin 形 丁寧なる, 從順なる, (他の)意に従ふ.

chandānuvṛtta 甲 慇懃.

chandika 形 樂, 樂欲, 勤求者 *Aṣṭ-pr., Sikṣ.*; 一° 爲…故 *Aṣṭ-pr.: bodhi* ~ 爲菩提故 *Aṣṭ-pr. 494.*

chandikatā 女 勤求 *Aṣṭ-pr.*

chandita 過受分 [CHad 2.] 悦べる, 満足せる.

chandu 形 喜ばしむる.

chando-ga 男 *Sāma-veda* の吟誦者, *Udgātr* 祭官; *Sāma-veda* の學徒; 讚詠 *Divy.*

chando-nāma 形 音律の.

chando'nukramaṇi 女 *Veda* の音律索引.

chando'nuvṛtta 甲 慇懃.

chando-baddha 形 = *chandas-kṛta.*

chando-bhaṅgavat 形 音律に違へる.

chando-bhāga 形 音律をその分前(?)とする.

chando-bhāṣā 女 *Veda* の言語.

chandoma 男 [*Daśarātra* 祭の第八・第九・第十日の名].

chando-mañj. ri 女 [音律の花束], 或る音律書の題名].

chando-mañjari 女 [同上].

chandoma-tri-kakud 男 [或る *Try-aha* 祭の名].

chandoma-daśāha 男 [或る *Daśa-rātra* 祭の名].

chandomaya 形 聖讚歌より成る, 聖讚歌を含める.

chando-ruṭ-stoma 男 [或る Śad-aha 祭の名].
chando-viciti 女 音律の吟味, 音律學; [Piṅgala の著述の名]; 音韻集略 *Mvyut.*
chando-vivṛti 女 音律の説明, [Piṅgala の著述の名].
chando-vṛtta 甲 音律.
chandya 未受分 喜ばしむる.
channa 通受分 → CHad; 覆, 覆蓋 *Saddh-p.*; 音義 辱那立應. 甲 被覆; 隠れ場處; 退却. ~m 副 祕密に.
channopānta (°na-up°) 形 その斜面が(具)を以て覆はれたる.
chambam-kāram 副 失敗する様に.
chambaṭ-kara 形 (女-i) 亡ぼす, 破壊する.
chambaṭ-Kṛ, 失敗す.
chambhita 通受分 俗 [<stambhita]; 怖 梵千.
chambhitatva 甲 俗 [<stambhitatva. Pāli. cham-bhitatta]; 怯, 怖畏, 恐懼, 怯弱, 驚疑 *Saddh-p., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*
chambhin 形 俗 [<stambhin]; 恐怖 *Sikṣ. 303.* → a~.
CHard, → CHrd.
chardana 形 嘔吐を催す. 甲 嘔吐; 吐出 *Sikṣ.*
chardaniya 未受分 嘔吐を催さしめらるゝ.
chardi 女 嘔氣, 嘔吐; (氣息を)出すこと; 船量; 吐, 欲吐 *Mvyut.*
chardita 通受分 (缺點を)除ける; 棄捨 *Divy.*
chardiṣ-pā 形 家を護る.
chardis 1. 甲 保護; 安全なる住處.
chardis 2. 甲 嘔吐.
chala (稀に 男) 甲 詐欺, 策略, 詭計, 欺瞞; 虚構, 幻惑, 變裝; 輕蔑(戲曲); 難, 謬, 失言, 曲論 *Abh-vy., Mvyut.*; 災横 *Sikṣ.* ~ena 具 副 (一°)を装ひて, ……を口實に.
chalaka 形 欺く.
chalana 甲 欺くこと.
chalanā 女 [同上].
chalanā-para 形 詐欺の, 虚偽の.
chalaya 名動 他 *chalayati* 欺く.
chalā 女 虚構の議論; 文意の曲解.
chalika 甲 身振を伴ふ歌.
chavi 女 (-ī 因) 獸皮, 皮膚; 色; 顔色; 美麗, 壯麗; 皮, 身皮, 皮膚, 肌; 肉 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Mvyut.*; suvarṇa~ 皮膚金色, 身如真金 *Gaṇḍ-vy. 332.*
chavillākara 男 [或る歴史家の名].
chavi-varṇa 男 肌色, 肉色 *Saddh-p., Mvyut.*
CHā, IV. 他 *chyati* 切り取る. 通受分 **chāta, chita.**
ava- 皮を引き離す, 皮を剥ぐ. 通受分 **avachāta** 剥けたる.
ā- 切り取る, 皮を剥ぐ.
pra- 皮膚を刺す.
chāga 男 牡山羊. 形 山羊より生じたる.
chāgala 形 男 [同上(形 男)].
chāgā 女 (因) 牝山羊.

chāgi 女 [同上].
chāta 通受分 → CHā.
chāttra 男 弟子.
chāttram-Vṛaj, 弟子となる.
chāttratā 女 弟子の身分; 弟子入り.
chādaka 形 覆へる, 隠す.
chādana 甲 覆ふこと, 被覆; 纏ふこと, 衣服; 面纱; 曇らすこと; 覆障, 覆蔽 *Madhy-vibh.*
chādita 通受分 覆はれたる; 曇れる(月); 隠されたる, 變装せる; 張施 *Saddh-p.*
chādin 形 (一°)を覆ふ, ……を隠す.
chādmika 形 詐欺の.
chāndasa 形 (女-i) *Veda* の, *Veda* に關する, 古風の; *Veda* に通曉せる; 音律的の.
chāndogya 甲 *Chandoga* の教.
chāndogya-brāhmaṇa 甲 [*Sāma-veda* の *Brāhmaṇa* (梵書)の名].
chāndogyopaniṣad (°ya-up°) 女 [*Sāma-veda* の *Upaniṣad* (奥義書)の名].
chāya 形 陰を興ふる. 甲 → chāyā.
chāyā 女 陰, 影; 像, 反射; 反射せる光, 光輝; 色; 美, 優美; [一一°, 甲 **chāya** 上記の *chāyā* と同じき意味にて 圓 の意味の語と合成せらる]; 量; (一°)の陰程の=(一°)の少量; *Prākṛta* 語の文句の *Saṃskṛta* 語譯; [*Samjñā* (太陽の妻にして土星の母)の影]; 陰, 影, 蔭影, 影量, 鎖影者; 涼 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-v., Sāṃkhy-k., Mvyut., 梵千., 梵雜.*
chāyā-graha 男 鏡又は日時計.
chāyā-grāha 形 影を奪ふ.
chāyā-taru 男 陰多き樹木.
chāyātman (°yā-āt) 男 影を本體とするもの, 映像.
chāyā-druma 男 = *chāyā-taru*.
chāyā-dvitiya 形 影を伴ふ, 影を投ずる.
chāyā-nāṭaka 甲 演劇(の一種), 影芝居.
chāyā-patha 男 銀河.
chāyābhāṅga 男 光線の屈折を生ずる.
chāyāmaya 形 影の如き; 反射せる.
chāyā-yantra 甲 日時計.
chāyāvat 形 陰ある.
chāyā-samjñā 女 影の *Samjñā*.
chāyikā 女 俗 [又 **chārikā**, <*kṣārikā*>]; 灰, 煙灰, 煤燼 *Sikṣ. 216., Mvyut.*; ~ *api na pra-jñāyate* 無灰, 灰亦無, 灰亦無所見 *Mvyut.*
chālikya 甲 [歌の一種].
chik-kara 男 [動物の一種].
chikkā 女 嘔吐.
chik-kāra 男 羚羊(の一種).
chiṭi, → *kāñjika*~.
chita 通受分 → CHā.
CHid, VII. **chinatti, chintte** 切る, 切り落す, 切り倒す; 裂き取る, 咬み切る; 引き離す, 斷つ; 刺し通す, (壁に)孔を穿つ; 傷つく; 分つ; 遮る; 碎く, 破壊す, 撤去す; (借財を)支拂ふ; 斷, 斷除, 斷截, 割, 截, 割截, 剪, 斫, 切去, 能斫; 斷絶; 刺; 剔 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Rāṣṭr., Sikṣ., Abh-k.,*

Abh-vy., *Mvyut.*, 梵雜. ㊦ **chidyate** 破れる; 消ゆ; ㊦ 所斫, 被割, 割截 *Suv-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Abh-k.*
 ㊦ **chinna** 切られたる, 切り取られたる, 切斷せられたる; 刻目を附せられたる; (一°)によりて束縛せられたる; 失はれたる: **kim chinna** 如何なる困難ありや; **kim naś chinna** 我等はそれによりて何を失ふや. ㊦ **chedayati** 切る; 断ち切らしむ.
antar- 断ち切る, 隔離す.
apa- 切る, 切り去る, 引き離す.
ava- 拒絶す. ㊦ **avacchidyate** (㊦)より分離せらる. ㊦ **avacchinna** 分離せられたる; (一°)に圍まれたる或は束縛せられたる; 決定せられたる, 規定せられたる.
pary-ava- 總ての側を切り離す.
vy-ava- 断ち切る; 分離す; 中斷す, 裂く; 區別す, 限定す, 決定す. ㊦ **vyavacchidyate** 切らる, 分離せらる. ㊦ **vyavacchinna** 區別せられたる, 明瞭なる.
ā- 切る; 断つ, 碎く; (劍を)抜く; (㊦)より除く; 取り去る, 攫み去る; 盗む; 中斷す; 無視す; ㊦ 奪, 奪取, 侵奪, 抑奪; 令背 *Prāt-m.*, *Bodh-bh.*
 ㊦ **ācchinna** 除かれたる, 破壊せられたる.
avā(ava-ā)- (㊦)より救ふ.
ud- 切り去る, 断ち切る; 根絶す, 破壊す; 干涉す, 遮る, 中止す; ㊦ 断, 絶断 *Daś-bh.*, *Mvyut.*
 ㊦ **ucchidyate** 中斷せらる, 破壊せらる, 遮らる, 中止せらる; 失敗す, 不足す. ㊦ **ucchinna** 失へる, 憐れむべき. ㊦ **ucchedayati** 根絶す, 破壊せしむ.
vy-ud- ㊦ **vyucchidyati** [能の語尾變化をなせる場合] 中斷せらる, 終了す, 止む, 失敗す. ㊦ **vyucchinna** 切られたる, 破壊せられたる, 中止せられたる, 終了せる.
sam-ud- 根絶す; 全く破壊す; ㊦ 断, 断壊, 廢 *Divy.*, *Abh-vy.*
pari- 兩側を断ち切る, 切り刻む, 切斷す; 正確に定む, 決定す, 決心す; 正當に量る, 確かむ; 分離す, 分つ; (穀物を)刈り取る (*Kār-vy.*); ㊦ 分別, 能分別, 能了別; 覺, 知; 決了, 決判 *Laṅk.*, *Abh-vy.* ㊦ **paricchinna** 切られたる, 分たれたる, 限られたる; 決定せられたる.
pra- 断ち切る; 貫く, 裂く; 除く. ㊦ **prachedayati** 切り取らしむ.
vi-pra- 分つ.
vi- 切々に裂く; 分つ, 分離す; 中斷す. 擾す, 破壊す; ㊦ 断, 碎断, 打破 *Lal-v.*, *Abh-vy.* ㊦ **vicchinna** 切られたる, 裂かれたる; 遮られたる, 連絡を断たれたる; 最早存在せざる. ㊦ **vicchidyate** 切り取りて, 中斷して; 別に.
sam- 断ち切る; 貫く; 破壊す, 除く; (疑を)解く; ㊦ 斫, 断, 砍, 截, 砍截 *Lal-v.*, *Mvyut.*
chid ㊦ 断ち切る; 割る, 貫く; (一°)を破壊する, ……を除く. ㊦ 切斷すること; (一°)の殲滅.
chidā ㊦ (一°)の切斷.
chidira ㊦ 斧, 劍.

chidura ㊦ 切れ易き(繩等); (一°)を破壊する.
chidra ㊦ 裂かれたる; 孔を穿たれたる, 漏る; ㊦ 失, 缺, 穿, 隙, (有)缺漏, 疏失, 間缺 *Saddh-p.*, *Lal-v.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* ㊦ 孔, 間隙, 口; 通路, 入口; 缺陷, 失敗, 弱點; 困苦; ㊦ 孔, 穴, 隙, 孔隙, 間隙, 竅隙 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*, *Sikṣ.*, *Abh-k.*, *Mvyut.*, 梵干., 梵雜.; 瑕, 短, 過, 過失, 缺漏 *Divy.*, *Lal-v.*, *Kāśy.*; 盡 *Divy.* → a~.
chidra-kārin ㊦ ㊦ 断行, 所作有缺 *Bodh-bh.*
chidra-gaveṣaṇa ㊦ ㊦ 求人過, 見他非 *Rāṣṭr.*
chidratā ㊦ 開放, 開きたること.
chidra-darśana ㊦ 穴又は缺陷を現はす. ㊦ [或る *Cakravāka* の名].
chidra-dātṛtva ㊦ 入口を生ずること, 通路を開くこと, 近づき得べきこと.
chidraya ㊦ ㊦ **chidrayati** 孔を穿つ. ㊦ **chidrita** 孔を有する.
chidra-rajās ㊦ ㊦ 隙塵 *Abh-k.*
chidra-vicchidra ㊦ ㊦ (毛)孔 [*Pāli.* *chidda-vicchiddaka*] *Sikṣ.* 77.
chidra-sikṣā-samanvita ㊦ ㊦ 於戒有缺漏 *Saddh-p.*
chidrātman (°ra-āt°) ㊦ 弱點を露す.
chidrānusārin ㊦ (屬)の弱點を搜す.
chidrānvita ㊦ 弱點を有する.
chidrānveṣin ㊦ 缺點を見る; ㊦ 伺過惡 *Sikṣ.*
chidrita ㊦ → **chidraya.** ㊦ 犯已 *Bodh-bh.*
chidrin ㊦ 空(?)なる(齒).
chidri-karaṇa ㊦ ㊦ 缺減 *Bodh-bh.*
chidri-kāra ㊦ ㊦ 廢 *Bodh-bh.*
chidri-Kṛ, ㊦ ㊦ 缺漏 *Bodh-bh.*
chinna ㊦ → **CHid.** ㊦ 斫, 斫截, 割截, 斬, 斬去, 断, 所断, 分断; 破析; 絶; 滅; 決除; 損, 所傷; 乏 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵干.
chinna-dvaidha ㊦ 疑を去れる.
chinna-nāsa ㊦ [人名].
chinna-nāśya ㊦ 切れたる鼻綱.
chinna-pakṣa ㊦ 翼を切り取られたる.
chinna-prapañca-bhava-netrika ㊦ ㊦ 滅戲論, 絶戲論道 *Aṣṭ-pr.*
chinna-plotika ㊦ ㊦ 断障, 断因, 顯現 *Mvyut.*
chinna-bhakta ㊦ 餓ゆる.
chinna-vartman ㊦ ㊦ 断(諸有)路 *Aṣṭ-pr.*
chinna-vārṣika ㊦ ㊦ 避夏, 已犯夏格, 已犯雨安居 *Mvyut.*
chinna-saṃśaya ㊦ 疑を去れる.
chinna-hasta ㊦ [人名].
chippikā ㊦ [鳥の一種].
chucchu ㊦ [動物の一種].
chucchuncāra ㊦ 麝香鼠.
chucchundari ㊦ [同上].
chucchūndara ㊦ [同上].
chucchūndari ㊦ [同上].
CHuṭ,
ā- ㊦ ㊦ **ācchoṭita** 引かれたる; 裂かれたる.

CHud,

pra- 使役 他 **pracchodayati** 膨脹せしむ, 擴張す (*Kār-vy.*).

chudda 男 [諸人の名]

chuddā 女 [人名]

chubuka 甲 頸, 頤(註).

CHur, 使役 **churayati** (男)を嵌入す・撒く或はにて覆ふ; **chorayati** (佛敎) 中止す; 放棄す; 捨 (chorayati) 棄, 捨, 棄捨, 能捨 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Vin., Prāt-m.*; 超 *Aṣṭ-pr.*; 拂 掃 *Sikṣ.*; 擲著 *Lal-v.* 使役 通受分 **churita** (男, 一°)を撒かれたる或は嵌入せられたる; **chorita** (佛敎) 中止せられたる, 放棄せられたる.

ā- 通受分 **ācchurita** (男)を著せられたる, ……を以て覆はれたる.

vi- 通受分 **vicchurita** (男, 一°)を撒かれたる, ……を以て覆はれたる, ……を鑲められたる或は塗られたる.

churaṇa 甲 (一°)を撒布すること.

churikā 女 小刀.

churita 使役 通受分 → CHur.

churi 女 短刀, 小刀; 刀 梵干.

chūrika 男 灣 [彎] 弓, 灣 [彎] 刀, 水刀 *Mvyut*

chūrikā 女 小刀; 牛の鼻孔.

CHrd, VII. 他 **chrṇatti** 嘔吐す. 使役 他 **chardayati** (業)を吐く; 嘔吐せしむ; 嘔, 歐 *Divy.: usṇam śonitam chardayitvā* (不憂分) 歐熱血 *Divy. 521.*

cheka 形 巧なる, 熟練せる.

chekokti (°ka-uk°) 女 暗示, 曖昧なる言葉.

chettavya (未受分) 断ち切らるべき.

chettṛ 男 樵夫; 破壊者; (疑を)除く人, 追放者; 断, 能断, 能除 *Divy., Suv-pr.:* ~ ā

tvam saṃsayānāmi 能除疑惑 *Suv-pr. 125.*

cheda 男 (一°)を切り倒す人; 切断せるもの, 断片, 薄片; 切口; (男, 一°)を切る・断ち切る或は切り倒すこと; 分離; 殲滅, 消散; 中断; 停止, 不足, 缺乏; 正確なる陳述, 定義; (一°)の限界; [一般に 一°] 決定, (口論の)解決; 断, 永断, 断割, 断除, 断息; 断, 截, 断截, 割截 *Divy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Bodh-c., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy.*; 解, 分離; 絶, 息, 除, 除滅 *Divy., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*; 鋭 *Divy.:* *sarva-kāṅksā* ~ 除疑惑, 永断諸疑惑, 除滅諸疑惑 *Gaṇḍ-vy. 31.*

chedaka 形 (女 -ikā) (一°)を断ち切る, 寸断する; 能断, 能决, 穿窬 *Vajr-pr., Rāṣṭr., Mvyut.*

chedana 形 切る, 裂く; 破壊する; (女 -i) 断, 消滅 *Lal-v., Lan̄k., Sikṣ., Mvyut.* 甲 切断; 断ち切ること, 切り倒すこと; 割るゝこと; 破るゝこと; (疑を)解くこと; 割截, 斫截, 断截, 断, 除断, 除; 斫刺; 决 *Lal-v., Lan̄k., Sūtr., Bodh-bh.*

chedaniya (未受分) 切り離さるべき, 刻まるべき.

chedin 形 断ち切る; 割る, 破る; (一°)を破壊する, ……を除く.

chedya (未受分) 切らるべき; 断ち切らるべき; 切り取らるべき; 断截 *Mvyut.*

chelaka 男 牡山羊.

chelikā 女 牝山羊.

choja 男 [人名].

choṭana 甲 断ち切ること.

choṭikā 女 (食指と拇指とを以て)音を發する(彈指する)こと.

chorita 使役 通受分 → CHur. 棄, 棄捨, 使 *Divy., Mvyut.*

J

-ja 1. 形 ……によりて生れたる或は生ぜる, ……に生れたる, ……より發せる; ……によりて或はに於て産出せる; ……によりて惹起せる, ……に起因せる; ……にて調製せる, ……より作られたる; 生, 所生, 起 *Bodh-bh., Abh-vy.:* *agra* ~ 前起 *Abh-vy. 152.*; *paścāt-kāla* ~ 後起 *Abh-vy. 152.* → *ātma* ~.

ja 2. 男 (一°)の息子.

[**jamh**, Hā I. の 強意].

jamhas 甲 翼, 羽; 行くこと.

ja-kāra 男 **ja** の字又は音; (音) 社字 [五十字門の一]: ~e *jarā-maraṇa-samatikramana-śabdah* (→ *a-kāra*) 唱社字時出度一切生死彼岸聲 *Lal-v. 127.*; (音) 惹字 [四十二字門の一]: ~m *parikīrtayato jagat-saṃsāra-viśuddhi-vigāhanam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam* 唱惹(上)字時能甚深入般若波羅蜜門名遍入世間海遊行清淨 *Gaṇḍ-vy. 449.*

Jakṣ 1. [GHas の 強意], II. 他 **jakṣiti** 飢ゆ; 食ふ;

食ひ盡す, 貪り食ふ. 通受分 **jagdha** 食はれたる, (男)によりて食ひ盡されたる或は盡されたる.

Jakṣ 2. [Has の 強意] 笑ふ, [現分 **jakṣat** のみ] 笑ふ. **jakṣat** 現分 → **Jakṣ** 2.

jakṣivas, [GHas の 通能分]. → **Jakṣ** 1.

jaga 甲 [= **jagat**]; 世, 世間; 衆生 *Lal-v., Saddh-p., Lan̄k., Sikṣ., Madhy-v.*

jagac-cakṣus 甲 (世界の眼), 太陽.

jagac-citra 甲 世の驚異; 世界圖.

jagac-chandas 形 **Jagati** 音律がそれに屬する或は關係せる.

jagaj-jiva 男 この世界の生物.

jagat 形 [Gā の 現分 強意] 動ける, 生氣ある, 生くる; **Jagati** 音律にて作られたる 甲 總ての動くもの; 動物; 人; 世界, 特に此の世; 大地; **Jagati** 音律; (男) 天上と下界; (男) 諸世界; 世, 世間, 諸世間, 世界; 有情, 衆生, 諸衆生, 群生, 群黎, 群生類 *Divy., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Suv-pr., Rāṣṭr., Lan̄k., Sūtr., Sikṣ., Abh-k., Abh-vy., Madhy-*

- vibh.: caturī ~i pālāḥ 護世四王 Lal-v. 81.
 → jaga. 男 類 人々, 人類.
 jagati 女 女性, 牝; 牝牛; 大地, 世界; [音律の一種 (4×12 音節)]; 世, 有情 Mvyut.
 jagati-cara 男 (大地を歩むもの), 人.
 jagati-jāni 男 王侯, 王.
 jagati-tala 中 大地の表面; 地面, 土.
 jagati-dhara 男 山.
 jagatim-dhara 男 菩薩 [菩薩の名] 持世, 持有情 Rāstr., Mvyut.
 jagati-pati 男 王.
 jagatipati-kanyakā 女 王女.
 jagati-pāla 男 王, 王侯.
 jagati-bhartr 男 [同上].
 jagati-bhuj 男 [同上].
 jagati-madhya 中 (世界の中心), 大地
 jagati-ruh 男 樹木.
 jagati-ruha 男 [同上].
 jagat-kāraṇa 中 世界の原因.
 jagat-traya 中 三の世界 [天上と地上と地下の世界].
 jagat-tritaya 中 [同上].
 jagat-pati 男 世界の主 [Brahman 神・Siva 神・Viṣṇu 神又は Kṛṣṇa 神・Agni 神・太陽の稱].
 jagat-parāyaṇa 形 世界の主なる (Viṣṇu 神).
 jagat-prakāśa 形 一般に知られたる, 周知の.
 jagat-prathita 形 世界に名高き.
 jagat-pradhāna 男 [(世界の主), Siva 神の稱].
 jagat-prabhu 男 [(世界の主), Brahman 神・Siva 神 又は Viṣṇu 神の稱].
 jagat-prabhū-sraṣṭr 男 世界の王.
 jagat-prasiddha 形 世界に有名なる.
 jagat-prāsāha 形 主として Jagati 音律より成れる.
 jagat-priti 女 [(世界の喜び), Siva 神の稱].
 jagat-sama 形 等群生 Gaṇḍ-vy.
 jagat-seṭa 男 [人名].
 jagat-sraṣṭr 男 [(世界の創造者), Brahman 神の稱].
 jagat-svāmitva 中 世界の主權.
 jagat-svāmin 男 世界の主權者; [Viṣṇu 神の稱].
 jagada 男 仲間, 保護者.
 jagad-agra 形 世間勝 Sūtr.
 jagadagra-bhūtātā 女 世間第一 Sūtr.
 jagad-aṇḍa 中 宇宙卵, 宇宙.
 jagad-aṇḍaka 中 [同上].
 jagad-antaka 男 世界の破壊者, 死.
 jagad-antarātman (°ra-āt°) 男 [(宇宙我, 宇宙精神), Viṣṇu 神の稱].
 jagad-ātman 男 (世界の呼吸), 風.
 jagad-ādi-ja 男 [(世界の初生兒), Siva 神の稱].
 jagad-ādharma 男 世界を支持するもの.
 jagad-āyu- 中 (世界の生命源泉), 風.
 jagad-āyus 中 [同上].
 jagad-īśa 男 [(世界の主), Brahman 神・Viṣṇu 神又は Siva 神の稱].
 jagad-īśvara 男 [(世界の主), Siva 神又は Indra 神の稱]; 王.
 jagad-eka-cakṣus 男 (世界の一の眼), 太陽.
 jagad-eka-nātha 男 世界の君主.
 jagad-guru 男 [(世界の父), Brahman 神・Viṣṇu 神 又は Siva 神の稱].
 jagad-dala 男 [王侯の名].
 jagad-dipa 男 (世界の光), 太陽.
 jagad-dhātṛ 男 [(世界の創造者), Brahman 神又は Viṣṇu 神の稱].
 jagad-dhita (°d-hi°) 中 世間利樂 Suv-pr.
 jagaddhitātman (ta-āt°) 形 世界の救済に専心せる; 救世主 Buddh-c.
 jagad-bandin 形 [°bandhin の誤(?)]; 衆生縛 Siks. 181.
 jagad-bimba 中 = jagad-aṇḍa.
 jagad-bija 中 世界の種子; [Siva 神の稱].
 jagad-bhaya 中 世界の恐怖.
 jagad-yātrā 女 世事.
 jagad-yoni 女 [(世界の源泉), Brahman 神・Viṣṇu 神・Kṛṣṇa 神・Siva 神又は Prakṛti の稱].
 jagad-vandya 形 世界の讃仰すべき (Kṛṣṇa 神).
 jagad-vidhi 男 世界の整頓者.
 jagad-vaidyaka 男 [或る醫師の名].
 jagad-vyāpāra 男 (世界の仕事), 世界の創造と支持.
 jagan-nātha 男 [(世界の保護者), Viṣṇu 神及びその化身の稱]; [諸人の名]; [聖地 Puruṣottama-kṣetra の稱].
 jagan-nidhi 男 [(世界の容器), Viṣṇu 神の稱].
 jagan-nivāsa 男 世界を住處とする者即ち遍在者, [Viṣṇu 神又は Kṛṣṇa 神の稱].
 jagan-netra 中 [(世界の眼), 月(太陰)の稱]; 太陽と月との稱].
 jaganmaya 形 全世界を包含する.
 jagan-mātr 女 [(世界の母), Durgā 又は Lakṣmī の稱].
 jagan-mukha 形 Jagati 音律にて始まる.
 jagala 男 [酒精飲料の一種].
 jaga-saṅgraha 男 攝衆生 Siks.
 jagārtha-kara 形 利世間 Lal-v.
 jagārtham 男 爲衆生 Siks.
 jaguri 形 ……に導く, ……に至る(路).
 jageśvara (°ga-īś°) 男 人王 Lank.
 jaggika 男 [人名].
 jagdha 過受分 → Jaks I.
 jagdha-pāpman 形 その罪の消滅せる.
 jagdhi 女 食ふこと, 消費すること; (因)によりて食はるゝこと; 食物.
 jagdhvā, [Jaks I. の 不變分] 食ひて.
 jagdhvāya 不變分 [同上].
 jagmi 形 行く, 疾き; (塞, 因)に急ぐ.
 jaghana 男 (因), 中 臀, 臀部; 脊部; 腰; 陰部; 臀, 腰; 胯; 密閉; 軟脇 Bodh-bh., Mvyut. 中 (祭壇の)背部; (軍隊の)後衛. → jaghanena.
 jaghana-gaurava 中 臀の重さ.
 jaghana-capalā 女 淫蕩なる女; [音律の一種].
 jaghanatas 男 背後に, 後ろに.
 jaghana-vipula 形 大なる臀の.

jaghana-vipulā ㊦ [音律の一種].
jaghanārdha ㊦ 後部; 後衛.
jaghanena ㊦ ㊦ (㊦, ㊦)の後(?)に; (㊦)に背を向けて.
jaghanya ㊦ 最後方の, 最後の, 最近の; 最も低き, 最も卑しき, 最悪の; 卑しき生れの; ㊦ ㊦ 最麗, 麗淺 *Lank.* ~m, ~e ㊦ ㊦ 後ろに, 後に, 最後に.
jaghanya-kārin ㊦ 甚だ效果悪しき(藥).
jaghanya-guṇa ㊦ 根本的三原素 (guṇa) 中の最劣者即ち tamas.
jaghanya-ja ㊦ 末子の, 最も若き.
jaghanyatara ㊦ ㊦ ……より低き, ……より劣れる.
jaghanyatas ㊦ 背後より; 背後に, 後に, 最後に.
jaghanya-prabhava ㊦ 生れの卑賤なる.
jaghanya-rātre ㊦ ㊦ 夜の終りに.
jaghanya-sāyin ㊦ 最後に就寝する.
jaghanya-saṃveśin ㊦ [同上].
jaghni ㊦ (㊦)を殺す.
jaghnivat ㊦ 語根 Han の形を有する.
jaghnū ㊦ 打つ, 殺す.
jaghri ㊦ 唾又は水を飛ばす, 注出する, 沸騰する.
jaṅga ㊦ [(歩行者), 人名].
jaṅgama ㊦ [Gam の ㊦] 動く, 生氣ある, 生活する; ㊦ 進, 行, 行歩 *Divy., Mañj-m., Mvyut.* ㊦ 總ての動くもの, 生物.
jaṅgamatva ㊦ 動性.
jaṅgamana ㊦ 進路.
jaṅgala ㊦ (非常に渴せる), 乾ける, 不毛の; 人の住せざる; ㊦ 高燥, 荊棘峭角 *Abh-vy.* ㊦ 沙漠; ㊦ 高原 *Saṅkh-p.*
jaṅgiḍa ㊦ [植物の一種].
jaṅgha ㊦ [或る Rākṣasa の名]; ㊦ [= jaṅghā] 脛, 臑, 臑, 臑 *Lal-v., Rāstr., Śikṣ.*
jaṅghanat ㊦ → Han.
jaṅghā ㊦ [Hā: 行く者] 脚 [特に踝より膝まで]; ㊦ 足, 脛, 臑, 臑, 臑, 小脛 *Bodh-c., Abh-vy., Mvyut.* ㊦ 梵干;
jaṅghā-karika ㊦ 脚の疾きこと; 疾走者.
jaṅghā-jaghanya ㊦ 脚の運動に關しては最も拙なる, 走ることの拙き.
jaṅghā-bala ㊦ 脚の力即ち逃走(㊦).
jaṅghāla ㊦ 足疾き. ㊦ [動物の一種(羚羊等)].
jaṅghi ㊦ [床脚の一部の名].
jaṅghnat ㊦ → Han.
jaja ㊦ 戰士.
jajaujas (°ja-oj°) ㊦ 勇敢.
jajja ㊦ [人名].
jajjala ㊦ [人名].
jajāna, [Jāna の ㊦] ㊦. ㊦ [人名].
jajñi ㊦ 發芽する.
jajñivas ㊦ [Jan] 甦れる.
jajhhati ㊦ ㊦ [āpas を補ひて] 水の飛沫又は奔流.
jañjanā-bhavat ㊦ 輝ける.
jañjapūka ㊦ 熱心に低聲にて祈禱する.
jaṭa ㊦ 頭髮を編みたる; ㊦ —° 髻 *Śikṣ.:*

dirgha ~ 長髻 *Śikṣ. 332.*
jaṭā ㊦ 髻髮 [苦行者, *Siva* 神又は哀悼者の結ぶ如き]; 纖維根, (一般に)根; ㊦ 髻, 頭髻, 髻髻, 髻髻, 持髻, 結髻, 長髻, 蓬髻, 髻髮 *Divy., Lal-v., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Guhy-s., Śikṣ., Abh-vy.*
jaṭā-kalāpa ㊦ 髻髮, 編髮.
jaṭā-jāla ㊦ 結髻, 髻髮.
jaṭājinin (°tā-aj°) ㊦ 髻髮して革衣を纏へる.
jaṭā-jūta ㊦ 頭頂の結髻.
jaṭā-dhara ㊦ 結髻せる. ㊦ 苦行者; [*Siva* 神の稱].
jaṭā-dhārin ㊦ [同上(㊦)].
jaṭā-pura ㊦ [町の名].
jaṭā-bhāra ㊦ 髻髮の束.
jaṭābhāra-dhara ㊦ 髻を束ねたる.
jaṭā-makuṭa ㊦ ㊦ 頭冠, 寶冠 *Mañj-m.*
jaṭāmakūṭa-dhārin ㊦ ㊦ 髻髮爲髻 *Gaṇḍ-vy.*
jaṭā-maṇḍala ㊦ (頭頂の)髻髮の環.
jaṭā-maha ㊦ ㊦ 編髮筵, 剃頭筵 *Mvyut.*
jaṭā-mālin ㊦ [(結髻にて飾れる), 或る Muni の名].
jaṭā-mukuṭa ㊦ = jaṭā-makuṭa; ㊦ 寶髻冠 *Guhy-s.*
jaṭāyu ㊦ [*Sitā* を救はんとせし時 *Rāvaṇa* により殺されたりと傳へらるゝ兀鷹(㊦)の名]; [山の名].
jaṭāyus ㊦ [同上].
jaṭāla ㊦ 結髻せる; (一°)を以て充たされたる, ……に充ちたる.
jaṭāvalambita (°tā-av°) ㊦ ㊦ 垂髻, 垂髻者 *Mvyut.*
jaṭā-vaḥkalin ㊦ 結髻して樹皮衣を纏へる.
jaṭāsura (°tā-a°) ㊦ [或る Rākṣasa の名].
jaṭin ㊦ 結髻せる. ㊦ 苦行者, 敬虔なる乞食者; [*Siva* 神の稱].
jaṭila ㊦ 結髻せる; (髻の)纏れたる; 毛ある(顔); (一°)に充ちたる. ㊦ 苦行者; [*Siva* 神の稱]; 印を附せる山羊; ㊦ 外道, 婆羅門 [*brāhmaṇa* の音寫] *Divy. 393.*
jaṭilaya ㊦ ㊦ **jaṭilayati** 撚り合はす, 結髻す; (㊦)を以て頂を飾る或は充たす.
jaṭila-sthala ㊦ [地名].
jaṭilikā ㊦ [人名] (*Lal-v.*).
jaṭili-Kṛ, ……を以て充たす或は覆ふ.
jaṭili-bhāva ㊦ 撚り合されたること.
jaṭhara 1. ㊦ 堅き; 古き [*jarattha* の誤].
jaṭhara 2. ㊦ 胃, 腹; 子宮; 空洞, 内部, 身體の前部 [背の ㊦]. ㊦ ~eṇa 顔を向けて.
jaṭhara-gada ㊦ 腹部又は腸の疾患.
jaṭhara-jvalana ㊦ (胃の熱), 饑餓.
jaṭhara-roga ㊦ = jaṭhara-gada.
jaṭharāgni ㊦ 腹内の(消化の)火即ち胃液.
jaṭharin ㊦ jaṭhara の疾患に罹れる.
jaṭhari-kṛta ㊦ 胸に秘められたる.
jāda ㊦ 寒き, 冷き; 硬直せる, 感覺を失へる; 動かざる, 運動なき; 臏に或は鈍くせられたる; 鈍感なる, 愚鈍なる, 遲鈍なる, 低能なる; 生氣なき; —° 愚鈍にて……する能はざる; ㊦ 愚鈍, 昧鈍, 頑鈍, 愚癡, 頑固, 頑覺暗鈍, 癡冥; 無知者, 無知無覺; 愚

啞, 癡癡 *Ast-pr., Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ., Abh-vy.*
 男 愚人; 癡, 癡人, 癡子, 癡言 *Divy., Ast-pr., Śikṣ., Mvyut.* 甲 [=jala] 水; 癡 水 *Lal-v.*
jadatā 女 硬直, 不動, 無感覺, 無情; 鈍感, 愚鈍.
jadatva 甲 [同上]; 性鈍 *Abh-vy.*; 癡癡 *Saddh-p.*
jadā-dhi 形 鈍才の, 愚直なる.
jadā-prakṛti 形 [同上].
jadā-buddhi 形 [同上].
jadā-bharata 男 [人名].
jadā-bhāva 男 清涼, 爽快.
jadā-matī 形 =jadā-dhī.
jadā-mūka 形 魯鈍と啞の.
jadaya 名動 他 **jadayati** 弱くす, 鈍くす; (因)に就て無感覺ならしむ. (過受分) **jadita** 生命を失へる.
jadā-sama 形 類擬人 *Śikṣ.*
jadāmsu 男 月(冷き光の).
jadātmaka (°da-āt°) 形 冷き; 愚かなる; 理性なき.
jadātman (°da-āt°) 形 [同上].
jadāya 名動 自 **jadāyate** [不定と俱に] 啞となる.
jadāśaya (°da-ās°) 形 =jadā-dhī.
jadita (過受分) → **jadaya**.
jadiman 男 寒冷; 硬直; 愚鈍, 暗愚.
jadi-Kṛ, 硬くす, 感覺を失はしむ.
jadi-kṛta 形 知覺を失へる, 氣絶せる; 狼狽せしめられたる, 愚鈍にせられたる.
jadi-BHū, 硬くなる, 愚となる; 蒙昧 *Vijñ-t.*
jadāida (°da-eda) 男 啞羊 *Śikṣ.*
jadāida-mūka 形 無知啞羊 *Śikṣ.*
jatu 甲 臘脂(?), 樹膠; 蝙蝠.
jatu-karṇi-putra 男 [Bhavabhūtiの[孫系]].
jatu-kṛt 女 [jatuを作る者], 樹の一種.
jatu-gr̥ha 甲 臘脂(其他の可燃性のもの)を以て充されたる家.
jatu-geha 甲 [同上].
jatumaya 形 臘脂の充滿せる.
jatumaya-śaraṇa 甲 =jatu-gr̥ha.
jatu-mukha 男 [米の一種].
jatu-veśman 甲 =jatu-gr̥ha.
jatū 女 蝙蝠.
jatū-karṇa 男 [或る醫師の名].
jatru 男 頤 (因) [或る(十六の)骨]; 胃, 腦後, 腦後下肉 *Mvyut.*, 梵雜. 甲 鎖骨.
jadu-vāra(?) 漢譯 醫藥 [藥草の名] 闍土兜羅 [Tib. zur-ba] *Mvyut.*
Jan, I. **janati(-te)** (因); IV, 自 **jāyate** [被語は又た他 **jāyati**]; 他 及び 使役 **janayati** (於: 例妻)によりて(子)を生む; (從)より生む, (例夫)に(子)を生む; 發生せしむ, 産出す; 創作す(歌等); 結實せしむ; (樂)をして(樂)たらしむ; 自 [被語は又た他] 生まる, 生産せらる, 起る, 成長す; (體)は本來或は生れながら(體)なり; 再生す; [體の述語と俱に] なり或はとなる; (爲)に變へらる; (屬)の所屬に歸す; 生ず, 可能なり, 適當す, 許さるべきなり; 發, 造, 起, 生, (初)生, 出生, 誕生 *Ast-*

pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Rāṣṭr., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut. (現分) **jāyamāna** 漢譯 生時, 正生 *Madhy-v., Abh-vy.* (過受分) **jāta** (於)によりて生まれたる; (因, 從)によりて生ぜる; 出現せる, 新生せる; 成長せる; (從)より湧き出でたる或は起れる; (屬)に屬する; 手近かにある; (因)を所有せる; 存在する; ……となれる; 惹起せる; 明らかなる, 判然たる; (爲)に資する; [屢: °— 形] ……を有する: [例] **jāta-danta** 齒を有する(字義は「齒を生じたる」); 時として —°: [例] **danta-jāta** 齒を有する. 使役 **janayati** 漢譯 發, 發起 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Śikṣ.*: **janetha** [俗 <janayatha] **vīryam** 當發大精進 *Saddh-p. 198.*

adhi- 生まる; (因)によりて生ず; (體)となる.
anu- 後に生まる或は起る; (樂)の後に生まる或は起る; (樂)の如く生まる; 隨……生 *Ast-pr.* (過受分) **anujāta** 後に生まれたる, 後の, ……より若き; 血統によりて(樂)と相似せる; 再び生まれたる.
apa- (過受分) **apajāta** 墮落せる(子息).
abhi- (樂)に生まる或は運命づけらる; 血統によりて(樂)を要求す; (樂)に従ひて生まる; 産出せらる, 生まる; (輪廻して)再生す; ……となる. (過受分) **abhi-jāta** 高貴に生まれたる; 驍よき.
ā- 生まる, 産出す; 漢譯 生, 生長, 現前; 得證 *Daś-bh., Laṅk.* (過受分) **ājāta** 生まれたる. 使役 **ājanayati** 生ましむ, 結實せしむ.
praty-ā- 再び生る (*Kār-vy.*); 漢譯 生, 來生 *Lal-v., Ast-pr., Śikṣ., Bodh-bh.*
upa- 生まる; 生ぜしめらる; 起る, 現はる; 在る; 再生す; 附加せらる; 漢譯 生, 受生; 起, 起成, 續起, 相續 *Lal-v., Abh-vy.* (過受分) **upajāta** 生まれたる, 生じたる; 加へられたる, 附加せる; °— 形或人に(°—)が起れる=(°—)にて鼓舞せられたる, ……に捉へられたる, ……にて充たされたる, ……を有する; ……の起れる, ……を發せる. 使役 **upajanayati** 産出す, 起す; 企つ.
sam-upa- 起る, 出で來る; 再生す. (過受分) **samupajāta** 起れる, 産出せられたる. 使役 **samupajanayati** 生ぜしむ, 起らしむ.
nis- (過受分) **nirjāta** 出で來れる, 出現せる, 見ゆる (*Lal-v.*). 使役 **nirjanayati** 漢譯 生, 成就 *Ast-pr.*
pra- (從)より生まる, 生ぜらる, 起る; 産す, 産出す; 胎兒となる; 再生す; 漢譯 有, 生, 續生 *Laṅk., Bodh-c., Madhy-vibh.* (過受分) **prajāta** 生まれたる, 産出せられたる. 使役 **prajanayati** 繁殖せしむ, 産ましむ.
sam-pra- (從)より發生す, 現はる, 起る; 存在す; 再生す. (過受分) **samprajātā** (因) (續)を生みたる.
prati- 再生す; 新たに發生す.
vi- 産む, 生ず.

sam- 生まる; 起る; 成長す; 現はる; (偶然)起る; ……となる; 過く, (時が)經過す; 漢譯 生, 起, 發 *Ast-pr., Laṅk., Śikṣ.* (受) **samjāyate** 漢譯 所生 *Sūtr.* (過受分) **samjāta** 生まれたる, 産出せられたる, 現はれたる, 起れる, 成長せる; 時を過せる;

[屢、°—形] (°—)を有する。〔使役〕 samjanayati 産出す; 創造す, 作る, 形成す; 〔使役〕 生, 發, 發生, 令引攝 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Sikṣ.* 〔使役〕 (不變分) samjanayya 〔使役〕 令有, 手全 *Lal-v.*
abhi-sam- 起る。〔通受分〕 abhisamjāta 起れる。
jana 〔男〕 生物; 人, 個人; 民族, 種族; 人民, 臣民; 人々; [屢、集合的の意味にて —°] (—°)の種; 卑賤の人; この人; 〔使役〕 人, 仁; 男女, 衆, 衆生, 有情; 人民 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*, 梵千, 梵維 → ārya~, bahu~, mahā~.
ayam ~, **eṣa** ~, **asau** ~ 我々は, 私は, この私の愛人は,
janam-saha 〔形〕 人々を征服する (*Indra* 神).
janaka 〔形〕 生む; 産出する; 〔使役〕 生, 能生, 生者 *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*, *Abh-vy.*; —° 能生, 能發起 *Bodh-bh.* 〔男〕 父; [諸王侯及び諸人の名, 特は *Videha* (*Mithilā*) 王の稱]; 〔使役〕 (香室) [人名, 王の名] 閻那, 閻那伽 *Buddh-c.*
janaka-kāna 〔男〕 [(一眼の *Janaka*), 人名].
janaka-candra 〔男〕 [諸人の名].
janaka-tanayā 〔女〕 [*Sitā* の (女系)].
janakatā 〔女〕 父たること.
janakatva 〔中〕 [同上]; 生むこと, 産出すること; 〔使役〕 能發起 *Bodh-bh.*
janaka-bhadra 〔男〕 [人名].
janaka-rāja 〔男〕 [人名].
jana-kalpa 〔形〕 人間に類せる.
janaka-sapta-rātra 〔男〕 [*Saptāha* 祭の一の名].
janaka-siṃha 〔男〕 [人名].
janaka-sutā 〔女〕 *Janaka* の娘, *Sitā*.
janakātma-jā (°ka-āt°) 〔女〕 [同上].
jana-kāya 〔男〕 人々の群; 〔使役〕 衆, 大衆, 衆人, 衆生, 衆會, 民衆, 群集, 多人聚, 大會, 人民 *Divy.*, *Av-ś.*, *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*: mahato ~sya 衆人之, 多丈夫 *Mvyut.* → mahā~.
janam-g 〔中〕 *Janāna*.
jana-cakṣus 〔中〕 (全生物の眼), 太陽.
jana-caraṇāmālina 〔形〕 人々の足にて未だ穢されざる.
janat 〔現分〕 [Jan]. 〔不変〕 [祭式に用ゐらるゝ讚歎詞, om の如し].
janatā 〔女〕 群集, 人々の集り; 社會; 人民, 臣民; 人類; 〔使役〕 衆, 衆生, 民衆, 諸人, 群生類, 諸群生, 諸含識 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sūtr.*
jana-traya 〔中〕 三人.
jana-dāha-sthāna 〔中〕 火葬場.
jana-deva 〔男〕 王, 王侯.
janadvat 〔形〕 Jan より作れる語形を含める.
jana-dhā 〔形〕 生物を養ふ.
janana 〔形〕 (女-i) 生む; 生ずる; 産出する; 〔使役〕 生, 發 *Sāmkhy-k.*, *Mvyut.* 〔男〕 産出者, 創造者. 〔中〕 出産; 存在, 生命; 生むこと; 生産; 〔使役〕 生, 始發, 増長 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; [五因の一]: 五因 [1. janam 生, 2. niśrayaḥ 依, 3. sthānam 立, 4. upa-

stambhaḥ 持, 5. upabṛmhanam 養] *Mvyut.*
jana-nātha 〔男〕 人々の主, 王, 王侯.
jananāntara 〔中〕 他の生即ち前生.
janani 〔女〕 (香室) = janani.
janani 〔女〕 母; 〔使役〕 母 *Divy.*, *Av-ś.*; 能生, 出生, 能出生 *Aṣṭ-pr.*
jananiya 〔名動〕 (他) **jananiyati** 自己の母なりと考ふ.
jana-pakti 〔女〕 世界の進化.
jana-pati 〔男〕 = jana-nātha.
jana-pada 〔男〕 (種族の場處), 地方, 國土, 王國; 種族; (〔中〕, 〔中〕) 社會, (王に對する) 人民; 〔使役〕 地, 庄, 塞, 方, 方域, 境土, 邑, 田里, 同郷, 聚落處, 國, 國土 *Lal-v.*, *Av-ś.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Lank.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 衆生, 人民, 百姓 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*: ~ān prasāsti 教化衆生, 調御衆生 *Gaṇḍ-vy.* 155. → naigama~.
janapada-kalyāṇa 〔形〕 (女-i) 〔使役〕 土美 *Mvyut.*: ~nyā striyā (男) 嫁女 *Sikṣ.* 252.
janapada-kṛtya 〔中〕 〔使役〕 人民事 *Aṣṭ-pr.*
janapada-ghātaka 〔男〕 國の掠奪者; 〔使役〕 壞村者, 殺害人民 *Sikṣ.*, *Mvyut.*
janapada-caryā 〔女〕 〔使役〕 ~m Car 經歷人間, 經歷人間城邑聚落 *Gaṇḍ-vy.* 50.
janapada-cārikā 〔女〕 〔使役〕 化事, 遊境土 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
janapada-nirukti 〔女〕 〔使役〕 方言, 方域言詞 *Abh-vy.*
janapada-pradeśa 〔男〕 〔使役〕 國, 國土; 聚落; 人間. *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*
janapadapradeśa-gata 〔形〕 〔使役〕 樂住聚落, 住止人間 *Gaṇḍ-vy.*
janapada-maṇḍala 〔中〕 國の領域.
janapada-mahattara 〔男〕 國の主.
janapada-vadhū 〔女〕 郷土の婦人.
janapadādhipa 〔男〕 王.
jana-padi 〔女〕 〔使役〕 聚落 *Mañj-m.*
jana-pāna 〔形〕 人々の飲料なる.
jana-pālaka 〔男〕 人々の守護者.
jana-pravāda 〔男〕 (〔中〕, 〔中〕) 民間の噂; 〔使役〕 空言 *Divy.*
jana-bāndhava 〔男〕 人類の友.
jana-bhakṣa 〔形〕 人を食ふ.
jana-bhṛt 〔形〕 人々を支ふる.
jana-maraka 〔男〕 惡疫, 流行病.
jana-māra 〔男〕 [同上].
jana-māraṇa 〔中〕 殺人.
jana-māri 〔女〕 惡疫, 流行病.
janam-ejaya 〔男〕 [(人々を脅かす), 諸人特に王侯の名].
janayati 〔女〕 産出.
janayitavya 〔未受分〕 産出せらるべき.
janayitr 〔男〕 創造する者, 産出する者; 父.
janayitri 〔女〕 母; 〔使役〕 母, 生母 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*; 能生, 出生, 能出生 *Aṣṭ-pr.*
janayiṣṇu 〔男〕 祖先.
jana-yopana 〔形〕 人々を苦しむる.
jana-rañjana 〔形〕 人々を満足せしむる.
jana-rañjanī 〔女〕 [或る祈禱の名].

jana-rava 男 = jana-pravāda.
jana-rāj 男 = jana-nātha.
jana-rājan 男 [同上].
janar-loka 男 [同下].
jana-loka 男 人間世界 [Mahar-loka の上に位する第五の Loka].
janavat 形 産出する. 因 \sim i 人々の満てる處にて.
jana-vāda 男 = jana-pravāda.
jana-vādin 男 話し手, 好みて世間の噂話をなす人.
jana-vid 形 人々を所有する (Agni 神).
jana-śri 形 人々の許へ来る (Pūṣan 神). 因 [業] \sim riyam] 美女達 [集合的に] (Buddh-c. 36).
jana-śruta 男 [人名].
jana-śruti 女 噂.
janas 甲 民族; = jana-loka.
jana-saṃsad 因 人々の集會.
jana-saṃkṣaya 男 人々の破滅.
jana-sambādha 男 人の群.
jana-saṃmarda 男 群衆, 集團.
jana-stha 形 人々の間に滞在する; Jana-loka に住する.
jana-sthāna 甲 [Daṇḍaka 林の一部の名].
janā 女 出生, 起原.
janātiga 形 超人的の.
janādhipa 男 王, 王侯.
janānta 男 人の群, 多數の人々; [(人間を亡す者), Yama 神の稱].
janāntikam 副 人に近く(他に聞き取られざる程の) 低聲にて(話す); 舞臺にて囁きて(言ふ).
janāntike 因 副 人々の近くに.
janāpavāda 男 (複) 讒謗.
janāyana 形 人々へ導く(路).
janārava (°na-ār°) 男 = jana-pravāda.
janārṇava 男 (人々の海), 隊商.
janārdana 男 [(人々を苦しむる者), Viṣṇu 神又は Kṛṣṇa 神の稱].
janālaya (°na-āl°) 男 Jana-loka の住者.
janāśraya (°na-ās°) 男 隊商の宿.
jani 女 婦人, 妻 [複] 指; 出産, 起原.
janika 形 生む, 産出する; 能生 Abh-k.
jani-kartṛ 形 (因-tri) 起る; 生ずる.
janikā 女 母 (Divy.).
janighnat 因 現分 \rightarrow Han.
janita 因 過受分 [Jan] 生まれたる, 産出せられたる, 起れる; 生, 所生, 起, 所起, 所引生; \sim ° 從...生 Ast-pr., Sapt-pr., Lank., Sūtr., Sikṣ., Abh-vy.
janitavya 未受分 生ぜらるべき, 産出せらるべき.
janitr 男 父.
janitos, [Jan の (從, 因) 不定].
janitra 甲 誕生地, 發生地, 起原; 産出物; (複) 兩親; 親族關係.
janitri 女 母; 譯母 Sikṣ.
janitva 1. 甲 妻たること.
janitva 2. 形 (因) = janitavya.

janitva 3. 男 父; 兩 兩親.
janitvana 甲 妻たること.
janitvā 女 母.
jani-dā 形 妻を與ふる.
jani-divasa 男 誕生日.
janimat 形 結婚せる; 起原を有する; 妻を有する. 男 被創造物, 生物, 人.
janiman 甲 誕生, 産出, 起原; 子孫; 被創造物, 生物; 種族, 種類.
janivat 形 妻を有する.
janīṣṭha 最 最も生産的なる.
janīṣya 形 なほ生まるべき, 未來の.
jani 女 = jani.
janīya 名動 妻を望む.
janus 男 甲 誕生, 起原; 創造; 生物; 種類. \sim sā 因 副 本質上, 元來, 生れながらに, 必然的に.
janūr-vāsas 甲 自然の著物.
janetri 女 俗 [<janayitri]; 譯母 Sam-r. 60.
janetri 女 俗 [<janayitri]; 譯母 Lal-v. 98., Gaṇḍ-vy. 57.
janendra (°na-in°) 男 人々の主; 王.
janeśa (°na-īśa) 男 [同上].
janeśvara (°nu-īś°) 男 [同上].
jano-loka 男 = janar-loka. \rightarrow jana-loka.
janaugha (°na-ogha) 男 人の群; 衆 Bodh-c.
jantu 男 兒, 子孫; 生物, 實在するもの; 人 [因] 又は 集合的に]; 人物; 召使, 侍者; 下等動物, 蟲, 害蟲; [人名]; \sim ° ...の蟲 = 微小の; 人, 生者, 生類, 衆生 Ast-pr., Mañj-m., Sikṣ., Madhy-v., Mvyut., 支應; 蟲, 小蟲 Lal-v., Ast-pr.; 譯 禪頭, 禪豆, 禪兜, 繕都 支應. sarvo \sim h 各人, 人皆.
jantuka 男 蟲, 細蟲 Abh-vy.
jantu-grha 甲 [= jantu-grha]; 譯 胡膠舍, 落可屋 [落可 = (英) lac?] Divy.
jantu-ghna 形 蟲を殺す.
jantu-jātamaya 形 蟲を含める.
jantu-bhaya 甲 蟲怖畏 Ast-pr.
jantumāt 形 蟲を含める.
jantu-mātr 男 [腸内に住む蟲の一種]; 赤き樹膠.
janma- 甲 = \sim °, janman.
janma-kara 形 出生せしむる.
janma-karma-phala 甲 前生の業(引)による再生.
janma-kāla 男 出生の時間.
janma-kṛt 男 父.
janma-kṛta 形 出生によりて生ぜる, 出生に起因する.
janma-kṣetra 甲 誕生地.
janma-gati 女 趣生 Lank.
janma-grha 甲 その下に生れたる星; 生誕の星座.
janma-citraka 男 龍の名] 好生 Divy.
janma-ja 形 生貴 Gaṇḍ-vy.
janma-janman 甲 各々の出生; 因 \sim i 各々の生に於て.
janmajanmāntara 甲 各々の未來の生.
janma-jarāntaka (°rā-an°) 男 生及び老の破壊者 (Buddh-c.).

janma-jyeṣṭha 形 出生に於て最も年長なる。
janmatas 副 出生によれば; 年齢によれば。
janma-tithi 男 誕生日。
janma-da 男 父。形 (一°)を出生せしむる。
janma-dina 中 誕生日。
janman 中 誕生, 起原, 産出; 出現; 生命, 存在; 誕生地; 父; 生物, 實在; 種族, 家族; 種類; 性質; 再生; 方法; 水; 生, 能生, 出生, 初生, 受生, 誕生, 往生, 受餘生, 始起; 現身, 受身; 世 *Diṅy., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-v., Sāṅkhy-k., Sūtr., Mvyut.:* ~i ~i (於) 生生 *Bodh-bh. 197.* 男 (一°)の子孫。
janma-nakṣatra 中 = janma-gr̥ha.
janma-pātrikā 女 [占星術上の星座圖]。
janma-parigraha 男 誕生 [業, Kṛ と共に] (*Jāt-m.*)。
janma-pādapa 男 生家の樹。
janma-pratiṣṭhā 女 母。
janma-prabhṛti 副 出生以來。
janma-bandha 男 生(輪廻)の羂絆。
janma-bha 中 = janma-gr̥ha.
janma-bhāj 男 生物。
janma-bhū 女 出生の國, 母國。
janma-bhūmi 女 [同上]。
janmabhūmi-BHū, (一°)の誕生地となる。
janma-bhṛt 形 生まれたる, 生命を持続する。
janma-maraṇa 中 生死 *Sūtr.*
janma-mṛtyu 男 兩 出生と死。
janma-rāsi 男 生誕時の黄道の標。
janmarkṣa (°ma-r̥k°) 中 = janma-gr̥ha.
janmavat 形 生まれたる, 生ける。
janmavattā 女 [同上 中]。
janma-vatsara 男 出生の年; 誕生の年祭。
janma-vaṣitā 女 心降伏 *Dharm-s.*
janma-vasu-dhā 女 = janma-bhū.
janma-vātsalya 中 愛郷心。
janma-śayyā 女 誕生の床。
janma-saṅkara 男 生亂 *Laṅk.*
janma-saṅkara 男 生難, 生染汚, 生雜業 *Madhy-vibh.*
janma-saṅbhava 男 生 *Laṅk.*
janma-sāphalya 中 生存の目的の達成, 生存の終焉。
janma-siddha 形 出生權によりて得られたる。
janma-sthāna 中 誕生地。
janma-hetutva 中 起因, 能生因 *Abh-vy.*
janmādhipa 男 [(出生の主), *Siva* 神の稱]。
janmānta-kara 男 出生の破壊者 (*Buddh-c.*)。
janmāntara 中 他の生, 生前又は死後の存在; 前生, 宿生 *Abh-vy.*
janmāntara-karman 中 前生(曾所受業, 宿生(所作)業 *Abh-vy.*
janmāntara-gata 形 再び生まれたる。
janmāntarita 形 前生に於てなされたる。
janmāntariya 形 [同上]; 前生に屬する。
janmāndha 形 生來盲目なる。
janmāspada (°ma-ās°) 中 誕生地。
janmin 男 生物, 人。

janya 1. (未受分) 生まるべき, 生産せらるべき; (一°)より起れる・生まれたる或は産出せられたる; 所生, 應生 *Laṅk., Abh-k., Abh-vy.* 中 身體; 所生 *Madhy-v.*
janya 2. 形 種族に屬する, 同族の, 同國の; 民族に屬する或は關する。男 (同國人), 新郎の友人又は附添人; 凡人; [*Siva* 神の稱]。中 民族, 種族; 戰。
janya-tā 女 [janya 1. の 中]。
janya-tva 中 [同上]。
janya-yātrā 女 婚禮の旅。
janya-vṛtti 女 交戰狀態, 戰。
janya 女 新婦の附添女; 新婚の妻。
janya- [jani の 中]。
Jap, I. japati, japate [甚だ稀に]。低調にて繰返す, (祈禱語を)つぶやく; 默禱す; 誦 *Sikṣ.* (過受分) **japta, japita** 囁ける, つぶやく。 (過受分) **jañjapyate, jañjapiti** つぶやく, 繰返し囁く(咎めて)。
upa- (業, 於)に囁やく; 私語して傍に誘致す; 謀反を教唆す。
pari- (業)をつぶやく。
prati- 囁き答ふ。
japa 形 囁く; 誦 *Mañj-m.* 男 (祈禱等をつぶやくこと; 低聲の祈禱; 持誦 *Guhya-s.*
japatā 女 祈禱をつぶやくこと。
japana 中 [同上]。
japaniya (未受分) つぶやかるべき。
japa-mantra 男 持誦 *Mañj-m.*
japa-mālā 女 數珠。
japa-yajña 男 低聲祈禱の供儀。
japa-homa 男 (單, 複)低聲祈禱の捧獻; (兩)低聲祈禱と供物。
japā 女 支那薔薇 [學名 *Hibiscus rosa sinensis*]。
japita (過受分) → Jap.
japin 形 祈禱をつぶやく。
japta (過受分) → Jap.
japtavya (未受分) 低聲に暗誦すべき; 說, 可得讀誦 *Sikṣ., Mañj-m.*
japya (未受分) [同上]; つぶやかるべき。中 低聲に唱ふべき祈禱。
japyaka 男 [人名]。
japya-karman 中 = japana.
jabālā 女 [人名]。
Jabh, Jambh, (屬)に咬みつく, 口に銜ふ。 [三過のみ; 接 *jambhiṣat*]。便後 *jambhayati* 壓し潰す, 破壊す。 (過受分) **jañjabhyate** 兩顎を開く, 咬む。
jabhya 男 [(咬む者), 穀物を害する獸の一種]。
Jam, I. 他 **jamati** 行く; (食ふ)。
jamad-agni 男 [*Paraśurāma* の父なる聖仙の名]。
jamad-agnivat 副 *Jamadagni* の如くに。
jam-pati 男 兩 = *dampati*; 妻と夫 (過受分) 夫妻 *Mvyut.*
jampāna 中 轎椅子。
jambāla 男 中 沼澤, 泥。
jambira 男 シトロンの樹; 柑子, 天梅子 *Mvyut.*
jambu 中 蒲桃 [學名 *Fugenia Jambolana* 其他]。 (過受分)

- 蒲桃樹; 〔漢〕(音寫) 剌浮, 譚浮, 閻浮, 瞻部, 閻浮(樹), 瞻部(樹) *Buddh-c., Lal-v., Suv-pr., Abh-vy.*, 支應. 〔國〕 [物語に出づる河の名]; [Dvīpa の名].
- jambuka** 〔男〕 豺(狼); 陋劣なる人; 〔漢〕 狼, 狸 *Lank., Sikṣ.*
- jambu-khaṇḍa** 〔男〕 〔中〕 = jambu-dvīpa; 〔漢〕 閻浮提 [*Jambu-dvīpa* の (音寫)] *Divy.*
- jambu-dvīpa** 〔男〕 Jambu 樹の島, [印度を含む中央大陸 (Dvīpa) の名, Meru 山頂にある巨大なる Jambu 樹によりて蔽下せらるゝが故にその名を得]; 〔漢〕 此國土 *Suv-pr.*; (音寫) 閻浮處, 瞻部州, 剌浮洲, 譚浮洲, 南瞻部洲 *Suv-pr., Sam-r., Sapt-pr., Dharm-s., Mvyut.*, 支應; (音寫) 閻浮提, 閻浮利, 閻浮提犍波 *Lal-v., Saddh-p., Kāśy.*, 支應.
- jambudvīpa-vara-locana** 〔男〕 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
- jambu-dhvaja** 〔男〕 (Jambu 樹をその標識とせるもの), = jambu-dvīpa (*Lal-v.*); 〔漢〕 [龍の名] (音寫) 閻浮幢, 南瞻王 *Mvyut.*
- jambu-parvata** 〔男〕 = jambu-dvīpa.
- jambu-prastha** 〔男〕 [村の名].
- jambula** 〔男〕 [外耳の病の一種].
- jambu-vana-ja** 〔中〕 Jambu 樹の白き花.
- jambu-śaṇḍa** 〔男〕 〔漢〕 (音寫) 瞻部林, 剌浮密林 *Abh-vy., Mvyut.*
- jambū** 〔女〕 = jambu (女); 〔漢〕 (音寫) 閻浮樹, 閻菩樹 *Divy.*; (音寫) 瞻部, 剌浮, 閻浮 支應.
- jambūka** 〔男〕 豺; 〔漢〕 狐, 狸 *Lank., 梵雜.*
- jambū-kuñja** 〔男〕 〔中〕 蒲桃の園亭.
- jambū-khaṇḍa** 〔男〕 〔中〕 = jambu-dvīpa.
- jambū-dvīpa** 〔男〕 = jambu-dvīpa; 〔漢〕 (音寫) 瞻部洲, 剌浮洲, 譚浮洲, 閻浮提地 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh.*, 支應; (音寫) 譚浮, 瞻浮, 閻浮提, 剌浮提 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*, 支應.
- jambūdviṣeśvara** (°pa-iś°) 〔男〕 *Jambū-dvīpa* の主權者 (*Sukh-vy. I.*); 〔漢〕 (音寫) 王瞻部洲, 王閻浮提 隨意自在 *Bodh-bh.*
- jambū-nada** 〔中〕 = jāmbū-nada; 〔漢〕 紫金 *Gulhy-s.*; (音寫) 閻浮檀, 瞻部捺陀, 剌浮那他 支應.
- jambūnada-kanaka** 〔中〕 〔漢〕 (音寫) 閻浮金, 閻浮檀金 *Gaṇḍ-vy.*
- jambūnada-prabhākāra** (°bhū-āk°) 〔形〕 〔漢〕 如紫金色光 *Gulhy-s.*
- jambūnada-prabhāsavat** 〔形〕 〔漢〕 (音寫) 閻浮檀金光明, 閻浮檀光 *Gaṇḍ-vy.*
- jambūnada-ratna** 〔中〕 〔漢〕 (音寫) 咎卜水金寶, 瞻部捺陀寶 *Mvyut.*
- jambūnada-suvarṇa** 〔中〕 〔漢〕 (音寫) 瞻部金, 閻浮檀金 *Suv-pr.*
- jambū-nadī** 〔女〕 [河の名].
- jambūla** 〔男〕 [植物の名, 學名 *Pandanus odoratissimus, Eugenia jambolana*]; 〔漢〕 紫(?) 梵下.
- jambū-vṛkṣa** 〔男〕 〔漢〕 (音寫) 閻浮樹, 閻浮檀樹 *Gaṇḍ-vy.*
- jambū-sāhvaya** 〔形〕 〔漢〕 (音寫) 曰瞻部, 南瞻名 *Mvyut.*
- jambha** 〔男〕 齒, 牙; 口, 頰; 吞むこと; 破碎者, 貪食者; [種々の惡魔の名 (國)].
- jambhaka** 〔形〕 (一°) を破碎する, ……を貪食する. 〔國〕 [或る惡魔の名].
- jambha-kuṇḍa** 〔中〕 [聖地の名].
- jambha-ga** 〔男〕 〔中〕 [或る惡魔群の名].
- jambhana** 〔形〕 (女-i) 破碎する. 〔國〕 破碎者. 〔中〕 〔漢〕 令愚(?) [*Tib. rmugs-byed.* 作昏の誤? → *jambhala*] *Mvyut.*
- jambha-bhedin** 〔男〕 [(*Jambha* 惡魔の破壊者), *Indra* 神の稱].
- jambhala** 〔男〕 [佛教の神の名]; [人名]; 〔漢〕 持昏, 寶藏神 *Gulhy-s., Mvyut.*
- jambhalikā** 〔女〕 [歌の一種].
- jambha-suta** 〔形〕 頰にて壓せられたる, 咀嚼せる.
- jambhāri** 〔男〕 [(*Jambha* 惡魔の敵), *Indra* 神の稱].
- jambhi** 〔男〕 〔漢〕 上腮 *Mvyut.*
- jambhikā** 〔女〕 [佛教の神の名].
- jambhya** 〔男〕 奧齒, 臼齒; 〔中〕 頰.
- jaya** 〔形〕 (一°) に打ち勝つ, ……を鹵獲する. 〔國〕 [戰爭・論争・訴訟又は遊戲に於ける] 勝利, 征服; [太陽の稱]; [聖仙・*Indra* 神の子・*Viṣṇu* 神の從僕・*Nāga-Dānava* 又は諸人の名]; (國) 勝利に導く詩句; 〔漢〕 勝, 降, 能伏, 摧破 *Aṣṭ-pr., Mañj-m, Sikṣ., Abh-vy.*, 梵下; [人名] 勝, 德勝 *Divy.*; (音寫) 闍耶 *Divy.*
- jayaka** 〔男〕 [人名].
- jaya-kara** 〔形〕 〔漢〕 作勝 *Mvyut.*
- jaya-kuñjara** 〔男〕 (他の象に打ち勝ちたる) 闍象.
- jaya-kṛt** 〔形〕 勝利を與ふる.
- jaya-gata** 〔形〕 勝てる; 勝利を得たる.
- jaya-gupta** 〔男〕 [諸人の名].
- jaya-ghoṣa** 〔男〕 勝利の叫び.
- jaya-ghoṣaṇa** 〔中〕 [同上].
- jaya-ghoṣaṇā** 〔女〕 [同上].
- jaya-candra** 〔男〕 [諸人の名].
- jayati** 〔男〕 語根 *Ji* [(三入) 國]. 〔中〕 として用ゐらる.
- jayat-sena** 〔男〕 [(勝利の軍隊を有する), *Magadha* の一王の名]; [諸人の名].
- jaya-da** 〔形〕 = *jaya-kṛt*.
- jaya-datta** 〔男〕 [諸人の名]; 〔漢〕 [菩薩の名] 勝授, 最勝施 *Mvyut.*
- jaya-durgā** 〔女〕 [*Durgā* の一形態].
- jaya-deva** 〔男〕 [*Gītagovinda* の作者の名].
- jayad-bala** 〔男〕 [(勝利の力を有する), *Virāta* 宮廷の王子の名].
- jayad-ratha** 〔男〕 [(勝利の戦車を有する), 諸人の名].
- jaya-dhvaja** 〔男〕 勝利の旗; [*Arjuna Kārtavīrya* の子の名].
- jayadhvajāya** (名動) 〔自〕 *jayadhvajāyate* 勝利の旗として表示す.
- jayana** 〔形〕 (女-i) 全能の; 勝てる.
- jaya-nārāyaṇa** 〔男〕 [人名].
- jaya-nirājana** 〔中〕 [軍隊式典の一種].
- jayanta** 〔形〕 (女-i) 勝利の. 〔男〕 [*Indra* 神の子の名]; [王の名]; [人名]; 〔漢〕 (音寫) [人名] 閻延多 *Buddh-c.* 〔中〕 [町の名].
- jayanti** 〔女〕 [國の名]; [河の名]; [人名]; [*Kṛṣṇa* の

生誕せる夜]; [*Karma-māsa* の第九日の名; *Punarvasu* 月の第十二日の名].

jaya-patākā 因 勝利の旗; 勝利者に與へらるゝ小旗; 表 *Lal-v.*: ~ *sthāpitā 'bhūt* 立表號令 *Lal-v. 144*.

jaya-parājaya 男 兩 又は 甲 團 勝利又は敗北; 獲得又は喪失.

jaya-pura 甲 [種々の町の名].

jaya-prabhānudatta (°bhā-an°) 形 勝光王之所捨施 *Gaṇḍ-vy.*

jaya-priya 男 [人名].

jaya-bheri 男 [人名].

jaya-maṅgala 男 [或る象の名]. 甲 歡呼.

jaya-mati 男 勝慧, 勝意 *Rāstr., Mvyūt.*

jaya-mati 因 [諸人の名].

jaya-malla 男 (一°)に於て勝てる闘士.

jaya-mādhava 男 [或る詩人の名].

jaya-rāja 男 [諸人の名].

jaya-lakṣmi 因 勝利の女神; 勝利; [人名].

jaya-lekha 男 勝利の記録.

jayavat 形 勝利の.

jaya-vana 甲 [地名].

jaya-vardhana 男 [或る詩人の名].

jaya-varman 男 [諸人の名].

jaya-vāhana 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).

jaya-vijaya 形 最勝 *Mañj-m.*

jaya-śaṅkha 男 勝利を告ぐる螺貝.

jaya-śabda 男 勝利の叫び, 歡呼.

jaya-śarman 男 [人名].

jaya-śrī 因 勝利の女神; 勝利; [人名]; [或る *Nāga* の少女の名]. 男 劍.

jaya-siṃha 男 [諸人の名]; [王の名].

jaya-sena 男 [諸人の名]; [*Magadha* の一王の名].

jayā-senā 因 [諸人の名].

jaya-skandha 男 [*Yudhiṣṭhira* の大臣の名].

jaya-stambha 因 勝利の記念柱.

jaya-sthala 甲 [村の名].

jaya-svāmin 男 [(勝利の主), *Siva* 神の稱]; [或る學匠の名].

jayasvāmi-virocana, [或る殿堂の名].

jayā 因 [*Durgā* の稱]; [*Durgā* の從者の名].

jayākara (°ya-āk°) 男 [(勝利の原因), 人名].

jayājaya 男 兩 又は 甲 團 勝利と敗北.

jayātma-ja (°ya-āt°) 男 [(*Jaya* 即ち *Arjuna* の息子), *Abhimanyu* の名].

jayāditya (°ya-ād°) 男 [王の名]; [諸人の名]; [*Kāśikū* の著者の名].

jayā-devi 因 [人名]; [或る佛教の女神の名].

jayānanda (°ya-ān°) 男 [人名].

jayānanda-vāra 男 [人名].

jayānika 男 [人名].

jayāpīḍa (°ya-āp°) 男 [王の名].

jayā-bhaṭṭārikā 因 [地名].

jayārṇava 男 [或る著作の名].

jayāvaghōṣa 男 勝利の叫び, 歡呼.

jayāvaha (°ya-āv°) 形 勝利を與ふる; 得勝 *Suv-pr.* 男 亭(の一種).

jayāśis (°ya-ās°) 因 勝利の祈願, 歡呼.

jayā-siṃha 男 [人名].

jayitṛ 形 (因-tri) 勝利の.

jayin 形 (團, 一°)に打ち勝てる; (因)に於て戦勝の; 勝利を與ふる. 男 征服者, 勝利者; (訴訟に)勝てる者; (賭博又は競技の)勝者.

jayiṣṇu 形 勝利の.

jayus 形 [同上].

jayendra (°ya-in°) 男 [諸人の名]; [王の名].

jayendra-senā 因 [人名].

jayeśvara (°ya-iś°) 男 [(勝利の主), *Siva* 神の一形態]; [*Jayā-devi* の建立せる殿堂の名].

jayottama (°ya-ut°) 形 最勝, 無上勝, 善勝 *Gaṇḍ-vy.*

jayottara (°ya-ut°) 形 勝利に満てる, 勝利の確實なる.

jayoṣṇiṣa (°ya-uṣ°) 形 最勝 *Mañj-m.*

jayoṣmāyatana (°ya-uṣma-āy°) 男 [婆羅門の名] 勝熱(?), 方便命(?), 《勝熱處》 [*Tib. rgyal-baḥi dro-ña-kyi skye-mched*] *Gaṇḍ-vy. 115*.

jayya 未受分 打ち勝たるべき, 征服せらるべき; 得らるべき.

jayyatā 因 [同上 團].

jara 男 [J] 消耗すること; 浪費すること. 一° 年老いたる.

jara-jirṇa 形 衰老, 朽故 *Sikṣ.*

jaratha 形 年老いたる; 烈しき, 強き; [= *jaṭhara*] 固き, 堅き.

jarathita 通受分 烈しく或は強なくれる.

jarāṇa 形 老衰せる, 年老いたる; 腐朽せる; 溶解力ある, 消化を進むる.

jarāṇā 因 老齡.

jarāṇyu 形 大聲に祈願する.

jarat 通受分 (因-i) [J] 年老いたる; 以前の, 昔の; 脆き, 役に立たざる, 衰微せる, 頽廢せる. 男 老人.

jaratikā 因 老女.

jarat-kakṣa 男 古き茨.

jarat-kāra 男 [人名].

jarat-kāru 男 [聖仙の名]. 因 [*Jaratkāru* 仙の妻の名].

jaratkāru-priyā 因 [同上 (因)].

jaratkārv-āśrama 男 *Jaratkāru* 仙の隱棲處.

jarad-aṣṭi 形 長生せる, 甚だ老齡の. 因 長命.

jarad-gava 男 老いたる牡牛; [或る兀鷲(鷲)の名].

jarad-dāsa 男 老いたる召使.

jarad-viṣ 形 木材を消耗する(火).

jaranta 男 水牛.

jarantaka 男 義父.

jaras 因 老いること, 老年, 老衰. 男 [或る獵師の名]; [*Vasudeva* の子の名].

-jarasa 形 [同上 (因) の 形].

jarā 1. 因 消耗すること; 年老ひること, 老齡; [或る *Rākṣasi* の名]; 老, 衰老, 耆年 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-*

vy., Sāmkhy-k., Mvyut., 梵雜.
jarā 2. 女 喚くこと; 叫び; 挨拶.
jarā-kāsa 男 老齡のために起る嗽咳.
jarā-jarjara 形 老 Lal-v.
jarā-duḥkha 中 老苦 Mvyut.
jarā-dharmaka 男 老法 Bodh-bh.: ~sya
 jarā 老法老 Bodh-bh. 193.
jarā-dharman 男 老齡なるもの (Divy.).
jarānvita (°rā-an°) 形 年を経たる, 老いたる, 老齡の.
jarā-bodha 形 祈願又は讚歎に従事せる.
jarā-bodhiya 中 [或る Sāman の名].
jarābhibhūta (°rā-abh°) 形 老衰せる.
jarā-maraṇa 中 老死 Bodh-bh., Dharm-s.,
 Mvyut.
jarāmarāṇa-kṛta-duḥkha 中 老死苦 Sāmkhy-
 k.
jarāmarāṇa-dharma 男 老死相 Mvyut.
jarā-maraṇa-śoka-parideva-duḥkha-daurma-
nasyopāyāsa (°ya-up°) 男 老死憂悲苦
 (愁) 惱 Saddh-p.
jarā-mṛtyu 形 老齡の爲に死する. 男 (單又は兩)
 老齡と死.
jarāyu 中 (蛇の蛻皮; [又女] (胎兒を包む) 卵膜の
 外部; 後産; 一時の覆ひ; 胎 Abh-vy., Mvyut.
jarāyu-ja 形 胎より生まれたる, 胎生の; 胎生
 Vajr-pr., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.
jarāyudha (°rā-āy°) 形 武器として老年を有する [死
 神に就きて言ふ.] (Buddh-c.).
jarārdita (°rā-ar°) 形 老衰 Sikṣ.
jarā-lakṣman 中 (老齡の標), 白髮.
jarāvat 形 =jarānvita.
jarā-sandha 男 [Magadha と Cedi との王の名];
 [Dhṛtarāṣṭra の子の名].
jarita 使役 (過受分) 老いたる, 老朽せる; 衰老
 Sikṣ.: jarayā ~h 衰老 Sikṣ. 205.
jaritā (使役 (過受分) 女 [神話上の鳥の名].
jaritāri 男 [(敵を平けたる), Jaritā 鳥の長子の名].
jaritṛ 男 祈願者; 歌手; 崇拜者.
jariman 男 老齡, 老衰, 老齡による死.
jarjara 形 衰へたる; 老衰せる, 脆き; 破れたる; 裂
 けたる; 割れたる, 砕けたる; 鈍き(音); 切々に裂
 かれたる, 分離せる; 不牢, 震裂 Lal-v., Saddh-
 p. 男 割れ竹.
jarjaraka 男 [同上(男)].
jarjaratva 中 衰微すること.
jarjarita (過受分) 消耗せる, 老衰せる; 碎かれたる,
 切り裂かれたる, 掻き裂かれたる, 刺されたる.
jarjari-kṛ, 破る, 割る; 切り裂く; 竭(つ)す.
jarjari-kṛta 形 切々に裂かれたる, 割られたる, 切
 り裂かれたる.
jarjari-bhāva 男 速朽之法 Sikṣ.
jarjari-BHū, 破れる; 割らる, 破らる, 引き裂かる.
jarjari-bhūta 形 =jarjari-kṛta.
jartika 男 族 [民族の名].
jartila 男 野生の胡麻.
jartila-yavāgū 女 Jartila 胡麻の粥.

jartu 男 女陰; 象.
jarbhari 形 [種 BHR] 支ふる.
jarbhur, [BHur の種].
jala 1. 中 [時として] 水; 液體; 水, 清水. 泉
 Suv-pr., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Bodh-c., 梵雜. 等.
jala 2. 形 [=jāda] 鈍なる, 愚なる. 男 愚鈍なる
 男; [人名].
jala-kaṇa 男 水滴.
jala-kapi 男 (河の) 海豚(イカ) [學名 *Delphinus gan-*
geticus].
jala-kalmaṣa 男 毒液.
jala-kukkuṭa 男 [水禽の一種].
jala-kumbha 男 水瓶.
jala-kumbhikā 女 水を満たしたる瓶.
jala-kṛt 形 雨を降らしむる.
jala-keli 男 女 水中に戯ること.
jala-kriyā 女 (死者に對する) 水の垢離.
jala-kriḍā 女 =jala-keli.
jala-khaga 男 水禽.
jala-gandhebhā (°dha-ibha) 男 [神話上の動物].
jala-gambu 男 [Sūrya 神の子の名].
jala-garbha 形 露にて露へる (Buddh-c.). 男 [人名] 水藏 Suv-pr.
jala-gṛha 中 水の中又は近邊に建てられたる家.
jala-grāha 男 取水相, 水想受 Lank.
jala-ghaṭi 女 水瓶.
jala-caakra 中 [神話上の地名].
jala-candra 男 [或る詩人の名]; 水中月 Lank.
jala-cara 男 水棲動物; 魚.
jalacarājīva (°ra-āj°) 男 漁夫.
jala-cala 形 水生 Lal-v.: ~ānām sattvā-
 nām 水性 [生?] 之屬 Lal-v. 277.
jala-cārin 形 水中に生存する; 遊水裏 Rāstr.
 男 水棲動物; 魚.
jala-ja 形 水生の, 水中に生存する或は生長する; 水
 より來れる, 水に特有なる; 水, 水生 Lal-v.
 男 水棲動物; 魚; 貝; 水族 Lal-v. 中 日中
 に咲く蓮花; 海産物, 眞珠; 貝; 蓮, 水生, 水
 生花 Divy., Mvyut.
jalaja-kusuma 中 蓮花.
jalajakusuma-yoni 男 [(蓮花より生まれたる),
 Brahman 神の稱].
jalaja-dravya 中 海産物, 眞珠, 貝.
jala-jantu 男 水棲動物.
jalajājīva (°ja-āj°) 男 (魚にて生活する), 海岸の住者.
jalajāsana (°ja-ās°) 男 [(蓮花に坐せる), Brahman
 神の稱].
jala-jini-bandhu 男 (蓮花の友), 太陽.
jala-jivin 形 水中又は水上に生活する. 男 漁夫.
jala-taraṅga 男 波.
jalatā 女 水の狀態.
jalati 中 [<jvalati. Jval]; 輝映, 晃曜
 Madhy-v. 54.
jala-tumbikā-nyāya 男 ~ena 水と瓢箪と
 の理によりて.
jala-trāsa 男 恐水病.

jala-trāsin 形 恐水病に罹れる。
jala-da 男 (水を與ふるもの), (雨)雲; 大洋; [王侯の名]; 函 [Atharva-veda の一學派の名]。
jalada-kāla 男 雨季。
jalada-kṣaya 男 (雲の消失), 秋。
jalada-taskara 男 雲の盜賊。
jala-dardura 男 [(水管), 或る樂器の名]。
jalada-samaya 男 雨季。
jaladāgama (da-āg°) 男 (雲の到著), 雨季。
jaladātyaya 男 秋。
jala-dāna 甲 水供養 [Ujjayini 國に於ける祭]。
jala-deva 男 Aṣādhā 月宿。
jala-devatā 女 水神。
jala-dravya 甲 = jalaja-dravya。
jala-dvipa 男 [水棲獸の名, 河馬(?)]。
jala-dvipa 男 [島の名]。
jala-dhara 男 (水を支持する者), (雨)雲; 大洋; 函 雲, 雷, 大海 Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy.
jaladhara-garjita 形 函 海潮音 Saddh-p.
jaladharagarjita - ghoṣa - susvara - nakṣatra - rāja-samkusumitābhijña 男 函 [佛の名] 雲雷音宿王華智 Saddh-p.
jaladhara-mālā 女 雲の擴がり, 雲の線。
jaladharābhyudaya 男 (雲の上昇), 雨季。
jala-dhāra 男 [山の名]。
jala-dhārā 女 水の流, 驟雨; [河の名]。
jala-dhi 男 大洋, 海; 函 持水 Mvyut.
jaladhi-kanyakā 女 [Lakṣmī 神の稱]。
jala-dhitā 女 大洋又は海たること。
jaladhi-nandini 女 = jaladhi-kanyakā。
jaladhi-raśanā 形 函 海洋の圍める(大地)。
jala-dhenu 女 水の様相をとれる牝牛。
jala-nidhi 男 大洋, 海; 函 海, 大海, 巨海, 大洪, 水藏 Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Mvyut.
jalām-dhamā 男 [或る Skanda の従者の名]; [或る Dānava の名]。
jalām-dhara 男 [人名]; [或る Asura の名]。
jala-pakṣa-cara 男 水禽。
jala-pakṣin 男 [同上]。
jala-patha 男 航海; [山の名] (Divy.)。
jala-paribhogya 甲 函 水浴 Lal-v.: puṣkarīṇyo ~sthāḥ 水浴池 Lal-v. 40.
jala-pāda 男 [(水の足), 或る蛙の王の名]。
jala-pippali 女 [植物の名]。
jala-pūra 男 水の満ちたる河床; [或る神話上の英雄の名]。
jala-pūruṣa 男 水の小妖精。
jala-pūrṇa 形 涙に充ちたる (Buddh-c.)。
jala-pūrvakam 函 先づ水を注ぎたる後に。
jala-prkta 形 水に觸るゝ, 泳ぐ。
jala-pradānika 形 水の獻供に關する。
jala-prapāta 男 瀧。
jala-pravāha 男 水流。
jala-prasarāṇa 甲 (水より反撥する), 油。
jala-plava 男 洪水。
jala-bindu 男 水滴; 函 滴水, 海一滴 Sam-r.

Saddh-p. 女 [或る Nāga の少女の名] (Kār-vy.)。
jalabindu-durdina 甲 驟雨。
jala-budbuda 男 水泡。
jala-budbudaka 男 函 水泡 Lanḅ.
jala-bhājana 甲 水桶。
jala-bhita 形 水を恐るゝ。
jala-maṇḍala 甲 函 水輪 Abi-vy.
jalāmaya 形 (女 -i) 水より成る。
jala-mānuṣa 男 (傳説上の)水棲動物; 獺。
jala-mānuṣi 女 [同上]。
jala-muc 形 雨を注ぐ。 男 (雨)雲。
jala-yantra 甲 灌水器; 水時計。
jala-yantraka 甲 灌水器。
jalayantra-gr̥ha 甲 灌水の設備ある浴室。
jalayantra-cakra 甲 水汲車。
jalayantra-maṇḍira 甲 = jalayantra-gr̥ha。
jala-yāna 甲 端艇, 舟; 函 舩, 船 Mvyut.
jala-rākṣasi 女 [或る女鬼の名]。
jala-rāsi 男 大量の水; 湖, 海, 大洋。
jala-ruh 男 (水中に生ずる), 晝咲く蓮花。
jala-ruha 男 [同上]; [水棲動物の一種]; 函 蓮 Rāṣṭr.
jalaruha-kusuma 甲 水生植物の花。
jalaruhekṣaṇa (ha-ik°) 形 蓮の如き目の。
jala-rekhā 女 水面の條; 水溜り。
jala-lava-muc 男 (水を滴下する), 雲。
jala-lekhā 女 = jala-rekhā。
jalavat 形 水に富める。
jala-vādya 甲 [水にて奏する樂器の一種]。
jala-vāsa 男 水中の住處。 形 水中に住する。
jala-vāsita 女 [同下 函]。
jala-vāsin 形 水中に住する。
jala-vāha 形 水を擔へる。
jala-vāhaka 男 水を運搬する人。
jala-vāhana 男 函 [人名] 流水 Suv-pr.
jala-śayyā 女 (苦行として)水中に横はること。
jala-sarkara 女 雹。
jala-śāyin 形 水中に臥する。 男 [Viṣṇu 神の稱]。
jala-śūka 男 [泥中の極微動物の名]。
jala-saṁdha 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名]。
jala-saṁnivēsa 男 貯水池, 池。
jala-sūrya 男 水(に反射する)太陽。
jala-sūryaka 男 [同上]。
jala-stha 形 水中に存在する。
jala-sthala-gata 形 函 水陸 Bodh-bh.
jala-sthāna 甲 貯水池, 湖。
jala-sthāya 男 [同上]。
jala-snāna 甲 沐浴, 水浴。
jala-srāva 男 [眼病の一種]。
jala-hastin 男 (水中の象), 鱉。
jala-hāra 男 水を運搬する人。
jala-hārīṇi 女 水路。
jala-hārī 女 水を運搬する女。
jala-hina 形 水なき, 乾ける。
jalā 女 [河の名]。
jalāmsu 男 (冷光), 月(太陰) [= jalāmsu].

jalāgama (°la-āg°) 男 雨; 漢譯 水生 *Suv-pr.*
jalāñjali 男 (死者に捧ぐるため)合掌して擲へる水;
 永久の袂別(聖諭).
jalātyaya 男 (雨の停止), 秋.
jalādhāra (°la-ādḥ°) 男 貯水池, 池; [山の名].
jalādhidaivata 甲 = jala-deva.
jalādhipa 男 [(水の主)], *Varuṇa* 神の稱.
jalādhvan 男 航海.
jalāntaka 男 [*Kṛṣṇa* の子の名].
jalāntam 副 水に達するまで(掘る).
jalāmatra 甲 水桶.
jalāmbara 男 [人名]; 漢譯 水空, 水満(?) *Suv-pr.*
jalāya 名動 自 **jalāyate** 水となる, 水に變る.
jalāyukā 女 蛭.
jalārka 男 水(に反射する)太陽.
jalārṇava 男 (甘き)水の海; 漢譯 海水 *Suv-pr.*
jalārthin 形 水を欲する, 渴ける.
jalārḍra (°la-ār°) 形 濡れたる, 濕れる.
jalārḍrā (°la-ār°) 女 濡れたる衣服; (扇ぐに用ふる)
 濕氣ある布.
jalārḍrikā (°la-ār°) 女 [同上]; [一°は形].
jalāśaya (°la-āś°) 男 貯水池, 池, 湖; 海. 形 水中
 に留まる; 愚なる.
jalāśraya (°la-āś°) 男 池.
jalāśa 形 鎮靜する, 癒す. 甲 水; 幸福.
jalāśa-bheṣaja 形 鎮靜劑を有する (*Rudra* 神).
jaiāhati (°la-āh°) 女 豪雨.
jalūkā 女 漢譯 蛭; 斑猫蟲, 斑毛蟲 *Mvyut.*
jale-cara 形 (女-i) 水中に住する. 男 水棲動物
 [一°は形].
jale-carā 女 [同上(男)].
jalenī-prabha(?) 男 漢譯 [佛の名] 網明, 光網 *Sūh-*
vy. II. 98.
jale-vāha 男 水に潛るもの.
jaleśa (°la-iśa) 男 [(水の主), *Varuṇa* 神の稱]; 海洋.
jaleśaya 形 水中に住する; [*Viṣṇu* 神の稱].
jaleśvara (°la-iś°) 男 [(水の主), *Varuṇa* 神の稱].
jaloka 男 [王の名].
jalodara (°la-ud°) 甲 (水の腹), 水腫; 漢譯 脹, 滿,
 瘰 [瘰?] 脹 *Mvyut.*
jaloddhata-gati (°la-ud°) 形 水中にて激しく動く.
 女 [音律の一種].
jalodbhava (°la-ud°) 形 水に生ぜる, 水生の; 海の.
 男 水棲動物; [或る水の妖精の名]; [地名].
jalopala (°la-up°) 男 雹.
jalauka (°la-oka) 男 蛭; 漢譯 水蛭, 水蛭蟲 *Suv-pr.*
jalaukas (°la-ok°) 形 水中に住する. 男 水棲動物;
 [王の名]. 女 蛭.
jalaukā (°la-okā) 女 蛭; 漢譯 蛭 梵雜.
jalaukāvacaraṇīya 形 蛭を適用すべき.
Jalp, I. 他 **jalpati** [漢譯 は又た 自 **jalpate**] つ
 ぶやく; (其 土 *sārdham*) と話す・語る或は談話す;
 (業)に話しかく; 漢譯 説, 告, 誦 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 (過受分) **jalpita** 言はれたる, 話されたる; 呼びかけ
 られたる.
ati- 漢譯 語多 *Mvyut.*

pari- 空談す; 饒舌る; (空)に就て語る.
pra- 話す; 知らず, 告ぐ. (過受分) **prajalpita** 話
 し始めたる, 話せる.
vi- 言ふ, 語る.
sam- 談話す, 饒舌る.
jalpa 男 談話, 會話, 議論, 發言; 論諍(の一種); [聖仙
 の名]; (空)空談; 噂; 漢譯 言, 説, 言語, 言説, 談
 説, 言分別, 聲 *Aṣṭ-pr., Lank., Bodh-bh., Sūtr.,*
Sikṣ., Abh-vy., Mvyut.
jalpaka 形 饒舌の. 男 饒舌家.
jalpana 甲 話すこと, 語ること.
jalpa-manas-kāra 男 漢譯 言思, 言作意, 言語思惟
Madhy-vibh.
jalpāka 形 饒舌の, 多辯なる.
jalpi 女 不分明の或は低聲の辯, (祈禱等の)つぶやき;
 低聲の議論.
jalpita (過受分) → *Jalp.* 甲 談話, 發言.
jalpitu-kāma 形 漢譯 樂説 *Aṣṭ-pr.*
jalpin 形 (一°)を話す. ……を語る.
jalpya 甲 多辯; 噂.
java 形 速き; 漢譯 速疾 *Bodh-bh.* 男 迅速; 速度;
 急速; (心)の衝動; 漢譯 速, 速疾, 捷疾; 往, 馳
Lal-v., Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Mvyut., 梵千., 梵雜.; 勇
 健, 勢力 *Sikṣ.* (從) 副 速かに, 直ちに. 具 ~ena
 副 速かに; 漢譯 捷疾 *Lal-v.*
javana 形 (女-i) 速き, 敏速なる, 急ぎ走る. 甲 急
 速, 迅速, 速度.
javana-prajña 形 漢譯 速慧, 迅慧, 慧迅 *Mvyut.*
javanikā 女 帳幕.
java-yukta 形 快速を有する(馬).
javavat 形 [同上].
javas 甲 迅速.
javā 女 = *japā.*
javādhika 形 極めて速く走る.
javita (過受分) [Jū] 甲 走ること; 漢譯 馳 *Lal-v.*
javin 形 速き; 速度ある, 急ぎ走る, 急なる.
javiṣṭha (從) 最も速かなる, 最も早き.
javiyas (從) (從)より早き或は速かなる.
jaśa 男 [水棲動物の一種].
Jas, I. 自 **jasate** 竭(つ)さる. (使役) 他 **jāsayati**
 竭す, 勢を殺ぐ.
ud- (使役) **ujjāsayati** (業, 屬)を根絶す.
jasu 女 疲勞, 衰弱.
jasuri 形 竭きたる; 衰弱せる.
jasma-rāja 男 [人名].
jasvan 形 窮乏せる, 憐れなる; 飢ゑたる.
-jaha 形 漢譯 棄, 捨, 離, 無 *Lal-v., Mvyut.* →
kileśa ~, *raṇam* ~.
jahaka 形 棄つる, 見離す.
jahakā 女 猥(糞*).
jahat (現分) [Hā 2.] 漢譯 奄背 *Sikṣ.*
jahat-svārtha 形 本來の意味を棄てたる.
jahat-svārthā 女 = *jahal-lakṣaṇā.*
jahana 甲 漢譯 棄, 離 *Saddh-p.*
jahal-lakṣaṇā 女 [本來の意味を棄てたる間接稱呼
 法: 例「*Gaṅgā* 河の岸に於て」と云ふ意味にて

「Gangā河に於て」とするが如し。

jahāka 形 他を避くる。

jahita 通受分 見捨てられたる、棄てられたる。 →

Hā 2. 乗捨 Lal-v.

jahina 男 [人名]。

jahu 男 (動物の)仔; [人名]。

jahnāvi 女 Jahnu の一族。

jahnu 男 [古代の王に聖賢の名]; [Gangā河を養女とせし傳説上の王侯の名]; [Gangā河の源たる Himālaya 山中の窟の名]; 種 Jahnu の種族。

jahnu-kanyā 女 (Jahnu の娘), Gangā河。

jahnu-sutā 女 [同上]。

jahla 男 [人名]。

jā 形 [—° は =-ja] 生まれたる。 男 女 (種 -s) 子孫; 種 後裔。 女 娘。

jāmhāgira, [町の名, 現今の Dacca]。

jāmhāgira-nagara 甲 [同上]。

jāga 甲 音律 [= jagat] Daś-bh. 110.

jāgata 形 Jagati 音律にて構成せられたる; 主として Jagati 音律にて稱讃せられたる。 男 神。 甲 Jagati 音律。

jāgara 形 覺めたる。 男 覺醒; 覺醒時の幻影; 現; 覺悟 Lal-v.

jāgaraka 男 覺醒せること。

jāgarāṇa 形 覺めたる, (夜)番をなす。 甲 覺醒せること; 燃え續くること(火)。

jāgarikā 女 覺悟, 覺寤, 常自覺悟, 離睡眠 Sam-r., Lanḅ., Bodh-bh.

jāgarikā-yukta 形 修覺悟 Bodh-bh.

jāgarikā-yoga 男 減損睡眠 Sikṣ.

jāgarita 通受分 覺めたる; 不眠にて疲れたる; 覺, 寤 Sikṣ. 甲 覺醒せること。

jāgarita-deśa 男 目覺むる場處。

jāgarita-sthāna 形 覺醒状態にある。

jāgarīṣṇu 形 目覺め居る; 寤, 不眠の。

jāgarūka 形 覺めたる, 注意せる; (—°)に專注せる 或は從事する; 見守る。

jāgartavya 未受分 (甲) 非入 覺め居るべきなり。

Jāgr, jāgarti, jāgarati, [Gr の 覺む, 覺醒す, 用心す; (因)を見張る; 燃え續く(火); 覺, 寤, (巡)警 Lal-v., Sikṣ., Abh-vy. 現分 jāgarat 覺時 Sikṣ. → jāgrat. 便役 jāgarayati 覺ます, 覺醒せしむ。

pra- (因)を待ち伏せず, 要撃す; (因)を見守る。 便役 prajāgarayati 覺めしむ。

prati- (業)を見張る; 成善事 Divy. 306.

jāgrtavya 未受分 (甲) 非入 = jāgartavya.

jāgrvas 通受分 見張れる。

jāgrvi 形 覺むる, 見張る, 注意せる; 輝ける; 鼓舞する; 燃え續くる, 消えざる。 男 王。 不覺 見守るために。

jāgrat 現分 覺醒せる。 甲 覺醒せること。

jāgrat-svapna 形 覺醒と睡眠との状態に在る。 男 覺醒と睡眠。

jāgrad-duṣṣvapnya 甲 覺醒状態に於ける惡夢。

jāgran-misra 形 半覺半睡の。

jāghani 女 尾。 → jaghana.

jāghani-guda 甲 尾と肛門。

jāngala 形 開豁・乾燥・平坦且つ生産ある(國); 斯る國に生存する; 磽确地, 沙漠中肥地, 沙石山野所在 Mvyut. 男 鶉; [人名]; 種 [民族の名]. 甲 鳥獸の肉, 肉。

jāngalika 男 毒の效力を除く者, 蛇使ひ。

jāngulā 女 毒に関する知識。

jāngulika 男 = jāngalika.

jānghika 形 駿足の。 男 走者。

jājamat 通受分 [Jam] 常に食ふ或は消耗する。

jājala 男 Jājalin の學徒 (Atharva-veda 學派)。

jājalin 男 [或る學匠の名]。

jājin 男 闘士。

jājvalyamāna 現分 激しく燃ゆる, 強く輝く。

jātāsuri (°tā-as°) 男 [Alambuṣa の 父系]。

jātikāyana 男 [Atharva-veda VII. 116 の作者の名]。

jāthara 形 (女 -i) 腹に関する, 胃・腹又は子宮の中にある或はに關する; [agni と俱に 男] (腹中の火), 消化の能力; 飢餓。 男 子息。

jāḍya 甲 寒冷の感覺, 寒氣; 感覺の缺如, 味覺の缺如; 鈍感; 愚鈍; 生氣なきこと; 知識又は魂の缺如。

jāḍya-bhāva 男 愚鈍。

jāta 通受分 → Jan. 生, 所生, 已生, 生在, 深生; 起, 現; 得 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lanḅ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., 梵干.; —° 如 Lal-v., Saddh-p., Mvyut.: pāṇi-tala ~ 如掌 Saddh-p. 405., 如手掌 Lal-v. 276. 男 子息; 生物。 甲 生物; 誕生; 種族, 種類, 種屬; (—°)に包含せらるゝ總てのもの, ……の總計, ……の一, ……の各種; 種, 種類 Abh-vy.; 衆生 Saddh-p. 因 一般に。

jātaka 形 (—°)に生まれたる; (或る星の下に)生まれたる; 生, 本生, 受生 Lanḅ., Bodh-bh. 男 嬰兒。 甲 誕生時の星辰の位置又は觀測; (佛陀の)本生譚; [星宿] 生處 Mañj-m.; 生經, 本生經, 降生經, 本生, 本生之事 Saddh-p., Lanḅ., Dharm-s., Mvyut.; 闍陀伽 Mvyut.

jātaka-mālā 女 [佛典の名, Āryaśūra 作]。

jāta-karman 甲 誕生の式, 誕生後の式典; 生子法 Buddh-c.

jāta-kāṅkṣa 形 競 Lal-v. 49.

jāta-kāma 形 愛する。

jāta-kopa 形 忿怒を發せる。

jāta-kautūhala 形 好奇心を起せる, 熱望せる。

jāta-kṣobha 形 興奮せる。

jāta-jāta 通受分 無量受生 Gand-vy.

jāta-tarṣa 形 渴望せる, 熱望せる (Buddh-c.).

jāta-trṣa 形 生渴仰 Sikṣ.

jāta-danta 形 齒の生ぜる(小兒)。

jāta-doṣa 形 罪ある。

jāta-naṣṭa 通受分 現はるゝや否や滅せる。

jāta-pakṣa 形 羽の生えたる。

jāta-pāsa 形 束縛せられたる。

jāta-putra 形 子を有する; (女)子を生みたる。

jāta-pūrva 形 先に生まれたる。

jāta-pratyaya 形 自信を有する。
jāta-prāya 形 殆ど起らんとする。
jāta-preta 通受分 (初めに)生じ而して(後に)死滅せる。
jāta-bala 形 力を得たる, 強くなれる。
jāta-buddhi 形 賢明になれる。
jāta-brāhmaṇa-sabda 形 (婆羅門なる語と共に生長せる), 恆に婆羅門に獻身せる。
jāta-bhi 女 [人名]。
jāta-manmatha 形 = jāta-kāma.
jāta-mātra 形 生まれしばかりの, たった今起れる; 始生, 纒生之後 *Divy., Kāśy.*
jāta-māsā 女 一箇月前に子を産める婦人又は牝牛。
jāta-mṛta 通受分 生後直ちに死せる。
jāta-rasa 形 味又は風味を有する。
jāta-rāga 形 恍惚たる (*Buddh-c.*)
jāta-rūpa 形 生來美貌なる, 美しき, 輝かしき; 黄金の。 甲 黄金; 金, 赤金, 眞金, 鑛性金 *Daś-bh., Lank., Bodh-bh., Mvyut.*; 生色 *Bodh-bh. 165.*
jāta-rūpamāya 形 女 -i 黄金の。
jātarūpa-rajata-sparśana 甲 觸金銀, 捉金銀 *Mvyut.*
jātarūpa-sīla 男 [黄金の山の名]。
jāta-rūpya 甲 金 *Lal-v.*
jāta-roma 形 髪の生えたる。
jāta-roṣa 形 = jāta-kopa.
jātavat 形 生まれたる; 語根 Jan の派生語を含む。
jāta-vāsaka 甲 産婦の室。
jāta-vāsa-gṛha 甲 [同上]。
jāta-vidyā 女 事物の起原又は要素に関する科學, 形而上學。
jāta-vinaṣṭa 通受分 = jāta-naṣṭa.
jāta-viśvāsa 形 自信を生ぜる, 自信を以て意氣込める。
jāta-vedas 形 萬物に関する智識を有する。 男 [*Agni* 神の稱]; (男) 火
jāta-vedasiya 甲 [或る讚歌の名]。
jāta-vedastva 甲 [*jāta-vedas* (形)の 抽]。
jāta-veśman 甲 = jāta-vāsaka.
jāta-sīlā 女 (實際の即ち)大塊の石。
jāta-sūnyatā 女 生空 *Lank.*
jāta-saṃvatsarā 女 一年前に子を産める婦人又は牝牛。
jāta-saṃvṛddha 通受分 生まれ且つ生長せる。
jāta-saṃkalpa 形 決心せる; ……に欲望を持てる。
jāta-samāna 形 初誕 *Suv-pr.*: ~prabhāsita-gātra 初誕身有妙光明, 即於生時身放大光 *Suv-pr. 40.*
jāta-sasneha 形 愛情を感ぜる。
jāta-sneha 形 [同上]。
jāta-harṣa 形 悦べる。
jāta-hārda 形 *jāta-sneha*; 友情に満てる, 有情を示す。
jātānukampa 形 同情せる (*Buddh-c.*)
jātāpatya 形 子孫を有する。
jātābhiṣaṅga 形 敗北せる。

jātāmarṣa 形 忿怒を發せる, 憤激せる。
jātāvamāna 形 自己輕蔑を以て充されたる。
jātāśru 形 涙を流す。
jātāstha (°ta-ās°) 形 勘考する, 考慮する。
jāti 女 誕生, 産出, 起原, 再生; 存在の形態(人・動物等); 存在, 生命; 状態; 生れながらの位置, 等級, 種姓(階級); 血統; 家族, 種族, 民族; 種屬[類屬の 抽], 族[個別の 抽], 種類, 階級; 性質; 通常の性格, 純正; 一般財産; 自家撞著の答: [一群の音律の名]; [歌法の一つ]; [植物の名, 學名 *Jasminum grandiflorum*]; 肉荳蔻(苴)樹, 肉荳蔻; 生, 出生, 初生, 世 *Divy., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Lank., Sikṣ., Abh-k., Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut.* 梵千等; 類, 種, 性, 種性; 類推; 斷後 *Daś-bh., Vijñ-t., Abh-k., Abh-vy., Nyāy-pr., Mvyut.*; 肉冠樹 *Mvyut.*; [樹の名, 香の名] 閻提 *Saddh-p.*: sarvasyām ~au (因) 生生世世 *Sikṣ. 14.* (具) ~tas, ° 圖 生れつき。
jātika 男 甲 (因) [花の名, 香の名] 生香, (香) 閻提華(香) *Saddh-p.* ° 形 [= jātiya]; 種 *Lank. 333.* → bāla ~。
jāti-kusuma 甲 肉冠花 *Mvyut.*; 閻底蘇末那(花) [*jāti-sumana*(!)] *Mvyut.*
jāti-janman 甲 生生 *Bodh-bh.*
jāti-jāti 女 生生 *Abh-vy.*
jāti-jānapada 形 種姓(階級)と地方とに関する。
jātitva 甲 抽象。
jāti-dharma 男 階級(種姓)の掟又は法規。
jāti-nirodha 男 生滅 *Suv-pr., Bodh-bh.*
jāti-panḍaka 男 生黃門, 男子轉爲黃門 *Mvyut.*
jāti-parivarta 男 轉生, 換生, 死 *Mvyut.*
jāti-parivṛtti 女 生の轉換又は繼續。
jāti-pratyaya 男 生緣 *Suv-pr.*
jāti-prasūta 形 從生有, 從生緣有 *Saddh-p.*
jāti-phala 甲 肉荳蔻(苴); 香王, 肉冠 *Mvyut.*
jāti-brāhmaṇa 男 生來の婆羅門。
jāti-bhāj 形 出生に屬する。
jāti-olraṃśa 男 種姓(階級)の喪失。
jātibhramśa-kara 形 種姓(階級)を失はしむる。
jāti-bhraṣṭa 形 種姓(階級)を失へる。
jāt m t 形 上流出身の; 一般概念の下に分類せられ得る; 有生 *Abh-vy.* -
jāti-maha 男 誕生の祝; 生日福, 生子筵 *Divy., Mvyut.*
jāti-mātra 甲 單なる階級; 出身のみに由來せる境遇。
jātimātropajivin (°ra-up°) 形 (その)種姓の名のみによりて生存せる。
jāti-lakṣaṇa 甲 種屬又は種類の區別, 特徴; 種族又は種姓の標章; 眞相 [*Tib. rig-kyi-mtshan-ñid*] *Lank. 37.*
jāti-vacana 甲 普通名詞, 種屬名詞。
jāti-vyativṛtta 形 死, 卒, 轉身, 離生, 生於他世 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Mvyut.*
jāti-sampanna 形 (高貴の)家族に屬する, 上流出身の; 族類圓滿 *Bodh-bh.*

jāti-sahasra-koṭi ㊦ 千生千萬億生, 百千生 *Suv-pr.*

jāti-smara ㊦ (前)生を想起せる; [聖地の名]; ㊦ 念, 念生, 宿念, 得宿命, 獲宿命, 憶宿命, 知宿命, 宿命智, 宿命通, 自識宿命, 宿命之念 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sam-r., Sukh-vy. I., Śikṣ., Mvyut.*

jāti-smaraṇa ㊦ (前)生の想起.

jāti-smaratā ㊦ [jāti-smara の ㊦]; ㊦ 善識宿命 *Sam-r.*

jāti-smaratva ㊦ [同上].

jāti-hina ㊦ (卑しき)家族に屬する, 卑しき出身又は階級の.

jāti ㊦ [jāti の稀なる語形]; 肉荳蔻(?)樹; ㊦ 生 *Śikṣ.*

jāti-kośa ㊦ 肉荳蔻.

jāti-paṭṭikā ㊦ 縫ひ繕ひ又は縫縫(?)をする女.

jāti-phala ㊦ = jāti-phala.

jātiya ㊦ 種姓(階級)に屬する, (一)の一族・種族・種類又は種屬の; (一)歳の (*Divy.*); ㊦ 一° 生, 本, 種類, 種類, 性類; 具自然; 猶如 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Abh-vy., Sūtr., Mvyut.:* evam ~ 如是種類 *Bodh-bh. 253.* → paṇḍita ~, bāla ~

jātiyaka ㊦ [同上].

-jātiyatā ㊦ 爲性 *Bodh-bh.*

jātu ㊦ 全然, 確かに; 少くとも, 概して; 曾て; 恐らくは, 多分; 或日, 或時; 一度; ㊦ 永; 嘗 *Saddh-p., Abh-vy.:* na śrūyate ~ 永不聞 *Saddh-p 162.* na ~, 少くとも……せず, 決して……せず, 決してなし [時として **cid** 又は **kadā cid** と共に]; ㊦ 未曾, 未嘗 *Vajr-pr., Rāṣṭr., Abh-vy.*

jātuka ㊦ [臘脂(?)を採取する樹の名].

jātu-dhāna ㊦ = yātu-dhāna.

jātuṣa ㊦ (㊦-*i*) 臘脂(?)製の, 臘脂を塗れる.

jātū-karṇa ㊦ [古學匠の名(醫師, 法典の作者等)]; ㊦ 胭脂耳(?) *Mvyut.*

jātū-karṇi ㊦ [*Bhavabhūti* の母の名].

jātūkarni-putra ㊦ [*Jātūkarni* の子なる *Bhava-bhūti* の子].

jātū-karṇya ㊦ *Jātū-karṇa* の後裔; [數人の學匠及び文法家の名].

jāterṣya (°*ta-ir*) ㊦ 嫉妬を生ぜる, 嫉妬深き.

jāteṣṭi (°*ta-is*) ㊦ 小兒(の誕生の時)に於ける供養.

jātaika-bhakti (°*ta-ek*) ㊦ ……に専ら獻身せる.

jātodaka (°*ta-ud*) ㊦ 水腫.

jātya ㊦ (一)の一族・種姓(階級)等に屬する; 同族の, 親戚關係ある; 高貴の; 純正なる; 生來の, 固有の (*svarita* アクセント); ㊦ 生, 生類, 種類 *Lal-v., Bodh-bh.*

jāty-antarita ㊦ (名動) 種族階級等を變ぜられたる.

jāty-antariyaka ㊦ 他の(後の)生に屬する (*Jāt-m.*).

jāty-andha ㊦ 生來盲目の; ㊦ 盲, 生盲, 盲人, 盲者, 瞎子 *Lal-v., Av-ś., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Śikṣ., Mvyut.*

jāty-andha-badhira ㊦ 兩 生來盲目にして聾なる.

jātyandha-bhāva ㊦ 生盲 *Śikṣ.*

jātyandha-bhūta ㊦ 生盲, 盲人, 盲冥, 喪失

目, 如是……生盲 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Rāṣṭr.*

jātya-ratnamaya ㊦ 貴重なる寶石より成る.

jāty-aśva ㊦ 純血種の馬.

jāty-utkarṣa ㊦ (種姓の優越即ち)上位の種姓(階級).

jāty-uttara ㊦ 斷之, 類答(?) *Mvyut.*

jāna ㊦ 起源, 出生地; [*Vṛṣa* の ㊦].

jānaka 1. ㊦ *Janaka* の後裔; [*Kratu-vid* 及び *Āyasthūna* の ㊦].

jānaka 2. ㊦ [*Jñā*] 知れる者; ㊦ 知, 知者, 識者 *Divy., Mvyut.*

jānaki ㊦ [*Kratu-jit* 及び *Āyasthūna* の ㊦].

jānaki ㊦ [*Sitā* の ㊦].

jānaki-deha-bhūṣa ㊦ [*Rāma* の稱].

jānaki-nātha ㊦ [*Sitā* の夫即ち *Rāma* の稱].

jānaki-rāghava ㊦ [或る戯曲の名].

jānaki-vallabha ㊦ [*Rāma* の稱].

jānakīśa (°*kī-īśa*) ㊦ = jānaki-nātha.

jānat ㊦ [*Jñā*] ㊦ 已知 *Abh-vy.*

jānanti ㊦ [或る師の名].

jāna-pada ㊦ 田舎に住する; 地方に關する; 地方人に關する, 地方人の爲の. ㊦ 田舎者; 臣民; ㊦ 人民, 庶民, 本地人, 卿下人; 聚落, 國 *Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.:* soḍaśa ~ 十六大國 *Lal-v. 22.* → naigama ~.

jānapadika ㊦ [*jāna-pada* より] 領土に關する.

jāna-padi ㊦ 地方的表現; [或る *Apsaras* の名].

jānarājya ㊦ [*jāna-rājan* より] 主權.

jānaśruti ㊦ [*Jānaśruta* の ㊦].

jānārdana ㊦ [*Pradyumna* の ㊦].

jāni ㊦ 妻 [一°は ㊦].

jānika ㊦ ㊦ 生, 起 *Lank.*

jānu (男) ㊦ 膝; [長さの單位 = 三十二 *Angula*]; ㊦ 膝 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sapt-pr., Mvyut., 梵千., 梵雜.:* ubhābhyām ~ bhyām dharāṇi-tale prāṇipatyā 雙膝著地, 以膝著地 *Gaṇḍ-vy. 338.*

jānuka ㊦ 膝 [概して一°は ㊦]. ㊦ [人名].

jānukā ㊦ (業)を生むこと.

jānu-cama ㊦ (誰かの)膝の上にて揺らるゝこと.

jānu-jaṅgha ㊦ [王の名].

jānu-daghna ㊦ (㊦-*i*) (上又は下より)膝に達する. ~e ㊦ 膝に達するまで.

jānudaghnāmbhas ㊦ 膝まで達する水を有する.

jānu-pracalana ㊦ = jānu-calana.

jānu-pratiṣṭhita ㊦ ㊦ (右)膝著地 *Gaṇḍ-vy.*

jānu-maṇḍala ㊦ 膝蓋骨 (*Kār-vy.*); ㊦ 膝, 膝輪, 膝蓋 *Vajr-pr., Sapt-pr., Lank., Bodh-bh., Mvyut.:* ubhau ~ e pṛthivyām pratiṣṭhāpya 長跪 *Av-ś. I. 2;* dvau ~ au pṛthivī-tale nikṣipya 長跪 *Divy. 387.*

jānumaṇḍala-nipatita ㊦ ㊦ 膝輪據地 *Bodh-bh.*

jānu-mātra ㊦ 膝の高さ. ㊦ 膝に達する, 膝に達する深さの. ~m ㊦ 至于膝 *Suv-pr*

jānu-sīras ㊦ = jānu-maṇḍala.

jāneya (未受分) ㊦ 智, 了知 *Śikṣ.*

jān-dhita ㊦ 習慣の.

jānmika ㊦ ㊦ 生 *Bodh-bh.*

jānv-asthi ㊦ 脛骨.
 jānv-ākna ㊦ 膝を屈せる.
 jāpa ㊦ 呟き; 誦すること; ㊦ 持誦, 誦念, 念誦; 呪法 *Guhy-s.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*
 jāpaka ㊦ (一)を低聲に誦する; 祈禱を誦する; 呟かれたる祈禱に關する. ㊦ (祈禱を)誦する祭官.
 jāpana ㊦ ㊦ [*<yāpana*] ㊦ 活 *Siks.*: *kāya* ~ 活身命 *Siks.* 131.
 jāpanā ㊦ ㊦ [*<yāpanā*] ㊦ 調, 調息, 活命 *Siks.* 137.
 jāpin ㊦ (一)を呟く, ...を低聲にて誦する; ㊦ 持誦人 *Mañj-m.*
 jāpya ㊦ 誦せらるべき; 呟かれたる祈禱に關する. ㊦ 誦せられたる祈禱; ㊦ 咒術, 發願祈請 *Buddh-c.*, *Ast-pr.*
 jābāla ㊦ ㊦ *Jabālā* の子; [人名]; ㊦ [*Veda* 學派の名].
 jābāla-śruti ㊦ *Jābāla* 學派の聖傳.
 jābāli ㊦ ㊦ *Jabāla* の後裔; [人名].
 jābālin ㊦ ㊦ *Jābāla* 學派.
 jābālopaniṣad (°la-up°) ㊦ [*Upaniṣad* (奧義書)の名].
 jāmadagna ㊦ (㊦ -i) *Jamad-agni* に關係ある或はより出でたる. ㊦ *Jamad-agni* の子孫; *Paraśurāma.*
 jāmadagneya ㊦ *Jamad-agni* の後裔.
 jāmadagnya ㊦ ㊦ [同上]; [人名]; *Jamadagni* 又は *Jāmadagnya* に關係ある或はより出でたるもの.
 jāmadagnyāyita (名動 ㊦ ㊦) ㊦ *Paraśurāma* の行へる如き殺戮.
 jāmā ㊦ 娘.
 jāmatr ㊦ [同系の母即ち義母を有する], 婿; 義兄弟 (姉妹の夫); ㊦ 夫, 女夫, 婚對 *Divy.*, 梵雜.
 jāmatrka ㊦ 婿.
 jāmatrtva ㊦ 婿たること, 婿の資格.
 jāmi ㊦ 血族の(兄弟又は姉妹), 關係せる, 同盟せる, 味方の, 自身の; ...に特別なる又は屬する; 習慣の, 通常の; ㊦ ㊦ 兄弟と姉妹の. ㊦ 兄弟又は姉妹の關係; 並葦; 同一; 反覆; 同義語反覆(㊦); 水. ㊦ 家長の女の親戚特に義理の娘; [女神の名].
 jāmi-kṛt ㊦ 親戚を作る.
 jāmitra ㊦ (*δέμετρον*) 第七の星宿.
 jāmitva ㊦ 親類關係, 血族.
 jāmi-samsa ㊦ 親戚によりて發せられたる呪詛.
 jāmi ㊦ (㊦) 婦人の親戚特に義理の娘, 嫁; [履.] 姉妹; [㊦] *Apsaras* の名].
 jāmbala ㊦ ㊦ [人名] 嚩婆羅 *Av-s.*
 jāmbava ㊦ *Jambū* 樹より來れる. ㊦ *Jambū* 樹の果實.
 jāmbavat ㊦ [*Rāma* に味方せる猿族の王の名]; [或る熊の王の名].
 jāmbila ㊦ [= *jānu-bila*] 膝關節.
 jāmbuka ㊦ 豺より出でたる, 豺に由來する.
 jāmbu-kāñcana ㊦ ㊦ (㊦) 閻浮金 *Lal-v.*
 jāmbū, ㊦ ㊦ [洲の名] 閻浮 *Saddh-p.*
 jāmbū-dvipa ㊦ ㊦ (㊦) 瞻部洲人 *Abh-vy.*
 jāmbū-dvipaka ㊦ *Jambu-dvipa* に住せる; ㊦

(㊦) 瞻部洲 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*; ㊦ 閻浮提 *Ast-pr.*: ~ ā *manusyāḥ* 瞻部洲人, 閻浮提人 *Ast-pr.* 212.

jāmbū-nada ㊦ (㊦ -i) *Jambū* 河より出でたる. ㊦ 黄金(の一種); 黄金の裝飾品; [湖の名]; ㊦ 紫金 *Guhy-s.*; (㊦) 閻浮(檀)金 *Gaṇḍ-vy.*; ㊦ 閻浮那提 *Saddh-p.*

jāmbūnada-prabha ㊦ 黄金の光輝ある.

jāmbūnada-prabhā-kāra ㊦ ㊦ 現紫金色光 *Guhy-s.*

jāmbūnada-prabhāsa ㊦ ㊦ [佛の名] 紫磨金色, (㊦) 閻浮那提金光 *Saddh-p.*

jāmbūnada-suvarṇa ㊦ ㊦ 紫金 *Ast-pr.*; (㊦) 閻浮金, 閻浮檀金, 瞻部捺陀金, 咎卜水金寶 *Lal-v.*, *Ast-pr.*, *Sukh-vy. I.*, *Mvyut.*

jāmbūnadābhāsa (°da-ābh°) ㊦ ㊦ [佛の名] (㊦) 閻浮金光 *Saddh-p.*

jāmbū-parvata ㊦ [山の名].

jāmbū-prabha ㊦ 黄金の光を有する.

jāmbūmaya ㊦ (㊦ i) 黄金の, *Jāmbū-nada* 金にて作れる.

jāya, [Janu の 現 ㊦].

jāyaka ㊦ 香木(の一種).

jāyadratha ㊦ *Jayad-ratha* に屬する.

jāyanta ㊦ [*Bharata* の ㊦].

jāyanti-putra ㊦ [或る師の名].

jāyanteya ㊦ = *jāyanta*.

jāyā ㊦ 妻, 配偶者.

jāyā-jīva ㊦ 彼の妻によりて生活する(俳優, 舞踊者)

jāyātva ㊦ 妻たること.

jāyānya ㊦ [病の一種].

jāyā-pati ㊦ ㊦ 妻と夫.

jāyā-yuta ㊦ その妻を伴へる.

jāyin ㊦ (一)を征服する, ...に勝つ.

jāyu ㊦ 勝利を得たる. ㊦ 藥.

jāyuka ㊦ [同上(㊦)].

jāra 1. ㊦ 愛人, 情人; 姦夫, 密夫. —° ㊦ (㊦ -ā) 情人を有する.

jāra 2. ㊦ [Jī] 老齡となれる.

jāra-garbha ㊦ 姦夫による子.

jāra-garbhā ㊦ ㊦ 姦夫によりて妊娠せる.

jāra-ghni ㊦ ㊦ 彼女の姦夫を殺害する.

jāra-ja ㊦ 姦夫によりて生れたる. ㊦ = *jāra-garbha*; 私生兒, 庶子.

jāra-janman ㊦ [同上(㊦)].

jāra-jāta ㊦ 姦夫によりて生れたる.

jāra-jātaka ㊦ [同上].

jāratā ㊦ (一)との戀愛關係, 情交, 姦通.

jāratkārava ㊦ [*Jaratkāru* 師の ㊦].

jārā ㊦ ㊦ → *jāra* 1.

jārā-saṁdhi ㊦ [*Sahadeva* の ㊦].

jārīni ㊦ ㊦ 姦夫を有する(女).

jāritva ㊦ ㊦ [*Pāli. jāratana*] 私通 *Prāt-m. I.* 5.

jāru-ja ㊦ 胎生の.

jārūthi ㊦ [町の名].

jārūthya 形 多量の肉を供ふる (*Aśva-medha* 祭). 男
[*Ayodhyā* の王の名].
jārya 甲 親交.
jāryaka 男 [獸の一種].
jāla 1. 甲 網; 頭髮の網; 係蹄; 鎖帷子(籠?), 針金の胃; 格子, 格子窓; 網細工; 稠密なる塊; 多數; 群; 種; 種類; 獅子の鬃; 蹠膜(神又は非凡なる人の手指又は趾の間の); 詐欺; 魔術, 幻影; 網, 羅網, 網縵, 罽羅, 帳 *Buddh-c., Saddh-p., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut., 梵千., 梵雜.*
jāla 2. 形 水の.
jālaka 甲 網; 蹠; 格子, 格子窓; 蕾の房; 多數; 群; 髮飾(の一種). 男 [樹の名].
jālaka-gardabha 男 [膿疱の一種].
jālaka-jāta 甲 蕘, 蝦蟇眼花 *Mvyut.*
jālaka-mālin 形 網狀に眞珠を飾れる.
jāla-karmān 甲 網漁.
jāla-kāra 男 蜘蛛.
jāla-kāraka 男 [同上].
jālakita 形 (一°)にて網の如くに覆はれたる.
jāla-kṣīrya 甲 [毒液ある植物の名].
jāla-gardabha 男 = *jālaka-gardabha.*
jāla-gavākṣa 男 格子窓.
jāla-gavākṣaka 男 [同上].
jāla-citrita 形 羅縵 *Rāṣṭr.*
jāla-daṇḍa 男 網の支柱.
jālam-dhara 甲 [地方の名]. 男 [或る *Asura* の名]; [民族の名].
jāla-pāṇi-pāda 形 [三十二相の一] 手足網縵, 指網縵 *Bodh-bh.*
jāla-pāṇi-pādatā 女 [三十二相の一] 手足網縵, 手足網縵相, 指網縵相 *Bodh-bh.*
jāla-pāda 男 蹠を有する鳥; [或る魔術師の名].
jāla-pāda-bhuja 形 蹠膜を具へたる.
jāla-pāsa 男 蜘蛛網の一本の絲.
jāla-pura 甲 [町の名].
jāla-baddha 形 網に罹れる.
jāla-bandha 男 畏; 係蹄.
jāla-mārga 男 窓.
jāla-mālā 女 網.
jāla-yantra 甲 罽羅機網, 罽羅網罟 *Lan̄k.*
jālavat 形 網を有する, 鐵網にて覆はれたる; 格子を備へたる, 格子窓ある.
jāla-vātāyana 甲 有網總孔 *Mvyut.*
jāla-samchanna 形 網羅覆其上 *Gand-vy.*
jālākṣa 男 格子窓.
jālāṅguli 形 足指網腕 *Lal-v.*
jālāṅgulika 形 指間に蹠膜ある (*Lal-v.*).
jālābaddhāṅguli-pāṇi-pāda-talatā (°la-āb°) 女 [三十二相の一] 網にて覆はれたる足の裏・手掌及び指を有すること (*Dharm-s.*); 手足指間に(金色)網縵相 *Dharm-s.*
jālā-mukha 甲 格子窓.
jālāya 名動 自 *jālāyate* 網を現出す, 網の如くに圍む.
jālāvanaddha 形 網縵, 縵網, 合縵 *Buddh-c.,*

Mvyut.

jālāvanaddha-hasta-pāda 形 [三十二相の一] 手足縵網, 手足指合縵網 *Mvyut.*
jālāvanaddhāṅguli 形 [三十二相の一] 網縵指, 手指縵網, 其指網縵, 網縵指相 *Buddh-c., Gand-vy.*
jālāṣa 甲 [特殊の鎮靜劑の一種].
jālīka 男 捕鳥者; 詐欺師; 羅網 *Saddh-p.*
jālīkā 女 網, 畏; 多數, 群; 面紗, 假面; 交露帳, 羅網帷帳 *Lal-v.*
jālin 形 … に假裝せる; 網縵 *Buddh-c.*
jālini 女 網, 羅網 *Lal-v., Mvyut.*
jālini-prabha 男 [菩薩の名] 網光, 網明 *Mvyut.*
jālini-mukha 男 [山の名] (*Kār-vy.*).
jālodgirṇa (°la-ud°) 形 格子より出づる.
jālorā 男 [或る *Agra-hāra* (婆羅門に下附せられたる土地)の名].
jālma 形 (女-i) 下賤なる, 卑劣なる. 男 惡漢, 卑劣漢.
jālmaka 男 [同上(男)].
jālya 形 網にて捕へられ易き.
jāva 男 勢速, 速疾 *Mvyut.*
jāvanikā 女 幕.
jāvātva 甲 俗 [*<jāyātva, Pāli. jāyattana*] 婦事 *Prāt-m. II. 5.*
jāvita 甲 顛, 走 *Mvyut.*
jāṣṭa 男 [人名].
jās-pati 男 家長.
jās-patya 甲 家長たること.
jāhaka 男 猊(籠?).
jāhasyamāna 名動 現分 → *Has.*
jāhuṣa 男 [人名].
jāhnava 男 *Jahnu* の後裔; [諸人の(父系)].
jāhnavi 女 *Gaṅgā* 河 [*Jahnu* の娘].
jāhnaviya 形 *Gaṅgā* 河に關係ある.
Ji, I. 他 *jayati*, 自 [主として *darā* 及び *vi* と俱に] *jayate* 勝つ, 捕ふ; 亡ぼす, 征服す; 打勝つ [戦闘・訴訟又は競技に於て]; 凌駕す; 鎮む, (情・疾病を)制す; (渴を)醫す; (從)より驅逐す; (業)より(業)を勝ち得る; 勝者となる(競技に於て); 負かす(訴訟に於て); [現 *jayati*, 命 *jayatu* 又は(通受分) 甲 + 四] 萬歳!; 降, 降伏, 能破, 超 *Lal-v., Bodh-c.* (通受分) *jita* 勝てる, 獲得せる, 征服せる; 打ち勝たれたる, (欲の)奴隸となれる; 捨てたる, 廢せる. (使役) *jāpayati* 勝たしむ, (業)より(業)を勝ちて得せしむ; 勝つ; 降, 降伏, 令降, 摧伏 *Suv-pr., Mvyut.* (希求) 他 自 *jigīṣat(-te)* 勝たんと欲す, 獲得又は征服せんと欲す; 捕獲品を切望す.
ava- ……より取り去る; ……を掠奪す; 迴避す; 勝つ, 征服す; 克服す, 回復す. (通受分) *avajita* 競争にて勝てる. (希求) 現分 *avajigīṣat* 勝たんと欲す, 回復せんと欲する.
ā- 勝つ, 征服す, 得る. (希求) 現分 *ājigīṣamāṇa* 勝たんと試むる或は希望する
ud- 勝つ, 得る; 征服す 勝者となる. (使役) *ujjāpayati* 勝利を助く; (業)として(業)に勝たし

む。

nis- 得る; 打勝つ, 征服す; 凌駕す; 降, 降伏, 破, 順化服 *Saddh-p.* (過受分) **nirjita** 勝てる, 征服せる, 獲得せる; 當然の(利益).

abhi-nis- 征服す; 抑制す; 征服, 降伏, 調伏 *Divy., Mvyut.* (過受分) **abhinirjita** 征服せる.

vi-nis- 得る; 打勝つ, 征服す; 凌駕す. (過受分)

vinirjita 全く征服せる, 勝てる.

parā- [一般に 固] 打勝つ, 征服す, 打負かす; 失ふ, 奪はる; 敗る; 破, 降, 摧伏 *Suv-pr.*; 敗退 *Divy.*; *parājayitu-kāma* 欲得摧伏 *Suv-pr. 85.*

(過受分) **parājita** 負かされたる, 破られたる, 打勝たれたる; (一°)に征服せられたる; 訴訟に敗れたる.

vi- [一般に 固] 勝つ, 獲得す; 征服す, 打勝つ, 破る; 凌駕す; 統御す 御制す; 勝者となる; (具)と戦ひて勝つ; [命] **vijayatu**, [理] **vijayati** 萬歳!;

勝, 降, 摧伏, 令其屈伏 *Lank.* (過受分) **vijita** 勝てる, 征服せる, 打ち負かせる, 獲得せる. (希求)

vijigīṣata(-ti) 勝たんと努む, 勝たんと欲す, 襲撃せんと欲す.

sam- 得る; 負かす; 完全に勝つ, 征服す. (固)

saṃjīyate 克服せらる, 征服せらる.

jikana (固) [或る法律家の名].

jigatnu (形) [Gam] 速かに行く, 急ぎ走る.

jigamiṣu (希求) (固) 將に行かんとする, 行かんと欲する.

jigarti (男) 嘸下する人.

jigīṣā (希求) (女) 得んとする願望, 期待; 征服欲, 野心.

jigīṣita (形) 獲得せんと望まれたる.

jigīṣu (形) 獲得・征服又は優越せんと欲する; 野心ある.

jigīṣutā (女) 競争心, 野心.

jigyu (形) 勝利の.

jighatsā (女) [GHas] 食欲又は食はんとする願望; 飢餓; 飢, 餓, 餓 *Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

jighatsita (希求) (過受分) (固) 飢, 飢(渴), 饑者 *Divy., Śikṣ., Mvyut.*

jighatsu (形) (固)を食はんと欲する. (固) [或る悪魔の名].

jighāṃsā (女) [Han] 打ち又は破壊又は殺害せんとする意志又は願望.

jighāṃsin (形) (一°)を殺害せんと欲する.

jighāṃsu (形) (固, 一°)を殺害又は破壊せんと企つる.

jighṛkṣā (女) [Grah] 取り又は捉へんとする欲望.

jighṛkṣu (形) (固, 一°)を捉へんと企つる, 掠奪せんと欲する; (水を)引かんと企つる; 集めんと欲する; 學ばんと欲する.

jighnate, → Han.

jīngī (女) [植物の一種].

jīviṣā (女) 生きんとする欲望.

jīviṣu (形) 生きんと欲する.

jīñāpayiṣu (形) (希求) (固) [Jñā] 知らしめんと欲する.

jīñāsana (固) 知らんとする欲望; 探究; 審知, 欲觀察 *Abh-vy.*

jīñāsana (女) ~m Kṛ 試觀 *Lal-v.*

jīñāsā (女) 知らんとする欲望; 探究; 調査; 欲知 *Sāmkhy-k., Mvyut.*; 試, 醒試, 觀 *Divy., Lank., Mvyut.*

jīñāsita (希求) (過受分) 調査せる, 探究せられたる.

jīñāsitaṅgī (希求) (未受分) 探究せらるべき.

jīñāsu (形) 會得又は吟味せんと欲する, 探究する.

jīñāśya (形) 調査せらるべき; 須試 *Lal-v.*

jīñāu (形) = **jīñāsu**.

jīta (形) 征服する; (一°)を獲得する; 勝, 降者 *Mvyut.*

jīta (過受分) → Ji. 勝, 服, 伏, 令伏, 降伏; 摧 *Lal-v., Sūtr., Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*; 已熟, 成熟, 淳熟 *Abh-vy.*; 降者 *Mvyut.*: ~m *adhyāvasati* 降者令安 *Mvyut.*

jīta-kāśi (形) 拳を握り緊めたる(?)

jīta-kāśitā (女) 勝利者の態度.

jīta-kāśin (形) 勝利を誇れる, 勝利者の態度をとれる.

jīta-kopa (形) 忿怒を克服せる, 忿怒を鎮めたる.

jīta-krodha (形) [同上].

jīta-klama (形) 疲労の感に打勝てる.

jīta-kleśa (形) (固) 除(一切)煩惱, 消滅結使 *Divy.*

jīta-dhāra (形) 降伏持 *Sūtr.*

jīta-pāśa (形) 降魔 *Māñj-m. 14.*

jīta-putra (形) 降伏子 *Sūtr.*

jīta-manas (形) その心を克服せる.

jīta-loka (形) 世界を征服せる.

jītavati (女) [人名].

jīta-vrata (男) [人名].

jīta-śatru (男) [佛の名]; [諸王侯の名]; [佛の名] 降怨, 降伏魔怨 *Lal-v.*

jīta-śīśnodara (°na-uā°) (形) 肉欲淫樂を棄てたる.

jīta-śrama (形) 勞苦を克服せる(即ち慣れたる); (固)に習熟せる.

jīta-śvāsa (形) 氣息を制することを知れる.

jīta-saṅga (形) 世俗の執着を克服せる.

jīta-hasta (形) その手を訓練せる.

jītākṣa (形) その感情を鎮めたる, 平静なる.

jītākṣara (形) 書に熟達せる, 容易に書く.

jītāṅkura (形) 降伏牙 *Sūtr.*

jītātman (°ta-āt°) (形) 自制せる; (固) 不執我人 *Vajr-s.* (男) [Viśvedevaの一].

jītāpsaras (形) Apsarasを凌ぐ.

jītāmīṭṭā (形) 敵を征服せる, 勝利を得たる.

jītāsana (°ta-ās°) (形) 席の使用を廢したる.

jītāhāra (°ta-āh°) (形) 食物への望みを克服せる.

jīti (女) 獲得; 勝利.

jītendriya (°ta-in°) (形) その感情を鎮めたる, 感官を制御せる.

jītendriyatva (°ta-in°) (固) 感情の征服.

jītvān (男) 勝利者.

jītvāra (形) 勝利を得たる; (一°)を征服する.

jīna (男) (勝者), 佛陀 (*Buddha*); *Jina* (教)の聖者; [Viṣṇu 神の稱]; 勝, 勝者, 最勝, 最勝者; 大覺; 佛, 佛陀, 如來 *Saddh-p., Daś-bh., Lank., Abh-vy., Mvyut.*, 支應; (固) 耆那, 耆那, 親那, 喇那

Guhya-s., 支那: aurasā putra ~sya 佛口所生子
Saddh-p. 35. 形 勝てる; 勝, 生(?) *Abh-vy.*
 387.

- jina-kara** 男 最勝手, 佛手 *Lank.*
jina-kāyatā 女 如來之身, 如來(法)身, 如來(最
 勝之)身 *Lank.*
jina-kula 男 佛家, 如來家, 最勝種 *Daś-bl.*
jina-gocara 男 最勝之境界 *Gand-vy.*
jina-cetika 男 俗 [°caitya] 佛塔 *Siks.* 306.
jina-janani 女 勝者を生む人, 勝者の母, 佛母 [pra:
 jūā-pāramitā を稱す] (*Prajñ-vy.* 12. 等).
jina-datta 男 [人名].
jina-dāsa 男 [人名].
jina-deva 男 (*Jina* 教の) Arhat.
jina-dharma 男 *Buddha* 又は *Jina* の教.
jina-dhātu 男 如來藏, 佛舍利, 佛之舍利 [舍利
 は śarīra の音寫. 佛の遺骸] *Lank.*
jinadhātu-stūpa 男 佛塔 *Rāstr.*
jina-puṃ-gava 男 最勝, 佛 *Lank.*
jina-putra 男 佛子, 最勝子, 最勝眞子 *Suv-pr.,*
Lank., Mañj-m., Bodh-bl., Siks., Mvyut. 菩薩
 [bodhisattva の音寫] *Lank.*
jina-pūja 形 供養佛, 如來供養 *Siks.*
jina-pūrvaka 男 過佛, 過去諸最勝 *Suv-pr.*
jina-bimba 男 尊像, 佛形像 *Siks.*
jina-buddha-gocara 男 諸佛所行之處 *Suv-pr.*
jina-maṇḍala 中 佛會, 佛衆會 *Gand-vy.*
jina-mitra 男 [人名].
jina-rakṣita 男 [人名].
jina-rāja-putra 男 佛子 *Kāśy.*
jinarṣi (°na-rṣi) 男 *Jina* 教の苦行者.
jina-vaktra 男 [佛の名] (*Lal-v.*).
jina-vigraha 男 佛像, 佛身 *Saddh-p., Siks.*
jina-śāsana 中 佛陀 (*Buddha*) の教義; 佛教
Siks.
jina-suta 男 勝子, 最勝子; 菩薩 [bodhisattva
 の音寫] *Lank.*
jina-stūpa 男 佛塔 *Siks.*
jina-svara-ghoṣa 男 佛音 *Siks.*
jināṅkura 男 [菩薩の稱] 佛苗, 最勝芽, 最勝
 萌芽 *Bodh-bl., Mvyut.*
jinātma-ja (°na-āt°) 男 佛子 *Lank., Rāstr.,*
Siks.; 菩薩 [bodhisattva の音寫] *Lank.*
jinādhāra (°na-ād°) 男 [菩薩の稱] 佛持, 佛本,
 最勝持, 最勝任持 *Bodh-bl., Mvyut.*
jinābhimukha 形 對諸佛, 觀見諸佛 *Gand-vy.*
jinābhisamaya 男 佛證, 佛證法 *Lank.*
jinendra (°na-in°) 男 諸の *Jina* の主, 佛陀 (*Buddha*);
 佛, 世尊 *Saddh-p., Kāśy., Lank.*
jinendra-gnoṣa 男 妙音聲 *Suv-pr.*
jinendra-putra 男 佛子 *Saddh-p.*
jineśa (°na-īśa) 男 (*Jina* 教の) Arhat.
jineśvara (°na-īś°) 男 [同上].
jinottama (°na-ut°) 男 [同上].
jinauras (°na-aur°) 男 佛子, 最勝子 *Lank.*
jinaurasa (°na-aur°) 男 佛子, 佛愛子, 勝最子,

最勝身子 *Lank., Mvyut.*

- jindu-rāja** 男 [人名].
Jinv, (因) I. 他 (自) **jinvati(-te)**; V. 他 **jinoti**
 [pra と俱にのみ]. 自ら動く, 活動的となる: 動か
 す, 急がす; 刺戟す, 勵ます; 助く, 促す.
 pra- 勵ます; 促す.
jimbha-jihvatā 女 舌の腫張.
jillika 男 種 [民族の名].
jivri 形 老衰せる, 老いたる. 男 時間; 鳥.
jiṣṇu 形 勝てる, 征服する. 優れたる; (業)を凌駕す
 る. 男 [人名].
jiṣṇu-ja 男 [人名].
jihāna 現分 → Hā I.
jihāsā 女 [Hā 2.] 棄てんとする欲又は意志.
jihāsu 形 (業)を棄てんと欲する.
jihirṣā 女 [Hr] 捕捉又は齋さんとする欲又は意志; 掠
 奪せんとする欲望.
jihirṣu 形 (業)を捕捉又は齋さんと欲する; 除去・掠奪
 又は移動せんと欲する.
jihma 形 傾ける, 斜の; 邪歪の; 斜視の; 虚偽の;
 欺く, 不正直の; 遅き, 怠惰なる; 不正, 邪歪;
 不和; 蔽, 映蔽; 冥, 暗冥 *Lal-v., Siks., Mvyut.*:
 sarvāni māra-bhavanāni karonti jihmā(ni) 映蔽
 一切魔宮殿 *Lal-v.* 296. 中 虚偽, 不正直, 表裏相反;
 奸計. ~m Car, 目的を失す.
jihma-kārin 形 不正・不義を行ふ.
jihma-ga 形 曲折して動く(蛇). 男 蛇.
jihma-gati 形 [同上(形)].
jihmatā 女 虚偽, 邪歪, 不正直, 表裏相反.
jihma-prekṣin 形 斜視の.
jihma-bāra 形 一方に孔隙を有する.
jihma-mina 形 魚の擬態を現はせる.
jihma-yodhin 形 不正に戦ふ.
jihma-śiras 形 頭の傾ける.
jihma-śi 形 横臥する.
jihmākṣa 形 斜視の.
jihmāya 名 中 **jihmāyati** 正道より外る; 自
 jihmāyate 斜視となる, 躊躇す.
jihmi-kṛta 形 蔽, 映蔽 [音寫, = jihmi-k°] *Lal-v.* 354.
jihmita (通受分) 屈曲せる, 曲げられたる, 蜿蜒たる;
 鈍くせられたる, 覆ひ隠されたる, 覆はれたる.
jihmi-kara 形 曲ぐる; 斜視にする; 覆ふ; 掩
 蔽 *Lal-v.*
jihmi-karaṇa 形 覆ふ; 蔽, 映蔽 *Lal-v.*
jihmi-Kṛ, 暗くす (*Lal-v.*); 隠蔽, 映蔽, 令隠
 蔽不現 *Lal-v., Rāstr.*
jihmi-kṛta 形 曲げられたる; 覆はれたる; 覆
 蔽, 墨聚 *Lal-v.*; 威鎮, 威勢(?) *Mvyut.*
jihmi-BHū, 覆はる; 不明瞭となる; 不現, 無
 観 *Rāstr., Siks.*
jihmi-bhūta 形 隠蔽不現 *Ast-pr.*
jihmetara (°ma-it°) 形 鈍ならざる.
jihva 男 舌. —° 形 舌 *Lal-v.* → pra:
 bhūta~, prabhūta-tanu~.
jihvaka 男 —° 舌; [熱病の一種].

jihva-viśodhani 女 舌清淨 *Sikṣ.*
jihva-śata 申 百舌 *Suv-pr.*
jihvā 女 舌; 舌 *Lank., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千.*
jihvāgra (°vā-ag°) 申 舌端.
jihvā-chedana 申 舌の切斷.
jihvā-tala. 申 舌の表面.
jihvā-dhātu 男 舌界 *Mvyut.*
jihvā-nirlekhana, 舌を掻く具.
jihvā-nirlekhanikā 女 [同上]; 刮舌子 *Mvyut.*
jihvā-niścāraka 形 出舌, 舒舌, 吐舌 *Prāt-m., Mvyut.*
jihvā-prathana 申 (發音上の缺點として)舌の擴大
或は過度に舌を平にすること.
jihvāmaya (°vā-ām°) 男 舌の病.
jihvā-mūla 申 舌の根.
jihvā-mūliya 形 舌根に屬する [Visarjanīya の一
種].
jihvāyatana (°vā-āy°) 申 舌處, 舌入 *Mvyut.*
jihvāla 形 = jihvāvat (形).
jihvā-latā 女 長き舌.
jihvā-laulya 申 貪食.
jihvāvat 形 (貪欲なる)舌を有する. 男 [人名].
jihvā-vijñāna 申 舌識 *Abh-vy., Mvyut.*
jihvā-vijñāna-dhātu 男 舌識界 *Mvyut.*
jihvā-stambha 男 舌の硬きこと.
jihvāsphoṭaka (°vā-ās°) 形 齶作聲(?) [舌と上
齶と相撃つ響(?)] *Mvyut.*
jihvendriya (°vā-in°) 申 舌, 舌根 *Saddh-p., Suv-pr., Mvyut.*
jita 過受分 → Jyā.
jina 申 [(a)j-ina 山羊の皮, → ajina] 皮囊.
jimūta 男 雷雲, 雲; 太陽; [人名]; 雷; 龍
Mvyut.
jimūta-keṭu 男 [Śiva 神の稱]; [小妖精 *Vidyādhara*
の王の名].
jimūta-varṣin 形 雲より雨を降らしむる.
jimūta-vāha 男 [人名].
jimūta-vāhana 男 [人名].
jimūta-svana 男 雷.
jira 形 速かなる, 活動する; 促進する, 刺戟を與ふ
る.
jiraka 男 申 葛樓子; 只蘭伽 *Mvyut.*
jira-dānu 形 速かに滴る, 豊富に流るゝ.
jirāśva 形 美しき或は駿足の馬を有する.
jiri 女 老齡.
jirṇa 過受分 → Jī. 老, 老弱, 衰老, 老羸, 老
邁僂仆; 萎; 衰; 朽, 朽故, 久故, 故舊, 舊; 瘦; 壞;
盡; 涸 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gand-
vy., Daś-bh., Bodh-bh., Madhy-v., Sikṣ., Mvyut.*
申 老衰, 老齡; 消化.
jirṇaka-vṛddha 形 老年 *Sikṣ.*
jirṇakavṛddha-śarira 形 老年身 *Sikṣ.*
jirṇa-kūpa 男 涸井 *Divy.*
jirṇa-grha 申 朽宅, 朽腐舎 *Sikṣ.*
jirṇa-jvara 男 長びく發熱.

jirṇatā 女 老齡; 老 *Sikṣ.*; 瘦瘠(?) *Mvyut.*
jirṇatva 申 [同上].
jirṇa-durbala 形 羸瘦 *Lal-v.*
jirṇa-dhana 男 [或る商人の名].
jirṇa-pattra 男 [樹の一種].
jirṇa-puṣpa 申 萎華, 萎花 *Saddh-p., Sikṣ.*
jirṇa-vāṭikā 女 廢朽せる家.
jirṇa-viṣa 男 [或る蛇使ひの名].
jirṇa-śakti 女 (因)を消化する力.
jirṇa-śata-khaṇḍamaya 形 (因-i) 百の磨滅せる
斷片より成る.
jirṇātura (°ṇa-āt°) 形 老病 *Gand-vy.*
jirṇāmaya-jvara (°ṇa-ām°) 男 長びく發熱.
jirṇi 形 老衰せる.
jirṇoddhāra (°ṇa-ud°) 男 破損せるものゝ修繕.
jirṇodyāna (°ṇa-ud°) 申 廢園.
jīla 男 [(a)j-ila. 山羊の皮] 皮革製の小囊.
Jiv, I. 因 (自) jivati(-te) 生く, 生存す, 生き残る;
[±punar] 蘇生す; (因)にて生く, …によりて自
身を支ふ; 活, 活命, 命, 命在, 現, 生存, 正生
Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy., 梵千. 汝に長壽あ
れ! 現分 jivat 生ける, 生存せる; 現, 生存,
正生 *Abh-vy.:* jivaṇ gacchati 生き續く, 生き残
る. 過受分 jivita 生ける, 生存せる [稀に]; [±
punar] 蘇生せる; 活氣づけられたる. 使役 他 (自)
jivayati(-te) 生かしむ, 蘇らしむ: …の生命を救
ふ或は有す; 支持す, 養育す; …の長壽を望む;
jivāpayati 蘇らしむ. 使役 過受分 jivita, jivā-
pita 蘇生せる. 使役 他 (自) jijivṣati(-te) 生き
んと欲す; (因)によりて生計を求む, …によりて
身を支へんと試む.
ati- 生き残る; (業)よりよき生活をなす.
anu- (業)の如くに生く; (業)の爲に生く, (業)に
委ぬ; (業)にて生く, …に支持せらる. 使役 他
anujivayati 蘇らしむ.
ā- (業)によりて存在す, …にて衣食す; (業)を用
ふ.
ud- 蘇生す. 使役 ujivayati 蘇らしむ, 活氣づ
かしむ.
praty-ud- 蘇生す. 過受分 pratyujivita 蘇生
せる. 使役 pratyujivayati 蘇生せしむ.
upa- 身を支ふ; …にて生く或はに頼る; 利用す,
實施す: vṛttim upa-Jiv 己の生計を得. 不変分
upajivya (業)に依持して, (業)の理由にて. 使役
upajivayati 利用す, 役立たしむ.
sam- 生く; 蘇生す. 使役 samjivayati 蘇生せ
しむ; 生存せしむ, 支持す.
jiva 形 存在する, 生活する, 生ける; (一°)によりて
生活する; 活氣をつくる; 健全なる(食物). 男 生
命の本元, 生命の息, (各個の)靈魂; [Marut 神の一
の名]; [音律の一種]; 命, 命者, 存命, 活命;
壽, 壽者, 壽命 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Rāṣṭr., Lank.,
Sikṣ., Madhy-v., Abh-vy., Mvyut.*; 神, 神我 *Aṣṭ-
pr., Sam-r.:* sa ~s tac charīram 命者即身, 身
即神 *Aṣṭ-pr. 556.*; anyo ~o 'nyac charīram
命者異身, 身異神異 *Aṣṭ-pr. 556.* → yāvaj ~m.

jivika 形 活 *Mvyut.* 男 [醫王の名] 耆婆 *Av-ś.*

jivikā 女 生活; 生活様式; 存続の方法; 生計; 命, 活命, 活計, 身命, 自存活; 資生物 *Divy., Bodh-bh.:* ~m kalpayanti 自活 *Ast-pr. 682.*

jivikābhīprāya (°kā-abh°) 形 爲活命 *Bodh-bh.*

jivita 通受分 [又た 使役 通受分] 生ける. → *Jiv.*
 甲 生物; 生命; 生活期間; 生計, 存続の方法; 命, 生命, 活命, 身命, 有命, 生活, 壽 *Divy., Av-ś., Saddh-p., Suv-pr., Rāstr., Guhy-s., Prāt-m., Śikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.,* 梵千, 梵雜: ~ād vyaparopayati 奪命, 斷命, 奪生命 *Prāt-m. I. 3., P. 61.;* ~sya dātri 賜與壽命 *Ast-pr. 529.*

jivita-kṣaya 男 生命の喪失, 死.

jivita-grdhnutā 女 生命に對する大なる愛著.

jivita-tṛṣṇā 女 生命の渴望.

jivita-da 形 生命を與ふる.

jivita-nātha 男 (人の)生活の主, 夫.

jivita-nirapekṣa 形 不惜身命 *Ast-pr.*

jivita-pariṣkāra 男 生活具 *Prāt-m.*

jivita-priya 形 生命の如く大切なる.

jivita-bhūta 形 曾て生ける, 死せる.

jivita-yopana 形 生物を虐ぐる.

jivitavya (未受分) 甲 生くべきこと [主語の 具 を伴ふ場合 非入 = 生くべきなり]; 生命の可能性; 生命の存続; 一定の生命; (複) 人生の快樂; 望み得る蘇生.

jivitavya-viṣaya 男 生活期間

jivitavya-samdeha 男 生命に關する危險.

jivita-samskāra 男 壽命, 命行 *Divy., Saddh-p., Abh-vy.*

jivita-sama 形 生命の如く大切なる.

jivita-hetos 從 副 設喪命, 乃至失命終 *Śikṣ., Mvyut.*

jivitākāṅkṣin (°ta-āk°) 形 生き残らんと欲する.

jivitātyaya 男 生命を失ふ危險.

jivitānta 男 生命の終, 死.

jivitāntaka 形 生命を終らしむる, [男 *Siva* 神の稱].

jivitānta-kara 形 生命を脅かす; 嚙尾 且引怛迦囉 *Guhy-s.*

jivitāntarāya 男 命難, 危命, 失壽命, 壞身命, 命根欲盡 *Ast-pr., Śikṣ.*

jivitārthika 形 求活命 *Sam-r.*

jivitāvadhī 形 生存中續く, 生涯繼續する.

jivitāvabhṛta 甲 (生命の淨化), 生命の終り;

jivitāvaśeṣa 男 餘命 *Śikṣ.*

jivitāśā (°ta-āśā) 女 生きんとする欲望, 生くべき希望.

jivitendriya (°ta-in°) 甲 命根 *Lank., Bodh-bh., Vijñ-v., Madhy-vibh., Mvyut.*

jiviteśa (°ta-iśa) 男 生命の主, *Yama* 神; 愛人, 夫.

jiviteśā (°ta-iśā) 女 戀人, 情婦.

jiviteśvara (°ta-iś°) 男 [*Siva* 神の稱]; 愛人, 夫.

jivitodvahana (°ta-ud°) 甲 生活を續くこと, 生命の延長.

jivitopakarāṇa (°ta-up°) 甲 資生具, 所養物

Daś-bh., Vijñ-t., Mvyut.

jivitoparodha (°ta-up°) 男 殺生, 斷命, 殺害 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*

jivin 形 [時の語と俱に一°] (一°)の閒生活する; [一般に一°] (一°)にて或はを爲して生存する; 活命, 養命 *Bodh-bh.* → *ciram*~, *āyudha*~. 男 生物.

jivendhana (°va-in°) 甲 燃ゆる木.

jivotsarga (°ta-ut°) 男 = *jiva-tyāga.*

jivornā 女 生ける動物の毛.

jivya (未受分) (甲) 非入 生くべし. 甲 生命.

jugupīṣu 希求 形 [Gup] 護らんと欲する.

jugupsana 希求 形 嫌惡する, 嫌厭の情を懷く; 離, 厭離, 穢厭, 厭賤, 不求, 棄捨 *Lal-v., Sam-r., Mañj-m., Śikṣ.*

jugupsaniya 希求 (未受分) 嫌惡すべき; 厭, 可厭, 厭患, 厭離, 訶厭 *Śikṣ.*

jugupsā 希求 女 嫌惡, 嫌厭; 嫌, 嫌厭, 厭離 *Sam-r., Mvyut.,* 梵千, 梵雜.

jugupsita 希求 (通受分) → *Gup.* 厭賤, 所惡賤, 所擯棄 *Saddh-p., Śikṣ.* 甲 嫌惡, 嫌厭; 嫌惡すべき行爲; 兇暴.

jugupsitatama 最上 最も嫌惡せる.

jugupsitavat 希求 (通能分) 忿恨 *Śikṣ.*

jugupsin 形 呵 *Sūtr.*

jugupsu 形 嫌惡する, 嫌厭の情を懷ける.

juṅgita 形 種姓(階級)より落されたる.

juṭikā 女 髮の房.

Jur, (因) 他 VI. *jurati*; IV. *jūryati* 老ゆ, 朽つ, 滅ぶ. (通受分) *jūrṇa* 老衰せる, 老いたる.

Juṣ, VI. 自 他 *juṣate(-ti)* 悦びを以て味ふ, 愛好す, 楽しく聞く, 好む, 喜ぶ; (因, 圓)を樂しむ; 喜ばさる; [*tanvas* と俱に] 自ら享樂す, 悦ぶ; (因)に獻身す, 實行す, 蒙る, 受く; (圓)を撰ぶ; 訪問す, 住す, 入る; 苦しむ; (因 不定)と決心す. (通受分) *juṣṭa* 喜べる; (因, 圓, 圓)の意に適へる; (因, 一°)によりて屢々來られたる, ……に好まれたる, 望まれたる, 愛せられたる, 歡迎せられたる或は訪問せられたる; 住まはれたる; ……に曝されたる, ……を具へたる. (使役 自 他) *joṣayate(-ti)* 好む, 愛す, 寵愛す; 贊成す; 撰ぶ.

anu- (因)を訪問す; 探す; ……に獻身す, 熱中す.

abhi- 好む; 訪問す, 屢々行く.

pra- (通受分) *prajuṣṭa* (因)を喜べる, ……に執著せる.

prati- (業)に對して優しくす, 尊敬す, 奉仕す; (業)を喜ぶ.

juṣ 形 (一°)に熱心なる; (一°)に住める; (一°)を訪る, ……に近づく; 所有する, 示す; (一°)の如き, ……と等しき.

juṣāṇa 男 [*juṣāṇa* なる語を含む祭詞の名].

juṣitu-kāma 形 欲倚, 欲在 *Mvyut.*

juṣṭa (通受分) → *Juṣ.* 所食之味 *Lank.*

juṣṭatama 最上 甚だ歡迎せられたる.

juṣṭi 女 好意; 満足.

juhurat 現分 他 → *Hvṛ.*

juhurāṇa 現分 自 → Hvr. 男 月(太陰).
 juhū 女 舌(特に Agni 神の); 焰; (牛酪等を)供儀する
 時用ふる柄杓.
 juhūṣu 希求 形 [Hu] (薬)を供へんと欲する.
 juhōti 男 [Hu の 三入 單] [juhōti なる語によりて
 示されたる供儀法(祭式の術語), svāhā と唱へて供物
 を火中に投ずる供儀(yajati の 對)].
 juhōti-yajati-kriyā 女 視 juhōti と yajati とをな
 すこと.
 juhv-āśya 形 舌を顔とせる (Agni 神).
 Jū, (因) I. 自 javate, IX. 他 junāti 早む; 促す,
 鼓舞す; 促進す; 變異 puro javate 引至 Siks.
 通受分 jūta 促されたる, 驅られたる.
 pra- 速く進ましむ.
 jūjuvas 三過分 (他) 速き.
 jūjuvāna 二過分 (自) [同上].
 jūṭa 男 辮髪(苦行者及び Siva 神の).
 jūṭika-bandha 男 辮髪.
 jūta 1. 通受分 → Jū.
 jūta 2. 中 俗 [<dyūta] 突 梵干.
 jūti 女 速きこと, 速度; 衝動, 煽動, 精力.
 jūtimat 形 性急の, 躁急の.
 jūra 男 損害; 敵.
 jūrṇa 通受分 → Jur.
 jūrṇi 女 輝く火, 焰; 火の武器.
 jūrya 形 老いたる.
 Jūrv, I. 他 jūrvati 熱にて侵蝕す, 焦がす, 焼く.
 Jṛ 1. 自 jarate (因) (火が)パチパチと音す; 呼ぶ,
 勸請す, 祈る.
 Jṛ 2. I. 自 jarate (因) 覺む; 動く, 近づく.
 jṛṅga 男 種 [民族の名].
 Jṛmbh, I. 自 (他) jṛmbhate(-ti) 欠伸す; 開く;
 擴ぐ, 増す; 起る; 甦る, 勇氣を出す; 氣樂にす.
 通受分 jṛmbhita 開かれたる, 擴げられたる, 増大
 せる.
 ud- 廣く開く; 起る, 現る.
 sam-ud- 擴ぐ; (匠)の爲に努力す.
 vi- 欠伸す; 増す; 擴ぐ; 起る, 見ゆ; 頻申
 欠伸 Lal-v., Aṣṭ-pr.; 奮迅 Lank. 現分 vijṛm-
 bhamāṇa 頻申欠伸 Lal-v.: ~ān kaksān
 darśayanti sma 示現腋下 Lal-v. 320.
 sam- 見ゆ, 現る.
 jṛmbha 男 欠伸; 開くこと, 開花; [鳥の一種]; (一)
 の示現.
 jṛmbhaka 男 欠伸する者, [惡鬼の一種]; [呪法の名];
 視 [敵を欠伸せしめ麻痺せしむる魔法の武器].
 jṛmbha-kara 形 欠伸せしむる.
 jṛmbhakāstra 中 = jṛmbhaka (視).
 jṛmbhaṇa 形 欠伸せしむる. 中 欠伸; 開花; 伸張;
 (四肢の)弛緩.
 jṛmbhaṇikā 女 欠伸.
 jṛmbhā 女 欠伸, 開きたる口; 開花.
 jṛmbhita 通受分 → Jṛmbh. 中 出現.
 Jṛ, I. 他 jarati (因) 老年にす, 老衰せしむ; IV. 他
 (稀に 自) jiryati(-te) 老年となる, 弱くなる, 衰弱
 す, 疲勞す, 過ぎ行く; 破滅す, 死す; 分解す, 消化

せらる; 變異 老, 衰異, 老變異; 銷, 消服 Lal-v.,
 Abh-vy. 通受分 jirṇa 老いたる, 老衰せる; 衰微
 せる; 疲勞せる, 萎れたる, 萎縮せる; 腐蝕せる, 倒
 れたる; 消化せられたる. 硬役 jarayati(-te) 老年
 ならしむ, 疲勞せしむ; 消化す; 消化せられしむ;
 消化 Divy.

jeta-vana 中 [<jetr-vana] Jetr の林 [佛陀が説法
 をなせし Srāvastī 附近の林の名]; 勝林, 戰勝
 林, 勝氏 支應; (音寫) 誓多林, 逝多林, 祇洹林, 祇樹
 林, 祇陀樹林 Divy., Lal-v., Av-ś., Gaṇḍ-vy., Vajr-
 pr., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Mvyut., 支應; (音寫) 祇樹,
 祇陀, 逝多, 祇洹, 祇桓, 祇陀婆那, 移多婆那, 逝多
 婆那 支應.

jeta-vaniya 男 種 [佛教部派の名]; 勝林部;
 (音寫) 只底刺 [caitika の 音寫] 部 Mvyut.

jetavya 未受分 征服せらるべき; (中 非入) 征服せら
 るべきなり.

jetu-kāma 形 勝利を欲する.

jetṛ 男 勝利者; 征服者; [佛教を信ぜしめる王子の名].

jetva 形 得らるべき.

jerya 形 貴族種の, 貴族出身の; 純正の; 眞の.

jeman 形 勝利の. 男 勝利を得たること.

jemana 中 食ふこと.

jeya 未受分 征服せらるべき, = jetavya.

jelaka 男 [人名].

jeṣa 男 得ること.

jeṣṭha-māsa 男 [=jyaṣṭha] 猛夏月 Lal-v.

Jeh, I. 自 jehate 大口を開く; 喘ぐ, 甚だ渴す.

jaikaśūnya 男 [人名].

jaigīṣavya 男 聖仙の名, Jigīṣu の 系; 持祇沙 Buddh-c.

jaijāta 男 [薬に関する著作者の名].

jaitra 形 (女 -i) 勝利を得たる, 勝誇れる; 勝利に導
 く. 中 勝利.

jaitra-yātrā 女 凱旋行列.

jaitra-ratha 男 凱旋車.

jaitriya 中 勝利.

jaina 形 (女 -i) Jina に關聯せる. 男 Jaina (教徒).

jaināyatana (na-āy) 中 Jaina 王朝.

jaini 女 Jaina (教)の教説.

jaimini 男 [Pūrva-mīmāṃsā 派哲學の開祖の名].

jaiminiya 形 Jaimini に關する. 男 Jaimini の學
 徒; 視 [Sāma-veda の一學派の名]. 中 Jaimini
 の著作.

jaimūta 形 Jimūta 聖仙に關聯せる.

jaiva 形 (女 -i) 各個の靈魂(jīva)に關する.

jaivala 男 [Jivala の 系].

jaivali 男 [同上].

jaivātrka 形 長命なる, 長壽なるべき, (その人の)長
 壽を希ふ. 男 月(太陰).

jaiṣṇavya 形 (女 -i) Jīṣṇu に關する.

jaihmya 中 詐欺, 瞞著.

jaihva 形 舌(jihvā)に關聯せる.

jaihvyā 中 味(覺).

jōṅga 中 蘆薈(?).

jōṅgaka 中 [同上].

joda 男 頤; 頤 頤, 顔 *Mvyut.*

jontaka 男 頤 房 *Mvyut.*

jomā 女 [笑の一種]; 笑 *Divy.* → *hilimā*

jola, [或る混血種姓(階級)の名].

joṣa 男 満足, 喜悅. ~m 随意に, 欲するまゝに; 欣びて. ~m *Ās* 満足す; 和らく, 沈黙す.

joṣaṇa 甲 (一°)の歡喜; (一°)を選ぶこと.

joṣayitavya 便役 (未受分) (熟考を要せずして)嘉みせらるべき.

joṣayitr 形 愛する, 慈愛する, 養育する.

joṣṭr 形 [同上].

joṣya 形 悦ばしき, 嬉しき.

johūtra 形 喧噪なる; 高く嘶ける.

jñā 形 (一°, 時として 國, 因)を知る, 了解する, 熟知する; 賢明なる, 知識ある; 了, 知, 能知, 能識, 得悟, 得曉, 善解, 善了知, 善能解了, 如實知 *Divy., Lan̄k., Bodh-bh., Mvyut.:* *indra-jāla-vidhi* ~ 善解技術 *Divy. 320.* → *ātma* ~. 男 理智; 水星; 智 *Bodh-c.*; 我 *Sāṃkhy-k.*

jñā-kāra 男 *jñā* の字又は音; (音寫) 孃字 [四十二字門の一]: ~m *parikīrtayato loka-sambhava-vijñapti-mukhaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukhaṃ avakrāntam* 唱孃(上聲)字時能甚深入般若波羅蜜門名出離世間智慧門 *Gaṇḍ-vy. 449.*

jñatā 女 智慧, 知識; (一°)に關する熟知又は知識.

jñatva 甲 智慧.

jñapita 便役 (過受分) [= *jñapta*] → *Jñā.*

jñapta 便役 (過受分) → *Jñā.*

jñapti 女 理解, 確知; 智慧の修練; 理智; 解, 想, 請; 白 *Mvyut.:* *muktikā* ~ *h* 單白 *Mvyut.*

jñaptika 形 (一°)の理解, 確知.

jñapti-karman 甲 白羯磨(音寫), 白辯事 *Mvyut.*

jñapti-caturtha 甲 動議を三回提出し第四回目に決定すること; 白四, 三請 *Mvyut.:* ~m *karma* 白四羯磨, 第四羯磨 *Divy. 356., Vin.*

jñapticaturtha-karman 甲 → *karman.*

jñapticaturthopasampanna (°*tha-up*°) 形 白四(羯磨)受具足戒 *Abh-vy.*

jñapti-dvitiya 形 白二 *Mvyut.*

jñam-manya 形 自己を聰明なりと考ふる.

jñā-sakti 女 思考力.

Jñā, Ⅸ. 他 自 *jānāti, jānite, jān-* 知る; ……を察知す, ……の知識を有す, (因)に由りて認識す; 悟る; 覺ふ, 經驗す, 確かむ, 檢す; 是認す; (業)を(業)なりと知る, ……と考ふ, ……と假定す, ……と推測す; 認む, 證す, 許す; (國)と知合になる, 友として訪ふ; (國)を記憶す; 如何に(不定)すべきやを知る; 自(國)に従事す; 知, 能知, 解, 測, 證, 能識, 明達, 能明了, 普明了, 了, 了知, 能了知, 了達, 思惟, 籌量 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Suv-pr., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵干. jāne* [挿註的に用ゐらる] 我は知る; *na Jñā* 何事も知らず, 關知せず; *ka evaṃ jānite* [因と俱に] 或は然らん; *mṛṣā Jñā* 虚偽なりと考ふ.

受 *jñāyate* 測, 可解 *Abh-vy.* (過受分) *jñāta* 知れる; 思へる; 了解せられたる, 想像せられたる, 考へられたる; 覺えたる, 經驗せる; 考へたる(體);

mayā jñātam 我は思へり. 便役 *jñāpayati* (業)に教ふ; *jñāpaya-* 教ふ, 訓ふ, 通知す; 陳述す, 報告す; (業)を(業)なりと知らしむ; 自 *jñāpayate* 請求す, 乞ふ; 罵說 *Abh-vy.* 便役 (過受分) *jñapta, jñapita* 教へられたる; *jñapita* 知らしめられたる, 教へられたる, 告げられたる; 希求 自 [紋詩] は又た 他 *ji jñāsate(-ti)* 知らんと欲す, 覺ふ或は了解す; 取調ふ, 吟味す; 確かむ; (業)に關する報知を望む. 希求 便役 他 *jñāpsati, jījñāpayiṣati* (業)を(業)なりと知らしめんと欲す.

anu- 承諾す; 約束す; 認可す; 許す, 従ふ; (何人か 國)を宥す; (業)を正しとす, ……を許容す, ……に許可を與ふ; 去ることを許す, 送り出す; 聽, 許, 放; 讚 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Sapt-pr., Lan̄k., Vin.* 便役 *anujñāpayati* (何人か 國)に許可を乞ふ; (業)に暇乞ひす.

abhy-anu- (國)に(業)を許す; (不定)を許可す; ……に同意す, 贊成す; 正しとす; 送り出す; (業)に暇乞ひす; 了知, 通達遍知, 印可, 開許, 正開許 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.* (過受分) *abhyanujñāta* 許されたる, 認められたる; (因)に好まれたる; 出發を許されたる, 解任せられたる. 便役 *abhyanujñāpayati* 去ることを乞ふ.

sam-aru- (業)を全く許す, ……に全く同意す, ……を認む; 送り出す. 便役 *samanujñāpayati* (業)に暇乞ひす; (因)よりの好意を求む; 挨拶す.

abhi- 了解す, 悟る, 知る; (業)を(業)と認む或は見做す; [因と俱に] 記憶す; 知, 了, 解, 憶 *Vajr-pr., Lan̄k., Bodh-bh., Abh-vy.*

praty-abhi- 認識す, 知る; 了解す; 正氣づく. (過受分) *pratyabhijñāta* 認められたる, 知られたる. 便役 *pratyabhijñāpayati* 想ひ出す.

ava- 見下す, 輕蔑す, 頓著せず; 超越す; 否認す; 起輕易想, 薄, 心不珍 *Buddh-c.* (過受分) *ava-jñāta* 侮蔑を伴へる, 輕蔑を以て與へられたる(施物等).

ā- 思ふ, 注意す, 注目す; 悟る, 聞く; 了解す; 考ふ; 知, 了知, 解, 得解, 能解, 達了, 通達, 悟入, 觀 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Vajr-pr., Lan̄k., Abh-vy., Mvyut.* 便役 *ājñāpayati(-te)* 命令す; (業)を(國, 因)に命ず; 指令, 勅, 教所作, 令所作, 賜言教, 化導, 策勸 *Divy., Saddh-p., Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.:* *na parān ājñāpayati dānāya* 非策他勸施 *Bodh-bh. 122.* 便役 (過受分) *ājñāpita, ājñapta* 命ぜられたる.

sam-ā- 知る, 認識す; 認む, 確かむ; 知り合となる. (過受分) *samājñāta* (體)として知られたる. 便役 *samājñāpayati* 命令す, 指示す. 便役 (過受分) *samājñapta* 命ぜられたる, 指示せられたる.

upa- 案出す, 發見す; 確かむ. (過受分) *upajñāta* 案出せられたる, 發明せられたる; 自ら確められたる; 前に知れる.

sam-upa- = *sam-ā-Jñā.*

nis- 辨別す, 見出す.

pari- 注意深く観る, 確かむ; 十分に知る; (業)を(業)として認識す; 知, 遍知, 了知, 見 Gand-vy., Bodh-bh., Abh-vy. (通受分) **parijñāta** 全く知られたる, 覚えられる; (一)として知られたる.

pra- 知る, 識別す, 認識す; 見出す, 発見す; 了解す, ……に就て知る; 知, 了知, 覺, 覺知, 觀知, 能正了知, 知見, 智覺, 識; 解; 信; 受; 觀 Lal-v., Saddh-p., Suv-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut. (現分) **prajānat** 信, 識, 解 Suv-pr. (受) **prajñāyate** 見, 現, 知, 了知; 顯; 有; 說, 辯; 可得施設 Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Abh-vy., Mvyut. (通受分) **prajñāta** 知られたる; 熟知の; (業)として知られたる; 普通の.

(使役) **prajñāpayati, prajñāpya-** 途を示す; 露はす; 召喚す; 設, 施設, 敷設, 假設; 制, 立, 制立, 假立, 建立, 假建立; 敷, 安施, 安置; 教令; 流布; 名, 假名, 假說 Divy., Lal-v., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-t., 梵雜; **prajānāyati** 知, 了知 Sukh-vy. I. 9.:

mama māṅcam prajñāpayasva 汝可安施牀座 Saddh-p. 410. (使役) (通受分) **prajñāpta** 設けられたる(席) (Divy.); **prajñāpita** 裏切られたる, 暴露せられたる.

anu-pra- ……の途を見出す, 辿る; 発見す.

sam-pra- 識別す, 認む, 正確に或は完全に知る; 知, 正知, 自知, 觀知; 覺, 知覺, 覺悟 Divy., Buddh-c., Lal-v., Aṣṭ-pr., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.

prati- 許す; (業, 業)に(業)を約束す; 自 確かむ, 確言す, 答ふ; 斷言す; 發表す, 討究す(自); 考慮す, 注意す, 認識す, 覺ゆ; 許, 認許; 謂, 言, 自言, 自稱, 自稱歎, 自號言說; 知識 Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Bodh-bh., Mvyut.: **satyaṃ prati-Jñā** 毅然に約束す. (受) **pratijñāyate** 許 Abh-vy. (通受分) **pratijñāta** 許されたる, 知られたる, 約束せられたる 是認せられたる; 公表せられたる, 話されたる; 是認すべき, 望ましき. (使役) (通受分) **pratijñāpita** 裏切られたる.

sam-prati- 約束す.

vi- 區別す, 識別す; 知る, 認む, 了解す; 正確に知る; 知識を得る; (業)より覺ゆ; 見出す, 確かむ; (……の運命を)考ふ; (業)を(業)なりと或は (yad なることを)觀察す; (因)に於て認む; (業)を(業)なりと見る; 説明す, 宣言す; 知, 解, 識, 了知, 了別, 解了, 分別, 正了知, 審 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Suv-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Sikṣ., Abh-vy., Bodh-bh. (現分) **vijñānamāna** 能解, 能廣知 Suv-pr. (受) **vijñāyate** (當局に)認めらるる規定せらる; 了, 顯, 顯示 Bodh-bh., Abh-vy.: **mā vijñāyi** (之を) (業)なりと見做さしむる勿れ. (使役) **vijñāpayati** 宣言す, 報告す, (業)を(業)なりと宣言す; 知らしむ, 通告す; 話しかく; (-artham, prati, 業)に就て求む, ……を乞ふ; (業)につきて(業)に告ぐ; 告, 遍告, 仰啓; (他)令, 教, 令知, 令了知 Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.; 假立 Sapt-pr.; 悵望 Saddh-p.:

paro vijñāpayati 他教, 他令 Abh-vy. 374. (使役) (通受分) **vijñāpta** 知らしめられたる, 報告せられたる, 告げられたる. (希求) **vijijñāsati(-te)** 知り或は了解せんと欲す.

abhi-vi- 覺ゆ, 悟る. (使役) **abhivijñāpayati** 令解, 現前解 Mvyut.; 遍告 Saddh-p.: svareṇa abhivijñā ayati 以聲令解, (其)音現前解 Mvyut. **prati-vi-** 喜びて承知す; 知, 覺, 了 Laṅk. **sam-vi-** 同意す; 忠告す; 了解す. (使役) **samvijñāpayati** 知らしむ, 暗誦す.

sam- 自 (因, 因, 業)に同意す, ……と同意見を有す, ……と協和す; 自 (業)に従ふ; 自 指摘す, 意を向く; 認む, 所有す(佛敎); 知, 正知, 了知, 正了知, 正了達, 能知; 想, 念; 解, 解了, 能了解, 分別, 生分別; 生心, 起想; 曉; 號 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Saddh-p., Mañj-m., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut. (受) **samjñāyate** 名 Saddh-p. (受) (現分) **samjñāyamāna** 了知, 所解 Abh-vy. (通受分) **samjñāta** (一)に知られたる, 了解せられたる; (一)に決心せる. (使役) **samjñāpayati(-te)** 鎮む, 満足せしむ; (犠牲の獸を)殺す; (業)に合圖す; 同意見ならしむ, 一致せしむ; 了解せしむ; 命ず, 教ふ; 了解, 實解; 化, 教導; 曉諭; 陳, 辭謝 Divy., Kāśy., Bodh-bh., Mvyut. (使役) (通受分) **samjñāpita** 殺されたる, (犠牲として)屠られたる.

jñāta (通受分) → Jñā. 知, 能知, 了 Sapt-pr., Sūtr., Abh-vy., 梵千.; 名 Saddh-p. **jñāta-kulina** 形 知名の族に屬する. **jñātatā** 知られたること, 了解せられたること. **jñāta-mātre** 確められたるのみにて. **jñātavya** (未受分) 確かめらるべき, 了解せらるべき, 調べらるべき; 學ばるべき; (業)と考へらるべき; 解, 所知 Aṣṭ-pr. **jñāta-sarvasva** 形 衆知の. **jñāti** 男 近き血族; 親戚; 親, 親族, 親屬, 親戚, 親友, 宗親, 鄉親, 眷屬, 眷族; 親里; 恩愛 Divy., Av-ś., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Laṅk., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut. → ~sālohitā. **jñātika** 形 親里 Bodh-bh. **jñāti-karman** 甲 親戚の職務. **jñāti-kārya** 甲 親戚の義務. **jñāti-kula** 甲 眷屬 Lal-v. **jñāti-gaṇa** 男 諸親族 Saddh-p. **jñāti-grha** 男 親里家 Divy. **jñātitva** 甲 血統; 親族關係. **jñāti-dāsi** 女 (家事をなす)奴婢. **jñāti-putra** 男 親戚の子. **jñāti-prabhuka** 形 親戚中に於て上位なる. **jñāti-prāya** 形 特に血族の爲の. **jñāti-bāndhava** 男 親愛, 眷屬及親衆 Sam-r. **jñāti-bhāva** 男 親族關係. **jñāti-bhāvatas** 男 親族關係の爲に. **jñāti-bheda** 男 親戚間の鬭争. **jñātimat** 形 近き親戚を有する. **jñāti-madhya-gata** 形 近住, 親戚中住 Mvyut. **jñāti-mukha** 形 親族の容貌を有する.

jñāti-rakṣita 形 漢譯 親眷護, 骨肉護 *Mvyut.*
 jñāti-varga 男 漢譯 親屬 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāti-vid 形 近き親戚を有する或は作る.
 jñāti-vyasana 中 漢譯 親屬所衰亡 *Bodh-bh.*
 jñāti-saṃgha 男 漢譯 諸眷屬 *Rāṣṭr.*
 jñāti-sālohitā 男 漢譯 親屬, 親眷, 親里, 眷族 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Śikṣ.*
 jñātr 男 知れる者; 了解する者, 知己; 證人.
 jñātrtva 中 知識.
 jñāteya 中 親族; 親族の感情.
 jñātra 中 智的能力, 理解; 漢譯 智者, 智慧, 眷族 *Bodh-bh.*
 jñāna 中 知ること; 知識; 眞の或は優れたる知識 [時として 國]; 智慧; 企圖; 假定; 意識; 感覺器官; 漢譯 智, 慧, 智慧, 正智, 勝智, 妙智; 了, 知, 了知, 證知; 識; 念; 知見 *Divy., Saddh-p., Vajr-pr., Rāṣṭr., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Nyāy-pr., Madhy-vibh., Mvyut., 梵千.; 智厭 Sāṃkhy-k. 44.; 音寫 閻那 Madhy-vibh.: pañca ~ āni 五智 [1. dharma-dhātu-viśuddhi ~ m 清淨法界智, 2. ādarśa ~ m 大圓鏡智, 3. samatā ~ m 平等性智, 4. kṛtyānuṣṭhāna ~ m 成所作智, 5. pratya-vekṣaṇā ~ m 妙觀察智] *Mvyut.*; daśa ~ āni 十智 [1. dharma ~ m 法智, 2. para-citta ~ m 他心智, 3. anvaya ~ m 類智, 4. saṃvṛti ~ m 世俗智, 5. duḥkha ~ m 苦智, 6. samudaya ~ m 集智, 7. nirodha ~ m 滅智, 8. mārga ~ m 道智, 9. kṣaya ~ m 盡智, 10. anutpāda ~ m 無生智] *Mvyut.* ~ tas 國 知りて; 原因を知りて.
 jñāna-karman 中 漢譯 智業 *Śikṣ.*
 jñāna-kāṇḍa 中 高遠なる知識に関する(天啓書等の)部分.
 jñāna-kāma 形 漢譯 知欲, 欲知利 *Mvyut.*
 jñāna-kāya 男 漢譯 智身 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-ketu 男 漢譯 [佛の名] 智幢 *Lal-v.;* [Samādhiの名] 智相, 智幢相 *Mvyut.*
 jñānaketu-dhvaja 男 漢譯 [天子の名] 智幢 *Lal-v.*
 jñāna-kovida 男 漢譯 有智人, 有智者 *Divy.*
 jñāna-kautūhala 中 知識の熱望 (*Jāt-m.*).
 jñāna-kṣānti 女 漢譯 智忍 *Laṅk.*
 jñāna-khadga 男 漢譯 智慧劍 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-gati 女 漢譯 智境界 *Laṅk.*
 jñāna-gamya 形 知識によりて達し得る.
 jñāna-garbha 男 漢譯 [菩薩又は古師の名] 智藏, 智慧藏 *Mvyut.*
 jñāna-gūha 形 知識を隠せる.
 jñāna-gocara 男 漢譯 智行, 智所行, 智境界, 慧境界 *Gaṇḍ-vy., Laṅk.*
 jñāna-ghana 男 純粹なる或は單なる知識.
 jñāna-cakṣus 中 知識の眼, 心眼, 知的の觀察力. 形 知識の眼にて見る.
 jñāna-candrodāgamatā (°ra-ud°) 女 漢譯 智光出現 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-jñeya 中 漢譯 知可知, 智所知 *Laṅk.*
 jñāna-tapas 中 知識を得る爲の苦行.
 jñānatas 國 承知して, 故意に. → jñāna.*

jñānatva 中 知識たること.
 jñāna-da 男 知識を傳ふる者.
 jñāna-datta 男 漢譯 [古師の名] 智施 *Mvyut.*
 jñāna-darśana 中 漢譯 知見, 智見, 慧見, 見智慧, 正智見 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.* → vimukti ~. 男 [菩薩の名] (*Kār-vy.*).
 jñānadarśana-pāramitā-prāpta 形 漢譯 (音寫) 知見波羅蜜皆已具足 *Saddh-p.*
 jñāna-darśin 形 漢譯 知見 *Sukh-vy. I.*
 jñāna-divākara (°va-āk°) 男 漢譯 慧日 *Saddh-p.:* vitimira ~ prabhā 慧日破諸闇 *Saddh-p. 452.*
 jñāna-dirgha 形 遠隔のものを見る(眼); 遠隔のものを知る; 先見ある.
 jñāna-nidhi 男 知識の寶庫; [*Bhavabhūti*の師の名].
 jñāna-niṣṭha 形 學問又は正しき知識(の養成)に従事せる.
 jñāna-panya 男 知識を賣物にする者.
 jñāna-parama 中 漢譯 究竟智 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-paryanta 男 漢譯 智邊際 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-pātra 中 知識にて有名なる人.
 jñāna-pāramitā 女 漢譯 智到彼岸; (音寫) 智波羅蜜, 智波羅蜜多 *Madhy-vibh., Mvyut.;* (音寫) 閻那波羅蜜 *Madhy-vibh.*
 jñāna-pāvana 中 [聖地の名].
 jñāna-pūrva 形 知識によりて導かれたる即ちよく考へられたる.
 jñānapūrva-kṛta 形 正しき知識によりて爲されたる, 計劃通りになされたる.
 jñāna-pūrvam-gama 形 漢譯 智爲前導 *Mvyut.*
 jñāna-pracāra 男 漢譯 智行 *Suv-pr.*
 jñāna-pradipa 男 知識の燈; 漢譯 大智光明 *Guhy-s.*
 jñānapradipa-vajra 男 漢譯 [Samādhiの名] 智燈金剛 *Guhy-s.*
 jñāna-prabha 男 漢譯 [菩薩の名] 智光, 慧光, 慧智光 *Mvyut.*
 jñāna-prasthāna 中 漢譯 [論書の名] 發智, 發智(論), (入)智界, 入禪度論 [禪度は *khaṇḍa* の (音寫) *Abh-vy., Mvyut.*
 jñāna-plava 男 船の如き知識.
 jñāna-badhya 形 [=°vadhya] 漢譯 依智斷, 智割斷 *Laṅk.*
 jñāna-bala 中 漢譯 智力 *Bodh-bh., Dharm-s.*
 jñāna-bhūta 形 漢譯 眞實慧 *Śikṣ.*
 jñāna-maṇḍala 形 漢譯 智圓滿, 智慧圓滿 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-manomaya 形 漢譯 智意生, 意生智 *Laṅk.*
 jñānamaya 形 (女 -i) 知識によりて成れる, 知識を含める.
 jñāna-māyopama (°vā-up°) 形 漢譯 如幻智 *Laṅk.*
 jñāna-mārga 男 知識の道.
 jñāna-mālā 女 [或る著作の名].
 jñāna-mukha 中 漢譯 智門 *Gaṇḍ-vy.*
 jñāna-mudrā 女 [mudrāの一種]; 漢譯 智印, 智(手)印 *Mvyut.*
 jñānamudrā-samādhi 男 漢譯 [Samādhiの名]

(音寫)智印三昧, 慧印三昧 *Saddh-p.*
jñāna-meru 男 漢譯 [佛の名] 智山, 高智(如來) *Lal-v.*
jñāna-yajña 男 [書名].
jñāna-yoga 男 理論的の Yoga: 精神的努力に基づく Yoga.
jñāna-raśmi 男 漢譯 智光, 智光明, 慧光明 *Gaṇḍ-vy.*
jñānaraśmi-kiraṇa 男 漢譯 智光普照 *Gaṇḍ-vy.*
jñānaraśmi-pramuñcana 中 漢譯 普放智光明, 普放慧光明 *Gaṇḍ-vy.*
jñāna-rāja 男 漢譯 智王 *Gaṇḍ-vy.*
jñāna-rājya 中 漢譯 智王 *Mañj-m.*
jñāna-lakṣaṇā 女 (感覺にては知得し得ざる)直觀的知識.
jñāna-vajra 男 漢譯 金剛智杵 *Divy.*
jñānavat 形 知れる; 學べる; 優秀なる知識を有する, 知識ある, 賢き; 漢譯 具智, 有智, 智慧具足 *Saddh-p., Sikṣ., Mvyut.*
jñāna-vardhana 形 漢譯 增長智慧, 長養智慧 *Gaṇḍ-vy.*
jñāna-varman 男 [或る詩人の名].
jñāna-vaśitā 女 漢譯 智自在, 智降伏, 主智 *Madhy-vibh., Dharm-s., Mvyut.*
jñānavāśitāśrayatva (°tā-āś) 中 漢譯 智自在依, 智自在所依 *Madhy-vibh.*
jñāna-vaśitva 中 漢譯 智力 *Sūtr.*
jñāna-vāri 中 漢譯 智水, 智慧水 *Laṅk.*
jñāna-vijñāna-vedin 形 聖智・俗智に通ぜる.
jñāna-vibhūti-garbha 男 漢譯 [菩薩の名] 智足藏 *Mvyut.*
jñāna-viṣaya 男 知識の對象; 漢譯 智境 *Suv-pr.*
jñāna-vṛddha 形 知識の進める.
jñāna-vaipulya-sūtra 中 漢譯 [書名 = *Prajñāpāramitā-sūtra*]般若 [*Pāli. pañña = prajñā* の (音寫)] *Sikṣ.*
jñāna-śarīra 中 漢譯 智身, 智爲身, 智體 *Gaṇḍ-vy., Laṅk.*
jñāna-śāstra 中 豫言術, 占術.
jñāna-śūnyatā 女 漢譯 空智 *Madhy-vibh.*
jñāna-śūra 男 漢譯 [佛の名] 智勇 *Sam-r.*
jñāna-śreṣṭha 形 最も智慧の勝れたる.
jñāna-saṅga 男 知識への執著; 知識の魅力.
jñāna-satya 中 漢譯 智諦, 智實 *Bodh-bh.*
jñāna-saṃtati 女 知識の永續.
jñāna-saṃtāna 男 [同上].
jñāna-saṃdarsana 中 漢譯 知見 *Lal-v.*
jñāna-samudra 男 漢譯 智慧(大)海, (福)智(大)海 *Suv-pr.*
jñāna-sampad 形 漢譯 智具足, 知成就, 圓滿智 *Laṅk.*
jñāna-sambhāra 男 知識の充實 (*Lal-v.*); 漢譯 智慧資糧, (妙)智資糧, 慧衆具, 智慧衆具, 智慧莊嚴 *Bodh-bh.*
jñāna-sambhṛti 女 漢譯 智聚 *Sūtr.*

jñāna-sāgara 男 漢譯 智海 *Gaṇḍ-vy.*
jñāna-siddhi 男 [人名]; [佛典の題名].
jñāna-sūrya 男 漢譯 智日 *Gaṇḍ-vy.*
jñāna-skandha 男 漢譯 智蘊, 慧蘊, 智聚 *Sukh-vy. I., Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*
jñāna-hāni 女 漢譯 智慧所滅 *Sikṣ.*
jñānākara (°na-āk°) 男 漢譯 智藏 *Sūtr.*; [人名] 智積 *Saddh-p.*
jñānāgni 男 (智慧の火), 善惡の辨別.
jñānāgra 中 漢譯 最上智, 最勝智 *Guhy-s.*
jñānāgra-sādhaka 形 漢譯 最勝智成就 *Guhy-s.*
jñānāṅkura 男 漢譯 智慧(根)芽 *Gaṇḍ-vy.*
jñānāṅkura-virūḍha 形 漢譯 增長(一切)智慧(根)芽 *Gaṇḍ-vy.*
jñānājāti 女 漢譯 無生智, 智慧無生 *Madhy-vibh.*
jñānājñāna-kṛta 形 知りて或は知らずして行へる.
jñānātmaka (°na-āt°) 形 漢譯 智身, 以智爲體 *Laṅk.*
jñānātman (°na-āt) 男 睿智.
jñānānabhisamkāra 男 漢譯 不作智, 智慧無造作 *Madhy-vibh.*
jñānānimitta 中 漢譯 無相智 *Madhy-vibh.*
jñānānutpāda 男 知識の生ぜざること, 無知; 漢譯 無起智, 智慧無起 *Madhy-vibh.*
jñānāprañihita 中 漢譯 無願智 *Madhy-vibh.*
jñānārṇava 男 (知識の海), 賢人.
jñānāloka (°na-āl°) 男 漢譯 智光, 智炬, 智光明, 智慧光, 智慧光明 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ.*; 智眼 *Gaṇḍ-vy.*
jñānāvabhāsa 男 漢譯 智光 *Suv-pr.*
jñānāvalokālamkāra 男 [佛典の題名].
jñānāvasthita 形 正しき知識(の養成)に従事せる.
jñānāsi 形 劍術を心得たる; 知識を武器とせる.
jñānāsvabhāvatā 女 漢譯 無自性智, 智慧無自性 *Madhy-vibh.*
jñānitva 中 卜占, 占術.
jñānin 形 知れる, 了解せる, 賢明なる; 高遠なる知識を有する; 漢譯 一° 解, 智, 智者 *Daś-bh., Mvyut.*; *dharmā-* 解法 *Daś-bh. 95.* 男 占術者, 占星家.
jñānecchā-kriyā-śakimat (°na-ic°) 形 知識・意志及び行爲の能力を有する.
jñānendriya (°na-in°) 男 知覺又は感覺の器官; 知根.
jñānopāya (°na-up°) 男 漢譯 智方便 *Saddh-p.*
jñānolka (°na-ul°) 男 漢譯 [Samādhiの名] 智炬 *Mvyut.*
jñānolka-dhāraṇi 女 [佛典の題名: 智炬陀羅尼經].
jñānolkā-samādhi (°na-ul°) 男 漢譯 (音寫) 慧炬三昧, 慧光三昧 *Saddh-p.*
jñāpaka 形 (因-ikā) 知らしむる, 教ゆる, 指示する; 暗示する; 漢譯 證, 爲證, 誠證 *Abh-vy.* 男 請願の管理者(官吏). 中 教規; 他の規則を補ひて解すべき(文法)規則; 漢譯 證 *Abh-vy.*
jñāpaka-hetu 男 漢譯 令知因, 令知正語 *Mvyut.*
jñāpana 中 告知, 指示, 暗示; 漢譯 令知, 令解, 覺悟, 教誨; 顯 *Lal-v., Abh-vy., Sikṣ.*
jñāpaniya 便符 (未受分) (體)として知らしめらるべ

Mvyut.: kule ~h 親中敬其長老輩 *Mvyut.*
jyeṣṭhya 甲 優先; 長子たること。
iyaiṣṭha 男 [曆月の名: 五月一六月]; 孟夏 *Mvyut.*; 三月 梵雜。
iyaiṣṭhasāmika 形 *Jyeṣṭha-sāman* に關聯せる。
iyaiṣṭhineya 男 父の最年長の妻の子。
iyaiṣṭhi 因 *Jyaiṣṭha* 月に於ける満月の日。
iyaiṣṭhya 甲 優先; 長子たること。
iyok 副 長き間, 永く。
iyok-Kṛ, 長びく, 延引す。
iyoktamām 副 最も長く。
iyog-aparuddha 形 長く放逐せられたる。
iyog-āmayāvin 形 長き間病める。
iyog-jivātu 因 長き生涯。
iyoti-pāla-sūtra 甲 [經名] (*Mah-v.*)
iyotir-agra 形 光(によりて先導せられたる=)を放射する。
iyotir-anika 形 輝ける顔を有する。
iyotir-īśa 男 [或る著作者の名]。
iyotir-īśvara 男 [同上]。
iyotir-gaṇa 男 天體; 星宿, 諸星, 星聚 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
iyotir-jarāyu 形 輝ける覆ひに圍まれたる。
iyotir-jñā 男 天文家。
iyotir-iyotiṣ-parāyaṇa 形 從明趣明, 從明入明, 自明中向明行 *Mvyut.*
iyotir-jvalanārci-śri-garbha 男 [菩薩の名] 發光德藏, 光熾盛焰吉祥藏 *Mvyut.*
iyotir-dhāman 男 [Manu の世期 (*Manv-antara*) の聖者の名]。
iyotir-nirbandha 男 [或る星學書の名]。
iyotir-bhāsin 形 光り輝ける。
iyotirmaya 形 光にて成れる, 輝ける; 星多き。
iyotir-lekhā 因 [或る *Yakṣa* の娘の名]。
iyotir-loka 男 光の世界。
iyotir-vid 形 星を知れる。 男 天文家。
iyotir-vidyā 因 天文學; 識星宿 *Mvyut.*
iyotiś-cakra 甲 黃道帶, 十二宮。
iyotiḥ-sāstra 甲 天文學。
iyotiṣa 甲 天文學 [六 *Vedāṅga* の一]; 星, 觀星, 星宇, 天文, 天文生 *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Mvyut.* 男 [呪法的一種]。
iyotiṣika 男 天文家。
iyotiṣka 男 [植物の一種]; [或る *Nāga* の名]; [人名]; [人名] 火生 *Divy.* 甲 [(*Arjuna* の持てる)輝ける武器の名]。
iyotiṣ-kaṇa 男 火花。
iyotiṣ-kara 男 [花の名] 作光 *Mvyut.*
iyotiṣ-Kṛ, 照らす。
iyotiṣ-kṛt 形 光を創造する。
iyotiṣtama 最上 最も輝かしき光を發散する。
iyoti-ṣṭoma 男 = *iyotiḥ-ṣṭoma*。
iyotiṣṭva 甲 輝くこと, 光輝。
iyotiṣ-pakṣa 形 光る翼を有する。
iyotiṣ-parāyaṇa 形 趣明白者 *Bodh-bh.*
iyotiṣ-prabha 男 [王侯の名]; [佛の名] 火光,

炎光, 照曜光 *Sukh-vy. I.*; [梵衆 *Brahma-kāyika* の名] 光明 *Saddh-p.*; [菩薩の名] 火光, 星光 *Mvyut.*; [花の名] 星光 *Mvyut.*

iyotiṣ-prabhā-ratna 甲 星光寶, 寶光 *Mvyut.*
iyotiṣ-praroha 男 (光の放射); 光線。
iyotiṣ-prahina 形 視力を奪へる, 失明の, 盲目の。
iyotiṣmat 形 光に満てる, 光れる, 輝ける; 天の。 男 太陽; [人名]; [山の名]; 具光 *Mvyut.*: ~ān kumāra-bhūtaḥ 具光孺童 *Mvyut.*

iyotiṣ-mati 男 [菩薩の名] 光慧, 炎熾慧 *Mvyut.*: ~h kumāra-bhūtaḥ 光慧法王子, 炎熾慧法王子 *Mvyut.*

iyotiṣmati 因 [Triṣṭubh 音律の一形]。

iyotiṣya 形 輝ける。

iyotiḥ-ṣṭoma 男 (光の讚美), *Soma* 祭(の一種) [*Agni-ṣṭoma*, *Ukthya*, *Ṣoḍaśin* 共に *Atirātra* の四或は以上の四種と *Atyagni-ṣṭoma*, *Vājapeya* 共に *Āptoryāma* の七種を含む]。

iyotis 甲 光明, 光輝; 火; 眼光, 眼; 月光; 光明世界; 智慧; 生命の光, 自由, 歡喜, 勝利; (兩) 日月; (複) 天體, 星辰; 光, 明, 光明, 明白, 光聚, 焰光, 炬火 *Buddh-c.*, *Saddh-p.*, *Mañj-m.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*; 星, 星辰, 星宿 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Abh-vy.*; 樹提 *Sikṣ.*

iyotis-tamaḥ-parāyaṇa 形 從明趣闇, 從明入冥, 自明中向暗行 *Mvyut.*

iyoti-rathā 因 [河の名]。

iyoti-rasa 男 [(光の露), 寶石の一種]; 喜宿, 歡喜 *Mvyut.* 形 *Jyotirasa* 石にて成れる。

iyotirasa-maṇi 男 星色寶 *Mvyut.*

iyoti-rūpa 甲 輝ける形, 光輝の姿。

iyotirūpa-svayambhū 男 光の形をなす *Brahman* 神。

iyotsnā 因 月光; 月明の夜; (複) 光明, 光輝; 光明, 明月光, 晴明 *Mañj-m.*, *Bodh-bh.*: ~āyā rātryā 晴明夜, 明月之時 *Bodh-bh. 390.*

iyotsnā-kālī 因 [月神の娘の名]。

iyotsnāḍhya (°nā-ādh°) 形 光輝に満てる。

iyotsnā-dīpa 男 燈月, 月燈光 *Laṅk.*

iyotsnāmaya 形 (因-i) 月光にて成れる。

iyotsnāvat 形 月明の(夜); 輝ける。

iyotsnikā 因 [或る歌女の名]。

iyautsna 男 (月明の半分), 一箇月の中の(月の)明るき半分。

irayas 甲 延長, 空閒, 平面。

Jri, I. 他 *irayati*。

upa- (案)に行く。

Jvar, I. 他 *jvarati* 發熱す。 (過受分) *jvarita* 熱ある, 熱病に罹れる。 (復受) *jvarayati* 熱病を起さしむ。

sam- 苦めらる。

jvara 男 熱; 苦痛; 悲歎; 熱, 熱惱, 惱熱, 苦惱; 瘧, 瘧病, 熱病, 疫癘, 瘟疫 *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mañj-m.*, *Abh-vy.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*, 梵雜。 → *nir*~

jvara-ghna 形 解熱する。

jvara-paridāha 男 熱惱 *Daś-bh.*

jvara-pralāpa 男 精神錯亂せる譫語。

jvara-hara 形 = jvara-ghna.

jvarāpaha 形 [同上].

jvarita 通受分 熱ある。→ Jvar. 燃 熱 *Sikṣ.*

jvarin 形 [同上].

Jval, I. 他 [使役] は又た [自] jvalati(-te) 燃ゆ, 焼く, 焦がす, 白熱す, 閃く; 赤熱す; 燃, 然火, 然熾, 熾然, 炎熾, 作光焰; 照 *Buddh-c., Saddh-p., Lan̄k., Sūtr., Madhy-v.* 通受分 jvalita 焦がされたる, 燃えたる, 閃ける, 輝ける。

[使役] jvālayati 點火す; 輝かしむ, 照らす; 燃 *Lal-v.* 強意 jājvalati, jājvalyate 激しく燃ゆ; 赫々と照らす; 熾然, 熾盛 *Buddh-c., Saddh-p.*; 強意 現分 jājvaly- amāna 激しく燃ゆる; 熾盛 *Saddh-p.*

ud- 燃え上る; 輝く; 照耀 *Bodh-bh.* [使役]

ujjvālayati 燃え上らしむ, 點火す; 照らす。

pra- 燃え始む, 閃き始む; 燃え上る, 輝く; 出燄, 出光明, 發猛焰火 *Bodh-bh., Mvyut.* 通受分

prajvalita 赫々たる, 燃ゆる; 輝ける。[使役] pra- jvālayati 點火す; 燃え上らしむ; 然, 出火 *Divy., Saddh-p., Sukh-vy. I.* [使役] 現分 prajvā- layat 然 *Sukh-vy. I.*

ati-pra- 強く燃え上る, 強く耀く。

sam-pra- 燃え上る, 發火す。通受分 sampra- jvalita 燃えたる。[使役] samprajvālayati 點火す; 燒 *Saddh-p.*

abhi-vi- …の方へ輝く; …に對して燃ゆ。

sam- 燃ゆ。[使役] samjvālayati 點火す, 燃やす。

jvala 男 焰; 火, 光明; 熾盛 *Saddh-p., Gand- vy., Sam-r.*

jvalac-charira (°at-śa°) 形 輝ける體を有する (*Bu- ddh-c.*).

jvalat 現分 燃ゆる; 照らす等。男 燃ゆる火。

jvalattva 甲 光輝。

jvalana 形 燃ゆる, 照らす; 熾盛 *Mvyut.* 男 火; 苛性加里; 火 *Divy.* 甲 燃ゆること; 光, 然, 熾然, 熾盛, 光熾盛; 照耀; 顯著 *Divy.,*

Gand-vy., Bodh-bh., Mvyut. → arci ~.

jvalana-kaṇa 男 火花。

jvalana-prakāśa 形 照耀 *Sikṣ.*

jvalanā 女 [*Takṣaka* の娘の名].

jvalanāgni 男 火熾 *Suv-pr.*

jvalanādhipati 男 [佛の名] 光明王 *Sukh-vy. I.*

jvalanārca-sikhin 形 氣毒煙火燃 *Saddh-p.*

jvalanolka (°na-ul°) 男 [Samādhi の名] 炬熾然, 燃炬光 *Mvyut.*

jvalanta-sikhara 女 [或る *Gandharva* の少女の名] (*Kār-vy.*).

jvalita 通受分 → Jval. 熾, 熾然, 焰然, 猛焰 *Lal-v., Daś-bh., Sikṣ., Bodh-bh.*; 入嚙隸多 *Guhy-s.* 甲 照耀, 光輝。

jvalitānala 男 猛火, 火焰 *Sikṣ.*

jvalitr 形 輝く。

jvalojjvalita-tejas (°la-uj°) 形 騰光普照 *Gand- vy.*

jvāla 男 焰; 燈, 炬火; 光, 焰, 火焰, 炎光, 焰光 *Lan̄k., Guhy-s., Sikṣ., Mvyut.*

jvāla-pramuñcana 形 出火焰 *Sikṣ.*

jvāla-mālākula (°la-āk°) 形 赫々と輝く。

jvālā 女 光輝; 焰, 輝く光; 焰, 大焰, 火焰, 燈光 *Saddh-p., Lan̄k., Guhy-s., Abh-vy.*

jvālā-jihva 形 燃ゆる舌を有する。男 火, *Agni* 神; [人名].

jvālā-dhvaja 男 火。

jvālā-mālin 形 焰に圍まれたる。

jvālā-mukha 男 (焰の口), [妖怪の一種]; [或る *Brahma-rakṣana* の名].

jvālā-megha 男 熾盛雲 *Guhy-s.*

jvālā-līṅga 甲 [*Siva* 神の殿堂の名].

jvālita [使役] 通受分 燃 *Rāstr.*

jvālin 形 燃ゆる (*Siva* 神).

jvāli-bhūta 形 → eka ~.

jvalojjvalita (°la-uj°) 形 光焰熾然, 普照 *Gand- vy.*

JH

jha-kāra 男 *jha* の音又は字; 閻字 [五十字門の一]: ~e *jhaṣa-dhvaja-bala-nigrahaṇa-śabdah* (→ *a-kāra*) 唱閻字時出降一切魔軍衆聲 *Lal-v. 127.*

jham-kāra 男 唸ること; ジャラジャラと音すること。

jham-kārita 甲 [同上].

jham-kārin 形 ガラガラ言ふ; 唸る; ジャラジャラと音する; 響く。

jham-kṛta 甲 頤 = *jham-kāra*.

jhamjhaṇa 甲 錚々, 憂々。

jhamjhā 女 嗚音 [同上]; (風の) 咆吼。

jhamjhānila (°jhā-an°) 男 吼ゆる風, 雨を伴へる風。

jhamjhā-marut 男 [同上].

jhamjhā-māruta 男 [同上].

JHṭ, [ud- のみ].

ud- 通受分 ujjhatita 混亂に陥れる。

jhatiti 副 直ちに, 即座に。

JHṇ, I. 他 jhaṇati 響く。

jhaṇaj-jhaṇita 形 チリンチリンと鳴る。

jhaṇajjhaṇāya 名動 自 jhaṇajjhaṇāyate 鳴る, ガラガラ鳴る。通受分 jhaṇajjhaṇāyita ガラガラ鳴れる。

jhaṇajjhaṇā-rava 男 チリンチリンと鳴る音。

jhaṇat-kāra 男 [同上]; ガラガラ鳴ること。

jhaṇiti 副 チリンチリンと。

jhampa 男 跳躍, 飛び越ゆること: ~m *Dā*, 飛びす, 跳ぬ。

jhampā 女 [同上]: $\sim m Dā = jhampam Dā$.
JHar, 現分 **jharat** 流れ下る.
jharat 現分 → JHar.
jharā 女 瀧.
jhari 女 瀧; 川, 奔流.
jharjhara 男 太鼓又は笛(の一種).
jharjharita 通受分 傷つける; 衰へたる.
jharjharin 形 太鼓を具へたる (Siva 神).
jharjhari 女 = jharjhara; 漢譯 一面杖鼓 *Mvyut.*
jhalajjhalā 女 匯音 滴る音, 象の耳の揺るゝ音.
jhalla 男 棒使ひ(追放せられたる Kṣatriya 族の子孫); 漢譯 兇險(?) *Saddh-p. 280*; 相授 [授音丑佳反・以拳加入: 妙法蓮華經支贊第九本・大正藏經 No. 1723. 821a] *Saddh-p. 276.*
jhallaka 中 銅羅・鑊鉞(の一種); 漢譯 相叉 [刊本は *ṭllaka*, 漢譯は文章の類同よりして *p. 276.* (= *jhalla*) に該當せるものを採用せり] *Saddh-p. 480.* → *jhalla.*
jhallari 女 [樂器の一種]; 漢譯 鐵鈴 *Mvyut.*
jhallikā 女 蟋蟀, 蟬.

jhalli 女 [同上].
jhallikā 女 [同上].
JHaṣ, 使役 **jhāṣayati** 漢譯 焚滅 *Sikṣ. 59.*
jhaṣa 男 大魚(の一種); 魚.
jhaṣa-ketana 男 (魚の旗を有する), 海; 愛; *Kāma* 神.
jhaṣa-dhvaja 男 愛の神; 戀愛; 漢譯 魔 *Lal-v.*
jhaṣadhvaja-bala 中 漢譯 魔軍衆 *Lal-v.*
jhaṣa-pitta 中 魚の膽汁.
jhaṣa-rāja 男 大魚.
jhāṃ-kārin 形 = *jhāṃ-kārin.*
jhāṭ-kārin 形 ヒューヒュー鳴る.
jhāpita 通受分 俗 [<*ksāpita*. *Kṣā* 又は *Kṣai*] 漢譯 焚燒 支應; 音寫 闍維, 耶維, 耶旬, 闍毗, 闍鼻多 支應.
jhīṇṭa 中 柴.
jhīṇṭi 女 [植物の名, 學名 *Barleria cristata*].
jhillikā 女 = *jhallikā.*
jhilli 女 [同上].
jhillika 男 [同上].
jhaulika, (菟醫(*)を容るゝ)小糞.

Ñ

ñā-kāra 男 *ñā* の音又は字; 漢譯 (音寫) 壤字 [五十字門の一]: $\sim e jñāpana-śabdah$ (→ *a-kāra*) 唱

壤字時出覺悟一切衆生聲 *Lal-v. 127.*

T

ta-kāra 男 *ta* の音又は字; 漢譯 (音寫) 吒字 [五十字門の一]: $\sim e paṭōp: echedana-śabdah$ (→ *a-kāra*) 唱吒(上聲)字時出永斷一切道聲 *Lal-v. 127*; (音寫) 倭字 [四十二字門の一]: $\sim m parikṣataraḥ taḥ sattvārtha-nairātmya-kāryātyanta-pariniṣṭhā-pradīpaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam$ 唱倭(上聲)字時能甚深入般若波羅蜜門名說無我法開佛境界嘆悟群生 *Gaṇḍ-vy. 450.*
takka 男 吝嗇家.
takka-deśa 中 *Takka* の國; *Bāhika* の國.
takkarā 女 頭上の一撃.
takki 男 漢譯 (音寫) [明王の名] 吒髻 *Guhy-s.*
takki-buddha 男 [人名].
takki-rāja 男 漢譯 (音寫) 吒呾明王 *Guhy-s.*
taṅka 男 中 鑿; 鶴嘴; 刃物に似たる嶺又は峻巖; [貨幣の一種]; [重量の單位(四 *Māsa*)]; [或る種姓(階級)又は民族の名]; [果物の名]; 漢譯 鑿子 *Mvyut.*
taṅkaka 男 [貨幣の一種]; 鑿; 鶴嘴.
taṅkaṇa 男 硼砂; 漢 [北方の或る民族の名].
taṅkaṇa-kṣāra 男 硼砂.
taṅkaya 名動 他 **taṅkayati** 覆ふ.
ud- 通受分 **uṭṭaṅkita** (一°)を以て型を押したる, 印を附したる.

taṅkavat 形 刃物の如き尖端を有する(山).
taṃ-kāra 男 匯音 號叫, 叫聲; 弦音, 音.
taṃkāra-rava 男 [同上].
taṃkārayat 形 大なる騒音を伴へる.
taṃ-kārita 中 唸り; ブンブンと音すること.
taṅkikā 女 鑿.
taṃ-kṛta 中 叫聲; 音.
taṅga 男 中 匙鍬; 劍(の一種); 骨; 漢譯 犁 梵干.
taṅgaṇa-kṣāra 男 漢譯 硼砂 *Mvyut.* → *taṅkaṇa-kṣāra.*
Tal, I. 他 **ṭalati** 混亂す, 擾る. 漢譯 **ṭalayati** 擾す, 破毀す.
ṭasat 音寫 漢譯 パタン!
ṭasiti 音寫 [同上].
ṭāka 男 吝嗇者.
ṭāṅka 中 (*Taṅka* の果汁より製する)酒(の一種).
tām-kāra 男 = *taṃ-kāra*; 音, 叫聲.
tām-kṛta 中 [同上].
ṭikka 男 [人名].
ṭiṭila 中 漢譯 (音寫) [數の名] 只只羅 *Mvyut.*
ṭiṭilambha 中 漢譯 (音寫) [數の名] 底致婆羅(?) *Lal-v., Mvyut.*
ṭiṭṭibha 男 [鳥の一種, 學名 *Pārra jacana*]; [或る南

京蟲の名].
 ṭiṭṭibhi ㊜ [同上].
 ṭiṭṭhā ㊜ 賭博場.
 ṭiṭṭaka ㊜ 科文, 經略集 *Mvyut*.
 ṭivyaka ㊜ (?) 水中揮指 *Mvyut*.
 Ṭik, I. ㊜ ṭikate 小股に早く歩む; 跳びて歩む.
 ㊜ 役 ṭikayati 説明す, 明示す.
 ṭikā ㊜ 註釋(特に他の註釋に對する), 副註; 譯

疏, 說疏 *Mvyut*.
 ṭikā-ṭikā ㊜ 演說疏, 廣演疏說 *Mvyut*.
 ṭiṭṭibha ㊜ = ṭiṭṭibha.
 ṭiṭṭibhi ㊜ [同上].
 ṭiṭ-kāra ㊜ 爆聲, 裂聲.
 ṭulla ㊜ [人名].
 ṭerākṣa ㊜ 斜視の; 目凹下 *Mvyut*.

TH

ṭha-kāra ㊜ ṭha の音又は字; 吒字 [五十字門の一]: ~e ṭhapaniya-praśna-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱吒字時出置答聲 *Lal-v. 127.*; 婞字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ sarva-buddha-praṇidhāna-dig-abhimukha-gamanam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱婞(上)字時能甚深入般若波羅蜜門名願力現見十方諸佛猶如虛空 *Gaṇḍ-vy. 450.*
 ṭhakkana ㊜ [王侯の名].

ṭhakkura ㊜ 神祇; 尊者, 神聖なる... [圖名]の後
 に付する尊稱, 今日の Thākūr, Tagore に當る].
 ṭhapaniya-praśna ㊜ [<sthāpaniya-p°] 置答 *Lal-v. 127.*
 ṭhāt-kāra ㊜ = ṭāt-kāra.
 ṭhāra ㊜ 白霜.
 ṭhiṭṭhā ㊜ 賭博場; [人名].
 ṭhiṭṭhā-karāla ㊜ [或る賭博場の主の名].

D

ḍa-kāra ㊜ ḍa の音又は字; 茶字 [五十字門の一]: ~e ḍamara-māra-nigrahaṇa-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱茶(上)字時出斷一切魔惱亂聲 *Lal-v. 127.*; 挈字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ samanta-cakram nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱挈字時能甚深入般若波羅蜜門名普圓滿輪 *Gaṇḍ-vy. 449.*

Dam, I. ㊜ ḍamati 鳴る(太鼓).
 ḍama ㊜ 獲しき雜種種姓(階級)の名].
 ḍamara ㊜ 騒動, 喧嘩; 惱亂, 荒亂, 反逆 *Lal-v., Saddh-p., Laṅk.*
 ḍamarin ㊜ 太鼓(の一種).
 ḍamaru ㊜ [同上].
 ḍamarukā ㊜ [同上].
Damb, I., X. ㊜ ḍambayati.
 vi- viḍambate 做ふ, 競ふ; viḍambayati 嘲る; 欺く. ㊜ 過受分 viḍambita 模倣せる, 模寫せる; 假裝せる.
 ḍambara ㊜ 喧嘩; 大言壯語; 混雜せる群衆, 雜沓; 外觀; 華麗; 類似, 模倣.
 ḍambara-nāman ㊜ 鳴り響ける名を有する.
 ḍambha ㊜ [人名].
 ḍambhā ㊜ 標鎗 *Mvyut*.
 ḍallaka ㊜ (肩に)懸くる籠(の一種). ㊜ [人名].
 ḍavittha ㊜ [人名].
 ḍāka ㊜ [鬼の一種]; 茶加 *Laṅk.*
 ḍākinī ㊜ [(*Kālī* の従者中にて)人肉を食する鬼女の一種]; 茶加女 *Laṅk.*; 挈吉爾

Guhya-s.

ḍākinī ㊜ *Dākinī* の状態.
 ḍāginī ㊜ = ḍākinī.
 ḍāgineya ㊜ [或る賭博者の名].
 ḍāgineyaka ㊜ [同上].
 ḍām-kṛti ㊜ 音.
 ḍāt-kṛti ㊜ 咆哮.
 ḍāmara ㊜ 驚くべき, 異常の. ㊜ 驚愕, 驚嘆; 武士.
 ḍāmaratva ㊜ [同上(形) ㊜].
 ḍiṇḍika ㊜ (?) [或る鼠の名].
 ḍiṇḍima ㊜ 太鼓(の一種). ㊜ 騒鳴; 唸り. ㊜ 唸れる.
 ḍiṇḍimā ㊜ 太鼓(の一種).
 ḍiṇḍira ㊜ 鳥賊の甲; 水泡.
 ḍiṇḍira ㊜ [同上].
 ḍittha ㊜ [人名].
 ḍima ㊜ [演劇の一形式]; [混血種姓(階級)の一種].
 ḍimba 1. ㊜ 恐慌; 危険; 争闘, 喧嘩.
 ḍimba 2. ㊜ 卵; 球; 身體; 愚者.
 ḍimba-yuddha ㊜ 叛亂, 騒動; 争闘.
 ḍimbāhava (°ba-āh°) ㊜ [同上].
 ḍimbima ㊜ 太鼓.
 ḍimbha ㊜ (新たに生れたる)子, 男兒; 仔; 卵; 無學者.
 ḍimbhaka ㊜ (新たに生れたる)子, 仔; [或る隊長の名].
 ḍimbhikā ㊜ (新たに生れたる)子, 仔.
 ḍilli ㊜ *Delhi* [都市の名].

dilli ㊦ [同上].

Di, I. ㊦ **dayate**; IV. ㊦ **diyate** 飛ぶ.

ud- 飛び上る; ㊦ 飛梵千. (通受分) **uddina** 飛び上れる.

prod (pra-ud)- 飛び上りて去る.

pra- 飛び上る.

dina ㊦ (鳥の)飛翔.

dina-dinaka ㊦ (鳥の)繰り返し飛翔すること.

diya ㊦ [同上].

ḍuḍubha ㊦ 足の無き蜥蜴(の一種).

doma ㊦ [同下].

domba ㊦ 下層(種姓)階級の音楽師; ㊦ 屠家, 屠兒, 屠兒家; (音寫) 譚婆種 *Lank., Mvyut.*, 支應.; (音寫) 譚婆 *Lank.*, 支應. → *caṇḍāla-pukkasa-kula.*

dombi ㊦ [劇の一種].

ḍauḍubha ㊦ *Ḍuḍubha* に關する.

Dval, [常に ā-]

ā- ㊦ *advālayati* 混ず.

DH

ḍha-kāra ㊦ *ḍha* の音又は字; ㊦ (音寫) 荼字 [五十字門の一]: ~e *mīḍha-visayā iti* (→ *a-kāra*)

唱荼字時出一切境界皆是不淨聲 *Lal-v. 127.*; (音寫) 荼字 [四十二字門の一]: ~m *parikīrtayato dhar-*

ma-cakra-sambheda-garbham nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱荼(去聲)字時能甚深入般若波羅蜜門名一切法輪差別藏 *Gāṇḍ-vy. 450.*

ḍhakka ㊦ 大建築物(の一種); [地名].

ḍhakka-deṣiya ㊦ *Ḍhakka* 國に特有なる或はにて話さるゝ.

ḍhakkana ㊦ [人名].

ḍhakkama ㊦ [人名].

ḍhakkā ㊦ 大なる太鼓.

ḍhāmarā ㊦ 鶯鳥.

ḍhāla ㊦ 楯.

ḍheṅka ㊦ [鳥の一種].

ḍbeṅki ㊦ [踊の一種].

ḍhola ㊦ 太鼓.

DHauk, I. ㊦ **ḍhaukate** (業)に接近す: **ito ḍhaukasva** 此處へ來れ. (通受分) **ḍhaukita** 接近せる. ㊦ 他 **ḍhaukayati** (屬)の近くに持參す; 齎す; (爲)に捧ぐ.

upa- ㊦ **upaḍhaukayati** 捧ぐ; 用意す.

ḍhaukana ㊦ 提供, 贈物; [*Siva* 神又は佛教の神の名].

N

ṇa-kāra ㊦ *ṇa* の音又は字; ㊦ (音寫) 拏字 [五十字門の一]: ~e *reṇu-kleśā iti* (→ *a-kāra*) 唱拏(上聲)字時出永拔微細煩惱聲 *Lal-v. 127.*; (音寫) 僣字 [四十二字門の一]: ~m *parikīrtayataḥ cakṭāk-*

ṣarākāra-koṭi-vacanam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱拏(上聲)字時能甚深入般若波羅蜜門名入字輪際無盡境界 *Gāṇḍ-vy. 450.*

ṇ-i ㊦ [使役法の ㊦ *i* (aya)].

ṇ-ic ㊦ [同上].

ṇ-it, it (文法的記號)として *n* を有する [最後の韻又は最後より二番目の *a* の複重音 (*vrddhi*) を作り *taddhita* 接尾音に於ては語基の最初の母音の複重音を作る].

ṇya ㊦ [*Brahma-loka* (梵界)にある湖水の名].

ṇy-anta ㊦ 使役法の接尾音 (*ṇ-i*) にて終れる.

ṇvul ㊦ (接尾音) *-aka* [*bhoj-aka* 等の如き語に於ける].

T

ta ㊦ ㊦ [㊦ 單は ㊦, *sa*, ㊦ *tad*, ㊦ *sā*] 彼, 彼女, それ, 彼等; 彼の; 之等の [㊦ 又は ㊦]; [時として弱められて意味の上よりは冠詞となる]; ㊦ 此, 如是 *Abh-vy.* 等. ㊦ [先にある ㊦ と俱に].

[㊦ 及 ㊦ ㊦] と俱に]: ㊦ *so 'ham* 此の如き我.

[反覆せる場合] 是と彼, 各々の, 別の, 種々の, 夫々の.

[㊦ と俱に, ㊦] *yah sa* 何人たりとも; *yat tad*

如何なる, 凡ての, 何れの…にても; *yo yah… sa sa* 何人たりとも…彼は; *yad yad… tad tad* 何事にても…それは; *tad yathā* その(は)次の如し, 即ち [→ *tad(-yathā)*].

Tams, 飾る; (欲望を)注ぐ. ㊦ 他 **tamsayati** 振ふ.

pari- ㊦ **paritasyati** ㊦ 惱, 生惱, 憂惱, 憂惑, 歇心 *Bodh-b' Mvyut.*

tamsu ㊦ [月種族の王の名].

Tak, II. 他 **takti** 驅る, 疾走す。〔過受分〕 **takta** 疾走せる。

ta-kāra 男 **ta** の音又は字; 〔音〕 (音寫) 多字 [五十字門の一]: ~e tathatā-sambhedā-sabdaḥ (→ a-kāra) 唱多(上聲)字時出一切法真如無別異聲 *Lal-v.* 197.; (音寫) 哆字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayato jyotir-maṇḍalam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱哆字能甚深入般若波羅蜜門名星宿月圓滿光 *Gaṇḍ-vy.* 449.

taku 形 疾走する。

takkola 男 [唐芥子的一種, 學名 *Pimenta acris*]; [町の名].

takta 〔過受分〕 → Tak.

takman 男 熱病。

takra 男 (同量の水と)混じたる酪漿。

takrāta 男 攪乳棒。

Takṣ, I. **takṣati(-te)**; V. 他 **takṣnoti** 切る, 彫刻す; 割る; 像る(特に木材を); 作る, 創造す; 發明す [因に於ては屢々 *Rbhus* の工藝に關して]. 〔過受分〕

taṣṭa 流行せる, …風の, 案出せられたる, 作られたる。

ā- 得せしむ; 齎す; 切る, 彫る, 彫りて造る (*Jāt-m.*).

pari- 寸斷す。

takṣa 男 (一°)の大工; [*Bharata* の子の名]; [*Vṛka* の子の名].

takṣaka 男 (一°)を切る人; [或は *Nāga* の名]; [*Pra-senajit* の子の名]; 〔音〕 木匠 *Mvyut.*; [龍王の名] 削者 *Mvyut.*; (音寫) [龍王の名] 徳又, 徳又迦, 怛策迦 *Saddh-p., Sam-r.,* 立應; 安止 (?) *Mvyut.*

takṣa-karman 男 大工仕事。

takṣaṇa 男 切ること, 彫刻; 鉋削。

takṣan 男 伐木者, 樵夫; 大工。

takṣa-ratha-kāra 男 〔兩〕大工と車匠。

takṣa-sīla 男 〔種〕 *Takṣa* の住民。

takṣa-sīlā 女 [都市の名, *Gandhāra* の首都]; 〔音〕 [城の名] 徳又尸羅, 得又尸羅 *Divy.* ~tas 〔種〕 *Takṣasīlā* 市より

takṣya 〔未受分〕 形づくらるべき。

tagara 男 [植物の名, 學名 *Tabernaemontana coronaria*]; Tagara より製する香氣ある粉末; 〔音〕 [樹の名] 甘松, 木香樹 *Mvyut.*, 立應; [香の名] 桂, 根香, 格香, 零凌香, 零陵香, 不沒香, (音寫) 多伽羅香 *Saddh-p., Suv-pr., Siks., Mvyut.*; (音寫) [香の名] 多伽羅, 多揭羅, 多伽留, 多伽樓 *Saddh-p., Suv-pr.*; [花の名] 多劫羅, 得藥嚙(花) *Mvyut.*

tagaraka, [同上].

tañ 〔音〕 [爲自言の人稱語尾の總稱].

taṅgaṇa 男 〔種〕 [*Sarayū* 谷の上部の住民の名].

taṅgalva 男 [或は惡靈の名].

tac-chila (tat-si°) 形 此の如き習慣を有する; 類似の。

taj-janman 男 〔音〕 彼生, 此生 *Lank.*

tajjanma-parinirvāyin 男 〔音〕 (音寫) 彼生而般涅槃, 此生而入涅槃, 一生入於涅槃 *Lank.*

taj-ja-lān 男 それによりて生じ・それに没入し・それ

にて生息する [*Samkara* の神祕的説明].

taj-jātiya 形 同種の, 同類の; 〔音〕 如是, 如些, 彼類, 相彼 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*

taj-jivana 男 彼の生計。

taj-jñā 形 それを知れる; (一°)を熟知せる, …に熟達せる。男 識者。

Tañc, VII. 他 **tanakti** 縮む。

Taṭ, I. 他 **taṭati** 唸る。

tata 男 (男) 傾斜, 堤防, 岸; [屢々, 一°] (身體の突出せる部分即ち腰・胸の)傾斜; 〔音〕 岸, 邊, 險處 *Lal-v., Gaṇḍ-vy., Lank., Siks., Mvyut.*: bhruvos ~h 眉間 *Rāstr.* 7.

taṭa-druma 男 堤上の樹木。

taṭa-bhū 男 堤防, 岸; 勾配。

taṭa-bhūmi 男 [同上].

taṭa-stha 形 斜面に立てる, 堤の傾斜面に立てる; 無關心の; 中立の [頂と谷との中間に立てるものとして]; 近似の(定義)。

taṭa-sthita 形 無關心なる。

taṭāka 男 池, 湖。

taṭākinī 女 大なる池。

taṭāghāta (°ta-āgh°) 男 堤防等に(象が)衝き當ること; 劍等の山積。

taṭini 女 (堤防を有する), 河。

taṭini-pati 男 大洋, 海。

taṭi 女 = tata.

taṭṭa 男 (男) (?) 〔音〕 杓(?) [*Tib. gshon-pa*] *Siks.* 58.

tattuka 男 (男) (?) 〔音〕 杓(?) [*Tib. gshon-pa*] *Siks.* 58.

taṭya 形 [(斜面に住する), *Siva* 神の稱].

Taḍ, X. 他 **tāḍayati** 打つ, 叩く; 折檻す; 罰す; 傷く; 太鼓を叩く; 〔音〕 擊, 捶, 能打, 捶打, 打擲, 捶罰, 加譴罰, 打罵 *Lal-v., Siks., Bodh-bh.* 〔音〕

tāḍyate 〔音〕 所打 *Bodh-bh.* 〔音〕 現分 **tāḍyamāna** 〔音〕 打, 打扑, 捶打 *Siks.*

pari- (因)にて打つ。

pra- 打倒す; 〔音〕 擊 *Lal-v.*

prati- 〔音〕 報打 *Kāsy., Bodh-bh.*

vi- 傷く; (因)に對して打撃を加ふ。

taḍat-kārin 男 割る。

taḍākin 形 池ある。

taḍāga 男 池, 湖; 〔音〕 池, 沼, 池沼, 浴池, 陂池, (清涼)池; 陂, 澤, 渠, 泉 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Saddh-p., Suv-pr., Lank., Siks., Mvyut.*

taḍāga-da 形 貯水池を作る。

taḍāga-bhedaka 男 貯水池を決潰するもの。

taḍāghāta 男 = taṭāghāta.

taḍit 男 電光, 稻妻。

taḍit-iti 〔音〕 (擬音) ゴロゴロ, 轟々。

taḍit-prabhā 女 電光の閃き。

taḍitvat 形 電光を含める, 閃く。男 雷雲。

taḍid-abhra-lola 形 〔音〕 浮雲雷光 *Rāstr.*

taḍid-garbha 男 (電光を含める), 雷雲。

taḍid-vāsas 形 電光に似たる衣を纏へる。

taḍinmaya 形 電光に似たる。

tadīn-mālā ㊦ 電光の閃き。
 tadīl-latā ㊦ [同上]; 蔓草に似たる閃光, シゲザグの閃光。
 tadīl-lekhā ㊦ 電光の閃き。
 taṇḍi ㊦ [聖仙の名]; [人名]。
 taṇḍula ㊦ 穀粒, (特に)米の粒; (重量としての)米の粒; ㊦ 米, 白米, 粳米, 水稻 *Divy., Lal-v., Abh-k., Abh-vy., 梵雜*。
 taṇḍula-kaṇa ㊦ 米穀。
 taṇḍula-kaṇḍana ㊦ 糠。
 taṇḍula-deva ㊦ [或る詩人の名]。
 taṇḍula-phala-sāli ㊦ ㊦ (香)稻 *Divy., Mvyut.: akṛṣṭoptā ~ iḥ* 不耕自然萌, 不耕自然苗, 非耕種香稻自生 *Mvyut.*
 taṇḍulikāśrama (°ka-ās°) ㊦ [聖地の名]。
 tata 1. ㊦ 父; ㊦ [亦た親愛の語として]我子よ, 親愛なるものよ。
 tata 2. ㊦ (通受分) → Tan 1.
 tata-druh ㊦ 父を害する。
 tatama ㊦ 斯の如き; その通りの。
 tatas ㊦ [代 ta の ㊦ (單 兩 複)]. それより; 其處に; 彼方へ; 其上に, そこに; 故に; ㊦ 然後, 從彼處, 爾時 *Lal-v., Av-ś., Mvyut.*
 itas ~, 此處彼處(より), 彼方此方へ。
 ~ katham, 然らばその……は如何。
 ~ kim, 次は如何即ち希くは續けられよ; それ果して何の要やある, 何の害やある, そは同一に歸せずや。
 ~ kṣaṇam, 直後に。
 ~ kṣaṇāt, [同上]。
 ~ param, 此の他に, 加之; 其處に於て, 後に。
 ~ paścāt, その後, そこに。
 ~ prabhṛti, 其時より。
 ~ ~, 此處彼處(より), 彼方此方へ, 到る處に; 次は如何即ち希くは續けられよ。
 tato'ttari, [音律], =tatas uttare ㊦ 從是後 *Saddh-p. 192.*
 ~o 'nyataḥ, 他の何れかの處へ。
 ~o 'nyatra, =tasmād anyasmin.
 ~o 'param, 後に及びて, 後に, 他の時に。
 ~o 'pi ㊦ 雖彼, 雖然 *Mvyut.*
 yatas ~, 何人よりも即ち無差別に; 何れの處(より)も。
 yato yataḥ ~ ~, 何れの處(より)も……其處に(そこより); 如何なる處にても……其處へ。
 tatastya ㊦ 其處より來れる, それより發する。
 tatā-maha ㊦ 祖父 [pitā-maha よりの類推]。
 tati 1. ㊦ ㊦ [㊦ 業 tati] それ程多くの。
 tati 2. ㊦ 擴張, 廣さ; 多數, 群衆。
 tatitha ㊦ (㊦ -i) 第若干番目の。
 tato'ttari, → tatas.
 tato-nidāna ㊦ それによりて生ぜる或は結果せる (*Vajr-pr.*). ~m ㊦ ㊦ 依彼故, 由是因緣, 由此因緣所生, 以是因緣所生, 以是因緣生, 以是因緣得 *Vajr-pr., Bodh-bh.*
 tat-kartavya (未受分) ㊦ (それをなすべき必要), 適

切なる行作。
 tat-karma-kārin ㊦ 同じ業務に従へる。
 tat-kārin ㊦ 同一事をなす。
 tat-kāla ㊦ 其の時, その特別の時, 先の時; ㊦ 當梵千. ㊦ 同時に或は直ちに起れる; ㊦ 即時 *Bodh-bh.* ~m ㊦ 其の時に, 同時に; その間に, 即時に, 直ちに。
 tat-kāla-paricaryā ㊦ 即時の款待。
 tat-kālina ㊦ 其の時に於ける或は屬する; 同時に起る; 同時の。
 tat-kulina ㊦ その又は同じ種族に屬する。
 tat-kṛta ㊦ 其處に惹起せられたる。 ~e ㊦ ㊦ それに對して; それを愛する爲に, それに就て。
 tat-kṣaṇa ㊦ 同じ瞬間; ㊦ 一念之頃 *Divy.*; ㊦ 恒刹那 *Abh-k.* ~m, ㊦, ㊦, °— ㊦ 同時に, 直ちに, 立ちに, 即時に; ㊦ (~m) (音寫) 於刹那頃 *Lal-v.*
 tat-kṣaṇa-jāta ㊦ ㊦ 初生 *Kāśy.*
 tat-kṣaṇikā ㊦ ㊦ 幾會見者, 多相見, 須臾婦 *Mvyut.*
 tattaka ㊦ ㊦ [*tāvātka*] *Saddh-p. 254.*
 tat-tat-samjñā ㊦ ㊦ 彼彼想 *Mvyut.*: ~yāḥ 從彼彼想 *Mvyut.*
 tat-tad-deśiya ㊦ 此の或は彼の國に屬する。
 tat-tira ㊦ その堤防。
 tat-tri-bhāgaka ㊦ その三分の一を成せる。
 tattva ㊦ (それなること), 眞の本質, 眞實なる本性, 眞理, 實在; 諦 [特に *Sāṃkhya* (數論派) 哲學に於ける二十五諦の一]; [*Vedānta* 哲學に於ては此の語を巧みに 'tat tvam' 「そは汝なり」と分解し, 多様な現象世界 tvam と一の無差別にして見えざる Brahma なる tad との同一を述ぶ]; ㊦ 眞, 實, 眞性, 眞實, 眞理, 眞實義, 眞實理, 定實 *Buddh-c., Bāṣṭr., Lank., Guhy-s., Madhy-v., Śikṣ., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Madhy-vibh., Mvyut.*; 一, 一性 *Madhy-v.*: ~ anyatvena yo nāsti 若於一異中(如來)不可得 *Madhy-v. 439.*; dvi-vidham ~m 眞實(總義略有)二種 [1. ādarśa ~m 能顯眞實, 2. dṛśya ~m 所顯眞實] *Madhy-vibh. 163.*; daśa-vidham ~m 眞實(唯有)十種 [1. mūla ~ 根本眞實, 2. lakṣaṇa ~ 相眞實, 3. aviparyāsa ~ 無顛倒眞實, 4. phala-hetu ~ 因果眞實, 5. audārika-sūkṣma ~ 麤細眞實, 6. prasiddha ~ 極成眞實, 7. viśuddhi-gocara ~ 淨所行眞實, 8. saṃgraha ~ 攝受眞實, 9. prabheda ~ 差別眞實, 10. kauśalya ~ 善巧眞實] *Madhy-vibh. 110.*
 ~ena ㊦, ~tas, °— ㊦ 實際は; 眞實に, 正確に; 全く; ㊦ (~ena) 如實 *Madhy-v.*
 tattva-jñā ㊦ (一°)を全く知れる; 眞實・眞隨・眞意を知れる; ㊦ 眞實智, 知眞如理 *Guhy-s., Mañj-m.*
 tattva-jñāna ㊦ 眞の本質に關する知識, 眞實の知識。
 tattvatas ㊦ → tattva.
 tattva-tyaj ㊦ 眞實を誤れる。
 tattva-darśa ㊦ [聖仙の名]。
 tattva-darśaka ㊦ ㊦ 正見 *Lal-v.*

tattva-darśana ㊦ 證實 *Sūtr.*
 tattva-darśin ㊦ 眞理を見る或は知れる; 見諦, 見眞, 見眞實 *Lank.*
 tattva-dṛś ㊦ [同上].
 tattva-nikaṣa-grāvan ㊦ 眞理の試金石.
 tattva-niścaya ㊦ 正しき知識.
 tattva-pada ㊦ 眞實句 *Guhy-s.*
 tattva-pratyavasthāna-kathā ㊦ 眞實在於言中, 眞實在於言說 *Lank.*
 tattva-praveśāvarana (°śa-āv°) ㊦ 入眞實障 *Madhy-vibh.*
 tattva-bodha ㊦ 眞理に關する知識; [或る二つの著作の題名].
 tattva-bodhi ㊦ 實覺 *Sūtr.*
 tattva-bhāva ㊦ 眞實なる存在又は本質.
 tattva-bhūta ㊦ 眞實の.
 tattva-lakṣaṇa ㊦ 眞實相 *Madhy-vibh.*
 tattvavat ㊦ = tattva-jña.
 tattva-vādin ㊦ 眞實を語る者; [佛の屬性] 佛世尊 *Buddh-c.*
 tattva-vid ㊦ (一°, ㊦) を全く知れる, ……の本質を知れる; 眞見, 悟眞 *Cat-s., Madhy-v.*
 tattva-viniścaya ㊦ [書名] (*Prajñ-vy.*).
 tattva-śuddhi ㊦ 眞理に關する正確なる知識.
 tattva-saṃgraha ㊦ [佛典の名, *Sāntirakṣita* 作].
 tattvākhyānopamā (°va-ākhyāna-up°) ㊦ 眞實を述ぶることによりて(暗示せらるゝ)譬喩 [例「汝の口と蓮華に非ず」は「汝の口は蓮華の如し」を意味す].
 tattvādhiḡata ㊦ 完全に學べる.
 tattvānyatva ㊦ 一異 *Madhy-vibh.*
 tattvānvešin ㊦ 欲求義者, 欲得義者 *Lank.*
 tattvaopahna-va-rūpaka ㊦ 眞實を否定することによりて(暗示せらるゝ)譬喩 [例「汝の兩眼は兩眼に非ずして二匹の蜂なり」は「汝の兩眼は二匹の蜂の如し」を意味す].
 tattvabhiyoga ㊦ 事實に基く告發.
 tattvartna ㊦ 實際の事柄, 眞理; (一°)の眞意; 實義, 眞實義, 眞實之義 *Bodh-bh., Madhy-v.*
 tattvārtha-vid ㊦ 眞意を知れる.
 tattvārtha-saṃmoha ㊦ 迷於實義, 專迷於事, 專迷於性理 *Mvyut.*
 tattvārthin ㊦ 欲見眞實 *Lank.*
 tattvārthaika-deśānupraveśa (°tha-ek°) ㊦ 入眞義一分 *Mvyut.*
 tattvārya-jñāna-vyavasthāna-kathā (°va-ār°) ㊦ 實聖智在於言說, 聖智證處眞實之法 *Lank.*
 tat-pada ㊦ それの位置; tad なる語.
 tat-padavi ㊦ 彼の行路: ~vyām padam DHā 彼の行路に足をつく即ち彼を範とす或はと競ふ.
 tat-para 1. ㊦ それに従へる, それに續ける.
 tat-para 2. ㊦ (それを最上として有する), それのみにて占められたる; 専ら(一°, 一°)に身を委ねたる, ……に專心せる; 勤 *Sūtr.*
 tat-paratā ㊦ 専らの獻身, 專心せること.
 tat-paratva ㊦ それを最後の目的となすこと, ……を目指す

tat-parāyaṇa ㊦ それを(彼等の)最後の目的として有する.
 tat-pārśva ㊦ 彼の側.
 tat-puruṣa ㊦ 彼の從者, 限定合成語 [用例を以てその名稱とせるもの即ち前分が後分を限定又は制限するもの. 狹義にては前分が格の意義を有するもの]; 彼男子, 依主 *Mvyut.*
 tat-pūrva ㊦ 初めて起れる. ~m ㊦ それを初めとして, 最初に.
 tat-pūrvatā ㊦ 初めて起ること.
 tat-prakāra ㊦ その種の, その類の; 各別, 一類 *Abh-vy.*
 tat-prathama-karmika ㊦ 初業 *Bodh-bh.*
 tat-prathamatarām ㊦ それを最初として; 先 *Divy.*
 tat-prathamatas ㊦ = tat-pūrvam; 先, 初, 最初 *Divy.*
 tat-prathamam ㊦ = tat-pūrvam.
 tat-pradhāna ㊦ それ(彼又は彼女)に頼れる.
 tat-prabhāte ㊦ その翌朝に.
 tat-prabhṛti ㊦ それを初めとせる.
 tat-prahāṇopāya-satya (°ṇa-up°) ㊦ 彼斷方便諦, 斷二(愛)方便實 *Bodh-bh.*
 tat-prahṛṣṭa ㊦ それによりて喜べる.
 tatya ㊦ 其處より起れる或は生ぜる.
 tatra [因は亦た -ā] ㊦ [ta の 因, yatra の 因] 其處に; 其處へ; 此方に; 此の機會に, 其の爲に, 其の場合に, 其時に; 共, 此中, 於中, 於彼, 於此, 於此中, 此處, 彼處 *Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy. Nyāy-pr., Mvyut.;* 謂 *Bodh-bh.*
 ~ ~, 常にその又はそれ等の中に或は上に; 此處其處に; 彼方此方に; 到る處に.
 yatra ~, 到る處に, 何處にても, 何處へにても; 凡ゆる機會に.
 yatra ~api, 何處へにても.
 tatra-cakṣur-manas ㊦ 眼と心を彼方へ向けたる.
 tatraṭya ㊦ 其處にある, 其處より來れる或は起れる; 此, 彼 *Abh-vy.*
 tatra-bhava ㊦ それと共に用ゐたる.
 tatra-bhavat ㊦ 尊敬せられたる. ㊦ そこにありし紳士 [舞臺に見えざる人物に就て] (戯曲).
 tatra-bhavati ㊦ そこにありし淑女 [舞臺に見えざる人物に就て] (戯曲).
 tatra-vāsin ㊦ 其處に住める.
 tatra-stha ㊦ 其處にある或は住める, 其處に屬する.
 tatrāntare ㊦ 其間に, 免角する間に.
 tatva ㊦ [= tattva] 眞, 眞實 *Sūtr.*
 tat-saṃskārārthatva ㊦ その促進を助くること.
 tat-saṃkhyāka ㊦ 同數の, その數の.
 tat-saṃjñā ㊦ 如是想 *Mvyut.:* ~yāḥ 以如是想 *Mvyut.*
 tat-sabhāga ㊦ 類, 彼同分, 等分 *Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*
 tatsabhāgānuvartana ㊦ 隨類 *Bodh-bh.*
 tat-sama ㊦ (一°)と等しき, ……と同義の. ㊦ 梵語 (Saṃskṛta) よりの借用語 [俗語 (Prākṛta) に於け

る]

tat-samakṣam 副 彼の眼前にて。
tat-samanantaram 副 その直後に。
tat-samipe 副 彼の近くに。
tat-sambandhin 形 それと關聯せる。
tat-saha-bbū 形 彼俱有, 與彼共有 *Adh-vy.*
tat-sprṣṭin 形 それ又はそれ等に觸るゝ。
tat-svabhāvatā 名 有其自性 *Bodh-bh.*
tat-svabhāvaiṣiṣya (°va-eṣ°) 形 求罪自性, 應與覓罪相 [*Pāli. tassa pāpiyasikā*] *Mvyut.*
tathata-gocara 形 [音譯, =tathatā-g°] 眞如(智)境界, (智)契於眞如 *Laṅk. 385.*
tathatā 名 如, 眞如, 如如, 如實, 如是, 眞理, 實際, 如實法, 眞如性, 一眞如 *Ast-pr., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Sūtr. Bodh-bh., Vijñ-t., Madhy-vibh., Mvyut.:* tathā jānāti yathā ~ 如實知如眞如, 了知如如 *Ast-pr.*
tathatā-jñāna 名 如智 *Sūtr.*
tathatājñāna-buddha 名 如如…智慧佛, 如智佛, 眞如智慧佛 *Laṅk.*
tathatānuga (°tā-an°) 形 入眞如, 隨順入如(相), 隨入如如眞實(相) *Laṅk.*
tathatārya-jñāna-gati 名 聖智所行眞如, 聖智趣所行境界 *Laṅk.*
tathatālabhana (°tā-āl°) 名 攀緣如, 攀緣眞如, 念眞如 *Laṅk.*
tathatāśraya (°tā-ās°) 形 眞身者 *Gaṇḍ-vy.*
tathatā-sthita-niścita 形 [Samādhiの名] 決定安住眞如 *Mvyut.*
tathatva 名 眞如, 如實, 如如, 如是事, 所應 *Sapt-pr., Daś-bh.:* ~āya (爲) 如理, 如所說(?), 隨力如教(?) *Ast-pr. 459.*
tathā 副 其様に, 斯様に [和合] yathā (の如く, 左様に); iva (如く); yena (左様に)等と俱に。→ yathā]; そは是の如し; そは然り, 善く, 然り; 實に件の如し(誓約に於て); 相似たる方法にて, 亦た, 同様に; 如, 此如, 如是, 如實; 亦, 亦爾; 似 *Saddh-p., Sūtr., Boan-vh., Avh-vy., Sāmkhy-k., Mvyut.*
 ~ ca, 同様に, 亦た其様に。
 ~ api, 同様に; 然りと雖も, …にも拘らずされど [一般に yady api, api yadi, kāmam, varam 等と和合]; 同前 *Divy.*
 ~ hi, そは是の如くなるが故に, 例へば(其様に), 換言せば, 即ち; 故, 是故, 何以故, 所以者何, 所以者何…故; 如何; 謂; 若 *Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut.*
tathāiva (°thā-eva), 正に是の如く, 同じく, 同様に [時として ca, api と俱に]。
attho ~, [同上]。
 ~ ~ 如是如是 *Sapt-pr.*
 ~ tad-yathā 如 *Bodh-bh.*
 ~ …yathā, 是の如く…を以て; (それ程長く)…迄;
yathā ~, 如何なる方法にて, 彼此の方法にて, 凡ゆる方法にて, 凡ゆる方法に於て; [註釋書に於ては或る語が副詞的に使用せらるゝを示す爲に用ひら

る]; [na と俱に] 決して…せず, 實際上…に非ず。

yathā yathā … ~ ~, 如何なる方法にて…なりとも其様に, …なれば…なる程。

na ~, 然らざる, 眞ならざる。

tathā-kārin 形 → yathā-vādin, yathā-vādi ~。
tathā-kṛta 形 眞實になされたる。
tathā-kratu 形 是の如く考ふる或は企つる。
tathā-gata 形 斯様に振舞ふ, 斯の如き状態にある, 斯の如き性質又は本性の, 斯の如き。男 Buddha; 佛教徒; 如來 [tathā-āgata], 如去, 如來至眞, 得如者, 得眞如成如來者; 佛, 世尊 *Ast-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sukh-vy. II., Laṅk., Bodh-bh., Mvyut., 支應;* [音譯] 多陀阿伽度, 多陀阿伽駄, 多他阿伽度, 怛他(引)誑多, 怛薩阿竭 *Saddh-p., Vajr-pr., Guhy-s., Bodh-bh., 支應:* pañca ~ āḥ 五如來 [1. Vairocanaḥ 大日, 2. Akṣobhyaḥ 無動, 3. Amitābhāḥ 無量光, 4. Ratna-sambhavaḥ 寶生, 5. Amogha-siddhiḥ 不空成就] *Mvyut.;* sapta ~ āḥ 七佛 [1. Vipasyī 毗婆尸, 2. Sikhī 尸棄, 3. Viśva-bhuk 毗舍浮, 4. Krakucchandaḥ 俱留孫, 5. Kanakamuniḥ 拘那含牟尼, 6. Kāśyapaḥ 迦葉, 7. Śākya-muniḥ 能寂默] *Mvyut.;* 如來の十號 [1. ~ ḥ 如來, 2. arhan 應供, 3. samyak-sambuddhaḥ 正徧覺, 4. vidyā-carana-sampannaḥ 明行足, 5. sugataḥ 善逝, 6. loka-vit 世間解, 7. anuttaraḥ 無上士, 8. puruṣa-damya-sārathiḥ 調御丈夫, 9. śāstā 師, 10. loka-jyesthaḥ 世尊] *Mvyut.;* ~ ānām anutpādaḥ 如來不出世, 佛前佛後, 生在佛前佛後 *Mvyut.*
tathāgata-kāya 名 如來身, 如來無上妙身, 佛身 *Laṅk.:* ~ e duṣṭa-citta-rudhirotpādaḥ 惡心出佛身血 *Laṅk. 138.*
tathāgata-kula 名 如來家, 佛家, 如來地 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Bodh-bh.:* ~ e vivartante 入如來地, 得如來地, 入佛最勝地 *Gaṇḍ-vy. 63.*
tathāgatakula-kulinatābhijāta (°tā-abh°) 形 生如來家種族, 生諸佛家, 於如來家眞正受生 *Gaṇḍ-vy.*
tathāgatakula-vaṃśoccheda (°śa-uc°) 形 佛種則應斷, 斷絶如來種性, 斷如來種滅如來家 *Laṅk.*
tathāgata-kṛtya-kara 形 行如來事 *Saddh-p.*
tathāgata-kośa 名 如來藏 *Sikṣ.*
tathāgata-kośa-paripālita 名 [或る Kimnara の少女の名] (*Kār-vy.*)
tathāgata-kośa-sūtra 名 [經の名] 如來藏經 *Sikṣ.* [大方廣如來祕密藏經]。
tathāgata-gati-bhūmi 名 如來行處, 如來智地 *Laṅk.*
tathāgata-garbha 名 如來藏, 如來寶藏, 佛藏 *Gaṇḍ-vy.;* *Laṅk.;* [菩薩の名] 如來藏 *Mvyut.*
tathāgatagarbha-hṛdaya 名 如來藏心 *Laṅk.*
tathāgata-guṇa-jñānācintya-viśayāvatāra-nirdeśa 名 [經の名, 大方廣入如來智德不思議經, 佛華嚴入如來不思議境界經, 度諸佛境界智光嚴經]。
tathāgata-guhyaka 名 [經の名, =guhya-samāja-tantra]。

- tathāgata-guhya-sūtra** ㊦ ㊦ [經の名] 祕密大乘經, 如來祕密經, (聖)如來祕密經 *Sikṣ., Madhy-v.* [如來不思議祕密大乘經, 密迹金剛力士經 (大寶積經第三會)].
- tathāgata-ghoṣa** ㊦ ㊦ 如來音 *Sikṣ.*
- tathāgata-civara** ㊦ ㊦ 如來衣 *Saddh-p.*
- tathāgata-caitya** ㊦ ㊦ 佛塔 *Saddh-p.*
- tathāgata-jñāna** ㊦ ㊦ 如來智, 如來智慧, 如來之慧, 如來(微妙)智, 佛慧 *Saddh-p., Sūtr., Bodh-bh.*
- tathāgatajñāna-darśana** ㊦ ㊦ 如來知見, 佛知見 *Saddh-p.*
- tathāgatajñānadarśana-samādipana** ㊦ ㊦ 令開佛知見 *Saddh-p.*
- tathāgatajñāna-mudrā-samādhi** ㊦ ㊦ [經の名] 如來智手印禪定(經); (音寫) 如來智印三昧(經). *Mvyut.*
- tathāgatajñānāvātāraṇa-kuśala** ㊦ ㊦ 善入佛慧 *Saddh-p.*
- tathāgata-tathatā** ㊦ ㊦ 如來眞如 *Aṣṭ-pr.*
- tathāgatatva** ㊦ ㊦ 如來性, 如來法, 如來位, 佛道 *Aṣṭ-pr., Lanḅ.*
- tathāgata-darśana** ㊦ ㊦ 見如來, 見佛 *Aṣṭ-pr.*
- tathāgata-dūta** ㊦ ㊦ 如來使, 如來所使 *Saddh-p.*
- tathāgata-dhātu** ㊦ ㊦ [dhātu = śarīra] (音寫) 佛舍利, 佛設利羅 *Aṣṭ-pr. 217.*
- tathāgata-parisaṃstuta** ㊦ ㊦ 佛之所稱歎 *Saddh-p.*
- tathāgata-parikṣā** ㊦ ㊦ 觀如來 *Madhy-v.*
- tathāgata-pāda-mūla** ㊦ ㊦ 如來所, 如來之所, 佛所, 一佛所, 諸佛所 *Gaṇḍ-vy.*
- tathāgata-pratimā** ㊦ ㊦ 如來像, 佛像 *Bodh-bh.*
- tathāgata-bhāṣita** ㊦ ㊦ 佛說 *Aṣṭ-pr.*
- tathāgata-bhūta** ㊦ ㊦ 如來 *Bodh-bh.*
- tathāgata-bhūmi** ㊦ ㊦ 如來地, 如來位 *Lanḅ.*
- tathāgatabhūmy-ākāra-praveśa** ㊦ ㊦ 入如來地, 入佛地 *Lanḅ.*
- tathāgata-mahā-karuṇā-nirdeśa** ㊦ ㊦ [經の名] 大慈經, (現示)如來大慈悲經. *Mvyut.*
- tathāgata-rūpa** ㊦ ㊦ 佛形 *Saddh-p.*
- tathāgatarddhy-abhisamkāra** (°ta-rd°) ㊦ ㊦ 如來神力 *Saddh-p.*
- tathāgata-layana** ㊦ ㊦ 如來室 *Saddh-p.*
- tathāgata-vamśa** ㊦ ㊦ 如來種, 如來家, 如來種姓, 如來種性, 如來聖種, 佛種 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.:* ~syānpaccheda 不斷如來種性, 不斷佛種 *Aṣṭ-pr. 818.*
- tathāgata-vigraha** ㊦ ㊦ 如來身, 如來之身, 佛身分 *Gaṇḍ-vy.*
- tathāgata-viśaya** ㊦ ㊦ 如來境界, 佛境界 *Lanḅ.*
- tathāgata-vainayika** ㊦ ㊦ 應爲如來之所化者, 應爲如來所化度者 *Gaṇḍ-vy.*
- tathāgata-śāsana** ㊦ ㊦ 如來教, 如來之法, 如來之所教誨, 如來至眞之法; 佛教, 佛法, 諸佛正法 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ.*
- tathāgata-samavadhāna** ㊦ ㊦ 與佛俱生 *Sam-*
- tathāgata-sampreṣita** ㊦ ㊦ 如來所遣, 世尊所遣 *Saddh-p.*
- tathāgatasyokta-vādin** (°ya-uk°) ㊦ ㊦ 隨如來說, 順如來實語 *Aṣṭ-pr.*
- tathāgata-sva-pratyātma-bhūmi** ㊦ ㊦ 入如來自證地, 內身入如來地 *Lanḅ.*
- tathāgatācintya-gati-viśaya-gocara** ㊦ ㊦ 如來不可思議境界, 諸如來不可思議(究竟)境界, 如來不可思議(智慧)境界 *Lanḅ.*
- tathāgatācintya-guhya-nirdeśa** ㊦ ㊦ [經の名] 如來密意不可思議經, 如來不可思議祕密(大乘)經 *Mvyut.*
- tathāgatājñā** (°ta-āj°) ㊦ ㊦ 如來教勅, 如來勅旨, 如來聖教; 佛教勅 *Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*
- tathāgatājñā-supratipanna** ㊦ ㊦ 最入如來勅旨, 深入如來勅旨, 已善奉行如來聖教 *Mvyut.*
- tathāgatādhiṣṭhāna** ㊦ ㊦ 如來神力, 如來化神力, 如來力住持, 如來神通力, 如來威神力, 佛威神力 *Gaṇḍ-vy., Lanḅ.*
- tathāgatānusmṛti** ㊦ ㊦ 念如來, 念佛 *Saddh-p.*
- tathāgatābhisamaya-gotra** ㊦ ㊦ 如來乘現觀種性, 如來乘性證法 *Lanḅ.*
- tathāgacāyus-pramāṇa** (°ta-āy°) ㊦ ㊦ 如來壽量 *Saddh-p.*
- tathāgatāsana** (°ta-ās°) ㊦ ㊦ 如來座 *Saddh-p.*
- tathāgati** ㊦ ㊦ 佛(地) *Lanḅ. 318.*
- tathāgatotpatti-sambhava-nirdeśa** (°ta-ut°) ㊦ ㊦ [經の名] 指示如來出生, 如來出世指示, 指示如來出生經 *Mvyut.*
- tathā-guṇa** ㊦ 斯る徳を有する.
- tathā-jātiya** ㊦ 同種の, その種類の.
- tathā-tathā** ㊦ ㊦ 如是如是 *Bodh-bh.*
- tathātā** ㊦ [同下]; ㊦ [=tathatā] 如性 *Mvyut.:* ekaivaiśā (ekā-eva-eśā) ~ 此如性者一矣 *Mvyut.*
- tathātra** ㊦ 斯の如くあるもの, 眞實の狀態, 眞實なる本性; ㊦ 如性, 如是性, 眞如, 眞實, 如如 *Daś-bh., Lanḅ., Sūtr., Mvyut.*
- tathā-prabhāva** ㊦ 斯の如き力を有する.
- tathā-bhavitavyatā** ㊦ 斯る結果の必然性.
- tathā-bhāva** ㊦ 斯くあること; 斯る本性なること; 眞實の性; ㊦ 如(其)性 *Vijñ-t.*
- tathā-bhāvin** ㊦ 斯くなるべしと定められたる.
- tathā-bhūta** ㊦ 斯の如くある, 斯る有様又は狀態にある; ㊦ 如是, 如實, 如是者, 既如是已 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
- tathābhūta-jñāna-bala** ㊦ ㊦ 如實智力 *Aṣṭ-pr.*
- tathā-mukha** ㊦ 同方向に面したる.
- tathāyatam** (°tā-āy°) ㊦ 同方向に.
- tathā-rūpa** ㊦ 其様に形成せられたる, 其様に形づけられたる, 斯る外觀の; ㊦ 是, 如是 *Saddh-p., Daś-bh.*
- tathā-rūpin** ㊦ [同上].
- tathā-vādin** ㊦ 眞實を語る; ㊦ 如語者 *Vajr-pr.*
- tathā-vidha** ㊦ 斯る種類の, 同種の, 斯る狀態又は有様にある. ~m ㊦ 其様に, 斯の如く, 斯る方法にて.

tathā-vidhāna 形 斯く行へる; 斯る方法を守れる。
tathā-viryā 形 斯る力の。
tathā-vrata 形 = tathā-vidhāna.
tathā-sīla 形 斯の如き性質又は状態の; 斯の如く振舞ふ。
tathāsīla-samācāra 形 斯る性質及び行爲の。
tathopama (°thā-up°) 形 それと等しき。
tathya 形 眞實の; 實 *Lank.*, *Madhy-v.*: sarvam ~ m 一切實, na ~ m 不實, 非實, ~ m cā ~ m 亦實亦不實, 亦實亦非實, naivā(na-eva): ~ m naiva ~ m 非實非不實, 非實非非實 *Madhy-v.* 369. 甲 眞實, 眞理. 乙, ~ tas 副 眞理に従ひて。
tathya-vacana 甲 約束。
tathya-vādin 形 眞實を語る。
tad 代 [ta の 甲 乙 丙 丁 戊]; [又た語基として°—]。副 其處に; 彼方に; 其様に, 斯の如く, 其時に, ……に關して [Br. (梵書)に於て]; 斯くて, 其の場合に [yadi, ced と 甲 乙]; 其故に, 從て [yad, yataḥ, yena と 甲 乙]; 扱て [Br. (梵書)に於ては一般に轉調の (不變律)]; 其, 此, 是, 彼, 爾, 此事 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* 等。
 ~ **api**, それすら その時すら [ced と 甲 乙]; 然りと雖も [yady api と 甲 乙]。
 ~ **yathā**, そは(次の如し), 例へば斯の如し。→ ta; 謂, 如, 如此, 譬如, 所謂 *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* 等。
 ~ **yathā 'pi nāma**, → yathā.; 譬如 *Aṣṭ-pr.* 等。
tayā, (乙 丙 丁) 以彼 *Mvyut.*
tasmāt, (乙 丙) 故, 其故, 是故, 由是事故 *Vajr-pr.*, *Cat-ś.*, *Sūtr.*, *Nyāy-pr.*, *Abh-vy.*: tasmāt tarhi → tasmāt.
tasya, (乙 丙) 他, 他們的 *Mvyut.*
teṣām, (乙 丙) 他們的 *Mvyut.*
tahim tahim, (乙 丙) [= tasmin tasmin] 處處 *Saddh-p.* 33.
teṣu teṣu, (乙 丙) 彼彼中, 處處中 *Bodh-bh.*
tad-agre 副 その面前に於て。
tad-anantara 形 (乙)の次に立てる, ……に極めて近き, 接近せる。~ m 副 直後に, 其處に於て [prāk 又は prathamam と 甲 乙]。
tad-anu 副 是に於て, そこにて, それに續きて, 後に。
tad-anukṛti 副 従ひて。
tad-anurūpa 形 隨彼彼色類 *Bodh-bh.*
tad-anusaraṇa 甲 それに従ひ行くこと。
tadanusaraṇa-krama 乙 彼に絶えず従ふこと。
tad-anta 形 それにて終れる。
tad-antaram 副 適 *Lal-v.*
tad-antaré 乙 中間 *Lank.*
tad-anna 形 それを或は同じ食物を攝る; その食物に慣れたる。
tad-anya 形 それの他の: 餘, 此餘 *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*: ~ vairūpyopalabdhi-lakṣaṇa 此餘異類可得相 *Mvyut.*; ~ sārūpyopalabdhi-lakṣaṇa 此餘同類可得相 *Mvyut.*

tad-anvaya 形 彼の後裔なる。
tad-apatya 形 彼又は彼女の子孫を有する。
tad-apatyatā 乙 彼 (Śūdra 族の女を娶りし男の息子) 又は彼女 (Śūdra 族の女) によりて子孫を有すること。
tad-apatyamaya 形 彼(彼女)の子等に心を致す, 彼等のことのみを考ふる。
tad-apas 形 その仕事に慣れたる。
tad-apekṣa 形 それに對して注意せる。
tad-artha 乙 それの或はそれ等の意義. 形 それを目的とせる, それを企つる; 同じき意味を有する。~ m 副 その目的の爲に, その爲に, 其故に。
tad-arthaka 形 (乙-ikā) それを指示する。
tad-arthin 形 それを望める。
tad-arthiya 形 その目的に對して企てたる, それを目的とせる。
tad-ardhika 形 それの半分の。
tad-arha 形 それと釣合へる。
tad-avadhi 副 その時より。
tad-avastha 形 その状態又は有様にある; 同じ状態にある即ち安全なる。
tadā 副 その時に, 其時 [後詩にては tataḥ, purā 及び atha と俱に用ゐられ屢々冗語なり]; [屢々 yataḥ, yatra, yad, yadā, yadi, yarhi, ced との 甲 乙]; その場合に於て; 爾時, 此時, 彼時, 于時, 即於爾時 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* → yadā.
 ~ ~, 而してそれより。
 ~ **prabhṛti**, 其時以來。
yadā yadā …… ~ ~, 如何なる時にても……その時は。
yadā ~, 何時にても, 常に。
tad-ākāra 形 その外觀を有する。
tad-ātmaka 形 その性質を組成せる。
tad-ātman 形 それ又は彼と同様の; その性質を有する。
tadātva 甲 現在の時又は状態 [āyati の 乙]; 現, 現在 *Bodh-bh.*
tadātva-vineya 形 現所調伏, 現在調伏, 現在熟 *Bodh-bh.*
tad-ādi 副 其時より; 其後最初に。
tadānīmtana 形 其時の, 其時に生ける。
tadānim (乙) 副 其時, 其時に [yatra, yadā, yadi と 甲 乙]; 爾時, 是時, 於此 *Abh-vy.*
tad-āyati 形 それに彼の力を負へる, 彼の力に等しき力を有する。
tad-āśraya 形 依 *Lank.*
tad-āśritya-pratyakṣopalabdhi-lakṣaṇa (°ṣa-up°) 甲 依止(彼)現見所得相, 在彼現前想相 *Mvyut.*
tad-id-artha 形 その特別目的を目指せる。
tad-id-āsiya 甲 [*Rg-veda* I. 120 讚歌の稱]。
tad-iṣṭi 形 斯る奉獻を伴へる。
tadiya 形 彼又は彼女又はそれ又はそれ等又はあれに屬する或は關する或は適當なる; 彼の, 彼女の, それの, 彼等の; 此の如き。
tadiya-saṅga 乙 彼又は彼女との會合。

tad-uttha 形 その(人)より起れる或は惹起せられたる。
tad-utpatti-lakṣaṇa-sambandha 男 形 從彼生相所由, 出於彼性中相連由 *Muyut.*
tad-upama 形 相似 *Bodh-bh.*
tadupamāgama (°ma-āg°) 形 相稱 *Bodh-bh.:*
 ~m dharmam 相稱法 *Bodh-bh. 309.*
tad-upahita 形 彼に渡されたる。
tad-eka-citta 形 それのみに専心する。
tad-ekatya 形 一分, 一類 *Bodh-bh.*
tad-okas 形 共處に住める。
tad-gata 形 彼・彼女又はそれに向けられたる; (一°)に向けられたる, ……に専らなる。
tad-guṇa 男 彼又は彼女の特性又は徳。 形 之等の特性を有する。
tad-grāha 形 彼取 *Madhy-vibh.*
tadgrāha-bija 中 彼取種子 *Madhy-vibh.*
tad-devata 形 それを神として有する。
tad-devatāka 形 [同上]。
tad-devatya 形 [同上]。
tad-deśya 形 同國より來れる。 男 同國人, 同郷人。
tad-deha 男 身, 此依身 *Madhy-vibh.*
tad-daivata 形 =tad-devata.
tad-daivatya 形 [同上]。
tad-dvi-guṇa 形 その量の二倍なる。
tad-dharmatva 中 彼の或はその特性を有すること。
tad-dharman 形 それを實行する; 彼の義務を遂行する。
tad-dharmin 形 その或は彼の法に遵へる。
tad-dharmya 形 その種の。
tad-dhita (tad-hita) 中 彼の幸福。 男 [pratyaya, を補ひ] 第二次(即ち 形)より他の(形)を作る接尾音[「…の爲に良き」の意味に於てこの種の接尾音の一が用ゐらるゝが故にかく名づく; krt の 形]; 第二次接尾音にて作られたる語。
tad-dhetu (tad-h°) 男 彼因 *Lank.* ~os 形 因此, 由此正因 *Abh-vy.:* ~oḥ tat-pratyayan tan-nidānam 以是因緣處, 由是因緣處, 以是緣故 *Sikṣ. 149.*
tad-dhetuka (tad-h°) 形 依彼, 因彼 *Lank.*
taddhetv-ālambana 中 彼因攀緣, 因彼及所緣 *Lank.*
tad-bandhu 形 その種族又は民族に屬する。
tad-bahula-vihārin 形 屢々それを爲す。
tad-buddhi 形 それに心を集中せる。
tad-bhava 形 それ即ち梵語(Sāmskrta)より出でたる[俗語(Prākṛta)及び南印度諸語に適用せらる]。 男 梵語を起原とする單語 [=taj-ja; deśa-ja の 形]。
tad-bhāva 男 それとなること; (一°)となること; 彼の感情又は意志。
tad-bhūta 形 其の中にある。
tad-rasa 男 それの精髓。
tad-rāja 男 彼等の王[人民の名に附してその王を示す接尾音(tad-dhita 接尾音の一種)]。
tad-rūpa 形 斯くの如き形の或は種類の或は外觀の; 同じ種類の; 如是, 此色類, 像類 *Divy., Bodh-bh.*
tad-rūpatva 中 [同上 形]。

tad-vamśya 形 此の又は彼の家族に屬する。 男 その(支配者の)親戚。
tad-vaktṛ 男 それの宣示者。
tadvat 1. 形 この方法にて, 斯の如く [yadvat の 形]; 同様に, ……の如く, 亦た; 亦爾 *Sāmkhy-k.:* ~ eva 亦復然 *Bodh-c.*
tadvat 2. 形 それを所有せる或は含みたる。
tadvattā 中 相似, 一致。
tad-vayas 形 同年齡の。
tad-vaśa 形 それを望める。
tad-vid 形 それを知れる或は熟知せる。 男 識者, 専門家; 智者。 中 それに関する知識。
tad-vidha 形 斯の如き種類の, 斯様なる, 斯の如き; それに相當せる。
tad-vidhatva 中 斯の如くあること; それに適合せる性質。
tad-viśeṣa-gaty-āvaraṇa 中 此差別趣障 *Madhy-vibh.*
tad-viśaya 形 その範疇に屬する; それを目的とせる。
tad-vṛtti 形 それに適合して生ける。
tad-vrata 形 彼又は彼女又は彼等に對して義務を果せる。
Tan 1. VIII. 他 自 tanoti, tanute 擴張す; 伸ばす; 達す; 覆ふ; 遠く輝く; 續く, 耐ふ; (織物を)擴ぐ; 弘む; 加ふ, 増す; (歩みを)向く; 言ふ; (儀式を)執行す; (業)を(業)と爲す。 通受分 tata 擴げられたる, 伸ばされたる; 廣き; (因, 一°)に覆はれたる。
 ati- 通受分 atitata 擴張せられたる; 甚だ高慢なる。
 adhi- (弦を)張る。 通受分 adhitata (因)にて覆はれたる。
 abhi- (業)の上に擴ぐ。
 ava- 下降す; 擴ぐ, 覆ふ; 弛む。 通受分 avatata 下方に擴がれる; 覆はれたる。
 ā- ……の上に擴ぐ, 行き互る; 照す; 自身を伸ばす, (業)に向ひて緊張す或は努力す; (業)に對して準備す, ……を待つ; (足場を padam) 得る; 擴がる, 伸ばす; 散らす, 注ぎ出す; 生ず, 惹起す; 顯はす, 裏切る。
 通受分 ātata 擴げられたる; 擴張せられたる, 張られたる; 長き(路); (因)に定著せられたる。
 abhy-ā- 狙ふ; 自己の權力の下に入る。
 vy-ā- 生ず, 惹起す。
 sam-ā- [同上]。
 ni- 貫く; 下降せしむ, 根を下さしむ。
 pari- 纏ひ著く; 圍む。
 pra- 擴ぐ; 覆ふ, 充たす; 散らす; 惹起す; 示す, 暴露す; 爲す, 始む, (業)を(業)と爲す。 形 pratāyate (因)より擴がる, ……より進む; pratanyate 續けらる, 擴げらる。 使役 pratānayati 舒 *Bodh-bh.*
 vi- 擴ぐ; 覆ふ, 行き互る, 充たす; 伸ばす, 弘む; (弓又は弓の弦を)引く; (弦を)張る; (歩行を padāni) 爲す, 即ち大股に歩む; (軛を)前に置く; (因)に(膏油を)塗る; (儀式等を)整ふ, 行ふ, 執行す; 顯はす; 惹起す, 生ず; 爲す, (業)を(業)に爲す。 通受分 vitata

擴げられたる; 延長せる, 廣き; 張られたる.
pra-vi- (過受分) **pravitata** 擴げられたる, 遠く擴
 げられる, 廣き; 計劃せられたる, 始められたる; 配
 置せられたる.
sam- 續く; 續, 接 *Abh-vy.* (過受分) **samtata**
 妨げられざる, 連續せる; 關聯せる.
Tan 2. IV. (因) **tanyati** (因) 咆哮す, 反響す; (因)
 (tanati) 吐聲, 唱喚 *Siks.*
tan (因) 持續. (因) ~ā 連續して, 次々に.
tana (因) 子孫, 後裔.
tanaya (因) 家族を維持する; 或人自身の家族に屬す
 る. (因) 息子; (因) 子 *Saddh-p., Siks., Mvyut.*; (太
 子) *Lal-v.* (因) 子孫; 種族, 家族; 小兒.
tanayatu (因) 雷.
tanaya-priya (因) 子又は子孫を愛する.
tanayā (因) 娘.
tanayitnu (因) 咆哮する, 雷鳴する.
tanayi-kṛta (因) 子となされたる.
tanās (因) 子孫.
tanikā (因) 綱, 紐.
tanitr (因) 擴ぐる者, 執行者.
taniman (因) 薄きこと; 淺きこと; 弱きこと.
taniṣṭha (因) [tanu] 最小の.
taniyas (因) [tanu] 甚だ小なる或は薄き.
tanu 1. (因) (因) (-ū, -vi) 薄き; 小さき; 細き, 瘦せた
 る; 乏しき, 適度の(量の); 纖細なる, 弱き; 透明な
 る(液體); (因) 薄, 微薄, 軟薄, 薄廣; 肺長; 少; 下
Buddh-c., Daś-bh., Mañj-m., Sūtr., Mvyut., 梵千.
 ~m **Kṛ**, (因) 微薄 *Lal-v.*
tanu 2. (又は tanū) (因) 身體, 容貌, 形體; 或人自身
 [= (因) (因); 又は (因)]; 顯現; (因) 身, 身肉 *Lal-v.*
Rāstr., Lank.: **rarātyām** ~r **manyoh** 怒の形
 相; **iyam** ~r **mama** 此處なる我; **svakā** ~
 h 或人自らの身體.
tanuka (因) 薄き; 小さき; (因) 小 *Bodh-bh.*
tanu-glāni (因) 身體の衰弱.
tanu-cchada (因) (身體を被護するもの), 羽毛; 甲冑,
 胸甲; (因) 羽毛.
tanu-ja (因) 息子.
tanu-janman (因) [同上].
tanu-jā (因) 娘.
tanu-jihvatā (因) 薄き舌を有すること (*Dharm-s.*);
 (因) 舌相廣薄好 *Dharm-s.*
tanu-jihvā (因) (因) 廣長舌, 廣長舌相. *Gaṇḍ-vy.*
tanutara (因) = **taniyas**; (因) 薄, 小, 少 *Bodh-bh.*
tanutā (因) 小さきこと; 瘦せたること, 細きこと; 肉
 體を有する状態.
tanu-tyaj (因) 身體を棄てたる, 將に死せんとする; 生
 命を賭したる, 勇敢なる.
tanu-tyāga (因) 生命を犠牲にすること又は賭するこ
 と. (因) 消費すること少き.
tanu-tra (因) 甲冑, 胸甲.
tanu-travat (因) 武裝せる.
tanu-trāna (因) = **tanutra**.
tanu-trin (因) 武裝せる.
tanutva (因) = **tanutā**; (因) 薄, 微薄, 薄弱 *Siks.*

Abh-vy., Bodh-bh. ~m **Gam** (因) 減少 *Divy*
 5.

tanu-tvakka (因) 皮膚の薄き.
tanu-tvac (因) [同上].
tanu-dāna (因) (性交に)肉體を委すこと; 些少の施與.
tanu-dirgha-ghoṇa (因) 薄く長き鼻を有する; (因)
 脩高鼻 *Buddh-c.*
tanu-drṣṭi-bodha (因) (因) 小見覺 *Sūtr.*
tanu-doṣa (因) (因) 小罪 *Sūtr.*
tanu-dhi (因) 小心の.
tanu-bala (因) 弱き. → a~
tanu-bhava (因) = **tanu-ja**.
tanu-bhāva (因) = **tanutā**.
tanu-bhṛt (因) 形體を具へたるもの, 特に人間.
tanumat (因) 身體を有する.
tanu-madhya (因) 腰. (因) 細き腰を有する.
tanu-madhyama (因) [同上(因)].
tanu-mūrti (因) 薄き形の.
tanu-ruha (因) 毛(身體の); 羽毛; (因) 支節(?) *Lal-*
v. 165.
tanula (因) 擴げられる, 擴張せる.
tanu-latā (因) 瘦せたる身體.
tanu-varman (因) = **tanu-cchada**.
tanu-vāra-bhasa (因) 甲冑の輝ける.
tanus (因) 身體.
tanu-saṅgama (因) 肉體の結合.
tanū (因) = **tanu 2.** (因); (因) 廣長 *Gaṇḍ-vy.*
tanū-karaṇa (因) 細くすること.
tanū-kartṛ (因) 減ずるもの, 破壊者.
tanū-Kṛ, 細くす, 切り取る; 減ず; (恥を)棄つ.
tanū-kṛt (因) 生命を保護する; (因) の顯現なる; 自ら
 なされたる.
tanū-ja (因) 身體より生れたる; 人體に屬する. (因)
 息子. (因) 羽毛, 翼; (因) 毛 *Buddh-c.*
tanū-janman (因) 息子.
tanū-jā (因) 娘.
tanū-tāpa (因) 肉體の苦行.
tanū-tyaj (因) 自己の生命を賭せる, 必死の.
tanū-dūṣi (因) 身體を害する.
tanū-devatā (因) 神として崇められたる(火の)一形態.
tanū-deśa (因) 身體の部分.
tanū-napāt (因) [(彼自身の息子), *Agni* 神の稱]; 火.
tanū-napṭṛ (因) [同上].
tanū-pā (因) 人體の保護.
tanū-pāna (因) 人體を保護する. (因) [同上(因)].
tanū-pāvan (因) [同上(因)].
tanū-pṛṣṭha (因) [或る *Soma* 祭の名]
tanū-bala (因) 體力; 自身の力.
tanū-bhava (因) 息子.
tanū-BHū, 減ず, 小さくなる.
tanū-bhūta (因) 小さくなれる, 減じたる.
tanū-bhūmi (因) (因) 薄地, 微(欲)地, 柔軟地 *Mvyut.*
tanū-ruha (因) 毛(身體の); 羽毛; 翼. (因) 息子.
tanū-vaśin (因) 人に對して權力を有する, 支配する
 (*Agni* 神, *Indra* 神).
tanti (因) (又は -i) 紐, 綱(特に續を繋ぐ爲の).

tanti-cara 形 綱にて行く 即ち導かるゝ。
tanti-pāla 男 [Mahābhārata の中にて Virāṭa 王の
 宮廷に於て Sahadeva が用ゐし變名]。
tanti 女 = tanti。
tantu 男 糸, 紐, 細線; (樂器の) 絃; 纖維, 經(糸); 連
 續, 繼續; (祭式の連續的) 過程; 一種族又は一家族の
 繁殖者; 血統, 子孫; 縷, 繩 Divy., Lank.,
 Abh-vy. 具 ~nā 副 連 Sikṣ.
tantuka 男 [—° 形] 糸, 紐; 細線. 男 [蛇の一種]。
tantu-karaṇa 中 紡績。
tantu-kārya 中 織物。
tantu-kṛntana 中 繼續を中斷すること; 一種族又は
 一家族の繁殖を止むること。
tantu-kriyā 女 = tantu-karaṇa。
tantu-nābha 男 蜘蛛。
tantu-bhūta 形 血統又は子孫を永續する。
tantumat 形 糸の如き; [(糸の如く續く), Agni 神の
 稱]。
tantu-madṭya 形 糸の如き腰を有する。
tantu-varḍhana 形 子孫を増殖せしむる. 男 [Viṣṇu
 神の稱]。
tantu-vāna 中 機織。
tantu-vāya 男 機織師。
tantu-samtati 女 裁縫。
tantra 中 織機(?); 經(糸); 連續, 繼續; 子孫; 基礎,
 基をなす原則, 精髓; 法式; 標準; 要點; 規則, 教
 義, 教範; 學術的作品; 摘要書; 摘要書の章段; 呪法
 的にして且つ神祕的なる經典(の分類); 呪文; 醫術,
 妙藥; 支配; —°, 線, 列, 軍隊; 教法, 本續,
 祕密本續, 密呪本續 Guhy-s., Mvyut.; 緣, 因緣 Lank.
 → grha ~, para ~. 形 主として(—°)に關聯
 せる, …に頼れる。
tantraka 形 織機より來れる; 全く新しき; [—° は
 = tantra(中)] 教義, 教本, 摘要書。
tantra-kāra 男 摘要書の作者。
tantra-ja 形 依他, 從因生 Lank.
tantra-jāla-jāta 形 如亂髮 Mvyut. [Pāli. tan-
 tākula-jāta, tantākulaka-jāta]。
tantraṇa 中 子孫又は家族の生活を支持, 保證する
 こと。
tantratva 中 (—°)への依附。
tantraya 名動 他 tantrayati (Tantra に) 従ふ; 行
 ふ; (業)に對して用意す; 自 tantrayate 整理す。
 通受分 tantrita (—°)に頼れる。
tantra-vāya 男 機織師; 織, 織師, 織匠, 織
 師 Divy., Prāt-m., Sikṣ., Bodh-bh.: ~ena civa-
 ram vāyayati 使織師…織作衣 Prāt-m. IV. 23.
tantrākhyāyika (°ra-ākḥ°) 中 Pañca-tantra の古
 本。
tantrāvāpa (°ra-āv°) 中 自國并に敵國の事情に注
 意すること; 醫藥とその調製。
tantrita 通受分 → tantraya。
tantrin 男 兵士。
tantrillaka 男 [人名]。
tantri 女 (體 -s) 糸; (樂器の) 絃; 弦樂; 縷, 絃
 Ast-pr.

tantri-paṭahikā 女 [太鼓の一種]。
tantri-bhāṇḍa 中 [印度琵琶の一種]。
tantri-svara 男 絃音 Sikṣ.
Tand, I. 自 tandate 弛緩す, 衰ふ。
tandra 形 疲勞せる。
tandraya 名動 自 tandrayate 疲勞す。
tandrayu 形 疲勞せる, 怠惰なる。
tandrā 女 倦怠; 怠惰, 懶惰。
tandrāya 名動 自 tandrāyate 疲勞す。
tandrālu 形 疲勞せる; 眠き。
tandrāvin 形 疲れたる, 懶惰なる。
tandri 男 中 = tandrā。
tandrita, → a ~。
tandritā 女 疲勞, 懶惰。
tandri 女 = tandrā; 倦, 紊亂 Mvyut.
tan-nāmika 形 斯く名づけられたる。
tan-nimitta 形 彼又はそれによりて惹起せられたる;
 それに従へる或は關聯せる; それに適合せる。
tan-nimittatva 中 それの原因たること。
tan-niṣṭha 形 全くそれに捧げたる。
tan-manas 形 それに心を奪はれたる。
tanmaya 形 それより成れる, それに充ちたる, それ
 と同一なる; 貴, 貢高, 歡喜 [Tib. de-la chags-
 pa] Kāśy. 198.
tanmayatā 女 それより成れること; 彼又は彼女又は
 それ又はあれと同一なること。
tanmayatva 中 [同上]。
tanmayi-karaṇa 中 成一性 Abh-vy.
tanmayi-bhāva 男 = tanmayatā。
tan-mātra 形 それだけ多くの或は僅かの; 極微の;
 瑣細の, 取るに足らざる; 唯, 些 Sāṃkhy-k.,
 Mvyut. 中 瑣事 [從ほんの瑣事に就ての(怒)]; 原
 子, (分化し難く微細にして而もそれより大なる要素
 mahābhūta を生ずる) 基本的要素 [即ち Sāṃkhyā 哲
 學に於ける五唯]; 唯, 唯量 Sāṃkhy-k., Mvyut.:
 ~pañcaka 五唯 [1. śabda ~ 聲唯, 2. sparśa ~
 觸唯, 3. rūpa ~ 色唯, 4. rasa ~ 味唯, 5. gandha-
 ~ 香唯] Sāṃkhy-k. 24.
tan-mātraka 形 [同上(形)]. 中 丁度それだけに過
 ぎざるもの。
tanmātra-pañcaka 中 五唯 Sāṃkhy-k. →
 tan-mātra.
tan-mālīka 形 tan-mātra (中)より成る。
tan-mānin 形 それと認めらるゝ, それを含蓄せる。
tan-mūla 形 それに基ける; それによりて惹起せら
 れたる。
tan-mūlatva 中 それの原因たる或はそれに基けるも
 のなること。
tanyatu 男 咆吼; 雷鳴; 風。
tanv-aṅga 形 (女 -i) 纖細なる四肢を有する, 華奢な
 る; 手臂脛長 Mañj-m. 男 [人名]。
tanv-aṅgi 女 華奢なる肢體の女。
tanvi 女 [tanu の 女] 瘦せたる女, 華奢なる女, 美し
 き女。
Tap, I. 他(自) tapati(-te) 暖かし或は暑し, 輝く(太
 陽); 熱す, 暖くす, 暑くす; 照らす, 焙る, 燒く;

苦ましむ、惱ます; 苦痛を受く; [paścāt と俱に] 後悔す; 肉體を苦ましむ; 苦行をなす [屢: tapas の 業 と俱に]; 傷つく, 害ふ; 熱惱, 湯湯然; 朗 *Lal-v., Sūtr., Mvyut.*; 修 *Abh-vy.* ㊟ **tapyate** (-ti) 又は IV. ㊟ ㊟ **tapyati(-te)** 熱せらる, 焼ける; 清めらる; 苦む; 同情を感じず; 肉體を苦ましむ, 苦行をなす [屢: tapas の 業 と俱に]; 悔悟す; 焦; 明淨 *Daś-bh., Abh-vy.*; 追悔, 後悔 *Rāstr., Abh-vy.* 強意 ㊟ **tātapyamāna** 烈しき苦痛を感じず, 甚しく心痛する. ㊟ **tapta** 暑き, 熱き, 燃えたる, 赤熱せられたる; 鎔解せる; 苦められたる, 惱まされたる; (苦行を)行へる; (肉體を)苦めたる [tapas と俱に]. ㊟ **tāpayati(-te)** 熱す; 焙る; 苦ましむ, 惱ます; 起惱 *Sikṣ.* **ati-** 激しく燃ゆ; 強く熱す. ㊟ **atitapyā-** 煮直す. ㊟ **atitāpayati** 強く熱す. **anu-** 熱す; 惱ます. ㊟ **anutapyate** 苦痛を受く; 悲しむ, 悔む. ㊟ **anutāpayati** 悲ましむ, 惱ます **abhi-** 暖かにす, 熱す; 照す(太陽); 痛ましむ, 苦ましむ, 惱ます. ㊟ **abhitapyate** 苦痛を感じず, 苦む. ㊟ **abhitāpayati** 焦がす. **abhy-ā-** 苦ましむ. **ud-** 熱す; 苦ましむ; 強く壓迫す. ㊟ **uttapyate** ㊟ **uttapta** 明利 *Daś-bh.* ㊟ **uttapta** 熱せられたる, 赤熱せられたる; 精製せる(金屬); (一)の苦痛に充されたる. ㊟ **uttāpayati** 暖たむ, 熱す; 興奮せしむ, 激勵す. **upa-** 暖たむ, 熱す; 苦痛を受く, 不快に感ず, 病む. ㊟ **upatapyate** 熱せらる; 苦痛を受く, 病む. ㊟ **upatapta** 熱せられたる; 病氣の. ㊟ **upatāpayati** 点火す, 燃す; 苦ましむ, 惱ます; 惱 *Bodh-bh.* **ni-** (nis-Tap) 焦がす; (金を)精錬す. ㊟ **niṣṭapta** 焼かれたる, 全く熱せられたる; 鎔解せられたる; よく調理せられたる. **pari-** 周圍を焼く, 点火す; 苦痛を感じず或はに悩む; 苦行をなす; 悔悟す; 起悔惱 *Sikṣ.* ㊟ **paritapyate(-ti)** 苦痛を受く; 悔悟す, 苦行をなす; 生勞苦 *Divy.* ㊟ **paritapta** 熱せられたる, 焼かれたる; 苦められたる. ㊟ **paritāpayati** 焼く; 苦ましむ. ㊟ **paritāpita.** **pra-** ㊟ 熱し, 焼く, 輝く(太陽), 暖かにす, 熱す, 照す; 自己の光輝を顯はす; 熱にて苦む; 苦悶す, 悩む; 照曜, 普明 *Saddh-p., Daś-bh.* ㊟ **pratapyate** 苦む. ㊟ **pratapta** 熱き; 輝ける; 苦められたる. ㊟ **pratāpayati** 暖たむ, 熱す; 点火す; 苦ましむ, 悩ましむ; 生焦熱, 生熱惱心 *Suv-pr.* **saṃ-pa-** ㊟ **saṃpratapta** 甚だ悩まされたる. ㊟ **saṃpratāpayati** 暖たむ. **prati-** 熱す. **saṃ-** 熱す, 乾燥す; 苦痛を感じず, 悔む; 熱にて苦む, 苦悶せしむ; 感傷, 憂悔 *Saddh-p.* ㊟ **saṃtapyate** 苦痛を感じず, 苦む; 悔悟す. ㊟ **saṃtapta** 熱せられたる, 赤熱せられたる; 苦めら

れたる. ㊟ **saṃtāpayati** 暖かにす, 熱す, 焼く; 熱にて苦ましむ; 悩ます. ㊟ **saṃtāpita** 熱せられたる, 焼かれたる; 苦ましめられたる, 悩まされたる.

tapa ㊟ 燃ゆる; 苦むる; 苦悶せしむる. ㊟ 熱; 暑季; 苦行; 火の特別の化現 (*Skanda* の七人の母を生ぜし); 熱 *Av-s., Abh-vy.*; 苦行 *Sikṣ.: pañca* ~ 五熱 *Av-s. I. 298.*

tapaḥ-pradhāna ㊟ 苦行に秀でたる (*Buddh-c.*).

tapaḥ-prabhāva ㊟ 苦行によりて得られたる超自然力.

tapatā ㊟ (一)を支配すること.

tāpati ㊟ [太陽神と *Chāyā* との娘即ち *Kuru* の母の名].

tapana ㊟ 熱き, 燃ゆる, 輝ける; 苦むる, 悲しましむる. ㊟ 太陽; [或る地獄の名]; [或る *Yakṣa* の名]; [或る *Rākṣasa* の名]; [地獄の名] 熱, 炎熱, 燒然, 焦熱, 炎熱(地獄) *Sam-r., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.* ㊟ 熱きこと, 燃ゆること; 熱; 苦痛, 道德的苦惱.

tapana-dyuti ㊟ 太陽の如く輝ける.

tapana-sutā ㊟ *Yamunā* 河.

tapanāśman ㊟ 日長石.

tapani ㊟ 熱.

tapaniya ㊟ 米(の一種). ㊟ 精錬せられたる黄金.

tapaniyamaya ㊟ (㊟-i) 黄金の.

tapaniyopala (°ya-up°) ㊟ 日長石.

tapantaka ㊟ [人名].

tapartu (°pa-rtu) ㊟ 暑季.

tapas-carana ㊟ 苦行又は苦行の生活; 自責, 抑制; 峻嚴.

tapas-caryā ㊟ [同上].

tapas-cit ㊟ [或る神群の名].

tapaḥ-ślāghya ㊟ 苦行により功徳を積める.

tapas ㊟ 熱; 火 [東西南北に向けるものと太陽と合して五あり]; 苦惱; 苦行, 自責, 抑制, 宗教的苦行, 敬虔; [四姓の各々に課せらるゝ特別の責務]; [曆月の名(一月——二月)]; [七世界の中の一の名 (*Jana-loka* の上に位す)]; 苦, 苦行, 難行, 梵行 *Buddh-c., Lal-v., Gand-vy., Lanḥ., Sūtr., Abh-vy.*; *ugram* ~ *tapyati* 修諸苦行 *Gand-vy. 116.*

tapas-tanu ㊟ 苦行によりて瘦せたる.

tapas-pati ㊟ 苦行の主.

tapasya 1. ㊟ **tapasyati** 自身を苛責す, 肉體を苦む, 苦行をなす.

tapasya 2. ㊟ 熱より生じたる; 苦行に屬する. ㊟ [曆月の名(二月——三月)].

tapasyā ㊟ 宗教的苦行.

tapasvat ㊟ 燃ゆる, 熱き; 苦行の, 信仰に充ちたる, 敬虔なる.

tapasvi-jana ㊟ 苦行者.

tapasvin ㊟ 苦められたる, 悩まされたる, 不運なる, 哀れなる; 敬虔なる, 信心深き; 可愍 *Saddh-p.* ㊟ 苦行者, 宗教の歸依者; 具苦行; 煩惱 *Mvyut.*

tapasvini ㊟ 苦行女; 不運なる女.

tapah-sahāya 男 苦行の伴侶 (Buddh-c.).
 tapah-suta 男 [Yudhiṣṭhira 王の名].
 tapah-sthala 甲 苦行の場處.
 tapā 女 [八菩提樹女神の一] (Lal-v.).
 tapātyaya 男 (暑熱の終熄), 雨季.
 tapānta 男 [同上].
 tapita 形 精鍊せられたる(金).
 tapiṣṭha 最上 甚だ熱き, 燃ゆる.
 tapiṣṭu 形 暖むる, 燃ゆる.
 tapiyas 比較 最も嚴酷に苦行せる; (圓)よりも敬虔なる.
 tapur-agra 形 燃ゆる尖端を有する(槍).
 tapur-jambha 形 燃ゆる顎を有する(Agni 神).
 tapur-mūrdhan 形 燃ゆる頭を有する(Agni 神).
 tapur-vadha 形 燃ゆる武器を有する.
 tapuṣi 形 燃ゆる, 熱き.
 tapuṣi 女 怒の熱.
 tapuṣ-pā 形 暖き(奠酒)を飲む.
 tapus 形 燃ゆる, 熱き. 男 火; 太陽; 敵. 甲 熱.
 tapo-jā 形 熱より生れたる; 宗教的苦行によりて(神又は聖者と)なれる.
 tapo-da 1. 甲 [聖地の名].
 tapoda 2. (°pa-uda) 甲 温泉 (Buddh-c.); 温泉 Lal-v.
 tapo-dāna 甲 = tapo-da 1.
 tapo-dirgha 形 [cakṣus と共に] 苦行によりて先見の力を得たる, 豫言の力を有する.
 tapo-dhana 形 苦行を以てその富とせる, 苦行に富める; 信心深き, 敬虔なる. 男 苦行者, 歸依者; [人名]; 仙人 Buddh-c.
 tapo-dhāman 甲 [聖地の名].
 tapo-nitya 形 恆に苦行を行ふ.
 tapo-nidhāna 甲 苦行の寶庫 (Buddh-c.).
 tapo-nidhi 男 苦行の寶庫; 嚴酷なる苦行者; 極めて敬虔なる人.
 tapo-niṣṭha 形 苦行を行ふ, 苦行にて生活する.
 tapo-niṣṭha 男 苦行を最後とする.
 tapo-bala 男 宗教的苦行によりて得られたる力.
 tapo-bhaṅga 男 苦行の中絶.
 tapo-bhṛt 形 苦行をなす, 信心深き, 敬虔なる. 男 歸依者, 苦行者.
 tapomaya 形 (女-i) 苦行又は敬虔にて成れる; 信心に捧げたる.
 tapo-mūrti 女 苦行の權化.
 tapo-mūla 形 宗教的苦行又は敬虔をその根本とせる.
 tapo-yajña 形 苦行を以て供物とする. 男 苦行の供儀.
 tapo-yukta 形 苦行せる, 苦行に耽れる, 敬虔なる. 男 苦行者, 歸依者.
 tapo-yoga 男 苦行.
 tapo-rata 形 苦行を悦べる, 信心深き.
 tapo-rati 形 [同上]. 男 [人名].
 tapo-rāsi 男 苦行の集積.
 tapo'rtha 形 苦行を目的とする.
 tapo'rthiya 形 苦行に運命づけられたる.
 tapo-loka 男 [七世界の一の名 (Jana-loka の上に位

す)].
 tapovat 形 苦行せる, 信心深き.
 tapo-vana 甲 苦行林, 神聖なる林(その中にて苦行者が苦行を行ふ); 苦行林 Buddh-c.
 tapovana-gata 形 苦行者 Lal-v.
 tapo-variṣṭha 形 苦行に卓越せる (Buddh-c.).
 tapo-vāsa 男 = tapah-sthala.
 tapo-vṛddha 形 苦行に充ちたる, 嚴酷に苦行せる, 甚だ敬虔なる.
 tapta (過受分) → Tap. 熱, 熾然, 熾熱 Suv-pr., Bodh-bh., Bodh-c.: kleśāgni ~ manas 煩惱熱, 煩惱火熾令心熾熱 Suv-pr. 28. 甲 湯, 劇しき熱. ~ m 副 熱烈に.
 taptaka 甲 揚げ鍋.
 tapta-kumbha 男 熱せられたる瓶; [或る地獄の名].
 tapta-kūpa 男 [或る地獄の名].
 tapta-kṛcchra 男 甲 熱き物のみを飲食する苦行.
 tapta-jāmbū-nadamaya 形 (女-i) 精鍊せる黄金にて製したる.
 tapta-tapta (過受分) 反復熱せられたる.
 tapta-tāmra 甲 灼熱せる或は溶解せる銅.
 tapta-pāṣāṇa-kunḍa 甲 [或る地獄の名].
 tapta-rūpa 甲 銀.
 tapta-loha 甲 [或る地獄の名].
 tapta-vāluka 形 熱砂を具へたる. 男 [或る地獄の名]; 熱砂.
 tapta-vālukā 女 (女) 熱砂.
 taptavya (未受分) (苦行を)實行せらるべき.
 tapta-vrata 形 最初の祭式に熱き牛乳を用ふる.
 tapta-surā-kunḍa 男 [或る地獄の名].
 tapta-sūrmi 女 [或る地獄の名].
 taptasūrmi-kunḍa 甲 [同上].
 tapta-hema 甲 精鍊せる黄金.
 taptābharāṇa (°ta-ābh°) 甲 精鍊せる黄金にて作れる裝飾品.
 tapti 女 熱.
 taptr 男 暖むるもの, 熱するもの.
 tapyā (未受分) 精鍊せらるべき.
 tapyati 女 熱.
 tapyatu 形 熱き.
 Tam, IV. 他 (直) tāmyati(-te) 息が絶ゆ, 窒息す; 氣絶す; 弱らざる, 悩まざる; 我を忘る; 硬くなる; 麻痺せしむ. (過受分) tānta 呼吸困難なる; 悩まされたる; 衰弱せる, 弱々しき.
 ā- 我を忘る, 何を爲すべきかに當惑す; 硬くなる.
 ud- 失神す; 悩まざる.
 ni- (過受分) nitānta 特別の, 法外の, 重要なる. (便後) nitamayati 窒息せしむ, 息を塞ぐ.
 sam- 弱らざる, 疲憊す.
 tama 1. 形 [最上 (優尾)] 最も(欲せらるゝ).
 tama 2. 甲 [= tamas]; 黑暗, 闇鈍 Suv-pr., Siks.
 tamaḥ-parāyaṇa 男 趣黑闇者 Bodh-bh.
 tamaka 男 喘息(の一種).
 tamata 形 ...を希望する.
 tamana 甲 呼吸の止ること.
 tama-p 女 (女) [最上級の接尾辞 -tama].

tamas ㊦ (闇, 覆) 暗黒; 地獄の闇冥; [地獄の名]; 蝕 [= Rāhu]; 誤謬, 無知; 迷妄; 迷想; 闇 [一切事物の創造に於ける三つの基礎的性質即ち三徳 (guṇa) の一]; [Sāṃkhya 哲學に於ける五無明 (avidyā) の一]; 闇, 黒闇, 昏闇, 暗, 冥, 冥暗, 暗蔽, 所翳; 無明; 癡暗, 愚癡 *Lal-v., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Suv-pr., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Bodh-c., Mvyut.*

tamasa ㊦ 暗黒色の. ㊦ 暗黒(一°).

tamasā ㊦ [Gāṅgā 河の支流の名].

tamasākula (°sa-āk°) ㊦ 悉皆暗黒 *Lal-v.*

tamasā-vana ㊦ [林の名] 暗林 *Divy.*

tamaṣka ㊦ —°, = tamas.

tamas-kāṇḍa ㊦ 大なる暗黒.

tamas-tamaḥ-parāyaṇa ㊦ 從冥入冥, 從冥入於冥, 從闇趣闇, 自暗中向暗中行 *Divy., Mvyut.*

tamasvat ㊦ (㊦-*i*) 陰暗の.

tamasvini ㊦ 夜.

tamaḥ-samghāta ㊦ 濃き暗黒.

tamaḥ-sprś ㊦ 暗黒と關聯せる.

tamām (業 ㊦) ㊦ —° 非常に, 甚だ, 多く [因に於ては ㊦ に, ㊦ に於ては ㊦ に附加せらる].

tamāla ㊦ [暗黒色をなせる樹木の名, 學名 *Xanthochymus pictorius*]; ㊦ 多摩羅, 多摩羅(樹) *Divy., Saddh-p.*

tamāla-laka ㊦ ㊦ [同上].

tamāla-pattra ㊦ Tamāla 樹の葉; ㊦ 藿葉 *Mvyut.*; (香) 多摩羅樹葉, 多摩羅葉, 多摩羅樹葉 *Mvyut.*, ㊦; [香の名] 藿葉香 ㊦; (香) 耽摩羅香, 多摩羅跋香 *Divy., Mvyut.*, ㊦; (香) 多摩羅跋 *Mvyut.*

tamāla-patra ㊦ [=°*pattra*] ㊦ [香の名]; (香) 多摩羅跋 *Saddh-p.*

tamālapatra-candana-gandha ㊦ ㊦ [佛の名] 多摩羅跋栴檀(香), 多摩羅栴檀(之香) *Saddh-p.*

tamālapatracandanagandhābhijña ㊦ (香) [佛の名] 多摩羅跋栴檀香神通 *Saddh-p.*

tamāṣka ㊦ [人名].

tamisra ㊦ 暗黒, 暗夜; 地獄; ㊦ 陰 *Bodh-bh.*

tamisra-pakṣa ㊦ 暗黒の十四日間 [滿月より新月まで].

tamisrā ㊦ 暗夜.

tami ㊦ 夜.

tamiśvara (°mi-iś°) ㊦ 月(太陰).

tamo-gā ㊦ 暗黒の中に動く.

tamo-ghna ㊦ 暗黒を拂ふ. ㊦ 太陽.

tamo-ijotiṣ-parāyaṇa ㊦ 從冥入明, 從闇趣明, 自闇中向明行 *Mvyut.*

tamo-niṣṭha ㊦ 暗黒に關聯せる或は從へる.

tamo-nud ㊦ 暗黒を拂ふ. ㊦ 光.

tamo-nuda ㊦ [同上(㊦)]; ㊦ 破暗 *Lal-v.* ㊦ 太陽; 月(太陰).

tamo'ndha-kāra ㊦ 闇, 昏闇, 黒闇, 闇蔽, 幽冥, 癡冥 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Gand-vy.*

tamo'paha ㊦ 暗黒又は無知を拂ふ. ㊦ 月(太陰).

tamo-bhūta ㊦ 暗黒に包まれたる或は暗黒そのもの

なる, 暗き; 鈍き, 愚なる.

tamo-maṇi ㊦ 螢.

tamomaya (°mas-maya) ㊦ (㊦-*i*) 暗黒にて成れる或はに包まれたる. ㊦ [Sāṃkhya 哲學に於ける五無明 (avidyā) の一].

tamo-rajo-vinirmukta ㊦ 無有塵翳, 冥闇悉光明 *Suv-pr.*

tamo'ri ㊦ 太陽(暗黒の敵).

tamo'ri-vivara ㊦ (?) 窗.

tamo-rūpa ㊦ 精神的暗黒の或は無知なる.

tamovat ㊦ = tamasvat.

tamo-vadha ㊦ 破暗, 破闇 *Madhy-v.*

tamo-vāsas ㊦ 暗黒の衣裳又は外被.

tamo-viśāla ㊦ 暗黒に充ちたる; ㊦ 多癡闇 *Sāṃkhy-k.*

tamo-vṛta ㊦ 闇覆 *Sūtr.*

tamo-vṛdh ㊦ 暗黒を喜ぶ.

tamo-vairin ㊦ 火.

tamo-han ㊦ 暗黒を拂ふ.

tara 1. ㊦ (一°)を横切る, ……に通ずる; 救濟する. ㊦ 通路, 渡船場; 舟賃, 賃金; [或る呪文の名]; [Siva 神の稱]; [人名].

tara 2., [比較の ㊦].

tarakṣa ㊦ 豺 (hyæna).

tarakṣu ㊦ [同上]; ㊦ 豺, 熊 *Lank., Mvyut.*

tarāṇ-ga 1. ㊦ (横切りて行く), 波, 波動; 章段 [その題名に海又は川に關す一語を含むもの例へば *Kathā-sarit-sāgara, Rāja-tarāṅginī* の如き書物の]; 疾驅; 彼方此方に動くこと; 布; ㊦ 波, 浪, 波浪, 濤波, 巨浪 *Buddh-c., Lank., Vijñ-t.*

tarāṅga 2. (名動) ㊦ ㊦ **tarāṅgati(-te)** 波の如くに動く, 揺らく; 彼方此方に動く.

tarāṅ-gaka ㊦ 波.

tarāṅga-mālin ㊦ 海.

tarāṅgaya 1. (名動) ㊦ **tarāṅgayati** 波動せしむ; (眼を)回轉せしむ. (過受分) **tarāṅgita** 波動せる; 溢れたる(涙); 波高き; 彼方此方に動ける.

tarāṅgaya 2. ㊦ 波動, 前後運動.

tarāṅgavati ㊦ 河.

tarāṅga-vijñāna ㊦ 水波識 *Lank.*

tarāṅgāya (名動) ㊦ **tarāṅgāyate** ㊦ 波動 *Lank.* 94.

tarāṅgini ㊦ 河; —° [種々の作品の題名]; ㊦ 河 *Sikṣ. nudi* ~ 河 *Sikṣ. 75.*

tarāṅgini-nātha ㊦ 海.

tarāṅgita (過受分) → tarāṅgaya. ㊦ 波立つこと; 彼方此方に動くこと.

tarāṅgin ㊦ 波動する, 不定なる, 休なき.

tarāṅgaugha (°ga-ogha) ㊦ ㊦ 洪水, 諸波浪 *Lank.*

tarāṇa ㊦ 横斷, 通過, (一°)の通路; (圓)を克服すること; ㊦ 騙 *Mvyut.*; 越逸 *Lal-v.*

tarāṇi ㊦ 前に推進する; 渡過する; 救助する; 迅速なる, 勢力ある; (圓)を克服する. ㊦ 太陽; [植物の一種, 學名 *Calotropis gigantea*]; ㊦ (香) [花の名] 多羅尼 *Mvyut.*

tarāṇi-tanayā 〔女〕 Yamunā 河。
 tarāṇitva 〔中〕 熱心。
 tarāṇi 〔女〕 小舟。
 tarāṇiya 〔未受分〕 横切らるべき。
 tarāṇḍa 〔男〕 筏, 小舟。
 taratama 〔最上〕 〔續〕 Sūtr.
 taratamatas 〔圖〕 多かれ少かれ, 幾分か, 若干。
 tarat-sa-mandī 〔女〕 〔頌〕 [Rg-veda IX. 58 の讃歌, その
 冒頭に tarat sa mandī とあるより斯く云はる]。
 tarat-sa-mandīya 〔中〕 [同上]。
 tarad 〔女〕 舟, 筏。
 taranta 〔男〕 [人名]。
 tarantuka 〔中〕 [聖地の名]。〔男〕 [Dvāra-pāla の一]。
 tara-panya 〔中〕 渡船賃。
 tara-puta 〔男〕 〔浮囊〕 [Tib. gru-tshugs] Mvyut.
 tarala 〔形〕 彼方此方に動く, 震へる, 戦慄せる; 戦ける; 閃く; 變り易き, 不安定の; 無常の。〔男〕 波; 頸飾の中央の寶石; (〔頌〕) [民族の名]。〔中〕 米の粥。
 taralatā 〔女〕 戦慄; 火花; 流眇; 變り易きこと; 世話好きの性質。
 taralatva 〔中〕 [同上]。
 taralaya 〔名動〕 〔他〕 taralayati 戦慄せしむ, 彼方此方に動かしむ; 揺り動かす。〔過受分〕 taralita 波動せる, 彼方此方に動ける, 鼓動する(心臓)。
 tarala-lekhā 〔女〕 [人名]。
 taralā 〔女〕 米の粥。
 taralāya 〔名動〕 〔自〕 taralāyate 震ふ。
 taralikā 〔女〕 [人名]。
 taralita 〔過受分〕 → taralaya。
 taralita-hāra 〔形〕 震へる花環を有する。
 taras 〔中〕 速力; 勢力, 活力, 力。〔男〕 ~ā 強制して; 速かに, 直に; 〔以力〕 以力, 爲速 Mvyut.
 tarasa 〔男〕 〔中〕 (〔單〕) 肉。
 tarasvat 〔形〕 元氣ある; 速かなる, 短氣なる; 猛烈なる; 大膽なる。
 tarasvin 〔形〕 [同上]。
 tarām 〔業〕 〔女〕 〔比較〕 〔圖〕 [na と俱に] 決して…なく; — 甚だ, 多く, 非常に [〔因〕にては〔圖〕に, 〔圖〕にては〔動〕に加へらる。 -tamām の如し]。
 tari 〔女〕 小舟。
 tarika 〔男〕 渡守。
 tarikā 〔女〕 小舟。
 taritavya 〔未受分〕 横切らるべき。
 tari 〔女〕 = tari。
 tariyas 〔比較〕 容易に(業)を通過する。
 taru 1. 〔形〕 迅速なる。
 taru 2. 〔男〕 樹木; 〔樹〕 Lank., Sūtr., Sikṣ.
 taru-koṭāra 〔中〕 樹木の空洞。
 taru-khaṇḍa 〔男〕 〔中〕 樹木の群, 木立。
 taru-gaḥana 〔中〕 林叢, 藪。
 taru-cchāyā 〔女〕 木蔭。
 taruṇa 〔形〕 (〔女〕-i) 若き; 柔かなる; 優しき; 新しき, 新鮮なる; 鮮明なる(感覺); 丁度始められたる; 昇りたるばかりの(太陽); 盈ち行く(月); 〔軟〕 軟, 柔軟, 和雅; 弱; 幼, 新, 新生, 新産 Lal-v., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Sikṣ., Mvyut. → mṛdu ~。〔男〕 青年;

〔盛時〕 Buddh-c. 〔中〕 新芽, 葉。
 taruṇaka 〔中〕 新芽, 嫩芽, 葉。〔男〕 [或る Nāga の名]。
 taruṇatā 〔女〕 新鮮なること, 元氣。
 taruṇaya 〔名動〕 〔他〕 taruṇayati 若くす; 元氣にす。
 taruṇa-vatsa 〔男〕 〔新(乳)犢〕, 新産犢子 Aṣṭ-pr., Sikṣ.
 taruṇa-vraṇa 〔男〕 〔新痕〕 Mvyut.
 taruṇāditya (°na-ād°) 〔男〕 昇りたるばかりの太陽。
 taruṇāya 〔名動〕 〔自〕 taruṇāyate 若くなる, 若さを保つ。
 taruṇiman 〔男〕 青年; 年少。
 taruṇi 〔女〕 處女, 少女; 若き女; [蔬菜の一種]。
 taruṇi-BHū, 若くなる。
 taruṇi-bhūta 〔形〕 少女となれる。
 taruṇendu (°na-in°) 〔男〕 新月。
 taru-tala 〔中〕 樹下の平地。
 tarutā 〔女〕 樹木の狀態。
 taruṭṭ 〔形〕 勝つ。〔男〕 勝利者; 翼車。
 tarutra 〔形〕 運びて過ぐる(馬); 勝利の; 優越せる。
 taru-maṇḍapa 〔男〕 〔中〕 亭, 四阿。
 taru-mastaka, 樹の頂上 (Buddh-c.)
 taru-mūla 〔中〕 樹木の根; 木の根元。
 taru-vallī 〔女〕 蔓草。
 taruṣa 〔男〕 勝利者, 征服者。
 taru-ṣaṇḍa 〔中〕 樹木の群, 木立。
 taruṣi 〔女〕 勝利。
 taruṣyat 〔形〕 襲撃する。
 tarus 〔中〕 戦闘; 優越。
 tarūta 〔男〕 蓮根。
 tarūṣas 〔形〕 優越する。
 Tark, X. 〔他〕 (〔自〕) tarkayati(-te) 想像す, 推量す; 想像を述ぶ; (業)を思索す, …なる觀念を構成す; 臆測す; (業)を(業)なりと考ふ; 考慮す; 反省す, 追想す, …を思ふ, 自ら想起す; 確かむ; (不定)する志を有す或はすべく企つ。〔受〕 tarkyate 〔思度〕 Abh-vy.
 pari- 熟慮す, 反省す。
 pra- (業)を明かにす, …を判断又は推論す; (業)を(業)と認む。
 vi- 想像す, 臆測す, 考ふ; 反省す, 思索す, 考慮す; (業)を(業)と考ふ; 推定す; 確かむ; 〔覺〕 覺, 尋, 慮, 思慮 Lank., Sikṣ., Abh-vy.
 tarka 〔男〕 想像, 臆測; 考慮, 思索, 探究, 調査; 思辯的教説; 論理; 哲學的體系 [六種あり, 前期及び後期 (Pūrva & Uttara) Mīmāṃsā 派, 正理派 (Nyāya), 勝論派 (Vaiśeṣika), 數論派 (Sāṃkhya), 瑜伽派 (Yoga) 之なり]; 論駁; 歸謬法(論理の); 〔覺〕 覺, 知, 覺, 覺想, (自)覺觀; 思度, 思量, 尋思, 尋伺, 計度, 付度, 分別; 覺觀思惟; 念; 乾慧 Divy., Lal-v., Lank., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-v.; 猜梵干; 論破 Mvyut.; 不正思覺, 虛妄覺觀, 虛妄覺想 Lank.
 tarkaka 〔男〕 求むる者, 乞食。
 tarka-gamya 〔形〕 〔尋伺〕 尋伺所能了, 覺觀思惟所能通達 Abh-vy.
 tarka-grantha 〔男〕 推論書, 論理の摘要書。
 tarka-jñāna 〔中〕 推論又は哲學的思索(より出でたる)

知識。

tarkaṇiḥya (未受分) 推理又は臆測せらるべき。

tarka-drṣṭi (女) (難) 邪覺, (妄垢) 惡見, 臆度邪解, 邪見覺知 *Lānk.*tarka-bhūmi (女) (難) (自) 覺觀地, 覺想地 *Lānk.*

tarka-mudrā (女) [印契の一種].

tarka-yukta (形) 推理を含める, 臆測する; 哲學的體系と結べる或はを伴へる。

tarka-vid (男) 哲學者, 辯證家。

tarka-vidyā (女) 思考の學; 論理學, 論理學の摘要書; 哲學論書。

tarka-vibhrama (男) (難) 覺迷 *Lānk.*

tarka-śāstra (中) = tarka-vidyā.

tarka-saṃgraha (男) [正理派 (*Nyāya*) の論理摘要書の題名].

tarkā (女) 推理, 探究。

tarkāpagata (形) (難) 難知, 絕諸戲論 *Rāṣṭr.*

tarkita (形) ……と考へられたる。 (中) 臆測。

tarkin (形) 想像せる, 推量の, 思索に巧みなる。

tarku (男) (女) 紡錘。

tarkuka (男) = tarkaka.

tarkottara (°ka-ut°) (形) 卓越せる識見を有する。

Tarj, I. (他) (自) tarjati(-te) 脅す; 叱責す, 罵る;

(難) 期劫 *Sikṣ.* (通受分) tarjita 脅かされたる; 叱責せられたる, 罵られたる。 (便役) tarjayati(-te) 威かす; 罵る, 嘲る; 叱責す; 驚かす。

abhi- (便役) abhitarjayati 罵る。

pari- 威かす。 (便役) paritarjayati 威かす, 脅かす。

vi- (便役) vitarjayati 脅す; 罵る。

sam- (便役) saṃtarjayati 脅す; 罵る; 驚かす。

tarjaka (形) 威嚇する。

tarjana (中) 威嚇; 罵詈; (難) 迫脅, 呵責, 恐怖 *Bodh-bh.*; 罵詈 *Saddh-p.* → ākrośa ~。tarjanā (女) 罵詈; (難) 輕蔑, 賤罵, 罵詈 *Sikṣ.*tarjani (女) 示指(註); (難) 食指, 中指 *Mvyut.*; 祈克印 *Mañj-m.*: ~nyā tarjayitavyā 結祈克印 *Mañj-m.* 86.tarjaniya (未受分) 脅かさるべき, 叱らるべき; (難) 應詞, 令怖, 誑 *Mvyut.*tarjita (通受分) → Tarj. (難) 所逼, 恐怖 *Divy., Sikṣ.*tarjitavat (通能分) (難) 恐畏 *Sikṣ.*

tarṇa (男) 犢; (動物の) 仔。

tarṇaka (男) [同上].

tartavya (未受分) 渡らるべき, 横断せらるべき。

tardana (中) 開口, 穴; 一針縫。

tardman (中) 穴, 裂罅。

tardmavat (形) 固く縛られたる。

tarpaka (形) 満足せる, 快き(一°); (難) 足 *Buddh-c.*tarpaṇa (形) (女-i) 満足せしむる。 (中) 満足 [(通) 及 (女)]; (供物によりて神又は祖靈を) 満足せしむるもの, 悦ばしむるもの; 滋養物, 元氣を恢復せしむるもの; (難) 飯, 乳糜, 和麵 *Lal-v., Bodh-bh., Mvyut.*

tarpaṇiḥya (未受分) (中) にて満足せしめらるべき。

tarpayitavya (未受分) [同上].

tarpita (便役) (通受分) 満足せる, 悦べる; (難) 充滿 *Saddh-p.*

tarṣa 1. (男) 筏; 海洋; 太陽。

tarṣa 2. (男) 渴望; (一°) に對する欲望; 渴望 [太陽神 (*Arka*) と *Vāsana* との子として人格化されたる]; (難) 求, 渴, 飢, 渴仰 *Buddh-c., Lal-v., Sikṣ.*

tarṣaṇa (中) [同上].

tarṣa-pipāsa, (難) 渴 *Sikṣ.*tarṣā (女) 渴望, 希望; (難) 愛著 *Buddh-c.*

tarṣita (通受分) 渴せる, (一°) を熱望せる。

tarṣuka (形) 渴せる。

tarhaṇa (形) (女-i) 壓潰する。

tarhi (副) 其時に於て; 然る時に, そこで; その場合に [特に (命) 又は (代) と俱に]; [ced, yatra, yad, yadā, yadi, yarhi と (相)]; (難) 爾, 然, 若爾 *Abh-vy.*tala 1. (男) (中) 表面, 平面; (家の) 平屋根; (足の) 裏, 掌; 下部, 底, 下の平面; 弓射手の左腕を被ふ革帶; 樂器の弦を掌にて叩くこと; —° [履, 翻譯せられず]; (難) 掌, 表裏 [手足の] *Saddh-p., Bodh-bh.*; —° 上, 中 *Divy., Mvyut.*: prasāda ~ 高樓上 *Divy.* 153.; ākāśa ~ 虚空中 *Mvyut.* (於) (一°, 屬) に於て, ……の上に, ……の下に。tala 2. (男) (難) [音譯, = tāla] 多羅樹 *Saddh-p.* 341

talaka (男) 爐を具へたる車; 土壺; [王侯の名].

talakopari (°ka-up°) (副) (難) 房上 *Mvyut.*

tala-ghāta (男) 掌にて打つこと。

talatas (副) 底より。

tala-tāla (男) 手を拍つこと, 拍子をとること。

tala-tra (中) 弓射手の左腕を被ふ革帶。

tala-travat (形) talatra を著けたる。

tala-trāṇa (中) = tala-tra.

tala-prahāra (男) 平手にて打つこと; 足(獸類の)を以て打つこと。

tala-baddha (形) tala(-tra) を腕に巻きたる。

tala-loka (男) 下の世界 [七世界の一].

talaloka-pāla (男) *Tala-loka* の護衛者。

talava (男) 樂師。

talava-kāra (男) (複) [*Sāma-veda* の一派の名].talavakāropaniṣad (°ra-up°) (女) [*Kenopaniṣad* の稱].tala-varga (男) (難) 護駕者, 守身者 *Mvyut.*

tala-vāraṇa (中) = tala-tra.

tala-ś bda (男) = tala-tāla.

tala-saktikā (女) (難) 合掌 *Saddh-p.*

tala-sampāta (男) = tala-tāla.

tala-sāraka (中) 飼料糞。

tala-sārika (男) [同上].

talāṅguli-travat (形) 革帶 (tala) と弓鞞 (aṅguli-tra) とを著けたる。

talāci (女) 籐の敷物; (難) 席, 莞子。

talātala (中) [(底) に於て底なき], 地獄の名].

talā-tali (副) 掌にて(戦ふ)。

talāra (男) 警士の長。

talārakṣa (°la-ār°) (男) 護身具。

talāśā (女) [樹の一種].

talāsi 男 覆 掌と劍にて打つこと。
 talin 形 = tala-travat.
 talina 形 薄き, 織き; (一)にて覆はれたる。 甲 寝椅子。
 talima 甲 床(る)。
 talpa 男 臥床, 寝臺; 馬車の座席; 櫓。 ~ m adhi-Gam, (一)と性交をなす。
 talpa-kīta 男 南京蟲。
 talpa-ga 形 (一)と性交をなす; (一)の寢床を侵せる。
 talpa-ja 形 夫婦の寢床にて生れたる, 正妻より生れたる。
 talpala 男 (象の背の上にある)肉の隆起。
 talpa-sīvan 形 (女 -vari) 寝椅子の上に休息する或は横はる。
 talpa-sadya 甲 寝椅子の上の休息。
 talpi-kṛta 形 寝臺となされたる。
 talpe-ja 形 寢床又は寝椅子の上にて生じたる。
 talpe-śaya 形 = talpa-sīvan.
 talpya 形 寢床に屬する; 夫婦の寢床にて生れたる。
 tal-lakṣaṇa 甲 彼の或はその標; [數の名] (Lal-v.); 毘羅絡叉 Mvyut.
 tavara 甲 毘羅絡叉 [數の名] 多婆羅 Mvyut.
 tavaś 形 強き, 大膽なる, 勇氣ある。 男 力, 勇氣。
 tavasya 甲 力。
 tavaśvat 形 強き。
 taviṣa 形 力ある, 強き, 勇氣ある。 男 海洋; 天。 甲 力。
 taviṣi 女 力, 勢力, 勇氣; 大地; 河。
 taviṣimat 形 強き, 猛烈なる。
 taviṣiya 名動 自 taviṣiyate 強し, 大膽なり。
 taviṣivat 形 = taviṣimat.
 taviṣya 名動 自 taviṣyate 強し, 猛烈なり。
 taviṣyā 女 猛烈。
 taviyas 比較 [tavas] より強き。
 tavya 形 強き。
 tavyas 比較 = taviyas.
 taṣṭa 通受分 → Takṣ.
 taṣṭr 男 細工人, 大工; 車匠。
 tasarikā 女 織ること; 燃(其)繩 Divy. 83.
 taskara 男 [(a)tas-kara 此處より取る, 盗む], 盗人, 強盜; 賊, 賊盜, 盜賊, 怨賊 Divy., Gaṇḍ-vy., Bodh-c., Bodh-bh., Śikṣ.
 taskaratā 女 盗むこと, 竊盜, 強奪; 盜心。
 taskaratva 甲 [同上]。
 taskarāya 名動 自 taskarāyate 盗人又は強盜の如く振舞ふ。
 tasthāna 形 柔軟なる, 相應せる。
 tasthivas 三過分 → Sthā.
 tasthu 形 不動の, 定著せる。
 tasmāt 副 [tad の 副] それ故に [yad 又は yasmāt と 副]。 → tad. ~ tarhi 是故當知 Ast-pr.
 tahim 因 副 [<tasmin] tahim tahim → tad.
 tākṣṇa 形 (女 -i) 大工に屬する
 tācchilya (°d-s°) 甲 [tac-chīla (tad-sīla) より] それの

規則正しき習慣又はその常習。
 tājak 副 突然に。
 tājat 副 [同上]。
 tājika 男 波斯人。
 tāṭakā 女 = tāḍakā.
 tāṭakā-vadha 男 Tāṭakā の殺害。
 tāṭaṅka 甲 耳飾(の一種)。
 tāṭasthya 甲 [tāṭa-stha より] 遠方に立てる; 獨立せる, 無關係の。
 tāḍa 形 (一)を打つ。 男 打撃; 毘羅絡叉 Śikṣ.
 tāḍaka 男 殺人者; [鍵の一種] (Divy.); 戸輪 Divy. 577.
 tāḍakā 女 [或る Yaksini の名]。
 tāḍakāyana 男 [聖仙の名]。
 tāḍaṅka 男 = tāṭaṅka.
 tāḍana 形 打つ, 叩く; 傷つくる。 甲 打撃; 打つこと; (試験する爲に金を)槌を以て打つこと; 搗, 捶打, 搗打, 打撲, 打辱, 搗捶, 毘羅絡叉, 鞭撻, 鞭杖 Lal-v., Suv-pr., Kāśy., Śikṣ., Bodh-bh., Bodh-c.
 tāḍanā 女 加刀杖 Saddh-p.
 tāḍaniya 未受分 打たるべき [一般に道具を示して一, 稀に目的を伴ふ]。
 tāḍayitavya 未受分 射 Divy.
 tāḍayitr 男 (圓)の打撃者。
 tāḍāga 形 池にある或はより來れる(水)。
 tāḍāvacara 甲 [樂器の一種]; 鉦; 拍板 Lal-v., Mañj-m., Mvyut.
 tāḍita 通受分 打たれたる, 叩かれたる, 罰せられたる; 打, 捶打, 打擲, 鞭撻, 鞭杖, 撻 Divy., Av-ś., Suv-pr., Śikṣ., Bodh-bh.: su~kṣatāḥ 嚴加撻 Divy. 497.; ~ena na pratitāditavyam 他打不應返打 Mvyut.
 tāḍi-dala 甲 耳飾(の一種)。
 tāḍi-puta 男 甲 棕櫚の葉。
 tāḍula 形 打つ。
 tāḍya 未受分 打たるべき; 打撃にて折檻せらるべき。
 tāḍava 男 甲 舞蹈(特に激しき身振を伴ふ), 狂亂的舞蹈 (Śiva 神の); 舞 Mvyut.
 tāḍavayitr 形 烈しく舞蹈せしむる(者)。
 tāḍavikā 女 舞蹈女。
 tāḍavita 通受分 踊れる, 飛び廻る。
 tāḍya 男 父系 [或る學匠の名]。 甲 [或る梵書 (Brāhmaṇa) の名 = Pañcaviṃśa-brāhmaṇa]。
 tāṭ 副 [ta の 副] 斯の如く, 斯様に(副)。
 tāta 男 父; 父, 爺, 尊父 Saddh-p., Mvyut. 甲 親愛なる者よ [長上, 優者, 小兒又は弟子に呼びかける語]。
 tāta-pāda 男 (覆) 父 [敬愛の語]。
 tātkarmya 甲 [tat-karman より] 職業の同種なること。
 tātkālika 形 (女 -i) [tat-kāla より] 同じ(長さの)時間繼續する; その時に起る; 同時に或は直ちに起る; 特殊の瞬間に關する或は適する。
 tātkālyā 甲 [tat-kāla より] 同時に起ること。
 tāttvika 形 [tattva より] 眞實の; 眞の教義を得たる [Jaina (教徒)に就て]。

tāttvikatva ㊦ 眞實。
 tātparya ㊦ [→ tat-para 2. ㊦] (一の事に對する) 獻身又は耽溺, 主なる目的[目的の因と俱に]; 目的, 眞の趣旨(演説又は作品の); 主なる用法. ㊦ 計劃せられたる。
 tātparyaka ㊦ ……を目的とせる。
 tātparyatas ㊦ この目的を以て。
 tātparya-nirṇaya ㊦ 趣旨の確定。
 tātparya-vid ㊦ 眞義又は趣旨を知れる。
 tātya ㊦ 父の。
 tātsthya ㊦ [tat-stha より] その中に含まれ居ること。
 tāthāgata ㊦ (因-i) [tathāgata より] ㊦ 如來 *Lank., Guhy-s., Bodh-bh., Madhy-vibh.*; 佛 *Bodh-c.*
 tāthāgata-bhūmi ㊦ ㊦ 如來地, 佛地 *Lank.*
 tādanulomya ㊦ [tad-anuloma より] ㊦ 順此 *Abh-vy.*
 tādarthika ㊦ [tad-artha より] それを目的とせる。
 tādarthya ㊦ [tad-artha より] それを目的とせること, 目的; 意義の同一, その意義を有すること. ㊦ ~ena その意圖を以て。
 tādavasthya ㊦ [tad-avastha より] 同一の状態に存置せらるゝこと。
 tādātmaka ㊦ (因-ikā) [tad-ātman より] 性質の一致を表示する。
 tādātmya ㊦ [tad-ātman より] (因, 因, 一°)との性質又は特徴の同一; ㊦ 有體 *Bodh-bh.*; 同性 *Mvyut.*
 tādātmya-lakṣaṇa-sambandha ㊦ ㊦ 同性相相屬, 彼性相連, 彼自性相連因由 *Mvyut.*
 tādātāvika ㊦ 其時の, 現時の, 現世の (*Prajñ-vy. 83.*)
 tāditnā ㊦ その時に。
 tā-dṛk ㊦ → tā-dṛś.
 tā-dṛkṣa ㊦ 斯様なる, 斯の如き。
 tādṛg-guṇa ㊦ 斯の如き性質の; 斯様なる。
 tādṛg-bhāva ㊦ 斯の如き状態。
 tādṛg-rūpa ㊦ 斯の如き形態又は種類の。
 tādṛg-rūpavat ㊦ 斯の如く美しき。
 tādṛg-vidha ㊦ 斯様なる, 此の状態にある。
 tādṛś ㊦ [㊦ ㊦ ㊦ は -dṛś 又は -dṛk] 斯様なる, 此の如き; ㊦ 如是, 自爾 *Lank., Bodh-bh.* tā-dṛk ㊦ [㊦ ㊦] 斯の如く, 斯の如き方法にて。
 tādṛśa ㊦ (因-i) 斯の如き; ㊦ 如, 如此, 如是, 如是相, 似此, 相似, 隨其相, 此相亦然 *Lal-v., Sapt-pr., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh.*
 tāddhita ㊦ *Tad-dhita* 接尾音にて形作られたる。
 tādrūpya ㊦ [tad-rūpa より] 同一, 同形; 眞理。
 tādvidhya ㊦ [tad-vidha より] 斯の如くなること。
 tāna ㊦ 絲, 纖維; 震音, 音樂の調子; 單調なる調子. ㊦ 延長; 擴張。
 tānava ㊦ 貧弱; 小さきこと, 纖細なること。
 tānava-kṛt ㊦ 減少する, (一°)を凌駕する。
 tāna-svara ㊦ 單調に發音する。
 tānūnapāta ㊦ (因-i) *Tanūnapāt* に關聯せる。
 tānūnaptra ㊦ [tanūnapāt より] [*Soma* 祭に於て *Ātithyestī* の後, その残りの蘇油 (*ājya*) に觸れつゝ 祭主及び祭官が祈願宣誓をなす儀式].
 tānta ㊦ ㊦ → *Tam.*

tāntava ㊦ (因-i) 絲にて作られたる. ㊦ 織物. ㊦ (血結を繋ぐもの), 息子。
 tānta ㊦ 絃樂. ㊦ 一般規則に規定せられたる。
 tānta-ka ㊦ (因-ā, -i) 一の學又は體系に完全に精通せる, 専門の; *Tantra* に教へられたる。
 tānva ㊦ 織られたる, 紡がれたる。
 tānvaṅga ㊦ ㊦ [*Tanv-aṅga* の後裔].
 tāpa ㊦ 熱すること, (試験する爲に金を)熱すること; 熱, 白熱; 苦痛, 不快, 苦惱(精神的及び肉體的); ㊦ 悔; 熱惱; 火光 *Buddh-c., Śikṣ., Abh-vy.*
 tāpaka ㊦ 熱する, 燃ゆる; 淨むる; 苦むる, 惱ます. ㊦ 熱; 厨爐, 竈。
 tāpa-kṣetra ㊦ (太陽の)熱の達する範圍。
 tāpatya ㊦ *Taputī* と脚啼ある. ㊦ ㊦ [*Tapatī* の後裔].
 tāpa-da ㊦ 一° 舌痛を起さしむる。
 tāpana ㊦ (因-i) (一°)を燃す, ……を輝かす; (一°)を苦むる. ㊦ 太陽; 暑季. ㊦ 燃燒; 苦痛, 苦行; 救助なきこと, 當惑(戲曲); [或る]地獄の名].
 tāpani ㊦ 嚴格。
 tāpaniya ㊦ 黄金の。
 tāpaniyopaniṣad (°ya-up°) ㊦ [種々の *Upaniṣad* の題名].
 tāpayitr ㊦ 苦痛を生ぜしむる。
 tāpayiṣṇu ㊦ 燃ゆる; 苦むる。
 tāpasa ㊦ (因-i) 苦行を修する; 宗教的苦行に關する. ㊦ 苦行者, 隱者。
 tāpasi ㊦ [同上(因)].
 tāpasekṣu (°sa-ik°) ㊦ [甘蔗の一種].
 tāpasya ㊦ 苦行者の地位; 苦行。
 tāpa-sveda ㊦ 熱により出づる汗。
 tāpa-hari ㊦ [葵の一種].
 tāpikā ㊦ 揚鍋。
 tāpiccha ㊦ [樹の名, = *Tamāla* 樹].
 tāpiñcha ㊦ [同上].
 tāpita ㊦ ㊦ ㊦ 熱せられたる, 燃されたる; 苦められたる, 惱まされたる。
 tāpin ㊦ 苦痛を起す; (一°)に興奮せる。
 tāpini ㊦ [種々の *Upaniṣad* の題名].
 tāpi ㊦ [河の名, *Taptī*].
 tāpeśvara-tirtha (°pa-iś°) ㊦ [聖地の名].
 tāpya ㊦ ㊦ 鐵の硫化物。
 tāma ㊦ 熱望, 憧憬。
 tāma-rasa ㊦ 日中咲く蓮。
 tāmarasekṣaṇā (°sa-ik°) ㊦ 蓮の如き眼をせる婦人。
 tāma-rasi ㊦ 蓮池。
 tāmala ㊦ (因-i) *Tamāla* 樹の皮にて造られたる。
 tāma-liptaka ㊦ [町の名].
 tāmaliptaka-rājan ㊦ ㊦ [龍王の名] (㊦)答麻哩(大)王 *Mvyut.*
 tāmasa ㊦ (因-i) 暗き; *tamas* の性質に關する, 誤謬又は無知と關聯せる, 無知なる; 種々の; *Manu Tāmasa* に關する; ㊦ 闇 *Sāmkhy-k.*; (㊦)多摩 *Sāmkhy-k.* ㊦ [第四の *Manu* の名].
 tāmasa-priya ㊦ *tamas* によりて支配せらるゝことを喜ぶ。

tāmasika 形 *tamas* の性質に関する。

tāmasi 女 [河の名]。

tāmi 女 虚脱に至る迄の呼吸の休止。

tāmisra 形 [pakṣa と共に] 又は 男 黒半月 [満月より新月まで]。男 [Rākṣasa の稱]; [或る地獄の名]; 憤怒 [Sāṃkhya 哲學に於ける五無明 (avidyā) の一]; 瞋恚 *Buddh.-c.*; 重闇 *Sāṃkhya-k.*

tāmi 女 = tāmi.

tāmu 男 稱讚者。

tāmbala 男 大麻(の一種)。形 (女-i) 大麻の。

tāmbūla 中 菟薺(葉), 菟薺の葉; 耽歩羅 (葉) *Sikṣ.*

tāmbūla-karaṅka 男 菟薺の葉を容るる箱。

tāmbūlakaraṅka-vāha 男 菟薺の箱を持つ従者。

tāmbūlakaraṅka-vāhini 女 [同上]。

tāmbūla-dāyaka 男 [同上]。

tāmbūla-dāyin 男 [同上]。

tāmbūla-dāyini 女 [同上]。

tāmbūla-dhara 男 [同上]。

tāmbūla-pattra 中 菟薺の葉。

tāmbūla-patra 中 [=°pattra] 耽歩羅葉 *Sikṣ.*

tāmbūla-valli 女 菟薺。

tāmbūla-vāhaka 男 = tāmbūla-karaṅka-vāha.

tāmbūla-vāhini 女 [同上]。

tāmbūla-viṭikā 女 菟薺の葉に巻かれたる檳榔子。

tāmbūlādhikāra 男 菟薺を持つ役目。

tāmbūlika 男 菟薺を賣る人; 菟薺の箱を持つ従者。

tāmbūlika-sarpa 男 [蛇の一種]。

tāmbūli 女 菟薺。

tāmbūli-dala 中 菟薺の葉。

tāmra 形 (女-ā) 銅の; 銅色の, 暗赤色の; (女-i) 銅製の; 丹, 赤紅, 銅色, 赤銅 *Divy.*, *Buddh.-c.*, *Lal-v.*, *Sikṣ.* 男 暗赤色の汚點ある發疹; [*Naraka-bhauma* の子の名]。中 銅; 銅製の容器; 銅, 赤銅 *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Lāṅk.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵籍。

tāmraka 中 錫

tāmra-kāra 男 銅工, 銅鍛工。

tāmra-kuṭṭa 男 銅鍛工。

tāmra-kuṭṭi 女 [同上]。

tāmra-cakṣus 男 [鳩の一種]。

tāmra-cūda 形 赤き鶏冠花を有する。男 雄鶏; [人名]。

tāmracūda-yuddha 中 闘鶏。

tāmra-ja 形 銅製の。

tāmra-tapta 男 [*Kṛṣṇa* の子の名]。

tāmratā 女 銅色, 暗赤色。

tāmratva 中 [同上]。

tāmra-drava-lohita 中 赤銅汁, 赤洋銅湧沸 *Sikṣ.*

tāmra-dvipa 男 錫蘭 (*Ceylon*) 島; 赤銅洲 *Divy.*

tāmra-dhātu 男 赤き胡粉。

tāmra-dhūmra 形 暗赤色の。

tāmra-nakha 形 (女-i) 赤き爪を有する。

tāmra-nakhatā 女 [同上] (*Dharm-s.*)

tāmra-paṭṭa 男 銅板(領土下附證又は命令を刻むための)。

tāmra-pattra 中 銅板。

tāmra-parṇika 男 多波洄 *Divy.*

tāmra-parṇi 女 [河の名, *Malaya* に源を發し眞珠を以て有名なり]。

tāmra-pātra 中 銅器。

tāmra-puṣpa 形 赤き花にて飾られたる。

tāmramaya 形 (女-i) 銅製の, 銅の。

tāmra-mṛṣṭānulepin 形 銅赤色の塗膏を塗れる。

tāmra-rajas 中 銅の鑪粉。

tāmra-ratha 形 銅色の車を有する。

tāmra-lipta 男 國 [*Gaṅgā* 河口地方の國及びその人民の名]; 國 *Tāmra-lipta* 國の王侯。

tāmra-liptā 女 *Tāmralipta* 國の首都。

tāmra-lipti 女 [同上]。

tāmra-varṇa 形 銅色の, 暗赤色の。

tāmra-sāṭiya 男 國 佛部派の名] 銅鏃部, 紅衣家 *Mvyut.*

tāmra-sāsana 中 銅板に刻まれし證書又は布告。

tāmrā 女 [*Dakṣa* の子の名]; [河の名]。

tāmrākṣa 形 (女-i) 赤き眼の。男 鳥。

tāmrādhara'oṣṭha 形 赤き下唇を有する (*Buddh.-c.*)

tāmrāruṇa 中 [聖地の名]。男 銅赤色の曙光; 將旭, 大發白, 其色紅赤如日初出 *Suv-pr.*, *Mvyut.*; 霞 梵籍: ~ai rajata-phāṭika-lohitāṅgam 其色紅赤如日初出頗梨白銀枝飾光網 *Suv-pr.* 28.

tāmrāsva 形 赤銅色の馬を有する。

tāmrīka 形 銅の; 銅 *Saddh-p.*

tāmri 女 水時計(の一種) [底に一の孔ある銅の容器にして水中に置く時次第に水が充溢す]。

tāmropajivin (°ra-up°) 男 = tāmrā-kāra.

tāmroṣṭha (°ra-oṣ°) 男 [或る *Yakṣa* の名]; 赤き唇。形 (女-i) 赤き唇を有する。

tāya, [Tan 1. の 語基]。

tāyana 中 俗 [<trāyana] 度, 救 *Daś-bh.* 77. → tāyana 2.

tāyana 1. 中 成功すること, 繁榮すること。

tāyana 2. 中 俗 [<trāyana] 救 *Daś-bh.* 32. → tāyana.

tāyin 男 俗 [<trāyin. Pāli. tādin] 保護者 [*Jaina* (教)徒は *Mahāvira*, 佛教徒は *Buddha* を稱す]; [佛の異稱] 救, 救度者, 救世者, 救護, 示護, 保護, 善護 *Saddh-p.* 176., *Suv-pr.* 14, *Sikṣ.* 260., *Mvyut.*; 如來 *Gaṇḍ-vy.*: loka-nāthasya ~naḥ (國)度世依處, 能救護世間 *Suv-pr.* 14.

tāyu 男 盜賊。

tāra 1. 形 [Tf] 横斷する, 透徹する, 貫通する; 救済する, 保護する; 鋭く響く, 高き, 高聲の; 輝く, 火花を發する; 清澄なる。~m 國。男 中 高聲なる又は高き又は鋭く響く音。男 (清き光澤の) 眞珠; (一?)を横切りて進むこと; [聖語 om 又は *Tantra* 中の他の神祕なる單綴語]; [或る猿王の名]; [*Viṣṇu* その他の神の稱]。中 銀; 堤, 岸。

tāra 2. 男 = tāraka 2. 星 要星, 星宿; (多)

曜星 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Mañj-m.*; (音寫) 哆囉 *Mañj-m.*
tāraka 1. 形 (因 -ikā) 横切りて進む, 救ふ; (音寫) 令脱, 令解脱, 能度者, 救度者 *Mvyut.* 男
 [Indra 神に殺されたる *Daitya* の名]; (音寫) *Tāraka*
 (男) の諸子.
tāraka 2. 甲 星, 瞳孔; (音寫) 星, 精 *Lal-v.*, *Kāśy.*,
Mvyut., 梵子, 梵精 → *nayana* へ. 男 (音寫) 瞳
 人 *Mvyut.*
tārakatva 甲 星の状態; 救助.
tāraka-ripu 男 [*Tāraka* の敵即ち *Skanda* の稱].
tāraka-rūpa 甲 (音寫) 星宿, 星像 *Kāśy.*
tāraka-vadha 男 [(*Tāraka* の殺戮), *Siva-purāṇa* の
 題名].
tāraka-vairin 男 = *tāraka-ripu*.
tāraka-śūdana 男 [同上].
tārakā 因 星; 瞳孔; 隕星; [人名]; (音寫) 星, 星宿,
 衆星 *Aṣṭ-pr.*, *Vajr-pr.*, *Rāṣṭr.*
tārakākṣa (°kā-ak°) 形 眼として星を有する, 星の
 如き眼を有する. 男 [*Daitya* の稱].
tārakāntaka (°kā-an°) 男 = *tāraka-ripu*.
tārakā-rāja 男 月(星の王).
tārakāri 男 = *tāraka-ripu*.
tārakita 形 星多き, 星を散らせる.
tārakeśvara (°kā-iś°) 男 月(星の王).
tārakopama (°kā-up°) 形 (音寫) 星喻 *Aṣṭ-pr.*: ~e
kalpe 星宿劫 [劫の名] *Aṣṭ-pr.* 745.
tārakṣava 形 豺 (*hyaena*) に關する.
tāra-kṣiti 因 [國の名].
tāra-ja 形 銀製の. 甲 = *tāra-mākṣika*.
tāraṇa 形 横切りしむる; 克服する(危険又は困難を);
 救ふ (*Siva* 神及 *Viṣṇu* 神). 甲 横斷, (困難の) 克
 服; 救助; (音寫) 度, 救 *Rāṣṭr.*
tāratama (最上) 甚だ高聲の. ~m 副.
tāratamya 甲 [*tāra-tama* より] より多き或はより少
 き状態, 等差; 割合; 大なる差異. 男 ~ena 程
 度によりて.
tārataram 副 [*tāra* (形) の (音寫)].
tāra-dirgha 形 高く且つ長く響く(音).
tāra-nātha 男 [十七世紀初に在りし西藏の佛教史家
 の名].
tārapaṇyika 男 [*tāra-paṇya* より] (音寫) 收船税者
Mvyut.
tāra-mākṣika 甲 [織物の一種].
tāra-mūla 甲 [地方の名].
tārayitṛ 形 促進する(者); (音寫) 作救護 *Av-s.*
tāralya 甲 移り氣, 變り易きこと, 不安定.
tārava 形 (因 -i) 木 (*taru*) に屬する.
tāra-svara 形 = *tāra-dirgha*.
tārā 因 [撒くもの, 發光物], 星, 恆星; 瞳孔; [諸女
 神の名]; [或る *Yoginī* の名]; [*Bṛhaspati* の妻の名];
 [或る雌猿の名]; [*Amoghasiddha* 佛の妃の名] (佛教);
 (音寫) 星 *Buddh-c.*; 救度母 *Mvyut.*; (音寫) 多羅
Guhya-s., *Mvyut.*
tārākṣa (°rā-ak°) 男 = *tārakākṣa* (男).
tārā-gaṇa 男 星の群又は行列; 星にて飾れる馬又は象
 の衣.

tārā-dharma 男 [王侯の名].
tārādhipa (°rā-adh°) 男 月(星の主); (音寫) 月 *Buddh-*
c.
tārādhipati (°rā-adh°) 男 [同上]; (音寫) [九曜の一]
 月 *Divy.*
tārā-pati 男 [同上]; [*Tārā* の夫即ち *Bṛhaspati* の
 名]; [猿猴 *Bālin* の名]; [王侯の名].
tārā-patha 男 空, 諸天(星の行路); [國の名].
tārāpida (°rā-āp°) 男 月(星を冠とする者); [諸王侯
 の名].
tārā-pura 甲 [町の名].
tārābha (°rā-ābha) 男 水銀.
tārā-bhaṭṭārikā (nāmāṣṭottara-śataka) 因 [佛
 典の名, 讚揚聖多羅菩薩一百八名經].
tārā-mantra 男 [*Rāmāyaṇa* の章段の題名].
tārāmaya 形 (因 -i) 星にて成れる, 星多き.
tārā-mṛga 男 [月宿 *Mṛga-śiṛṣa*].
tārā-maitraka 甲 宿命的又は自然の友情.
tārāyaṇa 男 神聖なる無花果樹(救濟の木) [學名
Ficus religiosa]; (音寫) [種族の名]; (音寫) (音寫) 多演
 (林) *Lal-v.*
tārā-ramaṇa 男 月(星の愛人).
tārā-varṣa 甲 隕星.
tārāvali (°rā-āv°) 因 星の群, 銀河; [多くの天女及
 女人の名].
tārāvaloka (°rā-av°) 男 [王侯の名].
tārā-vākya 甲 [*Rāmāyaṇa* の章段の題名].
tārā-vilāpa 男 [同上].
tārīka 甲 (?) 賃金, 渡船場の船賃. 男 渡守.
tārīṇi 因 [*Durgā* 女神の一形態の名].
tārīta (使役) (過受分) 渡過せしめられたる; (音寫) 渡, 救
Lal-v., *Rāṣṭr.*
tārītṛ 形 救はんとする.
tārīn 形 横斷せしむる, 救助する.
tāruṇya 甲 青年, 青春, 新鮮; (音寫) 盛年 *Sikṣ.*
tāruṇya-mada-matta 形 (音寫) 自恃盛年放逸, 自恃
 盛年行放逸 *Suv-pr.*
tāreya 男 猿猴 *Āṅgāda*.
tārīkika 男 懷疑論者, 論理的批評家, 論理學者, 哲學
 者; (音寫) 思量, 思量者, 臆度者, 乾慧者, 能尋思者
Lank., *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 妄想者, 虛
 妄見者 *Lank.*; 外道 *Divy.* 形 論理に關する或は屬
 する; (音寫) 尋思, 覺觀 *Madhy-vibh.*: a~gocara
 非諸尋思諸行處, 非覺觀等境界 *Madhy-vibh.* 271.
tārīkatva 甲 懷疑論, 哲學.
tārkaṣya 男 [神話的存在, 馬又は鳥(因)]; *Garuḍa* 又は
Garuḍa の父又は兄(音寫); [或る *Muni* の名]; [或る
Yakṣa の名]; 鳥; 馬; (音寫) (*Gandharva*・*Takṣa* 及
Cārāna と一團をなす) 半神半人の一類; [民族の名];
 [或る讚歌の名].
tārkaṣya-ja 甲 [眠藥の一種].
tārkaṣya-putra 男 *Garuḍa*.
tārkaṣya-ratna 甲 [暗色の寶石の一種].
tārkaṣya-ratnamaya 形 *Tārkaṣya-ratna* にて成れる.
tārkaṣya-lakṣaṇa 男 *Garuḍa* の標識を有するもの即
 ち *Kṛṣṇa-Viṣṇu* 神.

tārṣya-suta 男 Garuda.
 tāra 形 [tr̥ṇa より] 草にて作れる。
 tārtiya 形 第三に屬する; 第三の。 甲 第三; 第三の部分。
 tārtiyaka 形 第三に屬する; 第三章に述べられたる。
 tārtiyasavanika 形 [tr̥ṭiya-savana より] 第三の Savana に屬する。
 tārtiyāhnika 形 第三の日 (ahan) に屬する。
 tārtiyika 形 第三の。
 tārpya 甲 特殊の植物質より造られたる衣服。
 tārya (未受分) 横切らるべき; 克服せらるべき。 甲 渡船賃。
 tārstāgha 男 [樹の一種]。 形 (因 -i) Tārstāgha 樹より來れる。
 tāla 男 棕櫚又は扇狀棕櫚 [學名 *Borassus flabelliformis*; その樹液より砂糖及び酒精液を作る]; [高さの一単位として用ゐらる]; 軽く打つこと (特に象の耳の); (手を) 叩くこと; (音樂の) 拍子; 舞踊; 銅鑼; 鑊 (音) 多羅, 多羅(樹) *Divy., Lal-v., Sam-r., Suv-pr., Rāṣṭr., Lank., Abh-vy., Mvyut.*; 貝多 *Mvyut.*, 支應。 甲 Tāla 樹の實。 形 (因 -i) Tāla 樹製の。
 tālaka 1. 男 [毒蟲の一種]。
 tālaka 2. 甲 雄黃; 戸の錠; 鑊 (音) 鎖, (音) 多羅葉嚴 *Mvyut.*
 tāla-ketu 形 Tāla 樹の旗を有する。 男 [Bhīṣma の稱]; [Kṛṣṇa の或る敵の名]。
 tālaṅki-Kṛ, 耳飾となす。
 tāla-cara 男 種 [民族の名]。
 tāla-jaṅgha 形 Tāla 樹の如き脚を有する, 脚の長き; Tāla-jaṅgha 族に屬する。 男 Tāla-jaṅgha 族の王; Rākṣasa; [或る Rākṣasa の名]; [Bhūta の長の名]; [Jaya-dhvaja の子の名]; (種) [戰士種族の名]。
 tāla-jña 形 (音樂の) 拍子を知れる。
 tāla-druma 男 Tāla 樹。
 tāla-dhvaja 形 dla 樹の旗を持てる。 男 [Balarama の稱]; 鑊 (音) 多羅幢 *Gaṇḍ-vy.*
 tāla-dhvajā 因 [河の名]。
 tāla-dhvaji 因 [河の名]。
 tālana 甲 拍手。
 tāla-paṅkti 因 行樹, (音) 行列 (寶) 多羅樹 *Sukh-vy. II.*
 tālapaṅkti-vyūha 形 鑊 (音) 多羅樹莊嚴行列, 多羅樹莊嚴道側, 多羅樹列植道側 *Gaṇḍ-vy.*
 tāla-pattra 甲 Tāla 樹の葉; 耳環の一種; 鑊 (音) 多羅葉, 多羅樹葉 *Guhya-s., Prāt-m.*
 tāla-pramāṇa 形 Tāla 樹の如く高き (*Buddh-c.*)
 tāla-phala 甲 Tāla 樹の果實; 鑊 (音) 多羅果 (音) *Suv-pr.*
 tāla-bhaṅga 男 (音樂の) 拍子の亂雜。
 tāla-bhaṭa 男 [或る戰士の名]。
 tāla-mātra 形 Tāla 樹程大なる, Tāla 樹程の高さなる。 ~m 圓 Tāla 樹程高く。
 tāla-muk'a 形 食漏齋 *Mvyut.*
 tāla-yantra 甲 [特殊の外科用具の名]。
 tāla-vana 甲 Tāla 樹の林又は森。 男 種 [民族の名]。

tāla-vādyā 甲 拍手; 拍手の響。
 tāla-vṛnta 甲 (扇として用ゐらる) Tāla 樹の葉; 扇。
 tāla-vṛndaka 形 鑊 (音) 如多羅葉 *Mvyut.*
 tālavya 形 口蓋の(音)。 男 口蓋音。
 tāla-śabda 男 Tāla 樹の果實の落下する騒音; = tāla-vādyā。
 tāla-śila 形 音樂の拍手をとるに慣れたる。
 tālāpacara 男 [同下]。
 tālāvacara 男 拍子をとるもの; 舞踊者, 俳優。
 tālāvacaṛaṇa 男 [同上]。
 tālikā 因 掌; 拍手, 拍手の響。
 tālin 1. 形 鏡鉞を備へたる。
 tālin 2. 形 (一°) の上に坐する。
 tāli 因 [樹木の名]; Tāla 酒; 拍手; [音律の一種]。
 tāli-paṭṭa 男 (?) 耳環(の一種)。
 tāli-puta 男 (?) [同上]。
 tāliyaka, 鏡鉞。
 tāliśa 男 [樹木の名, 學名 *Flacourtia cataphracta*]; 鑊 (音) 達子香 *Mvyut.*
 tālu 甲 上顎, 口蓋; 鑊 (音) 斷, 齶, 喉, 上顎 *Lank., Mvyut., 梵千.*; 巧舌 *Mvyut.*
 tāluka 甲 [同上]; 鑊 (音) 斷, 齶, 腭, 齶齶 *Lal-v., Bodh-bh.*
 tālukā 因 (兩) 上顎の兩動脈。
 tālu-pāka 男 口蓋の膿腫。
 tālu-puppuṭa 男 口蓋の無痛の腫脹。
 tālu-viśoṣaṇa 因 上顎の乾くこと (多辯の爲に)。
 tālu-śoṣa 男 口蓋の病的なる乾燥。
 tālu-sthāna 形 口蓋の(音)。
 tālūṣaka 甲 = tālu。
 tālpa 形 婚禮の寢床に生れたる; 嫡出の。
 tālv-oṣṭha-puta-samyoga 男 鑊 (音) 斷(齒)唇和合, 唇齶(等)和合 [齶と唇の間隙との和合] *Lank.*
 tāvaka 形 (因 -i) 汝の。
 tāvakina 形 [同上]。
 tāvac-chata (°t-s°) 形 同様の數百にて成る。
 tāvacchras 圓 反復して。
 tāvaj-jyok 圓 それ程長く (因)。
 tāvat 形 (因 -ti) それ程大なる, それ程廣き; それ程長き; それ程多き; それ程多様の, それ程數多の, 正にそれだけ多數の [yāvat と 種]; それ程少き; 鑊 (音) 如是, 爾許 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr.* → yāvat。
 甲 圓 [yāvat と 種] それ程多く, それ程遠く; それ程長く, その時の間, 其時; [種] なき場合] 其間; 暫時; 先づ第一に, 最初に; 丁度, 直ちに [極めて屢々] 命 と俱に用ゐて, 直ちに爲さるべきこと即ち「希くは速かに或は直ちに……」の意を言ひ詮はす; 又 一入 圓 と俱に「余は先づ第一に……せん」の意を詮はす; 唯だ, 單に; 實に, 確かに, そは眞實なり [讓歩的に「然れども」なる語を伴ふ]; 既に, すら [況やの 圓]; 宜し, 十分なり; [概念を強む (±eva)] 唯だ, 正に, 全く, 勿論 [時には強語勢のみにて表はさる]; 鑊 (音) 則; 自; 若, 尙; 爾所時, 如此時, 於爾所時; 略說 *Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr., 梵千.* → yāvat。

～……ca, 辛うじて……する時に。
 tāvan na……api na, 單に……ならざるのみならず……も亦た……せず。
 tatra ～, 此中且, 如此暫且 *Mvyut.*
 na ～, 未だ……せず; 未竟.
 na ～……yāvat, ……する間に未だ……せず。
 mā ～, [感嘆的に] 斷じてこれあるべからず, 希くは神これを禁せんことを, 希くはなかれかし或はなからんことを。
 yāvau yāvat……～～, ……の如く, ……に比例して。
 yāvan na……～, ……せざる間……その間即ち……迄……。
 ～ā 因 その時の間, 其間; 同じ範圍まで, 正にそれ程遠く。
 ～i 因 それ程遠く; それ程長く, その時に於て。
 tāvat-kālam 副 それ程長く, その間; 暫 *Abh-vy.*
 tāvat-kālika 形 暫時 *Bodh-bh.*
 tāvat-kṛtvas 副 それ程屢。
 tāvat-priya 形 それ程親愛なる。
 tāvat-phala 形 正にそれ程の結果を生ずる。
 tāvat-sūtra 中 それ程多くの絲。
 tāvad-guṇa 形 それ程多くの徳を有する。
 tāvaddhā 副 それ程屢, その數程。
 tāvad-vidha 形 それ程の種類 (*Jāt-m.*)
 tāvad-viryavat 形 それ程大なる力又は效力を有する。
 tāvan-mātra 形 (因 -i) (斯の如き量を有する), それ程多き, それ程大なる。～e 因 その遠さに。
 tāvan-mātraka 形 tena ～ena 因 以是事故, 以是因縁 *Aṣṭ-pr.*
 tāvan-māna 形 その量の。
 tāśūna 男 大麻(の一種)。形 (因 -i) 大麻の。
 tāskarya 中 奪掠, 竊盜。
 tikta 通受分 刺戟する, 苦(詞)き; 芳香ある。→ *Tij.*
 苦, 極苦, 荼苦 *Suv-pr., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵千., 梵雜.*
 tiktaka 形 苦(詞)き; ～ā lābuḥ 曝乾瓠 *Lal-v.*
 中 苦味あるもの。男 [植物の一種, 學名 *Terminalia Catappa*].
 tikta-gandhā 因 芥子。
 tikta-śāka 中 苦(詞)き或は芳香ある野菜。
 tigita 形 鋭き, 尖りたる。
 tigma 形 鋭き, 尖りたる; 刺戟的の; 激しき; 怖ろしき; 亂暴なる; 熱き; 熱情的の, 性急なる。
 tigma-kara 男 太陽(熱き光線を發する)。
 tigma-ketu 男 [*Vatsara* の子の名]。
 tigma-ga 形 激しく動く, 迅速に馳る或は飛ぶ。
 tigma-gati 形 烈しき態度をとる; 殘酷に振舞ふ。
 tigma-gu 形 熱き光線を發する。
 tigma-jambha 形 鋭き齒を有する (*Agni* 神)。
 tigmatā 因 鋭きこと。
 tigma-tejana 形 鋭き尖端を有する(箭)。
 tigma-tejas 形 鋭利なる, 鋭き尖端を有する; 激烈なる, 性急なる, 元氣旺盛なる。男 太陽。
 tigma-didhiti 男 太陽。

tigma-dyuti 男 [同上]。
 tigma-dhāra 形 = tigma-tejana。
 tigma-nemi 形 鋭利なる鞘を有する。
 tigma-bhānu 男 太陽; 日 *Buddh-c.*
 tigma-bhās 男 [同上]。
 tigma-bhrṣṭi 形 尖端の鋭き。
 tigma-manyu 形 激怒せる, 短氣の (*Siva* 神)。
 tigma-mayūkha-mālin 男 太陽。
 tigma-yātana 形 酷く苦しむる, 殘酷なる苦痛を課する(地獄)。
 tigma-raśmi 男 太陽。
 tigma-ruci 男 [同上]。
 tigma-vīrya 形 強力なる, 猛烈なる。
 tigma-vega 形 [同上]。
 tigma-śṛṅga 形 鋭き角(?)を有する。
 tigma-śocis 形 鋭き光線を有する (*Agni* 神)。
 tigma-heti 形 鋭き飛道具を有する (*Agni* 神)。
 tigmāṃsu 男 (熱き光線を發する), 太陽; 火。
 tigmānika 形 = tigma-bhrṣṭi。
 tigmāyudha (°ma-āy°) 形 鋭き武器を持てる。
 tiñ 文法 人稱語尾。
 tiñ-anta 中 文法 動詞の人稱形。
 Tij, I. 自 tejate 鋭し; 鋭くなる; 鋭くす。通受分
 tikta. 使役 他 tejayati 鋭利にす; 勵ます, 攪拌す。使役 通受分 tejita 鋭利にせられたる, 尖らせたる。希求 他 自 titikṣati(-te) 忍耐す, 忍耐強く堪ふ。強意 自 tetikte 鋭くす。
 ud- 使役 他 uttejayati 刺戟す, 勵ます。
 sam-ud- 使役 samuttejayati 利, 利益; 讚勵, 勸勉, 勸助, 增長勢力, 令其(開覺)增長勢力 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh.*
 tiṭibha 男 數の名] 地致婆 *Mvyut.*
 titikṣā (希求) 因 (一°)の忍耐; 辛抱; [忍耐の擬人化即ち *Dharma* の妻にして *Kṣema* の母]; 忍辱 *Divy.*
 titikṣu (希求) 形 (業)を辛抱する; 忍耐強き。男 [*Manāmanas* の子の名]。
 titirṣā (希求) 因 (一°)を横斷せんとする希望。
 titirṣu (希求) 形 (業, 一°)を横切らんと欲する。
 titila 男 蝙蝠 *Abh-vy., Mvyut.*
 tittira 男 鷓鴣; (種) [民族の名]。
 tittira-ja 形 *Tittira* 民族に生ぜる(馬)。
 tittiri 男 鷓鴣; [*Yaska Paingī* の弟子にして *Taittirīya* 派の創設者たる古代の學匠の名]; [或る *Nāga* の名]; 雉, 沙鷄 *Rāṣṭr., Mvyut., 梵雜;* [人名] 底逸帝哩, 坦坦羅 *Vajr-s., 立應.*
 tittirika 男 鷓鴣。
 tithi 男 女 太陰日 [半月を十五等分せるもの; 吉兆ある日は *Nandā, Bhadrā, Vijayā & Pūrṇā*]; 日, 齋日 *Mañj-m., Abh-vy.*
 tithi 因 [同上]。
 tiniśa 男 [樹木の名, 學名 *Dalbergia Ujjeinensis*].
 tintida 男 (?) 印度産のタマリンド樹。
 tintidikā 因 [同上]。
 tintidi 因 [同上]。
 tintidika 男 [同上]。中 *Tintida* 樹の果實。

tintilikā ㊟ [同上].
 tinduka ㊟ [樹木の名, 學名 *Diospyros embryopteris*]; ㊟ 柿, 柿木 *Mvyut.*, 梵雜; ㊟ 丁士伽, 鎮頭迦(花) *Lal-v., Mvyut.* ㊟ *Tinduka* 樹の果實; [重量の一單位].
 tinduki ㊟ [同上].
 tindu-bilva ㊟ [地方の名].
 tipya ㊟ [人名].
 Tim, IV. ㊟ *timyati* 鎮まる. ㊟ *timita* 静なる, 動かざる; 濕りたる. ㊟ *timayitvā* ㊟ *Divy. 285.*
 timi ㊟ (神話上の)大魚, 海の大魚; 鯨; 魚; [*Dūrva* 王の子の名]; ㊟ 帝魔, 佞迷, 抵彌 ㊟.
 timi-ghātin ㊟ (殺魚者), 漁夫.
 timim-gira ㊟ [或る *Nāga* の名] (*Kūr-vy.*).
 timim-gila ㊟ (*Timi* 魚をすら呑む神話上の)海の怪物; [王侯の名]; ㊟ 吞魚 ㊟; ㊟ 抵彌, 抵彌, 鯉彌鯢, 提彌鯢, 堤彌鯢, 低民祇羅, 抵彌宜羅, 堤迷宜羅, 帝彌祇羅, 抵彌宜羅, 繁民伽羅, 蟹民伽羅 ㊟.
 timita ㊟ → *Tim.*
 timi-timim-gila ㊟ (神話上の)大魚.
 timi-dhvaja ㊟ [(*Timi* を旗印とするもの), *Asura Sambara* 及びその子の名].
 timira ㊟ 暗き, 陰鬱なる; ㊟ 喪 *Lal-v.* ㊟ 暗黒; 曇れる視力(眼病の一種); [町の名]; ㊟ 翳, 闇翳, 翳暗, 暗翳, 昏翳, 翳障, 障翳, 眩, 瞽, 眩瞽, 眩, 瞽障, 翳膜, 矇昧 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Laṅk., Sūtr., Mvyut.*; 幽夜 *Buddh-c.*: *ajñāna* ~ *āvṛta* 無明常翳 *Gaṇḍ-vy. 276.*; *avidyā'ndhakāra* ~ *āvṛta* 無明翳障, 無明瞽障 *Gaṇḍ-vy. 321.*
 timira-ecchid ㊟ (暗黒を散らすもの), 太陽; 星.
 timiratā ㊟ (視力の)朦朧.
 timira-doṣa ㊟ 眼の溷濁, 白内障(?).
 timira-nayana ㊟ 視力の朦朧に惱める.
 timira-nāśana ㊟ = *timira-ecchid.*
 timira-nud ㊟ 太陽; 月(太陰).
 timira-nuda ㊟ ㊟ 日 *Lal-v.*
 timira-paṭa ㊟ ㊟ 翳障, 暗障 *Gaṇḍ-vy.*
 timira-paṭala ㊟ 暗黒の幕; (㊟) 白内障(?).
 timiramaya ㊟ (全く)暗黒にて成れる. ㊟ [*Rāhu* の稱].
 timiraya ㊟ *timirayati* 暗くす.
 timira-ripu ㊟ (暗黒の敵), 太陽.
 timirā ㊟ [町の名].
 timirākula (°*ra-āk*) ㊟ 暗黒にて充されたる, 白内障に冒されたる.
 timirāpagata ㊟ ㊟ [*Samādhi* の名] 離翳闇, 無矇昧 *Mvyut.*
 timirāpoha ㊟ 暗黒を拂ふ(火).
 timirāya ㊟ *timirāyate* 暗く見ゆ.
 timirāri ㊟ = *timira-ripu.*
 timirāri-ripu ㊟ (太陽の敵), 梟.
 timiraugha (°*ra-ogha*) ㊟ 深き暗黒.
 timiśa ㊟ [樹木の名].
 timi ㊟ [*Dakṣa* の娘・海の怪物の母の名].

timira ㊟ [樹木の名].
 tira, [Tī の ㊟].
 tiraḥ-prātivesya ㊟ 近隣の人; ㊟ 隣人 *Divy.*
 ti-r-apāya ㊟ ㊟ [*try-apāya*] ㊟ 三惡趣 *Sikṣ. 54.*
 tiraya ㊟ *tirayati* 隠す; 顯はるゝを防ぐ, 止む, 抑制す; 征服す; 透徹す.
 tiraśc, [tiryañc の ㊟].
 tiraści ㊟ = *tiryak.*
 tiraścina ㊟ 横切る, 横の, 水平の; 傾ける.
 tiraścina-nidhāna ㊟ [或る *Sāman* の名].
 tiraścina-vamśa ㊟ 蜂の巢.
 tiras ㊟ [Tī] (㊟) (㊟) を横断して, 貫きて; 越えて, 過ぎて; 外に, ……に對して; (㊟) の知識なくして, ……なくして, ……に反して; ㊟ 通過, 徹過, 穿過, 直過, 行過 *Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.* ㊟ 横断して, 交叉して, 横に; 側らに; 見えざる處に. ~ *Kṛ*, 措く, 除去す; 覆ふ, 隠す; 超ゆ, 征服す; 打克つ; 輕蔑す; 責む, 叱る; ㊟ 離, 異 *Madhy-v.* ~ *-DHā*, 除去す; 隠す; 擊退す, 征服す; (㊟) (㊟) より自己を隠す; 消失す. ㊟ *tirohita* 消失せる; 隠されたる. ~ *-BHū*, 除かる, 消失す, 隠る. ㊟ *tirobhūta* 消失せる, 隠されたる. ㊟ *tirobhāvayati* 消失せしむ, 除去す.
 tiras-kara ㊟ (㊟-*i*) (㊟) を凌駕せる.
 tiras-karaṇi ㊟ 幕, 帳.
 tiras-karaṇiya ㊟ 征服せらるべき.
 tiras-karaṇi ㊟ 幕, 帳; (㊟) を隠す幕; (隠身の學の魔法の)蔽布.
 tiras-karin ㊟ 幕, 帳.
 tiras-kāra ㊟ 罵詈, 叱責; 輕蔑; 胸甲.
 tiras-kārin ㊟ (一°) を凌駕せる.
 tiras-Kṛ, → *tiras.*
 tiras-kṛta ㊟ 隠れたる, 曲れる; 凌駕せられたる; 輕蔑せられたる, 侮辱せられたる.
 tiras-kṛti ㊟ 非難, 輕蔑, 罵詈.
 tiras-kriyā ㊟ 罵詈; 輕蔑; 隱匿, 避難處.
 tiras-paṭa ㊟ = *tiras-karaṇi.*
 tiriṭaka ㊟ [鳥の一種]; [植物の一種, 學名 *Symplocos racemosa*].
 tiriṭin ㊟ 頭布を冠れる.
 tiro-DHā, → *tiras.*
 tiro-dhā ㊟ 隱匿, 秘密.
 tiro-dhātavya (未受分) ㊟ 塞がるべき(耳).
 tiro-dhāna ㊟ 消失.
 tiro-bhavitṛ ㊟ 消失する.
 tiro-bhavitri ㊟ [同上].
 tiro-bhāva ㊟ 消失; ㊟ 隱, 沒, 不現, 非現者 *Daś-bh., Bodh-bh., Mvyut.*
 tiro-BHū, → *tiras.* ㊟ *tirobhūyate* 除かる, 消失す, 隠る. ㊟ *tirobhāvayati* → *tiras.*
 tiro-bhūta ㊟ → *tiras.* ㊟ 變異 *Sikṣ.*
 tirohaya ㊟ *tirohayati* 隠す.
 tiro-hita ㊟ → *tiras.*
 tiro-hitatā ㊟ 消失. ~ *m. Gam* 消失す.

tiro-hitatva ㊦ [同上].
 tiro'hnya ㊦ 一昨日準備せられたる.
 tiryak ㊦ → tiryāñc.
 tiryaktā ㊦ 獣の性質又は状態.
 tiryaktva ㊦ [同上].
 tiryak-pātin ㊦ (㊦)の上に斜に落つる.
 tiryak-pratimukhāgata (kha-āg°) ㊦ 側方又は前方より来る妨害.
 tiryak-pramāṇa ㊦ 幅(2).
 tiryak-prekṣaṇa ㊦ 側より見る, 斜に見る.
 tiryak-prekṣin ㊦ [同上].
 tiryak-srotas ㊦ ㊦ [集合的に] 獣.
 tiryā-ga ㊦ (空中を行くもの), 半神 *Siddha*. ㊦ = tiryag-ga.
 tiryā-gata ㊦ ㊦ 爲禽獸 *Rāstr*.
 tiryag-anūka ㊦ 祭壇背部の幅.
 tiryag-apaccheda ㊦ 横への分離.
 tiryag-āyata ㊦ 横切りて或は斜に延びたる(蛇).
 tiryag-ikṣa ㊦ = tiryak-prekṣaṇa.
 tiryag-ga ㊦ 水平に動く; 斜に行く; 北又は南に行く.
 tiryag-gata ㊦ 水平に行く(獣).
 tiryag-gati ㊦ 獣の状態, 畜生界への轉生.
 tiryaggati-matin ㊦ 獣.
 tiryag-gama ㊦ 斜に行く.
 tiryag-gamana ㊦ 横への運動.
 tiryag-ja ㊦ 獣より生れたる.
 tiryag-jana ㊦ 動物, 獣.
 tiryag-jāti ㊦ [同上].
 tiryag-dina ㊦ 水平に或は斜に飛ぶ.
 tiryag-nāsa ㊦ 鼻の歪める.
 tiryag-yāta ㊦ = tiryag-gama.
 tiryag-yona ㊦ 獣.
 tiryag-yoni ㊦ 獣の胎; 獣たる状態; 動物の創造; 有機體 [植物をも含む]; ㊦ 畜生, 畜生道, 傍生, 傍生趣, 傍生胎, 禽獸 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I, II.*, *Suv-pr.*, *Śikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜.
 tiryag-yonma ㊦ ㊦ 畜生, 傍生 *Bodh-bh.*
 tiryagyoni-gata ㊦ ㊦ 畜生, 傍生, 傍趣, 傍生類, 傍生異類, 生於畜生道, 生於傍生胎 *Aṣṭ-pr.*, *Prāt-m.*, *Mvyut.*
 tiryagyony-upapatti ㊦ ㊦ 傍生 *Divy.*
 tiryag-loka ㊦ ㊦ 傍生世界 *Bodh-bh.*
 tiryagloka-dhātu ㊦ ㊦ 傍生界, 徑直世界 (?) *Mvyut.*
 tiryag-vadha ㊦ ㊦ 殺畜類, 殺傍生 *Mvyut.*
 tiryag-valana ㊦ 斜に動くこと, 屈曲, 遠ざかること.
 tiryag-vāta ㊦ 側風, 横風.
 tiryag-visaṃsarpin ㊦ 側へ擴がれる.
 tiryāñ-niraya ㊦ 畜生道, 惡業の應報として畜生界に生ること.
 tiryāñc ㊦ [體: ㊦ -añ, ㊦ -ak, ㊦ tiraścī] 横の, 水平の; 斜の; 横切れる; ㊦ 傍, 傍生; 徑, 徑直 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* ㊦ ㊦ [水平に動く(直立して歩行する人間に對して)], 獣, 動物 [時として鳥及び植物を含む]; 水陸兩棲の動物; ㊦ 畜, 畜

生, 傍生, 生在畜生, 禽獸; 徑直, 傍普 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Lānk.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.* (㊦)
 ㊦ **tiryak** 横切りて; 水平に, 斜に, 側へ; ㊦ 傍; 徑 *Saddh-p.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*; 廣 [*Pāli.* tiriyaṃ] *Prāt-m.*

tila ㊦ [胡麻, 學名 *Sesamum indicum* の幹及び種子, 後者は食用とせられ或は良質の油を搾取せらる]; 粒, 原子; (身體の)黒子(㊦); ㊦ 麻, 胡麻, 脂麻, 芝麻, 烏麻, 苜蓿; 麻油, 油 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Lānk.*, *Guh-y-s.*, *Śikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵雜.

tilaka ㊦ [樹木の名, 學名 *Clerodendrum phloxmoides*]; 雀斑(㊦), 黒子(㊦); [額上(常に婦人の場合)又は他の處に裝飾又は宗派の特徴として附する著色標章]; (一°)の裝飾; [人名]; ㊦ 痣; 頂嚴, 寶嵌圈嚴, 孔雀翎 *Mvyut.*; ㊦ 帝羅迦(樹) *Divy.* ㊦ 頭韻法; [音律の一種].

tilakaka ㊦ [人名].

tila-kaṇa ㊦ 胡麻子の粒.

tilakaya ㊦ ㊦ **tilakayati** 記號を附す; 飾る.

㊦ **tilakita** 記號を附せられたる; 飾られたる.

tilaka-rāja ㊦ [人名].

tilaka-latā ㊦ [人名].

tilaka-simha ㊦ [人名].

tila-kārṣika ㊦ 胡麻を栽培する.

tila-kāla ㊦ ㊦ 痣點 *Mvyut.*

tila-kālaka ㊦ 黒痣, 皮下の暗色の斑點; [陰莖の病の一種]; ㊦ 痣點 *Mvyut.*

tilakita ㊦ ㊦ → *tilakaya.*

tila-kṛsara, ㊦ ㊦ 胡麻, 油粳米 *Divy*

tila-kocavaka ㊦ ㊦ 四稜箭頭 *Mvyut.*

tila-khali ㊦ 胡麻菓子.

tila-grāma ㊦ [村の名].

tila-cūrṇa ㊦ 砕きたる胡麻の種子, 胡麻の粉末.

tila-taila ㊦ 胡麻油.

tila-dvādaśi ㊦ (或る月の)第十二日.

tila-dhenu ㊦ (婆羅門に布施する爲の)胡麻にて造れる干の形.

tila-dhenukā ㊦ [同上].

tila-parṇa ㊦ 白檀樹.

tila-parṇika ㊦ [同上].

tila-parṇi ㊦ 白檀樹 [學名 *Pterocarpus santalinus*].

tila-piḍa ㊦ 胡麻の挽碎機, 搾油機; ㊦ 壓油 *Saddh-p.*

tila-puṣpa ㊦ 胡麻の花=鼻; ㊦ 油花 *Divy.*

tila-bhāra ㊦ ㊦ [民族の名].

tilamaya ㊦ (㊦ -i) 胡麻子にて造られたる或は成れる.

tila-mātra ㊦ 胡麻粒の如く小なる, 極小の; ㊦ 大如油麻 *Gand-vy.*

tila-māṣa ㊦ (㊦) 胡麻と豆.

tila-miśra ㊦ 胡麻を混じたる.

tilaśas ㊦ 胡麻の種子の如き細片に, 極小片に; ㊦ 如油麻 *Divy.*: ~o'vakīrya 碎如油麻 *Divy.* 459.

tila-sambaddha ㊦ 胡麻を混じたる.

tila-srṣṭa ㊦ 胡麻にて調理せる(料理).

tila-homin 形 胡麻の供物を捧ぐる。
 tilāmsā 男 胡麻粒程の(小なる土地)。
 tilāmbu 甲 胡麻の入りたる水(死者の灌奠に捧ぐる)。
 tilāhuti (°la-āh°) 乙 水と胡麻との供物。
 tilīṅga 男 [國の名]。
 tilīṅga-deśa 男 [國の名]。
 tilottamā (°la-ut°) 乙 [或る Apsaras の名]; [人名]。
 tilodaka (°la-ud°) 甲 = tilāmbu。
 tilaudana (°la-od°) 甲 胡麻の粥。
 tilvaka 男 [樹木の名, *Symplocos racemosa*]。
 tilvila 形 豊饒なる, 豊富なる。
 tivya 男 [或る 婆羅門の名]。
 tiṣṭhat 現分 [Sthā] 現分 現在 *Saddh-p.*
 tiśya 男 [天界の射手の名]; [月宿(第六又は第八)の名];
 [樹木の名]; [人名]; 鬼宿 [月宿の名] *Mvyut.*;
 [轉輪王の名] 勝 *Mvyut.*; [佛弟子の名] 具光 *Mvyut.*;
 [提舍, 底沙] *Mvyut.*; [=upatisya] 舍利弗
 [*Sāriputra* の] *Saddh-p.*; [佛の名] 底沙, 帝沙,
 致沙, 弗沙(?) *Lal-v., Sukh-vy. I., 支那*; [人名] 底
 沙, 底灑, 蛭駛, 提舍 *Divy., Av-s., 支那*。
 tiśya-rakṣitā 乙 [阿育王第二夫人の名] 光護
Divy.; [帝失羅叉, 帝舍羅叉, 徴沙落起多] *Divy.*
 tiśr 乙 [tri の] 三。
 tiśr-dhanva 甲 三本の箭を添へたる弓。
 tisra-loka 男 [=tri-loka] 三界 *Lal-v. 56.*
 tikṣṇa 形 [Tij+sna] 鋭利なる, 尖れる; 熱き, 燃ゆ
 る; 刺戟する(味), 酸味ある; 烈しき, 粗き, 勢ある,
 活氣ある; 厳しき, 苛酷の; 嚴格なる; 侵蝕する, 有
 害の; 鋭敏なる; 利, 猛, 猛利, 快利, 明利, 明
 達, 明淨, 通達; 鋒, 鋒銳; 上 *Buddh-c., Saddh-p.,*
Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sam-r., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-
bh., Abh-vy., Mvyut. 甲 苛酷の言。 男 [人名]。
 tikṣṇa-kara 男 (熱き光線を有する), 太陽。
 tikṣṇa-jñāna 甲 明利智慧, 明淨智慧 *Gaṇḍ-vy.*
 tikṣṇatara 乙 更に鋭き; 更に熱き; 利, 通
 利 *Aṣṭ-pr.*
 tikṣṇatā 乙 鋭利, 尖銳; 明利 *Gaṇḍ-vy.*
 tikṣṇ-tuṇḍa 形 鋭き嘴をせる。
 tikṣṇatva 甲 烈しき熱, 灼熱。
 tikṣṇa-damṣṭra 形 鋭き齒を有する; 利牙,
 牙快利 *Guhy-s., Mvyut.* 男 [人名]。
 tikṣṇa-damṣṭraka 男 豹。
 tikṣṇa-damṣṭratā 乙 鋭き齒を有すること(*Dharm-*
s.)
 tikṣṇa-dāṇḍa 形 苛酷に罰する, 嚴罰を課する。
 tikṣṇa-dhāra 形 鋭利なる, 鋭き刃の。 男 劍。
 tikṣṇa-dhāraka 男 [武器の一種]。
 tikṣṇa-prajña 形 利慧, 慧利 *Mvyut.*
 tikṣṇa-mārga 男 (その道の鋭き), 劍。
 tikṣṇa-raśmi 形 熱き光線を有する(太陽)。
 tikṣṇa-rasa 男 刺戟性の液體, 毒。
 tikṣṇarasa-dāyin 男 毒殺者。
 tikṣṇa-rūpin 形 苛酷の相を有する。
 tikṣṇa-lavaṇa 形 刺戟性の。
 tikṣṇa-loha 甲 鋼鐵。
 tikṣṇa-vaktra 形 鋭く尖れる(箭)。

tikṣṇa-varman 形 鋼鐵にて装甲せる(?)。
 tikṣṇa-vipāka 形 消化の際に灼くる如き感を起さし
 むる。
 tikṣṇa-viṣa 男 猛毒。
 tikṣṇa-vṛṣaṇa 男 牡牛(の名)。
 tikṣṇa-vega 男 [或る Rākṣasa の名]。
 tikṣṇa-śṛṅga 形 鋭き角(?)を有する。
 tikṣṇa-srotas 形 急激なる流を有する, 奔流する。
 tikṣṇa-hṛdaya 形 残酷なる心を有する, 無情なる。
 tikṣṇa-hṛdayatva 甲 [同上] 甲。
 tikṣṇāmsu 形 熱き光線を有する。 男 太陽; 火。
 tikṣṇāgra 形 鋭く尖れる。
 tikṣṇāmla 形 酸味と苦味ある。
 tikṣṇārcis 形 熱き光線を有する(太陽)。
 tikṣṇīyas 乙 一層鋭き。
 tikṣṇendriya (°na-in°) 男 利根, 有利根, 明利
 根, 根利, 諸根明利, 上根 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-*
vy., Bodh-bh., Mvyut.
 tikṣṇeṣu (°na-iṣu) 形 鋭き箭を有する。
 tira 1. 甲 [Tṛ, 横断す] 岸, 堤; 容器の縁; 津,
 岸, 堤岸, 岸邊, 邊, 内邊, 側, 河側 *Divy., Av-s.,*
Gaṇḍ-vy., Mvyut.
 tira 2. 甲 [箭の一種]。
 tira-graha 男 [民族の名]。
 tira-ja 形 堤に生長する(樹) 男 河岸の樹木。
 tiraṇa 男 度 *Abh-k., Abh-vy.*
 tira-bhāj 形 堤に在る。
 tira-bhuktiya 形 *Tirhut* 地方より出でたる。
 tiraya 乙 *tirayati* 到達す, 落著せしむ。 成就
 す。
 tira-ruha 形 堤に生長する。 男 河岸の樹木。
 tira-vilagna 形 上陸せる。
 tirita 形 定められたる, 制規の; 成就せる。
 tiriyaka 形 → samudra ~。
 tirna 通受分 → Tṛ. 度 已度, 既度, 得度, 化
 度; 已達; 自既得濟 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr.,*
Mvyut.
 tirṇa-pratijña 形 約束を果せる。
 tirṇavat 通能分 超(彼岸) *Vajr-s.*
 tirtha (男) 甲 [Tṛ: 横断處] 道, 通路; 津, 上陸の階
 段; 聖地, 沐浴場[特に贖罪の爲に巡禮せらるゝもの];
 祭場に於ける通路(即ち *cātrāla* と *utkara* との間);
 正しき場處又は時; 適當の機會; 習慣的又は正しき方
 法[男 正當に]; 教授, 忠告, 指導; 教師, 指導者;
 (神聖なる)手の線又は部分; 尊ぶべき或は神聖なる對
 象; 價值ある人; 宮廷の官吏(の一種); 池, 清
 涼池, 清涼之池, 津, 津濟, 津梁; 橋梁 *Gaṇḍ-vy.,*
Śikṣ., Abh-vy.; 門 *Abh-vy.*; 天廟 *Divy.*; 外道 *Lank.*
 → ~upasparśana, punya ~。
 tirthaka 形 價值ある; 神聖なる。 男 苦行者, 宗
 徒; 外道 *Lank., Mvyut.* 甲 —°, 聖地。
 tirtha-kamaṇḍalu 男 聖地の水を容れたる壺。
 tirtha-kara 形 (生涯)津を作る, 救濟する [*Viṣṇu* 神
 又は *Siva* 神の稱]。 男 宗教的開拓者, 改革者, 宗祖;
 作津者 *Mvyut.*; 外道 *Lank.*
 tirtha-kāra 男 外道 *Abh-vy.*

tirtha-kirti 形 Tirtha たるの名聲を有する即ち生涯名聲を擔へる。
 tirtha-kṛt 男 Jaina (教) の Arhat.
 tirtha-caryā 女 巡禮。
 tirthatama 中 (後) より一層神聖なる聖地。
 tirtha-darśana 中 見外道 Lank.
 tirtha-dṛṣṭi 女 外道見 Lank.
 tirtha-doṣa 男 外道過 Lank.
 tirtha-pad 形 [-pād] 神聖なる足を有する [尊敬すべき人物又は Kṛṣṇa 神等の稱].
 tirtha-pada 形 [同上].
 tirtha-pāda 形 [同上].
 tirtha-bhūta 形 神聖にせられたる, 救はるべき; 津濟, 爲(大)津濟 Gaṇḍ-vy.
 tirtha-yātrā 女 聖地の訪問, 巡禮。
 tirtha-rāji 女 聖地の連鎖 [Benares の稱].
 tirthavat 形 上陸の階段又は聖地に富む。
 tirtha-vāda 男 外論, 外道論, 諸外道 Lank.
 tirtha-śilā 女 浴地の水邊に到る石段。
 tirtha-śravas 形 = tirtha-kīrti.
 tirtha-saṃcara 男 外道行 Lank.
 tirtha-sad 形 聖地に住する。
 tirtha-setu 男 橋梁 Śikṣ.
 tirtha-sevana 中 聖地に屢々詣ること; 巡禮。
 tirtha-sevā 女 [同上].
 tirthāsevana (°tha-ās°) 中 [同上].
 tirthika 男 自宗以外の宗旨を信仰する者; 邪, 邪學, 外道, 外學, 外道師, 具外道 Divy., Av-ś., Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Lank., Bodh-c., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.
 tirthikānta 男 外道邊 Madhy-vibh.
 tirthikāvākṛānta 形 越外道 Mvyut.
 tirthikāvasatha (°ka-āv°) 男 有外道處 Mvyut.
 tirthi-karaṇa 中 神聖化。
 tirthi-Kṛ, 神聖になす。
 tirthi-kṛta 形 神聖にせられたる。
 tirthi-BHū, 神聖となる。
 tirthi-bhūta 形 = tirthi-kṛta.
 tirthēśvara (°tha-iś°) 男 = tirtha-kṛt.
 tirthodaka (°tha-ud°) 中 聖地の水, 聖水。
 tirthopasparśana (°tha-up°) 中 禮天廟 Divy. 484.
 tirthya 形 Tirtha に関係ある; 邪, 外, 外道 Saddh-p., Sūtr., Abh-vy. 男 苦行者, 宗徒; = tirthika; 外道, 異道, 外道輩 Divy., Saddh-p., Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Madhy-vibh. → anyas-

tirthya-dṛṣṭi 女 外道邪見, 外道諸見 Lank.
 tirthya-mārga 男 外道, 外道法 Lank.
 tirthya-yoga 男 外道行 Lank.
 tirthya-varga 男 諸外道 Lal-v.
 tirthya-vāda 男 外道論, 外道說, 外道論議, 外道事 Saddh-p., Lank.

tivara 男 獵師(混血種姓).

tivra 形 強き, 鋭き; 熱き; 烈しき, 強度の, 厳しき, 大なる, 過度の; 怖ろしき, 悪しき; 極, 極重,

重, 最重; 大; 利, 熾, 盛; 増上, 最勝, 猛利, 猛烈 増上猛利; 大; 分明; 深; 勇決; 專精, 慇懃; 倍增 Divy., Ast-pr., Saddh-p., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 怒; 狷 Mvyut.: ~ en'āsayena 深心 Śikṣ. 313. ~ m 極, 深 Śikṣ., Bodh-bh.

tivra-gati 女 急歩, 大股. 形 性急なる; 悪しき状態にある。

tivra-cchanda 形 猛利欲樂, 慇懃願樂 Bodh-bh.

tivra-cchandatā 女 最勝欲, 増上欲 Śikṣ.

tivratā 女 嚴格, 激烈, 強度, 熱。

tivratva 中 [同上]; 轉捷 Abh-vy.

tivra-dyuti 男 (熱き光線を有する), 太陽。

tivra-dveṣa 形 嗔重, 大嗔 Mvyut.

tivra-mada 形 甚だ酔はしむる。

tivra-moha 形 愚深, 大愚癡 Mvyut.

tivraya 名動 他 tivrayati 強む。

tivra-rāga 形 貪大, 溺欲 Mvyut.

tivra-roṣa-samāviṣṭa 形 激怒に充たされたる。

tivra-śoka-samāviṣṭa 形 激しき悲嘆に充たされたる。

tivra-sava 男 [Ekāha 祭の一の名].

tivrātativra 形 過度に厳しき。

tivrānta 形 強き効果を有する (Soma).

tivrāśayatā (°ra-ās°) 女 猛利意樂 Bodh-bh.

tivri-Kṛ, 鋭くす, 強む。

tivri-BHū, 強者となる, 増大す。

Tu, II. 他 taviti 強し, 優る. 便役 強む; 效果あらしむ。

tu 不變辭 [決して文章の冒頭には來らず] [命 と共に] 希くは, 乞ふ(因); 併し; 而して; [塵 = ca 又は vā; 又は單なる補填語]; 然而, 復, 若, 唯 Lal-v., Bodh-bh., Abh-vy. 等: ayam ~ viśeṣaḥ 而有差別 Abh-vy. 44.

api ~, 併しながら寧ろ。

api ~ khalu punaḥ 若復 Ast-pr.

kim ~, 然も尙ほ. それにも拘らず。

na ~, 併し...ならず。

na tv-eva ~, 決して全く...ならず。

param ~, 尙ほ, それにも拘らず, とは云へ。

~...~, 實に...併し。

ca...na ~, ...とは云へ然も...ならず。

na...api ~, ...に非ずして寧ろ。

na ca...api ~, [同上].

kāmam (ca)...~ (又は kim ~), とは云へ...然し。

kāmam...na ~, よりも...寧ろ。

bhūyas...na ~, [同上].

varam...na ~, [同上].

tv eva, 唯 Bodh-bh.

tukhāra 男 = tukhāra.

tuk 男 小兒, 少年。

tukkhāra 男 Tukhāra の馬。

tukhāra 男 覆 [印度の西北方に住せし民族の名, Tukhāra 人]; 觀佉羅 梵雜。

tugra 男 [人名].

- tuṅga** 形 高き, 突出せる, 聳えたる; 高, 高起 *Mvyut.* → *acca* ~. 男 高處; 丘; 山; 王座; [人名]; [樹の名, 學名 *Rottleria tinctoria*].
- tuṅgaka** 甲 [神聖なる森の名].
- tuṅga-dhanvan** 男 [王の名].
- tuṅga-nakha** 形 指高, 指爪高, 指甲高起 *Mvyut.*
- tuṅga-nakhatā** 女 顯著なる爪を有すること (*Dharm-s.*).
- tuṅga-nātha** 男 [聖山の名, = *Bhrgu-tuṅga*].
- tuṅga-nāsa** 形 高き鼻を有する; 鼻脩高直, 鼻高修直, (鼻孔不現), 鼻高(孔不現) *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
- tuṅga-nāsatā** 女 秀でたる鼻を有すること (*Dharm-s.*); 鼻高脩直好 *Dharm-s.*
- tuṅga-nāsikā** 女 高き鼻を有する婦人.
- tuṅga-bala** 男 [或る戦士の名].
- tuṅga-bija** 甲 水銀.
- tuṅga-bhadra** 女 [河の名, (*Mysore* 州の *Tumbudra* 河)].
- tuṅga-veṇā** 女 [*Deccan* 地方の河の名].
- tuṅgātman** (°ga-āt°) 形 秀でたる.
- tuṅgin** 形 高き; 最高点に達する(遊星).
- tuṅgiman** 男 高さ, 高處, 高位.
- tuṅgeśvara** (°ga-iś°) 甲 [*Siva* 神の廟の名].
- tuccha** 形 空虚なる, 缺けたる, 空しき, 無用の; 小なる, 些少の; 虚, 空, 空寂; 不固 *Daś-bh.*, *Madhy-v.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.* 甲 無用物, 些少なる事物.
- tucchaka** 形 空しき; 空, 無所有 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*
- tucchatva** 甲 空虚; 無價值.
- tuccha-daya** 形 無慈悲なる.
- tuccha-prāya** 形 重要ならざる, 無價值の.
- tucchaya** 名動 他 *tucchayati* 空虚又は貧弱になす.
- tucchi-kṛta** 形 蔑しめられたる.
- tucchya** 形 空虚なる, 無用の. 甲 空虚.
- Tuj, VI. tujati(-te), tuñjati(-te)** 打つ; 壓す; 刺戟す. 便後 他 *tujayati* 速かに動く.
- tuñja** 男 衝擊, 襲撃.
- tuñjina** 男 [諸王の名].
- tuṇa** 男 [= *tuṇava*] 琴瑟 *Lal-v. 80.*
- tuṇava** 男 琵琶, 一絃琵琶 *Saddh-p.*, *Mvyut.*
- tuṇḍa** 甲 嘴; (動物の)鼻口部, 象の鼻; 口 [輕侮して用ゐらる]; 主, 首領; 策, 背, 嘴 *Suv-pr.*, *Abh-vy.*; 鼻 *Mvyut.*: *hasti* ~ 象鼻 *Mvyut.*; ~ *ena* *ādāya* 以嘴銜 *Suv-pr. 14.* 男 [或る *Rākṣasa* の名]; [*Siva* 神の稱].
- tuṇḍa-muṇḍa**, → *siras* ~.
- tuṇḍa-muṇḍana** 甲 刺蝟 *Bodh-bh.*
- tuṇḍi** 男 嘴, 喙.
- tuṇḍika** 形 喙を有する. → *ahi* ~, *āhi* ~.
- tuṇḍikera** 男 (種) [民族の名].
- tuṇḍi-cela** 甲 [高價なる衣服の一種] (*Divy.*): 妙衣, 美服 *Divy.*, *Mvyut.*
- tuṇḍibha** 形 突出せる臍を有する.
- tuṇḍila** 形 [同上]; 饒舌の.
- tuṇḍi** 女 [胡瓜の一種].
- tuturvani** 形 持ち來さんと或は得んと努力する.
- tuttha** 甲 膽礬 [眼膏として用ふ].
- tutthaka** 甲 [同上]; 銅線 *Mvyut.*
- tutthaya** 名動 他 *tutthayati* 被ふ, 覆ふ.
- Tud, VI. 他 tudati** 打つ; 壓す; 粉碎す; 刺す. (通受分) *tunna* 打たれたる, 刺されたる, 傷つけられたる, 切られたる. 便後 *todayati* 刺戟す. (通受分) *totudyate* 刺戟せらる.
- ā-** …に向ひて打つ; 壓す; 躑き掘る, 咬む; 促す. (通受分) *ātunna* 打たれたる.
- pra-** 打つ, 切る, 刺す. 便後 *pratodayati* 促す, 押す.
- vi-** 突く, 刺す, 打つ, 裂く. (通受分) *vitunna* 刺されたる, 裂かれたる.
- tuda** 形 (一)を打つ, …を摩擦する, …を擦傷する.
- tudāya** 名動 貫く. **vi-** 貫く.
- tunda** 甲 突出せる腹, 腹.
- tunda-parimārja** 形 自らの腹を打つ.
- tunda-parimrja** 形 怠惰なる.
- tundila** 形 太鼓腹の (*Ganeśa*) 肥滿せる; 拵鼓者 *Mvyut.*
- tundilita** 形 肥滿せる.
- tunna** (通受分) → *Tud.*
- tunna-vāya** 男 裁縫師.
- tubara** 形 蒞き, 收斂する.
- tubaraka** 男 蒞味; [樹木の名].
- tumala** 形 = *tumula*.
- tumun** 文法 [不定の語尾 -*tun*].
- tumula** 形 喧噪せる, 騒然たる; 猛 *Divy.* 甲 喧噪, 雜音, 騒動, 混亂.
- tumba** 男 長き葫蘆 [學名 *Lagenaria vulgaris*].
- tumbaru** 男 [或る *Gandharva* の名].
- tumba-vaṇa** 男 [(*Tumba* を琵琶とせる), *Siva* 神の稱].
- turabi** 女 = *tumba*.
- tumbi-vaṇā** 女 [琵琶の一種].
- tumbivaṇā-priya** 男 [(琵琶を好む), *Siva* 神の稱].
- tumbuma** 男 (種) [民族の名].
- tumburu** 男 = *tumbaru*. 甲 胡蘆(語)又は(學名) *Diospyros embryopteris* の果實; 椒 *Mvyut.*
- tumburu-phala** 甲 椒 *Mvyut.*
- tumra** 形 大なる, 強き.
- Tur, VI. turati(-te)** 促す, 急がす; 走る, 競争す; **IV. turyati** 打勝つ. 便後 *turayati(-te)* [同上 (VI)]. (通受分) *tūtūrṣati* 促進せんと努力す.
- tura 1.** 形 速かなる; 覺悟せる, 辭せざる.
- tura 2.** 形 強き, 強大なる, 優れたる; 富める, 豊富なる.
- tura 3.** 形 傷つくる.
- tura-ga** 男 (速かに行くもの), 馬.
- turaga-kāntā** 女 牝馬.
- turagakāntā-mukha** 男 (牝馬の口), 海底の火.
- turaga-kriyāvāt** 形 馬を以て占められたる.
- turaga-paricāraka** 男 馬丁.

turaga-pālaka 男 [同上] (*Buddh-c.*).
turaga-mukha 男 [(馬面を有する), 或る *Kimnara* の名].
turaga-medha 男 馬祠.
turaga-rakṣa 男 馬丁.
turaga-ratha 男 馬車.
turaga-vāhyāli 女 馬術練習所.
tura-gātu 形 速かに行く.
turagānana (°ga-ān°) 男 (種) [民族の名].
turagāroha (°ga-ār°) 男 騎馬者.
tura-gi 女 牝馬.
turaṃ-ga 男 (速かに行くもの), 馬; 馬, 駿 *Buddh-c., Mvyut.*
turaṃ-gama 男 馬.
turaṃ-gamatva 中 馬たること.
turaṃgama-ratha 男 = *turaga-ratha.*
turaṃgama-sālā 女 厩.
turaṃ-gami 女 牝馬.
turaṃga-medha 男 馬祠.
turaṃga-sādin 男 騎馬者.
turaṃga-sthāna 中 厩.
turaṃ-gā 女 駮歩.
turaṃ-gi 女 牝馬.
turaṃgi-BHū, 馬に變ぜらる, 馬となる.
turaṇa 形 迅速なる.
turaṇyu 形 迅速なる, 熱心なる.
tura-yā 形 速かに行く.
turāyaṇa (°ra-āy°) 男 [人名]. 中 [或る供犠祭又は戒行の名].
turā-śāh 形 [種 -śāt; 韻の前にては -sāh (例) -sāham] 速かに征服する (*Indra* 神). 男 [*Indra* 神の稱].
turi 女 優越せる力 [爲 *turye* のみ]; 織匠の刷毛; 燒(?) *Mvyut.*
turi 女 織匠の刷毛; 機織用の梭.
turipa 中 精液.
turiya 形 [catur 四] 第四の; 四の部分より成る: *Ātman* の第四位に屬する. 中 [*Vedānta* 派の *Ātman* の) 第四位 (*Brahman* との完全一致); 四分の一.
turiyaka 形 第四の(部分).
turiya-bhāga 男 四分の一.
turiya-bhāj 形 四分の一を有する, 四分の一の分前を享くる.
turiya-māna 中 = *turiya-bhāga.*
turiyārdha 男 中 (四分の一の半分), 八分の一.
turuṣka 男 土耳其人 [又た 種]; 乳香(樹脂の一種); 蘇合香; (香) 兜羅香 *Mvyut.*; (香) [香の名] 都嚕瑟 *Mañj-m.*; [民族の名] 突厥 梵雜.
turuṣka-karpūra 形 乳香と樟腦とより成れる.
turuṣka-taila 中 都嚕瑟香油(香) *Mañj-m.*
turya 形 [caturya] 第四の, 第四部を成す, 精神の第四位に達せる. 中 *Ātman* の第四位.
turya-vah 形 [種 幹 -vāh, 種 -vāt] その第四年に於ける(牝牛). 男 四歳の牝牛.
turyā 女 優越せる力.

turyāśra 形 四角の.
turyauhi 女 [turya-vah (男) の 女] その第四年に於ける牝牛.
Turv, I. 他 *tūrvati* 打勝つ, 凌駕す; 助けて勝たしむ, 救ふ.
turvaṇi 形 克服する, 勝利の.
turvasu 男 [*Yayāti* の子にして *Yadu* の兄弟の名].
turviti 男 [人名].
Tul, X. 他 *tolayati, tulayati* 揚ぐ; 秤にかく; 熟考す; 精しく視る; 疑ふ; (男) と比較す, ……と同等にす; (男) と鈞合はす, ……に匹敵す, ……に到達す; 秤, 能稱, 稱計, 稱量, 量, 籌量, 比量, 測量, 校計籌量, 計算; 秤; 擇; 試 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Bodh-c., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Śikṣ.*; 觀, 觀察 *Divy., Madhy-v.* 過受分
tulita 揚げられたる, 秤られたる, 等しき, 比較せられたる.
ā- 揚ぐ; 行, 起 *Daś-bh.*
ud- (男) を揚ぐ; 秤にかく.
peri- 思量, 籌量, 稱量, 格量, 思惟 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
sam- 共に秤る.
tula 男 (?) [= *tulā* (天秤宮)]; 秤 *Mañj-m.*
tulaka 男 (思量する者), 王の參議官 (*Divy.*); 稱量 *Divy.*
tula-kuci 男 [王侯の名]; 兜羅貴之 *Divy.*
tula-kūṭa 形 [香, = *tulā-kūṭa*] 秤欺誑 *Saddh-p. 402.*
tulana 中 揚ぐること; 計量, 見積ること; 秤, 稱量 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*; [數の名] 都邏那, 獨羅南 *Mvyut.*
tulanā 女 (男, 一°) と同等なること; 稱量 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.* ~ *m I, ~ m Gam, ~ m ā-Yā* (男, 一°) と等しくなる, 匹敵す, 類似す, 比較す.
tulanā-samatikrāntatva 中 過稱量 *Aṣṭ-pr.*
tulā 女 秤, 秤皿; 重量; (男, 一°) との類似, ……との同等; 天秤宮 [黃道十二宮の一]; 秤, 斗秤; *Saddh-p., Lanḅ., Mañj-m., Śikṣ., Bodh-bh., 梵雜.* ~ *m ā-Ruh*, ……と共に秤皿に上る = ……と比肩す, ……と類似す, ……と等しくなる, (男) と匹敵す.
~ *m sam-ā-Ruh*, [同上].
~ *m adhi-Ruh*, [同上]; 秤らる; 天秤宮に入る.
~ *m adhi-Ruh* (便役), 秤にかく, 秤る; 冒險す, 賭す.
~ *m ā-Ruh* (便役 受) (*āropya-*), 危くせらる.
tulayā DHṛ, 秤にて量る, (男) を (男) と比較す.
tulā-kūṭa 中 偽秤 *Bodh-bh.*
tulā-koṭi 男 秤の桿の端; 踝飾(婦人の).
tulā-koṣa 男 秤にて量ること.
tulā-guḍa 男 [球の一種(飛道具として用ゐる)].
tulā-daṇḍa 男 秤, 權衡 *Śikṣ., Madhy-v.*
tulā-dhāna 中 重量を量ること.
tulā-dhāra 形 秤を携へたる. 男 商人; [或る商人の名].
tulā-dhāraṇa 中 秤ること.
tulādhirohana (°lā-adh°) 形 (一°) と比すべき, ……

と相似たる, ……と同等の。
tulā-dhṛta 形 等しき, 釣合へる。
tulā-puruṣa 男 人間の重量(に等しき黄金等の貴重品); [贖罪の一種]。
tulāpuruṣa-dāna 甲 人間の重量に等しき(黄金等の)贈物。
tulā-bhāra 男 [同上]。
tulā-māna 甲 度量衡。
tulā-yantra 男 甲 揚水機。
tulā-yaṣṭi 女 秤の桿。
tulā-yoga 男 (種) 秤の種々の使用。
tulāvat 形 秤を具へたる。
tulita (過受分) → Tul.
tulima 形 秤らるべき。
tulya 形 (具, 爲, 一°と; 具 因 又は稀に一°に於て) 釣合ふ, 匹敵する, 似たる, 等しき; 同一種姓(階級)の; 同価値の, 無關心の; 等, 等者, 與等, 平等, 同, 同於, 同一; 如; 稱, 所稱, 稱量, 等量; 相似, 相似者; 中; 衡 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Sv-pr., Lan-k., Bodh-c., Sūtr., Śikṣ., Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., 梵千., 梵雜.*; 一° 如, 猶如 *Saddh-p., Sv-pr., Rāṣṭr.:* ākāśa ~ [Sic. MS. 刊本は ākāśa-candra-sadṛśam] 如空, 猶如虚空 *Sv-pr. 91.* ~ m, ° 一 副 等しく, 同様に; 同時代に。
tulya-kakṣa 形 (一°)に等しき, ……に匹敵する。
tulya-kalpa 形 一° 等, 譬如 *Lal-v.*
tulya-kāla 形 (具)と同時の。 ~ m 副 同時, 一時, 俱時 *Daś-bh., Madhy-v.*
tulya-kāliya 形 [同上(形)].
tulya-kulya 形 同一家族の。 男 親戚。
tulya-krama 形 同一步調を保つ (*Jāt-m.*)
tulya-guṇa 形 同性質の, 同様に善良なる。
tulya-jātiya 形 同類の, 同様の; 等類, 同種類 同一種 *Sūtr., Bodh-bh.*
tulya-tarka 男 眞實に近き臆測(戲曲)。
tulyatā 女 (具, 一°)と同等なること, (具)に於て等しきこと; 同性 *Bodh-bh.*
tulyatva 甲 同等, (具, 一°)と等しきこと。
tulya-darśana 形 等しき又は無關心(なる眼)を以て(一切を)見る。
tulya-nakṭam-dina 形 晝夜の別なき, 等しき晝夜を有する。
tulya-nāman 形 同名の。
tulya-nindā-stuti 形 毀譽に無關心なる。
tulya-prabhāva 形 等しき力の。
tulya-priyāpriya 形 好悪又は快不快を同一視する。
tulya-bhāgya 形 同じき運命を有する。
tulya-yogitā 女 [同下]。
tulya-yogopamā (°ga-up°) 女 [異なる對象が平等に取扱はるゝ修辭上の一形式]。
tulya-rūpa 形 等しき, 類似の, 等しき形の。
tulya-lakṣman 形 同じき性質を有する。
tulya-vamśa 形 (爲)と等しき種族又は貴族の。
tulya-vayas 形 等しき年齢の。
tulyaśas 副 同様に, 等しき部分に於て。
tulya-sīla 形 同様に行動する。

tulya-sīlatā 女 [同上(爲)].
tulyākṛti (°ya-āk°) 形 類似せる相貌を有する。
tulyādhika 形 若等若増 *Bodh-bh.*
tulyāntaram 副 等しき間隔を以て。
tulyābhidhāna 形 等しき名の(即ちその性質に相應する名を有する) (*Buddh-c.*)
tulyārtha 形 等しく富める; 同じ意義を有する。
tulyāvastha 形 (爲)と等しき状態に置かれたる。
tulyocita-vihārin (°ya-uc°) 形 等習而住 *Bodh-bh.*
tuvi 形 多き; 力強き [合成]にのみ用ふ。
tuvi-kūrmi 形 働くに力強き (*Indra* 神)。
tuvi-kratu 形 [同上]。
tuvi-kṣatra 形 力強く支配する。
tuvi-gra 形 多く吞む (*Agni* 神)。
tuvi-grābha 形 力強く攫む (*Indra* 神)。
tuvi-gri 形 多く吞む (*Indra* 神)。
tuvi-griva 形 力強き頸を有する。
tuvi-jāta 形 力強き種族の, 性來力強き (*Indra* 神, *Varuṇa* 神等)。
tuvi-deṣṇa 形 多く與ふる (*Indra* 神)。
tuvi-dyumna 形 甚だ榮譽ある, 力強き (*Indra* 神, *Agni* 神, *Marut* 神)。
tuvi-nṛmṇa 形 甚だ勇敢なる (*Indra* 神)。
tuvi-manyu 形 甚だ熱心なる。
tuvi-mātra 形 極めて效力ある (*Indra* 神)。
tuvi-śuṣma 形 氣概ある, 勇敢なる (*Indra* 神)。
tuviṣṭama 最上 最も強き。
tuviṣmat 形 力ある, 強き。
tuvi-ṣvaṇi 形 音高く響く。
tuvi-ṣvan 形 [同上]。
Tuṣ, IV. 他 (自) **tuṣyati(-te)** 鎮まる; (具, 爲, 爲 因, 又は *prati*) にて満足せしめらる, ……にて悦ばさる, ……にて悦ぶ; 満足せしむ。 (過受分) **tuṣṭa** 満足せる, 満足せしめられたる, 悦べる。 (便役) **toṣayati(-te)** 有む; (爲)を(具)にて満足せしむ, 悦ばしむ; 悦, 欣, 愛, 令喜, 歡悦, 歡喜, 令歡喜, 令踊躍 *Divy., Saddh-p., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh.:* aparīkṣaka-janam na toṣayati 不別則不愛 *Sūtr. 2.* (便役) (過受分) **toṣita** (具, 一°)によりて満足せしめられたる或は悦ばしめられたる。
upa- (便役) 他 **upatoṣayati** (具)を以て満足せしむ。
pari- (具, 爲)を以て大に喜ばしめらる。 (過受分) **parituṣṭa** 全く満足せしめられたる; 甚だ喜べる或は快活なる。 (不變分) **parituṣya** 喜悅のために。 (便役) **paritoṣayati** (具)を以て全く鎮む或は満足せしむ; 令歡喜, 發歡喜心 *Saddh-p., Daś-bh.* (便役) (現分) **paritoṣayamāna** 令歡喜 *Gaṇḍ-vy.*
sam- 鎮めらる; (具)を以て満足を感じ, ……を悦ぶ (過受分) **samtuṣṭa** (具, 一°)を以て満足せしめられたる。 (便役) 他 **samtoṣayati** 満足せしむ, 喜ばしむ, (具)を贈る; 令等満足, 眞實令満足 *Mvyut.*
tuṣa 男 穀物・米等の穀; 扱穀; 糠, 麸子 *Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*

tuṣa-khaṇḍana 甲 穀穀を搗くこと(=無効の努力).
 tuṣa-dhānya 甲 豆類.
 tuṣa-pakva 形 穀穀の火にて乾燥せられたる.
 tuṣāgni 男 穀穀の火.
 tuṣānala 男 [同上].
 tuṣāmbu 甲 酸飯又は麥粥.
 tuṣāra 形 寒き, 冷き. 男 (單, 複) 寒氣, 酷寒; 霜, 雪; 露; 細雨, 飛沫; 霧; 障腦; 雪, 霜 Lal-v., Mvyut.
 tuṣāra-kaṇa 男 露の滴; 雪片, 氷片.
 tuṣāra-kara 男 (涼しき光を有する), 月(太陰).
 tuṣāra-kāla 男 冬.
 tuṣāra-kiraṇa 男 = tuṣāra-kara.
 tuṣāra-giri 男 Himālaya 山.
 tuṣāra-gaura 男 (雪の如く白き) 樟腦.
 tuṣāra-gharaṭṭikā 女 = tuṣāra-kara.
 tuṣāra-tviṣ 男 [同上].
 tuṣāra-dyuti 男 [同上].
 tuṣāra-patana 甲 降雪.
 tuṣāra-mūrti 男 = tuṣāra-kara.
 tuṣāra-raśmi 男 [同上].
 tuṣāra-artu (°ra-rtu) 男 = tuṣāra-kāla.
 tuṣāra-varṣa 男 = tuṣāra-patana.
 tuṣāra-varṣin 形 雪降る.
 tuṣāra-sikharin 男 (= tuṣāra-giri), Himālaya 山.
 tuṣāra-sailā 男 [同上].
 tuṣāra-saṃghāta 男 氷.
 tuṣāra-sruti 女 = tuṣāra-patana.
 tuṣārāmsu 男 = tuṣāra-kara.
 tuṣārādri 男 (= tuṣāra-giri), Himālaya 山.
 tuṣi 男 [同上] [= tuṣa] 糠 Abh-k.
 tuṣita 男 (複) [從屬神の一群の名]; (單, 複) [天の名] 喜足天, 具喜天, 知足, 知足天, 妙足, 妙足天, 善知足天 Aṣṭ-pr., Abh-vy., Mvyut., 支那; (音) 兜率, 兜術, 都史多, 觀史多, 兜率陀, 兜師多, 兜駛多, 兜卒(天), 都史多(天) Aṣṭ-pr., Lan-k., Bodh-bh., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut., 支那.
 tuṣita-kāyika 形 Tuṣita 天に屬する (Lal-v.).
 tuṣi-taṇḍula 男 糠米 Abh-k.
 tuṣita-bhavana 甲 (音) 兜率天宮 Siks.
 tuṣita-vara-bhavana 甲 (音) 兜率微妙天宮 Lal-v.
 tuṣitā 女 [Tuṣita の母の名].
 tuṣṭa (通受分) → Tuṣ. 歡, 喜, 歡喜, 喜悅, 滿足喜, 欣, 欣慶, 隨喜心, 喜足, 止足, 自足; 愛敬 Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Bodh-bh., Mvyut., 梵干, 梵雜: ~ ā udagrā āttamanasaḥ pramuditāḥ prīti-saumanasya-jātāḥ 歡喜踊躍 Saddh-p. 209.
 tuṣṭatā 女 喜 Sūtr.
 tuṣṭāta-manas (°ta-āt) 形 歡喜踊躍 Saddh-p.
 tuṣṭi 女 滿足, 充足; [滿足の擬人化]; 喜, 歡喜, 喜足, 踊悅 Divy., Sapt-pr., Sam-r., Bodh-bh., Bodh-c., Sāmkhy-k.
 tuṣṭi-kara 形 滿足を與ふる.
 tuṣṭi-janana 形 [同上].

tuṣṭi-da 形 [同上].
 tuṣṭimat 形 滿足せる. 男 [王侯の名].
 tuṣṭi-bhāva 男 [= tuṣṭi-bhāva] 默, 默然 Siks.
 tuham 俗 [代 三入, = tvam] Saddh-p. 67.
 tuhina 甲 (單, 複) 寒氣; 霜, 雪; 露; 霧; 樟腦; 月光.
 tuhina-kaṇa 男 雪片.
 tuhina-kara 男 月(太陰).
 tuhina-kiraṇa 男 [同上].
 tuhina-kṣiti-bhṛt 男 (雪の山), Himālaya 山.
 tuhina-kṣmā-bhṛt 男 [同上].
 tuhina-giri 男 [同上].
 tuhina-didhiti 男 = tuhina-kara.
 tuhina-dyuti 男 [同上].
 tuhina-mayūkha 男 [同上].
 tuhina-raśmi 男 [同上].
 tuhinaya (名動) 他 tuhinayati 氷に變ず或は氷を以て覆ふ.
 tuhina-śarkarā 女 氷の塊, 氷.
 tuhina-saila 男 Himālaya 山.
 tuhinācara 男 [同上].
 tuhinādri 男 [同上].
 tuhuṇḍa 男 [或る Dānava の名]; [Dhṛtarāṣṭra の息子の名].
 tu-hy-ādi-paribhāṣā 女 tu, hi 等 (即ち tu, hi, ha, vai, tad) に關する要則 [之等の語は Anukramaṇī に於ける ṛṣi, devatā, chandas に關する規定が夫々相連續する二・三・四・五又は六の讚歌に通用することを示すに用ゐらる].
 tūkha 男 [人名].
 tūṇa 男 箴(子) [慶: 圖].
 tūṇaka 形 箴の.
 tūṇa-mukha 甲 箴の口.
 tūṇava 男 箴.
 tūṇavat 形 箴を著けたる.
 tūṇava-dhma 男 箴を吹く者.
 tūṇi 男 女 = tūṇa. 男, [Yagam-dhara の父の名].
 tūṇin 形 = tūṇavat.
 tūṇi 女 = tūṇa.
 tūṇi-Kṛ, 箴として用ふ.
 tūṇi-dvaya 甲 一對の箴.
 tūṇira 男 箴.
 tūṇirāya (名動) 自 tuṇirāyate 箴を表示す.
 tūṇi-śaya 形 箴に挿せる.
 tūta 男 桑の樹.
 tūtujāna 形 速かなる, 熱心なる.
 tūtujī 形 速かなる; (圖) を助長する.
 tūtuma 形 強き.
 tūpara 形 角(つ)なき. 男 角なき山羊.
 tūbara 男 去勢者; 鬚なき男.
 tūbaraka 男 去勢者.
 tūya 形 強き. 甲 水. ~m 圖 速かに.
 tūrā 圖 急ぎて, 忙しく.
 tūrghna 甲 [Kurukṣetra の北部の地名].
 turṇa (通受分) → Tvar.
 tūrṇa-ga 形 速く走る.
 tūrṇataram 比 圖 一層速かに.

tūrṇam 副 → Tvar.
 tūrṇi 形 速かなる, 急速なる; 賢明なる, 熱心なる.
 tūrṇy-ārtha 形 目的を追求する.
 tūrta 通受分 → Tvar.
 tūrya 1. 形 第四の [=turya].
 tūrya 2. 甲 楽器; 一° 音響; 樂, 伎樂, 音樂, 鼓樂, 樂器 Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. I. II., Suv-pr., Sam-r., Lank., Śikṣ., Mvyut.: divyāni ca ~ āni pravādayāmāsuḥ 奏諸天樂, 作天伎樂 Suv-pr. 7.
 tūrya-ghoṣa 男 [佛の名] (Sukh-vy. I.).
 tūrya-tantri-vaṇā 女 琉璃琴 Sam-r.
 tūrya-tādāvacara 男 種種伎樂, 作樂伎樂 Lank.
 tūrya-bhāṇḍa 甲 楽器.
 tūryamaya 形 (女-i) 音樂の.
 tūrvayāṇa 通受分 克服する.
 tūrvi 形 優秀なる.
 tūla 甲 葦, (花の)房; 綿; 綿を充填せる蒲團; 綿 Mvyut.; 風飄物 Divy.; 筆 Divy. 532.; (香) 堵羅, 垢羅, 蠶羅, 妬羅, 兜羅(綿), 兜羅(絨) Lal-v., Aṣṭ-pr., 支塵.
 tūlaka 甲 綿.
 tūla-dāham 通 [Dah と俱に] 綿の如く(燒く).
 tūla-paṭikā 女 綿布; (香) 兜羅綿布, 波啼布 Mvyut.
 tūla-paṭi 女 綿蒲團.
 tūla-picu 男 木綿 (Divy.); 氈布, 氈毳, 綿花葉; (香) 觀羅綿, 堵羅綿, 兜羅綿, 兜羅絨 Divy., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Mvyut.
 tūlapicūpama 形 如少氈毳, 猶如輕妙氈布; (香) 如堵羅綿 Aṣṭ-pr.
 tūla-pūrṇa 形 綿にて充たしたる.
 tūlavati 女 綿の被ひ.
 tūla-samstṛta 形 (香) 兜羅綿貯褥 Prāt-m.
 tūla-saḍṛśa-sukumāra-pāṇi 形 手軟如綿 Mvyut.
 tūla-saḍṛśa-sukumāra-pāṇitā 女 綿の如く柔軟なる手を有すること (Dharm-s.).
 tūli 女 繪筆; 筆 Lal-v.
 tūlika 男 綿商.
 tūlikā 女 繪具刷毛; 綿を充したる蒲團; 茵蓐, 茵褥, 榻褥, 厚褥子 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Mvyut.
 tūlini 女 綿の樹.
 tūli 女 木綿; 木綿敷團; 繪筆; 綿, 筆 Abh-vy.
 tūṣa 男 衣服の縁.
 tūṣṇim-viprakramaṇa 甲 默然起去, 不語起去 Mvyut.
 tūṣṇim-śaṃsa 男 默誦 [沈黙の裡に誦せらるべき詩句].
 tūṣṇim-sāra 形 主として沈黙せる.
 tūṣṇim-sthāna 甲 沈黙, 默殺.
 tūṣṇim-homa 男 沈黙の中に捧げらるゝ供物.
 tūṣṇika 形 沈黙の, 寡言の.
 tūṣṇim-japa 男 沈黙の祈禱.
 tūṣṇim-danda 男 秘密の處罰.
 tūṣṇi-bhāva 男 默然 Divy., Lal-v., Saddh-p.,

Lank. → tūṣṇim-bhāva. ~ m 沈黙して; 默然, 無辭 Daś-bh. ~ ena 默然, 默然 Av-s., Saddh-p.
 tūṣṇi-bhūta 形 沈黙せる; 默然 Suv-pr.
 tūṣṇim 副 默して, 沈黙にて; 默然, 不語, 默然無語 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Mvyut. ~ BHū 默然而住 Guhy-s. ~ Sthā 默然而住 Śikṣ.
 tūṣṇim-bhāva 男 沈黙; 默然, 嘿然, 靜默 Bodh-bh., Vin., Prāt-m. → tūṣṇi-bhāva. ~ ena 默然 Mvyut.: ~ enādhivāsayaṭi 默然許之 Mvyut.
 tūṣṇim-bhūta 形 沈黙せる, 默する.
 tūṣṇim-bhūya 不(妻) 沈黙を守りて, 默して.
 tūṣṇi-vyavasthita 形 默然而住 Rāṣṭr.
 ṭṛca 男 甲 三頌より成る一詩節.
 ṭṛca-kṛpta 形 ṭṛca 詩句にて整へられたる.
 ṭṛdha 通受分 → Ṭṛh.
 ṭṛṇa 甲 [Ṭṛ, 突く] 草, 植物; 草の葉; 葉 [屢 = 單なる無駄事]; 草, 卉, (乾)草 Lal-v., Sapt-pr., Saddh-p., Lank., Bodh-c., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy. ~ vat Kṛ, 葉の如く考ふ. ~ m (iva) Man, [同上]. ~ m (iva) samarthaya, [同上]. ~ āya na Man, ……を葉とすらも考へず, 輕視す. ~ buddhim DHā, (因)を輕視す.
 ṭṛṇaka 甲 價值なき草の葉.
 ṭṛṇa-kāṣṭha 甲 草と木; 草木 Rāṣṭr., Śikṣ.
 ṭṛṇa-kuñcaka 甲 琥珀 Mvyut.
 ṭṛṇa-kuṭi 女 草又は葉の小屋.
 ṭṛṇa-kuṭi 女 [同上]; 草房, 草亭 Mvyut.
 ṭṛṇa-kuṭira 男 甲 [同上].
 ṭṛṇa-kuṭiraka 甲 [同上].
 ṭṛṇa-kūṭa 男 甲 草の堆積.
 ṭṛṇa-gaṇanā 女 葉の如く思ふこと; (因)に何等の價值をも置かざること.
 ṭṛṇa-gulma 男 草木, 卉木, 百穀 Saddh-p., Kāśy.
 ṭṛṇagulma-vanas-pati 男 草木叢林 Saddh-p.
 ṭṛṇa-cchada 男 覆苦 Saddh-p.
 ṭṛṇa-cchedin 形 草を刈る或は裂く.
 ṭṛṇa-channa 形 草所覆 Śikṣ.
 ṭṛṇa-jantu 男 草の葉.
 ṭṛṇa-jalāyukā 女 毛蟲又は蛭の一種.
 ṭṛṇa-jalūkā 女 [同上].
 ṭṛṇa-jāti 女 (因) 草類.
 ṭṛṇa-ṅyotis 甲 [或る草の名].
 ṭṛ-ṇatā 女 (三處に於て屈曲せる)弓.
 ṭṛṇa-paṇa-civara 甲 samchādyā kāyam ~ aih 以草蔽身, 以草自遮蔽 Gand-vy. 534.
 ṭṛṇa-piḍa 甲 (草の束の如くに密に壓すること), 接戰.
 ṭṛṇa-puruṣaka 男 葉の人, 葉人形.
 ṭṛṇa-puli 女 草の束.
 ṭṛṇa-pradīpa 男 草燈炬 Śikṣ.

tṛṇa-prastāra, → tṛṇa-stāra.
 tṛṇa-prāya 形 草多き。
 tṛṇa-bindu 男 [聖者の名]; [王侯の名].
 tṛṇabindu-saras 中 [湖の名].
 tṛṇa-bhuj 形 草食の. 男 草食者.
 tṛṇa-bhūta 形 草の葉の如く瘦せたる或る弱れる.
 tṛṇamaya 形 草にて製せる.
 tṛṇaya 名動 他 tṛṇayati 藁の如く思ふ.
 tṛṇa-rāj 男 [(草中の王), 椰子の一種].
 tṛṇa-rāja 男 [同上].
 tṛṇa-lava 男 草の葉.
 tṛṇavat 形 草多き.
 tṛṇa-samstara 男 草座, 草敷, 草蓆 Lal-v.,
 Saddh-p., Bodh-bh.
 tṛṇasamstaropaviṣṭa (°ra-up°) 形 草座, 敷草
 而坐 Gaṇḍ-vy.
 tṛṇa-sāra 形 草の如き或は柔かき.
 tṛṇasāri-kṛta 形 草の如く弱れる或る柔かくなれる.
 tṛṇa-stāra 形 草掩 [=tṛṇāvastāra(?). Pāli.
 tinavatthāra] 草掩 Mvyut.
 tṛṇa-hāra 男 負草人 Lal-v.
 tṛṇāgni 男 草火(速かに消盡する).
 tṛṇāṅku 男 [聖者の名].
 tṛṇāṅkura 男 若草, 嫩芽.
 tṛṇāda 形 草食の.
 tṛṇāvarta (°na-āv°) 男 [或る Daitya の名].
 tṛṇāśa (°na-āśa) 形 草食の. 男 草食者.
 tṛṇāśana (°na-āś°) 形 男 [同上].
 tṛṇāśin (°na-āś°) 形 男 [同上].
 tṛṇi-kāra 形 藁の如く(輕視)する.
 tṛṇi-Kṛ, 藁の如く思ふ. [=輕蔑す].
 tṛṇendra (°na-in°) 男 = tṛṇa-rāj.
 tṛṇodaka (°na-ud°) 中 草と水.
 tṛṇodaka-bhūmi 中 草と水と&v(坐すべき)地.
 tṛṇolapa (°na-ul°) 中 草と灌木.
 tṛṇolkā (°na-ul°) 女 燃ゆる草の束, 藁の炬火.
 tṛṇna 通受分 → Tṛd.
 tṛtiya 1. 形 第三の; 三, 第三 Saddh-p., Bodh-
 bh., Abh-vy., Mvyut.: ~h praharaḥ 三更
 Mvyut. ~m 副 第三に, 三回目に.
 tṛtiya 2. 形 第三の(部分); 第三 Laṅk. 中 三
 分の一; 第三の場處.
 tṛtiyaka 形 第三の; 三日目に起る, 隔日の(發熱).
 ~m 副 三 Saddh-p.
 tṛtiya-divasa 男 第三の日. ~e 因 明後日に.
 tṛtiya-bhāga 男 三分之一 Mvyut.
 tṛtiya-savana 中 (Soma の)第三番目の壓搾.
 tṛtiyā 女 (半月に於ける)第三日; 第三格即ち具格(の
 語尾)(因法).
 tṛtiyāṃśa 男 三分之一; 三分之一 Mvyut. 形
 三分之一を分前(?)として受くる.
 tṛtiyā-samāsa 男 前の部分が具格(の意義)を有する
 合成語 [Tatpuruṣa 合成語の一種].
 tṛtiyin 形 第三の階位なる; 三分之一を(受くべき權
 利を)賦與せられたる.
 tṛtsu 男 (三, 三) [Veda 部族の名].

Tṛd, VII. tṛṇatti, tṛṇtte 裂く, 割る, 貫く; 開く
 自由にす; 破壊す. 通受分 tṛṇna.
 tṛdila 形 孔ある.
 tṛn, [接尾音 -tr, 作者を意味し. その場合アクセント
 は語根にあり].
 Tṛp, IV. tṛpyati(-te); V. 他 tṛpnoti (因); VI. 他
 tṛmpati (因) (因, 因, 因)を以て満足す, 満足せし
 めらる, ...を悦ぶ; (因)を分有す, ...を享樂す;
 飽, 厭, 厭足, 充足, 充滿, 具備 Divy., Lal-v.,
 Saddh-p., Bāṣṭr., Sūtr., Abh-vy. 通受分 tṛpta
 (因, 因, 一)を以て満足せる. 便役 tarpayati(-te)
 満足せしむ; 爽快にす; 喜悅せしむ; 自 満足す;
 充足, 充洽, 成熟, 令具足 Saddh-p., Suv-pr.,
 Kāśy. 便役 希求 titarpayīṣati 満足又は爽快なら
 しめんと欲す.
 ati- (因)に十分満足す.
 pra- 便役 pratarpayati 満足せしむ; 強む, 勵
 ます.
 vi- 因にて倦む, 満足す; 倦, 廢, 廢 Lal-v.
 sam- (因)を以て自己を爽快にす. 便役 samta-
 rpayati 満足せしむ, 爽快にす, 悦ばしむ; 充,
 充潤, 満足, 豐足, 飽, 令飽滿, 令充足 Divy., Lal-
 v., Saddh-p., Daś-bh., Śikṣ., Bodh-bh.
 tṛpat 現分 悦びて, 満足して. 男 月(太陰); 日傘.
 tṛpu 男 盜人.
 tṛpta 通受分 → Tṛp. 足, 満足, 充足, 知足;
 飽, 飽滿, 飽滿已, 厭, 厭足 Divy., Lal-v., Av-ś.,
 Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Bodh-
 bh., Mvyut.
 tṛptatā 女 満足, 飽足.
 tṛpti 女 満足, 飽足; 嫌厭; 滿, 満足, 足, 飽
 足, 厭足, 厭, 厭倦, 成熟 Lal-v., Sam-r., Gaṇḍ-vy.,
 Bāṣṭr., Kāśy., Suv-pr., Sūtr., Śikṣ., Abh-vy.,
 Mvyut.: ~m naivādhigacchati 無飽足 Śikṣ. 85.
 tṛpti-kāra 形 満足せしむる.
 tṛpti-kāra 形 [同上].
 tṛptimat 形 (因)を以て満足せる.
 tṛpti-yoga 男 満足.
 tṛpti-Kṛ, 満足せしむ, 悦ばしむ.
 tṛpra 形 休息なき, 懸念せる.
 tṛbhava 男 [=tri-bhava] 三有 Gaṇḍ-vy.
 tṛbhi 男 光線.
 tṛlha 通受分 → Tṛh.
 tṛ-vidha 形 [=tri-vidha] 三(種) Gaṇḍ-vy.
 tṛ-vṛt 女 [=tri-vṛt: 植物の名, 學名 Ipomoea Tur-
 pethum]; 三角根散, 良藥 Abh-vy. 551.
 Tṛṣ, IV. 他 tṛṣyati 渴す. 通受分 tṛṣita 渴ける;
 貪欲なる; tṛṣṭa 乾ける; 堅き; 粗き, 暴き.
 tṛṣ 女 渴; [魔女の名] 欲染 Buddh-c.
 tṛṣa 形 渴, 渴仰 Śikṣ. 男 [?=tṛṣā] 渴
 渴 Suv-pr. 189.
 tṛṣā 女 渴; 渴望, 貪欲; 渴, (我)愛 Lal-v.
 tṛṣā-roga 男 [(病的の渴), 病氣の名].
 tṛṣārta (°ṣā-ār°) 形 渴に苦しめられたる; 貪欲に満
 されたる.
 tṛṣita 通受分 → Tṛs. 乾, 渴, 渴乏, 渴者, 飢

渴, 渴乏者, 虛渴, 生渴仰, 懷渴仰, 心懸慕, 懷戀慕渴
 仰 Lal-v., Saddh-p., Daś-bh., Mvyut.
 tr̥ṣu 形 貪欲なる, 熱望する. 圓 貪欲に, 速かに.
 tr̥ṣu-cyavas 形 貪欲に動く.
 tr̥ṣṭa 通受分 → Tr̥ṣ.
 tr̥ṣṭa-jambha 形 粗き齒を有する.
 tr̥ṣṭa-damśman 形 粗暴に噛む.
 tr̥ṣṭi 女 渴 梵雜.
 tr̥ṣṭikā 女 粗野なる女.
 tr̥ṣṇa, 〔=tr̥ṣṇā〕 愛 Rāṣṭr.
 tr̥ṣṇaj 形 渴ける.
 tr̥ṣṇa-rati 女 〔或る〕 魔王の名 可愛 Lal-v.
 tr̥ṣṇa-sambhava 形 愛生 Lank.
 tr̥ṣṇā 女 渴; 欲望, 貪欲; 淫欲; (一)に對する熱心;
 渴, 渴乏, 渴仰心, 渴愛, 愛, 愛染, 愛心, 愛欲,
 愛著, 著, 樂著, 所樂著, 貪, 貪欲, 貪愛, 恩愛, 耽染
 Divy., Buddh-c., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-
 vy., Daś-bh., Sam-r., Suv-pr., Rāṣṭr., Lank., Bodh-
 bh., Abh-vy., Śikṣ., Vijñ-t., Madhy-vibh., Bodh-
 c., Dharm-s., Mvyut., 梵干; 疑, 疑愛 Saddh-p., 梵雜
 → āhāra~, mrga~.
 tr̥ṣṇā-ghna 形 渴を醫する.
 tr̥ṣṇā-jāla 中 愛網 Śikṣ.
 tr̥ṣṇā-dāha 男 愛火 Bodh-bh.
 tr̥ṣṇā-nirodha 男 愛滅, 滅貪欲 Saddh-p.,
 Suv-pr.
 tr̥ṣṇāndha (°nā-an°) 形 由貪醉 Divy.
 tr̥ṣṇā-pratyaya 男 愛緣 Suv-pr.
 tr̥ṣṇā-pravṛtti 形 恩愛增長 Rāṣṭr.
 tr̥ṣṇā-bhūti 女 渴せる状態.
 tr̥ṣṇāmaya (°nā-ām°) 形 渴死する.
 tr̥ṣṇā-māra 男 渴による死.
 tr̥ṣṇā-vilagna 形 深著於五欲 Saddh-p.
 tr̥ṣṇā-saṅga 男 欲望の執著.
 tr̥ṣṇā-samudra 男 欲海, 愛欲海 Gaṇḍ-vy.:
 ~m ucchoṣayiṣyati 消竭欲海, 必能乾竭諸愛欲海,
 必當乾竭諸愛欲海 Gaṇḍ-vy. 11°.
 tr̥ṣṇā-hetu 男 愛因, 貪因 Madhy-vibh.
 -tr̥ṣṇikā, → mrga~.
 tr̥ṣyāvat 形 渴ける.
 Tr̥ḥ, VII. 圓 tr̥ṇedhi 圓 碎く. 通受分 tr̥ḍha,
 tr̥ḥha.
 Tṛ, I. tarati(-te); VI. tirati(-te) 圓, 横切る, 渡
 る, 渡す; 横断す; 渡航す; (圓)を横切り越ゆ; 浮
 ぶ, 泳ぐ; 果す, 完成す; 履行す; 過ぐ, 克服す, 免
 る; 得る; 救ふ; 度, 渡, 超, 超度 Saddh-p.,
 Lank., Mvyut. 通受分 tirṇa 過ぎ越えたる, 横切
 れる, 横断せる; (土)を横切れる; 完全に畢びた
 る. 使役 tārayati(-te) (圓)を横切り行く; (從)よ
 り救ふ, ……より免かれしむ; 達せしむ; 濟,
 度, 度脱, 度(他) Divy., Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr.:
 nirvṛtim tārayatu 度脱, 使獲減度 Saddh-p. 166.
 希求 titirṣati(-te) (圓)へ横切らんと欲す; 欲
 度 Buddh-c. 圓 tartariti, taritariti 總て
 の困難に打ち克つ, 通過して或は生き通して目的を達
 す.

ati- ……へ横切り行く, 達す; (圓)を克服す, ……
 を免る. 希求 atitirṣati 通過又は克服せんと欲す.
 vy-ati- 越えて横切る, 克服す.
 ava- (圓, 從)へ下る; (從)より下る; (地へ)降る,
 化現す〔神々に就て〕; 顯現す, 自身を示す; 越え行
 く; 回復す(病氣); 赴く, 達す, 到る; 正當の場處に
 在り, 適す; 克服す; 下, 下來, 入, 能入, 深入,
 趣入, 悟入, 趣向, 能詣, 遊止, 親近, 過度; 攝; 知,
 通達, 悟解 Divy., Av-ś., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p.,
 Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Rāṣṭr., Lank.; 出, 出詣 Divy.,
 Saddh-p. darśana-patham ava-Tṛ, 見ゆるに至
 る, 視界に入る; siddhi-patham ava-Tṛ, 果さる;
 pramāṇa-patham na ava-Tṛ, 何等の證明を許さ
 ず. 通受分 avatirṇa (從, 一)より(圓)へ來れる;
 (一)によりて或はの形にて化現せる. 使役 avatāra-
 yati 下らしむ, 降ろす; 下に齎す, 脱す(衣服等を);
 除去す; (從)より(眼を)外らす; 紹介す; 施行す;
 入, 令入, 令趣入, 教令入, 使趣入, 令證入, 牽
 入; 脱, 解 Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Daś-
 bh., Bodh-bh., Madhy-vibh.; 剃除, 繁除 Divy.,
 Saddh-p.: keśa-śmaśrūny avatārya 剃除鬚髮 Divy.
 35. 使役 通受分 avatārīta 降らしめられたる, (從)
 より引下げられたる; 横たへられたる, 除去せられ
 たる, 成就せられたる.
 praty-ava- 上陸す (Divy.).
 sam-ava- 使役 samavatārayati (從)より下ら
 しむ.
 ā- 克服す; 増す, 擴がる; 繁榮す, 光輝を増す.
 ud- (從)より出で來る; (水)より現はる; (從)より
 免る; 下る; (從)に降る, ……に立つ; (圓)へ横切
 り越ゆ; 越ゆ, 克服す; 捨つ, 去る; 揚ぐ, 強む, 増
 す; 度, 能度, 離…度, 渡(水), 濟, 出, 從…
 出, 還, 超, 得至 Divy., Buddh-c., Aṣṭ-pr., Sapt-pr.,
 Lank., Śikṣ. 通受分 uttirṇa 〔圓 又は 從〕の意味
 を有す, 一般に 一° 又は (從) と俱に]. 使役 uttāra-
 yati (從)より起す, ……より取り來る, ……より助
 く, ……より免ず; (從)より救ふ; (從)より下らし
 む; (衣服等を)脱す; 荷(商品)を下ろす; 横切る;
 度, 渡, 超度, 度脱, 拔出, 拔濟度 Buddh-c., Av-
 ś., Kāśy., Daś-bh., Bodh-bh. 希求 uttitirṣati 横
 切らんと欲す.
 prod(pra-ud)- 水(從)より現はる; 越ゆ, 横ざる.
 sam-ud- 水(從)より歩み出づ; (從)より出で來る;
 (從)より免る; 横切る. 通受分 samuttirṇa 出で
 來れる, 免れたる, 横切れる, 上陸せる; 破られたる.
 upa- 度 Lal-v.
 o- 〔從, <ava-〕 (otarati) 入; 現, 廣現; 滿
 足, 成就 Gaṇḍ-vy. 34.; 知觀知 Madhy-v. 289. 使役
 otārenti 〔從, <avatārayanti 圓〕 度 Saddh-
 p. 176.
 sam-o- 〔從, <sam-ava-〕 入, 普視 Daś-bh.
 110.
 nis- (從)より出で來る, ……より免る; 過ぎ越す,
 横切る; 克服す, 除く; (罪狀)より自身を清くす; (時
 を)過す; 成就す; 通受分 nistirṇa 〔圓 又は 從〕の
 意味を有す] 横切れる; 過したる; 成就せる; 免れ

たる; 救はれたる。〔便役〕 **nistārayati** (従)より救ふ或は脱れしむ; 克服す。

pra- (水に)連れ出す, 海に行く; 出発す; (業)を横切る; 揚ぐ, 助長す, 進む, 増す, 繁榮す; (生命を)延長す; 超 *Lal-v.* 〔通受分〕 **pratirṇa** 海へ入れられたる; (業)に擴張せる。〔便役〕 **pratārayati** 擴張す, (生命を)延長す; 誤り導く, 欺く; 導き去る; (爲, 因)へ導入す, ……へ勸説す; 度 *Lal-v.* **vi-pa-** 〔便役〕 欺く。

vi- 横断す; 普及す; 許容す, 授與す; 持ち去る, 除去す; 譲る; 婚せしむ; 生ず; 施行す, 成就す; 戦ふ。〔通受分〕 **vitirṇa** [一般に (受) (業)を越えて突入せる; 遠き; 與へられたる, 許されたる; 戦はれたる; 爲されたる, 成就せられたる。〔便役〕 **vitārayati** 梳る; 成就す。

pra-vi- 授與す。

sam- (業)へ横切る; (路を)共に横断す, ……より救はる。〔通受分〕 **samtirṇa** のみ。〔便役〕 **samtārayati** 越えて取る, (従)より救ふ; 凡ての危険より救ふ。

te 〔附帯〕 [tvam の (爲) (屬) (單)]。

tekṣṇiṣṭham 〔副〕 最も苛酷なる方法にて。

teja 〔男〕 銳利; [人名]。

tejah-kṛtsna 〔形〕 [Samādhi の名] 火遍(處定) *Gand-vy.*

tejah-paramāṇu-rajas 〔中〕 火塵, 火微塵 *Gand-vy.*

tejah-prabha 〔中〕 [神話的の武器の名]。

tejana 〔中〕 銳くすること; 點火すること; 尖幅, 鏃; 矢柄(さ); 刃; 蘆禾, 莖。

tejani 〔因〕 葦の束, 蓆; 房, 卷物, 扭ぢたるもの。

tejavat 〔形〕 [=tejasvat] 光曜 *Saddh-p.*

tejah-sri-punya 〔中〕 威徳 *Suv-pr.*

tejas 〔中〕 銳きこと; 端, 銳き尖端; 熱, 火, 輝く焰, 光, 光明 [〔單〕 (複)]; 明眸; 莊麗, 美麗; 勢力, 氣力, 強力, 活力, 力; 暴行; 影響; 心的・道德的又は魔術的の力; 品位, 威嚴, 光榮; 顯要の人; 精液; (哲學に於ける) 情性 (=rajas); 火, 光, 光輝, 光明, 威, 威光, 威力, 勢力, 威徳, 威神, 威容, 威神力 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gand-vy., Suv-pr., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Sam-r., Mañj-m., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Sikṣ., Vaiś-s., Mvyut.* → ujjvalita ~ a.

-tejasa 〔中〕 力。

tejasām-adhiśa 〔男〕 (光の主), 太陽。

-tejaska 〔中〕 =tejas。

teja-skandha 〔男〕 [tejah-skandha] 火, 大火, 猛火 *Gand-vy.*

tejas-kāma 〔形〕 男らしき氣力を望める; 品位又は高名を目的とせる。

tejas-kṛtsnāyatana (°na-āy°) 〔形〕 [Samādhi の名] 火遍處, 火遍處(定) *Mvyut.*

tejasya 〔形〕 華麗なる。

tejasvat 〔形〕 輝く, 莊麗なる, 榮光ある; 美しき。

tejasvati 〔因〕 [王妃の名]。

tejasvitā 〔因〕 精力; 品位, 威嚴。

tejasvitva 〔中〕 莊麗, 光輝。

tejasvin 〔形〕 銳き, 輝ける; 強き, 精力ある; 品位を附せられたる; 光榮ある; 尊高, 威徳具足 *Suv-pr., Mañj-m.*

tejah-samvartani 〔因〕 火災, 火怖, 火(劫), 以火壞 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Mvyut.*

tejah-sena 〔男〕 [人名]。

tejita 〔便役〕 (通受分) 銳き, 銳利なる。→ Tij. 照耀, 巍巍 *Lal-v.*

tejiṣṭha 〔最上〕 最も輝ける; 甚だ輝かしき。~ m 〔副〕 極熱を以て。

tejiyas 〔比〕 一層銳き(心); 一層賢明なる; 位置高き, 威嚴ある。

tejo'mśa-sambhava 〔形〕 力の部分より生じたる。

tejo-grasta 〔形〕 精勤修學 *Bodh-bh.*

tejo-jala 〔中〕 眼球の水晶體。

tejo-dvaya 〔中〕 (二の光), 太陽と月。

tejo-dhātu 〔男〕 火界, 火大, 火種 *Lank., Sikṣ., Madhy-v., Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.*; [Samādhi の名] 火界(定), 火光(定) *Divy., Bodh-bh.*

tejo'nubhāva 〔男〕 威神力 *Suv-pr.*

tejo-bala 〔中〕 威力, 威徳 *Suv-pr.*

tejobala-samāyukta 〔形〕 肉體的并に精神的の力を具へたる。

tejo-bija 〔中〕 髓。

tejo'bhībhavana 〔男〕 [村の名]。

tejo-bhūta 〔形〕 爲火, 如熾火, 如猛火 *Gand-vy.*

tejo-maṇḍala 〔中〕 光輪, 圓光, 後光, 光背。

tejomaya 〔形〕 (因-i) 光又は莊嚴より成れる; 輝ける, 發光する; 力ある。

tejo-mātrā 〔因〕 光の要素, 全く輝けるもの。

tejo-mūrti 〔形〕 全く光輝より成れる。

tejo'mṛtamaya 〔形〕 光輝又は神酒より成れる。

tejoraga (°ja-ur°) 〔男〕 火蛇 *Suv-pr.*

tejo-rasa 〔形〕 本質として光輝を有する。

tejo-rāśi 〔男〕 (光の群), 全光 [Meru 山の稱]。

tejo-rūpa 〔形〕 (汚れなき) 莊嚴又は光明にて形成せられたる。

tejo-vajra 〔男〕 [菩薩の名] 金剛火 *Guhy-s.*

tejovat 〔形〕 輝く, 光輝ある; 銳き; [Samādhi の名] 威徳, 具威光 *Mvyut.*

tejo-vṛtta 〔中〕 品位ある舉動, 威嚴; 精力ある動作。

tejo-hara 〔形〕 力を奪ふ或は浪費せしむる (*Buddh-c.*)。

tedani 〔因〕 (凝結せる) 血。

tedani 〔因〕 [同上]。

tena [ta の (因)] 〔副〕 彼處に; 斯の如く; 其故に [yataḥ, yad, yasmāt, yena の (因)]; 如是, 是故 *Mvyut.* ~ hi 然る時に: ~ hi śṛṇu sādhu ca suṣṭhu ca manasi-kuru 如是用心聽聞總持, 是故應諦聽極善作意 *Mvyut.*; yena bhagavāms ~ upa-samkrāman 到世尊前, 往詣佛所 *Rāṣṭr. 5.*

temana 〔中〕 濕氣; 濕らしむること; 羹; 汁, 羹, 菜(?) *Mvyut.*, 梵雜。

tela 〔男〕 [=taila]. 油 *Sikṣ.*; [數の名] 諦羅 *Mvyut.*

telu 〔男〕 [數の名] 帝羅 *Mvyut.*

taikṣṇya 〔中〕 (刀の) 銳きこと; 燃ゆる熱, 尖銳; 嚴酷,

峻巖; 苦痛; 利, 利刺, 棘刺, 棘鍼鋸利 *Buddh-c., Lank.*
tājasa 形 (女-i) 光より成れる. 輝ける; 金属より成れる, 金属の; 熱情ある; 炎熾 *Sāmkhy-k.*
 甲 [聖地の名]; 火珠 *Abh-vy.*
taitila 男 神. 甲 枕.
taittira 形 (女-i) 鷓鴣より生じたる; 聖者 *Tittiri* より出でたる.
taittiri 男 [聖者の名].
taittirika 男 鷓鴣の獵人又は訓練者.
taittiriya 男 複 *Taittiri* の教説; [黒 *Yajur-veda* の一學派の名].
taittiriya 形 *Taittiriya* 學派に屬する.
taittiriya-prātisākhya 甲 *Taittiriya* 派の *Prātisākhya*.
taittiriya-brāhmaṇa 甲 *Taittiriya* 派の *Brāhmaṇa* (梵書).
taittiriya-yajur-veda 男 *Taittiriya* 派の *Yajur-veda*.
taittiriya-sākhā 女 *Taittiriya* の學派.
taittiriya-saṃhitā 女 *Taittiriya* 派の本集 (*Samhitā*).
taittiriya-āraṇyaka (°*ya-ār*°) 甲 *Taittiriya* 派の *Āraṇyaka*.
taittiriya-upaniṣad (°*ya-up*°) 女 *Taittiriya* 派の *Upaniṣad*.
taittiriya 形 鷓鴣より來れる.
taimira 男 醫者 *Lank.*
taimira-roga 男 白内障(?).
taimirika 形 白内障 (*taimira*) を病める; 醫, 醫, 醫目, 醫眼, 目醫, 醫眼 *Lank., Bodh-bh., Abh-vy.*
 男 肢醫人, 肢醫者, 醫眼人 *Vijñ-v.*
taimirya 甲 (視覺の)暗くさるゝこと.
tairāscya 形 [或る *Sāman* の名].
tairthika 形 異端の. 男 價値ある人, 權威者. 甲 聖地よりの水.
tairyagyona 形 [tiryag-yoni より] 動物の起源の. 男 動物; 獸道 *Sāmkhy-k.*
tairyag-yoni 形 [同上(形)]; 動物(生物)に關する.
tairyagyonika 形 [tiryag-yoni より] 傍生, 畜生 *Bodh-bh.*
tairyagyonya 形 [tiryag-yoni より] = *tairyagyona*.
taila 甲 胡麻油; 油 [時として]; 油, 麻油, 香油 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Lank., Prātm., Mvyut., 梵千., 梵雜.*
taila-kāra 男 油を製するもの, 搾油機.
taila-kuṇḍa 甲 油壺.
taila-ghṛta 甲 油と溶解せる牛酪との混合物.
taila-droni 女 油を滿せる桶.
taila-paka 男 (油を飲むもの), 蜚蠊(?), 油蟲(の一種).
taila-parṇaka 甲 [或る芳香ある草の名]; 白檀樹.
taila-parṇika 男 白檀樹(の一種).
taila-pātra 甲 油の容器; 油, 羶, 羶器, 羶器 *Sikṣ. 234, [Tib. hbru-mar-gyi snod] Kāśy. 148.*
taila-pāyika 男 = *taila-paka*.

taila-pāyikā 女 [同上].
taila-pāyin 男 [同上].
taila-pūra 形 油にて充たさるゝを要する.
taila-pradipa 男 油燈; 油燈, 然燈, 燈光, 燈炷之明 *Saddh-p., Kāśy., Sikṣ.*
taila-pradyota-dṛṣṭānta 男 燈喻, 燈光譬 *Madhy-vibh.*
taila-pradyotika 男 然油燈者 *Sikṣ.*
taila-yantra 甲 搾油機.
tailika 男 搾油者.
tailika-cakra 甲 碾輪 *Divy.*
tailiki 女 = *tailika*.
tailotsava (°*la-ut*°) 男 油祭.
tailvaka 形 *Tilvaka* 樹より製したる.
tailāsa 形 (女-i) 月宿 *Tiṣya* に關する. 男 [曆月の名].
tailāsi 女 *Tailāsa* 月の満月の日.
toka 甲 子孫, 後裔, 種族; 小兒, 嬰兒, 動物の仔.
tokatā 女 幼少, 少年時代.
tokavat 形 子孫を有する.
tokavati 女 子を持つ女.
toka-sāti 女 子孫の獲得.
tokāya (名動) 目 *tokāyate* 嬰兒を表はす.
tokma 男 穀類特に大麥の綠葉; 嫩芽.
tokman 男 [同上]; 子孫.
toṭaka 形 争闘好きの. 甲 怒を含める語; [音律の一種]; [演劇の一種]; 都吃迦 *Lank.*
tottra 甲 (家畜を驅るための)棍棒.
tottra-prajita 形 棍棒にて驅られたる.
toda 男 棒を持てるもの, (馬等を)驅る者; 突くこと, 刺すこと, 刺痛; 太陽.
todana 甲 刺痛.
todita (通受分) 刺されたる, 突かれたる.
todya 甲 鏡鉞(の一種).
tomara 男 甲 投槍; 矛, 戟, 大箭, 鉞稍, 鐵箭, 鐵稍 *Divy., Sikṣ., Madhy-v., Mvyut.* 男 [民族の名].
tomara-graha 男 鎗持; 鎗を擲つこと; 執大箭, 用鐵稍, 射大箭方 *Divy., Mvyut.*
tomarāṇa 男 [人名].
toya 甲 水; 水; 海, 滄溟 *Lal-v., Rāṣṭr., Abh-vy.*
 ~*mī Kr.* (死者)に對して水を供ふ, (死靈に對し)灌奠の儀式を行ふ.
toya-kaṇa 男 水滴.
toya-karman 甲 (死者に對する)水の供物, 灌奠(の儀式).
toya-karmāntika 男 (水に關する仕事をなす者), 船頭, 搬水者.
toya-kṛcchra 男 甲 水のみを呑むこと.
toya-kṛt 形 雨を降らしむる.
toya-kṛidā 女 水中の遊戲.
toya-cara 形 水中に動く. 男 水棲動物.
toya-ja 形 水中に生ずる或は棲む. 甲 蓮.
toyajākṣi 女 蓮華の如き眼を有する少女.
toya-da 男 雨雲.

toyadātyaya 男 雨季の終, 秋.
toya-daivata 甲 [釋] 水天, 水神 *Divy.*
toya-dhara 形 水を含める.
toya-dhāra 男 水の流.
toya-dhārā 女 [同上].
toya-dhi 男 海洋.
toya-nivi 女 (水に囲まれたる)大地.
toya-pāta 男 雨.
toyamaya 形 (女-i) 水より成れる.
toya-mala 甲 海(水)の泡.
toya-mātrāvaśeṣa 形 (その中に)水のみを残せる.
toya-muc 男 雲.
toya-yantra 甲 水時計.
toya-rasa 男 水, 濕氣.
toya-rāj 男 海洋(水の主).
toya-rāśi 男 池, 湖; 海.
toyavat 形 水を有せる, 水に囲まれたる.
toya-vāha 男 雨雲.
toyāgni 男 海底の火.
toyāñjali 男 二掬の水(死者に供ふる).
toyādhāra (°ya-ādḥ°) 男 貯水場, 池, 湖, 河.
toyālaya (°ya-āl°) 男 海洋.
toyāśaya (°ya-ās°) 男 貯水場, 湖水, 河.
toyikā 女 [釋] [音寫] [都城の名] 都異迦, 都異迦(城) *Divy.*
toyikā-maha 男 [釋] [施會の名] 施水(處) *Divy. 80.*
toyeśa (°ya-iśa) 男 [*Varuṇa* 神の稱].
toyotsarga (°ya-ut°) 男 水の放出, 雨.
torāṇa 甲 塔門, 拱門, 弓形の入口; 門の裝飾; 凱旋門; [釋] 門樓, 門戶, 窓門, 樓閣, 高樓, 戶隔, 牌樓, 闕, 門闕 *Divy., Gand-vy., Rāstr., Mañj-m., Mvyut.*
torāṇa-māṇa 男 [人名].
tolaka 甲 (?) [重量の名, =二 sāna].
tolana 甲 揚ぐること; (saha と) 衡り較ぶること.
tolikā 女 望樓を圍む壁.
tolya [過受分] (重さを) 衡らるべき.
tośa 形 蒸溜する, 滴下する.
toṣa 男 (男, 女, 一) に於ける満足又は快樂; [*Bhagavat* の子, 十二 *Tuṣita* の一]; [釋] 喜 *Bodh-c., 梵子.*
toṣaṇa 形 (女-i) 宥むる, 満足せしむる, 喜ばしむる; [釋] 喜, 歡喜 *Rāstr.* 甲 宥むること, 満足せしむること, 喜ばしむること; [釋] 歡喜 *Sikṣ.*
toṣaṇā 女 [釋] 令歡喜 *Bodh-bh.*
toṣaṇin 形 [釋] 滿 *Rāstr.*
toṣaṇiya 形 悦ばるべき, 悦ばしむる (*Lal-v.*).
toṣayatā 女 [釋] 悅豫 *Bodh-bh.*
toṣayitavya [使役] [未受分] 悦ばしめらるべき.
toṣayitr 形 悦ばしむる.
toṣita [使役] [過受分] → *Tuṣ.*
toṣin 形 (一) を以て満足する, ……を好む; 満足せしむる, 喜ばしむる.
tosala 男 [或る力士の名]; (釋) [民族の名].
tos-un, [不定法の語尾 -tos].
taugrya 男 [*Tugra* の子, *Bhujya* の名].
tauraṅgika 男 [turaṅ-ga より] 騎馬者.
tauraśravasa 甲 [tura-śravas より] [或る *Sāman* の

名].

taurya 形 樂器より來れる.
taurya-traya 甲 (音樂の三要素即ち) 歌・舞踊并に器樂.
taurya-trika 甲 [同上].
taurvaśa 男 [馬の一種].
taulya 甲 重量.
taulvali 男 [或る學匠の名].
tauśāra 形 雪より生じたる.
tman 男 生氣; 自己. 男 *tmanā*, 女 *tman* [=不變辭] 確かに, 少くとも, ……すらも, 亦た, [一般に先行の語を強む]; [屢] *uta* 又は *ca* と共に] 亦た, 而して確かに; [屢] *iva* 又は *na* と共に] 恰も…の如く; [屢] *adha* と共に] 而して…さへも.
tya 女 それ, かのよく知られたる.
tyakta [過受分] → *Tyaj.* [釋] 捨, 棄捨, 所棄捨, 捨離; 失, 所失; 離 *Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Vajr-s.*
tyakta-jivita 形 自己の生命を棄つ (=危險に暴す), 死の覺悟をなせる; 勇しき.
tyakta-prāṇa 形 [同上].
tyakta-lajja 形 恥を棄てたる, 無恥の.
tyakta-vidhi 形 規則を蔑にする, 規則を犯す.
tyaktavya [未受分] 棄てらるべき; 絶望せらるべき; 犠牲にせらるべき; (女) より避けらるべき.
tyaktāgni 形 (聖) 火を疎かにする.
tyaktātman (°ta-āt°) 形 彼自身に失望する, 絶望する.
tyaktu-kāma 形 去らんと欲する.
tyaktr 男 (男) を放棄し或は(女) を犠牲にする人.
tyaktvā [不変分] [*Tyaj*] 認めずして=除きて.
Tyaj [(a)ti-aj], I. 他 (男) **tyajati(-te)** 罷む, 見捨つ; 棄つ; 手放す; (兒を) 遺棄す; (場處より) 去る; (人を) 避く; 放置す, 放つ, 宥す; 斷念す, 離る, 捨つ, 放抛す, 讓る; 等閑に附す; 無視す; [釋] 捨, 離, 遠離; 失 *Av-ś., Bodh-c., Sikṣ., Abh-vy.*
kalevaram Tyaj, 死す.
tanuṃ Tyaj, [同上].
deham Tyaj, [同上].
jivitaṃ Tyaj, [同上]; 自己の生命を危險に暴す.
prāṇān Tyaj, [同上].
śvāsān Tyaj, [同上].
 女 **tyaiyate** (男) に見棄てらる=…より免る; [釋] 捨 *Abh-vy.* [過受分] **tyakta** 捨てられたる, 離れたる. [使役] **tyājayati** (男) をして(男) を捨てしむ; (男) より(男) を奪ふ; 放逐す; 看過せられしむ; (男) を失はしむ, ……に不足せしむ; [釋] 令捨離, 令除捨 *Bodh-bh., Abh-vy.* [使役] [過受分] **tyājita** (男) を捨てしめられたる; (男) を缺ける; 無視せられしめられたる.
pari- 棄つ; 手放す; (場處を) 去る; 斷念す, 罷む, 放棄す; 避く; 無視す; [釋] 捨, 能捨, 棄捨, 捨施, 施, 捨離 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Suv-pr., Saddh-p., Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.*
deham pari-Tyaj, 死す.
jivitaṃ pari-Tyaj, prāṇān pari-Tyaj 生命を捨つ.

⑤ parityajyate (四)に捨てらる=…を失ふ。
 ⑥ 通受分 parityakta (四,一°)を奪はれたる或は失ひたる、…によりて捨てられたる、…を缺ける、不足せる。使役(不斐分) parityājya 捨 Sikṣ. sam- 捨つ、見棄つ、手放す;(場處を)去る;避く;断念す、放棄す;…より引去る;無視す;布施 Bāṣṭr. ⑦ 通受分 samtyakta (四,一°)を奪はれたる或は失へる、…なき。不斐分 samtyajya (業)を除きて。使役 samtyājayati 捨てしむ;(從)より逃る。
 -tyaj 形 捨つる、断念する;提供する。
 tyajana 中 遺棄、廢止、除外;捨、厭捨 Abh-vy., Madhy-vibh.
 tyajas 男 子孫。中 廢棄;困難、危險;嫌惡。
 tyajita 通受分 =tyakta。
 tyad [tyaの(中)圖業]副 善く知られたるが如く、實に[常に ha 又は yasya に先行せらる]。
 tyāga 男 放棄、廢棄;去ること;断念すること;(自己の生命の)犠牲、贈與、施與;寛大;捨、惠捨、捨施、施、惠施、布施、施與 Divy., Aṣṭ-pr., Sam-r., Kāśy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
 tyāga-karma-samanvita 形 施與を具備せる。
 tyāga-gatā 女 [或は Nāga の少女の名](Kār-vy.).
 tyāgatā 女 寛大;捨 Bodh-c.
 tyāga-dhana 中 捨財 Mvyut.
 tyāga-yuta 形 寛大なる。
 tyāgavat 形 能捨、具捨、能布施 Suv-pr., Sikṣ. 男 [王の名]能捨(王) Lal-v.
 tyāga-śīla 形 寛大なる;習施者 Bodh-bh.
 tyāgādhiṣṭhāna 中 捨處、施躡持 Mvyut.
 tyāgānurakta 形 好惠施 Lal-v.
 tyāgānusmṛti 女 念捨、念施 Lal-v., Dharm-s., Mvyut.
 tyāgitā 女 寛大。
 tyāgin 形 放棄する、棄却する;犠牲にする;(自己の生命を ātmanah)放棄する、自殺する;寛大なる;—°断念する、拒否する、棄却する。男 施與者。
 tyājaka 形 放棄する、拒絶する。
 tyājana 中 断念、棄却;(世間的執著の saṅgānām)棄却。
 tyājita 使役 通受分 → Tyaj.
 tyājya 未受分 捨てらるべき、棄却せらるべき、放棄せらるべき;除かるべき;断念又は讓渡せらるべき;犠牲にせらるべき;應捨、應棄捨 Abh-vy.
 tra 形 (一°)を保護する、…を保存する。
 traṭat-kāra 男 (火の)爆聲。
 trada 男 裂く者。
 Trap, I. ① trapate 當惑せしめらる、恥かしめらる。使役他 trāpayati 當惑せしむ、恥かしむ。apa- 顔を背く、當惑す、愧づ。vy-apa- [同上];生愧 Bodh-bh.
 trapā 女 當惑、羞恥;慚、慙愧、慚愧 Abh-vy.
 trapu 中 錫;錫、鉛、鉛錫 Divy., Mvyut.
 trapu-karṇin 男 [(錫の)耳環を有する], Bhavanandin の稱 (Av-s.); [人名]鉛環 Divy.
 trapu-maṇḍalaka 中 鉛作座兒 Mvyut. [maṇ-

ḍalaka は Pāli. の maḷaka の轉訛なるべし。→ pātrakātaka].
 trapuṣa 男 商人の名 [商人の名]提謂、帝履富婆 Divy., Lal-v.
 trapus 中 =trapu.
 trapusa 中 Trapusi の果實;胡瓜、黃瓜、瓜類 Mvyut., 梵干;多羅布參 Mvyut.
 trapusi 女 コロシンス其の他の胡瓜の類。
 traya 形 (女-i) 三重の、三の;三より成る、三種の;三 Abh-vy.: ~i vidyā 三の知識、三 Veda の知識。中 三體組織、三つ組。
 trayaḥ-pañcāśat 女 五十三。
 traya-civara 中 [Pāli. ti-civara] 三衣 Prāt-m.
 traya-trimśa 形 三十三 Sapt-pr.
 traya-mukha 中 三門 Sūtr.
 traya-yāna 中 三乘 Madhy-vibh.
 trayayāyya 形 保護せらるべき。
 traya-sukha-vihāra 男 三種樂住、三種樂行 Lank.
 trayas-trimśa 形 (女-i) 第三十三の、三十三部より成る; [天の名] 三十三、三十三(天) Aṣṭ-pr., Suv-pr., Bodh-bh., Abh-vy., 立應: ~ā devāḥ 三十三天 Aṣṭ-pr., Suv-pr., Abh-vy.; 切利、多羅夜登陵舍(天)立應。
 trayas-trimśat 女 三十三。
 trayas-trimśin 形 三十三を含む。
 trayi 女 =traya (中); 三 Veda; (佛教の)三體組織 [即ち三寶: Buddha 佛, Dharma 法, Saṅgha 僧]; 頂。
 trayi-deha 男 (その光が三 Veda より成れる)太陽。
 trayi-dharma 男 三 Veda によりて定められたる義務。
 trayi-dhāmavat 男 =trayi-deha。
 trayi-niṣkarṣa 男 三 Veda の精髓。
 trayi-paridhvaṃsa 男 三 Veda の破棄又は違犯。
 trayi-bhāṣya 中 三 Veda の註釋。
 trayimaya 形 (女-i) 三 Veda より成る或はに基ける、三 Veda を含める。
 trayi-varjam 副 三 Veda を除きて。
 trayi-vida 形 三 Veda を知れる。
 trayo-daśa 形 (女-i) 第十三の;十三部より成る。
 trayo-daśaka 中 十三の數。
 trayodaśa-dvipavat 形 十三島嶼より成れる(大地)。
 trayo-daśadhā 副 十三重に、十三の部分に於て。
 trayo-daśan 數 十三。
 trayo-daśama 男 第十三。
 trayodaśarca (śa-rea) 形 十三の讚歌 (Rc) を有する。
 trayodaśa-vārṣika 形 十三歳の、十三年の。
 trayodaśa-vidha 形 十三種の;數十三 Sāmky-k.
 trayodaśāha 男 十三日間(の戒行)。
 trayo-daśī 女 (半月の)第十三日。
 trayo-vimśa 形 (女-i) 第二十三の。
 trayo-vimśat 女 二十三。
 trayo-vimśati 女 [同上]。
 Tras, I. ① trasati; IV. ① trasyati [轉訛]は又

た 自 trasyate] (天, 從, 屬)に對して慄ふ或は震ふ, ……を恐る; 驚, 驚怖, 恐怖 Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ. 通受分 trasta 驚愕せしめられたる, 慄へる, 戦ける. 使役 他 trāsayati [救護] には又た 自 trāsayate] 慄へしむ; 恐れしむ, 威嚇す; 令怖 Sūtr.

apa- 吃驚す, 逃ぐ, 怖れて逃ぐ.

ud- 驚く, 驚かす (Vajr-pr.); 驚, 驚疑, 驚懼, 驚惶, 驚怖, 驚惱, 生驚怖, 生恐怖, 畏, 怖畏, 嚇, 怕 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Rāṣṭr., Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.: uttraset samtraset samtrāsam āpadyet 驚疑怖畏, 恐怖畏懼 Saddh-p. 233. 通受分 uttrasta 驚かされたる. 使役 uttrāsayati 恐れしむ, 威嚇して逐ひ拂ふ; 令怖, 怖畏, 恐怖, 令驚怖 Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Bodh-bh.

sam-ud- 畏 Saddh-p. 通受分 samuttrasta 驚かされたる. 使役 samuttrāsayati 驚かす, 恐怖せしむ.

pari- 怖, 怯弱, 生怯劣之心, 疲厭, 疲倦 Gaṇḍ-vy. 通受分 paritrasta 恐れしめられたる, 脅かされたる.

vi- 慄ふ, 驚かざる; 怖 Lal-v. 通受分 vitrasta 驚かされたる, 脅かされたる. 使役 vitrāsayati 怖れしむ, 慄へしむ.

sam- 震ふ, 驚く; 怖, 畏, 懼, 驚, 恐, 驚怖, 恐怖, 怖畏 Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Kāśy., Lank., Śikṣ., Mvyut. 通受分 samtrasta 恐れ戦ける, 恐れしめられたる. 使役 samtrāsayati 慄へしむ, 恐れしむ; 起(苦)怖 Sūtr.

trasa 形 動く. 甲 生物.

trasa-dasyu 男 [(その人に對して悪鬼も慄ふ), 寛仁にして神々に愛せられし王の名].

trasana 甲 怖畏 Madhy-vibh.

trasa-reṇu 男 (太陽の光線に於ける)微塵.

trasura 形 臆病なる, 恐る.

trasta 通受分 → Tras. 恐, 怖, 恐怖, 驚怖, 戰慄, 心着不安 Lal-v., Sam-r., Prajñā-h. Māñim., 梵干.: bhītās ~ aḥ 怖畏 Saddh-p. 187.

trasnu 形 臆病なる.

Trā, II. trāti(-te); IV. 自 trāyate (從, 屬)より保護す, 救助す; 救度, 濟拔 Aṣṭ-pr., Guhy-s. 受 trāyate. 通受分 trāta.

pari- (從, 屬)より保護す, 救助す; 濟拔; 救護 Bodh-bh., Śikṣ. 受 命 paritrāyatām 助けよ.

trāṇa 甲 (一)の或はよりの保護, 防護; 救助; 避難處; 鎧, 胴鎧, 庇護具, 兜; 護, 救護, 拯護, 救, 救度, 救援, 歸救, 歸拯; 濟拔; 怙, 防捍 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.

trāṇana 甲 保護, 防禦.

trāṇa-bhūta 形 爲救護, 救護者 Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Śikṣ.

trāṇa-sārin 形 優れたる兜を有する.

trāta 通受分 → Trā. 甲 救, 救護 Av-ś.

trātavya 未受分 保護せらるべき, 防禦せらるべき;

應救度 Śikṣ.

trāṭṛ 男 (屬)の或は(從)よりの保護者, 救助者; 救, 能救, 救護, 救度, 爲救, 救者, 救世; 能救濟, 齊護, 救護世者; 歸依處 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Saddh-p., Suv-pr.

trātra 甲 保護.

trāpuṣa 形 錫にて造れる.

trāman 甲 保護.

trāyati 男 語根 Trā [三入單] を以て語根を代表せしめたるもの.

trāya-trimśa 形 三十三 Sapt-pr.

trāya-trimśat 女 [=trayastrimśat]; [天の名] 三十三(天) Lal-v.

trāyamāṇa 現分 保護する.

trāyas-trimśa 男 [天の名] 三十三天 Mvyut.; 切利, 切利(天) Saddh-p., Dharm-s., Mvyut. → trayas-trimśa.

trāyita 通受分 拯濟 Śikṣ.

trāsa 男 驚愕, 恐怖; 威嚇; 怖, 畏, 怖畏, 驚, 驚怖 Bodh-c., Sūtr., Bodh-bh., Madhy-vibh., 梵雜. trāsa-kṛt 形 恐怖を起さしむる, 脅かす.

trāsa-dinam 副 恐怖のために哀れに.

trāsana 形 (女-i) (屬, 一)を驚かしむる, 恐怖せしむる. 甲 恐怖せしむること, 威嚇すること; 恐怖の原因.

trāsaniya 未受分 驚かす, 驚かざるべき或は恐れしめらるべき.

trāsa-hāni 女 斷怖 Sūtr.

trāsārtham 副 驚かさんが爲に.

trāsita 使役 通受分 恐怖せる, 驚駭せる, 慄えしめられたる.

trāsin 形 臆病なる, 恐怖せる.

trāsya 未受分 所怖, 可畏 Madhy-vibh.

tri 數詞; 男 甲 (女 tisr) 三. 於 因 ~ ṣu [文法又は辭書] 三の性全部に於て [或る語が形容詞として用ゐらるゝことを示す].

triṃśa 形 (女-i) 第三十の.

triṃśac-chata (°t-s°) 甲 百三十.

triṃśat 女 [tri-(da)śat] 三十 [稀に 因, 一般にはその因と同格なり. 時として 屬 を支配す].

triṃśati 女 三十.

triṃśatka 甲 [同上]; 三十の集團.

triṃśattama 形 (女-i) 第三十の.

triṃśattva 甲 三十なること.

triṃśad-akṣara 形 三十綴字を有する.

triṃśad-aṅga 形 三十の部分をも有する.

triṃśad-bhāga 男 第三十の部分.

triṃśad-rātra 甲 三十日間續く祭式.

triṃśad-varṣa 形 三十歳の.

triṃśad-vimśa 形 二十と三十との間の.

triṃśad-vikrama 形 三十歩の長さの.

triṃśika 形 三十 Vijñ-t.: ~ā vijñapti-kārikā [書名 Vasubandhu 作] 唯識三十頌 Vijñ-t.; ~ā vijñapti-bhāṣyā [書名 Sthiramati 作].

triṃśin 形 三十を含む.

trih-parivarta 男 三轉 Sapt-pr.

trih-pradakṣiṇi-Kṛ, 三右邊三匝 Gand-vy.
trika 形 三體組織を成せる, 三より成れる; [±śata] 百分の三; 三 Abh-k. 甲 三體組織; 薦骨; 臂. 男 三角形の場處又は庭.
tri-kakud 形 三の嶺ある; 三の尖端を有する. 男 [Viṣṇu (Kṛṣṇa) 神の稱]; [Brahman 神の稱]; [Himālaya 山の稱]; [或る Daśāha 祭の名].
tri-kakuda 形 [同上(形)].
tri-kakubh 形 [同上]. 男 雷霆; [Indra 神の稱].
tri-kaṇṭaka 男 [(三棘を有する), 武器の一種]; 三箇の寶石より成る裝身具.
tri-kadruka 男 (三) 或る三箇の Soma 汁の容器の名; [Abhiplava 祭の最初の三日間].
tri-kapardin 形 三の辮髪を有する.
tri-kapāla 形 三箇の皿の上に配られたる.
tri-karma-kṛt 形 (婆羅門の)三つの(主要なる)行爲 [供儀・Veda の學習及び布施] を行へる.
tri-karman 形 [同上]; 三業 Mvyut.
tri-kalpāsamkhyeya 形 (三) (三) 三無數劫, 三阿僧祇劫 Madhy-vibh.
trikā 女 三; 尾, 尾骨, 臑, 臑骨 Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
tri-kāṇḍa 形 三部分より成る.
tri-kāṇḍaka 形 三段 Mvyut.
tri-kāla 甲 三の時[過去・現在・未來, 朝・正午・夕]; 三時, 三世 Suv-pr., Sāmkhy-k. ~m 三度に, 一日に三回, 朝晝夕に. ~e 毎日三時, 常於三時 Suv-pr. 34.
trikāla-jña 形 三の時を知れる, 全智の; [佛の別名] 知三世, 了知三世 Mvyut.
trikāla-darśin 形 [同上].
trikāla-rūpa 形 三の時の相にて現はる (太陽).
trikāla-vid 形 =trikāla-jña.
trikāla-snāyitā 女 [同下(女)].
trikāla-snāyin 形 朝・正午・夕に沐浴する.
tri-kūṭa 形 三の嶺ある. 男 [諸山の名].
tri-kṛtvā 三度 三回.
tri-koṭi-parisuddha 形 三種淨(肉) Śikṣ.: ~bhakṣaṇa 食三種淨肉 Śikṣ. 135.
tri-koṭi-śuddha-māṃsa 甲 三淨肉, 三種淨肉 Lan̄k.
tri-koṇa 形 三角形の; 三角 Guhy-s. 甲 三角.
tri-koṇaka 甲 三角.
trikoṇa-maṇḍala 甲 (三) (三) 三角曼拏羅 Guhy-s.
tri-kausēya 甲 [絹布の衣服の一種].
tri-kṣāra 甲 (三) 三の刺戟性物質 [炭酸曹達, 硝石, 硼砂].
tri-kharva 甲 [非常に多き數の名]. 男 (三) [或る Veda 學派の名].
tri-gaṇa 男 (三より成るもの), 人生の三大目的 [徳 dharma, 富 artha, 愛 kāma].
tri-garta 男 (三) (三) (三) 三つの城砦の國, [民族の名]; (三) Tri-garta (の國又は王).
tri-guṇa 男 (三) 又は (三) 三の(根本的)性質, 三徳

[tamas, rajas, sattva. → guṇa]; 三徳 Sāmkhy-k. 形 三の絲又は綱より成れる; 三重の; 三倍大なる或は多くの; 三の(根本的)性質を含める: sapta ~āni dināni 七の三倍=二十一日. ~m 三様に.
triguṇātmaka (na-āt°) 形 三の(根本的)性質を有する.
tri-gotra 形 三乘, 三性 Abh-vy.
tri-grāmi 女 [地方の名].
trica 男 (三) =trca.
tri-cakra 形 三輪の. 甲 三輪車.
tri-caṅśus 形 三眼の (Siva 神).
tri-catura 形 三又は四の.
tri-cit 形 三の薪束より成る.
tri-citta 甲 三種心 Lan̄k.
tri-civara 甲 三衣 Divy., Bodh-c., Śikṣ.
tri-jagaj-janani 女 三世界の母, Pārvatī.
tri-jagat 甲 (三) (三) 三世界 [天界・地界・下界].
tri-jaṭa 形 三つの辮髪を有する.
tri-jaṭā 女 [或る Rākṣasī の名]; [或る Nāga の少女の名] (Kār-vy.).
tri-jāta 甲 三つの調味料 [肉桂・小豆蔻・肉豆蔻].
tri-jātaka 甲 [同上].
tri-jāti 女 三生 梵雜.
triṇa 甲 [=trṇa]; 草 Divy. 517.
tri-ṇata 形 三箇處にて撓めたる或は曲げたる(弓).
tri-ṇatā 女 弓.
tri-ṇayana 男 [(三眼を有する), Siva 神の稱].
tri-ṇava 形 (三の九倍=)二十七より成る.
triṇava-rātra 形 二十七日間繼續する.
triṇava-sāhasra 形 (三-i) 三萬七千の.
triṇa-samstaranaka 男 [=trṇa-s°]; 臥草褥處, 所臥草褥 Divy. 517.
tri-ṇāciketa 形 Nāciketa (と名づくる火)を三度燃したる.
tri-ṇāman 形 三の名を有する.
tri-ṇidhana 甲 [或る Sāman の名].
tri-ṇemi 形 三輦を有する.
trita 男 [Veda の神の名, Agni 神の第三相(恐らくは電光). Indra 神, Vāyu 神, Marut 神と關聯し空界の惡鬼と戰に従事せりと云はる. その住居は遠くして隠され, その名を Āptya (水の子即ち雲)と呼ぶ]; [諸聖仙の名]; (三) [神格の一種].
tritaya 甲 三體組織.
tritā 女 [同上].
tri-tāmra 形 (身體の)三部分(眼尻, 爪と掌, 蹠)の赤銅色なる [美人の特徴とせらる].
tritva 甲 =tritaya.
tri-daṇḍa 甲 (婆羅門行者の結び合せたる)三條の杖; (思考・言語・行爲の)三種の制御; 三杖 Abh-vy.
tridaṇḍa-dhāraṇa 形 手提三杖 Lal-v.
tri-daṇḍin 形 三條の杖を帶べる; 思考・言語・行爲を抑制せる. 男 婆羅門行者; [外道師の名] 三杖, 三棍, 三木 Mvyut.
tri-damatha-vastu-kuśāla 男 [佛の稱] 顯發三明 Divy.

tri-daśa 形 (複) 十の三倍の、三十の; (圍) 天界の、神の。 男 (複) 三十(神) [三十三に對する概數。三十三神とは十二の *Āditya*, 八の *Vasu*, 十一の *Rudra*, 二の *Aśvin*]; (兩) *Aśvin* 雙神。 甲 天界。

tridaśa-gopa 男 蝨。

tri-daśatā 女 神性。

tri-daśatva 甲 [同上]。

tridaśa-deva-pura 甲 (音譯) (音寫) 切利宮 *Lal-v.*

tridaśa-nadī 女 *Gaṅgā* 河。

tridaśa-pati 男 [*Indra* 神の稱]。

tridaśapati-śastra 甲 *Indra* 神の武器, 雷霆。

tridaśa-puṅ-gava 男 [*Viṣṇu* 神の稱]。

tridaśa-vanītā 女 天女, *Apsaras*。

tridaśa-śaila 男 [*Kailāsa* 山の稱]。

tridaśa-śreṣṭha 形 [*Brahmaṇ* 神又は *Agni* 神の稱]。

tridaśādhipa 男 神々の主。

tridaśādhipati 男 [同上]。

tridaśādhipatya (°śa-ādḥ°) 男 (音譯) 帝釋 [= *Śakra*] *Suv-pr. 11.*

tridaśādhipatyēśvara (°ya-iś°) 男 (音譯) 帝釋 [= *Śakra*] *Suv-pr. 12.*

tridaśāyudha (°śa-āy°) 甲 (神の武器), 虹。

tridaśāri 男 諸神の敵, *Asura*。

tridaśālaya (°śa-āl°) 男 神々の住處, 天界; 天人, 神。

tridaśi-BHū, 神となる。

tridaśi-bhūta 形 神となれる。

tridaśendra (°śa-in°) 男 神々の主, [*Indra* 神の稱];

(音譯) 帝釋主, 三十三天 *Suv-pr.*

tridaśendra-śatru 男 (*Indra* 神の敵), *Rāvaṇa*。

tridaśeśa (°śa-iśa) 男 = *tridaśendra*。

tridaśeśa-dviṣ 男 = *tridaśāri*。

tridaśeśvara (°śa-iś°) 男 (複) 神々の主 [*Indra*, *Agni*, *Varuṇa*, *Yama* 諸神の稱]。

tridaśeśvara-dviṣ 男 *tridaśendra-śatru*。

tri-diva 甲 第三即ち最高の天 [常に *divaḥ* (圍) と俱に (因)]; 天界 (圍); (音譯) (音寫) 切利天 [切利は *trayastrimśa* の (音寫)] *Buddh-c.*

tridiva 西 六に三つる, 死せる。

tri-divā 女 [河の名]。

tridiveśvara (°va-iś°) 男 [*Indra* 神の稱]。

tridivaukas (°va-ok°) 男 天の居住者, 神。

tri-doṣāpaha 形 三の罪を滅する; (音譯) [佛の別名] 滅三毒 *Mvyut.*

tri-dvāra 形 (三門を有する), 三途より到達し得る。

tri-dharman 男 [*Śiva* 神の稱]。

tridhā 副 三重に, 三様に; 三度; 三箇處に於て; 三部分に; (音譯) 三種, 三周, 三番 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

〜 *Kṛ* 三部となす, 三倍にす。

tri-dhātu 形 三重の, 三部より成る。 甲 三の世界。 男 [或る供饗祭の名]。

tri-dhātuka 形 三要素より成る; (音譯) 三界 *Madhy-vibh.*

tridhātva 甲 三の區分。 〱 e 因 副 三の場合に。

tri-dhāman 形 三界に輝く; 三部に分れたる。 甲 = *tri-diva*。

tri-dhāra 形 三の流を有する (*Gaṅgā* 河)。

tri-nayana 形 三眼を有する; (音譯) 三目, 三眼 *Gaṅḍ-vy.* 男 [*Śiva* 神の稱]。 甲 [町の名]。

tri-navata 形 第九十三の。

tri-navaha 甲 (複) [音譯] = *tri-navāha* 二十七日。

tri-nāka 甲 = *tri-diva*。

tri-nādha 形 [(臍にて三界を支ふる), *Viṣṇu* 神の稱]。

tri-nābhi 形 三の轂(車)を有する(車)。

tri-netra 形 男 = *tri-nayana*。

tri-netrā 女 [*Durgā* の稱]。

tri-pakṣa 甲 半月の三倍, 一箇月半。

tri-pañca-bhava-parinirvāyin 形 (音譯) (音寫) 三五有生而般涅槃, 三生五生入於涅槃 *Lank.*

tri-pañcāśa 形 第五十三の, 五十三より成る。

tri-patat 形 = *tri-dhāra*。

tri-patāka 形 三指 [食指・中指・小指] を延ばしたる(手) [何事か秘かに言はんとする願望を示す舞臺上の合圖]。

tri-patha 甲 三界 [即ち天界・空界又は下界・地界]; 三路の會する處。

tripatha-gā 女 [*Gaṅgā* 河の稱]。

tripatha-gāmini 女 [同上]。

tri-pad 形 (女 -i) [(圍) (圍) -pād] 三脚を有する; 三歩調を取れる; 三部より成る。 男 [*Viṣṇu* 神の稱]; [或る *Daitya* の名]。

tri-pada 形 三脚を有する; (詩の)三行を有する; 三の語を含む。

tri-padi 女 [象の歩調の一種]; 象の足を縛る鎖。

tri-parikrānta 形 三(種)の内敵 (即ち *kāma*, *krodha*, *lobha*) を克服せる。

tri-parivarta 形 (音譯) 三轉 *Divy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

triparivarta-dvādaśākāra-dharma-cakra (°śa-āk°) 甲 (音譯) 三轉十二相法輪, 三轉十二行相法輪, 三轉十二行相(無上)法輪 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*: 〱 *pravartana* (甲) 三轉十二行相法輪轉 [1. *ārya-satyānām prathama-parivarto darśana-mārgaḥ* 諸聖諦第一轉爲見道, 2. *idaṃ duḥkham* 此苦, 3. *ayaṃ samudayaḥ* 此集, 4. *ayaṃ nirodhaḥ* 此滅, 5. *iyam duḥkha-nirodha-gāmini pratipad* 此順苦滅道, 6. *ārya-satyānām dvitiya-parivarto bhāvanā-mārgaḥ* 諸聖諦第二轉爲修道, 7. *duḥkham ārya-satyam parijñātavyam* 苦聖諦應偏知, 8. *duḥkha-samudayaḥ prahātavyaḥ* 苦集應斷, 9. *duḥkha-nirodhaḥ sāksātkartavyaḥ* 苦滅應證, 10. *duḥkha-nirodha-gāmini pratipad bhāvayitavyā* 順苦滅道應修, 11. *ārya-satyānām tṛtiyaḥ parivarto 'śaikṣa-mārgaḥ* 諸聖諦第三轉爲無學道, 12. *duḥkham parijñātam* 已偏知苦, 13. *samudayaḥ prahīnaḥ* 已斷集, 14. *nirodhaḥ sāksātkṛtaḥ* 已證滅, 15. *duḥkha-nirodha-gāmini pratipad bhāvitā* 已修順苦滅道] *Mvyut.*

tri-parus 形 三區分より成る或はを有する。

tri-parṇi 女 [植物の名, 學名 *Desmodium gangeticum*]; 野生の綿の木; (音譯) 青桐 梵雜。

tri-paryāya 形 三節より成る (*Stoma*)。

tri-parvan 形 三部分より成る。

tri-pala 形 三 *pala* の重量ある。

tri-paśu 形 三の犠牲を有する。
 tri-pāthin 形 三 *Veda* を學習せる。
 tri-pādaka 形 (女 -ikā) 三脚を有する。
 tri-piṭa 男 tri-piṭaka を知れる (*Divy.*); 三藏
Divy., Av-s.
 tri-piṭaka 中 三藏 [佛敎の三種の文獻集成, piṭaka は
 籠の意, sūtra-piṭaka, vinaya-piṭaka, abhidharma-
 piṭaka を稱す]; 三藏, 三(寶)藏 *Mvyut.*
 tri-piba 形 三(器官即ち兩耳と舌)にて飲む [長耳の山
 羊の如く].
 tri-piṣṭapa 中 [*Indra* 神の天界]; 天 *Buddh-c.*
 tri-puta-samghāti 女 三重重複衣, 三層袈裟
Mvyut.
 tri-puṇḍra 中 (*Siva* 神崇拜者が種々の部分特に額上
 に灰にて印する)三條の線。
 tri-puṇḍraka 中 [同上].
 tripuṇḍraka-cihṇita 形 具炭灰三畫相 *Mvyut.*
 tri-puṇḍrin 形 *Tri-puṇḍra* を附したる。
 tri-puṇḍhra 中 = *tri-puṇḍra*.
 tri-pur 女 (女) 三要害地, 三重の城砦。
 tri-pura 中 [同上]; (*Siva* 神に焼かれたる *Asura* の
 金・銀・鐵の)三の城。
 tripura-ghātin 男 [*Siva* 神の稱].
 tripura-ghna 男 [同上].
 tripura-dāha 男 *Tripura* の炎上。
 tripura-druh 男 [*Siva* 神の稱].
 tripura-dviṣ 男 [同上].
 tripura-pramāthin 男 [同上].
 tripura-bhairavi 女 [*Durgā* の稱].
 tripura-vijaya 男 *Tripura* の征服。
 tripura-vijayin 男 [*Siva* 神の稱].
 tripura-vidhvamsaka 男 [同上]; 壞三層城,
 壞三層樓閣 *Mvyut.*
 tripura-sundari 女 [*Durgā* の稱].
 tripura-han 男 [*Siva* 神の稱].
 tripura-hara 男 [同上].
 tri-purāṇaka 形 (女 -ikā) 三 purāṇa の價值ある
 寶幣。
 tri-purāṇiya 形 [同上(形)].
 tripurāntaka 形 *Tripura* を破壊する (*Rāma* の弓).
 男 [*Siva* 神の稱].
 tripurānta-kara 形 [同上(形)].
 tripurārāti (°ra-ār°) 男 [*Siva* 神の稱].
 tripurāri 男 [同上].
 tri-puri 女 [*Cedi* の首都の名].
 tri-puruṣa 中 三人 = 三(世代). ~m 副 三(世代)
 に互る, 三時代に. 形 三人分の身長ある; 三人の
 助手を有する。
 tripureśādri (°ra-iś°) 男 [山の名].
 tripureśvara (°ra-iś°) 男 [或る町及び殿堂の名].
 tri-puṣkara 形 三の蓮華にて飾られたる; (女)三の
 池を有する(聖地の名).
 tri-prṣṭha 形 三の脊・表面又は高地を有する或は占む
 る. 男 [*Viṣṇu* 神の稱]. 中 = *tri-diva*.
 tri-pauruṣa 形 (女 -i) 三世代に互る。
 tri-prakāra 形 三重の。

tri-pradakṣiṇi-Kṛ, 右邊三匝 *Suv-pr.*
 tri-pralamba 形 身體の三の垂れたる部分を有する。
 tri-pralambin 形 [同上].
 tri-prasruta 形 (發情期の象の前額より)流るゝ三條
 (の mada 液)を有する。
 tri-prātihārya-sampanna 形 [佛の別名] 具
 三通, 具足三變通, 具足三示導者 *Mvyut.*
 tri-phala 形 三の果實を有する; [= *tri-phara?*
Tib. khri-ḥu thogs-pa?] 鞞蹄 *Lal-v. 132.*
 vāhakā dārakāḥ 鞞挾鞞蹄小兒 *Lal-v. 132.*
 tri-bandhana 男 [*Aruṇa* の子の名].
 tri-bāhu 形 三臂を有する. 男 [戰鬥の一種].
 tri-bhava 男 三有, 三界 *Lal-v., Rāṣṭr., Lank.,*
Sikṣ.
 tribhava-citta-mātra 形 三有唯心, 三界唯心,
 三界但是自心 *Lank.*
 tribhavam-ceṣṭṭṛ 形 作三有 *Lank.*
 tribhaveśvara (°va-iś°) 男 三界導, 世尊 *Lank.*
 tri-bhāga 男 第三の部分(特に一種の眇視に於ける眼
 の); 四分の三; 三分 *Saddh-p.*
 tri-bhāj 形 三の分前(?)を受くる。
 tri-bhuj 形 三重の。
 tri-bhuja 形 三角の. 男 三角。
 tri-bhuva 男 三有, 三界 *Sikṣ.*
 tri-bhuvana 中 三の世界 [天界・空界又は下界・地界];
 [町の名]; 三有, 三界 *Lal-v., Sikṣ.* 男 [諸人
 の名].
 tribhuvana-guru 男 [*Siva* 神の稱].
 tribhuvana-pati 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
 tribhuvana-pura 中 三有(大)城 *Gand-vy.*
 tribhuvana-prabhā 女 [或る, *Dānava* の娘の名].
 tribhuvaneśvara (°na-iś°) 男 [*Siva* 神の稱]; [*Indra*
 神の稱].
 tri-bhauma 形 三層の。
 tri-maṇḍala 中 三輪, 三國 *Sam-r., Lank., Sūtr.,*
Mvyut.
 trimaṇḍala-parisuddha 形 三輪清淨, 三國清
 淨 *Mvyut.*
 trimaṇḍala-parisodhita 形 三輪清淨 *Sikṣ.*
 tri-mada 男 三重の傲慢 [祖先・財富及び學殖].
 tri-madhu 形 madhu (を以て始まる)三偈 [*Rg-veda*
I. 90, 6-8] を知れる或は誦する。
 tri-madhura 中 三の甘き物質 [砂糖・蜜・酪].
 tri-mātra 形 三 mātra (三箇の單母符の長さ)を含め
 る。
 tri-mātrā-kāla 形 [同上].
 tri-mārga-gamana 中 三路(三の世界)を経ること。
 tri-mārga-gā 女 [*Gangā* 河の稱].
 tri-mukha 形 三面 *Guhy-s.*
 trimukhākara (°kha-āk°) 男 三相 *Guhy-s.*
 tri-mūrti 形 三相を有する. 男 三神組織 [即
 ち *Brahman* 神, *Viṣṇu* 神, *Siva* 神]; 太陽。
 tri-mūrdhan 形 三の首を有する. 男 [或る *Rākṣasa*
 の名].
 tri-y-adhva-jina 男 三世佛, 三世諸如來 *Gand-
 vy.*

tri-y-adhvika 形 [三] 三世 *Abh-vy*.
tri-y-ambaka 男 [(三眼を有する), *Siva* 神の稱].
tri-yava 形 大麥三粒の重さある.
tri-yāna 中 (佛教徒の解脱に至る)三種の乗物, 三乘;
[三] 三乘 *Lāṅk*.
tri-yāma 形 三更 [九時間] を有する(夜).
tri-yāmā 女 夜.
tri-yuga 形 最初の三 *Yuga* 期の間顯はるゝ (*Kṛṣṇa*
神). 中 三の *Yuga* 期.
tri-yugma 形 三對 [*yaśo-vīrye*, *aiśvarya-śriyau*,
jñāna-vairāgye] を有する.
tri-ratna 中 [三] 三寶 *Aṣṭ-pr*.
triratna-dravya 中 [三] 三寶物, 三寶財物 *Sikṣ*.
triratnadravyāpaharaṇatā 女 [三] 奪三寶物, (欺)
奪三寶財物 *Sikṣ*.
triratna-vaṃśa 男 [三] 三寶種 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy*.
triratnavamśānupaccheda 形 [三] 不斷三寶, 紹
三寶種 *Gaṇḍ-vy*.
tri-rasaka 中 (三種の味を有する)酒.
tri-rātra 中 (單) 三夜(即ち三日). ~m 副 三
日間. ~eṇa 具, ~āt 從 三日の後. 形 三
日間續く. 男 三日間續く祭典.
trirātrāvaram 副 少くとも三日間.
tri-rūpa 形 三相又は三色を有する; [三] 三種, 三相
Nyāy-pr.
trirūpa-līṅga 中 [三] 三種相, 三様視相 *Mvyut*.
tri-līṅga 形 三の(根本的)性質 (*guṇa*) を有する; 三
性を有する, 形容詞の. 中 *Teliṅga* の國.
tri-loka 中 [單] 又は 男 [三] 三の世界 [天界・空界又は下
界・地界]; [三] 三界 *Suv-pr.*: *saṃtiṣṭhate tamasi*
sūrya iva ~e 如日流光照世間, 安住三界如日照
世 *Suv-pr. 28*. 男 [單] 三の世界の住者.
triloka-nātha 男 [*Indra* 神及 *Siva* 神の稱].
tri-loki 女 (單) = tri-loka (中 [單]).
trilokeśa (°ka-iśa) 男 [*Viṣṇu* 神及 *Siva* 神の稱].
tri-locana 形 三眼を有する. 男 [*Siva* 神の稱];
[諸人(名)].
trilocana-pāla 男 [王侯の名].
trillaka 男 [人名].
trilla-sena 男 [人名].
tri-vatsa 形 三歳の(牡牛又は牝牛).
tri-vandhura 形 三の座席ある (*Aśvin* 雙神の車).
tri-varga 男 三より成るもの [人生の三大目的即ち德
(*dharma*), 富 (*artha*), 愛 (*kāma*); 又は消失 (*ksaya*),
不變 (*sthāna*), 増加 (*vṛddhi*); 又は三性即ち *sattva*,
rajas, *tamas*; 又は上流の三種姓(階級)].
tri-varṇa 形 三色の.
tri-vartu 形 三重の.
tri-vartman 形 三路より行く.
tri-varṣa 中 三年の期間. 形 三歳の.
tri-varṣiya 形 三年間用ゐたる.
tri-vali, → tri-valī.
tri-valī 女 [時としては °—— に限り -ī] (臍の上部
にある)三條の髪 [婦女にありては美しとせらる].
→ *saṃdastostha* ~.
tri-vastu 中 三部より成るもの(即ち佛法僧三寶)

(Divy.).

tri-vastra 中 [三] 三衣 *Lāṅk*.
tri-vācika 形 三語より生ぜる.
tri-vāram 副 三度.
tri-vārṣika 形 三歳の.
tri-vikrama 中 (*Viṣṇu* 神の)三步. 形 三步を進め
たる. 男 [*Viṣṇu* 神の稱].
trivikrama-sena 男 [王侯の名].
tri-vidya 1. 形 三 *Veda* を含める.
tri-vidya 2. 女 [三] (=tri-vidyā) [三] 三明 *Lal-v.*
359.
tri-vidyā 女 三 *Veda* (即ち *Rg-veda*, *Sāma-veda*,
Yajur-veda).
tri-vidha 形 三種の, 三重の, 三様の; [三] 三
Sāṃkhy-k.: ~m *karaṇam* 三具 *Sāṃkhy-k. 35*.
tri-vidhā 副 三部分に, 三様に.
tri-vinata 形 三様に曲げられたる或は折られたる.
tri-viṣṭapa 中 [*Indra* 神の天界].
tri-viṣṭabdha 中 = tri-daṇḍa.
tri-viṣṭi 副 三度.
tri-vṛt 形 三様の, 三重の, 三部分に分れたる. 男
[*stoma* と共に][九詩頌を含む *Stoma* の一種]; 三條
を撻合せたる紐.
trivṛt-karaṇa 中 三重にすること.
tri-vṛttā 女 三重.
tri-vṛtti 女 三事(即ち祭儀・學習・布施)による生活.
tri-vṛṣa 形 三頭の牡牛を有する.
tri-veṇu 形 三旗を備へたる(車). 男 [車の部分の
名].
tri-veda, —° 三 *Veda*. 形 三 *Veda* に精通せる
或はを含める.
tri-vedanā 女 [三] 三受 *Vijñ-t*.
tri-vedin 形 = tri-veda (形).
tri-vedi 女 = tri-veda (°—).
tri-vrata 形 一日に三度食事する.
tri-śaṅku 男 [古聖者の名]; [南十字星となれる
śaṅkhu の王の名]; [三] 三杵 *Mvyut.*; [三] [王
の名] 帝勝伽 *Divy*.
triśaṅku-tilaka 形 南十字星にて飾れる: 南の:
~ā *diś* 女 南.
tri-śata 形 百三の; 三百の; 第三百の; 三百より成
れる. 中 三百.
tri-śatika 形 [三] 三百 *Mvyut.*: ~ā *prajñāpāra-*
mitā [佛典の名] 般若三百頌, 智慧到彼岸三百頌
Mvyut.
tri-śati 女 三百.
tri-śaraṇa 中 [三] 三歸 *Divy*.
triśaraṇa-gamana 中 [三] 三歸, 三歸依, 趣三歸
依 *Lal-v.*, *Mvyut*. [1. *buddham śaraṇam gacchāmi*
dvipādānām agryam 歸依佛陀兩足中尊, 2. *dhar-*
mam śaraṇam gacchāmi virāgānām agryam 歸依
達磨離欲中尊, 3. *saṃgham śaraṇam gacchāmi*
ganānām agryam 歸依僧伽衆中尊] *Mvyut*.
tri-śalya 形 三の尖端を有する(箭).
triśas 副 三を以て.
tri-śākha 形 三枝を有する; 三の葉を有する.

tri-śāla ㊦ 三室を有する家。
 tri-śālaka ㊦ [同上]。
 tri-śikha ㊦ 三尖端を有する, 三尖頭ある, 三叉戟の如く形作られたる。㊦ 三叉戟。
 tri-śikhara ㊦ 三頂を有する。㊦ [ś.ila と共に] [山の名]。
 tri-śiras ㊦ 三頭の; 三頂の。㊦ [㊦ 名 *Tvāṣṭra* と呼ばれる *Ṛg-veda* X. 8. の作者と傳へらるゝ聖仙の名]; [*Rāma* に殺されたる *Rākṣasa* の名]。
 tri-śirṣa ㊦ 三頭の。
 triśirṣa-guhā ㊦ [*Kailāsa* 山中の洞窟の名]。
 tri-śirṣan ㊦ 三頭の。
 triśirṣākhyā-guhā (°sa-ākḥ°) ㊦ = triśirṣa-guhā。
 tri-śūla ㊦ 三叉戟 (*Siva* 神の武器); ㊦ 戟, 鋌, 三叉, 三股叉 *Guhya-s.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*, 梵雜。㊦ 三叉戟を巧みに用ゐる (*Siva* 神)。
 triśūlāya ㊦ ㊦ triśūlāyate *Siva* 神の三叉戟に類す。
 tri-śūlikā ㊦ 小なる三叉戟。
 tri-śrṅga ㊦ 三の角(?)ある; 三頂ある。㊦ 三叉戟; [山の名]。
 tri-śoka ㊦ [聖仙の名]。
 triṣ-śveta ㊦ 三箇處に於て白き。
 tri-śamvatsara ㊦ 三年間續く。
 tri-śatya ㊦ 三事(思考・言語・行爲)に於て眞實なる。
 tri-śadha-stha ㊦ 三箇處に在る, 三重の席を有する。㊦ 三重の席。
 tri-śamḍhi ㊦ 三部より成る。㊦ [惡蛇の一種]。㊦ [或る *Sāman* の名]。
 tri-śapta ㊦ (㊦) = tri-sapta。
 tri-śavana ㊦ *Soma* の三回の壓搾を伴へる。㊦ (㊦) (一日に)三回の *Soma* 壓搾; (㊦) [snāna と共に] 日々三回の沐浴。㊦ *m* ㊦ 朝・正午・夕に。
 triśavana-snāyin ㊦ 一日に三回沐浴する。
 tri-śaṣ ㊦ (㊦) 六の三倍なる, 十八の。
 tri-śaṣṭa ㊦ (㊦-i) 第六十三の。
 tri-śaṣṭi ㊦ 六十三。
 tri-śaṣṭitama ㊦ 第六十三の。
 tri-śaṣṭidhā ㊦ 六十三部分に。
 tri-śkāla ㊦ 三世, 三時 *Mvyut.*
 tri-ś-kṛtvas ㊦ ㊦ 三, 三市 *Suv-pr.*, *Lank.*: ㊦ *o* nāma-dheyam uccārayitavyam 三稱名號 *Suv-pr.* 107. → *tris-kṛtvas.*
 tri-śtup-chandas ㊦ *Tristubh* 音律なる。
 tri-śtub-anta ㊦ *Tristubh* にて終れる。
 tri-śtubh ㊦ (三重の讚歌), [音律の一種 (4×11)].
 tri-śtoma ㊦ 三の *Stoma* を含む。㊦ [*Ekāha* 祭の一種]。
 tri-śtha ㊦ 三の座席を有する。
 tris ㊦ 三たび, 三回; ㊦ 三 *Vajr-pr.*, *Rāṣṭr.*: ㊦ *r ahnas* 一日に三回; ㊦ *ṣ pradakṣiṇi-Kṛ* ㊦ 右邊三匝 *Vajr-pr.* 19.
 tri-samyojana ㊦ ㊦ 三結 *Lank.*
 tri-saṅgati-pratyaya ㊦ ㊦ 三縁合生, 三法因縁, 三合爲縁 *Lank.*
 tri-satya ㊦ 三より成る誓約(思考・言語・行爲に於ける)。

る)。
 tri-samtati ㊦ ㊦ 三相續 *Lank.*
 tri-samḍhi ㊦ = tri-śamḍhi (㊦)。㊦ ㊦ 三時之節 *Mvyut.*
 tri-samḍhika ㊦ 一日の三區分時(日出・正午・日没)に起る。
 tri-samḍhya ㊦ 一日の三區分 [日出・正午・日没]。
 ㊦ *m* ㊦ 三 *Samḍhya* (日出・正午・日没)時に。㊦ 三 *Samḍhya* に關する。
 tri-samḍhyā ㊦ [同上(㊦)]; ㊦ ㊦ 日夜三時, 日夜六時 *Lank.* 365.
 tri-sapta ㊦ (㊦) 七の三倍なる, 二十一の; ㊦ ㊦ 三七梵雜。
 tri-saptata ㊦ (㊦-i) 第七十三の。
 trisaptāha ㊦ ㊦ 三七日 *Saddh-p.*
 tri-sama ㊦ (身體に)三の等しき部分を有する; 三の等しき面を有する(四角形)。
 tri-samaya-rāja ㊦ ㊦ [經の名] (㊦) 三三昧經, 底哩三昧耶王 *Sikṣ.* [底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法]。
 tri-sarga ㊦ 三德 (*guṇa*) の創造。
 tri-savana ㊦, ㊦ = tri-śavana。
 tri-sahasra ㊦ ㊦ 三千 *Sapt-pr.*
 trisahasra-mahā-sahasra ㊦ ㊦ 三千大千 *Sapt-pr.*
 tri-sām̐vatsara ㊦ 三歳の。
 tri-sādhana ㊦ 三の事物によりて生成せられたる或は限定せられたる; 三の原因又は起原を有する。
 tri-sāman ㊦ 三 *Sāman* を誦する。
 tri-sāmā ㊦ [河の名]。
 tri-sām̐ya ㊦ 三の *guṇa* の均衡。
 tri-sāhasra ㊦ (㊦-i) 三千より成る; ㊦ ㊦ 三千 *Mvyut.*
 trisāhasra-mahā-sāhasra ㊦ ㊦ 三千大千 *Mvyut.*: ㊦ *o* loka-dhātuh 三千大千世界 *Mvyut.*
 trisāhasramahāsāhasra-pramāṇa ㊦ ㊦ 量等三千大千世界, 廣量三千大千世界 *Madhy-vibh.*
 trisāhasramahāsāhasra-loka-dhātu ㊦ ㊦ 三千大千世界, 三千大千國土 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
 trisāhasramahāsāhasrādhipati ㊦ 三千大千世界の支配者 (*Lal-v.*)
 trisāhasra-mahā-sāhasrika ㊦ 三千大千世界を支配せる (*Lal-v.*)
 tri-suparṇa ㊦ ㊦ [*Rg-veda*. X. 114. 3-5. 讚歌の名]。㊦ *Tri-suparṇa* 讚歌に通達せる。
 tri-suparṇaka ㊦ ㊦ [同上(㊦)]。
 tri-sūtra ㊦ 三の絲又は細繩を有する。
 tri-sauparṇa ㊦ *Tri-suparṇa* 讚歌に關聯せる。
 tri-skandhaka-pravartana ㊦ ㊦ [經の名] 三聚(經) *Sikṣ.* [舍利弗悔過經, 大乘三聚懺悔經]。
 tri-skandha-patha-daiśika ㊦ ㊦ [佛の稱] 宣說三蘊道, 開示三蘊道 *Mvyut.*
 tris-kṛtvas ㊦ ㊦ 三時 *Sikṣ.* → *tris-kṛtvas.*
 tri-stana ㊦ (㊦-i) 三の乳頭より乳を出せる; 三の乳房を有する(女)。

- tri-sthāna** 形 三の住處を有する；三の世界に遍滿せる。
- tri-srotas** 名 [(三の流を有する), *Gaṅgā* 河の稱].
- tri-srotasi** 名 [河の名].
- triḥ-snāna** 名 一日に三回沐浴すること.
- tri-havis** 形 三の供饗に關聯せる.
- tri-hāyana** 形 (名-i) 三歳の.
- triṣu** 形 三の箭を具へたる.
- Truṭ**, IV. 他 **truṭyati**; VI. 他 **truṭati** 破れる, 裂くる, 片々に破裂す. 通受分 **truṭita** 破られたる, 裂かれたる; 小孔を有する. 使役 **troṭayati** 片々に破裂す, 破る.
- truṭana** 名 破壊, 破裂.
- truṭi** 名 微分子, 原子; 瞬間 [時の量, その精密なる長さに至りては文献によりて差異あり].
- truṭita** 通受分 → **Truṭ**.
- truṭita-samghaṭita** 通受分 交互に破壊し結合する.
- truṭiśas** 名 極めて少時に, 寸時に.
- tretā** 名 三體組織; 三聖火; 往昔の博戯に於ける第二に良き場合 [骰子の數を四にて割り三を餘す場合. → *kṛta*]; 世界の第二 Yuga 期 [(三なる時期), この第二期は諸神の年 (その一年は人間の三百六十年に相當す) にて三千年繼續すと稱せられ, 三千年なる年數の内に三の字を含むが故にかく呼ばると云ふ]; 三時, 三災 *Lank.*
- tretāgni** (°tā-ag°) 名 (單) 三聖火.
- tretātva** 名 三聖火たること.
- tretā-yuga** 名 世界の第二期. → **tretā**. 三時, 三分時 *Mvyut.*
- tretā-hṛta-sarvasva** 形 博戯に於て **Tretā** の結果所有の全部を奪はれたる. → **tretā**.
- tretā-hotra** 名 三聖火.
- tredhā** 名 三重に; 三部分に, 三箇處に; 三回.
- tredhā-bhāva** 名 三箇處にある住處.
- tredhā-vihita** 形 三部に分たれたる.
- tredhā-samnaddha** 形 三重に縛られたる.
- ~~tredhā-samnaddha~~ 三時, 三分時, 三重の.
- traikakuda** 形 *Trikakud* 山より來れる.
- traikakubha** 形 *Trikakubh* 山より來れる. 名 [或る *Sāman* の名].
- traikālika** 形 (名-i) [tri-kāla より] 三時 (過去・現在・未來)に關する.
- traikālyā** 名 [tri-kāla より] 三時 [過去・現在・未來; 又は朝・正午・夕; 又は成長・持續・廢退]; 三世 *Lank.*
- traikuntaka** 名 [裝飾の一種] 三光嚴 *Mvyut.*
- traigarta** 形 *Trigarta* 地方に屬する. 名 *Trigarta* の王.
- traiguṇya** 名 [tri-guṇa より] 三條の紐を有すること; 三重; 三の(根本的)性質 (*guṇa*); 三德 *Sāmkhy.* 形 三の(根本的)性質を有する. → *guṇa*.
- traicivarika** 形 [tri-civara より] 但三衣, 持三衣, 但持三衣 *Aṣṭ-pr., Dharm-s., Mvyut.*
- traita** 名 三つ組.
- traitiyaka** 形 [trītiya より] 三 *Saddh-p.* 名 三日者, 三日熱病, 每三日瘧, 《每三日熱病》 *Saddh-p., Mvyut.*
- traidaśika** 形 [tri-daśa より] 三十(三)の神々に關する.
- traidha** 形 三種の; 三種 *Madhy-v., Abh-vy.* ~m 名 三様に.
- traidhātavi** 名 [或る閉祭(式)の名].
- traidhātuka** 形 [tri-dhātu より] 三界 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Lank., Sūtr., Vijñ-t., Bodh-bh., Abh-vy.*; 三有 *Gaṇḍ-vy.*
- traidhātuka-duḥkha-piḍita** 形 三界苦惱之患 *Saddh-p.*
- traidhātuka-nagara** 名 三界城 *Gaṇḍ-vy.*: ~āc cainān uccālyā 捨三界城, 離三界城 *Gaṇḍ-vy. 319.*
- traidhātuka-pura** 名 三界城 *Gaṇḍ-vy.*: ~ān niṣkramaṇatāyāi 超出三界, 爲令……出三界城 *Gaṇḍ-vy. 143.*
- traidhātukābhiniṣṭa** 形 樂著三有, 著諸蘊界 *Gaṇḍ-vy.*
- traidhātukāsakta** 形 不貪三界 *Mvyut.*
- traidhātu-bhujam-gama** 名 三大蛇 [四大の中一大を缺けるもの] *Suv-pr.*
- traipakṣika** 形 [tri-pakṣa より] 三箇の半月 (即ち一箇半月)の期間.
- traipada** 名 四分の三
- traipura** 形 *Tripura* に關係ある. 名 (複) *Tripurā* の住民; (單) [*Ceḍi* の王]. 名 *Tripura* に關する (*Siva* 神の) 功績.
- traipuruṣa** 形 三代續きたる.
- traimāsika** 形 [tri+māsa より] 三箇月の; 三箇月を経過せる; 三箇月間續く.
- traimāsyā** 名 [tri+māsa より] 三箇月の期間; 三月 *Rāṣṭr., Abh-vy.*
- traiyadhva** 名 [try-adhva より] 三際 *Guhy-s.*
- traiyadhvika** 形 [try-adhva より] 三世 *Gaṇḍ-vy., Abh-k., Abh-vy.*
- triyambaka** 形 *Tryambaka* (即ち *Siva* 神) に關する或る或るに獻じたる.
- trairāśya** 名 (單) [tri+rāśi より] 三群.
- trairūpya** 名 [tri-rūpa より] 三相, 三種の形態.
- trai-lāṭa** 名 [蛇の一種]; 馬蝨, 馬蜂 *Mvyut.*
- trai-linga** 形 三性を有する.
- trailīngya** 名 [tri-linga より] 三性.
- trailokya** 名 [tri-loka より] 三の世界; 三界 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lank.*; 恒頼路枳也 *Guhy-s.*
- trailokya-kartṛ** 名 三界の創造者, [*Siva* 神の稱].
- trailokya-nātha** 名 三界の主, [*Rāma* の稱]; [混合藥の一種].
- trailokya-prabhava** 名 三界の子, [*Rāma* の稱].
- trailokya-prabhā** 名 [或る *Dānava* の娘の名].
- trailokya-mālin** 名 [或る *Daitya* の名].
- trailokya-rājya** 名 三の世界の主權.
- trailokya-vikrāmin** 名 [菩薩の名] 越三界 *Saddh-p.*
- trailokyādhipatitva** 名 三の世界の主權.
- trailokyādhipatya** (°ya-ādḥ°) 名 [同上].
- trailokyānābhiniṣṭa** 形 不著三界 *Aṣṭ-pr.*

trailokyānupalīpta 形 不著於三界, 不染於三界, 三世無能礙 *Gaṇḍ-vy.*
traivargika 形 (女-i) [tri-varga 上] 三要素 (tri-varga 又は tri-guṇa 即ち 道德・性愛・財富) に關する。
traivargya 形 [tri-varga 上] [同上]。
traivāṇika 男 [tri-varṇa 上] 上流の三種姓(階級)に屬する者。
traivācika 形 三說 *Abh-vy.* 甲 (?) 三回(三歸を)説くこと (*Prajñ-vy.*)
traivārṣika 形 [tri-varṣa 上] 三年續く又は滿三年間の; 三年 *Sikṣ.*
traivikrama 形 *Tri-vikrama* (即ち *Viṣṇu* 神) に屬する。男 [性交の一種]。甲 (*Viṣṇu* 神の) 三步を歩む動作。
traividya 形 [tri-vidyā 上] 三 *Veda* に通曉せる; 三明, 三達之智 *Saddh-p.* 甲 三 *Veda*; 三 *Veda* の學習又は知識; 三 *Veda* に通曉せる婆羅門の集會。
traividya-ṛddha 形 三 *Veda* に老(練)なる。
traividyaḍitva (°ya-ād°) 甲 三 *Veda* に通曉すること (*Prajñ-vy.*)
traividhya 甲 [tri-vidha 上] 三種なること, 三様なること; 三種 *Abh-vy.*
traiviṣṭapa 男 (複) (*Triviṣṭapa* に住むもの), 諸神。
traiviṣṭapeya 男 (複) [同上]。
traivedika 形 (女-i) [tri-veda 上] 三 *Veda* に關する。
trai-sirṣa 形 三の頭を有する *Viśvarūpa* に關する。
trai-śoka 甲 [或る *Sāman* の名]。
traiṣṭubha 形 (女-i) *Triṣṭubh* に關する或はより成る。甲 *Triṣṭubh* の音律。
traisrotasa 形 *Tri-srotas* 即ち *Gaṅgā* 河に關する。
troṭaka 甲 [戲曲の一種]。形 破壞する。
try-amśa 男 (單) 三の部分; 三分の一。形 三の分前(分)を有する。
try-akṣa 形 (女-ā, -i) 三の眼を有する。男 [*Siva* 神の稱]。
try-akṣaka 男 [同上(男)]。
try-akṣan 男 [同上(男)]。
try-akṣara 形 三音又は三音節より成れる。甲 三音節の語。
try-aṅga 甲 三部(即ち 戰車 騎兵・歩兵)より成る軍。
try-aṅgula 形 三本の指の幅を有する; 三寸, 三指 *Lāṅk.* 甲 三本の指の幅。
try-adhipati 男 三の世界の主, 三 *guṇa* の主 (*Kṛṣṇa* 神)。
try-adhiṣṭhāna 形 三處(即ち 意・聲・體)を有する; 三驛を有する。
try-adhiśa 男 = try-adhipati。
try-adhva 形 三世 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
try-adhvaka 形 三世 *Lāṅk.*
tryadhva-jñāna 甲 三世智 *Saddh-p.*
try-adhvan 男 三世 *Abh-vy.*
tryadhva-patita 形 墮三世, 墮於三世 *Lāṅk.*
tryadhva-buddha-samatā 女 三世諸佛悉皆平等, 三世一切諸佛悉皆平等 *Gaṇḍ-vy.*

tryadhva-samatā 女 三世等, 等三世, 三世平等 三世平等性, 三世齊平, 三世(諸法悉皆)平等 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
tryadhvasamatā-niryāta 形 遊於三世平等性, 到三世齊平彼邊 *Mvyut.*
tryadhvaika-buddha (°va-ek°) 男 [Sic. MS., 刊本は °dhvaka°] 三世諸佛 [三世に一の佛, *Tib. dus-gsum-gcig-gi saṅs-rgyas*] *Lāṅk. 299.*
try-anika 形 三面の; 三重の陣立をなせる。
try-apāya 男 三惡道, 三惡趣 *Lal-v., Gaṇḍ-vy.*
tryapāya-prapāta 形 墮落三惡趣, 墮落三惡道 *Gaṇḍ-vy.*
try-abda 形 三年間續く 甲 三年, 三年の期間。 ~m 圖 三年の間。
tryabda-pūrva 形 三年間存在する或は年齢に三年の差ある。
try-ambaka 男 [(三の眼を有する), *Rudra-Siva* 神の稱]; [十一 *Budra* 神の一の名]; (複) *Budra* (*Try-ambaka*) 神に捧ぐる聖なる菓子; 三眼, 三妻主; 土蜂 [= *tryambuka*] *Mvyut.*
tryambaka-ṛṣabha 男 *Siva* 神の牡牛。
try-ambakā 女 [*Pārvatī* の稱]。
try-ambuka 男 蜂, 土蜂 *Abh-vy., Mvyut.*
try-arūpa 男 [人名]。
try-arūṣa 形 (女-i) 三箇處に於て赤き印を附せられたる。
try-avara 形 (複) 少くとも三の。 ~m 圖 少くとも三回。
try-avi 男 生後十八箇月の續。
try-aśita 形 (女-i) 第八十三の。
try-aśiti 女 八十三。
try-aśititama 形 第八十三の。
try-aśra 形 三角の。 甲 三角。
try-aṣṭaka 形 (滿月後の)第八日 (*aṣṭaka*) を三日含める。
try-aṣṭa-varṣa 形 (三の八倍即ち)二十四歳の。
try-aha 男 三日の期間; 三日間續く祭式。 ~m 圖 三日間。 ~ena 男, ~āt 圖, ~e 圖 三日の後; ~e gate 三日を經過して。 形 三日間繼續する。
tryaha-ṛtta 形 三日以前に起れる。
try-ahina 形 三日間續く。
try-ahna 形 三日後に起れる。
try-ārṣeya 形 三の聖なる祖先を有する。
try-ālikhita 形 三箇處に印を附せられたる(煉瓦)。
try-āvṛt 形 三組より成る。
try-āhika 形 三日間の食糧を用意せる; 三日の; 隔日の(熟)。
try-uddhi 形 三重の縁飾を有する(鉢)。
try-ṛca 甲 = *ṛca*。
try-eṇi 形 (女) 三箇處に斑點を有する。
tryaibika 形 [= *try-āhika*] 三日間の食糧を用意せる。
tva 1. 代 [二人稱の代 圖]。 → *tvad*。
tva 2. [所有代] 汝の。
tva 3. 形 多くの; 他の。 ~……~, ……は……

他は…… ～d ㊦ ㊦ 一部は。
tvak-tra ㊦ 甲冑。
tvak-trāṇa ㊦ 皮膚の保護。
tvak-pattra ㊦ [樹木の名, 學名 *Laurus Cassia(?)*].
tvak-pāruṣya ㊦ 皮膚の粗きこと。
Tvakṣ, I. ㊦ **tvakṣati** 創造す, 産出す; 皮を剥ぐ; 覆ふ。
pra- ㊦ **pratvakṣāna** 卓越せる。
tvakṣas ㊦ 精力, 活力。
tvak-sāra ㊦ 蘆, 禾莖 [字義は: 主として外皮より成るもの]。㊦ 優れたる或は健全なる皮膚を有する。
tvaksāra-vyavahāravat ㊦ 蘆細工に従事せる, 禾莖を取り扱ふ。
tvag-asthi-bhūta ㊦ 皮膚と骨のみとなれる。
tvag-asthi-śeṣa ㊦ 僅かに皮と骨のみ残存せる, 單なる骨格の (*Buddh-c.*)
tvag-uttarāsāṅgavat (°ra-ās°) ㊦ 樹皮の上衣を著せる。
tvag-gata ㊦ ㊦ [三種羅重 (*dauṣṭhulya*) の一] 皮, 在皮 *Bodh-bh.*
tvag-doṣa ㊦ 皮膚病, 癩病。
tvag-doṣin ㊦ 皮膚病に患れる, 癩病の。
tvag-bhedaka ㊦ (他人の)皮膚を傷つくる或は引き裂く。
tvam-kāra ㊦ 「汝」と呼びかゝること [敬意なき呼びかけ]。
tvam-kṛtya ㊦ 「汝」と呼びかけて。
Tvaṅg, I. ㊦ **tvaṅgati** 跳ぶ; 速歩す; 歩き廻る; 閃く。
tvaṅmāya ㊦ 皮膚又は(樹)皮にて作れる。
tvaṅ-māmsāsthimāya ㊦ 皮と肉と骨とより成れる。
tvac ㊦ 皮膚, 獸皮; 樹皮, 殼皮; 肉桂の樹皮: 皮囊; (地の)表面; ㊦ 皮, 皮膚 *Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Sāṃkhy-k., Mvyut.*; [藥草の名] 官桂, 肉桂 *Mvyut.*
tvaca ㊦ ㊦ [—°は ㊦] [同上]; ㊦ 皮膚, 身皮 *Bodh-bh.*
tvaca ㊦ ㊦ 樹皮, 肉桂, 肉桂樹; ㊦ 桂皮, 官桂 *Suv-pr., Mvyut.*; ㊦ 咄者 *Suv-pr.*
tvacana ㊦ 皮を剥ぐこと。
tvacita ㊦ 皮を剥がれたる。
tvat, [tvam の ㊦ 及 ㊦ (°—)]; ㊦ 仁, 仁者, 儂 *Sapt-pr., Gaṇḍ-vy., 梵干.*
tvat-kṛta ㊦ 汝によりて又は汝の如くに作られたる或はなされたる; 汝に因みて附したる(名前)。 ～e ㊦ ㊦ 汝の爲に。
tvattanāt ㊦ ㊦ 汝より。
tvattas ㊦ ㊦ 汝より等。
tvat-pratikṣin ㊦ 汝を待つ。
tvad 1., → **tvat.**
tvad 2., → **tva** 3.
tvad-anya ㊦ 汝以外の。
tvadānim ㊦ 時々, 時として。
tvadiya ㊦ 汝の。
tvad-darśana-kāma ㊦ ㊦ 欲見仁者, 願得奉觀 *Gaṇḍ-vy.*

tvad-bhaya ㊦ 汝に對する恐怖。
tvadrik ㊦ 汝の方へ。
tvad-vidha ㊦ 汝の如き。
tvanmaya ㊦ 汝より成れる或は生じたる; 汝のみを含める。
tvam ㊦ ㊦ ㊦ 汝は; ㊦ 汝, 儂 *Mvyut., 梵雜.* ～**Kṛ,** (業)を「汝」と呼ぶ。
Tvar, I. ㊦ **tvarate** [㊦ 詩 は又た ㊦] 急ぐ; (動詞的 ㊦ の ㊦ 於, 又は ㊦) に急ぐ; ㊦ 奔馳 *Lal-v.* ㊦ **tvaramāna** 急ぎて, 早く; ㊦ 速 *Divy.* ㊦ **tvarita, tūrta** (SB.), 又は **tūrṇa** [稀に] 速かなる, 迅き; (動詞的 ㊦ の ㊦ 於, 又は ㊦) に急げる。 **tvaritam, tūrṇam** ㊦ 急ぎて, 速かに。 ㊦ **tvarayati** 急がしむ, 促す。
ati- 甚だ急ぐ, (㊦)へ甚だ急ぐ。
abhi- 急ぐ; ㊦ 速疾 *Bodh-bh.*
tvaraṇa ㊦ 急げる爲に出でたる(汗)。
tvaraṇiya ㊦ 迅速を要する。
tvaram ㊦ ㊦ 急 *Bodh-c.*
tvaramāna ㊦ → **Tvar.**
tvaramāna-rūpa ㊦ ㊦ 馳 *Rāṣṭr.*
tvarā ㊦ 急速, 早急, 急迫, 督促; [㊦, ㊦, —° と俱に] 緊急。 **vivāha-kṛte** ～ 結婚に關して急ぐこと; ～**m Kṛ,** (㊦)に急ぐ。 ㊦ **tvarayā** 急ぎて, 速かに。
tvarā-yukta ㊦ 急速なる, 迅速なる。
tvarita ㊦ → **Tvar.** ㊦ 疾, 速疾 *Divy., Bodh-bh.* ㊦ 急速, 早急。 ～**m** ㊦ → **Tvar.** ㊦ 急, 遽, 速疾 *Divy., Lal-v., Bodh-bh.:* ～**m** ～**m** 速疾 *Bodh-bh. 9.*
tvarita-tvaritam ㊦ ㊦ 即, 即時, 疾疾 *Bodh-bh.*
tvarita-manas ㊦ 焦慮せる, 性急なる。
tvarita-rūpeṇa ㊦ ㊦ 疾 *Śikṣ.*
tvarita-vikrama ㊦ 急歩調の。
tvareṇa ㊦ 急ぎて。
tvastī ㊦ 大工。
tvastṛ ㊦ 工匠, 大工; 車匠; [*Veda* の神の名, 工巧神]。
tvastṛ-devatya ㊦ *Tvastṛ* を神として有する。
tvā ㊦ ㊦ 已 *Abh-vy.* 等。
tvām-kāma ㊦ 汝を待つ。
tvā-datta ㊦ 汝より與へられたる。
tvā-dṛś ㊦ [㊦ ㊦ ㊦ **-dṛk**] 汝に似たる。
tvā-dṛśa ㊦ (㊦-*i*) [同上]。
tvā-dṛśaka ㊦ [同上]。
tvā-nid ㊦ 汝を憎む。
tvām-āhuti ㊦ 汝に獻供する。
tvāyat ㊦ = **tvām-kāma.**
tvāyā ㊦ ㊦ 汝を愛する爲に。
tvāyu ㊦ = **tvām-kāma.**
tvāvāt ㊦ 汝の如き; 汝の如く富める或は力ある或は大なる。
tvāṣṭra ㊦ *Tvaṣṭṛ* に屬する或は關する。 ㊦ *Tvaṣṭṛ* の息子。 ㊦ 創造力。
tvāṣṭri ㊦ *Tvaṣṭṛ* の娘。
Tviṣ, VI. **tviṣa-** (㊦) 興奮又は激昂せしめらる; 刺戟

す, 急がす; 火花を發す, 輝く, 焰を出す。 (通受分)
tviṣita 激昂せしめられたる。
tviṣ (女) 興奮; 熱烈, 激怒; 光, 光線; 光輝; 美麗; 色彩。
tviṣi (女) 熱烈, 精力; 光輝; 莊嚴; 美麗。
tviṣimat (形) 熱烈なる; 精力ある; 華麗なる。 (男) 太陽。
tviṣimat (形) [同上(形)].
tve [因 tvam の 因] 汝に。
tveṣa (形) (女 -ā, -i) 熱烈なる; 莊麗なる; 輝ける; 恐しき。
tveṣa-nṛmṇa (形) 輝かしき力を有する。
tveṣa-pratika (形) 輝かしき外貌の。
tveṣita (tvā-iṣ) (形) 汝によりて派遣せられたる。
tvota (tvā-ūta) (形) [Av] 汝に寵愛せられたる。
tvoti (tvā-ūti) (形) [同上].

tsa, (音) (音) 摩立應。
tsa-kāra (男) tsa の字又は音; (音) (音) 哆娑字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ sarva-guṇa-sāgara-pratipatty-avatāra-vigāhanam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱哆娑 [二合] 字時能甚深入般若波羅蜜門名自在趣入諸功德海 *Gaṇḍ-vy.* 450. → a-kāra.
Tsar, I. (他) **tsarati** 忍びやかに近づく或は行く。
tsarā (女) 忍びやかに近づくこと。
tsaru (男) (葉の柄; (容器の) 把手; (刀の柄(?); 匍匐する動物。
tsaru-mārga (男) 劍を以て戦ふこと。
tsārin (形) 忍びやかに近寄る, 隠されたる。
tsāru (男) (音) (音) 劍法, 能弄劍 *Mvyut.*
tsāruka (形) 劍術に練達せる。

TH

tha-kāra (男) tha の字又は音; (音) (音) 他字 [五十字門の一]: ~e thāma-bala-vega-vaiśāradya-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱他 [上聲] 字時出勢力無畏聲 *Lal-v.* 127.; (音) 他字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ tathatā 'sambheda-garbhāṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱他 [上聲] 字時能甚深入般若波羅蜜門名真如平等無分別藏 *Gaṇḍ-vy.* 449. → a-kāra.
thakkana (男) [人名].
thakriya (男) [人名].
thakviyaka (男) [人名].
thapita (使役) (通受分) (俗) [<sthāpita] *Lal-v.* 169.

tharatharāya (名動) (自) **tharatharāyate** よろめく, 眩暈す。
thalyoraka (男) [村の名].
thavana (中) (音) (音) [數の名] 他波南 *Mvyut.*
thavāra (男) (音) (音) [數の名] 陀嚩羅 *Mvyut.*
thāma (中) (音) (俗) [<sthāma] 勢力 *Lal-v.* 127.
thutthu-kāraka (形) (音) 吹氣, 露熱相 *Mvyut.*
thūt-kāra (男) 唾を吐く音。
thūt-kṛ, 唾を吐きて音を立つ。
thūt-kṛta (中) 唾を吐く音。
thūpa (中) (音) (俗) [<sthūpa] (音) 塔, 塔婆, 偷婆, 鉢婆, 兜婆 立應。 → stūpa.

D

da 1. (形) (一°)を與ふる, 授くる, 頒つ; 生ずる, 發する; 指示する; (音) 施, 給施 *Bodh-bh.* → bhaisajya ~.
da 2. (形) (一°)を切離す, 破壊する。
Damś, I. (他) (自) **daśati(-te)** 噛む。 (因) **daśyate** (音) 整 *Siks.* (通受分) **daṣṭa** 噛まれたる。 (使役) **damśayati** 噛ましむ; (因)をして噛ましむ; 甲冑を著せしむ。 (音) (使役) (他) **dandaśayati** (因)をして劇しく噛ましむ。 (使役) (通受分) **damśita**, 咬まれたる; 甲冑を著せる; 防護せられたる; 飾られたる; (因)に對して用意せる; 密著せる。
vi- 寸々に噛む。 (通受分) **vidaṣṭa** 粉碎せられたる。
sam- 噛む, 齒にて捉ふ; 共に壓しつく; 粉碎す。 (音) 齧, 整 *Siks.* (通受分) **samdaṣṭa** 噛まれたる; 緊密に壓しつけたる; 緊密に適合せる, よく合ひたる(衣服)
damśa (男) 咬むこと, 齧ること, 噛まれたる箇處; 齧

寸蟲; 蛇; [或る Asura の名]; 甲冑; (音) 蛇, 虫, 蚊, 蠛 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.,* 梵雜。
damśaka (男) 蠛; [王侯の名].
damśana (中) 噛むこと, 咬むこと, (因)によりて咬まらるゝこと; 鎖帷子, 甲冑。
damśa-maśaka (中) (單) 蛇と蝮; (音) 蚊蛇 *Bodh-bh.*
damśita (使役) (通受分) → Damś.
damśuka (形) (葉)を咬む。
damśman (中) 咬むこと又は咬まれたる箇處。
damṣṭr (男) 咬む者。
damṣṭra (男) 犬齒, 牙; (音) 牙, 牙齒, 啖(?)牙 *Av-s., Lal-v., Saddh-p., Mañj-m., Abh-vy., Mvyut.,* 梵千。
damṣṭrā (女) [同上]; (音) 牙, 牙爪 *Divy., Bodh-c., Mvyut.*
damṣṭrā-karāla (形) 恐しき牙を有する。

damṣṭrāyudha (°rā-āy°) 形 牙を武器とせる, 牙を以て武裝せる。

damṣṭrā-sena 男 [古師の名] 牙部, 牙軍 *Mvyut.*

damṣṭrin 形 牙を有する。 男 牙を有する動物, 猛獸; 蛇; [*Siva* 神の稱].

Damś, [便役のみ] **damśaya-** 驚歎す。

damśana 甲 驚歎すべき行爲・力又は熟練。

damśanā 女 [同上].

damśanāvat 形 不可思議なる熟練又は力を賦與せられたる。

damśiṣṭha 形 甚だ驚歎すべき力を有する。

damśu 形 驚歎すべき力ある。 圖 不思議にも。

damśu-patni 女 驚くべき威力ある主を有すること。

daka 甲 = *udaka*; 水 *Lal-v.*, *Mvyut.*

daka-candra 男 水中月 *Rāṣṭr.*, *Madhy-v.*

da-kāra 男 *da* の字又は音; 陀字 [五十字門の一]: ~e *dāna-dama-samīyama-saurabhyaśabdhā* (→ *a-kāra*) 唱陀 [上聲] 字時出施戒質直聲 *Lal-v. 127.*; 佛字 [四十二字門の一]: ~m *parikirtayato 'vaivartya-prayogaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam* 唱佛字時能甚深入般若波羅蜜門名不退轉方便 *Gaṇḍ-vy. 449.*

dakodara (°ka-ud°) 甲 水腫せる腹。 男 脹滿, 臃脹 (?) *Mvyut.*

dakodarina (°ka-ud°) 形 肚如病水人 *Lal-v.*

Dakṣ, I. 甲 **dakṣati** (圖) を満足せしむ, (圖) に適合す; 自 **dakṣate** 可能なり, 巧みなり, 強し。 [便役] 他 **dakṣayati** 有效ならしむ, 堪能ならしむ。

dakṣa 形 [因と俱に又は一] 可能なる, 能動的の, 有用なる, 器用なる, 熟練せる, 伶俐なる; (一°) に適當せる; 右の; 巧, 翹勢, 點慧, 有辯才, 善知識 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* 男 活力, 能力, 力, 適才; 意志; [或る *Āditya* の名]; [或る *Prajāpati* の名]; [或る立法者の名].

dakṣa-kanyā 女 *Dakṣa* の娘。

dakṣa-kratu 男 (圖) 意志と悟性。 形 才幹ある。

dakṣatā 女 器用, 伶俐, 能力; 活動。

dakṣa-pati 男 才能の主。

dakṣa-pitr 形 (圖) [圖 図は又た -pitār] *Dakṣa* を父として有する; 能力を有する或は授くる。

dakṣa-vihitā 女 [歌の一種].

dakṣa-śila 形 樂於持戒 *Mañj-m.*

dakṣas 形 能力ある, 器用なる。

dakṣa-suta 男 *Dakṣa* の息子, 神。

dakṣa-sutā 女 *Dakṣa* の娘; (圖) 月(太陰)の妻。

dakṣa-stha 形 (右即ち) 南にある。

dakṣasyāyana 甲 冬至(の供儀)。

dakṣāṇḍa 甲 牝鶏の卵。

dakṣiṇa 形 能力ある, 伶俐なる, 器用なる; 右の; 南の [東に面すれば右手が南方にあるが故に], 南に位置せる, 南に向ける; 南(の風); 實直なる, 正直なる; 愛すべき, 親切なる; 南, 南方, 右 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*, *Sapt-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Siks.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵千, 梵雜; 所作機捷 *Bodh-bh.*: ~m *jānu-maṇḍalam pṛthivyām pratisthāpya* 右膝著地, 右膝輪著地 *Rāṣṭr.S.*, *Saddh-*

p. 498. 男 右手又は右腕。 男 甲 右側; 南。 ~m 圖 右に。

dakṣiṇa-kukṣi 男 右脇 *Divy.*

dakṣiṇa-koṇa 男 (西) 南隅 *Guhy-s. 8.*

dakṣiṇa-jānu-maṇḍala 甲 右膝 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*

dakṣiṇa-jānu-akta 形 右の膝を曲げたる。

dakṣiṇata-upacāra 形 南に入口を有する。

dakṣiṇatas 圖 (圖) の右に或は右より; 南方に, 南より; (圖) の南へ。 ~h *Kṛ*, (或る人) を右手に置く [尊敬の標として].

dakṣiṇatas-kaparda 形 右側に辮髪を結びたる。

dakṣiṇa-dvāra 甲 南門 *Guhy-s.* → *dakṣiṇā-dvāra*.

dakṣiṇa-pañcāla 形 南部 *Pañcāla* に屬する或はに關する。

dakṣiṇa-pāścārdha 男 西南の側。

dakṣiṇa-pāścima 形 西南の; 西南 *Saddh-p.*, *Mvyut.*

dakṣiṇa-pāṇi 男 右手 *Rāṣṭr.*

dakṣiṇa-pārsva 甲 右脇, 右脇(邊) *Suv-pr.*

dakṣiṇa-pūrva 形 東南の。 男 ~eṇa (圖) の東南に。

dakṣiṇa-pūrvā 女 東南。

dakṣiṇapūrvārdha 男 東南側。

dakṣiṇa-prāk-pravaṇa 形 東南方に傾斜せる。

dakṣiṇa-prāci 女 東南。

dakṣiṇa-varṭita 形 右旋 *Suv-pr.*

dakṣiṇa-sad 形 右或は南の側に坐せる。

dakṣiṇa-hasta 男 右手 *Saddh-p.*

dakṣiṇā 1. 女 [go と俱に] 良き即ち乳の出づる牛, 祭儀の謝禮 [元來牛を以て之に充てたるもの]; 謝禮; 施物; [人格化せられたる供儀の妻]; 施, 布施, 所施, 財施 *Gaṇḍ-vy.*, *Siks.*, *Mvyut.*, 立應; 施願 *Divy.*; 福, 福田, 福德 *Divy.*; 施頌, 施伽他 [伽他は *gāthā* の (圖) *Divy. 85, 87.*; (圖) 達囉, 達囉, 達囉, 大囉, 大囉, 大囉, 檀囉, 檀囉, 達囉, 馱器尼 *Gaṇḍ-vy.*, 立應.

dakṣiṇā 2. 圖 (圖) の右又は南方に。

dakṣiṇā-kāla 男 犠牲の報酬を受くる時,

dakṣiṇāgni 男 祭壇の南方に置かるゝ祭火。

dakṣiṇāgra 形 南方に向ひて尖端を有する。

dakṣiṇācāra (°na-āc°) 形 擧止の正しき。

dakṣiṇāt 圖 右より, 右に; 南より, 南方に。

dakṣiṇā-dvāra 甲 南に面したる戸口。 形 南面せる扉を有する。

dakṣiṇādhipati 男 南方の國の支配者, *Deccan* の支配者。

dakṣiṇā-patha 男 南部の地方, *Deccan* 地方; *Dakṣiṇā* 牛の通路; 南方 *Av-s.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*; 南(大)國, 南天竺國 *Lank.*

dakṣiṇāpara 形 西南の。

dakṣiṇāpavarga 形 南方に於て盡きる。

dakṣiṇā-pratici 女 西南。

dakṣiṇā-pratyak (甲) 圖 西南の方に。

dakṣiṇā-pratyāñc 形 西南の。

dakṣiṇā-pravaṇa 形 南方に傾斜せる。
dakṣiṇā-prāg-agra 形 東南に向ける尖端を有する。
dakṣiṇābdhi 男 南方の海洋。
dakṣiṇābhimukha 形 (因-i) 南方に面せる。〜m
 副 南方に。
dakṣiṇā-mukha 形 南方に或は右に面せる。
dakṣiṇāyana 中 南の路(即ち死の國への路); (太陽の)南回歸路 [太陽が北より南へ動く半歳(夏至より冬至に至る)]; (太陽の)南回歸(の開始) = (Āśādhā 月の)夏至。
dakṣiṇāyana-s mkrānti 因 (太陽の)南回歸路への入口, 夏至。
dakṣiṇāraṇya 中 [(南の)森], (恐らくは Deccan 地方の)森の名。
dakṣiṇārdha 男 右又は南の半面又は側。
dakṣiṇārdhya 形 右又は南の側にある。
dakṣiṇāvāt 形 有爲の; 施物に富める; 敬虔なる。
dakṣiṇāvāra 形 西南 Abh-k.
dakṣiṇāvartā (°na-āv°) 形 (左より)右に廻る; 南方に廻りたる, 南回歸路にある(太陽); 右旋 Mvyut. 男 Deccan 地方。
dakṣiṇāvartaka (°na-āv°) 形 右又は南方に廻れる。
dakṣiṇāvarta-śaṅkha 男 右旋海螺 Mvyut.
dakṣiṇā-vṛt 形 右へ廻れる。
dakṣiṇā-śiras 形 頭を南方に向けたる。
dakṣiṇāhi 副 (從)の右又は南へ遠く。
dakṣiṇi-Kṛ, 右に置く; (業)或人(を)右側にして繞り歩む [尊敬の表示]。
dakṣiṇīya 形 供儀すべき價值ある或はに相應しき; 尊敬せらるべき價值ある; 施, 可施, 住施, 施住, 可供, 供獻; 供養, 應供養, 應受供養; 應尊敬 Lal-v., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.; 佛 Divy. 401; 聖人 Lal-v.; 福田, 眞福田, 眞實福田 Divy., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh.: ~o bhaviṣyāmi 應受供養 Lal-v. 84.
dakṣiṇīyatā 因 福田, 大福田 Aṣṭ-pr.
dakṣiṇīya-bhūta 形 應供養 Bodh-bh.
dakṣiṇīya-samjñā 因 福田慧 Gaṇḍ-vy.
dakṣiṇetara (°na-it°) 形 左の。
dakṣiṇena 因 副 (從)の右に或は南に。
dakṣiṇais 因 副 右に於て。
dakṣiṇottara (°na-ut°) 形 右と左との, 南と北との: ~ābhyām pañibhyām 右手を上に乗せたる兩手を以て。
dakṣiṇottāna (°na-ut°) 形 右手の掌を上にする; [pañi と共に] (兩)右手の掌を上に向けたる兩手。
dakṣiṇotthita (°na-ut°) 形 右旋 Rāṣṭr.
dakṣiṇya 形 = dakṣiṇīya.
dagdha (通受分) [Dah] 焼かれたる, 燒盡せる; 苦痛を與へられたる, 悲嘆又は飢餓に苦しめられたる, 惱まされたる; 致命的の; 悲惨なる, 憐れなる, 無益の; 呪はれたる, 罪を定められたる; 燒 所燒, 被燒, 焦, 焦, 所焦, 所焚, 所焚燒, 火燒, 燒滅 Divy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Lan̄k., Mañj-m., Bodh-bh., Abh-vy., Śikṣ.
dagdha-kilbiṣa 形 罪障消滅せる。

dagdha-civara 形 燒衣 Prāt-m.
dagdha-jāṭhara 中 飢餓に悩まされたる腹又は胃。
dagdha-deha 男 悲惨なる肉體; 呪はれたる者, 憎き奴 [輕侮の語]。
dagdha-bija 中 焦種, 焦種 Lan̄k.
dagdha-matsya 男 炙りたる魚。
dagdha-muṇḍa 男 [特殊の苦行者]。
dagdhavya (未受分) 焼かるべき; 燃え易き。
dagdha-sthūṇā 因 焦木, 焦柱 Av-ś., Aṣṭ-pr.
dagdhṛ 男 (業, 業)の燒盡者; 能燒 Abh-k., Abh-vy.
dagdhendhāna (°dha-in°) 形 燃料を燃やしたる(火)。
dagdhodara (°dha-ud°) 中 = dagdha-jāṭhara; 飲食不銷 Lal-v.
Dagh, V. 他 daghnoti …に達す; IV. 他 daghyati 行く; 溢る。
daghna 形 (因-ā, -i) (一°)に達する, …程の高さの, …程高さ
daṅkṣṇu 形 咬む。
daṅc-chada 男 (齒の)被覆, 唇。
daṇḍa 男 (中)棒, 杖; 笞, 棍棒 [象の鼻及び人間の腕・腿も屢之に比較せらる]; 莖; 把手; (車の上の)旗竿; 竿 [長さの單位として = 四 hasta]; 鞭 [暴力の表徴], 武力, 軍力, 軍隊; (屬, 一°)の支配, …の完全なる制御; 杖 [裁判權の表徴として]; 刑鞭, 刑罰 [體刑・訓誡・罰金]; 木, 樹, 莖; 仗, 杖, 竿, 柄, 棍, 器械, 刀杖 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Saddh-p., Sukh-vy. I., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.; 莖節 [gaṇḍa?] Lal-v. 82.; 兵 Divy.; 罰, 治罰, 黜罰, 責罰, 罰責, 治擯, 治罪, 鞭打 Suv-pr., Lan̄k., Bodh-bh.; 衰患 Saddh-p.; 難拏 Guhy-s.: artham ~ena muṣanti 稅財物, 責其課調 Śikṣ. 63.
gupta ~ 内密の料料 = 強請(強); **vaitāsa** ~ 葦狀の棒 = 男根。
daṇḍaka 男 把手; 竿, (車の上の)旗竿. 中 [Deccan 地方の)森の名]. 男 (從) Daṇḍaka 森の住民; (單) [王侯の名]; (香) 檀茶 Buddh-c.
daṇḍa-karman 中 刑罰, 治罰, 罰罰, Śikṣ., Bodh-bh.
daṇḍakarmānupradāna 中 治罰 Bodh-bh.
daṇḍa-kalitaḥ t 副 杖にて逐はれたるが如く。
daṇḍakā 因 = daṇḍaka (中)。
daṇḍakāraṇya 中 = daṇḍaka (中); (香) 彈陀迦(林), 檀陀柯(林), 檀拏迦(國) Vijñ-v.
daṇḍakālasaka 男 [赤痢の一種]。
daṇḍakā-vana 中 = daṇḍakāraṇya.
daṇḍa-kāṣṭha 中 木の杖, 木の棒; 三拒, 三岐杖 Lan̄k.
daṇḍa-kuśa 男 (從) [民族の名]。
daṇḍa-kūla 男 (從) [民族の名]。
daṇḍa-keṭu 男 [人名]。
daṇḍa-ghna 形 棒にて打つ, 攻撃する。
daṇḍa-cakra 中 軍の支隊, 部隊; [神話上の武器の名]。
daṇḍa-cchadana 中 家具室; 廚房 Mvyut.
daṇḍa-tādāna 中 棒にて折檻すること。

daṇḍatva ④ 杖又は棒の状態。
 daṇḍa-dāna ④ 杖, 執持杖 *Vijñ-t.*
 daṇḍa-dāsa ④ 罰金又は債務(不拂)の爲の奴隸; 罰金に對する苦役をなす者。
 daṇḍa-dhara ④ (罰)に對して鞭又は杖を揮ふ, ……を罰する, ……を懲誡する。 ④ 王侯, 王; 裁判官, 長官; 軍隊の長; [*Yama* 神の稱]。
 daṇḍadhārādhīpati ④ 裁判の主宰者; 國王。
 daṇḍa-dhāra ④ 杖又は鞭を揮ふ, 裁判權を行使する。
 daṇḍa-dhāraka ④ [同上]。
 daṇḍa-dhāraṇa ④ 杖を携ふること; 力の行使; 折檻, 刑罰。
 daṇḍa-dhārin ④ = daṇḍa-dhāra.
 daṇḍa-dhṛk ④ (一°)を支配する。
 daṇḍana ④ 打つこと, 罰すること, 刑罰, 折檻; 治罰 *Bodh-bh.*
 daṇḍa-nāyaka ④ 裁判官; 軍隊の長; 總師, 掌事臣 *Mvyut.*
 daṇḍa-nidhāna ④ 棒を下に置くこと; 容赦, 赦免, 寛仁。
 daṇḍa-nipātana ④ 笞杖又は刑鞭を下さしむること, (罰)を刑罰に處すること。
 daṇḍa-niyoga ④ 刑罰を加ふること。
 daṇḍa-niti ④ 鞭の適用, 司法, 裁判(の學)。
 daṇḍaniti-śāstra ④ 鞭朴論 *Sikṣ.*
 daṇḍaniya ④ 罰せらるべき。
 daṇḍa-netṛ ④ 裁判官。
 daṇḍa-netṛtva ④ 裁判所, 法廷, 裁判の施行。
 daṇḍa-parāyaṇa ④ 杖を要する, 杖に倚らざるを得ざる (*Kār-vy.*); 杖, 仰杖力 *Lal-v.*
 daṇḍa-parihāra ④ 離諸衰患 *Saddh-p.*
 daṇḍa-pāṇi ④ 手に杖を持てる; 杖, 執杖, 捉杖, 執杖者, 手執錫杖人 *Gaṇḍ-vy., Prāt-m., Mvyut.* ④ 警吏; [*Yama* 神の稱]; [王侯の名]; [人名] 杖 *Lal-v.*
 daṇḍa-pāta ④ (鞭を下すこと), 刑罰, 折檻。
 daṇḍa-pātana ④ 折檻。
 daṇḍa-pātin ④ (罰)を罰する。
 daṇḍa-pāruṣya ④ 攻撃; 暴力, 激しき折檻; (罰)體刑及び訓誡。
 daṇḍa-pāruṣyavat ④ 重罰に處する。
 daṇḍa-pāla ④ 司法の保護者, 法官。
 daṇḍa-pālaka ④ [同上]。
 daṇḍa-pālatā ④ [同上]。
 daṇḍa-pāsaka ④ 警吏, 守衛。
 daṇḍa-poṇa ④ 淨濾, 酌水羅 *Mvyut.*
 daṇḍa-pajita ④ 杖にて逐はれたる。
 daṇḍa-praṇāma ④ 杖の如く(全身を以て)平伏すること。
 daṇḍa-pradāna ④ (入門に際し)杖を授くること。
 daṇḍa-prahāra ④ 鞭撻 *Sikṣ.*
 daṇḍa-bhaṅga ④ 刑罰を免るゝこと。
 daṇḍa-bhaya ④ 刑罰の恐怖。
 daṇḍa-bhāj ④ 刑罰を受くる。
 daṇḍa-bhāsa ④ [兆相の名] 擲列著 *Mvyut.*
 daṇḍa-bhiti ④ = daṇḍa-bhaya.

daṇḍa-bhṛt ④ 鞭を揮ふ。 ④ [*Yama* 神の稱]。
 daṇḍa-mānava ④ (*daṇḍa-pradāna* を終へたる若き婆羅門)。
 daṇḍa-mukhya ④ 軍隊の指揮者; 權臣 *Mvyut.*
 daṇḍaya ④ 他 *daṇḍayati* 罰す。 ④ 過受分 *daṇḍita* 罰せられたる: *guptena daṇḍena* ~ 強請せられたる。
 daṇḍa-yātrā ④ 軍隊の出征; 行列。
 daṇḍayātrā-cihna ④ 進軍の合圖。
 daṇḍayātrā-patha ④ 軍用道路。
 daṇḍayātrā-lagna ④ 占星術上進軍するに吉慶の機會。
 daṇḍa-yoga ④ 刑罰を課すること。
 daṇḍa-ruci ④ 好責罰, 樂罰責 *Bodh-bh.*
 daṇḍa-leśa ④ 輕微なる罰金, 僅少の科料。
 daṇḍavat ④ 杖を携ふる; 把手を有する; 大軍を所有せる。
 daṇḍa-vadha ④ 死刑, 極刑。
 daṇḍa-vācika ④ 肉體上又は言語上の(迫害), 暴行及び誹謗に關する。
 daṇḍa-vāsika ④ 守地界者 *Mvyut.*
 daṇḍa-vāsin ④ 村長。
 daṇḍa-vāhin ④ 警吏, 守衛。
 daṇḍa-vikalpa ④ [受刑者の (罰) と共に] 刑罰の選擇, 任意の刑罰。
 daṇḍa-vidhi ④ 刑法。
 daṇḍa-viśaya ④ *Danḍaka* の地方。
 daṇḍa-vyūha ④ 軍隊の整列, 縦列陣。
 daṇḍa-vrata-dhara ④ = daṇḍa-dhāraka.
 daṇḍa-śūra ④ [人名]。
 daṇḍa-sthāna ④ 軍の支隊, 部隊; 兵 *Divy.*
 daṇḍa-hasta ④ 杖を手にせる。
 daṇḍāghāta (°da-āgh°) ④ 杖を以ての打撃。
 daṇḍā-daṇḍi ④ 棒に對し棒を以て(闘ふ), 棒を以て打ちて。
 daṇḍādhipa ④ 裁判長。
 daṇḍādhipati ④ [同上]。
 daṇḍānika ④ = daṇḍa-sthāna.
 daṇḍāpatānaka ④ 破傷風。
 daṇḍāpaya ④ 他 *daṇḍāpayati* 治罰, 責罰 *Sikṣ.*
 daṇḍāpūpa-nyāya ④ 杖と菓子との論理[杖を噛みし鼠は菓子をも食ひしに相違なしと論ず]; 先に起れる事柄に基き當然の事として。
 daṇḍāraka ④ [一°は] 井戸の柱。
 daṇḍāvayava ④ = daṇḍa-sthāna.
 daṇḍāvaṣṭambhanatā ④ 任杖, 杖者, 扶杖 *Mvyut.*
 daṇḍāsana (°da-ās°) ④ 平伏して地上に横はれること。
 daṇḍāstra ④ [神話上の武器の名]。
 daṇḍika ④ 罰する。 ④ 警吏。
 daṇḍikā ④ 杖, 棒。
 daṇḍita ④ 過受分 → *daṇḍaya*。
 daṇḍin ④ 杖を携ふる。 ④ 第四住期(林住期)にある婆羅門; 門番, 守衛, 番人; 警吏; 道路掃除の役

人; [太陽の門衛の名]; [Yama 神の稱]; [Daśa-kumāra-carita & Kāvya-dorśa の作者(西紀第六世紀)の名].

daṇḍodyama (°da-ud°) 男 杖を擧ぐること, 杖にて(一°)を威嚇すること; (圖)権力の行使, 懲罰の施行.

daṇḍya (未受分) 罰せらるべき; 罰するに値する; [金額の(圖)と俱に] 拂はしめらるべき, 罰金を課せらるべき; (一°)の沒收を免れざる.

dat 男 [(a)d-at (現分) 食ふ者] 齒 [(圖) dan]. 一° 形 (女-i) 齒の.

datta (通受分) → Dā i. (圖) 與, 已與, 賜與, 施, 布施, 授, 奉上, 貢上, 所供給 Divy., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Śiks., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.: bahu ~ m ca bhojanam 施食無量, 及施於飲食 Suv-pr. 10 男 [屢: 一°] [人名]. 甲 與ふること, 贈與; 贈物, 施物; 布施.

dattaka 形 養子として與へられたる; (圖) 與, 授 Abh-vy., Mvyut.

datta-karna 形 (一°)に耳を藉す或は聴き入る.

datta-kṣaṇa 形 機會或は休日を與へられたる.

datta-drṣṭi 形 [(圖) 或は (因) と俱に] へ凝視を向くる, ……を眺むる.

datta-nṛtyopahāra (°ya-up°) 形 舞踊の贈物を捧げられたる, (その人の爲に) 踊がなされたる.

datta-pūrvokta-śāpa-bhi (°va-uk°) 形 前に言へる呪咀にて威嚇する.

datta-pramoda 形 喜悅を與へられたる.

datta-phalatva 甲 (圖) 與果 Bodh-bh.

datta-mārga 形 道を讓られたる.

datta-vara 形 擇べる贈物を與へられたる, 贈物を賜はりたる; (圖) 已受命 Divy.

datta-śāra 形 (將棋又賽戯に於て) 駒を進めたる, 一手を指し終れる.

datta-śulkā 形 (女) 結納金を納められたる(花嫁).

-datta-hasta 形 手を支へとして與へられたる, 支持せられたる, 助けられたる.

dattātānka (°ta-āt°) 形 (圖)に恐怖を與ふる.

dattātman (°ta-āt°) 形 (養子として) 自己を與へたる, (即ち養子となれる).

dattātreya 男 [聖仙の名].

dattādāna (°ta-ād°) 形 (圖) 施 Śiks.

dattāpradānika 形 贈物の不交付に關する.

dattābhaya 形 安心を與へられたる, 安堵せしめられたる.

dattāmitrā (女) [地名].

dattāvadhāna 形 注意を拂へる, 注意せる.

datti (女) 施物, 贈物.

dattottara (ta-ut°) 形 返答を與へられたる, 判決を下されたる.

dattotsava (°ta-ut°) 形 歡喜を與へられたる.

dattra 甲 (Indra 神の) 贈物.

dattrima 形 寄附物として受けたる或は與へられたる, 養取したる(子又は奴隸).

dattvā, [Dā の (不裏分)].

dattvādāna (°vā-ād°) 甲 (圖) 與奪, 與而奪 Mvyut.

datra 甲 財産; (圖) 物品, 貨物.

datravat 形 富める.

dada 形 與ふる, 授くる; (圖) 施 Lal-v. → abhaya-m ~.

dadāti 男 施物, 贈物.

dad-āyudha 形 齒を武器とせる.

dadi 形 (藥)を與ふる, 贈る.

dadṛśāna-pavi 形 (その人の) 車の轍が現れたる.

dadru (女) [Dri] 皮膚發疹(の一種); [癩病の一種].

dadru-kuṣṭha 甲 [同上].

dadru-roga 男 [同上].

dadru-rogin 形 癩病の.

dadrū (女) =dadru; (圖) 瘡 Saddh-p.

dadrūya 男 (圖) 瘡 Saddh-p.

dadh, [DHā の (圖) 現 圖].

dadhan, [dadhi の (圖) 圖].

dadhi 甲 [DHe] 酸乳, 凝乳; (圖) 酪, 酥, 乳酪; 酪 (海) Divy., Lal-v., Saddh-p., Lan̄k., Mañj-m., Śiks., Dharm-s., Mvyut., 梵雜.

dadhi-karnā 男 [(凝乳の) 耳即ち乳白色の耳を有する), 或る猫の名].

dadhi-kulyā (女) 凝乳の流.

dadhi-krā (女) [或る聖馬の名(朝日の人格化)].

dadhi-krāvan 男 [同上].

dadhi-gharma 男 温き dadhi の灌奠.

dadhittha 男 [樹木の名(學名 *Feronia elephantum*. その實に凝乳の如き味あるを以てかく呼ばる)].

dadhi-drapsa 男 (圖) (圖) 酸乳より製せる乳漿.

dadhi-puccha 男 [(凝乳の) 尾即ち乳白色の尾を有する), 或る豹の名].

dadhi-prṣātaka, 凝乳混合物(の一種).

dadhi-pradyotika 男 (圖) 酥燈, 酥油炷 Śiks.

dadhi-bhāṇḍa 甲 酸乳の壺.

dadhi-maṇḍa 男 酸乳脂; (圖) 酪水, 酪漿 Mvyut.

dadhimaṇḍoda (°da-uda) 形 水の代りに酸乳脂を有する(大海).

dadhimaṇḍodaka (°da-ud°) 形 [同上].

dadhi-mantha 男 dadhi を攪拌して得らるゝ飲料.

dadhi-mukha 男 [蛇の一種]; [或る Nāga の名]; [或る猿の名].

dadhi-vāhana 男 [王侯の名].

dadhi-saktu 男 (圖) 凝乳と小麥粉との混合食.

dadhi-sambhava 形 凝乳より製したる.

dadhica 男 [聖仙の名 (Indra 神の武器を製する爲め 己の身を犠牲にしその骨を以て材料となさしむ)].

dadhici 男 [同上].

dadhr̥k 甲 大膽. 圖 大膽に, 強く; 堅固に; 嚴格に.

dadhr̥ṣ 形 [男 甲 女 共に (圖) -k] 大膽なる.

dadhr̥ṣvas (三過分) 敢行せる.

dadhyac 男 =dadhica.

dadhy-anna 甲 凝乳と共に煮たる米.

dadhy-āśir 形 凝乳を混じたる (Soma).

dadhy-uttara 甲 =dadhi-maṇḍa.

dadhy-odana 甲 凝乳と共に調理せる麩包粥.

danāyus (女) [Dakṣa の娘の名].

danu (女) [Dakṣa の娘にして Dānava の母の名]. 圖

[Śrī の息子の名].

danu-kabandha 男 [或る悪魔の名].

danu-ja 男 *Danu* の子 *Dānava*.

danu-sambhava 男 [同上].

dant 男 [dat の 韻 音. 唯だ 韻 dan のみに限る] 齒.

danta 男 (甲) 齒; 牙, 象牙; 山の峯; [一° 形 (女 -ā, -i)]; 齒, 牙, 牙齒 *Saddh-p., Lan̄k., Bodh-c., Abh-vy., Mvyut., 梵.*

dantaka 形 (一°) の齒の.

danta-kānda 男 (甲) (河馬の) 牙.

danta-kāra 男 象牙細工人.

danta-kāṣṭha (甲) 齒を淨むる (爲に噛む) 木片; *danta-kāṣṭha* にて齒を淨むること; 齒牙, 牙杖, 楊枝, 木杖 *Prāt-m., Śikṣ., Vajr-s., Mvyut., 梵.*

danta-kośa 男 奮 (に比すべき) 象牙.

danta-ghāṭa 男 = *danta-kāra*.

danta-ghāṭaka 男 [同上].

danta-ghāta 男 噛むこと.

danta-cchada 男 (齒の覆ひ), 唇.

danta-janman (甲) 齒の生長.

danta-jāta 形 齒の生えたる.

danta-darsana (甲) 齒を現はすこと.

danta-dyut (女) 齒の輝き.

danta-dhāva 男 齒を淨むること.

danta-dhāvana (甲) [同上]; 齒を淨むる (爲に噛む) 木片.

danta-niškāṣita 形 齒を現せる (豺).

danta-pattra (甲) 象牙製の耳飾 (の一種).

danta-pattrikā (女) [同上]; 櫛.

danta-pavana (甲) 齒を淨むる (爲に噛む) 木片.

danta-pāñcālikā (女) 象牙の人形.

danta-pāli (女) 象牙の劍の柄.

danta-pāvana (甲) = *danta-dhāva*.

danta-pura (甲) [*Kalinga* の首都の名 (佛陀の遺齒の町)].

danta-prakṣāḷana (甲) 齒を淨むること, 齒を清むる方法.

danta-praveṣṭa 男 (?) 象牙の周囲の環状物.

danta-bhaṅga 男 齒の破壊すること又は裂くること.

dantamaya 形 象牙製の.

danta-mala (甲) 齒垢; 齒垢 *Mvyut.*

danta-māmsa (甲) 齧齧, 齒肉; 牙齦 *Mvyut.*

danta-mālā (女) 齒鬘, 牙齒 *Bodh-bh.*

danta-mudrā (女) 齒牙印 *Divy.*

danta-mūla (甲) 齒の根.

danta-mūliya 形 齒根に屬する, 齒音の (字).

danta-racanā (女) = *danta-dhāva*.

danta-rajās (甲) = *danta-mala*.

danta-roga 男 齒の病, 齒痛.

danta-vakra 男 [王侯の名].

danta-varṇa 形 象牙の光澤を有する, 白く輝ける.

danta-vāñijya (甲) 象牙商.

danta-vāsas (甲) (齒の覆ひ), 唇.

danta-vighāta 男 噛むこと.

danta-viñā (女) (齒の *viñā* 琵琶), 齒をカチカチせし

むること. \sim *m vādaya* (寒さの爲) 齒を *viñā* の如くにカチカチせしむ.

danta-veṣṭa 男 齒齧; (兩) 上下の齒齧; 齒齧の腫脹.

danta-vaidarbha 男 外傷による齒の弛み.

danta-vyāpāra 男 象牙細工すること.

danta-śuddhi (女) = *danta-dhāva*.

danta-śūla 男 (甲) 齒の病, 齒痛.

danta-śodhana (甲) = *danta-dhāva*.

danta-saṅgharṣa 男 齒ぎしりをなすこと.

danta-hastin 形 牙と長鼻とを有する (象).

dantāgra (甲) 齒の先端.

dantāñji 形 齒を示す.

dantā-danti (男) 齒にて齒を即ち噛み合ひて (格闘者か).

dantāntara (甲) 齒の間隙.

dantāntara-gata 形 齒の間隙に挿まりたる.

dantāntar-adhiṣṭhita 形 [同上].

dantāli (° *ta-āli*) (女) 齒の列.

dantālikā (° *ta-āl°*) (女) 馬勒, 銜轡.

dantā-vala 男 象; [人名].

dantāvali (° *ta-āv°*) (女) 齒の列; 齒 (列) *Saddh-p.*

dantāśliṣṭa (° *ta-ās°*) 形 齒に絡まれる.

danti-danta 男 象牙.

danti-dantamaya 形 象牙製の.

dantin 形 牙を有する. 男 象.

dantila 男 [人名].

danti-stha 形 象に乗れる.

dantura 形 出齒の; 不揃の; (一°) にて雜然と散らばれる, ……に充ちたる; 醜き; 擦牙, 鋸齒 *Mvyut.*

danturaka 形 出齒の.

danturatā (女) 醜惡.

danturaya (名動) (他) *danturayati* (具) を散らす或はにて充たす. (過受分) *danturita* (一°) を散在せしめられたる, ……にて充されたる.

dantocchiṣṭa (° *ta-uc°*) (甲) 齒間に残れる食物.

dantolūkhālika (° *ta-ul°*) 形 白の如くに齒を用ふる即ち搗かざる穀物を齒を以て噛み碎く (苦行者). 男 苦行者, 隱者.

dantolūkhālin (° *ta-ul°*) 形 [同上 (形)].

dantya 形 齒音の (字); 齒に適したる. 男 齒音.

dandaśūka 形 咬む; 悪性の. 男 蛇 (の一種); [地獄の名].

dandhvana 男 [蘆の一種].

dabdhi (女) 傷害.

Dabh, Dambh (因). (他) I. *dabhati*; V. *dabh-noti* 傷つく, 害す, 破壊す; 欺く. (使役) (他) (自) *dambhayati* (-te) 遠ざく, 破壊す. (希求) (他) *dip-sati* 傷つけんと或は破壊せんと欲す.

dabha 形 欺く.

dabhiti 男 毀損者, 敵; [人名].

dabhya (未受分) 欺かれ易き; 詐欺的の.

dabhra 形 小なる, 缺けたる; 些細の; 小, 少 *Mvyut.* \sim *m* (男) 幽かに. (甲) 苦痛, 艱難.

dabhra-cetas 形 小心の.

dabhra-buddhi 形 [同上].

Dam, IV. 他 dāmyati 馴らす; 馴らす, 屈服せしむ, 征服す; 調, 調伏, 柔伏 *Saddh-p., Lañk., Abh-vy.* 通受分 dānta 馴れたる, 温順なる; 平穩なる, 平靜なる, 制御せられたる, 感情を抑制せる, 忍耐強き. 使役 他 damayati 馴らす; 制御す, 屈服せしむ, 抑制す; 調伏, 化, 迴心受化 *Divy., Bodh-bh.* 使役 通受分 damita 馴れたる, 屈服せる. pari- 調伏 *Aṣṭ-pr.*

dam, 家 [唯だ°— 及び 國 種 damām のみ].

dama 1. 男 甲 家, 住居, 家庭.

dama 2. 形 (一°) を馴らす, ……を屈服せしむる. 男 自制, 意志強固; 刑罰, 罰金; [(勝利者), *Damayanti* の兄弟并に他の諸人の名]; 調, 調伏, 調順, 柔善 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Rāṣṭr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.*

damaka 形 (一°) を馴らす, ……を訓練する; 調御 *Sam-r.* → *aśva* ~, *puruṣa* ~.

dama-ghoṣa 男 [國王の名 (*Śiśupāla* の父)].

damaghoṣa-ja 男 [*Śiśupāla* の 父系].

damaghoṣa-suta 男 [同上].

damatha 男 自制, 克己; 懲戒, 刑罰; 調意, 調伏, 調伏意, 善處, 住善 *Sukh-vy. I., Mvyut.*

dama-dāna 甲 (兩) 自制と布施.

damana 形 (女 -i) (一°) を馴らす, ……を屈服せしむる. 男 調馬師, 馭者; [*Damayanti* の兄弟の名]; [植物の名, 學名 *Artemisia indica*]; [*Samādhi* の名] (*Kār-vy.*). 甲 馴らすこと, 屈伏せしむること; 懲懲すること; 調伏, 善調 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Abh-vy.*

damaṅaka 男 [人名]; [或る豺の名].

damana-vidhi 男 懲戒の規則, 抑制の方法.

damayanti 女 [使役 通受分] [(女の勝利者), *Nala* の妻の名].

damayitr 男 調御者, 馴らす人, 懲らす人; [*Viṣṇu* 神の稱]; [*Śiva* 神の稱].

dama-śaririn 形 己の肉體を抑制する.

damita 使役 通受分 → *Dam.*

damitr 男 = *damayitr.*

damin 形 自制せる; (一°) を屈服せしむる.

damūnas 形 家又は家族に屬する或は親しき (*Agni* 神等). 男 家の友.

damopeta (°ma-up°) 形 自制を辨へたる.

dam-pati 男 戸主; 主人及び主婦; 夫と妻; 一對; 夫婦 *Mvyut.*

Dambh, → *Dabh.*

dambha 男 詐欺, 虚偽, 偽善, 欺瞞; 詐譎 *Mvyut.*

dambhaka 形 (一°) を欺瞞する, ……を惑はす.

dambhana 形 (一°) を損ふ. 甲 欺くこと, 欺瞞.

dambha-muni 男 偽善的苦行者.

dambha-yajña 男 虚偽の供儀.

dambhin 形 詐欺の; 自矜高 [*<stambhin?*] *Saddh-p. 48.* 男 詐欺者, 偽善者, 不正直者.

dambhodbhava (°bha-ud°) 男 [王侯の名].

dambholi 男 *Indra* 神の雷霆.

dambholi-pāṇi 男 (*Dambholi* を手に持てる) *Indra*

神.

dambholi-pāta 男 *Indra* 神の雷霆の落下.

dambholipātāya 名 動 自 *dambholipātāyate* *Indra* 神の雷霆の如く落下す.

damya 未受分 馴らさるべき; 調御 *Bodh-bh., Mvyut.* → *puruṣa* ~ *sārathi.* 男 尙ほ馴らさるべき牡犢.

damya-sārathi 男 調御士 *Bodh-bh.*

Day, I. 自 *dayate* 分割す; 切れ切れに分つ, 破壊す, 消耗す; 割當つ; 所有す; (業, 國) に同情す, ……を憐愍す; 後悔す. 通受分 *dayita.* → *dayita.* *nir-ava-* (業) を (國) を以て或は (國) に関して満足せしむ.

dayā 女 (國, 因, 一°) への同情, 憐憫; 悲, 慈, 慈悲, 慈心, 慈悲心, 哀憐, 悲愍, 哀愍, 憐愍, 愍護, 仁恕 *Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Daś-bh., Sūtr., Śikṣ., Bodh-c., Vajr-s.* ~ *m Kr,* (國, 因) に同情を寄す.

dayā-citta 形 憐愍, 慈心, 哀愍心, 有哀憐心, 救護心 *Gaṇḍ-vy., Sam-r., Bodh-bh.*

dayā-cittatā 女 憐愍心 *Śikṣ.*

dayānvita (°yā-an°) 女 憐愍に充されたる; 慈悲 *Bodh-c.*

dayārdra-bhāva (°yā-ār°) 男 同情ある親切.

dayālasa (°yā-al°) 形 憐憫を好まざる (*Buddh-c.*).

dayālu 形 (因) への憐愍ある.

dayālutā 女 (因) への憐憫.

dayālutva 甲 [同上].

dayāvat 形 (國, 因) に對し同情ある; 慈 *Av-s.*

dayita 通受分 [*Day*] 愛されたる, 親愛の. 男 愛する人, 夫.

dayitā 女 愛する女, 妻; 妻 *Rāṣṭr.*

dayitāmaya 形 愛する女に專注せる.

dara 形 —° 裂くる, 粉碎する; °— 少しの. ~ *m* 甲 少しく. 男 [女 *dari*] 裂目, 穴, 洞. 男 恐怖; 貝殼.

daraṇa 甲 破裂, 破壊.

dara-timira 甲 恐怖の闇.

darad 男 (種) [民族の名].

darada 男 (種) [同上].

darada-lipi 女 (種) (書) 陀羅書, 陀羅多書 [隋書鳥場邊山], 達羅陀書 *Lal-v. 196.*

dara-vikasita 形 少しく開きたる, 開き初めたる.

dara-vidalita 形 [同上].

dara-ślatha 形 少しく弛みたる.

dari 男 [或る *Nāga* の名].

daridra 形 [*Drā* の 種] 彷徨せる; 乞食の, 貧しき; (因, 一°) を開ける; 貧, 貧窮, 貧乏, 貧乏, 貧賤, 窮乏, 匱乏; 貧人, 貧窮人, 貧乏者, 貧苦者 *Lal-v., Av-s., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Lañk., Śikṣ., Bodh-bh., Bodh-c., 梵千., 梵雜.* 男 乞食.

daridraka 形 窮, 貧窮 *Saddh-p.*

daridra-kula 甲 貧家, 貧家 *Śikṣ.*

daridrat 形 貧しき.

daridratā 女 貧乏, 貧窮; 貧賤 *Śikṣ.*

daridratva 甲 [同上].

daridra-bhūta 形 貧乏, 貧窮下賤 *Saddh-p.*
 daridra-vithi 女 貧里 *Saddh-p.*
 daridra-sattva 女 貧窮衆生, 貧窮之者 *Suv-pr.*
 daridrā, → Drā.
 daridri-kṛtya 不変辭 徘徊せしめて.
 daridri-bhūta 形 貧窮せる.
 dari 女 裂目, 穴, 洞; 山洞 *Mvyut.*
 dari-guhā 女 穴 *Lal-v.*
 dari-bhṛt 男 (洞穴を有する), 山.
 darimat 形 洞穴に富める.
 dari-mukha 中 洞穴の如き口; 洞穴の入口; 口の如き洞穴. 男 [或る猿の名].
 dartṛ 形 破る. 男 破る者.
 dardara 男 山, 深谷, 窪地.
 dardura 男 [Dri の 韻意] 蛙; 横笛; [南方の山脈の名]; [諸人の名].
 darduraka 男 [或る賭博者の名].
 dardru 男 [鳥の一種]; [皮膚發疹の一種]; 瘡, 瘡 *Mvyut.*
 darpa 男 (因, 於) に於ての粗野, 放縱, 厚顔, 尊大, 傲慢; 慢, 高慢, 憍慢, 放逸 *Buddh-c., Lal-v., Lan̄k., Rāṣṭr., Śikṣ.* → māna ~
 darpaka 男 [同上]; [Kāma 神の稱].
 darpaṇa 男 (自負を起す), 鏡; [屢々書物の題名に於て一°]; 鏡, 明鏡 *Lan̄k., Sūtr.*
 darpaṇamaya 形 鏡より成れる.
 darpaṇāntargata 形 鏡中 *Lan̄k.*
 darpaṇikā 女 鏡.
 darpa-pūrṇa 形 自負に充ちたる, 高慢なる.
 darpa-bahulatā 女 過度の自負, 非常なる傲慢.
 darpa-sambhava 形 放逸生 *Lan̄k.*
 darpa-sāra 男 [人名].
 darpita 使役 通受分 → Drp. 貢高 *Mvyut.* → māna ~.
 darpita-pura 男 [町の名].
 darpopāśānti (°pa-up°) 女 自負の鎮靜.
 darbha 男 叢; 祭祀に用ふる草 [特に Kuśa 草, 之を撒布・拂拭并に他の用途に用ふ]; [人名]; 草, 茅 *Divy.*
 darbhaka 男 [王侯の名].
 darbha-cira 中 Darbha 草にて作れる衣服.
 darbha-civara 中 草衣 *Divy., Suv-pr.* 形 結茅爲衣, 著於草衣 *Divy.*
 darbhana 中 草の蓆.
 darbha-taruṇaka 中 Darbha 草の若苗.
 darbha-piñjūla 中 草の束.
 darbha-piñjūli 女 [同上].
 darbha-puñjila 中 [同上].
 darbhamaya 形 (女 -i) Darbha 草にて製したる.
 darbha-muṣṭi 男 女 一握の Darbha 草.
 darbha-samstara 男 Darbha 草の寢床.
 darbha-sūci 女 Darbha 草の尖端.
 darbha-sūci 女 [同上].
 darbha-stamba 男 Darbha 草の束.
 darbhi 男 [人名].
 darman 男 破壊者.

daryaka 男 [人名].
 darva 男 匙; (因) [民族の名]; [人名].
 darvi 女 匙; 蛇の鎌首.
 darvika 男 匙; 杓 *Mvyut.*
 darvikā 女 [同上]; 杓, 杓兒 *Mvyut.*
 darvi-bhṛt 男 匙状の鎌首を有する蛇.
 darvi-homa 男 匙を以て行ふ灌奠.
 darvi 女 = darvi; 酌 梵雜.
 darvi-kara 男 = darvi-bhṛt.
 darśa 形 (一°) を視る, ……と見做す. 男 見ること; 出現; 新月; 新月の日又は祭.
 darśaka 形 (因) を見る, ……を認むる; (因, 一°) を見せしむる, 示す, 指示する, 露はす, 顯著ならしむる; 示 *Lal-v.: lohitasya* ~ 血を流さしむる, 血を出さしむる.
 darśata 未受分 (因) 見得る; 顯著なる, 美麗なる.
 darśana 形 (女 -i) (一°) を見る, 眺むる; 知る; 示す, 教ふる; 看, 觀, 覲, 見, 見照; 望; 如 *Divy., Saddh-p., Lan̄k., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.* → priya ~. 中 1. [因の意味にて] 見ること, 眺むること, 凝視すること; (一°, 因) の觀察, ……との會合, ……の訪問, ……への出席; (因) の崇敬; 視力; (因) の批評; (一°) の研究, ……の調査; (一°) の先見; 知覺, 悟性, 内觀; (一°) の認識; 意見, 意向; 教義, 哲學的體系; 2. [因の意味にて] 見ゆること, 出現, 出席, (法廷への) 出頭; 事, 記述 (特に權威ある著作中の); 化現, 幻影, 夢; 3. [使役の意味にて] 示すこと; [具體的の意味にて] 眼; [屢々一°は形] (一°) の外觀を有する, ……と見ゆる; 見, 能見, 可見, 深見, 知見, 見照, 觀, 觀察, 觀觸, 觀視, 視, 覲, 覲見, 覲, 親覲, 瞻, 瞻視; 現, 示現, 現見, 顯現, 顯; 逢遇; (回顧) 望; 眼, 眼見, 眼見法, 眼見義 *Divy., Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Sam-r., Rāṣṭr., Prāt-m., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Nyāy-pr., Madhy-v., Madhy-vibh., Sāṃkhy-k., Mvyut.*; 證 *Sūtr.: tathāgata* ~ 現諸佛 *Aṣṭ-pr. 942.*; *buddha* ~ 見佛 *Rāṣṭr. 12.* → anika ~. ~ m Dā 自己を示す, 顯はす.
 darśana-kāṅkṣin 形 見んことを渴望する, 見んとする.
 darśana-gṛha 中 謁見室.
 darśana-gocara 男 視界.
 darśana-patha 男 [同上]; 見路 *Bodh-bh.: e…sthātavyam* 相見 *Divy. 563.*; *a…evya* *vasthāpitau* 教令…不得相見 *Divy. 571.*
 darśanapatha-gata 形 眼界に入れる, 見得る.
 darśana-paritṛṣita 形 渴仰欲見, 一心欲見, 思慕…如渴欲飲 *Gand-vy.*
 darśana-pāla 男 [人名].
 darśana-pratibhū 男 出現の保證.
 darśana-prahātavya 形 見所斷, 以見棄事 *Mvyut.*
 darśana-prātibhāvya 中 出頭の保證 (法廷への).
 darśana-bhūmi 女 見地 *Mvyut.*
 darśana-mārga 男 見道, 見道位, 見 (諦) 道, 見 (諦) 位 *Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*

darśana-lālasa 形 = darśana-kāṅkṣin.

darśanavat 形 視力を具せる。

darśana-viṣaya 男 (國) の視界の中に在ること。

darśana-vainayika 形 見已而調伏者 *Gaṇḍ-vy.*

darśana-śrava 男 見聞 *Lal-v.*

darśana-heya 形 見所斷, 見(諦)所滅 *Abh-vy.*

darśanānuttarya (°na-ān°) 甲 見無上 *Mvyut.*

darśanāntara-gata 形 視界に入れる, 見得る。

darśanārtha 形 見んと欲する, 訪問せんと欲する。

〜m 圖 見る爲に, 訪問して; 求見 *Sāṃkhy-k.*

darśanāvaraṇa (°na-āv°) 甲 感覺的認識の障礙。

darśanāvitrpta 形 瞻仰無厭, 懇懇瞻仰 *Gaṇḍ-vy.*

darśaniya 未受分 [音連] = darśaniya] *Saddh-p.*

darśaniya 未受分 見得べき; 見らるゝ價值ある, 美しき, 外見良き; 示さるべき; (法廷に)出頭せしめらるべき; 好看, 堪看, 所樂見, 可樂見, 端正可觀, 願樂欲見, 可喜; 人樂觀, 人所樂觀, 人所樂見, 衆人喜見, 衆所樂見, 見者歡喜; 美, 端正, 顔容殊妙 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Siks., Mvyut.*

darśaniyatā 女 衆所樂見 *Bodh-bh.*

darśanotsuka (°na-ut°) 形 = darśana-kāṅkṣin.

darśanodyukta (°na-ud°) 形 樂見 *Divy.*

darśa-pa 男 (國) [或は神群の名].

darśa-pūrṇa-māsa 男 (國) 新月と満月; 新月と満月との供儀。

darśam 圖 見る度毎に。

darśayitavya 未受分 示さるべき。

darśayitu-kāma 形 示さんと欲する。

darśayitr 男 (國) の表示者, 指導者; 案内人; 開, 開示, 開示者, 作見, 能正顯了 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*

darśayitri 女 能照 *Aṣṭ-pr.* → mārga〜.

darśayitvā 不変分 現他 *Sāṃkhy-k.*

darśāpita 使役 通受分 見せしめられたる, 示されたる。

darśika 形 顯 *Sūtr.*

darśita 使役 通受分 → Drś. 顯示, 顯現 *Abh-vy.*

darśita-prita-kara 形 令瞻敬 *Siks.*

darśitva 甲 見 *Abh-vy.*

darśin 形 見る, 視る, 注意する, 見做す; 見たる; 知る, 理解する; …の様子, …に見ゆる; 經驗する或は經驗せる; (收入を)受くる; 作製する或は作製せる; 示す, 教ふる; 見, 深見, 見爲, 知見, 有見, 觀, 視; 解; 懷; 見者…生… *Lal-v., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut.;* sarva-tathāgata〜 見諸佛, 見一切如來 *Aṣṭ-pr. 942.;* yathā-bhūta-dharma〜 見法實性, 解眞實法 *Gaṇḍ-vy. 350.*

darśya 形 見らるゝ價值ある。

Dal, I. 他 **dalati** 破裂す, 裂く, 開く(蕾が)。(通受分)

dalita 破裂せる, 引裂かれたる, 寸斷せる; 散亂せる; 破壊せられたる。(使役) **dālayati** 破裂せしむ; 散布す; 粉碎す。

vi- 片々に破裂す, 破碎す。(通受分) **vidalita** 打碎かれたる, 碎破せられたる; 押し開きたる, 開花せる。

sam- (通受分) **saṃdalita** 貫通せる。

dala 甲 斷片, 細片; 部分; 半分; 葉; 花瓣(自ら開く); 葉 *Mvyut.*

dala-kośa 男 [素馨樹の一種].

dalana 甲 破裂すること; 破れること, 碎けること; 粉碎すること; 絶滅; 截, 裂 *Gaṇḍ-vy.* [刊本は dālana]: sarva-dr̥ṣṭi-gata-jāla〜 截一切邪見網, 截一切諸邪見網, 裂一切諸邪見網 *Gaṇḍ-vy. 117.*

dalaśas 圖 片々に, 粉微塵に; [Yā と俱に] 粉微塵となる, 粉碎す。

dalādīva (°la-ād°) 甲 葉等の状態。

dalita (通受分) → Dal.

dava 男 [Du] 森の火事; 燃ゆること, 熱。

davathu 男 燃焼, 熱, 苦痛; 炎症。

dava-dahana 男 森の火事の火。

dava-dāna 甲 森に火をつくること。

davāgni 男 = dava-dahana.

davānala 男 [同上].

daviṣāṇi, [Du(?) = Div I. 「賭博す」の唯一の形なる。

命 一入 圖 賭博す。

daviṣṭha 形 [dūra の最上] 最も遠隔の。

daviyas 形 [dūra の比較] 非常に遠隔の; 非常に長き; 最長 *Mvyut.* (甲) 圖 更に遠く。

Daś, → Daś.

daśa 數 一° = daśan; 十 *Mvyut.*

daśaka 形 十より成れる, 十を含める, 十重の, 十部の。甲 十, 十より成る一組; 十 *Mvyut.*

daśa-kaṇṭha 男 [(十の首ある), *Rāvaṇa* の稱].

daśakaṇṭhāri 男 [(*Rāvaṇa* の敵), *Rāma* の稱].

daśa-kandhara 男 = daśa-kaṇṭha.

daśa-kumāra-carita 甲 十王子の冒險 [*Dandin* 作の小説の題名].

daśa-kumāra-caritra 甲 [同上].

daśa-kuśala 形 十善 *Aṣṭ-pr.:* ~āḥ karma-pathaḥ 十善業道 *Aṣṭ-pr. 334.;* ~upeta-kāya-vāg-manas-karmānta 身語意業具諸十善者 *Mvyut.*

daśa-kuśala-karma-patha 男 十善業道, 十善業, 十善道 *Aṣṭ-pr., Suv-pr.*

daśa-kṣiti-garbha 男 [佛教經典の名].

daśa-gu 形 十匹の牝牛を有する。

daśa-guṇa 形 十倍の, 十倍大の或は多き。〜m 圖 十重に。

daśa-guṇita 形 十倍せる。

daśa-grāma-pati 男 十村の長。

daśa-grāmi 女 十村の集合。

daśa-griva 男 = daśa-kaṇṭha; [或は *Daitya* の名]; 十首, 十頭 *Lank.*

daśa-gva 形 十より成れる。男 [或は *Angiras* の名].

daśa-gvin 形 十倍の。

daśa-candra 形 十箇の月形の斑點を有する。

daśa-cchadin 形 十葉を有する。

daśat 女 十, 十より成る一組。形 十より成る。

daśataya 形 (女-i) 十重の, 十區分より成れる。

- daśatayi** 女 (複) [Rg-veda の十部 (Maṇḍala) の原典の稱].
- daśati** 女 = daśat; Sāma-veda に於て十頌より成る一詩節.
- daśa-daśāvayava** 形 各々十の部分を含める.
- daśa-daśin** 形 一組十のもの數箇より成れる.
- daśa-dāsa** 男 (複) [民族の名].
- daśa-dik-samāpūrṇa-yaśas** 男 (複) [佛の名] 名 聞十方 Divy.
- daśa-dig-vyavalokana** 男 [Samādhi の名] (Kār-vy.).
- daśa-diś** 女 (單) 十方; (複) 十方 *Lank.*, *Sikṣ.*: ~i loke 於十方界 *Suv-pr.* 24.
- daśa-diśa-stha** 形 (複) 十方 *Suv-pr.*
- daśad-diś** 女 [= daśa-diś]; (複) 十方 *Suv-pr.* 24.
- daśa-dharmaka-sūtra** 中 (複) 十法經 *Sikṣ.* [大乘十法經, 大寶積經第九會十法經].
- daśa-dharma-sūtra** 中 (複) [經の名] 十法經 *Sikṣ.* → daśa-dharmaka-sūtra.
- daśadhā** 副 十部分に, 十重に; (複) 十種 *Sāṃkhy-k.*
- daśan** 形 (複) 十の.
- daśana** 男 齒; 噛むこと, 齒にて傷つること; (複) 齒 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*
- daśanaka** 男 小なる齒.
- daśa-nakha** 形 十箇の爪を有する; (複) 十指爪 *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*: ~ kṛtvā (音譯) 合掌, 叉手 *Lal-v.* 56.; ~m añjalim pragr̥hya 合十指爪掌 *Saddh-p.* 458.
- daśanakha-kṛta-kara-puta** 男 (複) 合掌, 叉十指 *Lal-v.*
- daśanakhakṛtakaraputañjali** 形 (複) 合十指掌, 合十指爪, 一心合掌 *Gaṇḍ-vy.*
- daśanakhāñjali** 男 (複) 合掌, 叉十指 *Lal-v.*
- daśana-cchada** 男 唇.
- daśana-pada** 中 齒の痕, 噛むこと.
- daśana-vyaya** 男 齒の喪失.
- daśana-śikhara** 男 (中) 齒の尖端.
- daśanāṃśu** 男 (複) 齒の輝き.
- daśanāntara** 中 齒の間隙.
- daśa-pa** 男 = daśa-grāma-pati.
- daśa-padma** 形 身體に十箇の蓮華狀をなせる部分を有する.
- daśa-pala** 中 (單) 十 pala. 形 十 pala の重量ある.
- daśa-pura** 中 [町の名]; (複) 十層, 十重, 十層級 *Gaṇḍ-vy.*
- daśa-puri** 女 [同上].
- daśa-pūruṣa** 形 系譜上第十番目の, 十代目の.
- daśa-pūrva-ratha** 男 [(人名) *Daśa-ratha* (の義解)].
- daśa-peya** 男 [Soma 祭の一種].
- daśa-bandha** 男 十分の一.
- daśa-bandhaka** 形 十分の一の.
- daśa-bala** 形 (複) 十力 *Aṣṭ-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*; [佛の稱] 十力, (無上)十力, 十力(世尊) *Suv-pr.*, *Mvyut.* → bala.
- daśabala-kāśyapa** 男 [佛弟子の名].
- daśabala-bālin** 男 (複) [佛の稱] 滿足十力 *Divy.*
- daśabala-sūtra** 中 (複) [經の名] 十力經, 十力修多羅 (音譯) *Bodh-bh.* [十力經, 佛十力經].
- daśabalāgratas** 副 (複) 十力前 *Suv-pr.*
- daśa-br̥hat** 形 身體の十箇の大なる部分を有する.
- daśa-bhūmaka** 男 (複) [經の名, = daśa-bhūmika] 十地(經) *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*, *Prajñ-vy.*
- daśabhūmaka-sūtra** 中 (複) [經の名, = daśabhūmika-sūtra] 十地經 *Sikṣ.* [十住經, 大方廣佛華嚴經十地品等].
- daśa-bhūmi** 女 (複) 十地 *Suv-pr.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*: ~ mu hi sthitvā 已得安止住十地(者) *Suv-pr.* 24.
- daśa-bhūmika** 中 (複) [經の名, = daśa-bhūmika] 十地, 十地(經) *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
- daśabhūmika-sūtra** 中 (複) [經の名, = daśabhūmika-sūtra] 十地經 *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
- daśabhūmiśvara** (°mi-iś°) 男 [經の名, = daśabhūmika-sūtra].
- daśama** 形 (女 -i) 第十の; (複) 十 *Lank.* 中 十分の一. ~m 副 十回目.
- daśa-matsya-sahasra** 中 (複) 十千魚 *Suv-pr.*
- daśa-mārikā** 女 [人名].
- daśa-māśya** 形 十箇月を経たる.
- daśamin** 形 九十歳より百歳までの.
- daśami** 女 [tithi と俱に] (半月中の)第十太陰日; 人生の第十期即ち九十歳より百歳.
- daśami-stha** 形 人生の第十期に在る, 滿九十歳以上の.
- daśa-mukha** 男 [(十の顔ある), *Rāvaṇa* の稱]. 中 (複) 十箇の口.
- daśamukha-ripu** 男 *Rāvaṇa* の敵, [*Rāma* の稱].
- daśa-yantra** 形 十の馬勒を有する; 十の汲水機を有する.
- daśa-yojana** 形 十回括り付けられたる. 中 十 yojana の距離.
- daśa-yojani** 女 [同上 (中)].
- daśa-ratha** 男 [諸王の名, 特に *Rāma* の父なる *Ayodhyā* の王の稱]; (複) 十車 [王の名] *Buddh-c.*, [轉輪王の名] 十乘, 廣車 *Mvyut.*
- daśa-raśmi-śata** 男 (千の光線ある), 太陽.
- daśa-rātra** 男 (中) 十日の期間. 形 十日間繼續する. 男 十日間の祭.
- daśa-rūpa** 中 (單) (戲曲の)十種類; [*Dhanamjaya* (第十世紀)の著せる戲曲・修辭論の題名].
- daśa-rūpaka** 中 [同上].
- daśarca** (°sa-ṛca) 十の頌 (ṛc) より成れる(讚歌).
- daśa-lakṣaṇa** 形 十の事物に關する.
- daśa-lakṣaṇaka** 形 十の特徴を有する, 十重の.
- daśa-vaktra** 男 = daśa-mukha; [或る呪文の名].
- daśa-vadana** 男 = daśa-kaṇṭha.
- daśa-varga** 男 十箇の集合; (複) 十僧 [僧は saigha の (音譯) *Vin.*: ~eṇa sammukham 十僧現前 *Vin.* 3. 形 十箇の集合を形成せる (*Divy.*).
- daśa-varṣa** 形 十歳の.
- daśa-varṣin** 形 [同上].
- daśa-varṣiya** 形 [同上].

daśa-vāra 形 十回繰返されたる。
daśa-vārṣika 形 (女-i) [同上]; 十年間繼續せる; 十年後に起る。
daśa-vidha 形 十種の, 十重の; 十, 十種 *Sāṃkhy-k., Bodh-bh.*
daśa-vira 形 十人を賦與する。
daśa-śata 甲 一百十; 一千。形 一千を數ふる。
daśaśata-kara-dhārin 形 千の光線を有する(月)。
daśaśata-nayana 男 [同下]; 千目, 帝釋千目, 帝釋, 釋提桓因 [=śakra devānām indrah] *Lal-v., Mvyut.*
daśaśata-locana 男 [(千眼を有する), *Indra* 神の稱]。
daśaśata-vaśa-varti-prativīṣiṣṭa 男 佛の名] 於諸自在最為殊勝 *Divy.*
daśaśatākṣa 形 =daśaśata-locana.
daśaśatāra 甲 (*Viṣṇu* 神の)千輜(の圓盤)。
daśa-śati 女 一千。
daśa-śiras 形 十の頭を有する, 十の嶺を有する。男 [*Rāvaṇa* の稱]; [山の名]。
daśa-śirṣa 形 十の頭を有する。男 [*Rāvaṇa* の稱]。
daśa-sahaika (°ha-eka) 形 十に一を加ふる。
daśa-sāhasra 形 一萬より成れる。甲 一萬。
daśasya 動 他 **daśasyati** 仕ふ, 尊敬す; 助力す; (爲)を満足せしむ。
daśā 女 縁(フ), 邊(ヘ), 裾, 衣服の縁; ランプの燈芯; 人生の状態, 人生の期(青年, 壯年等), 運命, 年齢, 境遇; 十 *Abh-vy.*
daśāṃśa 男 第十の部分。
daśākṣa 形 [或る呪文の名]。
daśākṣara 男 十音節の, 十綴字の。
daśāṅgula 形 十指の幅の。甲 十指の幅の長さ。
daśādḥaka (°śa-ādḥ°) 男 甲 十 *Abh-vy.*
daśādhipati 男 十(人)の長。
daśānana (°śa-ān°) 男 =daśa-mukha.; [病氣の一種]。
daśānta (°śa-an°) 男 燈芯の終端; 人生の終焉, 死; 甚しき老齡; 消滅。
daśāntaruṣya 甲 十の宿驛間の距離。
daśā-pati 男 人生を支配する星。
daśā-pariṇāma 男 運命の成就。
daśā-paripāka 男 運命の轉變。
daśābdākhyā (°da-ākḥ°) 形 十年間存在せる, 十年の差を有する。
daśāraṇya 男 十 *Abh-vy.* [山の名] 那婆囉咤 *Vajr-s.*
daśārṇa 形 十音節の, 十綴字の。男 (種) [民族の名]; (種) *Daśārṇa* 民族の王。
daśārdha 形 (種) (十の半分)五の。
daśārdhatā 女 死 [身體の五要素に分解すること]。
daśārdha-vayas 形 五歳の。
daśārha 男 *Kṛṣṇa* 神; [民族の名]。
daśālabhin (°śa-āl°) 形 裾を下げたる即ち引き摺る。
daśavat 形 縁(フ)を有する。
daśāvāra 形 少くとも十より成れる。男 [或る惡鬼の名]。
daśāvarta (°śa-āv°) 形 身體に十箇の豐滿なる箇處

を有する。
daśā-viparyāsa 1. 男 運命の顛覆, 不運, 破局。
daśā-viparyāsa 2. 男 十無倒 *Madhy-vibh.*
daśā-vipāka 男 =daśā-pariṇāma.
daśā-viśeṣa 男 特殊の状態。
daśāśva 男 [*Iksvāku* 王の王子の名]。
daśāśva-medhika 甲 十の馬祠祭の聖地。
daśāsya (°śa-ās°) 形 十の口を有する。男 *Rāvaṇa.*
daśāha 男 十日, 十日の期間。
daśikā 女 十 *Abh-vy.*; (上妙)衣 *Sikṣ.*
daśin 形 十重の; 十の部分を有する。男 十村の長。
daśeraka 男 驢馬; 若き駱駝; (種) [民族の名]。
daśeśa (°śa-iśa) 男 十村の支配者。
daśaika (°śa-eka) 形 十一 *Abh-k.*
daśottara (°śa-ut°) 形 第十一の; [經の名] 増十(經), 十増(經) *Abh-vy.*
daṣṭa 通受分 → *Damś.* 所噬 *Lank.:* āśivīsenā ~h 爲毒所中, 爲諸毒蟲所傷害 *Ast-pr. 274.* 甲 嘔むこと。
daṣṭavya 甲 咬む行爲 (*Jāt-m.*)
Das, IV. 他 **dasyati** (因) 缺乏に苦しむ, 消耗す, 衰弱す。現分 (I. 自) **dasamāna.** 使役 自 **dasyate** 衰弱せしむ, 消耗せしむ。
upa- 消耗す, 衰ふ; (從, 屬)に缺く。使役 他 **upadāsyati** 衰へしむ, 終熄せしむ。
dasamāna 現分 → *Das.*
dasma 形 奇蹟を行へる, 不可思議なる。
dasyu 男 [諸神に敵對し, 屢々 *Indra* 神及び *Agni* 神に征服せられたる惡魔の一種], 極惡人, 諸神の敵, 不信者(因); 非婆羅門族の男; 盜賊。
dasyu-jivin 男 盜賊の生活をなす者。
dasyu-jūta 形 *Dasyu* によりて煽動せられたる。
dasra 形 奇蹟を行ふ。男 [*Aśvin* 雙神の一の名]。
Dah, I. 他 **dahati** [終語は又た 自 **dahate**] 焼く, 火にて燼す; 焦す; 破壊す; 苦しましむ, 惱ます, 悲しましむ, 煽動す; 燒, 焚, 焚燒, 燒然 *Divy., Bodh-c., Sikṣ., Abh-vy., Mvyut., 梵雜.* 受 **dahyate(-ti)** 焼かる; 破壊せらる; 心の火に焼き盡さる; 苦しめらる; 所燒 *Saddh-p.* 受 現分 **dahyamāna** 所燒 *Bodh-bh.* 通受分 **dagdha.** → *dagdha.* 使役 **dāhayati** 燃えしむ; 燃す; 調理せしむ。希求 **didhakṣati(-te)** 焼かんとす; 破壊せんとす。種 **dandahiti, dandagdhī, dandahyate** 完全に焼く或は破壊す; 自 **dandahyate** 完全に燃やさる。
ati- 焼く; 完全に乾かす。
ā- 使役 受 燃ゆ, 燃やさる。
ud- 洞然, 熾然 *Sikṣ.*
upa- 焼く, 點火す。通受分 **upadagdha** 焼かれたる, 點火せられたる。
nir- 燒盡す; 完全に破壊す; 燒, 焚燒 *Bodh-c., Abh-vy.* 受 **nirdahyate** 全く焼かる或は破壊せらる; 衰ふ。通受分 **nirdagdha** 焼かれたる, 燃やされたる。使役 **nirdāhayati** 點火を命ず。
anu-nir- 續けて燃やす。
pari- 燃やす, 完全に焼く, 燒盡す; 乾燥す; 種

焚燒 Lal-v. 受 paridahyate 焼かる, 全く焼かる; 焦熱, 所逼 Saddh-p., Abh-vy. 受 現分 paridahyamāna 所焼, 所逼 Saddh-p. 通受分 paridagdha 全く焼かれたる, 焦がされたる. pra- 燃やす, 焦す; 破壊す; 焼蕪 [熱?] Lal-v. 374. 受 pradahyate (-ti) 引火す, 燃ゆ. 通受分 pradagdha 焼かれたる; 破壊せられたる. 使役 pradāhayati 焼かしむ. vi- 焼灼す; 焦す; 火にて破壊す. 受 vidahyate 燃やさる; 焼く. 通受分 vidagdha. sam- 焼盡す, 破壊す. 受 samdahyate 焼かる; 悲痛の爲に憔悴す. 通受分 samdagdha 焼かれたる. 使役 samdāhayati 燃え上らしむ.

daha, [Dah の命 三入 單] 捺賀 Guhy-s. dahana 形 (女 -i) 燃ゆる, 火にて焼盡する; 破壊する [一般に -°]; 焼 Bodh-c. 男 火; Agni 神 [—° 形 (女 -ā)]. 甲 燃燒, 燒盡; 能燒, 熾然 Lank.

dahana-karman 甲 燃やす行爲

dahana-garbha 形 内に(心の)火を有する, (怒にて) 閃く(眼).

dahanatā 女 火たること.

dahanarkṣa (°na-rk°) 甲 星宿

dahana-sārathi 男 風.

dahanātmaka (°na-āt°) 形 その本性が燃焼又は悲しみを生ずることより成れる.

dahara 形 [Dabh] 小なる, 稀薄なる, 薄き; 若年の (Lal-v.); 少, 幼, 壯年, 童子 Lal-v., Saddh-p. 男 鼯鼠(雑?), 麝香鼠; 若者, 小兒; 壯年, 童子 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.

dahra 形 [同上(形)]; 幼, 稚 Bodh-bh. 甲 心臓内の空處. 男 正壯, 少年, 幼輩, 少師 Mvyut. ~m 副 少しく.

Dā I. III. dadāti, datte (業, 圓)を(爲, 圓, 因)に與ふ, 贈る, 交附す; (自己の席を)辭す; (價値の具)の爲に斷念す; 賣る; (科料・賃銀・負債を)支拂ふ; 渡す; 返す; 知らしむ, 教ふ; 名圖 (saṃjñāṃ) をなす; (報道 saṃdeśam) を告ぐ; (祝福を)發言す; (眞理を)語る; (言語を)發す, (爲)に(言葉を)かく; (會合 saṃketakam 又は仕事 prayogam) を手配す; (爲)に自己を捧ぐ或は專注す; (爲)の爲に(道 panthānam 又は mārgam) を作る; (苦痛等を)起す; (不定)を許す, [na と俱に] (不定)を許さず; (自己の姿 darśanam) を與ふ即ち自己を示す; (因)の上に又は中に置く或は横たふ; (因)に(火を)點ず即ち燃やす; (將棋に於て駒 sāram) を動かす; (門 argalam) を押す; (圓)に毒 viṣam) を盛る; (因)の方へ(歩み・視線・思考を)向ける; (因)に耳 kaṣṇam) を與ふ即ち傾聽す; 加ふ; 生ず, 施行す; 著手す; 與, 賜與, 賞與, 施與, 施, 捨施, 給施, 布施, 奉施, 奉, 奉獻, 奉上, 授, 賜, 貢, 付, 惠, 能捨 Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Lank., Bodh-bh., Abh-vy., Śiks., Mvyut., 梵千.: kare kapolam dattvā (不變分) 以手支頰 Av-ś. I. 16.; -kiyatā mūlyena diyate (受) 須得幾錢 Divy. 31.; dānam dadāti 修行布施 Bodh-bh. 33.; yāvad anyatarānyataram pariṣkāram dadāti

合用物施, 乃至施與隨一資具 Mvyut. (不變分) dattvā, dadiya (Lal-v. 241.) 施, 施已, 布施已, 捨施, 奉獻 Lal-v., Abh-vy., Śiks. 受 diyate 捨, 施 Abh-vy. 通受分 datta 與へられたる等. 使役 他 dāpayati (業)に(業)を與へしむ, 渡さしむ, 返さしむ, 言はしむ或は置かしむ(又は之等のことを)命ず或は強ふ; 與へられしむ, 手渡されしむ, 行はれしむ; 獲得す; 勸施 Bodh-bh. 使役 通受分 dāpita (業)を(爲)に與へしめられたる; 與へられたる, 獲得せる. 希求 他 didāsati, ditsati 與へんと欲す, 將に與へんとす: ~ kanyām (結婚に於て)娘を與へんと欲す, 娘を嫁せしめんと欲す.

anu- (爲)に屈す; (業)に於て(爲)に敗る.

ā- [一般に 自] 取る, 受け取る, 獲得す; 専有す; (從)より奪取す, …より取り去る; (勇氣を)損ふ; (從)より引き出す; (從)より(眼を)背く; (心を)捉ふ; 捕ふ, 握る, 攫む; (衣服を)著す; (肩の上に skandhena) 載す; (腕の中に bāhvoh) 抱く; …に参加す; 咬む (土齒にて daśanaiḥ); (飲食物として)攝る; 認む, 觀察す, 感ず; 記す, 記憶す; 受納す, 承認す; 引受く, …に身を捧ぐ; (進路 mārgam 又は pad-dhatim) を取る即ち選ぶ或は(路に)入る; (話等を)始む; 取, 持, 執, 執持, 執捉, 收; 守 Divy., Lal-v., Vajr-pr., Rāṣṭr., Bodh-bh., Abh-vy.; 服食 Buddh-c.: kaḥ kāma-saṃjñāṃ viṣam ādadita [脚註を採る. 刊本は āsasāda] 欲毒誰服食 Buddh-c. 88. 受 ādiyate 執, 執捉 Abh-vy. 通受分 ātta. (不變分) ādāya (業)を取りて即ち…と共に; 取, 持, 執持; 守 Lal-v., Rāṣṭr., Abh-vy. 使役 ādāpayati 取らしむ; 種 Sūtr. 希求 自 āditsate 取らんとす, 捉へんとす; (爲)より取り去らんと欲す.

apā(apa-ā)- 自 取り去る. 通受分 apātta.

ud-ā- 擧ぐ, 揚ぐ. 通受分 udātta.

upā(upa-ā)- 自 受く, 得る, 獲得す; 取る, 専有す, 取り去る; 握る; 取り上ぐ, 集む; (水を)汲む; (火が)つく; 認む, 感ず; (進路を)選ぶ; (不定)し始む; 述ぶ, 記す; 含む; 適用す, 使用す; 身を委ぬ(喜悅・悲歎に); 成し遂ぐ, 終了す; 受, 取, 能取, 能受, 誓受, 攝受; 依; 約 Sapt-pr., Daś-bh., Śiks., Bodh-bh., Abh-vy. 通受分 upātta. (不變分) upādāya 含みて, …の外に; …より; …に依りて; …と俱に; 受け已りて; 取; 依, 約, 爲故, 爲欲故, 故; 從…來 Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut.; 所造 Abh-vy.: anukampām ~ 慈悲故, 哀愍故, 慈憫故 Mvyut.; dipamkara-tathāgatam ~ 從燃燈佛來, 自從燃燈佛來, 於燃燈佛來 Gaṇḍ-vy. 222.; sattvānām paripāka-vinayam ~ 爲化度諸衆生故, 爲欲化度諸衆生故 Gaṇḍ-vy. 350.; yāvad… ~ 至, 從…至… Suv-pr. 112.; an ~ āsravebhyas cittāni vimuktāni 無取漏中心甚解脱 Mvyut.

pary-ā- 權力内に持ち來す; (業)を(從)より取り去る; 除去す, 擲ひ取る; 攫む, 握る; 獲得す, 學ぶ; 返成 Śiks.; 盡 Saddh-p. 受 paryādiyate 滅, 滅盡, 斷絶 Kāśy. prā(pra-ā)- 與ふ, 交附す; 與 Mvyut.

vy-ā- (口を開く; 開 *Abh-vy.* 通受分) vyātta 欠伸せる。

sam-ā- 他 與ふ, 贈る; 取り戻す; 自 集む; …と俱に取り去る; 取り出す, 取り去る; 除去す; 受く, 受領す; 握る, 捉ふ, 捕ふ; 思惟す, 反省す; 受, 受持, 攝受 *Ast-pr., Daś-bh., Sam-r., Sikṣ., Mvyut.* 不棄分) samādāya 受持, 能攝受; 隨順; 獲 *Sapt-pr., Bodh-bh.*; 建立 *Sūtr.:* ~ varteyam 我若隨順轉 *Bodh-bh. 189.* 便役) samādāpayati 取らしむ; 勸む; 喚起す; 教, 教化, 教行, 教令, 教授, 教持, 教導; 勸, 勸導, 勸受, 勸令, 勸行, 勸勉, 勸化, 勸諭, 勸修, 勸令修學, 令修 *Divy., Ast-pr., Saddh-p., Bodh-bh.*; 讚 *Vin.:* samādāpeti(俗) bodhāya 教化令他悟 *Sikṣ. 53.* 便役) samādāpyate 勸, 教化勸發, 蒙勸導 *Gaṇḍ-vy., Sikṣ.* 便役) samādāpya 教導, 勸化 *Bodh-bh.* 便役) samādāpyamāna 教化勸發 *Sikṣ.*

parā- 罷む, 棄つ, 斷念す。

pari- 他 自 (爲, 屬, 因)に渡す, 委ぬ。 通受分) paritta 棄てられたる, 斷念せられたる, 渡されたる。

pra- 他 [(因)稀に 自] 棄つ, 罷む, 渡す; 呈す, 捧ぐ; (結婚の爲に少女を)與ふ即ち嫁せしむ; (因)の値にて賣る; (負債を)拂ふ; (損失を)償ふ; 傳ふ, 教ふ; 贈る, 授く; 許可す; 給す; (因)に加入す; 與, 施, 付, 奉, 奉獻 *Divy., Saddh-p., Abh-k., Bodh-bh., 梵千.* 受) pradiyate 棄てらる; 與へらる。 通受分) pratta, pradatta (結婚の爲に)與へられたる, 授けられたる; 捧げられたる, 贈呈せられたる, 授與せられたる, 供給せられたる。 便役) pradāpayati 與へしむ; 強ひて拂はしむ或は返却せしむ。 希求) 自) praditsate (結婚のために)與へんと欲す。 anu-pra- 附加す; 交附す, 讓與す, 與ふ, 贈る (*Kār-vy.*); 施, 與, 獻, 付與, 隨捨 *Divy., Bodh-bh., Mvyut.*

sam-pra- 棄つ, 斷念す, 引き渡す; (結婚の爲に)授く; 傳ふ, 教ふ; 贈る。

prati- 返却す, 回復す, 償ふ。 便役) pratidāpayati 返却せしむ, 回復せしむ。

vi- 他 散らす, 分配す。

sam- 一緒に與ふ; 贈る; 會ふ。

Dā 2. [=Do] (因) 他 II. dāti; IV. dyati 切り離す; 刈る。 受) diyate 悲し, 憂鬱なり。 通受分) dina, dita, -tta 切られたる, 刈られたる, 分たれたる。 ava- 切離す(特に供物の果子の一部を); 切々に切る。 sam-ava- 小片に分割し且つ集む。

sam- 一緒に切る, 小片に分割し且つ集む, 切る, 分つ。

Dā 3., IV. 他) dyati 縛る, 結ぶ。

ā- 結びつくる, 縛る。

pary-ā- 受) paryādiyate 傲逸 *Abh-vy. 141.* [=samni-Rudh]. 不棄分) paryādāya tiṣṭhanti 纏 *Bodh-bh. 9.*

ni- 結びつくる; 縛る。 通受分) nidita 縛られたる; 隠されたる。

sam- 縛り合す, 結合す。 通受分) samdita 縛られたる, 捉へられたる, 動かし難き。

Dā 4., Dai, [現 因なし] 清淨にす, 淨化す。

ava- 磨瑩 *Sapt-pr.* 通受分) avadāta 純白の; 淨められたる; 淨き; 優れたる, 純粹なる。

pary-ava- 通受分) paryavadāta 全く清淨なる。 便役) paryavadāpayati 令明淨 *Bodh-bh.*

vy-ava- 淨, 清淨, 能清淨, 得清淨 *Sapt-pr., Sikṣ., Abh-vy.* 受) vyavadiyate 輝しく分散せらる(光線等); 清淨 *Madhy-vibh.* 通受分) vya-vadāta 清淨なる, 輝ける。

dākṣa 形 南方の, 南方に居住せる; *Dakṣa* に関する。 中) 冬至; 冬至の祭儀。

dākṣāyaṇa 形 (女-i) *Dakṣa* より出でたる或はに關する。 男) 冬至の祭儀。 男) *Dakṣa* の後裔 dākṣāyaṇa-yajña 男) [三十年間の代りに十五年間行ふ, *Darsapaurṇamāsa* 祭の一種]。

dākṣāyaṇa-hasta 形 黄金を手を持てる。

dākṣāyaṇin 形 黄金の裝飾を帯びたる。

dākṣāyaṇi 女) *Dakṣa* の娘。

dākṣiṇa 形 祭式の報酬 (*dakṣiṇā*) に関する。

dākṣiṇā-ja 男) *Deccan* 地方の住民。

dākṣiṇātya 形 南方の, 南方生れの, 南方に屬する, 南方に居住せる。 男) *Deccan* 地方の住民。

dākṣiṇiṇya 形 = *dakṣiṇiṇya*; 行徳俱尊重 *Kāśy.*

dākṣiṇeya-bhūmi 女) 勝地, 福田; 羅漢地 [羅漢は *arhat* の (音) *Kāśy.*

dākṣiṇya 形 祭式の報酬に関する; 巧妙なる, 力強き, 才能ある (*Jāt-m.*)。 中) 丁寧, 懇懇; (屬, 因, 一)に對する親切, 敬意, 尊敬; 熟練, 機敏; 南; 順 *Buddh-c.*

dākṣiṇya-lipi 女) [書體の名] 施與書 *Lal-v.*; (音)多瑳那書 *Lal-v.*

dākṣiṇyavat 形 懇懇なる, 親切なる, 優しき。

dākṣiṇya-sampanna 形 南より來れる; 親切なる。

dākṣeya 男) [*Pānini* の 母系]。

dākṣeyi 女) [或る鸚鵡の母の名]。

dākṣya 中) 活潑; 勤勉, 能力; 巧妙, 熟練; 機敏。

dāḍima 男) 柘榴樹; 石榴 *Abh-vy., Mvyut., 梵雜.* 中) 柘榴; 果子 *Mvyut.*

dāḍima-phala 中) 柘榴, 柘榴の果實。

dāḍima-vṛkṣa 男) 石榴樹 *Mvyut.*

dāḍimi 女) 柘榴樹。

dāḍhikā 女) 鬚髻又は鬚髻。

dāṇḍāyana 男) [或る若き苦行者の名]。

dāṇḍika 形 罰を課する, 罰する。 男) 罰する者, 刑罰を科する者。

dāṇḍiki 女) [同上 (男)]。

dātavya (受分) [Dā 1.] 與へらるべき; (結婚の爲に)授けらるべき; 支拂はるべき; 償はるべき; 適用せらるべき; 可施, 應施與 *Bodh-bh.*

dāti-vara 形 與ふるを好む。

dātu-kāma 形 贈物をなさんと欲する; 樂施 *Ast-pr., Bor -bh.*

dātṛ 形 [(屬, 屬)と俱に] 與ふる; (結婚の爲自己の娘を)與ふる(父); 支拂ふ; 傳ふる, 教ふる; 贈る; (屬,

一°)を生ずる; (因)に對し寛大なる. 男 與ふる人, 寄附者; 施主; 債權者; 創設者(王朝又は家族等の); 施, 施者, 能施者, 作施, 能與, 捨 *Lal-v., Saddh-p., Bodh-bh., Mvyut.*

dātṛtā 女 施與者たること; 施與, 寛大.

dātṛtva 中 [同上].

dātṛ-praticchaka 男 (男) 施與者と受納者.

dātyūha 男 家畜(の一種).

dātyauha 男 [同上].

dātra 1. 中 分前(次); 財産.

dātra 2. 中 鎌, 大鎌; 鎌 *Madhy-vibh.*, 梵千, 梵雜.

dāda 男 施物.

dāda-da 形 施物を與ふる.

dādhr̥vi 形 [DHṛ] 荷ひ得る.

dādhr̥ṣi 形 [DHṛṣ] 勇敢なる.

dāna 1. 中 [Dā 1.] 與ふること, (娘を)嫁せしむること, 贈ること, (供物を)捧ぐること, (圖, 一°)を(因, 一°)に教ふること; (一° 生命を)棄つること; (負債を)支拂ふこと; 施物; 喜捨; 贈賄; 附加; 捧物, 供物; 施, 布施, 施他, 惠施, 行施, 能施, 與, 捨離, 能捨; 供養 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Sapt-pr., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy I., Gaṇḍ-vy., Lank., Śikṣ., Bodh-bh., Abh-vy., Sāṃkhy-k., Dharm-s., Mvyut.*, 梵千, 支應; 執, 執持 *Vijñ-t.*; 檀檀, 檀那, 柁那, 檀(施) *Vajr-pr., Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Rāṣṭr., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.*, 支應: ~m dattam 布施 *Aṣṭ-pr. 644*; na ~āni dadati 不修惠施 *Bodh-bh. 252.*; pareṣu satkṛtya ~m 施, 施他, 施與他 *Madhy-vibh. 211.*

dāna 2. 男 [Dā 2.] 分配(特に食物の), 食事, 供饗に伴ふ饗應; 寛仁; 分前; 財産. 中 [Dā 2.] (交尾期に於ける象の顛顛(計)より出づる芳香ある)分泌物, 顛顛の分泌物.

dāna-kathā 女 施論 *Divy.*

dāna-kāma 形 與ふることを好む.

dāna-toya 中 = dāna 2. (中).

dāna-dātṛ 男 施主 *Saddh-p.*

dāna-dharma 男 布施の義務.

dānaṃ-dadā 女 [或る Apsaras の名]; [或る Gandharva の少女の名] (*Kār-vy.*).

dāna-paṭṭaka 中 布施の行爲.

dāna-pati 男 (布施の主長), 極めて慈善的なる人, 慈善家; 施主, 施者 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Bodh-bh., Śikṣ., Mvyut.*; 檀越 *Divy., Śikṣ.*

dāna-para 形 布施に餘念なき, 慈善的なる, 寛仁なる.

dāna-paratā 女 寛仁, 仁慈.

dāna-pāramitā 女 布施の極致又は完全; 施到彼岸 *Bodh-bh., Mvyut.*; (檀越)施波羅蜜, 施波羅蜜多, 布施波羅蜜多 *Aṣṭ-pr., Madhy-vibh., Bodh-bh.*; 檀波羅蜜, 檀那波羅蜜多 *Aṣṭ-pr., Bodh-c., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*

dāna-puṇya-saṃkrānti-vādin 形 施福移轉(種種)諍論 *Bodh-bh.*

dāna-pratibhū 女 支拂の保證.

dāna-prada 形 布施 *Saddh-p.*

dāna-bhinna 形 賄賂によりて不和となれる.

dānamaya 形 (女 -i) 布施より成れる; 施類, 施性, 惠施 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*: ~m puṇya-kriyā-vastu 施類福業事 *Mvyut.*

dāna-mātraka 形 唯施 *Bodh-bh.*

dāna-yogya 形 施物又は供物に價せる.

dānava 男 惡魔 [圖]に於ては *Danu & Kaśyapa* の子にして諸神と和すべからざる敵とせらる. 形 (女 -i) *Dānava* に關する或は屬する.

dāna-vajra 形 [(布施を武器とせる), *Vaiśya* の稱].

dānavat 形 施物に富める, 仁慈の.

dānava-pati 男 *Dānava* の主, *Rāhu*.

dāna-varman 男 [或る商人の名].

dānava-vairin 男 [(*Dānava* の敵), *Śiva* 神の稱].

dāna-vaśi-Kṛ, 贈物を以て賄す, 賄賂によりて利す.

dāna-vār 中 供物の水.

dāna-vāri 1. 中 = dāna 2. (中).

dānavāri 2. 男 (*Dānava* の敵), *Indra* 神, *Śiva* 神.

dānavi 女 [dānava の女].

dāna-vira 男 布施に於ける(完全なる)英雄, 慈善家; 仁慈の模範; [仁慈の行爲によりて述べらるゝ英雄的情緒(修辭)].

dāna-śālā 女 施物を分配する室; 施堂 *Divy.*

dāna-śīla 形 生來仁慈を好める, 仁慈なる, 慈善的なる.

dāna-śūra 男 布施の模範; [或る菩薩の名] (*Kār-vy.*).

dāna-saṃvanana 中 布施の獎勵.

dāna-saṃvibhāga-rata 形 樂捨施 *Mvyut.*

dāna-stuti 女 [(布施の稱讚), *Veda* 讃歌の一種].

dānādhi-kāra 男 [佛教經典の名].

dānādhi-mukta 形 好行惠施 *Suv-pr.*

dānāpnas 形 施物に富める.

dānika 形 (一°)の施與に關する.

dānin 形 施與する, 寛仁なる.

dānu 1. 男 女 惡魔(の一種).

dānu 2. 女 中 滴; 露.

dānu-citra 形 露にて輝ける.

dānejyā (°na-ij°) 女 施供養, 布施供養 *Abh-vy.*

dānopaniṣad (°na-up°) 女 [或る ~ā] 施漸次 *Bodh-bh.*

dānta 1. (過受分) 馴らされたる等. → *Dam.* 調, 所調, 調伏, 善調, 調順, 調柔, 淳善, 善順, 降伏, 受化(者) *Divy., Lal-v., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sam-r., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Guhy-s., Sūtr., Abh-vy.* 男 馴らされたる牡牛; [*Damayanti* の兄弟の名]; [或る牡牛の名]; (因) [*Atharva-veda* の一學派の名].

dānta 2. 形 象牙 (danta) にて製せる.

dānta 3. (°dā-an°) 形 dā にて終れる.

dānta-bhūmi 女 調伏地, 調柔地 *Saddh-p., Sam-r.*

dānta-mānasa 形 調伏心 *Rāṣṭr.*

dānta-vāhaka 男 牛飼.

dāntā 女 [或る Apsaras の名].

dāntājāneya-prāpta (°ta-āj°) 形 調御智慧, 具其盛德 *Kāśy.*

dāpaniya 便後 (未受分) (業)を支拂はしめらるべき;

(従)より獲得せしめらるべき。

dāpayitavya 〔便役〕〔未受分〕〔同上〕。

dāpita 〔便役〕〔通受分〕 → Dā I.

dāpya 〔便役〕〔未受分〕 = dāpaniya.

dābha 〔形〕〔女-i〕傷つくる。

dāma 〔甲〕紐、帯；花環；〔乙〕繩、綵、帶 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Mvyut.*

dāmaka 〔甲〕〔同上〕。

dāma-granthi 〔男〕〔Virāṭa 王の宮廷に於て Nakula の名乗りし假名〕。

dāma-candra 〔男〕〔人名〕。

-dāmatā 〔女〕〔招〕能與 *Abh-vy.*

dāma-tūṣa 〔形〕絲にて縁(?)をとれる。

dāman 1. 〔甲〕與ふること；施物。〔男〕施者、寛仁なる人。

dāman 2. 〔男〕〔分〕分たるべきもの、分前(?)。

dāman 3. 〔男〕紐、帯、網；羅絆；花環；〔乙〕繩、花鬘 *Lal-v.*, *Saddh-p.*

dāma-lipta 〔甲〕〔町の名〕。〔男〕〔種〕〔民族の名〕。

dāma-liptā 〔女〕〔同上(甲)]。

dāmā 〔女〕 = dāma.

dāmāñcala 〔甲〕〔馬の〕足絛。

dāmīta 〔通受分〕〔dāma (名動)の(轉成) sudāmīta. *Tib. siñ-tu-grags*] 完全に纏はれたる；〔乙〕所纏、所纏縛、爲微纏 *Gaṇḍ-vy.*

dāmodara (°ma-ud°) 〔男〕〔(腹に綱を巻ける)〕, *Viṣṇu* 神又は *Kṛṣṇa* 神の稱：彼の養母が彼を斯くして縛らんとせし爲に斯く呼ばる；〔諸人の名〕；〔第十二月の稱〕。

dāmodara-gupta 〔男〕〔或る詩人の名〕。

dāmodarāraṇya 〔甲〕〔森の名〕。

dāmodariya (°ma-ud°) 〔形〕 *Dāmodara* (王)に屬する。

dāmpatya 〔甲〕〔dam-pati より〕結婚生活、夫婦關係。

dāmbha 〔形〕〔女-i〕偽多き、偽善的の、詐欺的の。〔男〕詐欺者、偽善者。

dāmbhika 〔形〕〔同上(形)]。

dāya 1. 〔形〕(一°)を與ふる。〔男〕施物；讓渡；交付；〔乙〕賞、賞。〔甲〕勝負事、遊戲。

dāya 2. 〔男〕分前(?)、配當、遺産： ~ād upāgataḥ 遺産によりて得たる。

dāyaka 1. 〔形〕〔女-ikā〕與ふる；授くる；生ずる、惹起する〔一般に 一°〕；傳達する、話す、發言する；〔乙〕施、與 *Bāstr.* 〔男〕〔乙〕施者、施主 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Lañk.*, *Mvyut.* : ~ānām dānapatinām 施主 *Aṣṭ-pr.* 794. → *dharma* ~.

dāyaka 2. 〔男〕相續人、親類。

dāyakatā 〔女〕與ふること。

dāya-kāla 〔男〕遺産を分つべき時期。

dāya-bhāga 〔男〕遺産の分配。

dāya-hara 〔男〕 = dāyaka 2.

dāyāda (°ya-āda) 〔男〕(屬、因、一°)の相續人；子孫；親類(七等親以内の)；〔乙〕親；得分、分所共財、分父餘財 *Bodh-bh.* → *dharma* ~.

dāyādat (°ya-ād°) 〔形〕相續人を有する。

dāyādyā (°ya-ād°) 〔甲〕遺産、相續人の資格。

dāyādyatā (°ya-ād°) 〔女〕遺産相續；近親。

dāyāpavartana 〔甲〕財産の没收。

dāyin 〔形〕(一°)を與ふる、授くる；惹起する、生ずる、爲す；〔乙〕施；招；生 *Abh-vy.*

dāyi-Kṛ, (業)に贈物をなす。

dāra 1. 〔男〕龜裂、割目、穴。

dāra 2. 〔男〕〔一般に 乙〕妻；〔乙〕妻、婦女 *Rāstr.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.* ~ān pra-Kṛ, 妻を娶る。

dāraka 1. 〔形〕(一°)を裂く、割る。

dāraka 2. 〔男〕男兒、子息；(動物の)仔；(兩)二人の男兒、男兒と女兒；〔乙〕子、小兒、童子、童男、嬰孩、男 *Divy.*, *Av-s.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵雜 : deva ~ āḥ 天諸嬰孩 *Lal-v.* 76.

dāraka-dvaya 〔甲〕二人の子、雙生兒。

dāraka-rūpa 〔甲〕〔乙〕童男身 *Saddh-p.*

dāra-karman 〔甲〕妻を娶ること、結婚。

dāra-kriyā 〔女〕〔同上〕。

dāra-grahaṇa 〔甲〕〔同上〕。

dāraṇa 〔形〕〔女-i〕割る、裂くる(一°)。〔甲〕割る、裂くこと、破裂。

dāra-tyāgin 〔形〕妻を離別せる。

dāra-parigraha 〔男〕 = dāra-karman.

dāra-lakṣaṇa 〔甲〕妻の標識。

dārava 〔形〕〔女-i〕木の、木材の、木製の。

dārava-cira-vāsas 〔形〕〔乙〕衣樹皮 *Buddh-c.*

dāraviya 〔形〕 = dārava.

dāra-saṃgraha 〔男〕 = dāra-karman.

dāra-sambandha 〔男〕〔同上〕。

dāra-suta 〔甲〕(單)妻子。

dārādhigamaṇa 〔甲〕 = dāra-karman.

dārādhina 〔形〕妻に頼れる。

dārikā 1. 〔女〕割目、龜裂。

dārikā 2. 〔女〕少女、娘；妻；遊女；〔乙〕女、女人、小女、女子、童女、幼童女 *Divy.*, *Av-s.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Mvyut.*, 梵雜 ; 家女 *Divy.* ; 婢使 *Av-s.*

dārikā-rūpa 〔甲〕〔乙〕童女身 *Saddh-p.*

dārīta 〔通受分〕割れたる、裂けたる。

dāridra 〔形〕〔乙〕貧、貧窮 *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*

dāridra-duḥkha 〔甲〕〔乙〕貧窮困厄 *Suv-pr.*

dāridrya 〔甲〕貧困、窮乏、赤貧；〔乙〕貧、貧乏、貧窮、貧匱、乏 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

dāridryāpanayana 〔甲〕〔乙〕富饒 *Gaṇḍ-vy.*

dārin 〔形〕(一°, 屬)を裂く、破壊する。

dāri 〔女〕 = dāra 1.

dāru 1. 〔形〕破る、破壊する。

dāru 2. 〔男〕〔甲〕裂くこと。〔乙〕木材、丸太、木片、棒；〔松の一種、學名 *Pinus deodora*〕；〔乙〕木、柴、薪 *Aṣṭ-pr.*, *Rāstr.*, *Abh-vy.*

dāru 3. 〔形〕寛大なる、仁慈なる。

dārūka 〔男〕〔*Kṛṣṇa* 神の馭者の名〕。

dāru-karṇin 〔男〕〔人名〕木鬚 *Divy.*

dāru-karman 〔甲〕木彫。

dāru-kṛtya 〔甲〕木材の用途又は目的。

dāru-ja 〔形〕木の、木製の。

dāruṇa 〔形〕〔女-ā, -i〕硬き；鋭き(風)；粗き、荒き、苛酷なる(言語・性質・人物)；烈しき、猛烈なる(苦痛)。

等); 難(産); 恐しき; 悪, 逆悪, 險悪, 大悪, 凶悪, 弊悪, 兇弊, 可畏; 刎暴; 慘酷; 難敵 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Rāstr., Mvyut.* 甲 苛酷, 嚴格; 恐怖.
dārunatā 凶 苛酷, 劇烈; 恐怖.
dāruṇa-vapus 形 恐ろしき形相又は外觀の.
dārunākṛti (°na-āk°) 形 [同上].
dārunātman (°na-āt°) 形 無情の, 殘酷なる.
dāruṇya 甲 硬きこと; 殘酷.
dāru-nisā 凶 [薑黄(學名 *Curcuma aromatica*) 其他の植物の名].
dāru-parvata 男 [或る宮殿の名].
dāru-pātra 甲 木皿, 木製容器.
dāru-putrikā 凶 木製の人形, 木偶.
dāru-phalaka 甲 窓扉.
dāru-bhūta 形 木となれる.
dārumaya 形 (凶-i) 木製の.
dāru-yantra 甲 木製の操人形; 木製の器具.
dāru-varman 男 [人名].
dāru-śeṣa 形 ……の他は木のみを含める.
dāru-śailamaya 形 (凶-i) 木製又は石製の.
dāru-skandha 男 木聚 *Abh-vy.*
dāru-haridrā 凶 = dāru-nisā; 黄柏 *Mvyut.*
dārodara 形 (凶-i) 賭博に関する.
dāropasamgraha (°ra-up°) 男 結婚.
dārdhya 甲 [dr̥dha より] 堅牢; 安定, 確乎; 確定.
dārdura 形 (凶-i) 雲に関する; 蛙に関する; *Dardura* 山に屬する.
dārduraka 形 (凶-ikā) 蛙に関する或は屬する.
dārdurika 形 [同上]. 男 陶工.
dārbha 形 (凶-i) *Darbha* 草にて作れる.
dārva 形 (凶-i) 木製の. 男 (種) [民族の名].
dārv-āghāṭa 男 啄木鳥.
dārv-āhāra 男 木材を集むる人.
dārśa 男 新月の供饗又は祭儀. 形 (凶-i) 新月に関する, 新月の供饗に関する.
dārśika 形 (凶-i) [同上(形)].
dārśya 形 [同上].
dārṣṭāntika 形 (凶-i) [dr̥ṣṭānta より] 實例又は直喩 (*dr̥ṣṭānta*) によりて解説せる或は解説する. 男 (種) [佛教の一派名] 譬喩者, 譬喩部師 *Abh-vy.*
dārṣṭiviśayika 形 [dr̥ṣṭi+viśaya より] 視野の内に在る.
dālana 甲 (齒の)崩壞すること; 破 *Laṅk.*
dāli 凶 穀皮を去れる穀粒.
dālima 男 柘榴樹.
dālbhya 男 [*Dalbha* 等の (凶) 系].
dālbhya-ghoṣa 男 [聖仙の名].
dāva 男 火事(特に森の). 男 甲 森; 林, 野, 山, 澤, 曠野 *Sikṣ., Abh-vy., 梵雜.*
dāva-dahana 男 森の火事.
dāvan 形 (一°)を與ふる.
dāva-parita 形 火に圍まれたる.
dāva-preman 男 (森の)火事の如き愛情, 灼熱の戀情 [= *dāha-preman*].
dāva-latā 凶 燃ゆる森の蔓草.
dāvāgni 男 燃ゆる森の火; 山火 *Lal-v.*

dāvānala 男 [同上].

Dās, (凶) I. 他 **dāsati**; II. **dāṣṭi**; (凶) V. **dāś-noti**. (男)を以て(神 (男) 又は (男))に恭禮す; (男)を(男)に贈る, 恭しく捧ぐ; 授く, 與ふ. 便役 **dās-yati** 捧ぐ, 與ふ.

dās 凶 崇拜, 尊敬. 男 崇拜者.

dāśa 男 漁夫, 船頭, 渡守, 水夫; 船師 *Lal-v.*

dāśataya 形 (凶-i) 十重の; *Rg-veda* 十卷に屬する.

dāśatva 甲 漁夫たること.

dāśa-pati 男 漁夫の長.

dāśaratha 形 (凶-i) 十車の餘地ある(道路); *Daśaratha* 王に関する. 男 [*Rāma* の (凶) 系].

dāśarathi 男 *Daśaratha* 王の子孫 [*Rāma, Lakṣmaṇa* 等の (凶) 系]; (男) *Rāma* と *Lakṣmaṇa*.

dāśarājña 甲 十王の戰爭.

dāśārṇa 男 *Daśārṇa* の王侯; (種) [民族の名].

dāśārṇaka 形 (凶-ikā) *Daśārṇa* 族に関する或は屬する.

dāśārha 形 (凶-i) *Daśārha* (*Kṛṣṇa* 神)に屬する. 男 [*Kṛṣṇa* 神の稱]; *Daśārha* の王; (種) [民族の名].

dāsitā 凶 (俗) [<damsitā] 尤妲, 妲整, 陵犯 *Vijñ-t. 30.*

dāśuṣe, [dāśvas (*Dās* の (三過分) の (男))] 敬虔なる.

dāśeyi 凶 漁夫の娘.

dāśeraka 男 漁夫; (種) [民族の名].

dāśvas (三過分) 神を崇拜する或はに仕ふる; 仁慈の; (業, 一°)を與ふる.

Dās, I. 他 **dāsati** [凶 *abhi* と俱このみ].

abhi- ……に惡意を抱く, 迫害す.

dāśa 1. 男 敵; 惡魔; 不信心者(凶); 奴隸; 召使; 奴, 僕, 奴僕, 僮僕, 從僕, 僕使 *Lal-v., Saddh-p., Laṅk., Sikṣ., Bodh-bh., Sūtr., Bodh-c., Mvyut., 梵千., 梵雜.*; (種) 奴婢等 *Laṅk.* 形 (凶-i) 敵意ある; 惡魔の如き; 不信心の, 敬虔ならざる.

dāśa 2. 男 [= *dāśa*]; 船師, 海師, 牢船 *Gaṇḍ-vy.*

dāśaka 男 [人名] 奴 *Divy.*, 立應; 歌索迦 立應.

dāśa-jana 男 奴隸; 召使.

dāśa-jivana 形 奴隸の如き生活をなせる, 奴隸の仕事にて生活せる.

dāśatā 凶 奴隸の身分; 隸屬; 奴僕 *Bodh-c.*

dāśatva 甲 [同上].

dāśa-dāsi 凶 奴隸に使はるゝ女奴隸.

dāśa-pravarga 形 奴隸の一群を所有する.

dāśa-preṣya 男 奴僕, 僮僕, 僕使 *Bodh-bh.*

dāśa-bhārya 甲 (男) 奴僕と妻妾.

dāśa-bhāva 男 奴隸の状態, 召使の身分又は境遇; 所使, 奴僕性 *Bodh-c., Sikṣ.*

dāśa-mithuna 甲 奴隸の夫婦.

dāśamiya 男 (種) [民族の名].

dāśa-varga 男 奴婢の群, 召使.

dāśānudāśa 男 (奴隸の奴隸), 極めて賤しき奴隸 [卑下の辭].

dāsitā 凶 [<damsitā] 罵 *Mvyut.*

dāsi 𑖕 女召使; 女奴隸; 𑖕 婢, 使女 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*, 梵千, 梵雜: ~syāḥ putra (男) 奴隸の子 [亦た侮蔑の語として用ふ].
dāsi-Kṛ, 奴隸となす.
dāsi-jana 男 女奴隸.
dāsitva 甲 女奴隸たること.
dāsi-dāsa 甲 𑖕 又は 男 𑖕 男女の奴隸; 𑖕 奴婢, 奴婢作使 *Bodh-bh.*
dāsi-putra 男 奴隸の子 [侮蔑の辭].
dāsi-bhāva 男 女奴隸の境遇.
dāsi-suta 男 = dāsi-putra.
dāseraka 男 (若き) 駱駝; 女奴隸の子; 漁夫.
dāseraki 𑖕 牝駱駝;
dāsyā 男 奴隸の身分; 奉仕, 奴隸の仕事; 𑖕 奴僕 *Saddh-p.:* ~m upaimi 承事 *Sikṣ. 156.*
dāha 男 燃ゆること, 大火; 熱, 燒灼; 燒けること; (空の)赤らむこと; 燃やさるゝこと; 内部の熱, 發熱; 𑖕 熱, 大熱, 燒, 燒然, 燒燃, 燒炙, 熾然, 火, 熾火, 熱惱 *Divy., Saddh-p., Bodh-c., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Vijñ-v., Mvyut.* ~o **vigacchati** 𑖕 無熱, 無煩 *Mvyut.* **diśām** ~, 空の異常なる赤さ.
dāhaka 形 (女 -ikā) 燃ゆる, 燃やす; 𑖕 然, 能燒 *Lank., Abh-vy.*
dāha-karaṇa 甲 𑖕 燒然 *Sūtr.*
dāha-jvara 男 燃ゆる熱, 炎症性の熱; 𑖕 熱病 *Divy.*
dāhana 甲 燃えしむること, 灰に歸せしむること; 𑖕 燒 *Rāṣṭr.*
dāha-preman 男 甲 灼熱する愛情. → dāva-preman.
dāha-vadānyatā 女 大火.
dāhātma (°ha-āt°) 形 燃燒性の, 燃ゆる, 焦す, 引火し易き.
dāhātman (°ha-āt°) 形 [同上].
dāhin 形 燃ゆる, 燃やす; 焰え上る, 焰を發する; 赤熱せる.
dāhuka 形 燃ゆる. 男 火災, 大火.
dāhya (未受分) 燃やさるべき, 燒かるべき; 𑖕 可燒, 可然 *Lank.*
-dikka, = diś; 𑖕 方面 *Sikṣ.*
dik-kanyā 女 乙女として(神格化せられたる)方角.
dik-karika 形 = dik-karin.
dik-karikā 女 爪痕又は噛み傷.
dik-karin 男 方角の象 [空の四方又は八方に立ちて地を支ふと想像せらる].
dik-kāntā 女 = dik-kanyā.
dik-kāmini 女 [同上].
dik-kuṅjara 男 = dik-karin.
dik-cakra 甲 地平線; 方位の輪, 羅鍼盤; 全世界.
dikcakra-vāla 甲 圍繞する地平線; 全視界, 全景; 廣袤.
dik-chabda (dik-śu°) 男 𑖕 方角(を示す)語.
dik-taṭa 男 方角の邊際, 地平線, 最大の距離, 甚しき遠距離.
diktas 男 天界より.

dik-tulya 形 同方角の.

dik-pati 男 方位の主; [*Viṣṇu* 神の稱].

dik-patha 男 地平線, 最大の距離.

dik-pāla 男 方位の守護者.

dik-pālatā 女 方位の守護者たる状態又は職能.

dik-prekṣaṇa 甲 (諸)方を見廻すこと(恐怖のために).

dik-sama 形 = dik-tulya.

dik-sāmya 甲 方向の同一.

dik-sundari 女 = dik-kanyā.

dik-svāmin 男 = dik-pati.

dig-adhipa 男 [同上].

dig-anta 男 地平線の終極, 世界の涯, 極端の遠距離.

形 甚だ遠方より始まる.

dig-antara 甲 他の地域; 外國, 遠國; 空間; 特別なる方角 [*paścimetara* と俱に=東方]; (𑖕) 總ゆる方角.

dig-abhimukha 形 𑖕 聽受, 隨能聽受 *Gand-vy. 5.;* 常見, 常樂見 [*Tib. mos-pa*] *Gand-vy. 333.:* *nānā-dharma-nirdeśu* ~ 隨能聽受諸所說法, 種種聽受諸所說法 *Gand-vy. 5.;* *buddha-darsana* ~ 常見諸佛, 常樂見佛 *Gand-vy. 333.*

dig-ambara 形 方位(のみ)にて裝へる, 全裸體の. 男 裸體の乞食僧 (特に *Jaina* 教徒の).

dig-ambaratva 甲 裸體.

dig-ambari 女 [*Durgā* の稱].

dig-avasthāna 甲 大氣; 𑖕 方處 *Gand-vy.*

dig-āgata 形 遠方より來れる.

dig-ibha 男 = dik-karin.

dig-iśa 男 = dik-pati.

dig-iśvara 男 [同上].

dig-gaja 男 = dik-karin.

dig-grahaṇa 甲 方位の測定と固定.

dig-jaya 男 全方面に於ての征服, 全世界の征服.

dig-dantin 男 = dik-karin.

dig-dāha 男 空の輝き, 空又は地平線の異常なる赤味; 𑖕 ~ān upadarsayanti 猛火熾燃四方俱發 *Aṣṭ-pr. 809.*

dig-devatā 女 [= dik-pati] 方位の神; 𑖕 主方之神, 地天 *Gand-vy.*

dig-deśa 男 遠き地域又は國; 地方; 𑖕 方處 *Gand-vy.*

dig-daivata 甲 = dig-devatā.

digdha (通受分) → Dih. 𑖕 塗 *Lal-v.* 男 毒矢.

digdha-phala 甲 毒矢の先端.

digdha-viddha 形 毒矢にて貫かれたる.

digdha-hata 形 毒矢にて斃られたる.

digdha-hasta 形 毒矢を手にする或は用うる.

digdhānga 形 (女 -i) (一°)にて肢體を塗れる.

dig-nāga 男 [= diṅ-nāga]; 𑖕 [佛教論理學者の名即ち陳那] 方象, 域龍 *Mvyut.*

dig-bandha 男 = dig-grahaṇa; 地平線の一點を定むること.

dig-bhāga 男 方角, 方位; 𑖕 方, 處, 方處, 方所, 方分 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy., II., Rāṣṭr.-Vijñ-v.:* *uttare* ~ 北方 *Aṣṭ-pr. 488.*

dig-bheda 男 方向の差異。
dig-bhrama 男 方位の昏迷, 方向の誤。
dig-vakra-samstha 形 正しき方向より逸れたる。
dig-vadhū 女 = dik-kanyā.
dig-vasana 中 裸體。
dig-vāraṇa 男 = dik-karin.
dig-vāsas 形 男 = dig-ambara; [Śiva 神の稱]。
dig-vijaya 男 = dig-jaya; [Mahābhārata の一節の題名]; [書名]。
dig-vibhāga 男 方角, 大空の方位。
dig-virocana 形 照耀諸方, 遍照(十)方 Gand-vy.
dig-vilaya 男 中 宇宙。
dig-vilokana 中 = dik-prekṣaṇa.
dig-vilokita 男 觀方, 視諸方處 Mvyut.
dig-vilocana 中 諸方を見廻すこと(恐怖のため)。
dig-vyāghāraṇa 中 方處へ捧ぐる燒灌。
dig-vyāpin 形 總ゆる方角に行き互れる, 諸方に擴がれる。
diñ-nāga 男 [= dig-nāga]; = dik-karin.
diñ-nātha 男 = dik-pati.
diñ-maṇḍala 中 方位の輪, 地平線。
diñ-mātaṅga 男 = dik-karin.
diñ-mātra 中 單なる方向, 單なる一例; 方隅 Nyāy-pr.
diñ-mukha 中 方位, 方向; 地平線の一點; 場處, 地方。
diñmukha-maṇḍala 中 (複) 周圍の諸國。
diñ-mūḍha 形 方位を混同する, 方角を失へる或はに迷へる; 方向又は位置の疑はしき。
diñ-moha 男 = dig-bhrama.
dita 過受分 → Dā 2, 3.
diti 1. 女 分配; 寛仁。
diti 2. 女 [女神の名 (Aditi より出でたる語)]; (書) [Dakṣa の娘の名, Kāśyapa の妻にして Daitya の母の名]。
diti-ja 男 Diti の子 (Daitya)
ditijārāti 男 [(Daitya の敵), Viṣṇu 神の稱]。
diti-tanaya 男 = diti-ja.
diti-nandana 男 [同上]。
diti-suta 男 [同上]。
ditta 過受分 → Dā 2.
ditya-vah 男 [(體) -vāt] 二歳の牡牛。
dity-auhi 女 二歳の牝牛。
ditsā 女 與へんとする欲望。
ditsita 形 與へんと欲せられたる。
ditsu 希求 形 (業)を與へんと欲する, 授けんと欲する; (業)を聽許せんと欲する, 遂行せんと欲する。
didambhiṣu 形 [Dambh の 希求] 欺かんと欲する。
diditsu 形 (業)を與へ或は犠牲となす用意をなせる。
didī, → Dī 2.
didṛkṣā 女 [Dṛs] 見んとする欲望。
didṛkṣita 中 [同上]。
didṛkṣitṛ 形 (業)を見んと欲する。
didṛkṣu 希求 形 [Dṛs] (業)を見んと欲する, ……を調べ或は検査せんと欲する。

diddā 女 [Kāśmīra の王女の名]。
diddā-kṣema 男 [Kṣema-gupta の稱]。
diddā-pāla 男 [人名]。
diddā-pura 中 [町の名]。
diddā-svāmin 男 [寺院の名]。
didyu 男 飛道具, 武器, 矢。
didyut 形 閃く。 女 飛道具, 矢; [Indra 神の雷霆]; [或る Apsaras の名]。
didhakṣā 女 燃やさんと欲すること。
didhakṣu 希求 形 燃やさんと或は破壊せんと欲する。
didhiṣu 形 得んと欲する; 求婚する。 男 求婚者, 夫。 女 再婚せし婦人; 結婚せる妹を有する未婚の婦人。
didhiṣū [同上 女]。
didhiṣū-pati 男 (兄の)寡婦の夫; 妹より後に結婚せる婦人の夫。
didhiṣūpapati (°sū-up°) 男 再婚せる婦人の夫, 二度目の夫。
didhirṣā 女 [Dhr の 希求 より] 支持せんとする意向。
dina 1. 過受分 → Dā 2.
dina 2. 男 中 日, 一日; 日 Aṣṭ-pr., Śikṣ.: ~ e ~ e 日日 Śikṣ. 311. ~ e ~ e traikā: lyam 日日三時 Śikṣ. 10.
dina-kara 男 (日を作る)太陽; [或る Aditya の名]; [諸人の名]; 日, 日光, 作晝 Lal-v., Gand-vy., Sūtr., Mvyut.: astamgate ~ raśmi 日光既已没 Gand-vy. 254.
dinakara-kiraṇa 男 日光 Sūtr.
dina-kartavya 中 日々の行事。
dina-kartṛ 男 = dina-kara.
dina-kārya 中 = dina-kartavya.
dina-kṛt 男 dina-kara.
dina-kṛtya 中 = dina-kartavya.
dina-kriyā 女 [同上]。
dina-kṣaya 男 日の傾き, 夕方。
dina-caryā 女 日々の仕事。
dina-naktam 中 晝夜に。
dina-nātha 男 (日の主), 太陽。
dina-niś 女 (兩) 晝と夜。
dina-pati 男 = dina-nātha.
dina-pāṭikā 女 一日の給料。
dina-bhartṛ 男 = dina-nātha.
dina-maṇi 男 (日の寶玉), 太陽。
dina-mukha 中 夜明け, 黎明, 曉, 朝。
dina-mūrdhan 男 東の山 [その山の後より太陽が昇ると想像せらる。 → udaya]。
dina-rāja 男 = dina-nātha.
dināgama (°na-āg°) 男 夜明け, 曉。
dinādi (°na-ādi) 男 [同上]。
dinādhi-nātha 男 = dina-nātha.
dinādhiśa 男 [同上]。
dinānta 男 (日の終り), 日没, 夕暮。
dinārdha 男 正午; 半日。
dināvasāna 中 = dinānta.
dineśa (°na-iśa) 男 = dina-nātha.
dineśvara (°nā-iś°) 男 [同上]。

dinodaya (°na-ud°) 男 黎明, 曉.
dinna (通受分) [Dā 1.] 所施 *Mvyut.*
dinnā-grāma 男 [村の名].
dipsu 系系 形 [Dabh] 害せんと欲する.
diya 形 [=deya] 贈物を受くるに値する.
dilipa 男 [王の名 (*Aṃśumat* の子にして *Rāma* の祖先)].
Div 1., IV. divyati(-te) 投ぐ, 投ず; 放射す, 輝く, 光る; (骰子を) 投ぐ: (因, 因) のために (因) と (骰子 因) にて賭博す; 遊ぶ, 戯る, 娛む. (通受分) **dyūta.** 便役 **devayati** (骰子にて) 賭博せしむ; 遊ばしむ.
ati- (賭博に) より多くを賭く, 危険を冒す.
prati- (因) に對して賭博をなす; (因, 因) を賭物として遊ぶ.
Div 2, I. devati(-te). (通受分) **dyūna** 悩まされたる.
pari- 歎く, 泣く; 愁, 惱, 發哀, 悲感, 感慕哀; 啼, 啼泣, 啼泣哭, 悲泣, 雨涙 *Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p.* (通受分) **paridyūna** 悲惨なる; (因) によりて惨めにせられたる. 便役 **paridevayati(-te)** (因) を歎く, 悲しむ, 哀哭す. 便役 (通受分) **paridevita** 哀れなる.
div 男 因 [因 *dyaus*, 中語幹 *dyu*] 天; 天, 天趣 *Abh-vy., Mvyut.* 男 光耀, 光輝; 日., ~ **am Gam**, ~ **am Yā** 天に行く; 死す. **dyubhiḥ** 因 數日間, 長期間.
diva 因 天, 空; 日 [唯だ ~ e ~ e 「日々に, 毎日」 の場合のみに限る]; 天 *Divy.*; 晝 *Sapt-pr., Bodh-bh., Abh-vy*; 日 *Bodh-bh.* → **rātrim-**
diva-kṣas 形 天に住する, 天の.
divam-gama 形 天に行く或は導く.
divasa 男 天, 日; 晝, 日, 晝日, 日中 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Sikṣ., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.*, 梵千., 梵緒; 覺, 覺時 *Aṣṭ-pr.:* ~ **syātya-yena** 晝夜, 一日中, 一日一夜 *Aṣṭ-pr. 700.* ~ **m** 因 白日 *Divy.*
divasa-kara 男 (日を作る者), 太陽; 能作晝 *Abh-vy.*
divasa-kṛt 男 [同上].
divasa-kriyā 因 (一日の中になさるべきもの), 毎日の宗教行事; 日常の仕事.
divasa-kṣaya 男 日の終り, 夕暮; 日入時 *Divy.*
divasa-cara 形 日中に動く (動物).
divasa-nātha 男 (日の主), 太陽.
divasa-bhartṛ 男 [同上].
divasa-mukha 因 黎明, 曉.
divasa-vāra 男 六曜日, 週日.
divasa-vigama 男 日の終り.
divasa-vyāpāra 男 日々の勤行 (沐浴等).
divasārdha 男 因 半日 *Bodh-c.*
divasi-Kṛ, (夜を) 晝に變ず.
divasi-kṛtā (通受分) 因 晝に變へられたる (夜).
divaseśvara (°sa-iś°) 男 = **divasa-nātha**.
divas-pati 男 [*Indra* 神又は *Viṣṇu* 神の稱].
diva-sprś 形 天に達する或は觸る.
divā 因 日中に; [時として一文の主語又は °——] 日;

晝, 日, 晝時 *Sikṣ., Bodh-bh., Abh-vy.* 因 (因) 日.
divā-kara 男 (日を作る者), 太陽; 日, 日光 *Divy.*
divākara-vara-locana 男 [*Samādhi* の名] (*Kār-vy.*).
divā-kirti 男 *Caṇḍāla* [日中にのみ衆の前に現はるるを許されたるが故に斯く呼ばる].
divā-kirtya 形 日中に誦せらるべき. 因 [或る讚誦又は歌詠の名]. 男 *Caṇḍāla*.
divā-cara 形 日中に歩き廻る.
divā-cārin 形 [同上].
divātana 形 (因-i) 日の, 日々の.
divātithi (°vā-at°) 男 日中に到着する客.
divādi (°vā-ādi) 男 朝.
divā-naktam 因 晝夜に.
divā-nidrā 因 日中の睡眠.
divā-nisam 因 晝夜に.
divāndha (°vā-an°) 日中は盲目なる. 形 鼻.
divā-bhita 男 (晝を恐る) 鼻; 盜賊.
divā-bhūta 男 晝となれる, 明るくせられたる.
divā-maithunin 形 晝間性交する.
divā-rātram 形 晝夜に.
divā-rātrau 因 [°tri の因] 晝夜 *Suv-pr.*
divā-vihāra 男 晝間の休息 (*Divy.*); **niṣaṇṇo** ~ **āya** 晝日宴坐 *Divy. 202.*
divā-śaya 形 日中に眠る.
divā-śayatā 因 日中の睡眠.
divā-śayyā 因 [同上].
divā-saṅketa 男 日中の會合 (戀人の), 晝間の逢引.
divā-svapna 男 因 日中に眠ること.
divā-svāpa 男 [同上].
divi-kṣit 形 天に住せる.
divi-gata 形 天上の.
divi-cara 形 天に於て動く.
divi-cārin 形 [同上]. 男 天の住者.
div-it 形 空へ行く.
div-itmat 形 空中に或は空へ行く; 天の.
divi-yaj 形 天に祈る.
divira 男 書記.
divi-ratha 男 [諸人の名].
divi-śrit 形 天に行く.
divi-śad 形 天に住める. 男 神.
divi-śad-adhvan 男 神々の路, 空.
divi-ṣṭambha 形 空中に留まる.
div-iṣṭi 因 天への憧憬, 崇拜, 犠牲.
divi-ṣṭha 形 天に住せる, 天の.
divi-sprś 形 天に觸る.
divi-sprśat 形 [同上].
divira 男 [= *divira*] 吏 梵千.
divo-dāsa 男 [諸人の名].
divo-ruc 形 天より輝く.
divolkā (°va-ul°) 因 流星.
divaukas (°va-ok°) 男 天の住者, 神; 天 *Abh-k., Abh-vy.*
divaukasa 男 [Yakṣa の名] 禰舞迦 *Divy.*

divya 形 天上の; 神聖なる; 超自然の; 魔術の; 天界の; 壯大なる; 天, 天上; 妙, 上妙, 最上; 珍; 端嚴; 深(法) *Divy.*, *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*, *Saddh-p.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*: ~m cakṣus 天眼 *Mvyut.*; ~m śrotram 天耳 *Mvyut.*; ~m cakṣuḥ-śrotram 天眼天耳, 天眼耳(根) *Abh-vy. 83.*; ~āni mândāravāni puṣpāni 天妙音華, 天曼陀羅華(音華) *Aṣṭ-pr. 244.* ④ 神聖なる物又は世界 [諸天]; 天上; 神意裁判(に訴へて様々の苦難により試験する方法) [十種あり: 1. tulā, 2. agni, 3. jalā, 4. viśa, 5. kaśa, 6. taṇḍula, 7. tapta-māṣa, 8. phāla, 9. dharmādharma, 10. tulasī]; 宣誓.

divya-kānana ④ 天界の林又は木立.

divyakānana-darśana 形 天界の林に似たる.

divya-kriya ④ 神意裁判 (divya) を適用すること.

divya-gandha ④ 天界の香料; 妙香 *Gaṇḍ-vy.*

divyagandhānulepana 形 天界の香料を塗られたる.

divya-cakṣus ④ (時間・空間を超越せる) 天眼; 天眼 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Dharm-s.* 形 —° 天眼を有する.

divya-civara ④ 天衣 *Gaṇḍ-vy.*

divya-jñāna 形 神智を有する.

divyatā ④ 神性.

divyatva ④ [同上].

divya-darśana 形 神の姿をなせる; 天眼を有する.

divya-darśin 形 天眼を有する(時間・空間を超越せる).

divya-duṣya ④ [=°dūṣya] 天寶衣 *Gaṇḍ-vy.*

divya-dūṣya ④ 妙衣 *Sukh-vy. I.*

divya-dṛś 形 = divya-darśin; 有明見者 *Bodh-bh.*

divya-dṛṣṭi 形 [同上].

divya-nadī ④ 天の川.

divya-nāri ④ 天女, *Apsaras.*

divya-pātala ④ [樹木の名]

divya-puruṣa ④ 半神, 精靈.

divya-prajñāna-śālin 形 神智を有する.

divya-praśna ④ 天界の現象を研討すること, 占卜.

divya-mānuṣa ④ 半神.

divya-mānuṣyaka 形 天人, 天上人, 人天 *Suv-pr.*, *Bodh-bh.*: ~āni sukhāny anubhaveyuh 人天勝樂, 人天之中常受快樂 *Suv-pr. 129.*

divya-mālyā ④ 神々しき花環.

divyamālyāmbara-dhara 形 神々しき花環と衣服とを纏へる.

divya-ratna ④ 天寶 *Suv-pr.*

divya-rūpa 形 神の姿を有する; 美しき.

divya-rūpin 形 [同上].

divya-varma-bhṛt 形 驚嘆すべき程立派なる或は神の或は魔法の甲冑を有する.

divya-varṣa-sahasraka 形 神々の一千年の間存続する.

divya-vijñānavat 形 神智を有する.

divya-vimāna ④ 宮殿, 天宮 *Suv-pr.*

divya-śrotra ④ 神の如き或は凡てを聴く耳; 天耳 *Dharm-s.*

divya-śrotra-jñāna-sākṣāt-kriyā ④ [六神通の一] 天耳智作證(通) *Bodh-bh.*

divya-samkāśa 形 天に似たる, 天を想出せしむる.

divya-saṅgīti ④ 天音樂 *Gaṇḍ-vy.*

divya-sānu ④ [*Viśve Deva* の一の名].

divya-sukha ④ 天快樂, 勝妙樂 *Suv-pr.*

divya-stri ④ 天女, *Apsaras.*

divyāmsu ④ (神の光を有する), 太陽.

divyākṛti (°ya-āk°) 形 神の容姿をなせる, 神々しく美しき.

divyākṣi ④ 天眼 *Abh-k.*

divyāṅganā ④ = divya-stri.

divyātikrānta 形 過諸天 *Suv-pr.*: ~ena gandhena sphuṭam 有妙香氣過諸天(香) *Suv-pr. 7.*

divyātireka 形 出過諸天 *Gaṇḍ-vy.*

divyāpsaras ④ 天(諸)采女 *Gaṇḍ-vy.*

divyābharāṇa (°ya-ābh°) 形 神の裝身具にて飾られたる.

divyāvadāna ④ [佛典の名].

divyāstra ④ 魔法の武器.

divyāstra-maṅgala ④ 魔法の武器の吉祥なる働き.

divyāstra-mantra ④ *divyāstra-maṅgala* を呼び興す力ある魔法の呪文.

divyaauśadha (°ya-auṣ°) ④ 不思議なる呪文又は藥物.

Dis, VI. **dīśati**; III. ④ **dideṣṭi**(因) 指示す, 示す; (證據を)提出す; 配分す, 授く; 成就す; (貢物を)捧ぐ; 導く, 命令す; (不定)せんことを命ず; 説, 宣説, 演説, 宣通 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Guhya-s.*, *Sūtr.*, *Sikṣ.* ④ 現分 **deśyamāna** 宣説 *Bodh-bh.* ④ 過去分 **diṣṭa** 指導せられたる; 決定せられたる; 規定せられたる; 命ぜられたる: ~ā **gatiḥ** 定められたる路, 死. ④ 希求 **didikṣati(-te)** 示さんと欲す等; 示す用意あり等; ④ 至心皆發露, 誠心發露 *Suv-pr.* ④ 使役 **deśayati** (例外として **-te**) 示す, 導く; 説明す, 教へ: 懺悔す(佛敎); 説, 宣説, 演説, 廣説, 説法, 廣宣, 講宣; 開示, 教示, 宣傳, 導示, 闡 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. I.* II., *Suv-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Lank.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 悔, 懺悔, 發露悔滅 *Divy.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*: *deśayiṣyanty upadekṣyanty uddekṣyanti* 解説, 演説 *Aṣṭ-pr. 803.*; *atyayam atyayato deśaya* (命) 應悔過 *Divy. 55.*; *atyayam atyayato deśayāmy ārya* 唯願大聖受我悔過, 唯願聖者容我悔過 *Gaṇḍ-vy. 129.*; *na deśayati* 不説, 不定 *Mvyut.*; *na deśayasva* [脚註の推定を採る. 刊本は ca d°] 勿妄宣傳 *Saddh-p. 92.*

ati- (圓)に移る或は擴がる; 特定す.

anu- (業)に歸す; (業)を(爲, 於)に配分す或は分與す; 命ず.

ṣam-anu- (業)を(爲)に配分す或は分與す, (爲)に示す.

apa- 述べ, 示す; 報告す, 告發す, 非難す; 伴る, …の風をなす.

vy-apa- 明示す, 指示す, 意味す, 名づく; 伴りて

…と稱す; 伴る; 示, 指示, 白言, 起言, 説, 宣説, 起説, 分別説, 教誨, 教授 *Prât-m., Bodh-bh.*; 略視 *Divy.*: vyapadišanto vyapadišanti 起言起説 *Bodh-bh. 389.*; bhaisajyāni vyapadišeti 爲處方 *Divy. 25.*

ā- 狙ふ, 脅かす; (○)に配分す或は分與す; 指示す, 報知す, 宣言す; 傳ふ, 教ふ; 指名す; 特記す; (●)を豫言す; 規定す; 命令す, [(○), (因), (不定) 又は -artham と共に] 命令す; (因)に追放す; 従事す, 試む; (誓)の責任を負ふ; 説, 記言 *Divy., Aṣṭ-pr.*: dakṣiṇām ādiśāmi 我説施伽他 *Divy. 85.* (過受分) **ādiṣṭa** 指示せられたる; 報知せられたる; 述べられたる; 命ぜられたる. (便役) **ādeśayati** (道を)指示す; 示す, 報知す.

nir-ā- (過受分) **nirādiṣṭa** 支拂はれたる.

praty-ā- 規定す; 導く, 忠告す; 召喚す; (●)を(●)に報知す; 拒絶す, 排除す; 撃退す; 凌駕す; 説, 嫌呵譏賤 *Divy* (過受分) **pratyādiṣṭa** 凌駕せられたる, 克服せられたる.

vy-ā- 詳細に示す; 別々に示す, 配分す, 分與す; 説明す, 教ふ; 規定す; (○), (因)を(因)に命令す; (○) 又は *prati*) に發送す; 宣言す; (●)に就て豫言す.

sam-ā- 配分す, 分與す, 規定す; 指示す; 述べ, 宣言す; (○), (●)に報知す, 報道す; 教ふ; 決定す, 名づく; (●)を(●) 又は *iti* 直接話法にて)なりと豫言す或は宣言す; [(○), (不定) 又は -artham と共に] 命ず, 課す, 命令す; 勅 *Divy.*; 施作 *Guhy-s.* (過受分) **samādiṣṭa** 指定せられたる, 指示せられたる; 命ぜられたる. (便役) **samādeśayati** 命令す.

prati-sam-ā- 返答す; 命令す. (過受分) **pratisamādiṣṭa** 指示せられたる; 命ぜられたる.

ud- 指摘す, 指示す, 決定す; (證據を)擧ぐ; …を意味す; (●)を(●)なりと指示す或は意味す; (●)の爲に(●)を規定す, (●)を(●)として申出づ; (●)を豫言す; 教ふ, 説明す; 勅, 標, 説, 解説, 演説 *Aṣṭ-pr., Prât-m., Bodh-bh., Mvyut.*

(過受分) **uddiṣṭa** (因)を意味せられたる. (不變分) **uddiśya** …を目的として, …に関して=前…の方へ(行く), …に或はに就て(話す); …に向ひて(投ぐ), …の上に(置く); …の爲に; …の名に於て; …に關係して; 爲, 故爲, 仰託, 依 *Divy., Lank., Śikṣ., Bodh-bh.*: tathāgatam uddiśya 爲如來 *Bodh-bh. 160.*; tvām uddiśya 仰託仁者 *Divy. 34.*; mamoddiśya 依我, 依我教 *Śikṣ. 67.*; mām uddiśya 爲我 *Śikṣ. 309.*

sam-ud- 列擧す, 言ふ, 詳説す; (●)を(●)に任命す, (●)を(●)と呼ぶ; (因)と論議す. (不變分) **samuddiśya** …を目的として=前…の方へ, …に於て; …の爲に, …の故に; …に關係して; …に敬意を表して. (過受分) **samuddiṣṭa** 詳細に指示せられたる, 宣言せられたる, 説かれたる, 詳説せられたる.

upa- (●)を指示す; 説明す, 指摘す, 指す; 教ふ, 教育す; 忠告す; 勸む; 規定す; …に就て言ふ, 話す; 命令す, 支配す; 名づく, 呼ぶ; 説, 宣説,

宣説開示, 解説, 演説, 作説, 講説, 論議; 傳教; 示, 宣示, 開示, 教示; 宣揚, 顯揚; 讚歎 *Aṣṭ-pr., Lank., Mvyut.* (受) (現分) **upadiśyamāna** (●) 有所説 *Nyāy-pr.* (便役) **upadeśayati** (●) 引示; 宣揚, 顯揚; 讚歎 *Aṣṭ-pr., Lank.*

praty-upa- 個々に説明す; (●)を(○)に返禮として教ゆ.

nir- (●)を指示す; (○), (●)に配分す; 指定す, 特定す, 名づく; 決定す; (●)を(●)なりと宣言す, 豫言す, (●)を(●)と見做す; 説, 作説, 能説, 分別, 解釋, 數演; 讚, 稱讚, 稱歎; 答 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Saddh-p., Daś-bh., Lank., Bodh-bh., Abh-vy.*: nirdiśanto nirdiśanti tathāgataḥ 如來說, 世尊稱歎, 如來以種種門稱讚 *Bodh-bh. 201.*; prabhedāso nirdiśanti 解釋, 分別而解釋 *Daś-bh. 7.* (受) **nir-diśyate** (●) 説, 所説 *Aṣṭ-pr., Abh-vy.* (過受分) **nir-diṣṭa** 指示せられたる, 宣言せられたる, 豫言せられたる; 命ぜられたる; (●)に委託又は保護せられたる. (便役) **nirdeśayati** (●) 宣説 *Aṣṭ-pr.*

abhi-nir- (●)を(●)と指名す, (●)を(●)と呼ぶ.
vi-nir- (因)に指定す; 宣言す; (●)を(●)と指示す或はと呼ぶ或は宣言す; 告ぐ; 決心す.

pari- 述べ, 宣言す, 指示す. (過受分) **paridiṣṭa** 知らしめられたる, 指示せられたる.

pra- 指摘す, 指示す, 名づく; 宣言す; 顯はす; 定む, 規定す; 指定す; 配分す. (過受分) **pradiṣṭa** 指示せられたる. (便役) **pradeśayati** 促進せしむ.

prati- (便役) **pratideśayati** 表示す, 指示す, 説明す; 懺悔す, 告白す; 懺, 悔, 懺悔, 悔除, 悔過, 悔捨, 悔謝; 能除滅, 發露, 發露悔過, 悔過悉除滅; 陳説 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Bodh-bh.*

sam- 指示す, 指定す; (○)に配分す; 約束す; (●), (○), (●)に(●)を負はす, 委任す; 話す, 述べ; (●)に命ず; 命令を下す; (○)に使者を送る. (過受分) **samdiṣṭa** 指示せられたる, 指定せられたる. (便役) **samdeśayati** 指示せしむ, 宣言せしむ, 語らんことを勸む.

prati-sam- (●) 又は (○)を伴ふ *haste*) に返事を授く, (○)に返事を送る; 命令す.

diś (因) 方向, 羅銀盤の方位の一點, 方位 [四方=東・西・南・北; 八方=東・西・南・北・東北・東南・西南・西北; 十方=八方及び上下を最も普通に稱せらる]; 地域, 場處; 外國; 指示, 參考, 例; 方法; (●)一切の方向, 總ゆる區域 (●) [(●)「見る」と共に, 恐怖を表はす]; (●)方, 方所, 方隅, 處所, 地方所 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sukh-vy. I.; Lank., Śikṣ., Abh-vy., Bodh-bh., Vaiś-s., Mvyut.* ∼i ∼i, 一切の處に, 一切の方向に; (四)方, 周偏方處, 處處 *Aṣṭ-pr., Sūtr.* ∼o ∼as, 彼方此方に.

∼o **vidiśas** 隨處 *Suv-pr. 198.*
∼o 'ntāt, 世界の端より.
uttarasyām ∼i 北方 *Aṣṭ-pr. 488.*
daśa ∼aḥ 十方 [1. pūrvā 東, 2. dakṣiṇā 南, 3. pāścimā 西, 4. uttaraḥ 北, 5. pūrva-dakṣiṇā 東南, 6. dakṣiṇa-pāścimā 西南, 7. pāścimottarā 西

北, 8. uttara-pūrvā 東北, 9. adhaḥ 下, 10. ūrdhvam 上] *Mvyut.*: daśasu dikṣu 十方中 *Aṣṭ-p.* 257. paśyanti ~ aś catasrah 望見四方, 顧視於四方 *Suv-pr.* 210. yām yām ~ am... tasyām tasyām ~ i, 隨方 *Suv-pr.* 106.

diśatā 方, 諸方 *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*

diśā 方角, 方向.

diśā-gaja = dik-karin.

diśānuga (śā-an°) 無量 *Gaṇḍ-vy.*: nā ca buddho ~ ḥ 正覺... 亦非無量 *Gaṇḍ-vy.* 26.

diśā-pāla = dik-pāla; = dik-karin.

diśāṃ-pati [王の名] 方主, 諸方主 *Lal-v.*

diśo-dāha [Pāli. diśā-dāha] = dig-dāha; 四方熾然 *Divy.*

diśo-bhāj 逃げ出す. ~ am Kṛ, 逃く

diśo-yāyin 一切の方向に擴がれる.

diśya 方角又は地平線に屬する或は關する; 遠方にある, 遠方より來れる; 外國の(製品).

diṣṭa → Diś. 指導, 命令; 宿命; 運命; 指定せられたる場處; 目的.

diṣṭa-kārin 命令を遂行する, 運命に従て行動する.

diṣṭa-dṛś 運命を見る或は知れる.

diṣṭa-para 運命に委ぬる或は任せたる. 宿命論者.

diṣṭa-bhāya 運命づけられたる状態, 死.

diṣṭa-bhuj (自己の行爲に對し)定められたる果報を享くる.

diṣṭānta 定められたる終末, 死.

diṣṭi 指圖, 命令; 運, 幸運 [diṣṭyāのみ. 幸運にも = 嗚呼有難し]; [diṣṭyā] 喜以 *Mvyut.* diṣṭyā vardhase (劇に於て幸運なる事件を告ぐる形式)貴方は幸運なり; 可欣慶 *Divy.* 570.

diṣṭi-vṛddhi 祝賀.

Dih, II. 油を)塗る, 汚す. digdha 汚されたる; (油を)塗られたる; (一°)によりて穢されたる; 毒を塗られたる; (一°)に觸れられたる.

upa- upadigdha 油を塗られたる, (一°)に蔽はれたる; 脂肪多き.

pra- (油を)塗る, 汚す. pradigdha (一°)を塗られたる, ...に汚されたる; ...に覆はれたる.

sam- 塗る; 覆ふ. samdihyate 塗らる, 覆はる; 不確實なり, 曖昧なり; (一°)と誤まる. samdihyamāna 起疑惑 *Nyāy-pr.*

samdigdha (一°)にて塗られたる, 覆はれたる; (一°)と取り違へたる; 朦朧たる; 不定の, 不確實なる, 疑はしき; 危険なる. samdehayati 不明瞭又は不確實ならしむ; 混亂せしむ.

dihlā [人名].

Di I., IV. diyati(-te) 飛ぶ, 飛翔す; 持去 *Bodh-bh.*

nir- 飛び去る.

pari- 飛び廻る.

Di 2. didi-, dīdi- 輝く; 喜ぶ, 稱讚せらる.

ni- (一°)を(一°)の上に輝かす.

Dikṣ, I. dikṣate 身を淨む(祭の豫備として, 特に Soma 祭の爲に); (祭式の)準備をなす. dikṣita. dikṣayati(-te) 神聖にす, Dikṣā の儀式の下に(王に)戴く; 準備す.

dikṣaṇa 神聖になすこと; Dikṣā の儀式を完了すること.

dikṣaṇā [同上].

dikṣaṇiya 神聖になすことに関する或は屬する. [Dikṣā の儀式の際に行ふ供儀の名].

dikṣayitṛ 神聖になす人; Dikṣā の儀式を執行する人.

dikṣā 淨身; (祭式の準備として)宗教的戒行(を守ること)及びその儀式; 莊重なる用意; 奉獻, 入道; 婆羅門の紐を授くること; (一°)への獻身; (一般的に)宗教的儀式; (一°)を最初に識ること; (擬人化せられたる) Soma の妻.

dikṣā-karaṇa Dikṣā の儀式をなすこと.

dikṣā-guru (一°)に導入又は入門せしむる師.

dikṣā-pāla Dikṣā の儀式の保護者, [Agni 神及 Viṣṇu 神の稱].

dikṣā-praveśa 豫備の Dikṣā 式の始まり.

dikṣita [Dikṣ] Dikṣā の儀式を受けたる; (一°)に對して身を捧げたる或は準備せる, ...に入門せる; 誓願をなせる; [眞・姓名の始め又は終りに附す]. ~ m Kṛ, Dikṣā の儀式により入道せしむ.

dikṣita-vimīta Soma 祭に於て Dikṣā を行ふ人の爲の小屋.

dikṣita-vrata Dikṣā の儀式を受けたる人の誓.

dikṣiṣyamāṇa Dikṣā をなす用意をなせる.

Didi, II. dideti 輝く. → Di 2.

didivī 輝ける.

Didi, = Didi.

didy-agni 輝ける火を有する.

Didhi, II. didhe-, didhi- ...と見ゆ; 認む.

abhi- 考ふ.

ā- 反省す

ud- (一°)を懷しげに見上ぐ.

didhiti 1. 獻身, 宗教的反省, 靈感.

didhiti 2. 光, 光明, 光輝; 光線; 威光, 莊麗.

didhitimat 輝かしき, 光れる. [太陽; Muni の名].

Didhi, = Didhi.

didhyāna [Didhi] ...の方を見つゝ.

dina 缺乏せる; 弱き; 苦しめられたる, 臆病なる, 哀れなる, 悲惨なる; 不幸なる; 劣, 下劣, 怯劣, 怯弱, 孤弱, 退屈, 懈怠; 下賤, 極下賤; 憂惑, 厭没, 寂澹, 悔, 憂悔; 苦, 貧苦 *Divy., Buddh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Sikṣ., Bodh-bh., Mvyut.* → a- ~. ~ m 哀れに, 悲しくも. 哀れなること, 悲惨.

dinaka 非常に哀れなる, 甚だ不幸なる. ~ m 甚だ哀れに.

dina-citta 形 落膽せる, 悲惨なる.
dina-cetana 形 [同上].
dinatā 女 缺乏; 弱きこと.
dinatva 甲 怯 *Sūtr.*
dina-dakṣa 形 愚鈍なる.
dina-dāsa 男 [或る *Sūdra* の名].
dina-dina 形 最も悲惨なる状態に在る.
dinadina-manas 形 愁憂(不樂), 憂愁(苦惱)
Aṣṭ-pr.: ~nā utkanṭhita-mānasaḥ 愁憂不樂,
 憂愁苦惱 *Aṣṭ-pr.* 946.
dina-manas 形 = *dina-citta*; 憂愁, 憂惱, 懷
 憂慮; 怯懼 *Lal-v., Daś-bh., Sikṣ.*
dina-mānasa 形 [同上]; 心(常)怯弱, 心(常)怯
 劣 *Sikṣ.*
dina-mukha 形 憂鬱に見ゆる; 悵然, 憂愁
Lal-v.
dina-rūpa 形 悲しき様子の.
dina-vaktra 形 顔貌(甚)寂澹 *Rāṣṭr.*
dina-vadana 形 悲しき顔をなせる, 憂鬱なる.
dina-varṇa 形 色を失へる, 蒼白の.
dina-sattva 形 意氣消沈せる.
dina-sādhaka 男 [(悲しみを賣らす), *Siva* 神の稱]
dināra 男 金貨 [*Lat. denarius*]; 金錢, 隻金
 錢 *Divy., Av-ś., Abh-vy., 梵雜.*; 陀那羅 *Abh-vy.*
dināsyā (°na-ās°) 形 = *dina-vadana*.
Dip, IV. 自 **dipyate** 焰え上る, 燃え立つ; 光を放
 つ, 輝く, 燃ゆ. (過受分) **dipta** 燃え立ちたる; 光
 れる; 輝ける; 熱き; 興奮せる, 熱烈なる; 悪しき側
 に在る, 不吉の. (便役) 他 [稀に自] **dipayati(-te)**
 点火す, 燃えしむ; 興奮せしむ; 照らさしむ; 然
 然 *Lank.* (便役) (過受分) **dipita.** (自) **dedipyate**
 鮮かに燃え立つ, 明るく輝く; 照曜, 遠照, 放
 光明 *Saddh-p., Rāṣṭr.*
ā- (過受分) **ādīpta** 燃え立ちたる. (便役) **ādipayati**
 点火す, 燃えしむ; 然, 燃 *Saddh-p.*
ud- 燃え上る. (便役) **uddipayati** 点火す, 燃す;
 興奮せしむ; 照らさしむ.
pari- (爲)に對して怒る; 全き光の中に立つ; 示,
 顯, 熾 *Saddh-p., Bodh-bh.* (便役) **paridipaya-**
 点火す, 焰又は烈火の中に移す, 火を起す; 顯,
 光顯; 説, 讚嘆 *Gand-vy., Bodh-bh.:* mārgam vā
 paridipayitum 説其正道, 説其道分 *Gand-vy.* 99.
pra- 燃え上る, 燃ゆ. (過受分) **pradipta** 点火せ
 られたる, 焰の立てる, 燃えたる, 光れる; 照され
 たる; 興奮せる. (便役) **pradipayati** 点火す, 燃やす.
sam- 燃ゆ, 焼く, 輝く. (過受分) **samdipta** 燃え
 たる, 焰の立てる. (便役) **samdipayati** 点火す, 燃
 やす.
dipa 男 燈火, 燈, 提燈; 炬火, 松明(松); 燈, 燈
 明, 燈焰, 火 *Saddh-p., Vajr-pr., Lank., Sūtr., Sikṣ.,*
Bodh-bh., Mvyut., 梵雜
dipaka 形 点火する, 燃やす, 燃え立たす; 照らす.
 男 燈火; 燈; [*Garuda* の息子の名]; [諸人の名]; 甲
 [修辭學上の文の修飾形式の一即ち一文又は一句の意
 味を明らかならしむる語].
dipa-kalikā 女 [*Yājñavalkya-smṛti* に對する註釋

書の題名].

dipa-kārin 男 [佛の名] 作光(佛), 然燈 *Lal-v.*
dipakerṇi 男 [聖仙の名].
dipaṃ-kara 男 [佛の名] 然燈, 燃燈, 燈作, 錠
 光, 定光, 然燈(佛) *Aṣṭ-pr., Vajr-pr., Gand-vy.,*
Sukh-vy. I., Mañj-m., Abh-vy., Mvyut.; 提
 和竭, 提苾竭, 提和竭羅, 提苾竭羅 *Sukh-vy. I., 支離.:*
 ~s tathāgataḥ 然燈如來 *Abh-vy.* 21.
dipaṃkara-tathāgata 男 燃燈佛, 錠光如來
Saddh-p.
dipa-taila 甲 燃燈油 *Sikṣ.*
dipa-da 形 燈を與ふる.
dipana 形 (女-i) 点火する, 燃え立たしむる; 興奮
 せしむる; 消化を助くる. 甲 燃えしむること; 照
 らすこと; 消化の促進.
dipanā 女 開示 *Bodh-bh.*
dipaniya (未受分) 点火せらるべき, 燃やさるべき; 興
 奮せしめらるべき.
dipa-pādapa 男 燭(臺).
dipa-prabhā 女 燈明 *Buddh-c.*
dipa-bhājana 甲 (光の容器), 燈明.
dipa-bhūta 形 如燈 *Gand-vy.*
dipa-mālā 女 (燈の花環), 燈の列, 飾燈; 燈
Av-ś., 然燈會 Divy.: ~m akārṣit 然燈 *Av-ś. I.*
 308.
dipa-mālikā 女 [同上].
dipa-varti 女 燈心.
dipa-vṛkṣa 男 燭臺, 燈, 提燈.
dipa-śikhā 女 燈の焰; 明燭 *Lal-v.*
dipa-sthālikā 女 燈器, 燈盆 *Rāṣṭr.* 57.
dipānkura 男 燈火の焰.
dipārcis 甲 燈火炎, 燃燈焰, 然燈燄 *Madhy-v.*
dipāloka (°pa-āl°) 男 燈火, 燈明.
dipāvali (°pa-āv°) 女 燈の列, 燈飾.
dipikā 女 燈; [廣: 一° 書物の題名に用ふ].
dipikā-dhāriṇi 女 燈を捧ぐる女.
dipita (便役) (過受分) [*Dip*] 点火せられたる, 燃やされ
 たる; 燃え上れる, 照らされたる; 興奮せしめられ
 たる; 明らかにせられたる.
dipin 形 (一)を燃やす, ……に点火する; 興奮せし
 むる.
dipotsava (°pa-ut°) 男 燈火祭.
dipopama (°pa-up°) 形 燈に比較せられたる.
dipta (過受分) → *Dip.* 燃, 輝耀, 赫奕 *Lal-v.,*
Gand-vy., Madhy-v.; 備鉢多 *Guh-y-s.*
dipta-kiraṇa 形 熱き光線を有する. 男 太陽.
dipta-kirti 男 [(輝かしき名聲の), *Skanda* の稱].
dipta-ketu 形 光り輝く旗を有する. 男 [王の名];
 [*Manu Dakṣasāvarni* の息子の名].
dipta-tapas 形 熱心に苦行する, 熱烈なる信仰の.
dipta-tejas 形 甚だ輝かしき, 大火焰の; 威光
 赫奕 *Gand-vy.*
dipta-nayana 形 輝く眼を有する. 男 [或る梟の名].
dipta-phala 形 (女-ā) 悅ばしき果實を結べる
 (*Buddh-c.*).
dipta-roman 男 [(燃ゆる如き色の髮の), *Viśve-Deva*

神の一].

- dipta-varṇa** 男 [(輝ける色の), *Skanda* の稱].
dipta-viśāla-netra 形 大なる燃ゆる如き眼の.
dipta-viryā 形 熱烈なる力の. 男 ㊦ [王の名] 光明進 *Lal-v.*
dipta-śakti 男 [(光り輝く槍を持てる), *Skanda* の稱].
dipta-śikha 形 燃え上る焰を有する. 男 [或る *Yakṣa* の名].
dipta-śri 形 赫々たる名聲の.
dipta-hutāśa-vaktra 形 燃え立つ火を口とせる.
diptāmsu 形 熱き光線を有する. 男 太陽.
diptākṣa 形 (㊦-i) 燃える眼を有する. 男 [或る梟の名; (㊦) [民族の名].
diptāgni 男 燃え立つ火. 形 (祭式の)火を點じたる ㊦ *grha-pati* の義務を負へる; よく消化する.
diptāgnitā ㊦ 消化の良好なること.
diptātman (°*ta-āt*) 形 熱烈なる性質の, 熱心なる.
diptāśya (°*ta-ās*) 形 口より焰を吐く(蛇).
dipti ㊦ 光; 光輝; 優美; [*Viśve Deva* 神の一]; ㊦ ~*tyā* ㊦ 晃然 *Buddh-c.*
diptimat 形 發光する, 輝ける. 男 [*Kṛṣṇa* の息子の名].
diptaujas (°*ta-oj*) 形 烈しき勢力の; 熱烈なる.
dipyamāna 現分 ㊦ 熾然 *Laṅk.*
dipra 形 光れる, 輝ける, 燃ゆる.
dirgha 形 長き [時間并に空閒の], 永續する, 長期間の; 高き, 丈高き; 深き(溜息); 長き(母音又は音節); ㊦ 長, 狭長, 纖長; 遠, 久遠, 長時 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Mvyut., 梵千.* → *ati* ~. ~*m* ㊦ 長き間, 久しく. ~*ena kālena* ㊦ ㊦ 久 *Bodh-bh.* 男 長母韻.
dirgha-karṇa 男 [(長耳), 或は猫の名].
dirgha-kāla 男 長時間; ㊦ 長時, 久遠 *Bodh-bh., Madhy-vibh.* ~*m* ㊦ 長き間, 久しく.
dirgha-kālatva ㊦ ㊦ 長時, 時長 *Madhy-vibh.*
dirgha- ㊦ 長時, 長久, 久遠 *Bodh-bh.*
dirgha-kūrca 形 長き鬚ある.
dirgha-keśa 形 (㊦-i) 長き鬚ある. 男 (㊦) [民族の名].
dirgha-gāmin 形 遠方に行く或は飛ぶ(矢).
dirgha-griva 形 長き頸ある. 男 駱駝; (㊦) [民族の名].
dirgha-cārāyaṇa 男 [人名] (*Av-s.*).
dirgha-jaṅgha 男 [(長脚, 長脛), 或る *Yakṣa* の名].
dirgha-jihva 男 (長き舌の), 蛇; [或る *Dānava* の名].
dirgha-jihvā ㊦ [或る *Rākṣasi* の名].
dirgha-jivin 形 長き間生ける.
dirgha-tapas 形 長き間苦行をなす. 男 [諸聖仙の名]; [*Gautama* (*Ahalyā* の夫) の稱]; [諸苦行者の名]; ㊦ [聖仙の名] 長苦(偈), 長苦行 *Laṅk.*
dirghatama 最上 [= *drāghistha*] 最も長き, 甚だ長き; ~*m* ㊦ 甚だ長き間, 甚だ長く.
dirgha-tamas 男 [聖仙の名]; (㊦) [*Dirghatamas* 仙の子孫].

- dirghatā** ㊦ 長さ, 長きこと.
dirgha-tikṣṇa-mukha 形 (㊦-i) 長くして尖れる口を有する(蛭).
dirgha-tuṇḍa 形 (㊦-ā, -i) 長き鼻口部を有する(動物).
dirghatva ㊦ = *dirghatā*; ㊦ 長體 *Paś-s.*
dirgha-danta 形 齒の長き.
dirgha-darśana 形 遠くを見る, 先見の明ある, 思慮ある, 賢明なる.
dirgha-darśitā ㊦ 遠視力, 先見.
dirgha-darśitva ㊦ [同上].
dirgha-darśin 形 = *dirgha-darśana*. 男 [或る大臣の名]; [或る猿の名].
dirgha-darśivas 形 = *dirgha-darśana*.
dirgha-dṛśvan 形 [同上].
dirgha-nakha 形 (㊦-i) 長き爪を有する. 男 ㊦ [人名] 長爪 *Av-s.*
dirgha-nidrā ㊦ 長き睡眠; 死.
dirgha-niśvāsa 男 深き溜息.
dirgha-pad 形 長き脚の.
dirgha-pād 形 [同上].
dirgha-prajña 形 遠大なる思慮ある. 男 [王の名].
dirgha-prayajyu 形 獻供に撓まざる.
dirgha-prāṇa 形 長き呼吸をなす.
dirgha-prekṣin 形 = *dirgha-darśana*.
dirgha-bāhu 形 長き臂を有する; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].
dirgha-mukha 形 (㊦-i) 長き口を有する, 長き嘴を有する, 長き顔を有する.
dirghaya (名動) ㊦ **dirghayati** 延引す, 遅延す, 遲滞す.
dirgha-yajña 男 [或る *Ayodhyā* の王の名].
dirgha-yaśas 形 廣く知れ互れる.
dirgha-yātha 男 ㊦ 長途, 長途の旅行.
dirgha-yāma 形 長き夜番の(夜).
dirgha-rātram ㊦ 長時を通して或はに於て(*Lal-v.*); ㊦ 長夜, 長夜中, 於長夜中, 永, 久, 永遠 *Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr., Sam-r., Laṅk., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.*: ~*m* *sarva-sattvānām hita-cittāḥ* 長夜利益於諸衆生, (汝等)長夜於諸衆生常思利益 *Suv-pr.* 61.
dirgha-rāva 男 [(長叫), 或る豹の名].
dirgha-roṣa 形 激怒の永續する, 遺恨を懷く.
dirgha-roṣaṇa 形 [同上].
dirgha-roṣatā ㊦ [同上].
dirgha-locana 形 長き眼を有する; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].
dirgha-vapus 形 細長き身體の, すらりとせる.
dirgha-vārṣika 形 ㊦ 長夏時 *Mvyut.*
dirgha-śṛṅga 形 長き角(?)を有する.
dirgha-śoka 男 長き間の心痛.
dirgha-śmaśru 形 長き髻を有する.
dirgha-śrut 形 遠方まで聞ゆる, 廣く知れ互れる.
dirgha-sattra ㊦ 長期間の *Soma* 祭. ㊦ 長期間の *Soma* 祭に従事せる.
dirgha-sattrin 形 [同上(形)].

dirgha-saṁdhya 形 Samdhya に於て長く祈願せる
即ち夕暮の時刻に長き間祈禱又は祭式を行ふ。
dirgha-saṁdhyatva 甲 Samdhya の祈願の長き繼續。
dirgha-samaya 男 長時 Sūtr.
dirgha-sūtra 形 (長き線に紡く). 遲滞せる, 延引せる。
dirgha-sūtratā 女 遲滞, 延引。
dirgha-sūtratva 甲 [同上].
dirgha-sūtritā 女 [同上].
dirgha-sūtrin 形 = dirgh-sūtra.
dirgha-hrasva 形 長短 Laṅk.
dirghākṣa 形 長き目を有する。
dirghāgama (°gha-āg°) 男 [佛典の名] 長旨;
(音)長阿笈摩 長阿含經 Mvyut. [Pāli. dīghā-
nikāya].
dirghāṅguli 形 [三十二相の一] 指纖長, 纖長
指, 手指纖長 Gaṇḍ-vy., Bodh-bh., Mvyut.: ~r
mahā-puruṣaḥ (具)大丈夫纖長指(相) Bodh-bh. 375.
dirghāṅgilitā 女 長き指を有すること (Dharm-s.);
[三十二相の一]手足諸指纖長(圓滿)相 Dharm-s.
dirghāṅgulitva 甲 [三十二相の一] 纖長指, 長
指相, 纖長指相 Bodh-bh.
dirghā-dhi 形 遠大なる配慮の。
dirghādhva 形 久遠 Gaṇḍ-vy. 男 長き路又
は長途の旅行。
dirghādhya-ga 男 (遠路を行く), 駱駝, 飛脚, 使者。
dirghānuparivartin 形 長隨, 長跟隨, 長時隨
轉, 無時暫替 Lal-v., Mvyut.
dirghāpāṅga 形 長き髻(鬚)を有する。 男 [或る羚羊
羊の名].
dirghāpekṣin 形 極めて思慮深き。
dirghāmaya (°gha-ām°) 形 長き病に苦める。
dirghāyu (°gha-āyu°) 形 長壽の。
dirghāyutva (°gha-āy°) 甲 長壽。
dirghāyu-socis 形 長き生涯を通じて輝ける (Agni
神).
dirghāyuṣa (°gha-āy°) 形 = dirghāyus.
dirghāyuṣka (°gha-āy°) 形 長壽の; 長壽, 壽命
長遠, 壽命得長, 増益壽命 Suv-pr., Bouh-bh., Śikṣ.:
~ś ca bhaviṣyati ciram-jivī ca bhaviṣyati 増益
壽命 Suv-pr. 71. ~m 長壽 Bodh-bh.
dirghāyuṣkatā (°gha-āy°) 女 得壽命長, 壽命
得長 Suv-pr.
dirghāyus (°gha-āy°) 形 長命の; 長壽 Bodh-
bh.: ~śo devaḥ 長壽天, 無想天, 生在壽天 Mvyut.
dirghāraṇya 甲 廣き森, 大森林; 廣き不毛の野。
dirghikā 女 長形の池又は湖。
dirghikā-vāpi 女 池水流渠 Divy.
dirghi-Kṛ, 長くす, 延ばす。
dirghi-BHū, 永びく, 長くなる。
dirghocchvāsam (°gha-uc°) 形 深き歎息を以て。
dirghotkanṭha-manas (°gha-ut°) 形 心が永き憧
憬の爲に疲れたる。
dirṇa (通受分) 破壊せられたる等。 → Dr.
Div; → Div 1, 2.

divana 甲 賭博, 骰子遊び。

Du, V. 燃ゆ; Ⅳ. 燃ゆ(=ti) 燃ゆ;
苦しめらる, 悲哀又は後悔にて瘦せる; **dunoti** 焼く,
苦を惹き起す, 苛責す, 惱ます。 (通受分) **dūna, duta**
苦を受けたる, 惱まされたる。
abhi- 燃やす, 燃やして苦しめしむ。
ā- 自 **ādunute** 悲しむ, 苦痛を感じず。
pari- 烈しく燃ゆ; 悲しむ。
pra- pradūyate 火にて儘さる; **pradunoti** 苛
責す, 壓迫す。
vi- 燃やして破壊す或は儘す; 自
vidunute, vidūyate 悲しまさる, 苦しめらる。
duḥ-kāra 形 [= duḥkara] 苦行 Rāṣṭr.
duḥ-kṛta (通受分) → duḥ-kṛta.
duḥ-kha 形 不愉快なる, 艱難に充てる, 憐れなる;
苦, 難 Bodh-bh., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.:
~āḥ sarva-saṁskārah 一切行苦 Dharm-s. 甲
苦痛, 艱難, 悲惨, 受苦; 苦, 惱, 苦惱, 危苦, 憂
苦, 患 Aṣṭ-pr., Saddh-p, Suv-pr., Laṅk., Bodh-bh.,
Abh-vy., Sāṁkhya-k., Vaiś-s., Madhy-vibh., Dharm-
s., Mvyut., 梵: ~e dharmā-jñāna-kṣāntau 苦
法智忍 Abh-vy. 78.; ~e 'duḥkha-saṁjñinām 苦
中樂想 Gaṇḍ-vy. 228.; ~ena saṁpīditah 遭苦
Saddh-p. 10.; ~syāntam karisyati 盡衆苦, 盡
苦邊際 Aṣṭ-pr. 142.
~m 業, ~āt 業, ~ena 業, ~辛うじ
て, 困苦して, 嫌々乍ら。
~m Ās, 悲しげなり, 具合悪し。
~m Kṛ, 苦しめしむ, 苦しめしむ, 苦痛を感じ
しむ。
~m 非人 (不定)をなすは困難なり。
duḥkha-kāra 形 (女 -i) (業)を惱ます; 苦作
Sūtr.
duḥkha-kārin 形 [同上].
duḥkha-kṣaya 男 苦盡, 盡苦 Laṅk.
duḥkha-gata 甲 不幸, 不運, 災難。
duḥkha-graha 形 會得し難き。
duḥkha-cārin 形 惱みに身を委ぬる, 苦しめる。
duḥkha-cchedya 形 破壊し難き, 征伏し難き。
duḥkha-janma 形 苦生, 生苦 Laṅk.
duḥkha-janmā-hetuka 形 未來苦因 Laṅk.
duḥkha-jivin 形 困苦の中に生活せる。
duḥkha-jñāna 甲 苦智, 知苦 Mvyut.
duḥkhatara 比較 一層不愉快なる, 更に苦しき。 甲
(因)より一層大なる苦惱・憂惱・艱難又は災禍。
duḥkhatā 女 不快, 苦惱, 不幸; 苦, 苦性 Abh-
vy., Mvyut.; traya~ 三苦性 [1. duḥkha~ 苦苦
性, 2. saṁskāra~ 行苦性, 3. viparīṇāma~ 壞
苦性] Mvyut.; aṣṭau ~ḥ 八苦性 [1. jātir duḥ-
kham 生苦, 2. jarā-duḥkham 老苦, 3. vyādhi-
duḥkham 病苦, 4. maraṇa-duḥkham 死苦, 5.
priya-viprayoge duḥkham 愛別離苦, 6. apriya-
saṁprayoge duḥkham 怨憎會苦, 7. yad apīcchayā
parīyaṣamaṇo na labhate tad api duḥkham 雖復
希求而不得苦, 8. saṁksepāna pañcopādāna-skaṇ-
dha-duḥkham 略說五取蘊苦] Mvyut.

duḥkha-traya 甲 三苦 *Sāṃkhy-k.*
 duḥkhatva 甲 苦 *Madhy-vibh.*
 duḥkha-duḥkha 甲 大なる困難を以て。
 duḥkha-duḥkhatā 乙 苦痛に基く不快; 苦苦, 苦苦性 *Bodh-bh., Mvyut.*
 duḥkhaduḥkhatā-satya 甲 苦苦實, 苦苦性諦 *Bodh-bh.*
 duḥkha-duḥkhin 形 苦惱に苦惱せる, 不幸に不幸を受くる。
 duḥkha-daurmaṇasya 甲 憂惱 *Divy.*
 duḥkha-nirodha 男 苦滅, 苦盡, *Lal-v., Saddh-p.*
 duḥkhanirodha-gāmin 形 證苦滅 *Lal-v.:*
 ~ī pratipad 苦滅道, 滅苦之道, 順苦滅道, 苦盡至道 *Saddh-p., Mvyut.*
 duḥkha-nivaha 男 多大の苦痛又は不幸。 形 苦しき, 苦痛を招く, 困難なる。
 duḥkha-pañjara 甲 苦獄, 牢獄, 苦牢獄 *Gaṇḍ-vy.*
 duḥkhapañjara-gata 形 (如)在牢獄 *Gaṇḍ-vy.*
 duḥkha-paramparā 女 相續苦不斷 *Saddh-p.*
 duḥkha-parijñāna 甲 苦遍知 *Lal-v.*
 duḥkha-parikṣā 女 觀苦 *Madhy-v.*
 duḥkha-paritāṅga 形 痛む四肢を有する。
 duḥkha-paritātman (^ota-āt^o) 形 心の苦痛に惱める, 悲しみに充てる心を有する。
 duḥkha-prakṛtika 形 性苦 *Bodh-bh.*
 duḥkha-pratikāra 男 苦痛の治療 (*Buddh-c.*)
 duḥkha-pramocana 形 度脱苦 *Saddh-p.*
 duḥkha-prāya 形 悲しみに充てる。
 duḥkha-bodha 形 理解せられ難き。
 duḥkha-bhāgin 形 不幸に廻り合せたる, 不運なる。
 duḥkha-bhāj 形 [同上]。
 duḥkha-bhūyiṣṭha 形 主として苦痛より成る, 悲歎多き (*Buddh-c.*)
 duḥkha-bheṣajā 男 [(悲しみを醫する), *Kṛṣṇa* 神の稱]。
 duḥkha-maraṇa 形 苦しみて死する, 慘死する。
 duḥkha-moha 男 絶望。
 duḥkhaya 名動 他 duḥkhayati (業)を苦しむ, 悩ます; 患 *Divy.* 乙 duḥkhyate 苦 *Sūtr.* 通受分 duḥkhita.
 duḥkha-yantra 甲 拷問, 苛責。
 duḥkhayitr 男 悩ます人。
 duḥkha-yoga 男 苦痛を與ふること。
 duḥkha-yoni 男 女 不幸の源。
 duḥkha-labdhikā 女 [王女の名]。
 duḥkha-vartman 甲 苦道 *Saddh-p.*
 duḥkha-vasati 女 困難を伴ふ居住。
 duḥkha-vāsa 男 [同上]。 ~m Vas, 困難なる生活をなす。
 duḥkha-vighāta-traya 甲 離三苦 *Sāṃkhy-k.*
 duḥkha-vipāka 男 甲 苦報 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr.:*
 asya ~m bhavati 受苦 *Aṣṭ-pr. 355.*
 duḥkha-virūḍhi 女 苦著 *Sūtr.*
 duḥkha-vīrama 男 苦痛を和ぐることに, 悲みを鎮

むること。

duḥkha-vega 男 激しき苦痛。
 duḥkha-vyābhāṣita 形 辛うじて發音せられたる。
 duḥkha-śabda 男 惡聲, 惡響 *Suv-pr.*
 duḥkha-śalya 男 甲 苦毒箭, 衆苦箭 *Gaṇḍ-vy.*
 duḥkha-śastra 甲 苦器 *Bodh-c.*
 duḥkha-śila 形 (扱ひ)難き性質の, 悦ばしめ難き苛き要求をなす。
 duḥkha-śoka-paritrāṇa 甲 苦痛と悲哀よりの庇護。 男 [*Kṛṣṇa* 神の稱]。
 duḥkha-śokavat 形 苦痛と悲哀とを感ずる。
 duḥkha-śoka-samanvita 形 [同上]。
 duḥkha-saṃsparśa 形 觸感の悪しき, 悲哀を招く。
 duḥkha-saṃcāra 形 不愉快に経過する(時間)。
 duḥkha-satya 甲 苦實, 苦諦, 苦(聖)諦 *Lank., Bodh-bh., Madhy-vibh.*
 duḥkha-sa-brahma-cāriṇi 女 不幸の友。
 duḥkha-sa-brahma-cārin 男 [同上]。
 duḥkha-samudaya 男 苦集 *Saddh-p.*
 duḥkha-samudra 男 (苦痛の大海), 大なる苦痛; 苦海 *Suv-pr.*
 duḥkha-sāgara 男 [同上]; 苦海 *Suv-pr.*
 duḥkha-skandha 男 苦蘊, 苦陰, 苦聚 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*
 duḥkha-sthāniya 形 苦具 *Vijñ-t.*
 duḥkha-sparśa 形 觸感の不快なる。
 duḥkha-han 形 苦痛を滅する。
 duḥkha-hara 形 離苦 *Guhy-s.*
 duḥkhākara (^okha-āk^o) 男 多くの苦惱。
 duḥkhākula (^okha-āk^o) 形 悲しみに充てる, 悲める。
 duḥkhā-Kṛ, 苦痛を起す, 苦しませむ, 悩ませむ。
 duḥkhākrānta (^okha-āk^o) 形 苦遍 *Sūtr.*
 duḥkhācāra (^okha-āc^o) 形 扱ひ難き, 處理し難き。
 duḥkhādhivāsa 男 耐苦, 容苦 *Sūtr.*
 duḥkhādhivāsanā 女 耐苦 *Sūtr.*
 duḥkhānarha 形 不幸又は苦しみに値せざる, 不當に苦しめる。
 duḥkhānta 男 (苦の終極), 究極の解脱。
 duḥkhānta-gāmin 形 斷苦, 苦盡 *Saddh-p.*
 duḥkhāpaha 形 除苦 *Sūtr.*
 duḥkhābhijña 形 苦痛又は悲哀に慣れたる。
 duḥkhābhyupeta 形 欲苦 *Sūtr.*
 duḥkhāya 名動 自 duḥkhāyate 苦痛を感ず, 悩ませざる; 他 = duḥkhaya。
 duḥkhārṇava 男 苦海 *Suv-pr.*
 duḥkhārta (^okha-ār^o) 形 悩まされたる; 苦惱, 生苦惱, 生憂苦, 遺苦惱患 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*
 duḥkhālaya (^okha-āl^o) 男 苦痛の家。
 duḥkhāsikā (^okha-ās^o) 女 不安又は不快の状態, 不如意。
 duḥkhita 通受分 [duḥkhaya] 苦しめる, 悩まされたる, 悲める; 不幸なる; 苦, 所苦, 有苦, 危苦, 苦厄, 受苦, 苦惱, 辛苦, 苦果; 諸苦逼迫; 憂, 多憂惱 *Divy., Lal-v., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr., Bodh-bh., Abh-vy., Madhy-vibh., 梵雜.; 貧窮 Sukh-vy. I.*

duḥkhitā ㊟ 受苦, 憂惱, 苦痛, 困厄.
 duḥkhin ㊟ 惱まされたる, 悲める, 苦める; ㊟ 苦, 有苦, 苦者, 逼惱 *Sūtr.*, *Abh-vy.*
 duḥ-khilatā ㊟ ㊟ 邪見, 似鄙露 *Mvyut.*
 duḥkhiya ㊟ ㊟ 苦痛を感ず, 惱ま
 さる.
 duḥkhendriya (°kha-in°) ㊟ ㊟ 苦根 *Mvyut.*
 duḥkhottara (°kha-ut°) ㊟ 苦痛を伴へる.
 duḥkhodarka (°kha-ud°) ㊟ 苦痛を結果とせる.
 duḥkhodvahana (°kha-ud°) ㊟ ㊟ 代受苦, 忍受
 (大)苦 *Bodh-bh.*
 duḥkhodvahana-citta ㊟ ㊟ 代受苦心, 代受苦
 想 *Bodh-bh.*
 duḥkhopaghāta (°kha-up°) ㊟ 烈しき苦痛又は悲哀.
 duḥkhopacarya (°kha-up°) ㊟ 取扱ひ難き, 悦ばし
 難き.
 duḥkhopaniṣac-chraddhā (°kha-up°) ㊟ ㊟ 苦
 爲信依, 信以苦爲資糧 *Abh-vy.*
 duḥkhopaśamana (°kha-up°) ㊟ 苦痛の軽減, 鎮痛
 劑.
 duḥkhopahata (°kha-up°) ㊟ 悲哀に打たれたる.
 duḥkhopahata-cetas ㊟ 悲哀に打たれたる心を有
 する.
 duḥ-parājaya ㊟ ㊟ 勝 *Sikṣ.*
 duḥ-pariccheda ㊟ ㊟ 分別(尙)難 *Abh-vy.*
 duḥ-prajña ㊟ ㊟ 無智慧, 無有智慧, 邪疑(者), 愚
 迷(者), 愚癡(者), 住惡慧(者) *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*
 duḥ-pradharṣa ㊟ ㊟ 無能勝, 不爲他侵 *Lal-v.*
 duḥ-pravyāhāra ㊟ ㊟ 難説, 難可演説 *Gaṇḍ-vy.*
 dukūla ㊟ [植物の一種]. ㊟ [甚だ美麗なる布の
 一種]; dukūla 製の衣服; ㊟ 細布 支應; ㊟ 頭
 求羅(衣), 頭鳩羅(衣), 頭頭羅 支應.
 dukūlaka ㊟ ㊟ 精麩 *Sikṣ.*
 dukūlavat ㊟ dukūla 衣を著たる.
 dukha ㊟ [=duḥkha] ㊟ 苦 *Madhy-v. 332.*
 dukhita ㊟ ㊟ [=duḥkhitā] ㊟ 苦, 難, 苦惱, 受
 (衆)苦 *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*
 dugdha ㊟ ㊟ 搾られたる(乳)等. → Duh. ㊟ 牛
 乳; 樹液; ㊟ 乳 *Abh-vy.*; ㊟ 獨陀 *Abh-vy.*
 dugdha-kulyā ㊟ 多量の牛乳.
 dugdha-da ㊟ 乳を出す.
 dugdha-doha ㊟ 乳を搾られたる.
 dugdha-bhṛt ㊟ 乳を藏すること又は出すこと.
 dugdha-mukha ㊟ 口中に乳を有する, 幼き.
 dugdha-samudra ㊟ 乳の海.
 dugdha-sindhu ㊟ [同上].
 dugdha-srotas ㊟ 乳の流れ.
 dugdhābdhi ㊟ 乳の海.
 dugdhāmbudhi ㊟ [同上].
 dugdhārnava ㊟ [同上].
 dugdhodadhi (°dha-ud°) ㊟ [同上].
 dugha ㊟ (一)乳を出す, ……を與ふる. → kāmāṅ
 ~.
 dughā ㊟ 乳牛.
 ducchunā ㊟ 不運, 災難, 傷害; 惡魔.
 duṇḍubha ㊟ [蜥蜴の一種].

duṇḍubhi ㊟ [同上].

duta ㊟ ㊟ → Du.

Dudh, I. ㊟ ㊟ dodhati 怒る, 害す. ㊟ ㊟ dodbat
 亂暴なる, 狂暴なる, 猛烈なる. ㊟ ㊟ dudhita
 困難せる, 當惑せる.

dudhi ㊟ ㊟ 猛烈なる, 亂暴なる.

dudhita ㊟ ㊟ → Dudh.

dudhukṣu ㊟ ㊟ [Duh] 乳を搾らんと欲する.

dudhra ㊟ =dudhi.

dudhrukṣu ㊟ ㊟ [Druh] 害せんと欲する, 叛逆的
 傾向ある.

duṇḍu-nābha ㊟ [呪文の一種, =duṇḍubhi-svana].

duṇḍubha ㊟ [水棲動物の一種]; ㊟ [=duṇḍubhi]
 鼓 *Suv-pr.*

duṇḍubhi ㊟ ㊟ 太鼓, 鑼鼓; ㊟ 鼓, 大鼓, 天鼓
Saddh-p., *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* ㊟
 [Kṛṣṇa 神の稱]; [或る Rākṣasa・或る Yakṣa・諸 Asura・
 諸人共に二の山の名]. ㊟ [或る Gandharvī の名]
 (*Kar-vy.*).

duṇḍubhi-griva ㊟ 太鼓の如き頸を有する(牡牛).

duṇḍubhi-śabda ㊟ ㊟ (金)鼓聲 *Suv-pr.*

duṇḍubhi-sampravādita ㊟ ㊟ 妙鼓音, (金)鼓微
 妙音聲 *Suv-pr.*

duṇḍubhi-svana ㊟ [(太鼓の音), 惡靈を追拂ふ爲の
 呪文の一種].

duṇḍubhi-śvara ㊟ [人名]; [或る Gandharva 王の
 名] (*Kāṭ-vy.*); ㊟ (天鼓音, 微妙聲, 妙聲 *Av.ś.*,
Suv-pr. ㊟ ㊟ 鼓音, 如天鼓音, 如振鼓, 如震鼓音
Mvyut.

duṇḍubhisvara-nirghoṣa ㊟ ㊟ [佛の名] (無量)
 天鼓(震大)妙音 *Sukh-vy. II.*

duṇḍubhisvara-rāja ㊟ [諸佛の名].

duṇḍubhi ㊟ =duṇḍubhi.

duṇḍubhy-āghāta ㊟ ㊟ 鼓手.

duṇḍumāyita ㊟ 太鼓の音.

dumela ㊟ ㊟ [數の名] 獨墨蘭 *Mvyut.*

dur ㊟ 戶.

dur-akṣara ㊟ ㊟ 悪しき言葉.

dur-atikrama ㊟ ㊟ 經過し難き, 打克ち難き, 免れ難
 き; ㊟ 難行, 難過, 難逮, 不可越度, 難可得過
Daś-bh., *Guhy-s.*

dur-atyaya ㊟ [同上]; 得難き, 近寄り難き; 測り難
 き.

dur-atyetu ㊟ =dur-atikrama.

dur-adhiga ㊟ ㊟ 達し難き, 得難き, 了解し難き.

dur-adhigama ㊟ [同上]; 學び難き; ㊟ 難解 難
 得, 難證 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*

dur-adhimokṣa ㊟ ㊟ 難信, 難知 *Gaṇḍ-vy.*:
 ~m kula-putredam sthānam 善男子此處難知, 善
 男子此處難知難説, 善男子此處甚深難知難信 *Gaṇḍ-
 vy. 174.*

dur-adhimoca ㊟ ㊟ 難信, 難信解 *Ast-pr.*, *Gaṇḍ-
 vy.*

dur-adhimocya ㊟ ㊟ 難信難解, 難限難計 *Saddh-
 p.*

dur-adhiṣṭhita ㊟ ㊟ 悪しく取り扱はれたる, 拙く

操作せられたる。
dur-adhita (通受分) 拙く或は悪しく讀まれたる或は學習せられる。
dur-adhiyāna 形 悪しく學習せられたる。
dur-adhyaya 形 獲得し難き、習得し難き。
dur-adhyavasāya 男 愚かなる企圖。
dur-adhva 男 惡路。
dur-anujñāta (通受分) 辛うじて許されたる。
dur-anupālana 形 守り難き、保存し難き。
dur-anubodha 形 知り難き; 難解、難解難入、難入、難知、難悟、難覺、難隨覺、難可覺知、難解難覺、難全記 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*, *Mvyut.*
dur-anuṣṭhita (通受分) 悪しく爲されたる或は取り扱はれたる; 不正に取り扱はれたる、正規によつて取り扱はれざる。
dur-anuṣṭheya (通受分) 遂行し難き。
dur-anta 形 終を(知り)難き、無終の; 悪しき結末の、不幸に終る。
dur-antaka 形 [同上]; [*Śiva* 神の稱].
duranta-kṛcchra 男 甲 限りなき困難。
duranta-kṛt 形 終なき事をなす或は無限の苦痛を受くる。
duranta-cintā 女 限なき悲しみ又は苦惱。
duranta-deva 男 結末を付け難き事柄の神即ち困難を取除く神 (*Gaṇeśa*).
duranta-paryanta 形 悪しき結末の。
duranta-bhāva 形 無限に熱情ある、甚だ熱烈なる。
duranta-moha 形 惑溺して悪しき結果を招く、限りなく惑溺せる。
duranta-virya 形 限なき精力を有する。
duranta-śakti 形 無限の力を有する。
dur-anvaya 形 …に沿ふて進み難き、辿り難き(路); 成就し難き、實行し難き; 發見し難き、了解し難き; 對應せざる、適當ならざる。男 謬れる一致(文法); 謬れる結論。
dur-anveṣya (未受分) 探究し難き。
dur-apāya 甲 悪しき子孫。
dur-apavāda 男 誹謗。
dur-apāsa 形 捨て去り難き。
dur-abhiprāya 形 惡意の。
dur-abhibhava 形 打克ち難き或は凌駕し難き。
dur-abhibhavatva 甲 [同上 甲]。
dur-abhimānin 形 不快に傲慢なる。
dur-abhirakṣa 形 護り難き、保ち難き。
dur-abhirakṣatā 女 [同上 甲]。
dur-abhisamḍhi 男 惡意。
dur-abhisambhava 形 遂行し難き (*Jāt-m.*); 難得、難生、難信解、甚難可得 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
dur-avagama 形 了解し難き。
dur-avagāha 形 貫き難き; 了解し難き; 測り難き、見出し難き; 入り難き、近づき難き (*Jāt-m.*); 難入、難下; 難解、難知、甚難思、難度、難測、難可測、不能得其源底、不能得其(邊際)源底 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Mvyut.*

dur-avagraha 形 制御し難き、制壓し難き。男 惡質の頑固、強情。
dur-avagrāha 形 達し難き、得難き。
dur-avagrāhya (未受分) [同上].
dur-avacchada 形 隠し難き、覆ひ難き。
dur-avatara 形 難入 *Gaṇḍ-vy.*
dur-avatāra 形 下降し難き。
dur-avadhāra 形 [同下]; 難了知、難分別 *Abh-vy.*
dur-avadhāraka 形 悪しき判断を下す、悪しき決定をなす。
dur-avadhāraṇa 形 定義し難き。
dur-avadhārya 形 了解せられ難き
dur-avabodha 形 了解し難き; 難悟 *Mvyut.*; 玄梵。
dur-avaroha 形 =dur-avatāra.
dur-avalepa 男 不快なる傲慢。
dur-avasita (通受分) 確め難き、不確實なる; 測り難き。
dur-avastha 形 悪しき状態又は位置にある、困苦の中にある
dur-avasthā 女 困難なる状態或は位置、窮境。
dua-avasthita (通受分) 確實ならざる、確定せざる。
dur-avāpa 形 達し難き、獲得し難き、成就し難き、實現し難き。
dur-avāpya (未受分) 難得 *Lal-v.*
dur-avekṣita 甲 無作法なる目付、禁ぜられたる一瞥。
dur-ākṛti 形 不恰好の、不具の、醜き。
dur-ākṛanda 形 悪友を有する; 友なき。
dur-ākrama 形 攀ち登り難き; 近づき難き; 無敵の
dur-ākṛāma 形 [同上 甲]; 通過し難き、打克ち難き。
dur-ākrośam 男 激しく罵詈して、激しく怒りて。
dur-ākhyāta (通受分) 惡說 *Bodh-bh.*
durākhyāta-dharma 男 惡邪論法 *Laṅk.*
dur-āgata (通受分) 惡來、違拒 *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
 男 [人名] 惡來 *Divy.*
dur-āgama 男 不正所得、不正なる獲得。
dur-āgraha 男 =dur-avagraha (男).
dur-ācara 形 (女 -i) 實行し難き; 取扱ひ難き、治療し難き。
dur-ācarita (通受分) 甲 不幸、不運。
dur-ācāra 男 悪しき行爲又は習慣。形 惡行の、不行蹟なる、不敬虔なる。
dur-ācārin 形 [同上 (形)].
dur-ājñāna 形 難可知、難可了知、不能測 *Daś-bh.*
dur-ājñeya (未受分) 難知、難可知、難解 *Daś-bh.*
dur-ātmatā 女 兇惡、陋劣。
dur-ātman 形 惡心の、兇惡なる、卑しき、不敬虔なる、不名譽の; 不中 *Mvyut.*
dur-ātmavat 形 [同上].
dur-ādeya (未受分) 取り去り難き、捉へ難き。
dur-ādhara 形 抑へ難き、抵抗し難き、得難き、護り難き

dur-ādharṣa 形 攻撃し難き, 近寄り難き; 危険なる; 無敵の; 横柄なる。
dur-ādhāra 形 考へられざる; 難持 *Saddh-p.* [男] [Siva 神の稱]。
dur-ādhi 男 苦惱; 憤怒。
dur-ānāma 形 曲げ難き(弓)。
dur-āneya 未受分 近寄せ難き。
dur-āpa 形 得難き, 近づき難き, 達し難き。
dur-āpādāna 形 實現し難き。
dur-āpūra 形 満たし難き, 満足せしめ難き。
dur-ābādha 形 攻撃し難き, 無事に攻撃し難き (Siva 神)。
dur-āmōda 男 惡臭。
dur-āmnāya 形 傳へ難き(學問等)。
dur-ārakṣa 形 守護し難き。
dur-ārakṣya 形 [同上]。
dur-ārāgaṇatā 女 遇…難, 近…難, 難得 親近 *Gaṇḍ-vy.*: *kalyāna-mitra* ~ 遇善知識難, 近善知識難, 善知識者難得親近 *Gaṇḍ-vy.* 110。
dur-ārādha 形 味方となし難き, 満足せしめ難き, 好意を以て協調し難き, 尊敬し難き; 打克ち難き; 難事 *Sūtr.*
dur-ārādhyā 未受分 [同上]。
dur-āruha 形 攀ち難き。
dur-āropa 形 張り難き(弓)。
dur-āroha 形 攀ち難き, 登り難き。
dur-ārohatā 女 [同上]。
dur-ālakṣya 未受分 認め難き。
dur-ālamba 形 …の上に立脚地を得難き; 達し難き。
dur-ālambha 形 攪み難き; 扱ひ難き。
dur-āloka 形 認知し難き。
dur-āvāra 形 閉ち難き, 保護し難き。
dur-āvāha 形 (一)に導き難き。
dur-āvāra 形 = *dur-āvāra*; 制止し難き, 防止し難き。
dur-āvāsin 形 惡しき住處を有する。
dur-āvi 形 通過し難き [一本の讀方 *durāyya*]。
dur-āsaya 形 惡しき考を有する, 惡意ある。
dur-āsā 女 空虚なる希望, 惡しき期待; (因)の絶望。
dur-āsīs 形 惡しき願望又は意向を有する。
dur-āsraya 形 實行せられ難き。
dur-āsa 形 共に住み難き或は交はり難き。
dur-āsada 形 近づき難き, 近づくは危険なる; 見出し難き; 完成し難き; 並びなき, 無敵の; [屢 = *dur-āsaha*]; 難得, 難親, 難證悟, 難知, 不可知, 不可得思議 *Lal-v.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.* [男] [Siva 神の稱]; [或る劍の名]。
dur-āsadatā 女 難得, 極遠(巍巍) *Daś-bh.*
dur-āsada-teja 形 具威嚴 *Sikṣ.*
dur-āsaha 形 忍び難き; 成就し難き。 [男] [或る劍の名]。
dur-āsita 甲 惡しき坐法。
dur-āseva 形 取扱ひ難き(取引), 交際し難き。
dur-āhara 形 捧げ難き(供儀)。
durita 通受分 困難なる, 有害なる, 惡しき。 甲 不

如意なる生計; 困難, 悲歎, 損害, 危険; 惡業, 不正なる手段, 罪惡。
durita-kṣaya 甲 罪業の破壊。 男 [人名]。
duritātman (°ta-āt°) 形 敵意ある, 惡意ある。
dur-iṣṭi 女 供儀の失敗。
dur-ikṣa 形 見難き。
dur-ikṣatā 女 [同上]。
dur-iśa 男 惡しき主人。
dur-iha 形 惡意ある。
dur-ukta 通受分 偽りて語られたる, 輕率に語られたる, 厭はしく語られたる [甲 …語]; 粗暴に話しかけられたる。 甲 虚言, 惡しき語, 粗暴なる語, 輕率なる或は厭はしき語; (男 甲) 罵, 罵辱, 惡罵, 惡言, 鄙言, 醜言罵辱, 惡不善語, 口作惡業, 口陳於惡言 *Lal-v.*, *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*
durukta-vacana 甲 惡言 *Sikṣ.*
dur-ukti 女 粗語, 厭はしき語; [人格化せられたる 暴言 (*Krodha* と *Himsā* との娘)]。
dur-uccheda 形 絶滅し難き, 根絶し難き。
dur-ucchedya 未受分 [同上]; 切断し難き。
dur-uttara 形 打克ち難き; 返答し難き。
dur-uttaratva 甲 難可出, 難可度 *Abh-vy.*
dur-utsaha 形 堪へ難き; 抵抗し難き。
dur-utsāha 形 [同上]。
dur-udaya 形 辛うじて現はるゝ, 容易に顯れ難き。
dur-udarka 形 惡しき結果の, 結果なき。
dur-udāhara 形 發言し難き。
dur-udgītha 男 誤りなされたる *Udgītha*。
dur-udgraha 形 難可執取 *Aṣṭ-pr.*
dur-udvaha 形 堪へ難き。
dur-upacāra 形 近づき難き, 接近することの危険なる; 取扱ひ難き。
dur-upadiṣṭa 通受分 惡しく教へられたる。
dur-upadeśa 男 惡しき勸告又は教示。
dur-upapāda 形 遂げ難き或は取扱ひ難き; 證明し難き。
dur-upayukta 通受分 誤りて應用せられたる。
dur-upalakṣa 形 認知し難き。
dur-upalakṣita 通受分 不善觀察 *Aṣṭ-pr.*
dur-upasada 形 近づき難き。
dur-upasarpa 形 不注意に近づける。
dur-upasarpin 形 [同上]。
dur-upāpa 形 得難き。
dur-ūha 形 了解し難き。
dur-ūhatama 最上 甚だ解し難き。
dur-eva 形 惡意ある。
duroṇa 甲 家, 住居。
durodara 男 賭博者; 骰子。 甲 賭博。
durodarāvātāra 男 賭博者の權化, 賭博者となれること。
dur-ga 形 (…に或は…の故に, 一)通過し難き, 横切り難き, 近づき難き, 得難き。 男 [或る Asura の名]; [諸人の名]; 男 甲 難路; (一)によりて近づき難き處; 難處; 困難, 危険, 災難; 甲 凹凸, 高處; 要塞, 砦; 險, 險道, 險難, 嶮難, 難行, 深處 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *Bodh-bh.*,

Mvyut.; 溪谷 *Madhy-v.*; 寒 寒 *Mvyut.*
durga-karman ㊦ 築城.
durga-grha ㊦ 險宅 *Saddh-p.*
durga-ghāta ㊦ [或る要塞の名].
dur-gata ㊦(過受分) 不運なる, 不幸なる, 困難の中にある, 貧困なる; ㊦ 惡趣 *Daś-bh.*
dur-gatatā ㊦ 困窮, 不幸, 悲慘, 逆境.
durga-taraṇi ㊦ [(困難を突破せしむる), *Sāvitrī* 頌の稱].
durga-tariṇi ㊦ [同上].
dur-gatā ㊦ 通過し難きこと.
dur-gati ㊦ = *dur-gata*; (㊦)を缺ける. ㊦ 悲慘, 不運, 貧窮; 地獄; ㊦ 惡道, 惡趣, 惡處, 惡有, 趣 *Divy.*, *Buddh-c.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*, *Madhy-v.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*
durgati-gama ㊦ ㊦ 惡趣, 人惡道 *Madhy-vibh.*
durgati-prapāta ㊦ ㊦ 惡道嶮難之處 *Gaṇḍ-vy.*
durgatiprapāta-bhaya ㊦ ㊦ 惡道怖, 惡道畏 *Gaṇḍ-vy.*
durgati-bhaya ㊦ ㊦ 惡道怖, 惡道畏, 惡道怖畏, 惡趣畏 *Gaṇḍ-vy.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*: na ~ m tesām 永除惡道怖 *Gaṇḍ-vy.* 31.
durgati-vinipāta-gāmin ㊦ ㊦ 墮惡趣 *Saddh-p.*
durga-deśa ㊦ 難處.
dur-gandha ㊦ 惡臭; ㊦ 臭, 臭氣, 臭惡, 臭穢, 惡香 *Saddh-p.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*, 梵干, 梵雜. ㊦ 惡臭ある.
dur-gandhatā ㊦ 惡臭; ㊦ 臭穢 *Sikṣ.*
dur-gandhi ㊦ 惡臭の, 惡臭を發する; ㊦ 臭, 臭惡, 臭穢 *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Lank.*, *Abh-vy.*
durgandhi-kāya ㊦ ㊦ 身體臭穢 *Saddh-p.*
durga-pati ㊦ 要塞の指揮官.
durga-pāla ㊦ [同上]; ㊦ 守塞者 *Mvyut.*
durga-pisāca ㊦ [或る *Mātāṅga* の名].
dur-gama ㊦ (㊦, 一°の爲に)通過し難き, 横切るべからざる, 近づき難き; 達し難き; 證明し難き; ㊦ 難行, 深密, 甚深 *Divy.*, *Madhy-vibh.* ㊦ ㊦ 窮地. ㊦ [諸人の名].
dur-gamaniya ㊦(未受分) 通過し難き; [同上(㊦)].
durgama-mārga-nirgama ㊦ 出入の困難なる.
durgama-mārga-nirgamana ㊦ [同上].
durga-mārga ㊦ 險路; ㊦ 險 *Sūtr.*
durgamārga-samārūḍha ㊦ ㊦ 住險 *Sūtr.*
dur-gamya ㊦(未受分) = *dur-gamaniya*.
durga-vāsa ㊦ 居心地惡しき場處に夜を明すこと.
durga-saha ㊦ 困難或は危険を克服する.
durga-simha ㊦ [或る天文學者の名]; [或る文法學者の名].
durga-sena ㊦ [或る著作者の名].
dur-gaha ㊦ [人名]. ㊦ 通過し得ざる場處; 困難, 危険.
dur-gā ㊦ [*Śiva* 神の妃にして *Himālaya* の娘の名, 即ち *Pārvatī*, *Umā*]; [王妃の名]; ㊦ 塞天女, (㊦) 突伽天女 *Mvyut.*
durgācārya (°ga-āc°) ㊦ [*Nirukta* の註釋者の名].

dur-gādha ㊦ 測り難き, 了解し難き.
dur-gādha ㊦ 測り得ざる.
durgā-putraka ㊦ (㊦) (㊦) 訥陵誤子 *Bodh-c.*
durgārohaṇa (°ga-ār°) ㊦ = *dur-āruha*.
dur-gāhya ㊦(未受分) 測り得ざる.
dur-gāhyatva ㊦ [同上(㊦)].
dur-gi ㊦ = *durgā*; [或る女神の名].
dur-gr̥bhi ㊦ 捉へられ難き.
dur-gr̥hita ㊦(過受分) ㊦ 惡取, 偏執, 貶量, 不善受持, 不能受持 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Abh-vy.*: ~ ā sūnyatā 惡取空 *Bodh-bh.* 46.
dur-goṣṭhi ㊦ 惡しき團體, 秘密結社, 陰謀.
dur-graha 1. ㊦ 攫み難き; 捕へ難き; 懐柔し難き, 打勝ち難き; 難解の.
dur-graha 2. ㊦ 惡鬼(病氣の), 痙攣; (㊦)に對する頑強なる固執; 愚かなる出來心.
dur-grāhya ㊦(未受分) = *dur-graha* 1.
dur-grāhyatva ㊦ [同上(㊦)].
durgrāhya-hṛdaya ㊦ その心を得ること難き.
dur-ghaṭa ㊦ 成し遂げ難き, 困難なる.
dur-ghaṭatva ㊦ [同上(㊦)].
dur-jana ㊦ 惡意ある, 兇惡の. ㊦ 惡人, 無賴漢(男又は女の)
durjanāya (名動) ㊦ *durjanāyate* 惡人と考へらる, 惡人となる.
durjani-Kṛ, 無賴漢となる即ち侮辱す(㊦).
dur-jaya ㊦ 打克ち難き, 凌駕し難き; 防ぎ難き; 得難き; ㊦ 難勝 *Bodh-c.*, *Sūtr.* ㊦ [或る *Dānava* 又はその群の名]; [或る *Rākṣasa* の名]; [諸英雄の名]; ㊦ [佛の名] 難降 *Lal-v.*
dur-jara ㊦ 不朽の; 消化し難き.
dur-jala ㊦ 惡水.
dur-jāta ㊦(過受分) 惡しく生れたる, 悲慘なる, 不運なる; 邪惡なる; 賈の. ㊦ [㊦と俱に] 密夫. ㊦ 不幸, 不運.
dur-jāti ㊦ 不幸, 不運. ㊦ 邪惡なる, 惡しき性質の.
dur-jātiya ㊦ [同上(㊦)].
dur-jiva ㊦ (㊦)にとりて生活し難き [㊦は(㊦)]. ㊦ 困難なる生活.
dur-jivita ㊦ ㊦ [*Pāli.* *duggīvita*] 惡活 *Prāt-m.*
dur-jeya ㊦(未受分) 征服し難き.
dur-jñāna ㊦ 難知の; 認め難き; 見出し難き; ㊦ 難可知, 難可了知 *Abh-vy.*
dur-jñānatva ㊦ [同上(㊦)].
dur-jñeya ㊦(未受分) = *dur-jñāna*; 了解し難き; ㊦ 無能測 *Daś-bh.* ㊦ [*Śiva* 神の稱].
dur-ṇaya, = *dur-naya*.
dur-ṇāman ㊦ (㊦-*mni*) 惡しき名を有する. ㊦ 病魔(の一種).
dur-ṇita, = *dur-nīta*.
dur-ṇiti, = *dur-nīti*.
dur-dama ㊦ 制御し難き; ㊦ 難調, 難降伏, 難可教化 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*
dur-damana ㊦ [同上]. ㊦ [王侯の名].
dur-damya ㊦(未受分) [同上(㊦)].
dur-darśa ㊦ (㊦, ㊦)によりて見られ難き; 見苦し

dur-bodhya (未受分) 難解の; 難解, 不能曉了 *Saddh-p.*
dur-bhakṣa 形 食ひ難き.
dur-bhaga 形 忌ふべき, 醜き; 不快なる; 不運なる; 顔貌醜陋 *Mañj-m.*
dur-bhagatva 甲 不運.
dur-bhagā 女 醜女; [醜惡の人格化(時の娘)].
dur-bhaṅga 形 破壊し難き, 解き難き.
dur-bhaṇa 形 説明し難き.
dur-bhaṇatva 甲 [同上]; 難説性, 難效 *Mvyut.*
dur-bhara 形 堪へ難き; 支へ難き; 満足し難き; (一)を以て重く積める.
dur-bharatā 女 [同上]; 難満 *Mvyut.*
dur-bhartṛ 男 悪しき夫.
dur-bhāgya 形 不幸なる, 不運なる.
dur-bhāryā 女 悪しき妻.
dur-bhāvya 形 想起し難き.
dur-bhāṣa 形 悪口を云ふ. 男 誹謗.
dur-bhāṣita (過受分) 無禮なる(言葉), 悪しく云はれたる, 拙く發音せられたる; 悪言, 悪説, 醜言(罵辱), 誹, 毀謗 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., Bodh-bh.*
dur-bhāṣin 形 暴言を使用する, 悪口を云ふ, 侮辱する.
dur-bhikṣa 甲 [稀に 男] 食料の少きこと, 飢饉; 苦惱; 饑, 飢, 飢餓, 飢饉, 饑饉, 飢災, 饑儉, 飢儉; 儉 [豊の對]; 盡 *Buddh-c., Av-ś., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.: dharma ~ 法盡 Śikṣ. 339.*
durbhikṣa-kāntāra 男 甲 飢饉, 險難處 *Aṣṭ-pr., Suv-pr.*
durbhikṣakāntāra-prasāmana 形 飢饉惡時能令豐稔, 能除穀貴飢饉 *Suv-pr.*
durbhikṣa-kāla 男 飢饉時 *Sam-r.*
dur-bhikṣatva 甲 [dur-bhikṣa の 甲].
durbhikṣa-vyasanin 形 飢饉に困難せる.
dur-bhikṣā 女 儉 梵字.
durbhikṣāntara-kalpa 男 (音寫) 飢饉劫, 飢饉内劫, 飢饉中劫, 飢饉中開劫, 劫中有飢饉 *Bodh-bh., Śikṣ., Mvyut.*
dur-bhida 形 破裂せしめ難き, 分割し難き, 散らし難き.
dur-bhiṣajya 甲 治療の困難
dur-bhukta 甲 飲食之過, 呪咀 *Mvyut.*
dur-bhūta 甲 不幸, 傷害.
dur-bheda 形 =dur-bhida.
dur-bhedyā (未受分) [同上].
dur-bhrātr 男 悪しき兄弟.
dur-manṅku 形 強情なる, 不柔順なる; 不悔過, 不耻愧, 惡; 無羞 [廣河僧証律第一]; 破戒 [有部毘奈耶第一]; 高心 [十誦律第十] *Mvyut.*
dur-mati 形 心弱き, 愚かなる, 無知の; 惡意ある [稀に]; 癡 *Saddh-p.*; 惡意, 惡慧 *Lank.* 男 愚者; 惡人; [魔子の名] 惡慧 *Lal-v.* 女 悪しき性質, 反感, 嫌惡.
dur-mada 男 自慢, 過度の自負; [*Dhṛtarāṣṭra* の 息子の名]. 形 醉へる; 無法なる, 狂暴なる, 狂へる;

(一)に對し狂的に熱心なる.

dur-mana 形 憂惱 *Lal-v.*

dur-manas 甲 心の邪惡なること, 妄想; 憂感, 愁憂 *Sapt-pr., Sam-r.* 形 落膽せる, 鬱々たる, 悲しき; 憂, 憂心, 憂惱, 憂悲 *Gaṇḍ-vy., Abh-vy., Bodh-bh.*

dur-manaska 形 [同上(形)].

dur-manaskatā 女 落膽, 悲哀, 憂鬱; 惡心; 憂 *Abh-vy.*

dur-manastā 女 悲哀.

dur-manasvin 形 憂, 愁感 *Saddh-p.*

durmanāya (名動) 自 **durmanāyate** 困惑す, 悲しむ.

durmanāyamāna 現分 悲しめる, 憂鬱なる.

dur-manuṣya 男 惡人, 惡漢.

dur-mantu 形 難解の.

dur-mantra 男 悪しき忠告.

dur-mantrita (過受分) 悪しく忠告せられたる. 甲 悪しき忠告.

dur-mantrin 男 悪しき大臣. 形 悪しき大臣を有する.

dur-manman 形 惡心ある.

dur-mara 形 容易に死せざる; 生に執せる. 甲 (非人) (因)によりて死すること難し.

dur-maraṇa 甲 慘死又は不自然なる死.

dur-maratva 甲 [同上].

dur-maryāda 形 限界を知らざる; 惡心の.

dur-maryādatā 女 [同上].

dur-marṣa 形 容易に忘れられざる; 堪へ難き, 支へ難き, 處理し難き; 強情なる, 敵意ある.

dur-marṣaṇa 形 處理し難き, 御し難き, 堪へ難き. 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の 息子の名]; [*Śṛṅjaya* の 息子の名]; [*Viṣṇu* 神の稱].

dur-marṣita (過受分) 反抗的とせられたる, 煽動せられたる.

dur-mallikā 女 [高級ならざる戯曲の一種, 四幕より成り, 主人公は下賤の者なり. *Sāhitya-darpaṇa* 6, 303. 参照].

dur-malli 女 [同上].

dur-mātsarya 甲 悪しき嫉妬.

dur-māyini 形 悪しき技術を用ゐる.

dur-mitra 形 友情なき, 惡意ある. 男 [諸人の名].

dur-mukha 形 (女 -i) 醜面の, 忌はしき; 口汚き, 毒舌の. 男 [諸人の名]; [或る蛇形の惡魔の名]; [或る *Rākṣasa* の名]; [或る猿の名]; [或る間諜の名]; [聖仙の名] 醜面 *Divy.*

dur-muhūrta 甲 致死時, 致命時の瞬間.

dur-medha 形 劣智の, 鈍き, 愚かなる; 愚, 癡 *Lank.*

dur-medhas 形 [同上]; 暗鈍, 少見, 愚癡, 無有智慧; 愚癡人, 無智者, 憤 [憤?] 鈍人 *Buddh-c., Aṣṭ-pr., Lank., Śikṣ.*

dur-medhāvin 形 [同上].

dur-maitra 形 不親切なる, 敵意を懐く.

durya 形 戸又は家に屬する. 男 住居.

dur-yaśas 甲 不名譽.

duryā 女 (因) 住居.

dur-yuga ㊦ 悪しき時期 (yuga).
dur-yuj ㊦ 軛され難き.
dur-yoga ㊦ 詐欺, 詭計; 違犯; 罪惡.
dur-yoṇa ㊦ 居住.
dur-yodhana ㊦ 征服し難き, 無敵の; ㊦ 不敵, 難伏, 不可壊, 難摧伏, 不可降伏, 不可毀缺 *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-c.* ㊦ [Dhṛtarāṣṭra の長子 (Kaurava の指揮者) の名].
duryodhana-citta ㊦ ㊦ 難摧伏心, 不可壊心 *Gaṇḍ-vy.*
dur-yodhanatā ㊦ [dur-yodhana の ㊦].
duryodhana-vīrya-jñāna-mudrā ㊦ ㊦ 難敵精進智印, 難敵精進智手印 *Mvyut.*
dur-yoni ㊦ 不淨なる素性の, 卑しき生れの.
dur-lakṣya (未受分) ㊦ 認め難き, 辛うじて見得る; ㊦ 難知, 分別(尙)難 *Abh-vy.* ㊦ 不定なる目的.
dur-laṅghana ㊦ 凌駕し難き.
dur-laṅghita ㊦ ㊦ 悞想過, 悞戒過, 鎮伏行等 [Tib. bgo-ñe 又は sgyuñ-shes] *Mvyut.*
dur-laṅghya (未受分) ㊦ 横切り難き; 違犯又は違背し難き即ち従はるべき(命令).
dur-laṅghyatā ㊦ 凌駕し難きこと.
dur-labha ㊦ 得難き, 見出し難き, 會ひ難き, 稀なる; 貴重なる; (不定)し難き; ㊦ 難; 難得, 得難, 不可得, 極難得; 難遭, 難値, 難遇, 遇難, 難遇希有, 希有難遇, 難可値遇 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 少 *Lal-v.*; 希罕 *Mvyut.*; 難可聞 *Sikṣ.*: su~o buddha-sabdah 佛名難可聞 *Sikṣ.* 310.
dur-labhaka ㊦ 大切なる.
durlabhaka-svāmin ㊦ [Durlabhavardhana 王の建立せる殿堂の名].
dur-labhatara ㊦ 甚だ得難き, 甚だ遇ひ難き.
dur-labhatā ㊦ 稀有なること; ㊦ 得難 *Gaṇḍ-vy.*
dur-labhatva ㊦ [同上]; ㊦ 難得 *Aṣṭ-pr.*
durlabha-darśana ㊦ 見難き, 眼に見えざる; ㊦ 難可得見 *Divy.*
durlabha-prāḍurbhāvatva ㊦ ㊦ 難得出現 *Gaṇḍ-vy.*
durlabha-var dhana ㊦ [Kāśmīra 國王の名].
durlabhi-BHū, 近寄り難くなる.
dur-lalita ㊦ 甘やかされたる, 氣儘なる, 躑躅悪しき(子供); 不作法なる; (一)に倦怠せる. ㊦ 惡習, 惡戲.
dur-lalitaka ㊦ 氣儘なる.
dur-lasita (未受分) [同上].
dur-lābha ㊦ = dur-labha.
dur-likhita (未受分) ㊦ 酷評せられたる. ㊦ ㊦ 悞書過, 壓鎮 [Tib. bri(s)-ñes] *Mvyut.*
dur-lipi ㊦ (宿命により額上に記されたる)運命の文字.
dur-lekha ㊦ [同上].
dur-lekhya ㊦ 不正確に記されたる文書.
dur-vaca ㊦ 云ひ難き, 説明し難き, 確言し難き; 惡語の, 嫌忌すべき(語); 答へ難き.
dur-vaçana ㊦ (㊦) 惡しき或は粗暴なる言語; 惡口,

罵詈(俗).
dur-vacas ㊦ [同上]; 愚かなる語. ㊦ 罵詈的の; 答へ難き.
dur-vacasa ㊦ ㊦ 惡言 *Bodh-bh.*
dur-vaṇij ㊦ 奸商.
dur-varāha ㊦ 馴れたる豚.
dur-varṇa ㊦ 惡色; 不純. ㊦ 惡しき色又は顔色を有する; 劣等の種姓(階級)に屬する; ㊦ 惡色, 色惡, 色醜, 醜, 醜陋, 顔貌醜陋, 醜惡, 色相醜惡, 光色減 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*, *Saddh-p.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Daś-bh.*, *I.āṅk.*, *Sikṣ.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵難. ㊦ 銀.
dur-varṇatā ㊦ ㊦ 惡色, 醜陋, 顔色不正 *Rāṣṭr.*, *Bodh-bh.*
durvarṇi-karaṇa ㊦ ㊦ 壞色, 壞好色 *Prāt-m.*
dur-vala ㊦ 皮膚病を有する; ㊦ [=dur-bala] 羸梵千.
dur-vasa ㊦ 住み難き; 過し難き(時間); 共に住み難き. ㊦ 非入 住み難し.
dur-vasati ㊦ 苦しき或は惡しき住居. ㊦ 堪へ難き; 實行又は成就し難き.
dur-vaha ㊦ 荷ひ難き.
dur-vāg-bhāva ㊦ 惡口雜言をなす性癖.
dur-vāc ㊦ 罵詈. ㊦ 惡口の.
dur-vācatā ㊦ ㊦ 毀譽 *Sikṣ.*
dur-vāçya ㊦ 發言し難き, 粗暴なる(語). ㊦ 罵詈; 惡しき報道.
durvātāya (名動) ㊦ **durvātāyati** (㊦)に對して或は向ひて放屁す.
dur-vāda ㊦ 非難, 叱責.
dur-vānta (未受分) (その吸ひたる血を)未だ十分に吐かざる(蛇).
dur-vāra ㊦ 抑制又は阻止し難き; 抵抗し難き.
dur-vāraṇa ㊦ [同上]. ㊦ (㊦) [Kāmbhoja の一族の名, 又は *Dur-vāri* とも稱す].
dur-vāraṇiya ㊦ [同上(㊦)].
dur-vāri ㊦ (㊦) → dur-vāraṇa (㊦).
dur-vārīta (未受分) = dur-vāra.
dur-vārttā ㊦ 惡しき報道.
dur-vārya (未受分) = dur-vāra.
dur-vāryatā ㊦ [同上(㊦)].
dur-vāryatva ㊦ [同上].
dur-vāla ㊦ 禿頭の, 緒毛の, 皮膚病に罹れる.
dur-vāsanā ㊦ 誤れる概念; 惡しき性向.
dur-vāsas ㊦ 惡しく著たる, 裸體の. ㊦ [或る短氣なる婆羅門の名].
dur-vāhita ㊦ 重荷.
dur-vikatthana ㊦ 不快に自慢せる.
dur-vikalpa ㊦ 甚だ不確定なる. ㊦ 辯護し得べからざる不決斷.
dur-vigāha ㊦ 測り難き, 了解し難き; 深遠なる; 重大なる, 危機に瀕せる.
dur-vigāhya (未受分) [同上]; ㊦ 難解 *Mvyut.*
dur-vicāra ㊦ 時機を得ざる逡巡. ㊦ 甚しく決斷なき.
dur-vicintya (未受分) 考へ難き, 信じられざる.

dur-viçeṣṭa (通受分) 悪しく行爲せる, 悪しき振舞の。
dur-vijñāna (甲) 困難なる確定。 (形) 難解の; (難) 難知, 難解 *Lal-v., Bodh-bh.*
dur-vijñeya (未受分) 區別し難き, 理解し難き; (難) 難知, 所不能知, 難解, 甚深難解, 難思難解, 難了, 難可了, 難可了知, 難入, 難解難入 *Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Suv-pr., Sam-r., Bodh-bh.:* etat sthānam ~m 此事難知, 此處難知 *Gaṇḍ-vy. 391.*
dur-vitarka (形) 論じ難き, 難解の。
dur-vida (形) 知り難き, 認め難き。
dur-vidagdha (通受分) 歪める, 頑迷なる, 愚かなる。
dur-vidya (形) 無教育の, 無知の。
dur-vidvas (形) 悪心の, 悪意ある。
dur-vidha (形) 賤しき, 忌はしき, 運悪き, 貧しき, 哀れなる。
dur-vidhi (男) 不運。
dur-vinaya (男) 破廉恥の行爲, 不遜なる態度。
dur-vinita (通受分) 悪しく育てられたる, 悪しく振舞へる, 下賤の, 邪悪なる, 頑固なる; (難) 無能調者, 難可調伏 *Gaṇḍ-vy.* (男) [聖仙の名]。
dur-vinitaka (形) [同上(通受分)]。
dur-vineya (未受分) (難) 難伏, 難化 *Bodh-bh.*
dur-vipāka (男) 悪しき成熟, 悪結果。 (形) 悪結果を齎せる。
dur-vibhāva (形) 難解の。
dur-vibhāvana (形) [同上]。
dur-vibhāvya (未受分) [同上]; 判然と見難き。
dur-vibhāṣa (形) 發言し難き。 (甲) 悪口, 粗暴の言。
dur-vimarśa (形) 調べ難き, 試み難き。
dur-vimocana (男) [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名]。
dur-vilasita (甲) 奸計, 悪行; 不運。
dur-vivakṛ (男) 悪しき答をなす者, 悪しき話對手。
dur-vivāha (男) 非難せらるべき結婚, 不釣合なる縁組。
dur-vivecana (形) 正しく判断又は決定し難き。
dur-viśa (形) 入り難き。
dur-viśa (男) [征服し難き], *Siva* 神の稱]。
dur-viśaha (形) 堪へ難き, 支へ難き, 克服し難き; 抵抗し難き; 成就又は完成し難き。 (男) [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名]; [*Siva* 神の稱]。
dur-vṛtta (甲) 悪しき或は卑しき行爲, 卑賤。 (形) 悪行の, 邪悪なる; 貧弱なる。 (男) 悪人。
dur-vṛtti (女) 苦惱, 悲慘, 缺乏; 卑賤; 詐欺, 罪惡。
dur-vṛṣṭi (女) 不十分なる降雨, 旱魃; (難) 不好雨, 不善禱者, 不善禱雨者 *Mvyut.*
dur-veda (形) 悪しき知識を有する, 無學の; 知り難き。
dur-vaira (形) 甚だしき敵意を持てる。
dur-vyavāsita (甲) 悪意。
dur-vyavastha (形) 辛うじて阻止せられたる。
dur-vyavasthāpaka (形) 悪しき或は酷なる判決を下せる。
dur-vyavahāra (男) (訴訟の) 悪しき判決, 不正なる判決。
dur-vyavahṛti (女) 悪評。
dur-vyasana (甲) 悪しき欲情, 惡德。
dur-vyāhṛta (通受分) 悪しく云はれたる。 (甲) 不適當

なる發言。

dur-vrajita (甲) 悪しき或は無禮なる態度にての出發。
dur-hañāyu (形) 悪事を企つる。
dur-hita (通受分) 逆境に在る, 惨めなる; 敵意ある。
dur-huta (通受分) 不手際になされたる(供犠)。
dur-hṛd (形) 悪心の, 邪悪なる。 (男) 敵。
dur-hṛdaya (形) [同上(形)]。
dur-hṛṣika (形) (五) 感官に缺點ある, (五) 感官の制御せられざる。
Dul, X. (他) **dolayati** 上ぐ, 動揺せしむ; (塵を) 巻き上ぐ。 (通受分) **dolita** 揺れたる, 波動せる。
dul-labha (形) [=dur-labha] (難) 甚難 *Lal-v.*
duvas (甲) 尊敬, 崇拜。
duvasya (名動) (他) **duvasyati** 尊敬す; 報ゆ。
duvasyāt [接] 又は **duvasya** = **duvas** の (接) (?) (*IT. I. 165, 14.*)
duvasyu (形) 崇拜する, 尊敬する。
duvo-yā (女) 崇拜。
duvo-yu (形) 崇拜する, 尊敬する。
duś-cara (形) 横切り難き; 近づき難き; 過し難き(時間); 實行し難き。
duś-caratva (甲) 實行の困難。
duś-carita (通受分) 悪しく振舞へる, 悪行をなせる。 (甲) 悪しき行爲, 犯罪, 愚かなる行爲; (難) 悪行, 惡業; 過, 罪, 罪業, 垢穢業 *Divy., Daś-bh., Sūtr., Vijñ-t., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
duścarita-cārin (形) (難) 悪行, 行悪行, 行悪行者, 行悪業 *Bodh-bh.*
duś-carman (形) 皮膚病に罹れる, 癩病の。
duś-cāritra (形) = **duś-carita** (形)。
duś-cārin (形) [同上]。
duś-cikitsa (形) 治療し難き, 難治の。
duś-cikitsā (女) 悪しき醫療。
duś-cikitsita (通受分) = **duś-cikitsa**。
duś-cikitsya (未受分) [同上]; (難) 不治 *Av-ś.*
duś-cikitsyatva (甲) 治癒の困難。
duś-citta (形) 意氣沮喪せる, 悲しめる。
duś-cintita (甲) 悪しき考, 愚かなる考; (難) 起邪念, 心念不善 *Suv-pr., Śikṣ.*
duścintita-cintin (男) (難) [或る魔子の名] 悪思 *Lal-v.*
duś-cintya (未受分) 了解し難き。
duś-cetas (形) 悪意の。
duś-ceṣṭā (女) 悪行, 強情。
duś-ceṣṭita (通受分) (甲) [同上]; (難) 悪行爲。
duś-cyavana (形) 倒し難き, 不動の。
duś-cyāva (形) [同上]。
duś-cyāvana (形) [同上]。
duś-chada (形) 不完全に(身體を)蔽へる, 襪襪を纏へる。
duś-chardita (甲) (難) 悞行過 [*Tib. skyug-ñes, spyod-ñes*] *Mvyut.*
duś-chāya (形) 顔色の悪しき, 悪しく見ゆる。 (男) (難) 鎖影, 惡影 *Mvyut.*
duś-chid (形) 切断又は破壊し難き。
duś-chinna (通受分) 拙く取り除かれたる或は引き抜かれたる(刺)。

duḥ-sāmsa 形 悪を欲する, 邪惡の。
duḥ-sāla 男 [(Bhīmaに殺されたる) Dhṛtarāṣṭraの息子の名]。
duḥ-sālā 女 [Duḥsālaの娘にして Jayadrathaの妻の名]。
duḥ-sāsana 形 制御し難き。男 [(拘束し難き), Dhṛtarāṣṭraの息子の名]。
duḥ-sāsus 形 悪意を懐ける。
duḥ-sīkṣita 通受分 悪しく教へられたる; 無教育の, 躰け悪しき。
duḥ-siṣya 男 悪しき弟子。
duḥ-sīla 形 悪しき習慣又は性質を有する, 邪惡の; 破戒, 毀戒, 犯戒, 犯禁, 破禁戒, 犯業, 無持戒, 毀犯淨戒, 壞禮法, 惡戒者, 破戒者, 犯戒者, 毀禁者, 未有戒者 Divy., Lal-v., Aṣṭ-pr., Saddh-p., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Rāṣṭr., Kāśy., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
duḥsīla-citta 形 邪惡なる心の。
duḥ-sīlatā 女 悪しき性質, 邪惡なること。
duḥsīla-parigrāhaka 形 攝受破戒(以爲親友), 畜破戒(眷族) Aṣṭ-pr.
duḥsīla-bhūta 形 毀戒 Saddh-p.
duḥsīla-sattva 男 毀戒人 Śikṣ.
duḥ-sīlā 女 不貞の女; [人名]。
duḥ-seva 形 悪意ある, 嫉妬する。
duḥ-sodha 形 淨め難き。男 難治, 難護 Abh-vy.
duḥ-soṣa 形 乾燥し難き。
duḥ-sraddadha 形 不能信, 所不信, 無有信者 Saddh-p.
duḥ-sraddadheya 形 少有能信 Saddh-p.
duḥ-sraddhaniya 形 難信, 難可信解 Śikṣ.
duḥ-sraddheya 未受分 難信 Saddh-p.
duḥ-sruta 通受分 悪しく或は誤り聞かれたる, 逆の意味に聞かれたる; 聽濫 Mvyut.
Duḥ 1. IV. 他 duṣyati (Br. 等) [紋詩は又た(自) duṣyate] 害はる, 損ぜらる, 荒廢す; 汚さる, 穢さる, 腐敗す; 罪あり, 過失あり; 罪を犯す; 顯過失, 染 Sam-r., Nyāy-pr. 通受分 duṣṭa 汚されたる, 悪しくせられたる; 腐敗せる; 墮落せる; 缺點ある; 虚偽の; 悪意ある; 危険なる; 悪しき, 邪惡の; 有罪と決定せる, 罪ある; (一)の罪を犯せる, (一)を以て害する; (圓)に對して悪意を懐ける或は怒れる。使役 dūṣaya- → dūṣaya.
ud- 使役 他 uddūṣayati 公然と罵詈す。
pra- (病氣が)重くなる; 汚さる, 腐敗す; 失錯す, (道徳上)惡化す。通受分 pradūṣṭa 邪惡なる, 罪深き; 淫蕩なる(女); 放縱なる, 治め難き 感官。使役 pradūṣayati → dūṣaya.
vi-pra- 邪惡となる; 甚しく墮落す; 汚さる, 放蕩す。通受分 vipradūṣṭa 甚だ汚濁せる, 甚だ悪しき; 甚だ放埒なる。
sam- 汚さる。通受分 samdūṣṭa 邪惡なる; 汚濁せる; (一)を怒れる。使役 samdūṣayati → dūṣaya.
Duḥ 2. 俗 [<Dviṣ] duṣyati(-te) 怒, 瞋恚, 入瞋怒, 起厭患 Kāśy. 142., Śikṣ. 233.

vi- 使役 vidūṣayati 生厭患, 起遠離心 Abh-vy. 499.

duṣ 不変辭 [=dus-] 悪しき, 難き, 困難なる, 無不..., 離... [反對, 否定, 別離等の意]。→ dus-
duṣ-kara 形 爲し難き, 完成し難き, 成就し難き; 耐へ難き; 困難なる; 稀なる, 異常の, 非常なる; (不定)し難き; 難, 難行, 爲難, 難起, 難有, 苦行 Saddh-p., Sam-r., Sūtr., Śikṣ., Bodh-bh., 梵千。→ su-
 ~m yadi, [圓]又は[圓]と俱に]困難にも, 辛うじて。
 ~m (kriyate) yad, 若し...ならば容易なることに非ず。
 甲 困難なる業, 困難; 嚴酷 (Divy.); 苦行, 苦患, 難事 Divy., Saddh-p., Sūtr.
duṣ-karaka 形 不能 Saddh-p.
duṣkara-karman 形 困難なることを爲す, 甚だ憚惻なる。甲 難行事業 Bodh-bh.
duṣkara-kāraka 形 作難, 難作, 甚難, 爲甚難, 所爲甚難, 能爲難事, 甚爲難事, 難作能作, 難行能行 Divy., Aṣṭ-pr., Śikṣ., Mvyut.
duṣkara-kārika 形 苦行 Suv-pr.
duṣkara-kāritā 女 難事を成就すること。
duṣkara-kārin 形 =duṣkara-karman (形)。
duṣkara-kṛta 形 苦行 Rāṣṭr.
duṣkara-carāṇa 甲 難行事 Sūtr.
duṣkara-cari 女 苦行 Lal-v. 276.
duṣkara-carya 甲 難行 Bodh-bh.
duṣkara-caryā 女 苦行; 難行, 難及行, 苦行, 難行苦行, 勤苦行 Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Bodh-bh., Mvyut.
duṣkara-cāraka 形 (女-ikā) 難行苦行 Aṣṭ-pr.
duṣ-karatva 甲 艱難, 難成 Abh-vy.
duṣkara-parityāga 形 難捨, 難捨能捨, 能捨難捨, 難捨能施 Gaṇḍ-vy.
duṣkara-vrata 甲 苦行 Lal-v.
duṣkara-samjñā 女 難行想 Aṣṭ-pr.
duṣkara-sādhana 甲 難事に打克つ方法。
duṣ-kari 女 苦行 Lal-v.
duṣ-karṇa 男 [Dhṛtarāṣṭraの息子の名]。
duṣ-karma-kārin 形 =duṣkara-karman (形)。
duṣ-karman 甲 悪しき行爲; 難事。男 惡事を爲す者, 惡行者。
duṣ-kalevara 甲 悲慘なる或は哀れなる身體。
duṣ-kāya-stha-kula 甲 哀れなる書記(著述者の)種姓(階級)。
duṣ-kāla 男 悪しき時, 萬物の滅する時(最後の破滅の時); [Śiva神の稱]。
duṣ-kirti 女 惡評, 不名譽。形 不評判の, 不名譽の。
duṣ-kula 甲 卑しき種族。形 卑賤なる出身の。
duṣ-kulina 形 [同上(形)]。
duṣ-kuha 形 信ぜざる, 容易に信ぜざる (Buddh-c.).
duṣ-kuhaka 形 容易に信ぜざる (Divy.); 難信 Divy.
duṣ-kṛt 形 悪しき行爲をなす。男 悪しき行爲をなす者。
duṣ-kṛta 通受分 悪しく爲されたる, 悪しく整へられ

たる, 悪しく組織せられたる或は應用せられたる; 悪しき, 邪悪なる; 〔漢〕 惡作, 小過, 作罪, 不善, 行不善 *Lal-v., Suv-pr., Sūtr., Mvyut.* 〔中〕 惡行, 罪; 〔漢〕 惡, 惡作, 惡業, 過失 *Divy., Suv-pr., Sūtr.:* 〔音〕 突吉羅 *Vin.*

duṣkṛta-karman 〔形〕 惡事をなす; 〔漢〕 惡業者 *Buddh-c.* 〔男〕 惡事をなす者.

duṣkṛta-karmānta-cārin 〔形〕 〔漢〕 惡作業行, 惡業行人 *Sikṣ.*

duṣkṛta-kārin 〔形〕 惡行をなす.

duṣkṛtātman (°ta-āt°) 〔形〕 惡意ある, 邪悪なる.

duṣ-kṛti 〔形〕 罪を犯せる. 〔男〕 罪人, 惡人.

duṣ-kṛtin 〔形〕 〔男〕 [同上(〔形〕 男)].

duṣ-kṛita 〔過受分〕 悪しく或は高價に買へる.

duṣkha. 〔中〕 [=duḥkha] 〔漢〕 苦, 苦惱, 猛苦 *Sikṣ.*

duṣkhāntam-Kṛ 〔漢〕 拔苦本 *Sikṣ.*

duṣkhāṇava 〔男〕 〔漢〕 苦海 *Sikṣ.*

duṣkhita 〔過受分〕 [=duḥkhita] 〔漢〕 貧苦, 困乏, 窮乏, 貧苦者 *Sikṣ.*

duṣṭa 1. 〔過受分〕 → Duṣ 1. 〔漢〕 惡, 惡性, 弊惡, 極惡, 猛惡, 惡(想), 惡(心); 所汚, 汚染, 所染汚; 過; 難調 *Divy., Av-ś., Rāṣṭr., Lan̄k., Guhy-s., Sūtr., Sikṣ., Bodh-bh., 梵雜.* 〔男〕 惡漢, 無賴漢. 〔中〕 犯戒, 罪, 罪過; 〔漢〕 過, 惡事 *Mañj-m., Nyāy-pr.*

duṣṭa 2. 〔過受分〕 俗 [<dvīṣṭa. → Duṣ 2.] 〔漢〕 瞋, 恚, 具瞋, 瞋恚, 恚恨, 懷害心 *Lal-v., Saddh-p., Rāṣṭr., Madhy-v.*

duṣṭa-caritra 〔形〕 惡を爲す. 〔男〕 惡しき行爲をなす者.

duṣṭa-cārin 〔形〕 〔男〕 [同上].

duṣṭa-citta 〔形〕 〔漢〕 惡心 *Lan̄k., Sikṣ., Mvyut.;* 具瞋心 [Duṣ 2.] *Mvyut.* 〔中〕 〔漢〕 惡心 *Mvyut.* 〔男〕 〔漢〕 惡心, 惡鬼 *Saddh-p.*

duṣṭacitta-rudhirotpādana (°ra-ut°) 〔中〕 〔漢〕 惡心出(佛)身血 *Lan̄k.*

duṣṭa-cetas 〔形〕 惡意ある; 〔漢〕 惡心, 怨惡心 *Guhy-s., Sikṣ.*

duṣṭa-jana 〔男〕 〔漢〕 惡者, 惡怨人 *Madhy-vibh.*

duṣṭataram (比較) 〔副〕 甚だ悪しく, 甚だ有害に.

duṣṭatā 〔女〕 邪悪なること, 虚偽; 汚すこと; 〔漢〕 過失 *Sūtr.*

duṣṭatva 〔中〕 [同上].

duṣṭa-durjana 〔男〕 邪悪なる無賴漢.

duṣṭa-dṛṣṭānta 〔男〕 〔漢〕 有過論 *Nyāy-pr.*

duṣṭa-tanu 〔形〕 醜き身體を有する.

duṣṭa-batuka 〔男〕 惡漢, 無賴漢.

duṣṭa-buddhi 〔形〕 (upari) に關して惡意を懷ける. 〔男〕 [或る惡漢の名].

duṣṭa-bhāva 〔形〕 惡意ある, 惡性の.

duṣṭa-bhāvatā 〔女〕 惡性.

duṣṭa-tara 〔形〕 渡り難き, 克服し難き, 抵抗し難き; 無比の, 優れたる.

duṣṭa-vāc 〔形〕 誹謗する, 罵詈する.

duṣṭa-vānara 〔男〕 惡しき猿.

duṣṭa-śvāpada 〔男〕 〔中〕 〔漢〕 惡獸, 惡(禽)獸 *Sikṣ.*

duṣṭa-hṛdaya 〔形〕 邪悪なる心の.

duṣṭātura (°ta-āt°) 〔男〕 悪しき或は從順ならざる病人.

duṣṭātman (°ta-āt°) 〔形〕 悪しき心の, 害意ある; 〔漢〕 惡 *Divy.*

duṣṭāntarātman (°ra-āt°) 〔形〕 [同上].

duṣṭāmātya 〔男〕 〔漢〕 佞臣, 詔佞大臣 *Divy.*

duṣṭāśva 〔男〕 惡馬.

duṣṭāśva-yukta 〔形〕 悪しき馬を軛せる, 惡馬に曳かれたる.

duṣṭi 〔女〕 倫落; 惡性.

duṣṭuti, → duḥ-ṣṭuti.

duṣṭhula 〔形〕 〔漢〕 經, 經惡, 經罪 *Prāt-m., Mvyut.:* ~āpatti [Pāli. duṭṭhulāpatti] 經罪, 經惡罪 *Prāt-m. V. 50.;* ~ayā vācā (具) 經惡(姪欲)語 *Prāt-m. II. 3.*

duṣṭhula-praticchādana 〔中〕 〔漢〕 覆藏經惡罪, 隱瞞罪業 *Mvyut.*

duṣṭhulārocana (°la-ār°) 〔中〕 〔漢〕 說經惡言, 說經罪 *Mvyut.*

duṣ-parigraha 〔形〕 攫み難き, 保ち難き, 制御し難き; 知り難き.

duṣ-parihantu 〔形〕 退け難き, 破壊し難き.

duṣ-parihara 〔形〕 避け難き.

duṣ-parikṣya (未受分) 調査し難き, 探究し難き.

duṣ-pāra 〔形〕 渡り難き, 成就し難き.

duṣ-pārṣṇi-graha 〔形〕 背後に強敵を有する.

duṣ-pārṣṇi-grāha 〔形〕 [同上].

duṣ-putra 〔男〕 惡しき息子.

duṣ-pūra 〔形〕 充たし難き; 満足せしめ難き; 〔漢〕 難満 *Lal-v.*

duṣ-poṣa 〔形〕 養ひ難き.

duṣ-poṣatā 〔女〕 [同上(〔中〕)]; 〔漢〕 難養 *Mvyut.*

duṣ-prakampa 〔形〕 動搖せしめ難き, 不動の.

duṣ-prakampya (未受分) [同上].

duṣ-prakāśa 〔形〕 暗き, 陰の.

duṣ-prakṛti 〔女〕 卑しき本性, 惡性質. 〔形〕 卑しき, 惡性の.

duṣ-prakriyā 〔女〕 品位の少きこと.

duṣ-praja 〔形〕 悪しき子孫を有する.

duṣ-prajña 〔形〕 愚かなる; 〔漢〕 惡慧, 劣慧, 背慧, 惡慧者, 無智, 愚癡之人 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*

duṣprajña-jātiya 〔形〕 〔漢〕 淺識, 無智, 無善巧智, 少智少慧 *Aṣṭ-pr.*

duṣ-prajñatva 〔中〕 愚昧.

duṣ-prajñā 〔女〕 〔漢〕 不正智 *Vin.*

duṣprajñā-jātiya 〔形〕 〔漢〕 無智 *Aṣṭ-pr.*

duṣ-prajñāna 〔形〕 愚かなる. 〔中〕 愚昧, 智慧の不足.

duṣ-praṇita (過受分) 迷はされたる, 邪道に導かれたる. 〔中〕 惡行, 無思慮.

duṣ-pratara 〔形〕 横切り難き, 越え難き, 打克ち難き.

duṣ-pratipādita (過受分) 〔漢〕 惡供瞻, 施事難成 *Bodh-bh.*

duṣ-prativāraṇa 〔形〕 避け難き, 防ぎ難き.

duṣ-prativikṣāniya (未受分) 眺め難き, 眩惑する.

duṣ-prativikṣya (未受分) [同上].

duṣ-prada 〔形〕 苦痛を惹き起す.

duṣ-pradharṣa 〔形〕 攻撃し難き. 〔男〕 [*Dhṛtarāṣṭra*

の息子の名]; 難沮 *Sukh-vy. II.*
 duṣ-pradharaṣaṇa 形 (因-i) [同上(形)].
 duṣ-pradhṛṣya 未受分 [同上].
 duṣ-prabhañjana 形 暴風, 颶風.
 duṣ-prayukta 過受分 悪くまたは誤って用いられた.
 duṣ-pralambha 形 だましにくい.
 duṣ-pravāda 形 誹謗, 讒言.
 duṣ-pravṛtti 形 凶報, 悪い報道.
 duṣ-praveśa 形 はいりにくい.
 duṣ-praveśatva 形 難入 *Sūtr.*
 duṣ-prasaha 形 堪えにくい, 支えにくい, 抵抗しにくい; 恐しい; 難忍 *Mvyut.* 男 [仏の名] 難忍 *Sukh-vy. I.*
 duṣ-prasahatva 形 不可軽逼 *Abh-vy.*
 duṣ-prasāda 形 気に入りがたい; 宥めにくい, 鎮めにくい.
 duṣ-prasādana 形 [同上].
 duṣ-prasādhana 形 扱いにくい.
 duṣ-prasādhita 過受分 不善 *Madhy-v.*
 duṣ-prasādhya 未受分 = duṣ-prasādhana.
 duṣ-prasāha 形 = duṣ-prasaha (形).
 duṣ-prāpa 形 達しがたい, 得がたい; 難得 *Bodh-bh.*
 duṣ-prāpaṇa 形 [同上].
 duṣ-prāpta 過受分 [同上].
 duṣ-prāpya 未受分 [同上].
 duṣ-prāvi 形 不親切な, 友情のない, 薄情な.
 duṣ-prekṣa 形 見にくい; 見て不愉快な.
 duṣ-prekṣaṇiya 未受分 [同上].
 duṣ-prekṣita 形 悪く見られた. 中 漲眼法. 懐見過 *Mvyut.*
 duṣ-prekṣya 未受分 = duṣ-prekṣa.
 duṣmanta 男 [*Duṣyanta* の 不確].
 duṣya 形 布, 細布, 彩布 *Mvyut., Śikṣ.*
 duṣyanta 男 [*Puru* の後裔, *Śakuntalā* の夫, *Bharata* の父王の名. *Duṣmanta, Duṣvanta, Duḥṣanta, Duḥsvanta* の異読がある].
 duḥṣanta 男 [同上. *duṣyanta* の古形].
 duḥ-ṣama 形 凶年.
 duḥ-ṣaha 形 抵抗しにくい.
 duḥ-ṣṭuta 形 *stotra* (賛頌) を誤って唱えること.
 duḥ-ṣvapnya 形 悪夢, 不安な睡眠.
 duṣ- 接頭 [= *dur-*, *duś-*, *duṣ-*, *dū-*, *duḥ-*. 形 (まれに 副 または 副) の前に用いられる] 悪い, 誤った, …… にくい; 悪く, 辛うじて.
 duṣ-kara 形 [= *duṣ-kara*] 難行 *Lal-v. 364.*
 duṣta-citta 形 [= *duṣta-citta*] 悪心 *Śikṣ. 115.*
 duṣ-tapa 形 堪えがたい.
 duṣ-tara 形 越えにくい, 渡りにくい, 打ち勝ちにくい, 征服しにくい.
 duṣ-taraṇa 形 (因-i) [同上].
 duṣ-tarka 形 誤った推理.
 duṣ-tarkya 未受分 推量しにくい, 想像されにくい.
 duṣ-tāra 形 = *duṣ-tara*.
 duṣ-tirna 過受分 [同上].
 duṣ-tirtha 形 近寄りにくいまたは渡りにくい(河).

duṣ-toṣa 形 満足しにくい.
 duṣ-tyaja 形 捨てにくい, 取り去りにくい; 難捨 *Suv-pr., Rāstr.*
 duṣ-tyajatā 形 [同上(形)].
 duṣ-tyajya 未受分 = *duṣ-tyaja*.
 duṣ-tyājya 未受分 [同上].
 du-stha, → *duḥ-stha*.
 du-sthita, → *duḥ-sthita*.
 du-sparsāniya 形 [= *duḥ-sparsāniya*] 不可親 *Lalv. 212.*
 dussani 男 [人名].
 duṣ-samatikramatva 形 難越, 難出難 *Abh-vy.*
 duḥ-samrakṣya 未受分 守護されにくい.
 duḥ-samlakṣya 未受分 認めにくい, 知覚しにくい.
 duḥ-samskāra 男 (副) 悪い慣習.
 duḥ-samsthāna 形 異相 *Ast-pr.*
 duḥ-samsthita 過受分 悪いでの, 悪い形の.
 duḥ-saṅga 男 悪い意向.
 duḥ-samcāra 形 横切りにくい, 通行しにくい.
 duḥ-samcintya 未受分 思考しにくい.
 duḥ-sattva 形 邪悪な存在, 猛獣, 有害な獣.
 duḥ-sattvavat 形 猛獣に満ちた(森).
 duḥ-samtuṣṭa 過受分 不満足の.
 duḥ-samdhāna 形 接合しにくい, 結合しにくい, 和合しにくい.
 duḥ-samdhya 未受分 [同上].
 duḥ-samatikrama 形 凌駕しにくい; 難度, 難過 *Mvyut.*
 duḥ-samikṣya 未受分 認めにくい.
 duḥ-sampāda 形 達しにくい; 処理しにくい.
 duḥ-sampādya 形 [同上].
 duḥ-sarpa 男 毒蛇.
 duḥ-saha 形 堪えにくい, 抵抗しにくい; 難可領受 *Bodh-bh.* 男 [ある悪魔の名]; [*Dhṛtarāṣṭra* または *Purukutsa* の息子の名].
 duḥ-sahatara 形 非常に忍びにくい, 全く堪えにくい; 一層抵抗しにくい; より危険な(猛毒).
 duḥ-sahatva 形 堪えにくいこと.
 duḥ-sahāya 形 悪友をもつ; すべての人(友)に見捨てられた.
 duḥ-sākṣin 男 偽りの証人; 偽証.
 duḥ-sādha 形 難成 *Sūtr.*
 duḥ-sādhyā 未受分 完成しにくい; ……にうち勝ちにくい; 復旧しにくい; 難修 *Mvyut.*
 duḥ-sevya 未受分 使用しにくい, 取り扱いにくい.
 duḥ-stha 形 不幸な運命の, 不安な, 不遇な, 惨めな, 貧しい; 病気の. ~m 副 悪く. ~m *Sthā*, 不快である, 病気である.
 duḥ-sthita 過受分 [同上(形)]; 不可得 *Bodh-c.* 中 悪い立ち方.
 duḥ-sthiti 形 苦境, 窮状; 悪い状態.
 duḥ-stheya 未受分 立ちにくい, 立っていることのむずかしい. 中 困難な姿勢または位置.
 duḥ-sparsā 形 触れにくい, 触感の悪い; 難感 *Divy.*

duḥ-spr̥śa 形 [同上].

duḥ-spr̥ṣṭa 團 半母音 [すなわち y, r, l, v]. 團 半母音の発音法.

duḥ-smara 形 不愉快な思い出の.

duḥ-svana 形 悪く響く.

duḥ-svapna 團 悪い夢; 漢訳 悪夢 *Suv-pr.*

duḥ-svapna-darśana 團 睡眠中の悪い幻想, 悪夢.

duḥ-svapna-nāśa 團 悪夢を除くこと. 形 [同下].

duḥ-svapna-nāśana 形 悪夢を払い除く.

duḥ-svapna-nāśin 形 [同上].

duḥ-svapna-pratibodhana 形 夢から醒めにくい.

duḥ-svapnopasānti (°na-up°) 因 悪夢の終りまたは中断.

duḥ-svādhyāta 過受分 漢訳 不善読誦 *Ast-pr.*

Duh, II. dogdhi, dugdhe [一般に]; I. dohati(-te)

(因 [まれに]; IV. duhyati(-te) [まれに]; VI. duhati

(-te) [まれに] 搾乳する[また soma 汁を搾る場合にも用いる]; (因) から利益を得る; (因, 従) から (因) を

引出すまたは取る; (乳を) 与える; (欲する物を) 産出

する; (欲望) に応ずるまたはを満たす. 因 duhyate 搾

乳される; ……から引き出される. 過受分 dugdha

搾乳された; 引き出された, 絞り取られた, 搾り集

められた; 満たされた; 利用された. 使役 dohayati

(-te) 乳を搾らせる; 搾り出す; 抜き出す. 希取

dudukṣati (因), dudhukṣati 搾乳したいと思う.

vācam Duh, 話しを流暢にする; kāmaṃ Duh,

kāmān Duh, 欲望を満足させる; 固 望みを達す

る. [「大地」(因) を意味する語とともに] 地を享受

するまたは所有する.

nir- 固 固 搾乳する, 引き出す; 引き取る. 過受分

nirdugdha 搾乳された, 引き出された.

sam- 固 固 (一緒に) 乳を搾る, 乳を搾り集める;

固 (一緒に) 牛乳を産出する; 享受する. 使役 sa-

mdohayati 搾乳させる等.

duh 形 (一°) を搾る, ……を産出する.

duha 形 [同上].

duhitā-mātr 因 (固) 娘と母.

duhitṛ 因 娘; 漢訳 女, 女人, 子 *Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., 梵千.*

duhitṛtva 固 娘であること, 娘の境遇.

duhitṛmat 形 娘をもつ.

duhyu, =druhyu

dū-dās 形 崇拜しない, 宗教的でない.

dū-dhī 形 [=dur-dhī] 心の悪い, 悪意のある.

dū-ṇāsa 形 得がたい.

dūta 團 使者, 使節; 漢訳 使, 所使, 使者, 使卒, 遣使 *Abh-vy., Av-ś., Divy., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Vin., 梵雜.* : ~m preṣayati 遣信 *Lal-v. 55.*

dūtaka 團 [同上]; 漢訳 使者 *Saddh-p.*

dūta-karman 固 使者または使節の条件または機能 (役目).

dūtatva 固 使者または使節の職務.

dūta-mukha 形 (因-i) (使者を代弁者とする), 使者に代弁させる.

dūta-sampreṣaṇa 固 使節の派遣.

dūtāṅgada 團 使節 *Angada* [戯曲 *Mahānāṭaka* 中の一幕の題名]. 固 [*Subhāṭa* の作, *Chāyānāṭaka* の題名].

dūtikā 因 (一°) 女使者; 媒介人,

dūtikā-vāc 因 (一°) を漏洩または暴露する語.

dūti 因 女使者; 媒介者, 売淫の仲介をする婦人, 漢訳 媒 梵雜.

dūtya 固 使節の職務, 使命.

dūtyā 因 [同上].

dūna 過受分 → du.

dūra 形 遠い, 隔たった; 長い(道程); (従, 固) より遙かな; 漢訳 遠, 遠処, 深遠, 極遠, 遙; 深; 久久 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Saddh-p., 梵千., 梵雜.* 固 (時間空間の) 間隔; 長途.

一°, ~m 固 遙かに離れて; 高く, 深く; 非常に, 全く; 漢訳 遠, 遙 *Ast-pr.*

~m Kr (固) を隔てる, ……に優る.

~m Tyaj [および同類の 動 とともに], 注意深く避ける.

~eṇa 固 遙かに離れて; 遠く隔たって; 遙かに.

~āt 固 遠くから, (従) より遙かに; 遙かに=十分に(調査する); 漢訳 遠, 遠処, 遙 *Abh-vy., Divy.*

~e 固 遠方に, 遠く, 遙か遠くに, 遙か昔に; 漢訳 遠 *Madhy-vibh.* : ~e Kr, 遠くにやる, 分離す

る, しまっておく; ~e BHū, ~e Gam, 遠方に行く, 立ち去る; ~e tiṣṭhatu, 捨て置くべきである,

語るべきではない, 心配するに及ばない.

dūra-ādīś (°re-ād°) 形 遠く広く告げる.

dūra-ādhi (°re-ādhi) 因 隔たって考える, 遙かに慕う

dūra-upasābdas (°re-up°) 形 遠方に響く.

dū-rakṣya 未受分 護りにくい.

dūra-ga 形 遠く広がった; 遠隔の; 漢訳 遠 *Sūtr.*

dūra-gata 形 遙か遠方に行った, 遠隔の; 進行した, かなり進んだ; 漢訳 欠陥 *Lal-v.*

dūra-gamana 固 遠方に行くこと, 長途の旅行.

dūra-gā 形 =dūra-ga.

dūra-gāmin 形 [同上].

dūra-gṛha 形 その家が遠方にある, 家から遠く離れた.

dūra-grahaṇa 固 遠方にある物をつかむことまたは知覚すること (超自然力).

dūraṃ-gama 形 遠方に行く; 漢訳 遠行 *Eodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Sūtr.* : ~āyāṃ bhūmau 遠行地 *Bodh-bh. 350.*

dūraṃgama-cārin 形 漢訳 遠行 *Śikṣ.*

dūraṃ-gamatva 固 漢訳 出遠 *Sūtr.*

dūraṃ-gamā 因 漢訳 遠行(地) *Dharm-s.*

dūra-cara 形 遠くに赴く, 遠方にいる, 不在の; (従) より避けた (*Jat-m.*).

dūra-ja 形 遠方に生まれたまたは住んでいる.

dūratara 比較 固 ~eṇa 非常な遠方に; 固 ~e (固) より相当離れてまたは遠くに.

dūratas 固 遠方から, 遠方で, 遠くまたは遙か離れて, 手近かにない, 久しい以前から; 漢訳 遠, 遙 *Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Raṣṭr., Saddh-p.* : adrākṣit .. ~ 遙見 *Gaṇḍ-vy. 355., ~ sthitah 遠住 Sad-*

dh-p. 362.
~Bhū, 遠く離れている。
~Tyaj [および同意義の 圖 とともに], 遠ざける; 全く放棄する。
dūratā 因 遠隔, 遠方; 遠 Abh-uy.
dūratva 因 [同上].
dū-rada 因 爪をたてにくい, 堅い。
dūra-darsana 因 (圖)によって(ただ)遠方から見られる。
dūra-darsin 因 達見の, 先見のある; 遠見の。
dūra-patha 因 遠路, 長途: ~m gata 遠方に行った, 遠方に住んでいる。
dūra-pāta 因 遠く飛ぶこと, 長時間の飛行; 非常に高い処から落ちること. 因 (矢を)遠方からまたは遠方へ射る。
dūra-pātana 因 遠方からまたは遠方へ矢を射ること。
dūra-pātin 因 遠く飛ぶ, 遙かに射る。
dūra-pātra 因 広い河床をもつ(河)。
dūra-pāra 因 対岸の遙かな, 非常に広い; 渡りにくい. 因 大河。
dūra-prasārin 因 遠くまで及ぶ。
dūra-bandhu 因 血縁者から遠く隔たった; 親戚および妻から排斥された。
dūra-bhāva 因 遠隔の地にあること, 不在。
dūraya 名動 因 dūrayati (因)から遠ざかる, 遠ざける。
dūra-vartin 因 遠く離れた, 遠い; 遙か遠くに行つた。
dūra-vidāritānana (°ta-ān°) 因 広く開いた口をもつ。
dūra-vilambin 因 垂れ下った。
dūra-vṛtta 因 遠くに来た; 遠くに日を送る。
dūra-vedha 因 遠方から打ち出すこと; 遠射, 射遠中, 射從遠中 Divy., Mvyut.: ~e...kṛtāvī saṃvṛttaḥ 遠射悉皆穿穴 Divy. 58.
dūra-śravaṇa 因 遠方から聞くこと。
dūra-śravas 因 遠方にまで知られた。
dūra-saṃstha 因 遠くにある, 遠く離れた。
dūra-sūrya 因 遠方に太陽のある, 太陽から遠く隔たった。
dūra-stha 因 =dūra-saṃstha; 遠 Saddh-p.
dūra-sthatva 因 [同上].
dūra-sthita 因 遠く離れた, 遠く隔たった。
dūra-svarga 因 天から遠い, 直ちに天に行くことができない。
dūrāgata (°ra-āg°) 因 遠方から来た。
dū-rādha 因 成就しにくい。
dūrānugata 因 久遠, 遠随, 久遠随行, 遠遊(無窮), (玄絶)遠遊; 深, 深入 Daś-bh.
dūrānupraviṣṭa 因 深入 Bodh-bh.
dūrānupraviṣṭa-jñāna-gocaratva 因 能行此法智 Sūtr.
dūrāntara-nikṛṣṭa 因 遠辺下賤 Sūtr.
dūrāntikatva 因 遠近 Abh-uy.
dūrāntika-parṣat-tulya-śravaṇa 因 遠近徒衆同依止 Sūtr.
dūrāntika-stha 因 遠近(声) Bodh-bh.

dūrāpeta 因 遙か離れた, すなわち想像することのできない, 問題外の。
dūrāpetatva 因 [同上].
dūrāloka (°ra-āl°) 因 展望, 遠望. ~e sthita, (ただ)遠方から見られる。
dūri-karaṇa 因 遠ざけること, 避けること; 遠離, 令遠 Abh-uy.
dūri-Kṛ, 除去する, 追放する; 隔てる, 凌駕する; 遠, 遠離, 令更離, 使遠離, 棄 Abh-uy., Aṣṭ-pr.
dūri-kṛta 因 遠い, 隔てられた, 追放された。
dūri-bhāva 因 遠分, 遠離 Abh-uy.
dūri-BHū, 遠ざかる, 退く; 遠離, 去遠, 成極遠 Abh-uy., Rāṣṭr., Śikṣ.
dūri-bhūta 因 遠い, 遠隔の; 離, 遠離, 遠, 遠出, 深遠, 去為深遠 Bodh-bh., Daś-bh.
dūre-anta 因 遙か遠方で終っている。
dūre-amitra 因 敵が遠方にある。
dūre-ārtha 因 目的の遠い。
dūre-cara 因 遠い, 遠隔の。
dūre-bhā 因 遠く照らす。
dūre-yama 因 Yama (死の神)から遠い。
dūre-śravas 因 遠方まで知られた。
dūreṣu-pātin 因 遙か遠方に矢を射る。
dūre-heti 因 矢が遠方に達する。
dūrotsārita (°ra-ut°) 因 遠くに追いやられた, 追放された。
dūrodāra-caritra (°ra-ud°) 因 立派な行為とかけ離れた。
dū-roha 因 登りにくい。
dū-rohaṇa 因 [同上].
dūrvā 因 [祭祀に用いられる草の名, 学名 Panicum dactylon].
dūrvāṅkura (°vā-aṅ°) 因 dūrvā 草の若芽。
dūrvāvat 因 dūrvā 草と結び合わせた。
dūrveṣṭakā (°vā-iṣ°) 因 祭壇を作るのに煉瓦のように用いられる dūrvā 草。
dūṣa 因 (一°)を汚す。
dūṣaka 因 (因-ikā)破壊する, 形を損なう; 汚す; 偽る; 咬かす, 侵害する; 墮落させる, 腐敗させる; 違反する; 罪のある; 汚; 謗; 毀謗; 壞者, 破者; 有難, 設難者, 咎 Abh-uy., Mvyut., Prāt-m., Śikṣ. → dharma~. 因 犯罪者; 誘惑者。
dūṣaṇa 因 (因-i)破壊する, 害する; (因, 一°)を汚す, 名譽を汚す; (一°)に反抗する, ...に対して罪を犯す; 汚, 除 Saddh-p., Sam-r. 因 [ある Rākṣasa の名]. 因 破壊, 破滅, 没落; 汚濁, 誘惑; 誹謗, 悪口; 弁駁; 汚点, 欠点; 犯罪, 罪惡; 汚, 穢; 過; 破, 能破, 毀乱; 窮究, 消; 除, 欺 Abh-uy., Daś-bh., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Sūtr.: viṣa~ 消衆毒藥 Saddh-p. 402.
dūṣaṇatā 因 罪のあること。
dūṣaṇa-vādin 因 (弁論における)相手または論敵。
dūṣaṇā 因 [Bhauvana の妻で Tvaṣṭṛ の母の名].
dūṣaṇābhāsa (°na-ābh°) 因 似能破 Nyāy-pr.
dūṣaṇiyatva 因 為獸捨, 所成厭背 Abh-uy.
dūṣaya 1. 名動 因 dūṣayati [叙述 はまた 因 dūṣa=

yate] 損なう, 破壊する; 偽る; (婦女を)汚す, 犯す, 辱しめる; 悪口する, 咎める; 非難する; 脅かす;
 毀, 謗, 毀謗 *Aṣṭ-pr., Lanik.* 過受分 *dūṣita* 誹謗された; さら(暴)された; (一°)に非難された.
ud- 誹謗する.
pra- 損なう; 汚す; 誹謗する, 罵る; 壊; 恨, 悪恨, 生忿怒(心) *Bodh-bh., Divy., Śikṣ.:* *cittaṃ pradūṣya* 以悪心故 *Śikṣ. 59.:* *cittaṃ pradūṣayati* 生忿怒心 *Divy. 286.*
prati-pra- 過受分 *pratipradūṣita* 汚された.
vi- 損なう, 汚す, 誹謗する.
saṃ- 損なう, 汚す; 辱かしめる, 面目を失なわせる.
dūṣaya 2. 名動 他 *dūṣayati* 窓 [< Dviṣ], [Duṣ 2. の 使役]. → Duṣ 2.
dūṣi 窓 (一°)を破壊する.
dūṣikā 窓 不潔物; 眼の分泌物(眼脂・涙等).
dūṣita 過受分 → *dūṣaya* 1. 毀謗 *Śikṣ.* 中 誤謬, 侮辱.
dūṣin 窓 破壊する, (一°)を汚す, 強姦する; 汚, 穢汚, 汚行者 *Abh-vy., Aṣṭ-pr.*
dūṣi 窓 眼の分泌物(涙・眼脂等); 度使, 頭師 *Abh-vy.*
dūṣikā 窓 [同上].
dūṣya 1. 過受分 損われやすい, 破滅されやすい, 汚されやすい. 男 悪人, 非難すべき人.
dūṣya 2. 中 天幕; 綿; 衣, 妙衣, 宝衣, 服; 袴, 毳毼; 綉褌; 覆障 *Divy., Gand-vy., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr.:* *anāhata ~ prāvṛta* 修好服飾, 著新浄衣 *Divy. 614.*
dūṣya-vastra 中 綉 *Gand-vy.*
dūṣya-saṃstara 男 白毼敷 *Lal-v.*
Dṛ 1. IV. 窗 -*driyate* [単純動詞なし].
 ā- 注意する, 考える; ……を悩む; 敬う, 重んぜられる; 敬, 恭敬, 令敬, 信 *Abh-vy., Mvyut.*
 過受分 *ādṛta* → *ādṛta*
aty-ā-(窓)に大いに考慮を払う, ……を非常に尊敬する. 過受分 *atyādṛta* [窓 龍 両方の意味をもつ].
Dṛ 2. → *Dṛ*.
ḍṛmh, I. 窗 *ḍṛmhati* 固着する, 堅固にする, 確立する; 窗 *ḍṛmhate* 堅固になる. IV. 窗 *ḍṛhyati(-te)* 強固になる. 過受分 *ḍṛḍha* 強固な, 固い, 堅固な, 確乎たる, 強い, 動揺しない; 猛烈な, 熱烈な, 大きな, 完全な, 全体の; ~m 窗 確実に, 確乎として, 大いに, 非常に; 非常によく. → *ḍṛḍha.* 使役 窗 *ḍṛmhayati* 強固にする, 確実にする, 確立させる; 窗 *ḍṛmhayate* 強固である.
ḍṛk-chattra 中 傘.
ḍṛk-patha 男 視界, 眼の届く範囲; 見道 *Abh-vy.* ~m I, ~m Gam, 見えてくる, 現われる.
ḍṛk-pāta 男 瞥見.
ḍṛkṣa 窓 (一°)のように見える, ……に似た. → *kā-*, *tā-*.
ḍṛk-saṃgama 中(窗)(龍)を見て会うこと.
ḍṛg-añcala 男 横目.
ḍṛg-anta 男 めじり, まなじり(瞥).
ḍṛg-gocara 男 視界, 視野.

ḍṛg-gheya 窓 見所断, 以見所棄 *Mvyut.*
ḍṛg-bhakti 窓 色目(好色の眼差し).
ḍṛg-rudh 窓 眼ざわりな, 視界を遮る.
ḍṛg-vihina 窓 盲目の.
ḍṛṇ-mārga 男 見道 *Abh-vy.*
ḍṛḍha 過受分 → *ḍṛmh.* 強, 堅強, 堅, 堅固, 堅猛, 堅忍, 堅好, 堅牢, 極堅牢, 牢固, 難壊; 不動; 勇猛 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Gand-vy., Guhy-s., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵千.;* 不退転 *Kāśy.:* ~yā ca mahā-pṛthivī-devatayā(窗) 堅牢地神 *Suv-pr. 2.;* ~ā pṛthivī-devatā 地神堅牢, 堅牢地神衆 *Suv-pr. 4.* 窗 堅固なまたは不動なもの; 堅固なこと. ~m 窗 → *ḍṛmh;* 堅牢 *Bodh-c.*
ḍṛḍha-kārin 窓 決断のある, 忍耐強い, 堅忍不拔の.
ḍṛḍha-krodha 窓 激しく怒った.
ḍṛḍha-gulpha-śirāsthika 窓 強い踵と踵と骨とをもつ.
ḍṛḍha-grāhin 窓 堅くつかむ, ある目的をたゆまず追及する, 忍耐強い, 精力的な.
ḍṛḍha-cyuta 男 [Agastyaの息子の名].
ḍṛḍha-jatru 窓 強い鎖骨のある.
ḍṛḍhatara 比較 より頑丈な, より堅固な.
ḍṛḍhatari-Kṛ, 一層確實にする, 強める, 堅固にする.
ḍṛḍhatā 窓 堅固なこと [~vapuṣi 強健]; (窓)に固着すること; 忍耐; 堅固 *Gand-vy.*
ḍṛḍha-toraṇārgala 窓 堅固な門と門とをもつ(都城).
ḍṛḍhatva 中 =*ḍṛḍhatā;* 堅固, 堅牢, 牢固 *Bodh-bh., Sūtr., Śikṣ.* ~m Gam, 確証する.
ḍṛḍha-dasyu 男 [古聖の名, Idhmavāha].
ḍṛḍha-dvāra 窓 堅固なまたはよく閉ざされた門をもつ.
ḍṛḍha-dhanus 男 [王の名] 堅強弓 *Lal-v.*
ḍṛḍha-dhanvan 窓 剛弓をもつ. 男 名射手.
ḍṛḍha-dhanvin 窓 [同上(窓)]; 強い射手をもつ.
ḍṛḍha-dhṛti 窓 意志強固な.
ḍṛḍha-nābha 男 魔法の武器を抑止する呪文.
ḍṛḍha-niścaya 窓 強く決心した; 堅固決定 *Bodh-bh.*
ḍṛḍha-netra 男 [Viśvāmitraの息子の名].
ḍṛḍha-nemi 男 [Satyadhṛtiの息子である或る王侯の名].
ḍṛḍha-parākrama 窓 堅猛, 堅固 *Bodh-bh., Sūtr.*
ḍṛḍha-piḍana 窓 激しく圧せられた, 抱き締められた.
ḍṛḍha-pratijñā 窓 約束または協約を固く守る.
ḍṛḍha-pratiṣṭhāna 窓 所立堅固(難可動揺), 難可傾動 *Aṣṭ-pr.*
ḍṛḍha-pratyaya 中 確信, 動かしがたい信念.
ḍṛḍha-prahāra 男 激しい打撃.
ḍṛḍha-prahāritā 窓 強射, 正確に打つことまたは射ること; 闘争堅固 *Mvyut.:* ~yāṃ....kṛtāvi saṃvṛttaḥ 射入堅牢 *Divy. 58.*
ḍṛḍha-prahārin 窓 強打する, 正確に射る.
ḍṛḍha-bandhana-baddha 窓 しっかりと畏にかけられた; 堅牢縛, 弥密牢固 *Suv-pr.*
ḍṛḍha-bala 男 [王の名] 堅固力 *Sam-r.*

dr̥ḍha-buddhi 男 [人名].
 dr̥ḍha-bhakti 形 (因) を信仰することの堅い.
 dr̥ḍha-bhaktika 形 [同上].
 dr̥ḍha-bhaktimat 形 [同上].
 dr̥ḍha-mati 形 堅く決心した; 聡慧 Śikṣ.
 dr̥ḍha-manyu 形 激しく怒ったまたは悲しんだ.
 dr̥ḍha-muṣṭi 男 拳; [人名]. 形 堅くこぶしを握りしめた.
 dr̥ḍha-muṣṭitā 因 [同上].
 dr̥ḍhaya 名動 他 dr̥ḍhayati 建設する, 築く; 固める.
 dr̥ḍha-ratha 男 [Dhṛtarāṣṭra の息子, その他の人名].
 dr̥ḍha-vajra 男 [Asura 王の名] 金剛堅 Mvyut.
 dr̥ḍha-vapus 形 強健な.
 dr̥ḍha-varman 男 [Dhṛtarāṣṭra の息子, その他の人名].
 dr̥ḍha-vāda-parākrama 形 言行の堅固な.
 dr̥ḍha-vikrama 形 剛毅な, 勇壮な.
 dr̥ḍha-virya 形 堅固精進 Bodh-bh.
 dr̥ḍha-viryatā 因 精進堅牢 Bodh-bh.
 dr̥ḍha-vedhaṇa 因 (目的物に) しっかりと(矢が)突き刺さること.
 dr̥ḍha-vaira 形 固執悪心 Rāstr.
 dr̥ḍhavya 男 [dr̥ḍhāyus の異綴字]; [ある聖仙の名].
 dr̥ḍha-vyavasāyatā 因 堅固勇猛 Bodh-bh.
 dr̥ḍha-vrata 形 誓約に忠実な; 目的の確乎とした; (因) を固持する; 心から(一°) に帰依した; 堅持禁戒, 堅固修集, 大苦行 Suv-pr., Rāstr.
 dr̥ḍha-saṃnāha-prayoga 男 具足堅固鉀鎧加行 Bodh-bh.
 dr̥ḍha-samādāna 形 よく注意する; 所受堅固, 意堅畏 Mvyut.
 dr̥ḍha-samādānatā 因 [同上]; 至誠堅固, 堅固深心 Aṣṭ-pr.
 dr̥ḍha-samāmbha 男 堅固な企てをもつもの(Bodh-bh.).
 dr̥ḍha-sāra 形 堅固 Mvyut.
 dr̥ḍha-sūra 男 [=dr̥ḍha-śūra]; [王の名] 堅猛 Lal-v.
 dr̥ḍha-sauhr̥da 形(因 -i) 友情の厚い, 厚誼の.
 dr̥ḍha-sthāma 形 発堅固意, 堅固強猛力勢 Saddh-p.
 dr̥ḍhasthāmābhinirhāra 男 嚴肅 Gaṇḍ-vy.
 dr̥ḍha-sthūṇa 形 堅固な柱をもつ.
 dr̥ḍha-smṛti 形 志念(常)堅固 Saddh-p.
 dr̥ḍhasyu 男 [dr̥ḍha-dasyu の異綴字].
 dr̥ḍha-hanu 男 [ある王侯の名].
 dr̥ḍhādhimukti 因 信不動 Sam-r.
 dr̥ḍhādhyāsayatā 因 志意堅固, 心堅固, 堅固深心 Gaṇḍ-vy.
 dr̥ḍhādhyāsayā-paripṛcchā 因 「經典の名」(Madhy-v.).
 dr̥ḍhānutāpa 男 深い悔悟.
 dr̥ḍhābhedyatā 因 堅固無毀, 堅持牢固不可虧壞 Śikṣ.
 dr̥ḍhāyu 男 =dr̥ḍhāyus.
 dr̥ḍhāyudha (°dha-āy°) 形 強力な飛び道具をもつ.

dr̥ḍhāyus (°dha-āy°) 男 [Purāravas と Urvāṣī との子の名]; [ある王侯の名]; [南方の七賢人中の一人の名].
 dr̥ḍhāsayā-paripṛcchā (°dha-ās°) 因 [經典の名, =Dr̥ḍhadhyāsayā-paripṛcchā] (Madhy-v.).
 dr̥ḍhi-karaṇa 因 確認; 堅固, 得堅固 Gaṇḍ-vy., Sutr.: mahā-yāna ~ 於大乘中得堅固 Gaṇḍ-vy. 456.
 dr̥ḍhi-kartavya 形 応堅固 Gaṇḍ-vy.
 dr̥ḍhi-kāra 男 =dr̥ḍhi-karaṇa.
 dr̥ḍhi-kāraṇa 形 堅牢 Śikṣ.
 dr̥ḍhi-Kṛ, 強める; 固く結ぶ, 確実にする; 堅固, 令堅固 Abh-vy., Aṣṭ-pr.
 dr̥ḍhi-kṛtatva 因 所成堅, 令堅實 Abh-vy.
 dr̥ḍhi-BHū, 確実となる; 得堅固, 速得堅固, 堅固不動 Gaṇḍ-vy.
 dr̥ṭi 男 (因)(水その他の液体運搬用の) 皮袋; 皮革(獣の); ふいご; 蛇管; 皮囊 Suv-pr.; 囊(?) Śikṣ.
 dr̥ḍha 過受分 [=dr̥ḍha]; 不動 Sam-r. 62.
 dr̥ḍhādhimukti 因 [=dr̥ḍhādh°] 信不動 Sam-r. 62.
 Dr̥p, V. dr̥pyati (または darpati) 狂う, 精神が錯乱する; 放縱である; 狂ったように傲慢である, 傲慢である. 過受分 dr̥pta 過激な, 狂った, 狂乱の; 傲慢な. 使役 darpayati 狂わせる, 傲慢にする. 使役 過受分 darpita 狂乱の; (一°) に驕った, ……を誇った.
 ati- 極度に傲慢である. 過受分 atidr̥pta きわめて傲慢な.
 dr̥pta 過受分 → Dr̥p.
 dr̥ptatara 比較 極度に傲慢な.
 dr̥pta-bālāki 男 高慢な Bālaki [Gārgya の 父系, ある学者の名].
 dr̥pta-bhāva 男 高慢, 高慢な性質.
 dr̥ptātman (°ta-āt°) 形 高慢な (Kṛṣṇa 神).
 Dr̥bh, VI. 他 dr̥bhati 束ねて房にする, 一緒に縛る. sam- 過受分 saṃdabdhā 一緒に縛られた; 組み立てられた; 固められた.
 Dr̥ś, I. [因 因 paśya-] 見る, 注目する, 観察する; 訪ねる, 仕える; 視る; 見なす, 考量する; (因) によって認める; 確かめる; 発見する; 審査する; ……に気をつける, 試験する; 心眼で見る(天啓を享ける) =作る(聖歌等(因)を); 見, 観, 観, 観見, 観察, 得見 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Eodh-bh., Dharm-s., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p., Sutr.; 至, 到 Aṣṭ-pr. 因 dr̥śyate (叙詩 -ti) 見られる, 見える, (因) として現われる, ……と判明する(iva); 審査される; (因) と認められる; (因) の意味で行なわれる; 現, 現前 Sutr.; 有 Abh-vy. 過受分 dr̥ṣṭa 見られた; 観察された, 取り扱われた, 認められた, 考えられた; 現われた, 現にある; 経験された, 蒙った; 贈与された; に精通した; 先見の, 予定された; 決定した(訴訟); (一°) によって承認された, 確証された, 認容された. 使役 darśayati (因) に (因) を見させる; (因, 因, 因) に示す; (因) で(因) の方を指す; ……を指示する; 差し出す(法廷で); 明示する,

指示する; 自認する; 証明する; (圓, 圓) に姿を現わす; 漢訳 現, 現見, 顕現, 露現; 示, 能示, 顕示, 開示; 表; 呈 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, 梵千.: *ātmānam darśaya-* 姿を現わす, 現われる, ……の様子をする. 使役 過受分 *darśita* 示された, 現わされた; 説明された. 希求 *didr̥kṣate (-ti)* 見たいと思う, 見ることを好む. 使役 希求 他 *didarśay-iṣati* 示そうと思う.

anu- 注目する, 知覚する. 圖 *anudṛśyate* 見える. 使役 *anudarśayati* 示す, 告げる, 教える.

sam-anu- 見る, 観察する; ……と見なす, 考慮する; 漢訳 見, 観, 随観見, 知 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*

abhi- 見る, 視る. 圖 *abhidṛśyate* 見られる, 現われる. 使役 *abhidarśayati* 示す, 指示する.

ā- 現われる, 見える. 使役 *ādarśayati* 現わす, 示す; 漢訳 現, 能現, 顕現, 現示, 示現, 顕示, 指, 指示 *Daś-bh.*, *Lank.* 使役 過受分 *ādarśita* 示された, 指示された.

ud- 上方に見るまたは発見する; 予見する, 期持する; 見る. 使役 *uddarśayati* 現われる. 使役 過受分 *uddarśita* 見えた, 出て来た, 現われた: ~m 罪人現われたり.

upa- (冷静に)眺める; 観察する. 圖 圖 *upadrśyate* 現われる. 使役 *upadarśayati* 示す, 現わす; 表わす; 装う; 説明する, 解説する; 漢訳 示, 示見, 顕示; 現, 発現, 顕現, 顕了; 露, 令他見; 告言, 宣説; 増発 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

ni- 使役 *nidarśayati* 示す, 発表する; 指示する, 表示する; 紹介する, 列挙する; 教える; 漢訳 現, 示, 示現, 顕, 説 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.* 使役 過受分 *nidarśita* 示された, (席を)与えられた; 説明された.

pari- 見る, 眺める, 常に訪ねる; 考える, 案出する, 知る. 圖 *paridr̥śyate* 見られる, 現われる. 過受分 *paridr̥ṣṭa* 見られた, 考えられた, 知られた. 使役 *paridarśayati* 示す, 証明する.

pra- 予見する; 見る, 注目する; 漢訳 見, 観見, 観察 *Lank.* 圖 圖 *pradr̥śyate* 見えるようになる; 現われる. 使役 *pradarśayati* 示す, 顕示する; 明示する; 述べる, 説明する; 漢訳 現, 示, 開示 *Divy.*, *Nyāy-pr.* 使役 過受分 *pradarśita* 示された, 説明された, 教えられた.

abhi-pra- 使役 *abhipradarśayati* (圓) に指示する (*Jāt-m.*).

upa-pra- 使役 *upapradarśayati* (圓) を参照させる, ……に言及する.

saṃ-pra- 認める; 漢訳 知 *Lal-v.* 圖 *saṃpradr̥śyate* 現われる. 使役 *saṃpradarśayati* 見させる, 示す: *ātmānam mṛtavat saṃpradarśayati* 死を装う.

prati- 見る, 認める; 圖 および 圖 *pratidr̥śyate* 現われる: *pratyadarśi* 現われた. 過受分 *pratidr̥ṣṭa* 見られた, 有名な. 使役 *pratidarśayati* 示す. *vi-* 漢訳 見, 観 *Lank.* 圖 および 圖 *vidr̥śy-*

ate 識別される; 明瞭に現われる; 漢訳 現 *Lal-v.* 使役 *vidarśayati* 示す; 教える; 漢訳 現, 現見, 現変, 示 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*

prati-vi- 漢訳 観, 観察 *Lank.*

saṃ- 注目する, 認める; 眺める; 検査する; 関する; 熟考する; 漢訳 見, 照見, 観, 瞻察, 頓現, 俱現, 顕見, 正等顕現, 徹照 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. I.* 圖 および 圖 *saṃdr̥śyate* (圓) とともに現われる; 観察される, 現われる; 漢訳 現, 出現, 等顕現 *Bodh-bh.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*: 有 *Saddh-p.* 使役 *saṃdarśayati* 示す, 顕わす; (圓) に姿を示す; 明示する; 漢訳 示, 示現, 表示, 示教, 令瞻察 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Saddh-p.*: *ātmānam mṛtavat saṃdarśayati* 死を装う.

abhi-saṃ- 使役 *abhisamdarśayati* 漢訳 現 *Lal-v.*

dr̥ś 形 [困 *dr̥k.* °— としては *dr̥k* または *dr̥g*] 見る, 観る; 識別する, 認知する. 因 見ること, 観ること [因 *dr̥ṣe* 見るために]; 眼; 意見, 説; 漢訳 見 *Abh-vy.*; 悪見 *Vijñ-t.* ° 形 ……と見える, ……のような; 漢訳 見者, 達 *Lal-v.* *karma* ~: 深達業(果) *Lal-v.* 26. → *i* ~, *kā* ~, *tā* ~.

dr̥śa 男 (—°) の眺め, ……の見掛け, ……の様子; 漢訳 如 *Lank.*

dr̥śi 因 見ること, 観ること; 視力, 直観; 因 *dr̥śaye* = (不定) 見るために.

dr̥śimat 形 見る, 眺める.

dr̥śi 女 = *dr̥śa*.

dr̥śikā 女 外見, 様子.

dr̥śya 1. 未受分 見える, 明らかに見える; (圓, 圓, —°) に見られる; 注視されるべき; 見られる価値のある, 見事な, 美しい; 漢訳 見, 所見, 可見, 現, 所顕 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.* 因 見えるもの; 漢訳 見, 所見, 諸見, 諸覚 *Lank.*

dr̥śya 2. 不変分 [正しくは *dr̥ṣṭvā*] 見て.

dr̥śya-kāla 男 漢訳 見時 *Lank.*

dr̥śya-tattva 因 漢訳 所顕真実 *Madhy-vibh.*

dr̥śyatā 女 見られうること, 眼に見えること, 明瞭なこと; 漢訳 可見 *Madhy-v.*

dr̥śyatva 因 [同上].

dr̥śya-dhārā 女 漢訳 現流, 流注 *Lank.*

dr̥śya-sthāpita 形 見える処に置かれた.

dr̥śvan 形 (因 -*vari*) 見る, 見た, (—°) を見尽くした, ……に精通した.

dr̥ṣat-kaṇa 男 礫, 小石.

dr̥ṣat-sāra 因 (石のように堅い), 鉄.

dr̥ṣad 因 岩, 大石, ひきうす用の石(碾石) [とくに上下二箇の中下部の大きなもの]; 香料・薬料等を粉にする平板の石.

dr̥ṣad-aśman 男 ひきうす用の石(上部の小さな).

dr̥ṣad-upala 因 (圓, 圓) (上下の) ひきうす用の石.

dr̥ṣad-upalā 女 (圓) [同上].

dr̥ṣadolūkhala (°*da-ul*°) 因 ひきうす用の石と臼.

dr̥ṣadvat 形 岩の多い, 石の多い.

dr̥ṣadvati 因 [(岩の多い), 河の名(*Sarasvatī* 河の支流で両河の間を *Brahmāvarta* と呼ぶ)]; [諸人の名]

dr̥ṣan-nau 因 石造船.

dr̥ṣta 過受分 → Dr̥ś. 現見, 現見, 所見, 能見, 覩見, 現見, 已見, 已見(境), 被見, 已被見, 知見, 已知見, 証見, 瞻仰; 現世 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sāmkhy-k.*, *Sapt-pr.*, 梵千.; 值遇 *Saddh-p.*: ~e dharme 於現法中 *Bodh-bh.* 102.; ~eva dharme 現法中 *Vajr-pr.* 34. 因 認知, 知覺; 証, 証量 *Sāmkhy-k.*

dr̥ṣta-karman 因 其行為の知られた, 実際に試みられた; 直接の観察によって知られる.

dr̥ṣta-kaṣṭa 因 不幸を経験した.

dr̥ṣta-kūta 因 謎.

dr̥ṣtatva 因 見られたこと, 事件(出来事), 見られること, 学ばれること.

dr̥ṣta-duḥkha 因 悪運にあった, 災害を忍んだ.

dr̥ṣta-doṣa 因 罪があばかれた; 前科のある; 有罪と認められた.

dr̥ṣta-draṣṭavya 因 見るべきものを見た.

dr̥ṣta-dharma 因 此の世界, 現世的存在, 現在 (*Divy.*); 見法, 現見法, 現証法; 現, 現法; 現世, 現在, 現在世, 今世 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

dr̥ṣṭadharmā-nirvāṇa-prāpti 因 (音写) 現法得涅槃, 於現法中証得涅槃 *Bodh-bh.*

dr̥ṣṭadharmā-vihārin 因 現法(樂)者, 現見法行人 *Lank.*

dr̥ṣṭadharmā-vedaniya 因 順現法受, 現法受用, 現在受用 *Mvyut.*

dr̥ṣṭadharmā-sāmparāyika 因 現法後法, 現法当来, 現在未来 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

dr̥ṣṭadharmā-sukha 因 現法樂 *Lank.*

dr̥ṣṭadharmāsukha-vihāra 因 現法樂住, 現法樂行, 住現法樂, 現在受樂, 現世安樂住, 安住見法, 安於見法 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*

dr̥ṣṭadharmāsukha-vihārin 因 現法樂住, 住現法樂 *Lank.*

dr̥ṣṭadharmā-hitārtha 因 現法樂義, 現法利益事義 *Bodh-bh.*

dr̥ṣṭa-dhārmika 因 現, 現世, 現在, 現法, 於現法中, 於現世, 現世中, 於現世中 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*; *Saddh-p.*, *Suv-pr.*; 現受果報 *Suv-pr.*; ~o guṇaḥ 現法功德, 現世中功德 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*

dr̥ṣṭa-naṣṭa 過受分 現われて直ちに消えた, 瞬時に明滅した.

dr̥ṣṭa-naṣṭatā 因 [同上 因].

dr̥ṣṭa-pūrvā 因 かつて見られた; 曾見, 曾見有, 曾所見 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

dr̥ṣṭa-pratyaya 因 目撃された証拠で確信した, (見られて断定された 十なわち) 確信をもって証言した.

dr̥ṣṭa-bhakti 因 その信仰または熱誠を示したまたは証した.

dr̥ṣṭa-mātra 因 ちょうど今, 僅かに見られた.

dr̥ṣṭavat 因 如見 *Sāmkhy-k.* 因 見られた, 視られた; 所見 *Lank.*

dr̥ṣṭa-vīrya 因 確かな力量のある.

dr̥ṣṭavya 未受分 因 [=draṣṭavya] 能見 *Lank.* 9.

dr̥ṣṭa-vyatikara 因 不運に遇った.

dr̥ṣṭa-śruta 過受分 見られかつ(または)聞かれた; 見聞 *Bodh-bh.*

dr̥ṣṭaśruta-mata-jñāta 過受分 見聞覚知 *Lank.*

dr̥ṣṭaśrutamata-vijñāta 過受分 見聞覚知 *Bodh-bh.*

dr̥ṣṭaśruta-viśāṅkā 因 見聞疑 *Lank.*

dr̥ṣṭa-satya 因 見諦 *Sūtr.*, *Suvik-pr.*

dr̥ṣṭa-sāmparāyānugraha 因 二世随授 *Sūtr.*

dr̥ṣṭa-sāra 因 確かな力量のある.

dr̥ṣṭādr̥ṣṭa 過受分 見えると見えないと; 現世および来世に関する. 因 現世と未来.

dr̥ṣṭānta 因 (経験の極致), 手本, 模範; 前例; 実例; 例; (論理学上および修辭学上の)ある主張を説明するための例, 譬喩; 譬喩, 譬喩, 比, 近比, 比喩 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 因 [数の名] 地力娑占達 *Mvyut.*: ~ena adr̥ṣṭasyānta-samīkaraṇa-samākhyaṇam 見辺際及不見辺際一様和合指示 *Mvyut.* → *taila-pradyota* ~. 因 模範として役立つ.

dr̥ṣṭānta-doṣa 因 喩過 *Nyay-pr.*

dr̥ṣṭānta-dharma 因 譬喩, 喩法, 譬喩法 *Abh-vy.*, *Sūtr.*

dr̥ṣṭānta-nidarśana 因 以喩開示 *Saddh-p.*

dr̥ṣṭānta-hetu 因 譬因, 譬喩因, 因譬喩 *Lank.*

dr̥ṣṭāntābhāsa (°ta-ābh°) 因 似喩, 如比現, 如比顯現 *Mvyut.*, *Nyay-pr.*

dr̥ṣṭārtha 因 対象または目的の明らかな; 模範として役立つ; (因)の真相を確かめた; 見義 *Sūtr.*

dr̥ṣṭi 因 (因)を見ること, ...を注視すること, 視ること; 視力, 視覚; 知能; 眼; 瞳; 瞥見, 一瞥; 見なすこと; 意見; (とくに)不正な見解 (仏教); 見, 聞 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千.; 邪見, 妄見 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; 朋党 *Lank.*: pañca ~ayaḥ 五見 [1. satkāya ~ḥ 身見, 2. antagrāha ~ḥ 辺見, 3. mithyā ~ḥ 邪見, 4. ~ parāmarśaḥ 見取, 5. śilavrata-parāmarśaḥ 戒禁取] *Dharm-s.* → *ātma* ~.

~m Dā, (因)を凝視する.

-dr̥ṣṭika 因 ...を誤って信ずる (*Vajr-pr.*); 見 *Sūtr.*, *Vajr-pr.* → *mithyā* ~.

dr̥ṣṭi-kaṣāya 因 見濁 *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.* II.

dr̥ṣṭi-kāntāra 因 見遠, 見曠野 *Mvyut.*; 邪見曠野, 邪見大曠野 *Gaṇḍ-vy.*

dr̥ṣṭi-kṛta 因 見所作, 成見, 作見者 *Mvyut.*

dr̥ṣṭi-kṛta-bandhana 因 見縛 *Bodh-bh.*

dr̥ṣṭi-kṣama 因 見る価値のある.

dr̥ṣṭi-kṣepa 因 眼を動かすこと, 見廻すこと; 視線を投ずること.

dr̥ṣṭi-gata 因 見成, 見相, 成見, 見趣, 諸見 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 邪見, 惡見, 異見, 不同諸見, 邪心 *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suvik-pr.*

dr̥ṣṭigata-gahana 中 見稠林 *Gaṇḍ-vy.*, *Suvik-pr.*
 dr̥ṣṭigatānutsarga 男 不捨惡見, 邪見不捨 *Mvyut.*
 dr̥ṣṭi-gahana 中 見稠林, 遮見, 見遮 *Mvyut.*
 dr̥ṣṭi-gocara 男 視界.
 dr̥ṣṭi-jāla 中 見網, 妄見網 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*
 dr̥ṣṭijāla-praticchanna 形 為見網之所覆蔽, 諸見網不得出離 *Ast-pr.*
 dr̥ṣṭi-dāna 中 姿を現わすこと, 現われること.
 dr̥ṣṭi-doṣa 男 肉眼による悪影響; 見過失, 著邪見 *Lank.*
 dr̥ṣṭi-dvaya 中 二見 *Lank.*
 dr̥ṣṭidvaya-gocara 男 二見境界, 二見所行 *Lank.*
 dr̥ṣṭidvayātīkrānta-gocara 男 超二見境界, 過二見境界, 超二見所行 *Lank.*
 dr̥ṣṭi-nipāta 男 一瞥を投げること, 瞥見.
 dr̥ṣṭi-nimittāpakaṣaṇa 中 拔除相見 *Sūtr.*
 dr̥ṣṭi-pa 形 眼で飲む.
 dr̥ṣṭi-paṅka 男 中 惡見淤泥 *Suvik-pr.*
 dr̥ṣṭi-patha 男 視界; 視野.
 dr̥ṣṭi-pathin 男 [同上].
 dr̥ṣṭi-parāmarśa 男 見取 *Dharm-s.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*
 dr̥ṣṭi-parāmarśaka 形 見取 *Sūtr.*
 dr̥ṣṭi-parāmarśaka-pratipakṣa 男 対治自心見取 *Sūtr.*
 dr̥ṣṭi-parīkṣā 女 觀邪見, 觀諸見 *Madhy-v.*
 dr̥ṣṭi-pāta 男 =dr̥ṣṭi-nipāta: na tasya ~e 彼に汝自身を示すことなかれ.
 dr̥ṣṭi-pūta 形 眺めることによって浄められた(すなわち不浄から保護された).
 dr̥ṣṭi-pratipakṣa-jñāna-lābha 男 得人法二見対治智 *Sūtr.*
 dr̥ṣṭi-pradāna 中 =dr̥ṣṭi-dāna.
 dr̥ṣṭi-prapāta 男 =dr̥ṣṭi-nipāta.
 dr̥ṣṭi-prasāda 男 一瞥の恩恵. ~m Kṛ, 謁見を賜わる.
 dr̥ṣṭi-praskanna 形 見沈, 沈於見 *Mvyut.*
 dr̥ṣṭi-prāpta 形 見至, 見得, 得解 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 dr̥ṣṭiprāpta-mārga 男 見至道 *Abh-vy.*
 dr̥ṣṭi-maṇḍala 中 瞳.
 dr̥ṣṭimat 形 眼をもつ; 聡明な, 賢い.
 dr̥ṣṭi-mārga 男 視野, 眼界.
 dr̥ṣṭi-rāga 男 眼の表情.
 dr̥ṣṭi-roga 男 眼の病.
 dr̥ṣṭi-vikalpa 男 見分別, 見妄想 *Lank.*
 dr̥ṣṭi-vikṣepa 男 =dr̥ṣṭi-kṣepa.
 dr̥ṣṭi-vipatti 女 壞見, 妄見 *Bodh-bh.*
 dr̥ṣṭi-vipanna 形 壞見, 毀壞正見, 壞觀, 邪見 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Suvik-pr.*
 dr̥ṣṭi-viparyāsa 男 見顛倒 *Ast-pr.*
 dr̥ṣṭi-vibhrama 男 (眼を廻転させること), 意味ありげな目つき, 色目.

dr̥ṣṭi-vilagna 形 著邪見 *Saddh-p.*
 dr̥ṣṭi-viṣa 形 そのまなざし(眼差)で人を毒する. 男 蛇; 見毒, 眼毒, 蛇及蝮蠍 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 dr̥ṣṭi-śalya 男 中 邪見刺, 諸見刺, 諸見毒刺 *Gaṇḍ-vy.*
 dr̥ṣṭiśalya-samuddharāṇa 中 拔出邪見刺 *Gaṇḍ-vy.*
 dr̥ṣṭi-saṃyojana 中 見結 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*
 dr̥ṣṭi-saṃkaṭa 男 見險道, 見恐怖, 恐怖見 *Mvyut.*
 dr̥ṣṭi-saṃkara 男 雜諸見, 邪見 *Lank.*
 dr̥ṣṭi-saṃpanna 形 具見, 正見, 具足正見, 見具足, 具正見人 *Ast-pr.*, *Suvik-pr.*; 見諦者, 見四諦人 *Madhy-vibh.*
 dr̥ṣṭi-saṃbheda 男 互に瞥見すること.
 dr̥ṣṭi-sukha-saṃsthāna 中 現樂行相 *Lank.*
 dr̥ṣṭi-sthāna 中 見処, 僻見処 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
 dr̥ṣṭi-sthāniya 形 見処 *Bodh-bh.*
 dr̥ṣṭi-heya 中 見断 *Abh-k.*
 dr̥ṣṭi-gahana 中 [韻律, =dr̥ṣṭi-g°] 見稠林 *Saddh-p.*
 dr̥ṣṭi-viṣa 形 男 =dr̥ṣṭi-viṣa; 毒蛇 *Lal-v.*
 dr̥ṣṭotsāha (°ta-ut°) 形 上達の顯著な.
 dr̥ṣṭy-agocara 形 視野の外にある.
 dr̥ṣṭy-ogha 男 見暴流, 見暴河 *Abh-vy.*
 dr̥ṣṭvā 不変分 [Dr̥ṣ] 見已 *Saṃkhy-k.*; 即至, 到已 *Ast-pr.*
 Dr̥h, → Dr̥ṃh.
 Dr̥, IX, 中 (固) dr̥ṇāti(-te) 破裂する, 破れる, 裂ける; 泯没 *Buddh-c.* 固 diryate 裂かれる, 割られる, 破り開かれる. 過受分 dir̥ṇa 裂かれた, 割られた; 散らされた; おどされた. 使役 固 dā-rayati(-te) 切れ切れに引き裂く, 押し破る; 散らす, ava- 破裂する, 固 avadiryate 裂かれる, 破られる; 破, 劈 *Mvyut.* 使役 avadirayati 切れ切れに引き裂く, 穿つ, 掘り出す.
 ā- 割る, 開く. 強意 ādardar- [同上].
 nir- 裂く. 使役 nirdārayati 裂く; 掻き裂く; 割る, 掘り返す. 使役 過受分 nirdārīta 裂かれた.
 vi- 裂く, 掻き裂く, 開く; 破, 劈 *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*; 遠離 *Bodh-c.* 固 vidiryate 切れ切れに引き裂かれる. 過受分 vidir̥ṇa 裂かれた; 貫かれた; 口を開いた. 使役 vidārayati 切れ切れに引き裂く; 開く; 貫く, 割る, 掻き裂く; 掘り返す, 散らす; 突破する, 分散させる; 押し除く.
 dedipyamāna 強意 現分 [Dip] 強く輝く, 光り輝く, 燃え立つ.
 deya 不変分 [Dā 1.] 与えられるべき, 贈られるべき, 贈物に適した; 結婚の際に贈られるべき; 交附されるべき; 解放されるべき; 返還されるべき; 払われるべき; 置かれるべき, 配置されるべき(火); (道を) 譲るべき; 給, 施, 施(食), 所施, 施与, 堪所施, 供養 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

梵千 ~h panthāh (圖) の道を作るべきである;
 atithitvena śaktyā ~m (非人) 欲待にあたり人は
 その能力に応じて与えるべきである。 田 贈物; 税;
 賃金。
 deya-dharma 田 慈善; 施物, 堪所施物, 可
 施財物, 可施財法 Bodh-bh.
 deya-dharma-parittatā-vaikalya 田 施物尠闕
 Bodh-bh.
 deya-vastu 田 施物, 所施物, 所応施物, 可供
 財物 Bodh-bh.
 deva 田 (因-i) 天の, 神聖な [また譬喩的にも用いる].
 田 天上の者, 神格者, 神, 神聖な者 [時として害
 をする者]; (人中の神すなわち) 祭官, 婆羅門; 王,
 王侯; (一°) の長; (因) 閣下よ, 王よ; [Kṛṣṇa 神の
 称]; 天, 天神, 乾 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy.,
 Laṅk., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr., 梵千.:
 八部衆の一 [1. devaḥ 天, 2. nāgaḥ 竜, 3. yakṣaḥ
 勇建 4. gandharvaḥ 尋香, 5. asuraḥ 非天, 6. ga-
 ruḍaḥ 金翅鳥, 7. kimnaraḥ 人非人, 8. mahoragaḥ
 大腹行] Mvyut. ~sād BHū, 神となる。 田 感覚器
 管。
 deva-ṛṣabha 田 [Dharma と Bhanu との息子の名].
 deva-ṛṣi 田 諸神中の聖者, 聖仙。
 devaka 田 一° = deva. 田 [王侯の名, Devaki の
 父]; [Yudhiṣṭhira の息子の名]; (因) [Krauñca-
 dvīpa のある Sūdra 族の名].
 deva-kanyakā 田 天上の乙女, 天女。
 deva-kanyā 田 [同上]; 天女 Mvyut., Saddh-p.,
 梵千.
 devaka-bhoja-putri 田 [Devaki の(因)系].
 deva-kamala-pura 田 [町の名].
 deva-karma-kṛt 田 神聖な儀式を行なう。
 deva-karman 田 神聖な儀式; 神々の崇拜。
 deva-kalāśa 田 [人名].
 deva-kalpa 田 神のような。
 deva-kāma 田 諸神を愛する, 敬虔な。 田 神々の意
 欲。
 deva-kārya 田 神聖な儀式; 神の事柄または使命, 神
 の命令。
 deva-kilbiṣa 田 神々に対する罪。
 devaki 田 [Kṛṣṇa の母で Vasudeva の妻の名].
 devaki-nandana 田 [Kṛṣṇa の(因)系].
 devaki-putra 田 [同上].
 devaki-mātr 田 [同上].
 devaki-sūnu 田 [同上].
 deva-kula 田 殿堂, 神殿; 天廟, 神廟, 天寺,
 天祀, 天神処, 釈天祀之処 Bodh-bh., Divy., Lal-
 v., 梵千.
 devakulāvāsa (°la-āv°) 田 (因) 神殿に附属する建築
 物。
 deva-kulika 田 神殿の侍者; 守寺者, 守地廟者
 Mvyut.
 deva-kulyā 田 [人格化されたある天上の河の名];
 [Udgītha の妻の名].
 deva-kṛta 田 諸神によって作られた。
 deva-kṛtya 田 = deva-kārya.

deva-kośa 田 神聖な樽または容器。
 deva-kṣatra 田 [ある王侯 (Devarāta の息子) の名].
 deva-kṣetra 田 神領(神土, 聖土).
 deva-khāta 田 諸神(天)によって掘られた=自然にく
 ぼんだ。 田 天然の池または貯水池; 洞穴。
 deva-gaṇa 田 神の群; 天衆 Suv-pr.
 deva-gaṇikā 田 諸神の娼婦 (Apsaras).
 devagaṇeśvara (°ṇa-iś°) 田 [(神群の主), Indra 神
 の称].
 deva-gandharva 田 神聖な Gandharva [manuṣya-
 gandharva の(因)]; [Narada の名]; (因) 神々と諸
 Gandharva.
 deva-garbha 田 神の子。
 deva-garbhā 田 [Kūśa-dvīpa の河の名].
 deva-gava 田 (因) 神々の牡牛。
 deva-giri 田 神々の山; [山脈の名].
 deva-gupta 田 一神または諸神によって護られた。 田
 [人名].
 deva-guru 田 神々の師 [Kāśyapa および Bṛhaspati
 の称].
 deva-guhī 田 [Sarasvatī 河流域の一地方の名].
 deva-guhya 田 神々にのみ知られた秘密。
 deva-gṛha 田 諸神の家, 殿堂; 王宮。
 deva-gopā 田 神を守護者とする。 田 神聖な保護。
 deva-graha 田 [余り害にならない精神錯乱を起させ
 る悪魔の一種].
 deva-ghoṣa 田 [人名].
 devaṃ-gama 田 神々のもとへおもむく。
 deva-caryā 田 神々に対する奉仕, 祭式。
 devacaryopasobhita (°yā-up°) 田 神々に対する奉仕
 によって清められた, 神聖な。
 deva-cchanda 田 八十一条からなる真珠の首飾り。
 deva-ja 田 神の生んだ, 神生の, 天生の。 田 [王侯
 (Samyama の息子) の名].
 deva-jana 田 [一般に (因) 神(天)の衆または群; 魔群
 とくに蛇群].
 deva-janani 田 神々の母。
 devajana-vidyā 田 魔族に関する知識。
 deva-janman 田 生天, 上昇於天宮 Laṅk.
 deva-japa 田 [ある Vidyādhara の名].
 deva-jā 田 神の生んだ, 神生の, 天生の。
 deva-jāta 田 [同上]. 田 神族または天種, 神の類。
 deva-jāmi 田 神々に特有な。 田 神々の姉妹。
 devatā 田 神性, 神力; 神格者; 神像(聖像); 天,
 諸天, 神, 天神, 天(子), 天人, 神明 Aṣṭ-pr., La-
 ṅk., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I, 梵千., 梵千. 田
 ~ayā 田 一神または諸神の資格(権能)で, 諸神の中
 に, 諸神に対して, 神格に関しては。
 devatāgāra (°tā-āg°) 田 殿堂, 礼拝堂。
 devatā-gṛha 田 [同上].
 devatā-jit 田 [Sumati の息子の名].
 deva-tāt 田 神の崇拜; 神群, 天群。
 deva-tāti 田 [同上].
 devatātman (°tā-āt°) 田 神の心をもつ, 神の性質の。
 田 [Śiva 神の称].
 devatātva 田 神たること。

devatānukrama (°tā-an°) 男 *Veda* の神々の目録。
 devatānukramaṇi (°tā-an°) 女 [同上]。
 devatānusmṛti (°tā-an°) 女 念天 *Mvyut.*
 devatā-pratimā 女 神像。
 devatā-bādha 男 神に対する暴行。
 devatābhyarcana (°tā-abh°) 男 神像または神の崇拜。
 devatābhyarcana-para 男 神々の崇拜に身を捧げる。
 devatā-mandira 男 =devatā-gr̥ha.
 devatāmaya 男 (女-i) 一切の神々を含んだ。
 devatāyatana (°tā-āy°) 男 =devatā-gr̥ha.
 devatārādhana (°tā-ār°) 男 神々の崇拜。
 devatārcana (°tā-ar°) 男 [同上]。
 devatā-veśman 男 =devatā-gr̥ha.
 devatā-sahāyin 男 神(のみ)によってともなわれたすなわち唯一人の。
 deva-tirtha 男 (神々の浴場), [聖地の名]; 諸神(の崇拜)にふさわしい時; 神々のために清められた手の一部とくに指先。
 deva-tirthamaya 男 (女-i) 聖地に満ちた。
 deva-tumula 男 大雷。
 devatya 男 (一°)を神としてもつ, ……に捧げられた。
 devatrā 男 神々の中に, 神々に。
 devatva 男 神性, 神の性質, 神の状態; 女 ~ = āya 女 生天 *Bodh-bh.*
 deva-datta 男 神から授けられた。男 [*Arjuna* の螺貝の名]; (あくびを起こす)生氣; [きわめて一般的な人名, ゆえに不定の人を名指すのに用いるすなわち何某]; [仏陀の従兄弟で彼に敵対した人の名]; [*Urūśravas* の息子の名]; [婆羅門 *Govindadatta* の息子の名]; 女 [人名] 天授, 天与 *Abh-vy., Mvyut.*; 音写 調達, 提婆達多 *Abh-vy., Divy., Lal-v., Saddh-p.*
 devadattāgra-ja 男 [*Śākyamuni* の称]。
 deva-dantin 男 [*Śiva* 神の称(?)]。
 deva-darśana 男 神を見るまたは諸神と交わる。男 [*Nārada* の称]; [ある婆羅門の名]。男 神の顕現。
 deva-darśin 男 諸神と交際する。
 deva-dāru 男 男 [松の一種, 学名 *Pinus deodar*]; 女 松樹, 木樫 *Mvyut., Saddh-p.*
 deva-dārumaya 男 (女-i) *Deva-dāru* 樹で作った;
 deva-dāsa 男 [諸人の名]。
 deva-diṅṅa, [=deva-datta].
 deva-dundubhi 男 天鼓, 天大樂 *Bodh-bh., Divy., Saddh-p.*
 deva-durga 男 神々に近づきにくい。
 deva-dūta 男 諸神の使者。
 deva-dūtaka 男 [同上]。
 deva-deva 男 諸神中の神, 最上神; [*Brahman* 神・*Śiva* 神・*Viṣṇu* 神・*Kṛṣṇa* 神・*Gaṇeśa* 神の称]; (覆)婆羅門達; 女 天中天, 天中之天 *Lal-v.*
 deva-devī 女 [*Durgā* 神の称]。
 devadeveśa (°va-iśa) 男 [*Siva* 神・*Indra* 神・*Viṣṇu* 神の称]。
 deva-daivatya 男 (神々を神格としてもつ), 諸神に捧げられたまたは向けられた。
 deva-dyumna 男 [王侯 (*Devatajit* の息子で, *Para-meṣṭhin* の父) の名]。

deva-dviṣ 男 神々の敵, *Asura*。
 deva-dhāni 女 [*Mānasottara* 山上にある *Indra* 神の都城の名]。
 deva-dhāman 男 =deva-gr̥ha.
 deva-dhiṣṇya 男 神の座または戦車。
 devana 男 光輝; 賭博。
 deva-nagara 男 天城 *Gaṇḍ-vy.*
 devanagara-samsthāna 男 形如天城, 状若天城 *Gaṇḍ-vy.*
 deva-nadī 女 聖河; [諸聖河の称, とくに *Gaṅgā* 河]。
 deva-nāga-yakṣa-gandharva-parivṛta 男 (音写) 天竜(夜叉)乾闥婆因遶, 大衆因遶 *Gaṇḍ-vy.*
 deva-nāgari 女 [聖都の文字, 現今用いられている *Sanskrit* 文字の名]。
 deva-nātha 男 神々の主, [*Śiva* 神の称]。
 deva-nāman 男 [王の名]; [*Kuśa-dvīpa* のある *Varṣa* (州)の名]。
 deva-nāyaka 男 [人名]。
 deva-nikāya 男 神々の集まり, 多くの神々; 神々の住処, 天界; 天衆(同分) *Bodh-bh.*
 deva-nid 男 神を嫌う。
 deva-nitha 男 [十七 *pāda* を含むある聖句の名]。
 deva-pati 男 諸神の主, [*Indra* 神の称]; (覆)諸神中の優れた神。
 deva-patnī 女 (女) 神を夫としてもつ。女 神の妻。
 deva-patha 男 (神々の道), 不死に通ずる道, 天; [聖地の名]。
 deva-pada 男 神の名を含んだ語。
 deva-paśu 男 神に(捧げられた)動物。
 deva-pātra 男 神の盃。
 deva-pāda 男 (覆) [(神または王の足), 王を示すに用いる尊敬の表現, 陛下]。
 deva-pāna 男 神々の飲用に供するすなわち神々に飲料として役立つ。
 deva-pāla 男 [山の名]; [諸王侯の名および人名]。
 deva-pitr-kārya 男 神々ならびに祖先の霊に対してなされるべき儀式。
 deva-piyu 男 神々を誘るまたは軽んずる。
 deva-putra 男 神の子; 天子, 皇 *Bodh-bh., Saddh-p., Sapt-pr., Sukh-vy. II.*, 梵千。男 諸神を子としてもつ。
 deva-putraka 男 [同上 (男)]。
 devaputra-māra 男 天魔, 《天子魔》 *Abh-vy., Dharm-s., Śikṣ.*
 deva-pur 女 神の城砦; *Indra* 神の住所。
 deva-pura 男 *Indra* 神の住所; 天宮梵雜。 → *tridaśa* ~。
 deva-purā 女 神の城砦。
 deva-pūjā 女 神々の崇拜。
 devapūjita 男 神々に尊敬された。
 deva-pūrva 男 神(*deva*)なる語によって先立たれた [例 *deva-giri* (男) なる語を表わすのに *devapūrvagiri* とする]。
 deva-pūrvakam 男 神々をはじめとして。
 deva-prabha 男 [ある *Gandharva* の名]。
 deva-prabhā 女 [ある *Siddha* の娘の名]。

deva-prasāda 男 [(神々の恩寵をもつ), 人名].
 deva-prasūta 形 神から出た(水).
 deva-prastha 男 [Senābindu の首都の名].
 deva-priya 形 諸神の愛する(Śiva 神); 愚かな, 愚鈍な [=devānām-priya].
 deva-bandhu 男 神々に関係ある.
 deva-bāhu 男 [Hṛdika の息子の名]; [古聖仙の名].
 deva-bodha 男 [Mahābhārata の註釈者の名].
 deva-bhakta 形 神々によって配分された.
 deva-bhakti 因 一神または多神に対する帰依.
 deva-bhavana 因 神の住所, 天; 殿堂; 天宮, 諸天宮, 天宮殿, 諸宮殿 Gand-vy., Lan̄k., Saddh-p., Sv-pr.
 deva-bhāga 男 (神々の分け前), 北半球; [Śura の息子で Vasudeva の兄弟の名およびその他の人名].
 deva-bhiṣaj 男 神の医者, Aśvin 双神.
 deva-bhuvana 因 天 Daś-bh.
 deva-bhūta 形 神となったまたは神の; 天身, 天 Bodh-bh.
 deva-bhūya 因 神となること. ~m gatam 死んだ.
 deva-bhoga 男 神々の快樂, 天上の悦楽.
 deva-maṇi 男 神の宝石とくに Viṣṇu 神の胸飾り; (馬の首の)渦毛.
 deva-mata 男 [聖仙の名].
 deva-mati 男 因 [人名].
 devamati-prabha 男 天 Kimnara の名]天慧光 Mvyut.
 deva-madhu 因 神々の蜜.
 deva-manuṣya 男 (種) 神々と人間; 天人 Bodh-bh.
 devamanuṣya-saṃgha 男 諸天人衆 Saddh-p.
 devamaya 形 (因 -i) 神々を含んだ.
 deva-mātr 因 (種) 神々の母; (因) [Aditi および Dakṣaṇī の称].
 deva-mātrka 形 (Indra 神または雲を養母とする), (他の水ではなくて)雨のみによって養われた(穀類・土地等).
 deva-mātrkā 因 旱田, 天水田 Mvyut.
 deva-mādana 形 神々を喜ばせるまたは鼓舞する Soma.
 deva-māna 因 神々の住所.
 deva-mānuṣa 男 人天 Sātr.
 deva-māya 男 [王侯の名].
 deva-māyā 因 神々によって作られた幻像.
 deva-mārga 男 神々の道, 空, 天空; [譬の戯称].
 deva-mālā 因 [ある Apsaras の名].
 deva-miṭha 男 [ある Yādava (Vasu-deva の祖父) の名].
 deva-muni 男 神性の聖者; [Iraṃ-mada の子で Rg-veda X 146. の作者の名].
 deva-yaj 形 諸神に供える, 諸神を崇拜する.
 deva-yajana 形 (因 -i) [同上]. 因 供儀の場所.
 devayajana-sambhava 形 (因) 供儀の場所に生まれた, [Sita の称].
 deva-yajña 男 諸神への献供 [とくに火中に供物を投ずる供儀(五種大供儀の一)].

deva-yajya 因 諸神の崇拜, 諸神への供儀.
 deva-yajyā 因 [同上].
 devayat 名動 因 神に仕える, 神に憧れる, 敬虔な; 光り輝く.
 deva-yāśas 因 神の栄光.
 deva-yājīn 形 =deva-yaj. 男 [Skanda の従者の名]; [ある Dānava の名].
 deva-yātrā 因 聖像の行列.
 deva-yāna 形 (因 -i) 諸神に行く, 諸神に導く, 諸神によってしばしば往来される. 因 神々の路 [この路によって人は死後不滅性を得る]; 神の乗物; 天乘 Lan̄k.
 deva-yāni 因 [Śukra の娘にして Yayāti の妻の名].
 deva-yāniya 形 神々に導く.
 deva-yu 形 諸神に身を捧げる, 敬虔な.
 deva-yukta 形 神々によって軛されたまたは結びつけられた(馬).
 deva-yuga 因 神々の時代, (世界の)第一期 =kṛtayuga.
 deva-yoni 男 因 神の起源または住所; 点火するのに用いる聖木.
 deva-yoṣā 因 神の女, 神の妻.
 devara 男 夫の弟, 義兄弟; 愛人, 夫.
 deva-rakṣita 男 [諸人の名].
 devara-ghni 形 (因) 義兄弟を殺した(女).
 deva-rata 形 神々を喜ぶ, 敬虔な.
 deva-rati 因 [ある Apsaras の名].
 deva-ratha 男 神の車.
 devarathāhnya 因 神の車による一日の行程.
 devaravati 因 義兄弟をもつ女.
 deva-rahasya 因 神の秘密.
 deva-rāj 男 神々の王, Indra 神.
 deva-rāja 男 [同上]; 神の支配者; [諸人の名]; [仏の名] 天王 Saddh-p.
 deva-rājya 因 諸神の主権.
 deva-rāta 形 神に授けられた. 男 [諸人の名]; [諸王の名].
 deva-rūpā 因 [ある Apsaras の名].
 deva-rūpin 形 神の形相をもつ, 神に似た.
 deva-retasa 形 神の精液から生じた.
 devarṣi (°va-ṛṣi) 男 (神々の間に棲む)神仙 [ṛṣi 中の最高階級にして Atri, Nārada の諸神仙を含む], 神格化された聖者; [Nārada の名]; [Śiva 神の称]; (種) 神々と聖仙.
 devala 男 神像の奉仕者で守護者, 神像に対する供物によって生活する下級の婆羅門; [Kāśyapa の後裔で Rg-veda の第九 maṇḍala, 賛歌 5—24 の作者と称せられる人の名]; [Asita または Asita の息子およびその他の諸人の名].
 deva-lakṣma 因 神性.
 deva-līnga 因 神像.
 deva-lipi 因 天書; (音写) 提婆書 Lal-v.126.
 deva-lekhā 因 [ある王侯夫人の名].
 deva-loka 男 諸神の世界, 天界, 天国; 天, 天世, 天界, 天上, 天世界 Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut., Rastr. ~e gata 天に行った, 死んだ.

devaloka-pāla 團 神界の保護者, *Indra* 神.
 deva-vacanā 因 [ある *Gandharva* 少女の名] (*Karvy*).
 devavat 1. 因 諸神に守護せられたまたは圍繞せられた. 團 [第十二 *Manu* の名]; [*Akrūra* の息子およびその他諸人の名].
 devavat 2. 團 神のように.
 devavati 因 [*Gandharva* である *Grāmaṇi* の娘の名].
 deva-vadha 團 神々の武器.
 deva-vadhū 因 神の女性, 神の妻.
 deva-vanda 因 神々を称賛する.
 deva-vara 因 神々の中の最上者の. 團 神々の主; [*Kṛṣṇa* 神の称].
 deva-varcas 因 神のように美しい.
 deva-varṇini 因 [*Bharadvāja* の娘の名].
 deva-wardhana 團 [*Devaka* の息子の名].
 deva-varman 團 神の鎧.
 deva-varya 神々の主, *Śiva* 神.
 deva-varṣa 團 [王侯の名]. 團 [*Dvīpa Śālmala* 中の *Varṣa* (州)の名].
 deva-vāta 因 神々に快い. 團 [人名].
 deva-vāhana 因 神々を乗せる(馬).
 deva-vid 因 神々を知っている.
 deva-vidyā 因 神々に関する知識; 聖なる学問 [= *nirukta*, 語原学].
 deva-vimāna 團 天宮殿 *Saddh-p.*, *Śikṣ*.
 deva-viś 因 神々の種族.
 deva-viti 因 神々のための饗宴; [*Meru* の娘の名].
 deva-veśman 團 神殿, 祠.
 deva-vyacas 因 神々に場所を供する.
 deva-vrata 團 宗教的戒律; 神々の好む食物; [*Sāman* の名]. 因 諸神に帰依した, 敬神の, 敬虔な. 團 [*Bhṛṣma* および *Skanda* の称].
 deva-śakti 團 [王の名].
 deva-śatru 團 諸神の敵, *Asura*, *Rākṣasa*.
 deva-śarman 團 [諸人の名]; [古聖仙の名].
 deva-śiśu 團 = *deva-garbhā*.
 deva-śiṣṭa 因 諸神に教えられたまたは指示された.
 deva-śuni 因 神々の雌犬, *Saramā*.
 deva-śeṣa 團 神々への供物の残余.
 deva-śravas 團 [*Śūra* の息子で *Vāsudeva* の兄弟およびその他の人名].
 deva-śri 因 神々に近づく, 崇拜する. 團 [聖仙の名].
 deva-śrut 因 神々に聞えるまたは聞かれた.
 deva-śrū 因 神々に知られた. 團 諸神の理髪師.
 deva-śreṣṭha 因 = *deva-vara*. 團 [第十二 *Manu* の息子の名].
 deva-saṃsad 因 神々の集会.
 deva-sakha 團 神々の友または仲間.
 deva-sakhi 團 [山の名].
 deva-saṃgha 團 天衆 *Mañj-m*.
 deva-sattra 團 神々に捧げる長期間にわたる祭式.
 deva-sad 因 神々の間に住する.
 deva-sadana 因 神々の座席として役立つ.
 deva-sadman 團 神の座.

deva-saṃnidhi 團 諸神の現前.
 deva-sabha 團 [町の名].
 deva-sabhā 因 諸神の集合に使用する広間; 天堂, 靈霄殿, 天衆 *Divy.*, *Mṃyut*.
 deva-sarasa 團 [地名].
 devasāt, → *deva*. ~ *Kṛ*, 諸神に捧呈する; ~ *d* *BHū*, 神となる.
 deva-sāvāṇi 團 [第十三 *Manu* の名].
 deva-suta 團 天子 *Lal-v*.
 deva-sumati 因 神々の恩寵.
 deva-sumanas 團 [花の名]; 天喜花, 天妙意花 *Lal-v.*, *Mṃyut*.
 deva-suṣi 團 神々の管, 官能または生命の気の通路[五つある, *prāṇa*, *vyāna*, *apāna*, *samāna*, *udāna*].
 deva-sū 團 八神の名[すなわち *Agni gr̥ha-pati*, *Soma vanas-pati*, *Savitṛ satya-prasava*, *Rudra paśu-pati*, *Bṛhas-pati vācaspati*, *Indra jyeṣṭha*, *Mitra satya*, *Varuṇa dharma-pati*].
 deva-sṛṣṭa 因 神から出たまたはによって作られた.
 deva-sena 團 [*Śrāvastī* の王の名]; [*Paundravardhana* の王の名].
 deva-senā 因 諸神の軍隊; [*Prajāpati* の娘で *Skanda* の妻の名].
 devasenā-priya 團 [*Skanda* の称].
 deva-stut 因 神々を称賛する.
 deva-sthāna 團 [聖仙の名].
 deva-smitā 因 [ある商人の娘の名].
 deva-sva 團 諸神の所有物.
 deva-svāmin 團 [ある婆羅門およびその他諸人の名].
 deva-havis 團 神々に捧げる供物.
 deva-havya 團 [同上]. 團 [聖仙の名].
 deva-hita 因 諸神に配置されたまたは命ぜられた. 團 神々の幸福.
 devahitārthāya 團 神々のために.
 deva-hiti 因 神の掟.
 deva-hū 因 人体の北側の穴 [すなわち左耳の神秘的名称(顔を東面させれば左耳は北側となるからこの名がある)]. 因 神々に祈願する.
 deva-hūti 因 神々を招請するための祈願; [*Manu Svāyambhuvā* の娘の名].
 deva-hūti 因 神々を招請するための祈願.
 deva-hūya 團 [同上].
 deva-heḍana 團 神々に対する罪.
 deva-heḍana 團 [同上].
 deva-hotra 團 [*Yogeśvara* の父の名].
 deva-hrada 團 [聖地の名].
 devāṃśa 團 神の部分, 神の部分的権化.
 devāgāra 團 神の家, 神殿.
 devāṅganā 因 神女, 神の妃.
 devātithi 團 [諸人の名].
 devātideva 團 一切の諸神の上に卓越している神; [*Śiva* 神の称]; [*Viṣṇu* 神の称]; [*Śākyamuni* の称] (仏教); 天天, 天中天, 天中王, 天中之天 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r*.
 devātman (°*va-āt*°) 團 神靈.
 devātma-śakti 因 神靈の力.

devādhīdeva 男 [Indra 神の称].
 devādhīpa 男 神々の主, Indra 神; [王侯の名].
 devādhīpatya (°va-ādh°) 男 天王位, 自在天王 Lank.
 devānām-indra 男 śakrasya ~sya 釈 [śakra の音写], (音写) 帝釈 Suv-pr. 75.
 devānām-priya 男 (諸神の寵愛者), 淡白卒直な人, 愚人.
 devānika 男 神軍; [王侯の名]; [第十一 Manu の息子の名]; [山の名].
 devānucara 男 神の従者.
 devānuyāyin 男 [同上].
 devānusmṛti 女 念天 Dharm-s., Lal-v.
 devāntaka 男 [ある Rākṣasa の名]; [ある Daitya の名].
 devānna 男 諸神に献じた食物.
 devāpi (°va-āpi) 男 [隠遁して婆羅門となったある王侯の名].
 devāpsarā 女 天女 Lal-v.
 devāyat 他動 覆分 =devayat.
 devāyatana (°va-āy°) 男 (神の住所), 殿堂, 祠; 天祠, 天廟, 天処 Bodh-bh., Buddh-c.
 devāyu 男 =deva-yu.
 devāraṇya 男 諸神の林 (Nandana 林).
 devāri 男 諸神の敵, Asura.
 devārcana 男 一神または諸神の崇拜.
 devārpaṇa 男 神々への供物.
 devālaya (°va-āl°) 男 殿堂, 祠.
 devāvatāra 男 従天降臨, 自天降臨処 Mvyut.
 devāvasatha (°va-āv°) 男 =devālaya.
 devā-vṛdhā 男 [王侯の名, Babhru の父].
 devāśva 男 神馬.
 devāsura 男 (種) 神々と Asura; (國) [Śiva 神の称]. 男 神々と Asura との(戦).
 devikā 女 下位の女神; [Yudhiṣṭhira の妻の名]; [河の名].
 devitavya 未受分 罪人 賭博すべし. 男 賭博.
 devitṛ 男 賭博者.
 devin 男 賭博の; 男 賭博者.
 devi 女 [deva の女] 女神; [Sarasvati, Sāvitrī, Durgā の称]; 女王, 王女, 王侯夫人; 高貴の女性; 天女; 夫人, 大夫人, 后, 王妃, 国大夫人. Av-ś., Buddh-c., Divy., Lal-v., Lank., Mvyut.; Suv-pr.
 devika 男 一°王女の, 王妃の.
 devi-kṛti 女 [ある園林の名].
 devi-kriḍā 女 Durgā の遊戯場.
 devi-garbha-grha 男 Durgā の(像を安置する)内殿, Durgā の神殿.
 devi-grha 男 Durgā の神殿; 王妃の部屋.
 devitva 男 女神または女王たることまたは地位.
 devi-dhāman 男 Durgā の神殿.
 devi-bhavana 男 [同上].
 devi-bhāva 男 女王の威厳.
 devṛ 男 夫の弟, 義兄弟.
 deveddha (°va-id°) 男 神々によって点火された.

devendra (°va-in°) 男 神々の主; [Indra 神または Śiva 神の称]; [諸人の名]; 天帝, 天主, 諸天王, 一切天王 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Raṣṭr.
 devendra-buddhi 男 [古師の名] 天主意 Mvyut.
 devendra-madhura-nirghoṣa 男 如天帝妙音, 如帝釈妙(音); [釈は śakra の音写] Mvyut.
 deveśa (°va-iśa) 男 諸神の主; [Indra 神, Brahman 神, Viṣṇu 神, Śiva 神の称]; 王侯, 王.
 deveśaya 男 [(神の中に休らう), Viṣṇu 神の称].
 deveśī (°va-iśī) 女 [Durgā の称].
 deveśvara (°va-iś°) 男 [Śiva 神の称].
 deveśita (°va-iṣ°) 男 神々によって遣わされたまたは促された.
 devainasa (°va-en°) 男 神の呪詛.
 devya 男 神力.
 devy-āyatana (°vi-āy°) 男 Durgā の祠.
 deśa 男 地点, 地域, 場所, 地方 [しばしば冗語として一°]; 国土; 部分; 命令; 処, 方, 方処, 方所, 処所; 境, 域, 辺; 国, 国土; 世界; 郷 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., 梵千., 梵維.; 分 Abh-k., Abh-vy.; 説, 説 Bodh-bh., 梵維.: eka ~ 一分 Abh-k.I. 35.
 ~m ā-Vas, ~m ni-Viś, ある場所に住む, 定住する.
 ~e 男 正しい場所に, 好位置に.
 ~e ~e 男 処処 Suv-pr. 125.
 ~eṣu ~eṣu 男 処処 Saddh-p. 83.
 deśaka 男 (一°)を示す, 教える; 示, 説, 演説, 演揚, 能説, 宣説, 発露 Bodh-bh., Lal-v., Lank., Mvyut., Sam-r.: paramārtha ~ 説深義 Sam-r. 59. → dharma ~. 男 指導者, 指示者.
 deśaka-paṭu 男 きのこ.
 deśa-kāla 男 (國) 場所と時間; (國) (國) の場所と時間. ~m 男 場所と時間とに従って.
 deśakāla-jña 男 所と時とを知っている.
 deśakāla-jñatā 女 所と時とに関する知識.
 deśakāla-vid 男 =deśakāla-jña.
 deśakāla-virodhin 男 所と時とを度外視する.
 deśakāla-vyatita 男 正しい時所を無視した.
 deśa-gamana 男 外国に出発すること, 旅行.
 deśa-cyuti 女 国外追放, 追放, 高飛び.
 deśa-ja 男 本場産の, 純粹血統の(馬; 象); 地方の [男 Ārya 語ではない方言].
 deśa-jāta 男 [同上].
 deśa-jña 男 その地方を知っている; 知方, 識境界 Aṣṭ-pr., Mvyut., Śikṣ.
 deśa-tyāga 男 郷土を去ること.
 deśa-dṛṣṭa 男 国中に(すなわち慣習的に)行なわれるまたは知られた.
 deśa-dharma 男 国の法または慣習; 方俗事 Divy.
 deśana 男 説, 教, 勸修 Abh-k. III. 29., Abh-vy. 405.; 懺悔, 懺悔法, 陳罪 Gaṇḍ-vy., Suv-pr.; 経 Suv-pr.: asmin ~e nirdiśyamāne 説是経時

Suv-pr. 213.

- deśanā** 因 指示, 教授, 教旨, 教義; 說, 所說, 言說, 說法, 巧說, 能說, 演說, 宣說, 解說, 語, 語言, 教, 弘法, 講 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*; 懺, 懺悔, 悔法, 發露 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*, *Śikṣ.*; 經 *Suv-pr.*, *dharma* ~ 說法 *Daś-bh.* 12.; *dharma* ~ *kṛtā* 說法 *Av-s.* I. 148.; *māyā-nāsty-asti* ~ 說有幻無幻, 說幻有無 *Lank.* 294.; *deśeyam gambhīrām* ~ *m imām* 演說甚深經, 演說微妙甚深悔法 *Suv-pr.* 24.
- deśanā-karaṇīya** 因 應說, 應悔, 懺悔 *Mvyut.*
- deśanā-gāthā** 因 懺悔偈頌; (音寫) 伽他明懺悔法 *Suv-pr.* 17.
- deśanā-naya** 男 說通, 言說法相, 說建立正法相 *Lank.*
- deśanānuśamsa** (°nā-an°) 男 說法功德 *Sūtr.*
- deśanā-pāṭha** 男 說, 言說, 語言(文字), (名字) 說法 *Lank.*
- deśanāpāṭha-kathā** 因 說(名字章句) *Lank.*
- deśanāpāṭha-naya** 男 說通, 言說法, 建立說法相 *Lank.*
- deśanāpāṭhābhirata** 因 樂於(名字)說法, 樂著語言(文字) *Lank.*
- deśanā-phala-vibhāga** 男 說法有八果 *Sūtr.*
- deśanā-vibhāga** 男 說法差別 *Sūtr.*
- deśanā-vibhutva** 因 說勢力 *Sūtr.*
- deśanā-sampatti** 因 說法成就 *Sūtr.*
- deśa-nirūpaṇā** 因 處決定, 祭境以色成 (?) *Mvyut.*
- deśa-bhaṅga** 男 国土の壊滅.
- deśa-bhāṣā** 因 一地方の言語, 方言.
- deśa-bhraṃśa** 男 = *deśa-bhaṅga*.
- deśayamāna** 使役 現分 宣說開示 *Sapt-pr.*
- deśayitavya** 使役 未受分 應懺, 當懺悔, 發露除, 發露悔滅 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
- deśayitr** 男 說者 *Sūtr.*
- deśa-rakṣin** 男 (一°)の護国者=の国王.
- deśa-rūpa** 因 地方または場所との一致, 適合, 適當.
- deśa-vastu** 因 城事, 国土(事), 方土物 *Bodh-bh.*
- deśa-vastu-dānatā** 因 方土物施 *Bodh-bh.*
- deśa-viruddha** 因 修辭 場所についての誤解または不適當な譬喩. → *viruddha*.
- deśa-vilokita** 因 觀方 *Lal-v.*
- deśa-stha** 因 ある地方に位置しているまたは住する; 住方處, 位於處 *Abh-vy.*
- deśa-svāmin** 男 国王, 国の王侯.
- deśākramaṇa** (°śa-āk°) 因 国土への侵入.
- deśācāra** (°śa-āc°) 男 地方の習慣.
- deśātana** 因 旅行すること.
- deśātithi** 男 その国の旅客, 外国人.
- deśāntara** 因 他国, 外国; 方, 他方, 異方, 余方, 異處, 余處 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lank.*
- deśāntara-gata** 因 興易之物 *Divy.* 29.
- deśāntara-gamana** 因 外国におもむくこと, 旅行すること; 異處起 *Sūtr.*

deśāntara-sthāna-gamana 因 至方 *Lank.*

deśāntarita 因 外国に住んでいる.

deśāntarin 因 外国の. 男 外国人.

deśika 因 地形または道に精通している; 示, 指, 演, 引導 *Mvyut.*, *Śikṣ.* 男 案内者; 精神上的の師, 指導者; 導師; 說者; 說具 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.* → *aṣṭāṅgamārga* ~.

deśita 使役 過受分 示された, 指示された; 導かれた, 教えられた; 示, 說, 所說, 演說, 所演說 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*, 梵雜.

deśitavat 過能分 開闡 *Saddh-p.*

deśin 因 (一°)を指示する, 教える, 導く.

deśini 因 食指.

deśi 因 方言, 地方語, 俗語, 国訛.

deśi-nāma-mālā 因 [(地方語の花環), *Hemacandra* 作の辞典の題名].

deśi-prakāśa 男 [地方語の辞典の題名].

deśiya 因 国に属する, 地方的な; (一°)に住んでいる, ……の土着の; (一°)と境するまたは接近する, ……から遠くない, ……の近くの, ……に似た.

deśopasarga (°śa-up°) 男 国の悲しみ, 国の災厄.

deśya 未受分 指示されるべき, 模範的な. 因 その場所にある, 現存する, [男 目撃者]; その国に属するまたは流行する, 地方的の; (一°)に土着の; 同じ地方から来た; (一°)と境するまたは接近する, ……から遠く距っていない, ほとんど, ……に似た.

deśya-bhikṣu 男 土着の乞食修行者.

deśyamāna 使役 受現分 說, 宣說, 所說 *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.*

deśa 男 困 [< *dveṣa*] 嘆 梵雜.

deṣṭa 因 もっとも多くまたはよく与える.

deṣṭavya 未受分 (困)として指示されるべき.

deṣṭr 男 (一°)の案内者, 指導者.

deṣṭra 因 指示, 指導.

deṣṭri 因 女指導者 [神として].

deṣṭna 因 与えること, 贈物.

deha 男 因 [形成されたもの: *Dih*] 身体; 塊; 形; 型; 大きさ, かさ(嵩); 人, 個人; (一°)の形または姿をもつもの; 身, 依身 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*; (音寫) 提訶 *Abh-vy.*

~ *m DHṛ* (仏教) (身体を保つ), 生きる.

deha-kara 男 生産者, 父; 父 *Saddh-p.*

deha-karṭr 男 [同上]; 太陽.

deha-kṛt 男 父; [*Śiva* 神の称].

deha-cara 因 身体の(病等).

deha-caryā 因 身体の世話.

deha-ja 男 息子; [*Kāma* 神の称].

deha-tantra 因 身体を主な存在とする, 肉体の形をとった.

deha-tyāga 男 身体の棄却, 死.

dehatva 因 身体の性質または状態.

deha-dāha 男 (身体の熱), 熱病.

deha-dhāraṇa 因 身体の支持, 生命, 存在.

deha-dhārin 因 体を所有する, 具体化した, 生きて

いる。

- deha-nirbhāsa 男 身光 *Sutr.*
 deha-patana 男 身体の老朽, 死.
 deha-pāta 男 [同上].
 deha-pratiṣṭhā-bhoga 男 身安立受用 *Lank.*
 deha-baddha 男 有形の.
 deha-bandha 男 身体の綱, 身体の関節.
 deha-bandhana 男 身体の構造.
 deha-bhāj 男 身体を所有する, 有形の. 男 有形の生物, とくに人間.
 deha-bhuj 男 身体を所有する [*Śiva* 神の称].
 deha-bhṛt 男 身体を所有する (*Śiva* 神). 男 有形の生物, とくに人間.
 deha-bheda 男 身体の破壊, 死.
 deha-bhoga-pratiṣṭhā 男 身資生住持, 身及物并所位処, 身財建立, 身資生器, 身資及所住, 受用建立身 *Lank.*
 deha-bhoga-pratiṣṭhāna 男 身資生住持 *Lank.*
 deha-madhyā 男 腰.
 deha-mātrāvaśeṣita 男 ただ身体だけが残った.
 dehaṃ-bhara 男 身体を養うことまたは長命(のみ)を心がける.
 dehaṃbhara-vārttika 男 [同上].
 deha-yātrā 男 身体の維持, 生命支持.
 deha-rakṣā 男 (身体に対する注意), 純潔.
 dehali 男 しきい(敷居).
 dehavat 男 有形の. 男 生物, とくに人間.
 deha-vimukti 男 =deha-tyāga.
 deha-viśeṣa 男 勝身 *Sutr.*
 deha-vṛtti 男 身体の支持.
 deha-samūdbhava 男 身体の源.
 deha-sāra 男 (身体の心髄), 髓.
 dehātma-vāda (°ha-āt°) 男 靈魂は肉体にほかならないとする説, 物質主義.
 dehānta 男 身体の終極, 死.
 dehāntara-prāpti 男 他の身体を得ることまたはに変化すること, 輪廻.
 dehābhāva 男 非身 *Sutr.*
 dehābhāsa (°ha-ābh°) 男 身光 *Sutr.*
 dehāri 男 [*Śiva* 神の称].
 dehārthin 男 総求身者 *Bodh-bh.*
 dehāvaraṇa (°ha-āv°) 男 甲冑; 衣服.
 dehāvasāna 男 =dehānta.
 dehi [Dā 1. の 男 三入 男].
 dehiḥ 男 [蟻の一種].
 dehin 男 有形の; 有身 *Buddh-c.* 男 生物; 人間; (肉体を具えた) 精神; 身, 有身, 具身, 衆生, 人, 民人 *Abh-vy., Lal-v., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sutr.*
 dehi 男 城壘.
 deheśvara (°ha-iś°) 男 精神.
 dehotkampa (°ha-ut°) 男 身体の震えること.
 dehoddāha (°ha-ud°) 男 =deha-dāha.
 Dai, 清める. → Dā 4.
 daikṣa 男 *Dikṣā* に関する.
 daiteya 男 *Diti* の息子または後裔, *Asura* または悪魔

- とくに *Rahu, Rākṣasa.* 男 *Daiteya* に関する.
 daiteyi 男 *Diti* の女系の後裔.
 daitya 男 *Diti* の後裔, *Asura* または悪魔とくに *Rahu*; 施好 *Mvyut.*
 daitya-dānava-mardana 男 *Daitya* と *Dānava* とを摧破するもの, [*Indra* 神の称].
 daitya-nāśana 男 *Daitya* 族の破壊者, [*Viṣṇu* 神の称].
 daitya-niṣūdana 男 [同上].
 daitya-pa 男 *Daitya* 族の長, [*Bali* の称].
 daitya-pati 男 [同上].
 daitya-senā 男 [*Prajāpati* の娘で *Devasenā* の姉妹の名].
 daitya-han 男 =daitya-nāśana; [*Indra* 神の称].
 daitya-hantr 男 [*Viṣṇu* 神の称].
 daityāntaka 男 [同上].
 daityāya 男 名動 男 *daityāyate Daitya* に扮する.
 daityāri 男 *Daitya* の敵; [*Viṣṇu* 神の称]; [*Rama* の称].
 dainam-dina 男 毎日生ずる.
 dainya 男 落胆, 懊惱; 邪悪, 不幸, 憐憫すべき状態; 感, 憂感, 憂悩; 猶 *Abh-vy., Divy. ~m Kr.* 哀れっぽく振舞う, 卑下する.
 dainyavat 男 落胆した, 悩まされた.
 daipa 男 燈に関する.
 dairghatapasa 男 [*dīrgha-tapas* から] 長期間の苦行を修する.
 dairghatamasa 男 (男 -i) *Dīrgha-tamas* に関する. 男 [諸 *Sāman* の名].
 dairghaśravasa 男 (男 -i) *Dīrgha-śravas* に関する. 男 [二の *Sāman* の名].
 dairghya 男 長さ; 長向 *Mvyut.*
 daiva 男 (男 -i) 神々に特有な, 神々から来たまたはに に関する, 神の; 王家の; 運命に関するまたはによって 生じた; 天, 天道, 天命, 受天命 *Abh-vy., Mvyut., Samkhy-k.* 土 *vivāha* 男, 土 *dharma* 男 神婚式 [結婚の一形式, この式では父によって娘は 司祭官に与えられる]. [*tirtha* とともに] 男 神聖な手の一部 [指先]. 男 神; 諸神 (を崇拜する) 儀式; 天命, 運命; 宿命; 幸運: ~āt 男 運命のままに, 偶然に; *yukte ~e* 天命の幸いする時; ~m *śikṣayati* 必要が教える.
 daivaka 男 神格, 神 [一般に -°].
 daiva-kṛta 男 運命によって生じた, 宿命の, 自然の.
 daiva-gati 男 運命の行路, 運命.
 daiva-cintaka 男 運命について考える, (人間の) 運命を知っている. 男 占星家; [*Śiva* 神の称].
 daiva-jana 男 (男 -i) 神群に属する.
 daiva-jña 男 宿命または運命を知っている. 男 =daiva-cintaka (男).
 daiva-jñatva 男 占星術に精通していること.
 daivata 男 (男 -i) [*devatā* から] (崇拜または祈願される) 神に関する; 神の. 男 (男) (賛歌に頌せられた) 神または [集合的に] 諸神; 自己の神として (-°) をもつことまたは崇拜すること; 神像; 神, 天 *Divy.*

daivata-pati 男 神々の主, [Indra 神の称].
 daivata-para 男 神々を崇拜する.
 daivata-pratimā 女 神像.
 daivatas 男 運命によって, 偶然に.
 daivata-sarit 女 Gaṅgā (ガンジス)河.
 daivatya 男 [devatā から] (一°)を神としてもつ,
 ……に捧げられたまたは向けられた.
 daiva-datta 男 運命によって与えられた, 生来の.
 daiva-durvipāka 男 悪く成熟した運命, 運命の残酷.
 daiva-nirghāta 男 運命の打撃.
 daiva-nirmita 男 =daiva-kṛta.
 daiva-para 男 運命を第一義とする人の, 運命論者の.
 男 運命論者.
 daiva-parāyana 男 男 [同上 (男)].
 daiva-mānuṣaka 男 神々と人間とに関する.
 daiva-yoga 男 運命の配剤, 宿命. 男 ~āt 偶然に;
 男 由業力故 Divy. 男 ~ena 偶然に.
 daiva-ratha 男 神の車 [=deva-ratha].
 daiva-rājya 男 =deva-rājya.
 daivarāti 男 [deva-rāta の 父系]; [Janaka および
 Yājñavalkya の名].
 daiva-vaśa 男 運命の意味または力. 男 ~āt 思いがけ
 なく, 偶然に; 宿命的に.
 daiva-vid 男 運命を熟知している. 男 占星家.
 daiva-vidhi 男 運命.
 daivasaka 男 (女 -ikā) [divasaから] 一日で生ずる;
 男 日 Divy.
 daiva-saṃpanna 男 幸運に恵まれた.
 daiva-saṃpannatā 女 [同上 男].
 daivasikam 男 [Pāli devasikam] 男 日日 Vin.
 daiva-hata 男 運命に打たれた, 不幸に陥ちた.
 daiva-hataka 男 [同上]; 呪われた. 男 呪われた運
 命(男).
 daivādika 男 div (すなわち第四類動詞)に属する.
 daivādy-anta (°va-ād°) 男 諸神を敬う式をもって終
 始する.
 daivādhina 男 運命に隷属する, 運命の掌中にある.
 daivānvita 男 幸運な.
 daivāyatta (°va-āy°) 男 運命のままになる.
 daivāripa 男 [devāri-pa から] 貝殻.
 daivika 男 (女 -i) 神々に特有の, 神々に捧げられた,
 神々から来た. 男 自然現象; 宿命, 避けがたい事件.
 daivi 女 [同下]. 男 → daivya (男).
 daivodhā (°va-ūdhā) 女 Daiva 式によって結婚した
 女.
 daivodhā-ja 男 daivodhā の息子.
 daivodyāna (°va-ud°) 男 天上の園.
 daivopahata (°va-up°) 男 運命に打たれた, 不幸な.
 daivopahataka (°va-up°) 男 [同上].
 daivya 男 (女 -ā または daivi) 神の. 男 神の力.
 daiśika 男 (女 -i) 場所または空間に関する; 土着の;
 (一°)の国に属する; 地方の, 土地に詳しい; 指示す
 る, 案内する, 教える, 指導する; 男 示, 開示,
 説, 為説, 宣説 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.
 男 教導者, 案内者; 男 導, 師, 導師, 善導, (世)
 導師 Abh-vy., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Śikṣ. 男 [踊

りの一種].

daiṣṭikatā 女 運命論.
 daihika 男 (女 -i) 身体の.
 daihya 男 身体の中にある. 男 精神.
 Do → Dā 2.
 dogdhavya 男 受分 搾乳されるべき.
 dogdhu-kāma 男 (男) から搾乳または搾り出そうと熱
 望するすなわち掠奪または搾取しようとする.
 dogdhr 男 乳またはある利益を与える. 男 搾乳者.
 dogdhra 男 牛乳桶.
 dogdhri 男 (女) 乳を出す, 哺乳する. 女 乳牛, 乳母.
 dodhaka 男 [韻律の一種(4×11音節)].
 dodhat 男 受分 [Dudh] 猛烈な.
 dodhūyamāna 男 受分 [DHū] 激しく揺れる, ひ
 どく震える.
 dor-daṇḍa 男 長い腕.
 dor-nikartana 男 腕を切断すること.
 dor-mūla 男 脇の下.
 dor-yuddha 男 接戦.
 dor-viśāda 男 腕の倦怠.
 dola 男 動揺.
 dola-ghara 男 ぶらんこのある場所.
 dola-gharaka 男 [同上].
 dolā 女 [例外として 男 dola] ぶらんこ; [しばしば
 疑いの表徴として] 躊躇, 不安; 釣台, (竹の)かご
 [四人の肩で運ばれる]; 男 懸繩 Divy.
 dolā-cala-citta 男 心の動揺する.
 dolādhirūḍha (°lā-adh°) 男 ぶらんこに乗った, かご
 に坐った; 心の動揺した; 落着かない, 休みのない.
 dolāya 男 名動 男 dolāyate ぶらんこのように揺れる;
 波動する; 逡巡する, 疑う. 男 受分 dolāyita あち
 らこちらに揺れる. 男 受分 dolāyamāna 揺れる; 躊躇
 する;
 dolāyamāna-mati 男 心の動揺する, 心に疑いをもつ
 た; 躊躇する.
 dolā-yuddha 男 結果のまだ判明しない戦, 勝敗不定
 の戦.
 dolārūḍha (°lā-ār°) 男 =dolādhirūḍha; 釣台に坐つ
 た; ぶらんこに乗った; [±iva] (一°)に関して疑
 わしい; 心の動揺した, 不安な.
 dolikā 女 ぶらんこ, かご.
 dolikī 女 [=dolikā].
 dolita 男 受分 → Dul.
 dolotsava (°lā-ut°) 男 ドーラー祭 [Phālguna 月の
 十四日に行なわれ, 童子が Kṛṣṇa の神像を動揺さ
 せる儀式なのでこの名がある].
 doḥ-sākhā 女 腕のような枝.
 doḥ-sālin 男 強い腕をもつ.
 doṣa 1. 男 男 欠陥, 欠点, 短所; 劣等なまたは悪い性
 質または状態, 汚点; 過失; 違犯, 犯罪, 罪業, 罪
 悪, 悪徳; 損害, 損傷, 害; 不善; 悪結果; 病的の愛
 情, 無秩序, 病氣; 身体の要素[粘液(śleṣman), 胆
 汁(pitta), 風(vāyu)の三種がある. これらが秩序
 を失なう時病氣となる]; 非難, 誹謗; 文体または文
 の構成上の欠点(修辭); 男 過, 失, 過失, 患, 過
 患, 過患事, 悪, 過悪, 咎, 過咎, 過罪, 罪過, 愆

過, 難, 患難, 劫害, 穢, 客塵, 病 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vidh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Rāstr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, *Vijñ-v.*, 梵雜: pañca~āḥ 五失, 五種過失 [1.kausidyam 懈怠, 2.avavādasya sammoṣaḥ 忘聖言, 3.layauddhatyam 憍沈掉舉, 4.anabhisamskāraḥ 不作行, 5.abhisamskāraḥ 作行] *Madhy-vibh.*173.; ~m utpādayati 生過, 尋過 *Mvyut.*
 ~eṇa 圓, ~āt 圓, ~tas 圓 惡徳の結果として, 過失の結果で, (一°)の有害な結果によって.
 ~to Brū, 罪を責める, 非難する.
 ~taḥ Śaṅk, 違犯の嫌疑をかける.
 ~m Kṛ, ~eṇa Gam, 非難する, 罪を責める, ある過失を(因)ある人に(圓)帰す.
 ~m Labh, ~m R, 罪に陥る.
 ko 'tra ~h, 何か悪いことがあるか, どうでもよいではないか.
 naiṣa ~h, 何も悪いことはない, なんでもない.
 doṣa 2. 圓 [=doṣas] 夕, 暗黒.
 doṣa 3. 圓 圓 [*<dveṣa. Pali dosa*] 瞋, 恚, 瞋恚, 恚怒, 憎, 憎忿 *Abh-vy.*, *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*: ~m utpādayati 起瞋 *Mvyut.*; rāga~śikhin 貪恚火, 貪恚熾盛火 *Gaṇḍ-vy.*54.
 doṣa-kara 圓 (圓)を害する, に有害な.
 doṣa-kārin 圓 [同上].
 doṣa-kṛt 圓 [同上].
 doṣa-gāmin 圓 圓 [*<dveṣa-g°*] 随瞋 *Prāt-m.* II.12.
 doṣa-guṇa 圓 (圓) 功罪, 過惡と徳性.
 doṣa-guṇitva 圓 [同下 圓].
 doṣa-guṇin 圓 功罪をもつ, 惡と善との性質をもつ.
 doṣa-guṇi-karaṇa 圓 過惡を美点に転ずること.
 doṣa-ghna 圓 (因 -i) 惡質を除く.
 doṣa-carita 圓 圓 [*<dveṣa-c°*] 瞋行者, 瞋恚者 *Gaṇḍ-vy.* 289.
 doṣa-jña 圓 (一°)の欠点を知っている; 有害なものを知っている, 賢い, 注意深い.
 doṣaṇya 圓 腕の中にある, 腕に属する.
 doṣatas 圓 過失または欠点から. → doṣa 1. (~to Brū).
 doṣatva 圓 過失, 欠陥.
 doṣa-darsana 圓 見過失 *Sūtr.*
 doṣa-duṣṭa 圓 過受分 為過失所汚 *Bodh-bh.*
 doṣan 圓 [=dos. doṣaṇi (圓 圓)] 下膊; 腕.
 doṣa-nirdhāraṇa 圓 過失 *Lank.*
 doṣa-prasaṅga 圓 咎めること, 非難; 有過, 生過 *Lank.*, *Madhy-v.*
 doṣa-phala 圓 罪の結果. 圓 罪のある, 悪い.
 doṣa-bhāḥ 圓 罪のある, 惡事をする.
 doṣa-bheda 圓 [三 doṣa の特殊な病]; 病殊, 病差別, 病不同 *Lank.*
 doṣamaya 圓 (因 -i) 過失からなっている.

doṣa-mala 圓 過垢 *Sūtr.*
 doṣa-malina 圓 過垢 *Sūtr.*
 doṣala 圓 不正な, 墮落した, 汚れた.
 doṣavat 圓 過失のある, 欠陥のある, 汚点のある; 有罪の; 非難すべき, 罪深い; 有害な; 有失, 有過, 具過失 *Bodh-bh.*
 doṣa-varjita 圓 離過 *Rāstr.*
 doṣa-śamana 圓 =doṣa-ghna.
 doṣas 圓 夕, 暗黒.
 doṣa-saṃcaya 圓 過聚 *Sūtr.*
 doṣā 1. 圓 夕(晩), 暗黒. ~m, ~ayā 圓 夕方に, 夜に.
 doṣā 2. 圓 夕方に, 夜に.
 doṣā-kara 1. 圓 (夜を作る者), 月(太陰).
 doṣākara (°ṣa-āk°) 2. 圓 欠点の山, 多くの欠点.
 doṣākṣara 圓 問罪, 非難.
 doṣā-tana 圓 夕方に属する, 夜の.
 doṣānudarsin 圓 欠点または過失を見る.
 doṣāntara 圓 過失, 過咎 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*
 doṣāntara-skhalita-gaveṣin 圓 常察己過 *Bodh-bh.*
 doṣābhāva 圓 離過 *Sūtr.*
 doṣā-bhūta 圓 夜になった.
 doṣāya 名動 圓 doṣāyate 欠点となる, 欠点のように見える.
 doṣā-ramaṇa 圓 月(太陰).
 doṣāśaya (°ṣa-ās°) 圓 深見過失意樂 *Bodh-bh.*
 doṣin 圓 違反のとが(科)のある, 罪のある, 汚す.
 doṣmat 圓 腕をもつ; 腕の強い, 勇敢な.
 dos 圓 (圓) [圓 圓 dos, 圓 doṣi, 圓 doṣi] 下膊; 腕.
 doha 圓 (一°)の乳を搾る, ……を産出する. 圓 搾乳牛乳; (一°)による利得, (圓, 一°)より利益を得ること; 利益, 成功; 牛乳槽; 搾牛乳 *Bodh-bh.*
 doha-kāma 圓 搾乳されることを望む.
 dohada 圓 [dau(r)hrda からの 圓, 本来恐らく 圓 du-hada <dvi-hrda- から] 妊婦の熱望; (因, 一°)に対する激しい欲望; (美しい少女の接触に対する植物の)熱望 [これによって花を誘発するといわれる, 例えば *Aśoka* 樹].
 dohada-duḥkha-śila 圓 妊娠中病的渴望に駆られる.
 dohada-duḥkha-śilatā 圓 妊娠中病的渴望の状態.
 dohada-lakṣaṇa 圓 懷妊の徴; 胎兒.
 dohadin 圓 (因, 一°)に対して熱望をもつ.
 dohana 圓 乳を出す; 利益をもたらす. 圓 搾乳; 牛乳桶; 搾乳, 擠奶(?) *Mvyut.*; 穀, 構 *Lal-v.*
 dohanikā 圓 牛乳桶.
 dohani 圓 =dohanikā.
 dohala 圓 =dohada.
 dohas 圓 搾乳.
 dohita 圓 過受分 搾乳された.
 dohya 圓 未受分 搾乳されるべき. 圓 乳を与える動物.
 daukūla 圓 *Dukūla* 布で覆われた. 圓 *Dukūla* 布.
 daukūlaka 圓 [同上 (圓)]. 圓 [同上 (圓)]; 葛布, 紵布 *Mvyut.*; 圓 圓 独孤洛迦 *Mvyut.*
 dautya 圓 音信, 使者の職務; 給使, 走使 *Bodh-*

bh.

dautyaka 甲 [同上].
 daurātmya 甲 [dur-ātman から] 邪悪, 下劣, 卑劣.
 daurātmyaka 形 [dur-ātman から] 悪い, 悪心の.
 daur-ārdhhi 因 不成功.
 daurita 甲 加害.
 daurga 形 *Durgā* に関する.
 daurgatya 甲 [dur-gata から] 苦痛, 悲惨, 貧窮.
 daur-gandha 男 悪臭, 臭気; 難読 悪気, 臭気 *Divy.*
 daurgandhya 甲 [dur-gandha から] [同上]; 難読
 臭, 臭気, 臭穢, 其臭穢 *Divy., Lank., Śikṣ.*
 daurgaha 男 [*Purukutsa* の父系].
 daurjanya 甲 [dur-jana から] 邪悪, 下劣; 悪心.
 daurjivitya 甲 [dur-jivita から] 衰れな存在.
 daurdānta 形 難読 難調 *Guhy-s.*
 daurbala 甲 [同下].
 daurbalya 甲 [dur-bala から] 虚弱, 無能; 難読 羸,
 弱, 羸弱, 羸瘦, 羸劣羸劣性; 無力, 少力, 力弱, 勢
 力微劣; 無威徳 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mad-*
hy-vibh., Mvyut., Prāt-m., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.
 daurbalya-kāya 男 難読 羸劣身 *Bodh-bh.*
 daurbrāhmaṇya 甲 [dur-brāhmaṇa から] 悪い婆羅
 門であること.
 daurbhāgya 甲 [dur-bhāga から] 不運, 不幸, とくに
 夫に愛されない妻の不幸.
 daurbhikṣa 甲 [dur-bhikṣa から] 饑饉.
 daurmanasya 甲 [dur-manas から] 落胆, 悲哀; 難読
 憂, 擾, 憂惑, 憂苦, 憂患, 愁, 憂愁, 愁憂, 愁悩,
 悩, 憂悩, 苦悩, 悲, 懣, 心不安, 意不楽 *Aṣṭ-pr.,*
Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-v.,
Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t., 梵千; 悪
 意 *Gaṇḍ-vy.*
 daurmanasyita 過受分 難読 憂惑 *Madhy-v.*
 daurmanasyendriya (°ya-in°) 甲 難読 憂根, 意不楽
 根 *Mvyut.*
 daurmantrya 甲 [dur-mantra から] 悪い相談または忠
 告.
 daurmukhi 男 [*Durmukha* からの父系].
 dauryodhana 形 *Duryodhana* に関するまたは属する.
 dauryodhani 男 [*Duryodhana* からの父系].
 daurvacya 甲 [dur-vacas から] 悪語; 難読 [*Pali*
dovacassa] 悪性(違諫), 不受如法諫 *Mvyut.*
 daurvarṇika 形 [dur-varṇa から] 難読 醜 *Divy.*
 daurvratya 甲 [dur-vrata から] 不従順, 悪行.
 daurhṛda 男 [dur-hṛd から] 悪漢. 甲 悪心, 敵意,
 邪悪; 妊婦の渴望.
 daurhṛdini 因 妊婦.
 dauvārika 男 門番, 家令; 難読 守, 守門, 守門者,
 守門人, 門吏, 闕者; 守獄卒 *Abh-vy., Divy.,*
Lal-v., Mvyut.
 dauvārika-bhūta 形 難読 守禦関鑰 *Śikṣ.*
 dauvāriki 因 門番女.
 dauvālika 男 (國) [ある民族の名].
 dauścarmya 甲 皮膚病.
 dauścarya 甲 [duś-cara から] 悪行, 邪悪.
 dauśśilya 甲 [=dauśśilya] 難読 破戒, 悪戒, 毀戒

Bodh-bh.

dauśśilya 甲 [duḥ-śīla から] 品性の悪いこと, 悪意;
 難読 犯, 破戒, 犯戒, 悪戒, 毀戒, 毀犯戒, 乱戒,
 犯重 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut.,*
Sam-r., Śikṣ., Suvik-pr.
 dauśśilya-pratipakṣa-dharma-viśeṣa 難読 破戒対治
 差別 *Sūtr.*
 dauśśilya-mala 難読 犯戒垢 *Sūtr.*
 dauśśilya-samudācarāṇa 甲 難読 破禁戒; (音写)
 犯尸羅 *Śikṣ.*
 dauśśilya-saha-gata 形 難読 犯戒俱行 *Aṣṭ-pr.:* ~ =
 m cittam 破戒心, 犯戒俱行之心 *Aṣṭ-pr. 824.*
 dauśśilyādy-āsakti (°ya-ād°) 難読 破戒者 *Sūtr.*
 dauṣ-kula 形 (因 -i) 賤しいまたは卑しむべき家柄の.
 甲 賤しい家柄.
 dauṣkuleya 形 [duṣ-kulaから] [同上 (形)].
 dauṣkulya 形 [duṣ-kula から] [同上]. 甲 下賤の出.
 dauṣkrtya 甲 [duṣ-kṛta から] 下劣, 邪悪.
 dauṣtya 甲 [同上].
 dauṣṭhulya 甲 難読 纏重, 纏大, 纏惑; 障, 過, 過
 失, 悪, 悪習, 習気, 虚妄, 虚偽, 虚偽過, 汚辱, 染
 汚 *Bodh-bh., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.,*
Vijñ-t.: dvidhā ~ e 二纏重, 二障 [1. kleśāva-
 raṇa~, 2. jñeyāvaraṇa~] *Vijñ-t. 43.*
 dauṣṭhulya-kāya 男 難読 習気聚 *Sūtr.*
 dauṣṭhulya-kāya-pratyakṣa 形 難読 知熏聚因 *Sūtr.*
 dauṣṭhulya-duḥkha-satya 甲 難読 纏重苦諦, 汚辱
 苦諦 *Bodh-bh.*
 dauṣṭhulyamaya 形 難読 從煩惱起, 從悪習起 *Lank.*
 dauṣṭhulya-vikalpābhīniveśa-vāc 因 難読 妄執言説,
 計著過悪言説, 過妄想計著言説 *Lank.*
 dauṣṭhulya-vikṣepa 男 難読 纏重散乱, 纏惑散動
Madhy-vibh.
 dauṣṭhulyāpakarṣaṇa 甲 難読 拔除熏習 *Sūtr.*
 dauṣprajña 形 [duṣ-prajñā から] 難読 悪慧, 無智,
 無智慧, 乱智, 愚癡 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.,*
Suvik-pr.
 dauṣprajña-saha-gata 形 難読 悪慧俱行 *Aṣṭ-pr.:*
 ~ m cittam 愚癡心, 悪慧俱行之心 *Aṣṭ-pr. 824.*
 dauṣprajñya 甲 難読 悪慧, 愚癡 *Sūtr., Suvik-pr.*
 dauṣmanta 形 [=dauṣyanta].
 dauṣyanta 形 *Duṣyanta* に関する. 男 [ある混合種姓
 (階級)の名]; [*Bharata* の父系].
 dauṣyanti 男 [*Bharata* の父系].
 dauṣṣanti, [dauṣyanti の古形].
 dauṣvapnya 甲 [duḥ-svapna から] 悪夢.
 dauṣsthya 甲 [duḥ-stha から] 悲境.
 dauhadika 甲 [dohada から] 熱望, 欲望.
 dauhitra 男 娘の子供(すなわち孫).
 dauhitraka 形 (因 -i) 娘の子供に関する.
 dauhitratvat 形 娘の生んだ息子(すなわち孫)をもつ.
 dauhitri 因 娘の娘(すなわち孫娘).
 dauhṛda 甲 妊娠中の渴望. → dohada.
 dyavi-dyavi 副 毎日.
 dyāvā, [div の國] 夜と朝; 天と地.
 dyāvā-kṣāmā 因 (國) 天と地.

dyāvā-prthivi 女 (岡) [同上].

dyāvā-prthiviya 形 天地に関するまたはに捧げられた.

dyāvā-bhūmi 女 (岡) 天と地.

Dyu, II. 他 dyauti 突撃する, 攻撃する, 襲う.

dyu [div の中語幹ならびに複合語の前分として] 天 (人格化された), 天空; 光明; 赫々たること; 日.
→ div.

dyu-kṣa 形 天の, 輝く.

dyu-gat 不変 天に向つて行く.

dyu-cara 形 天上を動く. 男 天上の住者; [ある Vid-yādhara の名].

dyu-jana 男 神.

dyu-jaya 男 天の克服または獲得.

Dyut 1., I. 自 dyotate [叙詩 はまた 他 dyotati] 閃く, 輝く, 光る. 使役 他 dyotayati 照らす; 示す, 明らかにする, 明示する, 説明する; 意味する; 顕頭, 能頭, 顕示, 能説 Abh-uy. 使役 過受分 dyotita 照らされた, 光った.

abhi- 照らす. 使役 abhidhyotayati 輝かせる, 照らす; 開示 Mvyut.

ud- 輝く, 照らし出す. 使役 uddyotayati 輝かせる, 光輝あらしめる; 光隆 Divy.

vi- 照らし出す, 輝く, 閃く, 明るくする. 使役 vidyotayati 輝かせる.

Dyut 2., 過受分 dyutta 破られた, 引き裂かれた.

使役 他 dyotayati 破る, 破り開く,

dyut 3., 女 光彩, 光輝, 光線.

dyutaya 名動 他 dyutayati.

vi- 閃く, 明るくする.

dyu-taru 男 天上の樹木.

dyuti 女 光彩, 光輝; 美; 威厳; 威嚇の態度 (戯曲); 光, 光輝, 光芒, 光明, 明; 威光; 現; 甚 Divy., Mañj-m., Mvyut., Saddh-p. → uttama-

dyutika 形 具光明 Śikṣ.

dyutimat 形 輝かしい, 華美な, 華麗な; 荘重な. 男 [諸人の名]; [山の名].

dyuti-mati 形 明るい心をもつ, 理解力の優れた.

dyutta 過受分 → Dyut 2.

dyu-dantin 男 天上の象.

dyu-dhāman 男 天上の住者, 神.

dyu-dhuni 女 Gaṅgā 河.

dyu-naḍi 女 [同上].

dyu-nis 中 (圍 または 女 岡) 昼夜.

dyu-nisā 中 [同上]. ~m 副 一昼夜, 昼夜に.

dyu-pati 男 (天の主), 神.

dyu-patha 男 (天の道), 大気, 天空.

dyu-puraṁdhri 女 天女 (Apsaras).

dyu-bhakta 形 天から配分された.

dyu-maṇi 男 (天の宝石), 太陽.

dyumat 形 輝く, 光る; 活潑な, 力強い; 壮麗な, 赫々とした; 明晰な, 声高い. 副 明らかに, 輝かしく, 声高く. 男 [Vasiṣṭha の息子およびその他諸人の名]. 中 眼.

dyu-mati 形 明知をもつ.

dyumat-sena 男 [Śālva の王侯で Satyavat の父の

名].

dyumad-gāman 形 声高く唱える.

dyu-mārga 男 =dyu-patha.

dyumna 中 光, 栄光, 光輝, 莊嚴; 力, 勢力, 生气, 熱情, 靈感; 富, 財産. 男 [Manu (と Naḍvalā と) の息子およびその他の人名].

dyumnavat 形 明らかに響く; 力強い.

dyumna-varadhana 形 力を増大する.

dyumna-śravas 形 強いまたは明瞭な音を発する.

dyumna-sāti 女 靈感または力を受けること.

dyumna-hūti 女 靈感を起こさせる祈禱.

dyumnā-sah 形 光輝に勝れた.

dyumnin 形 輝く; 力強い; 活気ある.

dyumno-dā 形 光輝を与える.

dyu-yoṣit 女 天女 (Apsaras).

dyu-ratna 中 =dyu-maṇi.

dyu-rātra 中 昼と夜.

dyu-loka 男 天上の世界.

dyu-vadhū 女 天女 (Apsaras).

dyu-śad 男 (天に住する者), 神; 遊星.

dyu-saras 中 天上の湖.

dyu-sarit 女 天上の河, Gaṅgā 河.

dyu-sindhu 女 [同上].

dyu-stri 女 天女 (Apsaras).

dyū 形 (一°) で遊ぶ, ...を楽しむ. 女 賭博.

dyūta 1. 中 (因, 一°) を賭けての遊びとくに賭博: [しばしば戦争の危険の 譬喩]; (戦いの) 獲物; 賭博, 賭博, 蒲博 Lal-v., Mvyut.

dyūta 2. 過受分 → Div 1.

dyūta-kara 男 賭博者.

dyūtakara-maṇḍali 女 賭博者の集まり. → dyūta-maṇḍala.

dyūta-kāra 男 =dyūta-kara.

dyūta-kiṁkari 女 =dyūta-dāsi.

dyūta-kṛt 男 =dyūta-kara.

dyūta-jita 形 賭博によって勝ち得た.

dyūtatā 女 賭博.

dyūta-dāsa 男 賭博によって勝ち得た奴隷.

dyūta-dāsi 女 [同上].

dyūta-dharma 男 賭博に関する規則.

dyūta-palāyita 形 賭博の最中に遁走した.

dyūta-phalaka 中 賭博台.

dyūta-bhūmi 女 賭博場.

dyūta-maṇḍala 中 賭博場; 賭博者の集まり; (賭金を払わせるために) 賭博者の周囲に引かれた円.

dyūta-lekhaka 男 中 賭博者の (損失を示すための) 勘定書.

dyūta-vartman 中 賭博の方法.

dyūta-vṛtti 男 職業的賭博者; 賭博場の管理者.

dyūta-vaitamsika 男 (覆) 賭博と獵鳥とによって生活する人, 賭博用の鳥を飼育する者.

dyūta-vyasana 中 博戯 Bodh-bh.

dyūta-sālā 女 賭博場.

dyūta-sadana 中 [同上].

dyūta-sabhā 女 [同上].

dyūta-samāja 男 =dyūta-maṇḍala.

dyūtādhyakṣa 男 賭博の監督者。
 dyūna 過受分 → Div 2.
 dyo 男 女 天空; 日. → div.
 dyo-kāra 男 美麗な家を作る人(?).
 dyota 男 光, 光輝; 漢訳 作明 *Mvyut.*; 揚 梵千.
 dyotaka 形 輝く, 光る; 照らす; 顕示する; (圖, 一°)
 を表示または表現する; 顕著な; 漢訳 顕 *Abh-vy.*
 dyotatva 中 [dyota の 圖].
 dyotana 形 (因 -ā; -i) 閃く; 照らす. 中 光ること, 輝くこと; 表示, 説明, 顕示; 解釈; 漢訳 顕 *Abh-vy.*
 男 燈火; [人名].
 dyotani 因 光輝, 光明.
 dyotanikā 因 説明.
 dyotamāna 現分 光る.
 dyoti 因 漢訳 輝 梵千.
 dyotita 過受分 → Dyut 1. 漢訳 顕成 *Abh-vy.*; 演説 *Śikṣ.*
 dyotin 形 光る, 輝く; (一°)の意を表わす.
 dyotiṣ-patha 男 (星の道), 上空, 天空.
 dyotis 中 光明; 星 [=jyotis].
 dyotya 未受分 表示または指示されるべき.
 dyaur-loka 男 天上の世界.
 dyau-sāmsita 形 天に鼓舞された.
 draṅga 男 町, 都市.
 draṅgā 因 [同上].
 draḍhaya 名動 中 draḍhayati 結ぶ, 強める; 確実にする; 制する.
 draḍhika 男 [人名].
 draḍhiman 男 確乎としたこと; 決定; 確定.
 draḍhiṣṭha 形 [dr̥dha の 最上] 非常に確実な.
 draḍhas 中 衣服.
 drapsa 男 雫; 閃光; 月(天空における雫); 旗.
 drapsavat 形 灌がれた.
 drabuddha 男 漢訳 音写 [数の名] 達羅歩陀 *Mvyut.*
 Dram, I. 中 dramati 走り廻る, 徘徊する. 強意
 dandramyate [同上].
 dramida 男 漢訳 [龍王の名] 空行 *Mvyut.*
 drama [(Gk. δραμα)] [貨幣の一種, =英貨6ペンス].
 drava 形 走る; 流動する, 液体の; 感じやすい, 同情のある; (一°)が滴るまたは溢れる; 漢訳 湿, 流湿 *Abh-vy.* 男 急速な運動, 飛行; 流動性; 流動体, 液汁; (一°)の流れまたは流出; 漢訳 液, 湿; 醜, 臃; 騰躍 *Bodh-bh., Lan̄k., Vaiś-s., 梵千., 梵維.*
 dravaka 形 走る.
 dravac-cakra 形 速く廻る輪をもつ.
 dravaṇa 中 走ること; 溶解.
 dravat 現分 [Dru] 走る, 速い. 副 迅速に.
 dravatā 因 湿気; 流動性; 溶解性.
 dravatva 中 [同上]; 漢訳 湿, 湿性, 汁, 液体, 潤体; 消, 鎔銷 *Buddh-c., Cat-s., Mvyut., Śikṣ., Vaiś-s.*
 dravatvaka 中 [同上].
 drava-dravya 中 流動物.
 drava-prāya 形 流動物を主とする(食物).
 dravamaya 形 (因 -i) 流動する, 流動性の, 溶解する, 液化する; 心の和いだ.

dravamāna 現分 中 [Dru] 走っている; 液体の, 溶けた.
 dravaya 名動 中 dravayate 走る, 流れる.
 dravara 形 疾走する.
 drava-rāga 形 液体顔料で塗られた, 顔料で塗られた.
 dravi 男 精練工.
 draviḍa 男 [Deccan の東南部の国の名]; [Vrātya または氏姓を奪われた Kṣatriya の子]; [*Kṛṣṇa* 神の息子の名]; (種) *Draviḍa* 国の住民; 漢訳 音写 達羅比吒, 達里鼻茶 *Gand-vy.*
 draviṇa 中 (男, 種) 動産, 商品; 財産, 富, 金銭; 精髓, 勢力, 権力; [ある *Sāman* の名]; 漢訳 財, 物, 財物, 資材 *Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.* 男 [*Pṛthu* の息子の名, また *Draviṇas* と称する]; [山の名], (種) [*Krauñcadvipa* 内の一民族の名].
 draviṇaka 男 [*Agni* 神の息子の名].
 draviṇa-pati 男 [*Kubera* 神の称] (*Buddh-c.*).
 draviṇa-rāsi 男 貨幣または財物の堆積, 山のような財宝.
 draviṇavat 形 富んだ; 勢力のある.
 draviṇas 中 動産. 男 [*Pṛthu* の息子の名].
 draviṇasvat 形 財物を所有しているまたは与える.
 draviṇāgama (°ṇa-āg°) 男 財宝を得ること.
 draviṇādhipati 男 財宝の主 = *Kubera* 神.
 draviṇendrātmaja (°ṇa-indra-āt°) 男 *Kubera* 神の子 (*Buddh-c.*).
 draviṇeśa (°ṇa-īśa°) 男 = draviṇādhipati.
 draviṇeśvara (°ṇa-īś°) 男 [同上].
 draviṇo-da 形 富を賦与する.
 draviṇo-das 形 [同上]. 男 [神の名].
 draviṇo-dā 形 [同上].
 draviṇo-vid 形 [同上].
 dravitṛ 男 走者.
 dravitnu 形 速い.
 dravi-BHū, 液体となる; 心が和らぐ, 哀れに思う.
 dravetara (°va-it°) 形 (液体以外の+なわち) 堅い, 固体の, 凝結した.
 dravottara (°va-ut°) 形 主として流動体の.
 dravya 1. 形 樹木の, 木に生ずる. → dru.
 dravya 2. 中 [動かせる: Dru の 未受分] 対象, 事物; 実体, 物; 材料; 財; 黄金; 商品; 器具; 適当な物; 元素 (圖); 単一のもの (文法) [→ eka ~]; 漢訳 物, 事, 実, 体, 実事, 実性, 実有, 実物, 実有物; 本, 本事; 財, 貨, 財貨, 錢財, 財物, 庫蔵 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Cat-s., Divy., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Sam-r., Sūtr., Vaiś-s., Vijñ-t., Vijñ-v.*; 音写 陀羅羅, 踏臘脾 *Abh-vy., Lan̄k.*
 dravya-kṛṣa 形 資力の乏しい, 貧しい.
 dravya-garvita 形 自己の富を誇った.
 dravya-guṇa 男 感覚の物質的対象 (*Buddh-c.*).
 dravya-jāta 中 実体の一種; あらゆる種類の物.
 dravyatā 因 → śikṣāpada ~ avyavacāra.
 dravyatva 中 実質性, 物質; 漢訳 実性 *Vaiś-s.*
 dravya-dīpaka 中 [直喩の一種].

dravya-parigraha 男 財宝または富の獲得または所有。
 dravya-prakṛti 因 (種) (国王の)欠くことのできない
 要素(すなわち長官(大臣), 領土, 要塞, 富と兵)。
 dravya-balin 形 財多 Lal-v.
 dravya-bhūta 因 実体, 実物, 事実 Daś-bh.
 dravyamaya 形 (因 -i) 実体的な, 物質的な。
 dravya-mātra 因 ただ金銭だけ; 黄金。
 dravya-mātrā 因 黄金。
 dravya-yajña 形 物質的な供物を捧げる。
 dravya-ruci 形 財宝を喜ぶ。
 dravya-lakṣaṇa 因 物質または人の特質, 定義。
 dravyavat 形 物質固有の; 富んだ; 実, 有物,
 有実 Abh-vy., Bodh-bh.
 dravya-vṛddhi 因 富の増加。
 dravya-śuddhi 因 (汚れた)事物の浄化。
 dravya-sat 形 実, 実有, 実物 Abh-vy., Bodh-
 bh., Sūtr.
 dravya-svabhāva 男 実物自性 Bodh-bh.
 dravya-hasta 形 手に物を持っている。
 dravyāgama (°ya-āg°) 男 財物の獲得。
 dravyātmaka (°ya-āt°) 形 実体のある, 物質的な。
 dravyāntara 因 他の物; 別物 Abh-vy.
 dravyāntaratva 因 [同上 因]; 別物 Vijñ-v.
 dravyāśrita (°ya-ās°) 形 物質に関係のある。
 draṣṭavya 因 見られるべき, 見える; 必ず見る
 べき; 認められるべき; (困)と見なされるべき; 吟味
 または 調査されるべき(訴え); 可見, 所見, 当観,
 当知 Bodh-bh., Bodh-c., Lanik., Madhy-v., Sapt-
 pr.; 色 Madhy-v.
 draṣṭavyopāśama (°ya-up°) 形 滅見, 寂止(諸)
 見 Madhy-v.
 draṣṭu-kāma 形 見たいと思う; 欲見, 欲観,
 楽欲見, 須見(者) Aṣṭ-pr., Sam-r., Sapt-pr.
 draṣṭu-kāmatā 因 [同上 因]; 欲見, 欣見欲
 Abh-vy.
 draṣṭu-manas 形 見たいと思う。
 draṣṭṛ 男 見る者 [また繫辞のない 困 二人 男] とし
 ても用いられる]; (訴訟の) 審査・裁判または判決をす
 る者; 裁判官; 見, 能見, 見者 Lanik., Madhy-
 v., Sāṃkhy-k., Vijñ-v.
 draṣṭṛtva 因 見る能力。
 drahyat 副 確かに, 強く。
 Drā 1., II. 因 drāti 走る, 逃走する, 急ぐ。使役
 drāpayati 走らせる。強意 daridrāti (走り廻る),
 困難に陥る, 窮乏する。
 abhi-pṛa- ……の方に向って走るまたは急ぐ。
 vi- 異つた方向に走る, 走り去る。現分 vidrāṇa
 消失する, 去る; 当惑する, どのようにすべきかに
 迷う。
 Drā 2., II. 因 drāti; VI. 因 drāyati 眠る。希求
 didrāsa- 眠ろうと思う。
 ni- 因 寝入る, 眠る。現分 nidrāṇa 眠る。
 過受分 nidrita 眠った。
 drāk 副 [drāñc (drā-añc) 「…の方へ走って行く」
 の 因] 速かに, 急速に; 突然, 急に, 直ちに。
 drākṣa 形 (因 -i) 葡萄で製した。

drākṣā 因 葡萄樹, 葡萄; 葡萄, 蒲萄, 蒲桃
 Abh-vy., Mvyut., 梵維。
 drākṣā-ghṛta 因 [菓の名]。
 drākṣā-pānaka 因 葡萄汁 Mvyut.
 drākṣā-rasa 男 葡萄の汁液。
 drākṣā-vana 因 葡萄園。
 drākṣā-valaya-bhūmi 因 葡萄園のある場所。
 drāghaya 名動 他 drāghayati 引き延ばす, 拡張する;
 遅滞させる。過受分 drāghita (韻律上)延ばされた。
 drāghiman 男 長さ。
 drāghīṣṭha 形 [dirgha の 最上]もつとも長い; 長
 Śikṣ.
 drāghīyas 形 [dirgha の 比較] 一層長い。
 drāghman 男 =drāghiman.
 drāghmā 男 長く。
 drāpi 1. 男 上衣, 外套。
 drāpi 2. 形 [Drā 1. の 使役] 走らせる (Rudra 神)。
 drāmiḍa 男 授受法 玄応; [=drāviḍa] 音写 達
 弭羅, 達羅弥, 達羅弭, 陀弥羅, 達羅弭茶 Bodh-bh.,
 玄応。
 drāmiḍa-mantra 男 迦呪語 Śikṣ.
 drāmiḍi 因 小豆蔻 (しょうぞく, 熱帯アジア産のし
 ようが科の植物)。
 drāvaṇa 形 疾走させる, 遁走させる。因 遁走させる
 こと。
 drāvayat-sakha 形 その伴侶(すなわち騎手)を速かに運
 ぶ(馬)。
 drāvayāṇa 形 =drāvaṇa (形)。
 drāvayitṛ 男 走らせる人。
 drāvayitnu 形 融解する。
 drāviḍa 形 (因 -i) Draviḍa の。男 Draviḍa 人の
 国; (種) Draviḍa 人。
 drāviḍa-lipi 因 (音写) 沓毘羅書, 陀比羅書, 陀
 毘茶書 Lal-v. 125.
 drāviḍi 因 Draviḍa の婦人。
 drāviṇodasa 形 [draviṇo-das から] Draviṇodas に
 属する, その子(?)。
 drāvita 使役 過受分 → Dru.
 Dru, I. 他 因 dravati(-te)走る, 急ぐ; 逃げる; (業)へ
 走る; 襲う, 襲撃する; 融解する [また 譬喩]. 過受分
 druta → druta. 使役 drāvayati [叙詩はまた -te]
 走らせる, 遁走させる, 追い払う; 液化させる, 融
 解させる。使役 過受分 dvāvita 走らされた, 遁走
 させられた, 追われた。
 ati- (業)を過ぎてまたは横切って急ぐ。
 adhi- (山に)登る。
 anu- 後を追う, 追う; 同行する; 走り過ぎる, 迅
 速に繰返す。
 apa- 走り去る。
 abhi- ……の方へ急ぐ, 走りかかる, 襲撃する。
 ā- (業)の方へ急ぐ, 走り近づく。
 ud- 走り上るまたは出る; 迅速に繰返す。過受分
 uddruta 走り去った。
 upa- ……の方へ急ぐ; 襲う, 攻撃する。過受分
 upadruta (因, 一°)によって襲われた, 攻撃された;
 苦しめられた; 悩まされた(とくに病気に)。

praty-upa- (業)に襲いかかる。
 sam-upa- (業)へ走る, 追う; 襲撃する。 [過受分]
 samupadruta 襲われた。
 pari- 走り廻る。
 pra- ……の方へ走る, 急ぎ去る, 逃げる; ……の方へ急ぐ; (業)に襲いかかる; (業)へ安全に脱れる; [漢訳] 退散 *Buddh-c.* [過受分] pradruta 走り去った, 逃れた, 出発した。
 vi- 散る, 逃げる; 破裂する; [漢訳] 退散 *Mañj-m.* [過受分] vidruta 走り去った, 逃れた; 破壊された; 破裂した; 不確定の; 激した。 [使役] vidrāvayati 走らせる, 退散させる, 逃れさせる。
 sam- 共に走る。
 dru 男 田 材木; 木製の器具。 男 樹; 枝。
 drugdha [過受分] → Druh; [漢訳] 侵毀, 違毀, 謀害, 為損害 *Bodh-bh., Divy., Saddh-p.*
 dru-ghaṇa 男 [木材製の打敲具], (木製の)棒。
 dru-ghni 田 木を切るための斧。
 druta [過受分] 走り去った, 逃れる; 速い; 早口に発言された; 融解した, 液体の; (一°)でうるおった; 心のやわらいだ, 哀れを催した。 ~m 副 迅速に, 直ちに; [漢訳] 久之(?) *Suv-pr. 190.*
 druta-gati 形 足早い, 急いだ。
 druta-caurya 田 迅速に行なわれた竊盗。
 drutatara-gati 形 一層早く動く。
 drutataram 副 一層早く; できるだけ早く, 大急ぎで。
 drutatva 田 心のやわらぐこと, 感動。
 druta-pada 田 [韻律の一種(急調な)]. ~m 副 急ぎ足で, 急いで。
 druta-laya 男 [音楽の急調子の一種]。
 druta-varāha-kula 田 急いで走っている野猪の群。
 druta-vāhana 形 速い車または乗馬を所有する。
 druta-vikrama 形 =druta-gati。
 druta-vilambita 田 [韻律の一種, (緩および急)].
 druti 田 走ること; 融解; 心のやわらぐこと, 感動すること; [*Nakta* の妻で *Gaya* の母の名]。
 dru-pada 田 木柱, 柱。 男 [*Kṛṣṇā* すなわち *Draupadi* 等の父である *Pāncāla* の王の名]。
 drupada-putra 男 *Drupada* の子, [*Dhṛṣṭadyumna* の父系]。
 dru-padā 田 [TBr. (II, 6, 6, 3) の一詩節の名]。
 druma 男 樹木; [*Kimpuruṣa* 族の一王侯の名]; [漢訳] 樹, 大樹, 林樹, 鬱樹 *Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*; [*Kimnara* 王の名] 樹 *Divy., Saddh-p.*
 druma-kiṃnara-prabha 男 [漢訳] [*Gandharva* の名] 人非人樹光; (音写)樹緊那羅光 *Mvyut.*
 druma-kiṃnara-rāja 男 [漢訳] 人非人王樹; (音写)大樹緊那羅王 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
 drumakiṃnararāja-paripreccā 田 [漢訳] [経の名] 説不可思議品経; (音写)緊那羅王請問経, 大樹緊那羅王所問 *Mvyut.*
 druma-kulya 男 [地方の名]。
 druma-gulma-latā-vitāna 形 [漢訳] 樹藤, 鬱樹葛藤 *Lanik.*

druma-da 男 [人名]。
 drumamaya 形 (女 -i) 木製の。
 druma-mūla 田 [漢訳] 樹下 *Saddh-p.*
 druma-ratna-śākhā-prabha 男 [漢訳] [*Kimnara* の名] 宝枝樹光 *Mvyut.*
 druma-rāja 男 [漢訳] 菩提樹, 菩提樹王 [菩提は bodhi の音写] *Suv-pr.*
 drumarāja-mūlopaviṣṭa (°la-up°) 形 [漢訳] 坐菩提樹王之下, 坐於(道場)菩提樹下 *Suv-pr.*
 drumavat 形 樹木に富んでいる, 木の生い茂った。
 druma-vara 男 良い樹。
 druma-valka 男 田 樹皮。
 druma-vāsin 男 (木に棲む), 猿。
 druma-śākhā 田 [漢訳] 枝葉 *Suv-pr.*: ~m chittvā 尋取枝葉, 折取枝葉 *Suv-pr. 171.*
 druma-ṣaṇḍa 男 田 樹木の群, 木立。
 druma-sadman 男 (木に棲む), 鳥。
 druma-sena 男 [王の名]。
 drumākṣa 男 [漢訳] 音写 [王の名] 頭樓摩 *Buddh-c.*
 drumāgra 田 梢。
 drumābja-ketu 男 karṇikāra 花の旗じるし。 (*Buddh-c.*)
 drumāya 名動 田 drumāyate 木に似る, 木と見なされる。
 drumāvati 田 [漢訳] (智)樹 *Gaṇḍ-vy.*
 druvaya 男 木製の容器または皿; 太鼓の木部。
 dru-ṣad 形 木片の中または上に坐している。
 dru-ṣadvan 形 [同上]。
 Druh, IV. 他 [叙詩 はまたは 田] druhyati(-te) (業, 田, 屬, 田) を害する, 害そうと企てる, 敵対する, 敵意を抱く, 感情を害する; 憎む, 競う。 [過受分] drugdha 害を加えるまたは加えた(人); 害意のある; (田) 非人 (田) を害した。
 abhi- 傷つく; (業, 田) を害そうと企てる; 害する; (屬) の生命を (prāṇeṣu) 狙う。 [過受分] abhidrugdha 害そうと企てた, 害する; 害された。
 druh 形 [田 dhruk] (屬, 一°) を傷害する, 裏切る, 敵意をもつ。 男 田 加害者, 敵, 復讐する者, 悪魔。 田 傷害。
 druham-tara 形 加害者または悪魔を克服する。
 druhiṇa 男 [*Brahman* 神, *Viṣṇu* 神, *Śiva* 神の称]。
 druhi 男 田 =druh (男, 田)。
 druhyu 男 [*Yayāti* の息子で *Yadu* の兄弟の名]; (種) [民族の名]。
 Drū, IX. 他 (田) drūṇāti 擲つ, 投げる。
 Drāi, → Drā 2.
 drogdhavya [過受分] 害せられるべき; (田) 非人 (田, 田) に対して害が加えられるべきである, ……に敵対すべきである。
 drogdhr 男 害する者, 悪を願う者, 敵; [漢訳] 侵, 規度 *Bodh-bh.*: na ~ ā bhavati 不侵, 無所規度 *Bodh-bh. 256.*
 drogha-mitra 男 有害な友。
 droṇa 男 田 木製の容器, 槽, 桶; Soma 汁の容器; [容量の単位 (=4 āḍhaka)]; [面積の単位 (1 droṇa の穀物を播くに足りる広さ)]; [漢訳] 斛, 一斛, 斗斛

Lank., *Mvyut.*; 音写 独籠那 *Lank.* 男 [(槽のように)水に富んでいる雲の一種]; [*Kaurava* ならびに *Pāṇḍava* 諸王子に戦法を教えた師の名]; [ある婆羅門の名]; [諸人の名]; [諸山の名]. 田 槽の形に似た祭壇.

drona-kalāśa 男 木製の Soma 汁の桶.

drona-kāka 男 慈鳥, 烏鴉 *Mvyut.*

drona-cit 男 槽のような形に作られた.

drona-dughā 男 田 1 *drona* の牛乳を出す(牝牛).

drona-parvan 田 [*Mahābhārata* の第七巻の題名].

dronamaya 男 (女 -i) *Drona* のみからなる.

drona-mukha 田 四百村の主部; 聚落 *Divy.* 620.

drona-mukhya 田 [同上].

drona-mukhyā 女 同上 (*Divy.*); 聚落 *Divy.* 620.

drona-megha 男 (桶のように水に富んでいる) 雨雲.

drona-vṛṣṭi 女 桶から流すような雨, 大雨.

drona-stūpa 男 瓶塔処; (音写) 頭楼那塔処 *Divy.* 380.

dronācārya (°na-āc) 男 聖仙の名] 訥魯拏左哩野 *Vajr-s.*

dronāsa (°na-āsa) 男 桶の口; [病魔の一種].

droni 女 槽; 谷; 白, 確 *Divy.*

dronika, → ayo~.

dronikā 女 槽; (s音を発する際に) 槽の形に曲げた舌.

droni 女 槽, 浴槽; 谷; 槽 *Ast-pr.*; 鍍 *Śikṣ.*; 溝 *Mvyut.*

dronodana (°na-od°) 男 [王の名] 斛飯, 斛飯(王) *Mvyut.*

drony-āmaya 男 [病気の一種].

droha 男 傷害, 害意, 不実, 不信, 叛逆, 不忠. 田 (一°)を妨害する.

droha-para 男 敵意に満ちた, 害意のある.

droha-bhāva 男 悪意.

droha-vacana 田 悪口, 誹謗.

droha-vṛtti 男 害意をもって行動する, 害意のある.

drohin 男 損傷する, 有害な; (一°, 一°)に逆らう意志のある, ……を裏切る; 惱, 為害, 暴悪(者) *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 盜 *Gaṇḍ-vy.*: *staupikasāṃghikavastu*~ 盜塔寺物 *Gaṇḍ-vy.* 225.

drauṇāyani 男 [*Aśvatthāman* の 父系].

drauṇi 男 [同上].

drauṇi 女 = *droni*.

draupadi 女 [*Pāṇḍava* 五王子の妻で *Drupada* の娘である *Kṛṣṇā* の 父系].

draupadi-ja 男 *Draupadi* の息子.

draupadi-haraṇa 田 *Draupadi* の強奪 [*Mahābhārata* 第二巻中の一部の名].

draupadeya 男 (田) [*Draupadi* の諸子の 母系].

drauhilya 田 (?) 悪, 弊悪 *Śikṣ.* 279.

drv-anna 男 樹木を食物とする.

dva 田 二; [± *api*] 両方; 二の数 [すなわち単数および複数] (文法); 二, 二種 *Bodh-bh.*, *Nyāy-pr.* ~ *yoh* 田 二の性(男性および女性)においてまたは二の数(単数および複数)において.

dvaka 男 (田) 二つずつの, 二重の.

dvaṃ-dva 田 一对, 夫婦, 夫と妻, 男性と女性; (熱と冷, 喜と悲等の)反対するものの対; 喧嘩, 争い; 決闘; 疑念, 困惑; 並列合成語(相違釈) [この場合その各部分は意味上「と」あるいは「または」をもって結合される]; 交, 身交 *Abh-vy.*; 諍, 敵, 相違, 以傍折弁 *Mvyut.*, 梵千. → *nir*~. ~*m*, ~*ena* 田, ~*e* 田 二つずつ, 一对で; 二人のみで, 差し向かいで, 秘密に.

dvaṃdva-cara 男 夫婦で暮らす. 男 帯紅色の鷺鳥. → *cakravāka*.

dvaṃdva-cārin 男 [同上(男)].

dvaṃdva-duḥkha 田 反対のこと [田 冷熱] が交互に起ることによって生ずる苦痛または悲しむべき結果.

dvaṃdva-bhāva 男 不調和, 敵対心.

dvaṃdva-bhūta 男 疑わしくなる, 躊躇した, (田)に關して不安な.

dvaṃdva-moha 男 正反対の事物または疑念から起る難事, 不安.

dvaṃdva-yodhin 男 一騎打ちの, 二人ずつ戦う.

dvaṃ-dvaśas 田 二つずつ, 一对で.

dvaṃdva-saṃrambha 男 一騎打ちをすること.

dvaṃdva-saṃprahāra 男 (saha) との決闘.

dvaṃdva-sahiṣṇutā 女 相反する状態 [田 幸と不幸] を忍ぶこと.

dvaṃdva-sahiṣṇutva 田 [同上].

dvaṃdvātita 男 相対的観念を超越したすなわちあらゆる対立を超越した.

dvaṃdvārāma (°va-ār°) 田 一对で生活することを好む.

dvaṃdvālāpa (°va-āl°) 男 二人の対話; 密談.

dvaṃdvālingana (°va-āl°) 田 交抱, 身交抱 *Abh-k.*

dvaṃ-dvin 男 一对をなす; 相い矛盾する.

dvaṃdvi-BHū, 一对となる; 一騎打ちをすること; (田)に關して疑うまたは躊躇する.

dvaya 男 (女 -i) 二重の, 二種類の, つい(対)の; 雙, 兩, 二, 二種, 二法 *Abh-k.*, *Mvyut.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, 梵千. → *a*~. 田 [一° は (田) (女 -ā)] 一对; 両者, 二つの事物; 表裏すること, 偽り; 男性と女性 (文法); 二 *Abh-vy.* ~*m* 田 二重に; 二つの間に.

dvaya-grāha 男 二執, 二所執, 二取(相) *Lank.*

dvaya-grāha-vivarjita 適受分 遠離彼二執 *Sūtr.*

dvaya-grāha-visaṃyukta 適受分 [同上].

dvaya-tulyam 田 一度に二つ.

dvaya-dvaya-samāpatti 田 連結, 交尾, 交按; 雙雙相行, 雙雙相待, 兩兩相合 *Mvyut.*

dvaya-dhātu-puṣṭatā 女 二界円満 *Sūtr.*

dvaya-pakṣa 男 二分 *Sūtr.*

dvaya-prabhāvita 男 相對立(独則不成) *Lank.*

dvaya-bhrānty-abhāva 男 二迷無体 *Sūtr.*

dvayasa 男 (女 -i) (一°)の高さ・深さまたは長さをもつ, ……に達する.

dvaya-hina 男 中性の.

dvayānta 男 二辺 *Lank.*

dvayānta-patita 形 漢訳 随二辺, 没二辺 *Lank.*
 dvayāpatya-cihna 男 双生児懐妊の徴候.
 dvayārtha 男 漢訳 二義, 二法 *Lank.*
 dvayāvin 形 二重の; 偽わりの, 不正直な.
 dvayi 因 一對; 二の事物.
 dvayendriya-prayoga 男 漢訳 二処相応 *Guhy-s.*
 dvā, [dva- の 困 困 の古形; 合成数詞の前分として
 dva に代用する].
 dvā-catvāriṃśa 形 (因 -i) 第四十二の.
 dvā-catvāriṃśat 因 四十二.
 dvā-catvāriṃśati 因 [同上].
 dvācatvāriṃśat-prajñā-pāramitā-mukha 因 漢訳
 (音写) 四十二般若波羅蜜門[四十二字門] *Gaṇḍ-vy.*
 450. → a-kāra.
 dvā-triṃśa 形 (因 -i) 第三十二の.
 dvā-triṃśat 因 三十二; 漢訳 三十二 *Gaṇḍ-vy.,*
Lank., Saddh-p.
 dvā-triṃśati (-ti) 因 漢訳 三十二 *Saddh-p.*
 dvātriṃśati-lakṣaṇa-rūpa-dhārin 形 漢訳 具三十二
 相 *Saddh-p.*
 dvātriṃśad-vara-lakṣaṇa 因 漢訳 三十二相 *Lank.,*
Saddh-p.
 dvātriṃśan-mahā-puruṣa-lakṣaṇa 因 漢訳 三十二大
 人之相 *Gaṇḍ-vy.:* ~ samalamkṛta-śarīra 三十二
 相莊嚴其身, 三十二相以為嚴好, 具三十二大人之
 相 *Gaṇḍ-vy.* 268. → lakṣaṇa.
 dvātriṃśa-lakṣaṇa 因 漢訳 三十二相 *Suv-pr.*
 dvātriṃśal-lakṣaṇa 因 漢訳 三十二相, 相三十二
Lank., Saddh-p.
 dvātriṃśallakṣaṇopeta (°ṇa-up°) 形 三十二相を具
 えた, 顕著な, 偉大な.
 dvā-daśa 形 (因 -i) 第十二の; 十二からなる, 十二の
 部分のある; 十二を増す; (一°)で十二となる; 漢訳
 十二 *Lank., Mvyut., Saddh-p.* 因 十二の集ま
 り.
 dvā-daśaka 形 (因 -i) 第十二の; 十二からなる, 十
 二に達する. 因 十二.
 dvādaśa-kapāla 形 十二の kapāla の上で調理され
 た.
 dvādaśa-gava 因 十二頭の牝牛の一群.
 dvādaśa-grhita 形 十二回汲まれた(水).
 dvā-daśadhā 因 十二重に.
 dvā-daśan 因 十二.
 dvādaśa-nidhana 因 [ある Sāman の名].
 dvādaśa-pada 形 十二語からなる.
 dvādaśa-puṣkara 形 十二の蓮華からなる.
 dvā-daśama 形 (因 -i) 第十二の.
 dvādaśa-māsika 形 漢訳 十二月 *Abh-k.*
 dvādaśa-māsika 形 十二箇月からなる (*Kār-vy.*).
 dvādaśa-rātra 因 十二日の期間. 形 十二日間続く.
 dvādaśa-varṣa 形 十二歳の; 十二年間継続する.
 dvādaśa-vārṣika 形 (因 -i) [同上].
 dvādaśa-vidha 形 十二重の.
 dvādaśa-śata 因 百十二; [一° はまた] 千二百; 漢訳
 千二百 *Sūtr.;* 十二百 梵准.
 dvādaśa-śatatama 形 第一百十二の.

dvādaśa-śati 因 千二百.
 dvādaśa-sāhasra 形 (因 -i) 一万二千(年)からなる.
 dvādaśākāra (°śa-āk°) 男 漢訳 十二行, 十二行相,
 十二(妙)行, 十二種行, 十二事 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.,*
Suv-pr.
 dvādaśākṛti (śa-āk°) 形 十二の形相をもつ.
 dvādaśākṣara 形 十二綴字をもつ.
 dvādaśāṅga 因 漢訳 十二支, 十二分 *Bodh-bh.,*
Lank., Mvyut.: ~ād vaco-gatād 十二分教 *Bodh-*
bh. 96.
 dvādaśāṅga-dharma-pravacana 因 漢訳 十二分教
 [1. sūtram 契経, 2. geyam 応頌, 3. vyākaraṇ-
 am 記別, 4. gāthā 諷頌, 5. udānam 自説, 6.
 nidānam 因縁, 7. avadānam 譬喩, 8. iti-vṛtta-
 kam 本事, 9. jātakam 本生, 10. vaipulyam 方
 広, 11. adbhutadharmah 希法, 12. upadeśah 論
 議] *Mvyut.*
 dvādaśāṅga-parikṣā 因 漢訳 観十二因縁 *Madhy-v.*
 dvādaśātman (°śa-āt°) 形 十二の形で表われる. 因
 太陽.
 dvādaśābda 形 十二年間持続する.
 dvādaśāyoga (°śa-āy°) 形 十二頭(の牝牛)を繋いだ.
 dvādaśāra 形 (一年を表わす)十二の輻を有する.
 dvādaśāha 形 十二日間続く. 因 十二日の期間; [ある
 十二日間続く *Soma* 祭の名].
 dvā-daśika 形 十二日の期間の, 半月の中の十二日目
 に起る, 十二日間続く祭式の.
 dvā-daśin 形 十二からなる, 十二重の.
 dvā-daśi 因 半月の第十二日目.
 dvādaśi-vrata 因 半月の第十二日目に行なわれる宗
 教上の儀式.
 dvā-navata 形 (因 -i) 第九十二の.
 dvā-pañcāśa 形 (因 -i) 第五十二の.
 dvā-pañcāśat 因 五十二.
 dvā-para 男 因 賭博において四で割った時二を余す
 場合; 第三の宇宙期(二千年続く); 漢訳 二時, 二
Lank. 男 [神話中の人名]; (擬人化された) 役子
Dvāpara.
 dvāpara-yuga 因 漢訳 二時, 二分時 *Mvyut.*
 dvār 因 戸口, 門, 入口; 出口; 機会; 方策, 方法,
 手段. 因 ~ā (一°)によって, ……を通して, ……
 をもって.
 dvāra 因 [男 用例一回のみ] 戸, 門, 戸口, 入口;
 孔 (とくに身体の); (因, 一°)への道, ……に達する手
 段; 漢訳 門, 門戸; 却敵 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-*
c., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p.,
Sāmkhy-k., Sapt-pr., Sūtr. 梵千., 梵維. 一° 形 ..
 ..による結果の. 因 ~eṇa (一°)によって, ……の
 結果.
 dvāraka 因 戸口, 門. 形 (一°)による結果の.
 dvāra-kapāṭa 男 因 扉; 漢訳 門板 *Mvyut.*
 dvārakā 因 (多くの)門(を具えた)都市 [*Gujarat* の
 西方に位し, 海に呑まれたと想像される *Kṛṣṇa* 神
 の住所の名].
 dvāra-koṣṭhaka 男 門にある部屋; 漢訳 門屋 *Dirvy.;*
 戸牖, 窓牖; [*Pali* dvāra-koṭṭhaka, dvāra-kosa]

Prāt-m.

dvāratā 因 戸口, 門, 通路, 手段に使用すること;
 (一°)の機会を与えること. ~m Gam; (圖)にとつ
 て(圖)の機会となる.
 dvāratva 因 (一°)によって起こったこと.
 dvāra-darśin 因 門番, 門衛.
 dvāra-nāyaka 因 門番, 家令.
 dvāra-pa 因 門番.
 dvāra-pakṣa 因 門扉; 戸口.
 dvāra-pakṣaka 因 [同上]. ubhayatāś ca ~yoḥ 門
 戸の両側(内外)に.
 dvāra-paṭṭa 因 門扉; 戸口.
 dvāra-pati 因 =dvāra-darśin.
 dvāra-pāla 因 [同上]; [諸 Yakṣa の名およびこれら
 の Yakṣa に関係ある聖地の名]; 漢訳 守門人, 守
 門之人, 守門者 *Divy.*, *Mvyut.*
 dvāra-pālaka 因 門番, 門衛.
 dvāra-pālikā 因 女守衛.
 dvāra-pidhāna 因 門の門; 終り, 休止.
 dvāra-phalaka 因 門扉.
 dvāra-bāhu 因 門柱.
 dvāra-mukha 因 出口; 隙間.
 dvāra-mūla 因 漢訳 門側 *Aṣṭ-pr.*
 dvāra-rakṣaka 因 門衛.
 dvāra-rakṣin 因 [同上].
 dvāra-vaṃśa 因 戸の上の横木(まぐさ, 楣), 戸の大梁.
 dvāravat 因 多くの門のある.
 dvāravati 因 [*Kṛṣṇa* 神の住所の名]. → dvārakā.
 dvāra-śākhā 因 戸口の柱.
 dvāra-śākhī 因 漢訳 門框 *Mvyut.*
 dvāra-śobhā 因 美しい門, 美しく飾られた門.
 dvāra-stha 因 戸口または門口に立つ. 因 門番.
 dvāra-sthita 因 [同上(形)].
 dvāra-sthūnā 因 門柱.
 dvārādhipa 因 門番, 家令.
 dvārādhyakṣa 因 [同上].
 dvārika 因 [同上].
 dvārin 因 [同上]. 因 漢訳 有門 *Sāṃkhy-k.*
 dvāri 因 戸.
 dvāri-Kṛ, 仲介者として雇う.
 dvār-bāhu 因 門柱.
 dvārya 因 戸に属する, 戸の所にある.
 dvāryā 因 門柱.
 dvā-viṃśa 因 第二十二の.
 dvā-viṃśati 因 二十二; 漢訳 二十二 *Bodh-bh.*
 dvā-viṃśatitama 因 第二十二の.
 dvāviṃśa-śatama 因 (因 -i) 第二百二十二の.
 dvā-ṣaṣṭa 因 (因 -i) 第六十二の.
 dvā-ṣaṣṭi 因 六十二; 漢訳 六十二 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*
 dvā-ṣaṣṭitama 因 第六十二の.
 dvāṣaṣṭi-drṣṭi 因 漢訳 六十二見 *Aṣṭ-pr.*
 dvāṣaṣṭidrṣṭi-kṛta 因 漢訳 諸見具足六十二 *Saddh-p.*
 dvā-saptata 因 (因 -i) 第七十二の.
 dvā-saptati 因 七十二.
 dvā-stha 因 [同下].
 dvāḥ-stha 因 戸口に立つ. 因 門番.

dvi-, 二の; 漢訳 二 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 dvika 1. 因 二からなる; 二つの; 二つを増す.
 [śatam とともに] 百分の二.
 dvika 2. 因 鳥 [kāka という名の中に二の k 音をも
 つので].
 dvi-karmaka 因 二つの目的語をもつ; 二つの業格を
 支配する(文法).
 dvi-kubja 因 二つの瘤のある; 漢訳 鷄面駝 *Mvyut.*
 dvi-kūbara 因 二本のながえ(鞍)のある(車).
 dvi-khura 因 二つの蹄をもつ, 偶蹄類の.
 dvi-gava 因 二頭の牛をくびき(軛)でつないだ.
 dvi-gu 因 数詞合成語(帶数積) [合成語の最初の部分
 が数詞で広義の Tatpuruṣa 合成語の一種とされ
 る]; 漢訳 帶数 *Mvyut.*
 dvi-guṇa 因 二の, 二倍の; (因, 一°)の二倍の大きさ
 または量のある; 二重の; 漢訳 倍, 一倍, 二倍, 倍
 倍 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Saddh-p.*; tad ~ =
 ena 倍上数, 複倍前喩 *Saddh-p.* 319.; ~uttara-
 vṛddhi 倍倍増如次 *Abh-k.* III. 75.
 dvi-guṇatara 因 比較 [同上]. ~m 副 二倍だけ.
 dvi-guṇatā 因 二重であること, 二倍であること.
 dvi-guṇatva 因 [同上].
 dviguṇaya 因 名動 他 dviguṇayati 倍にする, 二倍す
 る. 過受分 dviguṇita 二重の, 二重に囲まれた.
 dviguṇāya 因 名動 自 dviguṇāyate 二重にされる, 二
 倍になる.
 dviguṇi-Kṛ, 倍する, 二重にする, 二重に囲む, 二分
 する.
 dviguṇi-BHū, 二倍にされる, 二倍の大きさとなる,
 増大する.
 dvi-gotra 因 二家族に属する.
 dvi-cakra 因 [天空におけるある現象の名]; [ある *Dā-*
nava の名].
 dvi-catur-aśraka 因 [姿勢の一種].
 dvi-catur-asraka 因 [同上].
 dvi-catvāri 因 (因)二または四.
 dvi-catvāriṃśa 因 (因 -i) 第四十二の.
 dvi-catvāriṃśat 因 四十二.
 dvi-carāṇa 因 二つの足をもつ.
 dvi-citta 因 漢訳 二心, 二種心 *Lanik.*
 dvi-ja 因 再生の. 因 上の三種姓(階級)の人 [就師入
 門によって再度の誕生をする Brāhmaṇa, Kṣatriya,
 Vaiśya を称す], とくに婆羅門; 鳥 [初めに卵として
 生れるから]; 齒 [(または 因), 再生するから]; 漢訳
 再生, 二生 *Abh-vy.*; 清行 *Mvyut.*; 婆羅門, 梵
 志 [Brāhmaṇa の 音写] *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Vajr-s.*;
 鳥 *Lal-v.*, *Mvyut.*
 dvi-jatva 因 婆羅門の地位; 上の三種姓(階級)の地
 位; 漢訳 二生 *Buddh-c.*
 dvija-deva 因 (再生族の長), 婆羅門, 聖仙.
 dvi-janman 因 二重の生または生所をもつ. 因 上の三
 種姓(階級)の人々; とくに婆羅門.
 dvija-pati 因 月(太陰).
 dvi-jamaya 因 (因 -i) 諸婆羅門からなる.
 dvija-mukhya 因 再生族の長, 婆羅門.
 dvija-rāja 因 月(太陰).

dvijarṣabha (°ja-rṣ°) 男 =dvija-mukhya; 漢訳 鳥麗婆鳥 [鳥麗婆は rṣabha の音写, 鳥は dvija の訳. 再生(すなわち婆羅門)中の牛王, 最勝の婆羅門または再生(=鳥)中の最勝者の義] Gand-vy.

dvijarṣi (°ja-rṣi) 男 祭官の聖者(すなわち婆羅門の聖仙).

dvija-lingin 形 婆羅門(再生族)の標識を帯びた; 婆羅門に仮装した.

dvija-vara 男 =dvija-mukhya.

dvija-śreṣṭha 男 [同上].

dvija-sattama 男 =dvija-mukhya.

dvijāgrya 男 [同上].

dvi-jāti 形 二の生ある. 男 上の三種姓(階級)の人; とくに婆羅門; 漢訳 二生 Buddh-c.

dvijāti-mukhya 男 =dvija-mukhya.

dvi-jātisāt-Kr, 婆羅門に(罽)を贈る.

dvi-jihva 形 二枚舌の; 虚偽の. 男 蛇; [ある Rāk-ṣasa の名].

dvi-jihvaka 形 (女 -ikā) 漢訳 両舌 Śikṣ.

dvi-jihvatā 女 二枚舌であること.

dvijendra (°ja-in°) 男 =dvija-mukhya.

dvijeśvara (°ja-iś°) 男 [同上]; 月(太陰).

dvijottama (°ja-ut°) 男 =dvija-mukhya.

dviṭ-sevin 形 敵に奉仕するすなわち密かに敵と結んだ. 男 叛逆者.

dvita 男 [神の名 (Āptya の称, Agni 神の第二の形相) → Trita]; [ある予言者の名].

dvitaya 形 二の, 二重の; 両方の [もし両方共に 覆と考えられる場合は 覆]; 漢訳 二, 二種 Lanik. 男 一対.

dvitā 男 副 [因のみ] 同様に, 等しく, またそのように, 確かに, 特に [しばしば adha または aha と結合する].

dvitiya 形 第二の; 漢訳 二, 第二 Abh-vy., Lanik., Mvyut., Saddh-p. ~m 副 第二に; 二度目に. 男 仲間, 友; 敵; 漢訳 侶, 伴侶, 侍者 Divy., Lal-v.; [一° 形] (一°)に伴なわれた, …を備えた. 形 [bhāga とともに 男] 半分. 男 半分.

dvitiyaka 形 =dvitiya (形).

dvitiyatva 男 第二たること.

dvitiya-prahara 男 漢訳 二更 Mvyut.

dvitiyavat 形 第二としてまたは伴侶としてもつ; (男)を伴なった.

dvitiyā 女 女の友, 女の伴侶; 半月の第二日目; 第二格(の語尾), 業格, 業格の語 (文法); 漢訳 第二 Lanik.

dvitiyā-candra 男 半月の第二日目の月(太陰), 新月.

dvi-tra 形 [°一 は dvitri-] (覆) [男, 女の 形, 罽 -trās, 男 -trāṇi] 二三の.

dvi-tri-caturam 副 二度三度または四度.

dvi-tri-catur-bhāga 男 (覆) 二分の一または三分の一または四分の一.

dvi-tri-catuṣ-pañcaka 形 二三四または五ずつ増す. [śatam とともに] 百分の二三四または五.

dvi-tri-pātra-pūrātirikta-grahaṇa 男 漢訳 受過満二三鉢, 過兩三鉢受 Mvyut.

dvi-tri-veṇu 形 二の tri-veṇu (三旗の飾り)を具えた(戦車).

dvitva 男 二; 兩個; 両数; 重複; 漢訳 二 Abh-vy., Lanik.

dvi-daṇḍin 男 漢訳 [外道師の名] 二杖, 二木, 二棍 Mvyut.

dvi-dala 形 二つに裂けた.

dvi-diva 形 二日間続く. 男 二日間続く祭.

dvi-devatya 形 二神に捧げた.

dvi-daiwasaka 形 漢訳 両日 Divy.

dvi-droṇa 男 (罽) 二 droṇa (量). 男 ~eṇa 一度に二 droṇa だけ.

dvidha 形 二つに分岐した, 裂かれた; 漢訳 二種 Abh-vy.

dvidhā 副 二重に, 二(部分)に, 分割された; 二様に; 漢訳 二種, 二品 Abh-vy., Bodh-c., Lanik., Sāmkhy-k. ~Kr, 二分する. ~Gam, 分れる, 裂ける. ~BHū, 分たれる, 裂かれる, 離れる.

dvidhākāra (°dhā-āk°) 形 二重の, 三種類の.

dvidhākṛti (dhā-āk°) 女 漢訳 二形 Abh-vy.

dvidhā-kriyā 形 裂くこと, 破碎.

dvidhā-dṛṣṭi-nivāraṇa 男 漢訳 難二種見, 遮二見(之理) Lanik.

dvi-dhāra 女 二つの流れをなす(水).

dvidhā-sthita 形 二つの形体で存在する, 二様の.

dvi-nava-kṛtvas 副 (2×9) 十八回.

dvi-navata 形 (女 -i) 第九十二の.

dvi-navati 女 九十二; 漢訳 九十二 Mvyut.

dvi-navatitama 形 第九十二の.

dvi-nimitta 形 二つの原因で決定された.

dvi-netra-bhedin 形 両眼を打ち抜く.

dvi-pa 男 象(鼻と口とで二度に飲む); 漢訳 象 Divy., Śikṣ.

dvi-paṅkti 女 漢訳 二重 Mañj-m.

dvi-pañca-vimśa 男 (罽) 二十五の二倍.

dvi-pañcāśa 形 (女 -i) 第五十二の. 男 (罽) 五十の二倍.

dvi-pañcāśat 女 五十二.

dvi-pañcāśattama 形 第五十二の.

dvi-paṭi 女 衣服.

dvi-pad 形 [強 罽 は -pād] 二足をもつ; 二つの pāda (詩の行)をもつ. 男 両足動物, 人間; 二つの pāda をもつ韻律. 男 [集合的に] 人間.

dvi-pada 形 [同上(形)]; 二つの語を含んだ; 漢訳 両足 Divy. 男 人間. 男 [韻律の一種].

dvipada-pati 男 王, 王侯.

dvipada-pradhāna 男 漢訳 [仏の称] 両足尊, 両足中最尊, 二足中最勝, 両足最勝尊 Divy.

dvi-padā 女 二つの pāda を含む詩節.

dvipa-dāna 男 (発情期の)象の顛顛部の分泌液.

dvi-padikā 女 [韻律の一種]; [歌い方の一種].

dvi-padi 女 [二つの pāda を含む韻律の一種]; [dvipadi 韻律からなる歌の一種].

dvipadi-khaṇḍa 男 男 [dvi-padi 韻律からなる詩節

の一種].
dvipadendra (°da-in°) 男 漢訳 [仏の称] 両足尊 *Saddh-p.*
dvipadottama (°da-ut°) 男 漢訳 [仏の称] 両足尊, 両足之尊, 両足中尊, 最上二足尊, 両足世尊 *Gand-vy., Saddh-p., Śiṣk., Suv-pr.*; 如来 [tathāgata の訳] *Gand-vy. 31.*
dvipa-pati 男 象の主, 立派なまたは成長した象.
dvipa-rāja-vikrama 男 象王の歩調をもつ (*Buddh-c.*).
dvi-paśu 男 二つの獣をほふる(供儀).
dvi-pāda 男 (女-i) 二足の; 漢訳 両足 *Mvyut.* 男 漢訳 四分之二 *Abh-vy.*
dvi-pāyin 男 象(鼻と口とで二度に飲む).
dvipāri 男 (象の敵), 獅子.
dvi-puta 男 二重の; 漢訳 二重 *Divy., Mvyut.*
dvipuṭa-saṃghāṭi 女 漢訳 二重重複衣 *Mvyut.*
dvi-puruṣam 副 二世代を通じて.
dvipendra (°pa-in°) 男 =dvipa-pati.
dvipeśvara (°pa-iś°) 男 [同上].
dvi-pauruṣa 男 (女-i) 二人分の高さのある.
dvi-prakāra 男 漢訳 二種 *Lank., Madhy-v.*
dvi-pravācana 男 二重の名をもつ.
dvi-pravrājini 女 (女) 二人の男を追う, 貞節でない.
 女 二人の男を追う女, 不貞な女.
dvi-bāhu 男 両腕をもつ. 男 人間.
dvi-bindu 男 Visarga の記号.
dvi-bhaga 男 [=dvi-bhāga]. 漢訳 二分 *Mvyut.*
dvi-bhallaka 男 [矢じり(鏃)の一種].
dvi-bhāga 男 二部分; 半分; 漢訳 二分 *Prat-m.*
dvi-bhādra 男 *Bhādra* 月を二回もつ.
dvi-bhārya 男 二人の妻をもつ人.
dvi-bhuja 男 二つの臂をもつ.
dvi-mātra 男 二倍の大きさの; 二つ(の短音)を含んでいる.
dvi-miḍha 男 [*Hastin* の息子で *Suhotra* の孫の名].
dvi-mukha 男 (女-i) 二つの口をもつ. 男 [虫の一種].
dvi-mūrdhan 男 二つの頭をもつ. 男 [ある Asura の名].
dvi-rada 男 二本の牙をもつ. 男 象; 漢訳 象 *Buddh-c.*
dvirada-gāmin 男 象の歩調の.
dvirada-pati 男 象王, 非常に強い象.
dviradamaya 男 (女-i) 象牙からなる, 象牙製の (*Buddh-c.*).
dvirada-rata 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*)
dviradāntaka 男 獅子.
dvi-rāja 男 二王の間の戦い.
dvi-rātra 男 二日間続く. 男 二日間続く祭式.
dvi-rātriṇa 男 二日間に完成される.
dvir-ukta 男 二度言われた, 繰返された; 反復された.
 男 反復; (文法上の) 重字.
dvir-ukti 女 繰返し, 重複.
dvir-uccārita 男 (音楽の一部分の) 反復.
dvir-uttara-pada-saṃdhi-lipi 女 漢訳 (音写) 地恒鳥

散地書, 毘拘多羅波陀那地書 *Lal-v. 126.*
dvir-udātta 男 二個のアクセントをもつ.
dvi-rūpa 男 二色の; 二つの形を存する, 二重の.
dvi-retas 男 二重に孕ます (牡ろば) [すなわち牡馬と牡ろばに]; 二重に孕まされる (牡馬) [すなわち牡馬と牡ろばによって].
dvi-repha 男 [蜜蜂の一種, (bhramara なる語に二つの r 音を含んでいるから)].
dvirepha-mālā 女 蜜蜂の群.
dvir-bhāva 男 重複, 反覆; 表裏のあること, 欺瞞, 詭計.
dvir-vacana 男 重複, 重字.
dvir-vyūha 男 二様に現われる, 二度現われる.
dvi-lakṣa 男 二十万 (yojana の距離).
dvi-lakṣaṇa 男 二様の, 二重の; 漢訳 二相 *Lank.*
dvi-laya 男 (音楽の) 二拍子(?).
dvi-vacana 男 両数(の語尾).
dvi-varṇa 男 二色の.
dvi-varṣa 男 二歳の.
dvi-varṣaka 男 (女-ikā) [同上].
dvi-vastra 男 上着と下着とを着た.
dvi-vārṣika 男 (女-i) 二歳の.
dvi-vida 男 [ある猿の名].
dvi-vidha 男 二重の, 二種類の; 漢訳 二種 *Bodh-bh., Lank., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k.*
dvi-vidha-mārga 男 漢訳 二道 *Sūtr.*
dvi-vidhā 男 二様に; 漢訳 二種 *Bodh-bh.*
dvi-viṣa 男 二頭の牡牛をもつ.
dvi-vyāma 男 二ひろ(尋)の長さの.
dvi-vyāyāma 男 [同上].
dvi-vrata 男 一日に二回食べる.
dvi-śata 男 (女-i) 二百からなっている; 第二百の.
 男 二百または百二.
dvi-śapha 男 =dvi-khura; 割れた蹄をもつ. 男 偶蹄動物.
dviśas 男 二つずつ; 対で.
dvi-śākha 男 二つの枝をもつ.
dvi-śāla 男 二つの室をもつ. 男 二室のある家.
dvi-śikha 男 二端をもつ, 分岐した.
dvi-śiras 男 二つの頭をもつ.
dvi-śirṣa 男 [同上]; 漢訳 二首者 *Mvyut.*
dvi-śukla 男 二重に淨い, [輝いている身体の二部分(眼と歯)をもつまたは父系および母系において純正な].
dvi-śuklavat 男 [同上].
dvi-śṛṅga 男 二つの角または二つの頂をもつ.
Dviṣ, II. 男 dveṣṭi, 男 dviṣte (業, 時として 男, 男) を嫌う, ……を敵視する, ……に憎悪を示す, ……を憎む; ……と争う, ……の相手となる; 漢訳 怨憎 *Buddh-c.*; 瞋, 瞋恚 *Abh-vy.* 過受分 dviṣta 憎まれた, 不快の, 厭われた; 敵意をもつ, 憎んだ. pra- 嫌う; 憎む.
 vi- (業) を嫌う; 憎む; 男 敵対する; 漢訳 憎嫉 *Saddh-p.* 現分 男 vidviṣat, vidviṣāna 敵意のある, 憎んだ; 漢訳 憎嫉 *Saddh-p.*; (男) 敵. 過受分 vidviṣta 憎まれた, 不愉快な; (男) に敵対する. 使役 男 vidveṣayati の敵とする; (男) に厭わしめる.

dviṣ 女 [困 dviṣ] 敵意, 憎悪. 男 女 敵. 形 (一°) を嫌う, ……に敵対する, ……を憎む.
dviṣa 形 (一°) を憎む, ……に敵意をもつ; 厭わしい, 不愉快な; 漢訳 憎嫉 *Buddh-c.*; 毀 *Rāṣṭr.*: *dharmā* ~ 毀法 *Rāṣṭr.* 28.
dviṣac-camū 女 漢訳 怨党 *Buddh-c.*
dviṣat 現分 (女 -anti) 憎悪する, 厭う, 敵対する. 男 敵.
dvi-śandhi 形 二部分からなる.
dvi-śaṣ 形 (擧) (2×6) 十二.
dvi-śaṣṭa 形 (女 -i) 第六十二の.
dvi-śaṣṭi 女 六十二.
dvi-śaṣṭitama 形 (女 -i) 第六十二の.
dvi-śāhasra 形 (女 -i) 二千からなる.
dviṣṭa 過受分 → *Dviṣ*; 漢訳 嗔恨, 喚恨, 懷嗔恨, 懷嗔恚者 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*; 鬪諍 *Rāṣṭr.*
dviṣṭatva 中 憎悪, 不快.
dvi-ṣṭha 形 二箇所に留まる.
dviṣ 副 二度; 漢訳 重, 再度 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*: ~ *r ahnā*, ~ *r ahnaḥ*, ~ *r ahni* 日に二度.
dvi-saptata 形 (女 -i) 第七十二の.
dvi-saptati 女 七十二.
dvi-saptatitama 形 (女 -i) 第七十二の.
dvi-saptadhā 副 十四部分に.
dvi-sahasra 中 二千.
dvi-sāhasra 中 [同上].
dvi-sūrya 形 二つの太陽のある.
dviṣ-tāvat 形 二倍の大きさまたは数の.
dvi-sthūṇa 男 [陣形の種類].
dviṣ-sama 形 二倍の大きさの.
dvi-hasta 形 (女 -ā) 二手の長さのある.
dvihasta-mātra 形 漢訳 二尺 *Saddh-p.*
dvi-hāyana 形 (女 -i) 二歳の.
dvi-hiṃkāra 男 [二つの *Sāman* の名].
dvi-hina 形 (二性すなわち男性と女性とを欠いた) 中性の (文法). 中 中性.
dvindriya 形 二つの感官をもつ. 中 二つの感官.
dvindriya-grāhya 形 二つの感覚(視覚と触覚)によって知覚することができる; 漢訳 二根所取, 以二根所持 *Mvyut.*
dvindriya-samāpatti 女 漢訳 二形交婚, 二形従事 *Daś-bh.*
dvipa 男 中 [dvi-apa 両側に水のある] 河中の沙洲; 島; 中心を同じくした大陸 [この世界は蓮弁のように *Meru* 山を囲んで四・七・十三または十八の島からなり各々の島は大洋で互に隔離されたと考えられる]; 安全な避難所, 困窮の救済者 (*Kār-vy.*); 漢訳 洲, 洲渚, 州城 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mañj-m.*; 天下 *Lank.*; *catvāro* ~ *āḥ* 四洲 [1. *Pūrva-videhaḥ* 東勝身(洲), 2. *Jambu* ~ *ḥ* (南) 瞻部(洲), 3. *Avara-godāniyaḥ* (または *Apa*°) 西牛貨(洲), 西俱耶尼(洲), 4. *Uttara-kuruḥ* (または °*ru* ~ *h*) 北俱盧(洲)] *Dharm-s.*, *Mvyut.*
dvipa-catur 男 漢訳 四洲, 四城 *Rāṣṭr.*
dvipa-pati 男 漢訳 御(四)洲 *Śikṣ.*
dvipa-rāja 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).

dvipavat 形 島に富んだ. 男 大洋, 大河.
dvipa-vilokita 中 漢訳 観国 *Lal-v.*
dvipika 男 漢訳 蚕 [Tib. *sriḥ lam mug pa* = 蛾] *Mvyut.*
dvipi-karṇa 男 [王侯の名].
dvipi-karṇi 男 [同上].
dvipi-carman 中 虎の皮.
dvipin 男 (島のような斑点のある), 豹, 虎; 漢訳 彪, 豺豹 *Lank.*, *Mvyut.*
dvipini 女 河; (島をもつ)大洋.
dvipeśa (°*pa-iśa*) 男 島の王, 総督.
dvipya 形 島に住んでいる.
dv-ṛca 男 二詩節からなる一連.
dvedhā 副 二つの部分に, 二重に, 二様に, 二度に; 漢訳 二, 二種 *Abh-vy.*
dvedhā-kāram 不変 二つに変化して.
dvedhā-kṛta 形 二つに分割した.
dvedhā-kriyā 女 二分すること, 二つに裂くこと.
dvedhi-kṛta 形 = *dvedhā-kṛta*.
dveṣa 男 憎悪, 嫌悪, (一°) を憎むこと; 害心, 悪意, 敵意; 漢訳 瞋, 嗔, 恚, 瞋恚 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Vaiś-s.*, 梵下. → *doṣa* 2. ~ *m* *Kṛ* (爲, 因) に憎悪または敵意を示す.
dveṣa-carita 形 漢訳 瞋恚, 多瞋恚, 瞋行者, 瞋恚多者 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*
dveṣaṇa 形 厭う, 憎む; 敵意をもつ, 憎しみを表わす. 中 (属, 一°) に対する嫌悪・憎悪または敵意.
dveṣaṇiya 未受分 憎むべき.
dveṣa-parimuktā 女 [ある *Gandharvā* 少女の名] (*Kār-vy.*).
dveṣa-parimocanā 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
dveṣas 中 憎悪, 嫌悪; 敵, 仇敵.
dveṣa-stha 形 憎悪の念を懐いた, 憎悪の態度を示す.
dveṣin 形 (属, 一°) を嫌悪する・憎むまたは厭う; 害そうと企てる; 漢訳 厭, 憎嫉, 背憎, 憎背, 背捨 *Abh-vy.*, *Rāṣṭr.* 男 敵.
dveṣo-yavana 形 敵意を除く.
dveṣo-yut 形 [同上].
dveṣṭr 男 (一°) を憎悪する者, 敵; 漢訳 輕財, 厭財, 厭者 *Sūtr.* 形 (一°) を憎む.
dveṣya 未受分 憎むべき, 忌まわしい. 男 敵.
dveṣyatā 女 忌まわしいこと.
dveṣyatva 中 [同上].
dveṣya-pāpaka 形 悪を憎む, 罪を憎む.
dvaiguṇya 中 [dvi-guṇa から] 二重であること, 二重性; 倍量.
dvai-jāta 形 再生族 (*dvi-ja*) に属するまたはからなる.
dvaita 中 二元性, 二元論; 疑い.
dvaita-vana 男 [dvaita-vana から] [*Dhvasan* と呼ばれるある国王の父系]. 形 *Dhvasan* 王に関係のある. 中 [ある森の名].
dvaita-vāda 男 二元論.
dvaitin 男 二元論者.
dvaitiyaka 男 二日毎に繰り返す熱; 漢訳 二日者, 二

日熱病, 毎二日瘡 *Mvyut.* ~m 副 再び, 重ねて; 重 *Saddh-p.*
dvaidha 形 二つに分けられた; 二重の, 二倍の; 二趣 *Abh-vy.* 田 二元性; 二重; 相違, 分離; 論争, 論議, 反駁; 疑惑, 不安, 不確実; 予備の陣列; 軍隊の分割. ~m 副 二つの部分に.
dvaidhi-karaṇa 田 二つに分けること; 令二, 令成二 *Abh-vy.*
dvaidhi-kāra 男 二分, 別 *Ast-pr.*
dvaidhi-bhāva 男 二重性, 二元性, 二者選一; 分離, 区分; 軍隊の分割[王の六政略中の一]; 離反させること [外交政策として]; 虚偽, 偽瞞, 二枚舌を用いること, 表裏反覆; 不確定, 疑惑.
dvaidhi-BHū, 二つに分たれる; 自家撞著する, 一致しない, 離反する.
dvaidhi-bhūta 形 二つに分たれた, 離された, 不一致の.
dvaipa 1. 形 島 (*dvīpa*) に住んでいる.
dvaipa 2. 形 豹 (*dvīpin*) に由来する.
dvai-pakṣa 田 二派, 二党.
dvaipakṣya 田 [dvi-pakṣā から] [同上].
dvaipada 形 dvi-padā からなっている. 男 二語の結合または複合.
dvaipāyana 男 島人; [*Vyāsa* の称]; [人名] 取異道士 *Divy.*; 音写 提婆延 *Divy.* 形 (因-i) *Dvai-pāyana* に関する.
dvaipya 形 島に住んでいる, 島からきた, 島の.
dvai-mātura 形 (因-i) 二人の母(実母と継母)をもつ; 異なる母をもつ(兄弟).
dvaimātura-bhrātr 男 異母の義兄弟.
dvai-mātra 男 同父異母の兄弟.
dvai-masya 形 [dvi-māsa から] 二ヵ月間続く.
dvai-ratha 田 [±yuddha] 戦車でする一騎打ち; 一騎打ち. 形 (因-i) 一騎打ちの, [*Rāmāyana* 中の一章の名]. 男 敵手.
dvai-rājya 田 [dvi-rāja から] 二王の間に分割された領土; 国境.
dvai-rūpya 田 [dvi-rūpa から] 形の二つあること.
dvai-vacana 形 (因-i) 両数に関する.
dvaividhya 田 [dvi-vidha から] 二重性, 二元性; 多様性.
dvaisaṃdhyā 田 二つの薄明(黎明と黄昏).

dvyaṃśa 男 (男) 二つの部分. 形 二つの分け前をもつ.
dvyaṃśī 女 [同上(男)].
dvyaṅśa 形 (因-i) 両眼をもつ. 男(男) [ある民族の名].
dvyaṅśara 田 (男) 二音節; 二音節の語. 形 二音節の.
dvyaṅgula 田 二拇指の幅; 二寸, 二指 *Lank.*
dvyaṅgula-bhittau 副 二拇指の深さのある壁の中に (差し込まれて).
dvyaṅgula-varta 男 二指長(?), ((二指尿道?)) *Mvyut.*
dvyaṅuka 田 二原子の結合.
dvyaṅukodara (°ka-ud°) 形 (因-i) はなはだ瘦せた体をもつ.
dvyaṅhika 形 二つ増加した, ……より (*tataḥ*) 二つ後の; さらに二つの.
dvyaṅhika 形 二列を形成している.
dvyaṅantara 形 二つの連結要素によって隔てられた.
dvyaṅabhiyoga 男 二種類の起訴.
dvyaṅartha 形 二義をもつ, 意義不明瞭の.
dvyaṅardha 形 一つと半分の.
dvyaṅardha-śatikā 女 [経の名] = *ardha-śatikā* (*Madhy-v.*) [百五十(頌) = 大般若波羅蜜多経第十般若理趣分].
dvyaṅasīta 形 (因-i) 第八十二の.
dvyaṅasīti 女 八十二.
dvyaṅasītitama 形 第八十二の.
dvyaṅaṣṭa-sahasra 田 (2×8×1000) 一万六千.
dvyaṅaṣṭa-sāhasra 形 [同上].
dvyaṅaha 形 二日続く. 男 二日の期間; 二日間続く祭式. ~āt 副, ~e 副 二日の後に. ~m 副 二日間.
dvyaṅaha-vṛtta 形 二日前に起った.
dvyaṅahinatva 田 二日間に完成すること.
dvyaṅāśya 形 二つの口をもつ.
dvyaṅāhika 形 (因-i) 隔日に起る(熱病).
dvyaṅuktha 形 二つの賛誦 (*uktha*) を含む.
dvyaṅuraṇa 形 二匹の小羊をもつ.
dvyaṅṛca 男 二つの詩節からなる賛歌.
dvyaṅekāntara 形 中間に二または一(の種姓階級)のある(すなわち三または二階級低い).

DH

dha 形 (一°) 置く, 据える; 賦与する, 許容する.
dhak 1., [怒りの 感歎].
dhak 2., [-dah の 困].
dha-kāra 男 *dha* の字または音; (音写) 陀字 [五十字門の一]; ~e *dhanam āryāṇām sapta-vi-dham iti* (→ *a-kāra*) 唱陀字時出希求七聖財声 *Lal-v.* 127.; (音写) 駄字 [四十二字門の一]; ~m

parikirtayato dharma-maṇḍala-vicāra-vicayan-nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱駄字時能甚深入般若波羅蜜門名微細觀察一切法聚 *Gaṇḍ-vy.* 449.
dhagaddhag-iti 不変 擬音 パチパチ, バリバリ.
dhagadhagita 田 [火の燃える音 (擬音), パチパチ].
dhag-iti 副 (擬音) 突然, たちまち.

dhaṭa 男 [dhartra: 計量者] 秤の皿; 秤による検証 [神による裁断の形式].
 dhaṭika 男 [または vaṭika]. 漢訳 鑲(?) 辺, 縫辺 *Mvyut.*
 dhaṭi 女 腰布, 腰卷.
 dhattūra 男 datura, 朝鮮朝顔 [学名 *Datura alba*, 毒として用いられる]. 卍 Dhattūra の果実; 黄金.
 DHan, III. 卍 dadhanti 運動させる, 走らせる. 使役 dhanayati [同上]; 卍 dhanayate 走る.
 dhana 卍 [置く: DHā] (因) 勝利者に与える賞, 賞品; 分捕品; 賭金または賭事で勝ち得た額; 競争; (因, 卍) 動産, 貨物, 財産, 富, 財宝, 貨幣; 報酬, 施物; 一° に満ちていること; [一°, 卍] ……を所有した; 漢訳 財, 財物, 財宝, 珍宝, 銭財, 珍財, 物, 道物 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Sūtr., Suv-pr.*; 色 *Lanik.*; sapta~āni 七財 [1. śraddhā~m 信財, 2. śīla~m 戒財, 3. hrī~m 慚財, 4. apatrāpya~m 愧財, 5. śruta~m 聞財, 6. tyāga~m 捨財, 7. prajñā~m 慧財] *Mvyut.* → a~, mahā~
 dhanaka 男 [人名].
 dhana-kāma 男 富を望む.
 dhana-kośa 男 宝庫, 富の蓄積.
 dhana-kritā 女 金銭で買われた女; 漢訳 財婢 *Mvyut.*
 dhana-kṣaya 男 金銭または財産の喪失.
 dhana-garva 卍 自己の富を誇る. 男 [(財産自慢), 人名].
 dhana-gupta 卍 財貨を蓄蔵した, 吝嗇の, 貪欲の. 男 [ある商人の名]; 漢訳 音写 [人名] 阿那笈多, 檀泥毬多 *Divy.*
 dhana-guptatā 女 [同上 (卍) 卍].
 dhana-goptr 男 吝嗇家, 守銭奴.
 dhana-jāta 卍 卍 すべての種類の財産, あらゆる財宝.
 dhana-jit 卍 賞品または賭金を獲得する, 富を得る, 勝利の.
 dhanam-jaya 卍 [同上]. 男 火; 人を肥満させる生氣; [*Arjuna* の称]; [ある Nāga の名]; [ある婆羅門の名 (卍 その子孫)]; [*Daśa-rūpa* の著者の名].
 dhanamjaya-vijaya 男 [(*Arjuna* の勝利), 戯曲の題名].
 dhana-trpti 女 金銭の充足.
 dhana-da 卍 財産を与える, 気前のよい. 男 [(施財者), *Kubera* 神の称]; [諸人の名]; [山の名]; [ある猿の名]; 漢訳 施財, 財主 *Mañj-m., Mvyut.*; 毘沙門天王 [毘沙門は vaiśramaṇa の音写 =kubera] *Buddh-c. 11.*
 dhana-daṇḍa 男 罰金.
 dhana-datta 男 [諸商人の名].
 dhana-dā 卍 財物を与える.
 dhanadānuja 男 [*Kubera* 神の弟 *Rāvāṇa* の称].
 dhana-dāyin 卍 報酬または財宝を与える.
 dhana deva 男 [人名].
 dhanadeśvara (°da-iś°) 男 [(福を授ける神), *Kubera* 神の称].
 dhana-dhāni 女 財宝の容器, 宝庫.

dhana-dhānya-vastu-dānatā 女 漢訳 財穀施物 *Bodh-bh.*
 dhana-nāśa 男 財物の喪失; 漢訳 能壞諸勝利 *Śikṣ.*
 dhana-pati 男 財宝の主; 富者; [*Kubera* 神の称].
 dhana-para 卍 金銭に執心している.
 dhana-pāla 男 財宝の番人; [諸人の名].
 dhana-pradāna 卍 漢訳 有乞即施 *Sam-r.*
 dhana-mada 卍 財宝を誇った. 男 富の誇示.
 dhana-madavat 卍 財産自慢の.
 dhana-mitra 男 [ある商人およびその他の諸人の名].
 dhana-mūla 卍 財中にその根をもつすなわち富から起った.
 dhana-mohana 男 [ある商人の息子の名].
 dhana-yauvana-sālin 卍 富と青春とに恵まれた.
 dhana-rakṣa 卍 金銭を守る, 金銭を貯蔵する, 吝嗇な.
 dhana-rakṣaka 男 [*Kubera* 神の称].
 dhana-rūpa 卍 (特種の) 財産.
 dhana-lubdha 卍 財を貪る.
 dhana-lobha 男 金銭欲, どんらん.
 dhanavat 卍 富んだ; 漢訳 (大)富 *Suddh-p.* 男 富者; 大洋.
 dhanavati 女 [ある *Vidyādhari* の名]; [ある商人の娘の名].
 dhana-varjita 卍 富が欠乏した, 貧窮の.
 dhana-vastu 卍 漢訳 財事, 銭財 ((事)) *Bodh-bh.*
 dhana-viparyaya 男 =dhana-nāśa.
 dhana-vihina 卍 漢訳 貧窮 *Gaṇḍ-vy.*
 dhana-vṛddha 卍 金銭に富んだ.
 dhana-vyaya 男 金銭の消費, 散財.
 dhana-śulkā 卍 (女) 金銭で買われた (女).
 dhana-samyukta 卍 金銭を具えた; 財宝に関するある (名).
 dhana-saṃcaya 男 富の蓄積.
 dhana-saṃcayana 卍 [同上].
 dhana-saṃcayin 卍 富んだ. 男 富者.
 dhana-sani 卍 富を与えるまたは得る.
 dhana-saṃpatti 女 富.
 dhana-saṃpad 女 [同上].
 dhana-saṃmata 男 漢訳 [王の名] 多財 *Divy.:* ~o rājā 多財之王 *Divy. 62.*
 dhana-sā 卍 =dhana-sani
 dhana-sāti 女 富の獲得.
 dhana-sādhana 卍 [同上].
 dhana-skandha 男 漢訳 多集財宝 *Bodh-bh.*
 dhana-stha 卍 富んだ.
 dhana-sthāna 卍 財庫.
 dhanasthānādhikārin 男 財宝係, 出納係.
 dhana-sprt 卍 賞品または賭金を持ち去る.
 dhana-svāmin 男 金持ち, 資本家.
 dhana-hārin 卍 金銭を盗む. 男 高利貸し.
 dhana-hārya 卍 金銭によって得られる.
 dhana-hīna 卍 財産が欠乏した, 貧しい; 漢訳 貧婁 *Śikṣ.*
 dhana-hinatā 女 貧乏.
 dhana-hṛt 卍 =dhana-hārin (卍).
 dhanāgama (°na-āg°) 男 財産の獲得, 収入.

dhanādhyā (°na-ādh°) 形 富んだ。
dhanādhyatā (°na-ādh°) 因 富, 財産。
dhanādāna (°na-ād°) 因 金銭を受けること, 贈物を受けること。
dhanādhika 形 富んだ。
dhanādhikāra 男 財産に対する権利。
dhanādhigoptr 男 [(富の番人), *Kubera* 神の称]。
dhanādhipa 男 [(財宝の主), *Kubera* 神の称]。
dhanādhipati 男 [同上]; 漢訳 庫蔵主 *Lal-v.*
dhanādhipatya (°na-ādh°) 因 富の支配。
dhanādhyakṣa 男 富の保護者, 財宝係; [*Kubera* 神の称]。
dhanānvita 形 富んだ。
dhanāpti (°na-āp°) 因 財宝を獲得すること。
dhanāya 名動 他 因 dhanāyati (-te) 富を望む; (業, 因, 因) を渴望する; 因 尊重する; 漢訳 自衛富, 自称富者 *Sikṣ.*
dhanāyita 過受分 漢訳 畜積, 恃財財業; 財物 *Daś-bh.*
dhanāyu 形 金銭を得る。
dhanārgha 形 報酬または賞品を受ける価値がある。
dhanārthin 形 金銭を熱望する, 貪欲な; 漢訳 貪, *Saddh-p.*
dhanāsā (°na-āsā) 因 蓄財の希望, 貪欲。
dhanika 形 富んだ; 漢訳 有財 *Mañj-m.* 男 富者; 貸主; [人名]; 漢訳 債, 債主 *Divy., Mvyut.*
dhanikatā 因 富。
dhanika-bhaya-bhīti 形 漢訳 畏怖債主 *Mvyut.*
dhanin 形 富んだ; 漢訳 富貴, 饒財 *Bodh-bh., Lal-v.* → dhana ~. 男 富者; 貸主; 漢訳 長者, 豪富長者 *Bodh-bh., Divy.*
dhaniṣṭha 最上 [dhana から] 非常に富んだ; [DHan から] 非常に迅速な。
dhaniṣṭhā 因 (因, 因) [月宿 (*Śraviṣṭhā*) の名]; 漢訳 [二十八宿の一] 貪財, 虚 *Divy.*; 危宿(?) *Mañj-m.*
dhanu 1. 男 弓; [長さの単位=四 hasta]; 漢訳 弓; 弓 (馬) *Lank., Mañj-m.*; 弓 (量), 長弓 [長さの単位] *Abh-k., Divy.*
dhanu 2. 因 砂洲; 岸; 島 [また雲について]。
dhanutr 形 走る, 迅速に動く。
dhanur-āropana 因 漢訳 上弓 *Mvyut.*
dhanur-ārtnī 因 (弓弦を結び着ける) 弓の端。
dhanur-guṇa 男 弓弦。
dhanur-graha 男 射手, 弓術家; 弓を使用する方法。
dhanur-grāha 男 射手, 弓術家。
dhanur-grāhin 男 [同上]。
dhanur-jyā 因 弓弦。
dhanur-durga 形 砂漠のために近づきにくい。 因 砂漠によって護られている要害。
dhanur-dhara 形 弓を持っている。 男 射手, 弓術家。
dhanur-dhārin 形 男 [同上]。
dhanur-bhrt 形 男 [同上]。
dhanur-mārga 男 因 弓を扱う様々の方法。
dhanur-yantra 因 弓。
dhanur-yaṣṭi 因 [同上]。
dhanur-yogyā 因 弓術の実習, 弓術。
dhanur-latā 因 弓。

dhanur-vidyā 因 射芸, 弓術。
dhanur-veda 男 [同上]; [*Viśvāmitra* または *Bhṛgu* の著作と伝えられる弓術に関する書物の名]; 漢訳 射方 *Mvyut.*
dhanuḥ-śata 因 百 *Dhanus* (の量)。
dhanuḥ-śālā 因 弓の室。
dhanuṣa 男 [聖仙の名]。
-dhanuṣka 形 *Dhanus* の長さの。 因 小弓。
dhanuṣ-karṣaṇa 因 弓を張ること。
dhanuṣ-kalāpaka 男 漢訳 箭弓, (持弓箭者) *Mvyut.*
dhanuṣ-kāṇḍa 因 因 弓と矢。
dhanuṣ-kāra 男 弓を作る者。
dhanuṣ-kṛt 男 [同上]。
dhanuṣ-ketaki 因 漢訳 音写 [花の名] 多奴哥多及 *Mvyut.*
dhanuṣ-koṭi 因 彎曲した弓の端; 弓弦。
dhanuṣ-koṭi 因 [同上]。
dhanuṣ-khaṇḍa 因 弓の一部。
dhanuṣ-pāṇi 形 弓を手にした, 弓で武装した; 漢訳 手持弓 (箭) *Divy.*
dhanuṣmat 形 (因 -i) 弓で武装した。 男 射手。
dhanuṣmattā 因 射芸, 弓術。
dhanus 1. 因 弓; [長さの単位 (=四 hasta)]; 漢訳 弓 *Divy., Mvyut.*; 梵千., 梵雑.; ~ ḥ pañca-śatāni 五百弓 *Mvyut.*; ~ ṣi kṛtāvi samvṛttaḥ 善能施弓 *Divy.* 58.
dhanus 2. 因 砂漠。
dhanuḥ-samstha 形 弓の形をした。
dhanū 因 =dhanu 2.
dhanecchā (°na-ic°) 因 財宝の欲求。
dhanes (°na-iś) 男 富者。
dhanesa (°na-iśa) 男 富の所有者, 富者; [*Kubera* 神の称]。
dhanesvara (°na-iś°) 男 [*Kubera* 神の称]; [ある婆羅門の名]; 漢訳 財自在, 財自在王, 富饒大自在, 財富, 致財富 *Lank.* 因 [地方の名(?)].
dhanesvari (°na-iś°) 因 富んでいる婦人または *Kubera* 神の妻。
dhanaisvarya (°na-aiś°) 因 富を支配すること。
dhanaiṣin (°na-eṣ°) 形 自分の金を請求する。 男 貸主。
dhanosman (°na-uṣ°) 男 財産欲に燃えること。
dhandha 形 [*Pali dandha*] 遅い, 鈍い人; 漢訳 遅, 緩遅, 稽留; 頑鈍, 愚鈍, 鈍濁 *Abh-vy., Bodh-bh.* → a ~. ~m 副 漢訳 難 *Bodh-bh.*; ~ = dharmam udgrhṇataḥ 於 (所聞) 法難受 *Bodh-bh.* 175.
dhandha-gatika 形 漢訳 根鈍, 鈍道 *Sutr.*
dhandhābhijñā 因 漢訳 遲通, 遲智 *Abh-vy.* 599, *Bodh-bh.* 322.
dhandhāya 名動 他 因 dhandhāyati. 漢訳 迷謬, 迷悶, 惑, 悔, 稽留 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*
dhandhāyamāna 現分 漢訳 稽留 *Bodh-bh.* 284.
dhandhāyitatā 因 漢訳 横死 *Aṣṭ-pr.* 201.
dhandhāyitatva 因 漢訳 迷悶 *Aṣṭ-pr.* 124. → dhanvāyitatva.
dhandhendriya (°dha-in°) 因 漢訳 鈍根 *Bodh-bh.* 218.

dhanya 形 富んだ; 財産を得る; 幸運をもたらすまたは保証する, 幸福な, 幸運な; (一°)の豊富な; 健康な. 男 [人名]; 武器に関する呪文. 田 幸福; 恵み; 財宝.

dhanyāka 男 [人名].

dhanyatara 比較 (具) より幸福な.

dhanyatā 因 幸福な状態, 幸運; 富裕.

dhanyaṃ-manya 形 自己を幸福であると考え.

dhanyākara (°ya-āk°) 田 漢訳 [町の名] 福(城), 福生(城) *Gaṇḍ-vy.*

dhanyodaya (°ya-ud°) 男 [人名].

DHanv, I. 田 **dhanvati** 走る, 流れる; 走らせる, 流れさせる.

dhanva 1. 田 [一°の場合にのみ *dhanvan* の代りに用いられる] 弓; 漢訳 弓 *Laṅk.* 男 [人名].

dhanva 2. 形 漢訳 [=dhandha] 鈍 *Divy.:* parama- ~ 至鈍 *Divy. 488.*

dhanva-cara 形 沙漠に行く.

dhanva-cyut 形 地を震動させる.

dhanva-durga, =dhanur-durga.

dhanvan 1. 田 弓 [田ではほとんど一°形]; 虹.

dhanvan 2. 田 [田のみ 男] 乾燥している地; 沙漠; 漢訳 陸 *Mvyut.*

dhanvana 男 [樹の一種, 学名 *Grewia elastica*]. 田 *Dhanvana* 樹の果実.

dhanv-antara 田 一 *Dhanu* または四 *Hasta* の距離.

dhanvan-tari 男 [(弧の中で動く), ある神格の名, とくに太陽の称]; [東北の方角で供物を捧げられる神の名]; [大海攪拌の際生じた神医で, *Āyurveda* の作者と伝えられる人の名]; 漢訳 川焰(?), 川中焰(?) *Mvyut.*

dhanvantari-yajña 男 *Dhanvantari* に捧げられる供物.

dhanvanya 形 乾燥地または荒蕪地にある.

dhanv-ākāra 男 漢訳 半月相 *Mañj-m.*

dhanvācārya (°va-āc°) 男 弓術の師, [*Śiva* 神の称].

dhanvāyana 形 弓を持った. 男 射手.

dhanvāyitatva 田 [=dhandhāyitatva]; 漢訳 迷悶 *Sapt-pr. 24.*; 頑鈍 *Gaṇḍ-vy. 451.*

dhanvāyin 形 弓を携えた.

dhanvin 形 弓で武装した. 男 射手; [*Śiva* 神の称].

DHam, → **DHmā**.

dhama 形 (一°)を吹く, ……を溶かす.

dhamaka 男 鍛冶工.

dhamadhamāya 名動 田 **dhamadhamāyate** 震える.

dhamadhamāyamāna 名動 現分 震える.

dhamana 形 吹き去る, 散らす. 男 蘆. 田 溶解すること; 漢訳 音写 [数の名] 他麻南 *Mvyut.*

dhamani 因 吹くこと; 口笛; 管, 導管, (体内の) 脈管, 血管, 神経; [人名].

dhamani-saṃtata 形 血脈の緊張した, 血脈の見えるすなわち憔悴した.

dhamani 因 管, 導管; (体内の) 脈管, 血管, 神経; [香料の一種].

dhamani-rajju-saṃtata 形 =dhamani-saṃtata.

dhamani-saṃtata-gātra 男 漢訳 現露脈結, 身出脈結

Mvyut.

dhamara 男 漢訳 音写 [数の名] 駄婆羅 *Mvyut.*

dhamita 過受分 → **DHmā**.

dhammaṭa 男 [人名].

dhammala 男 [婦人の結髪の種類, すなわち頭髪を編んで頭の周囲に巻き, 花・真珠等で飾ったもの].

dhammalaka 形 一° [同上 形].

dhammikā 因 [人名].

dhammilla 男 =dhammala; [一° は 形].

dhammillakā 因 [同上].

dhammillā 因 [同上].

dhaya 形 (一°, 園)を吸う, ……をすする, ……を飲む.

dhayantikā 形 因 吸う.

dhara 形 [一般に 一°] 担う, 持つ, つかむ; 着る; 保持する, 保存する; 支持する, 持続する; 認める, 記憶する, 通曉する; 所有する; 漢訳 持, 任持, 受持, 住持, 執持, 捉持, 奉持, 任持者, 執, 受, 具, 懐 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Vijñ-v.*, 梵雑.; dharmakośa- ~ 受持法蔵, 受法蔵人 *Rāstr. 6.* 男 山; [ある *Vasu* の名]; [人名]; [ある *Pāṇḍava* 家の従者の名].

dharāṇa 形 (因 -i) 担う, 持つ, 保持する. 田 保持すること, 支持すること; (一°)を獲得すること; 支持; 漢訳 [数の名] 持 *Mvyut.*; 音写 陀那羅 [陀羅那?] *Laṅk.* 男 田 [重量の名 (=10 pāla)].

dharāṇi 因 大地 [*Dhruva* の妻として擬人化される]; 漢訳 地, 大地 *Lal-v.*, *Rāstr.*, *Śikṣ.*

dharāṇi-ja 男 (地から生じた), 樹木; [火星の 母系].

dharāṇi-tala 田 地面; 漢訳 地 *Mañj-m.*

dharāṇitala-taitila 男 地上の神, 婆羅門.

dharāṇi-dhara 形 大地を支持または保持する, [*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]. 男 山.

dharāṇi-dhara 形 漢訳 能持大地, 持於地(輪) *Abh-vy.*

dharāṇi-pati 男 王侯, 国王.

dharāṇi-bhuj 男 [同上].

dharāṇi-bhṛt 男 [同上].

dharāṇi-maṇḍa 男 田 [地名] (*Lal-v.*).

dharāṇi 因 (支持者), 大地; 土地; 漢訳 地, 大地 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 詹 *Mvyut.*

dharāṇi-tala 田 地面; 漢訳 地, 地面, 平地, 地際 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*

dharāṇitala-śrī 男 漢訳 [Kimnara 王の名] 地上祥, 地上吉祥 *Mvyut.*

dharāṇi-dhara 形 大地を支持または保持する, [*Kṛṣṇa* 神・*Viṣṇu* 神または *Śiva* 神の称]. 男 山; 王; 大地を支える神話上の象; [諸人の名].

dharāṇi-dhra 男 山.

dharāṇi-dhara 男 漢訳 [菩薩の名] 持地 *Rāstr.*

dharāṇi-prekṣiṇi-lipi 因 漢訳 (音写) 陀羅尼閉嗟書, 陀羅尼卑叉梨書 *Lal-v. 126.*

dharāṇi-bandha 男 海洋.

dharāṇi-bhūta 形 漢訳 為地, 如大地 *Gaṇḍ-vy.*

dharāṇi-bhṛt 形 大地を支える. 男 山.

dharāṇi-maṇḍala 田 地球.

dharmaṇi-rasa 男 漢語 地味 *Sūtr-pr.*
dharmaṇi-ruha 男 (大地に生長する), 木.
dharmaṇi-varāha 男 [王の名].
dharmaṇi-śubha-kāya 男 漢語 身若美地 *Mvyut.*
dharmaṇiśvara-rāja (°ni-iś°) 男 漢語 [菩薩の名],
(音写) 陀羅尼自在王 *Lal-v.*
dharmaṇi-sura 男 地上の神, 婆羅門.
dharmaṇisuren-drāyudha (°ra-in°, °ra-āy°) 男 漢語
[Yakṣa の名] 世間最勝無尽, 《地天帝兵杖》 *Mvyut.*
dharama 男 漢語 [韻律, =dharma] 法 *Sūtr. 173.*
dhara-saṁstha 形 山の形をした, 山のように高い.
dharā 女 大地; 子宮.
dharā-turāśāh 男 王, 王侯.
dharā-dhara 形 大地を保持または支持する, [*Viṣṇu* 神
または *Kṛṣṇa* 神の称]. 男 山.
dharādharendra (°ra-in°) 男 諸山の王, *Himālaya*
山.
dharā-dhava 男 王.
dharādhīpa (°rā-adh°) 男 大地の主, 王.
dharā-pati 男 [同上], 王侯; [*Viṣṇu* 神の称].
dharā-putra 男 [(大地の息子), 火星の 母系].
dharā-bandha 男 海洋.
dharā-bhuj 男 (大地の享樂者), 王.
dharā-bhṛt 男 (大地の支持者), 山.
dharāmara (°rā-am°) 男 地上の神, 婆羅門.
dharā-śaya 形 (女 -i) 地上に眠る.
dharitri 女 支持者; 大地.
dharitri-dhara 男 山.
dharitri-putra 男 =dharā-putra.
dhariman 男 秤; 形, 型.
dharima-meya 形 秤で測られる.
dharuṇa 形 (女 -i) 担う, 持つ, 支える; 広大な. 男
保持者, 支持者. 男 支持, 基礎; 堅固な土台; 容器.
dharuṇi 女 容器.
dharṇasa 形 支える, 支持する; 強い, 強壯な.
dharṇasi 形 [同上]; 精気の満ちた (*Soma* 汁). 男 支
持.
dharṇi 男 支持者, (富の) 保持者.
dharṭṛ 男 支持者; 保存者. 男 ~tari 不定 支える
ために, 保存するために.
dhartra 男 支持.
dhartri 女 =dharṭṛ.
dharma 男 確定した秩序, 慣例, 習慣, 風習, 法則,
規定; 規則; 義務; 徳, 美德, 善行; 宗教; 教説 [とくに
仏陀の (仏教)]; 正義; 公正; (國, 一°) に関する法
律; [しばしば擬人化されとくに死者の裁判官である
Yama および *Prajāpati* を指す]; [*Dakṣa* の婿の
名]; [種々の神的人物の名]; 性質, 性格, 本質,
特殊の属性, 特質; 事物; 漢語 法, 正法, 教法, 是
法, 善法, 実法, 妙法, 如法, 法門 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Dharm-s., *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*,
Nyāy-pr., *Saddh-p.*, *Saṁkhy-k.*, *Sukh-vy. I.*,
Vijñ-t., 梵千.; 福, 功德 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*; 果
Madhy-v.; 性 *Bodh-c.*; 音写 達磨, 達哩摩 *Gaṇḍ-*
vy., *Gaḥy-s.*; [仏の名] 達摩 *Sukh-vy. II.*
~eṇa 男, ~āt 男 法・習慣または義務に従って,

正しく, 誤謬なく; 漢語 (~eṇa) 如法, 以正法
Bodh-bh., *Madhy-vibh.* 一° ……の方法によって,
……に応じて.

~m 男 漢語 如法, 以法 *Bodh-bh.*

~e sthita, 法規を遵奉する, 本務に忠実な.

dharma-kañcuka-praveśin 形 徳の鎧を着けた.

dharma-kathana 男 法を説くこと; 漢語 說法 *Bodh-*
bh.

dharma-kathika 男 漢語 宣法, 宣法者, 説法人 *Aṣṭ-*
pr., *Mvyut.*, *Saddh-p.*

dharma-karman 男 徳業, 善業.

dharma-kāṅkṣiṇi 女 [ある *Gaṇḍharva* または *Kimnara*
少女の名] (*Kār-vy.*).

dharma-kāma 形 正義を愛する, 義務を守る; 漢語 法
樂, 愛法, 樂法, 樂法人, 法欲, 諸法欲, 求法, 求
法之人, 行善法者 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Rāṣṭr.*,
Śikṣ. 男 [ある悪魔の名] (*Lal-v.*).

dharma-kāmatā 女 漢語 慕法, 樂法, 愛法 *Aṣṭ-pr.*

dharma-kāmārthā 男 徳と愛樂と富.

dharma-kāya 男 法身 [仏教の三身の一]; 漢語 法身,
自性身, 真法為身 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Laṅk., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*,
Suv-pr., *Vajr-pr.*

dharma-kāya-parīśuddhi 女 漢語 法身清淨 *Gaṇḍ-vy.*

dharma-kārya 男 宗教的または道徳的の義務, 敬虔な
行為, 善行.

dharma-kīrti 男 [ある詩人・仏教論理学者等の名]; [王
の名]; 漢語 [古師の名] 法称, 法揚, 称法 *Mvyut.*

dharma-kukṣi 男 漢語 法蔵腹 *Śikṣ.*

dharma-kuṭi 女 漢語 経堂 梵維.

dharma-kṛcchra 男 宗教上の戒律を守ることの困難,
義務遂行の困難.

dharma-kṛt 男 自己の義務を行なう; 正しい, 徳のある
敬虔な, 行為の正しい. 男 秩序の保持者 (*Indra*
神).

dharma-kṛtya 男 義務の遂行, 宗教儀式.

dharma-ketu 男 [*Suketu* の息子で *Satyaketu* の父の
名]; 漢語 [仏の名] 法幢, 法英 *Lal-v.*; [天子の名]
法幢 (天子) *Lal-v.*

dharma-kośa 男 法の宝庫; すべての法律, 道徳上の
全規律; 漢語 法蔵, 祕蔵の法 *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*

dharma-koṣa 男 [=dharma-kośa]; 漢語 法蔵 *Aṣṭ-pr.*

dharma-kriyā 女 善行の遂行, 徳行; 宗教的儀礼.

dharma-kṣānti 女 漢語 法忍 *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy. I.*

dharma-kṣetra 男 [(正義の野), =kuru-kṣetra].

dharma-gaṇja 男 法庫 (*Kār-vy.*); 聖典の文庫 (仏教).

dharma-gati 女 漢語 法趣, 趣法, 法相, 所行之法 *Laṅk.*

dharma-gaveśin 男 漢語 求法者 *Śikṣ.*

dharma-gup 男 法を保護または守護する.

dharma-gupta 男 [(法によって守られた), 諸人の名];

漢語 護 [部派の名] 法蔵部, 法護部 *Mvyut.*

dharma-gopa 男 [王の名].

dharma-gaurava 男 漢語 尊重正法, 敬重法 *Aṣṭ-pr.*,
Bodh-bh.

dharma-grāha 男 漢語 法執 *Laṅk.*

dharma-ghna 男 (女 -i) 法を犯す, 違法の; 不道徳な.

dharma-cakra ㊦ (はるかに行き渡る正義の象徴としての) 法輪 [主に ㊦ 弘教]; [神話上の武器の名]; ㊦ 法輪, 正法輪, 妙法輪 *Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr.*: ~m anupravartayamānān 転正法輪 *Gaṇḍ-vy.* 88.

dharmacakra-gata ㊦ ㊦ 転法輪 *Guhy-s.*

dharmacakra-pravartaka ㊦ ㊦ 転法輪, (普) 転妙法輪, 転(無上)法輪, (為世) 転法輪 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*

dharmacakra-pravartana ㊦ ㊦ 転法輪, 法輪転, 転妙法輪, 能転法輪者 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Mvyut.*

dharmacakra-pravartanatā ㊦ ㊦ 転於法輪 *Saddh-p.*

dharmacakrapravartana-bala ㊦ ㊦ 転法輪力 *Mvyut.*

dharmacakrapravartana-sūtra ㊦ [経の名, 三転法輪経等].

dharmacakra-vartana ㊦ [経の名] = dharmacakra-pravartana(-sūtra) (*Prajñ-vy.*).

dharmacakra-vartin ㊦ ㊦ [菩薩の名] 転法(輪) *Lal-v.*

dharma-cakṣur-viśuddha ㊦ ㊦ 法眼浄 *Lal-v., Saddh-p.*

dharma-cakṣus ㊦ 法を見る, 正義または義務を眼中に置く; 正義を見る. ㊦ 正義を見る眼; ㊦ 法眼 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Sūtr., Vajr-pr.*: dharmeṣu ~r utpannam 於諸法中得(浄)法眼 *Gaṇḍ-vy.* 356.; dharmeṣu ~r viśuddham 得法眼浄, 生浄法眼 *Aṣṭ-pr.* 575.

dharma-cara ㊦ [ある Deva-putra の名] (*Lal-v.*).

dharma-caraṇa ㊦ 義務の遂行; 正しい行為; ㊦ 法行, 行法 *Lal-v.*

dharma-carita ㊦ 宗教的の行為; ㊦ 法行 *Madhy-vibh., Sūtr.*: daśa-vidhāni ~āni 十法行, 十種法行 [1. lekhanā 書写, 2. pūjanā 供養, 3. dāna, (pareṣu dānam) 施他, 4. śravaṇa, (pareṇa vācya-mānasya śravaṇam) 聴 (若他誦読専心諦聴), 5. vācana, (svayaṃ vācanam) 披読 (自披読), 6. udgrahaṇa 受持, 7. prakāśanā, (granthasyārthasya prakāśanā) 正開演 (正為他開演文義), 8. svādhyāyana 諷誦, 9. cintana 思, 思惟, 10. bhāvana 修, 修習行] *Madhy-vibh.* 211. → (daśa) dharmacaryā(h).

dharma-caryā ㊦ = dharmacaraṇa; ㊦ 法行 *Mvyut., Raṣṭr.*: daśa ~ h 十法行 [1. lekhanā 書写, 2. pūjanā 供養, 3. dānam 施他, 4. śravaṇam 聴聞, 5. vācanam 披読, 6. udgrahaṇam 受持, 7. prakāśanā 開演, 8. svādhyāyanam 諷誦, 9. cintanā 思惟, 10. bhāvanā 修習] *Mvyut.*

dharma-cāriṇi ㊦ 義務遂行の伴侶である妻, 貞節である妻, 正妻 [→ saha-cāriṇi].

dharma-cāritā ㊦ [同上 ㊦].

dharma-cārin ㊦ 義務を遂行する, 有徳の, 敬虔な, 宗教的な行事を行なう. ㊦ [Śiva 神の称]; [ある Devaputra または菩提樹神の名] (*Lal-v.*); ㊦ [天子の名] 法行 *Lal-v.*

dharma-cintaka ㊦ 法を熟考する, 法に通じた.

dharma-cintā ㊦ 法または義務に対する熟考 (*Lal-v.*).

dharma-cinti ㊦ ㊦ [王の名] 法思 *Lal-v.*

dharma-cintin ㊦ 法を熟考する (*Lal-v.*).

dharma-cchala ㊦ 違法, 義務または正義に反すること.

dharma-ja ㊦ 義務のために生れた, 義務感から生れた, 義務遂行のために生じた. ㊦ 嫡出子; = dharmajanman.

dharma-janman ㊦ [(Yama-Dharma の息子), Yuddhiṣṭhira の名].

dharma-jivana ㊦ 善行の遂行によって生きる, 法に従って生活する. ㊦ 宗教上の義務を行なって生活する婆羅門.

dharma-jña ㊦ 法を知っている, 自己の義務または正義を知っている; ㊦ 知法 *Bodh-bh., Lal-v., Sūtr.*

dharma-jñatama ㊦ 法の知識に非常に富んでいる.

dharma-jñatā ㊦ [dharma-jña の ㊦].

dharma-jñāna ㊦ 法の知識, 正義の知識; ㊦ 法智, 知法, 了法 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*: duḥkhe ~m 知法苦, 苦法智 *Mvyut.*

dharmajñāna-kṣānti ㊦ ㊦ 法智忍 *Mvyut.*: duḥkhe ~h 苦法智忍, 知法苦忍, 苦法忍 *Mvyut.*

dharma-jñānin ㊦ ㊦ 解法 *Daś-bh.*

dharma-tattva ㊦ 法の真髓; ㊦ 法実 *Sūtr.*

dharma-tattvatas ㊦ 法に完全に従って.

dharma-tathatā ㊦ ㊦ 法真如 *Bodh-bh.*

dharma-tantra ㊦ (㊦, ㊦) 法の始終, 最高の法.

dharmataḥ ㊦ 正当に; (神聖な) 法則または条規に従って; 精神的の功績に関してまたはのために; 徳によって; 敬虔な動機から; [または 一 = ㊦ dharmāt]; ㊦ 由法 *Vajr-pr.*

dharmatā ㊦ 本質, 根本の理法, 法の本質 (㊦ 弘教); ㊦ 法, 法性, 法爾, 法体, 法然, 法如, 法爾如, 法性自爾, 常法, 正法, 本性 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-vibh., Saddh-p., Sv-pr., Vajr-pr., Vijñ-t., Vin.*; 実相, 実性, 実相法, 諸法実相, 諸法実性 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Madhy-v., Saddh-p.*: dharmānām ~ 諸法実相, 諸法実性 *Aṣṭ-pr.* 710.; ~ buddhānām bhagavatām jivatām tiṣṭhatām dhṛyatām yāpayamānām 諸仏在世法 *Vin.* 5. ~ ayā ㊦……として, ……によって (*Divy.*); ㊦ 法爾, 由法爾 *Abh-vy.* 181.

dharmatātas ㊦ ㊦ 由法性故, 以法性故, 住法性中 *Aṣṭ-pr.*

dharmatā-niṣyanda-buddha ㊦ ㊦ 法性所流仏, 法(仏)報仏, 法依仏 *Lank.*

dharmatā-pratilabdha ㊦ ㊦ 法性得, 以法性得, 法爾所得 *Bodh-bh., Mvyut.*

dharmatā-pratilambha ㊦ ㊦ 性得, 法性得, 以性得 *Mvyut., Sūtr.*

dharmatā-pratilābhika ㊦ ㊦ 以法性獲 *Mvyut.*

dharmatā-buddha ㊦ ㊦ 法仏, 法性仏 *Lank.*

dharmatā-yukti ㊦ ㊦ 法然道理 *Sūtr.*

dharmatā-labdha ㊦ ㊦ 法得 *Sūtr.*

dharmatā-satya ㊦ ㊦ 法実, 法性諦 *Bodh-bh.*

dharma-trṣṇā 女 法愛 *Madhy-vibh.*
 dharma-tulyatva 甲 法同 *Sūtr.*
 dharmatopagata (°ta-up°) 形 法得 *Sūtr.*
 dharma-trāta 男 [人名] 法救, 法護 *Abh-vy.*,
Mvyut.; 音写 達磨多羅多, 達羅坦羅多 *Abh-vy.*,
Mvyut.
 dharmatva 甲 本来のまたは固有の性質; 法性
Mvyut.
 dharma-da 形 徳を与える. 男 [Skanda のある従者の
 名].
 dharma-dakṣiṇā 女 法の教示に対する布施(*Kār-vy.*).
 dharma-datta 男 [人名].
 dharma-darśin 形 正義を見る.
 dharma-dāna 甲 義務感からの施物, 私欲を超越した
 施物; 法施 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Rāṣṭr.*,
Sūtr.
 dharmadāna-pati 男 法施者 *Śikṣ.*
 dharma-dāyaka 男 法施者 *Śikṣ.*
 dharma-dāyāda 形 得法分 *Saddh-p.*
 dharma-dāra 男 正妻, 貞節な婦人.
 dharma-dinnā 女 法施 [Pāli dhamma-dinnā]
 [人名] 所法施, 法授尼 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 音写 達
 磨陳那 *Mvyut.*
 dharma-dughā 女 祭式のために搾乳される牝牛.
 dharma- Dundubhi 男 法鼓 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*:
 mahā ~ sampravādana 擊大法鼓 *Saddh-p.* 16.
 dharmadundubhi-rutābhinādita 形 法鼓震妙
 音, 法鼓洪音 *Gaṇḍ-vy.*
 dharma-dūṣka 形 破法者, 謗法人, 壞正法者,
 毀謗正法 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*
 dharma-dṛḍhābhedyā-sunilambha 男 [Garuḍa
 王の名] 固於法而不退実依 *Mvyut.*
 dharma-dṛś 形 =dharma-cakṣus (形).
 dharma-dṛṣṭi 形 [同上].
 dharma-deva 男 正義の神.
 dharma-deśaka 男 法の教師; 說法, 能說法,
 宣說正法 *Bodh-bh.*
 dharma-deśanā 女 法の教授; 說教; 說, 說法,
 說正法, 法說, 法教, 宣揚法義 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*,
Lank., *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*
 dharma-dogdhri 女 供犠用の乳を搾ることに定めら
 れた牝牛.
 dharma-druh 形 法または正義を犯す. 男 法の敵, 法
 の違犯者; 不敬虔なこと.
 dharma-droṇa 男 甲 [(法の容器), *Manu* 法典の称].
 dharma-dvaya 甲 二法, 二義 *Lank.*
 dharma-dvāra 甲 法門 *Gaṇḍ-vy.*: ~ m
 vivṛṇoti 開正法門, 授其法門 *Gaṇḍ-vy.* 78.; 闍 最
 高智を獲得するための徳または義務.
 dharma-dhara 形 持法者, 任持法者, 能奉持法
Saddh-p., *Śikṣ.* 男 [Samādhi または菩薩の名] (*Kā-*
r-vy.; [仏の名] 持法 *Sukh-vy.* II.; [Kim-
 nara 王の名] 持法 *Saddh-p.*
 dharma-dhātu 男 理法または存在の要素; 法界
Aṣṭ-pr., *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sapt-*
pr., *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 法性 *Aṣṭ-pr.*, *Suv-pr.*: ~ =

oḥ prakṛti-viśuddhatvam 法界本清淨 *Madhy-vibh.*
 223.; ~ au gambhire buddha-gocare 甚深法性
 諸仏行処, 甚深法界諸仏之境如来所居 *Suv-pr.* 1.
 dharma-dhātuka 形 法界 *Lank.*
 dharmadhātu-kuśala 形 法界善巧, 通法界
Mvyut.
 dharmadhātu-niyata 形 [Samādhi の名] 法界
 決定 *Mvyut.*
 dharmadhātu-parama 形 尽法界, 一切法界,
 極於法界, 尽諸法界 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
 dharmadhātu-paramparā-praveśa 男 次第入法
 界, 次第悟入法界, 次第覺法界 *Gaṇḍ-vy.* 22.
 dharmadhātu-pariṇāma 男 迴向法界 *Aṣṭ-pr.*
 dharmadhātu-parirakṣiṇī 女 [ある Kimnara 少女の
 名] (*Kār-vy.*).
 dharmadhātu-praveśa 男 入於法性, 入法性
Suv-pr. 147.
 dharmadhātu-vipula 形 周法界, 遍法界 *Gaṇḍ-*
vy.
 dharmadhātu-viśuddhi 女 清淨法界 *Mvyut.*
 dharmadhātu-sama 形 法界平等 *Aṣṭ-pr.*
 dharmadhātu-sthititā 女 法留之理趣 *Mvyut.*:
 sthitaiva ~ 法留之理趣長久, 法界之理趣長久
Mvyut.
 dharmadhātva-asambheda 形 法界無別, 法界不
 雜乱, 法界無分別不雜乱 *Mvyut.*
 dharmadhātva-ālambana 甲 法界所緣, 法界境界
Madhy-vibh.
 dharma-dhāraka 男 持法者 *Saddh-p.*
 dharma-dhāraya 形 法を保持する.
 dharma-dhurya 形 正義または徳において最上(師表)の
 または模範の.
 dharma-dhṛk 男 [人名].
 dharma-dhenu 女 =dharma-dogdhri.
 dharma-dhvaja 形 (徳を旗印とする), 有徳を装う,
 偽善の. 男 [太陽の称]; [Mithila の国王の名];
 [諸人の名]; 法幢 *Sukh-vy.* I., *Suv-pr.*; [仏
 の名] 法幢, 光相幢 *Lal-v.*, *Sukh-vy.* II.
 dharma-dhvajavat 形 [同上].
 dharma-dhvajika 形 [同上].
 dharma-dhvajin 形 [同上].
 dharmān 男 保持者, 支持者. 甲 [闍はただ 一° の
 み] 支持; 定められた秩序, 法, 慣習, 風俗; 事物
 の如実の法則, 特性, 本質; 善行; (形) に対する本
 分; 一° 法 *Bodh-bh.* 男 正しく, 適当に.
 dharma-nagara 甲 法城 *Gaṇḍ-vy.*: ~ anu-
 praveśāya āvartayati 到法王城, 令其疾到広大法
 城, 使其疾到無上法城 *Gaṇḍ-vy.* 79.; svayambhū
 ~ anuprāpti 仏法城中為自在, 覺法城中得自在,
 於法城中為君王 *Gaṇḍ-vy.* 74.
 dharma-nāda 男 [聖池の名].
 dharma-nandana 男 [Dharma の息子 Yudhiṣṭhira
 の称]; 闍 [Pāṇḍu の息子たちの称].
 dharma-naya 男 法, 法通, 法門, 所說法 *Gaṇḍ-*
vy., *Lank.*
 dharma-nātha 男 正当の保護者.

dharma-nāman 中 漢訳 法名 *Sūtr.*
 dharma-nitya 形 義務に固執する。
 dharma-nidhyāna 中 漢訳 法思, 諦察法 *Bodh-bh.*
 dharma-nidhyāna-kṣānti 女 漢訳 見法忍, 觀法忍
Sūtr.
 dharmanidhyānādhiṃukti 形 漢訳 法思勝解, 法思
 惟解 *Bodh-bh.*
 dharma-nimitta 中 漢訳 法相 *Ast-pr.*
 dharma-niyāmatā 女 漢訳 法位, 法不變性, 不顛倒
 性 *Lañk., Mvyut.*
 dharma-nirandhakāra 男 漢訳 明法 *Sūtr.*
 dharma-nirvacana 中 漢訳 訓積諸法言辭 *Bodh-bh.*
 dharma-niṣṭha 形 徳にもとづいた, 徳に専心してい
 る。
 dharma-niḥsvabhāvatvopadeśa (°va-up°) 男 漢訳 法
 無自性 *Sūtr.*
 dharma-netra 男 [諸人の名]。
 dharma-netri 女 [=dharma-netri]; 漢訳 法眼, 妙
 法正眼 *Bodh-bh., Rāṣṭr.*
 dharma-netri 女 漢訳 法眼, 正法眼 *Ast-pr., Bodh-*
bh., Śikṣ.; (諸仏)正法 *Suv-pr.*; 法母 *Sam-r.*
 dharma-nairātmya 中 漢訳 法無我, 諸法無我, 法無
 我性 *Bodh-bh., Guhy-s., Lañk., Madhy-vibh.,*
Sūtr.
 dharmanairātmya-kovida 形 漢訳 解於法無我, 法
 無我解脫 *Lañk.*
 dharmanairātmya-sambhūta 形 漢訳 從法無我(實際)
 所生 *Guhy-s.*
 dharma-nairarthakya-sārthakya 漢訳 利益 *Sūtr.*
 dharma-nau 女 漢訳 法船 *Lal-v.*
 dharmam-dada 形 法を与える (*Kār-vy.*)
 dharmam-dadā 女 [ある Gandharva 少女の名]
 (*Kār-vy.*)
 dharma-pañcaka 中 漢訳 五法, 五種法, 法有五 *Lañk.*
 dharma-pātala 中 漢訳 法鬘羅, 法(眼)所有鬘羅
Gaṇḍ-vy.
 dharma-paṭṭa 男 法または義務の紐。
 dharmapaṭṭāvabaddha 形 漢訳 戴法冠 *Mvyut.*
 dharma-paṇana 中 漢訳 克法 *Mvyut.*
 dharma-pati 男 秩序の主, 法の主。
 dharma-patni 女 正妻。
 dharma-patha 男 義務または徳の道。
 dharma-pathin 男 [困 -panthās] [同上]。
 dharma-pada 中 漢訳 法句, 一句法, 法印 *Bodh-bh.,*
Dharm-s., Rāṣṭr. : catvāri ~ āni 四法印 [1.
 anityāḥ sarva-saṃskārāḥ 一切行無常, 2. duḥkhāḥ
 sarva-saṃskārāḥ 一切行苦, 3. nirātmanāḥ sarva-
 dharmāḥ 一切法無我, 4. śāntaṃ nirvāṇam 涅槃寂
 靜] *Dharm-s.*
 dharma-para 形 義務に身を捧げる, 正義の; 漢訳 受
 法 *Buddh-c.*
 dharmaparāyaṇa 形 [同上]。
 dharma-parigraha 男 漢訳 授法 *Bodh-bh.*
 dharmaparigrahādhiṣṭhāna 中 漢訳 授法処 *Bodh-bh.*
 dharma-paryāpti 女 漢訳 得法究竟 *Bodh-bh.*
 dharma-paryāya 男 漢訳 法門, 法異名 *Bodh-bh.,*

Lal-v., Lañk., Mvyut., Sukh-vy. II., Sūtr., Vajr-
pr.; 経, 経法 *Bodh-bh., Lañk.;* 法数 *Mvyut.*
 dharma-paryeṣaka 漢訳 応求正法 *Bodh-bh.*
 dharma-pāṭhaka 男 法の教師, 法学者。
 dharma-pāla 男 (法の保護者), 懲罰, 剣; [Daśaratha
 王の大臣, その他諸人の名]; 漢訳 [古師の名] 護
 法, 法護 *Ar-s., Mvyut.;* 達摩波羅 *Mvyut.*
 dharma-pāśa 男 [神話上の武器の名]。
 dharma-piṭhā 女 [ある Nāga の少女の名] (*Kār-vy.*)
 dharma-piḍā 女 法および義務の違犯。
 dharma-putra 男 義務を果すために生んだ息子; 弟
 子; = dharma-janman.
 dharma-pudgala 男 漢訳 人法, 我法 *Lañk.*
 dharma-pudgala-nairātmya 中 漢訳 人法無我, 二無
 我 *Lañk.*
 dharma-puras-kāra 形 すべてに義務を課する。
 dharma-pūta 形 徳によって浄められた, 汚されない
 徳の, 非常に有徳の。
 dharma-prakāśana 中 漢訳 開法, 演説正法 *Sūtr.*
 dharma-prakṛti 女 漢訳 法性 *Abh-vy., Bodh-bh.,*
Gaṇḍ-vy. : ~ ḥ sā tādrī 法性自爾, 法性自然
Bodh-bh. 325.
 dharma-prajñapti-vyavasthānālambana (°na-āl°) 中
 漢訳 安立法施設所縁, 安立法名境界 *Madhy-vibh.*
 dharma-pratibhū 形 正義を保証とする。
 dharma-pratirūpaka 男 徳の模倣, 偽善的な徳。
 dharma-pratisaṃvid 女 漢訳 法無礙, 法無礙解, 法
 無礙慧, 法無礙智, 於諸法無礙弁, 悟各実法 *Bodh-*
bh., Mvyut.
 dharma-pradhāna 形 徳または義務を主なる目的とし
 た; 敬虔の念の秀でた; 漢訳 向法 *Sūtr.*
 dharma-prabhāva 男 漢訳 法威力 *Bodh-bh.*
 dharma-prabhāsa 男 漢訳 [仏の名] 法明, 法照曜
Saddh-p.
 dharma-prabheda-mukha 中 漢訳 分別法門 *Śikṣ.*
 dharma-pravaktr 男 法の解釈者, 法の教師, 法学者。
 dharma-pravacana 中 法の解釈または発布。
 dharma-pravicaya 男 漢訳 択法, 揀択法, 簡択法,
 極簡択法, 分別法 *Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s.,*
Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut.
 dharmapravicaya-vibhakti-nirdeśa-kuśala 形 漢訳
 択法弁説善巧, 善能演説諸妙法 *Mvyut.*
 dharmapravicaya-sambodhy-āṅga 中 漢訳 択法覺
 支, 法覺枝, 択覺支, (音互) 択法菩提分 *Dharm-s.,*
Mvyut.
 dharma-pravṛtti 女 徳の実行; 徳行, 敬虔な行。
 dharma-prastha 男 [聖地の名]。
 dharma-prahrādāna 男 [人名]; [Gandharva 王の
 名] (*Kār-vy.*)
 dharma-prāpti 女 漢訳 得法 *Sūtr.*
 dharma-prābhṛta 中 漢訳 法供 *Saddh-p.*
 dharma-priya 男 [Gandharva 王の名] (*Kār-vy.*)
 dharma-prīty-āhāra 男 漢訳 法喜食 *Saddh-p.*
 dharma-prekṣa 形 =dharma-caḥṣus (形)。
 dharma-plava 男 法の船 [息子]。
 dharma-bandhu 男 漢訳 法為眷屬 *Lal-v.*

dharma-buddha 男 漢訳 法仏 *Lañk.*
dharma-buddhi 形 正しい心をもつ。男 [ある商人の名]。
dharma-bhagini 女 法律上の姉妹, 姉(妹)の権利を認められた女; 信仰上の姉(妹) (囹)。
dharma-bhagna 形 義務を無視した。
dharma-bhāgin 形 有徳の, 道徳的な。
dharma-bhāṇaka 男 法の告示者, 説法者(仏教); 漢訳 法師, 説法, 説法者, 説法師, 説法人, 能説法者, 教誨者 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Kāśy., Lañk., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.*; 師, 経師 *Kāśy.*
dharma-bhāṇakatva 中 漢訳 法師 *Bodh-bh.*
dharmabhāṇakānusaṃsā 女 漢訳 法師功德, 歎法師 *Saddh-p.*
dharma-bhāṇakatva 中 [=dharma-bhāṇakatva]; 漢訳 法師 *Daś-bh.*
dharma-bhikṣuka 男 道徳的理由に基づく乞食, 宗教的または有徳の乞食。
dharma-bhiṣaj 形 漢訳 以法為薬 *Śikṣ.*
dharma-bhīru 形 義務を怠る(恐れる)。
dharma-bhṛt 形 法を維持する, 正義に富んでいる (王)。男 [諸王侯の名]; [諸人の名]。
dharma-bheda 男 漢訳 求法差別 *Sūtr.*
dharma-bheri 女 漢訳 法鼓 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I.*
dharmabheri-saṃpratāḍana 中 漢訳 擊(大)法鼓 *Aṣṭ-pr.*
dharma-bhrātr 男 聖法の兄弟, 同じ宗教の信者; 漢訳 法弟 *Bodh-bh.*
dharma-mati 男 [王子の名]; [菩提樹神の名] (*Lal-v.*); 漢訳 [王子の名および仏の名] 法意 *Saddh-p., Sukh-vy. I.*
dharmamati-vinādita-rāja 男 漢訳 [仏の名] 法慧吼 *Sukh-vy. I.*
dharma-matsara 形 法をおしむ (*Buddh-c.*)
dharma-matsarin 形 漢訳 悖法 *Bodh-bh.*
dharma-manasi-kāra 男 漢訳 念法 *Sukh-vy. II.*
dharma-manasi-Kṛ, 漢訳 作念, 法心忍 *Vin.*
dharmamaya 形 (女 -i) 徳・正義または法からなる; 漢訳 法, 法性 *Saddh-p., Sūtr.*: ~ṃ ca cakram 法輪 *Saddh-p. 174.*; ~ṃ ca dundubhim 法鼓 *Saddh-p. 174.*
dharma-mahattva 中 漢訳 法大性 *Bodh-bh.*
dharma-mātra 中 習慣のみであること, 方法のみであること; 漢訳 唯法 *Bodh-bh.*: ~anusārin 随順唯法 *Bodh-bh. 190.* 形 属性にのみ関する, ただ属性的な; 様式または方法のみによる。
dharma-mātratva 中 [同上 (形) 中]。
dharma-mātsarya 中 漢訳 法慳, 慳法, 慳吝正法, 法貪妬 *Bodh-bh., Dharm-s.*
dharma-mārga 男 徳または義務の道。
dharma-mukha 中 漢訳 法門 *Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.*
dharma-mūla 中 聖法または正義の源, 宗教の基礎, *Veda* 聖典。
dharma-megha 男 [Yoga 哲学における Samādhi の一種]; 漢訳 法雲, 法雨 *Gaṇḍ-vy., Lañk., Sūtr.*

形 漢訳 法雲 *Bodh-bh., Dharm-s., Lañk., Mvyut.*
 : ~ā bhūmiḥ 法雲地 *Bodh-bh. 354.*
dharma-yajña 男 徳の供儀, 無血の供儀(*Jāt-m.*)
dharmayajña-yajana 中 漢訳 設法会 *Aṣṭ-pr.*
dharma-yāna-ratha-yantra 中 漢訳 諸乘妙法輪 *Gaṇḍ-vy.*
dharma-yukta 形 徳を賦与された, 有徳の, 正しい; 法と調和した; 漢訳 如法 *Divy.*
dharma-yuga 中 (正法の時代), =Kṛta-yuga.
dharma-yuddha 形 公明な争い。
dharma-yoni 男 (法の源), [*Viṣṇu* 神の称]。
dharma-yautaka 中 漢訳 不可言法 [*Tib. chos kyi khyud pa*] *Madhy-v. 275.*
dharma-yauva-rājya 中 漢訳 法王子位 *Gaṇḍ-vy.*
dharma-rakṣitā 女 [人名]。
dharma-rata 形 徳を喜ぶ; 有徳の, 正しい, 敬虔な; 漢訳 樂法, 忻樂法 *Bodh-bh., Sūtr.*
dharma-rati 形 [同上]。男 [ある魔の名] (*Lal-v.*)
dharma-ratna 中 漢訳 法宝 *Sūtr., Suv-pr.*
dharmaratna-dvipa 男 中 漢訳 法宝洲, 法宝処 *Gaṇḍ-vy.*: sarva-sattva ~ saṃprāpaṇatāyai 為令一切衆生入法宝洲, 為令一切衆生住法宝洲 *Gaṇḍ-vy. 143.*
dharma-ratha 男 [人名]; 漢訳 無上法乘 *Bodh-bh.*
dharmarathābhirūḍha 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*)
dharma-rasāhāra (°sa-āh°) 男 漢訳 法味食 *Lañk.*
dharma-rāj 男 正義の王; [*Yama* 神の称]; [*Yudhiṣṭhira* の称]; [諸人の名]。
dharma-rāja 男 正義の王; [*Yama* 神の称]; [*Yudhiṣṭhira* の称]; 最高の教法 (*Kār-vy.*); 漢訳 法王, 諸法王, 明王 *Divy., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Saddh-p.*
dharma-rājan 男 [同上]; 漢訳 法王, 有道之王 *Mvyut., Saddh-p.*
dharmarāja-putra 男 漢訳 法王子 *Mvyut., Saddh-p.*
dharma-rājikā 女 漢訳 塔 *Divy. 419.*
dharma-rājya 中 漢訳 法国土 *Saddh-p.*
dharma-rāma-rati 女 漢訳 法樂 *Gaṇḍ-vy.*: ~ṃ prasthāpayamānāḥ 唯住法樂, 常樂正法 *Gaṇḍ-vy. 239.*
dharma-ruci 形 徳を喜んでいる; [ある Dānava の名]; [人名]; [菩提樹神の名] (*Lal-v.*)
dharma-lakṣaṇa 中 法の重要なしるし; 漢訳 法相 *Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr.*
dharmalakṣaṇa-varjita 形 漢訳 離諸法相 *Guhy-s.*
dharma-lābha 男 漢訳 法利, 以道得, 以法所獲 *Bodh-bh., Mvyut.*
dharmalābha-samtuṣṭa 形 漢訳 得知法足, 以道得知足 *Mvyut.*
dharma-loka 男 漢訳 法明 *Sūtr.*
dharma-lopa 男 義務を怠ること, 法に違犯すること; 属性の欠如(修辭)。
dharma-vaṃśa 男 漢訳 法性 *Gaṇḍ-vy.*
dharmavat 形 有徳の, 正義の; 法を伴なった (*Śāstrin* 双神)。
dharmavati 女 [人名]。

dharma-varadhana 形 徳を増加する (Śiva 神). 男
[Śrāvastī の国王の名]; [人名]. 男 [町の名].
dharma-varman 男 [(正義の楯または甲冑), Kṛṣṇa 神
の称].
dharma-varṣa 男 漢訳 法雨 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.,
Siv-pr.
dharma-vallabha 男 教法の愛好者 (Buddh-c.).
dharma-vaśa-vartin 形 漢訳 於法自在, 於一切法而
得自在 Lank.
dharma-vaśitā 女 漢訳 法自在, 主法, 法降伏 Dharm-
s., Mvyut.
dharma-vasu-prada 形 徳と富とを与える (Viṣṇu 神).
dharma-vahikā 女 (宗教的功德の乗物), 布施の記載簿.
dharma-vāc 女 漢訳 法言 Mvyut.
dharma-vāṇijaka 男 商人のように自己の徳を売物と
する者.
dharma-vāṇijyaka 男 [同上].
dharma-vāda 男 道徳または義務に関する談話または論
議, 宗教上の論争.
dharma-vāditā 女 [同下 男]; 漢訳 法語, 如法語
Bodh-bh.
dharma-vādin 形 法または道徳に関して談論する;
漢訳 法語, 順法語, 随法語, 随法答, 好出法言, 説
法者, (常)説正法, 説於正法, 能説正法 Aṣṭ-pr.,
Prāt-m., Śikṣ., Siv-pr.
dharma-vāha 形 正しい, 有徳の.
dharma-vāhana 形 [同上].
dharma-vikurvaṇa 形 漢訳 法自在 Śikṣ.
dharma-vicaya 男 漢訳 択法 Bodh-bh.
dharma-vijaya 男 徳または正義の勝利.
dharma-vijayin 形 (徳によって勝利を得る), [Para-
śurama の称].
dharma-vid 男 聖; 法または自己の本務を知っている,
習慣法に精通した; 有徳の.
dharma-vidhi 男 法規, 宗教上の戒律, 道徳律; 漢訳
法式 Gaṇḍ-vy. 175.
dharma-vinaya 男 漢訳 教, 法律; (音写) 法毘奈耶, 毘
奈耶法 Bodh-bh., Divy., Mvyut.; Saddh-p., Sa-
pt-pr., Śikṣ.
dharma-viplava 男 法の違犯.
dharma-vibhūta-māna 男 漢訳 断法門異慢 Sātr.
dharma-vimukti-rasārthika 形 漢訳 専思解脱妙法
味 Śikṣ. 334.
dharma-viraja 形 漢訳 妙法 Lank.
dharma-viruddha 過受分 漢訳 法義相違 Aṣṭ-pr.
dharma-virodhavat 形 法に反する, 本務に反する;
不合理な, 違法な, 非倫理的な, 不正な.
dharma-vivardhana 男 漢訳 [人名] 法増長, 法増;
(音写) 達磨婆陀那 [阿育王の子の名] Divy.
dharma-vivecana 男 法または本分に関する研究, 判断.
dharma-viśeṣa-viparīta-sādhana 男 漢訳 法差別相違
因 Nyay-pr.
dharma-vihāra 男 法住 Gaṇḍ-vy.
dharma-vihīta 過受分 漢訳 説 Sātr.
dharma-vira 男 漢訳 敬虔の念から起った英雄的な感
情.

dharma-vṛddha 過受分 徳の厚い.
dharma-vṛṣṭi 男 法雨.
dharma-vega 男 漢訳 法威力 Vajr-pr.
dharma-vyatikrama 男 法の違犯.
dharma-vyavasthā 男 法律上の判決.
dharma-vyavasthāna 男 漢訳 法安立, 法仮建立, 立
法 Bodh-bh., Sātr.
dharma-vyasana 男 漢訳 破法 Saddh-p.
dharma-vyādha 男 有徳な獵師の名 (呪をうけて獵師
となった婆羅門).
dharma-śaṅkha 男 漢訳 法螺, 大法螺相, Aṣṭ-pr.,
Bodh-bh., Saddh-p., Sukh-vy. I.; 法螺 Bodh-bh.:
~ prapūraṇa 吹法螺 Aṣṭ-pr. 137.
dharma-śarīra 男 漢訳 法身 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.
dharma-śāsana 男 法典; 漢訳 法教 Lank.
dharma-śāstra 男 權威ある法(法規)の集録, 法典, 法
律論書; 漢訳 法度 Mvyut.
dharma-śāstrin 男 法典の支持者; 漢訳 ある学派.
dharma-śīla 形 正義の, 有徳の. 男 [人名].
dharma-śilā 女 [人名].
dharma-śuddhi 女 法の知識.
dharma-śravaṇa 男 漢訳 聴法 Aṣṭ-pr.
dharma-saṃyukta 過受分 法に相応した, 合法の.
dharma-saṃśraya 男 宗教の実践; 漢訳 法依 Sātr.
dharma-saṃśrita 過受分 正義の, 有徳の.
dharma-saṃkathā 女 漢訳 法に関する談話.
dharma-saṃgara 男 =dharma-yuddha.
dharma-saṃgiti 女 法に関する論議; 仏教(徒)の会議;
漢訳 法集, 法令, 誦法 Abh-vy., Mvyut., Śikṣ.,
(=dharma-sāṅkathya, Abh-vy.).
dharma-saṃgiti-sūtra 男 漢訳 [仏典の名] 法集經
Śikṣ.
dharma-saṃgraha 男 漢訳 攝法, 攝受法, 得法 Lank.,
Sātr.; [仏典の名, 法集名数經の類本].
dharma-saṃcaya 男 徳行を積むこと, 徳行の集積.
dharma-saṃjñā 女 義務感; 漢訳 法想 Vajra-pr.
dharma-satya-yukti-yāna-prajñapti-vyavasthāna 男
漢訳 法仮建立, 諦仮建立, 道理仮建立, 乘仮建立
Sātr.
dharma-satya-vrata 形 正義と真実とに忠実なまたは専
心している.
dharma-satya-vrateyu 男 漢訳 = Dharmeyu, Satyeyu,
および Vrateyu.
dharma-sabhā 女 法廷, 裁判所.
dharma-samatā 女 漢訳 法等, 法平等, 法平等性,
於一切法得平等解 Bodh-bh., Lank., Sātr.
dharma-samaya 男 法的効力を発生した義務, 法律上
の義務.
dharma-samādāna 男 漢訳 法受, 法受持 Bodh-bh.,
Bodh-c. Mvyut.: ~tas 由法受故 Bodh-bh.
dharma-samāropānta 男 漢訳 增益法辺 Madhy-vibh.
dharma-sambhava 男 漢訳 從法生, 從於法所生
Lank.
dharma-sambhāra 男 漢訳 助法 Śikṣ.
dharma-sambhoga 男 漢訳 法財, 法樂, 法食 Gaṇḍ-
vy., Madhy-vibh., Sātr.: ~m pratyānubhavat

受用法樂 *Madhy-vibh.* 208.
 dharma-sāgara 男 [教訓者の名], *Sukh-vy. I.*
 dharma-sāmkathya 中 説法, 宣説正法, 講法
Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.
 dharma-sādhana 中 義務完成または本務成就のための
 必要な手段.
 dharma-sārathi 男 [*Trikakud* の息子の名].
 dharma-sāvarṇi 男 [第十一番目の *Manu* の名].
 dharma-sāvarṇika 男 [同上].
 dharma-suta 男 (*Dharma* の息子), [*Yudhiṣṭhira* の
 異称].
 dharma-sūtra 中 [吠陀文学に属している法に関する
 書物の一般的の名称], 法経, 法の綱要書.
 dharmasūtra-kāra 男 [*Dharma-sūtra* の著者].
 dharma-sūnu 男 = dharma-suta
 dharma-setu 男 法または正義の堡壘; [*Śiva* 神の称];
 [*Āryaka* の息子の名].
 dharma-sena 男 [ある商人の名]; [ある国王の名]; 法
 法之将 *Divy.*
 dharma-sevana 中 義務の遂行または成就.
 dharma-saumya 形 法または徳によって楽しむ.
 dharma-skandha 男 法(典)の章, 法または宗教上の戒律
 の一部門; 法蘊 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 dharma-stūpa 男 法塔, 法制底 *Suv-pr.*
 dharma-steya 中 竊法 *Bodh-bh.*
 dharma-stainyaka 中 法賊 *Lal-v.*
 dharma-stha 男 審判者.
 dharma-sthala 中 [ある都市の名].
 dharma-sthita 過受分 住法者 *Sam-r.*
 dharma-sthiti 女 法住, 正法住, 遺法住 *Bodh-
 bh., Gaṇḍ-vy., Lanḱ., Saddh-p., Sūtr.*
 dharma-sthititā 女 法住, 法性, 本住法, 法長
 久 *Lanḱ., Mvyut.*
 dharma-smṛty-upasthāna 中 法念処, 法念, 法
 念住 *Dharm-s., Mvyut.*
 dharma-srotas 中 法流 *Sūtr.*
 dharma-svabhāva 男 法制, 法自性, (諸)法実性
*Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.: dharma-svabhāva yā-
 dṛśah* (頌) 諸法実相義 *Saddh-p. 25.*
 dharma-svabhāva-mudrā 女 実相印 *Saddh-p.*
 dharma-svarūpa 中 法自相 *Nyay-pr.*; dharma-
 svarūpa-viparīta-sādhana 法自性相違因 *Nyay-pr.*
 dharma-svāmin 男 [*Dharma* 王によって建設された
 寺の名]; 法主, 法王, 以法為主 *Bodh-bh., Lal-
 v., Raṣṭr., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I.*; 法王 [釈
 尊の異称] *Mvyut.*
 dharma-hantr 男 (女 -tri) 法のまたは正義の違犯者.
 dharma-hāni 女 法を無視すること.
 dharma-hina 過受分 法の範囲から放逐された.
 dharmākara (°ma-āk°) 男 [*Lokeśvara-rāja* 仏の弟子
 の名]; 法蔵, 法処, 法(宝)蔵; 音写 曇摩迦留,
 曇摩迦, *Sukh-vy. I.*; 法蔵 [釈尊の異名] *Mvyut.*
 dharmākṣara 中 法(の文字), 法の規定, 信仰を公
 言すること.
 dharmākhyāna (°ma-ākh°) 中 本務の陳述; 所
 説法 *Bodh-dh.*

dharmācārya 男 (°ma-āc°) 法の教師.
 dharmātikrama 男 法に違反すること.
 dharmātma-ja (°ma-āt°) 男 = dharma-suta.
 dharmātmatā (°ma-āt°) 女 正義, 徳.
 dharmātman (°ma-āt°) 形 正しい, 有徳の, 法を尊
 敬する, 正義を重んじる.
 dharmādeśaka (°ma-ād°) 法の指導者 (異綴字 dha-
 rma-deśaka).
 dharmādharma 男 正義と不正義.
 dharmādharma-jña 形 法・非法(正邪)を知っている.
 dharmādharma-nimitta 形 於罪福中生, 從罪
 福生 *Madhy-v.*
 dharmādharma-ṇa 中 法廷. 男 裁判官; 依理
 断理 *Mvyut.*
 dharmādharma-ṇa-sthāna 中 法廷.
 dharmādharma-ṇadhīṣṭhita-puruṣa 男 法廷役人.
 dharmādharma-ṇika 男 裁判官.
 dharmādharma-ṇika 男 司法官の職, 法の遂行; 宗教上の
 事柄の管理.
 dharmādharma-ṇika 男 裁判官.
 dharmādharma-ṇin 男 [同上].
 dharmādharma-ṇin-puruṣa 男 法廷の使用人.
 dharmādharma-ṇikṛta 過受分 男 裁判官.
 dharmādharma-ṇimukti 女 浄心; 信, 浄信, 信法 *Sūtr.*
 dharmādharma-ṇiṣṭhāna 中 法廷.
 dharmādharma-ṇakṣa 男 裁判長.
 dharmādharma-ṇvan 男 徳の道.
 dharmādharma-ṇkāṅkṣin 形 正義のために努力精進する,
 正義のために専念する.
 dharmādharma-ṇa 男 法随法, 法次法; 随順行
 法, 法随法行 *Bodh-bh., Daś-bh.*
 dharmādharma-ṇa-pratipatti 女 法随法行, 法
 次法向 *Bodh-bh., Bodh-c.*
 dharmādharma-ṇa-pratipanna 過受分 從罪福生,
 法随法行 *Madhy-v., Mvyut.*; (応)正修行法随法行
Bodh-bh.
 dharmādharma-ṇa-nupāśyanā 女 觀法 *Śikṣ.*
 dharmādharma-ṇa-pratipatti 女 随法行 *Mvyut.*
 dharmādharma-ṇa-ṇiṣṭhāna 中 法の成就.
 dharmādharma-ṇa-ṇin 形 随法行 *Mvyut.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa 中 念法 *Śikṣ.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa 女 念法, 法念 *Dharm-s., Lal-
 v., Mvyut., Śikṣ., Sukh-vy. II.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa 男 法間断 *Mvyut.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa (°ma-ābh°) 男 法明 *Sūtr.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 形 正しいまたは高貴な家柄の.
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 女 宗教的義務として規定され
 た洗身または齋戒沐浴.
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 男 諸法現觀, 得法 *Bodh-bh.,
 Sūtr.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 男 甘露(無上)法味 *Suv-pr.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 中 法雨 *Sūtr.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa (°ma-āy°) 中 法処 *Mvyut.*
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa (°ma-āy°) 形 [同上].
 dharmādharma-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa-ṇa 中 宗教的義務を行なう森; 仙人の森;
 [*Madhyadeśa* の森の名]; [都城の名].

dharmārambaṇa (°ma-ār°) 甲 漢訳 法縁 *Sikṣ.*
 dharmārka 男 漢訳 法日光 *Sūtr.*
 dharmārtha 男 固 徳と富; 漢訳 法義 *Bodh-bh., Sūtr.*
 dharmārtha-yukta 過受分 義務と利益とに合致した.
 dharmārtha-sambhava 男 漢訳 法養生 *Guhy-s.*
 dharmārthika 形 漢訳 求法, 法義, 愛法, 好道
Aṣṭ-pr., Bodh-c., Lal-v., Mvyut.
 dharmārthiya 形 義務または正義等に関する.
 dharmāmbana (°ma-āl°) 甲 漢訳 法縁, 所縁法
Bodh-bh., Sūtr.
 dharmāloka-mukha (°ma-āl°) 甲 漢訳 法明門 *Lal-v., Mvyut.*
 dharmāloka-vivṛddhi 女 漢訳 法明増長 *Sūtr.*
 dharmāvaraṇa (°ma-āv°) 甲 漢訳 法障 *Lank., Sikṣ.*
 dharmāvaha (°ma-āv°) 形 正しいまたは良いものを得るまたは引きよせる.
 dharmāvīruddham 副 法に従って, 義務に従って.
 dharmāśoka 男 漢訳 [王の名=Aśoka], (音写) 正法阿恕伽, 阿育法(王) *Divy., Mañj-m.*
 dharmāśrita (°ma-ās°) 過受分 正しい, 有徳の.
 dharmāsana (°ma-ās°) 甲 漢訳 法座, (高坐) 説法之所, 講法之处 *Saddh-p., Suv-pr.*
 dharmāstikāya 男 (ジャイナ教における) 徳善の範疇.
 dharmāhara (°ma-āh°) 男 漢訳 法食 *Lank.*
 dharmāhāra (°ma-āh°) 形 漢訳 以法為食 *Sikṣ.*
 dharmāhṛta (°ma-āh°) 過受分 合法的に得られた.
 dharmika 形 漢訳 具法 *Mvyut.:* ~o dharmā-rājā (男, 甲) 具法有道之王 *Mvyut.*
 dharmitva 甲 正義・徳または本務に対する献身; (一°) の義務, ……の責任; ……の特性をもつこと.
 dharmin 形 法に従った, 自己の本務を知る, 有徳な; 特性をもつ; (一°) の法に従ったまたはの権利をもつ, 性質・特色または特性をもつ; 漢訳 法, 有法, 為法, 相 *Abh-vy., Lank., Nyāy-pr.;* → *nirodha-*
 dharmila 男 漢訳 [神の名] (音写) 前達彈羅, 達疎羅 *Abh-vy.*
 dharmi-viśeṣa-viparita-sādhana 形 漢訳 有法差別相違因 *Nyāy-pr.*
 dharmiṣṭha 最上 義務に充分に通曉した, 非常に正しいまたは有徳な; 法律または義務と完全に調和している, 完全に合法的な; 漢訳 有道心 *Madhy-v.*
 dharmi-svarūpa-viparita-sādhana 形 漢訳 有法自相相違因 *Nyāy-pr.*
 dharmepsu (°ma-īp°) 形 義務を遂行したいと思う, 道徳的または宗教的の功徳を得ようと努力する.
 dharmeyu 男 [Raudrāśva の息子].
 dharmeśvara (°ma-īś°) 男 漢訳 諸法之王 *Saddh-p.;* [仏名] 法自在 *Lal-v.;* [天名] 法自在 *Lal-v.*
 dharmogha 男 漢訳 法雨 *Lal-v.*
 dharmocaya (°ma-uc°) 男 漢訳 法集 [親史多(*Tuṣi-ta*) 天の堂の名] *Lal-v.*
 dharmottara (°ma-ut°) 形 正義・徳行または義務に忠実な; 非常に公明正大な. 男 漢訳 法勝 *Mvyut.*

dharmodgata (°ma-ud°) 男 漢訳 [菩薩名] 法涌, 法上; (音写) 曇無竭 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Suv-pr.*
 dharmoddāna 甲 漢訳 (音写) 法嚧陀南; 法印 *Bodh-bh., Sūtr.*
 dharmopaghātaka (°ma-up°) 形 法にそむく, 法を犯す, 不合法の.
 dharmopadeśa (°ma-up°) 男 神聖な法または義務に関する教授または規定, 宗教的または道徳的の教訓; 法または本分等の全体.
 dharmopadeśanā (°ma-up°) 女 法に関する教訓.
 dharmopamā (°ma-up°) 女 二種の事物を共通性に基づいて比較する直喩.
 dharmopasaṃhāra 男 漢訳 法摂受 *Bodh-bh.*
 dharmolkā 女 (°ma-ul°) 法の燈; 漢訳 法炬 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I., Suv-pr.*
 dharmya 形 合法の, 適法の; 神聖な慣習によって許された, 習慣的; 正当の, 正直な; (屬) に適当な; 性質をもつ; 漢訳 法, 如法 *Bodh-bh.*
 dharmya-vivāha 男 合法的の結婚.
 dharsa 男 大胆不敵, 尊大, 傲慢; 短気, 軽卒; 乱暴; 漢訳 破壊 *Sikṣ.* → *dur-*.
 dharsaka 形 (一°) 攻撃する.
 dharsaṇa 甲 (女-ā) 攻撃, 虐待, 侮辱; 漢訳 冤 *Mañj-m.,* 調 *Mvyut.;* 降伏 *Mañj-m., Sikṣ.* → *māra-*.
 dharsaṇiya 未受分 攻撃または克服するに容易な; 漢訳 破壊者: *na kena cid ~ā bhaviṣyanti* 無有(非人)能破壊者 *Saddh-p. 476.* → *adharsaṇiya.*
 dharsaṇi 女 破廉恥のまたは不貞の女.
 dharsita 過受分 攻撃された, 乱暴された, 虐待された; 漢訳 摧 *Lal-v.* → *DHṛṣ.*
 dharsitā 使役 過受分 女 → *DHṛṣ.*
 dharsin 形 (一°) 攻撃する, 虐待する, 侮辱する. *DHav I.,* 固 *dhavate,* 走る (RV.).
 dhava 1., 男 男; 夫; 主人, 所有者.
 dhava 2., 男 灌木の一種 (*Grislea tomentosa*).
 dhavara 甲 漢訳 [数の名] (音写) 那婆羅 *Mvyut.*
 dhavala 形 白い, 目を眩すように純白な; 立派な, 美事な. 男 樟腦の一種; [人名]. 甲 [町の名]; 漢訳 白 *Mañj-m., Vajr-s.*
 dhavala-giri 男 *Dolaghir,* [山の名] (白山).
 dhavala-grha 甲 家の最上層 (白色に塗られるのでこのように言われる).
 dhavalatā 女 白いこと.
 dhavalatva 甲 [同上].
 dhavala-pakṣa 男 (白い翼のある) 鷺鳥; 月の白分.
 dhavalapakṣa-vihaṅgama 男 白い翼のある鳥; 白鳥, 鷺鳥.
 dhavala-mukha 男 [人名].
 dhavalaya 名動 他 白くする; 明るくする. 過受分 *dhavalita* 白くされた, 明るくされた.
 dhavalā 女 白い牝牛.
 dhavalāya 名動 固 *dhavalāyate* 白くなる, 輝く, まばゆいほどの純白となる. 過受分 *dhavalāyita* 白くなった.
 dhavalita 過受分 [同上]. → *dhavalaya.*

dhavaliman 男 白いこと, 光輝; 純粹.

dhavali 女 白(牡)牛; 白毛.

dhavali-Kṛ, 白くする.

dhavali-BHū, 白くなる.

dhavitra 田 [DHū] 扇 (皮製で, 料理または祭式用の火を起すのに用いられる).

DHā 1., III, 田 dadhā, dadh (田 に, …の上に, …の中に) 置く, 据える, 横たえる, 適用する, 付ける; (田) に運ぶ; (田, 田, 田) に配当するまたは授ける, …に与える; ……になす, 命ずる, 任命する, 選定する(2 業); 惹起する, 生ずる; 着手する; 握む, 握る; 運搬する; (種子等を)つける; 着る, 被る; 支持する, 保存する; 維持する; 執る, 示す, 蒙る, 所有する; 田 自身のものとする, 受取る, 得る, (種子)を孕む, 妊娠する; …に(心または考えを: cintām, matim, manas) 定める, (田, 田, prati, 不定) または直接話法をとまなう iti) 決定する; (希望を āśām) (田) に置く; 漢訳 任持, 能持 *Abh-vy.* → śrad-DHā; daṇḍam DHā 罰する, padaṁ DHā, 足を置く, 這入る. 田 dhiyate. 過受分 hita [参照].

使役 -dhāpayati. 希求 didhīṣati(-te) (RV.) 田 与えようと思つたまたは授けようと思つた; 田 得ようと思つた; dhitsati(-te) (田 田) 田 に置こうと思つた.

adhi- 被せる; (田, 田) に授ける; 田 着る, 装う, 帯びる.

antar- 田, 田 (田) の内に置く, ……の間に置く; 分かつ; 移す; 覆う, 隠す, 消失させる, 見えないようにする; 田 自身の中に受け取る, 含む. 田 隠される, 消失する; 漢訳 入, (還)入 *Ast-pr.*, *Av-ś.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*; 没, 隠, 隠没, 息滅, 滅没, 隠滅, 殄滅, 銷滅, 滅, 捨 *Ast-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-ry.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*; 不現 tatraivāntardadhe 忽然不現 *Lal-v.* 125, antarahāyīṣu 不現, 滅尽 *Suv-pr.* 146. 過受分 antarhita 分離された; (一°) によって覆われた; (田, 一°) の中に隠された, 見えないようにされた, 消滅した.

api- または pi-(後者は *Manu* 以後から普通の形である.), (田) の中に入れる; 蔽う, 閉じる, 隠す. 田 隠される, 消滅する. 過受分 隠された; 涙にぬれた(眼); 遮られた; 見えないようにされた. pi-DHā, 漢訳 裏著: vastreṇa pidhāya 裏著懐中 *Divy.* 31. abhi- (田) に向ける; (田) で包む, 囲む, 結ぶ, 連結する; ……に名前を付ける, 指示する, 命名する; 宣言する, 述べる, 説明する; 発言する, 言う; 話しかける, ……に語る (2 業). 田 指名される, 命名されるまたは呼ばれる. 過受分 指名された, 命名された; 話しかけられた; 述べられた, 宣言された, ……に関して語られた. 使役 田 命名させる; 漢訳 説, 説言, 名, 号 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*

praty-abhi- 取り戻す; 返事する, 答える; 是認する.

sam-abhi- に語る, 話しかける.

ava- (田) の下に置く, ……の内に置く, 水に浸す, 閉じこめる, 封じこむ; 注意する; 漢訳 śrotam ~ 属耳聴聞 *Ast-pr.* 391. 田 田 avadhiyatām (田) に

注意を払いなさい. 過受分 ava-hita (田) に囲まれた, 水中に落ちた; (田) に注意深い. 使役 (田) に置かせる.

vy-ava- 邪魔する; 遮る; 除去する. 田 田 vyavadhiyatām (田) から離れるべきである. 過受分 遠い; (一°) によって隠された, 見えなくされた; 防止された, 邪魔された; あるものから離れた=に単に関係する, 直接に影響されない(文法). 使役 分離する.

sam-ava- 漢訳 放 *Mvyut.*

ā- [田 では概して 田] 据える, 横たえる, ((田) の中にまたは上に) 置く; (田) に種子を下す; (田) に(行作を)捧げる; (田) に(徳を)教え込む; (田) の方を凝視する, (田) に意または思念をこらす; 注意を払う; 火に薪を入れる; 賭ける(競技において); 質に置く, 担保に入れる; (田, 田, 田) に与える, ……に許す; (田) に移す; (田) のために雇う; 田 捉える; 取る, 受け容れる, 受納する; (garbham) 孕む; (ある教義を)受け入れる; (誓を)する; (癩癩等を)起す; 産出する, 惹起する. 過受分 (田) にある; 担保とされた; 漢訳 施 *Sūtr.*

aty-ā- 高く上げる. 過受分 不愉快な.

anv-ā- (火に薪を)加える, (火を)掻き起す. 過受分 所有者に還すために他の人に手渡された(担保).

abhy-ā- (田) (火) に置く(とくに薪を); (火)に横える. upā- (upa-ā-) (田)に置く. (不変分) (業)をとまなう. 過受分 生じた, 起された.

pary-ā- (火で)囲む. 過受分 聖火の安置に関し弟に先んぜられた.

sam-ā- (火に薪を)加える; (火を)掻き起す; (田)の上にもまたは中に位置させる, 置く, 据える; (矢を)つがえる; 課する; (意または凝視を) (田) に定める; (意を ātmānam または manas) 集中する; 祈りに専念する; (思慮を matim または manas) 抱く, (iti で終る直接話法) ……と決心する; (田) に委託する; (田) に確立する; 整え直す, 矯正する; 回復する, 産出する, 惹起する; 田 (衣を)着る, (形を)とる; 専有する; (怒り, 勇気を) 示す; (尊敬を)表わす; (努力に)堪える; (業)に全く専心する; 落着ける, 確定する, 困難を処理する; 許す, 聞き届ける. 過受分 (田, 一°) と結ばれたまたはを備えた; 結合した, 集合した; ……に成らされた; 心を集中した; 意を集中した, (田, 一°) に傾注した; 漢訳 得寂止, 得(心)三昧, (心)住一境, 等持, 定, 得定 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.* 田 samādhigate 得定心, 得定, 得三昧 *Lank.*, *Mvyut.*

upa-sam-ā- (薪を)加える; (火を)掻き起す, 燃やす; 片付ける, 整える.

prati-sam-ā- もとの所に置く; 還す, 償う; (誤りを)訂正するまたは処理する.

ud- 組立てる; 建立する; 曝らす.

upa- (田)の上に・中にまたは下に(adhastāt)置く; 附加する; (田)に(努力を kriyām)用いる; 適用する, 使用する; (田)に移す; (田)に教える; 加える; (心に hr̥di) とる=熟思する. 過受分 upa-hita (一°) に置かれた; 付け加えられた, 挿入された; 田 に鑲められた(宝石); (田, 一°) によって直接先立たれ

た；(一)と結合された；(一)によって条件づけられた；もたらされた，与えられた；産出された；誤らされた，欺かれた；……として適用された；……に制約された。

ni- (因)の上にまたは中に横たえる，置く，または下ろす；(因)に埋めるまたは隠す；頭に(因)まれに(圓)置くとき=尊ぶ；(心に manasi)取る=反省する，熟思する；(因)の方に(凝視を)向ける；(因)に(意を)定める=決心する；(因)に(作業を kriyām)費す；(因)に任ずる；(因, 因)に差し出す，委託する，……に贈る；(心に hrdaye, manasi)保持する=記憶する；(因)に(心を)用いる；押える，抑制する。 (因)に含まれる。 (使役) (因)に置かせる；供託物として保留させる； (使役) 歛 Bodh-c.

adhi-ni- (因)の上に置く；(因)に贈与する。

abhi-ni- 自 (因)自身に引受けるまたは課する。

(過受分) 触れられた。

upa-ni- 傍に置く；(ある人 因)の前に置く；(因)に接近させる；持って来る，生産する；(宝を)埋める；(因)に供託する，……に委託する； (使役) 方(くらべる) Bodh-bh. (使役) °dhāpayati 蔵 Prat-m. (不変分)

uap-ni-dhāya 比，方，観 Bodh-bh.

pra-ni- 下に置く；の上にまたは中に置く；(小刀等を)使用する；(因)に(宝石を)ちりばめる；伸ばす；(圓)で触れる；(因)の方に(思想または凝視を)向ける。

(過受分) (因)に引渡された；派遣された(間者の)；(因)に専念した；集中された；確められた； (使役) 願，発願，発誓，願求，正願 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Sukh-vy. I., Vajr-pr.; 発 cittam ~ 発心 Śikṣ. 61. (不変分) (使役) 由願力 Bodh-bh.

prati-ni- 代用する；指揮する。(過受分) 適当な。

vi-ni- 分与する；わきに置く，下に置く；……の上または中に据えるまたは置く；(因)の方に(思想または凝視を)向ける；(因)(ある職に)任ずる；hrdi~ 心に抱く，念頭に置く； (使役) 覆，覆蔵 Bodh-bh., Daś-bh. (Pali vinidhāya).

saṃ-ni- (因)の中に共に置く；保持する；(因)に託する；蓄積する；(因)の方に(凝視を)向ける；近くに置く；自(因)に存する；近くに在るまたは現前する； (因)現われる。(過受分) 近い，現前の，手許にある，焦眉の，(因)に備えた。(使役) 近づける。

pari- 因，自 周りに置く；(衣を)着る；(圓)を着せる；装う；圍繞する；(因) (祈禱文の読誦を)終了する。(使役) 着せさせる，(圓)を(圓)で装う。

vi-pari- (とくに衣を)変える；自身の衣服を代える。

pra- 前に置く；(間者を)派遣する； (使役) 持 Mvyut. (因) 令勝 Abh-vy.

prati- (因)に置く；(矢を)つがえる，狙う；(杯を)口に持ってくる；(足を)下に置く；提供する；使用する；回復する；制する。 (因) (因) 始める。

ai.u-prati- 他のもの(圓)につづいて提供する。

vi- 分与する；得る，許す，与える，(欲を)充たす；決する，規定する，命令する；(生計を)安全にする；示す，(感情を)表示する；創造する，形造る，形成する；組立てる，建築する，結構する；整頓する，分かつ；(手段を)考案する；果す，実行する，生産

する，獲得する，なし遂げる；つくる，為す；工夫する；……するように(tathā……yathā)処理する；(意見，権勢，職分を)保持する；(友誼，平和を)締結する；(敵対行為を)始める；(衣を)着る；(尊敬または客人に対する厚遇を)示す；(接吻を)与える；一戦を交える；問いをかける；(例えば獅子に (simhātvam))変ずる；(圓)を(圓)にする・任ずるまたはならせる；(因)の中または上に置くまたは横たえる；前に(agrataḥ)または下に(adaḥ)置く；(心に(因))懸ける；(因)の方に(意を)向ける；(間者を)派遣する；(因, 因)のために労をとる。(因, 因)に指定されるまたは充てられる；(因)と認められる；(因)として予定される。 kim vidhiyatām tena, それをもって何をしようとするのか。(使役) 決定または確定しようと思う；(方法を)工夫しようと思う；(錢を)得たいと考える；(圓)を(圓)にしようと思う；考案しようと思う。(因) 計画する； (使役) 莊嚴，修淨；作 Daś-bh., Mvyut. (因) 作，用，所用，説 Abh-vy., Madh-vibh., Mvyut.

adhi-vi- 分割する，分配する。

anu-vi- (圓)に従って規定する；工夫する，実行する；(圓)を標準とする。(因)……に従う，(圓, 圓)によって導かれる； (使役) 辞 Buddh-c. (因) 随順，随修 Bodh-bh., Mvyut.

pra-vi- 分かつ；自 心に留める；(圓)に大いなる注意を示す。

prati-vi- 処分する，整頓する，(間者を)派遣する；(圓)に反抗する，……に逆らう；結論に反対する。

saṃ-vi- (自)決定する，規定する；命ずる；整頓する，管理する，心に留める；雇う；(圓)を利用する；(圓)を(圓)にする；mānasam~, 无氣を保つ，上気嫌である。(使役) (ある者をして)活動させる，(ある者の)処理に頼る； (使役) 議 Prat-m.

saṃ- (圓)と結合するまたは縫い合わす，合併する，結合する；構成する；集める，(圓)と(語を vācam)交わす；(眼を)閉ざす；(傷を)癒す；回復する，直す，矯正する；(因)の上に共に置く，……の中に横たえる；(概して因), (因)に向って弓に(因) (矢を)つがえる；(凝視を)(あなたへ tataḥ)向ける；(因)に与える，許す；(圓)に(名を)与える，(自)(あるもの)に(因)(信を śraddhām)置く；(因)のために使用する，に任ずる；(ある者を)(因)に巻き込む；(盟約を)締結する；(苦痛を)与える；(助力を sāhāyā)提供する；自 一緒にする，和解させる；(圓)と一致または和解する，賛同する，交友する；(圓)の好敵手である；(圓)を利用する。(因) (圓)と結合させられる，……の所有に帰す。(過受分) ……と結合した，……によって伴なわれた，……に言及した，参照として説き及ぼす，……を附与された，……に一致する，(一)によって惹起された；(圓)と友人関係にある； (使役) 密意，以……密意，抛 Abh-vy., Lank., Vajr-pr.; kim saṃdhāya 依何義 Sapt-pr. 227.

ati-saṃ- 悪口する；欺く；……に関して(prati)凌駕する；ある事を(圓)害する。

anu-saṃ- ……に考えを定める，……に注意を向ける，踏査する，討究する，観察する；(困難を)解くま

たは処理する；(自己を ātmānam) 落着かせる。
abhi-saṃ- 弓に (圓) (矢を) つがえる；(圓, 圓) に(矢等を) 差し向ける；狙う，志す，意図する；(圓) に関して一致する；打勝つ，服従させる，味方たらしめる；味方にしようと求める；(圓) と結合または提携する；固……に予定する，(圓) を(圓) に任ずる。
不變分 ……と接触して。 **過受分** (一°) に参照する； **圓** 依，約 *Abh-vy.*
upa-saṃ- 加える；増す；(圓) と連合する；(ある者に) 授ける；志す。 **過受分** (圓, 一°) を授けられた，……によってともなわれたまたは圍繞された；(一°) と一致する；……をそなえた，所有した；考慮に入れられた。
prati-saṃ- 圓 再び結合する；固 着る，適合させる；固 返す，答える；固 (圓) を洞察する；圓 固 想起する； **圓** 統，取，還接，結生 *Abh-vy., Mvyut.*
DHā 2. → DHe.
dhā 圓 (一°) 置く等；与える，聴許する。(→ **DHā 1.**)
-dhā 圓 種，品，分 → *dvi* ~, *pañca* ~.
dhāti 圓 急襲。
dhātu 1. 圓 層；(一° 圓) 成分；要素 (= *mahā-bhūta*, 通常 *kha* または *ākāśa*, *anila*, *tejas*, *jala*, *bhū* を指す)；身体の根本要素 (七をとる場合は栄養液，血液，肉，脂肪，骨，髓，精子；五の場合は耳，鼻，口，心臓に，腹を加える；三の場合は *doṣa* に等しく風，胆汁，粘液を指す)；時に三徳 (*guṇa*) を指す事もある； **圓** 教界；地または山の要素：鉍物，金属(とくに赤色の鉍物)；語根，動詞の根； **圓** 界，身界，世界，大，根，性，根性，種性，種，言根，舍利 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Kāśy., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sūtr., Suv-pr., Vajr-pr.*； ~ ṃ *prakṛtiṃ ca jñātvā* 觀(彼)根性 *Divy. 462*； **音写** 駄都 玄底。 → *tejodhātu.*
dhātu 2. 圓 吸うに適する。
dhātu-kuśala 圓 冶金に熟達した。
dhātuka 圓 **圓** 種性 *Sūtr.*
dhātu-kāya 圓 **圓** 界身 *Mvyut.*
dhātu-kausalya 圓 **圓** 界善巧，界方便智 *Bodh-bh., Sam-r.*
dhātu-kriyā 圓 冶金。
dhātu-gata 圓 **圓** 至界，行入界 *Abh-vy.*
dhātu-garbha-kumbha 圓 遺骨壺。
dhātu-ghoṣā 圓 [動詞の根に関する著作の書名]。
dhātu-carita 圓 **圓** 界行 *Bodh-bh.*
dhātu-cūrṇa 圓 鉍物の粉。
dhātu-tantra 圓 **圓** 医方明 *Gaṇḍ-vy.*
dhātu-niyata 圓 **圓** 種性定 *Sūtr.*
dhātu-patita **過受分** **圓** 隨於界 *Mvyut.*
dhātu-parikṣā 圓 **圓** [中論第五品の名] 觀六種，觀六界 *Madhy-v.*
dhātu-pāṭha 圓 [特定の規則によって並べられた動詞の語根表]；[*Pāṇini* および他の文法学者に帰せられるこの種の著作の表題]。
dhātu-puṣṭi 圓 **圓** 界増長 *Bodh-bh.*

dhātu-prakopa 圓 **圓** 四大(俱)錯乱 *Buddh-c.*
dhātu-prabheda 圓 **圓** 界差別，界差別觀 *Bodh-bh.*
dhātu-mat 圓 要素を含む；鉍物に富む。
dhātumattā 圓 鉍物の豊富。
dhātu-mala 圓 体中の不純な物質，排泄物。
dhātu-lopa 圓 語根の一部を消失させる。
dhātu-vāda 圓 試金術，冶金術；鍊金術。
dhātu-vādin 圓 試金者，鍊金学者； **圓** 能令變物者。
dhātu-vigraha 圓 **圓** 身 *Saddh-p.*
dhātu-vibhaṅga 圓 **圓** 分舍利 *Gaṇḍ-vy.*
dhātu-viṣa 圓 鉍毒。
dhātu-vṛtti 圓 (サーヤナ (*Sāyana*) の) 動詞語根に対する註釈。
dhātu-vaiśamya-ja 圓 **圓** 界互違(所)生，除四大(所)起 *Bodh-bh.*
dhātuvaiśamya-duḥkha-satya 圓 **圓** [十諦の一] 界不平和苦諦，四大増損苦諦，四大不調苦実 *Bodh-bh.*
dhātu-śata 圓 **圓** 百般顔色 *Mvyut.*
dhātu-saṃkṣobha 圓 **圓** 四大不調 *Lan̄k.*
dhātu-samatā 圓 **圓** 界性平等，諸大平等 *Lal-v.*
dhātu-sāmya 圓 **圓** (身) 和安，安吉，諸界調適 *Bodh-bh., Buddh-c.*
dhātūraga 圓 **圓** (四) 大毒蛇，(四) 大蛇 *Suv-pr.*
dhātṛ 圓 支持者，建設者；保護者；創始者，造物者；(世界の) 創造者，維持者 (= 梵天または *Prajāpati*)；運命の神；[十二 *Āditya* の一]，[梵天の息子 および *Vidhātṛ* と *Lakṣmi* の兄弟の名]；既婚の女の恋人，姦通者； **圓** 持者，能持 *Abh-vy.* 圓 *dhātri* → *dhātri.*
dhātra 圓 *Dhātṛ* に関係する。 圓 容器。
dhātri 圓 乳母，助産婦；侍女；母；土； **圓** 養母，乳母，養育之母，乳母，孀母，為住持 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Mvyut., Sapt-pr., Sūtr.*
dhātri-karman 圓 養母の役目。
dhātri-bhūta 圓 **圓** 如乳母 *Gaṇḍ-vy.*
dhātreyikā 圓 乳姉妹；親友，打ち明け話の出来るような間柄の女。
dhātreyī 圓 [同上]。
dhātvākara (°*tu-āk*°) 圓 鉍山。
dhāna 圓 (一°) 含有する。 圓 容器；住所，座席。
dhānaka 圓 [貨幣 (= 4 *kāṛṣāpaṇa*)]。 圓 こえんどろ [せり科の草本 (*Coriandrum sativum*)]。
dhānā 圓 圓 穀粒；米または大麦のあぶって砕かれたもの。
dhānāpūpa (°*nā-ap*°) 圓 大麦を油で揚げてつくった菓子的一种。
dhānā-muṣṭi 圓 一握りの穀粒。
dhānī 圓 = *dhāna*。
-dhānī 圓 → *rāja* ~。
dhānuṣka 圓 弓で武装した。 圓 射手。
dhānuṣkatā 圓 [同上 圓]。
dhānuṣkāri 圓 **圓** (音写) 陀奴劫利 *Mvyut.*
dhāneya-ka 圓 = *dhānaka*。
dhānya 圓 穀類の； **圓** 所重 *Sam-r.* 圓 (圓) 圓 圓 穀物，穀粒； **圓** 穀，米穀，稻，稻穀，稻麦，稼

糴 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mv-yut.*, *Suv-pr.*, 梵千. 男 [人名].
dhānyaka 形 (一°) = dhānya. 男 [人名]. 田 こえん
 ども (せり科の草本) [= dhānaka 田].
dhānya-kūṭa 男 または 田 穀倉.
dhānya-koṣa, -koṣa 男 穀物の貯蔵.
dhānya-caura 男 穀物を盗む者.
dhānya-jivin 男 穀粒を食べて生きる鳥.
dhānya-da 形 穀物または米を与える, 分配する.
dhānya-dhana 田 田 穀物と財産; 穀物からなる財
 産.
dhānya-dhanatas 田 穀と財との故に.
dhānya-dhanavat 形 穀物と財宝とに富んでいる.
dhānya-pañcaka 田 五穀.
dhānya-parigraha 男 漢訳 撰穀論 [書名] *Bodh-bh.*
dhānya-pātra 田 穀物のための器.
dhānya-maya 形 (女-i) 穀物からなるまたは穀物製の.
dhānya-miśra 形 穀物を混ざる, 穀物に物を混ぜて
 品質を悪くする.
dhānya-rāja 男 (穀粒の王), 大麦.
dhānya-vat 形 穀物に富む (人).
dhānya-vastu 田 漢訳 穀事 *Bodh-bh.*
dhānyāṃśa 男 穀物の粒.
dhānyāda 形 穀粒を食べる.
dhānyāmla 田 酸っぱい米粥.
dhānyārgha 男 穀物の価格.
dhānva 男 [Asura の首長である *Asita* の父系].
dhānvana 形 砂漠に位置する.
dhānvantārya 形 *Dhanvantari* に関する, *Dhanvan-*
tari の.
dhāma 男 種 [超人的存在の一種].
dhāma-keśin 形 輝く髪を持った; [太陽の称].
dhāma-cchad 形 その住所を隠す, [*Agni* および *Vaśat-*
kāra の称].
dhāman 田 一定の住所, 住居, (神々の) 領土; [と
 くに聖火のまたは *Soma* の座所]; 持場 (また種); 習
 慣, 法律, 規則; 力, 威風; 光, 輝 (また種); **priyam**
dhāma 愛好の住所, 愛好の対象; 喜悦. **madhyamaṃ**
dhāma viṣṇoḥ *Viṣṇu* 神の中間の住所 = 天空.
dhāma-mānin 形 場所的に限られた存在を信ずる, 物
 質的有形的存在を信ずる.
dhāma-vat 形 威風のある, 力強い.
dhāmādhīpa 男 太陽.
dhāya 男 層.
dhāyas 形 養育する, 清新にする. 田 (為のみ) 養育
 すること (RV.).
dhāyyā 女 連禱中に追加として挿入される詩節.
dhāra 形 (一°) 把持する, 維持する, 支持する.
-dhāra 男 漢訳 執, 持 *Mvyut.*
dhāraka 形 (一°) [同上]; 漢訳 受持, 護持, 持者,
 持 *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
dhāraṇa 形 (女-i) (一° または 田) 持する, 持つ, 含む;
 所有する; 保存する, 記憶の中に保存する; ……の
 形を取る, 似る; 漢訳 著, 受持 *Bodh-bh.* 田 支
 持すること, 把持すること; 着用すること; 持続す
 ること, 保存すること; (田) の遵守; 忍耐; 精神

的把持, 記憶; (田) に対する精神的集中; 所有; 抑
 止; 忍耐; 漢訳 受持, 持, 能持, 畜, 総持, 執, 護,
 護持, 撰持 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*,
Gaṇḍ-vy., *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-*
p., *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.* 田 ~m krtvā 護持 *Abh-vy.*
 34, *Bodh-bh.* 14.
dhāraṇaka 形 (一°) 含む. 男 債務者.
dhāraṇatā 女 漢訳 能持, 受持, 持 *Bodh-bh.*, *Rāṣṭr.*
dhāraṇa-pātra 田 漢訳 摺濾器 *Mvyut.*
dhāraṇā 女 (衣を) 着用すること; 支持すること, 補
 佐; 鎮圧; 精神的把持; 記憶; 呼吸を止めて精神を
 集中すること, 不動の放心; 固定法則; 会得; 漢訳
 持, 受持, 総持; 音写 陀羅尼 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*
 ~m Gam, 心を集中する, 克己する.
dhāraṇānvita 過受分 よい記憶力を賦与された.
dhāraṇāmaya 形 (女-i) 精神集中からなる.
dhāraṇā-yukta 過受分 精神的集中を伴った.
dhāraṇāḷambana (°na-āl°) 田 漢訳 [十二種 *ālam-*
bana の一] 任持所縁, 持境界 *Madhy-vibh.*
dhāraṇi 女 [大乘仏教で, 法を心に留めて忘れさせない
 能力または修行者を守護する能力などがある章句
 をいう. とくに後世咒文的性格の長句のものをさ
 す]; 漢訳 総持, 総持咒, 総; 音写 陀羅尼, 妙陀羅
 尼 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*,
Rāṣṭr., *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: 例 *koṭi-nayuta-śa-*
tasahasra-parivartādharmaṇi 百万億無量旋陀羅尼
Saddh-p. 327, *dhāraṇi-śrutodgrahaṇārtha-nirdeśa-*
vaiśāradya 聞陀羅尼受持演說其中義得無所畏 *Mv-*
yut. 28, 1.
dhāraṇi-dvāra 田 漢訳 (音写) 陀羅尼門 *Sūtr.*
dhāraṇi-pada 田 漢訳 (音写) 陀羅尼句 *Madhy-vibh.*
dhāraṇi-pratilabdha 過受分 漢訳 得總持 *Mvyut.*
dhāraṇi-pratilambha 男 漢訳 得總持; (音写) 得陀羅
 尼 *Saddh-p.*
dhāraṇi-mati 男 漢訳 總持慧 *Mvyut.*
dhāraṇi-mantra-pada 田 漢訳 (音写) 陀羅尼 (神) 咒,
 陀羅尼章句 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*
dhāraṇi-mukha 男 漢訳 總持門; (音写) 陀羅尼門
Sam-r., *Sūtr.*
dhāraṇi-mudrā 女 漢訳 持印母 *Mvyut.*
dhāraṇiśvara-rāja (°ni-īś°) 男 漢訳 [菩薩名] 總持
 自在王 *Rāṣṭr.*
dhāraṇi-sama 形 漢訳 猶如大地, 為大地 *Gaṇḍ-vy.*
dhāraṇy-āvartā 女 漢訳 (音写) 旋陀羅尼 *Saddh-p.*
dhāra-pūta 過受分 奔り出る水のように清い.
dhārayat 現分 [使役] (DHr) 所有する; ……に精通
 する; 支持する.
dhārayitavya 未受分 維持されるべき; (種 互の 田)
 と見なされるべき; 未受分 漢訳 宜…受持 *Dāy.*
dhārayitr 男 保有者, 所有者, 運搬人, 抑制者.
dhārayiṣṇutā 女 良い記憶の所有.
dhārā 1. 女 急流, 流れ; 驟雨 [矢, 花の形容に用い
 る]; 滴: 種 馬の歩調 (五種数える). **vasor dhārā**
 (財宝の流れ) [溶解したバターを間断なく火油に注
 ぐ儀式]; [*Agni* の妻]; [*Mālava* の都城の別名].
paramā dhārā もっとも速い歩調; 漢訳 雨, 雨滴,

流注, 流 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*
dhārā 2. 因 刃, 刀の歯; 車輪の周辺; 端, 頂上, 辺.
dhārā-kadamba 男 [植物の一種, (*Nauclea cordi-
folia*)].
dhārā-grha 中 灌水浴室.
dhārā-graha 男 *Soma* の流れからくんで充たされた
杯.
dhārānkura 男 霰, 雨滴.
dhārā-jala 中 剣の刃または切先きから滴る血.
dhārāncala 男 (器具の) 縁.
dhārā-dhara 男 雲 (水を運ぶ者の意).
dhārā-dharāgama (°*ra-āg*°) 男 雨季.
dhārā-dharātyaya 男 (雲の立ち去ること), 秋.
dhārādhirūḍha (°*rā-adh*°) 過受分 全くの頂上に立つ.
dhārā-nipāta 男 豪雨.
dhārāntara-cara (°*rā-an*°) 形 (剣の間を動く), 大胆
な, 無茶な, 傲慢な.
dhārā-patha 男 刀身の届く範囲: ~*m prā-Āpaya*
(圖) によって斬り殺させる.
dhārā-pāta 男 覆 驟雨.
dhārāya 名動 自 水の流れに似る.
dhārā-yantra 中 泉, 灌水.
dhārāyantra-grha 中 灌水浴室.
dhārāvat 形 刃をもつ.
dhārā-varṣa 男, 中 大降りの雨.
dhārā-vāhikā 因 絶えることのない水の流れ.
dhārā-vāhin 形 継続する, 絶えない.
dhārāsru (°*rā-as*°) 中 涙の洪水.
dhārā-sampāta 男 豪雨.
dhārāsāra (°*rā-ās*°) 男 どしゃぶりの雨.
dhāri 形 (一°) 持する; 男 *DHr* の 使役 (文法);
 持 *Mvyut*.
dhārikā 因 支持, 柱; 持, 能持 *Abh-vy*.
dhāriṇī 因 *Svadhā* の娘; [*Agnimitra* 王の妻の名].
dhārīta 過受分 運ばれた, 保持された等; 奉持,
 曝, 撰持 *Daś-bh.*, *Divy.*, *Saddh-p.*: ātape dhāritaḥ
 曝於炎景中, 曝日中 *Divy.* 33.
dhāritavat 過受分 持 *Saddh-p*.
dhārin 形 (一° または 圖) 持する; 着用する; 有する,
 占有する; 保管する; 持続する; 把持する, 記憶す
 る; 保護する, 遵守する; 持, 具, 具足 *Lal-v.*,
Lank., *Saddh-p*.
dhārormi (°*rā-ūr*°) 男, 因 砕け散る波, 起伏する波.
dhārta-rāṣṭra 形 (因-i) *Dhrtarāṣṭra* に属する. 男
Dhrtarāṣṭra の息子, [*Duryodhana* の 父系] (種
 =*Kuru* 族); 鷲鳥の類; 雁, 天鵝 *Mvyut*.
dhārma 形 法, 法要 *Saddh-p.*, *Śikṣ.* 因 (-i)
Śikṣ.
dhārma-kathika 形 説法, 説法者 *Bodh-bh.*,
Śikṣ.
dhārma-śravaṇika 形 能聴法者, 使聞妙法, 聴
 法 *Ast-pr.*, *Śikṣ.*
dhārmika 形 高潔な, 有徳な; 道德に心を注ぐまたは
 適合する; 法, 常修善品, 如法, 隨法, 求法,
 如法 (者) *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut*. 男 敬虔な人;
 魔法使 (因); 正法, 法物; [菩薩の異名], 法

師, 正説者 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*,
Suv-pr.

dhārmikatā 因 正義, 徳.
dhārmikatva 中 [同上].
dhārmika-mitra 男 善知識, 善法友 *Śikṣ.*
dhārmiki 因 正法, 如法 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*:
 例 *dhārmikikṣitam anupradāsyāmaḥ* 依法献納,
 依法許, 献物 *Mvyut*.
dhārmya 形 法, 如法 *Bodh-bh.*
dhārya 未受分 着用または支持されるべき; 保管され
 るべき, 把持されるべき; 耐えられるべき; 遵守さ
 れるべき; (刑罰を) 課せられるべき; (因) に (意を)
 向けられるべき; 目的にされるべき; 抑制されるべ
 き; 應持 *Samkh-k.* 中 衣類.
dhārṣṭa 形 (因-i) *Dhṛṣṭa* に由来するまたはから出た.
dhārṣṭya 中 大胆, 厚顔. → *pragalbha* ~.
DHāv 1., I. 因 (自 まれ) *dhāvati(-te)*, 流れる; 走る,
 走り廻る, ……に達する; 陥る, (業 または *paścāt*)
 を追跡する; 探す; (*abhimukham*) を指して走る;
 (業) に突撃する, (*prati*) に向って乗り進む; (因) を超
 えて滑る; 逃げる; 動揺, 移動, 馳往, 馳求,
 奔趣, 行走, 走 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*,
Suv-pr., 梵千. 過受分 *dhāvita* 走る; [=人称動詞],
 走り始めた. 使役 *dhāvayati* 走らせる, しきりに
 促がす; (自) (車乗の 圓 および道路の 業 ととも
 に) 駆る; 跳ぶ, 躍る.
anu- 追跡する; 追及する; 貫流する; 伝播する;
 随逐 *Śikṣ.*
apa- 走り去る; 従前の陳述から離れる, 変わる.
abhi- ……を指して流れる, ……に向って急ぐ; …
 …に突撃する; (業) の救助に急行する, 援助を与える;
 馳求, 固求, 随逐 *Abh-vy.*, *Suv-pr.*
ava- 滴下する.
ā- (業) に走るまたは急ぐ.
upa- ……に急ぐ, (業) に避難する.
nir- (從) から起る; 出来 *Saddh-p.*
pari- 流れ廻る, 走り廻る; ……に走って達する; ぐ
 るぐる走り廻る; (業) を追跡する: *mṛgayām* ~ 狩
 猟に従事する; 遍馳求, 徧尋覓.
pra- 流れ行く; 走り去る, 走る; (業) に行く; 走
 来, 奔逐, 馳趣, 馳走, 馳求, 走 *Ast-pr.*, *Divy.*,
Lank. 過受分 走り去った. 使役 敗走させる.
anu-pra- 追及する.
vi- 散乱する; 馳走; 流転, 走, 憂, 馳聘
Kāśy., *Lank.*, *Saddh-p.*
saṃ- 共に走る; ……に突撃する; (業) に到達する;
 流転, 随: 例 *saṃdhāvya saṃṣṭya* 流転生
 死, 随生死中, 在生死 *Ast-pr.*
DHāv 2., I. 因, 因 *dhāvati*, 清くする, すすぐ, 洗う,
 摩擦する, 磨く, 拭く; 自 *dhāvati* 摩擦する, (香
 油を) 浸み込ませる; 洗濯, 浣濯, 洗, 洗 *Av-s.*,
Divy., *Śikṣ.*: 過受分 *dhauta* 清くされた等; 純白
 な; 洗い落された; 磨かれた, 燦然たる; 白くなっ
 た; 正当の. 使役 *dhāvayate* 洗う; 洗, 著
 人洗, 令洗 *Prāt-m.*, *Mvyut.*
nir- 過受分 -*dhauta* 清くされた; 洗い落された.

pra- 使役 -dhāvayati 洗う。
 vi- 洗い去る。過受分 清くされた。
 sam- 沐浴するまたは自分自身を磨く。
 dhāva 1. 形 走 梵雜., 梵千。
 dhāva 2. 形 洗濯用の, 洗濯する, 清浄にする; 灌 梵千。
 dhāvaka 1. 形 走る等。
 dhāvaka 2. 男 洗濯夫; [著作者の名]。
 dhāvana 甲 1. 走ること, 疾駆すること, 襲撃。2. 洗うこと; 摩擦すること; 漢訳 洗, 洗濯, 洗 *Mvyut.*, *Sukh-vy. I.*, 梵千。
 dhāvālya 甲 白いこと。
 dhāvita → DHāv 1.
 dhāvitr 男 走人。
 dhāvin 形 1. (一) 走る; 2. (一) 洗う。
 dhāsi (因) 1. 女 住所, 家; 2. 男 滋養物, 慰安。
 DHi 1., V. 他 dhinoti, 満足させる; 悦ばせる; 養う。
 dhi 2., 男 (ただ 一) 容器。
 dhi 3., =adhi (たとえば dhi-ṣṭhita → Sthā).
 dhik 間投 [不満, 叱責, または 慟哭の]; (因, 因, 因, 概して 園 とともに) ああノ, 悼ましいかなノ, しばしば aho~, hā~(±kaṣṭam), ha-hā~; dhig astu, (園 または 園, ……は詛われてあれノ, ……はみっともないノ, ……はいとわしいかなノ. dhik-Kṛ 園 を叱責する; 嘲笑する, 軽んずる; 漢訳 dhik 咄哉, 咄, 此悪者 *Divy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*: dhik kaṣṭa 甚可愍 *Saddh-p.* 196; dhig grāmyaṃ nōpajivitaṃ 不用長年在家活 *Lal-v.* 269; dhik kāmāḥ 咄諸欲 *Mvyut.* 224.
 dhik-kāra 男 譴責, 不快な言葉, 叱責。
 dhik-kṛta 過受分 非難された; 嘲けられた; はずかしめられた, 叱責された; 漢訳 所訶責. 甲 園 非認, 叱責。
 dhig-daṇḍa 男 譴責。
 dhig-vaṇa 男 (Prākṛit=dhig-varṇa?) 卑しい混合階級の人 (婆羅門と *Ayogavi* との間に出た子供)。
 dhita 過受分 [DHā および DHi の]。
 dhiyaṃ-jinva 形 静慮を励ます。
 dhiyaṃ-dhā 形 敬虔な; 巧妙な。
 dhiṣaṇa 形 賢明な. 男 [Bṛhaspati の称]. 甲 (通常 一) 理性, 智; 住居, 座. 因 (-ā) [Soma の準備 および 飲むに用いる]器; 桶, 井; 理性, 意; 詩的靈感を指す: 園 =天と地; 園 三界, 天と空と地; [Kṛśāśva の妻]; [利得を支配する神の名]。
 dhiṣṭya dhiṣṇya の誤伝。
 dhiṣṭhita (adhi-ṣṭhita) 過受分. → dhi 3.
 dhiṣṇya 1. 形 靈感を促す. 男 Soma 祭場において土を盛り砂を被らせその上に火を置く八個の火炉. 甲 住所, 座; 星, 星宿, 流星 (因にも用いる); 漢訳 宮, 精蘆 *Buddh-c.*
 dhiṣṇya 2. 形 dhiṣṇya 上に置かれた (同上参照); 男このような dhiṣṇya 上に置かれた火。
 dhiṣṇya-pa 男 天界の保護者。
 DHi 1. =DHyai 考える, 静慮する。
 dhi 2. 因 思考; 意向, 目的; 意見; 知恵, 洞察, 会

得, 智力; 知識, 技術; 熟練; 宗教的静慮, 敬虔, 祈禱, 賛歌; (一) 仮想: 園 であると仮想して; 一〇 形=……に耽る; 擬人化された智力, [*Rudra-Manyu* の妻]; 漢訳 慧, 智 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Saddh-p.*, *Vijñ-v.*: āryā dhiḥ 聖慧 *Abh-vy.*: (=prajñā, 五別境の一) *Vijñ-v.*

dhi 3. 因 (=dī) 光輝。

dhita 1. DHi の 過受分; 漢訳 占相 *Lal-v.*

dhita 2. =dhitā (=duhitṛ 因) *Lal-v.*

dhita-rasa 形 液が吸出された。

dhitā 女 漢訳 女 *Śikṣ.*

dhiti 女 思考, 静慮; 認知; 熟練; 敬虔, 祈禱。

dhidā 女 娘。

dhimat 形 知恵のある, 思慮のある, 聡明な, 賢明な, 博識な; 漢訳 智者, 智慧者, 有慧者, 具慧, 成就覚慧 *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* 男 [種々の人の名]; 漢訳 [菩薩の異名] *Bodh-bh.*

dhimattā 女 漢訳 有慧, 有智 *Madhy-vibh.*

dhimattva 甲 漢訳 有慧性, 有智 *Madhy-vibh.*

dhi-mahi [DHā 1.] 園, 園 → DHā 1.

dhira 1. 形 [DHi] 続く; 安定した, 不変の, 堅固な; 決心の強い, 勇気のある; 莊重な, 平靜な, 真面目な; 不動の; 重みのある(音); (一) を固守する; 漢訳 勇健, 勇猛, 勇力, 堅固, 心決定 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

dhiram 副 じっと(見つめる)。

dhira 2. 形 考え深い, 思慮のある, 抜目のない, 賢明な; 巧妙な, (因)に熟練した。

dhira-cetas 形 堅忍不拔の心をもつ; 勇気のある。

dhiratara 比較 はなはだ賢明な等。

dhiratā 1. 女 堅固不拔; 勇敢; 静寂, 沈黙; 漢訳 勇健, 堅力持性, 不動 *Bodh-bh.*, *Sūtr.* =dhiratva.

dhiratā 2. 女 知恵。

dhiratva 甲=dhiratā 1.

dhira-dhvani 男 深みのある音。

dhira-prasānta 過受分 深くしかも静かな(声); 堅固でしかも静かな, (修辞学で劇の主人公を四つに分類したものの中の一種)。

dhiraprasānta-svara 形 深いまたは静かな声をもつ。

dhira-buddhi 女 漢訳 智慧深遠 *Saddh-p.*

dhira-bhāva 男 不動。

dhiraya 名動 他 dhirayati 激励する。

dhira-lalita 形 堅固であるが向う見ずな, (修辞学で劇の主人公を四つに分類するものの中の一種)。

dhira-sattva 形 不拔の, 堅固の。

dhirodātta (°ra-ud°) 過受分 堅固で高貴な性質の, (修辞学で劇の主人公を四つに分類するものの中の一種)。

dhiroddhata (°ra-ud°) 過受分 堅固であるが高慢な心をもつ, (修辞学で劇の主人公を四つに分類するものの中の一種)。

dhiroṣṇin (°ra-uṣ°) (勇敢であって火のように熱烈な). 男 [*Viśve Devās* の中の一神]。

dhirya 甲 思慮分別, 知恵。

dhivat 形 賢明な; 巧妙な; 敬虔な, 信心深い。

dhivan 形 熟練した。

dhivara 男 きわめて賢い人；漁夫（また男 -ka）。女 (-i) 女の漁師。

dhi-saciva 男 参議，大臣。

DHu → DHū.

DHuḥ I. 目 dhukṣate, [ただ sam とともにのみ，概して使役] samdhukṣayate 燃やす，煽る；増す；生命を吹き込む；回復する。過受分 samdhukṣita.

dhuta 過受分 漢訳 音写 頭陀，杜多，斗藪，洮汰，菟吼多，紛弾 Daś-bh., Rāṣṭr., Saddh-p., 玄応；脩治，揺振，棄除 玄応。→ dhūta.

dhuta-guṇa 男 漢訳 殊勝功德；(音写) 杜多功德，頭陀功德 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Śikṣ.

dhutaṃ-guṇa 男 [同上]；漢訳 (音写) 杜多功德 Śikṣ.

dhuta-pāpa 形 罪惡から解放されたまたは浄められた。

dhuta-vādin 形 漢訳 (音写) 行頭陀 Vin.

dhūtābhiyukta 形 漢訳 (音写) 行頭陀 Saddh-p.

dhunaya 名動，目 dhunayate 走り去る (因)。

dhuni 形 激流する，吼える，暴風雨の。女=dhuni.

dhuni 女 河。

dhundhu 男 [Kūvalāśva に殺された Asura の名]。

dhundhu-māra 男 Dhundhu の殺害者 [Kūvalāśva の名]；[Trśanku の息子の名]。

dhundhuri, -i 女 楽器の一種。

dhunvant 現分 (DHū), 振り動かす，刺激する。

dhur 女 軛の肩にもたれる部分；荷，載荷 [また譬喩的に]；棍棒；棒の先端；最高の地位，名誉職，首長；(因) (圖) の面前で；dhuri Yuj, 高位に任ずる；

dhuri krta または sthita 先頭・首位または前に置かれた；漢訳 重担 Śikṣ.

dhura 男 軛，棍棒，載荷；漢訳 軛，善軛；担，載 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.

dhuraṃ-dhara 形 軛または荷を負う，(一°)に繋ぐに適する；必要から(圖)に助力を与える。男 荷物を運ぶ動物，馬車馬；(圖)または(一°)の首領；[ある Rāk-ṣasa の名]。

dhurā 女 荷物，積荷，棍棒。

dhuriṇa 男 首領。

dhurya 形 荷を負うために訓練された，軛をかけるに適する；第一の，最上の；重大な使命を果たすにふさわしい；責任を負う。男 (圖，一°)の首領；(圖)または(一°)の達人；駄獣，馬，牛；(一°)の荷を負い得るもの；漢訳 耕牛 Buddh-c. 田 棍棒の先端の部分。

dhuryatā 女 優越，首領の職務または性格；奉仕。

dhurya-vat 圖 駄獣のように。

dhurya-vāha 男 駄獣。

dhuryāsana (°ya-ās°) 田 名誉の座，上座。

dhuryetara (°ya-it°) 男 御者(戦車の持主である勇士に従うのでとくに戦車の御者をさす)。

DHurv → DHūrv.

dhuvana 田 動揺；死刑執行場。男 火 (因)。

dhustūra 男 さんざし(曼陀羅花)の実。=dhattura.

DHū, V. dhūnoti, dhūnute, dhunoti, IX. dhunāti (まれ)；IV. 田 dhuvati (因まれ), 振る，動揺させる；(因)を振り払う；もがく；(因)追い払う；反抗す

る；(火を)煽る；漢訳 滅，滅除，降伏 Divy., Sam-r. 過受分 dhūta または dhuta 振られた，動揺させられた，動かされた，振り離された，移された，放棄された，遠ざけられた；煽られた(火)。漢訳 dodhaviti 激しく振る；振り動かす(角)；振り落す；(火を)煽り立てる。

apa- 振り払う。

ava- 振り払う，棄て去る；無視する，拒む；漢訳 破，降伏 Rāṣṭr. 過受分 ava-dhūta 駆逐された，払い去られた，移された；斥けられた，無視された，あちらこちらに動揺する；煽られた，穢れの降りかかった，汚された；(足によって)振られたまたは触られた；一切俗世間の汚染を遮離した，哲人となった。

ā- 振る，動揺させる；漢訳 抖(抖擻) Mvyut.

vy-ā- かき廻す，払い去る；あちらこちらに動かす，振り動かす。

ud- (塵を)渦巻き上げる；上げる；動揺させる；(火を)煽る；刺激する；棄て去る。過受分 ud-dhūta または ud-dhuta (一°)によって浮動させられた；(一°)で得意になった。

ni- 漢訳 垂 Rāṣṭr.

nir- 棄て去る，移す；駆逐する；斥ける，否認する。

過受分 nir-dhūta 振り廻された(杖)；悩まされた；(一°)を奪い去られた。

vi-nir- しりぞける。

pari- 払い去る。

pra- 吹き払う。

vi- 振る，動揺させる；追い払う(人または獣を)亡ぼす；駆逐する，散らす；目 払い去る，棄てる；漢訳 退散，捨離，破，滅，取除 Divy., Lal-v., Lan̄k., Sukh-vy. I. .

pra-vi- [ただ 過受分 pravidhuta のみ] あちらこちらに動揺する；散らす。

dhūta 1. 過受分 → DHū.

dhūta 2. 田 漢訳 (音写) 頭陀，杜多 Aṣṭ-pr., Divy., Saddh-p. → dhuta.

dhūta-kalmaṣa 形 =dhuta-pāpa.

dhūta-guṇa 男 漢訳 抖擻徳；(音写) 頭陀苦行，杜多功德 Divy., Mvyut. : dvādaśa-~āḥ 十二頭陀行 [1. pañḍa-pātikah 次第乞食, 2. trai-civarikah 持三衣, 3. khalupaścād-bhaktikah 先止後食, 4. naiṣadyikah 於其草上長坊不臥, 5. yathā-saṃstārikah 常乞食, 6. vṛkṣa-mūlikah 樹下住, 7. ekāsanikah 一座 [坐?] 食, 8. ābhyavakāśikah 頭路 [露?] 処居住, 9. āraṇyakah 空寂処住, 10. śmāśānikah 塚間住, 11. pāṃsu-kūlikah 糞掃衣, 12. nāmatikah 毳衣]. Dharm-s. 63.

dhūta-pāpa 形 =dhuta-pāpa.

dhūta-pāpā 女 [一河川の名]。

dhūta-pāpman 形 =dhuta-pāpa.

dhūta-vāha 形 漢訳 (音写) 行頭陀者 Saddh-p.

dhūtāgra 形 その頂上の枝が揺れている(木)。

dhūtādhva-rajas 形 旅の塵を払った。

dhūtābhiyukta 形 漢訳 (音写) 行頭陀，樂於頭陀行 Saddh-p., Sam-r. \

dhūti 男 振るもの、動揺させる者。
 dhūnana 男 (また 覆), 振ること、揺れること。
 dhūnaya (DHū) 使役 振る、動揺させる: *ava-*, *vi-* = *dhūnaya*.
 dhūnvat (DHū の) 現分: 男 [神格化された浄罪者].
 dhūpa 男 (男 および 覆) 香、香煙; 香料; 漢訳 香, 焼香, 散香, 末香 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lañk*, *Saddh-p.*, *Śiks.*, *Suc-pr.* 等。
 dhūpaka 男 [同上] (概して 一° 形); 香料製造人または香料商人。
 dhūpa-kaṭacchu 男 または 女 漢訳 香炉 *Mañj-m.*
 dhūpa-kaṭacchuka 男 漢訳 香爐 *Divy.*
 dhūpa-kuṇḍa 男 香爐。
 dhūpa-gandha 男 漢訳 焼香, 熏香, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*
 dhūpana 男 燻蒸; 香; 漢訳 芬薫, 香 *Saddh-p.*
 dhūpanāguru 男 *Agallochum* (インド産の香木=沈香, 伽羅) の一種。
 dhūpa-nirdhūpita 男 漢訳 以香薫 *Mvyut.*
 dhūpa-paṭala 男 漢訳 香(雲)蓋 *Gaṇḍ-vy.*
 dhūpa-pātra 男 香炉; 香入れ。
 dhūpaya 名動 他 *dhūpayati* 香を焚く; 燻蒸する, におわす; 煙につつま, 不明にする, 見えなくする。
 過受分 *dhūpita* 香料をもって燻ぜられた。
anu- 燻蒸する, におわす。
ava- [同上].
ā- [同上].
upa- [同上].
pra- [同上].
 dhūpa-varti 女 巻煙草の類。
 dhūpāya 名動 他 *dhūpāyati* 香を焚く; 煙を発する; 燻蒸する。過受分 *dhūpāyita*.
 dhūpi 男 覆 ある雨風。
 dhūpika 男 香の製造人。
 dhūpita 過受分 (→ *dhūpaya*); 漢訳 熏, 所熏 *Divy.*, *Lal-v.*: *dhūpita-upacāra* 普熏之 *Gaṇḍ-vy.* 404.
 dhūpin 男 (一°) におわす, かんばしくする。
 dhūpoṣman (°pa-uṣ°) 男 焚かれた香料の熱気または香り。
 dhūma 男 (男 および 覆) 煙, 蒸気, 霧; 漢訳 煙, 煙焰, 烟, 烟焰 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Divy.*, *Lañk.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, 梵語。
 dhūmaka 男 (一°) = *dhūma*.
 dhūma-ketana 男 (煙をしるしとして持っている), 火。
 dhūma-ketu 男 煙をしるしとして持っている, 煙を旗じるしとする。男 火; *Agni*; 太陽の称; 彗星; [*Yakṣa* の名].
 dhūma-gandhi 男 煙臭い。
 dhūma-gāra 男 漢訳 煙熏鼻 *Śiks.*
 dhūma-graha 男 [*Rāhu* の称].
 dhūma-jāla 男 煙の幕, あたり一面に立ちこめた煙または雲。
 dhūmatā 女 煙の状態, 蒸気の状態。
 dhūma-dhvaja 男 火。
 dhūma-pa 男 煙をのむ(管); 煙のみを呑み込む(すな

わちなんにも他に食べないで生存する); [ある *Śūdra* 階級の苦行者の称].
 dhūma-patha 男 (煙の路を行く), (火中の)供物, 犠牲; 一般的に宗教上の行作(祭式).
 dhūma-pallava 男 煙の線。
 dhūma-pāta 男 煙の巻き上り。
 dhūma-pāna 男 煙または蒸気の吸飲。形 漢訳 以煙熏鼻 *Lal-v.*
 dhūma-prāśa 男 煙を糧とする。
 dhūmamaya 男 (女 -i) 全く煙または蒸気からなる。
 dhūmaya 名動 他 *dhūmayati* 煙または蒸気で包む, 不明にする, 見えなくする; 漢訳 燒, 放烟 *Divy.*, *Lal-v.* 受 *dhūmyate* 蒸気で覆われる, (星が)朦朧となる。過受分 *dhūmita* 煙でかくされた。
 abhi-dhūmita 過受分 (*dis* 女 とともに) 太陽のまさに到るべき方位。
 pradhūmita 過受分 煙に包まれた。
 dhūma-yoni 男, 女 雲。
 dhūma-latā 女 煙の渦巻。
 dhūma-lekhā 女 煙の線; [人名, ある *yakṣa* の娘].
 dhūmavat 男 煙る, 煙を出した。副 煙のように。
 dhūmavattva 男 煙を出す状態。
 dhūmavadgati 男 煙のように動く。
 dhūma-varti 女 煙の柱; 巻煙草の類。
 dhūma-śikhā 女 煙の柱。
 dhūmānubandha 男 連続した雲のような煙, 煙雲。
 dhūmāndhakāra 男 漢訳 昏黒 *Divy.*
 dhūmābhra-jala 男 漢訳 雲霧: ~ *nirmukta* 雲霧皆除遣, 除諸雲霧 *Suc-pr.*
 dhūmāya 名動 他 自 *dhūmāyati*, -te 噴煙する; 漢訳 出煙, 烟騰 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.* 使役 *dhūmāyaya-* 煙を出させる。
 dhūmāyita 男 煙ること, 噴煙すること。
 dhūmikā 女 煙, 漢訳 彗星 *Cat-s.*
 dhūmita 過受分 → *dhūmaya*.
 dhūmin 男 煙る。
 dhūmi 女 [*Ajamīdha* の妻の名]; [他のある女の名].
 dhūmodgama (°ma-ud°) 男 上昇する煙の柱。
 dhūmodgāra (°ma-ud°) 男 [同上].
 dhūmorṇā (°ma-ūr°) 女 [*Yama* の妻の名]; [*Mārkaṇḍeya* の妻の名].
 dhūmoṣṇa-yoni (°ma-uṣ°) 女 = *dhūma-yoni*.
 dhūmyā 女 煙の雲。
 dhūmra 男 煙色の, 暗褐色の, 灰色の; 暗い(理性); 漢訳 煙 *Guhy-s.*; 黄赤(色) *Mañj-m.* 男 [ある猿または熊の名]; 覆 [ある *Rṣi* の一族の名]. 男 悪, 罪。
 dhūmra-ketu 男 [*Bharata* の息子]; [*Tṛṇabindu* の息子].
 dhūmra-keśa 男 [人名].
 dhūmra-giri 男 [ある山の名].
 dhūmra-dhi 男 曇った知性の。
 dhūmraya 名動 他 *dhūmrayati* 灰色に彩る。
 dhūmra-ruc 男 灰色または赤紫色の。
 dhūmra-lohita 男 暗赤色の。
 dhūmra-varṇa 男 煙色の, 灰色の, 暗色の, 暗赤色の。

dhūmra-sīkha 男 [人名], [ある Rākṣasa の名].
 dhūmrākṣa 形 灰色の目をもつ; 男 [ある Rākṣasa の名]; [Hemacandra の息子の名].
 dhūmrāśva 男 [Sucandra の息子の父].
 dhūmri-Kṛ, 灰色に彩る.
 dhūr-gata 過受分 戦車の前部に立つ; (一°) の頭に立つ, ……の長である.
 dhūr-jaṭa 男 =dhūr-jaṭi
 dhūr-jaṭi 男 (楯の荷をもつ), [Śiva 神の称].
 dhūrta 過受分 [DHṛ] 狡猾な, 無頼の, 悪辣な. 男 無頼漢, 悪漢, 詐欺師; 賭勝負をする人; さんざし (曼陀羅花) の実; 漢訳 怨害, 詭 *Mṛyut.*, *Saddh-p.*
 dhūrtaka 形 狡猾な, 詐欺の. 男 詐欺; 漢訳 賊 *Divy.*
 dhūrta-kitava 男 賭博者.
 dhūrta-carita 中 覆 詐欺的行為. 中 [ある著作の題目].
 dhūrtatā 女 =dhūrtatva; 漢訳 矯詐 *Śikṣ.*
 dhūrta-traya 中 詐欺師の三(人)組.
 dhūrtatva 中 詐欺.
 dhūrta-puruṣa 男 漢訳 竊偷者, 得罪人 *Divy.*, *Lal-v.*
 dhūrta-pralāpa 男 悪漢の会談.
 dhūrta-maṇḍala 中 賭博者の仲間または一群.
 dhūrta-racanā 女 詐欺的詭計.
 dhūrta 女 傷害, 傷.
 dhūr-dhara 男 首長, 導く人.
 DHṛv I. 他 (自 三過) において) dhūrva, 悩ます, 害する; dudhūrṣa 希求 他 害しようと思う.
 dhūr-voḍḥṛ 男 荷馬, 駄獣.
 dhūr-śad 男 車の案内者, 指揮者.
 dhūr-śah 強 鞞 (-śah) 形 くびき(鞞)を負う.
 dhūlana 中 塵で覆うこと.
 dhūlaya 名動 過受分 dhūlita, 具 で撒布された.
 dhūli 女 (また -i) 塵; 塵まみれの地面; 花粉; 漢訳 塵 梵維.
 dhūlikā 女 霧.
 dhūlita 過受分 → DHūlaya.
 dhūli-dhūmra 形 塵にまみれた.
 dhūli-paṭala 中 塵の雲.
 dhūlimaya 形 (女 -i) 塵まみれの.
 dhūli-varṣa 男 中 塵の雨.
 dhūsara (dhūṣara) [Dhvaṃs または DHvas] 形 塵色の, 灰色の (-tva, 中 中): ~i-Kṛ, 灰色にする.
 dhūsaraka 男 [ある豺の名].
 dhūsarita 過受分 灰色にされた.
 dhūsariman 男 塵埃色.
 dhūs-tuṇḍa 中 棒の先端.
 DHṛ, [因 はただ 三過 他 自 および 過受分 をもつのみ; 鞞 はまた 鞞, 不定, 不変分; 使役 dhāraya は 鞞 鞞 として用いられる] (圓, 因) で把持する, 支える, になう; 着用する; (因) へ運ぶ; 固持する; 固 (鞞) に執する, ……にすぎりつく; 保持する, 守る; 支持する; (為) に予定する, ……に割りあてる; 大目にみる; 抑える, 抵抗する, 逆らう; 保有する; 抑留する; ……を身につける, 所有する, 含む;

(因, 圓) に負う; 延長する; 自動 耐える; 滞留する, 存続する; (不定) することを始める; 漢訳 受持, 受, 持, 憶持, 奉持, 執; 能任持, 守護; 能持不忘, 憶持不忘, 受持無有忘失 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Gand-vy.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr. garbham* ~ 妊娠中であるまたは妊娠する. *tapo* ~ 苦行を行なう. *tulayā* ~ 秤る. *daṇḍam* ~ (因) に刑罰を課する. *dharmam* ~ 法を守る, 義務をつくす. *nikaṭe* ~ 持ち合わす. *vrataṃ* ~ 祈誓を守る. *ātmānam*, *gātram*, *jivitaṃ*, *deham*, *prānam*, *śariraṃ*, *svavapur* ~ 自分の生命を保護する, 生き続ける, 生き残る. *ātmānam*, *buddhiṃ*, *mano* ~ ……に自分の思考を差向ける, (為, 因) に注意する. (不定) することを堅く決心する. 土 *manasā* ~ 熟考する; 記憶に留める, 思い出す. *mūrdhnā(i)*, *sirasā(i)* (譬喩) 高く尊ぶ. *samaye* ~ 約束を守る; 同意させる. *keśān*, *śmaśru* ~ 頭髪または髯をはやす. 因 *dhriyate* (因) に支持される; 把持される; 固定される; くいとめられる; 残る, 耐える; 存在する, 生存する; 静止する, 立ちどまる; 自分の立場を固守する, 逆らう; 残される; (業, 為) または (不定) の準備をする; ……に着手する; 漢訳 持; 住 *Aṣṭ-pr.*, *Mṛyut.*, *Sukhy-vy. II.* 使役 漢訳 受持, 持, 任持, 護持, 堅持, 奉持; 了知; 結 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Saddh-p.*: *na ca khilaṃ dhārayati* 不結恨 *Bodh-bh. 8*; 使役 因 守護; *Budh-c.*, 生育 *Divy.* 過受分 *dhṛta* (圓, 因) または (一°) に把持された, 支えられた, になわれた; 着用された; 掴まれた; 固持された; 保持された, 留められた; 量られた; 守られた, 実行された; 持続された; 生存させられた, 存在し続ける; (一°) によって引証された; (為) または (因) の用意がある, ……に決心した; (発音において) 延ばされた; 漢訳 持 *Bodh-bh. antare* ~ 抵当に入れられた. *kare* ~ 手に掴まれた. *dhṛtavat* 鞞 因 = [人称動詞] (因) にいた; (為) に決心した. *dardharti*, *dādharti* 強意 固持する. 副 *dhṛtam* ゆっくりと.
ava 使役 決定する, 精密にまたは的確に述べる, [2つの 業 または *iti* をともなう 鞞 鞞] ……を……と確実に見なす; 聞く, 学ぶ; 理解する, 洞察する, ……に精通する; 熟考する, 熟慮する; (為) に伝える; 漢訳 得, 実解 *Laik.*, *Sūtr.* 過受分 *ava-dhṛta* 決着した, 決定した, 聞かれた; 会得された. 使役 過受分 *avadhārita* (圓) として知られる.
 ā- 使役 (因) に持ち来る; 守る. *hṛdi* ~ 記憶する; 漢訳 執, 執持, 護持, 持 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.* 因 *ādhriya* (因) に含まれる; 過受分 *ā-dhṛta* (因) に含まれた.
ud- 引出す; 上げる, 崇める [この合成語の形の多くは *ud-Hṛ* の形から区別されえない]; 漢訳 拔, 拔濟, 濟拔, 拯濟, 濟渡, 濟度, 拔救, 拔除, 拔出, 取, 汲, 離, 舉, 取出 *Abh-k.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 使役 舉 *Prāt-m.*
abhy-ud 漢訳 濟, 拔濟, 拔出, *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*

sam-ud- 漢訳 濟度 *Rāstr.*
 upa- 使役 支持する；(業)を(業)と見なすまたは考える；聞く，学ぶ；考える；漢訳 示現；緊念 *Ast-pr.*, *Śikṣ.*
 ni- 使役 (終)に下ろす，……に導く，……に与える；漢訳 決了，了 *Abh-vy.*
 nir- 使役 抜き出す，他から区別する；決定する，確かめる，立証する；漢訳 覚，了，決了，分別，觀察 *Abh-vy.*, *Lañk.*: *nirbhārayām bābhūva* 決判 *Abh-vy.* 298；使役 圖 漢訳 判定 *Vijñ-v.*
 pra- (終)に刑罰を課する；想起する；考える。
 sam-pra- 使役 ±*buddhyā*, *manasā*, *hṛdaye* 熟考する，反省する；決定する，決心する；漢訳 審観，審思，共審思，共思量，正思惟 *Abh-k.*, *Divy.*, *Vijñ-s.*
 prati- 使役 直立させる。
 vi- 把持する，になう。過受分 *vidhṛta* 別々にされた，分離された；避けられた；防がれた，止められた；持続された；所有された；*mūrdhnā(i)* ~ 頭上にのせられた；[譬喩的に] = 高く尊ばれた。
svodareṇa ~ 自身の体内に保持された。 *antare* ~ 抵当に入れられた。使役 防ぐ，鎮圧する，抑制する；漢訳 駆逐 *Divy.* 強意 別々にする，分つ；持続する，保存する；(廻)から差控える；(身体を)持つ；(商売を)する，行なう。
 sam- (単純または使役)把持する(結合する)，支える，になう；守る；保持する；記憶に保持する；存在する。圖 漢訳 任持，執持；受持 *Abh-vy.* 使役 漢訳 受持，存活 *Divy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 dhṛk 形 (一°)ただ 因 圃 = *dhṛt*.
 dhṛt 形 (一°)把持する，有する，になう。
 dhṛta 過受分 漢訳 持，持得，能受，護；育 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mañj-m.*, *Sūtr.* → *DHṛ*
 dhṛta-kanaka-māla 形 黄金の花鬘を着けた。
 dhṛta-kūrcaka 形 髭をたくわえた。
 dhṛta-kleśa 形 困難に耐える。
 dhṛta-garbhā 形 (女)妊娠している。
 dhṛta-tāla 男 = *vetāla*.
 dhṛta-daṇḍa 形 杖を振り回す，罰する；(圃)によって罰せられる。
 dhṛta-dvaidhī-bhāva 形 一致していない，未決定の。
 dhṛta-dhanus 男 射手。
 dhṛta-nīscaya 形 (圃)をしようと堅く決心した。
 dhṛta-pūrva 形 前に着た。
 dhṛta-praja 形 子孫をもつ。
 dhṛta-preman 形 愛情をおさえつける。
 dhṛtam 副 → *DHṛ*.
 dhṛta-rāṣṭra 男 (持続する王国を持つ)，[*Vyāsa*の盲目の息子で *Pāṇḍu*の兄の名，百人の息子の父]；[ある *Nāga*の名 (= *Airāvata*)]；[ある *Devagandharva*の名]；[その他種々の人の名]；圃 [*Dhṛtarāṣṭra* 王の百人の息子]；漢訳 [天王名] 圖写 提頭頼吒，提頭頼，提頼吒，提多羅吒，弟黎多曷羅惣吒囉 *Lal-v.*, *Sam-r.*, *Suv-pr.*, 玄応；持国，護国 *Divy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*；[*Gandharva*の名] 護国土，守境土 *Mvyut.*： ~ *gandharvarāja* 提頭頼吒乾闥婆王 *Gaṇḍ-vy.* 667；[宮殿の名] 持国 *Lal-v.*

dhṛta-rāṣṭri 女 *Tāmra*の娘で水鳥の母。
dhṛtavat 過受分 副 → *DHṛ*.
dhṛta-varman 男 [*Kuru* 族方のある戦士の名]。
dhṛta-vrata 形 その法または法令が確立した；戒行堅固な；堅く決心した；専念した，執心した；(不定)するの慣れた。圃 [*Rudra*の称]。
dhṛta-śarira 形 体が存在し続ける，生き続ける。
dhṛta-śri 形 幸福または栄光が確乎とした。
dhṛta-saṃkalpa 形 (終)しようと堅く決心した。
dhṛta-saṃdhi 男 *Susaṃdhi*の息子で *Bharata*の父。
dhṛtātapatra (°*ta-āt*°) 形 (王)傘をもった(*Buddh-c.*)。
dhṛtātman (°*ta-āt*°) 形 確乎たる。
dhṛti 因 固持；静止；堅固，着実；恒心；堅忍不拔；満足，満足を知ること；果断；[*Dharma*の妻として人格化された満足または決心を意味する]；漢訳 持，任持，総持，堅，堅固，堅力持，果敢，堅強，堪受，勇健，勇猛，強勇進，勇懐，勤猛，勇，安重 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 圃 [人名]。 ~ *m* *Bandh*, 堅固な心を示す，(終)に心をむける。
dhṛti-kāraṇa 圃 漢訳 [十 *kāraṇa*の一] 任持能作，持因，持能作 *Madhy-vibh.*
dhṛti-grhita 過受分 堅固な心または意志によって保持された。
dhṛti-paripūrṇa 男 漢訳 [菩薩名] 堅満 *Sadāh-p.*
dhṛti-paritātman (°*ta-āt*°) 形 満足している。
dhṛti-balādhānatā (°*la-ād*h°) 女 漢訳 堅力持性，得勇健力，勇健，勇猛，不動力 *Bodh-bh.*
dhṛtimat 形 確乎たる，堅固な，堅く決心した；満足を知る，満足した；漢訳 堅固，堅持者，堅固者，堅心，堪忍，安忍，具勇捍 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.* 圃 [人名]。
dhṛti-mattā 女 堅忍不拔等。
dhṛtimaya 形 (女 -i) 強い意志からなる；全く満足している。
dhṛti-mālin 男 [ある魔法の呪文の名称]。
dhṛti-muṣ 形 確乎とした心を奪う，気を落させる，心を乱す。
dhṛtaika-veṇi (°*ta-ek*°) 形 ただ一つの編んだ髪をもつ(喪に服したしるしとして)。
dhṛtotseka (°*ta-ut*°) 形 傲慢な。
dhṛty-abhilāṣa 男 漢訳 求現持 *Sūtr.*
DHṛṣ, I. 他 *dharṣati* (因), V. 他 *dhrṣnoti* 大胆であるまたは勇気がある；(不定)する勇気がある，(圃)に思いきって近づく；攻撃する；漢訳 摧 *Lal-v.* 過受分 *dhrṣita* (因) 大胆な，勇敢な。過受分 *dhrṣta* 攻撃された，暴行された；大胆な，無遠慮な，無礼な。使役 圃 *dharṣayati* 掴む，襲う；苦しめる；傷つける，破壊する；(婦人に対して)暴行する；漢訳 降伏，壊，摧伏，令摧，拘，破 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.* 過受分 *dharṣitā* 女 犯された女。
 apa- 圧服する。
 abhi- 圧服する。使役 *abhi-dharṣaya-* 圧服する。
 ā- 傷つける，襲う。使役 *ā-dharṣaya-* 圧迫する，苦しめる。
 nir-ā- 漢訳 摧 *Sūtr.*

pra- 襲う, 打勝つ. 使役 pra-dharṣaya- 襲う, 打勝つ; 犯す; 荒らす; 殄滅, 破, 伏 *Daś-bh.*
 dhr̥ṣita 過受分 → DHr̥ṣ.
 dhr̥ṣta 1. 過受分 [同上].
 dhr̥ṣta 2. 男 [ある魔法の呪文の名].
 dhr̥ṣta-ketu 男 *Videha* の王, [その他種々の人名].
 最上 (-tama) はなはだ勇敢な.
 dhr̥ṣtatā 女 =dhr̥ṣtatva.
 dhr̥ṣtatva 中 大胆; 傍若無人の振舞い.
 dhr̥ṣta-dyumna 男 [*Aśvatthāman* に殺された *Dru-pada* の息子の名].
 dhr̥ṣta-parākrama 形 勇敢な.
 dhr̥ṣtam 副 大胆に, 勇敢に.
 dhr̥ṣta-māna 形 自身を高く評価している.
 dhr̥ṣta-mānin 形 [同上].
 dhr̥ṣta-ratha 男 [ある国王の名].
 dhr̥ṣti 男 (單 副) 火箸; [*Daśaratha* 王の大臣の名]; [*Hiranyakaśipu* の息子の名]. 女 大胆, 勇氣.
 dhr̥ṣṇu 形 大胆な, 勇氣のある, 向う見ずの; 勇猛な, 強い, 威勢のある. 男 [人名]. 中 dhr̥ṣṇu 副.
 dhr̥ṣṇutva 中 勇氣, 大胆.
 dhr̥ṣṇuyā (具) 副 大胆に, 猛烈に.
 dhr̥ṣya 未受分 (副) によって襲われ易い; 征服されるべき, 攻撃できる.
 DHe, I. 中 dhayati, 吸う; 飲む; 吸収する, 吸上げる. 過受分 dhita. 使役 中 dhāpayate 哺育する, 養育する.
 dhenā 女 乳牛; 牛乳の献供.
 dhenu 形 乳を生ずる. 女 乳牛, 牝牛; (一°) (動物の名とともに) 雌; (婆羅門に対する) 牝牛の代用をなす供物; [譬喩的に] 地; 乳; 醇乳汁 *Śikṣ.*
 dhenuka 男 [*Balarāma* に殺された *Asura* 等その他種々の人の名]. 中 [ある巡礼所の名]. 女 -ā 牝牛, 乳牛; 雌, 女.
 dhenumat 形 乳を生ずる; 'dhenu' なる語を含む. 女 -matī *Devadyumna* の妻.
 dhevanāduha (°nu-an°) 男 副 乳牛と牝牛.
 dheya 未受分 創造されるべき, 置かれるべき, 保持されるべき等; なされるべき. 中 (一°) の譲渡等. → DHā.
 dhehi [DHā I. の 2 副].
 dhairya 中 堅固, 確乎, 恒心, 堅忍不拔; 莊重, 堅く決心した態度; 頑固; 剛毅; 勇猛, 勇健; 勤, 勤勇, 剛強心 *Bodh-bh., Divy., Sūtr.*
 dhairya-kalita 過受分 心の落ち着きを得た, 堅固不拔の, 平静な.
 dhairyatā 女 忍耐.
 dhairya-dhara 形 強固な, 不断の, 忍耐する.
 dhairyavat 形 堅忍不拔の精神を持った.
 dhairya-vṛtti 形 着実に行なわれた. 女 落ちついた行為または態度.
 dhavata 中 音階の第六音符, a. 男 明意(第六音) *Mvyut.*
 dhupati 中 [=dhovati 洗う], 洗(盥) *Śikṣ.* → DHāv 2.
 dhoyin, -yī または -yika 男 [ある詩人の名].

dhorāṇi 女 連続している一列または一線; 伝承.
 dhauta 過受分 [DHāv 2 から]; (音写) 杜多(行) *Śikṣ.*
 dhauta-danta 形 磨かれた歯の, 綺麗な歯の.
 dhauta-pāṇi 男 淨洗手; (音写) (行杜多者) *Śikṣ.*
 dhauta-pātra 中 空鉢 *Lank.*
 dhauta-mūla 形 根の洗われた(樹木).
 dhautātman (°ta-āt°) 形 心の清浄な.
 dhautāpāṅga 形 輝いためじり(目尻)の.
 dhaundhu-māra 形 *Dhundhumāra* に関する.
 dhaumya 男 [ある *Ṛṣi* の名]; [*Pandava* 族の *pu-rohita* の名]; [*Valmiki* の弟子の名].
 dhaureya 形 (國 または 一°) の頭に立っている; 荷負 *Sam-r.* → puruṣa~.
 dhaureyaka 男 荷馬, 馬.
 dhaur-jāta 形 (女 -i) *Śiva (Dhūrjati)* に属する.
 dhaurtya 中 詐欺, 瞞着.
 dhma 形 吹く. 男 (ただ 一° のみ) を吹くもの.
 DHmā, I. 中 dhamati (法螺貝等を) 吹く, ……の上
 に吹きつける, (火を) 点ずる; (團) を (因) に吹き込む; (送風して) 溶かす; 投げる. 過受分 (因) dhamita; 過受分 dhmāta 吹かれた, 膨らまされた, 膨脹した; 煽られた, 興奮した. 使役 dhmāpaya; 過受分 dhmāpita 灰燼に帰せられた.
 ā- (法螺貝を) 吹く. 中 空気で充たされる, 膨脹する. 過受分 ā-dhmāta 膨脹した, 膨らまされた [譬喩的に].
 upa- (團) の上に吹きつける.
 nir- 吹き払うまたは吹き消す.
 parā- 吹き払う.
 pra- (法螺貝を) 吹く. 中 声高く宣伝する.
 vi- 吹き散らす, 消散させる; 除, 滅, 銷滅, 除滅, 逐, 能滅, 壊, (能) 破壊, 能破, 消, 銷除 *Gand-vy., Kāśy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.* 使役 vidhamayati (=vidhmāpayati). 焚燼, 破壊, 消, (能) 破, 飄湯 *Daś-bh., Divy., Śikṣ.*
 dhmāṅkṣa 男 鳥 [恐らく dhvāṅkṣa の誤記].
 dhmāta 過受分 → DHmā.
 dhmātavya 未受分 吹かれるべきまたは(火が)煽られるべき.
 dhmāna 中 膨脹, 膨れ上がること.
 dhmāpita 使役 過受分 所焼 *Divy.* → DHmā.
 dhyāta 過受分 → DHyai.
 dhyāta-mātrāgata (°ra-āg°) 過受分 ただ想起するだけですぐに現われる.
 dhyāta-mātropanata (°ra-up°) 過受分 [同上].
 dhyātavya 未受分 想起されるべきまたは静かに瞑想(思索)されるべき. 中 罪人 人は考える(瞑想)すべきである.
 dhyātavyatva 中 [同上].
 dhyā-tr 男 反省する人, 思索家; 禪者, 能思, 能思惟 *Lank.* → vibhāvana~.
 dhyātopagāmin (°ta-up°) 形 考えるや否や現われる.
 dhyātopanata (°ta-up°) 過受分 考えるや否や現われた.
 dhyātopasthita (°ta-up°) 過受分 [同上].

dhyāna ㊦ 静慮；宗教的瞑想；**漢訳** 定，思惟，静慮，修定；**音写** 禅，禅那；禅定；禅思，*Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千.: aprathama-dhyāna 初禅 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.* ~m ā-Pad, ā-Sthā または ~m Gam, 瞑想に入る。

dhyāna-gocara ㊦ **漢訳** (音写) 得禅行 *Sam-r.*

dhyāna-cakṣus ㊦ 心の眼。

dhyāna-citta ㊦ **漢訳** 静慮心，定心 *Abh-vy.*

dhyāna-ccheda ㊦ 瞑想の破壊，邪魔。

dhyāna-tatpara ㊦ 思索に深くふけた。

dhyāna-drṣṭi ㊦ 心眼で見る。

dhyāna-dhīra ㊦ 瞑想にふけた。

dhyāna-dhyāyin ㊦ **漢訳** (音写) 住禅 *Saddh-p.*

dhyāna-nitya ㊦ =dhyāna-dhīra.

dhyāna-niṣṭha ㊦ =dhyāna-dhīra.

dhyāna-para ㊦ =dhyāna-dhīra; **漢訳** 端坐思惟；**音写** 宴黙禅思 *Av-ś.*, *Buddh-c.*

dhyāna-pārami ㊦ **漢訳** (音写) 禅定 *Sūtr.*

dhyāna-pāramitā ㊦ **漢訳** 静慮到彼岸；**音写** 禅波罗蜜，禅那波罗蜜；**音写** 禅定波罗蜜多，静慮波罗蜜多 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

dhyāna-pūta ㊦ **過受分** 沈思によつて浄められた。

dhyāna-pratiṣṭhita ㊦ **漢訳** 安住静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyāna-ṭṭi ㊦ **漢訳** (音写) 禅悦 *Saddh-p.*

dhyāna-prīty-āhāra ㊦ **漢訳** (音写) 禅悦食 *Saddh-p.*

dhyāna-balavat ㊦ **漢訳** 勇健静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyāna-balin ㊦ **漢訳** 勇健静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyāna-bhūmika ㊦ **漢訳** 静慮地 *Abh-vy.*

dhyāna-yoga ㊦ 深い瞑想，宗教的専心。

dhyānayoga-para ㊦ =dhyāna-tatpara.

dhyāna-rata ㊦ **漢訳** 可樂静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyānavat ㊦ 宗教的瞑想に熱心な，瞑想にふけた；**漢訳** (音写) (深) 入禅定 *Saddh-p.*

dhyāna-vaśin ㊦ **漢訳** 自在静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyāna-vaśa ㊦ **漢訳** (音写) 随禅 *Aṣṭ-pr.*

dhyāna-vimokṣa-samādhi-samāpatti-jñāna-bala ㊦ **漢訳** [如来十力の一] 静慮解脱等持等至智力；**音写** 知諸禅定解脱力，具知禅定解脱三昧三摩跋提，禅解脱三昧正受智力，禅定智力，定智力 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

dhyānavimokṣasamāpatti-saṃkleśa-vyavadāna-vyutthāna-jñāna-bala ㊦ **漢訳** 淨[静?] 慮解脱等持等至智力 *Dham-s.* 76.

dhyāna-vihāra ㊦ **漢訳** 住定 *Bodh-bh.*

dhyāna-vyāvartana-kuśala ㊦ **漢訳** 静慮善廻轉 *Bodh-bh.*

dhyāna-sukha ㊦ **漢訳** (音写) 禅樂 *Sūtr.*

dhyāna-stimita-locana ㊦ 瞑想のため眼が不動の。

dhyāna-sthita ㊦ **過受分** 瞑想にふけた。

dhyānānśrava-saṃvara ㊦ **漢訳** (音写) 禅護及無流護 *Sūtr.*

dhyānāntara ㊦ **漢訳** 中定，中間定，中間静慮，静慮中間 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

dhyānāntarāya ㊦ **漢訳** 破定 *Śikṣ.*

dhyānāntarikā ㊦ **漢訳** 中間静慮 初定中間 *Abh-vy.*

dhyānāpādāṃśa (°na-āp°) ㊦ 瞑想の報いにあずかる。

dhyānārama (°na-ār°) ㊦ **漢訳** 可愛静慮 *Aṣṭ-pr.*

dhyānāspada (°na-ās°) ㊦ 瞑想の場。

dhyānāsvāda (°na-ās°) ㊦ **漢訳** 味静慮 *Bodh-bh.*

dhyānika ㊦ 宗教的瞑想から生ずる。

dhyānin ㊦ 宗教的瞑想に熱心な，考える，想像する；**漢訳** 修静慮者 *Bodh-bh.*

dhyāpita 1. **使役 過受分 漢訳** 以火焚之 (版本 dhmāpita) *Divy.*；**音写** 闇毘，茶毘 (版本 dhvāpita) *Rāṣṭr.*

dhyāpita 2. **使役 過受分 漢訳** 增益，所增益 *Abh-vy.*

dhyāma ㊦ 芳香ある草の類。

dhyāma-kara ㊦ **漢訳** 障蔽 *Rāṣṭr.*

dhyāmi-karaṇa ㊦ (=kṣāmi-karaṇa) **漢訳** 令暗，昧了 *Mvyut.*

dhyāmi-Kṛ **漢訳** 隱蔽，映蔽，隱蔽不現 *Daś-bh.*

dhyāmi-kṛta (=kṣāmi-kṛta) **過受分 漢訳** 闇蔽，令暗，昧了 *Lal-v.*, *Mvyut.*

dhyāyat ㊦ 瞑想する，沈思する；想像する。

DHyāyati, DHyāyati ㊦ 動 もやす (=Pali jhāyati)；**漢訳** 焼 *Mvyut.* → Kṣai.

dhyāyam ㊦ (業) について熟考して。

dhyāyamāna ㊦ 現分 沈思された，考えられた，瞑想される。

dhyāyikā → unmeṣa ~.

(āryā-)dhyāyita-muṣṭi-sūtra ㊦ **漢訳** [経の名] [聖入定拳経] *Madhy-v.* 296, 516.

dhyāyitva =°tvā **漢訳** 消 *Lal-v.*；→ Kṣai

dhyāyin ㊦ 瞑想にふけている；**漢訳** (音写) 禅定，坐禅；正観，修定，修観行，修習静慮，静慮，修禅 (比丘) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

[a]dhy-ūṣita **過受分** [Vas, 輝く]，まばゆいばかりに白い。

dhyuṣitāsva ㊦ 男 [王子の名]。

dhyeya **未受分** 瞑想されるべき；(困) と考えられるべき；**漢訳** 可思，所思惟，禅所縁 *Laṅk.*

DHyai, I. 他 dhyāyati, II. 他 dhyāti (叙詩)，沈思する，(業) を瞑想する；考える，熟考する；**漢訳** 修習定，修静慮，思量，審慮，摂念，禅思 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.* **過受分** dhyāta 考えられた。

anu- 想起する，瞑想する。 **過受分** 考えられた。

abhi- ……に心を注ぐ，……に眼を投ずる，欲する；想起する；瞑想にふける；(業) を (業) と考える；(困) に (業) を課す。

ava- 軽蔑する，呪詛する；**漢訳** 生嫌恨，生嫌議，生嫌(忿)，歎驚怪，訶(責)，毀，嗤笑 *Divy.*, *Mvyut.*, *Vin.*: avadhyāyanti kṣipanti vivācayanti 訶責 *Vin.* 122.

ā- 想起する；(困) に対して (業) を望む。

ni- 注目する；**漢訳** 思惟，一心観，観，察，諦観，実心，深慮 *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* **使役 漢訳** 作(是)念 *Śikṣ.* 希 ㊦ ni-didhyāste 注意深く考える，注意する。

upa-ni- **漢訳** 審慮，至心観察，諦察，観，審観察，

観察, 思惟, 審……思惟, 作是念 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Śikṣ.*
pra-ṇi- 熟考する, (業) に注意を向ける.
nir- ……について考えをめぐらす, 沈思する.
pra- 熟考する; (業) について考える; 漢訳 沈思, 思惟 *Buddh-c.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*
va- (=ava) 漢訳 訶責 *Vin.*
saṃ- 考える, 熟考する.
dhra 形 (女 -i) (一°) 保持する = dhara.
DHraj, I. 他 **dhrajati**, (風, 鳥等が), 滑る, 飛ぶ, 徘徊する.
dhriyamāna (DHr) 漢訳 保持された等; 生存する, 存在する.
dhru-ti (因) 因 誘惑 [DHvr].
dhruva 形 [DHr] 決心の堅い, 安定した, 不断の; 久遠の, 無窮の, 固定した, 不易の; 確実な, 必定の; 漢訳 常, 不変, 無有変易, 堅固, 堅牢, 堅, 不動, 堅牢想, 不動想, 定, 強, 無尽, 続 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vijñ-t.* → **adhruva**. 男 北極星: [*Uttanapāda* の息子および *Manu* の孫として人格化される; その他種々の人の名].
dhruvam 副 確かに; 疑いなく; 漢訳 必, 定, 必定, 決定, 畢竟, 是慶 *Abh-vy.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
dhruva-kathana-yoga 中 漢訳 続説 *Sūtr.*
dhruva-kṣiti 形 確実な地位または住所をもつ.
dhruva-gati 女 確実な位地. 形 しっかりと歩く.
dhruva-sīla 形 自己の住所を変えない, 常に一定の所に居住する; 漢訳 (音写) 常戸羅 *Sūtr.*
dhruva-saṃdhi 男 [人名] = dhṛta-saṃdhi; [*Puṣya* の息子].
dhruva-siddhi 男 (確実な回復をもたらす); [*Agni-mitra* 王の宮廷のある医師の名].
dhruvā 女 供儀用の匙 [三種中の最大].
dhruvākṣara 中 *Viṣṇu* 神に具現された永遠不変の音節 *Om*.
dhruvā-giti 女 [特別の抑揚の名].
dhrauvya 形 不動性または永続性を附与する. 中 不動; 久遠; 確乎, 必定; 漢訳 恒常 *Bodh-bh.*
DHvaṃs, I. **dhvaṃsati**, (-te) 崩壊する, 片々に瓦解する, 亡ぶ; 去る, 離れる (ただ 命 のみ). 中 **dhvāsyate**; 漢訳 壊, 失 *Mvyut.* 過受分 **dhvasta** 崩壊した; 失なわれた; 見えなくなった; (男 または 一°) によって覆われた. 使役 **dhvaṃsayati**(-te) 打倒する; 取り毀す; 破壊する; (婦人を) 犯す; 過受分 **dhvaṃsita**.
anu- 漢訳 謗 *Prāt-m.*
apa- 過受分 権力を失なった; 地位を失なった; 破壊された.
pari- 過受分 (一°) によって覆われた; 破壊された.
pra- 流される; 粉々になる; 滅亡する; 漢訳 滅, 滅壊. 過受分 **-dhvasta** 亡ぼされた; 使役 **-dhvaṃsayati**(-te) 崩壊させる, 破壊する.
vi- 散らす. 過受分 破壊された, 荒廃した. 使役 砕く, 蹂躪する, 荒らす, 破壊する; 漢訳 退散割;

断 *Lal-v.*, *Śikṣ.*

dhvaṃsa 男 衰微; 損失; 破壊, 零落, 破毀.
dhvaṃsaka 形 (一°) 破壊する.
dhvaṃsa-kārin 形 (一°) を破壊する; (婦人を) 凌辱する.
dhvaṃsana 形 離散させる, 破壊する, 消失させる. 中 破壊, 潰滅; 零落; 漢訳 降 *Lal-v.* → *māra* ~.
dhvaṃsita 使役 過受分 → *DHvaṃs*.
dhvaṃsin 形 亡ぼす; 破壊する.
dhvaja 男 幢, 旗, 旌旗; 記号, 標識, 象徴; (神格の) 属性; 居酒屋または酒造者の看板; 漢訳 幢, 幢幡, 幡, 宝幢, 幢相, 表相, 相, 幢麾, 旗 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵維. → *jhaṣa* ~.
dhvaja-grīva 男 [ある *Rākṣasa* の名].
dhvaja-druma 形 樹木として旗をもつ.
dhvaja-paṭa 男 旗布, 旗.
dhvaja-yantra 中 旗竿を立てる一種の装置.
dhvaja-yaṣṭi 女 旗竿.
dhvajavat 形 旗で飾られた; (とくに罪の) 烙印を押された. 男 酒造者, 酒屋; 旗手.
dhvajavati 女 漢訳 幢至 (?) [女神の名] *Lal-v.*
dhvaja-vaijayanti 女 漢訳 勝幡 *Saddh-p.*
dhvaja-hṛtā (形) 女 漢訳 旗得 *Mvyut.*
dhvajāṃśuka 中 = *dhvaja-paṭa*.
dhvajāgra-keyūra 男 漢訳 妙幢相 (三昧), 幢頂臂巖 (三摩地) *Mvyut.*, *Saddh-p.*
dhvajāgra-keyūrā-dhāraṇi 女 漢訳 [仏典の名, 無能勝幡王如来莊嚴陀羅尼經].
dhvajāgra-nīśrāvaṇi 女 漢訳 [数の名] 音写 度闍阿伽羅摩尼舍梨, 度闍阿伽摩尼舍梨 *Lal-v.*, *Mvyut.*
dhvajāgra-maṇi 男 漢訳 [数の名] 音写 度闍阿伽羅摩尼 *Lal-v.*, *Mvyut.*
dhvajāroha (°jā-ār°) 男 旗につける装飾の一種.
dhvajāhṛta (°jā-āh°) 過受分 軍旗の下で捕われた, 戦場で捕えられた.
dhvajin 形 旗で飾られた, 旗を持つ; とくに罪の烙印を押された. 男 酒造者, 酒屋.
dhvajini 女 軍隊.
dhvajini-pati 男 軍隊の長または指揮者, 隊長.
dhvajini-pāla 男 = *dhvajini-pati*.
dhvajī-Kṛ, ……の旗を掲げる; 広告する; 弁解する, 口実にする.
DHvan 1. ただ 三過 **adhvanit** のみ, (怒りが) 鎮まる. 過受分 **dhvānta** 暗い. 使役 **dhvānayati** 覆う; 黒くする.
DHvan 2. 他 **dhvanayati** 響かす, 叫ぶ, 騒音を立てる. 使役 **dhvānayati** 響かせる, 鳴らす; (因) を暗示する. 中 **dhvanyate**.
abhi- 唸る, ヒューと鳴らす, (矢が) 風を切る音を発する.
pra- 鳴り響く.
dhvanana 中 音響; 暗示, 指示.
dhvani 男 音, 声; 叫声, 騒音; 雷鳴; 反響, 旋律; 暗示的意味 (修辭); 暗示, 指示; 漢訳 声, 言声 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

dhvani-kārikā 女 園 [不明の作者によって書かれた百二十詩節からなる修辞学書].
 dhvaṇita 過受分 鳴り響く. 田 音; 騒音; 雷鳴; 震動声; dhvaṇitārtha 声品 Śikṣ.
 dhvanyātmaka (°ya-āt°) 形 不明瞭な(音).
 dhvany-āloka 男 [Dhvani 説を述べた Ānandavardhana 作の修辞学書].
 dhvasan 男 [王の名].
 dhvastra 形 撒布された, 覆われた; 塵埃にまみれた, 朦朧とした.
 dhvasta 過受分 漢訳 滅, 失壞; 墮落 *Laṅk.*, *Mṛyut.* → *DHvaṃs.*
 dhvasta-kamala 形 蓮華の枯れ失せた(池).
 dhvasta-preman 形 愛情のなくなった.

dhvasta-mūrdha-ja 形 毛髪を失なった, 禿頭の.
 dhvasta-rajah-sattva-tamo-mala 形 三徳 (triguṇa) のけがれを脱した.
 dhvastākṣa 形 (女 -i) 眼のくぼんだ.
 dhvasti 女 消失, 消滅, 終止; [瑜伽行者 (yogin) の四地中の一でこの段階で業の一切の果は消失する].
 dhvasra 形 しおれた, 衰えた, 衰退した; 脱落する.
 DHvāṅkṣ, I. 田 dhvāṅkṣati 叫ぶ, 咆吼する.
 dhvāṅkṣa 男 鳥; 漢訳 孤頂鳥, 烏鴉, 青鳥 *Mṛyut.*
 dhvāna 男 さわめき, 唸り声; 音響.
 dhvānta 過受分 覆われた, 暗い. 田 暗黒 (覆). → *DHvan* 1.
 dhvānta-jāla 田 暗黒の網すなわち夜の闇.
 DHvṛ, I. 田 dhvārati 曲げる, 打倒する, 破壊する.

N

na 1. [nau, nas における代名詞語幹].
 na 2. (しばしば °— = a- 2.), 不変辞 ……でない; (数詞とともに = 田 または 田) ……だけたりない: ekayā na vimśatiḥ 十九; ekān na trimśat 二十九; (田 とともに) ……しないために; 田 ……のような, ……に似た(正確には然らず, ほとんど; すなわち na = yathā を否定の na と同起原とみる説明. AはBと‘全等ではない’, ‘ほとんど同じ’ > ‘の如く’の意味がでる. 現在の学説としては, 両 na が同起原か否か決定されない. = Gk. *vai*). 繰返される時には極めて強い肯定を意味する (ただし例外的には強められた否定). 第二またはその後の句においてはしばしば ca, vā, api vā によって置換えられ, または省略されることすらある. しばしば api, api ca, u, uta, eva, khalu, ca, cāpi, caiva, ced, tu, tvena, vā, atha vā, ha によって強められる; 漢訳 無, 不, 非, 未 *Abh-ry.*, *Bodh-bh.*, *Mṛyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sapt-pr.*: na hi jātu 未嘗.

Naṃś → Naś 2.

nak (ただ 田 のみ), 夜 (田).

na-kāra 男 n 音; 否定の na; 漢訳 (音写) 那字 [五十字門の一], na-kāre nāma-rūpa-parijñā-śabdaḥ, (→ a-kāra) 唱那(上声) 字時出遍知名色声 *Lal-v.*; (音写) 龔字 [四十二字門の一]; na-kāraṃ parikīrtayato nilaya-pratīlabdham nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam, 唱龔 [鼻音] 字時能甚深入般若波羅蜜門名証得無依無住際 *Gand-ry.*

na-kimcana 形 無一物の, 乞食のような.

na-kimcid 田 無, 無一物.

na-kimcid-api-saṃkalpa 男 何物をも欲しないこと.

na-kis 不変 誰も …… ない; ……ではない, 決して ……ない.

na-kim 不変 ……ではない, 決して ……ない.

na-kutaścid-bhaya 形 どの方面からも怖れの及ばない.

nakula 1. 男 マングース, 大黃鼠(蛇および鼠の撲滅者); [*Pāṇḍu* の息子の名]; 漢訳 (音写) 諾拘羅 *Sur-pr.*; 鼠狼, 黄鼠, 大黃鼠 *Bodh-bh.*, *Mṛyut.*, 梵准.

na-kula 2. 田 漢訳 無種 *Mṛyut.*

nakulaka 男 [恐らくは財布の一種]; *Divy.* 124. 田 漢訳 具鼠殿 *Mṛyut.*

nakulākṣa 形 漢訳 眼如黄鼠 *Mṛyut.*

nakulākhyāna (°la-ākḥ°) 田 [大黃鼠物語; *Mahābhārata* の節の表題].

nakulikā 女 nakula の雌.

nakuli 女 雌大黃鼠.

nakta 田 夜; (苦行として)夜間にのみ食べること.

naktam (業) 副 夜に, 夜間に.

naktaṃ-cara 形 (女 -i) 夜間に徘徊する. 田 夜間に活動する獣; 悪者. naktam-cari 女 鬼女.

naktaṃ-careśvara (°ra-iś°) 男 悪鬼の王.

naktaṃ-caryā 女 夜間に徘徊すること.

naktaṃ-cārin 形 夜間に徘徊する.

naktaṃ-dina 田 田 夜と昼. naktam-dinam 副 昼夜に.

naktaṃ-bhogin 形 夜間にのみ食べる.

nakta-bhojiva 田 夜間にのみ食べること [苦行の一種].

nakta-bhojin 形 夜間にのみ食べる.

nakta-māla 男 [樹木の名, *Pohgamia glabra*].

naktayā (女 田) 副 夜間に.

nakti 女 夜.

naktośas (°ta-uś°) 女 夜と曙.

nakrā 男 鱔; 漢訳 鱔 *Mṛyut.*

nakra-ketana 男 愛の神 [鱔を標識とする].

nakra-graha 男 漢訳 蛟龍 *Divy.*

Nakṣ, I. nakṣati 近づく; 届く, 到達する.

abhi- (業) に到る, ……に達する.

nakṣatra 田 天体; 星; 星座; 星宿 [元来は二十七, 後には二十八: *Dakṣa* の娘および月の妻として人格

化される]; 星, 星宿, 星辰, 宿 *Bodh-bh.*, *Lañk.*, *Mañj-m.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵維.
nakṣatra-grāma-yājaka 形 Nakṣatra に供物を捧げる。
nakṣatra-nātha 男 (群星の主), 月。
nakṣatra-patha 男 星の進路, 星空。
nakṣatrapatha-varcas 甲 星空の光輝。
nakṣatra-pāthaka 男 占星家。
nakṣatra-mārga 男 =nakṣatra-patha。
nakṣatra-mālā 女 星の華鬘または星の群; 象の頭の裝飾。
nakṣatra-mālāya 百動 百 °mālāyate 象の頭飾りのように見える。
nakṣatra-yājaka 形 =nakṣatra-grāma-yājaka。
nakṣatra-yoga 男 (月と) 星座との結合。
nakṣatra-yogin 形 星座と結合した。
nakṣatra-rāja 男 (群星の王), 月; [仏名] 宿王 *Sukh-vy. II.*; [菩薩名] 宿王 *Saddh-p.*
nakṣatrarāja-vikriḍita-samādhi 男 宿王戯三昧, 樂宿王三昧 *Saddh-p.*
nakṣatrarāja-saṃkusumitābhijña 男 [菩薩名] 宿王華通 *Saddh-p.*
nakṣatra-rātri 女 歳星節日 *Divy.*
nakṣatra-loka 男 星の世界; 星空。
nakṣatra-vaṃśa 男 諸宿変 *Divy.*
nakṣatra-vidyā 女 天文学, 星学; 占星術。
nakṣatra-vithi 女 天体の進路。
nakṣatra-vṛṣṭi 女 星の雨, 流星。
nakṣatra-śavas 形 多数なること星に匹敵する, 星と等しく多数の。
nakha 男 甲 (手足の) 爪; (猛獣猛禽等の) 鉤爪; [鶏のけづめ(距)]; 爪, 甲, 指甲, 指爪甲, 爪甲, 指爪, 具爪 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Muyut.*, *Rāstr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵維。
nakha-khādin 形 爪を嚙む。
nakha-cchedana 甲 爪を切ること。
nakha-cheda 形 断割指爪 *Śikṣ.*
nakha-nyāsa 男 鉤爪を突込むこと。
nakha-pada 甲 爪痕, 搔痕, 擦過傷。
nakhapada-sukha 形 引搔いて愛撫する。
nakhaṃ-paca 形 爪を焼く; 僅少の, 乏しい(水)。
nakhara 形 鉤爪の形をした, 曲がった。男 曲がった小刀。男 または 甲 (女 -ā) 爪, 鉤爪, けづめ; 搔痕。
nakharāyudha (°ra-āy°) 形 鉤爪で武装した。男 獅子, 虎, 雄鶏。
nakha-viṣkīra 男 鉤爪で引き裂く鳥, 猛禽; 鶉鶏類の鳥。
nakhāgra 甲 爪の尖端; 爪上 *Saddh-p.*
nakhāghāta (°kha-āgh°) 男 爪傷, 擦過傷。
nakhāṅka 男 =nakha-pada。
nakhā-nakhi 男 (互いに) 爪と爪と相對して, 必死になって(格闘する)。
nakhāyudha (°kha-āy°) 形 鉤爪で武装した。男 鉤爪をもつ動物; 猿, 虎, 獅子, 雄鶏。
nakhāyudhatva (°kha-āy°) 甲 鉤爪で武装すること。

nakhin 形 爪・鉤爪またはけづめを具備した。男 鉤爪をもつ獣。
naga 男 山; 樹木, 植物。
nāga-nadi 女 [河の名]
naga-nimna-gā 女 山の溪流, 急流。
nagara 甲 町, 市, 都市, 都城; 城, 城邑, 邑, 城郭, 聚落, 城隍, 国, 国城 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Lañk.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵維.: nagaram vinirmitam 化城 *Saddh-p.*
nagara-kārya 甲 人間種種事務, 国事 *Gand-vy.*
nagara-kṛtya 甲 国城事, 城事 *Ast-pr.*
nagara-gāmin 形 都市に通ずる(道)。
nagara-ghātaka 男 壊城邑者 *Muyut.*
nagara-jana 男 町民, 市民。
nagara-devatā 女 主城神 *Śikṣ.*
nagara-daivata 甲 町の神。
nagara-dvāra 甲 都城の門; 城門 *Lal-v.*, *Saddh-p.*
naga-randhra-kara 男 山を割く男, [Kārttikeya の称]。
nagara-patī 男 城官 *Muyut.*
nagara-maṇḍanā 女 娼婦, 遊女。
nagara-moṣa 男 都市の劫奪。
nagara-rakṣādhikṛta (°ṣā-adh°) (過受分) 男 都市の警吏の長。
nagara-rakṣin 男 都市の監守, 警吏。
nagara-vṛddha (過受分) 男 都市の古老。
nagara-śṛṅgaṭaka 男 市津中高台 *Gand-vy.*
nagara-saṃjñā 女 城想, 実城想 *Lañk.*
nagara-sammita (過受分) 町と等しい。
nagara-stha 形 町に住する。男 町民; 市民。
nagara-svāmin 男 都市の長; [人名]。
nagarādhikṛta (過受分) 男 都市の長, 市長; 都市の警吏の長。
nagarādhipa 男 =nagarādhikṛta。
nagarādhipati 男 [同上]。
nagarādhyakṣa 男 [同上]。
nagarābhyāsa 男 都市の近隣: (因) 都市の近隣において。
nagarāya (名動) 男 都市のように見える。
nagarāvalambikā 女 乞児 *Divy.*
nagarāvalambikāvadāna 甲 [仏典名]。
nagarin 男 市長。
nagari 女 町, 市, 都市, 都城, 首都; 城 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Vajr-pr*
nagari-rakṣin 男 都市の監守, 警吏。
nagariya 形 都市の, 都市に属する。
nagaropama (°ra-up°) 形 [経名] 城隍(經) *Divy.*
nagaropānta (°ra-up°) 甲 町の近隣, 都市の近郊。
nagaraukas (°ra-ok°) 男 町民, 市民。
nagary-anna 甲 都市の食料。
nagāgra 甲 山頂, 山嶺
nagāpagā 女 山の溪流, 急流。
nagāśman 男 岩, 巖。

nagendra (°ga-in°) 男 山の王; [Himālaya 山および Kailāsa 山の称].
 nageśvara (°ga-iś°) 男 [Himālaya 山の称].
 nagotsaṅga (°ga-ut°) 男 山頂, 山嶺.
 nagodara (°ga-ud°) 田 山の割れ目, 山峡, 峡谷.
 nagaukas (°ga-ok°) 男 鳥, 鳥, 獅子, [神話的獣である Śarabha].
 nagna 形 裸の, 被覆のない; 不毛の, 荒蕪の(土地). 男 裸形の托鉢僧; 漢訳 裸者, 裸形, 保形, 裸形者, 保露, 露形, 赤露, 無衣者; 力士; 露形神 Av-ś., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lañk., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr., 玄応.; 音写 那屹那, 諾健那 Guhy-s., Mvyut., 俱舍論.
 nagnaka 男 裸形の托鉢僧, 裸行比丘, 仏教の行者; 漢訳 露体 Divy.
 nagna-kṣapaṇaka 男 裸形のジャイナ教托鉢僧.
 nagna-caryā 女 裸体で歩く誓い; 漢訳 露形 Divy.
 nagna-jit 男 [Gandhāra の王の名].
 nagnatā 女 裸体, 裸形.
 nagnatva 田 [同上].
 nagna-bhāva 男 漢訳 露形 Lal-v.
 nagnaṃ-bhāvuka 形 裸体になる, 羞恥なく脱衣する.
 nagnā 女 月経前の少女.
 nagnāta 男 裸体の逍遙者, 裸形のジャイナ教托鉢僧.
 nagnikā 女 月経前の少女.
 nagni-Kr, 裸形の托鉢僧にする.
 naghūṣa 男 [人名] = Nahuṣa.
 naciketas 男 [人名].
 na-cira 形 長くない(時間). na-ciram (業) 副 短時間で, 間もなく. na-ciraṇa (業) 副 まもなく, やがて; 漢訳 不久 Bodh-bh., Lal-v. na-cirāya (業) 副 まもなく, やがて. na-ciratas, na-cirāt (従) 副 まもなく, やがて. ~kālam (業) 副 短時間で, まもなく; 漢訳 不久 Lal-v.
 nañ 否定の不変化小辞 na [Pāṇini 文典の術語].
 nañ-ārtha 男 na の意義.
 Naṭ, I. 他 自 nadati(-te) 踊る. 使役 nāṭayati 舞台上(業) を演ずる, 役割りを演ずる, 演技する, 上演する, 身振りで演ずる; 模倣する.
 vi- 過受分 -naṭita 踊り廻る, 密集するまたは群がる(蜜蜂).
 naṭa 男 舞踊者, 俳優, 無言劇俳優; [特殊の種姓の名: 刹帝利(kṣatriya) 族の子でその階級を落された者]; 漢訳 俳優, 俳優者, 倡伎, 倡伎人, 伎家, 伎芸者, 伎児, 歌舞, 舞, 作舞 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lañk., Mvyut., Śikṣ.; 音写 那羅, 那吒, 那哆 Divy., Saddh-p.
 naṭa-caryā 女 俳優の演技または役目.
 naṭa-dārikā 女 漢訳 妓女, 妓人 Gaṇḍ-vy.
 naṭana 田 踊ること; 舞踊, 無言劇, 所作事, 演技.
 naṭa-nartaka 男 漢訳 歌舞, 舞 Bodh-bh., Śikṣ.
 naṭaniya 未受分 非人 躍るべし.
 naṭa-bhaṭikā 女 漢訳 [寺の名], 音写 那吒婆吒, 那哆婆吒, 那羅拔吒, 那羅拔利 Divy.
 naṭa-raṅga 男 漢訳 戯劇, 俳優者易形色, 作舞会 Mvyut., Śikṣ.

naṭa-vat 副 漢訳 如伎 Saṃkhy-k.
 naṭa-sūtra 田 漢訳 俳優に対する規則.
 naṭi 女 踊子, 舞妓, 女優(とくに主役の); 娼婦.
 naḍa 男 葦の一種; 漢訳 葦, 箏, 蘆, 蘆葦, 竹, 草 Abh-vy., Daś-bh., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.
 naḍa-kalāpa 男 漢訳 蘆束, 束蘆 Daś-bh., Madhy-v.
 naḍakalāpa-yoga 男 漢訳 交蘆, 束蘆 Śikṣ.
 naḍa-kūbara 男 [Kubera の子の名 (=Nala-)].
 naḍa-vana 田 [地方の名]; 漢訳 箏林 Mvyut.
 naḍāgāra (°ḍa-āg°) 田 漢訳 草舎 Divy.
 naḍā-giri 男 [象の名].
 naḍinī 女 [=nalini]; 漢訳 池沼, 池水 Gaṇḍ-vy.
 naḍ-vala 田 多量の葦; 葦の寝床. 女 -ā [Dyumnā の母の名].
 nata 過受分 → Nam. 漢訳 廻向, 下心; 凹 Sūtr.
 na-tad-vid 形 それを知らない.
 nata-nābhi 形 (くぼんだ臍をもつ), 繊細な, しなやかな, たおやかな.
 nata-parvan 形 尖端の扁平な(矢).
 nata-bhrū 形 弓形の眉をもつ, 眉をしかめる.
 nata-raṅga 男 [=naṭa-raṅga]; 漢訳 集戯場 Lal-v.
 na-tarām 副 決して……ない; まして……でない, 況んや……でない.
 natāṅgī 女 肢体のやさしい婦人, 優美な女; 女.
 nati 女 屈身, 低頭, 敬礼; 慇懃; 謙遜; 歯音の反舌音化 (cerebralization) (文法); 漢訳 廻向 Madhy-vibh.
 natodara (°ta-ud°) 形 =nata-nābhi.
 natonnata (°ta-un°) 形 低いまた高い, 低かったり高かったりする; 漢訳 凹凸 Sūtr.
 natonnata-bhūmi-bhāga (°ta-un°) 形 低い地帯と高い地帯をもつ(道).
 Nad, I. 他 自 nadati(-te) 鳴る, 響く, 反響する; 吼える; 叫ぶ; いななく; (業) (音または叫声を)発する. 使役 nadayati(-te) 他 自 鳴り響かせる, 震動させる; nādayati(te) 騒音・叫声または怒号で充たす; 漢訳 鳴, 作声, 吼 Abh-vy., Mvyut., Saddh-p. 過受分 nādita (一) によって鳴り響く. 強意 nānadati (3 覆) 吼える, 咆哮する.
 anu- (業) の方に鳴り響く. 使役 他 -nādayati 騒音で充たす.
 vy-anu- 使役 騒音で充たす.
 abhi- (業) の方に響く; 大声を上げる; 漢訳 自鳴 Divy.
 un- 鳴り響く, 吼える; 怒号する, 声高くいななく.
 ni- 鳴り響く, 自らの声を挙げる, 声高く叫ぶ. 使役 騒音または怒号をもって充たす; 漢訳 嗥吠 Saddh-p.
 nir- 使役 漢訳 遠震, 震 Saddh-p. (Pāli ninnāda).
 pra- 響き始める または吼え始める. 過受分 praṇadita (蜂のように) ぶんぶん言う, 唸る.
 prati- 咆哮・大声または叫声をもって(業) に応える. 使役 咆哮・大声または叫声をもって充たす; 声高く叫ぶ.
 vi- 響きわたる; 高声に叫ぶ, 大声に吼える; (業) を言う, 言いふらす; 誹謗する (Divy.).
 sam- 叫ぶ, 吼える. 使役 叫声をもって充たす; 声

高く叫ぶ。
nada 男 音, 叫声; 吼えるもの, 叫ぶもの, いななくもの, 牡牛, 牡馬 (譬喩的に男); 河 (男性として考えた場合), 小川; 漢訳 河 *Mañj-m.*
nadathu 男 騒音, ざわめき, 咆吼。
nada-bhartr 男 海, 大洋。
nada-rāja 男 [同上]。
nadarāja-sutā 女 [*Śrī* の称]。
nadasya 名動 自 **nadasyate** 吠える (*Divy.*)。
nadikā 女 小川, 小流。
nadi-kūla 中 漢訳 河岸 *Śiks.*
nadi-devatā (=nadi-) 女 漢訳 江河神 *Suv-pr.*
nadi 女 流水, 河 (女性として人格化される); 文法 [nadi に準じて変化する女性語]; 漢訳 河, 浪, 流, 河流, 江河, 水, 渠水, 河水 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Saddh-p., Śiks., Sūtr.*, 梵千.: *nadi vāitaranī* 大江 *Mvyut. 195.*
nadi-kāśyapa 男 漢訳 音写 [声聞の名] 那提迦葉, (音写) 江迦葉 *Saddh-p.*; 音写 捺地迦葉波 *Mvyut.*
nadi-kuñja (~*kubja*) 形 漢訳 曲河 *Divy.*
nadi-kūla 中 河の堤, 河岸。
nadi-ja 形 河から生じたまたは出た (馬). 男 [*Bhīṣma* の称]。
nadi-taṣa 男 (中) 漢訳 河岸 *Śiks.*
nadi-tara 男 河を泳ぎ渡ること。
nadi-tira 中 河の堤防, 河岸。
nadi-datta 男 漢訳 江施, 江授 *Mvyut.*
nadina (°*di-in*°) 男 海; [*Varuṇa* の称]。
na-dīna 形 無価値でない。
nadi-nada 男 複 および 中 圍 女性および男性の河; 大小の河川。
nadi-paṅka 男 または 中 泥深い河岸, 河の泥。
nadi-pati 男 河の主または夫; 海, 大洋。
nadi-pūra 男 増水した河, 氾濫した河; 河川の氾濫。
nadi-bhartr 男 海, 大洋。
nadi-māṭṛka 形 河によって養われたすなわち河水に富むまたはによってよく潤った。
nadi-māṭṛkatā 女 **nadi-māṭṛka** の 拙 図。
nadi-māṭṛkā 女 漢訳 水田 *Mvyut.*
nadi-mārga 男 川筋; 河床。
nadi-mukha 中 河口; [穀物の一種]。
nadi-vāpra 男 または 中 河の高い岸または堤防。
nadi-vāsa 男 河中に立上ること [苦行の一種]。
nadi-vīci 女 河のさざなみ。
nadiśa (°*di-śis*°) 男 諸河の主, 海。
nadi-ṣṇa 形 (河で沐浴する習慣をもつすなわち河を熟知した); (形) に熟練した, ……に経験のある, ……に精通した。
nadi-saṃtāra 男 渡河, 河の横断。
nadi-srota 中 男 漢訳 暴流水, 河駛流, 江河流注, 河駛流 *Madhy-v.*
nadi-srotas 中 漢訳 駛河流, 河駛流, 江河流 (注) *Śiks.*
na-dūṣita-dhi 形 精神の腐敗しない, 心の汚れない。
nadeśa (°*da-śis*°) 男 諸河の主, 海。
naddha, *Nah* の 過受分. 中 綱, 繩, 帯; 束縛, 結

索. → *Nah.*

naddhi 女 結ぶこと, 束縛。
naddhri 女 革帯。
nadya 形 川と関係がある; 漢訳 川, 水 *Lal-v., Śiks.*
nanā 女 母 (*tata* のように親しみのこもった呼称)。
nanāndr 女 夫の姉妹。
na-nu 副 (……で) ない, (……し) ない (強意); (疑 不変辞) ……ではないか (= *Lat. nonne*), 確かに; (疑 代 または 命 とともに) 願わくは, 請う: ~ **ko bhavān** 請う, 貴下は誰なりや. **nanūcyatām** 請う, 語れ; 漢訳 不……耶, 豈不, 云何 *Abh-vy., Mvyut., Saddh-p., Vajr-pr.*; **nanu ca** 確かに(文章の頭首において); **nanv-astu…tathāpi** さてまたはたとえ……であるとしてももしかもお; **nanu mā bhūt…tathāpi** さてまたはたとえ……でないとしてももしかもお (この *nanu* は条件文の帰結句につくものとする); [*nanu* はしばしば仮定的異議を述べるために註釈家によって用いられる. しかもそれはすぐ後の *ucyate* (その答えは以下の通り) によって解決または反駁される].
Nand, I. 中 **nandati** 喜ぶ, ……を楽しむ, (圓 時には 随) に興ずる. 使役 **nandayati(-te)** 喜ばせる; 漢訳 慶悦 *Divy.* 過受分 **nandita** 喜んだ。
abhi- (業) に満足を感じる, ……を喜ぶまたは楽しむ, ……に興ずる, ……に嬉しい顔をする; 欲する, 求める; 挨拶する, 迎える, 歓迎する, 祝う; 賞賛する, 是認する; (業) を甘受する, ……に同意する; 漢訳 欣求, 求欲, 欲求, 大歓喜, 歓喜, 歓喜信受, 信受作礼, 信受奉行, 心大忻悦, 生怡悦, 起樂欲, 称讚 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Madhy-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p. II., Sukh-vy., Vajr-pr.* **na~** 不親切に迎える; 拒絶する, 撃退する; 承認しない, 固執しない. 使役 漢訳 欣樂, 生怡悦 *Mvyut., Sūtr.*
aty-abhi- 漢訳 希望, 慕樂 *Lal-v.*
praty-abhi- (業) に答礼する; 歓迎する。
sam-abhi- 挨拶する; 祝う; 大いに満足する (*Jat-m.*)。
ā- 喜ぶ. 使役 喜ばせる, 満足させる; 漢訳 慶悦, 申慶悦, 歓, 令歡喜 *Bodh-bh.*
abhy-ā- 漢訳 歡喜 *Divy.*
sam-ā- 使役 喜ばせる。
prati- 喜んで挨拶する; 答えて挨拶する, 挨拶を返す; (業) に親切に話しかける, ……に満足を表わす, 情愛をもって歓迎する, ……を祝福する; 喜んで迎える, 満足して受ける; (忠告を) 受け入れる. 使役 喜ばせる。
saṃ-prati- 喜んで挨拶する, 歓迎する。
nanda 男 歡喜; 喜悦, 愉快, 幸福; [人名], [とくに *Kṛṣṇa* の養父および *Durgā* の祖先の名]; [*Candra-gupta* 王を即位させた *Cānakya* によって殺された *Pāṭaliputra* の王の名]; [*Dhṛtarāṣṭra* の王子の名]; [仏陀の異母弟の名 (= 難陀)]; 漢訳 [仏弟子の名] 音写 難陀 *Av-ś., Divy., Lal-v., Laṅk., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sukh-vy. II.*; [龍王の名] 喜; 音写 難頭, 難陀 *Lal-v., Mvyut., Sam-r.*; [浄居天子の名] 音写 難陀 *Lal-v.*; [古師の名] 喜 *Mvyut.*; = *nandi*

歡喜 (*Divy.*), 喜 *Mvyut.*
nandaka 形 (一°) を喜ぶ, ……に興ずる. 男 [牡牛の名]; [村の名]; [*Kṛṣṇa* 神の剣の名]; 漢訳 [人名] 悦樂, 歡喜 *Divy.*; [声聞名] 音写 難陀迦 *Mvyut.*
nandakin 男 [*Kṛṣṇa* 神の称].
nandagopa-kumāra 男 [牛飼 *Nanda* の子, *Kṛṣṇa* 神の称].
nandagopa-kula 田 [牛飼 *Nanda* の家族].
nandagopa-kulodbhavā (°la-ud°) 女 [牛飼 *Nanda* の家の娘, *Durgā* の称].
nandathu 男 喜悦, 歡喜, 幸福, 至福.
nandana 形 喜ばせる, 幸福を与える. 男 (一°) 息子, 後裔, [*Viṣṇu* 神の称]; [*Śiva* 神の称]; [人名]; 漢訳 喜 *Mvyut.* 田 歡喜; 至福; 浄土, 楽土, *Indra* 神の樂園; 剣の名; 漢訳 [帝釈天の園の名] 歡喜(園), 喜, 帝釈園; 音写 難陀(園), *Abh-k.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-ṅy.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*
nandanaka 男 (一°) 息子.
nandana-devatā 女 [*Indra* 神の樂園の守神].
nandana-druma 男 樂園または天国の木.
nandana-vana 田 天国の森; 漢訳 [帝釈天の園の名] 歡喜園, 喜林苑, 喜園 *Divy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.* → *nandana.*
nandana-vanodyāna (°na-ud°) 田 漢訳 歡喜園 *Divy.*
nanda-parvata 男 山嶽のような *Nanda* 王.
nanda-putri 女 [*Nanda* の娘, *Durgā* の称].
nanda-balā 女 漢訳 音写 難陀波羅, 難陀跋 *Divy.*
nandayanti (現分) 女 [人名].
nandā 女 歡喜, 至福 [人格化されて *Harṣa* の妻とされる]; [人名]; [*Vibhīṣaṇa* の娘の名]; [*Alakā* のそばを流れる川の名]; 漢訳 歡喜; 音写 [人名] 難陀 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*
nandātmaja (°da-āt°) 男 [*Nanda* の子, *Kṛṣṇa* 神の称].
nandi 男 楽しいもの, 喜ばしいもの, [*Viṣṇu* 神または *Śiva* 神の婉曲語法の称]. 女 歡喜.
nandika 男 漢訳 喜, 難提; 音写 難提迦 *Mvyut.*, *Sukh-ṅy.* I.
nandi-kara 形 (屬) の喜びまたは幸福をもたらす. 男 (一°) 息子.
nandikeśvara 男 漢訳 具主作喜, 歡喜主 *Mvyut.*
nandi-kṣetra 田 [諸神の往来する靈域の名].
nandi-gupta 男 [王の名].
nandi-grāma 男 [村の名 (*Daulatābād* に近く, *Rāma* が流浪の間 *Bharata* の住した地)].
nandi-ghoṣa 男 歡声, 歡呼; 歡喜の歌または音楽; 伝令官または贊頌者の宣告, 莊嚴な賞賛.
nandi-janana 形 漢訳 令歡喜 *Lal-v.*
nandita 過受分 → *Nand.*
nandi-tūrya 田 歡喜の場合に奏する楽器.
nandi-toya 田 漢訳 愛水, 染愛 *Gaṇḍ-ṅy.*
nandi-deva 男 [人名].
nandin 形 (一°) に興ずる; ……を喜ばせる; 漢訳 喜, 有喜, 有愛, 愛欲心 *Abh-ṅy.* 男 (一°) 息子; [猿の名]; [*Śiva* 神の称]; [*Śiva* 神の供奉者の名];

[*Śiva* 神の牡牛の名].
nandini 女 娘, 嫁; [*Durgā* の称]; [伝説上の牡牛の名].
nandi-mukha 男 [人名].
nandi-rudra 男 [*Śiva* 神の歡喜または平穩の姿の名].
nandi-varḍha 男 [王侯の名].
nandi-varḍhana 形 (屬) の歡喜を増す, 幸福を満喫させる. 男 息子; [王侯の名]; [*Śiva* 神の称]; [人名].
nandi-vivardhana 形 = *nandi-varḍhana.*
nandi-hāra 形 漢訳 樂瓔珞 *Gaṇḍ-ṅy.*
nandi 女 [*Pali* 同じ]; 漢訳 喜, 歡喜 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Laṅk.*
nandi-jāta 過受分 漢訳 生歡喜 *Bodh-bh.*
nandi-rāga 男 漢訳 喜貪 *Mvyut.*
nandiśa (°di-iś°) 男 [*Śiva* 神の一姿態]; [*Śiva* 神の供奉者の名].
nandiśvara (°di-iś°) 男 [同上].
nandi-saumanasya 田 漢訳 喜愛之心 *Divy.*
nandottamā (°da-ut°) 女 漢訳 喜上 *Aṣṭ-pr.*
nandopananda (°da-up°) 男 [竜王の名] (*Mvyut.*); (呼) [悲哀の感嘆詞として] ああ悲しいかな (*Divy.*); 漢訳 *Nandopanandau* 音写 難陀・鄔波難陀 (竜王) *Mvyut.*
nandopanandaka (°da-up°) 男 漢訳 音写 難陀・小難陀 *Siv-pr.*
nandy-āvarta 男 一種の凶型; その形でできたもの; 漢訳 [八十種好の一]; 音写 難陀越多, 難提夜伐多 *Lal-v.*, *Mvyut.*
napāt (因 ただ強格にのみ) 男 息子, 後裔; 孫 (遷ではただ最後の義のみ).
na-puṃsaka 形 男性でも女性でもない, 両性具有の, 去勢された; 軟弱な, 弛緩した; 中性の(文法). 男 男女の両性質をもつもの; 宦官. 田 中性語, 中性; 漢訳 非二; 不男, 非男女, 黃門; 闍 *Cat-ś.*, *Laṅk.*, *Madhy-v.*, 梵雜.
na-puṃsaka-liṅga 形 中性の.
napti 女 娘, 孫娘; 漢訳 孫女 *Mvyut.*
napṭṛ 男 (RV. における *napāt* の國語), 後裔, 息子 (因); 孫; [*Viśve-Devās* の一の名]; 漢訳 孫 *Mvyut.*
naptri 女 孫娘.
Nabh, I. 田 *nabhate*, 裂く, 裂ける, 破裂する (他動 および 自動). 使役 田 *nabhayati*, 裂く, 割る, 破裂させる, 裂き開く.
nabha 男 [*Nala* 王の子で *Puṇḍarika* の父の名]; 空, 虚空, (= *nabhas*); 漢訳 虚空, 空中, 空 *Gaṇḍ-ṅy.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
nabhanu 男 (女-ū) 泉.
nabhas-cara 形 天空で動く, 空を廻る. 男 天人, 神; 小妖精; *Vidyādhara*; 鳥.
nabhas-cyuta 形 天空から落ちた.
nabhaḥ-śabdama 形 'nabhas' なる語からなる.
nabhaḥ-śrit 形 天に達する.
nabhas 田 雲; 霧, 靄, 蒸気; (*Soma* の) 芳香; 大気, 雰囲気, 天空, 蒼穹; 雨期の最初の月 (七月一八月

=Śrāvāṇa); 空, 虚空, 空中 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sukh-vy. I.*: nabhaś ca eka-varṇam 空一頭色, 空為一色 *Abh-vy. 25.* 男 [*Nala* 王の王子の名 (= *Nabha*)].

nabhas-tala 空の表面, 天空, 蒼穹; 空, 虚空 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*

nabhasya 雲のある, 霧のある. 男 雨期の第二の月(八月-九月 = *Bhādra*).

nabhasvat 雲のある, 曇った, 水蒸気のある. 男 風.

nabhaḥ-sad 男 天の住者, 天人, 神.

nabhaḥ-sthala 空(女-i) 蒼穹, 天空:

nabhaḥ-sprś 天に達する.

nabhāka 男 [聖仙の名].

nabho-ga 男 天空を行くもの; 鳥; 遊星.

nabho-da 男 [*Viśve-Devās* の一の名].

nabho-vartman 男 大気.

nabho-vithi 女 天の道, 太陽の軌道.

nabho'ṅgaṇa (°*bhas-an°*) 男 蒼穹, 天空.

nabhya 1. 霧のある, 曇った.

nabhya 2. 車輪のこしき(轂); 中心.

Nam, I. namati(-te), (業, 爲, 圖) に向って屈む, ……に傾く, ……にお辞儀をする, ……に屈する, ……に従う; 沈む; 他方へそらす (*RV.*); 鎮まる, 静かになる; 転変趣 *Abh-vy.*: *mūrdhena Nam* 頂稽首 *Saddh-p.* 過受分 *nata* 屈した, 曲った, 歪んだ; (圖または圖) にお辞儀する; 押し下げられた, 沈衰した, 沈んだ; 低下した, 垂れた. 使役 *nāmayati* 曲げる (他動), 屈する; お辞儀させる; 沈ませる; 歪める; *nāmyati = nīmayati* 曲げる; 廻向, 廻向, 回向, 導, 將, 向, 趣 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*: *śiraṃ nāmayanto* (頌) 稽首 *Lal-v.* 過受分 *nāmita*. 強意 他 *nannamiti*, 自 *nannamya-te* 曲がる, 傾く (自動).

ati- 使役 *atināmayati* (*Pali* *atināmeti*) 時を過す (*Divy.*); 趣向; 過, 住; 度; 乃至 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*: *rātriṃ-divaṃ* ~ 過一昼夜 *Aṣṭ-pr. 931*: *saptāham atināmayāmi* 乃至七日 *Divy. 443.*

abhi- 業 に頭を下げる, ……に屈する, ……の方に向う; *abhinamati* *praṇamati* *namasyati* 泰信頂礼 *Śikṣ. 316.* 使役 *abhināmayati* (心を *cittam*) 傾けるまたは向ける (*Jat-m.*).

ava- 頭を下げる, 屈む, お辞儀する; 没, 陥, 低, 曲, 化謙下, 謙下, 恭敬, 恭敬礼拝; 舒, 踟蹰 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*: *dakṣiṇaṃ jānu-maṇḍalam avanamyā* 舒右膝輪, 右膝踟蹰 *Gaṇḍ-vy. 312.* 過受分 身を屈する, 屈む, 屈めた, お辞儀する. 使役 曲げる (他動), お辞儀させる; 低, 衰 *Lal-v.*, *Saddh-p.*: *śiraṃsy avanāmyā* 低頭 *Saddh-p. 485.*

ā- 屈む; (業) に頭を下げる, (圖または圖) に親切な. 過受分 頭を下げた, 屈んだ; (圖) にお辞儀をする, (一°) に向って屈んだ; 服従した, 従順な. 使役 下方に曲げる; 服従させる. 過受分 *ānāmita* お辞儀した.

un- 上る, 起き上る; 上げる, 高める, 揚げる.

過受分 上げられた, 高められた; 直立した, まっすぐな; 突起した, 隆起した, 高い; 円天井の, 半球状の; 卓越した, (一°) に秀でた; (一°) の上に登える; 涌, 踊, 起, 翹喜 *Av-s.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Sam-r.* 使役 上げる, 揚げる, 高くする.

aty-un- 使役 *kāyam atyunnamayya* 端身 *Divy. 36.*

abhy-un- 過受分 高められた, 高い, 秀でた; 上方に向けられた; 円天井の, 半球状の.

sam-abhy-un- 過受分 上った(雲).

pron- 過受分 はなはだ高められた; (一°) に秀でた.

sam-un- 起き上る. 過受分 まっすぐな, 直立した; 高い, 突出した; 円天井の, 半球状の; 卓越した. 使役 上げる, 高くする.

upa- (業; 圖) ではまた (圖) または (圖) の分け前となる, ……に生ずる, ……に偶発する, ……に起る; 近づく, 達する; *hasti-prṣṭham upanamyā* 置於象上, 載象背上 *Suv-pr. 175.* 過受分 内に曲つた; 屈服した, いやしめられた, (誰か) の保護を求めた; 依存した; 存在した, 現存する, 発生した, 生じた; ……に起った; 犯された(罪); もたらされた; 提供された; 近づかれた; ……の手に帰した, 手許にある; (一°, 長く) 継続する. 使役 もたらず, 渡す, 献じる; 与える; 奉上, 奉献, 奉授, 奉, 献, 与, 給与, 供養; 授, 敷置; 令得入; 伸; 示 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: *hastam* ~ 授手 *Saddh-p. 478.*

sam-upa- 過受分 現われた. 使役 奉, 供養 *Saddh-p.*

o- (= *ava-* 裕) 頂礼, 礼 *Lal-v.*

ni- (業) に頭を下げる; ……に屈する, 拝伏する.

nir- 使役 *nir(n)āmayati* または *nirnamayati* 伸ばす (*Divy.*); 出, 現 *Divy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

abhi-nir- 使役 (*Pali* *abhininnāmeti*) の方に曲げる, ……に転ずるまたは向ける (*Lal-v.*).

pari-(ṇam) 側に曲がる, 脇を向く; (圓) に変わる, ……に転ずる; (圓) に発達する, 成熟する; 老いる; 消化される; 真の意義に達する; 変現, 転変, 廻向 *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.* 過受分 *pariṇata* 避けられた; (圓 または 一°) に変じた, ……に変形した; 熟した, 成熟した, 長じた(年令); 満ちた(月); 没する(太陽); 終末に至った, 満了した(時); 消化した; 衰えた; 生起した: ~*m vayasā* 老齢に達した. 使役 熟させる, 円熟させる; 廻向, 廻向, 回向, 回施, 廻, 勧廻 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*

vi-pari-(ṇam) 変壞, 変異 *Abh-vy.*; (圖) に変えられる.

pra-(ṇam) (業, 爲, 圖, 圖) に頭を下げる, ……の前に敬意を表する; 曲躬, 恭敬, 恭敬礼拝, 礼敬, 頂礼, 謙下, 礼, 低垂, 帰向 *Aṣṭ-pr.*, *Kaśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*

Vajr-pr. 過受分 *praṇata* (業 または 屬) に頭を下げる; 従順な. 使役 *praṇāmayati* (他 業) をして 爲に頭を下げさせる; 懇懇に答える.
abhi-pra- お辞儀する.
sam-abhi-pra- (業) に敬礼する (*Jāt-m.*).
vi- 曲がる, 屈む, お辞儀する. 過受分 (屬) に曲った, 低く身を屈する; 沈下した, 垂れ下がった. 使役 (他) 下に曲げる, 傾ける; (弓を) 引き曲げる; 漢訳 曲(背) *Divy.*
sam- (業, 爲, 屬) にお辞儀する, ……に謙遜して服従する; 目 満足させる, 従う; (他 目) まっすぐにする, 整頓する, 整理する; 果す, 遂げる. 過受分 曲った, 腰を屈した; 沈下した, 低くされた, (意気) 消沈した. 使役 曲げる; 沈ませる; 整理する; 遂げる, 果す; 屈服させる (*Divy.*); 漢訳 調順, 能敵, 征撫, 平定 *Divy.*
namata 中 漢訳 毳衣, 毡, 氈 *Mvyut.*, 梵下.
namana 形 (一°) 曲がる; 傾く. 中 曲がること; 沈むこと; 漢訳 転変 *Abh-vy.*
namaniya 未受分 身を屈すべき, 尊敬すべき.
namantra 中 漢訳 音写 [数の名] 那満多羅 (那婁怛羅) *Mvyut.* → *namātra*.
namas 中 頭を下げること, 敬礼, 帰命 (言葉または態度による): (しばしば 属 とともに感歎詞として); 漢訳 帰依, 帰命, 礼, 敬礼, 帰礼 *Abh-vy.*, *Guhy-s.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*, 玄心: *namo 'stu buddhāya* 帰依仏, 礼仏 *Suv-pr. 21*; *namo 'stu te* 我帰命 *Guhy-s. 13.*; 音写 南無, 那謨, 南謨, 那莫 *Śikṣ.*, 玄心. → *namas-Kṛ.*
namas-karaṇiya 未受分 漢訳 応礼拝, 当礼敬, 曲躬 *Saddh-p.*, *Sam-r.*
namas-kartavya 未受分 漢訳 应当敬礼, 所応敬礼 *Aṣṭ-pr.*
manas-kartṛ 男 敬礼者, 礼拝者.
namas-kāra 男 'namas' と唱えること; 礼拝, 敬礼, 挨拶, 帰命, 敬意, 服従; 漢訳 恭敬, 礼拝, 敬礼, 頂礼, 稽首, 帰命, 跪 *Abh-vy.*, *Buddh-c.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy I.*, 梵下.
namaskāravat 形 'namas-kāra' なる語を含む, 敬礼を含む.
namas-kārya 未受分 帰命されるべき, 敬礼されるべき.
namas-Kṛ, (業, 爲, 属) に 'namas' と言う, ……に敬意を表わす, 敬礼する; 漢訳 敬礼, 礼敬, 頂礼, 礼事, 敬事, 瞻礼恭敬, 愛敬, 作礼; 帰向, 帰依 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*
namas-kṛta 過受分 帰命された, 尊敬された; 漢訳 礼拝, 所礼敬, 所恭敬 *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*
namas-kṛti 女 敬礼, 尊敬.
namas-kriyā 女 帰命, 尊敬, 敬礼; 漢訳 礼 *Bodh-bh.*
namasya 1. 名動 (他) *namasyati* (業) に帰命する, ……に敬礼する, 敬意を表する, ……を祝福する, 崇める; 漢訳 曲躬恭敬, 稽首礼, 礼, 作礼, 礼敬, 帰伏, 事 *Gand-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*
sam- = *namasya 1.*

namasya 2. 形 尊敬に値する; 謙遜な.
namasyu 形 尊敬する. 男 [*Pravira* の子の名].
namasvat 形 尊敬する; 尊敬を起させる.
namasvin 形 = *namasvat*.
namātra 男 漢訳 音写 [数の名], 那婁怛羅 *Mvyut.*
nāmita 使役 過受分 → *Nam.*
namuci 男 [*Indra* 神に征服された悪魔の名]; 漢訳 (魔王)波旬; 音写 母旨, 茂旨 *Divy.*, *Lal-v.*, *Suv-pr.*
namuci-ghna 男 *Namuci* の殺戮者, [*Indra* 神の称].
namuci-dviṣ 男 [*Indra* 神の称].
namuci-vaśa-gata 過受分 漢訳 常愛常食 *Rāṣṭr.*
namuci-sūdāna 男 [*Indra* 神の称].
namuci-han 男 [*Indra* 神の称].
na-mṛta 形 死なない; 歴然と残った(記憶).
nameru 男 [樹木の名].
namokti (°ma-uk°) 女 敬礼の言; 称赞, 賛辞.
namo-vāka 男 'namas' を唱えること, 称赞, 敬礼.
namra 形 曲った, 歪んだ; (男) によって曲げられた; (一°) にまたは によって低頭する; 尊敬する, 謙遜な, 従順な; 漢訳 低垂 *Bodh-c.*
namratā 女 (属 または 一°) に頭を下げること; ……に対する尊敬; ……に対する卑下, 従順, 謙遜: *vititair namratām samācāret* 育ちの良いものに対しては礼を尽すべきである.
namratva 中 [同上].
naya 男 (属) に導くこと, 行状, 態度, 行為; 理趣; ……に対する思慮, 分別; 思慮のある行為; 世間智, 世俗の知識, 政策; 企図, 計画; 原理; 組織, 方法, 教義; 漢訳 理, 理趣, 聖教理, 正理, 道理, 道, 方便, 教, 門, 法, 正法, 実相, 真実, 如実, 真実理, 通, 意, 意趣 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*
naya-kovida 形 世故にたけた, 政策に通じた; 慎重な.
naya-ga 形 賢明にまたは適当に処置する.
naya-cakṣus 中 知恵の眼. 形 政策的先見の明がある; 知恵の眼を賦与されている; 世才にたけた; 鑑識眼のある; 先見の明ある.
naya-jña 形 = *naya-kovida*; (一°) の組織を知る.
naya-dvāra 中 漢訳 趣向門, 能開道門 *Gand-vy.*
nayana 中 もたらすこと, 行なうこと, 処理すること, 管理; (一°) に導くこと; 眼; 属 賢明な処理, 行政; 漢訳 目, 眼, 将導, 至 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
nayana-gocara 形 視野または限界内に在る; 見える.
nayana-gocari-Kṛ, 見る, 認める.
nayana-candrikā 女 月光; 眼に輝かしく映ずるもの.
nayana-carita 中 眼の動きまたは戯れ; 横目, 流し目.
nayana-jala 中 涙.
nayana-tāraka 中 漢訳 目精 *Śikṣ.*
nayanatva 中 属 属 眼の状態, 視力.
nayana-patha 男 視野; 視線.
nayana-padavi 女 [同上].
nayana-payas 中 涙

nayana-budbuda 甲 眼球。
 nayanavat 形 両眼をもつ。
 nayana-vāri 甲 涙。
 nayana-viṣaya 男 眼界；見得るもの；地(水)平線。
 nayana-salila 甲 涙。
 nayana-subhaga 形 眼を満足させる，眼に楽しい。
 nayanāñcala 甲 まなじり(髻)；流し目。
 nayanāñjana 甲 眼につける軟膏，眼膏。
 nayanānanda (°na-ān°) 男 眼の歓喜。
 nayanānta 男 まなじり(髻)。
 nayanābhirāmatā 形 眼の喜び。
 nayanāmbu 甲 涙。
 nayaneya 形 眼に関する。
 nayanotsava (°na-ut°) 男 (眼の祭)，眼の楽しみ；灯。
 nayanotsava-karin (°na-ut°) 形 眼を楽しみますまたは喜ばせる。
 nayanodaka (°na-ud°) 甲 涙。
 nayanodaka-bindu (°na-ud°) 男 涙滴。
 nayanopānta (°na-up°) 男 まなじり(髻)。
 naya-pāla 男 [王の名]。
 naya-praveśa 男 悟入道理 *Bodh-bh.*
 naya-mukha 甲 法門。
 nayavat 形 政策に通じた，世才のある。
 naya-vartman 甲 政策；行政上の知識。
 naya-vādin 男 政略家。
 naya-vid 形 =naya-kovida。
 naya-viśārada 形 =naya-kovida。
 naya-vihina 形 良い法から離れた，良い振舞いを捨てた。
 naya-śālin 形 世才にたけた，政策をもつ。
 naya-śāstra 甲 行政の教義；行政術。
 naya-sādhana 甲 行政上の処置。
 naya-sāhasanmat (°sa-un°) 形 最大の思慮と決心とを要する。
 naya-hina 過受分 思慮を欠いた。
 na-yācanaka 男 (形) 不乞食 *Lal-v.*
 nayārthita 過受分 懇懇に乞われた。
 nayāvalipta 形 行政上の手腕を誇る。
 nayuta 甲 男 [数の名；一般に千億の単位，異説もある] 載，十万；千億；万 *Lal-v.*，玄応，梵千；音写 那由佗，那由多，那度多，那由多，那術，那述 *Bodh-bh.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，*Sukh-vy. I.*，*Sukh-vy. II.*，放光般若，玄応。
 nara 男 人；男；人物；夫；勇士；原人すなわち宇宙的靈；(*Nārāyaṇa* とともに *Dharma* の子とされ，*Viṣṇu* 神の権化として *Nara=Arjuna*，*Nārāyaṇa=Kṛṣṇa*)；[人名]；人称，人称語尾 (文法)；人々；人類，人民；[一種の神話的存在]；人，男 *Mvyut.*，*Nyāya-pr.*，*Vajr-s.*，梵雄。
 naraka 男 (まれに 甲) 冥界，地界，地獄；[*Kṛṣṇa* 神に殺された悪魔の名]；地獄，悪道，不可樂，不可救済，非行，閻冥 *Abh-vy.*，*Dharm-s.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Madhy-v.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，*Suv-pr.*，*Vijñ-v.*；音写 那落迦，捺落迦，那羅柯；泥羅夜，泥梨耶 (*niraya*) *Bodh-bh.*，俱舍論，玄応。
 naraka-jit 男 (*Naraka* の征服者)，[*Kṛṣṇa* 神の称]。

naraka-duḥkha 甲 地獄……苦 *Suv-pr.*
 naraka-parāyaṇa 形 隨無間 *Divy.*
 naraka-pāta 男 地獄に落ちて行くこと，墮地獄。
 nara-kapāla 男 人間の頭蓋骨。
 naraka-pāla 男 地獄卒，獄卒 *Abh-vy.*，*Bodh-c.*，*Śikṣ.*，*Vijñ-v.*
 naraka-ripu 男 (*Naraka* の敵)，[*Kṛṣṇa* 神の称]。
 naraka-loka 男 (音写) 那落迦世界 *Bodh-bh.*
 naraka-vāsa 男 地獄に住すること；処地獄，入大地獄；(音写) 処那落迦 *Bodh-bh.*，*Sūtr.*
 naraka-vyathā 形 地獄苦 *Śikṣ.*
 naraka-śāsana 男 (*Naraka* の殺戮者)，[*Kṛṣṇa* 神の称]。
 naraka-stha 形 地獄に住する。
 nara-kāka 男 鳥のような人。
 nara-candra 男 人中月 *Śikṣ.*
 nara-jāṅgala 甲 人間の肉。
 narada 甲 華香；音写 捺刺陀；(音写) 羅陀草 *Suv-pr.*
 nara-datta 1. 男 仁授 *Mvyut.*
 nara-datta 2. 男 (音写) 那羅(童子) *Lal-v.*
 nara-danta 男 人間の齒。
 nara-durācāra 形 (人々にとって) 実行しがたい (*Buddh-c.*)
 nara-deva 男 人中の神，王。
 nara-devatva 甲 王位，王権。
 naradeva-deva 男 最高の君主。
 naradeva-hita 過受分 利天人(者)，利益天人(者) *Daś-bh.*
 nara-nari-vana 甲 男女林 *Lank.*
 nara-nātha 男 人間の保護者または長，王。
 naranātha-mārga 男 王の公道，街道，大道。
 nara-nāthāsana (°tha-ās°) 甲 王座，王位，王権。
 narapa 男 王。
 nara-pati 男 王；人王，人主 *Mvyut.*，*Suv-pr.*
 narapati-patha 男 (王の大道)，公道，街道。
 nara-pāsu 男 獣のような人間；犠牲獣としての人間 (*Jāt-m.*)
 nara-pāla 男 王。
 nara-medha 男 人身御供，人祠祭。
 nara-yāna 甲 人の曳く車，こし(輿)。
 nara-yāna 甲 =nara-yāna。
 nara-riṣabha 男 人中仙 *Śikṣ.* → nara-rṣabha。
 nara-rūpa 甲 人間の姿。
 nara-rṣabha 男 牡牛のような人，王；最勝者，人中雄 *Gaṇḍ-vy.*
 nara-loka 男 人間の世界，地球；人間，人類；世間 *Śikṣ.*
 naraloka-pāla 男 王。
 naraloka-vīra 男 人間中の英雄。
 nara-vara 男 優れた人；丈夫 *Rāṣṭr.*
 nara-varottama (°ra-ut°) 男 最上 もっともすぐれた人，最勝の人。
 nara-varman 男 [王侯の名]。
 nara-vāhana 形 人によって曳かれた。甲 =nara-

yāna. 男 [Kubera 神の称]; [王の名]; [人名].
 naravāhana-janana 甲 [Kathāsaritsāgara の章の表題].
 naravāhana-datta 男 [Udayana 王の息子の名].
 naravāhanadatta-carita 甲 Naravāhanadatta 王子の冒険.
 naravāhana-datta-caritamaya 形 (女-i) Naravāhanadatta 王子の冒険からなる.
 naravāhana-dattiya 形 Naravāhanadatta に属するまたは関する.
 nara-vāhin 形 人によって運ばれたまたは曳かれた. 甲 (yāna とともに) こし.
 nara-viśāṇa 甲 人間の角すなわち実在しないもの.
 nara-vira 男 勇気のある人, 勇士, 英雄; 漢訳 大丈夫 *Rāṣṭr.*
 nara-vira-loka 男 人中の最勇者.
 nara-vṛṣabha 男 漢訳 人中牛王, 人中尊 *Sam-r., Śikṣ.*
 nara-vyāghra 男 虎のような人, 人中の虎, すぐれた人, 勇士, 英雄; 漢訳 [神話上の人民の名].
 nara-sārdūla 男 =nara-vyāghra.
 nara-śreṣṭha 男 最上 最勝の人.
 nara-sakha 男 Nara の友, [Nārāyaṇa の称].
 nara-saṃgrāma-gata 過受分 漢訳 軍陣中 *Saddh-p.*
 nara-siṃha 男 獅子のような人, 人中の獅子=大勇士, すぐれた戦士; 人獅子 [Viṣṇu 神の第四の権化身]; 漢訳 人獅子 *Gaṇḍ-vy., Madhy-v.*
 nara-hari 男 =nara-siṃha.
 narādhama 男 もっとも卑しい人, もっとも低いまたは価値のない人.
 narādhīpa 男 人々の主, 王, 君主; 漢訳 人王 *Suv-pr.*
 narādhīpati 男 =narādhīpa; 漢訳 最勝主 *Śikṣ.*
 narāntaka 男 人間の破壊者, 死; [ある Rākṣasa の名], [Rāvaṇa の子].
 narā-saṃsa 男 (人々の称賛すなわち人々によって称賛された), [Agni 神の称], (とくに RV. の *Āpri* 賛歌の第二頌または第三頌における); [Pūṣan 神の称].
 narāśana 男 (人間を食うもの), 悪魔, 羅刹(Rākṣasa).
 nariṣyat 男 [Manu Vaivasvata の子の名].
 naretara (°ra-it°) 男 (人間と異なるもの), 神, 禽獣, 畜生.
 narendra (°ra-in°) 男 人々の主長, 王, 王侯; 医者, 呪術または解毒剤の識者, 魔法使い; 漢訳 聖主, 人中之尊, 人中尊, 世尊, 如来, 仏 *Gaṇḍ-vy., Lanik., Saddh-p.*
 narendra-kanyā (°ra-in°) 女 王女.
 narendratā (°ra-in°) 女 王たること, 王位, 王権.
 narendratva (°ra-in°) 甲 [同上].
 narendra-putra (°ra-in°) 男 王子.
 narendra-mārga (°ra-in°) 男 (王の大道), 公道, 街道.
 narendra-rāja (°ra-in°) 男 漢訳 人王, 仁王 *Sukh-vy. I.*
 narendra-śāsana (°ra-in°) 甲 漢訳 王勅 *Buddh-c.*
 narendra-siṃha (°ra-in°) 男 漢訳 聖主獅子 *Saddh-p.*
 narendra-sainya (°ra-in°) 甲 王の軍隊.
 narendra-svāmin (°ra-in°) 男 [寺院の名].

narendrāditya (°ra-indra-ād°) [王侯の名].
 nareśa (°ra-iś°) 男 王.
 nareśvara (°ra-iś°) 男 王.
 nare-ṣṭhā 形 人間に役立つ.
 narottama (°ra-ut°) 男 最上 最上の人, 最勝者; 漢訳 [釈尊の異名] 人中尊, 人中勝, 如来, 人中聖尊, 人中最上, 至人, 勝人 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ.*
 nartaka 男 漢訳 伎人 *Gaṇḍ-vy. 119.*
 narta 形 踊る.
 nartaka 形 踊らせる. 男 舞踊者, 舞踊の師匠; 漢訳 俳優, 倡伎, 歌, 歌舞, 舞者 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.* 甲 [神話上の武器の名].
 nartaki 女 踊り子; 漢訳 伎 *Sāṃkhy-k.*
 nartana 男 舞踊者. 甲 舞踏.
 nartana-gṛha 甲 舞踏室.
 nartana-śālā 女 舞踏室.
 nartanāgāra (°na-āg°) 甲 舞踏室.
 nartayitr 男 (男) を踊らせるもの; 舞踊の師匠.
 nartita [Nṛt の 過受分 (使役)] 踊らされた. 甲 舞踊.
 nartita-bhrū-lata 形 美しい眉が上下に踊るすなわち動く.
 nartita-mayūra 形 踊る孔雀をもつ, 孔雀の踊る.
 nartitavya 未受分 甲 踊るべく余儀なくされること.
 Nard, I. 他 nardati 吼える, 鋭く叫ぶ, 怒号する, (音を意味する 漢訳 とともに) 叫ぶ; 漢訳 nānard- 声高く響く.
 nardana 男 漢訳 出音 *Mvyut.*
 nardita 過受分 甲 咆吼, 怒号; [博打の結果の一種 =kali]; 漢訳 吼 *Lal-v.*
 narma-kāla 男 娯楽の時, 愉快の時.
 narma-garbha 形 しゃれを含む, 冗談に言われた.
 narma-da 形 娯楽を与える, 気を晴らす, 喜びを与える.
 narma-dā 女 [河の名 (また *Revā* と呼ばれる), 現今の *Narbda* 河 (*Vindhya* 山脈に源を発する)]; [Gandharva 女の名].
 narmadā-tira-gamana 甲 *Narmadā* 河岸の航行; [Rāmāyaṇa の章の名].
 narman 甲 遊戯, 諧謔, 愉快, 娯楽, 悦楽, 気晴らし, 戯れ, 冗談, しゃれ, 機智: 男 narmanā 冗談にまたは戯れに; 漢訳 戲笑 *Abh-vy.*
 narma-prāya 形 滑稽な, 道化の, 冗談の, 機智のある.
 narmaya 名動 他 narmayati 戯れることによって活気づかせる, 楽しませる.
 narma-yukta 形 =narma-prāya.
 narma-samyukta 形 [同上].
 narma-saciva 男 宮廷の道化者 (王の戯れの友).
 narma-sācivya 甲 宮廷の道化者の身分または役目.
 narma-suhṛd 男 =narma-saciva.
 narmāyita 甲 娯楽, 気晴らし.
 narmārtham 副 娯楽のために, 戯れに.
 narmaika-sodara (°ma-eka-sa-ud°) 形 娯楽以外のことを考えない.
 narmokti (°ma-uk°) 女 滑稽な談話, 冗談, 道化, 滑

稽, 諧謔.

narya 形 男らしい; 人間の. 男 男, 人. 男 男らしい
行為, 英雄的行為.

nala 男 葦の一種 (*Amphidonax karka*); [*Niṣadha*
国の王で *Damayanti* の夫の名]; [多くの人の名];
[猿の名]; 葦 葦 葦.

nalaka 男 骨, (人体の) 長い骨.

nala-kūbara 男 [*Kubera* の子の名]. → *nada*.

nala-giri 男 [象の名].

nalada 男 または 男 甘松香 (*Nardostachys jatamansi*);
(ひめ)あぶらすすき (*Andrapogon muricatus*) の根.

nala-nāman 形 *Nala* と名づけられた.

nala-mārgaṇa 男 *Nala* の搜索.

nala-mālin 男 [大洋の名] (*Jāt-m.*).

nala-vājin 男 *Nala* の馬.

nala-śaṅkā 男 *Nala* ではないかとの疑い: *nala-śa-*
ṅkayā (男) 男 *Nala* であろうと推測して.

nala-śāli 男 [米の一種].

nala-śāsana 男 *Nala* の命令.

nala-samñīhi 男 *Nala* の面前.

nala-sārathi 男 *Nala* の馭者.

nala-siddha 男 過受分 *Nala* によって整えられた.

nala-setu 男 [猿族 *Nala* が *Rāma* のために *Lanka*
島との間に架したという橋 (現今の *Adam's Bri-*
dge)].

nalāmātya 男 *Nala* の宰相.

nalāśva 男 *Nala* の馬.

nalikā 男 管, 脈管.

nalina 男 蓮華, 睡蓮 (*Nelumbium speciosum*); 蓮華
蓮華 *Mvyut.*

nalina-dala 男 蓮華の花卉.

nalina-nābha 男 [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称].

nalina-yoni 男 [梵天 (*Brahman*) の称].

nalinaśana (°na-ās°) 男 [梵天 (*Brahman*) の称].

nalini 女 = *nalina*; 蓮華の群または蓮の茂った池, 蓮
池; [天の *Ganges* 河の入江の名]; [左の鼻孔の神
秘的名称]; [*Ajamīdha* の妻で *Nala* の母の名];
蓮池 *Gaṇḍ-vy.*

nalini-jāla 男 蓮の群.

nalini-dala 男 蓮華の花卉または葉.

nalini-dalamaya 形 (女-i) 蓮華の花卉からなる.

nalini-nandana 男 [*Kubera* の園の名].

nalini-pattra 男 蓮華の花卉または葉.

nalini-samvartikā 女 蓮の若葉.

na-liptāṅga 形 身体に油を塗らない.

nalodaya (°la-ud°) 男 [*Nala* と *Damayanti* の物語
を題材とした詩の表題].

nalopākhyāna 男 [*Nala* 王物語, *Mahābhārata* の一
部をなす挿話].

nalva 男 [距離の単位, =400 または 104 kiṣku = 200
ヤードまたは 52ヤード].

nava 形 新しい, 新鮮な, 若い, 近ごろの; 少,
初, 新 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, 梵千., 梵維.

°- (過受分 に先んずる) 男 新たに, 今まさに, 直
前に, 最近に, 近ごろ. 男 若い僧徒 (*Divy.*, *Mvyut.*).

nava- 男 九; 九 *Lank.*

navaka 男 若い僧徒 (*Divy.*, *Mvyut.*); 幼, 年
少; 新, 新出家 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*

nava-karmika 男 新築の監督者 (*Jāt-m.*); 雑役に従う
僧 (*Mvyut.*); 行僧, 初業者 *Mvyut.*

navakānta 男 幼 *Bodh-bh.*

nava-kṛtvas 男 九度.

nava-kokanada-prāsāda 男 新堂 *Vin.*

nava-graha 形 最近に捕えられた.

nava-gva 形 九重の. 男 種 [神話上の種族の名].

nava-catvāriṃśa 形 (女-i) 第四十九の; -t 女 四十
九.

nava-civara 男 新衣 *Prat-m.*

nava-ja 形 新生の, 新(月); 新しい, 若い.

nava-jvāra 男 新しい悲嘆または悲痛.

navata 形 第九十番目の.

nava-tantu 男 [*Viśvāmitra* の子の名].

nava-tara 形 比較 より新しい, より若い; 全く新し
い.

navatā 女 新しいこと, 新鮮.

navatva 男 [同上].

navati 女 九十.

nava-daśa 形 (女-i) 第十九の.

nava-daśan 女 十九.

nava-dravya 男 九物, 九種物, 九種実物 *Lank.*

nava-dvāra 男 九門または九孔(身体の). 九門を
もつ. 男 身体.

navadhā 男 九重に, 九倍に, 九度に, 九部に; 九分
九分 *Sāmkhy-k.*

navan 女 九; 九 *Sāmkhy-k.*

navana 男 謳歌, 称赞, 賛辞.

nava-nava 形 (種 または °- 種) 常に新しい, 絶えず
更新される, きわめて多様な.

nava-navaka 男 年少 *Vin.*

nava-navati 女 九十九; [大きな数を示す].

nava-navatitama 形 (女-i) 第九十九の.

nava-nita 男 新鮮なバター; 生酥, (上妙)生酥,
(生蘇), 酥, 酪 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*,
Prat-m.

navanita-sama 形 新鮮なバターに等しい, はなはだ
柔らかい, やさしい(声).

nava-pañcāśat 女 五十九.

nava-pariṇāma-dṛṣṭi 女 九種転変論, 九種転変
見 *Lank.*

nava-prāsana 男 新しい穀物を食べること.

nava-baddha 形 新たに縛られたまたは捕えられた.

nava-badhū 女 = *nava-vadhū*; 新婦 *Mvyut.*

navama 形 (女-i) 第九の. 女-i (tithi を補って) 半
月の第九日.

nava-mallikā 女 ジャスミン (素馨花) の一種 (*Jasmi-*
num sambac), 茉莉花.

nava-malli 女 [同上].

nava-mālikā 女 = *nava-mallikā*; 音写 那婆摩
利, 那縛忙里迦 *Mvyut.*, *Saddh-p.*; [*Śrāvastī* の王
Dharmavardhana の王女の名].

nava-mukha 形 (女-i) 九口(孔)をもつ.

nava-yajña 男 初徳を捧げる祭儀.

nava-yāna-samprasthita 形 新発意, 新学, 新学(大)乗, 初住大乘, 新発道意, 新発趣乗 *Ast-pr.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*: nava-yāna-samprasthita boxhi-sattvāḥ (頌) 新発意菩薩 *Saddh-p.* 32.

nava-yoga 形 九倍の.

nava-yauvana 中 青年の血気盛り, 青春, 青春の, 青春の花咲いた.

nava-yauvanavat 形 青春の花咲ける, 若く清新の気にあふれた.

navara 男 数 [数の名] 音写 那婆羅 *Mvyut.*

nava-ratha 男 [*Daśaratha* の父の名].

nava-rātra 男 九日の期間(とくにある *Soma* 供儀の名).

nava-rāṣṭra 中 [王国の名]; 種 [その住民].

nava-rucira-vastra 中 新浄衣, 好浄衣 *Su-pr.*

nava-lakṣaṇa 形 九種の形姿で現われる.

nava-vadhū 女 新妻.

nava-vimśa 形 (女-i) 第二十九の.

nava-vidha 形 九倍の, 九重の.

nava-vrata 形 新しく誓い(願)を立てた.

nava-śata 中 百九.

nava-śatatama 形 (女-i) 第百九の.

nava-śaśi-bhṛt 男 新月を(額の上に)頂いたもの, [*Śiva* 神の称].

nava-śūla 男 中 九結杵 *Guhy-s.*

nava-ṣaṣṭi 女 六十九.

nava-saptati 女 七十九.

nava-sasya 中 その年の最初の収穫, 新しい穀物.

nava-sasyeṣṭi (°ya-iṣ°) 女 初穂の供養.

nava-sevaka 男 弟子.

nava-sevā 女 修業, 年期奉公.

navāgata (°va-āg°) 形 新しく来た, 新來の.

navāṅga 中 九部 *Saddh-p.*

navāṅga-śāsana 中 九部(種々)教法 *Lank.*

navānupūrva-vihāra 男 中 九次第住 [九次第住] 九先行法 *Ast-pr.*

navānupūrvavihāra-samāpatti 女 九次第住等持 *Mvyut.*

navānupūrva(-vihāra)-samāpatti-kuśala 形 妙閑九定 *Divy.*

navānupūrva-samāpatti 女 九次第定, 九種次第定 *Abh-vy.*

navānta 形 幼次第 *Mvyut.*

navānna 中 新しい穀物, 新穀, 新米; 新米を食べる日を祝う祭儀.

navānneṣṭi (°na-iṣ°) 女 初穂の供養.

navāmbhas 中 最初の驟雨.

navāśiti 女 八十九.

navāśiti-sahasra 男 (中) 八万九千; (九) 十九千 梵雜.

na-vidya 形 無知な.

navi-Kṛ, 更新する, 改新する, 改良する, 若返らせる, 回復させる, 蘇生させる.

navina 形 新しい, 新鮮な, 若い; ときには=別の, 他の.

navi-bhāva 男 革新, 更新, 改新.

navi-BHū, 更新される, 若返る, 新しくなる.

naviyas 形 (比較) 新しい, 新鮮な, 若い, 最近の.

navetara (°va-it°) 形 老いた, 古い.

navedas 形 (または -veda) (國) を観察する, ……を知る(RV.).

navodhā (°va-ūdh°) (過受分) 形 女 新婚の. 女 新妻.

navotthāna (°va-ut°) 形 今まさに昇った(月または太陽).

navodaya (°va-ud°) 形 今まさに昇った(月または太陽).

navodita (°va-ud°) (過受分) 今まさに昇った(月または太陽).

navodyad-indu-ruc (°va-ud°) 形 昇る月のように美しい.

navya 1. 形 新しい, 新鮮な, 若い. navyā stri 女 新婚の女, 新妻.

navya 2. (未受分) 称赞されるべき, ほめられるべき.

navyas 形 (比較) (女-i) 新しい, 新鮮な.

Naś 1., I. 他 naśati (因, 寂詩); IV. 他 (因) naśyati, (-te) 失なわれる, 滅する, 没する, 消える, 去る; 逃げる, 避ける; 無益である, 徒勞である; 壊, 失壊, 損壊, 壊滅, 破壊; 療除; 失, 忘失 *Bodh-c.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.* (過受分) naṣṭa 失なわれた; 消滅した; 見えない; 逃げた; 壊滅された, 損ぜられた, 害われた; 不成功の, 実を結ばない, 無益の; 死んだ; (訴訟に)敗れた. (使役) 他 nāśayati (まれに 因, -te) 見えなくさせる, 消滅させる, 移す, 追放する, 追払う, 消す, 破壊する; 失なう; 投棄する; ……に暴行する, 犯す; 忘れる; 損減, 壊, 令破, 摧, 破, 拔除, 滅除 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.* (過受分) nāṣita 失なわれた; (使役の希求) 他 nināsayiṣati 破壊したいと思う.

nir- (過受分) 失なわれた, 消滅した, 没した.

pra- (pranaśyati) 失なわれる; 見えなくなる, 消える, 逃げる; 失, 遺失, 忘失; 心便迷謬, 錯乱; 損減 *Ast-pr.*, *Av-ś.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.* (過受分) -naṣṭa (ś が ṣ となる場合にこの n は変化しない), 失なわれた, 消滅した, 没した; 亡ぼされた; 遁走した, 逃避した. (使役) 消滅させる; 救われないままにする, 報われないままにする, 無視する, 不問に附す; 破壊する; 失, 忘失, 遺失 *Daś-bh.*

vi-pra- 失なわれる; 消滅する; 還滅, 退失, 滅 *Lank.*, *Madhy-v.* (使役) 失, 忘失 *Ast-pr.*, *Śikṣ.*

vi- 失なわれる; 消える; 亡びる; 実を結ばない; 失, 滅, 壊, 壊滅, 枯壊, 損壊 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.* (過受分) 失なわれた, 消失した; 害われた; 廃棄された; 破壊された, 壊れた, 打消された, 取消された; 害された. (使役) 消失させる, 散らす, 放逐する, 破壊する, 殺す; 滅亡させる; 傷損; 失壊, 壊, 侵 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Raṣṭr.*

anu-vi- (國) の後を追ってまたはとともに消滅するまたは滅亡する.

sam- (過受分) 亡ぼされた, 滅亡した.

Naś 2., I. naśati (-te) (因) 達する, 届く; 到る; 出会う.

abhi- 達する; 届く, 出会う.
naśana ㊦ 消滅, 潰滅.
naśitr ㊦ 消滅する(もの), 失なわれる(もの).
na-śubha ㊦ 不快な, 不幸な, 不吉な.
naśvara ㊦ (女-i) 滅亡し易い; 亡ぶべき; 一時的の.
naśvaratva ㊦ 滅亡すべきこと; 暫定的なこと.
naṣṭa [Naś の 過受分] ㊦ 失, 壊, 破壊, 毀壊, 滅, 損滅, 破, 尽, 断絶; 遠離, 退墮; 過去 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵雜. → Naś 1.
naṣṭa-kāryārtha ㊦ なすべきことに興味を全く失な
 った.
naṣṭa-kriya ㊦ 忘恩の, 恩を知らない.
naṣṭa-caryā ㊦ かくれんぼ.
naṣṭa-civara ㊦ (*Pali* natthacivara); ㊦ 牛衣
Prāt-m.
naṣṭa-cetana ㊦ 意識を失なった, 無意識の.
naṣṭa-ceṣṭa ㊦ 行動の機能を喪失した, 動かない, 硬
 い, 硬直した, 不随となった, 麻痺した, 氣絶した,
 喪神した, 感覚を失なった.
naṣṭa-drṣṭi ㊦ 視力を失なった, 盲目の.
naṣṭa-dhī ㊦ (加害または非行の)記憶を失なった.
naṣṭa-nidra ㊦ 睡気を失なった, 不眠の.
naṣṭa-pratibhāna ㊦ ㊦ 失辯者, 瘖者 *Bodh-bh.*
naṣṭa-buddhi ㊦ ㊦ 不聰明 *Mañj-m.*
naṣṭa-mati ㊦ 理性または感覚を失なった.
naṣṭa-muṣṭi-cintādi-kathana (°ta-ād°) ㊦ 紛失した
 もの・手に握ったものまた考えていることなどを言い
 あてること(ト占者の能力).
naṣṭa-rūpa ㊦ 姿を失なった, 見えない, 認められな
 い.
naṣṭavat ㊦ 消失した, 逃亡した.
naṣṭa-samjñā ㊦ 意識を失なった.
naṣṭātānkam (°ta-āt°) ㊦ 恐れなしに, 恐怖なく,
 平静に.
naṣṭātman (°ta-āt°) ㊦ 自己を損傷した, 自己の悟性
 を失なった; 意志または感覚を喪失した.
naṣṭārtha ㊦ 財産を失なった, 零落した, 貧窮した.
naṣṭāsānka (°ta-ās°) ㊦ 恐怖のない, 安心した, 落
 着いた: ~m ㊦ 恐れなくて, 畏怖なく.
naṣṭāsva-dagdha-rathavat ㊦ 馬を失なった人と車を
 焼失した人とのように(すなわち互に助け合って).
naṣṭi ㊦ 荒廃, 破壊.
naṣṭendriya (°ta-in°) ㊦ 性交不能に陥った, 精力の
 ない; 感覚を失なった.
naṣṭaiśa (°ta-eś°) ㊦ 失なったものを搜索する.
naṣṭaiśya (°ta-eś°) ㊦ 遺失物の搜索.
naṣṭobhaya-loka (°ta-ubh°) ㊦ 両世界(此の世と彼の
 世)の失なわれた(人).
Nas 1., I. ㊦ **nasate** (㊦); ……と結合する, 合体する,
 抱擁する, 交合する.
saṃ- ……と結合する (㊦動).
Nas 2. (=Naś) ㊦ 亡失 *Lal-v.*
nas 3. ㊦ (㊦, ㊦, ㊦, ㊦, ㊦) および 一° ㊦ のみ) 鼻.
nas 4. ㊦ 附帶 *aham* の ㊦, ㊦, ㊦.

nasa (ただ 一° ㊦ のみ) 鼻; ㊦ 鼻 梵子.
na-saṃvid ㊦ 忘れること, 健忘性.
na-sukara ㊦ 不自由な, 困難な.
nasta-karaṇa ㊦ ㊦ 灌鼻器 *Mvyut.*
nastas ㊦ 鼻からまたは鼻の中に.
na-sparśana ㊦ 触れないこと, 無接触.
nasya ㊦ 鼻の中にある, 鼻の. ㊦ (獣の)鼻孔を通す
 綱; 鼻毛; くしゃみを催させる物, くしゃみを催さ
 せる薬.
nasya-karman ㊦ くしゃみを催させる薬の使用.
nasyā ㊦ 鼻孔を通す綱.
nasy-ota ㊦ 鼻に結びつけられた, 鼻孔に綱を通した,
 鼻綱を着けた.
Nah VI. ㊦ **nahyati** 縛る, 結ぶ, しばりつけるまたは
 身に着ける; ㊦ **nahyate** 着る. ㊦ **naddha**
 (一°) に結ばれた, ……に縛られた, ……に結び付
 けられた; (㊦ または 一°) で圍繞された, ……に覆
 われた, ……で一面に飾られた.
api- 結び付ける; 結ぶ, 身に着ける; しばり上げる,
 (結んで) 覆う, 塞ぐ, うめる; ㊦ (自ら) 纏う, 着
 る. ㊦ **api-naddha**.
pi- (㊦ で普通に用いる形), =**api-**; ㊦ 著 *Divy.*
 ㊦ **pi-naddha**.
ava- 結び上げるまたは包み隠す, 蔽う; 敷く; ㊦
 貯褥 *Prāt-m.*
ā- ……の上に結ぶ. ㊦ (㊦ または 一°) ……で
 覆われた; 塞がれた.
un- 押し出す. ㊦ **un-naddha** 上方に結びつけ
 られた, 結び上げられた, 結ばれた; 膨脹する; (㊦
 または 一°) によって膨脹する; 傑出する; 桎梏を解
 かれた; 過剰の, 過度な; 傲慢な, 高慢な.
saṃ-un- ㊦ 上方に向けられた; 押し出された;
 過剰の; 自負した.
upa- 縛り上げる, 束ねる. ㊦ (一°) をもって
 覆われたまたはちりばめた, 象眼された.
o- (㊦ は **ava-**) ㊦ **onahati** (㊦・三人・㊦ =**avana-**
hyati) 遍覆 *Saddh-p.*
pari- 巻く, 包括する; 囲む, めぐるす. ㊦ **pari-**
naddha (一°) によって囲まれた; 延長した,
 広い, 大きな; 遙かに進んだ.
saṃ- 結び合わす, 結ぶ; 巻く, 武装する, 繕装す
 る; 装う; (㊦) のために準備をする; ㊦ 被,
 撰 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*: **saṃnāhaṃ saṃna-**
hyati 撰誓甲, 被弘誓鎧 *Bodh-bh.* 200. ㊦ **saṃ-**
naddha 結び合わされた, 結ばれた; 附着する;
 相い接する; 境する; 武装した; 準備した, 水を放
 出しようとする(雲); 開花しようとする(蕾). ㊦
 用意させる, 武装させる; ㊦ 巖, 莊巖, 巖駕 *Divy*;
 (㊦) 莊巖 *Divy*.
nahana ㊦ 束縛; 門, 釘.
na-hi ㊦ 確かに……でない, 疑なく……ない: **nahi**
 ……**yatas** ……でないからしたがって.
nahi-mantra ㊦ または ㊦ [数の名]; ㊦ 音写 那今
 満多羅 *Mvyut.*
nahuṣa ㊦ 家系, 血統, 種族; [人名], [とくに *Indra*
 神を王位から追い, 後に蛇に化せられた月種族の王

の名]; 漢訳 音写 農沙 [王名] *Buddh-c.*
nahuṣopākhyāna (°ṣa-up°) 甲 (*Nahuṣa* の物語),
 [Mahābhārata の節の表題].
nahus 男 家系, 血統, 種族; 血族; 同類, 隣人.
nāka 男 天空, 大空, 穹窿; [神話上の武器の名]. 形
 苦痛のない.
nāka-cara 形 天を歩く, 天を行く.
nāka-nadī 女 天空の河, 神聖な *Gaṅgā* 河.
nāka-nāyaka 男 [*Indra* 神の称].
nāka-nāri 女 天女, *Apsaras*.
nāka-pati 男 天の主, 神.
nāka-pāla 男 神.
nāka-puraṃdhri 女 *Apsaras*.
nāka-prṣṭha 甲 天空, 蒼穹; 最高天; 漢訳 天 *Buddh-c.*
 男 [人名].
nāka-prṣṭhya 形 蒼穹にあるまたはいる.
nāka-loka 男 天界.
nāka-sad 男 天の住者, 天人, 神.
nāka-stri 女 天女, *Apsaras*.
nākin 男 (天を所有するすなわち天に住する), 神.
nākula 形 猫鼬 (*ichneumon*) に似た.
nākeśvara (°ka-iś°) 男 天の王, 神.
nākaukas (°ka-ok°) 男 天の住者, 神.
nākṣatra 形 星に関する, 星の; 星の多い.
nāga 男 蛇, 龍 (族) [とくに地獄の *Bhogarati* と名づ
 ける城邑に住む人面蛇身の伝説的な半神族の名];
 象; ある生氣 (嘔吐を催させる); [数種の植物の名];
 [人名]; [山嶽の名]; 漢訳 龍, 象, 不来; 音写
 那伽 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Mvyut.*,
Saddh-p.; 無性撰論釈, 玄応., 梵維.: *nāgam* *iva* *sudā-*
ntam 如調順象 *Gaṇḍ-vy.* 939; *nāga-vilokitenālo-*
kya 如象觀看 *Mvyut.* 244, 108. 形 (女 -ā または -ī),
 蛇で形作られた; 蛇または龍 (*Nāga*) に関連のある,
 蛇に似た.
nāgi 女 龍女.
nāgaka 男 [人名].
nāga-kanyā 女 漢訳 竜女 *Gaṇḍ-vy.*
nāga-kunḍala-kunḍalin 形 とぐろを巻いた蛇を耳飾
 りとして着けた.
nāga-keśa 形 漢訳 髮如牛毛 *Mvyut.*
nāga-keśara 甲 漢訳 竜花鬚, 竜華; 音写 那伽鷄薩羅
Suv-pr.
nāga-kesara 男 [樹木の名 (*Mesua roxburghii*)]. 甲
 [nāgakesara 樹の花].
nāga-datta 形 竜族 (*Nāgas*) によって与えられた.
 男 [*Dhṛtarāṣṭra* 王の子の名]. 女 -ā [*Apsaras* の
 名].
nāga-danta 男 (象の歯), 象牙; 壁上の木釘または腕木.
 女 -ā [*Apsaras* の名, (= *nāga-dattā*)].
nāga-dantaka 男 = *nāga-danta*. 甲 漢訳 挾子 *Mvyut.*
nāga-dantamaya 形 象牙で作った.
nāga-damana 男 (竜族に対する勝利者), [*Garuḍa* の
 称]; [鉢の一種]; [解毒剤の一種].
nāga-dvipa 甲 [*Bhārata-varṣa* にある *Dvipa* の名].
nāga-dhanvan 男 [*Sarasvatī* 河畔の聖地の名].
nāga-nātha 男 蛇の首長, 竜(族)の長.

nāga-nāyaka 男 = *nāga-nātha*.
nāga-nāsā 女 象の鼻.
nāga-nāsorū (°sa-ūr°) 女 形の良い太腿を持つ女.
nāga-pati 男 = *nāga-nātha*.
nāga-pāla [*Sāsikya* の王の名].
nāga-pāśa 男 [一種の魔法の輪索].
nāga-pura 甲 [都城の名 (= *Hāstina-pura*)].
nāga-puṣpa 甲 [数種の植物の名].
nāga-potalaka 男 漢訳 小竜 *Av-ś.*
nāga-bandha 男 枷または束縛としての蛇; 漢訳 縛竜,
 縛象人 (= *hasti-paka*) *Abh-vy.*
nāga-bandhaka 男 漢訳 縛竜, 縛象 *Mvyut.*
nāga-bala 甲 漢訳 [数の名], 音写 [百婆呼羅] 那伽
 婆羅 *Lalv.*, *Mvyut.*
nāga-bhavana 甲 漢訳 竜宮 *Divy.*
nāga-bhoga 男 蛇のとぐろ; [蛇の一種]; [魚の名].
nāga-maṇḍalika 男 漢訳 聚蛇者 *Mvyut.*
nāgamaya 形 象からなる.
nāga-mātr 女 竜族の母, [*Surasā* の称].
nāga-mudrā 女 蛇状の印章指環.
nāga-mauñjin 形 蛇を帯として纏っているまたは巻い
 ている.
nāga-yajñopavitin (°ñā-up°) 形 蛇を聖紐として纏っ
 ている.
nāgara 形 町に属する, 町に育った, 町の; 洗練され
 た, 慇懃な; 巧妙な. 男 町民, 市民. 甲 漢訳 音写
 [薬草名] 那伽蘭 *Mvyut.*
nāgaraka 形, 男 = *nāgara*; 漢訳 城邑 *Śikṣ.*: *nāga-*
rakaṃ janam 城邑人民 *Śikṣ.* 12. 男 町の長, 警
 察の首長; 漢訳 都人 *Bodh-bh.*
nāga-raṅga 男 漢訳 梅 (?), 橘子 *Mvyut.*
nāgara-sena 男 [王侯の名].
nāgara-stri 女 都市の女.
nāga-rāj 男 蛇の王, 竜王.
nāga-rāja 男 竜王; 大きなまたは高貴な象; 漢訳 竜
 王, 象王 *Abh-vy.*, *Saddh-p.*
nāga-rājan 男 = *nāga-rāja*; 漢訳 竜王 *Mvyut.*
nāgarika 形 町の, 町育ちの; 慇懃な. 男 (賤けの良い)
 市民; 都市の長; 警察の長.
nāgarika-bala 甲 警官の護衛, 都市の長の護衛.
nāgarika-vṛtti 女 丁寧な態度; 洗練された風格.
nāgarikā 女 [人名].
nāgari 女 都市の女; [サンスクリットの文字の名 (= *deva-nāgari*)].
nāga-latā 女 [樹木の名]; [人名].
nāga-lipi 女 漢訳 [六十四書の一] 竜書; (音写) 那伽
 書 *Lal-v.*
nāga-lekhā 女 [人名].
nāga-loka 男 竜族または *Nāga* の世界または住所; [集
 合] 竜族 (*Nāga*).
nāga-vaṭṭa 男 [人名].
nāgavat 形 蛇または象からなる.
nāga-vadhū 女 牝象.
nāga-vana 甲 蛇の住む森.
nāgavana-vithi 女 蛇の住む森の列.
nāga-vallī 女 [きんま草の一種, *Piper Betel*].

nāga-vaśā 𠩺 牝象。
 nāga-vikrānta-gamitā 𠩺 象のような歩調をもつこと；漢訳 行歩直進如竜象王好 *Dharm-s.*
 nāgavikrānta-gāmin 𠩺 漢訳 行歩如竜象王 *Mvyut.*
 nāga-vithi 𠩺 蛇の列；[月の軌道の一部]。
 nāga-vrkṣa 𠩺 [樹木の一種]；漢訳 龍樹 *Mvyut.*
 nāga-śata 𠩺 [山嶽の名]。
 nāga-śiṛṣaka 𠩺 漢訳 蛇頭，鉞(?) 頭；如蛇頭 *Prāt-m., Mvyut.*
 nāga-sūra 𠩺 [人名]。
 nāga-śauṇḍika 𠩺 漢訳 酒家，治城人 *Suv-pr.*
 nāga-śrī 𠩺 [王女の名]。
 nāga-sāhvaya (°sa-āh°) 𠩺 (象にちなんで命名した町) すなわち *Hāstina-pura.*
 nāga-sthala 𠩺 [*Mathura* に近い村落の名]。
 nāga-sphoṭā 𠩺 [植物の名]。
 nāga-svara-śabdā (𠩺) 𠩺 漢訳 象声，如竜音声 *Mvyut., Sūtr.*
 nāga-svāmin 𠩺 [人名]。
 nāga-hrada 𠩺 竜族 (Nāga) の住む湖。
 nāgādhipati 𠩺 漢訳 竜王 *Mvyut.*
 nāgādhirāja 𠩺 象の王。
 nāgānana (°ga-ān°) 𠩺 [*Gaṇeśa* の称]。
 nāgānanda (°ga-ān°) 𠩺 竜王の喜び，[戒日王 (*Harṣa*) の作とされる仏教劇の表題]。
 nāgābhibhū 𠩺 漢訳 [仏の名] 竜主，竜勝，降竜；音写 那竭脾 *Lal-v., Sukh-vy. I.*
 nāgāri 𠩺 竜族の敵，[*Garuḍa* の称]。
 nāgārjuna 𠩺 [古代仏教論師の名]；漢訳 龍樹，龍猛 *Mvyut.*
 nāgāvalokita 𠩺 [*Pāli nāgāpalokita*] 象のように視ること(全身で顧ること)，[仏陀の一相] (*Divy.*)；漢訳 龍象視 *Suvik-pr.* ~ena pratyudāvṛtya 如象王廻 *Gaṇḍ-vy.*
 nāgāśana 𠩺 (蛇を食べるもの)，孔雀；[*Garuḍa* の称]。
 nāgāhvaya (°ga-āh°) 𠩺 =nāga-sāhvaya. 𠩺 [植物の名]；漢訳 [古師の名] 龍叫 *Mvyut.*；龍(樹) *Lañk.*
 nāgi-BHū, 龍 (Nāga) となる。
 nāgendra (°ga-in°) 𠩺 龍族の長；大きなまたは堂々たる象；漢訳 龍王 *Raṣṭr.*
 nāgendra-rutā (°ga-in°) 𠩺 漢訳 龍声，如龍王声 *Mvyut., Sūtr.*
 nāgeśvara (°ga-iś°) 𠩺 [人名]。
 nāgodbheda (°ga-ud°) 𠩺 [*Sarasvatī* 河の再現する聖地の名]。
 nāgopavitin (°ga-up°) 𠩺 =nāga-yajñopavitin.
 nāgna-jitā 𠩺 [*Nagnajit* の娘で *Kṛṣṇa* 神の妻の一人の名]。
 nāgni-dūṣita 過受分 火によって傷けられない。
 nāciketa 𠩺 (𠩺-i) *Naciketa* または *Naciketas* に関する。𠩺 [特殊の火の名]；[古聖仙の名 (*Uddālaki* の子)]。
 nājaka 𠩺 [人名]。
 nāṭa 𠩺 𠩺 [人民の名]。

nāṭaka 𠩺 [Nat] 俳優，無言劇俳優，舞踊者；戯曲 (𠩺として人格化された)。𠩺 演技；戯曲，脚本；劇の一種 [十種の rūpaka の第一]；漢訳 舞，歌舞；音写 那吒迦 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Guhy-s.*
 nāṭaka-vidhi 𠩺 演技の技術。
 nāṭaki-Kṛ, 劇にする。
 nāṭakiya 𠩺 劇的，戯曲の。𠩺-ā 女優，踊り子。
 nāṭayitavya 未受分 上演されるべき(脚本)。
 nāṭikā 𠩺 戯曲；演劇；劇の一種 (upa-rūpaka の一種)。
 nāṭita (過受分) 𠩺 (表情または動作による)無言劇，無言劇的演出；身振り。
 nāṭitaka 𠩺 (一°) =nāṭita.
 nāṭya 𠩺 舞踊；演劇；無言劇；無言劇または劇の演出；脚本；舞台の技術；俳優の衣裳；(𠩺) 身振りをもって=舞台で(演じる)；漢訳 舞曲 *Abh-vy.*
 nāṭya-dhara 𠩺 俳優の衣裳を纏っている。
 nāṭya-vedi 𠩺 舞台。
 nāṭya-śālā 𠩺 舞踏場。
 nāṭya-śāstra 𠩺 演劇の原理または理論；舞踊法；[*Bharata* の演劇論書の名]。
 nāṭyācārya (°ya-āc°) 𠩺 舞踊または演劇術の師匠。
 nāṭyācāryaka (°ya-āc°) 𠩺 舞踊の師匠の職。
 nāṭyokti (°ya-uk°) 𠩺 演劇用語。
 nāḍa 𠩺 漢訳 茎 *Saddh-p.*
 nāḍi 𠩺 脈管。
 nāḍikā 𠩺 管，脈管；[時間の単位 = 1/2muhūrta ナなわち二十四分；長さの単位 = 1/2daṇḍa；=nālikā]；漢訳 筩 *Divy.*
 nāḍim-dhama 𠩺 脈管を膨脹させる，脈搏を速める。
 nāḍi 𠩺 (𠩺 困 -s)，管 (また太陽の光線をいう，これは中空で水を吸上げると考えられる)；裂け目，割れ目，空洞；身体内の管状の器官，脈管；脈搏；空茎；筩；漢訳 更漏 *Mvyut.*
 nāḍi-jaṅgha 𠩺 鳥，鶴の一種；[神話上の鶴の名]。
 nāṇaka 𠩺 貨幣；刻印のあるもの。
 nāṇaka-parikṣin 𠩺 貨幣の吟味者，試金者。
 nāti-kalyāṇa 𠩺 それほど美しくはない，はなはだしく高貴ではない。
 nāti-gādha 𠩺 深過ぎない，過度に深くない，かなり深い。
 nāti-cira 𠩺 それほど長くない(時)；非常に遠くない(昔)；𠩺 まもなく，やがて。
 nāti-tivra 𠩺 それほど激しくはない，適度の。
 nāti-trpti 𠩺 飽満しないこと。
 nāti-dūra 𠩺 遠過ぎない。𠩺 -m 遠過ぎないで，はるか向うではなく，に近く；𠩺 𠩺 (𠩺, 𠩺) より遠過ぎないで，非常にはへだたらないで；漢訳 不遠 *Saddh-p.*
 nātidūra-ga 𠩺 それほどへだたらない。
 nātidūra-sthita 過受分 遠過ぎない距離にある。
 nāti-nirvṛti 𠩺 過度でない満足。
 nāti-nica 𠩺 低過ぎない。
 nāti-parikara 𠩺 過剰の従者をもたない，制限された従者を従える。
 nāti-parisphuṭa 𠩺 咲き過ぎないまたははっきりとは現われない；多少隠された。

nāti-paryāpta 過受分 それほど多くはない。
 nāti-puṣṭa 過受分 (具) を過度に備えてない。
 nāti-prakupita 過受分 それほど怒ってはいない。
 nāti-pramanas 形 それほど上機嫌ではない。
 nāti-prasiddha 過受分 それほどよくは知れわたらない、それほど有名ではない。
 nāti-bhārika 形 それほど重くない。
 nāti-bhinna 過受分 (通) からそれほど異っていない。
 nāti-mātram 副 過度ではなく；適度に。
 nāti-mānin 形 自身を過大に評価しない。
 nāti-mānitā 女 自負しないこと；謙讓。
 nāti-ramaṇiya 未受分 それほど魅惑的ではない、それほど愉快ではない。
 nāti-ramaṇiyatā 女 (通 名) それほど魅惑的ではないこと、それほど愉快ではないこと。
 nāti-rūpa 形 それほど美しくはない。
 nāti-viśadam 副 それと分らないように(接吻する)。
 nāti-vistāra-saṃkaṣa 形 あまりに広くも狭くもない。
 nāti-śiṭoṣṇa (°ta-uṣ°) 形 あまりに冷くも熱くもない。
 nāti-śliṣṭa 過受分 それほど密接してはいない；それほど堅固ではない。
 nāti-sva-stha 形 それほど健康ではない、不快な。
 nāty-anta-dūra 形 それほど遠距離ではない。
 nāty-ādṛta 過受分 全くおろそかにされた。
 nāty-āyata-vadana 形 漢訳 面不長大 *Mvyut.*
 nātyāyata-vacana 女 あまり高声を出さないこと；
 漢訳 梵音称量応理無差好 *Dharm-s.*
 nāty-ucchrita 過受分 高すぎない。
 nāty-upapanna 過受分 それほど自然または通常ではない。
 Nāth, I. 自 (他 はまれ) nāthate(-ti) (因) に助力を乞う、……に懇願する、(屬) を乞う、(業) に (業) を懇願する；支配する；漢訳 願 *Buddh-c.* 過受分 nāthita 歎願する；救助を要する；圧迫された。
 使役 nāthayati 歎願させる、歎願を許可する。
 upa- (器) に懇願する。
 nātha 中 庇護、援助、助力；漢訳 婦処 *Lal-v.* 男 (國 または 一°) の保護者、擁護者、支配者、主、所有者；(とくに國) において) 夫。形 一° ……を所有した、……によって占められた、……を備えた；漢訳 依、依怙、大依怙、所依怙、怙、救護、大依護、主、仏、仏世尊、救世、如来、大師、尊 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy. I.* → a-nātha.
 nātha-karaka 形 漢訳 為依護、作所依怙、救護 *Aṣṭ-pr.*
 nātha-kāma 形 援助を求める。
 nātha-kārin 形 漢訳 為作依護、是所依怙、作依護、作依怙、作衣止 *Aṣṭ-pr.*
 nāthatva 中 保護者または庇護者たること、所有者の職能。
 nāthaya- 名動 nāthayati 保護者として振舞う。
 nātha-rahita 形 漢訳 離依怙、孤独。
 nāthavat 形 保護者または主人をもつ；従属する、独立しない。女 -i 夫をもっている(女)、結婚した(女)。
 nāthavattā 女 (通 名) 保護者または夫等をもっている

こと。
 nāthita 過受分 → Nāth.
 nāthin 形 保護者をもつ、主人をもつ。
 nāda 男 騒音、咆哮；叫声；音響；いななき；(Yoga において) 半円によって現わされた鼻音(神秘的な語の省略として用いられる)；漢訳 吼、鳴、打(?) *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lal-v.*, 梵。
 nādi 形 咆哮する。
 nādika 男 漢訳 鳴、河主 玄心；音写 邪地迦 順正理論。
 nādita 使役 過受分 鳴り響かせた、鳴り響く。中 音響；漢訳 震吼 *Mvyut.* 中 喧噪；叫声；唸り声、音響。→ Nad.
 nādin 形 高声に響く；一° ……のように響くまたは咆哮する、反響する。
 nādeya 形 川 (nadi) に由来するまたは属する；河の、水の。
 nādyā 形 = nādeya.
 Nādh, I. 自 nādhate (因) 現分 nādhamaṇa 援助を求め、歎願する。過受分 nādhita 援助を要する、窮乏した、逼迫した(ただ以上の分詞形のみ)。
 nādhamaṇa 現分 → Nādh.
 nādhita 過受分 → Nādh.
 nādhita 過受分 学問のない、無智の。
 nānada 中 [ある sāman の名]。
 nānanya 形 漢訳 非不異 *Vijñ-t.*
 nānā 副 さまざまに、種々に、異った場所に、別々に；しばしば 形 (とくに 一°) と異った、さまざまの、多種の；漢訳 種種、種種異、異、諸 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 nānā-karāṇa 中 差異、区別 (*Divy.*)；漢訳 異、殊異、高勝、差別、可分 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*；kim nānākarāṇam 有何差別 *Bodh-bh.* 296.
 nānā-kalpa-samsthāna 中 漢訳 種種色像、種種形相、形色不同 *Gaṇḍ-vy.*
 nānākāra (°nā-āk°) 形 さまざまな、各種の、雑多な；漢訳 異相 *Sūtr.*
 nānā-gati 男 (種々の方向に行くもの)、風。
 nānā-carita 中 漢訳 種種行、行若干種 *Saddh-p.*
 nānā-citra-raṅga-rakta 中 漢訳 雜綵 *Gaṇḍ-vy.*
 nānā-tanu 形 種々の体を取るまたはもつ。
 nānātyaya (°nā-at°) 形 種々な、多様の。
 nānātva 中 相違；多様なこと、多種性；漢訳 異、各異、差別、別、不同、差別相、形異状；種種、種種性 *Abh-k.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*
 nānātva-karāṇiya 未受分 漢訳 為異 *Sapt-pr.*
 nānātva-kārika 形 漢訳 為異 *Sapt-pr.*
 nānātva-cārin 形 漢訳 種種行 *Śikṣ.*
 nānātva-tas 副 漢訳 隨差別 *Daś-bh.*
 nānātva-vikalpa 男 漢訳 異想分別 *Sūtr.*
 nānātva-saṃjñā 女 漢訳 無異想、異想 *Dharm-s.*, *Sūtr.*
 nānātva-saṃjñin 形 漢訳 想異 *Abh-vy.*
 nānā-dik-saṃjñā-gata 過受分 漢訳 種種方住想 *Gaṇḍ-vy.*
 nānā-dig-deśa 男 中 種々の地方または方角；(通) 中 種

々の方位から、世界のあらゆる部分から。
nānā-drṣṭy-anuśaya-paryavasthāna-kleśa-prāśama-
na-kuśala 形 漢訳 能除各見与隠幽纏縛諸煩惱, 善能
 滅諸見随眼纏煩惱 *Mvyut.*
nānā-devatya 形 種々の神に関するまたは捧げられた。
nānā-deśa 男 國 諸地方, 諸国。
nānā-deśīya 形 種 種々の国に属するまたはから来た。
nānā-deśya 形 種 [同上]。
nānā-dharma-digdvāra 中 漢訳 種種方法門 *Gand-vy.*
nānā-dhātuka 男 中 若干種性 *Saddh-p.*
nānā-dhātukatā 女 漢訳 種種界 *Bodh-bh.*
nānā-dhātu-jñāna-bala 中 漢訳 [如来十力の一] 種
 種界智力, 知衆生界力, 種種諸界智力, 界性智力
Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.
nānādhātu-carita-jñāna 中 漢訳 種種界行((智))*Bodh-*
bh.
nānādhātu-śata 中 種 数百の各種の鉱物。
nānādhātu-samākīrṇa 過受分 種々の鉱物にみたされ
 た。
nānādhimukti (°nā-adh°) 女 漢訳 種種勝解, 種種樂
 欲 *Bodh-bh., Saddh-p.*
nānādhimuktika (°nā-adh°) 男 漢訳 種種勝解 *Bodh-*
bh.
nānādhimuktitā (°nā-adh°) 女 漢訳 種種勝解, 種種
 解 *Bodh-bh.*
nānādhimukti-jñāna-bala (°nā-adh°) 中 漢訳 [如来
 十力の一], 種種勝解智力, 知諸衆生解力, 種種解
 智力, 信解智力 *Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*
nānā-nāman 形 漢訳 種種異名 *Bodh-bh.*
nānā-nirukti 女 漢訳 種種言辭 *Saddh-p.*
nānāndr 女 = *nanāndr.*
nānā-pakṣi-gaṇākīrṇa (°ṇa-āk°) 過受分 種々の鳥の
 群でみたされた。
nānā-pakṣi-niṣevita 過受分 種々の鳥の群が常時出入
 する。
nānā-prakāra 形 種々の, 多様の; 漢訳 種種, 種種
 物 *Aṣṭ-pr., Prāt-m., Sūtr.*
nānā-phalamaya 形 種々の果実を含むまたはからなる。
nānā-buddhi-ruc 形 種々の事に心喜ぶ。
nānā-bhāva 形 種々の, 多様の。男 種々の性質または
 本質; 漢訳 若干種, 種々類, 種々; 異; 異趣乖離
Buddh-c., Madhy-v., Vajr-pr.
nānābhiprāya (°nā-abh°) 男 漢訳 種種欲, 志性各異
Saddh-p.
nānā-mantraugha-siddhimat (°ra-ogh°) 形 たくさん
 の神秘的咒文をもっている。
nānā-mukha 形 種々の方向に向う; 漢訳 種種門
Bodh-bh.
nānābhinna-mata (°nā-abh°) 中 漢訳 種々異見 *Bodh-*
bh.
nānā-mrga-gaṇa 男 種 種々の獸類の群。
nānā-rasa 形 各種の味をもつ; 種々の情緒をもつ(劇)。
nānā-rākṣasa-sambhava 男 漢訳 随処生羅刹 *Suv-pr.*
nānā-rūpa 形 多様の, 多種の。
nānārgha-mahā-ratnamaya (°nā-ar°) 形 種々の貴重
 な大きい宝石からなる。

nānārtha (°nā-ar°) 形 種々の目的をもつ; 種々の
 または異った意義をもつ; 多少異ったものを含んでい
 る。中 種々の意義をもっている語; 新しい文。
nānā-varṇa 形 多彩の。男 種 各種の色, 多彩。
nānā-varṇākṛti (°ṇa-āk°) 形 種々の色と形との。
nānā-vāsa 男 漢訳 不共住 *Abh-vy.*
nānā-vikāra 男 漢訳 種種 *Saddh-p.*
nānā-vicitra 形 種々多様の; 漢訳 種種諸。
nānā-vijātiya 形 漢訳 種種異類 *Bodh-bh.*
nānā-vidha 形 種々の, 多様の; 漢訳 種々 *Bodh-c.,*
Sāmkhy-k.
nānā-veśākṛtimat (°ṣa-āk°) 形 種々の服装と外見と
 をもつ。
nānā-śāstra-praharaṇa 形 種 種々の武器をもって闘
 う。
nānā-śāstra-kuśala 形 漢訳 妙閑諸論, 善解諸論 *Suv-*
pr.
nānāśraya (°nā-ās°) 形 種々な身体(形相)をもつ;
 漢訳 種種各異形 *Buddh-c.*
nānā-saṃvāsika 形 異った場所に住する, 他の教区
 に属する; 漢訳 別住 *Mvyut.*
nānā-stri 女 種 種々の種姓に属する女。
nānurakta 形 愛着しない, 好意をもたない, 不親切
 な。
nāndi 女 喜び; 満足; 称賛; 頌詞(演劇の開幕に際し
 ての神への祝福または祈り)。
nāndika 男 門柱; 開会のまたは序の儀式。
nāndi-nāda 男 歎呼, 歎声。
nāndi-nināda 男 歎声, 歎呼。
nāndi-mukha 男 楽しい顔をもつ; 種 [特別の祖霊の
 一群]。
nāndi-rava 男 歎声, 歎呼。
nānduka 男 [人名]。
nāndy-ante 副 *nāndi* の終りに(戯曲)。
nānya 形 漢訳 非異 *Vijñ-t.*
nānyatra 不變 (從 とともに) 漢訳 無別異, 不異
Aṣṭ-pr.
nāpita 男 理髮師, 床屋; 漢訳 剃毛師, 剃頭家 *Divy.,*
Mvyut. 女 -i, 理髮師の妻。
nāpita-bhāṇḍa 中 漢訳 剃頭家火(?), 剃頭家器
Mvyut.
nābh 女 孔, 裂け目; 泉。
-nābha 形 へそ; 車輪の轂; 中心, 中央。男 [Śruta
 の息子の名]。
nābhasa 形 (女 -i) 空に現われる; 天空から来る(声)。
nābhāka 形 *Nabhāka* から出た, *Nabhāka* に属する。
 男 [(聖仙) *Nabhāka* からの(父系)]。
nābhi 女, (男) 男 (また 女 -i) へそ, へその緒; (また 女
 -i) 車輪の轂; へそに似た小孔; 中心, 中枢; 起源
 (とくに共通の); 家庭; 親類関係; 親類。男 麝香鹿;
 首長または主権者(とくに諸王中における); 漢訳 膝,
 齊; 轂, 軸 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Divy.,*
Mañj-m., Mvyut., Rastr., Śikṣ., 梵千。
nābhika 男 漢訳 轂 *Bodh-bh.*
nābhi-kṛntana 中 へその緒の切断。
nābhi-gandha 男 麝香の香。

nābhi-gupta 男 [Hiraṇyaretas の息子およびその王国の名].

nābhijanana 形 (女 -i) 高貴の生まれにふさわしくな

nābhi-jāta 1. 過受分 へそから生じた.

nābhijāta 2. 過受分 高貴の生まれでない.

nābhitva 甲 へそたること, へそたる状態.

nābhidhāvat 現分 救助に来ない.

nābhi-nāla 甲 (女 -ā) (一° 形) へその緒.

nābhi-padma 男 蓮のようなへそ.

nābhi-maṇḍala 甲 漢訳 臍輪, 臍間 Gaṇḍ-vy., Mañj-m., Mvyut.

nābhimāna 男 自負のない, 傲慢でない, 謙譲な.

nābhi-mūla 甲 へその真下の部分.

nābhi-lakṣita 過受分 認められない.

nābhi-varadhana 甲 へその緒の切断.

nābhī 女 へそ, へその緒; 車輪の轂.

nāma 副 漢訳 雖已成, 或見 Mvyut. → nāman.

nāmaka 1. 形 (女 -ikā) (一°) の名をもつ, ……と名づける; 漢訳 名 Bodh-bh.

nāmaka 2. (Nam) (一°) 曲がる.

nāma-karaṇa 甲 (誕生後の)命名, 命名の儀式; ~ m Kṛ, 命名の儀式を行なう.

nāma-karman 甲 = nāma-karaṇa.

nāma-kāya 男 漢訳 名身, 名字, 名, 字身 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.

nāma-kirtana 甲 (國)の名を言うこと; とくに神の名を唱えること.

nāma-gotra 甲 名と姓.

nāma-graha 男 名を言うこと, 名を呼ぶこと; 命名; 指命.

nāma-grahaṇa 甲 = nāma-graha; 漢訳 称名, 恃名, 取名, 称讚名字 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sūtr.

nāma-grāha 男 = nāma-graha.

nāma-grāham 總 名を挙げて, 名指して.

nāma-jāti-graha 男 名と種姓とを言うこと.

nāmajāti-grahaṇa 甲 = nāma-jāti-graha.

nāmatas 副 ……と名づける, 名は; ~ Kṛ, (業)に (業)の名を与える; ~ Prach, (業)の名を問う;

nāma nāmatas (この場合二語中の一は重複して用いられている).

nāmatika 形 漢訳 毳衣, 但持毳衣 Dharm-s., Mvyut.

nāma-tyāga 男 名を捨てること.

nāma-dhāraka 形 単に名のみを所有する, (困)の名のみある.

nāma-dhārin 形 (一°)の名をもつ, ……と名づけられる.

nāma-dheya 甲 命名; 名称, 名; 命名の儀式; 漢訳 名, 名号, 名字, 首題名字, 首題名号 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Sukh-vy. I., Sukh-vy. II., Suv-pr.; nāmadheyam pari-Kirt 宣説名字 Aṣṭ-pr. 80.

nāmadheya-karaṇa 甲 = nāma-karaṇa.

nāmadheya-grahaṇa 形 漢訳 称名, 称名号, 執持名号 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.

nāmadheyagrahaṇa-mātra 甲 漢訳 称念一名 Sūtr.

nāma-dheyatas 副 名儀上, 名目は.

nāma-dheya-mātra 甲 漢訳 但(有)名字, 唯(有)名相; 但(有)仮名 Aṣṭ-pr., Sapt-pr.

nāman 甲 (一° 形 女 -mni, -man はまれ) 標識; 形式, 様態; 名, 名号; 単なる名 (実在に対する), 形跡; 個人名 (姓すなわち gotra に対する); 性質; 種類, 種族; (ただ 一° 形 のみ) 良い評判, 名声; 名詞 (文法); 漢訳 名, 名字, 名号, 名想, 名相, 名声, 名聞, 仮名 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Madhy-vibh., Nyāy-pr., Sūtr., 梵千., 梵維.; nāma-guruka 貴名声 Aṣṭ-pr. 681. nāma Kṛ, 固 名のる; ~ Grah, 名指す; ~ BHr, 名を負う; ~ Kṛ, ~ Dā または ~ DHā 名を与える; nāmnā Kṛ または vi-DHā, (業)を (業)と名づける. 副 nāma ……と名づける, 名は(しばしば nāmnā または nāmatas が余分に付加される); 実に, 確かに, もちろん; 恐らく; いわば; 単に外観においては; [副 とともに] そもそも, 一体全体; [副 とともに] よし, ままよ; api nāma [文章の初めで 願 とともに] 恐らく; 土 願 ……すればよいが; [api よりも一層強く先行の語を強調する]; mā nāma 土 願 ……できるはずはない, ぜひとも…しようとはしない; 土 願 ……さえしなければよいが; nanu nāma 確かに.

nāmana 甲 漢訳 転変 Abh-vy.

nāma-nāmika 男 [Viṣṇu 神の称].

nāma-niyata-praveśa 男 漢訳 入決定名(三摩地) Mvyut.

nāma-nau 女 名前だけの船 (= 実在しない船).

nāmantika 形 = nāmatika; 漢訳 故旧敷具, 常節量食, 節量食 Aṣṭ-pr.

nāma-pada 甲 名; 漢訳 名字 Guhy-s.

nāmapada-vyañjana-saṃkhyā 女 漢訳 名句字数 Sūtr.

nāma-paryāya 男 漢訳 異名, 名門 Lanḅ., Sūtr.

nāma-paryeṣanā 女 漢訳 名求, 縁名, 名尋思 Bodh-bh., Sūtr.

nāma-mātra 甲 名のみなること, 単なる名. 形 (困) の名のみもつまたは名だけ以外何物もない; 漢訳 唯有名, 唯名, 但有名, 但仮名字, 但有仮名, 唯有仮名 Aṣṭ-pr., Madhy-vibh., Sūtr.

nāma-mātraka 形 漢訳 但名字, 唯名 Madhy-v.

nāma-mātratā 女 漢訳 唯有名 Bodh-bh.

nāma-mātratva 甲 漢訳 唯名, 唯有名 Madhy-vibh.

nāma-mālā 女 名詞の辞典; 辞典の表題.

nāma-mudrā 女 名を記した印鑑用指環.

nāma-yajña 男 名のみ祭儀.

nāma-rūpa 甲 名と形, 名色; 個性, 個体; 漢訳 [十二縁起の一] 名色 Bodh-bh., Dharm-s., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr.

nāmarūpa-nirodha 男 漢訳 名色滅 Suv-pr.

nāmarūpa-pratyaya 男 漢訳 名色縁 Suv-pr.

nāma-liṅga 甲 名詞の性 (文法).

nāma-vismṛti 女 名の忘失.

nāma-śeṣa 形 その人の名だけ残っている, 死んだ.

nāma-saṃketa 形 漢訳 号; 仮立名字, 名字仮説 Bodh-bh., Lal-v.

nāma-saṃgīti 女 漢訳 [仏典の名; 最勝妙吉祥根本

智最上祕密一切名義三摩地分]

nāma-saṃpanna 形 名徳相称, 名字徳称 Lal-v.
nāmākṣara 中 覆 名前を形成する音節, 名を綴ること.

nāmānka 形 名を記した.

nāmānkitā 過受分 = nāmānka.

nāmādhiṣṭhāna 中 覆 名字 Aṣṭ-pr.

nāmāntara 中 覆 別名 Abh-vy.

nāmāpadeśa 男 覆 名字, 虚名 Aṣṭ-pr.

nāmābhiniveśa 男 覆 名不応著 Sūtr.

nāmārtha 男 覆 名義 Sūtr.

nāmālambana (°ma-āl°) 中 覆 名縁, 想名 Sūtr.

nāmāvaśeṣa 男 覆 nāmāvaśeṣaḥ kṛtaḥ 空留其名 Divy.

nāmika 形 (女 -i) 個人名に関する; 名詞の (文法).

nāmītāṅga 中 覆 身……曲 Śikṣ.

nāmin 形 名を有する.

nāmopadeśa (°ma-up°) 男 覆 指示名 Mvyut.

nāmya 未受分 屈曲しやすい, 柔軟な.

nāya 男 指導者; 案内者; 指導, 案内; 賢明な処置, 政策, 方法.

nāyaka 男 案内者, 指導者, 首長; 主人公または愛人 (劇における); 主, 夫; (首飾り)の中心の真珠; [人名]; 覆 [釈尊の異名]; 導師, 導, 大導師, 導師者, 為導者, 諸仏, 世尊, 大将, 智者; 船筏 Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Vajr-pr.

nāyakatva 中 指導者または首長たること.

nāyakāya 名動 中 nāyakāyate 首長の役をする; (真珠の首飾りの) 中心の玉の位置をとる.

nāyana 形 眼に関する, 眼の.

nāyika 形 覆 導 Aṣṭ-pr.

nāyikā 女 貴婦人; 主婦; 女主人公 (劇における).

nāra 形 (女 -i) 人に属する, 人の. 男 人; 覆 人 Lal-v.; 覆 水. 女 nārā 覆 水.

nāraka 形 (女 -i) 地下界の, 地獄の. 男 地獄の住者; 地獄, 地下界, 冥界; 覆 地獄有情, 地獄衆生; 地獄, 悪趣; 音写 那落迦, 那落迦撰 Abh-vy., Bodh-bh., Laṅk., Vijñ-v.

nārakin 形, 男 = nāraka.

nārakeya 形 覆 地獄人 Śikṣ.

nāraṅga 男 (女 -i) 柑橘樹.

nārada 男 [人名], [とくに聖仙 (Rṣi) の名で, 彼はしばしば地上に下りて, 天界に起りつつあることを告げ, また地上に起りつつあることを告げるために帰る]; [Viśvāmitra の子の名]; [山嶽の名]; 覆 [大仙の名] 人与子; 音写 [天の名] 那羅 (天) Lal-v., Mvyut.

nāradin 男 [Viśvāmitra の子の名].

nāradya 形 Nārada に関する. 中 [種々の著作の表題].

nāra-siṃha 形 (女 -i) Nara-siṃha に関するまたは属する. 男 人獅子 (に化身 (avatāra) した) Viṣṇu 神.

nārāca 男 矢の一種 (とくに鉄製の), 矢; 覆 鉄箭 Mvyut. → ardha-nārāca.

nārāca-durdina 中 矢の嵐または驟雨.

nārāyaṇa 男 [原人 (Nara) からの (父系)]; [Brahma 神または Viṣṇu 神および Kṛṣṇa 神と同一視され, Viṣṇu 神の権化として Nārāyaṇa = Kṛṣṇa]; [人名]; 覆 音写 那羅延; 那羅延天; 人種神, 鈎鎖 (力士), 人生本 Abh-vy., Av-ś., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Suv-pr., 玄応. 男 覆 Kṛṣṇa 神の戦士. 形 Nārāyaṇa に関するまたはに属する; Viṣṇu-Kṛṣṇa 神に関する. 因 -i [Durgā 神の称].

nārāyaṇa-pariprcchā 女 覆 [経名; (音写) 那羅延所問経].

nārāyaṇa-bala 中 覆 (音写) 那羅延力; 人種神力 Bodh-bh., Mvyut.

nārāyaṇāya 名動 中 nārāyaṇāyate Nārāyaṇa 天となるまたはのように振舞う.

nārāyaṇāstra 中 Nārāyaṇa の武器.

nārāśaṃsa 形 (女 -i) 人々の称賛に関する, 賞賛の; Agni Nārāśaṃsa に献じた. 男 [Soma 液を入れる杯の一種, 決してからにされず, それに向かって '漲れ (āpyāyasva)' という語をふくむ文句が唱えられる].

nārāśaṃsa-paṅkti 形 五個の Nārāśaṃsa の杯をもって施行された.

nāri 女 女性, 妻.

nārikera 男 椰子の実, 椰子樹.

nārikela 男 = [同上].

nārikela-kuhara 中 椰子の実のくぼみ; [島の名].

nārikela-dvīpa 男 [島の名].

nāri-nara 男 覆 男女合会 Lal-v.

nāri 女 女性, 妻; 覆 女人, 妃 Lal-v., Mvyut., Saddh-p.

nārika 形 (一°) 女, 妻.

nāri-tirtha 中 覆 [婦人のための五ヶ所の聖浴地].

nāri-dūṣaṇa 中 婦人の悪徳.

nāri-nara 男 覆 男女 Saddh-p.

nāri-nātha 形 婦人によって所有された(家).

nāri-pura 中 婦人室.

nārimaya 形 婦人のみからなる.

nāri-yāna 中 女の乗物.

nāruṃ-tuda 形 傷に触れない, 傷つけない, 無害の.

nārtha 男 覆 不饒益, 不随義 Laṅk.

nārmada 形 Narmada に属する.

nārya-jana (°na-ār°) 男 覆 非聖人 Laṅk.

nāla 形 葦からなる. 中 (男) 中空の茎; 蓮の茎; 管, 筒; 管状の道具; (身体の) 血管, ~その緒; (一°) 柄; [車の装飾の一種]; 覆 茎, 柄茎 Mañj-m., Mvyut. 女 -ā [河の名].

-nālaka 形 (蓮の) 茎.

nālada 男 覆 [人名] 音写 那羅達多 Av-ś.

nālānda 男 覆 [地名] 施無厭; 音写 那爛陀 Mvyut.

nālayu 男 または 女 覆 音写 那羅素 Gaṇḍ-vy.

nālāyita 形 柄の役をする.

nāli 女 管状のもの; 血管; 覆 至(!), 了達(!) Mvyut.

nālika (一°) 形 二十四分の間.

nālikā 女 = nālika; 諷刺, 喻, 暗示; 時刻を報ず

る金属板 (*Jāt-m.*); 漢訳 刻 (時の単位 = 31kalā または 30kalā; = 1/2 muhūrta) *Divy.*; 器皿 *Mvyut.*
 → bhaiṣajyāñjana ~

nālikera 男 椰子の実, 椰子樹.
 nālikela 男 = nālikera.
 nāli 女 = nāḍī; 管状のもの; 血管; 灌腸.
 nālika 男 (女 -i) 矢または槍の一種.
 nāli-jaṅgha 男 [人名].
 nāli-vāhika 男 象の世話をする召使い.
 nāva = nau (°— または °) 船; 漢訳 舩 *Mvyut.*
 nāvanita 形 (女 -i) バターから生じた; バターのよ
 うに柔い. → navanita.
 nāvamika 形 (女 -i) 第九の.
 nāvā 女 船; 漢訳 船 *Mvyut.*
 nāvādhirohaṇa 中 漢訳 船行, 船上行 *Prāt-m.*
 nāvika 男 船頭, 水夫; 漢訳 船師, 船匠, 舟師 *Av-ś.,*
Mvyut.
 nāvika-nāyaka 男 船長.
 nāvika-pati 男 [同上].
 nāvṛta (°na-āv°) 形 取り囲まれない; 制限されない,
 無限の.
 nāvopajivana (°va-up°) 男 船頭, 水夫.
 nāvopajivin (°va-up°) 男 [同上].
 nāvya 形 航行できる. 中 航行できる河川. 男 船頭,
 水夫.
 nāvya 女 [同上 (中)].
 nāśa 男 損失, 消失; 壊滅, 絶滅; 零落; 死; 漢訳
 失, 散失, 無, 尽, 息, 壊, 滅, 消除, 損耗, 損
 棄, 摧伏; 死 *Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-*
bh., Divy., Lan̄k., Madhy-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Su-
pr., Sūtr.
 nāśaka 形 (女 -ikā) (属, °) を消滅させる, 破
 壊する; 漢訳 能滅 *Saddh-p.*
 nāśa-dharmaka 男 漢訳 壊法, 亡失 *Bodh-bh.*; ~ =
 sya nāśaḥ 壊法壊 *Bodh-bh. 193.*
 nāśana 形 (女 -i) (属, °) を破壊する, 除去する,
 移す. 中 消失させること; 破壊, 零落させること,
 撤去; (属) の忘却; 漢訳 害, 損, 破壊, 捨, 滅除
Divy., Mañj-m., Saddh-p., Śikṣ., Su-pr.
 nāśana-kara 形 (女 -i) (°) を破壊する.
 nāśaniya 未受分 漢訳 折毀 *Mvyut.*
 nāśita 使役 過受分 → Naś 1. 漢訳 汚, 擯, 被擯,
 壊, 滅 *Abh-vy., Mvyut., Prāt-m., Śikṣ.*
 nāśita-saṃgraha 男 漢訳 摂受被擯, 擯者復収, 遣則
 復返 *Mvyut.*
 nāśin 形 消失する, 滅する; 滅亡すべき; (°) を
 消滅させる, 破壊する.
 nāśaikṣa 形 漢訳 非無学 *Mvyut.*
 nāśya 未受分 除去されるべき; 破壊されるべき.
 nāṣṭika 男 [→ naṣṭa] 紛失した財産の (もとの)
 所有主.
 nāṣṭrā 女 [Naś] 危険, 破滅, 没落; 悪魔.
 nās 女 属 鼻孔, 鼻.
 nāsaṃjñin 形 漢訳 非無想 *Gaṇḍ-vy.*
 nāsatya 男 属 [Aśvin 双神の称]; [後世では 属
 Aśvin 双神の一方の名]. 形 Aśvin 双神に関する

または属する.
 nāsad-āsiya 形 無有歌 (すなわち nāsad āsit で始まる
Rg-veda X 129) に関する.
 nāsā 女 (属, 属) 鼻孔, 鼻; 漢訳 鼻, 嘴, 喙 [背?] *Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p.*
 nāsāgra (°sā-ag°) 中 鼻の先端.
 nāsā-ccheda 男 漢訳 剃鼻 *Bodh-bh.*
 nāsāntika (°sā-an°) 形 鼻に達する, 鼻の高さの(杖).
 nāsā-puta 男 鼻孔, 鼻翼; 漢訳 鼻孔 *Mvyut.*
 nāsā-randhra 中 鼻孔.
 nāsā-vaṃśa 男 鼻筋.
 nāsā-viroka 中 男 鼻孔.
 nāsā-vivara 中 [同上].
 nāsikā 女 属 鼻孔; 象の鼻; (属) 鼻; 属 鼻孔, 鼻;
 漢訳 鼻 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Rāṣṭr., Saṃ-*
khy-k.
 nāsikāgra (°kā-ag°) 中 鼻の先端.
 nāsikā-bila 中 漢訳 鼻孔 *Bodh-bh.*
 nāsikā-mala 中 鼻汁.
 nāsikā-rajju 女 鼻孔に通す紐.
 nāsikāropana (°kā-ār°) 中 鼻の上に置くこと.
 nāsikya 形 鼻中にあるまたは鼻から出た; 鼻から発せ
 られた, 鼻音の.
 nāsira 中 (軍隊の) 先鋒, 前衛. 男 漢訳 [また nāsira]
 衆類聚(?), 先陣勇士 *Mvyut.*
 nāsira 中 [=nāsira] [同上]; 樟腦(?).
 nāsira-cara 形 前に進む, 先鋒または前衛をなす.
 nāsti 不変 存在しない; 漢訳 無, 都無, 非有 *Bodh-*
bh., Lan̄k., Madhy-v., 梵千., 梵雜.
 nāstika 形 信じない. 男 不信心者, 無神論者 [神は
 存在しないと主張する者]; 虚無主義者; 漢訳 無,
 執無; 無者 *Bodh-bh., Lan̄k., Madhy-v.*
 nāstikatā 女 無神論; 漢訳 都無, 無 *Bodh-bh.*
 nāstikya 中 不信; (± karmanām) 業の結果を信じ
 ないこと.
 nāstikyatā 女 無神論.
 nāstitā 女 存在しないこと, 実在しないこと; 漢訳
 無, 無性 *Aṣṭ-pr., Lan̄k., Madhy-v.*
 nāstitva 中 [同上]; 漢訳 無, 無性, 無体, 無相,
 無所有, (空)無所有 *Lan̄k., Madhy-v., Sūtr., Suvik-*
pr., Vijñ-v.
 nāstitva-sādhaka 中 漢訳 能成於無 *Lan̄k.*
 nāsti-mūrti 女 形体のないこと, 肉体のないこと.
 nāsti-vāda 男 無神論, 不信.
 nāsti-hetuka 中 漢訳 無因 *Lan̄k.*
 nāsty-apekṣya 中 漢訳 対於無, 待無 *Lan̄k.*
 nāsty-asti 形 漢訳 有無 *Lan̄k.*
 nāsty-asti-kalpanā 女 漢訳 有無(但)分別, 妄計於有
 無 *Lan̄k.*
 nāsty-astitva 中 漢訳 有無 *Lan̄k.*
 nāstyastitva-vādin 男 漢訳 有無論者 *Lan̄k.*
 nāstyasti-darsana 中 漢訳 有無見, 見於有無 *Lan̄k.*
 nāstyasti-doṣa 男 漢訳 有無過失 *Lan̄k.*
 nāsty-ātman 形 漢訳 無我 *Lan̄k.*
 nāsya 中 鼻孔を通す紐.
 nāhaṃ-mānin 形 漢訳 離於我慢 *Bodh-bh.*

nāhuṣa 1. 形 (女 -i) 隣接した; 血族の. 男 隣人, 血族.
 nāhuṣa 2. 男 Nahuṣa の後裔, [Yayāti の 父系].
 ni 副 下に; 中に, ……の中へ; 後方へ [AV. X 8, 7 に一回出るのを除いて, もっぱら動詞と結合し, または名詞と複合する. 後の場合には時として = nis].
 Niṃs, II. 固 niṃste 密接に接触する, 接吻する, 挨拶する.
 niḥka°, → niṣka°.
 niḥ-kārita 過受分 漢訳 無所作 *Daś-bh.*
 niḥ-kleśa 形 漢訳 無惑, 離煩惱, 無煩惱, 無復煩惱, 無煩惱者 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Madhy-v., Saddh-p.* → niṣkleśa, kleśa.
 niḥ-kṣatra 形 Kṣatriya 族をもたない.
 niḥ-kṣatriya 形 [同上].
 niḥ-kṣepa 男 追放, 放棄, 除去; 送還.
 niḥ-pa°, → niṣ-pa°.
 niḥ-parigraha 形 漢訳 離諸執著 *Vajr-s.*
 niḥ-paryāyana 男 副 漢訳 不就異門, 不由別意. → paryāya.
 niḥ-puṃgala 形 漢訳 無数取趣 *Daś-bh.*
 niḥ-prthag-jana 形 漢訳 捨凡夫意 *Śikṣ.* → prthag-jana.
 niḥ-pratikāṅkṣin 形 漢訳 無所希求 *Śikṣ.*
 niḥ-pratipakṣa 形 漢訳 無対治 *Gaṇḍ-vy.* → pratipakṣa.
 niḥ-prabhaṃ-kara 形 漢訳 掩蔽 *Lal-v.* → prabhaṃ-kara.
 niḥ-prayojana 形 漢訳 無用 *Abh-vy.* → niṣ-prayojana.
 niḥ-prayojanatva 中 漢訳 無用 *Abh-vy.*
 niḥ-prāṇaka 形 漢訳 無虫 *Mañj-m.* → prāṇaka.
 niḥ-pritika 形 漢訳 離喜 *Abh-vy.* → niṣ-priti.
 niḥ-pha°, → niṣ-pha°.
 ni-kakṣa 男 脇の下.
 ni-kāṣa 形 そばにある, 近い. 中 近いこと, 接近. ~m 副 (属, 一°) のそば近くに, ~āt 副 の近所から, ……から離れて. ~e 副 の近くに, ……のそばに.
 nikāṣa-ga 形 近くにある, 手近かにある, 手許にある.
 nikāṣa-vartin 形 [同上].
 nikāṣa-stha 形 [同上].
 nikaṣi-BHū, (属) に近づく, 近くにある.
 ni-kara 男 群, 堆積, 密集, 大量, 多数.
 ni-karuṇa 形 漢訳 無慈 *Lal-v.*
 ni-kartana 形 除去する; 横領する. 中 切除, 除去; 打倒; 奪取.
 ni-kartavya 未受分 悪くまたは卑しく行なわれるべき. 中 (属) に対し悪く振舞うべきこと.
 ni-kartr 男 悪くまたは卑しく振舞う人.
 nikarṣa 男 縮少, 減少, 低下, 減価; 低度.
 ni-kaṣa 男 擦り込むこと, 摩擦; まぐわ (把); 試金石. 中 試金石上の黄金の条痕.
 nikaṣa-grāvan 男 試金石.

ni-kaṣana 男 中 [同上].
 nikaṣa-pāṣāna 男 [同上].
 ni-kaṣā 1. 男 副 (業) に近く.
 ni-kaṣā 2. 女 [Rāvaṇa の母].
 nikaṣāya 名動 固 nikaṣāyate 試金石である, 試金石の用をなす.
 nikaṣāyamāna 現分 (一°) の試金石または標準となる.
 nikaṣāśman 男 試金石.
 ni-kāma 男 欲望, 満足; 漢訳 所欲, 縦意, 如意 *Abh-vy., Bodh-bh.* 一°, ~m, ~tas 副 欲に従って, 随意に; 望み通りに, 十分に, 豊富に; 全く.
 nikāma-kāma 形 貪欲な, 強欲な, 吝嗇な.
 nikāma-kāmaniya 形 本来愛すべき, 生来魅力ある.
 nikāma-jala 形 水の豊富な(河).
 nikāma-ṭapta 形 過度に燃えた, 激しく燃えた.
 nikāma-niraṅkuśa 形 (属) を全く自由にするまたは支配する, 全く独立の.
 nikāma-lābhita 女 漢訳 得随所欲 *Bodh-bh.*
 nikāma-lābhin 形 漢訳 得所欲, 得随所欲 *Bodh-bh., Mvyut.*
 nikāma-varṣa 形 雨の豊富な.
 nikāma-varṣin 形 随意に雨を降らせる.
 nikāma-sukhin 形 非常に幸福な.
 ni-kāya 男 会衆, 組, 類, 会; 多数; 集り, 身体; 住居, 避難所; 仏教經典の部集(パーリ語の五ニカーヤ参照); 仏教の部派; 漢訳 衆, 聚, 衆会, 部, 類, 部類, 種類, 身, 種類身 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lanḱ., Sūtr.*; 同分, 衆同分, 聚同分 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*; aṣṭā-daśa ~āḥ 十八部 [1. ārya-sarvāsti-vādāḥ 聖説一切有部, 2. mūla-sarvāsti-vādāḥ 根本説一切有部, 3. kāśyapīyāḥ 飲光部, 4. mahīśāsakāḥ 化地部, 5. dharma-guptāḥ 法蔵部, 6. bāhuśrutīyāḥ 多聞部, 7. tāmraśāṭīyāḥ 銅鑠部, 8. vibhajya-vādināḥ 分別説部, 9. ārya-sammatīyāḥ 聖正量部, 10. kaurukullakāḥ 高拘梨柯部, 11. āvantakāḥ 不可棄部, 12. vātsī-putrīyāḥ 犢子部, 13. mahā-samghikāḥ 大衆部, 14. pūrvā-śailāḥ 東山部, 15. apara-śailāḥ 西山部, 16. haimavatāḥ 雪山部, 17. lokottara-vādināḥ 説出世部, 18. prajñāpti-vādināḥ 説仮部] *Mvyut.*
 nikāya-gati-sambhava 男 漢訳 諸趣種類生, 随種類身得 *Lanḱ.*
 nikāya-sabhāga 男 漢訳 衆類, 同分, 衆同分 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; ~syāvedha (°ya āv°) 衆同分勢力 *Mvyut.*
 nikāyāntariya 形 漢訳 余部, 有余部 *Abh-vy., Mvyut.*
 ni-kāra 男 屈辱を与えること, 侮辱; 压迫, 迫害.
 nikāvalgā 女 [ある婦人の名 または *Nikā* および *Valgā* の二女の名 (?)].
 ni-kāsa 男 視界; 外観, 外貌; 近隣. 形 一°, ……の外観をもつ (=……のような, ……に似た); 漢訳 如 *Lal-v.* ~m 副 (属) の眼前で.
 ni-kāsa 男 搔くこと; 摩擦すること, 搗き砕くこと; 摩擦; 研摩.

ni-kuñja 男 藪, 叢, 木立; 漢訳 叢林, 幽邃 *Sad-dh-p.*
 ni-kubja 形 曲げられた (*Lal-v.*).
 ni-kubjana 中 (容器を)覆すこと (*Mvyut.*); 漢訳 合 (鉢盂)在地(?) *Mvyut.*
 ni-kumbha 男 [植物の名, 学名 *Croton polyandrum*]; [*Śiva* 神の従者の名]; [ある *Dānava* の名]; [ある *Rākṣasa* の名]; [*Ayodhya* 国王の名]; [諸人の名].
 nikumbhila 男 [*Lankā* (= *Ceylon* 島) の聖地の名].
 nikumbhilā 女 [同上].
 nikuramba 男 中 多数, 群.
 nikurambaka 男 中 [同上].
 nikurumba 男 中 [同上].
 nikulinakā 女 [特殊の飛び方の一種].
 ni-kūjita 過受分 美しく声を振わせて歌った, 轉った, 鳴いた; 漢訳 鳴, 悲鳴, 出妙音声, 哀音相和 *Divy., Lal-v.*; 出((音)) *Lal-v.*
 ni-kūjitavya 中 嘆息, 呻吟 (*Jāt-m.*).
 ni-kūla 形 (山の)下り坂の; 漢訳 下, 低; 坑坎 *Lal-v., Mvyut.* → *ut-kūla.*
 ni-Kṛ nikaroti, nikurute. → *Kṛ* 1.
 ni-Kṛt nikṛntati (-te). → *Kṛt.*
 ni-kṛta 過受分 → *Kṛ* 1. 卑しめられた, 屈従させられた. 中 卑下, 屈従; 詐欺, 不正直.
 nikṛta-prajña 形 心卑しい, 心の墮落した.
 nikṛta-mati 形 [同上].
 ni-kṛti 形 不正直な, 欺瞞の; 下賤の. 女 不正直, 詐欺; 下賤; 悪行, 卑しい所行, 卑劣さ, 奸悪; 欺瞞 [*Adharma* または *Dambha* の娘として人格化される]; 漢訳 詐偽 *Bodh-bh.*
 nikṛti-citta 中 漢訳 無利心 *Sūtr.*
 nikṛti-jivana 形 ごまかしてまたは一時逃れで暮らす, 不正直に振舞う.
 nikṛtiṃ-juṣ 形 邪悪を喜ぶ, 不正直を喜ぶ.
 nikṛti-prajña 形 邪悪に通じた, 不正に慣れた.
 ni-kṛtimat 形 不正直な.
 ni-kṛtta 過受分 切り取られた, 切り刻まれた; 漢訳 摧, 折, 摧折 *Divy.*: ~*śṛṅga* 折角 *Divy.* 165. → *mūla* ~.
 ni-kṛtyā 女 邪悪, 不正直, 欺瞞.
 ni-kṛtvan 形 欺く, ぺてんの(骰子に関して).
 ni-kṛntana 形 切断する, 破壊する. 中 切断; 殺戮, (圓, 一°)の破壊, 壊滅(とくに敵軍の).
 ni-Kṛṣ nikarṣati, nikṛṣati. → *Kṛṣ.*
 ni-kṛṣta 過受分 → *Kṛṣ.* 漢訳 下, 賤, 下賤 *Bud-dh-c., Mañj-m., Sūtr.*
 nikṛṣta-bhūta 過受分 (圓)に比し減少または縮小した.
 nikṛṣtāsaya (°*ṭa-ās°*) 形 卑しい性質をもつ.
 nikṛṣtāsayatā (°*ṭa-ās°*) 女 [同上 中].
 nikṛṣtopādhi (°*ṭa-up°*) 形 より低い何物かによって条件づけられた.
 nikṛṣtopādhitā (°*ṭa-up°*) 女 [同上 中].
 ni-keta 男 (中) 標識, 記号; 邸宅, 家, 住居; 蜜蜂の巢(?); [婆羅門の宗教生活中の一段階]; 漢訳 所, 処, 住, 住処; 巢穴 *Lal-v., Mvyut., Śikṣ.*; 繫

属, 著, 貪著, 著処, 貪愛, 所著処, 依著処 *Daś-bh., Śikṣ.* → *a* ~.

ni-ketana 中 住居, 邸宅, 家; 殿堂; 漢訳 執著処, 貪欲繫縛 *Gand-vy.*
 ni-koca 男 収縮, 縮小; (*akṣi* ~ 眼を)閉じること.
 ni-kocana 中 [同上].
 nikta 過受分 → *Nij.*
 ni-kramaṇa 中 踏むこと, 歩くこと; 足取り, 足跡.
 ni-kriḍa 男 競技, 遊戯.
 ni-kvaṇa 男 音, 響.
 ni-kvāṇa 男 [同上].
 Nikṣ, I. 中 *nikṣati* 貫く, 突き通す; 接吻する.
 ni-Kṣip nikṣipati. → *Kṣip.*
 ni-kṣipta 過受分 [*Kṣip*] 投下された, ……の上に投ぜられた; 委託された; 置かれた; 捨てられた, 廃棄された; 任命された; 漢訳 置, 安置; 所寄, 所寄付, 所受, 貯; 捨, 棄, 棄捨; 断 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ.*; ~*e pāde* 'vanamati 踏則随足而下 *Mvyut.*
 nikṣipta-dhura 形 漢訳 捨仏道 *Sūtr.*
 nikṣipta-bhāra 形 (一°)に荷物を置いた.
 nikṣipta-vāda 形 (圓)に関して語ることを止めた.
 ni-kṣiptr 男 漢訳 能捨 *Abh-vy.*
 ni-kṣepa 男 置くこと, 下ろすこと; ……の上に投ずることまたは落すこと; (凝視を) (因)の方に向けること; 保証金, 担保, 供託物; 漢訳 置, 留, 畜; 所嘱; 満; 投, 下, 尽, 棄捨; 没; 裁; 放 *Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr.*; 誘 *Lank.*; 総, 算数 *Lal-v., Mvyut.*
 ni-kṣepaṇa 中 置くこと; (足を)下ろすこと, 保存するための方法または場所; 漢訳 捨 *Abh-vy.*
 nikṣepa-dhāraka 形 漢訳 護持(仏)所嘱 *Saddh-p.*
 nikṣepa-lipi 女 漢訳 [書体の名] 下書; (音写) 匿憩波書, 賦差波書 *Lal-v.* 126.
 nikṣepāvarta-lipi (°*pa-āv°*) 女 漢訳 [書の名] 擲轉(書); (音写) 匿差婆書, 尼差跋多書 *Lal-v.* 126.
 ni-kṣepita 形 記録に留められた, 銘記された.
 ni-kṣeptr 男 供託者.
 ni-kṣepya 未受分 下ろされるべき; 預けられるべき, (因)に押し込まれるべき.
 ni-KHan nikhanati. → *KHan.*
 ni-khanana 中 埋めること, 地中に隠すこと.
 ni-kharva 中 十億; 漢訳 澗 *Mvyut.*
 ni-kharvaka 男 中 十億.
 nikharvaṭa 男 [ある *Rākṣasa* の名].
 ni-khāta, [ni-KHan の 過受分].
 nikhāta-tuṣāṅgārādimat (°*ra-ād°*) 形 埋もれた殻・炭等を所有する.
 ni-khila 形 (間隙のない), 全くの, 一切の, 完全な; 漢訳 一切, 尽, 無余, 無有余 *Daś-bh., Lal-v., Lank., Rāṣṭr.* ~*ena* 圓 完全に, 悉く.
 nikhilārtha 形 一切の必要物を含む, 完全な.
 ni-gaḍa 中 (足の)鎖; 足枷; (鉄の)鎖(とくに象を繋ぎまたは獣を捕えるための); 漢訳 鎖, 械, 械錠, 重械, 鎖 *Daś-bh., Divy., Lal-v., Śikṣ., 梵雜.* → *suyantrita.*
 ni-gaḍana 中 足枷を施すこと, 鉄鎖をはめること.

nigadaya 名動 他 nigadayati 足枷を施す, 鉄鎖をはめる。過受分 nigadita 鎖に繋がれた。
 ni-Gad nigadati. → Gad.
 ni-gada 男 高声に暗唱すること; 高声に誦唱される。祈禱; 陳述。
 ni-gadita 形 暗唱された, 話された, 語られた, 呼ばれた (Suv-pr.). 中 談話。
 ni-Gam nigacchati → Gam.
 ni-gama 男 挿入すること (とくに神の名を祭式用の祈禱文中に); 章句 (その中にある語が現われる); (語の派生する) 語根; Veda 聖典, 神聖な文書; Veda の解釈書; 神または聖者の言葉; 聖なる教令; 教義; (一)の学または術; 隊商; 町, 市場, 小市場; 漢 邑, 府, 城, 聚落, 城地 Ast-pr., Bodh-bh., Lan., Mvyut., 梵千。 中 音写 [数の名] 儺伽滿, 微伽摩 Mvyut. = vi-gama.
 ni-gamana 中 引証されたもの; 三段論法の結論, 結 (因明の); 漢 出 Saddh-p.; 結, 収尾 Mvyut.
 nigamana-sloka 男 漢 總結, 一偈總結前義 Sutr.
 nigama-nidhi 男 神聖な学すなわち Veda の学の集成。
 ni-gamayitu-kāma 形 漢 令安住 Ast-pr.
 nigamādhyayana 中 Veda の学習, 伝統的な学問。
 nigamānta-vidyā 女 Veda に関する完全な知識, 聖典の完全な知識。
 ni-gamin 形 Veda 聖典に通じた。
 ni-garaṇa 中 食うこと, 飲み下すこと。男 咽喉, 犠牲を焼く煙。
 ni-garjana 中 叫び声; 漢 音 Gaṇḍ-vy.
 ni-garjita 過受分 漢 吼 Gaṇḍ-vy. : nānā-ghoṣa-nirghoṣa ~ 吼種種大声 Gaṇḍ-vy. 88.
 ni-Garh nigarhate. → Garh.
 ni-garhaṇīya 未受分 [正しくは vi-] 漢 応責, 責, 折伏 Mvyut.
 ni-gāla 男 馬の首または咽喉。
 ni-giraṇa 中 飲み下すこと, むさぼり食うこと。
 ni-gīta 過受分 歌われた; 宣言された。
 ni-girṇa 過受分 飲み下された, むさぼり食った; 漢 吞食 Śikṣ.
 ni-Guh nigūhati (-te). → Guh.
 ni-gūḍha 過受分 → Guh. 漢 伏, 不現, 不露; 難解 Av-s., Bodh-bh., Mvyut.
 nigūḍha-cārin 形 変装して歩く。
 ni-gūḍhatara 比較 よく隠された。
 nigūḍha-niscaya 形 企図の隠された。
 ni-gūḍham 副 → Guh.
 nigūḍha-sīras 形 漢 筋脈不露, 脈深不現 Mvyut.
 ni-gūhana 中 隠蔽, 隠匿。
 ni-grhīta 過受分 抑制または保留された, 捉えられた, 捕われた, 阻止された; 漢 摧, 摧伏; 降伏; 調伏; 撰化; 隱 Bodh-bh., Lal-v.
 ni-grhitavya 未受分 漢 可治, 応治, 応調伏 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.
 nigrhitāsāya (°ta-ās°) 男 漢 応調伏意樂 Bodh-bh.
 ni-grhya-vaktr 形 漢 極治罰 Sutr.
 ni-Gṛ nigirati, nigrṇāti, nigilati. → Gṛ 2.
 ni-Gai nigāyati. → Gai.

nigrantha 男 [<nirgrantha].
 ni-grabhīṭṛ 男 捉える者, (犠牲の獣を)縛る者。
 ni-Grah nigrṇāti, nigrṇāte. → Grah.
 ni-graha 男 捉えること; 禁止, 制止; (從) から抑留すること; 抑制, 拘束, 強圧; 折檻, 処罰, 譴責; 論諍に敗北する誘因または原因; 漢 降, 伏; 降伏, 調伏, 折伏, 摧, 摧伏, 能伏, 為伏外執, 屈, 断, 捨, 離散, 間断; 犯禁; 負, 隨負; 治罰 Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Madhy-vibh., Mañj-m., Mvyut., Sam-r., Śikṣ., Sutr., Suv-pr.; 非撰受 Guhy-s. 152. → para-pakṣa.
 nigraha-kriyā 女 漢 調伏 Bodh-bh.
 ni-grahaṇa 中 禁止, 制止; 拘束; 処罰; 漢 降, 降伏, 制伏; 断, 摧, 碎破 Bodh-bh., Lal-v.
 nigrahaṇānugrahaṇa 中 漢 伏信治撰, 善治撰, 分明賞罰 Sutr.
 nigraha-sīla 中 漢 性好悲愍 Bodh-bh.
 nigraha-sthāna 中 論諍に敗北する誘因または原因; 漢 隨在負処; 断処 Bodh-bh., Mvyut.
 ni-grahitavya 未受分 罰せられるべき; 漢 応伏, 応調伏, 処治, 責断, 可呵責 Bodh-bh., Mvyut.
 ni-grahīṭṛ 男 捉える者; 抑制する者, 拘束する者, 妨げる者; 漢 摧伏者 Divy.
 ni-grāhya 未受分 罰せられるべき; (一)によって制圧された, ……によって傷つけられたまたは害せられた; 漢 降伏 Bodh-bh.
 nīgha 形 [Pali nigha, a-nigha, a-nigha. (正しくは igha, an-igha, an-igha?)] 漢 罪業 [Tib. sdig pa] Mvyut.
 ni-ghaṇṭa 男 漢 語彙; [ある Dānava の名]; [=ni-ghaṇṭu, Pali nigaṇḍu]; 漢 匿寫 尼…茶, 尼毘茶 玄應。
 nighaṇṭu 男 語彙; 漢 [種々の著作の名, とくに (Yaska によって Nirukta の中で註解された) Veda の語彙の名]。
 ni-gharṣa 男 摩擦。
 ni-gharṣaṇa 中 摩擦すること, 粉碎すること, 挽き砕くこと。
 ni-ghāta 男 強打, 打撃; 音調の下ること, アクセントのないこと。
 ni-ghātin 形 (一)を打ち倒す, 斬り倒す, 破壊する。
 ni-ghna 形 (一)に頼る; ……の手中にある, 服従する, ……によって支配される; ……に捧げた, 委ねた, 献身的な。
 ni-ghnat 現分 斬る, 殺す。
 ni-ghnatā 女 献身的なこと, 忠実なこと。
 ni-ghnamāna 現分 = ni-ghnat.
 ni-ghnāna 現分 [同上]。
 ni-candra 男 [ある Dānava の名]。
 ni-camana 中 すすること。
 ni-caya 男 蓄積, 集積, 堆積, 束, 群, 多量, 多数; 集合, 蒐集, 貯蔵, 予備; 漢 多, 衆, 堆, 積, 聚, 積聚, 積累, 聚会; 蔵, 庫蔵; 蓋 Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Sutr.
 ni-cayin 形 多数の, 充滿した, 豊富な, 多量の。

ni-Cāy, → Cāy.

ni-Ci niciketi. → Ci 2.

ni-cita 過受分 → Ci 1., 2. 積, 積集; 分明顕現
Lal-v., Mvyut.

ni-cula 男 [樹木の名, 学名 *Barringtonia acutangula*]; [葦草の名]; [詩人の名 (Kālidāsa の友人で競争者)].

ni-culaka 男 [樹木の名]; 容器, 箱; 被覆, 上被.

ni-culita 過受分 容器で覆われた, 箱に容れられた;
(一°)で覆われた.

ni-cetr 男 観察, 観察者; (罽)の観察, ……の観察者.

ni-ceya 未受分 蓄積されるべき.

ni-cola 男 包むもの, 外套, 外被; 被覆; 箱.

ni-colaka 中 [同上].

nicca 形 俗 [< nica] 漢訳 下 Prāt-m. 535; ~ =
āsane niṣaṇṇaḥ 在下 Prāt-m. 535.

ni-cchivi 男 混合種姓(階級) [Vrātya Kṣatriya の子孫].

Nij, III. 陸意 nenekti, nenikte 清める; II, 固 niṅkte
沐浴する. 過受分 nikta 洗われた, 浄められた, 灌
がれた.

ava- 浄化する. 使役 他 avanejayati 洗わせる.

nir- 清める; 固 沐浴する, 自ら飾る, 盛装する.

過受分 nirnikta 洗われた, 清められた, 浄化され
た; 清浄な(譬喩); 洗い去られた(罪); 明らかにされ
た, 説明された.

ni-ja 形 生得の, 内在の; 不断の, 永久の; 自国の
または自党の; 自国内の(敵); 自身の [しばしば = 所
有代名詞]; 漢訳 本性, 決定 Abh-vy., Sūtr. 男 固
自己の国民.

nija-dhrti 女 [Śaka-dvīpa の河の名].

nija-pakṣa 男 自身の与党または味方.

nija-varṇa-dharma 男 自身の種姓(階級)の法.

nija-varṇa-dharmatas 副 自身の種姓(階級)の法か
ら.

nija-satru 男 自分自身の内にひそむ敵, 内在する敵,
内敵.

ni-jur 女 焼くこと, 焦がすこと, 火で破壊すること.

niṭāla 中 前額.

niṭīla 中 [同上].

niṭīla-taṭa-cumbita 形 前額に接吻された.

niṭīlekṣaṇa (°la-ik°) 男 [(前額に眼をもつ), Śiva 神
の称].

ni-dīna 中 [特殊な飛び方の一種 (とくに上から下へ
の)].

ni-nya 形 内部の; 秘密の, 隠された. ~m 副 内部
に, 秘密に. 中 秘密, 神秘.

ni-Tan nitanoti, nitanute. → Tan 1.

nitamba 男 臀, 臀部; 固 臀 (とくに婦人の); (山の)
斜面; 川(岸)の斜面; 漢訳 腰; 山足 Mvyut.

nitamba-prabhava 形 (山の)斜面から下る(川).

nitambavati 形 美しい臀をもつ. 女 美しい臀をもつ
女; [人名].

nitamba-sthala 中 臀部または腰部.

nitamba-sthali 女 [同上].

nitambin 形 美しい臀を隠す(衣); 美しい斜面をもつ.

nitambini 女 美しい臀をもつ女.

nitārām (比較) 副 下に; 低音に, 低調に; 全く, 完
全に; 如何にしても; とくに, 大いに; 過分に, 過
度に; 明白に.

ni-tala 中 [地下の七界の一].

ni-tānta 過受分 [Tam] 過度の, 異常な, 重要な.

一°, ~m 副 過度に, 著しく, 非常に.

nitānta-kāṭhina 形 非常に荒々しいまたは残酷な.

nitānta-rakta 過受分 非常に赤い.

ni-tiraṇa 中 決定; 漢訳 成, 成立 Daś-bh.; 推, 推
度, 決度, 実解, 開悟, 解悟 Abh-vy., Mvyut.,
Vijñ-t.

ni-tiraṇatva 中 漢訳 成立, 善了 Daś-bh.

ni-todin 形 突き刺す, 貫通する.

nitya 形 内部の, 生得の; 自身の(因); 常の, 恒久
の, 永久の, 不易の, 不壊の; (一°)に常在する,
……に身を捧げた; 正式の, 本質的の, 必須の; 漢訳
常, 恒, 常常, 恒常, 恒不滅 Ast-pr., Bodh-bh.,
Bodh-c., Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut.,
Nyāy-pr., Saddh-p., Sukh-vy. II., 梵雑. → a~.

一°, ~m 副 恒久的に, 不易に, 常に; 不変に;

漢訳 [一°] 於一切時 Mvyut.; [~m] 常, 恒,

恒時 Abh-vy., Madhy-v., Madhy-vibh., Sūtr. na

~m 必ずしも……ない; 決して……ない. ~sa-

māsa 男 必然的または不変的合成語(すなわち意義を破

壊することなしには分解しにくい合成語). ~svari-

ta 男 必然的すなわち独立の svarita アクセント.

nitya-karman 中 必須の義務または祭式.

nitya-kāya 男 漢訳 常 Sūtr.

nitya-kāraṇāstīva-vāda 男 漢訳 常因論, 説常住為
因 Abh-vy.

nitya-kāritā 女 漢訳 恒常修作 Bodh-bh.

nitya-kāla 形 漢訳 常 Bodh-bh.

nitya-kālam 副 常に, 不変に; 漢訳 常, 恒時, 一切
時, 於一切時 Bodh-bh., Saddh-p.

nitya-krtya 中 定時のまたは正規の行事または儀式; 日
々の課程, 義務的行事または儀式.

nitya-kriyā 女 [同上].

nitya-gati 形 絶えず動く. 男 風.

nitya-jāta 形 絶えず生ずる.

nitya-jvara 男 連続した発熱; 漢訳 常疫, 常熱病
Mvyut., Saddh-p.

nityatā 女 (一°) 恒久性, 永遠性; 必然; 日常の習
慣; (一°)における忍耐, ……への献身; 漢訳 常,
常住 Lan̄k., Madhy-v., Sūtr.

nityatva 中 [同上].

nitya-darśana 中 漢訳 常見 Sūtr.

nitya-dā 副 恒久的に, 永久に.

nitya-dāsa 形 漢訳 常為奴僕 Śiks.

nitya-doṣa 男 漢訳 常過 Lan̄k.

nitya-narta 形 絶えず踊る; [Śiva 神の称].

nitya-nāsa 男 漢訳 断常 Lan̄k.

nitya-parinirvṛta 男 漢訳 [仏の名] 常滅, 常滅度
Saddh-p.

nitya-parikṣaṇa 中 不断の観察または審査.

nitya-pramudita 形 常に満足しているまたは喜んでいる。 中 漢訳 [國の名] 常喜 *Aṣṭ-pr.*
 nitya-prayukta 男 漢訳 [菩薩の名] 常加行, 常習修 *Mvyut.*
 nitya-pravāraṇā 女 漢訳 長請, 常自恣請 *Prāt-m.*
 nitya-buddhi 形 (因) を不変または恒久であると考え
 る。
 nitya-bodha 男 漢訳 恒覺 *Sūtr.*
 nitya-bhāva 男 永遠性。
 nitya-yukta 形 (因) に常に従事している, 絶えず傾
 注しているまたは注意深い。
 nitya-yuj 形 常に心を同一物に傾注した。
 nitya-vaidharmādarśana (°ma-ād°) 中 漢訳 見諸法
 無常, 見法無常 *Lank.*
 nitya-vyaya 形 常に消費する。
 nitya-vrata 中 正規または不断の遵奉, 生涯 (儀式・
 慣例・法律等を) 守ること。
 nitya-śānkita 形 永久に警戒する, 絶えず不安なまた
 は疑わしい。
 nitya-śabda 男 漢訳 常声 *Lank.*
 nitya-śaya 形 絶えず横たわるまたは眠った。
 nityaśas 副 不断に, 絶えず, 恒久的に。
 nitya-saṃjñā 女 漢訳 常想 *Aṣṭ-pr., Madhy-v.*
 nitya-saṃjñin 形 漢訳 常想 *Śikṣ.*
 nitya-saṃnyāsin 男 常恒の苦行者。
 nitya-sāra-saṃjñā 女 漢訳 常堅想 *Bodh-bh.*
 nitya-sukha-śucy-ātman 男 漢訳 常樂我淨 *Sūtr.*
 nitya-srṣṭa-prabha 形 漢訳 [Amitābha 仏の属性]
 不断光, 常照光 *Sukh-vy. I.*
 nitya-sevaka 形 絶えず (他に) 仕える。
 nitya-stha 形 常に (因) に住する。
 nitya-sthita 形 漢訳 常住 *Saddh-p.*
 nitya-snāyin 形 規則正しくまたは絶えず沐浴する。
 nitya-svādhyāyitā 女 不断の *Veda* の学習。
 nitya-svādhyāyin 形 常に *Veda* の学習に従事する。
 nitya-hotṛ 男 不断の供犠者。 形 絶えず供犠する。
 nityācintya 形 漢訳 常不思議, 常不可思議 *Lank.*
 nityācintyatā 女 漢訳 常不思議, 常不可思議 *Lank.*
 nityācintya-vāda 男 漢訳 常不思議論, 常不可思議
 論 *Lank.*
 nityānitya 形 恒久的と一時的と; 漢訳 常無常 *Lank.*
 nityānitya-grāha 男 漢訳 常無常執 *Lank.*
 nityānityatā 女 漢訳 常無常 *Lank.*
 nityānityatva 中 漢訳 常無常 *Lank.*
 nityānugṛhita 形 絶えず保護された(火)。
 nityānubaddha 形 常に接近されたまたは頼られた;
 漢訳 常護, 常侍衛, 為衛護, 常随侍衛, 常随衛護,
 常随, 随逐, 恒相随逐 *Gaṇḍ-vy., Lank.* 因 守護
 神。
 nityābhiyukta 形 漢訳 ((常))策進, ((常))勇猛精進,
Sukh-vy. I.
 nityāyukta (°ya-āy°) 男 [菩薩の名] (*Lal-v.*)
 nityotkṣipta-hasta (°ya-ut°) 男 漢訳 [菩薩の名] 常
 挙手, 常申手, 常揖手 *Mvyut.*
 nityotsava (°ya-ut°) 男 °一 規則正しいまたは絶えな
 い祭礼。

nityodaka (°ya-ud°) 形 常に水を供給された。
 nityodakin (°ya-ud°) 形 [同上]。
 nityodita (°ya-ud°) 形 自然に生じた(知識)。
 nityodyukta 男 漢訳 [菩薩の名] 常精進, 恒精進
Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. II.
 nityaujo-hara (°ya-oj°) 形 漢訳 常吸精氣, 常奪精氣
Gaṇḍ-vy.
 Nid, [因 単に *ninidus, nidānā, nidyamāna* の形の
 み] = *Nind.*
 ni-darsaka 形 見る; 知覚する, 了解する; 指示する,
 宣言する, 公布する; 漢訳 示現, 現前 *Sūtr.*
 ni-darśana 形 (因 -i) 示す; 宣告する, 公布する; 教
 える; 同意する, 意に適う; 漢訳 (一°) 如……類,
 為譬 *Abh-vy.* 中 見ること, 展望, 観察; 外観;
 (一°)への参照; 示すこと, 典拠, 証言; 例証, 標
 本, 説明; 徵候; 前兆; 組織; 反対の実例; 漢訳
 見, 顯, 現, 能現, 示, 示現, 開示, 顯示現 *Abh-vy.,*
Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ.,
Sukh-vy. II., Sūtr.; 譬 *Abh-vy.:* 二見 [1. sa~m
 有見, 2. a~m 無見] *Mvyut.* → a~.
 ni-darśanā 女 漢訳 觀, 觀察 *Lank.*
 ni-darśanārtham 副 例え, 例証として。
 ni-darśayitṛ 形 漢訳 顯示, 開示, 示現 *Gaṇḍ-vy.*
 ni-darśika 形 漢訳 示現, 可觀 *Aṣṭ-pr., Sūtr.*
 ni-darśita 過受分 示された, 指示された, 表明され
 た; 実示された, 例証された; 漢訳 示現 *Sūtr.*
 ni-darśin 形 見る, 了解する; 意に適う, 適当な;
 ……を知る, ……に通ずる。
 ni-Dā nidyati. → Dā 3.
 ni-dāgha 男 熱, 暑季, 夏; 内部の熱; 漢訳 暖時
Mvyut.
 nidāgha-kāla 男 暑季, 夏。
 nidāgha-dhāman 男 太陽。
 nidāgha-varṣika 形 暑季および雨季に属する (月)。
 nidāghāvadhi 男 暑季, 夏。
 nidāna 1. 現分 → *Nid.*
 ni-dāna 2. 中 (馬の)綱, 索; 原因, 原形; 起原; 病
 原または症候; [仏教の十二部経の一 (因縁経)]; 理由
 を述べる序文 (*Divy.*); 漢訳 因, 縁, 因縁, 所因,
 縁起, 緒, 発起 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v.,*
Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sūtr.,
Suv-pr., Vajr-pr.; 資糧 *Abh-vy.;* 序, 序(品)
Prāt-m., Saddh-p., Suv-pr.; 広演経 *Mvyut.;* 疾
 病 *Lank.;* 音写 尼陀那 *Mvyut.* ~ena 圓 起原的
 に, 本質的に, 真実に。
 ~m 副 漢訳 由縁, 以……故, 為……故, 由…
 因…縁 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ.:* ta-to ~m 由
 此因縁, 以是縁故 *Aṣṭ-pr., 62, 151. Vajr-pr. 124;*
 kāma~m 由欲縁 *Śikṣ. 82.;* paryeṣṭi~m 以追
 求故 *Saddh-p. 77.;* bodhi~m 為菩提故 *Śikṣ.*
 337.; lābha~m 為利養故 *Śikṣ. 268.* 因 ~e 漢訳
 由……縁 *Mvyut.:* asmin ~e 由此縁 *Mvyut.*
 nidāna-parivarta 男 漢訳 序品 *Saddh-p.*
 nidāna-paryāya 男 漢訳 因縁, 縁起 *Abh-vy.*
 nidāna-vid 形 原因を発見する, 徵候を知る (とくに病
 氣の)。

nidāna-sūtra ㊦ 歌詠(sāman)に関する書物の名; [仏典の名].

ni-dita 過受分 → Dā 3.

ni-didrāsu 希求 ㊦ 眠りたいと思う, 眠い.

ni-didhyāsana ㊦ 深い瞑想, 沈思長考.

ni-didhyāsītavya 未受分 ……に関し深く熟慮されるべき.

ni-didhyāsu ㊦ (業) について熟慮したいと思う.

ni-Dī, → Dī 2.

ni-Drś, (使役) **nidarśayati** → Drś.

ni-deśa 男 指令, 命令, 教示; 近隣. ~e ㊦ 命令の下に; (國) の近くに. ~e Sthā (國) の命令に従う, 服従する. ~m Kr, ~e Vrt, ~e Sthā, ~m anu-Sthā, 命令を遂行する, 服従する.

nideśa-kārin ㊦ (國, °) の命令を遂行する, ……に服従する.

nideśa-krt ㊦ [同上].

nideśa-bhāj ㊦ [同上].

nideśa-vartin ㊦ [同上].

ni-deśita 使役 過受分 [=nirdeśita]; 漢訳 所説 *Madhy-v.*

nidyamāna 現分 → Nid.

ni-Drā **nidrāyati** (-te). → Drā 2.

ni-drā ㊦ 睡眠; 仮睡; 眠いこと; 漢訳 睡, 眠, 睡眠, 眠睡, 昏, 昏寐, 昏寐; 臥 *Bodh-bh., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Mañj-m., Śikṣ., Vijñ-t., Vijñ-v.:* ~ayā prasuptaḥ 昏熟 *Vijñ-v. 9.:* ~m Tyaj, (花が)開く.

nidrā-kara ㊦ 眠気を催させる.

nidrā-kalāsa 男 寝床の側に置かれる魔除けの瓶.

nidrā-kṣaṇa ㊦ 睡眠の瞬間または刹那.

nidrāgama (°rā-āg°) 男 眠いこと, 眠気を催すこと.

nidrā-caura 男 睡眠を奪うこと, 睡眠を盗むもの.

ni-drāṇa 現分 → Drā 2.

ni-drāt ㊦ (女 -āti または -ānti) 眠る.

nidrā-daridra ㊦ 不眠に悩んだ, 不眠症にかかった.

nidrā-daridri-Kr, 睡眠を奪う.

nidrāntarita (°rā-an°) ㊦ 睡眠に耽った, 熟睡に陥った.

nidrāndha (°rā-an°) ㊦ 睡眠によって盲目になった, 深く熟睡した.

nidrā-mudrā ㊦ 睡眠の姿勢.

nidrā-mudrita ㊦ 眠った.

nidrāya 名動 ㊦ **nidrāyate** 眠りにつく, 寝入る.

ni-drāyamāna 現分 眠った.

nidrālasa (°rā-al°) ㊦ 眠い, 眠そうな, 眠さのために怠惰またはものぐさな.

nidrālasya (°rā-āl°) ㊦ 眠いこと, 倦怠; 長い眠り.

ni-drālu ㊦ 眠い.

nidrā-vaśa ㊦ 睡眠に圧倒された.

nidrā-sukha ㊦ 漢訳 眠楽, 睡楽, 睡眠楽, 睡眠為楽 *Bodh-bh., Śikṣ.*

ni-drita 過受分 → Drā 2.

ni-dhana 1. ㊦ 財産を失なった, 貧乏な.

ni-dhanā 2. ㊦ (下に置くこと), 住所, 集合所; 結論, 終末; 絶滅; 死; (音楽の)終曲, 終節, (Sāman の)

最後部; 漢訳 死, 終 *Divy., Lan̄k.*

ni-dhanatā ㊦ 財産のないこと, 貧乏.

nidhana-bhājin ㊦ 終節に關与する.

nidhanottama (°na-ut°) 男 [*Śiva* 神の称].

ni-DHā **nidadhāti**, **nidhatte**. → DHā.

ni-dhā ㊦ 罾の網.

ni-dhātavya 過受分 下に置かれるべき; 留め置かれるべき; (罾) に委託されるべき; (罾) に差し向けられるべき; 指定されるべき; 貯えられるべき.

ni-dhāna ㊦ 下に置くこと; 保存, 貯蔵; 容器, 貯蔵所 [一°は形(女-i)]; (隠匿された)宝, 財宝 (とくに *Kubera* 神の); 漢訳 蔵, 宝蔵, 功德蔵, 功德宝蔵, 清淨蔵, 伏蔵; 宝, 財; 願 *Av-ś., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*

nidhāna-kośa 男 漢訳 深密蔵, 功德(法)蔵 *Gaṇḍ-vy.*

nidhānatā ㊦ 隠された宝であること, 貴重品であること (*Jāt-m.*).

ni-dhāvana ㊦ [*nirdhāvana* (?). *Pāli* *niddhovati* 参照] 漢訳 洗滌, 洗除 *Sukh-vy. I.*

ni-dhi 男 下に置くこと; (食物等の)提供, 給侍; 貯蔵所, 容器; 体现(譬喩); (隠された)宝; 漢訳 蔵, 庫蔵, 宝蔵, 伏蔵; 宝, 財宝 *Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Mañj-m., Śikṣ., Sūtr.;* 活 *Divy.*

apām ~ 大水の収容物, 大洋. **kalānām** ~ 満月.

daivo ~ 年代記.

nidhi-guhyakādhipa 男 [*Kubera* 神の称].

nidhi-datta 男 [ある商人の名].

nidhi-niscaya 男 漢訳 伏蔵 *Gaṇḍ-vy.*

nidhi-pa 男 財宝の番人.

nidhi-pati 男 財宝の主; 非常に富んだ人; [*Kubera* 神の称]; [ある富んだ商人の名].

nidhipati-datta 男 [人名].

nidhi-pā 男 財宝の番人.

nidhi-pāla 男 [同上].

nidhi-pālita 男 [ある商人の名].

nidhimaya ㊦ (女-i) 財宝からなる.

nidhi-vāda 男 財宝を見出す術.

nidhisatva (°dhi-iś°) ㊦ [(群宝の主), *Kubera* 神の称].

ni-dhuvana ㊦ 性交, 交尾.

ni-DHū **nidhūnoti**, **nidhuvati**. → DHū.

ni-DHṛ, → DHṛ.

ni-dhyapti ㊦ 漢訳 観, 能観, 觀察; 思惟, 正思惟, 冥想; 揀択, 諦察, 善分別 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ.*

nidhyapti-citta ㊦ 漢訳 正思惟心 *Gaṇḍ-vy.*

nidhy-arthin ㊦ 財宝を求める.

ni-dhyāna ㊦ 眺めること, 見ること, 瞥見; 漢訳 観思, 思惟, 思択, 簡択, 諦察, 能諦思惟 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Sūtr.*

ni-DHyai **nidhyāyati**. → DHyai.

ni-dhruvi ㊦ 不変の, 忠実な.

ni-Nad **ninadati**. → Nad.

ni-nada 男 ㊦ 音, 噪音, 叫声.

ni-Nam, → Nam.

ni-nayana 田 流出, 注ぎ出すこと; (一°) の実行または実施.

ninartiṣā 因 踊りたいという欲望.

ni-nāda 因 音, 噪音; 叫声; 蜂・蚊等の声; 音聲 *Rāṣṭr.*

ni-nādita 過受分 噪音で満された; (因) で反響した; 奏 (楽), 奏樂 *Lal-v., Śikṣ.: tūrya ~ 奏衆樂 Śikṣ. 340.*

ni-nādin 因 (因 または 一°) のような音の, ……のように響く; (楽器を) 奏する; ……の音を伴なう; 音聲 *Rāṣṭr.*

ninidrāsu 希求 形 眠気を催す, 眠い.

ni-Ni ninayati (-te). → Ni.

niniṣā 因 (一°) を連れ去ろうとする欲望.

niniṣu 希求 形 (業) を連れ去ろうと思う; (業±prati) へもたらしたいと思う.

ni-nrtti 因 反覆.

Nind, I. 他 [叙詩はまた因] nindati (-te) 嘲る, 罵る, 軽蔑する, 非難する; 凌駕する; 呵 *Sūtr.*

過受分 nindita 非難された, 咎められた, 非難すべき; 軽蔑された; 禁止された; 不吉な.

nindaka 因 非難する, 誹謗する; 謗 *Guhy-s.* 男 [一般に 一°] 非難者, 嘲弄者, 軽蔑者, 嘲笑者.

nindana 田 非難; 罵詈; 謗, 毀謗 *Guhy-s.*

nindanā 因 毀謗, 毀作 *Śikṣ.*

nindā 因 誹謗; 嘲弄; 罵詈; 非難, 譴責; 侮辱; 毀, 譏, 嫌, 呵厭 *Bodh-bh., Lanḅ., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Śikṣ., 梵千.*

nindita 過受分 → Nind. 詞, 毀謗, 譏毀, 譏嫌; 欺 *Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Sūtr.* → a ~.

nindya 未受分 非難すべき, 軽蔑すべき; 不名誉な, 破廉恥な; 禁ぜられた.

nindyatā 因 不名誉, 恥辱.

nindya-veṣa 因 恥すべき服装をした.

nipaka 因 因 [<nṛpaka] 首長, 會長 (*Divy.*); 常委 *Bodh-bh., Mvyut.:* ~syāṅga-sambhāraiḥ 常委分資糧 *Bodh-bh. 145.*

ni-Pat nipatati (-te). → Pat 1.

ni-patana 田 落ちること, 落下; 飛ぶこと, 飛翔; 墮, 俯, 下転, 従上向下 *Abh-vy., Bodh-bh.*

ni-patita 過受分 飛び降りた, 落下した, 降下した, (因) の上にまたはの中に落ちた; 衰微した, 沈んだ, 萎びた; 著; 入; 墮, 抛地, 委擲, (狼藉) 在地 *Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v.;* 投地 (敬礼) *Divy.*

ni-Pad nipadyate. → Pad.

ni-panna 過受分 横たわった (*Divy.*); 臥人 *Ast-pr., Mvyut.;* 成就 *Sapt-pr.*

ni-Pā nipibati (1.), nipāti (2.). → Pā 1., 2.

ni-pācanā 因 常成熟 *Sūtr.*

ni-pāta 因 落下, 降下; (視線を) 投げること; (一°) (因) から ……へ落ちること; (鳥が) 降りること; 落ちること (譬喩); 襲撃, 攻撃; 死, 滅亡; 偶発的現象または記述; 例外, 不規則, 不規則形 (文法); 不変化小辞 (文法); 墮, 降 *Divy.;* 和会, 以到 *Abh-*

vy.; 言機 *Mvyut.*

ni-pātana 田 落下または降下させること; 落下; (鳥が) 飛び降りること; 打つこと, 叩くこと; 破壊すること, 殺すこと; 偶発的記載または使用 [とくに不規則またはまれな (語) 形の] (文法).

nipātana-pratikāra 因 襲撃を退けること.

ni-pātin 因 落下する; (一°) へ降下する; 打倒する, 破壊する, 消尽する; 寐 *Bodh-bh.*

ni-pāda 因 低地, 谷.

ni-pāna 1. 田 飲むこと; 水槽; 溝, 貯水池, 池.

ni-pāna 2. 田 救済, 避難所 (*Jāt-m.*). ~i Kṛ, 避難所とする (*Jāt-m.*).

nipāna-karṭṛ 因 池または貯水池を作る者.

ni-pānavat 因 池に富む.

nipāna-saras 田 飲料貯水池.

ni-Piḍ nipidayati (使役). → Piḍ.

ni-piḍita 過受分 圧搾された, 圧迫された, 抱かれた; 悩まされた, 害せられた; 逼, 所悩, 蹙, 踏 *Divy., Suv-pr.*

ni-pita 過受分 飲んだ, 吸収された.

nipīta-toya 因 水を吸収するまたは飲む (河).

nipīta-sāra 因 (接吻のために) 潤いを吸い取られた (唇).

nipuṇa 因 (因, 不定) とともに, または (一°) に巧妙な, ……に熟達している, ……に器用な, ……に賢明な, ……を熟知した; (一°) に適当な, ……の能力ある (*Jāt-m.*); 完全な, 完成した; 妙, 利; 審, 能察, 察知, 委悉, 常委; 精好; 周備, 能周備, 周至; 明達, 専心 *Bodh-bh., Lal-v., Lanḅ., Mvyut.;* *Sūtr., 梵千.* ~m 副 巧妙に; 精巧に; 絶対的に, 完全に; 正確に, 精密に, 慎重に.

nipuṇa-kāritā 因 常委所作, 常委修作 *Bodh-bh.*

nipuṇataram 副 = nipuṇam.

nipuṇatā 因 巧妙, 器用, 熟達; 精密, 慎重. ~ayā 因 慎重に, 正確に.

nipuṇā 因 妙, 利 *Lanḅ.*

nipuṇikā 因 [ある侍女の名].

ni-Pṛ nipṛṇāti. → Pṛ 1.

ni-baddha 過受分 → Bandh. 繫, 繫縛, 縛束, 羈繫; 界 *Daś-bh., Rāṣṭr., Saddh-p.;* 発, 発生, (普) 起 *Daś-bh.:* ~mahā-praṇidhāna 発大願 *Daś-bh. 40.*

ni-badhya 因 繫 *Sūtr.*

nibadhyālabana (°ya-āl°) 田 繫縁 *Sūtr.*

ni-banddhṛ 因 結ぶ者; 著作者.

ni-Bandh nibadhnāti. → Bandh.

ni-bandha 因 締めること, 結ぶこと; 束縛; 羈絆, 桎梏; 基礎, 起源; 基金, 不動産; 寄附, 配当; (文学的な) 作品; 連縛, 執著 *Madhy-vibh.;* 解釈; 製造 *Bodh-bh.*

ni-bandhana 因 (因-i) 結ぶ. 田 締めること, ……に結びつけること; 確保すること; (橋の) 架設; 紐帯, 羈絆, 桎梏; 結合, 関係; 容器, 支持具; (文学的な) 作品, 構文; 文章構成法 (文法); 原因, 起原; 誘因, 動機, 条件; 下附, 割当. [しばしば] 一° 因 によっ

て惹起させられたまたは条件づけられた; ……によって発生する, ……に依る, ……に関係する.

ni-bandhani 女 羈絆, 桎梏.

ni-bandhin 形 結ぶ; 一°で結合された, ……と関連した, ……を惹起する.

ni-Barh nibṛhati. → Barh 1.

ni-barhaṇa 形 破壊する, 除去する, 払う. 中 破壊.

ni-Bādh nibādhate. → Bādh.

ni-bāḥa 過受分 → Baḥ.

nibiḍa 形 [ni-vila, 間隙のない], 濃い, 厚い, 突き通せない; 中断されない; 硬い, 固い; 緊密な, 密着した(抱擁等); (圓, 一°)で充滿した; 低い.

nibiḍaya 名動 他 nibiḍayati しっかりと抱擁する.

過受分 nibiḍita 密になった, 密着した, 密生した; 重くなる.

ni-Budh nibodhati. → Budh.

ni-boddhavya 未受分 (困)と見なされるべき.

ni-bha 形 相似した, 類似した[一°, しばしば 形の後または同意語をとともう場合は冗語である. 例

cāru ~ ānana「美しい顔をした」, padma-patṛābha ~ (°ra-ābh°)「蓮の葉のような」; 漢訳 如, 猶如, 譬, 色 Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr., 梵雜.: → udaka-candra ~. 男 中 外観, 口実 [圓 または 圓のみ].

ni-BHal nibhālayati (-te). → BHal.

ni-BHṛ, → BHṛ.

ni-bhṛta 過受分 → BHṛ. ~m 副 → BHṛ. ひそかに, 内密に; 離れて; 黙って, 静粛に; 隠れて. 中 謙遜, 慎重, 沈黙; 秘密.

nibhṛta-sthita 形 隠れた, 見えない.

nibhṛtāgata (°ta-āg°) 形 ひそかに到着した.

nibhṛtācāra (°ta-āc°) 形 確乎たる態度の, 決定的の.

nibhṛtātman (°ta-āt°) 形 決意した, 断固たる.

nibhṛtārtha 形 隠れた意味をもつ, 秘められた.

nibhṛtordhva-karṇa (°ta-ūr°) 形 耳を立てた(馬).

nibhopama (°bha-up°) 形 漢訳 一° 如 Śikṣ.: māyā-svapna ~ 如幻夢 Śikṣ. 18.

ni-magna 過受分 → Majj. 漢訳 没, 没溺, 没在, 沈, 溺, 沈溺; 所漂漫, 所漂転 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., 梵千.; 臥 Lal-v.

ni-Majj nimajjati(-te). → Majj.

ni-majjana 中 浸み入ること; 漢訳 没 Mvyut., Śikṣ. → a ~.

ni-mantraka 形 招く, 招致する. 男 招待者.

ni-mantraṇa 中 招待, 招致, 召集; 漢訳 請, 請召, 勸請 Sam-r., 梵千.; 言 Śikṣ.

ni-mantraṇaka 中 漢訳 請客 Mvyut.

ni-mantraṇā 女 漢訳 所請 Bodh-bh.

nimantraya 名動 nimantrayate(-ti). → mantraya.

ni-mantrita 過受分 (とくに饗応に. 圓 とともに)招待された; 招換された, 呼ばれた, 招集された; 漢訳 請, 所請, 来請, 延請, 奉請, 請食; 勸; 施 Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Prāt-m., Śikṣ.

ni-mantrya 未受分 招かれるべき; (圓)を提供されるべきまたは捧げられるべき.

ni-maya 男 [Mā] (圓)または(圓)との交易, 交換.

ni-Mā nimimite. → Mā 1., 2.

ni-mātavya 1. 未受分 測られるべき, 量られるべき.

ni-mātavya 2. 未受分 (圓)と交易または交換されるべき.

ni-Mi niminoti. → Mi 1.

nimi 男 [諸王の名]; [仏の名] (Sukh-vy. I.).

ni-miñjita 過受分 仏教 閉じる, 終る, 終了した. 中 閉じること, 終結; 漢訳 没 Aṣṭ-pr., Daś-bh.; 閉, 閉合 Mvyut.

ni-mita 過受分 → Mā 1.

nimitta 中 目的, 目標; 記号, 象徴; 前兆; 原因, 理由; 動機; 手段, 動因, 動力因; 漢訳 相, 瑞相, 状相, 標相, 相貌, 觀相; 兆; 事; 像; 義; 因, 因相, 緣, 由 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., Vajr-pr.; 想 Abh-vy.; 資糧 Madhy-vibh.: vedanā ~ 受資糧 Madhy-vibh. 158. → a ~, pūrva ~. 一° 形 ……を原因とする; ……によって生じた; 漢訳 為, 為成, 為…故 Bodh-bh., Divy., Rāṣṭr. ~m 副 ……によって; 漢訳 為, 以…故, 為令得 Bodh-bh., Saddh-p., Sāṃkhy-k.: paribhoga ~ 以財利故 Saddh-p. 77. ~m Yā, 理由となる, 責めを負う. ~ena 圓, ~ = āya 為 ……によって.

nimitta-kuśala 形 漢訳 巧相 Sūtr.

nimitta-cārin 形 漢訳 取相凡夫, 相行, 相行人 Saddh-p., Sūtr.

nimittatas 副 特別の原因によって.

nimittatva 中 因果関係; 漢訳 因 Sūtr.

nimitta-nirvikalpa 形 漢訳 離相 Sūtr.

nimitta-pratipakṣa 男 漢訳 諸相對治 Sūtr.

nimitta-prativedha-yukta 過受分 漢訳 通達衆相 Bodh-bh.

nimitta-prahāṇa 中 漢訳 断取相, 断諸相 Aṣṭ-pr.

nimitta-bhāva 男 漢訳 互為因 Sūtr.

nimitta-bhūta 男 中 漢訳 有如実因相 Bodh-bh.

nimitta-manasi-kriyā 女 漢訳 思惟其相 Bodh-bh.

nimitta-mātra 中 単なる手段または方策.

nimitta-yoga 男 漢訳 (取)相(分別而)為方便 Aṣṭ-pr.

nimitta-vikṣepa 男 漢訳 相散乱, 相散動 Madhy-vibh.

nimitta-viparyāya 男 漢訳 争鬪相變(?) Mvyut.

nimitta-vedhin 形 標的に達する, 命中する.

nimitta-saṃjñā 女 漢訳 有相想 Sam-r., Sūtr.

nimitta-saṃjñin 形 漢訳 [刊本 °saṃjñīniha = °saṃjñīn' (圓 覆, < °inām) iha] 著相 Saddh-p. 57.

nimitta-savyapekṣa 男 原因に従うこと, 起因.

nimitta-hetu 男 動力因.

nimitta-hetutva 中 [同上 圓].

nimittādhiṣṭhāna 中 漢訳 相處 Bodh-bh.

nimittāyus (°ta-āy°) 形 (ある)原因によって定められた寿命をもっている.

nimitti-Kṛ, 原因とする; (困)の理由とする; 漢訳 取相, 心取相, 取相執著 Aṣṭ-pr.

nimitti-kṛtya 不変分 ……の故に; (圓)の過失によって.

nimitti-BHū, (因)の原因または理由となる。

nimindhara 男 釋 [山の名] 持辺, 地持山, 陶持 *Daś-bh.*, *Mvyut.*, 玄応; 音写 尼民達, 額浪陀, 尼民達羅, 尼曼達羅, 尼民陀羅, 儂民達囉 *Abh-k.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 玄応; 九山 [1. ~ 持辺, 2. *Aśvakarṇaḥ* 馬耳, 3. *Sudarśanaḥ* 善見, 4. *Khadirakaḥ* 櫨木, 5. *Īśādharaḥ* 持軸, 6. *Yugamdharaḥ* 持雙, 7. *Vinatakaḥ* 障礙, 8. *Sumeruḥ* 妙高, 9. *Cakravāḍaḥ* 鉄圍] *Mvyut.*; [王の名] 音写 尼民陀羅 *Lal-v.*

ni-Miṣ nimīṣati. → Miṣ

ni-miṣ 因 まばたき(瞬); 眼を閉じること。

ni-miṣa 因 [同上]; まばたきすること; 瞬間; [ある *Garuḍa* の子の名]。

nimiṣāntareṇa 因 副 一瞬にして。

ni-Mil nimīlati. → Mil.

ni-milana 因 (両眼を)閉じること;(花の)閉じること。

ni-mīla-mātra 因 釋 目瞬 *Gaṇḍ-vy.*

-ni-mīlikā 因 = ni-milana.

ni-milita 過受分 → Mil. 釋 閉, 已閉 *Abh-vy.*

nimilita-dṛś 因 眼を閉じた。

nimilita-mukha 因 [同上]。

nimilitākṣa 因 [同上]; 釋 閉眼 *Śikṣ.* → *ardha-nimilita*.

ni-milin 因 両眼を閉じる。

ni-Miv, → Miv.

ni-mivat 現分 → Miv.

ni-mṛgra 因 [因 および ā とともに] 順応する, 従う。

ni-Mṛj nimārṣti, nimṛṣte, nimṛjati (-te). ~ Mṛj.

ni-meya 因 (その容積または価値が)測定されるべき。

因 交易, 交換。

ni-meṣa 因 まばたきすること, 眼を閉じること; 瞬間; [ある *Yakṣa* の名]; 釋 閉, 閉目, 陶 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

nimeṣa-mātreṇa 因 副 一瞬に。

nimeṣārdhāt 因 副 まばたくうちに, つかの間に。

nimna 因 低地, 窪地, 深み; 釋 深, 凹, 山窩 *Daś-bh.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 梵維. 因 くぼんだ; 低く横たわった, 低くなった, 深い; ……に傾いた; 釋 下, 深, 深隠, 幽邃, 幽遠 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Śikṣ.*; 專, 專住 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*; 随, 順, 随順, 靡, 向, 掃向, 趣向, 傾仰尊敬, 一心恭敬; 能入; 墜, 墮入, 降下, 任降伏; 樂 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*; *budāha* ~ 於如来処一心恭敬 *Divy.* 50. 因 [王侯の名]。

nimna-gata 因 くぼ地に位置している。因 低地。

nimna-gā 因 (低地に)赴く), 河。

nimnagā-pati 因 諸河の主, 海。

niranagā-suta 因 *Bhīṣma* (河すなわち *Gaṅgā* 河の子)。

nimnatā 因 釋 卑 *Gaṇḍ-vy.*; 恆樂 *Kāśy.*: *pravrajyā* ~ 恆樂出家 *Kāśy.* 223.

nimnatva 因 釋 下, 深 *Śikṣ.*

nimna-deśa 因 低地, 低地帯。

nimna-nābhi 因 (深い臍をもつ), (胴の)瘦せた, 細腰の, すらりとした。

nimna-pravaṇa 因 低地へ流れる, 流れ下る。

nimna-bhāga 因 = *nimna-deśa*.

nimnaya 名動 因 *nimnayati* 低くする; 卑しめる; 凌駕する。

nimnābhimukna 因 = *nimna-pravaṇa*.

nimnonnata (°na-un°) 因 低いと高いと, 低くされた高められた; 貶されたほめられた; 釋 高下, 有高有下 *Lank.* 因 因 丘と谷。

nimba 因 [にがい果実をもつ樹の名, 学名 *Azadirachta indica*]; 釋 苦棟 梵維; 音写 維婆, 賃婆 *Abh-vy.*, 玄応。

nimba-taila 因 *Nimba* 樹からとる油。

nimbaraka 因 [樹の名, 学名 *Melia bukayun*].

nimba-rajasa 因 釋 [数の名] 音写 拈伎羅闍 *Mvyut.*

nimbavati 因 [人名]。

ni-mrukti 因 日没, 夕暮。

ni-Mruc nimrocati. → *Mruc.*

ni-mruc 因 = ni-mrukti.

ni-mlukti 因 日没; 消滅。

ni-Mluc nimlocati. → *Mluc.*

ni-mloca 因 日没。

ni-mlocanī 因 [*Mānasottara* 山上にある *Varuṇa* の都城]。

ni-mloci 因 [王侯の名]。

ni-yata 過受分 → *Yam.* 釋 定, 決定, 必定, 正定, 得定, 畢定, 性決定者, 眞実, 畢, 必, 決意; 刊 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, 梵千; 常住 *Sāṃkhy-k.* 因 因 感覺器官(因). ~ m 因 間違いなく, 確かに, 常に; 釋 必, 定, 決定, 必定, 常決定 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*

niyata-kāritā 因 釋 決定修作 *Bodh-bh.*

niyata-kārin 因 釋 決定行, 所作決定 *Bodh-bh.*

niyata-kāla 因 限られた時間だけ継続する, 一時的の。

niyata-caryā-pratipatti-bhūmi 因 釋 決定行正行地(第九地) *Bodh-bh.*

niyatacaryā-bhūmi 因 釋 定行地, 決定行地 *Bodh-bh.*

niyata-dhvaja-ketu 因 釋 [Samādhi の名] 決定幢相, 眞実畢幢相 *Mvyut.*

niyata-patita-prayoga 因 釋 隨決定加行 *Bodh-bh.*

niyata-bhūmi 因 釋 定地, 決定地 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

niyata-bhojana 因 食を慎むまたは節制する。

niyata-mānasa 因 節制した心をもつ, 心を制御した。

niyata-maithuna 因 性交を制御する, 同衾を慎んだ。

niyata-rāsi-vyavasthita 因 釋 入正定聚 *Saddh-p.*

niyata-vasati 因 (至る所に)永久の住居をもっている。

niyata-viṣaya-vartin 因 指定された範囲に動かずに住する。

niyata-vedaniya 因 釋 順定受, 定受用 *Mvyut.*

niyata-vrata 因 誓戒または宗教的行事に忠実な; 敬虔な。

ni-yatā 因 釋 [池の名] 決定, 必定 *Aṣṭ-pr.*

niyatāñjali 形 合掌敬礼する。
 niyatātman (°ta-āt°) 形 自制した。
 niyatāniyatāvatāra-mudrā-sūtra 中 漢訳 [経の名]
 入定不定印経 Śikṣ. [不決定入定入印経].
 niyatārtha 形 漢訳 了義 *Mudhy-v., Sikṣ.*
 ni-yati 因 (事物の) 固定した順序, 必然, 運命, 天運,
 天命; 漢訳 決定 *Bodh-bh.*
 niyati-patita 形 漢訳 定, 定住, 已隨決定, 隨於決定
Abh-vy., Bodh-bh.
 niyati-pāta 男 漢訳 隨於決定 *Bodh-bh.*
 niyatipāta-vibhāga 男 漢訳 決定 *Sūtr.*
 niyati-vādin 男 漢訳 説有定性人 *Cat-ś.*
 niyatendriya (°ta-in°) 形 感官を抑制している。
 ni-yantavya 未受分 抑制または制御されるべき; 導か
 れるべき; 強いらるべき。
 ni-yantr 男 抑制者, 支配者; 調御者 (とくに馬の); 戦
 車の御者; 漢訳 羈絆 *Mvyut.*
 ni-yantrtva 中 抑制の能力。
 ni-yantraṇa 中 抑制; 制限。
 niyantraya 名動 他 niyantrayati. → yantraya.
 niyantrita 過受分 → yantraya.
 ni-Yam niyacchati. → Yam.
 ni-yama 男 抑制, 制限; (因, または 圓) をともなった
 prati) の束縛; 限定, 定則, 確実なこと; (特殊の場
 合における) 絶対的の必要; 契約, 約束; 誓; 自ら課
 した (宗教的) 戒律, 小さな (随時の) 義務; 漢訳 定,
 決定, 定限, 不転; 縛; 制, 戒, 修戒等 *Abh-vy.,*
Bodh-bh., Cat-ś., Daś-bh., Lanik., Mvyut., Sāmkhy-
k., Sūtr., Vijñ-v. ~āt 圓 必然的に, 確実に。
 ~ena 圓 必然的に, 確実に, 一定の制限をもっ
 て; 漢訳 決定, 決定心故, 一向 *Gaṇḍ-vy.*; 約 *Abh-*
vy.: sālamba ~ 約有境, 約有所縁 *Abh-vy. 229.*
 niyama-dharma 男 苦行的戒律, 禁戒。
 ni-yamaṇa 中 抑制, 鎮圧; 制限; 束縛; 漢訳 留
Buddh-c.; 敦肅 *Śikṣ.*
 ni-yamavat 形 宗教的戒律を実施する。
 niyama-vidhi 男 = niyama-dharma; 日々の行事。
 niyama-stha 形 規律正しく宗教的戒律を行なう。
 niyamāpramatta 過受分 漢訳 制不放逸 *Sūtr.*
 niyamāvakrānti 女 漢訳 入正定 (聚), 入離生 (位)
Abh-vy. → niyamāvakrānti.
 ni-yamita 使役 過受分 → Yam.
 ni-yamya 未受分 抑制されるべき, 鎮圧されるべき;
 制限されるべき; 限定されるべき。
 ni-Yā niyāti. → Yā.
 ni-yāna 中 入ること; 入口; 道, 通路。
 ni-yāma 男 = niyama; 船夫, 舵手; 漢訳 離生, (正
 一性) 離生; 決定, 決定 (地), 正定 (聚), 正定 (位);
 不変; 定転 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*; 見道 *Abh-*
vy. 549.
 ni-yāmaka 形 (因-ikā) 抑制する, 阻止する; 限定す
 る。
 niyamāvakrānti 女 漢訳 入 (正性) 離生 *Abh-vy.* →
 niyamāvakrānti.
 ni-Yu niyauti, niyuvati (-te). → Yu 1.
 ni-yukta 過受分 → Yuj. 漢訳 持 *Śikṣ.* 男 官吏,

役人. ~m 副 → Yuj.

ni-yuktaka 男 漢訳 頭目 *Mvyut.*

ni-yukti 因 命令, 任命; 使用, 役目 (~artham ...
 ...のために).

ni-Yuj niyunakti, niyunkte. → Yuj.

ni-yut 因 授与; 連続, 組; (車につながれた) 一組の
 動物, 馬 (とくに *Vāyu* 神の); 漢訳 詩句, 詩。

ni-yuta 過受分 [ni-Yu]. 中 [ある大きな数, 一般に]
 百万; 漢訳 万, 百万, 兆 *Lanik., Mvyut.*; 音写 尼
 由多 *Lal-v.*; [nayuta] 那由佗, 那由多, 那由多
Bodh-bh., Lal-v., Lanik., Mvyut., Sapt-pr.

ni-yuddha 中 闘争, 格闘 (とくに鉄拳での)。

ni-Yudh niyudhyate. → Yudh.

ni-yūha 形 漢訳 捨 *Daś-bh. 107.* → a~.

ni-yoktavya 未受分 ……に当てられるべきまたは向けら
 れるべき; (因) に任命または指定されるべき; 責任を
 問われるべき。

ni-yoktr 男 指定する人, 結ぶ人; 支配者, 主人, 主
 長。

ni-yoga 男 結ぶこと; 指定された義務, 職務; 使用,
 任命, 委任, 業務; 命令, 指令; 必然, 確実; 運命。
 ~ena 圓 必然的に, 確実に。

niyoga-kṛt 形 ある人のために行なう。 圓 代理行為
 者。

niyoga-samsthita 形 職務のある; 命令を履行する。

niyoga-stha 形 (屬) の命令のもとにある, (屬) に従
 う。

niyogārtha 男 指定の目的; 委任, 任務。

ni-yogin 男 委任された人, 代理人, 代理行為者, 職
 員, 官吏, 従者。

niyogy-ārtha-grahopāya (°ha-up°) 男 官吏の財産没
 収の方法。

ni-yojana 中 縛り上げること; 束縛, 絆; 命令, 委
 任; 漢訳 置 *Sūtr.*

ni-yojayitavya 使役 未受分 (圓) で罰せられるべき;
 (因) に促されるべき; (因) に任命または誘導されるべ
 き (*Kār-vy.*).

ni-yojya 未受分 結ばれるべき; ……を授けられるべ
 き; (圓) を命ぜられるべき; 委任されるべき; 委託
 されるべき; 漢訳 安処, 随順而作 *Bodh-bh.* 圓 召
 使い, 従者。

ni-yodhaka 男 拳闘家, 力士。

nir (=nis) [母音および軟音の前にある場合]

nir-aṃśa 形 (経度または緯度の) 地点をもたない。

nir-aṃśaka 形 少しも分配を受けない。

nir-aṃśatva 中 [nir-aṃśa の 圓]; 部分のないこと
 [*Tib. cha med pa ŋid (Prajñ-vy.)*]. → aṃśa.

nir-aṃśu 形 光線のない。

nir-Akṣ, → Akṣ.

nir-akṣara 形 文盲の; 漢訳 無字, 離字, 離文字 *Lanik.*
 → akṣara.

nir-akṣaratva 中 漢訳 無名字, 離文字 *Lanik.*

nir-agni 形 (家庭祭儀用の) 火のない。

nir-agnika 形 漢訳 無有燃 *Mudhy-v.*

nir-agma 形 欠点のない, 罪のない。

nir-añkuśa 形 拘束されない, 制限されない, 全く自

由な; 節度のない; 騒がしい; 牙を切り取られた(象); 無鉤 *Divy.* → aṅkuśa.
nir-aṅkuśatā 女 無拘束; 無節制; 自由; 喧騒.
nir-aṅkuśatva 中 [同上].
nir-aṅkuśaya 名動 他 **nir-aṅkuśayati** 束縛を解く, 自由にする.
nir-aṅga 形 不完全な; 便法または方便のない, 方策のない; 自己の資力で生活する.
nir-aṅgaṇa 形 無穢, 離惱 *Kāśy., Śikṣ.* → aṅgaṇa.
nir-aṅguli 形 指のない.
nir-añjana 形 (塗料のない=) 悪だくみをしない, 真実な; 汚れのない, 清い, 単純な; 無濁穢, 離垢, 離著, 浄 *Lal-v., Lanḅ.*
nir-añjanā 女 [河の名] (音写) 尼連河 *Lal-v.*
ni-rata 過受分 → *Ram.* 樂, 所樂, 求 *Daś-bh., Lal-v., Raṣṭr.*; 解 *Divy.*; 勤, 精進, 勤精進 *Mvyut.*
ni-rati 女 (一) への耽溺.
nir-atīśaya 形 凌駕されない, 最大の, 最上の, 至高の; はっきりした標識のない.
nir-atyaya 形 危険を免れた, 安全な; 成功した; 真実な; 絶対に誤りのない, 欠点のない; 無乖隔 *Bodh-bh.*
ni-Radh, → *Radh.*
nir-adhimānatā 女 破壊驕慢, 自謙, 不量貴賤 *Kāśy.*
nir-adhiṣṭhāna 形 避難所のない; 支持のない, 支えにくい; 独立の; 無依処 *Bodh-bh.*; [Samādhiの名] 無住, 無所住 *Mvyut.*
nir-anukrośa 男 無情, 無慈悲, 冷酷. 形 (因) に対して無情な, 残酷な.
niranukrośa-kārin 形 無慈悲に振舞う.
nir-anukrośatas 副 無情に, 無慈悲に.
niranukrośa-yukta 形 同情のない, 無情な; 冷酷な.
nir-anuga 形 従者のない.
nir-anugraha 形 好意または同情を示さない, 無慈悲な.
nir-anubaddha 過受分 不随縛 *Bodh-bh.*
nir-anubandha 形 離随縛, 不随縛 *Bodh-bh.*
nir-anuyoḃya 未受分 非難すべき点のない, 欠点のない, 正当な(議論).
nir-anurakta 過受分 無有潤沢 *Raṣṭr.*
nir-anurakṣa 男 離護, (不)棄捨將護(他)行 *Bodh-bh.*
nir-anurodha 形 (因)を顧みない, ……に無関心な.
nir-anuśaya 形 (行為の結果の)跡を残さない, 業をひかない; 離随眠, 無使, 離諸結使, 無煩惱, 不与煩惱, 煩惱不行 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḁ-vy., Śikṣ.*
nir-antara 形 間隙のない, 接触した, 連続する, 継続的の, 中断されない, 不断の; 濃い; (因, 一)で透き間なく詰められた, ……の充滿する; 誠実な(友); 差異のない, 同一の; 無間, 無間隙, 無有間隙, 無間欠; 次第, 相続 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḁ-vy., Lanḅ., Sūtr.* ~m 副 しっかりと(抱擁する); 連続的に; 猶予なく, 直ちに; 無間, 不

断, 相続 *Bodh-bh., Mvyut.*; 周匝 *Śikṣ.*
nirantara-khara 形 苦難恆相続 *Gaṇḁ-vy.*
nirantara-gr̥ha-vāsin 形 隣の家に住する.
nir-antaratva 中 無間 *Abh-vy.*
nirantara-payo-dharā 形 女 引締った乳房をもつ(女).
nirantara-viśeṣa 形 種 (因) に関して差別のない平等に取り扱われる.
nirantara-śarira 形 身体を(矢で)隙き間なく貫かれた.
nirantarāntara-ccheda 男 無間次第断, 無間断相続, 断彼余無間 *Lanḅ.*
nir-antarāya 形 無障 *Abh-vy.* → *antarāya.*
nir-antarāla 形 間隙または間断ない, 緊密な, 密接した; 狭い.
nir-antarālatā 女 接触, 緊密.
nirantarotkaṅṭhā (°ra-ut°) 女 しきりに起る悲嘆・焦慮または憧憬.
nirantarotpatti (°ra-ut°) 女 無間相続 *Sūtr.*
nir-andha-kāra 形 明 *Sūtr.* → *andha-kāra.*
nir-anna 形 食べるべき何物もない; 断食する; 少しの食物をも生じない.
nir-anvaya 形 子孫のない, 後裔のない; 後続のない, 伴侶のない; 関係のない; 関連しない. ~m 副 (誰かの)背後で.
nir-apa 形 水のない.
nir-apatya 形 子のない.
nir-apatrapa 形 無恥な, 厚顔な.
nir-aparādha 形 無害の, 無罪の. 男 無罪, 無欠点.
nir-apavāda 形 難点のない, 欠点のない; (わずかの)例外をも許さない.
nir-apāya 形 不滅の, 不壊の; 間違いない; 害されない, 危険のない, 安全な.
nir-apāyin 形 不壊の, 不滅の.
nir-apekṣa 形 (因, 一)を顧慮しない, ……に無関心な; 何物にも注意しない, (世事に)無関心な; (一)と独立の; 不顧, 無顧恋, 不相観; 無有相待; 不惜; 遠離, 捨離; 不求 *Bodh-bh., Gaṇḁ-vy., Madhy-v., Śikṣ., Sūtr.*; *sva-sukha* ~ 遠離自樂 *Śikṣ. 322.* → *apekṣa, apekṣā.* ~m 副 いささかも顧慮することなく, 計らずも, ……について心を煩わすことなく.
nir-apekṣaka 形 独立の.
nir-apekṣatā 女 顧慮しないこと; (因)に対する無関心; 独立; 不顧 *Bodh-bh.*
nir-apekṣatva 中 [同上]; 不顧, 不待, 無所恋著 *Abh-vy., Madhy-v., Sūtr.*
nir-apekṣā 女 = *nir-apekṣatā*; 不待 *Madhy-v.*
nir-apekṣita 過受分 無視した; (一)を顧慮しない; (因)に対して無関心な.
nir-apekṣya 未受分 ……に関して考慮する必要のない, ……について心が煩わされない.
nir-abhinandin 形 不喜, 無喜 *Mvyut.* → *abhinandin.*
nir-abhiprāya 形 目的のない.
nir-abhibhava 形 屈辱から免れた, 卑下する必要のない.

nir-abhimāna 形 高慢でない、誇りを離れた；**漢訳** 離慢，離増上慢，破憍慢，無増上慢，遠離(一切)増上慢，不起我慢，不生憍慢貢高之心 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.* → abhimāna.

nir-abhilāpya **未受分** 言いようのない、話しにくい。

nir-abhilāpya **未受分** **漢訳** 離言，離言説，遠離言説，離言語，無言，不可言，不可説，不可宣説 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Vijñ-v.*；無戲論 *Bodh-bh.* → abhilāpya.

nirabhilāpya-sva-bhāvatā 女 **漢訳** 離言自性 *Bodh-bh.*

nirabhilāpya-sūnyatā 女 **漢訳** 離言説空，無言空，不可説空 *Lank.*

nir-abhilāṣa 形 (一) に対する欲望から離れた，…を顧慮しない。

nir-abhisamṣkāra 男 **漢訳** 由無功用，不由功用 *Abh-vy.*, *Sūtr.* → abhi-samṣkāra.

nir-abhisamḍhin 形 私心のない。

nir-abhimāna 形 =nir-abhimāna；無意識の。

nir-abhra 形 雲のない

ni-Ram niramate. → Ram.

nir-amarṣa 形 せっかちにならない，無感動な，平静な。

nir-amitra 形 敵がない。男[王侯の名]；[諸人の名]。

nir-ambara 形 衣服を着けない，裸体の。

nir-ambu 形 水の欠乏した；水をつつしむまたは節する。

nir-aya 男 (人生からの離脱)，地獄[また人格化されて恐怖および死の子ともされる]；**漢訳** 地獄，無可樂，無有卑下 *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, 玄応；**音写** 泥犁，泥黎耶，泥黎迦 *Sukh-vy. I.*, 玄応。

niraya-nagara-dvāra 男 地獄の都城の門または入口。

niraya-pati 男 地獄の王。

niraya-parāyana 形 **漢訳** 墮地獄 *Śikṣ.*

nir-argāḍa 形 [=nir-argala]；**漢訳** 開門，普開(祭)，無遮，無遮限 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*；～m yajñam yajata 設大施会 *Gaṇḍ-vy. 355.*；～o mahā-yajño yaśtaḥ 開門大施 *Gaṇḍ-vy. 357.*

nirargāḍa-yajña 男 **漢訳** ((無遮供))，無想報勝施 *Mvyut.*

nir-argala 形 門をはずした，さまたげられない，妨害されない；自由な，抵抗しがたい。

nir-ārtha 形 無用の；財物のない，貧しい；無意味な，無感覚の；**漢訳** 無義，無有義，無利，無義利 *Bodh-bh.*, *Lank.*, → artha. 男 覆 無意味，荒唐無稽。

nir-arthaka 形 目的にそわない，いたづらな，不適當な，無用の；無感覚の，無意味な；**漢訳** 無義，無義利；失利，非利益，無益，曾無果利，都無果利，無用，唐捐 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Cat-ś.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Śikṣ.* → artha. 男 無意味な反駁(覆)；虚辞(修辭)。～m 覆 いたづらに；**漢訳** 無因縁 *Divy.*

nir-arthakatva 男 無用，無益？

nir-arthatā 女 無意味；**漢訳** 無義 *Bodh-bh.*

nirārtha-bhūta 形 **漢訳** 無利 *Raṣṭr.*

nir-arthikā 形 女 =nir-arthaka (形)；**漢訳** 無義，無実境，無境界 *Sūtr.*, *Vijñ-v.*

nir-ārbuda 男 **漢訳** [地獄の名] 裂，炮烈，炮裂，水泡裂 *Dharm-s.*, *Mvyut.*, 玄応。

nir-avakāśa 形 少しの余地もない，混雑した，充滿する(地獄)；余裕のない；時機または所を得ない，都合の悪い，不便な。

nir-avakāśatā 女 [同上 覆]。

niravakāśi-Kṛ, その場所から移す，転置する。

nir-avagraha 形 抑制されない，制御されない，自由な，独立の；**漢訳** 無著 *Sūtr.*；無制人 *Abh-vy.*

nir-ava-Day niravadayate. → Day.

nir-avadya **未受分** 非難すべき点のない，過失のない；**漢訳** 無罪，無不善，離過，離諸過，離諸惡，離過惡，遠離過惡，障尽，無障 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* 男 欠点のないこと，優秀；**漢訳** 音写 [数の名] 尼羅闍 *Lal-v.*

nir-avadyatva 男 [同上 形 覆]；**漢訳** 無過 *Nyay-pr.*

nir-avadhi 形 際限のない，制限されない；永久の，無窮の。

nir-avadhika 形 制限のない。

nir-avayava 形 分けにくい；**漢訳** 無分，無雙 *Mvyut.* → avayava.

nir-avayavatva 男 分けにくいこと；**漢訳** 無方分 *Vijñ-v.*

nir-avarodha 形 抑制されない，妨げられない，反対されない。

nir-avalamba 形 支持を与えない；支持されない，支持の欠けた。

nir-avalambana 形 [同上]；所有者のない(富)；(誰においても)見出されない，(誰にも)属しない。

nir-avaśeṣa 形 少しの残余も留めない；全くの，完全な，総ての；**漢訳** 無余，尽，一切 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* → avaśeṣa. ～m **漢訳** 悉 *Śikṣ.* ～eṇa 男 全く，完全に。

niravaśeṣa-jñāna 男 **漢訳** 究竟智 *Daś-bh.*

nir-avaśeṣatas 男 全く，完全に；**漢訳** 無余 *Bodh-bh.*

nir-avasāda 形 憔悴しない，快活な。

nir-avaskṛta **過受分** 汚れない，清浄な，純潔な。

nir-avastāra 形 被覆されない，露出した，裸体の。

nir-avidya 形 **漢訳** 離無明，無無明 *Abh-vy.*

niravinda 男 [山の名]。

nir-avekṣ (nir-ava-īkṣ). → īkṣ.

nir-aśana 形 食物を節する，断食する。

nir-aśva 形 馬のない。

nir-aśva-puruṣa 形 馬も人もない。

nir-As nirasyati(-te). → As 2.

nir-asana 形 (女-i) 投げ出す，駆逐する，排斥する，拒絶する。男 駆逐，放逐；除去，放棄，排斥，拒絶。

nir-asaniya **未受分** (覆) から追われるべきまたは排斥されるべき。

nir-asta **過受分** [As] 投げられた，追われた，退けられた；**漢訳** 摧，破散，躡 *Divy.*, *Lal-v.*；dharani-tale ～h 躡地 *Lal-v. 230.*

nirasta-vyāpāra 形 所有家業悉皆破散 *Divy.*
 nir-astra 形 武装しない。
 nir-asya 未受分 放逐されるべき、追われるべき。
 nir-ahaṃ-stambha 形 自我がない、利己心の束縛を離れた。
 nir-ahaṃ-kāra 形 [同上]; 自負または傲慢がない、謙遜な; 無我 *Madhy-v., Vajr-s.*
 nir-ahaṃ-kārin 形 自我意識を離れた。
 nir-ahaṃ-kṛta 形 利己心のない、自我意識のない、個性のない; 利己的でない; 自負しない。
 nir-ahaṃ-kṛti 形 =nir-ahaṃ-kāra.
 nir-ahaṃ-kriya 形 個性のない。
 nir-ahaṃ-kriyā 因 利己心を離れたこと、無私。
 nir-ākāṅkṣa 形 =nir-ākāṅkṣa.
 nir-ākaraṇa 中 放逐; (妻の)離縁; 拒絶; 除去、排斥; 論駁; 否認; 遣、(空)発遣; 簡; 廻; 壊; 不施 *Bodh-bh., Mvyut., Nyāy-pr.*
 nir-ākaraṇatā 因 捨、休息 *Bodh-bh.*
 nir-ākaraṇiya 未受分 論駁されるべき。
 nir-ākariṣṇu 形 (園)を放棄する、拒否する; (園)から除きたいと思う、妨げる; 忘れがちの。
 nir-ākartavya 未受分 論駁されるべき。
 nir-ākartṛ 男 (園)の軽蔑者(とくに *Veda* の)。形 論駁する; 放棄する。
 nir-ākāṅkṣa 形 何物をも希望または期待しない; なんの欲望もない、希望のない; 少しの補足も要しない、完全な。
 nir-ākāra 形 無形の、形体のない; 対象のない、空虚な; 見えない; 重要でない; 無相 *Mvyut.*
 nir-ākāraṇa 中 棄 *Sam-r.*
 nirākāra-locana 中 対象のないまたは空虚な凝視。
 nir-ākula 形 群集しない、人跡稀な; 混乱しない、秩序のある; 無関係な、静穏な、確乎たる、明澄な; 無疵、無怨敵 *Lal-v.* → ākula.
 nirākula-dvāra 形 (城)門の雑沓しない(都城)。
 nir-ā-Kṛ nirākaroṭi. → Kṛ.
 nir-ākṛta 未受分 押し出された、追い出された、拒否された、放逐された、追放された、除外された、撤去された、無効にされた; 等閑に附された、忘れられた; 論駁された; 蔑視された、軽んぜられた; 剝奪された(畜成); 捨、棄捨、所棄捨、離 *Abh-vy, Bodh-bh., Mvyut.:* a~o dhyāyi 不捨思 *Mvyut.* → a~.
 nir-ākṛti 形 形体のない、無形の; 宗教的義務を怠った。男 宗教的義務の怠慢者(とくに *Veda* を読誦しない婆羅門); 捨、除。 *Abh-vy.*
 nir-ākṛanda 形 保護されない; なんにも庇護を与えない; 困から助力をうけない (*Jat-m.*); 無所依止、無所依怙 *Daś-bh.* 男 中 庇護されない場所。
 nir-ā-Kram nirākṛamati. → Kram.
 nir-ākriyā 因 放逐、除去; 論駁。
 nir-āgama 形 天啓または *Veda* に基づかない。
 nir-āgas 形 罪のない。
 nir-āgraka 形 (事物に)執拗に固執しない、強情にならない。
 nir-ācikīrṣu 希形 (園)を反駁したいと思う。

nir-ājīvyā 形 生計を持たない、糊口の途のない。
 nir-ādambara (一) 圃 多くを語ることなくして。
 nir-ātāṅka 形 不快または不安のない; 少しも不快または不安を生じない; 無有猜慮、無有疑悔 *Śiks.* → ātāṅka.
 nir-ātapa 形 太陽の熱から庇護された、日陰の多い。
 nir-ātapatra 形 傘のない。
 nir-ātithya 中 荒涼たる、淋しい(森)。
 nir-ātma 形 無我、非我、無有我 *Lank., Śiks.*
 nir-ātmaka 形 魂のない、個性のない; 無我、無主、無我性 *Gaṇḍ-vy., Sūtr., Vajr-pr.*
 nir-ātmatā 因 無我、無有我 *Gaṇḍ-vy., Sūtr.*
 nir-ātmatva 中 [nir-ātmaka の圃]; 無我、無我性 *Vajr-pr.*
 nir-ātman 形 =nir-ātmaka; 無我、無有我 *Dharm-s., Lank., Mvyut., Vajr-pr.:* ~ānaḥ sarva-dharmāḥ 一切法無我 *Dharm-s.*
 nirātma-bhāva 男 無我性、無有我性、無我之義 *Lank.*
 nir-ātmavat 形 =nir-ātmaka.
 nir-ātmika 形 無我、無真我 *Lank.*
 nir-ādara 形 (困)に対して少しの尊敬をも示さない、不敬な。
 nir-ādāna 形 何物をも受けないまたは取らない。男 [仏の称] 無取 *Mvyut.*
 nir-ādiṣṭa 未受分 → Diś.
 nir-ādharma 形 容器のない、支持のない。
 nir-ādhi 形 不安または心配のない、安全な。
 nir-ā-DHṛṣ nirādharṣati, nirādhrṣnou. → DHṛṣ.
 nir-ānanda 形 喜びのない、悲しい、憂鬱な。
 nir-ānurakta 未受分 [韻律, =nir-anurakta] 不樂 *Rāṣṭr.*
 nir-āntra 形 内臓を摘出した。
 nir-āpad 形 不幸を免れた、幸運な、安全な、繁栄した。因 不幸のないこと、幸福、安泰、繁栄。
 nir-ābādha 形 妨げられない、安全な; 乱されない、害されない、損われない、害のない; 取るに足りない、実体のない(苦情)。
 nir-ābharāṇa 形 装飾のない、装身具のない; 無瓔珞 *Gaṇḍ-vy.*
 nirābharāṇa-gātra 形 ; 身無瓔珞、除莊嚴具 *Gaṇḍ-vy.*
 nir-ābhāsa 形 悪い形態のない; 無現、無相、無影、無所有、無影像、絶衆影像 *Lank., Mvyut.;* 無受、無所受、寂靜 *Lank.*
 nirābhāsa-bhūmi 因 無影像地、無所有地、寂靜之地 *Lank.*
 nirābhāsa-lakṣaṇa 中 無所有相、無影像相 *Lank.*
 nir-ābhirāma 形 [韻律, =nir-abhirāma] 不可樂、無可愛樂 *Suv-pr.*
 nir-āma 形 悪臭のない; 殊妙、無惡 *Lal-v., Mvyut.*
 nirāma-gandha 形 無悪臭、無悪気味、浄、清浄 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
 nirāmagandha-karma-saṃbhūta 形 清浄業生、

從淨法生 *Gaṇḍ-vy.*
nir-āmaya 男 健康, 幸福, 安泰. 形 健康な, 壮健な; 健康によい; 不自由のない; 確実な; 漢訳 無病 *Divy.* → āmaya. ~m 副 漢訳 体和適 *Buddh-c.*
nir-āmarṣa 形 = nir-amarṣa.
nir-āmiṣa 形 肉のない; 報酬または捕獲品を得ない; 肉欲をもたない; 報酬を追求しない (*Lal-v.*); 漢訳 不肉食 *Śikṣ.*; 不求報, 非求利, 不望報, 無希求, 無希望, 無所希求, 不希其報, 不希望欲有所得 *Kāśy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.*; 無染, 無愛染; 無貪, 離著, 無貪著, 無憍惜 *Bodh-bh., Kāśy., Sūtr.*; 淨, 清淨 *Kāśy., Saddh-p.*; 無財, 無資, 離財, 無貨物 *Mvyut., Sam-r.*; ~eṇa cittena 心淨 *Saddh-p.* → āmiṣa.
nirāmiṣa-citta 中 漢訳 無染心, 無愛染心 *Bodh-bh.* 形 漢訳 心不望報, 心無希望, 絶希望, 離求説, 不貪利 *Rāṣṭr., Sūtr.*
nirāmiṣatā 女 漢訳 無求 *Sūtr.*
nirāmiṣa-dharma-deśaka 形 漢訳 演暢正法無所希求, 示法無資 *Mvyut.*
nirāmiṣāsin (°ṣa-ās°) 形 肉を食べない, 肉食性でない.
nir-āyata 過受分 → Yam. 1. 拡張しない, 延長しない, 縮小した, 緻密な; 2. 延長した, 伸張した, 拡張した.
nir-āyatatva 中 延長のないこと; 短かいこと; 緻密.
nirāyata-pūrva-kāya 形 身体の前部を伸張した.
nir-āyati 形 将来のない, 終末の近い.
nir-ā-Yam nirāyacchati. → Yam.
nir-āyāsa 形 努力または心配を含まない, 疲労を生じない; 安易な; 心持のよい (*Divy.*); 漢訳 無惱, 無煩擾, 安樂 *Bodh-c., Suv-pr.* → āyāsa.
nir-āyudha 形 武器のない, 武装しない.
nir-āraṅgatva 中 漢訳 無所護 *Sūtr.*
nir-ārambha 形 進取の氣象に富んでいない, 無活動の.
nir-ālamba 形 支持のない; 空中に懸った; 自立の, 他に頼らない, 孤独の, 独立の, 自由な; 支持を与えない; 漢訳 無礙, 無著, 迥絶 *Guhy-s., Saddh-p.*; 離攀縁, 非所攀縁 *Lank.*
nir-ālambana 形 支持のないまたは自立の, 他に頼らない, 自由な; 漢訳 無所縁 *Sapt-pr.*
nir-ālambā 女 漢訳 無遠慮 *Sapt-pr.*
nir-ālambya 中 漢訳 無攀縁, 遠離攀縁, 不可觀察 *Lank.*
nir-ālaya 形 漢訳 無依住, 無所著 *Gaṇḍ-vy.*
nir-ālāpa 形 語らない; 嘆かない.
nir-āloka 形 見廻わさない, 眼を転じない; 光のない, 暗い; 盲目の, 愚かな; (一°) を見る, 調査する, 探究する.
nir-āvaraṇa 形 覆われない, 明瞭な; 漢訳 離障 *Guhy-s.* → āvaraṇa.
nir-āśa 形 すべての希望または期待を放棄する; (prati を伴った 漢訳 絶, 漢訳 絶 または 漢訳 一°) に絶望する; 漢訳 失, 望絶, 不能救 *Bodh-c., Buddh-c., Śikṣ.*
nirāśa-kara 形 希望を奪う, 絶望的にする.

nir-āśaṅka 形 恐怖のない; (因) を恐れない; 漢訳 不疑惑, 無所疑慮 *Bodh-bh.*
nir-āśaṅkya 未受分 恐れられない.
nir-āśatva 中 絶望.
nir-āśā 因 すべての希望の放棄.
nirāśāsanna (°ṣa-ās°) 形 絶望に瀕した.
nir-āśitva 中 絶望.
nir-āśin 形 すべての希望を放棄した, 絶望の.
nir-āśis 形 希望または欲望をもたない.
nir-āśi-BHū, すべての希望を失なう, 絶望する.
nir-āśrama 形 婆羅門の(四)住期のどれにも属さない.
nirāśrama-pada 形 隠者の庵のない(森).
nir-āśramin 形 = nir-āśrama.
nir-āśraya 形 庇護のない, 支持されない; 孤独の, 独立の; 保護されない; 漢訳 無住, 無依住, 無所依, 無所著, 無因 *Bodh-c., Buddh-c., Lank., Sāṃkhy-k.* → āśraya.
nir-āśrava 形 [= nir-āśrava] 漢訳 無漏 *Divy., Lal-v.*
nir-āśa 1. 男 放逐, 除去, 排斥, 拒絶; 論駁; 嘔吐; 滴下, 放出; 漢訳 不行, 断除 *Śikṣ.*
nir-āśa 2. 男 座席のないこと; 庇護のないこと.
nir-āśaṅga 形 (能力の行使を)妨害されない; 漢訳 無著 *Sūtr.*
nir-āśtha 形 (一°) に興味を惹かれない, ……に注意しない.
nir-āśrava 形 罪のない (*Divy.*).
nir-āśvāda 形 味のない, 味気ない; 享樂を与えない; 漢訳 無味 *Mvyut., Rāṣṭr.*
nir-āśvādatā 女 漢訳 無有滋味 *Śikṣ.*
nirāśvāda-rasa 形 なんの味もない(草木).
nir-āśvādyā 形 愛好されない, 享樂を与えない.
nir-āhāra 男 断食. 形 食事を断った, 食べるべきものをもたない; 漢訳 不得飲食 *Divy.*
nir-āhāratā 女 食物の欠乏, 断食.
nir-I nireti. → I.
nir-iṅga 形 動かない, 揺れない.
nir-iccha 形 意欲のない, 欲望のない, 無關心な.
nir-indriya 形 精力のない, 交接不能の; 子を産まない(牝牛); 虚弱の, 病弱の; 感官のない.
nir-indhana 形 燃料の欠乏した.
ni-Ri niriṅāti, niriṅāte → Ri.
nir-Īkṣ niriṅāte(-ti). → Īkṣ.
nir-ikṣaka 形 見る, 視る, 調査する, 探求する; (一°) を見たいと思う; 漢訳 観, 見 *Rāṣṭr.*
nir-ikṣaṇa 形 (一°) を視る. 中 注視; 視察, 熟視; 観察, 検査, 静観, 冥想; 一見; 漢訳 暗視, *Lank.*
nir-ikṣaṇā 女 漢訳 省察 *Sūtr.*
nir-ikṣā 女 注視, 観察, 観測 (とくに天体の). ~ayā 男 (一°) を考慮して.
nir-ikṣitavya 未受分 注視されるべき (*Kār-vy.*).
nir-ikṣya 未受分 眺められるべき, 注視されるべき; 考察されるべき; 漢訳 観, 見 *Bodh-bh.*
nir-iti 形 災難に悩まされない.
nir-itika 形 (女 -ā) 吉兆の, 瑞祥の.
nir-iha 形 動かない, 無活動の; 欲望のない, すべての事物に無關心な; 漢訳 不動, 無動作, 無動揺,

無作, 無作用, 無実事, 無能作者, (無我) 無作者
Daś-bh., Lanik., Mvyut.

nir-ihaka 形 不動, 無作, 無作用, 無生起, 生滅無体 *Daś-bh., Lal-v., Lanik., Suvik-pr.*; 遠離 *Ast-pr.*; 無思, 無分別, 無貪著不分別 *Ast-pr., Lal-v.*

nir-ihakatva 中 無變異 *Śikṣ.*

nir-ihatā 因 無關心, (ある物を得ようとする) 欲望のないこと; 無気力.

nir-ihika 形 不動 *Lanik.*

nir-ukta 過受分 → *Vac.* 中 説明; 語源的解説; [*Nighaṅṭu* に関する *Yaska* の註釈の題名]; 所説, 言辭, 辭句, 話訓 *Bodh-bh., Daś-bh., Lanik.*

nirukta-kāra 男 [*Meghadūta* の註釈家の名]; [*Nirukta* の作者 *Yaska* の称].

nirukta-ga 男 [*Brahman* 神の称].

nirukta-ja 男 [古法によって認められた十二種類の息子の一].

nir-ukti 因 語源的説明; [*Tarka-saṃgraha* の註釈書の題名]; 言, 詞, 言詞, 言説, 語言, 訓詞, 名字, 辭, 文辭, 章句, 方言, 殊音; 解釈, 訓釈, 釈詞, 釈名, 訓釈文調, 訓釈文辭, 隨俗訓釈 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.*; 音写 尼盧致 (論) *Lal-v.*

nirukti-niyata-praveśa 男 [Samādhi の名] 入言詞決定 *Mvyut.*

nirukti-pada 中 訓釈, 訓釈句 *Gand-vy.*

nirukti-pratisaṃvid 因 詞無礙辯, 於諸詞無礙辯, 訓詞無礙解, 辭無礙解, 辭無礙, 辭無礙慧, 辭無礙智, 釈詞無礙慧 *Bodh-bh., Mvyut.*

nirukti-vyavahāra 男 語言, 言辭 *Saddh-p.*

niruktivyavahāra-vivarjita 形 除諸言辭, (一切) 語言(道)断 *Saddh-p.*

nirukty-anuvyavahāra 男 殊音隨説 *Bodh-bh.*

nir-ucchvāsa 形 呼吸のとだえた; あえぐ, 息切れした; 断息 *Abh-vy.*

ni-ruja 形 [韻律] = *niruja*; 無諸患 *Rāṣṭr.*

nir-utkaṅṭha 形 期待のない; 不安のない.

nir-uttara 形 より優れた人のない; 解答を与えることができない; 沈黙した; 無上, 無有上, 最上, 無上乘, 無比, 微妙 *Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sūtr.*

nir-uttaratā 因 無上 *Bodh-bh.*

niruttara-pada 中 無上妙趣 *Bodh-bh.*

nir-utsava 形 祭礼のない.

nir-utsavārambha (°va-ār°) 形 祭礼の準備をしない.

nir-utsāha 形 精力のない, 勢いのない, 勇気のない, 進取の氣象に乏しい, 元氣のない, 無活動の; 忍耐のない; 無關心な.

nir-utsāhatā 因 精力のないこと, 勇気のないこと, 怯懦, 忍耐のないこと.

nir-utsuka 形 無頓着な, 平静な; (prāti) に対する欲望をもたない; 不欲 *Gand-vy.*

nir-utseka 男 謙遜. 形 勿体ぶらない, 謙遜な.

nir-udaka 形 水のない; 枯竭, 枯涸 *Gand-vy.*

nir-udara 形 胴体のない.

nir-uddeśam 副 (なんらの) 陳述なくして.

ni-ruddha 過受分 → *Rudh 3.* 滅, 已滅, 滅已, 息, 息滅, 已謝, 滅謝, 謝滅; 断; 断尽; 離; 退失; 淨除 *Abh-vy., Ast-pr., Lanik., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*

nir-uddhati 形 動揺しない(車).

ni-ruddhatva 中 已謝, 已滅, 永滅, 除滅 *Gand-vy., Vijñ-v.*

nir-udyama 形 努力を避ける, 怠惰な, 無活動な.

nir-udyoga 形 [同上].

nir-udvigna 過受分 悩まされない, 興奮しない, 平静な.

nirudvigna-manas 形 心の乱されない, 心静かな.

nir-udvega 形 興奮しない, 平静な.

ni-Rudh niruṇaddhi, niruṇddhe. → *Rudh. 3.*

ni-rudhyamāna 過受分 阻止される; 引き止められる; 滅, 正滅 *Abh-vy., Lanik.*

nir-unnata 過受分 不高 *Sūtr.*

nir-unmāda 形 傲慢でない.

nir-upakaraṇa 中 無利益 *Śikṣ.*

nir-upakāra 男 無恩 *Suvik-pr.*

nir-upakārin 形 助力することができない; 役に立たない.

nir-upakrama 形 初めのない, 端緒のない; 治療しにくい.

nir-upākriya 形 有利または有効でない, 無用な.

nir-upakleśa 形 離隨煩惱, 断離煩惱 *Bodh-bh.*

nir-upatāpa 形 無逼惱 *Daś-bh.*

nir-upa-drava 形 不運または災難に攻められない, 順調な, 静穏な, 好運に遇った; 危険を免れた, 安全な; 寧, 無難, 無災患, 災難(速得)消除; 無畏 *Daś-bh., Kaśy., Śikṣ., 梵千.*; 無有瘡癩, 無有癩瘡, 不見少分瘡痕 *Ast-pr.* → *upadrava.*

nir-upadravatā 因 安全.

nir-upadravatva 中 無災横, 無衆患 *Abh-vy.*

nir-upadhi 形 詭計のない, 正直な; 罪のない.

nir-upadhi-śeṣa 形 無余, 無余依, 無余蘊 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lanik., Mvyut.*

nirupadhiśeṣa-nirvāṇa 中 (音写) 無余涅槃, 無余依涅槃, 無余蘊涅槃 *Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.*

nirupadhiśeṣanirvāṇa-satya 中 (音写) 無余涅槃諦, 無余依涅槃諦 *Bodh-bh.*

nir-upapatti 形 不適當な.

nir-upapada 形 称号または附隨の語を伴わない.

nir-upaplava 形 乱されない, 妨げられない, 悩まされない.

nir-upabhoga 形 享樂しない, 楽しまない; 無執塵 *Samkhy-k.*

nir-upama 形 無比の; 無比, 無譬喩 *Ast-pr., Bodh-bh., Sūtr.*

nir-upayoga 形 無用の, 役に立たない.

nir-upalīpta 過受分 不染 *Śikṣ.*

nir-upalepa 形 汚されない; 無染, 無染汚, 無染著, 不能染汚; 無著; 無貪 *Ast-pr., Daś-bh., Mvyut.*

nir-upaskṛta 過受分 害されない, 変わらない, 腐敗

しない, 単純な, 純粋な.

nir-upasthāyaka 形 侍者または従者のない (Divy.);
 無侍衛 Divy.

nir-upahata 過受分 傷害を受けない, 幸運な; 不被傷損 Divy.

nir-upākhyā 形 名状しがたい; 真実でない, 虚偽の.
nir-upākhyatva 用 [同上 用].

nir-upādāna 形 すべての障害を離れた (Lal-v.); 不安を離れた (Saddh-p.); 世俗の存在に対する欲望のない (Divy.); 不取, 無所取, 無染取; 無受法; 其心泰然 Lank., Saddh-p., Sūtr.

nir-upādi 形 無取 [Tib. len med] Lank.

nirupādi-gati 因 無取の覚 [Tib. len med rtogs pa];
 [=nirupadhīṣa-nirvāna] (音写) 無余涅槃 Lank. 253.

nir-upādhi (°pa-ādhi) 形 属性のない, 絶対の.

nir-upādhi 形 [同上].

nir-upāya 形 無効の; 方策のない, 援助のない.

nir-uṣṇatā 因 熱のないこと, 寒冷. ~m Ni, 冷くする, 殺す.

nir-uṣṇiṣa 形 ターバンのない, 頭をあらわした, 帽子なしの.

ni-Ruh, → Ruh 2.

ni-rūḍha 1. 過受分 → Ruh 2. 共了 Bodh-bh.

nir-ūḍha 2. 過受分 → Ūh 1.

nir-ūḍha 3. 過受分 → Vah. 共了 [Tib. grags pa] Bodh-bh.

nirūḍha-mūla 形 根の伸びた, よく根づいた.

nir-ūḍhi 1. 因 名声, 有名.

ni-rūḍhi 2. 因 堅固 Madhy-vibh.

ni-rūpaka 形 注意深い, 深慮のある; 明確にする.
 男 注意深い人.

ni-rūpaṇa 形 説明する, 決定する, 定義を下す. 用 説明; 観察, 決定すること, 確定すること, 定義を下すこと; 調査; 外観, 形; 悟入 Bodh-bh.; 顕示; 計度, 檢察 Abh-k., Śikṣ.

ni-rūpaṇatā 因 述べること, 定めること, 研究, 探索 (Bodh-bh.)

ni-rūpaṇā 因 決定すること, 確定すること, 定義を下すこと; 察, 決定, 実解 Mvyut. → deśa-~.

ni-rūpaya 名動 nirūpayati, nirūpyate (受). → rūpaya.

ni-rūpita 過受分 見られた, 注意された, 考慮された, 思量された, 発見された, 確かめられた, 決定された, 定義を下された, 規定された, 選ばれた, 向けられた, 射出された; 頭了, 極頭了 Bodh-bh.; 為 Vajr-s. 用 論究または吟味された状態.

ni-rūpya 1. 不変分 → rūpaya.

ni-rūpya 2. 未受分 観察されるべき, 定義されるべき, 決定されるべき; 考慮の余地ある, 疑わしい.

ni-rūpya 3. 形 演ずる, 身振りをする.

nir-ūṣmaka 形 熱のない, 冷い (Jat-m.).

nir-ūṣmatva 用 寒冷.

nir-ūṣman 形 熱のない, 冷い, 寒い.

nir-Ūh nirūhati (-te). → Ūh 1.

nir-ṛti 因 (生命の離れ去ること), 解消, 分解, 破壊, 災害, 腐敗; 死の女神 (西南の守護者). 用 死, 死霊; [ある Rudra の名].

nir-enas 形 罪のない, 無罪の.

ni-roddhavya 過受分 閉じ込められるべき, (柵または囲いをもって) 囲まれるべき.

ni-rodha 男 監禁, 拘禁; 包囲; 強制, 抑圧, 征服; 阻止; 破壊; 失望 (戯曲); 滅, 滅尽, 滅度, 滅壊, 寂滅, 寂靜 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Guhy-s., Lank., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy I., Sūtr.; 滅定, 滅尽定 Bodh-bh., Divy.; 捨 Cat-ś.

nirodha-gāmin 形 滅, 能滅 Daś-bh., Lank.

nirodha-jñāna 用 滅智, 知阻 Mvyut.

nirodha-dharmin 形 滅法, 滅相 Aṣṭ-pr.

nirodha-dhātu 男 滅界 Sapt-pr.

ni-rodhana 用 拘禁; 強制; 拒絶; 失望 (戯曲); 遮, 遠離 Lank.

nirodha-nisrita 形 依止滅, 居処阻碍 Mvyut.

nirodha-mārga-satya 用 滅道二諦 Sūtr.

nirodha-vyutthāna 用 滅起, 起滅尽 (定) Lank.

nirodha-satya 用 滅諦, 滅(聖)諦 Saddh-p.

nirodha-samādhi-sukha-mukha 用 (音写) 滅三昧門樂, 寂靜三昧樂門, 寂滅三昧樂門 Lank.

nirodha-samāpatti 因 滅定, 滅尽定, 滅正受, 滅尽正受, 入滅定, 滅心定, 入欲滅相, 滅尽等至 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut., Vijñ-t.

nirodha-samāpanna 形 入滅定, 入滅尽 Bodh-bh.

nirodha-sukha 用 寂滅樂 Lank.

nirodhasukha-samāpatti 因 滅正受樂; (音写) 滅尽三昧樂, 三摩跋提滅尽定樂 Lank.

nirodhānirōdha 男 滅不滅, 滅非滅 Lank.

ni-rodhika 形 滅 Sapt-pr.

ni-rodhita 過受分 滅, 所滅, 沒 Abh-vy., Sapt-pr.

nirodhotpāda-vivarjita (°dha-ut°) 形 無生無滅 Saddh-p.

niropādhi 形 用 [< nir-upadhi, Tib. phun po mi mnaḥ] 蘊をもたない (Saddh-p. 307.)

nir-oṣṭhya 形 唇音を欠いた. 用 唇音のないこと.

nir-aupadhika 形 無依, 無摂 Abh-vy.

nir-gata 過受分 → Gam. 生, 愈, 出, 従... 出, 適出, 得出, 傍出, 已度 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.; 出家 Lal-v.

nirgata-viśaṅka 形 恐怖を去った, 恐れない.

nirgatākhila-kalmaṣa 形 すべての罪から離れた.

nirgatākhila-kalmaṣatā 因 [同上 用].

nir-gati 因 出発.

nir-gandha 形 香気のない.

nir-gandhatā 因 [同上 用].

nir-Gam nirgacchati. → Gam.

nir-gama 男 出立, 出発; (用) から逃れること; 消失; 出口, 出路; 商品の輸出先; 結果, 結末, 終結; 出, 生; 去, 止 Abh-k., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Mvyut.

nir-gamana 甲 (一) からの出発。
 nir-gamika 形 去 *Sapt-pr.*
 nir-garva 形 傲慢でない, 謙遜な。
 nir-galita 過受分 → Gal.
 nir-gavākṣa 形 窓のない。
 nir-gahana 形 断崖等を知らないすなわち勇敢な。
 nir-Gā, → Gā.
 nir-girṇa 形 吐き出された; 飲み込まれた, 吸収された。
 nir-guṇa 形 網のない; 弦のない(弓); 長所のない; 属性のない, 徳の欠けた; 価値のない, 卑しい, 悪い; 不依諸縁自然而有 *Lank.*; (音写) 離求那, 離於求那 *Buddh-c., Lank.*
 nir-guṇatā 因 特性または特質のないこと, 無価値, 卑賤, 邪悪。
 nir-guṇatva 甲 [同上]。
 nir-gulika 形 丸菓の欠けている。
 nir-gulma 形 (因 -ā) 草むらのない, 灌木のない。
 nir-gr̥ha 形 (因 -i) 家のない。
 nir-gr̥hita 過受分 所持 *Śikṣ.*; 降伏 *Divy.*
 nir-gaurava 形 威厳を欠いた。 ~m 圖 謙遜して, 卑下して, 至当な尊厳を無くして。
 nir-grantha 形 すべての束縛またはきずなから脱した, 解放された。 男 裸形の *Jina* 教托鉢僧; 離繫, 不繫, 無繫, 離繫者, 露体, 露形外道 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut.* 玄應; (音写) 尼乾, 尼健, 尼健(子), 尼健(子), 尼乾陀, 尼軛陀, 尼健陀, 尼健連他, 昵揭爛陀 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p.* 玄應: ~o jñāti-putrah 露体親界, 離繫親子 *Divy., Mvyut.*; (音写) 尼健陀若提子, 昵揭爛陀慎若低子 *Divy., Mvyut.*; (音写) 尼健連他若提弗怛羅 *Mvyut.*
 nir-granthi 形 結節のない, 節なしの; 過失のない, 完全な; 無結, 結不現 *Mvyut.*
 nir-granthika 男 =nir-grantha (男)。
 nirgranthi-sira 形 筋脈盤結不現, 無脈結, 筋脈無結 *Mvyut.*
 nir-granthi-sīratā 因 結節のない脈管をもつこと (*Dharm-s.*)
 nir-graha 男 確かめること。 形 非難のない, 欠点のない。
 nir-grāhya 未受分 見出されるべき, 認められるべき。
 nir-ghaṇṭa 男 甲 語彙の研究, 辞典学; (音写) 尼健論 *Lal-v.*
 nir-ghaṇṭu 男 [同上]; 音声相合, 美音相合 *Mvyut.*
 nir-gharṣaṇa 甲 摩擦。
 nir-gharṣaṇaka 形 (歯を清めるために) 摩擦するに適する, (圖) のために歯磨きとして役立つ。
 nir-ghāta 男 除去, 破壊; 疾風, 旋風; 暴風雨; 地震; [ある *Dānava* の名]; 滅, 調伏 *Guhy-s., Śikṣ.*; 天鼓, 暴悪音 *Mvyut.*
 nirghāta-duḥsaha 形 破壊されにくい, 凌駕されにくい。
 nir-ghātana 甲 追い出すこと; 除, 破, 損害

Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.: vyādhi ~ 除病 *Gaṇḍ-vy.* 464.
 nirghātaya 名動 他 nirghātayati 引き出す, 追い出す, 破壊させる; 殺させる, 殺す。
 nir-ghātita 過受分 壊 *Mvyut.*
 nir-ghṛṇa 形 無慈悲な, 残酷な; 無慈悲, 無慚, 輕慢 *Divy., Mañj-m., Rāṣṭr.* → ghṛṇa.
 nir-ghṛṇatā 因 [同上]。
 nir-ghṛṇatva 甲 [同上]。
 nir-ghṛṇā 因 無慈悲, 残忍。
 nir-ghoṣa 男 音, 音響, 騒音; 音, 声, 音声, 妙音, 響 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut., Saddh-p.*: eka-svara ~ eṇa 俱発声 *Saddh-p.* 486.
 形 音のない; 物音のしない。
 nirghoṣākṣara-vimukta 形 [Samādhi] の名解 脱音声文字, 離字音 *Mvyut.*
 nir-Jan nirjāyate. → Jan.
 nir-jana 形 人のいない, 住む人のない, 荒廃した, 孤独の, 淋しい。 甲 寂寥。
 nir-janatā 因 [同上 (甲)]。
 nir-janatva 甲 [同上]。
 nirjana-vana 甲 淋しい森。
 nir-jaya 男 征服, 勝利。
 nir-jara 1. 形 不老の, 若い, 新鮮な; 不滅の, 不死の。 男 神。
 nir-jara 2. 形 除愈 *Lal-v.* 75.
 nir-jarā-marāṇa 甲 不老死 *Madhy-v.*
 nir-jala 形 水のない, 乾いた, 不毛の。 男 水のない国, 砂漠。
 nir-jala-da 形 雲のない。
 nir-jalpa 形 無説, 無言 *Sūtr.*
 nir-jalpā 因 無言 *Sūtr.*
 nir-jāta 過受分 出生した, 現われた, 目に見える; 生, 出, 得生, 所出生, 所起, 所生起 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Vajr-pr.*; 隨 *Aṣṭ-pr.*; 遷謝 *Śikṣ.*; 成就 [因 <niryāta (?)>] *Lal-v.* 274.; 一° 能生, 從生, 由 ……故起 *Aṣṭ-pr.*: prajñā-pāramitā ~ ā 由般若波羅蜜多為因故起, 從般若波羅蜜多生 *Aṣṭ-pr.* 210; prajñā-pāramitā ~ ā sarvajñatā 般若波羅蜜多能生一切智智, 一切智從般若波羅蜜多生 *Aṣṭ-pr.* 230. → a~, mano~.
 nir-Ji nirjayati. → Ji.
 nir-jigamiṣu 希求 形 出発または外出したいと思う。
 nir-jita 過受分 → Ji. 勝, 已破, 得勝 *Abh-vy., 梵雜.*; 伏除, 被伏, 降伏, 所降伏, 制伏, 已伏 *Abh-vy., Lal-v., Śikṣ.*
 nirjita-varman 男 [人名]。
 nirjitāri-gaṇa 形 敵軍を撃破する。
 nir-jiti 因 征服, 勝利。
 nirjitendriya (°ta-in°) 形 調伏諸根 *Vajr-s.*
 nir-jihirṣu 希求 形 取り出したいと思う, 移したいと思う。
 nir-jihva 形 舌のない。
 nir-jīva 形 生命のない, 死んだ; 無寿, 無寿者, 無命者, 無有命者, 離寿 *Aṣṭ-pr., Madhy-v., Śikṣ., Vajr-pr.*

nirjīva-karaṇa 甲 (圖) に対する致命的打撃; 致死, 殺害.
 nir-jīvita 過受分 生命のない, 死んだ.
 nir-jīvatva 甲 [同上 圖].
 nir-juṣṭa 形 常に出入りする, 居住する.
 nir-jetr 男 征服者, 勝利者.
 nir-Jñā, → Jñā.
 nir-jñāti 形 血族のない, 孤独の.
 nir-jñāna 形 無知な, 愚かな.
 nir-jvara 形 熱のない, 健康な; 無熱, 無熱惱, 離熱惱, 除滅煩惱熱; 無病, 無患; 無疫癘, 無畏; 出塵勞; 無害 Gand-vy., Mvyut., Rāṣṭr. → jvara.
 nir-jhara 男 (まれに 甲) 小滝, 滝; 奔流.
 nir-jharīṇi 因 奔流, 溪流, 川.
 nir-ḍina 甲 [(矢の) 飛行する形態の一種].
 nir-ṇata 形 突き出た.
 nirṇatodara (°ta-ud°) 形 腹の突き出た.
 nir-ṇaya 男 連行, 除去; 確定; 落着, 決定, 確言, 判決, 宣告; 決定, 永定 Mvyut.
 nirṇayopamā (°va-up°) 因 推理に(基づく)比喻.
 nir-ṇāma 男 ねじれ, 歪曲, 彎曲.
 nir-ṇikta 過受分 → Nij.
 nirṇikta-bāhu-valaya 形 磨いた腕環を着けた.
 nirṇikta-manas 形 清い心をもつ.
 nir-ṇikti 因 洗滌; とくに贖罪.
 nir-Nij nirṇenecti. → Nij.
 nir-ṇij 因 輝く装飾品, 飾った衣服, 盛装.
 nir-Ni nirṇayati (-te). → Ni.
 nir-ṇita 過受分 → Ni.
 nir-ṇud nirṇudati. → Nud.
 nir-ṇeka 男 清めること, 浄めること, 洗滌; 贖罪.
 nir-ṇejaka 男 洗濯人.
 nir-ṇejana 甲 清めること, 洗滌; 贖罪, 賠償.
 nir-ṇetr 男 判定者, 審判者.
 nir-ṇoda 男 放逐, 除去.
 nir-damśin 形 噛まない.
 nir-dagdha 過受分 焼かれた, 火によって破壊された.
 nir-daṇḍa 形 罰しない.
 nir-danta 形 歯のない, 牙のない.
 nir-daya 形 無慈悲な, 同情のない, 残酷な, 容赦ない; 熱烈な, 烈しい(抱擁); 慈悲を受けるに値しない; 無慈悲, 無有慈悲 Bodh-bh., Bodh-c. → dayā. ~m 副 無慈悲に; 過度に; 熱心に.
 nir-dayatva 甲 無慈悲, 残酷.
 nir-dara 1. 男 洞穴, 洞窟.
 nir-dara 2. 形 無慈悲な, 無恥な.
 nir-daraṇa 形 亀裂または穴から脱した.
 nirdara-vāsin 形 洞穴に住する.
 nir-dari 男 洞穴.
 nir-dalana 甲 裂くこと, 切り倒すこと.
 nir-daśa 形 十日以上経た, 生後十日以上経た.
 nir-daśana 形 歯のない.
 nir-dasyu 形 強盗のいない(場所).
 nir-Dah nirdahati (-te). → Dah.

nir-dahana 形 燃える. 甲 燃焼; 燒 Gand-vy., Śikṣ.
 nir-dākṣiṇya 形 無作法な, 不躺けな.
 nir-dātr 男 (田畑の) 草取人, 草刈人.
 nir-dāraṇa 甲 摧滅, 摧破 Gand-vy.
 nir-dārayitr 形 能壊, 能解散 Gand-vy.
 nir-dāridrya 形 貧乏から免れた, 裕福な.
 nir-Diś nirdiśati. → Diś.
 nir-diṣṭa 過受分 → Diś. 說, 所說, 前所說, 所詔 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Laṅk., Saddh-p.; 記所記, 記說 Aṣṭ-pr., Divy.; 明 Sūtr.; 分別 Aṣṭ-pr.: bhagavatā ~h 仏說 Aṣṭ-pr. 83. → a~.
 nir-Di, → Di 1.
 nir-duḥkha 形 苦痛から免れた; 苦痛を生じない.
 nir-duḥkhatva 甲 [同上 圖].
 nir-Duh nirduhati. → Duh.
 nir-Dṛ, → Dṛ.
 nir-deva 形 神々に捨てられた; 神または偶像のない.
 nir-deśa 男 命令, 指示; 記述, 表明; 詳述, 委細; 明記; 說, 所說, 演說, 說法, 宣說, 弁說; 教; 広, 釈, 釈說, 広釈, 広說, 広弁, 別釈, 釈義, 義, 釈法; 解, 分別, 分別演說; 序說; 現示, 指示; 名号 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Lal-v., Laṅk., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr.; 經 Mvyut.: kartavyo ~h 当広弁, 当広釈 Abh-vy. 100; 圖寫 [数の名] 儼德沙, 儼哩泥捨 Mvyut.
 nirdeśa-pada 甲 法句, 法門 Gand-vy.
 nir-deśya 未受分 述べられるべき, 決定されるべき; 命令に従う, 奉仕する(Divy.); 說 Śikṣ.: a~ 不說 Śikṣ. 358.
 nir-dainya 形 不幸または精神的苦痛のない, 愉快的な.
 nir-doṣa 形 過失のない, 欠点のない; 誤謬のない; 無罪の, 無垢の; 無過(人), 無過失, 不為過失, 無瑕 Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Śikṣ. → doṣa 1.
 nir-doṣatā 因 [同上 圖].
 nir-doṣatva 甲 無過 Sūtr.
 nir-dravya 形 非物質的な, 靈的な; 資産のない, 貧しい.
 nir-droha 形 敵意のない, 好意ある.
 nir-dvandva 形 (冷と熱等のように) 反対の事に対して平等な, 喜びも悲しみもない, 相互関係において矛盾しない, 独立不羈の; 嫉妬または羨望の念のない, 異議を生じない; [仏の称] 無諍, 無鬪 Mvyut.
 nir-dhana 形 貧しい; 資金の不足したすなわち資金の後援のない(事業).
 nir-dhanatā 因 貧乏.
 nir-dhanatva 甲 [同上].
 nirdhani-Kṛ, 貧乏にする; 潰滅させる.
 nirdhani-BHū, 貧乏となる, 苦難に陥いる.
 nir-dharma 形 法に従わない, 義務を尽さない, 不正な, 罪のある. 男 不正.
 nir-dhānta 過受分 吹き飛ばされた, 清められた, 精錬された [Pali niddhanta]; 熟(?), 柔(?) Mvyut.
 nir-dhāraṇa 甲 選抜, 取り出すこと, 除外すること,

排斥すること (*Abh-vy.* 38.); 決意すること; 漢訳 特分別 *Mvyut.*; 持 *Sūtr.*
nir-dhārayitr 男 決定者.
nir-dhārtarāstra 形 *Dhrtarāstra* の後裔のない.
nir-DHāv nirdhāvati. → DHāv 1.
nir-dhāvita 過受分 漢訳 出, 生, 馳走, 馳走而出, *Lal-v., Saddh-p.*
nir-DHū nirdhūnoti, nirdhūnute. → DHū.
nir-dhūta 過受分 → DHū.
nir-dhūnana 中 波動, うねり.
nir-dhūpita 過受分 漢訳 焼, 薫 *Lal-v., Mvyut.*
nir-dhūma 形 煙のない.
nir-DHṛ, → DHṛ.
nir-dhauta 過受分 → DHāv 2.
nirdhauta-dānāmala-gaṇḍa-bhitti 形 mada を洗い落して頬を清潔にした(象).
nir-DHmā, → DHmā.
nir-DHyai, → DHyai.
nir-Nad nirnādayati (使役). → Nad.
nir-Nam nirnamati, nirnamayati (使役) → Nam.
nir-namas-kāra 形 敬礼をしない, 尊敬しない, 不遜な; 敬礼を受けない, 皆に軽蔑された.
nir-naṣṭa 過受分 → Naś 1.
nir-nāṇaka 形 貨幣をもたない, 無一文の.
nir-nātha 形 保護者をもたない, 主または守護者のない.
nir-nāthatā 女 保護者のないこと; 寡婦たること.
nir-nāda 男 漢訳 吼, 吼声 *Gaṇḍ-vy.*; 震動 *Lal-v.* 272.
nir-nādana 中 漢訳 吼 *Daś-bh.*
nir-nādita 使役 過受分 漢訳 音, 成音 *Lal-v.*
-nir-nādin 形 漢訳 声 *Mvyut.* → mahā~.
nir-nānā-karaṇa 形 漢訳 無有差別 *Bodh-bh.* → nānā-karaṇa.
nir-nānā-karaṇatā 女 漢訳 無差別相 *Ast-pr.*
nir-nānākaraṇātma (°ṇa-āt°) 形 漢訳 無有異体 *Saddh-p.*
nir-nānātva 中 漢訳 不異, 無差別 *Ast-pr.*
nir-nābhi 形 臍の下にまで達する.
nir-nāyaka 形 案内者または先導者を欠いた, 支配者のない, 無政府の.
nir-nāšana 形 追放する, 駆逐する, 破壊する.
nir-nidra 形 眠らない.
nir-nidratā 女 眠らないこと, 不眠.
nir-nimitta 形 原因または理由のない, 動機のない; 全く公平な; 漢訳 無相, 無有相, 離相 *Bodh-bh., Lanik., Sūtr.* → nimitta. ~m, °— 副 (確かめることのできる) 理由がなく.
nir-nimittatā 女 漢訳 無相 *Bodh-bh.*
nir-nimittatva 中 原因または理由の欠如.
nirnimitta-bhāvanā 女 漢訳 無相修 *Bodh-bh.*
nirnimitta-samatā 女 漢訳 無相平等 *Bodh-bh.*
nir-nimittā 女 漢訳 無有相 *Bodh-bh.*
nir-nimeṣa 形 まばたきをしない; 眼を閉じない.
nir-nirodha 形 妨げのない, 妨害されない.
nir-nisā-karārcis 形 月光のない(夜).

nir-netṛtva 中 漢訳 開導 *Bobh-bh.*
nir-baddha 過受分 → Bandh.
nir-Bandh nirbadhnāti. → Bandh.
nir-bandha 男 異議; (一°)の固執, ……の強調; 強情, 頑固; 告訴; 漢訳 意不移 *Divy.:* avaśyam ~ = m 決意 *Divy. 25.* ~m Kr, 固執する; (ある人 圓) を促がす. °—, 圓, 固執して, 執拗に; 漢訳 [~ena] 更 *Divy.*
nirbandha-para 形 (一°)を固執する, ……を強く望む.
nirbandha-prṣṭa 形 執拗に求める, 強く望む.
nir-bandhitā 女 [同下 中] (*Jāt-m.*)
nir-bandhin 形 (一° または 一°)を固執する; 漢訳 精勤 *Buddh-c.*
nir-bandhu 形 親戚または交友のない.
nir-barha 形 尾羽のない(孔雀)
nir-bala 形 力のない, 弱い.
nir-bādha 形 悩まされない, 憂慮のない, 乱されない; 妨害されない.
nir-bijatva 中 漢訳 無種起 *Sūtr.*
nir-buddhi 形 知恵のない, 分別のない, 愚かな.
nir-bodha 形 [同上].
nir-Brū nirbravīti. → Brū.
nir-bhagna 過受分 打倒された, 破壊された.
nir-bhacchita 過受分 俗 [< nir-bhartsita] 漢訳 呵責 *Raṣṭr. 32.*
nir-BHaj nirbhajati (-te). → BHaj.
nir-BHañj nirbhanakti. → BHañj.
nir-bhaya 形 恐怖のない; (一°)を恐れない; 危険のない, 安全な; 大胆な, 確乎たる; 平静な; 漢訳 [仏の称] 無畏, 無怖, 無怖畏, 無恐懼, 無怯懼 *Abh-vy., Mvyut.* → bhaya. 男 [ある戦士の名]. 中 安全. ~m 副 恐れなくて, 大胆に.
nir-bhayatā 女 [同上 (形) 中] 漢訳 無怯懼 *Abh-vy.*
nir-bhara 形 熱烈な, 熱心な; 極端な; 深い(眠り); 緊い(抱擁); (一°)に充ちた. ~m, °— 副 熱烈に, 極端に, 十分に(眠る), 深く.
nirbhara-nidrā 女 深い眠り; 熟睡.
nirbhara-parirambha 男 熱烈な抱擁.
nirbhara-praṇayitā 女 深い愛情.
nirbhara-rahāḥ-kriḍā 女 過度の愛欲遊戯.
nirbhara-sambhoga 男 過度の享樂.
nir-BHarts nirbhartsayati (使役). → BHarts.
nir-bhartsana 中 脅迫, 威嚇, 非難; 漢訳 訶叱 *Sikṣ.*
nirbhartsana-daṇḍa-monita 形 刑罰の脅威に悩まされた.
nir-bhartsita 過受分 脅かされた, 悪口を言われた, 罵られた; 漢訳 驅遣 *Raṣṭr.*
nir-BHal, → BHal.
nir-BHas nirbapsati. → BHas.
nir-bhasmita 過受分 灰燼に帰した, 絶滅した.
nir-BHā nirbhāti. → BHā.
nir-bhājya 未受分 (分け前 中) から除外されるべき.
nir-bhāta 過受分 → BHā.
nir-bhārtsita 中 漢訳 責, 憎, 懲 *Mvyut.*
nir-BHās, → BHās.

nir-bhāsa 男 光輝; 出現; 光, 影 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Sukh-vy. II., Sūtr.* 一° (因 -ā) = nibha. 等しい, 似た (*Kār-vy.*).

nir-BHid nirbhinatti. → BHid.

nir-bhinna 過受分 → BHid.

nir-bhi 形 恐怖のない, 恐れぬ; 無畏, 無所畏, 無驚畏, 無所疑慮, 都無驚懼 *Bodh-bh., Divy., Lal-v., Sūtr.* → bhi.

nir-bhika 形 恐怖のない, (因) を恐れぬ.

nir-bhita 過受分 [同上]; 無畏 *Sūtr.*

nir-bhugna 過受分 → BHuj 1.

nir-BHuj nirbhujati. → BHuj 1.

nir-BHū, → BHū.

nir-BHṛ, → BHṛ.

nir-bheda 男 粉碎, 破裂; 分裂; 開き割ること; 漏洩, 裏切り; 差別, 分別 *Gaṇḍ-vy.*

nir-bhedana 中 壊, 破壊, 壊散 *Gaṇḍ-vy.*

nir-bhedin 形 裂く, 粉碎する.

nir-bhedya 過受分 引き裂かれるべき; 粉碎されるべき; 裂け目のない; 目的または目標の見えない.

nir-bhoga 形 享樂しない, 歡樂に(身を)委ねない.

nir-makṣika 形 蠅から免れた, 蠅のない. 中 蠅から免れること. ~m Kr, うるさい人々から遠のく, 屋内を清める (因). ~m 副 うるさい人を避けて, 全く孤独となって.

nir-magna 過受分 → Majj.

nir-Majj nirmajjati. → Majj.

nir-majja 形 骨髓のない; 脂肪のない, 瘦せた.

nir-Mañc, → Mañc.

nir-mañcana 中 浄化; = nī-rājana.

nir-maṇḍūka 形 蛙のいない.

nir-matsara 形 羨望または嫉妬のない; 利己的でない.

nir-matsya 形 魚のない.

nir-matsyatā 因 魚のいないこと. ~m Ni, 魚を取り除く.

nir-Math nirmathati (-te), nirmanthati (-te), nirmathnāti. → Math.

nir-mathana 中 摩擦 (とくに発火させるために木を摩擦すること); 攪乳.

nir-mathita 過受分 → Math.

nir-mathya 不変分 → Math.

nir-Mad nirmādayati (使役). → Mad.

nir-mada 形 発情期でない (象); 高慢でない, 謙遜な; 憔悴 *Buddh-c.*

nir-manaska 形 理性の欠けた.

nir-manaskatā 因 [同上 因].

nir-manu-ja 形 人のいない, 人の住まない.

nir-manuṣya 形 [同上]; 乗る人のない (象).

nirmanuṣya-mrga 形 人も野獣もない.

nir-manyu 形 憤りのない, 怒りを離れた. 男 [ある獵師の名].

nir-mama 形 (自己に留意しない), 自我のない, 利己心を離れた; (因) を意に介しない; (世俗を) 超脱した; 無我, 無我所, 不封我 *Madhy-v., Mvyut., Vajr-s. : ~o nihparigrahaḥ 不封我人 Vajr-s.225. ; [仏の称] 無我相 Mvyut.*

nir-mamatā 因 (因) に対して全く頓着しないこと.

nir-mamatva 中 [同上]. 形 (因) に対して無頓着な.

nir-maryāda 形 際限のない; 際限を知らない, 限界を超えた; 不敬な, 法を犯した, 罪のある, 邪悪な. 中 限界を超えること; 規則違反; 混乱; [戦闘の一種].

nir-mala 形 汚点のない, 無垢の, 潔白な, 純潔な, 清澄な, 輝いた; 罪のない, 徳のある; 無垢, 離垢, 無垢穢, 無(諸)垢穢, 浄, 清浄, 清浄無垢 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵雄; 晴梵千; [仏の名] 離垢 Av-ś.; [仏の称] 無垢 Mvyut. → mala.*

nirmala-gada 形 輝く戟をもつ.

nir-malatā 因 無垢, 純潔; 浄 *Sūtr.*

nir-malatva 中 [同上].

nirmala-nirvikaipa 形 清浄離虚妄, 性浄離分別, 本性真常離分別 *Gaṇḍ-vy.*

nirmala-svādu-salila 中 清く甘い水.

nirmali-kṛta 形 汚点を除いた, 浄化された, 清浄にされた.

nir-Mā nirmāti, nirmimite. → Mā 1.

nir-māṃsa 形 肉のない, 瘦せた.

nirmāṃsa-rudhira 形 舐血啖肉皆尽, 舐血啖食其肉 *Suv-pr.*

nir-māṇa 1. 中 測ること, 量; 形成, 作成, 組織, 構成; 創造, 著作; 構造, 製作品, 作品; 変形, 変化(仏教); 変, 化, 变化, 能变化, 变化作, 化作, 化事, 化作化事; 化相, 幻; 化生; 化(仏), 随宜現身, 有応化(仏), 所作依(仏), 化(身), *Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Lanik., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*

nir-māṇa 2. 形 = nir-māṇa; 無慢; 無驕慢, 無倨傲, 離(險)奢慢, 無有驕慢心, 捨自大, 謙下 *Daś-bh., Śikṣ., Sūtr.*

nirmāṇa-kāya 男 化身, 応身 *Mvyut., Sūtr. ; [とくに仏の变化身についていう] 化仏, 応化仏, 变化仏 Lanik.*

nirmāṇa-kāraka 男 創造者.

nirmāṇa-citta 中 化心, 变化心, 通果心 *Abh-vy., Bodh-bh.*

nirmāṇa-nirbhāsa 男 影像 *Gaṇḍ-vy.*

nirmāṇa-nirmita 形 变化自在者, 化身示化身 *Lanik.*

nirmāṇa-pariṇāmana-vaśitā 因 转变起化得自在.

nirmāṇa-bhāga 男 創造の結果.

nirmāṇa-rata 男 種 [神群の一種].

nirmāṇa-rati 男 種 [同上]; 天 [天の名] 化楽, 化楽天, 楽变化, 楽变化天 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut., Śikṣ. ; 音写 尼摩羅 玄志.*

nirmāṇa-vaśa 男 化者自在勢力 *Abh-vy.*

nirmāṇa-vigraha 男 化身, 随宜現身 *Lanik.*

nir-māṇika 形 化, 变化 *Lanik.*

nir-mātr 男 創作者, 著者; 建設者; 化, 变化,

化者, 化作者 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
nir-mātri 因 [同上].
nir-mātha 因 破壊, 潰滅, 滅亡.
nir-māthin 因 粉碎する.
nirmādayati 動 使役 → *Mad.*
nir-mādita 過受分 因 摩拭 *Śikṣ.* 58. → *Mad.*
nir-mādhyastha 因 偏愛, 同情, 関心.
nir-māna 因 [= *nir-māna* 2.] 誇りまたは自負のない;
 因 無慢, 除慢, 無有驕慢, 壞慢, 心不高舉 *Śikṣ.*,
Sukh-vy. II., *Sūtr.*
nirmāna-tara 比較 因 驕慢漸減 *Bodh-bh.*
nir-mānatā 1. 因 無慢, 無驕慢, 破壞驕慢 *Kāśy.*,
Śikṣ.
nir-mānatā 2. 因 化, 化度 *Śikṣ.*
nir-māna-moha 因 傲慢と迷妄とのない.
nir-mānuṣa 因 住む人のない; 因 人跡まれの場所において.
nir-māpita 使役 過受分 因 造 *Lal-v.*
nir-māya 因 無力の, 弱い; 因 不行証, 除証幻
Bodh-bh., *Śikṣ.*
nir-māyatā 因 離証, 無有邪曲心 *Daś-bh.*
nir-māyatva 因 除証幻 *Śikṣ.*
nir-mārga 因 道のない.
nir-mārjana 因 掃除, 浄化.
nir-mālya 因 (花環から離れた), 乱れた, 無用の.
 因 供物の残余(とくに供花の); 化粧の損われたこと;
 因 不浄乾花 *Śikṣ.* → ~*śuṣka*.
nir-mālyaka 因 花環の残余; 因 萎 *Śikṣ.* 307.
nirmālya-dāman 因 祭式の供花の残余をもって作った花環.
nirmālya-śuṣka 男 因 (?) 因 萎華 *Śikṣ.*: *abhyut-*
kṣipitvā ~*m* 除去諸萎華 *Śikṣ.* 306.
nir-Mi nirminoti → *Mi.* 1.
nir-mita 過受分 → *Mā* 1. 因 變, 化, 變化,
 所化, 化作, 応化; 化生; 化身, 化人, 變化人, 所
 變化者; 變化所作, 化作化事, 如幻; 神化 *Abh-vy.*,
Ast-pr., *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Kāśy., *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-*
p., *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. II.*, *Sūtr.*, 梵雜.; 如幻
Lank.; 化樂 *Lal-v.* → *ātma-bhāva* ~. 因 因
 [天の一種, 化樂天] (*Lal-v.*).
nir-mitaka 因 化人, 所化人, 變化人, 所作變
 化人, 所變化者 *Ast-pr.*, *Madhy-v.*
nirmita-kāya 男 因 化身 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*
nirmitakāya-darsaka 因 權現於化身 *Suv-pr.*
nirmita-nirmāna 因 變化, 化化, 応化化(仏),
 變化(如来) *Bodh-bh.*, *Lank.*
nirmitanirmāna-buddha 男 因 化仏, 応化仏所作
 応仏 *Lank.*
nirmita-nairmānika 因 化化, 化応化, 所變化;
 [nirmita はとくに仏の化身をいう] 応化仏所化,
 仏所變化 *Lank.*
nirmita-pura 男 因 化樂天 *Lal-v.* 85.
nirmita-buddha 男 因 化仏, 応化仏 *Lank.*
nirmita-rāga 因 画いた, 彩色した.
nirmitādhiṣṭhāna 因 變化住持, 住持応化 *Bodh-*

bh., *Lank.*

nir-miti 因 形成, 創造; (語の) 添加.
nirmitopama (°*ta-up*°) 因 覆眼 如化, 如幻, 猶如變
 化 *Gaṇḍ-vy.*
nir-mithya 因 誤りでない, 真実の.
nir-mukula 因 芽または蕾のない.
nir-mukta 過受分 → *Muc.* 因 離, 除, 除遣,
 断; 施; 解脱, 得於解脱 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*,
Lal-v., *Lank.*, *Madhy-v.*, *Suv-pr.*: *roga* ~ 痊除
Lal-v. 280; *dhūmābhra-jala* ~ 除諸雲霧, 雲霧皆
 除遣 *Suv-pr.* 152.
nirmukta-kalmaṣa 因 罪を免かれた.
nirmukta-deha 因 肉体または肉欲から脱した, 肉体的
 生活を離れた.
nirmukta-saṅga 因 一切の(世俗の)愛着を超脱した.
nir-mukti 因 (因, 一°) からの解放; 因 解脱,
Bodh-c.
nir-Muc nirmuñcati. → *Muc.*
nir-muṇḍa 男 宦官.
nir-muda 因 [恐らくは] 喜びのない (*Buddh-c.*).
nir-mumukṣu 因 解放を渴望する, 解脱を熱望する.
nir-mūla 因 根を取り去った; 根絶した; 基礎のな
 い, 根拠のない.
nir-mūlana 因 根絶, 絶滅.
nirmūlaya 名動 因 *nirmūlayati* 根絶する, 絶滅す
 る, 破壊する; 因 技 *Rāstr.*
nir-mūṣaka 因 鼠のいない.
nir-mṛga 因 野獣のいない; 鹿のいない; 獲物のな
 い.
nir-mṛgya 因 無求 *Sūtr.*
nir-Mrj nirmārṣṭi. → *Mrj.*
nir-mṛṣa 因 捨 *Lank.* 180.
nir-mṛṣṭa 過受分 → *Mrj.*
nir-megha 因 雲のない.
nir-moka 男 剥がされた(動物の)外皮; 蛇のぬけが
 ら; [聖仙の名].
nirmoka-paṭṭa 男 ぬけがらの小片.
nir-mokṭr 因 脱する(とくに疑惑から).
nir-mokṣa 男 (因, 一°) からの解放; 因 脱, 能
 脱, 解脱, 尽 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
nir-mokṣaṇa 因 離 *Gaṇḍ-vy.*: *citta-paripīḍana-*
bhaya ~ 離逼迫心怖, 離逼迫心恐怖 *Gaṇḍ-vy.* 211.
nir-mocana 因 = *nir-mokṣa*; [都城の名]; 因 解,
 能解, 解説 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
nir-Yat niryātayati (使役). → *Yat.*
nir-yatna 因 不活潑な, 怠惰な; 因 無用, 無功用
Sūtr.
nir-yantraṇa 因 制限されない; 拘束をうけない.
 ~*m* 因 障害なしに, 妨げられることなく.
nir-Yā niryāti. → *Yā.*
nir-yāna 因 出發; (陣營を)引き払うこと; (草地へ家
 畜の)出て行くこと; 移住; 放牧; 消失; 死亡, 死;
 象のまなじり; 小牛の脚を縛るための綱; 因 出,
 能出, 能出修, 出生, 出尽, 定生, 出要, 出要道;
 離, 出離; 現, 出現, 定現; 出遊, 前進, 発趣; 超,
 超出; 過度; 遊路; 所滞 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-*

c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr., Suvik-pr.; prayāṇe ~e 於陣出入 Divy. 58.

niryāṇa-bhāga 男 象のまなじり.

niryāṇa-mukha 中 漢訳 出要之門 Gaṇḍ-vy.

niryāṇa-hasta 形 家畜を縛る綱を手にした.

niryāṇāṅga 中 漢訳 出離分, 出離支 Madhy-vibh., Sūtr.

niryāṇāvasthā 女 漢訳 出離位 Madhy-vibh.

nir-yāta 過受分 → Yā. 漢訳 [一般に 一°] 出, 出離, 超出, 已出, 家出; 生, 所生, 出生, 從……生, 從……而生, 從……中生, 定出現; 遊; 到, 已度, 行尽; 成, 修成; 得度脱 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Saddh-p., Sūtr.; 積 Lal-v.: tathāgata-kuleṣu ~ā 生如来家 Gaṇḍ-vy. 366.; pūrva-śubha-karma ~ 前世積徳 Lal-v. 46.; buddha-śāsana-gocara ~ 從仏教生, 從諸仏教境界而生, 出生諸仏正法境界 Gaṇḍ-vy. 5. māyā-gata-dharma ~ 從如幻生, 從如幻法生, 出生(一切) 諸法如幻 Gaṇḍ-vy. 65.

nir-yātaka 形 (一°) を除く.

nir-yātana 中 回復, 償還; 返報; 漢訳 供養 Mañj-m.

nir-yāti 女 出發, 死, 出離, 解脱 (仏教).

nir-yātita 過受分 回復した; 経過した (時間); 漢訳 施, 施与, (信心) 所施(之物), 供養 Divy., Saddh-p., Sikṣ.

nir-yātitavya 未受分 漢訳 報, 治 Divy.: vairam ~m 報怨惡 Divy. 409.

nir-yātu-kāma 形 漢訳 欲得成就, 欲疾証得 Ast-pr.

nir-yātr 男 草取人, 刈り入れ人.

nir-yāpaṇa 中 (籠) からの放逐.

nir-yāpita 使役 過受分 → Yā.

nir-yāsa 男 樹木の滲出物, 樹膠, 樹脂, 樹液; 濃厚な液体; [樹の名].

nir-yukta 過受分 → Yuj.

nir-Yuj, → Yuj.

nir-yūtha 形 群を離れたまたは迷った (象).

nir-yūha 中 櫓, 小塔; 棟の一種, 門, 扉; 兜または兜の裝飾 (の一種); 漢訳 門房, 平簷; 蜈蚣 Mvyut.; 却敵 Gaṇḍ-vy.; 巷城 Sam-r.; 莊嚴事 Daś-bh.; 出 [Tib. dor ba] Lal-v. 436; 去, 捨, 持去, 捨相, Lank. → āyūha ~ yigata. 男 精製した液, 液汁, 煎じ出した液.

nir-yūhat 現分 [nir-(y)Ūh 1. から] 漢訳 出, 去 Gaṇḍ-vy. 80. → Ūh. ā-yūhat.

nir-yūhika 形 漢訳 出 Sapt-pr.

niryūhyate 動 漢訳 [nir-(y)Ūh 1. から] 漢訳 所去, 所至, 可捨 Lank. 115. → Ūh. 1.

nir-yoga-kṣema 形 財産のない, 獲得物または財産に関する憂慮または不安のない, 富に無関心な.

nir-lakṣaṇa 形 特徴をもたない, 取るに足らない, 何等の役にも立たない.

nir-lakṣya 未受分 認めがたい; 注意を避ける.

nir-lajja 形 無恥の, 謙讓でない, 厚かましい.

nir-lavaṇa 形 優雅を欠いた.

nir-Likh nirlikhati → Likh.

nir-likhita 過受分 漢訳 擦, 刮, 塗抹 Mvyut.

nir-liṅga 形 特徴のない, 定義を下しにくい; 漢訳 離形 Buddh-c.

nir-Luṭh nirloṭhayati (使役). → Luṭh 1, 2.

nir-luṭhita 過受分 → Luṭh 1.

nir-Luḍ, → Luḍ.

nir-Luṅṭh nirluṅṭhati. → Luṅṭh.

nir-Lū, → Lū.

nir-lūna 過受分 → Lū.

nir-lekhana 中 削り取る道具.

nir-lekhanikā 女 漢訳 刮子 Mvyut.

nir-lekha-bhāvanā 女 漢訳 令薄修習 Madhy-vibh.

nir-lepa 形 脂肪物質を含まない; 汚点のない, 罪のない; 漢訳 無垢, 無著 Guhy-s., Sūtr.

nir-Loc, → Loc.

nir-locya 不変分 → Loc.

nir-loḍita 使役 過受分 → Luḍ.

nir-lopa 男 掠奪, 獲物; 漢訳 ~m harati 尽劫去, 或全然一蓋, 或尽劫去 Mvyut.

nirlopāpahāraka 男 漢訳 全捨 Mvyut.

nir-lobha 形 貪欲のない, 貪欲を離れた.

nir-vaṃśa 形 家族のない, 子のない, 天冠孤独の.

nir-Vac, → Vac.

nir-vacana 1. 中 発言; 格言; 説明, 語源; 漢訳 言辭, 訓詞, 釈詞; 釈辭, 訓辭, 訓釈言詞, 積名; 名, 名字 Bodh-bh., Sūtr.

nir-vacana 2. 形 言葉のない, 沈黙した; 欠点のない. ~m 副 一言も発しないで, 沈黙して.

nir-Vaṅc nirvaṅcate. → Vaṅc.

nir-vaṇa 中 [=nir-vana] 漢訳 無林 Mvyut.; vanān [d] ~m āgatāḥ 從林入無林 Mvyut.

nir-vatsala 形 愛着しない(とくに子供 器に).

nir-vaḍana-vikāra 形 顔を醜くしない.

nir-vana 形 森林のない, 森の外にある, ひろびろした地にある. → nir-vaṇa.

nir-Vap nirvapati (-te). → Vap 2.

nir-vapaṇa 中 供物, 灌奠(とくに葬儀に際したまたは祖先の靈に対する); 布施, 施物.

nir-varṇana 中 観察, 注視, 試験.

nirvarṇaya 名動 他 nirvarṇayati → varṇaya.

nir-vartaka 形 履行する; 完成する, 成就する; 漢訳 能感, 生起 Bodh-bh.; (一°) 招集 Bodh-bh.

nir-vartana 中 履行, 完成, 遂行; 漢訳 生 Abh-vy.

nir-vartaniya 未受分 完成されるべき.

nir-varti 形 (ろうそくまたはランプの) 燈心のない.

nir-vartitavya 未受分 履行されるべき (器).

nir-vartin 形 (一°) に悪く振舞う; (一°) を履行する, ……をする.

nir-vartya 未受分 完成されるべき; 生ぜられるべき; 言われるべき.

nir-vaḥkala 形 樹皮のない.

nir-vaśa 形 (自己の) 意志をもたない, (他に) 頼っている.

nir-vaśatā 女 自由意志の欠除; 依頼心 [同上 器].

nir-vaṣaṭ-kāra-maṅgala 形 祭式と祭典とを欠いた.

nir-Vas nirvasati. → Vas 3.

nir-vasana 形 漢訳 保露, 裸形 *Gand-vy.*
nir-vasu 形 財産のない, 貧しい.
nir-vastuka 形 漢訳 無事, 無有事 *Bodh-bh., Lan̄k.*
nir-vastukatā 女 漢訳 無有事, 離諸事, 無(一切)物
Bodh-bh.
nir-vastri-Kṛ, (ある人の)衣服を奪う.
nir-Vah nirvahati → Vah.
nir-vahana 中 成就, 完成; 結末, 結果; (劇の)終結,
大詰; 漢訳 運 *Śikṣ.:* guru-bhāra ~ 運重 *Śikṣ. 35.*
nir-vahitr 男 完成者, 成就者; (國)の生産者または履
行者.
nir-Vā nirvāti. → Vā 1.
nir-vākya 形 言葉のない, 黙っている.
nir-vācya 1. 形 反対のできない, 欠点のない; 言う
べきでない.
nir-vācya 2. 未受分 説明されるべき, 決定されるべ
き.
nir-vāṇa 1. 過受分 → Vā 1. 中 消滅; 生の焰の
消滅すること, 解消, 究極の解放, 絶対との一致;
(一)に専念すること; 完全な解脱(仏教); 完全な
満足, 至福; 漢訳 滅, 滅度, 寂靜, 寂滅, 安穩
Aṣṭ-pr., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Sūtr.,
Vajr-pr.; 音写 涅槃, 泥洹, 泥槃, 般涅槃 [= *parinirvāṇa*]
Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lan̄k.,
Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.,
Vajr-pr., 梵千.: *apratīṣṭhitam ~ m* 無住涅槃, 無
住処涅槃 *Madhy-vibh. 266.;* ~ *u samāgato 'dya*
[窠 = *nirvāṇam sam°*] 我今快樂 *Saddh-p. 88.;*
śāntam ~ m 涅槃寂靜, 涅槃寂滅 *Bodh-bh. 277.;*
四種涅槃, [1. ~ *m* 涅槃, 2. *sopadhīśeṣa ~ m* 有
余依涅槃, 3. *nirupadhīśeṣa ~ m* 無余依涅槃, 4.
apratīṣṭhita ~ m 無住処涅槃] *Mvyut.*
nirvāṇa-kara 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
nirvāṇa-gāmin 形 漢訳 向涅槃 *Saddh-p.*
nirvāṇa-da 形 解脱を与える.
nirvāṇa-darsana 形 漢訳 現般涅槃 *Sūtr.*
nirvāṇa-dhātu 男 涅槃の境界 (*Kār-vy., Vajr-pr.*);
漢訳 (音写) 涅槃界 *Bodh-bh., Lan̄k., Vajr-pr.;* 音写
涅槃 *Divy., Lan̄k., Vajr-pr.*
nirvāṇa-parama 形 至上の平和に到達する.
nirvāṇa-parīkṣā 女 漢訳 (音写) 觀涅槃 *Madhy-v.*
nirvāṇa-paryavasāna 形 漢訳 (音写) 究竟涅槃 *Sad-*
dh-p.
nirvāṇa-pura 中 漢訳 (音写) 涅槃城, 涅槃宮 *Bodh-*
bh., Lan̄k.
nirvāṇapura-gāmin 形 漢訳 (音写) 趣於涅槃城, 令
入涅槃城 *Lan̄k.*
nirvāṇa-pūraṇa 中 葬儀に際しての供儀.
nirvāṇa-prāpta 形 漢訳 得安穩; (音写) 得涅槃, 到
於涅槃 *Saddh-p.*
nirvāṇa-priyā 女 [ある Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).
nirvāṇa-bhūyiṣṭha 最上 ほとんど消滅した.
nirvāṇa-mātra 中 漢訳 (音写) 少分涅槃 *Saddh-p.*
nirvāṇa-mārga 男 漢訳 (音写) 涅槃道 *Saddh-p.*
nirvāṇamārgāvasthita 形 漢訳 (音写) 住於涅槃道
Mvyut.

nirvāṇa-ruci 男 欄 [神格の一種].
nirvāṇa-śabda 男 漢訳 (音写) 涅槃音 *Saddh-p.*
nirvāṇa-samcodana 男 [Samādhi の名] (*Kār-vy.*).
nirvāṇa-samjñā 女 漢訳 如涅槃想 *Sūtr.*
nirvāṇa-sambhāra 漢訳 涅槃資糧 *Bodh-bh.*
nirvāṇa-hetu 男 漢訳 涅槃因 *Lan̄k.*
nir-vāta 形 風のない, 庇護された. 男 風から庇護
された場所.
nirvāta-stha 形 風を避けて立つ.
nir-vāda 男 誹謗, 非難; 悪評.
nir-vānara 形 猿のいない.
nir-vāpa 男 撒布; 供物, 灌奠 (とくに祖先の靈に対し
ての); 施物.
nir-vāpaṇa 1. 中 [Vap] 撒布, 播くこと.
nir-vāpaṇa 2. 形 [Vā の 便役 から] 吹き消された,
静まった, 消滅した. 中 消滅させること; 安静なら
しめること; 慰安すること; 漢訳 滅, 除滅, 息,
能殺 *Abh-vy., Suv-pr.*
nir-vāpayitr 男 消滅させるもの, 安静ならしめるも
の; 慰安するもの; 漢訳 滅, 能滅, 消滅, 能消滅
Gand-vy.: *sarva-jagad-duḥkhāgni-skandha ~* 能
滅衆生煩惱熾故, 消滅一切衆生諸煩惱火, 普能消滅
一切衆生諸煩惱火 *Gand-vy. 220.*
nir-vāpita 1. 過受分 [Vap] 撒布された, 播かれた.
nir-vāpita 2. 過受分 [Vā の 便役 から] 消滅した;
漢訳 消 *Lal-v. → a~.*
nir-vāpya 未受分 [Vap] 供えられるべき.
nir-vāyasa 形 鳥のいない.
nir-vāsa 男 自己の家を去ること, 失踪すること, 故
郷の外に住すること, 追放.
nir-vāsana 中 放逐, 追放; 他所に導くこと; 殺害.
nir-vāsaniya 未受分 (徧) から放逐または追放されるべ
き.
nir-vāsita 過受分 放逐された, 追放された, 去らし
められた, 過された(時); 漢訳 追逐, 被詞擯 *Bodh-*
bh., Divy.
nir-vāsyā 未受分 = *nirvāsaniya.*
nir-vāha 男 成就, 完成, 遂行; 保存, 支持.
nir-vāhaka 形 (女 -ikā) (一)を完成する, 実行す
る; 漢訳 引発, 遣 *Aṣṭ-pr.*
nir-vāhin 形 [同上].
nir-vāhya 未受分 完成されるべき, 成就されるべき.
nir-vikalpa 形 交替を許せない, 変化のない, 差別の
ない, 差異のない; 疑いのない, 躊躇しない; 漢訳
無分別, 無有分別, 無所分別, 不分別, 離分別, 離
諸分別; 不可得, 無異, 無變異, 無有差別; 無妄想,
離妄想, 離諸妄想, 不起妄想, 離疑惑, 已離諸疑惑
Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Guhy-s.,
Saddh-p., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.
~ *m* 副 躊躇なく.
nir-vikalpaka 形 差異のない; 漢訳 無妄想 *Mvyut.*
nirvikalpa-jñāna 中 漢訳 無分別智 *Bodh-bh., Ma-*
dhy-vibh., Sūtr., Vijñ-v.
nir-vikalpatā 女 漢訳 無分別, 無疑 *Aṣṭ-pr.*
nir-vikalpatva 中 漢訳 無分別 *Aṣṭ-pr., Madhy-vibh.*
nirvikalpa-parigraha 男 漢訳 以無分別智攝 *Sūtr.*

nirvikalpa-prasava 男 無分別真智住 *Sūtr.*
 nirvikalpa-buddhi 女 覺無分別 *Sūtr.*
 nirvikalpa-vaśitā 女 無分別自在 *Madhy-vibh.*
 nirvikalpa-samatā 女 無分別平等性 *Bodh-bh.*
 nir-vikāra 形 変化しない, 不変の, 一様の, 正規の;
 無異, 無変, 無変異, 永離変異, 無差別; 不転, 無
 躁動, 奇整; 無能壞, 莫能壞 *Ast-pr., Bodh-bh.,*
Gand-vy., Mvyut., Śikṣ., Suv-pr.; 息災, 無病,
 無病惱 *Lal-v., Śikṣ.;* 平復 *Lal-v.;* aroga ~ ā
 bhavanti sma 病苦皆得銷散平復如本 *Lal-v. 72.;*
 a-vikārā ~ ā 無変異 *Ast-pr. 620.*
 nirvikāra-darśin 形 見無変異, 不壞見 *Ast-pr.:*
 sarva-dharma ~ 一切法不壞見, 見一切法無変異
Ast-pr. 940.
 nir-vikāsa 形 開花しない。
 nir-vikāsatva 田 [同上 田].
 -nir-vighaṭṭam 副 ……に妨げられないで (*Jāt-m.*).
 nir-vighna 形 阻まれぬ, 妨げられない。~m, 圓
 障害なくして。
 nir-vicāra 形 反省のない, 考慮を要しない。~m 副
 長い反省なくして, 考慮しないで。
 nir-vicikitsa 形 疑いをはさまない, 反省のない; 無
 疑, 無有疑惑, 離諸疑惑; 無猶予, 無有猶予, 心
 決定 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Saddh-p., Sukh-*
vy. → vicikitsā. ~m 副 長い反省なくして, 深
く考慮しないで。
 nir-vicikitsaka 形 無起疑惑, 不生疑悔, 無疑
 心 *Śikṣ.*
 nir-viceṣṭa 形 動かない, 抵抗しない。
 nir-viṇṇa 過受分 → Vid 2. 厭, 厭離, 生厭
 倦心 *Daś-bh., Lal-v., Mvyut., Rāstr., Saddh-p.,*
Sam-r., Śikṣ.: ~o virajyate 離貪欲 *Mvyut.*
 nirviṇṇa-cetas 形 意気消沈した, 諦めた。
 nirviṇṇa-mānasa 形 厭倦 *Ast-pr.*
 nir-vit-samjñin 形 厭, 心生厭離 *Ast-pr.*
 nirvit-saha-gata 形 自厭, 厭俱行, 厭離 *Bodh-bh.,*
Sūtr.
 nir-Vid nirvindati, nirvide. → Vid 2.
 nir-vid 女 絶望, 失望, 臆病; 厭 [Pal. nibbidā]
 厭, 厭離, 厭捨, 修厭, 遠離 *Ast-pr., Bodh-bh.,*
Daś-bh., Mvyut.; 解脱 *Lal-v.*
 nir-viddha 過受分 [Vyadh]. 貫かれた, 傷つけられ
 た, 殺された; 別れた; 連接 *Ast-pr.*
 nir-vidya 形 無学の, 無教育の。
 nir-vidhitsa 形 (……をしようと)望まない, なんら意
 図のない。
 nir-vinoda 形 気晴らしがない, 慰められない。
 nir-vindhya 互 [(Vindhya の外にあるまたはから来
 た), 河の名].
 nir-vibandha 形 (國)に障害を与えない, ……に全く
 適した; 無害の。
 nir-vimarsa 形 反省の欠けた; 顧慮のない; 不
 応思量 *Bodh-bh.*
 nir-virodha 形 (女 -ā) (一°)と矛盾または反対しな
 い (*Jāt-m.*).
 nir-vivara 形 孔または隙き間をもたない, 緻密な。

nir-vivaratā 女 密接, 緊密; 調和, 一致, 了解。
 nir-vivāda 形 争闘のない 和合した; 争論の余地の
 ない。
 nir-vivikṣat 現分 [nir-Viś の 希求 から] 入ろうと
 思う。
 nir-vivitsu 形 別れようと思う。
 nir-viveka 形 判断力の欠けた, 思慮のない。
 nir-vivekatā 女 反省または判断の欠如, 無分別。
 nir-vivekatva 田 [同上].
 nir-viśaṅka 形 躊躇しない, 畏怖しない; 無畏
 心 *Divy. ~m* または 圓 恐れなくて, 畏怖する
 ことなく; 無畏心 *Divy. →*
viśaṅkā.
 nir-Viś nirviśati. → Viś.
 nir-viśiṣṭa 過受分 無別, 無有差別, 等無異無別
Bodh-bh., Lanā.
 nir-viśiṣṭatā 女 等無別 *Sūtr.*
 nir-viśeṣa 形 差別がない, (一°)と異ならない, …
 と等しい, と類似の; 制限のない, 無条件の, 絶対
 的の; 無分, 無別, 無差別; 不異 *Abh-vy.,*
Ast-pr., Mvyut., Śikṣ.: sarva-dharma ~ darśin
 現一切法無差別, 一切法無差別見 *Ast-pr. 941.* 田
 無差別, 一致; 類似。~m 副 差異なく。~ena 圓
 (一°)と同様に。
 nir-viśeṣaṇa 形 属性のない。
 nir-viśeṣatā 女 [= nir-viśeṣa (田)]; 無差別
Ast-pr.
 nir-viśeṣatva 田 [同上].
 nirviśeṣa-viśeṣa 男 差別のない差異すなわち極小の差
 異もないこと。
 nirviśeṣākṛti (°ṣa-āk°) 形 (他と) 変わらない外観を
 もつ, 全く同様に見える。
 nir-viṣa 形 有毒でない; 毒を除いた; 不離衆毒
Ast-pr.
 nir-viṣaṅga 形 何物にも執着しない, 無関心な, 現
 世を超越した。
 nir-viṣaya 形 住所から追われた; (一°)から追放
 された; 対象に関連しない; 感覚の対象に捉われな
 い; 物質生活を離脱した。
 nirviṣayam-Kṛ, 演繹 演繹界 *Divy.*
 nirviṣayi-Kṛ, 追放する; (一°)から追放する, ……
 から遠ざける。
 nir-viṣāṇa 形 牙のない (象)。
 nir-viṣi 女 烏頭 *Mvyut.*
 nirviṣi-Kṛ, 毒から免れさせる。
 nir-viṣṭa 過受分 → Viś.
 nir-vita 過受分 首にかけた, (とくに聖紐を)。
 nir-vira 形 英雄または男子を欠いた。田 [聖地の名].
 nir-virā 女 [河の名].
 nir-virudh 形 植物がない。
 nir-vīrya 形 勇気がない, 弱い, 活気のない, 意気地
 のない。男 虚弱者, 臆病者。
 nir-Vṛ nirvṛṇoti. → Vṛ 2.
 nir-vṛkṣa 形 樹木がない。
 nirvṛkṣa-toya 形 樹木と水とのない。
 nirvṛkṣa-mṛga-pakṣin 形 樹木も獣も鳥もない。

nir-Vṛt nirvartate. → Vṛt.
 nir-vṛta 過受分 → Vṛ 1. 滅, 滅度, 得滅度, 寂滅, 寂靜, 寂滅相; 為足, 快安樂, 安穩 *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*; 涅槃 [nirvāṇa, *Pali* nibbāna の音写] *Lank.*, *Sam-r.* ~ Bhū, 涅槃を得る (*Sukh-vy. I.*).
 nir-vṛtaka 形 滅度 *Saddh-p.*
 nir-vṛti 因 内心の寂靜; 満足, 喜悅, 愉快; 幸福, 慶福; (燈火の)消滅; 滅度, 寂滅, 寂靜, 解脫, 出離; 磨滅 *Kāśy.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 涅槃 [nirvāṇa, *Pali* nibbāna の音写], *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*; 般涅槃 [Parinirvāṇa, *Pali* parinibbāna の音写] 入般涅槃 *Bodh-bh.*, *Lank.* ~ m I, 成仏 *Saddh-p. 131.*
 nirvṛti-darsana 因 示涅槃, 示現涅槃, 示現入涅槃 *Gaṇḍ-vy.*
 nir-vṛtimat 因 靜寂, 靜穩; 幸福.
 nirvṛti-mātraka 男 因 (?) 少涅槃分 *Saddh-p.*
 nirvṛti-sukha 因 寂滅之樂, 涅槃樂 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*
 nirvṛti-sthāna 因 永遠の幸福の場所.
 nir-vṛtta 過受分 → Vṛt. 起, 已起; 離; 轉; 所生, 出現; 所感 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*
 nirvṛtta-cūḍaka 形 剃髮式を行なった.
 nirvṛtta-caula-karmaṇa 形 [同上].
 nirvṛtta-mātra 形 まさに終った(日).
 nir-vṛtti 因 發展, 生長, 成就, 履行, 完成; 無作法, 見苦しい振舞; 起, 生, 生起; 滅, 轉; 涅槃 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Suvik-pr.*
 nir-Vṛṣ, → Vṛṣ.
 nir-vṛṣa 形 牡牛がない.
 nir-vṛṣta 過受分 → Vṛṣ.
 nir-vṛṣṭi 因 雨の止むこと.
 nir-vega 形 乱されない, 靜穩な.
 nir-veṭhana 因 因 [<nir-veṣṭana] 誠実言, 誠諦言 *Sukh-vy. II. 97.*
 nir-vetana 形 給料のない.
 nir-veda 男 (因, 因, 一°) についての嫌悪; 現世からの超脱; 絶望, 臆病; 厭, 厭, 厭離, 厭離, 厭患, 厭想, 厭離想 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Śikṣ.*
 nirveda-duḥsaham 因 絶望的に困難な方法で.
 nir-vedavat 形 無頓着な, あらゆる事物に関して無關心な.
 nir-vedha 男 決択 *Abh-vy.*; 通達相 *Aṣṭ-pr.*; 智慧 *Divy.*; 不可壊, 不可沮壊 *Gaṇḍ-vy.*
 nir-vedhaka 形 通達 *Aṣṭ-pr.*
 nirvedha-bhāgiya 男 決択分, 順決択分, 決択分能 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 知実分別共分 [人欲求道革凡成諦遂起之心也] *Mvyut.*; 通達分 *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 智慧分 *Divy.*, 起通達分善根 *Sūtr.*; catvāro ~ āḥ 四順決択分 [1. uṣma-gataḥ 煖, 2. mūrdhānaḥ 頂, 3. kṣāntiḥ 忍, 4. laukikā-gradharmah 世第一法] *Mvyut.*
 nir-vedhika 形 通達 *Lal-v.*, *Suvik-pr.*

nir-veśa 男 返報, 報酬, 支払い, 給料; 賠償, 贖罪.
 nir-veśaniya 未受分 享樂または享受されるべき.
 nir-veṣṭavya 未受分 報いられるべき; 享樂できる.
 nir-vaira 因 敵意のないこと, 平和. 敵意がない, 平和な, 調和した. ~m 敵意なくして, 平和に
 nir-vairiṇa 因 協調, 調和.
 nir-voḍhavya 未受分 [Vah] 須求免過 *Divy. 496.*
 nir-voḍhṛ 形 成し遂げる, 完成する; [°Vah の第二因 °voḍhā]; 能進 *Sūtr.*
 nir-vyagra 形 妨害されない, 乱されない, 靜穩な.
 nir-vyañjaka 形 言明する, 指示する, 暗示する.
 nir-vyañjana 形 迂回のない, 真直ぐな, 率直な; 味のない; 無造作に, あからさまに.
 nir-vyatha 形 苦痛がない, 靜穩な; 無哀悩 *Śikṣ.* → vyathā.
 nir-Vyadh nirvidhyati. → Vyadh.
 nir-vyapatrapa 形 慚愧のない (*Jāt-m.*).
 nir-vyapekṣa 形 (因, 一°) に関連しない, …に関して無頓着な; 不可得 *Śikṣ.*
 nir-vyalika 形 苦痛を与えない, 傷つけない; 衷心からの, 惜しげない (贈物); 喜ばしい, 快い; 偽りのない.
 nir-vyavadhāna 形 覆われぬ, 草木のない (土地).
 nir-vyavastha 形 (その) 場所に止まらない, 往来する, ここかしこに動く.
 nir-vyasana 形 邪念がない.
 nir-vyākula 形 興奮しない, 平靜な.
 nir-vyākulatā 因 [同上 因] ~ayā 圓 靜かに.
 nir-vyāghra 形 虎の出没しない, 虎の横行しない(所).
 nir-vyāja 形 策略のない, (因) に対して正直または率直な; 曖昧でない, 疑う余地のない. ~m 正直に, 公平に; 確実に.
 nir-vyājatā 因 正直, 率直, 公正.
 nirvyāji-Kṛ, 清浄にする; 説明する.
 nir-vyādhi 形 病のない, 健康な, 強壯な.
 nir-vyādhita 形 除瘴 *Rāṣṭr.*
 nir-vyāpāra 形 忙しくない, 閑散な; 無活動の, 怠惰な; 不生; 無作者, 無事, 無用; 無分別; 息煩乱 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*
 nir-vyuṣita 形 過ぎた, 経過した, 満ちた(時).
 nir-vyūḍha (過受分 [Ūh]) 因 成就, 完成.
 nir-vyūḍhi 因 終結, 結末; 頂上, 頂点.
 nir-vy-Ūh, → Ūh 1.
 nir-vyūha 因 櫓, 小塔; 兜または兜の裝飾(の一種); 頂上; 扉, 門.
 nir-vraṇa 形 傷つけられない; 挫かれない, 破損されない; (円具) 無損 *Guhya-s.*
 nir-vrata 形 宗教的行事または誓約を怠った.
 nir-vriḍa 形 無恥の, 厚顔な.
 nir-Han nirhanti. → Han.
 nir-haraṇa 因 搬出, 移転, 抽出, 除去, 破壊; (死骸を火葬用の薪の山まで) 運び出すこと.
 nir-haraṇiya 未受分 移されるべき; 除去されるべき, 撤去されるべき.
 nir-Hā, → Hā 1.
 nir-hāra 男 = nirharaṇa.; (因) からの個人的蓄積,

へそくり; 排泄; 押収, 蓄積; 漢訳 発, 引発, 能引, 引出, 生, 出生, 出現; 興致; 成, 増長 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 捨 *Daś-bh.*: ~āya samvartate 能引能住 *Bodh-bh.* 207. → āhāra ~.

nir-hāraka 形 (死骸を火葬用の薪の山まで) 運び出す; 漢訳 興致, 施降 *Bodh-bh.* 男 漢訳 護舟者, 除去者 (?) *Mvyut.*

nir-hāraṇa 中 (死骸を火葬用の薪の山まで) 運び出させること.

nir-hārin 形 (香気を) 発散する.

nir-Hr nirharati (-te). → Hr 1.

nir-hṛta 過受分 取り出された, 運び出された, 抜き取られた, 撤去された; 漢訳 得 *Divy.*; 発 *Daś-bh.*: ṛddhiś cāpi ~ā 并得神通 *Divy.* 155.

nir-hṛti 女 搬出, 移転; 除去; 漢訳 成就 *Sūtr.*

nir-heti 形 武装しない.

nir-hetu 形 理由のない, 原因のない; 漢訳 無因, 離因 *Lank.*

nir-hetuka 形 漢訳 無因 *Abh-vy.*

nir-Hras nirhrasate. → Hras.

nir-hrasita 過受分 → Hras.

nir-Hrād nirhrādayati (使役). → Hrād.

nir-hrāda 男 音響, 騒音, 唸り, 響き, 低声.

nir-hrādin 形 反響する, こだまする, 鳴り響く.

nir-hrika 形 無恥な; 厚顔な, 大胆な, 無謀な.

nir-hlāda 形 喜悅のない, 悲歎した, 不安な.

nilaya 1. 動 自 nilayate → ni-Li または nir-I.

ni-laya 2. 男 隠れ場所, 滞在, 住居, 住所; (太陽の) 没すること, 隠れること; 漢訳 室, 舍宅, 室宅, 住房, 臥房; 処, 所居, 所住, 所住处; 宮殿 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*; 覆 *Bodh-bh.* 形 (一°) に住する, …の住居である, …によって住まわれた; 漢訳 住, 住此处, 在, 停, 所依 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*

ni-layana 中 (形) に坐ること; 隠遁所, 隠れ家.

ni-lāyana 中 隠れること.

ni-lāyana-kriḍā 女 隠れんぼ.

ni-lāyitā 女 (一°) に住すること.

ni-lāyin 形 (一°) の上または中に坐る, …に住する.

ni-Lip nilimpati (-te). → Lip.

ni-Lih, → Lih.

ni-Li niliyate, nilayate. → Li 1.

ni-liḍha 過受分 → Lih.

ni-lina 過受分 → Li 1.

nivat 女 深淵, 溪谷; 男 下方へ.

ni-Vadh, → Vadh.

ni-Vap nivapati. → Vap.

ni-vapana 中 撒布; 祖霊への供物.

nivapana-kriyā 女 祖霊への供物.

ni-varaṇa 中 障害, 悩乱, 苦惱 (*Saddh-p.*); 漢訳 蓋, 諸蓋, 蓋障, 陰蓋, 蔭, 断, 障, 障礙, 礙, 止, 蔽 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 煩惱 *Bodh-bh.*: āvaraṇa ~ 障礙 *Śikṣ.* 6.; pañca ~ āni 五蓋 *Madhy-vibh.* 151.

ni-varta 形 引き返させる; 漢訳 退, 徊 梵千., 梵維.

ni-vārtaka 形 (女 -ikā) 停止させる, 除去する; 漢訳 除, 除滅 *Madhy-vibh.*; 逆流 *Cat-ś.*

ni-vartana 形 引き返させる. 中 帰還; (地上に) 降り来ること; 逃亡; 停止, 妨げられること; (網) を控えること; 無活動; 引き戻すこと, 退却; 帰還の方法; (網) の抑制; [面積の単位の種類]; 漢訳 還, 退還 *Ast-pr.*, *Saddh-p.*; 治, 対治 *Abh-vy.*; 療, 療除, 転除 *Daś-bh.*: roga ~ 療治衆病 *Daś-bh.* 92.

ni-vartaniya 未受分 連れ戻されるべき; 停止または無効にされるべき.

ni-vartayitavya 未受分 引き留めるべき, 抑留されるべき.

ni-vartita 未受分 追い返された, 戻された, 回避された, 妨げられた, 見捨てられた, 捨てられた, 抑えられた, 撤去された; 漢訳 廻転 *Daś-bh.*

ni-vartin 形 帰る, 戻る, 退く; (網) から遠ざかる.

ni-varhaṇa 形 中 = nibarhaṇa.

nivala 中 漢訳 等寫 [数の名] 泥嚩羅, 爾波羅 *Mvyut.*

ni-Vas nivasati (3.). → Vas 2., 3.

ni-vasana 中 (衣服の) 着用; 衣服; 漢訳 著 *Divy.*

ni-vasanī 女 漢訳 服 *Gaṇḍ-vy.*: rakta-varāmbara ~ im 身服朱衣 *Gaṇḍ-vy.* 223.

ni-vasita 過受分 → Vas 2.

ni-vasta 過受分 中 [=ni-vasita] 漢訳 著, 衣 *Lal-v.*, *Mañj-m.*

ni-Vah nivahati (-te). → Vah.

ni-vaha 男 群, 団, 群集 (團および種). 形 (女 -ā) もたらず, 惹き起す

ni-vāta 1. 形 風を避けた; 静穏な; 防護された. 男 風を避けた場所; 静穏. 中 漢訳 密室 *Abh-vy.*

ni-vāta 2. 過受分 [Van] 害されない. 中 安全.

nivāta-kavaca 形 貫きにくい鎧を着た. 男 種 [Daitya および Dānava の一群の名].

ni-vāpa 男 種子, 穀粒; 種を播いた畑; 祖霊に対する供物または供え水; 種 穀物. → kālandaka ~.

nivāpa-datti 女 祭儀の供物.

nivāpa-mālya 中 葬礼の花環.

nivāpa-salila 中 祖霊に供える水.

nivāpāñjali 男 祖霊に供える両手に一杯の供え水.

nivāpāna 中 祭儀の食物.

nivāpodaka (°pa-ud°) 中 =nivāpa-salila.

ni-vāra 形 引き止める, 退ける, 防ぐ. 男 阻止, 防止; 漢訳 遮 *Lank.*

ni-vāraka 形 阻止する, 防止する, 防ぐ; 漢訳 遮蔽, 能破, 令不生, 遮令不起 *Mañj-m.*, *Rāstr.*, *Suv-pr.*

ni-vāraṇa 形 一° [同上]. 中 防止, 阻止, 停止 [時として目的を示す 男 とともに]; 予防; 禁止; 漢訳 遮, 蓋 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*

nivāraṇa-tyāga 男 漢訳 捨蓋行 *Sūtr.*

ni-vāraṇiya 未受分 抑制または防止されるべき; 漢訳 断 *Śikṣ.*

ni-vārayitavya 使役 未受分 漢訳 応遮截, 应当勒守 *Divy.*

ni-vārayitr 形 漢訳 遮止 *Bodh-bh.*

ni-vārīta 過受分 遠ざけられた, 妨げられた, 防がれた, 禁ぜられた; 遮 止, 障, 遮, 遮遣, 遮不令進, 不聽使入, 不聽其前 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Śikṣ.*

ni-vāsa 1. 男 衣服. 形 (一°) を着けた.

ni-vāsa 2. 男 止住, 夜を過すこと, 滞在; (夜の) 宿営, 住所, 居所; 住, 居, (共)住 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*

ni-vāsana 1. 男 襪, 襪, 下衣, 內衣, 裏衣 *Mvyut.*, 玄衾. 音写 尼衛 玄衾. : ~'ena sapta 內衣有七条 *Mvyut.*

ni-vāsana 2. 男 居住, 逗留, 滞在; 住所, (時を) 過ごすこと.

nivāsa-bhavana 男 寢室.

nivāsa-bhūmi 男 居住地.

nivāsa-racanā 男 建物, 大建築.

nivāsa-rājan 男 居住する国の王.

nivāsa-vṛkṣa 男 (鳥の) 宿る木.

ni-vāsita 使役 過受分 → *Vas* 2., 5.

ni-vāsin 1. 形 (一°) を着用した.

ni-vāsin 2. 形 止住する, (男, 一°) の中に住する, …とともに住する; 住, 守護 *Divy.*, *Lank.*: *damṣṭrā* ~ 守護(仏)牙 *Divy.* 434. 男 居住者, 定住者.

ni-vidā, → ni-bidā.

ni-vidā 過受分 [=nir-vidā, *Vid* 2.] 不憐 *Śikṣ.* 195.

ni-Vid, → *Vid* 1.

ni-vid 男 指示, 教訓; (Hotṛ 祭官の読誦中に挿入される古式の) 祈願文.

nivid-dhāna 男 Nivid を含んだ. 男 Nivid の挿入.

ni-virisa 男 緊密な, 緻密な, 厚い.

ni-vivṛtsu 男 帰還または放棄したいと思う.

ni-Viś niviśate. → *Viś*.

ni-viśta 過受分 → *Viś*. 深 殖, 発起 *Bodh-bh.*; 執著, 所迷乱, 誑於心 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*

niviśta-prasāda 男 深 殖清浄 *Bodh-bh.*

niviśta-śraddha 男 深 殖正信 *Bodh-bh.*

ni-vita 過受分 → *Vyā*. 男 聖紐を纏うこと; 首の廻りに纏う(婆羅門の) 聖紐.

ni-vitin 男 首に聖紐をかけた.

ni-virya 男 力のない.

ni-Vṛ, → *Vṛ* 1.

ni-Vṛj nivṛṇakti. → *Vṛj*.

ni-Vṛt nivartate. → *Vṛt*.

ni-vṛta 過受分 → *Vṛ* 1. 覆, 有覆 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

nivṛtāvyaḥkṛta 過受分 有覆無記, 遮不授記 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*

ni-vṛtta 過受分 → *Vṛt*. 不, 無, 息, 息滅, 已謝, 廢失; 捨離; 退転 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.* → a~.

nivṛtta-kṛṣi-gorakṣa 男 農業と牧畜を廢した.

nivṛtta-prasava 男 不更生 *Sāṃkhy-k.*

nivṛtta-māmsa 男 肉食を禁じた.

nivṛtta-yajña-svādhyāya 男 祭式と *Veda* の読誦を廢した.

nivṛtta-yauvana 男 若返った.

nivṛtta-rāga 男 欲望または感情を抑制した.

nivṛtta-laulya 男 (一°) の欲望を感じない, …を欲しない.

nivṛtta-hṛdaya 男 残酷な心の和いだ; (prati) に対して無関心な, …から心をそらした.

nivṛtti 男 帰還; 消失; 休止; (男, 一°) を控えること; 節制; (男) から逃れること; 活動を控えること; 無活動; (文法規則の効力の) 断絶; 滅, 謝, 謝滅, 還滅, 終尽, 終滅, 転滅; 息, 止, 止息, 応止息, 止法; 廻; 脱, 解脱; 離, 遠離; 不生, 不転, 不生転 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Cat-ś.*, *Daś-bh.*, *Madhy-v.*, *Sāṃkhy-k.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Sūvik-pr.*, *Vajr-s.*; 卷用 *Cat-ś.*: pravṛttiś ca ~ ś ca. 卷舒用 *Cat-ś.* 484.

nivṛtti-śīla 男 止息戒 *Bodh-bh.*

nivṛtti-satya 男 滅諦, 滅実, 還滅諦 *Bodh-bh.*

nivṛttendriya (°ta-in°) 男 ……に対する感覚または欲望を捨てた.

nivṛtṭy-artham 男 為離 *Sāṃkhy-k.*

ni-vedaka 男 (女 -ikā) 通知する, 語る.

ni-vedana 男 告知する, 知らせる. 男 通知, 告知; 提供, 奉獻.

ni-vedita 過受分 知らされた, 告知された, 語られた, 述べられた, 委託された, 呈せられた, 与えられた; 白, (以状) 白 *Av-ś.*, *Divy.*

ni-vedin 男 告知する, 知らせる; (一°) を提供する, ……を供える.

ni-vedya 未受分 知らせられるべき. 男 神像に対する(食物の) 供物; 献食 *Mañj-m.*

ni-veśa 男 入ること; 定住すること; 宿営, 野営; 居住, 住所; 落着くこと, 結婚, 婚姻; (都市の) 建設; 建築, 大建築; 跡形, 標識, 裝飾; 家 *Suv-pr.*; 安処 *Bodh-bh.* ~ ḥ kṛtaḥ 娉婦 *Divy.* 26.

ni-veśana 男 (女 i) (一°) に入る; 休息させる; 庇護する. 男 入ること; 置くこと; 導き入れること, 用いること, 応用; 宿営させること; 落着くこと, 家庭を作ること, 結婚; 休息所, 寢床, 巢窟, 巢; 家庭, 住家, 住居; 隱遁所, 陣營; 村落; 殖民; 家, 宅, 舍, 舍宅, 住処, 安処, 本居; 建立; 王宮 *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*: ~ ṃ dharmam Kṛ 求婦, 娉妻, 迎娶 *Divy.* 620.

ni-veśaniya 未受分 置かれるべき, 据えられるべき.

ni-veśayitavya 未受分 [同上].

ni-veśavat 男 (一°) の上または内に横たわるまたは伏す.

ni-veśikā 男 捨 [*Tib.* nes par ḥjug par bye dpa. = *Prajñ-vy.* は *pratiṣṭhāpikā* の義とする] *Aṣṭ-pr.* 441.

ni-veśin 男 (一°) の近くに横たわる, …の中にある, …の上に休むまたは基礎を置く; 安 *Sūtr.*

ni-Vyadh nividhyati. → *Vyadh*.

ni-Vyā, → *Vyā*.

niś 男 夜 [男 男 および 男 -niśau または niśoh のみ].

-niśa 男 夜.

ni-saṭha 形 虚偽でない, 正直な, 無邪気な. 男 [聖仙の名].
 ni-śabda 形 沈黙の, 音を立てない.
 ni-Śam niśāmyati(-te)⁽²⁾, niśamayati⁽⁴⁾. → Śam 2., 4.
 ni-śamayya 不変分 → Śam 4.
 ni-śamya 不変分 → Śam 4.
 ni-Śā, → Śā 1., 2.
 niśā 女 夜; 夢; 漢訳 夜 *Abh-kī*, *Abh-vy*.
 niśā-kara 男 月(太陰); [ある *Garuḍa* の子の名]; [聖仙の名]; 漢訳 月 *Lank.*, *Suv-pr*.
 niśākara-kalā-mauli 男 [(頭上に弦月を戴いた), *Śiva* 神の称].
 niśā-kānta 男 夜の愛人, 月(太陰).
 niśā-kāla 男 夜の時, 夜間.
 niśā-kṣaya 男 夜の終り, 黎明, 暁.
 niśāgama (°śā-āg°) 男 夜の到来, 日暮れ.
 niśā-grha 中 寢室.
 niśā-cara 形 夜間に徘徊する. 男 悪魔, *Rākṣasa*.
 niśācara-pati 男 [*Śiva* 神の称].
 niśā-carī 女 女悪鬼; あいびきのために夜中出歩く女, 放埒な女.
 niśācareśa (°ra-iśa°) 男 [*Rāvaṇa* の称].
 ni-śāta 過受分 → Śā 2.
 niśātyaya (°śā-at°) 男 夜の終り, 黎明.
 niśādā-putra 男 きね(杵); 漢訳 碓, 磨 *Mvyut*.
 niśādā-śilā 女 臼; 漢訳 碓, 磨盤 *Mvyut*.
 niśā-nātha 男 夜の主, 月(太陰).
 niśā-niśam 副 毎夜, 毎日, 常に.
 niśānta (°śā-an°) 1. 男 夜の終り, 黎明.
 ni-śānta 2. 過受分 鎮静した, 静穏な → Śam 2. 漢訳 息, 滅 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.* 中 家, 住居.
 niśāntodyāna (°ta-ud°) 男 家(に附属する)庭.
 niśā-pati 中 夜の主, 月(太陰).
 niśā-prāṇeśvara (°ṇa-iś°) 男 (夜の夫), 月(太陰).
 niśā-mukha 中 夜の顔または初め, 日暮れ.
 ni-śāmya 不変分 → Śam 4.
 niśāvasāna (°śā-av°) 中 夜の後半.
 ni-śīta 過受分 → Śā 2. 漢訳 利 *Buddh-c.*
 niśīta-nipāta 形 激しく落下する(矢).
 niśītānkuśa 男 または 中 尖ったまたは鋭利な鉤.
 niśītha 男 韻律 [*Doṣā* (夜)の三子の一として人格化された] 真夜中.
 niśītha 男 (中) (横臥の時), 真夜中; 夜; 漢訳 夜分, 夜間時 *Raṣṭr*.
 niśītha-caṇḍa 形 夜間に荒々しい声をする (*Buddh-c.*).
 niśītha-dīpa 男 夜の燈火.
 ni-śīthini 女 夜.
 ni-śumbha 男 殺害, 殺戮; 殺人; 破碎; (弓を)曲げること; [ある *Danava* の名].
 ni-śumbhana 中 [同上].
 niś-cakṣus 形 眼のない, 盲目の.
 niś-caya 男 確認; 確信; 正確な知識, 確定, 確実; 事件の実状; 決定, 決断, 決定した意見; 決定した目的, 決意, 決心; 漢訳 決, 定, 決定, 得決定, 決定義; 決了; 正思惟 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*,

Buddh-c., *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* ~ena 男, ~āt 中 確かに; 漢訳 [~ena] 決定, 自然 *Aṣṭ-br.*, *Divy.* ~m Kr (為, 因, 不定) と決心する.
 niścaya-datta 男 [ある商人の名].
 niś-Car niścarati → Car.
 niś-carita 過受分 漢訳 放 *Saddh-p.*
 niścarita-gandha 形 漢訳 香氣氤氳普熏 *Gaṇḍ-vy.*
 niś-cala 形 不動の; 安定した; 不変の, 不易の; 漢訳 不動, 無動 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 niścala-mati 形 意志堅固な.
 niś-cāmara 形 払子(蠅払い具)のない.
 niś-cāraka 形 排泄物; 氣, 風; 漢訳 出, 吐 *Prāt-m.* → *jihvā* ~.
 niś-cāraṇatā 女 漢訳 出 *Bodh-bh.*
 niś-cārīta 使役 過受分 漢訳 所出 *Divy.*, *Daś-bh.*
 niś-Ci niścinoti. → Ci 2.
 niś-cikirṣā 女 漢訳 求, 欲 *Mvyut.*
 niś-cikirṣu 形 漢訳 求 *Bodh-bh.*
 niś-cikramiṣā 女 [*niś-Kram* 希求 から] 逃げたいと熱望すること (*Buddh-c.*).
 niś-cikramiṣu 形 逃れたいまたは去りたいと望む(とくに世俗生活から) (*Buddh-c.*).
 niś-Cit, → Cit.
 niś-cita 過受分 決心した, 決定した; 漢訳 決, 決定, 決断; 持; 善解, 無疑惑具足 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*; *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*; 無心, *Lank.*: *mano 'tra* ~m 得決定解, 得決定心 *Gaṇḍ-vy.* 30. ~m 副 決定的に, 確実に. → Ci 2.
 niścita-vastu 中 漢訳 決定事, 決定境 *Vijñ-t.*
 niś-citā 女 [河の名].
 niścitārtha 形 (因) に関して決定的の意見をもつ; 正当な判断をもつ.
 niś-citta 形 漢訳 無心 *Mvyut.*
 niś-cinta 形 考慮しない, 注意しない. 男 漢訳 [Sa-mādhi の名] 不思議 *Mvyut.*
 niś-cintya 未受分 漢訳 不能知 *Sapt-pr.*
 ni-Ścut niścotate. → Ścut.
 niś-Cūṣ, → Cūṣ.
 niś-cetana 形 無意識の; 活気のない; 理性のない, 感覚のない; 漢訳 頑 梵干.
 niś-cetas 形 理性のない, 感覚のない, 愚かな.
 niś-ceṣṭa 形 活動しない, 不動の, 無能の; 漢訳 無作, 無作者, 無造作, 非造作; 無動; 無受, 無有覚知 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.* → *ceṣṭā*.
 niś-caura 形 盜賊から免れた.
 niś-cyavana 男 [火の特殊の一形態].
 niś-chandas 形 *Veda* 聖典を学ばない.
 niś-chidra 形 穴のない, 隙間のない; 割れ目のない; 欠陥のない, 欠点のない; 弱点のない; 連続した; 漢訳 無間, 無欠, 無間欠; 不断 *Bodh-bh.*
 niśchidra-nir-antara 形 漢訳 無欠無間 *Bodh-bh.*
 ni-Śnath, → Śnath.
 ni-śrama 男 ...に向けられた努力, (自ら課じた) 勞

苦; 持続する実行.

ni-śraya 圓 より所, 頼み; 依, 所依, 依止, 所依止, 依倚, 依憑; 著; 住, 処, 住処; 靠者; 住靠者 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ., Suvik-pr., Vin.:* catvāro ~ āh 四依 [1. vṛkṣa-mūla m 樹下, 2. piṇḍa-pātaḥ 乞食, 3. pāmsukūlam 糞掃衣, 4. pūtimukta-bhaiṣajyam 陳棄藥] *Mvyut.*

ni-śrayaṇi 因 階段, 梯子; 梯 *Divy.*

niśraya-dāyaka 圓 施住者, 与依止者 *Mvyut.*

niśrayāṅga 因 依止分 *Sutr.*

ni-śrāṇa 形 沸立った, 煮立った.

ni-śrāya 不変分 [=niśritya] 依, 倚, 処 *Mvyut., Saddh-p. 12.*

ni-Śri niśrayati. → Śri.

ni-śrita 過受分 =āśrita. 依, 有依, 依止, 所依止, 所依; 倚; 住, 居; 処 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lanḁ., Mvyut., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sutr.;* 著, 貪 *Gand-vy., Saddh-p.:* drṣṭigati ~ 著邪見, 住諸見 *Gand-vy. 180.;* lābhasatkāra ~ 貪利養 *Saddh-p. 272.*

ni-śritya 不変分 [Śri] 圓に頼って, に依って (*Jat-m.*) 依, 為所依止 *Bodh-bh., Sapt-pr.*

ni-śreṇi 因 [同下]; 梯子 *Mvyut.*

ni-śreṇi 因 梯子, 階段.

ni-Śvas niśvasati, niśvasiti. → Śvas.

ni-śvasita 因 呼気; 呼吸.

ni-śvāsa 圓 吸気, 吸入; 呼気, 呼吸; 溜息.

niḥ-śaṅka 形 憂慮のない, 恐怖のない, 躊躇しない; (一) に対してなんら恐れをもたない; なんら憂慮させる必要のない. ~m, ° 圓 平静に, 躊躇なく, 無造作に.

niḥśaṅka-supta 形 安眠した.

niḥśaṅkā 因 恐怖または躊躇しないこと, 臆病でなこと; ~ayā 圓 躊躇なく.

niḥ-śaṅkita 過受分 =niḥ-śaṅka.

niḥ-śatru 形 敵をもたない.

niḥ-śabda 形 沈黙した; 音のしない, 無言の. ° 圓 沈黙して, 無言に. ~m 圓 沈黙して, 音なく.

niḥśabda-nīścala 形 無言にして不動の, 静寂な(夜).

niḥśabda-padam 圓 音のしない歩調で, 抜き足で.

niḥśabda-samvṛtta 形 無音となった, 黙った, 静寂になった.

niḥśabda-stimīta 形 無言でしかも不動の.

niḥ-śayāna 因分 眠らない, 眠りから覚めた.

niḥ-śaraṇa 1. 形 防禦のない, 保護されない.

niḥ-śaraṇa 2. 因 [=niḥ-śaraṇa]; 出離, 除滅, 消化 *Śikṣ.;* 無罣礙 *Sapt-pr.*

niḥ-śarkara 形 砂礫のない.

niḥ-śalāka 形 丈高い草を除いた, 叢を除いた, 淋しい, 荒寥とした.

niḥ-śalya 形 矢・棘または苦痛から免れた. ~m 圓 苦痛なく, 争闘なしに, 快く.

niḥ-śastra 形 武装しない.

niḥ-Śā, → Śā 2.

niḥ-śākha 形 枝のない.

niḥ-śākhatā 因 [同上 圓].

niḥśākhi-Kṛ, 枝を取り去る.

niḥ-śukra 形 威力のない.

niḥ-Śuc, → Śuc.

niḥ-śubha 形 無善 *Abh-vy.*

niḥ-śūka 形 のぎ(芒)のない(米); 憐憫のない, 残酷な.

niḥ-śūnya 形 空虚な.

niḥ-śeṣa 形 残余のない, あらゆる, 総ての, 全部の, 完全な; 無余 *Bodh-bh. °, ~tas,* 圓 全然, 完全に. ~m Kṛ, 全く破壊する, 根絶する.

niḥ-śeṣatā 因 絶滅, 根絶.

niḥśeṣa-bhagna 形 全く破られたまたは砕かれた.

niḥśeṣa-muṣita 形 ことごとく盗まれた.

niḥśeṣaya 名動 圓 niḥśeṣayati 完全に破壊する.

過受分 niḥśeṣita 全く尽きたまたは破壊された.

niḥśeṣita 過受分 → niḥ-śeṣaya.

niḥ-śoka 形 悲歎のない, 憂悶のない; 永離憂患 *Suv-pr.*

niḥ-śyāna 因分 → Śā 2.

niḥ-śrika 形 美を失なった, 醜い; 運の悪い, 不幸な.

niḥ-śreṇi 因 =ni-sreṇi; 梯 *Suv-pr. → ni-śreṇi.*

niḥ-śreṇikā 因 梯子.

niḥ-śreṇi 因 =ni-śreṇi; 梯, 梯蹬, 梯橙 *Suv-pr.*

niḥ-śreyasa 形 (因-i) より優れたものがない, 最上の. 因 無上の幸福, 至福, 至上, 救済; 至善 *Mvyut.*

niḥ-Śvas niḥśvasiti. → Śvas.

niḥ-śvasita 因 呼気, 呼吸; 溜息.

niḥ-śvāpada 形 野獣のいない.

niḥ-śvāsa 圓 呼吸, 溜息; 歎息 *Buddh-c.*

niḥśvāsa-parama 形 絶えず歎息する, 憂鬱な.

ni-śakta 過受分 → Sañj.

ni-śaṅga 圓 (附着, 附加物), 箠; 劍.

ni-śaṅgin 形 箠を着けた.

niśaṅgi-BHū, 箠となる.

ni-Śañj, → Sañj.

ni-śaṅṅa 過受分 → Sad. 坐, 在坐, 処, 安処 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr.*

ni-śaṅṅaka 形 安坐, 安住 *Daś-bh., Gand-vy.*

ni-śatta 過受分 Sad.

ni-Śad niśadati, niśidati. → Sad.

ni-śad 因 坐ること(とくに祭壇に); [一種の文学的作品の名].

ni-śadana 因 着座; 座席, 住居; 坐, 安坐 *Bodh-bh., Śikṣ., 梵雜.*

ni-śadya-sthāna 因 宮宅, 堂閣 *Daś-bh.*

ni-śadyā 因 市場; 坐, 同居 *Bodh-bh., Mvyut., Raṣṭr.*

niśad-vara 形 (祭壇に)坐った; 大儀そうに坐った.

niśadha 圓 [山の名]; 牡牛; [諸人の名]; 圓 [人民およびその国の名].

niśadha-vaṃśa 圓 *Niśadha* の種族または王系.

niśadhâdhipa 圓 *Niśadha* の王(とくに *Nala* 王).

niṣadhâdhipati 男 [同上].
 niṣadhâśva 男 [Kuru の王子の名].
 niṣadhendra (°dha-in°) 男 =niṣadhâdhipa.
 niṣadheśvara (°dha-iś°) 男 [同上].
 niṣāda 男 [漁夫・獵師および盜賊として記されている土着のインド種族の名 (Jāt-m.)]; [婆羅門と Śūdra 婦人との間に生れた下層階級と見なされる者]; [音階中の第七音]; 漢訳 近聞, 第七音 Mvyut.
 niṣāda-pati 男 Niṣāda の王 (Guha の称).
 ni-śādin 形 (因, 一°) の上または中に坐る, 横たわる. 男 象の御者, 象使い.
 niṣādi 女 Niṣāda 族の婦人.
 ni-śikta 過受分 → Sic. 漢訳 増, 増長 [Tib. cha-gs gyur] Madhy-v. 552.
 ni-Śic niṣincati. → Sic.
 ni-śiddha 過受分 → Sidh 1.
 ni-śiddhavat 過能分 → Sidh 1.
 ni-śiddhi 女 禁止, 抑圧, 妨害.
 ni-Śidh niṣedhati. → Sidh 1.
 ni-Śiv niṣivyati. → Siv.
 ni-śidana 中 漢訳 坐, 坐具, 臥敷具 Mvyut., Saddh-p.; 音写 尼師壇, 尼師但那 Mvyut., Prāt-m.
 ni-śiditavya 未受分 漢訳 坐 Sapt-pr.
 ni-śuta 過受分 → Sū 1.
 ni-Śū, → Sū 1.
 ni-Śūd niṣūdayati. → Sūd.
 ni-śūdaka 男 (一°) の殺戮者, 破壊者.
 ni-śūdana 形 除去する, 破壊する. 男 破壊者, 殺害者.
 ni-śeka 男 灌ぐこと, 滴下すること; 注入; 受精, 受胎; 種子; 受胎に際して行なわれる儀式; 汚水; 滴汁.
 ni-śektavya 未受分 (因) の上に注がれるべき.
 ni-śektr 男 注入者, 生殖者, 受胎させる者.
 ni-śecana 中 流出; (一°) を灌ぐこと.
 ni-śecitr 形 灌ぐまたは振りまく, 注ぐ, 流す.
 ni-śedivas 三過分 → Sad.
 ni-śeddhavya 未受分 抑制または防止されるべき.
 ni-śeddhṛ 男 抑制する者.
 ni-śedha 男 離れていること, 防御, 妨害; 禁止; 否定.
 ni-śedhaka 形 禁ずる, 妨げる.
 ni-śedhana 中 防止; 漢訳 遮 Lanik.
 ni-śedhin 形 防御する, (一°) を寄せつけないすなわち凌駕する.
 ni-śedhya 未受分 妨げられるべき, 禁ぜられるべき.
 ni-Śev niṣevate. → Sev.
 ni-śeva 形 (一°) を実行する. 男 崇拜, 尊敬.
 ni-śevaka 形 (一°) にしばしば出入するまたは訪問する; 実行する; 享樂する.
 ni-śevana 中 交際, 訪問; 実行; 奉仕; (因, 一°) の使用, …への熱中; 漢訳 習, 修, 修習, 親近, 習近; 行; 事; 當 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Rāṣṭr., Sūtr.
 ni-śevā 女 実行, 運用, 使用; …への熱中; 享樂; 奉仕, 崇拜, 崇敬.

ni-śevita 過受分 → Sev. 漢訳 習, 修, 所習, 修習, 遵習, 所好習; 親近 Abh-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p.
 ni-śevitavya 未受分 実行または履行されるべき; 使用されるべき; 享樂されるべき; 漢訳 宜親近, 应当親近 Kāśy., Saddh-p.
 ni-śevin 形 …に身を捧げる, 実行する; 享樂する, …と性交をする.
 ni-śevya 未受分 訪問されるべき; 享樂されるべき; 尊敬すべき; 漢訳 當修 Rāṣṭr.
 niṣka 男 (まれに 中) 首または胸の金(銀)の装身具 [時代によって一定しないが重量の単位として使用される]; (種々の価値をもつ) 貨幣; 漢訳 金髪, 錫鬘, 智鬘 Mvyut., Sam-r.
 niṣka-kaṇṭha 形 (女-i) 黄金の首飾りを掛けた.
 niṣ-kaṇa 形 漢訳 淨 Śikṣ. → akaṇaka.
 niṣ-kaṇṭaka 形 刺または敵から免れた.
 niṣ-kaṇṭha 形 悪だくみをしない, (一°) に無害な.
 niṣ-kampa 形 震えない, 動かしにくい, 動かない; 確乎とした, 不変の.
 niṣ-kampatā 女 震えないこと, 不動, 堅固.
 niṣkambhu 男 [神格の一種].
 niṣ-karuṇa 形 憐憫のない, 残酷な.
 niṣ-karūsa 形 汚れない, 塵埃のない.
 niṣ-karṇa 形 彎曲しない.
 niṣ-karman 形 活動しない, 怠惰な.
 niṣ-karṣa 男 引き出すこと, 抽出; 精髓, 本質, 要点; 因 (一°) 主として…のために. ~ān niścayāt 簡明に.
 niṣ-karṣana 中 引き出すこと, 抽出; 除去, 除外; 漢訳 出, 牽出, 能牽; 除, 除遣; 滅; 愈; 別離; 不合 Abh-vy., Daś-bh., Madhy-v., Mvyut., Vijñ-t.
 niṣ-kala 形 部分のない, 分けにくい, 減少した, 衰退した, もろい. 男 衰弱した老人.
 niṣ-kalaṅka 形 汚点のない, 汚されない.
 niṣ-kali 男 [武器に対する呪文の一種]; [魔法の武器の名].
 niṣ-kalpanā 女 漢訳 不分別, 無分別 Sūtr.
 niṣkalpanā-jñāna 中 漢訳 無分別智 Sūtr.
 niṣ-kalmaṣa 形 罪のない, 汚点のない; 漢訳 無穢濁 Bodh-bh.
 niṣkalmaṣi-BHū, 無垢または無罪となる.
 niṣ-kaśāya 形 汚点のない; 不純な情欲のない; 漢訳 無(諸)穢濁 Bodh-bh.
 niṣ-Kas niṣkāsayati (使役). → Kas.
 niṣ-kasita 過受分 漢訳 出 Divy.
 niṣ-kāṅkṣa 形 疑いがない; 漢訳 無疑, 無有疑, 無疑心, 離疑, 離狐疑, 無惑, 無有疑惑, 積除狐疑, 疑網断; 心決定, 無下決心 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut., Saddh-p., Sam-r.: ~o dharma-jñānaiḥ 於諸法智無有疑惑 Mvyut. → kāṅkṣā.
 niṣ-kāṅkṣatā 女 漢訳 離諸疑 Sam-r.
 niṣkāṅkṣa-prāpta 形 漢訳 無復疑, 決定無疑 Saddh-p.
 niṣ-kāṅkṣā 女 漢訳 無疑 Sam-r.
 niṣ-kānta 形 美しくない, 醜い.
 niṣ-kāma 形 欲望のない; 興味のない(行為).

niṣ-kāmuka 形 世俗の欲望のない。
 niṣ-kāraṇa 形 原因または動機をもたない, 根拠のない; 無関心の; 漢訳 無因, 無縁, 無有因縁, 非有因縁 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*; 遠離 *Śikṣ.* °—, ~m, ~āt 原因なくして, 特別の理由または動機なしに。
 niṣ-kālika 形 生きるべき時間をもたない, 死のうとする。
 niṣ-Kāś niṣkāśayati (使役). → Kas.
 niṣ-kāśita 過受分 [=niṣ-kāśita] 漢訳 擯 *Divy.* 337.
 niṣ-kāṣa 男 (鍋底の)けずり屑。
 niṣ-kāsa 男 [同上]; 出発, 外出, 消失。
 niṣ-kāsana 中 駆り出すこと, 駆除すること; 漢訳 駆, 擯出, 抜濟, 遠離 *Abh-vy.*, *Saddh-p.*
 niṣ-kāsayitr 形 漢訳 出 *Śikṣ.*
 niṣ-kāśita 過受分 追い出された; 漢訳 駆, 令得免, 令出外去, 濟抜令出 *Divy.*, *Saddh-p.* → niṣ-kasita, niṣ-kāśita.
 niṣ-kiṃcana 形 何物をももたない, 無一物の, 無一文の; 漢訳 無染著者 *Sam-r.* 28.
 niṣ-kiṃcanatā 因 無一物, 貧乏。
 niṣ-kiṃcanatva 中 [同上]。
 niṣ-kiriya 男 覆 [婆羅門の一種族または学派の名]。
 niṣ-kilbiṣa 形 罪のない。
 niṣ-kilviṣa 形 [同上]。
 niṣ-kuṭa 男 中 行樂の森, 林, 小森. 男 [山の名]。
 niṣ-kutūhala 形 好奇心のない。
 niṣ-kula 形 家族のない, 家族の死滅した, 天涯孤独の。
 niṣ-kulatā 因 家族の死滅, 絶滅, 根絶。
 niṣkulā-Kr, 殻をはく, 皮を剥ぐ; 内臓をえぐり出す。
 niṣ-kulīna 形 卑しい家庭の, 下賤の。
 niṣ-Kuṣ niṣkuṣati. → Kuṣ.
 niṣ-kuṣita 過受分 → Kuṣ.
 niṣ-kuhaka 形 漢訳 無矯, 不誑, 無欺詐, 離謔曲 *Bodh-bh.*, *Kaśy.*
 niṣ-kūja 形 鳥の啼き声のない, 音のない, 静寂な。
 niṣ-kūṭa 形 偽りのない, 欺瞞のない, 正直な。
 niṣ-Kṛ niṣkaroti, niṣkurute. → Kṛ.
 niṣ-kṛta (過受分) 中 贖罪; 約束の場所, あいびきの場所。
 niṣ-kṛti 因 回復, 復旧, 代償; 贖罪; 漢訳 救 *Śikṣ.* 男 [Agni 神の一形態]。
 niṣ-kṛpa 形 憐憫のない。
 niṣ-Kṛṣ niṣkarṣati. → Kṛṣ.
 niṣ-kevala 形 もっぱら…に属する。
 niṣ-kevalya 形 [同上], [śastra 中, または uktha 中 とともに] (*Mādhyandina-savana* において) *Indra* 神のみを主神とする (*Hotṛ* 祭官およびその助祭官の)誦誦。
 niṣ-kaitava 形 偽りがなく, 欺瞞のない, 正直な(人)。
 niṣ-kaivalya 形 単なる, 純粋の, 唯一の; 絶対の, 独占の。
 niṣ-kośa 形 鞘から抜け出した; 漢訳 抜 *Divy.*; ~m asim Kṛ 抜利劍 *Divy.* 535. [刊本は °koṣa]。
 niṣ-koṣanaka 形 (齒(圖)を)ほじるに適した. 中 小楊枝。

niṣ-kaukr̥tya 形 漢訳 無疑心, 不生疑悔; 離諸惡作 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 niṣ-kaurava 形 *Kuru* 族から免れた。
 niṣ-Kram niṣkrāmati, niṣkramate(-ti). → Kram.
 niṣ-krama 男 出発, 外出; (誕生後四ヶ月目に初めて小児を伴って)外出すること, 出遊式; 漢訳 出た難。
 niṣ-kramaṇa 中 [同上]; (從)から去ること; 消失; 漢訳 出, 出離, 出家 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 niṣkramaṇa-citta 中 漢訳 出心, 出(觀)心 *Abh-vy.*
 niṣ-kraya 男 買戻し; 代償; 報酬, 支払い, 給料。
 niṣ-krayaṇa 中 買戻し; 身代金; 贖罪。
 niṣ-krānta 過受分 → Kram. 漢訳 超, 出, 涌出; 出家 *Buddh-c.*, *Lank.*, *Saddh-p.*
 niṣ-krāntavya 未受分 漢訳 応度 *Saddh-p.*
 niṣ-kriya 形 活動しない, 怠惰な; (宗教的の)義務を怠った; 漢訳 無用, 所作永息 *Lank.*, *Madhy-v.*
 niṣkriyātmatā (°ya-āt°) 因 無活動, 無氣力, 怠惰; 宗教的義務の常習的な怠慢。
 niṣkriyātman (°ya-āt°) 形 無活動の, 怠惰な。
 niṣ-Kri niṣkrīṇāti, niṣkrīṇite. → Kri.
 niṣ-kṛitavat 過能分 漢訳 贖 *Divy.*
 niṣ-krodha 形 (圖)に対して怒らない。
 niṣ-kleśa 形 苦惱または惡徳から脱した(仏教); 漢訳 無煩惱, 離煩惱, 無復煩惱 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.* → niḥkleśa, kleśa.
 niṣ-kleśa-leśa 形 最小の心配もない, 全く幸福な。
 ni-Ṣṭan niṣṭanati → Stan.
 ni-ṣṭana 中 呻吟, 歎息。
 niṣ-Ṭap, → Tap.
 ni-ṣṭānaka 形 声高に語る, 怒号する. 男 咆哮, 喧噪, 唸り声; [ある *Nāga* の名]。
 niṣ-ṭāpa 男 燃えること, 熱すること。
 niṣ-ṭṛṣṇa 形 無欲な [*Pāli nittanṇa*]. → ṭṛṣṇā.
 ni-ṣṭha 形 (一°)の上にあるまたは位する; …に基づいたまたは頼っている; …に関連した; …に委ねた, …に専心する; °— 従属した(人々, ~loka 男 覆 = 従者); (圖)に導く, …を生ずる; 漢訳 究竟, 窮, 尽; 至, 極 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Prajñ-h.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 niṣṭha-gamana-bhūmi 因 漢訳 到究竟地 *Bodh-bh.*
 ni-Ṣṭhā, → Sṭhā.
 ni-ṣṭhā 因 基礎, 状態; 専心; 成就, 完成; 頂点, 限度; 終局, 結末, 大詰(劇の), 死; (圖)への完全な知識・確信・信頼または親密; (圖)に関する決定; [過去分詞の語尾 -ta および -tavat, これらで終る語] (文法); 漢訳 成就, 熟, 満; 究竟, 究竟位, 終, 辺際, 尽, 窮尽, 断尽, 決定 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Śikṣ.* 梵下: ~m Gam 知 *Aṣṭ-pr.* 473.
 niṣṭhā-gata 形 完成に達した; 漢訳 究竟, 至究竟, 到究竟, 已到究竟, 畢竟通達 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*; 到彼岸 *Mvyut.*
 niṣṭhāgatākaniṣṭha 男 漢訳 [天の名] 究竟天 *Lal-v.*
 niṣṭhā-gati 因 漢訳 究竟趣 *Lank.*
 niṣṭhāgamana 中 漢訳 究竟, 到究竟, 畢竟, 成就,

田満行 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

niṣṭhāgamana-bhūmi 因 漢 到究竟地, 畢竟地 *Bodh-bh.*

niṣṭhāngāra-rajas (°ṭhā-an°) 因 焼き尽くした炭の粉.

ni-ṣṭhātas 副 漢 尽 *Daś-bh.*

ni-ṣṭhāna 因 ソース, 薬味.

ni-ṣṭhānaka 男 [ある Nāga の名].

niṣṭhānugama (°ṭhā-an°) 形 漢 究竟 *Gaṇḍ-vy.*

niṣṭhānta 男 結局, 結末.

ni-ṣṭhāpana 因 漢 究竟 *Abh-vy.*

niṣṭhā-paryanta 男 漢 究竟 *Gaṇḍ-vy.*

niṣṭhā-bhāva 男 漢 究竟有, 性究竟, 究竟事 *Lank.*

niṣṭhā-sūnya 形 不確定の, 不安定な, 不決断の(心).

ni-ṣṭhita 過受分 → *Sthā.* 漢 已竟, 究竟, 到究竟 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

niṣṭhita-civara 形 漢 作衣竟 *Vin.* ~m 副 漢 [Pali nitthita-civara] 衣已竟, 三衣具足訖 *Prāt-m.* 490.

ni-Ṣṭhiv niṣṭhivati. → *Ṣṭhiv.*

ni-ṣṭhivana 因 唾を吐くこと, 唾液, 喀痰.

niṣṭhivana-śarāva 男 痰壺.

ni-ṣṭhura 形 [Sthā] 粗末な, 粗雑な; 傲慢な, 粗野な; 苛酷な, 残酷な; 漢 剛括, 獷悞; 繆, 率爾敦逼 *Bodh-bh.*; 不仁, 不合(捍) *Mvyut.*: ~m pratipadyate 現行率爾敦逼 *Bodh-bh.* 404.; ~ā vāc 直言 *Bodh-bh.* 128.

ni-ṣṭhuraka 形 [同上]. 男 [人名].

niṣṭhura-karman 因 漢 剛捍業 *Bodh-bh.*

ni-ṣṭhuratā 因 粗末, 粗雑, 粗野.

ni-ṣṭhuratva 因 [同上].

ni-ṣṭhurika 男 [ある Nāga の名].

ni-ṣṭhūti 因 唾を吐くこと, 喀痰.

ni-ṣṭhūrin 形 粗雑な, 粗野な.

niṣṭhottama (°ṭha-ut°) 形 漢 勝究竟 *Sūtr.*

ni-ṣṭhyūta 過受分 → *Ṣṭiv.* 漢 浮 *Abh-vy.* 因 吐かれた唾.

ni-Ṣṇā, → *Snā.*

ni-ṣṇāta 過受分 [Snā] (因, 一°) に熟達した, 堪能な; …に馴れた, 成就した, 完成した; 漢 熟 *Mvyut.*

ni-ṣṇātā 因 (prati) に関して熟知すること.

ni-ṣṇātva 因 [同上].

niṣ-paṅka 形 泥または塵埃のない, 汚れのない, 清浄な, 純潔な.

niṣ-Pat niṣpatati. → *Pat* 1.

niṣ-patana 因 突進すること, 速かに出ること, 走り出ること.

niṣ-patiṣṇu 形 外に出る, 走り出る.

niṣ-patti 因 現われること, もたらされること, 成しとげられること; 結果, 成就; 完成; (一°) から出ること, ……に由来すること; 漢 成, 所成, 成就, 成熟, 成弁, 所成弁, 田満 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 正行 *Śikṣ.*

niṣpatti-paramatā 因 漢 究竟最勝, 究竟無比 *Ma-*

dhy-vibh.

niṣpatti-svabhāva 男 漢 成自性, 成性自性 *Lank.*

niṣ-pattra 形 羽のない, 葉のない.

niṣpattrā-Kṛ, 矢羽根が入ってしまうほどに(矢で)傷つける, 重傷を負わせる.

niṣ-pathya 形 病んだ.

niṣ-Pad niṣpadyate. → *Pad.*

niṣ-pad 因 排泄物, 糞便.

niṣ-panda 1. 形 [=niṣ-(s)panda] 不動の.

niṣ-panda 2. 男 運動.

niṣpanda-hina 形 運動しない, 不動の.

niṣpandī-Kṛ, 不動となす, 鎮静にする.

niṣ-panna 過受分 → *Pad.* 漢 成, 成就, 円成, 円成実, 真実 *Lank.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, 梵千. → a~.

niṣpanna-lakṣaṇa 形 漢 成就(彼法)相 *Lank.*

niṣ-payoda 形 雲のない.

niṣ-parāmarśa 形 考慮することができない, 未解決の, 躊躇した, 当惑した.

niṣ-parikara 形 (必要な) 準備をしていない, 貯蓄のない.

niṣ-parigraha 形 資産をもたない.

niṣ-paricaya 形 親密にならない.

niṣ-paricchada 形 臣下または従者をもたない.

niṣ-paridāha 形 燃焼しない; 苦悩のない; 漢 除熱, 無悩熱, 無熱悩, 永離熱悩心; 無煩惱 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*; 得解脱 *Lal-v.*: kleśa-samtaptāś ca ~ā abhūvan 煩惱衆生皆得解脱 *Lal-v.* 279. → *paridāha.*

niṣ-parikṣa 形 精確に調査しない.

niṣ-paruṣa 形 静かな(音楽) (*Divy.*).

niṣ-paryanta 形 制限のない.

niṣ-paryutthāna 形 因 [=niṣ-paryavasthāna] 漢 無纏垢, 無蓋纏 *Kāśy. 18.* → *paryutthāna.*

niṣpalāya 名動 niṣpalāyati. → *I.*

niṣpalāyita 過受分 漢 已走 *Divy.*

niṣpalāva 形 (因 -ā) 穀殻のないすなわら一切の不用なもののない (*Saddh-p.*); 漢 ~ā ……apagata-phalguh 無復枝葉 *Saddh-p.* (荻原本 36).

niṣ-Pā niṣpibati. → *Pā. 1.*

niṣ-pāṇḍava 形 *Pāṇḍava* 族から免がれたまたは解放された.

niṣ-pāta 男 はげしいまたは急激な運動, 躍動.

niṣ-pātita (使役) 過受分 落された, 潰滅した, 破壊された.

niṣ-pādaka 形 (因 -ikā) 完成する, 成就する; (因) を全く現わす (*Jāt-m.*).

niṣ-pādana 因 完成, 生産; 漢 成, 能成, 成就; 具; 修; 通達 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*

niṣ-pādayitavya 未受分 漢 当為成弁 *Śikṣ.*

niṣ-pādayitu-kāma 形 漢 欲得 *Sapt-pr.*

niṣ-pādita (使役) 過受分 なされた, 実現された, 達成された; 漢 具足修行 *Śikṣ.*

niṣ-pādya 未受分 完成されるべき, 実現されるべき; 漢 当起 *Bodh-c.*

niṣpādyābda-sahasra 男 満一千年.

niṣ-pāpa 罪のない。
 niṣ-pāra 限界のない, 際限のない。
 niṣ-pālaka 護衛者のない, 守護されない。
 niṣpāva 果実の一種, 学名 *Dolichos sinensis* ま
 だ同種類の植物]。
 niṣ-Piṣ niṣpināṣṭi. → Piṣ.
 niṣ-Piḍ niṣpiḍayati (使役) → Piḍ.
 niṣ-piḍana 屈挫, 圧倒。
 niṣ-pita (飲んで)空になった, 涸れた。
 niṣ-putra 子のない, 息子のない。
 niṣ-pudgala 精神のない, 人格のない (*Vajr-pr.*);
 無丈夫; (音写) 無補特伽羅 *Mvyut.*, *Vajr-pr.*
 niṣ-pudgalatva 同上 (*Vajr-pr.*); 無士
 夫性 ((音写) 無補特伽羅等性), 無更求趣性, 無人,
 無受者 *Vajr-pr.*
 niṣ-purāṇa かつて存在しない, 未曾有の, 前例の
 ない, 新しい。
 niṣ-puruṣa 人の住まない, 無人の, 荒廃した; 男
 のない, 男子のない。
 niṣ-pulāka 穀殻またはしなびた穀粒のない。
 niṣpulāki-Kṛ, 穀殻またはしなびた穀粒をとり分ける。
 niṣ-Pū niṣpunāti. → Pū.
 niṣ-pūti-gandhika 悪臭のない (*Divy.*)
 niṣ-pūrta 過受分 → Pr 1.
 niṣ-Pr niṣpiparti. → Pr 2.
 niṣ-peṣa 衝撃, 摩擦, 圧搾, 叩くこと (とくに麻布を);
 衝突する音。
 niṣpeṣavat 確固たる(歩調) (*Buddh-c.*)
 niṣ-poṣa 養育されない (*Vajr-pr.*); 無養者,
 無養育者, 無長養者 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Vajr-pr.*
 niṣ-pauruṣāmarṣa (°ṣa-ām°) 男らしさおよび憤怒
 を欠いた。
 niṣ-prakampa ゆるがない, 不動の。
 niṣ-prakampatā 安静 *Buddh-c.*
 niṣ-prakampya 未受分 不不動 *Lal-v.*
 niṣ-prakāraka 差別または特性のない。
 niṣ-prakāśa 不透明な, 光のない, 暗い。
 niṣ-pracāra 不動の, 一カ所に留まる, 一点に集中
 した(精神)。
 niṣ-prajña 無智の 愚かな。
 niṣ-prāṇaya 愛情または信頼のない, 冷淡な。
 niṣpraṇayatā 信頼の欠乏, 同情のないこと, 嫌悪
 すること (*Jat-m.*)
 niṣpraṇayatva 信頼の欠乏 (*Jat-m.*)
 niṣpraṇayatva-mauna 抑制した沈黙 (*Jat-m.*)
 niṣ-pratāpa 威厳のない, 賤しい。
 niṣ-pratikāṅkṣa 離求 *Sūtr.*
 niṣ-pratikāra 無求, 不求其報 *Kāśy.*
 niṣpratikāra-samatā 不求平等 *Sūtr.*
 niṣ-pratikriya 救いにくい, 治療しにくい, 回復
 のできない。
 niṣ-pratikriyatā 救助の欠乏, 治療しにくいこと。
 niṣ-pratigraha 贈物を受納しない。
 niṣ-pratigrahatā 同上
 niṣ-pratigha 妨げられない, 障害のない。
 niṣ-pratipakṣa 反対者または敵をもたない; 無

対治 *Abh-vy.*
 niṣ-pratipakṣatā 同上
 niṣ-pratipakṣatva 同上
 niṣ-pratibaddha 過受分 無繫 *Bodh-bh.*
 niṣpratibaddha-cittatā 其心無繫, 離於貪心,
 捨離貪心 *Bodh-bh.*
 niṣ-pratibandha 障害のない, 反対のない。
 niṣ-pratibha 光輝のない: ~m Kṛ, 沈黙させる
 (*Jat-m.*)
 niṣ-pratibhāna 臆病な, 心の平静を欠いた; 無
 弁才 *Mvyut.*
 niṣ-pratikāra 救助することができない; 不治の;
 妨げられない。
 niṣ-pratīpa 妨げられない, 抵抗されない。
 niṣ-pratyarthikatva 無敵対 *Aṣṭ-pr.*
 niṣ-pratyāśa (因, upari) についてのすべての希望
 をなげうった。
 niṣpratyāśi-BHū, (prati) に対するすべての希望を失
 なく。
 niṣ-pratyūha 障害のない, 妨げられない: ~m
 妨害なくして。
 niṣ-pradeśa 一定の住所のない。
 niṣ-pradhāna 主または指導者を奪われた。
 niṣ-prapañca 進展しない, 細分されない, 多様性
 から免れた; 純潔な, 純真な(人); 無戲論, 離
 戲論, 無有戲論, 離諸戲論, 絶言道; 除滅衆虚妄;
 無為, 離為 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-*
vy., *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* → prapañca.
 niṣprapañca-sad-ātman 転変することのない本体
 をもつ。
 niṣ-prabha 光輝または輝きを奪われた, 曇った, 暗
 い; 咲蔽 *Lal-v.*
 niṣ-prabhatā 同上
 niṣ-prabhatva 同上
 niṣ-prabhāva 力のない。
 niṣ-prabhāvatva 同上
 niṣ-pramāṇaka 権威のない, 権威によって支持さ
 れない。
 niṣ-prayatna 努力しない, 活動しない; 無功
 用 *Sūtr.*
 niṣ-prayojana 動機のない, 公平無私な, 無関心
 な, 興味をもたない(観客); 用のない; 無理,
 無用 *Sūtr.* ~m 無用に; 不必要に, 余計に。
 niṣ-pralānti 遠ざける, 消滅させる。
 niṣ-pravāṇi 織機から取りはずしてまもない(織
 物); 全く新しい。
 niṣ-pra-Han, → Han.
 niṣ-prāṇa 呼吸のない, 生命のない, 疲れ果てた。
 niṣ-prīti (因) を喜ばない, …に満足しない。
 niṣ-prītika 喜びをともなわない (*Lal-v.*); 離喜;
 無有雜念(?) *Mvyut.*
 niṣ-pluṣṭa 過受分 → Plus.
 niṣ-phala 果実を結ばない; 果実のない, 無用の,
 空しい; すこしの利益も獲得しない, 不成功の;
 無果, 無果報, 無果利, 無功 *Buddh-c.*, *Madhy-*
vibh., *Sikṣ.*

niṣ-phalatā 女 実を結ばないこと, 無用, 無益; 無果報 *Sikṣ.*
 niṣ-phalatva 中 [同上].
 niṣphalaya 名動 他 niṣphalayati 実をなくする, 無用にする, 果報のないままに放置する.
 niṣphali-Kṛ, [同上].
 ni-Ṣyand niṣyandate. → Syand.
 ni-ṣyanda 男 =ni-ṣyanda; 驟雨; 流, 等流, 等流果, 所流, 随流, 伝流 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*; 生, 出生, 從……生, 起 *Abh-vy., Daś-bh., Sam-r., Śikṣ.*; 果, 報 *Daś-bh., Lanḱ.*; 依, 所縁, 因縁, 順因 *Gaṇḍ-vy., Lanḱ., Mvyut.*; 變穢 *Abh-vy.* ~h sa tathāgataḥ puṇyānām 彼如来諸福等流, 彼仏福因順合 *Mvyut.* → ni-ṣyanda.
 niṣyanda-dharma 男 正法 *Sūtr.*
 niṣyanda-paramatā 女 等流最勝, 勝流無比 *Madhy-vibh.*
 niṣyanda-phala 中 等流果, 随流果, 順因果, 依果 *Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*
 niṣyanda-buddha 男 所流仏, 報仏, 依仏, 所縁仏 *Lanḱ.*
 niṣyandāgra 男 勝流 *Madhy-vibh.*
 ni-ṣyūta 過受分 → Siv.
 ni-Ṣvap, → Svap.
 ni(h)-ṣṭhita 過受分 → Sthā.
 niḥ-Ṣṭhiv niḥṣṭhivati, niḥṣṭhivyati. → Ṣṭhiv.
 niḥ-Ṣṭhu, → Ṣṭhu.
 niḥ-spandatā 女 無活動.
 nis 副 外へ, 前へ (因). [動と結合した副] (因) から外へ, 去って. [名の接頭] 1. [副として] ……から; 2. [因として] 非……, ……を欠いた, ……のない, 無……; 3. [次に続く語を強める] 全く; 無, 無有, 離, 不 *Bodh-bh.* 等.
 nisandi 男 [ある *Daiṭya* の名].
 ni-sarga 男 糞便の排泄; 与えてしまうこと, 授与, 譲与, 贈与; 放棄, 放すこと, 去らせること; 創造; 自然の状態, 天性, 性質. °—, ~tas, 圓, 圓性来.
 nisarga-ja 形 天賦の, 本来の, 本来(一)から形成された.
 nisarga-nipuna 形 性来賢明な, 天資英明な.
 nisarga-padva 形 (女-i) (因) に対して自ら心を傾けた.
 nisarga-bhinna 形 本来異なった.
 nisarga-śālina 形 性来謙讓なまたは臆病な.
 nisarga-siddha 形 性来の, 天性の,
 nisarga-sauhrda 中 本来の友情, 少年時代からの友情.
 ni-siddha 過受分 護 令不造作 *Bodh-bh.*
 nisunda 男 [*Kṛṣṇa* 神に殺された *Asura* の名].
 nisumbha 男 [=niśumbha] [ある悪魔の名] 護 音写 儲孫婆 *Mvyut.*
 ni-sūdaka 男 → ni-śūdaka.
 ni-sūdana 中 → ni-śūdana. 護 能破, 消 *Lal-v. Mvyut.*

ni-Sr, → Sr.
 ni-Srj, → Srj.
 ni-sṛta 過受分 → Sr.
 ni-srṣṭa 過受分 → Srj. 護 捨, 捨与, 所与 *Bodh-bh.*
 nisrṣṭārtha 形 委任された, 権限を与えられた. 圓 使節, 代理.
 nisrṣṭārtha-dūti 女 恋人同志を取りもつ女(劇において).
 ni-sevana 中 [=ni-ṣevana] 護 修 *Sam-r., Sūtr.*
 ni-sevitavya 未受分 [=ni-ṣevitavya] 護 当親近, 修習 *Sam-r.*
 nis-tattva 形 二十四 tattva に含まれない.
 ni-Stan nistanati → Stan.
 nis-tantu 形 子孫のない, 子のない.
 nis-tandri 形 怠惰でない.
 nis-tandri 形 [同上].
 nis-tamaska 形 闇黒から離れた, 暗くない, 陰鬱でない, 明るい, 輝いている; 罪から免れた.
 nis-tamisra 形 [同上].
 nis-taraṅga 形 波のない, 静穏な.
 nis-taraṇa 中 出ること, (危険から) 脱出すること, 逃亡; 救助, 解放; 護 成弁 *Aṣṭ-pr.*
 nistarāṇa-samartha 形 護 能成弁, 得成弁 *Aṣṭ-pr.*
 nis-taraṇiya 未受分 凌駕されるべき, 打ち克たれるべき.
 nis-tarkya 未受分 想像しにくい.
 nis-tartavya 未受分 越えられるべき, 横断されるべき; 凌駕されるべき, 打ち克たれるべき.
 nis-tala 形 平坦でない, 円い, 球形の.
 nis-tāra 男 横断, (海を)越えること [また 譬喩]; 弁済, 支払い; 護 至, 竟, 就, 到彼岸 *Mvyut.*
 nis-tāraṇa 中 横断, 超越, 凌駕; 護 救度 *Mvyut.*
 nis-tārayitr 形 幸運ならしめる, 救助する (*Jāt-m.*).
 nis-tiraṇa 中 完成; 護 成, 成立, 示成; 安立, 建立, 決定, 安立決定; 得, 証; 具足; 開, 顕了, 視察, 体解 *Daś-bh.*
 nis-tiraṇatā 女 護 度, 度脱 *Saddh-p.*
 nis-tirita 過受分 護 決定, 具足 *Daś-bh.*
 nis-tirṇa 過受分 → Tṛ. 護 已度, 已得度, 出; 除 *Buddh-c., Lal-v., Saddh-p.*
 nistirṇa-samjñin 形 護 已度想 *Saddh-p.*
 nis-tula 形 等しいものがない, 匹敵するものがない, 無比の.
 nis-tuṣa 形 殻をとる; 清浄にした; 純潔な, 清浄な.
 nis-trṇa-kaṇṭaka 形 草といばらとを取り除いた.
 nis-trṇa-gulma-latā-vana 形 護 無諸草木, 無草木 (処) *Lanḱ.*
 nis-trṣ 形 欲望のない, 満足した.
 nis-trṣṇa 形 渴望から離脱した (*Divy.*); 護 遠離 貪愛, 離貪愛 *Bodh-bh.*
 nis-Tṛ nistarati. → Tṛ.
 nis-tejas 形 光輝を欠いた; 精力または元気の欠けた; 活気のない, 鈍い.
 nis-toya 形 水のない.
 nis-toya-trṇa-pādapa 形 水も草も樹木もない.

nis-trapa 形 破廉恥の。
 nis-trāṇa 形 無依, 無有救護 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*
 nistrāṇa-bhūta 形 無所依怙 *Śikṣ.*
 nis-triṃśa 形 憐憫のない, 残酷な。男 劍。
 nis-triṃśatva 中 無情, 残酷。
 nis-triṃśa-dharmin 形 劍に似た。
 nis-traiguṇya 形 三徳 (guṇa) を賦与されない。
 nis-tvak-pakṣa 形 皮とひれ(鱗)とを欠いた。
 ni-Sprś nisprśati. → Sprś.
 ni-syanda 形 したたり落ちる, 流れ落ちる。男 滴下;
 注出; 流出, 噴出, 排出; 汗; 報 *Lal-v.*,
Laṅk. → ni-syanda.
 ni-syandin 形 流れ落ちるまたはしたたり落ちる;
 (一°) から流れる, …から落下する。
 ni-srāva 男 流出; 流れ, 奔流。
 ni-Sru nisravate → Sru.
 ni-sva 形 精力のない。
 ni-svana 男 音, 騒音, 音響; 声; 喧騒。
 ni-svanita 過受分 中 [正しくは niḥ-svanita][同上]。
 ni-svāna 男 [同上]。= ni-svana。
 ni-svāmikā 女 非親 *Śikṣ.*
 niḥ-saṃśaya 形 疑いのない, 確実な; 疑わない, 信
 ずべき; 無疑, 離疑惑, 離諸疑, 無疑滯, 無礙
Divy., *Mvyut.*, *Śikṣ.* → saṃśaya. ~m 副 確
 実に, 疑いなく; 必, 定, 必定 *Lal-v.*, *Saddh-p.*
 niḥ-saṃśayatā 女 無疑惑 *Sapt-pr.*
 niḥ-saṃśayita 過受分 疑わない, 確かな, 安全な。
 niḥ-saṃskāra 形 洗練されない, 無作法な。
 niḥ-saṃskāratā 女 洗練されないこと, 無教育, 無作
 法。
 niḥ-saṃkleśa 形 無垢, 無染, 無雑染 *Madhy-*
vibh., *Sūtr.*
 niḥsaṃkleśa-suddhi 形 無染清浄, 無雑, 染(無)
 清浄 *Madhy-vibh.*
 niḥ-saṃkṣobha 形 ゆるがない (*Jat-m.*)。
 niḥ-saṃkhyā 形 無数の。
 niḥ-saṅga 形 執着しない; (因) に対して無關心な,
 興味のない, (すべての) 欲望から離れた; 離
 (諸) 執著, 無礙, 無, 断絶 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mañj-*
m., *Vajr-s.*; 專注 *Śikṣ.*
 niḥ-saṅgatā 女 執着のないこと, 無關心, 離欲。
 niḥ-saṅgatva 中 [同上]。
 niḥ-saciva 形 宰相のない。
 niḥ-saṃcāra 形 動き廻らない, 外出しない, 家を去
 らない。
 niḥ-saṃjñā 形 感覚のない, 無意識の。
 niḥ-sattva 形 真実を欠いた; 勇気または確実さを欠い
 た; 弱い, 惨めな, 生物のいない; 無有情, 無
 衆生, 無有衆生, 衆生無, 衆生無有, 遠離衆生, 非衆生,
 非衆生数, 無衆生体 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*,
Gaṇḍ-vy., *Laṅk.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*; 無実 *Gaṇḍ-vy.*
 niḥ-sattvatā 女 無力, 不確実, 悲惨。
 niḥ-sattvatva 中 実体のないこと (*Vajr-pr.*); 無
 有情性, 無衆生 *Vajr-pr.*
 niḥ-satya 形 真実でない, 偽りの。
 niḥ-satyatā 女 不真実, 虚偽, 不誠実。

niḥ-saṃtati 形 子孫のない, 子供のない。
 niḥ-saṃdigdha 過受分 疑いのない, 確かな。 ~m
 副 疑いもなく, 確実に。
 niḥ-saṃdeha 形 [同上]。 ~m 副 [同上]。
 niḥ-saṃdhi 形 接合点のない, すき間のない; 密接
 な, 堅い(抱擁)。
 niḥ-sapatna 形 競争者のない, 争わない; 他人に要求
 されない, 唯一人のみに属する; 無比の。
 niḥ-sapatnatā 女 無敵, 無比。
 niḥ-samudācāra 形 不現行 *Sapt-pr.*
 niḥsamudācāra-dhātu 男 不現行界 *Sapt-pr.*
 niḥ-saṃpāta 形 通過できない, 通路のない。
 niḥ-saṃbādha 形 群がり集まらない。
 niḥsaṃbādha-velā 女 (道路に) 群衆のいない時。
 niḥ-saṃbhrama 形 (不定) について当惑しない。
 niḥ-saraṇa 中 出て行くこと; 出口; (因, 一°) に対
 する方便; 出, 出離, 離, 遠離; 出道, 出要,
 出要之道; 断, 超, 越; 能滅, 除, 除滅; 捨; 脱,
 解脱; 出現, 実出現 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Kāśy., *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*;
 sūnyatā ~ 空能滅 *Kāśy.* 97.
 niḥsaraṇa-kuśala 形 出離善根 *Sam-r.*
 niḥsaraṇa-prajñā 形 出慧, 出智 *Mvyut.*
 niḥsaraṇa-satya 中 離諦, 出離諦, 解脱実 *Bo-*
dh-bh.
 niḥ-saraṇi 形 道または出口のない, 通行しにくい。
 niḥ-saraṇiya-dhātu 男 出離界 *Mvyut.*: ṣaḍ
 ~avaḥ 六出離界 [1. vyāpādasyāvvyāpādo niḥ-
 saraṇam maitrī 無瞋慈出離瞋, 2. vihiṃsā-niḥsa-
 raṇam karuṇā 悲出離害, 3. aratiniḥsaraṇam
 muditā 喜出離不染, 4. kāma-niḥsaraṇam upekṣā
 捨出離欲, 5. vicikitsā-niḥsaraṇam asmimāna-
 samudghātaḥ 永断我慢出離疑, 6. nimitta-niḥsara-
 ṇam animittam 無相出離相] *Mvyut.*
 niḥ-sara-dhārā 女 = udaka-dhārā; 水上源
Mvyut.
 niḥ-sarita (過受分) 中 出息 *Gaṇḍ-vy.*
 niḥ-sargikā 女 [= naiḥsargikā] 尼薩耆
Prāt-m. 490.
 niḥ-sarpa 形 蛇のいない。
 niḥ-salila 形 水のない。
 niḥ-saha 形 (不定) に堪えることができない; 力のな
 い; 衰弱した。一 副 衰弱して。
 niḥ-sahāya 形 援助者または仲間のない, 同志のいな
 い; 救助のない。
 niḥ-sādhāra 形 支持されない。 ~m 副 支持なく。
 niḥ-sādhvasa 形 恐怖のない, 臆しない。
 niḥ-sādhvasatā 女 恐怖のないこと, 大胆, 勇敢 (*Jat-*
m.)。
 niḥ-sādhvasatva 中 [同上]。
 niḥ-sāmarthya 形 不適當な; 無用, 無功用, 無
 功能, 無利益 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-vibh.*
 niḥ-sāmānya 形 異常の, 非常な。
 niḥ-sāra 1. 形 活気のない, 生氣のない; 重要でな
 い, 価値のない, 空しい, 一時的な; 不実, 不
 堅 *Saddh-p.*, *Suv-pr.* 男 音楽上の拍子。

niḥ-sāra 2. 男 外出, 出離; 離, 出離 *Abh-vy.*, *Sūtr.*
 niḥ-sāraṇa 田 移動; 退出, 放逐.
 niḥ-sāratā 因 無力, 無味, 無価値, 空虚, 無常.
 niḥ-sāratva 田 [同上].
 niḥsāra-phena-kalpa 形 不堅如泡, 不堅如水上沫 *Suv-pr.*
 niḥ-sārya 未受分 (因) から除外または放逐されるべき.
 niḥ-Sic, → Sic.
 niḥ-siman 形 制限されない, 際限のない, 無限の.
 niḥ-sukha 形 喜びまたは幸福のない, 悲しい, 不幸な.
 niḥ-sugriva 形 *Sugriva* から免れた.
 niḥ-Sū, → Sū 1.
 niḥ-sūtra 形 綱のない; 救助のない.
 niḥ-Sr niḥsarati. → Sr.
 niḥ-Srj niḥsrjati(-te). → Srj.
 niḥ-srjita 過受分 流れた, 流出した.
 niḥ-srta 過受分 → Sr. 出離已, 遠離, 断, 尽 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*
 niḥsrta-kleśa 形 断煩惱 *Lal-v.*
 niḥ-sṛti 因 出離, 解脱; 出, 出離, 脱, 解脱 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 niḥ-somaka 形 月(太陰)のない.
 niḥ-stambha 形 柱のない; 支持のない.
 niḥ-stuti 形 すこしも賞賛しない.
 niḥ-Sthā, → Sthā.
 niḥ-sneha 形 油気のない, 脂を含まない; 脂肪がない, 湿りのない(土); (prati) に対して愛情のない; (一°) に対して欲望のない, ……に対して無関心な; 愛情をもって遇さない(召使); 忌み嫌われた, 不快な, 厭うべき.
 niḥ-snehatva 田 愛情のないこと.
 niḥ-spanda 形 → niṣpanda.
 niḥ-sparśa 形 硬い, 粗い, 触感の不快な.
 niḥ-Spr niḥsprṇoti. → Spr.
 niḥ-sprha 形 欲望のない, 欲しない; (因, 一°) に対して無関心な; (因) から離脱する; 不希求 *Bodh-bh.*
 niḥ-Sphur niḥsphurati. → Sphur.
 niḥ-sphura 形 震えない.
 niḥ-srava 男 (因) の残余, ……の剰余.
 niḥ-srāva 男 消費, 支出.
 niḥ-Sru niḥsrāvati. → Sru.
 niḥ-sva 形 自己の所有を奪われた, 何も所有していない, 貧しい.
 niḥ-svatā 因 貧窮.
 niḥ-svana 男 → nisvana.
 niḥ-sva-bhāva 1. 男 困窮, 貧乏, 貧窮. 2. 形 自性のない, 特性または特徴を欠いた; 無性, 無自性, 離自性, 非自性; 無自体, 無有性, 無定性 *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sūtr.*
 niḥ-sva-bhāvātā 因 無性, 無自性, 離自性, 無体 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Vijñ-t.*: tri-vidhā ~ 三無性, 三種無性 [1. lakṣaṇa ~ 相無性, 2. utpatti- ~ 生無性, 3. paramārtha ~ 勝義無性] *Vijñ-t.* 41.
 niḥ-sva-bhāvātva 田 無性, 無性性, 無自性; 無

自体, 実体無相 *Lank.*, *Madhy-v.*
 niḥ-svarṇaka 形 黄金を除いた.
 niḥ-svādu 形 味のない, 風味のない.
 niḥ-svādhyāya-vaṣaṭ-kāra 形 *Veda* 聖典を学習もせず犠牲をも供えない.
 niḥ-svāmikā 形 因 主または夫のない.
 niḥsvi-Kṛ, ……の所有を奪う.
 niḥsvi-BHū, 自己の所有を失なう.
 niḥsvi-bhūta 形 自己の所有を失なった, 貧困となった, おちぶれた.
 ni-hata 過受分 → Han. 伏, 降伏, 摧伏; 壊, 破壊, 能破, 破除, 摧滅, 除滅, 捨, 棄, 捨離, 棄捨, 捨棄; 無有; 無不執; 不畜 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, 梵千.: ~ para-cakra-pratyarthikaḥ 無有怨敵 *Gaṇḍ-vy.* 325.
 ni-hata-māna 形 摧伏(我)慢 *Śikṣ.*
 ni-hatamāna-citta 田 恭敬心, 謙下心 *Aṣṭ-pr.*
 ni-hata-mānatā 因 破壊憍慢, 捨離憍慢 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*
 ni-hata-mānatva 田 能摧破自憍慢 *Bodh-bh.*
 ni-hata-māna-mada-darpa 形 除滅高心, 捨憍慢放逸, 捨憍慢心離諸放逸 *Gaṇḍ-vy.*
 ni-hata-māra-pratyarthika 形 降伏魔怨 *Raṣṭr.*
 ni-hata-śatru 形 能破(強)敵, 怨結(悉皆相)捨離 *Suv-pr.*
 ni-hata-śatru-gaṇa 形 無怨敵 *Lal-v.*
 ni-hata-sena 形 自己の軍勢を壊滅された.
 ni-hatārtha 形 意義の廢れたまたは使用されない(語).
 ni-hatārthatā 因 廢止された語義の使用.
 ni-hatārthatva 田 [同上].
 ni-hatoṣṭra (°ta-uṣ°) 形 駱駝を殺された, その人の駱駝の殺された.
 ni-Han niḥanti. → Han.
 ni-han 男 (一°) の殺戮者または破壊者.
 ni-hantavya 未受分 殺されるべき, 破壊されるべき.
 ni-hantr 男 殺害者; 破壊者; 駆逐者; 阻止者; [*Śiva* 神の称].
 ni-hava 男 召喚, 呼び出し, 勧請.
 ni-Hā niḥhite(1.). → Hā 1.
 ni-hita 過受分 → DHā 1. 離, 捨離 *Bodh-bh.*
 ni-hita-nayāna 形 (因) に眼を注いだ, ……を凝視した.
 ni-hina 過受分 → Hā 2. 小, 少, 下劣; 貧 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 ni-hina-citta 田 小心 *Sūtr.*
 ni-hinatara 比較 さらに低い, さらに悪い.
 ni-hinataraka 形 下劣 *Bodh-bh.*
 ni-hinatva 田 劣, 下劣 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
 ni-hina-paramatva 田 最極下劣 *Bodh-bh.*
 ni-hina-puruṣa 男 貧庶, 卑賤者 *Bodh-bh.*
 ni-Hṛṣ niḥṛṣyati. → Hṛṣ.
 ni-hnava 男 否定; 秘密, 隱蔽; 矛盾; 卓越; 贖罪; 弁解, 許しを懇願すること [儀式の一種].
 ni-Hnu niḥnavate. → Hnu.
 ni-hnuta 過受分 → Hnu. 棄捨, 非撥 *Abh-vy.*

ni-hnuti 因 否定; 隠蔽.

ni-hnotu-kāma 因 隠蔽したいと思う.

ni-Hrād nihrādayati (使役). → Hrād.

ni-hrāda 因 音, 音響, 音調.

ni-hrādavat 因 響く, 高音の (Buddh-c.).

ni-hrādita 因 咆吼, 叫喚, 怒号.

ni-Hvā nihvayate. → Hvā.

Ni, I. nayati(-te) 指導する, 案内する; 導く [agram および 因 をともなうことがある]; 導き去る; (因 土 prati, 因, 因) へ導く; (ある人とともに) 連れ去る [一般に 因]; (妻を) 家へ連れ行くすなわち結婚する; 引きつける; (ある条件または状態 (因) に) 置く; (因 土 prati, 因) へ運ぶ, ……へ運び去る, ……へ連れて行く, (因, -artham) のために持って行く; (線を引く; (訴訟・儀式を) 行なう; 過ごす, (時を) 費す; (因) から除く; 確かめる, 跡を辿る; 将去, 済度, 制 Lal-v., Saddh-p., Sūtr.

ādhanam ~, 担保に入れる.

daṇḍam ~, 鞭を揮うすなわち刑罰を課す.

duḥkham ~, 苦痛を与える.

paritoṣam ~, 満足させる, 喜ばせる.

bhasmasān ~, 灰燼に帰せしめる. [bhasmasād-Gam はこれに相当する受動の意に用いられる. → bhasmasāt.].

vaśam ~, 征服する, (因) を獲得する.

vikrayam ~, 売る.

sūdratām ~, Śūdra の階級におとす.

sākṣyam ~, (裁判において) 証人として認める.

使役 因 nāyayati (因) によって導かせるまたは運び去らせる; (因) へ運び去らせる; 令入 Saddh-p.

因 niyate 通, 牽引, 会釈 Abh-vy. 希求 因

因 ninīṣati(-te) (因, 因) へ導き去ろうと思う; (因) から除こうと思う; 跡をつけようと努める.

ati- ……を越えて導く, (因) を助けて越えさせる.

adhi- (因) から導き去る.

anu- (因) へ導く; ある人に近づける, 心を得ようと努める, 調停するまたは和解させる; (因, 因) を乞う; 起於愛重 Śikṣ. 過受分 anunita (因) を懇願した; 和解させられた.

pary-anu- しきりに懇願する.

praty-anu- (因) に関して (因) に親しい言葉をかける.

sam-anu- =anu-Ni (Jat-m.).

apa- 導き去る, 取り去る; 移す; 運び去る, 奪う; 解散する, 追い払う; (ある人の胸中から hrdayāt) 一掃する; (衣服等を) 脱ぐ; (因) から引き出す; (規則から) 省くまたは除く; 除, 去, 除去, 除遣, 除滅, 滅除, 除屏, 屏; 脱; 挽; 抽取 Bodh-bh., Divy., Lal-v., Sukh-vy. I., Śikṣ.; 決 Saddh-p.: kautūhalam apanaya 決疑 Saddh-p. 15. 不変分

apaniya 除遣 Bodh-bh.; apaniyāpaniya 数除遣 Bodh-bh. 396. 過受分 apanita (一) と反対な; 害を加えられた (Lal-v.). 希求 apaniniṣati 移したいと思う. 使役 apanāyaya- 令離, 令相去, 令捨 Bodh-bh., Divy.

vy-apa- 導き去る; 移す; 流し去る; (衣服を) 脱ぐ;

捨てる; 除断 Saddh-p.

api- (因) へ導く. 過受分 apinita 今にも死のうとしている, 死に瀕した.

abhi- (因) へ導く; 舞台上で上演する, 模倣する.

ava- (因) の中へ引き下ろす; (因) の中に置く; 解, 脱 Divy.

abhy-ava- (因) の中へ引き下ろす; (因) の中へ注入する.

sam-ava- 合わせ注ぐ, 集注する.

ā- (因, 因) へ次第に導く, ……に持ち来る, ……にもたらず, ……に取って来る; (因) をして持ってこさせる [不規則な 三過 ānayām āsa において]; (土 punar) 戻す, 旧に復す; 注入する; (因) に配当する; (ある状態または条件に) 置くまたは陥らせる [→ 単純動詞]; 将来, 持来, 取来, 牽来; 成; 聚; 放 Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr.: vaśam ā-Ni 服従させる. 使役 因 (因) ānāyayati (-te) 取り寄せる, もたらしめる; 担, 取, 奉 Divy., Lal-v.

abhy-ā- 注入する, 混ざる.

sam-ud-ā- 集める, 得る, 達する (Av-s., Divy.). 成し遂げる (Jat-m.); 完成させる, 完成する, 発展させる, 完全に到達する (Lal-v., Saddh-p.); [Pali samudāneti] 集, 積集, 普能積集, 積累, 等合集 Ast-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Raṣṭr., Śikṣ.; 修, 修集, 修習 Bodh-bh., Daś-bh., Saddh-p., Śikṣ.; 撰, 引撰 Bodh-bh., Śikṣ.; 具, 具足, 具足 (究竟), 具行; 辦, 備辦, 成辦, 嚴備, 營辦 Av-s., Bodh-bh., Divy., Saddh-p., Sukh-vy. I.; 逮得; 作; 運, 持 Divy., Gaṇḍ-vy., Raṣṭr.; 求 Bodh-bh. 過受分

samudānita [正しくは °nita] (Divy.). 使役 samudānāyaya- 求, 持来, 執取 Divy., Saddh-p. upā (upa-ā)- (因) を (因 または人物の 因) へ導くまたは持ち来る, 運ぶ.

pary-ā- 導き廻る.

praty-ā- もどす, 取り戻す, 回復する.

sam-ā- 集める, 結合する, (両手を) 組合わす; ……へ導くまたは持ち来る; 家へ連れ来る; (犠牲を) 捧げる. 使役 samānāyaya- 召集する; 集 Saddh-p. un (ud)- 持ち上げる; 挙げる, 高める; (感情を) 刺激する; 助け出す, 救う; 導き去る; (液体を) 汲み取るまたは汲み移す; 跡をたどるまたは発見する.

pron (pra-ud)- 挙げる, 高める.

sam-un(ud)- 高める, 挙げる; 鼓舞する, 刺激する; 推測する, 発見する; 支払う, (負債を) 弁済する.

upa- (因, 因) へ導くまたは案内する; (…の状態に) 置くまたは陥らせる; 持ち来る; 捧げる; 惹起する; 自身の許へ連れ来る, (弟子として) 認可する; 例を引く (Jat-m.); 将導, 奨道, 帰 Bodh-bh.; Daś-bh.; 示, 示現; 通 Bodh-bh., Lal-v., Lanḥ.; 奉 Lal-v.; 説, 開演 Lanḥ.; 取証 Ast-pr.; 感, 令感; 起 Bodh-bh.: apramāṇa-phalatāyām upanāyayati 感無量果, 起無量果 Bodh-bh. 使役 upanāyaya- (弟子として) 認可する; 引入 Saddh-p.

sam-upa- 持ち来る, もたらず.

ni- (囹, 囹) へ導く; 流し出す, 空虚にする; 贈る, 捧げる; (儀式を) 施行する.
 ava-ni- 浸す; (囹) の上に流し出す.
 sam-ni- 合わせ注ぐ, 注ぎ集める, 混合する.
 nir- 取り去る; 発見する, 確かめる; 確定する; 決定する. 過受分 nirṇita 決定した, 確定した.
 pari- 導き廻る [とくに花嫁の手をとって婚礼の火の周囲 (囹) を]; (少女を) 嫁す; 跡を辿る, 確かめる; 娶 Abh-vy.; [anyathā とともに] 異なった仕方
 で説明する, 異説を唱える.
 pra- 前へ導く, 導く; 運ぶ; (火を祭壇に) 持って行く, (供儀のために水を) 取って来る; 表わす, 示す; 愛情を表明する; (囹) に (罰を daṇḍam) 課す; 適用する, 使用する; 生ずる, 履行する, 実行する; 決心する, 決定する; 確立する, 教える; (詩等を) 作る; 希求する, 望む; 啓導, 開化, 普化 Bodh-bh., Daś-bh.; 造 Abh-vy.
 sam-pra- (囹) に (罰を daṇḍam) 課す; (貢物を) 徴収する.
 vi- 取り去る; 移す, 放逐する, 追い払う; (髪を) 分ける; 案内する; 躡ける, 馴らす, 調伏する; こらしめる; 教育する; (時を) 過す; 履行する; 調伏, 調伏, 化, 開化, 教化, 教, 教導, 度, 度脱, 開誘; 利益 Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Kāśy., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vin.; 除, 降 Daś-bh., Divy. 過受分 vinita (囹, 一) に巧みな; 躡けのよい, 訓練された; まじめな, 謙譲な. 使役 vināyaya- 令調伏 Bodh-bh.
 abhi-vi- 完全に教化する (Jāt-m.); 令入 Aṣṭ-pr. 過受分 abhivinita (囹) を教えられたまたはに巧みな.
 pra-vi- 化 Sūtr.
 sam- 持ち寄る, 集める, 結合する; 混合する; 持ち来る, もたらす, 獲得する; (負債を) 支払う, 弁済する.
 ni (ni-l) nyeti. → I
 -ni 導く, 案内する.
 ni-kāra 囹 下落, 屈從, 侮辱.
 𑀧i-kāśa 囹 外貌, 外見, 様子 (一° 囹 …のような, …に似た).
 nica 囹 [ny-añc-aの囹 囹] 低い; 短い (髪・爪); 深い (臍); 低められた (音声); 賤しい, 下劣な, 下等な; 賤, 下, 下劣, 卑小, 小卑, 下賤, 卑賤, 下賤家; 卑屈, 謙卑, 謙下, 謙卑忍下; 悪; 非処 Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr., 梵千.
 nicaka 囹 (女 -ikā) 低い; 短い; 軟い (声); 穏かな (歩行).
 nica-karman 囹 卑賤の職業に従事する.
 nica-kula 囹 下流の家族; 賤種, 下賤種, 下族, 下種族, 下種姓, 下種姓族, 下賤之家, 下劣之家; 下劣種姓; 卑賤 Bodh-bh., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Vajr-s.
 nicakula-prasūta 囹 本下種姓, 従下姓種族而生 Vajr-s.
 nicakulodgata (°la-ud°) 囹 卑賤の家系から出た.

nica-ga 囹 低く進む, 流れ下る (河); 身分の低い; 身分の低い男に属する.
 nica-gāmin 囹 低いまたは卑しいものに従う (婦人), 低い方に行く (河).
 nica-citta 囹 下劣想, 謙下心, 其心卑屈 Bodh-bh., Śikṣ.; 怠惰心 Śikṣ. 140.
 nica-jāti 囹 賤しい血統の.
 nicatara 比較 下, 卑賤, 卑小, 小卑 Bodh-bh., Suv-pr.
 nicataraka 囹 下 Mvyut.: ~e āsane 在下座 Mvyut.
 nīcatā 囹 低いまたは賤しい地位; 劣等, 下級, 卑賤.
 nīcatva 囹 下性 Suvik-v.
 nica-nica 囹 卑下 Śikṣ.: ~ena manasā 卑下 其意 Śikṣ. 150.
 nica-patha 囹 下り道.
 nica-mānasa 囹 心謙下 Suvik-v.
 nica-rata 囹 賤しいことを喜んだ.
 nica-vṛtti 囹 行下, 品悪 Mvyut.
 nīcā 囹 [ny-añc の囹] 低く; 下へ.
 nīcāt 囹 下から.
 nīcāvagāha 囹 身分の低い人々によって沐浴される (池).
 nīcā-vayas 囹 元気の乏しい, 意気の阻喪した.
 nīcāsana (°ca-ās°) 囹 卑下処 Vin.: ~e niṣaṇ-
 nā(h) 在卑下処 Vin. 194.
 nīcina 囹 下方への, 低くされた, 下げられた, 垂れ下った, 流れ下った.
 nīcina-bāra 囹 下方への出口をもつ.
 nīcāir-ākhyā 囹 「低い」と名づけられる (山 giri).
 nīcāis 囹 [囹 囹] 低く; 下に; 下方へ; 謙遜して; 穏やかに, 静かに (風が吹く); 謙下, Bodh-bh. ~r ~s tarām 次第に低く. ~r adṛṣyata 低くまたは小さく見えた.
 nīḍa 囹 囹 [ni-Sad より] 休息所, 住所; 巢; 車の内部.
 nīḍaka 囹 巢.
 nīḍa-garbha 囹 巢の内部.
 nīḍārambha (°ḍa-ār°) 囹 巢を造ること.
 nīta 過受分 導かれた, 連れ来った, 連れ去られた, もたらされた; 獲得された; 了 Abh-vy., Mvyut., Sūtr. → Ni.
 nīta-rātri 囹 夜を過した.
 nītārtha 囹 理解し易い, 意味の明瞭な; 了義 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.
 nītārtha-sūtra 囹 了義 Sūtr.; 了義経 Mvyut.; ~pratisarāna 依了義経 Mvyut. → neyārtha-sūtra.
 nītārtha-sūtrānta 囹 了義経 Madhy-v.
 nīti 囹 案内; 行為[とくに正しい, 賢明な, 道徳的の]; 処世術, 実践道徳, 道徳; 政治上のおよび社会の倫理; 思慮, 深慮, 常識; 政策; 政治, 統治法; 理, 道理, 議理; 規, 令儀軌範; 礼, 礼方 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., 梵千.
 nīti-kuśala 囹 人事の処置に巧みな, 政治または統治術に巧みな, 政略に富んだ.

niti-jña 形 [同上]; 深慮のある, 分別のある. 男 政治家.
 niti-doṣa 男 行為の過誤, 政策の過失.
 niti-nipuṇa 形 = niti-kuśala.
 niti-paṭala 男 政治に関する書または章.
 nītimat 形 (女 -i) 賢明に振舞う, 処世上の規則に通じた, 政策に巧みな, 深慮のある; 政治に関する知識を述べる; 具儀式 *Ast-pr.*
 niti-yukta 形 政策に通曉した; 統治を掌握した.
 nīti-vid 形 = niti-jña. 男 政治家.
 niti-vidyā 女 道徳または政治の学, 統治術.
 niti-vedin 形 niti-jña; 政策を知った.
 niti-sātaka 男 [処世に関する *Bhartṛhari* の百頌の詩の題名].
 niti-sāstra 男 政治倫理学, 処世の知識; 政治論.
 niti-saṃdhi 男 政治の真髓または要約.
 nītochraya (°ta-uc°) 形 高められた, 揚げられた, 増加された.
 nītha 男 旋律, 歌. 男 [人名].
 nīthā 女 路; 詭計, 策略, 工夫.
 nīdhra 男 屋根.
 nīpa 形 低い, くぼんだ. 男 [樹の名, 学名 *Nauclea cadamba*]; 男 [王族の名]. 男 *Nīpa* 樹の花または果実.
 nīra 男 水.
 nīra-ja 1. 男 蓮.
 nī-rajā 2. 形 塵埃のない; 熱情のない.
 nī-rajās 形 [同上].
 nī-rajaska 形 [同上]; 離諸蓋 [塵(?)] *Bud-dh-c.*
 nīrajās-tamasā 女 熱情と蒙昧を脱したこと.
 nīrajākṣi 形 女 蓮のような目をもつ, 麗わしい女.
 nīra-jāta 形 水から生じた, 水生の.
 nīraji-Kṛ, 塵埃を除去する.
 nīra-da 1. 男 (水を与えるもの), 雲.
 nī-rada 2. 形 齒のない.
 nīra-din 形 雲に覆われた, 雲の多い.
 nīra-dhara 男 雲.
 nīra-dhi 男 海洋, 大洋.
 nīra-nidhi 男 [同上].
 nī-randhra 形 間隙または孔隙のない; 緊密な, 緻密な, 連続した. °一 圖 絶えず.
 nī-randhratā 女 密接な連結または結合, 緊密, 緻密.
 nī-randhrita 過受分 (一°) をもって厚く取り巻かれた; 連続した.
 nīra-patātrin 男 水鳥.
 nīra-rāsi 男 大洋, 海.
 nīra-ruha 男 蓮.
 nī-rava 形 音のない, 無言の.
 nī-rasa 形 汁気のない, 液のない, 萎れた, 乾いた, 乾燥した; 趣きのない, 味のない; 魅力のない, 退屈な; …に対して少しの趣味ももたないまたは…について少しの感覚ももたない; 無感覚な.
 nī-rāga 形 色のない, 熱情がない.
 nī-Rāj nīrājayati (使役). → Rāj.
 nī-rājana 男 (王によって行われる武器・軍隊の) 浄

めの儀式.

nīrājana-vidhi 男 nīrājana の儀式.
 nī-rājanā 女 = nī-rājana.
 nī-rājita 過受分 → Rāj.
 nī-Ri, → Ri.
 nī-ruc 形 光輝のない, 曇った; 美を失なった.
 nī-ruj 形 苦痛のない; 病いのない, 健康な, 壮健な.
 nī-ruja 形 [同上].
 nī-rūpa 形 形のない.
 nī-reṇuka 形 塵埃のない.
 nī-roga 形 病いのない, 健康な, 壮健な.
 nī-rogatā 女 無病, 健康.
 nī-roga-durbhikṣa 形 疾病にも飢饉にも悩まされない.
 Nil, I. 男 nilatī 暗くなる, 暗く見える.
 nila 形 黒ずんだ, 黒い; 暗色のとくに暗青色の, 青い; 青, 蒼, 青緑, 紺, 紺青, 紺青色 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Mvyut., Prāt-m., Śikṣ., Sukh-vy. II., 梵千.: ~ āni ~ varṇāni ~ darśanāni ~ nīrbhāsāni* 青色青頭青影青光 *Ast-pr.* 933. → *abhibhvāyatana, indra ~.* 男 サファイア (青玉); [植物の名]; [諸人の名]; [ある *Nāga* の名]; [山の名]. 男 暗色, 暗黒; 濃青色, 藍色; 藍; 青, 青瘀 *Ast-pr., Gaṇḍ-vy.:* 二十種色. [1. ~ m 青, 2. *pītam* 黄, 3. *lohitaṃ* 赤, 4. *avadātama* 白, 5. *abhram* 雲, 6. *dhūmaḥ* 烟, 7. *rajaḥ* 塵, 8. *mahikā* 霧, 9. *chāyā* 影, 10. *ātapaḥ* 光, 11. *ālokaḥ* 明, 12. *andhakāraḥ* 暗, 13. *dīrghama* 長, 14. *hrasvama* 短, 15. *vṛttama* 円満, 16. *parimaṇḍalam* 円満, 17. *sātama* 正, 18. *viśātama* 不正, 19. *unnatama* 高, 20. *avanatama* 下] *Mvyut.*
 nīla-kaṇṭha 形 青い首をもつ. 男 孔雀; [*Śiva* 神の称]; [人名, とくに *Mahābhārata* の註釈家の名]; 青頭, 青身天 *Lal-v., Suv-pr.;* 圖写 尼乾陀, *Suv-pr.*
 nīla-kṛtsna 形 青遍 (処定) *Gaṇḍ-vy.*
 nīlakṛtsnāyatana (°na-āy°) 男 青遍処, 青遍処 (定) *Mvyut.*
 nīla-keśa 形 紺髪, 髪紺青, 紺(瑠璃)髪 *Gaṇḍ-vy.*
 nīla-giri 男 [山脈の名, *Nīlgiri*].
 nīla-grīva 男 [*Śiva* 神の称].
 nīla-echavi-varṇa 形 肉色青, 肉色大青, 肉者大青 *Mvyut.*
 nīla-jā 女 [*Vitasta* 河の称].
 nīlatā 女 青いこと, 暗青色.
 nīla-toya-da 男 暗雲.
 nīla-nicolin 形 黒い外套を着用した.
 nīla-nidarśana 形 青現 *Mvyut.*
 nīla-nīrbhāsa 形 青光 *Mvyut.*
 nīla-nīraja 男 青い蓮.
 nīla-nīlāmbara-rāji 女 青林, 青樹林, 緑色樹林 *Diry.*
 nīla-pakṣman 形 黒いまつげ (睫毛) をもつ.
 nīla-paṭa 男 暗色の衣服.
 nīla-paṭala 男 (盲眼の) 黒い膜.
 nīla-piṭa 男 記録および王の勅命の集録 (仏教).

nila-pita 𠄎 暗緑色の。
 nila-pura 田 [町の名]。
 nila-purāṇa 田 [ある Purāṇa の題名]。
 nila-bhāṇḍa-svāmin 男 藍の大桶の持ち主。
 nila-bhū 田 [河の名]。
 nila-makṣā 女 青い蠅または蜂 (の一種)。
 nila-makṣikā 女 [同上]; 蒼蠅, 青蠅 Śikṣ.
 nila-maṇi 男 サファイア (青玉)。
 nila-muktā-hāra 男 青真珠瓔珞, 青色真珠寶, 瓔珞 *Sukh-vy. I.*
 nila-rakta 𠄎 青赤 *Laṅk.*
 nila-ratna 田 = nila-maṇi。
 nila-rāji 女 黒いすじ (条), 暗黒。
 nila-lohita 𠄎 暗青と赤との [同時にまたは代る代るに]; 暗赤色の, 青と赤との混合。
 nilavat 𠄎 黒ずんだ, 暗い。
 nila-varṇa 𠄎 濃青色の, 青色の; 青色, 青頭 *Mvyut., Sūtr.*
 nilavarṇa-śṛgālavat 圃 青い豺のように。
 nila-vasana 田 黒衣または青色の衣服。
 nila-vānara 男 [青い猿の一種]。
 nila-vāsas 𠄎 濃紺の衣服を纏った。 男 [Balarāma の称]。
 nila-vṛṣa 男 黒色の牡牛。
 nila-vaidūrya-maṇi 男 紺瑠璃摩尼。
 nila-ṣaṇḍa 男 放たれた黒色の牡牛。
 nila-saṃdhāna-bhāṇḍa 田 藍を作るための大桶。
 nila-saroruha 田 青蓮, 青色の睡蓮。
 nilāṃśuka 田 青色の衣服。
 nilāṅga 𠄎 黒い肢体をもつ。 男 [こうのとり (鸚) または鶴の一種 (インド鶴または学名 *Coracias indica*)]。
 nilāñjana 田 黒いまたは青いアンチモニー, 同上製の眼膏。
 nilāṇḍa-ja 男 [羚羊または鹿の一種]。
 nilāda 男 (°la-āda) [ある Yakṣa の名] (*Divy.*)。
 nilābja 田 青蓮。
 nilābhra-saṃvṛta 𠄎 暗雲で覆われたまたは暗くされた。
 nilāmbhoja 田 青蓮。
 nilāya 名動 田 nilāyate 暗くまたは青くなり始める。
 nilāyudha (°la-āy°) 男 圃 [住民の名]。
 nilāruṇa 男 暗赤色のまたは最初の曙光; 東方初発白 *Mvyut.*
 nilāla-ka-varūthin 𠄎 黒い捲髪でめぐらされた。
 nilāśoka 男 [青い花のある *Aśoka* 樹の一種]。
 nilāśman 田 サファイア (青玉)。
 nilāśva 男 [地方の名]。
 nilikā 女 [植物の名, 学名 *Blyxa octandra*]; [河の名]。
 nilini 女 藍の草。
 niliman 男 黒いこと, 暗黒, 暗色。
 nili 女 藍; 靛 *Mvyut.*
 nili-bhāṇḍa 田 藍を容れた器, 藍の大桶。
 nili-rasa 男 藍の液汁。
 nili-varṇa 𠄎 藍色の。
 nilotpala (°la-ut°) 田 青蓮 [学名 *Nymphaea cyanea*;

]; 青蓮, 青蓮花; (音写) 青優鉢羅華 *Guhy-s., Saddh-p., Śikṣ.*
 nilotpala-gandha 男 [Samādhi の名] (*Kar-vy.*)。
 nilotpalamaya (°la-ut°) 𠄎 青蓮からなる。
 nilotpalā 女 [ある Apsaras の名] (*Kar-vy.*)。
 niloda (°la-uda) 男 [山および大洋の名] (*Divy.*)。
 nilopala (°la-up°) 男 サファイア (青玉)。
 niva 男 [樹の名]。
 ni-varaṇa 田 [= nivarana] 障害 (*Sukh-vy. I.*); 障, 蓋, 蓋障, 障蔽, 覆蔽, 蔽, 陰蓋 *Lal-v. Mañj-m., Mvyut., Śikṣ.*; (音写) [数の名] 尼羅闍 (?), 涅唎囉那 *Mvyut.*
 nivarana-viṣkambhin 𠄎 除蓋障 *Mañj-m.*
 nivāra 男 野生の米 [圃 その植物, 圃 その穀粒]。
 nivāra-kaṇa 男 米粒。
 nivāra-bali 男 野生の米の供物。
 nivāra-muṣṭi-pacana 𠄎 一握りの野生の米を煮る, すなわち食事に非常に儉約な。
 nivāra-śaṣpa 男 圃 野生米の穀粒と草の新芽。
 nivārā 女 [河の名]。
 nivāraudana (°ra-od°) 田 野生米の粥。
 nivi 女 前掛け, 腰巻 (または婦人の着用する); 抵当。
 nivi 女 [同上]; 資本 (金)。
 ni-vṛt 女 人の住んでいる土地, 国土。
 nihāra 男 [時として 圃] 霧, 白霜, 氷花, 露; 霧, 霞, 烟, 煙霞 *Lal-v., Mvyut., Sūtr.*
 nihāra-kara 男 月 (太陰)。
 nihāra-cakṣus 𠄎 霧で眼を覆われた。
 nihāramaya 𠄎 霧からなる。
 nihāri-Kṛ, 霧に変える。
 niḥa, 田 = niḍa。
 Nu 1., II. 田 nauti [ただ pra- のみ]; I. 田, 田 navati, -te (田); III. 田 nuvati (田) ほえる, 叫ぶ; 非常に喜ぶ; (業) を称讃する。 過受分 nuta 称讃された。
 abhi- (業) に叫ぶ。
 ā- 響く, 鳴る; 叫ぶ。
 pra- (praṇauti, praṇuvati) ほえる, 叫ぶ; om と低誦する。
 vi- 称讃する。
 saṃ- とともにほえるまたは叫ぶ。
 Nu 2., I 田 navate (RV.); II. 田 (apa- とともに), -nauti (S.). 使役 田 nāvayati 移す, 撤去する。
 ati- 使役 田 atināvayati 他へ転ずる。
 apa- 側に置く, かたづける, しまっておく。
 vi- 田 異なった方向に向かう (自動)。
 nu, nū 田 今, なお; …すら, すでに; そこで, 故に [結論または勸奨の場合]; 決して…ない (田); 実に, まさに, 確かに; [田 とともに] 願わくは [二重の疑問の場合第二の nu は時として svid または yadi vā で代用される]; 今 *Saddh-p.* → yan ~. ~…~…か または…か。 ~cid 今後, 永久に; 直ちに; 決して再び…ない。
 nuta 過受分 → Nu 1.
 nuta-mitra 男 [人名]。
 nuti 女 讚辞, 称讃。

nutta 過受分 → Nud.

nutti 因 駆逐, 除去.

Nud, VI. nudati (-te) 押す, 突く; 駆る, 押しやる, 推進する; 追う; 追い払う, 移す. 過受分 nutta,

nunna 押し動かされた; 刺激された, 促された; 離別された(妻). 使役 他 nodayati 刺激する, 促す.

陰意 自 nonudyate 駆逐する.

apa- 駆逐する, 消散させる, 追い払う, 追放する; 移す.

apā (apa-ā)- 投げ捨てる, 移す.

upa- 過受分 upanunna …の近くに追いやられた, …の側に押し寄せられた.

nir- 駆逐する, 移す; 退ける.

parā- 押しつける, 駆逐する; 移す.

pra- 推進する, 駆逐する; 追い払う, 消散させる, 解散させる. 過受分 pranutta, pranunna. 使役

過受分 pranodita 動き出させた, 駆った, 追い払われた, 動揺させられた.

ati-pra- 強く促す.

vi- 散り散りに追い払う; 駆逐する, 取り除く. 使役

vinodaya- [同上]; (時を) 過す; 活気を与える, 慰める; (因) をもって自ら紛らすまたは慰める; 陰意 断, 捨, 除滅; 消除 Bodh-ūh., Śiks.; 能解, 開解, 能為開解 Bodh-bh.; na vinodayati 堅持不捨 Bodh-bh. 168.

prati-vi- 放逐する, 追放する (Divy.); 陰意 除, Divy. 使役 prativinodayati [Pali paṭivinodeti] 追い散らす, 駆り出す, 遷す, 免れる (Divy.); 陰意 捨, 捨離, 令離, 息定, 除 [prativinodapayitum (不定) Vin. 8.] Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Vin.; 令覚, 為開解 Bodh-bh.

sam- 使役 samnodayati- 集める; 促す.

-nud 形 押し進める, 追い払う, 移す.

-nuda 形 (因 -ā) [同上]; 傷けられた, 害された; 陰意 除, 消除 Lal-v.

nunna 過受分 → Nud.

nū, → nu.

nūtana 形 新しい; 若い, 新鮮な; 若年の; 最近の, 近頃の; 現在の; 新奇な, 珍しい.

nūtana-yauvana 形 全く若い, 新鮮な.

nūtaneśvara (°na-iś°) 男 若い王.

nūtna 形 = nūtana; 未来の.

nūtna-vayas 形 花も盛りの年頃の, 青春の.

nūna 副 [韻律, = nūnam] 陰意 今 Saddh-p. 351.;

yan ~ ham pi 我今…亦 Saddh-p. 55.

nūna-bhāva 男 可能性.

nūna-bhāvāt 副 恐らく, ほとんど.

nūnam 副 今, 正に, 目下; 直ちに; 今後; そこで, 故に (因); たいてい, 確かに, 間違いなく; 陰意 今; 定, 定能, 決定, 必能, 真実無疑, 豈非 Bodh-bh.,

Divy., Mvyut., Saddh-p.

nūpura 男 因 足首またはくるぶし (踝) の飾り, 足環 (とくに婦人の); 陰意 足釧 Mvyut.

nūpuravat 形 足首の飾りをつけた.

nūpura-śiñjita 形 足環を鳴らす.

nūpurottamā (°ra-ut°) 因 [ある Kimnara の少女の

名] (Kar-vy.)

nr 男 男; 男性 (因法); 英雄; 因 男たち, 人々, 人類; 陰意 人 Abh-k., Abh-vy.; 他, 衆生 Lank., Sūtr.

nr-kalevara 男 人体または屍体.

nr-kukkura 男 犬のような人.

nr-ga 男 [古代の王の名]; [人名].

nr-cakṣas 形 人間を観察または監視する.

Nrt, IV. 他 nrtyati 踊る; 身振りをする, (舞台上) 演ずる, 演出する; 陰意 舞躍 Bodh-bh. 使役 nar-

tayati 踊らせる, 動き廻らせる, (孔雀を) 跳ね廻らせる. 使役 過受分 nartita. 陰意, 他 narinartti,

他, 自 narinrtyati (-te) 踊り廻る; (因) の周囲を踊り廻らせる.

anu- (因) に従って踊る; (因) の前で踊る.

ā- 使役 ānartaya- ゆるやかに刺激する・動かすまたは乱す.

pra- 他 自 踊り始める・踊り進む, 踊る. 過受分 pranrta 踊る. 使役 pranartaya- 踊らせる (譬喩).

abhi-pra- 踊る.

nrtā 因 男性, 男であること.

nrti 因 舞踊; 優雅.

nrtu 形 快活な, 活気のある.

nrtū 男 舞踊者, 俳優.

nrtta (過受分) 因 舞踊; 陰意 舞, 倡伎 Bodh bh. Rāstr., Śiks.

nrttaka 男 陰意 (種種) 変現之戲, 歌楽遊戯 [<nrt-yaka. Tib. gar byed pa, Pali naccaka, 舞踊者] Saddh-p. 276.; nata ~ 那羅等種種変現之戲, 歌楽遊戯 Saddh-p. 276.

nrttamaya 形 (因 -i) 舞踊からなる.

nrtya 因 舞踊; 身振り, 無言劇; 陰意 舞, 伎楽, 伎芸 Ast-pr., Śiks., 梵干.

nrtya-gita 因 因 舞踊と唱歌; 陰意 歌舞 Bodh-bh., Śiv-pr.: kuśalam ~ eṣu 善作於歌舞, 歌舞令他楽, 歌舞作伎楽 Śiv-pr. 13.

nrtyamāna 現分 陰意 鋸躍, 舞躍 Bodh-bh., Lank.

nrtya-śāstra 因 舞踊の学.

nr-durga 形 人々の近づきにくいすなわちよく防護された. 因 十分に防護された所.

nr-durga-deva 男 王, 王侯.

nr-durga-devi 因 女王, 王妃.

nr-pa 男 (人々の守護者), 王, 王侯; 陰意 王, 人王, 主, 人主 Bodh-c., Buddh-c., Lank., Śiks., Śiv-pr.

nrpa-kārya 因 王の事務.

nrpa-kriyā 因 支配, 主権.

nrpa-grha 因 王宮.

nrpa-jana 男 因 [集合的に] 諸王, 諸侯.

nrpa-jaya 男 [王侯の名].

nr-pati 男 王侯, 王, 支配者; 陰意 王, 帝王 Bodh-c., Śiks.

nrpati-kanyakā 因 王女.

nrpati-patha 男 王の道路, 公道, 大道.

nrpati-bhāryā 因 陰意 后 Gand-vy.

nrpati-śāsana 因 王命, 王の布告.

nrpatva 因 王位, 王権, 主権; 陰意 王 Lank.

nṛpa-dīpa 男 燈火のような王侯。
 nṛpa-niti 因 王の治国策, 王の政策。
 nṛpa-putri 因 王女 *Rāṣṭr.*
 nṛpa-mandira 因 王宮。
 nṛpa-rṣi 男 = rāja-rṣi すなわち王族出身の聖賢。
 nṛpa-liṅga 因 王の標章。
 nṛpaliṅga-dhara 因 王の標章を着けた。
 nṛpa-vallabha 男 王の寵人, 「マンゴーの一種」。
 nṛ-paśu 男 獣のような人; 性の獣として用いられる人, 人間のいけにえ (生贄)。
 nṛpa-śreṣṭha 最上 諸王中の最勝者。男 [なつめの一種]。
 nṛpa-suta 男 王子。
 nṛpa-sutā 因 王女。
 nṛpa-snuṣā 因 王子の妻。
 nṛpāṅgaṇa 因 宮廷。
 nṛpāṅgana 因 = nṛpāṅgaṇa。
 nṛpāṅganā 因 王女, 女王, 王妃。
 nṛpātma-ja (°pa-āt°) 男 王侯の子, 王子; 漢訳 王子 *Rāṣṭr.*
 nṛpātma-jā (°pa-āt°) 因 王女。
 nṛpādharma 男 漢訳 無道王 *Lank.*
 nṛpāryaman 男 太陽のような王。
 nṛ-pāla 男 (人々の守護者), 王, 王侯。
 nṛpālaya (°pa-āl°) 男 王宮, 王の邸宅。
 nṛpāsana (°pa-ās°) 因 王座, 王位; 漢訳 王座 *Saddh-p.*
 nṛpāspada (°pa-ās°) 因 王宮。
 nṛpecchā (°pa-ic°) 因 王の快樂。
 nṛpendra (°pa-in°) 男 漢訳 王, 国王 *Lank.*
 nṛ-prajā 因 人間の子供たち。
 nṛmaṇā 因 [河の名]。
 nṛ-māṃsa 因 人肉。
 nṛmāṃsāsana 因 人肉を喰う, 食人の。
 nṛmaṇa 因 男らしさ, 勇気; 力, 能力。因 幸福をもたらす。
 nṛ-yajña 男 人々に捧げる祭記すなわち厚遇, 歓待。
 nṛ-loka 男 人間の世界, 地上; 漢訳 人世 *Śikṣ.*
 nṛloka-...a 男 大地または地上の守護者。
 nṛvat 因 男らしい; 人間に属するまたはからなる。
 nṛ-vara 男 人々の中で最勝な者, 首長, 主権者, 王, 王侯。
 nṛ-vāhya 因 こし(輿), 駕籠, かご(轎)。
 nṛ-vidamba 因 人の真似をするまたは模倣する。
 nṛ-śaṃsa 因 人類に有害な, 有害な, 残酷な, 悪意のある, 賤しい。男 兇悪漢, 賤民; [ある神の名]。
 nṛśaṃsa-kārin 因 残酷な行為をする, 有害な。
 nṛśaṃsa-kṛt 因 [同上]。
 nṛ-śaṃsatā 因 有害, 残酷, 卑賤。
 nṛśaṃsa-varṇa 因 賤しい言葉を用いる。
 nṛśaṃsa-vādin 因 [同上]。
 nṛ-śaṃsita 因 = nṛ-śaṃsatā, 悪意, 残酷, 卑賤。
 nṛ-śaṅgu 男 [聖仙の名]。
 nṛ-sadgu 男 [同上]。
 nṛ-śad 因 人々の間に坐っている。
 nṛ-simha 男 人獅子, 獅子のような人, 大英雄; (半)人

(半)獅子; [*Viṣṇu* 神の第四の権化 (*Āvatāra*)]; [諸人の名]。

nṛ-simhaka 男 人獅子, [*Viṣṇu* 神の称]。
 nṛ-sūrya 男 太陽のような人 (*Buddh-c.*)。
 nṛ-soma 男 月のような人すなわち著名な人。
 nṛ-hari 男 = nṛ-simha。
 nejaka 男 洗濯夫。
 nejana 因 洗濯; 洗濯所。
 netavya 未受分 導かれるべき; (業)へ導かれるべきまたは運ばれるべき; 使用されるべき; 調査されるべき; 漢訳 持去 *Suvik-v.*
 netṛ 男 [業 とともに] 指導する者, 捧呈する者; 因 [三人 因 として] 彼は導くであろう; (業, 一°)の指導者, …の案内者; 首長, (罰を *dandasya*) 課する人; (劇における) 主役, 主人公; 漢訳 [仏の称] 導師, 善導 *Cat-ś., Mvyut.*
 netṛkatva 因 漢訳 開導 *Bodh-bh.*
 netṛtva 因 指導者または首長の職または業務。
 netṛmat 因 netṛ という語を含んでいる。
 netra 男 指導者, 案内者 [一° 因]。因 案内; 眼; [布の一種]; ヴェール; (鑽木 *araṇi* または独楽等を) 回転させる糸; 樹木の根; 漢訳 目, 眼 *Bodh-c., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*; 瞻視, 瞻視 *Lank.*; 絹 *Mvyut.*; 打扒繩 *Mvyut.*; *animiṣair ~ aiḥ* 目下暫捨, 未曾陶 *Saddh-p. 147.*
 netra-kośa 男 瞳; 蕾。
 netra-koṣa 男 [同上]。
 netra-kautūhala 因 両眼の烈しい熱望。
 netra-gocara 因 眼界の中にある, 見える。
 netra-capala 因 きよろきよろ落着かない目つきをする, 絶えず眼を動かす。
 netra-ja 因 両眼から生じた。因 涙。
 netra-jala 因 涙。
 netrajala-srava 男 涙の流れ。
 netra-niṃsin 因 両眼に接吻するまたは触れるすなわち閉じる (睡眠)。
 netra-peya 因 見とれるすなわち眼を楽しませる。
 netra-praṇayin 因 (業) の眼を望むすなわち…の眼前に来る, …の前に現れる。
 netra-bandha 男 眼隠し, 眼隠し遊び, 隠れんぼう。
 netra-muṣ 因 眼を盗むすなわち眼を奪う。
 netra-vāri 因 涙。
 netra-viṣa 因 眼に毒をもつ。
 netra-saṃcāra 男 漢訳 動眼相, 動睛, 動目睛 *Lank.*
 netrāñjana 因 眼につける軟膏, 眼膏。
 netrāmbhas 因 涙。
 netri 因 漢訳 眼 *Rāṣṭr. 9.* → *dharma ~.*
 netrika 因 灌腸器; ひしゃく; 漢訳 薬匙 *Mvyut.* → *bhava ~.*
 netri 因 漢訳 眼, (法) 眼 *Ast-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*; 正法 *Lank.*; 続索 *Bodh-bh.*; *mahā-karuṇā ~* 大悲眼 *Śikṣ. 63.* → *dharma ~, buddha. ~.*
 netri-pada 因 漢訳 理目足論, 道理足論 *Abh-vy.*
 netri-vināśaka 因 漢訳 滅壞 (法) 眼 *Lank.*
 netrotsava (°ra-ut°) 男 眼を楽しませるもの, 眼の保養, 美しいもの

netry-avaikalya 形 漢語 (法) 眼不壞不滅 *Ast-pr.*
 Ned, I. 田 nedati 行く, 流れる.
 ati- 溢れる.
 ned 不変辞 …でない, まさに…でない (強調); [接, 命, 器 とともに] …でないように, …しないように (*Lat. ne*); ~t tu けれども…しない, けれども決して…しない.
 nediṣṭha 最上 もっとも近い, すぐ次の; 全く近い; …に通じた, …に精しい. ~m 副 次に; 全く近接して; 最初に. 田 もっとも近い処から.
 nediya 比較 より近い; 全く近い. ~m 副.
 nediyo-maraṇa 形 死の迫った, 瀕死の.
 nepathya 田 裝飾, 化粧, 衣裳; 舞台衣裳, 扮装 (俳優の); 衣裳部屋, 楽屋, 舞台裏の場所; 飾, 粧, 粧 *Divy., Mvyut.* 田 舞台裏で.
 nepathya-gr̥ha 田 化粧室, 衣裳部屋, 楽屋.
 nepathya-grahaṇa 田 化粧をすること.
 nepathya-vidhāna 田 [同上].
 nepathya-savana 田 十分に化粧してまたは着飾って行なう儀式.
 nepathyābhimukham 副 楽屋または舞台裏に向って.
 nepāla 男 *Nepal* (地名); 田 *Nepal* の住民, *Nepal* 人.
 nema 形 一人; 数人; [繰返した時] 一は…他は….
 °一 半分の. 田 漢語 音写 [数の名] 禰摩 *Mvyut.*
 nemi 田 (車輪の) 輪ぶち; へり (辺), ふち (縁), 周田; 輞, 輻網, 車輻網, 車輻条 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.*
 -nemika 形 輞 *Bodh-bh.*
 nemi-ghoṣa 男 車輪の響き.
 nemi-cakra 男 [王侯の名].
 nemi-dhvani 男 車輪の響き.
 nemin 男 (?) [植物の名, 学名 *Dalbergia ougeinensis*]; [現在の *Utsarpinī* の第二十二 *Arhat* の名]; 漢語 音写 尼弥 *Lank.*
 nemi-ninada 男 = nemi-dhvani.
 nemindhara 男 = nimindhara (*Dharm-s.*).
 nemi-vṛtti 形 (圓) の轍を進む, …に全く従う.
 nemi-śabda 男 車輪の響き.
 nemi-svana 男 [同上].
 neya 未受分 (因) へ案内されるべき, 導かれるべき, 服従すべき; (罰を) 課せられるべき; ある状態 (業) にもたらされるべきまたは陥らされるべき, 過されるべき (時); 推測されるべき; 漢語 所引, 引奪, (他) 所引奪 *Bodh-bh.* → ananya ~.
 neyārtha 形 その意義がわずかに推量される; 漢語 不了義 *Bodh-bh., Mvyut.*
 neyārtha-sūtra 田 漢語 不了義経 *Mvyut.*: ~pratisaraṇa 依不了義経 *Mvyut.* → nitārtha-sūtra.
 neyārtha-sūtrānta 男 漢語 不了義経 *Madhy-v.*
 nela 男 漢語 音写 [数の名] 泥羅 *Mvyut.*
 nelu 男 漢語 音写 [数の名] 泥羅, 語廬 *Mvyut.*
 nevala 男 漢語 音写 [数の名] 泥婆羅 *Mvyut.*
 neṣṭu 男 土または粘土の塊.
 neṣṭr 男 (*Soma* 祭に際して祭主の妻を導き, *Surā* 酒を調製する) 祭官.

neṣṭriya 形 neṣṭr に関連する.
 naika (na-eka) 形 一より多くの, 多くの; 田 種々の, 数多くの.
 naika-cara 形 群居する, 群棲する (動物).
 naikaṭika 形 [nikaṭa から] 隣接した.
 naikaṭya 田 近接, 親密, 近隣. → nikaṭa.
 naika-duḥkha-da 形 多くの悲歎を引き起す.
 naika-dṛś 男 [*Viśvāmitra* の子の名].
 naika-prṣṭha 男 田 [民族の名].
 naika-bhāvāśraya (°va-āś°) 形 変り易い, 不安定な.
 naika-māya 形 多くの策略を用いる.
 naika-mukha 田 多くの顔のある (*Buddh-c.*).
 naika-rūpa 形 多くの形をもつ, 様々の.
 naika-varṇa 形 多彩の.
 naika-vikalpa 形 多様の, 多種の.
 naika-vidha 形 [同上].
 naikaśas (°na-ek°) 副 反覆して, 再三再四, たびたび; 漢語 不一樣, 無非幾個 *Mvyut.*
 naika-śastramaya 形 (因-i) 種々の飛道具からなる.
 naikāyika 男 [ni-kāyaから] 漢語 部, 衆 *Abh-vy., Bodh-bh.*; (二) 乘 *Lank.*
 naikārtha 男 漢語 非一義 *Lank.*
 naikṛtika 形 [ni-kṛtiから] 不正直な, 詐欺的の; 卑劣な; 賤しい.
 naigama 形 (因-i) *Veda* の引用句 (nigama) に関連したまたは個有の; *Veda* 聖典の. 男 *Veda* の解釈者; 市民; 交易者, 商人; 方法; 漢語 城邑, 国邑, 郡国 *Bodh-bh., Gand-vy.*; 城裏人, 地城人 *Mvyut.*; 宰官 *Saddh-p.*, 梵維.
 naigama-jana-pada 男 住人; 同国人; 漢語 人民, 諸人民, 城邑人民, 城邑人衆, 城邑聚落 *Bodh-oh., Gand-vy., Śikṣ.*
 naigama-jāna-pada 男 [同上]; 漢語 人民, 国内人民, 郡国人民 *Saddh-p.*
 naigama-bhāryā-rūpa 田 漢語 宰官婦女身 *Saddh-p.*
 naigama-rūpa 田 漢語 宰官身 *Saddh-p.*
 naighaṇṭuka 形 [ni-ghaṇṭuから] 附随的に述べられた. 田 語の索引とくに *Veda* の語彙 [*Yaska* 著作 *Nirukta* の基礎となった *Veda* の語彙].
 naiciki 田 良い牝牛.
 naija 形*自身の, 自己に属する.
 naitala 形 *Nitala* 地獄に関連した.
 naitala-sadman 形 *Nitala* 地獄に住する.
 naityaka 形 [nityaから] 規則正しくまたは継続して行なわれるべき, 不変の, 常任の, 義務的の [naitmittika の因]. 田 定期的に行なわれる祭式; 漢語 供会, 常例供食 *Mvyut.*
 naityika 形 [同上 (因)].
 naidāgha 形 (因-i) 暑熱の季節に属する, 夏の, 焦がす, 灼きつくような. 男 夏, 暑熱季.
 naidāna 男 語原学者.
 naidānika 男 病理学者.
 naidēśika 男 (命令を遂行する者), 召使.
 naidra 形 (因-i) 睡眠を催す; 閉じた (花).
 naidhana 形 最後の; 死に関連した; 死滅しやすい; 葬式の (火). 田 死, 破壊.

naidhruvi 男 [聖仙 (ṛṣi) *Nidhruva* からの [父系].
 naipuṇa 中 [ni-puṇa から] 器用, 巧妙; (圖, 一°) の
 経験; 完全, (圖) の全体; (一°) の完全な知識, …
 への固い執着. ~eṇa 圓 完全に, 正確に. 一° 形
 =nipuṇa 堪能な (*Jāt-m.*).
 naipuṇya 中 [同上]; 漢訳 審悉 *Bodh-bh.*
 naibandhika 男 [ni-bandha から] 漢訳 繫縛 *Sūtr.*
 naibīḍya 中 [nibīḍa から] 緻密; じかの接触.
 naibhṛtya 中 [ni-bhṛta から] 静けさ, 沈黙, 謙讓; 秘
 密. → a~.
 naimaya 男 商人.
 naimittaka 男 卜占者, 占星師 (*Divy.*).
 naimittika 形 (安-i) [ni-mitta から] あるまたは特殊
 の原因によって生じた; 偶然の, 特別の, 臨時の (と
 くに祭式); 漢訳 唯有外相, 纔有形相 *Rāṣṭr.*; 些有
 月花, 男根微現者 *Rāṣṭr.*; 詐現異相 *Suvik-pr.*;
 一° 従…生 *Buddh-c.* 中 結果; 漢訳 果 *Abh-vy.*;
 依因 *Sāṃkhy-k.* 男 卜星者, 予言者; 漢訳 相士, 相
 師, 善相師, 善明相師, 占相者 *Divy., Gaṇḍ-vy.,*
Lal-v., Mvyut.
 naimittikatā 女 漢訳 現相 *Bodh-bh.*
 naimittikatva 中 漢訳 現相 *Mvyut.*
 naimiṣa 中 [神聖な森の名, この森で *Sauti* が *Mahā-*
bhārata を物語る]. 男 種 *Naimiṣa* 森の住者.
 naimiṣa-kānana 中 *Naimiṣa* の森.
 naimiṣa-kuñja 中 [*Naimiṣa* 森中の聖浴地の名].
 naimiṣāyana 形 *Naimiṣa* 森に住する.
 naimiṣīya 形 *Naimiṣa* 森に関連するまたはある. 男
 種 *Naimiṣa* 森の住民.
 naimiṣeya 形 [同上 (形)].
 naiyagrodha 形 nyagrodha 樹 [学名 *Ficus indica*]
 に関連したまたはで作る.
 naiyatya 中 [ni-yata から] 決定, 固定, 必要; 急迫.
 naiyamika 中 [ni-yama から] 規則との適合; 漢訳
 定, 決定 *Abh-vy.*
 naiyāyika 形 *Nyāya* 派哲学に関連するまたはを知っ
 ている. 男 *Nyāya* 派の学徒, 弁証論者, 論理家;
 漢訳 諸異部, 種種異身, 余支分 *Lank.*
 nairāñjana-vāsini 女 漢訳 (音写) 尼連河神, 尼連河
 水神 *Suv-pr.*
 nairāñjanā 女 [河の名]; 漢訳 不樂著河; (音写) 尼
 連河, 尼連禪河, 尼連禪那河, 聶藍撈納溝 *Buddh-c.,*
Divy., Lal-v., Mvyut., 玄心; (音写) 尼連, 尼連禪,
 熙連禪, 尼連禪那 *Divy., Lal-v., Mvyut.,* 玄心.
 nairantarya 中 [nir-antara から] 中断されないこと;
 密接な連続; 漢訳 相続, 無間, 相続無間, 相続不
 断; 不廢; 次第 *Bodh-bh., Lank., Madhy-vibh.,*
Sūtr. ~eṇa 圓 間断なく, 絶えず; 漢訳 無間, 不
 欲暫廢 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 nairantarya-paramatā 女 漢訳 無間最勝, 無間(修)無
 比 *Madhy-vibh.*
 nairantarya-prabandha 男 漢訳 無間, 相続, 相続不
 断 *Lank.*
 nairapekṣya 中 [nir-apekṣa から] 不注意, 無関心;
 完全な独立.
 nairayika 形 [nir-aya から, *Pāli nerayika*] 地獄に

属する, 地獄の; 地獄に苦しむ運命の (*Divy.*);
 漢訳 地獄, 地獄人 *Daś-bh., Divy., Madhy-v.,*
Sikṣ.; (音写) 那洛迦 *Daś-bh.* 中 漢訳 地獄 *Lal-v.*
 nairarthakya 中 [nir-arthaka から] 漢訳 非義 *Sūtr.*;
 空無有果 *Madhy-v.*
 nairarthyā 中 [nir-ārthā から] 無意義.
 nairākāṅkṣya 中 [nir-ākāṅkṣa から] ……を補う必
 要のないこと.
 nairātma 中 [nair-ātmya の誤り] (*Lal-v.*).
 nairātman 形 漢訳 無我 *Lank.*
 nairātmya 中 [nir-ātman の 通] 無我; 無我の教え
 (*Lal-v.*); 漢訳 無我, 無我性, 非我, 無吾我, 無有
 吾我; 非我所 *Bodh-bh., Guhy-s., Kāśy., Lank.,*
Mañj-m., Madhy-vibh., Mvyut., Sam-r., Sūtr.,
Vijñ-v.
 nairātmya-vādin 男 漢訳 説無真我者, 説無真如我
Lank.
 nairātmya-satya 中 漢訳 無我諦, 無我実, 非我諦
Bodh-bh.
 nairātmya-samatā 女 漢訳 無我等, 無我平等 *Lank.,*
Sūtr.
 nairātmya-sambhūta 形 漢訳 從無我出生 *Guhy-s.*
 nairāśya 中 [nir-āśa から] (prati. 一°) の絶望, …
 の断念.
 nairāśya-kṛta 形 漢訳 令断 *Sikṣ.*
 nairāśya 男 [武器に対する呪文の名]; [魔法の武器
 の名].
 nairukta 形 語原的に説明された. 男 語原学者.
 nairujya 中 [ni-ruj から] 健康.
 nairṛta 形 (安-i) *Nirṛti* に関連したまたは捧げた; 南
 西の, 南方を指した. 男 *Nirṛti* の子, 悪魔, *Rākṣasa*;
 種 [民族の名].
 nairṛta-kanyā 女 *Rākṣasa* の娘.
 nairṛta-rāja 男 *Rākṣasa* の王.
 nairṛti 男 [ある悪魔の名]; 漢訳 (音写) 離帝 [実?]
 隅 *Mvyut.*; (音写) 涅哩底, 泥梨提 *Divy., Mvyut.*
 nairṛti-daivata 中 漢訳 (音写) 泥梨提天 *Divy.*
 nairṛti 女 南西; [*Durgā* の称]; 漢訳 離実隅 *Mvyut.*
 nairṛtya 形 *Nirṛti* に関連したまたは捧げた; 南西の.
 nairgandhya 中 [nir-gandha から] 無臭; 香氣または
 臭気のないこと.
 nairguṇya 中 [nir-guṇa から] 特性のないこと; 徳の
 欠如, 不徳.
 nairghṛṇya 中 [nir-ghṛṇa から] 無情, 残忍; 漢訳 不
 起哀憐 *Bodh-bh.*
 nairjhara 形 滝または急流に属する.
 nairdhanya 中 [nir-dhana から] 財産のないこと, 貧
 窮.
 nairmalya 中 [nir-malā から] 汚点のないこと, 清浄.
 nairmāṇika 形 (安-i) [nir-māṇa から] 魔力で生じた
 (*Divy.*); 漢訳 化, 化(仏), 化(身), 変化, 能化, 能
 変化, 所応作 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lank.,*
Madhy-vibh., Sūtr.; 通果 *Abh-vy.* 528: ~h
 kāyaḥ 化身, 变化身 *Madhy-vibh.* 191: ṛddhiḥ…
 ~i 能化通 *Bodh-bh.* 58.
 nairmāṇika-buddha 男 漢訳 仏化 *Lank.*

nairmita 形 應化, 応(仏) *Lank.*
 nairyāṇika 形 (因-i) [nir-yāṇa から] 出離に関する; 救済に導く (*Lal-v.*); 漢訳 [Pali niyyānika] 出, 出離, 能出離, 永出, 永出離, 求出離, 出生死者 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Vijñ-t.*; (決定)出現, (決定)現向 *Mvyut.*; 乘 *Mvyut.*; ~h saṃbodhi-gāmi 決定出現菩提, 決定現向於菩提住 *Mvyut.*; ~i 出離 *Bodh-bh.*
 nairyāṇikatā 因 漢訳 出離 *Bodh-bh.*
 nairyāṇikatva 因 漢訳 出離 *Sūtr.*
 nairyāṇya 因 [nir-yāṇa から] 漢訳 出離 *Sūtr.*
 nairlajjya 因 [nir-lajja から] 無恥, 厚顔; 漢訳 無慙愧 *Lank.*
 nairvāṇika 形 (因-i) 涅槃に導く (*Kār-vy.*)
 nairvāṇika-mārgāvatarāṇa-vaiśāradya 形 漢訳 知涅槃正道 *Dharm-s.*
 nairvedhika 形 [nir-vedha から] 刺し通す, 貫く; 漢訳 扱, 決扱, 具決扱 *Mvyut.*; 散壞 *Mvyut.*
 nairvedhika-prajña 形 漢訳 決扱慧, 具決扱慧 *Mvyut.*
 nairvedhika-sarva-bhava-talopagata 男 漢訳 [samādhī の名] 達諸有底散壞 *Mvyut.*
 nailakaṇṭhiya 形 *Nilakaṇṭha* によって著作された.
 nailya 因 [nila から] 暗青色, 紺色.
 naiva-śaikṣa (°na-ev°) 形 漢訳 非学 *Mvyut.*
 naiva-śaikṣāśaikṣa 男 漢訳 非学非無学 *Mvyut.*
 naivaśaikṣi-nāśaikṣi 女 漢訳 非学非無学, 非有学非無学 *Abh-vy.*
 naiva-saṃvara-ṇāsaṃvara (na-ev°) 男 漢訳 非律儀非不律儀 *Abh-vy.*
 naiva-saṃjñā-nāsaṃjñāyatana (na-ev°, °nā-āy°) 因 全く意識も無意識もない所 (*Lal-v.*) 漢訳 非想非非想処, 非想非非想入, 非想非無想入, 非有想非無想処 *Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut., Sv-pr.*
 naiva-saṃjñā-nāsaṃjñin (na-ev°) 形 漢訳 非想非非想 *Bodh-bh.*
 naiva-saṃjñin (na-ev°) 形 漢訳 非有想 *Gaṇḍ-vy.*
 naiva-saṃjñi-naivāsaṃjñin 形 すべての意識がなくしかもすべての無意識もない; 漢訳 naiva saṃjño nāsaṃjñinaḥ (若) 非有想(若) 非無想, (若) 非有想非無想, 非有想非無想, 非想非無想 *Vajr-pr.*
 naivābhigamana (na-ev°) 因 全く性交のないこと.
 naivāra 形 野生米からなるまたはで作った.
 naivāsika 形 [ni-vāsa から] 住所を指示する (接尾辞); とともに住む, 同所の (*Av-ś.*); 住する (*Divy.*); 漢訳 [Pali nevāsika] 住在 *Divy.* 男 住人, 家人 (*Av-ś.*); 漢訳 住僧, 久住者 *Mvyut.*; 宅神 *Bodh-bh. 19.*
 naivedya 因 神に捧げる食物; 漢訳 食, 奉食, 天食 *Mvyut.*
 naivesika 因 家具.
 naiśa 形 (因-i) [niśā から] 夜の; 夜間に起る, 夜間に生じた(罪).
 naiśā-kara 形 月(太陰の), 月によって生ぜられた.
 naiśika 形 (因-i) [niśā から] 一夜の, 一夜で得た.
 naiśitya 因 鋭利.

naiścintya 因 [niś-cinta から] 心配または心労のないこと, 注意の欠如, 不注意, 無頓着.
 naiśreyasa 形 (因-i) 未来の至上の幸福に導く.
 naiśreyasika 形 [niś-śreyasa から] [同上].
 naiśadika 形 [ni-śad から] 臥すことなく坐った姿勢で眠る; 漢訳 坐不臥, 但坐不臥, 常坐不臥 *Mvyut.*
 naiśadyika 形 漢訳 常坐不臥, (於其草上) 長坐不臥 *Aṣṭ-pr.; Dharm-s.*
 naiśadha 男 *Niśadha* の王子, とくに *Nala*; 因 *Niśadha* 人; *Niśadha* 国の王朝.
 naiśadha-carita 因 [*Nala* 王の冒険物語を取り扱った *Śriharṣa* 作の鉸事詩の題名].
 naiśadhānveśaṇa 因 *Nala* を探すこと.
 naiśāda 形 (因-i) *Niśāda* 族に属する. 男 捕鳥者, 狩獵者 (*Jāt-m.*); 因 *Niśāda* 族.
 naiśkarmya 因 活動の放棄, 活動しないこと.
 naiśkiṃcanya 因 [niś-kiṃcana から] 財産のないこと, 貧困, 貧窮.
 naiśkr̥tika 形 [naiśkr̥tika の誤形].
 naiśkramya 因 [niś-krama から] 世俗の歓楽に無関心なこと, 世間から隠遁すること (*Jāt-m.*); 漢訳 出離, 出家, 棄 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Mvyut., Śikṣ.*; kāmeṣu ~m 棄欲 *Mvyut.*
 naiśkramya-citta 因 世俗から離脱するという考え; 漢訳 出離心 *Śikṣ.*
 naiśkramyāśrita (°ya-ās°) 形 漢訳 依出家, 依於出家 *Mvyut.*
 naiśthika 形 (因-i) [ni-śthā から] 最終の, 最後の; 決定的な, 決定した, 確立した; 無上の, 最上の, 至高の, 完全な; (一°)に全く精通した; 永久の貞潔を誓った(婆羅門); 漢訳 究竟, 正 *Buddh-c.* 男 貞潔を誓った婆羅門.
 naiśthika-sundara 形 完全に美しい.
 naiśthurya 因 [ni-śthura から] 粗野, 粗雑, 下品, 峻厳, 苛酷.
 naiśpeṣika, [niśpeṣa の 形, *Pali nippeṣika*] 布施を強要する; 漢訳 激磨求索 *Sūvik-v.*
 naiśpeṣikatā 因 [同上 因]; 漢訳 方便研求 *Bodh-bh. 168.*
 naiśpeṣikatva 因 [同上]; 漢訳 激磨, 方便研求, 作僧之欲得 *Mvyut.*
 naiśphalya 因 [niś-phala から] 結果のないこと, 効果のないこと.
 nā vandika 形 [ni-śyanda から] …に由来する; 漢訳 等流, 等流果, 流生 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.*
 naisarga 形 [ni-sarga から] 生来の, 天性の, 自然の.
 naisargika 形 [同上]; 本来の, 天賦の, 先天的な, 本質的な.
 naiśtrīṣika 形 剣をもって武装した.
 naiś-saṅgya 因 ……に対する無関心 (*Jāt-m.*)
 naihsargika 形 [niś-sarga から] 投げ捨てられた, 脱ぎ捨てられた (*Divy.*); [仏教々団の罪科の一種]; 漢訳 捨罪, 捨隨 *Divy.*; ~āḥ pāyattikāḥ (薩室) (三十) 波夜提, 泥薩祇波逸底迦 *Mvyut.*
 naihsargikāpatti. (°ka-āp°) 因 漢訳 捨罪, 棄隨, 應棄隨 *Mvyut.*

naiḥsnehya 甲 [niḥ-sneha から] 愛情の欠如。
 naiḥsprhya 甲 [niḥ-sprha から] …に対する欲望の欠如。
 naiḥsvabhāvyā 甲 [同下]。
 naiḥsvābhāvyā 甲 [niḥ-svabhāva から] 漢訳 無自性, 無自体; 寂靜 *Laṅk.*
 naiḥsvya 甲 [niḥ-sva から] 財産のないこと, 貧困, 窮乏。
 naihāra 形 霧によって生じた。
 no (na-u) 不変辞 もまた……ない, [この語義は 國では非常にまれ]; (國では=na); 漢訳 非, 不 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Sapt-pr.:* ~hidam 不也, 此不是, 此非耶不是 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 noṇa 男 [ある商人の名]。
 notthāna (°na-ut°) 形 漢訳 無起 *Sapt-pr.*
 notpatti (°na-ut°) 形 [=an-utpatti] 漢訳 無生 *Madhy-vibh. 121, Sūtr. 167.*
 notpatti-kṣānti 女 [=anutpatti°] 漢訳 無生忍 *Sūtr. 167.*
 notpāda (°na-ut°) 男 漢訳 不正 *Laṅk.*
 nodana 形 放逐する, 移す。甲 打撃; 駆逐; 衝動; 漢訳 擯擲 *Vaiś-s.*
 nodita 使役 過受分 漢訳 遣除, 除遣 *Sikṣ.*
 nodin 形 (一°) を駆逐する。
 nodhas 男 [聖仙の名]。
 nodhā 副 九重に, 九回に, 九部に。
 nona 男 [人名]。
 nonaka 男 [人名]。
 nona-ratha 男 [人名]。
 nonā 女 [人名]。
 nopalakṣita (°na-up°) 形 認めにくい。
 nopalambha (°na-up°) 形 漢訳 無得 *Madhy-vibh.*
 nopasthātr (°na-up°) 形 (法廷に) 現われない。
 nobhaya (°na-ubh°) 形 漢訳 不俱, 不共 *Laṅk., Madhy-v.*
 nau 1. [一人 代 aham の 國 國 國 國, 附帶]。
 nau 2. 女 船; 小舟, 輕舟; 漢訳 船, 船, 船, 舟船, 船筏, 船筏, 舟機 *Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sikṣ.*; 船 (師) *Sikṣ.*
 nauka, 一° = nau 2.
 nau-karṇa-dhāra 男 舵手, 水先案内者; (譬喩) 支配者, 首長。
 nau-karman 甲 舟の仕事または職業, 船頭の仕事。
 naukā 女 小舟。
 nau-krama 男 船橋 (舟を並べて作った橋) (*Divy.*); 漢訳 船橋 (*Divy.*)。
 nau-cakrivat 男 舟と馬車との所有者。
 nau-cara 形 船で行く。男 船員, 水夫。
 nau-jivika 男 船頭, 水夫。
 nau-tārya 形 船で通行できる, 航海に適する。
 naudhasa 甲 [ある Sāman (歌詠) の名]。
 nau-nāvika-nyāya 男 漢訳 人船理, 船人道理 *Abh-vy.*
 nau-bandhana 甲 [大洪水の際 *Manu* がその船を繋いだ *Himālaya* 山頂の名]。

nau-yāna 甲 航行, 航海。
 nau-yāyin 形 舟で行く。男 船客。
 nau-vyasana 甲 難船。
 nau-saṃkrama 男 渡船場 (*Divy.*); = nau-krama または航路 (*Divy.*); 漢訳 ~o 'vasthāpitaḥ 船来向 *Divy. 386.*
 nau-saṃcāriṇi 女 漢訳 舟船来往 *Gaṇḍ-vy.:* ~ = nyo yathaicchā vividha-sukha-bhogyāḥ 舟船来往 称情嬉戯, 種種資縁受用安樂 *Gaṇḍ-vy. 268.*
 nau-sārathi 男 舵手, 水先案内人 (*Jāt-m.*)
 nyak, → nyañc.
 nyak-kāra 男 侮辱, 侮蔑, 無視。
 nyak-Kṛ, 卑しめる, 蔑視する; (言葉を) 無視する, 顔色なからしめる, 凌駕する。
 nyak-kṛta 形 侮辱された, 輕蔑された, 輕視された。
 nyak-kṛti 女 = nyak-kāra。
 ny-akta 過受分 [Ac, Añc] [同下]。
 ny-akna 過受分 [Ac, Añc] 曲げられた。
 nyag-bhāva 男 下降; (因) に夢中になること; 無視, 輕蔑。
 nyag-bhāvayitr 男 侮蔑者。
 nyag-BHū, 謙遜する, 卑下して振舞う。
 nyag-bhūta 形 卑下した, 低い, 卑しい。
 nyag-bhūtvā 不変分 自ら卑しめて, 卑下して。
 nyag-rodha 男 (下方に發育する), インドのいちじく (無花果) の木, バンヤン (榕) 樹 [学名 *Ficus indica*]; [*Ugrasena* の子の名]; [*Kṛṣṇa* 神の子の名]; [ある婆羅門・僧院および村の名] (*Lal-v.*); 漢訳 無節, 縦広, 縦広樹, 縦横葉 *Mvyut., 玄心.*; (音写) 尼拘陀樹, 尼拘類樹, 尼俱陀樹, 拏瞿樹, 尼俱陀樹, 尼拘尼陀樹 *Av-s., Bodh-bh., Divy., Lal-v., 玄心.*; (音写) 尼拘陀, 尼俱陀, 尼俱陀, 尼拘陀, 尼拘律, 諾瞿陀; 匿瞿陀, 尼拘類, 尼俱律, 尼俱類, 尼拘盧陀, 尼俱類陀, 尼拘婁陀, 尼俱類陀, 拏瞿陀, 尼拘尼陀 *Abh-vy., Av-s., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., 玄心.*
 nyagrodha-parimaṇḍala 形 周圍一尋(ひろ)ある (*Lal-v.*); 漢訳 [三十二相の一] (音写) 円満諾瞿陀, (身相) 円満如諾瞿陀, (身) 円満如尼拘類樹, (身) 円満如尼拘陀樹 *Bodh-bh., Mvyut.*
 nyagrodha-parimaṇḍalatā 女 Nyagrodha 樹のような腰部をもつこと (*Dharm-s.*); 漢訳 [三十二相の一] (身) 円満相; (音写) (其身) 円満如諾瞿陀 *Bodh-bh.*
 nyagrodha-parimaṇḍalatva 甲 漢訳 [三十二相の一] (身) 円満, (身) 円満相; (音写) (身相) 円満如諾瞿陀 *Bodh-bh.*
 nyagrodha-vr̥kṣa 男 漢訳 (音写) 尼拘陀樹, 尼拘律樹 *Gaṇḍ-vy.*
 nyag-rodhikā 女 [*Salvinia cucullata* または他の植物の名]; 漢訳 [村の名] 多根樹村 *Divy.*
 ny-aṅku 男 羚羊 (の一種); 漢訳 [転輪王の名] 決行 *Mvyut.*
 nyaṅkuṭā 女 漢訳 [虫の名] 糞尿虫, 針口虫, 虫糞 - 快利者 *Mvyut.*; (音写) 娘矩吒 (虫) *Mvyut.*
 nyaṅku-śiras 形 [kukubh とともに, 韻律の名]。

nyāṅku-sāriṇi 形 因 [bṛhati とともに、韻律の名].
 nyāṅkotaka 男 [人名].
 ny-aṅga 男 [Añj] 附着したもの; 嘲罵, 諷刺, 皮肉.
 一° 形 …について偶然に言及する.
 ny-Añc nyañcati. → Ac.
 nyañc 形 [弱 翰 nic; 因 nīci] 下方への, 低くした
 (音). 因 副 nyak 下方へ. → nyak-Kṛ, nyag-BHū.
 ny-añcana 因 低下; 彎曲; 窪地, 隠れ場所.
 ny-añcani 因 膝.
 ny-Añj nyanakti. → Añj.
 ny-ante 因 副 (屬, 一°) の近所に.
 ny-antena 因 副 [同上].
 ny-ayana 因 入口, 集会所.
 ny-ārtha 因 失敗; 破壊, 滅亡.
 ny-ārbuda 因 一億; 難題 Mvyut.
 ny-As nyasyati. → As 2.
 ny-asana 因 整頓, 置くこと, 下ろすことまたは書き留
 めること; 提示, 言及, 陳述; 難題 卜占, 測度
 Bodh-bh.
 ny-asta 過受分 [As 2.] 投下された, 置かれた, 保
 管された; 横たわる; 確定された; 神秘的冥想に入
 った; 放棄した, 断念した; 難題 踏, 踏, 按(地)
 Av-ś., Divy.; 授 Divy.; 悟沈 Gaṇḍ-vy.
 nyasta-cihna 形 標識または外的特徴のない.
 nyasta-daṇḍa 形 (鞭を下に置いた), 罰または暴力を放
 棄した, 攻撃的でない, 穏和な, 平和な.
 nyasta-deha 形 死んだ.
 nyasta-vāda 形 (prati, 因) に関して語るのをやめる.
 nyasta-śastra 形 武器を下に置いた; 闘争をきらう,
 平和な, 害を与えない(祖先の靈).
 ny-asya 未受分 下に置かれるべき; (因)に任命され
 るべき.
 ny-ā-Kṛ, → Kṛ.
 nyāma 男 =niyāma, niyama; 難題 離生, 無妨 Bo-
 dh-bh., Mvyut.
 nyāmaka-krānti 因 難題 入離生, 入無過 Mvyut.
 nyāmāvakrānti 因 難題 入, 入道, 入離生, 超昇離
 生 Bodh-bh., Sūtr.
 nyāmāvakrānti-samudāgama 男 難題 入離修証
 Madhy-vibh.
 ny-āya 男 規則, 標準, 公理, 原理; 方法, 仕方;
 適正, 正しい方法; 論証 または結論, 三段論法; 論
 理; 正理派 (Nyāya 学派) [六派哲学の一]; 格言,
 金言; 訴訟; 決定, 判決; 難題 理, 正理, 道理;
 称理; 道, 聖道, 正, 正道; 如, 如理, 如法; 応
 理, 無欺証; 聖諦 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-
 v., Mvyut., Nyāy-pr., Śikṣ., Sūtr.; 種 Mvyut.
 → a~. °nyāyena 因, °nyāyāt 従, °nyāya°...
 流に, をまねて, にならって. ~ena 因, ~tas,
 一° 副 適当に, 正当に, 礼儀正しく; 難題 ~ena
 如理 Bodh-bh.; ~tas ...[儀 Buddh-c.
 nyāya-tantra 因 [哲学書の題名].
 nyāya-nirvapaṇa 形 分相応に授ける, 正しく授ける.
 男 [Śiva 神の称].
 nyāya-patita 形 難題 随順道理 Bodh-bh.
 nyāya-patha 男 種 [哲学諸派 とくに Mīmāṃsā 派の

名].
 nyāya-pratipanna 形 難題 理入; 入種 Mvyut.
 nyāya-praveśa 因 [仏教論理学書 (Śāṅkarasvāmin 作)
 の名] 難題 (因明)入正理論; Nyāy-pr.
 nyāyapraveśa-vṛtti 因 [仏教論理学書 Nyāyapraveśa
 に対する注釈書 (Haribhadrasūri 作) の名].
 nyāyapraveśavṛtti-pañjikā 因 [仏教論理学書 Nyā-
 yapraveśavṛtti に対する復注書 (Pārśvadevagani
 作)の名].
 nyāya-bindu 男 [仏教論理学書 (Dharmakīrti 作)の
 名].
 nyāyabindu-ṭikā 因 [仏教論理学書 Nyāyabindu に
 対する注釈書 (Dharmottara 作)の名].
 nyāyabinduṭikā-ṭippaṇi 因 [仏教論理学書 Nyāya-
 binduṭika に対する復注書 (Mallavādin 作)の名].
 nyāya-vartin 形 正当に振舞う.
 nyāya-vādin 形 適切にまたは正当に語る. 男 正しい
 理論の学徒 (Jat-m.).
 nyāya-vid 男 鑑識家, 専門家.
 nyāya-vidyā 因 論理(学).
 nyāya-vṛtta 形 正当に振舞う.
 nyāya-śāstra 因 Nyāya 派の学説; 論理学書.
 nyāya-śikṣā 因 論理(学).
 nyāya-sambaddha 形 論理的の, 理論的の, 合理的
 の.
 nyāya-sūtra 因 [Gautama 作の Nyāya 哲学書の名].
 nyāyākramatā (°ya-āk°) 因 難題 証獲聖道, 超証正
 道 Lal-v.
 nyāyāgata (°ya-āg°) 形 正当に得られた(金銭).
 nyāyāñjali 男 一握りの格言, [ある格言集の表題].
 nyāyānveṣaṇa 因 正義の探求.
 nyāyābhāsa (°ya-ābh°) 男 (見せかけの論理), 詭弁.
 nyāyāropita-vikrama (°ya-ār°) 形 その人から有力
 な援助が正当に期待される.
 nyāyārjita 形 正しく得た.
 nyāyārtha 男 難題 真実理義 Bodh-bh.
 nyāyāvakrākramaṇa (°ra-āk°) 形 正道を適切な方
 法で進む.
 nyāyāvakrākramaṇatā 因 [同上 副] (Lal-v.).
 nyāyāvakrānti 因 難題 入道 Sūtr.
 nyāyopadeśa (°ya-up°) 男 難題 如理説, 称理説法
 善教 Bodh-bh.
 nyāyopārjita (°ya-up°) 形 難題 凡有経営曾無欺証
 Divy.
 nyāyāya 形 規則的の, 習慣的の, 通常の, 尋常の;
 正しい, 正当の; 適当な, ふさわしい, …に適した
 [この語に従属する 不定 は 因 の意味をもつ].
 ~m 副 難題 如理 Bodh-bh.
 ny-ā-lūna 形 切断された, 削除された.
 ny-ā-vicchāya 名動 → vicchāya.
 ny-ā-Vṛt nyāvartayati (使役). → Vṛt.
 ny-āsa 男 下に置くこと, (足を)地につけること, 身
 につけること; 挿入, 衝突; 適用, 挿くこと; 委
 託; 書きとめること, 記銘, 記載; 文献; 放棄, 断
 念; 除去; 預けること, 担保; 提供すること, 提
 示; 難題 門限 Mvyut.

ny-ā-Sad nyāsīdati. → Sad.
 nyāsa-dhāraka 男 保管者, 受託者.
 nyāsa-dhārin 男 [同上].
 nyāsa-bhūta 形 寄託された, 担保になっている.
 nyāsa-lopa 男 保管物の横領または浪費.
 nyāsa-hara 男 保管物の盗人.
 ny-āsita 過受分 下に置かれた.
 ny-āsin 形 (世事を)完全に捨てる.
 nyāsi-Kṛ, …の安全な保存を委せる, 委託する.
 ny-upta 過受分 [Vap] 倒された, 投げられた, 撒かれた, 播かれた, 提供された.
 ny-ubja 形 下に傾いた, くつがえされた, 転倒した, うつぶせになる; 下方を見る.
 ny-ūna 過受分 欠点のある, 欠けた, 不足の; (圓)より劣るまたは少ない, (圓, °—)だけ小さいまたは少ないまたは劣っている; 余りに小さい; 漢訳 小, 少, 少小; 劣, 減, 減少, 下劣, 減劣; 短; 最極下 Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr. → a~.

ny-ūnatara 比較 標準より劣った (Divy.); 漢訳 少, 短 Bodh-bh.: ~eṇa kālena 少時, 時短 Bodh-bh. 200.
 ny-ūnatā 因 劣等; 欠乏, 不足, 不十分; 漢訳 減 Śikṣ.
 ny-ūnatva 因 [同上]; 漢訳 減, 不具, 欠減性 Abh-vy., Nyāy-pr.
 nyūnavacana 因 漢訳 顕示欠減性言 Nyāy-pr.
 nyūnādhika-vibhakta 形 遺産の分配において余りに少なくあるいは余りに多くを受け取った.
 nyūnādhikāṅga 形 余りに少ないあるいは余りに多くの肢体または器官をもつ.
 nyūnādhikya 因 (肢体のあるいは器官の)不足あるいは過剰.
 ny-Rṣ, → Rṣ 2.
 ny-rṣṭa 過受分 → Rṣ 2.
 ny-er (ny-ā-Īr), → Īr.
 nvai, [n(u)vai] 副 実に, 確かに.

P

pa 1. 形 [Pā 1.] (一°)を飲む.
 pa 2. 形 [Pā 2.] (一°)を保護する, …を守護する; 漢訳 守 Abh-k.: kṣetra~ 守田 Abh-k. III. 98.
 Paṃs, 使役 他 paṃsayati 破壊する; 悪口を言う, 軽んじる; 漢訳 軽, 軽賤, 軽毀, 毀, 毀辱, 毀咎, 咎, 賤, 下, 蔑, 陵蔑 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Śikṣ.: parān paṃsayati 毀咎他人, 下他人, 輕余 Aṣṭ-pr. 811.
 ava- IV. 他 avapaṃsyati 漢訳 作謗 Mvyut.
 prati- 使役 pratipaṃsayati 漢訳 報毀 Kāśy.
 paṃsaka 形 [正しくは pāṃsaka]; 漢訳 謗, 毀, 輕凌, 輕侮 Aṣṭ-pr., Kāśy., Mvyut.
 paṃsana 因 [pāṃsana の訛]; 漢訳 毀, 毀謗, 蔑, 輕易 Bodh-bh., Bodh-c., Kāśy., Mvyut.
 paṃsita 過受分 漢訳 所毀 Kāśy.
 paṃsitavat 過能分 漢訳 呵罵 Śikṣ.
 paṃsin 形 漢訳 毀 Rāṣṭr. → para~.
 pa-kāra 男 pa の字, pa の音; 漢訳 [四十二字門の一] 跛字: ~m parikīrtayato dharma-dhātu-tala-sambhedam nāma prajñāpāramitā-mukham avakrāntam 唱跛字時能甚深入般若波羅蜜門名普照法界平等際微細智 Gand-vy. 448. [五十字門の一] 跛字: ~e paramārtha-śabdah (→ a-kāra) 唱波(上声)字時出証第一義諦声 Lal-v. 127.
 paka 漢訳 熟 梵千.
 pakka 過受分 因 [<pakva]; 漢訳 熟 梵千.
 pakkana 男 因 Caṇḍala (卑賤種姓)の小屋; 未開種族の住んでいる村落.
 paktavya 未受分 料理されるべき, 焼かれるべき; 漢訳 可煮 Divy.
 pakti 因 料理, 調理; 消化; 成熟すなわち(以前の行為

の)結果; 發達; 漢訳 熟, 成熟 Abh-vy.
 pakṭr 形 (屬)を料理するまたは焼く; 消化を促進する; 漢訳 厨人 Abh-vy.
 pakva 過受分 [Pac] 料理された, 焼かれた, 煮焼きされた; 焦げた, 焼き固めた(煉瓦, 壺); 灰色の(髪); 熟した, 十分に發達した, 成熟した; 熟した実を結んだ(樹木); 死に近づいた, 老衰した; 漢訳 熟, 成熟 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Sūtr., 梵雜. 因 調理した食物, 皿, 料理; 熟した穀物; 漢訳 熟食 Divy.
 pakva-kaṣāya 形 感情を失った.
 pakva-kheṭa-piṇḍa 因 腐敗した痰の塊すなわち全く不用なもの (Lal-v.).
 pakva-gātra 形 [Pāli pakka-gatta] 老いぼれた体をもつ, 弱々しい体をもつ (Divy.).
 pakvatā 因 成熟, 円熟.
 pakva-bimbādharoṣṭhī (°ra-oṣ°) 因 熟した Bimba の果実のような(赤い)下唇をもつ.
 pakva-rasa 男 [さとうきびの液で作った酒]; 漢訳 暖酪 Mvyut.
 pakvāna 因 料理された食物.
 pakvā-pakvā 漢訳 鳥の啼声.
 pakvāsaya (°va-ās°) 男 腹; 漢訳 熟臟, 熟藏, 大腸 Mvyut., Śikṣ.
 pakveṣṭaka (°va-iṣ°) 形 焼かれた煉瓦で作った.
 pakveṣṭaka-cita 因 焼かれた煉瓦で造った建物.
 pakṣa 男 [因 用例一回のみ] 翼, 羽根, (矢)羽; 側面, 脇; 半分; 半月(十五日); 派, 党派, 從者, 同盟者, 徒党, 家族, 種族 [團, 覆]; 群, 隊, 組; (毛髮の)量; 場所; 二者の一方, いずれか一方; 意見, 主張; 起訴 (法律); 宗すなわち判断またはその主辞 (論

理において); 議題, 論議中の問題; 漢訳 羽, 毛羽, 翅, 翅羽, 翼, 羽翮 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Sūtr.*, 梵千, 梵維; 朋, 朋党, 党, 偏党, 党類, 類, 部, 部類, 伴; 衆; 品; 助; 分 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*, *Sūv-pr.*; 半月 *Guhy-s.*; 宗, 本義, 道理, 立 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Nyāy-pr.*; 相知者 *Divy.*; 順, 治, 所治, 対治 *Daś-bh.*, *Laṅk.*; 見, 執 *Laṅk.*: jñāna~ 智分 *Bodh-bh.* 33; sukha ~ 樂品 *Bodh-bh.* 25; na~ patitaḥ 不随偏党, *Bodh-bh.* 363; mā ~ e patito bhavēt 無偏党, 和合為一 *Sūv-pr.* 132; ~ ekena 於半月分 *Guhy-s.* 44. → a~, para~, bodhi~. ~ e 因 他の場合においては; (一°) に関して; の代りに; によって. atra ~ e この場合には. tābhyām mukte ~ e これらの二つ以外の場合には.

pakṣaka 男 翼 (一°); 側, 脇; 漢訳 翅 *Mvyut.*

pakṣa-kṣaya 男 半月の終.

pakṣa-gama 男 翼で動く, 飛ぶ. 男 鳥.

pakṣa-gupta 男 [鳥の一種]; 漢訳 禽; 護羽 *Mvyut.*

pakṣa-grahaṇa 男 (國) の味方となること.

pakṣa-grāhin 男 (國, 一°) の味方をする.

pakṣa-cara 男 群から離れた象.

pakṣa-cchid 男 [(山々の翼を切り取った), *Indra* 神の称].

pakṣatā 女 (國) の党派に属するまたは味方すること;

同盟, 議論を支持すること; 判断またはその主辞たる

こと. ~ m Gam (國) の味方になる.

pakṣati 女 翼の附根またはわき; 翼, 羽毛.

pakṣatva 男 (一°) の構成部分たること; 宗すなわち

判断またはその主辞たること(論理において); 起訴.

pakṣa-doṣa 男 漢訳 有過宗, 立宗過 *Nyāy-pr.*

pakṣadoṣa-vacana 男 漢訳 有過宗言 *Nyāy-pr.*

pakṣa-dvāra 男 横手の戸, 通用口.

pakṣa-dhara 男 (國) の味方をする; (因) に執着する. 男 鳥.

pakṣa-dharma 男 漢訳 (遍是)宗法 *Nyāy-pr.*

pakṣa-dharmatva 男 漢訳 (遍是)宗法性 *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*

pakṣadharmavacana 男 漢訳 宗法言 *Nyāy-pr.*

pakṣa-panḍaka 男 漢訳 半月黄門 *Mvyut.*

pakṣa-patita 男 漢訳 随朋党, 偏党, 党類 *Bodh-bh.*

pakṣa-pattra (?) 男 漢訳 翅翮 梵維.

pakṣa-pāta 男 飛行; (國 ± prati, 國, 因, 一°) への党派心, えこひいき, 執着または愛着.

pakṣa-pātītā 女 (因, 一°) に対するえこひいきまたは執着.

pakṣa-pātin 男 (一°) に味方する, ...にひいきする.

pakṣa-puṭa 男 (翼のわき), 翼; 拵げられた翼.

pakṣa-poṣaṇa 男 (國) の味方をする.

pakṣa-pratipakṣa 男 漢訳 所治対治, 逆順 *Daś-bh.*

pakṣa-bala 男 翼の力.

pakṣa-bhukti 女 半カ月に太陽の通る軌道.

pakṣa-yāga 男 [作品の名].

pakṣa-racanā 女 徒党を組むこと.

pakṣaracanā-naipunya 男 徒党を組むことの巧妙.

pakṣa-rātri 女 [遊戯または競技の一種].

pakṣa-vacana 男 漢訳 立宗言 *Nyāy-pr.*

pakṣavat 男 翼をもつ; 味方または従者をもつ, 党派に属する.

pakṣa-vāta 男 漢訳 翅風, 振羽 *Sūtr.*

pakṣa-vāda 男 意見の発表, 陳述, 宣言, 宣告.

pakṣa-vikala 男 傷ついた翼をもつ, 翼が傷ついた.

pakṣaśas 男 半月に.

pakṣas 男 翼; 側面; 車の側面の部分; 扉; 戸口の側柱; 軍陣の翼; 半分, 分配等; 半カ月; 河の片岸; 漢訳 翅 *Divy.* 295.

pakṣa-hata 男 半身麻痺した; 漢訳 半身不遂者, 半体不遂者 *Mvyut.*

pakṣa-hara 男 謀叛人, 裏切者, 叛徒.

pakṣā 女 漢訳 歡迎 *Laṅk.*

pakṣādhyāya 男 決疑法, 論理学 (*Divy.*); 漢訳 分別義経 *Divy.*

pakṣānta 男 半月の最終日(新月および満月の日); 軍隊の両翼の末端.

pakṣāntara 男 特殊の場合 [因 = 仮定すれば, もし...ならば; 他の場合には]; 他の意見.

pakṣābhāsa (°ṣa-ābh°) 男 偽りの告訴, 相手のない訴訟; 誤謬; 漢訳 似宗, 似立宗 *Nyāy-pr.*

pakṣābhāsatva (°ṣa-ābh°) 男 [同上 種].

pakṣāṣṭamī 女 半カ月中の第八日 (または Tithi).

pakṣāhati (°ṣa-āh°) 女 翼の一搏.

pakṣāhāra (°ṣa-āh°) 男 半カ月にただ一回食う者.

pakṣāya 名動 男 pakṣāyate 味方として振舞う.

pakṣika 男 漢訳 品, 分 *Laṅk.* → bodhi~.

pakṣi-gaṇa 男 漢訳 眷属 *Lal-v.*

pakṣiṇī 女 雌鳥; 相接する二日にはさまれた夜 [*rātri* を補って]; 満月の日.

pakṣitva 男 鳥の状態.

pakṣin 男 翼のある; (一°) の味方をする, ...の仲間属する. 男 鳥; 翼をもつ動物; 漢訳 鳥, 飛鳥, 禽, 遊禽 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* I., 梵千, 梵維: ~ i śakuniḥ 飛鳥, 堅翅鳥 *Aṣṭ-pr.* 754.

pakṣi-pati 男 [*Sampāti* の称].

pakṣi-puṅgava 男 (鳥の中の牝牛) [*Garuḍa* の称], [*Jaṭāyu* の称].

pakṣi-mṛgatā 女 鳥または獣の状態.

pakṣi-rāj 男 鳥の王; [*Garuḍa* の称], [*Jaṭāyu* の称].

pakṣi-rāja 男 [同上].

pakṣi-rājya 男 翼のある種族すなわち鳥族の主権. 男 [*Garuḍa* の称].

pakṣi-śāvaka 男 雛鳥.

pakṣi-svāmin 男 [*Garuḍa* の称].

pakṣi-Kr, (國) に熟達する, わが物とする, 自由にする.

pakṣindra 男 = pakṣi-rāj.

pakṣiya 男 (一°) に味方する.

pakṣīsa (°ṣi-iś°) 男 = pakṣi-rāj.

pakṣu 男 [恐らく正しくは *vakṣu*]; 漢訳 音響 [竜王の名] 縛契 *Mvyut.*

pakṣman 甲 [異 および 覆] まつ毛；(鹿の)綿毛；花糸，花卉；**漢訳** 睫，眼睫，眼毛，睫毛 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*
pakṣma-pāta 男 (まつ毛が下がること)，両眼を閉じること。
pakṣmala 形 長いまたは美しいまつ毛をもつ；毛の長い；毛の多い，毛皮で覆われた；うぶ毛のような。
pakṣmala-drś 形 (女) 美しいまつ毛のある眼をもつ。
pakṣma-sampāta 男 =pakṣma-pāta: ~je kāle 一瞬にして。
pakṣmākṣa 形 *Entropium*(眼瞼内翻症)に悩む；**漢訳** 眼毛内侵者 *Mvyut.*
pakṣya 形 (一) に味方する；**漢訳** 朋党 *Lal-v.*；品，分 *Bodh-bh.*
pakṣyatva 甲 **漢訳** 分 *Bodh-bh.*
pañka 男 または 甲 泥，ぬかるみ，泥沼，沼地；塵埃，粘土；一° 膏薬，塗膏；道德的不純，罪惡；**漢訳** 泥，深泥，淤泥；糞土 *Abh-k.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.*；塗灰 *Divy.*: saṃsāra ~ 生死泥 *Abh-k. I. 1.*
pañka-cchid 男 [濁水を澄ます果実をもつ植物の名，学名 *Strychnos potatorum*].
pañka-ja 甲 蓮 (の一種) [夕暮に花を閉じる蓮，学名 *Nelumbium speciosum*] の花；**漢訳** 蓮，蓮華 *Divy.*, *Lal-v.* 形 蓮華のような眼の (*Jāt-m.*).
pañkaja-nābha 形 臍に蓮をもつ (*Viṣṇu* 神). 男 [*Viṣṇu* 神の称].
pañkaja-netra 形 蓮のような眼をもつ (*Viṣṇu* 神). 男 [*Viṣṇu* 神の称].
pañkaja-mālin 形 蓮の華鬘で飾られた (*Viṣṇu* 神). 男 [*Viṣṇu* 神の称].
pañkajākṣi 女 蓮のような眼をもつ女。
pañkajāṅghri 形 足が蓮華で飾られた (*Viṣṇu* 神). 男 [*Viṣṇu* 神の称].
pañka-jin 形 蓮を備えた。
pañka-jini 女 蓮 [学名 *Nelumbium speciosum*]; 蓮の群。
pañkajini-saras 甲 蓮池。
pañkatā 女 ぬかるみの状態；ぬかるみ；汚泥の性質または本性。
pañka-nimagnā 形 **漢訳** 溺泥 *Śikṣ.*
pañka-pūra 男 多量の泥，ぬかるみ。
pañka-bhāva 男 =pañkatā.
pañka-magna 形 泥に沈んだ；**漢訳** 設深泥，溺深泥 *Lank.*
pañkaya 名動 他 **pañkayati** 汚す，塗る。
pañka-ruhiṇi 女 =pañka-jini.
pañka-lagna 形 泥にはまって動けなくなったまたは立往生した，沼に陥入った。
pañkavat 形 泥の多い，泥深い；泥に覆われた，泥まみれの。
pañka-vartman 甲 ぬかるみの路。
pañkākra 形 泥を塗られた。
pañkin 形 泥深い；一° 泥で塗られた；**漢訳** 没深泥 *Rāṣṭ.*
pañkila 形 泥深い，汚れた，濁った；(圓) で塗られた。

てられた。
pañkila-bhava 形 沼沢の土に生ずる。
pañke-ruh 甲 =pañka-ja.
pañke-ruha 甲 [同上].
pañke-ruhiṇi 女 [同上].
pañkti 女 五の一組，五の一連；[韻律の一種 (5×8 音節，後には4×10 音節)；十 (を現わす数)；行，列；組；集合，群集，集団；仲間，社会；**漢訳** 行，行列，行伍，排行，布列，安布；聚集；**漢訳** *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
pañkti-krama 男 連続，順序。~eṇa 圓 一列に。
pañkti-dūṣa 形 (仲間を汚す)，仲間として入れるに適しない [pañkti-pāvana の対].
pañkti-doṣa 男 仲間を害するもの。
pañkti-pāvana 形 仲間を浄化する；尊敬すべき [pañkti-dūṣa の対].
pañkti-ratha 男 [人名，=Daśa-ratha].
pañkti-vaiṣamya-vādānivārita-bhukti 女 **漢訳** 不辭比丘尼所指示与食 *Mvyut.*
pañktīśas 副 列をなして，並んで。
pañkti-senā 女 **漢訳** 行軍 *Abh-vy.*
pañkti 女 韻律， [=pañkti].
pañgu 形 (女-vi) びっこの；**漢訳** 跛，足不具，屈指，屈手者 *Divy.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*
pañguka 形 [同上].
pañgutā 女 びっこ，びっこをひくこと。
pañgutva 甲 [同上].
pañgu-bhāva 男 [同上].
pañgv-andhavat 副 **漢訳** 如跛盲人 *Sāṃkhy-k.*
Pac, I. pacati (-te) 料理する，焼く，煮る，あぶる；
 甲 自分のために料理する，焼く，(れんが等を) 焼き固める；消化する；熟させる，成熟させる (他動)；発展する，完成をもたらす，(その)終局に導く；**漢訳** 煮，焼，焼煮；薰，熟；成，成熟 *Abh-vy.*, *Av-s.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵雜.: pātram pacate 薰鉢 *Av-s. I. 182.* 受 **pacate** 成熟させられる，発展させられる；苦しめられる (*Divy.*)；**漢訳** 熟 *Abh-vy.* [pakva は 過受分 として用いられる]。使役 他 **pācayati** 料理する，料理させる。使役 過受分 **pācīta**。強意 自 **pāpacyate** よく煮える，十分に料理される，ひどく苦しむ [譬喩]。
pari- 受 **paripacyate** 料理される，あぶられる；成熟させられる，(行動が)実を結ぶ；**漢訳** 成，滋茂 *Suv-pr.* 使役 **paripācayati** 料理する，あぶる；完成させる (*Kar-vy.*)；**漢訳** 成，令成就；成熟，令成熟，能成熟，能令淳熟 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*；化，教化；饒益 *Kāśy.*, *Saddh-p.*；能消 [能く消化する] *Madhy-v. 561.* 使役 受 現分 **paripācyamāna** 成就；究竟 *Gaṇḍ-vy.*: sa-ttvān bodhau ~ān 成就無上菩提之道，究竟無上菩提之道 *Gaṇḍ-vy.*
vi- 料理によってとかす；**漢訳** 熟，成就，異熟 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.* 受 **vipacyate** あぶられる，消化される；熟させられる；実を結ぶ，結果に達する，(行動が)結末に達する；**漢訳** 成熟 *Divy.*
paca 形 (一) を料理する，…を焼く；**漢訳** 煮 梵千。

pacana 形 [同上 一]. 田 料理, 煮ること; 料理道具; 成熟.
 pacana-kriyā 女 料理.
 pacanikā 女 漢語 ((鍋)), 轎子 (?) *Mvyut.*
 pacelima 形 速かに料理される, 急速に成熟する.
 pacchas 副 [pad-śas] 一步ごとに, 行(pāda)ごとに.
 pac-chauca 田 [pad-śauca] 足を洗い浄めること.
 [Paj, Pañj, 結びつける, 囲む].
 pajra 形 肥満した, 頑丈な, 強固な.
 [Pañc, 広げる, 分明にする].
 pañca 形 〇— =pañcan; 漢語 五 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Śikṣ.*
 pañcaka 形 五からなる, 五に関する; 五日を経た; [śata とともに 田] 五パーセント; 漢語 五, 五(唯) *Abh-k., Saddh-p., Sāṃkhy-k.* 田 五を現わす数. 男 種 [仏陀の最初の五人の弟子] (*Jāt-m.*).
 pañca-kapāla 形 (女-i) 五枚の皿に分配された.
 pañca-karpaṭa 男 種 [民族の名].
 pañca-kaṣāya 形 漢語 五濁 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sūtr.*
 pañcakaṣāya-kāla 男 漢語 五濁悪世, 五濁世, 五濁時 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.:* abhyutsade ~e 於五濁世, 五濁出現時, 当於五濁興盛時 *Gaṇḍ-vy. 335.*
 pañcakaṣāya-loka 男 漢語 五濁世, 五濁悪世 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.* ~e kāle 五濁世時, 五濁悪時 *Gaṇḍ-vy. 167.* [刊本異なる].
 pañca-kula 男 役人, 職員.
 pañca-kṛtvas 副 五度, 五回.
 pañca-kleśa-bheda 形 五種の苦痛によって悩まされた.
 pañcā-gaṇḍaka 形 [恐らくは] 五つの部分からなる (*Divy.*).
 pañca-gati 女 漢語 五趣, 五道 *Rāṣṭr.*
 pañca-gatika 形 漢語 五趣 *Abh-vy.*
 pañcagati-samatikrānta 男 漢語 [仏の称] 超越五道 *Divy.*
 pañca-gavya 田 [田 または 種] 牝牛の五つの産出物 [牛乳・凝乳・乳酪(バター)・尿および糞].
 pañca-guṇa 形 (種) より五倍大きい; 五種の徳をもつ.
 pañca-grāmi 女 五カ村の一団.
 pañca-cakṣus 田 漢語 五眼 *Lal-v.*
 pañcacakṣuḥ-samanvāgata 形 漢語 成就五眼 *Lal-v.*
 pañca-catvāriṃśat 女 四十五.
 pañca-candra 男 [人名].
 pañca-cūḍa 形 五房の髪をもつ.
 pañca-cūḍaka 形 [同上]; 漢語 五角, 五髻者 *Lanik.*
 pañca-cūḍā 女 =pañca-coḍā; [ある *Apsaras* の名].
 pañca-coḍā 女 五つの突出部のあるれんが.
 pañca-jana 男 種 五種族または五種の存在 [諸神・人間・Gandharva-Apsaras・竜および祖霊]; 田 人間, 人類; 五要素 (〇—); [*Kṛṣṇa* 神に屠られた悪魔の名]; [ある *Prajāpati* の名]; [諸人の名].
 pañca-janiya 形 Pañca-jana (五種族) に捧げた.
 pañca-jñeya 田 漢語 五法 *Lanik.*

pañcajñeyāvabodhaka 形 漢語 覚悟於五法, 為人説五法 *Lanik.*
 pañca-tantra 田 五篇(からなる寓話集の題名).
 pañca-tantraka 田 [同上].
 pañca-tapa 形 韻律 =pañca-tapas(形); 漢語 五熱, 五熱炙身 *Av-s., Lal-v., Śikṣ.*
 pañca-tapas 形 五火 [四方角の火および上方の太陽] に身をさらした(苦行者). 田 (苦行者が身をさらす)五火; 漢語 五熱 *Gaṇḍ-vy.:* ~tapyamāna 五熱炙身 *Gaṇḍ-vy.*
 pañcataya 形 (女-i) 五重の, 五倍の.
 pañcatā 女 五である状態; 五倍の量; (身体を)五要素 [地水火風空] に分解すること, 死. ~ṃ Gam, ~ṃ Yā 死ぬ. ~ṃ Ni 殺す.
 pañca-tirthī 女 五つの聖なる沐浴地; [聖地の名].
 pañca-tūrya 田 漢語 五音之樂, 五種音声伎樂 *Sūtr-pr.*
 pañca-triṃśat 女 三十五.
 pañca-triṃśati 女 [同上].
 pañcatva 田 五であること; 五要素 [地水火風空]; 五(要素)への分解, 死. ~ṃ Gam 死ぬ. ~ṃ Ni 殺す.
 pañcadaka 男 種 [民族の名].
 pañca-daśa 形 (女-i) 第十五番目の; 十五からなる; 十五だけ増加する.
 pañca-daśan 數 形 種 十五(の).
 pañcadaśa-vārṣika 形 (女-i) 十五歳の.
 pañcadaśāha 男 十五日の期間.
 pañcadaśāhika 形 十五日間継続する.
 pañca-daśī 女 (半月の)第十五日.
 pañca-drauṇika 形 (女-i) 5 droṇa からなる.
 pañca-dharma 男 漢語 五法 *Lanik.*
 pañcadharma-svabhāva-lakṣaṇa-pravicaya 形 漢語 觀察五法自法相, 觀察五法自相 *Lanik.*
 pañcadhā 副 漢語 五部分に, 五重に, 五倍に; 漢語 五, 五種; 五分 *Madhy-v., Sāṃkhy-k.*
 pañca-dhātu 田 田 五要素.
 pañca-dhātuka 形 五要素からなる.
 pañca-dhāraṇaka 形 五要素で支持された.
 pañcan 數 五; 漢語 五 *Bodh-bh., Madhy-v., Mvyut., Sāṃkhy-k.* 形 種 五の; [*Kathāsaritsāgara* の第十四章 (lambaka) の題名].
 pañca-nakha 形 五つの爪をもつ. 男 五つの爪をもつ獣.
 pañca-nada 田 五河地方, *Pañjāb*; [聖地の名]. 男 種 *Pañjāb* の住民; 田 [河の名]; *Pañjāb* の王侯.
 pañca-navata 形 (女-i) 第九十五の.
 pañca-navati 女 九十五.
 pañca-navatitama 形 (女-i) 第九十五の.
 pañca-pañca 形 =pañca-pañcaka.
 pañca-pañcaka 形 五の五倍の.
 pañcapañcaka-pañca 形 漢語 五興五及五, 五五於五五 *Lanik.*
 -pañca-pañcan 形 =pañca-pañcaka.
 pañca-pañcāśa 形 (女-i) 第五十五の.
 pañca-pañcāśat 女 五十五.

pañca-pattra 形 五つの羽をもつ。
 pañca-padī 形 女 五歩進んだ。女 五歩；(強韜の用いられる) 五つの格 [すなわち 困呼の 圍圍圍、業の 圍圍]；[河の名]：～ na diyate 五歩(さえも彼と)ともにしない。
 pañca-parva 形 五つの曲折をもつ(河)，五倍の (*Buddh-c.*)。
 pañca-parvan 形 五つの節をもつ(矢，杖)。
 pañca-pala 形 5 pala の重量ある。
 pañca-palī 女 5 pala の重量。
 pañca-pura 中 [都城の名]。
 pañca-purāṇīya 形 5 purāṇa の価値ある(貨幣)。
 pañca-puṣpamaya 形 (女-i) 五花からなる。
 pañca-prasūti 形 五人の子をもつ。
 pañca-prastha 形 五つの丘陵をもつ。
 pañca-praharaṇa 形 五つの座席をもつ(車)。
 pañca-prāṇa 男 覆 五気。
 pañca-phuṭṭika 形 (一日に) 5 phuṭṭikā を織る。男 [人名]。
 pañca-bandha 男 (あるものの) 価値の五分之一 [紛失物に対する科料]。
 pañca-bandhana 中 漢訳 五縛 *Gaṇḍ-vy.*
 pañcabandhana-baddha 形 漢訳 被五縛 *Gaṇḍ-vy.*
 pañca-bāṇa 男 五本の箭をもった神，*Kāma* 神。
 pañca-bindu-prasṛta 中 [舞踊における型の一種]。
 pañca-brahma 中 [祈禱の一種]。
 pañca-bhadra 形 五つの美德または吉祥な特徴をもつ(馬)。
 pañca-bhūta 中 覆 五種の要素(地水火風空)；漢訳 五大 *Sāṃkhy-k.*
 pañca-bhūryābhimukhā 女 [pañca-sūryābhimukhā の誤り] [ある *Apsaras* の名] (*Kār-vy.*)
 pañcama 形 (女-i) 第五の；[amśa 男 とともに] 五分之一；漢訳 第五 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Lañk.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* ～m 副 五回目に；五番目に。男 インドの音階の第五 [後には第七]；諧調の一種，＝～rāga；子音の(各列の) 第五のもの すなわち鼻音；漢訳 五，第五，等五 *Mvyut.*
 pañca-maṇḍalaka 形 漢訳 五輪 *Mvyut.*
 pañca-maṇḍala-namaskāra 男 平伏の敬礼(*Sukh-vy. I.*)
 pañca-maṇḍala-praṇāma 男 漢訳 五輪帰命，五輪作礼，五体投地 *Bodh-bh.*
 pañcama-prahara 男 漢訳 五更，早晨 *Mvyut.*
 pañcama-bhāga 男 漢訳 五分之一 *Mvyut.*
 pañcamaya 形 (女-i) 五(要素)からなる。
 pañca-mahā-kalpa 男 [Viṣṇu 神の称]；
 pañca-mahā-bhūtamaya 形 (女-i) 五要素(地水火風空)からなる。
 pañcamāṃśa 男 漢訳 五分之一 *Mvyut.* → pañcama.
 pañca-māṣaka 形 5 māṣa からなるまたはの量ある。
 pañca-māṣika 形 [同上]。
 pañca-māśya 形 (その発育に) 五ヵ月を要する(種子)；五ヵ月ごとに起る。
 pañcamī 女 (半ヵ月の中の) 第五日；(文法) 第五格

(すなわち 従格) またはその語尾，従格の語；命令法の語尾。
 pañca-mukha 形 五つの顔をもつ，五面の，五頭の；五つの先端をもつ(矢)。
 pañca-mūla 男 [*Durgā* の従者の名]。
 pañca-yakṣā 女 [聖地の名]。
 pañca-yajña 男 覆 家長の五種の宗教的行事，五大供儀 (*brahma-yajña*, *deva-*, *pitṛ-*, *manuṣya-*, *bhūta-* の五)。
 pañca-yāna 中 漢訳 五乗 *Lañk. 306.*
 pañca-yāma 形 五つの進路をもつ。男 [*Ātapa* の子の名]。
 pañca-yuga 中 五年の周期；五年間。
 pañca-yojana 中 5 yojana の距離。
 pañcayojana-mātra 中 漢訳 (音写) 五踰閻那量 *Sa-ddh-p.*
 pañca-yojanī 女 5 yojana の距離または道程。
 pañca-yoni 形 五つの胎すなわち根源をもつ。
 Pañca-rakṣā 女 [五種の仏典の総称：1. *Mahā-pratisāra*, 2. *Mahā-sahasra-pramardini*, 3. *Mahāmayūri*, 4. *Mahā-sītavati*, 5. *Mahā-mantrānusārini*].
 pañca-rātra 中 五日(夜)の期間。形 五日間継続する。中 [*Viṣṇu* 教徒 *Pāñcarātra* 派の聖典の名称]；[*Bhāsa* の作と称せられる戯曲の題名]。
 pañca-rātraka 形 五日間継続する。
 pañca-rātrika 形 [pañca° の誤り]；(函) に五日間留まる。
 pañcala 男 漢訳 音写 [王の名] 般庶羅 *Abh-vy.*
 pañca-lakṣaṇa 形 五種の特徴をもつ。
 pañca-lambaka 男 [*Kathā-sarit-sāgara* の第十四章 (*lambaka*) の題名]。
 pañca-vaktra 形 五面をもつ。男 [*Śiva* 神の称]。
 pañca-vaṭa 男 [人名]。中 [*Rāma* の住した森林の一部の名]。
 pañca-vaṭī 女 [同上 男 中]；[五種のいちじく樹]。
 pañca-vandhura 形 五個の座席をもつ(車)。
 pañca-varga 男 五つの群または組；すなわち人体の五主要部 (→ *dhātu 1.*)
 pañca-varṇa 形 五色の；五種の；五倍の；漢訳 五種 *Guhya-s.*
 pañca-varṣa 形 五歳の。
 pañca-varṣaka 形 [同上]。
 pañcavarṣaka-deśīya 形 約五歳の，五歳程の。
 pañca-varṣīya 形 五歳の。
 pañca-vārṣika 形 五歳の；五年目ごとに繰返される。中 漢訳 五年一大会，供養五衆，供養五部僧 [°vārṣika(?)，恐らくは＝pañca-vārṣika-maha] *Diry. 403*, 玄奘；音写 般遮于瑟，般闍于瑟，般遮跋利利沙，般遮婆栗史迦 *Diry.*, 玄奘；satkāraṃ ～m 般遮于瑟極大之会 *Diry. 398.*
 pañcavārṣika-maha 男 漢訳 五歳筵，五年筵 *Mvyut.*
 pañca-viṃśa 形 (女-i) 第二十五の；二十五からなる，二十五を含む。男 [*Viṣṇu* 神の称]。
 pañca-viṃśaka 形 第二十五の；二十五からなる；二十五歳の [*vayasā* とともに]。
 pañca-viṃśati 女 二十五。

pañca-viṃśatika 甲 二十五(を表わす数).
 pañcaviṃśati-tattva 甲 漢訳 二十五諦, 二十五真実 *Lank.*
 pañca-viṃśatitama 形 第二十五の.
 pañca-viṃśatima 形 (女-i) [同上].
 pañcaviṃśati-sahasrikā 女 [経の名] [二万五千頌般若波羅蜜多経] (*Prajñ-uy. 11.*).
 pañcaviṃśati-sāhasrikā 女 漢訳 [経の名] 智慧到彼岸二万五千頌; (音写) 大般若二万五千頌 *Mvyut.*
 pañcaviṃśatisāhasrikā-prajñāpāramitā 女 [経の名, 大般若経第二会等].
 pañca-viṃśa-brāhmaṇa 甲 [ある *Brāhmaṇa* の題名].
 pañca-vikrama 形 五様に動く(車).
 pañca-vijñāna 甲 漢訳 五識 *Bodh-bh.*
 pañcavijñāna-kāya 男 漢訳 五識, 五識身 *Bodh-bh., Lank., Madhy-vibh.*
 pañca-vidyā-sthāna 甲 漢訳 五明処 *Bodh-bh., Sūtr.*
 pañca-vidha 形 五重の; 五種の, 五部の; 漢訳 五種 *Bodh-bh., Sūtr.*
 pañca-vṛt 副 五重に; 五度.
 pañca-śata 形 覆 五百の; 500 paṇa からなる(科料); 500 paṇa (の科料)を支払う; 第五百の. ~e kāle (第)五百年目に. 甲 百五; 五百.
 pañca-śatatama 形 (女-i) 第百五の, 第五百の.
 pañca-śatī 女 五百; 漢訳 五百 *Vajr-pr.:* paścimāyām ~yām 後五百歳, 後分五百 *Vajr-pr.*
 pañca-śara 男 [(五本の矢をもつた), *Kāma* 神の称].
 pañca-śākha 形 五枝をもつ; 五指をもつ. 男 手.
 pañca-śikha 形 五つの髻をつけた(苦行者). 男 [ある *Sāṃkhya* 派の学徒の名]; [*Śiva* 神の従者の名]; 漢訳 音写 般尸訶 *Sāṃkhy-k.*
 pañca-śikhaṇḍa 形 [同上 形].
 pañcaśikhi-kṛta 形 苦行者となった.
 pañca-śīla 甲 五つの徳目; 五戒.
 pañca-śirṣa 形 五つの頭をもつ; 五つの穂をもつ(麦).
 pañca-sūla 形 漢訳 五結 *Guhy-s.*
 pañca-ṣa 形 覆 五または六の.
 pañca-ṣaṣṭa 形 (女-i) 第六十五の.
 pañca-ṣaṣṭī 女 六十五.
 pañca-ṣaṣṭitama 形 (女-i) 第六十五の.
 pañca-sattra 甲 [地方の名].
 pañca-saptata 形 (女-i) 第七十五の.
 pañca-saptati 女 七十五.
 pañca-saptatitama 形 (女-i) 第七十五の.
 pañca-sahasrika 形 五千の(一°).
 pañca-sahasri 女 五千.
 pañca-sūnā 女 覆 [家の中で偶発的に生命を失わしめる五種の道具(すなわち炉, 調味料を砕く板石, 箒, 杵と臼, 水甕)].
 pañca-skandha 男 =pañca-skandhī, [色・受・想・行・識]; 漢訳 五蘊, 五陰 *Lank.*
 pañca-skandhaka 形 漢訳 五蘊, 五陰 *Abh-uy.*
 pañcaskandha-kadambaka 形 漢訳 五蘊聚集, 五陰聚集, 五陰聚落 *Lank.*
 pañcaskandhaka-prakarāṇa 甲 漢訳 五蘊注解 *Mvyut.*

pañca-skandhī 女 [圍 覆] (仏教徒の) 五 skandha.
 pañcaskandhopanibandha 男 (°dha-up°) 漢訳 [仏典の名] 大乘五蘊論, 大乘広五蘊論 *Vijñ-t.*
 pañca-sthāna-kausalya 甲 漢訳 五処善巧 *Bodh-bh.*
 pañca-srotas 形 五つの流れをもつ.
 pañca-hasta 男 [地方の名].
 pañca-hāyana 形 五歳の.
 pañcākṣara 形 五音節の.
 pañcākhyāna (°ca-ākh°) 甲 =pañca-tantra.
 pañcākhyānaka (°ca-ākh°) 甲 [同上]; [*Pūrṇabhadra* 作の *Pañcatantra*].
 pañcāgni 形 五聖火を保持する; 五火に身をさらす [=pañca-tapas]. 男 五聖火を保持する家の主人; 覆 五聖火.
 pañcāgnitva 甲 五火(すなわち五種の熱情)の集合.
 pañcāṅga 甲 五肢または五部分(一°); 漢訳 五支 *Divy.* 形 (女-i) 五肢または五部分からなる.
 pañcāṅga-viprahīna 形 漢訳 [仏の称] 遠離五支 *Divy.* [*Pāli pañcāṅga-vippahīna*].
 pañcāṅgādika (°ga-ād°) 形 五肢を用いて行なう(無言劇).
 pañcāṅgopeta (°ga-up°) 形 漢訳 五(徳)円備, 具足五(徳) *Divy.*
 pañcācalāṅka 形 五つの丘で分けられた (*Buddh-c.*).
 pañcātapa (°ca-āt°) 形 五火の苦行をする; 漢訳 五熱 *Divy.*
 pañcātapaḥvasthita (°ca-āt°) 形 漢訳 五熱炙身 *Divy.*
 pañcātmaka (°ca-āt°) 形 五要素からなる; 五重の.
 pañcātmakatva (°ca-āt°) 甲 [同上 圍] 五要素からなること, 五重の特質.
 pañcānana (°ca-ān°) 男 (五面をもつ, 恐しい), 獅子.
 pañcānani (°ca-ān°) 女 [*Durgā* の称].
 pañcānantarya (°ca-ān°) 形 漢訳 五無間(業) *Lank.*
 pañcānantarya-karāṇa (°ca-ān°) 甲 漢訳 五無間罪, 造作五無間 *Śikṣ.*
 pañcānantarya-kārin (°ca-ān°) 形 漢訳 造作五無間罪 *Śikṣ.*
 pañcānantarya-samanvāgatāpatti (°ca-ān°, °ta-āp°) 女 漢訳 成就五無間罪 *Śikṣ.*
 pañcānusaṃsa 男 漢訳 五徳, 五種称揚 *Sūtr.*
 pañcāpatti-nikāya (°ca-āp°) 男 漢訳 五聚罪 *Sūtr.*
 pañcāpsaras 甲 [湖水の名].
 pañcāpsarasa 甲 [同上].
 pañcābdākhyā (°da-ākh°) 形 五年間存続する.
 pañcābhijñā 形 漢訳 五通 *Suv-pr.:* ~ai ṛṣibhiḥ 五通神仙, 五通之人神仙 *Suv-pr. 86.*
 pañcābhijñā 女 漢訳 五通, 五神通; (音写) 五旬 *Aṣṭ-pr., Śikṣ., 玄応;* (音写) 般遮旬 玄応.
 pañcāmṛta 甲 [圍 覆] 五種の神の食物; 五要素.
 pañcāra 形 五つのや(輻)をもつ(車輪).
 pañcāla 男 覆 [ある民族および王朝の名]; 圍 [正しくは *Pāñcāla*] *Pañcāla* の王侯; [*Śiva* 神の称]; 漢訳 [地名および竜王の名] 取五, 五頭 *Mvyut.*; (音写) [地名] 般遮羅, 半遮羅 *Mvyut., Suv-pr.;* [人名] 槃遮耶 *Av-s.:* ~eṣu jana-padeṣu 般遮羅聚落 *Suv-*

pr. 185.

pañcāli 女 人形.

pañcāvatta 田 祭餅等の三小片とその上下の酥油からなる供物. → catur-avatta.

pañcāvayava 形 五肢をもつ, 五支からなる.

pañcāvarta (°ca-āv°) 形 五つの渦(すなわち五官の対象)をもつ.

pañcāśa 形 (女-i) 第五十の.

pañcāśaka 形 覆 五十.

pañcāśacchas (°śat-śas) 副 五十ずつ.

pañcāśat 女 五十; 漢訳 五十 Sāṃkhy-k.

pañcāśata 田 [同上].

pañcāśati 女 [同上].

pañcāśatka 形 五十からなる; 五十歳の.

pañcāśattama 形 第五十の.

pañcāśat-panika 形 50 paṇa からなる(科料).

pañcāśat-palika 形 50 pala の重量ある.

pañcāśat-saika (°sa-eka) 形 漢訳 五十一 Abh-k.

pañcāśad-bhāga 男 第五十の部分.

pañcāśad-bheda 男 漢訳 五十分 Sāṃkhy-k.

pañcāśad-varṣa 形 五十歳の.

pañcāśikā 女 五十の一群.

pañcāśita 形 (女-i) 第八十五の.

pañcāśiti 女 八十五.

pañcāśititama 形 (女-i) 第八十五の.

pañcāsu-vandhura 形 五つの氣息をもって座席(?) または 輪(?) とする(車).

pañcāśya (°ca-ās°) 形 五面の顔をもつ, 五面をもつ, 五頭の; 五つの尖端をもつ(矢). 男 獅子.

pañcāha 男 五日(の期)間. 形 五日間継続する.

pañcikā 女 五つの adhyāya からなる書物; [遊戯の一種].

pañcin 形 五部からなる.

pañci-karaṇa 田 五にすること; 五つの微細な元素(地水火風空)の各々を分割し, 各々他の四種をも含むように結合させて五個の粗大な元素を作ること [Vedānta-sāra 124, 125].

pañci-Kṛ, 五とする; 五個の微細な元素(地水火風空)の各々を分割し, 各々他の四種をも含むように結合させて五個の粗大な元素を作る. → pañci-karaṇa.

pañcendriya (°ca-in°) 形 五官をもつ. 田 五つの感覚器官, 五官; 漢訳 五根 Abh-k., Madhy-vibh., Sūtr., Vajr-s.

pañcendriyatva (°ca-in°) 田 漢訳 五根性 Madhy-vibh.

pañceṣu (°ca-iṣu) 男 [(五つの矢をもつ), Kāma 神の称].

pañcona (°ca-ūna) 形 五つだけ少ない.

pañcopādāna-skandha (°ca-up°) 男 漢訳 五陰, 五受陰, 五取蘊 Lank., Sūtr. → upādāna-skandha.

Pañj, → Paj.

pañjaka 男 [人名].

pañjara 田 鳥籠 [拘禁するものについての 譬喩]; (覆)格子のある垣, 網; 骨格; 身体; 漢訳 籠, 籠檻, 籠繫, 樊籠; 箱 Buddh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Śikṣ.; 牆 Mañj-m.; 羅網 Lank.,

Rāṣṭr.: 獄, 牢獄 Gaṇḍ-vy. → asthi~, duḥkha~.

pañjaraka 男 田 鳥籠.

pañjara-kapiñjala 男 籠の中のしゃこ(鷓鴣).

pañjara-kapota 男 籠の中の鳩.

pañjara-kesarīn 男 檻に入れられた獅子.

pañjara-cālana-nyāya 男 (行動はそれぞれ異なっているけれど力を合わせる十一羽の鳥は)籠を動かすという理法.

pañjara-bhāj 形 檻に入れられた.

pañjara-śuka 男 籠の中のおうむ(鸚鵡).

pañjara-stha 形 =pañjara-bhāj.

pañjarā 女 漢訳 箕 Mvyut.

pañjikā 女 各語を説明し分析した註釈; (一°)の詳細な記述; 漢訳 細疏 Mvyut.

Paṭ, I. 田 paṭati 割れる, 裂ける, 開く; ひた走りに走る, 速かに流れる. 使役 田 pāṭayati 貫く; 引きはがす; 切り離す; 裂く, 引っ掻く; むしりとるまたははぎ取る; はぎ離す, 折り取る; 引き裂かしめる.

使役 田 pāṭyate 漢訳 破, 分析, 劈割 Abh-vy., Śikṣ. 使役 過受分 pāṭita.

ava- 使役 avapāṭaya- 引きはがす, 引き裂く.

ut- 使役 utpāṭaya- 分け離す; はぎ取る, 折る, 破る; (鞘から)抜く; 根絶する; (両眼を)広く開く; 移す, 追い払う; 絶やす; 退位させる; 漢訳 抜, 出, 挽, 挑取; 壊, 毀壊; 制伏, 降伏 Divy., Lal-v. 使役 田 utpāṭyate 漢訳 挑 Śikṣ.

sam-ut- 使役 samutpāṭaya- 引きはがす; 引き離す; 退位させる.

pari- 使役 paripāṭayati [Pāli paripāṭeti] 破壊する; 引き裂く, 引っ掻く(Divy.); 漢訳 破 Divy.

vi- 使役 vipāṭaya- 割る; 裂く; 引き離す; 散らす; 根絶する; 破壊する; 移す, 追い払う; 引き離す; 逃げ出す.

paṭa 男 織物, (一きれの)布; 衣服; ヴェール, 幕, 天幕; (書画用の)布地, 画布, キャンバス; 絵画(一°); 漢訳 帛巾, 絹; 布, 刷絨; 衣, 塵堅衣; 襪子; 頭器蔽絹 Abh-vy., Bodh-c., Madhy-v., Mvyut., Nyāy-pr.; 畳, 氈, 氈毯 Lank., Mvyut.; 幘, 画幘 Divy., Mañj-m.; 像 Mañj-m.; 穀 Bodh-bh. → timira~.

paṭaka 男 綿布; 王侯の休息所, 野營の天幕; 村落の半分; 漢訳 氈 Av-ś.; 大布整 Mvyut.

paṭa-kuṭi 女 天幕; 漢訳 毛張 Mvyut.

paṭac-cara 男 盗賊, 強盗; 覆 [ある住民の名]. 田 (?) 古いまたはすり切れた衣服, ぼろ.

paṭa-bhākṣa 男 物をうかがい見る道具.

paṭa-maṇḍapa 男 天幕; 首長の天幕.

paṭamaya 田 (粗布で作った), 天幕.

paṭala 田 (?) 屋根 [また -i 女]. 田 被覆, ヴェール, 幕; 籠, 蜜蜂の巣箱; [また -i 女] 塊 (とくに雲の), 群; 漢訳 重, 蓋 Śikṣ.: dvātrimśat~三十二重 Śikṣ. 247. → dhūpa~. 男 田 小片, 部分; (書物の)節または章; 漢訳 品, 分次第 Bodh-bh., Mvyut.: śīla~ 戒品 Bodh-bh. 188. 男 (眼球内の病気にかかった)膜, 白内障, [眼病の一種]; 漢訳 翳, 膜,

翳膜, 眼膜, 厚膜, 厚痘, 翳障 *Daś-bh., Divy., Lal-v., Lanik., Śikṣ.*
paṭalaka 男 田 被覆; 小箱.
paṭala-visara 男 漢語 品 *Mañj-m.*
paṭa-vāsa 男 香料入りの白粉
paṭa-vāsaka 男 [同上]; [悪竜の名].
paṭa-vāsini 女 漢語 衣(食)婦, ((衣(食)住婦)); 被衣, 衣食資養 *Mvyut.*
paṭa-veśman 田 天幕.
paṭa-śukla 男 漢語 帛, 白色衣 *Lanik.*
paṭa-sūtra 田 漢語 糸, 幪之線 *Mañj-m., 梵雜.*
paṭa-ha 男 (田) (膜皮を打つことまたは鳴らすこと), 太鼓, かま形太鼓, 小鼓; 漢語 小鼓, 角 *Bodh-bh., Saddh-p.* ~ṃ BHram (便役), ~ṃ Dā または 便役 dāpaya- 太鼓を打って告知する.
paṭaha-ghoṣaka 男 太鼓を打って告知する人.
paṭaha-ghoṣaṇā 女 太鼓を打って告知すること. ~ṃ Dā, ~ṃ BHram (便役) 太鼓を打って布告する.
paṭa-hatā 女 太鼓の響; 太鼓の状態または機能.
paṭaha-dhvani 男 太鼓の響.
paṭaha-prodghoṣaṇa 田 =paṭaha-ghoṣaṇā.
paṭaha-bhramaṇa 田 [同上].
paṭaha-śabda 男 太鼓の響.
paṭākā 女 旗; 漢語 幡 *Lal-v.*
paṭāñcala 男 衣服の縁, 布の縁.
paṭānta 男 [同上].
paṭi 女 布(の一種).
paṭikā 女 織物; 漢語 屏幃幃幔 *Śikṣ.*
paṭi 女 布の細長い片; 衣服または布の縁; 舞台の幕, 緞帳; 漢語 (音写) 波啼布 *Mvyut.*
paṭi-kṣepa 男 (舞台で)幕を引きあけること. ~eṇa pra-Vis 急いで(舞台に)入る (戯曲).
paṭiyas 比較 (一°) に非常に巧みな; (因, 一°) によく適する; 漢語 強, 強盛 *Abh-vy.*
paṭira 男 白檀樹; ふるい(篩).
paṭira-māruta 男 白檀樹から来る風; ふるい(の一種)を動かして生じた風.
paṭu 男 鋭い; まぶしい; 鋭い, 冴えた(音); 刺激的な(味); 辛辣な, 残酷な; 賢い, 利口な, 巧みな; 熟練した; (因) に巧みな, …に適した; 激しい, 猛烈な, 怖しい, 狂暴な; 漢語 明, 明利, 明了, 分明, 照明, 聡明, 利, 聡利, 妙, 弁正機捷, 弁正機速 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p.*; 謹慎 *Mvyut.*
paṭu-karaṇa 男 健全な器官をもつ.
paṭu-ghaṇṭā 女 鋭く響く鐘.
paṭu-jātīya 男 生れつき利発な, 巧妙な.
paṭutara-gir 男 非常に鋭い声をもつ.
paṭutā 女 (視力の)鋭いこと; 聡明, 器用, 巧妙, 熟練.
paṭutva 田 [同上]; 漢語 明利, 明了 *Abh-vy.*
paṭu-mati 男 鋭敏な知力をもつ, 叡智のある.
paṭu-vana-dāha 男 激しい山火事または野火.
paṭu-viveka 男 透徹した精神をもつ.
paṭū 副 [Kr とともに] 鋭くする, 強くする(*Jat-m.*).

paṭottariya (°ṭa-ut°) 田 上衣.
paṭola 男 [きゆうりの一種, 学名 *Trichosanthes dioeca*]. 田 Paṭola の果実.
paṭṭa 男 (銅等の書画用の)板または薄片 [pattra]; 細長い布片, 縹帯; (名誉または王位を表わす)前額に着ける布, 冠; 布; 漢語 板, 葉 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v.*; 絹, 縹, 白縹, 絹疋, 縹綵, 疋綵, 縹帛, 縹縹; 幡縹, 旒蘇 *Divy., Gand-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Śikṣ., 梵千., 梵雜.*; 細氈 *Śikṣ.*; 衣, 衣服, 服飾 *Divy., Śikṣ.*
paṭṭaka 男 [同上]; 板; (碑銘のための)板金; 縹帯, 紐; 漢語 絹, 衣, 紬縹 *Divy., Mvyut.* 田 (板上に刻まれた)文書.
paṭṭa-karma-kara 男 織る人.
paṭṭa-karman 田 織ること.
paṭṭa-kila 男 (王勅による)借地人.
paṭṭa-ja 田 布(の一種).
paṭṭa-talpa 男 絹布の寝床.
paṭṭa-dāman 田 漢語 綺帯, 縹綵, 絹結帯 *Lal-v., Mvyut.* → āmukta.
paṭṭa-devi 女 冠で(飾った)王妃; 第一王妃.
paṭṭana 田 町, 市.
paṭṭa-nivasana 男 町民, 市民.
paṭṭava 男 田 (?) 布(の一種); 漢語 縹 *Mvyut.*
paṭṭa-vastra 田 布(の一種), 布の衣服; 漢語 細妙衣服 *Divy.*
paṭṭa-vāsas 男 彩色した布または絹織物で着飾った.
paṭṭa-śālā 女 天幕.
paṭṭa-sūtra 田 絹糸; 漢語 糸 *梵千.*
paṭṭāṃsu 田 漢語 羅 *Mvyut.*
paṭṭāṃsuka 田 衣服(の一種).
paṭṭābhīṣeka 男 戴冠式.
paṭṭāya 名動 田 paṭṭāyate (一°)の板に似ている.
paṭṭikā 女 板, 薄片; 縹帯; 細長い布; =paṭṭa; 漢語 帯, 層 *Mvyut.*; 丸, 石 (?) *Divy. 352.*
paṭṭikā-vāpaka 男 [恐らく °vāyāka の誤り] 絹を織る人, リボンを作る人.
paṭṭikā-saṃnāha 男 漢語 蓮環甲 *Mvyut.*
paṭṭiśa 男 鋭利な鎗; 三つの尖端のある武器.
paṭṭiśin 男 paṭṭiśa で武装した.
paṭṭiśa 男 [=paṭṭiśa]; 漢語 劍利, 矛獠, 三股叉 *Lal-v., Mañj-m., Mvyut.*
paṭṭopadhāna (°ṭa-up°) 田 絹の座蒲団または枕.
paṭṭopādhyāya (°ṭa-up°) 男 公文書(認書等)の彫版師.
Paṭh, I. 田 paṭhati [叙語 または 田 paṭhate] 朗誦する, 朗読する; (自ら)復誦する, 学ぶ, 読む; (書物の中で)提議する・述べるまたは引用する, (男)と称する, (男)であると宣言する; 漢語 誦, 説, 誦持, 誦誦; 受持 *Abh-vy., Av-ś., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gand-vy., Lanik., Mvyut., Saddh-p.* 便役 田 pāṭhayati 語らせる, 語ることを教える; 読ませる, 読むことを教える, (男)に(男)を教える; 読む; 暗誦する. 漢語 pāṭhiti, pāṭhyate たびたび繰返す; せつせと学ぶまたは読む.
ati- 大いに称揚する.

saṃ- 読む。

paṭhaka 男 読者, 暗誦者。

paṭhana 中 暗誦; 勉強, 読書; 言及; 漢訳 読誦, 言論 Lal-v., Śikṣ.

paṭhaniya 未受分 読まれるべき, 学ばれるべき。

paṭhita 過受分 誦誦された, 読まれた, 学ばれた, 述べられた; 漢訳 誦, 読, 読誦, 言 Abh-vy., Divy., Śikṣ.

paṭhita-siddha 過受分 誦誦されるとすぐに効果のある。

paḍvīsa-śaṅku 男 (馬の)足を縛る杭。

Paṇ, I. (廻) 中 paṇate(-ti) [Pr IX.] 買う; 売買の協定をする; 賭ける; (廻)を賭けて勝負事をする; (廻)を賭ける. yuddham~ 危険を冒して戦う。

vi- 売る; (廻)を賭ける。

paṇa 男 (廻, 廻, 一°)の遊戯, …の賭, 賭け遊び; 売買の協定, 契約, 約定; 賭物, 賭金; 懸賞; [ある一定重量の貨幣すなわち 20 māsa]; 漢訳 錢 梵千, 梵雜. ~m Kr 賭ける. ~e ny-As 賭け事をする。

paṇa-kāla 男 賭事の時間。

paṇa-kriyā 女 賭博; (一°)を賭けること. ~m Kr 賭け事をする。

paṇana 中 商業(販売または購入); 交易; 賭博, 賭物; 漢訳 売 Mvyut.

paṇa-bandha 男 契約の締結, 約定。

paṇa-bandhana 中 [同上]。

paṇayitṛ 男 販売人。

paṇava 男 太鼓(の一種, 伴奏用の小太鼓); 漢訳 鼓, 腰鼓, 細腰鼓, 銅鼓; 鏡, 羅; 打環 Lal-v., Lanḅ., Mvyut., Saddh-p.

paṇavin 男 太鼓を持った。

paṇa-stri 女 金銭で得られる女, 娼婦, 遊女, 淫売婦。

paṇāya 名動 paṇāyati (-te) 売る。

paṇi 男 けちんぼ(吝嗇家), 食欲家[とくに供儀をおしむ人 および自己の財産を人に分け与えない不信者の称(廻)]; [神々および *Angiras* 族によって征服された一種の悪魔で財宝の隠匿者の称(廻, P.)]; 盜賊, Purohita 祭官に扮した盜賊(P.)。

paṇita (過受分) 中 (廻)の賭; 賭金, 賭物。

paṇitaka 中 賭事. 男または中 漢訳 ~m badhnanti 令吐, 著嘔 Mvyut.

paṇitṛ 男 商人, 取引者。

paṇḍa 男 宦官, 性的不能者。

paṇḍaka 男 [同上]; 漢訳 黄門, 不男, 不男之人 Divy., Mvyut., Saddh-p., 立伝.; 音写 般吒, 半拈, 半拈迦, 半拈迦, 般茶迦 Abh-vy., Mvyut., Śikṣ., Sukh-vy. I., 立伝.; āsakta-prādurbhāvi ~h 触抱黄門, 抱生黄門 Mvyut. āpat~ 被害黄門, 去茎黄門 Mvyut.

paṇḍara 男 [竜王の名]; 漢訳 ~o nāgarājā 人竜王, 人値(倍?) 竜王 Mvyut.

paṇḍita 男 学問のある; 賢い, 伶俐な; 教養ある, (一°)に巧みな; 漢訳 聡叡, 聰明, 聡慧, 聡利, 聡敏, 黠慧, 有智慧, 智慧狂傲, 高才, 了達, 能,

賢能, 解, 謀, 有謀, 智謀 Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜. 男 学者, 学問のあるまたは賢い人; Pandit; 漢訳 智人, 智者, 有智, 有智者, 智慧者, 明智者, 黠慧者, 知者, 黠慧, 聡叡者; 聖者, 有徳 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lanḅ., Madhy-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.

paṇḍitaka 男 学問のある, 教養のある; 学者ぶった, げん(術)学的の, 男 [Dhṛtarāṣṭra の子の名]。

paṇḍita-jātiya 男 相当に賢明な, 正しく学識のある; 漢訳 智, 黠, 有智, 有智性, 智慧, 智者, 賢能者, 有善巧智, 有智有慧 Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.

paṇḍitatā 女 知識; (一°)に巧みなこと。

paṇḍitatva 中 [同上]。

paṇḍita-buddhi 男 哲学的精神を所有する。

paṇḍita-mānika 男 みずからを賢明であると考え; 無智にして不遜な。

paṇḍita-mānin 男 [同上]。

paṇḍitaṃ-manyā 男 [同上]。

paṇḍitaṃ-manyamāna 男 [同上]。

paṇḍita-rāja 男 [人名]; [Jagannātha の称]。

paṇḍita-vijña 男 漢訳 明智, 智慧明達 Bodh-bh.

paṇḍita-sabhā 女 Pandit (学者)の集会。

paṇya 1. 未受分 称賛されるべき。

paṇya 2. 未受分 買われるべき; 購求することのできる; 金銭で自由になる. 中 商品, 貨物; 商業; 店舗; 漢訳 物, 財貨, 財物, 貨物, 財賄 Divy.; 販売, 貿易 Lal-v., Mvyut., Sūtr.; 価値 Av-ś., Lal-v.

paṇya-jana 男 商人, 取引する人。

paṇyatā 1. 女 称賛するに足ること。

paṇyatā 2. 女 商品であること。

paṇya-dāsi 女 やとい女; 雇傭した下婢。

paṇya-pati 男 大商人。

paṇya-bhūta 男 商品となる。

paṇya-yoṣit 女 金銭で得られる女, 娼婦, 遊女, 淫売婦。

paṇyavat 男 商品に富む。

paṇya-vikrayin 男 商人, 取引する人。

paṇya-vilāsini 女 =paṇya-yoṣit.

paṇya-vithikā 女 市場, 店舗。

paṇya-vithi 女 [同上]。

paṇya-stri 女 =paṇya-yoṣit.

paṇyāṅganā 女 [同上]。

paṇyāpaṇa (°ya-āp°) 男 漢訳 攤物件舗 Mvyut.

Pat 1. I. 廻 patati [叙詩 または 中 patate] 飛ぶ[また 漢訳]; 降る; (太陽が)沈む; 下りる; (廻, 廻)の上にはまたは中に倒れ伏す, 身を投ずる; (廻)の(足許に)平伏する; (廻)の中にまたは(廻または 廻 + upari)の上に落ち入る; …から(たとえば天から)(廻, 廻)に落ちる=(天)を奪われる; (地獄 廻または adhaḅ)へ落ちる; (道徳的に)墮落する; 地位または種姓(階級)を失う; (視線が)…に落ちる; (不幸が)起る; (廻)に入る; 漢訳 墮, 落, 墮在, 墮落, 崩摧, 退失 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Lanḅ., Mvyut.,

Sūtr., 梵子.; 躡 *Buddh-c.*; 附 *Abh-vy.* 過受分
patita 落ちた; (罽, 一°)の上に着ちた, (一°)から落ちた; 種姓(階級)を奪われた; (罽, 一°)の中に落ちた, …の中に陥入った. 使役 (罽) 𑖀 **patayati** 飛ばす; 飛翔させる; 𑖀 **patayate** 打ち倒す; 𑖀 (罽) **pātayati(-te)** 飛ばせる; (罽)に投げつける, …に投げうつ, …に投げる; (賽)を投げる; 飛ばす; (罽 𑖀 *supari* または 罽)の上に着ち(斧, 杖)を打ち下ろす, (罽)に(指)を打ちつける; (罽)に(罰)を課す; (涙)を流す, 催す; (水)を注ぐ; (罽)から投げ下ろす; 自身を投げ出す; (首)はねる; (齒)を叩き落す; 倒す; 投下する; (罽, 罽)の中へ投げる; (二つ *dvedhā*)に分ける; (罽)の中に入らせるまたは挿入する; …に(火)を点ずる; (罽)の上に置く; (測量繩 *sūtra*)を張る; (罽)に対して(凝視)を向ける; (罽)に(呪等)を浴びせるまたは投げる; 落す, 墮す, 荒廢させる, …に悩みをもたらす; (地獄に 罽)墮させる; (その価値)を失わせる, (価格を *arthatah*)下げる; (罽)に誘惑する; 誘導する, 行動を起させる; 漢訳 推落, 推墮, 毀, 斷 *Abh-vy.*, *Saddh-p.* 使役 過受分 **pātita**. 希求 𑖀 **pipatiṣati**, **pitsati** まさに飛ばうとしているまたは落ちようとしている.

ati- 飛び過ぎる, 飛び越す; 等閑に附す; …を越えて行く, (概念または範疇)の下に属さない. 𑖀 **atipatya** [罽 とともに]注意しないで (*Jāt-m.*).

anu- (罽)へ飛行する; …を追って飛ぶ; 随う, 追求する(また 譬喩). 使役 **anupātaya-** (ある者を)自己とともに(地獄へ)引き落す.

abhi- …へ飛び上る; …に向ってまたはへ突進する; (罽)におちるまたは入る; 漢訳 挫 *Lal-v.*

ava- (罽)の上に着ちる・飛ぶまたは跳び下りる. 使役 **avapātaya-** 投下する.

abhy-ava- 飛来する.

ā- (罽)へ飛ぶ; 突進する; (罽, 罽)の中にまたは上に落ちる; 不意に起る, 突発する; (罽)に出会う, …に起る; (罽)は(罽)のように見える; (罽)に…のように見える; 漢訳 会遇 *Bodh-bh.* 使役 **āpātaya-** (罽)の上に投下する; 打ち倒す; (涙)を注ぐ.

abhy-ā- …へ急ぐ; (罽 𑖀 *prati*)へ突進する.

sam-ā- …へ飛び来る; (罽)へ突進する. 過受分

samāpatita 突然出現したまたは来た (*Jāt-m.*).

ut- 飛び上る; 跳び出すまたは跳び上る; 起き上る, 現われる; 急いで出発する; 躍り出る, ほとぼしり出る; (罽)から流れ出る; 逃げる; 漢訳 出, 涌出, 迸, 昇, 趣, 踊身, 跳躑 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Sapt-pr.* **anūt-** (罽)を追って飛び上るまたは出発する.

abhy-ut- (罽)へ飛び上る; …に向って突進する.

sam-ut- とともに飛び上る; 攻撃する; (太陽)が昇る; (雲)が集まる; 跳び上る; 起き上る, 起る; 消滅する.

upa- (罽, 罽)へ飛ぶまたは急ぐ.

o(=ava)- 罽 漢訳 亂墮 *Saddh-p.* 83.

ni- (罽)の上に着ち下りる, …に降りる; (罽)の(足許に 罽)ひざまづく, (罽, 罽)に突進する, (罽, 罽)の上に着ちる; (罽)の中に突進するまたは突入する;

(罽)に入る; (罽)の間に落ちる; (罽)の中へ流入する; (罽 𑖀 *supari* または 罽)の上に着ちる, (罽, 罽)の中へ倒れる; (罽)の上に(目または視線)を落とすまたは止める; (罽) (の部に)参加するまたは入る; 生ずる, 起る; (罽)に起る; (ある人の)運命にふりかかる; 漢訳 墮, 下, 倒, 顛仆, 崩 *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*; 礼, 頂礼 *Bodh-bh.*, *Lank.* 使役 **nipātaya-** 倒れさせる; (罽)の上に着ちる・投げうつまたは射落す; (罽)の上に打ち下ろすすなわち(杖)で打つ; (罽)に(齒)を押し入れるすなわち嚙む; 落とす; 吐き出す; くつがえす, 破滅させる; 打ち倒す, 殺す, 破壊する; (罽)から(貢物を)徴収する; 目(視線)を向ける; とくに不規則であると定める, 不規則 (*nipāta*)と見なす (文法); 漢訳 入 *Guhy-s.*; 殺害, 残害 *Divy.*

abhi-ni- 使役 (語)を洩らす, 投げる (*Jāt-m.*).

upa-ni- 追加して起る, 付随して生ずる; 付随的に記述される.

pra-ṇi- (罽, 罽, 罽)の前に平伏する, …に恭しく敬礼する; 漢訳 拜, 礼, 敬, 恭敬礼, 頂礼, 帰命 *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sikṣ.*; 五体投地 *Sukh-vy.* I. 62.: *praṇipatati śirasā* 稽首礼 *Lal-v.* 361.; *śirasā praṇipatati* 稽首接足, 頭面接足 *Abh-vy.* 6.; *sarva-śarīreṇa praṇipatya* 五体投地 *Gand-vy.* 73. 使役 **praṇipātaya-** 平伏させる.

vi-ni- (罽)に飛び下りる, …の上に下りる; (罽)に陥る; 襲う, 攻める, 攻撃する; 漢訳 陷 *Lank.* 使役 **vinipātaya-** 投げ下ろす; (首)を切断する; 打ち倒す, 殺す; 荒廢させる, 破壊する; 漢訳 害, 害傷, 令損 *Kāśy.*

saṃ-ni- (罽)の上に着ち下りる, …に降下する, …に下りる; (罽 𑖀 *saha*)と出会う, …と遭遇する, …と会合する; (会合に 罽)来る (*Vajr-pr.*); 漢訳 雲集, 共集会, 共聚集, 和合 *Av-s.*, *Divy.*, *Sukh-vy.* II. 過受分 **saṃnipatita** 𑖀 遭遇または集合した (*Kāv-vy.*). 使役 **saṃnipātaya-** 投げ下ろす, 射落す, 射出する; 集める, 召集する, 持ち寄る; 漢訳 集, 還集, 集喚, 召, 令普集, 合会 *Av-s.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Vin.*

niṣ- (罽)から飛び出す; (罽)から急ぎ出る, …から落伍する, …から離れる, …から脱出する, …から発する; 飛び去る.

vi-niṣ- 飛び出す, 急ぎ出る; 進み出る, 発する; 逐電する, 走り去る, 迂回する, 急に方向を転ずる (兎などが追跡者をまくために).

parā- (*para-ā*) 飛び去る, 飛び退く; (雲)消散する; 飛び過ぎる; …に向って飛ぶまたは急ぐ; 急ぎ達する, 到達する; 失敗する.

anu-parā (-para-ā)- (罽)のそばを飛行する.

pari- 飛び回る, 走り回る; (罽)に出会う; (罽)へ突進する; (罽)から跳び下りる. 使役 **paripātaya-** 射出する; (罽)へ投入する; 漢訳 廻向 *Madhy-v.* 使役 現分 **paripātyamāna** 破壊する (*Divy.*); 漢訳 所惱, 所變, 所變害 *Sikṣ.*

vi-pari- 飛び廻る.

pra- 飛び去る, 飛行する; 落ちる; (罽)に入る; (罽, 罽)の上に着ちるまたは飛び降りる; 漢訳 墮,

隨, 墜隨, 墮落, 墜落, 隕隨; 入, 趣入; 婦 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*: *prthivyām prapateyuḥ* 宛轉于地, 反覆 *Saddh-p.* 320. 〔使役〕
prapātaya- 飛び去らせる; 追跡する; 投げ落とす;
 〔漢訳〕 倒 *Lal-v.*; 能投 *Daś-bh.*
prati- (罽)に向って飛ぶまたは急ぐ.
vi- 飛ぶ; 裂けている, 割る. 〔使役〕 **vipātaya-** (矢を)射るまたは放つ; 打ち落とす; 打ち倒す, 殺す.
saṃ- 共に飛ぶまたは急ぐ; (罽)と会う, …と衝突する; (罽)へ飛び去る; 歩き廻る.
Pat 2. IV. 罽 patyate (罽) (罽, 罽)の主である, …を支配する, …を所有する; (罽)に参加する, …と共同する; (罽)のために役立つ; …として役立つ, …となる.
abhi- 所有する.
pata 罽 [°ーのみ] 飛行.
pata-ga 罽 (飛行する), 翼をもつ動物, 鳥; 昆虫, 羽虫; 太陽.
pataga-pati 罽 (鳥の王), [*Garuḍa* の称].
pataga-pannaga 罽 罽 鳥類と蛇類.
pataga-rāja 罽 = *pataga-pati*.
pataga-vara 罽 [*Jaṭāyu* の称].
patageśvara (°ga-iś°) 罽 (鳥の王), [*Garuḍa* の称]; [*Jaṭāyu* の称].
patam-ga 罽 飛ぶ. 罽 鳥; 羽のある虫; ばった, 蝶, 蛾; 太陽; まり; [*Kṛṣṇa* 神の称]; [山の名]; 罽 [*Plakṣa-dvīpa* における種姓(階級)の名]; 〔漢訳〕 蛾, 飛蛾, 灯蛾, 山蝶, 蝴蝶, 蚊 *Divy.*, *Lal-v.*, *Meyut.*, *Śikṣ.*: *citra* ~ 花蝴蝶 *Meyut.*
patamga-kānta 罽 日長石.
patamga-grāma 罽 [村の名].
patam-gama 罽 蛾, 蝶.
patamgara 罽 鳥のような.
patamga-vṛtti 罽 蛾の動作, 極端な愚行, 無分別な行為. 罽 蛾のように動作する, 非常に愚かな, 非常に軽卒な.
patamgā 罽 [河の名] (*Divy.*).
patam-gikā 罽 小鳥.
patam-gin 罽 鳥.
patam-gi 罽 [*Tūrṅka*の妻の一人で飛翔動物の母の名].
patañcala 罽 [人名].
patañjali 罽 [有名な *Mahā-bhāṣya* の著者である文法家の名]; [瑜伽 (*Yoga*) 哲学の創始者の名].
patat 罽分 飛んでいる. 罽 鳥.
patat-patamga 罽 落日, 夕陽.
patatra 罽 翼; 羽毛.
patatrin 罽 翼のある, 飛ぶ. 罽 鳥; 矢; 馬.
patatri-rāj 罽 [*Garuḍa* の称].
patatri-rāja 罽 [同上].
patatri-vara 罽 [同上].
patad-graha 罽 (落ちるものを捉える), 痰壺.
patana 罽 飛行, 飛翔; (罽)から(罽, 罽)への飛降または落下, 降下, 落ちること; (罽)に身を投ずること, …への平伏; (乳房が)垂れていること, 垂下; 墜落, 破滅, 滅亡; (罽)に入り込むこと;

〔漢訳〕 隨, 落, 墮落, 墜落; 仆; 斃; 投(淵) *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*; *Meyut.*, *Vajr-s.*
 罽 [ある *Rākṣasa* の名].
patana-śila 罽 倒れることに慣れた.
patanānta 罽 〔漢訳〕 必墮落 *Divy.*
pataniya 罽 種姓(階級)の喪失へ導く; 〔漢訳〕 感墮罪, 墮落, 犯墮 *Abh-vy.*, *Meyut.*: ~ *ā dharmāḥ* 墮落法, 犯墮法, 犯墮者 *Meyut.* 罽 種姓(階級)喪失をひき起す罪.
patāka 罽 [=°kā] 〔漢訳〕 幡, 幢幡, 幡, 幢旛, (室) 幢 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Śikṣ.*
patākā 罽 旗, のぼり; 劇中の中間の出来事, 挿話; [高位の数の名]; 〔漢訳〕 幡, 旛, 幡 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Meyut.*, *Śikṣ.*, 梵千, 梵千. ~ *m Labh* (罽)の中の優勝者となる.
patākāṃśuka (°kā-am°) 罽 旗.
patākā-daṇḍa 罽 旗竿.
patākā-dhvaja-mālin 罽 旗および幢を花輪で飾った.
patākin 罽 旗を持つ. 罽 旗手; 旗; 車.
patākinī 罽 軍隊.
patākocchrāyavat (°kā-uc°) 罽 旗を高く掲げた.
pati 罽 持主, 主, 長, 王, 支配者; 夫; 〔漢訳〕 主, 頭主, 司, 官; 夫 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Meyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, 梵千, 梵千.: *viśaya* ~ 士官, *nagara* ~ 城官, *grāma* ~ 邑官 *Meyut.* → *dvīpa* ~.
patim-varā 罽 自己の夫を選ぶ婦人.
patika 罽 夫.
pati-khe-cara 罽 [*Śiva* 神の称].
pati-ghātini 罽 夫殺しの女.
pati-ghni 罽 (罽) 夫を殺す.
patita 罽 過受分 → *Pat 1.* 〔漢訳〕 隨, 隨在, 落, 墮落, 墜; 崩, 倒, 躓, 斃(地); 生; 所授; 賦 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Meyut.*, *Saddh-p.*, 梵千, 梵千.; 破壊 *Lal-v.*; 疎 *Saddh-p.*; 偏党 *Bodh-bh.*; 隨順 *Bodh-bh.* 罽 飛翔.
patita-vṛtta 罽 過受分 種姓(階級)から放逐されて生活する.
patitavya 罽 地獄への墮落.
patita-sāvitrika 罽 *Sāvitri* 頰を聞却したすなわち祭紐を着けない (*Upanayana* を怠った).
patita-sthita 罽 過受分 地上に横たわつた.
patitāna 罽 種姓(階級)を失った者の食物.
patitotthita (°ta-ut°) 罽 過受分 難船して救助された.
patitva 罽 結婚, 婚姻.
pati-darśana-lālasa 罽 夫に会おうと切望する.
pati-devatā 罽 罽 夫を神と考える, 夫を偶像視する.
pati-devā 罽 罽 [同上].
pati-dharma 罽 夫に対する義務.
pati-dharmavati 罽 夫に対する義務を果たすこと; 貞節で献身的な妻.
pati-prāṇā 罽 罽 夫を自己の生命とする.
patimati 罽 罽 夫をもつ, 結婚した.
pati-laṅghana 罽 妻の不義.
pati-lālasa 罽 夫を慕う; 夫に献身的な, 貞節な.
pati-loka 罽 (死後における)夫の世界または住居.
pati-vamśya 罽 夫の家系に属する.

pativatni 形 女 夫をもつ。女 既婚婦人，妻。
 pati-vrata 形 夫に対する貞節。
 pativrata-guṇa 男 貞節の徳。
 pati-vratā 形 女 夫に対して忠実なまたは献身的な；
 漢訳 孝順向夫，奉夫如戒 Lal-v. 女 夫に忠実な妻；
 漢訳 貞婦 Mvyut.；妻 Rāstr.
 pati-vratātva 形 夫に対する貞節。
 pati-vratāmaya 形 貞節な妻に存する。
 pati-śuc 女 夫の死を悼むこと。
 pati-śoka 男 [同上]。
 patiśruka 女 形 [＜pratiśrutkā] 反響；漢訳 響音声
 Madhy-v. 236.
 pati-samtuṣṭa 形 漢訳 (常)於(已)夫而生知足 Lal-v.
 pati-sthāna 形 夫の地位。
 pati-sthāniya 形 夫の地位に属するまたはにある。男
 夫の代理人。
 pattaṅga 男 したん(紫檀)；漢訳 赤檀 Mvyut.
 pattana 形 町；漢訳 買売市 Mvyut.
 pattanādhipati 男 [人名]。
 patti 男 徒歩者；歩兵；漢訳 歩 Divy., Mvyut. 女
 軍の最小部隊 [一車・一象・三騎兵・五歩兵または五十
 五人の歩兵からなる]。
 patti-karman 形 歩兵の業務。
 patti-kāya 男 歩兵軍；漢訳 歩兵，歩軍，歩衆 Aṣṭ-
 pr., Mvyut.
 patti-sainya 形 歩兵部隊。
 pattiya 名動 pattiya 漢訳 [Pāli pattiya] 信，
 為信，信受，生実信 Śikṣ. 174.： na pattiyaṣanti
 na śraddhāsyanti nādhimokṣyanti 不信，不信受
 Saddh-p. 312.
 pattra 形 翼；羽毛，矢羽；乗物(車・馬またはらくだ)；
 (樹の羽毛)，葉，花卉；(書くために用意した)葉
 [～m āropayati=紙に書き記す]；手紙，文書；金属
 の箔または板金；(一°)(で彩られた)飾り葉；[芳香
 のある特殊の植物の葉または芳香のある葉をもつ特
 殊の植物]；(植物の一種，学名 *Laurus cassia*の)葉；
 漢訳 葉，樹葉，瓣，花葩；蓋；券，契書 Bodh-bh.,
 Divy., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Sukh-vy. I., 梵
 千., 梵雜.; 藿香 *Suv-pr.*；音写 鉢怛羅 *Suv-pr.*
 -pattra 形 (女-ikā) [=pattra の 合成 形]。
 pattra-chedaka 男 葉の裁断師；漢訳 裁葉匠，表皆
 匠(?) Mvyut.
 pattra-cheda-bhakti 女 葉の断片。
 pattra-chedya 形 羽が引き抜かれた。形 葉の裁断
 技術 [一種の遊戯，技芸の一種]。
 pattra-devi 女 [仏教女神の名]。
 pattra-pati 男 [Garuḍa の称]。
 pattra-puṭa 男 形 じょうご形に巻き上がった葉。
 pattra-puṭikā 女 [同上]。
 pattra-bhaṅga 男 (じゃこうまたは他の芳香物をもつ
 て顔または身体の諸部に塗った)線条。
 pattra-ratha 男 (翼に乗るもの)，鳥。
 pattra-rathendra (°tha-in°) 男 (諸鳥の主)，[Garuḍa
 の称]。
 pattrarathendra-ketu (°tha-in°) 男 [(Garuḍa を旗
 の記章とするもの)，Viṣṇu 神の称]。

pattra-rektā 女 =pattra-bhaṅga.
 pattra-latā 女 [同上]；[人名]。
 pattra-lekhā 女 =pattra-rekhā；[人名]。
 pattra-valli 女 =pattra-bhaṅga；[蔓草の一種]。
 pattra-vāha 男 (翼で運ばれる)，鳥；矢。
 pattra-viśeṣaka 男 形 葉のように画かれた記号；=
 pattra-bhaṅga.
 pattra-veṣṭa 男 耳環(の一種)。
 pattra-śāka 形 葉のある野菜。
 pattra-śāka-trṇa 形 葉と野菜と草。
 pattra-hasta 形 一枚の紙を手に持った。
 pattrāya 名動 形 pattrāyate 葉に変わる。
 pattrārūḍha (°ra-ār°) 形 紙に書かれた。
 pattrāli (°ra-āli) 女 =pattra-bhaṅga.
 pattrāvali (°ra-āv°) 女 [同上]。
 pattrāhāra (°ra-āh°) 男 形 葉を食べて生存するも
 の。
 pattrikā 女 (書くために用いる)葉；書簡，覚書；文
 書。
 pattrin 形 翼のある；(一°)の羽のある。男 鳥；
 矢。
 pattrorṇa (°ra-ūr°) 男 *Calosanthus indica*. 形 漂白
 した絹；漂白した絹の織物または衣服。
 patni 女 女主人，婦人；妻；動物の牝；漢訳 婦，妻，
 妃，妾 Lal-v., Mvyut., Prāt-m., 梵千.
 -patnika 形 [同上 合成 形]；漢訳 妻妾 Mañj-m.
 patnivat 形 一妻または多妻をもつ；妻を同伴する。
 patni-śāla 形 [Soma 祭において prācinavaṃśa の西
 方に建てられる小屋で祭主の妻により用いられる]。
 patni-śālā 女 [同上]。
 patman 形 小路，進路。
 patya, → Pat 2.
 patyaya 男 [＜pratyaya] 漢訳 縁 Madhy-v. 121.
 patra 形 [=pattra] 漢訳 葉，樹葉 Aṣṭ-pr., Bodh-
 bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Saddh-p.
 patvan 形 (女-vari) 飛んでいる。形 飛翔。
 patsutaḥ 形 足下に。
 patsutaḥ-śi 形 足下に横たわる。
 Path, (api-) 便役 形 apipāthayati (ある道に 形) 導
 く。
 path 男 [弱 幹] [強 幹 panthān, 因 はまた panthā；
 中語幹 pathi] 路，道，小路(また 漢訳)；旅程；正
 路(また 漢訳)；地獄；漢訳 道，途，路(傍)，道路，
 跋，隅途 Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Sūtr.,
 梵雜 panthānam Dā (屬) のために道を開く。～i
 形 路上に；～i ny-As 路上に投げる すなわち放棄す
 る。
 patha 男 (一°) の路，小路，道；漢訳 道，道路，
 経路，蹊径 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.,
 Lan̄k., Sūtr., 梵千.；境，界 Gaṇḍ-vy., Kāśy.；
 durgati-gata～ 悪趣，恶道，悪趣行 Gaṇḍ-vy. 54.；
 sūgatigata～ 善趣，善道 Gaṇḍ-vy. 54. → catus-
 ~, māra~.
 pathātithi 男 旅人。
 pathika 男 放浪者，旅行者。
 pathika-jana 男 旅行者，旅行者の群。

pathika-sārtha 男 旅行者の群, 隊商.
 pathi-kṛt 男 道を用意する, 道を作る.
 pathi-gata 男 漢訳 行道路 *Aṣṭ-pr.*
 pathimat 男 path という語を含む.
 pathi-rakṣi 男 路を護る.
 pathi-stha 男 路上にある, 途上にある, 途中にいる.
 pathopadeśaka (°tha-up°) 男 道案内人(嚮). = pa-
 tha-darśaka.
 pathya 男 (事の道筋・道行または過程に関連のあるま
 は適合する), 慣例の, 正規の; 至当な, 適当な; 有
 益な; 有利な; 漢訳 宜, 所宜, 安隱 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 梵千. → a~.
 pathy-adana 男 漢訳 糧食, 糧食 *Divy.*; sva~ 自
 棄糧食 *Divy. 60.*
 pathy-aśana 男 旅行用の馬糧または食糧.
 pathya-saṃjñin 男 漢訳 起所宜想 *Bodh-bh.*
 pathyā 女 小路, 道.
 pathyādana (°yā-ad°) 男 漢訳 糧食 *Lal-v.*
 pathyā-revatī 女 豊かな路, 豊饒の神(として神格化
 されたもの).
 pathy-āśin 男 健康によい食物をとる.
 pathy-odana 男 = pathy-aśana; 漢訳 路費 *Mvyut.*
 Pad, IV. 固 (他) padyate (-ti) 落ちる, 墮落する,
 墜落する, 倒れる, 退く, 落伍する; 滅びる(罽);
 (罽)へ行く; 漢訳 有 *Abh-vy.* 使役 他固 pādayati
 (-te) 落させる. 希来固, 他 pitsate, pipādayiṣati.
 強意 panipadyate.
 ati- (罽)を越えて行く; 跳び越す = (罽)に延期す
 る; 等閑視する.
 anu- 従う; (罽)に頼る; (罽)に起る; (罽)に同
 意する, …を承認する.
 sam-anu- 入る.
 abhi- (罽)へ赴くまたは到る, …に近づく, …に達
 する; (罽)の保護を求める; つかむ, 占有する; 襲
 う, 攻撃する; 獲得する, 取得する; 受け入れる;
 (罽)に頼る, …に耽る.
 ava- 倒れるまたは落ちる; (罽)を剝奪される; 不幸
 になる. 過受分 avapanna (一°)に襲われた.
 ā- 近づく, 入る; (罽)に赴く, …へ行く; (ある状
 態 罽)に達する, …に陥る; …を経験する; 入手
 する, 取得する; 不幸に陥る; 事実である; 起る;
 漢訳 入; 得, 獲; 作; 生, 発; 受 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-
 pr.*, *Av-ś.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*; 漂転 *Daś-
 bh.*; 壊, 違犯 *Bodh-bh.*: āpattim āpatsyate 当
 所違犯 *Bodh-bh. 143*; imāṃ cintām āpade 作是
 念 *Av-ś. I. 23*; parimimāṃsām āpadyeta 審諦
 觀察 *Aṣṭ-pr. 217*; yogam āpadyate 修習 *Aṣṭ-pr.*
 48; samtrāsam āpatsyante 怖畏 *Vajr-pr. 13.* evam
 āpadyate 事情はこのようである. 過受分 āpanna
 (罽, 一° まれに 罽)に陥った, …を得た; 不幸な;
 起った. 使役 āpādayati (罽, 罽)にもたらず, …
 を屈伏させるまたは服従させる (状態を 罽)経験さ
 せる; 不幸に陥らす, 壊滅させる; 産出する, ひき
 起す; 入手する, 取得する; (罽)を(罽)にするま
 は変えさせる; 漢訳 治, 救治 *Abh-vy.*
 adhy-ā- 漢訳 現起; 犯 *Aṣṭ-pr.*

abhy-ā- (罽)に入る.
 praty-ā- 還る.
 vy-ā- 遠ざかる, 消失する, 滅びる; 漢訳 毀, 退壞
Aṣṭ-pr.; 起順 *Śikṣ.* 過受分 vyāpanna 乱された,
 害われた; 滅ぼされた, 死んだ. 使役 vyāpādayati
 害う; 破壊する; 殺す; 漢訳 害 *Aṣṭ-pr.*
 sam-ā- 襲う; (状態)に陥るまたはを経験する; 生ず
 る, 起る; 漢訳 入, 現入, 現行; 起 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*,
Bodh-bh., *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Sapt-
 pr.*, *Śikṣ.*; 正受, 能証 *Bodh-bh.*; 修定, 入定, 入
 三昧, 入於三昧, 入禪正受, 能静住, 寂静 *Abh-vy.*,
Aṣṭ-pr., *Bodh-bh.*, *Lank.*: tejo-dhātum api samā-
 padyate 入火界定 *Bodh-bh. 59*; samādhim samā-
 patsye 於定入 *Aṣṭ-pr. 61.* 過受分 samāpanna 到
 達した, 来た; (罽)を始めた, …に着手した(*Kār-
 vy.*).
 ud- 飛び上る, 上る, 生ずる, 得られる; (罽)から
 生れる; …となる; 起る, 現われる; 始まる; 漢訳
 生, 生起, 起, 発生, 発, 出, 出現, 現, 出興, 興
 出 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*,
Mvyut., *Nyāy-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*,
Sukh-vy. I., *Vajr-pr.* 過受分 utpanna (一°)か
 ら生じた; (罽)から生れた; (罽, 一°)によって生
 じた; 起った; 存在している, 現われている; 準備
 した, 完成した. 現分 utpadyamāna 漢訳 生時,
 起時 *Madhy-v.* 使役 他 (固) utpādayati(-te) 起
 す, 産む; 生じる, 生じさせる; 構成する; 獲得す
 る; (訴えを)起す; ひき起す; (血を)流す; 漢訳
 令生, 発 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*: bodhicittam
 utpādyā 発菩提心 *Aṣṭ-pr. 215.*
 praty-ud- 過受分 pratyutpanna 沈着な(心); 用意
 のできた; 現在の瞬間に在る, 現にある (*Vajr-pr.*).
 vy-ud- 起る; (語原的に)ひき出される (文法);
 漢訳 得還 *Divy.* 過受分 vyutpanna 発達した, 学
 識ある, 経験のある; (罽)に精通した; 反対した
 (*Divy.*). 使役 vyutpādayati 生ずる, ひき起す;
 (語原的に)ひき出すまたは説明する (文法); 精細に
 論ずる; 漢訳 令起, 教習, 開悟了解 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 sam-ud- (罽)から生まれる; 起る, 現われる; 漢訳
 生 *Nyāy-pr.* 過受分 samutpanna (罽)によって
 (罽)に生まれた, 生じた; 起った; 到来した(時).
 使役 samutpādayati 生ずる, ひき起す.
 upa- (罽, 罽)に来る; (師)の許へ行く; (罽, 罽)に
 (弟子)入りする; (罽, 罽)に到達する, …を始める;
 (罽)に起る; 起る, 生ずる, 現われる; 存在する; 出
 来る, 可能である; (罽, 罽)に適するまたは適当であ
 る, …に値する; 漢訳 生, 往生, 受生, (数数)生,
 下生入; 発, 興発; 得 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*,
Madhy-v., *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sukh-vy. II.*; 隨
Aṣṭ-pr., *Bodh-bh.*: upapadyamānasya ca mātuḥ
 kuṣṣau 將欲下生入母胎時, 生母胎時 *Bodh-bh. 74.*;
 nopapadyate 不可得 *Madhy-v. 96.* 過受分 upapanna
 存在する, 現存する; …に頼った, 扶助を求めた;
 起った, (別様に anyathā)なった, 到達した; 獲得し
 た; 可能な; 適當する, 正当な, 当然な, 自然な;
 (罽, 一°)を所有した, …を賦与された; 用意した,

準備した; sarvataḥ upapanna すべてのものを具備した. 使役 upapādayati (ある人 業) を (ある状態 業) に引き入れる; 呈する; (因, 因) に賦与する, 与える; ひき起す, 処理する, 完成する; 適合させる, 準備する; (業) に (業) を供給する, (業) に (業) をともなわせる; (業) たらしめる, (業) であると宣言する; 解明する, 証明する; 漢訳 憶念 *Aṣṭ-pr. abhy-upa-* (業) を援助しに来る, …を援助する; (業) の助力を懇願する. 過受分 abhyupapanna [能の意味がある] (業) を援助しに来た; 助力を求める; (一) を具えたまたは所有した.

praty-*upa-* 過受分 pratyupapanna 存在する.

vy-*upa-* 能 帰宅する (*Divy.*); 反対する (*Divy.*).

sam-*upa-* 成就する; 経る, 経験する. 使役 sam-upapādayati 用意する.

ni- 横たわる, 休息する; (業) とともに眠る. 使役 nipādayati 下に置く.

niṣ- 落ちる; 現われる, 起る; 熟す; 成就する; 漢訳 能至, 能成, 能弁, 成熟 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*: sarva-jñatā niṣpatsyante (niṣpatsyante?) 能至一切智 *Aṣṭ-pr. 513.* 過受分 niṣpanna (能) から引き出された; 成就された; 熟した; 用意された, 準備のできた; 終了した. 使役 他 (因) niṣpādayati (-te) 生ぜしめる, 熟させる; 成就する, 果す, 実行する; 漢訳 成, 成弁, 成就; 弁; 具足; 得 *Bodh-bh., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I., Vajr-pr.* niṣpādayati (rājyam とともに) 支配する. abhi-niṣ- …に入る, 達する; (業) に変わる; 現われる; 漢訳 得 *Prāt-m.* 過受分 abhiniṣpanna すでに存在している. 使役 abhiniṣpādayati (業) を (業) にもたらすまたは達成させる; 漢訳 成, 成就 *Daś-bh.*

pari-niṣ- (因) に変わる; 漢訳 能成, 成就, 満足, 証 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.* 過受分 pariniṣpanna 存在している.

pra- 入る; (路に業) 踏み入る; (業) に来る, …へ赴く, …へ通う; (業) の助力を求める, …の保護を求める; (ある状態) に入る, …を受ける, …を経験する; 到達する; (…の形) をとる; (業) を (夫として) 得る; (ある教義を) 採用するまたは奉じる; (業, 因) を企てるまたはを引受ける; (時が) 始まる; 成し遂げる, (別様に anyathā) なる; 成功する, 結果に到達する; (要求を) 認める; 漢訳 至, 行, 善行; 往生; 投 *Divy., Madhy-vibh., Saddh-p., Sūtr.* 過受分 prapanna 認められた, (業) を供給された. 使役 prapādayati (業, 因) に入らせる, …に導く. 希求 他 prapitsati (業) に入ろうと切望する; 因 prapitsate 開始しようとする.

ati-*pra-* 使役 atiprapādayati 助けて他界へ到らせる(?).

anu-*pra-* 助けを求める, …へ逃げ込む; (業) に従って入る; (業) に従う, …に応ずる. 過受分 anuprapanna [能の意味をもつ].

abhi-*pra-* 入る; (業) へ急ぐ; (業) の保護を求める. 過受分 abhiprapanna [能の意味をもつ].

sam-*pra-* とともに (業) に入る; 成功する; 漢訳 成熟;

出生 *Lank.*

prati- 入る; (業) へ行くまたは通う, …へ着く; (業) へ帰る; 戻る; (業) の状態) に陥る; 得る, 獲得する; 受け容れる, 引き受ける; 回復する; 取り戻す, 恩恵を回復する; 実行する, 果す, 成就する, (業, 因, 因) に対して振舞う, (業) を (業) とする, (業) を (業) にする; (業) に起る; 復旧する; 知覚する, 確かめる, 学ぶ; 思考する; 同意を表わす, …に応じる; 承認する; (業) を約束する, …に同意する; (tathā または tatheti (tathā-iti)) その通りと言う, 承知する; 話し始める; (業) をもって始める; 答える, (答えを uttaram) 与える; 漢訳 行, 正行, 善行, 修行, 正修行, 修作, 奉行, 勤修正行, 樂行; 学 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr.*; 受持 *Divy.*; 随, 順 *Kāśy.*; 通, 会, 交通 *Kāśy.*; 通達, 成弁, 具足 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*; ceṭikayā saha pratipadyeta 与使人通, 賤女共会, 与青衣交通 *Kāśy. 20.*; antareṇa prati-Pad (業) の間に進む; anyathā prati-Pad (業) について誤った意見を抱く; tad-abhedena prati-Pad (業) をそれと違わないと考える. 現分 pratipadyamān 漢訳 現行 *Bodh-bh.* 過受分 pratipanna 来たまたは到達した (時期); (因) に慣れたまたは親しい; 知られた, 理解された; 約束した; 承認された (負債); 認められた; 答えられた; 提供された; anyathā pratipannaḥ 異なった行動をなした. 使役 pratipādayati (業) へ導く; 得る; (業) を (業) に賦与する; (因, 因, 因) に与えるまたは渡す; 嫁にやる; 生ずる, ひき起す; 教える, 明らかにする, 説明する; (業) を (業) であると考えまたは認める; 漢訳 施, 与, 施与, 奉施, 給与, 供養, 貢 *Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Mvuyut., Rāṣṭr., Śikṣ.*; 令達, 開示, 解, 貢 *Mvuyut., Nyāy-pr.*; 建立, 安立 *Abh-vy.* 希求 pratipitsate 得ようと切望する.

anu-*prati-* 使役 anupratipādayati 次第に (業) へ導く (*Jāt-m.*).

abhi-*prati-* (業) から始めるまたはを最初に述べる.

vi-*prati-* 異った方面へ行く, 徘徊する; (感官が) 散乱する; 混乱する; 意見を異にする; 罪を犯す (*Divy.*); 漢訳 壊, 捨正行, 離正行, *Śikṣ.*; 交, 会, 通, 行婬欲 *Divy., Kāśy.*

sam-*prati-* (業) へ行く; …に起る; (業) に身を捧げる; (業) を承認する; (業) を (業) であると考えまたはみなす; 実行する; 漢訳 起, 行 *Buddh-c., Divy.* 過受分 sampratipanna 認められた.

vi- ばらばらに崩れる; 失敗する しくじる, 無に帰する; 滅びる, 死ぬ; 漢訳 散, 散異処, 没, 沈没, 遭急難 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v.* 過受分 vi-panna 不幸な; 滅びた. 使役 vipādayati 殺す; 漢訳 於…能為虚証 *Bodh-bh.*

sam- (因, 因) に起る; 成就する, 完成する, 成功する, 繁栄する; (業) [例 救等] に達する; …となる; (因) に導く, …を生じる; 結合する; (業) と会う, …を手に入れる, …を得る; (業, 因) に入る, …と合同する; (業) に達する, …を得る; 漢訳

入 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*; 具, 具足成就, 成就, 満足, 円満 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*: na...sampa-dyate 免, 無 *Daś-bh.* 28. 過受分 **sampanna** 生じた; 成就した, 完成した; 完全な, 十分な; (因, 一°)に十分通曉した, …に完全に熟練した; (-*tara* 比較; きわめて)風味のよい, 美味の; (-*tas*, 因, 一°)を賦与された, …を供給された; (一°)の起った, 存在する. 使役 因 (因) **sampādayati(-te)** (因, 属)に運ぶ, …のために調達する; (食物を)用意する; 生ずる; 実行する, 完成する; (因)に対して(服従を)する; (因)を(因)に変える; (因)を賦与するまたは供給する; 同意する; 到達する; 漢訳 能受, 成弁, 能成弁, 具足 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*; 修行 *Daś-bh.*

abhi-sam- (因)となる, 帰するところ…になる; 等しくなる; 到達する. 過受分 **abhisampanna** (因)と一致する. 使役 **abhisampādayati** 等しくする, 変える.

upa-sam- 達する; 得る; 漢訳 得, 具足 *Abh-vy.*, *Meyut.* 過受分 **upasampanna** 到達した; 同じ家に住んだ, …と親密な; (因, 一°)を賦与された, …を所有した, …を備えた; (一°)に十分通曉した; (供養のために)屠られた. 使役 **upasampādayati** 調達する; 僧侶の地位に編入する, 具足戒を受けさせる(弘教); 漢訳 受具足 *Vin.*

vi-sam- 使役 **visampādayati** 漢訳 改換 *Bodh-bh.*

pad 男 [因 属 **pād**: 一° 女 **pad** または **padi**] 足; 一歩; 四分の一; 漢訳 足 *Lal-v.*, *Vajr-s.* 男 [因 属 同 **pad**] 歩いて.

pada (男) 因 一歩; 大股に歩くこと; 足取り; 足跡; 記号, 目標; 足場, 場所, 住所, 住家; 立場, 位置, 部署; 品位, 地位; (軽蔑・争論等の)対象; 原因, 誘因; 足 [また尺度として用いる]; 四半偈(韻律の単位); 語; [子音語尾の前の名詞語幹(独立語のように取り扱われるのでこういわれる)]; [*Veda* の読誦・書写の一方法(各語の独立形を列記したもの, = *°pāṭha*)]; 漢訳 歩, 道, 迹, 跡, 足跡, 妙迹, 蹄跡 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Meyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, 梵天; 脚 *Daś-bh.*; 処 *Abh-vy.*, *Meyut.*; 位, 果位 *Bodh-bh.*, *Sātr.*; 句, 文句, 章句, 言 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Meyut.*, *Nyāy-pr.*, *Saddh-p.*, *Sātr.*, *Sūtr-pr.*, *Vajr-pr.*, 梵天, 梵地; *param* ~ *m* 涅槃 *Cat-s.* 496.; ~ *āni* (獨 音聲) 跋大, 鉢陀膩, 般檀那 *Bodh-bh.* 273.

~ *m* **Kr** (因)に踏み込む, …に入る, (prati)を尊重する; (因)に關係する. ~ *m* **Kr mūrdhni** (属)の頭上に足を置く=征服する, 凌駕する. *hrdaye* または *citte* ~ *m* **Kr** 心または精神を完全に領有する. ~ *m* **ā-Tan** 確実な地歩を得る, 自己の勢力を張る, 優勢になる. ~ *m* **Dhā** 地歩を占める. ~ *m* **ni-DHā** (因)を踏む=に印象を与える. ~ *m* **ni-DHā padavyām** (因)の路を踏む=競争する. ~ *m* **ni-Bandh** (因)に従事する. ~ *e* ~ *e* 一歩ごとに, 随処に, あらゆる場合に.

padaka 因 一歩; 部署, 位置. 形 **Padapāṭha** に通曉

する (*Divy.*).

pada-kāya 男 漢訳 句, 句身, 章句, 詞会 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Laṅk.*, *Meyut.*

pada-kāyika 因 足を体とする; 漢訳 [*Tib.* *hgro baḥi ris su gtogs pa*] 足, 足行 *Gaṇḍ-vy.*: ~ *ābhir devatābhiḥ* 足天, 足行神 *Gaṇḍ-vy.* 46.

pada-krama 因 歩行; 一連の詩節; [*Veda* の読誦または書写の特殊の方法すなわち *pada-pāṭha* および種々の *krama-pāṭha*].

pada-gati 因 歩行.

pada-grahaṇa 因 漢訳 作(是)説 *Abh-vy.*

pada-cihna 因 足跡.

pada-cyuta 因 地位から落ちた, 職を解かれた.

padatā 因 語の原形; 語の状態.

padatiya 男 歩兵.

pada-nyāsa 男 足を下すこと, 一歩; 足跡; 詩句を作ること.

pada-paṅkti 因 一続きの足跡, 通った跡; [韻律の一種(5×5音節)]; 一連の語.

pada-paddhati 因 一続きの足跡, 通った跡.

pada-parama 男 単語を至上とする, 直訳主義の; 漢訳 多言, 多言者 *Meyut.*

pada-pāṭha 因 [*Veda* を誦しまたは書くときに各語の独立形を列ねる形式].

pada-pūraṇa 男 詩句を満たす(のに役立つ).

pada-bandha 男 歩み; ひとあし; 漢訳 踏地 *Divy.* 58.

pada-yopana 男 (女 -i) 歩度を遅らせること.

pada-racanā 因 語の配列, 文学作品.

pada-vigraha 因 語の分解.

pada-vid 因 (場所を知る), (因)を熟知している.

padavī 男 [因 -s] 指導者, 案内者 (因). 女 [因 -i] 小路, 路; (一°)への道または街道; (眼・耳・記憶の)範囲; 位置, 部署; 漢訳 歩 *Saddh-p.*

~ *m* **abhi-I** (一°)の路を踏む, …に等しい, …に類似する. ~ *m* **pra-Āp** (一°)の路に入るまたは一身を捧げる. ~ *m* **sam-ā-Ruh** [同上]. ~ *m* **Yā** (一°)の路に入るまたは(種 笑い)の対象となる.

pada-vṛtti 因 文章の中の二語間の母音を融合させずに存置すること.

pada-vyañjana 因 漢訳 文句, 字句, 句逗, 句読, 句義 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sātr.*

pada-śabda 男 足音; 漢訳 行声 *Divy.*

padaśas 因 一歩一歩, 次第に; 逐語的に.

pada-śāstra 因 (個々に書かれた *Veda* の)語に関する学問.

pada-śreṇi 因 一続きの足跡, 通った跡.

pada-saṃdhi 男 語の連声.

pada-stha 男 歩行する; 自立する; 官職を授けられた.

pada-sthāna 因 足跡; 漢訳 基趾, 本基, 依処, 安足 処 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Meyut.*

pada-sthita 男 官職を授けられた; 漢訳 作依処 *Bodh-bh.*

pada-haṃsaka 男 輪, くさび; 足環の一種.

padākṛānta (°*da-āk*) 男 すぐ後に続く; 漢訳 歩勢,

平等歩順行 *Guhy-s.*

padāgāmin (°da-āg°) 形 漢訳 歩, 足行 *Gaṇḍ-vy.*:

~ nyo devatāḥ 歩天, 足行諸神 *Gaṇḍ-vy.* 128.

padāṅka 男 足跡.

padāṅguṣṭha 男 足の親指; 漢訳 足指 *Aṣṭ-pr.*

padāti (°da-āti) 形 歩行中の, 歩行する. 男 歩兵,

歩行者; 漢訳 歩 *Lank.*

padāti-jana 男 歩行者; 馬丁; 歩兵.

padātijana-saṃkula 形 歩行者または歩兵と混った.

padātin 形 歩兵からなる, 歩兵を備えた. 男 歩兵.

padāti-lava 男 (...とるに足りないすなわち)卑しい召使.

padāty-adhyakṣa 男 歩兵指揮官.

padānuga 形 (圖) ときびすを接する; (一)に心地よい, 適した. 男 従者.

padānusāsana 中 語の学問.

padānusam̐dhi 男 漢訳 句相統, 深密(法)句, 甚深秘密(法)句 *Gaṇḍ-vy.*

padānusāra 男 後に従うこと, 追従; 漢訳 尋其跡 *Divy.*

padānta 男 四半偈(韻律の単位)の終尾; 語の末尾, 語尾.

padāntara 中 他の語; 一步の間隔: ~e sthitvā 一步後に立って.

padānveṣin 形 足跡を追う.

padābhāsa (°da-ābh°) 男 漢訳 句光 *Bodh-bh.*

padārtha 男 語(に対応する)事物, 実体, 対象; 問題, 論題; 範疇(圖); 語義; 漢訳 句義 *Aṣṭ-pr., Lank., Mvyut., Nyāy-pr., Sūtr., Vaiś-s.*; ṣaṭ ~ āḥ 六句義 [1. dravyam 実, 2. guṇaḥ 徳, 3. kārma 業, 4. viśeṣaḥ 異, 5. sāmānyam 同, 6. samavāyah 和同] *Mvyut.*; ṣoḍaśa ~ āḥ 十六句義 [1. pramānam 量, 2. prameyam 所量, 3. saṃśayaḥ 疑惑, 4. prayojanam 用, 5. dṛṣṭāntaḥ 譬喩, 6. siddhāntaḥ 宗, 7. avayavaḥ 支, 8. tarkaḥ 論破, 9. nirṇayaḥ 決定, 10. vādaḥ 争, 11. jalpaḥ 説, 12. vitanḍā 妄批, 13. hetv-ābhāsaḥ 似因, 14. chalaḥ 曲論, 15. jāti 類推, 16. nigrāha-sthānam 負処] *Mvyut.*

padāvali (°da-āv°) 女 pāda または語の連続.

padā-vihāra 男 漢訳 繞礼, (翹勤右)遶 *Divy.* 78, 467.

padāvṛtti (°da-āv°) 女 語の反復; 同一語を別の意味で繰り返すこと(修辭).

paduma 男 中 [=padma] 漢訳 蓮華, 蓮花 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p.*; 音写 鉢訥摩 *Śikṣ.*

padeka 男 大鷹; 漢訳 鷹 *Mvyut.*

padēsita 使役 遍受分 俗 [<pradesita] 漢訳 説 *Madhy-v.*

pad-dhati 女 [pad-hati 踏みつけること] 通過した跡, 足跡; 道, 路 [また 譬喩]; 線, 列; 入門書[便覧の一種]; ...の証拠または証明(*Jāt-m.*); 漢訳 道路; 跋, 本疏, 演説疏 *Mvyut.*

padma 男 中 蓮華(夜分に萎む花, 学名 *Nelumbium speciosum*); (軍隊の)蓮華形の陣列; (禪定に用いる一種の)坐法; [*Kubera* 神の九宝の一]; [数の名]

一兆または千兆; [ある *Nāga* の名]; [諸人の名].

形 蓮華の色をもつ. 女 (-ā) [*Śrī* 神の称]; 漢訳

花; 蓮, 蓮華, 蓮花; 紅蓮, 赤蓮華, 紅蓮華 *Abh-vy., Av-ś., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mvyut.,*

Saddh-p., Sukh-vy. II., Śikṣ., 梵維, 玄心; [地獄の名] 紅蓮花 (*Dharm-s.*); [*Nāga* の名] 蓮華 *Mvyut.*; [数の名] 壤 *Mvyut.*; 音写 波曇, 波慕, 波

頭摩, 波頭暮, 鉢特摩, 鉢曇摩, 波陀摩, 波頭摩(華), 鉢訥摩(花) *Abh-vy., Lal-v., Mvyut., Raṣṭ.,* 玄心.

padmaka 男 [諸人の名]; (禪定に用いる一種の)坐法; 漢訳 [人名] 蓮華 *Av-ś.* 中 [樹の一種]. 男

中 (学名 *Cerasus puddum* の) 木材; 漢訳 男 松樹, 松柏 *Mvyut.*

padma-kara 男 蓮のような手.

padma-karā 女 [*Śrī* 神の称].

padma-karṇika 男 中 蓮の果皮; 蓮の果皮の形に配列された軍隊の中心部.

padma-kūṭa 男 [*Vidyādhara* の王侯の名].

padma-kośa 男 昼咲く蓮華のがく(萼); 蓮華のがく(萼)の形に似た合掌.

padmakosāya 名動 中 **padmakosāyate** 昼咲く蓮華のがく(萼)に類似する.

padma-khaṇḍa 中 昼咲く蓮華の群.

padma-gandhi 形 昼咲く蓮華の香気をもつ.

padma-garbha 男 [(蓮華から生じたもの), *Brahman* 神・*Viṣṇu* 神または *Śiva* 神の称]; [諸人の名]; 蓮華の内部; [(蓮華に満ちたもの), ある湖水の名]; 漢訳 蓮華(徳)蔵 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*, [仏の名] 蓮華蔵; [菩薩の名] 蓮花蔵 *Mvyut.*

padma-grhā 女 [*Lakṣmi* 神の称].

padma-cāriṇi 女 芙蓉 [学名 *Hibiscus mutabilis*];

[ある女神の名]; 漢訳 大黃 梵維.

padma-ja 男 [*Brahman* 神の称].

padma-jālakita 形 赤の斑点を付けた(象).

padmatā 女 昼咲く蓮華の状態.

padma-darśana 男 [(蓮華のようなもの), 人名].

padma-dala 中 漢訳 蓮華葉 *Śikṣ.*

padmadalekṣaṇa (°la-ik°) 形 蓮の花弁に似た美しい眼の.

padma-nayanā 女 蓮のような美しい眼の女.

padma-nābha 男 [(臍に蓮華をもつもの), *Viṣṇu* 神の称]; [第十一曆月の称]; [武器に対して唱えられる呪文の一種]; [*Nāga* の名]; [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名]; [諸人の名].

padma-nidhi 男 [*Kubera* 神の九宝の一(また擬人化される)]; *padma* の (価値をもつ) 宝すなわち一億(枚の貨幣).

padma-nibhekaṣaṇa (°bha-ik°) 形 蓮華のような眼をもつ.

padma-nimilana 中 蓮華の閉じること.

padma-niṣaṇṇa 形 漢訳 坐蓮座 *Śikṣ.*

padma-netra 男 漢訳 [仏の名] 蓮華眼 *Mvyut.*

padma-pattra 中 昼咲く蓮華の花弁.

padma-patra 中 漢訳 蓮華 *Raṣṭr.*

padma-pāṇi 男 [*Brahman* 神または *Viṣṇu* 神の称]; [*Avalokiteśvara* の称].

padma-pura ㊦ [町の名].
 padma-purāṇa ㊦ [十八 *Mahā-Purāṇa* の一の名].
 padma-prabha 男 漢訳 [仏の名] 華光 *Saddh-p.*;
 [天子の名] 蓮花光明(天子) *Lal-v.*
 padma-prabhā 女 [Mahā-damṣṭra の娘の名].
 padma-bhava 男 = padma-ja.
 padmamaya 形 (女-i) 昼咲く蓮華からなる.
 padma-mālin 形 昼咲く蓮華の冠を着ける. 男 [ある
Rākṣasa の名].
 padma-mālinī 女 [*Śrī* 神の称].
 padma-mihira 男 [ある歴史家の名].
 padma-yonī 男 (蓮華から発生したもの), [*Brahman*
 神の称]; [仏の名] (*Lal-v.*); [諸人の名].
 padma-ratī 男 [人名].
 padma-rāga 男 (蓮華色をしたもの), ルビー(紅玉),
 漢訳 映紅, 紅蓮華宝, 紅鴉鵲 *Mañj-m., Mvyut.*;
 音写 鉢摩羅伽 *Mvyut.*
 padma-rāgaka 男 [同上].
 padma-rāga-maya 形 (女-i) ルビー(紅玉)からなる
 (*Kār-vy.*).
 padma-rāja 男 [諸人の名].
 padma-rūpa 形 (女-ā) 蓮華の色をした.
 padma-rūpā 女 [*Śrī* 神の称].
 padma-lekhā 女 [人名].
 padma-locana 形 蓮華のような眼の.
 padmavati 女 [*Asōka* 王の妃の名]; [町の名]. →
 padmāvati.
 padmavad-anupalīpta-citta 形 漢訳 心不染如蓮華,
 心如淨蓮華 *Mvyut.*
 padma-vara 男 漢訳 勝蓮華, 殊勝蓮華 *Gand-vy.*
 padma-varcas 形 蓮華色をした.
 padma-varṇa 形 [同上].
 padma-vimānāsana (°na-ās°) ㊦ 漢訳 大(宝)蓮華
 (王)宮殿(師子)座, (大)蓮華(微妙)宮殿坐 *Gand-
 vy., Lanik.*
 padma-viṣaya 男 [国の名].
 padma-vrṣabha-vikrāmin 男 [ある未来仏の名].
 padma-veṣa 男 [*Vidyādhara* の王侯の名].
 padma-vyākoṣa ㊦ (盗人によって壁のなかに作られ
 た)蓮の蕾の形をした裂け目.
 padma-vyūha 形 漢訳 [Dhāraṇī の一種] 蓮華嚴, 嚴
 蓮華 *Mvyut.*
 padmaśas 副 padma (数の名)で.
 padma-śekhara 男 [ある *Gandharva* の王侯の名].
 padma-śrī 男 [(蓮華のように華美な), *Avalokiteś-
 vara* の称] (*Kār-vy.*). 女 [諸人の名]; 漢訳 [菩薩
 の名] 華德 *Saddh-p.*
 padma-śrī-garbha 男 [菩薩の名].
 padma-ṣaṇḍa ㊦ 蓮の群.
 padma-samsthāna 形 漢訳 形如蓮華 *Gand-vy.*
 padma-samkāśa 形 蓮華のような; 漢訳 蓮華 *Lanik.*
 vimāne ~e 蓮華宮, 蓮華宮殿 *Lanik. 266.*
 padma-sadman 男 [(蓮華に坐ったもの), *Brahman*
 神の称].
 padma-sambhava 男 [*Brahman* 神の称]; [ある仏教
 の学僧の名].

padma-saras ㊦ 蓮華の湖; [ある湖水の名].
 padma-sena 男 [諸人の名].
 padma-saugandhika ㊦ 蓮華および睡蓮(の一種, 学
 名 *Nymphaea alba*) の花. 形 蓮華および睡蓮の花
 に満ちた(池).
 padma-svāmin 男 [ある神祠の名].
 padmākara (°na-āk°) 男 昼咲く蓮華の一群; 昼咲
 く蓮華の池.
 padmākṛti (°ma-āk°) 形 漢訳 蓮華状如蓮花 *Lanik.*
 padmākṣa 形 (女-i) 蓮華のような眼の.
 padmānka-mudrā 女 [mudrā の一種] (*Kār-vy.*).
 padmācala 男 [山の名].
 padmāditva (°ma-ād°) ㊦ 蓮華等の状態.
 padmālamkāra 女 [ある *Gandharva* 女の名] (*Kār-vy.*).
 padmāvati 女 [*Lakṣmī* 神の称]; [諸人の名]; [*Kṛta*
 時代における *Ujjayinī* の称]; [*Kathāsaritsāgara*
 における第十七章(Lambaka)の題名]; 漢訳 [Asōka
 王妃の名] 蓮華, 蓮花, 有扶容華 *Divy.*; 音写 鉢
 摩婆底 *Divy.*
 padmāvabhāsa 男 賢者の石(物質を金に化すと信ぜ
 られる靈石)の一種 (*Kār-vy.*).
 padmāsana (°ma-ās°) ㊦ 蓮華座; [禪定に用いる坐
 法の一つ].
 padmin 形 斑点のある(象).
 padmini 女 蓮華 [学名 *Nelumbium speciosum*: 花
 および蓮の全体]; 蓮華の群; 蓮池; 漢訳 蓮池, 蓮華
 池 *Suv-pr.*
 padmini-khaṇḍa ㊦ 蓮華の群.
 padmiṣṭhā 最上 女 [諸人の名].
 padmottama (°ma-ut°) 男 [Samādhi の一種]; [世
 界の一種]; [そこに住する仏の名] (*Kār-vy.*).
 padmottara (°ma-ut°) 男 漢訳 [仏の名] 尚花, 蓮華
 上, 蓮花上; (音写) 波頭摩勝 *Lal-v.*; [独覚の名]
 花盛 *Av-s.*
 padmodbhava (°ma-ud°) 形 蓮華から生じた. 男
 [*Brahman* 神の称]; [人名].
 padya 形 足に関する. ㊦ 韻文, 詩; 漢訳 句, 短
 句, 偈章句, 造偈句 *Buddh-c., Lanik., Mvyut.*; 聯
Mvyut.
 -padva 形 (女-i) (因)に傾いた.
 padvat 形 足をもつ, 走る. ㊦ 走る動物.
 Pan, I. ㊦ panate 賞讃に値する, 賞讃する. 過受分
 panita 賞讃された, 称揚された. 使役 他 ㊦
 panayati(-te) 賞讃する, 称揚する; ㊦ (業, 屬)を
 喜ぶ.
 panasa 男 パンの木 [学名 *Artocarpus integrifolia*].
 ㊦ パンの木の実; 漢訳 音写 半娑婆, 波那娑(果)
 立は.
 panasya 名動 ㊦ panasyate 賞讃に値する.
 panāya 名動 ㊦ panāyate 賞讃すべきことを示す.
 panāyya 未受分 賞讃されるべき; 驚くべき.
 panita 過受分 → Pan.
 panu 女 賞讃, 称揚.
 panū 女 [同上].
 panthaka 男 漢訳 [人名] 小路 *Divy.*; 音写 半託迦,
 槃特迦 *Divy.*

panthalikā 因 道路, 小路 (Divy., Kar-vy.); 漢 小路, 小徑 Divy.
 panna [Pad の 過受分].
 panna-ga 男 (低く行くもの), 蛇; 蛇神; 漢 蛇, 悪蛇, 竜, 小竜, 竜神 Divy., Lal-v., Mvyut., Suv-pr.
 pannaga-bhojana 男 [Garuda の称].
 pannagamaya 形 (因-i) 蛇からなる.
 pannaga-rāja 男 蛇神の王.
 panna-gi 因 雌蛇; 蛇神 → panna-ga.
 pannagendra (°ga-in°) 男 = pannaga-rāja.
 pannageśvara (°ga-iś°) 男 [同上].
 panya 未受分 驚くべき, 驚嘆に価する.
 panyatama 形 [同上 最上].
 pa-Paś, [=pra-Paś] papaśyati (-te) → Paś.
 papri 形 [Pr 1.] (罽, 罽) を授ける.
 pampā 因 [河の名]; [湖水の名].
 pampā-pārāvāra 男 乳海.
 pamphaṇat 薩 現分 → PHaṇ.
 payaḥ-payoṣṇi 因 = payoṣṇi.
 payaḥ-pāna 因 乳を飲むことまたはその一飲み.
 payaḥ-pūra 男 多量の水.
 payas 因 [Pi 2.] 汁液, 流動物; 生命の液, 力; 乳; 水; 雨; 漢 乳 Lal-v.
 payasya 形 乳から作った.
 payasyā 因 凝結した乳, 凝乳.
 payasvat 形 汁の多い, 液汁に満ちた; 乳の豊かな; 強健な.
 payasvati 因 夜; 因 河.
 payasvin 形 = payasvat.
 payasvini 因 多量の乳を出す牝牛.
 payo-da 形 乳を生ずる; 水を与える. 男 雲.
 payo-dhara 男 (水を運ぶもの), 雲; (乳を出すもの), (婦女の)乳房; (牝牛等の)乳房; 漢 乳, 乳房 Lal-v., Mvyut.
 payodhari-BHū, 乳房となる.
 payodharonnati (°ra-un°) 因 盛り上った胸および湧き上がる雲.
 payo-dhārā 因 水の流れ; [河の名].
 payodhārā-grha 因 = dhārā-grha; 水の流れ出る設備のある浴室.
 payo-dhi 男 貯水池; 海.
 payo-nidhi 男 海.
 payo-bhṛt 男 (水を運ぶもの), 雲.
 payomaya 形 水からなる.
 payo-mukha 形 表面に乳を有する.
 payo-muc 形 水または乳を生ずる. 男 (水を放つもの), 雲.
 payo-ṛaya 男 急流.
 payo-rāśi 男 大洋.
 payo-vāha 男 (水を運ぶもの), 雲. = payo-bhṛt.
 payo-vrata 形 誓戒によって乳だけで生きる. 男 乳以外は食糧としない誓戒.
 payoṣṇi (°yas-uṣ°) 因 [(乳の温みのある), 河の名].
 para 形 [そとに導く: Pr 2.] 1. [場所に関して] (因) より遙かな; 遠隔の, 遠い向うの; 向い側の(岸); 来(世); 2. [時間に関して] 過去の, 以前の; 未来

の, 以後の; (因) より次の; 最も後の, 最もはるかな(年代), 最高の(時, 生存期間); 漢 後, 当来, Abh-k., Bodh-bh., Mvyut.; 3. [量に関して] (因, 一°) を超過した, より多くの; 残った; 漢 余 Abh-k., Abh-vy.; 4. [順序に関して] (因, 一°) に続く, …の次に来る; ~h ~h 相続く; 5. [程度に関して] (因, まれに 一°) より勝れた, より高い, よりよい, より悪い; 最上の, 卓越した, 最善の; 最上部の, 最深の, 最大の; 漢 勝, 最勝, 利 Bodh-bh.; 6. [範囲に関して] (因) より超越するすなわち (因) によって達しえない; 7. [関係の意味で] 他の; 外来の, 未知の, 敵対した; (因) と異なった; 漢 他, 異 Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Nyāy-pr., Vajr-pr. 梵千. 男 後裔; 他人; 反对者, 敵, 仇敵; 宇宙精神, 絶対者; 漢 他, 他人, 余, 余物 Bodh-bh., Madhy-v. 因 最遠距離; 高さ, 頂上, 頂点; 至福; (一°) の極限; (語の) さらに進んだまたは一層広い意味[一° 形 …と同義の]; 主要目的, 主な事物. 一° 形 …を主要なものとする=…を目的とする, …に熱中する, …に深く感動する; 主として…からなるまたは(主として)…を目的とする; 全く…に基づく; 漢 住; 取, 貪著 Lan̄k., Rāṣṭr. ~m 因 後に, 次に; (因) の向うに, …の後に; 大いに, 極端に; 完全に; 精々; ただ…だけ, 単に; とはいえ, しかし; [答として] そのようにあれ (Divy.); 漢 後, 極, 極多 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy.: ~m maraṇāt 死後 Aṣṭ-pr. 554. ataḥ ~m それを過ぎて; その後に; 次に; 今後; 一層遠く; 漢 自茲以去 Bodh-bh. itaḥ ~m これより後に. tataḥ または tataś ca ~m [同上]; そこで直ちに. nāsmāt ~m もうたくさんだ, 十分だ. na ~m … api ただ…だけでなく…もまた. na ~m …yāvat 単に…だけでなくまた…さえも. yadi ~m いやしくも, 多分, ともかく. ~m tu または ~m kim tu しかしながら, しかし; 恐らくは. ~m na … api na でないばかりでなく…もまた…でない. ~eṇa (因) 因 漢 次, 次前; 外, 過 Gand-vy. tataḥ ~eṇa 漢 於是前, 於此前 Gand-vy. ~eṇa ~tareṇa 漢 過, 先復過先, 乃往古世 Gand-vy., Vajr-pr.
 param-śakti 因 [因 ~tyā のみ] 力一杯に, 全力を尽くして, できる限り, 力の及ぶ限り.
 para-kathā 因 他人に関する談話.
 para-kara-gata 形 他人の手に渡った, 他人または未知の人の掌中にある.
 para-karma-kara 形 漢 為他役使 Śikṣ.
 para-karman 因 他人に対する奉仕.
 para-kalatra 因 他人の妻.
 parakalatrābhigamana 因 他人の妻に近づくこと, 姦通.
 para-kārīta 形 漢 教他, 他作 Bodh-bh.
 parakārīta-pūjā 形 漢 教他供養, 他作供養 Bodh-bh..
 para-kārya 因 他人の仕事または事柄; 漢 他事, 他事業, 利他事, 為他所作 Bodh-bh., Sutr.
 parakārya-nirutsuka 形 漢 不欲利他 Gand-vy.

para-kāla 形 後日に属する, その後の.
 parakiya 形 他人に属する; 敵の; 漢訳 他, 属他, 他所有, 他法, 他身法, 余 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 parakiyatā 安 他人に属するまたは関する状態.
 parakiya-samjñā 安 漢訳 他相 *Śikṣ.*
 para-kṛta 形 他によってなされたまたは行なわれた; 漢訳 他作, 他生, 従他生, 従他而作, 彼作, 教他造作 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*
 para-kṛti 安 他人の行為; 類似の事実, 前例.
 prar-kṛtya 至 他人の仕事または事柄; 漢訳 他所応作事 *Bodh-bh.* 形 敵側に属する, 敵の言い分を支持する.
 parakṛtya-pakṣa 男 反対派.
 para-krāthin 男 [Kuru の勇士の名].
 para-kṣetra 至 他人の田地; 他人の妻.
 para-gata 形 他人と一緒にいる, 他人に属する.
 para-gāmin 形 他を裨益する; 他(語)に関する(形容詞)
 para-guṇa 男 至 [または 一°] 他人の徳; 漢訳 他徳 *Bodh-bh.*
 paragūṇa-grāhin 形 他人の徳を認める.
 para-geha-vāsa 男 他人の家に滞在すること.
 para-glāni 安 敵の自堕落, 敵の服従.
 param-gata 形 漢訳 到於彼岸 *Laṅk.*
 para-cakra 至 敵の軍勢; 漢訳 他兵, 敵兵, 敵, 怨敵; 他怨敵, 他方怨敵, 怨賊, 他怨賊, 他方怨賊; 隣国戦争 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*
 paracakra-pratinivartaka 形 漢訳 能却他方怨賊, 怨敵尋即退散 *Suv-pr.*
 paracakra-bhaya 至 漢訳 他方怨賊, 他方悪賊 *Suv-pr.*
 paracakra-sūdāna 男 敵軍を破壊する者.
 paracakropaghāta (°ra-up°) 形 漢訳 怨敵逼惱 *Bodh-bh.*
 paracakropadrava (°ra-up°) 男 漢訳 戦諍, 隣国戦諍逼惱 *Bodh-bh.*
 paracakropadruta (°ra-up°) 男 漢訳 隣国戦諍互相逼惱 *Bodh-bh.*
 para-citta 至 漢訳 他心 *Bodh-bh.*
 paracitta-jñāna 至 他人の考えを知ること (*Sukh-vy. I.*); 漢訳 他心智, 知他心, 知彼心, 識他心, 他心通 *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, *Sukh-vy. I.*
 paracitta-vid 形 漢訳 他心知; 他心智, 他心智者, 他心通人, 有他心智者 *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.* 女 漢訳 他心智 *Abh-vy.*
 para-cintā 安 他人のために思いやること
 para-cchanda 男 他人の意志.
 para-cchidra 至 他人の欠点または弱点.
 para-ja 形 敵から来た; 下位の.
 para-jana 男 他人; 漢訳 非親 *Suv-pr.*
 para-jñapti-samcetanīyatā 安 漢訳 他解故思性, 従想他人開断心所成(?) *Mvyut.*
 para-taṅgaṇa 男 覆 [民族の名].
 para-tantra 形 他に依存する, 他に頼る, (一°)に頼る, 従う; 漢訳 依, 依他, 依他起, 依他性, 依他成; 屬他, 繫属; 他根; 縁起, 縁起性, 因縁法,

因縁法体 *Abh-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.* → viśaya ~.
 para-tantratā 安 他人の意志に依存すること; 漢訳 属他 *Sūtr.*
 paratantra-drṣṭi 形 意志の相対性を主張する, 意志の自由を拒否する (*Jāt-m.*).
 paratantra-lakṣaṇa 至 漢訳 依他相, 依他起相, 依他性相, 他根相 *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 paratantra-svabhāva 男 漢訳 依他性, 依他起自性, 縁起自性, 因縁法体自相相 *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Vijñ-t.*
 paratantri-Kṛ, 頼らせる, 独立力を奪う; 他に譲渡する, 売る.
 paratara 比較 より大きい, より多い.
 paratas 副 1. [para(形 最高の; 他に属する. 男 他人.)の 従]; 漢訳 他, 従他, 於他, 従他所, 他所 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*; 勝 *Buddh-c.* 2. 遙かに, 今後, その後; 高く; (副) より上に高く, (力または身分を)越えた; …の後 [時について]: itas...~ここに...またあそこに; 以前には...以後には.
 parataḥ-poṣa 形 他から食糧を受ける.
 paratā 安 絶対; 最高級.
 para-tirthya 男 漢訳 外道 *Rāṣṭr.*
 para-toṣayitr 形 他人を喜ばせようとする.
 paratra 副 来世で, 未来で; 以下に [書物の中で]; 漢訳 他, 異 *Madhy-v.*, *Sūtr.*; 他世, 後世, 於当来世, 来生 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 paratra-bhiru 形 来世について恐怖を抱く.
 paratva 至 遠隔; 以後であること; (副) に勝ること; (一°) に余念のないことまたは強調すること; 漢訳 彼体 *Mvyut.*, *Vaiś-s.*; 敵 *Mvyut.*
 para-dāra 男 (至, 覆) 他人の妻または妻たち; 姦通.
 para-dāratā 安 漢訳 他妻室, 邪淫, 欲邪行 *Daś-bh.*
 paradāra-parigraha 形 他人の妻に言い寄るまたは関係する.
 paradāra-sevin 形 [同上]; 漢訳 侵他妻 *Gaṇḍ-vy.*
 para-dārin 形 = paradāra-parigraha.
 para-duḥkha 至 他人の苦痛; 漢訳 他苦 *Sūtr.*
 para-dūṣaṇa 男 (敵の破滅), [国家の全収入を納めることを条件とする講和].
 para-deśa 男 他の場所; 外国; 敵の領土.
 para-deśanā 安 漢訳 他説 *Śikṣ.*
 para-doṣa-jñā 形 他人の過失を知る.
 para-dravya 至 覆 他人の財物; 漢訳 他物 *Śikṣ.*
 paradravayāpahāraka 形 他人の財物を盗む.
 paradravayābhirata 形 漢訳 行不与取 *Guhy-s.*
 para-droha 男 他人に対する敵意.
 paradroha-karma-dhi 形 行為または思想において他を害する.
 para-dhana 至 他人の財産; 漢訳 他...物 *Bodh-bh.*, *paradhanāsvādāna-sukha (°na-ās°) 至 他人の費用によるぜいたくな生活.*
 para-dharma 男 他人または他の種姓(階級)の法または義務; 他人の特性.
 para-nirmita 形 漢訳 他化 *Bodh-bh.*, *Rāṣṭr.*
 paranirmita-vaśa-vartin 男 (至, 覆) 漢訳 [天の名]

他化自在, 他化自在天 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sukh-vy. I.*, 玄奘; 音写
波羅尼蜜婆舍跋提(天) 玄奘.
param-tapa 形 敵をなやます。 男 [Magadha 国の
王侯の名].
para-paṃsin 形 漢訳 [=°paṃsin] 毀他(行) *Rāṣṭr.*,
para-paṃsaka 形 漢訳 毀他, 譏毀他, 誘人 *Aṣṭ-pr.*,
Mvyut., *Suvik-pr.*
para-paṃsanā 女 漢訳 毀他 *Bodh-bh.*
para-pakṣa 男 敵の党派; 漢訳 他分, 他品, 他党,
彼党 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 他宗 *Nyāy-*
pr.; 異部 *Sūtr.*
parapakṣa-nigraha 形 漢訳 [sva-pakṣotkarṣaṇa に
対する] 他分離散 *Śikṣ.*
para-patni 女 他人の妻.
para-parigrhita 形 漢訳 他人守護, 繫属 *Bodh-bh.*,
Śikṣ.; 限礙, 監礙, 以余縁故障礙 *Aṣṭ-pr.*: a ~ m
mātr-grāmam 母邑現無繫属 *Bodh-bh.* 167.
para-parigraha 男 他人の財産; 他人の妻.
para-paribhava 男 他人を辱かしめること; 漢訳 他
蔑, 被蔑 *Bodh-bh.*
para-parivāda 男 他人の悪口をいうこと.
para-pāka 男 他人の食物または食事.
para-piṇḍa 男 他人の食物.
parapiṇḍāśin (°ḍa-āś°) 男 漢訳 寄食 *Bodh-c.*
para-piḍa 男 漢訳 逗惱 *Bodh-bh.*
para-pudgala-ja 形 漢訳 他人作, 彼人作 *Madhy-v.*
para-puraṃ-jaya 形 敵の都市を征服する.
para-puruṣa 男 他人, よその人; 他の女の夫; 漢訳
他人 *Lank.*
para-puṣṭa 男 (他によって育てられた), インド産か
っこう(郭公).
para-puṣṭamaya 形 (女-i) 完全なかっこう(郭公)で
ある.
para-puṣṭā 女 雌のインド産かっこう; [王女の名].
para-pūruṣa 男 他の女の夫.
para-pūrvā 女 以前に他の夫をもった婦人, かつて結
婚したことのある婦人, 再婚婦人.
parapūrvā-pati 男 かつて結婚したことのある婦人の
夫, 再婚婦人の夫.
para-paurava-tantava 男 [Viśvāmitra の息子の名].
para-praṇeya 形 漢訳 随於他, 随他教, 随他転 *Lank.*
→ a ~.
para-pratibaddha 形 漢訳 依他 *Bodh-bh.*
para-prātyaya 男 漢訳 他縁 *Bodh-bh.* → a ~.
para-prayojana 形 他人に役立つまたは利益を与える.
para-pravāda 男 漢訳 他論, 異論, 邪論 *Bodh-bh.*,
Lank.
para-pravādi-cakra 男 漢訳 外道邪論 *Gaṇḍ-vy.*
para-pravādin 男 邪教の師 [*Pali* parappavāda]; 反
対の論争者 (*Divy.*); 漢訳 外道, 異道, 外学, 異学,
外異学, 外道異論, 異論, 他論 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Daś-bh., *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*; 邪誘, 侵犯,
一切惱乱, 競来擾乱 *Lank.*, *Mvyut.*; 瞋恚心 *Lank.*,
parapravādy-anabhibhūta 形 漢訳 外道不勝, 邪誘
不能屈 *Mvyut.*

para-bala 男 敵軍.
para-bādhā 女 漢訳 他(所受) 苦 *Bodh-bh.*
para-brahman 男 最高の原理 (Brahman).
para-bhaṇita 形 漢訳 他語, 他所言論 *Aṣṭ-pr.*
para-bhāga 男 最高の地位, 卓越.
para-bhāgatā 女 [同上].
para-bhāgyopajivin (°ya-up°) 男 他の資産によって
生活する.
para-bhāva 形 他人を愛する。 男 合成語中の後分
または第二位の語であること; 漢訳 他性, 他処, 他体,
余法性 *Abh-k.*, *Lank.*, *Madhy-v.*
parabhāva-sūnyatā 女 [sūnyatā の一種, 他性空]
(*Dharm-s.*).
para-bhūmi 女 他国, 敵国.
para-bhūmika 形 漢訳 他地, 余地 *Abh-vy.*
para-bhūmiṣṭha 形 外国に滞在する.
para-bhūṣaṇa 男 [°dūṣaṇa の異読].
para-bhṛta 男 (過受分 他によって養われた), インド
産かっこう(郭公).
para-bhṛtamaya 形 すべてかっこう(郭公)のみから
なる.
para-bhṛtā 女 雌のインド産かっこう(郭公).
para-bhṛtikā 女 [同上].
para-bhedana 形 敵を刺す.
parama 最上 最も遠い, 最も遠隔の, 最も極端な, 最
後の; 最高の, 主な, 第一位の; 至高の, 超越した;
最も優秀な, 最善の, 最大の; 最悪の; (因)より
よい, …より大きな, …より悪い; 漢訳 極, 最極,
甚, 上, 最上, 勝, 最勝, 第一, 妙, 最妙; 大; 無
比; 宝 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*,
Madhy-vibh., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*,
Vajr-pr., *Vijñ-t.* 男 極限; 主目的, 主要事; 漢訳
真, 真実 *Sapt-pr.*, *Sūtr.* —° 男 精々…に達する;
全く専一になった, ただそれだけをする, 専心従事
する, 没頭した. °— 男 極度に, 非常に, 大層,
はなはだ. ~m 男 非常によい, よろしい [同意を
表わす].
paramaka 形 最も優秀な, 至高の, 最高の, 最善の,
最大の; 極悪の.
parama-kaṭuka 形 漢訳 最極(暴悪)辛楚 *Bodh-bh.*
parama-kaṇṭhena 男 男 声をかぎりに
parama-kalyāṇa 形 漢訳 極妙, 極善 *Bodh-bh.*
paramakalyāṇāśaya (°ṇa-āś°) 形 漢訳 極善意樂
Bodh-bh.
parama-kāruṇya 形 漢訳 大悲 *Suv-pr.*: ~ m cit-
tam utpanno babhūva 起大悲心, 生大悲心 *Suv-*
pr. 161.
parama-kausalya 男 漢訳 極善 *Bodh-bh.*
parama-krudha 形 非常に怒った.
parama-krodhin 男 [*Viśvedevās* 中の一神の名].
parama-gatika 形 漢訳 至窮尽, 悉曉了 *Aṣṭ-pr.*
parama-gambhira 形 漢訳 最極甚深, 第一甚深
Bodh-bh.
parama-jñāna-gocara 男 漢訳 最勝智所行 *Madhy-*
vibh.
para-mata 男 他人の意見.

parama-tattva-jña 形 漢訳 極真智 *Bodh-bh.*
 paramatā 因 最高の地位, 至上なこと; 頂上, 最高の目的; 漢訳 真, 最勝, 無比 *Madhy-vibh., Sūtr.:* dvādaśa-prakārā ~ 十二種最勝, 十二種無比 [1. audārya 広大, 2. āyatatva 長時, 3. adhikāra 依処, 4. akṣaya 無尽, 5. nairantarya 無間, 6. akṛcchra-tva 無難, 7. vittatva 自在, 8. parigraha 授受, 9. ārambha 発起, 10. pratilambha 至得, 11. niṣyanda 等流, 12. niṣpatti 究竟] *Madhy-vibh. 202, 271.*
 paramatva 因 漢訳 極, 勝, 最上 *Abh-vy., Sūtr.*
 parama-daridra 形 漢訳 極貧賤 *Bodh-bh.*
 parama-dāna-pati 男 漢訳 真実施主 *Sapt-pr.*
 parama-dāruṇa 形 非常に恐ろしい.
 parama-duḥkhita 形 深く悩まされた; 漢訳 極重苦 *Aṣṭ-pr.*
 parama-durabhisambhava 形 漢訳 苦難証得, 極難信解 *Aṣṭ-pr.*
 parama-durgandha 形 漢訳 極臭 *Av-ś.*
 parama-durbala-śarīra 形 漢訳 身形羸瘦, 身体衰損 (命欲將絶) *Suv-pr.*
 parama-durmanas 形 漢訳 其心痛切, 悼惻(悲念), 心大憂惱 *Gaṇḍ-vy.*
 parama-durvijñāna-tattvārtha 因 漢訳 極難解真実義利, 第一難解真実之義, 甚深難(解)義 *Bodh-bh.*
 parama-duṣkara 形 漢訳 難行, 最極難行, 甚難, 難中之難 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. II.*
 parama-dṛṣṭa-dharma-sukha-vihāra-prāpta 形 漢訳 逮得第一現法樂住, 已安住見法境妙, 得見法勝境 *Mvyut.*
 parama-dharmātman (°ma-āt°) 形 きわめて道徳的な.
 parama-dhātu-kuśala 形 漢訳 四大(不調)感能救療, 方便巧知四大(増損) *Suv-pr.*
 para-mantra 因 漢訳 音写 [数の名] 波羅滿多羅, 鉢羅婆怛羅 *Mvyut.*
 para-manyumat 形 深刻に苦しむ.
 parama-parama 形 すべてのもののなかで最も優れた, 最高の.
 parama-pārami-prāpta 形 漢訳 究竟, 第一究竟, 至第一究竟, 得勝彼岸 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 parama-puṃs 男 至上精神, [*Viṣṇu* 神の称].
 parama-puruṣa 男 [同上].
 parama-prasānta 形 漢訳 最極寂靜, 第一寂滅 *Bodh-bh.*
 parama-prāsādika 形 漢訳 端嚴殊妙, 端嚴勝妙 *Gaṇḍ-vy.*
 parama-pṛita 形 非常に喜んだ.
 parama-pṛiti-kara 形 漢訳 可樂, 可愛樂, 觀喜 *Gaṇḍ-vy.*
 parama-bhakti 形 漢訳 志心恭敬 *Rāṣṭr.*
 parama-bhadra 形 漢訳 極賢 *Bodh-bh.*
 parama-mano-jña 形 漢訳 ((甚悦意)), 勝中意 *Mvyut.*
 parama-ramaṇiya 形 非常に愉快なまたは心地のよい.
 parama-ramya 形 漢訳 妙 *Rāṣṭr.*
 para-marma-jña 形 他人の秘計を知る.

paramarṣi (°ma-rṣi) 男 大仙人; 漢訳 大仙, 大聖, 勝仙 *Madhy-v., Saddh-p., Sāṃkhy-k.*
 parama-visrambhopagata (°bha-up°) 形 [=°viśrambh°] 漢訳 情交極相親密 *Bodh-bh.*
 parama-śilavat 形 漢訳 真淨戒 *Sapt-pr.*
 parama-sūra 形 漢訳 最上勇猛 *Aṣṭ-pr.*
 parama-śobhana 形 非常に美しい.
 parama-saṃhr̥ṣṭa 形 非常に喜んだ.
 parama-saṃtuṣṭa 形 非常に満足した.
 parama-samudaya 形 非常に吉兆な, 非常に成功した.
 parama-saṃmata 形 大いに尊敬された.
 parama-siddha 形 漢訳 第一神驗 *Bodh-bh.*
 parama-sukha 因 漢訳 大歎喜 *Saddh-p.; 大乘樂 Sūtr.*
 paramasukha-pradāyaka 形 漢訳 能与快樂, 与殊勝安樂 *Suv-pr.*
 parama-haṃsa 男 最高級の苦行者; 宇宙精神(最高我).
 parama-hṛdaya 因 漢訳 微妙心 *Mañj-m.*
 paramākṣara 因 om 字または絶対原理 [=Brahman].
 paramākhyā (°ma-ākh°) 形 最高と考えられる.
 paramāṅganā 因 美または徳のある優れた婦人.
 paramāṇu 男 極小の部分, ごくみ(極微); 原子; 漢訳 極微, 微塵, 極微塵, 微細微塵; 鄰虛, 隣虛 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Laṅk., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr., Vijñ-v.*
 paramāṇu-kāraṇa-vāda 男 極微説, 原子説, 勝論 (*Vaiśeṣika*).
 paramāṇutā 因 きわめて微細なこと, 極微の状態.
 paramāṇumaya 形 (因 -i) 極微からなる, 原子からなる.
 paramāṇu-mātra 因 漢訳 一極微, 極微量, 鄰虛量 *Bodh-bh., Vijñ-v.*
 paramāṇu-rajasa 因 漢訳 塵, 微塵 *Lal-v., Saddh-p.*
 paramāṇurajaḥ-praveśa 男 漢訳 [数の名] 随入極微塵; (音写) 随入波羅摩囉羅闍 *Mvyut.*
 paramāṇu-saṃcaya 男 漢訳 極微聚 *Vajr-pr.*
 paramātmatā (°ma-āt°) 因 paramātman の 種.
 paramātmatva (°ma-āt°) 因 [同上].
 paramātman (°ma-āt°) 男 最高我, 宇宙精神; 漢訳 第一義 *Sūtr.*
 para-mātra 男 漢訳 音写 [数の名] 鉢羅婆怛羅 *Mvyut.*
 paramādbhuta 形 きわめて不思議な; 漢訳 第一希有 *Bodh-bh.*
 paramānanda (°ma-ān°) 男 最高の喜悅.
 paramānna 因 (最上の食), 牛乳で煮た米飯.
 paramāpad (°ma-āp°) 因 最大の不幸.
 paramāpsaras 因 最も勝れた *Apsaras.*
 paramārta (°ma-ār°) 形 非常に悩んだ.
 paramārtavat (°ma-ār°) 男 非常に痛々しい.
 paramārtha 男 最高のまたは完全な真理; 事件の真相, 真実; 漢訳 勝義, 最勝義, 真義, 深義, 第一義, 無比義, 真諦, 勝義諦; 実, 真実, 真如, 実性 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Buddh-c., Lal-v., Laṅk., Madhy-v.,*

*Mañj-m., Mvyut., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr.,
Suvik-pr., Vajr-pr., Vijñ-t.* 〇, ~tas, ~ena
圓, ~āt 圓 實に, 真に, 事実上.
paramārtha-kovida 形 漢訳 知勝義 *Lal-v.*
paramārtha-gocara 男 漢訳 第一義境界, 第一義法
Lank.
paramārtha-jñāna 男 漢訳 真解, 第一義智 *Lank.,
Sūtr.*
paramārthatā 女 [paramārtha の拙]; 漢訳 勝義性,
真実 *Madhy-vibh.*
paramārtha-daridra 形 實際に貧しい.
paramārtha-darsana 男 [samādhi の一種] (*Kār-vy.*)
paramārtha-dharma-vijaya 男 漢訳 [経の名] 第一
義法勝(経), 真諦最勝(経) *Mvyut.*
paramārtha-nāma-saṃgiti 女 [仏典の名].
paramārtha-niḥsvabhāvatā 女 漢訳 勝義無性
Vijñ-t.
paramārtha-bhāj 形 最高の真理を所有した.
paramārtha-matsya 男 真の魚.
paramārtha-sūnyatā 女 漢訳 勝義空, 第一義空
Dharm-s., Madhy-vibh., Mvyut.
paramārtha-saṃvṛti-satya-nirdeśa 男 漢訳 [経の
名] 清浄毘奈耶最上大乘経, 真諦俗諦指示 *Mvyut.*
paramārtha-sat 男 漢訳 勝義諦, 真諦 *Abh-vy.*
paramārtha-satya 男 本当のまたは完全な真理; 漢訳
真諦, 勝義諦, 第一義諦 *Bodh-bh., Madhy-v.,
Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*
paramārtha-satyatā 女 漢訳 勝義諦 *Bodh-bh.*
paramārtha-sarit 女 真正の河.
paramārtha-supta 形 實際に眠った.
paramārthārya-jñāna-mahā-sūnyatā (°tha-ār°) 女
漢訳 第一義聖智大空 *Lank.*
paramārthika 形 漢訳 勝義, 第一義 *Abh-vy., Lank.*
paramārya (°ma-ār°) 男 = bodhī-sattva; 漢訳 [菩
薩または最高の聖者の称] 最聖, 大聖, 最勝聖, 最勝
聖者, 第一真聖 *Bodh-bh., Mvyut.*
paramālaya-vijñāna (°ma-āl°) 男 漢訳 (音写) 阿梨
耶本識, 阿頼耶殊勝之蔵識 *Lank.*
paramāścarya (°ma-āś°) 形 漢訳 甚奇, 希有, 甚為
希有, 最為希有, 上聖 *Ast-pr., Sūtr.*
parameśa (°ma-iśa) 男 [(最高の主), *Viṣṇu* 神の称].
parameśvara (°ma-iś°) 男 強力なまたは崇高な主, 王
侯; 神; [*Śiva, Viṣṇu, Indra* 神の称]; 漢訳 勝自
在 *Guhya-s.*
parameśvaratā (°ma-iś°) 女 統治権, 主たること.
parameśvaratva (°ma-iś°) 男 [同上].
parameśvari (°ma-iś°) 女 [*Sitā* または *Durgā* の称].
parameśthin 形 主位または最高位に立った, 最高の.
男 主; [諸神または諸神格の称].
parameśv-āsa (°ma-iś°) 男 優秀な射手.
paramaiśvarya (°ma-aiś°) 形 漢訳 (富楽) 自在
Ast-pr. 男 統治権.
paramodāra (°ma-ud°) 形 漢訳 最極広大, 第一勝
妙, 第一妙勝 *Bodh-bh.*
paramopāsaka (°ma-up°) 男 熱心な在家仏教徒.
param-para 形 順次の 連続する; 漢訳 展転 *Bodh-*

bh., Mvyut.

parampara-bhojana 男 漢訳 展転食, 屢屢食, 数数
食, 処処食 *Mvyut., Prāt-m.*; 頻不時食 *Mvyut.*
param-param 男 規則正しく順次に.
param-parā 女 中絶しない列, 連続する系統, 規則
正しい連続; 間接; 子孫; 伝統; 漢訳 展転, 転次,
次第, 伝伝, 展転相承, 後後次第, 相続, 相続次第,
次第相続不絶 *Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Lank.,
Madhy-vibh., Saddh-p., Saṃkhy-k., Sūtr.*
~ayā 男 圓 言い伝えで, 間接に; 漢訳 展転, 輪
転, 由伝伝, 通伝 *Abh-vy., Mvyut.*
paramparāgata (°rā-āg°) 形 漢訳 展転伝来, 展転
相続, 次第相続 *Bodh-bh.*
paramparānantarya (°rā-ān°) 男 漢訳 相続次第
Gand-vy.
paramparā-prāpta 形 言い伝えられた.
paramparāyāta (°rā-āy°) 形 [同上].
paramparāvātāra (rā-av°) 男 漢訳 次第入, 次第趣
入, 次第深入 *Gand-vy.*
paramparā-samudāgama 男 漢訳 次第現, 相続咸出
興 *Gand-vy.*
param-marāṇa 男 漢訳 極死, 命終 *Bodh-bh.*
para-yoṣit 女 他人の妻.
para-ramaṇa 男 第二の愛人, 情夫.
para-rātra 男 漢訳 後夜 *Lank.*
para-rāṣṭra (男) 男 敵国; 漢訳 他土, 他国土, 他境
Bodh-bh.
pararddhy-abhibhavana (°ra-ṛd°) 男 漢訳 制他神
通 *Bodh-bh.*
para-labdha 形 漢訳 従他所得 *Bodh-bh.*
para-loka 男 あの世または来世; 漢訳 他世, 後世, 未
来世 *Bodh-bh., Madhy-v., Śikṣ.*
paraloka-gata 形 未来の世界に行った, 他界にいる;
死んだ.
paraloka-nirapekṣa 形 漢訳 曾不畏懼未来, 曾不顧
懼未来 *Gand-vy.*
paraloka-vaha 形 (女 -ā) 他界を流れる, 他界に流
込む(河).
paraloka-vidhi 男 他界への儀式, 葬儀.
paraloka-hasta 形 他界を掌中に収めるすなわち他界を
明らかに知る.
paralokārthin 男 天界を求めること.
paralokopekṣaka (°ka-up°) 男 漢訳 不畏他世, 棄於来
世 *Śikṣ.*
para-vaṃcana-śila 形 漢訳 性誑他, 欺誑((他)) *Bodh-
bh.*
paravat 1. 男 他人のように.
paravat 2. 形 他人に依存する; (因) に従う用意の
ある; (男, 圓) に頼る; (一°) に身を委ねる, …
の犠牲となる.
paravattā 女 (屬) 他を満足させること; 他人に服従
する用意のあること, いんぎん, 従順.
para-varga 男 他の党派.
para-varṇa-pratigha 形 漢訳 破他功能 [ātma-varṇā-
nunaya の因] *Śikṣ.*
para-vaśa 形 他人の意志に頼る, 追従する; (一°)

によって圧倒された, …の犠牲となる。
paravaśam-Kṛ, 征服する。
paravaśi-Kṛ, [同上]。
para-vaśya 形 = para-vaśa; 漢訳 繫屬於彼, 不違他命 *Bodh-bh.*
para-vaśyatā 名 [同上 種]。
para-vācya 形 他人によって非難されるべき。 甲 他人の欠点。
para-vācyatā 名 他人の非難に服すること。
para-vāḍa 男 [= para-vāṭa] 漢訳 [竜の名] 妙園 *Mvyut.*
para-vāḍa 男 他人についての話, 噂; 悪口; 異議; 漢訳 他説, 他論, (破)他執, 他諸異論, 外道論 *Bodh-bh., Lan̄k., Sāmkhy-k.*
para-vāḍi-cakra 甲 漢訳 異道邪論, 外道輪 *Gand-vy.*
para-vāḍin 男 信仰を異にする者; 漢訳 異論, 異論朋党, 異学, 外道論 *Bodh-bh., Divy., Lal-v.*
paravāḍi-nigraha 形 漢訳 能伏他論, 諸説隨負処 *Madhy-vibh.*
para-vāraṇa 形 敵を退ける。 男 敵を回避する者, 敵を撃退する者。
para-vijñaptikā 名 漢訳 令他信, 令他信受 *Madhy-vibh.*
para-vitta 甲 他人の財産。
para-vidheya 形 漢訳 隨順於彼, 善順於他 *Bodh-bh.*
para-viheṭhana-karaṇīya 形 漢訳 余(所有)互相惱害 *Bodh-bh.*
para-vira-han 形 敵の勇士を殺す。
para-vyākṣepin 形 敵をけちらす。
para-vyābādīna 男 漢訳 他害, 他悪 *Aṣṭ-pr., Sātr.*
para-vyūha-vināśana 男 敵の軍勢を滅ぼすもの。
paraśu 男 斧, 手斧; [王侯の名]; 漢訳 斧, 鉞斧, 大鉞斧 *Abh-vy., Mañj-m., Mvyut.* 梵雜。
paraśumat 形 斧を備えた。
paraśu-rāma 男 [(斧を持った *Rāma*), *Jamadagni* の息子である *Rāma* の称]。
paraśu-vana 甲 [ある地獄の名]。
paraśuvana-prādurbhāva 男 [同上]。
paraśuvana-sahasra-nāman 甲 [同上]。
paraśvadhā 男 斧, 手斧。
paraśvadhīn 形 斧を備えた。
para-śvas 副 明後日に; 漢訳 後日 梵雜。
paraḥ-śata 形 種 百以上の; 甲 百頌以上を含んだ。
paras 副 (因) [Pr 2. → *tiras*] 遠くに, 向うに, かなたに, 遙かに; 将来, 後に。 副 [種 とともに] を越えて, より以上; [種 とともに] を越えて, より以上, …なしに; [種 とともに] …を越えて, …を除いて。
para-samvid 名 漢訳 悟他 *Nyāy-pr.*
para-saṃgata 形 他と会合するすなわち他と戦う。
para-saṃjñapti-saṃcetaniyatā 名 漢訳 從想他禱祝心所成 *Mvyut.*
para-sattva 甲 漢訳 他, 他人 *Saddh-p., Sātr.*
parasattva-bhoga-vipralopin 形 漢訳 盜他財, 盜他物 *Gand-vy.*

para-saṃprāpaṅga 甲 漢訳 誨示他支, 令他至分 *Madhy-vibh.*
para-saṃbaddha 形 漢訳 共他, 繫屬於他 *Bodh-bh.*
para-saṃbhāvanāṅga (°nā-an°) 甲 漢訳 令他信支, 令他信分 *Madhy-vibh.*
parasāt-Kṛ, 他(人)に譲る, …に(娘を)結婚させる。
para-sevā 名 他人に対する奉仕。
para-sainya 甲 漢訳 怨敵, 他軍, 他部 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
parasainya-pramardaka 形 漢訳 能伏他軍, 能伏怨敵, 能制怨敵 *Divy., Lal-v.*
parasainya-pramardin 形 漢訳 極摧壞他軍, 極摧壞他部 *Mvyut.*
para-skhalitāgavešin 形 漢訳 無求他咎 *Śikṣ.* → *ātma-skhalita-gavešin.*
parastarām 副 遙かに。
parastāt 副 副 [種 とともに] 遠くに, より遙かに, 向うに; 上に, より高く; 上より, 前から, 後から; 後日, 後に [時について]; ~d *avagamyate eva* 後に来るものが予測される, 次に来るものが想像される。
para-sthāna 甲 外国; 慣れない場所; 漢訳 究竟処 *Lan̄k.*
paras-para 形 双方の; 漢訳 相, 更相, 更互, 展転, 展転相望, 相對, 遞共, 遞相, 彼此, 各各 *Abh-vy., Gand-vy., Lan̄k., Suv-pr., Sāmkhy-k., Vijñ-v., 梵千.* 一°, ~tas, ~m 副 相互に, 互に; 漢訳 (~tas) 展転 *Śikṣ.*; (~m) 互, 更互, 互相, 更互相, 更相, 共相, 迭, 遞; 轉次, 繼; 各各 *Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr., Vijñ-v.* ~eṇa 副 相互に または相互で; 漢訳 各各 *Suv-pr.* ~sya 副 相互に。
paraspara-jalpa 男 漢訳 彼我言説, 種種相對談説 *Lan̄k.*
paraspara-jña 形 互に知り合った, 親密な。
parasparatas 副 → *paraspara.*
paraspara-pratibaddha 形 漢訳 相輔 梵千。
paraspara-ṣṭi 名 相互の喜び。
paraspara-vikalpā 名 漢訳 展転共分別, 迭共相分別 *Lan̄k.*
paraspara-viruddha 形 相互に敵対する; 漢訳 彼此共乖違, 各各忿諍, 互相違諍 *Bodh-bh., Suv-pr.*
paraspara-vilakṣaṇa 形 漢訳 更互異 *Sāmkhy-k.* 甲 漢訳 各各異相, 此各異相, 彼此不同相 *Lan̄k.*
paraspara-vivāda 男 相互に論争すること。
paraspara-vyāvṛtti 名 相互に排斥すること。
paraspara-sakhya 甲 相互の友情。
paraspara-samāgama 男 相互に会合すること。
paraspara-sthita 形 互に反対側に立った。
paraspara-hita 甲 相互の幸福。
paraspara-hetu 男 漢訳 互相因, 展転因, 展転相因 *Lan̄k.*
parasparahetu-lakṣaṇatva 甲 漢訳 互相因, 展転相因相, 彼此因縁和合 *Lan̄k.*
parasparākrandin (°ra-āk°) 形 相互に呼び合う。
parasparādin (°ra-ād°) 形 互に食い合う。

parasparāmiṣatā 因 互に餌食となる状態。
 parasparāśraya (°ra-āś°) 男 相互依存；論証上の誤謬[まだ証明されていないAをもってBを真であると証明し同時にこのBをもってAを真であると証明する方法]、形 相互の。
 parasparotpīdana (°ra-ut°) 因 相互に押しつぶすこと。
 parasparopakāra (°ra-up°) 男 相互扶助。
 parasmai-pada 因 文法 (他のための語)、能動態の人称語尾、為他言。→ ātmane-pada。
 para-sva 因 男 他人の財産。
 parasva-jivin 形 他人の財産で生活する；従属する。
 parasvādāyin (°va-ād°) 形 他人の財産を私用に供する。
 parasvopajivin (°va-up°) 形 = parasva-jivin。
 paraḥ-sahasra 形 千以上の。
 para-haṅ 男 [王侯の名]。
 para-himsā 因 他を害すること；漢訳 害衆生命、害物命 *Suv-pr.*: virataḥ ~yāḥ 不害衆生命、不害物命 *Suv-pr.* 10。
 para-hitā 因 他人の福祉；漢訳 利他、益他；安衆生、為衆生、安隱衆生 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*；度被 *Bodh-bh.* 形 他人の利益になる、親切な。
 parahita-pratipatti 因 漢訳 利他行 *Bodh-bh.*
 parahitapratipatti-sampad 因 漢訳 利他行満 *Bodh-bh.*
 parahitābhiyukta 形 漢訳 欲利益他、於他而興利益 *Suv-pr.*
 parā 副 後方へ、かなたへ、前方へ、離れて [動の副 または 名の接頭]。
 parāk (または -ñ), [parāñc の 因]。
 parāka, 距離[ただし以下の副詞的用法のみ]。因 遠方に；形 遠方から、遙かに。男 [(十二日間断食する)苦行の一種]。
 parākāfa 形 漢訳 彼無作、他不作 *Madhy-v.*
 parākāśa (°ka-āśa) 男 遠い見込み、遠い期待。
 parā-kirya 不変分 捨てて、失なうて。
 parā-krṣṭa 過受分 名誉を毀損された。
 parā-krṣya 不変分 引き去って。
 parā-Kram parākramati(-te)。→ Kram。
 parā-krama 男 男 大胆な前進、剛勇；勢力、力、権力；武勇；強制手段；[*Vidyadhara* の王侯の名]；漢訳 勝；能；勇、勇健、勇猛、勇決；無怯；強鎮、善鎮；力、勢力、大勢之力、壯力；精進、勤行、増進；紹隆；超越 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 parākrama-kesarin 男 [Vikrama-kesarin の息子の名]；
 parā-kramāṇa 因 漢訳 昇進 *Bodh-bh.*
 parākrama-sīlatva 因 漢訳 稟性勇決 *Bodh-bh.*
 parā-kramin 形 剛勇な、力のある。
 parā-krānta 過受分 → Kram。漢訳 rājño vadhāya ~āḥ 謀奪王位、謀弑大王 *Gaṇḍ-vy.* 353。因 勢力の示現 (*Jat-m.*)；漢訳 惱 *Divy.* 144。
 parā-krāntṛ 形 威力を振う、勇気を示す。

parā-kṣipta-manas 形 うっとり心を奪われた、心の狂喜した。
 parā-ga 男 男 前進する、離散する、花粉；塵 漢訳 香馥 *Mvyut.*
 parā-gaṭa 過受分 → Gam。漢訳 能離所著 *Sukh-vy.* 1。
 parā-Gam parāgacchati。→ Gam。
 parā-gamana 因 出発。
 parā-gin 形 花粉をもつ。
 parāg-dṛś 形 外界に眼を向けた。
 parāṅga 男 身体の後背部。
 parāñ-mukha 形 (因 -i) 顔を背けた；(屬) に背を向けた；(從) から逃れる；そらした(凝視)；(prati, 屬, 因, 一°) を嫁う、…を意に介しない、…を避ける、…に対して冷淡な；反対の、逆の；漢訳 背、背面；捨、捨離、永捨、棄捨；遠離；厭離、厭患；不貪；除、去除；無、不復現前 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: puruṣārthāt ~m 棄捨丈夫義 *Buddh-c.* 23.; vaira ~m 除諸煩惱怨 *Divy.* 395.; saṃskṛta-doṣa ~ 遠離有為惡、既捨有為患、已背有為(如幻法) *Gaṇḍ-vy.* 230。→ a ~。
 parāñ-mukhatā 因 顔を背けること。
 parāñ-mukhatva 因 [同上]。(一°) に対する嫌悪または反感。
 parāñmukhī-BHū, 顔を背ける、逃れる；(屬) を意に介しない、(運命が)逆になる。
 parāñmukhī-bhūta 形 逆のまたは背いた(運命)；漢訳 遠去、背而不向 *Suv-pr.*
 parā-Car parācarati。→ Car。
 parāci, [parāñc の 因]。
 parācina 形 避けた；向うにある；(從) に冷淡な；不適當な。~m 副 (從) から向うに、…からあちらに；(從) より後に；より多く。
 parācinatā 因 嫌悪、反感。
 parācais 副 [parā-aca の 男 因] かたわらに、離れて；dūre ~ 遠くに、はるか向うに。
 parā-jaya 男 (從、一°) の喪失、損失；敗北；敗訴；(屬、一°) の鎮圧、征服；漢訳 破、摧、降伏、摧伏、除；勝、鬪退失、鬪得勝 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 parā-Ji parājayate。→ Ji。
 parā-jita 過受分 → Ji。漢訳 敗、為他降、他勝、得勝於彼、被他所勝、勝於彼；降伏、摧伏；令退 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* 漢訳 波羅夷 *Abh-vy.* → a ~, bhoga ~。
 parā-jīṣṇu 形 勝利を得た。→ a ~。
 parāñc (°rā-añc) 形 背けた、背を向けた、避けた；前後して立った；離れる；(從) に続く；過ぎ去った、呼び返し難い。因 [parāk(n)] 副 背いて；外界へ、外部へ。
 parāñcin 形 帰らない。
 parā-Nud parānudati(-te)。→ Nud。
 parātman (°ra-āt°) 男 最高我(根本原理)、宇宙精神；漢訳 他相、他体 *Madhy-v.* 形 身体を精神であると考える。

parātma-samatā (°ra-āt°) 因 漢訳 自他平等 *Śikṣ.*

parā-Dā parādadāti. → Dā 1.

parādhikāra 男 他人の任務または地位.

parādhikāra-carcā 因 他人のこと(利害関係)に干渉すること, 差し出がましいこと, おせっかい.

parādhina 形 他に頼る, 服従する, 追従する; (一°)に依存する; (一°)に従事するまたは熱中する, 夢中になる.

parādhinatā 因 依存状態, 服従.

parā-DHmā parādhamati. → DHmā.

parānika 因 敵軍.

parānugraha 男 漢訳 饒益他, 摂他 *Bodh-bh., Sūtr.*

parānuvṛtti 因 漢訳 随順他 *Bodh-bh.*

parānta 男 最終, 最後死; 漢訳 後際 *Śikṣ.*; 因 [民族の名].

parānna 因 他人の食物.

parānna-bhojin 形 他人の食物を食べる, 他人の世話になって生活する.

parāpakāra 男 漢訳 怨害, 従他怨害 *Bodh-bh.*

parā-Pat parāpatati. → Pat 1.

parāpata 男 漢訳 鵠譚 *Mvyut.*

parāpara 1. 因 遠近; 前後(原因と結果); 高低; 善悪; 漢訳 上下, 勝劣, 利鈍, 彼此 *Abh-vy., Bodh-bh., Laṅk., Mvyut.*

parāpara 2. 形 =param-para; 漢訳 転転 *Abh-vy.*

parāpara-jña 形 遠くにあるものと近くにあるものを知っている.

parāparatā 因 類概念と種概念の両者であること; 絶対と相対; 高級と低級; 漢訳 勝劣, 利鈍 *Bodh-bh.*

parāparatva 因 [同上]; 以前であることと以後であること.

parā-Paś parāpaśyati. → Paś.

parā-prṣṭhi-kṛta 形 漢訳 退 *Divy.*

parā-prṣṭhi-bhūta 形 漢訳 棄背, 棄捨 *Śikṣ.*

parā-bhava 男 去ること; 消失; 敗北, 打倒, (因, 因)に原因する軽蔑・失意・屈辱または無念; 毀損 (*Jāt-m.*).

parā-bhāva 男 敗北; 漢訳 輕侮, 欺侮 *Mvyut.*

parā-BHid, → BHid.

parā-BHū parābhavati. → BHū.

parā-bhūta 過受分 → BHū.

parā-bhūti 因 (因, 一°)による敗北・軽蔑・屈辱または無念.

parā-marśa 男 (髪を)つかむこと, (弓を)引くこと; 傷つけること; (因, 因, 一°)に対する襲撃, 攻撃; …との関係; 回想; 反省, 考慮; 漢訳 取, 執 *Abh-vy., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut.*

parā-marśana 因 把握, 接触; 漢訳 摩著, 覺触
— *Prāt-m.*

parāmarśa-saṃyojana 因 漢訳 取結 *Abh-vy., Madhy-vibh.*

parā-Mi, → Mi 2.

parā-mṛta 過受分 死を越えた, 死を克服した.

parā-Mṛś parāmṛśati → Mṛś.

parā-mṛṣṭa 過受分 → Mṛś. 漢訳 取, 触, 拭, 塗抹 *Divy., Laṅk., Mvyut.* → a~.

parā-mṛṣṭi 因 漢訳 取 *Laṅk.*

parāyaṇa 1. 因 [parā-ayaṇa] 出発.

parāyaṇa 2. 因 最高の目的, 最後の頼り, 保護(処), 主要事, 精髓; (因)を決定するもの; [ある書物の名]; 漢訳 入, 行, 趣, 度; 道, 究竟, 究竟道, 依護, 帰, 帰依, 所帰向, 依怙, 所依怙, 所恃怙, 所投寄; 扶; 逃越, 投竄; 決定 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.* 一° 因 …に全くふける, 余念のない, 一身を捧げた, 専心した; 漢訳 入, 入於, 趣, 至, 向, 趣向, 決定趣向; 趣求, 志願求; 已進; 生, 隨, 当隨; 証; 知; 究竟, 畢定究竟; 得, 決定得; 所依怙, 所帰趣 *Aṣṭ-pr., Boāh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Śikṣ.*: buddha-dharma ~ 究竟諸仏法 *Gaṇḍ-vy.* 30; satata-samitam deva-manuṣya-gati ~ āḥ 常生人天, 常生天上下在人中 *Gaṇḍ-vy.* 261. → naraka~, niraya~. 形 (因)の最後の避難処である.

parāyaṇatā 因 [同上 因 2. 因].

parāyaṇa-bhūta 形 漢訳 為所恃怙 *Gaṇḍ-vy.*

parāyaṇavat 形 最高処を占めた, 最高の.

parāyati 因 [Iの過受分から] 過ぎ去った(黎明)(RV.).

parāyatta (°ra-āy°) 過受分 他に頼った; (一°)に頼った, …によって征服された; 漢訳 繫屬於他 *Bodh-bh.*

parāyus (°ra-āy°) 男 [Brahman 神の称].

parārtha 男 非常に重要なこと; 他人の事柄または利益; (主要なこと=)性交; 漢訳 利他, 他利, 為他, 摂利他, 利益他, 為他用; 他義利 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Nyāy-pr. Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sūtr.* ~ m, ~ e 因, °一 副 他人の利益のために. ~āt 因 副 漢訳 為利他 *Śikṣ.* 形 他の目的をもつ; 他人のために存在する.

parārthaka 形 [同上 (形)].

parārtha-cara 形 他者の利益を促進する (*Jāt-m.*).

parārtha-caryā 因 他者の利益に注意を払うこと (*Jāt-m.*).

parārthatā 因 [parārtha (男)の 因] 他に依存すること.

parārthatva 因 [同上]. 漢訳 為他 *Sāṃkhy-k.*

parārtha-parama 形 漢訳 利他為勝 *Bodh-bh.*

parārtha-vādin 形 (法廷で)他人に代って述べる, 代理の.

parārtha-sampatti 因 漢訳 利他成就 *Sūtr.*

parārtha-sambaddha 形 漢訳 共利他 *Bodh-bh.*

parārthin 形 最高のものを求めて努力する; 漢訳 利他(人) *Sūtr.*

parārdha 男 向う側, 他の半分. 男 因 最高数(一兆の一百万倍); 漢訳 万載 *Mvyut.*

parārdhya 形 他の側にある; 最も優秀な, 最も高尚な, 最高の, 最善の; (因)より一層優秀な.

parāvagama 男 漢訳 他人知覚 *Mvyut.*

parāvat 因 遠隔.

parāvāra 形 遠近の, 前後の, 優劣の, 高低の; すべてを包括する; 昔から伝えられた, 伝統的な. 因 原因と結果; 概念の総括; 総体. 男 因 祖先と子

孫.

parāvara-jña 形 遠近を知る, 過去と未来とを知る等.

parāvaratva 中 高いことと低いこと.

parāvara-vid 形 =parāvara-jña.

parāvara-vibhāga-vid 形 過去と未来または遠くと近くとの区別を知る.

parā-vartana 中 回転.

parā-vartin 形 背を向ける, 逃げる.

parāvasatha-sāyin (°ra-āv°) 形 他人の家で眠る.

parā-vasu 男 [木星の六十週年の第四十年]; [Rai-bhya の息子の名]; [ある Gandharva の名].

parī-vaha 男 [七風の一].

parā-Vā parāvāti. → Vā 1.

parā-vṛkta 過受分 → Vṛj.

parā-Vṛj parāvṛṇakti. → Vṛj.

parā-Vṛt parāvartate. → Vṛt.

parā-vṛtta 過受分 → Vṛt. 漢訳 転, 転依, 転変, 廻転, 転減; 断, 離, 滅尽 *Abh-vy., Lan̄k., Sūtr.* → āśraya ~.parāvṛttāśraya (°ta-ās°) 男 漢訳 転依 *Lan̄k., Sūtr.*parā-vṛtti 中 帰還; 失敗; 交換; 漢訳 転, 転依, 転所依, 転淨所依, 轉身, 身転勝, 変, 変易 *Lan̄k., Sūtr., Vijñ-t.*parā-sara 男 破壊者; [Vasiṣṭha の子または孫の名]; [ある Nāga の名]; 漢訳 脇生; 破壊者 *Mvyut.*; 音写 [聖仙の名] 婆羅舎 *Buddh-c.*

parā-Śṛ parāśṛṇāti. → Śṛ.

parāśraya (°ra-ās°) 男 他に頼ること; 敵の避難所; 漢訳 依他 *Abh-k.* 形 他に頼っている.

parāśrita (°ra-ās°) 過受分 [同上 (形)]. 男 従属者, 召使.

parās (parā-As) parāsyati. → As 2.

parā-sikta 過受分 → Sic.

parā-Sic parāsiṅcati. → Sic.

parāsisiṣu (°rā-as°) (希求) 形 [As] 撃退したいと思う.

parāsu (°rā-asu) 形 今にも息が絶えようとしている, 瀕死の; 絶命した, 息の絶えた, 死んだ.

parāsu-karaṇa 形 死にいたらしめる, 殺す.

parāsutā (°rā-as°) 女 無感覚; 瀕死の状態.

parāsutva (°rā-as°) 中 [同上].

parā-Sū parāsuṇāti. → Sū 1.

parā-sedha 男 拘留, 監禁.

parā-haṅgana 中 漢訳 撃 *Saddh-p.: mahā-dharma-bheri ~* 撃大法鼓 *Saddh-p. 16.*parā-hata 過受分 → Han. 漢訳 撃, 履, 躡 *Divy., Suv-pr.*

parā-Han parāhanti. → Han.

parāhṇa 男 午後.

pari 副 周囲に; °— 十分に, 全く, 専ら, 非常に; 副 [業 とともに] 頃に [時間について], あたりに [場所について]; 対して, 向って; 上に, より以上に; [従 とともに] …より, …の故に, …に随って; 漢訳 普 *Sūtr.*

parikaddhati 動 [=parikaṭṭati; Pali 同]. pari-Kṛs] 導く, 自分の方へ引く; 支配する, 服従させ

る (*Mah-v. II. 225.*).pari-kathā 女 物語とくに宗教的な物語 (*Divy.*).

pari-kampa 男 激しい震動.

pari-kampin 形 激しく震動する.

pari-kara 男 圍 圍 従者, 家来; 援助, 方策; 添加; 豊富, 多数; (衣服を締める)帯; 漢訳 勇鋭 *Bodh-bh.* ~m Kr, ~m Bandh (因, 不定) のため用意する, …の準備をする; ābaddhaḥ ~ḥ 漢訳 不靠諸人, 不靠諸人而行 *Mvyut.*

pari-karita 過受分 (圓)を伴った.

pari-karkaśa 形 非常に頑固なまたは乱暴な (*Jāt-m.*).

pari-kartana 形 切断する, 細断する.

pari-karma 中 (?) 漢訳 陶冶, 陶冶人 *Lan̄k.*parikarma-kṛta 形 漢訳 修, 修行, 已修, 已具足, 瑩, 瑩飾, 修營, 造作, 治 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.*pari-karmaṇa 男 漢訳 ((治)), 浣, 浣染 *Mvyut.*parikarmaṇa-vastu 中 漢訳 補戒分 *Mvyut.* → parikarma-vastu.parikarman 中 崇拜; 身を飾り整えること, 身に油を塗ること, 浄化, 浄化の手段; (一)に対する準備; 漢訳 治, 修治, 錬治, 善治, 修行, 浄, 浄修, 浄業; 瑩飾, 嚴具; 成弁; 業 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gand-vy., Kāśy., Lan̄k., Mvyut., Śikṣ.*parikarma-bhāvanā 女 漢訳 熟治修習 *Madhy-vibh.*parikarmaya 名動 中 parikarmayati 裝飾する; 漢訳 (燃)成 *Divy. 276.*parikarma-vastu 中 漢訳 補戒根分, 円満修習根由 *Mvyut.*pari-karmin 男 従者, 召使; 漢訳 修治, 浄, 已浄, *Daś-bh.*

pari-karṣa 男 引きずり廻すこと.

pari-karṣaka 形 漢訳 化御 *Bodh-bh.*pari-karṣaṇa 中 引き廻すこと; 圍; 漢訳 撰, 将, 御, 引導, 率領; 護 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lan̄k., Śikṣ.*; 希求 *Śikṣ.*pari-karṣita 使役 過受分 引き廻された, 悩まされた, 苦痛を与えられた; 漢訳 所逼 *Suv-pr.: kṣut-trṣa ~* 飢渴所逼, 飢餓窮悴 *Suv-pr. 189.*

pari-karṣin 形 引きずり廻すまたは持ち去る.

pari-Kal parikālayati. → Kal.

pari-kalayitr 形 囲んでいる.

pari-kalkana 中 詐欺.

pari-kalpa 男 迷妄 (仏教); 漢訳 分別, 計度, 遍計, 所分別, 称量 *Abh-vy., Lal-v., Madhy-v., Śikṣ.*; 妄想, 虚妄, 虚妄分別 *Lan̄k.* ~m upādāya 至満一劫 *Śikṣ. 87.*pari-kalpana 中 欺瞞; 決定; 作製; 準備; 分割; 漢訳 起諸分別 *Sūtr*pari-kalpanī 女 成就, [rūpa ~] (形を)取ること; 計算; 漢訳 分別, 所計, 遍計, 執 *Abh-vy., Śikṣ.*; 妄想 *Śikṣ.*pari-kalpayitavya 使役 未受分 応分別 *Śikṣ.*parikalpa-samutthita 形 漢訳 分別起, 分別生, 遍計所起, (皆)出現想 *Mvyut., Śikṣ.*parikalpārtha 男 漢訳 分別義 *Sūtr.*

pari-kalpita 過受分 決定された, 決心した; …と決

した, …しようと思う, 望まれた, 期待された; 作られた, 創造された, 想像された, 案出された, 考案された; 整頓された; 区分された, 分配された; 漢訳 分別, 所分別, 分別所作; 計, 遍計, 執, 遍計所執, 徧計所執; 普察, 普觀察 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*, *Vijñ-v.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*; 妄想, 妄計, 分別虚妄 *Lank.* → a~.

parikalpita-nimitta 用 漢訳 妄想相, 妄計相, 分別是(諸)相 *Lank.*

parikalpita-lakṣaṇa 用 漢訳 分別相, 分別性相, 普觀察相, 遍計所執相, 徧計所執相 *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

parikalpita-svabhāva 用 漢訳 分別性, 遍計所執自性 *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 妄想自性, 妄計自性 *Lank.*

pari-kalpita 用 漢訳 妄想, 虚妄分別 *Lank.*

pari-kātara 用 全く臆病な (*Jāt-m.*).

pari-kirtana 用 声高に宣言すること, 公表; 名づけること, 呼ぶこと; 話すこと; 漢訳 讚, 称讚, 名称流布, 所説(法) *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Sapt-pr.*

parikirtaya 名動 用 parikirtayati. → kirtaya.

pari-kirtayat 現分 漢訳 唱 *Gaṇḍ-vy.*

pari-kirtita 過受分 宣言された, 告知された, 誇った, 言われた, 呼ばれた; 漢訳 説, 所説, 已説, 上説, 上所説, 広説; 宣; 所称, 称讚, 称歎 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 勝利 *Sapt-pr.* → guṇa~.

pari-kirtyamāna 現分 漢訳 唱 *Lal-v.*

pari-kūṭa 用 漢訳 [竜の名] 融集 *Mvyut.*

pari-Kṛt parikṛntati. → Kṛt.

pari-krśatva 用 瘦身 (*Lal-v.*).

pari-Kṛṣ parikṛṣati(-te). → Kṛṣ.

pari-Kṛ parikirati. → Kṛ.

pari-Kṛp parikalpayati (便役). → Kṛp.

pari-kopa 用 激怒; 漢訳 瞋, 懷忿 *Suv-pr.*

parikta 用 [=paritta, paritta(?)] 漢訳 不大 [*Tib. chuñ ba*] *Kāśy.* 114.

pari-Kram parikrāmati(te). → Kram.

pari-krama 用 さまよい歩くこと, 歩き廻ること, 遊歴, 散歩; 普及すること, 連続, 順序.

pari-kraya 用 賃金; (生命を)買い戻すこと; 金で購入する平和.

pari-krānti 用 廻転.

pari-kriyā 用 (一°)に注意すること. …を心配すること.

pari-Kṛi parikriṇite. → Kṛi.

pari-Kṛiḍ parikriḍate. → Kṛiḍ.

pari-Klam pariklāmati, pariklamyati. → Klam.

pari-klānta 過受分 → Klam.

pari-Klid, → Klid.

pari-Kliś parikliśyati(-te). → Kliś.

pari-kliṣṭa 過受分 → Kliś. 漢訳 染, 雑染 *Daś-bh.*

pari-kliṣṭam 副 → Kliś.

pari-kleda 用 湿気のあること.

pari-kleśa 用 困難; 心配, 悩み; 漢訳 勤苦, 艱辛

Bodh-bh., *Saddh-p.*

pari-kleṣṭr 用 迫害するまたは苦しめる(人).

pari-kṣata 過受分 → Kṣan.

parikṣata-vrata 用 誓いを破った (*Buddh-c.*); 漢訳 陋行 *Buddh-c.*

pari-kṣati 用 怪我, 傷害, 損害.

pari-kṣaya 用 消失, 休止, 減退; 衰微; 破滅; 漢訳 尽, 滅尽, 破尽, 散滅; 消, 銷 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.* ~m̄ Gam 漢訳 尽, 破尽, 散滅 *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*

pari-kṣayatas 副 漢訳 有尽故, 由有終尽故 *Bodh-bh.*

parikṣaya-bhaṅgura 用 漢訳 滅尽 *Bodh-bh.*

parikṣayānta-kāla 用 漢訳 滅時 *Saddh-p.*

pari-kṣāṇa 用 石炭の粉, 粉炭.

pari-kṣāma 用 (全く)やせ衰えた, やつれた.

pari-Kṣi parikṣeti (1), parikṣiṇoti (3). → Kṣi 1,3.

pari-kṣit 用 周圍に住する (*Agni* 神); 周圍に広がる, (用 天界と地界). 用 [諸王侯の名].

pari-kṣiti 用 負傷.

pari-Kṣip parikṣipati. → Kṣip.

pari-kṣipta 過受分 → Kṣip. 漢訳 回遶, 回匝回遶, 普遍, 周遶, 周遍, 散乱, 周匝散乱 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.* → samanta~.

pari-kṣiṇa 過受分 → Kṣi 3. やつれた, 衰弱した; 漢訳 尽, 悉尽, 已謝滅 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

parikṣiṇa-bhava-saṃyojana 用 漢訳 尽諸有結, 諸有結縛皆悉已尽, 有合悉尽 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*

parikṣiṇāyuṣka (°ṇa-āy) 用 漢訳 命欲將尽 *Śikṣ.*

pari-kṣetavya 未受分 費されるべき(時)

pari-kṣepa 用 あちこちへ動くこと; 囲むこと, 取り巻くこと; 取り囲むもの; 周圍. → samanta~eṇa.

-pari-kṣepaka 用 (用 -ikā) …に懸っている (*Kar-vy.*).

pari-khaṇḍana 用 減少, 減損.

pari-khā 用 塹壕, 堀, 溝梁; 漢訳 塹, 壘, 溝, 坑, 坑塹, 池塹 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*

parikhāvaropita (°khā-av°) 用 漢訳 深壘, 深瀆為池塹 *Gaṇḍ-vy.*

parikhā-sthita 用 難攻不落の, 危険のない.

pari-KHid parikhidyati. → KHid.

pari-khinna 過受分 → KHid. 漢訳 懈, 疲厭; 疲倦, 厭倦, 厭極, 厭極, 生疲懈; 勞苦, 劬勞 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*; 忘 *Kāśy.* → a~.

parikhinna-mānasa 用 漢訳 厭患 *Lal-v.*, *Sam-r.*

parikhi-Kṛ, 濠に変える.

pari-kheda 用 疲勞困ぱい, (極度の)疲勞; 漢訳 倦, 疲倦, 懈倦, 勞倦, 意倦, 退, 有退屈, 可厭; 苦惱, 憂惱; 不喜, 不意; 苦行 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

parikheda-saṃjñā 用 漢訳 可厭想, 苦惱想, 憂惱想 *Gaṇḍ-vy.*

pari-khedita 過受分 悩まされた, 疲れ切った, 壊滅させられた, 破壊された; 漢訳 触惱, 苦惱 *Divy.*

pari-KHyā parikhyāti. → KHyā.
 pari-gaṇa 男 家；漢訳 家，高台閣，別層起 *Abh-vy.*，*Mvyut.*
 pari-gaṇana 中 総計算，正確な叙述；計算。
 pari-gaṇanā 女 [同上]。
 pari-gaṇaniya 未受分 完全に計算されるべき；正確に叙述されるべき。
 pari-gaṇita 過受分 → gaṇaya.
 pari-gaṇitin 形 (万事を)十分に熟慮する。
 pari-gata 過受分 → Gam. 取り巻かれた，囲まれた；圧倒された；漢訳 遍満 *Lal-v.*: nānā-vyādhi ~ 罹種種病，看諸病 *Mvyut.*
 parigatārtha 形 一事に精通する。
 pari-gadhita 過受分 → Gadh.
 pari-gantavya 未受分 得られるべき。
 pari-Gam parigacchati. → Gam.
 pari-gama 男 知り合い，面識，相識；(一°)に従事すること。
 pari-Garj parigarjati. → Garj.
 pari-gardha 男 漢訳 貪著 *Bodh-bh.*
 pari-garvita 過受分 極めて高慢な。
 pari-garhana 中 非難。
 pari-galita 過受分 → Gal.
 pari-Gaveṣ parigaveṣate. → Gaveṣ.
 pari-gaveṣaṇa 形 漢訳 勤求 *Bodh-bh.*
 pari-Gā parijigāti. → Gā.
 pari-gr̥ddha 過受分 非常に貪欲な (*Divy.*)；漢訳 著，所著，樂 *Divy.*，*Gaṇḍ-vy.*
 pari-gr̥hita 過受分 → Grah. 漢訳 所撰，撰受，所撰受，撰取，所撰持，所撰治護，所撰護，所護念，所護助，為(力)所助，所護，護持；受，受持，諮受，総受，悉已受；持，執持，執，扶持[持?]，捧承，承取，擎，所得；所知；親，親近，莫捨 *Abh-vy.*，*Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Daś-bh.*，*Divy.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Madhy-vibh.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，*Sapt-pr.*，*Śikṣ.*，*Sukh-vy. II.*，*Suv-p.*；積集 *Aṣṭ-pr.*；遵崇 *Abh-vy.* → a~。
 parigr̥hita-kalyāṇa-mitra 形 漢訳 親近善知識，為善友之所撰受 *Gaṇḍ-vy.*
 pari-gr̥hitatva 中 漢訳 撰受 *Bodh-bh.*
 pari-gr̥hiti 女 包含；漢訳 所守 *Kāśy.*
 pari-gr̥hṇiya 未受分 漢訳 執 *Bodh-bh.*
 pari-Grabh, → Grabh.
 pari-Grah parigr̥hṇāti, parigr̥hṇite. → Grah.
 pari-graha 男 抱擁；包含；(身体に)着用すること；装うこと；取得；把握；受納，受領；(罽)から引き出すこと；入手，獲得，所有；認容，收容；(家または社会へ人の出入を)許可すること，懇切な接待；(妻を)娶ること，結婚すること，結婚；選択；手段に訴えること；企図すること，(一°)…を実行すること；…にふけること；恩恵，愛顧，援助；(罽)に対する要求；総額，総計，総数；財産；妻[また集合的に]；従者，家族，(王侯の)側室；住居；根底，基礎；漢訳 撰，所撰，撰受，撰治，撰取，撰持，撰護，撰属，所撰受，所撰持；受，可受，受持；護，守護，護持，護念，所守護，所護念；加被，饒

益；取，有取，所取，取著；執，計執，徧計 *Abh-vy.*，*Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Bodh-c.*，*Buddh-c.*，*Divy.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Kāśy.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Madhy-vibh.*，*Saddh-p.*，*Śikṣ.*，*Sukh-vy. II.*，*Sūtr.*；求欲，貪求 *Gaṇḍ-vy.*；親近 *Gaṇḍ-vy.*；和合 *Sūtr.*；家属，眷属 *Bodh-bh.*，*Daś-bh.*，宿衛 *Suv-pr.*
 pari-grahaṇa 中 着用すること；漢訳 撰，撰受 *Abh-vy.*，*Śikṣ.*
 pari-grahatva 中 (婦人が一°と)結婚すること。
 parigraha-paramatā 女 漢訳 撰受最勝，撰治無比 *Madhy-vibh.*
 parigraha-bahutva 中 多妻。
 parigraha-saṃjñā 女 漢訳 我我所想，撰受想 *Bodh-bh.*，*Sukh-vy. I.*
 parigraha-hetu 男 漢訳 撰因。撰受因 *Bodh-bh.*，*Madhy-vibh.*
 pari-grahitavya 未受分 受容されるべき，支配されるべき；所有に帰せられるべき (*Vajr-pr.*)；漢訳 応撰受，可撰持，応越取，取応 *Vajr-pr.*
 pari-grahitr 男 夫；養父。
 pari-grāhaka 形 恩恵を施す；漢訳 受，撰受，能撰受，撰受(以為親友)；持，護持；畜；近 *Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*；tathāgata-śāsana ~ 受如来教 *Saddh-p.480*；mahā-yāna ~ 持大乘 *Mvyut.*
 pari-grāhya 未受分 親切に取り扱われるべき。
 pari-gredha 男 漢訳 貪著，貪愛，荒淫 *Mvyut.*
 pari-glāna 過受分 → Glai. 極度に疲れた。
 pari-gha 男 鉄製の(門の)門[時として力あるひじ(肱)・腰等に比せられる]；門，障害物(譬喩)；鉄棒；鉄で包んだ棍棒；日出・日没に横切る一条の雲；宮殿の門，門；漢訳 関鑰 *Buddh-c.*
 parigha-guru 形 鉄の門ほどの重さの。
 pari-GHaṭ parighāṭayati (使役). → GHaṭ.
 pari-GHaṭṭ parighaṭṭayati. → GHaṭṭ.
 pari-ghaṭṭana 中 攪拌すること，摩擦。
 parigha-prāṃśu-bāhu 形 鉄の門ほどの長さのひじをもつ。
 parigha-bāhu 形 鉄の門に似たひじをもつ。
 parigha-saṃkāśa 形 鉄の門に似ている。
 parigha-stambha 男 (扉などの)ひじがね，ちょうつがい；門柱。
 pari-ghāta 男 除去。
 pari-ghātin 形 (一°)にそむく(命令)。
 parighopama (°gha-up°) 形 鉄の門のような。
 pari-Cakṣ paricaṣṭe. → Cakṣ.
 pari-caturdaśa (n) 形 罽 ぴったり十四の；十四より多い。
 pari-capala 形 常に動き廻る。
 pari-caya 1. 男 [Ci 1.] 蓄積。
 pari-caya 2. 男 [Ci 2.] 熟知，知識；親密；(罽 土 samam, 罽, 罽, 一°)を熟知すること，…の熟練；(一°)の繰り返しまたは頻発；漢訳 集；修，修習，慣習，数習；観，熟 *Divy.*，*Lank.*，*Madhy-vibh.*，*Mvyut.*
 pari-cayavat 形 よく知られた。

pari-Car paricarati. → Car.
 pari-cara 男 伴侶；從者，召使。
 pari-carāṇa 男 從者。 田 仕えること；(一°)に付き添うこと。
 pari-carāṇiya 未受分 仕えられるべき；適用できる。
 pari-caritavya 未受分 仕えられるべき，給侍されるべき，尊敬されるべき。
 pari-carya 未受分 [同上]。
 pari-caryā 女 付添い，奉仕，献身，帰服；漢訳 事，承事，侍，給侍，随順給侍，給使僮僕，供，供給；行，供事行；供養，承事供養；恭敬 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: ~ṃ kurvanti sma 承事供養 *Lal-v.* 83. → upasthāna~, kṛta~.
 paricaryānuttarya (°yā-ān°) 田 漢訳 供無上 *Mvyut.*
 pari-caryāvat 形 仕える，崇拜する。
 paricaryā-saṃvarṇana 田 漢訳 為供養讚説，淫意讚己 *Mvyut.*
 paricaryā-svikaraṇa-kāma 形 漢訳 欲貪(他)作(己)僮僕 *Bodh-bh.*
 paricaryā-svikaraṇārtham 副 漢訳 為驅使故 *Bodh-bh.*
 pari-cāra 男 勤侍，奉仕，恭順；散歩場；[pari-vāraの誤]；漢訳 眷属 *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 pari-cāraka 男 助手，從者，召使；漢訳 侍者，給侍，彌 *Saddh-p.*, *Sam-r.*, 梵千.: ~o vyavasthitah 令專守供養 *Divy.* 59.
 pari-cāraṇa 田 付添い。
 pari-cārika 男 =pari-cāraka. 形 漢訳 護 *Lal-v.*
 pari-cārikā 女 女官，侍女。
 pari-cārīta 過受分 漢訳 携從 *Bodh-bh.* 田 娛樂 (*Divy.*)
 pari-cārītā 女 [同下 田]。
 pari-cārin 形 (一°)に付添う，恭順する。
 pari-Ci paricinoti, paricinate. → Ci 1,2.
 pari-cita 1. 過受分 → Ci 1. 漢訳 積集，積習成，長養，調伏 *Bodh-bh.*
 pari-cita 2. 過受分 → Ci 2. 漢訳 善通利，曾修習，有知識 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.* → a~.
 paricita-vivikta 過受分 隱遁に親しんだ。
 pari-citi 女 (一°)と知り合いであること，…と親交のあること。
 pari-Cint paricintayati. → Cint.
 pari-cintaka 形 (圖，一°)を熟慮する，沈思する。
 pari-cintaniya 未受分 熟考されるべき。
 pericihnaya 名動 → cihnaya.
 pari-cihnita 過受分 → cihnaya.
 pari-Cud paricodāyati (使役). → Cud.
 pari-Cumb paricumbati. → Cumb.
 pari-cumbana 田 熱情的接吻，心ゆくまで接吻すること；漢訳 啞唇吻 *Gand-vy.*
 pari-Ceṣṭ, → Ceṣṭ.
 pari-codanātā 女 漢訳 開悟 *Śikṣ.*
 pari-cCHad 1. 使役 → CHad 1.
 -pari-cchad 2. 形 =pari-cchada (一°).
 pari-cchada 男 被覆，覆うこと；備品，家具，什器；

手廻り道具，手荷物；随行員，供廻り；一° 形 …を備えたまたはで裝飾された。
 pari-cchitti 女 確定；程度，限度；限界。
 pari-cCHid, → CHid.
 pari-cchanna 過受分 → CHad 1.
 pari-cchinna 過受分 → CHid. 漢訳 断；別；隔礙 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.*: udaka~ 周廻水断，水中(陸地)断流，断流之处 *Aṣṭ-pr.* 599; pūrvāntāpa-rānta~ 前後際断，前際後際断，前際断故後際亦断 *Aṣṭ-pr.* 600. → a~.
 pari-cchinnatva 田 漢訳 有分限，有定量 *Abh-vy.*
 pari-ccheda 男 分離；正確な識別，健全な判断，洞察，思慮；決定，判定；節，章；漢訳 分別，分段，分齊，分決，識別，解入；所了；差別；品，品断 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, *Vijñ-v.* → artha~, alpa~.
 pariccheda-kara 男 漢訳 [Samādhiの名] 判決，判決諸法，分別諸法，断除一切 *Mvyut.*
 pariccheda-vyakti 女 認識の明確さ。
 paricchedākula (°da-āk°) 形 判断の混乱した。
 paricchedāṅga 田 漢訳 分別支，分決分 *Madhy-vibh.*
 paricchedātita 形 一切の定義を超えた。
 pari-cchedya 未受分 正確に決定されるべき；測量されるべき。
 pari-Cyu, → Cyu.
 pari-cyuta 過受分 (高い地位から)落ちた；破滅に陥った。
 pari-cyuti 女 没落。
 pari-jana 男 (取り巻く人々)，(男性または女性の)召使；[概ね集合的に]從者，随行員，随伴者，附添い，召使 [とくに女性の]；漢訳 眷属，親属，親戚，属下，家人，家中人，使者 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 pari-Jap, → Jap.
 pari-japita 過受分 つぶやかれた，ささやかれた，低い声で祈られた。
 pari-japta 過受分 [同上]；魔法にかけられた；漢訳 mantraiḥ ~ḥ 結呪 *Divy.* 397.
 pari-jaya 男 漢訳 [Ji] 勝利 *Suv-pr.*; [=pari-caya] 積集，積習，習，修得，修習，熟鍊；永令淨 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* ~ṃ Kr 漢訳 調習，修習，証，了，勝解 *Aṣṭ-pr.*: dhyāna ~ṃ Kr 於(是諸)定(心轉調柔)随意能入，禪定随意能入 *Aṣṭ-pr.* 630; prajñāyām ~ṃ karoṣi 汝智慧勝解 *Aṣṭ-pr.* 593. → a~.
 pari-Jalp parijalpati. → Jalp.
 pari-jāta 過受分 完全に成長した。
 pari-jita 過受分 漢訳 [=pari-cita] 通利，甚清淨，妙清淨；誦得 *Mvyut.*, *Sūtr.*
 pari-jihirṣā 女 避けようまたは除こうとする願望。
 pari-jirṇa 過受分 → Jṛ. 漢訳 弊壞 *Lal-v.*
 pari-jeta 過受分 田 [<pari-cayita] 漢訳 熟，通利 *Mvyut.*
 pari-jetr 男 田 [pari-cayitr] 漢訳 vacasā ~ā 言通利者，功課熟 *Mvyut.*

pari-jña 形 善知 *Sam-r.*

pari-jñapti 女 認識.

pari-jñā pari-jñānāti, pari-jñānite. → Jñā.

pari-jñā 女 知識; 知, 全知, 遍知, 徧知, 忍知; 智, 遍智; 通達, 了達, 悟解; 見, 見(苦); 覺(境) *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Sam-r., Sātr.*: sarva-dharma-svabhāva ~ 了達諸法本性, 了達諸法自性, 知諸法真實之性 *Gaṇḍ-vy.* 288.

pari-jñāta 過受分 → Jñā. 漢訳 知, 遍知, 已遍知, 已徧知, 已知, 識; 見; 覺了 *Abh-vy., Divy., Madhy-v., Madhy-vibh., Suv-pr.*: duḥkham ~ m 已知苦, 已徧知苦 *Mvyut.* → a ~.

pari-jñātavya 未受分 漢訳 應徧知, 了悟 *Mvyut.*: duḥkham ārya-satyam ~ m 苦聖諦應徧知, 苦聖諦悉皆了悟之 *Mvyut.*

pari-jñātu-kāma 形 漢訳 欲知, 欲了知 *Lan̄k.*

pari-jñātr 男 正確に知っている人; 漢訳 審諦了知 *Bodh-bh.*

pari-jñāna 中 認識, 識別; 十分な確認, 完全な見聞, 完全な知識または熟知; 漢訳 知, 了知, 遍知, 徧知, 了知, 遍了知, 証知; 通達; 智, 遍智; 見; 記識; 觀察 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Vijñ-t.* → yathābhūta ~.

pari-jñānin 形 多くの知識をもつ.

pari-jñeya 未受分 十分に学ばれるべきまたは知られるべき; 漢訳 應知, 應遍知; 智 *Abh-vy., Bodh-bh., Sātr.*

parijñeya-satya 中 漢訳 應遍知諦, 智実 *Bodh-bh.*

pari-jman 形 動き廻る, 駆け廻る; 遍在的な; 因 到る処に.

pari-ḍina 中 (鳥が)円形を描いて飛ぶこと.

pari-ḍinaka 中 [同上].

pari-ṇata 過受分 → Nam. 漢訳 旋; 廻向; 転変, 已転変, 変異, 変成, 成熟; 遍; 消融 *Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr.*: para-hita ~ ena 為欲利益諸衆生故 *Gaṇḍ-vy.* 355.

pariṇata-dik-karika 形 (牙で打とうとして)かがむ神話的な象をもつ. → dik-karin.

pariṇata-dvirada 男 身をかがめた象.

pariṇata-prajña 形 理解力の熟した.

pariṇata-pratyaya 形 結果の熟した(行為) (*Divy.*); 漢訳 遍縁, 縁(合)成熟 *Divy.*

pariṇata-vayas 形 高齢の, 老いた.

pariṇata-śarad 女 秋の後期, 晩秋.

pariṇatāruṇa 男 落日.

pari-ṇati 女 変質, 変形, 変化; 進展; 熟すこと, 成熟; 成年; 結果, 結末, 終り; (約束の)履行; 漢訳 廻向; 廻転, 転変, 変易 *Lan̄k., Madhy-vibh.* ° 副 最後に, 終りに. ~ m Yā 終る.

pariṇati-kāraṇa 中 漢訳 廻転因, 転変能作 *Madhy-vibh.*

pari-ṇaddha 過受分 → Nah.

pari-ṇam pariṇamati(-te). → Nam.

pari-ṇamana 中 (圓)に變形すること; 漢訳 (決定)

廻向 *Bodh-bh.*

pari-ṇamanatā 女 漢訳 廻向 *Bodh-bh.*

pari-ṇamanā 女 漢訳 廻向 *Bodh-bh., Dharm-s.*

pari-ṇamayitr 男 成熟させる者; 漢訳 廻向 *Bodh-bh.*

pari-ṇamita 過受分 漢訳 廻向, 趣向 *Bodh-bh.*: mahā-bodhi ~ 廻向大菩提, 趣向((大))菩提 *Bodh-bh.* 204.

pari-ṇaya 男 (婚礼の火を)廻って(花嫁を)導くこと, 婚礼, 結婚.

pari-ṇayaṇa 中 [同上].

pariṇaya-vidhi 男 結婚式.

pari-ṇah, → Nah.

pari-ṇāma 男 変形, 変化; 自然的発展; (食物の)変質, 消化; 衰えること; (時の)経過; (生命の)衰退, 老齡; 結果, 結末; 終点, 終局, 最終の状態, 最後; 漢訳 變, 所變, 能變, 改變, 變易; 異, 衰變異, 變異, 轉, 轉變, 轉異; 動; 回向, 廻向; 熟, 円融 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Sāṃkhy-k., Sātr., Vijñ-v.*; 食消, 食力銷已 *Aṣṭ-pr.*: phala ~ 果能變 *Vijñ-t.* 18.; hetu ~ 因能變 *Vijñ-t.* 18. → acintya ~. ~ e 因, ° 副 最後に, 遂に.

pari-ṇāmaka 形 變化を成しとげる; 漢訳 廻向 *Bodh-bh.*

pariṇāma-kāla 男 漢訳 轉時, 時轉變 *Lan̄k.*

pariṇāma-darsin 形 (事件の)結末または結果を予期する, 用心深い, 先見の明ある.

pari-ṇāmana 中 十分な発展をもたらすこと, 有力な促進 (*Jat-m.*); 漢訳 廻, 向, 回向, 廻向, 變 *Bodh-bh., Kāśy., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Sātr.*: bodhi ~ 廻向菩提 *Śikṣ.* 13.

pariṇāmana-rāja 男 漢訳 勝願王 *Gaṇḍ-vy.*

pariṇāmana-vidhi-jña 形 漢訳 知回向儀者, 明諸回向 *Mvyut.*

pari-ṇamanā 女 漢訳 廻向 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Śikṣ.*

pariṇāmanānyathā-bhāva (°nā-an°) 男 漢訳 轉變 *Bodh-bh.*

pariṇāmanābhisam̄dhi (°nā-abh°) 男 漢訳 轉變秘密 *Mvyut.*

pariṇāmanā-vaśa 男 漢訳 廻向力 *Bodh-bh.*

pariṇāma-mukha 形 終りに至る, 終ろうとする.

pari-ṇamayitavya 未受分 漢訳 廻向 *Sūkh-vy.* I.

pariṇāma-ramaṇiya 形 終りの楽しい(日).

pari-ṇāmavaś 形 自然的発展をする.

pariṇāma-vāda 男 開展説, 轉變説, *Sāṃkhya* の学説.

pariṇāma-vādin 形 漢訳 轉變論, 轉變見 *Lan̄k.*

pari-ṇāmika 形 (女-i) 変化によって生ずる; よく消化できる; 漢訳 廻向, 轉變, 變異 *Lan̄k., Sātr.*

pari-ṇamita 過受分 漢訳 廻, 廻向, 所廻向, 願向, 回換; 變, 變易 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Kāśy., Śikṣ.*

pari-ṇāmin 形 變化する; 発展する; 熟する; 漢訳 變, 死 *Lan̄k.* → acintya ~.

pari-ṇāyaka 男 案内者, 夫; 漢訳 將, 帥, 導, 導者, 導師, 導首, 善導師, 普導, 一切導者, 徧導師; 兵拔 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k.,*

Mvyut., *Śikṣ.*, *Sūtr.* → a~.

pariṇāyaka-bhūta 形 漢語 如(猛)將, 為(大法)將, 為(衆生)將 *Gaṇḍ-vy.*

pariṇāyaka-ratna 中 漢語 [轉輪王七宝の一] 臣宝, 主兵臣宝, 主兵宝, 大臣宝, 主蔵臣宝, 主兵神宝 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

pari-ṇāyika 形 漢語 導 *Aṣṭ-pr.*

pari-ṇāha 男 範圍, 幅, 周圍; 漢語 広, 縦広, 広長, 横, 大, 寛, 粗 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.* → *ānāha*~, *āroha*~.

pari-ṇāhavat 形 大きい; 漢語 広 *Saddh-p.*

pari-ṇāhin 形 広い, 大きい; (一)の周囲のある.

pari-ṇinamsu 形 (牙で)横に突こうとする(象).

pari-ṇi pariṇayati(-te). → *ṇi*.

pari-ṇita 過受分 [ṇi] 結婚した. 中 結婚.

pariṇita-ōurvā 形 因 以前に結婚した.

pariṇita-bhartr 男 結婚の儀式をすませた夫.

pari-ṇitavat 過能分 結婚した.

pari-ṇetavya 未受分 結婚させられるべき.

pari-ṇetr 男 夫.

pari-ṇeya 未受分 廻って導かれるべき, 確かめられるべき; (圓)と交換できる.

pari-ṇeyā 因 (婚礼の火の)廻りを導かれること, (花嫁として)結婚させられること.

pari-Taṃs paritasyati. → *Taṃs*.

pari-takmya 形 動揺させる, 不安な, 危険な.

pari-takmyā 因 危険.

pari-Takṣ, → *Takṣ*.

pari-Taḍ paritāḍayati. → *Taḍ*.

pari-tatnu 形 囲む, 抱擁する.

pari-Tan paritanoti, paritanute. → *Tan* 1.

pari-Tap paritapati. → *Tap*.

pari-tapta 過受分 熱で囲まれた, 熱せられた, 焼かれた, 苦しめられた, 悩まされた; 漢語 悩, 熱悩 *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*

paritapta-mukha 形 悲しみに圧倒された顔の (*Buddh-c.*).

pari-taptavya 未受分 漢語 憂悩, 生憂悩 *Śikṣ.*

pari-Tark, → *Tark*.

pari-tarkaṇa 中 考慮.

pari-tarkita 過受分 (裁判で)審理された.

pari-Tarj, → *Tarj*.

pari-tarpaṇa 形 満足させる. 中 満足.

pari-tarpita 過受分 漢語 濟 *Raṣṭr.*

pari-tarṣaṇa 中 漢語 渴, 渴求, 渴欲, 渴愛, 欣殊勝 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*

paritas 副 ぐるりと回って, 四方八方へ, あらゆる方向へ, 何処でも, 到る処に; 副 [(圓)とともに] 周囲に.

pari-tasana 男 中 (?) 中 [<°trṣ°, °tras°] 漢語 憂愁, 憂慮, 悲悩, 惆悵 *Aṣṭ-pr.* 943, *Bodh-bh.* 143.

pari-tasya 動 中 [<paritrasya, paritrṣya] 漢語 生悵 *Bodh-bh.* 193.

paritasyamāna 現分 中 漢語 疑慮, 厭心 *Bodh-bh.* 218: a~ 心無疑慮 *Bodh-bh.* 218.

pari-tāpa 男 熱, 温気; 苦痛, 悲痛, 悲嘆, 苦惱; 良

心の苛責; 苦痛を与えること; 漢語 熱 *Daś-bh.*; 追悔(心) *Sam-r.*

pari-tāpana 中 漢語 炙 *Lal-v.*

pari-tāpita 使役 過受分 → *Tap*. → *āditya*~.

pari-tāpin 形 灼熱する, 苦悩または悲嘆を生ずる, 悩ます.

pari-tāyitavya 未受分 中 [<paritrāyitavya] 漢語 救脱, 救拔, 当救度 *Daś-bh.* 34.

pari-tāsa 男 中 [→ *pari-tasya*] 漢語 悵望 *Abhvy.* 525.

pari-tikta 形 非常に苦しい (*Jāt-m.*).

pari-Tul paritulayati. → *Tul*.

pari-tulana 中 (?) 漢語 省, 称量, 思量, 校量勝劣, (思惟)籌量(分別) *Bodh-bh.*; *Lal-v.*, *Śikṣ.*

pari-Tuṣ parituṣyati(-te). → *Tuṣ*.

pari-tuṣṭa 過受分 → *Tuṣ*. 漢語 為足, 甚大歡喜, 無礙意 *Divy.*, *Saddh-p.*

parituṣṭārtha 形 完全に満足させられた.

pari-tuṣṭi 因 満足, 完全な満足.

pari-tuṣya 不変分 → *Tuṣ*.

pari-trpta 過受分 → *Trp*. 漢語 既飽, 厭足 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*

pari-trpti 因 完全な満足.

pari-toṣa 男 満足, 満足させること, 歡喜; (圓, 因)の楽しみまたは喜び; 漢語 喜, 永喜, 皆喜, 愛樂; 足 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 称 *Divy.*: ~ṃ *gatāḥ* 為足 *Saddh-p.* 210. → *citta*~.

pari-toṣaṇa 形 満足させる, 喜ばせる. 中 満足させること, 満足, 喜ばせること.

pari-toṣayitr 形 満足させる, 喜ばせる.

pari-toṣavat 形 満足した, 喜んだ.

pari-toṣin 形 (一)に満足した, …によって喜んだ.

paritta 形 [= *paritta*] 漢語 微眇 *Lal-v.* 20.

pari-tyakta 過受分 見捨てられた, 見放された. → *Tyaj*. 漢語 捨, 棄捨, 悉捨, 永棄, 皆棄; 施 *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.* → a~.

pari-tyaktavya 未受分 漢語 捨, 應捨 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*

pari-tyaktu-kāma 形 漢語 欲捨 *Aṣṭ-pr.*

pari-tyaktr 男 捨てる人, 見捨てる人.

pari-Tyaj parityajati(-te). → *Tyaj*.

pari-tyaja 男 漢語 捨 *Madhy-vibh.* → *āda*~.

pari-tyāga 男 見放すこと, 見捨てること; 拒否; 放棄, 断念, 喪失; 中 布施, 犠牲; 漢語 棄, 捐, 抛, 捨, 捨離, 皆捨, 悉捨, 棄捨, 厭捨, 永捨, 能捨; 離叛; 断; 無所顧, 能捨(無所恪惜) *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*; 施, 惠施 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.* → *ātma*~.

pari-tyāgavat 形 漢語 (常)行惠施 *Suv-pr.*

parityāga-sena 男 [王侯の名].

pari-tyāgitā 女 [同下 中] 漢語 捨, 施 *Gaṇḍ-vy.*: *adhyātmika-bāhya-sarva-vastu*~ 内外悉施, 悉捨内外, (心無慳恪) *Gaṇḍ-vy.* 243.

pari-tyāgin 形 見放す; (一)を断念する, 放棄する; 寛大な; 漢語 捨, 能捨, 不惜, 布施 *Bodh-bh.*,

Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p. 男 放棄者。
pari-tyājana 甲 見放させること；(一)を剝奪すること。
pari-tyājya 未受分 見放されるべき、見捨てられるべき、放棄されるべき、避けられるべき；**漢訳** 可(殺)棄 *Divy.* → a~。
pari-Tras, → *Tras.*
pari-trasta 過受分 → *Tras.*
pari-Trā paritrāyate. → *Trā.*
pari-trāna 甲 (徇)からの保存・保護・救済・救助または救援；庇護、避難；(圍)に対する予防法；**漢訳** 救、救済、救拔、救護、普救、遍救護；濟、拔濟、濟拔、普護、皆護、勤加守護、勤心擁護、深心擁護；度；免；防禦；覆護、普覆、覆蔭 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Suv-pr.*；愍哀 *Lal-v.*：tiryagyoni-gati~ 免畜生、免畜生趣 *Gaṇḍ-vy.* 97；sarvasattva~ 普救一切衆生、救護一切衆生、拔濟(苦惱)諸衆生 *Gaṇḍ-vy.* 63；bhaya~ 濟怖畏 *Bodh-bh.* 146。
pari-trānatā 女 **漢訳** 能救、救護、救解、普救護；濟、拔濟；度；令安隱 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*
pari-trānin 形 **漢訳** 掾 *Śikṣ.*
pari-trātavya 未受分 (徇)から保護されるべき；**漢訳** 救済、応拔濟 *Bodh-bh.*
pari-trātr 男 [案、圍 とともに] 保護者、救済者；**漢訳** 依救護、永作救護、普益、饒益 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*：sarvaloka~ 饒益諸群生 *Gaṇḍ-vy.* 27。
pari-trāyaṇa 甲 **漢訳** 救、救摂、護 *Daś-bh.*
pari-trāsa 男 驚愕、恐怖；**漢訳** 恐怖 *Divy.*
pari-damśita 過受分 完全に準備したまたは武装した、頭から指の先まで鉄で包まれた、完全に甲冑で覆われた。
pari-dagdha 過受分 → *Dah.* **漢訳** 曝露 *Divy.*
pari-Dam paridamayati. → *Dam.*
pari-damana 甲 **漢訳** 調 *Aṣṭ-pr.*
pari-dalant 現分 爆発する、砕ける。
pari-daśa 形 (女 -ā) 覆 十に充ちた (*Jāt-m.*)
pari-Dah paridahati. → *Dah.*
pari-Dā paridadāti, paridatte. → *Dā* 1.
pari-dāgha 男 **漢訳** 熱、熱惱、煩熱、燒法、悔 *Kaśy., Prāt-m.*
paridāgha-samaya 男 **漢訳** 熱時 *Prāt-m.*
pari-dāha 男 燃焼、心痛、苦惱；**漢訳** 火、熱、大熱、炎熱；熱惱、惱熱、煩熱、惱、苦惱；渴；很；鬱蒸 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ.* → niṣ~。
pari-Div paridevati, paridevayati. → *Div* 2.
pari-Diś, → *Diś.*
pari-Di, → *Di* 1.
pari-dīna 過受分 非常に落胆したまたは苦しめられた。
paridīna-manas 形 **漢訳** 恨 *Lal-v.*
paridīna-mānasa 形 心の悩んだ。
paridīna-sattva 形 [同上]。
pari-Dip paridipyate(-ti). → *Dip.*
pari-dipaka 形 **漢訳** 示、顕示、説示 *Madhy-v.*

pari-dipana 甲 **漢訳** 顕、顕示、所顕 *Abh-vy., Bodh-bh., Śivik-pr.*
pari-dipana 女 **漢訳** 顕示、顕了、通達 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr.*
pari-dipita 過受分 **漢訳** 顕示、所顕示、所表示、言、説 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sūtr.*
pari-Du paridūyate. → *Du.*
pari-durbala 形 非常に弱いまたは貧しい。
pari-durbalatva 甲 [同上] 補 (*Jāt-m.*)
pari-durmanāyita 過受分 非常に悩んだ。
pari-dūṣita 過受分 俗 [＜pari-dveṣita] **漢訳** 瞋恚、瞋恨 *Rāṣṭr.* 22。
pari-Dṛś, → *Dṛś.*
pari-deva 男 泣き言またはぐち、悲歎；**漢訳** 悲、歎、悲歎、憂、痛哭；不安 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Laṅk., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜.*；過患 *Śikṣ.*
pari-devaka 形 (女 -ikā) 悲歎する、泣き言をいう；**漢訳** 傷歎、猖狂馳叫 *Abh-vy.*
parideva-kara 形 **漢訳** 憂惱 *Śikṣ.*
pari-devana 甲 = *pari-deva.* **漢訳** 歎、悲、悵快、慘切、涕泣 *Madhy-v., Suv-pr.*：bahu-vidha-karuṇā~ m kṛtvā 悲号涕泣 *Suv-pr.* 213。
pari-devanā 女 [同上]。
pari-devita 使役 過受分 → *Div* 2. 甲 泣き言、悲歎；**漢訳** 惱、興発大哀 *Lal-v.*
pari-devin 形 悲しんでいる。
pari-dyūna 過受分 → *Div* 2.
pari-dyūnatva 甲 哀れな状態。
pari-draṣṭr 形 見物する(人)、知覚する(人)、認識する(人)。
pari-Dru paridravati. → *Dru.*
pari-dharṣaṇa 甲 攻撃、侮辱、虐待。
pari-DHā paridadhāti, paridhatte. → *DHā.*
pari-dhāna 甲 (衣服を)着ること；衣類、衣装；着物、とくに肌衣または下衣。
paridhāna-valkala 甲 衣服用の樹皮。
paridhāna-vastra 甲 上衣。
paridhāni-Kṛ, 下衣に変える。
pari-dhāniyā 女 讚誦に用いられる一連の詩節の最後のもの。
pari-dhāraṇa 甲 (圍)に耐えること、…にふけること。
pari-dhāraṇā 女 忍耐。
pari-DHāv paridhāvati(-te). → *DHāv* 1.
pari-dhāva 男 **漢訳** 遍馳 *Abh-k.*
pari-dhāvana 甲 (矢を)避けること；**漢訳** 奔走往、馳走往 *Śikṣ.*
pari-dhi 男 (周囲に置く)、包圍、保護；囲い、城壁、[大地を囲んでいる大洋]；[太陽または月の暈輪]；地平線；周圍；(祭火を)囲む(三本の)木片。
paridhi-stha 形 地平線上にある。
paridhi-Kṛ, 掛けるまたは着る。
pari-DHū, → *DHū.*
pari-dhūsara 形 全く灰色のまたは埃りまみれの。
paridhy-upānta 形 大洋によって囲まれた。

pari-dhvaṃsa 男 (日月の)食；心痛；災難，失敗
種姓(階級)の喪失または混合。

pari-dhvaṃsin 形 (一°) を破壊する；破壊的な。

pari-dhvasta 過受分 → DHvaṃs.

pari-nandya 不変分 (業) を非常に喜んで。

pari-nābhi 副 へそ(臍)の周囲に。

pari-nikāsa 中 漢訳 [=°kāsa(?)] 損 Lal-v: 371.

pari-nindā 女 (屬) に対する厳しい叱責；あらさがし。

pari-nir-Luṭh parinirluṭhati. → Luṭh 1.

pari-nir-Vā parinirvāti. → Vā 1.

pari-nirvāṇa 中 個体の完全な消滅；漢訳 滅，滅度，
円寂 Aṣṭ-pr., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr.；[地名] 雙林 Mvyut.；(音写) 究竟涅槃，勝涅槃，超
出涅槃 Mvyut., Saddh-p.；(音写) 涅槃 [nirvāṇa]；
般涅槃 Abh-vy., Lan̄k., Sapt-pr., Śikṣ., 玄奘。

parinirvāṇa-dharma 男 漢訳 (音写) 般涅槃法 Sapt-
pr.

parinirvāṇa-dharmaka 男 漢訳 (音写) 有般涅槃法者
Bodh-bh.

parinirvāṇa-samjñin 形 漢訳 滅度想 Saddh-p.

pari-nirvāpayitavya 使役 未受分 漢訳 滅度応，令入
…滅度；(音写) 当…令…般涅槃，取証涅槃，可入涅
槃 Śikṣ., Vajr-pr.

pari-nirvāpayitr 形 漢訳 (音写) 令般涅槃 Bodh-bh.

pari-nirvāpita 使役 過受分 漢訳 得滅度者 Vajr-pr.

pari-nirvāyin 形 漢訳 滅 Abh-vy.；(音写) 般 [般涅
槃の略] Abh-vy. 270.；涅槃，般涅槃 Abh-vy.,
Lan̄k., Mvyut.；tañ-jaṇma ~ 彼生而般涅槃，此
生而入涅槃，一生入於涅槃 Lan̄k. 117；tri-pañca-
bhava ~ 三五有生而般涅槃，三生五生入於涅槃
Lan̄k. 117；五種不還 [1. antarā ~ 中般涅槃，2.
upapadya ~ 生般涅槃，3. sābhisamskāra ~ 有
行般涅槃，4. anabhisamskāra ~ 無行般涅槃，5.
ūrdhva-śrotāḥ 上流] Mvyut.

pari-nirvāṇa-cetas 形 臆病な，意気消沈した。

pari-nirvṛta 過受分 完全に消滅させられた，最終的
に解脱した (Divy.)；漢訳 滅，滅度，入滅，入滅
度，寂滅，寂靜；清淨；已成仏 Abh-vy., Aṣṭ-pr.,
Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lan̄k., Saddh-
p., (音写) 入涅槃，已般涅槃，已入涅槃，証究竟涅
槃，般涅槃者，Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sapt-pr.；[ni-
rvāṇa, parinirvāṇa の音写] 涅槃，般涅槃 Abh-vy.,
Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Sūtr., Suv-pr.

pari-nirvṛti 女 完全な解脱；漢訳 [parinirvāṇa の
音写] 般涅槃，入般涅槃 Abh-vy., Bodh-bh.

pari-nirvṛtta 過受分 [=pari-nirvṛta] 漢訳 (音写)
[parinirvāṇa] 般涅槃 Abh-vy., Lan̄k.

pari-ni-Vṛt parinivartate. → Vṛt.

pari-niscaya 男 確固とした意見，固い決心。

pari-ni-Śnath, → Śnath.

pari-ni-Ṣad pariniṣidati. → Ṣad.

pari-ni-Ṣthā, → Ṣthā.

pari-niṣṭhā 女 極限，頂上；(因，一°) に完全に精通
していること。

pari-niṣṭhita 過受分 → Ṣthā. 漢訳 究竟，已得究竟，

究竟円満，所鍊 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh.

pari-niṣpatti 女 完成 (Vajr-pr.)；漢訳 成，成就；成
辯，成満，円成，所成，円成実，具足成就；具，具
足；究竟；円満；円実，真実；修証；発 Abh-vy.,
Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-
vibh., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ.,
Sūtr., Suvik-pr., Vajr-pr., Vijñ-t. → a ~.

pari-niṣ-Pad pariniṣpadyate. → Pad.

pari-niṣpadana 中 漢訳 成辯 Sapt-pr.

pari-niṣpanna 過受分 → Pad. 漢訳 成，成就，成辯，
円成，修成，成満，已具成就；円成実，真実，真実
性；円満，満足；皆具有；証得，覺了；普揚；決定
Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-vibh.,
Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr., Vijñ-t.；
dharma-kāya ~ 成就法身，証得法身，法身円満
Gaṇḍ-vy. 390. → a ~.

pari-niṣpannatva 中 實際の存在。

pariniṣpanna-pakvendriya (°va-in°) 形 漢訳 根熟
Lan̄k.

pariniṣpanna-bodhisattvāśaya (°va-āś°) 形 漢訳 成
就菩薩志欲，成就菩薩直心 Gaṇḍ-vy.

pariniṣpanna-lakṣaṇa 中 漢訳 成就相，円成相，円融
相，円成実相，(諸法)円成相；真実相，真実性相；
普揚相 Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.

pariniṣpanna-svabhāva 男 漢訳 成自性，円成自性，
円成実自性，真実性 Lan̄k., Madhy-vibh., Vijñ-t.

pari-niṣpādana 中 漢訳 成，成熟 Daś-bh., Gaṇḍ-
vy., Śikṣ.

pari-niṣpādita 使役 過受分 漢訳 所成，成就 Saddh-
p.

pari-niḥ-Ṣthā, → Ṣthā.

pari-niḥṣṭhita 過受分 → Ṣthā.

pari-naiṣṭhika 形 (女-i) 最高の，最も優秀な，最も
完全な。

parind (?) 漢訳 parindāmy anuparindāmi nikṣi-
pāmy upanikṣipāmi 付嘱 Saddh-p. 484.

anu- 漢訳 付，付嘱，嘱累 Lal-v., Saddh-p.；anu-
parindāmi 我嘱累 Saddh-p. 410.

parindanā 女 =pari°. 漢訳 付嘱，嘱累 Lal-v., Sa-
ddh-p.

pari-pakva 形 十分に調理された，全く熟した(果
実)；十分成熟した(知能，人)；精力が尽きた，衰え
た；漢訳 熟，成熟，純熟，淳熟，已熟，已成熟，已成
熟者，已淳熟者；成就 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh.,
Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.；buddha-darśana ~ 根
性淳熟応見仏者 Gaṇḍ-vy. 272.

paripakva-kuśala-mūla 形 漢訳 成熟善根，善根成就
Aṣṭ-pr.

pari-pakvataratva 中 漢訳 極成熟 Abh-vy.

paripakva-śāli 男 熟した米。

paripakyendriya (°va-in°) 形 漢訳 根熟 Lan̄k.

pari-Pac paripacati. → Pac.

pari-pacana 中 漢訳 成熟 Bodh-bh.

pari-Paṭ paripāṭayati. → Paṭ.

pari-pañana 中 (一°) をかけた賭博，賭けること。

pari-pañḍiman 男 =paripañḍiman.

pari-Pat paripatati → Pat 1.
 pari-patana 甲 飛び廻ること, 空を舞うこと.
 pari-pantha 甲 障, 障難, 受障 *Sutr.*, *Vijñ-t.*:
 ~m tiṣṭhati 截路 *Mvyut.*
 pari-panthaka 男 (ある者の道をさえぎる者), 敵対者, 敵; 断阻道路 *Mvyut.*
 paripantha-kāraka 形 障道 *Raṣṭr.*
 pari-panthatā 女 障 *Sutr.*
 paripanthaya 名動 他 paripanthayati (業) に反対する, 抵抗する.
 pari-panthika 男 =pari-panthaka.
 pari-panthin 形 進路をさえぎる; 障, 達, 怨対 *Abh-vy.*, *Vijñ-t.* 男 待ち伏せする者, 敵対者, 敵.
 paripanthī-BHū, (圖) の反対者となる, 敵対する.
 pari-pavana 甲 (穀物を)清めること, ふるい分けること; み(箕).
 pari-Paś paripaśyati. → Paś.
 pari-paśavya 形 犠牲獣に関する.
 pari-Pā paripibati (1), paripāti (2). → Pā 1,2.
 pari-pāka 男 十分煮られること; 消化; 熟すること; 成熟; 完全; 結果; (時の)十分なこと, 満期; 熟, 成熟, 令其成熟, 過熟, 成就; 化, 教化, 教化調伏; 開化, 度; 満足 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 熟変, 変異 *Abh-vy.*: ~m gacchati 消熟 *Mvyut.*; buddha-dharma ~ 成熟仏法, 成熟自仏法 *Bodh-bh.* 27; sattvānām ~ āya 但為成熟諸衆生故, 為利衆生故 *Suv-pr.* 15.
 pari-pākatas 圖 結果として.
 paripāka-mukha 甲 教化(衆生)門 *Gaṇḍ-vy.*
 paripāka-lakṣaṇa 甲 成熟相 *Sutr.*
 pari-pācaka 形 成, 成熟, 能成熟 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: bodhi ~ 成熟菩提 *Śikṣ.* 91.
 pari-pācana 形 十分煮る; 成熟させる; 熟, 令熟, 成熟, 能成熟, 令成熟, 成生; 化, 教化, 化度, 勸化 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.* 甲 完成すること (*Lal-v.*, *Kar-vy.*); 熟, 成熟; 教化 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 pari-pācanatā 女 [同上 形 補] (*Lal-v.*); 化度 *Śikṣ.*
 pari-pācanā 女 令成, 普成熟 *Sutr.*
 pari-pācayitavya 未受分 應可成熟 *Bodh-bh.*
 pari-pācayitr 形 =pari-pācana (形).
 pari-pācita 使役 過受分 煮られた, 炙られた; 受化, 教化, 開化, 化度, 度; 所成熟, 成就 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.* → a ~.
 pari-pācya 未受分 應化, 所成熟 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 pari-pāṭana 甲 熟 *Bodh-bh.*
 pari-pāṭala 形 全く淡紅色の.
 pari-pāṭi 女 連続; 次第 *Mvyut.*
 pari-pāṭi 女 [同上].
 pari-pāṭha 男 完全な列挙. ~ena 男 完全に(知る).
 pari-pāṇa 甲 隠れ場所.
 pari-pāṇḍiman 男 非常に白いこと.

pari-pāṇḍu 形 非常に白または青白い.
 pari-pāṇḍura 形 非常に白い.
 pari-pārsva 形 そばにある, 手近にある.
 paripārsva-cara 形 そばへ行く.
 paripārsva-vartin 形 (圖) のそばに止まっている, そばにいる.
 pari-pāla 男 (?) 養 梵千., 梵雜.
 pari-pālaka 形 保護する; 保持する; 守護 *Lal-v.*
 pari-pālana 甲 保護; 保持; 養育; 守護, 擁護 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*
 pari-pālanā 女 保護, 養育; 守護, 護持 *Bodh-bh.*
 pari-pālaniya 未受分 守護されるべき; 保持されるべき.
 paripālaya 名動 他 paripālayati. → pālaya.
 pari-pālayitavya 未受分 宜保愛, 当随之 *Divy.*
 pari-pālayitu-kāma 形 欲護, 欲得擁護 *Suv-pr.*
 pari-pālita 過受分 被守護 *Abh-vy.*; 供養 *Divy.*
 pari-pālya 未受分 保護されるべき; 保持されるべき, 監視されるべき; 守護, 当守護, 要当守護, 当護持 *Divy.*, *Śikṣ.*
 pari-piṅgi-Kr, 深紅褐色に染める.
 pari-piccha 甲 孔雀の羽で作った飾り
 pari-piñja 形 (圖) に満ちている.
 pari-piñjara 形 帯褐赤色の, 橙色の.
 pari-piṅḍita 過受分 → piṅḍaya. 集, 聚, 総, 会合, 円無欠 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*
 pari-piṅḍi-kṛta 過受分 球のようにされた (*Divy.*).
 pari-pipālayiṣā 女 維持しようとする欲望.
 pari-Piḍ paripiḍayati. → Piḍ.
 pari-piḍana 甲 压榨すること; (一°)を害すること, …に損害を与えること; 逼迫 *Gaṇḍ-vy.*; 按摩 *Bodh-bh.* → kāya ~, nirmokṣaṇa.
 pari-piḍā 女 悩ますこと, 苦しめること; 逼迫, 逼惱 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*: kāya ~ bhaya-visamyoga 離逼迫身怖, 離逼迫身恐怖 *Gaṇḍ-vy.* 211.
 pari-piḍita 過受分 → Piḍ. 逼, 所逼, 所逼切; 羸瘦 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*
 pari-piḍyamāna 現分 禁繫 *Daś-bh.*: duḥkha-śatair ~ āḥ *Daś-bh.* 49.
 pari-pīta 過受分 → Pā 1.
 pari-puṣṭa 過受分 → Puṣ. 増長 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 習(種) *Sūtr.*
 pari-puṣṭatama 最上 転勝 *Bodh-bh.*
 pari-puṣṭatara 比較 転増 *Bodh-bh.*
 pari-puṣṭatā 女 (一°)に養育されること, 養われること.
 pari-Pū paripunāti, paripunite. → Pū.
 pari-Pūj paripūjayati. → Pūj.
 pari-pūta 過受分 → Pū.
 pari-pūti 女 完全な浄化.
 pari-pūraka 形 満たす; 豊かに与える; 満 *Mvyut.* → icchā ~.
 pari-pūraṇa 甲 満たすこと; 完成すること; 十分に満たすことまたは満足させること (*Kar-vy.*); 満, 円満, 成満, 普遍 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-*

vy., Madhy-vibh., Mvyut., Vijñ-t.

- pari-pūrayitavya** 未受分 完全に成就されるべき(徳) (Kar-vy.).
- pari-pūrayitu-kāma** 形 漢訳 欲満足, 為円満 Bodh-bh.
- pari-pūri** 因 漢訳 満, 円満, 満足, 令満足; 成就; 具; 安, 普安; 究竟 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Mvyut., Sūtr. ~m Gam 漢訳 果; 具足, 満足, 得円満 Aṣṭ-pr., Lan̄k.
- pari-pūrika** 形 漢訳 円満 Abh-vy.
- pari-pūrita** 使役 過受分 → Pr 1. 漢訳 令具足, 得満 Saddh-p.
- pari-pūrin** 形 豊富に賦与する; 漢訳 円満, 満足 Abh-k., Lal-v., Sam-r.
- pari-pūrṇa** 過受分 → Pr 1. (一°)で満たされた; 漢訳 満, 円満, 善円満, 已満, 盈満, 遍満, 徧満, 充滿, 普満, 弥満, 満足, 已満足, 具, 具足, 已具足, 皆具足, 備; 円, 円融 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Guhy-s., Lal-v., Madhy-vibh., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. II., 其千; 増, 増長, Abh-vy., Prajñ-h.: ~o jñānena 智慧円満, 諸智円満 Mvyut.
- paripūrṇa-kalpa** 男 漢訳 過…劫 Saddh-p.: ~āna śatebhi dr̄ṣyase 過百(三十)劫今乃得一見 Saddh-p. 173.
- paripūrṇa-kārin** 形 漢訳 円満, 具足, 持具処, 能学満分 Abh-vy., Aṣṭ-pr.
- paripūrṇa-kukṣi** 形 漢訳 満腹 Lan̄k.
- paripūrṇa-koṭi-prāpta** 形 漢訳 皆尽辺際 Lal-v.
- paripūrṇa-candra-vimala-prabha** 男 漢訳 [Samādhiの名] 満月浄光, 円月浄光 Mvyut.
- paripūrṇa-tri-parivarta-dvādaśākāra-dharma-cakra-pravartana** 中 漢訳 円満三転十二行輪, 具転三転十二行相(無上)法輪 Aṣṭ-pr.
- pari-pūrṇatva** 中 満たすこと; 漢訳 極円満 Bodh-bh.
- paripūrṇa-nimitta** 中 漢訳 本瑞 Saddh-p.
- paripūrṇa-bhāṣin** 形 完全にすなわち賢明に話す(人).
- paripūrṇa-mano-ratha** 形 漢訳 意車円満 Bodh-bh.
- paripūrṇa-mānasa** 形 心中満足した.
- paripūrṇa-vyañjana** 形 漢訳 具足相, 身満足, 隱処円満 Mvyut.
- paripūrṇa-vyañjanatā** 因 漢訳 隱処(文約)円満清浄好 Dharm-s.
- paripūrṇa-śukla-dharma** 形 漢訳 ((白法円満)), 浄法円満, 清浄円満 Mvyut.
- paripūrṇa-saṃkalpa** 形 漢訳 意解円満, 思惟円満, 願満, 満願 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.
- paripūrṇa-sattva** 形 完全無欠な (Buddh-c.).
- paripūrṇārtha** 形 目的を達成した; 意味の完全な, 賢明な(言葉).
- paripūrṇendu** (°ṇa-in°) 男 満月.
- paripūrṇendriya** (°ṇa-in°) 形 漢訳 具根, 諸根具足, 諸根円満 Aṣṭ-pr., Mvyut., Suv-pr.
- pari-pūr̄ti** 因 (一°)に満ちること; 完成すること; 漢訳 満足, 具足 Lal-v.

- pari-Pr**, → Pr 1.
- pari-pr̄chaka** 形 漢訳 諮問, 請問(聴受), 聴者 Aṣṭ-pr., Saddh-p. 男 質問者.
- pari-pr̄chana** 中 漢訳 問, 請問, 諮問, 諮求, 反問, 反詰問, 質答 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Raṣṭr., Śikṣ.
- pari-pr̄chanatā** 因 漢訳 請問, 諮問, 樂聞 Aṣṭ-pr., Raṣṭr.
- pari-pr̄chanikā** 因 質問 (Divy.).
- pari-pr̄chā** 因 質問, 尋問; 漢訳 問, 所問, 請問, 問論, 問, 訊問言, 反問; 諮請; 反詰 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut., Sam-r.
- paripr̄chā-vyā arāṇa** 電 漢訳 反詰記, 反問授記, 復問授記 Abh-vy., Mvyut.
- pari-pr̄chika** 形 すすめられた時にだけ受け取る(人).
- pari-pr̄chita** 過受分 [=pari-pr̄ṣṭa] 漢訳 問, 所問, 請問 Aṣṭ-pr., Lan̄k.: ~āḥ paripraśni-kṛtāḥ 請問 Aṣṭ-pr. 490.
- pari-pr̄ṣṭa** 過受分 漢訳 諮, 請問, 會問; 聞, 聴受, Aṣṭ-pr., Bodh-bh.: ~āḥ paripraśni-kṛtāś ca 諮, 請問, 會問, 聴受, 広聞 Aṣṭ-pr. 459, 676.
- pari-pr̄ṣṭika** 形 =pari-pr̄chika.
- pari-pelava** 形 非常に精緻な, 非常に小さい.
- pari-poṣaka** 形 助長する, 確立する.
- pari-poṣaṇa** 中 促進すること; 養育すること.
- pari-poṣaṇiya** 未受分 養育されるべき.
- pari-Prach** pari-pr̄chati(-te). → Prach.
- pari-pra-Yā**, → Yā.
- pari-pra-Vac**, → Vac.
- pari-praśna** 男 (一°)に関する質問, 尋問; 漢訳 問, 請問 Aṣṭ-p., Bodh-bh.
- paripraśnaya** 名動 廻 paripraśnayati. → praśnaya.
- pari-praśnayitavya** 未受分 漢訳 応請決所疑 [pari-praśtavyā ~ā] Aṣṭ-pr
- paripraśni-kartavya** 形 漢訳 能問, 請問勸発 Aṣṭ-pr.
- paripraśni-Kṛ**, 漢訳 請問, 勸請問, 問詰 Aṣṭ-pr.
- paripraśni-kṛta** 形 漢訳 請, 請問, 會問, 広問, 問難 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.
- pari-praśtavya** 未受分 漢訳 問, 当問, 所請問, 応請問, 応請決所疑 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Mañj-m., Saddh-p., Sapt-pr. → paripraśnayitavya.
- pari-pra-Āp** pari-prāpayati (使役). → Āp.
- pari-prāpta** 過受分 漢訳 成 Lal-v.
- pari-prāpti** 因 獲得.
- pari-prāpya** 形 完成すべき, 成就すべき (Divy.).
- pari-Pri** pari-prīṇayati (使役) → Pri.
- pari-prita** 過受分 → Pri.
- pari-prepsu** 名動 形 (男)に達しようと切望する, …を得ようと切望する, …を探求する, …を熱望する.
- pari-preṣya** 男 召使.
- pari-plava** 形 あちらこちらを走り廻る. 男 動揺; 漢訳 擾乱 Bodh-bh.
- pari-plāvya** 形 上にこぼされるべき.
- pari-Plu** pari-plavate. → Plu.
- pari-pluta** 過受分 → Plu. 水浴した; 浸された; 庄

倒された；(涙に：一°)ぬれた。
pari-ploṣa 男 燃烧，熱烈な感情。
pari-phulla 過受分 広く開いた(眼)；逆立っている毛に覆われた；**漢訳** 敷，(花)開敷，(花)開徹 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*
pari-phullatā 女 **漢訳** 開敷 *Sapt-pr.*
pari-phullita 過受分 **漢訳** 開敷 *Sapt-pr.*
pari-baddha 過受分 → *Bandh.* **漢訳** 結，具，所撰 *Daś-bh.*
pari-Bandh *paribadhnite.* → *Bandh.*
pari-Barh *paribrhati.* → *Barh 2.*
pari-barha 男 従者，召使；家具；衣服，衣裳；財産，富；生活の必需品またはぜいたく品。
pari-barhaṇa 中 従者，衣裳；崇敬。
pari-barhavat 形 よく家具を設備された(家)。
pari-Bādḥ *paribādḥate.* → *Bādḥ.*
pari-bādḥā 女 艱難，心痛，疲労。
pari-Budh *paribudhyate.* → *Budh.*
pari-bubhukṣita 希求 過受分 非常に飢えた。
pari-brmhaṇa 中 繁榮；(*Veda* の) 附録，附加部。
pari-brmhitā 過受分 (圓，一°) で増加した，…で増大した，…で力づけられた，…と結合した，…を支給された。
pari-brdha 過受分 → *Barh 2.*
pari-bodhana 中 訓戒，諫言。
pari-bodhanā 女 [同上]。
pari-bodhaniya 未受分 訓戒されるべき。
pari-bodhavat 形 理性を賦与された。
pari-bodhita 使役 過受分 **漢訳** 発道意 *Saddh-p.*
pari-BHakṣ *paribhakṣayati.* → *BHakṣ.*
pari-bhakṣaṇa 中 食い尽すこと，消費すること；(圓) によって食い尽されたこと。
pari-bhagna 過受分 → *BHañj.*
paribhagna-karma 形 進路上で阻止された，進行が妨げられた。
pari-bhaya 男 憂慮，懸念，恐怖，心配。
pari-BHarts *paribhartsati*, *paribhartsayati* (使役) → *BHarts.*
pari-bhartsana 中 脅迫。
pari-bhava 男 無礼，傲慢無礼なこと，侮辱，感情を害すること，屈辱を感じしめること；(圓，圓，一°) 側の(圓，圓，一°) に対する無視または軽蔑；**漢訳** 軽蔑，軽蔑，毀譽 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
pari-bhavana 中 謙讓，卑下；**漢訳** 軽心，軽蔑 *Bodh-bh.*, *Sam-r.*
pari-bhavaniya 未受分 侮辱または屈辱を蒙るべき，卑しめられるべき。
paribhava-pada 中 軽蔑の対象。
paribhavāspada (°*va-ās°*) 中 [同上]。
pari-bhavin 形 (圓) を侮辱する，…を蔑視する，…を嘲弄する。
pari-bhāga 男 **漢訳** 方 *Saddh-p.*: *heṣṭā* ~ 下方。 *Saddh-p.* 310.; [pari-bhoga の訛] (*Kar-vy.*)
pari-bhāva 男 無視，軽蔑；**漢訳** 軽 *Saddh-p.*
pari-bhāvana 中 結合，合同；**漢訳** 久修 *Sutr.*
pari-bhāvanā 女 思慮，反省；**漢訳** 修習，熏習

Madhy-vibh.
pari-bhāvita 使役 過受分 囲まれた，含まれた，透徹された；思考された，想像された；**漢訳** 修，勤修，修習，熏習，所熏習，所熏，所熏修，深修；成就；所顯；觀；学；思惟；專心；分付 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
pari-bhāvin 形 蔑視する；(一°) を嘲弄する，…を挫折させる。
pari-bhāvuka 形 (業) を凌駕した。
pari-BHāṣ *paribhāṣate.* → *BHāṣ.*
pari-bhāṣa 男 **漢訳** 責，罵辱，呵罵毀辱 *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.* *ākrośa* ~。
pari-bhāṣaka 形 悪口をいう，ののしる，口悪い；**漢訳** 悪罵，罵詈，呵責 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Saddh-p.*
pari-bhāṣaṇa 中 談話，おしゃべり；非難，譴責；**漢訳** 説，発言 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*；辱，呵，軽弄 *Kāśy.*, *Lal-v.*, 梵千。 → *a* ~。
pari-bhāṣaṇā 女 **漢訳** 罵，賤罵，剋責 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
pari-bhāṣaniya 未受分 非難されるべき。
pari-bhāṣā 女 言葉；譴責，非難，侮辱；一般的規則または金言；(文法の) 規則の適用・解釈を限定する規約(鍵)；**漢訳** 呵，罵詈，罵言，責，角口 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
pari-bhāṣita 過受分 → *BHāṣ.* **漢訳** 説 *Abh-vy.*；悪罵，訶責，凌辱 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*
pari-bhāṣitavat 形 **漢訳** 悪罵 *Śikṣ.*
pari-bhāṣin 形 (一°) を語る。
pari-BHās *paribhāṣate.* → *BHās.*
pari-BHid, → *BHid.*
pari-bhinna 過受分 → *BHid.*
pari-bhukta 過受分 他より先に食べられた；食べられた，享受された；所有された；(衣服として) 着用された (*Divy.*)。 **漢訳** 受，受用，已遍受用；食，食已 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*；統領 *Sam-r.*；残；参詳 *Mvyut.*
pari-bhuktaka 形 **漢訳** 曾着 *Divy.* 287.
pari-bhukta 過受分 **漢訳** 用，受用，飲食 *Śikṣ.*
pari-BHuj *paribhujati* (1); *paribhunakti*, *paribhukte* (2). → *BHuj 1,2.*
pari-BHū *paribhavati*(te-). → *BHū.*
pari-bhū 形 [業 とともに] を囲んだ，…を取り巻く；普及する；優越した，指導する。
pari-bhūta 過受分 → *BHū.* **漢訳** 所軽，軽賤，受軽賤，為人軽賤，為人軽辱，軽毀，遭軽毀 *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.*, 梵雜。 → *a* ~。
paribhūta-gati-traya 形 三度人壽を超えた。
pari-bhūtātā 女 **漢訳** 遭軽毀，得遭軽辱，軽賤尽当，軽賤，受軽苦 *Vajr-pr.*
pari-bhūtavat 形 迫害する。
pari-bhūti 女 優越した勢力 (因)；無礼，侮辱，屈辱を感じしめること [時として 圓]。
pari-BHūṣ *paribhūṣati.* → *BHūṣ 1,2.*
pari-bhūṣaṇa 男 国家の全歳入を譲渡してえた平和 (すなわち *saṃdhi* 講和)。
pari-bheda 男 損害；**漢訳** 損壞，傾敗，変異 *Abh-k.*,

Abh-vy., Śikṣ.

pari-bhedavat 形 有損壞 Abh-k.

pari-bhoktavya 未受分 受, 受用, 応受用, 食
噉 Divy., Śikṣ.: piṇḍa-pātaḥ ~h 受(我)供 Divy.
188.

pari-bhoktr 男 享受者; 他人の厄介になって生活す
るもの, 食客.

pari-bhoga 男 享樂; 性交; 享樂または生活の手段;
受, 用, 受用, 所受用; 食, 取食; 樂; 資, 資
具, 資財, 資用, 財物, 財用; 悉皆用; 身所著; 什
物 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy.,
Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.; 毘
Lal-v. 69.

pari-bhogin 形 用, 受妙欲境 Abh-vy., Bodh-bh.

pari-bhogyā 未受分 資縁受用 Gaṇḍ-vy. 中 使
用 (Divy.).

pari-BHraṃś, → BHraṃś.

pari-bhraṃśa 男 逃走.

pari-bhraṃśana 中 (徃) を喪失すること.

pari-BHrajj, → BHrajj.

pari-BHram paribhramati, paribhrāmyati(-te). →
BHram.

pari-bhrama 男 枝葉の話, 筋違いの話.

pari-bhramaṇa 中 転廻, 回転; あちらこちら動き廻
ること; 周囲.

pari-bhraṣṭa 過受分 → BHraṃś. 失, 損失,
忘失, 所忘失, 減失, 迷失; 減没, 滅; 被分散, 遠
離 Av-s., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.
→ a~.

paribhraṣṭa-sat-karman 形 善業を失なった.

paribhraṣṭa-sukha 形 幸福を失なった, 喜びのない.

pari-BHrāj, → BHrāj.

pari-maṇḍala 中 円周; 球, 球形, 円, 円体,
円壇 Abh-vy., Guhy-s., Mvyut., Vaiś-s., 梵雜.
[Aṭṭhasālinī p. 463 (Siamese Ed.) kukkutaṇḍa-
samthānam ~m]. 形 円形の; 球形の; 円,
円満, 団円, 円満足, 円整, 斎整, 斎整円相, (身)
縦広等 Av-s., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut. ~m
ālopam 円整食, 断食合中 Mvyut.; ~ālopa 円整
食, 搏食可食 Prat-m. VII. 69.; nyagrodharāja ~
(其身)円満如尼拘陀樹 Gaṇḍ-vy. 128. ~m 副
斎整, 周整 Prat-m.

parimaṇḍala-civara-susaṃvṛta 形 斎整衣好正
覆 Mvyut.

pari-maṇḍalatā 女 円形であること.

pari-maṇḍalatva 中 円, 円満 Bodh-bh.

pari-maṇḍalita 過受分 円くされた.

parimantraya 名動 → mantraya.

pari-mantrita 過受分 魔力をかけられた, 神に捧げ
られた, 魅せられた.

pari-manthara 形 非常に緩慢な.

pari-mantharatā 女 遅鈍.

pari-manda 形 非常にもうろうとした(眼). 副
非常にかすかに.

pari-mandatā 女 疲労, 倦怠.

pari-manyu 形 すさまじい, 激怒した.

pari-mara 男 …の周囲で死ぬこと: brahmaṇah ~h

[敵を破滅させる祈禱の名]; daivaḥ ~h 神の死.

pari-marda 男 すり減らすこと, 消耗; (敵の)絶滅.

pari-mardana-saṃvāhana 中 按摩, 揉拭.

Mvyut.

pari-marśa 男 思慮, 沈思.

pari-mala 男 芳香; かんばしい物; 性交.

parimala-ja 形 性交によって生じた(享樂).

parimala-bhrt 形 芳香をもった.

pari-Mā parimimite. → Mā 1.

pari-māṇa 中 測量; 尺度, 円周, 広さ, 大きさ; 重
さ; 期間; 数, 量; 量, 有量, 体 Mvyut.,
Sāṃkhy-k., Vaiś-s. → a~.

pari-māṇaka 中 度, 量.

parimāṇa-grāhin 形 量を知る, (因)の重大性を知
る.

pari-mānatas 副 度量または重量では.

pari-māthin 形 疲労させる, すり減らす.

pari-Mārg parimārgati(-te). → Mārg.

pari-mārga 男 探し廻ること.

pari-mārgaṇa 中 搜索, 探求; 求, 希求, 尋求,
尋覓; 簡 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Sūtr.,
Suv-pr.

pari-mārgitavya 未受分 探求されるべき.

pari-mārjana 中 ぬぐい去ること, 浄めること; 除
去; 掃捧 Mvyut.

pari-mārjita 使役 過受分 → Mrj. 摩 Saddh-
p.: tathāgata-pāṇi ~mūrdhan 為諸如来手摩其頭,
如来至真手摩其頭 Saddh-p. 478.

pari-mita 過受分 → Mā 1. 度, (其量)狭小
Gaṇḍ-vy., Saddh-p. → a~.

parimita-katha 形 慎重な言葉の, 言葉のすくない.

pari-mitatva 中 有限性.

parimitābharāṇa (°ta-ābh°) 形 程よく飾られた.

parimitāyus (°ta-āy°) 形 短命の.

parimitāhāra (°ta-āh°) 形 儉約して食をとる, 飲食
に節制のある.

pari-miti 中 度, 量.

pari-mitimāt 形 限定された.

pari-Mil, → Mil.

pari-milana 中 接触.

pari-milita 過受分 → Mil.

pari-misra 形 混合 Lal-v.

pari-Mih, → Mih.

pari-miḍha 過受分 → Mih.

pari-mukta 過受分 → Muc. 離; 免; 愈; 出,
得出; 得解脱 Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p.: ~s
trṣṇayā 離諸愛, 出諸愛欲 Mvyut. → a~.

parimukta-bandhana 形 束縛から免れた, 束縛され
ない.

pari-mugdhatā 女 愚かさ; 愛らしさ.

pari-Muc parimuñcati. → Muc.

pari-Muṣ parimuṣṇāti, parimuṣāti. → Muṣ.

pari-Muh parimuhyaati(-te). → Muh.

pari-mūḍha 過受分 → Muh.

pari-mūḍhatā 女 混乱.

pari-Mr, → Mr 1.
 pari-Mrj parimrjati, parimārjati, parimārṣṭi, parimārjayati. → Mrj.
 pari-mrjita 過受分 → Mrj.
 pari-Mṛd parimrḍnāti, parimardati. → Mṛd.
 pari-mṛdita 過受分 → Mṛd.
 pari-Mrś parimrṣṭi(-te). → Mrś.
 pari-mrṣṭa 過受分 → Mrj.
 parimrṣṭa-paricchada 形 小ざれいな, きちんとした, 整然とした.
 pari-meya 未受分 測定しうる; 数に限りのある.
 pari-mokṣa 男 (從, 圖, 一°) からの解放; 剝奪.
 pari-mokṣaṇa 中 解放; (圖) からの解放.
 parimokṣaya 名動 他 parimokṣayati. → mokṣaya.
 pari-mocana 中 漢語 解, 解脱, 度, 離 *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 parimocana-hetu 男 漢語 為度 *Saddh-p.*
 pari-mocanā 女 漢語 度脱 *Guhy-s.*
 pari-mocayita 使役 過受分 漢語 得除差, 悉得蠲除 *Suv-pr.* nānā-rogebhyaḥ ~ āni 種種所患部得除差, 所有病苦悉得蠲除 *Suv-pr.* 166.
 pari-mocayitavya 未受分 漢語 所脱, 最脱, 最解 *Mvyut.*
 pari-mocayitu-kāma 形 漢語 欲拔 *Aṣṭ-pr.*
 pari-mocita 過受分 解放された, 釈放された (*Vajr-pr.*); 漢語 度脱 *Vajr-pr.*
 pari-moṣa 男 窃盜, 強奪.
 pari-moṣaka 形 盜む; 漢語 奪 *Āṣṭr.*
 pari-moṣaṇa 中 取り去ること.
 pari-moṣin 形 =pari-moṣaka.
 pari-mohana 中 迷わせること, 惑溺させること.
 pari-mohita 使役 過受分 → Muh.
 pari-mohin 形 混乱した, 困惑した.
 pari-mrakṣaṇa 中 漢語 途 *Lal-v.*
 pari-Mlā parimlāyate. → Mlā.
 pari-mlāna 過受分 → Mlā.
 pari-Yaj pariyajati. → Yaj.
 pari-Yat pariyatate. → Yat.
 pari-Yā pariyāti. → Yā.
 pari-Rakṣ parirakṣati(-te). → Rakṣ.
 pari-rakṣaṇa 中 保護; 維持; 保存; 秘密を守ること; 漢語 護, 將護 *Lal-v.*, *Śikṣ.*
 pari-rakṣaṇīya 未受分 防護されるべき, 保存されるべき.
 pari-rakṣat 現分 漢語 護惜 *Saddh-p.*
 pari-rakṣā 女 保護; 保存.
 pari-rakṣita 過受分 → Rakṣ. 漢語 護, 守護, 護持, 持 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*
 pari-rakṣitavya 未受分 守られるべき, 秘密にされるべき.
 pari-rakṣitr 男 守護者; 保護者.
 pari-rakṣin 形 守護する, 保護する.
 pari-rathya 中 [車のある部分の名].
 pari-rathyā 女 [同上]; 車道, 道.
 pari-Radh. → Radh.
 pari-randhita 使役 過受分 → Radh.

pari-Rabh parirabhate. → Rabh.
 pari-rambha 男 抱擁.
 pari-rambhaṇa 中 抱擁すること, 抱擁.
 pari-rambhin 形 抱擁する; (一°) で体を締められた.
 pari-ruddha 過受分 → Rudh 3.
 pari-Rudh. → Rudh 3.
 pari-rodha 男 阻止, 抵抗.
 pari-Lag. → Lag.
 pari-lagna 過受分 → Lag.
 pari-laghu 形 非常に軽いまたは小さな; 非常に微細なまたは薄い; 消化しやすい; 些細な, 無意味な.
 pari-laghutā 女 非常に微細なことまたは薄いこと.
 pari-Laṅgh parilaṅghayati. → Laṅgh.
 pari-laṅghana 中 あちらこちらへ跳ぶこと.
 pari-Lamb parilambate. → Lamb.
 pari-lamba 男 遅滞, 遅延.
 pari-lambana 中 躊躇すること, 遅延すること.
 pari-lambya 不変分 =pari-rabhya 抱擁して.
 pari-lasat 現分 四方に輝きつつ.
 pari-Likh parilikhati. → Likh.
 pari-Lih parileḍhi. → Lih.
 pari-Luṭh pariluṭhati. → Luṭh 1.
 pari-Luḍ parilodayati (使役). → Luḍ.
 pari-Lup parilumpati. → Lup.
 pari-Lubh parilobhati. → Lubh.
 pari-'lekha 男 輪廓, 素描.
 pari-lopa 男 無視, 省略.
 pari-lolita 使役 過受分 → Lul.
 pari-Vaṅc parivaṅcati. → Vaṅc.
 pari-vaṅcana 中 漢語 行欺誑 *Mvyut.*
 pari-vaṅcayitr 男 漢語 矯, 偏[諷?] *Bodh-bh.*: na ~ ā bhavati (平等)無矯, (平等)無偏[諷?] *Bodh-bh.* 256.
 pari-vaṅcita 使役 過受分 → Vaṅc. 漢語 欺 *Saddh-p.*
 pari-vatsaka 男 息子.
 pari-vatsara 男 満一年.
 pari-vatsariṇa 形 満一年に関する.
 pari-Vad parivadati. → Vad.
 pari-Vap parivaptai. → Vap 1.
 -pari-varjaka 形 (一°)を避ける, ...を逃れる, ...を放棄する; 漢語 捨離 *Raṣṭr.*
 pari-varjana 中 (圖, 一°)の忌避, ...からの回避; 漢語 離, 遠離, 捨, 捨離; 除; 避; 棄損 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*
 pari-varjanatā 女 漢語 遠離, 捨離 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-v.*
 pari-varjaniya 未受分 避けられるべき; 漢語 遠離, 棄捨 *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 pari-varjayitavya 使役 未受分 漢語 当遠離, 応遠離, 应当遠離 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Śikṣ.*
 pari-varjita 使役 過受分 → Vri. 漢語 離, 遠離, 棄, 所棄 *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*
 pari-varjitavya 未受分 漢語 当遠離, 当除 *Kāśy.*
 pari-varjya 未受分 漢語 当遠離, 当遠離去, 宜速遠離 *Lank.*

pari-varta 男 回轉, (星の)運行; 一期間の終末[とくに yuga (周期)の終末]; 最後; 交換, 物々交換; 変化; あちらこちらに動き廻ること, 急ぐこと, 騒ぎ廻ること; 住所, 場所; 終りに導くこと; (書物の)章; 廻, 施, 施流; 轉 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Mvyut., Saddh-p., Sūtr.,* 梵千.; 易 梵千.; 起, 發起 *Gand-vy.*; 品, 品目 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr.,* 梵千.; koṭi-nayuta-śa-ta-sahasra ~ ā dhāraṇī 百千万億(無量)施陀羅尼 *Saddh-p.* 327.

pari-vartaka 形 潰走させる; 回轉または逆流させる; 轉, 轉依, 廻轉 *Abh-vy., Madhy-v., Sūtr.;* 貿易 *Prāt-m.*

pari-vartana 形 (女 -i) 回轉させる. 回 回轉; (一°)の上を回轉することまたは旋回すること; 循環; 周期的経過; 一周期の最後; 交換, 物々交換; 変化; 轉, 廻, 廻轉, 運行 *Abh-vy., Divy., Gand-vy., Mvyut.* → āvartana ~.

pari-vartaniya 未受分 (具)と交換されるべき.

pari-vartin 形 回轉する, 循環する; 曲りくねる; 旋回する, 無窮の周期を経る, 常に更新する; (一°)に変わる, …と交換される; (因, -tas, 一°)にまたはのそばにとどまるまたは存する; 出 *Lal-v.*

pari-vartula 形 全く円い.

pari-varḍhaka 男 馬丁.

pari-varḍhana 回 増大, 増殖.

pari-varḍhitaka 形 養育された.

pari-valana 回 取り巻くこと, 取り巻くもの.

pari-Vas parivasati (3), parivāsayati (5). → Vas 3,5.

pari-vastrā 女 帳, 幕.

pari-Vah parivahati. → Vah.

pari-vaha 男 [七風の一]; [火の七舌の一]

pari-vāda 男 (屬, 因, 一°)の悪口, …の非難; 毀謗 *Śikṣ.*

parivāda-kathā 女 [同上].

parivāda-kara 男 誹謗者.

pari-vādin 形 中傷する, 非難する.

pari-vādinī 女 七絃の琵琶(の一種).

pari-vāpa 男 炒つた米; 場所.

pari-vāra 男 (車の)覆い; 侍者, 隨行者, 従者; 鞘; 眷属, 伴, 伴類, 隨行, 伴党, 助伴, 侍人, 所將衆, 奴僕, 吏民, 僮僕; 圍繞, 圍遶 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gand-vy., Guhy-s., Lal-v., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.,* 梵雜. 一° 形 に取り巻かれた; 眷属圍遶 *Divy.:* pañca-śata ~ ā 与五百眷属圍遶 *Divy.* 443.

pari-vāraṇa 回 覆い; 従者, 部下, 隨行; 防ぐこと; 守護 *Gand-vy.* 形 (一°)によって覆われたすなわちただ…のみからなる.

pari-vāratā 女 従者である状態.

pari-vāravat 形 数多い従者をもつ.

parivāra-śobhin 形 隨行者によって美しくされた.

parivāra-saṃpanna 形 眷属具足, 眷属隆盛 *Śikṣ.*

pari-vārita 使役 過受分 → Vr 1. 取り巻かれた; 圍遶, 周匝, 党, 為眷属 *Lal-v., Raṣṭr., Saddh-p., Sūtr.*

parivāri-Kṛ, (屬)を従者とする.

pari-vāsa 1. 男 [Vas 3.] 逗留; 背律者を僧団から追放すること 弘教; 別住, 別宿, 呵斥 *Mvyut., Prāt-m.;* 波利婆沙, 波利婁沙, 婆利婁沙 *Mvyut., Prāt-m.* → paryuṣita ~.

pari-vāsa 2. 男 [Vās] 芳香.

pari-vāsita 過受分 妙熏, 薰習, 遍被 *Lal-v., Mvyut.*

pari-vāha 洪水; (放水路で溢れる水を)誘導すること.

pari-vāhin 形 (女 -ṇī) (一°)とともにあふれ流れる.

pari-vimśat 女 満二十, 最小限二十.

pari-vikrayin 形 (屬)を売る.

pari-vikṣata 過受分 ひどく負傷した.

pari-vijñāpanin 形 → ājñā ~.

pari-vitarka 男 [*Pali* parivitakka] 反省, 靜思; 思想, 思考; 思惟, 念, 所念, 所思念, 默念 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Sam-r., Suv-pr.:* evaṃ-rūpaś cetasaḥ ~ utpannaḥ 起如是念, 作是思惟 *Suv-pr.* 178. → cetaḥ ~.

pari-vitti 男 既婚の弟をもった未婚の兄.

pari-vittitā 女 弟が先に結婚するのを許すこと.

pari-vittitva 回 [同上].

pari-Vid parivindati (2). → Vid 1,2.

pari-viddha 過受分 [Vyadh] 鑽穿 *Das-bh.*

pari-vinna 過受分 [=pari-vitti].

pari-vivadiṣu 希求 形 非難したいと思う.

pari-vi-Vas, → Vas 1.

pari-vi-Śram, → Śram.

pari-viśrānta 過受分 → Śram.

pari-viśvasta 形 安心した, 確信した.

pari-Viṣ pariviṣati. → Viṣ.

pari-viṣṭa 過受分 囲まれた, 取り巻かれた, 攻め囲まれた; 暈に囲まれた(太陽または月); 飾られた, 提供された, 差し出された(食物等); 經 梵雜.

pari-viṣṭi 女 奉仕, 隨侍.

pari-vihāra 男 歩き廻ること, 散策, 遊歩.

pari-vihvala 形 非常に動揺したまたは当惑した.

pari-Vij parivijate. → Vij.

pari-vita 過受分 → Vyā.

pari-Vṛ parivarati(-te) (1), parivṛnite (2). → Vṛ 1,2.

pari-vṛṃhita 使役 過受分 → Barh 2.

pari-Vṛj parivṛnakti. → Vṛj.

pari-vṛḍha 過受分 =pari-bṛḍha. → Barh 2. 男 主, 主長.

pari-Vṛt parivartate. → Vṛt.

pari-vṛta 過受分 → Vṛ 1. …に取り囲まれた; 圍繞, 圍遶, 前後圍繞, 圍遶周匝, 周匝圍遶; 周遍; 所隨從 *Aṣṭ-pr., Divy., Gand-vy., Lal-v., Lank., Raṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy., Suv-pr.*

pari-vṛtta 過受分 → Vṛt. 轉, 輪廻, 展轉, 經, 易 *Abh-vy., Lal-v., Lank.* 回 輪轉, 廻轉, あちらこちらに動き廻ること.

parivṛtta-janman 形 轉身, 轉受余生, 易生
Abh-vy., Bodh-bh.
parivṛtta-jāti 女 轉受余生 Bodh-bh.
parivṛtta-tejas 形 周囲に光輝を放つ。
parivṛtta-netra 形 眼をくるくる動かす。
parivṛtta-bhāgya 形 運命が変転する。
parivṛttārdha-mukha 形 顔を半ば向き変えた。
pari-vṛtti 女 交換, 物々交換; 轉, 改転, 轉減
Abh-vy., Madhy-vibh. Sūtr. ~tyā 圓 交互に。
pari-vṛddha 過受分 → Vṛdh.
pari-vṛddhi 女 増加。
pari-Vṛdh parivardhate. → Vṛdh.
pari-veṭṭr 男 兄より先に結婚する弟。
pari-veda 男 完全な認識。
pari-vedaka 男 =pari-veṭṭr.
pari-vedana 1. 男 完全に認識すること。
pari-vedana 2. 男 兄より先に結婚すること; =pari-
veda.
pari-vepin 形 震える。
pari-veśa 男 =pari-veśa; 量 Mvyut.
pari-veśas 男 隣人。
pari-veśa 男 暈輪; 球, 輪; 包むこと。
pariveśaka 男 給仕, 給仕する人; 行食之者
Divy.
pari-veśaṇa 男 奉仕, 食物を給仕すること; 円周;
(日月の)量; 行食 Divy.
pari-veśavat 形 量に囲まれた(日月等)。
pari-vešin 形 [同上]。
pari-Veṣṭ pariveṣṭayati(使役). → Veṣṭ.
pari-veṣṭa 男 (?) 禁 梵千。
pari-veṣṭana 男 覆い; 縋帯; 纏 纏, 圍繞 Bodh-
bh.
pari-veṣṭavya 未受分 給仕されるべき(食物)。
pari-veṣṭita 過受分 取り巻かれた, 包囲された, 囲
まれた; 巻きつけた; 被, 被著, 著; 纏, 所
纏 Buddh-c., Kāśy., Lank.
pari-veṣṭitr 形 囲むまたは包む(人)。
pari-veṣṭr 男 給仕する者。
pari-vyakta 過受分 非常に明瞭なまたは明白な; 明
分明 Ast-pr.
pari-vyaya 男 調味料; 費用 (Jāt-m.); 諸辛,
所須飲食之具 Divy., Mvyut.
parivyaya-nimittam 副 求索所須飲食之具
Divy.
pari-Vyā parivyayati(-te). → Vyā.
pari-vyākuli 副 [Kṛ とともに] 全く困惑させる (Jāt-
m.).
pari-vyādha 男 [古聖仙の名]。
pari-vy-ā-Vṛj, → Vṛj.
pari-Vraj parivrajati. → Vraj.
pari-vrajya 形 非人 (眞) は他処に行くべきである。
pari-vrajyā 女 ぶらつくこと, 諸所を逍遙すること
または徘徊すること; とくに宗教的乞食生活。
pari-vrāj 男 [困-t] 遊行する苦行者, 宗教上の托鉢
者, 行脚僧。
pari-vrājaka 男 遊行者 [宗教生活の第四期のすなわち

最後の段階にある者]; 普行, 出家外道, 梵志
Ast-pr., Gand-vy., Mvyut; 音写 波立婆, 波離婆
闍迦, 般利伐羅多(勾?)迦 Abh-vy., Divy.
pari-vrājikā 女 [同上]。
pari-Śaṅk pariśaṅkate. → Śaṅk.
pari-śaṅkaniya 未受分 疑われるべき。男 非人 疑念
が示されるべきである。
pari-śaṅkā 女 疑惑; 不信用, 猜疑 (Jāt-m.); 希望,
期待。
pari-śaṅkita 過受分 → Śaṅk. 疑 Bodh-bh.
pariśaṅkita-hṛdaya 形 懷危懼 Av-s.
-pari-śaṅkin 形 …を恐れる, …のために恐れる。
pari-śaṅkta 形 疑 Bodh-bh.
pari-śanna 過受分 → Śad 2.
pari-śabdita 過受分 述べられた, 伝えられた。
pari-Śam, → Śam 2.
pari-śamita 使役 過受分 鎮められた, 抑制された,
減ぼされた。
pari-śāśvata 形 永久に続く。
pari-śiṅjita 過受分 いたる所に向って鳴り響かせられ
た。
pari-śīthila 形 非常に秩序のないまたは弛緩した
(Jāt-m.).
pariśīthilaya, → śīthilaya.
pari-śīthilita 過受分 → śīthilaya.
pari-Śiṣ pariśiṅaṣṭi. → Śiṣ. 1.
pari-śiṣṭa 過受分 → Śiṣ 1. 余, 所余, 其余
Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Sūtr.; 勝, 最勝 Bodh-
bh. 男 付録, 追加; 其所余 Bodh-bh.
pari-śiṣyamāna 現分 → Śiṣ 1.
pari-Śī pariśete. → Śī 2.
pari-śirṇa 過受分 崩壊 Av-s.
pari-śilana 男 たびたびの接触, 交際; 研究。
pariśilaya 名動 他 pariśilayati. → śilaya.
pari-śilita 過受分 用いられた, 研究された。
pari-śuddha 過受分 → Śudh. 清, 清浄, 皆浄,
悉清, 清白, 快浄, 善清浄, 純清浄; 極善清浄, 最
為清浄, 遍清浄已 Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v.,
Mvyut., Prāt-m., Rāṣṭr., Saddh-p.
pari-śuddhaka 形 清浄 Sam-r.
pariśuddha-kṣetra 男 国土清浄 Saddh-p.
pari-śuddhatara 比較 分明, 最明了 Abh-vy.
pari-śuddhataratā 女 勝浄法 Bodh-bh.
pariśuddha-buddha-kṣetra 男 (音写) 浄仏国
土, 嚴浄仏刹 Śiṣ.
pariśuddhaya 名動 他 pariśuddhayati 轉浄明
Daś-bh.
pariśuddha-śīla 形 持浄戒者; (音写) 清浄尸羅
Ast-pr. 男 清浄戒 Sam-r.
pari-śuddhi 女 完全な浄化 [また 醫喻]; 免罪, 無罪
放免; 正しいこと, 正確 (Kār-vy.); 浄, 清浄,
円浄, 嚴浄; 除惡 Abh-vy., Gand-vy., Lal-v.,
Mvyut., Rāṣṭr., Śiṣ., Sūtr.; 氣消息, 氣消融 Mvyut.
pariśuddhiṃ-Kṛ, 人の潔白を証明する。
pari-Śudh pariśudhyati(-te). → Śudh.
pari-sūsrūṣā 女 絶対的な従順。

pari-Śuṣ pariśuṣyati(-te). → Śuṣ.
 pari-śuṣka 形 完全に乾いたまたは乾き切った; 漢訳 竭, 枯竭, 乾枯, 乾燥, 枯燥, 枯乾竭 Lal-v., Rāstr., Saddh-p., Suv-pr.
 pari-śūnya 形 全く空虚な; 全く(一°)を離れた.
 pari-śeṣa 形 余りの, 取り残された. 男 中 残余; 追補; 漢訳 余 Abh-vy., Daś-bh., Sāṃkhy-k., Śikṣ. → a~. ~eṇa 男 完全に. ~āt 男 その結果, それ故に.
 pari-śeṣaṇa 中 残余.
 pari-śeṣita 使役 過受分 (一°)の残りの, …から余った.
 pari-śodhaka 形 漢訳 浄, 浄治, 清浄, 浄除; 消除; 修治; 磨磨 Bodh-bh., Daś-bh., Mvyut.: karma~ 浄除業 Bodh-bh. 202.
 pari-śodhana 中 浄化; 支払い; 漢訳 浄, 浄治, 治浄, 円浄, 清浄, 嚴浄; 修治, 遍修治; 掃滌 Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.
 pari-śodhanatā 女 漢訳 浄修治 Bodh-bh.
 pari-śodhita 使役 過受分 漢訳 浄, 清浄, 潔 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
 pari-śobhita-kāyā 女 [ある Apsaras または Gandharva の少女の名] (Kār-vy.).
 pari-śoṣa 男 乾燥. ~ṃ Gam 乾く, 縮まる, やせる.
 pari-śoṣaṇa 形 (一°)を乾かす. 中 乾燥; やせること; 力・液汁を奪い取ること.
 pari-śoṣaṇatā 女 枯渴.
 pari-śoṣin 形 乾く, やせる; しなびる.
 pari-Śram, → Śram.
 pari-śrama 男 疲労, 衰弱; 消耗; 尽力; (一°)の不断的の研究; 漢訳 疲, 疲倦, 劬勞 Bodh-bh., Bodh-c.
 pariśrama-ja 形 漢訳 疲所生, 因疲極生, 諸劬勞所生 Bodh-bh.
 pari-śraya 男 避難所.
 pari-śrānta 過受分 → Śram. 極度に疲れ切った; 漢訳 疲極, 疲乏, 形枯乾 Bodh-bh., Buddh-c.
 pari-śrāma 男 (…のために受ける)大なる労苦.
 pari-Śri pariśrayati. → Śri.
 pari-śrit 女 (囲むもの), [火壇の煉瓦を支える小石].
 pari-śrita 過受分 → Śri. 中 祭式のための小屋.
 pari-śru pariśṛnoti. → Śru. 1.
 pari-śruta 過受分 → Śru. 1.
 pari-ślatha 形 全く弛緩した.
 pari-śaṇḍa 男 漢訳 層, 層級, 階梯 Abh-vy., Mvyut.
 pariśaṇḍa-vārika 男 漢訳 管階梯, 管次第者 Mvyut.
 pari-śaṇḍā 女 = pari-śaṇḍa 男 (Divy.); 漢訳 sumeru ~yām 須弥山下 Av-ś II. 127.
 pariśat-kāmatā 女 漢訳 樂処衆会 Śikṣ.
 pari-śattva 中 合法的集会.
 pari-śad pariśadati, pariśidati, parisidati. → Sad.
 pari-śad 形 取り囲む, 取り巻く. 女 集会; 聴衆; 会議; 漢訳 衆, 大衆, 衆会, 諸大衆, 諸衆生, 一切衆, 徒衆, 眷属 Bodh-bh., Lank., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵雜.
 pariśan-maṇḍala 男 中 漢訳 大衆 Sūtr.

pari-śikta 過受分 → Sic. 漢訳 灑, 遍灑, 徧灑 Divy.
 pari-Śic pariśiñcati. → Sic.
 pari-śiñcana 中 漢訳 塗 Lal-v.
 pari-śeka 男 散水, 水を浴びせること, シャワー(灌水浴); 水さし等のような灌水器具, 如露等; 漢訳 灑, 瀝水 Abh-vy., Divy.
 pari-śecana 中 注ぐこと; 木にかける水.
 pari-Śev pariśevate. → Sev.
 pari-śoḍaśa 形 漢訳 満十六の.
 pari-śkanda 男 召使とくに馬車のそばを走る者; 寺院.
 pari-śkāra 男 裝飾物; 裝飾; 家具 (Saddh-p.); 浄化, 入門させること (Saddh-p); 自己修業(Lal-v.); 漢訳 具, 資具, 衆具, 資生, 資生具; 資助, 資糧, 資財, 財, 財宝, 財物, 物, 用物, 受用之物, 資身什物, 供身什物, 資身之物; 莊嚴具; 器皿 Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut.
 pariśkāra-civara 中 漢訳 資具衣, 合用衣, 包裹 Mvyut.
 pari-śkāratā 女 漢訳 資生具, 衆具, 已有物 Bodh-bh.
 pariśkāra-vaśitā 女 漢訳 受用降伏, 衆具自在, 財自在, 主万物 Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.
 pariśkāropakarāṇa (°ra-up°) 中 漢訳 資具 Aṣṭ-pr.
 pari-ś-Kṛ pariśkr̥noti. → Kṛ.
 pari-ś-kṛta 過受分 [Kṛ] 美しくされた, 飾られた, 立派に仕上げられた.
 pari-ś-kriyā 女 裝飾; (一°)(聖火)の世話をすること.
 pari-śṭi 女 妨害; 心痛.
 pari-Śtu pariśtauti. → Stu 1.
 pari-śtuti 女 称讃.
 pari-Śthā paritiśṭhati(-te). → Sthā.
 pari-śṭhita 過受分 → Sthā.
 pari-Śyad pariśyandayati (使役). → Syad.
 pari-śyanda 男 流れ, 河; (言葉の)流暢; 漢訳 潮, 湿, 漏潤 Mvyut.
 pari-śyandayitavya 未受分 漢訳 応潤沢 Gaṇḍ-vy.: svacittam eva ~ṃ dharma-meghaiḥ 応以法水潤沢自心, 応以法雨潤沢自心, 雨甘露法潤沢其心 Gaṇḍ-vy. 83.
 pari-śyandita 過受分 漢訳 滋潤 Aṣṭ-pr.
 pari-śyandin 形 流れる, 注ぐ; 漢訳 溉灌, 滋潤 Daś-bh.
 pari-śvakta 過受分 → Svaj. 漢訳 抱 Lank.
 pari-śvaṅga 男 抱擁; (一°)との接触.
 pari-Śvaj pariśvajate(-ti). → Svaj.
 pari-śvajana 中 抱くこと, 抱擁; 漢訳 抱 Mvyut.
 pari-śvaja-mātra 形 漢訳 微触, 唯抱 Mvyut.
 pari-samvatsara 男 満一年. 形 満一歳の, 満一年を待つ.
 pari-samvṛta 過受分 漢訳 周匝圍繞 Saddh-p.
 pari-samśuddha 過受分 完全に清潔なまたは清らかな.
 pari-samsr̥ṣṭa 過受分 いたるる所から追いつかれた, 取り囲まれた.
 pari-samstirya 不変分 [Str] 諸所に点火して.
 pari-samstuta 過受分 漢訳 所讃, 所称歎 Saddh-p.

pari-saṃ-Sthā, → Sthā.
 pari-saṃsthāpana 形 任持, 令入 *Gaṇḍ-vy.*
 pari-saṃsthita 過受分 周囲と一緒に立った。
 pari-saṃ-Hā, → Hā 1.
 pari-saṃhr̥ṣṭa 過受分 非常に喜んだ。
 pari-sakhya 中 真実の友情。
 pari-saṃ-KHyā parisamkhyāti. → KHyā.
 pari-saṃkhyā 女 総計または総勘定; 総数, 全額, 合計, 数; (明白に記さなかったものを除いた) 遺漏のない計上または列挙。
 pari-saṃkhyāna 中 総勘定, 総数; 余す所のない計算; 正しい調査または評価; 数, 決判, 説 *Abh-vy.*
 pari-saṃghuṣṭa 過受分 四方に反響した。
 pari-saṃdarśana 中 示現 *Lal-v.*
 pari-samanta 形 近繞 *Mvyut.*
 pari-sam-Āp, → Āp.
 pari-samāpta 過受分 → Āp. 具足 *Lank.*
 pari-samāpti 女 結末, 完成, 終末; (因 または prati+副) に広がること; 成, 究竟, 畢竟 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 pari-samutsuka 形 非常に心配した, 非常に不安なまたは動揺したまたはとり乱した。
 pari-sam-Ūh parisamūhati. → Ūh 1.
 pari-samūhana 中 掃き集めること, 堆積させること。
 pari-sara 形 近接した; (一) に境する。男 近隣, 近接; 地域。
 pari-saraṇa 中 走り廻ること, 動き廻ること。
 parisara-viṣaya 男 近所, 付近。
 pari-sarpaṇa 中 這い廻ること; 歩き廻ること; あちこちらに走り廻ること, 絶えず場所を変えること。
 pari-sarpin 形 動き廻る。
 pari-Sādh parisādhayati (使役). → Sādh.
 pari-sādhana 中 成就; 確定; (負債の) 清算, 強制取り立て。
 pari-sāntvana 中 慰藉; 甘言。
 parisāntvaya 名動 parisāntvayati(-te). → sāntvaya.
 pari-sāmanta 男 辺, 周匝方隅 *Aṣṭ-pr.*
 pari-sāmantaka 形 周囲, 周匝 *Aṣṭ-pr., Mvyut.:* ardhā-yojana ~ 周囲半由旬 *Mvyut.*
 pari-sāraka 中 [*Sarasvatī* 河に沿った地方の名]。
 pari-Sṛ parisarati. → Sṛ.
 pari-sṛta 過受分 → Sṛ.
 pari-Sṛp parisarpati(-te). → Sṛp.
 pari-sevaka 形 親近, 勤事 *Rāṣṭr.*
 pari-skanda 男 = pari-ṣkanda.
 pari-skanna 過受分 漏らされた(精液)。男 召使 [または pari-skanda の誤写]。
 pari-s-kāra 男 [= pari-ṣ-kāra] 衣服 *Lal-v.* 429.
 pari-Skhal pariskhalati. → Skhal.
 pari-skhalita (過受分) 中 よろめくこと。
 pari-stara 男 (祭場の) 敷き草; 覆い。
 pari-starana 中 同上; 撒き散らすこと。
 pari-staraniḥ 女 葬送儀礼において屠られる牝牛 [その四肢で死者の四肢を覆う]。

pari-stirṇa 過受分 → Str.
 pari-Str paristrṇoti, paristrṇute, paristrṇāti, paristrṇite. → Str.
 pari-strta 過受分 → Str.
 pari-stoma 男 覆い, しとね。
 pari-Snā parisnāti. → Snā.
 pari-spanda 男 運動; 動, 動転, 業 *Bodh-bh.*
 pari-spandita (過受分) 中 震えること; 燃え上ること; 顕現。
 pari-spardhin 形 (一) と競争する。
 pari-Sphar parispharayati. → Sphar.
 pari-sphuṭa 形 全く明白な; 充滿した, 遍滿した (*Lal-v., Mah-v.*); 明了; 遍, 遍滿, 徧滿, 周遍, 遍照, 円滿, 充滿, 普徧, 普覆, 弥覆; 嚴飾 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.*; avabhāsenā ~ o 'bhūt 遍照, 遍曜 *Lal-v. 51.* ~ m 副 全く明白に。
 pari-sphur parisphurati. → Sphur.
 pari-sphurana 中 放射, 閃くこと; 発射すること 発芽すること。
 pari-sphurita 過受分 → Sphur.
 pari-syanda 男 流水, 流れ (譬喩); 流蕩 *Śikṣ.*
 pari-srava 男 流水, 流出; 汜濫; 河; (子供の) 誕生。
 pari-sraṣṭṛ 形 …と接触するまたは結合する。
 pari-srāva-kalpa 男 濾羅淨, 水濾可 *Mvyut.*
 pari-srāvaṇa 中 水濾 *Mvyut.*
 pari-Sru parisravati. → Sru.
 pari-srut 形 溢れ流れる, 泡立つ。因 [酒の一種]。
 pari-sruta 過受分 → Sru.
 pari-hata 過受分 → Han.
 pari-hati 因 衝突。
 pari-Han parihanti. → Han.
 pari-hara 男 隱蔽。
 pari-haraṇa 中 避けること; 避 *Sūtr.*
 pari-haraṇiya 未受分 避けられるべき, 遠ざけられるべき。
 pari-haraṇiyatā 因 回避。
 pari-hartavya 未受分 人手に渡されるべき, 引渡すべき; 避けられるべき, 遠ざけられるべき, 除去されるべき; 隠されるべき, 秘密にされるべき; 反駁されるべき; 滅 *Śikṣ.*
 pari-harṣaṇa 形 (因-i) 非常に喜ばせる。
 pari-harṣita 過受分 非常に喜んだ。
 pari-harṣin 形 = pari-harṣaṇa.
 pari-Has parihāsati. → Has.
 pari-Hā parijahāti. → Hā 2.
 pari-hāṭaka 形 純金の。中 錫子 *Mvyut.*
 pari-hāna 中 減, 減損, 退減, 退, 退失, 退隨, 失; 壞失, 壞, 破壞 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Kāśy., Saddh-p., Śikṣ.* → a ~。
 pari-hāṇi 女 減少, 喪失, 不足; 退, 退轉, 退失, 退隨; 失; 減; 減, 已減; 皆衰; 損; 廢 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Divy., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t.* → a ~。
 pari-hāṇitas 副 由有退故 *Bodh-bh.:* ~ BHū 有退 *Bodh-bh. 321.*

pari-hāṇiya 未受分 退, 応退 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

pari-hāṇi 因 = *pari-hāṇi*.

pari-hāṇiya 未受分 廃されるべき.

pari-hāra 男 回避; (人を)見捨てること, 遺棄; (一°)から逃れること; 隠蔽; 反駁; 不適當な行作の償い(戯曲); 賦課金の免除, 特権, 免役; (村落または町の)周囲にある共有の牧草地; 注意, 見張り, 守護; 除, 銷除, 離, 遠離; 遮, 遮止; 捨; 令不生; 避 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Guhy-s.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 積, 通積, 積難; 救, 救義; 通, 答, 回 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*: *codya* ~ 積難 *Madhy-vibh.* 230. ~ m 總動き廻って.

pari-hāraka 中 漢訳 罎子 *Mvyut.*

-pari-hārin 形 ...を回避する.

pari-hārya 未受分 避けられるべき, 放置されるべき; 分離されるべき; (圓)から免除されるべき; 漢訳 応救 *Abh-vy.*; 思, 思審 *Daś-bh.*

pari-hāsa 男 冗談, ひやかし, ふざけ; 嘲笑, あざけり; 漢訳 戲, 戲笑, 談話 *Bodh-bh.*, 梵雜.

parihāsa-pura 中 [都城の名].

parihāsa-vastu 中 お笑い草.

parihāsa-vastutā 因 [同上 總].

parihāsa-śīla 形 冗談を好む; あざけることを好む.

parihāsa-śīlatā 因 [同上 總].

parihāsa-hari 男 [*Viṣṇu* 神の殿堂の名].

pari-Hi parihinoti. → *Hi*.

pari-Hiṇḍ parihinḍate. → *Hiṇḍ*.

pari-hiṇa 過受分 → *Hā* 2. 漢訳 退, 已退, 已退失, 退墮; 微劣, 羸弱, 狭劣, 賈 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

parihīṇa-dhana 形 漢訳 賈財 *Śikṣ.*

parihīṇa-prajña 形 漢訳 狭劣智慧 *Śikṣ.*

pari-hīna 過受分 [= *pari-hiṇa*] (徒)の欠けた; 漢訳 退; 失; 断, 遠離 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*

pari-hiyamāṇa 現分 漢訳 退転 *Bodh-bh.* → a ~.

pari-Hṛ pariharati(-te). → *Hṛ* 1.

pari-hṛta 過受分 → *Hṛ* 1. 漢訳 答 *Madhy-v.*

pari-hṛti 因 回避.

pari-hṛtya 未受分 引き渡されるべき, 任せられるべき.

pari-hṛṣita 過受分 非常に喜んだ.

pari-hṛṣta 過受分 [同上].

parihṛṣta-mānasa 形 [同上].

pari(parī-I) paryeti. → *I*.

parikṣ (pari-Īkṣ) parikṣate. → *Īkṣ*.

parikṣaka (°ri-ik°) 男 (ある事を)試験する者 または知る者; 漢訳 別 *Sūtr.* → a ~.

parikṣaṇa (°ri-ik°) 中 審査, 調査, 試験.

parikṣaṇā (°ri-ik°) 因 (まれに) [同上].

parikṣaṇiya (°ri-ik°) 未受分 調査されるべき.

parikṣā (°ri-ik°) 因 検査, 試験, 試練, テスト; 漢訳 観, 觀察; 識, 識別; 思択, 簡択, 分別, 別 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*; 相 *Divy.*: *dāru* ~ *yām kṛtāvi* 善識諸木 *Divy.* 31; *ratna* ~ 別宝

Divy. 3; *vastu* ~ 分別財物 *Divy.* 26.

parikṣā-kṣama 形 テストに耐える, 有効な.

pari-kṣit 男 [(いたる所に)居住する者], 諸王の名(= *pari-kṣit*).

parikṣita (°ri-ik°) 過受分 [Īkṣ] 審査された, 試みられた, 試験された; 漢訳 已簡択 *Abh-vy.* 男 *Parikṣit* 王.

parikṣitavya (°ri-ik°) 未受分 テストされるべき, 試験されるべき.

pari-kṣiti 男 *Parikṣit* 王.

parikṣitu-kāma (°ri-ik°) 形 調査したいと望む.

parikṣin (°ri-ik°) 形 (屬)を試験する, ...をテストする. 男 試験する者, テストする者.

parikṣya (°ri-ik°) 未受分 試験されるべき, テストされるべき; 漢訳 思惟, 応思択, 応量 *Abh-vy.*, *Divy.*

paricikṣiṣu (°ri-ic°) 希求 形 テストまたは試験したいと思う.

pari-ṇāma 男 時の経過.

pari-ṇāha 男 範囲, 広さ; [町村の周囲に区劃され共有と考えられた区域].

parita (°ri-ita) 過受分 → I. (一°)によって影響されたまたは打ち勝たれた; 囲まれた, 捉えられた; 漢訳 具; 随; 安住; 所遍, 縈纏, 所遍 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*: *mithyā-dharma* ~ 安住邪法 *Gaṇḍ-vy.* 228; *saṃghāṭi* ~ *deha* 衣(鉢)具 *Divy.* 37.

pari-tāpa 男 熱.

pari-toṣa 男 満足.

pari-tta 1. 過受分 → *Dā* 1. 漢訳 付, 付嘱 *Divy.* 388. *Sam-r.* 50. → *parindita*.

pari-tta 2. 過受分 [*Dā* 1 または 2 *Pāli* *paritta*] 小さい, 少い, 劣った, 取るに足りない, 僅少の, 数に入らない, 些細な (*Av-s.*, *Divy.*); 周りに限界を画した, 限定された, 制限された (仏教); 漢訳 小, 小事, 少, 微小, 薄少, 少分, 少許, 狭小, 鮮少, 転少, 尠; 短促; 劣, 下 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*: ~ m *āyuh-pramāṇam* 寿命短促 *Suv-pr.* 8. 男 中 漢訳 小事 *Bodh-bh.* 8.

paritta-kārin 形 漢訳 少行, 所作狭小 *Bodh-bh.*

paritta-kuśala-mūla 形 漢訳 少善根, 薄少善根 *Aṣṭ-pr.*, *Suvik-pr.*

paritta-kleśa-bhūmika 形 漢訳 小惑地, 小煩惱地 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

parittatā 因 漢訳 小, 少 *Daś-bh.*

parittatva 中 漢訳 少 *Aṣṭ-pr.*

paritta-buddhi 形 漢訳 浅智, 慧狭少 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*

paritta-bhoga 形 漢訳 貧窮, 乏少資財, 乏少財業 *Daś-bh.*

paritta-śakalikāgni (°kā-ag°) 男 漢訳 草火小, 札火小星 *Mvyut.*

paritta-śubha 男 (種) 漢訳 [天の名] 少浄, 少浄天, 小善 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*

parittābha (°ta-ābha) 男 (種) 漢訳 [天の名] 少光,

小光, 少光天 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*; 少光音天 *Gaṇḍ-vy.*
parittāyadvāra (°ta-āy°) ㊦ ㊦ 狭小門 *Bodh-bh.*
parittāyus (°ta-āy°) ㊦ ㊦ 寿命短促 *Gaṇḍ-vy.*
pari-dhāna ㊦ = *pari-dhāna.*
parind ㊦ ㊦ *parindāmi* (現 一人) ㊦ ㊦ 付嘱, 嘱累 *Aṣṭ-pr.*
anu- ㊦ ㊦ 付嘱, 嘱累 *Aṣṭ-pr.*
parindanā ㊦ ㊦ 施物 (*Vajr-pr.*); ㊦ ㊦ 付嘱, 嘱累; 利益 *Sukh-vy. I.*, *Vajr-pr.*
parindita ㊦ ㊦ 懇切に施された (*Vajr-pr.*); ㊦ ㊦ 嘱, 付嘱 *Vajr-pr.*
pari-pāka ㊦ ㊦ 発達; 成熟; 成果, 結果.
paripsā (°ri-ip°) ㊦ ㊦ 希求 ㊦ ㊦ 取得しようとして切望すること, 保持または保存しようとして切望すること; 急速.
paripsu (°ri-ip°) ㊦ ㊦ ㊦ (業) を保存したいと思う.
pari-māṇa ㊦ ㊦ = *pari-māṇa.*
pari-rambha ㊦ ㊦ 抱擁.
pari-varta ㊦ ㊦ 交換, 物々交換; 変化.
pari-vāda ㊦ ㊦ 悪口, 誹謗.
pari-vāra ㊦ ㊦ 従者.
pari-vāha ㊦ ㊦ = *pari-vāha* 排水溝.
pari-vṛta ㊦ ㊦ ㊦ → *Vṛ 1.* ㊦ ㊦ 繞, 圍繞, 衆圍繞, 共圍繞 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*
pari-śeṣa ㊦ ㊦ 残物.
pariṣ (*pari-Iṣ*) *paryeṣati.* → *Iṣ 1.*
pariṣṭi ㊦ ㊦ = *paryeṣanā* 調査; ㊦ ㊦ 求, 乞 *Mvyut.*
pari-sāra ㊦ ㊦ 環境.
pari-hāra ㊦ ㊦ = *pari-hāra.* ㊦ ㊦ 答 *Madhy-v.*
pari-hāsa ㊦ ㊦ 冗談, 嘲笑.
parihāsa-keśava ㊦ ㊦ [*Viṣṇu* 神の殿堂の名].
parihāsa-kṣama ㊦ ㊦ 嘲笑する能力をもつ; 凌駕する能力のある.
paru ㊦ (一) の肢, 関節.
paruc-chepa ㊦ ㊦ [聖仙の名]. → *parud-vāra.*
parutka ㊦ ㊦ 関節をもつ.
parud-vāra ㊦ ㊦ 馬.
paruṣa ㊦ (㊦ -ā, ㊦ *paruṣṇi*) ㊦ ㊦ 節の多い(芦); 斑点のある, 雑色の; 汚れた; あらい, でこぼこのある; 毛髪が乱れた, 毛むくじゃらの; 吹き荒れた(風), 焦すような(火, 太陽); 荒々しい(調子); 激烈な, 厳しい, 粗暴な, 侮辱する(言辞, 人); ㊦ ㊦ 粗, 醜, 悪, 暴悪, 醜悪, 極醜悪, 醜穢; 不正, 雑穢; 横 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*; 把, 統 *Mvyut.* → *a~keśa.* ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ 無礼な言葉, 悪口.
paruṣa-ghana ㊦ ㊦ 暗黒色の雲, 暗雲.
paruṣa-vacana ㊦ ㊦ 荒いまたは無礼な言葉; ㊦ ㊦ 悪口, 悪罵, 醜悪語 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*; ~ād *vīramayati* 不悪口, 令禁止…悪口 *Gaṇḍ-vy. 155.* ㊦ ㊦ 荒々しくまたは粗暴に語る.
paruṣavacana-vīramaṇa ㊦ ㊦ ㊦ 不悪口 *Aṣṭ-pr.*
paruṣavacana-samudācāra ㊦ ㊦ ㊦ 発醜悪語 *Gaṇḍ-vy.*
paruṣavacana-samudācārin ㊦ ㊦ ㊦ 悪罵 *Divy.*
paruṣa-vāc ㊦ ㊦ 荒々しく語られた. ㊦ ㊦ = *paruṣa-vacana*

(㊦); ㊦ ㊦ 悪口, 醜悪語 *Aṣṭ-pr.*
paruṣa-vādin ㊦ ㊦ = *paruṣa-vacana* (㊦).
paruṣākṣara ㊦ ㊦ 粗野な, 荒々しい(言葉, 人). ~m ㊦ ㊦ 粗暴に, 荒々しく.
paruṣita ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ 荒々しく話しかけられた, 粗雑に用いられた.
paruṣiman ㊦ ㊦ 粗野な外見, 毛深いこと.
paruṣi-Kṛ, 汚す, 粗雑に使用する.
paruṣetara (°ṣa-it°) ㊦ ㊦ 厳しさとは反対の, 温和な, 優しい.
paruṣokti (°ṣa-uk°) ㊦ ㊦ 粗暴な言葉.
paruṣṇi ㊦ ㊦ [*paruṣa* の㊦] (まだらの)雲; [*Pañjab* を流れる河の名, 現今の *Ravi* 河].
paruṣya ㊦ ㊦ 雑色の, 多様な.
parus ㊦ ㊦ 結び目; 関節; 肢; 節, 章.
pare (*parā-I*) *paraiti.* → *I.*
pare ㊦ ㊦ 後(刻), その後.
pareṅgita-jñāna-phala (°ra-in°) ㊦ ㊦ 他人からの暗示の発見を結果とする.
pareṇa ㊦ ㊦ ㊦ (業) の向うに, …を越えて, …を過ぎて; (㊦, ㊦) の後に; その後, 後に, 後日. ~*paratarena* ㊦ ㊦ 過 *Gaṇḍ-vy.*
pareta (°rā-ita) ㊦ ㊦ ㊦ → *I.* (過ぎ去った), 死んだ.
pareta-kalpa ㊦ ㊦ ほとんど死んだ.
pareta-bhartr ㊦ ㊦ [(死者の神), *Yama* 神の称].
pareta-bhūmi ㊦ ㊦ 死者の国, 墓地.
paretara ㊦ ㊦ 信用できる, 好意のある; 敵を引きつける, 敵を誘う.
pareta-rāja ㊦ ㊦ [(死者の王), *Yama* 神の称].
paretācarita (°ta-āc°) ㊦ ㊦ 死者がたびたび訪れるまたは居住する.
paretāvāsa (°ta-āv°) ㊦ ㊦ 墓地.
pare-dyavi ㊦ ㊦ 翌日, 明日.
pare-prāṇa ㊦ ㊦ 生命より貴重な.
pareyivas ㊦ ㊦ ㊦ → *I.*
pare-śeṣa ㊦ ㊦ [*Viṣṇu* 神の称].
paro'kṣa (°ro-ak°) ㊦ ㊦ (視力を越えた), 視界外にある, 見えない, 知覚できない; 知られない, 理解ができない; ただ心だけで認識できる; ㊦ ㊦ 不顕, 深事 *Cat-ś.*, *Sāṃkhy-k.* °— ㊦ ㊦ 知覚されないで. ~m ㊦ ㊦ (㊦ ㊦; ㊦, °—) のいない所で, …に隠れて, …の知識なくして. ㊦ ㊦ 知覚されないで, 不思議に. ㊦ ㊦ (㊦) の知識なくして; (㊦) に隠れて; 話者のそこにはいない場合に, 自己の経験の外において (㊦).
paro'kṣa-kāma ㊦ ㊦ 神秘を好む.
paro'kṣa-kṛta ㊦ ㊦ [神を二人称として呼びかけることなく三人称に取り扱って作られた(讃歌)].
paro'kṣa-jit ㊦ ㊦ 知覚しがたい方法で勝った.
paro'kṣatā (°ro-ak°) ㊦ ㊦ 視界の外であること, 知覚できないこと; もうろうたること.
paro'kṣatva (°ro-ak°) ㊦ ㊦ [同上].
parokṣa-buddhi ㊦ ㊦ 遠方にあるものと認める, 無関係の (*Jat-m.*).
paro'kṣa-manmatha ㊦ ㊦ 恋愛の経験のない.

paro'kṣa-vṛtti 形 視界の外に生きるまたは活動する。
 paro'kṣā (°ro-ak°) 因 (自ら経験することなく) 過去に完了した行為; 完了形の人称語尾 (文法)。
 paro'kṣārtha 形 目に見えない; 神秘的な, 深遠な。男 目に見えない対象, 目に見えないもの。
 parotpīḍa (°ra-ut°) 男 漢訳 逼迫 *Bodh-bh.*
 paropakaraṇa (°ra-up°) 因 他人のために尽すこと, 世話または扶助をすること。
 paropakaraṇi-Kṛ, 自己を他人の道具とする。
 paropakāra (°ra-up°) 男 他人に尽した奉仕。
 paropakāritva (°ra-up°) 因 [同上 因]。男 [王侯の名]。
 paropakārin (°ra-up°) 形 他人のためになる。
 paropakṛti (°ra-up°) 因 = paropakaraṇa。
 paropakrama (°ra-up°) 形 漢訳 他逼惱, 冤敵, 他冤敵 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 paropakramika (°ra-up°) 形 漢訳 險難危厄 *Aṣṭ-pr.*
 paropaga (°ra-up°) 形 他の事に関連する, 形容詞の。
 paropaghāta (°ra-up°) 男 漢訳 損於彼, 憎他, 害他 *Bodh-bh., Sūtr.*
 paropajāpa (°ra-up°) 形 敵中に不和を生ぜしめる。男 敵の間の軋轢, 敵の間に軋轢を生ぜしめること。
 paropatāpa (°ra-up°) 男 漢訳 惱他 *Bodh-bh.*
 paropadeśa (°ra-up°) 男 他人に与える教訓。形 他人に忠告を与える。
 paropārambha (°ra-up°) 男 漢訳 他所難詰 *Bodh-bh.*
 paropārambha-kathā (°ra-up°) 因 漢訳 摧伏他論 *Bodh-bh.*
 paro-rajas 形 情熱を離れた。
 paro'varam (°ro-av°) 副 上より下へ, 相次いで。
 paro'variyaḥ 比較 上方に一層広い。
 paroṣṇih (°ra(h)-uṣ°) 因 [韻律の一種(8 + 8 + 12 音節)]。
 paroṣṇi 因 [河の名 (恐らく *Paruṣṇī* の 因) → payo-ṣṇī]。
 parka 男 [Prç] (一°)の混合物。→ madhu~。
 parkaṭi 因 波形の葉をもついちじくの樹 (学名 *Ficus infectoria*)。
 Parc, → Prç。
 parjanya 男 雨雲; 雨; 雨神(ときに *Indra* 神と同一視される)。
 parjanya-jinvita 形 *Parjanya* 雨神によって生気を与えられた。
 parjanya-ninada 男 雷鳴。
 parjanya-bhīma 形 雷雲または *Indra* 神のように恐ろしい。
 parṇa 因 [Pr₂.] 羽翼, 翼; 羽; 羽毛 [また矢羽]; 葉 (一° 因 -ā, -i); きんまの葉; 漢訳 葉 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Sūtr.* 男 [ある大きな葉をもつ樹の名, 学名 *Butea frondosa*, 因 では通例 pal-āśa という]。
 parṇa-kāṣṭha 因 漢訳 木葉 *Lank.*
 parṇa-kuṭikā 因 漢訳 葉棚, 葉房 *Mvyut.*
 parṇa-krechra 男 [苦行の一種]。
 parṇa-puta 男 因 じょうご形に巻いた葉。

parṇavat 形 葉に富む。
 parṇa-viṭikā 因 細かく切って香料をかけてきんまの葉で包んだびんろうじ(檳榔子)。
 parṇa-śabda 男 葉のそよぐ音, 風で葉がさらさらと音をたてること。
 parṇa-śayyā 因 葉で作った寝床。
 parṇa-śara 男 葉柄(とくに *Parṇa* 樹の)。
 parṇa-śavari-dhāraṇi 因 [仏典の名, 鉢蘭那除嚩哩大陀羅尼經]。
 parṇa-śālā 因 (葉で作った小屋), あずまや [*Madhya-deśa* にあるある婆羅門の住所の名]。
 parṇa-samstara 男 葉を寝床とすること, 葉の上で眠ること; 漢訳 葉敷 *Bodh-bh.*
 parṇāda 男 [ある婆羅門の名]。
 parṇāda-vacana 因 *Parṇāda* の言葉。
 parṇāśā (°ṇa-āśā) 因 [ある植物の名]; [諸河の名]。
 parṇāntāra (°ṇa-āh°) 形 葉を食べて生きる。
 parṇin 形 翼のある; 羽毛のある; 葉をもつ; *Parṇa* 樹の材で作られた。男 樹木。
 parṇoṭaja (°ṇa-ut°) 因 (葉で作った小屋), 隠者の草庵。
 parṇotsa (°ṇa-ut°) 男 [村の名]。
 parpaṭa 男 [薬用植物の一種]; 漢訳 鹹齒 *Suvik-pr.;* 菁蘘 梵雜。
 parpaṭaka 男 [薬用植物の一種]; 漢訳 餅, 膏 *Mvyut.*
 parma-kanaka 因 → varma-kanaka。漢訳 有足水瓶 *Mvyut.*
 parmāḍi 男 [また *parmāṇḍi*] [王侯の名]。
 pary-ak 副 [pary-añc の 因] 周りに。
 pary-agni 男 取り囲んでいる火, (犠牲獣の)周りに(持ち運ばれる)燃え木; 燃え木を持ち廻る儀式。~または~m Kṛ *Paryagni* 儀式を行なう。
 paryagni-karaṇa 因 *Paryagni* 儀式を行なうこと。
 paryagni-kṛta 形 *Paryagni* 儀式の行なわれた(供物)。
 pary-añka 男 臥床, 寝台; 脚を組む坐法; 漢訳 床, 大床, 座, 高座 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr.*; 端座, 結跏, 跏趺坐, 結跏趺坐, 跏趺而坐 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mañj-m., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy I., Vajr-pr.* ~m ā-BHuj 漢訳 結跏趺, 結跏趺坐 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Vajr-pr.*; ~m ābhujyopaviśati 結跏趺坐 *Lal-v. 244.* ~m Bandh 漢訳 結跏趺坐 *Av-s.*
 paryañka-granthi-bandha 男 脚を組んで坐ること。
 paryañka-baddha 形 脚を組んで坐る (*Saddh-p.*); 漢訳 結跏坐, 結跏趺坐 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*
 paryañka-bandha 男 脚を組んで坐ること。
 paryañka-stha 形 寝椅子に坐る。
 paryañkikā 因 寝椅子, 臥床。
 paryañki-Kṛ, 寝椅子にする。
 pary-añc, → Ac。
 pary-At paryatati-te. → At。
 pary-aṭaka 男 浮浪者。
 pary-aṭana 因 (因, 一°) に徘徊または逍遙すること。
 pary-anu-Ni, → Ni。
 pary-anuyukta 副委分 → Yuj。
 pary-anu-Yuj, → Yuj。

pary-anuyoktavya 未受分 問われるべき；解答を求められるべき。

pary-anuyoga 男 質問；非難；問，徵問，度過切察 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*

pary-anta 男 (周囲の限界)，境，境界，裾，限界，端，終；○— 境界を接した，隣接した；邊，際，辺際；尽，窮，究竟；後 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sāmkhy-k.*, *Sūtr.*: duḥkha ~ karman 苦尽業 *Madhy-v.* 515. —° 形 …で取り巻かれたまたは限定された，…に達した，…で終る；至，到；畢竟，周匝，所圍繞 *Abh-vy.*, *Kāśy.*, *Śikṣ.*: nirvāṇa ~ 到涅槃，至於涅槃 *Kāśy.* 47. → a~, āyuṣ~. ~m (—°) の終りに，…に及んで，…まで，…の限り，~m 副 完全に，余すところなく；kim ~m どれほど遠いか。~e 副 終りにおいて。

paryanta-gata 形 邊際，到究竟 *Bodh-bh.* → jñeya~.

pary-antatā 女 邊際 *Bodh-bh.*

paryanta-samsthita 形 限定する，界を接する，隣接する。

paryanta-stha 形 [同上]。

paryanti-Kṛ, 終らせる，完了する (*Divy.*)。

pary-anv-īṣ paryanvicchati. → *īṣ* 2.

pary-anviṣṭa 過受分 求，修 *Gaṇḍ-vy.*

pary-aya 男 回転，(周期の)満了；変化，変更。

pary-ava-cCHid paryavacchinatti. → *CHid*.

pary-ava-Dā paryavadāpayati (使役). → *Dā* 4.

pary-avadāta 過受分 → *Dā* 4. 淨，悉淨，皎潔，白，清白，鮮白，潔白；皆消除 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

pary-avadāna 中 終ること，完全に消失すること (*Lal-v.*)；明淨 *Daś-bh.*

pary-avadāpakatva 中 令明淨 *Bodh-bh.*

pary-avadāpayitr 男 説明者 (*Divy.*)；流通者 *Divy.*

pary-avadāpita 使役 過受分 明徹，(善)瑩明徹，光沢，磨怡 *Daś-bh.*

pary-avadhāraṇa 中 熟慮。

pary-avanaddha 過受分 [Nah] 覆われた (*Divy.*)；所覆，覆翳，蔽，纏裹，纏繞 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*；甚牽引，皆牽引 *Mvyut.*

pary-avanāha 男 蔽 *Saddh-p.*

pary-avarodha 男 滅，皆持 *Mvyut.*

pary-avaśeṣita 過受分 残された。

pary-ava-Ṣṭambh, → *Stabh*.

pary-avaṣṭambhana 中 困むこと，包圍すること。

pary-ava-Sā paryavasyati. → *Sā* 2.

pary-avasāna 1. 中 完結，結末；(因)に達すること；を含むこと；終，後，最後；後際；究竟，尽，窮尽，窮；期 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*: ādi-madhyā ~ 初中後 *Daś-bh.* 134；~e kalyāṇam 後善 *Saddh-p.* 17. → a~. —° 形 盡；帰，還帰，終帰；究竟，已得究竟；越，

越辺際 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*；乃至 *Bodh-bh.*: avidyādayo bhava ~ āh 無明乃至有 *Bodh-bh.* 100；bhūmi ~ 帰地；還帰於地 *Aṣṭ-pr.* 586.

pary-avasāna 2. 中 [pary-avasthāna の副] (*Divy.*)。

paryavasāna-bhāvanā 女 最後修 *Madhy-vibh.*

pary-avasāyin 形 …に終る，…に達する。

pary-avasita 過受分 → *Sā* 2. 了尽 *Mvyut.*

pary-avasita-mati 形 (因)をよく知るまたはに精通した。

pary-avasitārtha 形 了義尽，了尽意 *Mvyut.*

pary-avaskanda 男 (車から)飛び降りること。

pary-avastikā 女 肩上搭衣，交搭於肩上，拊肩者，拊 *Mvyut.* → *pary-astikā*.

pary-ava-Sthā paryavatiṣṭhate. → *Sthā*.

pary-avasthāna 中 人間を支配する情熱 (*Divy.*)；纏，纏縛；著；心惑，倒起惑；諸牽引 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*；瞋，瞋恚，瞋怒心 *Divy.*: tivreṇa ~ ena 發瞋怒心 *Divy.* 54.

paryavasthāna-pratyaya 男 纏縁 *Bodh-bh.*

paryavasthāna-manasi-kāra 男 纏心 *Sapt-pr.*

pary-avasthāniya 未受分 順，相応 *Abh-vy.*

pary-avasthāpayitavya 未受分 勇気づけられるべき。

pary-avasthita 過受分 → *Sthā*. 纏，所纏，所纏繞，損縛 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*；所變異 *Abh-vy.*；正瞋 *Divy.*: nānā-kleśa ~ 心病種種所纏 *Gaṇḍ-vy.* 103；rāga ~ cetā 欲意所纏，欲所纏者 *Gaṇḍ-vy.* 204.

pary-avasthita-cetas 形 纏心 *Bodh-bh.*

pary-avāp (°ava-Āp) paryavāpnoti, paryavāpya (不變分), paryavāpat (現分). → *Āp*.

pary-avāptavya 未受分 所求，能成就 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*

pary-avāpti 女 通，通利 *Aṣṭ-pr.*

pary-aśru 形 涙にあふれた，泣きぬれた。

pary-As paryasti (1), paryasyati (2), → *As* 1, 2.

pary-asta 過受分 → *As* 2. 敗，敗壞 *Av-ś.*

pary-asta-vilocana 形 目をくるくる動かす，見廻す。

paryasta-vyāpāra 形 不精な，怠惰な。

pary-astikā 女 脚を組んで坐ること；両交搭於肩上，拊，肩上搭衣。[Pāli pallatthikā. 布を両肩にかけることであろう] *Mvyut.* → *pary-avastikā*.

paryastikā-kṛta 形 拊肩，放衣掉 *Prāt-m.*

pary-ākula 形 (—°)を満たした，…に満ちた；不秩序な，乱雑な；混乱した；動揺した。

pary-ākulatva 中 混乱。

paryākulaya 名動 他 paryākulayati 混乱させる；動揺させる。

paryākuli-Kṛ, [同上]。

paryākuli-BHū, 混乱する。

pary-ā-Kṣip paryākṣipati. → *Kṣip*.

pary-ā-Gā, → *Gā*.

pary-ācānta 過受分 → *Cam*. 中 [anna とともに] (客が食後の)水をすすった後に残された食物。

pary-āṇa [<°yāṇa] 迂回する。 中 鞍。

pary-āṇita 過受分 鞍を置いた。
 pary-ā-Ni paryāṇayati. → Ni.
 pary-āṭṭa 過受分 → a~. 珍 Ast-pr.
 paryāṭṭa-vāṣpa 形 珍諸雲霧 Ast-pr.
 pary-ādatta 過受分 尽, 窮尽 Bodh-bh., Gand-vy. → a~.
 pary-ādapana 中 [Pali pariyodapana] 清めること, 浄化すること (Mah-v.).
 pary-ādāna 中 [Pali pariyādāna] 使い尽すこと; 完結, 完成, 終結; 尽, 全尽, 永尽, 窮尽, 滅尽; 消, 竭, 消竭, 乾竭; 窮, 窮極; 困; 亡; 散滅, 壞滅 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Mvyut., Śikṣ., Vijñ-t.; 全, 永遠 Mvyut.; 倨傲, 傲逸, 醉傲, 高無所顧, 意無所顧 Abh-vy., Mvyut., Vijñ-t.; 起変異乱 Abh-vy. [Gam とともに] 終る (Divy.): ~m gacchati 全尽, (永尽) Mvyut.; na~m gacchati 無有窮尽 Gand-vy. 138.
 pary-ādānatā 因 尽 Gand-vy.
 pary-ādāya 不変分 尽 Abh-vy.: cittam~sthāsyati 心住正念 Śikṣ. 20.
 pary-ā-DHā paryādadhāti. → DHā.
 pary-ādhatr 男 兄に先んじて聖火を点じた弟.
 pary-Āp paryāpnoti. → Āp.
 pary-āpanna 過受分 撰, 所撰, 属, 所属, 繫属, 所繫; 所有, 得; 入, 中, 充滿; 生 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Mvyut., Sapt-pr., Śikṣ.; 眷属 Gand-vy.: an-ādy-anta-samsāra~ 無始無終生死輪転中 Abh-vy. 156. → a~.
 pary-āpta 過受分 → Āp.
 paryāpta-kala 形 食分を満した(月), 満月の.
 paryāpta-kāma 形 欲望が達成されたまたはしずめられた.
 paryāpta-candra 形 満月で飾られた(夜).
 pary-āptatā 因 豊富なこと.
 paryāpta-dakṣiṇa 形 たくさんの施物を具備した(祭式).
 paryāpta-bhoga 形 十分な資力を所有または享受する.
 pary-āptavat 過能分 能力のある, 才能のある; 通利 Saddh-p.
 pary-āpti 因 終結; 十分なこと; 獲得; (誰)に対しても好敵手であること; (一)の資格のあること, …の才能のあること; 得究竟 Bodh-bh.
 pary-āya 男 廻転; (周期の)満了; 季節の変化; 周期的な復帰; 反復; 規則的な連続; 変転; (Atirātra 祭に Soma を捧げる儀式の)一巡; 総合文, 文章; 詩節; 言い換えのできる語, 同義語; 門, 異門; 名門; 句, 章句; 衆名, 異名, 別名, 別義, 名之差別, 名目; 言説, 経法 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Vajr-pr., Vijñ-v.; 異, 別異, 差別, 分別 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Saddh-p.; 数, 重, 更代, 次第 Abh-vy., Mvyut.; 縁, 因縁 Abh-vy., Ast-pr., Saddh-p.; 道理 Bodh-bh.: kula ~eṇa śalākā cāryate 家家族次第以匙佈散, 族姓次第行籌, 家中次第擺筋 Mvyut.; puṇya ~ 分別功德 Saddh-p. 344; ~ jñāna-sākṣāt-kriyā 知心差別智作証通 Bodh-bh. 58. → dharma

~.
 ◦—, ~eṇa 圓 順序に; 交互に; [~eṇa] 由因縁, 交代 Abh-vy., Bodh-bh. aneṇa ~eṇa このようにして (Vajr-pr.); 是故, 由此, 由此因縁, 以是因縁, 以此因縁, 由此道理 Ast-pr., Bodh-bh., Vajr-pr.: katamena ~eṇa 縁何意, 以何因縁 Ast-pr.; kena ~eṇa 何縁 Ast-pr.; aneka ~eṇa 種種因縁 Prāt-m., Vin. ~m 不変分 歩き廻って.

paryāya-krama 男 連続の順序, 規則的な循環.
 pary-āyata 過受分 [Yam] 非常に長い, 非常に広い.
 pary-āyatva 中 Atirātra 祭の paryāya であること. → paryāya.
 paryāya-lakṣaṇa 中 異門相, 衆名相 Madhy-vibh.
 paryāya-vacana 中 同意義の言辞, 同義語; 異名, 別異之名 Lank.
 paryāya-vācaka 形 同意義の.
 paryāya-sevā 因 順次に交代する奉仕.
 paryāyanna 中 他人のために用意した食物.
 paryāyārtha 男 異門義, 衆名義 Bodh-bh., Madhy-vibh.
 pary-ā-Yu, → Yu 1.
 pary-ā-Loc paryālocayati(使役). → Loc.
 pary-ālocana 中 熟慮.
 pary-ālocanā 因 [同上]; 計画, 企図.
 pary-āvadāna 中 =pary-avadāna (Kār-vy.).
 pary-āvarta 男 復帰; 交換.
 pary-āvila 形 非常に濁った.
 pary-ā-Vṛ, → Vṛ 1.
 pary-ā-Vṛt paryāvartate(-ti). → Vṛt.
 pary-āvṛta 過受分 → Vṛ 1.
 pary-Ās paryāste. → Ās.
 dary-āsa 男 循環; ふち(縁); 終結; (朗誦の)最後の詩節.
 pary-āsana 中 回轉.
 pary-āhāva 男 (詩節の)前後に付ける(一種の)定句.
 pary-āhita 過受分 → DHā 1. 男 弟によって(家庭の)聖火の点火(設置)を先んじられた兄.
 pary-ā-Hve paryāhvayate. → Hve.
 pary-uka 男 [人名].
 pary-ukṣaṇa 中 水を撒くこと.
 pary-utthāna 1. 中 立ち上ること; 起, 発起, 普起立 Daś-bh., Lank., Mvyut., Śikṣ.
 pary-utthāna 2. 中 [=Pali pariyutthāna → pary-avasthāna] 纏, 使, 有流, 起煩惱, 随煩惱 Daś-bh., Lank., Mvyut., Sam-r.; 離 Lank.
 pary-utthita 過受分 [=Pali pariyutthita → pary-avasthita] 所著 Saddh-p. 474. → māra~.
 pary-utsuka 形 非常に動揺したまたは激昂した, 非常に憂鬱な; (爲)を切望する.
 pary-utsukatva 中 切望すること.
 paryutsuki-BHū, 非常に憂鬱となる.
 pary-ud-As paryudasyati. → As 2.
 pary-udasta 過受分 除外された; 遣, 已除, 破,

Abh-vy., *Mvyut.*; 給(?) *Mvyut.*

pary-udāsa 男 排除, 否定; 漢訳 不是 *Mvyut.*

paryudāsa-pratiśedha 男 漢訳 不是而滅者, 非遮 *Mvyut.*

pary-upayukta 過受分 → *Yuj.*

pary-upa-Yuj, → *Yuj.*

pary-upayoga 男 漢訳 尽, 受用滅尽 *Vijñ-t.*

pary-upa-Lip *paryupalimpati.* → *Lip.*

pary-upa-Sthā *paryupatiṣṭhati.* → *Sthā.*

pary-upasthāna 中 仕えること, 奉仕すること; 漢訳 供養, 尊重供養, 親近供養 *Aṣṭ-pr.*

pary-upasthita 過受分 → *Sthā.* 漢訳 親近 *Sapt-pr.*

pary-upaspr̥śya 不変分 沐浴のために(水)に触れてまたはを用いて.

pary-upāgata 過受分 囲んで立った, 囲んだ.

pary-upāpana 中 漢訳 詣 *Vin.*

pary-upāvṛtta 過受分 帰って来た.

pary-upās (°upa-Ās) *paryupāste.* → *Ās.*

pary-upāsaka 形 尊重する, 尊敬する.

pary-upāsana 中 取り囲んで坐ること; いんぎんな態度, 愛想のよいこと; 尊敬すること (*Kār-vy.*); 漢訳 承事, 親承, 承事供養, 供養, 親近, 親近供養, 恭敬, 恭敬承事, 瞻礼恭敬, 尊重, 事奉, 敬奉, 敬言 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.* *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*

paryupāsana-karaṇa 中 漢訳 作敬奉 *Mvyut.*

pary-upāsana-tā 女 漢訳 親近 *Aṣṭ-pr.*

pary-upāsana 女 尊敬 (*Divy.*).

pary-upāsita 過受分 参加された, 目撃された; 崇拜された, 崇敬された; 漢訳 親近, 得親近, 供養, 已曾供養, 供養親近, 親近供養, 所親近供養, 承事供養, 恭敬供養, 承事, 親近承事, 敬事; 撫育; 稽首帰; 瞻礼 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.*

paryupāsita-pūrvatva 中 前生で崇敬されたこと (*Divy.*); 漢訳 曾瞻礼 *Divy.*

pary-upāsitavya 未受分 漢訳 当親近, 応供養, 恭敬 *Aṣṭ-pr.*, *Sapt-pr.*

pary-upāsitāvin 能 [pary-upāsita から] 漢訳 曾親近 *Saddh-p.* 29. : *bahu-buddha-koṭi-nayuta-śata-sahasra* ~ 曾親近百千万億無数諸仏 *Saddh-p.* 29.

pary-upāsitu-kāma 形 漢訳 欲親近 *Sapt-pr.*

pary-upāsitr̥ 形 (業) の周りを動き回る; 崇拜する(人).

pary-upāsya 形 崇拜されるべき, 仕えられるべき (*Jāt-m.*).

pary-uṣaṇa 中 雨季を過すこと(仏教).

pary-uṣita 過受分 → *Vas* 3. 一晚経過した, 新鮮でない; 厳守されない(約束).

paryuṣita-parivāsa 形 試練の時を過すまたは過した; ある期間留まる, ある期間生まれている. 男 試練の時を過すこと; ある期間留まること (*Av-ś.*).

pary-uṣṭa 過受分 = *pary-uṣita.*

pary-e (°ā-I) *paryaiti.* → *I.*

pary-eṣ (°ā-Iṣ) *paryeṣati.* → *Iṣ.*

pary-eṣaka 形 漢訳 尋求 *Vijñ-t.*

pary-eṣaṇa 中 搜索すること, 探求すること; 得ようと努めること; 漢訳 求, 勤求, 訪求, 推求, 慕求, 尋求, 善求, 追求, 追訪, 覓 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

pary-eṣaṇā 女 = *pariṣṭi* 搜索すること, 探求すること; 仕えること; 奉仕すること; 漢訳 求, 勤求, 尋求, 推求, 訪求, 皆尋, 遍尋, 尋思, 追訪 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

paryeṣaṇābhiyukta (°ṇā-abh°) 形 漢訳 勤求修習, 勤行修習 *Śikṣ.*

paryeṣaṇā-vibhāga 男 漢訳 (四種)求 *Sūtr.*

paryeṣā 女 漢訳 求 *Sūtr.*

pary-eṣita 使役 過受分 漢訳 求, 所求; 已求, 求所護 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

pary-eṣitavat 過能分 漢訳 求 *Saddh-p.*

pary-eṣitavya 未受分 漢訳 求, 応求, 求索 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*

pary-eṣṭavya 未受分 搜索されるべき; 漢訳 欲求 *Aṣṭ-pr.*

pary-eṣṭi 女 (°—) を求めること, 探求すること (*Saddh-p.*); 世俗的努力 (*Jāt-m.*); 漢訳 求, 恠求, 希求, 追求, 訪求, 樂求, 勤求, 尋求, 普求, 所求, 馳求, 正求, 一向求, 求索, 索, 懷希望; 学 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*; 四方馳走 *Divy.*

-parva 形 = *parvan.*

parva-kāra 形 利益を得たいために祭日に限られた儀式を平日にする.

parva-kārin 形 = *parva-kāra.*

parva-kāla 男 月(太陰)のみちかけの時, 太陰暦の第八日と第十四日.

parva-gupta 男 [人名].

parvaṇi 女 月(太陰)のみちかけ; 漢訳 節日 *Divy.*

parvata 形 [adri または giri とともに] 節 または 粗塊からなる. 男 山, 丘; 岩石, ごろ石; 雲; [聖仙の名]; [*Purāravas* の大臣の名]; 漢訳 山, 大山, 山陵, 山巖, 山崖 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lanik.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵雜.: *aṣṭāṅga* ~ *āḥ* ((八)) 金山 [1. *Yugam-dharaḥ* 持雙山, 2. *Īśā-dharaḥ* 持軸山, 3. *Khadirakaḥ* 櫓木山, 4. *Sudarśanaḥ* 善見山, 5. *Vinatakaḥ* (漢訳闕, ((障礙山)), 6. *Aśvakarnaḥ* 馬耳山, 7. *Nimindhara-giriḥ* (漢訳闕, ((持辺山)), 8. *Sumeruḥ* (漢訳闕, ((妙高山))). (漢訳では別に象鼻山・魚鬚山を加えて七金山とする)] *Dharm-s.*

parvataka 男 [人名].

parvata-kandara 中 山窟; 漢訳 山中, 山間, 山谷 *Divy.*, *Mvyut.*

parvata-kūṭa 中 漢訳 高山 *Gaṇḍ-vy.*

parvata-jāla 中 山脈, 連山.

parvata-durga 中 通過しにくい山.

parvata-pati 男 [(山の王), *Himālaya* 山の称].

parvata-mastaka 男 中 山頂.

parvata-rāj 男 (山の王), 高山 (*Kār-vy.*); [*Himālaya* 山の称].

parvata-rāja 男 [同上]. 漢訳 山王 *Sūtr.*
 parvatarāja-putri 女 [Durgā の 父系] *Pārvati, Dur-*
gā.
 parvata-sikhara 男 田 丘の頂, 山の峰.
 parvataśikharotsaṅga (°ra-ut°) 男 漢訳 山上, 山頂
Gaṇḍ-vy.
 parvata-śreṣṭha 男 (最上) 最上の山.
 parvata-stha 形 山または丘の上にある.
 parvatāgra 田 =parvata-śreṣṭha; 山頂; 漢訳 山峯
Śikṣ.
 parvati-Kṛ, 山に変える, 山とする.
 parvatiya 形 山に属する.
 parvateśvara (°ta-iś°) 男 山岳の王; [人名].
 parvatotsaṅga 男 漢訳 山阿, 巖阿 *Gaṇḍ-vy.*
 parvatopatyakā (°ta-up°) 女 山中の低地, 山脈の麓
 の地.
 parvan 田 (茎または草木の)節; 関節; 四肢; (書物の)
 節または篇; (物語または談話の) 自然の切れ目; 時
 機, 時期; 交点, (一カ月に二回または四回の)月の周
 期的変化の日(すなわち満月・新月・半カ月中の第八日・
 第十四日), これらのうちのある日に行なわれる祭
 式; (月が交点に)接合(朔)または反対(衝)して(それ
 を通過する)時; (日月)食の終り; 漢訳 節, 支節,
 肢節; 過節, 節期, 時節; 会, 節会 *Abh-vy., Av-ś.,*
Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Divy., Mvyut.,
 梵千.; 解 *Abh-vy.*
 parva-śarkaraka 男 [人名].
 parva-saṃdhi 男 月(太陰)の変化, とくに新月または満
 月の時.
 parvātyaya 男 (日月)食の終り.
 parvāspḥoṭa (°va-ās°) 男 指で音を発すること [下品
 な行為の一].
 parviṇi 女 祭日.
 parśāna 男 くぼみ, 深い淵, 深い割れ目.
 parśu 女 肋骨; 反りのある小刀, 鎌.
 parśa 形 =paruṣa; 荒々しい, 烈しい(風).
 parśa-gata 形 [=parśad-gata] 漢訳 於大衆中 *Sukh-*
vy. I.
 parśac-cārin 形 漢訳 遊化大衆之中, 遊行無量大衆
Laṅk.
 parśac-chāradya-bhaya 田 漢訳 大衆畏, 大衆怖, 大
 衆怖畏, 処衆怯畏 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*
 -parśatka 形 会衆, 聴衆, 会議 (*Jāt-m.*).
 parśat-kaṣata 男 漢訳 衆中之糟糠 *Saddh-p. 44.*
 parśat-saṃnipāta 男 漢訳 衆, 大衆, 集会 *Mvyut.,*
Saddh-p.
 parśat-saṃbandha 男 漢訳 衆相依, 衆相応 *Abh-vy.*
 par-śad 女 =pari-śad, 会合; 漢訳 衆, 大衆, 在衆,
 衆会, 会, 大会, 集会, 徒衆, 部衆, 眷属, 多人処
Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Guhy-s., Kāśy., Laṅk.,
Mvyut., Rāstr., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.,
Vajr-pr.: aṣṭau ~ aḥ 八衆, 八部衆 *Bodh-bh. 295;*
catasraḥ ~ aḥ 四衆 *Aṣṭ-pr. 187.* ~i 女 漢訳 於
 大衆中, 在大衆中 *Bodh-bh.:* mahatyām ~i 処大
 衆 *Bodh-bh. 251.*
 parśadā 女 [*Pāli parisā*] 漢訳 徒衆 *Abh-vy. 41.*

parśad-gata 形 漢訳 於大衆中 *Rāstr.*
 parśan-maṇḍala 田 漢訳 衆, 大衆, 衆会, 集会, 大
 集衆, 大衆集会, 諸徒衆, 大衆中囿, (法)会処 *Gaṇḍ-*
vy., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.
 parśanmaṇḍala-vyūha 男 漢訳 (道場)集会, 大衆囿
 繞 *Gaṇḍ-vy.*
 parśan-madhya-gata 形 漢訳 於大衆中 *Laṅk.*
 parśā 女 [=parśad] 漢訳 会 *Gaṇḍ-vy. 34., Saddh-*
p. 9.
 parśi [Pr 2. の 三入 畢 論].
 pala 田 [重量の単位 = 4 karṣa]; 肉; 漢訳 兩, 斤
Laṅk., Mañj-m., Mvyut., Śikṣ. 梵千.: ~m ekam
 一兩 *Mvyut.;* 音写 波羅 *Laṅk.*
 palaka 男 → kunta~.
 pala-gaṇḍa 男 漢訳 匠, 工匠, 工師, 石匠, 巧業者
Aṣṭ-pr., Mvyut.
 palala 田 粉にしたゴマ; 泥沼.
 palalaudana (°la-od°) 男 粉にしたゴマで作った粥.
 palasa 男 [panasa の誤].
 palāṇḍu 男 (田) タマネギ; 漢訳 葱, 葱, 葱, 韭,
 蒜, 大蒜, 小根菜 *Bodh-bh., Divy., Laṅk., Mvyut.,*
Śikṣ., 梵千.
 palāṇḍu-samsrṣṭa 形 漢訳 葱染 *Bodh-bh.*
 palāy (palā-I) palāyate. → I.
 palāyate 動 → I.
 palāyana (°lā-ay°) 田 逃走, 逃亡, 脱出.
 palāyana-kriyām-Kṛ, 逃亡する.
 palāyana-para 形 逃走しようとする余念のない.
 palāyin 形 逃亡する(人).
 palāla 田 藁; 漢訳 草, 艸 *Laṅk.*
 palāla-puñja 男 漢訳 草薺 *Divy.*
 palāla-bhāra 男 藁の積荷.
 palāla-bhāraka 男 [同上].
 palāli 女 藁.
 palāloccaya (°la-uc°) 男 藁の堆積.
 palāva 男 釣針.
 palāśa 田 葉; 群葉; 花卉; Palāśa 樹の花; 漢訳 葉,
 緑; 華, 花, 花薺 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Mvyut., Saddh-*
p., 梵千., 梵千. 男 [大形の葉で赤い花のある樹の名,
 学名 *Butea frondosa*]; 漢訳 赤花樹 玄応.; 音写
 波羅, 波羅奢, 鉢羅奢, 波羅舍 *Mañj-m., Śikṣ.,*
Suv-pr., 玄応. 一° 形 (女-i) 葉の.
 palāśa-kāṣṭha 田 漢訳 (音写) 波羅舍木 *Mañj-m.*
 palāśatā 女 群葉の状態, 葉を出すこと.
 palāśa-pattra 田 葉 [とくに Palāśa 樹の葉]; 漢訳
 (音写) 波羅葉, 波羅奢葉 *Suv-pr.*
 palāśika 形 → eka~.
 palāśin 形 葉の繁った. 男 樹木; [町または村の名,
Plassey].
 palika 形 1 pala の重量のある; [とくに 田 とともに
 (一°)] の pala の重量のある.
 palikni 形 [palita の 女] 灰色の.
 pali-guddha 過受分 田 [<pari-gṛddha] *Pāli pali-*
giddha, paligaddha 漢訳 耽(味), 受樂, 思解 *Śikṣ.*
 100, 105, 186. → paligodha, parigredha, pariga-
 rdha.

pali-godha 過受分 罽 [< pari-grddha] 愛樂, 貪著, 障礙 *Mvyut.*, *Śikṣ.* 105, 109; 諸雜, 未灌, 未洗, 連 *Mvyut.*: bahu ~ paliguddha 多種愛樂 *Śikṣ.* 105. → pali-guddha.

palita 罽 (罽 palikni) 灰色の, 白髪; 白髪, 髪白, 頭髪, 皓白, 頭髪皓白 *Av-ś.*, *Saddh-p.* 罽 罽 白髪; 罽 頭髪 *Divy.*

palita-keśa 罽 頭白 *Lal-v.*

palita-karaṇa 罽 (罽 -i) 灰色にする.

palita-cchadman 罽 白髪に覆われた.

palita-mlāna 罽 灰色で萎びた.

palita-sīras 罽 髪白 *Saddh-p.*

palitin 罽 白髪.

palpūlana 罽 灰汁; 洗濯用のアルカリ水.

palpūlaya 名動 罽 *palpūlayati* アルカリ水で洗う.

paly-aṅka 罽 寝椅子; 寝台.

paly-aṅg palyaṅgayate. → *Aṅg.*

palyaṅgaya 動 [*Aṅg* の 硬役] 罽 *palyaṅgayate* 廻らせる, 掻き廻す; 罽 廻る, 廻転する.

paly-aya 動 罽 *palyayate.* → *I.*

pallathikā-kṛta 罽 罽 [< paryastikā-kṛta] 罽 肘 隠人(肩) *Vin.* 25.

pallava 1. 名動 罽 *pallavati* 新芽を吹く.

pallava 2. 罽 罽 萌芽, 芽, 小枝 [譬喩的に指・足指 または唇等を示すに用いられる]; 細長い布の小片, (衣服の) 垂れ, えり, ひだ; 罽 枝条, 枝葉 *Aṣṭ-pr.*

pallavaka 罽 放蕩者.

pallava-grāhin 罽 新芽で覆われた = 充滿した, 冗長な, 皮相な(知識).

pallava-dhārin 罽 花をもつ(花等).

pallavana 罽 冗長なこと, 無駄口.

pallavamaya 罽 新芽からなる.

pallavaya 名動 罽 *pallavayati* 新芽を吹く; 伸張する, 広く拡張する; *vācaḥ* ~ 冗長に語る.

pallava-rāga-tāmra 罽 若芽のように赤い色の.

pallavāgra 罽 芽の先端.

pallavāṅguli 罽 指に似た芽.

pallavāpīḍita (°va-āp°) 罽 芽で一杯な.

pallavārghya 罽 葉の供物.

pallavikā 罽 [人名].

pallavita 過受分 [*pallavaya*] 芽をもつ; 十分に開いた; (一°) で満ちた, …に満ちた, …に富んだ.

pallavin 罽 若い芽をもつ.

pallikā 罽 [同下].

palli 罽 小村, とくに蛮人の部落.

palli-pati 罽 小村の酋長.

palvala 罽 小さい貯水池または貯水槽, 池, 水溜まり; 罽 器 *Abh-vy.*

palvala-tira 罽 池の岸.

palvala-paṅka 罽 池の泥.

palvali-Bhū, 水溜まりとなる (*Jāt-m.*).

pavana 1. 罽 (浄化するもの), 風, 微風, 空気; 風の神; 生氣; 息; 家庭の(聖)火; 罽 風 *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.* 罽 浄化用の道具, み(箕); はたき; ふるい(篩), 水漉し; 陶工の窯.

pavana 2. 罽 [= *upavana*. *Pali.* 同] 林, 林のある土地 (*Mah-v.*); 罽 静処 *Lal-v.*

pavana-kṣipta 罽 暴風雨に揺り動かされた.

pavana-cakra 罽 旋風.

pavana-java 罽 [(風のよう)に速い], ある馬の名; 罽 酸 *Divy.*

pavana-tanaya 罽 [(風の子), *Hanumat* および *Bhīmasena* の称].

pavana-padavi 罽 風の路, 空.

pavana-viṣaya 罽 罽 境界風, 諸境界猛風 *Lank.*

pavanāghāta (°na-āgh°) 罽 突風.

pavanātma-ja (°na-āt°) 罽 風の子, 火; [*Bhīmasena* の称].

pavanāhata (°na-āh°) 罽 風に打たれたまたは揺られた; リュウマチにかかった; 罽 猛風吹 *Lank.*

pavanotkampin (°na-ut°) 罽 風の中で震えた.

pavamāna 過受分 → *Pū.* 罽 風; 風の神; [ある *Agni* または *Agni* の子の名], [*Jyotiṣṭoma* 祭における歌詠祭官の歌; ある讃唱の名].

pavamānavat 罽 *Pavamāna* 讃唱を伴った.

pavamāna-sakha 罽 (風の友), 火.

pavamānoktha (°na-uk°) 罽 昼の *Pavamāna* 讃唱に用いられる一連の詩節.

pavi 罽 車の輪; (槍または矢の) 金属性の尖端; *Soma* 压榨石にはめる鉄帯; 電撃.

pavitra 罽 浄化の手段, ふるい(篩), *Soma* を漉す用具; 供物を浄化するために用いる *Kuśa* 草の二枚の葉; 浄めの(際に用いる)聖句; 罽 浄具, 浄草 *Mvyut.*; 吉祥 *Sāṃkhy-k.* 罽 浄化する, 純粹の, 善を行なう, (一°) によって神聖化された.

pavitraka 罽 小さな篩; *Kuśa* 草の(二枚の)葉; 敬意を表わす贈物を容れる器. 一° 罽 *Kuśa* 草の(二枚の)葉の.

pavitra-kīrti 罽 汚れのない名声.

pavitratari-Kṛ, 大いに浄化または神聖化する.

pavitratā 罽 純粹なこと, 清浄なこと.

paviratva 罽 [同上].

pavitra-darbha 罽 物を浄めるまたは神聖な *Darbha* 草.

pavitra-dhara 罽 [人名].

pavitra-pāṇi 罽 手に *Kuśa* 草の葉を持った.

pavitraya 名動 罽 *pavitrayati* 浄化する, 浄める.

pavitra-yoni 罽 汚れのない起源の.

pavitra-lāñcana 罽 神聖なしるし.

pavitravat 罽 浄化の手段をもつ, 浄化器をもつ, 漉す用具をもつ, *Kuśa* 草の葉をもつ; 浄化する, 浄める.

pavitravati 罽 [河の名].

pavitrā 罽 [河の名].

pavitrāropana (°ra-ār°) 罽 (*Kṛṣṇa* 神の像に) 聖紐を着けること, [祭礼の一種].

pavitrārohana (°ra-ār°) 罽 [同上].

pavitrikā 罽 飾りまたは護符(の一種).

pavitrīta 過受分 浄化された, 神聖化された, 祝福された.

pavitrin 罽 浄化する; 純粹な.

pavitri-Kṛ, 純粹にする.

pavitri-BHū, 純粹となる。

pa-*viṣṭa* 過受分 囿 [<pra-*viṣṭa*] 漢訳 住 *Madhy-v.* 122.

Paś 1., [現 賢 のみ] *paśyati(-te)* 見る, 視力を有する; 眺める, 視る; 観察する, 注意する; 凝視する, 傍観者である, 傍観する; 人と会う = 訪ねる, 出頭するまたは(訪問者を) 引見する; 生存して遭遇する, 経験するまたは(幸運などを) 獲得する; 見出す; (業) を (業, -vat 圃) であると見るまたはみなす; 考察する, 思量する; (予言者および詩人の) 心眼で見, (祭儀を) 創見または発見する; 予知する; 漢訳 見, 観, 能見, 観, 観察, 瞻観, 省 *Abh-k.*; *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千.: *ātmānam eva vā aparādhikam paśyati* 或省已過 *Bodh-bh.* 255. *tasya paśyataḥ* 漢訳 彼の眼前で. **na Paś** 見ない, 盲目である. **Paś** ± **sādhu** 弁別する. *paśyāmi* [挿入句として使用する] 私は見る = 私は確信する. **paśya** 囿 見よ, 眺めよ [注意を促すために文の始めまたは中間に間投詞のように用いる]; [また散文の中に詩句を挿入する時にも用いる].

ati- 検分する, 見渡す.

anu- 望見する, 見る, 眺める; 探知する, 発見する; 見直す; 見返す; (園) を (園) とみなす; 考察する.

sam-anu- 望見する, 望む; 認める; 知覚する; (園) を (園) であると考え; 漢訳 見, 観, 能見, 随見, 随彼見, 有所見, 随観見, 随観察, 等観, 正観, 等随観見, 能正随観; 知, 解知 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Prajñ-h.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Śuv-pr.*

antar- その間を見る, のぞき込む.

abhi- 眺める, 観察する; 見る.

ava- …を見る, 観察する.

ā- 見る.

ut- 上を見る; 予知する, 期待する; 知覚する.

pa- [=pra-] 漢訳 能見 *Madhy-v.*

parā- 遠方を見る; (遠方に) 認める.

pari- 検分する, 観察する, 検査する; 知覚する; (園) を (園) であると認める.

pra- 前方を見る; 予知する; 眺める, 観察する, 熟視する; 識別する, 判断する; 知る; (園) を (園) であるとみなす.

prati- 見る, 熟視する; 知覚する; 知る; 生存して遭遇する, 経験する.

vi- (詳細に見る), 識別する, 区別する, 明らかに見る, 知る; 観察する, 知覚する; 漢訳 見, 能了知 *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.*

sam- 同時に見る, 検分する; 見る, 知覚する, 認める; 検査する, 検閲する; みなす, 考える; (園) を (園) とみなす; 通算する, 合算する, 概括する; 漢訳 観 *Rāṣṭr.* 現分 *sampaśyat* 漢訳 観見, 観察, 正観 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; *sampaśyamāna* 漢訳 見, 等見 *Mvyut.*, *Saddh-p.* *yasya sampaśyataḥ* 圃 圃 その人の眼前で.

Paś 2. → *pāśaya* (縛る).

paśavya 圃 家畜に関係のあるまたはに適する. 圃

[*kāma* とともに] 性愛, 性交.

paśu 圃 (一頭または一群の) 家畜, 家畜 [*mṛga* (野獣) に対して牛・馬・山羊・羊・ろば・犬等を総称する]; 獣, 禽獣; 供犠用の動物, 犠牲; 漢訳 牛; 羊; 獣; 諸獣, 畜, 畜生, 頭畜 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Laik.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵難.

paśu-kalpa 圃 獣を犠牲とする祭式.

paśukā 圃 幼い家畜.

paśu-kāma 圃 家畜を欲する.

paśu-ghna 圃 獣類を殺す. 圃 屠牛者.

paśu-caryā 圃 動物的行為, 性交.

paśutā 圃 供犠用の動物たること; 家畜たること; 獣性.

paśu-trp 圃 家畜の群を盗む.

paśutva 圃 = *paśutā*.

paśu-dharma 圃 獣類の習性, 獣類の取扱い方.

paśu-dhānya-dhana-rddhimat 圃 家畜と穀物と財産に富んだ.

paśu-pa 圃 家畜を守る. 圃 牧人.

paśu-pati 圃 [(獣主), *Śiva* 神の称]; 漢訳 畜主, 獸主 *Mvyut.*

paśupati-nandana 圃 [*Gaṇeśa* の称].

paśu-pāia 圃 獣群の守護者, 牛飼い; 圃 [*Madhyadeśa* の東北に住む住民の名].

paśu-pālaka 圃 牛飼い; 漢訳 牧人, 放牧人, 放羊者, 守羊人 *Aṣṭ-pr.*, *Dīvy.*

paśu-pālana 圃 牧畜 (*Jāt-m.*).

paśu-pālavat 圃 牛飼いの慣習に従って.

paśu-piḍita 圃 家畜によって生ぜしめられた損害.

paśu-bandha 圃 (犠牲の柱に犠牲獣を繋ぐこと), 獣類の供犠, 供獣祭.

paśumat 圃 家畜と関係のある, 家畜に富んだ; *paśu* という語を含んだ.

paśu-māraka 圃 家畜の殺害したお供犠を伴う.

paśu-māram 圃 家畜を殺害するように.

paśu-māreṇa 圃 [同上].

paśu-rakṣin 圃 家畜の番人, 牛飼い.

paśu-ratha-gatika 圃 漢訳 羊車行 *Śikṣ.*

paśu-roman 圃 動物の毛.

paśuvat 圃 禽獣のように; 家畜に対するように.

paśu-vadha 圃 動物の屠殺者.

paśu-vrata 圃 家畜のように振舞う; 犠牲獣としての任務に服する (*Jāt-m.*).

paśu-śirṣa 圃 動物の頭.

paśu-sakha 圃 [ある *Sūdra* の名].

paśu-samāmnāya 圃 (*Aśva-medha* 祭において) 供犠用の動物を列挙すること.

paśu-samāmnāyika 圃 *paśu-samāmnāya* の中に挙げられた.

paśu-sambhava 圃 動物から生じた(肉・油脂・蜜・バター等).

paśu-soma 圃 圃 供獣祭と *Soma* 祭.

paśu-han 圃 (圃 -*ghni*) 獣類を殺す.

paśu-havya 圃 供獣祭.

paśū-Kṛ, 牝牛または供犠用の獣にする.

paśca 圃 後部の; 後の.

paścā (圓) 副 (因) 背後に、後部に；西方に；後刻。
 paścāc-chramaṇa 男 [Pali pacchā-samaṇa] 行乞の
 際長老に随行する下位の沙門 (Av-ś.); 随従沙
 門 Mvyut.
 paścāt (圓) 副 背後に、後方に、後に；後方へ；西
 方から、西方に；西方へ；後刻、今後、その後 [時と
 して重複的に 不変分 とともに用いられる]；副 [從
 および 圓 とともに] 後に；…の西方へ；後、後
 時、於後時、於後、然後；已；随 Abh-vy., Av-ś.,
 Bodh-bh., Buddh-c., Lan̄k., Madhy-v., Rāṣṭr.,
 Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vajr-pr., 梵千.: sarva~
 最後 Abh-vy. 228. tataḥ~ その後、そこで；過
 是已後 Saddh-p. 220.
 paścāt-kāla 男 将来；因 後に；後世 Saddh-p.:
 ~e sudāruṇe 於後惡世 Saddh-p. 278.
 paścāt-Kṛ, 置き去りにする、凌駕する；後方に置くま
 たは輕蔑する。
 paścāt-tāpa 男 後悔、悔恨。
 paścāt-tāpaṃ-Kṛ, 後悔する。
 paścāttāpa-samanvita 形 後悔の念に驅られる。
 paścāttāpa-hata 形 [同上]。
 paścāt-tāpin 形 後悔する。
 paścāt-pādaka 形 後句、順後句、言合下 Abh-
 vy., Mvyut.
 paścāt-puro-māruta 男 圓 東風と西風。
 paścāt-phala 中 後果 Bodh-bh.
 paścātphalānuvartanātā 因 後果随轉 Bodh-bh.
 paścād-ahas 副 午後に。
 paścād-baddha-puruṣa 男 後手に縛られた男。
 paścād-bāhu-baddha 形 後手に縛られた。
 paścād-bhakta 中 後食、食後 Prāt-m.; 半日
 Saddh-p.
 paścādbhakta-piṇḍa-pāta-pratīkrānta 形 昼食後(午
 後)の托鉢から帰った (Av-ś., Divy.).
 paścād-bhaktika 男 食後不飲漿、飲食已後不復
 漿 Aṣṭ-pr.; 中後不食 Śikṣ.
 paścād-bhāga 男 後部。
 paścān-māruta 男 後方から吹く風 [puro-māruta の
 対]。
 paścān-mukha 男 ~o ni-Vṛt 還、還至 Śikṣ.
 ~m-Kṛ 還、退居 Śikṣ.
 paścānmukhāśrita (°kha-ās°) 形 西に向いた。
 paścārdha 男 後部、西側。~e (圓) の後方に。
 paścima 形 後の；西方の；最後の、最近の、終りの；
 後、最後、末後、最為後、最後末、末、後末、
 終 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy.,
 Lan̄k., Madhy-v., Saddh-p., Sam-r., Vajr-pr.;
 西、西方 Abh-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., 梵千., 梵
 雜.: ~āyā janatāyāḥ 後世、末世中一切衆生 Aṣṭ.
 pr. 400; ~e kāle 末代時、於末世中、於末代後世
 時 Sam-r. 68; ~e janmani 最後生 Bodh-bh. 74.
 → a~. ~m darśanaṃ draṣṭum 最後に見るべ
 く。~ākriyā 因 (最後の儀式) 火葬。~ā velā 因
 夕刻、昼の終り。~ā samdhyā 因 夕暮の薄明。
 paścimaka 形 後、最後、最後末 Saddh-p.
 paścima-kāla 男 後時、末法時 Mvyut., Rāṣṭr.;

未来時 Rāṣṭr.; 過去時 Mvyut.

paścima-cittotpāda (°ta-ut°) 男 後心、後心起
 Aṣṭ-pr.
 paścimatas 副 背後から。
 paścima-dvāra 中 西門 Guhy-s.
 paścima-rātra 男 夜半。
 paścimā 因 [diś とともに] 西。
 paścimācala 男 「西山」[太陽がその後方に没すると
 想像された伝説上の山]。→ astācala.
 paścimāmbudhi 男 西方の大海。
 paścimāsanika (°ma-ās°) 形 (象の背の)後の席に坐
 った。
 paścimetara (°ma-it°) 形 (西の反対)、東方の。
 paścimottara (°ma-ut°) 形 西北方の；西北
 Saddh-p.
 paścimottara-pūrva (°ma-ut°) 形 西方か北方かまた
 は東方の。
 paścimottarā (°ma-ut°) 因 西北 Mvyut.
 paśya 形 (因-ā) 見る；正しい見解をもつ。
 paśyaka 男 見、見者、能見者、可見 Lan̄k.,
 Mvyut., Suvik-pr. → a~.
 paśyat 現分 見る、眺める等；見、正見 Abh-vy.,
 Lan̄k.
 paṣṭhauhi 因 五歳の牝牛、若い牝牛。
 pastya 中 畜舎、住居。
 pastyā 因 家屋敷、住所、家族。
 pahlava 男 圓 パルティア(安息国)人またはペルシア
 (波斯)人。
 Pā 1., II. 圓 pāti (因); I. 圓 (圓) pibati(-te) 飲む、
 痛飲する；(圓, 因 はまた 圓) を吸収する；吸う、す
 する；呑む；引き入れる；(圓) で (耳または目 圓)
 を楽しませる、楽しむ；(生命・血潮を)飲みほす[剣
 または矢について]；(財宝を)使い尽す；持ち去る、
 摂取する；飲、受潤 Abh-vy., Av-ś., Lal-v.,
 Saddh-p., 梵雜. 現分 pibamāna → dharma-megha
 ~. 過受分 pita 飲まれた、痛飲された、吸われ
 た、吸収された、(煙に)引きこまれた；(聞くのに)
 夢中となった；使い尽くされた、浪費された；副 [一
 般に 一°] 飲んだ；(油に)浸した(武器)。過能分 pi-
 tavat 飲んだ。使役 圓 自 pāyayati(-te) 飲ませる；
 飲 Abh-vy. 希求 圓 pipāsati 飲みたいと思
 う、渴く。希求 過受分 pipāsita 渴いた。強意 圓
 pepiyate 熱心にまたは幾度も幾度も飲むまたは酩酊す
 る。
 ati- 使役 atipāyayati (圓)を(圓)に多く飲ませる。
 anu- …の後に飲む。
 ā- 飲む、飲み下す、吸う；(耳目で 圓) 受け入れる；
 吸収する、消失させる。
 sam-ā- 吸い込む。
 ni- 吸い込む、すすりこむ、吸う。
 vi-ni- 熱心に吸い込む。
 niṣ- (圓) から飲む；飲みほす、吸い尽す。
 pari- (人 圓) の前後に飲む；飲みほす、吸い尽す；
 煙をふかし尽す；奪う。過受分 paripita 研究し尽
 した。
 pra- 飲み始める；飲む、吸い込む。

anu-pra- 罍 順次に飲む；罍 (罍) の後に飲む。

vi- たくさん飲む。

sam- 罍 共に飲む。

Pā 2., II. 罍 pāti (罍 を防ぐために) 監視する・保管するまたは保護する；支配する，統御する；観察する，認める；顧慮する，保つ，従う。

abhi- 監視する，見張る；観察する。

ni- 監視する，見張る；(罍 を防ぐために) 保護する；観察する。

pari- 周囲を保護する，保存する；支持する，保つ。

Pā 3., III. 罍 pipite

ut- 反抗する，敵対する，に敵意を示す。

anût- (罍) を襲うまたはに突撃する。

・praty-ut (罍) に反抗する。

-pā 1. 罍 飲む。

-pā 2. 罍 監視する，保護する。

pāṁsana 罍 (罍-i) (一°) を汚す，…を辱しめる。

pāṁsava 罍 (=pāṁsava)。

pāṁśu 罍 [=pāṁśu] 罍 地；砂；土，乾土；塵，埃塵，埃塵土，塵坩，坩，泥団，滋灰 Lal-v., Lanik., Raṣṭr., Sūtr., 梵雜.; 不浄 Lal-v.

pāṁśu-kūla 罍 糞掃衣 Lal-v.

pāṁśu-kūlika 罍 糞掃衣 Dharm-s.

pāṁśu-kriḍā 罍 聚沙為戲，弄沼嬉戲 Gaṇḍ-vy.

pāṁśu-dāna 罍 沙施 Divy.

pāṁśu-vaśa 罍 滋灰力 Sūtr.

pāṁśv-avakirṇa-sīraska 罍 塵土全身 Gaṇḍ-vy.

pāṁsava 罍 塵からなる。

pāṁśu 罍 [=pāṁśu] 微塵，砂塵；[一般に 罍] 塵，砂；罍 土，塵，塵土，灰 Kāśy., Lal-v., Saddh-p.; 糞掃 Mvyut.

pāṁśuka 罍 塵，砂。

pāṁśu-kūla 罍 塵埃の山および塵埃の山から集められたぼろ [仏教僧徒は自らそれを縫い合わせて衣とする]；罍 糞掃衣 Divy., Mvyut. → pāṁśu°.

pāṁśu-kūlika 罍 拾い集めたぼろを縫い合わせた衣をまとった；罍 糞掃衣，著糞掃衣，著納衣，著衲衣，著弊衲 Aṣṭ-pr., Mvyut. → pāṁśu°.

pāṁśu-kriḍana 罍 砂遊び。

pāṁśu-kriḍā 罍 [同上]. → pāṁśu°.

pāṁśu-guṇṭhita 罍 塵に覆われた。

pāṁśu-dhvasta-sīro-ruha 罍 頭髮の塵に覆われたすなわち頭髮の汚れた。

pāṁśu-piśāca 罍 [悪鬼の一種] (Lal-v.).

pāṁśu-rajasa 罍 塵 Saddh-p.

pāṁśula 罍 塵の多い，塵に汚れた；砂の多い；汚れた，穢れた；一° 辱しめる。

pāṁśula-sarīra 罍 灰糞塗身，遍体蒙塵土 Suv-pr.

pāṁsulā 罍 放埒な女，妾。

pāṁśu-varṣa 罍 塵の雨。

pāṁśu-vikarṣaṇa 罍 =pāṁśu-kriḍana.

pāṁśu-saṁcaya 罍 砂の堆積。

pāṁśu-samūhana 罍 塵を巻き上げる。

pāṁśu-hara 罍 [同上].

pāka 1. 罍 [成熟の過程にある，未熟な：Pac；吸うまたは乳を飲む：Pā 1.] 幼い；単純な，無知な，正直な，罍 (動物の)子。

pāka 2. 罍 [一° は 罍 (罍-i)] 煮ること，焼くこと；沸騰すること；(煉瓦・土器を)焼くこと；消化；熟すこと，成熟すること；(行為の)結果の現われること，成就，完成；結果；成熟，十分な発達；[ある悪鬼の名]；罍 熟，熟変，成熟；膿 Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Sūtr., 梵雜., 梵千.

pāka-kriyā 罍 料理。

pāka-ja 罍 煮または焼いて作られた。

pāka-jatva 罍 [同上 罍].

pākatrā 罍 単純に，誠実に，悪なくみなく。

pāka-dūrvā 罍 きび(黍)(の一種)の苗。

pāka-bhāṇḍa 罍 料理鍋。

pāka-yajña 罍 簡単なまたは調理した供物を捧げる家庭的祭儀。

pākala 罍 全く黒い。罍 [熱病の一種]；象の熱病。

pāka-sāsana 罍 [(Pāka 鬼を懲罰するもの), Indra 神の称].

pāka-sāstra 罍 料理法。

pākāgāra (°ka-āg°) 罍 または 罍 台所，炊事場。

pākya 罍 煮るのに適した，食べられる；罍 熟，所熟 Abh-vy., Madhy-vibh.

pākya 罍 単純：[罍 pākya のみ] 単純に，無知で。

pākṣa-pātika 罍 党派的な，偏した(話)。

pākṣika 罍 (罍-i) 党派的な，どちらか一方を選ぶべき，任意の，ある場合にのみ適用できる；罍 分；朋党，眷属；宗，立義 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Lal-v.

pāñkta 罍 五部からなった，五倍の，Pañkti 韻律によって構成された。

pāñkti-hari 罍 [人名].

pāñkteya 罍 ある団体に所属する価値のある。

pāñktya 罍 [同上].

pācaka 罍 (罍-ikā) 煮る，焼く；消化力のある；成熟させる；罍 成生 Sūtr.

pācana 罍 煮え上らせる；溶解力のある，消化力のある。罍 熟 Sūtr.; 生薪 Divy.

pācanā 罍 成生 Sūtr.

pācika 罍 成生 Sūtr.

pācita 罍 使役 過受分 → Pac. 罍 熟 Sūtr.

pācya 罍 未受分 煮られるべき，完成させられるべき。

pāja 罍 [人名].

pājaka 罍 [人名].

pājas 罍 元気；輝かしいこと，光輝。

pājasya 罍 (動物の)腹部，脇腹。

pāñca-jani 罍 [Asikni の 罍系].

pāñca-janya 罍 五種族に関する。罍 [悪魔 Pañca-jana から取った Kṛṣṇa 神のほら貝].

pāñcadaśika 罍 [pañca-daśa から] [太陰暦第十五日の祭儀に与えられる食物]；罍 望筵 Mvyut.

pāñca-daśya 罍 [pañca-daśa から] 月の第十五日に関する。

pāñca-nakha 罍 (罍-i) 五つの爪をもつ動物の皮で作られた。

pāñca-nada 罍 Pañca-nada (Pañjab) 地方で広く行

なわれる。男 *Pañca-nada* の王侯：[音写] *Pañca-nada* の住民。
pāñcabhautika 形 [pañca-bhūta から] 五要素からな
 ったまたはを含む。[ādāna 田 とともに] 五要素の受
 納。
pāñcamika 田 [太陰曆第五日の祭儀に与えられる食
 物]；[音写] 五筵，五分筵 *Mvyut.*
pāñcayajñika 形 [pañca-yajña から] 五種の祭式に属
 するまたは関する。
pāñca-rātra 男 田 [Pañca-rātra と名づける経典を
 所依とする *Viṣṇu* 教徒の一派の名]。
pāñca-rātrika 形 五昼夜継続する。男 [Viṣṇu 神の
 称]。
pāñca-śara 形 (因 -i) (五本の矢を身に帯びた) *Kama*
 神に属する。
pāñcāla 形 (因 -i) *Pañcāla* 族に関するまたは属する，
Pañcāla 族を支配する。男 *Pañcāla* の王侯：[音写]
Pañcāla の住民；[音写] [地名] 持五 *Mvyut.*；[音写]
 般遮羅 *Divy.*
pāñcāla-putrikā 因 [Draupadi の称]。
pāñcāla-rājan 形 [音写] 持五王 *Mvyut.*
pāñcālikā 因 人形。
pāñcāli 因 *Pañcāla* の王女，[とくに *Draupadi* の称]。
pāñcika 男 [Yakṣa の首領の名]；[人名]；[音写] 第五，
 五層，玩五；[音写] 半邪鬼神 *Divy.*，*Mvyut.*，*Suv.*
pr.；[音写] 般遮迦，半之迦 *Lal-v.*，*Suv-pr.*
pāñci-grāma 男 [ある村落の名]。
pāṭa 男 切断，接合点；序列；音楽の演奏(?)；[音写]
 破 *Abh-vy.*
pāṭaka 男 分割する者，引き裂く者。
pāṭac-cara 男 盗人，強盗。
pāṭaṇa 田 裂くこと，切り裂くこと；押し割ること；
 引き裂くこと；押し破ること；[音写] 破，散乱 *Bodh-*
bh.，*Mvyut.*
pāṭaniya 未受分 ばらばらに引き裂かれるべき。
pāṭa-pāṭika 男 (?) [音写] 遇一二次 *Mvyut.*
pāṭaya 名動 (隙間風が)吹き込んで涼しくする。
pāṭala 形 淡赤色の。男 淡赤色，ばら色；[らっぱ状
 の花をつける樹の名，学名 *Bignonia suaveolens*]；
 [音写] 灰色 *Mvyut.*；[音写] 波羅羅，波羅羅(華香)，
 波吒羅(花) *Lal-v.*，*Saddh-p.*
pāṭala-kīṭa 男 昆虫(の一種)。
pāṭala-gaṇḍa-lekha 形 赤い頬をした。
pāṭala-taila-pradipa 男 [音写] (音写) 波羅羅油灯
Saddh-p.
pāṭalaya 名動 他 *pāṭalayati* 淡赤色に染める。
pāṭalā 因 = *pāṭala*；[音写] (音写) 播吒羅樹 *Divy.*
pāṭalāvati 因 [*Durgā* の称]；[河の名]。
pāṭali 因 (または -i) *Pāṭala* 樹 [学名 *Bignonia su-*
aveolens]；[音写] (音写) 波吒釐，波吒梨 立応。
pāṭalika 田 [都市の名，= *Pāṭali-putra*]。
pāṭalin 形 *Pāṭala* 樹の花のある。
pāṭali-putra 田 [*Magadha* すなわち *Bihar* の主都の
 名，ギリシア人のいう *Palibothra*，かつて *Ganges*
 河と *Sone* 河とが合流した所で現今の *Patna* の付
 近]；[音写] 花氏城，華氏城 *Divy.*；[音写] 波吒利弗

多，波吒利弗多(城) *Divy.* 男 [音写] *Pāṭali-putra* の
 住民。
pāṭali-putraka 形 同上に関する。田 [同上 田]。
pāṭaliputra-nāmadheya 形 *Pāṭali-putra* と名づけ
 る。
pāṭaliman 男 淡赤色，ばら色。
pāṭali 因 [都市の名]；[王女の名]。
pāṭali-Kṛ，赤色に染める。
pāṭali-vṛkṣa 男 [音写] (音写) 波吒羅樹 *Gaṇḍ-vy.*
pāṭalopala (°la-up°) 男 ルビー(紅玉石)。
pāṭava 田 鋭利，激烈；(因)に熟練すること，…に
 巧妙なること；(一°)に急速なこと。
pāṭavika 形 巧妙な，狡猾な。
pāṭita 使役 未受分 → *Paṭ.*
pāṭi-pati 男 軍の司令部。
pāṭha 男 暗誦；学習；原典；(経典の)朗読；[音写] 誦，
 誦誦，念誦，誦念，誦 *Abh-vy.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.*；
 説，文句，章句，句義 *Abh-vy.*，*Lank.*
pāṭhaka 男 暗誦者，朗読者；学習者；(一°)の学
 者，教師。
pāṭhana 田 教授すること。
pāṭhavat 形 学問のある，博学な。
pāṭha-svādhyāya 男 [音写] 誦誦 *Śikṣ.*
pāṭhācārya (°ṭha-āc°) 男 [音写] 教念師，誦念師，教
 誦念師；[音写] 教誦阿遮利耶 *Mvyut.*
pāṭhin 形 (一°)を研究する，…に精通した。
pāṭhina 男 [なまずの一種，学名 *Silurus pelorius*]。
pāṭhya 未受分 暗誦されるべき；教えを必要とする。
pāṇa 男 賭博の賭金。
pāṇavika 形 太鼓に関する。
pāṇi 男 手；[音写] 手，掌 *Abh-vy.*，*Bodh-bh.*，*Gaṇḍ-*
vy.，*Lal-v.*，*Lank.*，*Mañj-m.*，*Mvyut.*，*Prat-m.*，
Saddh-p.，*Sāṃkhy-k.* ~ṃ *Grah* (少女の)手をと
 る，結婚する。~ṃ *Dā* (結婚式において花嫁の)手
 を与える，結婚させる。~*bhyām* *pari-Grah* [音写]；
 両手承捧 *Gaṇḍ-vy.* ~*ṇau hanum upādāya* [音写]，
 掌扶頰 *Prat-m.* 一° 形 手に(あるもの)を持っ
 た；[音写] 持，手持，執，執持，捉 *Mvyut.*，*Prat-*
m. → *āyudha* ~，*khadga* ~，*chattrā* ~，*daṇḍā*
 ~，*pātra* ~，*śāstra* ~。
 -*pāṇika* 形 = *pāṇi* (一° 形)。
pāṇikā 因 [歌の一種]。
pāṇi-kulīśa 田 その脚が雷電のようなものすなわち獅子。
pāṇi-gata 形 すでに…を手にする(と同様)な，手中
 にある。
pāṇi-graha 男 (少女の)手をとること，結婚。
pāṇigraha-kara 男 手をとる者，法律の認める夫。
pāṇi-grahaṇa 田 結婚。
pāṇi-grahaṇika 形 結婚に関する。
pāṇi-grāha 男 手をつかむ者，花婿；夫。
pāṇi-grāhaka 男 [同上]。
pāṇi-grāham 不変分 手をとって。
pāṇi-cāpala 田 両手をもじもじさせること，指を鳴ら
 すこと。
pāṇi-cāpalya 田 [同上]。

pāṇi-ja 男 指の爪。
 pāṇi-tala 中 掌；[漢訳] 掌, 手掌 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 pāṇitala-jāta 形 [漢訳] 如掌 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*: sama ~ (其地) 平坦如掌, 平坦如掌 *Gaṇḍ-vy.* 166.
 pāṇitala-saṃdhāraṇa 形 [漢訳] 掌擎 *Gaṇḍ-vy.*
 pāṇi-tāla 男 [音楽の拍子の単位].
 pāṇi-dharma 男 結婚の形式.
 -pāṇin 形 = pāṇi (一° 形).
 pāṇini 男 [古典サンスクリット語文法を大成確立した大文法学者の名]; [漢訳] 名手 *Lank.*; [音写] 波尼, 波膩尼, 巴密尼 *Lank.*, *Mvyut.*
 pāṇiniya 形 *Pāṇini* に関するまたはが作った. 男 *Pāṇini* 派の学徒. 中 *Pāṇini* の文法.
 pāṇi-paṅka-ja 中 蓮(のような)手.
 pāṇi-parimārijita 形 [漢訳] 手摩 *Saddh-p.*
 pāṇi-pātra 形 手を飲器として用いる, 手で飲む.
 pāṇi-pāda-capala 形 手足をそわそわ動かす.
 pāṇi-piḍana 中 (少女の)手を握りしめること, 結婚.
 pāṇi-puta 男 くぼめた手, 手のひらのくぼみ.
 pāṇi-putaka 男 [同上].
 pāṇi-pūra 形 手に一杯の.
 pāṇipūrāṇna 中 一握りの食物.
 pāṇi-pranayitā 女 [同下 翻]: ~ṃ samupāgata 手にとった(剣).
 pāṇi-pranayin 形 手を求める.
 pāṇi-pranayini 女 (夫の)手に愛せられるもの, 妻.
 pāṇi-pradāna 中 (約束を確実にするために)手を差し出すこと.
 pāṇi-bandha 男 (結婚において)手を結び合わすこと.
 pāṇimat 形 手のある.
 pāṇi-mita 形 手で長さを測られたまたは測られる.
 pāṇi-mukha 形 手の代わりに口を用いる(婆羅門).
 pāṇi-yuga 中 [漢訳] 両手 *Rāstr.*
 pāṇi-rekhā 女 掌の線糸.
 pāṇi-lekha 男 [漢訳] 手文 *Mvyut.*
 pāṇi-vāda 中 拍手.
 pāṇi-vādaka 男 拍手する人.
 pāṇi-saṃgraha 男 (約束を守るしるしとして)手を握ること.
 pāṇi-saṃgrahana 中 [同上].
 pāṇi-stha 形 手中にあるまたは持った.
 pāṇi-svanika 男 拍手する人.
 pāṇi-svara 男 または 中, [*Pāli* pāṇi-ssara] 手をたたくこと; [手拍子に合わせて唱誦することまたは歌うこと] (*Mah-v.*).
 pāṇi-svaraka, °ika 形 pāṇi-svara を行なう (*Mah-v.*).
 pāṇi-tala 中 [漢訳] 掌 *Śikṣ.* 302.
 pāṇiya-sthālaka 中 (?) [=pāṇiya°] [漢訳] 飲器 *Vin.* 191.
 pāṇḍara 形 淡黄色の, 青白い, 白色の; [漢訳] 白, 黄 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Manj-m.*, *Saddh-p.*, 梵雜.
 pāṇḍaraka 男 [漢訳] [竜王の名] 明白, 白浄, 潔白 *Mvyut.*
 pāṇḍara-danta 形 齒または牙の白い(象).

pāṇḍara-bhikṣu 男 [漢訳] 白色乞者 *Mvyut.*
 pāṇḍara-vāsas 形 白い衣服を着けた, 鮮黄色の (Soma).
 pāṇḍara-vāsini 女 [漢訳] 白衣, 具白衣, 白衣母 *Guhys.*, *Mvyut.*
 pāṇḍarā 女 [仏教神話のある女神の名].
 pāṇḍarin 男 [修道者の一種].
 pāṇḍala 形 [漢訳] [=pāṇḍara] 鮮白 *Suv-pr.*
 pāṇḍala-meghā 女 [ある Nāga の少女の名] (*Kār-vy.*).
 pāṇḍava 男 [*Pāṇḍu* からの 父系]; [地方の名]; [山の名]. 中 *Pāṇḍu* の(五人の)息子または *Pāṇḍava* 族の味方; [漢訳] [山の名] 白山 *Buddh-c.*; [音写] [王の名] 般荼婆, 槃荼婆, 半荼縛, 半拈婆, 班陀波 *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.* 形 (女 -i) *Pāṇḍu* の子孫に属する.
 pāṇḍava-rṣabha 男 [*Arjuna*, *Bhimasena*, *Yudhiṣṭhira* の称].
 pāṇḍava-śreṣṭha 男 [*Yudhiṣṭhira* の称].
 pāṇḍavānika 中 *Pāṇḍava* の軍.
 pāṇḍaviya 形 *Pāṇḍu* の子孫に属する.
 pāṇḍaveya 形 [同上]. 男 中 *Pāṇḍu* の息子または *Pāṇḍava* 族の味方.
 pāṇḍitya 中 学識, 博学, 学問; 伶俐; 熟練, 巧妙; [漢訳] 有智, 聡敏, 覚明 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 pāṇḍiman 男 青白色.
 pāṇḍu 形 (=女) 黄白色の, 白色の, 青白色の. 男 [*Indraprastha*(現在の *Delhi* 近辺)の主権者の名, *Vyāsa* の息子で *Dhṛtarāṣṭra* の兄弟]; 中 [民族の名] = pāṇḍava; [漢訳] [竜王の名] 青明, 黄白 *Mvyut.*
 pāṇḍuka 男 [漢訳] [伏蔵の名] 般逐迦 *Divy.*
 pāṇḍu-kambala 男 白い羊毛の覆いまたは毛布.
 pāṇḍukambala-silā 女 [天国の一部の名] (*Divy.*); [漢訳] [*Pāli* pāṇḍu-kambala-silā] 宝石殿 *Av-s.* II. 89.
 pāṇḍukambalaśilā-tala 中 [漢訳] 如天清涼風石 *Mvyut.*
 pāṇḍukambala-saṃvṛta 形 白い毛布に覆われた.
 pāṇḍu-kambalin 形 [同上] (*Jat-m.*).
 pāṇḍu-cchāya 形 白色の.
 pāṇḍu-tanaya 男 [*Arjuna* の称].
 pāṇḍutā 女 黄白色, 青白色.
 pāṇḍu-dukūla 中 死体に巻く白布 (*Lal-v.*).
 pāṇḍudukūla-sivana 中 [釈尊が屍体に巻く白布を作った場所の名] (*Lal-v.*).
 pāṇḍu-nandana 男 *Pāṇḍu* 王の子; [*Arjuna* の称].
 pāṇḍu-pattra 中 黄色の(=しなびた)葉.
 pāṇḍupattrodara (°ra-ud°) 中 黄色の葉のがく(萼).
 pāṇḍu-palāsa 男 [漢訳] 黄葉 *Mvyut.*
 pāṇḍu-putra 男 *Pāṇḍu* の子; [*Arjuna* の称].
 pāṇḍu-prṣṭha 形 (白い背をもつ), その人からあまり大きな期待ができない.
 pāṇḍu-bhūma 男 青白い(白聖質の)土壌.
 pāṇḍu-mṛttika 形 白いまたは白聖質の土をもつ.
 pāṇḍura 形 白色の, 白い, 青白い; [漢訳] 白, 淡白 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*
 pāṇḍuraka 形 (女 -ikā) 白色の (*Divy.*); [漢訳] 白

Divy.

- pāṇduratā 因 白色。
 pāṇdura-prṣṭha 因 = pāṇdu-prṣṭha.
 pāṇduraya 名動 因 pāṇdurayati 黄白色に彩る。
 pāṇdura-vāsin 因 白い衣服を着た。
 pāṇdurita 過受分 黄白色に彩られた。
 pāṇduriman 男 青白色。
 pāṇduri-Kṛ, 黄白色に彩る。
 pāṇdu-roga 男 黄疽; 因 癩症, 瘰癧(?) Mvyut.
 pāṇdu-lekha 因 (白墨または石墨で画いた)下書または模写。
 pāṇdu-loha 因 銀。
 pāṇdu-varṇa 因 青白色の。
 pāṇdu-sikata 因 白砂で撒かれた。
 pāṇdu-suta 男 = pāṇdu-putra.
 pāṇdu-sūnu 男 [同上]。
 pāṇdu-sopāka 男 [cāṇḍāla を父とし vaidehi を母とする混血種姓(階級)].
 pāṇdu-saupāka 男 [同上]。
 pāṇḍya 男 因 [Deccan 地方の住民の名]; 因 Pāṇḍya 族の王侯; [山脈の名]。
 pāṇḍya-nareśvara (°ra-iś°) 男 Pāṇḍya 族の王または主権者。
 pāṇḍya-nātha 男 [同上]。
 pāṇḍya-rāja 男 [同上]。
 pāṇḍya-rāṣṭrādhipa 男 [同上]。
 pāṇḍv-āvika 因 白い羊毛の衣服または織物。
 pāṇy-abhiṣekādhiṣṭhāna 因 因 手灌頂神力, 手摩(菩薩)頂住持力 Lank.
 pāṇy-āpti 因 因 執手, 捉手 Abh-k., Abh-vy.
 pāṇy-āśya 因 = pāṇi-mukha.
 pāta 男 飛びかた, 飛翔; (因) に身を投ずること; (因) からまたは (因) に落ちること; 投ずること, 射撃, 打撃; 崩壊, 死亡; (目または視線を)向けること; (血の)滴り; (膏薬の)貼用, (小刀の)使用; 事情, 可能性; 進み入ること, 出現; (一°から, へ, の中に, の上に; に)落ちること; 因 隕, 退, 崩, 倒, 墮, 落, 墮落 Abh-vy., Bodh-bh. → aśru~.
 pātaka 因 (一°) を落す。 (男) 因 その種姓(階級)を失う犯罪または罪悪。
 pātakitva 因 罪のあること, 犯罪者たること。
 pātakin 因 罪のある, 邪悪な; 因 業障 Mvyut.
 男 犯罪者; 因 違法者 Mvyut.
 pātaṃ-ga 因 (因-i) 蛾特有の; 褐色の。
 pātañjali 因 Patañjali の作った。 男 Patañjali の Yoga 派の遵奉者; 因 [=Patañjali, 古師の名] 随水 Mvyut. 因 Patañjali の Yoga 説, Patañjali の Paṇini 文法註釈書 Mahā-bhāṣya.
 pātana 因 倒す, 斬り倒す。 因 落すこと, 投げ下ろすこと, (さいころを)投げること; 打ち破ること, 打ち倒すこと; 因 墮; 打, 壊, 断, 殺, 傷破 Mvyut., Raṣṭr., Śikṣ.: mahā-naraka~ 墮大地獄 Śikṣ. 76. → garbha~, bija-grāma~, bhūta-grāma~.
 garbhasya~ 墮胎させること。 daṇḍasya~ 鞭の罰, 懲罰。
 pātaniya 未受分 (因) に投ぜられるべきまたはを的と

して射られるべき。

- pāyantika 因 因 音写 波夜提, 波逸提 Prat-m.: ~ā dharmāḥ [Pāli pācittiyā dhammā] 波逸提法 Prat-m. 502.; niḥsārgikāḥ ~ā dharmāḥ [Pāli nissaggiyā pācittiyā dhammā] 尼薩耆波夜提法 Prat-m. 490.
 pāyitr 男 (さいころを)投げる者。
 pātalikā 因 因 袋 Mvyut.
 pāvya 1. 未受分 飲まれるべき。
 pāvya 2. 未受分 守護されるべき。
 pātāla 男 因 (蛇族または魔類の住む地下の場所または都と想像される)下界; [七地獄の一名]; 因 地, 地下, 深坑, 深險, 淵, 海 Gand-vy., Lal-v., Lank., Mañj-m.
 pātāla-ketu 男 [Daitya 族の王侯の名]。
 pātāla-tala 因 地獄の底: ~m yātu 地獄に墮ちるがよい。 ~m 因 地獄の底へ。
 pātita 使役 過受分 → Pat 1. 因 摧, 摧壞 Divy., Lal-v.
 pātitya 因 身分または種姓(階級)の喪失。
 pātin 因 飛んでゆく; (因) に降る; (一°) に落ちるまたは沈む; 一° 起きる, 現われる(雲); (...) を落すまたは落させる, ...を切り倒す, ...を打ち倒す。
 pāti-vratya 因 夫婦の貞節, 夫に対する貞操。
 pāti 因 因 [<pātri]; 因 火供漏杓 Mvyut.
 pātuka 因 落ちる, 種姓(階級)を喪失する, 地獄に落ちる。
 pātr 1. 男 (因, 一°) の飲用者。
 pātr 2. 男 (因, 因, 一°) の守護者。
 pātotpāta (°ta-ut°) 男 因 転倒と再起, 浮沈。
 pātra 因 (飲用の)容器, 鉢, 盃, 浅い皿, 深い皿; 河床; 容器; 受け容れる者; (因, 一°) の器=...に富む人, (因) の主; (因, 因, 不定, 一°) に適する人, ...の資格ある人または価値ある人; 俳優; 俳優の役; 因 盃, 応器 Av-s., Divy., Lal-v., 梵千.; 船舶 Daś-bh.; (音写) 鉢盃 Lank.; (音写) 鉢, 薄, 鉢多羅, 波多羅 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut., Sa-ddh-p., Vajr-pr., 梵千., 梵雜.; 玄応. → a~dānatā, āma~, *taila~, yāna~. 男 大臣。
 pātra-kaṇṭaka 男 因 = pātra-kāṭaka. 因 鉢(?) Divy. 228.
 pātra-karaka 因 = pātra-kāṭaka. 因 応器 Av-s.
 pātra-karman 因 因 造鉢 Śikṣ.
 pātra-kāṭaka 因 鉢をのせる環; 因 鉢盃架, 鉢盃座児 Mvyut.
 pātra-civarādhyavasita 過受分 因 貪著衣鉢 Suvik pr.
 pātratā 因 (因, 一°) の容器である状態; ...を受けると価値のあること, 適當, 力量。
 pātratva 因 [同上]。
 pātra-dānatā 因 因 田器施, 器施 Bodh-bh.
 pātra-dhāraṇa 因 因 畜鉢, 畜盃, 持盃 Mvyut.
 pātra-nikubjana 因 因 合鉢盃在地(?) Mvyut.
 pātra-pariṣṭi 因 因 乞鉢, 求鉢盃, 乱鉢盃 Mvyut.
 pātra-paryāpanna 因 因 得随滿鉢中 Śikṣ.
 pātra-pāṇi 因 因 手持応器 Śikṣ.

pātra-pūra 男 鉢盂 dvau trin ~ ān pratigṛhya
二三鉢受 *Prat-m.* 509.
pātra-ponika 男 鉢盂器 *Mvyut.*
pātra-bhūta 形 (圖) から…を容れるまたは受けるに
値する; 器 *Śikṣ.*
pātraya 名動 地 pātrayati 飲むための容器として用
いる.
pātra-vaśyāpaka 匣 蓋鉢盂 *Mvyut.*
pātra-śeṣa 男 食物の残余 (*Divy.*); 半食 *Divy.*
pātra-saṃśrita-mātraka 形 鉢依量, 持鉢婦
Lanik.
pātra-saṃcāra 男 (食事の時に) 食器または鉢を(人か
ら人へ)順次に廻すこと.
pātra-saṃjñā 女 観鉢 *Prat-m.*
pātra-saṃjñin 形 看鉢, 觀看鉢盂, 端視鉢
Mvyut., Vin.
pātra-saṃdhunaka 形 振鉢, 覆鉢 *Mvyut.* [*Pali*
saṃdhunāti 参照]. na ~ m 勿得覆鉢 *Mvyut.*
pātrasāt-Kṛ, 受ける価値のある人に与える.
pātra-stha 形 鉢の中にある.
pātra-sthapika 男 [Pali patta-tthavikā] 鉢盂
器 *Mvyut.*
pātra-hasta 形 手に鉢を持った.
pātrāgata 形 得隨(満)鉢中 *Śikṣ.*
pātrāvalehaka 形 舐鉢 *Mvyut., Prat-m.:* na
~ m 勿舐鉢 *Mvyut.*
pātrikā 女 器, 乞食用の鉢.
pātrin 形 飲用器を持っている; 乞食用の鉢を携えた.
pātri 女 容器; 皿, 壺; 大漏杓(仏教); 鉢 *Lal-*
v.; 火供漏杓 *Mvyut.*
pātri-Kṛ, (圖) の容器または目的物とする; いかめし
くする, 尊敬を助長する.
pātri-kṛta 形 [同上 過受分] 為鉢, 成鉢 *Abh-vy.*
pātrodaka (°ra-ud°) 匣 鉢水 *Prat-m.*
pāthas 匣 場所; 水.
pāthas-pati 男 [(水の主), *Varuna* 神の称].
pātheya 匣 旅行(pathi)用の食糧; 資糧 *Abh-*
vy.
pātheyavat 形 (一°)を旅行用の食糧としてもつ,
…を食糧として貯えた.
pātheyi-Kṛ, 旅行用の食料とする.
pātho-ja 匣 (水に生ずるもの), 蓮(花).
pātho-jini 女 蓮.
pātho-da 男 雲.
pātho-dhara 男 [同上].
pātho-dhi 男 大洋.
pātho-nātha 男 = pāthas-pati.
pātho-nidhi 男 = pātho-dhi.
pād, [pad の 圖 脚] 足.
pāda 男 (人, 動物の)足; (無生物の)足または脚, 支
柱; (水を運ぶ皮袋の)底; 車輪; (木の)根; (山の)
突出部, 山麓の小丘; 光線, 光 [天体の足]; (四足
獣の足=)四分之 一 [圖 四部分]; (四行からなる詩
節のあるいは一般に詩節の)一行; [圖 圖 (一般に 一°)
はしばしば敬称として用いられる]; 足, 脚
Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Mvyut., Prat-m.,

Rāṣṭr., Saddh-p., Saṃkhy-k., Śikṣ., Suv-pr., Vajr-
pr., 梵千.; 四分, 四分之一 *Abh-k., Abh-vy.:* ~ e
~ m ādhāya 累脚 *Prat-m.* 532; na ~ e ~ m
ādhāya 不累足, 足不交錯 *Mvyut.;* ~ syopari ~ m
ā-DHā 累足, 疊雙足, 上下累脚 *Śikṣ.* 137; ~ au
śirasābhivandya 頭面礼足, 稽首足下 *Saddh-p.*
428; prabhāsvara-ratna ~ 日光妙宝以為其足 *Ga-*
ṇḍ-vy. 155. ~ yoḥ Pat (圖) の足下にひれ伏す.
~ aih 徒歩で [数人について].
pādaka 男 小さい足. 匣 脚牀, 承足几 *Mvyut.,*
Śikṣ.: vaidūrya ~ 承足宝几 *Śikṣ.* 29. 一° 形 (因
-ikā) 足のある; …の四分之 一をなす; 足, 句
Abh-vy.
pādaka-saṃpādana 匣 作(牀)脚, 床坐足過量
Mvyut.
pāda-kṛcchra 男 (隔夜に断食するから)四分之 一の苦
行 [苦行の一種].
pāda-gāmin 形 足行 *Gaṇḍ-vy.*
pāda-grahaṇa 匣 (尊敬または帰順のしるしとして人
の)足をつかむことまたは抱くこと.
pāda-ghṛta 匣 足に塗る酥油.
pāda-cāpala 匣 足を置くに無頓着なこと.
pāda-cāpalya 匣 [同上].
pāda-cāra 形 徒歩で行く, 歩く. 男 歩兵; 歩行; 男
~ eṇa 徒歩で.
pāda-cārin 形 徒歩で行く; 散歩する, 移動する (*Jāt-*
m.). 男 歩兵.
pāda-cchedana 匣 足を切断すること.
pāda-tala 匣 足の裏; 足下, 脚下, 脚掌, 足処,
足辺 *Bodh-bh., Divy., Mvyut., Sam-r., Suv-pr.:*
~ e patitaḥ 頂礼, 頭面礼 *Rāṣṭr.* 4.
pādatalāhati (°la-āh°) 女 蹴ること.
pādatas 圖 足から, 足もとに, 足の近くに, 足で;
詩節の各行に従って; 一步一步, 次第に.
pādatas-Kṛ, 足もとに置く.
pādatra 匣 (?) 靴.
pāda-dhāvana 匣 足を洗うこと; 洗足 *Rāṣṭr.*
pāda-dhāvanikā 女 足を擦るのに用いる砂; 洗
脚池 *Mvyut.*
pāda-namra 形 (人の)足下に敬拝する.
pāda-niketa 男 脚台.
pāda-nicṛt 形 四行詩の各行に一音節の不足のある.
pāda-nyāsa 男 足を下すこと, 歩み; 足跡.
pāda-pa 男 (根で飲む), 植物, とくに樹木; 樹,
大樹 *Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p.*
-pāda-paka 形 [同上 形]; 林樹, 林木 *Lal-v.*
pāda-patana 匣 (人の)足下に身を投げること, 平伏.
pāda-patita 形 (人の)足下に身を投げた.
pāda-paddhati 女 歩行した跡の線, 足跡.
pāda-padma 男 蓮華のように(美しい)足.
pāda-paricāraka 男 賤しい召使.
pāda-pāda-dhāvana 匣 一方の足で他の足を洗うこと.
pāda-pārṣṇi 女 足跟踏 *Bodh-bh.*
pāda-piṭha 匣 足台.
pādapiṭhi-Kṛ, 足台とする.
pāda-pūraṇa 形 詩の行の音節数を充たす. 匣 詩の

行の音節数を充たすこと。
 pāda-prakṣāṇa ㊦ 足を洗うこと。
 pāda-pratiṣṭhāna ㊦ 足台。
 pāda-pratiṣṭhāpana ㊦ 履 *Lal-v.*
 pāda-prasāraṇa ㊦ 脚を伸ばすこと。
 pāda-prahāra ㊦ 蹴ること。
 pāda-phalikā ㊦ あぶみ(籠)。
 pāda-bandha ㊦ 足の紐または足かせ；**履** 歩法 *Mvyut.*
 pāda-bhaṭa ㊦ 歩兵。
 pāda-bhāga ㊦ 四分の一。
 pāda-bhāj ㊦ (因) に関して (属) の(僅か)四分の一を所有する=四分の一に等しい。
 pāda-mudrā ㊦ 足跡；形跡，記号，指示。
 pādāmudrā-paṅkti ㊦ 足跡の列，通過した跡。
 pāda-mūla ㊦ 足の付け根，跗骨；[時として人の尊称として用いられる]；山麓；**履** 足下，此処 *Gand-vy.* ~e ni-Pat (属) の足下にひれ伏す。
 pāda-mūlika ㊦ → rāja ~。
 pāda-mrakṣaṇa ㊦ **履** 足油，塗足油，塗(其)足 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*
 pāda-yuddha ㊦ 徒歩で戦うこと。
 pāda-rakṣa ㊦ 戦いに際し象の足を保護するために象のそばを走る武装した兵。
 pāda-rajasa ㊦ 足の塵埃。
 pāda-lagna ㊦ 足にささった(刺)；(人の)足下に横たわった，足に触れた。
 pāda-likhita-lipi ㊦ **履** (音写) 婆陀戻佉書，波陀梨佉書 *Lal-v. 126.*
 pāda-lepa ㊦ (とくに魔法的な効用があるとされる)足に塗る膏薬。
 pāda-vandana ㊦ 足に敬拝すること，恭しい敬礼。
 pāda-veṣṭanikā ㊦ 靴下；**履** 襪 *Mvyut.*
 pāda-sābda ㊦ 歩行の響き。
 pādaśas ㊦ 一步一步；四分の一ずつ。
 pāda-sauca ㊦ 足を浄めること。
 pāda-sevana ㊦ (足に敬拝すること)，拝礼，尊敬。
 pāda-sevā ㊦ [同上]。
 pāda-stambha ㊦ 支えとなる梁，柱。
 pāda-sprṣṭikā ㊦ =pāda-sevana。
 pādāgra ㊦ 足の爪先。
 pādāghāta (°da-āgh°) ㊦ 蹴ること。
 pādānguli ㊦ 足指；**履** 足指 *Saddh-p., Śikṣ.*
 pādānguli ㊦ [同上]。
 pādānguṣṭha ㊦ 足の親指；**履** 足指，脚趾，足一指，一足指 *Divy., Saddh-p.*；**履** 足指 *Divy.*
 pādāta ㊦ (徒歩で行く)，歩兵。
 pādādhiṣṭhāna ㊦ **履** 脚踏 *Mvyut.*
 pādānta ㊦ 足の爪先，(鳥獣の)爪；因 ~e (人の)足もとに。
 pādāntara ㊦ 一步の距離；因 ~e (属) のすぐそばに。
 pādābharāṇa (°da-ābh°) ㊦ **履** 足蔽 *Mvyut.*
 pādābhivandana ㊦ (属) の足に敬拝することすなわち尊敬に満ちた挨拶。
 pādābhivādana ㊦ [同上]。
 pādāmbhas ㊦ (洗)足用の水。

pādāravinda ㊦ 蓮華のように(美しい)足 [神・愛人等の足についていう]。
 pādārdha ㊦ 四分の一の半分，八分の一。
 pādārpaṇa ㊦ 足を置くこと。
 pādāvanāma ㊦ (人の)足下に敬拝すること。
 pādāvaneja ㊦ (人の)足を洗うこと。
 pādāvanejana ㊦ 足を洗うのに役立つ。
 pādāvanejani ㊦ 履 洗足用の水。
 pādāvasecana ㊦ 足を洗った水。
 pādāṣṭhila ㊦ くるぶし(踝)，足首。
 pādāsthi ㊦ **履** 足骨 *Śikṣ.*
 pādāsphāṇa (°da-ās°) ㊦ 足音を立てて歩くこと，足を引きずって歩くこと。
 pādāhati (°da-āh°) ㊦ 足で打つこと，蹴ること；(一°) に向って蹴ること。
 pādika ㊦ (ある時間の)四分の一に達するまたは四分の一の間継続する。㊦ [śata とともに] 百分の二十五。
 pādikā ㊦ ㊦ → pādaka。
 pādin ㊦ 足をもつ；四分の一を請求できるまたは受領する。
 pādu ㊦ 足；場所。
 pādūkā ㊦ 靴；上靴；**履** 履，屣，屣，革屣，靴，鞋 *Lal-v., Mvyut., Prāt-m.*，梵雜。
 pādūkārūḍha (°kā-ār°) ㊦ **履** 著屣，著革屣者 *Mvyut., Prāt-m.*
 pādū-kṛt ㊦ 靴工。
 pādūna ㊦ =pādona
 pādodaka (°da-ud°) ㊦ 洗足用の水。
 pādona (°da-ūn°) ㊦ (因 -ā) 四分の一だけ少ないまたは小さい等。→ pādūna。
 pādona-krośa ㊦ **履** 無里四之一；(音写) 俱盧舍少四分一 *Mvyut.*
 pādopaga (°da-up°) ㊦ **履** 足環，足蔽 *Divy., Mvyut.*
 pādopajivin (°da-up°) ㊦ (属) の恩恵に生きる (*Divy.*)。㊦ **履** 臣 *Divy.*
 pādopasaṃgrahaṇa (°da-up°) ㊦ (師の)足を抱擁すること。
 pādma ㊦ (因 -i) 蓮に関する。㊦ [ある Kalpa の名(?)]; [*Brahman* 神の称]。
 pādya ㊦ 足に属する。㊦ (洗)足用の水。
 pāna ㊦ 飲むこと(とくに強い酒を)；一飲み；(唇を)吸うこと；飲料，飲物；**履** 飲；醬，漿；酒 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.*；~m ~arthibhyaḥ dadāti 渴者与之飲 *Mvyut.*；dadāti ~arthibhyaḥ ~m 須飲与飲 *Gand-vy. 144.*
 pānaka ㊦ ㊦ 一飲み，一口；飲料，飲物；**履** 飲，漿，飲漿，漿飲 *Abh-vy., Divy., Śikṣ.*，梵千，梵雜 → marica ~。
 pāna-doṣa ㊦ 飲酒の悪徳，酩酊。
 pāna-pa ㊦ 酒を飲む。
 pāna-pātra ㊦ 飲用器，盃(とくに飲酒用の)。
 pāna-bhū ㊦ 酒を飲む場所または飲酒する部屋。
 pāna-bhūmi ㊦ [同上]。
 pāna-bhojana ㊦ 飲むことと食うこと；**履** 飲食，

飲食等物 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

pāna-maṅgala ㊦ 酒宴, 酒席.

pāna-matta ㊦ 酔って夢中になった, 酩酊した.

pāna-mada ㊦ 酩酊.

pāna-rasa ㊦ 蘇密 *Lal-v.*

pānasa ㊦ パンの樹または *Jaka* の実から造った.

pānāgāra (°na-āg°) ㊦ または ㊦ 居酒屋.

pānārtham ㊦ 由飲 *Suv-pr.*

pānārthin ㊦ 求飲, 須飲, 渴者 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.* → pāna.

pānika ㊦ 酒商人.

pāniya ㊦ [=pāniya] 漿 *Sam-r.*

pāniya ㊦ 未受分 飲まれるべき, 飲める. ㊦ 飲物; 水; ㊦ 水, 汁; 水漿飲 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, 梵千., 梵雜.; 河(辺) *Divy.*: aṣṭā-ṅgopetaṃ ~m 八功德水 *Av-ś.* II. 84.

pāniya-kāntāra ㊦ 無水, 無水難, 無水処, 無水之处, 枯涸險難処, 焦渴乏水曠野, 曠野無水之处, 渴国土 *Aṣṭ-pr.*

pāniya-dūṣaka ㊦ (㊦ -ikā) 水を汚す, 水を掻き乱す.

pāniya-maṇḍapa ㊦ 泉池 *Av-ś.*

pāniya-varṣa ㊦ または ㊦ (?) 水の注ぎ降ること, 雨.

pāniya-vārika ㊦ 管水者 *Mvyut.*

pāniya-sthāla ㊦ 水器, 罈子, 食器 *Mvyut.*, *Prāt-m.*

pāniyādhyakṣa ㊦ 水の監視者.

pāniyārtham ㊦ 水のために.

pāntha ㊦ 徒歩旅行者, 旅行者.

pānthatva ㊦ 徒歩旅行者の生活.

pāpa ㊦ (㊦ -i ㊦; -ā) 有害な, 悪い, 邪しき, 犯罪の, 罪深い, 不吉な(惑星, 前兆); ㊦ 悪, 凶, 殉悪, 不善, 過咎, 不吉 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* ㊦ 邪悪な男, 悪党, 罪人. ㊦ 害悪, 苦惱, 不運, 害; 邪悪, 違犯, 犯罪, 悪行, 悪事, 罪; ㊦ 悪, 不善, 罪, 罪悪, 罪業, 重罪, 諸悪行処, 諸過失処; 悪趣, 悪業, 不善業; 苦, 災厄 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, 梵千. sāntaṃ ~m 悪の消え去りますように! [そんな目にあいませんように, の意].

brahma-hatyā-kṛtaṃ ~m 婆羅門を殺した罪.

pāpaka ㊦ (㊦ -ikā) 悪い, 有害な; ㊦ 悪, 悪邪, 罪 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*: ~drṣṭi-gata 悪見, 悪邪見 *Prāt-m.* 515. ㊦ 悪漢. ㊦ 害悪; ㊦ 悪 *Bodh-bh.*

pāpaka-mitra ㊦ 悪友, 悪知識 *Śikṣ.*

pāpa-karman ㊦ 邪悪な行為; ㊦ 悪業 *Lank.*, *Suv-pr.* ㊦ 有害な行為をする, 邪悪な, 罪深い; ㊦ 悪業 *Bodh-bh.* ㊦ 悪行者, 悪漢, 犯罪者; 罪人; ㊦ 悪業 *Lank.*

pāpa-karmin ㊦ 邪悪な; ㊦ 悪業 *Lank.*

pāpa-kalpa ㊦ 悪漢または悪人.

pāpa-kārin ㊦ =pāpa-karman (㊦). ㊦ =pāpa-karman (㊦); ㊦ 悪行, 造悪者, 行於悪行, 造諸悪行, 作罪 *Bodh-bh.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*

pāpa-kāsin ㊦ 悪をあばく, 悪を明らかにする.

pāpa-kṛt ㊦ 男 =pāpa-karman (㊦)

pāpa-kṛta ㊦ 過受分 ㊦ 悪事.

pāpa-kṛtyā ㊦ 有害な行為, 罪悪.

pāpa-kṣayaṃ-kara ㊦ ㊦ 尽不善業, 淨除(諸)悪業 *Suv-pr.*

pāpa-gati ㊦ 不運な.

pāpa-caryā ㊦ ㊦ 造悪, 悪趣行 *Rāṣṭr.*

pāpa-cārin ㊦ 悪い行為をする.

pāpa-citta ㊦ ㊦ 悪心, 不善心 *Sadilh-p.*

pāpa-cetas ㊦ 悪意のある, 悪心のある.

pāpa-jiva ㊦ 悪い生活を送る, 悪人の.

pāpatara ㊦ 比較 一層悪い; 非常に悪い.

pāpatā ㊦ 不運なこと, 不利なこと; ㊦ 悪, 罪 *Bodh-bh.*

pāpa-timira ㊦ 罪によって盲目的にされた, 罪のため心がかくまされた.

pāpa-darśana ㊦ 悪い見解をもつ, 悪意のある.

pāpa-darśin ㊦ [同上].

pāpa-deśana ㊦ (?) ㊦ 説罪 *Śikṣ.*

pāpa-deśanā ㊦ ㊦ 懺悔 *Dharm-s.*, *Śikṣ.*

pāpa-dharma ㊦ ㊦ 悪法, 具罪法, 罪法具 *Mvyut.*

pāpa-niścaya ㊦ 悪意のある.

pāpa-nud ㊦ 悪を退散させる.

pāpa-pūruṣa ㊦ 悪漢, 悪人.

pāpa-priya ㊦ 悪事を好むまたは悪事を犯し易い.

pāpa-bandha ㊦ 悪行の絶え間ない連続.

pāpa-buddhi ㊦ 悪意. ㊦ 悪意のある, 悪心のある. ㊦ [ある悪人の名].

pāpa-bhañjana ㊦ 邪悪を滅した. ㊦ [ある婆羅門の名].

pāpa-bhāj ㊦ 悪事にくみした, 有罪な.

pāpa-bhāva ㊦ 悪意のある.

pāpa-bhūmi ㊦ ㊦ 悪地, 罪業地 *Mvyut.*

pāpa-mati ㊦ 害意のある, 心の悪い, 神意に反した; ㊦ 邪意, 邪見 *Rāṣṭr.*

pāpa-maya ㊦ 悪からなる, 悪い (*Jāt-m.*).

pāpa-mitra ㊦ 悪い友達; ㊦ 悪友, 不善友, 悪知識, 不善知識 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*

pāpa-mitratā ㊦ ㊦ 親友不善人 *Mvyut.*

pāpamitra-parigṛhita ㊦ ㊦ 悪友所撰 *Bodh-bh.*

pāpamitra-vaśāt (㊦) ㊦ ㊦ 随順不善友, 親近悪友 *Suv-pr.*

pāpamitra-saṃśraya ㊦ ㊦ 依附悪友 *Bodh-bh.*

pāpamitra-saṃsarga ㊦ ㊦ 近悪友 *Bodh-bh.*

pāpamitrāgama (°ra-āg°) ㊦ ㊦ 近悪友, 親近悪友 *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

pāpamitrāgama-saṃkṛta ㊦ ㊦ 近悪友難, 親近悪友難 *Suv-pr.*

pāpa-yoni ㊦ 劣等な母胎, 罪の(罰として)生まれること.

pāpa-rahita ㊦ 罪から免れた, 罪のない.

pāpa-ripu ㊦ または ㊦ [(罪悪の敵), ある聖地の名].

pāpa-roga ㊦ 悪疾, (前生の)罪業の(罰としての)疾病.

pāpa-rogin ㊦ 悪疾に悩む, (前生の)罪業の(罰としての)疾病に悩む.

pāpa-rddhi (°pa-rd°) 囚 狩獵。
 pāpa-lakṣaṇa 形 具惡相，偷生鬼者 *Mvyut.*
 pāpā-lokya 形 地獄へ導く。
 pāpavat 形 罪增長 *Sikṣ.*
 pāpa-vasiyasa 田 (惡の方がより勝れていること)，
 顛倒，倒錯。
 pāpa-vasyasa 田 [同上]。
 pāpa-śila 形 惡性の，惡事を犯し易い。
 pāpa-śilatva 田 邪惡な行為。
 pāpa-śodhana 形 罪の汚れを浄める； 罪清淨
Sikṣ. 田 [ある聖地の名]。
 pāpa-saṃśamana 形 罪惡を消し去る。
 pāpa-saṃkalpa 形 (囚-ā) 惡意のある，惡心のある。
 pāpa-sattva 男 惡人 *Suv-pr.*
 pāpa-samācāra 形 (囚-ā) 惡行の； 行惡行 *Prat-*
m. : pāpa-samācāreṇa ramate (於現在世)一切惡法
 (不)樂現行 *Bodh-bh.*
 pāpa-samudra 男 惡海 *Suv-pr.*
 pāpa-sūdāna-tirtha 田 [ある聖地の名]。
 pāpa-skandha 田 集積した多数の罪惡 (*Kār-vy.*)
 pāpa-han 形 罪惡または罪人を滅する。
 pāpa-hara 形 罪を除去する。
 pāpa-hṛdaya 形 惡意のある。
 pāpācāra (°pa-āc°) 形 邪まな生活をする。
 pāpātman (°pa-āt°) 形 惡意のある，惡心のある，邪
 惡な。男 惡心のある者，惡人。
 pāpānubandha 男 悪い結果，悪い成り行き。形 ひそ
 かに惡事を計画する。
 pāpārambhaka (°pa-ār°) 形 ひそかに惡事を企てる。
 pāpārambhavat (°pa-ār°) 形 [同上]。
 pāpāsaya (°pa-ās°) 形 惡を企てる。
 pāpika 形 惡 *Bodh-bh.*
 pāpin 形 邪惡な，罪深い。男 惡事をなす者，罪人。
 pāpiṣṭha 形 (pāpa の 最上) もっとも悪い，もっと
 も低級な；極惡の，非常に悪い。
 pāpiṣṭhatama 形 (pāpa の 最上) 最惡の；(囚) より
 悪い。
 pāpiyas 形 (pāpa の 比較) 一層悪い，一層劣った，
 一層悲惨な，一層貧しい；非常に悪い，非常に貧し
 い； 惡 *Aṣṭ-pr.* 男 惡人； 音写 波旬，
 波卑 *Divy.*, *Lal-v.*, *Sikṣ.* → māra.
 pāpiyastva 田 邪惡，墮落。
 pāpman 男 惡，災難，苦痛；罪惡，罪，罪業；惡
 鬼，惡魔 (*Jat-m.*)。形 害の多い，有害な，悪い。
 pāman 男 [皮膚病の一種]，皮膚の発疹，疥癬(の一
 種)； 疥，癩 *Saddh-p.*, *Mvyut.*, 梵千。
 pāmara 男 輕蔑される商売を営む劣等な血統の出身
 者；惡漢；愚者，愚人。
 pāmaratva 田 愚鈍。
 Pāy, I. 田 pāyate 糞便を排泄する。
 pāyaka 形 (囚-ikā) 飲む。
 pāyattika 形 田 [<prāyaś-cittika. 大正大学学報第
 3輯，荻原雲来文集「波夜提の原語に就て」参照] 音写
 令隨，作隨，乘隨 *Mvyut.*； 音写 波逸提，波夜提，
 波葉致，波逸底加，婆逸提迦，波羅夜質胝柯 *Mvyut.* :
 乘隨三十 *naihsargikāh* ~ āh [1. dhāraṇam 過畜，

持，2. vipravāsaḥ 於三衣中離——衣界外宿，離，
 3. nikṣepaḥ 過，畜；4. dhāvanam 浣染打放衣，浣，
 5. pratigrahaḥ 取衣，取，6. yācñā 乞衣，乞，7.
 sāntarottaram 受上下二衣，若過受，上下衣過，具
 上下，8. caitanakāni 辦衣価，価，9. pratyekam 各，
 別主，別，10. preṣaṇam 遣使，11. kauṣeyam 用新
 高世耶絲綿，高世耶，雜野蚕綿，12. śuddhaka-kālakā-
 nām 純黑羊毛，純黑羶羊毛，純黑，13. dvi-bhagaḥ
 二分，二分相合，14. ṣaḍ-varṣāni 六年持，六年，15.
 vitastih 一張手，一碟手，16. adhvorṇodhiḥ 行路中
 得羊毛，道中持羊毛，道中担羊毛，17. ūrṇāparika-
 rmaṇaḥ 浣染擊羊毛，浣羊毛，18. jātarūpa-rajata-
 sparsanam 自手捉金銀，触金銀，捉金銀，19. rūpika-
 vyavahāraḥ 出納求利，売買宝物等，20. kraya-vi-
 krayaḥ 種々売買，販売，21. pātra-dhāraṇam 畜長
 鉢，畜孟，畜鉢，22. pātra-pariṣṭih 求余鉢得，求鉢
 孟，乞鉢，23. vāyanam 自乞縷線，使織，24. uya-
 māna-varḍhanam *勸非親織師織衣，使增織，25.
 dattvādānam 先与苾芻衣彼於後時…自奪若教他奪，
 与而奪，26. kārttikātyayikam *過後畜急施衣，過季
 秋，27. sapta-rātra-vipravāsaḥ 過七日服，七日相離，
 28. varṣāṣāṭy-akāla-pariṣṭidhāraṇam *預前求過後
 用雨衣，或求或持非時雨浴衣，29. pariṇāmanam 自
 廻入己，廻，30. samnidhi-kāraḥ *在阿蘭若處過六
 夜離衣，集畜。(根本說一切有部戒經 * 印は根本薩
 婆多部律撰所出)] *Mvyut.* 九十波逸提 [1. mṛṣā
 妄，2. ūna-vādaḥ 毀譽，3. bhikṣu-paiśunyam 苾芻
 離間語，4. khoṭanam 發舉，5. duṣṭhūfārocanaḥ
 說隱罪，6. uttara-mantṣya-dharmārocamaḥ 說上
 人法，7. ṣaṭpañcikayā vācā dharmā-deśanāyāḥ 說
 法五六語，8. samapadoddeśa-dānam 与同句誦，9.
 samstutih 同心許，10. vitandanaḥ 輕呵，11. bija-
 grāma-dhūta-grāma-vināśanam 毀壞諸種与鬼神
 村，12. avadhyānam 輕賤，13. ājñā-vihethanaḥ 違
 惱言教，14. mañcaḥ 牀，15. samstaraḥ 敷具，16. ni-
 śkāraṇam 牽出，17. anupraskandya-pātaḥ 後入強
 臥，18. āhārya-pādakārohī 登脱脚牀，19. saprāni-
 kopa-bhogaḥ 用有虫水，20. dvau vā trayo vā cha-
 dana-paryāyā dātavyāḥ 牆底二三重，21. āśāma-
 tāvavādaḥ 不差教授，22. astamitāvavādaḥ 教授至
 日暮，23. āmiṣa-kiñcitrāvavādaḥ 為飲食故教授，
 24. civara-dānam 施衣，25. civara-karaṇam 作衣，
 26. bhikṣuṇī-sārthena saha gamanam 与苾芻尼同
 道行，27. sa-bhikṣuṇī-jalayānoḍhiḥ 与苾芻尼同乘
 一船，28. rahasi niṣadyā 屏處坐，29. rahasi sthanam
 屏處立，30. bhikṣuṇī-paripācīta-piṇḍapātopabhogaḥ
 受用苾芻尼所教化食，31. parampara-bhojanam 展
 轉食，32. ekāvasathāvāsaḥ 一住處住，33. dvi-tri-
 pātra-pūrātirikta-grahaṇam 受過滿三鉢，34. akṛta-
 nirikta-khādanam 不作余法食，35. akṛta-nirikta-
 pravāraṇam 不作余食法勸，36. gaṇa-bhojanam 衆
 食，37. akāla-bhojanam 食非時，38. samnihita-va-
 rjanam 避畜，39. apratigrāhita-bhuktiḥ 不受食，
 40. praṇīta-vijñāpanam 索美，41. saprāni-jalopa-
 bhogaḥ 受用有虫水，42. sabhojana-kula-niṣadyā 有
 食家坐，43. sabhojana-kula-sthānam 有食家立，44.

acela-dānam 与無衣, 45. senā-darśanam 観軍士, 46. senā-vāsaḥ 住軍中, 47. udyūthikā-gamanam 擾乱軍兵, 48. prahāra-dānam 打, 49. udgūraṇam 拳, 50. duṣṭhula-praticchādanam 覆蔵隠罪, 51. bhaktaccheda-kāraṇam 令断食, 52. agni-vṛttam 転火, 53. chanda-pratyuddhāraḥ 令還欲, 54. anupasampanna-saha-svapnaḥ 与未近円人同宿, 55. dr̥ṣṭi-gatānutsargaḥ 不捨悪見, 56. utkṣiptānuvṛttih 随捨置人, 57. nāṣita-saṃgrahaḥ 摂受被擯, 58. arakta-va-stropabhogaḥ 受用不染衣, 59. ratna-saṃsparśaḥ 捉宝, 60. snāna-prāyaścittikam 洗浴應對治, 61. tiriyag-vadhāḥ 殺傍生, 62. kaukr̥tyopasaṃhāraḥ 令生悔疑, 63. aṅgulipratodanam 以指擊擿, 64. udaka-harṣaṇam 水中喜, 65. mātṛ-grāmeṇa saha svapnaḥ 与婦人同室宿, 66. bhīṣaṇam 恐怖他, 67. go-panam 蔵, 68. apratyuddhārya-paribhogaḥ 不令還而受用, 69. amūlakābhyākyānam 無根謗, 70. apuruṣayā striyā mār̥ga-gamanam 与無男子女人行道, 71. steya-sār̥tha-gamanam 与賊同行, 72. ūna-vi-mṣa-varṣopasaṃpādanam 未滿二十歳授近円, 73. khaṇanam 掘地, 74. pravāritār̥thātisevā 濫用所請利, 75. upāśravagātaḥ 盜聽, 76. śikṣopasaṃhārapratikṣepaḥ 遮伝教, 77. tūṣṇim-viprakramanam 不語起去, 78. anādara-vṛttam 不恭敬行, 79. surāmaireya-madya-pānam 飲宰羅迷麗耶酒, 飲諸酒, 80. akāla-caryā 非時行, 81. kula-caryā 行家, 82. rāja-kula-rātri-caryā 宮殿中夜入, 83. śikṣāpāda-dravyatā-avyavacāraḥ 輕学処事, 84. sūci-gr̥haka-saṃpādanām 作針筒, 85. pādaka-saṃpādanam 作牀脚, 86. avanahaḥ 掩覆, 87. niṣadana-gatam 於座具, 88. varṣāsāti-gatam 於雨浴衣, 89. kaṇḍu-praticchādana-gatam 於覆瘡衣, 90. sugata-civara-gatam 於善逝衣] *Mvyut.*

pāyana 罇 飲ませること.

pāyanā 罇 湿すこと, 水を与えること.

pāyantika, °kā 罇 罇 [=pāyattika] 罇 音写 波逸底迦 *Divy.* 543, 544.

pāyam 罇 [〜, 反覆して用いる時] 飲み続ける間に.

pāyaścittika 罇 罇 [<prāyaś-cittika, =pāyattika].
→ śuddha〜.

pāyasa 罇 [payas から] 牛乳から作った. 罇 罇 牛乳で煮た米; 罇 罇 乳糜, 酥粥, 糠汁 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* → madhu〜.

pāyasa-dagdha 罇 乳粥で煮立てた.

pāyasa-piṇḍāraka 罇 米を常食する者.

pāyasāpūpa 罇 米と牛乳等で作った菓子.

pāyin 罇 (一°) を飲む, 吸う.

pāyu 1. 罇 [Pā 3.] 保護者; 罇 [一教に 罇] 保護する力, 助力.

pāyu 2. 罇 [Pāy] 肛門; 罇 罇 袴, 袴後, 大便処, 大遺, 穀道 *Abh-vy.*, *Sāmkhy-k.*, *Mvyut.*

pāyu-kṣālana-bhūmi 罇 (肛門を洗う所), 便所.

pāyu-kṣālana-bhūmitā 罇 [同上 罇].

pāyu-kṣālana-veśman 罇 =pāyu-kṣālana-bhūmi.

pāyu-dhvani 罇 屁.

pāyūpastha 罇 罇 肛門と生殖器.

pāra 罇 [Pr 2.] 向うへ渡る, 渡過する. 罇 罇 反対側または対岸または境界; 岸; 極限, 最末端, 終末, 目的地; 罇 [第九の *Manu* に従属する一類の神の名]; 罇 罇 彼岸, 彼辺, 尖辺, 究竟 *Ast-pr.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*

pāraka 罇 罇 [ある民族の名].

pāra-kāma 罇 彼岸に達したいと思う.

pārakya 罇 他に属するまたは他のための; 異邦の, 敵意のある. 罇 敵.

pāra-ga 罇 対岸へ渡る; (...の)終局に達する, 完成した, ...を学習し尽した, (罇, 罇, 一°)に十分精通した; 深く学んだ; 罇 罇 到彼岸, 到彼者, 已渡者, 趣彼岸, 超過, 永超, 度, 得度; 窮, 通, 通達 *Divy.*, *Gaṇḍ-y.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*: sarva-dharma〜 超過一切法, 通達一切最上法 *Rāṣṭr.* 11.

pāra-gata 罇 (罇) の対岸に達した, 無事に渡った; 罇 罇 度, 越度, 超, 到彼岸, 度彼岸, 窮辺際, 究竟彼岸, 究竟到於彼岸 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suṅg-pr.*: sarva-jagat〜 度衆生(海), 度諸衆生 *Gaṇḍ-vy.* 40.

-pāra-gamana 罇 対岸に達すること, 渡ること; 罇 罇 度(大悲)海岸 *Sūtr.*

pāra-ga-saṃjñā 罇 罇 趣彼岸想, 遠達想, 求度想 *Gaṇḍ-vy.*

pāra-gāmin 罇 渡航する (*Saddh-p.*); 越えて達する, 達する (*Kār-vy.*); =pāra-ga; 罇 罇 渡, 越, 越度, 渡彼岸 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*

pāra-grāmika 罇 敵意のある; ~m vidhim ācikirṣati 敵対行動に備える.

pā am-gata 罇 罇 通, 通達, 明了通達, 究; 到彼岸 *Lal-v.*, *Saddh-p.*

pāraṃ-gama 罇 罇 達彼岸, 善度 *Gaṇḍ-vy.*

pāra-cara 罇 対岸に達した, 永久に解脱した.

pāra-janmika 罇 罇 他生, 別世 *Mvyut.*

pāra-jāyika 罇 姦夫. 罇 罇 他の妻と関係する.

pārādī 罇 衣服(?).

pāraṇa 罇 向うへ渡る, 救助する. 罇 罇 終らせること, 完成, 成就; (±vrata-)断食の終結, 朝食[また -ā]; 読書; 完全な典籍.

pāraṇa-karman 罇 注意深い研究, 読書, 熟読.

pāraṇā 罇 → pārāṇa (罇).

pāraṇiya 罇 罇 完成されるべき.

pārata 罇 水銀 (=pārada); 罇 罇 水銀 *Lank.*

pāratantrya 罇 [para-tantra から] 他に頼ること 罇 罇 属他, 繫属他, 不得自在, 依他力 *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 縁起, 因縁 *Lank.*

pāra-talpika 罇 姦通.

pārataḥ 罇 (罇) の反対側に.

pāratrika 罇 [paratra から] 来世に関する; 罇 罇 彼, 余 *Abh-vy.*

pāratryā 罇 [同上].

pārada 罇 罇 水銀; 罇 罇 水銀 *Lank.*, *Mvyut.* 罇 罇 [ある民族の名].

pāra-darsāka 罇 対岸を示す.

pāra-darsana 形 対岸を観察する、すべてを概観する。

pāradārika 形 [para-dāra から] 他人の妻と関係する；
 姪他女婦 Divy. 男 姦夫。

pāradārikā 女 [para-dāra から] 他属 Śikṣ.

pāradārya 中 [para-dāra から] 姦通。

pāra-dṛśvan 形 (女-dṛśvari) (圖、一°) の対岸を見る；…に十分精通する。

pāra-deśya 形 [para-deśa から] 他国に属するまたはから来た、外国の。

pāra-dhvaja 男 覆 海のかなた(すなわち Ceylon 島)から運ばれた旗(Kāśmīra の諸王の行列の際に立てられる)。

pāra-netṛ 形 対岸に導く；(圖)を(因)に通ぜしめる。

pāra-prāpta 形 通達 Gand-vy.

pāra-bhṛtiya 形 [para-bhṛta から] かつこう(郭公)に関するまたはに特有な。

pāramaka 形 (女-ikā) = paramaka.

pāramatya 中 [para-mata から] 無関心(?)。

pāra-manuṣya 男 他人 梵雜。

pārama-haṃsa 形 (女-i) parama-haṃsa に関する。

pāramahaṃsya 形 [同上]。

pāramārthika 形 (女-i) [paramārtha から] 真理(pa-ramārtha) に関する、真実の、真の、真理を愛する；
 真実、勝義、第一義 Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Sūtr.

pāramārthya 中 [paramārtha から] 最高の真理。

pārami 女 = pāramitā (Divy.); 極、究竟 Divy., Mvyut.

pārami-gata 形 到彼岸 Mvyut., Rāṣṭr.

pāramiṃ-gata 形 勝、具足、皆具足；度無極、到于彼岸 Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p.; 到涅槃〔涅槃は nirvāṇa の (音写) Rāṣṭr. 5.〕

pāramitā 女 対岸に達すること、(徳の)完全な成就；(一°)の完成(仏教)；彼岸、到彼岸、度、度無極；尽辺 Aṣṭ-pr., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sūtr.; (音写) 波羅蜜、婆羅蜜、波羅蜜多 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lanik., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Vajr-pr.: ~ m gataḥ 尽際 Saddh-p. 335; dhyāna ~ m gataḥ 尽諸禪定際、具足定無極 Saddh-p. 335.; sarva-guṇa ~ m cānuprāpsyati 尽一切諸功德辺 Aṣṭ-pr. 945.; ṣaṭ ~ h 六到彼岸 [1. dāna-pāramitā 施波羅蜜多, 2. śīla ~ 戒波羅蜜多, 3. kṣānti ~ 忍波羅蜜多, 4. virya ~ 精進波羅蜜多, 5. dhyāna ~ 静慮波羅蜜多, 6. prajñā ~ 慧波羅蜜多] Mvyut.; daśa ~ 十到彼岸, 十波羅蜜, 十波羅蜜多 Madhy-vibh. 201, 206.; daśa ~ h 十到彼岸, 十波羅蜜 [1. dāna 布施, 2. śīla 持戒, 3. kṣānti 忍辱, 4. virya 精進, 5. dhyāna 禪定, 6. prajñā 智慧, 7. upāya 方便, 8. pranidhi (または pranidhāna) 願, 9. bala 力, 10. jñāna 智] Dharm-s., Mvyut.

pāramitā-caryā 女 (音写) 波羅蜜行、波羅蜜多行 Bodh-bh., Sūtr.

pāramitā-paripūri 女 究竟円満(功德)彼岸；

(音写) 円満諸波羅蜜 Gand-vy.

pāramitā-prāpta 形 到彼岸、到於彼岸 Lal-v., Sukh-vy. I.

pāramitā-yoga 男 修度 Sūtr.

pārami-prāpta 形 至究竟 Śikṣ.

pārami 女 完成、円満、最高位 (Divy.); 第一 Saddh-p.

pārameśvara (°ma-iś°) 形 (女-i) 最高の主(Śiva 神)に関するまたはに由来する。中 最高地位；覆 王権の標識。

pārameṣṭhya 形 最高神 (Brahman 神) に関する。中 最高位。

pāraṃ-para 形 来世に関する、未来の(世)；[loka とともに] 彼の世、未来世；展転 Sūtr. → pāramparya.

pāraṃpariya 形 [paraṃ-para から] 伝統的の、相承の。

pāraṃparya 中 [paraṃ-para から] 中断しない連続、伝承；仲裁、調停；伝、展転、相続、展転相続 Abh-vy., Bodh-bh., Sāṃkhy-k. ~eṇa 圓 次第に、連続して；展転、伝伝、展転相続、一一相続、当時 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.

pāraṃparya-kramāgata (°ma-āg°) 形 正しく伝承された。

pāraṃparya-yogena 圓 展転方便 Bodh-bh.

pāraṃparyāgata (°ya-āg°) 形 正しく伝承された。

pārayitr 男 [Pr 2. 使役 から] 成功させる者 [pārayitāsmi(°tā asmi) の形では 困 として用られる]。

pārayiṣṇu 形 成功に導く；成功する；勝利の。

pārayiṣṇutama 最上 [同上]。

pāralokya 形 [para-loka から] 次の世に関する、未来世に関する。

pāralaukika 形 (女-i) [para-loka から] [同上]。

pāravargya 形 [para-varga から] 他の党派に属する、敵の党派に属する。

pāraśava 男 [(婆羅門と Śūdra との子孫である)ある混血の種姓(階級)]。

pārasa 形 (女-i) ペルシアの。

pārasī 女 (音写) 波斯 梵雜。→ pārasī.

pārasika 形 = pārasa. 男 覆 ペルシア人。

pāra-sindhu 圓 Sindhu 河の対岸に。

pārasī 女 ± bhāṣā ペルシア語；(音写) 波刺私、波斯、波斯 玄応。

pārasika 男 覆 ペルシア人。

pāraśkara 男 [ある Gṛhya-sūtra および Dharma-śāstra の作者の名]。

pārahaṃsya 形 = pāramahaṃsya.

pārājayika 形 = pārājika. 他勝、無余 Bodh-bh., 玄応；(音写) 波羅夷、波羅闍已迦 玄応。

pārājayika-sthāniya 形 他勝処 Bodh-bh.

pārājika 形 他勝 Mvyut.; (音写) 波羅夷、波羅夷(罪)、波羅市迦 Mvyut., Prāt-m., Śikṣ.: ~ ā dharmāḥ 他勝法、波羅夷法、波羅市迦法 Mvyut., Prāt-m.; catvāraḥ ~ ā dharmāḥ 四波羅夷 Mvyut.: [1. a-brahma-caryam 非梵行, 2. a-datt'ādānam 不与取, 3. vadhaḥ 殺, 4. uttara-manuṣya-dharma-

pralāpaḥ 妄説上人法] *Mvyut.* 五墮 [1. catvāraḥ ~ā dharmāḥ 四波羅夷, 2. trayodaśa saṃghāvaśeṣāḥ 十三僧伽婆尸沙, 3. pāyattikāḥ 波逸底加, 4. catvāraḥ pratideśaniyāḥ 四波羅底提舍尼 5. saṃbahulāḥ śaikṣa-dharmāḥ 衆学法] *Mvyut.*

pārāpata 男 =pārāvata (男).

pārāyaṇa 中 精読, 学習; 全体; 完全な原典; 往彼 *Mvyut.*

pārāyanika 男 音写 [仏弟子の名] 波羅野尼枳囊 [°kena(?)] *Sukh-vy. I.*

pārārthya 中 [parārtha から] 利他, 私心のないこと; 為他用 *Nyay-pr.*

pārāvata 形 [parāvat から] 遠方の, 遠来の. 男 山鳩, 鳩; [蛇の一種]; 鳩, 鳩 *Divy., Saddh-p., 梵雜.*

pārāvataṃālāya 名動 自 pārāvataṃālāyate 山鳩の群に似る.

pārāvata-savarṇa 形 山鳩色の. 男 種 [Dhṛṣṭadyumna の諸馬の名].

pārāvatasavarṇāśva 男 =pārāvataśva. [Dhṛṣṭadyumna の称].

pārāvataśka 男 [(山鳩のような目をもつ) 蛇形の悪魔の名].

pārāvataśva 男 (馬の代りに山鳩をもつ) [Dhṛṣṭadyumna の称].

pārāvarya 男 副 あらゆる側に, 完全に.

pārāvāra 中 (?) 遠い岸と近い岸; 兩岸; ~sya nauḥ 一方の岸から他方の岸へ定期的に往来する小舟. ~e 中 兩岸に. 男 (遠い岸と近い岸をもつ) 海.

pārāvāra-taraṇārtham 副 こちらの岸から他の岸に渡るために.

pārāsara 形 *Parāsara* に属する.

pārāsarīn 男 *Parāsarya* 派の托鉢修道者; 種 [ある哲学々派の名].

pārāsari-putra 男 [二人の師の名].

pārāsarya 男 父系 [*Parāsara* の子すなわち *Vyāsa*].

pārāsaryāyaṇa 男 [*Parāsarya* からの 父系].

pārāsariya 中 音写 [ある種姓(階級)の名] 婆羅設 *Divy.*

pārikuṭa 男 侍者.

pāriksit 男 父系 [*Parikṣit* の子孫, *Janamejaya*].

pāriksita 男 父系 [同上].

pāri-caryā 女 [=pāri-caryā] 供養 *Sam-r. 65.*

pārijāta 男 [和名: サングジュ] [深紅の花のある植物の名; 学名 *Erythrina indica*]; *Pārijāta* 樹の木材; [天国における神話的な樹の名(大洋を攪拌する際に生じたもので *Indra* 神の所有に帰し, 後 *Kṛṣṇa* 神が *Indra* 神から取ったものといわれる)]; 円生樹, 円綵樹, 天樹王 *Abh-k., Saddh-p., Sapt-pr.;* 音写 波利(園), 波利質多(樹), 波利質多羅(樹) *Av-ś., Saddh-p.*

pārijātaka 男 [同上]; 音写 [帝釈天の園の中にある樹の名] 波利質多羅, 波利質多羅(樹) *Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p.*

pārijātamaya 形 天上の *Pārijāta* 樹の花からなる.

pāriṇāmika 形 (女-i) [pāri-ṇāma から] 消化できる;

発展性のある; [bhāva とともに 男] 自然の素質; 転出, 転中出, 能変 *Bodh-bh., Mvyut.:* ~ (rddhiḥ) 能変通 *Bodh-bh. 58.*

pāriṇāyya 中 家庭用具(すなわち結婚に際し妻の受ける財産).

pāriṇāhya 中 [同上].

pāriṭoṣika 中 報酬, (満足の表示としての)心づけ.

pāridhvajika 男 持幢者 *Mvyut.*

pāripanthika 男 追刺, 強盗; 強侵 *Śikṣ.*

pāri-pātra, [pāri-yātra の副].

pāri-pāna 中 [食物の一種]; 播囊漿 *Divy.*

pāripārśvaka 形 付添いの.

pāripārśvika 形 かたわらにはべる. 男 侍者; 従者.

pāripārśvikā 女 侍女.

pāripālya 中 支配すること.

pāripūraka 形 円満 *Mañj-m.*

pāri-pūri 女 充滿, 完全, 完成 (*Av-ś.*)

pāri-pūrīta 使役 過受分 満足 *Sam-r.*

pāri-pūrī 女 具足 *Raṣṭr. → artha~.*

pāri-pūrya 中 (?) 成就 *Kāśy.*

pāri-plava 形 活動する; あちらこちらに動く, 定まらない, ためらう, 躊躇する. 男 船.

pāriplava-gata 形 船に乗った.

pāri-plavatā 女 不安定なこと, 気まぐれなこと.

pāri-plavatva 中 [同上].

pāriplava-dṛṣṭi 形 目の安定しない.

pāriplava-netra 形 [同上].

pāriplava-prabha 形 震動する光の拡がった.

pāriplava-mati 形 心の変動しやすい.

pāri-barha 男 罽 覆 =pāri-barha.

pāri-bhadra 男 和名「サングジュ」[学名 *Erythrina indica*]; [*Yajñabāhu* の子の名]. 中 [*Paribhadra* の統治した *Śālmala-dvīpa* 中の国の名].

pāri-bhadraka 男 和名「サングジュ」.

pāribhāṣika 形 (女-i) [pāri-bhāṣā から] 慣例的な; 専門的の.

pārima 形 [*Pali* 同じ] あちらの, 遙かかなたの (*Av-ś.*); 彼 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.:* ~m tīram あちらの岸 (*Av-ś. I. 148*); ~e tīre 於彼岸 *Gaṇḍ-vy. 351. → a~.*

pārimāṇḍalya 中 [pāri-maṇḍala から] 円形.

pārimāṇya 中 [pāri-māṇa から] 円周.

pāri-yātra 1. 男 [西部 *Vindhya* 山脈の名].

pāri-yātra 2. 音写 [=pārijāta] 円生樹, 衆天所集大香樹 *Mvyut.;* 音写 波利質多羅 *Mvyut.*

pāriyātraka 男 音写 [=pārijātaka] [同上]. 音写 跋里耶多羅迦(花) *Divy.*

pārileya 男 [ある象の名] (*Jāt-m.*).

pārivittya 中 弟が結婚生活をしているのに兄が独身であること.

pārivettrya 中 兄より先に弟が結婚すること.

pārivrājaka 中 出家者の遊行生活.

pārivrājya 中 [同上].

pāriśeṣya 中 結果; 従 それだから.

pāriśodhaka 形 清浄 *Raṣṭr.*

pāri-ṣaṇḍa 男 漢訳 層 *Mvyut.*
 pāriṣada 男 [pari-ṣad から] 会合または会議の一員；聴者，観覧者；種 神の従者。
 pāriṣadya 男 [pari-ṣad から] 会員，集會に参加する人，観覧人；王の *Parīṣad* に属する人 (*Divy.*)；漢訳 衆，眷属，臣，諸輔相，諸群僚 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Siv-pr.*
 pārihārika 男 [pari-hāra から] 免除された，特典を与えられた。
 pārihārya 男 [pari-hāra から] 腕環。
 pārihāsyā 男 [pari-hāsa から] 冗談。
 pāri 女 [pāra] 牛乳桶，容器，盃。
 pārikṣit 男 = pārikṣit。
 pārikṣita 男 [同上]。
 pāriṇahya 男 家庭用具。
 pāriṇdra 男 獅子。
 pāruṣaka 男 漢訳 三色花，紫曠花 *Mvyut.*
 pāruṣakā-vana 男 (または pāruṣakāvana) 漢訳 [三十三天の園の名] 瓔惡苑 *Mvyut.*
 pāruṣika 男 粗野な (*Divy.*)；漢訳 惡口，瓔惡語 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*
 pāruṣeya 男 まだらの，斑点のある。
 pāruṣya 男 [paruṣa から] 粗暴，強暴；髪を乱した状態；無作法，侮蔑的言葉；[*Indra* 神の聖林の名]；漢訳 惡，瓔惡，瓔曠；惡口，粗言，惡罵，邪綺，瓔語，瓔惡語 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.*；~āt prativiratih 不粗言，不惡罵，離瓔惡語 *Mvyut.* → a~。
 pāruṣyaka 男 [*Pali* pārusaka] 漢訳 [三十三天の園の名] 瓔惡 *Divy.*
 pāruṣya-lipi 女 漢訳 (音写) 波盧沙書，波流沙書 *Lal-v.* 5。
 pāre-jalam 男 河・湖・海等の対岸に。
 pārevata 男 [なつめやし(棗椰子)の一種]；漢訳 奈梵雜。
 pāre-viśokam 男 *Viśoka* 山のかなたに。
 pāre-śmaśānam 男 墓地のかなたに。
 pāroḥṣa 男 (女 -i) [parō'ḥṣa から] 目に見えない，見わけられない；了解しにくい，不可解な，神秘的。
 pāroḥṣya 男 [[同上]。男 目に見えないことまたは見えにくいこと；神秘。
 pārjanya 男 雨または *Parjanya* に関する。
 pārtha 男 母系 *Prtha* の子孫 [*Yudhiṣṭhira*, *Bhīmasena*, およびとくに *Arjuna*]；種 *Pāṇḍava* 五王子；[*Kāśmīra* の王侯の名]；[人名]。
 pārthak 男 [pṛthak から] 漢訳 庸浅 *Daś-bh.*
 pārthag-jana 男 漢訳 凡夫 *Sūtr.*
 pārthagjanika 男 (女 -i) [pṛthag-jana から] 漢訳 凡愚，居異生位者 *Lal-v.*, *Bodh-bh.* 37。
 pārtha-ja 男 *Pārtha* の息子。
 pārthiva 男 (女 -i) 地上の，現世の；[*vrata* とともに男] 現世の風習。男 地上の住者；王侯，王，戰士；漢訳 王 *Lal-v.*, *Mvyut.* 男 王の，王侯にふさわしい。
 pārthivatā 女 王の尊嚴，王たること。
 pārthivatva 男 [同上]。
 pārthiva-nandini 女 王の息女，王女。

pārthiva-rṣabha (°va-rṣ°) 男 牡牛のように (強い) 王。
 pārthiva-vara 男 漢訳 王 *Lal-v.*
 pārthiva-śreṣṭha 最上 男 諸王中の最も勝れた者。
 pārthiva-sutā 女 王の息女。
 pārthivātma-jā (°va-āt°) 女 [同上]。
 pārthivi 女 大地の娘すなわち *Sita*。
 pārthivendra (°va-in°) 男 諸王中の最も勝れた者；漢訳 王，大地人王 *Divy.*, *Lal-v.*；地神 *Gand-vy.*
 pārya 男 向う岸にある；最後の，決定的の，有効な。男 終局。
 pāryavasānika 男 [pary-avasāna から] 終末に近い。
 pāryāyika 男 [pary-āya から] 漢訳 異門，別意説 *Abh-vy.*
 pārvaṇa 男 時の区分または月 (太陰) の盈虧に関する [たとえば新月および満月]；満ちて行く または 満ちた (月)；衝 (惑星が太陽と正反対の方向にくること) の時または満月の時にある；~au śāsi-divākarau 満月時の月と太陽。男 半カ月；新月祭および満月祭。
 pārvata 男 (女 -i) 山中に生じたまたは生長する，山中にある，居住するまたは存する，山地の，山の多い。
 pārvatāyana 男 [*Parvata* からの 父系，ある侍従の名]。
 pārvati 女 父系 山 (すなわち *Himalaya* 山) の娘，*Durgā* (*Śiva* 神の妻)。
 pārvatiya 男 山中に居住する。男 山中の住人；[ある山中の王侯の名]；種 [ある山中に住する民族の名]。
 pārvateya 男 [ある山間民族の王侯の名]。
 pārvāyanāntiya 男 (新月および満月の) 相合または衝および至 (冬至，夏至) の日に属する。
 pārśukā 女 肋骨；漢訳 肋 *Lal-v.*
 pārśva (男) 男 [肋骨 (*parśu*) に連結した]，肋骨部，脇 [また 脇]，(軍隊の) 側面；接近，近接；漢訳 脇，脅，腋，肋；辺，偏，面，辺面；脇扇 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lanik.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵雜.；*dakṣiṇeṇa* ~ena śayyāṃ kalpayanti 右脇而臥，向右辺而臥 *Śikṣ.* 137. 男 [ある仏教の論師の名]。~m 男 わきを (見る)；(男，一°) のそばに，…の近くに。~āt 男 …から離れて，…の方で，…のそばに，…を通して。~e 男 近くに；(男，一°) のそばに，…において；漢訳 一辺 *Divy.* 男 両側に。°— のそばまたは近くに立った。
 pārśvaka 男 肋骨。
 pārśvakā 女 漢訳 胸脇 *Śikṣ.* 228。
 pārśvakāsthi 男 漢訳 脇骨 *Śikṣ.*
 pārśva-ga 男 ある人のそばに行く，随行する。男 侍者；種 随行員，従者達。
 pārśva-gata 男 ある人のそばに行く，随従した，庇護する (日蔭)。
 -pārśva-gamana 男 同伴すること。
 pārśva-cara 男 侍者；種 従者達。
 pārśvatas 男 (男，一°) のそばまたは脇から，…のそばにまたは脇で，…に並んで，…のそばで；手近かに。
 pārśva-da 男 従者；種 従者達。

pārśva-dāha 男 脇の焼けるような苦痛；腋煩熱 *Mvyut.*
 pārśva-druma 男 かたわらにある樹木。
 pārśvadhika 男 [正しくは pārśvadhika] 執鉞斧者 *Mvyut.*
 pārśva-parivartita 形 脇の方に向けられた。
 pārśva-parivartin 形 (一)のかたわらに立つ。
 pārśva-vartin 形 かたわらに立った。男 侍者；隨員，從者達。
 pārśva-vivartin 形 かたわらに在る，(圓)とともに住する。
 pārśva-śayana 中 倚臥 *Vijñ-t.*
 pārśva-samstha 形 脇を下にして横わった。
 pārśva-sukha 中 倚樂 *Bodh-bh.*
 pārśva-sūtraka 中 陰陽鬘 *Mvyut.*
 pārśva-stha 形 かたわらに立った，近くに留まる。
 pārśva-sthita 形 [同上]。
 pārśvāgata (°va-āg°) 形 近くに來た，近づいた。
 pārśvānugata 形 所護，隨應 *Lank.*
 pārśvānucara 男 侍者。
 pārśvāyāta (°va-āy°) 形 近づいた，近よった。
 pārśvāsanna (°va-ās°) 形 かたわらに在る，現在する，ある。
 pārśvāsina (°va-ās°) 現分 わきに坐っている。
 pārśvāsthi 中 肋骨。
 pārśvika 男 肋骨；[ある仏教の論師の名]；脇 *Mvyut.*
 pārśvopapārśva (°va-up°) 男 横腹と肩胛骨。
 pārśvopapīdam (°va-up°) 不変分 腹を抱えて(哄笑して)。
 pārśata 形 (因-i) 斑点のある鹿(*pṛśata*)のまたはに属する。男 [*Drupada* またはその子 *Dhṛṣṭadyumna* の父系]。
 pārśati 因 [*Draupadi* の父系]。
 pārśad 因 隨 (神の)從者達。
 pārśada 男 [=pārśada] 侍者(とくに神の)；集会の人員，觀覽者；隨 [時として隨] 從者。中 ある文法学派の承認する教科書。
 pārśadya 男 [=pārśadya] 集会の會員，陪席者；衆，眷屬 *Lalv.* 隨 從者(とくに神の)。
 pārśni 因 踵；(軍隊の)後尾，背部；踵，跟，跣，蹠 *Bodh-bh., Divy., Mvyut.* → āyata-pāda ~。
 ~m *Grah*, 後尾から(圓)を攻撃する。
 pārśni-kṣeman 男 [ある神格の名]。
 pārśni-graha 形 背面からつかむ，背面を脅かす。男 跡を追う者 [王の後尾を掩護する味方あるいは攻撃する敵]。
 pārśni-grāha 形 後尾から攻撃する。男 後背の敵。
 pārśni-ghāta 男 かかとで蹴ること。
 pārśni-pradeśa 男 足跟地，脚跟地 *Abh-vy.*
 pārśni-prahāra 男 =pārśni-ghāta。
 pārśni-yantr 男 脇添えの馬の御者。
 pārśni-vah 男 脇添えの馬。
 pārśni-vāh 男 [同上]。
 pārśni-vāha 男 [同上]。
 pārśni-sārathi 男 脇添えの馬を御する二人の御

者。
 pārśni 因 =pārśni；脚跟 *Mvyut.*
 pārśny-abhighāta 男 =pārśni-ghāta。
 pāla 男 監視人，保護者；牧者；大地の守護者，主，王；[王朝の名]；護，持 *Mvyut.*，梵雜。
 pālaka 男 (因-ikā)保護者，擁護者；養父；支配者，王侯；(大地の)守護者；[諸王侯の名]；守 *Ast-pr.*；[人名]擁護 *Divy.* → paśu ~。
 pāla-jagat 形 護世 *Śikṣ.*
 pālana 形 (因-i) 保護する，養育する。中 保護すること，擁護すること，撫育すること；保存すること，遵守すること，保管すること，支持すること。
 pālaniya 未受分 保護・擁護・支持または遵守されるべき。
 pālaya 名動 他 pālayati [叙述 はまた 因-te] [インドの文典家は Pā の 使役 としている] 保護する，擁護する；支配する；…の保護者となる；(約束等を)保持する，…を支持する，…を守る；禁守 *Sūtr.*；rājyaṃ pālayati 治化 *Av-s. I. 178.* 過受分 pālita。
 ati- (時を)経過するまたは費す。
 anu- 保護する，擁護する；世話する；…の保護者となる；(約束等を)支持する，…を遵守する，…を守る；固守する；長養 *Śikṣ.*
 abhi- 保護する，…を補佐する。
 pari- (因) から保護する，…から擁護する；治める；撫育する，尊敬する；支える；支持する，保つ；予期する；待つ；護，守護，擁護；瞻敬養育；度，拔濟 *Bodh-bh., Gand-vy., Śikṣ., Suv-pr.*；paripālayāhi me 願度我，願守護我，唯願(垂悲)拔濟我 *Gand-vy. 54.*
 anu-pari- 隨護 *Mvyut.*
 prati- 擁護する，保護する；支持する，遵守する，固守する；待つ；期待する，予期する。
 sam- 擁護する；(約束を)守る；打ち勝つ，圧倒する。
 pālayitr 男 (圓，圓，一)の擁護者，保護者。
 pāla-hāri 男 [人名]。
 pālāśa 形 (因-i) Palāśa 樹に属する，Palāśa 樹で作った。
 pāli 因 耳たぶ，外耳；へり(縁)，端；堰，堤防；線，列。
 pālikā, [pālaka の因]。
 pālita 過受分 → pālaya。被護，擁護 *Abh-vy.*
 pālitya 中 白髪であること；白頭，髮白 *Mvyut., Śikṣ.*
 pālin 形 擁護する，保護する。男 (一)の支配者。
 pāli-bhaṅga 男 堤防の破裂。
 pāli 1. 因 女守護者。
 pāli 2. 因 =pāli。口辺 [*Tib. kha nan*] *Mvyut.*
 pāli-vata 男 [樹の一種]。
 pāle-vata 男 [同上]。
 pālevata-vṛkṣa 男 梨樹 *Mvyut.*
 pālya 未受分 擁護されるべき，保護されるべき；(圓)の保護の下にある；遵守されるべき，保管されるべき，支持されるべき。

pāvaka 形 [Pū] 清浄な, 明瞭な; 明るい; 浄化する。
 男 火; Agni 神; (ある特殊な) Agni.
 pāvakavat 形 pāvaka という語を含むまたは名をもつ;
 [特殊な Agni の称].
 pāvaka-varṇa 形 明るい色の。
 pāvaka-śocis 形 赫々と輝く。
 pāvaka-suta 男 [Sudarśana の 父系]
 pāvakātma-ja (°ka-āt°) 男 [Skanda の 父系].
 pāvakārcis 女 火炎。
 pāvakāstra 男 火の武器。
 pāvaki 男 [(火神の子), Skanda の 父系].
 pāvana 形 (女 -i) 浄化する, (罪を)清める; 清浄な,
 神聖な。男 (ある特殊な)火; [Kṛṣṇa の子の名].
 男 浄化, 罪を清めること; 浄化の手段。
 pāvani 女 [河の名].
 pāvamāna 形 Agni Pavamāna または Soma Pavamāna
 に関する。
 pāvamāni 女 [一般に 覆] Soma Pavamāna の讃歌
 [とくに Rg-veda, maṇḍala IX にある].
 pāvāra 男 または 男 [dvāpara の 詞] さいころ。
 pāvita, [Pū の 使役 過受分].
 pāvini 女 [恐らくは pāvani].
 pāvira 形 (女 -i) 雷電 (paviru) に関するまたはから
 起る。
 pāvira 女 (電光の娘), 雷鳴。
 pāsa 男 [Paś] 糸, つなぎ繩; 罽, 輪繩, 輪索; 枷,
 足枷 [また 罽]; 一° 半可通, 不器用者; …の美
 =美しい, 端麗な; …の束, …の多量, 豊富な [毛
 髪を意味する語とともに]; 罽 繩, 綱, 繫, 罽,
 索, 罽索, 罽 Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v.,
 Lan̄k., Mañj-m., Śikṣ., 梵雑.; 枷鎖, 罽鎖, 罽 Bu-
 ddh-c.; 網, 羅網 Divy., Śikṣ.
 pāsaka 男 輪繩, 罽; 罽 罽索 Śikṣ.
 pāsa-kaṇṭha 形 首に枷をもつ。
 pāsa-guṇa 男 罽 罽縛 Raṣṭr.
 pāsa-graha 男 罽 罽執索, 用索, 能弄索, 索法 Divy.,
 Mvyut.
 pāsa-dyumna 男 [人名].
 pāsa-baddha 形 網にかかった, 罽にかかった; 輪繩
 にかかった, 輪繩に捉われた。
 pāsa-bandha 男 罽, 輪繩, 絞首繩; 網。
 pāsa-bandhaka 男 鳥を捕獲する者。
 pāsa-bandhana 男 罽. 形 罽にかかった。
 pāsa-bhṛt 形 輪繩を保持する。男 [Varuṇa 神の称].
 pāsa-rajju 女 足枷, 枷。
 pāsava 形 [paśu から] 動物に由来する, 動物に特有
 な。
 pāsa-hasta 形 手に罽または輪繩を保持する。男 [Yama
 神の称].
 pāsāya 名動 自 pāsāyate 網となる。
 pāsālepa (°śa-āl°) 男 罽 罽 Divy.
 pāsika 男 罽をかける人, 鳥を捕獲する人; [人名].
 pāsita 過受分 罽られた。
 pāsīn 形 輪繩をもつ。男 鳥を捕獲する人; [Varuṇa
 神の称].
 pāsī-vāṭa 男 覆 [ある民族の名].

pāsupata 形 (女 -i) [paśu-pati から] Paśupati すなわち
 Śiva に関するまたは属する。男 Paśupati すなわち
 Śiva の崇拝者; 罽 畜主, 獸主徒 Mvyut.; 自在,
 自在天 Lan̄k.; 音写 波輪鉢多, 播輪鉢多 Abh-vy.,
 玄応。
 pāsupata-vrata 男 Paśupati (Śiva) 崇拝者の教義。
 pāsupatāstra 男 Śiva 神の三叉のほこ(矛)。
 pāsupālya 男 [paśu-pāla から] 家畜を世話すること
 または飼育すること。
 pāścātya 形 後の; 西方の; 最後の。
 pāścātya-bhāga 男 (後部), (針の)目。
 pāścātya 形 =pāścātya. 男 覆 罽 西方師, 西国師
 Abh-vy.
 pāṣaṇa 男 [=pāṣaṇa] 罽 石 梵雑。
 pāṣaṇḍa 形 (女 -i) 異教の, 異端の。男 異教徒, 異端
 者; 罽 異学, 外道, (衆)道法, (諸)道法 Gaṇḍ-
 vy., Lan̄k., Śikṣ.: ṣaṇ-ṇavatiyo ~āḥ 九十六衆,
 九十六種外道邪見 Gaṇḍ-vy. 181. 男 罽 異教, 異
 端; 罽 邪道, 異道 Bodh-bh.
 pāṣaṇḍa-stha 形 異教に専心した, 異教に属する。
 pāṣaṇḍika 男 異教徒; 罽 異学 Av-s.; 邪教徒, 具
 希有 Mvyut.
 pāṣaṇḍin 男 異教徒, 異端者。
 pāṣaṇḍya 男 異教, 異端。
 pāṣāṇa 男 石; 罽 石, 沙石, 罽石, 礫石, (瓦)礫,
 砂礫, 豆土, 塊土 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-
 v., Mañj-m., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., 梵千。
 pāṣāṇamaya 形 (女 -i) 石造の。
 pāṣi 女 罽 糞, 土 Abh-vy. 628.
 pāṣi 女 罽 糞 Mvyut.
 pi, [api の代用として動詞に附する接頭音].
 Piṁś, → Piś.
 Piṁṣ, → Piṣ.
 pika 男 インドかっこう(郭公).
 piki 女 [同上].
 piṅga 形 [Piṅj] 赤褐色の, 黄褐色の。
 piṅga-danta 男 [人名].
 piṅgala 形 黄褐色の; 黄褐色または赤色の眼をもつ。
 男 [Śiva 神の称]; [ある Dānava の名]; [人名,
 とくに韻律に関する書物 (Chandaḥ-sūtra) の作者と
 伝えられる人の名]; 罽 [竜の名] 黄, 黄色, 黄白
 色 Mvyut.; 音写 [伏蔵の名] 氷竭羅 Divy.
 piṅgalaka 男 [黄褐色]; [ある獅子の名].
 piṅgala-gāndhāra 男 [ある Vidyādhara の名].
 piṅgala-jya 形 黄褐色の弦をもつ (Śiva 神の弓).
 piṅgalatva 男 黄褐色または黄褐色であること。
 piṅgala-vatsājiva (°sa-āj°) 男 罽 [人名] 蒼犢
 Divy.; 音写 賓伽羅跋娑, 賓伽陵婆蹉 Divy.
 piṅgalā 女 [蛭の一種].
 piṅgalikā 女 [人名].
 piṅgalita 過受分 黄褐色となった。
 piṅgalin 形 黄褐色の。 → ekākṣi ~.
 piṅgaliman 男 黄褐色。
 piṅgākṣa 形 (女 -i) 黄褐色または赤色の眼をもつ。男
 猿; [Agni 神の称]; [ある Daitya の名].
 piṅgeśa (°ga-iśa) 男 [Agni 神の称]; [Śiva 神の

称].

piṅgeśvara (°ga-iś°) 男 [Parvati の侍者の名].

picu 男 綿; 綿 Ast-pr., Śikṣ.

picut-kāra 男 picut という音 [魔軍の立てる音] (擬声音) (Lal-v.).

picu-manda 男 [Nimba 樹, 学名 *Azadirachta indica*].

picu-marda 男 [同上].

picula 男 [樹の名, 学名 *Tamarix indica*].

piccaṭa 男 [眼病の一種]; 赤目 Mvyut.

piccaḍa 男 [=piccaṭa].

piccha 男 尾の羽(とくに孔雀の).

picchaka 男 [同上].

picchala 男 粘液性の, 滑らかな, 脂肪質の. 男 [ある Nāga の名].

picchalā 女 [河の名].

picchikā 女 (奇術師等の用いる)孔雀の尾羽の束.

picchila 男 =picchala. 滑, 臭滑 Abh-vy., Śikṣ.

picchila-saṁkrama 男 (陰)滑路 Śikṣ.

picchili-Kṛ, 滑らかにする.

piñca-deva 男 [人名].

[Piñj, 染める].

piñjara 男 赤黄色の, 黄褐色の; 色あせた(老人の髪).

piñjaratva 男 黄金色; (老人の髪の)あせた色.

piñjaraya 名動 他 piñjarayati 黄褐色に染める.

piñjarika 男 [楽器の一種].

piñjarita 過受分 [→ piñjaraya]. 黄褐色に染められた.

piñjariman 男 黄褐色.

piñjari-Kṛ, 黄褐色にする.

piñjali 女 茎または草の束またはふさ(総).

piñjūla 男 [同上].

piṭa 男 男 籠; 蔵 Av-s., Divy.

piṭaka 男 男 籠; 水泡, (皮膚上の)小腫 (Jat-m.); 蔵, 篋蔵, 箱 Bodh-bh., Kāśy., Lan̄k., Sūtr., 梵千., 梵維.; (法)蔵 Kāśy.; (音写)毗羅經 Kāśy.; 13.; 除糞器 Saddh-p.; 瘡, 牛眼瘡 Mvyut., Śikṣ.

piṭaka-traya 男 三蔵 Sūtr.

piṭaka-mātrkā 女 (音写) (菩薩)蔵摩怛理迦, 摩得勒伽蔵, (菩薩)摩夷 Bodh-bh.

piṭṭaka 男 [=pidakā]. 施 Divy.

piṭṭaya 名動 他 piṭṭayati 踏みつける.

piṭhara 男 瓶; 鍋.

piṭharaka 男 [同上].

piṭharaka-kapāla 男 瓶の破片, 土器の破片.

piṭharikā 女 =piṭhara. 料理用の鉢 (Divy.); 小器 Gand-vy.

piṭhari 女 =piṭhara. 小鍋 Mvyut.

pidakā 女 腫物, 吹出物, 小膿疱.

piṇḍa 男 [まれに 男] 丸い塊, 塊, 節, 球; (壁漆喰の)薄片; (食物の)一口, 口一杯=日常の糧, 食物, 生活資糧; (祖霊に供える)団子(の類), 祖霊祭の供物, 祭餅; 身体, 人, 個人; 物質; 団, 丸, 円, 聚, 合, 一合, 総 Abh-vy., Divy., Lan̄k., Madhy-v., Vijñ-v.; 聚色 Vijñ-v.; 食, 食分, 搏 Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Vajr-pr.; 信施 Ast-pr.,

→ ayas~, raśmi~. ~āya 男 乞食, 因乞食, 為乞食故 Av-s., Gand-vy.: vaiśālīm ~āya prāvīkṣat 入毘舍釐乞食 Av-s. I. 8. ~āya Car, 行乞食, 遊行乞食 Śikṣ. ~m Car 乞食 Lal-v. 240.

piṇḍaka 男 塊, 球; 円形の隆起(とくに象のこめかみの); 食 Mvyut.

piṇḍa-kharjūra 男 [なつめやしの一種]; 柿子 Mvyut.

piṇḍakharjūra-vṛkṣa 男 柿子樹 Mvyut.

piṇḍa-grāha 男 総執, 聚執, 聚一執, 一合執, 一合相 Bodh-bh., Mvyut., Vajr-pr.

piṇḍa-caryā 女 分衛 [piṇḍa の音写 (?) Sam-r. 62.

piṇḍa-cārika 男 行乞食 Śikṣ.

piṇḍatas 男 球または塊から.

piṇḍatā 女 身体たること.

piṇḍatva 男 稠密, 凝結, 物質の塊の状態. ~m āgata 漆黒となった(闇).

piṇḍa-da 男 (祖霊に)祭餅を供える または 供える資格をもつ; 給 Mvyut. 男 食を与える者, 主, 主人.

piṇḍa-dā 女 母.

piṇḍa-dātr 男 =piṇḍa-da (男).

piṇḍa-dāna 男 団子(の類)の供養[とくに祖霊への供物として]; (新月の夕における)祖霊祭の供物; 施与.

piṇḍana 男 円形に作ること; 祖霊への供物(祭餅)を作ること (?).

piṇḍa-nirvapaṇa 男 祭餅を捧げること.

piṇḍa-pāta 男 布施をすること, 施食すること; (比丘の)乞鉢中に受取った食物 (Av-s., Divy.); 食, 飲食 Ast-pr., Bodh-bh., Mvyut., Vin.; 乞食 Mvyut., Śikṣ., Vin.; 供, 供養 Divy.; 分衛 [piṇḍa の音写 (?) Sam-r. 65. bhikṣuṇī-paripācita~ 比丘尼讚歎食, 比丘尼讚因縁得食 Prāt-m. 508. → kavāḍa-cchedaka, sama-sūpika.

piṇḍapāta-gamana 男 行乞食(者) Śikṣ.

piṇḍapāta-saṁtuṣṭa 男 乞食知足 Mvyut.

piṇḍa-pātika 男 (男) [Pali 同]. =pāṇḍapātika] 乞鉢中に受取った施食のみを食する(人) (Av-s.);

乞食, 常乞食, 常行乞食 Ast-pr.

piṇḍa-pātin 男 苦行者, 行者.

piṇḍa-pātra 男 (男) 施物を受ける鉢; 施物; [= piṇḍa-pāta] 行乞食 Śikṣ. ~m Car, 行乞食 Śikṣ.

piṇḍapātra-nirhāraka 男 [僧院の下僕(の一種) (Divy.).

piṇḍa-pitr-yajña 男 (新月の夜に行なわれる特別の)祖霊祭.

piṇḍa-prada 男 祭餅を供養する.

piṇḍa-phala 男 丸い形の果実を結ぶ.

piṇḍa-bhāj 男 祖霊祭の供物を受ける. 男 祖霊.

piṇḍamaya 男 (土)塊からなる.

piṇḍa-mātropajivin (°ra-up°) 男 もっぱら(施)食のみによって生活する.

piṇḍaya 名動 他 piṇḍayati 蓄積する, 結合する; 寄

せ合わせる；**合**，合集，和合，相和合 *Aṣṭ-pr.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.* **不変分** piṇḍayitvā **合**，合集，和合，相和合 *Aṣṭ-pr.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.* **過受分** piṇḍita 塊にされた，緻密にされた；重厚な，(うつろでなく)中まで堅い，密な；一纏めにされた，結合された。

ava- **過受分** avapiṇḍita 小球となって落下した。

pari- **過受分** paripiṇḍita 握りしめられた。

sam- とともに積み上げる。 **過受分** sampiṇḍita 握りしめられた，集められた，収縮された；結合された。

piṇḍa-yajña 男 祖霊に祭餅を捧げる供養。

piṇḍa-lakṣaṇa 中 **積聚相** *Lank.*

piṇḍalu 男 **辛菜根** *Mvyut.*

piṇḍa-lepa 男 (手に)付著した祖霊祭の供物の残片[これを曾祖父以前の三代の祖先に供養する]。

piṇḍa-veṇu 男 **筆** *Mvyut.*

piṇḍa-śirṣa 男 円い頭をもつ。

piṇḍa-saṃjñā 女 **聚想**，合想，一合想，和合想 *Aṣṭ-pr.*，*Madhy-v.*

piṇḍa-saṃbandha 男 (死者に対して祖霊祭を行なう資格のある)親戚関係。

piṇḍa-sektr 男 [蛇神；悪魔の一種]。

piṇḍāgra 中 祭餅(団子など)の小片。

piṇḍātma-grahana 中 **総執為我**，執聚為我 *Abh-vy.*

piṇḍānvāhārya 男 **śrāddha** とともに。中 祭餅供養の後の饗宴。

piṇḍānvāhāryaka 中 [同上]。

piṇḍāraka 男 [Vasudeva の息子の名]。中 [あるTirthaの名]。

piṇḍārtha 男 **総義**，集義，衆義，合義，合集衆義，取要言之，略示彼義，総説前義 *Bodh-bh.*，*Madhy-vibh.*，*Sūtr.*

piṇḍālaktaka 男 [赤色染料の一種]。

piṇḍikā 女 (肩・腕または脚上の)肉の塊；(彫像の)台座；**団** *Divy.*

piṇḍita **過受分** → piṇḍaya。 **総**，合成 *Abh-vy.*，*Bodh-bh.*

piṇḍita-druma 男 木で満ちた。

piṇḍitārtha 男 簡約された意味，要点，主要な事柄。

piṇḍī 女 [樹の一種]。

piṇḍī-karaṇa 中 握ること，つかむこと。

piṇḍī-Kṛ，塊とする，握りしめる；圧縮する，緻密にする；集中する；(saha)と同一視する；**合**，結集 *Abh-vy.*，*Saddh-p.*

piṇḍī-kṛtya **不変分** **収** *Mvyut.*：ekataḥ～収為一処 *Mvyut.*

piṇḍī-kṛtvā **不変分** **收取**，聚集 *Suv-pr.*：sarvam ekatra～一切聚集，悉皆收取 *Suv-pr.* 174。

piṇḍī-bhāva 男 圧縮または握りしめられること。

piṇḍī-BHū，一塊となる，密接に結合する。

piṇḍī-bhūta 男 一塊とされた，積み上げられた，継ぎ合わされた，合同された；**所集** *Śikṣ.*

piṇḍī-lepa 男 軟膏(の一種)。

piṇḍoddāna 中 **略摂頌**，集施頌；(音写)略嗔陀南 *Mvyut.*

piṇḍopajivin (°ḍa-up°) 男 他人の食物を食うすなわち他人に養われる。

piṇḍopadhāna 中 **鉢蓋** *Divy.*

piṇḍola-bharadvāja 男 **音写**[人名] 賓頭盧頗羅隨；賓頭盧跋羅豆婆闍 *Divy.*

piṇyāka 男 中 油粕；[植物の一種，あぎ(学名 *Asa foetida*)]。

pitā-putra 男 中 および°，父と子；**父子** *Madhy-v.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.*

pitāputra-samāgama 男 **経の名** 父子合集経，父子集会経，父子相見請問経 *Madhy-v.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.* [菩薩見実経(大宝積経第十六会)]。

pitā-maha 男 父方の祖父；[*Brahman* 神の称]；**祖先**，祖霊(とくに遠いもの)；**祖**，祖父，曾祖，先祖，大祖，大祖父，父長者，翁，先亡 *Abh-vy.*，*Aṣṭ-pr.*，*Divy.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Mañj-m.*，*Mvyut.*，*Suv-pr.*，梵千，梵維。

pitā-mahā-saras 中 [ある聖浴地の名]。

pitā-mahī 女 父方の祖母；**祖母** *Mvyut.*，梵維。

pitū 1. 男 [-一回のみ 中] 汁，飲物，食物。

pitū 2. 男 中 [<pitṛ] **父** *Vin.* 4。

pitū-bhṛt 男 食物を運ぶ。

pitumat 男 飲食物を伴った；栄養のある。

pitū-saṃjñā 女 中 [<pitṛ-s°] **如父想** *Vin.* 4。

pitṛ 男 父；**両親**；**祖先**；父とその兄弟，父方の親戚；先祖，祖霊；**父** *Abh-vy.*，*Lank.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，*Sāmkhy-k.* *Śikṣ.*，梵千；(種)祖宗 *Buddh-c.*：～ā bodhisattvānām 諸菩薩父 *Mvyut.*

pitṛka 男 =pitṛ。

pitṛ-karman 中 祖霊を祭る儀式。

pitṛ-kalpa 男 父のような，父に似た；**父(母)**，譬如慈父 *Bodh-bh.*，*Sūtr.*

pitṛ-kānana 中 祖先の墳墓，墓地。

pitṛ-kārya 中 祖霊への供養。

pitṛ-kriyā 女 [同上]。

pitṛ-gaṇa 男 祖霊の群，祖霊；**祖霊の諸群**。

pitṛ-ghāta 男 **殺父** *Mvyut.*

pitṛ-ghātaka 男 父を殺す者；**殺父**，殺父者 *Mvyut.*

pitṛ-ghātin 男 [同上]；**殺父**，害父 *Saddh-p.*

pitṛ-ghna 男 [同上]。

pitṛ-jña 男 **知父思**，識父，孝順父，供養父 *Bodh-bh.*，*Lal-v.* → a～。

pitṛ-tarpaṇa 中 祖霊に水等を捧げること。

pitṛtas 男 父の側に。

pitṛtva 中 父たること，父の位；**父** *Lank.*

pitṛ-dāya 男 父から受けた財産，世襲財産。

pitṛ-deva 男 祖霊と諸神；[ある神聖な存在]；**父(母)家神** *Vajr-s.*

pitṛ-devata 男 祖霊を神とする，祖霊を祭った。

pitṛ-devatā 女 祖霊と諸神。

pitṛ-devatya 男 =pitṛ-devata。

pitṛ-daivata 男 (因-i) 祖霊崇拜に関する；**父天** *Divy.*

pitṛ-drohin 男 父に対して陰謀を企てる。

pitṛ-pakṣa 形 父側にある, 父方の。
 pitṛ-pati 男 [(祖霊の主), Yama 神の称]; 園 諸祖
 霊と諸の Prajapati.
 pitṛ-putra-samāgama 男 園 [経の名, =pitā-p°]
 父子合集経 Śikṣ.
 pitṛ-pūjana 田 祖霊崇拜。
 pitṛ-paitāmaha 形 (因-1) 父および祖父から相続され
 たまたはに独特の; [nāman とともに 田] 父および祖父
 の名. 男 園 または °- [韻律上 pitā-maha に代用
 する], 諸父および諸祖父。
 pitṛ-paitāmahika 形 [同上 形].
 pitṛmat 形 父をもつ; 祖霊と結合した。
 pitṛ-mandira 田 父の家, 父方の邸宅。
 pitṛ-mātr-maya 形 父母のみを考える。
 pitṛ-mātr-artha (°tr-ar°) 形 父母のために乞う。
 pitṛ-mitra 田 父の友。
 pitṛ-medha 男 祖霊への供養。
 pitṛ-yajña 男 [同上].
 pitṛ-yāna 形 祖霊の踏んだ(道), 祖霊へ導く(道).
 pitṛ-yāna 男 [同上].
 pitṛ-rakṣita 形 漢語 父護, 父愛護 Mvyut.
 pitṛ-rāj 男 祖霊の王すなわち Yama 神。
 pitṛ-rāja 男 [同上].
 pitṛ-rājan 男 [同上].
 pitṛ-loka 男 父の家; 祖霊の世界または住处; 漢語 餓
 鬼, 餓鬼趣 Buddh-c., Divy.: ~m āgatāḥ. 生餓
 鬼 Divy. 8.
 pitṛ-vaṃśa 男 父の家系。
 pitṛ-vaṃśya 形 父の家系に属する。
 pitṛvat 圃 父のように; 祖霊のように, 祖霊供養の際
 のように。
 pitṛ-vadha 男 親殺し。
 pitṛ-vana 田 祖先の宿る森, 墓地。
 pitṛ-vaṣaya 男 漢語 餓鬼境 Mvyut.
 pitṛ-veśman 田 父の家。
 pitṛvya 男 父方の伯(叔)父, 年長の親戚または友; 漢語
 叔 梵千。
 pitṛvya-putra 男 父方の伯(叔)父の息子, いとこ。
 pitṛ-vrata 男 祖霊崇拜者。
 pitṛ-śarman 男 [ある Dānava の名].
 pitṛ-śad 形 両親とともに家に残る, 結婚しないで家
 に残る; 祖霊とともに住する。
 pitṛ-śvasṛ 因 父の姉妹; 漢語 姑姑 Mvyut.
 pitṛ-samjñā 因 漢語 父想, 父心 Aṣṭ-pr., Saddh-p.
 pitṛ-samjñin 形 漢語 起(慈)父想, 発(慈)父心 Gand-
 vy.: ~i kalyāṇa-mitreṣu 於善識起慈父想, 於善
 知識發慈父心 Gand-vy. 84.
 pitṛ-sadman 田 墓地。
 pitṛ-han 男 父を殺す者。
 pitṛ-hū 因 右耳。
 pitta 田 胆汁 [kapha および vāyu とともに肉体の三要
 素 (doṣa) の一]; 漢語 胆, 黄, 瘕, 瘕痰, 痰, 黄
 病, 黄熱, 熱, 熱病, 火病 Aṣṭ-pr., Gand-vy.,
 Lal-v., Mvyut., Sāmkhy-k., Śikṣ., Suw-pr.
 pitta-dāha 男 胆汗熱; 漢語 熱病 Buddh-c.
 pittopasṛṣṭa (°ta-up°) 形 胆汁の病にかかった。

pittha 男 [人名].
 pitthaka 男 [同上].
 pitr-ādy-anta (°tr-ād°) 形 祖霊に対する祭儀で始ま
 りこれで終る (śrāddha).
 pitrya 形 父の; 先祖の; 祖霊に関するまたはに供えら
 れた; [tirtha とともに 田] 祖霊に供物を捧げる手の
 (親指と人差指との間の)部分; [diś とともに 因] 南方;
 漢語 翁 (?) 梵維。
 pitsa, [Pat の 希求 翰].
 pithat 現分 形 [<pidadhat. → pi-DHā] 漢語 閉
 Śikṣ. 348.
 pithati 動 形 [pi-DHā] 漢語 能閉 Gand-vy. 63.
 → pithaya.
 pithana 田 (?) 形 [→ pithat] 漢語 閉 [Tib. gcod
 pa] Gand-vy. 98.: sarvākṣaṇa-gati-dvāra ~ 閉諸
 難門, 遠離諸難 Gand-vy. 98.
 pithapaya 名動 形 [pi-DHā] 他 pithapayisyati (因
 三人 單) 漢語 閉閉 Gand-vy. 112.
 pithaya 名動 形 [pi-DHā] 漢語 pithitum (不定);
 閉 Lal-v. 46. → pithati.
 pithita 過受分 形 [<pi-hita. pi-DHā] 漢語 閉, 杜
 塞, 断塞 Lal-v., Saddh-p., Suwik-pr.; 滅除 Śikṣ.
 307.
 pi-DHā, → DHā.
 pi-dhātavya 未受分 覆われるべき, 閉じられるべき
 (耳).
 pi-dhāna 田 覆うこと, 閉塞すること; 覆い; 蓋; 漢語
 閉 Abh-vy.
 pi-dhānavat 形 蓋で覆われた。
 pi-dhāyaka 形 (一°) を覆う, 隠す。
 pi-dhāyakatā 女 [同上 圃].
 pi-dhita 過受分 漢語 閉閉, 永断 Suw-pr.
 pi-dhitsu 希求 形 隠そうと思う。
 pi-naddha 過受分 → Nah.
 pi-Nah pinahyati, pinahya (不変分). → Nah.
 pināka 田 杖; Śiva 神の棍棒または弓。
 pināka-goptr 男 [Śiva 神の称].
 pināka-dhṛk 男 [同上].
 pināka-pāṇi 男 [同上].
 pināka-bhṛt 男 [同上].
 pinākin 男 [同上]; 漢語 有弓者 Mvyut.
 Pinv, 1. pinvati(-te) 膨脹させる, 溢れさせる, 充滿
 させる; 目 膨脹する, 充滿する, 溢れる。
 pra- [=単純動詞].
 pipatiṣat 希求 現分 飛ぼうとしている, 落ちようと
 している. 男 鳥。
 pipatiṣu 希求 形 落ちようとしている。
 piparikā 女 [piṭharaka の誤. Pali pivaraka] 漢語
 釜 Divy. 496.
 pipāsa 男 (?) [Pā 1.] 漢語 渴, 渴愛 Śikṣ. 334.
 pipāsat 希求 現分 [Pā 1.] 渴いている。
 pipāsā 女 飲もうとする欲望, 渴き; 漢語 渴 Aṣṭ-pr.,
 Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut.,
 Śikṣ.
 pipāsāvat 形 渴いた。
 pipāsita 希求 過受分 [同上]; 漢語 渴, 渴者, 乾 Lal-

v., *Mvyut.*, *Śikṣ.*

pipāsu 希求 形 (菓, 一) を飲みたいと思う; 渴いた。

pipīla 男 蟻。

pipīlaka 男 蟻。

pipīlika 男 [同上]; 蟻, 蟻子, 蚊子, 蚋子 *Divy.*, *Raṣṭr.* 田 [蟻が集めたと想像される黄金の一種]。

pipīlika-puta 田 蟻塚。

pipīlika-madhya 形 蟻のように中央部の(ほっそりした)。

pipīlika-madhyā 因 [中間の行 (pāda) がその前後のものよりも短くなっている韻律]。

pipīlikā 因 蟻, 赤蟻; 蟻, 蟻子, 螻蛄 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜。

pipīlikā-madhya 田 蟻の腰のような断食 [断食の一種: 満月時に十五口の食をもって始め, それより毎日一口ずつを減らして新月に至り, 次にまた満月に至るまで一口ずつ増して十五口となる断食法]。

pipīlikotsaraṇa (°ka-ut°) 田 蟻の這い上ること;

蟻昇 *Mvyut.*

pippala 男 神聖ないちじく(無花果)樹 [学名 *Ficus religiosa*]; [*Mitra* の子の名]。田 漿果(とくに *Pippala* 樹の果実); 肉感的快樂。

pippalaka 形 如針刺 *Śikṣ.* 男 留針。

pippalā 因 [河の名]。

pippalāda 形 *Pippala* 樹の果実を食う。男 田 [Atha-*rva-veda* の一学派の名]。

pippalāyana 男 [人名]。

pippali 因 漿果; 長い胡椒 [学名 *Piper longum*];

畢鉢 音写 畢鉢, 草撥 *Divy.*, *Mvyut.*, 梵雜。

pippali-lavana 田 胡椒と塩。

pipriṣā 因 悦ばせようまたは親切を示そうとする願望。

pipriṣu 形 喜ばせようと思う, 親切にしたいと思う。

pipru 男 [Pr 2.], [*Indra* 神に克服されたある悪魔の名]。

piplu 男 ほくろ, そばかす, 身体のしみ; 痣 *Mvyut.*

piplu-karṇa 形 耳にしみをもつ。

piplu-pracchādana 形 ほくろをかくす。

piplv-adhyāya (?) 男 [写本は *śilpādhyāya* 建築学] 相痣(写誤か?) *Mvyut.*

piba, [Pā 1. の 田 形]。

pibavat 形 動詞 Pā 1. から作られた形をもつ。

pibd, [pi-p(a)d, 踏む] [田分のみ] **pibdamāna** 強固である, 強固になる, 堅固である, 堅固となる。

pibdana 形 強固な, 堅固な。

pimpalā 因 [河の名(恐らくは *pippalā* の 田)]。

piyāru 形 誹謗する, 嘲弄する, 圧倒する。

piyāla 男 [= *priyāla*] [樹の名, 学名 *Buchanania latifolia*]. 田 *Piyāla* 樹の果実。

piyāla-majjā 因 *Piyāla* 樹の髓。

pilindavatsa 男 畢陵伽婆蹉 *Saddh-p.*

Piś, VI. **piśati(-te)** 切り取る, 刻む; 準備する; 飾る; 形成する。現分 **piśāna**。過受分 **piśita**, **piśta** 飾られた。強意 現分 **pepiśat** (星のように)ちりば

めた。 **pepiśāna** (圓) をもって飾られた。

ā- 飾る, 彩る。

piś 因 裝飾。

piśa 男 [まだらの, 美しい], 鹿。

piśaṅga 形 (因-i) [輝いて動く, キラキラ輝く], 帯紅色の, 黄褐色の。

piśaṅga-jāta 男 [(帯紅色の結髪を戴いている), ある苦行者の名]。

piśaṅgatā 因 帯紅色, 黄褐色。

piśaṅgatva 田 [同上]。

piśaṅgaya 名動 田 **piśaṅgayati** 帯紅色に染める。

piśaṅgita 過受分 帯紅色に染められた。

piśaṅgi-Kr, 帯紅色に染める。

piśāca 男 [悪魔の一種, 屍肉を食らうのを特徴とする]; (一°)悪魔 または 怨敵のような…; 鬼, 神鬼, 鬼神, 鬼魅, 食肉, 食血肉鬼, 癡狂鬼 *Ast-pr.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 音写 毘舍遮, 毗舍遮, 毘舍闍, 毗舍闍(鬼), 畢舍遮, 臂舍柘 *Lank.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-v.*, 立応。

piśācaka 男 = *Piśāca*。鬼 *Saddh-p.*; 音写 毘舍闍, 毗舍闍(鬼) *Saddh-p.*

piśācaka-pura 田 [村の名]。

piśācaki 因 女性の小悪魔。

piśāca-grhitaka 男 悪魔につかれた者。

piśāca-caryā 因 *Piśāca* の行為。

piśācatā 因 *Piśāca* であること, *Piśāca* の性質または状態, 悪魔のような性質。

piśācatva 田 [同上]。

piśāca-dakṣiṇā 因 *Piśāca* の間で与えられるような贈物。

piśāca-pati 男 [*Śiva* 神の称]。

piśāca-bhāṣā 因 [中期インド・アリアン語の一種]。

piśāca-vadana 形 *Piśāca* の顔をもつ。

piśācāṅganā 因 女性の *Piśāca*, 女性の悪魔。

piśāci 因 女性の小悪魔; (一°)悪魔のような…;

鬼 梵雜., (音写) 毗舍闍女 *Lank.*

piśācoraga-rākṣasa (°ca-ur°) 男 田 諸の *piśāca*・毒蛇および羅刹。

piśāna 現分 → *Piś*。

piśita 過受分 [*Piś*]. 田 切り分けられた肉, 肉 [時として 田]; 身肉 *Raṣṭr.*

piśita-vasāmaya 形 (因-i) 肉と脂とからなる。

piśitākāṅkṣin (°ta-āk°) 形 肉を渴望する。

piśitāśa (°ta-āśa) 男 肉を貪り食う悪魔, *Piśāca* または *Rākṣasa*。

piśitāśana 形 肉を貪り食う; 食肉 *Lank.* 男 狼; *Piśāca* または *Rākṣasa*。

piśitāśin (°ta-āś°) 形 男 [同上 (形 男)]。

piśuna 形 誹謗する, そしる, 讒謗する, 中傷的な(人, 言); そむく, 悪意のある, 有害な, 陰險な, 邪悪な, 劣等な, 卑劣な; (一°)を密告する, …を表示する; 悪口, 両舌, 乖離, 離間 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*: ~āṃ vācam 両舌, 離間語言 *Bodh-bh.* 380. 男 誹謗者; 秘密を口外する者, 密告者, 裏切者; [*Duṣyanta* 王の大臣の名]。

piśunatā 因 誹謗, へつらい。

piśunaya 名動 他 piśunayati 裏切る, 暴露する。

過受分 piśunīta 裏切られた, 暴露された。

piśuna-vacana 中 讒言, 悪口, 中傷; 兩舌, 離間 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*: ~ād vivecayati 不兩舌, 令禁止兩舌 *Gaṇḍ-vy.* 155.: ~ād vinivartayamānān 遠離兩舌, 不行離間 *Gaṇḍ-vy.* 89.

piśunavacana-viramaṇa 中 兩舌 *Aṣṭ-pr.*

piśuna-vāc 形 兩舌, 離間語 *Aṣṭ-pr.*

piśuna-vāda 男 = piśuna-vacana.

piśunīta 過受分 → piśunaya.

Piṣ, VII. 他 [叙詩 はまた 自] piṣaṣṭi(ṭe), piṣṣṭi(ṭe)

挽いて粉にする, つき砕く, 粉碎する, 破壊する; 押し砕く [属 とともに 譬喩]; 擣, 擣篩, 搗, 磨 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sūv-pr.* 過受分 piṣṣṭa すり砕かれた, 押し砕かれた; 相和研 *Divy.*

不変分 piṣṣṭvā 相和研已 *Divy.* 使役 他 pe-ṣayati [=単純動詞] 挽く, 砕く, つぶす, 破壊する; piṣayati 研 *Mañj-m.* 82. 使役 不変分 piṣayitvā 磨 *Divy.* 409.

ā- 圧する; 触れる。

ut- 過受分 utpiṣṣṭa 粉碎された, すり砕かれた。

niṣ- 粉碎する, すり砕く, 押し砕く; 踏みつける; 擦り合わせる; (歯を)くいしばる。使役 niṣpeṣayati 破壊する。

vi-niṣ- 粉碎する, つき砕く, 押し砕く。

pra- 押し砕く。

vi- (圓)を投げつける。

sam- すり砕く, 押し砕く。

piṣṣṭa 1. 過受分 → Piṣ.

piṣṣṭa 2. 過受分 → Piṣ. 中 穀類等の粉。

piṣṣṭaka 男 小麦粉から作った食品, 菓子。中 穀類等の粉。

piṣṣṭapa 男 中 [ṭapa の異読]。

piṣṣṭa-pacana 中 鍋。

piṣṣṭa-paśu 男 動物の形をした小麦粉(製)の供物。

piṣṣṭa-peṣa 男 すでに粉末となったものを挽くことすなわち無益な労作。

piṣṣṭa-peṣaṇa 中 [同上]。

piṣṣṭa-bhuj 形 穀類等の粉を食する (*Pūṣan* 神)。

piṣṣṭamaya 形 (因-i) 小麦粉で作った。

piṣṣṭa-rasa 男 穀類等の粉に混ぜられた水。

piṣṣṭāta 男 香気のある粉。

piṣṣṭātaka 男 [同上]。

piṣṣṭāda 形 = piṣṣṭa-bhuj.

piṣṣṭodaka (°ṭa-ud°) 中 = piṣṣṭa-rasa.

Piś, IV. 他 piśyati 広がる。

piśprkṣu 希求 形 触れようとするまたは切望する; [jalam または salilam とともに] まさに口を漱ごうとする, 身を清めようとする。

pi-hita 過受分 → DHā 1. 閉, 閉閉, 覆 *Divy.*, *Sāmkhy-k.*

Pi 1., IV. 自 piyate 飲む。→ [Pā. 1. の 圖]。

Pi 2., I. 自 payate; 他 自 piṭe-, piṭi-; piṭaya- 膨張する, 溢れる, 充ちる, みなぎる; 他動 膨張させる, 充たす, 溢れさせる; 食わせ (飲ませ) すぎる。過受分 piṭa 肥えた, 厚い, 強健な, たくまし

い; かさばった。

ā- 自 膨張する; 膨張させる。過受分 āṭita または āṭina 膨張した, 充ちた, 満ちた。

ut- 過受分 utṭita, utṭina 膨張した。

piṭha 中 腰掛, 椅子, 座席, (しとねのない)長椅子; 基礎, 台座; [殿堂の一種, *Parvati* が *Dakṣa* の犠牲となった際, きれぎれに切られたその四肢が落ちたと考えられる場所に建立された殿堂], 地区, 地方; 役所; 座, 坐床, 小床, 交床, 牀座, 坐具, 榻席, 鞞 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*

piṭhaka 男 中 椅子, (しとねのない)長椅子; [輜の一種] (*Kār-vy.*); 台 (*Kār-vy.*)。

piṭha-ga 男 (奉付きの椅子で動く人), ちんば, いざり(躰)。

piṭha-cakra 中 座席付きの荷馬車。

piṭha-marda 男 高位の人の侍者; とくに主人公の重大な企図の相談相手 (戯曲)。

piṭha-sarpa 男 = piṭha-ga.

piṭha-sarpi(n(?)) 男 躰, 傍行 *Mvyut.*

piṭhikā 因 (しとねのない)長椅子; 台座; 机, 机子, 椅子, 梯 *Mvyut.*, 梵雜。

Piḍ, [⟨piḍ⟨pi-s(a)d, …の上に坐る⟩, 圧する: [三過 pipiḍeのみ]; 押 *Av-s.*; 苦惱 *Bodh-c.* 使役 他

[叙詩 はまた 自] piḍayati(-te) 圧する, 締めつける; しぼる; 苦痛を与える, 困憊させる, 害する; 悩ます, 苦しませる, 虐む, 困らせる; 攻め囲む; 侵害する, 破壊する, 無視する。圖 piḍyate 苦しめられる または 悩まされる, 苦を受ける; 痛む。

過受分 piḍita 苦しめられた, かろうじて生活する。

現分 piḍyamāna 悩みに陥る; 擣, 害, 行苦虐 *Divy.*, *Mvyut.*: piḍayan kālaṃ kālena 時をもって時を制すすなわち一切を時の推移に任す。

abhi- 使役 abhipiḍaya- 困らせる, しいたげる, 苦しめる; (町を)攻め囲む。

ā- 使役 āpiḍaya- しぼり出す; 圧する; 押し砕く; 悩ませる。使役 過受分 āpiḍita (一°)をもって覆われた。

sam-ā- 使役 samāpiḍaya 強く圧迫する, 悩ます, 苦痛をもって充たす (*Jāt-m.*)。

ut- 使役 utpiḍaya- 上方へ圧する, 押しあげる。

過受分 (utpiḍita) utpiḍitam 副 激しく (抱擁する)。

upa- 使役 upapiḍaya- 圧する; 悩ます, 困らせる, 苦しめる; 荒廃させる; 鎮圧する; 抑制する; 食す [天体について]。

ni- 使役 nipiḍaya- 圧する; 抱擁する; 悩ます, 苦しめる。

abhi-ni- 使役 abhinipiḍaya- 圧する, 締めつける; 苦しめる。

niṣ- 使役 niṣpiḍaya- 押し出す, しぼり出す; 強くしぼる; 圧縮する。

abhi-niṣ- 使役 abhinīṣpiḍaya- 強くしぼり出す。

過受分 abhinīṣpiḍita かろうじて押し出された, かろうじて得られた (*Jāt-m.*)。

pari- 使役 paripiḍaya- 圧搾する; 抱擁する; 非常

に悩ますまたは苦しめる。 ㊦ 現分 *paripiḍyamāna*
 禁繫 *Daś-bh.* ㊦ 過受分 *paripiḍita.*
pra- 使役 *prapiḍaya-* 圧する；悩ます、苦しめる、
 困らせる。
prati- 使役 *pratipiḍaya-* [同上]。
saṃ- 使役 *sampiḍaya-* 圧搾する、圧する；苦しめ
 る、困らせる；一緒に圧する。 ㊦ *sampiḍyate* 壊
Saddh-p.
piḍa, → *tila* ~。
-piḍaka ㊦ 損 *Divy.:* *para-prāṇa* ~ 損他命
Divy. 10.
piḍat ㊦ 現分 → *Piḍ.*
piḍana ㊦ 圧すること、搾ること；苦しめること、困
 らせること；災害；(天体の)食；逼迫、逼悩、
 苦逼 *Abh-vy., Lan̄k.*
piḍaniya ㊦ 未受分 苦しめられるべき。
piḍā ㊦ 苦痛、疼痛、苦を受けること [㊦=副 不本意
 に]；害、不利、損害；限定；侵害、侵犯；(天体の)
 食；苦；過；損；逼迫、逼悩、逼害、逼窄；
 窄；擾乱 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Sam-r., Śikṣ.,*
梵千., 梵雜.
piḍā-kara ㊦ 苦痛をかもす、有害な。
piḍā-kṛt ㊦ [同上]。
piḍā-kṛta (過受分) ㊦ 害を加えること。
piḍā-bhāj ㊦ 押し潰された、傷つけられた；圧縮また
 は刻み目による波状のあとを示す。
piḍita ㊦ 過受分 → *Piḍ.* ㊦ 逼、所逼、逼切；苦、
 苦悩、悩侵 *Bodh-c., Gand-vy., Rāṣṭr., Saddh-p.,*
Suv-pr.: *duḥkha* ~ 逼切苦、苦悩侵 *Rāṣṭr. 9.;*
bahu-duḥkha ~ 無量苦逼身 *Saddh-p. 451.* ㊦ 損
 害。
pita 1. ㊦ 過受分 → *Pā* 1. ㊦ 飲、所飲、*Abh-vy.,*
Śikṣ., 梵雜.
pita 2. ㊦ 黄色の；㊦ 黄 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-*
bh., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.,
Sukh-vy. II.
pitaka ㊦ (㊦-*ikā*) [同上]。
pitaka-mākṣika ㊦ 黄鉄鉞。
pita-kṛtsna ㊦ ㊦ 黄遍 *Gand-vy., Mvyut.*
pitakṛtsnāyatana (°*na-āy*°) ㊦ ㊦ 黄遍処 *Mvyut.*
pita-kośa ㊦ 盃から(水を)飲んで盟約または約定をし
 た。
pita-cchavi-varṇa ㊦ ㊦ 肉色黄、肉色太黄、肉色
 黄者 *Mvyut.*
pitatā ㊦ 黄色なこと、黄色。
pita-diptā ㊦ [ある仏教女神の名]。
pita-nidarśana ㊦ ㊦ 黄現 *Mvyut.*
pita-nidra ㊦ 眠りにふけた。
pita-nirbhāsa ㊦ ㊦ 黄光 *Mvyut.*
pitala ㊦ 黄色の。 ㊦ 黄色。 ㊦ 真ちゅう；㊦ ㊦
 黄 梵千-梵雜。
pitavat ㊦ 過能分 飲んだ。 → *Pā* 1. ㊦ 動詞 *Pā* (飲
 む)から作った形を含む。
pita-varṇa ㊦ ㊦ 黄頭、黄色、色黄 *Mvyut., Sūtr.*
pita-vāsa ㊦ [(黄色の着物を著けた)、*Viṣṇu* 神の
 称]。

pita-śeṣa ㊦ 飲み残された。 ㊦ ㊦ 飲物の残余。
pita-śonita ㊦ 血を吸ったまたは血の付いた(劍)。
pita-soma-pūrva ㊦ 以前に Soma 汁を飲んだ。
pitāmbara ㊦ 黄衣を身に著けた。 ㊦ [*Kṛṣṇa-Viṣṇu*
 神の称]。
pitārūna ㊦ 黄赤色の。 ㊦ 中ごろの曙光；㊦ 大亮
Mvyut.
pitāvāśeṣa ㊦ 飲み残された、少量を残して飲み干さ
 れた。
piti ㊦ (㊦、㊦) を飲むこと；一飲み。
pitu-dāru ㊦ [樹の一種]。 ㊦ *Pitu* 樹の樹脂。
pitodaka (°*ta-ud*°) ㊦ 水を飲んだまたは(自分の)水を
 飲み尽された(人)。
pitha ㊦ (一) の一飲み。
pithikā ㊦ [pithikā の誤] (*Kār-vy.*)
-pithin ㊦ 飲んだ、吸い尽した。
pina ㊦ 過受分 → *Pi* 2. 膨れた、充ちた、円い；強健
 な、たくましい；㊦ 厚広 *Mvyut.*
pina-kakudmat ㊦ 肥えた背中の隆肉をもつ。
pinatā ㊦ 肥大。
pinatva ㊦ [同上]；(闇黒の)濃密。
pina-śroni-payodhara ㊦ 臀部と胸部が大きく隆起し
 た。
pinasa ㊦ かせ、鼻カタル。
pina-stana ㊦ (女の)豊かな胸。
pināmsa ㊦ 高く張った肩。 ㊦ 肩の肥大した。
pināyata-kakudmat (°*na-āy*°) ㊦ 肥えて大きい背中
 の隆肉をもつ。
pināyata-karṇa (°*na-āy*°) ㊦ ㊦ 耳厚広脩長
Mvyut.
pinodhas (°*na-udh*°) ㊦ ㊦ 乳房の張った(牝牛)。
Piy, ㊦ *piyati* ののしる、嘲笑する。
piyūṣa ㊦ ㊦ (産後)初の一週間の牛乳、初乳；乳脂；
 液汁；(乳海を攪拌して得られた)不死の飲料、甘
 露；㊦ 奶皮、精乳 *Mvyut.*
piyūṣa-garala ㊦ 甘露と毒。
piyūṣa-dyuti ㊦ (甘露の光あるもの)、(太陰)。
piyūṣa-dhāman ㊦ [同上]。
piyūṣa-bhānu ㊦ [同上]。
piyūṣa-bhuj ㊦ (甘露を飲む者)、神。
piyūṣa-mayūkha ㊦ (甘露の光線をもつもの)、月(太
 陰)。
piyūṣavarṣāya ㊦ 名動 ㊦ *piyūṣavarṣāyate* 甘露の驟雨
 となる。
pilu ㊦ [樹の一種、学名 *Careya arborea* または *Sal-*
vadora persica]；象；㊦ 象 *Mvyut.* ㊦ *Pilu*
 樹の果実。
pilu-pati ㊦ ㊦ 司象、牧象者 *Mvyut.*
piva ㊦ 肥えた。
pivan ㊦ (㊦-*vari*) 膨脹した、満ちた、豊富な、肥え
 た。
pivara ㊦ 肥えた、大きい、広い(肩)；(一°)の豊富
 な。
pivaratva ㊦ 満ちていること、重いこと。
pivarā ㊦ [*Gandharva Huhu* の娘の名]。
pivas ㊦ 脂肪(因)。

pivo-rūpa 形 肥えた容姿をもつ (Br.).
 puṃ-ratna 田 男の中の宝, 勝れた男.
 puṃ-rūpa 田 男の形.
 puṃ-lakṣman 田 男の特徴, 男らしさ.
 puṃ-liṅga 田 [同上]; 男性 (文法). 形 男性の (文法).
 puṃ-liṅgatā 田 男性 (文法).
 puṃvat 田 男のように, 男らしく; 男性のように (文法).
 puṃ-veśā 形 田 男装をした.
 puṃś-cali 形 多くの男と交わる. 田 娼婦.
 puṃś-caliya 男 娼婦の子.
 puṃś, [puṃāṃś の 田 鞞]. → puṃāṃś.
 puṃ-savana 形 男子の出生をもたらす. 田 [±vrata] 男子をもうけようとするための (妊娠の初期における) 家庭的儀式.
 puṃś-kokila 男 インドかつこう (郭公) のおす (雄).
 puṃ-stri 田 田 息子と娘.
 puṃstva 田 壮年期, 成年, 男ざかり; 男性 (文法).
 pukkaśa 男 [ある賤しい混血種姓 (階級) (Niśāda と Śūdrā との子孫)].
 pukkaśī 田 [同上].
 pukkaśa 男 [同上]; 田 獵師, 屠家 *Lank.*, *Mvyut.*; 音写 ト羯娑, 補羯娑 *Suvik-pr.*, 玄応. → caṇḍāla ~ kula.
 pukkaśī 田 [同上].
 puggala 男 [=puḍgala] 田 人, 数取趣 玄応.; 音写 福伽羅, 富伽羅 玄応.
 puṅkha 男 矢の羽をつけた末端.
 puṅkhita 田 過受分 末端に羽をつけた (矢); (一°) に射られた.
 puṅgala 男 [=puḍgala] 田 漢 人, 大丈夫 *Lal-v.*
 puṃ-gava 男 (牡牛), 牛; 英雄, (一°) 中の主, ... の中の最も優れた者; 田 勝, 景勝, 最勝者, 最上; 尊; 英傑 *Aṣṭ-pr.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.* → puruṣa ~, śākya ~.
 puṃgava-ketu 男 [(牛を標識とした), *Śiva* 神の称].
 puccha 男 田 尾; 末端; 田 尾 梵雜.
 pucchavat 形 尾をもつ.
 pucchāgra 田 尾端.
 puñchana 田 田 田 [<proñchana] 田 拭 梵千.
 -puñja 男 堆積, 集積; 量; 田 法 *Lank.*
 puñjatā 田 堆積した状態.
 puñjaya 名動 田 puñjayati 積み上げる, 圧縮する, 一緒にする. 田 過受分 puñjita 積まれた; とともに圧せられた, 締められた.
 ut- 田 積み上げる.
 puñjaśas 田 堆積して, 多量に.
 puñjika-sthalā 田 [ある *Apsaras* の名].
 puñjita 田 過受分 → puñjaya.
 puñji 田 田 積聚, 聚積 *Śikṣ.*
 puñji-Kṛ, 積み上げる.
 puñji-BHū, 累積する; 集められる.
 Puṭ, VI. 田 puṭati (田) に包むまたは変装する; (田) をもって磨擦する.
 puṭa 男 田 ひだ (襷), 袋; (若葉の) 房; 凹面, 穴; 裂け目; 田 袋, 囊; 器; 奩, 箱 *Daś-bh.*, *Lal-v.*,

Mvyut.; 衣衾 *Saddh-p.*; 重 *Divy.* → dvi ~ saṃghāṭi, puṣpa ~. 田 葉で形づくった盃; 被覆.
 puṭaka 男 凹面; 一枚の葉で形づくった, じょうご状の袋または容器; 田 包袋 *Mvyut.*
 puṭakini 田 蓮, 蓮の一群.
 puṭa-pāka 男 葉の覆いに包んで焼くこと [葉を製造する方法で, 原料を葉に巻いてこれを更に粘土で包み, 火中で熱して作る].
 puṭa-bheda 男 (目を) 開くこと; 町.
 puṭa-bhedaka 男 田 都 *Śikṣ.*
 puṭa-bhedana 田 (芽の) 発生; 町, 市.
 puṭāntar 田 まぶた (眼瞼) の中に.
 puṭikā 田 葉で形づくったじょうご状の容器.
 puṭi 田 = puṭa.
 puṭi-Kṛ, じょうご形の器に変える.
 puṇḍa-kakṣa 男 [田 = puṇḍra°] 田 [山の名] (音写) 奔茶林 *Divy.*
 puṇḍarika 田 (白) 蓮の花 [また人の心臓の表徴], とくに白蓮華; 一° 美を表現する; 田 蓮華, 白蓮, 白蓮華, 白蓮花 *Mvyut.*, *Saddh-p.*, 玄応.; 音写 分陀利, 芬陀利, 奔茶利, 分陁利, 芬陁利, 分陀利 (華), 芬陀利 (華), 奔陀利 (華), 奔拏哩迦 (花) *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. I.*, 玄応.: parama-puruṣa ~ 人中分陀利, 諸人中芬陀利華, 如衆生中芬陀利華, 諸男子中分陀利華 *Gaṇḍ-vy. 219.* 田 [祭式の種類]; [古王の名]; [ある隱遁者の名]; [各方向に立つ神話的象の中の東南方の象の名].
 puṇḍarika-mukha 形 白蓮華のような顔をした.
 puṇḍarika-mukhi 田 [蛭の種類].
 puṇḍarikākṣa 男 [(蓮のような目をもつ者), *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称].
 puṇḍarikātapatra (°ka-āt°) 田 白蓮華を日傘としてもつものすなわち秋.
 puṇḍa-wardhana 田 [田 = puṇḍra°]; 田 [ある城の名] 満富城 *Divy.*; 音写 分陀跋陀, 分那婆陀那, 弗那槃達, 分陀跋陁 (国) *Divy.*
 puṇḍra 男 田 [現代の *Bengal* および *Bihar* の住民 およびその国の名]. 田 (前額に画かれた) 宗派の記号.
 puṇḍraka 男 田 [同上 (男 田)]. 田; 田 幟 *Mañj-m.*
 puṇḍraka-cihnita 形 田 具画相 *Mvyut.*
 puṇḍra-wardhana 田 [町の名]; 田 甘藷増 *Mvyut.*; 音写 奔那伐弾那 *Mvyut.*
 puṇḍrekṣu (°ra-ik°) 男 甘蔗.
 puṇḍrekṣuka (°ra-ik°) 男 [同上].
 puṇḍrekṣukā (°ra-ik°) 田 [同上].
 puṇya 形 吉兆の, 幸先のよい, 幸運な, 好都合な, 美しい, 快い; 芳香のある; 善良な, 有徳の, 正しい, 価値のある; 純粹な, 清浄な, 神聖な; 田 勝, 福, 善 *Buddh-c.*, *Mvyut.* 田 善, 徳; 善行; 道徳的または宗教的功績; 田 福, 福德, 福德行, 福行, 福利, 福慶, 福祚, 福業; 功德; 善根; 善輪 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sutr.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*, 梵千., 梵雜., 玄

応; 音写 罪那 玄応. → a~.

puṇya-kartṛ 男 正義の人.

puṇya-karman 田 有徳の行為. 形 正義の, 有徳の; 勝業 *Buddh-c.*

puṇya-kāma 形 求福, 欲求功德 *Saddh-p.*

puṇya-kṛt 形 敬虔に行なう, 有徳の; 修福業 *Buddh-c.*

puṇya-kṛta 形 世福, 福力 *Lank.*

puṇya-ketu 男 福德星 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-kośa 男 福德蔵 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-kriyā 女 善良なまたは称賛に価する行為; 修福, 作福事, 福業事, 功德事 *Bodh-bh., Śikṣ.*

puṇyakriyā-vastu 田 福業事, 福業之事, 福事業, 作福事 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Śikṣ. : anumodanā-saha-gatam ~ 随喜俱行諸福業事 Aṣṭ-pr. 340.; trīṇi ~ ūni 三福業事 [1. dāna-mayaṃ ~ 施類福業事, 2. śīlamayaṃ ~ 戒類福業事, 3. bhāvanāmayam ~ 修類福業事] Mvyut.*

puṇya-kṣetra 田 聖域, 巡礼地; 福田, 福德田, 勝福田 *Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Sapṭ-pr. : dvi-pādakam ~ m [仏の称] 兩足勝福田 Divy. 48.*

puṇyakṣetra-bhūta 形 福田 *Suv-pr.*

puṇya-gandha 形 心地よい香氣の, 芳香のある.

puṇya-gandhi 形 [同上].

puṇya-gandhin 形 [同上].

puṇya-garbha 男 功德蔵 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-gr̥ha 田 慈善の家, 施物所または寺院.

puṇya-geha 田 徳の行なわれる場所, 家.

puṇya-cakra-vāḍa 田 [山の名] 福德大輪田山 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-jana 男 種 [(良民), 一群の半神の称(因 叙詩) = Yakṣa (圃, P.)].

puṇyajaneśvara (°na-iś°) 男 [Kubera 神の称].

puṇya-jala 形 清い水をもつ.

puṇya-jita 形 善い行為によって獲得された.

puṇya-jñāna 田 福智 *Gaṇḍ-vy., Sūtr.*

puṇyajñāna-sambhāra 男 福智聚 *Gaṇḍ-vy., Sūtr.*

puṇya-*vyotsna* 形 福德光明 *Gaṇḍ-vy.*

puṇyatari-Kṛ, 一層清浄にするまたは神聖にする.

puṇyatā 女 清浄, 神聖.

puṇya-tirtha 田 聖地, 神聖な巡礼地(とくに諸聖河の流域に沿う); [ある聖地の名]; 福德津, 流福河 *Gaṇḍ-vy. : taṃ ~ m avagāhyamānaḥ 趣彼福德津 Gaṇḍ-vy. 147. 形 聖浴地をもつ.*

puṇya-toya 田 福德海, 功德海 *Gaṇḍ-vy.*

puṇyatva 田 清浄, 神聖.

puṇya-darśana 形 容貌の秀麗な, 美しい.

puṇya-nidhi 男 福蔵, 功德蔵 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-pakṣya 形 福分 *Bodh-bh.*

puṇya-parigraha 男 福所持持 *Bodh-bh.*

puṇya-paryāya 男 分別功德, 御福事 *Saddh-p.*

puṇya-pāpa 田 種 善行と悪行.

puṇyapāpekṣitr (°pa-ik°) 形 善悪の行為を見る.

puṇya-puṇyatā 女 最高の神聖.

puṇya-prada 形 功德を生ずる.

puṇya-prabhava 形 從福所生 *Bodh-bh.*

puṇya-prabhāsa 男 功德威神 *Suv-pr.*

puṇya-prasava 男 種 [天の名] 福生, 福増, 福生天 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*

puṇya-phala 田 善業の結果または報酬; 福果, 施福勝果 *Bodh-bh.*

puṇya-bala 田 福德力, 功德力, 功德蔵力 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*

puṇya-bharita 形 幸福に富んだ.

puṇya-bhāgin 形 福のある.

puṇya-bhāgiya 形 順福分, 福德分能 *Abh-vy.*

puṇya-bhāj 形 幸福な, 仕合わせな.

puṇya-bhājin 形 [同上].

puṇya-maṇḍala 田 福德輪 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-mahas 形 清い栄光に輝く.

puṇya-yoga 男 (前世でなされた)徳行の報.

puṇya-raśmi 男 [王の名] 福光, 福焰, 徳光 *Lal-v., Rāṣṭr.*

puṇya-rāsi 男 福德聚 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-lakṣmika 形 吉兆の, 幸運な; 神聖な美を付与された.

puṇya-labdha 形 善行によって得られた.

puṇya-loka 男 神聖な世界または住居. 形 善い世界に属するまたはあずかる.

puṇyavat 形 正しい, 徳のある, 称讚に価する; 幸いな; 幸運な, 幸福な; [種 とともに] より幸福な; 有徳, 有福德, 功德備. *Saddh-p.*

puṇya-*vardhana* 田 [町の名].

puṇya-varman 男 [王侯の名].

puṇya-vāg-buddhi-karmin 形 言葉と思考と行為とが清浄な.

puṇya-virahita 形 薄徳(之人), 離於福祚 *Saddh-p.*

puṇya-viśeṣatā 女 福有差別 *Bodh-bh.*

puṇya-vega 男 功德勢 *Gaṇḍ-vy.*

puṇya-vratā 女 貞潔な女.

puṇya-śakuna 男 吉兆の鳥.

puṇya-śīla 形 正義の, 有徳の.

puṇya-śrika 形 幸福な.

puṇya-śloka 形 評判のよい. 男 [Nala, 王, Yudhi-*sthira* および *Kṛṣṇa* の称].

puṇyaśloka-didṛkṣā 女 [Nala 王に会いたいという望み].

puṇyaśloka-parāṇmukha 形 [Nala 王に顔を背けたすなわち反対した].

puṇyaślokeḍya-karman (°ka-ik°) 形 その行為が吉祥な讃歌をもって称讚されるべき.

puṇya-samuccaya 男 福聚 *Śikṣ.*

puṇya-samudra 男 功德海, 福(智)大海 *Suv-pr.*

puṇya-sambhāra 男 善行の集積 (*Kār-vy.*); 福聚, 福行, 福德衆具, 福德資糧, 功德莊嚴 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.*

puṇya-sāgara 男 福海, 福德大海, 功德海 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*

punya-sena 男 [人名].
punya-skandha 男 多くの功德のある行為 (*Kar-vy.*, *Vajr-pr.*); 福, 福聚, 福德聚, 功德聚, 功德福聚, 功德蘊, 功德之聚, 功德蔵, 福德積聚 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*
punya-sthana 田 聖地.
punya-hetu 男 福因 *Bodh-bh.*
punya-kara (°ya-āk°) 男 福処, 福德生処 *Gand-vy.*
punya-khya (°ya-āk°) 男 [ある隠遁者の名].
punya-tman (°ya-āt°) 形 正義の, 有徳の.
punya-nubhava 男 心地よい威厳または威力.
punya-numodana 田 随喜福 *Śikṣ.*
punya-punya 田 福非福, 罪福德 *Lank.*
punya-punya-hetu 男 正と邪との原因.
punya-bhishyanda 男 福常備 *Mvyut.*
punya-bhisamskara 男 福行, 功德, 所得功德 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*
punya-bhyanumodana 田 随喜福德, 随喜福德事 *Suv-pr.*
punya-rthika 形 求福 *Śikṣ.*
punya-lamkara 男 [魔子の名] 徳蔵, 功德莊蔵 *Lal-v.*
punya-saya (°ya-ās°) 形 徳のある, 敬虔な, 悪意のない.
punya-ha 田 善いまたは幸福な日; ある人のために幸福の日を祈ること: ~m Vac (使役) (業) に善いまたは幸福の日を祈る.
punya-ha-vacana 田 (圖) に対して善い日を祈ることまたは尊敬を払うこと; 朝の挨拶.
punya-ha-svana 男 [同上].
punya-ika-karman (°ya-ek°) 形 もっぱら徳行のみを行なう.
punya-odaka (°ya-ud°) 形 神聖な水をもつ.
punya-odakā (°ya-ud°) 女 [来世における河の名].
punya-odaya (°ya-ud°) 男 (前世の)善業の結果による幸運隆昌.
punya-opaga (°ya-up°) 形 福行, 近福行, 福近行 *Madhy-v.*, *Mvyut.*
put, → **puḍ**.
puttala 男 人形, 小彫像.
puttali 女 色相 *Mvyut.*
puttikā 女 [putrikā (小娘)の 囿], 人形; 白蟻.
putra 男 息子, 小兒; 動物の仔; 囿 二人の息子または息子と娘; 囿 (囿, 囿, 囿) [しばしば若者と呼ばれる時に用いられる]; 囿 子, 男子, 兒息 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Sūtr.*, 梵子. → a~, ārya~.
putraka 男 息子; 子供; [しばしば愛情を表わす語として用いられる]; [*Pataliputra* 市の有名な建設者の名]; 子 *Sūtr.*
putra-kāma 形 息子を得ようと望む, 男兒を得ようと望む; 求男, 欲求男 *Saddh-p.*
putra-kāmika 形 (女-i) 男兒を得たいための(祭儀).
putra-kāmyā 女 息子または小兒を得ようとする願望.
putra-kṛtaka 形 養子にされた.

putra-kṛtya 田 息子としての義務.
putra-kṛtha 男 田 子供を産むこと.
putratā 女 息子たるの道.
putratva 田 [同上].
putra-dāra 田 囿 息子と妻女; 囿 妻子 *Bodh-bh.*
putra-niveśana 田 息子の住所.
putra-paśu 男 囿 息子と家畜.
putra-piṇḍa-pālana 田 [upavāsa とともに], [(息子の) 身体を養育する), ある祭儀の名].
putra-pitr 男 囿 子と父.
putra-pura 田 [町の名].
putra-pūrṇotsaṅga (°ṇa-ut°) 形 膝の上にたくさんの子供をもつ(女), 多くの子を生んだ(女).
putra-pautra 田 囿, 囿 息子たちと孫たち; 子孫 *Divy.*
putra-pautraka 田 囿 [同上].
putra-pautrin 形 息子たちと孫たちとをもつ.
putra-pravara 男 長男.
putra-priya 形 息子に喜ばれるまたはに愛せられる. 男 [鳥の一種].
putra-bhāga 男 息子の相続分.
putra-bhāṇḍa 田 子に代る者, 息子の代理者, 息子と考えられる者.
putra-māmsopama (°sa-up°) 形 如(食)子肉, 猶如(食)子肉, 猶如子肉(想) *Lank.*
putra-rūpa 田 子像 *Saddh-p.*
putra-rodam 不変分 子を(失ったのを)悲しんで.
putra-lālasa 形 息子を溺愛する (*Buddh-c.*).
putravat 1. 囿 息子または息子等のように; 息子の場合におけるように.
putravat 2. 形 息子・息子等または小兒等をもつ; (語本来の意味で)息子にめぐまれた.
putra-saṃkarin 形 (異った種族または階級との雑婚によって)息子に混血をひきおこす.
putra-saṃjña 形 如兒想 *Vin.*
putra-saṃjñā 女 子想 *Gand-vy.*
putra-sahasraka 形 (女-ikā) 千人の子をもつ.
putra-sahasrin 形 [同上].
putra-sneha 男 子のまたは子に対する愛(すなわち子の愛, 父の愛).
putra-snehamaya 形 (女-i) 子に対する愛からなる.
putrācārya (°ra-āc°) 形 自己の息子を師とする, 自己の息子から *Veda* を学ぶ.
putrārthin 形 (女-inī) 子を得たいと思う.
putrikā 女 娘, 指定女(男子のない父が自分の後継者を得るために, 娘を指定女として娘の息子を後継者とする, すなわち息子の代行者としての娘の称); 人形, あやつり人形.
putrikā-putra 男 指定女 (*putrikā*) の息子.
putrikā-pūrva-putra 男 以前に息子の代りに選んだ娘の息子.
putriṇī 女 息子をもつ母.
putriṇy-āpta (°ṇī-āp°) 形 すでに息子のいる母から生まれた.
putrin 形 息子または息子等をもつ, 子供のたくさんある, 子供に恵まれた. 囿 息子をもつ父.

putri 女 娘。 → putra.
 putri-Kṛ, 養子とする。
 putri-BHū, 息子となる。
 putriya 形 息子に関する, 息子を得る。
 putraisaṇā (°ra-eṣ°) 女 息子または息子等を得たいと
 思う願望。
 putrotsaṅgā 形 女 子を懐胎した。
 Puth, 使役 他 (自) pothayati(-te) 潰す, 砕く; 圧
 倒する, (音声を)消す。
 pud, 子なき者の墮ちる地獄: [putra (pud-tra=pud
 から救う)を説明するために案出された語]。
 pudgala 形 美しい。 男 身体; 物質[原子をも含む];
 我, 靈魂; 個人; 人, 士夫, 丈夫, 有情, 衆
 生; 我 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Madhy-
 v., Madhy-vibh., Mvyut., Sam-r., Śuv-pr., Vajr-
 pr., Vijñ-v., 玄応.*; 数取趣, 更求趣 *Madhy-vibh.,
 Vajr-pr., Vijñ-v., 玄応.*; 音写 福伽羅, 富伽羅, 弗
 伽羅, 補特伽羅, 富特伽耶 *Bodh-bh., Madhy-v.,
 Mvyut., Rastr., Śikṣ., Vajr-pr., 玄応.*: catvāraḥ
 ~āḥ 四種補特伽羅 [1. *tamas-tamaḥ-parāyaṇaḥ*
 從闇趣闇, 2. *tamo-tyotiṣ-parāyaṇaḥ* 從闇趣明, 3.
tyotiṣ-tamaḥ-parāyaṇaḥ 從明趣闇, 4. *tyotiṣ-
 tyotiṣ-parāyaṇaḥ* 從明趣明] *Mvyut.*; *aṣṭau ~āḥ* 八補
 特伽羅 [1. *śrota-āpatti-pratipannaḥ* 預流向, 2.
śrota-āpannaḥ 預流, 3. *sakṛd-āgāmi-pratipanna-
 kaḥ* 一來向, 4. *sakṛd-āgāmi* 一來, 5. *anāgāmi-
 pratipannaḥ* 不還向, 6. *anāgāmi* 不還, 7. *arhat-
 pratipannaḥ* 阿羅漢向, 8. *arhat 応*] *Mvyut.* →
niḥ ~, puruṣa ~.
 pudgala-kalpa 男 人可, 別人淨 *Mvyut.*
 pudgala-grāha 男 人取, 取人, 著人; 更求趣執
Laṅk., Vajr-pr.; (音写) 補特伽羅執 *Vajr-pr.*
 pudgala-drṣṭi 女 人見, 我見 *Bodh-bh., Kāśy.,
 Laṅk.*
 pudgala-nairātmya 中 人無我, 衆生無我; (音写)
 補特伽羅無我性 *Bodh-bh., Laṅk., Sūtr.*
 pudgala-samāropānta 男 增益有情辺 *Madhy-
 vibh.*
 pudgala-skandha-vādin 男 説人陰 *Madhy-v.*
 pudgalāpavādānta 男 損滅有情辺 *Madhy-vibh.*
 punaḥ-pāka 男 繰返して煮ることまたは焼くこと; 繰
 返して(土器を)焼くこと。
 punaḥ-pratinivartana 中 復帰, 帰還。
 punaḥ-pratisaṃharaṇa 中 重授受, 還聽讖悔
Bodh-bh.
 punaḥ-pratyupakāra 男 応報, 報復。
 punaḥ-prepsā 女 再び得ようとする欲望。
 punar 副 後方へ, 家へ; 再び, 新たに; 更にまたはこ
 れ以上, なお, まだ; 更にまた, かつまた, その他;
 これに反して, 一方において, しかしながら, それ
 にも拘らず; 後時 *Samkhy-k.*; 又, 復, 亦復,
 再, 還, 更 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr., 梵千.*
 → a ~. ~I 帰る, 再び去る。 ~Gam [同上]。
 ~Gā [同上]。 ~Dā 返還する, 戻す; 返報する。
 ~BHū 回転する; 更新する; 再婚する [婦人につ
 いて]; 復多 *Śikṣ.* ~ḥ ~ḥ または(単に) ~ḥ

しばしば, 繰返して; 数, 数数, 数数更 *Abh-vy.,
 Bodh-bh., Saddh-p., Sūtr.* na ~r jātu 曾不
 為 *Bodh-bh.*: na ~r jātu stri bhavati 曾不為女
Bodh-bh. 94. na ~ḥ ~ḥ 決して再び…しない。
 ādau... ~ḥ... paścāt 最初に…次に…終りに。 ~r
 aparam その他; 復次, 又復 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.*
 ~api 復 梵千. *atha vā ~ḥ* [頃の終りに] =
 vā. *api vā ~ḥ* [同上]. *vā ~ḥ* [同上]. *kadā ~ḥ*
 何時でも, 常に. *kim ~ḥ* まして況や [消極的に
 および積極的に] …においてをや; とはいえ; しかし
 ながら. → *kim. ~ḥ ... ~ḥ* あるいは…あるい
 は…

punar-anadhyācāra 男 終不重犯 *Bodh-bh.*
 punar-apagama 男 再び去ること。
 punar-apratisaṃhārya 形 不重授受, 不還讖
Bodh-bh. 83.
 punar-abhidhāna 中 再説。
 punar-abhyākāram 不変分 再三引き寄せて。
 punar-arthitā 女 繰返された要求。
 punar-arthin 形 再び要求する。
 punar-āgata 形 帰来した。
 punar-āgama 男 帰来。
 punar-āgamana 中 戻ること, 帰ること; 再生。
 punar-ādāyam 網 繰返して。
 punar-ādāna 中 再び聖火を点ずること。
 punar-ādheya 形 再び点火されるべき(聖火)。 中 再
 び聖火を点ずること。
 punar-ānāyana 中 連れもどすこと。
 punar-āvartin 形 (現世の生活に)還る; (地上の生活
 へ)帰来させる。
 punar-āvṛtta 形 繰返された。
 punar-āvṛtti 女 帰還, 再現; 再生; 反復; 復
 退還, 復退転 *Daś-bh.*
 punar-ukta 形 繰返し言われた, 繰返された; 過剰の,
 無益な; 重説 *Sūtr.* ~m, ° 副 繰返して。
 中 反覆, 同語反覆。
 punar-uktatā 女 [同上 (中)].
 punar-uktatva 中 [同上]。
 punarukta-doṣa-jahā 形 女 離重声, 離重複過
 失 *Mvyut., Sūtr.*
 punarukta-bhukta 形 反覆して享受された。
 punar-uktavad-ābhāsa 男 同語反覆に見えるもの, 表
 面上の同語反覆 (修辭)。
 punarukta-vādin 形 同じことを反覆する, 無益に話
 す。
 punar-ukti 女 反覆; 無益な反覆, 同語反覆; 無益な
 又は空虚な語。
 punar-uktimat 形 同語反覆の。
 punarukti-Kṛ, 過剰または無益とする。
 punar-utpādana 中 再生, 新生。
 punar-upagamaṇa 中 帰還。
 punar-upalabdhi 女 再び獲得すること, 回復するこ
 と。
 punar-upasadana 中 繰返して遂行すること。
 punar-upākaraṇa 中 研究を更にまた始めること。
 punar-upāgama 男 帰還。

punar-gamana ㊦ 再び出発すること。
 punar-garbhavati ㊦ (因) 再び妊娠した。
 punar-grahaṇa ㊦ 反覆。
 punar-janman ㊦ 再生, 更生。
 punar-jāta ㊦ 再び生まれた。
 punar-dīna ㊦ [特殊な飛び方的一种]。
 punar-darśana ㊦ 再見, 再会。~āya ㊦ 不変 さよ
 うなら[袂別の言葉]。
 punar-dāra-kriyā ㊦ (最初の妻の死後の)再婚。
 punar-dyūta ㊦ 繰返された賭博。
 punar-nava ㊦ 再び新たになった, 若返った。
 punar-bāla ㊦ 再び子供になった。
 punar-bālya ㊦ 第二の幼年, 老衰。
 punar-bhava ㊦ 再び生まれた。男 再生; ㊦ 後, 後
 有, 後生, 復有, 復生, 復生有, 来生, 当有 *Abh-
 vy., Daś-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Sūtr.,
 Vijñ-t.*
 punarbhava-janakḥ ㊦ ㊦ 有復生, 復生有 *Śikṣ.*
 punarbhava-jāti ㊦ ㊦ 後有生, 更有中生 *Madhy-
 vibh.*
 punarbhava-praṇidhāna ㊦ ㊦ 後有願, 更有生願
Madhy-vibh.
 punarbhava-prabandha 男 ㊦ 後有相統, ((更))有
 生相統 *Madhy-vibh.*
 punar-bhāryā ㊦ 後妻, 再婚。
 punar-BHū, → punar.
 punar-bhū ㊦ 更新された。㊦ 再婚した寡婦。
 punar-mṛta ㊦ 再び死ぬこと。
 punar-mṛtyu 男 [同上]。
 punar-yuddha ㊦ 戦争の再開。
 punar-lābha 男 再び得ること, 回復。
 punar-lekhana ㊦ あらためて書き記すこと。
 punar-vaktavya ㊦ 反覆されるべき。
 punar-vaktavyatā ㊦ [同上 ㊦]。
 punar-vacana ㊦ 再説すること, 反覆すること。
 punar-vasu ㊦ 利益をとりもどす, 財を復活する。男
 ㊦ ㊦ 第五または第七の月宿; [*Viṣṇu* 神, *Kṛṣṇa* 神
 または *Śiva* 神の称]; ㊦ [二十八宿の一] 井, 井
 宿, 満宿, 増財 *Divy., Mañj-m., Mvyut.*; ㊦
 富那婆藪, 分婆味 *Buddh-c.*, 玄応。
 punaś-citi ㊦ 再び積み重ねること。
 punastarām ㊦ ㊦ 繰返して幾度も。
 punaḥ-saṃskāra 男 再度の入門式, 再度の家庭的儀
 式。
 punaḥ-saṃgama 男 再結合, 再会合。
 punaḥ-saṃjivana ㊦ 復活, 蘇生。
 punaḥ-saṃdarśana ㊦ 再会すること。
 punaḥ-saṃdhāna ㊦ =punaḥ-saṃgama。
 punaḥ-saṃpadana-vaśitā ㊦ ㊦ 復入力, 復還証
 入自在 *Bodh-bh.*
 punaḥ-saṃbhava 男 再起, 再興。
 punaḥ-sara ㊦ 帰来する。
 punaḥ-siddha ㊦ 再び料理された; 再び準備された。
 punā ㊦ [=punar] ㊦ 及, 又, 復 *Bodh-bh.* 212.
 punita ㊦ 過受分 [Pū] 清浄にされた。
 pundarika ㊦ [=pundarika] ㊦ 蓮花, 蓮華 *Divy.*

412.

puṃ-napuṃsaka ㊦ 男性と中性。
 puṃ-nāga 男 [樹の一種, 学名 *Rottleria tinctoria*];
 人中の象, 卓越した人; ㊦ [樹の名] 竜花樹 *Divy.*,
 ㊦ 夫那伽, 奔那伽(花) *Mvyut.*
 puṃ-nāmadheya 男 (男と名づけられるべき), 男。
 pun-nāman ㊦ pud (地獄)の名をもつ。
 puṃmāms 男 ㊦ ㊦ [弱 ㊦ puṃs, ㊦ ㊦ puṃ] 男,
 男性; 人間; 召使; (para または parama 最高位の)
 靈; 男性 (㊦); ㊦ 男, 丈夫 *Abh-vy., Lank.,
 Madhy-v., Mvyut.*; 我 *Saṃkhy-k.*; 好色者 *Śikṣ.*
 puṃ-paśu 男 人身御供; (祭において)犠牲になる人。
 puṃ-bhāva 男 男たること, 男性。
 puṃ-bhūman 男 男性複数 (㊦)。
 pur 1. ㊦ [㊦ ㊦ pūrbbhiḥ のみ] 多く, 十分に。
 pur 2. ㊦ [㊦ ㊦ および子音の前の ㊦ は pūḥ] 要塞,
 城砦; 要塞を設けた都市; 町; 身体。
 pura 1. ㊦ 城, 要塞を設けた都市; 町; [=Tri~,
Asura の三城砦]; ㊦ 城, 城邑, 城郭, 城隍; 宮;
 宮殿, 宮室 *Abh-k., Abh-vy., Divy., Gaṇḍ-vy.,
 Lank., Mañj-m., Mvyut., Saddh-p., 梵雜.*; 土 *Abh-
 vy.* 627.
 pura 2. ㊦ =puram, purā. ㊦ 往古 *Lal-v.* 11.
 pura-uṣṇih (°raḥ-uṣ°) ㊦ [韻律の一種(12 + 8 + 8
 音節)]。
 pura-etr (°raḥ-etr) 男 前に行く者, 指導者, 案内者。
 puraḥ-pāka ㊦ その完成が近づいた。
 puraḥ-prahartr ㊦ 第一線で戦う(人)。男 戦士。
 puraḥ-phala ㊦ を予知させる。
 pura-koṭṭa ㊦ 城砦。
 purakoṭṭa-pāla 男 城砦の指揮官。
 pura-jana 男 ㊦ 市民。
 pura-jit 男 城堡または Pura の征服者, [*Śiva* 神の称
 → tri-pura]。
 puram-jana 男 生命の原理, 生命, 靈魂 [人格化し
 て=王]。
 puram-jani ㊦ 理性, 靈智 [人格化して=王妃]。
 puram-jaya 男 都市の征服者, [人名 (*Kuru* 族側の
 勇士)]。
 puratas ㊦ 前方に; 前に [また時間について]; (㊦,
 一) の前にまたは面前に; 以前に; ㊦ 先, 前,
 在前 対前, 現前, 於前 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank.,
 Mvyut., Raṣṭr., Śikṣ., Sūtr.* ~Gam ㊦ 在前,
 在前行 *Prat-m., Vin.* ~gata ㊦ 来向 *Śikṣ.*
 ~BHāṣ ㊦ 対前説 *Aṣṭ-pr.* ~Sthā ㊦ 現住
 其前 *Śikṣ.*
 purataḥ-Kṛ, 前に置く; 尊敬する。
 pura-dāha 男 (*Asura* の) 三城砦を焼くこと。
 pura-dvāra ㊦ 市の城門。
 pura-dviṣ 男 [*Śiva* 神の称]。
 puram-dara 男 要塞の破壊者, [*Indra* 神・*Agni* 神
 および *Śiva* 神の称]; ㊦ 壊邑, 帝釈 [*Indra* 神]
Buddh-c., Mvyut.; ㊦ 不蘭陀羅 *Lank.*
 puramdara-pura ㊦ *Indra* 神の都市。
 puramdarapurātithi 男 *Indra* 神の都市の客=死者。
 puramdara-puri ㊦ [町の名]。

puraṃ-dhi 形 寛裕な, 恩恵に富む. 因 寛裕, 恩恵, 賜物; 豊饒の女神; (子を産む)婦人.
puraṃ-dhri 因 (尊敬すべき) 既婚婦人, (子供のあ
る) 主婦.
puraṃ-dhri 因 [同上].
pura-pāla 男 都市の統治者または保護者.
pura-pālaka 男 [同上].
pura-mathana 男 Pura の破砕者, [*Śiva* 神の称].
pura-mārga 男 街路.
pura-rakṣa 男 町の見張人, 警官.
pura-rakṣin 男 [同上].
pura-vara 因 首府, 王の都城 (*Jāt-m.*).
pura-vāsin 男 市民; 住城中 *Lank.*
pura-śāsana 男 Pura の折檻者, [*Śiva* 神の称].
puraś-carāṇa 形 (一°) の準備の. 因 準備の儀式.
puraś-carāṇatā 因 準備.
puraḥ-sukram 副 あたかも惑星 *Śukra* (*Venus*, 金星)
が眼前にあるように.
purā 副 前方に; 前に, 先に, 先頭に; (ある人の)
面前で; 東方で, 東方に向って; 以前に, 第一に,
まず第一に. 副 (業, 従, 属, 一°) の前にまたは面前
に, (時の 属) 前に. ~o *DHā* 前にまたは先頭に置
く; 尊重する, 尊敬する; 大切に考慮する; (因) に
任命する; (自分の) *purohita* 祭官とする (因).
~h *sthita* 切迫した, 焦眉の.
purā-kartavya 形 前に置かれるべき; 崇敬または尊敬
されるべき.
purā-kāra 男 優先; 敬服; 随伴. 一° 形 伴われた
purā-kārya 未受分 (因, 不定) を委任されるべき,
委託されるべき.
purā-Kṛ *puraskaroti*, *puraskurute*. → *Kṛ* 1. 前に
または先頭に置く, 先立たせる; 尊敬する; (因) に
任命する; 優先する, 選択する, …に精進する; 示
す, 発揮する; 現前 *Śikṣ.* → *sampurā-Kṛ*.
purā-kṛta 過受分 前に置かれた, 首長の位に進んだ,
尊敬された; (一°) に先行された, 伴われた; …を
所有した, …で占められた; 首, 先導, 侍従,
導従, 羽従, 立行面前, 圍繞; 尊重, 所敬, 恭敬
Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sukh-
vy. I. ~m 副 (一°) の中に, …とともに.
purā-kṛtya 不変分 先立たせて; 尊敬して; [しばしば
=] …に関して, …のために, …について. →
Kṛ 1.
purā-kriyā 因 恭順, 尊敬.
puraskhalita 過受分 [*pra-skhalita* の誤り] 錯
謬 *Śikṣ.*
purastataḥ 副 俗 [*Pāli puratthato*] 前に (*Mah-v.*).
purastāt 副 前方に; 前に, 先に, (ある人の) 面前で;
東方で, 東方から; (書籍の) 上記または下記; 初めに,
第一に; 以前に, 往時に; 現前, 在前, 於前,
向前, 対面 *Bodh-bh., Divy., Saddh-p.*: *tathāgata-*
dhātu-stūpa-sahasrāṇām ~ 於(八万四)千塔前 *Sa-*
ddh-p. 412. 副 [業, 従, 属, 一° とともに] の前に
[時または場所について].
purastāttna 形 先行の, 先駆の.
purastād-apakarṣa 男 後続の規則の遂行を阻止する

規定 (文法).
purastād-bṛhatī 因 [韻律の一種(第一行が十二音節
をもつ *Bṛhatī*)].
purāḥ-sara 形 (因-i) 先行の; 先行, 先抜 *Mvyut.*
男 先駆者; 付添人, 一° 形 …に先立たれた, …に
付添われた, …に伴われた. ~m 副 (一°) の中に,
…とともに, …によって, …の後に.
purāḥ-sarin 形 趣 *Bodh-bh.*: *nirvāṇa* ~ 趣涅槃
宮 *Bodh-bh. 71.*
purāḥ-stha 形 眼前にある, 明らかに見える.
purāḥ-sthita 形 切迫した, 焦眉の.
purā-haṇ 男 [*Viṣṇu* 神の称].
purā (因) 副 かつて, 以前に; 前の生に [*na* とともに,
かつて…ない]; 昔は, 昔; 初めに; 前, 先,
昔, 昔曾, 往昔, 過去, 本, 本時 *Abh-vy., Divy.,*
Lal-v., Raṣṭr., Saddh-p. ~*ṣma* [因 とともに 三過
の意義をもつ] それ以来, 永く, 古くから; [*na* と
ともに 三過 の意義をもつ] まだ決してなかった; [現
ととともに 困 の意義をもつ] まもなく, ただちに; 副
[因 とともに] 前に [時について]; …に対して安全
に; …なしに. 接詞 [因 とともに] …以前に.
purā-kathā 因 昔の話.
purā-kalpa 男 過去の時代; 往昔の祭式; 昔
に; 古法事, 儀軌 *Mvyut.*
purākalpa-vid 形 昔を知る.
purā-kṛta 形 以前になされた, 過去に成しとげられ
た. 因 以前の行為.
purā-jā 形 昔に生まれた, 昔の, 初期の.
purāṭṭa 男 城壁の望楼.
purāṇa 形 (因-i) 古代に属する, 初期の, 昔の, 古い;
しばんだ(葉); 古, 旧, 故; 故旧, 陳, 先世,
前代, 過去, 從曩昔 *Bodh-bh., Divy., Mañj-m.,*
Mvyut., Prāt-m., 梵千., 梵雜. 因 昔の事柄, 過去時
代の物語, 昔からの伝承・伝説; [主として世界開闢
と神・王家の系譜ならびに神話・伝説をふくむ十八
の擬似史書の名(さらに続 *purāṇa* がある)]; (音写)
布羅那論 *Lal-v.* 男 [ある重さの貨幣 (16
paṇa に等しい重量の銀)]; 金銭, 銀錢 *Av-s.,*
Divy.; [人名] 故旧 *Divy.*; (音写) [人名] 富樓那,
布刺拏, 補刺拏, 富蘭那 *Av-s., 玄応.*
purāṇa-kalpa 男 = *purā-kalpa.*
purāṇa-ghṛta 因 陳酥 *Mañj-m.*
purāṇa-civara 因 故衣 *Prāt-m.*
purāṇa-caitya 男 因 (音写) 故制多 *Eodh-bh.*
purāṇa-dvitiyā 因 故二, 先妻 *Mvyut.*
purāṇa-saṃhitā 因 *Purāṇa* 書の集録.
purāṇa-simha 男 [半人半獅子の姿をした *Viṣṇu* 神
の称].
purāṇi-bhāva 男 衰旧之法 *Śikṣ.*
purātana 形 (因-i) 古代に属する, 過去の, 以前の,
昔の, 古い; 以前に, 昔に, 過去の時代に. 男
因 古人. 因 古い話, 昔の伝説, *Purāṇa.*
purātana-muni 男 [*Arjuna* の称].
purādhipa 男 都城の統治者, 警察官の長.
purādhyakṣa 男 都城の総指揮者, 都城の統治者, 警
察官の長.

purā-bhūta 形 以前存在した, 昔の.
purā-yoni 形 起原または系統の古い(王).
purārāti 男 [(Pura の敵), Śiva 神の称].
purāri 男 [同上].
purāritva 中 [同上 翻].
purāvati 女 [河の名].
purā-vid 形 過去を知っている, 古代の学問に熟達した.
purā-vṛtta 形 古い時代に起った, 久しい過去の, 昔の; 曾有如是事 *Lank.* 中 過去の出来事.
purāvṛtta-kathā 女 昔の話または伝説.
purāvṛttākhyāna-kathana (°ta-ākh°) 中 古い伝説を語る事.
puri 副 [韻律, =pure=puras] 昔 *Lal-v.*
purima 形 [*Pali* 同] 先, 本, 過去, 過去世, 往昔 *Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.*
purima-carī 女 本行 *Sukh-vy. I.*
purimā 女 東 *Saddh-p. 9.*
purimā-diś 女 [=pūrva-diś] 東方 *Saddhp. 9.*
puri 女 城砦, 市, 町; 城, 城郭, 宮 *Divy., Lank., Śikṣ.*
purim-gata 形 到(彼)城, 往詣(彼)城 *Lank.*
puritat 男 中 心臓または心臓に近い内臓; 内臓.
puriṣa 中 [一°は形(女-i)] [充填物, 堆積: Pr 1. 砕けた土[流動体の 中], 土地, 土(因); 碎屑, 填め物; 栄養; 富; 家畜(因); 汚物, 排泄物 (Br., S., 中); 肥料; 屎, 糞, 糞穢, 穢, 大便, 便利 *Divy., Lal-v., Śikṣ., Śuv-pr., Vijñ-v.*; 梵千.: śa-kṛnmūtra ~ pūrṇa 大小便利悉盈流, 大小不浄盈流於外 *Śuv-pr. 52.* → mūtra ~.
puriṣa-bhīru 男 [王侯の名].
puriṣādhāna (°ṣa-ādḥ°) 中 [排泄物の容器], 直腸.
puriṣotsarga (°ṣa-ut°) 男 排泄物の放出.
puriṣya 形 [火の称]; 土地に富んだ; 排泄物の.
puru 形 (女°rvi) [Pr 1.] 多い, 富んだ. 副 多く, しばしば, 非常に [tiras とともに: 遠方に, 遠方から]; [中は°一のみ]. 男 [昔の王侯の名, *Yayāti* の子]; [*Vasudeva* の子の名].
puru-kāravat 形 多くの代理人をもつ.
purī-kṛpā 女 多くの同情, 豊かな憐愍.
puru-kṣu 形 食物に富んだ.
puru-ja 男 [王子の名, *Susānti* の子].
puru-jit 男 [諸人の名].
purutama 最上 非常に多い, 常に繰返される.
purutrā 副 (因) 多くの方法で, 多くの所または方向に; たびたび.
puru-daya 形 非常に同情心に富んだ.
puru-dasyu 形 主として盗賊からなる(人民).
puru-dha 副 [二個の子音の前にのみ] [同下].
puru-dhā 形 多くの方法で; たびたび.
puru-praudha 形 自負心に富んだ.
puru-māyin 形 多くの技能・力または魔力をもつ, 不思議な.
puru-mitra 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の子の名], [諸人の名].
puru-ruj 形 多くの病にかかる.

puru-rūpa 形 (女-ā) いろいろの形をした, 多様の.
puru-lampaṭa 形 非常にみだらな.
puru-viśruta 男 [*Vasudeva* の子の名].
puru-vira 形 男子・勇士に富んだ (RV.).
puru-śakti 形 種々の力をもつ.
puruṣa 男 [韻律 はしばしば pūruṣa] 人; 人間 [種 人々; 人類]; 人物 [*daṇḍa* とともに 男 人格化した罰]; 侍者; 官吏; 生命力としての個人的原理, 靈魂; 個人の本体, 普遍的靈魂, 最高精神 [時として *para, parama* または *uttama* とともに]; [士 *nārāyaṇa*] (それより宇宙が発生したとされる) 原人, 一種族の構成員, 子孫; 人称 (文法) [*prathama* ~, *madhyama* ~, *uttama* ~ = 三人称, 二人称, 一人称].
 人, 人者, 男, 男子, 丈夫, 士夫; 士, 大士; 我, 人我 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Madhy-v., Mvyut., Sāmkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Śuv-pr., 梵千., 梵雜., 玄応.*; 知者 *Sāmkhy-k.*; 臣, 使, 使者 *Abh-vy.*; 音写 連沙, 喃沙, 補沙, 補婁沙, 富留沙, 富盧沙, 富楼沙, 補盧沙 玄応. → a ~, mahā ~, yama ~, rāja ~.
puruṣaka 中 垂直の姿勢, (人間のよう)馬が後足で立つこと.
puruṣa-kāra 男 人間の努力 [運命の 中]; 男らしい行動, 豪勇; 傲慢, 誇; 士用, 士用力, 士夫用, 士夫功業, 士夫作用, 丈夫作用, 丈夫所作, 人功, 功力 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Sūtr.* ~eṇa hina 人間の努力の不足.
puruṣakāra-phala 中 士用果, 丈夫果, 功力果 *Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*
puruṣa-kesarin 男 [(半人半獅子), *Viṣṇu* 神の第四の権化].
puruṣa-grāha 男 取我, 著我 *Lank.*
puruṣa-ghā 形 女 (自己の)夫を殺した.
puruṣa-cchandasa 中 人間に適切な韻律 すなわち (*dvi-padā*).
puruṣa-jñāna 中 人智.
puruṣa-tantra 形 主観に依止する, 主観的の.
puruṣatā 女 人たること; 男 (不變) 人間のやりかたに従って.
puruṣatrā 副 人々の間で.
puruṣatva 中 人たること, 男らしいこと.
puruṣa-datta 男 [人名].
puruṣa-damaka 男 調御丈夫 *Sam-r.*
puruṣa-damya-sārathi 男 [仏の称] 調練されるべき人の御者; 調御士, 調御者, 丈夫調御士, 調御丈夫, 人中調御 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. I.*
puruṣa-dravya-sampad 女 人と物質とに富んでいること.
puruṣa-dhūrya 男 人中勇健 *Aṣṭ-pr.*
puruṣa-dhaureya 男 荷負丈夫 *Sam-r.*
puruṣa-nāga 男 人中竜, 人中竜象, 大竜丈夫 *Aṣṭ-pr., Sam-r.*
puruṣa-nāya 男 (人の指導者), 王侯, 王.
puruṣa-padma 男 蓮華のような(美しく清浄な)人, 卓絶したまたは卓越した人; 人中蓮華, 士夫中

衆色蓮華，蓮花丈夫 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*
puruṣa-paśu 男 犠牲に供される人；獣のような人。
puruṣa-puṅgava 男 (牡牛のような人)，卓絶した
 または卓越した人；**漢** 人中英傑，勝男子 *Aṣṭ-pr.*,
Mvyut.
puruṣa-puṅdarika 男 = *puruṣa-padma*. **漢** 士夫中
 白蓮華 *Aṣṭ-pr.*；(音写) 分陀利丈夫 *Sam-r.*
puruṣa-puṅgala 男 **漢** 賢聖，聖人 *Madhy-v.*；*aṣṭau*
 ~ *āh* 八賢聖，八聖人 *Madhy-v.* 478.
puruṣa-puṣpa 男 **漢** 如花丈夫 *Sam-r.*
puruṣa-pravara 男 **漢** 人中尊，最上士夫 *Aṣṭ-pr.*
puruṣa-bahutva 男 **漢** 各我義 *Sāṃkhy-k.*
puruṣa-bahu-māna 男 人類の尊敬。
puruṣabhāva 男 人たること，男たること；**漢** 具丈
 夫分 *Bodh-bh.*
puruṣabhūta 男 (男) 人，丈夫，男たるもの；**漢**
 丈夫 *Bodh-bh.*
puruṣa-mānitva 男 [同下 男]。
puruṣa-mānin 男 自ら英雄であると思っている。
puruṣa-medha 男 人間を犠牲にする祭式；**漢** 人
 祠，殺害人取脂用祭 *Dity.*
puruṣamedha-yajña 男 **漢** 人祠，淨人供施 *Mvyut.*
puruṣa-yuga-sampanna 男 **漢** 体胤嫡嫡相承 *Lal-v.*
 23.
puruṣa-rūpa 男 人間の形態。
puruṣa-rūpaka 男 人間の形態をした。
puruṣa-rṣabha (°*ṣa-rṣ*°) 男 (牡牛のような人)，優れ
 た人，王；**漢** 人中牛王，人中牛王，士夫中僊
Aṣṭ-pr., *Sam-r.*
puruṣa-vacas 男 *Puruṣa* と名づける；人の声で話す
 (水)。
puruṣa-vadha 男 殺人，夫を虐殺する者。
puruṣa-vara 男 もっとも勝れた人；[*Viṣṇu*神の称]；
漢 最勝丈夫，三界尊，仏仙 *Sam-r.*, *Sukh-vy. I.*
puruṣa-vāc 女 人間の声，男 人間の声で話す。
puruṣa-vāha 男 (*Viṣṇu*神の乗物)，[*Garuḍa*の称]。
puruṣa-vidha 男 人間に似た，人間の形態をした。
puruṣa-vidhatā 女 人間の形態をしたこと。
puruṣa-viṣabha 男 **漢** 勝丈夫 *Mvyut.*
puruṣa-vyāghra 男 虎のような(勇ましい)人間；優
 れた人。
puruṣa-śārdūla 男 [同上]，人々の中の首長。
puruṣa-śirṣaka 男 男 [(人の頭の形をしたもの)，夜
 盗の道具の一種]。
puruṣa-śobhana 男 **漢** 善相士夫 *Aṣṭ-pr.*
puruṣa-simha 男 (獅子のような人)，雄々しい人，優
 れた人；**漢** 人中師子，師子丈夫 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*
puruṣa-sūkta 男 *Puruṣa* 讃歌 (*Rg-veda X. 90.*) [原
 人 = 巨人解体による宇宙の創造を説く]。
puruṣa-sautira 男 [= °*śautira*] **漢** 吉祥士夫 *Aṣṭ-*
pr.
puruṣākāra (°*ṣa-āk*°) 男 人間の形態をした。
puruṣākṛti (°*ṣa-āk*°) 女 人間の姿。
puruṣāgni 男 人間の中の火。
puruṣājāneya (°*ṣa-āj*°) 男 **漢** 士夫正知者 *Aṣṭ-pr.*
puruṣāda 男 (女 -i) 人を貪り食う。男 食人者，Rā-

kṣasa.
puruṣādaka 男 [同上]。
puruṣādhikāra 男 男らしい役目または義務。
puruṣānukṛti-stri 女 **漢** 男子相婦人 *Mvyut.*
puruṣānṛta 男 人間に関する虚偽。
puruṣāntara 男 他の人；仲介人；他の(=次の)時代。
 男 [samdhi とともに] 代理協定[両団体の代表戦士の
 決闘によって決定される協定の種類]。~m 男 仲介
 者を通して，間接に。
puruṣāyusa (°*ṣa-āy*°) 男 人の全生涯。
puruṣārtha 男 人間の目的，生存の目的；人の行動，
 人間の努力；**漢** 我意，我用 *Sāṃkhy-k.* ~m 男
 人のために，靈魂のために。
puruṣārtha-hetuka 男 **漢** 我意用為因 *Sāṃkhy-k.*
puruṣāvatāra 男 人の権化。
puruṣi 女 (女) 女性，女。
puruṣi-BHū，人となる。
puruṣendra (°*ṣa-in*°) 男 王；**漢** 人帝(?) *Suvik-pr.*
puruṣendratā (°*ṣa-in*°) 女 主権。
puruṣendriya (°*ṣa-in*°) 男 **漢** 男根，陽根 *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Mvyut.*
puruṣottama (°*ṣa-ut*°) 男 最上の人；優れた召使；
 最高の存在，最高我；[*Viṣṇu*神，*Kṛṣṇa*神の
 称]；[諸人の名]；**漢** 大丈夫，士中尊 *Bodh-bh.*,
Sam-r.
puruṣodāra (°*ṣa-ud*°) 男 **漢** 人中豪貴 *Aṣṭ-pr.*
puruṣopahāra (°*ṣa-up*°) 男 人身御供。
puru-stuta 男 非常に称揚された。
puru-hāni 女 大きな損失。
puru-hūta 男 非常にまたは多くの人々に祈願された。
 男 [Indra 神の称]。
puruḥūta-suta 男 [Arjuna の称]。
puru-hūti 女 多様の祈願。
puru-hotra 男 [Anu の子の名]。
puruḥci 男 [puru-añc の女，諸方へ拡がった] 豊富
 な，広大な；長い(年)。
puruḥavas 男 大いにまたは声高に叫ぶ。男 [古代の王
 で *Urvaśi* の愛人の名]。
puruḥvasu 男 多くの財貨を所有している，財産に富
 んでいる。
puro-ga 男 前に行く，先行する；主な，最善の。男
 先導者。一° 男 …を先頭とする，…に導かれた，
 …に従ったまたは伴なった；…に付添われた，満たさ
 れた，鼓吹された；**漢** 等 *Lank.*
puro-gata 男 前に立ったまたは置かれた；**漢** 為先導
Śikṣ.
puro-gama 男 前に行く，先行した；主な，最善の。
 男 先導者。一° 男 …を先導とする，次に続く；
 …に伴なわれた。
puro-gava 男 (先頭の牡牛)，先導者。
puro-gavi 女 先導者。
puro-gā 男 [同上]。
purocana 男 [*Duryodhana* の親友の名]。
puro-janmatā 女 先に生まれたこと。
puro-janman 男 先に生まれた。
puro-java 男 (一°)より速かな；男 [Pali pure-java

参照] (一)を伴った, …を備えた(*Divy.*); 導徒 *Divy.* 男 [*Medhatithi* の息子の名および彼に統治された地方 (*Varṣa*) の名]; 侍者, 召使 (*Divy.*); 導翼 *Divy.*

puro-*vyotis* 形 前に光りをもつ, 前方の光り輝く.

puro-*dāś*, °lās 男 [困 °lās] 米の粉で作った祭餅, [*gārhapatya* 祭火において一定数の *kapāla* の上で焼く. 新月・満月祭を始めとし, 多くの祭式における主要な供物].

puro-*dāśa* 男 [同上, より通常形]; (圓)の供物.

puro-*dāśatā* 因 供物たることまたはその性質.

puro-*dāśa*-*bhuj* 男 祭餅を食べる者, 神.

puro-*dāśa*-*sviṣṭakṛt* 男 祭餅の献供の後の *Sviṣṭakṛt*.

puro-*tama* (°*ra-ut*°) 因 最上の都市; 自在宮 *Lal-v.*

puro-*sava* (°*ra-ut*°) 男 都市で(挙行された)祭.

puro-*dāśānā* (°*ra-ud*°) 因 都市の遊園または庭園, 公園.

puro-*dhas* 男 [先頭に置かれたもの: *DHā*] 任命された祭官, 王侯に属する主祭官 = *Purohita*.

puro-*dhā* 因 *Purohita* の役.

puro-*dhātṛ* 形 *Purohita* を任命する.

puro-*dhikā* 因 (他に優先された), 寵愛をうける婦人.

puro-*niḥsarāṇa* 因 先に出て行くこと.

puro-*nuvākyā* 因 [供物を祭火に投じるに先だち神を祭場に勧請するために唱える詩節].

puro-*bhakta* 因 曩朝 *Sukh-vy. II.*: *ekena* ~ = *ena* 於一(朝)食頃 *Sukh-vy. II. 94.*

puro-*bhaktakā* 因 [*Pali pure-bhatta*] 朝食 (*Divy.*); 小食 *Divy.*

puro-*bhāga* 男 前部; 差出がましいこと, 無遠慮; 嫌悪. ~*m* *Muc* 差出がましさを捨てる = 敗北して退く. (*mama*) ~*e* (私の)前に.

puro-*bhāgin* 形 無遠慮な, 差出がましい; 嫌悪する, 非難を好む.

puro-*bhāvin* 形 差迫った, 焦眉の.

puro-*māruta* 男 東風.

puro-*mukha* 形 前方または東方に(向けた)口をもつ.

puro-*yāyin* 男 前衛.

puro-*ratha* 形 (他の人々の車より)前方に車を進める, (他より)秀でた, 勝れた.

puro-*ruc* 形 前にまたは東方に輝いている. 因 [朝のソーマ压榨においてある *śastra* 前にあるいはその間に挿んで唱える特別の文句].

puro-*vat* 副 前のように.

puro-*vartin* 形 (ある人の目の)前にある; 差出がましい, 無遠慮な.

puro-*vāta* 男 前方からの風, (雨をもたらす)東風.

puro-*vāda* 男 前説.

puro-*vṛtta* 形 前にある, 先行した.

puro-*vṛṣendra* (°*ṣa-in*°) 形 堂々たる牡牛によって先導されたまたは伴なわれた.

puro-*hita* 形 前に置かれた, 委任された, 任命された [とくに祭官の職に]. 男 委任された人, 代理者; とくに任命された祭官, 王侯の宮廷の主祭官, 帝師; 輔; 輔臣, 輔相, 近臣, 大臣, 師, 国師, 王師 *Aṣṭ-*

pr., *Buddh-c.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 婆羅門 [*brāhmaṇa* の音写] *Buddh-c. 26.* → *brahma* ~.

puro-*hita*-*kula* 因 国師家 *Bodh-bh.*

puro-*hitatva* 因 *Purohita* 祭官の役.

puro-*hiti* 因 祭官の勤務.

pur-*dvāra* 因 都市の門.

pury-*aṣṭa* (°*ri-aṣ*°) 因 身体の八種(の構成部分).

pury-*aṣṭaka* (°*ri-aṣ*°) 因 [同上].

pula 因 履(くつ) *Divy. 581.*; 音写 布羅 *Divy.*

pulaka 男 [食用に適する植物の一種]; 毛が逆立つこと [非常な歓喜または有頂天の徴候].

pulakaya 名動 因 **pulakayati** (歓喜によって)身体の毛が立つまたはそれを感じる.

pulakānkita-sarvāṅga 形 全身の毛の逆立った.

pulakācita (°*ka-āc*°) 形 逆立った毛に覆われた.

pulakita 過受分 身体の毛の逆立った [非常な歓喜の徴候], 歓喜の感動に浸った.

pulakin 男 [植物の名, 学名 *Nauclea cordifolia*].

pulaki-*Kṛ*, 身体の毛を逆立たせる.

pulakotkampa (°*ka-ut*°) 形 歓喜に震える.

pulakodgama (°*ka-ud*°) 男 毛の逆立つこと.

pulakoddhūṣita-śarira (°*ka-ud*°) 形 全身逆立つ毛に覆われた.

pulakodbheda (°*ka-ud*°) 男 = *pulakodgama*.

pulasti 形 滑らかなまたは真直ぐな頭髪をもった.

pulastya 男 [古聖仙の名 (*Brahman* 神の靈的の子の一, また *Prajāpati* の一, また七聖仙の一と称せられる)]; [星の名].

pulaha 男 *Pulastya* と同種の他の古聖仙の名; [星の名].

pulāhāśrama 男 [ある隠遁所の名].

pulāka 男 [穀物の一種]; 枯れたまたはから(空)の穀粒; 粒 *Bodh-bh.*

pulina 男 因 河の中の砂州, 低い砂州, 小島; 洲, 水洲, 島, 河岸 *Lal-v.*, *Mvyut.* 男 [*Garuḍa* によって滅ぼされた神話的生物の名].

pulina-*jaghanā* 因 [(砂州を腰としてもつ), 人格化された *Gambhīra* 河].

pulina-*dvīpa*-śobhita 形 砂州と小島とで飾られた.

pulina-*pradeśa* 男 砂州の場所, 砂丘.

pulina-*maṇḍita* 形 砂州または小島で飾られた.

pulinda 男 因 [ある未開種族の名 (後に *Bhilla* 族および *Śabara* 族と同視される)]; 男 *Pulinda* 種族の人; *Pulinda* の王侯; 野蛮人; 屠家 *Mvyut.*

pulindaka 男 [*Pulinda. Śabara* および *Bhilla* 種族の王侯の名].

pulindā 因 [ある *Nāga* の少女の名] (*Kār-vy.*).

pulindi 因 *Pulinda* 族の女.

puloma-*jā* 因 [*Indrānt* の父系].

puloman 男 [悪魔の名 (*Indra* 神の義父で *Indra* 神によって殺された)].

pulomā 因 [悪魔 *Vaiśvānara* の娘の名 (*Puloman* に愛されたが *Bhṛgu* の妻となった)].

pulomāri 男 [(*Puloman* の敵), *Indra* 神の祿].

pulkaka 男 [同下].

pulkasa 男 [ある賤しい混血種姓(階級)の名].